年度	2016	授業コード	A30141001
科目名	経営学総論 【再】	単位数	4
科目名（英語表記）	Principles of Business Administration		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	再履修クラスとして開講される。 「経営学」は、課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、それぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ経済学・社会学・心理学・工学などの総体あるいは集合体となっている。本講義では、この特徴を有する経営学の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明することを通して、“経営学とはどのようなことを研究するのか”、また“どのような応用ができそうなのか”、などの関心を湧き立て、より深い学びへと誘うことを目的としている。より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってもらいたいとの考えに基づき設定された初学者向けの科目である。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	課題・宿題（50%） および授業内小テスト、授業内感想文、受講・取組姿勢、等（50%）により評価する。		
到達目標	＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊今後、どの経営領域の学びを深めたいか、どのようなことに応用できそうかなどの関心を抱くことができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.講義の進め方について。なぜ経営学が必要か？　これから（下記の進行の中で）登場する学説について。①
2.講義の進め方について。　なぜ経営学が必要か？　これから（下記の進行の中で）登場する学説について。②
3.豊かさの時代と企業。　業績とは？　加工貿易とは。貿易収支、経常収支、GDP、変動為替相場制。企業の国際化。①
4.豊かさの時代と企業。業績とは？　加工貿易とは。貿易収支、経常収支、GDP、変動為替相場制。企業の国際化。②
5.会社の類型。株とは？、株式会社とは？　中小企業と大企業の数と従業員数。証券取引所、証券会社、銀行の役割。財務諸表の重要性。①
6.会社の類型。株とは？、株式会社とは？　中小企業と大企業の数と従業員数。証券取引所、証券会社、銀行の役割。財務諸表の重要性。②
7.会社の類型。株とは？、株式会社とは？　中小企業と大企業の数と従業員数。証券取引所、証券会社、銀行の役割。財務諸表の重要性。③
8.企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは。株主総会、監査役(会)、取締役(会)の役割と関係。企業統治の事例 。ステークホルダーと企業の社会的責任。①
9.企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは。株主総会、監査役(会)、取締役(会)の役割と関係。企業統治の事例 。ステークホルダーと企業の社会的責任。②
10.企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは。株主総会、監査役(会)、取締役(会)の役割と関係。企業統治の事例 。ステークホルダーと企業の社会的責任。③
11.経営組織の形態。戦略とは。ポジショニングの戦略論と資源ベースの戦略論。経営戦略と組織の関係。経営戦略の事例。バリューチェーン。アライアンスと持株会社。①
12.経営組織の形態。戦略とは 。ポジショニングの戦略論と資源ベースの戦略論。経営戦略と組織の関係。経営戦略の事例。バリューチェーン。アライアンスとホールディング。②
13.経営組織の形態。戦略とは 。ポジショニングの戦略論と資源ベースの戦略論。経営戦略と組織の関係。経営戦略の事例。バリューチェーン。アライアンスと持株会社。③
14.労働市場と労働法。日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について。産業・職業構造の推移。各業界における就業状況。①

15.労働市場と労働法。日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について。産業・職業構造の推移。各業界における就業状況。②
16.労働市場と労働法。日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について。産業・職業構造の推移。各業界における就業状況。③
17.若年労働市場の現状と課題。
18.非正規社員と正規社員。人材派遣の仕組み。新規学卒者の卒業後の進路。目標、欲求、モチベーション。①
19.非正規社員と正規社員。人材派遣の仕組み。新規学卒者の卒業後の進路。モチベーション。目標、欲求、モチベーション。②
20.テイラー＝フォード生産方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式。自動車メーカーとディーラー(販売会社)の関係①
21.テイラー＝フォード生産方式。ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式。自動車メーカーとディーラー(販売会社)の関係②　課題について。
22.マーケティングの概念。マーケティングミックス：４Ｃと４Ｐ、市場調査、広告効果。メーカー、商社、卸、小売の関係。フランチャイズ。①　課題について。
23.マーケティングの概念。マーケティングミックス：４Ｃと４Ｐ、市場調査、広告効果。メーカー、商社、卸、小売の関係。フランチャイズ。②
24.ICT の展開。サプライチェーンマネジメント(SCM)やクラウド(cloud)とは何か。①
25.ICT の展開。サプライチェーンマネジメント(SCM)やクラウド(cloud)とは何か。②
26.R&D(研究開発)の現状。起業の現状。イノベーションとアントレプレナーシップ。ビジネスモデル。①
27.R&D(研究開発)の現状。起業の現状。イノベーションとアントレプレナーシップ。ビジネスモデル。②
28.ナレッジマネジメントについて。暗黙知と形式知の関係。①
29.ナレッジマネジメントについて。暗黙知と形式知の関係。②
30.未来の経営について。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	A3017700A
科目名	研究ゼミナールⅠ 【再】	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールⅠ(再）では、ゼミ生の興味を主体にスポーツだけでなく、あらゆるビジネスを研究対象に、文献やインターネットからの情報などの研究成果を学び、学生自身が課題を見つけることを出発とします。しかし、それまでに総合学問としての経営学の基礎を学び、 組織経営や人的管理、心理学や生理学など、スポーツに関連する多様な学びを深め、研究の視点を広げてください。 　さらに組織の行動と個人の行動の本質を探り、スポーツビジネスに応用するというビジネスマインドを持ってください。ビジネスは今後さらに進化していくと考えられますが、それをけん引するシステムを構築するぐらいの気持ちで取り組みたいものです。 　本研究ゼミナールは担当者の専門とするスポーツビジネス研究というテーマだけでなく、多様なビジネスを対象として調査研究・実践を行います。企業が果たす社会的使命とは何か?何が必要なのか？新しい公共の理念に沿った企業の発展に何が大切なのか。そんなことも大きな研究テーマのひとつです。特に将来、経営を専門に学んで世に出て行く皆さん、企業の仕組みを学びつつ、担当者の専門とするスポーツに親しみながら「スポーツの未来」を考える時間を学生の時期に作ってほしいと願っています。次年度の研究ゼミナールⅡに向かって、実践と理論を結び付けていきましょう。		
教材（テキスト）	スポーツビジネス最強の教科書（平田竹男著、東洋経済新報社）		
教材（参考文献）	スポーツビジネスの最前線（平田竹男・中村好男編著、講談社）		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	レポート(50%)。発表とゼミナールへの積極的関与(50%)。		
到達目標	1. 経営学の基礎的な知識の習得に努める。 2. スポーツ・その他のビジネスの文献を検索し、内容を要約できる。 3. ２つの文献から、ビジネスの課題を把握し、自らのテーマとすることができる。 4. みんなの前で、プレゼンテーションができる。		
準備学習	1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、配布用のレジュメを準備する。 3. わからない専門用語は前もって調べておく。		

受講者への要望

1. ゼミには積極的に参加する。
2. 遅刻や無断欠席をしない。
3. 自分でも進んで興味のあることを見つける努力をし、それに関する文献などを集める。

講義の順序とポイント

１．春学期オリエンテーション、スポーツビジネスの世界
２．日本のスポーツビジネスの現状を発表しよう
３．アメリカの４大スポーツリーグの現状を発表しよう
４．欧米のリーグ構造と特徴について知ろう
５．欧米のプロスポーツクラブについて知ろう
６．プロ野球の球団比較
７．Ｊリーグの理念と１００年構想
８．Ｊリーグのチーム比較をしよう
９．ｂｊリーグについて調べよう
１０.個人競技のスポーツビジネス
１１.メディアとスポーツ
１２.スポーツとインターネット
１３.スポーツとスポンサーシップ
１４.スポーツ産業の動向
１５.スポーツ産業の動向
１６.秋学期オリエンテーション
１７.スポーツ基本法を読み解く

１８.スポーツ基本法を読み解く
１９.スポーツ基本法を読み解く
２０.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２１.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２２.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２３.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２４.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２５.個人研究と報告・レポート作成
２６.個人研究と報告・レポート作成
２７.個人研究と報告・レポート作成
２８.論文の書き方①
２９.論文の書き方②
３０.研究計画の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	A80000101
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放つことになる．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる一方、軽減税率も導入される予定である．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	A80000102
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放つことになる．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる一方、軽減税率も導入される予定である．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	A80000301
科目名	ビジネスデータの見方	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済の動き、企業を取り巻く環境を理解するためには、現実のデータ（経済統計、企業統計など）から現状を見る必要があります。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きは SNA というシステムにまとめられています。GDP など経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深めます。 　また、企業活動から見たデータもビジネスをとらえるために重要です。事業所や、売り上げ、利益など経済だけにとどまらないデータを紹介し、理解を深めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	何回か授業内テストをします。このテストは出席調査も兼ねています。その成績が 30%。（毎回必ず出席しなければ得点できません） 期末試験が残りの 70%です。		
到達目標	マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連（理論的バックグラウンド）を理解する。 企業関連データの実際を知る。		
準備学習	マクロ経済学を勉強することが望ましい。 時々、宿題を出すので、授業外の時間にそれをまとめ、次回の授業で提出する。 予習復習、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		

受講者への要望

①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない
②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする

講義の順序とポイント

1　講義の全体構成
2　付加価値とＧＤＰ
3　ＧＤＰと需要項目
4　１人あたりＧＤＰ、日本は豊かな国か
5　経済成長と需要の寄与度
6　景気変動と景気動向
7　物価指数
8　物価指数の実際
9　人口 、労働人口、失業
１０　マネー
１１　為替と貿易
１２　産業構造、事業所
１３　利益の構造
１４　企業の世界展開
１５　ブラック企業

資料はプリントを配布します。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	A80000901
科目名	京都のビジネス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	京都は伝統と進取の気質に富むまちであり、観光などのサービス産業だけでなく、中小・中堅企業を中心にした「ものづくり産業」が地域経済を支えている。本講義「京都のビジネス」は、地域金融、観光、情報、医療、ものづくりなどの各分野で京都経済界を担う経営者などをゲストスピーカーとして招き、京都経済の特徴と魅力を論じる。これにより、企業を見る眼を養うとともに、ビジネスシーンへの理解を深め、各専門分野における学修への動機づけを与える。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業中に毎回課すレポート（100%）。		
到達目標	１．各業界のビジネスシーンの理解を深めるとともに、企業を見る眼を養う。 ２．企業が、さまざまな状況の中で、どのような問題をどのように解決しようとし、どのような人材を求めているのかということを把握する。		
準備学習	授業のレジュメを京学なびの「授業資料」に授業１週間前までにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。毎回の授業において前回授業内容を前提としたレポートも課すので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
各業界の動向について、新聞などのニュースソースから自分なりに把握するよう心掛けてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．京都産業の概観 ２．観光産業１ ３．観光産業２ ４．金融業界 ５．陶磁器製造業界 ６．電気電子部品業界 ７．飲食業界 ８．農林業界 ９．医療業界 10.印刷業界 11.繊維業界 12.金属精密加工業界 13.製茶・抹茶・カフェ業界 14.食品加工業界 15.京都におけるビジネスの課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	A81000102
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した資料		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 40%、最終レポート試験 50%		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	★★

年度	2016	授業コード	A81000104
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した資料		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 40%、最終レポート試験 50%		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	★★

年度	2016	授業コード	A81000601
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		
受講者への要望			
毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて ２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み ３．　マネープランの必要性と金融商品 ４．　債券の基礎知識 ５．　債券投資の実際 ６．株式投資の魅力とリスク ７．　株価の変動要因 ８．　決算書の見方 ９．　主な投資指標の見方 １０．　株式投資の判断 １１．　投資信託をの基礎知識 １２．　投資信託を選ぶポイント １３．　資産運用の概要 １４．　資産運用はどうあるべきか １５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	A81001301
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	（１）　本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 （２）　毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （３）　白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（テキスト）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考文献）	（１）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （２）各省庁発表の白書の本文は、省庁ＨＰ上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。		
教材（その他）	適宜、指定・紹介する。		
評価方法	①毎回の受講レポート 70% ②中間試験および授業内発表 30%		
到達目標	①　現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法を学び、時事問題への確実な理解を深める。 ②　学生各自の専門分野と直接・間接に関連する政策課題について理解を深め、卒業研究に役立てる。 ③　聞き取り力、質問力、表現力など、就職活動の実践で役立つスキルの向上を目指す。		
準備学習	①　講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、それらに目を通しておく。 ②　省庁ＨＰ上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。		
受講者への要望			
１．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。 ２．卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。 ３．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
講義の順序とポイント			
１．講義の順序 第１回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か 第２回－第７回（前半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第８回：前半の白書の要点整理とその確認テスト 第９回－第１４回（後半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第１５回：後半の白書の要点整理とレポート課題の案内 ２．昨年 2015 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。 ① 経済財政白書（内閣府）　② 労働経済白書（厚生労働省）　③ 消防白書（消防庁）　④ 厚生労働白書（厚生労働省）　⑤ 国土交通白書（国土交通省）　⑥ 食料・農業・農村白書（農林水産省）　⑦ 防衛白書（防衛省）　⑧ 外交青書（外務省）　⑨ 観光白書（観光庁）　⑩ 犯罪白書（法務省）　⑪ 情報通信白書（総務省）　⑫ 京都市・地域創生計画（京都市）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	A85000301
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	A85000302
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	A85000401
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本経済において流通産業が担う役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。しかし商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く関連学問領域である流通論・マーケティング論をも踏まえて論じられているのが現状である。このため本稿では、商学を商業学・商人学として認識したうえで、商業において中心的役割を果たす小売機構・小売機関を中心として、一般的に論じられている商業に関する社会経済的視点および商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアーオペレーション等についての理解も進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識ス・キルの習得を目指す。		
準備学習	日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　商学の研究対象としての流通・商業 3　商学への接近①（流通・商業・マーケティング） 4　②（伝統的・近代的接近方法） 5　商業の発展(商業・商人学の観点から） 6　商業を担う卸売機構および小売機構 7　卸売機構の現状と課題 8　小売機構①現状と課題 9　②業態発展理論 10　業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店・中小商店など 11　商圏と商業集積の考察　①　商店街 12　②　ショッピングセンター 13　商業の実際　①　マーチャンダイジング 14　②　ストアーオペレーション 15　商学の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	A85000402
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本経済において流通産業が担う役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。しかし商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く関連学問領域である流通論・マーケティング論をも踏まえて論じられているのが現状である。このため本稿では、商学を商業学・商人学として認識したうえで、商業において中心的役割を果たす小売機構・小売機関を中心として、一般的に論じられている商業に関する社会経済的視点および商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアーオペレーション等についての理解も進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識ス・キルの習得を目指す。		
準備学習	日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　商学の研究対象としての流通・商業 3　商学への接近①（流通・商業・マーケティング） 4　②（伝統的・近代的接近方法） 5　商業の発展(商業・商人学の観点から） 6　商業を担う卸売機構および小売機構 7　卸売機構の現状と課題 8　小売機構①現状と課題 9　②業態発展理論 10　業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店・中小商店など 11　商圏と商業集積の考察　①　商店街 12　②　ショッピングセンター 13　商業の実際　①　マーチャンダイジング 14　②　ストアーオペレーション 15　商学の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	A85000501
科目名	事業構想概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	経営に必要な要件は大きく変化してきている。経済社会の変化を素早く察知できる感受性、新しいニーズを具体化する技術力、市場に的確にアピールできるマーケティング力、自由な発想と柔軟な行動をシステム化できるマネジメント力、そしてリスクに敢然と挑戦する企業家(起業家）精神が求められるようになった。 新たな事業構想が求められるが、事業構想の全体像を把握しようといった講義科目はみられなかった。そこで、事業構想の基本的な理念から具体的な実践活動のあり方まで講義では、幅広く取り上げていきたい。革新的な事業構想を策定しても、現実には実際の事業や経営活動に結び付かない場合も少なくない。それぞれの企業が置かれている環境は激しくかつ急速に変化し、、市場や提供する財・サービスもきわめて細分化・短命化しているからである。「いかに」ではなく「何を、何のために」事業構想を策定するのか、企業をめぐる環境変化の根底にある本質を見抜くことが必要なのである。激しくかつ急速に変化する経営環境のなかで、的確な事業構想をどのように考えて行けば良いのか、原理原則と基本を明らかにしていきたい。		
教材（テキスト）	梅木晃、井形浩治編著　『事業構想と経営』嵯峨野書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	随時プリントを配付する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	経営においてその質が問われる時代を迎え、あらゆる分野で事業構想の立案力が求められている。その根底には、イノベーション力とその源泉となる起業家精神の涵養があると考える。 この講座を通じて構想力、革新力、創造力についての基本と原則に関する知識を身に付けることを目標としたい。		
準備学習	事業構想には知識はもとより感性が必要とされることが多い。感性を磨くためには,単に大学における学習のみならず幅広い日常生活における体験が求められる。このため身の回りにおいて起こるすべてのことに対し、関心と問題意識を持って授業に望まれたい。 また教科書、配布資料などについては事前に熟読するとともに、適宜実施するレポート作成のため、復習にも心がけられたい。		
受講者への要望			
受講マナーを守り、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　経営をめぐる環境の変化 3　事業構想の概念・構想策定の視点 3　事業構想とアントレプレナー（起業家） 4　事業構想における現状認識 5　事業構想策定に関する要件 6　アントレプレナー（起業家）の資質と役割 7　事業構想（起業）プロセスの基本 8　事業機会の認識・経営資源の調達・ビジネスシステムの構築 9　構想策定と経営とのインターフェイス 10　事業構想策定のプロセス 11　構想と経営認識（創造力・効率性・リスクの回避・リーダーシップ） 12　戦略的コスト・リスク・市場への対応 13　具体的な事業構想の手順 と事業構想の評価 14　日本の公的創業支援制度 15　これからの事業構想へ向けて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	A85000502
科目名	事業構想概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	経営に必要な要件は大きく変化してきている。経済社会の変化を素早く察知できる感受性、新しいニーズを具体化する技術力、市場に的確にアピールできるマーケティング力、自由な発想と柔軟な行動をシステム化できるマネジメント力、そしてリスクに敢然と挑戦する企業家(起業家）精神が求められるようになった。 新たな事業構想が求められるが、事業構想の全体像を把握しようといった講義科目はみられなかった。そこで、事業構想の基本的な理念から具体的な実践活動のあり方まで講義では、幅広く取り上げていきたい。革新的な事業構想を策定しても、現実には実際の事業や経営活動に結び付かない場合も少なくない。それぞれの企業が置かれている環境は激しくかつ急速に変化し、、市場や提供する財・サービスもきわめて細分化・短命化しているからである。「いかに」ではなく「何を、何のために」事業構想を策定するのか、企業をめぐる環境変化の根底にある本質を見抜くことが必要なのである。激しくかつ急速に変化する経営環境のなかで、的確な事業構想をどのように考えて行けば良いのか、原理原則と基本を明らかにしていきたい。		
教材（テキスト）	梅木晃、井形浩治編著　『事業構想と経営』嵯峨野書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	随時プリントを配付する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	経営においてその質が問われる時代を迎え、あらゆる分野で事業構想の立案力が求められている。その根底には、イノベーション力とその源泉となる起業家精神の涵養があると考える。 この講座を通じて構想力、革新力、創造力についての基本と原則に関する知識を身に付けることを目標としたい。		
準備学習	事業構想には知識はもとより感性が必要とされることが多い。感性を磨くためには,単に大学における学習のみならず幅広い日常生活における体験が求められる。このため身の回りにおいて起こるすべてのことに対し、関心と問題意識を持って授業に望まれたい。 また教科書、配布資料などについては事前に熟読するとともに、適宜実施するレポート作成のため、復習にも心がけられたい。		
受講者への要望			
受講マナーを守り、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　経営をめぐる環境の変化 3　事業構想の概念・構想策定の視点 3　事業構想とアントレプレナー（起業家） 4　事業構想における現状認識 5　事業構想策定に関する要件 6　アントレプレナー（起業家）の資質と役割 7　事業構想（起業）プロセスの基本 8　事業機会の認識・経営資源の調達・ビジネスシステムの構築 9　構想策定と経営とのインターフェイス 10　事業構想策定のプロセス 11　構想と経営認識（創造力・効率性・リスクの回避・リーダーシップ） 12　戦略的コスト・リスク・市場への対応 13　具体的な事業構想の手順 と事業構想の評価 14　日本の公的創業支援制度 15　これからの事業構想へ向けて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	A85000701
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 ポジショニング戦略と競争戦略 3 ポジショニング戦略と競争戦略 2 4 ポイントカード 5 価格戦略 6 価格戦略 2 7 経営と数字 8 事例研究：餃子の王将とサイゼリヤ 9 ビジネスモデル 10 顧客囲い込み 11 デファクトスタンダード 12 株式会社 13 M&A 14 日本型経営 15 日本型経営 2 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	A85000702
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 ポジショニング戦略と競争戦略 3 ポジショニング戦略と競争戦略 2 4 ポイントカード 5 価格戦略 6 価格戦略 2 7 経営と数字 8 事例研究：餃子の王将とサイゼリヤ 9 ビジネスモデル 10 顧客囲い込み 11 デファクトスタンダード 12 株式会社 13 M&A 14 日本型経営 15 日本型経営 2 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	A85000801
科目名	経営情報システム論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 経営情報概論では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。		
教材（テキスト）	遠山暁／村田潔『経営情報論 新版補訂（有斐閣アルマ)』有斐閣		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(サイズは主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	2/3 以上の受講を単位認定要件とし、単位認定要件を満たした上で、 授業内提出物及び小テスト(40%)、 レポート(30%)、 定期試験(30%) で評価する。		
到達目標	経営情報は・企業経営にとってどのような意味をもつのか、経営的視点および情報システムの観点から考察する。 特に戦略論・組織論・ビジネスプロセスと情報システムの関わりを学ぶ。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1． 受講ガイダンス
2. 経営情報論の基礎
3. 経営情報論の基礎理論
4. 経営情報システムの変遷
5. 反転学習(理解度確認)
6. 情報通信技術の進展
7. 経営情報システムの設計・開発
8. 経営情報システムの管理
9. 情報通信技術とビジネス・プロセス革新
10. 反転学習(理解度確認)
11. ネット・ビジネス
12. 情報通信技術と組織変革
13. 情報通信技術と組織コミュニケーション
14. 情報通信技術と社会
15. まとめと今後の展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	A90009001
科目名	公衆衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Health		
担当者名	里村　一成	旧科目名称	
講義概要	公衆衛生の基本となる知識や関連法規の理解とともに日本における公衆衛生の現状について学習する。また、喫煙や飲酒等を含む生活習慣や、ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ対策等公衆衛生分野において問題となっているトピックについて、そのアプローチや対策等について実例を挙げつつ知見を広げる。健康を維持増進するためには個人的な努力だけでなく、地域社会の環境改善、コミュニティーにおける互いの協力の必要があることについて学ぶ。		
教材（テキスト）	『シンプル公衆衛生学』（南江堂）2592 円（税込み）		
教材（参考文献）	『民衛生の動向』（厚生労働統計協会）2500 円（税込み）		
教材（その他）	適宜、授業の際にプリントを配布する。		
評価方法	定期試験により評価する		
到達目標	個人だけでなく集団としての健康増進、疾病予防を考えるという公衆衛生的な考え方を身につける。 １．日本における保健体制、健康政策を理解する ２．保健・医療・福祉の連携の必要性と現状、及びその問題点について理解する。 ３．疫学的な考え方や衛生統計を理解し、地域保健等にどのように役立てるかを知る。 ４．実践活動としての健康教育、ヘルスプロモーション等について理解する。		
準備学習	授業前にテキストを読んでおくことが望ましい。また、新聞等で社会情勢をみておくことも必要である。		
受講者への要望			
遠慮せずに理解できないこと等について質問すること。 授業中に質問できなかった場合は、メール等で質問することが必要である。			
講義の順序とポイント			
１．健康の概念と公衆衛生 ２．公衆衛生行政と関連衛生法規 ３．医療保健制度と介護、社会保障 ４．健康教育、ヘルスプロモーションと行動変容 ５．母子保健 ６．成人・老人保健 ７．学校保健 ８．精神保健 ９．地域保健 １０．感染症対策 １１．衛生統計と健康の指標、疫学 １２．食品衛生 １３．環境衛生 １４．労働衛生 １５．健康危機管理、国際保健			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	A90010001
科目名	栄養学	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Nutrition		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	栄養とは、生物が食物を摂取することによって、生命および健康の維持、発育・成長などの生命活動に必要な物質、すなわち栄養素を体内に取り込み、利用する営みである。本講義では、栄養素の種類とそれらの構造および生理機能、消化・吸収、エネルギー代謝などの基本的概念を正しく理解することを目的とする。さらに、健康の保持・増進、疾病予防と回復促進、体づくりのために必要な栄養と食生活など、実践的な栄養学についても紹介する。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	『ポケットアトラス栄養学』（ガイアブックス）　ハンス・コンラート・ビーザルスキ 著 2,808 円 『基礎栄養学（健康・栄養科学シリーズ）改訂第 4 版』（南江堂）　奥恒行、柴田克己 編 3,024 円		
教材（その他）	授業中にプリントを配布する。 京学なびおよび共通ドライブによりファイルを提供する。		
評価方法	定期テスト（50%）、授業内小テスト（30%）、レポート（20%）		
到達目標	健康づくり・体づくりなどの実践の礎とするために、栄養の基礎知識を正しく理解する。		
準備学習	毎回、京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートによる授業の予復習に留まらず、関連分野についても発展的に調べておく。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に、毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。 日頃から新聞等のメディアを意識し、自分自身が摂取している食事や食品成分に関心を持っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1．はじめに　-栄養学とは- 2．栄養成分の消化吸収 3．糖質の機能と代謝 4．アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 5．脂質の機能と代謝 6．エネルギー代謝 7．ビタミン、ミネラルおよび水の生理作用 8．疾病予防や健康づくり・体づくりのための食生活			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	A90012001
科目名	内科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Internal Medicine		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	内科学
講義概要	ここ半世紀、日本を含む先進国では、その疾病・死亡構造は感染症から生活習慣病へと大きく変貌してきた。がん、脳血管障害、心臓病、糖尿病などの代謝疾患、アレルギー性疾患などの生活習慣病は、個々人の誕生から現在に至る数十年間にわたる環境履歴により形成されたライフスタイルと遺伝素因が複雑に交絡しあい、加齢による効果と相まって発症する。しかもその発症率は 40~50 歳代から大きく増加することから、我が国のように少子高齢化が急激に進行する社会では、大きな健康脅威となっている。本講義では、このような生活習慣病増加の制御を中心に講義を行う。		
教材（テキスト）	『図解病態治療学』　（診断と治療社）　丹羽利充　3,300 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	スライド		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	生活習慣病を中心に、今日発症頻度の多い疾患について、十分に理解すること。		
準備学習	授業の前に、テキストを読んで予習をしておくこと。また、授業では、触れていない分野に於いても、テキストで自習すること。		

受講者への要望

教科書（テキスト）は、わかりやすく疾患の病態と治療について簡潔にまとめてあるので、この教科書を暗記するくらい、繰り返し読んでいただきたい。また、授業では、ポイントとなる所を講義するので、必ず出席してもらいたい。

講義の順序とポイント

１．健康と疾患、およびその主な症状・徴候
２．虚血性心疾患
３．高血圧と脂質異常症
４．肺炎と気管支喘息
５．肺癌
６．食道、胃、十二指腸の疾患とピロリ菌感染
７．肝臓の疾患(1)
８．肝臓の疾患（２）
９．膵臓の疾患
１０．急性腎不全と慢性腎不全
１１．糖尿病とメタボリックシンドローム
１２．生活習慣病と健康寿命
１３．脳血管障害
１４．感染症
１５．中高年の健康的な食事と栄養

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	A90013001
科目名	小児科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatrics		
担当者名	新田　義宏	旧科目名称	
講義概要	子どもは、出生から身体の成長と発達を経て大人になる。小児科学は、出生から思春期までの、身体の構造と機能の異常を扱う診療科目である。本講義では、新生児と幼児期・学童期の成長と発達、出生時や赤ちゃんの観察と神経学的評価、運動・言語・適応行動の発達の指標を学ぶ。また、小児の健康障害として先天異常（ダウン症等）、脳性麻痺、呼吸・循環器疾患、感染症等、各種疾患の原因および経過と症状、治療について解説をする。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内の小テスト等による平常点（30%）。授業中に課すレポート（70%）。		
到達目標	出生から成人に至るまでの身体および精神の成長と発達を正常及び異常である疾患の両面から理解することを目標とする。		
準備学習	８つの単元、つまり「小児の発達と成長」、「胎児医学と出生前医学」、「周産期医学」、「小児の呼吸器および循環器疾患」、「小児の消化器系および血液・造血器疾患」、「小児の腫瘍性疾患」、「小児の代謝性、内分泌性および免疫疾患」、「小児の感染症」についてレポートを課す。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。

講義の順序とポイント

１．小児の呼吸器系および循環器疾患　：11/15（火）冨井 敏宏

小児の呼吸器系および循環器系疾患について理解する。具体的には、喘息、気管支炎、肺炎、先天性心疾患、川崎病、突然　　死等の原因と診断、身体症状と予後、治療を学ぶ。

２．小児の発達と成長　：11/22（火）　瑞木 匡

小児期の発達の区分として、出生前期、新生児期、乳児期、学童期、青年期があり、それぞれの身体的および精神的な成長・発達の特徴を学ぶ。成長の評価として、身長・体重、頭囲・胸囲、生歯、骨の発育、二次性徴を、精神発達については探索、社会、生活習慣、言語の領域から理解し、その評価方法を学ぶ。

３．胎児医学と出生前医学　：11/29（火）福原 正太

先天異常（遺伝子疾患、染色体異常、多因子疾患、薬物や感染症などの胎内の環境要因による疾患）について、主な疾患を取り上げ、その原因と診断、身体症状と予後、治療を解説する。また、出生前診断や胎内治療についてもふれる。

４．周産期医学　：12/6（火）森元 英周

出生時の所見および既往から、生命および予後の危険が高いハイリスク新生児について解説する。具体的には、新生児の疾患としては早産児、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、新生児仮死、未熟児網膜症、メレナ、黄疸、感染症等の原因と診断、身体症状と予後、治療を学ぶ。

５．小児の代謝性疾患、内分泌疾患、免疫疾患　：12/13（火）都間 佑介

小児の代謝性疾患、内分泌疾患および免疫疾患について理解する。先天代謝異常症、糖尿病、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺異常、アレルギー性疾患の原因と診断、身体症状と予後、治療を学ぶ。

６．小児の腫瘍性疾患　：12/20（火）橋口 加名栄

小児がん（悪性新生物）について理解する。具体的には、造血器腫瘍として白血病、悪性リンパ腫、脳腫瘍、骨の悪性腫瘍、ウィルムス腫瘍等の原因と診断、身体症状と予後、治療を学ぶ。骨髄移植にもふれる。

７．小児の消化器系および血液・造血器疾患　：1/10（火）茂原 慶一

小児の消化器系および血液・造血疾患について理解する。具体的には、食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、小腸・大腸の疾患、肝臓・胆道・膵臓の疾患、貧血、出血性疾患等の原因と診断、身体症状と予後、治療を学ぶ。

８．小児の感染症　：1/17（火） 新田 義宏

小児の感染症について理解する。こどもの免疫の特徴について概説し、次にウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症の主なものを取り上げて説明する。また学校伝染病、予防接種についてもふれる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2016	授業コード	A90014001
科目名	精神医学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychiatry		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
講義概要	精神医学は、精神の異常あるいは病的な状態の理解と治療を行なう診療科目である。本講義では、意識・思考形式・思考内容・欲動・気分・感情・自我意識などの精神症候に関する基本的概念と、小児・思春期・成人・高齢者の精神心理的特徴、パーソナリティ（人格）、精神評価、診断分類（ＩＣＤ、ＤＳＭ）、ならびに主要な精神疾患（統合失調症、気分障害、不安障害、物質関連障害、てんかん、摂食障害、睡眠障害）の特徴と治療、薬剤の副作用、メンタルヘルスについて概説する。		
教材（テキスト）	『精神医学 マイテキスト 改訂 2 版』（金芳堂） 武田雅俊 監修　3,800 円		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（70%） 、授業内小テスト等（30%）		
到達目標	１．基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。 ２．精神疾患の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 ３．代表的な精神疾患の特徴と病態、治療方針が理解できる。		
準備学習	講義終了時に次回に講義する範囲（教科書 p. **から p.***まで）を指定するので、熟読しておくこと。		
受講者への要望			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。遅刻や私語は厳禁である。			
講義の順序とポイント			
1. はじめに（精神医学・医療の重要性、精神医学の方法的特性）：6/14（火）⑤ 2. 精神症候学（意識障害・幻覚・妄想・躁状態・うつ状態・自我意識障害）：6/21（火）⑤ 3. 精神疾患各論①　統合失調症：6/28（火）⑤ 4. 精神疾患各論②　気分障害（うつ病、双極性障害）：7/12（火）⑤ 5. 精神疾患各論③　神経症性障害（不安障害、解離性障害、身体化障害）：7/19（火）⑤ 6. 精神疾患各論④　小児・思春期精神障害（自閉症スペクトラム、てんかん、摂食障害、パーソナリティ障害）：7/19（火）⑥ 7. 精神疾患各論⑤　器質性精神障害その他（物質関連性障害、認知症、睡眠障害）：7/26（火）⑤ 8. 精神科治療総論（薬物療法、精神療法、身体療法）：7/26（火）⑥			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	A90015001
科目名	リハビリテーション概論	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Rehabilitation		
担当者名	奥田　良樹	旧科目名称	
講義概要	リハビリテーションは、外傷および疾病により生じた機能障害、能力低下、社会的不利に対して、訓練や指導、社会的支援により、障害の回復と自立を促し、全人的な社会復帰を目指す取り組みである。本講義では、リハビリテーションの理念と歴史について、医療的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、現代の日本の医療および福祉とリハビリテーションの現状を取り上げ、その課題について解説をする。		
教材（テキスト）	『リハビリテーション総論』　（診断と治療社）　椿原彰夫		
教材（参考文献）			
教材（その他）	講義内容のスライド		
評価方法	1．日常点 講義と臨床実習では必ず出席をとる。また適時実施される小テスト、レポートを日常点として加味する。 2．試験 系統講義終了時の定期試験筆記試験を行う。追再試験も同様とする。 3．総合成績評価		
到達目標	1．リハビリテーションの概念を理解する。 2．運動器障害、脳血管障害、内部障害、摂食嚥下障害のリハビリテーションについての基礎知識を理解する。 3．リハビリテーションチーム医療の重要性について理解する。 4．最新のリハビリテーション医療について理解する。		
準備学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい 各講義後に確認の小テストを実施する			
講義の順序とポイント			
1．リハビリテーション概論 1 2．リハビリテーション概論 2 3．リハシステム 4．障害評価 1 5．障害評価 2 6．理学療法 7．作業療法 8．義肢装具療法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	-	★	★

年度	2016	授業コード	A90016001
科目名	リハビリテーション医学	単位数	2
科目名（英語表記）	Rehabilitation Medicine		
担当者名	奥田　良樹	旧科目名称	
講義概要	リハビリテーション医学は、疾病の医学的治療によって回復できない、身体および精神の能力低下や社会的不利に対して、専門的な訓練と指導により、社会復帰と参加を促進する取り組みである。本講義では、リハビリテーションの評価と治療の枠組み、チーム・アプローチと各職種の役割（医師、看護師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、メディカルソーシャルワーカー、運動指導士他)、リハビリテーションでの基本的な評価と治療 の方法を解説する。		
教材（テキスト）	『リハビリテーション総論　（改訂第 2 版)』　（診断と治療社）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	1　日常点 講義と臨床実習では必ず出席をとる。また適時実施される小テスト、レポートを日常点として加味する。 2　試験 系統講義終了時の定期試験筆記試験を行う。追再試験も同様とする。 3　総合成績評価		
到達目標	リハビリテーションに関与する各疾患について理解を深める。 運動器リハビリテーションについては特に知識を得る。 リハビリテーション関連職種（理学療法士、作業療法士）の業務内容について理解を深める。		
準備学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		

受講者への要望

講義中は私語は行わない。
質問事項があれば適宜これを受ける。
各講義後に確認の小テストを実施する。
リハビリテーションについて興味を抱いていただきたい。

講義の順序とポイント

1. はじめに　復習を兼ねて：4/13（水）⑤
2. 運動器リハビリテーション（１）：4/14（木）②
3. 運動器リハビリテーション（２）：4/28（木）②
4. 理学療法の実際　理学療法士にて：5/18（水）⑤
5. 作業療法の実際　作業療法士にて：5/19（木）②
6. 発達障害・CP：5/26（木）②
7. 高次脳機能障害：6/2（木）②
8. 脊髄損傷：6/9（木）②
9. 切断・神経筋疾患：6/15（水）⑤
10. 関節リウマチ：6/16（木）②
11. 関節疾患・アスリハ・障碍者スポーツ：6/30（木）②
12. 肩・肘疾患：7/7②
13. 手損傷・疾患：7/14（木）②
14. 慢性疼痛・生活習慣病：7/21（木）②
15. 骨粗鬆症：7/28（木）②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★

年度	2016	授業コード	A90017001
科目名	音声学	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	ヒトが話すことは、社会生活を送るうえで欠かせない。話すことは、言語という信号を話し手が発信することであり、聞き手が受信をすることで音声コミュニケーションは成立する。音声学は、ヒトの話し言葉（音声言語）の科学であり、音声言語の生成と知覚についての学問である。音声言語の特徴を理解することで、日常や仕事での良好なやりとりのための条件を知ることができる。本講義では、ヒト音声の基本的事項（分節と変動）と日本語音声の特徴（母音と子音、超分節）を提示する。ヒトの身体がどのように音声信号を生み出すのか、ヒトはどのようにして連続的な音信号から言葉を解読するのか、代表的な実験を紹介しながら、科学的な疑問と解決の筋道を提示する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『実践音声学入門』（大修館） ジョン・キャットフォード 著 2,700 円 『新ことばの科学入門』（医学書院） 廣瀬肇 訳 6，６９６円		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	１．音声学の基本的事項（母音と子音、言語音の生成と知覚）を理解する。 ２．ヒト音声の理解のために行われてきた諸実験（方法、結果、考察）を知る。 ２．日常の音声言語コミュニケーションの現象を説明できる。		
準備学習	講義の内容を復習する。		
受講者への要望			
毎回の講義で示される内容（背景、疑問と実験、用語等の解説、現象の説明）を整理しておくこと。			
講義の順序とポイント			

（1）音声学 phonetics の世界

１．　音声学の領域と応用、音声学者　　シネマ：「マイフェアレディ」（前半）

２．　音素と音声、異音、音声記号 IPA　　シネマ：「マイフェアレディ」（後半）

３．　音声生成の仕組み：　呼吸・発声、共鳴、構音　　神経系・運動・声道空気力学

４．　言語音（母音と子音）の生成と知覚　　音声信号を見る、「分節の問題」と逆転音声

（2）音声生成と知覚の諸実験

５．　母音の生成　　音声の音響理論、声道モデル、音響分析、Fant の研究

６．　子音の出し分けと識別　　調音点が異なる子音の音響情報の違い　Stevens らの実験

７．　音環境（前後の音）の影響　　パラトグラムでの観察、構音（運動）の変動　Daniloff の実験

８．　連続音声の理解　　知覚修復　Warren の実験、視聴覚情報の統合 McGurk 効果

９．　選択的注意と適応行動　　Cocktail Party 効果、騒音下での声＝　Lombard 効果

（3）日常の音声言語コミュニケーションの諸現象

１０．　音声（言語）の発達　　子音　Eimas の実験　、母音　Kihl の実験 、子音の獲得（順序性）

１１．　話しことばの速さ　　News キャスター、最大能力との関係、話芸　『志の輔落語』

１２．　言い誤りの起源　　スピーチエラーの種別、　早口言葉、　いいまつがい（糸井重里）

１３．　言語特有の分節・超分節特徴　　2Ｌ学習（特殊音素と抑揚）、外国人の日本語発話、世界言語

１４．　音声情報からの話者認識　　犯罪捜査での利用、話者の年齢当て、老人音声の特徴

１５．　音声の自動認識	機械・ソフトウエアによる音声認識、日本語辞書

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★★	ー	★	★

年度	2016	授業コード	A90018001
科目名	高次脳科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Higher Brain Mechanism		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
講義概要	大脳は、ヒトが複雑な社会を発展させ、その環境に適応した生活を営む過程で進化してきた器官であり、思考、言語、記憶、認知、行為などの高次の機能を司っている。脳の活動と働きは、ｆＭＲＩ 等の画像診断法や検査課題により、近年飛躍的に理解が進んでいる。本講義では、脳神経系の階層的な構造と機能分化に関する基本的知識を解説し、大脳半球の機能的特異性、言語・記憶や認知・行為の実現と異常、未知の課題について論じる。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（70%）、授業内小テスト等（30%）		
到達目標	１．大脳の解剖生理学的概説を理解し、用語を正しく使用できる。 ２．高次脳機能障害の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 ３．代表的な高次脳機能障害の症状と原因病巣、診察方法が理解できる。		
準備学習	事前に資料を配布するので、熟読してくること。		
受講者への要望			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。遅刻や私語は厳禁である。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに、神経系の進化・発達概説：4/12（火）⑤ ２．大脳の解剖生理学的概説（4 つの頭葉の機能分化、大脳の階層構造、主要な機能系）：4/19（火）⑤ ３．失語（主な失語類型の症状と原因病巣、診察方法）：4/26（火）⑤ ４．失認（主な失行類型の症状と原因病巣、診察方法）：5/10（火）⑤ ５．失行（主な失認類型の症状と原因病巣、診察方法）：5/17（火）⑤ ６．記憶障害（記憶の分類、主な記憶障害の症状と原因病巣、診察方法）：5/17（火）⑥ ７．情動障害・社会的認知障害（主な症状と原因病巣、診察方法）：5/24（火）⑤ ８．画像診断：5/24（火）⑥			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	A90019001
科目名	臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology		
担当者名	山添　正	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学は、病気や障碍を経験した、またはしている人に働きかける事を焦点化した心理的な処遇に関する心理学です。つまり心の健康について人間の一生を通しての心理的、生物的、社会的、そしてスピリチュアルな側面から、人間の健康の促進、パーフォーマンスや適応スキルの向上、人格の成長等についての心理学的理論と実践方法を学び、一方で、様々な現代日本人が抱えている心理的病気や不適応上の問題に関するアセスメント方法、治療方法、そして予防方法についての様々な理論と実践について学びます。		
教材（テキスト）	『健康心理学入門』（有斐閣） 島井哲志 他（編） 2,052 円		
教材（参考文献）	『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術』（金子書房） ジェラルド・コーレイ著、山添正 監訳 4,104 円		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内作文(30%)、授業中に課すレポート(70%)。		
到達目標	①現代日本人のこころの健康を考える場合、まず「病気と健康」の歴史を広く理解する。②「健康促進」の視点から、現代人の生活レベルより具体的に考える。③「病気のリスクと予防法」の理解。④臨床健康心理学の目指すところを、実践するには、医療者と患者との関係、医療場 面でのコミュニケーション能力が必要性を理解すること。		
準備学習	授業の最後に、授業内容理解を定着させるために、小作文を課しますので、準備学習の時に自分の関心がどこにあるかを確認し、授業を聞きながら何を書くか考えながら作文を書いてください。		

受講者への要望

臨床心理学は、知識でない。人の治療という行動変化を目指すものであり、その実践のためには、到達目標でも書いた、患者とのコミュニケーション能力が必要です。そのため、参考書として指定している本も、授業中に関連を指摘したときは読むようにしてください。

講義の順序とポイント

1.はじめに
2.現代社会とストレスー自律訓練法
3.食生活ーやせ症
4.運動と運動の効果
5.スポーツと自死
6.健康リスク要因とパーソナリティー
7.うつの認知療法
8.健康リスク要因と行動
9.女性と健康
10.高齢者と健康
11.患者の心理と病気対処行動
12.健康心理学の臨床的展開
13.医療場面でのコミュニケーション
14.がん患者への心理的サポート
15.健康ケアシステムの現状と将来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	−

年度	2016	授業コード	A90020001
科目名	発達心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental Psychology		
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	発達心理学は、人の心の発達的変化を研究する心理学の一分野であり、その内容には受胎から死まで人の一生の道筋が含まれる。発達は、自分自身や身近な人々に常に起こっている事柄でもある。本講義では、受講者自身の身近な問題と関連させながら、人間の心理や行動がどのように発達するかということと、発達が人間の社会生活とどのように結びついているかについての理解を深める。人間の発達の可塑性の大きさを実感し、自身の過去・現在・未来の生き方を発達的な視点から捉える姿勢を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	『よくわかる発達心理学　第 2 版』（ミネルヴァ書房）　無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）　2,700 円		
教材（参考文献）	『キーワードコレクション　発達心理学　改訂版』（新曜社）　子安増生・二宮克美（編）　2,592 円 『よくわかる認知発達とその支援』（ミネルヴァ書房）　子安増生（編）　2,592 円		
教材（その他）	プリントを配布する		
評価方法	定期試験（50%），授業内小テスト（50%）		
到達目標	1. 人間の発達に関する基礎的な考え方を理解する 2. 人間の誕生から死に至るまでの発達の過程を理解する 3. 各々の発達段階（乳児期，幼児期，児童期，青年期，成人期，老年期）の特徴を理解する 4. 自分自身の過去・現在・未来の生き方を発達心理学的な視点から捉えることができるようになる 5. 発達心理学の知見を，専門知識として活用できるようになる。		
準備学習	1.毎回，授業の最初に，前回の授業の内容に関わる小テストを実施するので，復習を確実にしておくこと 2.「心理学」の授業内容を復習し，十分理解しておくこと 3.日頃から様々な年代の人と接し，心理や行動の発達について考える機会をもつこと		

受講者への要望

1. 授業には「楽しく」しかし「真剣に」参加すること。
2. 授業中は授業中にしかできないこと（授業内容の理解）に努めること。
3. 授業内容に対する質問はその場で教員に直接質問をして，理解不十分なまま放置することがないようにすること。
4. 授業の中では，簡単な調査や実験を通じて具体的に理解を深める機会を提供するので，できるだけ積極的に取り組み，内容の理解につなげること。
5. 人間の誕生から死に至るまでの心と身体の発達について，自分なりに考えを深めること。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション：授業の進め方の説明，発達心理学とは何か
2.　発達の規定要因：発達の持つ性質，発達における遺伝と環境の問題，発達研究法
3.　発達段階と発達課題：初期経験の重要性，発達段階と発達課題の考え方
4.　新生児期・乳児期(1)：乳児の認知能力の発達，視覚の発達，行動の特徴
5.　新生児期・乳児期(2)：人見知り，乳児の気質，愛着の形成と親子関係
6.　幼児期(1)：乳児期～幼児期のことばの発達過程
7.　幼児期(2)：乳児期～幼児期の自我・自己の発達，第一反抗期
8.　幼児期(3)：認知・思考の発達，ピアジェの認知発達論，幼児期の思考の特徴
9.　幼児期(4)：遊びの発達と心の理論
10.　児童期(1)：児童期の仲間関係の発達，集団成員間の人間関係
11.　児童期(2)：「読み書き計算」の能力の発達，道徳性の発達
12.　思春期・青年期(1)：思春期・青年期の認知の発達
13.　思春期・青年期(2)：自我同一性と社会性の発達
14.　成人期・老年期(1)：　成人期，老年期の特徴，家庭生活と職業生活
15.　成人期・老年期(2)：成人期・老年期の知的機能，死への準備

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2016	授業コード	A90021001
科目名	学習・認知心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning and Cognitive Psychology		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
講義概要	人は、学習によって知識やスキルを身につけ、環境に適応している。本講義では、人間がどのように外的環境を捉えているのか、それに基づいてどのように新しい行動や知識を獲得していくのか、という問題が扱われている。本講義では、感覚、知覚、学習、記憶、思考、言語といった、学習・認知心理学の主要なトピックについて取り上げ、人間の認知システムの仕組みおよび特性について理解を深める。人間および日常生活について、認知心理学的な視点から理解を深めることを目標とする。		
教材（テキスト）	『認知と感情の心理学』 高橋雅延 著 岩波書店 2600 円		
教材（参考文献）	『認知心理学』 箱田裕司・都築誉史・川端秀明・萩原茂 著 有斐閣 3400 円 『スタンダード認知心理学』 原田悦子（編） サイエンス社 2500 円		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、授業内小テスト等による評価。定期試験（５０％）		
到達目標	1. 認知心理学的研究方法（考え方）を理解する。 2. 人間の認知機能についての仮説、理論を理解する思考力を身につける。 3. 人間の認知機能について身につけた知識や考え方を日常に活かす。		
準備学習	単元の区切りごとに小テストを実施するので復習をしておくこと。		
受講者への要望			
上記三つの到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。なお、授業計画は予定である。受講状況等に応じてある程度変更する可能性がある。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション：授業の進め方についての説明、認知を学ぶということ ２．認知心理学研究法：３つのアプローチ（実験認知心理学、認知神経科学、計算論的認知科学） ３．視覚と認知（１）：視覚の基本属性、視覚認知の特徴 ４．視覚と認知（２）：高次な視覚認知 ５．注意と意識（１）：聴覚における注意のメカニズム、視覚における注意のメカニズム ６．注意と意識（２）：制御的処理と自動的処理 ７．記憶（１）：短期記憶とワーキングメモリ ８．記憶（２）：長期記憶、記憶過程についての理論 ９．記憶（３）：自伝的記憶、潜在記憶 １０．言語理解：単語認知、文理解とコネクショニストモデル １１．言語産出：単語産出、文産出とコネクショニストモデル １２．言語獲得：言語獲得と統計的学習能力 １３．思考（１）：知識と表象 １４．思考（２）：問題解決、意志決定 １５．認知と感情：感情の認知プロセス、認知、感情心理学の新しい研究の流れ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2016	授業コード	A90025001
科目名	バイオメカニクス	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomechanics		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	地球上における人体の運動動作は物理的な作用を受ける。筋肉によって生み出された力は関節を介して骨に伝達され、重力に抗した様々な運動動作が生み出される。本講義では骨格筋の働きの仕組みから、骨の構造、巧みな関節の働きを学び、骨格筋の起始と停止を知ることで発揮される協調的な動きを理解する。これらの学びを基に、身近な運動動作を例題にして、人間の身体構造とその動きの素晴らしさを認識するとともに、身体運動発現のメカニズムを運動学および運動力学の両面から理解する。この講義は、学科関連系科目として設定されており、看護学科教員が、看護現場でのバイオメカニクス的な問題についても触れる。		
教材（テキスト）	『スポーツバイオメカニクス』（化学同人） はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ４　宮西智久著 補足テキストとして運動に関与する骨と骨格筋を表した資料などを配布する。		
教材（参考文献）	解剖生理で用いたテキスト。『目で見る動きの解剖学』（大修館書店）　ロルフ・ヴィルヘード 著 2,592 円、適時、講義内容に適した資料を紹介する。		
教材（その他）	手製の資料を、授業内容に合わせて適時配布する。		
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）		
到達目標	人体の骨格や筋肉の名称、関節の働きについての理解を深める。日常生活における例えば歩行やランニングにおける骨格筋の働きや、外部に発揮した力の変化を観察して、これらのメカニズムが説明できる。		
準備学習	前期開講の「健康医療学概論」や、「解剖生理学」が基礎的な講義となるので、十分理解して本講義の受講に備えること。各回の授業終わりに次回の講義内容について説明するので、テキストに目を通して、不明な点などについて確認しておく。あるいは質問の準備とすること。講義の後はあらかじめ不明に思った個所や、専門用語について覚えるように工夫すること。		

受講者への要望

物理学における力学が関係するが、理解しやすいように努める。スライドを中心に授業が進むが、ノートに書き留めること。必要な部分についてノートすることを指示するが、関心のある部分についてもしっかりノートすること。

講義の順序とポイント

１．スポーツバイオメカニクスの基礎１
　バイオメカニクスとは？、人の運動と”てこ”の関係、筋の付着部と関節軸との距離、筋肉って？、関節運動動作の定義、
２．スポーツバイオメカニクスの基礎２
　骨格筋の収縮様式、筋電図って？、筋放電と力、運動単位、単収縮と強縮、骨格筋線維のタイプ
３．スポーツバイオメカニクスの基礎３
　骨格筋線維の種類と特徴、運動強度と運動単位の動員様式（サイズの原理)、筋の長さと張力との関係、筋の起始と停止、
４．スポーツバイオメカニクスの基礎４
　見かけの力と真の力、骨の役割、骨のリモデリング、骨の構造と機能、関節の種類と構造、運動と力学の基礎、国際単位
５．スポーツバイオメカニクスの基礎５
　力の合成と分解、内力と外力、運動量と力積、運動の力学的エネルギー、関節トルクと関節パワー
６．スポーツバイオメカニクスの基礎６
　身体重心とは？、身体と重心および重心線、身体重心を求める方法、
７．スポーツバイオメカニクスの応用
　良い動きのバイオメカニクス的原則：反動動作と振込動作、緩衝動作、歩行運動における効率、経済性と有効性
８．運動器のしくみと働き（実際の身体動作と関連させて）
　歩行と走行のバイオメカニクス
９．関節・運動器の機能（実際の身体動作と関連させて）
　跳ぶということのバイオメカニクス（反動動作、ドロップジャンプホッピングなど）
１０．脳の構造と運動を支配する脳
　脳動静脈、体性感覚野、１次運動野、神経のコントロール（動きのコントロールと反射による動作の調整）
１１．スポーツバイオメカニクスの実際１
　歩行のバイオメカニクス、投げのバイオメカニクス
１２．スポーツバイオメカニクスの実際２
　泳ぐ・蹴る・滑る・押すスポーツバイオメカニクス

１３．スポーツバイオメカニクスの実際３
回る・打つスポーツバイオメカニクス
１４．スポーツ医学とバイオメカニクスによる貢献
１５．スポーツバイオメカニクス分析結果データーから理解できる事
A/D変換って？、力積、筋電図積分値

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	AC1000101
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋宿題提出４回（４０％）＋学期末レポート試験（３０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	AC1000601
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 第 2 部　生命保険によるリスクへの備え 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　社会保障の仕組みと日本の課題 給与明細を読むことを通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について学びます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。 その他　日本経済新聞を活用して、上記のような情報を取集する方法についても取り上げます。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、投資信託分析レポートの作成とする。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得することを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講者への要望			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
講義の順序とポイント			
1.初任給 198,000 円をどう使う？ 　就職し、大卒の平均初任給 198,000 円を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 　給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 　でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？具体的な金融商品の利回りなどを確認します。 　資産運用のための投資信託、リスクヘッジのための生命保険の必要性について学びます。			

【第 1 部　投資信託】

2.投資信託とは何か？

投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。

委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。

3.交付目論見書の読み方

投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。

実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

4.インデックス型とアクティブ型

投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。

それぞれの特徴や違いを学びます。

5.分配金、シャープレシオ、税制（NISA）

投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。

分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

6.バランス型投資信託、確定拠出年金制度

投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。

また、　確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

7.投資信託の値動きと経済指標の関係

長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

8.投資信託の委託会社、販売会社。主な投資信託。投資信託の損益。スチュワードシップ・コード

主な委託会社にはどのような会社があるか、主な販売会社にはどのような会社があるかを紹介します。

また、投資信託については、純資産総額が 1 兆円を超える投資信託にはどのようなものがあるか、紹介します。

【第 2 部　生命保険】

9.生命保険の 3 類型

家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。

10.定期保険、養老保険の比較

実際の定期保険と養老保険の商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

また、団体信用生命保険を紹介します。

11.終身保険、年金保険の比較、

実際の終身保険、年金保険の商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

12.公的保険、公的年金　～必要保障額の算定～

公的年金、公的保険としてどのような制度が用意されているかを取り上げます。

具体的には遺族年金や高額療養費制度を紹介します。

【第 3 部　社会保障】

13.給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？

さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。

健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。

また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

14.給料から引かれる所得税、住民税とは何なのか？

給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。

所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。

また、所得税や住民税がどのように利用されているか、日本の財政問題も取り上げます。

【情報リテラシー】

15.日本経済新聞を使った情報収集

投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？

日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。

また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	AC1130403
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	統計学の基本である、記述統計「収集したデータの要約統計量（平均・分散・標準偏差・相関係数など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率の概念（確率変数・期待値等）や確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。毎回時間を、講義 60%、問題演習 40%の割合で実施し概念の修得と応用力を養う。		
教材（テキスト）	『統計学の図鑑（まなびのずかん)』(技術評論社)　涌井良幸・涌井貞美 著 2,678 円		
教材（参考文献）	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』(北大路書房)　吉田寿夫　著 2,700 円 『統計のはなし　基礎・応用・娯楽　改訂版』(日科技連出版社)　大村平　著　1,836 円 『よくわかる統計学 1　基礎編　第 2 版』(ミネルヴァ書房)　　金子治平（編）　2,808 円 『統計学がわかる　ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』(技術評論社)　向後千春・富永敦子　著　1,814 円 『統計学がわかる　　回帰分析・因子分析編　アイスクリームで味わう、“関係”の統計学』(技術評論社)　向後千春・富永敦子　著　1,814 円 『統計解析がわかる（ファーストブック)』(技術評論社)　涌井良幸・涌井貞美　著　2,030 円		
教材（その他）	プリントを配布する　パワーポイントを活用する		
評価方法	授業内課題（50%），定期試験（50%）		
到達目標	1. 基本的な統計学の知識を身につける。 2. 統計資料を読んだときに，それが何を意味しているのか理解できる力を身につける 3. 実験・調査データを自ら統計的に処理できる力を身につける		
準備学習	1. 中学・高校で学んだ基本的な数学の知識を復習しておくこと（平均，平方根，グラフ等） 2. 毎回の授業内容の復習を確実にすること		

受講者への要望

1. 統計学とは，集団の傾向や性質を数量的に明らかにする学問である。算数・数学が苦手な者も，「楽しく」しかし「真剣に」取り組むこと。
2. 授業内での問題演習（課題）には「あせらず・あわてず・あきらめず」取り組むこと。
3. 授業中は授業中にしかできないこと（授業内容の理解）に努めること。
4. 毎回の授業内容が連続しており，復習しながらの積み重ね学習が重要であるため，欠席・遅刻・早退のないようにすること。
5. 授業内容に対する質問はその場で教員に直接して，理解を不十分なまま放置することがないようにすること。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション：統計学とは何か
2.　データの種類：質的変数と量的変数
3.　データの整理(1)：度数分布，相対度数の算出
4.　データの整理(2)：ヒストグラム
5.　代表値：平均値，中央値，最頻値
6.　散布度(1)：散布度の考え方，範囲，四分位
7.　散布度(2)：分散，標準偏差
8.　測定値の変換：変換の必要性，標準化と標準得点
9.　クロス集計とクロス表の作成
10.　相関(1)：相関の考え方，散布図，相関係数
11.　相関(2)：相関の読み取り，疑似相関
12.　統計的検定(1)：推測統計学の基礎　母集団と標本
13.　統計的検定(2)：統計的検定の考え方
14.　統計的検定(3)：平均値に関する検定
15.　まとめ，補足説明，質問受け付け

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	AC1210118
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	AC1210119
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	AC1220164
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4技能の基礎力を養成する。リスニングのセクションでは、英語の音声面の特徴を、単音・音節・語・句・文などのレベルで学ぶ。絵を見ながら適する英語表現を選び、短い会話の応答を完成する。リーディングのセクションでは、本文を読んだ後、様々な設問を通して理解度をチェックする。グラマーのセクションでは、最低限必要な使える文法の基礎を学ぶ。例文を通して、文法の知識を実践的に確認し、練習問題で理解度をチェックする。		
教材（テキスト）	Forerunner to Power-Up English 南雲堂　1,900＋税		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（3分の2の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の4技能の習得により、基礎的なコミュニケーション能力を養う。		
準備学習	予習・復習の課題を完成させる。		
受講者への要望			
積極的な学習態度で授業に参加する。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食など等は厳禁。積極的に質問してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　はじめに―ストレッチ式「ネイティブ発音」について 2.　自己紹介―つながる音に慣れる（1） 3.　家族・ペット―つながる音に慣れる（2） 4.　趣味―つながる音に慣れる（3） 5.　大学生活―消える音に慣れる（1） 6.　食べ物―消える音に慣れる（2） 7.　コンサート―消える音に慣れる（3） 8.　道案内―変化する音に慣れる（1） 9.　日本文化紹介―変化する音に慣れる（2） 10. ジェスチャー―変化する音に慣れる（3） 11, 観光案内―変化する音に慣れる（4） 12. 航空券を Net で Get―カタカナ語の音に慣れる 13. E-mail を送る―Review 1 14. E-mail を送る―Review 2 15. E-mail を送る―Review 3			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2016	授業コード	AC1220266
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	総合英語 I を発展させた形で授業を行う。平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力をさらに向上させる。リスニングのセクションでは、、英語独特の音声変化に慣れながら、聞いた英語の意味を理解できるまで繰り返し聞く。さらに学んだ表現が使えるようになるまで反復練習をする。リーディングのセクションの”Read Aloud”では、英語の基本的なリズムパターンを練習する。また、コラムを読んで、トピックに関連した知識や文化をより深く学ぶ。グラマーのセクションでは、文法知識を応用して、英語で自己表現できる能力を養う。		
教材（テキスト）	Forerunner to Power-Up English　南雲堂　1,900＋税		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の 4 技能の習得により、コミュニケーション能力をさらに向上させる。		
準備学習	予習・復習の課題を完成させる。		
受講者への要望			
積極的な学習態度で授業に参加する。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食など等は厳禁。積極的な質問を望む。			
講義の順序とポイント			
1.　はじめに―ストレッチ式「ネイティブ発音」について 2.　機内で―日本語にない音（1） 3.　空港で―日本語にない音（2） 4.　ホテル―まぎらわしい音の区別（1） 5.　レストランで―まぎらわしい音の区別（2） 6.　ショッピング―まぎらわしい音の区別（3） 7.　ベースボール―まぎらわしい音の区別（4） 8.　ミュージカル鑑賞―語頭と語尾で違って聞こえる音 9.　旅行案内―つづりと発音（1） 10. トラブル・シューティング―つづりと発音（2） 11. 体調不良―ポーズの取り方 12. 電話での申し込み―イントネーション 13. さよなら、アメリカ！―Review 1 14. さよなら、アメリカ！―Review 2 15. さよなら、アメリカ！―Review 3			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	AMC001ABA
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2016	授業コード	AMC001BBA
科目名	スタートアップゼミＢ 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＢは、演習科目として１年次秋学期に開講され、全員履修登録する必修科目である。しかし、何らかの理由でこの科目の単位を修得できなかった場合には、卒業要件ともなっているのでこのスタートアップゼミＢ再履修クラスに登録して履修する必要がある。教員との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という４つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。 単位の修得にあたっては３分の２以上の出席が条件となる。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2 回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8 回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9 回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12 月上旬から 1 月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	J20001A0A
科目名	ミクロ経済学基礎	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Microeconomics		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	経済学 A
講義概要	本講義では、経済学の最も基本となる「需要・供給分析」を学ぶ。 この講義を通じて身につく知識は以下のことである。 （1）需要曲線と供給曲線の意味 （2）均衡価格の意味 （3）余剰の意味		
教材（テキスト）	適宜資料等を配布する		
教材（参考文献）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社　※ 第 3 版も可 プリント等		
教材（その他）	新聞記事などを適宜紹介する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	経済的な取引を需要曲線と供給曲線によって上手く表せることを理解する。 需要曲線と供給曲線を描いて余剰分析ができるようになる。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる数学の知識が不足している場合には、数学の事前学習をする。しかし、本講義で用いられる数学の知識は中学校までで学習するものである。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション　ミクロ経済学の対象 2．需要と供給　需要曲線と供給曲線 3．価格の決定　供給量の変化と均衡価格 4．需要と供給の応用　需要曲線のシフト 5．需要曲線と消費者行動　需要曲線の形と支出額 6．需要曲線と消費者余剰　消費を通して得られる利益 7．消費者行動のまとめ 8．費用の構造①　費用の分類 9．費用の構造②　各種費用曲線 10．利潤最大化　供給曲線と費用 11．生産者余剰　収入と費用 12．完全競争市場　価格調整と均衡 13．余剰分析　市場取引と資源配分 14．市場競争と経済発展　競争のメリット 15．重要事項の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J20001A0C
科目名	ミクロ経済学基礎	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Microeconomics		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	経済学 A
講義概要	本講義では、経済学の最も基本となる「需要・供給分析」を学ぶ。 この講義を通じて身につく知識は以下のことである。 （1）需要曲線と供給曲線の意味 （2）均衡価格の意味 （3）余剰の意味		
教材（テキスト）	適宜資料等を配布する		
教材（参考文献）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社　※ 第 3 版も可 プリント等		
教材（その他）	新聞記事などを適宜紹介する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	経済的な取引を需要曲線と供給曲線によって上手く表せることを理解する。 需要曲線と供給曲線を描いて余剰分析ができるようになる。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる数学の知識が不足している場合には、数学の事前学習をする。しかし、本講義で用いられる数学の知識は中学校までで学習するものである。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション　ミクロ経済学の対象 2．需要と供給　需要曲線と供給曲線 3．価格の決定　供給量の変化と均衡価格 4．需要と供給の応用　需要曲線のシフト 5．需要曲線と消費者行動　需要曲線の形と支出額 6．需要曲線と消費者余剰　消費を通して得られる利益 7．消費者行動のまとめ 8．費用の構造①　費用の分類 9．費用の構造②　各種費用曲線 10．利潤最大化　供給曲線と費用 11．生産者余剰　収入と費用 12．完全競争市場　価格調整と均衡 13．余剰分析　市場取引と資源配分 14．市場競争と経済発展　競争のメリット 15．重要事項の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J20001B0A
科目名	マクロ経済学基礎	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Macroeconomics		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント等		
教材（その他）	プリント等		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 40%、最終レポート試験 50%		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★	★	−

年度	2016	授業コード	J20001B0C
科目名	マクロ経済学基礎	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Macroeconomics		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント等		
教材（その他）	プリント等		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 40%、最終レポート試験 50%		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★	★	−

年度	2016	授業コード	J2000200B
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放つことになる．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる一方、軽減税率も導入される予定である．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J20019002
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	（１）　本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 （２）　毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （３）　白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（テキスト）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考文献）	（１）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （２）各省庁発表の白書の本文は、省庁ＨＰ上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。		
教材（その他）	適宜、指定・紹介する。		
評価方法	①毎回の受講レポート 70% ②中間試験および授業内発表 30%		
到達目標	①　現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法を学び、時事問題への確実な理解を深める。 ②　学生各自の専門分野と直接・間接に関連する政策課題について理解を深め、卒業研究に役立てる。 ③　聞き取り力、質問力、表現力など、就職活動の実践で役立つスキルの向上を目指す。		
準備学習	①　講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、それらに目を通しておく。 ②　省庁ＨＰ上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。		
受講者への要望			
１．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。 ２．卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。 ３．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
講義の順序とポイント			
１．講義の順序 第１回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か 第２回－第７回（前半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第８回：前半の白書の要点整理とその確認テスト 第９回－第１４回（後半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第１５回：後半の白書の要点整理とレポート課題の案内 ２．昨年 2015 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。 ① 経済財政白書（内閣府）　② 労働経済白書（厚生労働省）　③ 消防白書（消防庁）　④ 厚生労働白書（厚生労働省）　⑤ 国土交通白書（国土交通省）　⑥ 食料・農業・農村白書（農林水産省）　⑦ 防衛白書（防衛省）　⑧ 外交青書（外務省）　⑨ 観光白書（観光庁）　⑩ 犯罪白書（法務省）　⑪ 情報通信白書（総務省）　⑫ 京都市・地域創生計画（京都市）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J20020A01
科目名	コンピュータによる統計学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Computer Statistics A		
担当者名	臼井　正	旧科目名称	コンピュータによる統計学入門
講義概要	視聴率や世論調査、マーケティングなどで広く用いられており、経済学にとっても必須である統計学について、エクセルを使いながら、基礎的概念を学ぶ。エクセルを使うことによって、単なる公式の暗記ではなく、統計学の基礎的な考え方を直観的に理解することを目指す。同時に、エクセルでの関数、グラフ作成、データ分析などの操作に習熟することも目指す。 春学期は、与えられたデータを数値やグラフとしてあらわす記述統計と、確率分布の基礎を学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（50%；出席状況等による）＋レポート（50%）。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	Excel での関数、グラフ作成、データ分析ツールなどの操作に習熟するとともに、記述統計（平均、標準偏差、相関係数など）、確率分布（二項分布、ポアソン分布）など、統計学の基礎的概念を学ぶことを目指す。		
準備学習	Excel を使って授業を進めていくので、Excel の基本操作が出来ていることが望ましいが、授業の中でも適宜指導するつもりである。これまで受講した Excel の授業の復習をしておきましょう。		
受講者への要望			
引き続き B を受講することが望ましい。 積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。			
講義の順序とポイント			
1. データの平均、データのソート、移動平均 2. 同上 3. データの分散、四分位偏差、偏差値 4. 同上 5. 度数分布 6. 同上 7. 相関、散布図、回帰曲線 8. 同上 9. 分割表 10. 乱数 11. 同上 12. ２項分布 13. 同上 14. ポアソン分布 15. 同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20020B01
科目名	コンピュータによる統計学入門 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Computer Statistics B		
担当者名	臼井　正	旧科目名称	コンピュータによる統計学入門
講義概要	視聴率や世論調査、マーケティングなどで広く用いられており、経済学にとっても必須である統計学について、エクセルを使いながら、基礎的概念を学ぶ。エクセルを使うことによって、単なる公式の暗記ではなく、統計学の基礎的な考え方を直観的に理解することを目指す。同時に、エクセルでの関数、グラフ作成、データ分析などの操作に習熟することも目指す。 秋学期は、確率分布の続きからはじめて、少数のサンプルから全体の傾向を推し量る推測統計（区間推定・仮説検定）を学んでいく。		
教材（テキスト）	なし、適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%；出席状況等による）＋レポート（50%）。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	Excel での操作に習熟するとともに、確率分布（正規分布など）、区間推定・検定など、統計学の基礎的概念を学ぶことを目指す。		
準備学習	A を受講済みであることが望ましいが、B のみ受講する学生にも配慮する。		
受講者への要望			
積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習問題 2.　標準正規分布 3. 正規分布 4. ｔ 分布 5. 同上 6. カイ２乗分布 7. 同上 8. 大数の法則、中心極限定理 9. 同上 10. 区間推定 11. 同上 12. 仮説検定 13. 同上 14. 適合度と独立性の検定 15. 復習問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20029A01
科目名	日本経済論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	ミクロ経済学やマクロ経済学の知識を使って日本経済の現状に関する理解を深めることが、この科目の目的です。具体的には、近年の日本経済が直面している課題を理解してもらうために、いくつかのトピックを取り上げます。		
教材（テキスト）	本学の図書館にある本の中から必要に応じて授業中に指示します。		
教材（参考文献）	『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞社）		
教材（その他）	新聞の経済欄		
評価方法	授業内課題（90%）、レポート（10%）		
到達目標	日本経済の現状に対する理解を深める。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

成績評価の基準となる授業内課題にきちんと取り組んでもらう必要があるので、遅刻を厳禁します。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．GDP から見た日本経済の動向
3．為替相場の変動が日本経済に与えた影響
4．　1980 年代～1990 年代における財政金融政策の問題点①
5．　1980 年代～1990 年代における財政金融政策の問題点②
6．1990 年代における財政金融政策の問題点
7．2000 年代における財政金融政策の問題点
8．2010 年代における財政金融政策の問題点
9．生産の海外移転と産業の空洞化
10．日米半導体協定と半導体産業の凋落
11．日米包括協議と日本の「構造改革」の意味①
12．日米包括協議と日本の「構造改革」の意味②
13．外部経済を通じて見た情報産業の動向
14．外部経済を通じて見た地方の衰退
15．家族のあり方の変化と日本経済

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J20029B01
科目名	日本経済論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後の日本経済は、戦後復興期、高度経済成長期、オイルショックと円高不況期、バブル経済の崩壊と失われた１０年（あるいは２０年）の時期を経て、大きく変化してきた。その結果、経済成長の目標も生産の量的拡大から生活の質的向上を重視する方向へとシフトしつつある。しかし一方では、近年急速に進む経済のグローバル化と少子高齢化のなかで、日本経済の将来に対する深刻な不安材料が指摘されており、これまでの社会システムでは対応しきれない、さまざまな問題が生じている。 本講義は、必要に応じて各種の統計資料を用いながら、日本経済の仕組みと日本経済が抱えている今日的課題について、わかりやすく理論的かつ総合的に解説することを目的とする。		
教材（テキスト）	塚崎公義『増補改訂・よくわかる日本経済入門』（朝日新書、2015 年）		
教材（参考文献）	片岡剛士『アベノミクスのゆくえ――現在・過去・未来の視点から考える』（光文社新書）2013 年 服部茂幸『アベノミクスの終焉』（岩波新書）2014 年		
教材（その他）	毎回プリント配布（毎回の講義ファイルは事前に「京学なび」の授業資料としてアップする）		
評価方法	平常点（６０％）宿題６回提出＋授業内発表（１０％）＋定期試験（３０％）		
到達目標	自分の身の周りで日々生じている経済変化を自分の感性で感じ取り、授業で学んだ経済知識と経済情報を使って理解できる学習能力を、受講生自身に身につけてもらうことを到達目標とする。		
準備学習	指定された教科書の、講義にかかわるところを事前に読んで授業に出席すること。		

受講者への要望

①「日本経済論Ａ」とは内容が重ならないように調整しているので、「日本経済論Ａ」とあわせて受講することが望ましい。
②授業への意欲的な受講を臨む。受講生からの質問、あるいは教員から受講生への問いかけにたいする積極的発言は、「授業内発表」の評価点とする。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス（講義の目標、成績評価）
２．日本経済の TODAY（最近の日本経済の動向）
３．景気の謎を解く①（景気循環など）
４　景気の謎を解く②
５．新成長の設計①（経済成長の理論、国民所得の決定など）
６．新成長の設計②
７．物価と市場経済①（デフレ経済とインフレ経済、日本の物価問題など）
８．物価と市場経済②
９．人口減少時代の財政①（財政の役割、日本の財政問題など）
１０．人口減少時代の財政②
１１．金融システムの再構築①（金融問題と金融政策）
１２．金融システムの再構築②
１３．アベノミクスについて考える①
１４．アベノミクスについて考える②
１５．経営革新と雇用問題（企業経営など）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J20030A01
科目名	産業組織論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Organization A		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	今日，日本の産業では、企業間で様々な形の競争が繰り広げられている。この競争は企業にとって，また社会での資源配分にとってどの様な意味を持つのだろうか。 この講義ではベインの産業組織論に基づいて、産業組織分析の方法を学び、日本の市場における企業間の競争の実態と原理をとらえる。 はじめに、産業組織を学ぶために必要な理論をベインらの産業組織論の方法と体系に基づいて学ぶ。 そのあと具体的な企業間の競争の状態を見ていく。 それぞれの項目では日本の産業組織の今日の実態を補足する。 こうして産業組織論の原理の理解と現実の産業における競争関係を明らかにする。		
教材（テキスト）	なし、毎回プリントを配付する。		
教材（参考文献）	『産業組織論入門』，土井教之編、ミネルヴァ書房、『産業組織論　新版』、新庄浩二編、有斐閣ブックス,『プラクティカル産業組織論』泉田、柳川、有斐閣		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常点 20 点(授業内容について質問，要望，感想まとめなどを書いて提出。出席点ではない。) 試験に代わるレポート 80 点。		
到達目標	産業組織論の枠組みである市場構造，市場行動，市場成果，産業政策を理解する。 具体的な日本の産業における自由競争，寡占支配の実態を知る。		
準備学習	寡占価格を理解しなければならないので、価格論を学習しておくとよい。スティグリッツ『ミクロ経済学』が参考になる。		

受講者への要望

現在の日本の産業における企業間の競争に関心を持っておくこと。
就職しようとする業界の競争状態に関心を持っておくこと。

講義の順序とポイント

Ⅰ　産業組織論の方法
1 (1)産業組織論の枠組み
　(2)産業組織論の主要概念
2　　①産業・市場構造
3　　②競争・市場行動
4　　③企業・市場成果
5　　④産業政策
Ⅱ　市場の構造と企業の行動
ミクロ経済学の基礎
6 (1)完全競争
7 (2)独占的競争
8 (3)独占
　(4)寡占
9　　①協調
１０　②複占
企業の経済学
　　(5)企業の理論
１１ ①利潤極大化，売上高極大化
１２ ②所有と経営の分離
Ⅲ　産業組織論の発展
１３ (1)ゲームの理論１

１４ (2)ゲームの理論２
１５　産業組織理論の視点　市場構造，市場行動，市場成果分析

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J20030B01
科目名	産業組織論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Organization B		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	今日，日本の産業では、企業間で様々な形の競争が繰り広げられている。この競争は企業にとって，また社会での資源配分にとってどの様な意味を持つのだろうか。 この講義ではベインの産業組織論に基づいて、産業組織分析の方法を学び、日本の市場における企業間の競争の実態と原理をとらえる。 はじめに、産業組織を学ぶために必要な理論をベインらの産業組織論の方法と体系に基づいて学ぶ。 そのあと具体的な企業間の競争の状態を見ていく。 それぞれの項目では日本の産業組織の今日の実態を補足する。 こうして産業組織論の原理の理解と現実の産業における競争関係を明らかにする。		
教材（テキスト）	なし、毎回プリントを配付する。		
教材（参考文献）	『産業組織論入門』，土井教之編、ミネルヴァ書房、『産業組織論　新版』、新庄浩二編、有斐閣ブックス，『プラクティカル産業組織論』、泉田、柳川、有斐閣		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常点 20 点(授業内容について質問，要望，感想まとめなどを書いて提出。出席点ではない。) 試験に代わるレポート 80 点。		
到達目標	産業組織論の枠組みである市場構造，市場行動，市場成果，産業政策を理解する。 具体的な日本の産業における自由競争，寡占支配の実態を知る。		
準備学習	寡占価格を理解しなければならないので、価格論を学習しておくとよい。スティグリッツ『ミクロ経済学』が参考になる。		
受講者への要望			
現在の日本の産業における企業間の競争に関心を持っておくこと。 就職しようとする業界の競争状態に関心を持っておくこと。			
講義の順序とポイント			
戦略と競争の分析 Ⅳ　合併 1 合併の効果，実態 Ⅴ　企業協定 2 (1)カルテル，事例 3 (2)垂直的取引制限 Ⅵ　戦略的行動 4 (1)戦略的行動 5 (2)参入阻止価格論 Ⅶ　企業の価格・非価格戦略 6 (1)価格・非価格戦略 7 (2)製品差別化 Ⅷ　最近の産業組織 8 (1)ネットワーク 9 (2)イノベーション 10 (3)グローバル化，貿易 Ⅸ　公共政策 11 (1)競争政策 独禁政策 12 (2)規制緩和 規制と規制緩和 Ⅹ　日本の産業組織 13 (1)自動車産業			

14 (2)携帯産業

15　産業組織論の見方　市場構造，市場行動，市場成果，産業政策について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J20039001
科目名	情報システム設計実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practice of Information System Design		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	現代の情報社会はそれ自体がシステムであり、産業、地域社会、家庭などもそれぞれシステムとして機能している。このような時代背景のもとで必要とされるシステムの設計、運用に関する基本的な知識・技術などについて実習をふまえて習得を目指す。 本講義では、情報処理システムがどのような仕組みなのか、実際にシステムを開発する立場となって必要な基本設計、外部設計、内部設計、プログラミング、テスト、保守・管理の基礎知識を学ぶ。 実習では、システムの設計を経験して、高度情報社会に対応できる基本的な想像能力と実践的な技術の習得を目標とする		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	木暮　仁　著「情報システム設計論」　日科技連 加藤　英雄　著　「SE のための図解システム設計の基礎」　　共立出版株式会社		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「課題演習+レポート」(30%)+「システム設計実習」(30%)+平常点(40%)		
到達目標	1.　情報システムの設計、運用に関する基本的な知識、技術の習得。 2.　基本的なシステム設計の実習により、情報社会で必要な実践的な技術の習得。		
準備学習	1.　どのような情報システムがあるのか学習しておくこと。		

受講者への要望

1.　第１回はガイダンスを行うので必ず出席すること。欠席の場合は「受講の意思がない」とみなす。
2.　毎回講義の最後に、当日の講義のまとめと次回の実習内容に関して説明を行うので各自復習および予習を行うこと。
3.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める

講義の順序とポイント

1.　情報システム設計実習の学び方
2.　システム設計とは
3.　システムの開発について
4.　システムの開発手順
5.　基本設計
6.　外部設計
7.　内部設計
8.　プログラミング設計
9.　システムの試験
10.　システムの保守管理
11.　システム設計実習(1)
12.　システム設計実習(2)
13.　システム設計実習(3)
14.　システム設計実習(4)
15.　設計実習したシステムの検証と考察

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J20039002
科目名	情報システム設計実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practice of Information System Design		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	現代の情報社会はそれ自体がシステムであり、産業、地域社会、家庭などもそれぞれシステムとして機能している。このような時代背景のもとで必要とされるシステムの設計、運用に関する基本的な知識・技術などについて実習をふまえて習得を目指す。 本講義では、情報処理システムがどのような仕組みなのか、実際にシステムを開発する立場となって必要な基本設計、外部設計、内部設計、プログラミング、テスト、保守・管理の基礎知識を学ぶ。 実習では、システムの設計を経験して、高度情報社会に対応できる基本的な想像能力と実践的な技術の習得を目標とする		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	木暮　仁　著「情報システム設計論」　日科技連 加藤　英雄　著　「SE のための図解システム設計の基礎」　　共立出版株式会社		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「課題演習+レポート」(30%)+「システム設計実習」(30%)+平常点(40%)		
到達目標	1.　情報システムの設計、運用に関する基本的な知識、技術の習得。 2.　基本的なシステム設計の実習により、情報社会で必要な実践的な技術の習得。		
準備学習	1.　どのような情報システムがあるのか学習しておくこと。		

受講者への要望

1.　第１回はガイダンスを行うので必ず出席すること。欠席の場合は「受講の意思がない」とみなす。
2.　毎回講義の最後に、当日の講義のまとめと次回の実習内容に関して説明を行うので各自復習および予習を行うこと。
3.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める

講義の順序とポイント

1.　情報システム設計実習の学び方
2.　システム設計とは
3.　システムの開発について
4.　システムの開発手順
5.　基本設計
6.　外部設計
7.　内部設計
8.　プログラミング設計
9.　システムの試験
10.　システムの保守管理
11.　システム設計実習(1)
12.　システム設計実習(2)
13.　システム設計実習(3)
14.　システム設計実習(4)
15.　設計実習したシステムの検証と考察

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J20044A01
科目名	交通経済論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Transportation Economics　A		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	この講義では、交通問題を事例に、社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習に関する課題を経済学の手法で検討します。 　あらゆる社会・経済活動は多かれ少なかれ規制を受けていますが、これは「公共性」、すなわち「市場の失敗・欠落」の議論によって説明することができます。交通政策においても、まず、この市場の失敗・欠落要因について検討することが重要です。したがって、本講では交通の諸相を市場の失敗を切り口に論じます。		
教材（テキスト）	印刷して配布するか、京学なびに upload します。 　中条藤井編『現代交通政策』あるいは中条藤井編『自由化時代の交通政策』を使うかもしれませんが、受講者の興味の程度がまだわかりませんので、まだ購入しないください。		
教材（参考文献）	必要な場合には印刷して配布するか京学なびに upload します。		
教材（その他）	必要な場合には京学なびに upload します。		
評価方法	学期末試験 100%。ただし、必要に応じて小テストを実施するかもしれません。		
到達目標	交通問題を通じて市場メカニズムの機能と市場の失敗を理解すること。		
準備学習	詳しくは授業でお話しますが、「経済学を理解している」前提で授業をします。ですので、経済学を理解していない諸君は、経済学を理解することが準備学習となります。 　ただし、授業においても、経済学の関係に言及しながらお話をします。 　また、必要に応じてレポートの作成などを求める場合があります。 　なお、興味のあることについて予習復習して質問することは歓迎です。		

受講者への要望

　授業に出席するに際して基本的に必要な礼儀、気遣い、心構えについては、言うまでもないので記しませんが当然守ってください。

講義の順序とポイント

1．開題：交通経済と公共政策
2．Ⅰ．資源配分の適正化と市場機構の役割
　（1）資源配分の適正化とは？
3．　（2）市場への不用意な介入がもたらす問題
4．　（3）政府の失敗・規制の失敗
5．Ⅱ．交通市場における「市場の失敗」の理論的検討
　（1）交通における環境汚染（外部効果）
6．　（2）交通と地域開発効果（外部効果）
7．　（3）セキュリティと交通～国防はなぜ税金で維持するのか？（社会欲求財）
8．　（4）価値欲求財と交通
9．　（5）安全規制（情報の不完全）
10．　（6）防災の経済学（情報の不完全）
11．　（7）空港発着枠の配分（所有権の不確定）
12．　（8）なぜ不採算路線を補助しなければいけないのか？（所得再分配）
13．　（9）社会的内部補助の問題点（所得再分配）
14．　(10）鉄道における破滅的競争の経験（規模の経済性）
15．　(11)　企業的内部補助とラムゼー価格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J20044B01
科目名	交通経済論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Transportation Economics　B		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	本講義は、交通経済論Ａにおける理論的検討を、具体的交通市場の一つである航空市場に適用して具体的な政策のありかたを論じます。いわば交通経済論Ａの応用編です。 本講義は、航空市場の特殊性を議論する授業ではありません。航空市場をとりあげる理由は、興味を持つ学生が多く、題材としてわかりやすいからに過ぎません。航空市場はあくまでも例の一つです。交通経済論Ａにおける理論的検討は、どの交通手段についても適用できることを、航空以外の市場に興味ある学生にもわかるように説明しながら、講義をすすめます。たとえば、空港整備という社会資本投資の問題の本質は、高速道路整備と全く同じであることに言及しながら、政策論を展開します。		
教材（テキスト）	中条潮著『航空幻想』（中央経済社）第２版。		
教材（参考文献）	当面、使いませんが、質問あれば必要に応じて紹介します。		
教材（その他）	教科書に記していない講義内容について必要に応じて京学なびに upload します。		
評価方法	学期末試験 100%。必要に応じて小テストを実施するかもしれませんがその際は指示します。		
到達目標	市場メカニズムの機能と市場の失敗を航空市場に則して理解し、経済の基本原理が航空市場でも同様にあてはまることを理解すること。		
準備学習	「交通経済論 A」と同じですが、「経済学の理解」に加えて、「交通経済論 A で学んだ事の理解」も加えてください。それを前提に講義を行います。 必要に応じてレポートの作成などを求める場合があります。 興味のあることについて予習復習して質問することは歓迎です。		

受講者への要望

本講義は交通経済論Ａを履修済みの学力を有することを前提に行います。
航空の経営問題については、政策論を展開する際に必要な範囲でとりあげますが、企業の利益を最大化することを目的とした講義ではなく、社会全体の利益を最大化する経済学を基盤とした講義であることを理解の上、履修してください。講義の視点は第１回講義で詳しく話します。

講義の順序とポイント

１．序　本講義の目的
２．Ⅰ．航空の全体像概観と本講義の視点
３．Ⅱ．航空サービスの需要特性概観
４．Ⅲ．航空市場の発展と現代的課題
５．Ⅳ．航空自由化政策の流れ
　　１．規制緩和政策の経緯
６．　２．オープンスカイの進展
７．Ⅴ．航空輸送事業の経営課題と政策課題～
　　１．LCC の攻勢
８．　２．日本における LCC の発展可能性
９．　３．既存大手航空会社の反撃～LC の経営戦略～
10．　４．幻想から覚めたか日本航空
11．Ⅵ．空港経営と空港政策の課題(pp.157-248)
　　１．空港整備運営に関する誤解
12．　２．空港民営化の課題
13．　３．ハブ競争・ハブ空港の課題
14．　４．発着枠配分のありかた
15．Ⅶ．スカイマークが飛び立つまで

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J20055A01
科目名	経済政策 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面しています．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きいといえます．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類することができます．こうした個別具体的な政策を 理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論を理解する必要があります． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版， 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J20055B01
科目名	経済政策Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	我が国は人口減少社会に移行する中，経済社会のあり方が問われています．高度経済成長の成果を踏まえ，「日本型福祉国家」の建設を目指してきましたが，経済的・社会的環境の変化により，福祉国家政策は行き詰まり，いまや政策体系の根本的な見直しを迫られています．欧州諸国でも「福祉国家の危機」が，1980 年以降急速に政治問題化し，欧州委員会を中心に「持続可能な社会保障制度の再構築」が模索されています． 本講義では，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，人口減少社会における持続可能な社会保障制度のあり方について考えます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	人口減少社会における社会保障保を巡る諸問題の理解を目標とする		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1. 社会体制と政策思想 2.福祉国家の 2 類型 3.新しい社会問題 4.福祉国家の基本構想 5.成長と分配の総合政策（１） 6.成長と分配の総合政策（２） 7.成長と分配の総合政策（３） 8.成長と分配の総合政策（４） 9.成長と分配の総合政策（５） 10.雇用と経済安定化政策（１） 11.雇用と経済安定化政策（２） 12.雇用と経済安定化政策（３） 13.移行的労働市場論 14.フレキシキュリティ政策 15.社会的包摂のための政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J20056A01
科目名	社会政策Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	今日、わが国では他に類を見ない速さで少子・高齢化が進んでいる。こうした状況の下で、社会保障に期待される役割はますます大きくなっているが、それが大きな困難に直面していることも周知の通りである。 そこでこの講義では、今日われわれの生活にとって欠くことのできないものとなっている社会保障について、はじめにその全体像を概観した上で、医療保障、所得保障、介護保障というその主要な分野を取り上げ、それぞれの制度の目的と概要を確認するとともに、その現状と問題点などについて考察を行う。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版 社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・社会保障関係はもちろんのこと、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、秋学期開講予定の「社会政策Ｂ」をあわせて受講することが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．少子・高齢化の進行
３．医療保障の概念と制度
４．医療保障の制度体系
５．医療保険制度の現状
６．医療保険制度の課題
７．所得保障の諸制度
８．年金制度の概要①
９．年金制度の概要②
１０．年金制度の現状
１１．年金制度の課題
１２．高齢者介護をめぐる状況①
１３．高齢者介護をめぐる状況②
１４．介護保険制度の概要と課題
１５．高齢者介護システムの類型

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J20056B01
科目名	社会政策Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	今日、わが国では他に類を見ない速さで少子・高齢化が進んでいる。こうした状況の下で、社会保障に期待される役割はますます大きくなっているが、それが大きな困難に直面していることも周知の通りである。 そこでこの講義では、まず、社会保障の概念と制度体系について述べた上で、社会保障が私たちの社会において必要になった理由を、歴史的視点および超歴史的視点から考える。 さらに、社会保障の登場から今日に至るまでの歴史的展開を見ていくことで、戦後西側諸国の指導像となった「福祉国家」がどのように成立し、どのような特徴を持つのか、そしてそこに生じた困難とはどのようなものなのかを考察する。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版 社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・社会保障関係はもちろんのこと、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、春学期開講予定の「社会政策Ａ」を受講しておくことが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度①
３．社会保障の概念と制度②
４．社会保障の体系と二定型
５．わが国における社会保障の概念
６．社会保障の必要性：超歴史的視点から①
７．社会保障の必要性：超歴史的視点から②
８．社会保障の必要性：歴史的視点から①
９．社会保障の必要性：歴史的視点から②
１０．社会保障の必要性：歴史的視点から③
１１．社会保障の源流
１２．社会保障の登場と発展
１３．福祉国家の光と陰①　福祉国家の発展
１４．福祉国家の光と陰②　福祉国家の危機
１５．わが国における社会保障の歴史的展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J20057A01
科目名	ファイナンシャル・エコノミクス s	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics (s)		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	金融全般についての，幅広い講義を行う．特に，金融取引，金融市場，金融機関，金融システム，プルーデンス政策についての基礎的な知識の習得を目標とする．これらの言葉の意味，概念は，なんとなく知っているが上手く説明できない，という学生も多い．この講義では，これらをきちんと認識できるように順序立てて説明していく．そもそも，金融とはなにか，なんのために金融取引が行われているのか，なんのために金融市場や金融機関が存在するのか，という根本から説明する．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０%），定期テスト（６０%）．		
到達目標	金融全般について，大学生にふさわしい知識を習得する．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
ひとつひとつの物事，事象を区別して見たり覚えるだけではなく，それぞれがどのように結びついているのか，関係しているのか，という視点を持ってください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：経済学における金融 ３：金融の本質と役割 ４：金融取引１ ５：金融取引２ ６：金融市場１ ７：金融市場２ ８：金融機関１ ９：金融機関２ １０：金融システム１ １１：金融システム２ １２：金融制度・規制１ １３：金融制度・規制２ １４：金融と情報の非対称性 １５：金融とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20057B0A
科目名	ファイナンシャル・エコノミクス f	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics (f)		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	企業および個人の意思決定に焦点を当て，前半は企業金融について学び，後半は金融契約について考える．この講義では，個人の意思決定，相互作用の環境に注目した金融のテーマを掘り下げて解説する．これらのテーマを理解するうえで重要なのは，物事を順序立てて，論理的に考えることである．ファイナンシャル・エコノミクス s（春学期）で学んだ知識，認識，理解を活用する講義であり，毎回，学生諸君に思考することを要求する．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０%），定期テスト（６０%）．		
到達目標	物事を論理的に考える．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
ある時点での意思決定が将来にどのような影響を及ぼすか，ということについて論理的に考える意識を持ってください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：企業金融とは ３：資本コスト１ ４：資本コスト２ ５：企業の投資１ ６：企業の投資２ ７：企業の資金調達１ ８：企業の資金調達２ ９：情報の非対称性と金融契約 １０：逆選択問題 １１：モラル・ハザード問題 １２：インセンティブ契約 １３：企業統治１ １４：企業統治２ １５：金融とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20062A01
科目名	財政学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance A		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	現在の我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、その一方で少子高齢化に伴う社会保障問題や多額の政府債務残高に直面し、2014 年 4 月から消費税の引き上げが行われた。本講義では日本や諸外国の財政状況や政府の役割に注目する。特にミクロ的な視点に立ち、上記の問題や現象がなぜ生じるのか、また我々の日常生活にどのような影響を及ぼすのか、そして解決方法をモデルや現実に観測されるデータを用い理解する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適適宜指示する。		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	税金が家計や企業に与える影響や公共財の役割を理解する。		
準備学習	・ミクロ経済学の知識があることが望ましいので、１年次に履修したミクロ経済学基礎の講義ノートを読み返し　　ておくこと。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.財政学で学ぶ内容とは 2.需要と供給 3.市場メカニズム(1) 4.市場メカニズム(2) 5.余剰分析 6.課税と超過損失(1) 7.課税と超過損失(2) 8.公共財とは 9.公共財の最適供給(1) 10.公共財の最適供給(2) 11.公共財の最適供給(3) 12.外部性とは 13.外部性：ピグー税とコースの定理(1) 14.外部性：ピグー税とコースの定理(2) 15.外部性：ピグー税とコースの定理(3)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J20062B01
科目名	財政学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	現在の我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、その一方で少子高齢化に伴う社会保障問題や多額の政府債務残高に直面し、2014 年 4 月から消費税の引き上げが行われた。本講義では日本や諸外国の財政状況や政府の役割に注目する。特にマクロ的な視点に立ち、上記の問題や現象がなぜ生じるのか、また我々の日常生活にどのような影響を及ぼすのか、そして解決方法をモデルや現実に観測されるデータを用い理解する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適適宜指示する。		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、経済政策の効果、我が国の年金制度が直面する問題を理解すること。		
準備学習	・マクロ経済学の知識があることが望ましいので、１年次に履修したマクロ経済学基礎の講義ノートを読み返しておくこと ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.財政学で学ぶ内容とは 2.政府の役割 3.GDP とは何か 4.GDP と三面等価の定理 5.景気と需要(1) 6.景気と需要(2) 7.フィスカルポリシー(1) 8.フィスカルポリシー(2) 9.ビルトインスタビライザー(1) 10.ビルトインスタビライザー(2) 11.社会保障(1)：社会保障と再分配 12.社会保障(2)：我が国の社会保障制度① 13.社会保障(3)：我が国の社会保障制度② 14.社会保障(4)：少子高齢化と年金制度① 15.社会保障(5)：少子高齢化と年金制度②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★

年度	2016	授業コード	J20064A01
科目名	金融論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融の基礎について講義をする。貨幣の役割、中央銀行の役割、民間金融機関の役割を中心に、金融を学ぶことは何故必要かが分かってもらえる講義にする。短期金融市場、株式市場、債券市場、為替市場についても説明し、ファイナンシャルプランナーを目指す人、金融機関就職を希望する人はもちろんのこと、今後社会に出た時に必要な基礎教養を身に付けたい人にも十分役立つ講義にする。金融政策を中心に扱う金融論Ｂも併せて受講してほしい。		
教材（テキスト）	第１回目の講義時に紹介します。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて紹介していきます。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、小テスト 20%		
到達目標	ファイナンスについての基本的知識を身に着ける。		
準備学習	講義前に新聞やニュースでその日の経済の動きを事前に把握しておくこと。少なくともその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		
受講者への要望			
「金融論Ｂ」「企業金融論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい			
講義の順序とポイント			
1.貨幣とは何か 2.銀行の役割 3.中央銀行の役割 4.金融政策の方法 5.信用創造について 6.金融政策はどのように経済に影響するのか 7.短期金融市場の役割 8.債券についてⅠ 9.債券についてⅡ 10 株式についてⅠ 11 株式についてⅡ 12.為替レートについてⅠ 13..為替レートについてⅡ 14.物価の決定理論Ⅰ 15.物価の決定理論Ⅱ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J20064B01
科目名	金融論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking B		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融政策および金融システムについて講義する。具体的には日本銀行やアメリカの中央銀行、連邦準備銀行は日々どのように金融政策を実施し、危機が生じたときにどのように政策対応するのか、また金融システムを健全に維持するためにはどのような規制が必要であるかを中心に講義する。とくに本年度は、アベノミクスを中心に日本の長期デフレ不況と日銀の金融政策について解説する。身近な事例を紹介しつつ、金融政策の理解を深める。できるだけ平易な解説になるように努めたい。		
教材（テキスト）	講義開始時に紹介する。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて参考文献を紹介する。		
教材（その他）	適宜資料プリントを配布する。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、小テスト 20%		
到達目標	金融政策、金融危機に関する、新聞記事などが十分理解でき、経済政策、とくに金融政策に関して自分なりの意見が述べられるようにする。		
準備学習	ノートを整理すること。新聞の経済記事をよく読んでおくこと。講義の前に必ずその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講者への要望

「金融論 A」「企業金融論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい。

講義の順序とポイント

1 金融危機と金融政策（概説）
2 伝統的金融政策と非伝統的金融政策
3 日銀の伝統的金融調節
4 連邦準備の伝統的金融政策
5 デフレと金融政策
6 金融政策の評価
　テーラルール、NAIRU、オーカンの法則
7 大恐慌（29 年の株価大暴落と連銀の政策対応）
　金本位制、債務デフレ、クレディットビュー、マネビュー
8 日本のバブル：1980 年代後半の金融政策と政治
9　日本の長期デフレ不況：1990 年代
10　アベノミクス登場の背景と意義
11 アメリカの住宅バブルと金融政策
12 リーマンショックと金融政策
　too big to fail 政策、モラルハザード、影の金融システム、スティグマ
13　2000 年代の金融政策、日米比較
14 北欧の金融システムと金融危機
　公的資金の役割、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー
15 金融規制のあり方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20065001
科目名	ファイナンスの数理	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics of Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、投資理論として「どのようなポートフォリオを構築すればよいのか」について代表的な考えを述べる。 具体的には、PC 上で稼働する表計算ソフトとして幅広く利用されている Excel を活用しながら、証券投資分析手法を寛容に学んでいく。証券投資理論に関しては、株式投資分析、債券投資分析、先物とオプションについて、講義を行うつもりである。特に、先物とオプションに関しては、離散時間型の簡単な 2 項モデルを紹介し、このモデルを基に、裁定取引の考え方およびオプション価格(プレミアム)の決定方法を学ぶ。また、ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に、PC を使いながら出来るだけ平易に解説するつもりである。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント配布を行う。		
教材（参考文献）	藤林/岡村/矢野（2009）『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』 第 3 版, 金融財政事情研究会. 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社. 野口 悠紀雄（2000）『金融工学、こんなに面白い』文春新書.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(30%)；複数回のレポート等による。 定期試験(70%)。		
到達目標	ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解度を深めてゆく 。		
準備学習	証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 複数回、小テストを行うので前回の講義内容を復習すること。 ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		
受講者への要望			
統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。 レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。			
講義の順序とポイント			
１．ポートフォリオのリターンとリスク ２．同上 ３．マーケット・モデル ４．同上 ５．資本資産価格モデル（CAPM） ６．同上 ７．債券の価格と利回り ８．同上 ９．イールドカーブの特性 １０．債券のリスク（価格変動リスク、信用リスク）とポートフォリオ １１．同上 １２．先物の理論価格とヘッジ １３．オプションの概要 １４．同上 １５．まとめ： 演習の復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J20066A01
科目名	時系列データ分析 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、最小二乗法を中心に、定常、非定常の検定を学ぶ。EViews という分析ソフトを使用。EViews という経済分析ソフトを使って、経済データのいろいろな分析、推計、モデル作成などを行う。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」にて、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで配布。		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と 2 回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（1）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果が解釈できる。 （2）経済データが定常か非定常かを単位根検定できる。 （3）系列相関の有無（毎回の経済ショックが過去の影響を引きずっているか）。		
準備学習	EViews というソフトはクリックするだけで結果を出してくれる。計算手法そのものの理解は、統計学や数学、コンピュータのプログラムなど膨大な知識を要求するので、気にしなくてもよい。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いである。経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回の資料を「京学なび」で事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料（課題）の最後に、次週までに解いておくべき課題（発展問題）を示しておくので、その課題を解いて、次の授業までに「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講者への要望

数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。
経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。

講義の順序とポイント

（1）データ取得と加工、EViews の基本操作とグラフ表示
（2）季節調整、平均化、smoothing、記述統計
（3）最小二乗法による推定――回帰直線
（4）最小二乗法による推定――重回帰
（5）最小二乗法による推定――ダミー変数導入による賃金の推定（男女、年齢、経験の影響）
（6）自己相関、相互相関
（7） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響）
（8）レベル変数（非定常）と階差変数（定常）
（9）系列相関の考え方
（10）単位根検定（定常、非定常）――トレンドの検定、ERS 検定、KPSS 検定
（11）単位根検定――日本のデータ
（12） 単位根検定――ヨーロッパのデータ、アメリカのデータ
（13）レベル変数間の推定
（14）階差変数（成長率）間の推定
（15）レベル推定と階差推定の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20066B01
科目名	時系列データ分析Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、主として、最小二乗推定を用いて、マクロ経済システムを推定する。経済時系列手法により、GDP、マネー、金利、株式などの変数からなる VAR モデルを推定する。インパルス応答によるモデルの動きを調べて、作成したモデルの検証方法も調べる。		
教材（テキスト）	毎回、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで事前配布。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と２回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（１）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果の経済的な意味合いを理解できる。 （２）VAR モデルの推定ができる。 （３）インパルス応答によるモデルの検証ができる。		
準備学習	経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回、EXCEL によって資料と課題を事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料配布時に、資料の最後に課題（発展問題）を入れておくので、次回の授業までに、課題を解いて「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		
受講者への要望			
数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。 経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。			
講義の順序とポイント			
（１）EViews の基本操作とグラフ表示 （２）最小二乗法による推定――その１ （３）最小二乗法による推定――その２ （４）最小二乗法による推定――その３ （５）自己相関、相互相関 （６） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響） （７）レベル変数（非定常）と階差変数（定常） （８）物価の特徴（インフレ率）と Phillips 曲線 （９）金利の特徴（短期金利、長期金利） （１０）推定と AIC 規範 （１１）VAR モデルの推定、level 変数 （１２）VAR モデルの推定、成長率モデル （１３）インパルス応答 （１４）GDP とマネーと金利の関係 （１５）日本・USA・ヨーロッパ諸国の具体例と相違点			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20069001
科目名	リスク・マネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）	Risk Management		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	金融工学とは、金融市場で資金を運用する際に生じるリスクを工学的な手法を用いて計測し、適切に管理することを目的して発展してきた学問である。当該分野は、数学、統計学、経済学等の手法を駆使してリスク測定・管理を行う。本講義では、金融・経済で用いられる統計学に焦点を当てながら、金融工学におけるリスク測定・管理の手法を理解していく。ただし、数学が苦手な文系の受講者を想定しており、初歩から理解を深めていく予定である。		
教材（テキスト）	藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社.		
教材（参考文献）	田渕 直也（2015）『カラー図解でわかる金融工学「超」入門』 サイエンス・アイ新書. 足立 光生（2004）『金融工学を勉強しよう』 日本評論社.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(30%)；複数回のレポート等による。 定期試験(70%)。		
到達目標	本講義を通じて、データ整理の基本から、ブラック・ショールズ・モデルまでを理解すること。統計学を使って、安く買って高く売る、しかもリスクを減らす方法を理解すること。		
準備学習	事前に各回のテキストを読んで、自分なりの解釈をして講義に臨むこと。 参考文献欄に挙げた文献すべてを学期中に読破すること。 ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		
受講者への要望			
授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。			
講義の順序とポイント			
1. データ整理の基本： 平均と分散、標準偏差 2. データ整理の基本： 共分散と相関係数 3. ポートフォリオの適切な組合せ方： 収益率の平均と標準偏差 4. ポートフォリオの適切な組合せ方： 資本資産評価モデル（CAPM）と$\sqrt{t}$ルール 5. 「めったにない安値」で買い、「めったにない高値」で売る： 確率分布とは？ 6. 「めったにない安値」で買い、「めったにない高値」で売る： めったにない安値と高値の計算 7. 最悪の損失を最小化する方法： バリュー・アット・リスク(VaR)とは？ 8. 最悪の損失を最小化する方法： ポートフォリオの VaR を求める 9. 「よくある価格」を知るための方法： 「よくある価格」の推定 10. 「よくある価格」を知るための方法： 「よくある価格」が変化したかを検定する 11. 売買する権利の価格を求める： オプションとは？ 12. 売買する権利の価格を求める： オプションの価格を求める 13. ブラック・ショールズ・モデル： 連続時間における元利合計を求める 14. ブラック・ショールズ・モデル： ブラック・ショールズ・モデルでオプション価格を求める 15. まとめ： 演習の復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20070001
科目名	金融市場論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Financial Market		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	先ず，金融市場の分類や機能についての包括的な説明をする．次に，特に重要である証券市場（株式市場・債券市場），貸出市場について講義する．これらの後に，金融市場を理解する上で欠かすことができない要素である，情報の非対称性が引き起こす様々な問題について考える． この講義では，金融および金融市場について，大学生にふさわしい知識を習得することを目標としている．したがって，特別に専門的な内容は扱わない．ただし，利子率を用いた簡単な計算は講義に用いる．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％），定期テスト（６０％）．		
到達目標	金融および金融市場について，大学生にふさわしい知識を習得する．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
他の金融関連科目にも出席するようにしてください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：金融市場の概要 ３：金融市場の種類と性質 ４：株式市場１ ５：株式市場２ ６：債券市場１ ７：債券市場２ ８：貸出市場１ ９：貸出市場２ １０：利子率 １１：割引現在価値 １２：情報の非対称性とは １３：逆選択問題と金融市場 １４：モラル・ハザード問題と金融市場 １５：金融市場とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20075A01
科目名	国際金融論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国際間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である．国際金融論 A では，国際金融取引の現状から比較的初歩的な為替レート決定理論について説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際金融論の初歩的な内容である国際金融取引の基礎や外国為替の仕組み，為替レートと貿易収支の関係についてまず学習し，最終的に初歩的な為替レート決定理論である購買力平価や金利平価を理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの授業を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．国際金融取引の基礎：グローバル化するもの・お金の動き 3．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 4．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 5．国際金融取引の基礎：国際収支表の見方・書き方 6．国際金融取引の基礎：国際資本移動が生じる理由 7．外国為替の基礎：外国為替の仕組み，外国為替市場の特徴 8．外国為替の基礎：為替レートの見方，名目為替レートと実質為替レート 9．為替レートと貿易収支の調整：円高・円安と貿易収支 10．為替レートと貿易収支の調整：マーシャル・ラーナー条件 11．為替レートと貿易収支の調整：J カーブ効果 12．為替レートの決定：購買力平価（絶対的購買力平価） 13．為替レートの決定：購買力平価（相対的購買力平価） 14．為替レートの決定：購買力平価不成立に関する理論（バラッサ・サミュエルソンの定理） 15．為替レートの決定：金利平価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J20075B01
科目名	国際金融論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国際間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である．国際金融論 B では，主要な為替レート決定モデルから為替レート変動が実体経済に与える影響について説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際金融論の主要な内容である為替レートの決定と為替変動がマクロ経済に与える影響について理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学と国際金融論 A の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの授業を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．為替レート決定理論を分析するための準備 3．為替レート決定理論を分析するための準備 4．為替レート決定理論：フローアプローチ 5．為替レート決定理論：伸縮価格マネタリーモデル 6．為替レート決定理論：硬直価格マネタリーモデル 7．為替レート決定理論：為替リスク，リスク・プレミアム 8．為替レート決定理論：ポートフォリオ・バランス・モデル 9．為替介入の方法と効果：介入の仕組みと効果経路 10．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習 11．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習 12．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース） 13．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース） 14．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動がないケース） 15．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動がないケース）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J20078A01
科目名	簿記原理Ｉｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping I (s)		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといってよいでしょう。 この授業では、はじめて簿記を学ぶ人を対象に、個人企業（主に商店）の簿記の構造と理論をわかりやすく解説するとともに、練習問題等を多く取り入れ、実際の簿記の技術を身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記３級　Ver.8.0』（TAC 出版）		
教材（参考文献）	必要に応じて授業の中で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	日商簿記検定３級の範囲の知識の習得を目指します。		
準備学習	準備学習というより、次の授業までに必ず前回の授業内容の復習を心掛けるようにしてください。		
受講者への要望			
この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に参加し、簿記に対する関心を深め、しっかりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けて下さい。			
講義の順序とポイント			
１，簿記って何！ ２，簿記の流れ ３，簿記上の取引 ４，日常の手続き ５，商品売買１ ６，商品売買２ ７，商品売買３ ８，現金、当座預金 ９，小口現金、手形 １０，期中の取引１ １１，期中の取引２ １２，期中の取引３ １３，期中の取引４ １４，期中の取引５ １５，試算表の作成と復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J20078B0A
科目名	簿記原理Ⅰｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping I (f)		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといってよいでしょう。 この授業では、はじめて簿記を学ぶ人を対象に、個人企業（主に商店）の簿記の構造と理論をわかりやすく解説するとともに、練習問題等を多く取り入れ、実際の簿記の技術を身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記３級　Ver.8.0』（TAC 出版）		
教材（参考文献）	必要に応じて授業の中で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	日商簿記検定３級の範囲の知識の習得を目指します。		
準備学習	準備学習というより、次の授業までに必ず前回の授業内容の復習を心掛けるようにしてください。		
受講者への要望			
この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に参加し、簿記に対する関心を深め、しっかりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けて下さい。			
講義の順序とポイント			
１，試算表の作成１ ２，試算表の作成２ ３，試算表の作成３ ４，決算の手続き１ ５，決算の手続き２ ６，決算の手続き３ ７，勘定の締め切り ８，財務諸表の作成１ ９，財務諸表の作成２ １０，財務諸表の作成３ １１，簿記一巡の手続き１ １２，簿記一巡の手続き２ １３，伝票式会計 １４，その他の簿記１ １５，その他の簿記２と復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J20085A01
科目名	マーケティングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing I		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	マーケティング・マインドを身につけるための講座です。 マーケティング・マインドとは、普段日常として見ている現実を意識的に要素に細分化し、要素を組みなおして再構築、さらに新しいアイデアによってデザインし直すための思考能力です。 デザインする対象は商品であったり、コミュニケーションであったり、世代や嗜好で分類される人であったり、様々なものが対象となり、社会に夢を作っていきます。 前期はマーケティングの学問としての枠組みを学び、後期は様々な題材をテーマにしながら戦略的マーケティングからソーシャルマーケティングまでカバーする予定です。社会に役立つマーケティングの科学を実感します。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第４版）』有斐閣アルマ　2,160 円		
教材（参考文献）	適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイントを配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●マーケティングの独特の考え方を身につける ●マーケティングの視点で現実を分析できるようにする ●マーケティングの基礎的な理論から最近の理論までを網羅的に知ることができる		
準備学習	ホットトピックスについてその都度授業で解説しますので、ネットや新聞で常にチェックしておいてください。		

受講者への要望

授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. マーケティング・マインドとは
2. マーケティング課題
3. 標的市場と市場細分化
4. 市場細分化の体系
5. 市場データ分析
6. 消費者行動論
7. 消費者理解の方法
8. マーケティングの４Ｐ理論
9. 商品と価格
10. 流通分析　売り場の科学
11. マーケティング・コミュニケーション
12. 競争戦略
13.ブランド・エクイティ論
14. 経験経済　モノからコトへ
15. 関係性のマーケティング

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J20085B01
科目名	マーケティングII	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing II		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	現在の消費の多様化に対して進化する、戦略的マーケティングの考え方についての講座です。基本的なマーケティングを基礎として、その応用編かつ実践編になります。 大衆によるマス消費から、個人による消費対象の多様化、さらに社会の課題を共有するコミュニティによる消費行動の多様化に至る道を、事例を通して包括的に学びます。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第 4 版)』有斐閣アルマ　2000 円＋税		
教材（参考文献）	授業の進行とともに、参考文献を提示します		
教材（その他）	パワーポイントを授業時に配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●マーケティングのダイナミクスを実感する ●マーケティングの最先端の課題を知り、それに応じて進化するマーケティングを学べる ●マーケティングを活用して「社会を変える」「社会を良くする」ことを考えられる企画頭になる		
準備学習	その時のホットトピックスを解説しますので、意見を言えるように、常に新聞や情報番組で社会で起きていることにアンテナを張っていてください。		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 戦略的マーケティングとは
2. 企業の成長と事業戦略
3. 競争戦略
4. 消費者の進化
5. トレンドとヒット商品
6. モノからコトへ　サービスのマーケティング
7. 満足化のマーケティング
8. マイクロトレンド　小さいけれど社会を変える市場
9. スペンド・シフト　お金の使い方の変化
10. ソーシャル消費
11. キュレーション　消費者同士が盛り立てる市場
12. マイクロファイナンス　社会を変える投資的消費
13. メイカーズ・ムーブメント　プロシューマーと呼ばれる「作る消費者」
14. マーケティング 3.0　消費者が商品を通して社会をデザインする共創消費
15. 社会を変えるマーケティング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J20117001
科目名	現代ドイツ事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Current Topics in Germany		
担当者名	大前　智美	旧科目名称	
講義概要	「ドイツ」という国について、みなさんはどんなことを知っているでしょうか？ドイツだけでなく「ドイツ語」を話す国はどれぐらいあるか知っているでしょうか？ この講義では、「ドイツ」の文化、社会、歴史、街並みなど、それぞれテーマを決めて、自発的にドイツについて調べてみましょう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代ドイツを知るための 62 章【第 2 版】　明石出版 ISBN-10: 4750337986		
教材（その他）	PC を使って WEB から必要な情報を調べられるようにしておきましょう。		
評価方法	出席状況等による平常点 60%、授業中にまとめるレポート・発表 40%で評価します。		
到達目標	「ドイツ」について、これまで知らなかった一面を知り、ドイツに旅してみたいという気持ち、知識を高める。		
準備学習	必要な情報を収集する方法を身につける。 パワーポイントなどで発表資料を作成できるようにする。		

受講者への要望

積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと。　自ら発見する努力をしてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス：講義の内容、進め方についての説明。ドイツについて紹介します。
2. ドイツ語圏について
3.「ドイツ」の文化について、それぞれテーマを決めて、調査します
4. 調査した内容をレポートとしてまとめます。①
5. 調査した内容をレポートとしてまとめます。②
6. レポート内容を発表しましょう。①
7. レポート内容を発表しましょう。②
8.「ドイツの街」について調べてみましょう。①
9.「ドイツの街」について調べましょう。②
10.「ドイツの街」について、調べた内容をレポートとしてまとめます。
ただし、発表することを念頭においたレポート資料を作成しましょう。
11.「ドイツの街」について発表しましょう①
12.「ドイツの街」について発表しましょう。②
13.「ドイツ語圏」について新たな発見は？
14. ドイツ事情、ドイツ文学について講義
15. この講義を通して知った新たな「ドイツの一面」についてレポートを作成します。

この授業では上記の通り、グループで調査、まとめ、発表を行います。
また、それ以外にこちらから色々な資料を用意し、ドイツの街、文化、産業、映画などについて紹介します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J20117002
科目名	現代ドイツ事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Current Topics in Germany		
担当者名	大前　智美	旧科目名称	
講義概要	「ドイツ」という国について、みなさんはどんなことを知っているでしょうか？ドイツだけでなく「ドイツ語」を話す国はどれぐらいあるか知っているでしょうか？ この講義では、「ドイツ」の文化、社会、歴史、街並みなど、それぞれテーマを決めて、自発的にドイツについて調べてみましょう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代ドイツを知るための 62 章【第 2 版】　明石出版 ISBN-10: 4750337986		
教材（その他）	PC を使って WEB から必要な情報を調べられるようにしておきましょう。		
評価方法	出席状況等による平常点 60%、授業中にまとめるレポート・発表 40%で評価します。		
到達目標	「ドイツ」について、これまで知らなかった一面を知り、ドイツに旅してみたいという気持ち、知識を高める。		
準備学習	必要な情報を収集する方法を身につける。 パワーポイントなどで発表資料を作成できるようにする。		

受講者への要望

積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと。　自ら発見する努力をしてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス：講義の内容、進め方についての説明。ドイツについて紹介します。
2. ドイツ語圏について
3.「ドイツ」の文化について、それぞれテーマを決めて、調査します
4. 調査した内容をレポートとしてまとめます。①
5. 調査した内容をレポートとしてまとめます。②
6. レポート内容を発表しましょう。①
7. レポート内容を発表しましょう。②
8.「ドイツの街」について調べてみましょう。①
9.「ドイツの街」について調べましょう。②
10.「ドイツの街」について、調べた内容をレポートとしてまとめます。
ただし、発表することを念頭においたレポート資料を作成しましょう。
11.「ドイツの街」について発表しましょう①
12.「ドイツの街」について発表しましょう。②
13.「ドイツ語圏」について新たな発見は？
14. ドイツ事情、ドイツ文学について講義
15. この講義を通して知った新たな「ドイツの一面」についてレポートを作成します。

この授業では上記の通り、グループで調査、まとめ、発表を行います。
また、それ以外にこちらから色々な資料を用意し、ドイツの街、文化、産業、映画などについて紹介します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J20190A01
科目名	西洋経済史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	約 1 万年前の農耕の始まりから産業革命を経て 19 世紀後半の大不況（The Great Depression）の時代に至るまでの経済の歴史を概観します。		
教材（テキスト）	本学の図書館にある本の中から必要に応じて授業中に指示します。		
教材（参考文献）	鵜飼保雄・大澤良（2010 年）『品種改良の世界史　作物編』悠書館。		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題（90%）、レポート（10%）		
到達目標	経済史の大きな流れを理解する。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
成績評価の基準となる授業内課題にきちんと取り組んでもらう必要があるので、遅刻を厳禁します。			
講義の順序とポイント			
1．ガイダンス 2．農耕の始まり 3．古代地中海世界における二圃制 4．中世ヨーロッパにおける三圃制① 5．中世ヨーロッパにおける三圃制② 6．農業革命と穀物法の廃止 7．火薬と化学肥料の歴史 8．レコンキスタ 9．大航海時代① 10．大航海時代② 11．重商主義・重農主義の時代と経済学の誕生 12．大西洋の三角貿易 13．産業革命① 14．産業革命② 15．大不況と一次産品価格の下落			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J20190B01
科目名	西洋経済史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	経済学の理論を援用しながら歴史について学ぶことが、この科目の目的です。具体的には、生糸の歴史と国際通貨制度の歴史を取り上げます。生糸の歴史では、ヨーロッパで発達した器械製糸技術やヨーロッパとアメリカにおける絹工業を取り上げます。国際通貨制度の歴史では、11～12 世紀におけるテンプル騎士団の活動から 1930 年代の金本位制停止までを取り上げます。		
教材（テキスト）	本学の図書館にある本の中から必要に応じて授業中に指示します。		
教材（参考文献）	玉川寛治（2002 年）『製糸工女と富国強兵の時代』新日本出版社。		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題（90%）、レポート（10%）		
到達目標	経済の歴史を学びながら経済学の基本的な考え方を身につける。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
成績評価の基準となる授業内課題にきちんと取り組んでもらう必要があるので、遅刻を厳禁します。			
講義の順序とポイント			
1．ガイダンス 2．養蚕・製糸・絹織の絹業３部門の関係 3．比較優位から見た 19～20 世紀の生糸貿易 4．機会費用と家族制度から見た 19～20 世紀の生糸貿易 5．投入物の相対価格から見た欧米の絹工業の特徴 6．価格機構と生糸の繊度の選択 7．モラルハザードと製糸工女の労務管理 8．行動経済学から見た生糸の等級分けの意義 9．十字軍とテンプル騎士団 10．スペイン・ドルの誕生 11．イングランド銀行の世界史的意義 12．金貨本位制のしくみ 13．金地金本位制のしくみ 14．金為替本位制のしくみ 15．金本位制の停止とブロック経済			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J20199A01
科目名	経済数学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics for Economics A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、高校で既習の 1 次関数・2 次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容（B で取り上げる）に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（52%），その理解度を確認する演習・試験（48%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用などの能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		
受講者への要望			
数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。　高校数学の復習から始めるので事前に高校教科書の該当箇所に目を通しておいてください。			
講義の順序とポイント			
1. 数と集合 2. 集合と命題 3. 整式の計算・方程式・不等式 ４．２次関数・２次不等式・２次不等式・ 5. 数列 6. 数列の極限 7. 関数 8. 集合・関数・方程式・不等式・数列について総合演習 9. 指数関数 １０．対数関数 11. 関数の極限と微分 12. 微分の公式 13. 微分の計算 14. 微分の応用 15. 指数・対数関数・関数の極限・微分法について総合演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J20199B01
科目名	経済数学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics for Economics B		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では，ベクトルや行列など数学を利用する学問では必須のものである線形代数を実際に Excel を用いて学習していく。従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 　特に行列の計算と応用力，線形計画法の活用する能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。
数学は積み重ねなので毎回の授業プリントとレポートの解答を見て復習しておいてください。

講義の順序とポイント

1. ベクトル
2. 行列
3. 行列式
4. 逆行列
5. 掃き出し法
6. ランク
7. ベクトルと行列の計算の演習
8. ベクトルと行列について総合演習
9. 固有値と対角化
10. 2 次形式
11. 線形計画法の原理
12. 線形計画法を Excel のソルバーで解く
13. 線形計画法を使って最適化問題を考える
14. 固有値・線形計画法について練習
15. 固有値・線形計画法について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J20206A01
科目名	経済学史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するための学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも１６世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始された。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成され、その後今日に至まで 200 年以上の歴史をへて発展してきた。 経済学史Ａでは、近代国家の成立とともに始まる経済学の歴史を、第１部「資本主義成立期の経済学」（重商主義と重農主義）と第２部「古典派経済学の成立と解体」（スミスからＪ・Ｓ・ミルまで）にわけて概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち－先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同編『経済学の巨人－ 危機と闘う』（同上）、同編『経済学４１の巨人－古典から現代まで』（日本経済新聞社、2014 年）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・受講態度＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該章をしっかり予習してから授業に出席すること。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、教員から受講生に授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの問いかけに対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ａの課題
２．重商主義の定義
３．重商主義の経済政策論
４．重商主義の経済学説
５．重農主義成立の歴史的背景
６．ケネー『経済表』の分析(1)
７．ケネー『経済表』の分析(2)
８．アダム・スミスの生涯と著作
９．『国富論』解説(1)
１０．『国富論』解説(2)
１１．『国富論』解説(3)
１２．マルサス人口論
１３．リカードウの経済学(1)
１４．リカードウの経済学(2)
１５．Ｊ・Ｓ・ミルと現代

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J20206B01
科目名	経済学史 B	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成されたが、経済学史Ｂでは、そのスミスに始まるイギリス古典派経済学の解体にともなう近代経済学成立と、「ケインズ革命」を経て現代に至るまでの現代経済学の発展史を概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『現代経済学の巨人たち―20 世紀の人・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同編『経済学の巨人― 危機と闘う』（同上）、同編『経済学４１の巨人』（日本経済新聞社、2014 年）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・受講態度＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の出発点は 1870 年代の「限界革命」理論の確立に求められる。この「限界革命」と 1930 年代の「ケインズ革命」によって飛躍的な発展をとげた現代経済学の流れを正しく理解することによって、今日の経済問題の解明について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定されたテキストを予習してから授業に出席すること。テキストに記載がない項目については、事前に授業資料を「京学なび」にアップしておくので、予習しておくことを求める。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、こちらからも授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの質問に対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ｂの課題――古典派経済学から近代経済学へ
２．マルクスと現代(1)
３．マルクスと現代(2)
４．マルクスと現代(3)
５．近代経済学の成立(1)
６．近代経済学の成立(2)
７．イギリス・ケンブリッジ学派の経済学（マーシャルとピグー）
８．シュンペーターの経済学
９．ソースタイン・ヴェブレンの制度主義経済学
１０．ケインズ革命(1)
１１．ケインズ革命(2)
１２．ケインズ革命(3)
１３．ケインズ以降の現代経済学の展開(1)
１４．ケインズ以降の現代経済学の展開(2)
１５．現代経済学の新潮流

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J20207A01
科目名	計量経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics A		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析するための基本的な方法の学習、データの分析。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 （なぜ注意されるのか、どう修正すれば社会的要求水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。 A、B を別々に履修可能であるが、A はより入門的である。B は必ずしも A を受けていなくても良いが、A を前提にした内容になる場合があるため、出来るだけ連続して取って欲しい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を何回か提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する（100%）。 レポートの書き方や図表の作り方を詳細に指示するので、それを守る必要がある。指示した水準で作業できれば合格できる。 毎回出席は当然であり、1/3 欠席した場合は不合格とする。 期末テストは実施しない。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。 計量経済学 B も受講することが望ましい。		
受講者への要望			
ノートを必ず作り、書き込むことが重要である。 積極的に参加することが必要。授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが必要。			
講義の順序とポイント			
１　講義の全体構成 ２　平均と分散 ３　平均と分散の実例 ４　課題（１）の提示と分析 ５、６　課題（１）の修正と完成 ７　回帰分析その１ ８　回帰分析その２ ９　回帰分析を使った課題（２）の提示と分析 １０、１１　課題（２）の修正と完成 １２　回帰分析と評価 １３　回帰分析と評価その２ １４　最終課題（３）の提示と分析 １５　課題（３）の修正と提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J20207B01
科目名	計量経済学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics B		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析する。 回帰分析などやや高度な分析手法も学ぶ。 データは投書は教員が提供し、それを Excel 等を使って分析するが、やがて、官庁統計などを自分で利用して分析に用いる。 分析結果をレポートにして完成させる。 これを何回も題材を変えながら繰り返す。 この科目は、A よりも進んだ内容となるが、必ずしも A が前提になるわけではない。A、B と連続して受講することが望まし い。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料をその都度提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。 出席は当然であるので、1/3 欠席したら不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでなく、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 計量経済学 A と併せ学習することを望ましい		
受講者への要望			
積極的に参加することが必要である。 授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが重要である。			
講義の順序とポイント			
１ 授業の全体構成の説明と入門的分析事例 ２ 回帰分析の入門 ３ 回帰分析方法 ４ 回帰分析方法 その２ ５ 統計的検定 ６ 統計的検定 その２ ７ 分析課題への取り組み ８～１０ 同改訂 １１ 課題（２）の提示と分析 １２ 同改訂 １３ 同改訂 １４ 多変量解析入門 １５ 多変量解析入門 その２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J20209A01
科目名	マクロ経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics A		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 A
講義概要	マクロ経済学基礎に続く講義である。マクロ経済の仕組みを理解するとき、初めは貨幣が存在しないという仮定を置くと良い。しかし、現実には貨幣が存在し、資金の貸借が行われている。資金の動きを決定づけるものが利子率（金利）であり、本講義では貨幣と利子率の導入からマクロ経済の描写が始まる。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した講義ノート		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	本学では、マクロ経済学の講義を貨幣の存在しない財市場だけからなるモデルから始める。本講義ではそこに貨幣が登場するが、そもそも貨幣とは何であるのかを理解できることが第一の目標である。そして、貨幣と同時に導入されるのが利子率であり、貨幣市場で決まる利子率が財市場において投資行動に影響するという相互作用を理解することが第二の目標である。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる数学の知識が不足している場合には、数学の事前学習をする。しかし、本講義で用いられる数学の知識は中学校までで学習するものである。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済学基礎の復習 第 2 回 貨幣の定義 第 3 回 マネーサプライ 第 4 回 ハイパワードマネーと信用乗数 第 5 回 景気と信用乗数 第 6 回 貨幣数量式 第 7 回 貨幣需要と金利、GDP 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 資産市場と財市場 第 10 回 金融政策 第 11 回 財政政策 第 12 回 発展的な経済モデル 第 13 回 フィリップス曲線とインフレ 第 14 回 失業 第 15 回 現実の労働市場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	★	★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J20209B01
科目名	マクロ経済学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	本講義はマクロ経済学Ａに続く講義である。財市場と貨幣市場を想定したマクロ経済モデルでは、均衡において国内所得と利子率が決定する。しかし、均衡状態は他の事情が変化することによって不均衡状態となる。また、均衡における国内所得が失業を見過ごせないほど低い場合がある。このような場合の経済の動きを解説する時に IS-LM モデルが用いられる。講義としては、労働市場を考慮し、国際間の経済取引を導入するといった方向で展開していく。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	講義ノート		
教材（その他）	適宜指定する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	毎日の新聞報道に登場する経済事象を、マクロ経済モデルを用いて説明できるようになることが目標である。		
準備学習	かなり複雑な経済モデルになるので、毎回練習問題を復習する必要がある。それを行ったかどうかは講義中の口頭による質疑応答で確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済モデルの復習 第 2 回 IS-LM モデルの応用 第 3 回 物価の変化と IS-LM モデル 第 4 回 総需要曲線と総供給曲線 第 5 回 財政とマクロ経済 第 6 回 初期の経済成長モデル 第 7 回 新古典派の経済成長モデル 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 開放経済と外国為替 第 10 回 外国為替レートの変動要因 第 11 回 マンデル=フレミングの理論 第 12 回 比較優位 第 13 回 景気循環 第 14 回 景気動向指数の仕組み 第 15 回 マクロ経済学と関わる経済学の他分野			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	★	★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J20211A01
科目名	ミクロ経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics A		
担当者名	井上　寛規	旧科目名称	
講義概要	ミクロ経済学とは何かという説明から一般均衡理論までを本講義で取り扱うトピックとする。家計や企業がどのような行動原理に基づいて財・サービスの消費や生産を行っているのかを解説する。家計のとる行動と企業のとる行動によって財・サービスの価格と供給量が市場でどのように決定されるのかについて理解することを最終的な目標とする。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	伊藤元重著『ミクロ経済学 第 2 版』日本評論社　3,240 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内確認小テストによる平常点（40%）。定期テスト(60%)		
到達目標	ミクロ経済学における各経済主体の行動原理を理解する。		
準備学習	各講義の初めに前回の内容の確認小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
各講義で確認小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
１．経済の全体像 ２．家計と企業 ３．需要曲線 ４．供給曲線 ５．費用曲線 ６．市場取引と資源配分（１） ７．市場取引と資源配分（２） ８．一般均衡分析（１） ９．一般均衡分析（２） １０．一般均衡分析（３） １１．生産と費用（１） １２．生産と費用（２） １３．一般均衡と資源配分（１） １４．一般均衡と資源配分（２） １５．講義の総括と演習問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20211B01
科目名	ミクロ経済学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics B		
担当者名	井上　寛規	旧科目名称	
講義概要	本講義では発展的な経済学のエッセンスをつかむことを目標とする。まず、独占的競争および公害や自然破壊に代表される外部性、公共財の存在によって引き起こされる市場の失敗について学習する。また、ゲーム理論による合理的・戦略的意思決定や不確実性と不完全情報の経済学について紹介する。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	伊藤元重著『ミクロ経済学 第２版』日本評論社　3,240 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内確認小テストによる平常点（40%)。定期テスト(60%)		
到達目標	独占がなぜ禁じられているのかについての経済学的理由、外部性や公共財の影響の理解。ゲーム理論的な考え方、不確実性やリスクの存在する状況での合理的な意思決定について慣れる。		
準備学習	各講義の初めに前回の内容の確認小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
各講義で確認小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
１．政府の役割 ２．独占 ３．独占的競争 ４．市場の失敗（１） ５．市場の失敗（２） ６．ゲーム理論（１） ７．ゲーム理論（２） ８．ゲーム理論（３） ９．不確実性とリスク（１） １０．不確実性とリスク（２） １１．不完全情報の経済学（１） １２．不完全情報の経済学（２） １３．異時点間の資源配分（１） １４．異時点間の資源配分（２） １５．講義の総括と演習問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J20214001
科目名	やさしい税の話	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Theory of Tax		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	税とは、私たちの生活に密接にかかわるものであり、その数は５０種類以上にも及ぶといわれています。この授業では、特に私たちの生活に直接かかわる身の回りの税について、わかりやすく解説します。 講義の順序とポイントは以下に示すとおりですが、これとは別に特別講師を迎えた授業の実施も予定しています。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリントを中心に授業を進めます。		
教材（参考文献）	授業中に必要に応じて指示します。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	テレビや新聞等の税に関する報道の意味内容を正しく理解することができるように、税に関する基礎的な知識や考え方を知り、納税者としての義務と権利に深い関心を持ってもらうことができれば、この授業の目標が達成されたものと考えます。		
準備学習	テレビ、新聞等の税に関する報道には特に関心を持って注目し、その具体的な意味内容や影響について考えるよう心掛けてください。		
受講者への要望			
授業には積極的に参加し、税に関する基礎的な知識の習得を目指して下さい。税に対する関心を深め、納税の義務と納税者としての権利について考えてみて下さい。			
講義の順序とポイント			
１，　税金って何？ ２，　税の歴史 ３，　所得にかかる税金 ４，　サラリーマンと税金 ５，　事業経営者と税金 ６，　学生と税金 ７，　保険金・年金と税金 ８，　相続・贈与と税金 ９，　会社経営と税金 １０，その他の税金 １１，ちょっと得する税金豆知識！ １２，税金についての不服申し立て １３，納税者の義務と権利 １４，特別講演 １５，税に関する復習の授業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J20219A01
科目名	公共経済学　A	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では政府の経済的役割について検討する。独占や外部効果、あるいは公共財供給など「市場の失敗」と呼ばれる、市場機構が効率的な資源配分に失敗するいくつかケースについて、政府が果たすべき役割を社会的厚生という観点から分析を行う。 また、政府活動の結果として生じる財政赤字や所得再分配についても経済学的な視点から検討を加える。		
教材（テキスト）	教科書は特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）井堀利宏『基礎コース・公共経済学』新世社 （2）土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社 （3）スティグリッツ『公共経済学（上)』東洋経済新報社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1）資源配分の効率性とは何か、またその経済学的な判断基準を理解する。 （2）市場の失敗において生じる資源配分の非効率性を理解する。 （3）市場の失敗への政府の政策対応がもたらす資源配分上の効果について理解する。 （4）政府の失敗が生じるメカニズムについて理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所について事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にして講義に臨むことが望ましい。		

受講者への要望

（1）現代社会の公共経済学的課題とその背景を理解しよう。
（2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考えよう。

講義の順序とポイント

1．公共経済学とはどのような学問か　：公共経済学の分析対象、公共経済学成立の歴史的背景、政府部門拡大のメカニズム
2．公共経済学における政府の役割　：政府の範囲、資源配分機能、所得再配分機能、安定化機能
3．所得分配の公平性：所得再分配と公正、補償原理、功利主義、ロールズ基準
4．資源配分の効率性（1）：パレート最適、ｴｯｼﾞﾜｰｽﾎﾞｯｸｽ・ﾀﾞｲｱｸﾞﾗﾑ、効用可能性曲線
5．資源配分の効率性（2）：完全競争市場均衡、消費者余剰、生産者余剰
6．資源配分の効率性（3）：政府の市場介入と死荷重１、価格規制、数量規制
7．資源配分の効率性（4）：政府の市場介入と死荷重２、参入規制、課税
8．市場の失敗（1）：独占、費用逓減産業
9．市場の失敗（2）：外部効果、外部経済、外部不経済
10．市場の失敗（3）：外部効果の内部化、ピグー税、コースの定理
11．市場の失敗（4）：公共財の定義、公共財の最適供給、リンダール均衡
12．政府の失敗（1）：財政赤字、基礎的財政収支、ソブリン・リスク、クラウディング・アウト
13．政府の失敗（2）：公債、リカードの中立性命題、公債の世代間負担問題
14．現代日本における公共経済学的課題（1）：震災復興における政府の役割
15．現代日本における公共経済学的課題（2）：社会保障制度改革、税制改革

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J20219B01
科目名	公共経済学 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では、政治過程を市場として捉え、民主主義的な政治運営の限界を理解する。 まず、社会的意思決定の方法としての様々な投票制度の性質を検討する。次に、社会的意思決定過程に影響を与える有権者、政治家、官僚、圧力団体などの各主体の行動原理について考察する。そのうえで、非効率な資源配分をもたらす「市場の失敗」を補完すべき役割にある政府が最適な政策の選択に失敗するメカニズムについて理解する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）加藤寛『入門公共選択：政治の経済学』勁草書房 （2）フェルドマン＆セラーノ 『厚生経済学と社会的選択』ｼｰｴｰﾋﾞｰ出版 （3）谷口洋志『公共経済学』創成社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1） 政府を構成する各主体、およびその外部から影響を与えうる各主体の行動原理、およびその行動が政府の意思決定に与える影響とそのメカニズムについて理解する。 （2） 政府の失敗がもたらす資源配分上の非効率性を理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所を事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にしてから講義に臨むことが望ましい。		
受講者への要望			
（1）講義前の予習が重要である。記憶よりも理解を優先して学ぶ姿勢が近道である。 （2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考える習慣を身に着けよう。			
講義の順序とポイント			
1．公共選択論とはどのような学問か？：公共選択論の分析対象と範囲 2．政府とは何か？：政府の誕生、政府の範囲と類型 3．投票（1）：集合的意思決定、投票のルール 4．投票（2）：各種の投票ルール、各種投票ルールの論理的非整合性 5．投票（3）：ｱｼﾞｪﾝﾀﾞ・ｺﾝﾄﾛｰﾙ、戦略的投票 6．投票（4）：投票のパラドックス、中位投票者定理、単峰性選好 7．投票（5）：アローの一般不可能性定理 8．選挙（1）：有権者の投票行動、棄権、政党とイデオロギー 9．選挙（2）：小選挙区制と比例代表制、政治的景気循環、足による投票 10．官僚制（1）：官僚制、ニスカネン・モデル 11．官僚制（2）：ミギュエ＝ベランジェ・モデル、日本の官僚制 12．レント・シーキング：レント・シーキングとその類型、日本の財政投融資制度 13．圧力団体：圧力団体の定義と類型、日本の圧力団体、政権交代と圧力団体 14．財政赤字の政治経済学：J.M.ブキャナン、立憲的政治経済学 15．現代日本における公共選択論的課題：高齢化と選挙、財政赤字、地方分権			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J2024000G
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	昨年度は 1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学んだ。本年度はこれらのテーマを中心にして、各人が課題を設定し、卒業論文作成にとりかかる。		
教材（テキスト）	ゼミの開始時に紹介する。		
教材（参考文献）	ホールとファーグソン 『大恐慌』 多賀出版 バーカ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済 『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男 『日本銀行、デフレの番人』日経新聞社 『デフレと超円高』講談社 『デフレの経済学』東洋経済 『まずデフレを止めよ』日本経済新聞社 『昭和恐慌の研究』東洋経済 『日本経済を学ぶ』ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナー』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』（上巻） 講談社 『経済論戦は蘇る』東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況 』講談社		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（70%）出席状況、発表内容等を含む（70%)、ゼミ参加熱意(30%)		
到達目標	アベノミクス、デフレ不況、金融政策に関する自分なりの意見が持てるようにする。		
準備学習	毎回報告を求めるので、その資料を PPT で作成しなければならない		
受講者への要望			
基本的に欠席は認めないが、就職活動で休まざるを得ない時には、必ず事前と事後報告すること。			
講義の順序とポイント			
5 月中に担当者と相談の上、各自の卒論のテーマを決めるが、その内容は日本経済、金融危機および大恐慌に関するものとする。 7 月末までに卒論前のレポート提出、これにより成績評価をする。 脚注、参考文献の書き方が、卒論同様に整っていなければならない。 1． 卒論についての説明 2． テーマ設定のポイントおよび参考文献紹介 3． テーマおよび論文概要報告① 4． テーマおよび論文概要報告② 5． テーマおよび論文概要報告③ 6． テーマおよび論文概要報告④ 7． テーマおよび論文概要報告⑤ 8． テーマおよび論文概要報告⑥ 9． テーマおよび論文概要報告⑦ 10． テーマおよび論文概要報告⑧ 11． 卒論概要論文の提出とコメント①			

１２．　卒論概要論文の提出とコメント②
１３．　卒論概要論文の提出とコメント③
１４．　全体の総括
１５．　夏休み中の論文作成の方針指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024000I
科目名	ゼミ７	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	ゼミ８（秋学期）に卒論を書くためには、書物をじっくり読む読解力が必要となる。ゼミ７では、最近出版された書物をとりあげ、「本の読み方」のノウハウを指導する。授業の進め方としては、共通のテキストを選んで、それをゼミで輪読し、ポイントとなる問題について議論しながら、読む力と理解力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	未定		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、適宜プリントや資料を配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	卒業論文を書くためには、専門書を読む作業が欠かせない。共通のテキストを輪読することによって、専門書を正確に読み、その内容を正しく理解するための読解力を鍛錬することが、この授業の到達目標である。		
準備学習	テキストを指定されたところまで事前に読んでくること。読めない漢字や、意味の分からない専門用語については、辞典やインターネット検索等によって、かならず調べるという習慣を身につけること。		
受講者への要望			
就活等でどうしても授業に出席できない事情がある場合を除き、無断でゼミを休まないこと。やむを得ず欠席しなければならない場合は、事前にメールで連絡するなど、担当教員とのコンタクトをつねに密にすることを望む。			
講義の順序とポイント			
１．ゼミ７のガイダンス ２．読書の仕方：専門書の読み方 ３．輪読(1) ４．輪読(2) ５．輪読(3) ６．討論会(1) ７．輪読(4) ８．輪読(5) ９．輪読(6) １０．討論会(2) １１．輪読(7) １２．輪読(8) １３．輪読(9) １４．討論会(3) １５．卒論の準備について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J2024000J
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	現代日本の社会経済問題の内容と背景を理解し、それへの政策対応の効果について研究する。		
教材（テキスト）	総務省統計局『日本の統計 2016』　（財）日本統計協会		
教材（参考文献）	適宜、案内・配布する。		
教材（その他）	適宜、案内・配布する。		
評価方法	授業内発表＋レポート 50%　期末課題 50%		
到達目標	（1）卒業論文作成に向けてテーマ選択の準備となるよう、現代日本の社会経済問題について一定範囲の理解に到達する。 （2） 現代日本の社会経済問題を分析対象として取り上げ、分析の視点および方法を中心に学ぶ、分析の基本技術を身に付ける。		
準備学習	（1）日頃から新聞や雑誌、あるいはネット上のニュース記事に目を通す。 （2）重要な記事は、研究資料として印刷・保管し収集・蓄積を進める。		
受講者への要望			
（1）「大学で何を学んだことは何か」と問われて、テーマと同時にその内容について一定の説明ができる程度まで勉強してほしい。 （2）「知識・理解」と同時に、説明力を磨くことを意識して取り組んでほしい。 （3）あらゆるテーマを将来の希望進路・業界に関連付けて考える習慣を身に付けてほしい。			
講義の順序とポイント			
第１回：資料配布と担当テーマの決定 第２回・第３回：関連資料の収集と論文作成の基本原則 第４回－第１３回：研究の中間報告 第１４回－第１５回：卒論のテーマ選択の準備			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J2024000K
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 6 までに得た知識をもとに、各自のテーマを設定し、卒業論文の作成に向けた準備を行う。そのために、各自の選択した文献（テーマ）について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、時間の一部を就職活動に関する情報交換や指導に充てる場合がある。		
教材（テキスト）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けた十分な知識を得ること。		
準備学習	・各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集し、熟読の上、報告時に配布するためのレジュメを作成すること。 ・スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の 3 分の 1 以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、就職試験等による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。
・毎回必ず 1 回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。

講義の順序とポイント

1.各自の選択した研究テーマについての報告と確認
2.卒業論文作成に向けての研究計画報告(1)
3.卒業論文作成に向けての研究計画報告(2)
4.卒業論文作成に向けての研究計画報告(3)
5.卒業論文作成に向けての研究計画報告(4)
6.卒業論文作成に向けての中間報告(1-1)
7.卒業論文作成に向けての中間報告(1-2)
8.卒業論文作成に向けての中間報告(1-3)
9.卒業論文作成に向けての中間報告(1-4)
10.卒業論文作成に向けての中間報告(2-1)
11.卒業論文作成に向けての中間報告(2-2)
12.卒業論文作成に向けての中間報告(2-3)
13.卒業論文作成に向けての中間報告(2-4)
14.今学期のまとめ(1)：今学期の学習・研究の成果の確認
15.今学期のまとめ(2)：来学期に向けての課題の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J2024000L
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 6 に引き続き，卒業論文の作成に向けてゼミを行う．国際金融，国際経済の中から自分でテーマを選定し，資料作成や報告を行う．また，報告に対して学生主体で討論を行う．		
教材（テキスト）	なし．		
教材（参考文献）	適宜指定する．		
教材（その他）	日本経済新聞記事など．		
評価方法	ゼミレポート(50%)+平常点(50%)．		
到達目標	(1) ゼミテーマの基礎知識の習得． (2) ゼミテーマの決定と卒業論文完成までの計画立案．		
準備学習	ゼミテーマに関連ある記事等を授業外で予習・復習の一環として学習しておくこと．		

受講者への要望

(1) 自分で問題意識をもって，調査研究をおこなう．
(2) テーマに応じて、講義外活動を要請する．
(3) なにごとにも積極的に情熱をもって明るく行動できる．
(4) ゼミメンバーと協調性がある．
(5) ゼミを欠席しない（やむをえず欠席する時は事前に欠席理由を連絡すること)．
(6) 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める．

講義の順序とポイント

(1) ガイダンスおよび資料収集
(2) 資料収集、整理
(3) 第 1 回報告
(4) 第 1 回報告時の課題への対応
(5) 第 2 回報告
(6) 第 2 回報告時の課題への対応
(7) 第 3 回報告
(8) 第 3 回報告時の課題への対応
(9) 第 4 回報告
(10) 第 4 回報告時の課題への対応
(11) 卒業論文完成までの第 1 回素案提出
(12) 第 1 回素案に対するコメント修正内容について報告
(13) ゼミ 7 レポート作成
(14) ゼミ 7 レポート作成
(15) ゼミ 7 レポート発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J2024000M
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	各自テーマを設定し、卒業論文に向けての準備学習を行う。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。「研究テーマの報告」および「論文の中間報告」には複数名を報告者として、要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ学生は必ず報告者に対して報告内容に関する質問をし、報告者はその質問に答えてもらう。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教材（その他）	ゼミ 6 のときに、日本学生経済ゼミナール大会（インター大会）への参加に向けて作成した論文 スタートアップゼミのときに配布したテキスト『アカデミック・ライティング』		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。 ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	卒業論文作成に向けて、十分な知識を得ること。		
準備学習	各自のテーマに応じた資料等を事前に読み、ゼミ時に発表・報告をしっかりできるようにしておくこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、文章作成の参考にすること。		

受講者への要望

就活等でどうしてもゼミを休まないといけない場合があるだろう。そのような時以外は、無断欠席を禁止する。
休む場合は、事前に担当教員に連絡を入れること。また、逐次、就活の状況を担当教員に報告すること。

大学生活の最大の課題は、卒論と就活です。
わずか 1 年間で卒論を作成し、就職先も決定しなければなりません。
2016 年度の就職活動で、企業の採用選考の開始時期を 8 月から 6 月に前倒しする方針を経団連は固めています。
就活状況が大きく変わる中で、卒論と就活の両立に迫られている学生にとって、焦りは禁物ですよ。
余裕のあるスケジュールを組んで、両立を図ってください。
社会に出れば、プロジェクトの同時進行は当たり前ですからね。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスおよび各自の選択した研究テーマについての報告
2. 卒論に向けての研究計画作成①
3. 卒論に向けての研究計画作成②
4. 関連資料の収集①
5. 関連資料の収集②
6. 関連資料の収集③
7. 卒論作成に向けての中間報告①
8. 卒論作成に向けての中間報告②
9. 卒論作成に向けての中間報告③
10. 卒論作成に向けての中間報告④
11. 卒論作成に向けての中間報告⑤
12. 卒論作成に向けての中間報告⑥
13. 卒論作成に向けての中間報告⑦
14. 卒論作成に向けての中間報告⑧
15. 卒論の素案提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J2024000N
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	各自テーマを設定し、卒業論文に向けての準備学習を行う。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。「研究テーマの報告」および「論文の中間報告」には複数名を報告者として、要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ学生は必ず報告者に対して報告内容に関する質問をし、報告者はその質問に答えてもらう。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教材（その他）			
評価方法	演習内の発表内容等による(100%)。		
到達目標	卒業論文作成に向けて、十分な知識を得ること。		
準備学習	各自のテーマに応じた資料等を事前に読み、ゼミ時に発表・報告をしっかりできるようにしておくこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、文章作成の参考にすること。		

受講者への要望

就活等でどうしてもゼミを休まないといけない場合があるだろう。そのような時以外は、無断欠席を禁止する。
休む場合は、事前に担当教員に連絡を入れること。また、逐次、就活の状況を担当教員に報告すること。

大学生活の最大の課題は、卒論と就活です。
わずか 1 年間で卒論を作成し、就職先も決定しなければなりません。
2016 年度の就職活動で、企業の採用選考の開始時期を 8 月から 6 月に前倒しする方針を経団連は固めています。
就活状況が大きく変わる中で、卒論と就活の両立に迫られている学生にとって、焦りは禁物ですよ。
余裕のあるスケジュールを組んで、両立を図ってください。
社会に出れば、プロジェクトの同時進行は当たり前ですからね。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスおよび各自の選択した研究テーマについての報告
2. 卒論に向けての研究計画作成①
3. 卒論に向けての研究計画作成②
4. 関連資料の収集①
5. 関連資料の収集②
6. 関連資料の収集③
7. 卒論作成に向けての中間報告①
8. 卒論作成に向けての中間報告②
9. 卒論作成に向けての中間報告③
10. 卒論作成に向けての中間報告④
11. 卒論作成に向けての中間報告⑤
12. 卒論作成に向けての中間報告⑥
13. 卒論作成に向けての中間報告⑦
14. 卒論作成に向けての中間報告⑧
15. 卒論の素案提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J2024100B
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 6 に引き続き，卒業論文の作成に向けてゼミを行う．国際金融，国際経済の中から自分でテーマを選定し，資料作成や報告を行う．また，報告に対して学生主体で討論を行う．		
教材（テキスト）	なし．		
教材（参考文献）	適宜指定する．		
教材（その他）	日本経済新聞記事など．		
評価方法	ゼミレポート(50%)+平常点(50%)．		
到達目標	(1) ゼミテーマの基礎知識の習得． (2) ゼミテーマの決定と卒業論文完成までの計画立案．		
準備学習	ゼミテーマに関連ある記事等を授業外で予習・復習の一環として学習しておくこと．		

受講者への要望

(1) 自分で問題意識をもって，調査研究をおこなう．
(2) テーマに応じて、講義外活動を要請する．
(3) なにごとにも積極的に情熱をもって明るく行動できる．
(4) ゼミメンバーと協調性がある．
(5) ゼミを欠席しない（やむをえず欠席する時は事前に欠席理由を連絡すること)．
(6) 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める．

講義の順序とポイント

(1) ガイダンスおよび資料収集
(2) 資料収集、整理
(3) 第 1 回報告
(4) 第 1 回報告時の課題への対応
(5) 第 2 回報告
(6) 第 2 回報告時の課題への対応
(7) 第 3 回報告
(8) 第 3 回報告時の課題への対応
(9) 第 4 回報告
(10) 第 4 回報告時の課題への対応
(11) 卒業論文完成までの第 1 回素案提出
(12) 第 1 回素案に対するコメント修正内容について報告
(13) ゼミ 7 レポート作成
(14) ゼミ 7 レポート作成
(15) ゼミ 7 レポート発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J2024100C
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	現代日本の社会経済問題の内容と背景を理解し、それへの政策対応の効果について研究する。		
教材（テキスト）	総務省統計局『日本の統計 2016』　（財）日本統計協会		
教材（参考文献）	適宜、案内・配布する。		
教材（その他）	適宜、案内・配布する。		
評価方法	授業内発表＋レポート 50%　期末課題 50%		
到達目標	（1）卒業論文作成に向けてテーマ選択の準備となるよう、現代日本の社会経済問題について一定範囲の理解に到達する。 （2） 現代日本の社会経済問題を分析対象として取り上げ、分析の視点および方法を中心に学ぶ、分析の基本技術を身に付ける。		
準備学習	（1）日頃から新聞や雑誌、あるいはネット上のニュース記事に目を通す。 （2）重要な記事は、研究資料として印刷・保管し収集・蓄積を進める。		
受講者への要望			
（1）「大学で何を学んだことは何か」と問われて、テーマと同時にその内容について一定の説明ができる程度まで勉強してほしい。 （2）「知識・理解」と同時に、説明力を磨くことを意識して取り組んでほしい。 （3）あらゆるテーマを将来の希望進路・業界に関連付けて考える習慣を身に付けてほしい。			
講義の順序とポイント			
第１回：資料配布と担当テーマの決定 第２回・第３回：関連資料の収集と論文作成の基本原則 第４回－第１３回：研究の中間報告 第１４回－第１５回：卒論のテーマ選択の準備			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J2024100D
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 8（秋学期）に卒論を書くためには、書物をじっくり読む読解力が必要となる。ゼミ 7 では、最近出版された書物をとりあげ、「本の読み方」のノウハウを指導する。授業の進め方としては、共通のテキストを選んで、それをゼミで輪読し、ポイントとなる問題について議論しながら、読む力と理解力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	未定		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、適宜プリントや資料を配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	卒業論文を書くためには、専門書を読む作業が欠かせない。共通のテキストを輪読することによって、専門書を正確に読み、その内容を正しく理解するための読解力を鍛錬することが、この授業の到達目標である。		
準備学習	テキストを指定されたところまで事前に読んでくること。読めない漢字や、意味の分からない専門用語については、辞典やインターネット検索等によって、かならず調べるという習慣を身につけること。		
受講者への要望			
就活等でどうしても授業に出席できない事情がある場合を除き、無断でゼミを休まないこと。やむを得ず欠席しなければならない場合は、事前にメールで連絡するなど、担当教員とのコンタクトをつねに密にすることを望む。			
講義の順序とポイント			
１．ゼミ 7 のガイダンス ２．読書の仕方：専門書の読み方 ３．輪読(1) ４．輪読(2) ５．輪読(3) ６．討論会(1) ７．輪読(4) ８．輪読(5) ９．輪読(6) １０．討論会(2) １１．輪読(7) １２．輪読(8) １３．輪読(9) １４．討論会(3) １５．卒論の準備について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J2024100E
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	各自テーマを設定し、卒業論文に向けての準備学習を行う。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。「研究テーマの報告」および「論文の中間報告」には複数名を報告者として、要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ学生は必ず報告者に対して報告内容に関する質問をし、報告者はその質問に答えてもらう。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教材（その他）			
評価方法	演習内の発表内容等による(100%)。		
到達目標	卒業論文作成に向けて、十分な知識を得ること。		
準備学習	各自のテーマに応じた資料等を事前に読み、ゼミ時に発表・報告をしっかりできるようにしておくこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、文章作成の参考にすること。		

受講者への要望

就活等でどうしてもゼミを休まないといけない場合があるだろう。そのような時以外は、無断欠席を禁止する。
休む場合は、事前に担当教員に連絡を入れること。また、逐次、就活の状況を担当教員に報告すること。

大学生活の最大の課題は、卒論と就活です。
わずか 1 年間で卒論を作成し、就職先も決定しなければなりません。
2016 年度の就職活動で、企業の採用選考の開始時期を 8 月から 6 月に前倒しする方針を経団連は固めています。
就活状況が大きく変わる中で、卒論と就活の両立に迫られている学生にとって、焦りは禁物ですよ。
余裕のあるスケジュールを組んで、両立を図ってください。
社会に出れば、プロジェクトの同時進行は当たり前ですからね。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスおよび各自の選択した研究テーマについての報告
2. 卒論に向けての研究計画作成①
3. 卒論に向けての研究計画作成②
4. 関連資料の収集①
5. 関連資料の収集②
6. 関連資料の収集③
7. 卒論作成に向けての中間報告①
8. 卒論作成に向けての中間報告②
9. 卒論作成に向けての中間報告③
10. 卒論作成に向けての中間報告④
11. 卒論作成に向けての中間報告⑤
12. 卒論作成に向けての中間報告⑥
13. 卒論作成に向けての中間報告⑦
14. 卒論作成に向けての中間報告⑧
15. 卒論の素案提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J2024100G
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	昨年度は 1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学んだ。本年度はこれらのテーマを中心にして、各人が課題を設定し、卒業論文作成にとりかかる。		
教材（テキスト）	ゼミの開始時に紹介する。		
教材（参考文献）	ホールとファーグソン 『大恐慌』 多賀出版 バーカ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済 『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男 『日本銀行、デフレの番人』日経新聞社 『デフレと超円高』講談社 『デフレの経済学』東洋経済 『まずデフレを止めよ』日本経済新聞社 『昭和恐慌の研究』東洋経済 『日本経済を学ぶ』ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナー』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』（上巻） 講談社 『経済論戦は蘇る』東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況 』講談社		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（70%）出席状況、発表内容等を含む（70%)、ゼミ参加熱意(30%)		
到達目標	アベノミクス、デフレ不況、金融政策に関する自分なりの意見が持てるようにする。		
準備学習	毎回報告を求めるので、その資料を PPT で作成しなければならない		
受講者への要望			
基本的に欠席は認めないが、就職活動で休まざるを得ない時には、必ず事前と事後報告すること。			
講義の順序とポイント			
5 月中に担当者と相談の上、各自の卒論のテーマを決めるが、その内容は日本経済、金融危機および大恐慌に関するものとする。 7 月末までに卒論前のレポート提出、これにより成績評価をする。 脚注、参考文献の書き方が、卒論同様に整っていなければならない。 1． 卒論についての説明 2． テーマ設定のポイントおよび参考文献紹介 3． テーマおよび論文概要報告① 4． テーマおよび論文概要報告② 5． テーマおよび論文概要報告③ 6． テーマおよび論文概要報告④ 7． テーマおよび論文概要報告⑤ 8． テーマおよび論文概要報告⑥ 9． テーマおよび論文概要報告⑦ １０． テーマおよび論文概要報告⑧ １１． 卒論概要論文の提出とコメント①			

１２．　卒論概要論文の提出とコメント②
１３．　卒論概要論文の提出とコメント③
１４．　全体の総括
１５．　夏休み中の論文作成の方針指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024100H
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	各自テーマを設定し、卒業論文に向けての準備学習を行う。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。「研究テーマの報告」および「論文の中間報告」には複数名を報告者として、要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ学生は必ず報告者に対して報告内容に関する質問をし、報告者はその質問に答えてもらう。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教材（その他）	ゼミ 6 のときに、日本学生経済ゼミナール大会（インター大会）への参加に向けて作成した論文 スタートアップゼミのときに配布したテキスト『アカデミック・ライティング』		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。 ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	卒業論文作成に向けて、十分な知識を得ること。		
準備学習	各自のテーマに応じた資料等を事前に読み、ゼミ時に発表・報告をしっかりできるようにしておくこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、文章作成の参考にすること。		

受講者への要望

就活等でどうしてもゼミを休まないといけない場合があるだろう。そのような時以外は、無断欠席を禁止する。
休む場合は、事前に担当教員に連絡を入れること。また、逐次、就活の状況を担当教員に報告すること。

大学生活の最大の課題は、卒論と就活です。
わずか 1 年間で卒論を作成し、就職先も決定しなければなりません。
2016 年度の就職活動で、企業の採用選考の開始時期を 8 月から 6 月に前倒しする方針を経団連は固めています。
就活状況が大きく変わる中で、卒論と就活の両立に迫られている学生にとって、焦りは禁物ですよ。
余裕のあるスケジュールを組んで、両立を図ってください。
社会に出れば、プロジェクトの同時進行は当たり前ですからね。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスおよび各自の選択した研究テーマについての報告
2. 卒論に向けての研究計画作成①
3. 卒論に向けての研究計画作成②
4. 関連資料の収集①
5. 関連資料の収集②
6. 関連資料の収集③
7. 卒論作成に向けての中間報告①
8. 卒論作成に向けての中間報告②
9. 卒論作成に向けての中間報告③
10. 卒論作成に向けての中間報告④
11. 卒論作成に向けての中間報告⑤
12. 卒論作成に向けての中間報告⑥
13. 卒論作成に向けての中間報告⑦
14. 卒論作成に向けての中間報告⑧
15. 卒論の素案提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J2024100J
科目名	サブゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 7		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 6 までに得た知識をもとに、各自のテーマを設定し、卒業論文の作成に向けた準備を行う。そのために、各自の選択した文献（テーマ）について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、時間の一部を就職活動に関する情報交換や指導に充てる場合がある。		
教材（テキスト）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けた十分な知識を得ること。		
準備学習	・各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集し、熟読の上、報告時に配布するためのレジュメを作成すること。 ・スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の 3 分の 1 以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、就職試験等による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。
・毎回必ず 1 回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。

講義の順序とポイント

1.各自の選択した研究テーマについての報告と確認
2.卒業論文作成に向けての研究計画報告(1)
3.卒業論文作成に向けての研究計画報告(2)
4.卒業論文作成に向けての研究計画報告(3)
5.卒業論文作成に向けての研究計画報告(4)
6.卒業論文作成に向けての中間報告(1-1)
7.卒業論文作成に向けての中間報告(1-2)
8.卒業論文作成に向けての中間報告(1-3)
9.卒業論文作成に向けての中間報告(1-4)
10.卒業論文作成に向けての中間報告(2-1)
11.卒業論文作成に向けての中間報告(2-2)
12.卒業論文作成に向けての中間報告(2-3)
13.卒業論文作成に向けての中間報告(2-4)
14.今学期のまとめ(1)：今学期の学習・研究の成果の確認
15.今学期のまとめ(2)：来学期に向けての課題の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J2024200G
科目名	ゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	前学期は 1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学んだ。そしてこれらのテ－マを中心にして、各人が課題を設定し、卒業論文作成にとりかかった。その論文を今学期中に完成させる。		
教材（テキスト）	ゼミ 7 で使ったものをメインのテキストとする。		
教材（参考文献）	ホ－ルとファ－グソン 『大恐慌』 多賀出版 パ－カ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済 『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男『日本銀行、デフレの番人』日経新聞社 『デフレと超円高』講談社 『デフレの経済学』東洋経済 『まずデフレを止めよ』日本経済新聞社 『昭和恐慌の研究』東洋経済 『日本経済を学ぶ』ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナ－』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』（上巻） 講談社 『経済論戦は蘇る』東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況 』講談社		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	卒論の内容(100%)		
到達目標	金融危機、大恐慌の研究を通して、経済を見る目を養う。		
準備学習	この時期、ほとんどの学生は就職活動を終了していると思われるので、自宅で卒論完成目指して全力を尽くすこと。何度も書き直しを求められるので、その覚悟が必要である。		

受講者への要望

申すまでもなく、諸君の集大成としての卒業論文であるので、安易な論文は認められない。何度も書き直させられることを覚悟すること。教務課に提出しても、卒論としてのレベルに達していなければ当然却下されるので注意すること。

講義の順序とポイント

卒論の教務課への最終締切りは 1 月半ばであるが、12 月半ばまでに担当者に提出しなければならない。
その後、何度も修正を求められる。
締切り間際に、駆け込み的に直接教務課に提出しても、卒論として認められず、却下されるので注意すること。

1． 各ゼミ生の夏休み中の卒論進捗状況の報告
2． 一次卒論報告①（以下毎時間２－３名が報告者となる）
3． 一次卒論報告②
4． 一次卒論報告③
5． 一次卒論報告④
6． 一次卒論報告⑤
7． 二次卒論報告①
8． 二次卒論報告②
9． 二次卒論報告③

１０．　二次卒論報告④ １１．　二次卒論報告⑤ １２．　卒論最終チェック① １３．　卒論最終チェック② １４．　卒論最終チェック③ １５．　卒論総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024200I
科目名	ゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	ゼミ８では卒論指導をおこなう。卒論の書き方から、卒論の完成までを、その基礎から徹底指導する。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０%）受講態度等＋卒論の提出（６０%）		
到達目標	自分が関心を持つテーマについて、卒業論文を作成することが最終目標となる。この目的を達するためには、まず自分の研究テーマに関連する基本文献や資料を収集し、それらを批判的に分析する作業が、第１段階として必要である。第２段階は、論文の作成であるが、このときのポイントは、とりあげる過去の研究の論点を整理した上で、自分の主張を明確に示すこと、そしてその主張を自分の言葉と表現で文章化することである。		
準備学習	卒論作成の第１段階は、論文の構想と、文献資料の収集および分析の作業であるが、これらの第１段階の作業におよそ３ヶ月程度は必要である。また文章化をおこなう第２段階についても、追加資料の収集や分析が必ず必要となるので、最低３ヶ月程度の時間的余裕を見ておかなければならない。　したがって、卒論作成の作業については、できるだけ早期に着手することが望ましい。		

受講者への要望

卒論のテーマについては、過去のゼミ研究で取り上げたテーマから選ぶことが望ましい。また、日ごろからできるだけ多くの書物を読むように心がけてもらいたい。卒論であれ、レポートであれ、ポイントとなるのは文章表現力だからである。

講義の順序とポイント

１．　ゼミ８（卒論）のシラバス説明
２．　卒論の書き方(1)
３．　卒論の書き方(2)
４．　卒論の書き方(3)
５．　概要報告(1)
６．　概要報告(2)
７．　概要報告(3)
８．　概要報告(4)
９．　中間報告(1)
１０．　中間報告(2)
１１．　中間報告(3)
１２．　中間報告(4)
１３．　卒論最終チェック(1)
１４．　卒論最終チェック(2)
１５．　卒論最終チェック(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024200J
科目名	ゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	２回の中間報告を経て、卒業論文の完成を目指す。 卒業論文作成の大まかな手順は、（１）テーマ設定、（２）テーマの現状と背景に関する基本理解、（３）テーマに関する資料の収集と読み込み、（４）資料の系統立てた整理、（５）卒業論文の章立て、（６）卒業論文の執筆、（７）卒業論文の完成　である。これに沿った取り組みを指導していく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて、適宜、案内する。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて、適宜、配布する。		
評価方法	中間報告 40%　　卒業論文 60%		
到達目標	卒業論文の完成		
準備学習	（１）資料収集と系統立てた資料の整理、およびそれらの読み込みを行う。 （２）各段階で、指定された期日までに、報告資料と原稿の両方を作成する。		

受講者への要望

論文作成にはテーマの選択･設定だけでも、その予備段階で情報・資料の収集と整理が必要となる。また、「調べる、理解する、分析・批判する、書く、発表する」という一連の論文作成作業は、今後の社会生活等において役立つ重要な「技術」である。また、卒業論文作成のための一連の段階的な作業を通じて、大学生活の集大成としての卒論を完成させることはもちろん、情報を集め理解・整理し利用するための技能を更に高めることに意識的に取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

第１回：卒業論文の作成方法について
第２回：テーマ選択１：関心領域の絞込みと資料収集
第３・４回：テーマ選択２：分析視点の絞込みと資料収集
第５回：卒業論文の章立て作成と中間報告
第６回－第１０回：卒業論文初校の作成
第１１回：初校提出と中間報告
第１２・１３回：卒業論文第２校の作成
第１４・１５回：卒業論文提出と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J2024200K
科目名	ゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	ゼミ７に引き続き、各自の設定したテーマに基づいて研究を行い、大学生活の総仕上げとして卒業論文を完成させる。 そのために、毎回数名に卒業論文の概要および研究の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 このようにして互いに助言し刺激しあうことで、各ゼミ生の卒業論文がより高い水準に達することを目指す。		
教材（テキスト）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文を完成させること。		
準備学習	・各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集し、熟読すること。 ・各自の卒業論文の概要を、中間報告時に配布するためのレジュメにまとめること。 ・スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、就職試験等による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。

講義の順序とポイント

1.夏季休業中の学習・研究の進捗状況についての報告
2.卒業論文の概要報告(1-1)
3.卒業論文の概要報告(1-2)
4.卒業論文の概要報告(1-3)
5.卒業論文の概要報告(1-4)
6.卒業論文の概要報告(1-5)
7.卒業論文の概要報告(2-1)
8.卒業論文の概要報告(2-2)
9.卒業論文の概要報告(2-3)
10.卒業論文の概要報告(2-4)
11.卒業論文の概要報告(2-5)
12.卒業論文の最終報告(1)
13.卒業論文の最終報告(2)
14.卒業論文の最終報告(3)
15.卒業論文の最終確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J2024200L
科目名	ゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	卒業論文を指導をする. 春学期（ゼミ７）に各自が担当した問題ごとに，卒業論文執筆の指導をする.		
教材（テキスト）	課題に応じて，個別に提示する.		
教材（参考文献）	課題に応じて適宜指示する.		
教材（その他）	課題に応じて適宜指示する.		
評価方法	卒論執筆の内容と姿勢を評価の対象とする. 内容：(50%) 1.先行研究を充分に読破しているか 2.それを要領よくまとめているか 3.その中における問題点を認識しているか 姿勢：(50%) 1：時期までに、 2.何度も修正しているか 3.形式が守られているか　を評価する.		
到達目標	先行研究を充分理解する（論理的思考力・課題発見力）.		
準備学習	文献補充と文献の検索を授業外で各自しておくこと（次回のゼミで各自が調査した文献のリストの提出を求める）.		
受講者への要望			
就職試験に合格するためには，明確なゼミでの勉強の内容と姿勢が求められることを自覚すること.			
講義の順序とポイント			
各自の進捗状況に応じて指導するが，おおむね次のステップで指導する. 第１ステップ 第１回：研究領域を考える 第２回：概要を書き出す 第３回：文献を書き出す 第２ステップ 第４回：章の構成を考える 第５回：文献を書き出す 第３ステップ 第６回：執筆を始める 第７回：執筆に苦労した点を考える 楕８回：文献を探す 第９回：朱を入れられたところを改訂する 第４ステップ 第１０回：中間発表 第１１回：中間発表で指摘された個所を修正する 第５ステップ 第１２回：第１グループ合同発表とコメント 第１３回：第２グループ合同発表とコメント 第１４回：第３グループ合同発表とコメント 第１５回：第４グループ合同発表とコメント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024200M
科目名	ゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	ゼミ７に引き続き、各自が設定した研究テーマに基づき、卒業論文を仕上げていってもらう。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。毎回の講義では、複数名（２-３名）を報告者として、論文の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ学生は必ず報告者に対して報告内容に関する質問をし、報告者はその質問に答えてもらう。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教材（その他）	ゼミ６のときに、日本学生経済ゼミナール大会（インター大会）への参加に向けて作成した論文 スタートアップゼミのときに配布したテキスト『アカデミック・ライティング』		
評価方法	卒業論文の内容《100％》		
到達目標	各自が設定した論文テーマに基づいて、卒業論文を完成させること。		
準備学習	大学の講義時間内で論文を完成させようと思っている者は、大ばか者である。論文を書くための予備段階でも、資料の収集及び整理、そしてその資料の理解という作業があり、これらを熟すためには最低２-３か月かかってしまう。また、論文の素案を書きつつも、追加資料の収集、そして分析も伴ってくる。論文を作成するには、多大な時間と労力を要することを認識しておかなければならない。 ４回生の秋学期ともなると就職活動は一段落し、比較的、論文作成に時間を割くことができるようになっているだろう。このため、ゼミ生諸君には、じっくりと自宅学習をし、論文完成を目指していただきたい。出来れば、論文作成の着手時期は、夏休みに入るころが良い。		

受講者への要望

大学４年間で学んだことの集大成が卒業論文です。卒業論文の体を成していないものは、勿論、認めるわけにはいきません。
何度も書き直しを指示しますので、覚悟しておいてください。
また、大学教務課への卒論提出期限は１月半ば頃ではあるが、12 月半ばまでにゼミ担当者に提出すること。その後、何度も修正を指示します。ゼミ担当者教員を通さずに直接大学教務課に卒業論文をもって行っても、卒業論文として提出は認められません。また、期限ぎりぎりにゼミ担当者に持って来ても、卒業論文として認めません。

講義の順序とポイント

1. 夏休み中の卒論進捗状況の報告
2. 一次進捗状況の報告①（以下毎時間２―３名が報告者となる）
3. 一次進捗状況の報告②
4. 一次進捗状況の報告③
5. 一次進捗状況の報告④
6. 一次進捗状況の報告⑤
7. 二次進捗状況の報告①
8. 二次進捗状況の報告②
9. 二次進捗状況の報告③
10. 二次進捗状況の報告④
11. 二次進捗状況の報告⑤
12. 卒論の最終報告①
13. 卒論の最終報告②
14. 卒論の最終報告③
15. 総括：卒論の提出と発表

人間力（６つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024200N
科目名	ゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	ゼミ７に引き続き、各自が設定した研究テーマに基づき、卒業論文を仕上げていってもらう。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。毎回の講義では、複数名（２-３名）を報告者として、論文の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ学生は必ず報告者に対して報告内容に関する質問をし、報告者はその質問に答えてもらう。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教材（その他）			
評価方法	演習内の発表内容等による(100%)。		
到達目標	各自が設定した論文テーマに基づいて、卒業論文を完成させること。		
準備学習	大学の講義時間内で論文を完成させようと思っている者は、大ばか者である。論文を書くための予備段階でも、資料の収集及び整理、そしてその資料の理解という作業があり、これらを熟すためには最低２-３か月かかってしまう。また、論文の素案を書きつつも、追加資料の収集、そして分析も伴ってくる。論文を作成するには、多大な時間と労力を要することを認識しておかなければならない。 ４回生の秋学期ともなると就職活動は一段落し、比較的、論文作成に時間を割くことができるようになっているだろう。このため、ゼミ生諸君には、じっくりと自宅学習をし、論文完成を目指していただきたい。出来れば、論文作成の着手時期は、夏休みに入るころが良い。		

受講者への要望

大学４年間で学んだことの集大成が卒業論文です。卒業論文の体を成していないものは、勿論、認めるわけにはいきません。
何度も書き直しを指示しますので、覚悟しておいてください。
また、大学教務課への卒論提出期限は１月半ば頃ではあるが、12 月半ばまでにゼミ担当者に提出すること。その後、何度も修正を指示します。ゼミ担当者教員を通さずに直接大学教務課に卒業論文をもって行っても、卒業論文として提出は認められません。また、期限ぎりぎりにゼミ担当者に持って来ても、卒業論文として認めません。

講義の順序とポイント

1. 夏休み中の卒論進捗状況の報告
2. 一次進捗状況の報告①（以下毎時間２―３名が報告者となる）
3. 一次進捗状況の報告②
4. 一次進捗状況の報告③
5. 一次進捗状況の報告④
6. 一次進捗状況の報告⑤
7. 二次進捗状況の報告①
8. 二次進捗状況の報告②
9. 二次進捗状況の報告③
10. 二次進捗状況の報告④
11. 二次進捗状況の報告⑤
12. 卒論の最終報告①
13. 卒論の最終報告②
14. 卒論の最終報告③
15. 総括：卒論の提出と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024300B
科目名	サブゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	卒業論文を指導をする. 春学期（ゼミ７）に各自が担当した問題ごとに，卒業論文執筆の指導をする.		
教材（テキスト）	課題に応じて，個別に提示する.		
教材（参考文献）	課題に応じて適宜指示する.		
教材（その他）	課題に応じて適宜指示する.		
評価方法	卒論執筆の内容と姿勢を評価の対象とする. 内容：(50%) 1.先行研究を充分に読破しているか 2.それを要領よくまとめているか 3.その中における問題点を認識しているか 姿勢：(50%) 1：時期までに、 2.何度も修正しているか 3.形式が守られているか　を評価する.		
到達目標	先行研究を充分理解する（論理的思考力・課題発見力）.		
準備学習	文献補充と文献の検索を授業外で各自しておくこと（次回のゼミで各自が調査した文献のリストの提出を求める）.		
受講者への要望			
就職試験に合格するためには，明確なゼミでの勉強の内容と姿勢が求められることを自覚すること.			
講義の順序とポイント			
各自の進捗状況に応じて指導するが，おおむね次のステップで指導する. 第１ステップ 第１回：研究領域を考える 第２回：概要を書き出す 第３回：文献を書き出す 第２ステップ 第４回：章の構成を考える 第５回：文献を書き出す 第３ステップ 第６回：執筆を始める 第７回：執筆に苦労した点を考える 楕８回：文献を探す 第９回：朱を入れられたところを改訂する 第４ステップ 第１０回：中間発表 第１１回：中間発表で指摘された個所を修正する 第５ステップ 第１２回：第１グループ合同発表とコメント 第１３回：第２グループ合同発表とコメント 第１４回：第３グループ合同発表とコメント 第１５回：第４グループ合同発表とコメント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024300C
科目名	サブゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	２回の中間報告を経て、卒業論文の完成を目指す。 卒業論文作成の大まかな手順は、（１）テーマ設定、（２）テーマの現状と背景に関する基本理解、（３）テーマに関する資料の収集と読み込み、（４）資料の系統立てた整理、（５）卒業論文の章立て、（６）卒業論文の執筆、（７）卒業論文の完成　である。これに沿った取り組みを指導していく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて、適宜、案内する。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて、適宜、配布する。		
評価方法	中間報告 40%　　卒業論文 60%		
到達目標	卒業論文の完成		
準備学習	（１）資料収集と系統立てた資料の整理、およびそれらの読み込みを行う。 （２）各段階で、指定された期日までに、報告資料と原稿の両方を作成する。		

受講者への要望

論文作成にはテーマの選択･設定だけでも、その予備段階で情報・資料の収集と整理が必要となる。また、「調べる、理解する、分析・批判する、書く、発表する」という一連の論文作成作業は、今後の社会生活等において役立つ重要な「技術」である。また、卒業論文作成のための一連の段階的な作業を通じて、大学生活の集大成としての卒論を完成させることはもちろん、情報を集め理解・整理し利用するための技能を更に高めることに意識的に取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

第１回：卒業論文の作成方法について
第２回：テーマ選択１：関心領域の絞込みと資料収集
第３・４回：テーマ選択２：分析視点の絞込みと資料収集
第５回：卒業論文の章立て作成と中間報告
第６回－第１０回：卒業論文初校の作成
第１１回：初校提出と中間報告
第１２・１３回：卒業論文第２校の作成
第１４・１５回：卒業論文提出と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J2024300D
科目名	サブゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	ゼミ８では卒論指導をおこなう。卒論の書き方から、卒論の完成までを、その基礎から徹底指導する。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０%）受講態度等＋卒論の提出（６０%）		
到達目標	自分が関心を持つテーマについて、卒業論文を作成することが最終目標となる。この目的を達するためには、まず自分の研究テーマに関連する基本文献や資料を収集し、それらを批判的に分析する作業が、第１段階として必要である。第２段階は、論文の作成であるが、このときのポイントは、とりあげる過去の研究の論点を整理した上で、自分の主張を明確に示すこと、そしてその主張を自分の言葉と表現で文章化することである。		
準備学習	卒論作成の第１段階は、論文の構想と、文献資料の収集および分析の作業であるが、これらの第１段階の作業におよそ３ヶ月程度は必要である。また文章化をおこなう第２段階についても、追加資料の収集や分析が必ず必要となるので、最低３ヶ月程度の時間的余裕を見ておかなければならない。　したがって、卒論作成の作業については、できるだけ早期に着手することが望ましい。		

受講者への要望

卒論のテーマについては、過去のゼミ研究で取り上げたテーマから選ぶことが望ましい。また、日ごろからできるだけ多くの書物を読むように心がけてもらいたい。卒論であれ、レポートであれ、ポイントとなるのは文章表現力だからである。

講義の順序とポイント

１．　ゼミ８（卒論）のシラバス説明
２．　卒論の書き方(1)
３．　卒論の書き方(2)
４．　卒論の書き方(3)
５．　概要報告(1)
６．　概要報告(2)
７．　概要報告(3)
８．　概要報告(4)
９．　中間報告(1)
１０．　中間報告(2)
１１．　中間報告(3)
１２．　中間報告(4)
１３．　卒論最終チェック(1)
１４．　卒論最終チェック(2)
１５．　卒論最終チェック(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024300E
科目名	サブゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	ゼミ７に引き続き、各自が設定した研究テーマに基づき、卒業論文を仕上げていってもらう。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。毎回の講義では、複数名（２-３名）を報告者として、論文の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ学生は必ず報告者に対して報告内容に関する質問をし、報告者はその質問に答えてもらう。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教材（その他）			
評価方法	演習内の発表内容等による(100%)。		
到達目標	各自が設定した論文テーマに基づいて、卒業論文を完成させること。		
準備学習	大学の講義時間内で論文を完成させようと思っている者は、大ばか者である。論文を書くための予備段階でも、資料の収集及び整理、そしてその資料の理解という作業があり、これらを熟すためには最低２-３か月かかってしまう。また、論文の素案を書きつつも、追加資料の収集、そして分析も伴ってくる。論文を作成するには、多大な時間と労力を要することを認識しておかなければならない。 ４回生の秋学期ともなると就職活動は一段落し、比較的、論文作成に時間を割くことができるようになっているだろう。このため、ゼミ生諸君には、じっくりと自宅学習をし、論文完成を目指していただきたい。出来れば、論文作成の着手時期は、夏休みに入るころが良い。		

受講者への要望

大学４年間で学んだことの集大成が卒業論文です。卒業論文の体を成していないものは、勿論、認めるわけにはいきません。
何度も書き直しを指示しますので、覚悟しておいてください。
また、大学教務課への卒論提出期限は１月半ば頃ではあるが、12 月半ばまでにゼミ担当者に提出すること。その後、何度も修正を指示します。ゼミ担当者教員を通さずに直接大学教務課に卒業論文をもって行っても、卒業論文として提出は認められません。また、期限ぎりぎりにゼミ担当者に持って来ても、卒業論文として認めません。

講義の順序とポイント

1. 夏休み中の卒論進捗状況の報告
2. 一次進捗状況の報告①（以下毎時間２―３名が報告者となる）
3. 一次進捗状況の報告②
4. 一次進捗状況の報告③
5. 一次進捗状況の報告④
6. 一次進捗状況の報告⑤
7. 二次進捗状況の報告①
8. 二次進捗状況の報告②
9. 二次進捗状況の報告③
10. 二次進捗状況の報告④
11. 二次進捗状況の報告⑤
12. 卒論の最終報告①
13. 卒論の最終報告②
14. 卒論の最終報告③
15. 総括：卒論の提出と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024300G
科目名	サブゼミ 8	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	前学期は 1930 年代の世界大恐慌は何故生じたかを基本に、日本の 1980 年代後半のバブル、その後のバブル崩壊に伴う長期デフレ不況、アメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機がどのようにして生じたかについて学んだ。そしてこれらのテ－マを中心にして、各人が課題を設定し、卒業論文作成にとりかかった。その論文を今学期中に完成させる。		
教材（テキスト）	ゼミ 7 で使ったものをメインのテキストとする。		
教材（参考文献）	ホ－ルとファ－グソン 『大恐慌』 多賀出版 パ－カ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済 『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男『日本銀行、デフレの番人』日経新聞社 『デフレと超円高』講談社 『デフレの経済学』東洋経済 『まずデフレを止めよ』日本経済新聞社 『昭和恐慌の研究』東洋経済 『日本経済を学ぶ』ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナ－』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』（上巻） 講談社 『経済論戦は蘇る』東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況 』講談社		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	卒論の内容(100%)		
到達目標	金融危機、大恐慌の研究を通して、経済を見る目を養う。		
準備学習	この時期、ほとんどの学生は就職活動を終了していると思われるので、自宅で卒論完成目指して全力を尽くすこと。何度も書き直しを求められるので、その覚悟が必要である。		

受講者への要望

申すまでもなく、諸君の集大成としての卒業論文であるので、安易な論文は認められない。何度も書き直させられることを覚悟すること。教務課に提出しても、卒論としてのレベルに達していなければ当然却下されるので注意すること。

講義の順序とポイント

卒論の教務課への最終締切りは 1 月半ばであるが、12 月半ばまでに担当者に提出しなければならない。
その後、何度も修正を求められる。
締切り間際に、駆け込み的に直接教務課に提出しても、卒論として認められず、却下されるので注意すること。

1．各ゼミ生の夏休み中の卒論進捗状況の報告
2．一次卒論報告①（以下毎時間２－３名が報告者となる）
3．一次卒論報告②
4．一次卒論報告③
5．一次卒論報告④
6．一次卒論報告⑤
7．二次卒論報告①
8．二次卒論報告②
9．二次卒論報告③

１０．　二次卒論報告④ １１．　二次卒論報告⑤ １２．　卒論最終チェック① １３．　卒論最終チェック② １４．　卒論最終チェック③ １５．　卒論総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024300H
科目名	サブゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	ゼミ７に引き続き、各自が設定した研究テーマに基づき、卒業論文を仕上げていってもらう。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。毎回の講義では、複数名（２-３名）を報告者として、論文の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ学生は必ず報告者に対して報告内容に関する質問をし、報告者はその質問に答えてもらう。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教材（その他）	ゼミ６のときに、日本学生経済ゼミナール大会（インター大会）への参加に向けて作成した論文 スタートアップゼミのときに配布したテキスト『アカデミック・ライティング』		
評価方法	卒業論文の内容《100％》		
到達目標	各自が設定した論文テーマに基づいて、卒業論文を完成させること。		
準備学習	大学の講義時間内で論文を完成させようと思っている者は、大ばか者である。論文を書くための予備段階でも、資料の収集及び整理、そしてその資料の理解という作業があり、これらを熟すためには最低２-３か月かかってしまう。また、論文の素案を書きつつも、追加資料の収集、そして分析も伴ってくる。論文を作成するには、多大な時間と労力を要することを認識しておかなければならない。 ４回生の秋学期ともなると就職活動は一段落し、比較的、論文作成に時間を割くことができるようになっているだろう。このため、ゼミ生諸君には、じっくりと自宅学習をし、論文完成を目指していただきたい。出来れば、論文作成の着手時期は、夏休みに入るころが良い。		

受講者への要望

大学４年間で学んだことの集大成が卒業論文です。卒業論文の体を成していないものは、勿論、認めるわけにはいきません。
何度も書き直しを指示しますので、覚悟しておいてください。
また、大学教務課への卒論提出期限は１月半ば頃ではあるが、12 月半ばまでにゼミ担当者に提出すること。その後、何度も修正を指示します。ゼミ担当者教員を通さずに直接大学教務課に卒業論文をもって行っても、卒業論文として提出は認められません。また、期限ぎりぎりにゼミ担当者に持って来ても、卒業論文として認めません。

講義の順序とポイント

1. 夏休み中の卒論進捗状況の報告
2. 一次進捗状況の報告①（以下毎時間２―３名が報告者となる）
3. 一次進捗状況の報告②
4. 一次進捗状況の報告③
5. 一次進捗状況の報告④
6. 一次進捗状況の報告⑤
7. 二次進捗状況の報告①
8. 二次進捗状況の報告②
9. 二次進捗状況の報告③
10. 二次進捗状況の報告④
11. 二次進捗状況の報告⑤
12. 卒論の最終報告①
13. 卒論の最終報告②
14. 卒論の最終報告③
15. 総括：卒論の提出と発表

人間力（６つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J2024300J
科目名	サブゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Sub Colloquium 8		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	ゼミ７に引き続き、各自の設定したテーマに基づいて研究を行い、大学生活の総仕上げとして卒業論文を完成させる。 そのために、毎回数名に卒業論文の概要および研究の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 このようにして互いに助言し刺激しあうことで、各ゼミ生の卒業論文がより高い水準に達することを目指す。		
教材（テキスト）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文を完成させること。		
準備学習	・各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集し、熟読すること。 ・各自の卒業論文の概要を、中間報告時に配布するためのレジュメにまとめること。 ・スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、就職試験等による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。

講義の順序とポイント

1.夏季休業中の学習・研究の進捗状況についての報告
2.卒業論文の概要報告(1-1)
3.卒業論文の概要報告(1-2)
4.卒業論文の概要報告(1-3)
5.卒業論文の概要報告(1-4)
6.卒業論文の概要報告(1-5)
7.卒業論文の概要報告(2-1)
8.卒業論文の概要報告(2-2)
9.卒業論文の概要報告(2-3)
10.卒業論文の概要報告(2-4)
11.卒業論文の概要報告(2-5)
12.卒業論文の最終報告(1)
13.卒業論文の最終報告(2)
14.卒業論文の最終報告(3)
15.卒業論文の最終確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J20265001
科目名	ネットワークセキュリティ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Network Security		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J20265002
科目名	ネットワークセキュリティ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Network Security		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J20328001
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		
受講者への要望			
毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて ２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み ３．　マネープランの必要性と金融商品 ４．　債券の基礎知識 ５．　債券投資の実際 ６．　株式投資の魅力とリスク ７．　株価の変動要因 ８．　決算書の見方 ９．　主な投資指標の見方 １０．　株式投資の判断 １１．　投資信託をの基礎知識 １２．　投資信託を選ぶポイント １３．　資産運用の概要 １４．　資産運用はどうあるべきか １５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J20329001
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.市場と政府の役割 2.財政の 3 機能 3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性 4.経済安定化機能(2):需要と景気 5.経済安定化機能(3):政府の景気対策① 6.経済安定化機能(4):政府の景気対策② 7.所得再分配(1):再分配の必要性 8.所得再分配(2):再分配の方法 9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差 10.資源の効率的配分(1):需要と供給 11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム 12.資源の効率的配分(3):市場の失敗 13.租税(1):租税三原則 14.租税(2):所得税と消費税① 15.租税(3):所得税と消費税②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J20330001
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、情報技術・システム・産業・機器・生活からふれ、情報化が社会生活に及ぼす影響、情報機器の発達と生活意識様式の変化について概略する。コンピュータ情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化により、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を述べる。情報化社会の情報と個人、職業・教育について理解し、自己のあり方生き方と職業を考える。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	京学なびから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化

マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済

2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理

3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題

電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点

電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業

5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化

企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット

6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質

職業と自己実現、職業観と職業意識

7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差

個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール

知的財産、企業等による個人情報の利用

8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権

知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用

IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法

11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消

情報アクセスへの格差、情報格差

通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護

13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール

個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化

15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり

現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J20374001
科目名	現代アメリカ事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Current Topics in the U.S.A.		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後、アメリカ合衆国は日本にとって最も身近な存在の一つとなっています。しかし、今世紀に入り、9･11 同時多発テロ、イラク戦争勃発、オバマ政権誕生などの出来事が起こっていて、アメリカの実情は複雑なものと言えます。でもこのことは決して突発的なことではなく、宗教的、歴史的なものをはじめとしたアメリカの様々な背景があってのことです。本講義ではアメリカの家族、教育、宗教、経済、地域文化など様々な観点で現代アメリカをとらえていきます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。毎回授業後にコメントを書いてもらいますので、受講生は講義内容のメモを取ることができるようにしておいてください。		
教材（参考文献）	なし。授業中に指示します。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー30%、学期末レポート 70%で評価。なお、欠席 6 回で失格とします。		
到達目標	アメリカの諸問題について関心をもち、様々な角度から問題点などを考察することができるようにします。		
準備学習	新聞やテレビなどを通じてアメリカでのさまざまな出来事に関心を持っておくと同時に、どうしてそのようなことが起こったのかを考察するように心がけてください。授業中でも講義で取り上げるテーマにあわせて説明します。		

受講者への要望

アメリカに対するイメージをあれこれ頭に思い浮かべてください。（もちろんみなさんが持つイメージは現状と違っていいです。）講義中にコメントや意見を言っていただくこともあります。（ちなみに「答え」ではないですから「正解」を出す必要はありません。）講義はしっかり聴いてメモをとるように心がけてください。

講義の順序とポイント

ここに講義の順序を記載します。もし授業中での学生のコメント、意見や議論が活発になれば、授業進行が変更になることも考えられます。

1. 授業の説明、アメリカ概説～自由の国アメリカ
2. 地域文化～中西部アメリカと西部アメリカ
3. 地域文化～東部アメリカと南部アメリカ
4. 人種問題～移民の国アメリカ
5. 人種問題～同一民族のコミュニティーは何のため？
6. 宗教問題～神への強い信仰心
7. 宗教問題～アメリカ人はオカルト好き？
8. ここまでのまとめ
9. アメリカの家族～夫婦関係は？いつ子どもは成人に？
10. アメリカの教育～教育現場でのいじめは？義務教育でも学校行かず？
11. 銃規制～何のための銃？
12. テロの脅威～９・１１の余波
13. 軍事問題～イラク戦争の意義は？
14. アメリカ企業のしくみ
15. まとめ、期末レポートの説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J20374002
科目名	現代アメリカ事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Current Topics in the U.S.A.		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後、アメリカ合衆国は日本にとって最も身近な存在の一つとなっています。しかし、今世紀に入り、9･11 同時多発テロ、イラク戦争勃発、オバマ政権誕生などの出来事が起こっていて、アメリカの実情は複雑なものと言えます。でもこのことは決して突発的なことではなく、宗教的、歴史的なものをはじめとしたアメリカの様々な背景があってのことです。本講義ではアメリカの家族、教育、宗教、経済、地域文化など様々な観点で現代アメリカをとらえていきます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。毎回授業後にコメントを書いてもらいますので、受講生は講義内容のメモを取ることができるようにしておいてください。		
教材（参考文献）	なし。授業中に指示します。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー30%、学期末レポート 70%で評価。なお、欠席 6 回で失格とします。		
到達目標	アメリカの諸問題について関心をもち、様々な角度から問題点などを考察することができるようにします。		
準備学習	新聞やテレビなどを通じてアメリカでのさまざまな出来事に関心を持っておくと同時に、どうしてそのようなことが起こったのかを考察するように心がけてください。授業中でも講義で取り上げるテーマにあわせて説明します。		

受講者への要望

アメリカに対するイメージをあれこれ頭に思い浮かべてください。（もちろんみなさんが持つイメージは現状と違っていいです。）講義中にコメントや意見を言っていただくこともあります。（ちなみに「答え」ではないですから「正解」を出す必要はありません。）講義はしっかり聴いてメモをとるように心がけてください。

講義の順序とポイント

ここに講義の順序を記載します。もし授業中での学生のコメント、意見や議論が活発になれば、授業進行が変更になることも考えられます。

1. 授業の説明、アメリカ概説～自由の国アメリカ
2. 地域文化～中西部アメリカと西部アメリカ
3. 地域文化～東部アメリカと南部アメリカ
4. 人種問題～移民の国アメリカ
5. 人種問題～同一民族のコミュニティーは何のため？
6. 宗教問題～神への強い信仰心
7. 宗教問題～アメリカ人はオカルト好き？
8. ここまでのまとめ
9. アメリカの家族～夫婦関係は？いつ子どもは成人に？
10. アメリカの教育～教育現場でのいじめは？義務教育でも学校行かず？
11. 銃規制～何のための銃？
12. テロの脅威～９・１１の余波
13. 軍事問題～イラク戦争の意義は？
14. アメリカ企業のしくみ
15. まとめ、期末レポートの説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J20440A01
科目名	労働経済論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Economics A		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、それに伴い労働者を取り巻く環境が大きく変化した。企業の業績悪化に伴い、日本の雇用形態の特徴である終身雇用や年功序列型賃金が見直され、また近年は契約社員やパートタイマーなどの非正規雇用の増加が観測される。さらに日本の総人口が減少を始め、少子高齢化による労働力の確保が必要とされる。労働経済学の授業では、雇用や賃金、失業の決定などを理論的に解説し、現在の我が国で観測される問題を考察する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	太田 聰一・橘木 俊詔「労働経済学入門 新版」有斐閣(2012/2)		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	我が国の雇用および労働市場を取り巻く問題を理解する。		
準備学習	新聞やニュースなどを通じ、我が国や諸外国の労働市場で観測される問題に関心を持つこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。
・労働経済論 B も受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.労働経済学とは(1)働くことの意味
2.労働経済学とは(2)工業化と、それに伴う労働形態の変化
3.労働経済学とは(3)雇用者と自営業
4.賃金と雇用(1)労働需要
5.賃金と雇用(2)労働供給
6.我が国の現状(1)経済成長率、インフレ率、失業率
7.我が国の現状(2)出生率、高齢化率、政府債務残高
8.賃金格差(1)教育と生産性
9.賃金格差(2)企業内訓練と生産性
10.賃金格差(3)賃金交渉、効率賃金仮説
11.教育・訓練の効果(1)教育の役割
12.教育・訓練の効果(2)企業内訓練
13.離職(1)離職のメカニズム
14.離職(2)若年の離職
15.非正規雇用

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J20440B01
科目名	労働経済論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Economics B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、それに伴い労働者を取り巻く環境が大きく変化した。企業の業績悪化に伴い日本の雇用形態の特徴でもある終身雇用や年功序列型賃金が見直され、また近年は契約社員やパートタイマーなどの非正規雇用の増加が観測される。さらに日本の総人口が減少を始め、少子高齢化による労働力の確保が必要とされる。労働経済学の授業では、雇用や賃金、失業の決定などを理論的に解説し、現在の我が国で観測される問題を考察する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	太田 聰一・橘木 俊詔「労働経済学入門 新版」有斐閣(2012/2)		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	我が国の雇用および労働市場を取り巻く問題を理解する。		
準備学習	新聞やニュースなどを通じ、我が国や諸外国の労働市場で観測される問題に関心を持つこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。
・労働経済論 A を受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.賃金と雇用の決まり方の復習
2.失業(1)我が国の失業率の推移
3.失業(2)失業発生のメカニズム
4.失業(3)失業対策
5.若年の雇用(1)平成不況と若年失業
6.若年の雇用(2)若年失業の問題①
7.若年の雇用(3)若年失業の問題②
8.若年の雇用(4)若年失業解消に向けて
9.女性の雇用(1)女性の就業と M 字カーブ
10.女性の雇用(2)統計的差別
11.女性の雇用(3)男女共同参画社会
12.高齢者の雇用(1)我が国における高齢化の現状
13.高齢者の雇用(2)定年の延長と高齢者の雇用
14.高齢者の雇用(3)高齢化と技能継承問題
15.高齢者の雇用(4)高齢者の雇用に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J20478001
科目名	企業金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics for Business		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	企業金融は金融論の一分野であり、とくに企業の資金調達の方法を中心に学ぶ。 具体的には、資金調達の方法である株式発行と社債発行に大別し、それぞれに関連した分析方法を学ぶ。分析方法を学ぶ際には、主に計算を通じた算定を行うので、数学や数式に抵抗を感じるかもしれない。しかしながら、電卓で計算できる簡単な設定から学ぶ予定なので、心配はない。 本講義では、企業金融における基本的な考え方を理解し、確認することを目的としている。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(20%)；複数回のレポート等による。 定期試験(80%)。		
到達目標	証券市場や金融市場について理解する。 企業金融における理論や技法の基礎的知識を習得する。		
準備学習	各回のレジュメを事前に「京学なび」にアップロードするので、講義前に目を通しておくこと。 証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 自分の好きな企業の経営方針、事業内容および財務情報等を学期中に調査すること。 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。		

受講者への要望

授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。
電卓を毎回持参すること。

講義の順序とポイント

1. 企業金融輪なぜ学ぶか
2. 金融市場の役割
3. 財務諸表の基礎と企業の資金調達手段
4. 企業の資金調達 - 株式発行
5. 財務諸表の分析 ① - 収益性
6. 財務諸表の分析 ② - 財務安全性と成長性
7. 株式分析 - 配当割引モデル
8. 株式分析 - ポートフォリオ分析 ①
9. 株式分析 - ポートフォリオ分析 ②
10. 株式分析 - マーケット・モデル
11. 株式分析 - 資本資産価格評価モデル（CAPM）
12. 企業の資金調達 - 社債発行と証券化
13. 債券の価格と利回り ①
14. 債券の価格と利回り ②
15. まとめ： 演習の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J20523001
科目名	家計金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics for Household		
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
講義概要	こだわりのライフスタイルがもてはやされる時代。 好きなように生きるのは個人の自由ですが、そこには「自己責任」の認識を持たなければなりません。 得をするのも損をするのも、自分の選択した「ライフプランニング」の巧拙で大きく変わります。 実社会では現実に「知っている人は得をして、知らない人は損をする」ことが起こります。 この講座では、上手なライフプランの実現に必要な知識となるファイナンシャルプランニングを学びます。 金融商品･年金･保険･税金や実現の前提となる金融や経済情勢を、家計簿やチラシの見方、ポイントカードなど日常生活の身近な事例から解説していきます。 人生 80 年、あなたのこれからの人生で、いくらの生活資金が必要でしょう？また、いくら準備できますか？ 全て、この視点を持って講義に参加してください。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適時プリントを配布する。		
教材（参考文献）	日々の新聞（新聞名は問わない）　朝刊・夕刊・曜日版など		
教材（その他）	学生生活マネー＆キャリアハンドブック（日本 FP 協会） その他プリントを適時配布		
評価方法	授業中に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%）		
到達目標	最終目標は、生涯に必要となる資金計画を具体的に把握し、 そのために必要な手立てが行なえる能力を身につけるレベルです。 全ての講義回はそのための基本知識です。		
準備学習	新聞等経済ニュースには目を通すように。 特に、自分の生活に直結する『金銭・データ』は、メモをしておくように。 毎回の授業最初に行う確認テストにおいて、質問を行ないます。		

受講者への要望

各回の講義内容は難しいものではありません。
「面白そう」「ためになりそう」など履修動機は問いませんが、成績は、公表している評価方法により厳密に判定します。

経済状況を知る上で、新聞は必読です。購読が無理でも図書館で確認してください。
日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。
半期続ければ、今後の展開に自分なりの意見が持てるようになります。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.ライフプランニング①（一生涯に必要な金額）
3.ライフプランニング②（ライフイベントに必要となる金額）
4.ライフプランニング③（社会保険制度の仕組み）
5.ライフプランニング④（年金制度の概要）
6.保険の知識①（生命保険の仕組み）
7.保険の知識②（損害保険の仕組み）
8.金融商品①（経済状況と金融の関連性）
9.金融商品②（各金融機関の特性と金融商品）
10.金融商品③（主な金融商品の知識）
11.金融商品④（投資型金融商品の知識）
12.不動産の知識①（不動産関連法規）
13.不動産の知識②（不動産の活用と税金）
14.生活に関連する税の知識①（所得税の仕組み）
15.生活に関連する税の知識②（消費税、相続・贈与税）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J2056200A
科目名	世界経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the World Economy		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済のグロ－バル化が急速に進展する今日、世界経済の動向および実情を的確に理解することは極めて重要です。この講義はヨ－ロッパ、アジア、アメリカを中心にして、いま世界経済はどのような状況になっているのか、世界経済の潮流が分析、紹介されます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	講義進度に応じて紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	毎回講義内で講義理解度を見ます(100%)。		
到達目標	世界経済の現状をおおまかに把握でき、自分なりに世界経済の現状について語れること。		
準備学習	事前に資料を配布する、また参考文献を紹介するので、講義前にそれらの文献、資料をよく読んでおくこと。		

受講者への要望

この講義では出席も重視されるので、病気以外は絶対に休まないこと。

講義の順序とポイント

受講者が少数のため、受講者と相談のうえ、変更することがあります。

1．　世界の中の EU
2．　欧州統合の歴史---拡大の歴史---
3．　欧州統合の歴史---深化の歴史---
4．　EU の政治機構と経済
5．　リスボン戦略から新経済成長戦略「欧州２０２０」へ
6．　世界の中のアジア
7．　巨大国家、中国とインドの躍進
8．　東アジアの国々と社会
9．　奇蹟の経済成長と経済危機
10. 変貌する貿易・産業構造、日本・中国・アメリカ
11. 世界の中のアメリカ
12.「大草原の小さな家」時代のアメリカ
13. 大恐慌のアメリカ
14. 偉大な社会、ケネディの時代からインフレと戦うレ－ガンの時代
15. サブプライムショックとアメリカ経済

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J20565001
科目名	情報処理技術	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing Technology		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	社会人には、一定の情報に関する知識と情報技術が求められている。データの特徴に応じた情報の整理・分類、必要に応じた表・グラフの作成、さらに、業務・処理フローを把握し、改善を加え、情報処理が行える情報技術である。これら、知識・技術を習得するための講座である。		
教材（テキスト）	なし　各講義で資料をネットワークから配布する。		
教材（参考文献）	教材から指示する。		
教材（その他）	ネットワークから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況と提出物（40%）等,e-learning により課す課題評価（60%）		
到達目標	社会人として必要なコンピュータ操作が行え、機能を把握し、データから表・関係データベースを作成し、業務に活用できる。		
準備学習	新技術・機器等の推移を知ることを心がけ、情報関連機器等に用いられている技術等を調べ、概要を把握する。また、関連するソフトウエアは単純な例を用い、実際に使用し、特性等を理解しておく。		

受講者への要望

能動的な姿勢で課題に取り組むことを期待する。

講義の順序とポイント

1.講義の概要、e-learning の進め方
　セキュリティ問題と対策
　　セキュリティと暗号技術、ディジタル署名
　システムの信頼性、ネットワークの接続と信頼性
2.基本的なデータ構造
　各種データ構造の特徴
　線形構造と木構造、表・スタック・キュー・2 分探索木
　表計算
　　表計算を使った集計・統合処理および検索・抽出処理
3.SQL 文から見たデータベース
　　テーブル作成からサブクエリ
4.データベース
　データベースの種類と特徴
　ファイル 正規化演習
5.リレーショナルデータベース
　構造と正規化、設計
6.データベースを使ったデータ処理（１　正規化作業）
　データ整理、集計、分析
7.データベースを使ったデータ処理（２　Select 文の基本）
　データ整理、集計、分析
8.データベースと SQL（１　データ処理演習）
　SQL 言語による操作
　　問い合わせ、副問い合わせ
9.データベースと SQL（２　流れのある処理）
　SQL 言語による定義・生成と修正
　　表の設計、表・ビューの定義
10.データベースの設計・利用
　　演習　ＳＱＬ操作理解確認演習
11.SQL によるデータベースの定義・利用
　　演習　SQL・データベースまとめ課題
12.スクリプト(java)
　スクリプト記述の基本

基本処理手順のスクリプト記述 13.スクリプトと基本アルゴリズム 連接・繰り返し・判断 イベント処理 14.基本的なアルゴリズム 並べ替え処理と記述、関数作成・割り込み スクリプト演習：バブルソート 15.総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J20566001
科目名	情報社会と経済	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Enocomics		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	20 世紀末に情報通信技術分野のイノベーションにより、世界各国で「工業社会から情報社会」への進化」が加速してきた。日本の経済や個人の生活の枠組みはこの IT 革命と呼ばれているイノベーションと同期するスピードで変わり始め、その先には「進化する高度情報社会」が到来しようとしている。これからの高度情報社会では、生活や経済がどのように さらに変化していくのでしあろうか？ 21 世紀の情報社会ではこれまでの工業社会では経験できなかった新しい事業形態や製品が創発されてきている。その結果、経済活動に大きな影響力のある銀行・証券などの金融業界をはじめ、製造業、農業、個人生活のインフラである交通、エネルギー、流通、さらには行政、教育、サービス等のあらゆる分野で変化がおこりつつある。 本講義は、①この IT 革命を引き起こした技術イノベーションはどのようなものなのか？ ②IT イノベーションによって各分野でどのような変化がおこっているのか？ を考察し、暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、その結果、これからの私たちの「経済活動」すなわち「暮らし」はどのように変化していくのか推測する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に適時指示する		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+「平常点」(30%)		
到達目標	IT イノベーションよる暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、これからの高度情報化社会での「経済活動」すなわち「暮らし」はそのように進化するのか等の知見の習得。		
準備学習	情報社会になって「新しく創出された事業は各業界でどのような例があるか？」、あるいは「インターネットバンキング」、「電子マネー」など工業社会での事業携帯の違いを予習しておくこと。		

受講者への要望

1. 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1. 講義の内容と進め方について
2. 工業社会から情報社会へ （産業革命から IT 革命）
3. IT 革命を引き起こした技術イノベーション
4. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(1) ノイマン式コンピュータの開発
5. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(2) 情報通信技術の進歩（インターネット）
6. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(3) 半導体の発明と開発競争（集積技術、量産技術）
7. 情報社会を創発したグローバル企業 （インテル、モトローラ、ノキア、マイクロソフト、アップル）
8. 情報社会で創業した企業（グーグル、フェイスブック、楽天、ヤフー等）
9. 情報社会での企業の技術経営
10. 情報社会での新しい事業(1) モバイルフォン
11. 情報社会での新しい事業(2) 電子商取引
12. 情報社会での新しい事業(3) 電子マネー
13. 情報社会での既存業界における新しい事業形態 （金融（銀行、証券)、小売り（百貨店、スーパー、書店）等）
14. 情報社会が経済に与える影響
15. これからの高度情報社会での暮らしと経済

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	★	★	−

年度	2016	授業コード	J20569001
科目名	Ｗｅｂ技術応用	単位数	1
科目名（英語表記）	Web Technological Application Theory		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	Web アプリケーションを構築するために必要な機能を解説し、Web ページ作成と効果的な Web ページ技法の修得をねらいとする。ホームページを記述する HTML 言語、またホームページ作成ソフトを用いてホームページを作成し、HTML の構造・特徴、運用上必要な事項、スクリプトによる動的なページの作成について説明する。インターネット技術の多様性と Web 技術を体系的に学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料をネットワークドライブから配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ネットワークドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	授業中に課す課題（70%）および課題 Web ページ作成（30%）により評価する。（課題 Web ページ作成は必修）		
到達目標	目的に応じた Web ページの製作が行え、効果的な情報発信が行える。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、Web ページ記述言語等の仕様の推移を調べ、追加された事項等を把握し、可能ならば試用する。試用できない場合は、仮記述を講義時に確認することとし、記述のみを行う。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

１．ホームページとインターネット
　インターネット技術の多様性
２．ホームページ閲覧ソフト、公開ソフトの解説
　Web アプリケーションを構築するために必要な機能
３．ホームページ作成ソフトと HTML の解説
４．タグを用いたページの作成
　基本的なタグの解説、画像を含むページの作成
５．ページ間リンク記述
演習：基本的なタグ、各種リンクタグの適用
６．ページの公開
　ウエブサーバ機能の解説
演習：サイト管理
７．ホームページ作成ソフトを用いたページの作成
　スタイルシートと適用
演習：スタイルシートの作成と適用
８．フレームを持つページの作成、各種リンクの作成
演習：フレームを持つページの作成
９．マルチメディアの組み込み
演習：マルチメディアを含んだページの作成
１０．HTML とスクリプト
　スクリプトの基礎、HTML の生成、マウス処理
演習：スクリプトによる動的なページの作成
１１．フォームとスクリプト処理
　フォームとスクリプトの利用、データベースの利用
演習：データベースとの連携
演習：アンケートページの作成
１２．情報モラルについて
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、
プライバシーの保護
１３．既存資料から Web ページの作成　（携帯端末の利用）

演習：既存資料から Web ページの作成 １４．Web ページの作成と提出 演習：課題 Web ページ作成 １５．Web ページの作成と提出 演習：Web ページの改善

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J20570A01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Planning Ⅰ		
担当者名	岡本　久嗣	旧科目名称	
講義概要	本講義はＦＰの基礎である不動産運用設計、金融商品設計、保険、リタイヤメントプランニングの基礎を学習する。また、春学期の「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ資格の認定講義となっているため、本講義の位置づけはそれらの科目と同様にＦＰ資格取得を目指す講義としたい。		
教材（テキスト）	『ファイナンシャル・プランニング入門　第 2 版』(日本 FP 協会)および、「FP 基礎」学習時のテキストとして、『FP 総論』(日本 FP 協会)		
教材（参考文献）	宮口定雄『税務ハンドブック　平成 28 年度版』パーソナル社、『3 級 FP テキストⅠ・Ⅱ　2016～2017 年度版』　FPK 研修センター		
教材（その他）	問題集の使用を予定		
評価方法	レポートの提出を義務づける。そのレポートの内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	難易度を高く設定はしないが、FP としての基本を理解し、AFP 資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者への要望

春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)

講義の順序とポイント

1　ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味
2　FP の社会的役割
3 社会的責任とコンプライアンス
4 不動産の見方
5 不動産の動向と分析
6 金融・経済の知識
7 最近の金融動向
8 利回り計算と割引現在価値
9 株式と債券
10 投資信託
11 金融派生商品
12 生命保険
13 損害保険
14 リタイヤメントプラントと年金問題
15 ファイナンシャルプランニングⅡに向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	J20570B01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅡ	単位数	4
科目名（英語表記）	Financial PlanningⅡ		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	税法の改正に伴い、最新の知識を得るため、本講義ではタックスプランニングを基軸としての講義となる。日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。よって「税金の話」だと考えてもらいたい。なお、税金以外の住宅取得、金融商品売買、退職等を含むその他のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（テキスト）	『タックスプランニング』(日本 FP 協会)、『税務ハンドブック　平成 28 年度版』(宮口定雄著・コントロール社)他		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」(平成 28 年度版) 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」は秋学期の「ファイナンシャル・プランニングⅡ」3 科目を併せて AFP 認定の講義の要件となっているので、FP 資格に興味のある学生は必ず 3 科目を同時に履修することをお願いしたい。

講義の順序とポイント

1	租税法律主義と税法体系
2	直接税と間接税
3	申告納税方式と賦課課税方式
4	所得税の概要と仕組み
5	利子所得
6	配当所得
7	不動産所得
8	事業所得
9	給与所得
10	退職所得
11	山林所得
12	譲渡所得
13	一時所得
14	雑所得
15	非課税所得
16	相続税①
17	相続税②
18	相続税③
19	贈与税①
20	贈与税②
21	金融商品売買に関わる税金①
22	金融商品売買に関わる税金②
23	不動産に関わる税金①
24	不動産に関わる税金②
25	不動産に関わる税金③
26	公的年金等の税金①
27	公的年金等の税金②
28	公的年金等の税金③

29	実例の考察①
30	実例の考察②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J20572A01
科目名	情報処理概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「コンピュータの歴史」、「ハードウエア、ソフトウエアの基本的構成」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1.　講義の内容と進め方
2.　コンピュータの歴史
3.　コンピュータの種類
4.　ディジタルとアナログ
5.　ハードウエアとソフトウエア
6.　情報の表現　10 進数と 2 進数
7.　コンピュータの計算の仕組みー2 進数による計算
8.　コンピュータの基本論理回路
9.　コンピュータの構成装置(1) 入力装置　出力装置
10.　コンピュータの構成装置(2) 制御装置　演算装置　　記憶装置
11.　コンピュータの情報処理方式(1)　コンピュータシステムと信頼性
12.　コンピュータの情報処理方式(2)　集中処理と分散処理
13.　コンピュータの情報処理方式(3)　シンプレックス、デュプレックス、デュアルシステム等
14.　情報技術と通信技術の結合
15.　これからの情報処理技術

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	★	−

年度	2016	授業コード	J20572A02
科目名	情報処理概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「コンピュータの歴史」、「ハードウエア、ソフトウエアの基本的構成」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1.　講義の内容と進め方
2.　コンピュータの歴史
3.　コンピュータの種類
4.　ディジタルとアナログ
5.　ハードウエアとソフトウエア
6.　情報の表現　10 進数と 2 進数
7.　コンピュータの計算の仕組みー2 進数による計算
8.　コンピュータの基本論理回路
9.　コンピュータの構成装置(1) 入力装置　出力装置
10.　コンピュータの構成装置(2) 制御装置　演算装置　　記憶装置
11.　コンピュータの情報処理方式(1)　コンピュータシステムと信頼性
12.　コンピュータの情報処理方式(2)　集中処理と分散処理
13.　コンピュータの情報処理方式(3)　シンプレックス、デュプレックス、デュアルシステム等
14.　情報技術と通信技術の結合
15.　これからの情報処理技術

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	★	−

年度	2016	授業コード	J20572B01
科目名	情報処理概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を常に習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「OS」、「情報システム」、「ネットワーク技術」、「セキュリティ技術」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1.　講義の内容と進め方
2.　OS について
3.　情報システム（1）　勘定系システム、　POS システム、
4.　情報システム（2）　地理情報システム、図書館システム
5.　情報ネットワークシステム　LAN WAN PAN
6.　電話ネットワークとインターネット
7.　SNS
8.　個人情報
9.　情報社会での知的財産権
10. 反社会的情報
11.　コンピュータウイルス
12. 情報社会での危険
13. 情報倫理とネチケット
14. 企業での情報セキュリティ
15　高度情報社会への発展（暮らしのなかの情報処理）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2016	授業コード	J20572B02
科目名	情報処理概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を常に習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「OS」、「情報システム」、「ネットワーク技術」、「セキュリティ技術」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1.　講義の内容と進め方
2.　OS について
3.　情報システム（1）　勘定系システム、　POS システム、
4.　情報システム（2）　地理情報システム、図書館システム
5.　情報ネットワークシステム　LAN WAN PAN
6.　電話ネットワークとインターネット
7.　SNS
8.　個人情報
9.　情報社会での知的財産権
10. 反社会的情報
11.　コンピュータウイルス
12. 情報社会での危険
13. 情報倫理とネチケット
14. 企業での情報セキュリティ
15　高度情報社会への発展（暮らしのなかの情報処理）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2016	授業コード	J20573A01
科目名	国際経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済学 A では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればミクロ経済学を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J20573B01
科目名	国際経済学 B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済学 B では，まず，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，応用的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．また，別のグローバル化の要因であるヒトやカネの国際移動が経済に当たる影響についても説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の主要な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，生産要素移動の経済に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学と国際経済学 A の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの科目を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. リカード・モデル：絶対優位と比較優位 3. リカード・モデル：生産可能性フロンティア 4. リカード・モデル：相対価格と貿易パターン 5. リカード・モデル：世界市場での相対価格の決定 6. リカード・モデル：自由貿易均衡と貿易利益 7. ヘクシャー=オリーン・モデル：リカード・モデルとヘクシャー=オリーン・モデル 8. ヘクシャー=オリーン・モデル：固定係数モデル 9. ヘクシャー=オリーン・モデル：リプチンスキー定理 10. ヘクシャー=オリーン・モデル：ヘクシャー=オリーン定理 11. ヘクシャー=オリーン・モデル：ストルパー=サミュエルソン定理 12. ヘクシャー=オリーン・モデル：要素価格均等化定理 13. 生産要素の国際移動：国際間の資本移動とは 14. 生産要素の国際移動：リカード・モデルにおける労働移動の効果 15. 生産要素の国際移動：2 生産要素モデルでの資本移動の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J20574A01
科目名	福祉社会論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。 そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本における労働のあり方、さらには少子化、高齢化の要因とその影響について考察することを通じて、来たるべき「福祉社会」を展望したい。 なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹『高齢社会と福祉社会』高管出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解し、今後のわが国の社会のあり方について考える視座を得ること。		
準備学習	・日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

1．少子化と高齢化
2．労働時間の短縮　（参考文献の第３章）
3．労働と自由時間　（同上）
4．わが国の勤労観　（同上）
5．自由時間の意識と活用形態　（同上）
6．無償労働と自由時間の使途　（同上）
7．少子社会の問題　（参考文献の第４章）
8．少子化の趨勢　（同上）
9．　「近代」の原理と人口動態　（同上）
１０．社会保障の限界　（同上）
１１．少子化対策の種類と各国の少子化対策　（同上）
１２．近代の精神　（参考文献の第５章）
１３．自由主義の構想と資本主義の内在的諸問題　（同上）
１４．福祉国家の誕生と経済社会問題　（同上）
１５．福祉国家批判と福祉社会の展望　（同上）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J20574B01
科目名	福祉社会論 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。 そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本が抱える諸問題について、年金、医療、介護といった社会保障の各分野との関連において多角的に検討し、来たるべき福祉社会を展望したい。 なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	(1)足立正樹『高齢社会と福祉社会』高管出版 (2)社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解し、今後のわが国の社会のあり方について考える視座を得ること。		
準備学習	・日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方と講義の概要：「福祉」とは
2．国民生活と社会保障
3．少子・高齢社会の到来①　（参考文献(1)の第 1 章）
4．少子・高齢社会の到来②　（同上）
5．社会保障の誕生　（同上）
6．社会保障の普及　（同上）
7．日本の社会保障　（同上）
8．高齢化と医療保障　（同上）
9．高齢化と年金問題　（同上）
10．介護問題登場の背景　（参考文献(1)の第 2 章）
11．四種類の介護供給システム　（同上）
12．わが国の介護保障システムの展開　（同上）
13．公的介護保険の構造と問題点　（同上）
14．介護保険の 2005 年改正とその後の展開　（同上）
15．福祉国家から福祉社会へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J20577001
科目名	幸福指標論	単位数	2
科目名（英語表記）	Happiness Index Designing		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	経済的な豊かさだけでなく、現在では心の豊かさや生きる実感がより求められ、結果として幸福に関する関心が高まっています。 人が幸福感を高めることができる社会にするためには、どのような制度設計やソーシャル・デザインが必要なのか。行動経済学や心理学、社会学、マーケティングの知見を総合的に紹介します。 いま世界で行われている幸福のカタチを幸福指標として表現する取り組など、幸福に関するすべてがわかる授業です。		
教材（テキスト）	キャロル・グラハム著　多田洋介訳『幸福の経済学―人々を豊かにするものは何か』日本経済新聞出版社 2,160 円		
教材（参考文献）	山田昌弘＋電通チームハピネス『幸福の方程式』ディスカヴァー携書　1,080 円		
教材（その他）	パワーポイントを授業時に配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●2000 年代から論じられている「幸福論」の切実な議論を理解し、これからの社会に求められている社会のデザインに重要な指標であることを理解する ●幸福論や行動経済学で論じられている主要な学説や論点を理解する ●各国や自治体が作成している幸福指標の考え方と内容について理解する		
準備学習	次回の授業に関連する資料を事前に配布しますので、事前に資料を熟読することを求めます		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 幸福論ブームの現状
2. 幸福論の系譜　アリストテレスから行動経済学まで
3. 日本における幸福感の変遷
4. 幸福の種類
5. プロスペクト理論
6. 幸福と経済の関係
7. 幸福と労働との関係
8. 消費と幸福の関係
9. 各国の幸福指標の取り組み　OECD、ブータン、日本、フランス、イギリス
10. 幸福と不況や災害
11. コミュニティの力
12. ナッジ（選びたい選択を選ぶことが社会を良くすることになるしかけ）
13. SNS を社会の幸福に役立てる
14. 京都の幸福指標　京都幸福宣言
15. 幸福指標を政策に適用することの是非

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J30009001
科目名	アントレプレナー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Entrepreneurship		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	急速に変動する社会におけるアントレプレナー（起業家）の現状と課題を知り、新しく事業を起こすために必要な考え方やノウハウとスキル、そのステップを理解する。 単に自ら事業を起こすだけでなく、企業内においても企業内起業や新規事業立ち上げができるアントレプレナーシップ（起業家精神）が求められている。その社会的背景と現状、起業の意義、そして起業するためには何をしなければならないのか、どのような課題設定をし、問題解決しなければならないのかを、起業の段階ごとに事例とともに学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『事業構想と経営』梅木晃、井形浩治、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2004 年） 『ベンチャー型新規開業事業の新動向』梅木晃、井形浩治、村上義昭、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2007 年） 『起業学入門』高橋徳行著（経済産業調査会）		
教材（その他）	毎回レジュメプリントを配布する。 ビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）		
到達目標	アントレプレナーの現状と課題を知り、新しく事業を起こすことの意味を知り、そのために必要な考え方とステップを理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に課題を指定するので、それに関わる新聞や雑誌等を読んでおくこと。		

受講者への要望

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業参加をしてもらいたい。
やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。

講義の順序とポイント

1. アントレプレナーの定義と役割
2. 産業構造の変化とアントレプレナー
3. 労働市場から見た起業の意味
4. 新規開業調査に見る起業の実態
5. さまざまな支援体制
6. 海外のアントレプレナー
7. アメリカのアントレプレナー
8. 起業のステップ
9. ケーススタディ　事業機会の認識
10. 〃　経営資源の調達
11. 〃　資金調達
12. 〃　組織の作り方
13. 〃　人材確保と育成
14. 〃　創業時のマーケティング
15. 起業に関わる動向と課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J30020001
科目名	キャリア・マネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Management		
担当者名	楠奥　繁則	旧科目名称	
講義概要	君は勉強という言葉を耳にすると、無意識的に「嫌なもの」「苦痛なもの」など、ネガティブなものをイメージしてしまいませんか？実は、そのような大学生は多いのです（私もそうでした）。そのために、大学での学修に夢中になれない学生さんがわが国では多いのです。 卒業後、みなさんが充実したキャリアが歩めるようになるには、大学での学修が非常に重要になります。それはなぜでしょうか？また、大学での学修に夢中になるにはどのようにすればいいのでしょうか？この講義では、それらのことについて議論していきます。卒業後のキャリアについて真剣に考えている方、また、せっかく大学に入学したけれども、大学での学修に夢中になれない方に、是非この講義を履修して頂きたいと思います。なお、この講義は心理学の視点から議論します。心理学を全く学んだことがないけれども、心理学に興味のある方も履修してくれたらと思います。一緒に心理学を楽しんでみませんか？		
教材（テキスト）	特になし。配布資料などに基づいて授業を行います。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	試験（100%）　※出席回数が 9 回以下の場合、試験を受けることはできません。		
到達目標	理論などの高度専門知識を用いて、仮説を導けるようになることを到達目標とします。そんなに難しいことではございません。しっかりと、説明しますので、ご心配なく。		
準備学習	授業で学んだ理論などの高度専門知識と、みなさん自身の経験（例えば、サークルやアルバイトの経験）や、身の周りの出来事、あるいは、社会問題などとを関連させて考えるようにしてほしいです。講義でそのやり方はアドバイスいたします。		
受講者への要望			
耳慣れない心理学の理論が多く登場すると思います。丁寧に説明いたしますので、一緒に心理学を楽しんでもらえたらと幸いです。			
講義の順序とポイント			
1. 科学するとは？：大学で学ぶということについて 2. 若者を取り巻く労働経済について 3. キャリア未決定問題と非正規雇用というキャリアについて 4. 職業能力開発について：社会人基礎力で十分か？資格取得だけでいいのか？ 5. 知識基盤社会と知識労働者について：プロのギャンブラーは知識労働者か？ 6. わが国の若者が勉強嫌いになる理由① 7. わが国の若者が勉強嫌いになる理由② 8. 大学生のアイデンティティについて 9. 個人で何でもできることが職業的「自立」を意味するのか？：SOC の視点から 10. 他者の自殺について考える 11. ブラック企業について：組織心理学の視点から 12. 労働者の権利について 13. 他者と自分を勇気づけるには？：セルフ・エフィカシー理論の視点から 14. なぜ大学での学びが君たちのキャリア形成に関わるのか？ 15. 大学での学びに夢中になるには？			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J30052A01
科目名	ブランド・マネジメント論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Brand Management I		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	デヴィッド・アーカー教授のブランド・エクイティ論を中心に学びます。 ９０年代以降にブランド論が登場した背景や、ブランド論によって企業の中でマーケティングのポジションがどのように変化したかをたどります。 基本的なブランド・ビルディング、ブランド・マネジメントについて一通りの知識が学べます.		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	アル・ライズ／ローラ・ライズ『ブランディング 22 の法則』東急エージェンシー　1,836 円		
教材（その他）	パワーポイントを授業時に配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●ブランドの基礎知識を網羅的に理解すること ●ブランドを表面的な理解ではなく、本質から理解できること ●ブランドの考え方を様々な社会課題の解決に応用できるようになること		
準備学習	ブランド事例について、資料を事前に配布する場合があるので、その際は事前に資料を購読することを求めます		

受講者への要望

授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. ブランドの起源
2. ブランド・マネージャーの仕事
3. 体験としてのブランド
4. ブランド・エクイティ論
5. ブランド知識
6. ブランド・ビルディングの方法
7. ブランドのメリット
8. ブランド拡張
9. ブランド・コミュニケーション
10. ブランドデザイン
11. ブランドのストーリー
12. 記号としてのブランド
13. ブランド事例研究　飲料におけるブランド
14. インターネット時代のブランド
15. ブランドの応用事例

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J30052B01
科目名	ブランド・マネジメント論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Brand Management II		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	ブランドによって成功した事例を多数学びます。 マーケティングが経営課題として捉えられ、マスメディアからネットを含んだクロスメディア時代への変遷のなかで戦略的なコミュニケーション戦略としても捉えられています。 ダイナミックなマーケティングの展開の古典的な事例から最新の事例まで、アイデアいっぱいのマーケティングの世界を堪能します。		
教材（テキスト）	パワーポイントを授業時に配布		
教材（参考文献）	熊本県庁チームくまモン『くまモンの秘密　地方公務員集団が起こしたサプライズ』幻冬舎新書 886 円		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●ブランドの応用事例を多数学び、世の中をブランドの体系として見ることができる眼力を養うと共に、ブランドをつくり、マネージできる基礎的なノウハウを身につけます		
準備学習	ブランド事例について、資料を事前に配布する場合には事前に資料を熟読することを求めます。		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. ブランド vs コモディティ商品
2. ブランドとユーザーの高齢化対策
3. サウス・ウエスト航空　優位なバリューチェーンをつくる
4. スターバックス　人の価値観を変える
5. ナイキ　こだわりでブランドを作る
6. 無印良品　シンプルという究極の価値のデザイン
7. ユニクロ　進化を続けるブランド
8. くまモン　拡散させるためのデザイン
9. 三越・伊勢丹グループのブランド戦略
10. 缶コーヒー　競合を制するブランド
11. プレミアム商品のブランド戦略
12. 都市のブランディング
13. 大学のブランディング
14. 日本のブランディング
15. ブランド視点で見た消費社会の将来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J30069001
科目名	リーダーシップ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Leadership		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在している。そのような組織が目的を達成するためには，その組織の構成員の諸活動を目的達成の方向にむかって１つにまとめなければならないが，そのような働きかけの１つとして重要な役割を果たすものがリーダーシップである。 企業を取り巻く環境が非常に複雑で動態的な今日，このリーダーシップ研究の重要性はますます高くなっている。そこで本講義では，リーダーシップに関する基礎理論の学習を中心に行うことによって，リーダーシップの本質について検討してみたいと考えている。本講義を通して，将来，学生諸子が企業組織に参加したときに，主体的に行動し，活躍するための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで１度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. リーダーシップとはどのようなものかということについて、簡単な説明をすることができる。 2. リーダーシップ論の歴史的な変遷を理解する。 3. 代表的なリーダーシップ論を簡単に説明することができる。		
準備学習	1. 次の講義内容（シラバスに掲載しているとおりであるが、講義終了時にも指示する。）について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。たとえば第 3 回目の講義がはじまるまでに、「リーダーシップの特性論」について図書館で文献をさがし、その内容が書かれている部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常においてリーダーシップに関する現象に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

１．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
２．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 組織におけるマネジメントとリーダーシップ
3. リーダーシップの特性論
4. リーダーシップの行動論① －ミシガン・オハイオ研究－
5. リーダーシップの行動論② －マネジリアル・グリッド－
6. リーダーシップの行動論③ －PM 理論－
7. 個人の動機とリーダーシップ
8. 前半のまとめと理解度の確認　（小テストを予定）
9. リーダーシップの条件適合理論① －リーダー行動の連続線モデル、コンティンジェンシー・モデル－
10. リーダーシップの条件適合理論② －目標経路理論－
11. リーダーシップの条件適合理論③ －3 次元リーダー効果性モデル－
12. リーダーシップ論のその後の動向① －リーダーシップ研究センターの状況対応リーダーシップ－
13. リーダーシップ論のその後の動向② －EQ リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、変革のリーダーシップなど－
14. リーダーシップ論のその後の動向③ －リーダーシップとフォロワーシップ－
15. リーダーシップ論の講義を通して学んだこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J30070001
科目名	応用商業簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Bookkeeping for a Commercial Fir m		
担当者名	伊藤　久人	旧科目名称	
講義概要	日本商工会議所簿記検定 3 級程度の実力を前提にして、より実践的な取引の記帳など中級程度の簿記の学習を進めます。日本商工会議所簿記検定 2 級商業簿記のうち、株式会社の会計処理と本支店会計をカバーすることを目指します（各種取引の処理は「商業簿記Ⅱ」でカバーします)。		
教材（テキスト）	1 回目の講義にて使用するテキストを紹介する（購入は必要)。 また、テキストとは別に、レジュメの配布を行う場合もある。		
教材（参考文献）	講義において必要に応じ推薦する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点(取組姿勢)30%、試験 70%		
到達目標	1. 複式簿記の意義と特徴を理解している 2. 中規模企業の資金調達（株式および社債の発行）取引の記帳ができる 3. 本支店合併財務諸表を作成できる		
準備学習	1. テキスト等において事前に目を通してください 2. 講義で指示された課題を解いて、次回の講義に臨んでください 3.　講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください		

受講者への要望

1. 原則として、「商業簿記Ⅰ」の単位取得者または日商簿記 3 級合格者が対象です。 「商業簿記Ⅱ」との同時履修を強く勧めます。
2. 簿記の基礎知識がない人は、「入門簿記」または「簿記原理」を履修してください。
3. 自分の理解度を確認するために、また、就職活動の一助とするために、日商簿記検定への挑戦を勧めます。
4. 講義を欠席すると、その後の理解に著しい支障が出る恐れがあります。欠席する講義のフォローは必ず行ってください。

講義の順序とポイント

Ⅰ商業簿記Ⅰの復習
1．簡単なテスト（成績には関係ありません）と講義概要の紹介（商業簿記Ⅱとの違い）
2．商業簿記Ⅰの復習

Ⅱ商業簿記Ⅰから応用商業簿記へ
3．株式会社の会計（その１）：株式会社の設立
4．株式会社の会計（その２）：増資
5．株式会社の会計（その３）：剰余金
6．株式会社の会計（その４）：利益の処分/損失の処理
7．株式会社の会計（その５）：社債(1)
8．株式会社の会計（その６）：社債(2)
9．株式会社の会計（その７）：株式会社会計の総復習
10. 本支店会計（その１）：本支店会計の意義と連結財務諸表
11. 本支店会計（その２）：本支店間の取引
12. 本支店会計（その３）：未達事項
13. 本支店会計（その４）：内部取引と内部利益の控除
14. 本支店会計（その５）：本支店合併財務諸表
15. 本支店会計（その６）：本支店会計の総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	★

年度	2016	授業コード	J30076001
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J30088001
科目名	外書講読	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading of Foreign Literature on Busines s Administration		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	講義では、ブランドに関するノウハウを数ページずつの 22 話に知識ハックとしてまとめた本を教材にします。この本は、「あたるもマーケ、売れるもマーケ、マーケティング 22 の法則」という大ベストセラーに続く第 2 弾で、前著の内容をブランド風に書き直したもので、この本もまたわかりやすさからベストセラーになりました。 短い文章の中に含蓄の深い文言を発見することができます。 毎回の冒頭にある見出しのワードを分析するだけで、マーケティングと英語の感覚を養えます。 事例豊富で読者を引き込むアメリカ人らしい本の書き方も楽しんでもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	Al Ries and Laura Ries The 22 Immutable Laws of Branding　1,800 円程度		
教材（参考文献）	パワーポイントを授業時に配布		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●英語を学びながら、ユニークなブランド論を学ぶ ●英語で書かれたブランド論によってブランドのロジックやグローバルなブランドについて知識を増やす		
準備学習	各回の授業に該当する部分について、事前に読んで理解しておくことを求めます。		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、2 回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。
●特に英語が不得意な人は、予習を欠かさないようにしてください（ほぼ毎回、指名して答えてもらいます）

講義の順序とポイント

第 1 回【拡張の法則】シボレー（車）
第 2 回【収縮の法則】スターバックス
第 3 回【パブリシティの法則】ボディショップ
第 4 回【広告の法則】グッドイヤー（タイヤ）
第 5 回【言葉の法則】フェデックス
第 6 回【信頼の法則】コカコーラ
第 7 回【品質の法則】ロレックス
第 8 回【カテゴリーの法則】ゼロックス
第 9 回【名前の法則】ミラービール
第 10 回【仲間の法則】ハードロックカフェ
第 11 回【一般名の法則】ブロックバスタービデオ
第 12 回【企業名の法則】タイド（洗剤）
第 13 回【サブブランドの法則】ホリデ－イン（モーテル）
第 14 回【アル・ライズのブランド論の要点】
第 15 回【最終章までの法則の体系】

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J30101001
科目名	人材ポートフォリオ論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	企業と人材
講義概要	産業構造が変化し、企業活動も変革をもとめられているが、その中で企業と人材の関係も大きく様変わりしてきている。また、行政機関、大企業、中小企業、ベンチャー企業等、企業形態や企業文化による違いを理解する。 どういった人材を採用育成し､」能力を最大限に発揮させるかは､経営者にとって重要な課題であることに着目し、企業における人材ポートフォリオを実例とともに学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメプリントを配布する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト(50%）		
到達目標	企業にとっての人材の重要性を知り、企業内ポートフォリオのありかたについて自ら考える力をつける。		
準備学習	日常的に企業と人材に関わる事柄に興味をもち、ニュース等で最新の情報を得る努力をすること。		

受講者への要望

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業に参加してもらいたい。
やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。

講義の順序とポイント

1. 人材をめぐる動向
2. 人材ポートフォリオとは何か
3. 経済の変化と人材の変化
4. 日本型雇用の変化
5. 新しい雇用形態と就労形態
6. 人材サービス業の変遷
7. 大企業における人材
8. 中小企業と人材
9. ベンチャー企業と人材
10. 行政機関と人材
11. ポートフォリオの新しい考え方
12. コンピテンシー
13. 企業内起業家の育成
14. 評価制度の功罪
15. 人材をめぐる課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J30113A01
科目名	京都の観光産業 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Tourism Industry in Kyoto I		
担当者名	櫻井　正明	旧科目名称	
講義概要	世界での「観光」の重要性を理解し、我が国の取組や地域での取り組み、観光関連産業などを考察するので、「京都の観光産業」を念頭に置きつつ、主として「国際観光」についての講義となる。 パワーポイント・スライドを中心とした講義形式とし、授業ごとにプリント資料を配布する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	ISBN978-4-86579-029-0　C3033 『観光白書　平成 27 年版』　観光庁編　日経印刷株式会社		
教材（その他）	授業ごとの配布プリント		
評価方法	授業取組状況（授業中課題ミニッツレポート、受講態度）　20% 期中でのレポート（1 課題 1500 字以上のレポート提出 1 回）　20% 期末での定期試験　60% 出席カードリーダーの不正使用は 3 回で授業取組状況配点を 0 点とする。		
到達目標	京都市の取組事例も見ながら現代社会における「観光の重要性」を理解する。		
準備学習	新聞やテレビなどのメディアによる「観光関連情報」を確認し把握すること。		

受講者への要望

観光を総合的に理解する意欲を持って受講すること。

筆記具、ノートを持って教室に入る事。
私語厳禁、教室内飲食厳禁、教室内脱帽すること。　　他学生の受講への迷惑行為と認められた者は退室させる。

講義の順序とポイント

1．この科目の履修ガイダンス（講義概要、評価方法、受講者への要望など）
2．観光とは
3．現代における観光の意義
4．観光の歴史
5．観光の現況と課題―国内観光（京都市の事例を含む）
6．観光の現況と課題―海外観光
7．観光の現況と課題―訪日外国人観光（京都市の事例を含む）
8．観光資源―世界の観光資源、京都市の観光資源
9．地域社会の観光振興（京都市の取組事例を含む）
10.旅行産業
11.交通産業
12.宿泊産業
13.テーマパーク産業
14.クルーズ産業
15.まとめ―観光産業のこれから

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J30113B01
科目名	京都の観光産業Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tourism Industry in Kyoto Ⅱ		
担当者名	櫻井　正明	旧科目名称	
講義概要	日本の観光政策、国と自治体、京都市の事例を含めて講義する。また観光マーケティングについて旅行産業、航空産業、宿泊産業など産業別に学ぶ。 パワーポイント・スライドを中心とした講義形式とし、授業ごとにプリント資料を配布する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	『観光白書』　各年度版　観光庁編		
教材（その他）	授業ごとの配布プリント		
評価方法	授業への取組状況（授業中課題ミニッツレポート、受講態度）　20% 期中でのレポート（1 課題 1500 字以上のレポート提出 1 回）　20% 期末での定期試験　60% 出席カードリーダーの不正使用は 3 回で授業取組状況配点を 0 点とする。		
到達目標	国、自治体の観光政策、観光関連産業の事業取組みでの「マーケティング」の基本について理解を深める。		
準備学習	新聞やテレビなどメディアによる「観光関連情報」を確認し把握すること。		

受講者への要望

観光を総合的に理解する意欲を持って受講すること。

筆記具、ノートを持って教室に入ること。
私語厳禁、教室内飲食厳禁、教室内脱帽である。　他学生の受講への迷惑行為と認められた者は退室させる。

講義の順序とポイント

1．この科目の履修ガイダンス（講義概要、評価方法、受講生への要望など）
2．世界での観光事象データの解説
3．日本の観光政策の歩み
4．現在の日本の観光政策
5．観光マーケティングの理論　①
6．観光マーケティングの理論　②
7．地方自治体のマーケティング概説
8．地方自治体のマーケティング―京都市の事例①
9．地方自治体のマーケティング―京都市の事例②
10.旅行産業のマーケティング
11.航空産業のマーケティング①
12.航空産業のマーケティング②
13.宿泊産業のマーケティング
14.テーマパークのマーケティング
15.14 回にわたる講義の総括～観光の意義と京都市の観光政策を中心に～

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J30140001
科目名	経営学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Management Theories		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	学説の流れを学ぶことを通して、いかなる経営課題に対して先人はどのように取り組んだかを理解する。経営学は課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは異なってくる。よって、この講義においては、多角的視点の涵養と温故知新につながると捉えている。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。
＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。（テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等）
2.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。
3.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。（メイヨー、レスリスバーガー、等）
4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。
5.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。（バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等）　　中間課題 について。
6.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。
7.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等。（ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等）
8.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
9.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。（ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等）
11.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。
12.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。
13.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。　　期末課題について。
14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。（チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等）
15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2016	授業コード	J30150A01
科目名	経営管理論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management I		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	企業の存続と崩壊の要因は何であろうか。その一つの要因は経営管理であり、その善し悪しである。管理されない存在を強調する文献を含み実に多くの文献が管理に焦点を当てている。本講義は、企業はいかなる課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかについての実例および理論・学説を通して『管理とは何か』に接近する。 　経営諸資源と関連付けて企業の全体的な仕組みを説明することになるので、講義対象となる領域はかなり広い。言い換えると、これから経営学を学ぼうとする者にその全体像を提示するという構成になっており、基礎的な内容で話を進めることになる。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.企業の形態と株式会社、上場や非上場①。
2.企業の形態と株式会社、上場や非上場②。
3.利益の源泉と投資、財務諸表の見方、金融機関の役割。
4.株主総会、取締役会、監査役会の法律上の関係。
5.コーポレート・ガバナンス： 日本における特徴、アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴①。中間課題について。
6.コーポレート・ガバナンス： 日本における特徴、アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴②。中間課題について。
7.組織と個人、ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織①。
8.組織と個人、ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織②。
9.労働基準法（36 協定、労働時間、割増賃金を中心にして）①。
10.労働基準法（36 協定、労働時間、割増賃金を中心にして）②。
11.人事管理論　遅い昇進、新卒採用、長期雇用、企業別組合①。
12.人事管理論　遅い昇進、新卒採用、長期雇用、企業別組合②。期末課題について。
13.モチベーション理論。期末課題について。
14.若年労働市場の現状と課題①。
15.若年労働市場の現状と課題②。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2016	授業コード	J30155001
科目名	経営情報概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management and Information Systems		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	経営情報システムを理解するために、情報通信技術（ICT）の基礎知識、および経営戦略やビジネスモデルといった経営の概念についての知識を高め、実社会で応用の効く ICT スキルを習得することを目的としている。企業や行政組織の実務事例を取り上げ、ニーズから実現するためのシステム構成といった一連の流れを学ぶことにより具体的に理解を深める。「概論」では経営の基礎から経営情報システムの最新動向までを体系的に理解することに重点をおいている。受講者数によってはグループ討議を行うこともある。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	宮川公男, 上田泰, 『経営情報システム』, 中央経済社, 2014 武藤明則, 『経営情報システム教科書』, 同文舘出版, 2012 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014 矢沢久雄, 『これから IT 業界で働く人のための情報処理技術の基本』, 日本実業出版社, 2013		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（30%）、最終レポート（40%）		
到達目標	・ICT の知識を体系的に修得すると同時に、経営情報システムの基本および応用について総合的に理解する。 ・経営戦略やビジネスモデルといった経営の概念やノウハウを修得する。 ・企業活動における経営情報システムの内容や実例を理解する。 ・実社会の職場における ICT スキルの重要性、有意性を理解する。 ・ICT イノベーションの可能性を認識する。		
準備学習	マスメディア等の情報から ICT に関する最新の動向に注視することを心がけること。ICT の知識は積み重ねが大事なので、毎回配布するレジュメを復習に活用すること。		

受講者への要望

経営情報システムは企業経営の根幹であるが、今や行政経営でも極めて重要な役割を果たしている。よって民間企業への就職希望者だけでなく公務員志望者においても積極的に学んでほしい。所定用紙に「もっと説明してほしいこと」を記述すれば、原則として次回の講義にて解説する。IT 企業経営および地方議会における現場経験者としての講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、理解度および旬な話題の発生等により変更の可能性もある。

1. ガイダンス、経営情報システムの概要
2. 経営戦略とビジネスモデル
3. ビジネスモデル事例研究
4. 生産・流通のプロセスと仕組み
5. 経営管理と経営組織
6. 企業経営と経営情報システム
7. 経営情報システムの構成Ⅰ（販売）
8. 経営情報システムの構成Ⅱ（発注）
9. 経営情報システムの構成Ⅲ（生産）
10. ネットビジネスⅠ（基本編）
11. ネットビジネスⅡ（電子商取引の事例研究）
12. オフィスにおける情報通信技術の活用
13. マーケティング
14. 企業活動現場で求められる ICT スキルと経営情報システム
15. 今後の経営情報システムの方向性

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J30156001
科目名	経営情報入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Systems for Management		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	進化し続ける情報化社会における ICT（情報通信技術）の活用方法について、基本的な知識を得ることに加え、企業や行政組織の実務事例をベースに学ぶことにより経営と情報の関わりについての知識を高める。これらのことにより実社会で役立つスキルを身につけること、および ICT によるイノベーション創出の可能性に関する理解を深めることを目的としている。「入門」では、ICT を実現するためのハード、ソフトおよびネットワークに関する知識の習得や、実社会における活用の概念を理解することに重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	竹安数博, 石井康夫, 樋口友紀, 『現代経営情報システム』, 中央経済社, 2013 小泉澄, 野々山隆幸他, 『最新 IT を活用する経営情報論』, テンブックス, 2014 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014 矢沢久雄, 『これから IT 業界で働く人のための情報処理技術の基本』, 日本実業出版社, 2013		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（30%）、最終レポート（40%）		
到達目標	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する基本的な知識を体系的に修得すると同時に、経営情報システムについて総合的に理解する。 ・ICT の活用方法を修得する。 ・実社会の職場における ICT スキルの重要性、有意性を理解する。 ・ICT イノベーションの可能性を検討することにより創造力を高める。 ・情報通信に関わるトラブルシューティングのノウハウを身につける。		
準備学習	マスメディア等の情報から ICT に関する最新の動向に注視することを心がけること。ICT の知識は積み重ねが大事なので、毎回配布するレジュメを復習に活用すること。		

受講者への要望

ICT が経済の牽引力となっている昨今、このスキルを身に付けておけばあらゆる業種において将来に亘って有用であることは間違いないので積極的に取り組んでほしい。所定用紙に「もっと説明してほしいこと」を記述すれば、原則として次回の講義にて解説する。IT 企業経営および地方議会における現場経験者としての講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、理解度および旬な話題の発生等により変更の可能性もある。

1. ガイダンス、経営情報システムとは何か
2. 経営情報システムの歴史
3. 経営情報システムの基盤１（ハードウェア、ソフトウェア）
4. 経営情報システムの基盤２（オープンシステム、データベース）
5. 経営情報システムの基盤３（情報通信ネットワーク）
6. 経営情報システムの基盤４（モバイルコンピューティング、ソーシャルネットワーク）
7. 情報セキュリティ
8. 業務アプリケーション
9. トラブルシューティング
10. 経営情報システムの事例１（基幹業務、情報系システム）
11. 経営情報システムの事例２（街づくりで進む ICT 活用）
12. 経営情報システムの事例３（ビッグデータ）
13. アウトソーシング
14. 企業活動現場で必要な経営情報システムに関するスキル
15. これからの経営情報システム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J30161001
科目名	経営数学	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Mathematics		
担当者名	下左近　多喜男	旧科目名称	
講義概要	経営体における固有技術（加工・生産・輸送・情報処理など）だけでは、経営効率の向上に限界がある。そこで管理技術を付加して経営効率の向上を図る経営工学（管理工学など）が活用されるようになった。そこでの最適化には、コンピュータ・シミュレーションや数学解析が適用される。一般的には、コスト最小（利益最大）などを求めている。近年の大学等における経営工学分野の衰退は、経営並びに生産・加工技術などの生産現場を知らない（生産現場を経験しない）情報処理技術者や数理工学系の管理者達の独断など、実際とは乖離する最適化政策が実社会から敬遠されているものと考えられる。 本講義は、上述のようなミスをおかさないように注意して、事例中心に簡単な問題を用いて経営上の解決策を考えるようにする。すなわち、多くの経営上の問題を数学的に最適化する方法を体得させる。		
教材（テキスト）	講義資料を配布する。その他、参考資料を随時紹介する。		
教材（参考文献）	参考文献等は、講義中に指示する。		
教材（その他）	印刷物を配布する。または、講義中に紹介する。		
評価方法	定期試験の評価を 60%、更に、講義中に指示する「課題」の提出状況やレポート(20%)の内容を評価する。その他、講義中の態度(20%)も評価する（減点はなく、加点のみを行う）。		
到達目標	経営上の問題を、シンプル・モデルに変換して、数理的最適化の方法を理解する。 基本的には、例題を解いて、その方式では利益か損失かを予想できるようの考える。 経営方針や経営計画を立案する立場として、経営組織にも興味を持つこと。		
準備学習	最近は工場見学をする機会が減っているので、web で「工場見学」をして、経営や生産や色々な仕組みを事前に学ぶ姿勢が必要です。 当然、実際の現場を見ることができれば、そこでの課題を見つけたり、聞き取り調査をして、自分なりの原因を考えること。		

受講者への要望

当該科目の勉学は当然ですが、社会人としてのマナー・道徳・職業倫理について、真剣に考えるべきです。
１８歳から選挙権が認められる現在においては、それなりに大人としての知識や常識やマナーが要求されます。
これには色々な意見や著書が多くあり、世間の評価を問う形で競い合っています。
但し、簡単に考えると、次のような３点に絞られると思います。
（１）正しい正義感をもつ
（２）強い責任感をもつ
（３）すぐやる実行力をもつ
これらを毎日実行し、結果を毎日チェックして生活習慣にすれば、本科目の単位以外に、人間力・生活力が充実して、
就職やその後の生活も安定し、自分が満足できる人生になると思います。

講義の順序とポイント

1.経営数学の概要と活用法
2.数理計画，数理計画問題，数理計画法
3.オペレーションズ・リサーチと数理計画
4.問題発見，モデリング，定式化，解の導出，意思決定
5.システム的アプローチ
6.数理的アプローチ≠算数・数学
7.数理的アプローチ＝考え方　←　トレーニングが必要！
8.線形計画法の基礎
9.スマートな連立方程式の解法
10.線形計画法の実用的な解き方（小テスト①）
11.感度分析（最適解だけが情報では無い）
12.最適化問題を別な観点から眺める
13.最短路問題
14.日程計画
15.スケジューリング（小テスト②）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J30163B01
科目名	経営戦略論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy II		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 成長マトリックス 3 多角化戦略 4 多角化戦略 2 5 選択と集中 6 ブランド戦略 7 ブランド戦略 2 8 PPM 9 PPM2 10 事例研究：アシックス 11 組織と戦略 12 組織と戦略 2 13 事例研究：デジカメ 14 ソリューションビジネス 15 経営者とは 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J30166A01
科目名	経営組織論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory I		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，個人はそのような組織を自ら形成したり，あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在しているが，個人が生活を営んでいく上では，これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって，個人がより良く生きていくためには，組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は，そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているが，経営組織論Ⅰでは，組織の特徴と組織における個人に関して基本的な点を理解することを目的としている。 また，本講義を通して，企業組織に参加する自分をイメージしてもらい，現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に、教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	バーナード著，山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社，1968 年。 その他，必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 「個人」、「組織」および「個人と組織との関係」とはどのようなものであるのかを理解する。 2. 個人はなぜ組織に入り、そこで活動を続けるのかという個人の行動原理を理解する。 3. 組織の立場から管理者は個人に対してどのような役割を果たすべきかということを理解する。		
準備学習	1. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 2. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 3. 日常において組織と個人の関係に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

1．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
2．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 経営学における組織論の展開
3. 組織における個人の捉え方
4. 組織の定義と成立条件①
5. 組織の定義と成立条件②
6. 公式組織と非公式組織・組織の起源と成長
7. 組織の専門化と組織形態
8. 前半のまとめと理解度の確認 （小テストを予定）
9. 個人の行動原理と組織の行動原理
10. 組織の均衡① -誘因の方法-
11. 組織の均衡② -説得の方法-
12. 組織における権限の理論
13. 組織の道徳的側面
14. 組織における意思決定と人間の合理性
15. 経営組織論Ⅰの講義を通して学んだこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	J30169001
科目名	経営統計学	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Statistics		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	ビジネス分野における重要課題として、「予測」と「要因分析」があります。的確な予測や要因分析を行うには、数学や統計学的手法を用いた定量的なデータ分析が必要になります。 この講義では、「良製品の予測」や「売上高の予測」等に着目して、統計学的手法によるデータ分析の方法について学習します。ここでは、これらの手法の理論的な理解よりも、それを応用するという観点から講義します。 主に講義形式で行いますが、５回程度データ処理の実習を行います。グラフの作成、確率の計算、回帰分析等を、表計算ソフトを使って行います。実習には、パソコン応用 A のレベルの知識が必要となります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	上田太一郎監修 『Excel で学ぶ時系列分析と予測』 オーム社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　授業内実習(70%)		
到達目標	・経営理論に基づき現実の組織行動を論理・実証的に捉えることができる。 ・データを統計的に整理し、データの特徴を表やグラフを用いて説明できる。 ・変数間の関係を検証するために統計的手法を活用できる。		
準備学習	講義の資料を京学なび「授業資料」にアップロードするので、プリントアウトして予習しておくこと。 また、実習の後に課題を課すので、指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

・数学は知識を１段１段積み上げて行く学問です。休みが重なると講義内容が理解出来なくなるので、毎回出席することを望む。
・数学や統計学の基礎知識も必要になるので、統計入門や経営数学を受講していることが望ましい。
・パソコン応用 A を履修していることが望ましい。

講義の順序とポイント

1　統計学について
2　経営統計学について
3　確率分布の利用(１)　確率
4　確率分布の利用(２)　確率分布
5　確率分布の利用(３)　実習
6　回帰分析の利用(１)　相関
7　回帰分析の利用(２)　回帰分析の方法
8　回帰分析の利用(３)　予測
9　回帰分析の利用(４)　実習
10　時系列分析の利用(１)　重回帰分析（２変数）の方法
11　時系列分析の利用(２)　重回帰分析（多変数）の方法
12　時系列分析の利用(３)　予測
13　時系列分析の利用(４)　実習
14　実習(１)　確率分布の利用・回帰分析
15　実習(２)　時系列分析と予測

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J30181001
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ、研究ゼミⅠで学んだことをさらに深く研究し、卒業研究としてまとめます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	平常点（受講姿勢やグループワークでの貢献度など）50%。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	自分で研究テーマをみつけることができる。 研究テーマに関する文献や関連資料を収集することができる。 研究成果を論文としてまとめることができる。		
準備学習	ゼミの時間は発表が中心になるので、事前に発表のための調査や資料準備をしておくこと。		

受講者への要望

資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

専門ゼミナール、研究ゼミナールⅠ、IIは継続して履修します。研究ゼミナールIIでは、専門ゼミ、研究ゼミⅠで学んだことをさらに深く研究し、大学生活の集大成として、卒業研究としてまとめます。

1. オリエンテーション
2. 研究の進め方、論文のまとめ方について
3. 研究テーマ案の検討
4. 関連文献、資料の調査
5. 関連文献、資料の調査
6. 研究計画の作成
7. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換
8. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換
9. 研究テーマ、研究計画の決定
10. 研究論文作成
11. 研究論文作成
12. 研究論文作成
13. 途中経過発表、意見交換
14. 途中経過発表、意見交換
15. 研究論文作成
16. 研究論文作成
17. 研究論文作成
18. 途中経過発表、意見交換
19. 途中経過発表、意見交換
20. 研究論文作成
21. 研究論文作成
22. 研究論文作成
23. 途中経過発表、意見交換
24. 途中経過発表、意見交換
25. 研究論文作成
26. 研究論文作成
27. 研究論文作成
28. 研究発表
29. 研究発表
30. 研究発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	J30181004
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。(但し、予告なしにアドレスが変更されることがある。) その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	8GB 以上の USB メモリ		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 40%、演習課題及びレポート 60%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。そして各自のテーマを選択し、卒業論文作成に向けた知の充実を図る。		
準備学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学年末に 500 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。		

受講者への要望

経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。

講義の順序とポイント

新しい IT 技術の経営分野への適用可能性について、調査、比較、検証し、個人研究による卒業論文にまとめていく形態の指導を行っていく。

1.今後、重要になってくる新たな情報システム、新たな情報管理の手法を実験的に構築する。

2.実験構築した内容の評価を行う。

研究ゼミナールII s ≪春学期≫

1　はじめに

2～3　経営学の基礎・応用知識の復習

4～5　テーマの設定

6　中間報告

7～14　資料収集、システム構築、レジュメの作成、報告、検証、討論を重ねる

15　中間発表会

研究ゼミナールII f ≪秋学期≫

16　はじめに、セキュリティアップデート

17　春学期の復習

18～20　論文の書き方

21～27　卒業論文(卒業制作)の作成

28-29　論文発表

30　学年末発表会

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★	★★	ー

年度	2016	授業コード	J30181005
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	経営や産業に関連するテーマを中心に、学生自身がテーマや問題を設定し、それに関する資料を収集・整理し、レジュメを作成し（あるいはレポート・論文を作成し）、他のゼミ生の前で発表し、討論する。		
教材（テキスト）	とくに、用いません。		
教材（参考文献）	ゼミ生が用意するレジメを使います。		
教材（その他）	ゼミ生が用意するレジメを使います。		
評価方法	ゼミでの発表　　40% レジュメ　　40% ゼミでの討論参加　？?20%		
到達目標	以下の、一連の流れができること。 1. 自分で問題設定できること 2. 資料・文献を収集できること 3. 仮説や論説を作成できること 4. 人前で、自分の考えを発表できること 5. 討論において、論理的に説明できること		
準備学習	毎回のゼミの終了時に、次回のゼミの内容と予習すべきことがらを指示する。 なお、ふだんから、新聞・雑誌に目を通し、TV なども見つつ、常に問題意識を持つようにすること。		
受講者への要望			
元気良く、積極的に討論に参加してください。			
講義の順序とポイント			
01 ゼミの運営方法に関して 02　A 君の発表 03　B さんの発表 04　C 君の発表 05　D さんの発表 06　E 07　F 08　G 09　H 10　I 11　J 12　K 13　L 14　M 15　N	16　O 17　P 18　Q 19　R 20　S 21　T 22　U 23　V 24　W 25　X 26　Y 27　Z 28　a 29　b 30　c		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	−	★

年度	2016	授業コード	J30181006
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	卒業研究指導		
教材（テキスト）	研究テーマに合わせて個別に指導します		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	中間報告(20%)、最終報告(20%)、最終レポート(60%)		
到達目標	問題意識を持って研究対象を見つめ、問題の所在を明らかにするとともに、体系的に説明できる能力を身につける		
準備学習	各自の研究テーマに沿った課題を与えるので、他の参加者にも理解してもらえるようなプレゼン資料の準備をしてくること。		

受講者への要望

遅刻・欠席にあたっては事前に連絡すること。

講義の順序とポイント

春学期：

1. 各自の今後の研究方向の決定
2. 卒業研究の書き方の指導(1)
3. 卒業研究の書き方の指導(2)
4. 卒業研究の書き方の指導(3)
5. 関連書籍･データの収集(1)
6. 関連書籍･データの収集(2)
7. 関連書籍・データの収集(3)
8. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(1)
9. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(2)
10. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(3)
11. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(4)
12. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(5)
13. 中間報告(1)
14. 中間報告(2)
15. 中間報告(3)

秋学期：

16. 卒業研究の方向性の確認(1)
17. 卒業研究の方向性の確認(2)
18. 卒業研究の方向性の確認(3)
19. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(1)
20. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(2)
21. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(3)
22. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(4)
23. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(5)
23. 論文形式の再確認
24. 受講生ごとの問題点とその確認(1)
25. 受講生ごとの問題点とその確認(2)
26. 受講生ごとの問題点とその確認(3)
27. 受講生ごとの問題点とその確認(4)
28. 最終報告(1)
29. 最終報告(2)
30. 最終報告(3)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J30181008
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールＩで学んだことを基に、論文のテーマを決めます。各自の設定したテーマごとにレジュメの作成、報告というかたちですすめ、卒業論文の作成につなげていきます。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	各自の研究テーマに合わせて適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリント等の資料を配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（３０％）。授業中に課すレポート（７０％）。		
到達目標	論文を作成するための知識（テーマ設定、情報収集・整理、構成力、文章力等）の習得を目標とします。 経営学の応用的な知識を理解することを目標とします。		
準備学習	講義修了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で論文作成をするよう心がけてください。

講義の順序とポイント

1　春学期オリエンテーション
2　経営学の知識の復習①
3　経営学の知識の復習②
4　経営学の知識の復習③
5　論文テーマの設定①
6　論文テーマの設定②
7　論文テーマの設定③
8　資料収集①
9　資料収集②
10　論文構成の作成①
11　論文構成の作成②
12　論文構成の作成③
13　論文構成の発表①
14　論文構成の発表②
15　春学期の研究ゼミナールIIを通して学んだことの展望
16　秋学期オリエンテーション
17　論文の書き方①
18　論文の書き方②
19　中間報告に向けた準備①（資料収集、論文の作成）
20　中間報告に向けた準備②（資料収集、論文の作成）
21　中間報告に向けた準備③（論文の作成）
22　中間報告に向けた準備④（論文の作成）
23　中間報告①
24　中間報告②
25　論文の作成①
26　論文の作成②
27　論文の作成③
28　論文の作成④
29　最終報告
30　秋学期の研究ゼミナールIIを通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	- -	- -	★	★★	- -

年度	2016	授業コード	J30181010
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールIIでは、研究ゼミナールⅠで学んだ知識を活かし、スポーツ経営を題材としたテーマによる研を「テーマ決定」、「情報収集」、「レポート作成」、「発表」という段階で進めて行く。研究を進めるなかで、経営学を学ぶと共に論文作成に取り組む。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（受講態度など）５０％　レポート２５％　　発表２５％により評価する。		
到達目標	研究テーマについての情報収集能力を高め、研究成果を他者に伝えるための構成・文章力を身に付け、論文を作成することができる。		
準備学習	気になる情報はPC・携帯・情報誌などを利用し、調べる癖を付け、調べた内容をノートなどに残す。		

受講者への要望

常日頃から、経営やスポーツの情報にアンテナを張り、気になる情報を収集して下さい。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション
２．研究ゼミⅠの復習
３．レポートの書き方の復習
４．レポートの書き方の復習
５．研究テーマの決定
６．研究テーマの決定
７．研究テーマの情報収集
８．研究テーマの情報収集
９．研究テーマの情報収集
１０．研究レポート作成
１１．研究レポート作成
１２．研究レポート作成
１３．研究発表
１４．研究発表
１５．授業内容の振り返り（ディスカッション方式）
16．オリエンテーション
１７．前期研究発表の分析
１８．前期研究発表の分析
１９．研究事例の考察
２０．研究事例の考察・後期論文テーマの決定
２１．後期論文テーマの決定
２２．論文の情報収集
２３．論文の情報収集
２４．論文の情報収集
２５．論文作成
２６．論文作成
２７．論文作成
２８．論文発表
２９．論文発表
３０授業内容の振り返り（ディスカッション方式）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	ー	★	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J30181012
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールIIにおいては、研究ゼミナールⅠで選んだ課題について、研究報告を積み重ね、卒　業論文にまで研究を深めてもらう。		
教材（テキスト）	全員に統一したテキストはない。		
教材（参考文献）	各自の研究テーマに必要な参考文献については個々に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	卒業レポート（100％）		
到達目標	卒業研究（論文）を完成する。 歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
準備学習	各自の卒業研究の完成に向かって全力を注いでもらいたい。具体的には、各自各回報告のために準備し、報告時に合わせてレジュメ又はパワーポイントを作成すること。		
受講者への要望			
出席は義務である。ただ出席するだけではなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
春学期： 1～4.ゼミナールⅠ終了論文の確認と今後の研究方向、 5～9.第一回研究報告、 10～14.第二回研究報告、 15.夏季休業中の研究に関する指導 秋学期： 16～20.夏季休業中の研究報告、 21～25.卒業論文の構想検討、 26～30.論文の最終検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J30181013
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミⅠで学んだこと、感じた問題意識を基に、卒業研究のテーマを見つける。 テーマに関する情報収集や整理、分析を通じ、問題意識を明確化するとともに、論文としてまとめる構成力・文章力も育成する。また、ゼミ内で、お互いのテーマや進捗状況だけでなく、卒業後に進む企業についての情報交換等も行い、理解を深める。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	テーマに応じて適宜提供する。		
評価方法	授業内発表（50%）、レポート等提出物（50%）		
到達目標	経営学部生として学んだ4年間のまとめとして、自らテーマを定めて情報収集や分析を行い、研究成果としてまとめる力を獲得する。		
準備学習	専門ゼミ、研究ゼミⅠを通じて設定したテーマについて、卒業研究としてまとめられるよう資料収集と整理を行い、 毎月第1週の授業時に提出すること。		

受講者への要望

大学で学んだことの集大成としての卒業研究に取り組むことは、社会人になってからのキャリアに向けての自分自身への大きなプレゼント。就職活動と並行しながら積極的にチャレンジすること。

講義の順序とポイント

1.　ゼミの目的と方法
2.　論文の書き方①
3.　〃　②
4.　研究テーマの見つけ方
5.　テーマの洗い出し
6.　テーマ周辺情報収集
7.　〃
8.　関連書籍・データの収集
9.　〃
10. 整理・分析
11.　〃
12. テーマの決定
13.　〃
14. 意見交換会
15. 構成
16.　〃
17. 補足情報収集
18. 卒業研究作成
19.　〃
20.　〃
21.　〃
22.　中間報告会
23.　卒業研究作成
24.　〃
25.　〃
26.　手直し作業
27.　手直し作業

28.　提出 29.　論集用原稿手直し 30.　　〃

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J30181014
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールIで学んだことを基盤に、各自が自分のテーマにそって論文をまとめていこう。 スポーツの世界で、今何が課題となっているのだろうか?人間はスポーツという知識を全て情報としてストックできているのであろうか? さて、君はスポーツをどの程度理解しているのだろうか?学問とは、いつでも、わからないことからスタートし、わかろうとして、知識を追求し、さまざまな感覚と、人々の行動から多くを学んでいくものだ。 学び、明らかにされたことだけが知識なのだろうか？学校で学んだことだけが知識なのだろうか?メディアに取り上げられながら、スポーツのルールは日々変化していく、新しい戦略や技術がこれからも必要である。ひとは 24 時間学び続けているのではないだろうか? 41 年前の 1970 年 4 月 11 日、13 時 13 分に打ち上げられたアポロ 13 号は、地球から 33 万 km 離れた宇宙で発生した爆発事故により、搭載していた 酸素ボンベ、電力供給ライン、燃料電池を失った。当時、有人宇宙飛行史上最大といわれたこの事故において、アポロ 13 号のクルーとミッション管制センターは、 現状把握のための情報の収集・分析、課題解決策の立案・開発、意思決定を繰り返し、奇跡の生還を成し遂げた。このように情報は人の意思決定や行動に不可欠 であり、またそれらに大きな影響を与える。4 年間の最後に、学ぶとは何かを考え、よりよき人生に繋げていこう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	毎回のレポート(50%)。 毎回の発表とゼミナールへの積極的関与(50%)。		
到達目標	1. 各自が目標とする課題の解決に努める。 2. 計画的に課題をこなし、目標を達成できるように努力する。 3. 毎回、自らのテーマとすることが達成できるようにする。 4. プレゼンテーションの質を高め、人の心を動かす発表ができるようにする。		
準備学習	1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、準備を怠らないようにする。 3. わからない専門用語は前もって調べ、質問に答えられるようにしておく。		

受講者への要望

1. ゼミには積極的に参加する。
2. 遅刻や無断欠席をしない。
3. 自分でも進んで興味のあることを見つける努力をし、それに関する文献などを集める。

講義の順序とポイント

研究ゼミナールIIでは主として学生の報告やディスカッションで進めていくという参加型の授業をします。そこでは事前学習、報告書の作成という積極的なアクションが実行されないと授業は成立しません。今までのように講義を聞き、ノートを取るという受け身の姿勢ではなく、ゼミ生全員の積極的な態度が必要です。ゼミの時間を有意義にするのはあなた自身であるということで、他に責任転嫁をしないで取り組んでください。初回の講義だけは課題がありますが、次回からはみなさんが主役です。

１．春学期オリエンテーション、研究とはなにか？
２．自分史を創ろう！内発的な動機付け、自尊心、尊厳、好奇心、喜び①
３．自分史を創ろう！自分のビジョンと真摯な志、チームの中の自分、競争②
４．自分史を創ろう！感謝と行動、現実を変えてきた行動とは?③
５．自分史を創ろう！スポーツは学習する組織である。④
６．卒論研究①
７．卒論研究②
８．卒論研究③
９．資料分析①
１０.資料分析②
１１.資料分析③
１２資料分析④

１３資料分析⑤
１４.資料分析⑥
１５..資料分析⑦
１６.秋学期オリエンテーション
１７.自分史 2012 の配布・評価
１８.卒業研究中間発表
１９.卒論研究
２０.卒論研究
２１.卒論研究
２２.卒論研究
２３.卒論研究
２４.卒論研究
２５.卒論研究提出
２６.卒論研究手直し
２７.卒論研究手直し
２８.卒業研究発表資料作成
２９.卒業研究発表資料作成
３０.卒業研究発表会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J30181015
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本ゼミナールでは、スポーツの市場における戦力均衡と営業利益率の関係を討議する具体的には、①先行研究を批判的に読み込み、②1 次データを収集分析し、報告する。 そのために前半では（1）提示されたテキストを輪読し、（2）2 次データの収集を行ない、後半では（1）1 次データを収集し、（2）それらを分析し、報告する。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	マーケティング現象を説明する仮説を検証し、報告書にまとめることができる。		
準備学習	相関分析と回帰分析の行い方を復習しておくこと。 講義終了時に、相関分析および回帰分析が行えるデータを配布する。各自、指示のあった作業を次回までに予習しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		

受講者への要望

課外の活動も予定しているので、時間に余裕のある人の受講が望ましい。
また他大学の図書館へ出向く可能性もあるので、図書館で共通閲覧証の発行を求めておいてほしい。

講義の順序とポイント

■春学期
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「テキストの提示」：このゼミナールで取り組む本年度の課題を提示する
3.「チーム決定」：課題遂行は複数のチームで行うため、チームを決定する
4.「テキスト輪読 1」：担当チームがレジュメで内容を報告する
5.「テキスト輪読 2」：担当チームがレジュメで内容を報告する
6.「テキスト輪読 3」：担当チームがレジュメで内容を報告する
7.「2 次データ収集 1」：担当チームが収集状況を報告する
8.「2 次データ収集 2」：担当チームが収集状況を報告する
9.「2 次データ収集 3」：担当チームが収集状況を報告する
10.「2 次データ収集 4」：担当チームが収集状況を報告する
11.「2 次データ収集 5」：担当チームが収集状況を報告する
12.「2 次データ収集 6」：担当チームが収集状況を報告する
13.「2 次データ分析報告 1」：担当チームが分析結果を報告する
14.「2 次データ分析報告 2」：担当チームが分析結果を報告する
15.「中間討議」：これまでの進捗状況を確認する
■秋学期
16.「1 次データ収集のための心得」：現場に降り立つ際の注意事項を説明する
17.「1 次データ収集 1」： 担当チームが収集状況を報告する
18.「1 次データ収集 2」： 担当チームが収集状況を報告する
19.「1 次データ収集 3」： 担当チームが収集状況を報告する
20.「1 次データ収集 4」： 担当チームが収集状況を報告する
21.「1 次データ収集 5」： 担当チームが収集状況を報告する
22.「1 次データ収集 6」： 担当チームが収集状況を報告する
23.「1 次データ収集 7」： 担当チームが収集状況を報告する
24.「1 次データ収集 8」： 担当チームが収集状況を報告する
25.「1 次データ分析報告 1」： 担当チームが分析結果を報告する
26.「1 次データ分析報告 2」： 担当チームが分析結果を報告する
27.「1 次データ分析報告 3」： 担当チームが分析結果を報告する

28.「報告会 1」：担当チームが全分析結果を報告する
29.「報告会 2」：担当チームが全分析結果を報告する
30.「最終討議」：これまでのゼミナールを総括する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	★

年度	2016	授業コード	J30181017
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	あなたが大学卒業後に進みたい業界あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題を発見し、そしてその問題が生ずる理由を明らかにしていただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ作成・発表し、最終的には論文に仕立ててもらう。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	研究論文の内容(70%）および受講・発表・取組姿勢（30%）により評価する。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。		
準備学習	＊研究論文のテーマに即した文献を適時指示するので、それを指定された日までに要約して文書化し、提出すること。 ＊研究論文のテーマを指定された日までに提出すること。 ＊研究論文の修正箇所を指定された日までに修正すること。 ＊研究論文を指定された日までに提出すること。		
受講者への要望			
経営管理論、経営組織論、あるいは人的資源管理論の単位を取得している方が望ましい。 研究論文の作成に意欲ある人を望む。			
講義の順序とポイント			
1.パソコンの起動、メールの設定、ゼミの進行に関して 2.エントリーシートの書き方について① 3.エントリーシートの書き方について② 4.研究論文のテーマ発表① 5.研究論文のテーマ発表② 6.研究論文のテーマ発表③ 7.SPI、時事問題① 8.SPI、時事問題② 9.就職活動の近況報告と未内定者との面談 10.研究論文の書き方について① 11.研究論文の書き方について② 12.研究論文の書き方について③ 13.研究論文の書き方について④ 14.就職活動の近況報告と未内定者との面談 15.研究論文の中間発表① 16.研究論文の中間発表② 17.研究論文の中間発表③ 18.研究論文の中間発表④ 19.就職活動の近況報告と未内定者との面談 20.研究論文の提出と発表①・・・内容と書き方のチェック 21.研究論文の提出と発表②・・・内容と書き方のチェック 22.研究論文の提出と発表③・・・内容と書き方のチェック 23.研究論文の提出と発表④・・・内容と書き方のチェック 24.研究論文の提出と発表⑤・・・内容と書き方のチェック 25.研究論文の修正①、就職活動の近況報告と未内定者との面談 26.研究論文の修正②、就職活動の近況報告と未内定者との面談			

27.研究論文の修正③、就職活動の近況報告と未内定者との面談
28.研究論文の修正④、就職活動の近況報告と未内定者との面談
29.研究論文の修正⑤、就職活動の近況報告と未内定者との面談
30.未内定者との面談

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★

年度	2016	授業コード	J30181018
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	現代社会においては、組織というものがさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、それらの組織との関係を避けて通ることはできないものである。そのなかでも、われわれが生活してゆくうえで、企業という組織は必要不可欠な存在となっている。経営学および経営組織論はその企業を研究の対象としている学問である。 2 回生の専門ゼミナールでは経営学の基礎について復習し、経営組織に関する基礎的な研究成果を学習した。3 回生の研究ゼミナールⅠではそれらに基づきながら、経営組織に関する研究をさらに深め、組織の行動と個人の行動の本質を探った。 本ゼミナールでは、2・3 回生で学んだことを土台にし、経営組織に関して各自が興味のある組織現象を研究する。そのことによって、二年半に及ぶゼミナールの集大成としてもらいたい。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	基本的には、平常点（受講中の積極的な発言や理解度の確認のための感想文など）30%、報告内容 30%、学期末のレポート(あるいは論文)40%の割合で評価する。 ゼミナールに関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1.　経営学あるいは経営組織論の中で、自らが関心のある事柄について文献を用いて調べることができる。 2. 上記の内容を要約することができる。 3. 上記の文献を用いて、6000 字程度のレポートを書くことができる。 4. 上記のレポートについて、人前で発表することができる。		
準備学習	1. 学年末に提出するレポートに向けて、各自関心のある組織現象に関する文献に目を通しておく。 2. 報告者は、自分が担当する部分をまとめて、報告用のプリントを準備しておく。 3. 他の学生が報告した研究内容について質問やアドバイスができるように日常から考えておく。		

受講者への要望

1．ゼミナールへの積極的な参加を望む。
2．必ず出席すること。（遅刻・欠席については厳しく対処する。）
3．講義は主として学生による報告，質疑および議論によって行うため、事前の学習が不可欠である。

講義の順序とポイント

講義は主として学生による報告，質疑および議論によって行う。具体的には，経営学および経営組織論に関するテキストに基づき，各自が興味のある組織現象を研究する。その際、学生の 1 人（あるいはグループ）がそのテキストの一定部分を担当し，資料を作成して報告する。その後，質疑や議論を行うことによって理解を深める。これを順番に行っていく。受講者全員の積極的な参加を期待する。
基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，初回の講義で報告者を割り当て，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
さらに、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定である。

1. 春学期オリエンテーション
2. 研究ゼミナールⅠの復習①
3. 研究ゼミナールⅠの復習②
4. 研究の進め方
5. 研究テーマの洗い出し①
6. 研究テーマの洗い出し②
7. 研究テーマに関連する文献・データの収集①
8. 研究テーマに関連する文献・データの収集②
9. 文献・データの整理・分析①
10. 文献・データの整理・分析②
11. 研究テーマの確定・研究計画書の作成①

12. 研究テーマの確定・研究計画書の作成②
13. 研究計画発表
14. 研究計画についての意見交換①
15. 研究計画についての意見交換②および研究ゼミナールII（春学期）を通して学んだことの総括
16. 秋学期オリエンテーション
17. 研究論文（研究レポート）作成①
18. 研究論文（研究レポート）作成②
19. 意見交換・補足情報の収集・分析
20. 研究論文（研究レポート）作成③
21. 研究論文（研究レポート）作成④
22. 研究論文（研究レポート）作成⑤
23. 中間報告・意見交換①
24. 中間報告・意見交換②
25. 研究論文（研究レポート）作成⑥
26. 研究論文（研究レポート）作成⑦
27. 研究論文（研究レポート）作成⑧
28. 研究論文（研究レポート）作成⑨
29. 研究発表
30. 研究発表についての意見交換

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J30194A01
科目名	工業簿記Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Factory Bookkeeping Ⅰ		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	本講義は、製造業において実施される工業簿記および原価計算の基本知識を身につけてもらうことを目的としています。日商簿記２級工業簿記程度の内容を扱います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著「工業簿記・原価計算の基礎　第３版」税務経理協会		
教材（参考文献）	岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記講義２級工業簿記」　中央経済社 岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記ワークブック２級工業簿記」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 100%		
到達目標	工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけること。		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
学習内容を定着させるために、講義終了後、問題集を利用して学習した内容を繰り返し演習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　工業簿記とはなにか 第２回　原価計算の手続きと工業簿記の構造 第３回　材料費の計算（１） 第４回　材料費の計算（２） 第５回　材料費の計算（３） 第６回　労務費の計算（１） 第７回　労務費の計算（２） 第８回　経費の計算 第９回　製造間接費の計算（１） 第10回　製造間接費の計算（２） 第11回　個別原価計算（１） 第12回　個別原価計算（２） 第13回　総合原価計算（１） 第14回　総合原価計算（２） 第15回　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J30194B01
科目名	工業簿記II	単位数	2
科目名（英語表記）	Factory Bookkeeping II		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	本講義は、製造業において実施される工業簿記および原価計算の基本知識を身につけてもらうことを目的としています。日商簿記２級工業簿記程度の内容を扱います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著「工業簿記・原価計算の基礎　第３版」税務経理協会		
教材（参考文献）	岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記講義２級工業簿記」　中央経済社 岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記ワークブック２級工業簿記」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 100%		
到達目標	工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけること。		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
学習内容を定着させるために、講義終了後、問題集を利用して学習した内容を繰り返し演習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　　原価計算総論・「工業簿記Ｉ」の確認 第２回　　部門費の計算（1） 第３回　　部門費の計算（２） 第４回　　部門別個別原価計算 第５回　　単純総合原価計算・組別総合原価計算 第６回　　等級別総合原価計算 第７回　　工程別総合原価計算 第８回　　仕損・減損の処理 第９回　　連産品の原価計算・副産物の処理 第10回　　標準原価計算（１） 第11回　　標準原価計算（２） 第12回　　標準原価計算（３） 第13回　　直接原価計算（１） 第14回　　直接原価計算（２） 第15回　　工場会計の独立 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J30196001
科目名	広告ビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advertising Business Studies		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	「説明」ではなく「説得」のビジネスとしての広告ビジネスへの理解を学びます。 広告メッセージの作り方を知るためのコンセプトづくりの技術、伝える相手（ターゲット）に有効に伝えるために徹底的にターゲットを研究する手法としてのセグメンテーション(細分化)とポジショニング、買ってもらうためのコミュニケーションから買い続けるためのコミュニケーションを提唱するブランド論、そしてインターネットが登場して以降のオムニチャネル対応など、広告の有効性と限界、その特性について学びます。 普段何気なく見ている広告の裏にも緻密な戦略や企画、アイデアがあることを知り、面白さを追求しただけに見える広告コミュニケーションにも単なる思い付きではなくビジネスとしての厳しい戦略性、コスト意識、リスクテイクを求められていることを学びます。		
教材（テキスト）	岸志津江・田中洋・島村和恵『現代広告論　新版』有斐閣アルマ 2,268 円		
教材（参考文献）	電通「日本の広告費」　電通ホームページ		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●広告の裏にあるビジネスとしての広告業を理解する ●アイデアを提案するためのロジックが使えるようにする ●社会課題のソリューションとしての広告ビジネスの現状を理解する		
準備学習	テレビ広告を話題にすることが多いので、意識的にテレビ広告を見るようにしてください		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 広告コミュニケーションとは　広告の種類と機能
2. 広告ビジネスの流れ　オリエンから媒体計画まで
3. マーケティング調査
4. 広告戦略の構築
5. コンセプトと広告表現
6. 杉山登志の広告
7. 広告表現の分析
8. テレビ広告のトレンド１　1980 年代の広告
9. テレビ広告のトレンド２　1990 年代の広告
10. テレビ広告のトレンド３　2000 年代の広告
11. インターネット時代の広告
12. ビッグデータの時代
13. イベントのプロデュース
14. 広告ビジネスの課題
15.広告のための アイデア発想の手法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J30201A01
科目名	国際経営論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Management A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	グローバリゼーション（地球規模化）という言葉が使われだして久しい。企業の活動や観光、はたまた犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。 なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、明治以降の変化はあるし、現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。 そこで「国際経営論 A」ではまず、経済や企業行動を中心におきながら欧米とアジア（特に中国文化圏）との比較をしてみたい。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。 非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。		
教材（テキスト）	長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012 年）		
教材（参考文献）	・上記の教科書を補う教材としては、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上に資料をアップロード　しておきます。 ・「長谷川正の研究室へようこそ」というトップページの中の「講義用資料」→「国際経営論 A」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通しておいて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第 1 回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて確認をしてください。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（その他）	そのつど、指示します。		
評価方法	ときどき行う小テスト（20%）、期末試験（80%）		
到達目標	世界の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成		
準備学習	教科書の該当箇所を読んでおくことと、上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと		

受講者への要望

・私語は厳禁する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。
・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。

講義の順序とポイント

０１．はじめに、講義のテーマと方法論
０２．欧米の経済発展　①科学技術の発展
０３．欧米の経済発展　②大衆消費社会の到来
０４．欧米の経済発展　③グローバリゼーション（自動車を例にとって）
０５．マックス・ヴェーバー「倫理論文」その１
０６．マックス・ヴェーバー「倫理論文」その２
０７．中国　①秦の始皇帝
０８．中国　②盛世と呼ばれた時代・清
０９．中国　③18-19 世紀とヨーロッパ
１０．中国　④戦後の経済成長
１１．台湾　①矛盾と分裂の台湾
１２．台湾　②戦後台湾の経済と経営
１３．東南アジアにおける華人
１４．巨大消費市場としてのアジア
１５．華人と日本企業

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J30201B01
科目名	国際経営論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Management A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	グローバリゼーション（地球規模化）という言葉が使われだして久しい。企業の活動や観光、はたまた犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。 なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、明治以降の変化はあるし、現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。 「国際経営論Ａ」では欧米とアジア（特に中国文化圏）との比較を中心に論じているが、「国際経営論Ｂ」では韓国と東南アジア諸国とインドのそれぞれの文化と産業・経営について論じる。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。 非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。		
教材（テキスト）	長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012 年）		
教材（参考文献）	・上記の教科書を補う教材としては、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上に資料をアップロー ドしておきます。 ・トップページの中の「講義用資料」→「国際経営論Ｂ」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリ　ントアウトし、目を通しておいて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第１回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて確認をしてください。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（その他）	そのつど、指示します。		
評価方法	ときどき行う小テスト（20%）、期末試験（80%）		
到達目標	世界の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成		
準備学習	教科書の該当箇所を読んでおくことと、上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと		
受講者への要望			
・私語は厳禁する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。 ・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。			
講義の順序とポイント			
０１．アジアの変貌 ０２．朝鮮半島の歴史 ０３．戦後朝鮮半島の産業と経営 ０４．韓国の財閥（Chaebol チェボル）の経営 ０５．ベトナム社会主義共和国の産業と経営 ０６．タイ王国と華人経営 ０７．マレーシアの経済発展 ０８．シンガポール共和国の経済発展 ０９．インドネシア共和国の歴史と産業　その１ １０．インドネシア共和国の歴史と産業　その２ １１．インドの歴史とヒンドゥー教 １２．インドの産業と経営 １３．アジアと日本企業　その１ １４．アジアと日本企業　その２ １５．アジアと日本企業　その３			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J30230001
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、商学を理解するための基礎理論を解説する。より具体的には、①商業の機能および②商業と消費者、小売、卸売の関係を解説する。その主たる問いは、①なぜ社会で商業が必要となるのかであり、②商業は社会でどのように展開されているのかである。 商学は、生産を伴わず販売のみに従事する商業者に注目した学問である。なぜ彼らが利益を得るのか。このような疑問を解くためには自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	石原武政・池尾恭一・佐藤善信（2000）『新版 商業学』,有斐閣　2,100 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①商業の機能を説明することができる。 ②実際の商業者に興味を抱く。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		
受講者への要望			
私語は厳禁。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「分析視座」：簡単なゲームから、商学を理解するための視座を解説する 3.「商業の機能 1」：品揃え概念 1；取引費用を解説する 4.「商業の機能 2」：品揃え概念 2；取引総数最小化の原理を解説する 5.「商業の機能 3」：品揃え形成過程 1；垂直的市場メカニズムを解説する 6.「商業の機能 4」：品揃え形成過程 2；投機と延期の原理を解説する 7.「中間総括」：これまでの理解度を問う記述式試験を行う 8.「消費者の買い物行動 1」：消費者の店舗間選択を解説する 9.「消費者の買い物行動 2」：小売の輪の理論と真空地帯理論を解説する 10.「小売業 1」：小売の機能とその業態を解説する 11.「小売業 2」：マーケティングとの関係を理解するため系列小売店を解説する 12.「卸売業 1」：卸売の機能とその業態を解説する 13.「卸売業 2」：国際貿易との関係を理解するため総合商社を解説する 14.「商業論の今後」：これまでの講義を総括し、最新の展開を解説する 15.「講義の限界」：講義の限界を示し、今後の展望を解説する		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J30231A02
科目名	商業簿記Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Bookkeeping for a Commercial Firm I		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	企業の経営活動の記録は複式簿記の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書が作成される。企業が日常的にどのような活動を行っているのかを簡潔な事例で知ることは経営学全般の基礎知識となるし、簿記の技法とその背景にある理論を知ることは、会計領域科目のを理解するための基礎として必要不可欠になる。 実務的には、ほとんどの会計事務はコンピュータ処理されているであろうが、インプットするのは人間の手であり、アウトプットされた会計資料を読み解くのは人間の頭によらざるを得ない。複式簿記に関する技法と理論を理解しておくことが求められるのである。 本講義は、簿記原理を履修済みであることを前提にして、日商簿記 3 級および 2 級商業簿記に対応した問題に対応した演習を中心に進める予定である。 なお、日商簿記検定に挑戦しようと思う学生は、授業では対応できないいくつかの応用問題を各自で挑戦し、解法を理解しておく必要がある。自主的に問題に挑戦し、わからないところを質問する姿勢が重要である。また、キャリアサポートセンターが提供している課外講座の活用も有効である。		
教材（テキスト）	平成 28 年度は出題範囲の見直しが予定されており、それに対応したテキストを開講後に指示する。		
教材（参考文献）	平成 28 年度は出題範囲の見直しが予定されており、それに対応したワークブックを開講後に指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	定期試験(70%)、授業内小テスト(30%)		
到達目標	商業簿記における各種取引の内容を理解し、仕訳と転記ができる 決算の意義を理解し、適切に決算整理事項の処理ができる 簿記の一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している		
準備学習	講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておくこと 講義で指示された課題を解いてきて，次回の講義の開始時に提出すること 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は，講義終了後、あるいは次回の講義までに担当教員に質問すること		

受講者への要望

簿記の習得には日々の積み重ねが最善の方法であり、毎回の講義に積極的に参加し、その日のうちに理解しておくことが何よりも大事である。自分の理解度を確認するためにも日商簿記検定にも挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1 簿記の基本原理(1)：貸借対照表と損益計算書
2 簿記の基本原理(2)：取引と仕訳
3 簿記の基本原理(3)：決算処理
4 現金処理の記帳：現金と当座預金
5 商品売買の記帳(1)：仕入、売上、値引き
6 商品売買の記帳(2)：売掛金、買掛金と貸倒れ
7 手形の記帳(1)：約束手形と為替手形
8 有価証券の取得と売却
9 その他の債権債務(1)：前受金と前払金
10 その他の債権債務(2)：未収金と未払金
11 固定資産の取得と減価償却
12 税金の処理
13 決算整理(1)
14 決算整理(2)
15 総合復習：簿記の機能と学習する意義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J30240001
科目名	消費者行動論	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Behavior		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	豊かな社会になるにしたがって、消費行動が多様化しています。 消費することで人はどんな喜びを得るのか、なぜ消費するのか、これからどんな消費行動に至るのかを、知覚、関与、動機づけ、欲望、態度などの概念を使って消費行動を読み解きます。 このような時代に消費の未来を見通し、消費や消費者の活動を通して、人間に対する理解を深めます。		
教材（テキスト）	青木幸弘『消費者行動の知識　(日経文庫)』日本経済新聞社 992 円(大きさは新書版です)		
教材（参考文献）	パワーポイントを授業時に配布		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	消費者の行動を通して、人間の活動の目的や達成感を学び、消費とは何かを深く理解する。		
準備学習	消費について関心を高め、世の中のヒット商品や新商品の動向についてアンテナを張ってください		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 消費者とは誰か
2. 消費に至るプロセス　AIDMA から AISAS へ
3. 関与
4. 知覚
5. 動機づけ
6. 情報収集
7. 態度
8. 欲望
9. 記憶と知識構造
10. モノからコトへ　経験経済
11. 意思決定と選択
12. 消費社会からの離脱者 里山資本主義など
13. 第四の消費社会　シェア社会
14. 消費心理の把握
15. 消費行動の本質

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J30248001
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J30252A01
科目名	情報ネットワーク論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Information Network Communi ty I		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	インターネットや携帯端末の技術革新、並びに急速な普及により大量の情報を多様な媒体で自由に得ることができる社会が形成されたため、人々の生活様式にも変化がもたらされている。そのため企業活動や様々な分野でさらなる応用が期待されている。反面ネット犯罪は多様化を極め、犯罪に巻き込まれないための法令遵守や情報倫理に関する知識が必要な社会環境となっている。本講義では社会におけるネットワークの利便性や重要性を認識し、その役割、安全性、危機管理などに活かすことができるスキルを身につけることを目的としている。「Ｉ」ではネットワークに係る基本的な知識の習得に重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	岸川典昭, 中村雅章, 『現代経営とネットワーク』, 同文舘出版, 2009 村嶋修一, 『ベテランが丁寧に教えてくれるネットワークの知識と実務』, 翔泳社, 2007 Gene, 『ネットワーク構築の基礎』, 毎日コミュニケーションズ, 2009 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（30%）、最終レポート（40%）		
到達目標	・ネットワークの仕組みや活用方法に関する基本的な知識を体系的に修得する。 ・情報化の光と影について理解し、危険に対する抑止力を身につける。 ・通信トラブルへの対応に関するノウハウを身につける。 ・実社会の職場における情報ネットワークスキルの重要性、有意性を理解する。 ・今後のネットワーク活用の方向性を理解する。		
準備学習	マスメディア等の情報から ICT（情報通信技術）に関する最新の動向に注視することを心がけること。ICT の知識は積み重ねが大事なので、毎回配布するレジュメを復習に活用すること。		

受講者への要望

ICT の登場とともに利便性が飛躍的に向上している反面、あらゆる危険性が高まっていることを常に認識しておく必要がある。本講義を通じ社会で役立つネットワークスキルを修得すると同時に、ネット犯罪に巻き込まれないための情報倫理を体得することを目指してもらいたい。所定用紙に「もっと説明してほしいこと」を記述すれば、原則として次回の講義にて解説する。IT 企業経営および地方議会における現場経験者としての講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、理解度および旬な話題の発生等により変更の可能性もある。

1. ガイダンス、情報ネットワークとは
2. ネットワーク技術の歴史
3. ネットワーク機器、身近なネットワーク
4. インターネット通信の基礎
5. WWW（ホームページ閲覧）、DNS（アドレス解決）、メールの仕組み
6. 企業内ネットワーク
7. 情報ネットワーク活用の事例
8. ネットワークのトラブルシューティング
9. ネットワークセキュリティ
10. ネット犯罪に巻き込まれないための法令遵守と情報倫理
11. ネット社会の人権と情報モラルの啓発
12. 情報漏洩対策
13. ネットビジネスと経営戦略
14. 企業活動現場で必要な情報ネットワークに関するスキル
15. これからの情報ネットワーク

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J30252B01
科目名	情報ネットワーク論II	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Information Network Communi ty II		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	情報技術の急激な進歩により社会全体の情報化やネットワーク化が進み、仕事の仕組みや人々の生活様式にも劇的な変革が生じている。情報ネットワークの仕組みや技術革新の状況を知ることにより、私たちの生活にもたらす利便性を高めることができる。反面、こうした技術革新には光と影の部分があり、近年頻発しているネット犯罪から身を守る抑止力を体得することも肝要である。「II」では情報ネットワークの応用編として、社会の中でネットワークがどのように利活用されているのかについて理解を深め、変革の動向や可能性、さらに問題点を考えることにより、ネット社会への対応力を高めることに重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	蒲生毅，『第 4 次情報革命と新しいネット社会』，コモンズ, 2014 駒谷昇一,山川修他，『情報とネットワーク社会』，オーム社, 2011 村嶋修一，『ベテランが丁寧に教えてくれるネットワークの知識と実務』，翔泳社, 2007 Gene，『ネットワーク構築の基礎』，毎日コミュニケーションズ, 2009		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（30%）、最終レポート（40%）		
到達目標	・国内外の情報化やネットワーク事情について理解を深める。 ・企業活動や行政における情報化についての知識を高める。 ・情報化の光と影について理解し、危険に対する抑止力を身につける。 ・実社会の職場における情報ネットワークスキルの重要性、有意性を理解する。 ・今後のネットワーク活用の方向性を理解する。		
準備学習	マスメディア等の情報から ICT（情報通信技術）に関する最新の動向に注視することを心がけること。ICT の知識は積み重ねが大事なので、毎回配布するレジュメを復習に活用すること。		

受講者への要望

インターネットの本質や将来性を理解しておくことは今後の社会生活において極めて重要であると考える。よって積極的に情報ネットワークに興味をもって学習に取り組むことを希望する。また、SNS 利用時等における ICT スキル不足に起因するトラブルに巻き込まれないための抑止力となる知識を身につけてもらいたい。所定用紙に「もっと説明してほしいこと」を記述すれば、原則として次回の講義にて解説する。IT 企業経営および地方議会における現場経験者としての講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、理解度および旬な話題の発生等により変更の可能性もある。

1. ガイダンス、現代の情報ネットワーク
2. ネット社会における著作権
3. 情報ネットワーク社会が抱える問題
4. 情報倫理
5. ネットワークと政治システムの変容
6. 行政分野における情報ネットワークの歴史と発展
7. ネットワークの進化とグローバル経済への影響
8. 諸外国の IT 事情
9. 日本の IT 戦略
10. 身近な情報ネットワーク
11. 情報化による地域活性化
12. 情報発信ツールの利活用とリスクの回避
13. 情報ネットワークセキュリティ
14. 企業活動現場で求められる ICT スキルと情報ネットワークに関する知識のまとめ
15. 今後の情報ネットワークの方向性

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J30255001
科目名	情報ビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Business Management		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスにおいて情報の重要性は高まっています。最近ではインターネットや携帯電話などに代表されるICT（情報技術）の進歩に伴い、さまざまな情報を簡単に手に入れられる環境が整っています。それに伴い情報産業の重要性も高まっています。 そこで本講義ではＩＣＴを取り巻くビジネスの現状をみていき、課題について考えていきます。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	財団法人インターネット協会監修『インターネット白書』インプレスジャパン,2012 年,7140 円 安延申・前川徹編著『ビッグトレンド　―IT はどこへ向かうのか』アスペクト,2009 年,2310 円 授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。ビデオ教材やパワーポイントを使用します。		
評価方法	出席状況、授業内レポート等の平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	情報産業の現状や課題について理解を深めます。 インターネットの普及とともに情報産業がどのように進化したのかを理解します。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 新聞等のメディアを活用し、情報産業の動向に関心を持つようにしてください。		

受講者への要望

私語や遅刻をしないこと。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス（授業の進め方や目的等、情報ビジネスとは何か）
2　スマートフォンのビジネス
3　情報家電産業
4　主要産業での情報化（製造業）
5　主要産業での情報化（小売業）
6　ビッグデータ革命
7　消費者向けネットビジネス（ヤフーの事例）
8　インターネットビジネス
9　ソーシャルメディアとビジネス
10　IT 産業のグローバリゼーション
11　情報ビジネスが社会に与えた影響①（コンテンツ産業）
12　情報ビジネスが社会に与えた影響②（働き方の変革）
13　情報ビジネスが社会に与えた影響③（情報セキュリティ）
14　情報ビジネスの最新動向
15　情報ビジネスの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	- -	- -	- -	- -	★	★★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J30256A01
科目名	情報科学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science I		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的な概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、ＦＯＲＴＲＡＮ、C、Ｊａｖａ、Ruby などの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いて Ruby のプログラムを作成し、実行を行ってもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ⅰ』培風館		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了後、次回の講義の資料を京学なびにアップロードするので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
1．情報科学について 2．アルゴリズムと流れ図 3．数のアルゴリズム 4．変数 5．入力と出力 6．基本的な流れ図 7．カウンタと見張り役 8．部分文字列の探索 9．算術式 10．データの表現 11．まるめ 12．最大値を求めるアルゴリズム 1 13．最大値を求めるアルゴリズム 2 14．集計のアルゴリズム 15．総括（アルゴリズムとプログラム） 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	ー	★★

年度	2016	授業コード	J30256A02
科目名	情報科学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science I		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的な概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、ＦＯＲＴＲＡＮ、C、Ｊａｖａ、Ruby などの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いて Ruby のプログラムを作成し、実行を行ってもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ⅰ』培風館		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了後、次回の講義の資料を京学なびにアップロードするので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
1．情報科学について 2．アルゴリズムと流れ図 3．数のアルゴリズム 4．変数 5．入力と出力 6．基本的な流れ図 7．カウンタと見張り役 8．部分文字列の探索 9．算術式 10．データの表現 11．まるめ 12．最大値を求めるアルゴリズム 1 13．最大値を求めるアルゴリズム 2 14．集計のアルゴリズム 15．総括（アルゴリズムとプログラム） 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	ー	★★

年度	2016	授業コード	J30256B02
科目名	情報科学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science II		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的な概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、ＦＯＲＴＲＡＮ、C、Ｊａｖａ、Ruby などの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いて Ruby のプログラムを作成し、実行を行ってもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ｉ』培風館		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了後、次回の講義資料を京学なびにアップロードするので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
1．情報科学IIについて 2．ユークリッドのアルゴリズム 3．平方根のアルゴリズム 4．多重判断の簡潔な表現 5．一次元配列1 6．一次元配列2 7．整列のアルゴリズム1 8．整列のアルゴリズム2 9．整列のアルゴリズム3 10．ループ構造 11．探索のアルゴリズム1 12．探索のアルゴリズム2 13．二次元配列1 14．二次元配列2 15．総括（アルゴリズムとプログラム） 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	ー	★★

年度	2016	授業コード	J30260A02
科目名	情報管理論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management I		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	高度知識化社会における情報管理(情報・技術経営ｼﾘｰｽﾞ) 村山博(著)大貝晴俊(著)ｺﾛﾅ社		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等を用意することが望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報化技術の理解
3．経営戦略の理解
4．情報化戦略の立案
5．反転学習
6．情報の収集
7．情報の整理 I
8. 情報の整理 II
9. 情報の加工
10. 情報の表現
11. 反転学習
12. パソコンソフトの活用 I
13. パソコンソフトの活用 II
14. 関連法規の理解
15. 理論的側面の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J30260A03
科目名	情報管理論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management I		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	ICT（情報通信技術）の進化やトレンドの変化はめざましいものがあり、将来的にも対応できる基礎力を体得することが望まれている。発展し続ける情報通信社会において、それを支える ICT に関する技術的な知識や利活用方法、情報の収集・整理・活用方法、危険性やセキュリティ対策、関係法令や情報倫理などについて体系的に学び、将来の企業人として役立つ基本的なスキルを身につけることを目的としている。「Ⅰ」「Ⅱ」を続けて受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	深井裕二, 『情報管理学』, コロナ社, 2015 内山 力, 三浦 智恵子, 『情報管理実務』, 産能大出版部, 2003 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014 矢沢久雄, 『これから IT 業界で働く人のための情報処理技術の基本』, 日本実業出版社, 2013		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（30%）、最終レポート（40%）		
到達目標	・情報を管理・活用するためのスキルを身につける。 ・情報ツール利用の技能を高める。 ・情報を取り扱ううえでの法令や倫理を理解する。 ・高度情報化社会における危険性やセキュリティ対策方法を理解する。 ・企業人として必要とされるレベルの情報リテラシーを体得する。		
準備学習	マスメディア等の情報から ICT に関する最新の動向に注視することを心がけること。ICT の知識は積み重ねが大事なので、毎回配布するレジュメを復習に活用すること。		

受講者への要望

情報リテラシーは今や社会が求める一般的な教養でもあるので、卒後即戦力として通用するレベルで体得することが望ましい。よって積極的に情報管理に興味をもって学習に取り組んでもらうことを希望する。所定用紙に「もっと説明してほしいこと」を記述すれば、原則として次回の講義にて解説する。IT 企業経営および地方議会における現場経験者としての講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、理解度および旬な話題の発生等により変更の可能性もある。

1. ガイダンス、情報社会の現状と問題点
2. 情報の取り扱い原則
3. 情報の収集
4. 情報の利用
5. ハードウェア
6. ソフトウェア
7. 情報の単位と計算
8. TCP/IP
9. OS とサーバー
10. ISP とクラウド
11. 電子メールの仕組みと活用
12. Web コンテンツ
13. 情報倫理
14. 情報に関する法律
15. 実社会で求められる情報リテラシー（「Ⅰ」のまとめ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J30260B02
科目名	情報管理論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management Ⅱ		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等の準備が望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及びテストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報システムの種類
3．IT ソリューションの調達方法
4．IT ソリューションの活用
5．反転学習
6．システム化計画の立案
7．システム要求の分析と要件定義 I
8．システム要求の分析と要件定義 II
9．システム開発におけるその他の業務
10．システムの運用
11．反転学習
12．情報セキュリティ I
13．情報セキュリティ II
14．情報システム導入の失敗の原因
15．システム面からの課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J30260B03
科目名	情報管理論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management Ⅱ		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	ICT（情報通信技術）の進化やトレンドの変化はめざましいものがあり、将来的にも対応できる基礎力を体得することが望まれている。発展し続ける情報通信社会において、それを支える ICT に関する技術的な知識や利活用方法、情報の収集・整理・活用方法、危険性やセキュリティ対策、関係法令や情報倫理などについて体系的に学び、将来の企業人として役立つ基本的なスキルを身につけることを目的としている。「Ⅰ」を受講済であることが望ましいが、事前知識としての必須条件ではない。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	深井裕二, 『情報管理学』, コロナ社, 2015 内山 力, 三浦 智恵子, 『情報管理実務』, 産能大出版部, 2003 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014 矢沢久雄, 『これから IT 業界で働く人のための情報処理技術の基本』, 日本実業出版社, 2013		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（30%）、最終レポート（40%）		
到達目標	・情報を管理・活用するためのスキルを身につける。 ・情報ツール利用の技能を高める。 ・情報を取り扱ううえでの法令や倫理を理解する。 ・高度情報化社会における危険性やセキュリティ対策方法を理解する。 ・企業人として必要とされるレベルの情報リテラシーを体得する。		
準備学習	マスメディア等の情報から ICT に関する最新の動向に注視することを心がけること。ICT の知識は積み重ねが大事なので、毎回配布するレジュメを復習に活用すること。		

受講者への要望

情報リテラシーは今や社会が求める一般的な教養でもあるので、卒後即戦力として通用するレベルで体得することが望ましい。よって積極的に情報管理に興味をもって学習に取り組んでもらうことを希望する。所定用紙に「もっと説明してほしいこと」を記述すれば、原則として次回の講義にて解説する。IT 企業経営および地方議会における現場経験者としての講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、理解度および旬な話題の発生等により変更の可能性もある。

1. ガイダンス、情報の取り扱いにおける概括的知識
2. 情報セキュリティ
3. 認証システム
4. ファイルの取扱い
5. 電子商取引
6. IT に関する企業の取り組み
7. データの分析と活用
8. データベース
9. システム開発、プログラミング
10. アプリケーションソフトの活用
11. 経営シミュレーションシステム
12. ネットワークセキュリティ総合管理ツール
13. 個人情報保護法とセンシティブ情報の取り扱い
14. 情報発信とリスク管理
15. 実社会で求められる情報リテラシー（「Ⅱ」のまとめ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J30270001
科目名	人的資源管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management		
担当者名	楠奥　繁則	旧科目名称	
講義概要	企業の労働力を他の経営資源と同じく価値を創造するという見方に立った人材マネジメントのことを「人的資源管理」という。 ところで、今日、わが国ではメンタルヘルスに問題を抱えている労働者が増加傾向にあることが大きな問題となっています。言い換えますと、多くの組織が、人的資源管理をうまく行えていないということになるのではないでしょうか。では、なぜ、その管理がうまく行えていないのでしょうか？そこで、本講義では組織と個人の視点から、組織や、マネジメントに関する理論などを基に、その原因を考えていきます。そして、その問題を解決するための仮説についても考えていきます。 卒業後、君たちのほとんどがどこかの組織に所属することになるでしょう。その組織で君たちが充実したキャリアを歩むためにも、是非、この講義を受講してもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	特になし。配布資料などに基づいて授業を行います。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	試験(100%) ※出席回数が 9 回以下の場合、試験を受けることはできません。		
到達目標	理論などの高度専門知識を用いて、仮説を導けるようになることを到達目標とします。そんなに難しいことではございません。しっかりと、説明しますので、御心配なく！		
準備学習	授業で学んだ理論などの高度専門知識と、みなさん自身の経験(例えば、サークルやアルバイトの経験)や、身の周りの出来事、あるいは、社会問題などとを関連させて考えるようにしてほしいです。なお、講義でもその指導はいたします。		

受講者への要望

最高の授業というのは，残念ながら授業者 1 人で作り上げることはできません。それを作るには，受講学生のみなさんの協働が必要です。授業者である私は，全ての受講学生が経営学に夢中になれるよう，懸命に努力します。ですから，受講学生の皆さんにお願いしたい。“経営学を楽しむ努力をしてほしい”（経営学を楽しむコツについては，みなさんに毎授業，語っていくつもりです)。君たちの協働が得られたとき，私たちは経営学の世界に夢中になるであろう。

講義の順序とポイント

1. 科学するとは？:大学での学びを楽しむ方法について
2. 問題:わが国の職場におけるメンタルヘルスの問題について
3. 職務ストレスとストレスマネジメントについて①:ストレスとは？ストレスマネジメントとは？
4. 職務ストレスとストレスマネジメントについて②:セルフ・エフィカシーと SOC の視点からみたストレスマネジメントについて
5. 組織とは？:Barnard 組織論からみた組織について
6. 組織の病理について①:ブラック企業やブラック NPO などについて
7. 組織の病理について②:わが国の自殺研究から組織の病理について考える
8. 労働者のワーク・モチベーションについて①:モチベーション理論の紹介
9. 労働者のワーク・モチベーションについて②:賃金管理、人事評価からのアプローチ
10. 労働者のキャリアと権利について
11. 組織文化とリーダーシップ
12. 事例分析:サウスウエスト航空を分析する
13. 仮説①:個人の視点から、職場におけるメンタルヘルスの対策・解決方法について考える
14. 仮説②:組織の視点から、職場におけるメンタルヘルスの対策・解決方法について考える
15. 今後の課題:仮説を検証する方法について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J30282001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本講義における税務会計としては、個人企業所得に課される税金(所得税)と法人企業所得に課される税金 (法人税)の双方の計算分野を対象とする。すなわち、所得税法会計と法人税法会計を内容とし、両者の基 礎を学ぶのが本講義の主目的である。そこでは、課税所得を確定したうえで税額が算定されることになる。 （2）このような観点から、本講義においては、所得税法及び法人税法に従って課税所得がどのように計算され るのか、また、それに基づく税額の計算及び申告がどのように行われるのかといった論点を中心に、その 要点を平易に講述する。そこでの内容としては、後述のように、租税制度の概要を確認したうえで、所得 税法・法人税法会計の順に課税所得及び税額の計算システムの概観を解説することにしたい。 （3）なお、所得税に関するケース・スタディとして、架空の家族構成と収入状況を想定し、実際の納税申告書の 作成演習を行い、提出してもらう予定である。その際には、受講生の様子を勘案しながら、税務職員の応援 を要請し、講演および実務面の補助指導をして頂くことも計画している。 （4）また、科目内容の実践的重要性をも考慮して、実務検定として定評のある全国経理学校協会主催の税務 会計能力検定試験の内容に関連するプリント演習も活用したい。		
教材（テキスト）	経理教育研究会 編 『基本税法』 英光社		
教材（参考文献）	中田 信正 著 『税務会計要論』 同文舘出版		
教材（その他）	適宜、必要に応じてプリント配布を行う。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）税法の概要および税務会計の基礎を理解している。 （2）所得税会計と法人税会計における「課税所得と税額」の計算構造を理解している。 （3）基本的な所得税の確定申告書が作成できる。 （4）法人税申告書「別表４」の構造を理解している。		
準備学習	（1）講義時に指示された次回講義に関連するテキスト部分について、事前に解読し、予習すること。 （2）毎回配布する私製アンケート「Minute Paper」に質問・疑問を記入できるように、予習の段階で疑問点が あればメモをし、講義後に疑問が解けなければアンケートに明記すること。質問内容には、可能な限り 次回の講義時に説明する予定であるので、積極的に質問されたい。 （3）所得税確定申告書の作成演習に際しては、講義者の方で納税者家族のケース設定を行うが、自主的なケース設定も歓迎するので、積極的に講義に参加するように準備すること。 （4）授業内講演がある場合には、積極的に質疑応答に参加するように事前準備をすること。 （5）国税庁のホームページへのアクセスを積極的に試み、租税制度の仕組みや申告書の作成など、身近な事例を想定しながら平素より税務への関心を高めるように学習すること。		
受講者への要望			
(1)企業所得の算定に関しては簿記・会計的知識が基礎となるが、そうした基礎知識が充分に無い場合も想定して講義を進める。 (2)実務上は税法無視の経理実践はあり得ず、特に中小企業経理では税務会計が極めて重視されている点に注意して頂きたい。 (3)実学としての税務に興味ある諸君の積極的な履修を希望している。 (4)遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎる場合			

には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義の主要な論点は以下の通りであるが、必要に応じて変更することもある。

【税務会計の基礎】

（1）講義展開のガイダンスと租税制度の概要

（2）企業会計と税務会計

【所得税会計分野】

（3）所得税の概要

（4）所得の種類とその計算方法

（5）課税標準と所得控除の内容

（6）課税総所得金額と所得税額の計算方法

（7）納税申告書の作成演習

【法人税会計分野】

（8）法人税の概要

（9）所得金額の計算

（10）「益金の額」の計算

（11）「損金の額」の計算①

（12）「損金の額」の計算②

（13）「損金の額」の計算③

（14）法人税額の計算と申告・納税

（15）事業所得および法人所得の計算演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J30410A01
科目名	日本経営史Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History I		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	江戸時代より明治時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をしておくこと。これに関連した小レポート実施する。		
受講者への要望			
おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。			
講義の順序とポイント			
1.日本経営史の課題 2.江戸時代の経済発展 3.豪商の企業者活動 4.商家の企業形態(上方商人・三井家) 5.近江商人の企業者活動 6.明治維新改革と近代経営の形成 7.三菱の創立と多角化(岩崎弥太郎・弥之助) 8.渋沢栄一の合本主義と産業化の促進 9.銀行業の生成と発展（国立銀行の発足と普通銀行への過程） 10.会社制度の導入と発展(多角的出資と重役兼任) 11.近江商人の企業者活動と滋賀県企業家 12.明治維新と三井家の家政改革 13.財閥の形成過程 14.経済団体の形成 15.現代の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J3042200C
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	本間　憲	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J30452001
科目名	コーチング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Theory of Sport Coaching		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スポーツコーチングは、運動学、スポーツ社会学、心理学、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ医学、栄養学などの科学や歴史、経験に裏づけられた技術指導に加え、選手との信頼関係を確立するためのコミュニケーションスキルや環境を整備するためのマネジメントスキルなど様々な要素が必要とされる。 そこで、コーチング論ではサッカーを中心に、指導者及び選手からの観点を理解し、すべてのスポーツに共通するメンタル、テクニック、フィジカルの知識を学び、トレーニングに活用する能力を身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	必要時にプリントを用意。「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
評価方法	平常点５０％（授業態度含む）、レポート２５％、確認テスト２５％		
到達目標	さまざまな世代にスポーツを指導するためのコーチングの基礎を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で指示する。		
受講者への要望			
指導を志す学生として、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．コーチングとは ３．コーチングとスポーツ界の歴史 ４．競技スポーツと生涯スポーツのコーチング ５．各年代の発育発達によるコーチング ６．トレーニングの原理・原則 ７．トレーニング処方 ８．動機づけとその工夫 ９．各種目のトレーニング計画、発表 １０．各種目のトレーニング計画、発表 １１．コーチングの実践 １２．コーチングの実践 １３．コーチングの実践 １４．理想のコーチ像 １５．コーチングの講義を通して学んだこと（ディスカッション方式）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	★	ー	ー	★

年度	2016	授業コード	J30454001
科目名	生産管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Production Management		
担当者名	下左近　多喜男	旧科目名称	
講義概要	生産活動は、材料等をインプットして、加工・組立を行い、製品をアウトプットする活動である。この過程には、企画・設計・生産・諸管理・改善などがある。本生産管理論は、これら一連の諸活動を効果的に行うことを目的としている。実際には、工程管理（モノの作り方）、品質管理（予定の品質を確保）、原価管理（正しい原価を見つける）を中心としている。それらについて、具体例を述べて理解しやすく講義する。		
教材（テキスト）	使用する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	演習問題を課題にする		
評価方法	平常点と出席点（10%）、レポート提出（30%）、定期試験（60%）で評価する。		
到達目標	１．実際の生産管理がイメージできるように具体例を用いて体得させる ２．生産管理のためのに主な手法を説明し、理解できるようにする ３．実際の生産活動に興味を持ち、それらの概要をある程度説明できるように指導する。		
準備学習	１．生産管理に関する予備知識を、ネット検索で調べて理解すること ２．生産方法や生産現場の動画を探して見ておくこと ３．インターネットを通じてバーチャル工場見学を行うこと		
受講者への要望			
学生らしく真面目に受講し、覚えるのではなくて正しく理解すること			
講義の順序とポイント			
１．生産管理の概要 ２．生産計画と工程管理 ３．品質管理 ４．設備管理の基礎 ５．安全管理 ６．資材・購買管理 ７．新製品企画開発、研究開発、製品設計 ８．原価管理とコストダウン ９．生産の合理化 １０．生産情報の活用と見える化 １１．人材開発 １２．環境配慮 １３．ロボットと生産管理 １４．バーチャル工場の生産管理 １５．生産管理と経営自動化システムの将来展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J30458001
科目名	流通論	単位数	2
科目名（英語表記）	A Theory of Distribution		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	戦後「流通」は、社会経済の環境変化により日々進化してきたが、21 世紀に入り急激に進むグローバル経済化、IT 革命のもと新たな進化を遂げようとしている。そこで、「流通」の実態に幅広い観点からのアプローチを試み、基礎理論の習得に努める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	現代流通論に関する基礎知識の習得および進化する流通の現状と課題について理解することを目標とする。		
準備学習	流通および流通活動に関して興味を持ち、日経 MJ はじめ講義関連情報の入手に努めた上で受講されたい。また資料については事前に配布するので熟読されたい。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに～考察の観点 2　流通を取り巻く環境変化について 3　流通の経済的側面 4　流通の産業的側面 5　流通の機構的側面 6　小売機構について 7　～業態面からの考察 8　～集積面からの考察 9　～組織面からの考察 10　卸売機構について① 11　卸売機構について② 12　物流機構について① 13　物流機構について② 14　IT 革命と流通 15　おわりに～流通戦略の新展開および本講義の総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。
履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J30460001
科目名	財務諸表論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	現在ほど、企業経営における会計の役割と影響が注目されている時代はない。さまざまな利害関係者と関わりながら活動している企業は、ある時点の財政状態と一定期間の経営成績を財務諸表にまとめ、報告することが要請されている。本講義は、財務諸表の作成が要請される背景や作成原理、表示方法を理解することを目標にする。 企業を取り巻く経済環境の変化に伴う会計の最新の潮流を紹介しながら、種々の企業活動がどのように会計情報に反映されているか紹介していく。 また時に、簿記１、２級レベルの練習問題にも取り組んでいく予定である。		
教材（テキスト）	片山覚他著　『入門会計学』　実教出版		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	財務会計の意義と機能について理解している。 会計情報の開示制度を理解している。 財務諸表の意義･特徴を理解している。 会計が企業経営に与える影響について理解している。		
準備学習	講義終了時に次回の内容を明示するので、教科書の指定された部分を熟読しておくこと。		
受講者への要望			
簿記原理を履修済みか、日商簿記３級の合格者であることが望ましい。 受講生は積極的に講義に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.会計を学ぶ意義 2.会計と企業経営の関わり 3.財務会計のシステムと複式簿記 4.日本の会計制度 5.会計情報のディスクロージャー 6.会計の国際化 7.中間小テスト 8.財務諸表の体系 9.貸借対照表の内容 10.損益計算書の内容 11.キャッシュ･フロー計算書の内容 12.その他のディスクロージャー 13.企業集団と連結会計(1) 14.企業集団と連結会計(2) 15.総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J30462001
科目名	スポーツファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Finance		
担当者名	幸田　圭一朗	旧科目名称	
講義概要	企業において欠かせない経営資源として「ヒト・モノ・カネ」が重要であると言われています。それは、スポーツビジネスでも同様で、これら諸要素をうまく活用していくことがスポーツ組織の発展には不可欠です。本講義では、そのなかでも「カネ」の部分に焦点を当て、スポーツビジネスに関わる資金の流れ等について概観します。また、スポーツ組織の事例などを取り上げたうえで、資金面にまつわる個別の現状や特徴および問題点などについて整理し、把握していくことも課題とします。なお本講義では、一般的なファイナンス理論に留まるのではなく、予算計画やパブリック・ファイナンスなど、幅広くスポーツビジネスを行う際の資金面のマネジメントを取り扱っていきます。		
教材（テキスト）	テキストの指定は行わず、下記参考文献に従って作成したレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	武藤泰明（2008）『スポーツファイナンス』大修館書店 1,800 円+税		
教材（その他）	適宜、資料を配布します。		
評価方法	平常点（50%）　小テスト（不定期）、提出物、学習態度などによる。 2 回実施のレポート試験（50%） なお、以下の場合は、成績評価の対象とせず、自動的に不可とします。 ・講義中の環境を守ることができず（私語、講義中のゲームなど）、注意に従わない場合 ・レポートにおける剽窃などが行われていた場合 ・出席調査において、虚偽のデータが含まれていた場合		
到達目標	次の 3 点の修得を目指します。(1)スポーツ組織の財務的な特徴について、一般的な企業組織と比較して説明することができる　(2)経営者の視点に立った、キャッシュフローの概念を説明できる　(3)スポーツ組織を事例として、大まかな資金計画を立案することができる		
準備学習	レポート作成に向けて、毎週各自データを調べてもらいます。具体的な調査内容については講義ごとに指示しますが、みなさんが指定したスポーツ種目に関わる収益・費用などを講義までの間に考えてまとめてきて頂きます。なお、レポートを含め、剽窃は厳禁です。その各自の調査内容を使って講義を進めていきますので、必ず忘れずに行うようにしてください。また、スポーツファイナンスに関係があると思う新聞やニュースなどに目を通してください。		

受講者への要望

・私語や飲食などの受講態度・マナーについては、他の学生の学ぶ権利を侵害します。したがって、評価の自動不可を含め、教室からの退出や以後の出席を認めないなど、厳しく対処いたします。
・遅刻（定刻開始時）や途中退室は、やむを得ない理由を除き、厳禁とします。
・やむを得ない場合の欠席（公欠）時は、できる限りのフォローをいたしますので、必ず事前に相談するようにしてください。しかし、小テストは不定期に実施するので、注意するようにしてください。
・レポート課題などの指示は、原則、講義内で行いますので、それを踏まえて出席するようにしてください。したがって、無断欠席に伴う不利益は、受講生自身の責任によるものとします。
・一部電卓を使用しますが、必要な際にその都度指示します。
・講義についての要望は随時受け付けますので、遠慮なく申し出るようにしてください。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション・財務諸表
2. スポーツ組織の収入・事業計画と予算
3. 資金調達
4. キャッシュフロー・マネジメント
5. ケースによる分析　-収入を考える-　（演習）
6. ケースによる分析　-費用を考える-　（演習）
7. 資金計画とこれまでの復習　（演習）
8. 財務管理
9. ケースによる分析　-財務諸表を組み立てる-①　（演習）
10. 資本と資本政策
11. 決算と情報開示・ケースによる分析　-財務諸表を組み立てる-②　（演習）
12. 財務リスクのマネジメント・ケースによる分析　-財務諸表を組み立てる-③　（演習）

13. 中長期ファイナンス計画・ケースによる分析　-実際のスポーツ組織を検討する-
14. これまでのまとめと事業計画を考える
15 .パブリック・ファイナンス・無体財産とファイナンス

※ただし、受講者数や取り上げるスポーツ種目により臨機応変に変更対応いたします。
　その際は、必ず講義内で説明しますので、その旨ご了承ください。
　ちなみに、例年、サッカーと野球の 2 種目を取り上げておりますが、希望によっては変更いたします。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J30464001
科目名	野球ビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Baseball Business Theory		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	机上の空論ではなく実際に起こったことをテキストを中心に講義を進める。 さらに四国アイランドリーグ plus という独立リーグでの現場も知ってもらい実際に役立つ知識やスキルを身に付けることを目標とする。 正解を求めるというよりも論理的に物事を考え、自分の意思を伝えるというコミュニケーション能力の向上も求める。		
教材（テキスト）	藤井純一著「監督・選手が変わってもなぜ強い? 北海道日本ハムファイターズのチーム戦略」光文社新書		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	受講態度と取組姿勢(50%)、授業内レポート(50%)により評価を行なう。		
到達目標	プロスポーツビジネスの現場を知る。 問題解決能力を身に付ける。 自分の考えを論理的に伝える能力を身に付ける。 企画書・提案書作成ノウハウを学習する。		
準備学習	プロ野球(NPB）における基礎知識（システムや成り立ちなど）を最低限学習しておくこと。 教材は一通り目を通しておくこと。疑問点があれば講義内で質問し解決すること。		

受講者への要望
自主的、積極的に講義に出席、レポートを提出するよう心掛けてください。 講義内で私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し退出を求める。 様々な情報を集めることを推進、その中で自らのアイデアをねん出することを求める。 ビジネススキルを身に付けるため、根気よく作業に取り組むよう期待する。
講義の順序とポイント
1.はじめに（ガイダンス） 2.スポーツビジネスとは何か 3.フロントはファンを見よ 4.試合収入 5.ホスピタリティ 6.放映権収入 7.スポンサー収入 8.グループワーク①（球団編成） 9.グループワーク②（球団編成） 10.マーチャンダインジング収入 11.スポーツビジネスのための IT 戦略 12.2016 年プロ野球データ収集 13.グループワーク③（球団づくり） 14.グループワーク④（球団づくり） 15.地域密着がスポーツビジネスを成功に導く

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J30465001
科目名	サッカービジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Soccer Business Theory		
担当者名	柳　久恒	旧科目名称	
講義概要	本講義は、スポーツビジネスの中でも特に世界中で人気のあるサッカーに関わるビジネスを題材として授業を展開する。サッカービジネスは、サッカー協会やリーグ、クラブなどの組織だけでなく、それらを取り巻く様々なステークホルダーによって成立している。本講義では、それらの組織や事業の事例を用いて説明する。 本講義の受講生は、それら組織や事業の内容について認識し、課題を発見するとともに、解決するための方法論について思考する。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	エステベ・カルサーダ「SHOW ME THE MONEY! ビジネスを勝利に導く FC バルセロナのマーケティング実践講座」ソル・メディア、2013、1800 円 広瀬一郎「サッカービジネスの基礎知識」東邦出版、2012、1500 円 ステファン・シマンスキー、アンドリュー・ジンバリスト「サッカーで燃える国　野球で儲ける国―スポーツ文化の経済史」ダイヤモンド社、2006、1,800 円 武藤泰明「プロスポーツクラブのマネジメント　第 2 版」東洋経済新報社、2013、3,800 円		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）、小テスト（40%）		
到達目標	・サッカービジネスの内容を説明することができる。 ・サッカービジネスに興味を抱く。		
準備学習	サッカーを「する」「みる」「ささえる」などして消費する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」をスタジアムに足を運んで観戦する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」をテレビ等で観戦する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」でボランティア活動をする。		

受講者への要望

授業の進行や他の受講生の妨げになる言動は慎みましょう。
例えば、正当な理由のない遅刻や途中退室は認めません。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション：講義の目標や進め方について説明し、評価方法を理解する
2. サッカービジネスの諸相：サッカーのビジネスにかかわるリーグやクラブ、イベントなどについて紹介する
3. サッカーイベントのビジネス①：サッカーイベントのビジネスについて解説する
4. サッカーイベントのビジネス②：サッカーイベントのビジネスについて解説する
5. サッカーイベントのビジネス③：サッカーイベントのビジネスについて解説する
6. サッカーリーグのビジネス①：サッカーリーグのビジネスについて解説する
7. サッカーリーグのビジネス②：サッカーリーグのビジネスについて解説する
8. サッカーリーグのビジネス③：サッカーリーグのビジネスについて解説する
9. サッカークラブのビジネス①：サッカークラブのビジネスについて解説する
10. サッカークラブのビジネス②：サッカークラブのビジネスについて解説する
11. サッカークラブのビジネス③：サッカークラブのビジネスについて解説する
12. サッカークラブのビジネス④：サッカークラブのビジネスについて解説する
13. サッカークラブのビジネス⑤：サッカークラブのビジネスについて解説する
14. サッカービジネスの現状と課題①：サッカービジネスの現状と課題について
15. サッカービジネスの現状と課題②：サッカービジネスの現状と課題について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J30466001
科目名	競技スポーツ論（野球）	単位数	2
科目名（英語表記）	Competitive Sports(Baseball)		
担当者名	原田　冨士雄	旧科目名称	
講義概要	野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も 重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業としたい。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを用意		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	要時にプリントを用意		
評価方法	授業内試験（60 点以上）およびレポート、学習への参加や取組みにより総合的に評価する。		
到達目標	プロスポーツとしての野球から、アマチュアスポーツの野球まで、選手・監督・組織の理解を深める。野球の楽しさを知り、人に伝え、文化としての野球の発展についてのポリシーを持つことができる。 準備学習 他のスポーツと野球はどこが違うのか、グローバルな考え方と地域での野球人口拡大のための定期的で継続的な活動について知るために現場を知る、本を読むなど興味の幅を広げること。		
準備学習	他のスポーツと野球はどこが違うのか、グローバルな考え方と地域での野球人口拡大のための定期的で継続的な活動について知るために現場を知る、本を読むなど興味の幅を広げる。毎回、次の学習のために課題を指示する。		

受講者への要望

遅刻早退はしないこと。礼に始まり、礼に終わるという態度で臨んでください。

講義の順序とポイント

1. " はじめに（オリエンテーション）
　授業概要、方法の説明と同時にどのような授業を目指すのかを、野球を通じて スポーツの楽しさを説明する。（試合観戦）"
2. "野球の組織（野球とは）
　日本の野球界には大別してアマとプロの組織がある。アマの中には社会人・大学・高校の組織があり、更には少年野球もある。これらを判り易く説明し理解してもらう。"
3. 日本の野球と世界の野球
4. "野球のマネージメント 監督の役割　（指導者の行動範囲）
　コーチのあるべき姿を指導者という名のもとに、どのような 形で勝利に結びつけて行くのかを、説明すると共に一緒に学んでいく。"
5. "技能向上コーチング（指導方法）
　育てるというスポーツの中で一番重要なことを、基本論議から指導者に必要なセンス（能力とは）を説明していく。"
6. 野球における指導者のリーダーシップ
7. "一流選手への道
　一流選手になるには一流選手を育てるには 何が必要なのか、その指導方法や巧くなっていく過程を代表選手を例に挙げて説明していく。（イチロー、王、長島、ダルビッシュ）"
8. "育てて勝った名将達
　野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、 類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。"
9. "育てて勝った名将達
　野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、 類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。"
10. "必勝法と必敗法
　どうすれば勝てるのか？なぜ負けるのか？ を 具体的事例を挙げて説明する。"
11. "ミーティングとサイン
　スポーツについて、ミーティングの必要性とサインの重要性を説明する。"
12. "ワンプレーの重さ
　一ツ一ツ のプレーには重みがある。 事例を挙げ、プレーの組合わせが勝利に直結もするし、敗因になることも説明する。"
13. 戦術を説明し、それに対するディスカッションを行う
14. "データの活用と感ピューター
　データ に基づく 第六感の活用はどのようなものか、プレーの確率を例に挙げ説明する。"
15. 硬式野球というジャンルの全体像について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J30467001
科目名	競技スポーツ論（サッカー）	単位数	2
科目名（英語表記）	Competitive Sports(Soccer)		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	イギリスで発祥し、世界の人々に愛され親しまれているのが、サッカーである。4 年に一度に行われる世界一を決める「ワールドカップ」では世界中が注目し、単独スポーツとしてオリンピックをしのいでいるのはサッカーだけである。年齢や身体的特性に関わりなく、ルールの簡易さと技能発揮の幅広さから、誰でも、どこでもゲームを楽しむことが出来るスポーツのため世界に波及した。本授業では、世界のサッカー界の状勢を参考に、技術・戦術を論理的に考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点５０％（出席状況、授業態度等）による。理解力２５%、レポート２５％		
到達目標	サッカーのルールを含めた理解を高め、サッカーを経験の感覚ではなく、理論に裏付けされた知識を身につけ、「する」「みる」「支える」という三つの立場で、サッカーをより楽しむことが出来るようになる。		
準備学習	日頃から、サッカーに関わる情報をキャッチ出来るようにアンテナを広げ、気になる内容を調べる習慣を付ける。		
受講者への要望			
サッカーに特化した授業であるため、サッカーに興味がある学生が受講して下さい。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．サッカーの歴史 ３．Ｊリーグとは ４．世界のサッカー界の状勢 ５．サッカー事例 ６．サッカー事例 ７．個人戦術理論 ８．個人戦術理論 ９．グループ戦術理論 １０．　グループ戦術理論 １１．チーム戦術理論 １２．チーム戦術理論 １３．サッカー戦術事例 １４．サッカー戦術事例 １５．授業の振り返りにより、理論を確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J30471001
科目名	トレーニング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Training Theory		
担当者名	横山　慶一	旧科目名称	
講義概要	体力トレーニングとは，運動負荷に対する身体的・精神的適応能力の開発過程である。実際のスポーツ現場では，さらに狭義的な行動体力の開発を目的とした，数多くのトレーニングが行われている。最近ではスポーツ現場を越え，一般人にまで，体力トレーニングについての情報はあふれており，さらに新しい理論が加わってきている。 本講義では一般的体力の向上を目指した，体力トレーニングの基礎を学ぶ。体力トレーニングの目的を理解し，体力を総括的にとらえた上で,目的とするパフォーマンス向上のためには、動作様式の特異性などを考慮して、どのような方法をどのように取り入れるかをテーマに，具体例を提示しながら進めていく。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	・使える筋肉・使えない筋肉 理論編―筋トレでつけた筋肉は本当に「使えない」のか? 谷本 道哉(著), 石井 直方（監修）ベースボールマガジン社 ・スポーツ科学の教科書――強くなる・うまくなる近道 谷本 道哉（著, 編集), 石井 直方（監修）岩波ジュニア新書 ・究極のトレーニング 最新スポーツ生理学と効率的カラダづくり 石井 直方 講談社		
教材（その他）	必要時にプリントを用意		
評価方法	定期試験 70%、レポート 20%。出席回数が 3 分の 2 に満たない場合や受講状態に難がある場合は、残りの 10%の範囲で減点される。ただし、正当な理由により欠席し届けを出した場合はその限りでない。		
到達目標	トレーニングの方法は一つではない。漫然と行うトレーニングではなく、効率よく効果を出すトレーニングを行えるよう科学的な知識と実践の能力を身につける。		
準備学習	インターネットや書籍で、主要な筋肉の名称や位置、主要なトレーニングの名称や方法を調べておく。		
受講者への要望			
講義と実際の実技を取り入れて行う。指示された日はトレーニングウェアとトレーニングシューズを準備すること。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに 2　アスリートにとっての体力 3　体力テスト 4　健康と体力 5　体力要素による分類 6　トレーニングの種類 7　トレーニングの進め方 8　健康づくりと運動プログラム 9　パフォーマンスを上げる運動プログラム 10　トレーニング計画とその実際 11　成長期の体力 12　高齢期の体力 13　体脂肪量・筋肉量の測定 14　体力テスト 15　体力の前後比較			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J30473001
科目名	競技スポーツ実技（野球）	単位数	1
科目名（英語表記）	Competitive Sports Practice(Baseball)		
担当者名	原田　冨士雄	旧科目名称	
講義概要	野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も 重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業としたい。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを用意		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	必要時にプリントを用意		
評価方法	実技試験（60 点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。		
到達目標	野球はライセンスを取得すればマネージャー(監督)やコーチに就けるというものではありません。野球の指導は多種多様な戦術と攻、守に分かれて複雑なゲームを制していく力が求められます。選手の体力、技術、心理が大きくゲームを動かします。授業では、これらをいかにコントロールしていくか、また、これらに俊敏に対応できるプレーヤーをどう育てるかを、自身が様々な経験をし、学ぶ事で指導者への入口が見えるようにします。		
準備学習	野球ルールを徹底的に学習する。そのために、毎回次の授業のために課題を指示します。		

受講者への要望

準備・片づけはグループ単位で輪番制で行います。当番の学生は責務をこなすこと。
遅刻早退はしないこと。礼で始まり、礼で終わる授業を心掛けてください。

講義の順序とポイント

. " はじめに（オリエンテーション）
　授業の概要説明と野球 投・攻・守 の練習方法を理解させる。"
2. "硬式野球実技（基本） * 準備運動　　* キャッチボール　　* トスバッティング　　* 守備練習
　（投・打・捕の体験）　* 打撃練習　（野球を体験して難しさ、楽しさを感じてもらう）"
3. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
4. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
5. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
6. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
7. "実技 （ゲーム形式）
　遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
8. "実技 （ゲーム形式）
　遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
9. "実技 （ゲーム形式）
　遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
10. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
11. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
12. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
13. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
14. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
15. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J3047400A
科目名	スポーツ実技（水泳・水中運動）	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice (Swim and Exercise in Wa ter)		
担当者名	奥田　千代	旧科目名称	
講義概要	水泳・水中運動については、水の特性・環境を理解し、陸上運動との違いや水中における身体の動かし方を体験しながら生理学的な変化を体感する。 　水中運動を構成する各種運動・動作を実習し、運動プログラムの作成方法を理解し運動プログラムを作成し適切な動きの選択や運動強度変換と指導上の留意点を理解する。また、水と体の衛生及び環境、救急法などの安全対策を理解する。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者養成用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	アクアエクササイズ指導理論（公益社団法人　日本フィットネス協会）		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	試験：実技試験２回（評価割合５０％）、授業内筆記試験１回（評価割合２０％）、指導案（評価割合２０％）授業態度（評価割合１０％）これらを総合して評価を行う		
到達目標	健康維持・増進のための運動を実践する必要性を理解し、自ら見本を示す実技能力と、グループ指導に対する知識及び指導技術を習得する。		
準備学習	毎回授業内で指示する。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目です。原則的に遅刻・早退は認められません。
外部施設を利用するため、他の利用者の方の迷惑にならないように、服装・マナーには気を付けましょう。
授業は講義の場合は教室、実技の場合は現地集合、現地解散になります。
実技では必ず水着、キャップ、ゴーグルが必要です。なお、水着は水泳用の水着を着用すること。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション
２．　水の特性と水中運動の効果
３．　水中運動（水中歩行、水泳体験）
４．　水中におけるレジスタンス運動と水中ストレッチについて（体験）
５．　水中エアロビックダンス（体験）
６．　水中における有酸素運動のプログラミング方法
７．　水中歩行のプログラミング、水中動作の習得
８．　水中歩行のプログラミング、運動強度の変換方法
９．　実技テスト（水中歩行指導法）および水中歩行のプログラミングの振返り
１０．水中レジスタンスの種類と効果、動作習得
１１．水中レジスタンスのプログラミング、強度変換と指導
１２．水中レジスタンスプログラム指導（器具を利用したプログラム含む）
１３．実技テストおよび水中レジスタンスプログラム指導の振返り
１４．水中運動およびプールにおける安全管理
１５．水中運動プログラム指導案の作成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	J3047500A
科目名	スポーツ実技(エアロビックスポーツ)	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice(Aerobic Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	スポーツ実技（エアロビックスポーツ）では QOL の向上、健康づくり、介護予防を目的に有酸素運動を楽しさの中で効果的に指導する方法を学び、自らが指導できるように実践力を獲得する。健康運動実践指導者やレクリエーション・インストラクター資格の取得を目指して、運動プログラムと簡単なゲームのノウ・ハウを習得しよう。また、イベントや集会などの「みんなで楽しむ」場面を盛り上げ、演出する能力も磨く。 　将来は地域・非営利組織・企業での活動や業務の一環として、さまざまな場で健康運動実践指導者やレクリエーションで学んだことを実践に生かし、生涯自由時間を創造的にデザインするプログラムの開発・提供、調査・提案を行なえるようキャリアアップしていこう。 先ずは自分の身体を動かすところから始め、自分の身体の変化に気付く事を実習を通じて行って行こう。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団） 資格取得者のみ購入すること。授業内で希望をとる。		
教材（参考文献）	レクリエーション支援の基礎・スポーツと健康の科学		
教材（その他）	体操祭やレクリエーションフェスティバルの記録映像 チラシやパンフレット		
評価方法	試験は、実技試験を 2 回実施する（評価割合 50%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、振り返りメモ（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）など、これらの結果を総合して成績評価を行う。		
到達目標	健康運動実践指導者独自の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるよう知識及び指導スキルを習得することである。 準備学習 事前に有酸素運動についての理論を学習しておくこと。		
準備学習	事前に有酸素運動についての理論を学習しておくこと。毎回、授業で実施したプログラムについて、次の時間は運動の目的や注意点を含め、説明し、キューイングが上手にできるように練習しておいてください。 実技のコーチングができるまでしっかり予習してください。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。この授業は、実践を通して学ぶことが目的である。心拍数を測定し、主観的な運動強度などを実感しながら進めていく。正しい食生活と睡眠に注意して参加すること。			
講義の順序とポイント			
１．ホスピタリティトレーニングの内容と方法・エアロビックスポーツを楽しむために ２．コミュニケーションゲームの体験とエアロビックスポーツ ３．エアロビックダンス初級 ４．エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導） ５．エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）と 　対象を想定したレクリエーション支援の実際① ６．中高年者のための健康体操 ７．エアロビックダンス中級と対象に合わせたアクティビティの 　選択方法とその視点 ８．ウォーミングアップの方法と ニュースポーツの展開① ９．ニュースポーツ体験とクーリングダウン １０．アイスブレーキングの実習とスポーツ １１．アイスブレーキングの実習とスポーツ １２．対象者間の相互作用の引き出し方・活用方法 １３．アクティビティの指導案の作成 １４．指導実習・プログラム作成と指導案の提出 １５．指導実習・プログラム作成と指導案の提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J3047600A
科目名	スポーツ実技（ジョギング・ウォーキング）	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice (Jog Walking)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	健康・体力づくりの運動であるジョギング・ウォーキングを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なジョギング・ウォーキングの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要時にプリントを用意。		
評価方法	試験は、実技試験を実施する（評価割合 50%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、ウォーキングカレンダーの記入（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。		
到達目標	安全で効果的なジョギング・ウォーキングの運動プログラムを習得する。 対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて理解する。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。毎回筆記具を持参してください。晴天時は人工芝のグランド、雨天時は体育館ランニングコースを使用する。服装とシューズを各自が用意してください。心拍数の測定などもするので前日は十分な睡眠をとっておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．ストレッチングとウォーキング ３．ジョギング ４．ジョギング ５．ジョギング ６．ウォーキング ７．ウォーキング ８．ウォーキング ９．ウォーキング １０．基本プログラム １１．基本プログラム １２．ジョギング・ウォーキングプレテスト及びプログラム修正 １３．基本プログラム １４．ジョギングテスト及び測定　自己評価と今後の課題 １５．ウォーキングテスト及び測定　自己評価と今後の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J30477001
科目名	メンタルトレーニング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Mental Training Theory		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	この講義は、運動習慣の確立を含む、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解するとともに、メンタルヘルスのためのストレスマネジメントについて、ストレスアセスメントとその対処方法を理解する。 またスポーツ選手・指導者に必要な心理的スキルを獲得し、実際に活用できるようになることを目的としたメンタルトレーニングの知識・技法をスポーツ心理学の学問的成果に基づいて理解する。		
教材（テキスト）	『健康運動実践指導者用テキスト』(健康・体力づくり事業財団)、授業時のスライドを配布資料として用意。		
教材（参考文献）	『健康スポーツの心理学』　竹中晃二編　大修館書店 『スポーツメンタルトレーニング教本』　日本スポーツ心理学会編		
教材（その他）			
評価方法	授業時に取り組む課題を 30%、課題に取り組む授業態度を 20%、ポストテストを 50%とする。		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、健康づくりの運動における行動変容と競技スポーツにおける心理的スキルをさまざまな場面で応用できるようにする。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席すること。授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。

講義の順序とポイント

1 はじめに　オリエンテーション
2 ヘルスプロモーションの現状と課題～運動のベネフィット・疫学研究の成果
3 健康スポーツの心理学：生活習慣病予防と運動の習慣化
4 運動指導の心理的基礎：身体活動を決定する心理的要因
5 行動変容の理論～健康に関する行動変容モデル
6 健康に関する行動変容～ケーススタディ
7 運動と心の健康～運動・スポーツのストレス低減効果とストレスマネジメントの方法
8 運動と心の健康～他者との関わり・コミュニケーション
9 メンタルトレーニング①ピークパフォーマンス
10 メンタルトレーニング②バイフィードバック
11 メンタルトレーニング③リラクセイションとイメージトレーニング
12 メンタルトレーニング④さまざまな技法
13 メンタルトレーニング⑤目標設定の理論と実際
14 あがりとパフォーマンス～情動のコントロール
15 健康と運動心理の応用～自らの実践活動に活かすには

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J3047800A
科目名	トレーニング実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解させる。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導方法を学ばせる。特に上体起こし、腕立て伏せなどの筋力系と柔軟性、調整力などのトレーニングの実施法を習得させる。アイソメトリックやウェイト、サーキットなどのさまざまなトレーニングの原則・効果・組み立て方などを学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要時にプリントを用意。		
評価方法	試験は、実技試験を実施する（評価割合 50%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、トレーニングメニューの作成（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。		
到達目標	補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解する。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点について実習を通して学び、応用できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

トレーニングルームを使用するので、トレーニングウェアとトレーニングシューズを準備してください。また、トレーニング器具の正しい使用法を守り、安全に、大切に扱うこと。
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。

講義の順序とポイント

1．はじめに
2．トレーニングについてⅠ
3．トレーニングについてⅡ
4．パワー・スタミナ・スピードの測定Ⅰ
5．トレ－ニングの原則
6．プログラミング
7．トレーニング実践Ⅰ
8．トレーニング実践Ⅱ
9．トレーニング実践Ⅲ
１０．中間測定Ⅱ
１１．トレーニング実践Ⅳ
１２．トレーニング実践Ⅴ
１３．トレーニング実践Ⅵ
１４．測定Ⅲ
１５．測定記録のまとめおよび今後の課題について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J30481001
科目名	コーチング実習（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Sport Coaching Practice(Lifelong Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	コーチング実習（生涯スポーツ）の学習目的は各種スポーツの指導者としての指導実践を磨くことと、レクリエーション・インストラクターの資格取得にも役立てることです。特に、「対人関係」のトレーニングとしてレクリエーション理論に基づき学びます。 特に、「ホスピタリティトレーニング」等、相手を思いやるコミュニケーション力、レクリエーション事業を考えていく場合の「企画力」なども授業で身につけたい力です。 次の段階として、希望者は実際の授業に TA(ティーチングアシスタント）として入り、授業をサポートする体験もできます。また、学外での事業参加も資格取得希望者にはたくさんの選択肢があります。 本来のスポーツ・レクリエーション教育は、「楽しさを通して社会が抱える課題に対してアプローチする」という基本コンセプトがあります。例えば、クーベルタンはオリンピックを戦争のない平和な世界の構築のために始め、100 年が経過しました。 まずは、ジェントルマインドを身につけて、挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという、当たり前のことを当たり前にできる社会人としてのキャリアアップをしましょう。(実習や事業参加の交通費などは各自の実費負担です)		
教材（テキスト）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教材（参考文献）	印刷資料、ＤＶＤ、参考図書などを随時提示します。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	指導案、指導レポート、事業の企画書の作成（５０％） 模擬授業・事業参加(５０％)		
到達目標	自分の得意なスポーツ種目の指導ができるようになる。 レクリエーション・インストラクターとして、さまざまなイベントのサポートができる。		
準備学習	ＴＡをする種目について、歴史、ルール、技術など徹底的に学習する。 レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は、教科書内の知識を事前学習する。 毎回、課題を指示します。事前に指示した課題の準備は確実にこなしてください。わかりやすい説明をするためには、自分で書いて、読んで、修正し、できるだけシンプルな表現を使えるように取り組む。		

受講者への要望

挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという社会的なルールを守り、向上心を持って、常に積極的に取り組むこと。
ＴＡに参加した場合は担当教員と事前に綿密な打ち合わせをした後に指導サポートをすること。学生に対し、次の行動を予測したり、安全配慮をするなど、常によい授業となるように働きかけること。

講義の順序とポイント

1.スポーツとは、コーチとは
2.コーチングとは
3.自分の体験を交えたコーチングについて考える
4.トップスポーツのコーチたちから学ぶⅠ
5.トップスポーツのコーチたちから学ぶⅡ
6.トップスポーツのコーチたちから学ぶⅢ
7.実習準備Ⅰ
8.実習準備Ⅱ
9.実践Ⅰ
10 実践Ⅱ
11.実践Ⅲ
12.実践Ⅳ
13.実践Ⅴ
14.実践Ⅵ
15.実習の振り返り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2016	授業コード	J30484001
科目名	スポーツビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Business Theory		
担当者名	柳　久恒	旧科目名称	
講義概要	本講義は、スポーツビジネスをテーマとしてその諸相について事例を紹介しながら解説する。スポーツビジネスは、スポーツ組織や選手のみならず、多くのステークホルダー（利害関係者）によって成り立っている。本講義の受講生は、さまざまなスポーツビジネスの内容について認識し、課題を解決するための方法論について思考する。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	「スポーツマネジメント 改訂版」（スポーツビジネス叢書)原田宗彦，小笠原悦子(編著）、大修館書店（2015年)、1900 円。 「スポーツマーケティング」（スポーツビジネス叢書）原田宗彦 編著　藤本淳也、松岡宏高 著、大修館書店（2008 年)、2000 円。 「スポーツ・ヘルスツーリズム」原田宗彦、木村和彦(編著）、大修館書店、2000 円。		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%)、小テスト（40%）		
到達目標	・スポーツビジネスの内容を説明することができる。 ・スポーツビジネスに興味を抱く。		
準備学習	スポーツを「する」「みる」「ささえる」などして消費する。 例）スポーツをスタジアムに足を運んで観戦する。 例）スポーツをテレビ等で観戦する。 例）スポーツイベントなどでボランティア活動をする。		
受講者への要望			
授業の進行や他の受講生の妨げになる言動は慎みましょう。 特に、正当の理由のない遅刻や途中退室は認めません。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション：講義の目標や進め方について説明し、評価方法を理解する 2. スポーツビジネスの諸相：スポーツのビジネスにかかわるリーグやクラブ、イベントなどについて紹介する 3. スポーツイベントのビジネス①：スポーツイベントのビジネスについて解説する 4. スポーツイベントのビジネス②：スポーツイベントのビジネスについて解説する 5. スポーツイベントのビジネス③：スポーツイベントのビジネスについて解説する 6. スポーツリーグのビジネス①：スポーツリーグのビジネスについて解説する 7. スポーツリーグのビジネス②：スポーツリーグのビジネスについて解説する 8. スポーツリーグのビジネス③：スポーツリーグのビジネスについて解説する 9. スポーツクラブのビジネス①：スポーツクラブのビジネスについて解説する 10. スポーツクラブのビジネス②：スポーツクラブのビジネスについて解説する 11. スポーツクラブのビジネス③：スポーツクラブのビジネスについて解説する 12. スポーツ用品メーカーのビジネス①：スポーツ用品メーカーのビジネスについて解説する 13. スポーツ用品メーカーのビジネス②：スポーツ用品メーカーのビジネスについて解説する 14. スポーツ用品メーカーのビジネス③：スポーツ用品メーカーのビジネスについて解説する 15. スポーツビジネスの現状と課題：スポーツビジネスの現状と課題について思考する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J30485A01
科目名	スポーツ医学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Medicine I		
担当者名	中張　隆司	旧科目名称	
講義概要	本講義は病気のなりたちとその予防・治療をはじめ、環境や生活様式を含む社会と健康とのかかわり等から構成され、個人および集団の健康を守るために必要となる知識、実践活動について概説する。健康の基礎が日々の暮しの中にあり、食生活、運動、勉学、労働等を中心とした生活習慣と環境との長年にわたる相互作用が健康状態に大きな影響を及ぼすことを理解し、各人が積極的な実践活動を通じて、自分に適した健康を獲得するだけでなく，学んだ知識及び指導スキルを、健康増進や介護予防にも十分に生かせるよう課題研究レポートも課す。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）、必要時にプリントを用意。		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。		
到達目標	健康管理・生活習慣病・救急処置など、生活に密接した医学の知識を子どもたちの発達段階をふまえた健康教育、中高年のメタボリックシンドロームや介護予防にも十分に生かせるよう学ぶことが到達目標である。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。			
講義の順序とポイント			
1 健康管理と運動の役割（1） 2 健康管理と運動の役割（2） 3 健康管理と運動の役割（3） 4 健康管理と運動の役割（4） 5 健康管理と運動の役割（5） 6 救急処置（一部実技も行なう）（1） 7 救急処置（一部実技も行なう）（2） 8 感染症とその他の疾患 9 スポーツ生理学（1） 10 スポーツ生理学（2） 11 スポーツ生理学（3） 12 生活習慣病（1） 13 生活習慣病（2） 14 生活習慣病（3） 15 生活習慣病（4）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J30485B01
科目名	スポーツ医学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Medicine II		
担当者名	中張　隆司	旧科目名称	
講義概要	スポーツの医学的な意義を理解する。運動処方の基礎や慢性疾患における運動療法の理論と実際なども取り上げることによって疾病予防､治療の一環としてのスポーツ医学の意義についても言及する｡運動環境､運動と疾病の関係を医学的に考察する｡スポーツに伴う身体環境の変化と疾病への影響､さらにスポーツ外傷･障害の概要等について学習する｡また、運動場面で遭遇する、熱中症（熱疲労、熱痙攣、熱射病）過換気症候群、突き指、骨折、捻挫、頭部外傷などの応急処置やテーピングの方法を習得させる。スポーツ傷害の予防等を題材として取り上げるなかで課題研究レポートも課す。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団)、必要時にプリントを用意。		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。		
到達目標	運動開始前・中・後の症状、徴候から運動中止を判定する方法を理解する。スポーツ医学的障害として熱中症、過換気症候群、高山病、整形外科的外傷などでの症状と徴候および予防法を理解する。学校や各種スポーツ活動で教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得することが到達目標である。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。			
講義の順序とポイント			
1 スポーツ選手の健康管理 2 健康管理のシステム 3 トレーニングの生理学的適応現象 4 トレーニング中の注意事項 5 トレーニングによる病的現象 6 運動障害と予防（1） 7 運動障害と予防（2） 8 運動障害と予防（3） 9 運動障害と予防（4） 10 運動障害と予防（5） 11 運動障害と予防（6） 12 スポーツによる内科的障害とその対策 13 スポーツ選手におこりやすい病気とその予防 14 スポーツによる外科的傷害とその対策 15 発育期に多いケガ・成人で多いケガ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J30503001
科目名	商業史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
講義概要	商行為とは、売買を通じてモノを「商品」として扱う行為です。私たちの社会、日々の生活は商行為と密接な関係をもっています。こうした商行為、すなわちモノを「商う」ことは、いつ頃からはじまり、私たちの生活や社会、そして文化とどのようにかかわってきたのでしょうか。本講義では、古代から幕末・維新期までの、日本の商業と商人の成り立ち、その発展の歴史を学びます。		
教材（テキスト）	なし。各講義で毎回プリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	授業は、パワーポイントを使用しておこないます。		
評価方法	復習の小テスト（３０％）と、定期試験（７０％）		
到達目標	日本の商業と商人の成り立ち、その発展の歴史を学びます。		
準備学習	各回の講義内容は、次週の授業開始時に復習の小テストをおこないます。疑問点は放置せず、整理・確認しておきましょう。		
受講者への要望			
講義の終了前に「質問タイム」を設けます。疑問点やよく理解できなかった部分があれば質問して下さい。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、古代の商業 ３、中世の商業ー座と問 ４、中世の商業ー貨幣流通と金融 ５、中世の交易 ６、戦国時代の商業と技術革新 ７、幕藩制と商業 ８、江戸初期の交易と長崎貿易 ９、株仲間について １０、流通と小売りー商いの具体例 １１、江戸時代の代表的商人 １２、商家の雇用制度 １３、江戸時代の広告・宣伝 １４、幕末開港と商業 １５、幕末・維新期の商人			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J30504A01
科目名	京都商業特別講義 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture on Commerce in Kyoto A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	本講義は、基本的には過去に大学コンソーシアム京都で開講された「学生ベンチャー・スタートアップスクール」「アントレプレナーシップ養成講座」「京都起業家実践講座」「京都社会起業家養成講座」の各講座の成果をも踏まえ、新たに開講されるものである。 　このため京都商業特別講義 A は、「理論編」としてベーシックの位置付けで、京都商業特別講義 B は「実践編」としてアドバンスの位置付けで開講する。 　京都は伝統と革新のはざまに生き抜いてきたブランド都市である。その強みについてのキーワードは「文化力」であり「夢・誇り・もてなし力」である。特に内外からの年間約 5 千万人に上る観光客を「もてなす」京都における総合的パワーは、1 次産業から 3 次産業と幅広い産業によって支えられている。取り分けて 3 次産業、特に商業が京都の都市機能を果たす上で,内向け、外向けを問わず、担ってきた役割には多大なものがある。そこで本講座においては、京都を構成する様々な産業分野の中において、商業分野に焦点を定め考察を進めたい。 　考察は京都における商業を中心とした歴史的側面、京都ビジネスの特質（老舗からベンチャービジネス）、京都地域資源の活用、農工商連携、商業集積を活用した地域の活性化などについて、流通論・商学・マーケティング論の観点からの知見を踏まえ、京都商業における現状と課題と将来像に接近したい。 　また京都学園大学は、1925 年辻本光楠先生により京都上京区において開校された、京都商業学校をルーツとしており、大学の存する亀岡市は、石門心学で商業の社会的地位を高めた、石田梅岩先生の生家の存するところでもあり、従来より、商業に関する研究については、深く取り組んできたところでもある。 　なお講義に当たっては、中小企業診断士・税理士など実際の商業経営に造詣の深い現役コンサルタントの知見を踏まえた講義も、織り込んでおり、また講義においては、課題を設定したグループワーク、質疑応答などを適宜に踏まえて、双方向性のある授業により、京都商業におけるリアルで、有意義な知見を得ることができる講座を目指す。		
教材（テキスト）	必要の都度プリントなど資料配布を行う。		
教材（参考文献）	必要の都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	受講態度(グループワークへの取り組み姿勢を含む。)（50 点)、レポート（50 点）		
到達目標	商業及び周辺学問領域における基本的な知識の習得（流通・商業・マーケティング）を図るとともに、習得した知識などを活用して、今後の京都における商業の発展のための方向性や在り方についての教養を身につける。また商業領域におけるマネジメント能力の涵養を図る。		
準備学習	自分自身を取り巻く商業環境に興味を持ち、商業に関する知識や情報については,積極的に新聞、雑誌、インターネットなどのメディアを通じて収集行うとともに、今後京都における、商業のより一層の活性化及び発展方向を見定めるという、問題意識を持って受講されたい。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加することを希望いたします。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（講義概要、到達目標など） 2　商業を対象とする関連学問領域における基礎知識の概要（流通論・商学・マーケティング論） 3　商業における基本理念①～商業の存立基盤 4　商業における基本理念②～石門心学（石田梅岩）に学ぶ商業 5　京都の歴史・文化・産業～商業との関連において 6　京都ビジネスにおける現状と課題①（老舗編） 7　京都ビジネスにおける現状と課題②（ベンチャービジネス編） 8　京都地域産業資源と商業 9　地域商業ガイドラインと商業活性化アクションプラン（京都を中心として） 10　特別講義①			

11　特別講義②
12　特別講義③
13　特別講義④
14　特別講義⑤
15　京都商業の展望

（注）特別講義においては、京都における商業振興策・支援制度、商業に関する簿記・会計及び税法、事例研究など予定している。
本講義はキャンパスプラザ京都　4 講時(14 時 30 分～16 時 00 分)で行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J30504B01
科目名	京都商業特別講義Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture on Commerce in Kyoto B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	本講座は、基本的には、京都商業特別講義Ａにおいて習得した知識などを活かして行う、少人数制の演習講座となっている。このため講義については、オリエンテーション的なものを除き最小限にとどめ、京都における商業を担うべく、起業家精神を持ち、ブランド都市京都における、商業の果たす機能の重要性を踏まえたうえで、実際に商業にどのような形で関わりを持っていくかについての事業構想及び事業計画を考察する講座である。 国際観光都市を目指す京都商業の方向性には、内向け（地域住民向け）と外向け（観光客向けなど）、日用品・身の回り品（食料・衣料など）と専門品（伝統工芸品、土産物など）、京都地域資源を活用した商業モデル、農工商連携による商業モデル、商店街など商業集積の促進による地域活性化モデルなど、幅広い観点からさまざまに、商業への接近が可能である。 このように幅広い観点から京都における新たな商業モデルを構想し、事業計画、提言を策定することが、本講座の主眼とするところである。 具体的には、新たな商業モデルのデザイン、新たな商店街のデザイン、地域資源の活用による商業のデザイン、農商工連携による商業のデザインなどなどを、実現可能性を踏まえたデザインいわゆる構想を行う講座である。 なお研究を進めるにあったっては、担当教員はもとより、複数のコンサルタントが各受講生およびグループに対して個別具体的な指導を行う。 よって当該講座における研究方法は、グループを中心とした、文献研究、事例研究、フィールドワークなどを各グループごとに計画し、実践し、進捗管理を行い、最終的には成果として商業にかかるデザインおよびプランニングを練り上げていくものである。このため本講座は、単なる知識、実践力の修得に留まらず、その過程を通じて研究における自主的な進捗管理、リーダーシップ、コミュニケーション、プレゼンテーションなどに関する能力やスキルを修得することも視野に入れている。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜提供を行う。		
評価方法	取組姿勢（２０点）、プレゼンテーション　（３０点）、研究成果（５０点）		
到達目標	商業に必要とされるマネジメントにかかる基本と原則を修得するとともに、グループ研究の過程を通じてリーダーシップ力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの涵養を図るとともに、京都商業におけるイノベーションを踏まえた、構想、計画を通じて、革新力、創造力などの修得も行いたい。		
準備学習	自分自身を取り巻く商業環境に興味を持ち、商業に関する知識や情報については,積極的に新聞、雑誌、インターネットなどのメディアを通じて収集行うとともに、今後京都における、商業のより一層の活性化及び発展方向を見定めるという、問題意識を持って受講されたい。		

受講者への要望

積極的なグループワークへの参加はもとより、京都商業への興味を持ち、京都商業における,イノベーション、活性化、商業機会などを見据えて、問題意識を持って、参加されたい。

なお可能な受講生は、ノート型パソコンを受講時持参されたい。

講義の順序とポイント

第一日目　8/9(火)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)

1　講座についてのガイダンス

2　グループ分けおよび事業構想、事業計画への組織作り、役割分担など

3　グループ討議による商業領域におけるビジネスチャンス、活性化策の発見およびそのための計画策定への進め方についての検討

4　各受講者、グループからの質疑応答（以下質疑応答という）、コンサルタントの個別指導①（以下個別指導という）

5　各グループからの進捗状況についての報告、質疑応答、個別指導②

第二日目　8/10(水)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)

6　　研究の進め方についての打ち合わせ
7　　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導③
8　　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導④
9　　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導⑤
１０　各グループからの進捗状況についての報告、質疑応答、個別指導⑥

第三日目　8/11(木)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)
１１　各グループ研究結果のまとめおよびプレゼンテーションの準備
１２　各グループ研究成果のまとめおよびプレゼンテーションの準備
１３　研究成果発表会①
１４　研究成果発表会②
15　まとめ（コンサルタントからの講評など）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	J30509A01
科目名	フィールドワークゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	太秦キャンパスでのチャレンジショップに参加し、後輩への指導を含めたリーダー的な役割を担う。 平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い知識の習得・適応を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J30509B01
科目名	フィールドワークゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	太秦キャンパスでのチャレンジショップに参加し、後輩への指導を含めたリーダー的な役割を担う。 平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い知識の習得・適応を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J4000400A
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	専門演習Ⅰ
講義概要	行政法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例解説、判例批評の読み方など基礎的な学習をする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点 70％　報告・発表 30％		
到達目標	行政法の講義で学んだ基礎知識の復習と、判例を読むことにより、行政書士試験や公務員試験の試験対策を目指す。		
準備学習	事前に配布した判例百選の該当頁を読んでくること。 講義終了時に次回の判例、参考文献を指定するので読んでおくこと。		
受講者への要望			
憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．裁判制度、判例の調べ方、レジュメの作成方法 ３．行政権の濫用 ４．委任立法の範囲 ５．公衆浴場の営業許可 ６．行政行為の効力 ７．行政裁量 ８．行政行為の撤回 ９．行政契約 10.行政指導 11．行政計画 12．行政強制 13．行政調査 14．行政罰 15.行政手続			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	★	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J4000400C
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法総論における問題について重要判例を取り上げて検討する。演習においては、判例の論点についてまとめたレジュメを報告者が作成し、参加者全員がその論点について議論することを原則とする。 また、参加者との相談の上、事例問題を解く回を設ける予定である。このことから、資格試験受験予定者、ロースクルール進学志望者、警察官・消防官をはじめとする公務員志望者の参加も歓迎する。		
教材（テキスト）	大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	刑法総論上の争点について理解を深めると同時に、議論や討論を通じて、問題を整理・分析し、判断する能力を身につけることを目標とする。また、報告・レジュメ作成を通じて、何が問題となっているのか、それに対して自身がどのように考えているかを他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることも目標とする。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、事前に指定された判例について、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、判例の内容について理解すること。		

受講者への要望

判例についての報告とそれに基づく議論を中心に行っていく予定のため、演習に積極的に参加し、発言することが望まれる。
また、無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

おおよそ以下の通りに進める予定であるが、受講生の希望によっては、内容、順序については変更の場合がある。

１．ガイダンス（判例と文献の調査方法、レジュメの作成及び文献引用の仕方など）
２．罪刑法定主義（刑罰法規の解釈、刑罰法規の明確性など）
３．構成要件該当性（１）（実行行為論ー不作為による殺人、不作為による放火など）
４．構成要件該当性（２）（因果関係論－被害者の行為の介在、第三者の行為の介在など）
５．構成要件該当性（３）（錯誤論－方法の錯誤、因果関係の錯誤など）
６．構成要件該当性（４）（過失論－危険の引き受け、管理・監督過失など）
７．違法性（１）（正当行為、緊急行為）
８．違法性（２）（被害者の同意）
９．違法性（３）（安楽死、治療行為の中止）
１０．有責性（１）（実行行為と責任能力、原因において自由な行為など）
１１．有責性（２）（違法性の錯誤、期待可能性など）
１２．未遂犯論（１）（実行の着手の時期、不能犯など）
１３．未遂犯論（２）（中止未遂）
１４．共犯論（１）（共謀共同正犯、承継的共同正犯など）
１５．共犯論（２）（共犯からの離脱、共犯と中止未遂）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000400E
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法の専門演習では、通常の国際法の講義では詳しく触れることのできない日本に関わる国際法の諸問題を検討する。そのことを通じて、国際法の基本的な考え方やはたらきを理解し、そして、知識として知っている歴史的事実や時事問題を国際法の観点から考えてみよう。国際法の視点から捉え直さないと正確に理解できない現象もあるはずであり、新たな発見や見方ができる問題もあるのではないだろうか。 専門演習１では、担当教員は取り上げるテーマについて毎回講義を行うが、受講生は毎回与えられる課題について簡単な報告を行い、授業で興味を持ったテーマについてレポートを作成する。		
教材（テキスト）	レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜指示する。		
教材（その他）	条約集（出版社は問わない）を準備すること。		
評価方法	毎回行う小テスト・発言状況５０点、レポート点、報告２０点。 ただし、報告を無断で怠った場合または出席状況が 2/3 に満たない場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質や特徴を理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのか理解する。 ２．レジュメを作成し、報告の仕方を身につける。 ３．国際法の問題について集団で討論できるようになる。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、予習課題を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

国際法に関連する問題は公務員試験などで必ず出題されるし、国際法の知識は社会の様々な場面で必要となる。国際問題を勉強しながら自らのキャリア形成に向けて準備をしたい学生を歓迎する。国際法Ⅰ、Ⅱの双方またはいずれかを履修していることが望ましい。

講義の順序とポイント

＊取り上げるテーマについては、受講生の要望などにより変更することがある。
１．受講ガイダンス
２．伝統的国際法と明治政府の欧化政策
３．伝統的国際法における戦争と近代日本
４．東京裁判、靖国神社参拝問題
５．国連の集団安全保障体制と平和憲法
６．在日米軍基地問題
７．日本の領土（１）－領土の変遷
８．日本の領土（２）－北方領土問題
９．日本の領土（３）－竹島問題
１０．日本の領土（４）－尖閣諸島問題
１１．海洋法と日本（１）－日本の海域
１２．海洋法と日本（２）－日中韓での海域の境界確定問題
１３．WTO の自由貿易体制と日本
１４．国際環境法と日本の地球温暖化防止対策
１５．日本における外国人の処遇

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000400H
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	専門演習Ⅰ
講義概要	専門演習１では、労働法の領域のうち,個別的労働関係法を主たる対象とする。必要に応じて集団的労働関係法も対象とする。 近年、労働法の領域も種々新たな立法や改正がなされてるが、この演習では労働法上の基本的な問題を取り上げて、ゼミ生全員で調べ、考え、議論しながら、各テーマについて検討していくこととする。 専門演習２以降では、内容的により難しい課題へとステップアップしていくが、この演習１では、労働基準法や労働契約法および判例法理等を踏まえつつ、検討していく。 まずは、学生諸君が将来社会人として企業等に勤務した際も、最低限知っておいてほしいと思われる基本事項を取り扱う予定である。演習で取り上げる各テーマにつき、大学の講義で使用するテキストのほか、雑誌に掲載されている論文や裁判例等を素材として、単なる知識の習得というだけではなく、企業等実務においても役立つことができる活きた知識の修得を目的に、考察を加えていく。		
教材（テキスト）	開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか「労働法判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税を必携のこと。		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、2014 年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
評価方法	出席を前提にゼミ内での発言内容や判例報告など（50％）と期末レポート試験（50％）とで評価する予定である。		
到達目標	将来社会人として必要とされる労働法の基本的な知識の取得を目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
講義開始までに労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下の内容で進める予定であるが、ゼミ生と相談して内容を多少組み替える場合がある。 第１回　演習の進め方・その他諸注意・報告の仕方の説明 第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは） 第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合） 第４回　労働契約と権利・義務 第５回　就業規則 第６回　労働協約 第７回　募集・採用内定 第８回　男女雇用平等 第９回　解雇・労働契約の終了 第 10 回　賃金・退職金 第 11 回　労働時間 第 12 回　労働組合の結成 第 13 回　労働組合の運営 第 14 回　団体交渉 第 15 回　最近の重要判例			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	ー	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J4000400K
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法を学ぶ。取り扱う判例は、比較的新しいものとしたい。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉』（成文堂）。		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007） 遠藤浩・川井健編『民法基本判例集』（勁草書房） 民法判例百選Ⅰ・Ⅱ		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	・取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 ・１５回出席することを前提として（やむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 35%、レポート 15%、宿題の実施状況 15%。		
到達目標	・法学部生として求められる最低限度の内容でレジュメが作成できるようになる。 ・他人に対して自分の意見を正しく伝えることができるようになる。 ・自らのスケジュールをしっかり管理し、事前連絡・事後報告ができるようになる。 ・民法がおもしろいと思えるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。―もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。		

受講者への要望

・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得すること。ゼミと平行していても構わない。
・ゼミはコミュニケーションの場であり、恥ずかしがらずに、色々質問しよう。
・教室移動に関わる遅刻（5 分程度）ややむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁！！
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をすること。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価の際に減点する。

講義の順序とポイント

民法の勉強がある程度進んでいることを前提とし、下記のテーマを扱う。今後の状況によりテーマが変わる可能性があるが、現時点においては、次のことを考えている。また、受講者の提案も受け付ける。

【進め方】

担当者は担当判例の理解に必要な民法上の制度についてまず 1 度報告し、参加者が判例を確実に理解できる前提を整えた上で、2 日目に最高裁判決そのものについて発表し、参加者で議論する。

【各回の内容】

1．ガイダンス 1 ―ゼミでの心構え、ゼミの運営方法等の確認、参加者の自己紹介、報告者（ないし報告班）の決定、ゼミでの報告について

渡邊博己「判例の調べ方とゼミでの報告」『法学の扉』110 頁～114 頁

《課題》

・自分の報告日を確認し、その 1 週間前に事前確認をするとして、いつまでにレジュメを仕上げなければならないか、いつまでに文献を収集し、読まなければならないか、計画しよう。

・生活の乱れを防止するために、まず時間割を基本にして 1 週間の生活を考えよう。

2．ガイダンス 2 ―情報の調べ方、レジュメの作り方、

新井京・西片聡哉「法情報の調べ方」『法学の扉』87 頁～109 頁
判決文には何が書かれているのかの確認
3．94 条 2 項・110 条の類推適用（最判平 18・2・23 判時 1925 号 92 頁）（百選 1　22 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
4．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
5．無権代理人の本人相続（最判平 5・1・21 判時 1478 号 107 頁）（百選 1　36 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
6．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
7．賃貸借契約の終了と転借人への対抗（最判平 14・3・28 判時 1787 号 119 頁）（百選 1　3 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
8．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
9．民法 194 条に該当する善意占有者の使用収益権（最判平 12・6・27 判時 1715 号 12 頁）（百選 1　66 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
10．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
11．通常有すべき安全性――イレッサ薬害訴訟（最判平 25・4・12 判時 2189 号 53 頁）（百選 2　83 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
12．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
13．ゼミレポートを書く 1― 卒業論文を念頭に
脚注の付け方の確認、参考文献の書き方の再確認
今まで読んできた文献の形をまねしながら、発表した判例についてレポートにしましょう。
14．ゼミレポートを書く 2― 卒業論文を念頭に
レポート作成中の質問・相談を行う時間
15．ゼミレポートを書く 3― 卒業論文を念頭に
書いたもののチェックを受けて、修正。
（宿題）　レポートを提出期限までに完成させる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000400L
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	この専門演習では、会社法に関する基本判例を検討しながら、報告や討論の仕方を身につける。判例を分担して、あらかじめ指示された報告者が報告を行い、その報告に基づいてゼミ生全員で質問や討論を行うという形式をとる。現実の事件と判例の検討を通じて、株式会社についての理解を深めていく。発表者以外の受講者にも、積極的な発言とコメントカードの提出を求めるので、十分な予習が必要である。また、学期末にはレポートの提出を求める。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（参考文献）	なし。プリントを配布する。		
教材（その他）	六法必携。		
評価方法	平常点（70%）出席状況、報告への取り組み、討論での発言等。レポート（30%）。		
到達目標	会社法に関わる基本的知識を修得する中で、課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。		
準備学習	各回の演習終了時に教科書の次回関連範囲を指定するので、予習しておくこと。また、演習終了時に課題を指定するので、次回演習開始時に提出すること。特に報告者は、十分に資料を収集し、報告に備えること。		
受講者への要望			
会社法の単位を取得済の者が履修すること。民間企業への就職を第１希望としている学生の履修が望ましい。また、卒業研究（1 万 2 千字程度）には積極的に挑戦してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．会社の能力と目的の範囲 ３．発起人の開業準備行為 ４．募集株式の有利発行 ５．書面による議決権行使と委任状勧誘 ６．取締役解任の正当理由 ７．取締役の注意義務と経営判断原則 ８．取締役会決議を経ない取引の効力 ９．取締役の第三者に対する責任 １０．公正な会計慣行と取締役等の責任 １１．合資会社の社員の出資義務と持分払戻請求権 １２．社債管理者の責任 １３．会社分割と労働契約 １４．企業買収の基本合意書中の協議禁止条項の効力 １５．違法行為の差止請求権			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J4000400M
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	日本における経済法の中心は、独占禁止法です。この法律は、市場経済における経済活動の基本ルール「公正かつ自由な競争」を定めています。独占禁止法の基礎理論は、「経済法Ⅰ」及び「経済法Ⅱ」で学びます。この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分で選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 まず、３回生春の専門演習１では、経済法の前提知識として、経済学の基本概念を中心に学びます。このような経済知識は、実際の企業行動や私たち消費者の行動の理解に役立つツールであり、たとえ法学部生といえども身につけて欲しいものです。 演習では、担当を決め報告をしたり、議論をしたり、レポートを作成するという作業が中心になるので、積極的な参加が不可欠です。このようなことを通じて、人前で分かりやすく説明するプレゼンテーション力や文章力を鍛えます。		
教材（テキスト）	吉本佳生『出社が楽しい経済学』（ＮＨＫ出版、２００９年）		
教材（参考文献）	授業の進行に応じて適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポートを中心とし、発言・受講態度を加味する）　２０％ 報告　　５０％ 学期末レポート　３０％ 欠席は、事前連絡の有無、理由に応じて減点します。		
到達目標	経済の基本概念を理解し、報告やレポートの基本を修得する。		
準備学習	各回の授業において、次回までにすべき予習・復習のための課題を指示するので、 それを次回に提出すること。 報告担当者は、教科書や資料をよく読み、図や表などを用いたレジュメを作成し、分かりやすく説明できるように準備しておくこと。		

受講者への要望

１　「経済法」を受講すること
２　毎回出席し、課題に積極的に取り組むこと
３　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

１　オリエンテーション・サンクコスト
２　機会費用
３　比較優位
４　インセンティブ
５　モラルハザード
６　逆選択
７　価格差別
８　裁定
９　　囚人のジレンマ
１０　共有地の悲劇
１１　現在割域価値
１２　ネットワーク外部性
１３　ロックイン
１４　スクリーニング
１５　まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J4000400N
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。		
教材（テキスト）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業の中でそのつど個別のものを指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。		
評価方法	原則、欠席は認めない（特に無断欠席）。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。 ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容（６０％）、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点（４０％）によって評価する。		
到達目標	刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ的確に事案を処理するための 判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として４年次には「卒業研究」を完成させる。		
準備学習	報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。

講義の順序とポイント

取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

１．演習の進め方等についてのガイダンス
２．文献検索・引用の仕方
３．裁判所見学について
４．刑事手続きの流れについて
５．発表、報告の仕方について
６．　レジュメ作成とその確認
７．裁判所見学の発表
８．判例研究報告（１）
９．　判例研究報告（２）
１０．判例研究報告（３）
１１．判例研究報告（４）
１２．　ゼミ論文のテーマ探し と文献収集について
１３．少年法における問題点とディベート（１）
１４．少年法における問題点とディベート（２）
１５．進路に関してー夏休みにしておくべきことー

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J4000500A
科目名	専門演習 2	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar II		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	専門演習 II
講義概要	行政法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例解説、判例批評の読み方などの基礎的な学習をする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点 70％　報告・発表 30％		
到達目標	行政法の講義で学んだ基礎知識の復習と、判例を読むことにより、行政書士試験や公務員試験の試験対策を目指す。		
準備学習	事前に配布した行政判例百選の該当頁を読んでくるここと。 講義終了時に次週の判例の参考文献を指定するので読んでくること。		
受講者への要望			
憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2．行政不服申立て① 3．行政不服申立て② 4．司法審査とその限界 5．行政訴訟と民事訴訟 6．取消訴訟の対象① 7．取消訴訟の対象② 8．原告適格① 9．原告適格② 10．訴えの利益 11．国家賠償法 1 条責任① 12．国家賠償法 1 条責任② 13．国家賠償法 2 条責任① 14.国家賠償法 2 条責任② 15.損失補償			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	★	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J4000500C
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅱ		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論における問題について重要判例を取り上げて検討する。演習においては、判例の論点についてまとめたレジュメを報告者が作成し、参加者全員がその論点について議論することを原則とする。 また、参加者との相談の上、事例問題を解く回を設ける予定である。このことから、資格試験受験予定者、ロースクルール進学志望者、警察官・消防官をはじめとする公務員志望者の参加も歓迎する。		
教材（テキスト）	大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	刑法各論上の争点について理解を深めると同時に、議論や討論を通じて、問題を整理・分析し、判断する能力を身につけることを目標とする。また、報告・レジュメ作成を通じて、何が問題となっているのか、それに対して自身がどのように考えているかを他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることも目標とする。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、事前に指定された判例について、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、判例の内容について理解すること。		

受講者への要望

判例についての報告とそれに基づく議論を中心に行っていく予定のため、演習に積極的に参加し、発言することが望まれる。
また、無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

おおよそ以下の通りに進める予定であるが、受講生の希望によっては、内容、順序については変更の場合がある。

１．ガイダンス（判例と文献の調査方法、レジュメの作成及び文献引用の仕方など）
２．生命および身体に対する罪（１）（自殺関与罪と殺人罪の限界、偽装心中と殺人罪など）
３．生命および身体に対する罪（２）（暴行によらない傷害、PTSD と傷害の成否など）
４．生命および身体に対する罪（３）（自動車運転に関する犯罪）
５．生命および身体に対する罪（４）（遺棄の概念、胎児と人の限界など）
６．自由および私生活の平穏に対する罪（親権者による未成年者略取、ビラ配布行為と邸宅侵入罪など）
７．名誉および信用に対する罪（名誉毀損罪における公然性の意義、名誉毀損罪における事実の真実性に関する錯誤）
８．財産に対する罪（１）（窃盗罪の保護法益、刑法上の占有、死者の占有など）
９．財産に対する罪（２）（暴行後の領得意思、二項強盗と処分意思、事後強盗罪における窃盗機会の継続性など）
１０．財産に対する罪（３）（無銭飲食と二項詐欺、クレジットカードの不正使用と詐欺、誤振込、権利行使と恐喝罪など）
１１．財産に対する罪（４）（不動産の二重売買と横領罪、背任罪における（「図利加害目的」、背任と横領の区別など）
１２．公衆の平穏および安全に対する罪（難燃性建造物における放火罪の既遂時期など）
１３．公共の信用に対する罪（写真コピーの文書性、ファックスの文書性など）
１４．国家作用に対する罪（１）（職務行為の適法性、公務執行妨害罪における暴行、犯人の死亡と犯人隠避罪の成否など）
１５．国家作用に対する罪（２）（社交儀礼と賄賂罪、賄賂罪における「職務に関し」の意義、あっせん収賄罪の成否など）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000500E
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅱ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	専門演習２では、春学期に作成したレポートを基にして受講生が報告を行い、各テーマについてさらに掘り下げた検討を行う。そのことにより、受講生が卒業研究の執筆に向けて足がかりをつかもう。		
教材（テキスト）	資料を授業で適宜配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜指示する。		
教材（その他）	条約集を準備すること（出版社は問わない）。		
評価方法	出席・発言状況５０点、レポート３０点、報告２０点。 ただし、出席状況が 2/3 に満たない場合または報告を無断で怠った場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質や特徴を理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのか理解する。 ２．レジュメを作成し、報告の仕方を身につける。 ３．国際法の問題について集団で討論できるようになる。		
準備学習	授業が終了する際に次回の授業内容と予習範囲を指定するので、予習課題を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．国際問題に関心をもつこと。
２．国際法Ⅰ、Ⅱの双方またはいずれかを履修していることが望ましい。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．受講生の報告
３．受講生の報告
４．受講生の報告
５．受講生の報告
６．受講生の報告
７．受講生の報告
８．受講生の報告
９．受講生の報告
１０．受講生の報告
１１．残された課題の検討
１２．残された課題の検討
１３．残された課題の検討
１４．残された課題の検討
１５．残された課題の検討

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000500H
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅱ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	専門演習Ⅱ
講義概要	専門演習２では、専門演習１で学んだ労働法の基礎知識をもとに、個別的労働関係法および集団的労働係法の領域における裁判例を正確に読み込んでいく力を養う。 個人又は一定人数のグループ単位で裁判例の報告を行って、ゼミ生全員で考え、議論しながら、当該裁判例に含まれている各テーマ（争点）について検討していく。テーマとしては専門演習１で取り扱った項目も対象とする場合があるが、その場合でも内容的にはより深く掘り下げて、レベルアップしたものとする。 学生諸君が将来社会人として企業等に勤務した際にも、最低限必要な法律知識のみならず、裁判例（判例法理）をも踏まえた、より実務に即した形での基礎知識を身につけられるように展開していくこととする。授業で取り上げる各テーマについては、大学の講義で使用するテキストや裁判例のほか、雑誌に掲載されている論文等も素材としながら、考察を加えていく。		
教材（テキスト）	開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税を必携のこと。		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、20１４年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
評価方法	出席を前提に授業内での発言内容や判例報告など（50％）と期末レポート試験（50％）とで評価する予定である。		
到達目標	将来社会人として必要とされる労働法の基本的な知識に加え、裁判例をも踏まえたより高いレベルの知識の把握および理解を目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		

受講者への要望

講義開始までに労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、ゼミ生と相談して内容を多少組み替える場合がある。

第１回　配置転換・出向
第２回　時間外労働・休日労働
第３回　年次有給休暇
第４回　派遣労働
第５回　パートタイム労働
第６回　女性労働・年少労働
第７回　外国人労働
第８回　職場規律・懲戒
第９回　災害補償
第 10 回　組合活動
第 11 回　争議行為・使用者の争議行為（ロック・アウト）
第 12 回　不当労働行為
第 13 回　不当労働行為の救済
第 14 回　労働関係紛争の解決手続
第 15 回　最近の重要判例

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J4000500K
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅱ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法を学ぶ。取り扱う判例は、比較的新しいものとしたい。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	遠藤浩・川井健編『民法基本判例集』（勁草書房） 民法判例百選Ⅰ・Ⅱ 中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	・取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 ・１５回出席することを前提として（やむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 35%、レポート 15%、宿題の実施状況 15%。		
到達目標	・法学部生として求められる最低限度の内容でレジュメが作成できるようになる。 ・他人に対して自分の意見を正しく伝えることができるようになる。 ・自らのスケジュールをしっかり管理し、事前連絡・事後報告ができるようになる。 ・民法がおもしろいと思えるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。―もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。		

受講者への要望

・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得すること。ゼミと平行していても構わない。
・ゼミはコミュニケーションの場であり、恥ずかしがらずに、色々質問しよう。
・教室移動に関わる遅刻（5 分程度）ややむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁！！
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をすること。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価の際に減点する。

講義の順序とポイント

民法の勉強がある程度進んでいることを前提とし、下記のテーマを扱う。今後の状況によりテーマが変わる可能性があるが、現時点においては、次のことを考えている。また、受講者の提案も受け付ける。

【進め方】

担当者は担当判例の理解に必要な民法上の制度についてまず 1 度報告し、参加者が判例を確実に理解できる前提を整えた上で、2 日目に最高裁判決そのものについて発表し、参加者で議論する。

【各回の内容】

1．報告判例・日程の決定；レポートの講評。
2．相殺適状の要件（最判平 25・2・28 判時 2182 号 55 頁）（百選２　43 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認
3．同上
　　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
4．賃貸人の修繕義務不履行と賃借人の損害回避減少措置（最判平 21・1・19 判時 2032 号 45 頁）（百選２　6 事件）
　　事件に関する事実の概要

民法の制度の確認

5．同上

事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

6．将来発生する債権の譲渡（最判平 11・1・29 判時 1666 号 54 頁）（百選２　28 事件）

事件に関する事実の概要

民法の制度の確認

7．同上

事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

8．面会交流の間接強制（百選３　20 事件）

事件に関する事実の概要

民法の制度の確認

9．同上

事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

10．夫と通じた者に対する妻の慰謝料請求権（最判平 8・3・26 判時 1563 号 72 頁）（百選３　10 事件）

事件に関する事実の概要

民法の制度の確認

11．同上

事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

12．民法 915 条 1 項の「自己のために相続の開始があったことを知った時」の意義（最判昭 59・4・27 判時 1116 号 29 頁）（百選３　75 事件）

事件に関する事実の概要

民法の制度の確認

13．同上

事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

14．遺産分割協議と詐害行為取消権（最判平 11・6・11 判時 1682 号 54 頁）（百選３　68 事件）

事件に関する事実の概要

民法の制度の確認

15．同上

事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000500L
科目名	専門演習 2	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar II		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法に関わる主要判例をテーマに設定し、議論を行いながら、理解を深めていく。具体的には、報告担当者に修得済の知識を活かしながら報告を行ってもらい、これを踏まえて受講者全員で議論を進めていく。このような活動を続けていくことで、口頭で説明し、それを対して質問し、さらに議論を進めて問題解決を図るという共同作業のノウハウを習得する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第 2 版〕』（別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（参考文献）	なし。プリントを配布する。		
教材（その他）	六法必携。		
評価方法	平常点（70%）出席状況、報告への取り組み、討論での発言等。レポート等（30%）。		
到達目標	会社法に関わる基本的知識を修得・応用する中で、課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。		
準備学習	各回の演習終了時に教科書の次回関連範囲を指定するので、予習しておくこと。また、演習終了時に課題を指定するので、次回演習開始時に提出すること。特に報告者は、十分に資料を収集し、報告に備えること。		
受講者への要望			
会社法については、履修済であること。金融商品取引法の履修も望ましい。また、卒業研究（1 万 2 千字程度）には積極的に挑戦してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 譲渡制限株式の評価 3. 株主名簿の閲覧拒否事由 4. 自己株式の取得 5. 募集株式の発行の差止め 6. 株主提案の取扱い 7. 取締役の説明義務 8. 内部統制システム 9. 取締役の競業避止義務 10. 表見代表取締役 11. 株主代表訴訟の対象となる取締役の責任 12. 会計帳簿閲覧謄写請求 13. 会計監査人の責任 14. MBO における株式の取得価格 15. 会社分割と詐害行為取消権			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J4000500M
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅱ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。また、必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。また、学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。		
教材（テキスト）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業の中でそのつど個別のものを指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。		
評価方法	原則、欠席は認めない（特に無断欠席）。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。 ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容（６０％）、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点（４０％）によって評価する。		
到達目標	刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ的確に事案を処理するための 判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として４年次には「卒業研究」を完成させる。		
準備学習	報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。

講義の順序とポイント

取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

１．夏休み中取り組みの報告発表
２．ゼミ論文テーマ報告会（１）
３．ゼミ論文テーマ報告会（２）
４．文献収集および引用の仕方
５．ゼミ論文目次作成作業（１）
６．ゼミ論文目次作成作業（２）
７．中間報告会（１）
８．　中間報告会（２）
９．　ゼミ論文添削作業（３）
１０．ゼミ論文添削作業（４）
１１．ゼミ論文添削作業（５）
１２．　ゼミ論文報告会（１）
１３．ゼミ論文報告会（２）
１４　ゼミ論文提出と総評
１５　ゼミの総まとめと進路に向けての取り組みについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J4000500N
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar II		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	日本における経済法の中心は、独占禁止法です。独占禁止法の基礎理論は、「経済法 I」及び「経済法 II」で学びます。この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分で選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 　まず、３回生秋の専門演習２では、専門演習１で学んだ経済学の知識と報告・レポートの書き方の力を土台として、講義で学ぶ独占禁止法の内容を掘り下げます。　演習では、担当を決め報告をしたり、議論をしたり、レポートを作成するという作業が中心になるので、積極的な参加が不可欠です。このようなことを通じて、人前で分かりやすく説明するプレゼンテーション力や文章力を鍛えます。		
教材（テキスト）	経済法の講義と同じ。		
教材（参考文献）	進度に応じて適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内レポートを中心とし、発言・受講態度を加味する）　２０％ 報告　　５０％ 学期末レポート　３０％ 欠席は、事前連絡の有無、理由に応じて減点します。		
到達目標	独占禁止法の理解を深める。比較的シンプルな事例について、独禁法上のどの行為類型が問題になるのか、その違法性判断の方法を理解できるようになる。そして、報告やレポートの作成の基礎を習得する。		
準備学習	各回の授業において、次回までにすべき予習・復習のための課題を指示するので、 それを次回に提出すること。 報告担当者は、教科書や資料をよく読み、図式を使ったレジュメを作成し、分かりやすく説明できるように準備しておくこと。		

受講者への要望

１　「経済法」を受講すること
２　毎回出席し、課題に積極的に取り組むこと
３　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

講義の順序の目安

１　オリエンテーション
２　独占禁止法の目的と全体像
３　入札談合
４　入札談合
５　カルテル
６　カルテル
７　私的独占
８　私的独占
９　企業結合
１０　企業結合
１１　不当な取引制限（取引拒絶）
１２　不当な取引制限（拘束条件付き取引）
１３　不当な取引制限（抱き合わせ）
１４　不当な取引制限（優越的地位の濫用）
１５　総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J4000600B
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	専門演習Ⅰ
講義概要	行政法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例解説、判例批評の読み方など基礎的な学習をする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点 70％　報告・発表 30％		
到達目標	行政法の講義で学んだ基礎知識の復習と、判例を読むことにより、行政書士試験や公務員試験の試験対策を目指す。		
準備学習	事前に配布した判例百選の該当頁を読んでくること。 講義終了時に次回の判例、参考文献を指定するので読んでおくこと。		
受講者への要望			
憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．裁判制度、判例の調べ方、レジュメの作成方法 ３．行政権の濫用 ４．委任立法の範囲 ５．公衆浴場の営業許可 ６．行政行為の効力 ７．行政裁量 ８．行政行為の撤回 ９．行政契約 10.行政指導 11．行政計画 12．行政強制 13．行政調査 14．行政罰 15.行政手続			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	★	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J4000600C
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	専門演習２までの学修を踏まえ、家族法分野を素材に、ゼミ生が主体となり共同研究および個別研究を行う。具体的成果として、5,000 字程度の小論文を執筆するとともに、卒業研究の執筆に向けた準備を行うことを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 家族法判例百選〔第７版〕（有斐閣、2008 年） 二宮周平『家族法〔第４版〕』（新世社、2013 年） その他、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	参加状況（50％）、小論文の内容（50％）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を報告し、他人の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。 ３．5,000 字程度の小論文を執筆する。		
準備学習	報告担当者は十分に準備をし、当日は必ず出席すること。担当者以外の出席者も検討予定の判例または文献に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
ゼミ生ひとりひとりの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。 １．　婚姻外の男女関係の解消 ２．　近親婚と遺族年金受給権 ３．　夫婦同氏制度の合憲性 ４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権 ５．　有責配偶者の離婚請求 ６．　財産分与と慰謝料請求権との関係 ７．　嫡出推定制度 ８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用 ９．　代理出産と母子関係 １０．子の命名権 １１．面会交流権 １２．成年に達した子に対する扶養義務 １３．熟慮期間の起算点 １４．生命保険金請求権の相続財産性 １５．高齢者の遺言能力		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000600D
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法総論における問題について重要判例を取り上げて検討する。演習においては、判例の論点についてまとめたレジュメを報告者が作成し、参加者全員がその論点について議論することを原則とする。 また、参加者との相談の上、事例問題を解く回を設ける予定である。このことから、資格試験受験予定者、ロースクルール進学志望者、警察官・消防官をはじめとする公務員志望者の参加も歓迎する。		
教材（テキスト）	大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	刑法総論上の争点について理解を深めると同時に、議論や討論を通じて、問題を整理・分析し、判断する能力を身につけることを目標とする。また、報告・レジュメ作成を通じて、何が問題となっているのか、それに対して自身がどのように考えているかを他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることも目標とする。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、事前に指定された判例について、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、判例の内容について理解すること。		

受講者への要望

判例についての報告とそれに基づく議論を中心に行っていく予定のため、演習に積極的に参加し、発言することが望まれる。
また、無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

おおよそ以下の通りに進める予定であるが、受講生の希望によっては、内容、順序については変更の場合がある。

１．ガイダンス（判例と文献の調査方法、レジュメの作成及び文献引用の仕方など）
２．罪刑法定主義（刑罰法規の解釈、刑罰法規の明確性など）
３．構成要件該当性（１）（実行行為論ー不作為による殺人、不作為による放火など）
４．構成要件該当性（２）（因果関係論－被害者の行為の介在、第三者の行為の介在など）
５．構成要件該当性（３）（錯誤論－方法の錯誤、因果関係の錯誤など）
６．構成要件該当性（４）（過失論－危険の引き受け、管理・監督過失など）
７．違法性（１）（正当行為、緊急行為）
８．違法性（２）（被害者の同意）
９．違法性（３）（安楽死、治療行為の中止）
１０．有責性（１）（実行行為と責任能力、原因において自由な行為など）
１１．有責性（２）（違法性の錯誤、期待可能性など）
１２．未遂犯論（１）（実行の着手の時期、不能犯など）
１３．未遂犯論（２）（中止未遂）
１４．共犯論（１）（共謀共同正犯、承継的共同正犯など）
１５．共犯論（２）（共犯からの離脱、共犯と中止未遂）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000600G
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	受講生がこれまで取り組んできた国際法のテーマについて、掘り下げた検討を行い、報告での討論等を踏まえてレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜紹介する。		
教材（その他）	位田隆一・最上俊樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年）		
評価方法	平常点（出席状況、受講態度など）５０点、報告３０点、レポート２０点。 ただし、報告を無断で怠った場合または出席状況が 2/3 に満たない場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質やはたらきを理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのかを理解する。 ２．国際法の問題について集団で討論することができるようになる。 ３．これまで取り組んできたテーマについて、レポートにまとめる。		
準備学習	授業が終了する際に次回の授業内容と予習範囲を指定するので、予習課題を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．与えられた課題について、投げ出さずに、根気強く最後まで取り組むこと。
２．就活で忙しいとは思うが、無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．受講生の報告
３．受講生の報告
４．受講生の報告
５．受講生の報告
６．受講生の報告
７．受講生の報告
８．受講生の報告
９．受講生の報告
１０．受講生の報告
１１．受講生の報告
１２．受講生の報告
１３．受講生の報告
１４．受講生の報告
１５．受講生の報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000600H
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	専門演習３では、労働判例百選および水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』掲載されている重要判例の報告を中心に演習を進めていく予定である。 　個別的労働関係法の領域における判例を主たる対象としつつも、集団的労働関係法の領域における判例も対象とする。毎回ゼミ生に一事案を報告してもらい、その事案に含まれている法律上の争点などに関してゼミ生全員で考え、議論しながら検討していく。 　報告者には必ず判決原文に当たったうえで、争点や当該判決等についての考え方などを発表してもらう。判例を素材に現実社会での事例を通じて、単なる知識の習得というだけではなく、企業等実務においても役立つことができる活きた知識の習得を目的に、考察を加えていく。		
教材（テキスト）	開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税を必携のこと。		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、2014 年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
評価方法	出席・報告・授業内レポートなど（５０％）と期末レポート（５０％）とで評価する予定である。		
到達目標	労働法の基本的な構成並びに各論点および判例法理を理解することを目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
演習開始までに再度労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下の内容で進める予定であるが、春学期にゼミ生と相談のうえテーマ等を組み替える場合がある。 ただし、判例百選および事例演習労働法掲載のものに限定する。 第１回　横浜南労基署長（旭紙業）事件 第２回　朝日放送事件 第３回　全農林警職法事件 第４回　ルフトハンザドイツ航空事件 第５回　三菱樹脂事件 第６回　大日本印刷事件 第７回　三菱樹脂事件 第８回　東京電力（千葉）事件 第９回　岩手銀行事件 第 10 回　野村證券事件 第 11 回　丸子警報機事件 第 12 回　福岡セクシュアル・ハラスメント事件 第 13 回　秋北バス事件 第 14 回　オリンパス光学工業事件 第 15 回　松下電器産業（年金減額）事件			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J4000600J
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法に関わる主要判例をテーマに設定し、議論を行いながら、引き続き理解を深めていく。報告担当者に修得済の知識を活かしながら報告を行ってもらい、これを踏まえて受講者全員で議論を進めていく。受講者には自らの研究テーマを設定し、卒業研究（1 万 2 千字程度）に積極的にチャレンジしてもらいたい。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第 2 版〕』（別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（参考文献）	なし。プリントを配布する。		
教材（その他）	六法必携。		
評価方法	平常点（70%）出席状況、報告への取り組み、討論での発言等。レポート等（30%）。		
到達目標	会社法に関わる知識を応用する中で、課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。卒業研究に取り組む。		
準備学習	各回の演習終了時に教科書の次回関連範囲を指定するので、予習しておくこと。また、演習終了時に課題を指定するので、次回演習開始時に提出すること。特に報告者は、十分に資料を収集し、報告に備えること。		

受講者への要望

自分の興味・関心に応じて、研究テーマを設定すること。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション
2．議決権行使阻止工作と利益供与
3．失念株と不当利得
4．譲渡制限株式の評価
5．募集新株予約権の有利発行
6．取締役選任決議の不存在とその後の取締役選任決議の効力
7．取締役の責任と法令違反
8．銀行の取締役の善管注意義務
9．検査役選任請求と持株要件
10．違法行為の差止請求権
11．取締役の報酬の変更
12．取締役会決議が必要な重要な財産の処分
13．株主代表訴訟の対象となる取締役の責任
14．株主代表訴訟の被告側への会社の補助参加の可否
15．帳簿閲覧請求の要件

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J4000600K
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。		
教材（テキスト）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業の中でそのつど個別のものを指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。		
評価方法	原則、欠席は認めない（特に無断欠席）。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。 ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容（６０％）、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点（４０％）によって評価する。		
到達目標	刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ的確に事案を処理するための 判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として４年次には「卒業研究」を完成させる。		
準備学習	報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。

講義の順序とポイント

取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

１．演習の進め方等についてのガイダンス
２．文献検索・引用の仕方の復習
３．小論文の書き方
４．発表、報告の仕方について
５．判例研究報告（１）
６．判例研究報告（２）
７．判例研究報告（３）
８．判例研究報告（４）
９．　卒業研究テーマ探し　（１）
１０．卒業研究テーマ探し（２）
１１．参考文献収集（１）
１２．　参考文献収集（２）
１３．目次作成（１）
１４．目次作成（２）
１５．進路に関してー夏休みにしておくべきことー

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	ー	ー	ー	★

年度	2016	授業コード	J4000600L
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分の選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 ４回生の春学期では、秋学期に卒業研究またはゼミ論を執筆することを念頭に置き、各受講生が関心のある経済法に関する分野を中心に、内容を掘り下げて学ぶ。経済法の内容に関する学びだけでなく、論文作成に向けて、文章力を鍛えることを目的とします。 さらに、春学期の専門演習で取り上げた、経済の概念について確認し理解を深めます。 ３回生との合同ゼミとなるので、先輩として、見本となる報告や議論をすることを通じて、より一層、人前で分かりやすく説明する能力を鍛えることも目指します。		
教材（テキスト）	専門演習１及び経済法Ⅰと同じ		
教材（参考文献）	適宜プリントなどを配布します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポートを中心とし、発言・受講態度を加味する）　２０％ 報告（２回）　　５０％ 学期末レポート　３０％ 欠席は、事前連絡の有無、理由に応じて減点する。		
到達目標	経済法全般および経済の重要概念についての理解をより確実なものとし、自分の選んだテーマについての理解を深める。		
準備学習	各回の授業において、次回までにすべき予習・復習のための課題を指示するので、 それを次回に提出すること。 報告担当者は、教科書や資料をよく読み、図式を使ったレジュメを作成し、分かりやすく説明できるように準備しておくこと。授業で指示する内容の予習や報告の準備を行うこと。		

受講者への要望

１　「経済法」を受講すること
２　毎回出席し、課題に積極的に取り組むこと
３　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

講義の順序の目安

１　オリエンテーション
２　入札談合１
３　入札談合２
４　入札談合３
５　入札談合４
６　入札談合５
７　企業結合１
８　企業結合２
９　企業結合３
１０　企業結合４
１１　不公正な取引方法１
１２　不公正な取引方法２
１３　不公正な取引方法３
１４　不公正な取引方法４
１５　まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	－	★

年度	2016	授業コード	J4000600M
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法を学びながら、最新の法状況を知る。取り扱う判例は、比較的新しいものとしたい。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉』（誠文堂）。		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	後輩への指導及び取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 １５回出席することを前提として（もちろんやむを得ない場合を除く）、後輩の指導 20%、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 40%、レポート 15%。		
到達目標	・後輩に判例・文献検索、レジュメ作成についてのアドバイスができるようになる。 ・より多くの情報を収集して報告でき、質疑に対して的確に回答できるようになる。 ・議論を誘導したり、盛り上げたりできるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。― もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。 ・事件の論点を明確に押さえてくること。		

受講者への要望

・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得してください。ゼミと平行していても構いません。
・ゼミはコミュニケーションの場です。恥ずかしがらずに、色々質問しましょう。
・教室移動に関わる遅刻（5 分程度）ややむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁です。
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をしなさい。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価にマイナスに作用します。
・就職活動によりやむを得ず欠席する場合にも、事前に連絡しなければ、怠慢による欠席と扱うので、心得ておくこと。

講義の順序とポイント

民法の勉強がある程度進んでいることを前提とし、下記のテーマを扱う。今後の状況によりテーマが変わる可能性があるが、現時点においては、次のことを考えている。また、受講者の提案も受け付ける。

【進め方】
担当者は担当判例の理解に必要な民法上の制度についてまず 1 度報告し、参加者が判例を確実に理解できる前提を整えた上で、2 日目に最高裁判決そのものについて発表し、参加者で議論する。

【各回の内容】
1．ガイダンス 1 ―ゼミでの心構え、ゼミの運営方法等の確認、参加者の自己紹介、報告者（ないし報告班）の決定、ゼミでの報告について
渡邊博己「判例の調べ方とゼミでの報告」『法学の扉』110 頁～114 頁
《課題》
・自分の報告日を確認し、その 1 週間前に事前確認をするとして、いつまでにレジュメを仕上げなければならないか、いつまでに文献を収集し、読まなければならないか、計画しよう。
・生活の乱れを防止するために、まず時間割を基本にして 1 週間の生活を考えよう。
2．ガイダンス 2 ―情報の調べ方、レジュメの作り方、

新井京・西片聡哉「法情報の調べ方」『法学の扉』87 頁～109 頁
判決文には何が書かれているのかの確認
3．94 条 2 項・110 条の類推適用（最判平 18・2・23 判時 1925 号 92 頁）（百選 1　22 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
4．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
5．無権代理人の本人相続（最判平 5・1・21 判時 1478 号 107 頁）（百選 1　36 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
6．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
7．賃貸借契約の終了と転借人への対抗（最判平 14・3・28 判時 1787 号 119 頁）（百選 1　3 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
8．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
9．民法 194 条に該当する善意占有者の使用収益権（最判平 12・6・27 判時 1715 号 12 頁）（百選 1　66 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
10．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
11．通常有すべき安全性――イレッサ薬害訴訟（最判平 25・4・12 判時 2189 号 53 頁）（百選 2　83 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
12．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
13．ゼミレポートを書く 1― 卒業論文を念頭に
脚注の付け方の確認、参考文献の書き方の再確認
今まで読んできた文献の形をまねしながら、発表した判例についてレポートにしましょう。
14．ゼミレポートを書く 2― 卒業論文を念頭に
執筆中の質問
15．ゼミレポートを書く 3― 卒業論文を念頭に
書いたもののチェックを受けて、修正。
（宿題）　レポートを提出期限までに完成させる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000700A
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	専門演習Ⅳ
講義概要	専門演習４では、大学４年間の総括として労働法全般の中から重要テーマにつき総合的検討を加えていく。取り扱うテーマについては、秋学期開講時にゼミ生の希望等も聞いたうえで決定する。卒業研究を履修するゼミ生には各自の希望テーマに応じて論文指導等していく。		
教材（テキスト）	開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税を必携のこと。		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、2014 年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
評価方法	出席・報告・授業内レポートなど（５０％）と期末レポート試験（５０％）とで評価する予定である。		
到達目標	労働法の基本的な構成並びに各論点および判例法理を、多角的に、しかも高度に理解することを目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
演習開始までに再度労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下の内容で進める予定であるが、秋学期開講時にゼミ生と相談のうえテーマ等を組み替える場合がある。ただし、判例百選掲載のものに限定する。 第１回　日立製作所武蔵工場事件 第２回　白石営林署事件 第３回　時事通信社事件 第４回　陸上自衛隊八戸車両整備工場事件 第５回　電通事件 第６回　炭研精工事件 第７回　東亜ペイント事件 第８回　高知放送事件 第９回　国労広島地本事件 第 10 回　国鉄札幌運転区事件 第 11 回　都南自動車教習所事件 第 12 回　弘南バス事件 第 13 回　丸島水門事件 第 14 回　中労委（オリエンタルモーター）事件 第 15 回　国鉄事件			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J4000700B
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論における問題について重要判例を取り上げて検討する。演習においては、判例の論点についてまとめたレジュメを報告者が作成し、参加者全員がその論点について議論することを原則とする。 また、参加者との相談の上、事例問題を解く回を設ける予定である。このことから、資格試験受験予定者、ロースクルール進学志望者、警察官・消防官をはじめとする公務員志望者の参加も歓迎する。		
教材（テキスト）	大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版)』（悠々社・２０１１）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％)、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	刑法各論上の争点について理解を深めると同時に、議論や討論を通じて、問題を整理・分析し、判断する能力を身につけることを目標とする。また、報告・レジュメ作成を通じて、何が問題となっているのか、それに対して自身がどのように考えているかを他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることも目標とする。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、事前に指定された判例について、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、判例の内容について理解すること。		

受講者への要望

判例についての報告とそれに基づく議論を中心に行っていく予定のため、演習に積極的に参加し、発言することが望まれる。
また、無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

おおよそ以下の通りに進める予定であるが、受講生の希望によっては、内容、順序については変更の場合がある。

１．ガイダンス（判例と文献の調査方法、レジュメの作成及び文献引用の仕方など）
２．生命および身体に対する罪（１）（自殺関与罪と殺人罪の限界、偽装心中と殺人罪など）
３．生命および身体に対する罪（２）（暴行によらない傷害、PTSD と傷害の成否など）
４．生命および身体に対する罪（３）（自動車運転に関する犯罪）
５．生命および身体に対する罪（４）（遺棄の概念、胎児と人の限界など）
６．自由および私生活の平穏に対する罪（親権者による未成年者略取、ビラ配布行為と邸宅侵入罪など）
７．名誉および信用に対する罪（名誉毀損罪における公然性の意義、名誉毀損罪における事実の真実性に関する錯誤）
８．財産に対する罪（１）（窃盗罪の保護法益、刑法上の占有、死者の占有など）
９．財産に対する罪（２）（暴行後の領得意思、二項強盗と処分意思、事後強盗罪における窃盗機会の継続性など）
１０．財産に対する罪（３）（無銭飲食と二項詐欺、クレジットカードの不正使用と詐欺、誤振込、権利行使と恐喝罪など）
１１．財産に対する罪（４）（不動産の二重売買と横領罪、背任罪における（「図利加害目的」、背任と横領の区別など）
１２．公衆の平穏および安全に対する罪（難燃性建造物における放火罪の既遂時期など）
１３．公共の信用に対する罪（写真コピーの文書性、ファックスの文書性など）
１４．国家作用に対する罪（１）（職務行為の適法性、公務執行妨害罪における暴行、犯人の死亡と犯人隠避罪の成否など）
１５．国家作用に対する罪（２）（社交儀礼と賄賂罪、賄賂罪における「職務に関し」の意義、あっせん収賄罪の成否など）罪の成否など）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000700C
科目名	専門演習 4	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	専門演習 II
講義概要	行政法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例解説、判例批評の読み方などの基礎的な学習をする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点 70％　報告・発表 30％		
到達目標	行政法の講義で学んだ基礎知識の復習と、判例を読むことにより、行政書士試験や公務員試験の試験対策を目指す。		
準備学習	事前に配布した行政判例百選の該当頁を読んでくるここと。 講義終了時に次週の判例の参考文献を指定するので読んでくること。		
受講者への要望			
憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2．行政不服申立て① 3．行政不服申立て② 4．司法審査とその限界 5．行政訴訟と民事訴訟 6．取消訴訟の対象① 7．取消訴訟の対象② 8．原告適格① 9．原告適格② 10．訴えの利益 11．国家賠償法 1 条責任① 12．国家賠償法 1 条責任② 13．国家賠償法 2 条責任① 14.国家賠償法 2 条責任② 15.損失補償			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	★	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J4000700D
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	家族法分野を素材に、ゼミ生が主体となり共同研究および個別研究の総仕上げを行う。具体的成果として、卒業研究の執筆を進め、これを完成させることを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） その他、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	参加状況（50％）、研究成果（50％）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を報告し、他人の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。 ３．卒業研究を執筆する。		
準備学習	報告担当者は十分に準備をし、当日は必ず出席すること。担当者以外の出席者も報告予定の判例およびこれに関連する基本的文献に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
ゼミ生ひとりひとりの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。 １．　婚姻外の男女関係の解消 ２．　近親婚と遺族年金受給権 ３．　夫婦同氏制度の合憲性 ４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権 ５．　有責配偶者の離婚請求 ６．　財産分与と慰謝料請求権との関係 ７．　推定の及ばない子 ８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用 ９．　代理出産と母子関係 １０．子の命名権 １１．面会交流権 １２．成年に達した子に対する扶養義務 １３．熟慮期間の起算点 １４．生命保険金請求権の相続財産性 １５．高齢者の遺言能力		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000700H
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	受講生がこれまで取り組んできた国際法のテーマについて、掘り下げた検討を行い、報告での討論等を踏まえてレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜紹介する。		
教材（その他）	位田隆一・最上俊樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年）		
評価方法	平常点（出席点、受講態度など）５０点、報告３０点、レポート２０点。 ただし、報告を無断で怠った場合または出席状況が 2/3 に満たない場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質やはたらきを理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのかを理解する。 ２．国際法の問題について集団で討論することができるようになる。 ３．これまで取り組んできたテーマについて、レポートにまとめる。		
準備学習	授業が終了する際に次回の授業内容と予習範囲を指定するので、予習課題を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．与えられた課題について、投げ出さずに、根気強く最後まで取り組むこと。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．受講生の報告
３．受講生の報告
４．受講生の報告
５．受講生の報告
６．受講生の報告
７．受講生の報告
８．受講生の報告
９．受講生の報告
１０．受講生の報告
１１．受講生の報告
１２．受講生の報告
１３．受講生の報告
１４．受講生の報告
１５．受講生の報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000700J
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法・消費者法に関わる生きた方を学ぶ。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	後輩への指導及び取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 １５回出席することを前提として（もちろんやむを得ない場合を除く）、後輩の指導 20%、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 40%、レポート 15%。		
到達目標	・後輩に判例・文献検索、レジュメ作成についてのアドバイスができるようになる。 ・より多くの情報を収集して報告でき、質疑に対して的確に回答できるようになる。 ・議論を誘導したり、盛り上げたりできるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。― もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。 ・事件の論点を明確に押さえてくること。		

受講者への要望

・あわせて「卒業研究」も登録すること。
・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得してください。ゼミと平行していても構いません。
・ゼミはコミュニケーションの場です。恥ずかしがらずに、色々質問しましょう。
・教室移動に関わる遅刻（5 分程度）ややむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁です。
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をしなさい。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価にマイナスに作用します。
・就職活動によりやむを得ず欠席する場合にも、事前に連絡しなければ、怠慢による欠席と扱うので、心得ておくこと。

講義の順序とポイント

民法の勉強がある程度進んでいることを前提とし、下記のテーマを扱う。今後の状況によりテーマが変わる可能性があるが、現時点においては、次のことを考えている。また、受講者の提案も受け付ける。

【進め方】
担当者は担当判例の理解に必要な民法上の制度についてまず 1 度報告し、参加者が判例を確実に理解できる前提を整えた上で、2 日目に最高裁判決そのものについて発表し、参加者で議論する。

【各回の内容】
1．報告判例・日程の決定；レポートの講評。
2．相殺適状の要件（最判平 25・2・28 判時 2182 号 55 頁）（百選２　43 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認
3．同上
　　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
4．賃貸人の修繕義務不履行と賃借人の損害回避減少措置（最判平 21・1・19 判時 2032 号 45 頁）（百選２　6 事件）

事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
5．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
6．将来発生する債権の譲渡（最判平 11・1・29 判時 1666 号 54 頁）（百選２　28 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
7．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
8．面会交流の間接強制（百選３　20 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
9．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
10．夫と通じた者に対する妻の慰謝料請求権（最判平 8・3・26 判時 1563 号 72 頁）（百選３　10 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
11．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
12．民法 915 条 1 項の「自己のために相続の開始があったことを知った時」の意義（最判昭 59・4・27 判時 1116 号 29 頁）（百選３　75 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
13．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
14．遺産分割協議と詐害行為取消権（最判平 11・6・11 判時 1682 号 54 頁）（百選３　68 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
15．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4000700K
科目名	専門演習 4	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法・金融商品取引法に関わる主要判例をテーマに設定し、議論を行いながら、引き続き理解を深めていく。報告担当者に修得済の知識を活かしながら報告を行ってもらい、これを踏まえて受講者全員で議論を進めていく。受講者には自らの研究テーマに基づき卒業研究（1 万 2 千字程度）を積極的に進めてもらいたい。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第 2 版〕』（別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（参考文献）	なし。プリントを配布する。		
教材（その他）	六法必携。		
評価方法	平常点（70%）出席状況、報告への取り組み、討論での発言等。レポート等（30%）。		
到達目標	会社法あるいは金融商品取引法に関わる知識を応用する中で、課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。卒業研究の完成に取り組む。		
準備学習	各回の演習終了時に教科書の次回関連範囲を指定するので、予習しておくこと。また、演習終了時に課題を指定するので、次回演習開始時に提出すること。特に報告者は、十分に資料を収集し、報告に備えること。		
受講者への要望			
自分の研究テーマについて意欲的に文献を読破すること。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 【会社法分野】 2. 会社の設立 3. 株主平等の原則 4. 自己株式の取得 5. 募集株式の発行の差止め 6. 株主提案権 7. 取締役の利益相反取引 8. 会計帳簿閲覧謄写請求 9. 合併と差止め 10. 会社分割における債権者保護 【金融商品取引法分野】 11. 公開買付規制 12. 説明義務 13. 不公正取引（1） 14. 不公正取引（2） 15. 不公正取引（3）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J4000700L
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。また、必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。また、学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。		
教材（テキスト）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業の中でそのつど個別のものを指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。		
評価方法	原則、欠席は認めない（特に無断欠席）。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。 ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容（６０％）、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点（４０％）によって評価する。		
到達目標	刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ的確に事案を処理するための 判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として４年次には「卒業研究」を完成させる。		
準備学習	報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。

講義の順序とポイント

取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

１．夏休み中取り組みの報告発表
２．卒業研究の書き方
３．卒業研究テーマ報告会
４．卒業研究テーマ報告会（２）
５．卒業研究添削作業（１）
６．卒業研究添削作業（２）
７．中間報告会（１）
８．　中間報告会（２）
９．　卒業研究添削作業（３）
１０．卒業研究添削作業（４）
１１．卒業研究添削作業（５）
１２．　卒業研究報告会（１）
１３．卒業研究報告会（２）
１４　卒業研究提出と総評
１５　ゼミの総まとめと社会人になるにあたっての取り組みについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	ー	ー	ー	★

年度	2016	授業コード	J4000700M
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分の選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 ４回生の秋学期は、卒業研究またはゼミ論を執筆が中心となる。それと並行して、経済法の講義で取り上げる内容をさらに掘り下げて学びます。論文作成のための、資料収集なども行います。 ３回生との合同ゼミとなるので、先輩として、見本となる報告や議論をすることを通じて、より一層、人前で分かりやすく説明する能力を鍛えることも目指します。		
教材（テキスト）	第１回目の授業で指示します。		
教材（参考文献）	第１回目の授業で指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポートを中心とし、発言・受講態度を加味する）２０％ 報告５０％ 学期末レポート３０％ 欠席は、事前連絡の有無、理由に応じて減点します。		
到達目標	経済法全般および経済の重要概念についての理解をより確実なものとし、自分の選んだテーマについての理解を深める。		
準備学習	授業で指示する内容の予習や報告の準備を行うこと。		

受講者への要望

１　「経済法」を受講すること
２　課題に積極的に取り組むこと
３　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

講義の順序の目安
以下は目安である。受講生の卒業研究またはゼミ論文のテーマに応じた内容を中心とする。

１　オリエンテーション
２　独占禁止法の目的と全体像
３　カルテル
４　カルテル
５　カルテル
６　カルテル
７　私的独占
８　私的独占
９　企業結合
１０　企業結合
１１　不当な取引制限（取引拒絶）
１２　不当な取引制限（拘束条件付き取引）
１３　不当な取引制限（抱き合わせ）
１４　不当な取引制限（優越的地位の濫用）
１５　総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	－	★

年度	2016	授業コード	J40009000
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	卒業研究は、大学における学業の総まとめである。これまでに講義およびゼミで学んだ知識を用いて、「労働法」の卒業論文を執筆する。ただし、執筆を希望するゼミ生に限られる。 論文を執筆する場合には、(3 回生の秋学期もしくは)4 回生の春学期から準備が必要となる。希望者は、できる限り早い時期に執筆の意思を示すこと。		
教材（テキスト）	テーマに合わせたものを指示する。		
教材（参考文献）	テーマに合わせたものを指示する。		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
評価方法	卒業論文の形式および内容の基準を満たした論文を提出した場合に単位を認定する。		
到達目標	労働法のテーマを設定し、関係する資料を収集して、読解し、自分の見解を展開できること。		
準備学習	春学期から研究テーマについて考え、文献資料を収集しておくこと。報告者は、事前に文献を熟読して、適切なレヴェルのレジュメを作成すること。 報告者以外の者も、事前に判例を熟読して、議論に参加できるレヴェルになっておくこと。		
受講者への要望			
テーマを決定し、できる限り文献を収集して、論文を執筆すること。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下のとおりであるが、各自の論文執筆状況に応じて、適宜指導する。中間報告では、文章化したものを報告すること。 第１回　卒業研究の進め方・方法 第２回　テーマ設定・資料収集 第３回　テーマ設定・資料収集 第４回　目次作成　その１ 第５回　目次作成　その２ 第６回　中間報告　その１ 第７回　指導　（校正） 第８回　指導　（校正） 第９回　指導　（校正） 第１０回　指導（校正） 第１１回　中間報告　その２ 第１２回　個人指導（校正） 第１３回　個人指導（校正） 第１４回　個人指導（校正） 第１５回　報告			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J40009001
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	専門演習で取り扱ったテーマあるいは大学 4 年間のまとめとしたいテーマを使って、卒業研究論文の執筆に取り組む。 刑事法分野から各自取り扱いたいテーマを設定し、問題点の整理、資料の調査、論文執筆の指導を行う。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜紹介する。		
評価方法	卒業研究論文によって評価する。		
到達目標	論文執筆を通じて、問題の取り上げ方、整理・分析の方法、また、他者にわかりやすく表現する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	春学期からテーマを設定し、これに沿った文献資料を用意し、問題を整理すること。 また、報告時に指摘された疑問に次回までに答えられる準備をすること。		

受講者への要望

卒業研究論文の執筆は大変労力の必要な作業である。地道な作業も多く要求され、生半可な気持ちでは完成させることは難しい。しかし、その達成感には大きなものがある。大学生活の総まとめとして、積極的に取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．テーマ設定・資料収集
3．テーマ設定・資料収集
4．目次作成　その１
5．目次作成　その２
6．中間報告　その１
7．論文執筆指導
8．論文執筆指導
9．論文執筆指導
１０．論文執筆指導
１１．中間報告　その２
１２。論文執筆指導
１３。論文執筆指導
１４．論文執筆指導
１５．最終報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40009002
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	専門演習での研究の最終仕上げと大学生活のまとめとして卒業研究に取り組む。 行政法の現代的課題の中からテーマを設定して、文献や資料を収集して研究をまとめる。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点 20％　卒業研究の提出 80％		
到達目標	各人でテーマを設定して、文献、資料をまとめて論文を完成できるようになることを目標にする。		
準備学習	原稿執筆計画に基づいて、事前に課題を与えるので、次回までにレジュメや原稿にして、毎回提出すること。		
受講者への要望			
大学生活最後の仕上げの機会なので、ぜひ登録して卒業研究を完成させること。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2．研究テーマの設定 3．研究テーマに関する先行業績と学会動向 4．研究の計画・方法 5．文献収集・資料収集 6．初稿の執筆① 7．初稿の執筆② 8．中間報告 9．指摘された部分の修正 10．原稿修正と参考文献の追加 11．最終報告準備 12．最終報告 13．指摘された部分の修正 14．推敲と最終チェック 15.原稿の完成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J40009003
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	専門演習での研究の進展を踏まえ、受講者自身が主に家族法分野から選択したテーマについて研究し、卒業研究（卒業論文）にまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究（卒業論文）の提出および内容		
到達目標	１．主に家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を卒業研究（卒業論文）というかたちにまとめることができる。		
準備学習	卒業研究（卒業論文）のテーマを設定し、文献を収集、整理する。		
受講者への要望			
ゼミ生ひとりひとりの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．卒業研究の進め方についてガイダンス ２．研究テーマ設定のためのガイダンス ３．研究テーマ設定のための準備作業 ４．参加者からの研究テーマ設定に関する説明と質疑 ５．研究テーマの最終決定 ６．文献収集のガイダンス ７．文献収集の実践 ８．文献の整理 ９．中間報告に向けた準備作業 １０．中間報告 １１．中間報告を踏まえた討議 １２．目次作成 １３．最終報告 １４．最終報告を踏まえた討議 １５．卒業研究の提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J40009008
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	受講生が専門演習で作成したレポートを基にして卒業研究論文を執筆し、担当教員が論文指導を行う。受講生は進捗状況に応じて中間報告を行い、集団での討論を通じて、完成までの課題を発見する。		
教材（テキスト）	適宜資料等を配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜紹介する。		
教材（その他）	位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年）		
評価方法	平常点、中間報告および卒業研究の提出を総合して評価を行う。		
到達目標	１．国際法に関する論文執筆を通じて、筋道だった論文構成および論理展開を身ににつける。 ２．書き言葉の正しい日本語を身につける。		
準備学習	中間報告を行うにあたり、事前に出される課題を調べてくること。		

受講者への要望

１．卒業研究の完成には忍耐力が求められるが、途中で投げ出さないこと。
２．無断欠席はしないこと（とくに報告があたっている場合)。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．受講生の中間報告
３．受講生の中間報告
４．受講生の中間報告
５．受講生の中間報告
６．受講生の中間報告
７．受講生の中間報告
８．受講生の中間報告
９．受講生の中間報告
１０．受講生の中間報告
１１．受講生の中間報告
１２．受講生の中間報告
１３．受講生の中間報告
１４．残された課題の検討
１５．残された課題の検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40009009
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の執筆に向け、論文執筆の基礎知識を教授し、執筆状況報告を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	図書館の請求記号 816.5 あたりが論文の書き方に関する文献である。 少し難解ではあるが、大村敦志ほか『民法研究ハンドブック』（有斐閣、2000）がある（請求記号 324.07/O64m）。その 258 頁から 285 頁を参照のこと。		
教材（その他）			
評価方法	執筆に対する熱意(30%)と執筆された卒業論文の内容(70%)とを評価する。		
到達目標	卒業論文を完成させ、文章を書くという能力の他、文章の理解をする能力をさらに高める。		
準備学習	他の講義においても、民法及びその周辺領域においてどのような問題があるのか、気に掛けておくこと。		
受講者への要望			
専門演習 4 の受講生は登録すること。就職活動の状況によっては、すぐに取り組めないこともあると思われるが、資料収集はしておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. 論文執筆のための基礎知識 ― データベースの使い方（再確認） 2. 論文執筆のための基礎知識 ― 引用文献の記載方法と資料収集に際しての注意 3. 各自のテーマと問題点についての発表 4. 論文執筆のための基礎知識 ― 脚注の付け方（ワープロソフトの使い方も含む）及び脚注の諸注意 5. 論文執筆のための基礎知識 ― 引用と盗作 6. 中間報告会 1 （取り扱う論点の説明） 7. 進度確認 8. 進度確認 9. 文章の書き方・章立ての確認 10. 文章の書き方・章立ての確認 11. 文章の書き方・章立ての確認 12. 中間報告会 2 ・締め切りに向けて― 冬休みの過ごし方 13. 提出前最終チェック ― 誤字脱字、形式、引用文献・参考文献の記載 14. 論集への提出後の校正の仕方 15. 4 年間を振り返って ― 卒論の出来具合も含めて 4 年を振り返る			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J40009010
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	専門演習 1-4 の集大成として、商法・会社法・金融商品取引法に関わるテーマを選択して卒業論文（1 万 2 千字程度）を執筆する者に対する個別的指導を行なう。なお、受講生は進捗状況に応じて中間報告を行うことになる。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	特に定めない。		
評価方法	卒業論文(80%)、平常点（20%）中間報告内容等による。		
到達目標	論理的な文章構成力を身につけ、卒業論文を完成させる。		
準備学習	講義終了時に卒業論文テーマに応じ文献・判例を指示するので、次回までに読了・検討すること。		
受講者への要望			
卒業論文の執筆は、将来の社会生活において必要な能力を養うこともできる。大学生活の総仕上げとして、意欲的に取組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
①　イントロダクション ②　テーマ設定・資料収集 ③　テーマ設定・資料収集 ④　目次作成 ⑤　目次作成 ⑥　中間報告（その 1） ⑦　個別指導 ⑧　個別指導 ⑨　中間報告（その 2） ⑩　個別指導 ⑪　個別指導 ⑫　個別指導 ⑬　個別指導 ⑭　最終報告（その 1） ⑮　最終報告（その 2）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J40009011
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習での研究あるいは大学生活のまとめとして、卒業研究に取り組む。 テーマについては各自が関心のあるテーマを刑事法分野から設定し、資料を調べ、問題点を明らかにするとともにそれらにつき考察し、論文という形にする。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	テーマに応じて指示する		
教材（その他）	テーマに応じて指示する		
評価方法	卒業研究によって評価する		
到達目標	自ら設定したテーマについて、問題点を明らかにし、文献および資料等を精査し、まとめる能力を養う。学術論文の書き方だけでなく、文章の読み方書き方を修得することができる。		
準備学習	自らのテーマについて、事前に資料を捜し、卒業研究の材料を探し、読むなどの予習をしておく必要がある。また、教員から指導、修正の指摘があった部分については、さらに資料を収集し、復習を積み重ねる必要がある。		

受講者への要望

卒業研究は大学生活の総まとめである。自らが書いた文章が、１つの論文として形づけるということは大変労力を要するが、その分、達成感もある。専門演習での学習の総まとめとして是非積極的に取り組んでほしい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション
２．　研究テーマの題材を探す
３．　研究テーマにおける問題点を考える
４．　研究テーマの設定
５．　研究計画の策定
６．　文献収集方法について
７．　引用の仕方
８．　目次作成
９．　中間報告①
１０．　中間報告②
１１．　論文作成①（随時提出してチェック）
１２．　論文作成②（随時提出してチェック）
１３．　論文作成③（随時提出してチェック）
１４．　最終報告
１５．　論文完成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J40009012
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	大学での４年間の学び、そして２年間の経済法の学びの集大成として、１万２千字程度の卒業研究を執筆します。各自のテーマと進度にあわせた個別指導が主となります。まず最初に、過去の先輩たちが執筆した卒業研究を参考に執筆する論文のイメージをつかみます。そのうえで、論文のテーマの選定、資料収集、アウトラインの作成、資料の読み込み、執筆と、段階的に論文の作成方法を学びます。この過程を通じて、論理的な文章とはどのようなものか理解し、論理的な文章が書くための課題をこなしていきます。		
教材（テキスト）	最初の授業で指示します。		
教材（参考文献）	受講生各自の卒業研究のテーマに応じて、個別に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（論文執筆過程での努力）　３０％ 卒業研究　　７０％		
到達目標	自分が選んだテーマについて研究し、論理的な構成の卒業論文を完成させる。		
準備学習	その都度指示される課題を行うこと。		
受講者への要望			
自分の選んだテーマに粘り強く取り組むこと 論理的で、読みやすい文章を書く努力を続けること			
講義の順序とポイント			
講義の順序の目安 １　　オリエンテーション ２～５　　論文の書き方 テーマの絞り込み 資料収集の仕方 ６～１０　　論文のアウトラインの作成 １１～１５　　論文の執筆			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J40012001
科目名	法哲学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy I		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を確認しつつ、これらの正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方にも言及する予定である。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメを用意する。京学なびに登録するので、事前に各自プリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業中に小論文を書いていただく。実施日は事前に講義並びに京学なびで告知する。 この小論文の素点の合計が成績となる。 それぞれの小論文の素点が 6 割未満だった場合には、再レポートを課す。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学なび）で確認すること。）

1．　初めに
2．　序論　§１　法哲学とは？（法を哲学するとは？）
3．　　§２　法の目的とは？
4．（第１回授業内レポート）
　　第１章　悪法といえども法？
　　§３　ソクラテスの法論
5．　　同上
6．　　同上
7．（第２回授業内レポート）
　　第２章　各自のものは各自へ
　　§４　アリストテレス
8．　　同上
9．　　同上
１０．（第３回授業内レポート）
　　第３章　自律の原理
　　§５　カント
１１．　　同上
１２．　　同上
　　§６　ベッカリーヤとカント―死刑制度を巡って
１３．　　同上
１４．（第４回授業内レポート）
　　第４章　功利性原理
　　§７　Ｊ．Ｓ．ミル
１５．　　同上

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40012002
科目名	法哲学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy I		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を確認しつつ、これらの正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方にも言及する予定である。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメを用意する。京学なびに登録するので、事前に各自プリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業中に小論文を書いていただく。実施日は事前に講義並びに京学なびで告知する。 この小論文の素点の合計が成績となる。 それぞれの小論文の素点が 6 割未満だった場合には、再レポートを課す。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学なび）で確認すること。）

1．　初めに
2．　序論　§１　法哲学とは？（法を哲学するとは？）
3．　　§２　法の目的とは？
4．（第１回授業内レポート）
　　第１章　悪法といえども法？
　　§３　ソクラテスの法論
5．　　同上
6．　　同上
7．（第２回授業内レポート）
　　第２章　各自のものは各自へ
　　§４　アリストテレス
8．　　同上
9．　　同上
１０．（第３回授業内レポート）
　　第３章　自律の原理
　　§５　カント
１１．　　同上
１２．　　同上
　　§６　ベッカリーヤとカント―死刑制度を巡って
１３．　　同上
１４．（第４回授業内レポート）
　　第４章　功利性原理
　　§７　Ｊ．Ｓ．ミル
１５．　　同上

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J40014001
科目名	法社会学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law Ⅰ		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学
講義概要	春学期は、まず序論として日本・欧米の法社会学の歴史をたどる中から、「法社会学とは何か」という問いへの基礎知識の獲得を行う。次に、各論として裁判をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・生命をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・宗教をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）のテーマの下で「法社会学とは何か」と言う問いへの各自の総論的視座の形成をめざす。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）、講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	裁判・生命・宗教と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切り抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って望むこと。			
講義の順序とポイント			
１．開講にあたって　―春・秋の講義全体のアウトライン― ２．法社会学とは何か　Ⅰ　日本の法社会学（１） ３．法社会学とは何か　Ⅱ　欧米の法社会学（１） ４．裁判をめぐる法社会学　Ⅰ　民事裁判・行政裁判・刑事裁判 ５．裁判をめぐる法社会学　Ⅱ　冤罪 ６．裁判をめぐる法社会学　Ⅲ　死刑制度（１） ７．裁判をめぐる法社会学　Ⅳ 死刑制度（２） ８．裁判をめぐる法社会学　Ⅴ　裁判員制度（１） ９．裁判をめぐる法社会学　Ⅵ　裁判員制度（２） １０．生命をめぐる法社会学　Ⅰ　生殖技術と法 １１．生命をめぐる法社会学　Ⅱ　脳死・臓器移植と法 １２．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　安楽死・尊厳死と法 １３．宗教をめぐる法社会学　Ⅰ　政治と宗教と法 １４．宗教をめぐる法社会学　Ⅱ　政教分離 １５．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　愛媛玉串料訴訟最高裁判決の分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J40014002
科目名	法社会学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law Ⅰ		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学
講義概要	春学期は、まず序論として日本・欧米の法社会学の歴史をたどる中から、「法社会学とは何か」という問いへの基礎知識の獲得を行う。次に、各論として裁判をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・生命をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・宗教をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）のテーマの下で「法社会学とは何か」と言う問いへの各自の総論的視座の形成をめざす。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）、講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	裁判・生命・宗教と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切り抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って望むこと。			
講義の順序とポイント			
１．開講にあたって　―春・秋の講義全体のアウトライン― ２．法社会学とは何か　Ⅰ　日本の法社会学（１） ３．法社会学とは何か　Ⅱ　欧米の法社会学（１） ４．裁判をめぐる法社会学　Ⅰ　民事裁判・行政裁判・刑事裁判 ５．裁判をめぐる法社会学　Ⅱ　冤罪 ６．裁判をめぐる法社会学　Ⅲ　死刑制度（１） ７．裁判をめぐる法社会学　Ⅳ 死刑制度（２） ８．裁判をめぐる法社会学　Ⅴ　裁判員制度（１） ９．裁判をめぐる法社会学　Ⅵ　裁判員制度（２） １０．生命をめぐる法社会学　Ⅰ　生殖技術と法 １１．生命をめぐる法社会学　Ⅱ　脳死・臓器移植と法 １２．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　安楽死・尊厳死と法 １３．宗教をめぐる法社会学　Ⅰ　政治と宗教と法 １４．宗教をめぐる法社会学　Ⅱ　政教分離 １５．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　愛媛玉串料訴訟最高裁判決の分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40017001
科目名	税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。 内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味がもてるような内容とする。		
教材（テキスト）	清永敬次『税法(新装版)』(ミネルヴァ書房)　3,360 円　(改訂の可能性あり)		
教材（参考文献）	岡村忠生ほか『ベーシック税法(第 7 版)』(有斐閣アルマ)　2,205 円(改訂の可能性あり) その他は、初回の講義時に説明する。　また、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要なレジュメはその都度(概ね毎回)配布する。		
評価方法	定期テストの成績で評価する。 平常点(出席状況等による)及びレポート・小テスト(2~3 回)の評価を加味する。 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	1　税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2　税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3　主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題の所在を知ることを目標とする。		
準備学習	日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。 講義初回に詳細な授業計画(各回のテキストの該当頁を記載したもの)を配布するので、次回履修予定部分のテキスト該当頁を予習しておくこと。 授業中に配布したプリント(毎回配布)の重要項目については、テキスト、参考文献で確認(復習)しておくこと。復習のための小テストを実施予定。		

受講者への要望

税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初回の講義時に指示する)。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　導入、租税と税法
2. 総論１　租税の意義と根拠
3. 総論２　租税法律主義・租税平等主義
4. 総論３　租税法の解釈と適用
5. 所得税１　所得税の概要、納税義務者
6. 所得税２　所得概念、帰属
7. 所得税３　所得税の計算の仕組み、課税標準
8. 所得税４　収入金額
9. 所得税５　必要経費
10. 所得税６　所得控除、税率、確定申告、確定申告書作成演習
11. 法人税１　法人税の概要
12. 法人税２　納税義務者、課税所得
13. 法人税３　益金及び損金の原則
14. 法人税４　益金及び損金の別段の定め(その 1)
15. 法人税５　益金及び損金の別段の定め(その 2)、税額計算

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J40017002
科目名	税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。 内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味がもてるような内容とする。		
教材（テキスト）	清永敬次『税法(新装版)』(ミネルヴァ書房)　3,360 円　(改訂の可能性あり)		
教材（参考文献）	岡村忠生ほか『ベーシック税法(第 7 版)』(有斐閣アルマ)　2,205 円(改訂の可能性あり) その他は、初回の講義時に説明する。　また、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要なレジュメはその都度(概ね毎回)配布する。		
評価方法	定期テストの成績で評価する。 平常点(出席状況等による)及びレポート・小テスト(2~3 回)の評価を加味する。 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	1　税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2　税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3　主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題の所在を知ることを目標とする。		
準備学習	日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。 講義初回に詳細な授業計画(各回のテキストの該当頁を記載したもの)を配布するので、次回履修予定部分のテキスト該当頁を予習しておくこと。 授業中に配布したプリント(毎回配布)の重要項目については、テキスト、参考文献で確認(復習)しておくこと。復習のための小テストを実施予定。		

受講者への要望

税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初回の講義時に指示する)。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　導入、租税と税法
2. 総論１　租税の意義と根拠
3. 総論２　租税法律主義・租税平等主義
4. 総論３　租税法の解釈と適用
5. 所得税１　所得税の概要、納税義務者
6. 所得税２　所得概念、帰属
7. 所得税３　所得税の計算の仕組み、課税標準
8. 所得税４　収入金額
9. 所得税５　必要経費
10. 所得税６　所得控除、税率、確定申告、確定申告書作成演習
11. 法人税１　法人税の概要
12. 法人税２　納税義務者、課税所得
13. 法人税３　益金及び損金の原則
14. 法人税４　益金及び損金の別段の定め(その 1)
15. 法人税５　益金及び損金の別段の定め(その 2)、税額計算

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J40020002
科目名	都市開発関係法実務	単位数	2
科目名（英語表記）	Law and Practice on Urban Planning		
担当者名	上林　研二	旧科目名称	
講義概要	都市計画行政は，無秩序な開発行為を規制し，地域全体のつり合いのとれた土地利用計画を立て，都市生活（働く・住む・育てる・学ぶ・憩う・遊ぶ）を快適にするための施設を配置することに努めるものである。その場合，都市計画法と建築基準法を基本法とし，規制・誘導事項ごとに制定された関連法をもとに進められる。しかし，法はその数を増加させ複雑化し，日々改正される。従って，当初に全体を概観した後は，身近に起こる市民の開発行為・土地利用を規制・誘導する法律とその運用を中心に講義を進める。安心・安全な住宅や快適な都市環境は市民自らが意識的に求めることが重要と考えられることから,建築確認制度とボトムアップ型都市計画である「地区計画」制度についても講義する。また，理系の知識ではあるが地震発生の仕組みと予測,被害軽減法についても図解的に講義する。		
教材（テキスト）	毎回テキストを配布		
教材（参考文献）	三村浩史著『地域共生の都市計画』学芸出版社		
教材（その他）	ビデオ教材		
評価方法	平常点（２０％）出席状況等による、各回学習確認レポート（４０％）　定期試験（４０％）		
到達目標	都市基盤整備の基礎となる土地整備や土地利用規制・誘導方策についての法定の仕組みが理解でき， あわせて今日的課題が発見できるなど総合的に理解できること。また，行政実務のイメージが湧くこと。		
準備学習	講義終了時に次回の講義テーマを伝えるので,考えておいてほしい。なお,毎回，授業の終わりに，授業内容の理解度を確認する小レポートの提出を求める。また，普段から土地整備や都市施設，町並みの実態を見て，「何故こうなっているのか」と興味をもって市街地や郊外地についての街歩を意識的に行ってほしい。こうした準備学習は行政実務の深い理解に結びつく。		

受講者への要望

問題意識をもって授業に臨んで欲しい。多岐にわたる講義内容をすべて暗記する必要はないが，法定都市計画の基本の仕組みや建築基準法の目的については納得のいくまで考えること。将来，地域生活を営む上で起こる事案（土地や住宅を購入するとか住宅を新築するなど）を検討する際に役立つものと確信している。毎講義終了時点で学習確認レポートを課すが，疑問点の表明もおおいに歓迎である。

講義の順序とポイント

１．講義ガイダンス／京都府の近代史概説
２．近代期の都市計画における後藤新平の偉業
３．関係法制定の社会的背景・・・第２次大戦の敗戦から復興と法整備
４．建築基準法・・・市街地建築物法（大正法）との比較、新法の目的
５．土地区画整理事業のしくみと今日的課題
６．都市計画法の全体像・・・旧法（大正法）との比較をまじえ
７．都市計画の実務１・・・土地利用規制、地域地区など　開発行為の制限
８．都市計画の実務２・・・土地の売買、農地転用　　（付録：地価乱高下のしくみ）
９．市街地再開発事業（法によるもの、国交省制度によるもの）
１０．歴史的市街地の構造
１１．市街地の再生事業・・・京都における路地型共同住宅団地の整備
１２．安心安全な生活・・・地震発生の仕組みと予測など
１３．大規模災害と復興事業
１４．市街地景観整備事業
１５．市街地整備の今日的な課題の再確認と新たな法整備の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J40027001
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教材（参考文献）	日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社） 中田邦博、鹿野菜穂子『基本講義消費者法』（日本評論社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法 1
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界 1
5. 消費者契約と民事法 2
   民法の契約ルールとその限界 2
6. 消費者契約と民事法 3
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法 4
   消費者契約法の内容 1
8. 消費者契約と民事法 5
   消費者契約法の内容 2
9. 消費者契約と民事法 6
   事業者の責任
10. 特定商取引法 1
    特定商取引法とは何か
    訪問販売 1
11. 特定商取引法 2
    訪問販売 2 ―クーリング・オフ
12. 特定商取引法 3
    マルチ商法―マルチ商法はなぜ問題か。どのような措置が取られているか。
13. 特定商取引法 4
    通信販売―クーリング・オフに代わる返品権、広告規制
14. 割賦販売法 1
    個別信用購入あっせんとクーリングオフ

15. 割賦販売法２

個別信用購入あっせんと抗弁の対抗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J40027002
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教材（参考文献）	日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社） 中田邦博、鹿野菜穂子『基本講義消費者法』（日本評論社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法 1
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界 1
5. 消費者契約と民事法 2
   民法の契約ルールとその限界 2
6. 消費者契約と民事法 3
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法 4
   消費者契約法の内容 1
8. 消費者契約と民事法 5
   消費者契約法の内容 2
9. 消費者契約と民事法 6
   事業者の責任
10. 特定商取引法 1
    特定商取引法とは何か
    訪問販売 1
11. 特定商取引法 2
    訪問販売 2 ―クーリング・オフ
12. 特定商取引法 3
    マルチ商法―マルチ商法はなぜ問題か。どのような措置が取られているか。
13. 特定商取引法 4
    通信販売―クーリング・オフに代わる返品権、広告規制
14. 割賦販売法 1
    個別信用購入あっせんとクーリングオフ

15. 割賦販売法２

個別信用購入あっせんと抗弁の対抗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40038A01
科目名	会社法 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law I		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法 I 」では、企業・会社の諸形態、株式会社の設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制や、計算に関する規定などの範囲を扱う。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205 会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 会社の法的性質 3. 会社の種類 4. 会社法の総則規定 5. 株主の有限責任と資本制度 6. 株式会社の設立 7. 株式の意義、株主の権利 8. 株式の内容と種類 9. 株主名簿、株式の譲渡 10. 株式の消却・併合・分割等 11. 株式会社の資金調達 12. 募集株式の発行 13. 新株予約権 14. 社債 15. 計算			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J40038A02
科目名	会社法 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law I		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法 I 」では、企業・会社の諸形態、株式会社の設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制や、計算に関する規定などの範囲を扱う。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205 会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 会社の法的性質 3. 会社の種類 4. 会社法の総則規定 5. 株主の有限責任と資本制度 6. 株式会社の設立 7. 株式の意義、株主の権利 8. 株式の内容と種類 9. 株主名簿、株式の譲渡 10. 株式の消却・併合・分割等 11. 株式会社の資金調達 12. 募集株式の発行 13. 新株予約権 14. 社債 15. 計算			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40038B01
科目名	会社法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law Ⅱ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法Ⅱ」では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）と会社の組織再編について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205 会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。期末定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．株式会社の機関設計 ３．株主総会の権限・招集 ４．株主総会の議事・決議 ５．取締役 ６．取締役の義務 ７．取締役会 ８．代表取締役 ９．監査役・監査役会 １０．会計監査人 １１．指名委員会等設置会社 １２．役員等の責任 １３．責任追及訴訟（株主代表訴訟） １４．合併 １５．会社分割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J40038B02
科目名	会社法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law Ⅱ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法Ⅱ」では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）と会社の組織再編について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205 会社法判例百選　第２版』（有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。期末定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．株式会社の機関設計 ３．株主総会の権限・招集 ４．株主総会の議事・決議 ５．取締役 ６．取締役の義務 ７．取締役会 ８．代表取締役 ９．監査役・監査役会 １０．会計監査人 １１．指名委員会等設置会社 １２．役員等の責任 １３．責任追及訴訟（株主代表訴訟） １４．合併 １５．会社分割			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40043001
科目名	金融商品取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Instruments and Exchange Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	たとえある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスで成功することはできません。企業がビジネスに必要な資金を銀行から借りる場合、たとえ赤字でも借りた資金は利子をつけて返さなければなりません。しかし、株式を発行して集めた資金は、その企業が存続する限り返す必要はなく、黒字の時だけ株主に利益の分け前である配当を渡せばよいのです。リスクがつきもののビジネスにとっては、株式による資金調達が非常に適していることは明らかです。 　しかし、投資が安心して株式を買うためには、様々なルールが整っていることが必要です。金融商品取引法は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することを目的にしています。 　この講義では金融商品取引法の基本的な仕組みを中心に学びます。		
教材（テキスト）	近藤光男ほか『基礎から学べる金融商品取引法　（第３版）　』（弘文堂、２０１５年）		
教材（参考文献）	黒沼悦郎『金融商品取引法入門　（第６版）』（日経文庫、２０１５年）		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポート等４０％）　　小テスト２回（６０％）		
到達目標	金融商品取引法の基本概念を理解し、企業の資金調達に関係するニュースに関心を持ち、何が問題になっているのか、理解できるようになる。		
準備学習	次回の内容を予告するので、教科書の該当部分を読んでおくこと。		

受講者への要望

企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

1　金融商品市場の基本的な仕組み
2　金融商品取引法の目的と全体像
3　有価証券の取引方法
4　企業内容の開示規制①（発行開示制度）
5　企業内容の開示規制①（継続開示制度）
7　金融商品取引業者の規制と小テスト１
8　小テスト１の解説と企業支配に関する開示制度①（公開買い付け）
9　企業支配に関する開示制度②（株券等の大量保有状況の開示）
１０　投資信託および集団投資スキーム
１１　不公正な取引方法の規制①（インサイダー取引）
１２　不公正な取引方法の規制②（相場操縦）
１３　不公正な取引方法の規制③（金融商品取引業者による不公正取引）
１４　罰則と課徴金
１５　金融商品取引法の課題と小テスト２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40043002
科目名	金融商品取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Instruments and Exchange Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	たとえある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスで成功することはできません。企業がビジネスに必要な資金を銀行から借りる場合、たとえ赤字でも借りた資金は利子をつけて返さなければなりません。しかし、株式を発行して集めた資金は、その企業が存続する限り返す必要はなく、黒字の時だけ株主に利益の分け前である配当を渡せばよいのです。リスクがつきもののビジネスにとっては、株式による資金調達が非常に適していることは明らかです。 　しかし、投資が安心して株式を買うためには、様々なルールが整っていることが必要です。金融商品取引法は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することを目的にしています。 　この講義では金融商品取引法の基本的な仕組みを中心に学びます。		
教材（テキスト）	近藤光男ほか『基礎から学べる金融商品取引法　（第３版）　』（弘文堂、２０１５年）		
教材（参考文献）	黒沼悦郎『金融商品取引法入門　（第６版）』（日経文庫、２０１５年）		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポート等４０％）　　小テスト２回（６０％）		
到達目標	金融商品取引法の基本概念を理解し、企業の資金調達に関係するニュースに関心を持ち、何が問題になっているのか、理解できるようになる。		
準備学習	次回の内容を予告するので、教科書の該当部分を読んでおくこと。		

受講者への要望

企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

1　金融商品市場の基本的な仕組み
2　金融商品取引法の目的と全体像
3　有価証券の取引方法
4　企業内容の開示規制①（発行開示制度）
5　企業内容の開示規制①（継続開示制度）
7　金融商品取引業者の規制と小テスト１
8　小テスト１の解説と企業支配に関する開示制度①（公開買い付け）
9　企業支配に関する開示制度②（株券等の大量保有状況の開示）
１０　投資信託および集団投資スキーム
１１　不公正な取引方法の規制①（インサイダー取引）
１２　不公正な取引方法の規制②（相場操縦）
１３　不公正な取引方法の規制③（金融商品取引業者による不公正取引）
１４　罰則と課徴金
１５　金融商品取引法の課題と小テスト２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40048001
科目名	刑法Ⅰ（刑法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law I (General Part)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ⅰ（刑法総論）では、犯罪論の基本構造（全ての犯罪に共通する犯罪成立要件）を主に解説する。このことから、刑法総論は抽象的な議論が多く、初学者には難解に感じられるかもしれないが、具体的な事例を通じてわかりやすく解説する。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法総論』（成文堂・２００９年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） 判例教材として、 ・大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年） ・山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	刑法総論をめぐる様々な争点について理解を深めることにより、学んだ知識を具体的な事例にあてはめ、分析、解決する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	刑法総論は、各論点が体系的に関連づけられているため、前回までの講義内容を理解できていないと、次の講義内容の理解が難しくなる。そのため、必ず、各講義の終了後は、該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法総論は体系的に構成されており、一度の欠席が理解を困難にする可能性があるため、毎回講義に出席することが大切である。
また、準備学習でも触れた通り、講義後の復習をしっかりすることが必要である。

講義の順序とポイント

１．刑法の意義と機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、犯罪論の体系
２．構成要件該当性（１）実行行為
３．構成要件該当性（２）因果関係
４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤
５．構成要件該当性（４）構成要件的過失
６．構成要件該当性（５）未遂犯と中止未遂
７．違法性（１）違法性の基本問題
８．違法性（２）正当行為と緊急行為
９．違法性（３）被害者の同意
１０．有責性（１）責任の本質、責任能力
１１．有責性（２）違法性の意識、期待可能性
１２．共犯論（１）正犯と共犯
１３．共犯論（２）共同正犯
１４．共犯論（３）教唆犯と従犯
１５．共犯論（４）共犯論の諸問題
補．罪数

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40048002
科目名	刑法Ⅰ（刑法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law I (General Part)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ⅰ（刑法総論）では、犯罪論の基本構造（全ての犯罪に共通する犯罪成立要件）を主に解説する。このことから、刑法総論は抽象的な議論が多く、初学者には難解に感じられるかもしれないが、具体的な事例を通じてわかりやすく解説する。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法総論』（成文堂・２００９年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） 判例教材として、 ・大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年） ・山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	刑法総論をめぐる様々な争点について理解を深めることにより、学んだ知識を具体的な事例にあてはめ、分析、解決する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	刑法総論は、各論点が体系的に関連づけられているため、前回までの講義内容を理解できていないと、次の講義内容の理解が難しくなる。そのため、必ず、各講義の終了後は、該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		
受講者への要望			
刑法総論は体系的に構成されており、一度の欠席が理解を困難にする可能性があるため、毎回講義に出席することが大切である。 また、準備学習でも触れた通り、講義後の復習をしっかりすることが必要である。			
講義の順序とポイント			
１．刑法の意義と機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、犯罪論の体系 ２．構成要件該当性（１）実行行為 ３．構成要件該当性（２）因果関係 ４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤 ５．構成要件該当性（４）構成要件的過失 ６．構成要件該当性（５）未遂犯と中止未遂 ７．違法性（１）違法性の基本問題 ８．違法性（２）正当行為と緊急行為 ９．違法性（３）被害者の同意 １０．有責性（１）責任の本質、責任能力 １１．有責性（２）違法性の意識、期待可能性 １２．共犯論（１）正犯と共犯 １３．共犯論（２）共同正犯 １４．共犯論（３）教唆犯と従犯 １５．共犯論（４）共犯論の諸問題 補．罪数			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40050001
科目名	刑法Ⅱ（刑法各論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law Ⅱ (Specific Offences)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法各論（第２版）』（成文堂・２０１２年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、 佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） また、判例教材として、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につける。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

講義の順序とポイント

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪
６．強制わいせつの罪（風俗に対する罪を含む）、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪、強盗の罪
１０．詐欺・恐喝の罪
１１．横領の罪、背任の罪
１２．盗品等に関する罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．公共危険罪
１４．取引の安全に対する罪
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40050002
科目名	刑法Ⅱ（刑法各論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law Ⅱ (Specific Offences)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法各論（第２版）』（成文堂・２０１２年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、 佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） また、判例教材として、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につける。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

講義の順序とポイント

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪
６．強制わいせつの罪（風俗に対する罪を含む）、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪、強盗の罪
１０．詐欺・恐喝の罪
１１．横領の罪、背任の罪
１２．盗品等に関する罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．公共危険罪
１４．取引の安全に対する罪
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40052001
科目名	犯罪学	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminology		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	毎日ニュースをながめていると、殺人、交通事故、少年非行、犯罪被害者など、日々世の中では犯罪が起こり、それに伴い、日本における刑事事件に関する政策がさまざまに変わってきている。特に、２０００年以降は、刑事立法の改正が進み、新たな法律、新たな制度など刑事司法が動いている時代である。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会がつくれるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪を犯した人は、どのように処遇されているのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。この講義では、まず、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度などについて検討したうえで、近年改正がなされた犯罪被害者、児童虐待、交通犯罪関連の特別法における犯罪対策についての理解を深めていく予定である。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）。他については、授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	学期末の論述式試験の結果（８０％）、そのほか、授業の中で行う感想文等（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事司法制度の現状を正しく理解し、日々の刑事政策に関するニュースを理解して見ることができるようになり、各種の犯罪対策の現状と問題点を考察することができるようになる。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、単元ごとに、それまでの授業の感想文を求めるので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。特に、理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
１　犯罪学、刑事政策とは ２　犯罪情勢 ３　犯罪の原因 ４　犯罪化と非犯罪化 ５　日本の警察制度 ６　刑罰制度 ７　犯罪者の施設内処遇 ８　犯罪者の社会内処遇 ９　犯罪者処遇の新しい動き １０　犯罪被害者の方の講演 １１　少年非行対策 １２　犯罪被害者対策 １３　交通犯罪 １４　薬物犯罪 １５　精神障害者の犯罪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J40052002
科目名	犯罪学	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminology		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	毎日ニュースをながめていると、殺人、交通事故、少年非行、犯罪被害者など、日々世の中では犯罪が起こり、それに伴い、日本における刑事事件に関する政策がさまざまに変わってきている。特に、２０００年以降は、刑事立法の改正が進み、新たな法律、新たな制度など刑事司法が動いている時代である。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会がつくれるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪を犯した人は、どのように処遇されているのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。この講義では、まず、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度などについて検討したうえで、近年改正がなされた犯罪被害者、児童虐待、交通犯罪関連の特別法における犯罪対策についての理解を深めていく予定である。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）。他については、授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	学期末の論述式試験の結果（８０％）、そのほか、授業の中で行う感想文等（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事司法制度の現状を正しく理解し、日々の刑事政策に関するニュースを理解して見ることができるようになり、各種の犯罪対策の現状と問題点を考察することができるようになる。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、単元ごとに、それまでの授業の感想文を求めるので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。特に、理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
１　犯罪学、刑事政策とは ２　犯罪情勢 ３　犯罪の原因 ４　犯罪化と非犯罪化 ５　日本の警察制度 ６　刑罰制度 ７　犯罪者の施設内処遇 ８　犯罪者の社会内処遇 ９　犯罪者処遇の新しい動き １０　犯罪被害者の方の講演 １１　少年非行対策 １２　犯罪被害者対策 １３　交通犯罪 １４　薬物犯罪 １５　精神障害者の犯罪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40054001
科目名	刑事訴訟法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure I		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法
講義概要	テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。 では、実際の刑事手続はどのような流れか知っているだろうか。事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか。このルールとして刑事手続を定める法律の代表格が「刑事訴訟法」である。 この講義では、刑事手続の流れと刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観したうえで、主として公訴が提起される前の段階について解説する。		
教材（テキスト）	渡辺咲子『刑事訴訟法講義』（信山社、第７版、2014）		
教材（参考文献）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（６０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（４０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れや捜査に関して定めた条文について理解し、刑事手続に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。さらに、それとともに、新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
１　刑事訴訟法とは ２　強制捜査 ３　任意捜査 ４　捜査の端緒 ５　小テスト①と解説 ６　逮捕・勾留 ７　検証・捜索・差押え① ８　捜索・差押え② ９　被疑者の身体に関する検査 １０　小テスト②と解説、 １１　起訴状 １２　刑事裁判の基本、訴因変更 １３　違法収集証拠排除法則 １４　自白 １５　伝聞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	ー	★★

年度	2016	授業コード	J40054002
科目名	刑事訴訟法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure I		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法
講義概要	テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。 では、実際の刑事手続はどのような流れか知っているだろうか。事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか。このルールとして刑事手続を定める法律の代表格が「刑事訴訟法」である。 この講義では、刑事手続の流れと刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観したうえで、主として公訴が提起される前の段階について解説する。		
教材（テキスト）	渡辺咲子『刑事訴訟法講義』（信山社、第７版、2014）		
教材（参考文献）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（６０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（４０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れや捜査に関して定めた条文について理解し、刑事手続に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。さらに、それとともに、新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
１　刑事訴訟法とは ２　強制捜査 ３　任意捜査 ４　捜査の端緒 ５　小テスト①と解説 ６　逮捕・勾留 ７　検証・捜索・差押え① ８　捜索・差押え② ９　被疑者の身体に関する検査 １０　小テスト②と解説、 １１　起訴状 １２　刑事裁判の基本、訴因変更 １３　違法収集証拠排除法則 １４　自白 １５　伝聞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	-	★★

年度	2016	授業コード	J40056001
科目名	国際法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law I		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅰでは、国際法の総論、国際法における国家、ならびに国際社会の空間秩序について講義する。導入部では、国際社会と国際法の独自の基本的な性格や国際法の法主体について概観する。第１部では、国際法の中心的な法主体である国家について講義する。国家がどのようにして成立するのか、国家は国際法に基づいて何をすることができ、何をしなければならないのかなどについて検討する。第２部では、国家領域や海洋法などを中心にして、地球上の空間が国際法上どのように構成されているのかについて講義する。 講義では、冒頭で具体例を提示して、ポイントを明確にする。その上で、メディアで取り上げられる国際問題や北方領土など日本に関わる問題にも随時言及しながら、国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかイメージできるように話を進めていきたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は、初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際社会ならびに国際法の独自の基本的性格を理解する。 ２．国際法の中心的な主体である国家について理解する。 ３．世界の空間秩序（陸・海・空）が国際法上どのように構成されているのか理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語をつつしむこと。
３．講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部　総論
１．受講ガイダンス、国際社会の性質と国際法
２．国際社会の性質と国際法（つづき）
３．国際法の主体

第１部　国際法における国家
４．国家の成立と変動（１）ー国家承認
５．国家の成立と変動（２）ー国家承継

６．国家の機関
７．国家の基本的権利義務
８．国家管轄権の規律
９．主権免除

第２部　国際社会の空間秩序
１０．国家領域（１）ー国家領域の構造
１１．国家領域（２）ー日本の領土問題
１２．海の国際法（１）ー現代の海洋秩序の構造
１３．海の国際法（２）ー航行利用制度
１４．海の国際法（３）ー海域の境界画定など
１５．空の国際法

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40056002
科目名	国際法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law I		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅰでは、国際法の総論、国際法における国家、ならびに国際社会の空間秩序について講義する。導入部では、国際社会と国際法の独自の基本的な性格や国際法の法主体について概観する。第１部では、国際法の中心的な法主体である国家について講義する。国家がどのようにして成立するのか、国家は国際法に基づいて何をすることができ、何をしなければならないのかなどについて検討する。第２部では、国家領域や海洋法などを中心にして、地球上の空間が国際法上どのように構成されているのかについて講義する。 講義では、冒頭で具体例を提示して、ポイントを明確にする。その上で、メディアで取り上げられる国際問題や北方領土など日本に関わる問題にも随時言及しながら、国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかイメージできるように話を進めていきたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は、初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際社会ならびに国際法の独自の基本的性格を理解する。 ２．国際法の中心的な主体である国家について理解する。 ３．世界の空間秩序（陸・海・空）が国際法上どのように構成されているのか理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語をつつしむこと。
３．講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部　総論
１．受講ガイダンス、国際社会の性質と国際法
２．国際社会の性質と国際法（つづき）
３．国際法の主体

第１部　国際法における国家
４．国家の成立と変動（１）ー国家承認
５．国家の成立と変動（２）ー国家承継

６．国家の機関
７．国家の基本的権利義務
８．国家管轄権の規律
９．主権免除

第２部　国際社会の空間秩序
１０．国家領域（１）ー国家領域の構造
１１．国家領域（２）ー日本の領土問題
１２．海の国際法（１）ー現代の海洋秩序の構造
１３．海の国際法（２）ー航行利用制度
１４．海の国際法（３）ー海域の境界画定など
１５．空の国際法

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40058001
科目名	国際法 II	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law II		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法 II では、分権的な国際社会における国際法の形成ならびに適用・実施について講義する。第 1 部では、国際法の法源である慣習法や条約がどのように作られるのかなどについて説明する。第 2 部では、国内社会と国際社会における国際法の適用・実施について講義し、国際違法行為に対する国家責任の成立・追及や国際裁判所などによる紛争の平和的処理などについて説明する。また、国際司法裁判所についての DVD 鑑賞も行う予定である。 講義では、冒頭で具体例を提示して、ポイントを明確にする。その上で、国際社会と国内社会の相違を踏まえ、日本などの具体的事例なども頻繁に取り上げながら国際法の形成や適用・実施のプロセスを通じて国際法秩序の独自の性格を分かりやすく説明するようにしたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門〜逆から学ぶ〜』（法律文化社、２０１４年） 毎回講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国際司法裁判所の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．分権的な国際社会で国際法（条約や慣習法）がどのように形成されるのか理解する。 ２．国際紛争の平和的処理の全体像を把握する。 ３．分権的な国際社会における国際裁判の役割、手続ならびに課題について把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
３．講義では、適宜休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

第１部　国際法の成立
１．受講ガイダンス、国際法の法源
２．国際法の法源（つづき）
３．条約法（１）ー条約の成立
４．条約法（２）ー留保
５．条約法（３）ー条約の無効など

第２部　国際法の適用・実施
６．国際法の国内的適用ー日本の場合を中心に
７．国家責任（１）ー国家責任の成立
８．国家責任（２）ー国家責任の追及
９．紛争の平和的処理
１０．紛争の司法的解決（１）－国際司法裁判所の手続
１１．紛争の司法的解決（２）ー国際司法裁判所の活動
１２．国際司法裁判所についての DVD 鑑賞
１３．紛争の司法的解決（３）ー紛争処理の「司法化」
１４．日本と国際裁判
１５．国連の政治的機関による紛争処理

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40060001
科目名	国際法Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law Ⅲ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅲでは、国連などの国際機構を中心にして国際社会の公益を保護するための協力の国際法について講義する。国家間の相互依存が深まる現在の国際社会では、平和の維持などの国際社会の共通・一般の利益を保護するために、諸国家が場合によっては国益を犠牲にしてまで連帯し協力しあうことが求められる。そこで重要な役割を担うのが国際機構である。本講義では、まず国連を中心として国際機構の役割について説明し（第１部）、次に平和の維持、貿易および環境保全などの分野における国際法について講義する（第２部）。また、国連の活動に関する DVD 鑑賞も予定している。 講義では、冒頭で具体例を提示してポイントを明確にする。その上で、各分野における具体例や実態にもできるだけ触れながら、諸国家の国際協力がいかに重要でかつ困難であるのか分かりやすく理解できるように心がけたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国連の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．相互依存が深まる国際社会の中での国際機構の意義や組織構造を理解する。 ２．国連の集団安全保障体制の仕組みと展開を把握する。 ３．条約などを通じた環境保全の仕組みと国際協力の意義を把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		
受講者への要望			
１．六法を必ず持参すること。 ２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 ３．講義では、休憩を取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。			
講義の順序とポイント			
第１部　国際社会の組織化と国際機構 １．受講ガイダンス、国際機構の展開（１）ー第二次大戦まで ２．国際機構の展開（２）ー第二次大戦以降 ３．国際機構の設立および組織構造－国連を中心に ４．国際機構の表決手続 ５．国連の活動に関する DVD 鑑賞			

６．地域的国際機構の活動

第２部　国際公益のための国際協力
７．平和の維持（１）ー国際連盟における戦争の禁止と集団安全保障
８．平和の維持（２）ー国連における武力行使の禁止との集団安全保障
９．平和の維持（３）ー自衛権、国連の平和維持活動
１０．平和の維持（４）ー軍縮、国際人道法
１１．国際公域における国際協力
１２．経済的国際協力
１３．環境保全（１）ー展開・基本原則
１４．環境保全（２）ー地球温暖化の防止
１５．環境保全（３）－生物多様性の保全

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40060002
科目名	国際法Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law Ⅲ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅲでは、国連などの国際機構を中心にして国際社会の公益を保護するための協力の国際法について講義する。国家間の相互依存が深まる現在の国際社会では、平和の維持などの国際社会の共通・一般の利益を保護するために、諸国家が場合によっては国益を犠牲にしてまで連帯し協力しあうことが求められる。そこで重要な役割を担うのが国際機構である。本講義では、まず国連を中心として国際機構の役割について説明し（第１部）、次に平和の維持、貿易および環境保全などの分野における国際法について講義する（第２部）。また、国連の活動に関する DVD 鑑賞も予定している。 講義では、冒頭で具体例を提示してポイントを明確にする。その上で、各分野における具体例や実態にもできるだけ触れながら、諸国家の国際協力がいかに重要でかつ困難であるのか分かりやすく理解できるように心がけたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国連の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．相互依存が深まる国際社会の中での国際機構の意義や組織構造を理解する。 ２．国連の集団安全保障体制の仕組みと展開を把握する。 ３．条約などを通じた環境保全の仕組みと国際協力の意義を把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		
受講者への要望			
１．六法を必ず持参すること。 ２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 ３．講義では、休憩を取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。			
講義の順序とポイント			
第１部　国際社会の組織化と国際機構 １．受講ガイダンス、国際機構の展開（１）ー第二次大戦まで ２．国際機構の展開（２）ー第二次大戦以降 ３．国際機構の設立および組織構造－国連を中心に ４．国際機構の表決手続 ５．国連の活動に関する DVD 鑑賞			

６．地域的国際機構の活動

第２部　国際公益のための国際協力
７．平和の維持（１）ー国際連盟における戦争の禁止と集団安全保障
８．平和の維持（２）ー国連における武力行使の禁止との集団安全保障
９．平和の維持（３）ー自衛権、国連の平和維持活動
１０．平和の維持（４）ー軍縮、国際人道法
１１．国際公域における国際協力
１２．経済的国際協力
１３．環境保全（１）ー展開・基本原則
１４．環境保全（２）ー地球温暖化の防止
１５．環境保全（３）－生物多様性の保全

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40065001
科目名	国際経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economic Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、国際貿易・海外投資・国際金融を中心にして国際経済に関わる国際法について講義する。現代では、経済分野の国内法や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっている。また、貿易や海外投資に関する紛争が国際法に依拠して司法的に解決される事例が急増しており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。 講義では、冒頭で具体例を提示してポイントを明確にする。その上で、日本に関わる具体的な事例や TPP などの時事問題にも触れながら、WTO 体制、海外投資、国際金融・通貨を中心しながら国際経済についての法的枠組みについて分かりやすく説明していきたい。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法［第２版］』（有斐閣、２０１２年） 小室程夫『新版　国際経済法』（東信堂、２００７年） 滝川敏明『WTO 法［第２版］』（三省堂、２０１０年） 中川淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 【判例集】 松下満雄ほか編『ケースブック WTO 法』（有斐閣、２００９年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集［第２版］』（東信堂、２００２年）		
教材（その他）			
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか理解する。 ２．WTO 体制を中心にした国際貿易の法的枠組みを理解する。 ３．海外投資や国際金融についての法的枠組みを理解する。		
準備学習	講義を終了する際に、次回の講義内容を指定し、レジュメを配布するので、事前に目を通してくること。		
受講者への要望			
１．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 ２．講義では、休憩も取ることもあるので集中力を切らさずに臨むこと。			
講義の順序とポイント			
導入部 １．受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法 第１部　国際貿易と国際法 ２．貿易に関する国際法の展開 ３．GATT の成立と展開 ４．WTO 体制の成立と概要 ５．WTO の紛争解決手続 ６．WTO におけるサービス貿易 ７．WTO における知的財産権 ８．WTO における農業貿易 ９．WTO と地域経済統合 １０．WTO と途上国 １１．WTO と非貿易的価値			

第２部　海外投資および国際金融と国際法
１２．海外投資に関する国際法の展開
１３．投資紛争解決
１４．国際金融に関する国際法の展開
１５．ＩＭＦ・世界銀行の組織構造と活動

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40065002
科目名	国際経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economic Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、国際貿易・海外投資・国際金融を中心にして国際経済に関わる国際法について講義する。現代では、経済分野の国内法や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっている。また、貿易や海外投資に関する紛争が国際法に依拠して司法的に解決される事例が急増しており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。 講義では、冒頭で具体例を提示してポイントを明確にする。その上で、日本に関わる具体的な事例や TPP などの時事問題にも触れながら、WTO 体制、海外投資、国際金融・通貨を中心しながら国際経済についての法的枠組みについて分かりやすく説明していきたい。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法［第２版］』（有斐閣、２０１２年） 小室程夫『新版　国際経済法』（東信堂、２００７年） 滝川敏明『WTO 法［第２版］』（三省堂、２０１０年） 中川淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 【判例集】 松下満雄ほか編『ケースブック WTO 法』（有斐閣、２００９年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集［第２版］』（東信堂、２００２年）		
教材（その他）			
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか理解する。 ２．WTO 体制を中心にした国際貿易の法的枠組みを理解する。 ３．海外投資や国際金融についての法的枠組みを理解する。		
準備学習	講義を終了する際に、次回の講義内容を指定し、レジュメを配布するので、事前に目を通してくること。		
受講者への要望			
１．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 ２．講義では、休憩も取ることもあるので集中力を切らさずに臨むこと。			
講義の順序とポイント			
導入部 １．受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法 第１部　国際貿易と国際法 ２．貿易に関する国際法の展開 ３．GATT の成立と展開 ４．WTO 体制の成立と概要 ５．WTO の紛争解決手続 ６．WTO におけるサービス貿易 ７．WTO における知的財産権 ８．WTO における農業貿易 ９．WTO と地域経済統合 １０．WTO と途上国 １１．WTO と非貿易的価値			

第２部　海外投資および国際金融と国際法
１２．海外投資に関する国際法の展開
１３．投資紛争解決
１４．国際金融に関する国際法の展開
１５．ＩＭＦ・世界銀行の組織構造と活動

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40068A01
科目名	労働法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law I		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら基礎的な展開する。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち「労働法Ⅰ」を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第６版〕』（有斐閣、2016 年）価格未定 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則１回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	職場において必要とされる法律知識のうち、本講義では個別的労働法に比重をおいてて講義を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や判例理論等を身に着けてもらうことが本講義の到達目標である。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。

また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務
第５回　就業規則
第６回　労働協約
第７回　募集・採用内定
第８回　男女雇用平等
第９回　解雇・労働契約の終了（１）
第 10 回　解雇・労働関係の終了（２）
第 11 回　賃金・退職金（１）
第 12 回　賃金・退職金（２）
第 13 回　労働時間（１）
第 14 回　労働時間（２）
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J40068B01
科目名	労働法 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law II		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	本講義では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法のなかの応用的な事項につき、講義科目「労働法 I」を履修していることを前提に、学説・判例等も踏まえたうえでより深く学んでいく。 法理論的には少し難しい問題もあるが、上記の事項における基本的な知識を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第 6 版〕』（有斐閣、2016 年）価格未定 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第 8 版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則 1 回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）およびレポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	社会人として求められる労働法の基礎知識を判例等も踏まえたうえで理解すること。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。できれば講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持っていただきたい。
　また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意
第 2 回　配置転換・出向
第 3 回　時間外労働・休日労働（1）
第 4 回　時間外労働・休日労働（2）
第 5 回　年次有給休暇
第 6 回　派遣労働（1）
第 7 回　派遣労働（2）
第 8 回　パートタイム労働
第 9 回　女性労働・年少労働
第 10 回　外国人労働
第 11 回　職場規律・懲戒
第 12 回　災害補償（1）
第 13 回　災害補償（2）
第 14 回　労働関係紛争の解決手続
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J40068B02
科目名	労働法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law Ⅱ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	本講義では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法のなかの応用的な事項につき、講義科目「労働法Ⅰ」を履修していることを前提に、学説・判例等も踏まえたうえでより深く学んでいく。 法理論的には少し難しい問題もあるが、上記の事項における基本的な知識を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第 6 版〕』（有斐閣、2016 年）価格未定 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第 8 版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則 1 回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（７0%）およびレポート等（３0%）で評価する予定である。		
到達目標	社会人として求められる労働法の基礎知識を判例等も踏まえたうえで理解すること。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。できれば講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持っていただきたい。
　また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意
第 2 回　配置転換・出向
第 3 回　時間外労働・休日労働（１）
第 4 回　時間外労働・休日労働（２）
第 5 回　年次有給休暇
第 6 回　派遣労働（１）
第 7 回　派遣労働（２）
第 8 回　パートタイム労働
第 9 回　女性労働・年少労働
第 10 回　外国人労働
第 11 回　職場規律・懲戒
第 12 回　災害補償（１）
第 13 回　災害補償（２）
第 14 回　労働関係紛争の解決手続
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40070001
科目名	社会保障法	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25 条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。 それには大きく（１）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金)、（２）社会福祉（老人・児童・障がい者)、（３）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。		
教材（テキスト）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2014 年）2100 円＋税 岩村正彦編「社会保障判例百選〔第 5 版〕」(有斐閣、2016 年)予価 2500 円＋税		
教材（参考文献）	小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001 年）3200 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税		
教材（その他）	その他の参考文献等については開講時に指示する。		
評価方法	出席を前提に、期末試験（80%）および授業内小テスト等（20%）で評価する予定である。		
到達目標	社会保障法全体像の基本的な枠組みと各論点を理解することを目標とする。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持ち、また、次回の授業項目について、関連する新聞記事を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
教科書および百選は必ず持参すること。また、社会保障に関する制度は非常に複雑になっているため、教科書以外の参考書や厚生白書等を参照し、さらにＴＶニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。 また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。			
講義の順序とポイント			
第１回　講義の進め方・その他諸注意 第２回　社会保障法とは　社会保障法の体系 第３回　医療保険法（１）　健康保険法 第４回　医療保険法（２）　国民健康保険法 第５回　年金保険法（１）　国民年金法 第６回　年金保険法（２）　厚生年金保険法 第７回　介護保険法 第８回　授業内小テスト 第９回　労災保険法 第 10 回　雇用保険法 第 11 回　児童手当　児童福祉　母子福祉　障がい者福祉 第 12 回　高齢者福祉　生活保護法 第 13 回　社会保障法総論　社会保障法の共通事項　憲法と条約 第 14 回　社会保障法総論　権利救済 第 15 回　最近の社会保障法をめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40070002
科目名	社会保障法	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	髙﨑　亨	旧科目名称	
講義概要	本講は、現代日本の社会保障制度について、その仕組みと課題について、受講生おひとりおひとりに考えていただくことを目的としています。そこで、まずはじめに、平均的な大学生が社会生活をおこなうにあたって、直面するさまざまな生活上のリスクとその管理方法を学びます。そのうえで、そうした生活リスクの保障方法(制度)の基礎となる社会保障(法)制度の概要について、学んでいただきます。本講ではとくに、医療(健康)保険と年金保険について、とりあげます。現代日本で社会生活を営むうえで、知っておくことは必須であるにもかかわらず、普段まったく意識しない社会保障(法)制度というものが、何であるか、なぜ存在するのか、そして毎日の大学生活に、どのようにかかわっているのか。この講義を通じて考えましょう。		
教材（テキスト）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2014 年）2100 円＋税		
教材（参考文献）	西村健一郎ほか編「社会保障判例百選〔第 4 版〕」（有斐閣、2008 年）2600 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税 岩村・菊池・嵩編『目で見る社会保障法教材(第 4 版)』(2007 年、有斐閣)		
教材（その他）	その他の参考文献等については開講時に指示します。		
評価方法	出席を前提に、期末試験（70%）および授業内小テスト等（30%）で評価する。小テストは毎回おこなう。		
到達目標	(1)イマドキの大学生に求められる医療保険・年全保険等の社会保障(法)制度の仕組みと意義を理解すること。とくに、自分や家族が社会保障制度が想定しているような生活リスクに直面した際にどのようなリスク保障手段を活用できるのか、そのためにはどのような法的手続きが必要なのか等、「つかえる」知識を身に着けましょう。 (2)わが国の社会保障法制上の問題について、自分の意見が(思い付きではなく)云えるようになること。		
準備学習	毎回小テストがあるので、前回の復習をしておくこと。		

受講者への要望

教科書および六法は必携。またＴＶニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。
受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。
詳細を第一講でお知らせしますので、受講予定者は、必ず出席してください。

講義の順序とポイント

第 1 回　ガイダンスと注意事項，リスク管理と生活設計，社会保障
第 2 回　リスク管理と生活設計①就職活動とキヤリアデザイン
第 3 回　リスク管理と生活設計②暮らしの中の社会保障
第 4 回　医療保険法①健康保険と国民健康保険
第 5 回　医療保険法②「保険証」のふしぎ
第 6 回　年金保険法①国民年金と厚生年金
第 7 回　年金保険法②学生納付特例の手続き
第 8 回　介護保険法のしくみ
第 9 回　労災保険法①アルバイト中に事故にあったら？
第 10 回　労災保険法②「第三者行為」災害と給付調整の手続き
第 11 回　雇用保険法のしくみ
第 12 回　生活保護法のしくみ
第 13 回　社会福祉法①高齢者サービスと障碍者サービス
第 14 回　社会福祉法②保育所・幼稚園・こども園
第 15 回　社会保険の世界史

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★★	–	–	★

年度	2016	授業コード	J40071001
科目名	経済法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law I		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　（第４版)』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編　『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と全体像 ３．不当な取引制限①（入札談合） ４．不当な取引制限②（規制の概要） ５．不当な取引制限③（行為要件） ６．不当な取引制限④(弊害要件) ７．　前半のまとめと小テスト１ ８．　　小テスト１の解説と事業者団体規制 ９．課徴金制度 １０．私的独占①（規制の概要） １１．私的独占②（排除型私的独占） １２・私的独占③（支配型私的独占） １３．エンフォースメント①（全体像・公正取引委員会・行政処分） １４．エンフォースメント②（民事救済・刑事罰） １５．独占禁止法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★	★★

年度	2016	授業コード	J40071002
科目名	経済法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law I		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　（第４版)』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編　『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と全体像 ３．不当な取引制限①（入札談合） ４．不当な取引制限②（規制の概要） ５．不当な取引制限③（行為要件） ６．不当な取引制限④(弊害要件) ７．　前半のまとめと小テスト１ ８．　　小テスト１の解説と事業者団体規制 ９．課徴金制度 １０．私的独占①（規制の概要） １１．私的独占②（排除型私的独占） １２・私的独占③（支配型私的独占） １３．エンフォースメント①（全体像・公正取引委員会・行政処分） １４．エンフォースメント②（民事救済・刑事罰） １５．独占禁止法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40076001
科目名	地方自治論	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Autonomy		
担当者名	長澤　高明	旧科目名称	
講義概要	本講義は現代日本の自治体が抱えている問題点を理解し、解決の糸口を探るための基礎的な知識を提供することを目的としています。話が抽象的にならないように、常に具体的な問題を提示しながら説明します。まだ社会人としての生活を送っていない学生諸君にとって地方自治はピンとこない分野かもしれませんが、諸君の生活に密接にかかわる分野であるということをきちんと理解できる講義にしたいと思います。新聞記事も題材に取り上げます。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません。毎回レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	その都度指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テストによる平常点（30%）。授業中に課すレポート（70%）.。		
到達目標	自分の住んでいる自治体の広報を読んで理解できるようになること。また、新聞の地方版を読んで理解できるようになること。		
準備学習	毎日、新聞を読む習慣を身につけ、疑問に感じた事柄を調べておくこと。それらを講義中に報告してもらいたい。		
受講者への要望			
諸君とともに考える講義にしたい。諸君の意見なども聞きながら講義を進めるので、常に頭をフル回転の状態にしておいてほしい。			
講義の順序とポイント			
1　地方自治体についての私たちの知識と意識の確認 2　地方自治体についての基礎知識。住民自治と団体自治。 3　自治体の権力とサービス。自治体の仕事について考える。 4　自治体の成立過程とその必然性について。 5　明治期以降の自治体の変遷。版籍奉還や廃藩置県の意味の再確認。 6　第二次世界大戦以降の自治体の変遷。戦後改革の意味を考える。 7　自治体の政策と手段①：都市型社会の到来とそれへの対応。少子高齢化問題を考える。 8　自治体の政策と手段②：公共事業と政策評価。ダム問題や空港問題についても考える。 9　自治体の経営と条例。条例について具体的に考える。 １０　財務と運営。国税と地方税。直接税と間接税。補助金問題。 １１　直接請求権と常設型住民投票について考える。 １２　市民活動と NPO について考える。 １３　地方議会と地方公務員の役割について考える。 １４　首長のリーダーシップについて考える。 １５　講義全体をふりかえり、今後何をしなければならないか、皆で議論する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	–

年度	2016	授業コード	J40076002
科目名	地方自治論	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Autonomy		
担当者名	長澤　高明	旧科目名称	
講義概要	本講義は現代日本の自治体が抱えている問題点を理解し、解決の糸口を探るための基礎的な知識を提供することを目的としています。話が抽象的にならないように、常に具体的な問題を提示しながら説明します。まだ社会人としての生活を送っていない学生諸君にとって地方自治はピンとこない分野かもしれませんが、諸君の生活に密接にかかわる分野であるということをきちんと理解できる講義にしたいと思います。新聞記事も題材に取り上げます。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません。毎回レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	その都度指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テストによる平常点（30%）。授業中に課すレポート（70%）.。		
到達目標	自分の住んでいる自治体の広報を読んで理解できるようになること。また、新聞の地方版を読んで理解できるようになること。		
準備学習	毎日、新聞を読む習慣を身につけ、疑問に感じた事柄を調べておくこと。それらを講義中に報告してもらいたい。		
受講者への要望			
諸君とともに考える講義にしたい。諸君の意見なども聞きながら講義を進めるので、常に頭をフル回転の状態にしておいてほしい。			
講義の順序とポイント			
1　地方自治体についての私たちの知識と意識の確認 2　地方自治体についての基礎知識。住民自治と団体自治。 3　自治体の権力とサービス。自治体の仕事について考える。 4　自治体の成立過程とその必然性について。 5　明治期以降の自治体の変遷。版籍奉還や廃藩置県の意味の再確認。 6　第二次世界大戦以降の自治体の変遷。戦後改革の意味を考える。 7　自治体の政策と手段①：都市型社会の到来とそれへの対応。少子高齢化問題を考える。 8　自治体の政策と手段②：公共事業と政策評価。ダム問題や空港問題についても考える。 9　自治体の経営と条例。条例について具体的に考える。 １０　財務と運営。国税と地方税。直接税と間接税。補助金問題。 １１　直接請求権と常設型住民投票について考える。 １２　市民活動と NPO について考える。 １３　地方議会と地方公務員の役割について考える。 １４　首長のリーダーシップについて考える。 １５　講義全体をふりかえり、今後何をしなければならないか、皆で議論する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J40079001
科目名	憲法Ⅰ（憲法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law I (General Part)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	日本国憲法について、基本原理と全体像を入門的な位置づけで学ぶ。 憲法の意味、基本的人権、統治機構の概略を学ぶとともに、現在の改憲の動きを見据える。、		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%)　出席状況、授業内レポート等による平常点(20%)。		
到達目標	憲法の意味、日本国憲法の成立、基本的人権、統治機構について学説と判例の基本的な知識を習得する。 2 回生以降、憲法Ⅱ(基本的人権)、憲法Ⅲ(統治機構)を学ぶための基礎学力を養成する。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当する憲法の条文、教科書の該当頁を読んで予習する。		

受講者への要望

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
それ以外に、テレビや新聞で取り上げられている憲法問題にも注目してほしい。憲法についてはさまざまな立場があるが、一方的な情報に基づいて判断するのではなく、講義で取り上げる憲法の基本原理、学説・判例を習得したうえで現在の諸問題について多角的に検討する力をつけてほしい。

講義の順序とポイント

１．憲法とは何か
２．天皇制
３．幸福追求権
４．法の下の平等
５．信教の自由と政教分離
６．表現の自由
７．経済的自由権
８．生存権
９．刑事手続と人身の自由
１０．国会
１１．内閣
１２．裁判所
１３．地方自治
１４．平和主義
１５．改憲の動き

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J40079002
科目名	憲法Ⅰ（憲法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law I (General Part)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	日本国憲法について、基本原理と全体像を入門的な位置づけで学ぶ。 憲法の意味、基本的人権、統治機構の概略を学ぶとともに、現在の改憲の動きを見据える。、		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%)　出席状況、授業内レポート等による平常点(20%)。		
到達目標	憲法の意味、日本国憲法の成立、基本的人権、統治機構について学説と判例の基本的な知識を習得する。 2 回生以降、憲法Ⅱ(基本的人権)、憲法Ⅲ(統治機構)を学ぶための基礎学力を養成する。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当する憲法の条文、教科書の該当頁を読んで予習する。		

受講者への要望

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
それ以外に、テレビや新聞で取り上げられている憲法問題にも注目してほしい。憲法についてはさまざまな立場があるが、一方的な情報に基づいて判断するのではなく、講義で取り上げる憲法の基本原理、学説・判例を習得したうえで現在の諸問題について多角的に検討する力をつけてほしい。

講義の順序とポイント

１．憲法とは何か
２．天皇制
３．幸福追求権
４．法の下の平等
５．信教の自由と政教分離
６．表現の自由
７．経済的自由権
８．生存権
９．刑事手続と人身の自由
１０．国会
１１．内閣
１２．裁判所
１３．地方自治
１４．平和主義
１５．改憲の動き

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40081001
科目名	憲法Ⅱ（基本的人権）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅱ (Fundamental Human Rights)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における「基本的人権」に関する部分を取り扱います。 まずは基本的人権論で問題となっていることについて具体的なイメージをもってもらうために、個別の人権規定に関する理解を深めていきます。次いで、基本的人権一般に関わる総論部分（基本的人権の歴史、分類とその享有主体、限界）について学びます。 憲法の条文や関連する専門的概念には抽象的で曖昧なものが数多くありますが、その意味は各々の時代や社会を生きる人々によって具体的な現実の中でどのように解釈されてきたかを理解することでより一層明らかになるものです。そこで本講義では、具体的な事例や判例を取り上げることによって、個々の局面における各々の人権の内容やその限界について検討していきます。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権［第 6 版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣） ※両方とも授業で必ず使用します。		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 60%、講義中の確認テスト 20%、課題の提出 20%		
到達目標	（１）憲法学における基本的人権および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）基本的人権をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。 そして各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。 さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		
受講者への要望			
受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。 私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 講義のスケジュールと到達目標、基本的人権の特質、様々な人権 2. 人身の自由（１） 居住・移転の自由、奴隷的拘束からの自由 3. 人身の自由（２）と国務請求権 被疑者・被告人の権利、裁判を受ける権利 4. 生存権 生存権を具体化する様々な法律、生存権の法的性格 5. 教育を受ける権利、労働基本権 学習権、教育権の所在、労働基本権の保障内容 6. 職業選択の自由 営業の自由、規制の諸類型、規制目的二分論 7. 財産権の保障 私有財産制と所有権、「正当な補償」 8. 思想・良心の自由、学問の自由 思想・良心の自由の意義と保障内容、先端科学技術と研究の自由、大学の自治 9. 表現の自由 表現の自由の価値、表現の自由の保障内容、表現の自由規制の諸法理 10. 信教の自由 信教の自由の保障内容とその限界、政教分離原則 11. 包括的基本権 幸福追求権、新しい人権			

12. 法の下の平等
　何を平等とするのか、平等保障の具体的制度、差別をめぐる諸問題
13. 基本的人権の歴史
　人権思想はどのような歴史をたどってきたのか、人権の社会化・国際化
14. 基本的人権の分類とその享有主体
　人権の観念とその内容、人権は誰に帰属するのか―外国人や法人の場合
15. 基本的人権の限界
　人権を制約するための根拠、特別権力関係、人権の私人間効力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J40081002
科目名	憲法Ⅱ（基本的人権）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅱ (Fundamental Human Rights)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における「基本的人権」に関する部分を取り扱います。 まずは基本的人権論で問題となっていることについて具体的なイメージをもってもらうために、個別の人権規定に関する理解を深めていきます。次いで、基本的人権一般に関わる総論部分（基本的人権の歴史、分類とその享有主体、限界）について学びます。 憲法の条文や関連する専門的概念には抽象的で曖昧なものが数多くありますが、その意味は各々の時代や社会を生きる人々によって具体的な現実の中でどのように解釈されてきたかを理解することでより一層明らかになるものです。そこで本講義では、具体的な事例や判例を取り上げることによって、個々の局面における各々の人権の内容やその限界について検討していきます。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権［第 6 版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣） ※両方とも授業で必ず使用します。		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 60%、講義中の確認テスト 20%、課題の提出 20%		
到達目標	（１）憲法学における基本的人権および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）基本的人権をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。 そして各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。 さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		
受講者への要望			
受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。 私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 講義のスケジュールと到達目標、基本的人権の特質、様々な人権 2. 人身の自由（１） 居住・移転の自由、奴隷的拘束からの自由 3. 人身の自由（２）と国務請求権 被疑者・被告人の権利、裁判を受ける権利 4. 生存権 生存権を具体化する様々な法律、生存権の法的性格 5. 教育を受ける権利、労働基本権 学習権、教育権の所在、労働基本権の保障内容 6. 職業選択の自由 営業の自由、規制の諸類型、規制目的二分論 7. 財産権の保障 私有財産制と所有権、「正当な補償」 8. 思想・良心の自由、学問の自由 思想・良心の自由の意義と保障内容、先端科学技術と研究の自由、大学の自治 9. 表現の自由 表現の自由の価値、表現の自由の保障内容、表現の自由規制の諸法理 10. 信教の自由 信教の自由の保障内容とその限界、政教分離原則 11. 包括的基本権 幸福追求権、新しい人権			

12. 法の下の平等
　何を平等とするのか、平等保障の具体的制度、差別をめぐる諸問題
13. 基本的人権の歴史
　人権思想はどのような歴史をたどってきたのか、人権の社会化・国際化
14. 基本的人権の分類とその享有主体
　人権の観念とその内容、人権は誰に帰属するのか―外国人や法人の場合
15. 基本的人権の限界
　人権を制約するための根拠、特別権力関係、人権の私人間効力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J40082001
科目名	憲法Ⅲ（統治機構）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅲ (Frame of Governm ent)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における統治機構に関する部分を取り扱います。 まず具体的な制度（議院内閣制、両院制）や機関（国会、内閣、裁判所、地方自治）のあり方について学びます。その際、制度の趣旨や各機関の相互関係まで掘り下げて検討します。そしてそれを踏まえて、統治機構を含めた憲法全体に関わる基本的な考え方（立憲主義）や構成原理（法の支配、権力分立、国民主権）について学びます。 国の制度や機関というものは少し縁遠いもののように感じられるかもしれませんが、政治や社会に関する時事問題には実は統治機構論が関係していることがあります。本講義は、機関・制度が実際にどのように実施・運用されているのかという点も意識しながら、進めていきます。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法２ 統治［第６版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣） ※両方とも授業で必ず使用します。		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 60%、講義中の確認テスト 20%、課題の提出 20%		
到達目標	（１）憲法学における統治機構および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）統治機構をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。 そして各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。 さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		
受講者への要望			
受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。 私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 講義のスケジュールと到達目標、憲法の基礎を振り返る、立憲主義という考え方 2. 議院内閣制 議会と行政部の関係、内閣総辞職と衆議院の解散 3. 国会 立法の概念、国の唯一の立法機関、法律制定過程 4. 両院制 議院の権限、議員の地位と権限、内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限 5. 内閣 行政の概念、独立行政委員会の仕組み、内閣の権限 6. 裁判所（１） 司法権の意義、法律上の争訟、司法権の限界 7. 裁判所（２） 司法権の独立、裁判所の組織と構成 8. 裁判所（３） 違憲審査制の意義と性格、司法積極主義と消極主義 9. 地方自治（１） 地方自治の本旨、地方公共団体の機関 10. 地方自治（２） 地方公共団体の権能、条例制定権の範囲 11. 統治機構の構成原理（１） 立憲主義の歴史的展開、法の支配			

12. 統治機構の構成原理（２）
　権力分立
13. 統治機構の構成原理（３）
　国民主権
14. 選挙と政党
　選挙制度、代表の概念、政党の地位
15. 立憲主義再訪
　憲法規範の特質

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J40082002
科目名	憲法Ⅲ（統治機構）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅲ (Frame of Governm ent)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における統治機構に関する部分を取り扱います。 まず具体的な制度（議院内閣制、両院制）や機関（国会、内閣、裁判所、地方自治）のあり方について学びます。その際、制度の趣旨や各機関の相互関係まで掘り下げて検討します。そしてそれを踏まえて、統治機構を含めた憲法全体に関わる基本的な考え方（立憲主義）や構成原理（法の支配、権力分立、国民主権）について学びます。 国の制度や機関というものは少し縁遠いもののように感じられるかもしれませんが、政治や社会に関する時事問題には実は統治機構論が関係していることがあります。本講義は、機関・制度が実際にどのように実施・運用されているのかという点も意識しながら、進めていきます。		
教材（テキスト）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法２ 統治［第６版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣） ※両方とも授業で必ず使用します。		
教材（参考文献）	各回の個別分野に関連する文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	定期試験 60%、講義中の確認テスト 20%、課題の提出 20%		
到達目標	（１）憲法学における統治機構および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）統治機構をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	各回の講義終了時に教科書の次回該当部分を指示するので、予習として必ず一読しておいてください。 そして各回のレジュメには内容確認のための問題を付しているので、復習に利用してください。 さらに記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		
受講者への要望			
受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。 私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 講義のスケジュールと到達目標、憲法の基礎を振り返る、立憲主義という考え方 2. 議院内閣制 議会と行政部の関係、内閣総辞職と衆議院の解散 3. 国会 立法の概念、国の唯一の立法機関、法律制定過程 4. 両院制 議院の権限、議員の地位と権限、内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限 5. 内閣 行政の概念、独立行政委員会の仕組み、内閣の権限 6. 裁判所（１） 司法権の意義、法律上の争訟、司法権の限界 7. 裁判所（２） 司法権の独立、裁判所の組織と構成 8. 裁判所（３） 違憲審査制の意義と性格、司法積極主義と消極主義 9. 地方自治（１） 地方自治の本旨、地方公共団体の機関 10. 地方自治（２） 地方公共団体の権能、条例制定権の範囲 11. 統治機構の構成原理（１） 立憲主義の歴史的展開、法の支配			

12. 統治機構の構成原理（２）
　権力分立
13. 統治機構の構成原理（３）
　国民主権
14. 選挙と政党
　選挙制度、代表の概念、政党の地位
15. 立憲主義再訪
　憲法規範の特質

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J40085001
科目名	行政法Ⅰ（総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law I (Introduction)		
担当者名	石塚　武志	旧科目名称	
講義概要	行政と法の関係に関する重要な原理について学習する。行政により私人・私企業の権利・義務が変動する際の基本的な仕組みを理解する。		
教材（テキスト）	曽和俊文『行政法総論を学ぶ』（有斐閣、2014 年）		
教材（参考文献）	宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ［第 6 版］』（有斐閣、2012 年） 高橋滋編著『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	時おり課題を提出してもらい、それを平常点として 25 点分として評価します。 定期試験ないしレポート課題を学期末に実施し、75 点分として評価します。		
到達目標	「行政法」は、公務員試験等の試験科目となっている場合があります。そのような試験の受験勉強を進める基礎となる学力を習得することを目標とします。		
準備学習	授業予定を示しますので、テキストの該当箇所を通読してから授業に臨んでください。		

受講者への要望

テキストに指定するものに限りませんが、『行政法』に関する教科書・体系書を何か一つ手にして、学習を進めるようにしてください。授業中に法律の条文を参照することがありますので、六法を持参してください。

講義の順序とポイント

教科書の順に従い、授業を行う。

第 1 回　行政法の全体的なイメージ
第 2 回　憲法・民法との比較
第 3 回　法律による行政の原理(1)
第 4 回　法律による行政の原理(2)
第 5 回　信頼保護原則
第 6 回　行政過程(1) 廃棄物処理行政
第 7 回　行政過程(2) まちづくり行政
第 8 回　行政立法(1)
第 9 回　行政立法(2)
第 10 回　行政立法（3）
第 11 回　行政行為の定義・種別・特質
第 12 回　行政行為の瑕疵・職権取消しと撤回(1)
第 13 回　行政行為の瑕疵・職権取消しと撤回（2）
第 14 回　行政裁量(1)
第 15 回　行政裁量（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J40085002
科目名	行政法Ⅰ（総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law I (Introduction)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の３つの講義で構成される。本講義では、行政法総論のうち、行政法の基本原理と、行政組織法のうち、行政組織の基本概念などを、そのほか、行政作用法の一部分も扱う。		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	宇賀克也・交告尚史編『行政判例百選Ⅰ[第６版]』、『行政判例百選Ⅱ[第６版]』（有斐閣、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60％　授業内テスト 20％ 平常点（20%）出席状況等による。		
到達目標	行政法の基礎、行政法の基本原理を習得し、行政組織法と行政手続、情報公開、個人情報保護の分野の概要を学ぶ。		
準備学習	毎回、講義終了時に確認テストとして公務員試験の過去問を解く。 次回の範囲を指定するので、教科書の該当頁と関連判例を予習すること。		
受講者への要望			
公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。 憲法科目は履修すること。行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずセットで履修すること。 地方自治法も履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　行政法の学び方 ２．　行政法の基礎－行政の概念・公法と私法 ３．　法律による行政の原理 ４．　行政の一般原則 ５．　行政上の法律関係 ６．　行政組織法の基本原理 ７．　国の行政組織 ８．　地方の行政組織 ９．　行政法の基礎と行政組織 １０．行政手続　① １１．行政手続　② １２．情報公開　① １３．情報公開　② １４．個人情報保護 １５．行政法の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J40088001
科目名	行政法Ⅲ（救済法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Ⅲ (Remedies)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の３つの講義で構成される。本講義では、行政救済法の部分を扱う。		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	宇賀克也・交告尚史編『行政判例百選Ⅰ[第６版]』、『行政判例百選Ⅱ[第６版]』（有斐閣、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60%　授業内テスト 20%　出席状況、授業内レポート等による平常点 20%		
到達目標	国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合の救済手段の内容を理解し、それら救済手段の果たす役割についての認識を深める。		
準備学習	教科書はあらかじめ全部を通読し、次週の講義部分は必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。
行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずすべて履修すること。当然、憲法の科目も必修である。
地方自治法も履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション－行政法の学び方、行政救済法の体系
２．　行政不服申立て①
３．　行政不服申立て②
４．　行政事件訴訟の概観、種類
５．　取消訴訟の訴訟要件①
６．　取消訴訟の訴訟要件②
７．　取消訴訟の訴訟要件③
８．　取消訴訟の審理、判決、教示
９．　行政事件訴訟法のその他の論点
１０．国家賠償制度
１１．国家賠償法１条
１２．国家賠償法２条
１３．損失補償制度①
１４．損失補償制度②
１５．行政救済法の改正課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J40088002
科目名	行政法Ⅲ（救済法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Ⅲ (Remedies)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の３つの講義で構成される。本講義では、行政救済法の部分を扱う。		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	宇賀克也・交告尚史編『行政判例百選Ⅰ[第６版]』、『行政判例百選Ⅱ[第６版]』（有斐閣、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60%　授業内テスト 20%　出席状況、授業内レポート等による平常点 20%		
到達目標	国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合の救済手段の内容を理解し、それら救済手段の果たす役割についての認識を深める。		
準備学習	教科書はあらかじめ全部を通読し、次週の講義部分は必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。
行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずすべて履修すること。当然、憲法の科目も必修である。
地方自治法も履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション－行政法の学び方、行政救済法の体系
２．　行政不服申立て①
３．　行政不服申立て②
４．　行政事件訴訟の概観、種類
５．　取消訴訟の訴訟要件①
６．　取消訴訟の訴訟要件②
７．　取消訴訟の訴訟要件③
８．　取消訴訟の審理、判決、教示
９．　行政事件訴訟法のその他の論点
１０．国家賠償制度
１１．国家賠償法１条
１２．国家賠償法２条
１３．損失補償制度①
１４．損失補償制度②
１５．行政救済法の改正課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40090001
科目名	民法Ⅰ（総則）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law I (General Provisions)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。当然のことですが、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。

講義の順序とポイント

１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力
３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度
４．　権利の主体（３）　法人
５．　法律行為　法律行為とは何か／強行法規違反・公序良俗違反
６．　不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示／錯誤
７．　不完全な意思表示（２）　詐欺／強迫
８．　無効と取消し
９．　代理（１）　代理権
１０．代理（２）　無権代理
１１．代理（３）　表見代理
１２．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効
１３．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止
１４．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間
１５．練習問題を通じた総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40090002
科目名	民法Ⅰ（総則）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law I (General Provisions)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。当然のことですが、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。

講義の順序とポイント

１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力
３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度
４．　権利の主体（３）　法人
５．　法律行為　法律行為とは何か／強行法規違反・公序良俗違反
６．　不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示／錯誤
７．　不完全な意思表示（２）　詐欺／強迫
８．　無効と取消し
９．　代理（１）　代理権
１０．代理（２）　無権代理
１１．代理（３）　表見代理
１２．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効
１３．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止
１４．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間
１５．練習問題を通じた総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40091001
科目名	民法Ⅱ（物権法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅱ (Law of Real Estates)		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法典の第 2 編物権について、その前半部分（第 1 章総則～第 6 章地役権）を扱う（175 条から 294 条）。 内容としては物権変動、占有権、所有権、用益物権を扱うことになる。		
教材（テキスト）	千葉恵美子・藤原正則・七戸克彦『民法 2（物権）』有斐閣アルマ		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	講義中に用いるプレゼン資料を事前に京学なびを通じて提供するし、それを講義までに各自でプリントしてもらうことになる予定。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 動産及び不動産に対する権利に関する知識を習得する。 後半は土地に対する権利について言及する。どうして土地だけが問題となっているのかを理解する。		
準備学習	・講義用レジュメを事前に（5 日前をめどに）京学なびにアップロードするので、事前にプリントアウトし、不明な法律用語を調べておくこと（調べられているかは講義中に確認する）。 ・講義で説明した箇所について、もう一度教科書その他の基本書を読んで、知識として身につけること。		

受講者への要望

・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。
・六法は必ず持参すること。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス； 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
2. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
3. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
4. 共同所有 1 ― 意義・発生・内容
5. 共同所有 2 ― 消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有の保護 ― 占有訴権
7. 占有と本権 ― 本権の推定・占有による本権の取得（取得時効）
8. 物権変動 ― 物権変動とは何か；契約による不動産物権変動
9. 不動産物権変動 1 ― 不動産物権変動と対抗要件
10. 不動産物権変動 2 ― 登記を要する物権変動・177 条の第三者
11. 不動産物権変動 3 ― 不動産登記制度・登記の推定力と公信力
12. 動産物権変動 ― 対抗要件・立木の物権変動と対抗要件
13. 公信の原則 ― 動産取引の場合・不動産上の物権
14. 物権の性質と効力
15. 物権法定主義の意義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J40091002
科目名	民法Ⅱ（物権法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅱ (Law of Real Estates)		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法典の第 2 編物権を扱う。内容としては物権変動、占有権、所有権、用益物権及び担保物権を扱うことになる。		
教材（テキスト）	石田剛ほか『LEGAL QUEST 民法 2 物権』（有斐閣）		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	講義中に用いるプレゼン資料を事前に京学なびを通じて提供するし、それを講義までに各自でプリントしてもらうことになる予定。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 動産及び不動産に対する権利に関する知識を習得する。 後半は土地に対する権利について言及する。どうして土地だけが問題となっているのかを理解する。		
準備学習	・講義用レジュメを事前に（5 日前をめどに）京学なびにアップロードするので、事前にプリントアウトし、不明な法律用語を調べておくこと（調べられているかは講義中に確認する）。 ・講義で説明した箇所について、もう一度教科書その他の基本書を読んで、知識として身につけること。		

受講者への要望

・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。
・六法は必ず持参すること。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス； 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
2. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
3. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
4. 共同所有 ― 意義・発生・内容・消滅・準共有・建物の区分所有
5. 占有 1 ― 占有の保護・占有と本権
6. 占有 2 ― 不適法占有者と所有者間の法律関係
7. 物権変動 1 ― 物権変動とは・不動産物権変動・対抗問題
8. 物権変動 2 ― 登記を要する物権変動 1
9. 物権変動 3 ― 登記を要する物権変動 2
10. 物権変動 4 ― 177 条の第三者
11. 物権変動 5 ― 動産物権変動の対抗要件・即時取得
12. 担保物権 1 ― 債権者平等の原則・担保物権の種類と性質・抵当権 1（設定・効力の及ぶ範囲）
13. 担保物権 2 ― 抵当権 2（物上代位、法定地上権）
14. 担保物権 3 ― 抵当権 3（抵当不動産の第三取得者と賃借人）
15. 担保物権 4 ― 根抵当権・譲渡担保

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J40094A01
科目名	法制史Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History I		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｓ
講義概要	この授業では、主に中世から近代にいたるヨーロッパ法の歴史について学びます。特にフランス・ドイツの近代法の成立と発展について重点を置きます。ヨーロッパ法が明治以降の日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、日本とは異なる文化をもつヨーロッパにおける法の発展過程を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。また最後に、明治維新以降の日本における近代法の成立過程を、憲法・民法を中心に考察します。図版や映像などの資料も活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で適宜紹介します。		
教材（その他）	毎回レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験６０％ 、平常点（小テスト・レポートなどの課題）４０％		
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得し、さらに日本における近代法成立の過程を学ぶことを目的とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス（近代日本における西洋文化の受容） 第２回　中世の社会と法①（中世におけるローマ法の復活） 第３回　中世の社会と法②（中世ヨーロッパ社会の市民と農民） 第４回　近世の社会と法（自然法思想の成立） 第５回　啓蒙期の社会と法 第６回　フランス革命①（旧制度の解体） 第７回　フランス革命②（民法典の成立） 第８回　１９世紀フランスの社会と近代法① 第９回　１９世紀フランスの社会と近代法② 第１０回　１９世紀ドイツの社会と近代法①（法典論争） 第１１回　１９世紀ドイツの社会と近代法②（民法典の成立） 第１２回　フランス・ドイツの戦間期の法 第１３回　明治維新と西洋近代法の受容①（憲法典の成立） 第１４回　明治維新と西洋近代法の受容②（民法典の成立） 第１５回　戦後、社会の変化と法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J40094A02
科目名	法制史Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History I		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｓ
講義概要	この授業では、主に中世から近代にいたるヨーロッパ法の歴史について学びます。特にフランス・ドイツの近代法の成立と発展について重点を置きます。ヨーロッパ法が明治以降の日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、日本とは異なる文化をもつヨーロッパにおける法の発展過程を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。また最後に、明治維新以降の日本における近代法の成立過程を、憲法・民法を中心に考察します。図版や映像などの資料も活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で適宜紹介します。		
教材（その他）	毎回レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験６０％ 、平常点（小テスト・レポートなどの課題）４０％		
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得し、さらに日本における近代法成立の過程を学ぶことを目的とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス（近代日本における西洋文化の受容） 第２回　中世の社会と法①（中世におけるローマ法の復活） 第３回　中世の社会と法②（中世ヨーロッパ社会の市民と農民） 第４回　近世の社会と法（自然法思想の成立） 第５回　啓蒙期の社会と法 第６回　フランス革命①（旧制度の解体） 第７回　フランス革命②（民法典の成立） 第８回　１９世紀フランスの社会と近代法① 第９回　１９世紀フランスの社会と近代法② 第１０回　１９世紀ドイツの社会と近代法①（法典論争） 第１１回　１９世紀ドイツの社会と近代法②（民法典の成立） 第１２回　フランス・ドイツの戦間期の法 第１３回　明治維新と西洋近代法の受容①（憲法典の成立） 第１４回　明治維新と西洋近代法の受容②（民法典の成立） 第１５回　戦後、社会の変化と法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40094B01
科目名	法制史Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History Ⅱ		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｆ
講義概要	この授業では、ヨーロッパそして近代日本の裁判制度の歴史を学びます。ヨーロッパ法は、明治以降の日本における近代法形成に大きな影響を与えましたが、裁判制度も同様です。ヨーロッパについては、ギリシア・ローマ時代、そしてヨーロッパ中世から現代までの裁判を、具体的事件を取りあげながら説明し、最後に明治以降の日本の裁判の展開について考察します。図版や映像資料などを活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等・三成賢次・三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で随時紹介します。		
教材（その他）	毎回、レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験６０％、平常点（授業内の小テスト・レポートなど）４０％		
到達目標	ヨーロッパにおける裁判の歴史および日本近代における裁判制度の特徴について基礎的な知識を習得することを目標とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		

受講者への要望

毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。
春学期の続編ですが、秋学期のみの受講も可能です。

講義の順序とポイント

第１回　ガイダンス（日本と西洋の裁判の比較）
第２回　ギリシア・ローマの裁判
第３回　古代ゲルマン社会の裁判
第４回　イングランドの裁判（陪審制度の成立）
第５回　近世の裁判①（教会裁判の発展、魔女裁判）
第６回　近世の裁判②（フランス・アンシャンレジーム期）
第７回　フランス革命期
第８回　１９世紀における裁判①（１９世紀、フランス・ドイツの概観）
第９回　１９世紀におけるる裁判②（フランス、ドレフェス事件）
第１０回　２０世紀の裁判①（戦前・戦中）
第１１回　２０世紀の裁判②（戦後）
第１２回　日本・明治維新と西洋近代法の受容
第１３回　明治以降の日本における裁判制度①（刑事裁判）
第１４回　明治以降の日本における裁判制度②（民事裁判）
第１５回　裁判への市民参加制度の国際比較

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J40094B02
科目名	法制史Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History Ⅱ		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｆ
講義概要	この授業では、ヨーロッパそして近代日本の裁判制度の歴史を学びます。ヨーロッパ法は、明治以降の日本における近代法形成に大きな影響を与えましたが、裁判制度も同様です。ヨーロッパについては、ギリシア・ローマ時代、そしてヨーロッパ中世から現代までの裁判を、具体的事件を取りあげながら説明し、最後に明治以降の日本の裁判の展開について考察します。図版や映像資料などを活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等・三成賢次・三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で随時紹介します。		
教材（その他）	毎回、レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験６０％、平常点（授業内の小テスト・レポートなど）４０％		
到達目標	ヨーロッパにおける裁判の歴史および日本近代における裁判制度の特徴について基礎的な知識を習得することを目標とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		

受講者への要望

毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。
春学期の続編ですが、秋学期のみの受講も可能です。

講義の順序とポイント

第１回　ガイダンス（日本と西洋の裁判の比較）
第２回　ギリシア・ローマの裁判
第３回　古代ゲルマン社会の裁判
第４回　イングランドの裁判（陪審制度の成立）
第５回　近世の裁判①（教会裁判の発展、魔女裁判）
第６回　近世の裁判②（フランス・アンシャンレジーム期）
第７回　フランス革命期
第８回　１９世紀における裁判①（１９世紀、フランス・ドイツの概観）
第９回　１９世紀におけるる裁判②（フランス、ドレフェス事件）
第１０回　２０世紀の裁判①（戦前・戦中）
第１１回　２０世紀の裁判②（戦後）
第１２回　日本・明治維新と西洋近代法の受容
第１３回　明治以降の日本における裁判制度①（刑事裁判）
第１４回　明治以降の日本における裁判制度②（民事裁判）
第１５回　裁判への市民参加制度の国際比較

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40103001
科目名	民法Ⅴ（家族法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅴ (Family and Inheritance)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	民法Ⅶ（家族法）
講義概要	一般に「家族法」と呼ばれる民法第 4 編および第 5 編の内容を学習する。家族法の現行規定を正確に理解した上で、その問題点や解決の方向を考える。講義にあたっては「財産法」の諸制度との関係を意識しつつ、民法の全体像の理解を深めることができるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．家族法の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 2．家族法の主要論点に関する学説・判例を理解する。 3．家族法の問題を把握し、その解決の方向を考える。		
準備学習	1．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分および関連する財産法の部分について自習をする。 2．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 3．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。民法は全体として密接に関連しているので、民法Ⅰ（総則）などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
講義の順序とポイント			
1．　受講にあたっての注意／家族法序説 2．　離婚の成立 3．　離婚の効果（1）子に関する効果 4．　離婚の効果（2）財産に関する効果 5．　親子（1）嫡出推定・嫡出否認制度（1） 6．　親子（2）嫡出推定・嫡出否認制度（2） 7．　親子（3）認知／現代的な問題 8．　相続法序説 9．　相続人／法定相続分 10．相続資格の剥奪／相続の選択 11．相続財産 12．具体的相続分（1）特別受益・寄与分 13．具体的相続分（2）計算問題 14．遺産分割 15．遺言			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40103002
科目名	民法Ⅴ（家族法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅴ (Family and Inheritance)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	民法Ⅶ（家族法）
講義概要	一般に「家族法」と呼ばれる民法第 4 編および第 5 編の内容を学習する。家族法の現行規定を正確に理解した上で、その問題点や解決の方向を考える。講義にあたっては「財産法」の諸制度との関係を意識しつつ、民法の全体像の理解を深めることができるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．家族法の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 2．家族法の主要論点に関する学説・判例を理解する。 3．家族法の問題を把握し、その解決の方向を考える。		
準備学習	1．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分および関連する財産法の部分について自習をする。 2．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 3．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。民法は全体として密接に関連しているので、民法Ⅰ（総則）などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
講義の順序とポイント			
1．　受講にあたっての注意／家族法序説 2．　離婚の成立 3．　離婚の効果（1）子に関する効果 4．　離婚の効果（2）財産に関する効果 5．　親子（1）嫡出推定・嫡出否認制度（1） 6．　親子（2）嫡出推定・嫡出否認制度（2） 7．　親子（3）認知／現代的な問題 8．　相続法序説 9．　相続人／法定相続分 10．相続資格の剥奪／相続の選択 11．相続財産 12．具体的相続分（1）特別受益・寄与分 13．具体的相続分（2）計算問題 14．遺産分割 15．遺言			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40104001
科目名	民法Ⅳ（債権総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	2014 年度生民法Ⅲ（債権総論）
講義概要	民法典の第 3 編「債権」中、第 1 章「総則」の内容を取り上げる。		
教材（テキスト）	野村 豊弘ほか『民法（3）債権総論』（有斐閣） 《有斐閣 S シリーズ》		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）	講義中にプロジェクターで表示するものを「京学なび」にて配付します。事前にプリントして持参して下さい。		
評価方法	期末試験の評価に従う。		
到達目標	契約法の基本を押さえる。		
準備学習	・事前に配付資料を一読すること ・講義の前後に教科書の該当部分に目を通すこと。 ・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 以上のことが行われているかは、講義の要所要所に確認する。		

受講者への要望

・内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められ、自らも理解しようと必死で努めることが必要である。
・成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第 3 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第 4 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解)、損害賠償、受領遅滞
第 5 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権）
第 6 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）
第 7 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済）
第 8 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺）
第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）
第 11 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2 ）
第 12 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務）
第 13 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証）
第 14 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 15 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2 、債務引受）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40104002
科目名	民法Ⅳ（債権総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	2014 年度生民法Ⅲ（債権総論）
講義概要	民法典の第 3 編「債権」中、第 1 章「総則」の内容を取り上げる。		
教材（テキスト）	野村 豊弘ほか『民法（3）債権総論』（有斐閣） 《有斐閣 S シリーズ》		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）	講義中にプロジェクターで表示するものを「京学なび」にて配付します。事前にプリントして持参して下さい。		
評価方法	期末試験の評価に従う。		
到達目標	契約法の基本を押さえる。		
準備学習	・事前に配付資料を一読すること ・講義の前後に教科書の該当部分に目を通すこと。 ・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 以上のことが行われているかは、講義の要所要所に確認する。		

受講者への要望

・内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められ、自らも理解しようと必死で努めることが必要である。
・成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第 3 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第 4 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解)、損害賠償、受領遅滞
第 5 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権）
第 6 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）
第 7 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済）
第 8 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺）
第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）
第 11 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2 ）
第 12 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務）
第 13 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証）
第 14 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 15 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2 、債務引受）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40108001
科目名	民法Ⅲ（担保物権法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Real Security		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	担保制度は金融取引に欠かせない制度である。それ故、取引実務の動向を反映して、民法の中でもとくにめまぐるしい展開をみせる領域のひとつである。 抵当権を中心とした基本的な担保方法についても、その効力の問題は、現在の取引社会のニーズに即した運用が工夫されているほか、民法典に規定のない担保方法も、動産担保を中心に広く用いられてきている。 本講義では、基本的な制度を確実に学ぶ一方で、新しい動きをフォローしながら、民法の「いま」を知ることにも注力したい。これにより、この分野が実用価値の高い分野であるとともに、民法学習上の重要なポイントとなることが確認できるようになる。		
教材（テキスト）	永田眞三郎・松本恒雄・松岡久和・中田邦博・横山美夏『物権 -- エッセンシャル民法２』（有斐閣ブックス）		
教材（参考文献）	道垣内弘人『担保物権法[第３版]』（有斐閣） 近江幸治『民法講義Ⅲ担保物権[第２版補訂]』（成文堂）		
教材（その他）	レジュメ等を配布する。		
評価方法	・授業内課題(20%) ・小テスト(40%) ・レポート(40%) 定期試験は実施しないので、注意のこと。		
到達目標	１　「担保物権法」の中の主要な制度について、その制度趣旨や条文･判例を立体的に理解し、実際界で起こる具体的事例に対して使えるようにする。 ２　金融担保の領域において、現代社会の課題に対し、「民法」がどういった対応をとろうとしているか、その動向を知る。 ３　各種資格試験において、どのような問題が出題されているかを確認する。		
準備学習	１．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。 ２．授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、少なくとも講義中はなるべく前方の席に座り、真剣に講義に集中して欲しい。最新版の六法や教科書を持参せずに授業に出席するのは論外である。

教室の後ろの方でケータイをいじり続けながら、それでもある種のテクニックで単位を取れるような科目ではないことは、心得ておいてほしい。

講義の順序とポイント

１．担保物権とは
２．担保物権の基本形としての抵当権
３．抵当権の設定
４．抵当権の効力(1)－優先弁済的効力、抵当権と物上代位
５．抵当権の効力(2)－不動産利用権との調整(法定地上権、明渡猶予制度、賃借権)
６．抵当権の効力(3)－抵当不動産の第三取得者、抵当権の侵害
７．抵当権の処分
８．抵当権の消滅
９．共同抵当権
10．根抵当権
11．質権
12．動産譲渡担保
13．所有権留保

14. 留置権
15. 先取特権

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J40111001
科目名	民事訴訟法	単位数	2
科目名（英語表記）	Code of Civil Procedure		
担当者名	原　弘明	旧科目名称	民事手続法
講義概要	民事実体法上の権利の存否・範囲を、法規を適用して裁判所が判断する一連の手続が、民事訴訟手続であり、これを規律するのが民事訴訟法である。 本講義では、コマ数の制約上、民事訴訟法のうち、訴えの提起から第一審判決が確定するまでの手続を中心に講義する。複雑訴訟・上訴・再審については、可能な限り扱うこととする。		
教材（テキスト）	中野貞一郎『民事裁判入門〔第 3 版補訂版〕』（有斐閣、2012 年） ※改訂の場合は、改訂版の購入を薦めるが、講義に影響しないよう旧版使用者にも配慮する。		
教材（参考文献）	高橋宏志=高田裕成=畑瑞穂編『民事訴訟法判例百選〔第 5 版〕』（有斐閣、2015 年）		
教材（その他）	毎回、教員作成のレジュメを配布する。 必ず、講義時点で最新の六法を持参すること。		
評価方法	1. 平常点（20%）出席状況・授業内コメントカード等で評価する。 2. 期末試験（80%）		
到達目標	1. 民事法上の権利実現制度としての民事訴訟制度の重要性を認識し、その骨格を理解し説明できる。 2. 民事訴訟法上の規定や判例が、実際の手続に与える影響を理解し、基礎的な問題を解ける。		
準備学習	1. 講義前に、「講義の順序とポイント」で示した部分のテキストを一読しておくこと。 2. 余裕がある受講生は、事前に百選の関連判例を一読しておくこと。 3. 講義後は、配布レジュメを中心に、理解できるまで復習すること。		

受講者への要望

1. 一定程度民商法の履修が終わっているか、履修中であることが望ましい。
2. 遅刻・欠席の場合は、正当な理由がなければ平常点に反映させる。
3. 講義の妨げとなる、携帯電話等での通話、私語などの行為は、場合によっては退室させ、平常点に反映させる。
4. 実務が採用する旧訴訟物理論を中心に講義するので、興味のある受講生は、新訴訟物理論の教科書にも取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス--講義内容の全体像
2. 訴訟と非訟・民事訴訟法の一般原則
3. 訴えの 3 類型・訴えの提起
4. 裁判所・管轄・民事裁判権
5. 訴訟当事者(当事者の確定・当事者能力・訴訟能力)・訴訟代理
6. 訴えの利益・訴え提起の効果
7. 当事者主義・口頭弁論
8. 弁論準備・争点整理
9. 証拠(1)証明のレベル・証拠方法
10. 証拠(2)自由心証主義・証明責任
11. 当事者の行為による訴訟の終了
12. 判決(1)判決の形式
13. 判決(2)判決の効力
14. 複雑訴訟・上訴・再審の概要
15. 全体を通した総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J40113001
科目名	経済法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law Ⅱ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、独占禁止法の全体像と、合併などの「企業結合」と「不公正な取引方法」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法(第４版)』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編　『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	合併の理由およびメリット・デメリットを理解し、独占禁止法上の立場から分析できるようになる。 さまざまな種類の不公正な取引方法について、どのような行為か理解し、独占禁止法の視点から考えることができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争・独禁法の全体像 ２．企業結合規制①（企業結合の目的と形態） ３．企業結合規制②（市場画定） ４．企業結合規制③（競争の実質的制限） ５．企業結合規制④（企業結合の規制手続と一般集中規制） ６．前半のまとめと小テスト１ ７．小テスト１の解説と不公正な取引方法①（全体像） ８．不公正な取引方法②（取引拒絶） ９．不公正な取引方法③（不当廉売） １０．不公正な取引方法④（抱き合わせ販売） １１．不公正な取引方法⑤（排他条件付取引） １２．不公正な取引方法⑥（再販売価格維持） １３．不公正な取引方法⑦（優越的地位の濫用） １４．独禁法のエンフォースメント（公正取引委員会・行政処分・民事救済） １５．　独禁法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★	★★

年度	2016	授業コード	J40113002
科目名	経済法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law Ⅱ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、独占禁止法の全体像と、合併などの「企業結合」と「不公正な取引方法」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法(第４版)』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編　『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	合併の理由およびメリット・デメリットを理解し、独占禁止法上の立場から分析できるようになる。 さまざまな種類の不公正な取引方法について、どのような行為か理解し、独占禁止法の視点から考えることができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争・独禁法の全体像 ２．企業結合規制①（企業結合の目的と形態） ３．企業結合規制②（市場画定） ４．企業結合規制③（競争の実質的制限） ５．企業結合規制④（企業結合の規制手続と一般集中規制） ６．前半のまとめと小テスト１ ７．小テスト１の解説と不公正な取引方法①（全体像） ８．不公正な取引方法②（取引拒絶） ９．不公正な取引方法③（不当廉売） １０．不公正な取引方法④（抱き合わせ販売） １１．不公正な取引方法⑤（排他条件付取引） １２．不公正な取引方法⑥（再販売価格維持） １３．不公正な取引方法⑦（優越的地位の濫用） １４．独禁法のエンフォースメント（公正取引委員会・行政処分・民事救済） １５．　独禁法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40115001
科目名	法哲学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy Ⅱ		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学特別講義
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、「法哲学」と同様、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。「法哲学」に確認した課題、すなわち法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を前提にしつつ、いくつかの法領域にいて正義論の展開の具体層を概観すると同時に、正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方、正義論と国家論、正義論と人権論にも言及する。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメは京学なびに登録するので、事前にプリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業内で書いてもらう、４回の小論文の素点の合計が成績となる。 その都度評価して返却するので、合格点に至らなかった者は再レポートを提出すること。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学ナビ）で確認すること。） １．初めに ２．序論　「法哲学Ｉ」で学習したことの確認 ３．　同上 ４．（第１回授業内レポート） 第１章　生命倫理と法 §１　臓器移植法と正義 ５．　同上 ６．　同上 ７．（第２回授業内レポート） §２　安楽死・尊厳死と法規制 ８．　同上 ９．　同上 １０．（第３回授業内レポート） 第２章　環境倫理と法 §３　水俣病事件から考える ①水俣病事件とは １１．　同上 １２．　②認定問題と訴訟 １３．　同上 １４．　（第４回授業内レポート） 第３章　法哲学の課題再考 §４　正義論の諸相			

１５．　　同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40116001
科目名	法社会学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law II		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学特別講義
講義概要	秋学期は、これまでの春学期の成果の上に日本・欧米の法社会学の現状を概観し、さらに各論的テーマとしてフェミニズムをめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・天皇制をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・正義をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅱ）を取り上げる。最後に講義全体の総括として、法社会学の役割と任務に及び、二十一世紀前半を法社会学の視座から展望する。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）・講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	フェミニズム・天皇制・正義と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義と課題を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．法社会学の現状　Ⅰ　日本の法社会学（２） ２．　〃　Ⅱ　欧米の法社会学（２） ３．フェミニズムをめぐる法社会学　Ⅰ　女性の権利の歴史（１） ４．　〃　Ⅱ　〃　（２） ５．　〃　Ⅲ　〃　（３） ６．　〃　Ⅳ　男女平等－特に憲法１４条と第２４条－ ７．　〃　Ⅴ　男女平等－夫婦別氏（姓）論議－ ８．天皇制をめぐる法社会学　Ⅰ　天皇制とは？ ９．　〃　Ⅱ　近代神権的天皇制 １０．　〃　Ⅲ　象徴天皇制 １１．　〃　Ⅳ　ビデオ学習「日本国憲法の誕生」（ＮＨＫ） １２．正義をめぐる法社会学　Ⅰ法哲学と法社会学 １３．　〃　Ⅱ　正義と法 １４．法社会学の役割と任務　Ⅰ　－全体の総括－ １５．　〃　Ⅱ　〃			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J40116002
科目名	法社会学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law II		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学特別講義
講義概要	秋学期は、これまでの春学期の成果の上に日本・欧米の法社会学の現状を概観し、さらに各論的テーマとしてフェミニズムをめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・天皇制をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・正義をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅱ）を取り上げる。最後に講義全体の総括として、法社会学の役割と任務に及び、二十一世紀前半を法社会学の視座から展望する。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）・講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	フェミニズム・天皇制・正義と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義と課題を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1．法社会学の現状　Ⅰ　日本の法社会学（2）			
2．　〃　Ⅱ　欧米の法社会学（2）			
3．フェミニズムをめぐる法社会学　Ⅰ　女性の権利の歴史（1）			
4．　〃　Ⅱ　〃　（2）			
5．　〃　Ⅲ　〃　（3）			
6．　〃　Ⅳ　男女平等－特に憲法１４条と第２４条－			
7．　〃　Ⅴ　男女平等－夫婦別氏（姓）論議－			
8．天皇制をめぐる法社会学　Ⅰ　天皇制とは？			
9．　〃　Ⅱ　近代神権的天皇制			
１０．　〃　Ⅲ　象徴天皇制			
１１．　〃　Ⅳ　ビデオ学習「日本国憲法の誕生」（ＮＨＫ）			
１２．正義をめぐる法社会学　Ⅰ法哲学と法社会学			
１３．　〃　Ⅱ　正義と法			
１４．法社会学の役割と任務　Ⅰ　－全体の総括－			
１５．　〃　Ⅱ　〃			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40118001
科目名	会社法Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law Ⅲ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、事業譲渡・合併・会社分割など、会社の組織再編について、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、組織再編に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．組織再編手続 ３．事業譲渡 ４．合併の意義 ５．合併の手続 ６．合併の無効 ７．会社分割の意義 ８．会社分割の手続 ９．会社分割の無効 １０．株式交換・株式移転の意義 １１．株式交換の手続 １２．株式移転の手続 １３．株式交換・株式移転の無効 １４．企業グループ・結合企業 １５．組織再編における先端的な論点			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	★	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J40121001
科目名	刑事訴訟法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure Ⅱ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法特別講義
講義概要	２００９年５月から裁判員制度が始まり、刑事手続に関しての国民の感心が高まってきているなかで、刑事裁判はどのような流れで進んでいくのか、どのようなルールがあるのか、誰もが裁判員になり、刑事裁判に参加する可能性がある今、知っておくべきである。また、刑事手続における問題解決のためには、判例やそれに対する学説の対立などによって、どのような相違が生じるのかといった発展的な議論についての知識も重要となる。そこで、この講義では、捜査から公判までの刑事手続の全体の流れを把握したうえで、刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観しながら、憲法や刑事訴訟法の条文解釈、重要判例、学説の対立などの重要論点を解説する。主として公訴提起後の段階について解説する。		
教材（テキスト）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続に関する基礎知識を身につけ、刑事手続上の問題について具体例事例を素材に、条文に即し、主要な判例・学説の基本的な考え方を踏まえて説明することができるようになること、また、重要判例および学説の意義を深く正確に理解したうえで、それを前提に事例について妥当な解決策を導き出すことができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回取り扱う判例百選の関係箇所をを指定するので、読んで予習しておくこと。また、授業の最初に、前回の授業内容に係る小テストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

「刑事訴訟法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。
捜査に関する基本知識を理解していることを前提に授業を進めるので、より刑事訴訟法について理解を深めたいと考えている意欲的な受講生を望む。

講義の順序とポイント

1　　刑事手続の流れ
2　　任意捜査と強制捜査の区別
3　　任意捜査
4　　令状呈示前の立入り・電話検証
5　　強制採尿
6　　違法収集証拠排除法則①
7　違法収集証拠排除法則②
8　　接見交通
9　　起訴状
１０　　訴因変更
１１　証拠開示
１２　自白法則
１３　伝聞法則①
１４　伝聞法則②
１５　裁判員制度

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	ー	★★

年度	2016	授業コード	J40121002
科目名	刑事訴訟法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure Ⅱ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法特別講義
講義概要	２００９年５月から裁判員制度が始まり、刑事手続に関しての国民の感心が高まってきているなかで、刑事裁判はどのような流れで進んでいくのか、どのようなルールがあるのか、誰もが裁判員になり、刑事裁判に参加する可能性がある今、知っておくべきである。また、刑事手続における問題解決のためには、判例やそれに対する学説の対立などによって、どのような相違が生じるのかといった発展的な議論についての知識も重要となる。そこで、この講義では、捜査から公判までの刑事手続の全体の流れを把握したうえで、刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観しながら、憲法や刑事訴訟法の条文解釈、重要判例、学説の対立などの重要論点を解説する。主として公訴提起後の段階について解説する。		
教材（テキスト）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続に関する基礎知識を身につけ、刑事手続上の問題について具体例事例を素材に、条文に即し、主要な判例・学説の基本的な考え方を踏まえて説明することができるようになること、また、重要判例および学説の意義を深く正確に理解したうえで、それを前提に事例について妥当な解決策を導き出すことができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回取り扱う判例百選の関係箇所をを指定するので、読んで予習しておくこと。また、授業の最初に、前回の授業内容に係る小テストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

「刑事訴訟法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。
捜査に関する基本知識を理解していることを前提に授業を進めるので、より刑事訴訟法について理解を深めたいと考えている意欲的な受講生を望む。

講義の順序とポイント

1　　刑事手続の流れ
2　　任意捜査と強制捜査の区別
3　　任意捜査
4　　令状呈示前の立入り・電話検証
5　　強制採尿
6　　違法収集証拠排除法則①
7　違法収集証拠排除法則②
8　　接見交通
9　　起訴状
１０　　訴因変更
１１　証拠開示
１２　自白法則
１３　伝聞法則①
１４　伝聞法則②
１５　裁判員制度

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	★★

年度	2016	授業コード	J40122001
科目名	国際人権法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Human Rights Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	人権は伝統的に個人対国家の脈絡で語られ、国家による保障が基本である。他方で、国際人権保障は国連の基本目的の１つとなり、国連の７０年に及ぶ活動の中で大きな成果をあげた分野であるといっても過言ではない。それでは、国際人権保障の意義やはたらき、限界は何なのであろうか。また、国際人権保障から見て日本おける人権保障はどのように捉えられるであろうか。この授業では、このような問題意識を念頭に置きながら、第１部で国際人権保障の意義や特徴さらには仕組みなどについて講義する。第２部では、日本における具体的な人権問題を取り上げ、人権条約規定の日本の裁判所と条約機関の解釈を比較検討しながら、国際人権法の観点から日本の人権問題についてともに考えていきたい。 ＊国際人権保障は、教員採用試験では頻出分野なので、教職志望の学生には学部を問わず受講を勧める。		
教材（テキスト）	芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹『ブリッジブック国際人権法』（信山社、２００８年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書・概説書】 田畑茂二郎『国際化時代の人権問題』（岩波書店、１９８８年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法〔第３版〕』（日本評論社、２００９年） 畑　博行・水上千之編『国際人権法概論〔第４版〕』（有信堂、２００６年） 薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック　国際人権法』（日本評論社、２００６年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 松井芳郎ほか編『国際人権条約・宣言集〔第３版〕』（東信堂、２００６年）		
教材（その他）	世界人権宣言に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト６０点、レポート４０点。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際人権保障の意義と限界を理解する。 ２．人権条約や国連における国際人権保障の仕組みを理解する。 ３．日本の人権問題に対して国際人権法がどのような役割を果たすことができるのか考える。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
３．講義では、休憩も取るので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

第１部　国際人権保障の仕組み
１．受講ガイダンス、国際人権保障の意義と展開
２．国際人権保障の理念と特徴
３．国連による人権保護活動（世界人権宣言に関するＤＶＤ鑑賞も行う）
４．国連による人権保護活動（つづき）
５．人権条約の実施措置（１）－普遍的人権条約
６．人権条約の実施措置（２）－地域的人権条約
７．個人の国際刑事責任（１）－国際犯罪の成立と展開
８．個人の国際刑事責任（２）－国際刑事裁判所の活動

第２部　日本における国際人権法の実施
９．総論、国籍

１０．外国人の出入国管理と人権
１１．難民の保護
１２．非嫡出子の人権
１３．刑事施設における被拘禁者の処遇
１４．少数者の権利
１５．社会権、男女平等

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40122002
科目名	国際人権法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Human Rights Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	人権は伝統的に個人対国家の脈絡で語られ、国家による保障が基本である。他方で、国際人権保障は国連の基本目的の１つとなり、国連の７０年に及ぶ活動の中で大きな成果をあげた分野であるといっても過言ではない。それでは、国際人権保障の意義やはたらき、限界は何なのであろうか。また、国際人権保障から見て日本おける人権保障はどのように捉えられるであろうか。この授業では、このような問題意識を念頭に置きながら、第１部で国際人権保障の意義や特徴さらには仕組みなどについて講義する。第２部では、日本における具体的な人権問題を取り上げ、人権条約規定の日本の裁判所と条約機関の解釈を比較検討しながら、国際人権法の観点から日本の人権問題についてともに考えていきたい。 ＊国際人権保障は、教員採用試験では頻出分野なので、教職志望の学生には学部を問わず受講を勧める。		
教材（テキスト）	芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹『ブリッジブック国際人権法』（信山社、２００８年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書・概説書】 田畑茂二郎『国際化時代の人権問題』（岩波書店、１９８８年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法〔第３版〕』（日本評論社、２００９年） 畑　博行・水上千之編『国際人権法概論〔第４版〕』（有信堂、２００６年） 薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック　国際人権法』（日本評論社、２００６年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 松井芳郎ほか編『国際人権条約・宣言集〔第３版〕』（東信堂、２００６年）		
教材（その他）	世界人権宣言に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト６０点、レポート４０点。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際人権保障の意義と限界を理解する。 ２．人権条約や国連における国際人権保障の仕組みを理解する。 ３．日本の人権問題に対して国際人権法がどのような役割を果たすことができるのか考える。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
３．講義では、休憩も取るので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

第１部　国際人権保障の仕組み
１．受講ガイダンス、国際人権保障の意義と展開
２．国際人権保障の理念と特徴
３．国連による人権保護活動（世界人権宣言に関するＤＶＤ鑑賞も行う）
４．国連による人権保護活動（つづき）
５．人権条約の実施措置（１）－普遍的人権条約
６．人権条約の実施措置（２）－地域的人権条約
７．個人の国際刑事責任（１）－国際犯罪の成立と展開
８．個人の国際刑事責任（２）－国際刑事裁判所の活動

第２部　日本における国際人権法の実施
９．総論、国籍

１０．外国人の出入国管理と人権
１１．難民の保護
１２．非嫡出子の人権
１３．刑事施設における被拘禁者の処遇
１４．少数者の権利
１５．社会権、男女平等

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40128001
科目名	金融法	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	銀行など金融機関で、日常的に行われている預金取引・融資取引などの実際を素材にして、民法・商法等の規定が、銀行・顧客間の紛争解決にどのように活かされているかを検討する。あわせて、振り込め詐欺等による預金口座の不正利用の問題など社会問題になっている事件、金融商品販売をめぐる問題など、日々発生する諸問題に対し、実務がどのような対応を図ろうとしているかを、現場の動きを可能な限りフォローしながら考えていきたいと思う。		
教材（テキスト）	レジュメ資料配付予定		
教材（参考文献）	大垣尚司「金融から学ぶ民事法入門　第２版」(2013 年、勁草書房) 階猛・渡邉雅之「銀行の法律知識<第 2 版>」(日経文庫)		
教材（その他）			
評価方法	レポート(60%) 授業内課題(40%)		
到達目標	１　金融機関の日常業務である預金取引・融資取引などにおいて、民法・商法等の規定が、どのように活かされているかを理解する。 ２　預金口座の不正利用の問題など社会問題になっている事件、金融機関窓口での金融商品販売をめぐる問題など、日々発生する諸問題に、金融機関実務が、どのような対応を図ろうとしているかを知る。 ３　金融機関実務、金融取引実務に関心を持つ。		
準備学習	１．講義の予定テーマに関しては、日本経済新聞等で報道されていることも多いので(特に毎週月曜日)、ここで取り上げられた話題について関心を持って講義に望む。 ２．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。内容のあるイグジッションペーパーを書くために、予習を十分した上で授業に臨むことが必要。 ３．授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認する。 ４．民商法が基礎になるので、手持ちの教科書・参考書等で、復習しておくとこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、講義で取り上げた個所について、参考書等で内容確認を行い、確実な知識を身につけるようにしていただきたい。

講義の順序とポイント

１　金融機関・銀行の機能と役割
２　金融機関・銀行との取引とその相手方(高齢者との取引)
３　金融商品の販売①（法規制の概要）
４　金融商品の販売②（適合性原則などルールの運用と問題点）
５　預金取引①（預金取引開始にあたっての本人確認・預金者は誰かという問題）
６　預金取引②（預金契約の成立）
７　預金取引③（偽造・盗難カードによる預金の払戻し）
８　預金取引④(預金の払戻しに関する銀行の注意義務)
９　預金取引⑤（預金の相続）
１０　決済システム①(手形・小切手、内国為替の仕組み)
１１　決済システム②(誤振込・振り込め詐欺、電子マネーなど)
１２　融資取引①（基本的な仕組み、融資判断における取締役の責任など）
１３　融資取引②（担保・保証の役割および活用）
１４　貸出金の回収①（基本）
１５　貸出金の回収②（最近問題になった事例）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J40136001
科目名	現代日本政治	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern Japanese Politics		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣　２００３年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布します。		
評価方法	レポートによる。		
到達目標	日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。		
準備学習	可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。		

受講者への要望

現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止します。

講義の順序とポイント

1	明治憲法体制	戦前日本政治と官僚主導体制の成立について
2	新憲法体制	戦後日本政治の特徴について
3	国会と立法過程	立法過程の特徴とその問題について
4	国会と予算成立過程	予算成立過程とその問題について
5	官僚制	日本における官僚制の特徴について
6	政治家・官僚・財界	日本政治における癒着の問題について
7	日本の政党１	各政党の特徴について
8	日本の政党２	
9	選挙１	選挙制度とその特徴について
１０	選挙２	
１２	地方自治１	日本における地方自治の歴史とその現状について
１２	地方自治２	
１３	政治とマス・メディア	政治とマス・メディアの関係について
１４	日本と国際政治	戦後日本の外交政策とその課題について
１５	福祉政策	福祉政策の現状とその問題点について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

－

年度	2016	授業コード	J40136002
科目名	現代日本政治	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern Japanese Politics		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣　２００３年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布します。		
評価方法	レポートによる。		
到達目標	日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。		
準備学習	可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。		

受講者への要望

現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止します。

講義の順序とポイント

1	明治憲法体制	戦前日本政治と官僚主導体制の成立について
2	新憲法体制	戦後日本政治の特徴について
3	国会と立法過程	立法過程の特徴とその問題について
4	国会と予算成立過程	予算成立過程とその問題について
5	官僚制	日本における官僚制の特徴について
6	政治家・官僚・財界	日本政治における癒着の問題について
7	日本の政党１	各政党の特徴について
8	日本の政党２	
9	選挙１	選挙制度とその特徴について
１０	選挙２	
１２	地方自治１	日本における地方自治の歴史とその現状について
１２	地方自治２	
１３	政治とマス・メディア	政治とマス・メディアの関係について
１４	日本と国際政治	戦後日本の外交政策とその課題について
１５	福祉政策	福祉政策の現状とその問題点について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40137001
科目名	外交史	単位数	2
科目名（英語表記）	Diplomatic History		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	外交の基本的な仕組みと日本外交の歴史に関する基本的な知識の習得を目指す。具体的には、鎖国によって国際社会との関わりを制限していた日本が、いかにして国際社会に参入していったのか、その歴史的展開を論 じる。それを踏まえたうえで、今、日本外交について考える力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	入江昭『日本の外交』（中公新書）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布する		
評価方法	レポートによる。		
到達目標	日本外交史に関する基礎知識を習得する。同時に、ヨーロッパ外交史にも留意する。		
準備学習	テキストをよく読んでおくこと。		
受講者への要望			
本講義は「史」という名前がついているように、基本的に歴史の話が中心となるので、明治維新以降の日本史について、高校で学習した程度の知識をつけておいて欲しい。 授業中に携帯電話やスマートフォンを使用することは禁止する。			
講義の順序とポイント			
1　外交とは　外交の歴史と基本的な仕組みについて 2　様々な国際秩序　国際秩序について 3　開国と近代化　江戸時代の特徴と開国以後の日本について 4　日清戦争とその意味　日清戦争の意味について 5　日露戦争とその意味　日露戦争の意味について 6　欧米との対等化の達成　日露戦争後の日本外交と条約改正について 7　第一次世界大戦　第一次世界大戦と日本の対応 8　ベルサイユ体制の成立　ベルサイユ体制の成立とその実態について 9　ワシントン体制の成立　ワシントン体制の成立とその実態について １０　満州事変と満州国建国　満州事変の原因とその結果について １１　華北分離工作と日中戦争　日中戦争の原因とその展開 １２　太平洋戦争　太平洋戦争の原因とその展開について １３　敗戦と占領　アメリカの対日占領政策について １４　戦後日本の再出発　戦後日本外交の展開について １５　冷戦と日本外交			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40137002
科目名	外交史	単位数	2
科目名（英語表記）	Diplomatic History		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	外交の基本的な仕組みと日本外交の歴史に関する基本的な知識の習得を目指す。具体的には、鎖国によって国際社会との関わりを制限していた日本が、いかにして国際社会に参入していったのか、その歴史的展開を論 じる。それを踏まえたうえで、今、日本外交について考える力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	入江昭『日本の外交』（中公新書）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布する		
評価方法	レポートによる。		
到達目標	日本外交史に関する基礎知識を習得する。同時に、ヨーロッパ外交史にも留意する。		
準備学習	テキストをよく読んでおくこと。		
受講者への要望			
本講義は「史」という名前がついているように、基本的に歴史の話が中心となるので、明治維新以降の日本史について、高校で学習した程度の知識をつけておいて欲しい。 授業中に携帯電話やスマートフォンを使用することは禁止する。			
講義の順序とポイント			
1　外交とは　外交の歴史と基本的な仕組みについて 2　様々な国際秩序　国際秩序について 3　開国と近代化　江戸時代の特徴と開国以後の日本について 4　日清戦争とその意味　日清戦争の意味について 5　日露戦争とその意味　日露戦争の意味について 6　欧米との対等化の達成　日露戦争後の日本外交と条約改正について 7　第一次世界大戦　第一次世界大戦と日本の対応 8　ベルサイユ体制の成立　ベルサイユ体制の成立とその実態について 9　ワシントン体制の成立　ワシントン体制の成立とその実態について １０　満州事変と満州国建国　満州事変の原因とその結果について １１　華北分離工作と日中戦争　日中戦争の原因とその展開 １２　太平洋戦争　太平洋戦争の原因とその展開について １３　敗戦と占領　アメリカの対日占領政策について １４　戦後日本の再出発　戦後日本外交の展開について １５　冷戦と日本外交			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40138A01
科目名	行政書士特別研究Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Administrative Scriven er Examinations I		
担当者名	三木　常照	旧科目名称	
講義概要	本特別研究は行政書士試験合格への基礎編です。具体的には法令科目の憲法、行政法、民法の主要 3 法及び商法、会社法等の主に過去問を中心とした問題演習(アウトプット）を行い、本試験に対応できる基礎力を養う。試験範囲が広範なため、必ず、予習及び復習が必要になる。なお、上記主要 3 法は履修済みか並行履修中の受講者が望ましい。		
教材（テキスト）	問題プリントを配布する。		
教材（参考文献）	特に指定はしないが、受講者自身が良いと判断できる行政書士試験に関する参考書及び問題集。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	講義内小テスト等による平常点(15%)　定期試験(85%)		
到達目標	行政書士試験合格を目標とする。		
準備学習	配布する問題プリントの予習及び復習が必要になる。根拠条文や判例等、必ず調べておくこと。		

受講者への要望

行政書士試験合格を目指す科目であるため、目的意識を持った学生の受講を望む。単位取得のみを目的とする受講者は遠慮願いたい。
ポイント等の説明を重視するので、必ず予習及び復習の上、本特別研究に臨むこと。特に復習の際には、条文や判例の丸暗記という学習ではなく、理解力や思考力を養うように心がけること。また日々の学習(インプット・アウトプット）の反復継続も心がけること。
無断欠席は以後、受講不可とする。
受講時には六法持参のこと。

講義の順序とポイント

1. 憲　法(1)
2. 憲　法(2)
3. 憲　法(3)
4. 民　法(1)
5. 民　法(2)
6. 民　法(3)
7. 民　法(4)
8. 民　法(5)
9. 行政法(1)
10. 行政法(2)
11. 行政法(3)
12. 行政法(4)
13. 行政法(5)
14. 商法・会社法等
15. 個人情報保護法等

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J40138B01
科目名	行政書士特別研究II	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Administrative Scriven er Examinations II		
担当者名	三木　常照	旧科目名称	
講義概要	本特別研究は行政書士試験合格への発展編です。行政書士特別研究Ｉを履修した上で、具体的には法令科目の憲法、民法、行政法の主要３法及び商法、会社法等の問題演習（アウトプット）を中心に試験対策、弱点補強を行い、行政書士試験に合格できる力を養う。合格のための全面的なサポートは惜しまない。試験範囲が広範なため、必ず、予習及び復習が必要となる。法的知識の基礎力を養った上での受講と判断するので、基礎からの講義は行わない。なお、上記主要３法は履修済みか並行履修中の受講者が望ましい。		
教材（テキスト）	問題プリントを配布する。		
教材（参考文献）	特に指定はしないが、受講者自身が良いと判断できる行政書士試験に関する参考書及び問題集。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	講義内小テスト等による平常点(15%)　定期試験(85%)		
到達目標	行政書士試験合格を目標とする。		
準備学習	配布する問題プリントの予習及び復習が必要になる。根拠条文や判例等、必ず調べておくこと。		

受講者への要望

行政書士試験合格を目指す科目であるため、目的意識を持った学生の受講を望む。単位取得のみを目的とする受講者は遠慮願いたい。
ポイント等の説明を重視するので、必ず予習及び復習の上、本特別研究に臨むこと。特に復習の際には、条文や判例の丸暗記という学習方法ではなく、理解力や思考力を養うように心がけること。また日々の学習（インプット・アウトプット）の反復継続も心がけること。
無断欠席は以後、受講不可とする。
受講時には六法持参のこと。

講義の順序とポイント

1. 憲　法(1)
2. 憲　法(2)
3. 憲　法(3)
4. 民　法(1)
5. 民　法(2)
6. 民　法(3)
7. 民　法(4)
8. 民　法(5)
9. 行政法(1)
10. 行政法(2)
11. 行政法(3)
12. 行政法(4)
13. 行政法(5)
14. 商法・会社法等
15. 個人情報保護法等

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J4014500B
科目名	キャリアゼミ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、どのような部分が自分のアピールポイントとなるのかを理解する必要がある。そこで、キャリアゼミでは、警察・消防を希望する学生が、進路を実現するために必要となる基本的な準備作業として自己 PR の作成を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。		
教材（テキスト）	「就職ガイド」		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	原則的には、出席が良好で、かつ、以下の要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己ＰＲ文の作成。 ③自己分析シート作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。		
到達目標	１）就職活動の流れを理解する。 ２）自己分析シートを作成する。 ３）自己ＰＲ文を作成する。		
準備学習	常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。		

受講者への要望

大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。

講義の順序とポイント

担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。

１．　ガイダンス―今何をすべきか
２．　就職登録票の作成
３．　警察・消防の採用試験において自己分析・自己 PR がなぜ必要なのか
４．　過去の自分を知る
５．　自己分析シートの作成（１）
６．　自己分析シートの作成（２）
７．　自己分析シートの作成（３）
８．　自己 PR の方法を学ぶ
９．　自己ＰＲ文の作成　（１）
１０．　自己ＰＲ文の作成（２）
１１．　自己ＰＲ文の作成（３）
１２．　人前での自己 PR（プレゼン学習）
１３．　志望理由と自己 PR
１４．　面接で聞かれること
１５．　今後の就職活動・採用試験の流れ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J4014500I
科目名	キャリアゼミ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになるが、本ゼミでは、企業へ就職する学生を対象とする。 社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。		
教材（テキスト）	キャリアサポートセンター編『就職ガイド』		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	原則的には、出席が良好で、かつ、以下の 3 要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己ＰＲ文の作成。 ③自己分析シート作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。		
到達目標	１）就職活動の流れを理解する。 ２）自己分析シートを作成する。 ３）自己ＰＲ文を作成する。		
準備学習	民間企業に就職するためには何が必要かを常に考え、次回の項目について、キャリアサポートセンター編『就職ガイド』を各自読んでおくこと。		
受講者への要望			
大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
民間企業への就職をめざし、採用の実態を知り、求められるビジネスマナーを身に着けることを中心に行なう。 第 1 回　ガイダンス――今何をすべきか（民間企業の就活の実態を知る） 第 2 回　就職登録票の作成 第 3 回　自己紹介：自己分析がなぜ必要なのか 第 4 回　他己紹介：他人からみた自分を知る 第 5 回　自己分析シートの作成 第 6 回　ビジネスマナー（1）：ビジネスメールの作成 第 7 回　ビジネスマナー（2）：電話のかけ方 第 8 回　自己 PR 文の作成 第 9 回　ビジネスマナー（3）:スーツ着こなしチェック 第 10 回　ビジネスマナー（4）：入室・退室／名刺の受け取り方 第 11 回　ビジネスマナー（5）：３種の礼の仕方 第 12 回　人前での自己 PR(プレゼン学習)（1） 第 13 回　模擬面接（1） 第 14 回　人前での自己 PR（プレゼン学習）　（2） 第 15 回　模擬面接（2）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2016	授業コード	J4014500K
科目名	キャリアゼミ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	自動登録科目である。公務員コースに属する者のクラスである。 大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリアゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。		
教材（テキスト）	キャリアサポートセンターが作成する就職ガイド（初回に配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	原則的には、出席が良好で、かつ、以下の３要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己ＰＲ文の作成。 ③自己分析シート作成時のキャリアサポートセンターによる個別面談。		
到達目標	１）就職活動の流れを理解する。 ２）自己分析シートを作成する。 ３）自己ＰＲ文を作成する。		
準備学習	・常に自分の進路を意識し、その進路に進むためには何が必要で、自分には何が足りていないかを考えておくこと。 ・キャリアサポートセンターにより開催される各種就職行事（特に業界研究、内定獲得講座）には積極的に参加し、自らの進路について模索すること。 ・必要な面談を受けること。 ・自己分析、自己ＰＲ文に関し、授業中および面談において指摘された点について授業までに修正しておくこと。 ・その他就職試験に関連して、適宜宿題を出す。		

受講者への要望

・大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。
・どのような進路に進もうとどこかの時点で就職活動をする可能性が高いので、大学院への進学希望者も一度は経験していただきたい。
・課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。
・自己分析、自己 PR の作成に際しては、他の受講者に対して、自らの自己紹介として、それらの内容を紹介してもらうのでそのつもりでいること。

講義の順序とポイント

１．　ガイダンス ― 今何をすべきか； 就職登録票の作成
２．　自己分析がなぜ必要なのか・自己分析シートを埋めてみよう
　　宿題： 身近な親類に自分がどんな人間かを聞いてみよう。
３．　自己分析シートの作成（１） ― インタビュー結果も反映させてみよう
　　宿題： クラブの先輩や後輩、バイト先の店長や先輩後輩に自分がどんな人間を聞いてみよう。
　　いったん自己分析シートを完成させて面談を受けるためにどれくらいかけるかを考えて、面談予約をしておこう。
４．　自己分析シートの作成（２） ― インタビュー結果も反映させてみよう
　　宿題： 時間中に指摘した点を修正ないし補完すること。
５．　自己分析シートの作成（３） ― 講義中に添削します。
　　宿題： この頃までには面談を済ませ、自己分析シートをひとまず完成させること。
６．　自己分析シートに基づく自己紹介
７．　自己 PR の方法を学ぶ
８．　自己ＰＲ文の作成 （１）― 自己分析シートを見ながらＰＲポイントを探す
９．　自己ＰＲ文の作成 （２）

宿題： 自己ＰＲ文をもってキャリアサポートセンターで面談してもらうこと。

10. 自己ＰＲ文の作成 （3）― 講義中に添削します。
11. 人前での自己 PR（プレゼン学習）
12. 人前での自己 PR（プレゼン学習）

宿題： 履歴書作成に向け、自分の持っている資格の正式名称を確認しておくこと。

13. 履歴書の作成

宿題： 埋められなかった項目を埋めて履歴書を完成させること。

14. エントリーシートについて
15. 就職活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	★	★	–

年度	2016	授業コード	J4014500M
科目名	キャリアゼミ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、どのような部分が自分にとってアピールできるところなのかを理解する必要がある。そこで、キャリア・ゼミでは、警察・消防を希望する学生が、進路を実現するために必要となる基本的な準備作業として自己 PR の作成を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。		
教材（テキスト）	キャリアサポートセンター編『就職ガイド』		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	原則的には、出席が良好で、かつ、以下の３要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己ＰＲ文の作成。 ③自己分析シート作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。		
到達目標	１）就職活動の流れを理解する。 ２）自己分析シートを作成する。 ３）自己ＰＲ文を作成する。		
準備学習	講義終了時に、毎回、次回の授業で必要なことを事前に宿題として提示するので、指定期日までに予習・復習してくること。内容は、自分の希望進路について調べたり、自己分析シートや自己 PR 文の作成であり、方法等については、随時授業の中で指示していく。		
受講者への要望			
大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1．　ガイダンス―今何をすべきか 2．　就職登録票の作成 3．　警察・消防の採用試験において自己分析・自己 PR がなぜ必要なのか 4．　過去の自分を知る 5．　自己分析シートの作成（1） 6．　自己分析シートの作成（2） 7．　自己分析シートの作成（3） 8．　自己 PR の方法を学ぶ 9．　自己ＰＲ文の作成　（1） 10．　自己ＰＲ文の作成（2） 11．　自己ＰＲ文の作成（3） 12．　人前での自己 PR（プレゼン学習） 13．　志望理由と自己 PR 14．　面接で聞かれること 15．　今後の就職活動・採用試験の流れ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	★	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J40146002
科目名	憲法特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study of Constitutional Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	公務員研究Ａ（憲法），公務員研究Ａ
講義概要	憲法の基礎知識を前提に、公務員試験と行政書士試験の受験のため、憲法全体の範囲を対象に、過去問を解きながら実践的な学習を行う。		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	LEC 東京リーガルマインド編著『公務員試験　過去問　新クイックマスター　憲法　第５版』		
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点（70%）　講義内での課題に対する評価（30%）		
到達目標	憲法の講義の復習と過去問を解くことにより、公務員試験や行政書士試験に合格するための基礎力を養成する。		
準備学習	講義終了時に、毎回、公務員試験の過去問を解く。 次回の範囲を指定するので、参考文献の該当頁を読んでおくこと。		
受講者への要望			
公務員試験と行政書士試験の合格をめざす科目なので、はっきり目的意識をもった学生の受講をのぞむ。憲法の復習は適宜行っていくが、できれば憲法をすでに履修したか、履修中であることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　憲法の概念・歴史・基本原理 ２．　日本国憲法の基本原理 ３．　基本的人権の歴史・人権の主体・人権の効力・限界 ４．　包括的人権と法の下の平等 ５．　思想・良心・信教の自由 ６．　表現の自由 ７．　経済的自由 ８．　社会権（生存権・教育を受ける権利・労働基本権） ９．　刑事手続と人身の自由 １０．国会 １１．内閣 １２．司法 １３．地方自治 １４．天皇 １５．憲法改正			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J40153A02
科目名	警察・消防特別研究Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Police Officer and Fir e Fighter Examinations I		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	警察官、消防官の仕事はどのようなものか、警察官、消防官になるためにはどのような準備が必要かを明らかにし、警察官、消防官になるための準備を助けることを内容とする。 警察官、消防官採用試験の教養試験は一般知識と一般知能からなる。本講義では一般知能のうち判断推理と数的推理の実力を向上させることを目標とする。この分野を苦手とする人が多いようであるが、一度要領をつかむと、確実に得点がとれるようになるので、努力のしがいがあると思われる。講義は、問題のパターンごとに解き方を示して、いくつかの例題を解いてみるという形で進行する予定である。 なお、刑務官採用試験などもほぼ同様の出題傾向であるから、これらを志望する人にとっても役立つだろう。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義内で紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	授業内テスト 70%、期末テスト 30%		
到達目標	警察や消防の仕事に理解を深めるとともに、採用試験に臨む心構えをつくり、学生の採用試験の筆記試験(択一式)の準備を促すことを目標とする。		
準備学習	講義時に配付した、練習問題を次回までに復習として取り組み、次回講義開始時に、その解答を提出させる。また、５回の小テスト、中間テスト、後半テストとして単元の区切りごとに授業内テストを課すので、練習問題を使って復習をしっかりやっておくこと。		
受講者への要望			
本講義は３回生以下の学生のバックアップを目的としている。就職活動で出席できそうにない４回生の登録は、歓迎しない。			
講義の順序とポイント			
1　論理的問題 2　集合・うそつき問題 3　暗号解読 4　対応表を使いこなす 5　位置・順序を決める 6　図形を読み取る 7　整数の性質 8　方程式 9　割合、比、濃度算、損益算 １０　速度算、時計算、年齢算 １１　順列・組合せ １２　確率 １３　平面図形に慣れる １４　立体図形に慣れる １５　警察官・消防官に合格した４回生との座談会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★★	ー	ー	★

年度	2016	授業コード	J40167001
科目名	少年法	単位数	2
科目名（英語表記）	Juvenile Law		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	過去数十年の間だけでも、神戸の児童連続殺傷事件、佐世保小６女自殺害事件、山口県光市母子殺害事件、そして裁判員裁判で死刑が問題となった石巻男女殺傷事件などの少年事件が報道で大きく取り上げられている。しかし、事件を犯した少年が、どのような手続を経て、どのような処分を受けるのかということを正確に理解しているだろうか。「少年法」という言葉は知っていてもその法律の理念・全体像を理解しているだろうか。 警察官や法曹など、犯罪に関わっていく職業はもちろん、裁判員制度が施行された今では、少年法に関する基本的知識は不可欠になってくるだろう。そこで、この講義では、少年法の意義や少年法による手続の流れなどを概観したうえで、警察や家庭裁判所等の役割および少年法をめぐる問題について理解を深めてもらう。		
教材（テキスト）	レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。毎回六法を持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	少年事件や少年審判の流れについて理解し、少年法に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

この講義では、少年事件の手続を中心に解説するので、少年非行の実態やその原因などについて学びたいという学生はこの講義ではなく「犯罪学」を受講すること。
学期末試験や小テストのためにも、少年事件の手続全体および少年法の意義を理解する必要がある。したがって、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。

講義の順序とポイント

1　　少年法とは
2　　少年法制の沿革
3　　少年法の目的と対象
4　　少年保護事件の対象と手続
5　　警察による捜査・予防活動（1）
6　　警察による捜査・予防活動（2）
7　　小テストと解説
8　　警察における非行防止活動
9　　家庭裁判所における事件受理
１０　観護措置
１１　調査
１２　少年審判
１３　試験観察・終局決定①
１４　終局決定②
１５　検察官送致（逆送）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J40167002
科目名	少年法	単位数	2
科目名（英語表記）	Juvenile Law		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	過去数十年の間だけでも、神戸の児童連続殺傷事件、佐世保小６女自殺害事件、山口県光市母子殺害事件、そして裁判員裁判で死刑が問題となった石巻男女殺傷事件などの少年事件が報道で大きく取り上げられている。しかし、事件を犯した少年が、どのような手続を経て、どのような処分を受けるのかということを正確に理解しているだろうか。「少年法」という言葉は知っていてもその法律の理念・全体像を理解しているだろうか。 警察官や法曹など、犯罪に関わっていく職業はもちろん、裁判員制度が施行された今では、少年法に関する基本的知識は不可欠になってくるだろう。そこで、この講義では、少年法の意義や少年法による手続の流れなどを概観したうえで、警察や家庭裁判所等の役割および少年法をめぐる問題について理解を深めてもらう。		
教材（テキスト）	レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。毎回六法を持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	少年事件や少年審判の流れについて理解し、少年法に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

この講義では、少年事件の手続を中心に解説するので、少年非行の実態やその原因などについて学びたいという学生はこの講義ではなく「犯罪学」を受講すること。
学期末試験や小テストのためにも、少年事件の手続全体および少年法の意義を理解する必要がある。したがって、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。

講義の順序とポイント

1　　少年法とは
2　　少年法制の沿革
3　　少年法の目的と対象
4　　少年保護事件の対象と手続
5　　警察による捜査・予防活動（1）
6　　警察による捜査・予防活動（2）
7　　小テストと解説
8　　警察における非行防止活動
9　　家庭裁判所における事件受理
１０　観護措置
１１　調査
１２　少年審判
１３　試験観察・終局決定①
１４　終局決定②
１５　検察官送致（逆送）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J4018100A
科目名	現代社会と法１	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues 1		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	現代の社会においては、様々な企業形態、商取引があり、これらは社会の発展にともない複雑化、多様化している。そして、このような経済分野においては伝統的な犯罪態様を対象としている刑法典では捕捉しきれず、新しく生じた犯罪現象にあわせて刑事罰をともなう法律が作られている。本ゼミでは、この経済分野に対する刑法、すなわち経済刑法について学び、経済分野において刑法がどのような役割を果たしているかを報告してもらい、議論する予定である。		
教材（テキスト）	神山敏雄・斉藤豊治・浅田和茂・松宮孝明『新経済刑法入門［第２版］』（成文堂・2013）（3500 円＋税）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	現代の経済刑法についての理解を深め、その知識を実社会で活かせるようにすることが目標である。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、内容について理解すること。		

受講者への要望

本ゼミでは、刑法についての基礎知識があることを前提とした上で、経済刑法は刑法典以外の法律も対象としていくことから、事前準備において幅広く勉強することが必要である。またゼミでは指定した教科書を中心として進めていくことから、受講者は教科書を必ず購入すること。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス・第１章 経済刑法の概念
２．第１章・設問に対する報告
３．第２章　刑法各則の犯罪類型と経済刑法
４．第２章・設問に対する報告
５．第３章　経済犯罪に対するサンクションの体系
６．第３章・設問に対する報告
７．第４章　経済刑法と刑法の諸原則
８．第４章・設問に対する報告
９．第５章　法人の刑事責任
１０．第５章・設問に対する報告
１１．第６章　経済犯罪・経済刑法の国際化
１２．第６章・設問に対する報告
１３．.第７章　企業の内部統制と経済犯罪
１４．第７章・設問に対する報告
１５．経済刑法について学んだことについての議論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J4018100B
科目名	現代社会と法１	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues 1		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	現代の社会においては、様々な企業形態、商取引があり、これらは社会の発展にともない複雑化、多様化している。そして、このような経済分野においては伝統的な犯罪態様を対象としている刑法典では捕捉しきれず、新しく生じた犯罪現象にあわせて刑事罰をともなう法律が作られている。本ゼミでは、この経済分野に対する刑法、すなわち経済刑法について学び、経済分野において刑法がどのような役割を果たしているかを報告してもらい、議論する予定である。		
教材（テキスト）	神山敏雄・斉藤豊治・浅田和茂・松宮孝明『新経済刑法入門［第２版］』（成文堂・2013）（3500 円＋税）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	現代の経済刑法についての理解を深め、その知識を実社会で活かせるようにすることが目標である。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、内容について理解すること。		

受講者への要望

本ゼミでは、刑法についての基礎知識があることを前提とした上で、経済刑法は刑法典以外の法律も対象としていくことから、事前準備において幅広く勉強することが必要である。またゼミでは指定した教科書を中心として進めていくことから、受講者は教科書を必ず購入すること。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス・第１章 経済刑法の概念
２．第１章・設問に対する報告
３．第２章　刑法各則の犯罪類型と経済刑法
４．第２章・設問に対する報告
５．第３章　経済犯罪に対するサンクションの体系
６．第３章・設問に対する報告
７．第４章　経済刑法と刑法の諸原則
８．第４章・設問に対する報告
９．第５章　法人の刑事責任
１０．第５章・設問に対する報告
１１．第６章　経済犯罪・経済刑法の国際化
１２．第６章・設問に対する報告
１３．.第７章　企業の内部統制と経済犯罪
１４．第７章・設問に対する報告
１５．経済刑法について学んだことについての議論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J4018200A
科目名	現代社会と法２	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues 2		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	前期の現代社会と法に引き続き、経済刑法について学び、経済分野において刑法がどのような役割を果たしているかを報告してもらい、議論する予定である。		
教材（テキスト）	神山敏雄・斉藤豊治・浅田和茂・松宮孝明『新経済刑法入門［第２版］』（成文堂・2013）（3500 円＋税）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	現代の経済刑法についての理解を深め、その知識を実社会で活かせるようにすることが目標である。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、内容について理解すること。		

受講者への要望

本ゼミでは、刑法についての基礎知識があることを前提とした上で、経済刑法は刑法典以外の法律も対象としていくことから、事前準備において幅広く勉強することが必要である。またゼミでは指定した教科書を中心として進めていくことから、受講者は教科書を必ず購入すること。

講義の順序とポイント

１．第８章 経済犯罪の対策
２．第８章・設問に対する報告
３．第９章　マネー・ロンダリング
４．第９章・設問に対する報告
５．第 10 章　経済事犯の発見と監視機構
６．第 10 章・設問に対する報告
７．第 11 章　経済事犯の捜査
８．第 11 章・設問に対する報告
９．第 12 章　経済事犯の裁判
１０．第 12 章・設問に対する報告
１１．第 13 章　会社法上の罰則
１２．第 13 章・設問に対する報告
１３．第 14 章　証券取引をめぐる犯罪
１４．第 14 章・設問に対する報告
１５．経済刑法について学んだことについての議論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J4018200B
科目名	現代社会と法２	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues 2		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	前期の現代社会と法に引き続き、経済刑法について学び、経済分野において刑法がどのような役割を果たしているかを報告してもらい、議論する予定である。		
教材（テキスト）	神山敏雄・斉藤豊治・浅田和茂・松宮孝明『新経済刑法入門［第２版］』（成文堂・2013）（3500 円＋税）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	現代の経済刑法についての理解を深め、その知識を実社会で活かせるようにすることが目標である。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、内容について理解すること。		

受講者への要望

本ゼミでは、刑法についての基礎知識があることを前提とした上で、経済刑法は刑法典以外の法律も対象としていくことから、事前準備において幅広く勉強することが必要である。またゼミでは指定した教科書を中心として進めていくことから、受講者は教科書を必ず購入すること。

講義の順序とポイント

１．第８章 経済犯罪の対策
２．第８章・設問に対する報告
３．第９章　マネー・ロンダリング
４．第９章・設問に対する報告
５．第 10 章　経済事犯の発見と監視機構
６．第 10 章・設問に対する報告
７．第 11 章　経済事犯の捜査
８．第 11 章・設問に対する報告
９．第 12 章　経済事犯の裁判
１０．第 12 章・設問に対する報告
１１．第 13 章　会社法上の罰則
１２．第 13 章・設問に対する報告
１３．第 14 章　証券取引をめぐる犯罪
１４．第 14 章・設問に対する報告
１５．経済刑法について学んだことについての議論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J40211001
科目名	行政法Ⅱ（作用法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Ⅱ (Actions)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の３つの講義で構成される。本講義では、行政作用法の部分と行政の義務履行確保の部分、行政手続、情報公開、個人情報保護を扱う。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	宇賀克也・交告尚史『行政判例百選Ⅰ[第６版]』、『行政判例百選Ⅱ[第６版]』（有斐閣、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（60%）　授業内テスト（20%）　出席状況、授業内レポート等による平常点（20%）		
到達目標	行政作用のそれぞれの特色を理解するとともに、行政救済法との関係も学ぶ。		
準備学習	毎回、講義終了時に確認テストとして公務員試験の過去問を解く。 次回の範囲の教科書該当頁と関連判例を予習する。		
受講者への要望			
公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。 憲法科目は履修すること。行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずセットで履修すること。 地方自治法も履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　行政法の学び方と講義の概要 ２．　行政作用の種類 ３．　行政立法 ４．　行政行為の概念と種類 ５．　行政裁量 ６．　行政行為の効力 ７．　行政行為の瑕疵 ８．　行政行為の取消しと撤回 ９．　行政行為の附款 １０．行政計画 １１．行政契約 １２．行政指導 １３．行政上の強制執行 １４．行政上の即時強制 １５．行政罰			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J40211002
科目名	行政法 II （作用法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law II (Actions)		
担当者名	石塚　武志	旧科目名称	
講義概要	国や自治体による行政と私たち私人・私企業の間の法律関係について、契約による場合など応用的な場面につき学習する。		
教材（テキスト）	曽和俊文『行政法総論を学ぶ』（有斐閣、2014 年）		
教材（参考文献）	宇賀克也ほか編『行政判例百選 I［第 6 版］』（有斐閣、2012 年） 高橋滋編著『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	時おり課題を提出してもらい、それを平常点として 25 点分として評価します。 定期試験ないしレポート課題を学期末に実施し、75 点分として評価します。		
到達目標	「行政法」は、公務員試験等の試験科目となっている場合があります。そのような試験の受験勉強を進める基礎となる学力を習得することを目標とします。		
準備学習	授業予定を示しますので、テキストの該当箇所を通読してから授業に臨んでください。		
受講者への要望			
テキストに指定するものに限りませんが、『行政法』に関する教科書・体系書を何か一つ手にして、学習を進めるようにしてください。授業中に法律の条文を参照することがありますので、六法を持参してください。			
講義の順序とポイント			
1. 行政契約(1) 2. 行政契約(2) 3. 行政指導(1) 4. 行政指導(2) 5. 行政指導(3) 6. 行政手続(1) 7. 行政手続(2) 8. 行政手続(3) 9. 行政調査 10. 行政の実効性確保(1) 11. 行政の実効性確保(2) 12. 行政の実効性確保(3) 13. 情報公開制度・個人情報保護制度(1) 14. 情報公開制度・個人情報保護制度(2) 15. 情報公開制度・個人情報保護制度(3)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J40216A02
科目名	公務員特別研究Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions I		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験において最重要科目と言える経済原論（ミクロ経済学、マクロ経済学）の対策を通年で行います。 対象は、公務員試験受験を考えている方、経済学研究科、MBA などの大学院試験受験を考えている方、経済学に興味がある方等です。入門的な内容から行いますので、事前の知識は問いません。 前期は個別経済主体の経済活動の集計としての「国」の活動を分析対象とするマクロ経済学です。 テキストとして指定しているのは公務員試験勉強の定番と言える問題集です。 各トピックについて講義をした後、テキストの主要な問題を解説します。 パワーポイントの使用を最低限にし、板書を中心に行います。また、演習時間を設けることがあるので筆記用具は必携です。 皆さんがテキストの各問題を自力で解けるようになることを本講義の目標にしたいと思います。 なお、経済学を勉強するにあたって数学を回避することは出来ません。 初回の講義において、本講義において最低限必要な数学について説明しますが、適宜参考文献などを利用し、復習を行って理解を深めましょう。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『公務員試験新スーパー過去問ゼミ 4　マクロ経済学』実務教育出版，2014 年 ISBN-10:4788948621		
教材（参考文献）	石川秀樹『試験攻略　新・経済学入門塾Ⅴ　計算マスター編』中央経済社 福田慎一，照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ		
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期テスト（50%）　授業内小テスト等による平常点（20%）　二度のレポート（30%）		
到達目標	マクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、それを問題へ応用する力をつける。		
準備学習	講義の最後に復習として問題（テキストおよび配布プリント）を指示します。 次回の講義までに解いてください。 また、テキストの各チャプターの最初にある「POINT」のページを読み、講義前の予習をしておいてください。		

受講者への要望

熱意をもって取り組むこと。
話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。
また、講義中の質問を歓迎します。

講義の順序とポイント

1．講義ガイダンス
2．45 度線分析
3．45 度線分析
4．IS 曲線 1
5．IS 曲線 2
6．LM 曲線 1
7．LM 曲線 2
8．IS-LM 分析 1
9．IS-LM 分析 2
１０．乗数理論の基本 1
１１．乗数理論の基本 2
１２．IS-LM 型の計算問題 1
１３．IS-LM 型の計算問題 2
１４．総需要・総供給分析 1
１５．総需要・総供給分析 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40216B02
科目名	公務員特別研究Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions Ⅱ		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験において最重要科目と言える経済原論（ミクロ経済学、マクロ経済学）の対策を通年で行います。 対象は、公務員試験受験を考えている方、経済学研究科、MBA などの大学院試験受験を考えている方、経済学に興味がある方等です。入門的な内容から行いますので、事前の知識は問いません。 後期は個別経済主体の意思決定と取引を主な分析対象とするミクロ経済学です。 テキストとして指定しているのは公務員試験勉強の定番と言える問題集です。 各トピックについて講義をした後、テキストの主要な問題を解説します。 パワーポイントの使用を最低限にし、板書を中心に行います。また、演習時間を設けることがあるので筆記用具は必携です。 皆さんがテキストの各問題を自力で解けるようになることを本講義の目標にしたいと思います。 なお、経済学を勉強するにあたって数学を回避することは出来ません。 初回及び第２回の講義において、本講義で最低限必要な数学について説明しますが、適宜参考文献などを利用し、復習を行って理解を深めましょう。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『公務員試験新スーパー過去問ゼミ４　ミクロ経済学』実務教育出版，2014 年 ISBN-10:4788948613		
教材（参考文献）	N.G.マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社 石川秀樹『試験攻略　新・経済学入門塾Ｖ　計算マスター編』中央経済社		
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期テスト（50%）　授業内小テスト等による平常点（20%）レポート（30%）		
到達目標	ミクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、それを問題へ応用する力をつける。		
準備学習	講義の最後に復習として問題（テキストおよび配布プリント）を指示します。 次回の講義までに解いてください。 また、テキストの各チャプターの最初にある「POINT」のページを読み、講義前の予習をしておいてください。		

受講者への要望

熱意をもって取り組むこと。
話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。
また、講義中の質問を歓迎します。

講義の順序とポイント

１．講義ガイダンス
２．数学準備
３．消費者理論１
４．消費者理論２
５．消費者理論３
６．消費者理論４
７．生産者理論１
８．生産者理論２
９．生産者理論３
１０．不完全競争１
１１．不完全競争２
１２．不完全競争３
１３．市場の理論１
１４．市場の理論２
１５．市場の理論３

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40221001
科目名	商法総則・商行為法	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Code (General Provisions and Commercial　Transaction)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	本講義では、商法分野のうち、「商法総則・商行為法」を中心に講義し、商法上の制度や商取引の仕組みについて基本的な知識を修得する。商法総則とほぼ同内容を会社について規定する「会社法総則」についても適宜触れる。民法上の契約は、商人でない者同士の取引を想定するのに対し、本講義の取り扱う商法総則・商行為は、商人間の取引および商人と消費者の取引が想定される。これらをモデル・ケースを提示しつつ講義し、法的なものの見方を養成する。		
教材（テキスト）	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法＜第 2 版補訂版＞』（有斐閣、2014 年） 2,160 円		
教材（参考文献）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年） 2,592 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期期末試験（60%）。		
到達目標	1.社会において商法がどのように役立っているか、法的に理解できる。 2.商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
民法総則・契約法を履修済であるか、並行して履修すること。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．商法の法源、商人の意義 3．商人資格の得喪 4．営業 5．商号規制 6．商業帳簿、資産の評価 7．商業使用人、代理商 8．商業登記 9．商行為概念とその効果 10.商行為の代理・商事契約の成立 11.商事担保 12.企業取引の補助者 13.商事売買 14.問屋営業・運送営業 15.場屋営業・倉庫営業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J40221002
科目名	商法総則・商行為法	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Code (General Provisions and Commercial　Transaction)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	本講義では、商法分野のうち、「商法総則・商行為法」を中心に講義し、商法上の制度や商取引の仕組みについて基本的な知識を修得する。商法総則とほぼ同内容を会社について規定する「会社法総則」についても適宜触れる。民法上の契約は、商人でない者同士の取引を想定するのに対し、本講義の取り扱う商法総則・商行為は、商人間の取引および商人と消費者の取引が想定される。これらをモデル・ケースを提示しつつ講義し、法的なものの見方を養成する。		
教材（テキスト）	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法＜第 2 版補訂版＞』（有斐閣、2014 年） 2,160 円		
教材（参考文献）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年） 2,592 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期期末試験（60%）。		
到達目標	1.社会において商法がどのように役立っているか、法的に理解できる。 2.商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
民法総則・契約法を履修済であるか、並行して履修すること。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．商法の法源、商人の意義 3．商人資格の得喪 4．営業 5．商号規制 6．商業帳簿、資産の評価 7．商業使用人、代理商 8．商業登記 9．商行為概念とその効果 10.商行為の代理・商事契約の成立 11.商事担保 12.企業取引の補助者 13.商事売買 14.問屋営業・運送営業 15.場屋営業・倉庫営業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40223001
科目名	企業法務	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	会社･企業の実務の中で発生する個々の法律問題について、具体的場面においてどのように対処すべきかを考えていく。 素材として取り上げるのは、企業の営業部門・管理部門を問わず、対外的・対内的なトラブルになった事例で、判例として公表されているものを中心とする。		
教材（テキスト）	指定しない		
教材（参考文献）	岡伸浩「リーガルシンキング－コンプライアンスのための現場思考力－」（レクシスネクシス・ジャパン）		
教材（その他）	レジュメ・資料等を配布する。		
評価方法	レポート(60%) 授業内でのプレゼンテーション(40%)		
到達目標	会社実務で発生する具体的問題について、①法的リスクに気づき、②妥当な法的解決を考える、という体験をする。		
準備学習	１．基本は民法･商法･会社法である。履修･未履修を問わず、手持ちの参考書等に目を通す。 ２．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。 ３．授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認する。 ４．プレゼンテーションの担当者は、十分準備の上、ある程度の質疑応答にも対応できるようにしておく。		

受講者への要望

会社･企業ビジネスの実際について関心を持つとともに、日本経済新聞に報道されている会社法務の話題(とくに月曜日の朝刊に掲載されている「法務 Insight」)についても目配りしてほしい。

なお、それほど難解な理論を展開する予定はないが、条文に基づいた議論をするので、最新版の六法は受講にあたっての必須ツールという認識を持つこと。

講義の順序とポイント

１．はじめに－民法・ビジネス実務法務検定・企業法務判例
２．契約交渉の破棄とその責任
３．複合的契約の解除(２個の契約のうち１個の契約の債務不履行)
４．倒産解除条項の効力
５．継続的契約の解消
６．表明･保証に伴う責任(株式譲渡契約後に判明した簿外債務の問題)
７．共同企業体(ＪＶ)を請負人とする請負契約の約款条項の解釈
８．会社分割と商号の続用
９．会社資産の安値売却と経営判断原則(アパマンショップホールディング株主代表訴訟事件)
１０．契約締結前の説明義務違反
１１．フランチャイズ契約における違約金条項の有効性
１２．会社内部の違法事実を公表しなかった取締役の責任
１３．構成部分の変動する流動資産譲渡担保と物上代位
１４．携帯電話の解約金条項が無効出ないとされた事例
１５．パワハラ問題－岡山県貨物運送事件

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	−	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J40226001
科目名	市民社会論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	１９９０年前後から世界的な市民社会論ブームが続いている。日本においても市民社会について活発に論じられるようになっている。しかしながら現在の市民社会論は、時に「新しい市民社会論」とも呼ばれ、１７・１８世紀のヨーロッパを念頭において議論される「古い市民社会論」とは異なる特徴をもつものとなっている。では、「新しい市民社会論」では、現代における市民や市民社会あるいは政治に対して、何を求めているのであろうか。日本の市民や市民社会は、どの様な状況にあるのであろうか。本講義では、以上の点を理論的に考察することを通じて、現代民主政治が有する限界を乗り越える方法を模索することとしたい。		
教材（テキスト）	レジメを配布する。		
教材（参考文献）	山口定『市民社会論』（有斐閣、２００４年） 篠原一『市民の政治学－討議デモクラシーとは何か－』（岩波新書、２００４年） 石川真澄『戦後政治史　新版』（岩波新書、２００４年）		
教材（その他）	必要に応じて紹介する		
評価方法	授業内コメントカード（２０％）、レポート①（３０％）、レポート②（３０％）、質疑応答への参加度（２０％）。		
到達目標	１）代議制民主政治の制度的な欠点について、市民社会論の観点から批判できるようになること。 ２）公共の問題についてどのように考えていけばよいかを説明できるようになること。 ３）戦後日本における市民社会と市民運動の展開について、説明できるようになること。		
準備学習	１）配布するレジメを熟読してくること。 ２）各回の講義内容に関連する出来事を、新聞やテレビのニュースをもとに探してくること。		
受講者への要望			
１）まじめに講義に出席し、こまめにノートを取るよう努力すること。 ２）講義中に受講生同士の討議の時間を設けるので、自由に発言すること。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに－現代政治の制度的特徴－ ２．現代市民社会論の特徴（１） ３．現代市民社会論の特徴（２） ４．現代市民社会論の特徴（３） ５．現代市民社会論における「市民」（１） ６．現代市民社会論における「市民」（２） ７．現代市民社会論における「市民」（３） ８．政策決定プロセスと市民社会（１） ９．政策決定プロセスと市民社会（２） １０．政策決定プロセスと市民社会（３） １１．公共性とは何か（１） １２．公共性とは何か（２） １３．戦後日本の政治経済の展開と日本の市民運動・市民社会（１） １４．戦後日本の政治経済の展開と日本の市民運動・市民社会（２） １５．戦後日本の政治経済の展開と日本の市民運動・市民社会（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40227001
科目名	民法Ⅳ（契約・不法行為法）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法第３編のうち、債権発生原因である契約および不法行為を中心に学習する。順序としては、契約一般に共通するルール（契約総則）をみた後に、各種の契約の中でもとくに重要なもの（売買・賃貸借など）を扱い、最後に不法行為法を概観する。講義にあたっては具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第５版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．契約および不法行為に関する主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．主要論点に関する判例・学説を理解する。 ３．具体的な事例に条文を当てはめ、解決することができる。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
民法は全体として密接に関連しているので、民法Ⅰ（総則）、民法Ⅲ（債権総論）などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。また、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。			
講義の順序とポイント			
１．　受講にあたっての注意／契約・不法行為法序説 ２．　契約の成立 ３．　契約の効力（１）同時履行の抗弁権 ４．　契約の効力（２）危険負担 ５．　契約の解除 ６．　契約総則の復習（練習問題） ７．　売買（１） ８．　売買（２）売主の担保責任 ９．　贈与 １０．賃貸借（１） １１．賃貸借（２） １２．不動産賃貸借～借地借家法 １３．その他の典型契約 １４．不法行為（１） １５．不法行為（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J40227002
科目名	民法Ⅳ（契約・不法行為法）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法第３編のうち、債権発生原因である契約および不法行為を中心に学習する。順序としては、契約一般に共通するルール（契約総則）をみた後に、各種の契約の中でもとくに重要なもの（売買・賃貸借など）を扱い、最後に不法行為法を概観する。講義にあたっては具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第５版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．契約および不法行為に関する主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．主要論点に関する判例・学説を理解する。 ３．具体的な事例に条文を当てはめ、解決することができる。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
民法は全体として密接に関連しているので、民法Ⅰ（総則）、民法Ⅲ（債権総論）などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。また、受講に際しては必ず「六法」を持参すること。			
講義の順序とポイント			
１．　受講にあたっての注意／契約・不法行為法序説 ２．　契約の成立 ３．　契約の効力（１）同時履行の抗弁権 ４．　契約の効力（２）危険負担 ５．　契約の解除 ６．　契約総則の復習（練習問題） ７．　売買（１） ８．　売買（２）売主の担保責任 ９．　贈与 １０．賃貸借（１） １１．賃貸借（２） １２．不動産賃貸借～借地借家法 １３．その他の典型契約 １４．不法行為（１） １５．不法行為（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J40228002
科目名	宅建特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Real Estate Agent Exam inations		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	公正な不動産取引のための国家資格である宅地建物取引士（旧・宅地建物取引主任者）試験に合格するために必要な知識を学習する。同試験の出題範囲は広範であるため、本講義では、独学では理解が困難な「権利関係（民法、借地借家法、区分所有法など）」を中心に講義と問題演習を行う。		
教材（テキスト）	市販のテキストと過去問題集を指定する。本講義はテキストと過去問題集に沿って展開するため、テキストおよび過去問題集の購入が必須となる（すべて定価で購入すると 1 万円～1 万 2 千円くらいかかる。）。受講者の経済的負担を軽減するため、キャリアサポートセンターの課外講座と同じテキストを用いる予定である。詳細は初回の講義で指示するので、テキスト等をあらかじめ購入しておく必要はない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、レジュメを配布する。		
評価方法	過去問を用いた講義内試験の結果による。講義内試験では、本試験の過去問を中心に出題する予定である。成績評価において出席状況、受講態度は考慮されない。		
到達目標	宅地建物取引士試験に合格するために必要な知識を取得する。		
準備学習	講義時間の多くを問題の解説に費やすため、受講者はテキストの指定箇所を一読した上で、前回の講義で配布された問題をあらかじめ解いておくこと。予習・復習のために自習室等を積極的に活用すること。		

受講者への要望

本講義は 2016 年 10 月に実施される本試験を受験する明確な意思がある者を対象としている。単位の数合わせや空き時間を埋めるために本講義を登録することはくれぐれもご遠慮願いたい。一般に、宅建合格のためには 250-300 時間の学習が必要であるといわれているが、本講義の 1 回 90 分、15 回を合計してもわずか 22.5 時間でしかない。受講者には、大学の内外で自主的に受験勉強に取り組むことが求められる。受験勉強の経験がない、意思が弱いなどの理由で独学に自信がない場合、キャリアサポートセンターの課外講座や資格試験学校の講座をあわせて受講することを勧める。

問題演習が中心となるため、なるべく多くの民法科目を履修済みであるか、同時に履修していることが望ましい。なお、同じ担当者による「民法特別研究」および「公務員特別研究Ｂ」と内容的に重複する部分がある。

講義の順序とポイント

出題範囲のうち、いわゆる「権利関係」が中心となるが、学習の進捗状況を確認するために他の分野（「宅建業法」など）を扱うこともある。

1．　オリエンテーション
2．　権利主体
3．　意思表示
4．　代理
5．　債務不履行・解除
6．　危険負担・売主の担保責任
7．　売買
8．　物権変動
9．　宅建業法（1）
１０．抵当権
１１．保証・連帯債務
１２．不法行為
１３．賃貸借
１４．借地借家法
１５．宅建業法（2）、法令上の制限・税・その他

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J40229001
科目名	法曹特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Legal Profession Exami nations		
担当者名	原　弘明	旧科目名称	法曹研究Ａ
講義概要	2011 年度より、法曹となるための最終試験は、司法試験に一本化されている。司法試験の受験資格を得るためには、予備試験に合格しない限り、法科大学院を修了する必要がある。法科大学院入学試験に際して課される共通試験が、いわゆる適性試験である。 本講義は、適性試験に必要な論理・分析・読解力を養い、実際に問題に解答できる能力を養成することを目的とする、演習時間を含む講義科目である。		
教材（テキスト）	適性試験委員会編『2010 年法科大学院統一適性試験ガイドブック』(商事法務、2010 年) ※現時点ではこの書籍が最新版であるが、改訂の場合は最新版を使用する。絶版の場合は適宜対応する。		
教材（参考文献）	講義中に随時指示する。		
教材（その他）	随時、プリント等を配布する。		
評価方法	1. 3 回行う試験の成績(各 25%・計 75%) 2. 平常点(25%)出席状況・授業参加度などから判断する。		
到達目標	法科大学院適性試験を、独力で時間内に高成績をとれる基礎能力を得る。		
準備学習	1. 事前に、テキスト及び日弁連法務研究財団ウェブサイト{http://www.jlf.or.jp/index.php}で、試験問題などを確認すること。可能な限り、事前に時間を測って解いておくこと。 2. 講義中正解できなかった問題について、講義後解き直しておくこと。		
受講者への要望			
1.【必読・重要】本講義は、法科大学院適性試験向けの演習講義であり、進学希望者以外の受講を想定していない。就職試験の SPI・公務員試験の数的処理とも問題傾向が異なるので、履修しても意味がない。毎年度、シラバスをよく確認しなかったため履修取り消しせざるを得ず、この時間帯を空きコマとせざるを得ない学生が発生しているので、特に注意すること。 2. 特に論理・分析力問題の解答に際しては、メモ用紙が大量に必要となるので、ルーズリーフなどを毎回持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス・ 論理的思考方法(講義)--逆・裏・対偶、論理式 2. 論理的判断力(1)問題演習・講義 3. 論理的判断力(2)問題演習・講義 4. 論理的判断力(3)問題演習・講義 5. 試験(論理的判断力パート) 6. 分析的把握の思考方法(講義)--表・樹形図による分析 7. 分析的判断力(1)問題演習・講義 8. 分析的判断力(2)問題演習・講義 9. 分析的判断力(3)問題演習・講義 10. 試験(分析的判断力パート) 11. 長文読解力(1)問題演習・講義 12. 長文読解力(2)問題演習・講義 13. 長文読解力(3)問題演習・講義 14. 試験(長文読解力パート) 15. 小論文パート問題演習・講義			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J40230001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。　したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（テキスト）	小池敏範著『実務家養成シリーズ　わかりやすい法人税』（税務研究会出版局）		
教材（参考文献）	渡辺淑夫著『法人税法　平成 27 年版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教材（その他）	随時、法人税申告書の記載例や参考資料を配布する。		
評価方法	授業中の報告や議論内容（30%）、レポート（70%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
準備学習	事前にテキストを読んで予習しておくこと。		

受講者への要望

税制に関連するマスコミ報道等に関心を持つこと。

講義の順序とポイント

1. 法人の区分と課税の範囲、法人税の体系
2. 課税所得の計算構造
3. 損益の期間帰属、受取配当等
4. 外貨建取引、減価償却資産、繰延資産
5. 給与、寄附金、交際費、その他の損金
6. 引当金・準備金制度、圧縮記帳制度
7. 税額の計算
8. 税効果会計（1）
9. 税効果会計（2）
10. 新会計基準と法人税（1）
11. 新会計基準と法人税（2）
12. 新会計基準と法人税（3）
13 中小企業の会計
14. グループ法人税制
15. 法人税申告書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J40231002
科目名	ＳＰＩ特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	多くの企業が採用試験で、適性試験を実施し、特にこのＳＰＩは多くの企業で採用され、現在では、市役所や消防などの公務員試験にも同様の試験がなされている。ＳＰＩ対策がきちんとできていないと、面接で自分自身を見てもらう機会すら与えられず、就職活動でも厳しい状況になる。そこで、本講義では、ＳＰＩ対策として、言語分野、非言語分野を中心に、講義で扱うことによって、今後の自身での対策を促進する。		
教材（テキスト）	就職対策研究会編『最頻出！　ＳＰＩパーフェクト問題集』（2015、高橋書店）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト（２０％）　中間確認テスト、後半確認テスト、最終確認テスト（３０％）　学期末テスト（５０％）		
到達目標	就職活動への準備に対する理解を深めるとともに、就職の採用試験の筆記試験に臨む心構えをつくり、学生の自主的な勉強を促すことを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回のテキストの範囲指定するので、各項目について予習しておくこと。同じく、講義終了時に宿題を指定するので、次回講義開始時に提出すること。		
受講者への要望			
この講義では、就職活動を念頭においている学生はもちろん、警察・消防などの公務員試験を考えている学生にも対応できるような講義内容を組んでいるので、できるだけ多くの学生に受講してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　SPI とは、計算練習、鶴亀算 2　割合・比、同意語 3　損益算、反意語 4　濃度算、用途・行為 5　仕事算・水槽算、包含・原料 6　中間確認テストと解説　不等式 7　速度算、ことわざ・慣用句・敬語 8　流水算、語句の意味 9　順列・組み合わせ、複数の意味 10　確率、空欄補充 11　虫食い算、n 進法、文章整序 12　後半確認テストと解説、集合 13　図形（幾何）の証明、長文読解 14　数列、命題、一般常識、時事問題への取り組み方 １５　最終確認テストと解説			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★★	★	★	ー

年度	2016	授業コード	J40232001
科目名	民法特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study of Civil Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	公務員試験や法律系資格の試験科目である民法の講義と問題演習を行う。講義はよく出題される分野に絞って行い、これを踏まえて過去問の演習を繰り返す。		
教材（テキスト）	適宜、レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第 5 版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	数回実施する小テストの結果による。出席状況、講義中の質問への応答等を補充的に考慮する。		
到達目標	公務員試験等の合格に必要な民法の知識を習得する。		
準備学習	講義時間の多くを問題の解説に費やすため、受講者は前回の講義までに配布された問題をあらかじめ解いておくこと。予習・復習のために自習室等を積極的に活用すること。		
受講者への要望			
本講義は公務員試験等を受験する明確な意思がある者を対象としている。単位の数合わせや空き時間を埋めるために本講義を登録することはご遠慮願いたい。受講者には、漫然と出席することなく、自主的に受験勉強に取り組むことが求められる。なるべく民法関連科目を履修済み、または並行して履修することが望ましい。なお、同じ担当者による「宅建特別研究」と内容的に重複する部分がある。			
講義の順序とポイント			
１．　オリエンテーション ２．　制限行為能力 ３．　代理 ４．　債務不履行・解除（１） ５．　債務不履行・解除（２） ６．　契約総則（１） ７．　契約総則（２） ８．　契約各論（１） ９．　契約各論（２） １０．不法行為 １１．物権変動（１） １２．物権変動（２） １３．抵当権 １４．保証・連帯債務 １５．横断的な問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J50001001
科目名	ＣＭ表現論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Commercial Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	この科目は、教員による講義と、それをふまえ、受講者による広告や CM 表現の制作実習（学生がじっさいに広告表現案を作成し、発表する）を組み合わせて行う参加型の授業である。 日本は世界第二の広告大国であり、半世紀の歴史をもつ CM は、時代変化の波にさらされつつ成熟した表現文化を作っている。 限られたスペース・時間の枠内で視聴者に強い印象やインパクトを残す広告や CM 作品には必ず、マーケティングやコミュニケーション活動における何らかの課題解決に向けた送り手（企業、行政、団体、個人……）の強い意思とメッセージ（「誰に何を伝えたいのか！？」）が込められている。 マーケティング計画やコミュニケーション戦略の中での広告・CM 表現の制作の実際や、送り手の課題解決に適したさまざまな表現手法があることを知り、「戦略と表現」「メッセージとそのプレゼンテーション技法」のあり方について考え、受講生が自分なりの方法でそれらをデザインしていく手がかりを探す。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 中山幸雄・丸山顕・杉本健二・渡部秀人『CM プランナー入門』、電通、2007 年 山田奨治編『文化としてのテレビ・コマーシャル』世界思想社、2007 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内での広告制作課題（２回程度)、期末レポートないし広告作品の制作（60%）		
到達目標	広告・CM の制作プロセスと表現手法について知り、マーケティングや PR 活動における課題解決に向けたさまざまな戦略をどのようにメディア表現に落とし込むかを、実際の制作実習を通じて体験し、考える。		
準備学習	１）授業内で出される広告・CM 表現の制作課題を持ち帰り、各自がじっさいに広告や CM の企画や作品を作成し、授業で発表すること（＝授業時間外の作業が必要となる)。このため、前年度までに（あるいは並行して）「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などの制作実習科目を履修しておくことが必要である。 2）日頃、テレビやインターネット、印刷媒体などでさまざまな広告表現に意図的に接しておくこと。 3）さまざまな広告表現を受け手の立場で漫然と眺めるのではなく、作り手の立場に立って分析的にとらえる発想転換のトレーニングをしておくこと。		

受講者への要望

受講生は人間文化学部配当の「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などで、映像制作、グラフィック制作などの基礎技術を習得しておくことが望ましい。コマーシャル、広告表現や、その制作や奥深さに好奇心を抱き、広告作品の制作に強い意欲を持つ人の受講を求めます。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　広告・コマーシャルの基礎知識：さまざまな広告・CM 表現を見て、考える
第 3 回　広告・コマーシャルの制作プロセス（1)：広告クリエイターの制作の実際を見る
第 4 回　広告・コマーシャルの制作プロセス（2)：広告事例にもとづき、制作プロセスを学ぶ
第 5 回　マーケティング戦略と広告表現：特定製品分野の CM 表現戦略（シャンプーなど）
第 6 回　CM 表現のイメージ構成手法（「反復」と「比較」など）
第 7 回　広告・CM 制作課題の発表（1）
第 8 回　CM クリエイターの手法研究（1)：佐藤雅彦
第 9 回　CM クリエイターの手法研究（2)：佐藤可士和
第 10 回　CM クリエイターの手法研究（3)：箭内道彦
第 11 回　CM クリエイターの手法研究（4)：堀井組と市川準
第 12 回　広告・CM 制作課題の発表（2）
第 13 回　CM 音楽の役割と効果：近年の秀作 CM 音楽
第 14 回　日本と世界の CM 作品
第 15 回　最終制作作品・レポートの発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J50001002
科目名	ＣＭ表現論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Commercial Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	この科目は、教員による講義と、それをふまえ、受講者による広告や CM 表現の制作実習（学生がじっさいに広告表現案を作成し、発表する）を組み合わせて行う参加型の授業である。 日本は世界第二の広告大国であり、半世紀の歴史をもつ CM は、時代変化の波にさらされつつ成熟した表現文化を作っている。 限られたスペース・時間の枠内で視聴者に強い印象やインパクトを残す広告や CM 作品には必ず、マーケティングやコミュニケーション活動における何らかの課題解決に向けた送り手（企業、行政、団体、個人……）の強い意思とメッセージ（「誰に何を伝えたいのか！？」）が込められている。 マーケティング計画やコミュニケーション戦略の中での広告・CM 表現の制作の実際や、送り手の課題解決に適したさまざまな表現手法があることを知り、「戦略と表現」「メッセージとそのプレゼンテーション技法」のあり方について考え、受講生が自分なりの方法でそれらをデザインしていく手がかりを探す。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 中山幸雄・丸山顕・杉本健二・渡部秀人『CM プランナー入門』、電通、2007 年 山田奨治編『文化としてのテレビ・コマーシャル』世界思想社、2007 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内での広告制作課題（２回程度）、期末レポートないし広告作品の制作（60%）		
到達目標	広告・CM の制作プロセスと表現手法について知り、マーケティングや PR 活動における課題解決に向けたさまざまな戦略をどのようにメディア表現に落とし込むかを、実際の制作実習を通じて体験し、考える。		
準備学習	１）授業内で出される広告・CM 表現の制作課題を持ち帰り、各自がじっさいに広告や CM の企画や作品を作成し、授業で発表すること（＝授業時間外の作業が必要となる）。このため、前年度までに（あるいは並行して）「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などの制作実習科目を履修しておくことが必要である。 2）日頃、テレビやインターネット、印刷媒体などでさまざまな広告表現に意図的に接しておくこと。 3）さまざまな広告表現を受け手の立場で漫然と眺めるのではなく、作り手の立場に立って分析的にとらえる発想転換のトレーニングをしておくこと。		

受講者への要望

受講生は人間文化学部配当の「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などで、映像制作、グラフィック制作などの基礎技術を習得しておくことが望ましい。コマーシャル、広告表現や、その制作や奥深さに好奇心を抱き、広告作品の制作に強い意欲を持つ人の受講を求めます。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　広告・コマーシャルの基礎知識：さまざまな広告・CM 表現を見て、考える
第 3 回　広告・コマーシャルの制作プロセス（1）：広告クリエイターの制作の実際を見る
第 4 回　広告・コマーシャルの制作プロセス（2）：広告事例にもとづき、制作プロセスを学ぶ
第 5 回　マーケティング戦略と広告表現：特定製品分野の CM 表現戦略（シャンプーなど）
第 6 回　CM 表現のイメージ構成手法（「反復」と「比較」など）
第 7 回　広告・CM 制作課題の発表（1）
第 8 回　CM クリエイターの手法研究（1）：佐藤雅彦
第 9 回　CM クリエイターの手法研究（2）：佐藤可士和
第 10 回　CM クリエイターの手法研究（3）：箭内道彦
第 11 回　CM クリエイターの手法研究（4）：堀井組と市川準
第 12 回　広告・CM 制作課題の発表（2）
第 13 回　CM 音楽の役割と効果：近年の秀作 CM 音楽
第 14 回　日本と世界の CM 作品
第 15 回　最終制作作品・レポートの発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50002001
科目名	デジタル出版編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Publication Edit Practice		
担当者名	中本　真由美	旧科目名称	
講義概要	雑誌ができるまでの具体的なワークフローを学び、 そのなかでも『制作過程』に特化して実習する。 プロの制作現場でも使用されているグラフィックソフトを実際に使用し、 ソフトウエアの種類やその特長、そして使い方を習得する。 その他に出版物を中心としたレイアウトデザインの基礎も学ぶ。		
教材（テキスト）	授業中にプリントを配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況（平常点・50%）と制作物の提出（50%）		
到達目標	ソフトウエアの操作を習得し、目的に応じて使い分けるようになる。 グラフィックデザインの基礎的なスキルを理解し、自在にレイアウトをつくれるようになる。		
準備学習	好きな雑誌、よく読んでいる雑誌を持ってきてください。		

受講者への要望

課題の完成をめざしてどんどん手を動かして取り組んでください。
たくさん触って慣れてくると、制作実習が楽しくなってきます。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
・　雑誌ができるまでのワークフロー
・　デジタルデータとグラフィックソフトの特性を知る

2.インデザインを使ってみよう
　・文字の扱い方

3.レイアウトの基本
　・編集で使われている用語とレイアウトの基本的な考え方
　・タイトルを工夫する
　・写真を追加する方法

4.写真を加工する
・フォトショップの使い方
・フォトショップを使って写真データを加工する

5.図やイラストを追加する
・イラストレーターの使い方
・レイアウトに必要なパーツを作ってみる

6.インデザインの便利な使い方/自動化して作業効率を上げる
・複数ページの扱い方
・マスターページやスタイル設定など

7.製作実習/上記のソフトウエアを使って雑誌の紙面作りを行う
・自分で意図したレイアウトをつくる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50002002
科目名	デジタル出版編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Publication Edit Practice		
担当者名	中本　真由美	旧科目名称	
講義概要	雑誌ができるまでの具体的なワークフローを学び、 そのなかでも『制作過程』に特化して実習する。 プロの制作現場でも使用されているグラフィックソフトを実際に使用し、 ソフトウエアの種類やその特長、そして使い方を習得する。 その他に出版物を中心としたレイアウトデザインの基礎も学ぶ。		
教材（テキスト）	授業中にプリントを配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況（平常点・50%）と制作物の提出（50%）		
到達目標	ソフトウエアの操作を習得し、目的に応じて使い分けるようになる。 グラフィックデザインの基礎的なスキルを理解し、自在にレイアウトをつくれるようになる。		
準備学習	好きな雑誌、よく読んでいる雑誌を持ってきてください。		

受講者への要望

課題の完成をめざしてどんどん手を動かして取り組んでください。
たくさん触って慣れてくると、制作実習が楽しくなってきます。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
・　雑誌ができるまでのワークフロー
・　デジタルデータとグラフィックソフトの特性を知る

2.インデザインを使ってみよう
　・文字の扱い方

3.レイアウトの基本
　・編集で使われている用語とレイアウトの基本的な考え方
　・タイトルを工夫する
　・写真を追加する方法

4.写真を加工する
・フォトショップの使い方
・フォトショップを使って写真データを加工する

5.図やイラストを追加する
・イラストレーターの使い方
・レイアウトに必要なパーツを作ってみる

6.インデザインの便利な使い方/自動化して作業効率を上げる
・複数ページの扱い方
・マスターページやスタイル設定など

7.製作実習/上記のソフトウエアを使って雑誌の紙面作りを行う
・自分で意図したレイアウトをつくる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50003A01
科目名	アートギャラリー実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Art Gallery I		
担当者名	藤阪　新吾	旧科目名称	
講義概要	この授業は、共同のプロジェクトとして展覧会を自分たちで企画・制作・運営し、この経験をつうじて社会性と感性を育むことを目標としています。この取り組みは、コンヴィヴィアリティ(自律共生･共愉)を探究する社会美学の実践です。今年度は、これまで 6 年(回)にわたっておこなわれてきた「亀岡プロジェクト」(2010～15 年度）を検証・継承しながら新たな展開を探求します。 アートがたんなるモノではなく、社会との関わりの中で生まれる出来事であることを体験的に理解することが重要です。アートとは、作品とその制作を通じて社会的な場や状況それ自体を美的・感性的（aesthetic）に問いかけるものです。 J.ボイスは、「人はそれぞれ芸術家である」という言葉を遺しました。このメッセージが意味するのは、だれもが美的・感性的な協働・共働によって「美しい=よい」社会を共につくっていくことができるということであり、その実践をボイスは「社会彫塑」とよびました。こうして造形(形成)される「社会」とは、国や地域といった大きなものだけでなく、家族や友人、ゼミやサークルといった身近な人間関係としての「小さな社会」を含みます。 授業では、個人の作品制作だけでなく、人びとの交わりとしての「小さな社会」としての授業への関わりを重視します。授業に関係するさまざまな人たち（教員・アーティスト・ゲスト・地域の人びと・各種関係者）との関わり合いを通じて、展覧会を共につくりあげることを自覚し、「生きた社会」としての展覧会を制作し、一連の取り組みを報告書にまとめます。 その準備として、画像・映像を用いたレクチャー、ワークショップ、開催場所へのフィールドワーク、作品制作や展覧会企画（プランニングとプレゼンテーション)、広報などをおこないます。展覧会の開催はその総仕上げとなります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します		
評価方法	平常点（60%）：出席状況・学外実習参加・展覧会協力等を含む。 作品（30%）。レポート（10%）。		
到達目標	「生きた社会」としての展覧会を、共に企画、運営することを通じて、社会性と感性を育むこと。日常における美的・感性的（aesthetic）なものごとのあじわい（taste）とその社会的意義への理解を深めること。		
準備学習	準備学習は授業ごとに提示します：下調べや資料収集、作品制作のための用具や材料の準備など		

受講者への要望

＊「アートギャラリー実習Ⅱ」(5 講時)とセット（4 ・ 5 講時 連続）で履修すること。
＊授業は「太秦キャンパス」にて行う予定です。

＊この授業は、特殊なスケジュールでおこなわれることをよくふまえたうえで受講してください。
＊第 7 回となる今年度の展覧会は、2015 年 12 月 3 日（土)「One Day Exhibition」を予定しています。展覧会中の会場運営は授業の一環ですので、必ず参加してください。
＊通常授業は金曜日ですが、展覧会場と周辺のフィールドワーク、会場の準備・現場での作品制作・展示、会場運営、作品の搬入・搬出等の授業は、土曜日／日曜日などに振り替えておこなわれます。
＊この授業は受講者が協力して「展覧会」を制作することをめざしています。連絡なしに無断欠席したり、授業への自主的・協働的　な参加態度がない場合は、展覧会へ出品・参加が認められません。
＊学外実習にかかる交通費、作品の制作費等は自己負担となります。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション

2．プロジェクト･レクチャー

3．ワークショップ

4．フィールドワーク〈学外学習〉

5．作品構想／ディスカッション

6．プレゼンテーション／ディスカッション〈学外学習〉

7．プロジェクト･ミーティング

8．会場の整備と作品の準備・制作〈学外学習〉

9．作品の制作・展示〈学外学習〉

１０．内覧会（プレオープン）【12/2（金)】〈学外学習〉

１１・１２．展覧会【12/3（土)】〈学外学習〉

１３．作品の搬出と会場の清掃〈学外学習〉

１４．報告書のためのレポート作成

１５．報告書制作と振り返りのプレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	★	★	★★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J50003B01
科目名	アートギャラリー実習II	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Art Gallery II		
担当者名	藤阪　新吾	旧科目名称	
講義概要	この授業は、共同のプロジェクトとして展覧会を自分たちで企画・制作・運営し、この経験をつうじて社会性と感性を育むことを目標としています。この取り組みは、コンヴィヴィアリティ(自律共生･共愉)を探究する社会美学の実践です。今年度は、これまで 6 年(回)にわたっておこなわれてきた「亀岡プロジェクト」(2010〜15 年度）を検証・継承しながら新たな展開を探求します。 アートがたんなるモノではなく、社会との関わりの中で生まれる出来事であることを体験的に理解することが重要です。アートとは、作品とその制作を通じて社会的な場や状況それ自体を美的・感性的（aesthetic）に問いかけるものです。 J.ボイスは、「人はそれぞれ芸術家である」という言葉を遺しました。このメッセージが意味するのは、だれもが美的・感性的な協働・共働によって「美しい=よい」社会を共につくっていくことができるということであり、その実践をボイスは「社会彫塑」とよびました。こうして造形(形成)される「社会」とは、国や地域といった大きなものだけでなく、家族や友人、ゼミやサークルといった身近な人間関係としての「小さな社会」を含みます。 授業では、個人の作品制作だけでなく、人びとの交わりとしての「小さな社会」としての授業への関わりを重視します。授業に関係するさまざまな人たち（教員・アーティスト・ゲスト・地域の人びと・各種関係者）との関わり合いを通じて、展覧会を共につくりあげることを自覚し、「生きた社会」としての展覧会を制作し、一連の取り組みを報告書にまとめます。 その準備として、画像・映像を用いたレクチャー、ワークショップ、開催場所へのフィールドワーク、作品制作や展覧会企画（プランニングとプレゼンテーション)、広報などをおこないます。展覧会の開催はその総仕上げとなります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します		
評価方法	平常点（60%）：出席状況・学外実習参加・展覧会協力等を含む。 作品（30%）。レポート（10%）。		
到達目標	「生きた社会」としての展覧会を、共に企画、運営することを通じて、社会性と感性を育むこと。日常における美的・感性的（aesthetic）なものごとのあじわい（taste）とその社会的意義への理解を深めること。		
準備学習	準備学習は授業ごとに提示します：下調べや資料収集、作品制作のための用具や材料の準備など		

受講者への要望

＊「アートギャラリー実習Ｉ」(4 講時)とセット（4 ・ 5 講時 連続）で履修すること。
＊授業は「太秦キャンパス」にて行う予定です。

＊この授業は、特殊なスケジュールでおこなわれることをよくふまえたうえで受講してください。
＊第 7 回となる今年度の展覧会は、2015 年 12 月 3 日（土)「One Day Exhibition」を予定しています。展覧会中の会場運営は授業の一環ですので、必ず参加してください。
＊通常授業は金曜日ですが、展覧会場と周辺のフィールドワーク、会場の準備・現場での作品制作・展示、会場運営、作品の搬入・搬出等の授業は、土曜日／日曜日などに振り替えておこなわれます。
＊この授業は受講者が協力して「展覧会」を制作することをめざしています。連絡なしに無断欠席したり、授業への自主的・協働的　な参加態度がない場合は、展覧会へ出品・参加が認められません。
＊学外実習にかかる交通費、作品の制作費等は自己負担となります。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション

2．プロジェクト･レクチャー

3．ワークショップ

4．フィールドワーク〈学外学習〉

5．作品構想／ディスカッション

6．プレゼンテーション／ディスカッション〈学外学習〉

7．プロジェクト･ミーティング

8．会場の整備と作品の準備・制作〈学外学習〉

9．作品の制作・展示〈学外学習〉

１０．内覧会（プレオープン）【12/2（金)】〈学外学習〉

１１・１２．展覧会【12/3（土)】〈学外学習〉

１３．作品の搬出と会場の清掃〈学外学習〉

１４．報告書のためのレポート作成

１５．報告書制作と振り返りのプレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	★	★	★★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J50009001
科目名	アニメ・イングリッシュ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anime English		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	英語練習の機会を得るのと同時に、宮崎駿監督と大友克洋監督についての簡単な紹介とアニメを学びます。授業で映画を見て、映画の中で何度かおきる問題点とテーマを検証しましょう。		
教材（テキスト）	授業中にプリント教材を配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出席・積極的参加５０％ 最終レポート５０％		
到達目標	宮崎駿監督と大友克洋監督についての知識と彼らの作品を、話し、書けるようになることを最終的に目指します。		
準備学習	レポートの準備が必要です。		
受講者への要望			
毎回、講義出席をお願いします。			
講義の順序とポイント			
1. コースの紹介及びとなりのトトロ（パート１） 2. となりのトトロ（パート２） 3. となりのトトロに関するテキストを読み学習 4. 風の谷のナウシカ（パート１） 5. 風の谷のナウシカ（パート２） 6. 風の谷のナウシカに関するテキストを読み学習 7. 天空の城ラピュタ（パート１） 8. 天空の城ラピュタ（パート２） 9. 天空の城ラピュタに関するテキストを読み学習 10. スチームボーイ（パート１） 11. スチームボーイ（パート２） 12. スチームボーイ関するテキストを読み学習 13. アキラ（パート１） 14. アキラ（パート２） 15. アキラに関するテキストを読み学習 講義計画及び内容は変更する可能性があります。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	J50010001
科目名	アニメ制作実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Making Animations		
担当者名	有吉　末充	旧科目名称	
講義概要	本実習では、まず「なぜアニメは動くのか」の基本原理を理解することから始める。それに基づいて「動き」分解する練習を行い、動画用紙を使って各自動画を描き、その動画を撮影して、動きを描くコツをつかむ。基本的なアニメートの技術が習得できたところで、授業後半では、受講者の希望に応じて、絵(ドローイングアニメ)、立体物（粘土、人形など）を動かして短編アニメーションを制作する。機材の操作法、撮影のためのセッティングも学習する。テレビアニメのようなセル・アニメについては技法は紹介するが課題としての制作はしない。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。授業で必要なことはレジュメで配布する。		
教材（参考文献）	プレストン・ブレア著『アニメーション・イラスト入門』マール社、『アニメーションベーシックス』BNN、ほか必要に応じて授業内で紹介する。		
教材（その他）	過去の受講生の作品など参考作品を上映する。		
評価方法	実習参加態度５０%、課題作品 40%、授業への質問など 10%		
到達目標	基本的なアニメーションが自分で作れるようになる。		
準備学習	人物やものの動き方について興味を持って観察する習慣を身につけること。いわゆる「アニメ絵」の描き方は練習する必要はない。		
受講者への要望			
自由な発想で「動き」を作り出していけるような想像力を身につけること。細かい作業に集中して取り組むので体調管理に気をつけること。			
講義の順序とポイント			
1 日目 1、オリエンテーション 2、アニメーションの原理 3、「動き」を分解する 4、平面アニメーションの制作法 5、動画制作練習と撮影テスト 2 日目 1、立体アニメーションの制作法(受講生の希望に応じてドローイングアニメを継続する場合もある） 2、立体物（粘土、人形）の制作 3、撮影機材の操作法 4、撮影のためのセッティング 5、立体アニメーションの制作練習 3 日目 自主作品（短編アニメ）制作			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★16	－13	★21	★★22	★16	－15

年度	2016	授業コード	J50011002
科目名	アニメ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Anime Cultures		
担当者名	有吉　未充	旧科目名称	
講義概要	アニメーションとマンガは今や世界的な日本の文化となっている。本講座では、まずアニメーションの歴史と様々な技法を俯瞰した上で、日本のアニメーションの黎明期から現在までの発達史をたどりながら、日本のアニメーションの特徴を分析し、なぜアニメーションがここまで発達したのか、その文化的背景や、表現としての将来の可能性について検討する。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。		
教材（参考文献）	五味洋子『アニメーションの宝箱』ふゅーじょんぷろだくと。その他必要に応じて授業内で紹介する。		
教材（その他）	プリント配布、ビデオなどの副教材を使用		
評価方法	平常点（40%）受講状況等による（そのうち受講態度 30%、質問等授業参加度 10%。）小レポート（60%）		
到達目標	アニメに関する視野をひろげ、文化としてのアニメについて様々な角度から考察できる視点を獲得することを目的とする。		
準備学習	授業のレジュメはよく読んで内容を理解しておくこと。できれば授業中で紹介した作品のうち何本かは通しで観ておくこと。疑問があれば質問できるようにしておくこと。		
受講者への要望			
映像をたくさん見ることになるが、比較検討の材料とするので漫然と見ないように。私語は禁止。小レポートは必ず提出すること。			
講義の順序とポイント			
1、アニメーションとは何か 2、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（1） 3、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（2） 4、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（3） 5、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（4） 6、アニメーションの様々な技法（1）（平面的な技法） 7、アニメーションの様々な技法（2）（立体的な技法） 8、アニメーションの様々な技法（3）（ＣＧ、その他の技法） 9、日本のアニメーションの歴史（1）黎明期から政岡憲三へ 10、日本のアニメーションの歴史（2）東映動画の誕生とそのスタイルの成立 11、日本のアニメーションの歴史（3）テレビアニメの誕生と発展 12、日本のアニメーションの歴史（4）テレビアニメの発展・メカと戦闘 13、日本のアニメーションの歴史（5）テレビアニメの発展・アニメとヒロイン 14、日本のアニメーションの歴史（6）東映動画からジブリへ 15、日本アニメの現在から未来へ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★12	ー7	ー11	★16	★★22	★19

年度	2016	授業コード	J50022001
科目名	カウンセリング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories and Methods of Counseling		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	カウンセリングとは「相談」という意味であり、歴史的には職業指導のためのガイダンス（助言指導）から発展してきた。1940 年代のカール・ロジャーズによる非指示的心理療法・来談者中心療法はカウンセリングの土台を作ったと言える。フロイトによる精神分析に端を発する心理療法は「患者を治療する」という枠組みであったのに対して、カウンセリングは一定以上健康な人が「対話を通して自らよりよい状態へと変化していく」プロセスを援助する営みだと考えられる。しかし対象者が広がるにつれて心理療法とカウンセリングの境界は曖昧なものとなり、カウンセリングにおいても様々な技法が利用されるようになってきた。 本講義ではカウンセリングで用いられる様々な技法を学ぶと共に、実際のカウンセリング場面のＶＴＲを視聴してそのあり方についてグループディスカッションを行い、カウンセラーのあり方と治療の流れの関連について考えを深める。またロールプレイを通して、カウンセラーとクライエントのやりとり・感情体験を具体的に学ぶ。		
教材（テキスト）	佐々木正宏・大貫敬一共著　『適応と援助の心理学／援助編』　培風館		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(出席および課題)　５０％　及び　レポート提出　５０％。		
到達目標	カウンセリングで用いられる治療技法とその理論的基礎の概略を学ぶと共に、初歩的なカウンセリング的応答の技法を経験する。		
準備学習	第一回授業までに「臨床心理学Ⅱ」の教科書を再読し、カウンセリングの基本となるロジャーズの理論について復習しておくこと。また、講義終了時に、来週までに実施すべき課題を出すので、それをきちんとこなして次週授業開始時に提出すること。		
受講者への要望			
遅刻・早退せず主体的に参加すること。臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を取得済みであることが必要。カウンセリングのロールプレイをやるため、学期に 1、2 回土曜ないし休日に授業を実施するので、予定しておくこと。初回の授業時に日程の決定をするため、必ず出席のこと。			
講義の順序とポイント			
１～２．カウンセリングとは ３～４．カウンセリングの基本的技法－－マイクロ・カウンセリング ５．カウンセリングの実際－－　ａ．ロジャーズの来談者中心療法 ６．　ｂ．パールズのゲシュタルト療法 ７．　ｃ．エリスの論理療法 ８～10．紙上応答練習 11～14．ロールプレイ－－－（ロールの設定・ロールプレイの実施・話し合い） 15．各グループ毎の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	J50026A01
科目名	コミュニケーション社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 A では、記号を扱う理論とこれに基づいた社会の分析、現代社会の様々な領域におけるコミュニケーションの特徴などについて述べる。ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて論じる。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	各回の終わりに次回分を指示する。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《記号と社会》
2. 記号
3. ファッション
4. 二元論(1)
5. 二元論(2)
6. 二元論(3)
7. ラベリング(1)
8. ラベリング(2)
9. 復習と補足(1)

《現代社会のコミュニケーション》
10. 近代化と人々の関係性(1)
11. 近代化と人々の関係性(2)
12. 地域のコミュニケーション
13. グローバルなコミュニケーション
14. 観光
15. 復習と補足(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50026A02
科目名	コミュニケーション社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 A では、記号を扱う理論とこれに基づいた社会の分析、現代社会の様々な領域におけるコミュニケーションの特徴などについて述べる。ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて論じる。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	各回の終わりに次回分を指示する。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《記号と社会》
2. 記号
3. ファッション
4. 二元論(1)
5. 二元論(2)
6. 二元論(3)
7. ラベリング(1)
8. ラベリング(2)
9. 復習と補足(1)

《現代社会のコミュニケーション》
10. 近代化と人々の関係性(1)
11. 近代化と人々の関係性(2)
12. 地域のコミュニケーション
13. グローバルなコミュニケーション
14. 観光
15. 復習と補足(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50026B01
科目名	コミュニケーション社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 B のサブテーマは「現代社会のコミュニケーション」。現代の、特に若者のコミュニケーションが希薄なったという説がある。確かに、社会学の研究の中にも希薄化を示すものがある。しかし、そうした研究もよく読めば、希薄化している一面もある一方で濃密化している面もあることを示している。また、一般にコミュニケーションが希薄化することは悪いことと思われているが、社会学の諸研究が示しているのは、希薄化・濃密化ともに、良い面もあれば悪い面もあるということである。講義では、この希薄化説という観点から、現代社会のコミュニケーションを考える。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	各回の終わりに次回分を指示する。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《現代人の相互行為》
2. 都市のストレンジャー(1)
3. 都市のストレンジャー(2)
4. 相互行為儀礼
5. ぼかし表現

《大衆社会のコミュニケーション》
6. 大衆と中間集団
7. 大衆の社会心理
8. 「盗撮ソング」論

《応用問題――郊外とメディア》
9. 郊外(1)
10. 郊外(2)
11. ネット社会
12. 大衆社会とソーシャルメディア
13. 流言

《復習と補足》
14. 復習と補足（1）
15. 復習と補足（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50026B02
科目名	コミュニケーション社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 B のサブテーマは「現代社会のコミュニケーション」。現代の、特に若者のコミュニケーションが希薄なったという説がある。確かに、社会学の研究の中にも希薄化を示すものがある。しかし、そうした研究もよく読めば、希薄化している一面もある一方で濃密化している面もあることを示している。また、一般にコミュニケーションが希薄化することは悪いことと思われているが、社会学の諸研究が示しているのは、希薄化・濃密化ともに、良い面もあれば悪い面もあるということである。講義では、この希薄化説という観点から、現代社会のコミュニケーションを考える。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	各回の終わりに次回分を指示する。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《現代人の相互行為》
2. 都市のストレンジャー(1)
3. 都市のストレンジャー(2)
4. 相互行為儀礼
5. ぼかし表現

《大衆社会のコミュニケーション》
6. 大衆と中間集団
7. 大衆の社会心理
8. 「盗撮ソング」論

《応用問題――郊外とメディア》
9. 郊外(1)
10. 郊外(2)
11. ネット社会
12. 大衆社会とソーシャルメディア
13. 流言

《復習と補足》
14. 復習と補足（1）
15. 復習と補足（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50030001
科目名	シミュレーション・ゲーム	単位数	2
科目名（英語表記）	Simulation and Gaming		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	この授業では、シミュレーション・ゲーミングの手法を使って、人間の相互作用がどのように社会を作り出すのかを考える。複数の要素が相互作用することで作る構造は、初期条件や時間の経過によって様々な様態を見せる。　これは複雑系の過程とよばれ、通常の実験法や調査法で研究することができないため、シミュレーションによる研究が行われている。　授業では、簡単なコンピュータ・シミュレーションの作成と、コンピュータ・ゲームにおける体験を組み合わせて、複雑系現象としての社会の理解を目指す。　各人で作成したゲームと、レポート（ゲーム結果のまとめ）を提出する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	人工社会構築指南　artisoc によるマルチエージェントシミュレーション入門 山影進著　書籍工房早山		
教材（その他）	Google Apps から教材・データ配布を行うほか、適宜プリントを配布する		
評価方法	平常点 40%出席状況などによる。レポート 60%		
到達目標	多くの社会現象は原因となる要因を特定できない複雑系現象である。しかし私たちは、どこかに原因となる要因やリーダーがいるという考え方に慣れているため、社会や人間に対して誤った原因を求める傾向がある。この授業は、このような因果関係の認知を脱して柔軟な視点で社会や他者を眺める視点を得ることを目的としている。		
準備学習	各講義時間中に参考資料をプリントあるいは、教員個人の教材フォルダから配布する。この資料を、次の授業までに読んで準備をしておくこと。 単元の区切りごとに（おおむね、３コマにつき１回）レポートを課す。 次の授業までに、受講生の観察記録・レポートを GoogleApps サイト内にブログ形式でアップしておくこと。また、ほかの受講生の記録・レポートにコメントをつけておくこと。		

受講者への要望

一般的な IT リテラシー（インターネット・PC 使用経験）を持っておくこと。
出席重視なので、遅刻、欠席のないように。
やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡をしてください。

講義の順序とポイント

１．　概論
２．　Google Apps に個人ページ作成
３．　囚人のジレンマゲーム
４．　ジレンマゲームのシミュレーション
５．　　進化ゲームのシミュレーション
６．　複雑系シミュレーション
７．　StarLogo を用いたシミュレーション
８．　シムシティ
９．　グループ工学
１０．模擬陪審員実験
１１．仮想空間の制作
１２．コンピュータを用いた協同作業
１３．　ゲーミニフィケーション
１４．　e-learning におけるゲーミニフィケーション
１５．　集合知

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	-	-	-	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J50032001
科目名	ジェンダー論	単位数	4
科目名（英語表記）	Gender and Society		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	「ジェンダー」とは社会的、文化的につくられた性別のことで、1970 年代以降、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーの身近な玲は、「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。ジェンダーというと女性問題と勘違いしている人が多いようです。しかし、多くの男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。本授業は、これまでジェンダーとは無関係と思われてきた様々な社会問題を、ジェンダーリテラシーを通して読み解く「女と男の人間関係学」です。		
教材（テキスト）	毎回の授業でレジメを配布します。		
教材（参考文献）	『女性のデータブック』第 4 版　有斐閣、　『女性学時点』岩波書店　『図解雑学　ジェンダー』ナツメ社（すべて図書館にて所蔵）		
教材（その他）	DVD などを使います		
評価方法	平常点（出席状況や授業内課題など）：40%,　テスト：６０％		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
準備学習	各授業にて準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力で女と男の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクションー ジェンダーとは 2, ジェンダーの学習と社会化 3, 性別役割分担とその誕生 4, 「働く」とはー　女と男の労働環境 5, セクシュアリティとは 6, 性の多様性 7, 恋愛・仕事・結婚 8, 生殖技術の光と影 9,ジェンダー研究、女性学、フェミニズム 10, 男性のジェンダー問題ー男性学 11, 変わる「男らしさ」 12, 近代家族 13, 少子化と超高齢化 14, 「こころの社会学」から見るジェンダー 15, 宗教とジェンダー			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	J50036A01
科目名	ジャーナリズム論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	ジャーナリズム論を学ぶ目的は現代社会の仕組みを知り、それらに対する健全な批判精神を養う点にあります。そのために日々、私たちの周りで起きている様々な出来事や社会事象を正確に理解し、その本質を見抜くことが不可欠で、そのような観点から新聞やテレビ、雑誌などの報道を仔細に検証します。そのことによって、より高度な社会常識が醸成されると同時に、マスコミに就職したい学生諸君にとっては入社試験対策の一助になると思います。それと併せて、メディアに限らず、一般企業に就職する際にも培われた社会常識は役立つと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー一岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」について、各種新聞記事やデータ、さらに国内・海外のテレビ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	プロのジャーナリストでもある私のニュース解説や分析を聴いてもらいたいので、是非とも積極的、能動的に授業に出席して講義に耳を傾けてください。就職の際にもきっと役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内に実施する行う「小テスト」2 回(計 60%)です。		
到達目標	ジャーナリストになることを希望する学生にとって、この授業がその基礎知識になることは言うに及ばず、社会人としての最低限の常識を養うという点において、就職する際にかなり役立つと思います。つまり、いま問題になっている社会事象を正確に理解し、それに対する的確な批判力を身に付けることが目標なわけで、是非ともそのような感度の高い情報人になってほしいと思います		
準備学習	授業では新聞やテレビで報道されているその時々のニュースを具体的に教材として取り上げ、そのことを通してジャーナリズム原論に迫るのが第一の目標です。そのために次の授業のために教科書や事前配布の資料を読み込んで予習をすることが肝要です。それに加えて、その時々のニュースを新聞や新聞社のウェブサイト、さらにテレビのニュースなどを通じてよく把握、理解しておいてほしいと思います。また、授業終了時に課題を出してその日の授業の復習をしてもらい、次回の授業で提出してもらいます。 1.「ジャーナリズムの社会的存在意義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「ネット時代のジャーナリズム」「知と情報の公共圏との論壇ジャーナリズム」の項を読んで概要を把握しておきてください。 2.「民主主義と国民の知る権利、報道の自由」については、教科書の「疑わしきは報道すべき」「知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」「社会の道標としてのジャーナリズム」の項を中心に予習しておいてください。 3.「マス・メディアにおけるニュースの定義」については、事前に配布した各種資料を熟読して理解を含めておくことと、教科書の第３章「ニュースの大衆化」「視聴者本位のニュース」（49 ページ～69 ページ）などを読んでおくこと。 4.「発表ジャーナリズムとメディア・スクラムの功罪」につては、配布した新聞記事と併せて、教科書の第８章「発表ジャーナリズムとメディア・スクラム」全体に目を通しておいてください。 5.「松本サリン事件と誤報」については、教科書の「松本サリン事件における集団誤報道」（170 ページ～174 ページ）と、そのうちの「犯人と疑われた河野義行」の項に関する新聞記事資料をよく読んでおいてください。 6.「坂本弁護士一家拉致殺害事件とオウム」については、教科書の「坂本事件と TBS の責任」（174 ページ～179 ページ）を読んで理解しておいてください。 7.「所沢ダイオキシン報道」にｔついては、教科書の「所沢ダイオキシン報道による風評被害と裁判」（185 ページ～196 ページ）をよく読んで、事実関係と専門用語の理解に努めてください。 8.「雑誌ジャーナリズムとプライバシー侵害報道」については、事前配布の名誉棄損裁判の判決資料と教科書「第９章」に掲載したプライバシー侵害判決例をチェックすると同時に、国民の知る権利と個人情報保護の法的な関係を予習しておいてください。 9.「週刊文春の出版禁止仮処分」については、教科書の「週刊文春をめぐる報道の自由とプライバシーの侵害」（202 ページ～221 ページ）を事前に読んで事実関係と法的意味をよく理解しておくこと。 １０.「東電女性社員殺人事件報道」については、配布資料に加えて教科書の「死者の尊厳を冒す東電女性社員殺人事件の暴露報道」（197 ページ～202 ページ）をよく読んで理解しておくこと。		

	１１.「実名、匿名報道」については、参考に事前配布した新聞記事と教科書の第１０章「メディアによる実名・匿名報道と個人情報」全体に目を通しておいてください。 １２.「週刊誌の実名報道と少年法」については、教科書の「神戸小学生連続殺傷事件」「週刊新潮の顔写真掲載」「インターネットによる少年の個人情報」などの項（222 ページ～229 ページ）を読んで事実関係を理解しておくこと。 １３.「個人情報保護法と取材報道の自由」については、事前配布の各種資料と教科書の「個人情報保護法によって大きな制約を受ける報道」（232 ページ～238 ページ）に記載されている実例について理解を深めておくこと。 １４.「警察権力による匿名発表」については、事前配布データと同時に教科書の「国民の知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」（229 ページ～232 ページ）をよく読んで、警察発表になぜメディアが反発ｓｊひたのか予習しておいてください。 １５「ジャーナリストを目指すためには」については、教科書全体をもう一度目を通すとともに、第１２章「ジャーナリズムとアカデミズムは連携できるか」、その中でも「ジャーナリスト志望学生のニーズに合わない教育内容」や「大学院におけるプロフェッショナル研修」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」の項に記した予習と復習を確実に行ってください。講義者は３２年間のジャーナリスト経験のあるプロなので、ともかく授業に積極的に出席して、そのニュース分析や解説などに熱心に耳を傾けてほしい。それは、いわば新聞社におけるデスク会の再現のようなもので、そのような体験の積み重ねがジャーナリストとしての感性を養うことに繋がると思います。遅刻や私語は厳禁とします。私語が過ぎれば退出を求めることもあります。ともかく、常識や偏見にとらわれない自由な発想を育成したいと思っています。このジャーナリズム論を受講する学生諸君には、教科書が同一で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

１　ジャーナリズム、メディア、ジャーナリストの社会的存在意義
２　民主主義の根幹としての「国民の知る権利」と取材・報道の自由
３　新聞・テレビなどマス・メディアにおける「ニュースの定義」とその時代的変容
４　発表ジャーナリズムとメディア・スクラム（集団的過熱取材）の罪
５　「松本サリン事件」におけるメディアの集団的「誤」報道
６　坂本弁護士一家を死に追いやった「TBS」の責任
７　「所沢ダイオキシン報道」に象徴される風評被害と司法の判断
８　社会を鋭くえぐる雑誌ジャーナリズムとそのプライバシー侵害報道
９　「週刊文春」のプライバシー報道とそれに対する出版禁止仮処分
１０　全国紙も報じた死者の尊厳を冒涜する「東電女性社員殺人事件」報道
１１　メディアによる「実名」「匿名」報道の意義と個人情報の保護
１２　週刊誌などの実名報道によって形骸化する「少年法」と人権侵害
１３　「個人情報保護法」によって制約を受ける取材の自由と報道の自由
１４　「国民の知る権利」を阻害する警察権力による匿名発表
１５　ジャーナリストを志す学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50036A02
科目名	ジャーナリズム論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	ジャーナリズム論を学ぶ目的は現代社会の仕組みを知り、それらに対する健全な批判精神を養う点にあります。そのために日々、私たちの周りで起きている様々な出来事や社会事象を正確に理解し、その本質を見抜くことが不可欠で、そのような観点から新聞やテレビ、雑誌などの報道を仔細に検証します。そのことによって、より高度な社会常識が醸成されると同時に、マスコミに就職したい学生諸君にとっては入社試験対策の一助になると思います。それと併せて、メディアに限らず、一般企業に就職する際にも培われた社会常識は役立つと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー一岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」について、各種新聞記事やデータ、さらに国内・海外のテレビ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	プロのジャーナリストでもある私のニュース解説や分析を聴いてもらいたいので、是非とも積極的、能動的に授業に出席して講義に耳を傾けてください。就職の際にもきっと役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内に実施する行う「小テスト」2 回(計 60%)です。		
到達目標	ジャーナリストになることを希望する学生にとって、この授業がその基礎知識になることは言うに及ばず、社会人としての最低限の常識を養うという点において、就職する際にかなり役立つと思います。つまり、いま問題になっている社会事象を正確に理解し、それに対する的確な批判力を身に付けることが目標なわけで、是非ともそのような感度の高い情報人になってほしいと思います		
準備学習	授業では新聞やテレビで報道されているその時々のニュースを具体的に教材として取り上げ、そのことを通してジャーナリズム原論に迫るのが第一の目標です。そのために次の授業のために教科書や事前配布の資料を読み込んで予習をすることが肝要です。それに加えて、その時々のニュースを新聞や新聞社のウェブサイト、さらにテレビのニュースなどを通じてよく把握、理解しておいてほしいと思います。また、授業終了時に課題を出してその日の授業の復習をしてもらい、次回の授業で提出してもらいます。 1.「ジャーナリズムの社会的存在意義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「ネット時代のジャーナリズム」「知と情報の公共圏との論壇ジャーナリズム」の項を読んで概要を把握しておきてください。 2.「民主主義と国民の知る権利、報道の自由」については、教科書の「疑わしきは報道すべき」「知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」「社会の道標としてのジャーナリズム」の項を中心に予習しておいてください。 3.「マス・メディアにおけるニュースの定義」については、事前に配布した各種資料を熟読して理解を含めておくことと、教科書の第３章「ニュースの大衆化」「視聴者本位のニュース」（49 ページ～69 ページ）などを読んでおくこと。 4.「発表ジャーナリズムとメディア・スクラムの功罪」につては、配布した新聞記事と併せて、教科書の第８章「発表ジャーナリズムとメディア・スクラム」全体に目を通しておいてください。 5.「松本サリン事件と誤報」については、教科書の「松本サリン事件における集団誤報道」（170 ページ～174 ページ）と、そのうちの「犯人と疑われた河野義行」の項に関する新聞記事資料をよく読んでおいてください。 6.「坂本弁護士一家拉致殺害事件とオウム」については、教科書の「坂本事件と TBS の責任」（174 ページ～179 ページ）を読んで理解しておいてください。 7.「所沢ダイオキシン報道」にｔついては、教科書の「所沢ダイオキシン報道による風評被害と裁判」（185 ページ～196 ページ）をよく読んで、事実関係と専門用語の理解に努めてください。 8.「雑誌ジャーナリズムとプライバシー侵害報道」については、事前配布の名誉棄損裁判の判決資料と教科書「第９章」に掲載したプライバシー侵害判決例をチェックすると同時に、国民の知る権利と個人情報保護の法的な関係を予習しておいてください。 9.「週刊文春の出版禁止仮処分」については、教科書の「週刊文春をめぐる報道の自由とプライバシーの侵害」（202 ページ～221 ページ）を事前に読んで事実関係と法的意味をよく理解しておくこと。 １０.「東電女性社員殺人事件報道」については、配布資料に加えて教科書の「死者の尊厳を冒す東電女性社員殺人事件の暴露報道」（197 ページ～202 ページ）をよく読んで理解しておくこと。		

	１１.「実名、匿名報道」については、参考に事前配布した新聞記事と教科書の第１０章「メディアによる実名・匿名報道と個人情報」全体に目を通しておいてください。 １２.「週刊誌の実名報道と少年法」については、教科書の「神戸小学生連続殺傷事件」「週刊新潮の顔写真掲載」「インターネットによる少年の個人情報」などの項（222 ページ～229 ページ）を読んで事実関係を理解しておくこと。 １３.「個人情報保護法と取材報道の自由」については、事前配布の各種資料と教科書の「個人情報保護法によって大きな制約を受ける報道」（232 ページ～238 ページ）に記載されている実例について理解を深めておくこと。 １４.「警察権力による匿名発表」については、事前配布データと同時に教科書の「国民の知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」（229 ページ～232 ページ）をよく読んで、警察発表になぜメディアが反発ｓｊひたのか予習しておいてください。 １５「ジャーナリストを目指すためには」については、教科書全体をもう一度目を通すとともに、第１２章「ジャーナリズムとアカデミズムは連携できるか」、その中でも「ジャーナリスト志望学生のニーズに合わない教育内容」や「大学院におけるプロフェッショナル研修」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」の項に記した予習と復習を確実に行ってください。講義者は３２年間のジャーナリスト経験のあるプロなので、ともかく授業に積極的に出席して、そのニュース分析や解説などに熱心に耳を傾けてほしい。それは、いわば新聞社におけるデスク会の再現のようなもので、そのような体験の積み重ねがジャーナリストとしての感性を養うことに繋がると思います。遅刻や私語は厳禁とします。私語が過ぎれば退出を求めることもあります。ともかく、常識や偏見にとらわれない自由な発想を育成したいと思っています。このジャーナリズム論を受講する学生諸君には、教科書が同一で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

１　ジャーナリズム、メディア、ジャーナリストの社会的存在意義
２　民主主義の根幹としての「国民の知る権利」と取材・報道の自由
３　新聞・テレビなどマス・メディアにおける「ニュースの定義」とその時代的変容
４　発表ジャーナリズムとメディア・スクラム（集団的過熱取材）の罪
５　「松本サリン事件」におけるメディアの集団的「誤」報道
６　坂本弁護士一家を死に追いやった「TBS」の責任
７　「所沢ダイオキシン報道」に象徴される風評被害と司法の判断
８　社会を鋭くえぐる雑誌ジャーナリズムとそのプライバシー侵害報道
９　「週刊文春」のプライバシー報道とそれに対する出版禁止仮処分
１０　全国紙も報じた死者の尊厳を冒涜する「東電女性社員殺人事件」報道
１１　メディアによる「実名」「匿名」報道の意義と個人情報の保護
１２　週刊誌などの実名報道によって形骸化する「少年法」と人権侵害
１３　「個人情報保護法」によって制約を受ける取材の自由と報道の自由
１４　「国民の知る権利」を阻害する警察権力による匿名発表
１５　ジャーナリストを志す学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50036B01
科目名	ジャーナリズム論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー一岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々、話題になっている「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布、さらに国内・海外のニューズ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	授業に積極的、能動的に出席して、プロのジャーナリストである私のニュース解説や分析を是非とも聴いて下さい。それは、必ずや就職の際に役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内で実施する「小テスト」2 回（計 60％）です。		
到達目標	現代社会において問題化している事象を正確に理解し、それに対する客観的な判断力の養成を目標とする。つまり、一般常識や情報感覚を養うことになるが、マスコミ志望者にとっては、その希望がかなうようになってもらいたい。そのような目的意識を持ってメディアリテラシー力も醸成してもらいたいと思います。		
準備学習	授業ではジャーナリズム理論を学ぶのが第一の目標なので、教科書や事前配布資料の読み込みなどによる専門用語や事実関係の理解のための予習が欠かせません。それに加えて、この授業ではその時々のニュース報道を分析することも大事で、そのために新聞やテレビのニュース、さらにはメディアのウェブサイトへのアクセスによって、いま、世の中で何が起き、何が問題になっているのか、情報に敏感になっておいてください。また、講義終了時に宿題を出しますので、次回の授業時に復習の課題文を提出してもらいます。 １.「ジャーナリズムと商業主義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「新聞ジャーナリズムの存在価値」「利益追求と公益性」の項などを読んで予備知識を得ておいてください。 ２.「放送の自律性の危機」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「朝日新聞による NHK 番組改変報道」（129 ページ～139 ページ）をよく読んで予習しておいてください。 ３.「「政治報道とメディア」ついては、事前配布した椿報道局長発言問題の資料と教科書の「政治報道における不偏不党性と公平性」（139 ページ～152 ページ）の項を読んで事実関係を把握しておくこと。 ４.「メディアと戦争」については、教科書の第Ⅳ部「社会の道標としてのジャーナリズムに求められる課題」全体を読み、戦争報道においてメディアに何が課されているのかを理解しておいてください。 ５.「大本営発表」とイラク戦争」については、双方に関する新聞記事資料に加えて、教科書の「正義の戦争に仕立てる国際世論操作」の項（241 ページ～244 ページ）を予習しておいてください。 ６.「「見せる戦争と見せない戦争」については、軍当局による取材報道規制について言及している教科書の「見せる戦争、見せない戦争と発表ジャーナリズム」（244 ページ～247 ページ）を読んで理解しておくこと。 ７.「アル・ジャジーラの戦争」については、かつて「ＣＮＮの戦争」と形容された湾岸戦争との報道比較をした教科書の「アル・ジャジーラの戦争としてのイラク戦争報道」（254 ページ～262 ページ）を読んで、両者の相違を予習しておくこと。 ８.「ナショナリズムとアメリカ・メディア」については、事前配布資料と教科書の「ナショナリズムの鼓舞に利用された米国メディア」（262 ページ～264 ページ）を読んで予習しておいてください。 ９.「戦争の真実に肉薄するフリージャーナリスト」については、各種フリージャーナリストの関係資料と教科書の「パレスチナホテルで記者が死傷」「従軍記者」「フリーランス」の項を読んで予備知識を得ておいてください。 １０.「日本マス・メディアとイラク戦争」については、教科書の「戦場から撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”」（264 ページ～267 ページ）をよく読んで事実関係を把握しておくこと。 １１.「ジャーナリズムと知識人」については、事前配布の資料とともに教科書の「情報化社会における知の		

	大衆化と知識人の役割」（274 ページ～276 ページ）を読んで予習しておいてください。 １２.「「朝まで生テレビと知識人」については、同番組の常連出演者の名前や経歴に加えて、教科書の「朝まで生テレビに常連出演する知性の人々」（283 ページ～288 ページ）、その中でも「衆愚的なマスを意識した論点の単純化」の項をよく読んで理解しておいてください。 １３.「知と情報」の公共圏」については、中身がかなり難しいので、教科書の「論壇知識人」「論壇ジャーナリズム」「知のトライアングル」の項をよく読んで理解しておくこと。 １４.「ウォルター・リップマン」については、これも難解な理論が展開されているので教科書の「論議を呼ぶウォルター・リップマンの大衆論」、中でも彼が主張する「世論」「疑似環境」「軟弱な大衆」の項を重点的に読んで理解を深めておくこと。 15.「大学におけるジャーナリズム研究」については、教科書全体の主題であると同時に第１２章に集約されているので、のとりわけ同章後半の「ジャーナリスト養成教育」「大学院の在り方」「インターンシップ」「プロフェショナル研修」「米国大学との比較」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」に記した予習や復習を確実に行ってください。私はプロのジャーナリストなので、ともかく能動的に出席して、日々のニュースをどのように分析するのかを体験して勉強してもらいたい。ジャーナリズムは社会事象に対する認識力と批判力が根本といえます。その意味で、世の中で一体、何が起きているのか、出来るだけ日々のニュース報道を自身の頭で考え、友人たちと議論するなど“情報感度”を磨いておいてください。授業中の私語、遅刻、早退などはほかの受講生の迷惑になるので退出を求めることもあります。ともかく、問題意識をもって社会に対する見識を磨いてください。それから、この科目を受講する学生諸君には、教科書が一緒で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　「衰退するジャーナリズム」を取り巻く商業主義的な諸現象
2　放送の自律性の危機ーー「NHK 番組改変」において政治権力の介入はあったのか
3　「政治報道」におけるメディアの不偏不党性と公正・公平性
4　メディアは本当に「戦争の真実」を伝えているのか
5　「大本営発表」とイラク戦争を「正義の戦争」に仕立てた国際世論操作
6　「見せる戦争」「見せない戦争」と当局による取材規制・発表ジャーナリズム
7　欧米メディア中心の「CNN の戦争」から「アル・ジャジーラの戦争」報道へ
8　当局によってナショナリズムの高揚に利用されたアメリカ・メディアの失態
9　戦争の真実に肉薄するフリージャーナリストたちの活躍と悲劇
１０　戦場から総撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”
１１　情報化社会におけるジャーナリズムと知識人の連携は可能か
１２　「朝まで生テレビ」（テレビ朝日）に常連出演する“知性の人々”
１３　「知と情報」の公共圏としての論壇ジャーナリズムの存在意義
１４　論議を呼ぶウォルター・リップマンの「大衆論」とジャーナリズム
１５　大学におけるジャーナリズム研究と不十分なジャーナリスト養成教育

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50036B02
科目名	ジャーナリズム論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー一岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々、話題になっている「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布、さらに国内・海外のニューズ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	授業に積極的、能動的に出席して、プロのジャーナリストである私のニュース解説や分析を是非とも聴いて下さい。それは、必ずや就職の際に役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内で実施する「小テスト」2 回（計 60％）です。		
到達目標	現代社会において問題化している事象を正確に理解し、それに対する客観的な判断力の養成を目標とする。つまり、一般常識や情報感覚を養うことになるが、マスコミ志望者にとっては、その希望がかなうようになってもらいたい。そのような目的意識を持ってメディアリテラシー力も醸成してもらいたいと思います。		
準備学習	授業ではジャーナリズム理論を学ぶのが第一の目標なので、教科書や事前配布資料の読み込みなどによる専門用語や事実関係の理解のための予習が欠かせません。それに加えて、この授業ではその時々のニュース報道を分析することも大事で、そのために新聞やテレビのニュース、さらにはメディアのウェブサイトへのアクセスによって、いま、世の中で何が起き、何が問題になっているのか、情報に敏感になっておいてください。また、講義終了時に宿題を出しますので、次回の授業時に復習の課題文を提出してもらいます。 １.「ジャーナリズムと商業主義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「新聞ジャーナリズムの存在価値」「利益追求と公益性」の項などを読んで予備知識を得ておいてください。 ２.「放送の自律性の危機」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「朝日新聞による NHK 番組改変報道」（129 ページ～139 ページ）をよく読んで予習しておいてください。 ３.「「政治報道とメディア」ついては、事前配布した椿報道局長発言問題の資料と教科書の「政治報道における不偏不党性と公平性」（139 ページ～152 ページ）の項を読んで事実関係を把握しておくこと。 ４.「メディアと戦争」については、教科書の第Ⅳ部「社会の道標としてのジャーナリズムに求められる課題」全体を読み、戦争報道においてメディアに何が課されているのかを理解しておいてください。 ５.「大本営発表」とイラク戦争」については、双方に関する新聞記事資料に加えて、教科書の「正義の戦争に仕立てる国際世論操作」の項（241 ページ～244 ページ）を予習しておいてください。 ６.「「見せる戦争と見せない戦争」については、軍当局による取材報道規制について言及している教科書の「見せる戦争、見せない戦争と発表ジャーナリズム」（244 ページ～247 ページ）を読んで理解しておくこと。 ７.「アル・ジャジーラの戦争」については、かつて「ＣＮＮの戦争」と形容された湾岸戦争との報道比較をした教科書の「アル・ジャジーラの戦争としてのイラク戦争報道」（254 ページ～262 ページ）を読んで、両者の相違を予習しておくこと。 ８.「ナショナリズムとアメリカ・メディア」については、事前配布資料と教科書の「ナショナリズムの鼓舞に利用された米国メディア」（262 ページ～264 ページ）を読んで予習しておいてください。 ９.「戦争の真実に肉薄するフリージャーナリスト」については、各種フリージャーナリストの関係資料と教科書の「パレスチナホテルで記者が死傷」「従軍記者」「フリーランス」の項を読んで予備知識を得ておいてください。 １０.「日本マス・メディアとイラク戦争」については、教科書の「戦場から撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”」（264 ページ～267 ページ）をよく読んで事実関係を把握しておくこと。 １１.「ジャーナリズムと知識人」については、事前配布の資料とともに教科書の「情報化社会における知の		

	大衆化と知識人の役割」（274 ページ～276 ページ）を読んで予習しておいてください。 １２.「「朝まで生テレビと知識人」については、同番組の常連出演者の名前や経歴に加えて、教科書の「朝まで生テレビに常連出演する知性の人々」（283 ページ～288 ページ）、その中でも「衆愚的なマスを意識した論点の単純化」の項をよく読んで理解しておいてください。 １３.「知と情報」の公共圏」については、中身がかなり難しいので、教科書の「論壇知識人」「論壇ジャーナリズム」「知のトライアングル」の項をよく読んで理解しておくこと。 １４.「ウォルター・リップマン」については、これも難解な理論が展開されているので教科書の「論議を呼ぶウォルター・リップマンの大衆論」、中でも彼が主張する「世論」「疑似環境」「軟弱な大衆」の項を重点的に読んで理解を深めておくこと。 １5.「大学におけるジャーナリズム研究」については、教科書全体の主題であると同時に第１２章に集約されているので、のとりわけ同章後半の「ジャーナリスト養成教育」「大学院の在り方」「インターンシップ」「プロフェショナル研修」「米国大学との比較」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」に記した予習や復習を確実に行ってください。私はプロのジャーナリストなので、ともかく能動的に出席して、日々のニュースをどのように分析するのかを体験して勉強してもらいたい。ジャーナリズムは社会事象に対する認識力と批判力が根本といえます。その意味で、世の中で一体、何が起きているのか、出来るだけ日々のニュース報道を自身の頭で考え、友人たちと議論するなど“情報感度”を磨いておいてください。授業中の私語、遅刻、早退などはほかの受講生の迷惑になるので退出を求めることもあります。ともかく、問題意識をもって社会に対する見識を磨いてください。それから、この科目を受講する学生諸君には、教科書が一緒で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　「衰退するジャーナリズム」を取り巻く商業主義的な諸現象
2　放送の自律性の危機ーー「NHK 番組改変」において政治権力の介入はあったのか
3　「政治報道」におけるメディアの不偏不党性と公正・公平性
4　メディアは本当に「戦争の真実」を伝えているのか
5　「大本営発表」とイラク戦争を「正義の戦争」に仕立てた国際世論操作
6　「見せる戦争」「見せない戦争」と当局による取材規制・発表ジャーナリズム
7　欧米メディア中心の「CNN の戦争」から「アル・ジャジーラの戦争」報道へ
8　当局によってナショナリズムの高揚に利用されたアメリカ・メディアの失態
9　戦争の真実に肉薄するフリージャーナリストたちの活躍と悲劇
１０　戦場から総撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”
１１　情報化社会におけるジャーナリズムと知識人の連携は可能か
１２　「朝まで生テレビ」（テレビ朝日）に常連出演する“知性の人々”
１３　「知と情報」の公共圏としての論壇ジャーナリズムの存在意義
１４　論議を呼ぶウォルター・リップマンの「大衆論」とジャーナリズム
１5　大学におけるジャーナリズム研究と不十分なジャーナリスト養成教育

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50044001
科目名	スタジオ放送実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Studio Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	「放送」は情報伝達手段、娯楽提供手段として、デジタル時代に益々その重要性を高めている。デジタル放送で多チャンネル、双方向、高画質、データ放送などのサービスが期待されるが、そこでは何より重要視されるのが”コンテンツ”の中身である。本実習では受講生で担当スタッフを編成し、メッセージ性のあるラジオ番組とニュースショー形式のテレビ番組の企画・構成、取材・撮影、編集などを行い、最終的に放送実施することで、「スタジオ放送」の技術と知識を習得する。 なお本実習は地域貢献のために、学生と地域とが協働し、まちづくりに役立つ発信を行うことをめざす授業でもある。		
教材（テキスト）	プリントを随時配付する。		
教材（参考文献）	放送機材を活用して直接指導し、プリントも随時配付する。		
教材（その他）	学生作成のビデオや指導ビデオを活用する		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。実習及び作品評価点（７０％）		
到達目標	本学マルチスタジオを使って、「ラジオ」と「テレビ」放送の基礎的な知識と技術を習得する。		
準備学習	日常的にラジオ、テレビ番組を制作者の視点で視聴すること。		

受講者への要望

放送（ラジオ、テレビ）と映像制作に関心があり、チーム作業ができること。実習時間外も使って行うこともある。少人数参加型の実習のため希望者多数の場合は選考を行うことがある。編集面でほかの授業「デジタル映像編集実習」を同時に受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

秋学期
①ラジオスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成
②ラジオ副調整室の音響機器操作
③ラジオ番組の企画・構成、選曲
④　　同
⑤ラジオ番組放送・リハーサル
⑥ラジオ番組放送・本番(校内放送ほか）実習ラジオ作品の審査と合評
⑦テレビスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成
⑧テレビスタジオの映像・音声機器操作
⑨「ニュースワイド」番組の企画・構成
⑩　　同
⑪～⑬「ニュースワイド」のニュース映像取材ニュース映像編集作業
⑭テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・リハーサル
⑮テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・本番　（校内放送ほか)、実習テレビ作品の審査と合評

協働概要
・学生と市民との共同企画会議
・学生・市民による共同取材、制作

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J50045001
科目名	テレビ局番組制作実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical TV Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	本実習は、ＫＢＳ京都（京都放送）テレビが毎週月～金,午後 5 時 45 分～6 時に放送しているニュース情報番組「news フェイス」の学生スタッフとしてアシスタント、テロッパー、カメラマン助手など実際のニュース情報番組の制作などに携わりながら、テレビ番組の制作ノウハウを体験的に学ぶものである。 「news フェイス」は京都で起きた出来事や歳時記を中心に伝えるニュースと暮らしや生活に役立つ情報を届ける番組で、速報はもちろん、わかりやすく、的確に、伝えることをモットーにしている。 主な実習内容は 毎週１曜日午後 4 時～6 時半までの番組のスタッフとして参加。報道局のデスク、番組ディレクターの指示に従う。（お茶汲みやコピー、タクシーの手配など雑用も多く、社会体験を学ぶことにもなる） 準備等を含める時間としてテレビ局での実習時間は毎週１曜日午後 4 時から 6 時半までとなるが,場合によっては時間を超えることもある。（デスク・ディレクターの判断に委ねる） よって本実習は、上記内容に合わせて行うもので、拘束時間は通常の講義時間に合わせることは不可能であることを認識しておくことが必要。		
教材（テキスト）	報道で体験実習で学ぶ		
教材（参考文献）	現場の指示に従い、体験実習を得る。		
教材（その他）	現場責任者から指導等も受ける。		
評価方法	定期レポート及びテレビ局報道責任者の報告などによって評価する。		
到達目標	報道と番組制作の現場を知ることによって、見る側と作る側の視点から、メディアリテラシーを学ぶとともに時間の大切さ、番組作りにおけるチームワークの必要性などを体得する。		
準備学習	日頃から新聞、ニュース番組などメディアを通して、社会の出来事に高い関心を持つこと。		
受講者への要望			
定員は１名（面談で選考する） テレビ放送、報道・制作に強い意欲と関心を持っていること。 期間は４月から７月で、実習日は週１曜日(調整）のみとなる。 テレビ局の実習において迷惑行為はもちろん遅刻・欠席（余程の事情がない限り）をしてはならない。 交通費など諸費用は各自が持つこと。 保険等は大学と交わすこと。			
講義の順序とポイント			
春学期 ①　　実習ガイダンス（ＫＢＳ京都テレビ局見学兼） ②～⑭　　ＫＢＳ京都「news フェイス」ニュース情報番組実習 ⑮　　まとめ（実習成果発表）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50047001
科目名	テレビ放送論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of TV-Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	テレビ放送のデジタル化は、視聴者に多種多用な番組の選択のチャンスを与えることを期待されているが、現実にはチャンネルの急激な増加に番組ソフトが追いつかず、視聴率競争激化の中で過去の人気映画と過激な報道、バラエティ番組が主流を占めるのではないかと危惧されている。現に、感動的なドキュメンタリーがある一方で、悲惨な戦争映像に胸を痛めている隣で不倫、離婚と大騒ぎする情報系番組、やらせ演出や集団的過熱取材の問題と今やテレビ放送は厳しい批判と選択の目にさらされている。本講義ではテレビ放送の特性と機能から、特に「報道番組」と「娯楽番組」が社会や人々に与えている様々な影響について、ＮＨＫと民間放送の番組から実証的に検証し、報道の娯楽化と娯楽の過激化がもたらす重大な危険性とその対応について学ぶ。また現役のメディア関係者も招き、業界の動き、取り組みなどを探っていく。 尚、近年その社会的影響力の大きさから注目を浴びているテレビコマーシャル映像についても、毎年 12 月頃に開催される「全日本ＣＭ大賞入賞作品」の鑑賞を通じて学ぶ。		
教材（テキスト）	教材プリントを随時配付する。		
教材（参考文献）	北川泰三著『新版・テレビ映像論』(2000 年版）比叡書房　２５００円 NHK 放送研究と調査（NHK 出版） ビデオ教材を使用する		
教材（その他）	適宜プリントを配付する		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。定期テスト（７０％）		
到達目標	多チャンネル化するテレビ放送の課題（視聴率の激化、報道の娯楽化、娯楽の過激化）とその対応について理解を深める。		
準備学習	日常的にテレビ放送に関心をもち、問題意識をもって視聴すること。		
受講者への要望			
「ＡＣＣ全日本ＣＭ大賞入賞作品発表会」見学実習（12 月頃、於ＫＢＳホール）の入場料（300 円）が必要。ただし受け入れ態勢や参加人数によって判断する。			
講義の順序とポイント			
秋学期 1.テレビ放送の歴史とデジタル化の課題 2. テレビ放送の定義　　人間の拡張－マクルーハンの世界　媒体特性からみた優位性、映像化される放送の使命 3. テレビ放送の機能　　マスメディアの顕在的機能－報道から娯楽まで－ 4. 報道番組の役割①　　情報伝達－真実の報道　その 1－ 5. 報道番組の役割②　　情報伝達－真実の報道　その 2－ 6. 報道番組の役割③　　情報伝達－真実の報道　その 3－ 7. 報道番組の役割④　　環境監視－権力監視－ 8. 報道番組の役割⑤　　世論形成－民意の代弁－ 9. テレビ放送の潜在的機能①　　印象化－イメージ付け－ 10.学外学習　全日本ＣＭフェスティバル入賞作品鑑賞会(但し開催状況による） 11. テレビ放送の潜在的機能②　　慢性化－感覚の麻痺－ 12.テレビ放送の潜在的機能③　　娯楽化－衝撃の期待－ 13.テレビ放送の潜在的機能④　　画一化－模倣と流行－ 14.テレビ放送の潜在的機能⑤　　行動化－感性と理性の二極化－ 15.今後の課題（ゲスト講演、ただし状況による）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50050001
科目名	デジタル出版論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Digital Publication		
担当者名	筑瀬　重喜	旧科目名称	
講義概要	出版の世界は激変しつつあります。その要因の一つはデジタル出版や電子出版です。従来の紙の本との関係をさぐることで、デジタル出版の将来を探求しましょう。 筑瀬は記者として新聞社に勤務しつつ、記事の出版にかかわったことと、デスクとしてネットでの新聞報道にかかわったことからメディアのデジタル化に関心を抱いてきた。そうした体験やデジタル出版の現場を見てきたことを踏まえて講演したい。		
教材（テキスト）	出版学会や朝日新聞にあった「電子メディア研究会」で交渉してきた湯浅俊彦・立命館大学教授の「電子出版学入門―出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ」(出版メディアパル)を教材としたい。		
教材（参考文献）	講義の内容をまとめたレジュメを毎回配布します。		
教材（その他）	研究を通じて集めたデータや動画を、パソコンのパワーポイントを使ってプロジェクターに示します。		
評価方法	講義で提供したデータはあくまで参考資料である。期待するのはデジタル出版を巡る受講者の考えやアイデアである。将来を見通す見解をどう得たのかを評価の基準にしたい。		
到達目標	デジタル出版には制約があり、期待されてきたほど有力にはなっていない。そこで見出される欠陥などをいかに克服するかの提案をしてもらいた。それを到達の目標のひとつにしたい。		
準備学習	特別な準備学習は必要ありません。参考文献については講義で指示します。		

受講者への要望

デジタル出版の将来を支えるのは大学生のような若い世代です。これまでの紙の本の出版について学んでもらうとともに、様々なデジタル出版の試みを知ってもらい、デジタル出版への将来を描いてもらうことを望みます。

講義の順序とポイント

以下のような順で講義をいたします。
①メディアとは何か：新聞記者として体験してきたメディアの現場を述べます。
②出版の歴史：太古の時代から現在まで
③デジタルコンテンツとその特性：デジタル技術に関する基本情報
④出版業界と電子出版(１)
⑤出版業界と電子出版(２)
⑥携帯電話と電子書籍：携帯電話の普及が電子書籍の普及の要因になった
⑦電子書籍を巡るプラットフォーム争い
⑧米国の電子書籍ビジネス
⑨日本の電子出版の現状(１)
⑩日本の電子出版の現状(２)
⑪電子出版の技術的側面
⑫電子出版と著作権
⑬電子出版と図書館
⑭電子書籍と読書
⑮電子出版の未来：講義の全体を振り返って将来を考える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J50050002
科目名	デジタル出版論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Digital Publication		
担当者名	筑瀬　重喜	旧科目名称	
講義概要	出版の世界は激変しつつあります。その要因の一つはデジタル出版や電子出版です。従来の紙の本との関係をさぐることで、デジタル出版の将来を探求しましょう。 筑瀬は記者として新聞社に勤務しつつ、記事の出版にかかわったことと、デスクとしてネットでの新聞報道にかかわったことからメディアのデジタル化に関心を抱いてきた。そうした体験やデジタル出版の現場を見てきたことを踏まえて講演したい。		
教材（テキスト）	出版学会や朝日新聞にあった「電子メディア研究会」で交渉してきた湯浅俊彦・立命館大学教授の「電子出版学入門―出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ」(出版メディアパル)を教材としたい。		
教材（参考文献）	講義の内容をまとめたレジュメを毎回配布します。		
教材（その他）	研究を通じて集めたデータや動画を、パソコンのパワーポイントを使ってプロジェクターに示します。		
評価方法	講義で提供したデータはあくまで参考資料である。期待するのはデジタル出版を巡る受講者の考えやアイデアである。将来を見通す見解をどう得たのかを評価の基準にしたい。		
到達目標	デジタル出版には制約があり、期待されてきたほど有力にはなっていない。そこで見出される欠陥などをいかに克服するかの提案をしてもらいた。それを到達の目標のひとつにしたい。		
準備学習	特別な準備学習は必要ありません。参考文献については講義で指示します。		

受講者への要望

デジタル出版の将来を支えるのは大学生のような若い世代です。これまでの紙の本の出版について学んでもらうとともに、様々なデジタル出版の試みを知ってもらい、デジタル出版への将来を描いてもらうことを望みます。

講義の順序とポイント

以下のような順で講義をいたします。
①メディアとは何か：新聞記者として体験してきたメディアの現場を述べます。
②出版の歴史：太古の時代から現在まで
③デジタルコンテンツとその特性：デジタル技術に関する基本情報
④出版業界と電子出版(１)
⑤出版業界と電子出版(２)
⑥携帯電話と電子書籍：携帯電話の普及が電子書籍の普及の要因になった
⑦電子書籍を巡るプラットフォーム争い
⑧米国の電子書籍ビジネス
⑨日本の電子出版の現状(１)
⑩日本の電子出版の現状(２)
⑪電子出版の技術的側面
⑫電子出版と著作権
⑬電子出版と図書館
⑭電子書籍と読書
⑮電子出版の未来：講義の全体を振り返って将来を考える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J50051A01
科目名	デジタル映像編集実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice I		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅰ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習です。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の基本操作を確実にマスターし、 映像制作（クリエイター）に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。 ※注）；実習「Ⅱ」は、「Ⅰ」を履修済み程度の操作スキルがあることを前提とした内容です。まったく編集が初めての場合は、必ず「Ⅰ」を先に受講してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における３つのエレメントを認識する。 ・モンタージュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図でその映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
本講義はパソコン教室ではありません。アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）を使用しますが、Windows などでＰＣの基本操作（マウス、キーボード、ファイルの扱いなど）を理解していることが必須です。			
講義の順序とポイント			
（１）使用教室(H21)のシステムオリエンテーション （２）映像制作基礎（編集のための基本知識） （３）アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）の基本操作 （４）ＤＶビデオと Quicktime ファイルについて （５）ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成 （６）タイムライン／キャンバスの操作 （７）ビューアでの操作 （８）上書き編集と挿入編集			

（9）タイムラインでのクリップ操作
(10) プレゼンテーション映像制作①（編集作業／絵コンテ・ナレーション作成）
(11) プレゼンテーション映像制作②（仮ナレーション収録／映像ファイル化）
(12) ３ポイント編集とは
(13) 課題映像制作①（出題）
(14) 課題映像制作②（編集）
(15) 課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50051A02
科目名	デジタル映像編集実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice I		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅰ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習です。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の基本操作を確実にマスターし、 映像制作（クリエイター）に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。 ※注）；実習「Ⅱ」は、「Ⅰ」を履修済み程度の操作スキルがあることを前提とした内容です。まったく編集が初めての場合は、必ず「Ⅰ」を先に受講してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における３つのエレメントを認識する。 ・モンタージュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図でその映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
本講義はパソコン教室ではありません。アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）を使用しますが、Windows などでＰＣの基本操作（マウス、キーボード、ファイルの扱いなど）を理解していることが必須です。			
講義の順序とポイント			
（１）使用教室(H21)のシステムオリエンテーション （２）映像制作基礎（編集のための基本知識） （３）アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）の基本操作 （４）ＤＶビデオと Quicktime ファイルについて （５）ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成 （６）タイムライン／キャンバスの操作 （７）ビューアでの操作 （８）上書き編集と挿入編集			

（9）タイムラインでのクリップ操作
(10) プレゼンテーション映像制作①（編集作業／絵コンテ・ナレーション作成）
(11) プレゼンテーション映像制作②（仮ナレーション収録／映像ファイル化）
(12) ３ポイント編集とは
(13) 課題映像制作①（出題）
(14) 課題映像制作②（編集）
(15) 課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50051B01
科目名	デジタル映像編集実習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice Ⅱ		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅱ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習の応用編です。 デジタル映像編集実習「Ｉ」（春開講）を履修済みの操作スキルがあることを前提とした内容です。 まったく編集が初めての場合は、必ず「Ｉ」を先に受講してください。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、デジタルエフェクトを中心に、より高度な映像編集スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の応用操作を確実にマスターし、映像クリエイターに必要不可欠である「映像構成力」を学び、編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイル提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの総合的な操作能力を身につける。 ・映像構成上でのエフェクトの使い方やポイントをマスターする。 ・複数トラックを使った映像合成や音声ミックスのコツを理解する。 ・カラーバーや安全フレームなどの放送基礎技術を把握する		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図で、その映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
講師よりのプレゼンテーションで講義は進みますが、自らオリジナル制作に取り組む映像ワークショップ実施も可能です。積極的に自由研究課題を提言してください。			
講義の順序とポイント			
（1）編集点微調整ツールの使用方法 （2）ビデオ・オーディオトランジションの適用 （3）ビデオトランジションの応用 （4）オーディオトラックでの作業 （5）ビデオフィルターの利用 （6）複数トラックを使った作業（映像合成の基本） （7）マルチオーディオでの調整（ＭＡ作業） （8）モーションエフェクト①（ダイナミックモーション） （9）モーションエフェクト②（ワイヤーフレーム①） (10）モーションエフェクト③（ワイヤーフレーム②）			

（11）タイトルの挿入（カラーバー、テロップの知識）
（12）ＤＶカメラからの取り込み
（13）課題映像制作①（出題）
（14）課題映像制作②（編集）
（15）課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50056001
科目名	ファッション文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture Fashion Theory		
担当者名	横越谷　勝雄	旧科目名称	
講義概要	消費者のファッション商品の購入動機には、ファッション美的感性による動機付けが最も重要視される。消費者個々のファッション美的感性は、ファッションデザインマーケティングのトレンド感性分析で明らかにされる。 ファッションビジネスは、ファッションデザインマーケティングを知ることで、より理解が深まる。 ファッションビジネスとは、ファッション商品を通して新しいライフスタイルを提案するビジネスである。 ファッションビジネスの変遷と輪郭。産業構造と、マーチャンダイジングシステム、さらにファッションIMC(インテグレーテッド マーケティング コミュニケーション)によるファッションブランド構築のプロセスを学ぶ。ファッション IMC の体系化を学習する事により、ファッションビジネスがファッション消費者に対し、ファッション美的感性を文化として位置づけ、夢と憧れを提供するビジネスであることを実証する。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、毎時間その週のテーマをプリント配付にて行う。随時ビデオまたは DVD による 2016 年度の最新の,パリ、ミラノ、ニューヨーク等のファッショントレンドの解説も行う（基本的には毎週 30 分程度）		
教材（参考文献）	使用せず		
教材（その他）	使用せず		
評価方法	感性分析プレゼンテーション 20%　授業内レポート 20%　定期試験または最終レポート提出 60%		
到達目標	ファッションビジネスの変遷と輪郭。産業構造と、マーチャンダイジングシステム、さらにブランド構築のプロセス、ファッションブランディングのノウハウが将来のビジネスの現場で実際に役立つ事を切望する。 特に、ファッション業界へ就職、さらには、ビジネスを起業することを望む学生は、ファッションブランディングの成功例を、より深く理解することで、受講生の将来に繋がることを期待する。		
準備学習	毎日の生活のなかで、なにが変化しているか。政治、経済、社会、文化など幅広く、見届けるため、毎日、必ず新聞を読むこと。 とくに、関心を強く感じたことは、実際に自分の目で確かめること。		
受講者への要望			
常に現在注目されている、トレンドを意識し、それが時間とともに、どのように変化し、それが消費者の目には、どのように映っているのか、観察眼を鍛える訓練を日常的におこなうこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　　ファッション概説　パリ オートクチュールとプレタポルテの成立と概要 第 2 回　　ファッションビジネス基礎知識 第 3 回　　日本におけるファッションビジネスの変遷 第 4 回　　ファッション産業の機能と業務内容 第 5 回　　ファッショントレンド情報(パリ・ミラノ・ニューヨーク) 第 6 回　　ファッションビジネスにおけるマーケティングの重要性と戦略 第 7 回　　マーケティング環境の分析（ミクロ環境とマクロ環境） 第 8 回　　ファッション美的感性分析 第 9 回　　マーケットセグメンテーションとブランドポジショニング 第 10 回　ファッション消費と消費者ニーズ 第 11 回　消費者意識と消費者行動の変化 第 12 回　ファッションマーチャンダイジングシステムのフロー 第 13 回　ファッションブランド事例 第 14 回　ファッションブランド戦略（ファッション IMC ロケーション企画　検証） 第 15 回　ファッションブランド戦略（ファッション IMC コミュニケーション企画　検証）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50067001
科目名	プロジェクトワーク論	単位数	2
科目名（英語表記）	Study of Project Work		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	なんらかの目標を達成するための「計画」を意味する「プロジェクト（project)」の語源は「pro＋ject＝前方（未来）に向かって投げかける」である。また、究極の“personal computer＝dynabook”プロジェクトの提唱者である Alan Kay は次のようにも語っている。“The best way to predict the future is to invent it.（未来を予測する最良の方法は、それを発明してしまうことである）”。 本講義では、コミュニケーションの手段としての「メディア（media)」についてのこれまでのプロジェクトの実践例を検証するとともに、「プロジェクト」および「ワーク（work)」」を実践的に考察し、可能であれば、「未来を構築する」をテーマに、グループワークで実際にプロジェクトの立案／運営を試みる。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）	西村佳哲『自分の仕事をつくる』晶文社 2003 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	最終レポート（100%)。		
到達目標	プロジェクトを、ワークを、考える／実践する。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む 。

「マルチメディア論」「情報ネットワーク論」「メディア表現実習」での内容等を前提に授業を展開していくので、それらの授業を受講していることが望ましい。

＊グループワークをおこなう場合には「集中して何かをつくる／考える（＝試行錯誤する)」「他のメンバーと協調する」という作業が苦手な人にとっては、苦痛な時間になるかもしれません

講義の順序とポイント

01　オリエンテーション
02　プロジェクトについて
03　プロジェクトの実例検証（1）
04　プロジェクトの実例検証（2）
05　プロジェクトの実例検証（3）
06　プロジェクトの実例検証（4）
07　プロジェクトの実例検証（5）
08　ワークについて（1）
09　ワークについて（2）
10　グループワーク（1）
11　グループワーク（2）
12　グループワーク（3）
13　グループワーク（4）
14　グループワーク（5）
15　プロジェクトワークについて

※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（＝メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなる

というものでもありませんので、十分ご注意下さい。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	☆	−	−	☆	☆
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J50068001
科目名	ポップ・ミュージック論	単位数	2
科目名（英語表記）	Study of Popular Music		
担当者名	岡崎　宏樹	旧科目名称	
講義概要	この講義では、ポピュラー音楽の表現と音楽ビジネスの構造を多角的な視点から考察する。 前半部は、ポピュラー音楽における著名アーティストをとりあげ、社会学の観点から分析する。レゲエやヒップホップといったジャンルが誕生した歴史に着目し考察を深める。また、英米のポピュラー音楽の影響をふまえて、日本のポピュラー音楽の展開についても概説する。 講義の後半部は、音楽プロデューサーが担当し、音楽ビジネスの構造やメディア戦略について現場経験をふまえた解説をおこなう。 以上を通じてポピュラー音楽を成り立たせる経済・文化・社会的コンテクストについての理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	K・ニーガス『ポピュラー音楽理論入門』(水声社) ISBN:4891765208　(英米のポピュラー音楽研究の諸理論を概観できる) 東谷護（編)『ポピュラー音楽へのまなざし－－売る・読む・楽しむ』(勁草書房) ISBN:4326652802　(ポピュラー音楽研究の多様な視点を学ぶことができる) 井上俊（編)『現代文化を学ぶ人のために』 ISBN:4790716368　(音楽を含めた現代文化の多様な社会学的研究について知ることができる)		
教材（その他）			
評価方法	授業内ショートエッセイ:60％、授業への積極的な取り組み（発表）:10%、中間レポート：30％		
到達目標	ポピュラー音楽を理解するための視点と方法を習得し、音楽文化について理論的に説明できるようになる。		
準備学習	授業の前後に、関連する音楽作品をよく聴き、表現への理解を深めること。		
受講者への要望			
音楽を集中して聴くため、授業中の私語は厳禁です。中間レポートでは、ポピュラー音楽について調査・研究する課題が出されますので、時間をかけて準備する必要があります。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション：はじめに、ロックンロールの誕生 2．エルヴィス・プレスリーを考察する：エスニシティと音楽 3．ザ・ビートルズを考察する（1）：若者文化、音楽分析 4．ザ・ビートルズを考察する（2）：ポップスターとファン心理 5．マイケル・ジャクソンを考察する（1）：表現のルーツに着目して 6．マイケル・ジャクソンを考察する（2）：ジラール供犠論の視点 7．ボブ・マーリーを考察する：レゲエ文化の誕生 8．ヒップ・ホップを考察する：ラップ、DJ 文化を中心に 9．日本語ロックの歴史：英米音楽の受容と創造 10．JポップとJラップ：リズム論の視点から 11．ポピュラー音楽制作の現場：音楽プロデューサーの仕事 12．ポピュラー音楽におけるメディア戦略：ポップスターをつくる 13．音楽ビジネスの構造（1）：ヒット曲をつくる 14．音楽ビジネスの構造（2）：スポンサーと広報 15．音楽ビジネスの変容：歴史的分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50072001
科目名	マスコミ文章講座	単位数	1
科目名（英語表記）	Journalism Writing		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	文章は人間の感情や思想を言語化したもので、私たちはそれを通してコミュニケーションを図っております。どんなに堅固な思想や美しい感性をもっていても、文章表現が貧困であれば、そのことを伝達することはできません。新聞やテレビ、雑誌などマスコミ世界の文章は一種独特の特徴があります。それは読みやすく、分かりやすく、親しみやすいということに尽きますが、それを如何に実現していくかが、この授業の目的です。そのためには学生が書いた文章を個別にチェックして、本人の前で添削作業するしかありません。どれほど文章論の講義を聴いてもけっして文章はうまくならないもので、その難点をこ授業では個別指導で克服するつもりです。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	朝日新聞「天声人語」など。		
評価方法	文章作法を一から学ぶ授業ですので、文章の上手、下手は評価に関係ありません。どれだけ出席して、どれだけ添削用文章を書いたかが重要になります。評価基準は授業中に提出した文章の添削本数８０～９０％、平常点（授業への参加の度合い）２０～１０％とします。		
到達目標	昨今、雑誌のライター希望者が増えております。もちろん、メディア業界への就職は難しいのですが、できればその世界でもっとも重視される文章力でもって夢をかなえてほしいと思います。その意味で、この授業は学習と就職がもっとも関連していると言えるかもしれてません。		
準備学習	入門編として朝日新聞の天声人語、読売の編集手帳、毎日の余禄など１面下の記事を読むと勉強になると思います。もちろん、授業でもそれらの記事を教材にして文章作法を学びます。また、文章入門などの参考書も興味があれば読んでおいてください。		
受講者への要望			
とにかく、何でも書いてやろうという意欲が大事です。文章が上手くないからこそ、この授業を受けるわけで、恥ずかしがらずに挑戦してください。			
講義の順序とポイント			
１　　マスコミ文章の基本について ２　　新聞における文章学 ３　　使ってはいけない言葉・良い言葉と表現方法 ４～１３　各自が書いてきた文章の個別添削 １４　それぞれの文章についての講評 １５　総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	★	★	ー	ー	★★

年度	2016	授業コード	J50086001
科目名	マルチメディア論	単位数	4
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Society		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「メディア（media)」ということばは、一般に「人間がコミュニケーションするための手段」「人間の意思表現ならびに情報伝達を助け、助長する媒体」として用いられている。その歴史をさかのぼれば「声」や「文字」、いわゆる“技術”を介することによって「電信」「電話」「蓄音機」等を経て、今日の「デジタル」な時代に至る。デジタル技術は、原理的にあらゆるデータを「0/1」というビットに変換し、さまざまなメディアを統一的に扱うことを可能にした。そして、そのようなデジタル技術は社会の至る場面に登場しはじめ、私たちの社会生活をより豊かに、より便利にしてくれる。しかし、同時に、これまで想定されなかった新たな問題も生じてきている。 本講義では、まず、「文字」「映像」「電話」そして「コンピュータ」といった基本的なメディアの特徴をその歴史に焦点をあて概観し、新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションがどのように変容していったかを、その可能性を含めながら考えていく。そして、表現の世界や教育の現場等でのメディアの活用例をみるとともに、さまざまなメディアが錯綜することが予測される今後のメディア社会においての新たな問題等を具体的な事例をもとに検討し、「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー)」を考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	最終レポート（100％)。		
到達目標	「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー)」を考える。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション 02　メディアとは《その 1》 03　文字メディア《その 1》 04　文字メディア《その 2》 05　映像メディア《その 1》 06　映像メディア《その 2》 07　音メディア《その 1》 08　音メディア《その 2》 09　コンピュータというメディア《その 1》 10　コンピュータというメディア《その 2》 11　コンピュータというメディア《その 3》 12　ラジオとテレビ《その 1》 13　ラジオとテレビ《その 2》 14　ゲームというメディア 15　電話というメディア 16　メディアとは《その 2》 17　intermission　メディア関連作品の上映他 18　社会とコンピュータ《その 1》			

19　メディアと表現《その 1》
20　メディアと表現《その 2》
21　社会とコンピュータ《その 2》
22　社会とコンピュータ《その 3》
23　社会とメディア《その 1》
24　メディアと表現《その 3》
25　メディアと表現《その 4》
26　メディアと表現《その 5》
27　社会とメディア《その 2》
28　メディアと教育《その 1》
29　メディアと教育《その 2》
30　メディアとは《その 3》

※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（＝メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意下さい。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J50093001
科目名	マンガ・イングリッシュ	単位数	2
科目名（英語表記）	Manga English		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	日本では誰もが知っている漫画は、世界中にブームとなり、数多くのタイトルは英訳されている現在。親しみのあるものだからこそ、漫画は言語習得に有力なツールとも言えるでしょう。この講座では、日本の有名な漫画を英語で読みながら英単語・フレーズを学びます。漫画の世界にある様々な声を英語で読むことでスラング・口言葉を習います。その上、自分の英訳やオリジナルな漫画を描くことも挑戦します。		
教材（テキスト）	教材を配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）　授業内レポート（50%）　期末試験（30%）		
到達目標	日常会話に使われる語彙やフレーズを多く習得する以上、ナラティブの中の役割を理解できるように読解力を養う。		
準備学習	すこしでも「多読」になれることを勧めます。		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることを勧めます。

講義の順序とポイント

1. Introduction/ Dragonball (1)
2. Dragonball (2)
3 Death Note (1)
4. Death Note (2)
5. One Piece (1)
6. One Piece (2)
7. Ranma 1/2 (1)
8. Ranma 1/2 (2)
9. Blackjack (1)
10. Blackjack (2)
11. Vagabond (1)
12. Vagabond (2)
13. Buddha (1)
14.　Buddha (2)
15. Discussion: Manga as Japanese culture

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	★	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J50095001
科目名	マンガ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Manga Culture		
担当者名	二階堂　茂	旧科目名称	
講義概要	国際的に「MANGA（+ ANIME)」として認知されている日本の「マンガ（+アニメ)」を、「20 世紀美術」の歴史的側面から、さらに ２０世紀半ばに発生した「サブカルチャー」とのかかわり、などからも考察し「文化表現」として語ります。「マンガ（+アニメ)」の意味を「メディアを介した記号によるコミュニュケーション」として考えていく内容です。		
教材（テキスト）	指定なし		
教材（参考文献）	夏目房之介「マンガの力」晶文社 布施英利「マンガを解剖する」ちくま新書 Hector Garcia「A GEEK IN JAPAN」Tuttle Publishing Edited by Toni Jhonson-Woods「MANGA -An Anthology of Global and Culturel Perspectives-」Continuum International publising		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点：５０％ レポート提出：５０％ レポートのテーマは講義内で発表する。		
到達目標	マンガ?アニメを中心にした現代日本文化への深い理解。		
準備学習	マンガ?アニメを中心にした現代日本文化への興味をもち、日常的に接すること。		

受講者への要望

人間の文化活動に興味をもっていること。　講義中の私語、飲食は厳禁。

講義の順序とポイント

（1）「はじめに」
　　～講義オリエンテーション～
（2）「日本の現代文化」
　　～マンガの影響下にある日本の現代文化～
(3)「記号化されたマンガ表現：MANGA って何だ？」
　　～巨大な眼をもつ少女たち～
(4)「マンガのさまざまな記号表現（1)」
　　～絵とことば～
(5)「マンガのさまざまな記号表現（2)」
　　～二次（平面）という脳の認識～
(6)「マンガからアニメ、アニメからマンガ」
　　～ニ次元空間の論理～
(7)「オリジナルと複製」
　　～ポップアート（印刷物）としてのマンガ～
(8)「ポップアートとメディア」
　　～大量生産、大量消費のシステム～
(9)「海外のマンガと日本」
　　～ COMICS（米)、B.D.（仏)、MANGA（日）～
(10)「日本のアニメはアニメーション？」
　　～リアリズムからの逸脱～
(11)「サブカルチャー／ポップカルチャー」
　　～偉大なるアマチュア（素人）文化～
(12)「巨大化するマンガ文化」
　　～マンガ文化と経済～
(13)「オタク文化」
　　～熱狂的趣味人、ホビー文化と経済～

（14）「マンガ産業」
　　～コンテンツ・ビジネスとしてのマンガ～
（15）「マンガ文化」
　　～現代日本文化としてのマンガ文化～

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J50095002
科目名	マンガ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Manga Culture		
担当者名	二階堂　茂	旧科目名称	
講義概要	国際的に「MANGA（+ ANIME)」として認知されている日本の「マンガ（+アニメ)」を、「20 世紀美術」の歴史的側面から、さらに ２０世紀半ばに発生した「サブカルチャー」とのかかわり、などからも考察し「文化表現」として語ります。「マンガ（+アニメ)」の意味を「メディアを介した記号によるコミュニュケーション」として考えていく内容です。		
教材（テキスト）	指定なし		
教材（参考文献）	夏目房之介「マンガの力」晶文社 布施英利「マンガを解剖する」ちくま新書 Hector Garcia「A GEEK IN JAPAN」Tuttle Publishing Edited by Toni Jhonson-Woods「MANGA -An Anthology of Global and Culturel Perspectives-」Continuum International publising		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点：５０％ レポート提出：５０％ レポートのテーマは講義内で発表する。		
到達目標	マンガ?アニメを中心にした現代日本文化への深い理解。		
準備学習	マンガ?アニメを中心にした現代日本文化への興味をもち、日常的に接すること。		

受講者への要望

人間の文化活動に興味をもっていること。　講義中の私語、飲食は厳禁。

講義の順序とポイント

（1）「はじめに」
　　～講義オリエンテーション～
（2）「日本の現代文化」
　　～マンガの影響下にある日本の現代文化～
(3)「記号化されたマンガ表現：MANGA って何だ？」
　　～巨大な眼をもつ少女たち～
(4)「マンガのさまざまな記号表現（1)」
　　～絵とことば～
(5)「マンガのさまざまな記号表現（2)」
　　～二次（平面）という脳の認識～
(6)「マンガからアニメ、アニメからマンガ」
　　～ニ次元空間の論理～
(7)「オリジナルと複製」
　　～ポップアート（印刷物）としてのマンガ～
(8)「ポップアートとメディア」
　　～大量生産、大量消費のシステム～
(9)「海外のマンガと日本」
　　～ COMICS（米)、B.D.（仏)、MANGA（日）～
(10)「日本のアニメはアニメーション？」
　　～リアリズムからの逸脱～
(11)「サブカルチャー／ポップカルチャー」
　　～偉大なるアマチュア（素人）文化～
(12)「巨大化するマンガ文化」
　　～マンガ文化と経済～
(13)「オタク文化」
　　～熱狂的趣味人、ホビー文化と経済～

（14）「マンガ産業」
　　～コンテンツ・ビジネスとしてのマンガ～
（15）「マンガ文化」
　　～現代日本文化としてのマンガ文化～

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50096001
科目名	メディア・リテラシー	単位数	2
科目名（英語表記）	Media Literacy		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーションするための手段」であるメディアは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等を経て、今日のデジタルな時代に至る。新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。 本講義は、そのような「メディアと社会」を大学で学ぶための入門的講義である。時間や空間を越えて、より多くの人たちとの、音や映像等さまざまなメディアを用いたコミュニケーションの、これまで／これからを具体的な事例を基に考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	各メディアの歴史やその社会的な役割を知る。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション： 02　メディアとは（1） 03　過去／未来の人とのコミュニケーション（１） 04　過去／未来の人とのコミュニケーション（２） 05　遠くの人とのコミュニケーション（１） 06　遠くの人とのコミュニケーション（２） 07　多くの人たちとのコミュニケーション（１） 08　多くの人たちとのコミュニケーション（２） 09　映像を見る／読む（１） 10　映像を見る／読む（２） 11　音を聴く／音を視る（１） 12　音を聴く／音を視る（２） 13　これから生まれる（かもしれない）こと・もの・仕事（１） 14　これから生まれる（かもしれない）こと・もの・仕事（２） 15　メディアとは（2）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J50112001
科目名	映像制作実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Media-Product Making		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	メディア上級実習
講義概要	デジタル時代を迎えたテレビ放送では、高画質、データサービス、ネット配信などの技術革新が進んでいる一方で、コンテンツの質の向上も重要なテーマとなっている。「感動を伝える映像」とはどのようなものか。ニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、スポーツ中継などあらゆるジャンルの番組の課題である。本実習では、映像作品制作を通じて企画・撮影・編集・ナレーション・効果音・音楽など様々な表現手法を学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	放送機材を活用して直接指導し、プリントも随時配付する。		
教材（その他）	学生作成のビデオや指導ビデオを活用する		
評価方法	平常点(３０％）出席状況等による。実習及び作品評価点（７０％）		
到達目標	「感動を伝える映像作品」とはどのようなものか。撮影、編集などの映像表現手法を実体験で学ぶ。		
準備学習	日常的に優れた映像作品を制作者の視点で見ること。		

受講者への要望

放送、映像作品の制作に関心があり、チームプレーができること。編集面でほかの授業「デジタル映像編集実習」を同時に受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

春学期
1. 映像制作ガイダンス①　企画－何が魅力の企画か－
2. 同　②　撮影－何をどのように撮影するか－ 編集－編集で表現が変わる－
3. 絵コンテを作ろう－　教習編－
4. 同　－　実習編－
5. 同
6. 同　作品選出
7. 撮影取材
8. 同
9. 同
10. 同
11 撮影映像を編集
12 同
13.ミックスダウン－ナレーション、ＢＧＭ音楽、テロップ－
14 同
15.実習番組の審査と合評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50119001
科目名	メディア表現実習	単位数	2
科目名（英語表記）	The Practicum of Media Expression		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を、だれもが自由にさまざまなスタイルで活用するための基礎を学ぶ実習授業という形式の“メディア（＝コミュニケーションの場）”。 アナログからデジタルまでさまざまなメディアを活用し、“手を使って、からだを使って、そして、アタマを使って”、いろいろなものを制作。 ・文字／画像を“平面”に並べる、印刷する、製本をする →名刺をつくる／T シャツをつくる／写真集をつくる ・静止画／動画を“時間軸”で並べる、音楽を加える、CD/DVD に保存する →動くフォトアルバムをつくる／ムービーをつくる ／ライブビデオをつくる		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	必要に応じて、プリント・映像教材他。		
評価方法	課題提出（100%）。		
到達目標	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を活用する。		
準備学習	各回の実習はすべて連関している。次回以降の予習として、授業後に各回の内容を自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む（面倒な課題かなり多し）。

※機材等の関係で履修者が限られています（定員 10 名） 。

講義の順序とポイント

01　オリエンテーション
02　名刺をつくる（1）
03　名刺をつくる（2）
04　T シャツをつくる（1）
05　T シャツをつくる（2）
06　T シャツをつくる（3）
07　T シャツをつくる（4）
08　動くフォトアルバムをつくる（1）
09　動くフォトアルバムをつくる（2）
10　動くフォトアルバムをつくる（3）
11　動くフォトアルバムをつくる（4）
12　写真集をつくる（1）
13　写真集をつくる（2）
14　写真集をつくる（3）
15　写真集をつくる（4）
16　ムービーつくる（1）
17　ムービーつくる（2）
18　ムービーつくる（3）
19　ムービーつくる（4）
20　ライブビデオをつくる（1）

21　ライブビデオをつくる（2）
22　ライブビデオをつくる（3）
23　個人作品制作（1）
24　個人作品制作（2）
25　個人作品制作（3）
26　個人作品制作（4）
27　個人作品制作（5）
28　個人作品制作（6）
29　DVD 制作（1）
30　DVD 制作（2）

※「集中して何かをつくる／考える（＝試行錯誤する)」という作業が苦手な人にとっては、苦痛な時間になるかもしれません

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★

年度	2016	授業コード	J50124001
科目名	ヨーロッパ文化	単位数	2
科目名（英語表記）	European Culture		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	ヨーロッパには、多くの国々があり、それぞれの文化を持っています。それら多くの国々を一緒に発見しましょ う。毎回、違う国について学びます。少しの歴史と色々な文化や社会面、興味深く面白い特徴、また、役立つ言 葉や街の探索をします。そして、現代の日本文化や社会との共通点・相違点を話します。		
教材（テキスト）	プリント配布やビデオ		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出席・態度：５０％ 口頭プレゼンテーション１回（各学生は５～１０分程の短いスピーチを準備し、ヨーロッパの国の１つをテーマを絞って講義中に紹介する）　：５０％		
到達目標	基礎的な知識を習得し多くのヨーロッパの文化を理解する		
準備学習	特になし		

受講者への要望

講義出席に加え、各学生は、自分の意見も含めた５～１０分程の短いプレゼンテーションを学期中に１回準備し、 ヨーロッパの国の１つをテーマを絞って、グループまたは個人で紹介する

講義の順序とポイント

1 講義についての説明
2 フランス
3 イタリア
4 スペイン
5 ギリシャ
6 ドイツ
7 スカンジナビア（デンマーク、スウェーデン、フィンランド）
8 ポルトガル
9 イギリス
10 ポーランド
11 スイス
12 ベルギー
13 オランダ
14 小さな国々：ヴァチカン、モナコ、ルクセンブルグ
15 口頭プレゼンテーションのやり直し
講義計画及び内容は変更する可能性があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2016	授業コード	J50131002
科目名	情報サービス実習 II	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	情報サービスの設計から、評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習・実習を通して、実践的な能力を養成する。		
教材（テキスト）	原田智子編『情報サービス演習』樹村房、2012 今まど子編『図書館学基礎資料　第 12 版』樹村房、2015		
教材（参考文献）	大串夏身・齊藤誠一編『情報サービス論』理想社、2010 中西裕・金沢みどり・伊藤民雄『情報サービス論及び演習』学文社、2012 長澤雅男、石黒祐子『レファレンスブック選び方使い方』日本図書館協会、2013 市古みどり編著『資料検索入門』慶應義塾出版会、2014 健康情報サービス研修マーキンググループ『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス』日本医学図書館協会、2012 諏訪部直子・平紀子『解かりやすい医中誌Ｗｅｂ検索ガイド』日本医学図書館協会、2013 伊藤真理・上岡真紀子・松下鈞『情報検索講義』樹村房、2015		
教材（その他）	京都学園学図書館のレファレンスコーナー等の資料を使って実習を行います。		
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート・課題 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において履修する「図書館に関する科目」の規定を参考に、図書館における情報サービスの演習・実習をとおして、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とする。 1.情報サービスの設計から、評価に至る各種業務の実践的な能力を養成する。 2.利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービスの実践的な能力を養成する。 3.積極的な発信型情報サービスの実践的な能力を養成する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義・演習形式で行ない、適宜、実習をします。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。		

受講者への要望

なるべく授業時間内に質問してください。
なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ
－生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える－
2.情報サービスの設計と評価
3.情報サービス演習の準備と京都学園大学図書館見学
4.情報資源の探し方
5.Ｗｅｂページ、Ｗｅｂサイトの探し方
6.図書情報の探し方
7.雑誌および雑誌記事の探し方
8.新聞記事の探し方
9.言葉・事柄・統計の探し方
10.歴史・日時の探し方
11.地理・地名・地図の探し方
12.人物・企業・団体の探し方
13.法律・判例・特許の探し方

14.レファレンスコレクションの整備
15.まとめ　情報発信型サービスの構築と維持管理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50135A01
科目名	かな文字基礎講読Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar on Japanese-Kana Character A		
担当者名	関本　真乃	旧科目名称	
講義概要	仮名文字を発明して以来、日本人はそれによって文字を記して来た。古典文学は写本の形で現代まで継承されてきたので、日本古典専攻者にとって、仮名文字に関する知識は必須のものである。 現代では、仮名一音に対して一つの文字（字形）しか存在しない。「あ」という音を、「あ（安）」という文字で表すのは当然である。しかし、かつて、一つの音は多くの字形によって書かれた（変体仮名）。「阿・愛・亜・悪」も、「あ」を表す文字として使用されたのである。昔の写本には、幾つもの変体仮名が用いられている。さらに、早く書写する際には、英語の筆記体に相当する連綿体（くずし字）が用いられ、現代の我々にとって、解読するためには一定の努力が必要である。 つまり、写本を読むためには、①変体仮名を覚える、②文字のくずし方を覚える、という二つの作業が前提条件となる。とはいっても、所詮は慣れの程度問題であり、修養次第で誰でも写本を読むことは可能である。 この授業では、初歩のくずし字解読から開始し、やがては長い文章も理解することを目標とする。授業は教材（テキスト）に沿って行い、その都度参考資料を補い、できる限り多くのくずし字に触れる環境を整えたい。春学期は『伊勢物語』を中心に講読する。		
教材（テキスト）	兼築信行『一週間で読めるくずし字　伊勢物語』（淡交社・2006 年）		
教材（参考文献）	かな研究会『活字本教科書 実用変体がな』（新典社・1988 年）		
教材（その他）			
評価方法	平常点 75%（授業への参加態度及びミニッツペーパーによる）、確認小テスト 25%		
到達目標	くずし字で書かれた文章を解読し、意味を理解することができる。		
準備学習	教材（テキスト）を、第一回の授業までに購入しておくこと。書店、アマゾン等で入手可能である。そのほかは、授業中に指示する。		

受講者への要望

秋学期開講の「かな文字基礎購読 B」を引き続いて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション／遠州本第一〇六段
2　遠州本第四九段
3　遠州本初段前半
4　遠州本初段後半
5　遠州本第四段前半
6　遠州本第四段後半
7　嵯峨本第九段前半
8　嵯峨本第九段後半
9　嵯峨本第二三段前半
10　嵯峨本第二三段後半
11　真界本第六九段
12　真界本第八二段
13　真界本第八四段
14　真界本第一二三段・一二五段
15　塗籠本第二四段／確認小テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	★	−

年度	2016	授業コード	J50135B01
科目名	かな文字基礎講読Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar on Japanese-Kana Character B		
担当者名	関本　真乃	旧科目名称	
講義概要	仮名文字を発明して以来現代に至るまで、日本人はそれによって文字を記して来た。ゆえに日本古典専攻者にとって、仮名文字に関する知識は必須のものである。 現代では、一つの音に対して一つの字体しか存在しない。たとえば、「ア」という音は、「あ（字源は安）」という仮名で表される。しかし、かつて、「ア」という音は、「阿・愛・亜・悪」という字源をもつ仮名でも表された（変体仮名）。つまり、一つの音は多くの字体によって書かれていたのである。昔の写本には、幾つもの変体仮名が用いられている。 さらに、早く書写する際には、英語の筆記体に相当する連綿体（くずし字）が用いられた。くずし方には一定のルールがあるが、現代の我々にとって、解読するためには一定の努力が必要である。 つまり、写本を読むためには、①変体仮名を覚える、②文字のくずし方を覚える、という二つの作業が前提条件となる。とはいっても、所詮は慣れの程度問題であり、修養次第で誰でも写本を読むことは可能である。 この授業では、初歩のくずし字解読から開始し、やがては長い文章も理解することを目標とする。授業は教材（テキスト）に沿って行い、その都度参考資料を補い、できる限り多くのくずし字に触れる環境を整えたい。秋学期は和歌を中心に講読する。		
教材（テキスト）	兼築信行『一週間で読めるくずし字　古今集・新古今集』（淡交社・2006 年）		
教材（参考文献）	かな研究会『活字本教科書 実用変体がな』（新典社・1988 年）		
教材（その他）			
評価方法	平常点 75%（授業への参加態度及びミニッツペーパーによる）、確認小テスト 25%		
到達目標	くずし字で書かれた文章を解読し、意味を理解することができる。		
準備学習	教材（テキスト）を、第一回の授業までに購入しておくこと。書店、アマゾン等で入手可能である。そのほかは、授業中に指示する。		

受講者への要望

春学期開講の「かな文字基礎購読 A」から引き続いて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション／八代集抄　古今集夏歌
2　八代集抄　古今集恋歌二
3　八代集抄　古今集仮名序
4　八代集抄　春歌上
5　二十一代集　古今集恋歌二
6　二十一代集　古今集雑歌下
7　二十一代集　古今集秋歌上
8　二十一代集　古今集羈旅歌
9　二十一代集　新古今集春歌上
10　二十一代集　新古今集秋歌上
11　新古今集（伝為相筆）　哀傷歌
12　新古今集（伝為相筆）　恋歌五
13　新古今集（伝為相筆）　雑歌下
14　新古今集（伝為相筆）　神祇歌
15　伝慈円筆　新古今集断簡／確認小テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	★	★	−

年度	2016	授業コード	J50139001
科目名	異文化コミュニケーション	単位数	2
科目名（英語表記）	Cross-Cultural Communication		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	外国語で話すとき、単語や文法、発音をマスターしても、理解してもらえないことが多いのはなぜでしょう？素晴らしい語学力を持っていても、それを会話で適切に対応できなければ意味がありません。このクラスの前半では語彙や文法だけでなく、英語でうまく話せるようになるためのコミュニケーション方法や文化を学び習得していきます。後半では、日本と外国だけではなく文化と文化の間にあるコミュニケーションの相違点や共通点を探しだす比較文化を研究します。		
教材（テキスト）	Stapleton, Paul. How Culture Affects Communication, Kinseido Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%　　授業ないレポート 50%　定期試験 30%		
到達目標	英語で話すとき覚えておきたい文化的なルールを習って、また、実例で異文化コミュニケーションの基本を学ぶ。		
準備学習	自分が住む環境と異文化について考える姿勢や興味を持っておくこと。		
受講者への要望			
授業に毎回出席すること。課題に出されたテーマについて考えて、自分の意見を述べることも大事でしょう。			
講義の順序とポイント			
1. Introduction/What is culture? 2. Silence and communication 3. Length of speech 4. Variation of speech 5. Age, Status and Family 6. Rituals and Titles 7. Personal Space 8. Conversation styles/ Feedback 9. Communication in shops 10. Communication in the house 11. Idioms and Proverbs 12. Agreeing and Disagreeing 13. Public and Private Behavior 14. Reflections on Language and Culture 15. Discussions			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	ー	ー	ー	★★

年度	2016	授業コード	J50140001
科目名	医療心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology of Medical Care		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	近年、医療心理臨床の領域は、総合病院精神科や単科精神科病院に限らず、小児科、心療内科、内科、外科、リハビリテーション科、産婦人科など、多方面に拡大している。そこでは、心の病気への援助を目指す臨床心理学だけではなく、身体の病気やそれに苦しむ患者を理解し援助していく医療心理学が求められている。本講では、様々な病気に苦しむ患者やその家族に対して、医療心理学の観点からどのような援助ができるか考察したい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	菅佐和子編　「医療現場に生かす臨床心理学」　朱鷺書房		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	定期試験（７０％）、平常点（３０％）出席状況等による。		
到達目標	医療現場で心理的援助を行う際に求められる医療心理学の基礎的な理論や治療技法の理解を深めることを目指す。		
準備学習	授業１週間前までに、授業資料を京学ナビにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。わからない専門用語は、調べておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　患者の心理Ⅰ ３　患者の心理Ⅱ ４　患者の心理Ⅲ ５　精神科（入院）領域 ６　精神科（外来）領域 ７　心療内科領域 ８　小児科領域（乳児期・幼児期） ９　小児科領域（児童期・思春期） １０　小児科領域（ダウン症児とその家族への心理的援助） １１　内科領域（糖尿病患者への心理的援助） １２　外科領域 １３　ターミナルケア領域 １４　ＨＩＶ感染症領域 １５　医療スタッフのストレスと対応			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J5014100A
科目名	医療心理実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Medical Care Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学において心理アセスメントは、心理療法とともに車の両輪をなすものである。臨床心理学や医療心理学を実践する領域において、パーソナリティをどのように査定し理解するかということを抜きにして、心理療法やカウンセリングを行うことはまず考えられない。そこで本講では、医療心理臨床の現場で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目指し、各種の心理検査を通じての事例分析も行う。 また、単に技術面のことのみにとどまらず、臨床現場で出会う様々な問題についても考察する。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、レポート（３０％）、発表（３０％）。		
到達目標	様々な心理検査の実習を通じて、医療心理臨床の現場で求められる心理アセスメント技術の習得を目指す。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。実習した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
実習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　ロールシャッハテスト　施行法 ３　ロールシャッハテスト　スコアリング（反応領域） ４　ロールシャッハテスト　スコアリング（決定因） ５　ロールシャッハテスト　スコアリング（反応内容、Ｐ反応） ６　ロールシャッハテスト　サイコグラム、 ７　ロールシャッハテスト　解釈法Ⅰ ８　ロールシャッハテスト　解釈法Ⅱ ９　ロールシャッハテスト　事例分析 １０　ロールシャッハテスト　事例分析 １１　ＴＡＴ　事例分析 １２　ＴＡＴ　事例分析 １３　Ｐ－Ｆスタディ　事例分析 １４　Ｐ－Ｆスタディ　事例分析 １５　Ｐ－Ｆスタディ　事例分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50142001
科目名	映画撮影所実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Studio Internship		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	撮影所の現場における実習（インターンシップ）科目である。実習参加者は、6 月に行う面接によって選抜される。選抜を通過した受講者は太秦の東映京都映画撮影所においてテレビ映画等の撮影・制作にスタッフとして参加し実習する。実習期間は 8 月、9 月の 4 週間前後が予定されている。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実習への参加度（40%）、実習状況評価等（40%）、修了後のレポート,面接（20%）		
到達目標	映画の制作現場にスタッフとして参加し、映画がどのように制作されているのか知識と経験を得る。		
準備学習	「映画撮影論」（担当：春岡）を受講しておくこと。映画撮影とはどのようなものかを書籍などを読んで把握しておくこと。選考後キャリアサポート・センターによるビジネス実習講義・体験ディスカッションに参加し、実習のための基本知識と技能を身につける。		
受講者への要望			
プロたちが働く現場は厳しく真剣そのものであり、自分のやるべきことを主体的に考えて行動することが求められる。ハードな実習をやりぬく覚悟、映画への情熱が求められる。 夜の撮影がある場合は各自で帰宅の足を確保する必要がある。体調管理には特に注意すること。			
講義の順序とポイント			
撮影所での映画・テレビ制作現場の一員として制作作業の一部を担う。スケジュールと内容については撮影所からの指示に従うこと。 実習前にオリエンテーションと実習後にまとめの授業、面接を行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★	★	−

年度	2016	授業コード	J50143001
科目名	映画撮影論	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Making		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	
講義概要	日本の映画の歴史を、映画会社ごとに捉え、主たる作品、監督、俳優、スタッフから、作品の傾向、特徴などを具体的に振り返って、日本映画の知識、教養を細部から高めていく。希望者には夏季休暇中に撮影所でのインターンシップ制度があり、プロの現場を経験することができる。		
教材（テキスト）	使わない。講義内容に沿った資料プリントを適時配布する。		
教材（参考文献）	資料プリントを適時配布する。		
教材（その他）	映像資料を活用する。		
評価方法	授業中の質問への回答など平常点（40%）。レポート（60%）。		
到達目標	日本映画全般の知識を高め、インターンシップで撮影所に勤務する際にも戸惑わないようにする。また、映画が時代を写す鏡であることを理解し、逆に映画を通して社会背景を推察する力を身につける。		
準備学習	講義終了時に次回の概要を示すので予習しておくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で授業に臨んでほしい。また、講義で示した作品、監督、俳優等について復習し、視聴設備のある図書館等を積極的に利用し、実際に視聴してノートを採るなどして体験的理解を図ってほしい。

講義の順序とポイント

1. 授業内容の説明。講義意図と進め方について。
2. 日本の映画会社①
3. 日本の映画会社②
4. 日本の映画会社③
5. 日本の映画会社④
6. 日本の映画会社⑤
7. 日本映画の巨匠たち①
8. 日本映画の巨匠たち②
9. 映画技術の匠たち①
10. 映画技術の匠たち②
11. 時代を反映した俳優たち①
12. 時代を反映した俳優たち②
13. 京都映画の歴史①
14. 京都映画の歴史②
15. 撮影所の仕事について。まとめ。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★	ー	★★

年度	2016	授業コード	J50148001
科目名	映像文化論	単位数	4
科目名（英語表記）	Theory of Video Culture		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	文字であれ、音であれ、記録メディアの登場によって、メッセージは今だけのものではなくなった、過去を参照し、未来に思いを馳せることが可能となった。それとともに、映像メディアの出現で、自分の思いを他者に伝える、が、より具体的なことになった。そして、歴史を経ることによって、さまざまな表現手法が登場し、より高度なものに／より身近なものに、進化を続け、それらに伴い、新たな文化が生まれ、発展を続けている。また、かつて黎明期のスチルカメラマンが化学的知識を必要としたように、現代の映像に携わる者たちは、いわゆる映像の常識だけではなく、デジタルの作法も必須になってきた。 本講義では、映像メディアの歴史における代表的な作品等を鑑賞することによって、映像文化の歴史を概観し、その可能性や問題点等を考察していく。 今年度は、特定の映像作家の作品等を中心に講義を展開していく予定である。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	各回の小レポートおよび最終レポートで総合的に評価する。		
到達目標	映像文化を代表する映像作品等を鑑賞し、検証することによって、映像文化についての理解を深める。		
準備学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。
本講義は通常の講義と異なり 2 講義連続である（作品等の上映により、休み時間が時間通りでない場合もある）。

講義の順序とポイント

01-02：オリエンテーション～映像を見る・読む・考える 01
03-04：映像を見る・読む・考える 02
05-06：映像を見る・読む・考える 03
07-08：映像を見る・読む・考える 04
09-10：映像を見る・読む・考える 05
11-12：映像を見る・読む・考える 06
13-14：映像を見る・読む・考える 07
15-16：映像を見る・読む・考える 08
17-18：映像を見る・読む・考える 09
19-20：映像を見る・読む・考える 10
21-22：映像を見る・読む・考える 11
23-24：映像を見る・読む・考える 12
25-26：映像を見る・読む・考える 13
27-28：映像を見る・読む・考える 14
29-30：映像を見る・読む・考える 15

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J50150A0C
科目名	社会学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IA in Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	共通テーマを理解する。		
準備学習	常日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1，ガイダンス 2・3，家族 4・5，地域社会 6・7，教育 8・9，企業 10・11，労働 12・13，政治 14・15，メディア			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50150A0D
科目名	社会学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IA in Sociology		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、様々な社会問題をジェンダーの視点で読み解く社会学です。次年度の卒業研究にむけて自分だけの「問い」を発見するために、ジェンダー社会学の問題を取り上げます。たとえば、ジェンダーとセックス、セクシュアリティ、日本の雇用環境、男性問題、生殖医療、少子高齢化。メディアとジェンダーなど、教科書や指定教材をもとに、学生発表と講義、ディスカッションなどを行うなかで、自分の「問い」を探し、期末レポートを作成します。この期末レポートが 4 年生の卒業研究の出発点になります。また本演習では、就職活動にむけて、OB や OG との情報交換を予定しています。		
教材（テキスト）	最初のゼミにて指定		
教材（参考文献）	『ジェンダー論をつかむ』　有斐閣　　2013 『女性学事典』岩波書店　2002		
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%)出席状況などによる、、期末レポート(50%)		
到達目標	4 年生の卒業研究に向けて、自分だけの「問い」の発見		
準備学習	ゼミでのディスカッションに参加できるよう、指定された教科書や資料などをを読んでくること。		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力を求める			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション 2. ジェンダー社会学のゼミ基礎知識 3 ,「私の問い(２年ゼミ　期末レポートの発表とコメント） 4, 「私の問い(２年ゼミ　期末レポートの発表とコメント） 5, 「私の問い(２年ゼミ　期末レポートの発表とコメント） 7.　社会学の「問い」とリサーチ 8. 社会学の「問い」とリサーチ 9. 社会学の「問い」とリサーチ 10. 教材,各章の発表とコメン 11. 教材,各章の発表とコメン 12.教材,各章の発表とコメン 13. 教材,各章の発表とコメン 14　就職ガイダンス 15　「問い」の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	ー	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50150B0C
科目名	社会学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB in Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	自らの研究テーマを見つける。		
準備学習	常日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
１・２，高齢化社会 ３・４，情報化社会 ５・６，国際化 ７・８，近代社会 ９・10，宗教と社会 11・12，文明と社会 13・14，レポートの書き方 15，レポートの発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50150B0D
科目名	社会学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB in Sociology		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、様々な社会問題をジェンダーの視点で読み解く社会学です。次年度の卒業研究にむけて自分だけの「問い」を発見するために、ジェンダー社会学の問題を取り上げます。たとえば、ジェンダーとセックス、セクシュアリティ、日本の雇用環境、男性問題、生殖医療、少子高齢化。メディアとジェンダーなど、教科書や指定教材をもとに、学生発表と講義、ディスカッションなどを行うなかで、自分の「問い」を探し、期末レポートを作成します。この期末レポートが 4 年生の卒業研究の出発点になります。また本演習では、就職活動にむけて、OB や OG との情報交換を予定しています。		
教材（テキスト）	最初のゼミにて指定		
教材（参考文献）	『ジェンダー論をつかむ』　有斐閣　　2013 『女性学事典』岩波書店　2002		
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%)出席状況などによる、、期末レポート(50%)		
到達目標	4 年生の卒業研究に向けて、自分だけの「問い」の発見		
準備学習	ゼミでのディスカッションに参加できるよう、指定された教科書や資料などをを読んでくる		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力を求める			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2〜4, 夏休み宿題の発表とコメント 5, リサーチ方法とレポートの書き方 6〜10, , 期末レポートにむけてリサーチの進捗状況を発表 11〜14, 学生間で期末レポートの相互添削を行い、コメント発表 15, 期末レポートの発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	ー	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50152A0C
科目名	社会学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA in Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。研究の総まとめとしての卒業論文を執筆する準備をする。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	卒業論文を執筆できる準備をする。		
準備学習	日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1，ガイダンス 2・3，家族 4・5，地域社会 6・7，教育 8・9，企業 10・11，労働 12・13，政治 14・15，メディア			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50152A0D
科目名	社会学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA in Sociology		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の問題提起を複眼的視野でとらえ、データ（一次 or 二次）で証明する。その経過をゼミで発表し、教員と学生からのフィードバックを経て卒業研究を完成する。		
教材（テキスト）	適宜配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%)出席状況などによる、卒業研究の取り組み(70%)		
到達目標	卒業研究の「問い」の発見と卒業研究の構成を行う。		
準備学習	ゼミでのディスカッションに参加できるよう、指定された資料を読んでくること。		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力を求める			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント 1. イントロダクション 2〜3. 春の宿題発表 4〜6. 各自卒業研究計画書の発表 7.〜9.　卒論のデータとリサーチについて 10〜14.卒業研究の「問い」とリサーチ進捗状況の発表 15. 卒業研究の構成について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	ー	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	J50152B0C
科目名	社会学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB in Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。研究の総まとめとして卒業論文を執筆する。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	卒業論文を執筆する。		
準備学習	日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。 論文執筆のトレーニングをする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1・2，高齢化社会 3・4，情報化社会 5・6，国際化 7・8，近代社会 9・10，宗教と社会 11・12，文明と社会 13・14，卒業論文について 15，卒業論文発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50152B0D
科目名	社会学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB in Sociology		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の問題提起を複眼的視野でとらえ、データ（一次 or 二次）で証明する。その経過をゼミで発表し、教員と学生からのフィードバックを経て卒業研究を完成する。卒		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%)出席状況などによる、卒業研究の取り組み(70%)		
到達目標	卒業研究の進捗状況発表と執筆。		
準備学習	ゼミでのディスカッションに参加できるよう、指定された資料を読んでくること。		

受講者への要望

常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力を求める

講義の順序とポイント

1, 後期イントロダクション
2,　卒論リサーチの進捗状況の報告
3, 卒論リサーチの進捗状況の報告
4. 卒論下書き原稿の相互添削と発表
5..卒論下書き原稿の相互添削と発表
6.卒論下書き原稿の相互添削と発表
7.卒論下書き原稿の相互添削と発表
8.卒論下書き原稿の相互添削と発表
9.卒論下書き原稿の相互添削と発表
10.卒論下書き原稿の相互添削と発表
14. 完成原稿の発表とコメント
15. 完成原稿の発表とコメント

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	ー	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	J50155A01
科目名	英語特別講義 A 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	English Special Lecture A (Intensive Eng lish Studies)		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	This class will focus on reading and writing. We will read two books this semester. You will be expected to discuss and keep a journal about what you read.		
教材（テキスト）	Frankenstein (Oxford Bookworms, Level 3) ISBN 0194237532 Strange Case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde, The, Level 5, Penguin Readers (2nd Edition) (Penguin Readers, Level 5) ISBN 1405862459		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Class Participation 40% Class Journals 20% 2 Papers 20% Discussion 20%		
到達目標	Students will be able to discuss and have opinions about what they read. Students will be able to write their thoughts freely in journals. Students will be able to negotiate new vocabulary.		
準備学習	There is no special preparation for this class but students will be expected to have a willingness to communicate with other students in English.		

受講者への要望

You will be expected to come to class prepared every week. All missed assignments must be handed in to the teacher by the following week.

講義の順序とポイント

We will spend the first half of the semester reading Mary Shelley's Frankenstein. This will be approximately 5-7 classes. Students will read and discussion the main themes as well as keep a journal that will be used in class. We will spend the second half of the semester reading Dr. Jekyll and Mr. Hyde. This will also be 5-7 classes. Students will read and discussion the main themes as well as keep a journal that will be used in class. There will be 3-5 page papers due after each book.

1. Introduction 2. Begin Frankenstein, Journals 3. Frankenstein, Journals, Discussion
4. Frankenstein, Journals, Discussion 5. Frankenstein, Journals, Discussion 6. Frankenstein, Journals, Discussion
7. Review of Novel, Paper due 8. Begin Jekyll and Hyde, Journals 9. Jekyll and Hyde, Journals, Discussion
10 Jekyll and Hyde, Journals, Discussion 11Jekyll and Hyde, Journals, Discussion
12 Jekyll and Hyde, Journals, Discussion 13 Jekyll and Hyde, Journals, Discussion 14 Review of Novel, Papers due
15 Conclusion

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待	1	2	2	2	2	2

年度	2016	授業コード	J50155B01
科目名	英語特別講義Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	English Special Lecture B (Intensive Eng lish Studies)		
担当者名	John Gatewood Ⅱ	旧科目名称	
講義概要	This is a continuation of the skills class from the spring semester. This class will continue to focus on speaking, writing, and listening, but in addition, there will be a section on debating.　The students will be further challenged to practice different parts of English. There will be tests, quizzes, presentations, and other assignments to help students learn and become confident in their English.		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1.continue using "Living" English 2. Become even more prepared to interact with people who do not speak Japanese language 3. Start working on convincing others and debate tactics when speaking Come to class ready to learn. This class will be slightly more difficult than the first semester, but work hard and you can do well!		
準備学習	You must come to class to get a good grade, so...授業に毎回出席すること。 Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)		

受講者への要望

Come to class ready to learn. This class will be slightly more difficult than the first semester, but work hard and you can do well!

講義の順序とポイント

The basic structure and arrangement of the class will be the same as the first semester with different topics being used for the English conversation and there will also be a section on debate.

1. Asking and asking questions
2　T1
3　T2
4　T3
5. Writing basic sentences
6　T1
7　T2
8　T3
9. Listening practice
10　T1
11　T2
12　T3
13　4. Debate section
14　How to prepare debates
15　Group work and Brainstorming & Small debates

※There will be plenty of practice along with mini-tests and quizzes during the semester

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	3	2	2	2	2	2

年度	2016	授業コード	J50178001
科目名	家族社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Sociology		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、理想像が共有されているように思われる。そして、その理想像からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる極めて限定的なイメージであり、実態を概観するだけで、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態はもはや多数派ではないのである。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
準備学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		
受講者への要望			
普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。社会通念や偏見にとらわれず、それらを相対化し、思考する態度を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か ２　社会とともに変化する家族（１） ３　社会とともに変化する家族（２） ４　高度経済成長期の家族の特徴 ５　高度経済成長期から変化する家族 ６　子どもと家族（１） ７　子どもと家族（２） ８　家族と暴力（１） ９　家族と暴力（２） １０　現代家族のかかえる諸問題（１） １１　現代家族のかかえる諸問題（２） １２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１） １３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２） １４　多様化する家族（１） １５　多様化する家族（２） 上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50178002
科目名	家族社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Sociology		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、理想像が共有されているように思われる。そして、その理想像からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる極めて限定的なイメージであり、実態を概観するだけで、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態はもはや多数派ではないのである。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
準備学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		
受講者への要望			
普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。社会通念や偏見にとらわれず、それらを相対化し、思考する態度を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か ２　社会とともに変化する家族（１） ３　社会とともに変化する家族（２） ４　高度経済成長期の家族の特徴 ５　高度経済成長期から変化する家族 ６　子どもと家族（１） ７　子どもと家族（２） ８　家族と暴力（１） ９　家族と暴力（２） １０　現代家族のかかえる諸問題（１） １１　現代家族のかかえる諸問題（２） １２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１） １３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２） １４　多様化する家族（１） １５　多様化する家族（２） 上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50182001
科目名	学校臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical School Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	学校臨床心理学とは、「学校における臨床心理学」および「学校と臨床心理学」の二つの視点を併せ持つ、実践的な研究領域である。第一の観点を理解するためには、学校という場を知った上で、そこにおいて必要とされる臨床心理学的実践は如何なるものであるかを理解し、スクールカウンセラーの活動の実際を知ることが必要である。第二の観点では、学校教育と臨床心理学が互いに補い合って児童生徒を援助していくことを可能にするための、それぞれの方法論や観点の異同を理解することが重要である。 本講義においてはまず、学校現場で発生している様々な臨床心理学的課題について、受講生が書籍・報道などを用いて実情をまとめ、発表し、その諸課題に対して、上述の二つの観点から分析・解説するものとする。 最終的にはこれらを総合的に考察することで、現代社会における子供の問題への対処方法を包括的に論じる。		
教材（テキスト）	毎回、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	横湯園子　教育臨床心理学　東京大学出版会 倉光修編　学校臨床心理学　誠信書房		
教材（その他）	必要に応じて、プリント類を配布する。		
評価方法	定期試験　50%　　授業内レポート　30%　　課題提出　20%		
到達目標	1．学校現場においてどのような問題が発生しているかを理解する。 2. 学校における諸課題のうちに、臨床心理学的問題がどのように含まれているかを理解する。 3．問題解決に向けていかに臨床心理学が応用されているか、またその過程でどのような課題が存在しているかを、具体的に理解する。 4．学校現場で必要とされる、基本的な臨床心理学的知識を習得する。		
準備学習	講義の最後に、次回取り扱う学校臨床心理学的課題を指定するので、それについての新聞やインターネットにおける報道や、そういった学校の課題を分析した書籍等を調べ、各人がレポートにまとめる。次週にはそれに基づくグループ発表を行うため、事前学習が必須である。		
受講者への要望			
授業中は私語厳禁です。社会的にも関心の高い領域であるので、積極的に勉強すること。			
講義の順序とポイント			
1．学校とはどのようなところか 2．学校教育と心理臨床の考え方の違いと相補性 3．学校臨床心理学とは 4．児童期・思春期の心理的発達 5．学校現場での問題　①不登校 6．　②不登校児童生徒の実態 7．　③いじめ 1 8．　④いじめ 2 9．　⑤非行 10.　⑥発達障害 11. 家族の問題　①子供を取り巻く環境 12.　②虐待 13〜14. スクールカウンセラーの仕事 15. コミュニティ心理学の視点・まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50186001
科目名	学習の動機づけ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Motivation		
担当者名	王　松	旧科目名称	学習の動機づけ
講義概要	学習の動機づけとは、一般にいうやる気や意欲に近い概念にあたる。動機づけに関する概念は非常に多く、これは人間の活動のほとんどがやる気とかかわりがあることを反映しているといえる。 動機づけを理解することで、日常生活などにおいてどのような実践が可能か、また動機づけにまつわる学習の心理についても説明していき、自分自身の動機づけに関して改めて考え直していく手がかりとなるような理論や視点について学んでいく。		
教材（テキスト）	伊藤崇達編著『やる気を育む心理学（改訂版）』北樹出版　1,800 円		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内課題、理解度の確認による平常点（45%）、最終試験（55%）。		
到達目標	１．動機づけ概念を用いて、日常の行動を説明することができるようになる。 ２．さまざまな動機づけ概念を理解し、動機づけを高めるための方法や工夫について深く考えられるようになる。		
準備学習	特別なことは要求しないが、毎回の授業内容はのちの講義内容の理解にもかかわるため、各講義の内容を理解した上で次の講義に臨むよう心がけてほしい。		
受講者への要望			
１．毎回の講義から何かを学ぶ、得る、という形で、目標を持って参加してください。 ２．日常的に心理学に関係することに関心を持ち、疑問点や知りたいことを明確にし、積極的に学習を進めてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．　講義概要　動機づけとは何か ２．　動機づけを捉える方法論 ３．　マズローの欲求５段階説 ４．　乳幼児期におけるやる気 ５．　達成動機づけと期待価値理論 ６．　自己効力感 ７．　原因帰属理論 ８．　達成目標理論 ９．　自己決定理論と基本的欲求 １０．　興味とフローの理論 １１．　テスト不安・学習性無力感 １２．　自己調整学習の理論 １３．　教師と動機づけ １４．　友人と動機づけ １５．　さまざまな動機づけ概念の統合的理解			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50187A01
科目名	漢文学講読Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Writing Study Reading A		
担当者名	野口　隆	旧科目名称	
講義概要	漢文学が日本文学史の中で占める割合は大きい。かつての日本人は漢籍の読解に心血をそそぎ、また李白や杜甫や白楽天の漢詩を愛唱した。近年では漢文を読む機会もめっきり減ってしまったが、しかしそれでも以下に挙げるような理由で、漢文を読むことの意義はなお少なくないと思われる。 その一。漢文を読む機会は減ったがしかし漢字・漢語となれば、これはいまも誰でも日常的に使うものである。漢文を学ぶことで、漢字・漢語に対する理解が深まるのは確実である。 その二。日本文化が中国古典から大きな影響を受けていることは無論だがそれだけでなく、日本古典そのものが漢文で書かれている場合がたいへん多い。したがって日本文学史を知るためにも漢文訓読は必修なのである。 その三。漢文を朗読することで、文章のリズムを身につけ自分でもよい文章が書けるようになると俗に言われている。 春学期は『論語』『史記』その他の散文作品を講読する。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	タイトルは指定しないが、漢和辞典は必携である。		
評価方法	毎回実際に訓読を実施し、その内容を課題として提出したものを平常点（50%）とする。期末試験（50%）も行う。		
到達目標	漢和辞典の引き方に習熟すること。そして返り点と送り仮名のある漢文であれば、漢和辞典を引いた上で訓読できるようになること。		
準備学習	中国の歴史や地理について簡単にまとめた資料等を入手しておくことが望ましい。提出された課題には朱を入れて返却するので、問題のある個所については自力で再考すること。		

受講者への要望

漢文講読の要諦は、ひたすら漢和辞典を引き続けることである。しかし漢和辞典というものは、国語辞典と異なり引くだけでも頭を使うので、その心がまえをしておいてもらいたい。またせっかく古風な教室を使うのだから、古風な漢文の読み方も復活したいと考えている。

講義の順序とポイント

1　漢文訓読の基礎
2　漢和辞典の使い方
3　『論語』
4　『孟子』
5　『韓非子』
6　『老子』『荘子』
7　『史記』本紀(1)
8　『史記』本紀(2)
9　『史記』世家
10　『史記』列伝(1)
11　『史記』列伝(2)
12　『三国志』
13　『世説新語』
14　『日本外史』(1)
15　『日本外史』(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50187B01
科目名	漢文学講読Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Writing Study Reading B		
担当者名	野口　隆	旧科目名称	
講義概要	漢文学が日本文学史の中で占める割合は大きい。かつての日本人は漢籍の読解に心血をそそぎ、また李白や杜甫や白楽天の漢詩を愛唱した。近年では漢文を読む機会もめっきり減ってしまったが、しかしそれでも以下に挙げるような理由で、漢文を読むことの意義はなお少なくないと思われる。 その一。漢文を読む機会は減ったがしかし漢字・漢語となれば、これはいまも誰でも日常的に使うものである。漢文を学ぶことで、漢字・漢語に対する理解が深まるのは確実である。 その二。日本文化が中国古典から大きな影響を受けていることは無論だがそれだけでなく、日本古典そのものが漢文で書かれている場合がたいへん多い。したがって日本文学史を知るためにも漢文訓読は必修なのである。 その三。漢文を朗読することで、文章のリズムを身につけ自分でもよい文章が書けるようになると俗に言われている。 秋学期は、漢文学の中でも特異な位置を占める漢詩を講読する。日本人の作品も採り上げる予定である。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	タイトルは指定しないが、漢和辞典は必携である。		
評価方法	毎回実際に訓読を実施し、その内容を課題として提出したものを平常点（50%）とする。期末試験（50%）も行う。		
到達目標	漢詩についての基本的な素養を身につけること。そしてその味わいのようなものを現代の日本語で再現できるようになること。		
準備学習	中国の歴史や地理について簡単にまとめた資料等を入手しておくことが望ましい。提出された課題には朱を入れて返却するので、問題のある個所については自力で再考すること。		

受講者への要望

漢詩を読むためには漢和辞典を引くことの他に、いわば「詩心」のようなものが求められる。担当者は、詩を訳す時には訳したあとも詩らしくなければならないというのが持論なので、それにつきあってもらいたい。またせっかく古風な教室を使うのだから、漢詩の暗唱のような古風な読み方も復活したいと考えている。

講義の順序とポイント

1　漢詩概論
2　『詩経』
3　『文選』古詩
4　阮籍・陶淵明
5　初唐の詩人たち
6　王維・孟浩然
7　李白
8　杜甫
9　白居易
10　中唐・晩唐の詩人たち
11　蘇軾
12　宋代の詩人たち
13　日本の漢詩人(1)
14　日本の漢詩人(2)
15　日本の漢詩人(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J50190A01
科目名	環境社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology A		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題です。そして、現代社会において環境への関心はますます大きなものとなっています。 　環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは前者を中心に扱います。 社会学として環境問題をどのように捉えられるかを、具体的な事例と理論の両面から考えるために、境問題を歴史的に概観しながら、具体的事例と社会学の理論の両方を学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業態度、出席状況等を含む平常点(50%)と、、テスト(50%)から総合的に判断する。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、web などで調べてください。		

受講者への要望

環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。
また、能動的にに学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでください。

講義の順序とポイント

1.　イントロダクション　「自然」とは何か
2.　人間社会と環境(1)　「環境問題」の発見と近代社会
3.　人間社会と環境(2)　環境社会学の成立と展開
4.　公害・差別・リスク(1)　公害問題・水俣病の被害と差別
5　公害・差別・リスク(2)　被害構造論
6.　公害・差別・リスク(3)　受益圏・受苦圏
7.　公害・差別・リスク(4)　新潟水俣病と阿賀野川
8.　開発と資源(1)　開発と地域社会
9.　開発と資源(2)　リスク社会と住民投票
10. 開発と資源(3) 自然エネルギーと風車
11..地球環境問題(1)　地球環境問題と地域
12. 地球環境問題(2)　社会問題としての地球温暖化
13. 地球環境問題(3)　開発と環境正義
14. 地域づくりと環境(1)　まちづくりの系譜
15.まとめ　　現代社会と環境

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J50190A02
科目名	環境社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology A		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題です。そして、現代社会において環境への関心はますます大きなものとなっています。 　環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは前者を中心に扱います。 社会学として環境問題をどのように捉えられるかを、具体的な事例と理論の両面から考えるために、境問題を歴史的に概観しながら、具体的事例と社会学の理論の両方を学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業態度、出席状況等を含む平常点(50%)と、、テスト(50%)から総合的に判断する。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、web などで調べてください。		

受講者への要望

環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。
また、能動的にに学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでください。

講義の順序とポイント

1.　イントロダクション　「自然」とは何か
2.　人間社会と環境(1)　「環境問題」の発見と近代社会
3.　人間社会と環境(2)　環境社会学の成立と展開
4.　公害・差別・リスク(1)　公害問題・水俣病の被害と差別
5　公害・差別・リスク(2)　被害構造論
6.　公害・差別・リスク(3)　受益圏・受苦圏
7.　公害・差別・リスク(4)　新潟水俣病と阿賀野川
8.　開発と資源(1)　開発と地域社会
9.　開発と資源(2)　リスク社会と住民投票
10. 開発と資源(3) 自然エネルギーと風車
11..地球環境問題(1)　地球環境問題と地域
12. 地球環境問題(2)　社会問題としての地球温暖化
13. 地球環境問題(3)　開発と環境正義
14. 地域づくりと環境(1)　まちづくりの系譜
15.まとめ　　現代社会と環境

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50190B01
科目名	環境社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology B		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題でもあります。そして、現代社会において「環境」の問題はますます大きく、身近なものとなっています。 環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは後者を中心に扱います。 人間社会にとっての脅威となる「環境」ではなく、人間に日々の糧や安らぎを与える存在としての自然環境との関係を事例を紹介しながら、社会学の理論も学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業態度、出席状況等を含む平常点(50%)と、、テスト(50%)から総合的に判断する。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、webなどで調べてください。		
受講者への要望			
環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。 また、能動的にに学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでください。			
講義の順序とポイント			
1.イントロダクション　身近な自然、日本の森林 2.自然保護を考える(1)　自然保護制度 3.自然保護を考える(2)　エコ・ツーリズム 4.身近な自然を考える(1)　自然観 5.身近な自然を考える(2)　コモンズ 6.生活と水を考える(1)　生活環境主義 7.生活と水を考える(2)　近代と河川 8.農と食を考える(1)　「農」と「食」の変化 9.農と食を考える(2)　有機農業運動 10 ゴミ問題を考える(1)　コモンズの悲劇と社会的ジレンマ 11 ゴミ問題を考える(2)　リサイクルの取り組みとその課題 12.環境 NPO/市民活動を考える　社会運動として NPO 13.歴史的環境と景観を考える(1)　歴史的環境とは何か 14.歴史的環境と景観を考える(2)　観光まちづくり 15.まとめ　　現代社会と環境			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J50190B02
科目名	環境社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology B		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題でもあります。そして、現代社会において「環境」の問題はますます大きく、身近なものとなっています。 環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは後者を中心に扱います。 人間社会にとっての脅威となる「環境」ではなく、人間に日々の糧や安らぎを与える存在としての自然環境との関係を事例を紹介しながら、社会学の理論も学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業態度、出席状況等を含む平常点(50%)と、、テスト(50%)から総合的に判断する。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、webなどで調べてください。		
受講者への要望			
環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。 また、能動的にに学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでください。			
講義の順序とポイント			
1.イントロダクション　身近な自然、日本の森林 2.自然保護を考える(1)　自然保護制度 3.自然保護を考える(2)　エコ・ツーリズム 4.身近な自然を考える(1)　自然観 5.身近な自然を考える(2)　コモンズ 6.生活と水を考える(1)　生活環境主義 7.生活と水を考える(2)　近代と河川 8.農と食を考える(1)　「農」と「食」の変化 9.農と食を考える(2)　有機農業運動 10 ゴミ問題を考える(1)　コモンズの悲劇と社会的ジレンマ 11 ゴミ問題を考える(2)　リサイクルの取り組みとその課題 12.環境 NPO/市民活動を考える　社会運動として NPO 13.歴史的環境と景観を考える(1)　歴史的環境とは何か 14.歴史的環境と景観を考える(2)　観光まちづくり 15.まとめ　　現代社会と環境			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50202001
科目名	京都観光を英語で	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Tourism in English		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	「京都の観光地を英語」で学んだ内容をふまえた実習授業。「京町家キャンパス」を拠点に京都の観光地に出かけて、英語で実際にガイドブック作りや観光案内などを行い、生きた英語を学びます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1.Give the students vocabulary and grammar to design a basic guidebook 2.Help the students to become more familiar with giving directions 3.Construct different patterns for communicating in spoken/written English		
準備学習	Come to class ready to learn. This class will be slightly more difficult than the first semester, but work hard and you can do well!		
受講者への要望			
授業に毎回出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることを勧めます。			
講義の順序とポイント			
1.Introduction 2.Getting to know Kyoto in English 3.Kyoto ? City of Temples (1) 4.Kyoto ? City of Temples (2) 5.Kyoto ? City of Tea (1) 6.Kyoto ? City of Tea (2) 7.Kyoto ? City of Arts (1) 8.Kyoto ? City of Arts (2) 9.Guidebook writing (1) 10.Guidebook writing (2) 11.Kyoto in English Literature (1) 12.Kyoto in English Literature (2) 13.Survey writing 14.Final reports/discussion 15.Conducting Surveys			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	2	3	1	2	2	3

年度	2016	授業コード	J50204A01
科目名	教育心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology I		
担当者名	池田　賢司	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は学校教育を対象とする心理学です。教育心理学では，学習効果をいかに高めるかということや，子どもの発達、生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境などを研究対象としています。よりよい教育を提供するために，各成長段階における子どもについての理解が不可欠となります。この講義では，まず学習者である生徒・児童について理解することを目指し，学習に関わる人間の基本的な機能を中心に説明していきます（発達などは後期の教育心理学 II で取り扱います)。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	講義中に適宜配布する		
評価方法	授業中の理解度チェックと小レポート（40%） 定期試験（60%）		
到達目標	学習を行う際に関係する人間の機能について，どのような機能か，どのように学習に関係しているのかを説明することができるようになる		
準備学習	特に事前準備が必要となる場合には，講義の際に適宜指示する		

受講者への要望

1. 講義中の私語、携帯電話の使用は他の受講者の迷惑になるため，厳禁です。場合によっては退室を求めることがあります。
2. 質問や要望は講義中に配布する用紙に記入し，講義後に提出してください。
3. 講師へ直接質問したい場合は原則講義後にお願いします。
4. 講義中に調査，実験を実施することがあります。積極的に参加してください。
5. 秋学期開講科目の教育心理学 II も受講することが望ましいです。教育心理学についてより理解が深まると思います。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 記憶①
3. 記憶②
4. 記憶③
5. 文章理解①
6. 文章理解②
7. メタ認知①
8. メタ認知②
9. メタ認知③
10. 学習方略
11. 動機づけ①
12. 動機づけ②
13. 動機づけ③
14. 条件づけ
15. 学習に影響を及ぼす諸要因

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50204A02
科目名	教育心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology I		
担当者名	池田　賢司	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は学校教育を対象とする心理学です。教育心理学では，学習効果をいかに高めるかということや，子どもの発達、生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境などを研究対象としています。よりよい教育を提供するために，各成長段階における子どもについての理解が不可欠となります。この講義では，まず学習者である生徒・児童について理解することを目指し，学習に関わる人間の基本的な機能を中心に説明していきます（発達などは後期の教育心理学 II で取り扱います)。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	講義中に適宜配布する		
評価方法	授業中の理解度チェックと小レポート（40%） 定期試験（60%）		
到達目標	学習を行う際に関係する人間の機能について，どのような機能か，どのように学習に関係しているのかを説明することができるようになる		
準備学習	特に事前準備が必要となる場合には，講義の際に適宜指示する		

受講者への要望

1. 講義中の私語、携帯電話の使用は他の受講者の迷惑になるため，厳禁です。場合によっては退室を求めることがあります。
2. 質問や要望は講義中に配布する用紙に記入し，講義後に提出してください。
3. 講師へ直接質問したい場合は原則講義後にお願いします。
4. 講義中に調査，実験を実施することがあります。積極的に参加してください。
5. 秋学期開講科目の教育心理学 II も受講することが望ましいです。教育心理学についてより理解が深まると思います。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 記憶①
3. 記憶②
4. 記憶③
5. 文章理解①
6. 文章理解②
7. メタ認知①
8. メタ認知②
9. メタ認知③
10. 学習方略
11. 動機づけ①
12. 動機づけ②
13. 動機づけ③
14. 条件づけ
15. 学習に影響を及ぼす諸要因

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50204B01
科目名	教育心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology Ⅱ		
担当者名	池田　賢司	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は学校教育を対象とする心理学です。教育心理学では，学習効果をいかに高めるかということや，生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境などを研究対象としています。よりよい教育を提供するために，各成長段階における子どもについての理解が不可欠となります。この講義では，生徒・児童について理解することを目指し，子どもの発達、道徳性や友人関係などを中心に説明していきます（人間の学習機能に関しては前期の教育心理学Ⅰで扱います)。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	講義中に適宜配布する		
評価方法	授業中の理解度チェックと小レポート（40%） 定期試験（60%）		
到達目標	子どもの発達に伴う変化や子どものさまざまな支援とその効果について説明できるようになる		
準備学習	特に事前準備が必要となる場合には，講義の際に適宜指示する		

受講者への要望

1. 講義中の私語、携帯電話の使用は他の受講者の迷惑になるため，厳禁です。場合によっては退室を求めることがあります。
2. 質問や要望は講義中に配布する用紙に記入し，講義後に提出してください。
3. 講師へ直接質問したい場合は原則講義後にお願いします。
4. 講義中に調査，実験を実施することがあります。積極的に参加してください。
5. 春学期開講科目の教育心理学Ⅰも受講していることが望ましいです。教育心理学についてより理解が深まると思います。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 発達の理論①
3. 発達の理論②
4. 乳・幼児期①
5. 乳・幼児期②
6. 児童期
7. 社会性と道徳性の発達①
8. 社会性と道徳性の発達②
9. 青年期
10. 適応と障害の理解①
11. 適応と障害の理解②
12. ICT 利用による学習への支援①
13. ICT 利用による学習への支援②
14. 教育評価
15. 発達と学校における問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50204B02
科目名	教育心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology Ⅱ		
担当者名	池田　賢司	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は学校教育を対象とする心理学です。教育心理学では，学習効果をいかに高めるかということや，生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境などを研究対象としています。よりよい教育を提供するために，各成長段階における子どもについての理解が不可欠となります。この講義では，生徒・児童について理解することを目指し，子どもの発達、道徳性や友人関係などを中心に説明していきます（人間の学習機能に関しては前期の教育心理学Ⅰで扱います)。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	講義中に適宜配布する		
評価方法	授業中の理解度チェックと小レポート（40%） 定期試験（60%）		
到達目標	子どもの発達に伴う変化や子どものさまざまな支援とその効果について説明できるようになる		
準備学習	特に事前準備が必要となる場合には，講義の際に適宜指示する		

受講者への要望

1. 講義中の私語、携帯電話の使用は他の受講者の迷惑になるため，厳禁です。場合によっては退室を求めることがあります。
2. 質問や要望は講義中に配布する用紙に記入し，講義後に提出してください。
3. 講師へ直接質問したい場合は原則講義後にお願いします。
4. 講義中に調査，実験を実施することがあります。積極的に参加してください。
5. 春学期開講科目の教育心理学Ⅰも受講していることが望ましいです。教育心理学についてより理解が深まると思います。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 発達の理論①
3. 発達の理論②
4. 乳・幼児期①
5. 乳・幼児期②
6. 児童期
7. 社会性と道徳性の発達①
8. 社会性と道徳性の発達②
9. 青年期
10. 適応と障害の理解①
11. 適応と障害の理解②
12. ICT 利用による学習への支援①
13. ICT 利用による学習への支援②
14. 教育評価
15. 発達と学校における問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50213A01
科目名	教育学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Pedagogy A		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	教育の思想 A，教育の思想 s
講義概要	現代社会には「学校は（親は）ダメになった」、「教育とはかくあるべきだ」といった語りが数多く氾濫している。しかしながら、こうした教育言説の数々が、物事の本質を見失わせ、時に一部の人々を深く傷つける可能性をはらんでいることを見過ごしてはならない。 本講義では教育社会学の視点から「学校」という装置、また、これと社会との関係性について多角的に検討していく。このことを通して、教育についての理解と深い洞察力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	苅谷剛彦『学校って何だろう―教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は平常点とレポートにより行います。 平常点（出席状況、授業態度等）６０％　レポート４０％。 ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	①学期中にテキストを読破し、その内容について自身の考えを掘り下げたり、他者に分かりやすく伝える力を身につける。 ②学校教育をめぐる現状について多角的に検討する視点を身につける。		
準備学習	・毎回授業が始まるまでにテキストの指定した章を読みこんでおいてください。 ・新聞やニュースで報じられる教育問題に関心を持っておいてください。		
受講者への要望			
・受講者数に応じて演習形式を取り入れます。発表や議論には積極的に参加すること。特にグループ学習に際しては、何も発言せずに帰るということは決してないようにしてください。 ・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は平常点の減点対象とします。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．学校はどのように語られてきたか① ３．学校はどのように語られてきたか② ４．学校とは何か①―なぜ勉強するのか ５．学校とは何か②―試験 ６．学校とは何か③―校則 ７．学校とは何か④―教科書 ８．学校とは何か⑤―隠れたカリキュラム ９．学校とは何か⑥―教師 １０．学校とは何か⑦―生徒 １１．学校と社会のつながり①―学歴 １２．学校と社会のつながり②―学校と家庭 １３．いじめ問題を考える① １４．いじめ問題を考える② １５．総括―学問的視点から学校を考える			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50213A02
科目名	教育学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Pedagogy A		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	教育の思想 A，教育の思想 s
講義概要	現代社会には「学校は（親は）ダメになった」、「教育とはかくあるべきだ」といった語りが数多く氾濫している。しかしながら、こうした教育言説の数々が、物事の本質を見失わせ、時に一部の人々を深く傷つける可能性をはらんでいることを見過ごしてはならない。 本講義では教育社会学の視点から「学校」という装置、また、これと社会との関係性について多角的に検討していく。このことを通して、教育についての理解と深い洞察力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	苅谷剛彦『学校って何だろう―教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は平常点とレポートにより行います。 平常点（出席状況、授業態度等）６０％　レポート４０％。 ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	①学期中にテキストを読破し、その内容について自身の考えを掘り下げたり、他者に分かりやすく伝える力を身につける。 ②学校教育をめぐる現状について多角的に検討する視点を身につける。		
準備学習	・毎回授業が始まるまでにテキストの指定した章を読みこんでおいてください。 ・新聞やニュースで報じられる教育問題に関心を持っておいてください。		
受講者への要望			
・受講者数に応じて演習形式を取り入れます。発表や議論には積極的に参加すること。特にグループ学習に際しては、何も発言せずに帰るということは決してないようにしてください。 ・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は平常点の減点対象とします。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．学校はどのように語られてきたか① ３．学校はどのように語られてきたか② ４．学校とは何か①―なぜ勉強するのか ５．学校とは何か②―試験 ６．学校とは何か③―校則 ７．学校とは何か④―教科書 ８．学校とは何か⑤―隠れたカリキュラム ９．学校とは何か⑥―教師 １０．学校とは何か⑦―生徒 １１．学校と社会のつながり①―学歴 １２．学校と社会のつながり②―学校と家庭 １３．いじめ問題を考える① １４．いじめ問題を考える② １５．総括―学問的視点から学校を考える			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50213B01
科目名	教育学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Pedagogy B		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	教育の思想Ｂ，教育の思想ｆ
講義概要	本講義のテーマは西洋における子育ての歴史である。現代に生きる私たちは、子を産み育てるという営みについて思う時、知らず知らずのうちに一定の子ども観や家族観を前提としがちである。これらのイメージは歴史上どのような経緯から生み出され、子育てのあり方にどのような変化を促していったのか？本講義では、子どもの教育をめぐる現状を相対化するための試みとして、こうした問いに迫っていく。具体的には、フランスを中心に近代化を背景とした子育ての歴史について学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は平常点と試験により行います。 平常点（出席状況、課題の提出状況、授業態度等）５０％　レポート５０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	①近代フランスを中心とした西洋における子育ての歴史について基本的な流れを理解する。 ②教育の今日的課題について歴史的視点から考察する力を身につける。		
準備学習	授業内で適宜紹介する文献には積極的に目を通すようにしてください。		
受講者への要望			
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は平常点の減点対象とします。 ・授業中に私語を２回注意された人は退室してもらいます。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス　なぜ歴史を学ぶのか ２．「子ども」に対する現代のまなざし ３．子産みと遺棄の歴史①　出産・堕胎 ４．子産みと遺棄の歴史②　子捨て ５．子産みと遺棄の歴史③　児童保護 ６．家族と家庭生活の歴史①　結婚・夫婦関係 ７．家族と家庭生活の歴史②　子どもを中心とした家族 ８．家族と家庭生活の歴史③　私生活の変化 ９．映画鑑賞 １０．映画鑑賞（続き）と解説 １１．子育ての歴史①　母役割と母性 １２．子育ての歴史②　しつけと礼儀作法 １３．子育ての歴史③　子どもの文化とライフスタイル １４．子育ての歴史④　保育・幼児教育 １５．全体の総括　子育ての歴史を通してみえてくるもの			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50213B02
科目名	教育学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Pedagogy B		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	教育の思想Ｂ，教育の思想ｆ
講義概要	本講義のテーマは西洋における子育ての歴史である。現代に生きる私たちは、子を産み育てるという営みについて思う時、知らず知らずのうちに一定の子ども観や家族観を前提としがちである。これらのイメージは歴史上どのような経緯から生み出され、子育てのあり方にどのような変化を促していったのか？本講義では、子どもの教育をめぐる現状を相対化するための試みとして、こうした問いに迫っていく。具体的には、フランスを中心に近代化を背景とした子育ての歴史について学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は平常点と試験により行います。 平常点（出席状況、課題の提出状況、授業態度等）５０％　レポート５０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	①近代フランスを中心とした西洋における子育ての歴史について基本的な流れを理解する。 ②教育の今日的課題について歴史的視点から考察する力を身につける。		
準備学習	授業内で適宜紹介する文献には積極的に目を通すようにしてください。		
受講者への要望			
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は平常点の減点対象とします。 ・授業中に私語を２回注意された人は退室してもらいます。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス　なぜ歴史を学ぶのか ２．「子ども」に対する現代のまなざし ３．子産みと遺棄の歴史①　出産・堕胎 ４．子産みと遺棄の歴史②　子捨て ５．子産みと遺棄の歴史③　児童保護 ６．家族と家庭生活の歴史①　結婚・夫婦関係 ７．家族と家庭生活の歴史②　子どもを中心とした家族 ８．家族と家庭生活の歴史③　私生活の変化 ９．映画鑑賞 １０．映画鑑賞（続き）と解説 １１．子育ての歴史①　母役割と母性 １２．子育ての歴史②　しつけと礼儀作法 １３．子育ての歴史③　子どもの文化とライフスタイル １４．子育ての歴史④　保育・幼児教育 １５．全体の総括　子育ての歴史を通してみえてくるもの			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50220B01
科目名	教育社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Sociology B		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	教育社会学ｆ
講義概要	本講義では、教育社会学の基礎文献である E.デュルケームの『道徳教育論』をとりあげる。「規律の精神」「社会集団への愛着」「意志の自律性」を道徳の 3 要素とする彼の教育論は、彼が生きた近代国民社会の成立期に、理想の社会の形成にとって必要とされる教育とはどのようなものか、を問う議論であった。まずはその時代的要請を踏まえて彼の議論をたどり、さらには今日的視点から、その議論の不十分な点を指摘する。また、余裕があれば、デュルケームの他のテキスト『自殺論』や、D.リースマン『孤独な群集』なども紹介する。 以上のテキスト案内を通して、現代の教育において特に重要な要素とは何なのか、という問題を、今日の犯罪事件や教育問題に言及しながら検討する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	E.デュルケーム（麻生誠・山村健訳）『道徳教育論』1・2〔世界教育学選集 32・33〕明治図書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に適宜課するレポート、または学期末の試験。 受講者の人数や理解度により変更し、配点その他の詳細については授業の中で示す。		
到達目標	人間と社会、そして教育に関するデュルケームの考え方を理解し、その批判的検討を通しての、もうひとつの道徳論の考え方を習得する。		
準備学習	各自がこれまでに受けてきた道徳教育の有無、その内容を思い出しておくこと。		

受講者への要望

出席した以上は、私語を慎んでほしい。

講義の順序とポイント

1. 国民社会とそれを超えるもの(1)
2. 国民社会とそれを超えるもの(2)
3. デュルケームによる道徳の三要素：規律の精神(1)
4. デュルケームによる道徳の三要素：規律の精神(2)
5. デュルケームによる道徳の三要素：社会集団への愛着(1)
6. デュルケームによる道徳の三要素：社会集団への愛着(2)
7. ナショナリズムとコスモポリタニズム
8. デュルケームによる道徳の三要素：意志の自律性(1)
9. デュルケームによる道徳の三要素：意志の自律性(2)
10. 近代国民社会と人格崇拝の観念
11. リースマンの社会的性格論(1)
12. リースマンの社会的性格論(2)
13. 2 つの道徳と 2 つの正義・愛・自由(1)
14. 2 つの道徳と 2 つの正義・愛・自由(2)
15. 超近代の教育に向けて
16.定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J50220B02
科目名	教育社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Sociology B		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	教育社会学ｆ
講義概要	本講義では、教育社会学の基礎文献である E.デュルケームの『道徳教育論』をとりあげる。「規律の精神」「社会集団への愛着」「意志の自律性」を道徳の 3 要素とする彼の教育論は、彼が生きた近代国民社会の成立期に、理想の社会の形成にとって必要とされる教育とはどのようなものか、を問う議論であった。まずはその時代的要請を踏まえて彼の議論をたどり、さらには今日的視点から、その議論の不十分な点を指摘する。また、余裕があれば、デュルケームの他のテキスト『自殺論』や、D.リースマン『孤独な群集』なども紹介する。 以上のテキスト案内を通して、現代の教育において特に重要な要素とは何なのか、という問題を、今日の犯罪事件や教育問題に言及しながら検討する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	E.デュルケーム（麻生誠・山村健訳）『道徳教育論』1・2〔世界教育学選集 32・33〕明治図書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に適宜課するレポート、または学期末の試験。 受講者の人数や理解度により変更し、配点その他の詳細については授業の中で示す。		
到達目標	人間と社会、そして教育に関するデュルケームの考え方を理解し、その批判的検討を通しての、もうひとつの道徳論の考え方を習得する。		
準備学習	各自がこれまでに受けてきた道徳教育の有無、その内容を思い出しておくこと。		
受講者への要望			
出席した以上は、私語を慎んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 国民社会とそれを超えるもの(1) 2. 国民社会とそれを超えるもの(2) 3. デュルケームによる道徳の三要素：規律の精神(1) 4. デュルケームによる道徳の三要素：規律の精神(2) 5. デュルケームによる道徳の三要素：社会集団への愛着(1) 6. デュルケームによる道徳の三要素：社会集団への愛着(2) 7. ナショナリズムとコスモポリタニズム 8. デュルケームによる道徳の三要素：意志の自律性(1) 9. デュルケームによる道徳の三要素：意志の自律性(2) 10. 近代国民社会と人格崇拝の観念 11. リースマンの社会的性格論(1) 12. リースマンの社会的性格論(2) 13. 2 つの道徳と 2 つの正義・愛・自由(1) 14. 2 つの道徳と 2 つの正義・愛・自由(2) 15. 超近代の教育に向けて 16.定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50227001
科目名	現代アートへの招待 （町家）	単位数	2
科目名（英語表記）	Invitation to Contemporary Art		
担当者名	藤阪　新吾	旧科目名称	現代アートへの招待
講義概要	アート art は本来、生の技法 art であり、私たちに活力を与え、生活をより良くする力を持っています。アートは道徳の善悪や科学の真偽の枠に収まらず、「感じること」と「考えること」を同時に作動させます。この授業では、「感じること」と「考えること」をともに大切にしつつ、現代アートの魅力とその力の源を探っていきます。 現代アートは「わからない」「難しい」という言い方がよくなされます。他方、現代アートは自由に「感じればいい」という言い方もなされます。この「わかるようなわからないような」、「難しいようなそうでないような」、「自由に感じられるようなそうでないような」ところに、現代アートの独特なあじわいがあります。 授業では、現代アートの基礎を解説する講義に加えてフィールドワークやワークショップなどを行い、現代アートを多様な角度から学びます。この総合的な学びによって、何気ない日常のなかに新たな喜びや豊かさを発見できる知性と感性を養うこと、これがこの授業の目標です。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します		
評価方法	平常点（60%）：講義・フィールドワークへの参加を含む レポート（40%）		
到達目標	現代のさまざまなアート作品と表現方法、アートをめぐる社会的状況を、感じ考えることをとおして、現代アートへの感受性と理解力を身につける。		
準備学習	本や雑誌、テレビやインターネットをはじめ、アートをめぐるビジュアルとテキストに意識的に触れること。さまざまなギャラリーや美術館にできるだけ足を運ぶこと。		

受講者への要望

＊8月2日(火)・3日(水)・4日(木)・5日(金)の4日間の「集中講義」を予定しています。
＊授業は「京町家キャンパス」にて行う予定です。

＊フィールドワークにかかる交通費および施設入場料等は自己負担となります。
＊展覧会の会期や現場の事情等によって日時・内容が調整される場合があります。
＊本講義の受講者には、秋学期の「アートギャラリー実習Ⅰ・Ⅱ」を受講することを期待します。

現代アートをより深く感じ、理解するには、受け身で授業を受ける（消費する）だけでは不十分です。情報による固定観念をわきに置いて、アートを積極的かつ意欲的に味わう姿勢によって、あじわいもより深いものとなります。このことがわかれば、感覚的にキモチいいこととも観念的に楽しいこととともまた別の「快感・喜び」の体験世界が広がることでしょう。

講義の順序とポイント

1．はじめに：アートをあじわうために
2．レクチャー①：多様な表現とさまざまな作品
3．レクチャー②：自然美／芸術美／社会美
4．レクチャー③： 感じるアート／考えるアート
5．フィールドワーク①（美術館／ギャラリー）
6．フィールドワーク②（美術館／ギャラリー）
7．ディスカッション①／レポート作成①
8．レクチャー④：芸術／アート／デザイン
9．レクチャー⑤：亀岡プロジェクト
10．ワークショップ①
11．ワークショップ②
12．レクチャー⑥：生の技法 art
13．レクチャー⑦：アートと社会美学
14．レポート作成②／ディスカッション②

15. アートのあじわい

＊8月2日(火)・3日(水)・4日(木)・5日(金)の4日間の「集中講義」を予定しています。
＊授業は「京町家キャンパス」で行う予定です。
＊京町家キャンパスの授業時間は大学と異なるので確認してください　［例］京町家の2時間目は10時40分開始

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	★★	ー	★	ー

年度	2016	授業コード	J50229001
科目名	現代オーストラリア事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary Australian Society		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	メディアを通して、現代オーストラリアの真の顔を探り出す。地理的にアジアに位置しながらも、世界中から様々な文化が交じり合ってできた現代オーストラリア社会を勉強の的にし、上級読解、聴解スキルを伸ばします。毎週の集中したリーディング（テキスト、新聞、雑誌、インターネット）の他、映画・ドキュメンタリーを観たり、ポッドキャストを聴いたりできる総合的な講座です。オーストラリア留学を考えている学生にはもっとも必要な講座の一つです。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布します　。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点　20%　　授業ないレポート 50%　定期試験 30%		
到達目標	集中したリーディング・リスニングによって読解力・聴解力を高めます。		
準備学習	オーストラリアについて、そこし読んでおくと授業内容がわかりやすくなるはず。		
受講者への要望			
授業に毎回出席はもちろん、まめに予習・復習すること。何かの理由で授業に出席できない場合や課題を提出できない場合、必ず担当者に相談すること。			
講義の順序とポイント			
1. コース紹介 2. オーストラリアの歴史 3. アボリジニの文化 4. オーストラリアの地理 5. スポーツ文化 6. 多文化社会 7. 自然と季節 8. 芸術 9. ジェンダー 10. オーストラリアの教育 11. 伝統や祭り 12. オーストラリアの国民性 13. 生活習慣 14. 映画や音楽 15. オーストラリアと日本			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50233A01
科目名	現代映画論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Theory of Present Age A		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	
講義概要	映像の世紀だった 20 世紀を越え、またアナログからデジタルへの一大変革のときを越えて、映画というメディアは演劇、文学、美術、写真、音楽、その他あらゆる要素を内包した総合芸術として、また時代を明瞭に捉えた記録、証言としての意義、存在感をますます強めていっている。だが、その一方で、次々と消費されていく一過性の商品としてだけ見る傾向も強まってきている懸念もある。求められているのは、映画をしっかりと分析しその表現の本質を理解する力だと思う。本講義では、昨年から本年に公開された最新の作品を中心に、批評的視点からの分析を行い、作品から見えてくるものを考察していく。映画の内容、監督を始めとするスタッフ、キャストを知り、映画的教養を深めるとともに、現代という時代を捉える力も養っていく。		
教材（テキスト）	使わない。		
教材（参考文献）	使わない。		
教材（その他）	講師用意の映像資料を活用する。		
評価方法	授業中の質問への回答など平常点（40%）。レポート（60%）。		
到達目標	昨年及び本年公開の作品、さらに公開予定作を含めて、しっかりと分析、把握し、そこから映画全般の知識を高めていく。そして、それらの作品を通して、現代社会が抱える問題や時代傾向を認識できるようにする。		
準備学習	毎回、授業終了時に次回の内容を伝えるので予習しておくこと。		
受講者への要望			
能動的姿勢で授業に臨んでほしい。また、授業で採りあげた作品について、できるだけ実際に鑑賞し、体験的復習を実践してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. はじめに。映画批評とはなにか。 2. 昨年の邦画代表作から見えてくるものはなにか。① 3. 昨年の邦画代表作から見えてくるものはなにか。② 4. 昨年の洋画代表作から見えてくるものはなにか。 5. 本年１～３月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。アカデミー賞作品を中心に① 6. 本年１～３月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。アカデミー賞作品を中心に② 7. 本年１～３月期公開の邦画代表作から見えてくるものはなにか。 8. 本年４～６月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。① 9. 本年４～６月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。② 10. 本年４～６月期公開の邦画代表作から見えてくるものはなにか。① 11. 本年４～６月期公開の邦画代表作から見えてくるものはなにか。② 12. 本年上半期の洋画の傾向について。 13. 本年上半期の邦画の傾向について。① 14. 本年上半期の邦画の傾向について。② 15. 本年上半期に鑑賞した映画のレポート作成。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50233B01
科目名	現代映画論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Theory of Present Age B		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	
講義概要	春学期開講の「現代映画論Ａ」をさらに進めていく。本講師は評論家として一般公開以前に映画を鑑賞することが可能なので、授業を行う時点で公開中、もしくは近日公開の作品を採りあげ、資料を用いてスタッフ、キャスト、内容を把握し、批評的観点から作品の本質の理解を計り、現在公開作品としての意味や製作側の意図を考察していく。また、作品の芸術的意匠の理解も促し、芸術鑑賞眼、批評眼も養っていく。		
教材（テキスト）	使わない。		
教材（参考文献）	使わない。		
教材（その他）	講師用意の映像資料を活用する。		
評価方法	授業中の質問への回答など平常点（40%）。レポート（60%）。		
到達目標	本年公開の作品及び公開予定の作品を把握、分析し、そこから映画全般の知識を高めていく。そして、映画を通して現代社会が抱える問題を理解し、時代傾向を考察、認識できるようにする。		
準備学習	毎回、授業終了時に次回の内容を伝えるので予習しておくこと。		
受講者への要望			
能動的姿勢で授業に臨んでほしい。また、授業で採りあげた作品について、できるだけ実際に鑑賞し、体験的復習を実践してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. ７～８月期公開の邦画から見えてくるもの。① 2. ７～８月期公開の邦画から見えてくるもの。② 3. ７～８月期公開の洋画から見えてくるもの。① 4. ７～８月期公開の洋画から見えてくるもの。② 5. ９～１１月期公開の邦画から見えてくるもの。① 6. ９～１１月期公開の邦画から見えてくるもの。② 7. ９～１１月期公開の邦画から見えてくるもの。③ 8. ９～１１月期公開の洋画から見えてくるもの。① 9. ９～１１月期公開の洋画から見えてくるもの。② 10. ９～１１月期公開の洋画から見えてくるもの。③ 11. 本年公開の邦画の傾向について。 12. 本年公開の洋画の傾向について。 13. 本年公開の邦画の代表作はなにか。 14. 本年公開の洋画の代表作はなにか。 15. 本年公開作品についてのレポート作成。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50234001
科目名	現代経済の読み方	単位数	2
科目名（英語表記）	Analysis of Contemporary Economics		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	まず，今日どのような経済現象が問題となっているのかを考える。 今日日本では都市部の大企業，投資家などを中心に景気が回復しつつあるが，地方，中小，自営，労働者などへどこまで広がっているのだろうか。 次に経済現象の実体を分析する。景気については，ＧＤＰ，企業の利益率，失業率などでとらえることができる。これを通して，そこにどの様な法則があるのかを考える。機械設備の更新投資の時期が各企業で重なり，新産業の登場もあたらしい波を作る。 1930 年代以降，財政支出政策によって景気が下支えされる。 さらには金融規制緩和が金融市場でのブームを作る。 最近では企業，国家ぐるみのグローバル化が資本主義に活路を与えている。 原理的には次のように考えられる。 今日は，商品経済の社会であり，人々は生活に必要なものをほとんど市場から入手している。その商品の価格はどの様にして決まるのだろうか。 また，今日では様々な企業の競争と協調の下にある。大企業と中小企業の存在は我々にどの様な影響を与えているのだろうか。 さらに、国家の経済活動なしに経済は成り立たなくなっている。我々は租税、年金、保険などを納め、国家は公共事業や、金利政策によって経済を支えている。国民所得はどう循環しているのか，税率や利子はどう決まるのだろうか。 そして、国際的な金融資産の市場での取引が，経済の他の分野に重大な影響を与える資本主義の渦中にもある。為替レートや株価は何によって動いているのだろうか。 　以上のような現実の経済問題を法則的に捉えることを目的にする。		
教材（テキスト）	なし。 新聞記事，統計データなどを紹介する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業の感想の提出		
到達目標	経済現象の奥底には法則があること，堂々巡りにならない必然関係があることをつかむ。 また，富は，生産活動からしか生まれない。うまい話はない。働く以外に富を手に入れる方法はないことを理解する。		
準備学習	新聞やテレビや週刊誌で経済ニュースを見ておくこと。		
受講者への要望			
経済の現実に関心を持つために、自立した経済生活を送ってほしい。アルバイトをしなくてもよいが，家計簿をつけるとよい。			
講義の順序とポイント			
1　経済学とは何か？　　何が問題か，好況の実態 2　価格はどう決まるか 3　企業の業績 4　不況、好況 5　大企業の製品 6　企業合併 7　国内総生産 8　予算、国債、消費税 9　貨幣，利子率 10　株価，バブル			

11　インフレーション，デフレーション
12　為替レート、原油価格
13　国際収支，貿易
14　ＴＰＰ
15　経済の段階と重層的構造

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★ ★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50234002
科目名	現代経済の読み方	単位数	2
科目名（英語表記）	Analysis of Contemporary Economics		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	まず，今日どのような経済現象が問題となっているのかを考える。 今日日本では都市部の大企業，投資家などを中心に景気が回復しつつあるが，地方，中小，自営，労働者などへどこまで広がっているのだろうか。 次に経済現象の実体を分析する。景気については，ＧＤＰ，企業の利益率，失業率などでとらえることができる。これを通して，そこにどの様な法則があるのかを考える。機械設備の更新投資の時期が各企業で重なり，新産業の登場もあたらしい波を作る。 1930 年代以降，財政支出政策によって景気が下支えされる。 さらには金融規制緩和が金融市場でのブームを作る。 最近では企業，国家ぐるみのグローバル化が資本主義に活路を与えている。 原理的には次のように考えられる。 今日は，商品経済の社会であり，人々は生活に必要なものをほとんど市場から入手している。その商品の価格はどの様にして決まるのだろうか。 また，今日では様々な企業の競争と協調の下にある。大企業と中小企業の存在は我々にどの様な影響を与えているのだろうか。 さらに、国家の経済活動なしに経済は成り立たなくなっている。我々は租税、年金、保険などを納め、国家は公共事業や、金利政策によって経済を支えている。国民所得はどう循環しているのか，税率や利子はどう決まるのだろうか。 そして、国際的な金融資産の市場での取引が，経済の他の分野に重大な影響を与える資本主義の渦中にもある。為替レートや株価は何によって動いているのだろうか。 　以上のような現実の経済問題を法則的に捉えることを目的にする。		
教材（テキスト）	なし。 新聞記事，統計データなどを紹介する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業の感想の提出		
到達目標	経済現象の奥底には法則があること，堂々巡りにならない必然関係があることをつかむ。 また，富は，生産活動からしか生まれない。うまい話はない。働く以外に富を手に入れる方法はないことを理解する。		
準備学習	新聞やテレビや週刊誌で経済ニュースを見ておくこと。		
受講者への要望			
経済の現実に関心を持つために、自立した経済生活を送ってほしい。アルバイトをしなくてもよいが，家計簿をつけるとよい。			
講義の順序とポイント			
1　経済学とは何か？　　何が問題か，好況の実態 2　価格はどう決まるか 3　企業の業績 4　不況、好況 5　大企業の製品 6　企業合併 7　国内総生産 8　予算、国債、消費税 9　貨幣，利子率 10　株価，バブル			

11　インフレーション，デフレーション
12　為替レート、原油価格
13　国際収支，貿易
14　ＴＰＰ
15　経済の段階と重層的構造

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50238A01
科目名	現代雑誌論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age A		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論 s
講義概要	書店またコンビニに並ぶ、さまざまな雑誌。いまや紙に印刷されたものではないデジタル・マガジンも登場して注目を集めている。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。それら歴史や背景を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	いまに至る日本の雑誌の歴史を理解。雑誌の可能性を知る。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		

受講者への要望

愛読誌を必ず作ろう！

講義の順序とポイント

1. 雑誌とは？
2. ネットには雑誌が取材編集した情報がいっぱい！
3. 出版産業の構造と規模／雑誌の形式・各部名称
4. 雑誌の歴史 1　近代雑誌の始まり　MAGAZINE を「雑誌」と翻訳
5. 雑誌の歴史 2　講談社、小学館など、大手出版社は人気雑誌を発行することで成長した
6. 雑誌の歴史 3　雑誌ジャーナリズムと戦争
7. 雑誌の歴史 4　テレビの登場が雑誌を活性化
8. 雑誌の歴史 5　成熟する社会、多様化する価値観へ対応
9. 雑誌の歴史 6　創刊ラッシュ
10. 雑誌の歴史 7　読む雑誌→見る雑誌→行動を喚起する雑誌
11. 雑誌は細分化する　総合誌→専門誌
12. 雑誌はビジュアル化する
13. 雑誌には広告がいっぱい！
14 .フリーペーパー、デジタルマガジン…雑誌の進化は続く
15. 総括と復習（雑誌の歴史と特性）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50238A02
科目名	現代雑誌論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age A		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論 s
講義概要	書店またコンビニに並ぶ、さまざまな雑誌。いまや紙に印刷されたものではないデジタル・マガジンも登場して注目を集めている。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。それら歴史や背景を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	いまに至る日本の雑誌の歴史を理解。雑誌の可能性を知る。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		

受講者への要望

愛読誌を必ず作ろう！

講義の順序とポイント

1. 雑誌とは？
2. ネットには雑誌が取材編集した情報がいっぱい！
3. 出版産業の構造と規模／雑誌の形式・各部名称
4. 雑誌の歴史 1　近代雑誌の始まり　MAGAZINE を「雑誌」と翻訳
5. 雑誌の歴史 2　講談社、小学館など、大手出版社は人気雑誌を発行することで成長した
6. 雑誌の歴史 3　雑誌ジャーナリズムと戦争
7. 雑誌の歴史 4　テレビの登場が雑誌を活性化
8. 雑誌の歴史 5　成熟する社会、多様化する価値観へ対応
9. 雑誌の歴史 6　創刊ラッシュ
10. 雑誌の歴史 7　読む雑誌→見る雑誌→行動を喚起する雑誌
11. 雑誌は細分化する　総合誌→専門誌
12. 雑誌はビジュアル化する
13. 雑誌には広告がいっぱい！
14 .フリーペーパー、デジタルマガジン…雑誌の進化は続く
15. 総括と復習（雑誌の歴史と特性）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50238B01
科目名	現代雑誌論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age B		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論 f
講義概要	雑誌が、いかに作られているのか、他メディアと比較してどんな点で優れているのか、どう進化しようとしているのか……などを学ぶ。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。作る現場、売る現場…関わるさまざまな人たちの創意工夫を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	これからの雑誌の可能性/未来像を見出す。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		
受講者への要望			
愛読誌を必ず作ろう！			
講義の順序とポイント			
1. 雑誌と出版界の現在 2. 雑誌づくりの現場１　企画が命～インパクトのある見出し！／どんな時代か？／誰に届ける？ 3. 雑誌づくりの現場２　編集作業の流れ 4. 雑誌づくりの現場３　デザイン／印刷 5. 雑誌のメディア特性１　他メディアとの比較 6. 雑誌のメディア特性２　セグメンテーション 7. 雑誌のメディア特性３　東京と地方 8. 販売収入と広告収入 9. エディトリアル・デザインの冒険 10. メディア規制との闘い 11. ゲリラ・ジャーナリズムこそ雑誌の使命！ 12. 雑誌の未来１　読者との絆 13. 雑誌の未来２　紙か？デジタルか？ 14. 雑誌の未来３　大きな変化とその可能性 15. 総括と復習（雑誌の未来と可能性）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50238B02
科目名	現代雑誌論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age B		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論 f
講義概要	雑誌が、いかに作られているのか、他メディアと比較してどんな点で優れているのか、どう進化しようとしているのか……などを学ぶ。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。作る現場、売る現場…関わるさまざまな人たちの創意工夫を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	これからの雑誌の可能性/未来像を見出す。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		
受講者への要望			
愛読誌を必ず作ろう！			
講義の順序とポイント			
1. 雑誌と出版界の現在 2. 雑誌づくりの現場１　企画が命～インパクトのある見出し！／どんな時代か？／誰に届ける？ 3. 雑誌づくりの現場２　編集作業の流れ 4. 雑誌づくりの現場３　デザイン／印刷 5. 雑誌のメディア特性１　他メディアとの比較 6. 雑誌のメディア特性２　セグメンテーション 7. 雑誌のメディア特性３　東京と地方 8. 販売収入と広告収入 9. エディトリアル・デザインの冒険 10. メディア規制との闘い 11. ゲリラ・ジャーナリズムこそ雑誌の使命！ 12. 雑誌の未来１　読者との絆 13. 雑誌の未来２　紙か？デジタルか？ 14. 雑誌の未来３　大きな変化とその可能性 15. 総括と復習（雑誌の未来と可能性）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50240001
科目名	現代社会論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories on Modern Society		
担当者名	古川　直子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、「ジェンダー／セクシュアリティと現代社会」というテーマとし、まず、「ジェンダー（社会的性別）」や「セクシュアリティ（性的志向、性欲）」等に関する基本的な用語や概念について解説する。さらに同性愛やトランスジェンダーといった「性的マイノリティ」の人々をめぐる社会制度の問題を中心に考察してゆくことによって、現代社会を文化的・社会的に読み解く視点を提示したい。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。映像資料等も利用する。		
評価方法	出席状況・小テスト等による平常点 40%、筆記試験 60%。		
到達目標	現代社会の問題をジェンダー／セクシュアリティという観点から分析することができるようになる。		
準備学習	日頃から新聞やニュースをつうじて現代社会の動きに関心をもつように心がけてほしい。		

受講者への要望

積極的に学びたいという姿勢を評価する。なお私語等の他の受講者への迷惑となる行為については退室を求める場合がある。

講義の順序とポイント

1．　ガイダンス
2．ジェンダー／セクシュアリティ論の基礎
3．「性的マイノリティ」と現代社会　1
4．「性的マイノリティ」と現代社会　2
5．「性的マイノリティ」の経験――当事者の声を聞く　1
6．「性的マイノリティ」の経験――当事者の声を聞く　2
7．ジェンダー／セクシュアリティとメディア
8．格差社会におけるジェンダーと労働
9．社会保障と家族制度
１０．同性カップルとパートナーシップ法１
１１．同姓カップルとパートナーシップ法２
１２．生殖医療と現代社会１
１３．生殖医療と現代社会２
１４．新優生学の登場１
１５．新優生学の登場２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50240002
科目名	現代社会論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories on Modern Society		
担当者名	古川　直子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、「ジェンダー／セクシュアリティと現代社会」というテーマとし、まず、「ジェンダー（社会的性別）」や「セクシュアリティ（性的志向、性欲）」等に関する基本的な用語や概念について解説する。さらに同性愛やトランスジェンダーといった「性的マイノリティ」の人々をめぐる社会制度の問題を中心に考察してゆくことによって、現代社会を文化的・社会的に読み解く視点を提示したい。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。映像資料等も利用する。		
評価方法	出席状況・小テスト等による平常点 40%、筆記試験 60%。		
到達目標	現代社会の問題をジェンダー／セクシュアリティという観点から分析することができるようになる。		
準備学習	日頃から新聞やニュースをつうじて現代社会の動きに関心をもつように心がけてほしい。		

受講者への要望

積極的に学びたいという姿勢を評価する。なお私語等の他の受講者への迷惑となる行為については退室を求める場合がある。

講義の順序とポイント

1．　ガイダンス
2．ジェンダー／セクシュアリティ論の基礎
3．「性的マイノリティ」と現代社会　1
4．「性的マイノリティ」と現代社会　2
5．「性的マイノリティ」の経験――当事者の声を聞く　1
6．「性的マイノリティ」の経験――当事者の声を聞く　2
7．ジェンダー／セクシュアリティとメディア
8．格差社会におけるジェンダーと労働
9．社会保障と家族制度
１０．同性カップルとパートナーシップ法１
１１．同姓カップルとパートナーシップ法２
１２．生殖医療と現代社会１
１３．生殖医療と現代社会２
１４．新優生学の登場１
１５．新優生学の登場２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50243A01
科目名	言語学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics I		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学ｓ
講義概要	「最近の日本語は乱れている」などと言語学では言わない。また「二ヶ国語放送」ではなく「二言語放送」と言う。それはなぜなのかということを考えることから始め、人間の言葉について考察する。現代言語学の父であるソシュールの考えを学び、科学として言語学が成り立つ基礎になった音声学から始め、音韻論、形態論では日本語の方言を含めて学んでいく。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「はじめての人の言語学」　上山あゆみ 1991　　くろしお出版		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	言葉が記号から成り立っていることを理解する。言語記号の２側面のうち音を担う部分の音声学・音韻論について理解を深め、音声と音素の違いを認識する。形態論を学ぶ時点で言語学で最も重要な概念である音素と形態素を理解する。		
準備学習	身近にある言葉、テレビや他のメディアで見たり聞いたりする言葉を意識して観察する態度を持つ。		
受講者への要望			
身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で教師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は固定しないのでできるだけ前に座って欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．言語学の学習対象　植物の「言葉」　動物の言葉　人間の言葉　言霊　バベルの塔 ２．ソシュールの紹介 ３．言語学の専門用語導入１ ４．言語学の専門用語導入２ ５．音声と音素 ６．訓令式ローマ字表記とヘボン式ローマ字表記 ７．アメリカ英語の母音とイギリス英語の母音。確認小テスト ８．国際音声字母表の見方と調音…破裂音と摩擦音 ９．国際音声字母表の見方と調音…鼻音、流音、接近音 １０．国際音声字母表の見方と調音…母音 １１．音韻論…日本語 １２．音韻論…英語 １３．日本語の方言…北海道、東北、関東 １４．日本語の方言…中部、近畿、中国、四国 １５．日本語の方言…九州、沖縄			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J50243A02
科目名	言語学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics I		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学ｓ
講義概要	「最近の日本語は乱れている」などと言語学では言わない。また「二ヶ国語放送」ではなく「二言語放送」と言う。それはなぜなのかということを考えることから始め、人間の言葉について考察する。現代言語学の父であるソシュールの考えを学び、科学として言語学が成り立つ基礎になった音声学から始め、音韻論、形態論では日本語の方言を含めて学んでいく。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「はじめての人の言語学」　上山あゆみ 1991　　くろしお出版		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	言葉が記号から成り立っていることを理解する。言語記号の２側面のうち音を担う部分の音声学・音韻論について理解を深め、音声と音素の違いを認識する。形態論を学ぶ時点で言語学で最も重要な概念である音素と形態素を理解する。		
準備学習	身近にある言葉、テレビや他のメディアで見たり聞いたりする言葉を意識して観察する態度を持つ。		
受講者への要望			
身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で教師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は固定しないのでできるだけ前に座って欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．言語学の学習対象　植物の「言葉」　動物の言葉　人間の言葉　言霊　バベルの塔 ２．ソシュールの紹介 ３．言語学の専門用語導入１ ４．言語学の専門用語導入２ ５．音声と音素 ６．訓令式ローマ字表記とヘボン式ローマ字表記 ７．アメリカ英語の母音とイギリス英語の母音。確認小テスト ８．国際音声字母表の見方と調音…破裂音と摩擦音 ９．国際音声字母表の見方と調音…鼻音、流音、接近音 １０．国際音声字母表の見方と調音…母音 １１．音韻論…日本語 １２．音韻論…英語 １３．日本語の方言…北海道、東北、関東 １４．日本語の方言…中部、近畿、中国、四国 １５．日本語の方言…九州、沖縄			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50243B01
科目名	言語学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics Ⅱ		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学ｆ
講義概要	言語学は音素と形態素を抜きにしては説明ができないので、言語学Ⅰの概要を説明することから始める。その時点で分節と音素・形態素の関係を明らかにする。また、日本語の方言をアクセントの視点から捉えなおす。次に、形態論の説明の時に漢字を含め日本語の形態素について解説する。更に文節と品詞の関係など日本語文法の復習をする。統語論については英語と日本語の例を使って説明する。意味論、語用論、類型論といった言語学の興味深い分野を説明する。最後に英語や日本語とは全く成り立ちが異なるセム語の説明をする。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	1998 徳川宗賢(むねまさ)・真田信治編『新・方言学を学ぶ人のために』世界思想社		
教材（その他）	授業中適宜指示する		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	音素と形態素の概念の定着。音素を特定する装置としてのミニマルペアや相補分布という概念を把握する。形態素を特定することによって形態論の内容を深く理解する。英語における語順、日本語における助詞の役割と統語論の関係を理解する。人間の作る文の無限性に基づく生成文法の有効性を理解する。語用論や類型論やセム語では世界の言語がいかに多様な姿を示すかを理解する。		
準備学習	言語学Ⅰを履修しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で講師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は指定しないので、できるだけ前に座って欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．春学期学習内容の概要 ２．方言と音韻論…関東と関西のアクセントの違い ３．方言と音韻論…日本全国におけるアクセントの特徴 ４．素性表示と音韻論 ５．連濁と日本語の形態論 ６．動詞の連用形と日本語の形態論 ７．複合語の構成と確認小テスト ８．直接構成素分析と句構造文法 ９．句構造文法と統語論…名詞句 １０．句構造文法と統語論…動詞句 １１．生成文法…「生成」の考え方 １２．生成文法…成果と限界 １３．意味論・語用論 １４．類型論 １５．セム語紹介			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J50243B02
科目名	言語学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics II		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学 f
講義概要	言語学は音素と形態素を抜きにしては説明ができないので、言語学 I の概要を説明することから始める。その時点で分節と音素・形態素の関係を明らかにする。また、日本語の方言をアクセントの視点から捉えなおす。次に、形態論の説明の時に漢字を含め日本語の形態素について解説する。更に文節と品詞の関係など日本語文法の復習をする。統語論については英語と日本語の例を使って説明する。意味論、語用論、類型論といった言語学の興味深い分野を説明する。最後に英語や日本語とは全く成り立ちが異なるセム語の説明をする。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	1998 徳川宗賢(むねまさ)・真田信治編『新・方言学を学ぶ人のために』世界思想社		
教材（その他）	授業中適宜指示する		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	音素と形態素の概念の定着。音素を特定する装置としてのミニマルペアや相補分布という概念を把握する。形態素を特定することによって形態論の内容を深く理解する。英語における語順、日本語における助詞の役割と統語論の関係を理解する。人間の作る文の無限性に基づく生成文法の有効性を理解する。語用論や類型論やセム語では世界の言語がいかに多様な姿を示すかを理解する。		
準備学習	言語学 I を履修しておくことが望ましい。		

受講者への要望

身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で講師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は指定しないので、できるだけ前に座って欲しい。

講義の順序とポイント

１．春学期学習内容の概要
２．方言と音韻論…関東と関西のアクセントの違い
３．方言と音韻論…日本全国におけるアクセントの特徴
４．素性表示と音韻論
５．連濁と日本語の形態論
６．動詞の連用形と日本語の形態論
７．複合語の構成と確認小テスト
８．直接構成素分析と句構造文法
９．句構造文法と統語論…名詞句
１０．句構造文法と統語論…動詞句
１１．生成文法…「生成」の考え方
１２．生成文法…成果と限界
１３．意味論・語用論
１４．類型論
１５．セム語紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50250A01
科目名	言語表現論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｓ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　春学期は、文章表現の面白さと難しさ、実際に文章を作成する際に必要な心がけについて考え、その後、私的、個人的な文章表現について学ぶ。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	講義時間中に適宜指示する		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ａ《春学期》 １．ガイダンス ２．メールを送る ３．わかりやすく説明する ４．専門用語を文章で説明する ５．経験から事実を述べる ６．与えられたテーマについて意見を書く ７．要約文を書く ８．身近な言葉に興味を持つ① ９．身近な言葉に興味を持つ② １０．アンケート調査を行う １１．文献調査を行う １２．方言調査① １３．方言調査② １４．研究テーマをみつける。 １５．　レポートの基本的な構成 ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50250A02
科目名	言語表現論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｓ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　春学期は、文章表現の面白さと難しさ、実際に文章を作成する際に必要な心がけについて考え、その後、私的、個人的な文章表現について学ぶ。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	講義時間中に適宜指示する		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ａ《春学期》 １．ガイダンス ２．メールを送る ３．わかりやすく説明する ４．専門用語を文章で説明する ５．経験から事実を述べる ６．与えられたテーマについて意見を書く ７．要約文を書く ８．身近な言葉に興味を持つ① ９．身近な言葉に興味を持つ② １０．アンケート調査を行う １１．文献調査を行う １２．方言調査① １３．方言調査② １４．研究テーマをみつける。 １５．　レポートの基本的な構成 ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50250B01
科目名	言語表現論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｆ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　秋学期は、大学生・社会人として必要な、より公的、社会的な文章表現の技法について学んでいく。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	米田明美・蔵中さやか・山上登志美（2005）『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。

講義の順序とポイント

言語表現論Ｂ《秋学期》
１．敬語①
２．敬語②
３．季節のはがきを書く
４．手紙の基本
５．依頼の手紙を書く
６．断りの手紙を書く
７．就職活動の準備をする
８．社会問題について、意見文を書く①
９．社会問題について、意見文を書く②
１０．レポートで用いる表現①
１１．レポートで用いる表現②
１２．レポートで用いる表現③
１３．日本語の多様性
１４．社会と言葉①
１５．社会と言葉②
※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J50250B02
科目名	言語表現論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｆ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　秋学期は、大学生・社会人として必要な、より公的、社会的な文章表現の技法について学んでいく。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	米田明美・蔵中さやか・山上登志美（2005）『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ｂ《秋学期》 １．敬語① ２．敬語② ３．季節のはがきを書く ４．手紙の基本 ５．依頼の手紙を書く ６．断りの手紙を書く ７．就職活動の準備をする ８．社会問題について、意見文を書く① ９．社会問題について、意見文を書く② １０．レポートで用いる表現① １１．レポートで用いる表現② １２．レポートで用いる表現③ １３．日本語の多様性 １４．社会と言葉① １５．社会と言葉② ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J50256101
科目名	古文書学　Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography Ⅰ		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	古文書の写真コピーを使いながらその読解を行う。古文書の多様な形態に触れる中で、古文書学の基礎をマスターすることを目ざす。文書を読むことは、内容を把握することである以上、文字を読むだけではなく、それぞれの史料の性格や歴史的意義を考えてゆく。取りあげる古文書は比較的やさしいものから始め、順次、レベルの高い古文書へと進んでゆく。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	・佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局） ・『演習　古文書選』（吉川弘文館）古代・中世編、様式編、荘園編上下など。 ・東京大学史料編纂所 HP のデータベース検索画面〈http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller〉に入ると「電子くずし字字典データベース」がある。これはくずし字の用例が非常に多いので、図書館架蔵の『くずし字事典』とともに、これを参考にして予習してくること。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	古代中世の古文書学の基礎を学び、古文書の読解とそれぞれの史料の歴史的背景や、史料批判の方法を学ぶ。		
準備学習	教材となる史料は事前に配付しておくので、十分に予習してほしい。		

受講者への要望

・古文書学の基礎をじっくり学ぶ機会にしたい。
・分からないことは恥ではない。何でも積極的に質問してほしい。分からないこと、疑問に思ったこと、これがすべての始まりだ。

講義の順序とポイント

1.古文書とは？
2.古文書習得の基礎
3.浄土寺文書の読解
4.浄土寺文書の読解
5.浄土寺文書の読解
6 鶴岡八幡宮文書の読解
7.鶴岡八幡宮文書の読解
8.鶴岡八幡宮文書の読解
9.東寺百合文書の読解
10.東寺百合文書の読解
11.東寺百合文書の読解
12.東寺百合文書の読解
13.東寺百合文書の読解
14.東寺百合文書の読解
15.東寺百合文書の読解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50256202
科目名	古文書学　II	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography II		
担当者名	佐竹　朋子	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は、文書に基づいて社会の仕組みが整えられていた時代であった。すなわち、支配者層のみならず、庶民にいたるまでが日々文書を作成していた。 そこで、本講義では、江戸時代に作成された文書（古文書）を読み解きながら、江戸時代の社会の特質や、社会のあり様を考えていきたい。 具体的には、各回のテーマに即した古文書原本のコピーを紹介しながら、講義をおこなう。		
教材（テキスト）	授業で用いるテキストは、適宜配布する。		
教材（参考文献）	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、１９９３年） 児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版、１９７０年） 日本歴史学会編『概説　古文書学　近世編』（吉川弘文館、１９８９年）		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％）、定期テスト（６０％）。 ※小テストを実施する日については、授業中に、実施日の２週間前からアナウンスします。		
到達目標	①江戸時代の古文書について、武家・村・町など様々な社会集団において作成された文書の様式や種類、分類を学ぶ。 ②江戸時代に発給された文書を学ぶことを通して、行政（江戸幕府）と社会との関係を考える。 ③古文書の初歩的な解読方法を学ぶ。		
準備学習	予習方法 ・授業終了時に、次回の講義で用いる資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。 復習方法 ・授業で用いたテキストを、何度か読み上げたり、書き写していくことで理解を深め、解答を見ずとも答えられるようにしておくこと。		
受講者への要望			
・能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。 ・遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して退出を求める。 ・常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
講義の順序とポイント			
第１回：ガイダンス―史料と資料について― 第２回：近世社会と文書 第３回：紙の種類と形態 第４回：朝廷・公家関係文書　宣旨・口宣案 第５回：将軍関係　武家の知行 第６回：幕府関係　法令 第７回：幕府関係　行政文書 第８回：藩関係　　大名と領地① 第９回：藩関係　　大名と領地② 第１０回：藩関係　藩士の由緒 第１１回：村方文書　領主と村 第１２回：村方文書　村の自治 第１３回：町方文書　都市行政と町 第１４回：町方文書　町の自治 第１５回：全体のまとめ 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50259A01
科目名	口承文芸論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Oral Literature A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ａでは口承文芸の作品に親しむことからはじめ、作品分析の主要な方法論を理解することを目標にします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	作品分析の主要な方法論を理解すること。		
準備学習	次週に取り上げる作品は予め配布しておくので、熟読してくること。また授業で取り上げた分析方法をよりよく理解するために、関連文献を授業中に示すので、読んでおくこと。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
1.口承文芸的発想とはなにか。　（書くことと語ること・歌うことは果たして同じ次元なのか考えてみましょう） 2.神話学の系譜　（神話をどのように読むのか、これまでの様々なアプローチを概括します） 3.民族学的アプローチ１　（まずは『金枝篇』から取り組んでみましょう） 4.民族学的アプローチ２ 5.民族学的アプローチ３ 6.心理学的アプローチ１　（ユング派の物語の読み方について考えてみましょう） 7.心理学的アプローチ２ 8.心理学的アプローチ３ 9.構造分析１　（レヴィ＝ストロースの分析する神話に触れてみましょう） 10.構造分析２ 11.構造分析３ 12.昔話の構造分析１　（プロップの分析手法について検討してみましょう） 13.昔話の構造分析２　（ダンダスの分析手法について検討してみましょう） 14.日本神話の研究 15.日本の昔話研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50259B01
科目名	口承文芸論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Oral Literature B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、これらは世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ｂでは口承文芸が、カミとヒトの、人と人のコミュニケーションであることに焦点をあて、関連する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析することを、目標とします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	口承文芸に関する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析すること。		
準備学習	口承文芸の作品は長大なものが多いので、授業の前に熟読し、自分なりに筋立てを整理しておくこと。次週取り上げる作品は予め配布するか、文献を示します。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
１イントロダクション ２ヒトとヒトを超えるもの ３シャーマニズムと口承文芸１　（シャーマニズムと歌や語りは深い関係を持っています。） ４シャーマニズムと口承文芸２　（ユーラシア大陸のいくつかのシャーマニズム文化をとりあげます。） ５儀礼から語り物へ ６語り物 ７ヒトとヒトのコミュニケーション ８詩の始まりを民俗学的に考える ９うたはひとつでいい １０変なコミュニケーション １１英雄叙事詩 １２ナラティブ構成法１　（長大な英雄叙事詩はどのように伝承されてきたのか、そのメカニズムについて考えます。） １３ナラティブ構成法２ １４口承文芸とポップカルチャー１　（「古くて新しい」について考えます。） １５口承文芸とポップカルチャー２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50262A01
科目名	広告広報論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions I		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	基礎編：日常生活でふれているさまざまな広告・広報について、メディア・リテラシーの見方で批判的にとらえられるようになること。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論 I 」(基礎編)、「広告広報論 II」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論 I 」、できれば「広告広報論 II」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、自ら構想する努力が求められよう。

講義の順序とポイント

第 1 回　開講にあたって
第 2 回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体
第 3 回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ）
第 4 回　宣伝（プロパガンダ）と広告
第 5 回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート
第 6 回　宣伝・広報の媒体（１）：人にふれるもの、すべてがメディアになる
第 7 回　宣伝・広報の媒体（２）：放送メディア／印刷メディア
第 8 回　宣伝・広報の媒体（３）：インターネットほか
第 9 回　ブランド商品の誕生と広告
第 10 回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？
第 11 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラ CM 等
第 12 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類 CM 等
第 13 回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードル CM 等
第 14 回　広告広報の課題／授業内レポート
第 15 回　今後の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J50262A02
科目名	広告広報論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions I		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	基礎編：日常生活でふれているさまざまな広告・広報について、メディア・リテラシーの見方で批判的にとらえられるようになること。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論 I 」(基礎編)、「広告広報論 II」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論 I 」、できれば「広告広報論 II」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、自ら構想する努力が求められよう。

講義の順序とポイント

第 1 回　開講にあたって
第 2 回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体
第 3 回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ）
第 4 回　宣伝（プロパガンダ）と広告
第 5 回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート
第 6 回　宣伝・広報の媒体（１）：人にふれるもの、すべてがメディアになる
第 7 回　宣伝・広報の媒体（２）：放送メディア／印刷メディア
第 8 回　宣伝・広報の媒体（３）：インターネットほか
第 9 回　ブランド商品の誕生と広告
第 10 回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？
第 11 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラ CM 等
第 12 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類 CM 等
第 13 回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードル CM 等
第 14 回　広告広報の課題／授業内レポート
第 15 回　今後の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50262B01
科目名	広告広報論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions II		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	応用編：広告広報の実務と産業のあらましについて知り、広告業界やマーケティングや PR 活動の仕事について具体的なイメージを持てるようにする。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論Ｉ」(基礎編)、「広告広報論II」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論Ｉ」、できれば「広告広報論II」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、広告産業や広告取引の実態について理解し、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業では広告主や広告会社の立場から、さまざまな広告計画や広告表現を構想する仕事に具体的なイメージを持てるようになってほしい。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　広告産業と広告取引
第３回　広告会社の組織と業務（１）
第４回　広告会社の組織と業務（２)：CM ディレクターの仕事等
第５回　広告計画の策定と実施（１）市場競争と広告表現（ビール類）
第６回　広告計画の策定と実施（２）ブランドと広告表現・その１（コカ・コーラ）
第７回　広告計画の策定と実施（３）ブランドと広告表現・その２（ナイキ 1）
第８回　広告計画の策定と実施（４）ブランドと広告表現・その３（ナイキ 2）
第９回　広告計画の策定と実施（５）ブランドと広告表現・その４（ユニクロ）
第 10 回 広報・PR の基本概念と歴史（アメリカ・日本における PR の発展）
第 11 回 広報・PR の実務を知る
第 12 回 企業の社会的責任と広報・PR（1）
第 13 回 企業の社会的責任と広報・PR（2）映画鑑賞
第 14 回 授業内レポート
第 15 回 今後の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J50262B02
科目名	広告広報論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions II		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	応用編：広告広報の実務と産業のあらましについて知り、広告業界やマーケティングや PR 活動の仕事について具体的なイメージを持てるようにする。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論Ｉ」(基礎編)、「広告広報論II」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論Ｉ」、できれば「広告広報論II」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、広告産業や広告取引の実態について理解し、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業では広告主や広告会社の立場から、さまざまな広告計画や広告表現を構想する仕事に具体的なイメージを持てるようになってほしい。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　広告産業と広告取引
第３回　広告会社の組織と業務（１）
第４回　広告会社の組織と業務（２)：CM ディレクターの仕事等
第５回　広告計画の策定と実施（１）市場競争と広告表現（ビール類）
第６回　広告計画の策定と実施（２）ブランドと広告表現・その１（コカ・コーラ）
第７回　広告計画の策定と実施（３）ブランドと広告表現・その２（ナイキ 1）
第８回　広告計画の策定と実施（４）ブランドと広告表現・その３（ナイキ 2）
第９回　広告計画の策定と実施（５）ブランドと広告表現・その４（ユニクロ）
第 10 回 広報・PR の基本概念と歴史（アメリカ・日本における PR の発展）
第 11 回 広報・PR の実務を知る
第 12 回 企業の社会的責任と広報・PR（1）
第 13 回 企業の社会的責任と広報・PR（2）映画鑑賞
第 14 回 授業内レポート
第 15 回 今後の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50270001
科目名	表現文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Culture Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	広告文化論
講義概要	社会において「対話の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート 2 回程度。授業で提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題提出（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。		
準備学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		
受講者への要望			
メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。			
講義の順序とポイント			
第１回　イントロダクション 第２回　メディアとしての芸術・デザイン 第３回　メディア表現が現実をつくる-1：メディア・記号と現実、芸術社会学の考え方 第４回　メディア表現が現実をつくる-2：メディアの中の文化：メディア表現への記号論 第５回　メディア表現の技法とメカニズム：イメージ編集の技法 第６回　課題の発表とコメント 第７回　社会集団と作品表現：表現をつくる社会の力、文化の編成 第８回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B） 第９回　文化の伝播と人的交流による作品表現の創造と変容：ボサノヴァ、ヒップホップ 第１０回　ノスタルジーと作品表現：メディア体験がノスタルジーをつくる 第１１回　課題の発表とコメント 第１２回　ポストモダンと作品表現 第１３回　流動する社会における作品表現の役割 第１４回　まとめ 第１５回　最終課題の発表とコメント			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	★	★★	–

年度	2016	授業コード	J50270002
科目名	表現文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Culture Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	広告文化論
講義概要	社会において「対話の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート 2 回程度。授業で提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題提出（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。		
準備学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		
受講者への要望			
メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。			
講義の順序とポイント			
第１回　イントロダクション 第２回　メディアとしての芸術・デザイン 第３回　メディア表現が現実をつくる-1：メディア・記号と現実、芸術社会学の考え方 第４回　メディア表現が現実をつくる-2：メディアの中の文化：メディア表現への記号論 第５回　メディア表現の技法とメカニズム：イメージ編集の技法 第６回　課題の発表とコメント 第７回　社会集団と作品表現：表現をつくる社会の力、文化の編成 第８回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B） 第９回　文化の伝播と人的交流による作品表現の創造と変容：ボサノヴァ、ヒップホップ 第１０回　ノスタルジーと作品表現：メディア体験がノスタルジーをつくる 第１１回　課題の発表とコメント 第１２回　ポストモダンと作品表現 第１３回　流動する社会における作品表現の役割 第１４回　まとめ 第１５回　最終課題の発表とコメント			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50276001
科目名	雑誌編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Magazine Edit Practice		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	
講義概要	受講者全員参加の雑誌「京都学園大学マガジン（仮称）」を、企画、取材、原稿作成、レイアウトといった手順を踏みつつ、期末に完成させる。受講者＝編集部員。それぞれの興味や関心をまとめあげ、文章や写真、イラストなどで誌面に表現していく。編集作業には、責任を持って必ずやらなければならない課題や、シビアな〆切、チームワークなど、煩雑なことがいっぱいつきまとうが、それだけに完成したときの喜びは格別なもの。その喜びを共に味わいたい。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	平常点 40%。課題提出 60%。		
到達目標	雑誌づくりの基礎を理解する。		
準備学習	日々雑誌に関心を持ち親しんでおくこと。		
受講者への要望			
自分の得意なモノ・コトを雑誌づくりのなかで存分に発揮してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 雑誌編集とは？ 2. 雑誌編集の流れ 3. 企画が命！　自分は何がしたい？ 4. 編集会議（企画決定！） 5. 情報収集と取材 6. レイアウトの基礎 7. 取材１　その方法 8. 取材２　取材体験 9. 原稿１　作成 10. 原稿２　タイトルなどを決定 11. 素材（原稿・写真 etc）整理 12. レイアウト作業 13. 校正 14. 製本→完成 15. 編集会議（反省と次への展望）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	★★	ー	★

年度	2016	授業コード	J50276002
科目名	雑誌編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Magazine Edit Practice		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	
講義概要	受講者全員参加の雑誌「京都学園大学マガジン（仮称）」を、企画、取材、原稿作成、レイアウトといった手順を踏みつつ、期末に完成させる。受講者＝編集部員。それぞれの興味や関心をまとめあげ、文章や写真、イラストなどで誌面に表現していく。編集作業には、責任を持って必ずやらなければならない課題や、シビアな〆切、チームワークなど、煩雑なことがいっぱいつきまとうが、それだけに完成したときの喜びは格別なもの。その喜びを共に味わいたい。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	平常点 40%。課題提出 60%。		
到達目標	雑誌づくりの基礎を理解する。		
準備学習	日々雑誌に関心を持ち親しんでおくこと。		

受講者への要望

自分の得意なモノ・コトを雑誌づくりのなかで存分に発揮してほしい。

講義の順序とポイント

1. 雑誌編集とは？
2. 雑誌編集の流れ
3. 企画が命！　自分は何がしたい？
4. 編集会議（企画決定！）
5. 情報収集と取材
6. レイアウトの基礎
7. 取材１　その方法
8. 取材２　取材体験
9. 原稿１　作成
10. 原稿２　タイトルなどを決定
11. 素材（原稿・写真 etc）整理
12. レイアウト作業
13. 校正
14. 製本→完成
15. 編集会議（反省と次への展望）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	★

年度	2016	授業コード	J50281001
科目名	子どもの社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Child's Sociology		
担当者名	野村　洋平	旧科目名称	
講義概要	子どもは、とても不思議な存在だ。元気で明るい姿に輝きを感じることもあれば、大人から見て非常に残酷な行動を平気でおこなったりする。私たち自身が「子ども」であったときも、おそらく不思議な存在であっただろう。 子ども時代というのは、人間の一生のなかで非常に特殊な時期である。私たちは子ども時代を通して社会の仕組みを学ぶだけでなく、その「社会の外」にあるものを直観的・身体的に学んでいく。接するもの何もかもが新鮮に感じられ、自分が生き生きとしている感覚を強く得られるのが、子ども時代の特徴であろう。 しかし、子どもたちは、楽しかった経験だけでなく、「苦悩」の経験にもたくさん触れ、子ども時代の感覚が鋭いだけに、その「苦悩」は子どもたちにとって切実なものとならざるをえない。その「苦悩」は、時に子どもたちの生命の感覚を奪ってしまう。例えば、学校において経験する「いじめ」はその一つであるといえる。 子ども（あるいは子ども時代）に貫いて流れているものはいったい何なのか。「子ども」について考えることは、子どもの本質を探ることにつながるとともに、私たちの内に引き継いできている子ども時代の感覚を呼び起こして、人間と社会との関係性を知る手がかりにもなる。		
教材（テキスト）	使用しない。講義状況に応じて、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介していく。		
教材（その他）	講義時に数回、DVD やビデオを使用する。また、文学作品も積極的に使用していく。		
評価方法	平常点（10%）：出席状況等による 小レポート（30%）：全３回。講義時に数回、DVD やビデオ視聴を行う。その際、課するテーマに基づいて、小レポートを作成してもらう。 試験（60%）：試験は、講義内容を踏まえた上で自身の意見を論じる論述形式の試験とする。 ※小レポートを２回以上提出していない場合、試験を受けても採点の対象としない。		
到達目標	「子どもとはいかなる存在であるのか」をまず社会学的な観点から理解する。社会学的な観点から子どもをとらえるようになると、子どもとは社会には完全におさまりきらない部分があることが分かる。「社会におさまらない部分とは何か」を次に考えていくことにより、そこには私たちの「生命」に関する現象が待ち受けている。子どもを通して「社会」と「生命」との間にある視点を得ること、これが当授業の最終目標となる。		
準備学習	日常生活において、「子ども」に関する現象、社会問題、行動などに対して、常に興味関心を持つようにする。また、対照的に「大人」というものについて考えることによって、「子ども」と「大人」の差異について敏感になるようにしておく。授業では子どもについての DVD、ビデオ、文学作品などを見てレポートを作成していくことになるが、その他授業内で適宜紹介する、子どもに関するの社会問題を取り扱った新聞記事、文学や映画等を準備学習として学び、レポートおよび試験に反映させられるようにしておくこと。		
受講者への要望			
自分自身の子ども時代の感覚や経験を振り返りながら、講義に臨むこと。講義時に生じた疑問等については、講義終了後質問を受け付けるので、積極的に尋ねてほしい。質問された内容は、必ず講義内容に反映させていく。また、この授業は講義形式である。授業に関する学生への連絡、学生からの質問の受け付け・返答などは、教室の対面の場で行う。（一部は大学での掲示として連絡。）メール、インターネット等でのやり取りは原則行わないものとする。積極的に授業に参加し、生のコミュニケーションを取ってほしい。			
講義の順序とポイント			
【講義の順序】 1．導入（この授業について） 2．子どもとは何か、子どもと大人 3．子どもと社会（1）映像資料鑑賞→小レポート提出 4．子どもと社会（2） 5．子どもと社会（3） 6．子どもと社会（4） 7．子どもの「苦悩」の経験（1）映像資料鑑賞→小レポート提出 8．子どもの「苦悩」の経験（2）			

9．子どもの「苦悩」の経験（3）
10．子どもの「苦悩」の経験（4）
11．子どもの生命感について（1）映像資料鑑賞①（12 回目と連続）
12．子どもの生命感について（2）映像資料鑑賞②（11 回目と連続）→小レポート提出
13．子どもの生命感について（3）
14．子どもの生命感について（4）
15．子どもの社会学の可能性について

※映像資料を鑑賞した回には、小レポートの提出を求める（授業時にコメントを書いてもらう場合もあるので、注意してほしい）。
※授業の進捗状況により、内容を変更する際は、講義時に学生に対して説明を行う。

【講義のポイント：上記講義の順序に沿って】
1～2 については、「子どもの社会学」という授業の持つ意義を説明していく。また、わたしたちが普段「子ども」と「大人」をどのようにとらえているかを説明する。
3～6 については、子どもを通して社会というものを学ぶとともに、社会学の基本的な考え方に触れられるようにする。
7～10 については、子どもの「苦悩」の経験、特に学校において子どもたちが経験するいじめの現象を取り上げることにより、「苦悩」の経験が子どもたちになにをもたらしているのかを考える。
11～14 については、子どもが感じる生命感というのは、どこから生まれてくるのかを考える。社会学的な視点の限界を乗り越えて、子どもについて考える。
15 において、これまでの講義を振り返りながら、子どもの社会学の今後の可能性について、他の学問分野や社会現象との関連において考える。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50281002
科目名	子どもの社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Child's Sociology		
担当者名	野村　洋平	旧科目名称	
講義概要	子どもは、とても不思議な存在だ。元気で明るい姿に輝きを感じることもあれば、大人から見て非常に残酷な行動を平気でおこなったりする。私たち自身が「子ども」であったときも、おそらく不思議な存在であっただろう。 子ども時代というのは、人間の一生のなかで非常に特殊な時期である。私たちは子ども時代を通して社会の仕組みを学ぶだけでなく、その「社会の外」にあるものを直観的・身体的に学んでいく。接するもの何もかもが新鮮に感じられ、自分が生き生きとしている感覚を強く得られるのが、子ども時代の特徴であろう。 しかし、子どもたちは、楽しかった経験だけでなく、「苦悩」の経験にもたくさん触れ、子ども時代の感覚が鋭いだけに、その「苦悩」は子どもたちにとって切実なものとならざるをえない。その「苦悩」は、時に子どもたちの生命の感覚を奪ってしまう。例えば、学校において経験する「いじめ」はその一つであるといえる。 子ども（あるいは子ども時代）に貫いて流れているものはいったい何なのか。「子ども」について考えることは、子どもの本質を探ることにつながるとともに、私たちの内に引き継いできている子ども時代の感覚を呼び起こして、人間と社会との関係性を知る手がかりにもなる。		
教材（テキスト）	使用しない。講義状況に応じて、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介していく。		
教材（その他）	講義時に数回、DVD やビデオを使用する。また、文学作品も積極的に使用していく。		
評価方法	平常点（10%）：出席状況等による 小レポート（30%）：全３回。講義時に数回、DVD やビデオ視聴を行う。その際、課するテーマに基づいて、小レポートを作成してもらう。 試験（60%）：試験は、講義内容を踏まえた上で自身の意見を論じる論述形式の試験とする。 ※小レポートを２回以上提出していない場合、試験を受けても採点の対象としない。		
到達目標	「子どもとはいかなる存在であるのか」をまず社会学的な観点から理解する。社会学的な観点から子どもをとらえるようになると、子どもとは社会には完全におさまりきらない部分があることが分かる。「社会におさまらない部分とは何か」を次に考えていくことにより、そこには私たちの「生命」に関する現象が待ち受けている。子どもを通して「社会」と「生命」との間にある視点を得ること、これが当授業の最終目標となる。		
準備学習	日常生活において、「子ども」に関する現象、社会問題、行動などに対して、常に興味関心を持つようにする。また、対照的に「大人」というものについて考えることによって、「子ども」と「大人」の差異について敏感になるようにしておく。授業では子どもについての DVD、ビデオ、文学作品などを見てレポートを作成していくことになるが、その他授業内で適宜紹介する、子どもに関するの社会問題を取り扱った新聞記事、文学や映画等を準備学習として学び、レポートおよび試験に反映させられるようにしておくこと。		
受講者への要望			
自分自身の子ども時代の感覚や経験を振り返りながら、講義に臨むこと。講義時に生じた疑問等については、講義終了後質問を受け付けるので、積極的に尋ねてほしい。質問された内容は、必ず講義内容に反映させていく。また、この授業は講義形式である。授業に関する学生への連絡、学生からの質問の受け付け・返答などは、教室の対面の場で行う。（一部は大学での掲示として連絡。）メール、インターネット等でのやり取りは原則行わないものとする。積極的に授業に参加し、生のコミュニケーションを取ってほしい。			
講義の順序とポイント			
【講義の順序】 1．導入（この授業について） 2．子どもとは何か、子どもと大人 3．子どもと社会（1）映像資料鑑賞→小レポート提出 4．子どもと社会（2） 5．子どもと社会（3） 6．子どもと社会（4） 7．子どもの「苦悩」の経験（1）映像資料鑑賞→小レポート提出 8．子どもの「苦悩」の経験（2）			

9．子どもの「苦悩」の経験（3）
10．子どもの「苦悩」の経験（4）
11．子どもの生命感について（1）映像資料鑑賞①（12 回目と連続）
12．子どもの生命感について（2）映像資料鑑賞②（11 回目と連続）→小レポート提出
13．子どもの生命感について（3）
14．子どもの生命感について（4）
15．子どもの社会学の可能性について

※映像資料を鑑賞した回には、小レポートの提出を求める（授業時にコメントを書いてもらう場合もあるので、注意してほしい）。
※授業の進捗状況により、内容を変更する際は、講義時に学生に対して説明を行う。

【講義のポイント：上記講義の順序に沿って】
1～2 については、「子どもの社会学」という授業の持つ意義を説明していく。また、わたしたちが普段「子ども」と「大人」をどのようにとらえているかを説明する。
3～6 については、子どもを通して社会というものを学ぶとともに、社会学の基本的な考え方に触れられるようにする。
7～10 については、子どもの「苦悩」の経験、特に学校において子どもたちが経験するいじめの現象を取り上げることにより、「苦悩」の経験が子どもたちになにをもたらしているのかを考える。
11～14 については、子どもが感じる生命感というのは、どこから生まれてくるのかを考える。社会学的な視点の限界を乗り越えて、子どもについて考える。
15 において、これまでの講義を振り返りながら、子どもの社会学の今後の可能性について、他の学問分野や社会現象との関連において考える。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50282001
科目名	思考心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology of Thinking		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考のメカニズムに対する，認知心理学的研究に関する講義を行う。推論、判断、意思決定などの分野を取り上げ、その認知過程に関する心理学理論と、関連する心理学実験を紹介する。また人間の思考のさまざまな性質を踏まえて、批判的思考を行うためのポイントやトレーニング方法なども取り上げる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	授業時間内小テスト(20%)，毎週の小レポート(40%)，学期末試験(40%)を総合して評価する。		
到達目標	人間の思考の性質，日常場面での推論・意思決定などの仕組みについての心理学理論を理解する。 批判的思考をするためのポイントを理解し，批判的思考の態度を身につける。		
準備学習	毎回の授業で，学習した内容の理解を確認しそれをより深めるため，小レポートを出題する。必ず解答して，指定期日までに提出すること。また，授業の初めに前回までの内容の確認テストを行うので，しっかりと復習をして次回の授業の臨むこと。		

受講者への要望

授業では，学習内容を考えるための思考問題を皆で解き，それをもとに人間の思考の性質についての検討を進める。問題に積極的に取り組むとともに，各自の意見を授業中に活発に表明して欲しい。
毎回授業の最後に，学習内容の要点を確認するため小テストを実施する。また，各回の学習を深めるための小レポートを出題する。これらへの積極的な取り組みを期待する。

講義の順序とポイント

1. 思考の仕組みを考える視点
2. 日常的推論と論理的推論
3. 日常的推論を支える思考の仕組み，思考の 2 重過程理論
4. 思考のバイアスとヒューリスティックス(1)
5. 思考のバイアスとヒューリスティックス(2)
6. 思考のバイアスとヒューリスティックス(3)
7. 思考のバイアスとヒューリスティックス(4)
8. 判断と意思決定(1)
9. 判断と意思決定(2)
10. 因果関係の推論(1)
11. 因果関係の推論(2)
12. 批判的思考(1)
13. 批判的思考(2)
14. 批判的思考(3)
15. 全体の復習と思考研究の視点の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J5028300A
科目名	思考心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Psychology of Thinking		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考メカニズムを解明するための，心理学実験の実習を行う。授業では 3 個程度の実験の実施を予定している。各実験について，実験材料の準備，実験実施によるデータ収集，データの分析をおこない，報告書を作成する。これらを通して，認知心理学的な実験手法の基礎を身につけて欲しい。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する。		
評価方法	授業への参加状況に基づく日常点（60%），実験レポート（40%）を総合して評価する。		
到達目標	思考の実験心理学的研究に対する理解を深めるとともに，実験法の基礎と実験報告書の作成方法を習得する。		
準備学習	毎回の授業で，次回までの課題を指示するので，確実に行って次回の授業に参加すること。 課題の内容は，関連文献を読む，実験材料の作成，データ収集，実験レポートの作成等であり，実験課題の進行に応じて指示する。		
受講者への要望			
授業に積極的に参加し，実験によって人間の思考の性質を探る楽しさを感じて欲しい。 授業時間は実験の立案や準備，結果の分析等が中心となるので，授業外の時間にも実験を行う必要がある。			
講義の順序とポイント			
1. 思考の実験心理学的研究の概観 2. 実験計画立案のポイント，実験報告書の作成の仕方 3.PC を用いた実験制御(1) 4. PC を用いた実験制御(2) 5. PC を用いた実験制御(3) 6. PC を用いた実験制御(4) 7. 意思決定の実験(1) 8. 意思決定の実験(2) 9. 意思決定の実験(3) 10. 意思決定の実験(4) 11. 確率判断に関する実験(1) 12. 確率判断に関する実験(2) 13. 確率判断に関する実験(3) 14. 確率判断に関する実験(4) 15. 研究報告会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J50290001
科目名	質的社会調査法	単位数	2
科目名（英語表記）	Qualitative Social Research Methods		
担当者名	永田　貴聖	旧科目名称	
講義概要	この講義では、社会調査、特に、参与観察、当事者関係者へのインタビューなどのフィールドワーク、視聴覚資 料などのデータを解釈分析する質的社会調査法の基礎を学習する。質的社会調査を実施するに際して、調査者はある問題や関心に関連する人びとと関係を構築するスキルを求められる。受講生が人びととのコミュニケ ーションを重視して行われる社会学・文化人類学における社会調査の意義、調査倫理を理解するようにすすめ る予定である。本講義では社会科学としての質的社会調査の基礎知識を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査（インタビュー調査、フィールドワーク）を実施し、その成果を提出することを求める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『マルチメディアでフィールドワーク』2002 年　山中速人(編) 有斐閣 『フィールドワーク増訂版―書を持って街へ出よう』2006 年　佐藤郁哉(著)　新曜社 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』2010 年　谷富夫、山本努(著)　ミネルヴァ書房 『フィールドワーカーズ・ハンドブック』2011 年　日本文化人類学会(監修)　世界思想社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況および小課題の提出（５０％）レポート提出と内容への評価（５０％）、授業運営への貢献度		
到達目標	授業内で指示した課題を完成させ、提出する。 習得を目指すスキルは次の２つである。 ①参与観察、当事者関係者へのインタビューなどのフィールドワーク、視聴覚資料などのデータを解釈分析する 質的社会調査法の基礎スキル ②調査を実施する際、調査される側の人びとと関係を構築するスキル		
準備学習	・授業において、特にフィールドワーク法、インタビュー法に関連する予習文献・資料を課題として準備するので 、着実に行うこと ・社会学関連科目（社会学入門、家族社会学、コミュニケーション社会学、文化社会学など)、文化人類学関連 科目を同時履修するほうがのぞましい		

受講者への要望

・課題に真剣に取り組むこと
・自身の身近な人間関係内にある出来事と社会でおこっている出来事両方に関心を持つこと

講義の順序とポイント

1 講義概要説明、課題、進め方などについて。
2 近年の社会調査の動向、社会学における質的社会調査、文化人類学におけるフィールド調査
3 社会学における質的社会調査の概要説明
4 これまでの質的社会調査による研究の紹介（社会学）
5 ある個人の社会経験についての調査（ライフヒストリー)、ある個人（クラスメートなど関係者）の特定の経験をインタビューする。
6 ある個人の社会経験についての調査（ライフヒストリー)、ある個人（クラスメートなど関係者）の特定の経験を文章にまとめる。
7 ライフヒストリーの方法論にそって作品を検討する。
8 文化人類学フィールドワークとは？
9 これまでの文化人類学フィールドワーク調査による研究の紹介
10 現代の文化人類学フィールドの変化と研究の変化
11 フィールドワークの企画　個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画し実施する。
12 調査する側と調査される側の権力関係と調査倫理
13 フィールドワークで得た資料を記述分析する。

14 前回授業で記述分析したものを民族誌としてまとめる。 15 インタビュー調査、フィールドワークのおさらい、提出物の再検討、受講生同士で疑問点問題点を共有する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J50290002
科目名	質的社会調査法	単位数	2
科目名（英語表記）	Qualitative Social Research Methods		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	質的調査は他者理解の優れた方法のひとつです。調査者が調査される人々とコミュニケーションを取りながら、その内側に入って行き、その豊かな世界を共に味わうことができるからです。とはいうものの、質的調査の作品は文学作品ではありませんから、どこかで客観性が担保されなければなりません。本講義では社会科学の方法論としての質的調査のあり方を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査を実施しそれを作品に仕上げるまでの具体的な方法についても教授します。受講生の皆さんは実際に調査を行い、その成果を作品として提出しなければなりません。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	提出物（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	質的調査を実施し,それを作品に仕上げる。		
準備学習	他者への感受性をあげておく。毎回課題が課されるので、それを次回までにしておくこと。		

受講者への要望

提出された作品の評価は、全講義出席の前提のもとに行います。講義を欠席する場合は、その講義の内容を、自分自身でフォローしておくことが必要です。

講義の順序とポイント

１質的調査　質的調査の特徴と代表的な質的調査の方法について概括する
２ライフヒストリー　クラスメイトのライフヒストリーを聞き取り、それを記述する。
３ライフヒストリー　方法論としてのライフヒストリーを考える。
４ライフヒストリー　代表的なライフヒストリーの作品を読む。
５ライフヒストリー　前回の作品をグループ毎に検討し、次の作品へのインタビュー計画を個々に立てる。
６フィールドワーク　人類学的なフィールドワーク方法について概括する。
７フィールドワーク　人類学的手法によるモノグラフを読む。
８フィールドワーク　民俗学的なフィールドワークについて概括する。
９フィールドワーク　民俗学的手法による民族誌を読む。
１０フィールドワークの企画　個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画する。
１１聞き手と語り手　インタビュー調査やフィールドワークにおける聞き手と語り手の権力関係について考える。
１２ライフヒストリー作品の作成　インタビュー済みの資料をライフヒストリー作品にまとめる。
１３モノグラフの作成　フィールドで得た資料をモノグラフに記述する。
１４日本におけるフィールドワークの歴史
１５作品合評会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J50292101
科目名	社会意識論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 この「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、続く「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回、プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、人文研究の世界を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		
受講者への要望			
授業の主役は、あなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、できれば「社会意識論 A」をとったうえで、さらに「社会意識論 B」も受講するつもりでいてください。ただし、必須ではなく、どちらか一方だけの履修でも結構です。			
講義の順序とポイント			
1・社会意識とは何か 2・意識と無意識について 3・無意識とその表現について 4・夢と願望 5・願望と物語、その 1 6・願望と物語、その 2 7・神話・昔話の心理学的解釈、その 1 8・神話・昔話の心理学的解釈、その 2 9・個人発表、その 1 10・個人発表、その 2 11・個人発表、その 3 12・個人発表、その 4 13・願望・欲望について、再考 14・物語のなかの社会 15・物語のなかの人間と社会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50292102
科目名	社会意識論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 この「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、続く「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回、プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、人文研究の世界を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		

受講者への要望

授業の主役は、あなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、できれば「社会意識論 A」をとったうえで、さらに「社会意識論 B」も受講するつもりでいてください。ただし、必須ではなく、どちらか一方だけの履修でも結構です。

講義の順序とポイント

1・社会意識とは何か
2・意識と無意識について
3・無意識とその表現について
4・夢と願望
5・願望と物語、その 1
6・願望と物語、その 2
7・神話・昔話の心理学的解釈、その 1
8・神話・昔話の心理学的解釈、その 2
9・個人発表、その 1
10・個人発表、その 2
11・個人発表、その 3
12・個人発表、その 4
13・願望・欲望について、再考
14・物語のなかの社会
15・物語のなかの人間と社会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50292201
科目名	社会意識論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、この「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、人文研究の世界を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		

受講者への要望

授業の主役はあなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、「社会意識論 A」をとったうえで、この「社会意識論 B」を受講してください。ただし、必須ではなく、この「社会意識論 B」だけの受講でも結構です。

講義の順序とポイント

1・社会意識とは何か
2・社会構造と社会意識
3・物語のなかの社会意識
4・物語のなかの無意識的願望
5・社会構造と無意識的願望
6・願望・欲望とその表現、再考
7・物語の分析の方法と実例、その 1
8・物語の分析の方法と実例、その 2
9・個人発表、その 1
10・個人発表、その 2
11・個人発表、その 3
12・個人発表、その 4
13・改めて物語のなかの社会を考える
14・物語のなかの人間と社会、その 1
15・物語のなかの人間と社会、その 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50292202
科目名	社会意識論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、この「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、人文研究の世界を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		

受講者への要望

授業の主役はあなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、「社会意識論 A」をとったうえで、この「社会意識論 B」を受講してください。ただし、必須ではなく、この「社会意識論 B」だけの受講でも結構です。

講義の順序とポイント

1・社会意識とは何か
2・社会構造と社会意識
3・物語のなかの社会意識
4・物語のなかの無意識的願望
5・社会構造と無意識的願望
6・願望・欲望とその表現、再考
7・物語の分析の方法と実例、その 1
8・物語の分析の方法と実例、その 2
9・個人発表、その 1
10・個人発表、その 2
11・個人発表、その 3
12・個人発表、その 4
13・改めて物語のなかの社会を考える
14・物語のなかの人間と社会、その 1
15・物語のなかの人間と社会、その 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50304A01
科目名	社会心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology I		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、１テーマ１時間を原則として順次解説します。社会心理 I では主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		

受講者への要望

基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
数字は、教科書の章番号を示しています。

第 1 回 概論
第 2 回 感情と記憶
第 3 回 認知心理学の基礎
第 4 回 対人認知
第 5 回 推論
第 6 回 自己概念
第 7 回 自己評価
第 8 回 動機
第 9 回 表情判断
第 10 回 非言語的コミュニケーション
第 11 回 説得的コミュニケーション
第 12 回 態度
第 13 回 マインドコントロール
第 14 回 対人関係
第 15 回 レポート指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50304A02
科目名	社会心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology I		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、１テーマ１時間を原則として順次解説します。社会心理 I では主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		

受講者への要望

基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
数字は、教科書の章番号を示しています。

第 1 回 概論
第 2 回 感情と記憶
第 3 回 認知心理学の基礎
第 4 回 対人認知
第 5 回 推論
第 6 回 自己概念
第 7 回 自己評価
第 8 回 動機
第 9 回 表情判断
第 10 回 非言語的コミュニケーション
第 11 回 説得的コミュニケーション
第 12 回 態度
第 13 回 マインドコントロール
第 14 回 対人関係
第 15 回 レポート指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50304B01
科目名	社会心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology Ⅱ		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理Ⅱでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		
受講者への要望			
基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　状況の力 第２回　攻撃性と援助行動 第３回　　社会的影響 第４回　　集団の意思決定 第５回　　集団過程 第６回　　リーダーシップ 第７回　　社会的アイデンティティ 第８回　社会的共有認知 第９回　　ジレンマ状況 第 10 回 集合現象 第 11 回 メディア 第 12 回 ネットワーク 第 13 回 インターネット 第 14 回 文化と進化 第 15 回 レポート指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50304B02
科目名	社会心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology Ⅱ		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理Ⅱでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		
受講者への要望			
基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　状況の力 第２回　攻撃性と援助行動 第３回　　社会的影響 第４回　　集団の意思決定 第５回　　集団過程 第６回　　リーダーシップ 第７回　　社会的アイデンティティ 第８回　社会的共有認知 第９回　　ジレンマ状況 第 10 回 集合現象 第 11 回 メディア 第 12 回 ネットワーク 第 13 回 インターネット 第 14 回 文化と進化 第 15 回 レポート指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J5030700A
科目名	社会心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Social Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の実験・調査研究をグループまたは個人で行う。具体的には実験者として実験を実施する以外に、実験機材のセッティング、被験者の手配（時間の設定）、結果の分析までの一連の作業が含まれる。実験結果はＳＰＳＳにより統計的に分析する。実験はグループで行った場合も仮説は各自で異なる仮説を立てて、個人レポートを作成する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要な文献、教材は授業中に適宜指示する		
教材（その他）	実験や調査に必要な教材は授業中に供与する		
評価方法	平常点により評価する。作業過程は授業中にディスカッションしながらフォローする		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。加えて、実験参加者に負担を強いるだけの価値を信じる、ある種の「蛮勇」も必要となります。これらのさまざまな力を身につけることが目標となります。		
準備学習	授業時間中に実験を計画し質問紙の作成などを行う。実験や調査、質問紙は授業時間内に実施できない場合が多い。適宜、調査対象者が得られる機会に実験調査を行うことになる。それに要した時間も評価に加える。		

受講者への要望

実験実施に成功するか失敗するかではなく、その過程を評価対象とする。
失敗を恐れずに実験に挑戦していただきたい。

講義の順序とポイント

１．　概論
２．　研究テーマディスカッション
３．　研究テーマ発表
４．　文献検索
５．　方法論ディスカッション
６．　実験計画ディスカッション
７．　実験計画発表
８．　実験準備
９．　実験準備
１０．実験実施
１１．実験実施
１２．分析
１３．分析
１４．発表
１５．発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50310001
科目名	社会調査法	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Research Methods		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項のほか、調査設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。 社会調査士資格の【A】 社会調査の基本的事項に関する科目、【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	授業内レポート（40%）、レポート（30%）、定期試験（30%）		
到達目標	社会調査の基本的事項、調査設計と実施方法を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

講義の順序とポイント

《I イントロダクション》
1. イントロダクション：講義の概要、事前知識など

《II 社会調査の基本的事項》
2. 社会調査の目的
3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助
4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果
5. 社会調査のための情報収集
6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と官庁統計
7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査
8. 復習と練習問題(1)

《III 調査の種類》
9. 調査の種類
10. 調査票調査
11. 聞き取り調査
12. 参与観察
13. 非参与観察
14. ドキュメント分析
15. 復習と練習問題(2)

《IV 量的調査の設計と実施》
16. 調査票調査のための事前知識など
17. 調査票調査の概要
18. 問題・概念・仮説
19. 調査票の作り方(1)：ワーディング
20. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他
21. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法
22. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標

23. サンプリング(3)：標本と母集団の関係
24. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳
25. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率
26. 調査データの整理：エディティング、コーディング
27. 統計パッケージ：種類、使用の注意点
28. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義、記述と説明
29. 復習と練習問題(3)

《V 質的調査の設計と実施》
30. 質的調査の設計と実施、量的調査との相違

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50310002
科目名	社会調査法	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Research Methods		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項のほか、調査設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。 社会調査士資格の【A】 社会調査の基本的事項に関する科目、【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	授業内レポート（40%）、レポート（30%）、定期試験（30%）		
到達目標	社会調査の基本的事項、調査設計と実施方法を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

講義の順序とポイント

《I イントロダクション》
1. イントロダクション：講義の概要、事前知識など

《II 社会調査の基本的事項》
2. 社会調査の目的
3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助
4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果
5. 社会調査のための情報収集
6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と官庁統計
7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査
8. 復習と練習問題(1)

《III 調査の種類》
9. 調査の種類
10. 調査票調査
11. 聞き取り調査
12. 参与観察
13. 非参与観察
14. ドキュメント分析
15. 復習と練習問題(2)

《IV 量的調査の設計と実施》
16. 調査票調査のための事前知識など
17. 調査票調査の概要
18. 問題・概念・仮説
19. 調査票の作り方(1)：ワーディング
20. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他
21. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法
22. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標

23. サンプリング(3)：標本と母集団の関係
24. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳
25. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率
26. 調査データの整理：エディティング、コーディング
27. 統計パッケージ：種類、使用の注意点
28. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義、記述と説明
29. 復習と練習問題(3)

《V 質的調査の設計と実施》
30. 質的調査の設計と実施、量的調査との相違

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50311001
科目名	社会病理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Pathology		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	レジュメを配布する		
評価方法	基本的には課題レポート（50%）と試験（50%）による総合評価によって成績を判定するが、授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
準備学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		
受講者への要望			
社会学系科目の既習が望ましいが、未履修の学生はとりわけ継続的に講義に出席することが不可欠である。 参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。 その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。 授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。 当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。 退室は特段の事情がない限り認めない。			
講義の順序とポイント			
1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など） 2.イデオロギーの磁場としての社会 3.社会病理学の方法論 4.『愛を乞う人』鑑賞 5.事例研究：児童虐待① 6.事例研究：児童虐待② 7.「家族愛」の発見 8.「近代家族」の形成			

9.「近代家族」の崩壊
10.グループワーク：リスク化する家族
11.【レポート課題指導】①
12.【レポート課題指導】②
13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）①
14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）②
15.論文提出(＋検証テスト)
16.事例研究：「まなざしの地獄」
17.ラベリング論
18.グループワーク：いじめ問題
19.狂気①
20.狂気②
21.『17 歳のカルテ』鑑賞
22.【レポート課題指導】③
23.事例研究：自殺①
24.事例研究：自殺②
25.デュルケイム『自殺論』
26.自殺データから見る現代日本
27.若者の「労働」問題
28.若者の「貧困」問題
29.ディスカッション（『貧困のなかでおとなになる』より）
30.社会病理学から学べること、学べないこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	ー	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50313A01
科目名	社会病理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Pathology I		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデートDVやセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	レジュメを配布する		
評価方法	基本的には課題レポート（100%）によって成績を判定するが、授業中に検証テストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
準備学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		

受講者への要望

社会病理学Ⅱを受講することを履修の条件とする。

参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。
その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。
授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。

当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。
退室は特段の事情がない限り認めない。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など）
2.イデオロギーの磁場としての社会
3.社会病理学の方法論
4.『愛を乞う人』鑑賞
5.事例研究：児童虐待①
6.事例研究：児童虐待②
7.「家族愛」の発見

8.「近代家族」の形成
9.「近代家族」の崩壊
10.グループワーク：リスク化する家族
11.【レポート課題指導】①
12.【レポート課題指導】②
13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）①
14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）②
15.論文提出(＋検証テスト)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	ー	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50313B01
科目名	社会病理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Pathology Ⅱ		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	レジュメを配布する		
評価方法	講義内に実施する検証テスト（１００％）によって成績を判定するが、授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
準備学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		
受講者への要望			
社会病理学Ⅰの履修が不可欠である。 参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。 その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。 授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。 当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。 退室は特段の事情がない限り認めない。			
講義の順序とポイント			
1.事例研究：「まなざしの地獄」① 2.事例研究：「まなざしの地獄」② 3.ラベリング論 4.グループワーク：いじめ問題 5.狂気① 6.狂気② 7.『17 歳のカルテ』鑑賞			

8.【レポート課題指導】③
9.事例研究：自殺①
10.事例研究：自殺②
11.デュルケイム『自殺論』
12.自殺データから見る現代日本
13.若者の「労働」問題
14.若者の「貧困」問題
15.検証テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	ー	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50318A01
科目名	社会福祉論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory I		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	人は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅰでは、社会保障・社会福祉の概要、社会保障や社会福祉を取り巻くさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんと考えたい。社会福祉論Ⅰでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	「社会福祉の成立と課題」　井村圭壮・相澤譲治編著　勁草書房（2012 年）		
教材（参考文献）	「社会福祉学」　平岡公一他　有斐閣（2011） その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
教材（その他）	テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		
受講者への要望			
社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。			
講義の順序とポイント			
１　障がいを持って生きるということ ２　社会保障と社会福祉の動向 ３　社会保障制度①制度体系 ４　社会保障制度②医療制度の諸問題 ５　ゲストスピーカーの講義① ６　社会保障制度③年金制度の諸問題 ７　社会保障制度④雇用と労働の諸問題 ８　社会福祉①体系と理念 ９　社会福祉②対象者と福祉サービス １０　社会福祉③　その他 １１　ゲストスピーカーの講義② １２　低所得・貧困と公的扶助 １３　介護保険制度について １４　社会福祉の仕事と資格について １５　社会福祉の今後の動向とポイント ※講義の内容を変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	-	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50318A02
科目名	社会福祉論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory I		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	人は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅰでは、社会保障・社会福祉の概要、社会保障や社会福祉を取り巻くさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんと考えたい。社会福祉論Ⅰでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	「社会福祉の成立と課題」　井村圭壮・相澤譲治編著　勁草書房（2012 年）		
教材（参考文献）	「社会福祉学」　平岡公一他　有斐閣（2011） その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
教材（その他）	テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		

受講者への要望

社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。

講義の順序とポイント

１　障がいを持って生きるということ
２　社会保障と社会福祉の動向
３　社会保障制度①制度体系
４　社会保障制度②医療制度の諸問題
５　ゲストスピーカーの講義①
６　社会保障制度③年金制度の諸問題
７　社会保障制度④雇用と労働の諸問題
８　社会福祉①体系と理念
９　社会福祉②対象者と福祉サービス
１０　社会福祉③　その他
１１　ゲストスピーカーの講義②
１２　低所得・貧困と公的扶助
１３　介護保険制度について
１４　社会福祉の仕事と資格について
１５　社会福祉の今後の動向とポイント
※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	-	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50318B01
科目名	社会福祉論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory Ⅱ		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	人は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅱの授業テーマとしては、ノーマライゼーション、バリアフリー、障害者の自立生活、虐待など、高齢者・障がい者・児童にまつわるさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんとともに考えたい。社会福祉論Ⅱでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	「社会福祉の成立と課題」　井村圭壮・相澤譲治編著　勁草書房（2012 年）		
教材（参考文献）	「社会福祉学」　平岡公一他　有斐閣（2011） その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
教材（その他）	テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		

受講者への要望

社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。

講義の順序とポイント

1　障がいを持って生きるということ　脳性マヒの日常生活とその心理
2　戦争と社会福祉
3　ノーマライゼーションの思想
4　障がい者運動と青い芝の会
5　障害者の自立生活の思想
6　ゲストスピーカーの講義①
7　バリアフリーについて
8　バリアフリーとまちづくり
9　認知症とグループホーム　社会起業の一例
１０　ゲストスピーカーの講義②
１１　若年介護とヤングケアラー
１２　社会福祉と司法（累犯高齢者・障がい者）
１３　児童・高齢者・障がい者の虐待
１４　障がい者の恋愛と性
１５　強制不妊手術と新型出生診断
※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50318B02
科目名	社会福祉論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory Ⅱ		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	人は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅱの授業テーマとしては、ノーマライゼーション、バリアフリー、障害者の自立生活、虐待など、高齢者・障がい者・児童にまつわるさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんとともに考えたい。社会福祉論Ⅱでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	「社会福祉の成立と課題」　井村圭壮・相澤譲治編著　勁草書房（2012 年）		
教材（参考文献）	「社会福祉学」　平岡公一他　有斐閣（2011） その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
教材（その他）	テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		

受講者への要望

社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。

講義の順序とポイント

1　障がいを持って生きるということ　脳性マヒの日常生活とその心理
2　戦争と社会福祉
3　ノーマライゼーションの思想
4　障がい者運動と青い芝の会
5　障害者の自立生活の思想
6　ゲストスピーカーの講義①
7　バリアフリーについて
8　バリアフリーとまちづくり
9　認知症とグループホーム　社会起業の一例
１０　ゲストスピーカーの講義②
１１　若年介護とヤングケアラー
１２　社会福祉と司法（累犯高齢者・障がい者）
１３　児童・高齢者・障がい者の虐待
１４　障がい者の恋愛と性
１５　強制不妊手術と新型出生診断
※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50321001
科目名	社会問題論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現在の日本社会には、格差の拡大や派遣労働者の解雇など、人々が安定した社会生活を営むことを妨げるような問題が多数存在する。この講義では、いくつかの社会問題について、実態を説明し、それらを解決するために提案されている方法について紹介する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代の日本社会がかかえる社会問題の基本を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，貧困：格差、ホームレス、生活保護。
3，労働１：派遣労働。
4，労働２：過労死、失業、ニート。
5，外国人：不法入国と国内定住。
6，女性：パート労働、母子家庭。
7，子ども：学童保育、子どもの権利条約。
8，高齢者：介護保険、高齢者医療。
9，年金：年金財政、年金負担と給付。
10，医療：一部に見られる医師不足。
11，健康保険：国民医療費。
12，税金：税制、税負担、国家財政、国債残高。
13，食料：自給率、地産地消、フェア・トレード、食品添加物。
14，政治の責任と「自己責任」
15，社会問題の見方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50321002
科目名	社会問題論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現在の日本社会には、格差の拡大や派遣労働者の解雇など、人々が安定した社会生活を営むことを妨げるような問題が多数存在する。この講義では、いくつかの社会問題について、実態を説明し、それらを解決するために提案されている方法について紹介する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代の日本社会がかかえる社会問題の基本を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，貧困：格差、ホームレス、生活保護。
3，労働１：派遣労働。
4，労働２：過労死、失業、ニート。
5，外国人：不法入国と国内定住。
6，女性：パート労働、母子家庭。
7，子ども：学童保育、子どもの権利条約。
8，高齢者：介護保険、高齢者医療。
9，年金：年金財政、年金負担と給付。
10，医療：一部に見られる医師不足。
11，健康保険：国民医療費。
12，税金：税制、税負担、国家財政、国債残高。
13，食料：自給率、地産地消、フェア・トレード、食品添加物。
14，政治の責任と「自己責任」
15，社会問題の見方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50330A01
科目名	宗教社会学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion A		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、宗教社会学における宗教の基本的な捉え方である「世俗化」を踏まえつつ、近年一部の地域や階層でみられる「宗教復興」について考える。発展途上国においては、急速な近代化を達成するための社会統合の手段として、伝統宗教が利用されることが多い。しかし近年は、信仰の個人化が進む先進国においても、伝統宗教がマスメディアやソーシャルメディアを通して改めて見直されるような事態も生じている。本講義では、欧米や中東におけるキリスト教やイスラームの衰退と復興に言及しながらも、日本における神道や仏教の衰退と復興を中心に考察するつもりである。		
教材（テキスト）	櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	伝統宗教が現代のグローバル社会において、どのように受け入れ直されているかを把握する。		
準備学習	日本史や世界史における宗教についての記述や現在の宗教に関わるニュースに目を通しておく。		
受講者への要望			
生活に溶け込んでいる伝統宗教の教えや習慣に気づき、一般的に考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　春学期の目標と計画 ２　「世俗化」と「宗教復興」 ３　「軸の時代」における「世界宗教」の成立 ４　イスラームの台頭 ５　キリスト教の宗教改革と世俗化 ６　上座仏教と大乗仏教 ７　儒教と道教 ８　日本の伝統社会における神道 ９　国家神道の形成と衰退 １０　日本の伝統社会における仏教 １１　檀家制度の成立と消滅 １２　民俗宗教の繁栄と衰退 １３　現代社会における仏教ブーム １４　伝統宗教の社会的役割 １５　春学期のまとめと補足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50330A02
科目名	宗教社会学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion A		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、宗教社会学における宗教の基本的な捉え方である「世俗化」を踏まえつつ、近年一部の地域や階層でみられる「宗教復興」について考える。発展途上国においては、急速な近代化を達成するための社会統合の手段として、伝統宗教が利用されることが多い。しかし近年は、信仰の個人化が進む先進国においても、伝統宗教がマスメディアやソーシャルメディアを通して改めて見直されるような事態も生じている。本講義では、欧米や中東におけるキリスト教やイスラームの衰退と復興に言及しながらも、日本における神道や仏教の衰退と復興を中心に考察するつもりである。		
教材（テキスト）	櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	伝統宗教が現代のグローバル社会において、どのように受け入れ直されているかを把握する。		
準備学習	日本史や世界史における宗教についての記述や現在の宗教に関わるニュースに目を通しておく。		
受講者への要望			
生活に溶け込んでいる伝統宗教の教えや習慣に気づき、一般的に考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　春学期の目標と計画 ２　「世俗化」と「宗教復興」 ３　「軸の時代」における「世界宗教」の成立 ４　イスラームの台頭 ５　キリスト教の宗教改革と世俗化 ６　上座仏教と大乗仏教 ７　儒教と道教 ８　日本の伝統社会における神道 ９　国家神道の形成と衰退 １０　日本の伝統社会における仏教 １１　檀家制度の成立と消滅 １２　民俗宗教の繁栄と衰退 １３　現代社会における仏教ブーム １４　伝統宗教の社会的役割 １５　春学期のまとめと補足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50330B01
科目名	宗教社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion B		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近代化と呼ばれる社会の変化ゆえの宗教の世俗化にもかかわらず、新しい宗教が社会の変化に応じてその都度出現してきたことを明らかにする。第１に、日本の近代化の初期に「新宗教」の原型とみなされるような「教派神道」が、幕藩体制から立憲君主制への転換期に、どのように成立したのかを明らかにする。第２に、資本主義経済が民衆層にまで浸透する時期に、教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言した新宗教がどのように成立したかも明らかにする。その上で、現代社会において、「カルト」と呼ばれる未成熟の宗教集団の一部が犯罪に踏み切る一方、自己の聖化を模索する「新霊性運動」が多種多様に展開していることを明らかにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房		
教材（その他）			
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
準備学習	噂や新聞やテレビ、インターネット、あるいは SNS において、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講者への要望			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームに偏りのない関心をもち、事実に即して考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　秋学期の目標と計画 ２　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 ３　幕末維新期における「教派神道」の出現 ４　「民衆宗教」から「新宗教」へ ５　教祖崇拝の形成 ６　「生命主義的救済観」の形成 ７　新宗教の組織化 ８　明治大正期における宗教革新 ９　開祖と後継者の協力と葛藤 １０　新宗教と国民国家の緊張 １１　新宗教から「新新宗教」へ １２　新しい霊性（「スピリチュアリティ」）の追求 １３　「カルト」の台頭 １４　私たちにとっての宗教 １５　秋学期のまとめと補足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50330B02
科目名	宗教社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion B		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近代化と呼ばれる社会の変化ゆえの宗教の世俗化にもかかわらず、新しい宗教が社会の変化に応じてその都度出現してきたことを明らかにする。第１に、日本の近代化の初期に「新宗教」の原型とみなされるような「教派神道」が、幕藩体制から立憲君主制への転換期に、どのように成立したのかを明らかにする。第２に、資本主義経済が民衆層にまで浸透する時期に、教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言した新宗教がどのように成立したかも明らかにする。その上で、現代社会において、「カルト」と呼ばれる未成熟の宗教集団の一部が犯罪に踏み切る一方、自己の聖化を模索する「新霊性運動」が多種多様に展開していることを明らかにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房		
教材（その他）			
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
準備学習	噂や新聞やテレビ、インターネット、あるいは SNS において、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講者への要望			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームに偏りのない関心をもち、事実に即して考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　秋学期の目標と計画 ２　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 ３　幕末維新期における「教派神道」の出現 ４　「民衆宗教」から「新宗教」へ ５　教祖崇拝の形成 ６　「生命主義的救済観」の形成 ７　新宗教の組織化 ８　明治大正期における宗教革新 ９　開祖と後継者の協力と葛藤 １０　新宗教と国民国家の緊張 １１　新宗教から「新新宗教」へ １２　新しい霊性（「スピリチュアリティ」）の追求 １３　「カルト」の台頭 １４　私たちにとっての宗教 １５　秋学期のまとめと補足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50333A01
科目名	宗教民俗学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore I		
担当者名	佐々木　聖佳	旧科目名称	
講義概要	現代の日本社会では、宗教を強く意識することはあまりありません。しかし、お正月には近所の神社に初詣に行き、節分には豆まきをし、受験の時はお守りを身につけ、大安や仏滅を気にするというように、無意識のうちに信仰に基づいた様々な行事や慣習にしたがって生活をしています。この講義では、そうした様々な民俗事象の中に脈々と伝承されてきた宗教世界をとらえ、その文化的、歴史的な意味を考察していきます。それは日本人のアイデンティティーを探ることにもなるでしょう。そのための切り口としてここでは「祈願」を取りあげます。人々は疫病や旱魃など様々な苦難に遭ったとき、悪しきことをもたらす疫神を追いはらおうとしました。また、身の穢れを祓って祈願し、神に願いが叶うかを問いました。そうした人々の「祈願」のかたちを、フィールドワークをまじえながら、発見していきましょう。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	講義で適宜指示します。		
教材（その他）	ビデオ教材、音楽、パワーポイントを活用します。		
評価方法	出席状況や授業への参加度による平常点（45％）、期末レポート（40％）、授業内容に関する小レポート（15％）		
到達目標	宗教民俗学が対象とする信仰世界を把握し、身の回りの民俗事象と信仰との関わりについて、各自の視点から宗教民俗学の課題を発見し追究することを目標とします。		
準備学習	各授業の最後に小文を書いてもらいます。また単元の区切りごとに小レポートを課します。指定する講義日に提出してください。予習については、各講義の最後に次回のための課題を指示しますので、次回までに調べてきてください。		

受講者への要望

常識や偏見にとらわれない、独自の発想を求めます。フィールドワークにも積極的に参加して、いろいろな視点から考えてください。

講義の順序とポイント

1,　 授業ガイダンス、宗教民俗学概説
2,　御霊信仰と芸能ー①「出雲風流花踊」を見る
3,　御霊信仰と芸能ー②風流の思想と風流踊り
4,　御霊信仰と芸能ー③風流の造り物と風流拍子物
5,　御霊信仰と芸能ー④「やすらい祭」を見る
6,　御霊信仰と芸能ー⑤「やすらい祭」を見る
7,　託宣ー①日本の大将軍信仰
8,　託宣ー②東アジアの託宣儀礼と将軍神
9,　占いー①言霊信仰と占い
10, 占いー②占いの聖地、生駒山麓
11, 占いー③占いの聖地、生駒山麓
12, 祓えー陰陽道の呪術
13, 祓えー鍬山神社「水無月祭」を見る
14,まじないーまじないのしぐさと言葉
15,まとめー現代における宗教民俗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50333A02
科目名	宗教民俗学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore I		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	本講義では、暮しの中にとけこみ、私達の生活習慣や思想の基盤となっている民間信仰について学んでいきます。 民間信仰とは、神職や僧侶などの宗教者から離れ、民間のみで行われている宗教現象を指すといわれています。この民間信仰は、祭礼・年中行事、人生儀礼を主とし、生活の基盤となる生業や衣食住にも反映されています。 また、この民間信仰は、あらゆる宗教を吸収し、各地域の伝統文化に影響を与えながら独特な展開をみせます。その基礎となる組織として宮座や講が挙げら、これらの祭祀組織の動向をみることにより該当地域の信仰形態の一端を知ることができます。しかし、そのためには各地域の歴史も知る必要性があります。この講義では民間信仰の歴史も踏まえながら、日本人の宗教観、すなわち日本の民俗宗教について一緒に探っていければと思います。		
教材（テキスト）	特に指定はしません。プリント類は各回の講義のみで配布します。		
教材（参考文献）	宮家準『宗教民俗学への招待』（丸善ライブラリー）		
教材（その他）	『日本民俗大辞典』（吉川弘文館）、『神道事典』（弘文堂）		
評価方法	平常点（授業中の態度含む）と講義中内の小テストを重視します。 最終講義にレポート提出は必須。未提出者は授業放棄とみなします。 平常点（６０％）、レポート（４０％）		
到達目標	受講者のゆかりのある地域の信仰、歴史、伝統文化に興味を持ち、自らの手で調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。これらを知ることは人生の糧となります。積極的な行動を望みます。		
準備学習	今までで聞いたことのない用語や難解な事例が出てきます。分からない場合は記録し、自ら調べるという姿勢を望みます。また、各自が今まで見てきた、体験してきた事例は貴重な資料となりますので、まとめておくと役に立つでしょう。		
受講者への要望			
京都という町にある大学ですから、各神社や寺院に参拝、様々なお祭りをみる機会があります。また、古文書などの史料や文化財と触れることができる貴重な時です。積極的に京都という地域を体験してください。			
講義の順序とポイント			
1，宗教民俗学とは何か 2，宗教の種類と民間宗教の研究方法 3，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅰ（古代） 4，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅱ（中世） 5，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅲ（近世） 6，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅳ（近代） 7，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅴ（現代） 8，神道と民俗宗教 9，仏教と民俗宗教 10，山岳信仰－修験道 11，シャーマニズムの世界 12，俗信の世界 13，京都の民間信仰と研究者 14，日本人の原風景－風土論 15，日本人と宗教			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50333B01
科目名	宗教民俗学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore Ⅱ		
担当者名	矢野　裕巳	旧科目名称	
講義概要	宗教は世界の人々の生活にどのような影響を与えているのでしょうか？ 世界人口のおよそ半数の信者を持つキリスト教とイスラム教（キリスト教徒２４億人、イスラム教徒１７億人）。これらの宗教へつながるユダヤ教について楽しく学んでいきます。 特に、３つの一神教の基礎となる、旧約聖書の内容について、解りやすく学んでいきます。旧約聖書と言えば、難しく、堅苦しく思えるかもしれませんが、その内容は多くの映画、絵画、演劇、音楽の題材として取り上げられています。現代に通じる親しみのあるストーリーもたくさん登場します。教養として、将来に必ず役立つと思います。 「天地創造」から始まり、「ノアの方舟」、「出エジプト」、「野獣サムソン」、「ダビデ王」、「ソロモン王」などのストーリーを１５回に分けて、学んでいきましょう。 なお、旧約という言い方はキリスト教からの呼び名で、ユダヤ教では旧約聖書が「聖書」です。		
教材（テキスト）	毎回プリント教材を配布		
教材（参考文献）	毎回プリント教材を配布		
教材（その他）			
評価方法	講義時間内に、その日学んだ内容を、配布した資料から各自がまとめ、講義の終わりに提出してもらいます。10 講義の出席が必要です。		
到達目標	神道、仏教などの日本の代表的宗教とは違ったユダヤ教を学ぶことによって、日本人との思考の違いを検証する。		
準備学習	講義は１回１回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解する事を基本に考えます。出席を重視します。		
受講者への要望			
世界で起こる事柄に日ごろから関心を持ってもらいたいと思います。			
講義の順序とポイント			
ユダヤ教１　ユダヤ教の開祖は？　そしてその始まりは？ ユダヤ教２　何が労働なのか？ ユダヤ教３　ノアの箱船 ユダヤ教４　アラブ人の祖先として ユダヤ教５　レアとラケル ユダヤ教６　モーセ ユダヤ教７　モーセの後継者はユシュア ユダヤ教８　ヨシュアの遺言 ユダヤ教９　サウル ユダヤ教１０　アブサロムの裏切り ユダヤ教１１　「ソロモンの栄華」その光と陰 ユダヤ教１２　ダビデ家の継承は ユダヤ教１３　預言者　エリヤ ユダヤ教１４　レアル・ポリティークか？　神への信仰か？ ユダヤ教１５　ユダヤ教とキリスト教			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	-	-	★	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50333B02
科目名	宗教民俗学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore Ⅱ		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	この講義では、日本固有の宗教である神道について学びます。「神道とは？」と尋ねられ、明快な回答はできるでしょうか。これは研究者の中でも難解な問題の一つです。神道は自然崇拝から派生したといわれ、日本人の生活の中の宗教として捉えられています。しかし、神道をどう捉えるのかと考えは、時代によって大きく変化しています。また、どの部分に焦点をあてるのかによってみえてくる姿も違い、場合によっては全く捉えどころのない宗教となります。そこで、本講義では、あらゆる学問がみる「神道とは何か？」ということを時間をかけてみていきます。		
教材（テキスト）	特に指定はしません。プリント類は各回の講義のみで配布します。		
教材（参考文献）	阪本是丸・石井研士『プレステップ神道学』（弘文堂）		
教材（その他）	『神道事典』（弘文堂）、『神道要語集』全五巻（國學院大學日本文化研究所）		
評価方法	平常点（授業中の態度含む）、講義中内の小テストを重視します。 最終講義のレポート提出は必須。未提出者は授業放棄とみなします。 平常点（６０％）、レポート（４０％）		
到達目標	宗教民俗学Ⅰと同様に、自らの手で神社や祭礼を調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。 そして、私達の遠祖の思いがこもった神道について考えてください。		
準備学習	できるだけ、神社をみる、お祭りをみるということをしてください。 社殿の建築様式、社殿の配置、お祭りの中心的役割を果たしている「モノ」は何か、 お祭りはどのような組織が運営しているかなど。 歴史的変遷も見てください。		

受講者への要望

京都には、朝廷とつながりのある神社、民衆が支える神社、神仏習合色の濃い神社、摩訶不思議な神社など色々あります。目の前に貴重な資料があります。直接、見て体験してください。

講義の順序とポイント

1，　神道とは何か
2，　神社とは何か
3，　神道と歴史Ⅰ（古代）
4，　神道と歴史Ⅱ（中世１）
5，　神道と歴史Ⅲ（中世２）
6，　神道と歴史Ⅳ（近世）
7，　神道と歴史Ⅴ（近代）
8，　神道と歴史Ⅵ（現代）
9，　神道と祭礼（春）
10，神道と祭礼（夏）
11，神道と祭礼（秋）
12，神道と祭礼（冬）
13，式年遷宮－継承のこころ
14，神道と自然
15，日本人の宗教・神道

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J50337001
科目名	出版文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Publication and Culture		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	
講義概要	出版メディアの歴史を把握した上で、現代の出版文化を考察します。出版社・取次・書店という各プレイヤーの関係性、再販制・委託販売制といった取引上のしくみ、コンビニエンスストア・新古書店・オンライン書店・電子書籍の登場など読書を取り巻く環境の変化等、出版メディアの生産・流通・消費におけるさまざまな動向を紹介します。そして電子出版など新たな動向がこれからの社会をどのように変革していくのかをみなさんと共に考えます。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	川井良介編『出版メディア入門(第２版)』（日本評論社）、 ISBN:978-4535586161		
教材（その他）	レジメ、講義資料を配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	出版文化の歴史に関する基礎知識を習得し、出版コンテンツの未来を考える力を育成する。		
準備学習	受講者各自が関心を持って授業に臨むため、シラバスで各回のテーマを確認し、関連する資料について事前に図書館等で参照し、そのアウトラインをつかんでおくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		
受講者への要望			
新聞、雑誌、インターネットなどのメディアに目を通し、出版メディアの動向を意識的に把握してほしい。 遅刻・私語は厳に慎むこと。			
講義の順序とポイント			
1.メディアとは 2.出版メディアの概念と特性 3.出版メディアの歴史（１） 4.出版メディアの歴史（２） 5.書籍 6.雑誌 7.出版の電子化と電子書籍（１） 8.出版の電子化と電子書籍（２） 9.図書館と電子書籍 10.出版社 11.出版流通と販売 12.電子書籍と個人出版 13.表現自由と出版倫理 14.著作権と出版 15.読書と読者 （備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	―

年度	2016	授業コード	J50340A01
科目名	書道（書写を含む）A 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Calligraphy A (The Transcript is Include d)		
担当者名	西尾　利香	旧科目名称	
講義概要	楷書の基礎・基本およびそれに調和する仮名を重視した技法習得を中心とする。 書写の学習では、正しく整えて読みやすく書くことが重要である。本講では毛筆を中心に用い、半紙や画仙紙等に書写することで技法を習得し、その学習の成果を日常生活のさまざな書写場面で生かしていくとともに、創作や作品鑑賞を加えることにより、創造的な理解力の基礎を育成することを目的とする。また、楷書から他の書体へ段階的に移行できるよう、書写力の定着と応用をはかる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(30%)、授業内小テスト等による。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課す課題(25%)により評価する		
到達目標	1. 現代社会における手書き文字の重要性を理解する。 2. 用具・用材の扱い、基本点画・用筆について理解し、実際に書ける能力を獲得する。 3. 書写の基本的な学習法を身につけ、意欲的に取り組む態度を養う。 4. 書写における実用性と芸術性を高めるために、創作を通し創造する喜びを体得する。 5. 書作品の鑑賞を通し、異文化の理解・交流を深める。		
準備学習	各講義終了時に次の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また毎回講義の最初に前回授業内容に係る復習小テストまたは代表者による作品についての発表を課するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1.書道は言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って講義に臨むこと。
2.墨を使用する実技科目である。汚れても支障のない服装で出席すること。
3.遅刻及び講義内容に関連しない私語は厳禁とする。
4.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。

講義の順序とポイント

1.はじめに一書写・書道の概要 Aー
2.楷書の特徴(硬筆)
3.楷書の基本点画 1
4.楷書の基本点画 2
5.実用書
6.書体の変遷からみる楷書・仮名の研究
7.楷書に調和する仮名 1（ひらがな）
8.楷書に調和する仮名 2（カタカナ）
9.季節の書・夏の葉書
10.季節の書・短冊
11.漢字仮名交じりの書・創作 1
12.漢字仮名交じりの書・創作 2
13.漢字仮名交じりの書・創作 3
14.作品鑑賞法 A
15.まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	★	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50340B01
科目名	書道（書写を含む）B 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Calligraphy B (The Transcript is Include d)		
担当者名	西尾　利香	旧科目名称	
講義概要	行書の基礎・基本およびそれに調和する細字仮名を重視した技法習得を中心とする。 行書は楷書よりも速く書けるため、記録や伝達に活用できる優れた書体である。また仮名は今日の日常使用文字の過半を占める。しかしそのような実用的な面だけではなく、芸術表現のための要素が多く含まれている。本講では、毛筆を用い書写することで技法を習得し、その培った表現力を基礎に日本古来の装丁様式である和装本創作へと学習を拡大する。また書写・書道学習に広がりを持たせる上で、板書及び篆刻を加え、毛筆で書く表現とは別の実習を通してその効果を理解する。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(30%)、授業内小テスト等による。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課す課題(25%)により評価する。		
到達目標	1. 書体の特徴について理解を深め、鑑賞力の向上に努める。 2. 書写・書道の技法を習得し、積極的に活用して表現する態度・能力を養う。 3. 漢字・仮名の成立過程および字源について理解を深める。 4. 漢字と仮名の調和の方法について習熟し、日常生活の書表現の中に積極的に取り入れる態度を確立する。 5. 現代社会の目的・場面等に応じ、情報機器とは異なる手書きの必要性について考察する。		
準備学習	各講義終了時に次の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また毎回講義の最初に前回授業内容に係る復習小テストまたは代表者による作品についての発表を課するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1.書道は言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って講義に臨むこと。
2.墨を使用する実技科目である。汚れても支障のない服装で出席すること。
3.遅刻及び講義内容に関連しない私語は厳禁とする。
4.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。

講義の順序とポイント

1.はじめに－書写・書道の概要 B－
2.行書の基本点画 1
3.行書の基本点画 2
4.行書の創作
5.篆刻
6.板書技法
7.仮名の基本 1（平仮名）
8.仮名の基本 2（連綿）
9.季節の書・年賀状
10.漢字仮名交じりの書・和装本創作 1
11.漢字仮名交じりの書・和装本創作 2
12.漢字仮名交じりの書・和装本創作 3
13.作品鑑賞法 B
14.書初め
15.まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J50342A01
科目名	社会調査実習 I	単位数	1
科目名（英語表記）	Social Research Practice I		
担当者名	谷岡　謙	旧科目名称	
講義概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。社会調査とはなにかという点を踏まえた上で、本演習では質的調査の方法について学習し、実際にインタビュー調査を行う。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、インタビュー・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。 なお、この授業は、2016 年度・秋学期の「社会調査実習 II（担当・谷岡)」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。(他年度の「社会調査実習 II」では不可。)		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況および小課題の提出による。学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ自分自身で問題設定を行った上で、質的調査（本学期は、若者へのインタビュー調査を予定）を行い、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。データ収集に関しては、一部授業時間外に課題として行ってもらう。		

受講者への要望

1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。
2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。

講義の順序とポイント

1、質的調査の概説
2、質的調査の方法・企画
3、質的調査の先行理論、仮説構成
4、質的調査の問い・対象者・トピックの設定
5、インタビュー調査の方法
6、フィールドワークの方法
7、参与観察の方法
8、会話分析・ライフヒストリー分析の方法
9、インタビュー調査・フィールドワークの実施
10、データの整理
11、収集した質的データの分析（1）
12、収集した質的データの分析（2）
13、質的データの読み方・解釈
14、分析結果報告の作成
15、研究成果の報告と討論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50342A02
科目名	社会調査実習 I	単位数	1
科目名（英語表記）	Social Research Practice I		
担当者名	谷岡　謙	旧科目名称	
講義概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。社会調査とはなにかという点を踏まえた上で、本演習では質的調査の方法について学習し、実際にインタビュー調査を行う。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、インタビュー・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。 なお、この授業は、2016 年度・秋学期の「社会調査実習 II（担当・谷岡）」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。（他年度の「社会調査実習 II」では不可。）		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況および小課題の提出による。学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ自分自身で問題設定を行った上で、質的調査（本学期は、若者へのインタビュー調査を予定）を行い、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。データ収集に関しては、一部授業時間外に課題として行ってもらう。		
受講者への要望			
1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。 2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。			
講義の順序とポイント			
1、質的調査の概説 2、質的調査の方法・企画 3、質的調査の先行理論、仮説構成 4、質的調査の問い・対象者・トピックの設定 5、インタビュー調査の方法 6、フィールドワークの方法 7、参与観察の方法 8、会話分析・ライフヒストリー分析の方法 9、インタビュー調査・フィールドワークの実施 10、データの整理 11、収集した質的データの分析（1） 12、収集した質的データの分析（2） 13、質的データの読み方・解釈 14、分析結果報告の作成 15、研究成果の報告と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50342B01
科目名	社会調査実習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Social Research Practice II		
担当者名	谷岡　謙	旧科目名称	
講義概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。社会調査のなかでも質的調査と呼ばれる方法を中心に学習した上で、実際に雑誌や新聞記事を材料としたドキュメント分析を経験してもらう。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、ドキュメント・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。 なお、この授業は、2016 年度・春学期の「社会調査実習 I（担当・谷岡)」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。(他年度の「社会調査実習 I」では不可。)		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況および小課題の提出による。学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ自分自身で問題設定を行った上で、質的調査（本学期は、新聞記事を材料にしたドキュメント分析を予定）を行い、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。データ収集に関しては、一部授業時間外に課題として行ってもらう。		
受講者への要望			
1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。 2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。			
講義の順序とポイント			
1、質的調査と量的調査の違い、それぞれの長所と短所 2、内容分析の方法 3、ドキュメント分析の方法 4、新聞・雑誌の読み方 5、映像メディアの読み方 6、新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析法 7、コンピューターを用いた質的データの整理・分析法 8、収集した新聞記事データのコーディング 9、自由回答データのコーディング 10、新聞記事・自由回答データの度数分布、クロス集計 11、新聞記事・自由回答データの分析（1） 12、新聞記事・自由回答データの分析（2） 13、質的データを用いた研究論文の紹介 14、分析結果報告の作成 15、研究成果の報告と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50342B02
科目名	社会調査実習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Social Research Practice II		
担当者名	谷岡　謙	旧科目名称	
講義概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。社会調査のなかでも質的調査と呼ばれる方法を中心に学習した上で、実際に雑誌や新聞記事を材料としたドキュメント分析を経験してもらう。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、ドキュメント・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。 なお、この授業は、2016 年度・春学期の「社会調査実習 I（担当・谷岡)」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。(他年度の「社会調査実習 I」では不可。)		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況および小課題の提出による。学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ自分自身で問題設定を行った上で、質的調査（本学期は、新聞記事を材料にしたドキュメント分析を予定）を行い、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。データ収集に関しては、一部授業時間外に課題として行ってもらう。		
受講者への要望			
1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。 2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。			
講義の順序とポイント			
1、質的調査と量的調査の違い、それぞれの長所と短所 2、内容分析の方法 3、ドキュメント分析の方法 4、新聞・雑誌の読み方 5、映像メディアの読み方 6、新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析法 7、コンピューターを用いた質的データの整理・分析法 8、収集した新聞記事データのコーディング 9、自由回答データのコーディング 10、新聞記事・自由回答データの度数分布、クロス集計 11、新聞記事・自由回答データの分析（1） 12、新聞記事・自由回答データの分析（2） 13、質的データを用いた研究論文の紹介 14、分析結果報告の作成 15、研究成果の報告と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50346001
科目名	情報サービス論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Services		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	情報サービス概説
講義概要	図書館の情報提供機能を具体化する「情報サービス」について、基礎的な概念、代表的な情報サービス、情報源など、インターネット等のデジタル情報の活用にも着目して概説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	小田光広編著　『情報サービス論』　（日本図書館協会）　ISBN978-4-8204-1211-3		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	図書館司書を目指す学生については、職員採用試験において求められる情報サービスに関する専門知識の獲得、また、広く図書館情報学としての知識を身につけたい学生については、社会人として主体的に情報収集を行い、各人のキャリアアップに寄与することとなるような情報リテラシーの重要性を認識してもらうことを目指す。		
準備学習	受講者各自が関心を持って授業に臨むため、シラバスで各回のテーマを確認し、関連する資料について事前に図書館等で参照し、そのアウトラインをつかんでおくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		

受講者への要望

授業での各テーマに関心を持ち、積極的に図書館を利用して、自ら体験することに努めること。
遅刻・私語は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
　情報社会と図書館
2.情報サービスとはなにか
　意義、機関、法的根拠
3.情報サービスの種類・機能①レファレンスサービス
　レファレンスサービスの基本的な概念
4.情報サービスの種類・機能②レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス
　図書館の能動的なサービスであるレフェラル・カレントウェアネスサービスの基本的な概念
5.情報サービスの種類・機能③オンライン,オンディスク検索サービス
　電子メディアを使った検索サービスの基本的な概念
6.情報サービスの種類・機能④その他のサービス
　児童サービスなど利用対象別、図書館のイベント、研修など
7.情報源の種類とコレクション構築
　図書館で提供する情報源の種類やその特徴提供方法について
8.情報ニーズへの対応：レファレンスプロセス、レファレンス質問
　図書館員が利用者からのレファレンスを受け、処理する過程について
　図書館員が利用者の質問に的確に答えるための手法や基本ルールなど
9.情報源:①書誌データ探索
　二次資料や参考図書のレファレンスツールの種類と特徴など
10.情報源:②事実データ探索
　二次資料や参考図書のレファレンスツールの種類と特徴など
11.インターネットを活用した情報サービス
　データベース・WEB 情報と検索
12.発信型情報サービスと課題解決型図書館
13.レファレンスの実際： レファレンスインタビュー
14.図書館利用教育（情報リテラシーの育成）
15.主な公共図書館の情報サービスの実情と展望

（備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	―

年度	2016	授業コード	J50348003
科目名	情報サービス実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	高橋　和子	旧科目名称	
講義概要	調査･研究や個々の問題解決にとってまず必要なことは、レファレンス資料に習熟していること、データベースの内容を熟知していることである。そのことは、司書やサーチャーが、それまでに、どれだけ自分のモチーフに添って検索した経験があるか、ということにかかっている。 本講義では、文献情報の検索を、「調査･研究の補助ではあるが必要不可欠な手段」として位置付け、自身のモチーフに添って各種データベースに触れつつ、各自の設定したテーマに沿って検索しその習熟を目指す。その際大切なことは、検索すべき情報源の「構築経緯」や内容を熟知していること、そのうえで検索する能力を高めること、それら情報源を正しく評価できること、そして入手した情報を整理し利用･応用できること、である。 そうしたことを念頭に、本演習では、まず自分の専攻分野や関心領域についてテーマを設定し、各講時ごと情報の性格や情報源の特色を説明し理解を深めながら、その文献リストの完成を目指していく。結果として「図書館の情報サービス」を有効に展開していける技術を身につけていく。		
教材（テキスト）	USB メモリーで各講義資料を提供する。		
教材（参考文献）	（社）情報科学技術協会編　情報検索の基礎知識　新訂 2 版		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等平常点（20%）および毎回のレポート（80%）により評価する。、（社）情報科学技術協会主催「検索技術者検定 3 級」に合格した者は合格点を付与する。		
到達目標	利用者からの質問を正確に把握し、的確な検索方法の選択・検索キーワードへの想像力・検索式組立方法を学び、利用者ニーズに応えられる手段を学ぶ。その一部としてインターネット検索技術を中心に習得する。		
準備学習	パソコンの基本的な操作能力は前提なので、自ら習熟しておくこと。特にエクセルの基本能力が必要です。		
受講者への要望			
自分の関心領域を持つこと。日々の出席は単位取得の必須条件である。パソコンの習熟特にエクセルに慣れておくこと。			
講義の順序とポイント			
1、図書館員としての情報検索とは 2、消えたサイト検索、検索結果の見方 3、Google 検索オプション活用 1 4、Google 検索オプション活用 2 5、and 検索、or 検索、 not 検索活用 6、インターネット活用、情報提供の方法 7、国会図書館検索実習 1 8、国会図書館検索実習 2 9、国会図書館検索実習 3 10、国立情報学研究所検索実習 1 11、国立情報学研究所検索実習 2 12、官邸、政府情報検索 13、政府統計、凡例情報検索実習 14、政府刊行物、法律検索実習 15、有料データベース実習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J50363A01
科目名	心理学基礎Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology I		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	心理学入門Ⅰ
講義概要	わたしたちは，日常生活の中で，様々なことを感じ，考え，行動しています。このような「人のこころ」について理解するための学問が心理学です。 さて，みなさんは，「心理学」について，どのようなイメージをもっているでしょうか。 おそらく，多くの人がイメージしている「心理学」と，実際の心理学の間にはギャップがあります。 この講義では，様々な心理学の研究領域を取りあげ，日常の様々な問題が心理学でどのように取り扱われているのかを説明しながら，そのギャップを埋めていきたいと思います。 日常生活にある様々な「なぜ？」について，心理学の立場からどのように考えられるのか，授業を通して一緒に考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(10%) 筆記試験（50%）		
到達目標	①日常場面で直面する様々な現象を，心理学の専門用語を用いて説明できる。 ②自分の持つ興味を具体化し，それが心理学とどのように関連しているかを説明できる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義中にランダムなタイミングで，復習のための小レポートを実施する場合があります。前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることがあります。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学ってなに？①
2　心理学ってなに？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ あなたの記憶，正しいですか？
・「心理テスト」にだまされる
・なぜ人を好きになる？
・「 見える」ものが事実とは限らない
・身体が無意識に与える影響
・ 第一印象って大事？
・　血液型のうそ，ほんと
・ みんなの意見は本当に正しい？
・ 傍観者は冷酷か？
・ 浮気心を読み解く
・ ぐるぐるまわるネガティブ思考
・ こころの「不調」ってなんだろう
・ こころの「不調」が起こるわけ

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50363A02
科目名	心理学基礎 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology I		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	心理学入門 I
講義概要	わたしたちは，日常生活の中で，様々なことを感じ，考え，行動しています。このような「人のこころ」について理解するための学問が心理学です。 さて，みなさんは，「心理学」について，どのようなイメージをもっているでしょうか。 おそらく，多くの人がイメージしている「心理学」と，実際の心理学の間にはギャップがあります。 この講義では，様々な心理学の研究領域を取りあげ，日常の様々な問題が心理学でどのように取り扱われているのかを説明しながら，そのギャップを埋めていきたいと思います。 日常生活にある様々な「なぜ？」について，心理学の立場からどのように考えられるのか，授業を通して一緒に考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(10%) 筆記試験（50%）		
到達目標	①日常場面で直面する様々な現象を，心理学の専門用語を用いて説明できる。 ②自分の持つ興味を具体化し，それが心理学とどのように関連しているかを説明できる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義中にランダムなタイミングで，復習のための小レポートを実施する場合があります。前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることがあります。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学ってなに？①
2　心理学ってなに？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ あなたの記憶，正しいですか？
・「心理テスト」にだまされる
・なぜ人を好きになる？
・「 見える」ものが事実とは限らない
・身体が無意識に与える影響
・ 第一印象って大事？
・　血液型のうそ，ほんと
・ みんなの意見は本当に正しい？
・ 傍観者は冷酷か？
・ 浮気心を読み解く
・ ぐるぐるまわるネガティブ思考
・ こころの「不調」ってなんだろう
・ こころの「不調」が起こるわけ

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50363B01
科目名	心理学基礎II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology II		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	ひとは，日常生活の中で，様々に感じ，考え，行動しています。心理学は，このような「人のこころ」の知るための学問です。心理学者たちは，「人のこころ」の謎に迫るために，長年にわたって様々な研究を行ってきました。 この講義では，私たちが日常生活で直面する様々な問題や疑問を取りあげながら，心理学によって明らかにされてきた「人のこころ」について紹介していきます。講義を通して，一般的にイメージされる「心理学」とは違う，学問としての心理学を知ってもらいたいと思います。 心理学基礎ＩＩでは，日常で出会う問題を取り上げながら，様々な心理学の研究領域について講義します。具体的な研究の内容を紹介し，心理学で使用されている実験，調査などの方法についても説明します。 講義で得た知識を使いながら，日常で出会う「人のこころ」に関する疑問について考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(10%) 筆記試験（50%）		
到達目標	①心理学の諸領域に関する幅広い知識を身につける。 ②日常で出会う様々な問題を，心理学の視点から理解できるようになる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることもありますので，注意してください。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。
⑤春学期開講科目の心理学基礎Ⅰを受講しておくことで，講義内容を理解しやすくなると思います。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学とは？①
2　オリエンテーション・心理学とは？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ からだとこころの意外な関係
・ イメージのもつ影響力
・ しっかりと覚えるためには？
・ 自分をうまくコントロールする方法
・ 忘れたいことがあるとき
・ シロクマについて考えるな
・ 「○○したい！」とうまく付き合う
・ ストレスに対処する
・ 面倒なことは後回し
・ 心の健康と基礎心理学
・ 感情ってなんだろう

・狼少年は誰だ

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50363B02
科目名	心理学基礎Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology Ⅱ		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	ひとは，日常生活の中で，様々に感じ，考え，行動しています。心理学は，このような「人のこころ」の知るための学問です。心理学者たちは，「人のこころ」の謎に迫るために，長年にわたって様々な研究を行ってきました。 この講義では，私たちが日常生活で直面する様々な問題や疑問を取りあげながら，心理学によって明らかにされてきた「人のこころ」について紹介していきます。講義を通して，一般的にイメージされる「心理学」とは違う，学問としての心理学を知ってもらいたいと思います。 心理学基礎ＩＩでは，日常で出会う問題を取り上げながら，様々な心理学の研究領域について講義します。具体的な研究の内容を紹介し，心理学で使用されている実験，調査などの方法についても説明します。 講義で得た知識を使いながら，日常で出会う「人のこころ」に関する疑問について考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(10%) 筆記試験（50%）		
到達目標	①心理学の諸領域に関する幅広い知識を身につける。 ②日常で出会う様々な問題を，心理学の視点から理解できるようになる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることもありますので，注意してください。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。
⑤春学期開講科目の心理学基礎Ⅰを受講しておくことで，講義内容を理解しやすくなると思います。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学とは？①
2　オリエンテーション・心理学とは？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ からだとこころの意外な関係
・ イメージのもつ影響力
・ しっかりと覚えるためには？
・ 自分をうまくコントロールする方法
・ 忘れたいことがあるとき
・ シロクマについて考えるな
・ 「○○したい！」とうまく付き合う
・ ストレスに対処する
・ 面倒なことは後回し
・ 心の健康と基礎心理学
・ 感情ってなんだろう

・狼少年は誰だ

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50364001
科目名	心理アセスメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Assessment		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	心理臨床活動において心理アセスメント（査定）はひとつの重要な柱であり、それをとおして援助の方向を定め、修正していく。そして、アセスメント（査定）の意味のなかには、その人の健康なところ、強いところなど、ポジティブな側面を見出すことも含まれている。心理アセスメントは決して心理検査法だけのことを指すのではないが、授業の前半では、心理検査法の解説や簡単な実習に費やす時間が比較的多い。心理検査をそれ以上でも以下でもなく受け入れることのできる最初の機会になればと思う。心理検査は用い方や読み方を誤れば非常に危険である。しかし、対象者の援助に役立てる方向で慎重に用いることによって有益な情報が得られる。これらの検査の限界と効用の両方をバランスよく学んでほしい。また、心理検査データ以外の情報によるアセスメント、家族アセスメントなどにもふれる。さらに授業の後半では、心理的異常についてもＤＳＭ（精神障害の診断と統計の手引き）にそって概要を解説しておきたい。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	下山晴彦編「よくわかる臨床心理学　改訂新版」 2009　ミネルヴァ書房 皆藤章編「よくわかる心理臨床」 2007 ミネルヴァ書房 下山晴彦著「臨床心理アセスメント入門」 2008 金剛出版 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（５０％）。「授業内容の理解」に関する確認作業の成果の提出（５０％）		
到達目標	心理アセスメントに関する基本的な考え方を身につけ、代表的な心理検査についてその概要を把握する。また、心理的異常についてもその概要を把握する。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。		

受講者への要望

各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

講義の順序とポイント

1.はじめに～アセスメントとは何か
2.初回面接を中心に
3.面接法や観察法
4.検査法（１）質問紙法や投影法、作業検査法
5.　同　（２）知能・発達検査法
6.　同　（３）家族に関する検査法
7.　同　（４）その他のアセスメントに関すること
8.残されたテーマと前半授業の補足
9.精神障害と臨床心理学
10.診断名（１）統合失調症や気分障害
11.　同　（２）不安障害や身体表現性障害、解離性障害
12.　同　（３）摂食障害や性同一性障害、性障害
13　同　（４）パーソナリティ障害と認知症、発達障害
14.その他の障害や事象
15.残されたテーマと後半授業の補足
※講義の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50366001
科目名	心理学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	ヒトの心は，きわめて優れた環境適応力と文化・文明を創り出すすばらしい力をもっている。この力を脳に求める立場もあるが，脳を機能させているのは，やはり「心」であろう。この「心」を研究する学問は，心理学である。しかし，「心」を直接観察したり，分析することはできないので，実験や行動観察などの間接的な手段を用いて探究している。現代心理学は，人間の顕在的行動と心的過程を実験や行動観察などを通じて科学的に解明することを目指している。 本講では，心理学の歴史的展開を眺めながら，心理学の各領域についてある程度を深く論述する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）		
到達目標	日常生活における心理学的事象を、ある程度正しく理解できるようになる。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の 1 週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

①授業には必ず出席してください。
②授業内容は，心理学の入門よりもかなり高い専門的レベルです。
③授業のテキスト（レジュメ）をしっかり勉強しなければ，簡単に単位が取れる訳ではありません。

講義の順序とポイント

1. 心理学とは何か：「心理学」という用語
2. 心理学の課題と方法
3. 心理学の領域と課題
4. 心理学の歴史的展開：①連合主義，②感覚・知覚研究
5. 心理学の歴史的展開：③精神物理学，④心理学の独立
6. 心理学の歴史的展開：⑤19 世紀末の心理学，⑥比較心理学
7. 心理学の歴史的展開：⑦個人差の心理学，⑧精神分析学
8. 心理学の歴史的展開：⑨ゲシュタルト心理学
9. 心理学の歴史的展開：⑩行動主義，⑪新行動主義
10. 心理学の歴史的展開：⑫認知心理学，⑬発達心理学
11. 心理学の歴史的展開：⑭社会心理学，⑮臨床心理学
12. 脳と心：①脳と心をどう考えるか
13. 脳と心：②脳と神経
14. 脳と心：③生理心理学
15. 知覚：①感覚・知覚の生理学的基礎
16. 知覚：②知覚範囲
17. 知覚：③あるがままの世界と知覚する世界
18. 知覚：④働きかけによって形作られた世界
19. 知覚：⑤意味づけられた世界
20. 知覚：⑥注意
21. 学習：①学習とは何か

22. 学習：②行動主義と学習理論
23. 学習：③媒介理論
24. 学習：④オペラント条件づけ
25. 記憶：①記憶のしくみ
26. 記憶：②記銘のメカニズム
27. 記憶：③情報の保持・検索・忘却
28. 記憶：④ワーキングメモリー
29. 記憶の情報処理過程
30. 日常性の記憶

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50366002
科目名	心理学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	ヒトの心は，きわめて優れた環境適応力と文化・文明を創り出すすばらしい力をもっている。この力を脳に求める立場もあるが，脳を機能させているのは，やはり「心」であろう。この「心」を研究する学問は，心理学である。しかし，「心」を直接観察したり，分析することはできないので，実験や行動観察などの間接的な手段を用いて探究している。現代心理学は，人間の顕在的行動と心的過程を実験や行動観察などを通じて科学的に解明することを目指している。 本講では，心理学の歴史的展開を眺めながら，心理学の各領域についてある程度を深く論述する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）		
到達目標	日常生活における心理学的事象を、ある程度正しく理解できるようになる。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の 1 週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

①授業には必ず出席してください。
②授業内容は，心理学の入門よりもかなり高い専門的レベルです。
③授業のテキスト（レジュメ）をしっかり勉強しなければ，簡単に単位が取れる訳ではありません。

講義の順序とポイント

1. 心理学とは何か：「心理学」という用語
2. 心理学の課題と方法
3. 心理学の領域と課題
4. 心理学の歴史的展開：①連合主義，②感覚・知覚研究
5. 心理学の歴史的展開：③精神物理学，④心理学の独立
6. 心理学の歴史的展開：⑤19 世紀末の心理学，⑥比較心理学
7. 心理学の歴史的展開：⑦個人差の心理学，⑧精神分析学
8. 心理学の歴史的展開：⑨ゲシュタルト心理学
9. 心理学の歴史的展開：⑩行動主義，⑪新行動主義
10. 心理学の歴史的展開：⑫認知心理学，⑬発達心理学
11. 心理学の歴史的展開：⑭社会心理学，⑮臨床心理学
12. 脳と心：①脳と心をどう考えるか
13. 脳と心：②脳と神経
14. 脳と心：③生理心理学
15. 知覚：①感覚・知覚の生理学的基礎
16. 知覚：②知覚範囲
17. 知覚：③あるがままの世界と知覚する世界
18. 知覚：④働きかけによって形作られた世界
19. 知覚：⑤意味づけられた世界
20. 知覚：⑥注意
21. 学習：①学習とは何か

22. 学習：②行動主義と学習理論
23. 学習：③媒介理論
24. 学習：④オペラント条件づけ
25. 記憶：①記憶のしくみ
26. 記憶：②記銘のメカニズム
27. 記憶：③情報の保持・検索・忘却
28. 記憶：④ワーキングメモリー
29. 記憶の情報処理過程
30. 日常性の記憶

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50367A0A
科目名	心理学基礎実験 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology A		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・柾木）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・柾木）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・柾木）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50367A0B
科目名	心理学基礎実験 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology A		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・柾木）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・柾木）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・柾木）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50367A0C
科目名	心理学基礎実験 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology A		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・柾木）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・柾木）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・柾木）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50367B0A
科目名	心理学基礎実験 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology B		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

質問紙調査法 （担当：　伊原・服部・柾木・福田）
第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成
第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施
第３回：予備調査２：結果の分析
第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施
第５回：本調査２：結果の分析

実験法　（担当：　有馬・服部・柾木・福田）
第６回　社会　：集合知実験
第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果
第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果
第９回　生理①　：表情フィードバック
第１０回　生理②　：表情フィードバック

臨床実習　　（担当：川畑・服部・柾木・福田）
第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習
第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。
第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。
第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。
第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50367B0B
科目名	心理学基礎実験Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	人間を理解するための心理学的方法には、観察法、実験法、面接法、調査法、心理検査法などがある。人間の行動を観察して、行動の法則性を明らかにすることは可能だが、感情や欲求、動機づけといった人間の心の中で生起する主観的なものの解明には、面接法、質問紙法、心理検査法といった研究法が必要である。それぞれの研究法には長所と短所があるが、心理学の研究を行う際には、その特徴を理解した上で、自らのテーマに沿った研究法を選ぶことが必要である。 本実験では、これらの研究法についてその概要を学ぶと共に、それを用いたデータの収集・分析、報告書の作成の仕方などについて学習する。		
教材（テキスト）	中澤潤、他　『心理学マニュアル　観察法』　北大路書房 鎌原雅彦、他　『心理学マニュアル　質問紙法』　北大路書房 保坂亨、他　『心理学マニュアル　面接法』　北大路書房		
教材（参考文献）	B.フィンドレイ著　細江達郎訳　『心理学実験・研究レポートの書き方』　北大路書房		
教材（その他）	実施する具体的内容について記載したプリントを配布する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。片方だけでは評価の対象とならないので、注意すること。		
到達目標	心理学の基本的な研究法である観察法、面接法、質問紙法、心理検査法を習得する。		
準備学習	各回後に課されるレポート執筆が次回の実験の準備に大きくつながるので、真剣に取り組むこと。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

1　心理学実験の方法論／基礎実習
2　心理検査法１（YG 性格検査）
3　観察法１（実験的観察法 ）
4　観察法２（フィールドワーク）
5　面接法
6　質問紙法１
7　質問紙法２
8　質問紙法３
9　データベース検索
10　観察法４ ２
11　質問紙法５
12　質問紙法６
13　心理検査法２（WAIS）
14　心理検査法３（内田クレペリン検査）
15　心理検査法４（バウムテスト
※講義の内容と順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50367B0C
科目名	心理学基礎実験Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	実験の概要 心理学基礎実験Ｂでは、春学期のＡに続き、質問紙調査法・心理学実験法・ 臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 　質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を 行い、レポートを作成する。 　心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 　臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検 討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポー ト）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		
受講者への要望			
出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。 授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。			
講義の順序とポイント			
質問紙調査法　（担当：　伊原・服部・柾木・福田） 第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成 第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施 第３回：予備調査２：結果の分析 第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施 第５回：本調査２：結果の分析 実験法　（担当：　有馬・服部・柾木・福田） 第６回　社会　：集合知実験 第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果 第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果 第９回　生理①　：表情フィードバック 第１０回　生理②　：表情フィードバック 臨床実習　　（担当：川畑・服部・柾木・福田）			

第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習
第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。
第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。
第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。
第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50367B0D
科目名	心理学基礎実験Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology B		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	実験の概要 心理学基礎実験Ｂでは、春学期のＡに続き、質問紙調査法・心理学実験法・ 臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 　質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を 行い、レポートを作成する。 　心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 　臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検 討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポー ト）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		
受講者への要望			
出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。 授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。			
講義の順序とポイント			
質問紙調査法　（担当：　伊原・服部・柾木・福田） 第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成 第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施 第３回：予備調査２：結果の分析 第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施 第５回：本調査２：結果の分析 実験法　（担当：　有馬・服部・柾木・福田） 第６回　社会　：集合知実験 第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果 第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果 第９回　生理①　：表情フィードバック 第１０回　生理②　：表情フィードバック 臨床実習　　（担当：川畑・服部・柾木・福田）			

第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習
第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。
第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。
第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。
第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50369001
科目名	心理学研究法	単位数	2
科目名（英語表記）	Research Methods in Psychology		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	「○○について知りたい」と思った時，あなたはどうするだろうか。心理学では，しばしば実験・観察・調査を通してさまざまなデータを収集し，事実や心理を明らかにしようとする。これらの一連の過程を研究という。この授業では，研究法の基礎知識に関する講義に加え，グループでひとつの研究テーマを設定し，それについての研究計画を練ったり，実際にデータを収集し，研究成果を報告し合うなどの演習を行う場合がある。それらを通して，研究を行うための知識や技術を獲得することを目指す。		
教材（テキスト）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(10%) 筆記試験（50%）		
到達目標	①実験法，観察法，調査法の特徴を理解し，それらを用いる際の注意点を説明できる。 ②学術論文から研究計画を読み取ることができる。 ③心理学研究を計画するうえでの注意点を理解し，独力で研究計画を立てることができる。		
準備学習	授業内容の確認のための課題を設定することがあるが，設定された課題には必ず取り組み，期限までに提出すること。また，授業ごとに欠かさず復習をし，次の授業までに内容をしっかりと理解しておくこと。 また，数週間にわたってグループで課題に取り組む場合があり，授業時間内で課題を終えることができなければ時間外にグループ作業が必要となることにも留意しておくこと。		

受講者への要望

データに基づく心理学研究を実施するための知識を獲得することを目標とする学生の受講を望む。
また，事前に心理学基礎実験 A，B，心理統計学などの単位を取得し，基礎的な知識を獲得していることが望ましい。
講義内容は平易とはいい難いため，授業ごとに復習を欠かさず行うことを求める。
また，演習としてグループを構成し，他者とのディスカッションや，協力してデータ収集，研究発表などを行う場合がある。グループの構成員が欠ければ，それらの活動を行うことができなくなるため，特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。

講義の順序とポイント

以下の内容についての講義に加え，グループでの演習を行う場合がある。なお，演習は数週に渡って行う場合もある。

1. オリエンテーション・研究とは
2. 研究テーマを探そう
3. 研究を始める前に①：考慮しなければならない点
4. 研究を始める前に②：様々な研究方法
5. 実験法①：実験でわかること
6. 実験法②：独立変数と従属変数
7. 実験法③：実験の注意点
8. 実験法④：よい実験をするためには
9. 調査法①：調査で分かること
10. 調査法②：横断調査と縦断調査
11. 調査法③：調査の注意点
12. 調査法④：よい調査をするためには
13. 実験法と調査法の違い
14. 研究計画を考えてみよう①
15. 研究計画を考えてみよう②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50369101
科目名	心理学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	心理学は人間の心や行動を研究対象とする学問である。心理学とはどのような学問であるのか、その歴史や、心理学における各研究分野における基本的な研究法や考え方を理解する。		
教材（テキスト）	梅本・大山・岡本・高橋共著　『心理学第２版　心のはたらきを知る』　　コンパクト新心理学ライブラリ　サイエンス社		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施する小テスト。		
到達目標	心理学の基本的な理論と考え方について理解をする。		
準備学習	指定されたテキストを読んで出席する。幅広い読書の習慣をつける。		

受講者への要望

私語は一切厳禁。授業の妨げになる場合には、退室を求める場合もある。
能動的に授業に出席すること。

講義の順序とポイント

1 オリエンテーション、授業の進め方
2　歴史と方法
3　感覚と知覚
4　記憶（１）
5　記憶（２）　実験
6　記憶（３）
7　意識・思考・言語
8　動機付けと情動
9　発達心理学（１）
10 発達心理学（２）
11 社会心理学
12　臨床心理学（１）
13　臨床心理学（２）
14　臨床心理学（３）
15　臨床心理学（４）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50372A0A
科目名	心理学専門演習Ｉ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてて社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の演習Ⅱで卒業研究を行うことになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	極端化する社会　有馬著　北大路書房 参考文献は無料で配布する		
教材（その他）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
評価方法	平常点（40%)と、Edomodo 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Edomodo にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。		
到達目標	ベースとなる背景知識なしには独自の考えも出てこない。 この授業は、文献を読みこなした上で、新たな観点から研究を企画する力を養うことを目的とする。		
準備学習	社会心理学Ⅰ・Ⅱ、社会心理学上級実験を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. 概論　各自の興味関心分野についてディスカッション　文献の分担を決める 2. 方法論概論　指定された参考文献の背景知識を概論として伝える 3. 文献報告　序章 4. 文献報告　第１章 5. 文献報告　第２章 6. 文献報告　第３章 7. 文献報告　第４章 8. 文献報告　第５章 9. 文献報告　第６章 10. 文献報告　第７章 11.　文献報告　終章 12. ディスカッション１ 13. ディスカッション２ 14. ディスカッション３ 15. 夏休みの課題決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50372A0C
科目名	心理学専門演習Ｉ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが，次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生春学期では，演習を進めるための基本的知識の共有をはかる。そのために，認知心理学の基本的な枠組みや，取り上げうるトピックに関する基本的な文献の購読を中心に演習を進める。 また，将来のキャリアを見据えた専門分野の学習について考える機会を設ける。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	認知心理学に関する基礎的知識を修得する。 演習での発表と討論の仕方を修得する。 批判的に考える習慣を身につける。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，テーマとなる文献等に目を通して授業に出席すること。		
受講者への要望			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。			
講義の順序とポイント			
1. 受講生各自の興味の確認とテーマ設定 2. 心理学の学習と進路について 3. 文献購読 4. 文献購読 5. 文献購読 6. 文献購読 7. 文献購読 8. 心理学の学習と進路について 9. 文献購読 10. 文献購読 11. 文献購読 12. 心理学の学習と進路について 13. 文献購読 14. 文献購読 15. 学期の学習内容の整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50372B0A
科目名	心理学専門演習Ｉ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてる。社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の演習 II で卒業研究を行うことになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
評価方法	平常点（40%)と、Edomodo 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Edomodo にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。上級実験と併せてこれらの力を養うことを目標とします。		
準備学習	社会心理学Ⅰ・II、社会心理学上級実験を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. ディスカッション１　各自の研究テーマについてディスカッション 2. ディスカッション２ 3. 文献探索方法　文献探索および文献データベースの作り方 4. 文献探索　1 5. 文献探索　2 6. 文献報告　1 7. 文献報告　2 8. 文献報告　3 9. 文献報告　4 10. 文献報告　5 11.　研究方法ディスカッション　1 12.　研究方法ディスカッション　2 13.　予備実験結果報告１ 14.　予備実験結果報告２ 15.　春休みの課題決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50372B0C
科目名	心理学専門演習Ｉ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが，次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生秋学期では，受講生自らの興味をもとに，関連する研究文献を収集し，その購読と発表を行うことを中心とする。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	心理学論文の読み方を修得する。 文献検索等による文献の探し方を身につける。 批判的に考える習慣を身につける。 卒業研究に向けた方向付けを決定する。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，テーマとなる文献等に目を通して授業に出席すること。		
受講者への要望			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。 思考心理学上級実験を併せて履修すること。			
講義の順序とポイント			
1. 研究テーマの設定 2. 文献検索の方法 3. 文献購読および発表 4. 文献購読および発表 5. 文献購読および発表 6. 文献購読および発表 7. 文献購読および発表 8. 文献購読および発表 9. 文献購読および発表 10. 文献購読および発表 11. 文献購読および発表 12. 文献購読および発表 13. 卒業研究にむけた研究計画の検討 14. 卒業研究にむけた研究計画の検討 15. 3 回生での学習の整理と，卒業研究に向けた方針の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50374A0A
科目名	心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生ゼミでの研究成果を発展させて卒業研究を行い、各自で卒業研究レポートまたは卒業論文にまとめる。卒業研究レポートは卒業論文の半分（6000 字）程度の分量を目安としている。		
教材（テキスト）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、Edomodo 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Edomodo にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。３回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する 各自の研究テーマに沿う雑誌論文を文献検索により複数読み、１本を選んで発表の日までにレジュメを用意すること		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. 研究報告１　心理学専門演習 IB でまとめたレポートの発表 2. 研究報告２ 3. 研究報告３ 4. 研究報告４ 5. 研究報告５ 6. 文献報告１ 7. 文献報告２ 8. 文献報告３ 9. 文献報告４ 10. 文献報告５ 11.　研究結果ディスカッション　1 12.　研究結果ディスカッション　2 13.　研究結果ディスカッション　3 14.　研究結果ディスカッション　4 15.　夏休みの課題決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50374A0B
科目名	心理学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	本演習では，心理学専門演習ＩＡにおいて研究した課題等をさらに発展させ，卒業研究として成果を発表できるよう指導する。 下記の領域に関する内外の文献を収集し，レジュメを作成して発表し，解明すべき問題などについて討論を行う。卒業研究のテーマ設定や，論文の作成を指導する。 （1）視覚認知に関する研究 （2）記憶認知に関する研究 （3）人間の情動および認知活動の生理的指標による研究		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）		
到達目標	人間の認知活動を探究できる能力を身につけさせる。		
準備学習	授業のレジュメを京学なびの「授業資料」に，授業の１週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		
受講者への要望			
心理学概論および認知心理学を履修しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第1〜5回　研究テーマを設定する。 第6〜10回　文献収集を行う。 第11〜15回　レジュメを作成して発表する。卒業研究を作成する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J50374A0C
科目名	心理学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。心理学専門演習ＩＡ・Ｂで行った学習をもとに，各自の研究テーマにしたがって実験や調査等の実証研究を行い，卒業研究を進める。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	文献の批判的な読み方を身につける。 卒業研究の研究計画を完成する。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，卒業研究の進行状況について，週の成果を簡潔に毎回報告すること。		

受講者への要望

演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。

講義の順序とポイント

1. 年間の研究進行計画の立案
2. 卒業研究のテーマ検討
3. 卒業研究のテーマ検討
4. 研究計画の発表と検討
5. 研究計画の発表と検討
6. 研究計画の発表と検討
7. 研究計画の発表と検討
8. 研究計画の発表と検討
9. 実験・調査の実施準備
10. 実験・調査の実施準備
11. 実験・調査の実施準備
12. 実験・調査の実施準備
13. 実験・調査の実施準備
14. 実験・調査の実施準備
15. 学期の学習内容と卒業研究の今後の進め方の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50374B0A
科目名	心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生ゼミでの研究成果を発展させて卒業研究を行い、各自で卒業研究レポートまたは卒業論文にまとめる。卒業研究レポートは卒業論文の半分（6000 字）程度の分量を目安としている。		
教材（テキスト）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。３回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する データ分析や論文執筆などを、各自で行う		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. 研究報告１　心理学専門演習 IIA で進めた研究結果報告 2. 研究報告２ 3. 研究報告３ 4. 研究報告４ 5. 研究報告５ 6. 分析１　データ分析指導 7. 分析２ 8. 分析３ 9. 分析４ 10. 分析５ 11.　研究結果ディスカッション　1 12.　研究結果ディスカッション　2 13.　研究結果ディスカッション　3 14.　研究結果ディスカッション　4 15.　研究結果ディスカッション　5			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50374B0B
科目名	心理学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	本演習では，心理学専門演習ⅡA において研究した課題等をさらに発展させ，卒業研究として成果を発表できるよう指導する。 下記の領域に関する内外の文献を収集し，レジュメを作成して発表し，解明すべき問題などについて討論を行う。卒業研究のテーマ設定や，論文の作成を指導する。 （1）視覚認知に関する研究 （2）記憶認知に関する研究 （3）人間の情動および認知活動の生理的指標による研究		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）		
到達目標	人間の認知活動を探究できる能力を身につけさせる。		
準備学習	授業のレジュメを京学なびの「授業資料」に，授業の 1 週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		
受講者への要望			
心理学概論および認知心理学を履修しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第 1〜5 回　研究テーマを設定する。 第 6〜10 回　文献収集を行う。 第 11〜15 回　レジュメを作成して発表する。卒業研究を作成する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J50374B0C
科目名	心理学専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。心理学専門演習ＩＡ・Ｂ，ＩＩＡで行った学習をもとに，各自の研究テーマにしたがって実験や調査等の実証研究を行い，卒業研究を完成させる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と，卒業研究に関する研究発表(30%)によって評価する。		
到達目標	卒業研究を進め，論文を完成させる。 研究発表の技術を修得する。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，卒業研究の進行状況について，週の成果を簡潔に毎回報告すること。		

受講者への要望

演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。

講義の順序とポイント

1. 研究の進行状況に関する発表と討論
2. 実験・調査の実施状況の検討
3. 実験・調査の実施状況の検討
4. 実験・調査の実施状況の検討
5. 実験・調査の実施状況の検討
6. 実験・調査の結果分析
7. 実験・調査の結果分析
8. 実験・調査の結果分析
9. 実験・調査の結果分析
10. 論文作成
11. 論文作成
12. 論文作成
13. 研究発表の準備と練習
14. 研究発表の準備と練習
15. 研究発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50378001
科目名	心理測定法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Measurement		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理測定尺度の作成や使用に重要な統計的手法に関して，「心理統計学 I・II」よりもやや進んだ講義を行う。心理測定尺度を用いてよいデータを収集するための方法として，尺度構成に重要な信頼性と妥当性の概念とその評価方法を紹介する。また，心理尺度の構成や，尺度間の関係を分析するために役立つ多変量解析の利用法に関する入門的な講義を行う。質問紙法や能力評価尺度などを用いて研究を行おうとする場合に必須の内容である。実際のデータ例を使った実習を含める。		
教材（テキスト）	小塩真司　(2011)『SPSS と Amos による心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで[第 2 版]』東京図書　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配付する。		
評価方法	レポート課題（ほぼ毎回出題）30%，授業中に行う確認テスト 30%，期末試験 40%。		
到達目標	質問紙尺度や心理テストの開発，尺度間の相関関係の分析等で必要になる，測定理論や多変量解析の基礎を習得する。各手法について，以下の 4 点を目標とする。 (1)どんな手法を使用するかを研究計画やデータから見分けることができる。 (2)コンピュータソフトウェアを用いて自らデータ分析を行うことができる。 (3)分析結果を解釈し報告書等に記述することができる。 (4)論文等に書かれた解析結果の説明を理解することができる。		
準備学習	毎回，課題を出題する。課題の内容は，授業内容の確認や，学習した分析手法を PC の統計解析ソフトを使って実践することなどを含む。必ず毎回課題に取り組み，指定期日までに提出すること。 また，毎回の授業の始めに前回までの内容の確認テストを行うので，授業の復習を欠かさないこと。		

受講者への要望

基礎的な統計学の知識を前提とする。「心理統計学 I・II」を履修済であること（あるいは，同等の内容を既に習得していること）。授業内容は易しくないので，毎回授業に積極的に参加し，さらに毎回の課題を確実にこなしていく覚悟で履修すること。安易な態度では単位修得は難しい。
学習内容の積み上げが重要な科目であるので，遅刻や欠席をしないこと。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，量的変数の記述統計手法に関する基礎知識
2. 回帰分析(1)：散布図，相関係数と回帰直線
3. 回帰分析(2)：分析例による回帰分析と重回帰分析の概説
4. 回帰分析(3)：回帰分析モデルの詳説
5. 回帰分析(4)：回帰係数の意味と解釈，研究例に見る分析の実際
6. パス解析：パス解析の概要と，研究例による分析の実際
7. 尺度の信頼性と妥当性(1)：信頼性と妥当性の概念，古典的テスト理論の基本モデル
8. 尺度の信頼性と妥当性(2)：信頼性係数の推定の諸方法
9. 尺度の信頼性と妥当性(3)：信頼性の高い尺度構成のための指針
10. 尺度の信頼性と妥当性(4)：妥当性の評価の視点と方法
11. 因子分析(1)：因子分析の基本的な発想
12. 因子分析(2)：因子分析の基本モデル
13. 因子分析(3)：因子回転，分析結果の解釈の仕方，質問紙尺度の例を用いた因子分析の実際
14. 因子分析(4)：因子数の決定，回転方法の選択基準，因子抽出法の選択基準
15. 授業内容の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50378002
科目名	心理測定法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Measurement		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理測定尺度の作成や使用に重要な統計的手法に関して，「心理統計学 I・II」よりもやや進んだ講義を行う。心理測定尺度を用いてよいデータを収集するための方法として，尺度構成に重要な信頼性と妥当性の概念とその評価方法を紹介する。また，心理尺度の構成や，尺度間の関係を分析するために役立つ多変量解析の利用法に関する入門的な講義を行う。質問紙法や能力評価尺度などを用いて研究を行おうとする場合に必須の内容である。実際のデータ例を使った実習を含める。		
教材（テキスト）	小塩真司　(2011)『SPSS と Amos による心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで[第 2 版]』東京図書　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配付する。		
評価方法	レポート課題（ほぼ毎回出題）30%，授業中に行う確認テスト 30%，期末試験 40%。		
到達目標	質問紙尺度や心理テストの開発，尺度間の相関関係の分析等で必要になる，測定理論や多変量解析の基礎を習得する。各手法について，以下の 4 点を目標とする。 (1)どんな手法を使用するかを研究計画やデータから見分けることができる。 (2)コンピュータソフトウェアを用いて自らデータ分析を行うことができる。 (3)分析結果を解釈し報告書等に記述することができる。 (4)論文等に書かれた解析結果の説明を理解することができる。		
準備学習	毎回，課題を出題する。課題の内容は，授業内容の確認や，学習した分析手法を PC の統計解析ソフトを使って実践することなどを含む。必ず毎回課題に取り組み，指定期日までに提出すること。 また，毎回の授業の始めに前回までの内容の確認テストを行うので，授業の復習を欠かさないこと。		

受講者への要望

基礎的な統計学の知識を前提とする。「心理統計学 I・II」を履修済であること（あるいは，同等の内容を既に習得していること）。授業内容は易しくないので，毎回授業に積極的に参加し，さらに毎回の課題を確実にこなしていく覚悟で履修すること。安易な態度では単位修得は難しい。
学習内容の積み上げが重要な科目であるので，遅刻や欠席をしないこと。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，量的変数の記述統計手法に関する基礎知識
2. 回帰分析(1)：散布図，相関係数と回帰直線
3. 回帰分析(2)：分析例による回帰分析と重回帰分析の概説
4. 回帰分析(3)：回帰分析モデルの詳説
5. 回帰分析(4)：回帰係数の意味と解釈，研究例に見る分析の実際
6. パス解析：パス解析の概要と，研究例による分析の実際
7. 尺度の信頼性と妥当性(1)：信頼性と妥当性の概念，古典的テスト理論の基本モデル
8. 尺度の信頼性と妥当性(2)：信頼性係数の推定の諸方法
9. 尺度の信頼性と妥当性(3)：信頼性の高い尺度構成のための指針
10. 尺度の信頼性と妥当性(4)：妥当性の評価の視点と方法
11. 因子分析(1)：因子分析の基本的な発想
12. 因子分析(2)：因子分析の基本モデル
13. 因子分析(3)：因子回転，分析結果の解釈の仕方，質問紙尺度の例を用いた因子分析の実際
14. 因子分析(4)：因子数の決定，回転方法の選択基準，因子抽出法の選択基準
15. 授業内容の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50380A01
科目名	心理統計学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology I		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	心理統計学入門
講義概要	心理学研究では，データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学 I では，質的変数と量的変数のそれぞれについて，分析の視点，データの収集と整理の方法，分析結果の解釈の仕方について，記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して，自ら収集したデータを解析できる能力，また公刊されている論文や資料等の統計分析結果を読むことができる能力を養成する。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学研究に必要な統計手法のうち，表やグラフの作成，要約指標（平均，標準偏差，相関係数，等）の算出とについて，以下を達成する。 (1)研究計画と収集されるデータの種類に応じて適切な手法を選択することができる。 (2)各手法を用いて計算や作表等の実際の分析を行うことができる。 (3)分析結果を適切に判断することができる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 統計データの役割，種類，収集の方法
2. 変数のタイプ分類（量的変数と質的変数）とその分析の視点
3. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(1)：　クロス集計表を用いた記述，比率の比較
4. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(2)：　連関と連関係数
5. 量的変数の分析(1)：　度数分布とヒストグラム，代表値
6. 量的変数の分析(2)：　代表値と散布度，グラフによる記述
7. 量的変数の分析(3)：　変数の標準化と集団内での相対的位置の評価，正規分布
8. 量的変数の条件間比較(1)：　条件間比較のポイント，グラフを用いた比較，散布度の重要性，効果量
9. 量的変数の条件間比較(2)：　t 検定の概説
10. 量的変数の条件間比較(3)：　対応のあるデータ（反復測定データ）の性質とその分析方法
11. 量的変数の条件間比較(4)：　分布の偏りに関する留意点，平均と中央値の違い
12. 二つの量的変数間の関係の分析(1)：　散布図と相関係数
13. 二つの量的変数間の関係の分析(2)：　相関係数の算出方法と特性
14. 二つの量的変数間の関係の分析(3)：　相関の解釈における留意点，相関関係と因果関係
15.学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J50380A02
科目名	心理統計学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology I		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	心理統計学入門
講義概要	心理学研究では，データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学 I では，質的変数と量的変数のそれぞれについて，分析の視点，データの収集と整理の方法，分析結果の解釈の仕方について，記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して，自ら収集したデータを解析できる能力，また公刊されている論文や資料等の統計分析結果を読むことができる能力を養成する。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学研究に必要な統計手法のうち，表やグラフの作成，要約指標（平均，標準偏差，相関係数，等）の算出とについて，以下を達成する。 (1)研究計画と収集されるデータの種類に応じて適切な手法を選択することができる。 (2)各手法を用いて計算や作表等の実際の分析を行うことができる。 (3)分析結果を適切に判断することができる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 統計データの役割，種類，収集の方法
2. 変数のタイプ分類（量的変数と質的変数）とその分析の視点
3. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(1)：　クロス集計表を用いた記述，比率の比較
4. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(2)：　連関と連関係数
5. 量的変数の分析(1)：　度数分布とヒストグラム，代表値
6. 量的変数の分析(2)：　代表値と散布度，グラフによる記述
7. 量的変数の分析(3)：　変数の標準化と集団内での相対的位置の評価，正規分布
8. 量的変数の条件間比較(1)：　条件間比較のポイント，グラフを用いた比較，散布度の重要性，効果量
9. 量的変数の条件間比較(2)：　t 検定の概説
10. 量的変数の条件間比較(3)：　対応のあるデータ（反復測定データ）の性質とその分析方法
11. 量的変数の条件間比較(4)：　分布の偏りに関する留意点，平均と中央値の違い
12. 二つの量的変数間の関係の分析(1)：　散布図と相関係数
13. 二つの量的変数間の関係の分析(2)：　相関係数の算出方法と特性
14. 二つの量的変数間の関係の分析(3)：　相関の解釈における留意点，相関関係と因果関係
15.学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50380B01
科目名	心理統計学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology II		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	心理統計学
講義概要	心理学を学ぶ学生が，研究に必要な統計的手法を理解し，自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学 II では，心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について，推測統計の手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で，各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと，分析結果の解釈のしかたの学習を進める。また，分析を正しく使用するために必要な，分析手法の原理の解説を行う。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理時計学 I での学習内容を基礎として，以下の事項を理解・習得する。 (1) 推測統計の原理を理解し，統計的検定を正しく用いることができる。 (2) 各種の統計的検定の目的を理解し，研究計画に合わせて適切な手法を選択できる。 (3) 各手法を正しく使用できる。 (4) 特に，分散分析の原理と使用方法，結果の意味を理解し，実験計画に合わせて適切に使用できる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

心理統計学 I を先に履修しておくこと。
学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点
2. 統計的検定の原理(1)：　t 検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本の概念
3. 統計的検定の原理(2)：　確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布）
4. 統計的検定の原理(3)：　帰無仮説と対立仮説，第 1 種の誤りと第 2 種の誤り，検定力
5. 相関係数に関する検定
6. クロス集計表の独立性：　連関係数，χ2 乗検定
7. 検定手法の選択基準と手法間の関係
8. 分散分析の導入，一要因分散分析(1)
9. 一要因分散分析(2)，多重比較
10. 二要因分散分析(1)：　要因と水準，各要因の主効果
11. 二要因分散分析(2)：　交互作用効果
12. 二要因分散分析(3)：　主効果と交互作用の意味と解釈，単純効果の検定
13. 被験者内要因の分散分析
14. ノンパラメトリック検定
15. 学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J50380B02
科目名	心理統計学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology II		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	心理統計学
講義概要	心理学を学ぶ学生が，研究に必要な統計的手法を理解し，自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学 II では，心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について，推測統計の手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で，各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと，分析結果の解釈のしかたの学習を進める。また，分析を正しく使用するために必要な，分析手法の原理の解説を行う。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理時計学 I での学習内容を基礎として，以下の事項を理解・習得する。 (1) 推測統計の原理を理解し，統計的検定を正しく用いることができる。 (2) 各種の統計的検定の目的を理解し，研究計画に合わせて適切な手法を選択できる。 (3) 各手法を正しく使用できる。 (4) 特に，分散分析の原理と使用方法，結果の意味を理解し，実験計画に合わせて適切に使用できる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

心理統計学 I を先に履修しておくこと。
学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点
2. 統計的検定の原理(1)：　t 検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本の概念
3. 統計的検定の原理(2)：　確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布）
4. 統計的検定の原理(3)：　帰無仮説と対立仮説，第 1 種の誤りと第 2 種の誤り，検定力
5. 相関係数に関する検定
6. クロス集計表の独立性：　連関係数，χ2 乗検定
7. 検定手法の選択基準と手法間の関係
8. 分散分析の導入，一要因分散分析(1)
9. 一要因分散分析(2)，多重比較
10. 二要因分散分析(1)：　要因と水準，各要因の主効果
11. 二要因分散分析(2)：　交互作用効果
12. 二要因分散分析(3)：　主効果と交互作用の意味と解釈，単純効果の検定
13. 被験者内要因の分散分析
14. ノンパラメトリック検定
15. 学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J5038300A
科目名	心理面接実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Counseling		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	カウンセリングの技法は厳密にはカウンセリングの理論の数だけあると言えるし、またその修得には長い年月とエネルギーを要する。従って一人前のカウンセラーとして活動できるようになるためには相当の訓練が必要であり、それにともなう知識も重要になってくる。 ただ、あらゆるカウンセリング・心理療法の技法の基礎となるのは、ロジャーズの三原則に基づいた応答技法であると考えられるので、本実習においては、ロールプレイやその逐語録の分析を通して、カウンセリング的応答の基礎的訓練を行なう。 また、その時にはカウンセラー自身の応答パターンの分析も必要であり、受講者の心の動きにも注意を向けながら実習を行なう。		
教材（テキスト）	実習内容については、適宜プリントを配布する。但し、臨床心理学Ⅱおよびカウンセリング論で使用しているテキストは、各自準備しておくこと。		
教材（参考文献）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業中の発表・平常点　５０％　及び　レポート　５０％		
到達目標	心理面接の基本を学習し、カウンセリング的応答ができるようになることを目標とする。		
準備学習	臨床心理学Ⅱの教科書を再読し、ロジャーズのカウンセリング理論を復習すること。 ロールプレイの実施とその検討が中心となるので、その実施が可能であるように、ロール設定・応答練習などを実習すること。		
受講者への要望			
各人に科せられた課題について、積極的に取り組むこと。臨床心理学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎実験Ｂ、カウンセリング論の単位取得済みであることが必要。			
講義の順序とポイント			
１～３　カウンセリングの基礎 ４～６　ロールプレイ　　1 ７～8　結果の検討および討論 ９～12　ロールプレイ　2 13～14　結果の検討及び討論 15　総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	J50384001
科目名	心理療法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychotherapy		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	心理療法とはどのようなものか、ふんわりとイメージはあるけれど、よくわからない人も多いのではないでしょうか。この講義では心理療法とはどのようなものかについて学びます。 心理療法は普通に友達の悩みを聞くのとは何が違うのか、悩みを聞くとはどういうことか、アドヴァイスは役に立つのか立たないのかなどの具体的な疑問について考えてみることと同時に、心理療法とはどのように成立したのか、心の問題は原因と結果で捉えることができるのかなどの大きな視点の両方を持って学ぶ予定です。		
教材（テキスト）	心理療法序説　河合隼雄著　岩波書店		
教材（参考文献）	A・ストー　心理面接の教科書		
教材（その他）	適宜プリントなど配布		
評価方法	授業態度５０％、試験５０％		
到達目標	心理療法の様々な側面についての知識を学び、考えること。		
準備学習	授業理解に必要なテキストのページ、あるいはプリント等を指示した回には、事前に読んで予習してくること。 身の回りの問題について、心理療法的な視点で自分なりに考えてみること。		

受講者への要望

授業だけで知識を身に着けることは難しく、定着させるためには、自分なりに勉強することが不可欠です。授業内で指示する参考文献や、自分なりに興味をもった本などを積極的に読んで下さい。また、授業への積極的な参加、つまりレポートや、授業内で他の学生の授業理解にもつながるような質問などを評価します。私語など、他の学生の授業理解を妨害するような態度に対しては、退室を求めたり、単位を出さない場合もあります。

講義の順序とポイント

１、　心理療法とは
２、　心理療法のモデルと古代の心理療法
３　、心理療法における時間、場所、料金について
４、　治療的人間関係，　心理療法と現実
５、　　心理療法における話の聞き方
６、　　事例から心理療法を考える
７、　　フロイト心的外傷理論の変遷
８、　ユング、アドラーの理論
９、　心理療法と因果律
１０、精神医学と心理療法
１１、学派による違い
１２、子どもの心理療法、プレイセラピー
１３、発達障害と心理療法
１４、心理療法家の訓練など
１５、復習テスト　、疑問点についての解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50385001
科目名	心理療法実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Psychotherapy		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	実習を通して他者と関わり、自分を知ることを目標とする。心理療法の実習そのものだけではなく、それを体験し、振り返り、自分について考えることや、他者に意見や気持ちを伝えることも学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席、レポート、自分なりのテーマをもち、自主的に学ぼうとする姿勢などの総合評価		
到達目標	実習を通して自分について理解を深める。自分が何を感じたか、どのように分析できるか、など考えることの訓練も目指す。		
準備学習	心理療法について多くの文献に接すること		
受講者への要望			
自主的に学ぼうとする姿勢を大切にして下さい。レポートなどの自主的な提出や、積極的に学ぶ姿勢を評価します			
講義の順序とポイント			
1、オリエンテーション 2、バウムテスト、風景構成法 3、事例・グループでの討論 4、箱庭 5、事例・グループでの討論 6、コラージュ 7、グループでのコラージュ 8、言語連想 9、言語連想分析 １０、スクイグル １１、事例・グループで討論 １２、プレイセラピー １３、事例を読む １４、夢について　事例を読む １５、実習をふりかえって			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J50395001
科目名	人格心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Personality Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	人間のパーソナリティをどのように捉え、どのように理解するのかは人格心理学ないしは心理学における中核的な課題である。本講義では、まず人格心理学における基本的な内容―パーソナリティの認知、理論、構造、発達、理解など―を一通りおさえる。その上で、人間の心についてテーマを定めて、映画などをマテリアルとして深層心理学的、臨床心理学的な視点から考察を深める。		
教材（テキスト）	講義中配布		
教材（参考文献）	講義中紹介		
教材（その他）			
評価方法	授業内に課す課題 50% 定期試験 50%		
到達目標	人間のパーソナリティについて理解する上で基本的な理論を理解し、 現代社会に生きる人間の心に纏わるさまざまな問題の深い理解につなげること。		
準備学習	心理学に限らず読書の幅を拡げる事。毎回の講義に際しては前回講義のノートに目を通して臨むこと。		

受講者への要望

私語は一切厳禁。授業の妨げになる場合には、退室を求める場合もある。
能動的に授業に出席すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション―どのように学ぶか
　　「私」の歴史について考える
2　パーソナリティの認知
3　パーソナリティの理論
4　パーソナリティの構造
5　パーソナリティの発達（1）
6　パーソナリティの発達（2）
7　パーソナリティの理解　心理テスト実習
8　子どもの心の世界について考える（1）　テーマ：目に見えないものを見る
9　解説　授業内レポート
10　心について理解を深める(1)　テーマ：心の変容について
11　心について理解を深める(2)
12　解説　授業内レポート
13 適応とは？まとめ
14　子どもの心の世界について考える（2）テーマ：子どもの遊びに見る宗教性
15　解説　授業内レポート

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50411001
科目名	図書館概論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Science		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	近年、情報技術の飛躍的発展とともに、資料は多様化を見せ、無定形の情報まで扱う時代が到来した。それとともに、図書館の館種も、大学図書館、企業などの専門図書館、小中学校、高校の学校図書館、自治体のサービス機関としての公共図書館など、各種多様になり、その相互の協力やネットワークが課題となってきた。さらにまた各個人のライフスタイルに合わせた種々の生涯学習機会を保証する機関としての意義も問われるに至った。つまり、サービス対象も、子どもから高齢者まで大きな広がりを持つとともに、生活圏の形成にも重要な役割を果たすことが期待されているのである。また、我が国のＮＧＯが東南アジアで活動している国際教育援助のメニューとして、図書館サービスが加えられていることに見られるように、「人間らしさ」の基盤としての図書館という視点も浮上している。 　本講義では、これらを念頭に置き、社会の急激な変化に対応する図書館像をさぐりたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（40%）レポート（60%）		
到達目標	図書館の基本についての理解をし、司書という資格取得のための学識を得る。その学識には図書館の社会における位置、意義、歴史と現状、館種別図書館、利用者ニーズ、類縁機関との連携、図書館職員の役割と資格、社会的状況と展望等が含まれる。		
準備学習	図書館および公共図書館の経営者たる地方公共団体への関心を常に必要とする。各回毎に情報収集を示すので地方公共団体等から情報を得る予備学習を必要とする。		
受講者への要望			
図書館司書の資格を取る第一歩であるから、覚悟をしっかりとして受講するように。			
講義の順序とポイント			
１．身近な図書館 ２．身近な図書館からさまざまな図書館へ ３．図書館間ネットワーク ４．図書館活動 ５．国際的な図書館活動 ６．読書の推進 ７．書誌コントロール ８．情報の社会基盤整備 ９．資源の共有 １０．地域の資料 １１．図書館の自由と歴史 １２．図書館の経営 １３．図書館法をめぐって １４．都市と図書館 １５．図書館の可能性			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50416001
科目名	政治社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代の社会では個人の自由は大きいように思われる。結婚相手の選択や、身につける衣装の好み、自分の意見を発表することも、自由であるように見える。しかし、少し深く考えてみると、本当に自由なのかどうかは確かではない。何についても全く自由に発言できるとは誰も思っていないし、メディアにおいて触れられないタブーの問題もある。また、近年では街のあちこちに監視カメラが増えていて、プライヴァシー侵害の問題が指摘されている。この講義では、現代社会のこのような問題について考える手がかりを提供する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	政治社会学の基本事項を知り、現代日本社会の監視社会的な特徴について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、現代社会の諸側面に関心をもっていてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2，監視カメラの増加とプライヴァシー
3，国民総背番号制と個人情報の保護
4，信教の自由と国家の強制力
5，政教分離
6，国旗の問題
7，国歌の問題
8，教科書検定
9，愛国心の問題
10，民主主義の意味
11，自由主義の意味
12，国家の概念
13，現在の天皇制の特色
14，天皇制と民主主義の関わり
15，政治と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J50416002
科目名	政治社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代の社会では個人の自由は大きいように思われる。結婚相手の選択や、身につける衣装の好み、自分の意見を発表することも、自由であるように見える。しかし、少し深く考えてみると、本当に自由なのかどうかは確かではない。何についても全く自由に発言できるとは誰も思っていないし、メディアにおいて触れられないタブーの問題もある。また、近年では街のあちこちに監視カメラが増えていて、プライヴァシー侵害の問題が指摘されている。この講義では、現代社会のこのような問題について考える手がかりを提供する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	政治社会学の基本事項を知り、現代日本社会の監視社会的な特徴について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、現代社会の諸側面に関心をもっていてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2，監視カメラの増加とプライヴァシー
3，国民総背番号制と個人情報の保護
4，信教の自由と国家の強制力
5，政教分離
6，国旗の問題
7，国歌の問題
8，教科書検定
9，愛国心の問題
10，民主主義の意味
11，自由主義の意味
12，国家の概念
13，現在の天皇制の特色
14，天皇制と民主主義の関わり
15，政治と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50420A01
科目名	生涯学習概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｓ
講義概要	２００６（平成１８）年１２月に改正された教育基本法には、「生涯学習の理念」を規定した条文が新設されている。同条では、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」ができる社会の実現が提唱されているが、今なぜ、そのような社会が目指されなければならないのだろうか。そもそも、それはどのような社会なのだろうか。これらの問題を考えるために、本講義では、代表的な理論や日本における政策の展開、社会教育の歴史などから生涯学習の基本的原理について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	生涯学習の基本原理を理論的観点、歴史的観点から理解できる。		
準備学習	周囲にある生涯学習関連施設（センター、図書館、博物館、美術館等）に目を向け、その活動内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　イントロダクション―生涯学習という概念
３．　生涯学習の理論①―ユネスコにおける生涯教育理論
４．　生涯学習の理論②―　　〃
５．　生涯学習の理論③―OECD におけるリカレント教育
６．　生涯学習の理論④―アメリカにおける学習社会論
７．　日本社会と生涯学習政策①―日本における生涯学習政策の展開
８．　日本社会と生涯学習政策②―地方自治体における生涯学習行政
９．　日本社会と生涯学習政策③―学校教育と生涯学習
１０．　日本社会と生涯学習政策④―まとめ、小テスト
１１．　社会教育とは何か①―社会教育の歴史
１２．　社会教育とは何か②―公民館
１３．　社会教育とは何か③―図書館
１４．　社会教育とは何か④―博物館
１５．　総括―生涯学習社会の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50420A02
科目名	生涯学習概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｓ
講義概要	２００６（平成１８）年１２月に改正された教育基本法には、「生涯学習の理念」を規定した条文が新設されている。同条では、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」ができる社会の実現が提唱されているが、今なぜ、そのような社会が目指されなければならないのだろうか。そもそも、それはどのような社会なのだろうか。これらの問題を考えるために、本講義では、代表的な理論や日本における政策の展開、社会教育の歴史などから生涯学習の基本的原理について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	生涯学習の基本原理を理論的観点、歴史的観点から理解できる。		
準備学習	周囲にある生涯学習関連施設（センター、図書館、博物館、美術館等）に目を向け、その活動内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　イントロダクション―生涯学習という概念
３．　生涯学習の理論①―ユネスコにおける生涯教育理論
４．　生涯学習の理論②―　　〃
５．　生涯学習の理論③―OECD におけるリカレント教育
６．　生涯学習の理論④―アメリカにおける学習社会論
７．　日本社会と生涯学習政策①―日本における生涯学習政策の展開
８．　日本社会と生涯学習政策②―地方自治体における生涯学習行政
９．　日本社会と生涯学習政策③―学校教育と生涯学習
１０．　日本社会と生涯学習政策④―まとめ、小テスト
１１．　社会教育とは何か①―社会教育の歴史
１２．　社会教育とは何か②―公民館
１３．　社会教育とは何か③―図書館
１４．　社会教育とは何か④―博物館
１５．　総括―生涯学習社会の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50420B01
科目名	生涯学習概論 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning II		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論 f
講義概要	現代に生きる私たちは、貧困や差別といった多くの困難に直面している。こうした問題を地域社会の中で考え、その解決に向けて市民や住民が主体的に社会教育を担っている例は数多くある。本講義では「社会的排除」と「社会的包摂」という概念を軸に、貧困や差別の問題に対して地域社会教育が果たす役割について学ぶ。このことを通して、自身が今後どのように地域社会とかかわっていくかを考えてほしい。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	地域社会教育の現状と課題を理解し、今後の方向性を考える力を身につける。		
準備学習	自身が生活する地域社会の教育活動に目を向け、その内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　地域社会における教育と学習を考える
３．　社会的排除論①
４．　社会的排除論②
５．　社会的排除論③
６．　映画鑑賞
７．　映画鑑賞（続き）と解説
８．　小括　小テスト
９．　子どもの貧困①　子育ち／子育てと地域社会
１０．　子どもの貧困②　学校と地域社会との連携・協働の取り組み
１１．　女性の貧困と女性問題学習①　女性の労働問題
１２．　女性の貧困と女性問題学習②　学習の方法
１３．　貧困と社会的孤立①　ホームレス
１４．　貧困と社会的孤立②　NPO によるホームレス支援
１５．　「社会的包摂」のあり方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50420B02
科目名	生涯学習概論 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning II		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論 f
講義概要	現代に生きる私たちは、貧困や差別といった多くの困難に直面している。こうした問題を地域社会の中で考え、その解決に向けて市民や住民が主体的に社会教育を担っている例は数多くある。本講義では「社会的排除」と「社会的包摂」という概念を軸に、貧困や差別の問題に対して地域社会教育が果たす役割について学ぶ。このことを通して、自身が今後どのように地域社会とかかわっていくかを考えてほしい。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	地域社会教育の現状と課題を理解し、今後の方向性を考える力を身につける。		
準備学習	自身が生活する地域社会の教育活動に目を向け、その内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　地域社会における教育と学習を考える
３．　社会的排除論①
４．　社会的排除論②
５．　社会的排除論③
６．　映画鑑賞
７．　映画鑑賞（続き）と解説
８．　小括　小テスト
９．　子どもの貧困①　子育ち／子育てと地域社会
１０．　子どもの貧困②　学校と地域社会との連携・協働の取り組み
１１．　女性の貧困と女性問題学習①　女性の労働問題
１２．　女性の貧困と女性問題学習②　学習の方法
１３．　貧困と社会的孤立①　ホームレス
１４．　貧困と社会的孤立②　NPO によるホームレス支援
１５．　「社会的包摂」のあり方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50425A01
科目名	生物学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology A		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜紹介する		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験・課題を勘案する		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
準備学習	生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。一番身近な生物は、自分自身です。		

受講者への要望

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

講義の順序とポイント

1　生物とは何か
2　メンデルの遺伝の法則
3　遺伝子からタンパク質へ（1）
4　遺伝子からタンパク質へ（2）
5　タンパク質の構造と機能
6　生物を構成する物質と生物の構造
7　生物の進化（1）
8　生物の進化（2）
9　生物の行動と生態（1）ライオンの生態
10　生物の行動と生態（2）性はなぜあるのか
11　生物の行動と生態（3）性にまつわる話題
12　生物の行動と生態（4）利他行動の進化
13　群集生態学
14　生物の起源
15　生物の分類と系統

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50425B01
科目名	生物学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology B		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能－1 6　タンパク質の機能－2 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能－1 9　核酸の機能－2 10　脂質 11　ビタミン 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J504360AB
科目名	卒業研究	単位数	4
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	This is the course to write your final paper!		
教材（テキスト）	I will give the students the necessary documents in class.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　Final Paper 20%		
到達目標	1.To further advance the students' understanding of writing in English 2.To become more familiar with describing things/situations 3.Construct different patterns for communicating in written English		
準備学習	Come to class, be prepared to learn, do the prescribed assignments, and have fun!		

受講者への要望

And don't be afraid to try!
授業に毎回出席すること。

講義の順序とポイント

1. Asking and asking questions
2　T1
3　T2
4　T3
5. Writing basic sentences
6　T1
7　T2
8　T3
9. Listening practice
10　T1
11　T2
12　T3
13　4. Debate section
14　How to prepare debates
15　Group work and Brainstorming & Small debates
※There will be plenty of practice along with mini-tests and quizzes during the semester

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	2	2	1	1	2	2

年度	2016	授業コード	J50447A01
科目名	地域文化論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture Regional Theory A		
担当者名	鈴木　和正	旧科目名称	
講義概要	近代において、地域文化を牽引する役割を果たしたのは学校や教師であった。そのため、地域文化を理解するためには、「地域」と「教育」の関わりについて知る必要がある。学校教育という営みは、地域における社会構造や文化状況との関わりにおいて展開されており、そもそも地域とのつながりなくしては存在し得なかった。 この講義では、特に地域社会における学校や教師、子どもについて考えたい。具体的には教育史や歴史学、児童文化に関する研究成果をベースとして、近代における地域社会について考察していく。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。 授業で使用する資料は、その都度プリントで配付する。		
教材（参考文献）	高橋敏『近代史のなかの教育』岩波書店、1999 年。 大門正克『民衆の教育経験 ―農村と都市の子ども』青木書店、2000 年。		
教材（その他）	視聴覚教材などを適宜使用する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況による。レポート（50%）		
到達目標	「地域」と「教育」の関わりについて理解する。 地域社会において、学校や教師が果たした役割について理解する。		
準備学習	集中講義のため、講義期間前に課題を配布します。講義開始時に要点を口頭発表してもらうので、よく読んで授業に臨んでください。		

受講者への要望

他の教育学・民俗学関連の講義と併せて受講することが望ましい。
不明な点があれば積極的に質問すること。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス；「地域」と「教育」について考える
2，地域と教育１―「学制」発布と学校の誕生
3，地域と教育２―学校と習俗の葛藤
4，地域と教育３―教育勅語と御真影
5，地域と教育４―戦争と学校
6，地域のなかの集団１―青年団の誕生
7，地域のなかの集団２―青年団の活動
8，地域社会の子ども１―村の子ども像
9，地域社会の子ども２―都市の子ども像
１０，地域文化の発生１―阪神間モダニズムの形成
１１，地域文化の発生２―児童の村小学校の誕生
１２，地域文化の発生３―地域経済の衰退と私立小学校の閉鎖
１３，地域綴方教育史１―綴方教育の展開
１４，地域綴方教育史２―綴方教師の活動
１５，地域綴方教育史３―学級文集の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50447B01
科目名	地域文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture Regional Theory B		
担当者名	鈴木　和正	旧科目名称	
講義概要	近年の日本では、地域社会および地域に根差した文化、すなわち地域文化への関心が高まっている。戦前においても、大正新教育運動や郷土教育運動の影響を受けた学校では、地域への関心を高め、地域教材が活用された。1930 年代の地域社会は深刻な不況に見舞われ、学校教育は地域社会の経済更生運動の中に組み込まれていった。こうした社会状況の中で、大正新教育における児童中心主義も変質していったとされる。 この講義では、地域社会を中心として学校教育がどのように展開されたのかを考えたい。また、愛郷心の養成をねらいとする郷土教育や民俗学運動についても考えたい。その手段として、主に教育史や歴史学、民俗学の成果を参考にしたい。最終的には受講者が、教育史や歴史学、民俗学の成果を学びながら自身が生活する地域及び文化をより深く理解することを目的とする。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。 授業で使用する資料は、その都度プリントで配付する。		
教材（参考文献）	中野光『大正自由教育の研究』黎明書房、1968 年。 鹿野政直『大正デモクラシーの底流』NHK ブックス、1973 年。 中野光『改訂増補 大正デモクラシーと教育』新評論、1990 年。 小国喜弘『民俗学運動と学校教育』東京大学出版会、2001 年。 外池智『昭和初期における郷土教育の施策と実践に関する研究』NSK 出版、2004 年。 伊藤純郎『増補　郷土教育運動の研究』思文閣出版、2008 年。 中野光『学校改革の史的原像』黎明書房、2008 年。		
教材（その他）	視聴覚教材などを適宜使用する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況による。レポート（50%）		
到達目標	地域社会と教育運動の関わりについて理解する。 「大正新教育運動」や「郷土教育運動」について理解する。 地域や地域文化について考える力を養う。		
準備学習	最初の講義までに、上記で紹介した教材（参考文献）を読んで予習しておくこと。また講義開始時に前回の要点を口頭発表してもらうので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
前期の地域文化論Ａと併せて受講することが望ましい。 不明な点があれば積極的に質問すること。			
講義の順序とポイント			
１、ガイダンス―地域社会と教育運動について考える ２、大正デモクラシー期の地域社会１ ３、大正デモクラシー期の地域社会２ ４、近畿地方の大正新教育１―及川平治と分団式教育 ５、近畿地方の大正新教育２―木下竹次と合科学習 ６、中国地方の大正新教育１―岡山県倉敷町の新教育 ７、中国地方の大正新教育２―広島県西条町の新教育 ８、中国地方の大正新教育３―山口県山口市の新教育 ９、恐慌期の地域社会と学校―新教育運動の衰退と郷土教育 １０、郷土教育運動の展開１ １１、郷土教育運動の展開２ １２、郷土教育運動の展開３ １３、郷土教育運動の展開４ １４、民俗学運動と学校教育１			

１５、民俗学運動と学校教育２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50458A01
科目名	中国文学概論Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Chinese Literature A		
担当者名	山本　孝子	旧科目名称	
講義概要	中国文学の発展を理解するため、先秦から六朝を中心に、各時代の代表的な作家および作品を取り上げ概説する。この授業では　『論語』や『孟子』、『老子』、『荘子』といった思想哲学書から、『史記』『漢書』等の歴史書、『詩経』や『楚辞』に集められる歌謡、漢代の賦といった韻文、六朝になって新たに出現した五言詩や短編小説といったジャンルを、つながりを意識しながら順に見ていく。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	映像資料を適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・芸術・文学に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の歴史・社会・文学・文化などに興味を持って臨むこと。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加すること。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．詩経 ３．楚辞 ４．『論語』『孟子』 ５．『老子』『荘子』 ６．まとめ①先秦 ７．『史記』 ８．『漢書』 ９．司馬相如、班固、張衡 １０．「楽府」 １１．　「建康七子」 １２．志怪小説 １３．まとめ②漢・魏・六朝 １４．六朝から唐へ １５．全体の流れを確認し、補足説明を行う ＊以上の内容は受講者数・進度によって変更の可能性がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	-	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J50458B01
科目名	中国文学概論Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Chinese Literature A		
担当者名	山本　孝子	旧科目名称	
講義概要	中国文学の発展を理解するため、この授業では、唐代以降、現代に至るまでを扱う。唐詩や宋詞、元曲といったそれぞれの時代を代表するジャンルを中心に代表的な作家および作品を取り上げ概説する。また、文言と白話、古典文学と現代文学の関係についても考える。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	映像資料を適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・芸術・文学に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の歴史・社会・文学・文化などに興味を持って臨むこと。		

受講者への要望

積極的に授業に参加すること。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス
２．唐①李白
３．唐②杜甫
４．唐③白居易
５．唐・宋の散文：「唐宋八代家」
６．宋①蘇軾
７．宋②黄庭堅
８．元曲
９．小説①
１０．小説②
１１．現代文学①
１２．現代文学②
１３．古典文学と現代文学①
１４．古典文学と現代文学②
１５．全体の流れを確認し、補足説明を行う
＊以上の内容は受講者数・進度によって変更の可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	-	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J50463A01
科目名	伝統文化実習 A （茶道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎をビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の実技を中心に行う。また茶の湯の菓子をデザインし、抹茶を点てる、頂くという、もてなしも体験していただきます。 また日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化の茶との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違にも言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、伝統文化の茶の湯を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	特になし、適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内での実技等による平常点 70%。お菓子のデザイン等の成果物 30%。		
到達目標	日本の伝統文化である茶の湯の実践的習得と異文化への理解。		
準備学習	茶の湯の実技の復習と知識の確認。		

受講者への要望

茶の湯に関心のある学生。

講義の順序とポイント

1．　実習のための総論
2．　茶の湯の基礎・割稽古
3．　同上
4．　同上
5．　茶の湯の基礎・盆略点前
6．　同上
7．　同上
8．　同上
9．　同上独自のお菓子をデザインして創作する
１０．　実践茶の湯のもてなし
１１．　同上
１２．　同上
１３．　同上
１４．　伝統的なお菓子と濃茶を体験する
１５．　世界のお茶でもてなす

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	J50463B01
科目名	伝統文化実習Ｂ（能楽）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	仕舞は、扇を持って、舞台で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。 謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分をみんなで一緒に謡って練習します。 どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。 着付けも練習します。		
教材（テキスト）	プリント・ＣＤなどを配布		
教材（参考文献）	能・狂言図典　　小林保治・森田拾四郎編　　小学館　　2003 刊		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加度や熱意。練習の習熟度。最後の発表会参加は必須です。		
到達目標	仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること		
準備学習	配布したＣＤを、繰り返し聞いておくこと 牛若丸（源義経）の話を読んでおくこと		

受講者への要望

初心者歓迎。伝統文化論Ｂの講義をあらかじめ受講する必要はありません。
不安な場合は担当者に相談してください。
授業時間内に他の人の練習を見学する時間もありますが、
「芸は盗むもの」
といいます。
伝統芸能は熱心に見ることで上達しますから、
そのつもりで意欲的に授業に取り組んでください。

講義の順序とポイント

1　仕舞の基本　　扇の持ち方と構え方　運歩　足拍子のリズム
2　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（前半）
3　復習
4　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（後半）
5　復習
6　謡「鶴亀」・仕舞の復習
7　謡　復習・仕舞の復習
8　謡「橋弁慶」弁慶と家来のやりとり　　仕舞「鶴亀」
9　謡「橋弁慶」牛若丸登場　　仕舞「鶴亀」
１０　謡「橋弁慶」五条の橋の対決　　仕舞「鶴亀」
１１　練習
１２　リハーサル
１３　着物や袴を身につけて仕舞を舞う　発表会　第一グループ
14　　同上　第二グループ
１５　同上　第三グループ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	★★	ー	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J50465001
科目名	伝統文化実習Ｃ（やきもの）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture C		
担当者名	佐々木　大和	旧科目名称	
講義概要	陶磁工芸には文字通り陶器と磁器がある。陶器工芸の作陶には、ろくろ成形と手びねり成形の二つがあるが、本講義では手びねり成形の楽茶碗の成形を行う。 なお、実習費の実費徴収（3,000 円程度）を授業内で行うので注意のこと。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	各種出版物		
教材（その他）			
評価方法	作品の出来の良し悪しではなく、製作過程の努力を評価対象とする。		
到達目標	鑑賞するだけでなく、実際に製作にたずさわることで、楽茶碗の理解に少しでも近づくこと		
準備学習	陶器と磁器の区別・茶道における茶碗の役割、位置付け・楽茶碗の歴史、特色などについて、基本的な知識を得ておくこと		
受講者への要望			
自分で積極的に書籍や美術館などで陶磁器、特に陶器についての知識を深めるように			
講義の順序とポイント			
1.陶磁器の歴史 2.粘土とは 3.粘土の準備 1 4.粘土の準備 2 5.土こね作業 1 6.土こね作業 2 7.成形の方法 8.回転台の使い方 9.成形作業 1 10.成形作業 2 11.釉の意味の役割 12.施釉作業 13.焼成の基本 14.焼成作業 15.評価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★			

年度	2016	授業コード	J50476A01
科目名	伝統文化論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	『茶道文化検定公式テキスト３級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考文献）	『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著　淡交社(1,900 円＋税) 必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点 50%。授業中に課するレポート等 50%。		
到達目標	日本の伝統文化である茶道を通して、幅広い総合芸術の様相の確認と異文化への理解。		
準備学習	テキストの予習、復習とプリントの確認をする。		
受講者への要望			
茶の湯に関心のある学生。			
講義の順序とポイント			
１．　伝統文化総論 ２．　日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．　同上 ４．　茶の湯入門 ５．　同上 ６．　同上 ７．　同上 ８．　茶の湯の建築入門 ９．　同上 １０．　同上 １１．　同上 １２．　茶の湯の庭入門 １３．　同上 １４．　同上 １５．　茶の湯と異文化交流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50476B01
科目名	伝統文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本の伝統文化は、中世に源流があると言われる。伝統文化論Ａは茶道を取りあげ、 この伝統文化論Ｂは能楽を取りあげるがいずれも中世に確立し、今日まで発展している 日本の伝統文化である。とくに京都は、その本場であるから、しっかり知識を身につけて欲しい。 茶道は静寂を旨とするから、音楽であり、劇である能楽は、茶道が持っていない面を補い、茶道と能楽は深く関わりつつ互いに補完する関係である。 講義では、伝統芸能の歴史から、能楽の内容、つまり文学（謡曲）・音楽（囃子）・工芸（能衣装）・彫刻（能面）・演技（型と舞）・能舞台（建築）の諸要素を、実際にシテ方能楽師（＝能面をかけて主役を担当する）として長年活動している山﨑が演技者の立場から解説する。 　百聞は一見にしかず、というが、演劇に関してはまさにその通りなので、京都市の平安神宮で毎年行われる 薪能（たきぎのう）を見学する。		
教材（テキスト）	プリントを作成して配布する。		
教材（参考文献）	『能楽と崑曲』（赤松紀彦他編　汲古書院　２５００円）		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト 薪能見学レポート		
到達目標	日本の伝統芸能の基本的な知識の修得。 舞台を見て能楽・文楽・歌舞伎の区別がつくこと。 芸能の素地となっている物語を理解していること。 実技がどんなものか、体験をしていること。 実際の生の舞台を見る経験をすること。		
準備学習	前回の授業内容の復習をすること。 興味をもって専門用語などを調べてみること。 古典芸能のテレビ放送などを見ておくこと。		

受講者への要望

毎回の講義を簡単にノートにまとめてみること。きちんと授業に出席すること。
大学からの補助がありますが、平安神宮の薪能見学のチケット代が千円程度必要です。

講義の順序とポイント

1　古典芸能史……能楽・文楽・歌舞伎のちがい
2　いちばん面白い能・「道成寺」…ＤＶＤで見る
3　「道成寺」後半を見る
4　能面のいろいろ
5　能「鉄輪」と『陰陽師』
6 能の五番立て　　神・男（武将）・女（姫君）・現在物（ドラマ）・鬼
7　能の台本・謡の見方と能舞台の工夫
8　平安神宮の薪能の見学（６月はじめの夕方～夜）
　　（都合がつかない人は別の公演を代用します）
9　「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇
１０　能楽の楽器のいろいろ　大鼓・小鼓・笛・太鼓
１１「葵上」源氏物語と能
１２　「海士」玉取り伝説と能
１３「邯鄲」中国の伝説と能
１４　「靱猿（うつぼざる）」の狂言

１５　能装束の工芸品としての要素

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50478A01
科目名	都市文化史Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Culture History A		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	都市伝説というコトバが学術用語ではなく一般の日常会話のなかに現れるようになったのは、それほど古い話ではない。村落共同体での口頭伝承である昔話の研究が進められる中で、都市においてもかつての昔話や伝説のような口頭伝承が生成されつつあることが明らかになり、「学校の怪談」などポピュラーな切り口がされるに至って、一般の人気を得たものと思われる。近代都市が生み出した様々な文化のあり処に思いを致す時、都市伝説の語感による都市と、文化史を結びつけた都市文化史は、その複雑怪奇性といい、百鬼夜行性といい申し分のない括り方ではないだろうか。都市文化史Ａでは江戸での怪談の形成から都市文化史を考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況等による。レポート（70%）		
到達目標	現代文明への批評的観点の養成と、歴史的事実との接続への関心。		
準備学習	各自関連文献を読んでおくのは重要である。毎回関連文献を提示するので、適時それに時間を割くように。		
受講者への要望			
一見合理的に成立しているような事象でも、歴史的に検証するとまったく違う理由から成立していることがわかったりする。そういうことへの関心を育てるように。			
講義の順序とポイント			
（1）江戸という都市 （2）辻と市 （3）境界としての都市 （4）市としての江戸 （5）江戸のエクソシスト （6）憑霊 （7）祐天上人 （8）日光・江戸開発 （9）利根川東遷 （10）水海道ＦＷ （11）表現装置としての都市 （12）皿屋敷 （13）東海道四谷怪談 （14）累ヶ淵 （15）ことばが紡ぎ出す都市			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	★★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J50496001
科目名	日本の文化と観光地を英語で	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Culture and Tourism in English		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	We will learn how to Introduce Japanese Culture to the world.		
教材（テキスト）	Let'S Introduce Japanese Culture! 日本文化を世界に By Kinuyo Koikawa Kentaro Yamada David Farrell Motoko Yakushiji Eihosha		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1.Give the students vocabulary and grammar to design a basic guidebook 2.Help the students to become more familiar with giving directions 3.Construct different patterns for communicating in spoken/written English		
準備学習	Come to class ready to learn. This class will be slightly more difficult than other semesters, but work hard and you can do well!		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることを勧めます。

講義の順序とポイント

We will learn how to tell people about Japan in Emglish
1.Introduction - Book
2.Quiz - Book
3.Kyoto ? more info - Book
4. Culture point - Book (2)
5.Tea (1) - Book
6.T1 - Book (2)
7.T2? Arts (1) - Book Quiz
8.T3 - Book (2)
9.Guidebooks - Book　(1)
10. writing (2)
11. ... in English Literature (1) - Book
12 ...　in English Literature (2) - Book
13.Survey writing
14.Final reports/discussion
15.Surveys

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	3	2	2	2	2	2

年度	2016	授業コード	J50501A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) I		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	近現代にかかわるいくつかのエピソードを取り上げ、その考察を通して日本人の精神構造を描き出してみたい。その際、前近代から受け継いでいるもの、あるいはそうでないものを腑分けしつつ分析をくわえ、日本人の思考や行動の特性について考えを深めていきたい。そのための材料として、今年度は怪獣と都市伝説を中心に据える。		
教材（テキスト）	なし。プリントやパワーポイント、そして映像などを使って論じていく。		
教材（参考文献）	授業内で適宜提示する。		
教材（その他）	授業内で適宜指示する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点 50%、期末レポート 30%、授業中課題 20%		
到達目標	日本人と日本文化について考えを深め、それを通じて自分自身が文化的にどのような立場に立っているのかについて一定の理解を得る。		
準備学習	準備は取り立てて必要ない。		

受講者への要望

毎回の授業を振り返って、「考えること」を怠らないで欲しい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―授業の概要と取り扱うテーマ、到達目標など。
2．民俗学的怪獣論（1）―映画『ゴジラ』を鑑賞する
3．民俗学的怪獣論（2）―民俗における祓いの構造とゴジラ・構成概念としての「民俗」
4．民俗学的怪獣論（3）―ゴジラ処理の日米比較・自然観とそれを支える宗教観について
5．民俗学的怪獣論（4）―ゴジラはなぜ品川から上陸するのか・境界を越えるゴジラ
6．民俗学的怪獣論（4）―怪獣観の変遷・現代人の怪獣観は如何にして形成されたか
7．都市伝説の生成、伝播、変容―テポドンが降ってくる・都市伝説とノストラダムスの大予言
8．　戦時下の噂話―近現代の戦争史概説
9．　戦時下の噂話―噂話の中の神々とその活動・戦争末期における民衆の心にせまる
10．西郷隆盛生存説と大津事件―明治期日本を揺るがした大事件と都市伝説
11．不思議な事件―都市伝説と犯罪
12．君が知っている都市伝説を語り合おう
13．漫才の歴史(1)―言祝ぎの芸能から玉子家円辰へ
14．漫才の歴史(2)―漫才の革新・しゃべくり漫才の登場と展開
15．結語―日本人の心のあり方と行動の特性について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50501A02
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) I		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	近現代にかかわるいくつかのエピソードを取り上げ、その考察を通して日本人の精神構造を描き出してみたい。その際、前近代から受け継いでいるもの、あるいはそうでないものを腑分けしつつ分析をくわえ、日本人の思考や行動の特性について考えを深めていきたい。そのための材料として、今年度は怪獣と都市伝説を中心に据える。		
教材（テキスト）	なし。プリントやパワーポイント、そして映像などを使って論じていく。		
教材（参考文献）	授業内で適宜提示する。		
教材（その他）	授業内で適宜指示する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点 50%、期末レポート 30%、授業中課題 20%		
到達目標	日本人と日本文化について考えを深め、それを通じて自分自身が文化的にどのような立場に立っているのかについて一定の理解を得る。		
準備学習	準備は取り立てて必要ない。		

受講者への要望

毎回の授業を振り返って、「考えること」を怠らないで欲しい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―授業の概要と取り扱うテーマ、到達目標など。
2．民俗学的怪獣論（1）―映画『ゴジラ』を鑑賞する
3．民俗学的怪獣論（2）―民俗における祓いの構造とゴジラ・構成概念としての「民俗」
4．民俗学的怪獣論（3）―ゴジラ処理の日米比較・自然観とそれを支える宗教観について
5．民俗学的怪獣論（4）―ゴジラはなぜ品川から上陸するのか・境界を越えるゴジラ
6．民俗学的怪獣論（4）―怪獣観の変遷・現代人の怪獣観は如何にして形成されたか
7．都市伝説の生成、伝播、変容―テポドンが降ってくる・都市伝説とノストラダムスの大予言
8．　戦時下の噂話―近現代の戦争史概説
9．　戦時下の噂話―噂話の中の神々とその活動・戦争末期における民衆の心にせまる
10．西郷隆盛生存説と大津事件―明治期日本を揺るがした大事件と都市伝説
11．不思議な事件―都市伝説と犯罪
12．君が知っている都市伝説を語り合おう
13．漫才の歴史(1)―言祝ぎの芸能から玉子家円辰へ
14．漫才の歴史(2)―漫才の革新・しゃべくり漫才の登場と展開
15．結語―日本人の心のあり方と行動の特性について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50505A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the Early Modern Age of Japan) I		
担当者名	谷　徹也	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近世（織豊・江戸・幕末維新）の政治史を扱います。織田信長や豊臣秀吉、江戸幕府の歴代将軍など、その時々の権力者についての概説を最新の学説を踏まえながら時代順に行い、人物や事件についての理解を深めていくことで、実態に即して歴史を読み解く楽しさを学んでもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません		
教材（参考文献）	授業中に紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配布します		
評価方法	平常点 50％（出席・参加状況）、期末レポート 50％		
到達目標	人物や事件を多面的な視角から捉える力を身につけることを目標とします。		
準備学習	高校で学習した基本的な知識が前提となるので、各自で復習をしてください。		

受講者への要望

歴史学特殊講義（日本近世史）IIとあわせて近世の時代像を掴むため、両方を受講することが望ましい。また、授業における積極的な参加・発言を求めます。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　織田信長は革命児か ―「第六天魔王」の素顔
3　豊臣秀吉の天下一統 ―「公儀」国家の創出
4　徳川家康の江戸開府 ―関ヶ原合戦と大坂の陣
5　徳川家光と島原の乱 ―キリシタン禁令の裏側
6　徳川家綱の「三大美事」 ―殉死は美徳か不義か
7　「犬公方」徳川綱吉 ―生類憐みの令は悪法か
8　新井白石と間部詮房 ―「正徳の治」の舞台裏
9　徳川吉宗と徳川宗春 ―倹約か緩和か
10　田沼意次は悪徳政治家か ―賄賂の構造
11　松平定信と北方の脅威 ―海防の時代
12　水野忠成と水野忠邦 ―傾きゆく幕府
13　阿部正弘と井伊直弼―鎖国か開国か
14　徳川家茂・慶喜の苦悩 ―幕末維新の群像
15　まとめ ―近世政治史の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2016	授業コード	J50505A02
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the Early Modern Age of Japan) I		
担当者名	谷　徹也	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近世（織豊・江戸・幕末維新）の政治史を扱います。織田信長や豊臣秀吉、江戸幕府の歴代将軍など、その時々の権力者についての概説を最新の学説を踏まえながら時代順に行い、人物や事件についての理解を深めていくことで、実態に即して歴史を読み解く楽しさを学んでもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません		
教材（参考文献）	授業中に紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配布します		
評価方法	平常点 50％（出席・参加状況）、期末レポート 50％		
到達目標	人物や事件を多面的な視角から捉える力を身につけることを目標とします。		
準備学習	高校で学習した基本的な知識が前提となるので、各自で復習をしてください。		

受講者への要望

歴史学特殊講義（日本近世史）IIとあわせて近世の時代像を掴むため、両方を受講することが望ましい。また、授業における積極的な参加・発言を求めます。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　織田信長は革命児か ―「第六天魔王」の素顔
3　豊臣秀吉の天下一統 ―「公儀」国家の創出
4　徳川家康の江戸開府 ―関ヶ原合戦と大坂の陣
5　徳川家光と島原の乱 ―キリシタン禁令の裏側
6　徳川家綱の「三大美事」 ―殉死は美徳か不義か
7　「犬公方」徳川綱吉 ―生類憐みの令は悪法か
8　新井白石と間部詮房 ―「正徳の治」の舞台裏
9　徳川吉宗と徳川宗春 ―倹約か緩和か
10　田沼意次は悪徳政治家か ―賄賂の構造
11　松平定信と北方の脅威 ―海防の時代
12　水野忠成と水野忠邦 ―傾きゆく幕府
13　阿部正弘と井伊直弼―鎖国か開国か
14　徳川家茂・慶喜の苦悩 ―幕末維新の群像
15　まとめ ―近世政治史の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2016	授業コード	J50505B01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the early modern age of Japan) II		
担当者名	谷　徹也	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近世（織豊・江戸・幕末維新）の社会史を扱います。人々と信仰・経済・権力との関わりなど、その時々の民衆の生活についての概説を最新の学説を踏まえながら行い、近世の習俗についての理解を深めていくことで、実態に即して歴史を読み解く楽しさを学んでもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません		
教材（参考文献）	授業中に紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配布します		
評価方法	平常点 50％（出席・参加状況)、期末レポート 50％		
到達目標	人々の生活を多面的な視角から捉える力を身につけることを目標とします。		
準備学習	高校で学習した基本的な知識が前提となるので、各自で復習をしてください。		

受講者への要望

歴史学特殊講義（日本近世史）Ｉとあわせて近世の時代像を掴むため、両方を受講することが望ましい。また、授業における積極的な参加・発言を求めます。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　二つの「亀山城」 ―勘違いで壊された天守閣
3　神は死んだのか ―神判と起請返し
4　秀吉は綺麗好き？ ―京の都の衛生環境
5　民衆といくさ ―禁制合戦
6　豊国祭礼と大坂の陣 ―豊臣びいきの民衆たち
7　近世のご法度―慶安の御触書と軍役令は幕府法か
8　飛神魔法奇異妖怪 ―所司代ＶＳ怪異・偽書・傾奇者
9　目安箱は誰がために ―出訴と世論
10　猫証文 ―近世のペット事情
11　早起きは三文のトク ―近世の物価
12　為せば成る ―「明君」たちの藩政改革
13　地域リーダーと「義民」 ―地域社会の成熟
14　幕末日本への「旅」 ―青い目とレンズを通して
15　まとめ ―近世社会の習俗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2016	授業コード	J50505B02
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the early modern age of Japan) II		
担当者名	谷　徹也	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近世（織豊・江戸・幕末維新）の社会史を扱います。人々と信仰・経済・権力との関わりなど、その時々の民衆の生活についての概説を最新の学説を踏まえながら行い、近世の習俗についての理解を深めていくことで、実態に即して歴史を読み解く楽しさを学んでもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません		
教材（参考文献）	授業中に紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配布します		
評価方法	平常点 50％（出席・参加状況)、期末レポート 50％		
到達目標	人々の生活を多面的な視角から捉える力を身につけることを目標とします。		
準備学習	高校で学習した基本的な知識が前提となるので、各自で復習をしてください。		

受講者への要望

歴史学特殊講義（日本近世史）Ｉとあわせて近世の時代像を掴むため、両方を受講することが望ましい。また、授業における積極的な参加・発言を求めます。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　二つの「亀山城」 ―勘違いで壊された天守閣
3　神は死んだのか ―神判と起請返し
4　秀吉は綺麗好き？ ―京の都の衛生環境
5　民衆といくさ ―禁制合戦
6　豊国祭礼と大坂の陣 ―豊臣びいきの民衆たち
7　近世のご法度―慶安の御触書と軍役令は幕府法か
8　飛神魔法奇異妖怪 ―所司代ＶＳ怪異・偽書・傾奇者
9　目安箱は誰がために ―出訴と世論
10　猫証文 ―近世のペット事情
11　早起きは三文のトク ―近世の物価
12　為せば成る ―「明君」たちの藩政改革
13　地域リーダーと「義民」 ―地域社会の成熟
14　幕末日本への「旅」 ―青い目とレンズを通して
15　まとめ ―近世社会の習俗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2016	授業コード	J50510A01
科目名	日本文学特殊講義Ａ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature A		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	この授業では日本の近代文学を学ぶ入り口として、広い意味での「歴史小説」、すなわち歴史上の事件や人物などを素材として構成された小説を中心に読んでいきます。主に取り扱うのは芥川龍之介、菊池寛、森鴎外の作品です。 授業ではまず、『高瀬舟』『羅生門』などといった高校までの「国語」の授業で取り扱うことも多い作品を、大学での「文学研究」において重要となる実証的な手法、すなわち本文や文脈の精査、素材や典拠の検討、他作品との比較、文化的背景の考察などを通して読み解き、作品への理解を深めます。また「歴史小説」についての評論などを読むことを通して、「(歴史) 小説」とは何か、「文学」とは何かという問題について考えます。		
教材（テキスト）	芥川龍之介『地獄変・邪宗門・好色・藪の中 他七篇』(岩波文庫、緑 70-2)。ほか、授業中に配付・指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配付する。ほか、映像作品、パワーポイントを使用する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(40%)。授業中に指示するレポートと出席状況、ミニッツペーパー等による平常点（60%)。		
到達目標	・芥川龍之介、菊池寛、森鴎外についての知識を身につけ、作品への理解を深める ・「歴史小説」について理解する ・近代の文学作品を自分なりの視点から読み解けるようになる ・近代文学を読む上で知っておくべき基礎的知識やツールについて理解する		
準備学習	授業中に指示する。事前学習を指示した作品は次の授業までに必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、次の授業までに必ず読んでおくこと。ミニッツペーパーやレポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

秋学期に実施される日本文学特殊講義 B・E と関連する内容である。と関連する内容である。必須ではないが、それらと併せて受講すると理解がより深まるだろう。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.森鴎外『高瀬舟』①
3.森鴎外『高瀬舟』②
4.芥川龍之介『羅生門』
5.芥川『藪の中』.①―映画『羅生門』観賞
6.芥川『藪の中』②
7.芥川と菊池寛の歴史小説①―映画『地獄門』観賞
8.芥川と菊池寛の歴史小説②―菊池寛『袈裟の良人』 1
9.芥川と菊池寛の歴史小説③―菊池寛『袈裟の良人』 2
10.芥川と菊池寛の歴史小説④―芥川『袈裟と盛遠』
11.芥川と菊池寛の歴史小説⑤―菊地寛『俊寛』
12.芥川と菊池寛の歴史小説⑥―芥川『俊寛』
13.「歴史小説」について考える①
14.「歴史小説」について考える②
15.小テストの返却と解説、授業内容の総括・補足

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50510B01
科目名	日本文学特殊講義Ｂ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature B		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	この授業では、おもに大正・昭和初期の文学を扱います。大正・昭和初期の文学史を学びつつ、この時代の代表的な作品や評論を読み解くことを通して、日本の近代文学と近代についての理解を深め、様々な視点から文学作品を読み解く力を身に付けることを目標とします。特に重点を置くのは夏目漱石と谷崎潤一郎です。		
教材（テキスト）	授業中に配付・指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配付する。映像作品、パワーポイントを使用する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(40%)。授業中に指示するレポートと出席状況、ミニッツペーパー等による平常点（60%)。		
到達目標	・日本の近代文学に対する理解を深める ・取り上げる作家や作品についての知識を身につけ、理解を深める ・様々な視点から近代の文学作品を読み解く力を身に付ける ・近代文学を読む上で知っておくべき基礎的知識やツールについて理解する		
準備学習	授業中に指示する。事前学習を指示した作品は次の授業までに必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、授業までに必ず目を通しておくこと。授業後のミニッツペーパー、レポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

春学期に実施される日本文学特殊講義Ａ、秋学期に実施される日本文学特殊講義Ｅと関連する内容である。必須ではないが、それらと併せて受講すると理解がより深まるだろう。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.夏目漱石①―映画『こころ』観賞
3.夏目漱石②―漱石『こころ』を読む１
4.夏目漱石③―漱石『こころ』を読む２
5.自然主義と反自然主義の文学について
6.谷崎潤一郎①―『刺青』
7.谷崎潤一郎②―『痴人の愛』
8.谷崎潤一郎③
9.白樺派の文学①―武者小路実篤
10.白樺派の文学②―志賀直哉
11.菊池寛・芥川龍之介の文学①
12.菊池寛・芥川龍之介の文学②
13.モダニズム文学・プロレタリア文学①
14.モダニズム文学・プロレタリア文学②
15.小テストの返却と解説、授業内容の総括・補足

＊参加者の関心や理解状況等に応じて、授業の順序・内容は変更する場合がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50510E01
科目名	日本文学特殊講義Ｅ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature E		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	この授業では、おもに明治時代の日本文学を扱います。明治時代の文学史を学びつつ、この時代の代表的な作品や評論を読み解くことを通して、日本の近代文学と明治時代についての理解を深め、様々な視点から文学作品を読み解く力を身に付けることを目標とします。特に重点を置くのは泉鏡花と夏目漱石です。		
教材（テキスト）	授業中に配付・指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配付する。映像作品、パワーポイントを使用する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(40%)。授業中に指示するレポートと出席状況、ミニッツペーパー等による平常点（60%)。		
到達目標	・日本の近代文学に対する理解を深める ・取り上げる作家や作品についての知識を身につけ、理解を深める ・様々な視点から近代の文学作品を読み解く力を身に付ける ・近代文学を読む上で知っておくべき基礎的知識やツールについて理解する		
準備学習	授業中に指示する。事前学習を指示した作品は次の授業までに必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、授業までに必ず目を通しておくこと。ミニッツペーパーやレポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

春学期に実施される日本文学特殊講義Ａ、秋学期に実施される日本文学特殊講義Ｂと関連する内容である。必須ではないが、それらと併せて受講すると理解がより深まるだろう。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.明治初期の文学
3.森鴎外
4.「紅露の時代」の文学
5.樋口一葉①―樋口一葉の生涯と作品／『たけくらべ』
6.樋口一葉②―『わかれ道』
7.泉鏡花①―泉鏡花の生涯と作品１／映画『外科室』観賞
8.泉鏡花②―泉鏡花の生涯と作品２／舞台映像『湯島の境内』鑑賞
9.泉鏡花③
10.泉鏡花④
11.夏目漱石①―夏目漱石の生涯と作品
12.夏目漱石②―『夢十夜』
13.夏目漱石③―『それから』１
14.夏目漱石④―『それから』２
15.小テストの返却と解説、授業内容の総括・補足
＊参加者の理解状況等に応じて、授業の順序・内容は変更する場合がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50510F01
科目名	日本文学特殊講義Ｆ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature F		
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	『小倉百人一首』は、勅撰和歌集から精選されたアンソロジーである。四季折々の自然を詠んだものや、男女の恋の歌が多く、いずれも珠玉の作品である。この授業では、『小倉百人一首』の歌を毎回一～二首ずつ取り上げ、歌枕や本歌取りなど和歌の表現技法について説明をくわえた上で、個々の和歌を鑑賞する。さらに、各歌が詠まれた背景となる文献や歌人のエピソードも紹介し、和歌に対する理解を深められるようにする。『百人一首』を通して、「歌合」「題詠」など和歌を読む上で知っておくべき基礎知識についても学習する。また『小倉百人一首』では、奈良時代から鎌倉時代までほぼ時代順に歌人が配列されている。各時代の代表的な歌人を順にとりあげ、王朝和歌史についても把握できるよう 工夫して講義を行う。		
教材（テキスト）	授業中に適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施する小テスト（50%）、期末試験（50%）		
到達目標	①和歌の読解方法を習得すること②和歌に関する基礎知識を身につけること③王朝和歌史を学ぶことを目標とする。さらに、和歌を通して日本人の美意識や心のありように対して関心を持ち、日本文化を理解する一助としてほしい。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で授業に参加するよう心がけてもらいたい。また、私語は厳禁とする。古典文法に苦手意識がある受講生にもわかるよう文法もふくめ解説するので、特に和歌や古文の知識は必要としない。			
講義の順序とポイント			
１　授業のすすめ方　及び和歌に関する基礎用語、『小倉百人一首』について ２　柿本人麿　―『万葉集』、枕詞と序詞― ３　小野小町　―六歌仙時代、掛詞と縁語― ４　在原業平　大江千里　―漢詩文と和歌― ５　紀貫之　―『古今和歌集』の構成、「本意」の形成― ６　平兼盛　壬生忠見　―歌合― ７　藤原公任　能因法師　―秀歌撰、数寄歌人、歌枕― ８　右大将道綱母　和泉式部　―女流日記文学と和歌、贈答歌― ９　清少納言　―『枕草子』と和歌― １０　源俊頼　藤原清輔　―歌学― １１　西行　―題詠― １２　藤原定家　―『新古今和歌集』、本歌取り― １３　式子内親王　―和歌とジェンダー― １４　天智天皇　後鳥羽院　順徳院　―天皇の和歌― １５　源実朝　―近代短歌と和歌―			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50513A01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) I		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	現在の世界情勢において、日本と他国との外交問題を考える際、必要なのは歴史に関する正しい理解を持つことと他国のアイデンティティーを理解することである。歴史に関する正しい理解とは、悠久の歴史の中で培われた、日本と諸外国との交渉の実態を理解し、現在起こってる外交問題の淵源がどこにあるかを明らかにすることで生まれる。そして、過去の事実を振り返り、考証して、自分自身の見解を持つことは歴史を学ぶ者として必要な態度である。 本講では、日本古代の外交や渡来儀式関係の文書を取り上げ、当時の国際秩序と外交の意味、外交によってもたらされたもの、それが日本の社会に及ぼした影響など、古代日本と東アジア諸国との関係を見ていく。また、渡来儀式次第に見られる、日本と中国との相違を通じて、日本独自の社会通念についても言及する。		
教材（テキスト）	テキストはない。授業時にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	写真などを利用する。		
評価方法	授業内レポートなどによる平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	古代の日本が、外交によって東アジア諸国の影響を受けながら、自国の秩序に基づき制度や文化を導入していたことを理解する。辞書や事典などを使って史料が読める。		
準備学習	日本史や世界史の教科書や資料集や地図帳に目を通しておくこと。また、授業中に史料を読むので、高校の漢文でレ点や一二点などの訓点を、古文の教科書で旧仮名づかいを復習しておくこと。		
受講者への要望			
理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁。間違ってもいいので質問には積極的に回答すること。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：東アジアの国際秩序について ２、中国史書が語る「倭」 ３、日本と唐Ⅰ ４、日本と唐Ⅱ ５、日本と朝鮮半島 ６、遣唐使 ７、平安時代の国際情勢 ８、入唐留学僧の記録 ９、日宋貿易 １０、平安時代の学問 １１、年中行事 １２、雅楽の受容 １３、釈奠儀式 １４、「大唐開元礼」と「延喜式」 １５、古代日本と東アジアーむすびにかえて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50513A02
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) I		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	現在の世界情勢において、日本と他国との外交問題を考える際、必要なのは歴史に関する正しい理解を持つことと他国のアイデンティティーを理解することである。歴史に関する正しい理解とは、悠久の歴史の中で培われた、日本と諸外国との交渉の実態を理解し、現在起こってる外交問題の淵源がどこにあるかを明らかにすることで生まれる。そして、過去の事実を振り返り、考証して、自分自身の見解を持つことは歴史を学ぶ者として必要な態度である。 本講では、日本古代の外交や渡来儀式関係の文書を取り上げ、当時の国際秩序と外交の意味、外交によってもたらされたもの、それが日本の社会に及ぼした影響など、古代日本と東アジア諸国との関係を見ていく。また、渡来儀式次第に見られる、日本と中国との相違を通じて、日本独自の社会通念についても言及する。		
教材（テキスト）	テキストはない。授業時にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	写真などを利用する。		
評価方法	授業内レポートなどによる平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	古代の日本が、外交によって東アジア諸国の影響を受けながら、自国の秩序に基づき制度や文化を導入していたことを理解する。辞書や事典などを使って史料が読める。		
準備学習	日本史や世界史の教科書や資料集や地図帳に目を通しておくこと。また、授業中に史料を読むので、高校の漢文でレ点や一二点などの訓点を、古文の教科書で旧仮名づかいを復習しておくこと。		
受講者への要望			
理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁。間違ってもいいので質問には積極的に回答すること。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：東アジアの国際秩序について ２、中国史書が語る「倭」 ３、日本と唐Ⅰ ４、日本と唐Ⅱ ５、日本と朝鮮半島 ６、遣唐使 ７、平安時代の国際情勢 ８、入唐留学僧の記録 ９、日宋貿易 １０、平安時代の学問 １１、年中行事 １２、雅楽の受容 １３、釈奠儀式 １４、「大唐開元礼」と「延喜式」 15、古代日本と東アジアーむすびにかえて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50513B01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) II		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	平安時代、令外官である左右近衛府が成立し、古代の衛府制度は大きく転換する。左右近衛府は左右兵衛府、左右衛門府とともに六衛府と称され、宮中警護を任務とし年中行事に参列し威儀を整えた。近衛府の下級官人の中には、能力によって官人の職を継承していく一方で、摂関家に重用され、荘園や散所の管理権を得るなど、摂関家家産機構の一員に組み込まれる特定の家が現れた。これは、公的業務を通じて特定の個人（家）と主従関係を築き、一人でいくつもの立場を兼任するという現象である。本講では、近衛府下級官人であった下毛野氏の存在形態通して、官職世襲や摂関家との結びつきを容易にした当時の政治・社会制度を考える。また、史料講読を行い、古代史料の読み方や語句の調べ方などを学ぶ。		
教材（テキスト）	テキストはない。授業中にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	参考文献は適宜指示する。		
教材（その他）	画像なども使用する。		
評価方法	授業内レポートなどを平常点とする（５０％）。定期テスト（５０％）		
到達目標	平安時代の政治・社会制度の中で、特定の家との間に生まれたつながりによって、下級官人が特定の家の家産機構に組み込まれていくことを理解する。辞書や事典などを使って古代史料の解読ができる。		
準備学習	高校の日本史の教科書や資料集などを読んでおくこと。また、授業中に史料を読むので、高校の漢文でレ点や一二点などの訓点を、古文の教科書で旧仮名づかいを復習しておくこと。		
受講者への要望			
理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁。間違ってもいいので質問には積極的に回答すること。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：授業を始めるにあたっての予備知識 ２、平安時代の政治と制度 ３、平安時代の社会と文化 ４、平安時代の史料Ⅰ ５、平安時代の史料II ６、古代の衛府制度 ７、六衛府の成立と近衛府下級官人 ８、衛府の贄貢進と雑事 ９、摂関家家産機構の展開（荘園） １０、随身とは １１、下毛野氏について １２、説話に見える下毛野氏 １３、下毛野氏と摂関家所領 １４、随身家の成立 １５、まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50513B02
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) II		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	平安時代、令外官である左右近衛府が成立し、古代の衛府制度は大きく転換する。左右近衛府は左右兵衛府、左右衛門府とともに六衛府と称され、宮中警護を任務とし年中行事に参列し威儀を整えた。近衛府の下級官人の中には、能力によって官人の職を継承していく一方で、摂関家に重用され、荘園や散所の管理権を得るなど、摂関家家産機構の一員に組み込まれる特定の家が現れた。これは、公的業務を通じて特定の個人（家）と主従関係を築き、一人でいくつもの立場を兼任するという現象である。本講では、近衛府下級官人であった下毛野氏の存在形態通して、官職世襲や摂関家との結びつきを容易にした当時の政治・社会制度を考える。また、史料講読を行い、古代史料の読み方や語句の調べ方などを学ぶ。		
教材（テキスト）	テキストはない。授業中にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	参考文献は適宜指示する。		
教材（その他）	画像なども使用する。		
評価方法	授業内レポートなどを平常点とする（５０％）。定期テスト（５０％）		
到達目標	平安時代の政治・社会制度の中で、特定の家との間に生まれたつながりによって、下級官人が特定の家の家産機構に組み込まれていくことを理解する。辞書や事典などを使って古代史料の解読ができる。		
準備学習	高校の日本史の教科書や資料集などを読んでおくこと。また、授業中に史料を読むので、高校の漢文でレ点や一二点などの訓点を、古文の教科書で旧仮名づかいを復習しておくこと。		
受講者への要望			
理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁。間違ってもいいので質問には積極的に回答すること。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：授業を始めるにあたっての予備知識 ２、平安時代の政治と制度 ３、平安時代の社会と文化 ４、平安時代の史料Ⅰ ５、平安時代の史料II ６、古代の衛府制度 ７、六衛府の成立と近衛府下級官人 ８、衛府の贄貢進と雑事 ９、摂関家家産機構の展開（荘園） １０、随身とは １１、下毛野氏について １２、説話に見える下毛野氏 １３、下毛野氏と摂関家所領 １４、随身家の成立 １５、まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50529D01
科目名	日本語学特殊講義Ｄ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Language Study D		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	現代人である私たちにとって、古代の日本語が記された資料は難解で、ほとんど理解できないこともある。これは、古代から現代までのあいだに、日本語に何らかの変化が起こった、ということの現れである。 文法に注目しても、古代日本語にみられる係り結びや助詞、助動詞などのうちのいくつかが、現代語では既に失われてしまっている、と考えられる。また反対に、近代語・現代語に特有の文法もある。 この講義では、現代語と古代語では日本語の文法が変化している、という点に着目する。まずはじめに古代日本語の様相を知ることができる資料について概観し、そして、そこに見られるいくつかの現象をピックアップし、考察を行っていく。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	小田勝『古代日本語文法』おうふう 金田一春彦『日本語　新版（下)』岩波新書		
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）出席状況等による。学期末レポート（50%）		
到達目標	日本語の文法が、どのような歴史的変遷を経て、現代日本語へとつながっていったのか、という点について考える。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する		

受講者への要望

講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む

講義の順序とポイント

１．古代日本語についての基礎知識①
２．古代日本語についての基礎知識②
３．古代日本語についての基礎知識③
４．名詞
５．動詞
６．さまざまな述語
７．時間についての表現
８．文の述べかた
９．形容詞・副詞
１０．代名詞・指示語
１１．句と文①
１２．句と文②
１３．助詞①
１４．助詞②
１５．複文

※講義の内容については、受講者の希望に応じて変更することがある

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50539101
科目名	日本史研究入門　Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y Ⅰ		
担当者名	中町　美香子	旧科目名称	
講義概要	日本史を研究していく上で、史料を読み、内容を正確に理解することは最も基本であり、また、不可欠なことである。この講義では、そのためにまず知っておくべき基礎知識を学び、研究に必要なさまざまな事柄を調べる方法を学ぶ。そして、実際に、調べたり史料の読解を行ったりしながら、それらを習得していく。前期の「日本史研究入門Ⅰ」はその基礎編、後期の「日本史研究入門Ⅱ」はその応用編である。「日本史研究入門Ⅰ」では、とくに基礎的な知識を習得すること、調べる力を養うことに重点をおく予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	講義内で出す課題等による平常点（60%）と期末課題（40%）で評価する。		
到達目標	日本史の史料を読む上での基本的な事項を理解する。知りたいことを自分で調べられるようになる。		
準備学習	学んだことを復習し、それを利用して出された課題を仕上げる。あらかじめプリントを配布した場合は指示した作業を行っておく。		
受講者への要望			
講義ではあるが、各自に作業してもらうことも多いので、積極的に取り組んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．　ガイダンス ２．　日本史の基礎知識 ３．　日本史関係の辞書・文献① ４．　日本史関係の辞書・文献② ５．　日本史関係のデータベース等 ６．　図書館・博物館等 ７．　日本史の史料①（史料を見つける） ８．　日本史の史料②（史料について知る） ９．　日本史の史料③（史料探訪） １０．日本史の史料④（史料を疑う） １１．古代史の史料 １２．中世史の史料 １３．近世史の史料 １４．近代史の史料 １５．レポート・論文の作法（基礎編）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J50539201
科目名	日本史研究入門　II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y II		
担当者名	中町　美香子	旧科目名称	
講義概要	日本史を研究していく上で、史料を読み、内容を正確に理解することは最も基本であり、また、不可欠なことである。この講義では、そのためにまず知っておくべき基礎知識を学び、研究に必要なさまざまな事柄を調べる方法を学ぶ。そして、実際に、調べたり史料の読解を行ったりしながら、それらを習得していく。前期の「日本史研究入門Ⅰ」はその基礎編、後期の「日本史研究入門Ⅱ」はその応用編である。「日本史研究入門Ⅱ」では、前期の「日本史研究入門Ⅰ」で学んだ知識を活かしながら、調べることや史料を読むことを中心に進める予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	講義内で出す課題等による平常点（60%）と期末課題（40%）で評価する。		
到達目標	日本史の史料を読む上での基本的な事項を理解し、知りたいことを自分で調べられるようになる。史料の読み方の基本を習得する。		
準備学習	学んだことを復習し、それを利用して出された課題を仕上げる。あらかじめプリントを配布した場合は指示した作業を行っておく。		

受講者への要望

講義ではあるが、各自に作業してもらうことも多いので、積極的に取り組んでもらいたい。

講義の順序とポイント

1．　ガイダンス
2．　史料読解の基礎①
3．　史料読解の基礎②
4．　古代史の研究と史料読解①
5．　古代史の研究と史料読解②
6．　古代史の研究と史料読解③
7．　中世史の研究と史料読解①
8．　中世史の研究と史料読解②
9．　中世史の研究と史料読解③
10．近世史の研究と史料読解①
11．近世史の研究と史料読解②
12．近世史の研究と史料読解③
13．近代史の研究と史料読解①
14．近代史の研究と史料読解②
15．レポート・論文の作法（応用編）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	★★	–	–

年度	2016	授業コード	J50544A01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) I		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	本講では、仏教・寺院を中心的素材としながら、日本の古代社会から中世社会への転換過程を検討する。王朝国家体制における政策体系の変化を契機として、古代仏教が中世仏教に自己変革してゆく道程を具体的に明らかにする。また、その歴史過程がはらむ矛盾がどのような新たな歴史展開をもたらしたのかを考えたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	・日本の古代中世史についての最新の学説を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講者への要望			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
講義の順序とポイント			
1.「鎌倉新仏教」概念の破綻 2.宗教における合理性と非合理性 3.呪詛と祈祷 4.律令体制から王朝国家体制へ 5.宗教政策の転換 6.中世寺院への転換 7.寺院による文書偽造 8.末法思想の流布 9.民衆にとっての強訴とは？ 10.顕密仏教の民衆的基盤 11.鎌倉初期の仏教改革 12.禅律僧の時代 13.非人救済活動の二面性 14. 禅宗と朝廷・幕府 15.法然・親鸞の登場			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50544A02
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) I		
担当者名	島津　毅	旧科目名称	
講義概要	超高齢社会の日本にあって次に到来するのは多くの人が亡くなっていく、いわゆる多死社会である。このとき我々がどのような死生観を持っているのかは、重要なことの一つと考えられる。一方、日本人固有の死生観とこれまで考えられてきたのは、戦前から戦後にかけて柳田国男が指摘したものであった。しかし、近年では柳田民俗学の限界性が指摘されるなか、それに代わる古来からの日本人の死生観も充分に論じられておらず、言わば空白状態になっているとも言える。 そこで、本講は日本の古代中世の人々がどのような死生観を持っていたのか、葬送墓制におけるさまざまな事例をもとに考えていく。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	勝田至『死者たちの中世』吉川弘文館、2003 年		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％）、定期テスト（６０％）		
到達目標	・古代中世の人々の死生観を理解する。 ・これから直面する多死社会にあって必要と考えられる死生観の糧とする。		
準備学習	自分はどんな死生観を持っているのか、具体的には自分や親しい人が亡くなったら、その人達はどうなると自分は思っているのか、あらかじめ考えをまとめておくこと。		
受講者への要望			
現代社会を考えるための講義でもある。単に講義内容を理解するだけではなく、自身にかかわる問題として主体的に考えるようにしてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．超高齢社会・多死社会と死生観 ２．日本人の死生観と民俗学 ３．臨終と蘇生の儀礼 ４．死者と穢れ ５．遺棄された死者 ６．葬送と縁者 ７．鬼神の活動する夜に行われた葬送 ８．死者を生者と偽装する習俗 ９．死者への恐れと葬送儀礼 １０．子どもと女性と葬送 １１．お墓と墓地 １２．お墓と骨・死骸敵対 １３．墓参と二つの墓 １４．儀礼の持つ力 １５．古代中世人の死生観とこれからの死生観			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50544B01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) II		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	インド・中国から伝来した仏教は、日本で特殊な発展を遂げた。本講では、女性差別観と在俗出家を素材に考察したい。インド社会で誕生した仏教は、本来的に女性差別的要素をもっていたが、日本ではそれに関心をもつ時代と、もたない時代とがあった。女性差別観が貴族社会から民衆的世界にまで流布・浸透してゆく過程をたどりながら、その背景を考えたい。また女性差別観に対し批判的な考えが存在したことも留意したい。一方、浄土信仰が発達してくると、中世社会は在俗出家の人々によって運営されるようになる。藤原道長、白河・鳥羽院、平清盛、北条時頼、足利義満・義持らは、いずれも在俗出家の権力者であった。中世では、朝廷・幕府はもとより村や町にいたるまで、組織の宿老の多くが出家姿であった。これは古代や近世・近代と異なる日本中世独自の特徴であり、世界史的にみても、日本中世のみに登場する習俗である。在俗出家が中世社会や中世文化に与えた影響について考察したい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	・日本の古代中世の文化について、最新の研究動向を理解する。 ・柔軟で批判的な思考を涵養する。		
準備学習	・高校の日本史教科書の古代・中世の文化の項を復習しておく。		
受講者への要望			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
講義の順序とポイント			
1.仏教と女性差別 2.古代仏教と尼 3.尼の天皇称徳 4.女人罪業観の受容 5.女人結界とは 6.法然と道元 7.善光寺の概要 8.善光寺信仰と女性 9.戦国期における女人罪業観の定着 10.在俗出家とは？ 11.自発型出家（１） 12.自発型出家（２） 13.強制型出家と死後型出家 14.在俗出家と役負担 15.中世で在俗出家はなぜ盛行したか？			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50544B02
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) II		
担当者名	島津　毅	旧科目名称	
講義概要	江戸時代に創出されたとされる檀家制度によって、仏教が葬式や追善仏事のみに携わっていたと理解されてきたことから、日本仏教が葬式仏教と称されて久しい。しかし、これまでの古代中世史の研究では、仏教が葬送にどのように関わってきたのか、宗派史にとらわれず通時的に検討されることはほとんどなく、両者の関係やまして葬送に対する当時の人々の思いも問題として取り上げられることはなかった。 そこで本講では、奈良時から室町時代までを通して、人々が、そして仏教がどのように葬送に携わってきたのかを考察する。そして日本人が古来抱いていた死生観を考えることとする。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％）、定期テスト（６０％）		
到達目標	・古代・中世にあって仏教が果たしてきた役割と当時の死生観を理解する。 ・これから直面するであろう多死社会にあって必要と考えられる死生観の糧とする。		
準備学習	高校の日本史教科書の古代・中世の文化の項を復習しておく。		
受講者への要望			
講義は理解することと同時に疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストでは考える力を問う指標として、疑問点や不明点を問題にする。			
講義の順序とポイント			
１．「葬式仏教」論を考える ２．民俗学の死生観と仏教 ３．奈良時代の律令制と葬送 ４．奈良時代の葬祭と仏教 ５．平安時代初期の変化 ６．平安時代の葬送と仏教 ７．古代中世の葬送への忌避と穢れ（１） ８．中世の葬送と「一向僧沙汰」 ９．平安・鎌倉時代の葬送と人々 １０．南北朝時代以降の葬送と人々 １１．古代中世の葬送への忌避と穢れ（２） １２．中世の葬送形態と「一向沙汰」 １３．中世の葬送と非人 １４．古代中世の葬送と仏教および中国文化 １５．日本人固有の死生観と古代中世人の死生観			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50551A01
科目名	日本美術史Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。講義の性格上、プリントとＯＨＣ・ビデオを併用して、画像を多く見てもらう方法を取りたい。		
教材（テキスト）	特に用いない		
教材（参考文献）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教材（その他）	毎回、図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート(７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席回数が極端に少ない場合は、評価の対象としないので、注意すること。		
到達目標	日本の文化・芸術の特質を,絵画を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の絵画の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには、退席を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１．奈良時代以前 ２．平安時代の仏画 ３．平安時代の絵巻物 ４．鎌倉時代の肖像画と縁起絵巻 ５．室町時代の水墨画 ６．安土桃山時代の障屏画（狩野派ほか） ７．　　同　　上　　（長谷川派） ８．狩野派・土佐派 ９．琳派 １０．浮世絵 １１．文人画 １２．円山・四条派 １３．洋風画 １４．奇想の画家たち １５．絵画の材料と絵の具			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50551A02
科目名	日本美術史Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。講義の性格上、プリントとＯＨＣ・ビデオを併用して、画像を多く見てもらう方法を取りたい。		
教材（テキスト）	特に用いない		
教材（参考文献）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教材（その他）	毎回、図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート(７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席回数が極端に少ない場合は、評価の対象としないので、注意すること。		
到達目標	日本の文化・芸術の特質を,絵画を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の絵画の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには、退席を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１．奈良時代以前 ２．平安時代の仏画 ３．平安時代の絵巻物 ４．鎌倉時代の肖像画と縁起絵巻 ５．室町時代の水墨画 ６．安土桃山時代の障屏画（狩野派ほか） ７．　　同　　上　　（長谷川派） ８．狩野派・土佐派 ９．琳派 １０．浮世絵 １１．文人画 １２．円山・四条派 １３．洋風画 １４．奇想の画家たち １５．絵画の材料と絵の具			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50551B01
科目名	日本美術史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。 以上のような日本の陶磁の特色に留意しつつ、現代にいたる日本の陶磁の歴史を、ＯＨＣとビデオを多用しながら概観したい。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教材（その他）	毎回図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	日本の文化・芸術の特色を、陶磁を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の陶磁の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには退席を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１．縄文土器・弥生土器 ２．土師器・須恵器・奈良三彩 ３．初期貿易陶磁（三彩ほか） ４．初期貿易陶磁（青磁・白磁） ５．灰釉・緑釉 ６．荘園貿易の時代 ７．六古窯 ８．鎌倉・室町時代の輸入陶磁 ９．新安海底遺物 １０．安土桃山時代の茶陶 １１．安土桃山・江戸の輸入陶磁 １２．伊万里焼 １３．後期伊万里・鍋島 １４．京焼 １５．明治以降の陶磁			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50551B02
科目名	日本美術史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。 以上のような日本の陶磁の特色に留意しつつ、現代にいたる日本の陶磁の歴史を、ＯＨＣとビデオを多用しながら概観したい。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教材（その他）	毎回図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	日本の文化・芸術の特色を、陶磁を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の陶磁の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには退席を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１．縄文土器・弥生土器 ２．土師器・須恵器・奈良三彩 ３．初期貿易陶磁（三彩ほか） ４．初期貿易陶磁（青磁・白磁） ５．灰釉・緑釉 ６．荘園貿易の時代 ７．六古窯 ８．鎌倉・室町時代の輸入陶磁 ９．新安海底遺物 １０．安土桃山時代の茶陶 １１．安土桃山・江戸の輸入陶磁 １２．伊万里焼 １３．後期伊万里・鍋島 １４．京焼 １５．明治以降の陶磁			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50556A0A
科目名	伝統文化専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Culture II A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	伝統文化に関する卒業論文の指導を目標とする。受講生が卒業研究の候補に選んでいる題材を順次取り上げて発表してもらい、研究テーマの論点が整理できるようにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	各自のテーマに沿ったものを用意する		
教材（その他）			
評価方法	授業中の発表またはレポート		
到達目標	選んだテーマを詳しく調査してゆくための方法を身につけ、テーマに関する知識を深め、現状での論点となりうるような問題が何処にあるかを的確に認識する能力を養うことを目標とする		
準備学習	卒業論文のテーマの候補を２～３考えておくこと		

受講者への要望

他の発表者の研究方法・発表方法を大いに参考にして自己の研究に生かしてほしい

講義の順序とポイント

1. 各自のテーマの選定
2. 先行する研究書・論文の調査１
3. 先行する研究書・論文の調査２
4. 先行する研究書・論文の調査３
5. 先行研究の読み込み１
6. 先行研究の読み込み２
7. 先行研究の読み込み３
8 調査のまとめを発表１
9. 調査のまとめを発表２
10. 調査のまとめを発表３
11. まとめに対する指導１
12. まとめに対する指導２
13. まとめに対する指導３
14. 指導に基ずく改善作業
15. 改善発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	★	★	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50556B0A
科目名	伝統文化専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Culture Ⅱ Ｂ		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の指導		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要なものを適宜用意する		
教材（その他）			
評価方法	発表の仕方と準備資料		
到達目標	各自のテーマに沿って、卒業研究のための十分な準備と、文章表現力の向上のための添削を繰り返すことを目標とする。		
準備学習	あらかじめ、春学期の演習の具体的成果に基づいて、卒業研究の概要を用意すること。		
受講者への要望			
授業時間だけでなく随時質問・指導の時間を自発的に取るようにしてください			
講義の順序とポイント			
１.卒業研究の完成に向けたロードマップを協議のの上作成 ２～５　　各週の進捗分についての検討 ６　中間報告（完成度５０％以上の内容のものを作成する） １１～１５　各章ごとに完成させたものを順番に検討、個別の問題点の指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	★	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50561A01
科目名	日本文化史Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural History of Japan A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% 試験　50% ※試験は授業内容に関連する論述問題をだします		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお日本文化史Ｂの受講を予定している人は必ずこの講義を先に受講してください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　江戸時代の地震となまず絵 第３回　江戸時代の流行病とはしか絵 第４回　奇想の画家国芳と風刺浮世絵 第５回　幕末期諷刺錦絵と武鑑 第６回　幕末期商人・農民の情報収集活動 第７回　浮世絵の生産と流通 第８回　江戸時代の『源氏物語』 第９回　民俗学と文字文化 第 10 回　音読から黙読へ 第 11 回　江戸時代の七夕文化 第 12 回　江戸時代の本の作り方 第 13 回　江戸時代前期の出版関係法令 第 14 回　江戸時代後期の出版統制とその対応 第 15 回　江戸時代の出版文化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J50561B01
科目名	日本文化史Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural History of Japan B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。今でも、日本各地の旧家には、江戸時代の書物が残っている家が多くあります。書物文化の隆盛の背景には、出版文化の隆盛、手習い教育の浸透といった動向が背景にありました。本講義では、そのような江戸時代の書物文化の特色を、出版物自体やそれを作る板元や作者、それを取り締まる幕府の法律などにも注目しながらみていき、書物を通して江戸時代という時代への理解を深めてもらいます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% 試験　50% ※試験は授業内容に関連する論述問題をだします		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお日本文化史Ａの受講を前提として授業を進めます。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　判じ絵を読み解く 第３回　歌麿と幕府の出版統制 第４回　出版文化と日用教養書 第５回　京都通り名歌の江戸時代書物文化 第６回　江戸時代教養文化のなかの天皇・公家像 第７回　江戸時代、書物文化と近江八景 第８回　隠岐の長者村上家と京都 第９回　双六から読み解く歴史 第 10 回　江戸時代における文字の役割 第 11 回　江戸時代の教育 第 12 回　〈子供〉の誕生 第 13 回　出産の歴史 第 14 回　江戸時代の識字率は世界一！？ 第 15 回　江戸時代の文字文化と手習教育			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J50564A01
科目名	日本文化論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan I		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	『源氏物語』にみる日本文化の諸相		
教材（テキスト）	プリントを用意する		
教材（参考文献）	授業時に適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	期末レポート点 50％と出席状況等の平常点 50％で評価する。 期末レポートは、次の内容とする。 ①授業内容のまとめ ②大覚寺文献調査 ③大覚寺フィールドワーク報告		
到達目標	『源氏物語』n 描かれている平安期の貴族や庶民の生活文化を知り、その思想や美意識について考える。		
準備学習	高校で学習した古代（平安時代まで）の文学史または文化史について、復習しておくこと		

受講者への要望

本時のレポートは大覚寺のフィールドワークを伴うため、作成に時間と手間と経費が掛かる。
それを了承の上で積極的に授業に参加し、意欲的なレポートを提出してほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
2　「桐壷」巻――和と漢・権力奪取の方法（摂関制と易姓革命）
3　「桐壷」巻――平安京と帝の住まい
4　「桐壷」巻――和歌と仮名文字
5　「桐壷」巻――占いのいろいろ
6　番外編　陰陽師・僧・医師・武士
7　「夕顔」巻――平安京の庶民の暮らし
8　「夕顔」巻――愛の空間・アウトドアからインドアへ
9　「夕顔」巻――廃院の怪異
10　「夕顔」巻――死霊と生霊
11 番外編　ケガレの思想
12　「少女」巻――能力か血統か
13　「少女」巻――「大和魂」の意味
14　「少女」巻――寝殿造の生活
15　番外編　初恋のかなえ方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50564A02
科目名	日本文化論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan I		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	『源氏物語』にみる日本文化の諸相		
教材（テキスト）	プリントを用意する		
教材（参考文献）	授業時に適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	期末レポート点 50％と出席状況等の平常点 50％で評価する。 期末レポートは、次の内容とする。 ①授業内容のまとめ ②大覚寺文献調査 ③大覚寺フィールドワーク報告		
到達目標	『源氏物語』 n 描かれている平安期の貴族や庶民の生活文化を知り、その思想や美意識について考える。		
準備学習	高校で学習した古代（平安時代まで）の文学史または文化史について、復習しておくこと		

受講者への要望

本時のレポートは大覚寺のフィールドワークを伴うため、作成に時間と手間と経費が掛かる。
それを了承の上で積極的に授業に参加し、意欲的なレポートを提出してほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
2　「桐壷」巻――和と漢・権力奪取の方法（摂関制と易姓革命）
3　「桐壷」巻――平安京と帝の住まい
4　「桐壷」巻――和歌と仮名文字
5　「桐壷」巻――占いのいろいろ
6　番外編　陰陽師・僧・医師・武士
7　「夕顔」巻――平安京の庶民の暮らし
8　「夕顔」巻――愛の空間・アウトドアからインドアへ
9　「夕顔」巻――廃院の怪異
10　「夕顔」巻――死霊と生霊
11 番外編　ケガレの思想
12　「少女」巻――能力か血統か
13　「少女」巻――「大和魂」の意味
14　「少女」巻――寝殿造の生活
15　番外編　初恋のかなえ方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50564B01
科目名	日本文化論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan II		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本文化論Ｉで平安時代までの文化を扱うので、この授業では中世以降の日本の文化を取り上げたい。 今日の日本の文化は、中世にその源流があるものがたくさんある。茶道・華道・香道・能楽など多くの分野に関わる芸術が中世を源流としている。 この講義では、世界から見て大変魅力的な日本独自の文化を、いろいろな角度から眺めてみたい。各回に一つのテーマを設定し、取り上げていく。 この講義はそれぞれの分野の紹介であり、いわば入り口に過ぎないので、各自興味を持った分野の追及をしていってもらいたい。しかし、将来どんな分野に進む人も、日本の文化について最低限の知識が身に付くような講義を展開する予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の確認テストや課題レポートなどを総合して判断する		
到達目標	日本の文化について総括的な知識の習得を目標とする。各種の文化的事象の理解は必要であるがそれぞれの事象を有機的に関連付けて理解できるようにするのこの授業の目標である。		
準備学習	文化的な事象に触れる機会を増やすため積極的に京都やその他の観光地に出かけてほしい.。 シラバスにテーマが書いてあるので、関連の分野の事物に触れておいてほしい。		
受講者への要望			
授業中の私語はほかの人の迷惑になるのでしないこと。			
講義の順序とポイント			
中世からの文化 １、茶道について（１） ２、茶道について（２） ３、茶道について（３） ４、香道について ５、華道について（１） ７、華道について（２） ８、中世までの庭園 ９、近世の庭園 １０、能狂言（１） １１、能狂言（２） １２、本阿弥光悦・尾形光琳の芸術 １３、文楽 １４、歌舞伎 １５、上方と江戸			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50564B02
科目名	日本文化論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan II		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本文化論Ｉで平安時代までの文化を扱うので、この授業では中世以降の日本の文化を取り上げたい。 今日の日本の文化は、中世にその源流があるものがたくさんある。茶道・華道・香道・能楽など多くの分野に関わる芸術が中世を源流としている。 この講義では、世界から見て大変魅力的な日本独自の文化を、いろいろな角度から眺めてみたい。各回に一つのテーマを設定し、取り上げていく。 この講義はそれぞれの分野の紹介であり、いわば入り口に過ぎないので、各自興味を持った分野の追及をしていってもらいたい。しかし、将来どんな分野に進む人も、日本の文化について最低限の知識が身に付くような講義を展開する予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の確認テストや課題レポートなどを総合して判断する		
到達目標	日本の文化について総括的な知識の習得を目標とする。各種の文化的事象の理解は必要であるがそれぞれの事象を有機的に関連付けて理解できるようにするのこの授業の目標である。		
準備学習	文化的な事象に触れる機会を増やすため積極的に京都やその他の観光地に出かけてほしい.。 シラバスにテーマが書いてあるので、関連の分野の事物に触れておいてほしい。		
受講者への要望			
授業中の私語はほかの人の迷惑になるのでしないこと。			
講義の順序とポイント			
中世からの文化 １、茶道について（１） ２、茶道について（２） ３、茶道について（３） ４、香道について ５、華道について（１） ７、華道について（２） ８、中世までの庭園 ９、近世の庭園 １０、能狂言（１） １１、能狂言（２） １２、本阿弥光悦・尾形光琳の芸術 １３、文楽 １４、歌舞伎 １５、上方と江戸			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50568A0A
科目名	日本文学専門演習ＩＡ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IA		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	『雨月物語』は、江戸時代中期に京や大坂に住んだ上田秋成によって著された怪異小説である。９編の短編小説で構成されている。作品を読みながら、用語の問題点や、歴史的背景、中国の怪奇小説との関連など、問題点を解説する。また、各自がテーマを決めて授業中に発表を行い、疑問点を出し合いながら、意見を交換する。		
教材（テキスト）	新潮日本古典文学集成『雨月物語・癇癖談（うげつものがたり・くせものがたり）』（新潮社刊）		
教材（参考文献）	鵜月洋『雨月物語評釈』（角川書店） 新編日本古典文学全集『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』（小学館）		
教材（その他）			
評価方法	発表、小レポートなど。		
到達目標	一つのテーマをいろいろな視点から考え、掘り下げていく力を養うこと 発表を通じて、他の人に理解してもらえるように上手に説明することが できるようになること		
準備学習	マンガや子供向きの本でもよいから、 雨月物語全体を読んでおくことが望ましい。		

受講者への要望

テーマを決め、授業中に発表してもらう。
期末のレポートは、発表をしておくと書きやすいので、
なるべく早く発表すること。

講義の順序とポイント

１、雨月物語の解説　（山崎）
２、上田秋成の生涯　（山崎）
３、「白峯」の背景　保元の乱（以下受講生による発表、テーマは仮題）
４、西行法師と崇徳院の怨霊
５、「菊花の約」
６、映画「雨月物語」
７、「夢応の鯉魚」と三井寺
８、鯉を描いた画家～主人公のモデル～
９、「仏法僧」の豊臣秀次
１０、吉備津神社の釜占い
１１、中国の「牡丹燈記」と講談「牡丹燈籠」
１２、中国の「魚服記」
１３、「浅茅が宿」
１４、「蛇性の婬」と「白蛇伝」
１５、「源氏物語」と「雨月物語」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★	★

年度	2016	授業コード	J50568B0A
科目名	日本文学専門演習ＩＢ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IB		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究を作成するための力をつける。卒業研究のテーマの決め方・論文の書き方などを指導する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	担当外の授業での質問・発言・議論等（40%） 担当時の発表（60&）		
到達目標	卒業研究に向けて、各自の扱う作品・テーマを絞り込む。		
準備学習	論文の書き方、情報検索の方法について復習しておくこと。		
受講者への要望			
しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。			
講義の順序とポイント			
講義日程は、受講生の数により柔軟に対応する。 1 卒業研究について　３回生秋学期にすべきこと 2　さまざまな進路 3　資料の集め方 4　卒業研究の実際（過去の例・他大学の卒業論文・参考論文などを読む） 5～14　同　この間に個々の卒業研究テーマ聞き取り・発表 15　今後の計画作成 なお、毎回小テストを実施する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50570A0A
科目名	日本文学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIA		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	受講生の卒業研究のテーマに合わせて展開する。 受講生には4月~6月にテーマについて発表を試み、 １０月の中間発表を目標に準備する。		
教材（テキスト）	受講生のテーマに共通するものがあれば用いる		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点、授業への参加度、調査などの実績		
到達目標	テーマを詳しく調べる力を養うこと 誰にでもわかるように話し、説得力があるようになること 卒業研究を完成させること		
準備学習	自分の興味のあるテーマを考えること		

受講者への要望

授業に出席するだけでなく、積極的に自分のテーマを発見し
卒業研究にむけて調査をしていくこと

講義の順序とポイント

1　各自テーマの選定
2　図書館で調査～カードの取り方
3　小発表と討論
4　小発表と討論
5　書誌学的調査の方法
6　調査
7　参考文献の紹介
8　参考資料の紹介
9　先行研究を考える
１０　先行研究の紹介
１１　発表
１２　発表
１３　課題を考える
１４　課題を考える
１５　まとめ(試験対策)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50570A0B
科目名	日本文学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIA		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の指導を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期開始時の発表（40%） 卒業研究の制作に向けての通常の進行状況（60%）		
到達目標	各自の卒業研究制作を機会に、より思考を深めるとともに、論述・創作能力の実質的な伸長を図る。		
準備学習	前年度の専門演習Ｉを土台とする。		
受講者への要望			
卒業研究は大学での学習の総まとめである。生涯の記念とする気構えで制作に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
受講者の人数・状況に応じて柔軟に対応する。 １　卒業研究・創作第一次合同発表会 ２～１５　卒業研究制作作業の報告と確認、今後の作業の見通し、問題点等について、個別に綿密な指導を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50570B0A
科目名	日本文学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIB		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究を実際に書いていきながら、派生する諸問題を考察していく 中間発表を 10 月下旬に行う		
教材（テキスト）	適宜紹介する		
教材（参考文献）	適宜、紹介する		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点　発表など		
到達目標	他人が読んでわかるような文章を書けるようになること 論理的な思考ができるようになること		
準備学習	発表の機会に発表するよう 準備してくること		
受講者への要望			
自分の研究だけでなく他の人の研究にも関心をもち 授業中積極的に発言してください。			
講義の順序とポイント			
1　卒業研究に向けて自分のテーマを決める 2　先行研究を調べる 3　資料を集める 4　実際に序文を書いてみる 5　序文を書くためには、何が必要か、資料を集める 6　調査研究 7　調査研究 8　論文の構成を考える 9　第一章を書いてみる １０　第二章を書いてみる １１　第三章を書いてみる １２　第四章を書いてみる １３　まとめを書いてみる １４　注をつけてみる １５　清書			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50570B0B
科目名	日本文学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIB		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の指導を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期開始時の発表（40%） 卒業研究の制作進行（60%）		
到達目標	各自の卒業研究制作を通じて、独創的発想・論理的思考・粘り強い調査・魅力的な文章作成能力の、実質的な伸長を図る。		
準備学習	日本文学専門演習ⅡAの受講を前提とする。		

受講者への要望

卒業研究は大学での学習の総まとめである。生涯の記念とする気構えで制作に臨むこと。

講義の順序とポイント

受講者の人数・状況に応じて柔軟に対応する。

１　卒業研究・創作　合同中間発表会

２～１５　卒業研究の執筆分を報告。その問題点の指導、書き直し、今後の執筆作業の見通し、調査上の問題点などについて、個別に綿密な指導を行う。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50594001
科目名	認知心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Cognitive Psychology		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	認知心理学は，広義には哲学，言語学，人類学，神経科学，人工知能研究との結びつきが強く，学際的な学問であるが，狭義には，人間の認知活動を研究する学問である。すなわち，「意識」が外界をどのように認知するかに関する学問である。 本講では，下記の項目を中心に人間の認知活動に関する重要な研究を紹介しながら，理論的および実験的認知心理学について論述する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）		
到達目標	人間の心と行動を認知的アプローチによって理解できるようにすること。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の 1 週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

①心理学概論を履修しているものとして、授業を進めます。
②授業内容は，かなりレベルが高く，簡単に単位が取れる訳ではありません。
③授業内容を努力して理解すれば，どこにでも通用する人間の認知機能を理解できるようになります。

講義の順序とポイント

1. 認知心理学とは何か：①認知とは何か
2. 認知心理学とは何か：②心理学における認知の扱い
3. 認知心理学とは何か：③認知心理学の誕生
4. 認知的アプローチとは何か
5. 認知心理学の方法
6. これからの認知心理学
7. 初期認知：①子どもに対する大人のイメージ
8. 初期認知：②新生児と乳児の能力
9. 初期認知：③自己認識の発達
10. 視覚認知：①知覚の成立過程
11. 視覚認知：②視覚の基本的特性
12. 視覚認知：③形の知覚
13. 視覚認知：④知覚の情報処理過程
14. 記憶認知：①情報処理過程
15. 記憶認知：②記憶の諸相

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50596001
科目名	博物館概論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museology		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	近年、博物館・資料館等を取り巻く環境は、経済状況の厳しさからその社会的役割・機能についての見直しが 厳しく行われており、決して好調で順調に推移しているとはいえない。 講義では、博物館・資料館等が社会の発展とともにどのように進歩してきたのか、その歴史と現状・課題について概説する。 また現在求められている基本的な目的と機能、さらに関連法律等にも言及し、学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等に関する全般的かつ基本的な知識の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の発達・発展の歴史的背景の理解と、現代社会におけるその基本的目的・役割・機能に関する認識に、さらに関連法律に関する知識の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		

受講者への要望

学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。

講義の順序とポイント

1　博物館・資料館等の歴史と現状について＜概説１＞
2　博物館等の歴史的変遷（各論１）
3　博物館等の現状について（各論２）
4　博物館等の現状について（各論３）
5　博物館・資料館等の基本的な目的・機能について＜概説２＞
6　博物館等の目的について（各論１）
7　博物館等の機能について（各論２）
8　博物館・資料館等の関連法律について＜概説３＞
9　博物館等の関連法律・博物館法（各論１）
10　博物館等の関連法律・博物館法（各論２）
11　博物館等の関連法律・その他（各論３）
12　博物館・資料館等の今後の課題と展望について＜概説４＞
13　博物館等の今後の課題について（各論１）
14　博物館等の展望について（各論２）
15　博物館・資料館等と生涯学習について＜概説５＞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★★	－	★	－

年度	2016	授業コード	J50596002
科目名	博物館概論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museology		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	社会教育の一環を担う博物館相当施設には、博物館・美術館から水族館・植物園まで大変幅広いものが含まれている。それらの施設が社会の発展とともにどのように進化してきたのか、その歴史と現在求められている基本的な役割・機能や現状・課題について概説する。学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等に関する全般的かつ基本的知識の習得を図りたい。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する		
教材（その他）	毎回資料コピーを配布する		
評価方法	平常点（５０％）は、ノートなど毎回の授業における努力で評価する。残りの５０％は合計3回提出を求める簡単な課題レポートで評価する。		
到達目標	博物館・資料館などの発展の歴史的背景の理解と、現代社会におけるその基本的目的・機能に関する認識に、さらに関連する法律に関する知識の習得を目標とする。		
準備学習	身近な博物館相当施設で行われる各種事業に注意し、新聞等のメディアでの広報に注意を払っておくこと。		

受講者への要望

学芸員資格・社会教育主事資格の取得を目指すもの向けの講義である点を認識して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。なお、この科目は卒業に必要な単位には、いかなる形でも算入されないので、資格取得希望者以外は履修登録をしないこと。

講義の順序とポイント

１・　博物館とは
２・　博物館の歴史
３・　博物館関連の法律
４・　日本の博物館
５・　これからの博物館
６・　博物館の運営（施設）
７・　博物館の運営（陳列）
８・　博物館の運営（展示・平常展）
９・　博物館の運営（展示・特別展）
１０・　博物館の運営（広報、情報メディア）
１１・　博物館の運営（資料収集）
１２．博物館の運営（保存・調査・研究）
１３・　文化財の保護とその歴史
１４・　文化財保護行政
１５・　指定文化財

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★★	★	ー

年度	2016	授業コード	J50597001
科目名	博物館情報・メディア論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Information & Media		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	博物館情報論
講義概要	博物館や資料館を取り巻く環境の中で、日進月歩で発展しているのが情報技術であり、その進化のシステムをどのように博物館や資料館で活用利用するのかが大きな課題となっている。 講義では博物館や資料館にとっての情報とは何を意味するのか、各分野の資料に関する情報の収集とその処理と活用について、具体的な実例を紹介しながら、学芸員としての情報の基本的理念・処理・活用・公開の理解と方法論の習得を図る。 あわせて、博物館や資料館とマスメディアとの関係を考えるとともに、その展望と課題について言及したい。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等よる。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における情報に関する基本的理念・処理・活用・公開の理解とその方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館や資料館の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、いろいろなメディアに注意を払っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館における情報全般について＜概説＞ 2　博物館情報論について　民俗資料 3　博物館情報論について　歴史資料 4　博物館情報論について　その他 5　博物館・資料館の情報技術の活用について＜概説＞ 6　博物館と情報技術について　デジタル技術 7　博物館と情報技術について　マルチメディア 8　博物館と情報技術について　情報システム 9　博物館と情報技術について　文化財システム１ １０　博物館と情報技術について　　文化財システム２ １１　博物館と情報技術について　　文化財システム３ １２　博物館と情報技術について　　展示公開 １３　博物館と情報技術について　　調査研究 １４　博物館と情報技術について　　著作権 １５　博物館情報の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50597002
科目名	博物館情報・メディア論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Information & Media		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	博物館情報論
講義概要	博物館や資料館を取り巻く環境の中で、日進月歩で発展しているのが情報技術であり、その進化のシステムをどのように博物館や資料館で活用利用するのかが大きな課題となっている。 講義では博物館や資料館にとっての情報とは何を意味するのか、各分野の資料に関する情報の収集とその処理と活用について、具体的な実例を紹介しながら、学芸員としての情報の基本的理念・処理・活用・公開の理解と方法論の習得を図る。 あわせて、博物館や資料館とマスメディアとの関係を考えるとともに、その展望と課題について言及したい。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等よる。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における情報に関する基本的理念・処理・活用・公開の理解とその方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館や資料館の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、いろいろなメディアに注意を払っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
１　博物館・資料館における情報全般について＜概説＞ ２　博物館情報論について　民俗資料 ３　博物館情報論について　歴史資料 ４　博物館情報論について　その他 ５　博物館・資料館の情報技術の活用について＜概説＞ ６　博物館と情報技術について　デジタル技術 ７　博物館と情報技術について　マルチメディア ８　博物館と情報技術について　情報システム ９　博物館と情報技術について　文化財システム１ １０　博物館と情報技術について　　文化財システム２ １１　博物館と情報技術について　　文化財システム３ １２　博物館と情報技術について　　展示公開 １３　博物館と情報技術について　　調査研究 １４　博物館と情報技術について　　著作権 １５　博物館情報の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50600A01
科目名	発達心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental psychology I		
担当者名	木村　年晶	旧科目名称	
講義概要	ヒトは誕生後，母子関係を中心として，徐々に世界を広げていく。その中で，認知や感情，社会性等，人間が生きていくために必要な基礎的能力を獲得していく。人間発達の成長にとって初期の経験がどのような意味を持つのだろうか。本講義では，胎児期から児童期までの発達について，理論や研究を通して，科学的な視点から理解を深める。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%），期末試験（60%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，胎児期から児童期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る		
準備学習	毎回講義の初めに，前回の講義内容に関する小テストを行いますので，各自で復習をしておいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席をしてください。また，遅刻や私語は厳禁とします。遅刻の場合，その理由を求めます。私語が過ぎれば，他の受講者への迷惑を勘案し，退出を求める場合もあります。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　胎児期・新生児期
3　乳児期の発達と愛着の形成
4　乳児期の知覚発達
5　乳児期の身体発達
6　乳幼児の認知能力①言語の発達
7　乳幼児の認知能力②ピアジェ理論
8　乳幼児の認知能力③ポストピアジェ理論
9　乳幼児の感情発達
10 乳幼児の社会性発達
11 乳幼児の道徳性発達
12 児童期の発達と仲間関係
13 学校への適応と心の問題
14 子どもの発達障害
15 講義内容の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50600B01
科目名	発達心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental psychology Ⅱ		
担当者名	木村　年晶	旧科目名称	
講義概要	かつては，子どもが大人になるまでの成熟過程が発達であると考えられ，成人期以降の発達については重視されてこなかった。しかし，今日，乳幼児期や児童期だけでなく，高齢期までの発達に着目した，いわゆる「生涯発達」の視点が重視されている。特に思春期以降は，子どもたちが過ごす生活範囲や重視する人間関係が家庭外へと広がり，自立した人間として成長していく重要な時期に当たる。また，高齢期でも喪失や機能の低下だけではなく，新たに獲得する心理的機能の存在が明らかにされつつある。本講義では，青年期から高齢期までの発達に着目し，身体的・認知的発達，社会関係の形成やサクセスフル・エイジングまで幅広く理解することを目的とする。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内の小テスト等による平常点（40%），期末試験（60%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，青年期から高齢期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る。		
準備学習	毎回講義の初めに，前回の講義内容に関する小テストを行いますので，各自で復習をしておいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席をしてください。また，遅刻や私語は厳禁とします。遅刻の場合，その理由を求めます。私語が過ぎれば，他の受講者への迷惑を勘案し，退出を求める場合もあります。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　青年期の身体的変化と自尊感情の発達
3　育児スタイルと青年期発達
4　エリクソンの人格発達理論
5　青年期の発達課題とアイデンティティ
6　青年期における他者との親密な関係（1）
7　青年期における他者との親密な関係（2）
8　青年期と摂食障害
9　青年の自立と職業選択
10　中年期の危機
11　高齢期の生物的加齢
12　高齢期の心理的加齢
13　高齢期の社会関係
14　高齢期の適応
15　講義内容の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	―	★	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J5060300A
科目名	発達臨床実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Clinical Developmental Psych ology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	「臨床心理学専門演習ＩＢ」を補完する授業として位置づけるので、講義概要は「臨床心理学専門演習ＩＢ」と同様である。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント類を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった実習について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。そのノートを点検することがある。また、とくに「人間模様」」に関する事柄について読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		
受講者への要望			
受講者の新しい自分の発見を促す要因を含んだ場を提供したいと思っているので、積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。			
講義の順序とポイント			
１．面接等実習① ２．同　② ３．同　③ ４．同　④ ５．見学事前学習 ６．対人援助現場見学実習① ７．同　② ８．同　③ ９．同　④ １０．体験学習ほか １１．対人援助現場見学実習⑤ １２．同　⑥ １３．同　⑦ １４．検査や家族等についての発達臨床心理学実習① １５．同　② ※これらの内容や順序は変更されることがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	J50604001
科目名	発達臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	乳幼児期から中年期・老年期にわたって、具体的なエピソードなどをとおして複雑な社会的諸要因も描出しつつ、援助職の動きの実際やあるべき姿、発達臨床心理学の課題について述べたい。発達臨床心理学を実践し支える現場は多岐にわたるが、担当者は児童相談所勤務を経てきたので、その経験をベースに児童福祉臨床（調査、アセスメント、指導、治療、協働く（コラボレーション）の実際）について多くを語ることになる。そこには、子どもの発達、子どもを育てる場としての家族の発達やその他の重要な要因が含まれる。発達臨床は検査室や治療室のなかだけのものではないし、心理職しか携わらないものでもない。様々な場所、様々な職種の人たちが、対象者の幸せに一歩でも近づくためのひとつの拠り所としている。相談された症状や問題行動を“治す”ためには“育てる”視点も同時にもたなければ、子どもたちの今より少しでもの幸せにはたどりつかない。協働が求められる所以である。広く対人援助業務を紹介することによって、受講生が自分の進路を考える機会にもなればと考えている。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	川畑　隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」 2009　明石書店 麻生・浜田編「よくわかる臨床発達心理学・第２版」 2006 ミネルヴァ書房 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（５０％）。「授業内容の理解」の確認作業の成果の提出（５０％）。		
到達目標	発達臨床、対人援助に関する基本的な考え方を学び、子どもを健全に育成するための視点を自らの内にもてるようになる。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。また、子どもから高齢者に至るまでの生活、発達に関する事象や社会の動きは様々に報道されている。それらに日々接して思考することも発達臨床心理学を学習するために重要なので、ぜひ勧めたい。		

受講者への要望

各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

講義の順序とポイント

1.はじめに～発達臨床心理学とは何か
2.あらわれる課題①乳幼児期
3.　同　②児童期・思春期
4.　同　③青年期
5.　同　④中年期・老年期
6.家族とその機能①円環論を中心に
7.　同　②家族の発達
8.残されたテーマと前半授業の補足
9.課題にどう取り組むか
10.知的障害や発達障害①
11.　同　②
12.　同　③
13.不登校や社会的ひきこもり
14.その他の子どもたちが示す現象
15.残されたテーマと後半授業の補足
※授業の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50605A01
科目名	比較社会論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies A		
担当者名	山本　耕平	旧科目名称	
講義概要	現代に生きる私たちは、科学技術と切っても切り離せない生活を送っている。科学技術とうまく付き合いながら生活していくためには、これまで科学技術と社会がどのような関係を形成したきたかという歴史的な比較と、そして現在どこでどのような問題を生じさせているかという地域間・文化間の比較、という二つの視点から科学技術と社会の関係を理解することが重要である。そこでこの講義では、科学技術社会論（とくに科学社会学）の観点から、(1)科学技術と社会が歴史的にどのような関係を取り結んできたのかを一般的に理解し、(2)個々の科学技術分野は社会にどのように影響を与え、またどのように影響されてきたのかを学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	中島秀人著『社会の中の科学』放送大学教育振興会　2,484 円 種田明著『近代技術と社会』山川出版社　787 円 ペニー・ルクーター、ジェイ・バーレサン著『スパイス、爆薬、医薬品』中央公論新社　2,808 円 その他、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	・授業中小テストによる平常点（30%） ・第一単元確認演習（20%） ・第二単元確認演習（30%） ・第三単元確認演習（20%）		
到達目標	・現代における科学技術と社会の関係を理解することで、科学技術のあり方にたいする能動的な姿勢を身につける。 ・メディアで報じられるような科学技術関連の話題を、科学技術社会論の観点から説明できるようになる。		
準備学習	単元が終わるごとに次の単元の資料を配布し、各回の範囲を指定するので、指定されたスケジュールにしたがって資料を読んでくること。また、各単元が終了した翌週に確認演習をおこなうので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

・私語は厳禁である。注意しても改善されない場合は退出を求めることがある。
・各講義で確認のための小テストを実施する。
・必要な予備知識は授業中もしくは準備学習によって補うので、あらかじめ歴史や科学技術にかんする知識を持っていることは求めない。

講義の順序とポイント

1. 科学技術社会論の視座
2. 社会と科学技術の歴史(1)：古代の自然科学
3. 社会と科学技術の歴史(2)：中世の産業革命と近代科学への道のり
4. 社会と科学技術の歴史(3)：科学革命
5. 社会と科学技術の歴史(4)：科学の専門職化と制度化
6. 第一単元確認演習、医学と社会(1)：医療化の比較社会学
7. 医学と社会(2)：先進国における民間医療・代替医療
8. 心理学と社会
9. 生命科学と社会(1)：宗教との対立の地域間比較
10. 生命科学と社会(2)：貧困・人口問題とのかかわり
11. 第二単元確認演習、情報技術と社会(1)：技術規制の地域間比較
12. 情報技術と社会(2)：インテリジェンスの歴史と現在
13. 軍事技術と社会
14. リスク評価と科学コミュニケーションの発展
15. 第三単元確認演習、科学への信頼と疑似科学の隆盛

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	★★

年度	2016	授業コード	J50605A02
科目名	比較社会論A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies A		
担当者名	山本　耕平	旧科目名称	
講義概要	現代に生きる私たちは、科学技術と切っても切り離せない生活を送っている。科学技術とうまく付き合いながら生活していくためには、これまで科学技術と社会がどのような関係を形成したきたかという歴史的な比較と、そして現在どこでどのような問題を生じさせているかという地域間・文化間の比較、という二つの視点から科学技術と社会の関係を理解することが重要である。そこでこの講義では、科学技術社会論（とくに科学社会学）の観点から、(1)科学技術と社会が歴史的にどのような関係を取り結んできたのかを一般的に理解し、(2)個々の科学技術分野は社会にどのように影響を与え、またどのように影響されてきたのかを学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	中島秀人著『社会の中の科学』放送大学教育振興会　2,484 円 種田明著『近代技術と社会』山川出版社　787 円 ペニー・ルクーター、ジェイ・バーレサン著『スパイス、爆薬、医薬品』中央公論新社　2,808 円 その他、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	・授業中小テストによる平常点（30%） ・第一単元確認演習（20%） ・第二単元確認演習（30%） ・第三単元確認演習（20%）		
到達目標	・現代における科学技術と社会の関係を理解することで、科学技術のあり方にたいする能動的な姿勢を身につける。 ・メディアで報じられるような科学技術関連の話題を、科学技術社会論の観点から説明できるようになる。		
準備学習	単元が終わるごとに次の単元の資料を配布し、各回の範囲を指定するので、指定されたスケジュールにしたがって資料を読んでくること。また、各単元が終了した翌週に確認演習をおこなうので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

・私語は厳禁である。注意しても改善されない場合は退出を求めることがある。
・各講義で確認のための小テストを実施する。
・必要な予備知識は授業中もしくは準備学習によって補うので、あらかじめ歴史や科学技術にかんする知識を持っていることは求めない。

講義の順序とポイント

1. 科学技術社会論の視座
2. 社会と科学技術の歴史(1)：古代の自然科学
3. 社会と科学技術の歴史(2)：中世の産業革命と近代科学への道のり
4. 社会と科学技術の歴史(3)：科学革命
5. 社会と科学技術の歴史(4)：科学の専門職化と制度化
6. 第一単元確認演習、医学と社会(1)：医療化の比較社会学
7. 医学と社会(2)：先進国における民間医療・代替医療
8. 心理学と社会
9. 生命科学と社会(1)：宗教との対立の地域間比較
10. 生命科学と社会(2)：貧困・人口問題とのかかわり
11. 第二単元確認演習、情報技術と社会(1)：技術規制の地域間比較
12. 情報技術と社会(2)：インテリジェンスの歴史と現在
13. 軍事技術と社会
14. リスク評価と科学コミュニケーションの発展
15. 第三単元確認演習、科学への信頼と疑似科学の隆盛

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	-	★★

年度	2016	授業コード	J50605B01
科目名	比較社会論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies B		
担当者名	矢野　裕巳	旧科目名称	比較社会論 B
講義概要	人はなぜ争うのか？　人類の歴史は、戦争の歴史であると言われています。　現在の世界にも、さまざまな紛争、争いが存在します。 毎回、新聞に登場する現在進行中の紛争を新聞記事を題材に、解りやすく学んでいきます。 今回は、特に世界各地で頻発するテロについて、その原因を歴史的に少し振り返って考え、何が問題なのかを、考えて見たいと考えます。 １０回の出席が必要です。		
教材（テキスト）	プリント教材を毎回配布		
教材（参考文献）	プリント教材を毎回配布		
教材（その他）			
評価方法	講義時間内に、各自が配布された資料、講師の解説をまとめ、講義終了時に提出してもらいます。		
到達目標	世界の紛争を考える習慣をつける。何が問題なのかを把握できる力をつける事を目標とします。		
準備学習	毎日、新聞に目を通し、世界の動きに関心を持つように努める。		
受講者への要望			
講義は１回１回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解する事を基本に考えます。出席を重視します。			
講義の順序とポイント			
出来るだけその時に起こった、世界の紛争、問題を取り上げますが、基本的な流れは 講義１～　講義３　　紛争とは何か？ 講義４～　講義１０　　どうして、中東にはテロが頻発するのか？ 講義１１～講義１４　　政治と宗教の関係。 講義　１５　　日本の役割			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50605B02
科目名	比較社会論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies B		
担当者名	矢野　裕巳	旧科目名称	比較社会論 B
講義概要	人はなぜ争うのか？　人類の歴史は、戦争の歴史であると言われています。　現在の世界にも、さまざまな紛争、争いが存在します。 毎回、新聞に登場する現在進行中の紛争を新聞記事を題材に、解りやすく学んでいきます。 今回は、特に世界各地で頻発するテロについて、その原因を歴史的に少し振り返って考え、何が問題なのかを、考えて見たいと考えます。 １０回の出席が必要です。		
教材（テキスト）	プリント教材を毎回配布		
教材（参考文献）	プリント教材を毎回配布		
教材（その他）			
評価方法	講義時間内に、各自が配布された資料、講師の解説をまとめ、講義終了時に提出してもらいます。		
到達目標	世界の紛争を考える習慣をつける。何が問題なのかを把握できる力をつける事を目標とします。		
準備学習	毎日、新聞に目を通し、世界の動きに関心を持つように努める。		
受講者への要望			
講義は１回１回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解する事を基本に考えます。出席を重視します。			
講義の順序とポイント			
出来るだけその時に起こった、世界の紛争、問題を取り上げますが、基本的な流れは 講義１～　講義３　　紛争とは何か？ 講義４～　講義１０　　どうして、中東にはテロが頻発するのか？ 講義１１～講義１４　　政治と宗教の関係。 講義　１５　　日本の役割			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	★	★	-

年度	2016	授業コード	J5061200A
科目名	表現療法実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychotherapy and Expression		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	描画や箱庭を実際に体験することを通して、イメージを介した心理療法について学ぶ。		
教材（テキスト）	配布資料あり。		
教材（参考文献）	実習の中で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%） レポート（50%）		
到達目標	「表現」をキーワードとする心理療法の基礎を正しく理解する。		
準備学習	積極的に参考文献などに目を通しておくこと。		

受講者への要望

実習は専門的に高度な内容であるため、心して受講すること。

講義の順序とポイント

実習の具体的な運営方法は、受講生の人数によって変わるので、受講生と相談の上で決定する。

1　オリエンテーション
2　言語連想実験―実習
3　描画法―バウム、風景構成法―実習
5．6．描画法の理解
7．箱庭療法とは
8～12．箱庭―実習
13．14　箱庭療法の理解
15　表現療法のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50613A02
科目名	文化遺産論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage A		
担当者名	向井　佑介	旧科目名称	
講義概要	文化遺産は、過去の人びとによって生みだされ、現在まで継承されてきた有形・無形の遺産である。そのなかで、人類が共有すべき優れた普遍的価値を持つ建造物や遺跡などが、ユネスコの世界遺産リストに登録されている。この授業では、ユネスコの世界遺産や日本の文化財保護制度についての基礎的な知識を身につけるとともに、文化遺産の調査・保護・修理・復元・活用などの諸問題について、具体例を参照しながら考えていく。日本を代表する文化遺産をとりあげ、写真や映像を参照しながら、その魅力と歴史的価値を解説していく。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する		
評価方法	期末のレポート（７０点）と出席状況や授業態度等による平常点（３０点）の合計で評価する。		
到達目標	日本を代表する文化遺産を概観することで、日本の歴史と文化に対する理解を深めるとともに、それぞれの文化遺産がもつ重要性と普遍的価値を認識し、それらがかかえる現代的課題を理解することを目標とする。		
準備学習	毎回の授業終了後に、次回あつかう文化遺産に関する参考文献を指示するので、あらかじめ予習しておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。注意しても従わないものには、退席を求める。			
講義の順序とポイント			
１．　文化遺産学とは何か ２．　日本の世界文化遺産 ３．　法隆寺 ４．　法隆寺の火災と文化財保護法 ５．　五重塔の謎をさぐる ６．　百舌鳥・古市の古墳群 ７．　天皇陵を考える ８．　飛鳥の宮殿と古墳 ９．　藤原宮の発掘 １０．　高松塚古墳とキトラ古墳 １１．　平城京の発掘 １２．　薬師寺と唐招提寺 １３．　東大寺の遺宝 １４．　正倉院とシルクロード １５．　日本古代の文化遺産			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50613A03
科目名	文化遺産論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	文化遺産は、過去の人びとによって生みだされ、現在まで継承されてきた有形・無形の遺産である。そのなかで、人類が共有すべき優れた普遍的価値を持つ建造物や遺跡などが、ユネスコの世界遺産リストに登録されている。この授業では、ユネスコの世界遺産や日本の文化財保護制度についての基礎的な知識を身につけるとともに、文化遺産の調査・保護・修理・復元・活用などの諸問題について、具体例を参照しながら考えていく。日本を代表する文化遺産をとりあげ、写真や映像を参照しながら、その魅力と歴史的価値を解説していく。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する		
評価方法	期末のレポート（７０点）と出席状況や授業態度等による平常点（３０点）の合計で評価する。		
到達目標	日本を代表する文化遺産を概観することで、日本の歴史と文化に対する理解を深めるとともに、それぞれの文化遺産がもつ重要性と普遍的価値を認識し、それらがかかえる現代的課題を理解することを目標とする。		
準備学習	毎回の授業終了後に、次回あつかう文化遺産に関する参考文献を指示するので、あらかじめ予習しておくこと。		

受講者への要望

授業中の私語を慎むこと。注意しても従わないものには、退席を求める。

講義の順序とポイント

１．　文化遺産学とは何か
２．　日本の世界文化遺産
３．　法隆寺
４．　法隆寺の火災と文化財保護法
５．　五重塔の謎をさぐる
６．　百舌鳥・古市の古墳群
７．　天皇陵を考える
８．　飛鳥の宮殿と古墳
９．　藤原宮の発掘
１０．　高松塚古墳とキトラ古墳
１１．　平城京の発掘
１２．　薬師寺と唐招提寺
１３．　東大寺の遺宝
１４．　正倉院とシルクロード
１５．　日本古代の文化遺産

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50613B02
科目名	文化遺産論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage B		
担当者名	向井　佑介	旧科目名称	
講義概要	文化遺産は、過去の人びとによって生みだされ、現在まで継承されてきた有形・無形の遺産である。そのなかで、人類が共有すべき優れた普遍的価値を持つ建造物や遺跡などが、ユネスコの世界遺産リストに登録されている。この授業では、ユネスコの世界遺産や日本の文化財保護制度についての基礎的な知識を身につけるとともに、文化遺産の調査・保護・修理・復元・活用などの諸問題について、具体例を参照しながら考えていく。日本だけでなく、アジアやヨーロッパなどの代表的な文化遺産を比較対象としてとりあげ、写真や映像を参照しながら、その魅力と歴史的価値を解説していく。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する		
評価方法	期末のレポート（７０点）と出席状況や授業態度等による平常点（３０点）の合計で評価する。		
到達目標	日本および世界の代表的な文化遺産についての基礎知識を身につけるとともに、それぞれの文化遺産がもつ重要性と普遍的価値を認識し、それらがかかえる現代的課題を理解することを目標とする。		
準備学習	毎回の授業終了後に、次回あつかう文化遺産に関する参考文献を指示するので、あらかじめ予習しておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎むこと。注意しても従わないものには退席を求める。			
講義の順序とポイント			
１．　ユネスコの世界文化遺産 ２．　アンコール・ワット ３．　バーミヤーン ４．　メソポタミア文明の遺産 ５．　エジプト文明の遺産（１） ６．　エジプト文明の遺産（２） ７．　インダス文明の遺産 ８．　古代ギリシアの文化遺産 ９．　古代ローマの都市遺産 １０．　殷墟と甲骨文字 １１．　始皇帝陵と兵馬俑坑 １２．　戦前・戦中の中国史蹟フィルム １３．　壁画古墳の保存 １４．　盗難・流出文化財の返還 １５．　文化遺産と現代社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50613B03
科目名	文化遺産論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	文化遺産は、過去の人びとによって生みだされ、現在まで継承されてきた有形・無形の遺産である。そのなかで、人類が共有すべき優れた普遍的価値を持つ建造物や遺跡などが、ユネスコの世界遺産リストに登録されている。この授業では、ユネスコの世界遺産や日本の文化財保護制度についての基礎的な知識を身につけるとともに、文化遺産の調査・保護・修理・復元・活用などの諸問題について、具体例を参照しながら考えていく。日本だけでなく、アジアやヨーロッパなどの代表的な文化遺産を比較対象としてとりあげ、写真や映像を参照しながら、その魅力と歴史的価値を解説していく。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する		
評価方法	期末のレポート（７０点）と出席状況や授業態度等による平常点（３０点）の合計で評価する。		
到達目標	日本および世界の代表的な文化遺産についての基礎知識を身につけるとともに、それぞれの文化遺産がもつ重要性と普遍的価値を認識し、それらがかかえる現代的課題を理解することを目標とする。		
準備学習	毎回の授業終了後に、次回あつかう文化遺産に関する参考文献を指示するので、あらかじめ予習しておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎むこと。注意しても従わないものには退席を求める。			
講義の順序とポイント			
１．　ユネスコの世界文化遺産 ２．　アンコール・ワット ３．　バーミヤーン ４．　メソポタミア文明の遺産 ５．　エジプト文明の遺産（１） ６．　エジプト文明の遺産（２） ７．　インダス文明の遺産 ８．　古代ギリシアの文化遺産 ９．　古代ローマの都市遺産 １０．　殷墟と甲骨文字 １１．　始皇帝陵と兵馬俑坑 １２．　戦前・戦中の中国史蹟フィルム １３．　壁画古墳の保存 １４．　盗難・流出文化財の返還 １５．　文化遺産と現代社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50619A01
科目名	文化社会学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちはたとえ自分自身が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代になりました。少子高齢化による人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教などです。それらが、どのような場面でどのように問題になるのか、世界の多文化状況と比較しながら日本のあり方、グローバル時代のサバイバルを考えていきます。		
教材（テキスト）	『改訂版　異文化論への招待ー＜違い＞とどう向き合う」か』黒木雅子　朱鷺書房　2014		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業内容はレジメとして配布		
評価方法	平常点（授業内課題と出席状況による）：40%,、テスト:6０％		
到達目標	日本において多文化状況とどう向き合うか		
準備学習	授業最後に準備学習を指定		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれないで、他者への想像力を養う			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクションー「バベルの塔」より 2, 自文化に気づくとは 3, 文化を身につけるー社会化 4, 社会化とステレオタイプ 5, アイデンティティという見えない文化 6,ミクロ社会学でみる「本当の私」 7, 日系アメリカ人のアイデンティティ 8, 「違い」がもたらす自文化変容とは 9, 「違い」とこみゅにけーとする 10, 言語的コミュニケーション 11, 非言語的コミュニケーション 12, コミュニケーションとコンテクスト 13, カルチャーショックによる文化変容 14, 逆カルチャーショックとＷカーブ仮説 15, 「国際的」コミュニケーションとは？			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50619A02
科目名	文化社会学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちはたとえ自分自身が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代になりました。少子高齢化による人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教などです。それらが、どのような場面でどのように問題になるのか、世界の多文化状況と比較しながら日本のあり方、グローバル時代のサバイバルを考えていきます。		
教材（テキスト）	『改訂版　異文化論への招待ー＜違い＞とどう向き合う」か』黒木雅子　朱鷺書房　2014		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業内容はレジメとして配布		
評価方法	平常点（授業内課題と出席状況による）：40%,、テスト:6０％		
到達目標	日本において多文化状況とどう向き合うか		
準備学習	授業最後に準備学習を指定		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれないで、他者への想像力を養う			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクションー「バベルの塔」より 2, 自文化に気づくとは 3, 文化を身につけるー社会化 4, 社会化とステレオタイプ 5, アイデンティティという見えない文化 6,ミクロ社会学でみる「本当の私」 7, 日系アメリカ人のアイデンティティ 8, 「違い」がもたらす自文化変容とは 9, 「違い」とこみゅにけーとする 10, 言語的コミュニケーション 11, 非言語的コミュニケーション 12, コミュニケーションとコンテクスト 13, カルチャーショックによる文化変容 14, 逆カルチャーショックとＷカーブ仮説 15, 「国際的」コミュニケーションとは？			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50619B01
科目名	文化社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちはたとえ自分自身が異文化移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代になりました。少子高齢化による人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教などです。それらが、どのような場面でどのように問題になるのか、世界の多文化状況と比較しながら日本のあり方、グローバル時代のサバイバルを考えていきます。		
教材（テキスト）	『改定版　異文化論への招待ー＜違い＞とどう向き合うか』黒木雅子　朱鷺書房 2014		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回の授業内容はレジメとして配布		
評価方法	平常点（授業内課題と出席状況による）：40%,、テスト:6０％		
到達目標	日本において多文化状況とどう向き合うか		
準備学習	授業最後に準備学習を指定		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれないで、他者への想像力を養う			
講義の順序とポイント			
1, 後期イントロダクション 2, 所属集団と準拠集団 3, 格差社会と社会資源 4, 誰もがマイノリティ 5, 人種とエスニシティ 6, 日本のなかのマイノリティ 7, 大学生のサブカルチャーショック 8, 単一民族神話と日本人論 9, 「ハーフ」とは 10, ビデオで見る日本の多文化 11,「違い」と暴力 12,2 つの「違い」 13, 異文化から多文化へ 14, クリスマスに見る宗教と多文化 15,　アメリカの多文化社会を鏡として			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50619B02
科目名	文化社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちはたとえ自分自身が異文化移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代になりました。少子高齢化による人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教などです。それらが、どのような場面でどのように問題になるのか、世界の多文化状況と比較しながら日本のあり方、グローバル時代のサバイバルを考えていきます。		
教材（テキスト）	『改定版　異文化論への招待ー＜違い＞とどう向き合うか』黒木雅子　朱鷺書房 2014		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回の授業内容はレジメとして配布		
評価方法	平常点（授業内課題と出席状況による）：40%,、テスト:6０％		
到達目標	日本において多文化状況とどう向き合うか		
準備学習	授業最後に準備学習を指定		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれないで、他者への想像力を養う			
講義の順序とポイント			
1, 後期イントロダクション 2, 所属集団と準拠集団 3, 格差社会と社会資源 4, 誰もがマイノリティ 5, 人種とエスニシティ 6, 日本のなかのマイノリティ 7, 大学生のサブカルチャーショック 8, 単一民族神話と日本人論 9, 「ハーフ」とは 10, ビデオで見る日本の多文化 11,「違い」と暴力 12,2つの「違い」 13, 異文化から多文化へ 14, クリスマスに見る宗教と多文化 15,　アメリカの多文化社会を鏡として			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50639A02
科目名	民俗学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Folklore Studies A		
担当者名	橘　弘文	旧科目名称	
講義概要	岩手県遠野郷出身の佐々木喜善が語る遠野地方の言い伝えを、柳田国男が文章にしてまとめたものが、『遠野物語』と題して 1910 年に刊行されました。日本の民俗学では『遠野物語』は、生活についてさまざまな省察をうながす必読書とされています。いっぽう、現代の遠野市では『遠野物語』は重要な観光資源の一つになっています。ところが、100 年以上前に書かれた『遠野物語』の文章は、現代の読者にとって、かならずしも読みやすいとはいえません。 風景、生活、近代化、信仰、出来事などを軸にして、この授業では『遠野物語』を読みすすめてゆく予定です。		
教材（テキスト）	柳田国男『遠野物語』（角川ソフィア文庫）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内の小テスト等による平常点（40%）。レポートの作成と発表（60%）。		
到達目標	柳田国男の『遠野物語』を読み解き、前近代の生活をとおして近代化について考える視点を養うことを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示します。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席してください。私語を厳禁とします。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して、退出を求めます。学外授業をおこなうこともあります。

講義の順序とポイント

第 1 回：『遠野物語』までの柳田国男と佐々木喜善
第 2 回：『遠野物語』の空間と風景
第 3 回：山地と生活様式 1　遠野三山と三女神
第 4 回：山地と生活様式 2　早池峰山の開山伝説
第 5 回：山地と生活様式 3　遠野三山と女人禁制
第 6 回：山地と生活様式 4　狩猟者の不思議な体験
第 7 回：山地と生活様式 5　木材資源を利用する人びとの不思議な体験
第 8 回：山地と生活様式 6　橋野鉱山をめぐって
第 9 回：川と川辺の伝承
第 10 回：家空間と不思議な体験
第 11 回：家の盛衰
第 12 回：『遠野物語』における死 1
第 13 回：『遠野物語』における死 2
第 14 回：『遠野物語』以後の柳田国男と佐々木喜善
第 15 回：レポート発表と討論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50639B01
科目名	民俗学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Folklore Studies B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	受講生の皆さんが、何気なく行っている日常の習慣や節目の行事に注目し、その由来や意味を考えることによって、日本文化とは何かを相対的に考えていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期末考査および授業内提出物		
到達目標	日本文化を相対的にとらえる視点を持つ。		
準備学習	授業中に紹介された文献をあらかじめ読んでおくこと。		
受講者への要望			
生活の中の季節の行事や人生の節目の儀礼などにできるだけ参加してみましょう。			
講義の順序とポイント			
１民俗文化についてⅠ ２日本神話とその広がりⅠ ３日本神話とその広がりⅡ ４米と芋 ５発酵食品 ６相互唱の伝統 ７相互唱行為の広がり ８日本の葬式 ９アジアの葬式 １０修験の行事とその背景Ⅰ １１修験の行事とその背景Ⅱ １２御田植え行事 １３日本の昔話とその広がりⅠ １４日本の昔話とその広がりⅡ １５民俗文化についてⅡ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50655A01
科目名	妖怪文化論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、漫画、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 妖怪文化論 A では、そのうち特に、語られた妖怪と、妖怪が出没する場所、風景について論じます。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『怪異の風景学―妖怪文化の民俗地理』古今書院、2014 年		
教材（参考文献）	小松和彦著『妖怪文化入門』せりか書房、2006 年		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 20%、学期末レポート 80%		
到達目標	妖怪文化が様々な学問分野にまたがっている点、妖怪文化の多様な見方がある点を理解することを目標とする。		
準備学習	講義ごとに提示する教科書の指定箇所を予習・復習した上で受講すること。		
受講者への要望			
受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　妖怪文化とは：語りから造形化へ（百鬼夜行絵巻、画図百鬼夜行、水木しげる） 2　妖怪文化研究の歴史：井上円了・柳田国男から小松和彦まで 3　妖怪の見える風景：『今昔物語集』『源氏物語』『宇治拾遺物語』 4　妖怪体験とことば：風景認識の三角形 5　妖怪の走る風景：柳田国男の『妖怪談義』、「クビナシウマ」と「首切れ馬」 6　集団の見た妖怪：妖怪の出没場所を選ぶ伝承集団 7　頭の中の妖怪地図：伝説の構造分析とメンタルマップ 8　妖怪の二つの場所：妖怪の聞き取り調査 9　『千と千尋の神隠し』に描かれた怪異世界の風景：少女の引っ越し 10　怪異世界と心のなかの景観：見えない風景の知覚 11　現代日本人の怪異世界イメージ：『リング』『ワンダフル・ライフ』『呪怨』 12　廃墟と幽霊・怪異世界：18 世紀後半の妖怪画革命とピクチャレスクの流行 13　現代の廃墟と近代化遺産：18 世紀後半と現代の比較 14　妖怪の出没する場所と時代：妖怪のメッセージ 15　世界に進出する妖怪文化：求められる日本人の世界観						

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50655B01
科目名	妖怪文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、マンガ、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 　妖怪文化論Ｂでは、そのうち特に、描かれた妖怪と、妖怪が跳梁するメディア、表現について論じます。		
教材（テキスト）	小松和彦『妖怪文化論入門』角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況等による。レポート（70%）		
到達目標	妖怪文化論という視点、位置を理解する。		
準備学習	テキストは事前に読んでおくこと。また各講義で参考文献を提示するので、読んで理解を深めるための学習に時間を割く必要がある。		
受講者への要望			
自ら本を読み、現場を歩いて下さい。			
講義の順序とポイント			
（1）イントロダクション I.絵を解読する （2）絵を読む方法 （3）図像学 （4）絵引き （5）絵解き （6）アニメ『平成狸合戦ぽんぽこ』 （7）狸のイメージ II. 妖怪の造形 （8）狸という妖怪存在 （9）八百八狸 （10）八百八狸続 （11）絵巻物の表現 （12）絵巻物と芸能 （13）浮世絵の表現 （14）仏教美術の表現 （15）神経にもぐりこんだ妖怪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50658001
科目名	理論社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Theoretical Sociology		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	
講義概要	理論とは諸概念を相互連関的に組み合わせたセットである。社会学もまた他の学問と同様、理論は命題のかたちを取る。命題はすべて「AはBである」という単純なかたちに還元できる。たとえば「社会は個人の総和以上のものである」というようなかたち。この例が示すように、社会学の命題には万人が満場一致で異論なく受け入れているようなものはない。しかし時の流れの中で今日まで論議されてきた命題は、万人の認める真理を表してはいないにせよ、それに相対的に近い円周の上にあると見てよかろう。このような観点から本講義ではいくつかの社会学的命題を選んで解説を試みる。これらの中には一般理論のほかに社会学の特定領域にかかわる理論や特定の歴史段階あるいは特定の文化にかかわる理論も含まれている。しかしこれらは一般理論につうじるものである限りにおいて選ばれた。なお、取り上げる命題の中には社会学からだけではなく、哲学、精神分析、心理学などの他の分野からも、社会学的命題への重要なかかわりがある限りにおいて選ばれている。解説を予定している命題は【講義の順序とポイント】に示す通りである。		
教材（テキスト）	作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』ちくま学芸文庫		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に行う命題ごとの小テスト		
到達目標	社会学的思考方法に接し、理論のおもしろさとは何かをつかむことをめざす。		
準備学習	上記のテキストを手掛かりに、みずから興味のある社会学的命題をさがしてみること。		
受講者への要望			
出席した以上は、私語を慎んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 社会学的思考について 2. 預言の自己成就（R.K.マートン）① 3. 預言の自己成就（R.K.マートン）② 4. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）① 5. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）② 6. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）① 7. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）② 8. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）① 9. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）② 10. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）① 11. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）② 12. プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）① 13 プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）②. 14. 自由からの逃走（E.フロム）① 15. 自由からの逃走（E.フロム）②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J50658002
科目名	理論社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Theoretical Sociology		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	
講義概要	理論とは諸概念を相互連関的に組み合わせたセットである。社会学もまた他の学問と同様、理論は命題のかたちを取る。命題はすべて「AはBである」という単純なかたちに還元できる。たとえば「社会は個人の総和以上のものである」というようなかたち。この例が示すように、社会学の命題には万人が満場一致で異論なく受け入れているようなものはない。しかし時の流れの中で今日まで論議されてきた命題は、万人の認める真理を表してはいないにせよ、それに相対的に近い円周の上にあると見てよかろう。このような観点から本講義ではいくつかの社会学的命題を選んで解説を試みる。これらの中には一般理論のほかに社会学の特定領域にかかわる理論や特定の歴史段階あるいは特定の文化にかかわる理論も含まれている。しかしこれらは一般理論につうじるものである限りにおいて選ばれた。なお、取り上げる命題の中には社会学からだけではなく、哲学、精神分析、心理学などの他の分野からも、社会学的命題への重要なかかわりがある限りにおいて選ばれている。解説を予定している命題は【講義の順序とポイント】に示す通りである。		
教材（テキスト）	作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』ちくま学芸文庫		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に行う命題ごとの小テスト		
到達目標	社会学的思考方法に接し、理論のおもしろさとは何かをつかむことをめざす。		
準備学習	上記のテキストを手掛かりに、みずから興味のある社会学的命題をさがしてみること。		
受講者への要望			
出席した以上は、私語を慎んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 社会学的思考について 2. 預言の自己成就（R.K.マートン）① 3. 預言の自己成就（R.K.マートン）② 4. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）① 5. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）② 6. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）① 7. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）② 8. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）① 9. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）② 10. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）① 11. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）② 12. プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）① 13 プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）②. 14. 自由からの逃走（E.フロム）① 15. 自由からの逃走（E.フロム）②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50662A01
科目名	臨床心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology I		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	臨床心理学ｓ
講義概要	臨床心理学とは、病気や障害あるいは不幸な出来事などによってひき起こされる心の悩みや苦しみを軽減するために、心理的援助を行い、それを通して問題の解決や改善を目指す学問である。本講では、臨床心理学の成り立ちや、その理論や治療技法に関する主要な考え方について解説する。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）	菅佐和子、他著　「臨床心理学の世界」　有斐閣		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	定期試験（７０％）、平常点（３０％）出席状況等による。		
到達目標	こころの問題への心理的援助に求められる基本的な理論や治療技法の理解を目指す。		
準備学習	授業１週間前までに、授業資料を京学ナビにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。わからない専門用語は、調べておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　臨床心理学とは何か・臨床心理学の研究法 ３　臨床心理学の歴史 ４　心理アセスメント　知能検査（ビネー式） ５　心理アセスメント　知能検査（ウェクスラー式） ６　心理アセスメント　人格検査（質問紙法） ７　心理アセスメント　人格検査（投影法） ８　異常心理学　正常と異常 ９　異常心理学　精神障害の分類 １０　異常心理学　精神障害の症状 １１　カウンセリングの基本的問題 １２　カウンセリングの基本的技術 １３　カウンセリングの理論（フロイト・ユング） １４　カウンセリングの理論（ロジャース・行動療法） １５　臨床心理士の活動領域			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50662B01
科目名	臨床心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology Ⅱ		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	臨床心理学ｆ
講義概要	臨床心理学Ⅰでの学習内容を踏まえて、心理的問題に対する援助に必要な基礎的理論・治療技法の概略を学ぶ。 臨床心理学とは、心理学を中心とした知識や理論を用いて、心の問題を抱えた人やその家族を理解し、それらの人々を援助するための方法を研究・実践する、心理学の一分野である。しかし「心の問題」の内容は多岐にわたる上に、その原因や対処方法は複雑である。クライエント(来談者)の訴えは日常的な悩みや心理的ストレスによる身体的・精神的症状のこともあれば、幻覚・妄想などの病理体験を伴うものであることもある。また、発達障害を持つ子供を養育・援助する上での問題、慢性身体疾患に罹患したり身体的障害を被ったりした際の心理的負担なども援助の対象となる。 本講義では、臨床心理学Ⅰでの学習内容を踏まえた上で、こういった問題への対処方法の理解・実践に必要な知識を得ることを目的とする。まず人格構造やその形成過程についての様々な理論を学習し、心の問題を分析・理解する枠組みを学ぶ。その上で、 人生の様々な年代において、どのような臨床心理学的課題が存在しているのかを、発達心理学的な分析も加えながら学ぶと共に、実際に様々な援助技法を用いて援助していく過程を学習する。		
教材（テキスト）	平木典子・袰岩秀章　編著　カウンセリングの基礎　臨床の心理学を学ぶ　 北樹出版		
教材（参考文献）	川瀬・松本・松本　　心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法　 ナカニシヤ出版		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	学期末試験　７０％　レポート及び平常点　３０％		
到達目標	臨床心理学の基礎的理論を習得するとともに、様々な心理的問題・精神的障害についての理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に、次回の講義内容にかんする資料を配布するか、該当する教科書の箇所を指示するので、それを熟読しておくこと。		
受講者への要望			
授業中は当然私語厳禁です。それに加えて、関連図書を読むなど、自らの関心に従って積極的に学ぶ姿勢が必要です。			
講義の順序とポイント			
1～5．臨床心理学における基礎理論－－人格・発達理論 （フロイト、エリクソン、ロジャーズなど） 6～10．臨床心理学的治療論及び具体的治療技法 （精神分析、来談者中心療法、行動療法など） 11．各発達段階にみられる様々な問題－－乳幼児期 12．各発達段階にみられる様々な問題－－児童期 13．各発達段階にみられる様々な問題－－青年期 14．各発達段階にみられる様々な問題－－成人期・老年期 15．心理臨床の実際 但し、1～5 と 6～10 は適宜順序を入れ換えて、組み合わせて講義する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50665A0A
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	１．臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけ、論文が読めるようになること。 ２．卒業研究を視野に入れ、論文の形式やテーマの設定方法、心理学研究法の応用の仕方、先行研究の調査方法などを理解すること。 　これらの課題を実行するために、ａ．臨床心理学の文献講読を実施し、論文を読みこなしてまとめ、発表すると共に、それに関連した研究を検索・発表する、ｂ．自分の関心あるテーマに関する成書・論文を手にいれて、その領域に関する先行研究を調査すると共に、どういったアプローチが必要かを理解する、といった内容を１年を通して実施する。 　また心理面接実習との関連で、自発的な動きがあれば、グループ・ワーク的活動も実施する。		
教材（テキスト）	市橋秀雄　『心の地図　こころの障害を理解する　上・下』星和書店		
教材（参考文献）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の発表(50%)及びレポート(50%)を総合して評価する。		
到達目標	臨床心理学に関する基礎的な知識や技法を身につけると共に、自分の興味関心を研究へと結びつける枠組みを作り上げる。		
準備学習	毎回、次回の演習に対する準備学習を指示する。		
受講者への要望			
心理学基礎実験Ａ・Ｂ両方の単位及び臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。積極的な姿勢で努力すること。			
講義の順序とポイント			
1．臨床心理学専門演習ＩＡの運営方針について－－オリエンテーション 2．就職ガイダンス 3～7．こころの地図　上巻講読・発表　乳幼児期～児童期 8．学習と進路について 9～11．こころの地図　上巻講読・発表　青年期　1 12．学習と進路について 13～14．こころの地図　上巻講読・発表　青年期　2 15．総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J50665A0B
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためには自分自身の成長が重要である。この演習ではゼミ生の精神的力量の向上に焦点を当てる。扱うテーマや教材は臨床心理学と直接は関連が薄いように思われるものも多いかもしれないが、必要な時に援助を求める人の横に居て、その人から信頼を得られる人に少しずつでも近づけるための工夫であり、それは臨床心理学的目的をもったものである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。そのノートを点検することがある。また、とくに「人間模様」に関する事柄について読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		

受講者への要望

受講者の新しい自分の発見を促す要因を含んだ場を提供したいと思っているので、積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、個別面談①ほか
２．各自によるプレゼンテーション①
３．同　②
４．同　③
５．知り合うセッション
６．テーマディスカッション①
７．同　②
８．文献講読・英文読解・体験学習のいずれか①
９．同　②
１０．同　③
１１．同　④
１２．同　⑤
１３．テーマディスカッション③
１４．同　④
１５．個別面談②ほか
※以上については、内容や順序の変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	J50665A0C
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学や医療心理学の基礎文献の講読および発表を通して、臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深める。さらに、将来の卒業論文作成を視野において、各自の問題意識や素朴な疑問を専門分野における課題に練り上げていく作業を推し進めていきたい。また、医療心理臨床の現場で出会う様々な疾患や、それに対する援助技術についても学習する。 春学期は、様々な文献を全員で講読および発表して、臨床心理学や医療心理学についての理解を深める。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）	乾　吉佑、他編　「医療心理臨床」　星和書店		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深めることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論には、積極的・主体的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　学習と進路 Ⅰ ３　文献講読（医療心理臨床） ４　文献講読（医療における臨床心理士の役割） ５　文献講読（総合病院における心理臨床） ６　文献講読（単科精神病院における心理臨床） ７　文献講読（精神科クリニックにおける心理臨床） ８　学習と進路　Ⅱ ９　文献講読（心療内科領域における心理臨床） １０　文献講読（小児科領域における心理臨床） １１　学習と進路　Ⅲ １２　文献講読（リハビリテーション領域における心理臨床） １３　文献講読（歯科口腔外科領域における心理臨床） １４　文献講読（産婦人科領域における心理臨床） １５　文献講読（開業クリニック領域における心理臨床）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50665A0D
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学、深層心理学の文献購読及び発表を通して、文献を精読してまとめて発表する方法を習得するとともに、臨床心理学、深層心理学の基礎的な知識を学ぶ。特にＩＡでは、『子どもの宇宙』で取り上げられている児童文学を通して、人間の深い理解を試みる。登録者の人数にもよるが、心理療法についての文献以外にも物語、神話、昔話、小説、映画なども取り上げながら、人間の理解を深める。		
教材（テキスト）	河合隼雄著　子どもの宇宙　岩波新書		
教材（参考文献）	河合隼雄著　ユング心理学入門　培風館 他にも必要に応じて随時紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	平常点：出席及び討論への参加状況など（50%） 発表及びその内容をまとめたレポート　（50%）		
到達目標	到達目標 専門演習ＩＡ、Ｂを通して １）興味・関心ある文献を選び、精読し、内容をまとめて発表できるようにする。 ２）口頭で発表した内容をレポートとしてまとめる。 上記１）２）を通して研究の方法の基礎を身に付ける。 自分の考えを人に伝えたり、人の意見に耳を傾け、討論ができるようにする。 ＊　大学院進学を志望する者は、そのための基礎学力、語学力をつける―個別に対応―。		
準備学習	討論に積極的に参加できるように、次の発表内容に関する文献には目を通す。		

受講者への要望

読書重視のゼミである。
教材としては『子どもの宇宙』で取り扱われている児童文学と臨床事例が中心となるが、内容的には心理臨床に対しての基本的な姿勢、見方について学ぶため、その覚悟を持って受講すること。

講義の順序とポイント

注）履修者の人数によって内容は変わりうる。
1　オリエンテーション：演習の運営方法について話し合いの上決定。各人の興味や関心について、発表の順番決定など。
2　『子どもの宇宙』　第１章　子どもと家族　発表および討論
3　家族とは？
4　『子どもの宇宙』　第２章　子どもと秘密　発表および討論
5　秘密を持つことの心理学的意味
6　『子どもの宇宙』　第３章　子どもと動物　発表および討論
7　動物のもつ象徴的意味・心理学的意味
8　『子どもの宇宙』　第４章　子どもと時空　発表および討論
9　心理臨床学的視点から見た時間と空間
10　『子どもの宇宙』　第５章　子どもと老人　発表および討論
11 子どもと老人の関わりをテーマにした児童文学を読む
12　『子どもの宇宙』　第６章　子どもと死　発表および討論
１３　児童文学とビデオを通して、「死」について考える
14　『子どもの宇宙』　第７章　子どもと異性　発表および討論
１５　『子どもの宇宙』全７章全てを通しての討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J50665A0E
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	各自のテーマにそって文献を探し、発表する。聞く方は、必ず発表者に対して感想や意見を言うことを通して、さらに自分の考えを深めるようにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加、責任のある態度、学ぼうとする姿勢		
到達目標	各自の興味のあるテーマをさらに深めること。他者に自分の意見をつたえられること。		
準備学習	日ごろから、心理療法に関する文献などに注意し、積極的に自分で読んでみること。		

受講者への要望

ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。積極的に参加して下さい。

講義の順序とポイント

1,オリエンテーション
2,心理療法・文献購読　ユング
3,心理療法・文献購読　ユング
4 子どものセラピー・事例
5 大人のセラピー・事例
6 思春期のセラピー・事例
7 思春期のセラピー・事例
8 各自のテーマに沿って発表
9 各自のテーマに沿って発表,
10 各自のテーマに沿って発表
11 各自のテーマに沿って発表
12 各自のテーマに沿って発表
13 各自のテーマに沿って発表
14 各自のテーマに沿って発表
15 各自のテーマに沿って発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J50665B0A
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	１．臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけ、論文が読めるようになること。 ２．卒業研究を視野に入れ、論文の形式やテーマの設定方法、心理学研究法の応用の仕方、先行研究の調査方法などを理解すること。 　これらの課題を実行するために、ａ．臨床心理学の文献講読を実施し、論文を読みこなしてまとめ、発表すると共に、それに関連した研究を検索・発表する、ｂ．自分の関心あるテーマに関する成書・論文を手にいれて、その領域に関する先行研究を調査すると共に、どういったアプローチが必要かを理解する、といった内容を実施する。 　また心理面接実習との関連で、自発的な動きがあれば、グループ・ワーク的活動も実施する。		
教材（テキスト）	市橋秀雄　『心の地図　こころの障害を理解する　上・下』星和書店		
教材（参考文献）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の発表(50%)及びレポート(50%)を総合して評価する。		
到達目標	臨床心理学に関する基礎的な知識や技法を身につけると共に、自分の興味関心を研究へと結びつける枠組みを作り上げる。		
準備学習	臨床心理学専門演習ＩＡの内容を、再度よく理解しておくこと。 各講義ごとに、次週のための課題を提示する。		
受講者への要望			
心理学基礎実験Ａ・Ｂ両方の単位及び臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。積極的な姿勢で努力すること。			
講義の順序とポイント			
1．春学期のまとめ 2～5.　　こころの地図　下巻講読・発表　人格障害 6～9.　　こころの地図　下巻講読・発表　躁うつ病 10～13.　こころの地図　下巻講読・発表　統合失調症 14．病院見学 15．総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50665B0B
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためには自分自身の成長が重要である。この演習ではゼミ生の精神的力量の向上に焦点を当てる。扱うテーマや教材は臨床心理学と直接は関連が薄いように思われるものも多いかもしれないが、必要な時に援助を求める人の横に居て、その人から信頼を得られる人に少しずつでも近づけるための工夫であり、それは臨床心理学的目的をもったものである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。そのノートを点検することがある。また、とくに「人間模様」に関する事柄について読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		

受講者への要望

受講者の新しい自分の発見を促す要因を含んだ場を提供したいと思っているので、積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。

講義の順序とポイント

１．進路と卒業研究①
２．個別面談①ほか
３．文献講読・英文読解・体験学習のいずれか①
４．同　②
５．見学事前学習
６．対人援助現場見学実習①
７．同　②
８．同　③
９．同　④
１０．見学実習のふりかえり等
１１．対人援助現場見学実習⑤
１２．同　⑥
１３．同　⑦
１４．進路と卒業研究②
１５．個別面談②ほか
※以上については、内容や順序の変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	J50665B0C
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学や医療心理学の基礎文献の講読および発表を通して、臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深める。さらに、将来の卒業論文作成を視野において、各自の問題意識や素朴な疑問を専門分野における課題に練り上げていく作業を推し進めていきたい。また、医療心理臨床の現場で出会う様々な疾患や、それに対する援助技術についても学習する。 秋学期は、臨床心理学や医療心理学に関する論文を、全員で講読および発表を行う。また、秋学期の後半は、各自の問題意識や疑問に関する文献を収集し、それをまとめたものを発表し、卒業研究で取り組むテーマの決定につなげていく。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深めることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論には積極的・主体的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション・個人面談 ２　個人面談 ３　論文講読 ４　論文講読 ５　論文講読 ６　論文講読 ７　論文講読 ８　論文講読 ９　個人テーマ発表 １０　個人テーマ発表 １１　個人テーマ発表 １２　個人テーマ発表 １３　個人テーマ発表 １４　個人テーマ発表 １５　個人テーマ発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50665B0D
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	専門演習ⅡA・B における卒業研究を視野に入れ、自分の関心ある研究テーマを模索し、関連する研究の文献を探して、読みこなし、発表をする。発表の際には、討論を積極的に行い、幅広い専門的知識を身に付ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点:出席及び討論への参加状況など(50%) 発表及びその内容をまとめたレポート　（50%）		
到達目標	各自関心ある研究テーマを絞る。 専門演習ＩＡでも挙げているが、文献を読みこなしその内容を、自分の言葉を用いて人に説明をする、 さらに自分の考えをまとめて発表したり、討論したりする能力を身につける。		
準備学習	研究発表の際には討論に参加できるように次回の発表の関連文献を読んで準備をしておくこと。		

受講者への要望

積極的に論文を読み、読書を進めること。
読書を重視するので、その自覚を持って登録すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　文献を読む（心理臨床、物語、文学、神話、ユング心理学に関わるもの)。
3　文献を読む
4　文献発表・討論
5　文献発表・討論
6　描画法検討　バウムテスト及び風景構成法
7　言語連想検査
8　表現療法の理解を深める
9　表現療法の理解を深める
10　文献購読
11　文献購読
12　文献購読
13　箱庭検討会
14　研究発表
15　研究発表
具体的な運営方法については登録者の人数によっても異なるので、相談のうえ決定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	ー	ー	★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J50665B0E
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	【講義の概要】 基礎的な文献を読み、発表する。発表者以外は、きちんとそれに対して意見が言えるように練習します。芸術療法、箱庭療法など、基礎文献のテーマによっては実習を取り入れます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加、発表だけではなく、自分の考えを人にも伝えられること。		
到達目標	心理療法の様々な理論を学ぶ中で、疑問をもち、考え、自分について理解を深めること。		
準備学習	心理療法の基本的な文献など、自分で読むこと。		
受講者への要望			
ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。責任をもってしっかり参加して下さい。自分の感じたことを言葉にして、人に伝えようとする姿勢を求めます。			
講義の順序とポイント			
【講義の順序とポイント】 1、オリエンテーション ２、図書館で文献を探す練習 ３、基礎文献　箱庭療法 ４、箱庭実習 ５、基礎文献　風景構成法、バウムテスト ６、風景構成法、バウムテスト実習 ７、基礎文献　コラージュ ８、コラージュ実習 ９、基礎文献　心理療法 １０、心理療法ビデオ １１、基礎文献、言語連想 １２、言語連想分析、 １３、基礎文献　夢分析 １４、基礎文献　遊戯療法 １５、箱庭ビデオなど			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J50667A0A
科目名	臨床心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、具体的な研究方法を検討し、決定する。 その過程において、臨床心理学についての、より専門的な探求を推し進める。		
教材（テキスト）	その都度指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	発表 50%、討論 50%として、総合的に判断する。		
到達目標	専門演習 IB で学んだ知識を元に、研究テーマを絞り込み、卒業論文の準備や作成を進める。先行研究に基づいた研究計画を立てる。		
準備学習	毎回次週までの課題が出るので、着実にこなすことが求められる。		
受講者への要望			
卒業研究は自らが作成するものであるから、自分の問題意識を纏めると共に、主体的に授業にかかわること。			
講義の順序とポイント			
1.　オリエンテーション・個人面談 2.　卒業研究について 3.　関連文献講読 4.　関連文献講読 5.　テーマ選定 6.　テーマ選定・討議 7.　テーマ決定 8.　先行研究展望の発表 9.　先行研究展望の発表 10.　先行研究展望の発表 11.　実施方法検討 12.　実施方法検討 13.　実施方法検討 14.　実施準備 15.　実施準備			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J50667A0B
科目名	臨床心理学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	演習ＩＡ・Ｂの延長としての発達臨床心理学演習、各自の卒業研究指導、進路に関する相談などを目的として、大学生活最後の１年間であることを意識しながら、各時間を構成する。		
教材（テキスト）	川畑隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント－」 2009　明石書店 ※１回目の授業で割引販売を行なうので事前に購入する必要はない。		
教材（参考文献）	都筑学著「心理学論文の書き方～おいしい論文のレシピ～」2006 有斐閣アルマ		
教材（その他）	必要に応じてプリント類を配布する		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自のテーマにそった卒業研究の実施に向けた準備ができること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。そのノートや、自分の卒業研究のテーマについて学習した内容について点検することがある。また、とくに「人間模様」に関する事柄について読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。についての学習を行なうこと。		

受講者への要望

就職活動を行ないながらの出席、卒業研究の準備となるが、大学での学習の締めくくりなので頑張ってほしい。

講義の順序とポイント

１．進路・卒業研究に関して①
２．　〃　②
３．過去の卒業研究の講読①
４．　〃　②
５．グループ別テーマ研究①
６．　〃　②
７．　〃　③
８．　〃　④
９．　〃　⑤
１０．文献（教科書）講読。各自の卒業研究個別指導①
１１．　〃　②
１２．　〃　③
１３．　〃　④
１４．　〃　⑤
１５．　〃　⑥
※上記の内容や順序は変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	J50667A0C
科目名	臨床心理学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、卒業研究を行い、論文にまとめる。これらを通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探求を推し進める。 春学期は、卒業論文の作成に向けて、下記のテキストを全員で講読する。		
教材（テキスト）	都筑学著　「心理学論文の書き方」　有斐閣		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	各自が取り組むテーマに即して、卒業論文の準備や作成を目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講者への要望

演習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・個人面談
2　個人面談
3　文献講読
4　文献講読
5　文献講読
6　文献講読
7　文献講読
8　文献講読
9　先行研究展望の発表
１０　先行研究展望の発表
１１　先行研究展望の発表
１２　先行研究展望の発表
１３　先行研究展望の発表
１４　先行研究展望の発表
１５　先行研究展望の発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50667A0D
科目名	臨床心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を念頭に置きながら、各人の興味関心合わせて研究を進めることを通して、臨床心理学・深層心理学について学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点：出席及び討論への参加状況など（５０％） 発表及びその内容をまとめたレポート（50%）		
到達目標	専門演習 IB で絞り込んだ研究テーマに関する先行文献を探して、自らの研究の位置づけを明らかにしながら、卒業研究の計画を進める。		
準備学習	討論に積極的に参加できるように、関連のある文献に目を通しておく。		

受講者への要望

自ら能動的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。

講義の順序とポイント

1　　オリエンテーション
2　　文献購読
3　　文献購読
4　　先行研究に関する発表
5　　先行研究に関する発表
6　　先行研究に関する発表
7　　先行研究に関する発表
8　　先行研究に関する発表
9　　卒業研究計画発表
10　卒業研究計画発表
11　卒業研究計画発表
12　卒業研究計画発表
13　卒業研究計画発表
14　予備（計画発表）
15　予備（計画発表）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50667B0A
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	専門演習 II A での検討を元に、各自が関心を持つテーマについて研究を行う。 研究結果については、適宜中間報告を行い、軌道修正をしながら、最終的な論文に纏め上げていく。		
教材（テキスト）	必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	発表および討議(50%)、卒業論文の提出(50%)。		
到達目標	卒業論文作成のための調査や分析を実施し、論文を纏め上げることを目標とする。		
準備学習	毎時間、研究および論文作成の進行状況に応じた課題を指示する。		

受講者への要望

自分の論文を作成するために、主体的・積極的に参加することが求められる。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション・個人面談
2.　論文構想の中間報告
3.　論文構想の中間報告
4.　研究実施の中間報告
5.　研究実施の中間報告
6.　研究実施の中間報告
7.　結果・考察の検討
8.　結果・考察の検討
9.　結果・考察の検討
10.卒業論文作成
11.卒業論文作成
12.卒業論文作成
13.卒業論文作成
14.卒業論文発表
15.卒業論文発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J50667B0B
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の卒業研究指導、進路に関する相談などを目的として、大学生活最後の１年間であることを意識しながら、各時間を構成する。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	都筑学著「心理学論文の書き方～おいしい論文のレシピ～」2006 有斐閣アルマ		
教材（その他）	必要に応じてプリント類を配布する		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自のテーマにそった卒業研究の実施と完成。		
準備学習	自分の卒業研究の完成に向けたあらゆる準備を行なうこと。その進行具合や内容について随時チェックを行なう。		

受講者への要望

就職活動を行ないながらの出席、卒業研究の実施、完成となるが、大学での学習の締めくくりなので頑張ってほしい。

講義の順序とポイント

１．卒業研究と進路について
２．卒業研究に関する個別相談指導①
３．　〃　②
４．文献講読あるいはテーマ・ディスカッション①
５．　〃　②
６．　〃　③
７．　〃　④
８．各自によるプレゼンテーション①
９．　〃　②
１０．　〃　③
１１．　〃　④
１２．　〃　⑤
１３．卒業研究に関する個別相談指導③
１４．　〃　④
１５．　〃　⑤
※上記の内容や順序は変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	J50667B0C
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、卒業研究を行い、論文にまとめる。これらを通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探求を推し進める。 秋学期は、各自のテーマに即して、研究計画を立て、卒業研究を行い、論文に仕上げていくが、途中経過の中間発表や個別指導を行う。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	各自が取り組むテーマに即して、卒業論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション・個人面談 ２　個人面談 ３　卒業研究の中間発表 ４　卒業研究の中間発表 ５　卒業研究の中間発表 ６　卒業研究の中間発表 ７　卒業研究の中間発表 ８　卒業研究の中間発表 ９　卒業研究の個人指導 １０　卒業研究の個人指導 １１　卒業研究の個人指導 １２　卒業研究の個人指導 １３　卒業研究の個人指導 １４　卒業研究の個人指導 １５　卒業研究の個人指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50667B0D
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	卒業研究を進め、論文作成の指導を中心に行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点：出席及び討論への参加状況など（５０％） 発表及びその内容をまとめたレポート（50%）		
到達目標	卒業論文の作成。		
準備学習	発表の関連文献を読んでおくこと。		

受講者への要望

能動的に、積極的に研究に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1　　オリエンテーション
2　　卒業研究の中間発表
3　　卒業研究の中間発表
4　　卒業研究の中間発表
5　　卒業研究の中間発表
6　　卒業研究の中間発表
7　　卒論指導
8　　卒論指導
9　　卒論指導
10　卒論指導
11　卒論指導
12　卒論指導
13　卒論指導
14　卒論指導
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J50670001
科目名	歴史学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Science		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後の日本では、大塚史学をはじめ、近代と近代化を問う学問の一つとして、歴史学が盛んに研究された。そうした戦後歴史学は、フランスのアナール学派による社会史の試みなどによって大きな変貌を遂げ、現代では様々な歴史学が群生している観がある。この講義では、戦後歴史学を再考し、そうした現代歴史学の諸相を概観したい。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験６０％、授業内レポート４０％		
到達目標	戦後歴史学と現代歴史学の概要を理解することを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。

講義の順序とポイント

１．戦後歴史学再考
２．大塚史学（１）
３．大塚史学（２）
４．現代歴史学の展開
５．アリエス　―　心性の歴史家（１）
６．アリエス　―　心性の歴史家（２）
７．アリエス　―　心性の歴史家（３）
８．フーコー　―　権力の系譜学（１）
９．フーコー　―　権力の系譜学（２）
１０．フーコー　―　権力の系譜学（３）
１１．ウォーラーステイン　―　世界システム論（１）
１２．ウォーラーステイン　―　世界システム論（２）
１３．ノースとトマス　―　ニュー・エコノミック・ヒストリー（１）
１４．ノースとトマス　―　ニュー・エコノミック・ヒストリー（２）
１５．史料読解入門

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J50681A01
科目名	歴史地理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Geography A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学 A では、まず歴史地理学の学説史と方法論を概観する。学説史と方法論においては、特に空間認知の歴史地理に焦点を当てる。この方法論が歴史地理学において発展したのは、歴史時代の人間集団の地理的行動が、現代の私たちの価値体系では、理解できないからである。したがって、特定の時代の人間集団の空間認知を研究する必要性がある。また歴史地理学における野外調査の方法についても触れる。 特に歴史地理学 A では、古代の村落・都市・交通・政治に関する地理的行動、地理的空間に焦点を当て、具体的な事例に則して講義していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	藤岡謙二郎編『新訂歴史地理』大明堂。		
教材（その他）	プリント配布、ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（20%）講義内レポート（80%）		
到達目標	歴史民俗学における歴史地理学の方法論、テーマの独自性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に配布する文献、古地図を熟読の上、講義中に出された課題を達成した上で講義に出席すること。		
受講者への要望			
講義内で 3 回出されるレポートを、現地調査や図書館での資料調査をした上で作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　歴史地理学とは－資料・時代・研究領域 2　口頭伝承を地図化する、地籍図、条里地割 3　抽象的世界の歴史地理学的研究 4　江戸時代の文献を現代語訳し、一覧表を作成する 5　城下町絵図で江戸期の文献に登場する場所を探す 6　城下町絵図を現代地図に復原する 7　城下町の現状、観光資源、 8　文献と古地図を利用する 9　『旅と伝説』『亀岡市史』等の伝承の一覧表作成 10　２万５千、小字図で分布図を作成する 11　現代地図に小字を復原する、小字、条里と伝承の関係を考える 12　伝説の歴史地理学的フィールドワーク 13　平安京を地形図に復原する、御土居を復原する 14　古典に描かれた怪異を平安京に探る 15　平安京の怪異空間と神話			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50681B01
科目名	歴史地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学Ｂでは、心理学や文化人類学の研究成果を積極的に取り入れた、人文主義地理学の観点からの歴史地理学の研究史、方法論を紹介、検討する。また、この方法論にもとづく野外調査（特に聞き取り調査）の方法についても講義する。 特に歴史地理学Ｂでは、文化・民俗・環境に焦点を当てる。私たちの祖先の地理的行動は、彼らの時代の文化や民俗を知ることなしには説明できない。彼らがどのように環境を知覚し、行動を起こし、環境と共存してきたのかを知ることは、歴史時代の地理的行動の知識を得るだけでなく、これからの私たちの環境思想にとっても重要なことである。以上のような観点から、古代文化、異文化から現在に伝承される民俗までを見据え、過去の人間集団の環境への接し方から、これからの環境問題についても講義する。		
教材（テキスト）	佐々木高弘『神話の風景』古今書院、2014。		
教材（参考文献）	菊池利夫『歴史地理学方法論』大明堂。佐々木高弘『民話の地理学』古今書院。		
教材（その他）	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）学期末レポート（８０％）		
到達目標	歴史地理学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、配布されたプリントの予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　歴史地理学の三つの分野と領域、歴史地理学の時代区分 2　北欧神話の歴史地理－オーディンの供儀 3　象徴化される生き物－オシリスの冥界： 4　土蜘蛛と蛇－オホクニヌシの苦悩 5　星座の神話の風景―世界を守護する北極星 6　星座の伝承と古代都市－天と地を結ぶ物語 7　旧約聖書の原初的風景、世界軸、信濃の国造り神話―神話世界の風景① 8　上田市の口頭伝承群、開拓神話の原点―神話世界の風景② 9　北欧神話の風景－ウプサラの樹と排水 10　中つ国（中間世界）へ語りかける神々―深層心理学的解釈 11　洪水神話の環境知覚－災害知覚の歴史地理 12　洪水神話の構造と変容－伝承から神話へ 13　日本の洪水神話－失われた伝承 14　平安京の神話空間－疫病の神の登場 15　永遠回帰の神話風景－想像された欠損と充足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50697A0B
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IA		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習のＩＡは、４つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	研究計画書の作成と提出。テーマ設定のために指定された学術論文を読んで、まとめておくこと。発表に関するフィールドワークと他のゼミ生の発表に対する討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
１　スケジュールの発表 ２～14　歴史民俗学専攻３回生の発表と討論、 15　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J50697A0C
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IA		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習のＩＡは、４つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
１　　スケジュールの発表 ２～１４歴史民俗学専攻３回生の発表と討論、 １５　　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	−	★

年度	2016	授業コード	J50697A0D
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IA		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習のＩＡは、４つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	論文を読み、内容を理解し、まとめる技術をみにつける プレゼンテーションの技術を学ぶ 討論を通じて問題意識を深めることを目標とする。		
準備学習	演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための学習、発表の準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
1　スケジュールの発表 ２～14　受講生の発表と討論、 15　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50697A0E
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IA		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習のＩＡは、４つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
1　スケジュールの発表 ２～14　歴史民俗学専攻３回生の発表と討論、 15　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50698B0B
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IB		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本演習では、歴史民俗の空間的側面に焦点を当てるため、歴史民俗の人文地理学的研究を特に重視します。 人文地理学は、文化の空間的側面を研究する学問です。あらゆる文化は、人間と環境との相互関係から生まれます。したがって、あらゆる文化が空間的特性を持つことになります。このように、人文地理学は様々な文化を研究対象にすることができます。 受講生は、どのような歴史民俗に関するテーマを持って本演習に臨んでもかまいません。従来の受講生の多くは、神話、伝説、昔話、都市伝説、妖怪、地域、映画、食文化、祭り、異文化などをテーマとしてきました。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。そのことを踏まえて、最終的にはレポート作成、あるはフィールドワークを行い、４回生での卒論の準備とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	研究テーマに則した学術論文、学術書を読んで、レジュメを作成しておくこと。発表に関するフィールドワークと、他のゼミ生の発表に対する討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論を望む。			
講義の順序とポイント			
１　スケジュール ２　テーマの発表、資料検索、文献目録、図書館 ３～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J50698B0C
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IB		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	この演習は ①異文化研究を行うことを目標においています。自分の生まれ育った文化とは違う形を持つ文化を、観察したり分析したりするには、天与の才能の他に知識や技術が必要です。このクラスではその知識や技術の習得に努めます。 参与観察の方法、インタビューの方法、資料の整理の仕方、旅行の技術、民族誌の書き方などなど。お手本になるのは、昔と現在の人類学者や民俗学者の著作です。 ②口承文芸を研究したいと考えている学生さんも歓迎です。口承文芸研究も異文化研究と同様なトレーニングが必要です。そのほかに口承文芸に関する教養やテキスト分析の知識も必要になるでしょう。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。そのことを踏まえて、最終的にはレポート作成、あるはフィールドワークを行い、４回生での卒論の準備とします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	テーマを設定し、方法論を見いだすために、多くの文献を読むこと。フィールドワークの計画し、それを実施すること。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論を望む。			
講義の順序とポイント			
1　　スケジュールの作成 2　　テーマの探し方、資料検索、文献目録、図書館の活用法 3～１５　担当者の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J50698B0D
科目名	歴史民俗学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IB		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	いよいよ4年間の大学生活の集大成である卒業論文執筆に取りかかります。分析を、一章ごとに、一歩ずつ進めていき、最終的に論文を書き上げることになります。年内に、論文を一度書き上げることを目標として、逆算して作業を計画的に進めていきましょう。この授業では、段階に応じて各人が報告を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・卒論の構成を考えながら、先行研究を読み込み、その到達点と課題を把握すること ・史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
準備学習	自らの研究発表準備。および各回の発表者の課題論文を読んでくること。		
受講者への要望			
卒業論文は、あなたがどのような学生生活を送り、何を学んだのかを表現する手段です。 自らの課題に関して、どこまでも貪欲に、調べて調べて調べつくしてください。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンスと発表順番の設定 2～15　受講生による発表と質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50698B0E
科目名	歴史民俗学専門演習Ｉ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore IB		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	都市文化史 A,B・都市文化史講読など、2 回生まで基礎的な学習をしてきた学生諸君が、その中から興味を抱いたテーマに関して、専門的な研究を開始させることになる。提出した研究計画書をまず検討し、それに沿って、テーマをめぐる資料、論文を探し出し、これまでの研究史を知るという順序になることだろう。段階に応じて各人が報告や発表を行い、質疑応答を経て担当教員のコメントと指導を受ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（50%）レポート（50%）		
到達目標	最初は思いつきにすぎなかった研究テーマをどれだけ客観的なものに仕立てられるか。それが卒業研究の成果につながっていく。		
準備学習	論文や図書の収集、解読。フィールドワーク。		
受講者への要望			
関連の論文を読んでいくことで、文献目録を作ったり、研究史を意識していくようにする。			
講義の順序とポイント			
（1）研究テーマの再プレゼンテーション （2）同上 （3）同上 （4）同上 （5）同上 （6）研究テーマに関する研究史発表 （7）同上 （8）同上 （9）同上 （10）同上 （11）研究計画書の検討 （12）同上 （13）同上 （14）文献目録作成について （15）卒業研究に向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50701A0B
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学専門演習ＩＡ・Ｂの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	発表者のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	ゼミ生の発表と毎回の討論		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
講義の順序とポイント			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 3～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J50701A0C
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ＩＡ・Ｂの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（５０％）毎回の討論（５０％）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	文献調査をし、それを読み込み、フィールドワークをしたうえで、、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
フィールドワークと資料読解については、各自計画を立て、自主的に行っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 ３～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J50701A0D
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	いよいよ4年間の大学生活の集大成である卒業論文作成に取りかかります。論文の構成を考えながら、先行研究や史料を集めて読み込んでいく作業を進めていきます。夏休みまでには論文のおおまかな構成を考えて、章立てができるようになるまで作業を進めましょう。この授業では、段階に応じて各人が報告を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・卒論の構成を考えながら、先行研究を読み込み、その到達点と課題を把握すること ・史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
準備学習	自らの研究発表準備。および各回の発表者の課題論文を読んでくること。		
受講者への要望			
卒業論文は、あなたがどのような学生生活を送り、何を学んだのかを表現する手段です。 自らの課題に関して、どこまでも貪欲に、調べて調べて調べつくしてください。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンスと発表順番の設定 2～15　受講生による発表と質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J50701A0E
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ＩＡ・Ｂ の受講生が引き続き受講することを原則とします。演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 　受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 　演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（５０％）毎回の討論（５０％）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
先行研究論文を早く発見し、出来るだけ多く読んでおくこと。もちろん、具体的な現場を出来るだけ訪ねておくことも重要です。			
講義の順序とポイント			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 3～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50701B0B
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡＢ		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗専門学演習ⅡＢの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	発表者のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50701B0C
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ⅡA の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50701B0D
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	いよいよ4年間の大学生活の集大成である卒業論文執筆に取りかかります。分析を、一章ごとに、一歩ずつ進めていき、最終的に論文を書き上げることになります。年内に、論文を一度書き上げることを目標として、逆算して作業を計画的に進めていきましょう。この授業では、段階に応じて各人が報告を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・卒論の構成を考えながら、先行研究を読み込み、その到達点と課題を把握すること ・史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
準備学習	自らの研究発表準備。および各回の発表者の課題論文を読んでくること。		
受講者への要望			
卒業論文は、あなたがどのような学生生活を送り、何を学んだのかを表現する手段です。 自らの課題に関して、どこまでも貪欲に、調べて調べて調べつくしてください。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンスと発表順番の設定 2～15　受講生による発表と質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J50701B0E
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ⅡＡの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 　受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 　演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
最後の最後まで推敲を重ね、粘り強く思考と執筆をつづけること。			
講義の順序とポイント			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50703A01
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IA		
担当者名	浅野　久枝	旧科目名称	
講義概要	本講義では，「人の一生」「人生儀礼」に関わる民俗を取り上げつつ，民俗学の基礎的問題を考えていく。 「一人前」などについて取り上げるが，例えば「大人になる」とはどういうことか，「子供」とは何かを学生諸君自身の問題として考えて頂く。それらは，社会によって，時代によって異なるものであることに気づくであろう。つまり，「人の一生」「一人前」などを取り上げつつ，人間が生きていくために作り出している社会の枠組み，規範，常識，といったものを考えたい。これらの社会的問題だけでなく，女性の初潮・月経との関連でケガレ観にもふれたり，人の一生に関わる祭礼や芸能，あるいは霊魂観についても考えていきたい。 これらの話題は、過去の習俗を知ることに主眼があるのではなく、自らの問題として、自分に引きつけて内省し、足下をみつめ直す視点を養うことを目標とする。民俗学は過去を知るための学問ではなく、現在を考えるための学問である。あまりにもあたりまえ、常識化しているが故に気がついていない枠組みに縛られている自分に目を向ける視点を獲得できることを達成目標の第一とする。 本講義は、とくに「大人」の仲間入りをしつつある諸君には身近な問題として考える機会になるものと思う。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『女の眼でみる民俗学』中村ひろ子他著（高文研） 『人生の装飾法』　松崎憲三編（筑摩新書） 『現代民俗学入門』佐野賢治他編(吉川弘文館)		
教材（その他）			
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点 20%　コメントカード 10%　期末レポート 70% レポートは、自らの民俗調査によるものを提出していただき、講義時に示した民俗学的見地達成目標を、自分の問題としてとらえられているかどうかを評価する。 欠席は、５回までは認めるが、それ以上の欠席はレポート提出の資格がないものとする。		
到達目標	(1)社会に存在する枠組み、規範は、極めて文化的なものであることに気がつくことができる。 (2)既存の枠組みに縛られている自分に目を向け、内省する視点を獲得できる。 (3)自分の生きている社会を相対化することができるようになる。 (4)死後の世界と少しだけ向き合うことで、現在に生きる知恵を働かせることができるようになる。 (5)人の一生に関わる民俗事例の知識を獲得できる。		
準備学習	民俗学の中で、「人の一生」「人生儀礼」というジャンルではどのような調査項目が設定できるか、あらかじめ考えておいて頂きたい。そのためには、自分の身近な人、あるいは事柄を観察し、講義で議論となる際に具体的な事例を思い浮かべられるよう、普段から心がけておくことが望ましい。		
受講者への要望			
身近な日常生活や身近な人々、あたりまえとされる事柄に、普段から新たな目を向けるよう、心がけていただきたい。とくに、毎回の講義で提起する問題は、諸君自身が生きていく上で対峙していくべき問題であるので、驚いたりするだけでなく、あるいはその時だけの聞き流しにせず、時間をかけてじっくり考え、次週の講義に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
第　１週．ガイダンス：講義の進め方と 第　２週．文化を見る視点：「常識を疑う」ことについて 第　３週．民俗学の対象とは：民俗学が対象とするものの多重性について 第　４週．人生における儀礼について：「儀礼」というものが持つ意味 第　５週．「一人前」とは（その１）：何をもって、人は一人前と認められるのか。…年齢と成人儀礼 第　６週．「一人前」とは（その２）：仕事量そして身体的成長、月経などと「大人」について 第　７週．「一人前」とは（その３）：ケガレ観について（女人禁制についてもふれる） 第　８週．「一人前」とは（その４）：結婚と「おとな」について 第　９週．「○○らしさ」を作る躾（教育）について			

第１０週．「らしさ」と衣服：生育段階あるいは社会的位置と衣服との関係について
第１１週．人の成長を確認する場面：祭礼のビデオなど上映
第１２週．成長儀礼と葬送儀礼：霊魂観について
第１３週．死後の世界に投影される現世社会の期待
第１４週．二つの世界を媒介する人について
第１５週．まとめ・解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50703A02
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IA		
担当者名	浅野　久枝	旧科目名称	
講義概要	本講義では，「人の一生」「人生儀礼」に関わる民俗を取り上げつつ，民俗学の基礎的問題を考えていく。 「一人前」などについて取り上げるが，例えば「大人になる」とはどういうことか，「子供」とは何かを学生諸君自身の問題として考えて頂く。それらは，社会によって，時代によって異なるものであることに気づくであろう。つまり，「人の一生」「一人前」などを取り上げつつ，人間が生きていくために作り出している社会の枠組み，規範，常識，といったものを考えたい。これらの社会的問題だけでなく，女性の初潮・月経との関連でケガレ観にもふれたり，人の一生に関わる祭礼や芸能，あるいは霊魂観についても考えていきたい。 これらの話題は、過去の習俗を知ることに主眼があるのではなく、自らの問題として、自分に引きつけて内省し、足下をみつめ直す視点を養うことを目標とする。民俗学は過去を知るための学問ではなく、現在を考えるための学問である。あまりにもあたりまえ、常識化しているが故に気がついていない枠組みに縛られている自分に目を向ける視点を獲得できることを達成目標の第一とする。 本講義は、とくに「大人」の仲間入りをしつつある諸君には身近な問題として考える機会になるものと思う。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『女の眼でみる民俗学』中村ひろ子他著（高文研） 『人生の装飾法』　松崎憲三編（筑摩新書） 『現代民俗学入門』佐野賢治他編(吉川弘文館)		
教材（その他）			
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点 20%　コメントカード 10%　期末レポート 70% レポートは、自らの民俗調査によるものを提出していただき、講義時に示した民俗学的見地達成目標を、自分の問題としてとらえられているかどうかを評価する。 欠席は、５回までは認めるが、それ以上の欠席はレポート提出の資格がないものとする。		
到達目標	(1)社会に存在する枠組み、規範は、極めて文化的なものであることに気がつくことができる。 (2)既存の枠組みに縛られている自分に目を向け、内省する視点を獲得できる。 (3)自分の生きている社会を相対化することができるようになる。 (4)死後の世界と少しだけ向き合うことで、現在に生きる知恵を働かせることができるようになる。 (5)人の一生に関わる民俗事例の知識を獲得できる。		
準備学習	民俗学の中で、「人の一生」「人生儀礼」というジャンルではどのような調査項目が設定できるか、あらかじめ考えておいて頂きたい。そのためには、自分の身近な人、あるいは事柄を観察し、講義で議論となる際に具体的な事例を思い浮かべられるよう、普段から心がけておくことが望ましい。		
受講者への要望			
身近な日常生活や身近な人々、あたりまえとされる事柄に、普段から新たな目を向けるよう、心がけていただきたい。とくに、毎回の講義で提起する問題は、諸君自身が生きていく上で対峙していくべき問題であるので、驚いたりするだけでなく、あるいはその時だけの聞き流しにせず、時間をかけてじっくり考え、次週の講義に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
第　１週．ガイダンス：講義の進め方と 第　２週．文化を見る視点：「常識を疑う」ことについて 第　３週．民俗学の対象とは：民俗学が対象とするものの多重性について 第　４週．人生における儀礼について：「儀礼」というものが持つ意味 第　５週．「一人前」とは（その１）：何をもって、人は一人前と認められるのか。…年齢と成人儀礼 第　６週．「一人前」とは（その２）：仕事量そして身体的成長、月経などと「大人」について 第　７週．「一人前」とは（その３）：ケガレ観について（女人禁制についてもふれる） 第　８週．「一人前」とは（その４）：結婚と「おとな」について 第　９週．「○○らしさ」を作る躾（教育）について			

第１０週．「らしさ」と衣服：生育段階あるいは社会的位置と衣服との関係について
第１１週．人の成長を確認する場面：祭礼のビデオなど上映
第１２週．成長儀礼と葬送儀礼：霊魂観について
第１３週．死後の世界に投影される現世社会の期待
第１４週．二つの世界を媒介する人について
第１５週．まとめ・解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50703B01
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IB		
担当者名	浅野　久枝	旧科目名称	
講義概要	宮本常一『忘れられた日本人』を読む 生涯、フィールドワークを続けた宮本常一の著した民俗誌を綿密に読み解くことで、民俗学から継承すべき点あるいは批判すべき点、地域調査の視点や問題点などを考えていく。 講義の形式としては学生諸君の発表をもとに討論をする演習形式で進めていく。 宮本の目指した民俗学は柳田民俗学とはまた別の側面を持っている。地域調査を進める上でも、民俗誌から何を読み取れるのかについてはじっくり考えておく必要がある。読書というものは論旨をつかむことも重要であるが、一文一文を細かに読むことから、著者の考えの深みにふれることもできる。宮本常一の文章は詳細な観察を、綿密な構成によって記している。そのため、精緻に読むに絶えうる文章である。 本講義は『忘れられた日本人』の中で語られる地域的な民俗事例を知ることに止まらず、その記述の中からその地域社会の特性、問題点、あるいは日本文化の特性などを発見する読書をして頂きたい。それと同時にそこに描かれている著者宮本の考えを読み解くことも目指している。		
教材（テキスト）	宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫 この他、宮本常一著作集などもある。どれを使っても良いが、発表、討論のときに同じテキストの方が混乱はないので、できるだけ文庫版を用意されることをお薦めする。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	担当箇所の発表内容と取り組み方（５０％）及び、最終レポートの総合内容（５０％）によって成績を評価する。 最終レポートは、講義終了後、他の学生との討論やその後の見地を交えて、担当箇所及び本書全体について書いて頂くものである。		
到達目標	一冊の本をフィールドとして、あらゆる方向から様々なことを読み込む、という読書の手法、それすなわち地域調査にも通じる手法を獲得することを到達目標としている。		
準備学習	民俗誌を読むという性格上、講義の中で概論的な話をすることは難しい。そのため、民俗学の概論的な内容については各自で復習し、民俗学の基本的知識を知った上で本講を受講すれば、より理解が深まると思われる。 また、宮本常一のその他の著作や、他の研究者の民俗誌を読んで、民俗誌、調査報告書の内容や書き方等についてもふれておくことが望ましい。		
受講者への要望			
これまでに大学の講義で身につけてきた民俗学的知識はもちろんだが、それ以上に自分自身の経験、身近な問題、日常のくらしで自分が日々行っていること、などに引きつけて民俗誌を読み込む努力をして頂きたい。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　ガイダンス　…　講義の進め方と発表者選定 第 2 回　宮本常一の業績と『忘れられた日本人』について　1　（講義） 第 3 回　宮本常一の業績と『忘れられた日本人』について　2　（講義） 第 4 回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第 5 回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第 6 回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第 7 回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第 8 回　「対馬にて　二　民謡」　（発表） 第 9 回　「対馬にて　二　民謡」　（発表） 第 10 回　「対馬にて　二　民謡」　（発表） 第 11 回　「対馬にて　二　民謡」　（発表） 第 12 回　「村の寄り合い　一」　（発表） 第 13 回　「村の寄り合い　一」　（発表）			

第 14 回　「村の寄り合い　一」　(発表) 第 15 回　総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50703B02
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IB		
担当者名	浅野　久枝	旧科目名称	
講義概要	宮本常一『忘れられた日本人』を読む 生涯、フィールドワークを続けた宮本常一の著した民俗誌を綿密に読み解くことで、民俗学から継承すべき点あるいは批判すべき点、地域調査の視点や問題点などを考えていく。 講義の形式としては学生諸君の発表をもとに討論をする演習形式で進めていく。 宮本の目指した民俗学は柳田民俗学とはまた別の側面を持っている。地域調査を進める上でも、民俗誌から何を読み取れるのかについてはじっくり考えておく必要がある。読書というものは論旨をつかむことも重要であるが、一文一文を細かに読むことから、著者の考えの深みにふれることもできる。宮本常一の文章は詳細な観察を、綿密な構成によって記している。そのため、精緻に読むに絶えうる文章である。 本講義は『忘れられた日本人』の中で語られる地域的な民俗事例を知ることに止まらず、その記述の中からその地域社会の特性、問題点、あるいは日本文化の特性などを発見する読書をして頂きたい。それと同時にそこに描かれている著者宮本の考えを読み解くことも目指している。		
教材（テキスト）	宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫 この他、宮本常一著作集などもある。どれを使っても良いが、発表、討論のときに同じテキストの方が混乱はないので、できるだけ文庫版を用意されることをお薦めする。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	担当箇所の発表内容と取り組み方（５０％）及び、最終レポートの総合内容（５０％）によって成績を評価する。 最終レポートは、講義終了後、他の学生との討論やその後の見地を交えて、担当箇所及び本書全体について書いて頂くものである。		
到達目標	一冊の本をフィールドとして、あらゆる方向から様々なことを読み込む、という読書の手法、それすなわち地域調査にも通じる手法を獲得することを到達目標としている。		
準備学習	民俗誌を読むという性格上、講義の中で概論的な話をすることは難しい。そのため、民俗学の概論的な内容については各自で復習し、民俗学の基本的知識を知った上で本講を受講すれば、より理解が深まると思われる。 また、宮本常一のその他の著作や、他の研究者の民俗誌を読んで、民俗誌、調査報告書の内容や書き方等についてもふれておくことが望ましい。		
受講者への要望			
これまでに大学の講義で身につけてきた民俗学的知識はもちろんだが、それ以上に自分自身の経験、身近な問題、日常のくらしで自分が日々行っていること、などに引きつけて民俗誌を読み込む努力をして頂きたい。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　ガイダンス　…　講義の進め方と発表者選定 第 2 回　宮本常一の業績と『忘れられた日本人』について　1　（講義） 第 3 回　宮本常一の業績と『忘れられた日本人』について　2　（講義） 第 4 回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第 5 回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第 6 回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第 7 回　「対馬にて　一　寄り合い」　（発表） 第 8 回　「対馬にて　二　民謡」　（発表） 第 9 回　「対馬にて　二　民謡」　（発表） 第 10 回　「対馬にて　二　民謡」　（発表） 第 11 回　「対馬にて　二　民謡」　（発表） 第 12 回　「村の寄り合い　一」　（発表） 第 13 回　「村の寄り合い　一」　（発表）			

第 14 回　「村の寄り合い　一」　(発表) 第 15 回　総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50705A01
科目名	歴史民俗学特殊講義ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore ⅡA		
担当者名	堤　邦彦	旧科目名称	
講義概要	有る特定の説話が時をこえて数世代にわたり語り伝えられることは、そう珍しくない。たとえば古代社会に発生した「浦島」や「羽衣の天女」の伝説が今日の昔話、童話の世界に引き継がれているのはその一例といえる。ただし、だからといってそれらが時の移り変わりとまったく無縁に存在していないことも事実である。古くから語り継がれた話は、つねに各時代のものの考え方や価値観の影響を受け、さらに文芸の流行色などに左右されてきた。説話・伝承史という受業の目的は各時代を貫く話のながれを明らかにすると同時に、説話というものがたえず民衆の理解を得やすいかたちに変化しつづけることを明らかにするところにある。 　さて以上の観点にもとづき、本年度は江戸時代の怪異小説、説話集、芝居、絵画、宗教書などをとりあげ、怪異の表象とその背景を紹介する。あわせて現代の映画、マンガ、ホラー小説への影響も視野に入れてみたい。 　私たちの先祖は何を恐れ、どのようにして恐怖を娯楽の対象に創りかえて行ったのか。そして現代の作者たちは何を継承し、何を継承しなかったのか。身近な作品の分析をくりかえすことにより、現代の表現文化に立ちあらわれる日本文化の古層を発見し、言葉にして説明できるようにする。そこにこの受業の到達目標がある。		
教材（テキスト）	レヂメとコピーを使用。		
教材（参考文献）	堤邦彦『現代語で読む江戸怪談傑作選』（祥伝社新書、2008） 堤邦彦『女人蛇体』（角川書店、2006） 横山泰子『四谷怪談は面白い』（平凡社、1997） 横山泰子『江戸歌舞伎の怪談と化け物』（講談社、2008）		
教材（その他）	DVD その他の映像資料を使用		
評価方法	小レポート３回:45%、定期試験（レポート）：40%、授業内提出物：15%		
到達目標	（１）日本文化の古層を理解する。 （２）現代文化と古典の連続性を理解する。 （３）上記をことばで説明できる能力。		
準備学習	小レポートの作成などに毎週３時間の予・復習が必要となる。		

受講者への要望

説話・伝承史が対象とする分野は、文芸を中心として民俗、宗教、出版メディア、芸能、映画などの多領域におよぶ。ひとつの作品をいろいろな角度から見て行くので、途中欠席すると全体像がつかみにくくなる。休まず遅刻をせず授業に集中して欲しい。

　また、講義中に使用する専門用語やキーワードを予習し、小レポートにまとめて事前に提出してもらう（月に１回程度）。こうした予習をふまえて受業にのぞむことにより、皆さんの理解度は倍増するはずである。したがって、指定された小レポートの提出期限を厳守するようにしていただきたい。

講義の順序とポイント

近代以前の「怪談の歴史」を意識的にひもときながら、今日の講談、落語や映画、映像などに見え隠れする古典的な怖れのかたちを検証して行く。言葉を換えていえば、それは怪談をとおして日本文化の特色を明らかにする方法でもある。

取り扱う作品とテーマは次のとおり。

１．説話・伝承史の視点とは何か。

２．寺と怪談

・『墓場の鬼太郎』のルーツを求めて。

・京都の幽霊飴伝説

・寺と葬送の民俗

３．幽婚説話の伝統と現代（その１）

・一休伝説

・子を産む幽霊

４．幽婚説話の伝統と現代（その２）

・ムカサリ絵馬の習俗

・TV ドラマ『幽婚』より

５．死霊結婚のものがたり

・東アジアそして東南アジアへ
・タイ映画「ナン・ナーク」の場合

6．仏教唱導と江戸怪談
・因果因縁を語るということ
・鈴木正三『因果物語』
・奥方の呪いと血筋の断絶

7．説教話が怪談に変わるとき
・女と蛇と黒髪と
・鳥山石燕・妖怪絵本の世界
・杉浦日向子『百物語』の表現

8．祟る女の系譜もしくは女人蛇体
・道成寺縁起から『奇異雑談集』へ
・くちなわ道心の物語

9．歌舞伎『東海道四谷怪談』①裏忠臣蔵としての演出

10．アニメ AYAKASHI『四谷怪談』①左門殺し：「悪」と「美」の交錯。

11．　同　②髪梳き：鏡・櫛の因縁もしくはタタリの発動。

12．　同　③戸板返し：アニメ版は戸板返しと「だんまり」をどう表現したか。

13．　同　④夢の場：蛍と夢の惨劇。

14．　同　⑤蛇山庵室：うぶめ姿のお岩と血筋断絶。

15．怪談の日本的情趣とは何か？
・恐怖のものがたりをつらぬく人間観、自然観
・人知をこえるということ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50705B01
科目名	歴史民俗学特殊講義 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IIB		
担当者名	伊藤　悟	旧科目名称	
講義概要	本講義は映像制作の基礎編である。 身の回りの生活、風景、民俗を自分たちで撮影し、編集する一連の映像制作プロセスを通して、思考ツールとしての映像を学ぶものである。 映像は社会にとって欠かせない表現媒体となって久しい。普段、私たちは誰かが作った映像を当たり前のように受け取っている。だが、いざ自分が映像を作る側に立ったとき、その表現の難しさを知り、そして試行錯誤のなかに新たな思考と可能性を見出すだろう。 講義では、身の回りから学生自身がテーマを決め、企画案を書き、さらに自ら撮影、編集、仕上げまでを手がけられるようにする。その経験のなかで映像の様々な可能性について考えたい。必要に応じて、参考映像を見せながら映像民俗学、映像人類学という専門分野について論ずる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内提出物（映像作品）およびプレゼンテーション（制作者の解説）から評価する。		
到達目標	映像制作の一連のプロセスを理解し、さらに映像に秘められた表現や思考の可能性を自ら発見すること。		
準備学習	受講前には、日常でテレビや映画を視聴するとき、映像の表現方法について注意深く観察してほしい。 例えば、角度、色、光、空間、会話の速さ、そしてカットをつなげる「リズム」、音の処理など。それらがどのように視聴者（自分）の感情や思考に働きかけているのか。そこにどんな意図がこめられているのか。		

受講者への要望

映像に関して、経験、未経験を問わない。
最終的に 5 分以内の作品を制作してもらう。そのため何を映像にしたいか、テーマをいくつか考えてきて欲しい。
周辺の自然、風景、感覚、友人、生活、信仰、民俗行事、あるいは物語の再現でもよい。
作品の技術的な完成度より、映像で何をどのように表現するか、その試行錯誤をいかに作品に反映させられるかが重要である。

講義の順序とポイント

●1 回目　基礎知識・映像表現の背景を学ぶ
1. 映像表現について講義
2. 多様なジャンルの映像作品の視聴
3. 撮影テーマの検討
●2 回目　撮影と編集の基本技術を習得する
4. 撮影練習
5. 上映会と討論
6. 企画案の提出
●3 回目　作品制作を実践する
7. 撮影
8. 編集
●4 回目　それぞれが作品を上映し、作品を解説し、表現の可能性について討論する
9. 上映会と討論
※ 開講日は土曜日・日曜日等を予定（詳細はおって指示する）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50707001
科目名	話しことば表現講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Speaking Word Expression Course		
担当者名	伏見　昌子	旧科目名称	
講義概要	私達は一人で生きていくことはできません。社会の中で多くの人と常にコミュニケーションを保って生きています。人と人とが理解し合い、良い人間関係を作っていくためには「ことば」という道具が必要です。ビジネスの場面はもちろん、社会生活の様々な場面で「ことば」は重要な役割を果たしています。 情報技術の発達により、私達は自分の声や表情をツールとせずにコミュニケーションする機会が増えています。そしてそんな時代だからこそ、自分の声や表情を添えた「話しことば」によるコミュニケーションの重要性が増しているのです。 しかし話しことばに対して自分の持っている知識や経験は、無意識のうちに培われたものであるため、誰もが内心不安を持っています。きちんと伝わっているのか？良い印象を与えているのか？ 話し方は人に与える印象を大きく左右し、初対面の相手やビジネスシーンではなおさらです。 学生が自分の話しことばを強く意識させられるのが就職活動です。会話はできても改まった話し方になると自信がない。その時になって慌てないよう話す力を磨きたいものです。 自分の話し方の特徴や欠点を知り、改善しわかりやすく魅力的な話し方を習得できるようアドバイスします。 もちろん「話す力」は「書く力」「聞く力」「読む力」と密接な関係を持っています。コミュニケーションの原点である「ことば」の重要性をを認識し、「読む・書く・話す・聞く」の四つの言語活動についてその特徴を学び、「バランスのとれたことばの使い手」になることを目的とします。特にこれまで家庭での躾に委ねられ、学校の国語教育で取り上げられることの比較的少なかった音声言語＝話す・聞くを中心に授業を進め、魅力的な声とことばを身に付けることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	話しことば検定３級テキスト・２級テキスト（日本話しことば協会）		
教材（その他）	音声教材を活用 適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（５０％）　出席状況などによる。 授業中に課すプリント問題や実技問題により評価（５０％）する。		
到達目標	コミュニケーション能力を話しことばを中心にスキルアップすることを目標とする。		
準備学習	家族との会話・友人との会話・教師との会話や教師の話し方・アルバイト先での会話・ＴＶ・インターネット上で使われることばなど、自分の周囲で使われている「ことば」に留意し、普段から「ことば」への感性や意識を高めておく。 授業終了時に、次回の内容を伝えて必要な準備を指示します。		
受講者への要望			
授業中に発言することも「話しことば」を使う重要なシーンですから、積極的に発言して話しことばを磨いて下さい。 就職活動のためにも、できれば「話しことば検定試験」にもトライして下さい。			
講義の順序とポイント			
１．概論(なぜ話し言葉を学ぶのか、コミュニケーションツールとしての話し言葉） ２．話し言葉の実際（自己紹介により自分の話し方の欠点を知る） ３．日本語の音 ４．話しことば検定模擬問題（筆記・リスニング） ５．情報を収集・整理して話す（他己紹介をするためのインタビュー項目を考え質問。他己紹介文を構成する） ６．情報を収集・整理して話す（他己紹介する。された本人は各他己紹介を評価する） ７．音声表現の技術Ⅰ ８．音声表現の技術Ⅱ ９．敬語Ⅰ １０．自己ＰＲ（特に就職活動を意識して自己ＰＲを考える） １１．自己ＰＲ（考えた自己ＰＲを効果的に話す） １２．聞く技術（傾聴力・質問力まど） １３．わかりやすく話す（イラストの説明・地図の説明・図形の説明） １４．効果的に話す			

１５．プレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	J50707002
科目名	話しことば表現講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Speaking Word Expression Course		
担当者名	平尾　和子	旧科目名称	
講義概要	私達は一人で生きていくことはできません。社会の中で多くの人と常にコミュニケーションを保って生きています。人と人とが理解し合い、良い人間関係を作っていくためには「ことば」という道具が必要です。ビジネスの場面はもちろん、社会生活の様々な場面で「ことば」は重要な役割を果たしています。 情報技術の発達により、私達は自分の声や表情をツールとせずにコミュニケーションする機会が増えています。そしてそんな時代だからこそ、自分の声や表情を添えた「話しことば」によるコミュニケーションの重要性が増しているのです。 しかし話しことばに対して自分の持っている知識や経験は、無意識のうちに培われたものであるため、誰もが内心不安を持っています。きちんと伝わっているのか？良い印象を与えているのか？ 話し方は人に与える印象を大きく左右し、初対面の相手やビジネスシーンではなおさらです。 学生が自分の話しことばを強く意識させられるのが就職活動です。会話はできても改まった話し方になると自信がない。その時になって慌てないよう話す力を磨きたいものです。 自分の話し方の特徴や欠点を知り、改善しわかりやすく魅力的な話し方を習得できるようアドバイスします。 もちろん「話す力」は「書く力」「聞く力」「読む力」と密接な関係を持っています。コミュニケーションの原点である「ことば」の重要性をを認識し、「読む・書く・話す・聞く」の四つの言語活動についてその特徴を学び、「バランスのとれたことばの使い手」になることを目的とします。特にこれまで家庭での躾に委ねられ、学校の国語教育で取り上げられることの比較的少なかった音声言語＝話す・聞くを中心に授業を進め、魅力的な声とことばを身に付けることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	話しことば検定３級テキスト・２級テキスト（日本話しことば協会）		
教材（その他）	音声教材を活用 適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（５０％）　出席状況などによる。 授業中に課すプリント問題や実技問題により評価（５０％）する。		
到達目標	コミュニケーション能力を話しことばを中心にスキルアップすることを目標とする。		
準備学習	家族との会話・友人との会話・教師との会話や教師の話し方・アルバイト先での会話・ＴＶ・インターネット上で使われることばなど、自分の周囲で使われている「ことば」に留意し、普段から「ことば」への感性や意識を高めておく。 授業終了時に、次回の内容を伝えて必要な準備を指示します。		
受講者への要望			
授業中に発言することも「話しことば」を使う重要なシーンですから、積極的に発言して話しことばを磨いて下さい。 就職活動のためにも、できれば「話しことば検定試験」にもトライして下さい。			
講義の順序とポイント			
１．概論(なぜ話し言葉を学ぶのか、コミュニケーションツールとしての話し言葉） ２．話し言葉の実際（自己紹介により自分の話し方の欠点を知る） ３．日本語の音 ４．話しことば検定模擬問題（筆記・リスニング） ５．情報を収集・整理して話す（他己紹介をするためのインタビュー項目を考え質問。他己紹介文を構成する） ６．情報を収集・整理して話す（他己紹介する。された本人は各他己紹介を評価する） ７．音声表現の技術Ⅰ ８．音声表現の技術Ⅱ ９．敬語Ⅰ １０．自己ＰＲ（特に就職活動を意識して自己ＰＲを考える） １１．自己ＰＲ（考えた自己ＰＲを効果的に話す） １２．聞く技術（傾聴力・質問力まど） １３．わかりやすく話す（イラストの説明・地図の説明・図形の説明） １４．効果的に話す			

１５．プレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	ー	★	ー	★

年度	2016	授業コード	J50716A0A
科目名	メディア専門演習Ｉ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IA: Media		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	受講生の関心をふまえ、まず、4 回生時の卒論執筆ないし制作に必要な基本的レクチャー（内容、方法）を教員が行う（2〜3 回を予定)。その後、上記の共通テキストや、各自の興味・問題意識に即した基本文献や資料の講読・発表を行い、全員でディスカッションを行う。春学期は、各受講生が、卒論・制作につながる自分の「関心の軸」の探索を行うことを主眼とする。 CM 映像や広告図版、マーケティング事例など、なるべく具体的な素材を使いながら授業を進める。 なお、春学期の演習では、その３回を使って就職活動支援を実施する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	若林直樹・及部克人監修『コミュニケーション研究Ｉ』武蔵野美術大学出版局、2002 年 佐藤章『ヒットを生み出す最強チーム術 キリンビール・マーケティング部の挑戦』 平凡社新書、2009 年他		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：テキストの講読、特定テーマでの発表、広告表現などの制作 定期試験（60%）：レポート		
到達目標	広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などについて学び、卒業論文・制作のための基礎知識、方法を身につける。各自のテーマ設定とそのすすめ方を固めることを年間の目標とする。		
準備学習	１）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 ２）他の受講生の学習素材についても、事前に目を通しておき、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。		
受講者への要望			
テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。			
講義の順序とポイント			
＜演習で扱うトピック例＞ 1.　ヒット商品、人気 CM、ブランドをつくる企業や広告会社の戦略はどうなっているか。 2.　特定の広告表現に消費者が惹きつけられるのは、どんな表現や手法が使われているからか。 3.　音楽配信などデジタル・メディアの普及により、音楽産業はどうなっていくのか。　　等 ＜研究テーマの例＞ 1.　特定商品分野のマーケティングの具体的プランニングないし研究 2.　特定商品の広告計画、広告表現の作成（ポスターや CM の制作） 3.　企業のブランド研究 4.　広告クリエイター研究、コマーシャル・アート論 5.　広告表現などマス・メディアの内容分析 6.　広告産業の研究 7.　流行・消費トレンド分析、商品文化研究 8.　音楽作品や音楽産業など、メディア文化・文化産業研究 ＜講義予定＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：進路指導（1）　就職（進路）登録票の作成、E-Testing の登録など 第 3 回：研究テーマと方法について 第 4 回：進路指導（2）　自己分析・自己 PR など 第 5 回：ゼミ生発表（共通課題） 第 6 回：ゼミ生発表（同） 第 7 回：ゼミ生発表（同） 第 8 回：ゼミ生発表（同）			

第 9 回：広告表現等の制作（チーム別）
第 10 回：広告表現等の作品制作（同）
第 11 回：広告表現等の作品制作（同）
第 12 回：広告表現等の作品制作（同）
第 13 回：広告表現等の作品制作（プレゼンテーション）
第 14 回：進路指導（3）　自己 PR 文の作成・添削など
第 15 回：春学期のふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J50716A0B
科目名	メディア専門演習Ｉ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IA: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア（media)」とは、言いかえれば、人間を拡張し、人間を社会的に枠づける役割を果たす“媒（なかだち）”である。古いものから新しいものまでメディアは社会の至るところに存在している。人間の身体からはじまり私たちを取り巻くあらゆるものがメディアとなる可能性をもつ。そしてメディアは歴史・社会的に生成されてきたものであり、現在のメディアの姿は絶対的、固定的ではなく、絶えず変容していくのである。 本演習では、メディアについてのワークショップをおこなう。 ※「ワークショップ（workshop)」とは、参加する人たちがお互いに刺激し合い、助け合い、学び合う“共育”を実践する“場”		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の演習はすべて連関している。次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し)。

講義の順序とポイント

この「ワークショップ」は、今日のさまざまなメディアをまず主体的に体験することからはじまる。

たとえば、テレビ番組を見る、雑誌やマンガを読む、CD を聴く、ビデオ／DVD を鑑賞する、各種ゲームに興じる、ウェブにアクセスする、チャットでおしゃべりする、映画館に行く、美術館／博物館を訪れる、ライブに参加する、お洒落な店で美味しい料理を食べる、流行のファッションを着こなす、時には空を眺めたり、できればお堅い本とも対峙して欲しい…。体験した後に考える。「なぜ楽しかったのだろうか（なぜつまらなかったのだろうか)」、同ジャンル／他ジャンルのものとの比較もしてみる。また「あのやり方は問題だ」「こうすればもっとよくなるはず」等々“自分ならばどうするか”をさまざまな視点から考えてみる。

つまり、自分たちのまわりにあるさまざまな「メディア」について、マジに遊び、考え、そして、表現する“学びの場”を共同運営する。

※上記文章および以下の項目を熟読し、そして“メディア《つくる》工房”のホームページを閲覧し、理解および納得できる人のみ参加して下さい（不用意に受講登録した場合にも、単位・成績等について一切フォローはしないので、その点はご留意下さい)。

・“学ぶ”と“教わる”の違いを理解している
・自ら課題を設定し、その課題と“日夜葛藤する”ことができる
・自分がやりたいこと／やりたくないことをきちんと主張できる
・口先だけの「私は好奇心旺盛で…」ではなく、自分が好きでないこと（得意でないこと）にでも積極的にチャレンジできる
・無駄に群れる必要性はまったくないが、共同作業をおこなう際の最低限の協調性とコミュニケーション能力を持っている
・「綿密な計画」と「無謀な無計画」をどちらも享受できる

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

01　オリエンテーション

02　ワークショップ 01
03　ワークショップ 02
04　ワークショップ 03
05　ワークショップ 04
06　ワークショップ 05
07　ワークショップ 06
08　ワークショップ 07
09　ワークショップ 08
10　ワークショップ 09
11　ワークショップ 10
12　ワークショップ 11
13　ワークショップ 12
14　ワークショップ 13
15　ワークショップ 14

★作品をつくる場合には、基本的に制作費等は自己負担になります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J50716A0D
科目名	メディア専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IA: Media		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	日々のニュースを扱った新聞記事の配布やテレビニュースのビデオ視聴、さらに当日の新聞各紙を配布して、同じニュースがそれぞれどのように異なって報道されているかを検証します。		
教材（その他）			
評価方法	評価はそれぞれの専門研究の進捗度５０％、さらに各種レポートやプレゼンテーション２０～３０％、そして平常点（授業への参加の度合い）３０～２０％です。		
到達目標	少人数での課題探究と自主的な学習成果を討論という形で明確化します。研究の各自の専門研究を進めることが一番重要ですが、同時にそれを通じて学習と将来の進路への融合、つまり就職に研究を役立てることを目標とします。		
準備学習	大学で自身が独自に研究するわけですから、自分が何に興味を抱いて研究したいのか、あるいは自身の将来にそれがどのように役立つのかをよく考えて、ふさわしい主題を考えておいてください。事前に配布した資料や課題について予習をしておくこと。また、授業終了時には課題を出すので、それを次回の授業時に提出してもらいます。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」の授業を受けて欲しいと思います。

講義の順序とポイント

1　イントロダクション
2　進路と研究分野について討議
3　進路と研究分野について討議
4　ウェッブを使った情報検索
5　新聞や書籍による情報収集の方法
6　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
7　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
8　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
9　テーマ設定と研究方法の検証
１０　卒業研究の中間発表と討議
１１　卒業研究の中間発表と討議

１２　卒業研究の中間発表と討議
１３　各種文献のチェック
１４　夏季休暇における研究計画の発表
１５　受講生各人の研究成果に対する討論と批評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J50716B0A
科目名	メディア専門演習Ｉ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB: Media		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	受講者は春学期の作業をふまえ、さらに関連文献や先行・類似研究などを閲読することで、自己の「テーマ設定」を行い、テーマに即した資料収集・整理分析や参考文献の活用にもとづき発表を行う。その際、調査・制作をすすめるための方法（文献調査、統計データ分析、アンケート調査、インタビュー、事例研究等）などについて、教員のアドバイスを受けつつ学ぶ。 CM 映像や広告図版、マーケティング事例など、なるべく具体的な素材を使いながら授業を進める。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	受講生のテーマに応じ、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：テキストの講読、特定テーマでの発表、広告表現などの制作 定期試験（60%）：レポートないし作品制作		
到達目標	学年末に自己のテーマ設定と年間の講読・発表にもとづき、レポートないし制作計画を提出する。これが 4 回生時における卒業研究の「序論」ないし制作計画となることが望ましい。		
準備学習	1）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 2）他の受講生の学習素材についても、事前に目を通しておき、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。		

受講者への要望

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

講義の順序とポイント

＜演習で扱うトピック例＞

1. ヒット商品、人気 CM、ブランドをつくる企業や広告会社の戦略はどうなっているか。
2. 特定の広告表現に消費者が惹きつけられるのは、どんな表現や手法が使われているからか。
3. 音楽配信などデジタル・メディアの普及により、音楽産業はどうなっていくのか。　　等

＜研究テーマの例＞

1. 特定商品分野のマーケティングの具体的プランニングないし研究
2. 特定商品の広告計画、広告表現の作成（ポスターや CM の制作）
3. 企業のブランド研究
4. 広告クリエイター研究、コマーシャル・アート論
5. 広告表現などマス・メディアの内容分析
6. 広告産業の研究
7. 流行・消費トレンド分析、商品文化研究
8. 音楽作品や音楽産業など、メディア文化・文化産業研究

＜講義予定＞

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：各自の専攻（卒業研究）テーマの発表（1）
第 3 回：各自の専攻（卒業研究）テーマの発表（2）
第 4 回：ゼミ生発表（リサーチ課題）
第 5 回：ゼミ生発表（同）
第 6 回：ゼミ生発表（同）
第 7 回：ゼミ生発表（同）
第 8 回：ゼミ生発表（同）
第 9 回：リサーチにもとづく広告表現等の制作（チームないし個別）

第 10 回：広告表現等の作品制作（同）
第 11 回：広告表現等の作品制作（同）
第 12 回：広告表現等の作品制作（同）
第 13 回：広告表現等の作品制作（同）
第 14 回：広告表現等の作品制作（プレゼンテーション）
第 15 回：秋学期のふりかえり　・卒業研究テーマの決定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J50716B0B
科目名	メディア専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア（media)」とは、言いかえれば、人間を拡張し、人間を社会的に枠づける役割を果たす“媒（なかだち）”である。古いものから新しいものまでメディアは社会の至るところに存在している。人間の身体からはじまり私たちを取り巻くあらゆるものがメディアとなる可能性をもつ。そしてメディアは歴史・社会的に生成されてきたものであり、現在のメディアの姿は絶対的、固定的ではなく、絶えず変容していくのである。 本演習では、メディアについてのワークショップをおこなう。 ※「ワークショップ（workshop)」とは、参加する人たちがお互いに刺激し合い、助け合い、学び合う“共育”を実践する“場”		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の演習はすべて連関している。次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し)。

講義の順序とポイント

この「ワークショップ」は、今日のさまざまなメディアをまず主体的に体験することからはじまる。

たとえば、テレビ番組を見る、雑誌やマンガを読む、CD を聴く、ビデオ／DVD を鑑賞する、各種ゲームに興じる、ウェブにアクセスする、チャットでおしゃべりする、映画館に行く、美術館／博物館を訪れる、ライブに参加する、お洒落な店で美味しい料理を食べる、流行のファッションを着こなす、時には空を眺めたり、できればお堅い本とも対峙して欲しい…。体験した後に考える。「なぜ楽しかったのだろうか（なぜつまらなかったのだろうか)」、同ジャンル／他ジャンルのものとの比較もしてみる。また「あのやり方は問題だ」「こうすればもっとよくなるはず」等々“自分ならばどうするか”をさまざまな視点から考えてみる。

つまり、自分たちのまわりにあるさまざまな「メディア」について、マジに遊び、考え、そして、表現する“学びの場”を共同運営する。

※上記文章および以下の項目を熟読し、そして“メディア《つくる》工房”のホームページを閲覧し、理解および納得できる人のみ参加して下さい（不用意に受講登録した場合にも、単位・成績等について一切フォローはしないので、その点はご留意下さい)。

・“学ぶ”と“教わる”の違いを理解している
・自ら課題を設定し、その課題と“日夜葛藤する”ことができる
・自分がやりたいこと／やりたくないことをきちんと主張できる
・口先だけの「私は好奇心旺盛で…」ではなく、自分が好きでないこと（得意でないこと）にでも積極的にチャレンジできる
・無駄に群れる必要性はまったくないが、共同作業をおこなう際の最低限の協調性とコミュニケーション能力を持っている
・「綿密な計画」と「無謀な無計画」をどちらも享受できる

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

01　オリエンテーション
02　ワークショップ 15
03　ワークショップ 16
04　ワークショップ 17
05　ワークショップ 18
06　ワークショップ 19
07　ワークショップ 20
08　ワークショップ 21
09　ワークショップ 22
10　ワークショップ 23
11　ワークショップ 24
12　ワークショップ 25
13　ワークショップ 26
14　ワークショップ 27
15　ワークショップ 28

★作品をつくる場合には、基本的に制作費等は自己負担になります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J50716B0D
科目名	メディア専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB: Media		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	全員に当日の新聞各紙を配布して、それぞれのニュース報道がどのように異なっているかを検証します。また、同様にテレビ各局のニュースを見比べてその相異について学習します。		
教材（その他）			
評価方法	授業内レポートやプレゼンテーション５０％、積極的な議論の有無２０～３０％、平常点（授業への参加度）３０～２０％。		
到達目標	少人数での課題追求型の学習と個人個人が自主的に研究した内容を討論形式で確固たるものに鍛錬していくのが目標です。専門研究を通じてきちんとした形で卒業論文を完成させることは言うまでもないが、その過程で活発な議論、卓越したプレゼンテーション能力を養う。それはマスメディアへの就職に限らず、どんな企業への修飾に役立つと思われる。		
準備学習	ジャーナリズムについて勉強するわけですから、出来ればジャーナリズム論の教科書『衰退するジャーナリズム』をよく読んで予習しておいてください。授業は新聞各紙を配布したり、テレビ各局のニュース報道を見比べて意見交換するなどして理解を深めるのを目標とするので、事前配布の資料を読んだり、その週のニュースについて新聞やテレビで知識を得ておくなど、予習は必ずしておいてください。また、授業ではそれぞれのニュース報道について議論するので、その結果をまとめて復習するようにしておいてください。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」の授業を受けてほしいと思います。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　研究の進捗状況の発表
3　研究の進捗状況の発表
4　ゼミ生によるディスカッション
5　リサーチ方法についての検討会
6　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
7　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
8　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
9　参考文献や最新データについての報告
１０　論点の整理
１１　卒業研究の中間発表と討議

１２　卒業研究の中間発表と討議
１３　卒業研究の中間発表と討議
１４　問題点について指導
１５　ゼミ全員による討論と総括的な指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J50726A0A
科目名	メディア専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA: Media		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。3回生時提出の章立てと草稿をもとに、必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	受講生のテーマに応じ、適時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布。		
評価方法	平常点（40%）：テキストの講読、特定テーマでの発表、広告表現などの制作 定期試験（60%）：レポート		
到達目標	自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。		
準備学習	1）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 2）他の受講生の学習素材についても、事前に目を通しておき、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。		

受講者への要望

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

講義の順序とポイント

各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。

＜講義予定＞
第1回：オリエンテーション
第2回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（1）
第3回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（2）
第4回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第5回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第6回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第7回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第8回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第9回：卒業研究の発表・指導
第10回：卒業研究の発表・指導
第11回：卒業研究の発表・指導
第12回：卒業研究の発表・指導
第13回：卒業研究の発表・指導
第14回：卒業研究の発表・指導
第15回：春学期のふりかえり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J50726A0D
科目名	メディア専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA: Media		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙やテレビニュースのビデオ、さらに関連する資料を配布します。		
評価方法	各種レポートやプレゼンテーション５０％、積極的な議論の有無２０～３０％、平常点(授業への参加の度合い）３０～２０％。		
到達目標	少人数の課題追求型の学習と個々の自主的な研究を融合させ、それらを討論という形で客観化するのが目標です。独りよがりの私見が多い今日、誰もが納得し啓発されるような見解を醸成するよう専門研究を進め、さらに社会常識を高めて就職など進路に反映させるのだ最大の目標です。		
準備学習	新聞やテレビ、雑誌、映画などでいま、世間で何が関心を呼んでいるのか、好奇心をもって豊かな情報を身につけておいてください。また、事前に配布した資料やテキストなどで予習しておくことに加え、授業終了時に復習用の課題を出すので、それを次回の授業で必ず提出するようにしてください。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」の授業を受講して下さい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　卒業研究と進路についてのガイダンス
3　卒業論文の作成方法
4　卒業研究のテーマと内容発表
5　卒業研究のテーマと内容発表
6　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
7　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
8　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
9　テーマについてのグループ・ディスカッション
１０　テーマについてのグループ・ディスカッション
１１　研究の進捗動向発表と討議
１２　研究の進捗動向発表と討議
１３　卒論に必要な情報・データの補足指導

１４　ゼミ全体に対する研究状況の分析と評価

１５　ゼミ生全員による討議と総括的指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J50726B0A
科目名	メディア専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB: Media		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。4回生春学期時提出の最新の章立てと草稿を深め、必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	受講生のテーマに応じ、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布。		
評価方法	平常点（40%）：自己のテーマでの発表、広告表現などの制作 卒業研究（60%）：論文ないし作品		
到達目標	自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。		
準備学習	1）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 2）他の受講生の卒業研究・制作についても、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。		

受講者への要望

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

講義の順序とポイント

各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。

＜講義予定＞
第1回：オリエンテーション
第2回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（1）
第3回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（2）
第4回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第5回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第6回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第7回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第8回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第9回：卒業研究の発表・指導
第10回：卒業研究の発表・指導
第11回：卒業研究の発表・指導
第12回：卒業研究の発表・指導
第13回：卒業研究の発表・指導
第14回：卒業研究の発表・指導
第15回：秋学期のふりかえり　・「ゼミ論集」編集打合せ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J50726B0D
科目名	メディア専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB: Media		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。 〈		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙やテレビのニュースビデオ、関連する資料を配布します。		
評価方法	各種レポートやプレゼンテーション５０％、積極的な議論の有無２０～３０％、平常点（授業への参加度合い）３０～２０％。		
到達目標	専門研究を通じて将来の進路、つまり就職に反映させることを最大の目標とする。		
準備学習	ジャーナリズム演習なので、ネットやテレビ、新聞などで、いまどんな社会事象がニュースになっているのかを勉強しておいてください。また、事前配布の資料をよく読んで専門用語などを理解しておくことに加え、授業終了時に復習用の課題を出すので、それを次回の授業時に提出してください。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」を受講することを望みます。

講義の順序とポイント

1　卒業論文の完成に向けたスケジュール作成
2　卒業研究のテーマ確認と指導
3　研究に必要な資料やデータ収集指導
4　個々の卒業研究に関する個別指導
5　個々の卒業研究に関する個別指導
6　個々の卒業研究に関する個別指導
7　卒業研究の中間発表とゼミ生による討議
8　卒業研究の中間発表とゼミ生による討議
9　卒業研究の中間発表とゼミ生による討議
１０　個々の卒論に対する評価とデータ補充の指導
１１　各自の卒業論文の最終発表とディスカッション
１２　各自の卒業論文の最終発表とディスカッション
１３　各自の卒業論文の最終発表とディスカッション
１４　ゼミ全体のテーマ・ディスカッションとそれに対する評価

１５　卒業論文の講評と総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J50741A01
科目名	キャリア研究ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Research (s)		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	(1)働く人として、いかに生きるべきか、なにをなすべきかについて考えます。 (2)小説を手がかりにしながら、自己形成を振り返ります。 (3)自己形成史を基にして、自己分析をします。 (4)自己分析を基にして、自己ＰＲの準備をします。 (5)古今東西の名著に触れ，職業観，人生観，世界観を考えます。 (6)討論をしながら自分なりの考えをまとめる方法を学びます。		
教材（テキスト）	なし　プリント，新聞記事，小説のコピーなどを配付する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業で、議論への参加、自分の考えの表現、授業の感想などで評価します。定期試験なし		
到達目標	①自己分析シート作成　②自己ＰＲ文作成		
準備学習	毎日，ニュースに興味を持っておくこと。 就活ノートを作り，予定と反省を書いておくこと。		

受講者への要望

(1)キャリア形成に向けた取り組みの中で、就職活動は、時期を遅らせるとチャンスを失いますので、各段階の課題を、各時間に確実にやりこなしていく必要があります。
(2)キャリア形成には、豊かな教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。紹介した小説も読んで欲しい。
(3)社会人になれば、他人との共同作業が多くなります。ゼミ、クラブ、アルバイト，家庭，近所などでも他人と交流しておいてください。

講義の順序とポイント

第１回：　キャリア形成と準備のために、どの様な目標を持つのか考えます。
第２回：　就職登録票、就職実践模試確認　就職ガイドブック
第３回：　これまでのキャリア‥‥過去の自分を振り返る。自分史１小学校
第４回：　自分史２　　中学校
第５回：　自分史３　高校
第６回：　自分史４　大学
第７回：　インターンシップ，アルバイト体験のまとめ
第８回：　自分の長所‥‥セールス・ポイントを整理する。自己分析シート１
第９回：　自己分析シート２
第 10 回：　自己分析シート３
第 11 回：　就職サイトへの登録
第 12 回：　自己分析シートの完成‥‥過去から現在までの自分の成長を整理する。
第 13 回：　自己ＰＲ‥‥自分の長所を相手に伝える。自己ＰＲ文１
第 14 回：　自己ＰＲ文２
第 15 回：　自己ＰＲ文３

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★　★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50741A02
科目名	キャリア研究ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Research (s)		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	(1)働く人として、いかに生きるべきか、なにをなすべきかについて考えます。 (2)小説を手がかりにしながら、自己形成を振り返ります。 (3)自己形成史を基にして、自己分析をします。 (4)自己分析を基にして、自己ＰＲの準備をします。 (5)古今東西の名著に触れ，職業観，人生観，世界観を考えます。 (6)討論をしながら自分なりの考えをまとめる方法を学びます。		
教材（テキスト）	なし　プリント，新聞記事，小説のコピーなどを配付する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業で、議論への参加、自分の考えの表現、授業の感想などで評価します。定期試験なし		
到達目標	①自己分析シート作成　②自己ＰＲ文作成		
準備学習	毎日，ニュースに興味を持っておくこと。 就活ノートを作り，予定と反省を書いておくこと。		

受講者への要望

(1)キャリア形成に向けた取り組みの中で、就職活動は、時期を遅らせるとチャンスを失いますので、各段階の課題を、各時間に確実にやりこなしていく必要があります。
(2)キャリア形成には、豊かな教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。紹介した小説も読んで欲しい。
(3)社会人になれば、他人との共同作業が多くなります。ゼミ、クラブ、アルバイト，家庭，近所などでも他人と交流しておいてください。

講義の順序とポイント

第１回：　キャリア形成と準備のために、どの様な目標を持つのか考えます。
第２回：　就職登録票、就職実践模試確認 就職ガイドブック
第３回：　これまでのキャリア‥‥過去の自分を振り返る。自分史１小学校
第４回：　自分史２　　中学校
第５回：　自分史３ 高校
第６回：　自分史４ 大学
第７回：　インターンシップ，アルバイト体験のまとめ
第８回：　自分の長所‥‥セールス・ポイントを整理する。自己分析シート１
第９回：　自己分析シート２
第 10 回：　自己分析シート３
第 11 回：　就職サイトへの登録
第 12 回：　自己分析シートの完成‥‥過去から現在までの自分の成長を整理する。
第 13 回：　自己ＰＲ‥‥自分の長所を相手に伝える。自己ＰＲ文１
第 14 回：　自己ＰＲ文２
第 15 回：　自己ＰＲ文３

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50741B01
科目名	キャリア研究ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Research (f)		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	(1)働く人として、いかに生きるべきか、なにをなすべきかについて考えます。 (2)小説を手がかりにしながら、自己形成を振り返ります。 (3)自己形成史を基にして、自己分析をします。 (4)自己分析を基にして、自己ＰＲの準備をします。 (5)古今東西の名著に触れ，職業観，人生観，世界観を考えます。 (6)討論をしながら自分なりの考えをまとめる方法を学びます。		
教材（テキスト）	プリント，新聞記事，小説のコピーなどを配付する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業での討論への参加、自分の考えの表現、授業の感想などで評価します。定期試験なし		
到達目標	エントリーシート　履歴書の作成		
準備学習	毎日，ニュースに興味を持っておくこと。 就活ノートを作り，予定と反省を書いておくこと。		

受講者への要望

(1)キャリア形成に向けた取り組みの中で、就職活動は、時期を遅らせるとチャンスを失いますので、各段階の課題を、各時間に確実にやりこなしていく必要があります。
(2)キャリア形成には、豊かな教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。紹介した小説も読んで欲しい。
(3)社会人になれば、他人との共同作業が多くなります。ゼミ、クラブ、アルバイト，家庭，近所などでも他人と交流しておいてください。

講義の順序とポイント

第１回：　履歴書を書く　履歴書の要件を考える。
第２回：　履歴書を書く
第３回：　履歴書の完成
第４回：　企業研究　どのような仕事がしたいのか　適職検索
第５回：　どのような企業があるのか　企業検索
第６回：　就職ナビによる企業検索
第７回：　業界研究セミナーまとめ
第８回：　エントリーシートを書く　エントリーシートの目標を考える
第９回：　エントリーシート１：企業・業界共通編
第 10 回：　エントリーシート２：企業・業界独自編
第 11 回：　面接とはなにか
第 12 回：　４回生による「就職活動体験セミナー」：就職活動の体験をまなぶ(予定)
第 13 回：　面接対策：面接の実践とグループ討論
第 14 回：　会議の仕方
第 15 回：　社会人への準備

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50741B02
科目名	キャリア研究ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Research (f)		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	(1)働く人として、いかに生きるべきか、なにをなすべきかについて考えます。 (2)小説を手がかりにしながら、自己形成を振り返ります。 (3)自己形成史を基にして、自己分析をします。 (4)自己分析を基にして、自己ＰＲの準備をします。 (5)古今東西の名著に触れ，職業観，人生観，世界観を考えます。 (6)討論をしながら自分なりの考えをまとめる方法を学びます。		
教材（テキスト）	プリント，新聞記事，小説のコピーなどを配付する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業での討論への参加、自分の考えの表現、授業の感想などで評価します。定期試験なし		
到達目標	エントリーシート　履歴書の作成		
準備学習	毎日，ニュースに興味を持っておくこと。 就活ノートを作り，予定と反省を書いておくこと。		

受講者への要望

(1)キャリア形成に向けた取り組みの中で、就職活動は、時期を遅らせるとチャンスを失いますので、各段階の課題を、各時間に確実にやりこなしていく必要があります。
(2)キャリア形成には、豊かな教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。紹介した小説も読んで欲しい。
(3)社会人になれば、他人との共同作業が多くなります。ゼミ、クラブ、アルバイト，家庭，近所などでも他人と交流しておいてください。

講義の順序とポイント

第１回：　履歴書を書く　履歴書の要件を考える。
第２回：　履歴書を書く
第３回：　履歴書の完成
第４回：　企業研究　どのような仕事がしたいのか　適職検索
第５回：　どのような企業があるのか　企業検索
第６回：　就職ナビによる企業検索
第７回：　業界研究セミナーまとめ
第８回：　エントリーシートを書く　エントリーシートの目標を考える
第９回：　エントリーシート１：企業・業界共通編
第 10 回：　エントリーシート２：企業・業界独自編
第 11 回：　面接とはなにか
第 12 回：　４回生による「就職活動体験セミナー」：就職活動の体験をまなぶ(予定)
第 13 回：　面接対策：面接の実践とグループ討論
第 14 回：　会議の仕方
第 15 回：　社会人への準備

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50742001
科目名	脳と心	単位数	2
科目名（英語表記）	Brain and Mind		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	脳と心との関係は如何にというのは，長年論争されてきたいわゆる「心身問題」である。 本講では，心はどのようにして生まれるのか，脳と心の関係をどう考えるのか，心が脳をコントロールできる側面などを検討し，脳にとって悪い「クセ」を直して脳を活性化させる方法について論述する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）		
到達目標	脳と心の関係を正しく理解できるようになること。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の 1 週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

心理学入門，心理学概論を履修したものとして，講義を進めます。授業には必ず出席すること。

講義の順序とポイント

1．意識は科学で解明できるか
（1）意識と脳科学
2．脳と心をどう考えるか
（1）意識と心の起源
（2）脳と心の関係について
3．脳と心をどう考えるか
（3）脳と心の諸説
（4）脳から心へ
（5）心は脳を超える
4．意識を作る脳
（1）意識と体をつなぐ
5．意識を作る脳
（2）心をみる
（3）意識の構図
6．意識する心
（1）意識と認知
7．心が脳を変える
（1）量子力学と心
（2）心の力
8．心が脳を変える
（3）心が脳をコントロールする
9．脳と神経
（1）脳の諸相
10．利きにまつわる問題
（1）利き手
11．生理心理学
（1）脳波と事象関連電位
12．脳に悪い習慣をどのように直すか

13. 脳を活性化させる方法
14. ブレイン・ルール
15. 頭にいいことをやろう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50743A01
科目名	歴史民俗学上級講読（歴史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Japanese History) I		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（テキスト）	古文書のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。購入方法はガイダンスにて指示します。		
評価方法	平常点　　70%　授業への取り組み方 定期試験　30%　江戸時代の史料の読解能力について試験します。		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の読解能力を習熟すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
準備学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		
受講者への要望			
古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2〜15　古文書の解読と講評			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	−	−

年度	2016	授業コード	J50743A02
科目名	歴史民俗学上級講読（歴史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Japanese History) I		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（テキスト）	古文書のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。購入方法はガイダンスにて指示します。		
評価方法	平常点　　70%　授業への取り組み方 定期試験　30%　江戸時代の史料の読解能力について試験します。		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の読解能力を習熟すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
準備学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		
受講者への要望			
古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2〜15　古文書の解読と講評			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	−	−

年度	2016	授業コード	J50743B01
科目名	歴史民俗学上級講読（歴史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Japanese History) II		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（テキスト）	古文書のコピーをその都度、配布します。 後期は特に受講生の研究テーマに関する古文書を読むこともあります。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。購入方法はガイダンスにて指示します。		
評価方法	平常点　　100%　授業への取り組み方		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の読解能力を習熟すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
準備学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		
受講者への要望			
古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2〜15　古文書の解読と講評			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	−	−

年度	2016	授業コード	J50743B02
科目名	歴史民俗学上級講読（歴史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Japanese History) II		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（テキスト）	古文書のコピーをその都度、配布します。 後期は特に受講生の研究テーマに関する古文書を読むこともあります。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。購入方法はガイダンスにて指示します。		
評価方法	平常点　　100%　授業への取り組み方		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の読解能力を習熟すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
準備学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		
受講者への要望			
古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2〜15　古文書の解読と講評			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	−	−

年度	2016	授業コード	J50744A01
科目名	歴史民俗学上級講読（民俗） Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Folklore) Ⅰ		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学上級講読Ⅰでは高度に専門的な内容の英文講読を行います。内容は３人の担当者の専門に従って、民俗地理学・都市文化史・文化人類学の英文講読となります。主に、大学院進学者を対象とします。教科書は受講者の要望する専門にあった文献を相談しながら決めます。		
教材（テキスト）	受講者と相談して適宜決める		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	プリントの配布		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）レポート（２０％）		
到達目標	各分野の専門的な英文が読めるようになること。		
準備学習	配布プリントの予習		
受講者への要望			
参考文献にも目を配ること。			
講義の順序とポイント			
１　教科書の選定と解説 ２～15　受講者による講読			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J50744B01
科目名	歴史民俗学上級講読（民俗） II	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Folklore) II		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学上級講読 II では、 I と同様に高度に専門的な内容の英文講読を行います。内容は３人の担当者の専門に従って、民俗地理学・都市文化史・文化人類学の英文講読となります。主に、大学院進学者を対象とします。教科書は受講者の要望する専門にあった文献を相談しながら決めます。		
教材（テキスト）	受講者と相談して適宜決める		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	プリントの配布		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）レポート（２０％）		
到達目標	各分野の専門的な英文が読めるようになること。		
準備学習	配布プリントの予習		
受講者への要望			
参考文献にも目を配ること。			
講義の順序とポイント			
1　教科書の選定と解説 2～15　受講者による講読			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J50745A01
科目名	中国文学特殊講義Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Chinese Literature A		
担当者名	山本　孝子	旧科目名称	
講義概要	「変文」は馴染みのないものかもしれないが、中国文学史において通俗文学の発展を見る上で非常に重要な位置付けにある。この授業では敦煌発見の変文作品について概説した上で、世俗的作品の代表作である「王昭君変文」を取り上げる。王昭君の史実は漢書に見えるが、その後民間伝説として中国で盛んに文学作品の題材とされ、その説話は日本にも伝えられていた。変文を中心に関連する作品を紹介し、共通する題材を軸とした文学作品の時代・地域的な展開を考える。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・文学・歴史・思想に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の歴史・文化などに興味を持って臨むこと。		

受講者への要望

積極的に授業に参加すること。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス　　敦煌文学について①資料の全体像
２．敦煌文学について②敦煌文献の価値
３．敦煌変文について①「通俗文学」「白話文学」の興隆：中国文学史における位置付け
４．敦煌変文について②成立した時代
５．敦煌変文について③文体
６．敦煌変文について④題材
７．王昭君について：『漢書』に見る史実
８．王昭君変文①
９．王昭君変文②
１０．王昭君変文③
１１．フィクションの効果・魅力
１２．『西京雑記』王昭君
１３．元曲「漢宮秋」
１４．日本に見る王昭君説話
１５．全体の流れを確認し、補足説明を行う
＊以上の内容は受講者数・進度によって変更の可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	-	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J50745B01
科目名	中国文学特殊講義Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Chinese Literature B		
担当者名	山本　孝子	旧科目名称	
講義概要	「変文」は馴染みのないものかもしれないが、中国文学史において通俗文学の発展を見る上で非常に重要な位置付けにある。この授業では、まず仏教故事に題材を取った変文を紹介し、全体像をつかんだ上で、いくつかの具体的作品を取り上げる。これらを例として、中国文学と外来の宗教である仏教の関わりの一端を見る。また、文字を持つ一部の上層社会にのみ享受された文学作品とは、「絵解き」を通して一般民衆の心もつかんだという点についても留意したい。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・文学・歴史・思想に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の歴史・文化・宗教などに興味を持って臨むこと。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加すること。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス　　敦煌と仏教① ２．敦煌と仏教② ３．変文と仏教経典① ４．変文と仏教経典② ５．変文と仏教経典③ ６．絵解き① ７．絵解き② ８．絵解き③ ９．目連変文① １０．目連変文② １１．目連変文③ １２．降魔変文① １３．降魔変文② １４．降魔変文③ １５．全体の流れを確認し、補足説明を行う ＊以上の内容は受講者数・進度によって変更の可能性がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	-	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J50747001
科目名	現代フランス事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary French Society		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	歴史・伝統文化・現代社会や文化の観点からフランスを発見しましょう。現代のフランス事情を理解する手助け となる、多くの興味深い事実を見つけ、現代の日本事情と比較して、世界をより広く理解します。		
教材（テキスト）	プリント配布やビデオ		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出席・積極的参加：５０％ 口頭プレゼンテーション１回（各学生は、勉強した主題の１つをスピーチする（５～１０分程）：５０％		
到達目標	フランスの現代事情に精通し、日本の現代事情との共通点・相違点を理解できるようになる		
準備学習	特になし		
受講者への要望			
毎回の講義出席に加え、グループまたは個人で、勉強した主題の１つを短いプレゼンテーション（５～１０分程） をする			
講義の順序とポイント			
1 講義についての説明 2 歴史・地理・気候 3 経済・産業・雇用 4 女性の境遇 5 フランスの教育システム 6 社会的不平等：映画を通して学ぶ（パート１） 7 社会的不平等：映画を通して学ぶ（パート２） 8 １年を通したフランスの生活スタイル 9 パリ Paris 10 芸術（造形芸術、音楽、映画、ファッション）：過去　11 芸術（造形芸術、音楽、映画、ファッション）：現在 12 フランスの食文化 13 高級料理：映画を通して学ぶ（パート１） 14 高級料理：映画を通して学ぶ（パート２） 15 フランスにおける日本人と日本文化 講義計画及び内容は変更する可能性があります。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2016	授業コード	J50748001
科目名	現代中国事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary Chinese Society		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	本講義は、専門的知識の授業ではなく、担当者も専門家ではないけれど、中国に対して関心・興味をもつ受講生達が一緒になって、この授業ならではの雰囲気の中気軽に話し合い、によって隣国、そしてそこの人々への理解を深めることができたらなんと素晴らしいことでしょう。 授業の内容は、すこし日中関係の歴史を遡ってから、現代中国の社会事情や日中関係についてみんなで一緒に考えてみよう。特に中国の今抱えている難問、即ち人口政策問題や出稼ぎ労働者、大学生の就職難など、いずれも現代中国を理解する鍵となる要素であり、そればかりではなく、たぶんどの国にも類似の側面があるでしょう。そのような問題は社会にどのような悪影響をもたらしているのか、とりわけ、現代の中国はそれらに対してどのように対処しようとしているのか、みんなでちょっと意見を交わしてみませんか。できればこの講義で得た知識を生かしてわが大学の「グローバル・インターンシップ･プログラム（GIP)」への参画を試したり、京都観光に来てくれる中国の人々に案内をもしたりしてみませんか。　さあ、留学生の皆さん、日本人の学生さん、ぜひこの「触れ合い場」へ積極的に寄って下さいませ。		
教材（テキスト）	プリント配布 主に「大月書店」/宮崎敦四郎・秋葉幹人著の「中国の歴史」を中心に(購入必要がない)		
教材（参考文献）	適宜指示		
教材（その他）	随時にプリントを配布します		
評価方法	平常点（30%）出席状況等により、自ら問題提出 40%、レポート（30%）学期末に提出を求める。5 回以上欠席は単位が取れない。		
到達目標	現代中国の諸事情につき基礎的な知識と理解をもつ。他国の諸問題について多面的かつ柔軟な視点で考察できるようになる。		
準備学習	現代中国の諸問題に対して関心をもち、メディア等で伝えられる情報を手に入れるようにする。 毎度の授業の前に、日本人の学生は、中国人留学生に聞きたいこと、中国人留学生は日本人あるいは他の国の学生に聞きたいことを準備しておき、授業中楽しく話し合いますように。		

受講者への要望

すべての在籍学生に向ける授業である。
主体的になぜ自分はこの講義をとるのか、中国の諸事情について理解をもつことが自分にとってどんな意味をもつのかを考えて授業に出てほしい。主体的な関心があってはじめて勉強は有意義なものとなるだから、積極的に問題を提出、自分の意見を率直に話す姿勢が望ましい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス：授業の進み方･成績評価基準
2. 中国の概況：行政･地理
3. 中国の歴史を遡る
4. 古・近代史の日中関係
5. 中国の近代史の内戦(台湾問題も)
6. 新中国の一連政治運動
7. 改革開放
8. 現在中国の社会問題---人口、民工・流民など
9. 中国庶民の娯楽
10. 大学生の就活と若者の恋愛観
11. 古典文学・現代文学の簡介
12. 戦後の日中関係
13. 話し合う・国際交流会
14. 学期末レポート準備
15. レポート発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2016	授業コード	J50748002
科目名	現代中国事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary Chinese Society		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	本講義は、専門的知識の授業ではなく、担当者も専門家ではないけれど、中国に対して関心・興味をもつ受講生達が一緒になって、この授業ならではの雰囲気の中気軽に話し合い、によって隣国、そしてそこの人々への理解を深めることができたらなんと素晴らしいことでしょう。 授業の内容は、すこし日中関係の歴史を遡ってから、現代中国の社会事情や日中関係についてみんなで一緒に考えてみよう。特に中国の今抱えている難問、即ち人口政策問題や出稼ぎ労働者、大学生の就職難など、いずれも現代中国を理解する鍵となる要素であり、そればかりではなく、たぶんどの国にも類似の側面があるでしょう。そのような問題は社会にどのような悪影響をもたらしているのか、とりわけ、現代の中国はそれらに対してどのように対処しようとしているのか、みんなでちょっと意見を交わしてみませんか。できればこの講義で得た知識を生かしてわが大学の「グローバル・インターンシップ･プログラム（GIP)」への参画を試したり、京都観光に来てくれる中国の人々に案内をもしたりしてみませんか。　さあ、留学生の皆さん、日本人の学生さん、ぜひこの「触れ合い場」へ積極的に寄って下さいませ。		
教材（テキスト）	プリント配布 主に「大月書店」/宮崎敦四郎・秋葉幹人著の「中国の歴史」を中心に(購入必要がない)		
教材（参考文献）	適宜指示		
教材（その他）	随時にプリントを配布します		
評価方法	平常点（30%）出席状況等により、自ら問題提出 40%、レポート（30%）学期末に提出を求める。5 回以上欠席は単位が取れない。		
到達目標	現代中国の諸事情につき基礎的な知識と理解をもつ。他国の諸問題について多面的かつ柔軟な視点で考察できるようになる。		
準備学習	現代中国の諸問題に対して関心をもち、メディア等で伝えられる情報を手に入れるようにする。 毎度の授業の前に、日本人の学生は、中国人留学生に聞きたいこと、中国人留学生は日本人あるいは他の国の学生に聞きたいことを準備しておき、授業中楽しく話し合いますように。		

受講者への要望

すべての在籍学生に向ける授業である。
主体的になぜ自分はこの講義をとるのか、中国の諸事情について理解をもつことが自分にとってどんな意味をもつのかを考えて授業に出てほしい。主体的な関心があってはじめて勉強は有意義なものとなるだから、積極的に問題を提出、自分の意見を率直に話す姿勢が望ましい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス：授業の進み方･成績評価基準
2. 中国の概況：行政･地理
3. 中国の歴史を遡る
4. 古・近代史の日中関係
5. 中国の近代史の内戦(台湾問題も)
6. 新中国の一連政治運動
7. 改革開放
8. 現在中国の社会問題---人口、民工・流民など
9. 中国庶民の娯楽
10. 大学生の就活と若者の恋愛観
11. 古典文学・現代文学の簡介
12. 戦後の日中関係
13. 話し合う・国際交流会
14. 学期末レポート準備
15. レポート発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	J50751001
科目名	美意識の比較文化	単位数	2
科目名（英語表記）	Comparison Culture of Sense of Beauty		
担当者名	荒木　利枝	旧科目名称	
講義概要	美意識は、人によって、また状況によって、異なるものである。そして、時代や他の文化的要素、社会的環境などさまざまな要因によって変化する。もちろん、外見だけでなく、内面の情報も、美意識の形成過程に影響を与えるのである。このような美意識を生み出す背景や原理は複雑で、その要素を知ることは「美しく」生きるために不可欠といえる。 この講義では、美意識の国際比較、自己表現としての化粧、コミュニケーションにおける化粧行動の役割など多様なトピックスを取り上げ、化粧の効用やその行為自体の意義について解説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法	平常点 50%　授業内確認テスト 50% 平常点は、授業中の発表や、宿題、レポートなどの課題、提出物を総合的に評価する。		
到達目標	美意識の形成についてのアウトラインを学び、化粧行動の基本的意義を踏まえた上で、社会的、文化的効果を理解する。単に知識を得るだけでなく、調査や討論、発表などを通して、各自、美しい社会人として行動するためのヒントを得ることを目標とする。		
準備学習	各講義中に、次回講義のための準備学習（資料収集やレポート作成、発表準備等）を指示する。		

受講者への要望

授業は、講義の他、グループワーク、小レポート作成、発表などの活動もあるので、受講者には積極的な参加を求める。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション　美意識の形成について学ぶ
第 2 回　「美しさ」とは
第 3 回　化粧と美意識
第 4 回　顔のコミュニケーション
第 5 回　「美しさ」と社会性
第 6 回　化粧の歴史
第 7 回　世界の化粧
第 8 回　日本と西洋、ヘアスタイルの文化
第 9 回　美意識の国際比較 1
第 10 回　美意識の国際比較 2
第 11 回　美意識の国際比較 3
第 12 回　女性とキャリア
第 13 回　美の創造
第 14 回　高齢者と美意識
第 15 回　美意識の比較文化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50757001
科目名	美容とブランド	単位数	2
科目名（英語表記）	Beauty and Brand		
担当者名	荒木　利枝	旧科目名称	
講義概要	日本の美容業界は、明治から昭和に至る経済発展の原動力となり、またいち早く国際化に対応してきた。とくに化粧品産業は、その時代の文化や経済と密接にかかわり、高度な販売システムを形成した独特の市場を持っている。消費者が、最も海外製品を身近に感じることができる市場であるともいえるであろう。シャネル、クリスチャン・ディオール、ジバンシィ、イヴ・サンローランといったトップ・ブランドはもちろん、M.A.C、ボビィブラウン、ナーズ、メイクアップフォーエバーなどのアーティスト系ブランドも数千円で手に入るのである。それに対抗する国産メーカーの動きも目が離せない。このように、対象とする顧客が明確で、新製品（新色）の発売周期も安定した業界は他にはない魅力がある。 この講義では、美容業界、とくに化粧品市場に焦点をあて、その歴史や独特の流通システム、メーカーの組織、ブランドのプロフィールなどを解説し、企業研究にも取り組む。また、状況に応じて、フロア・プラン研究のためのフィールドワークを企画する予定である。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて講義中に指示する		
教材（その他）	講義中に適宜プリントを配付する。		
評価方法	平常点 50％　授業内確認テスト 50％ 平常点は、授業中の発表や、課題、提出物を総合的に評価する。		
到達目標	日米欧における化粧品市場の変遷、ブランディングの歴史、化粧品の流行やその販売の現場など、美容産業の国際的発展過程について理解する。さらに、個別企業の動向についても理解を深める。		
準備学習	各講義中に、次回講義のための準備学習（資料収集やレポート作成等）を指示する。		
受講者への要望			
講義の他、グループワーク、発表などの活動もあるので、積極的な参加を求める。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　イントロダクション　美容業界におけるブランドを学ぶ 第 2 回　化粧品とブランド 第 3 回　化粧品産業の流通システム 第 4 回　美容の歴史―明治の文明開化から大正デモクラシー 第 5 回　美容の歴史―昭和・日本経済の発展と化粧品産業の隆盛 第 6 回　美容の歴史―平成・流通の構造改革 第 7 回　インターネットをめぐる化粧品業界の動き 第 8 回　規制緩和―再販制度と薬事法 第 9 回　メーカーの製造・販売・情報発信 第 10 回　主要ブランド・プロフィール 第 11 回　小売の現状―販売店のフロア・プラン 1　百貨店 第 12 回　小売の現状―販売店のフロア・プラン 2　ドラッグストア 第 13 回　化粧品市場の今後 第 14 回　化粧品企業の社会的責任 第 15 回　美容とブランド			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	★★	ー	★	ー

年度	2016	授業コード	J50758001
科目名	英語フィールドワーク京都	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Fieldwork in English		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	近年、欧米を中心とした「京都ブーム」で京都を訪ねる外国人観光客が増加した。この講座では、外国人が見る京都を英語で探検し、京都の様々な体験のもとにレポートを書くほか、京都の観光地や話題スポットに出かけて、意識調査やガイドブック作りなどを通して、英語運用能力を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%　　授業内課題、レポート 80%		
到達目標	京都の伝統文化、観光地、習慣などを研究し英語で発表できるような英語能力を育成させる。		
準備学習	日本文化の基礎知識を復習しておくこと。京都で調査していきたいところを考えておくといいでしょう。		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることを勧めます。

講義の順序とポイント

1. Introduction / What is fieldwork?
2. Getting to know Kyoto in English
3. Experiencing Kyoto with the five senses
4. Tezome dying experience
5. Tezome report writing/presentations
6. Monkoo incense experience
7. Monkoo report writing/presentations
8. Wagashi experience
9. Wagashi report writing/presentations
10. Kyoto no oto experience
11. Kyoto no oto report writing/presentations
12. Kyoto sights experience
13. Kyoto sights report writing/presentations
14. Conducting Surveys
15. Final reports/discussion

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	ー	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J50759001
科目名	海外ニュースと時事問題	単位数	2
科目名（英語表記）	English through Foreign Media		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	この講義では「子ども兵士たち、ようやく自由の身に！」「政府、若いデジタル世代を育成へ」など現代の興味深い問題を扱っているニュース番組を見て英語を学びます。DVD を見ながらテキストを読むことによって、段階的に理解を深めていく，視野を広げます。		
教材（テキスト）	Timothy Knowles et al, Seeing the World through the News 3. Kinseido Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%　授業内課題 30%　レポート 50%		
到達目標	英語のニュース放送を観て、時事問題を理解した上簡単な英語で討論する。		
準備学習	世界の時事問題への関心を持つこと。海外のニュース（インターネット、新聞、テレビ）を見る習慣をもつこと。		
受講者への要望			
自分の視野を広めたい気持ちで授業に毎回出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることを勧めます。			
講義の順序とポイント			
1?. Poppies at the Tower of London ??2?. Cosplay in London 3?. Shakespeare in London’s East End 4?. Who Owns Banksy’s Street Art? ?5?. A Chip under the Skin 6?. Houses Built from Straw 7?. Paternity Leave 8?. Young Voters 9?. Teaching Digital Skills ?10.? A Home for Newspapers 11?. Scotland’s Future ?12?. Online Courts ?13?. The Price of the Monarchy 14.? Body Clocks 15.? Child Soldiers of South Sudan ?			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	★	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50760001
科目名	海外ＴＶドラマ論	単位数	2
科目名（英語表記）	English through Foreign TV Drama		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	この講義では、世界中で有名なテレビドラマ「LOST」を通して、さまざまな形で現代の英語に触れ合うことが目的です。番組を英語で理解することだけでなく、番組についての意見交換、評価も受講生の課題です。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%　　授業内テスト・レポート 50%　　定期試験 30%		
到達目標	テレビドラマのなまな英語を聞いたり、話したりすることによって、総合的な英語力（理解力、単語力）を育つことができるでしょう。		
準備学習	準備学習　セルフラーニング室などで、海外のテレビ番組を観てネイティブ英語の速さやイントネーションに耳をなじませておくといいでしょう。		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持参することを勧めます。

講義の順序とポイント

1. Introduction to the class / Episode 1
2. Episode 1 / Discussion: What would you do?
3. Episode 2
4. Episode 2 / Discussion: narrative
5. Episode 3
6. Episode 3 / Discussion: genre
7. Episode 4
8. Episode 4 / Discussion: plot
9. Episode 5
10. Episode 5 / Discussion: character/personality
11. Episode 6
12. Episode 6/Discussion: What do you think will happen next?
13. Episode 7
14. Episode 7 /Discussion: Sayings and phrases
15. Summary

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	ー	ー	★	★

年度	2016	授業コード	J50761A01
科目名	エアライン講座Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Airline Course I		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講座では、エアライン業界で羽ばたきたいと願う学生、サービス業や一般企業に就職したいと望む学生たちに、実践的な知識・技能が習得できるように講義を展開します。本講座のねらいは、お客様をもてなすホスピタリティ、洗練されたしぐさやマナーを習得し、エアライン他の業界に就職をするための方法を理解し、受講生のキャリア形成を支援することにあります		
教材（テキスト）	必要な教材はプリントにて授業内で配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（70%）、テスト（30%）		
到達目標	①航空業界の仕事に関する理解を深める ②ホスピタリティの意義を理解し、その表現力を高める ③キャリア形成に役立つコミュニケーション能力を高める		
準備学習	授業で学んだマナーや美しいしぐさを日常生活で実践し、反復の中で習得していくこと		

受講者への要望

授業を担当するのは複数の女性講師（ウィズネス社）です。内藤は全体のコーディネーターを担当します。

航空会社の採用試験は、客室乗務員、グランドスタッフ、総合職など合わせて年間 300 回近い募集がありますが、人気の高い業界のため、その倍率は 50～100 倍ともいわれています。高倍率の試験を勝ち抜くためには、高水準の知識・技能・マナーを習得しなければなりません。
一方、エアライン業界が要求する高水準の知識・技能・マナーを習得すれば、一般企業でもかならず通用することでしょう。それゆえ、本講座は、航空業界の志望者だけでなく、サービス業をはじめ、広く一般就職をめざす学生を対象としています。対象学年は就職活動前の３回生ですが、２回生以上であれば受講することができます。
マナーは実践によって学ぶものですので、出席と積極的な参加・学習を要望します。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス：オリエンション／航空業界の仕事について／航空業界で求められる人材とは？
２．自己表現力①接遇の５原則（Ⅰ）トレーニング　〔挨拶・キビキビした動作・笑顔づくり〕
３．自己表現力②接遇の５原則（Ⅱ）トレーニング　〔節度ある話し方・接客話法〕
４．自己表現力③好感を持ってもらうためのスピーチ法と学んだことのチェックと強化
５．接遇応対法①待機～出迎え～案内～飲み物サービス～お見送りのシーンに必要な知識と実践ワーク
６．接遇応対法②待機～出迎え～案内～飲み物サービス～お見送りのシーンで必要な知識と実践ワーク
７．接遇応対法③待機～出迎え～案内～飲み物サービス～お見送りのシーンで必要な知識と実践ワーク
８．接遇応対法④電話の受け方・かけ方のポイントと実践訓練
９．接遇応対法⑤ロールプレイングの課題提出、グループワークとワークチック
１０．自己分析：交流分析チェックと行動パターンの把握
１１．ES・履歴書の理解：エントリーシート、航空業界やその他の企業で書かせられるテーマとは？
１２．ES・履歴書の理解：今から準備しておくべき、文字で自分を伝えるための常識
１３．面接対策実践①面接では何が見られるのか？　入退出の動きのトレーニング
１４．面接対策実践②模擬面接体験、質疑応答のポイント
１５．全体のまとめ：夢を実現するために、体験学習から学ぶ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	J50761B01
科目名	エアライン講座Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Airline Course Ⅱ		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講座は、高水準のホスピタリティ、マナー、コミュニケーション力を習得することを目的とした講座である。この講座では、最高度のホスピタリティとマナーが要求されるエアライン業界に就職する場合に必要なものを広く学ぶことを通じて、あらゆる業界で通用する実践的な社会力を身につけることをめざす。エアライン講座Ⅱでは、エアライン講座Ⅰで学んだ基礎力をさらに向上させ、実践的な場ですぐに活用できるよう、各自のパフォーマンスを確認しつつ修練を積んでゆく。		
教材（テキスト）	必要な教材はプリントにて授業内で配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（70%）、テスト（30%）		
到達目標	①エアライン業界や高度なサービス業において必要とされる知識・技能を習得する ②ホスピタリティの意義を理解し、多様な場面においてこれを実践する能力を身につける ③職場や公の場において主体的に考え、行動するために必要なコミュニケーション能力を習得する。		
準備学習	前回の授業で学んだ内容を、繰り返し訓練し、日常生活で活用すること。ホスピタリティに関連する課題（詳細は授業内で伝える）を調べ、発表の準備をしてくること。		

受講者への要望

授業を担当するのは複数の女性講師（ウィズネス社）です。内藤は全体のコーディネーターを担当します。
エアライン業界が要求する高水準の知識・技能・マナーを習得すれば、一般企業でもかならず通用します。それゆえ、本講座は、航空業界の志望者だけでなく、サービス業をはじめ、広く一般就職をめざす学生を対象としています。対象学年は就職活動前の３回生ですが、２回生以上であれば受講することができます。
マナーは実践によって学ぶものですので、出席と積極的な参加・学習を要望します。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス：オリエンション　エアライン業界のしくみと、業界で求められる知識
２．ホスピタリティの原則
３．ホスピタリティの実践：公的な場におけるふるまい①
４．ホスピタリティの実践：公的な場におけるふるまい②
５．自己表現としてのスピーチ：方法論
６．公的な場におけるスピーチの実践①：準備
７．公的な場におけるスピーチの実践②：プレゼンテーション
８．公的な場におけるスピーチの実践③：振り返りと自己確認
９．社会的な場におけるマナーと会話の方法
１０．対面的な場における会話・接遇の方法
１１．対面的な場における会話・接遇の実践
１２．高度な自己分析：交流分析チェックと行動パターンの把握
１３．グループワーク①
１４．グループワーク②
１５．復習：ホスピタリティに関する知識と総合的な実践力の確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	J50765B0A
科目名	日本語学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar : Japanese Language Study IB		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	中世語の文献を原典で読む。授業は、各自に担当範囲を示し、それについて調査・研究した結果を順次発表してもらう。		
教材（テキスト）	『大蔵虎明本狂言集の研究』　（北原保雄） 『大蔵虎明本狂言集』（大塚光信）		
教材（参考文献）	授業内で逐次紹介する。ただし、参考文献そのものを探すことが重要な学習であるので、最低限にとどめる。		
教材（その他）	図書館の指定図書。他に『時代別国語辞典　室町時代編』		
評価方法	発表５０点と期末レポート５０点の総合評価。		
到達目標	卒業論文作成への礎をしっかり築くこと。特に問題点の発掘、ならびに参考資料の探し方を修得する。		
準備学習	２回生時の購読のレジュメを見直しておいて欲しい。 「日本古典文学大系　狂言集」を参照のこと。		

受講者への要望

すでに活字化されているものに頼らず、原典に直接当たり、他資料を駆使しながら、独力で読み解く姿勢で臨んで欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の概要説明、対象資料の紹介
2　これまでの研究史概説
3　各自発表
4　発表
5　発表
6　発表
7　発表
8　発表
9　発表
10　発表
11　発表
12　発表
13　発表
14　発表
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50766001
科目名	生活と文化の世界史 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of World Lifestyles and Cultures		
担当者名	朴　沙羅	旧科目名称	
講義概要	この講義では、茶道の成立と広がりを学ぶことを通じて、日本の生活と文化の歴史を考える。		
教材（テキスト）	教科書は定めない。授業中に必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に学生によるプレゼンテーション（60 点分）を課し、学生同士の相互評価によって平常点を与える。またプレゼンテーションの内容に関するレポート（40 点分）を学期末に課し、レポートの形式が守られているか、図書および論文などの先行研究を正確に読解できているか、読解した内容をきちんと引用しそれをもとに自らの見解を述べられているかといった項目によって採点する。		
到達目標	・茶道の歴史・人物・道具などについて基本的な知識を得る ・茶道の歴史と日本の伝統（が明治以後に作られていったものであること）を知る ・多様な茶道の実践から、紋切型の日本文化論を批判的に考察することが出来るようになる		
準備学習	授業 1 回目にプレゼンテーション課題をそれぞれの学生に振り分ける（1 回目の授業を受けてその後に受講する気のないものはその際に申し出ること）。その課題の準備を事前学習と見なす。		
受講者への要望			
課題の内容は発表日までに用意しておくこと。プレゼンテーション課題で平常点をつけるため、その回に発表が出来なかったものはそれなりの成績しかつけられない。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2・3. 茶の始まりと日本への導入 4〜6. 茶道の成立と展開 7~10. 受講者によるプレゼンテーション（1 回目） 11〜13. 日本の近代化と茶道 12〜14. 受講者によるプレゼンテーション（2 回目） 15. 授業のまとめと振り返り			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	20	10	10	10	30	20

年度	2016	授業コード	J50767A0A
科目名	日本語学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar : Japanese Language Study ⅡA		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	卒業論文作成のための基礎体力を養う。おおまかでもよいので、受講生は自らが卒業論文で扱うであろうテーマについての既存研究を調査し、その結果を何度かにわたって授業内で報告する。この作業を通じて、受講生は、論文の何たるかを知り、また自らの卒論テーマがどの程度研究されているものか、自分の入り込む余地は残されているのか、などを直截に知ることにより、卒論テーマの設定の難しさを体験する。秋学期の演習Ｂへの礎とする。		
教材（テキスト）	特定のものはない。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内で行われる「報告」によって評価する。		
到達目標	卒業論文のテーマ設定の端緒を掴むこと。		
準備学習	３回生までの演習レジメに目を通しておくこと。		
受講者への要望			
とにかく自分に厳しく、コツコツと地道に作業を進めること。			
講義の順序とポイント			
１．卒論テーマ設定に関するディスカッション ２．資料検索方法の実際 ３．図書館の利用法 ４．卒論テーマの外枠 ５．調査報告 ６．調査報告 ７．調査報告 ８．調査報告 ９．調査報告 １０．調査報告 １１．調査報告 １２．調査報告 １３．調査報告 １４．調査報告 １５．夏休みに取り組むべき課題の確認			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50767B0A
科目名	日本語学専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar : Japanese Language Study ⅡＢ		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	卒論作成の具体的な作業を行う。春学期演習ＩＩ Ａの成果を踏まえ、大まかなテーマから徐々にテーマを絞って行き、少なくとも１０月中期段階で明確なテーマを見つけ出すことを目標とする。その後、先行研究の調査を十分に行った上で、さらにテーマにふるいをかけて、実際に書き進める作業に入る。		
教材（テキスト）	特定のものはなし。		
教材（参考文献）	適宜紹介はするが、最小限に留める。		
教材（その他）			
評価方法	論文がすべて。		
到達目標	学部レベルの卒論を書き上げることが最低限の目標だが、実際には「論文」として一般に通用するものを目指す。		
準備学習	春学期の成果を夏休み中に忘れてしまわないように。		

受講者への要望

焦らず、念入りに調査すること。卒論の完成ばかりを気にしないで執筆までの準備期間を大切にすること。

講義の順序とポイント

１．先行研究の研究（１）
２．先行研究の研究（２）
３．先行研究の研究（３）
４．論文テーマの吟味（１）
５．論文テーマの吟味（２）
６．進捗状況の発表
７．進捗状況の発表
８．進捗状況の発表
９．進捗状況の発表
１０．専攻主催の卒論中間発表
１１．論文検討
１２．論文検討
１３．論文検討
１４．論文検討
１５．論文検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50768001
科目名	司法・矯正・福祉心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology for Justice, Remedy and Welfa re		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	前半は非行や犯罪に関する心理学、後半では福祉に関する心理学の講義を行なう。司法は裁判を指すが、ここでは警察の捜査業務なども含み、矯正は少年院や刑務所などでの加害者教育を示している。また非行や犯罪には福祉や医療もかかわるようにシステムが整えられており、それらも含めた非行や犯罪にかかわる現場の業務と、そこに心理学がどのように貢献しているかについて述べる。福祉とは“しあわせ”のことだと考えてよいが、講義では児童福祉、とくに虐待を中心に述べ、虐待防止と人間のしあわせとの関連性について心理学的に解説する。なお、非行や犯罪にかかわる業務に携わるのは国家・地方公務員が主であり、福祉業務は公務員・民間にまたがる。各職場や職種の紹介も授業のなかで行ないたい。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	藤岡淳子「犯罪・非行の心理学」2007 有斐閣ブックス K．ブル他著／仲真紀子監訳「犯罪心理学～ビギナーズガイド：世界の捜査、裁判、矯正の現場から」2010 有斐閣 川崎二三彦「児童虐待～現場からの提言」2006 岩波新書 川畑　隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」2009 明石書店		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や授業態度による平常点（５０％）と、「授業内容の理解」に関する確認作業の成果の提出（５０％）		
到達目標	非行や犯罪に関することに心理学がどのように貢献しているか、心理学をとおして人間の福祉をどうはかるかについて学ぶことで、人間や社会についての理解を深める。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。また、非行や犯罪、そして福祉に関する事象や社会の動き、論評は様々に報道されている。授業で学習したことがらを背景に思い浮かべながら、自分なりに報道内容についてどういうことが起きている可能性があるのか、検討してみてほしい。		
受講者への要望			
各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。配布した資料にはよく目を通してほしい。			
講義の順序とポイント			
01.はじめに～犯罪や非行の現状と課題、各機関の業務と法律 02.犯罪や非行の心理学①警察・検察における実践 03.　同　②自白や目撃証言等と裁判 04.　同　③矯正教育や管理、治療 05.　同　④少年事件 06.　同　⑤児童相談所の非行相談 07.障害との関係や被害者支援、その他の問題 08.残されたテーマと前半授業の補足 09.各福祉分野の臨床心理学的問題 10.児童虐待① 11.児童虐待② 12.児童虐待③、高齢者、配偶者、障害者への虐待 13.児童福祉現場における心理臨床 14.福祉現場での労働 15.残されたテーマと後半授業の補足 ※講義の内容と順序は変更があり得る。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50768101
科目名	政治学原論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、国内社会と国際社会に存在する様々な政治的問題について、政治学の知識を活用しながら考える力を養うことにある。そのために本講義では、種々の問題を考える際に必要とされる基礎的な知識を幅広い分野に渡って講義していくこととしたい。 具体的には下記の授業計画にあるように、講義の３分の２ほどを国内政治に、３分の１ほどを国際政治に関する講義とする。国内政治については、①政治の定義、②政治権力、③政治的アクター、⑤政治体制、⑥市民社会論、⑦現代正義論の７つのテーマを、国際政治については、①国際政治の特徴、②国政体系の２つのテーマについて講義することとしたい。 テーマによっては難しい内容も含まれるが、「アカデミックな知識にもとづいた政治観」を身につけることができるよう、頑張っていただきたい。		
教材（テキスト）	レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	①レポート（講義で扱ったテーマから興味のあるものを２つ選び、それぞれにつき１５００字程度のレポートを提出すること。うち１つのテーマは国際政治から選ぶものとする。５０％） ②講義内コメントカード（２０％） ③定期試験（３０％）		
到達目標	①日本の国内政治が抱える諸問題の中から少なくとも何かひとつについて、政治学の知識をもとにその原因と解決策とを説明することができる。 ②国内社会と国際社会の違いを踏まえた上で、それが国内政治と国際政治にどのような違いをもたらしているかを説明することができる。 ③よりよい民主政治を実現するために何が必要とされているかを説明することができる。		
準備学習	１）新聞やテレビのニュースから、 リアルタイムの政治の動向に関する情報を入手しておくこと。 ２）レジュメを熟読しておくこと。 ３）関心を持った問題について、自ら文献にあたって知識を深めておくこと。		

受講者への要望

１）講義に出席すること。出席しない学生の単位取得は不可能である。
２）定期テスト前にしっかりと勉強すること。
３）必修科目であるから、とりわけ真面目に勉強すること。

講義の順序とポイント

第１回：政治とは何か－集団的意思決定と社会統合－
第２回：政治権力（１）－実体的権力論と関係論的権力論－
第３回：政治権力（２）－権力作用の３つの次元－
第４回：政治的アクター（１）－エリート論－
第５回：政治的アクター（２）－リーダーシップ論－
第６回：政治体制（１）－全体主義体制と権威主義体制－
第７回：政治体制（２）－自由民主主義体制－
第８回：市民社会論（１）－現代市民社会論の特徴－
第９回：市民社会論（２）－二回路制デモクラシー論－
第１０回：現代正義論（１）－ロールズの正義論－
第１１回：現代正義論（２）－ロールズへの批判－
第１２回：国際政治の特徴（１）－国内社会と国際社会の違い－
第１３回：国際政治の特徴（２）－国際政治の４つのイメージ－
第１４回：国際体系（１）－西欧国際体系の成立とその特徴－
第１５回：国際体系（２）－現代国際体系への変容と現代の国際社会－

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J50771001
科目名	実践キャリア英語	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical English for Business		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	仕事に関連した状況での英語を学習します。特に、仕事で英語を生かしたい学生にとって為になるコースです。 また、TOEIC などの試験を学習する学生の一助にもなります。		
教材（テキスト）	プリント用紙の配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出席・積極的参加：４０％ 小テスト・練習：６０％		
到達目標	学生が仕事で英語を話し書くことができるように、相応の知識を得ることを、最終的に目指します。		
準備学習	授業開始前に、テキストに目を通し慣れておくことをお勧めします。		
受講者への要望			
毎回の講義出席			
講義の順序とポイント			
1 Introduction /Jobs I 2 Jobs II 3 Products and Services I 4 Products and Services II 5 Practice 6 Location I 7 Location II 8 Technology I 9 Technology II 10 Practice 11 Communication I 12 Communication II 13 Contact I 14 Contact II 15 Practice 講義計画及び内容は変更する可能性があります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2016	授業コード	J50772001
科目名	サムライ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	History of　Samurai culture		
担当者名	中西　裕樹	旧科目名称	
講義概要	近年、映画やアニメ、スポーツなど、さまざまな場面で「サムライ」という言葉が使用され、その歴史・文化は海外からも注目されています。この「サムライ」と、歴史的存在である「侍」「士」には、共通する部分とそうではない部分があります。また、サムライは時代によって性格を変え、精神的活動を含む文化に自らを反映しました。 本講義では、平安時代に生まれたサムライの歴史を明治維新まで確認しながら、その精神ともされる「武士道」を考えます。また、各論として、民俗学・歴史地理学の視点からサムライの性格をとらえるとともに、象徴ともされる刀剣・甲冑・城郭の歴史とその背景を取り上げます。これらの作業を通じ、現代におけるサムライの意味を考えることを目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	適宜紹介します。		
教材（その他）	パワーポイントや映像、プリントなどを使用。		
評価方法	平常点 20%(出席状況による)、学期末レポート 80%として評価します。		
到達目標	歴史学など様々な分野の研究成果をふまえ、現代をとらえる視点を養う。		
準備学習	少なからず日本史の知識が必要になるので、不明な点は講義での質問や自主学習で補ってほしい。		
受講者への要望			
「サムライ」をキーワードとする文化や事象に目を配り、講義との対比を行った上でレポート作成に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション(中西裕樹) 2　現代のサムライ文化論(佐々木高弘) 3　民俗とサムライ文化論(堀田穣) 4　平安時代のサムライ　古代の軍事貴族(中西裕樹) 5　鎌倉・室町時代のサムライ　支配する武家(中西裕樹) 6　戦国時代のサムライ　新しい村のリーダー(中西裕樹) 7　安土・桃山時代のサムライ　侍の下剋上(中西裕樹) 8　江戸時代のサムライ　職業の士と忠臣蔵(中西裕樹) 9　幕末のサムライ　迫る西洋と新選組と(中西裕樹) 10　明治～昭和と現代のサムライ　「武士道」とは(中西裕樹) 11　江戸時代のサラリーマンの日常(鍛治宏介) 12　刀剣・甲冑のサムライ文化論(中西裕樹) 13　城の歴史のサムライ文化論　日本の城郭史(中西裕樹) 14　城の歴史のサムライ文化論　京都にみる城郭(中西裕樹) 15　サムライの歴史とサムライ文化論(中西裕樹)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50775A0A
科目名	ネイティブ英語専門演習Ｉ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Native English Seminar IA		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	In this seminar, students will do intensive practice in the English skills required to achieve a score of 500 in the TOEIC test. All students will be required to take the TOIEC test at the completion of the course. The seminar will also involve speaking and writing activities such as short presentations and diary entries and reports, in order to build students' overall skills in communicative English.		
教材（テキスト）	Atsushi Mizumoto and Mark Stafford、Successful Keys to the TOEIC Test 1 (2nd Edition), Kirihara Shoten		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Classwork: 20%, Self-study quizzes:30%, Presentations 25%, Diary/reports: 25%		
到達目標	By the end of this course, students should aim to achieve a score of over 500 in the TOEIC test. They shall also have gained oral and written fluency to a level at which they can communicate in some depth in English.		
準備学習	Students are encouraged to expose themselves to as much high-level English (books, magazines, TV, films) as possible before and during this course. Students are asked to make and commit to a study schedule, remembering that work done outside of class is essential to their English language development.		

受講者への要望

1. Students are to bring their textbook and dictionaries to each class.
2. Students should regularly complete writing and speaking assignments, as well as the weekly Self-study quizzes and a diary in English.
3. Students should be prepared to take responsibility for their learning, setting clear goals for the development of their English skills, and working steadily towards these goals.

講義の順序とポイント

1. Daily Life
2. Places
3. People
4. Travel
5. Business
6. Office
7. Technology
8. Personnel
9. Management
10. Purchasing
11. Finances
12. Media
13. Entertainment
14. Health
15. Restaurants

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	★	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J50775B0A
科目名	ネイティブ英語専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Native English Seminar IB		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	In this seminar, students will continue their intensive practice in English skills, this time aiming to achieve a score of at least 600 in the TOEIC test. All students will be required to take the TOIEC test at the completion of the course. The seminar will also involve speaking and writing activities such as short presentations and diary entries and reports, in order to build students' overall skills in communicative English.		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Classwork: 20%, Self-study quizzes:30%, Presentations 25%, Diary/reports: 25%		
到達目標	By the end of this course, students should aim to achieve a score of 600 in the TOEIC test. They shall also have gained oral and written fluency to a level at which they can communicate in some depth in English.		
準備学習	Successful completion of Advanced Native English Seminar IA（ネイティブ英語専門演習 1A) is a prerequistite for this course. Students are encouraged to expose themselves to as much high-level English (books, magazines, TV, films) as possible before and during this course. Students are asked to make and commit to a study schedule, remembering that work done outside of class is essential to their English language development.		

受講者への要望

1. Students are to bring their textbook and dictionaries to each class.
2. Students should regularly complete writing and speaking assignments, as well as the weekly Self-study quizzes and a diary in English.
3. Students should be prepared to take responsibility for their learning, setting clear goals for the development of their English skills, and working steadily towards these goals.

講義の順序とポイント

1. Daily Life
2. Places
3. People
4. Travel
5. Business
6. Office
7. Technology
8. Personnel
9. Management
10. Purchasing
11. Finances
12. Media
13. Entertainment
14. Health
15. Restaurants

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	★	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J50777A0A
科目名	キャリアゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講義は、３回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。 こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるた め、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。		
教材（テキスト）	2016 就職ガイド （京都学園大学　キャリアサポートセンター）		
教材（参考文献）	『2016 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社 『絶対内定　2016』 杉村太郎　ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料		
評価方法	単位認定の必要条件： （１） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （２） 「自己分析シート」の完成と提出 （３） キャリサポでの個人面談 （４） 「自己 PR 文」２本の完成と提出 （５） 「内定獲得基礎講座①と②の受講		
到達目標	文字通り、「自らのキャリア」について考える。 自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析 法を指導する。		
準備学習	（１） 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 （２） 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		
受講者への要望			
（１） 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。 （２） 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。 （３） スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
第 １回： スタートガイダンス、「就職登録票」の下書き、インターンシップの説明 第 ２回： 「就職登録票」の完成と提出、京学なび確認 第 ３回： 就職ガイダンス（キャリアサポートセンター職員から説明） 第 ４回： 「自分探しシート」作成： 過去の自分を振り返る 第 ５回： 「自分史シート」作成： 自分の歴史を整理する 第 ６回： 「自分のウリシート」: 自分のセールス・ポイントを整理する 第 ７回： 「自己分析シート」下書き（１） 第 ８回： 「自己分析シート」下書き（２） 第 ９回： 「自己分析シート」清書 第 10 回： 「自己分析シート」の完成と提出 第 11 回： 自己ＰＲのポイント整理 第 12 回： 「自己ＰＲ文１」の作成 第 13 回： 「自己ＰＲ文１」の完成 第 14 回： 「自己ＰＲ文２」の作成			

第 15 回：「自己ＰＲ文２」の完成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2016	授業コード	J50777B0A
科目名	キャリアゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Seminar B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講義は、３回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。 秋学期は、春学期のキャリアゼミ A での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企 業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を 指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。 こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるた め、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・ サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。		
教材（テキスト）	2016 就職ガイド （京都学園大学　キャリアサポートセンター）		
教材（参考文献）	『2016 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社 『絶対内定　2016』　杉村太郎　ダイヤモンド社　等		
教材（その他）	京都学園大学キャリアサポート・センター配布資料		
評価方法	単位認定の必要条件： （１） 履歴書完成と提出 （２） キャリサポでの個人面談 （３） エントリーシートの完成と提出 （４） 面接対策講座 STEP1（基礎）の受講 （５） 内定獲得基礎講座③～⑥の受講		
到達目標	自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。		
準備学習	（１） 自分のこれからを見通して、いますべきことを確実に行う。 （２） 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。 （３） 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。		
受講者への要望			
（１） 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。 （２） 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。 （３） スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
第 １回： キャリアゼミ B の概要説明、口頭で自己 PR をする 第 ２回： 「履歴書」を書く（１） 第 ３回： 「履歴書」を書く（２） 第 ４回： キャリサポによるゼミ訪問 第 ５回： 仕事研究・企業研究（１） 第 ６回： 仕事研究・企業研究（２） 第 ７回： 仕事研究・企業研究（３）			

第 8回： 仕事研究・企業研究（4）
第 9回： 「エントリーシート」を書く（1）
第 10 回： 「エントリーシート」を書く（2）
第 11 回： 「エントリーシート」を書く（3）
第 12 回： 「エントリーシート」を書く（4）
第 13 回： 「エントリーシート」について話す
第 14 回： 実践練習： グループ面接、個別面接の練習
第 15 回： Web エントリー

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	★	★	−

年度	2016	授業コード	J50778A0A
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門 演習Ⅰ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar IA		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本演習の目標は、卒業論文の書き方を学び、研究テーマを設定し、論文の全体構成をデザインする事である。卒業論文は、まずその書き方を学ばなければ、書くことはできない。本演習では、教科書を使用して、論文の定義からはじめ、どのようにして論文を書くのかを学ぶ。次に、論文のテーマを設定する方法を学び、実際に論文テーマを設定していく。さらに、論文を書き始める前に、論文の全体の構成を考えていく方法を学び、実際に全体構成を作成していく。こうして、15 週間で、卒業論文の基礎の基礎を積み上げていく予定である。		
教材（テキスト）	吉田 健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、第 2 版（2004 年）		
教材（参考文献）	川﨑 剛著『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房（2010 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	卒業論文の書き方の基礎を学ぶこと。		
準備学習	教科書や参考書を事前に予習すること。		
受講者への要望			
出席して、積極的に議論すること。			
講義の順序とポイント			
1. 卒業論文の書き方Ⅰ 2. 〃 Ⅱ 3. 〃 Ⅲ 4. 〃 Ⅳ 5. 〃 Ⅴ 6. 〃 Ⅵ 7. 論文のテーマ設定Ⅰ 8. 〃 Ⅱ 9. 〃 Ⅲ 10. 〃 Ⅳ 11. 論文の全体構成Ⅰ 12. 〃 Ⅱ 13. 〃 Ⅲ 14. 〃 Ⅳ 15. 〃 Ⅴ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50778A0D
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar IA		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミ生は、この主題にそったテーマを各自で選び、5 人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。定期的に研究発表を行ない、レポートを提出する。		
教材（テキスト）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	ディスカッション（60%）、発表（40%）。		
到達目標	簡単な調査、文献講読を通じて、《コミュニケーションの社会学》に関する基本事項を理解すること。		
準備学習	演習の進行に応じて講読文献等を指示するので、読んでおくこと。また、指示があった場合は、発表の準備をすること。		

受講者への要望

演習への積極的な参加を求める。また、講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマを探っておくこと。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. グループ・インタビュー準備
3. グループ・インタビューのテーマ解説
4. データの整理と考察
5. 発表会
6. その他の社会調査法概説
7. コミュニケーション社会学研究のための基礎文献概説
8. 文献講読のテクニックおよび使用メディアの概説
9. 文献講読(1)
10. 文献講読(2)
11. 文献講読(3)
12. 文献講読(4)
13. レポート執筆について(1)
14. レポート執筆について(2)
15. キャリアサポートセンターのゼミ訪問等（予備日）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J50778B0A
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar IB		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	春学期の専門演習ＩＡでは、卒業論文の書き方、研究テーマの設定、論文の全体構成のデザインといった卒業論文の基礎の基礎を学んだ。本演習では、それらの基礎を理解した上で、社会科学論文における「型」について体系的に学んでいく。特に、論文における中心命題や、「問題と解決」の枠組みについて理解していく。その上で、研究計画書を作成する。その後、先行文献についてサーベイを行い、演習の中で報告を行う。さらに、資料やデータの収集方法についても学んでいく予定である。		
教材（テキスト）	川﨑 剛著『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房（2010 年）		
教材（参考文献）	吉田 健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、第 2 版（2004 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	卒業論文の「型」について体系的に学ぶこと。		
準備学習	教科書や参考書を事前に予習すること。		

受講者への要望

出席して、積極的に議論すること。

講義の順序とポイント

1. 社会科学論文の「型」
2. 論文の目的とは
3. 中心命題とは
4. 「問題と解決」の枠組み
5. 中心命題が持つ含意
6. 中心命題の説得力を最大限に
7. 表現法で説得力を増強する
8. 研究計画書の作成 I
9. 〃 II
10. 先行文献についての報告 I
11. 〃 II
12. 〃 III
13. 〃 IV
14. 資料・データ収集方法 I
15. 〃 II

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50778B0D
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門 演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar IB		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミ生は、この主題にそったテーマを各自で選び、5 人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。定期的に研究発表を行ない、レポートを提出する。		
教材（テキスト）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	ディスカッション（60%）、発表（20%）、レポート（20%）。		
到達目標	自分の研究テーマ、研究の方法を明確にすること。		
準備学習	演習の進行に応じて講読文献等を指示するので、読んでおくこと。また、指示があった場合は、発表の準備をすること。		
受講者への要望			
演習への積極的な参加を求める。また、講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマを探っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 4 回生による就職活動報告会 3. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(1) 4. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(2) 5. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(3) 6. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(4) 7. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(5) 8. 文献講読(1) 9. 文献講読(2) 10. 文献講読(3) 11. 文献講読(4) 12. 文献講読(5) 13. 研究計画書執筆について(1) 14. 研究計画書執筆について(2) 15. キャリアサポートセンターのゼミ訪問等（予備日）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50779A0A
科目名	英語コミュニケーション専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced English Communication Seminar I A		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	“Be”動詞の使い方を徹底して勉強する講座。質疑応答・会話ドリルなど通じて、よくある問題点を直しながら、便利な発言を覚えていく。“Be”動詞と名詞を合わせたときをはじめ、形容詞や現在進行形も過去形も勉強する。		
教材（テキスト）	無し、各講義でプリントを配付する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20％　スピーキングテスト 20％　クイズやテスト 40％　期末試験 20％		
到達目標	1.To further advance the students’ understanding of various terms and their usage 2.To become more familiar with describing things/situations 3.Construct different patterns for communicating in spoken/written English through		
準備学習	Come to class, be prepared to learn, do the prescribed assignments, and have fun!		

受講者への要望

And don't be afraid to try!
授業に毎回出席すること。

講義の順序とポイント

Be 動詞の使い方は難しいと思いませんか。丁寧に説明して、自身を持って様々な場面で使えるように訓練する講座です。

1. Be verb basics
2. Review and sentence building
3. Noun focus and Be Verbs type 1
4. Type 1 practice and review
5. Adjective focus and Be verbs type 2
6. Type 2 practice and review
7. Present Continuous focus and Be verbs type 3
8. Type 3 practice and review
9. Past tense
10. Practice and Usage
11. Negatives
12. Practice and Usage
13. Test preparation
14. Speaking test
15. Review

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	1	2	3	2	2	2

年度	2016	授業コード	J50779B0A
科目名	英語コミュニケーション専門演習Ⅰ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced English Communication Seminar I B		
担当者名	John Gatewood Ⅱ	旧科目名称	
講義概要	英語コミュニケーション基礎演習 B is a continuation of the spring semester class. In this class we will begin by reviewing basic English grammar usage. Then we will cover intermediate English, by working on Simple Present tense and past Tense verb conjugation, frequency, and more.		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	教材としてプリントなど使用します。		
評価方法	宿題・発表 20%　　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Use Simple Present Tense Verbs and Past Tense verbs to explain different situations 2. To become more adept at describing things/situations with verbs		
準備学習	Come to class, be prepared to learn, do the prescribed assignments and try your best.		

受講者への要望

Be ready to learn! This class will be more challenging than first semester.
授業に毎回出席すること。
Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)
(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

We will cover SPT (Simple Present Tense), Past Tense, and Verb changes.

1. Review of 'Be' verbs
2. Review of Adjectives
3. Review of Verbs
4. Using Verbs
5. Past tense Verbs
6. Using Past Tense Verbs
7. Hobbies (Pairing with Verbs)
8. Frequency Introduction
9. Frequency Focus and Work
10. Frequency and Hobby work
11. SPT introduction
12. SPT Usage
13. Making Frequency Conversations
14. Making hobby Conversations
15. Making SPT CONVERSATIONS

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	2	3	3	2	2	2

年度	2016	授業コード	J50780A01
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門 演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡA		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本演習では、これまでに収集した先行文献の整理を行う。また、資料やデータの収集も行っていく。整理した先行文献や資料・データについては、演習内で報告を行う。また、収集した資料やデータを基に分析を進めていく。分析の結果についても、演習内で報告を行い、その報告に対して質問やコメントを出し合い、さらに内容をステップアップさせていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	① 吉田 健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、第 2 版（2004 年） ② 川﨑 剛著『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房（2010 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	先行文献の整理を行い、資料・データによる分析を進めること。		
準備学習	毎回の演習で与えられた課題を完成させること。		

受講者への要望

出席して、積極的に議論すること。

講義の順序とポイント

1. 先行文献の整理Ⅰ
2. 〃 Ⅱ
3. 〃 Ⅲ
4. 〃 Ⅳ
5. 〃 Ⅴ
6. 資料・データ収集Ⅰ
7. 〃 Ⅱ
8. 〃 Ⅲ
9. 〃 Ⅳ
10. 資料・データによる分析Ⅰ
11. 〃 Ⅱ
12. 〃 Ⅲ
13. 〃 Ⅳ
14. 〃 Ⅴ
15. 〃 Ⅵ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50780A04
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡA		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミ生は、この主題にそったテーマを各自で選び、5 人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。ヒューマン・コミュニケーション専門演習Ⅰまでで進めてきた研究をさらに発展させる。		
教材（テキスト）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	各自の研究テーマに応じて指示する。		
評価方法	ディスカッション（60%）、発表（40%）。		
到達目標	卒業研究の方向性を決め、必要なデータを集めること。		
準備学習	演習の進行に応じて講読文献等を指示するので、読んでおくこと。また、指示があった場合は、発表の準備をすること。		

受講者への要望

卒業研究を念頭におき、演習に積極的に参加すること。また、講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマに必要な情報を探っておくこと。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. これまでの研究の報告とディスカッション(1)
3. これまでの研究の報告とディスカッション(2)
4. これまでの研究の報告とディスカッション(3)
5. これまでの研究の報告とディスカッション(4)
6. これまでの研究の報告とディスカッション(5)
7. アカデミック・ライティング解説
8. アカデミック・ライティング実習
9. 追加資料の報告とディスカッション(1)
10. 追加資料の報告とディスカッション(2)
11. 追加資料の報告とディスカッション(3)
12. 追加資料の報告とディスカッション(4)
13. 追加資料の報告とディスカッション(5)
14. 中間報告資料作成(1)
15. 中間報告資料作成(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50780B01
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門 演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡB		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本演習では、各章について完成した内容を演習で報告し、質問やコメントや議論によって、さらに内容を発展させていく。最終的には、卒業論文を完成させて、最後の演習で発表を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	① 吉田 健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、第2版（2004年） ② 川﨑 剛著『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房（2010年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	論文の各章を発展させ、最終的に卒業論文を完成させて、発表を行うこと。		
準備学習	毎回の演習で与えられた課題を完成させること。		
受講者への要望			
出席して、積極的に議論すること。			
講義の順序とポイント			
1. 各章について報告・議論Ⅰ 2. 〃 Ⅱ 3. 〃 Ⅲ 4. 〃 Ⅳ 5. 〃 Ⅴ 6. 〃 Ⅵ 7. 〃 Ⅶ 8. 〃 Ⅷ 9. 〃 Ⅸ 10. 〃 Ⅹ 11. 卒論発表の練習Ⅰ 12. 〃 Ⅱ 13. 〃 Ⅲ 14. 〃 Ⅳ 15. 卒業論文発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50780B02
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡB		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミでは、この主題にそったテーマを各自で選び、5 人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。社会学専門演習 IIA までで進めてきた研究をまとめる。		
教材（テキスト）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	各自の研究テーマに応じて指示する。		
評価方法	ディスカッション等（60%）、発表（40%）。		
到達目標	卒業研究を完成させること。		
準備学習	演習の進行に応じて講読文献等を指示するので、読んでおくこと。また、指示があった場合は、発表の準備をすること。		

受講者への要望

卒業研究を念頭におき、演習に積極的に参加すること。また、講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマに必要な情報をを探っておくこと。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 中間報告会(1)
3. 中間報告会(2)
4. 中間報告会(3)
5. 中間報告会(4)
6. 中間報告会(5)
7. 長文ライティングのコツ(1)
8. 長文ライティングのコツ(2)
9. 卒業研究の作成と相互添削(1)
10. 卒業研究の作成と相互添削(2)
11. 卒業研究の作成と相互添削(3)
12. 卒業研究の作成と相互添削(4)
13. 卒業研究の作成と相互添削(5)
14. 卒業研究の最終確認
15. 卒業論文集作成についての解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2016	授業コード	J50781A01
科目名	英語コミュニケーション専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced English Communication Seminar ⅡA		
担当者名	John Gatewood Ⅱ	旧科目名称	
講義概要	発表・自己紹介・質疑応答・会話ドリルを通じて、英語で会話をするときのよくある間違いを直しながら、表現力や回答力など習って、コミュニケーションの基本を学ぶ入門レベル講座		
教材（テキスト）	無し、各講義でプリントを配付する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	20%-発表・宿題　　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1.To further advance the students' understanding of English terms and usage 2.To become more familiar with description 3.Construct several different patterns for communicating in English 4.Becoming more confident in spoken and written English through practice		
準備学習	Make sure to come to class, listen and participate, and check the NAVI for information concerning class.		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)
(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

会があまりありませんか。発音をマスターしたり、ＴＯＥＩＣの勉強したりすることは重要ですが、自身を持って練習した英語を話したい方のための授業です。沢山話して、沢山聞いてという講座です。前半では自己紹介をはじめ、好きなものも苦手とする物を話したりする練習をします。後半は発表などして頂きます。

1. Self introduction
2. Introducing others
3. Differing Questions
4. Likes and Dislikes
5. “Be” verbs
6. “Do” verb
7. Common Question Patterns
8. Conversation styles
9. Using the phone
10. Being Polite
11. Communication around the city
12. Dialogue Practice
13. Test preparation
14. Presentation Preparation
15. Presentations

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	1	3	1	2	2	2

年度	2016	授業コード	J50781B01
科目名	英語コミュニケーション専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced English Communication Seminar ⅡＢ		
担当者名	John Gatewood Ⅱ	旧科目名称	
講義概要	We will continue to work on conveying ideas clearly using group work, brainstorming activities, and debate like process. This class will have writing and speaking assignments along with small writing and reading tests. This class is aimed at preparing students to answer questions about things with which they hold opinions. Their presentation power, confidence, and presentation skill will advance.		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Become more confident presenting information in English 2. Further strengthen presentation quality 3. Make concise arguments concerning agreement and disagreement 4. Increase critical thinking skills		
準備学習	There will be homework, projects, and short reading assignments. 授業に毎回出席すること。		

受講者への要望

Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

Come to class. Finish the required assignments to passing level and complete the requisites for class to passing level.
Review Quiz (Small writing assignment)
2.Review of Writing Basics
3. Writing Practice / Brainstorming Activity (Simple In-class)
4. Debating rules recap
5.New Topic 1
6.Brain storming and writing focus
7.Small debate & Presentation
8.New Topic 2
9.Brain storming and writing focus
10.Small debate
11.New Topic 3
12.Brain storming and writing focus
13.Small debate
14.Writing Review
15. Free small debate and written papers

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	1	2	2	1	2	1

年度	2016	授業コード	J50782A01
科目名	ネイティブ英語専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Native English Seminar ⅡA		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	In this seminar, students will learn the basics of academic writing, as preparation for their graduation thesis. They will learn paragraph and topic writing skills, how to construct an argument, and to research, reference, and edit their writing. The seminar will also involve speaking and writing activities such as short presentations and diary entries and reports, in order to build students' overall skills in communicative English.		
教材（テキスト）	Matthew A Taylor, Basic Steps to Academic Writing- From Paragraph to Essay, Cengage Learning		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class tests/exercises (50%), reports (50%)		
到達目標	By the completion of this seminar, all students should have a basic working knowledge of the rules and conventions of academic English, as well as skills in writing, editing, and reading theses and papers in English.		
準備学習	All students should familiarize themselves with academic English writing by reading some examples before attending class.		

受講者への要望

Students should attend all classes with a positive attitude, and bring a dictionary and all required materials each time. They will be asked to complete reading and writing assignments for homework, so making a realistic study schedule is vital to successful completion of this course.

講義の順序とポイント

1 Introduction to the course
2-3 Academic Writing Style
4-5 Research, note-taking, referencing
6-7 Planning your essay
8-9 Writing your essay
10-11 Integrating evidence and your own ideas
12-13 Critical analysis
14-15 Editing and proofreading

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	ー	★	ー	★

年度	2016	授業コード	J50782B01
科目名	ネイティブ英語専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Native English Seminar ⅡB		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	In this seminar, students will learn and practice more academic writing as preparation for their graduation thesis. They will learn paragraph and topic writing skills, how to construct an argument, and to research, reference, and edit their writing. The seminar will also involve speaking and writing activities such as short presentations, diary entries and reports in order to build students' overall skills in communicative English.		
教材（テキスト）	Matthew A Taylor, Basic Steps to Academic Writing- From Paragraph to Essay, Cengage Learning		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class tests/exercises (50%), reports (50%)		
到達目標	By the completion of this seminar, students should have expanded their knowledge of the rules and conventions of academic writing in English, and developed further their skills in reading and writing academic English.		
準備学習	All students should familiarize themselves with academic English writing by reading some examples before attending class. Students should also read widely on topics about which they wish to write.		

受講者への要望

Successful completion of Advanced Native English Seminar ⅡA（ネイティブ英語専門演習ⅡA）is a prerequisite for this course. Students should attend all classes with a positive attitude, and bring a dictionary and all required materials each time. They will be asked to complete reading and writing assignments for homework, so making a realistic study schedule is vital to successful completion of this course.

講義の順序とポイント

1 Introduction to the course/review of first semester
2-3 Academic Writing Style
4-5 Research, note-taking, referencing
6-7 Planning your essay
8-9 Writing your essay
10-11 Integrating evidence and your own ideas
12-13 Critical analysis
14-15 Editing and proofreading

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	ー	★	ー	★

年度	2016	授業コード	J50788001
科目名	自然地理学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	
講義概要	自然地理学は自然環境を研究対象とする地理学の主要な一分野である。本講義では、自然環境の中でも代表的な気候と地形を中心に、第四紀（おおむね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）の自然環境に関する一般的かつ包括的な内容を解説する。 気候については、第四紀の大きな環境変化にあたる氷河期、及び氷河期終了後の気候変化を取り上げる。これらは地形や地質などを用いたさまざまな研究方法で解明されてきたため、講義では気候だけでなくそれに係わる多様な自然環境を扱う。他方、地形に関しては、主に人間の主要な生活舞台となってきた平野に着目し、その形成に関与した他の自然環境や平野における人間と洪水の闘い（水害）についても言及する。講義では、研究成果だけなく、調査（考察）方法にも極力触れる。また各講義は、授業への積極的な参加を促すため、自然環境の基礎知識、以前の講義内容、ならびにそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語の意味を説明することができる。 (2) 自然環境の基本的内容を習得できる。 (3) 自然地理学の基本概念にもとづく分析方法を知識として身につけることができる。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習にもなる。各講義では,以前の講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を論述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講上の注意事項などについて
2. 氷河期(1) ― 丘（ターミナルモレーン）とその堆積物について
3. 氷河期(2) ― 氷河の性質と丘の堆積物から分析された氷河期の発見について
4. 氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの特色及び形成過程について
5. 気候変化(1) ― 氷河期終了後の温暖期における寒冷化について
6. 気候変化(2) ― 段丘地形によって明かされた過去の約 2 万年間の降水量変化について
7. 平野(1) ― 沖積平野の定義と扇状地の特色について
8. 平野(2) ― 沖積平野に分布する自然堤防帯と三角州の特色について
9. 平野(3) ― 三角州における沖積層の特色と環境復原の分析について
10. 平野(4) ― 日本の河川下流部における沖積平野の形成過程と環境変化について
11. 水害(1) ― 水害常襲地域における輪中の成立とその背景について
12. 水害(2) ― 近世・近代の輪中地域における人間と洪水の闘いについて
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の出題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50788A01
科目名	日本の美術 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。講義の性格上、プリントとＯＨＣ・ビデオを併用して、画像を多く見てもらう方法を取りたい。		
教材（テキスト）	特に用いない		
教材（参考文献）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教材（その他）	毎回、図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート(７５点）と出席状況等による平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。		
到達目標	日本の文化・芸術の特質を,絵画を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の絵画の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。注意しても従わないものには退席を求めることがある。出席が極端に少ない場合には、成績評価の対象としないので注意すること。。			
講義の順序とポイント			
１．奈良時代以前 ２．平安時代の仏画 ３．平安時代の絵巻物 ４．鎌倉時代の肖像画と縁起絵巻 ５．室町時代の水墨画 ６．安土桃山時代の障屏画（狩野派ほか） ７．　同　上　（長谷川派） ８．狩野派・土佐派 ９．琳派 １０．浮世絵 １１．文人画 １２．円山・四条派 １３．洋風画 １４．奇想の画家たち １５．絵画の材料と絵の具			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50788B01
科目名	日本の美術 B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。 以上のような日本の陶磁の特色に留意しつつ、現代にいたる日本の陶磁の歴史を、ＯＨＣとビデオを多用しながら概観したい。		
教材（テキスト）	特には用いない		
教材（参考文献）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教材（その他）	毎回図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート（７５点）と出席状況等による平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。		
到達目標	日本の文化・芸術の特色を、陶磁を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の陶磁の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには退席を求めことがある。出席が極端に少ない場合には、成績評価の対象としないので注意すること。			
講義の順序とポイント			
１．縄文土器・弥生土器 ２．土師器・須恵器・奈良三彩 ３．初期貿易陶磁（三彩ほか） ４．初期貿易陶磁（青磁・白磁） ５．灰釉・緑釉 ６．荘園貿易の時代 ７．六古窯 ８．鎌倉・室町時代の輸入陶磁 ９．新安海底遺物 １０．安土桃山時代の茶陶 １１．安土桃山・江戸の輸入陶磁 １２．伊万里焼 １３．後期伊万里・鍋島 １４．京焼 １５．明治以降の陶磁			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50789001
科目名	自然地理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	
講義概要	自然地理学は自然環境を研究対象とする地理学の主要な一分野である。本講義では、自然環境の中でも代表的な気候と地形を中心に、第四紀（おおむね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）の自然環境に関する一般的かつ包括的な内容を解説する。 気候については、第四紀の大きな環境変化にあたる氷河期、及び氷河期終了後の気候変化を取り上げる。これらは地形や地質などを用いたさまざまな研究方法で解明されたため、講義では気候だけでなくそれに係わる多様な自然環境を扱う。また地形に関しては、主に人間の生活舞台となってきた平野（沖積平野）に着目し、その形成に関与した他の自然環境や平野における人間と洪水の闘い（水害）についても言及する。講義では、研究成果だけでなく調査（考察）方法にも極力触れる。また各講義は、授業への積極的な参加を促すため、自然環境の基礎知識、以前の講義内容、ならびにそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語の意味を説明することができる。 (2) 自然環境の基本的内容（教職に必要なものを含む）を習得できる。 (3) 自然地理学の基本概念にもとづく考察方法を知識として身につけることができる。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習にもなる。各講義では、以前の講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を論述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講上の注意事項などについて
2. 氷河期(1) ― 丘（ターミナルモレーン）とその堆積物について
3. 氷河期(2) ― 氷河の性質と丘の堆積物から分析された氷河期の発見について
4. 氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの特色及び形成過程について
5. 気候変化(1) ― 氷河期終了後の温暖期における寒冷化について
6. 気候変化(2) ― 段丘地形によって明かされた過去約 2 万年間の降水量変化について
7. 平野(1) ― 沖積平野の定義と扇状地の特色について
8. 平野(2) ― 沖積平野に分布する自然堤防帯と三角州の特色について
9. 平野(3) ― 三角州における沖積層の特色と環境復原の分析について
10. 平野(4) ― 日本の河川下流部における沖積平野の形成過程と環境変化について
11. 水害(1) ― 水害常襲地域における輪中の成立とその背景について
12. 水害(2) ― 近世・近代の輪中地域における人間と洪水の闘いについて
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の出題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50789501
科目名	デジタルアーカイブ学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	博物館・美術館・図書館等の収蔵品をデジタル化することによって、新たな形で保存・公開等を行うことを目的とするデジタルアーカイブは、近年の文化遺産・資源の再活用化の大きな課題の１つである。そして、デジタルで情報を分類することによって、これまで当然とされていた知識の形成の方法も大きく変わろうとしている。 本講義は、そのようなデジタルアーカイブの歴史や方法等を整理すると共に、アナログからデジタルへのメディアの変遷による新たな可能性や問題点等を考察していく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	デジタルアーカイブの、歴史や方法等を考える。		
準備学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション 02　デジタルアーカイブについて考える 01 03　デジタルアーカイブについて考える 02 04　デジタルアーカイブについて考える 03 05　デジタルアーカイブについて考える 04 06　デジタルアーカイブについて考える 05 07　デジタルアーカイブについて考える 06 08　デジタルアーカイブについて考える 07 09　デジタルアーカイブについて考える 08 10　デジタルアーカイブについて考える 09 11　デジタルアーカイブについて考える 10 12　デジタルアーカイブについて考える 11 13　デジタルアーカイブについて考える 12 14　デジタルアーカイブについて考える 13 15　デジタルアーカイブについて考える 14			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	☆	☆

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J50789502
科目名	デジタルアーカイブ学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	博物館・美術館・図書館等の収蔵品をデジタル化することによって、新たな形で保存・公開等を行うことを目的とするデジタルアーカイブは、近年の文化遺産・資源の再活用化の大きな課題の１つである。そして、デジタルで情報を分類することによって、これまで当然とされていた知識の形成の方法も大きく変わろうとしている。 本講義は、そのようなデジタルアーカイブの歴史や方法等を整理すると共に、アナログからデジタルへのメディアの変遷による新たな可能性や問題点等を考察していく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	デジタルアーカイブの、歴史や方法等を考える。		
準備学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション 02　デジタルアーカイブについて考える 01 03　デジタルアーカイブについて考える 02 04　デジタルアーカイブについて考える 03 05　デジタルアーカイブについて考える 04 06　デジタルアーカイブについて考える 05 07　デジタルアーカイブについて考える 06 08　デジタルアーカイブについて考える 07 09　デジタルアーカイブについて考える 08 10　デジタルアーカイブについて考える 09 11　デジタルアーカイブについて考える 10 12　デジタルアーカイブについて考える 11 13　デジタルアーカイブについて考える 12 14　デジタルアーカイブについて考える 13 15　デジタルアーカイブについて考える 14			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J50789901
科目名	歴史学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	私たちは資料をもとにしながら、歴史像を構築している。とはいえ、資料それ自体は客観的なものではなく、さまざまな偏見で塗り固められている。私たちの世界にはそもそも客観的なデータなど存在しない。資料を取り扱うには、そうしたバイアスを取り除く作業が不可欠である。そのうえで資料を丹念に読みといてゆけば、過去の時代の生活や臭いが浮かび上がってくる。あるいは、偏見の在り方そのものにも、時代の特徴がある。さまざまな資料に触れながら、そこから何が読み取れるのか、一緒に考えてゆきたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題に対する発表（40%）および授業での発言や貢献度（60%）		
到達目標	・多様な資料に触れることによって、過去の社会への認識を深めるとともに、読み取る力、調べる力、考える力を養う。 ・さまざまな論文に触れて、理解する力、まとめる力、発表する力を養う。		
準備学習	・史料・テキストは事前に配付しておくので、十分な準備が必要である。 ・適宜指名して報告してもらうので、準備のうえレジュメを作成して発表する。		
受講者への要望			
・授業では、文献史料や絵画資料・論文など、さまざまな素材をとりあげる。資料や論文を読み込み、そこから何が読み取れるのか、自由に意見交換をすすめるなかで、社会の成り立ちや心性について一緒に考えたい。好奇心と探求心にみちた学生を歓迎したい。			
講義の順序とポイント			
1.歴史学と資料 2.絵画資料の読解 3.『今昔物語集』の世界 4.『今昔物語集』の読解 5.人身売買文書 6.『法華験記』の世界 7.貴族の日記を読む 8.『吾妻鏡』を読む 9.論文の読み方 10.論文を読む 11.論文を読む 12.論文を読む 13.論文を読む 14.論文を読む 15.論文を読む			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50789902
科目名	歴史学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は暗記科目ではありません。調べて調べて調べつくす科目です。過去のさまざまな歴史について、これまでの研究者たちは、各自の問題関心に基づきながら、さまざまなテーマについて、史料を読み解き、明らかにしてきました。みなさんも自分の問題関心に基づきながら、過去の研究や史料を読み解き、何かについての歴史をあきらかにする卒業論文を書くための基礎的な力をこの授業では身につけていただきます。さまざまな時代の史料や論文を深く読み解きながら、歴史的な事項を調べる力を身につけましょう。		
教材（テキスト）	幕末維新に関する論文（コピーを配布します）		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	各自の発表の内容・授業への取り組み方で判断します。		
到達目標	・歴史学を実践する上で必要となる歴史的事項の調査方法を習熟すること ・論文を探して読み解く力を身につけること		
準備学習	講義では、受講者全員にあたる輪読形式で史料の読みを確認しますので、毎回、テキストの予習は必須です。さらに一回につき数人、事前に担当を決めて、調べてきたことを発表してもらいます。発表者は入念な準備が必要になります。		
受講者への要望			
歴史学の魅力は、史料の中に広がる豊かな世界を、自らの手で掘り起こして読み解いていくことにあります。この講義は、みなさんがその豊かな世界へ、自らの足でアプローチできる力をつけるための授業です。発表担当者は、興味をもった事項について、貪欲に調べてみてください。卒論に繋がるようなテーマがそこから見つかるかもしれません。			
講義の順序とポイント			
1.歴史学と資料（ガイダンス） 9 2.　歴史論文の読み方 3.　幕末維新の論文の輪読・発表 4.　幕末維新の論文の輪読・発表 5.　幕末維新の論文の輪読・発表 6.　幕末維新の論文の輪読・発表 7.　幕末維新の論文の輪読・発表 8.　幕末維新の論文の輪読・発表 9.　絵画資料の世界 10.絵画資料の世界 11.説話史料の世界 12.説話史料の世界 13.説話史料の世界 14.日記史料の世界 15.日記史料の世界			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50790001
科目名	哲学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		
受講者への要望			
（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。			
講義の順序とポイント			
１　哲学とは？－－哲学の問い・哲学の特徴 ２　哲学の始まり１－－ギリシア・インド・中国における神話の世界 ３　哲学の始まり２－－ギリシア・インド・中国における哲学の登場 ４　インドにおける哲学の始まり－－仏陀の思想 ５　中国における哲学の始まり１－－孔子の思想 ６　中国における哲学の始まり２－－道家・諸子百家の思想 ７　ギリシアにおける哲学の始まり１－－ソクラテス・プラトン ８　ギリシアにおける哲学の始まり２－－ディアレクティケとレトリケの区別 ９　古代哲学の継承－－ギリシア・インド・中国におけるその後 １０　西洋近代のスタート－－ルネサンス・大航海時代 １１　世界像の変遷１－－世界認識 １２　世界像の変遷２－－人生の目標 １３　世界像の変遷３－－ロマン主義 １４　日本の哲学思想１－－古代におけるインド・中国哲学の受容 １５　日本の哲学思想２－－近代における西洋哲学の受容			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50790101
科目名	歴史学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	私たちは資料をもとにしながら、歴史像を構築している。とはいえ、資料それ自体は客観的なものではなく、さまざまな偏見で塗り固められている。私たちの世界にはそもそも客観的なデータなど存在しない。資料を取り扱うには、そうしたバイアスを取り除く作業が不可欠である。そのうえで資料を丹念に読みといてゆけば、過去の時代の生活や臭いが浮かび上がってくる。あるいは、偏見の在り方そのものにも、時代の特徴がある。さまざまな資料に触れながら、そこから何が読み取れるのか、一緒に考えてゆきたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題に対する発表（40%）および授業での発言や貢献度（60%）		
到達目標	・多様な資料に触れることによって、過去の社会への認識を深めるとともに、読み取る力、調べる力、考える力を養う。 ・さまざまな論文に触れて、理解する力、まとめる力、発表する力を養う。		
準備学習	・史料・テキストは事前に配付しておくので、十分な準備が必要である。 ・適宜指名して報告してもらうので、準備のうえレジュメを作成して発表する。		
受講者への要望			
・授業では、文献史料や絵画資料・論文など、さまざまな素材をとりあげる。資料や論文を読み込み、そこから何が読み取れるのか、自由に意見交換をすすめるなかで、社会の成り立ちや心性について一緒に考えたい。好奇心と探求心にみちた学生を歓迎したい。			
講義の順序とポイント			
1.歴史学と資料 2.説話史料の世界 3.説話史料の世界 4.法制史料の世界 5.医学書の世界 6.思想家を読む 7.論文を読む 8 論文を読む 9.近世史料の特徴 10.庶民の史料を読む 11.庶民の史料を読む 12.庶民の史料を読む 13.庶民の日記を読む 14.庶民の日記を読む 15.庶民の日記を読む			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J50790102
科目名	歴史学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は暗記科目ではありません。調べて調べて調べつくす科目です。過去のさまざまな歴史について、これまでの研究者たちは、各自の問題関心に基づきながら、さまざまなテーマについて、史料を読み解き、明らかにしてきました。みなさんも自分の問題関心に基づきながら、過去の研究や史料を読み解き、何かについての歴史をあきらかにする卒業論文を書くための基礎的な力をこの授業では身につけていただきます。さまざまな時代の史料や論文を深く読み解きながら、歴史的な事項を調べる力を身につけましょう。		
教材（テキスト）	幕末維新に関する論文（コピーを配布します）		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	各自の発表の内容・授業への取り組み方で判断します。		
到達目標	・歴史学を実践する上で必要となる歴史的事項の調査方法を習熟すること ・論文を探して読み解く力を身につけること ・歴史史料（刊本史料）の読解能力を養うこと		
準備学習	講義では、受講者全員にあたる輪読形式で史料の読みを確認しますので、毎回、テキストの予習は必須です。さらに一回につき数人、事前に担当を決めて、調べてきたことを発表してもらいます。発表者は入念な準備が必要になります。		
受講者への要望			
歴史学の魅力は、史料の中に広がる豊かな世界を、自らの手で掘り起こして読み解いていくことにあります。この講義は、みなさんがその豊かな世界へ、自らの足でアプローチできる力をつけるための授業です。発表担当者は、興味をもった事項について、貪欲に調べてみてください。卒論に繋がるようなテーマがそこから見つかるかもしれません。			
講義の順序とポイント			
1.歴史学と資料（ガイダンス） 9 2.　歴史史料の読み方 3.　幕末維新の日記の輪読・発表 4.　幕末維新の日記の輪読・発表 5.　幕末維新の日記の輪読・発表 6.　幕末維新の日記の輪読・発表 7.　幕末維新の日記の輪読・発表 8.　幕末維新の日記の輪読・発表 9.　絵画資料の読解 10.説話史料の世界 11.法制史料の世界 12.法制史料の世界 13.思想家を読む 14.論文を読む 15.論文を読む			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50790201
科目名	歴史民俗学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学概論は、民俗学コースの導入教育として開講する。特に歴史民俗学におけるフィールドワークの重要性と、その方法について解説する。特に地域における伝統的な生業や祭、年中行事、慣習、口承文芸のフィールドワークの方法を、担当者が実施するフィールドワーク実習にも参加を求め、資料の収集方法、整理方法、プレゼンテーション、レポート作成までを指導する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小松和彦編『妖怪学の基礎知識』角川学芸出版、2011 年		
教材（その他）	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	授業内レポート３回（６０%）、授業内課題（４０%）		
到達目標	歴史民俗学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、教科書の予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内の作業、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポート等を作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　歴史民俗学とは－資料・時代・研究領域 2　口頭伝承を地図化する、地籍図、条里地割 3　文献と古地図を利用して城下町の怪談を解読する 4　古典に描かれた怪異を平安京に探る 5　イメージ世界の地図化作業 6　検索エンジンではないインターネット検索 7　怪しい話を随筆に探す　日本随筆索引、日本随筆大成 8　絵画から歴史や文化を読み解く　日本常民生活絵引、都名所図会 9　これはどんな古典に載っているの？　古事類苑、大漢和辞典 10　京都を歩き回って神社や寺の歴史を探る　京都市の地名、日本の神々：神社と聖地 11　フィールドのユリイカ 12　資料を読む　保津川を例にして 13　地域に生きる市民として民俗学を考える 14　日本の神話を世界のなかで考える 15　ワークショップ　昔話			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J50790501
科目名	京都文化学概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	古代から中世にいたるまで、京都という都市において形成されてきた諸文化の様相を探る。		
教材（テキスト）	プリント等を用意する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	10 回終了 j 時に授業内試験を実施する。また、15 回終了後にレポートを課する。		
到達目標	ことば、芸能、京都人独特と言われる価値観などについて、多方面から考える。		
準備学習	高校の教科書・副読本、または一般の概説書で、日本の古代から中世までの歴史の概要を読んでおくこと。		

受講者への要望

私語は厳禁。
一方、しばしば意見や感想を求めるので、積極的に授業に参加すること。

講義の順序とポイント

古代　10 回　山本担当
主として平安時代の京都文化を扱う。女流文学をはじめ貴族の生活を彩った宮廷文化、都市文化、信仰を中心に論じていく。

1. 平安遷都の理由
2. 嵯峨天皇とその時代～冥界の官吏・小野篁
3. 摂関政治の始まり～恋の反逆児・在原業平 1
4. 「歌恋い」の世界～恋の反逆児・在原業平 2
5. 御霊信仰～最強の怨霊・菅原道真の実像
6. 御霊信仰～菅原道真の怨霊化と鎮魂
7. 国風文化の樹立～漢詩文と古今和歌集
8. 一条天皇の時代～春は、あけぼの
9. 一条天皇の時代～源氏物語の誕生
10. 藤原道長の到達・平安前期振り返り

中世前期　5 回　丸田担当
仏教文化やキリシタン文化と京都の関わりを中心に論じていく。
11. 中世とは
12. 院政から平家政権
13. 鎌倉幕府成立の意味
14. 承久の乱　御成敗式目
15. 中世前期の文化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50790601
科目名	京都文化学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	京都文化学概論Ｂを受けて、中世から近代に至るまでの、京都という都市において形成されてきた諸文化の様相を探る。それと並行して現代の京都が抱える問題についても考えていく。 丸田担当（５回） 　主として中世から近世にかけての日本語の変遷を題材に、京都と関東などの比較をしつつ京都文化を論じていく。 山崎担当（１０回） 　中世の京都で確立した、茶道・華道・能楽などの芸術文化を下地に、近世の京都の町衆が主導して江戸時代に開化した諸文化を紹介し、近現代につなげて考えてみたい。京都の文化にはどのような特色が見られるのか、京都人の価値観はどうして形成されてきたのか、江戸や大阪など他の都市と比較することによって、文化の違いを見ていきたい。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	林屋辰三郎著『京都』（岩波新書）		
教材（その他）			
評価方法	まとまった内容が終わった時点で知識が定着するように小テストを行う。学期の途中で小レポートの課題を出すので、テストとレポートで評価を行う。丸田評価が三分の一、山崎評価が三分の二、合計点で評価する。		
到達目標	日本における京都の町と京都文化の存在価値を理解すること。京都の文化を知ることを通して、日本の文化への理解を深めること。		
準備学習	毎回授業の開始までに、前回のプリントに目を通しておくこと。 前回の授業で興味を持ったことばを調べておくこと。		
受講者への要望			
授業で聞いた内容を定着させるためには、積極的に市内へ出かけていろいろなものを見聞きして下さい。文化財だけでなく、住んでいる人間を見ること。ファッションや食べ物を観察し、京都の人と会話する機会を作って下さい。			
講義の順序とポイント			
丸田博之担当 １　義満と北山文化 ２　義政と東山文化 ３　戦国大名と下剋上 ４　キリシタン文化 ５　信長・秀吉・家康 山崎ふさ子担当 ６　近世前期京都の町衆（１）　角倉了以の事業 ７　近世前期「京都の町衆（２）　吉野太夫と島原 ８　近世前期京都の町衆（３）　京都所司代の治安 ９　近世前期京都の町衆（４）　法華信仰の事情 １０　近世前期京都の町衆（５）　仁斎先生の日常生活 １１　近世後期の文人　与謝蕪村 １２　近世後期の絵画　丸山応挙と伊藤若沖 １３　『平安人物誌』のいろいろな読み方 １４　近世後期の京都の歌壇　　太秦の小沢蘆庵 １５　女流画家上村松園と能			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★	★★	ー

年度	2016	授業コード	J50790A01
科目名	教育心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	池田　賢司	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は学校教育を対象とする心理学です。教育心理学では，学習効果をいかに高めるかということや，子どもの発達、生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境などを研究対象としています。よりよい教育を提供するために，各成長段階における子どもについての理解が不可欠となります。この講義では，まず学習者である生徒・児童について理解することを目指し，学習に関わる人間の基本的な機能を中心に説明していきます（発達などは後期の教育心理学 II で取り扱います)。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	講義中に適宜配布する		
評価方法	授業中の理解度チェックと小レポート（40%） 定期試験（60%）		
到達目標	学習を行う際に関係する人間の機能について，どのような機能か，どのように学習に関係しているのかを説明することができるようになる		
準備学習	特に事前準備が必要となる場合には，講義の際に適宜指示する		

受講者への要望

1. 講義中の私語、携帯電話の使用は他の受講者の迷惑になるため，厳禁です。場合によっては退室を求めることがあります。
2. 質問や要望は講義中に配布する用紙に記入し，講義後に提出してください。
3. 講師へ直接質問したい場合は原則講義後にお願いします。
4. 講義中に調査，実験を実施することがあります。積極的に参加してください。
5. 秋学期開講科目の教育心理学 II も受講することが望ましいです。教育心理学についてより理解が深まると思います。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 記憶①
3. 記憶②
4. 記憶③
5. 文章理解①
6. 文章理解②
7. メタ認知①
8. メタ認知②
9. メタ認知③
10. 学習方略
11. 動機づけ①
12. 動機づけ②
13. 動機づけ③
14. 条件づけ
15. 学習に影響を及ぼす諸要因

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50790B01
科目名	教育心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	池田　賢司	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は学校教育を対象とする心理学です。教育心理学では，学習効果をいかに高めるかということや，生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境などを研究対象としています。よりよい教育を提供するために，各成長段階における子どもについての理解が不可欠となります。この講義では，生徒・児童について理解することを目指し，子どもの発達、道徳性や友人関係などを中心に説明していきます（人間の学習機能に関しては前期の教育心理学Ⅰで扱います)。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	講義中に適宜配布する		
評価方法	授業中の理解度チェックと小レポート（40%） 定期試験（60%）		
到達目標	子どもの発達に伴う変化や子どものさまざまな支援とその効果について説明できるようになる		
準備学習	特に事前準備が必要となる場合には，講義の際に適宜指示する		

受講者への要望

1. 講義中の私語、携帯電話の使用は他の受講者の迷惑になるため，厳禁です。場合によっては退室を求めることがあります。
2. 質問や要望は講義中に配布する用紙に記入し，講義後に提出してください。
3. 講師へ直接質問したい場合は原則講義後にお願いします。
4. 講義中に調査，実験を実施することがあります。積極的に参加してください。
5. 春学期開講科目の教育心理学Ⅰも受講していることが望ましいです。教育心理学についてより理解が深まると思います。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 発達の理論①
3. 発達の理論②
4. 乳・幼児期①
5. 乳・幼児期②
6. 児童期
7. 社会性と道徳性の発達①
8. 社会性と道徳性の発達②
9. 青年期
10. 適応と障害の理解①
11. 適応と障害の理解②
12. ICT 利用による学習への支援①
13. ICT 利用による学習への支援②
14. 教育評価
15. 発達と学校における問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50791001
科目名	哲学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

1　哲学とは？－－哲学の問い・哲学の特徴
2　哲学の始まり１－－ギリシア・インド・中国における神話の世界
3　哲学の始まり２－－ギリシア・インド・中国における哲学の登場
4　インドにおける哲学の始まり－－仏陀の思想
5　中国における哲学の始まり１－－孔子の思想
6　中国における哲学の始まり２－－道家・諸子百家の思想
7　ギリシアにおける哲学の始まり１－－ソクラテス・プラトン
8　ギリシアにおける哲学の始まり２－－ディアレクティケとレトリケの区別
9　古代哲学の継承－－ギリシア・インド・中国におけるその後
１０　西洋近代のスタート－－ルネサンス・大航海時代
１１　世界像の変遷１－－世界認識
１２　世界像の変遷２－－人生の目標
１３　世界像の変遷３－－ロマン主義
１４　日本の哲学思想１－－古代におけるインド・中国哲学の受容
１５　日本の哲学思想２－－近代における西洋哲学の受容

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50791701
科目名	京都学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	くずし字の資料を読む		
教材（テキスト）	毎回、プリントを用意する。		
教材（参考文献）	初回にくずし字の一覧を配布する。		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題で読めた字数により評価する。		
到達目標	課題の文字をすべて読め、内容を理解できること。		
準備学習	古文の歴史的かなづかいと文法について復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、解答を板書してもらうので、積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1 くずし字の解説 2～15　くずし字資料の読解と解説			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50791702
科目名	京都学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	京都の文化に関わる資料を読む入門編。 江戸初期の町人の生活を描いた井原西鶴の短編小説から京都に関連する作品を選んで読み、当時の都市の人々のくらしの実態を理解していきます。作品名は『好色一代男』『世間胸算用』『日本永代蔵』など。子供の成長に合わせたしきたりから恋愛や家庭生活、社会のしくみや新しい商売のアイデアまで、広い範囲の問題がテーマとなる基礎編の講読です。		
教材（テキスト）	プリントを配布。		
教材（参考文献）	小学館『新編日本古典文学全集　西鶴（一）（二）（三）』		
教材（その他）			
評価方法	基本的に授業への参加度。発表の担当や、授業中の作業など。		
到達目標	江戸時代のくらしを感覚的に知ること。約１５０年前までは江戸時代だったので 現代に残っている慣習も多い。現代の生活のルーツを知り、そこからどう変わってきたか 自分で考えることができるようになることが望ましい。		
準備学習	担当が当たっているときはその準備が必要。当たっていない場合も、予習は大切。		
受講者への要望			
授業時間内に扱うのは膨大な資料の一部なので、他の部分は自主的に読んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　『好色一代男』より ２　『好色一代男』より ３　『好色一代男』より ４　総括　江戸時代の三都と遊郭 ５　『世間胸算用』より ６　『世間胸算用』より ７　『世間胸算用』より ８　総括　江戸時代の貨幣経済 ９　『本朝桜陰比事』より １０　『本朝桜陰比事』より １１　『本朝桜陰比事』より １２　『本朝桜陰比事』より １３　総括　江戸時代の京都のくらし １４　番外編１ １５　番外編２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	★	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50791703
科目名	京都学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	購読の授業であるから、はじめのうちは、教員が講義するが、資料に慣れてきた段階で学生諸君に調べたところを発表してもらう。 「購読」は、３回生の「演習」、４回生の「卒論」に対する基礎を学ぶ科目であり、その基礎を築く重要な科目である。 歴史、京都文化、ことば、に興味のある人に受講してもらいたい。		
教材（テキスト）	テキストは、室町時代の『天草版　平家物語』を用いる。 テキストは、コピーして配布するので、教科書を購入する必要はない。		
教材（参考文献）	『覚一本　平家物語』（岩波、日本古典文学大系他） 『百二十句本　平家物語』（新潮社　日本古典文学集成）		
教材（その他）	授業内に適宜紹介する。		
評価方法	発表した者は、発表のみ。発表できなかった者はレポートで評価する。		
到達目標	『天草本平家物語』は、不干ハビアンという日本の禅僧が執筆者である。彼が、どのようにして「歴史と言葉を習うための教科書」を作ったのか、その精髄に迫りたい。		
準備学習	どのような文献でもよいので、平家物語の概要を押さえておく。		
受講者への要望			
高校までの授業は、言わば「受け身」の授業であったが、この「購読」は、学生諸君が主体的に運営する科目であり、まさに大学で学ぶにふさっわしいものである。しっかり、取り組んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．ポルトガル式アルファベットの学習 ２．キリシタン資料の概要説明 ３．平家物語の紹介 ４．発表 ５．発表 ６．発表 ７．発表 ８．発表 ９．発表 １０．発表 １１．発表 １２．発表 １３．発表 １４．発表 １５．発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J50791801
科目名	京都学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	百人一首を読む・調べる		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業内で提示する		
教材（その他）			
評価方法	非担当時間の質問・発言・議論等（40%） 担当発表（60%）		
到達目標	文学作品について、自分で調べ・まとめ・発表する力を養う。また、他者の発表を聞き評価する態度を養う。		
準備学習	発表に関しては、担当の和歌をしっかり調査・鑑賞した上、充実した発表資料を作成して持参すること。 フロアにおいても、教科書を熟読し、発表に対してきちんとした評価ができるよう準備してくること。		

受講者への要望

自分の発表時以外にも、積極的に意見や質問を行うこと。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
担当歌決定
参考図書紹介

2 レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーション模擬発表　（山本）

本授業での発表は、対戦形式でおこなう。

①当日の発表担当者が各々20 分程度発表する。
内容：担当の和歌および歌人についての解説と、その和歌の素晴らしさについて
（これについて、レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーションの各要素を評価する）

②次に、左方と右方のどちらの和歌・歌人が素晴らしいかについて、フロアが質問や意見を述べ、発表者が対応する。
（フロアからの発言者について「フロア・発言点」を、担当者について「担当者・応答点」を評価する）

③双方の主張を受けて、「どちらの和歌・歌人に魅力を感じたか」をフロアが判定する。
（発表担当者に「発表者・判定点」を加味する）

3～15　各回２首（２名）ずつ発表の予定。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50791802
科目名	京都学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	江戸時代の歴史上の人物を取り上げ、その人の生い立ちを調べ、京都との関わりに関する資料を読んでみます。人物は、徳川家康・淀君・尾形光琳・徳川光圀（水戸黄門）・茶屋四郎二郎・細川ガラシャ・徳川吉宗・松尾芭蕉・上田秋成・本居宣長・大石内蔵助・坂本龍馬などから選びますが、江戸時代から少々はずれても要望があれば対応します。柔軟に対応する発展編となります。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内の発表担当に重点をおいて評価する。		
到達目標	江戸時代の実在の人物の伝記を調べる方法を学ぶ。		
準備学習	担当部分について調査をしてくること。 前の人の発表をよく学習すること。		
受講者への要望			
自分より先に発表する人の内容を参考にすること。			
講義の順序とポイント			
1　本阿弥光悦　『本阿弥行状記』の場合 2　新井白石『折りたく柴の記』の場合 3　伝記資料の紹介 4　『京都名家墳墓録』など 5　徳川家康(以下は状況によって変更の可能性があります) 6　淀君 7　水戸光圀 8　尾形光琳 9　細川ガラシャ １０　松尾芭蕉 １１　坂本龍馬 １２　徳川吉宗 １３　茶屋四郎次郎 １４　本居宣長 １５　緒方洪庵			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	★	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J50791803
科目名	京都学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	購読の授業であるから、はじめのうちは、教員が講義するが、資料に慣れてきた段階で学生諸君に調べたところを発表してもらう。 「購読」は、３回生の「演習」、４回生の「卒論」に対する基礎を学ぶ科目であり、その基礎を築く重要な科目である。 歴史、京都文化、ことば、に興味のある人に受講してもらいたい。		
教材（テキスト）	『キリシタン版太平記抜き書き』、テキストはこちらで用意するので、特に購入すべき教科書はない。		
教材（参考文献）	『太平記』（日本古典文学大系、岩波書店）		
教材（その他）	授業内で、適宜紹介する。		
評価方法	発表した者は、発表のみ。発表できなかった者はレポートで評価する。		
到達目標	『太平記』は中世文学の金字塔であり、後の文学にも大きな影響を与えた。これを精読することにより、中世の世界を十分堪能してみたい。		
準備学習	どのような文献でもよいので、『太平記』の概要をつかんでおくこと。		
受講者への要望			
校までの授業は、言わば「受け身」の授業であったが、この「購読」は、学生諸君が主体的に運営する科目であり、まさに大学で学ぶにふさっわしいものである。しっかり、取り組んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．変体仮名の学習 ２．キリシタン資料の概要説明 ３．太平記の紹介 ４．発表 ５．発表 ６．発表 ７．発表 ８．発表 ９．発表 １０．発表 １１．発表 １２．発表 １３．発表 １４．発表 １５．発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50791901
科目名	社会調査法 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項を学習する。 社会調査士資格の【A】 社会調査の基本的事項に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	授業内レポート（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	社会調査の基本的事項を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

講義の順序とポイント

《I イントロダクション》
1. イントロダクション：講義の概要、事前知識など

《II 社会調査の基本的事項》
2. 社会調査の目的
3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助
4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果
5. 社会調査のための情報収集
6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と官庁統計
7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査
8. 復習と練習問題(1)

《III 調査の種類》
9. 調査の種類
10. 調査票調査
11. 聞き取り調査
12. 参与観察
13. 非参与観察
14. ドキュメント分析
15. 復習と練習問題(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J50791A01
科目名	民俗学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学講読（歴史地理学）A では、John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 を講読します。本書は分かりやすい英文で書かれており、初心者には最適のテキストです。 本講読では、本書第１章の「The Origins of the Vikings」を読みます。受講者には、事前にコピーを配付し、訳してきてもらいます。英語の授業ではないので、主に書かれている内容について解説します。また、英語に自信のない学生も、ゆっくり訳していきますので、受講して下さい。英語で専門書を読んでみたいという学生ももちろん歓迎します。特に大学院進学を考えている学生は、英語が必要なので、受講することを勧めます。		
教材（テキスト）	John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 の講読部分をコピーして配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）、発表（６０％）、レポート（２０％）		
到達目標	歴史地理学の基本的な英文を読めるようになること。		
準備学習	配布資料の予習		
受講者への要望			
ノートパソコンで電子辞書を引き、訳文を作成していくことを望む。			
講義の順序とポイント			
１　教科書の選定と解説 ２～１４　受講者による講読 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J50791A02
科目名	民俗学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	神話研究の第一人者であるレヴィ＝ストロースの論文を読みます。語られている内容は難解なものですが、神話や物語を 学術的に分析してみたいと考えている人なら、取り組む価値があると思います。		
教材（テキスト）	レヴィ＝ストロース　『神話論理』Ⅰ		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（７０％）授業への貢献度（３０％）		
到達目標	レヴィ＝ストロースを怖がらないで読めるようになること。		
準備学習	毎回前もって『神話論理』の指定された箇所を読んでくること。		
受講者への要望			
自分の担当する箇所は、せめて一ヶ月前から読み始めること。			
講義の順序とポイント			
１講読の進め方について ２レヴィ＝ストロース ３神話論理１の輪読１ ４神話論理１の輪読２ ５神話論理１の輪読３ ６神話論理１の輪読４ ７神話論理１の輪読５ ８神話論理１の輪読６ ９神話論理１の輪読７ １０神話論理１の輪読８ １１神話論理１の輪読９ １２神話論理１の輪読１０ １３神話論理１の輪読１１ １４神話論理１の輪読１２ １５神話論理を振り返って			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2016	授業コード	J50791A03
科目名	民俗学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	『共同幻想論』は画期的な国家論として有名だが、実は柳田国男『遠野物語』と日本の神話『古事記』を大きな対象としている。その「角川文庫版のための序」には「この本の主題は国家が成立する以前のことをとり扱っているから、もともとは民俗学とか文化人類学とかが対象にする領域になっている。だが民俗学とか人類学とかが普通扱っているような主題の扱い方をとろうとはおもわなかった。(中略) ただ個人の幻想とは異なった次元に想定される共同の幻想のさまざまな形態としてだけ、対象をとりあげようとおもったのである。」とあるように、日本神話と日本民俗学の聖典をまったく違う視点から読もうとしている。受講生はテキストを読み解いていくが、自分の理解を他の受講生に示し、質疑応答、検討を繰り返していく。		
教材（テキスト）	『共同幻想論』吉本隆明著、角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）	『遠野物語』柳田国男、角川ソフィア文庫		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（50%）レポート（50%）		
到達目標	専門的研究にとりかかるための文献読解力、調査力、構想力を身につける。		
準備学習	担当の部分の読解のため、特に引用されている文章の原典に当たり、全体の文意を把握、理解しておくこと。		
受講者への要望			
大学（高等教育）の場では、むしろ、制度的に保障された学習時間以外のいわゆる自由な時間こそが重要なのだということを、そろそろ理解しなくては、この後の発展は期待できない。			
講義の順序とポイント			
テキストの前半『遠野物語』の読解部分を、順番に読んで、どのように理解しているかを発表する。 １～１５　受講生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	J50791B01
科目名	民俗学資料講読II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学講読Ｂでは、John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 のテーマ別に分かれたパートを受講生一人ずつに担当してもらい、レジュメを作成して発表する。 したがって、この歴史民俗学講読Ｂでは、ある程度の分量を訳してもらい、レジュメを作成した上での発表形式で行います。特に大学院進学を考えている学生は、専門的な英語が必要なので、受講することを勧めます。		
教材（テキスト）	John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 の担当部分をコピーして配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）、発表（６０％）、レポート（２０％）		
到達目標	歴史地理学の専門的な英文を読めるようになること。		
準備学習	教科書の予習と関連文献の把握		
受講者への要望			
直訳ではなく日本語として理解できる翻訳文を作成する努力を要望			
講義の順序とポイント			
1　教科書の選定と解説 2～14　受講者による講読 15　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J50791B02
科目名	民俗学資料講読II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	（1）昔話の分析理論の代表的なものを輪読する。 （2）自分の愛する研究者をひとり発見しましょう。		
教材（テキスト）	ウラジミール　プロップ『昔話の形態学』		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	昔話の分析方法について理解する。 自分の愛する研究者をひとり発見する。		
準備学習	必ず事前にテキストの指定された箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
自分の愛する研究者を発見するためには、たくさんの書物を読まなければなりません。			
講義の順序とポイント			
1『昔話の形態学』輪読 2『昔話の形態学』輪読 3『昔話の形態学』輪読 4『昔話の形態学』輪読 5『昔話の形態学』輪読 6『昔話の形態学』輪読 7『昔話の形態学』輪読 8『昔話の形態学』輪読 9『昔話の形態学』輪読 10『昔話の形態学』輪読 11　私の愛する研究者 1 12　私の愛する研究者 2 13　私の愛する研究者 3 14　私の愛する研究者 4 15　私の愛する研究者 5			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2016	授業コード	J50791B03
科目名	民俗学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	『共同幻想論』は画期的な国家論として有名だが、実は柳田国男『遠野物語』と日本の神話『古事記』を大きな対象としている。後半は特に日本の古代史を『古事記』を読み解くことで解析して行く。古代史研究も考古学上の発見により大きく飛躍して来ている。邪馬台国の位置の確定などもあと一歩のところまでのようだが、国家とは何かという点での理論的な枠組みが問題になってくる。エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』は古代国家の成立論に大きな影響を与えたが、『共同幻想論』はそれを批判的に読み込むことで新しい地平を切り拓いたのだった。古代国家の成立についての問題意識を持つことが必要になる。受講生はテキストを読み解いていくが、自分の理解を他の受講生に示し、質疑応答、検討を繰り返していく。		
教材（テキスト）	『共同幻想論』吉本隆明著、角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）	『口語訳　古事記　神代篇』三浦佑之・訳・注釈、文春文庫		
教材（その他）			
評価方法	平常点（100%）出席してシラバスを作成し発表しなければ評価されない。		
到達目標	専門的研究にとりかかるための文献読解力、調査力、構想力を身につける。		
準備学習	担当の部分の読解のため、特に引用されている文章の原典に当たり、全体の文意を把握、理解しておくこと。		
受講者への要望			
大学（高等教育）の場では、むしろ、制度的に保障された学習時間以外のいわゆる自由な時間こそが重要なのだということを、そろそろ理解しなくては、この後の発展は期待できない。			
講義の順序とポイント			
テキストの後半『古事記』の読解部分を、順番に読んで、どのように理解しているかを発表する。 １～１５　受講生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	J50792001
科目名	社会コミュニケーション基礎	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	社会コミュニケーションコースの学習の基礎として、社会学やメディア学、コミュニケーション論の分野の基礎を学ぶ。人と人との間のコミュニケーションを成り立たせる社会の特質は何か。人は社会の中で、どのように行動し役割を果たすのか、また、他人との間でどのような相互作用をおこない、どのような集団をつくるのか、そして、その時、集団の側からはどのような影響を受けるのか、などについて考える。さらに、コミュニケーションの手段となるメディアも取り上げる。メディアが発達することによって社会の特徴が変化する点も重要である。メディアの発達による現代の情報社会としての側面についても学ぶ。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材も活用する。		
評価方法	（出席を前提として）授業中に課すレポート（100％）		
到達目標	社会やコミュニケーション、メディアについて、基礎的な知識を得ることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までによく読んでおくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席してほしい。
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考を求める。

講義の順序とポイント

1，イントロダクション（コミュニケーションと社会）
2，学校の生徒集団での「いじめ」
3，家族の役割と行動（父と子、母と子、など）
4，企業の仕組み（官僚制）とリーダーシップの特徴
5，企業での人間相互の関係とお互いの影響（上司と部下など）
6，集団によるマインドコントロール
7，情報社会１（管理社会・監視社会）
8，情報社会２（ネット社会）
9．異文化コミュニケーション
10，言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
11，情報環境とメディア：疑似環境・説得コミュニケーション
12，表現文化とメディア：わかちあうコミュニケーション
13，社会調査
14，つながり
15，社会とコミュニケーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50792101
科目名	社会調査法II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。 社会調査士資格の【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	授業内レポート（40%）、レポート（60%）。		
到達目標	社会調査の基本的事項、調査設計と実施方法を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「社会調査法 I」を予め履修してほしい。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

講義の順序とポイント

《I 量的調査の設計と実施》
1. 調査票調査のための事前知識など
2. 調査票調査の概要
3. 問題・概念・仮説
4. 調査票の作り方(1)：ワーディング
5. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他
6. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法
7. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標
8. サンプリング(3)：標本と母集団の関係
9. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳
10. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率
11. 調査データの整理：エディティング、コーディング
12. 統計パッケージ：種類、使用の注意点
13. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義、記述と説明
14. 復習と練習問題

《II 質的調査の設計と実施》
15. 質的調査の設計と実施、量的調査との相違

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	–	★★

年度	2016	授業コード	J50792801
科目名	伝統文化論Ａ実習（茶道）	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎をビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の実技を中心に行う。また茶の湯の菓子をデザインし、抹茶を点てる、頂くという、もてなしも体験していただきます。 また日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化の茶との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違にも言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、伝統文化の茶の湯を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	特になし、適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内での実技等による平常点 70%。お菓子のデザイン等の成果物 30%。		
到達目標	日本の伝統文化である茶の湯の実践的習得と異文化への理解。		
準備学習	茶の湯の実技の復習と知識の確認。		

受講者への要望

茶の湯に関心のある学生。

講義の順序とポイント

１．　実習のための総論
２．　茶の湯の基礎・割稽古
３．　同上
４．　同上
５．　茶の湯の基礎・盆略点前
６．　同上
７．　同上
８．　同上
９．　同上独自のお菓子をデザインして創作する
１０．　実践茶の湯のもてなし
１１．　同上
１２．　同上
１３．　同上
１４．　伝統的なお菓子と濃茶を体験する
１５．　世界のお茶でもてなす

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	J50792901
科目名	伝統文化論Ｂ実習（能楽）	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	仕舞は、扇を持って、舞台で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。 謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分をみんなで一緒に謡って練習します。 どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。 着付けも練習します。		
教材（テキスト）	プリント・ＣＤなどを配布		
教材（参考文献）	能・狂言図典　　小林保治・森田拾四郎編　　小学館　　2003 刊		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加度や熱意。練習の習熟度。最後の発表会参加は必須です。		
到達目標	仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること		
準備学習	配布したＣＤを、繰り返し聞いておくこと 牛若丸（源義経）の話を読んでおくこと		

受講者への要望

初心者歓迎。伝統文化論Ｂの講義をあらかじめ受講する必要はありません。
不安な場合は担当者に相談してください。
授業時間内に他の人の練習を見学する時間もありますが、
「芸は盗むもの」
といいます。
伝統芸能は熱心に見ることで上達しますから、
そのつもりで意欲的に授業に取り組んでください。

講義の順序とポイント

1　仕舞の基本　　扇の持ち方と構え方　運歩　足拍子のリズム
2　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（前半）
3　復習
4　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（後半）
5　復習
6　謡「鶴亀」・仕舞の復習
7　謡　復習・仕舞の復習
8　謡「橋弁慶」弁慶と家来のやりとり　　仕舞「鶴亀」
9　謡「橋弁慶」牛若丸登場　　仕舞「鶴亀」
１０　謡「橋弁慶」五条の橋の対決　　仕舞「鶴亀」
１１　練習
１２　リハーサル
１３　着物や袴を身につけて仕舞を舞う　発表会　第一グループ
14　　同上　第二グループ
１５　同上　第三グループ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J50792A01
科目名	人文地理学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	人間は地表面を離れて生活でき得ないし、文化を生むこともできない。その意味で、人と場所の関係を探ることは極めて重要である。この人と場所の関係を探るのが人文地理学である。人文地理学ｓでは、文化の空間的特性を探る、人文地理学の５つのテーマ、文化地域、文化拡散、文化生態学、文化的相互作用、文化景観について、具体例を示しつつ概説する。また様々な学問分野との交流の具体的事例についても紹介する。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考文献）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	様々な文化の空間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		
受講者への要望			
受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。			
講義の順序とポイント			
1　人文地理学とは：文化とは 2　人文地理学の考える文化：民俗文化と大衆文化 3　近代以降の私たちの場所：sense of place　placelessness 4　文化地域：形式文化地域圏、機能文化地域、認知文化地域 5　文化拡散：拡大拡散：伝染的拡散、階層的拡散、刺激的拡散・移転拡散 6　文化生態学：環境決定論、可能論 7　文化生態学：環境知覚、平安京の意思決定、三輪山の知覚と文化拡散、地理的空間知覚の概念図、メンタルマップ 8　文化的相互作用：社会科学、人文主義地理学、economic man、賢者の贈り物、 9　人文主義地理学：貴船の本地、天狗の内裏、一条戻橋、妖怪研究 10　伝統文化と大衆文化の継承性：大統領選挙、フォークソング、ビートルズ、ケルト 11　文化景観：景観を読む（解釈学的分析） 12　東南アジアの都市景観を読む：都市記号論、都市プラン 13　民話の文化地域、文化拡散、文化生態学、文化統合、文化景観 14　民俗文化と大衆文化の景観、sense of place, placelessness、映画の文化景観 15　生命としての風景：アニメーションの文化景観、クールジャパンとは			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50792B01
科目名	人文地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	近年の学際的な人文地理学の動向に目を向ける。特に行動科学、心理学、社会学、歴史学、文化研究、文化人類学、民俗学との接点を持つ、行動地理学や人文主義地理学の方法論に焦点を当てる。そしてこれらの方法論を使うことによって、どのような研究が出来るのかを具体例をもって示す。特に本講義では、空想の場所と現実の場所の関係を、内外の具体的事例を示し、人文地理学の可能性についても模索していく。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考文献）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	化の空様々な文間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		

受講者への要望

受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。

講義の順序とポイント

1　民話とは、神話・伝説・昔話、民話の地理学（人文主義地理学・環境知覚研究）
2　研究の集大成としての文化景観、ログハウスとニューヨークの摩天露、狂気の景観、
3　昔話の感覚地理：鬼の鼻、心のなかの景観、視覚以外の感覚世界、無意識
4　大工と鬼六、大工と鬼六の分析、地理学的意義、聴覚を使う場所の世界的共通点
5　山姥の口、グレート・マザー、食わず女房
6　昔話と心のなかの景観：奈良梨採り
7　映画エイリアンと心のなかの景観：「原初の卵」「原風景」、リプリーのアニムス
8　宇宙空間とジャングル、母殺しのテーマ、リプリーの自己実現
9　心と交流する景観、通過儀礼との類似点、池田の民話とサウンドスケープ
10　昔話の触覚地理：木の知恵、二人の旅人、感覚地理学と触覚地理
11　世界樹で首を吊る、瞬間の風景、神聖甲虫、科学の知と神話の知
12　昔話の原風景：瞬間の風景（DEF の野原）、プロップの構造分析、野原の聴覚地理
13　野原の聴覚地理、立ち帰りたい場所、
14　実在する原風景、池田の民話と原風景
15　『ツインズ』と二人の旅人：昔話と映画の空間移動

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50793001
科目名	伝統文化論Ａ（茶道）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	『茶道文化検定公式テキスト 3 級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考文献）	『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著　淡交社(1,900 円＋税) 必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点 50%。授業中に課するレポート等 50%。		
到達目標	日本の伝統文化である茶道を通して、幅広い総合芸術の様相の確認と異文化への理解。		
準備学習	テキストの予習、復習とプリントの確認をする。		
受講者への要望			
茶の湯に関心のある学生。			
講義の順序とポイント			
１．伝統文化総論 ２．日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．同上 ４．茶の湯入門 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．茶の湯の建築入門 ９．　同上 １０．同上 １１．同上 １２．茶の湯の庭入門 １３．同上 １４．同上 １５．茶の湯と異文化交流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J50793101
科目名	伝統文化論Ｂ（能楽）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本の伝統文化は、中世に源流があると言われる。伝統文化論Ａは茶道を取りあげ、 この伝統文化論Ｂは能楽を取りあげるがいずれも中世に確立し、今日まで発展している 日本の伝統文化である。とくに京都は、その本場であるから、しっかり知識を身につけて欲しい。 茶道は静寂を旨とするから、音楽であり、劇である能楽は、茶道が持っていない面を補い、茶道と能楽は深く関わりつつ互いに補完する関係である。 講義では、伝統芸能の歴史から、能楽の内容、つまり文学（謡曲）・音楽（囃子）・工芸（能衣装）・彫刻（能面）・演技（型と舞）・能舞台（建築）の諸要素を、実際にシテ方能楽師（＝能面をかけて主役を担当する）として長年活動している山﨑が演技者の立場から解説する。 　百聞は一見にしかず、というが、演劇に関してはまさにその通りなので、京都市の平安神宮で毎年行われる 薪能（たきぎのう）を見学する。		
教材（テキスト）	プリントを作成して配布する。		
教材（参考文献）	『能楽と崑曲』（赤松紀彦他編　汲古書院　２５００円）		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト 薪能見学レポート		
到達目標	日本の伝統芸能の基本的な知識の修得。 舞台を見て能楽・文楽・歌舞伎の区別がつくこと。 芸能の素地となっている物語を理解していること。 実技がどんなものか、体験をしていること。 実際の生の舞台を見る経験をすること。		
準備学習	前回の授業内容の復習をすること。 興味をもって専門用語などを調べてみること。 古典芸能のテレビ放送などを見ておくこと。		
受講者への要望			
毎回の講義を簡単にノートにまとめてみること。きちんと授業に出席すること。 大学からの補助がありますが、平安神宮の薪能見学のチケット代が千円程度必要です。			
講義の順序とポイント			
１　古典芸能史……能楽・文楽・歌舞伎のちがい ２　いちばん面白い能・「道成寺」…ＤＶＤで見る ３　「道成寺」後半を見る ４　能面のいろいろ ５　能「鉄輪」と『陰陽師』 ６ 能の五番立て　　神・男（武将）・女（姫君）・現在物（ドラマ）・鬼 ７　能の台本・謡の見方と能舞台の工夫 ８　平安神宮の薪能の見学（６月はじめの夕方～夜） 　　（都合がつかない人は別の公演を代用します） ９　「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇 １０　能楽の楽器のいろいろ　大鼓・小鼓・笛・太鼓 １１「葵上」源氏物語と能 １２　「海士」玉取り伝説と能 １３「邯鄲」中国の伝説と能 １４　「靱猿（うつぼざる）」の狂言			

１５　能装束の工芸品としての要素

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J50793202
科目名	経済学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特に前半はミクロ経済理論に、また後半はマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）（eBook（電子書籍）付きの教科書を希望する学生は、最初の授業の際に申し込んでいただきます。）		
教材（参考文献）	①N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） ②N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理Ⅰ（ミクロ経済理論関連） 2. 経済学の十大原理Ⅱ（ミクロ経済理論関連） 3. 科学者としての経済学者 4. 政策アドバイザーとしての経済学者 5. グラフの用法： 概観 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 比較優位の原理 8. 市場と競争、需要と供給 9. 市場における需要と供給の作用 10. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ（価格規制） 11. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ（税金） 12. 消費者余剰と生産者余剰 13. 市場の効率性 14. 外部性と市場の非効率性 15. 外部性の解決法 16. 経済学の十大原理Ⅲ（マクロ経済理論関連）			

17. 国民所得の測定（国内総生産：GDP）
18. 生計費の測定（消費者物価指数）
19. インフレーションの影響の補正
20. 経済成長と生産性
21. 経済成長と公共政策
22. 失業
23. 貯蓄、投資と金融システム
24. 貸付資金市場
25. 貨幣システム
26. 貨幣の需給とインフレーションの古典派理論
27. 総需要と総供給
28. 経済変動の二つの原因
29. 財と資本の国際フロー
30. 国際取引・為替相場決定の理論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50793301
科目名	宗教学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川瀬　貴也	旧科目名称	
講義概要	この講義では、現代社会において「宗教」がどのような形態で活動し、我々の生活に関わっているかということを主として考察し、「宗教」というある意味扱いづらい対象をできるだけ客観的に研究する「宗教学」の考え方・基礎を学ぶことを目的とします。		
教材（テキスト）	なし。授業中にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中適宜指示する。		
教材（その他）	時々映像資料も見てもらう予定。		
評価方法	期末試験（80%）、授業内小テストによる平常点（20%）		
到達目標	「宗教」を客観的に分析する基礎能力や知識を涵養すること。現代社会においても実は宗教が無視できない文化現象であることを理解し、ひいては他文化に対する理解も深める。		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献を自分で選び、学期中に読む。		

受講者への要望

・積極的な姿勢で講義に出席し、私語は慎んでください。

講義の順序とポイント

1　宗教学とはなにか？宗教とは何か？
2　宗教と政治―二つの「まつりごと」
3　宗教と法律―日本の政教分離について
4　宗教と経済活動―マックス・ウェーバーの理論を中心に
5　宗教と心理療法―フロイトの「トラウマ」理論について
6　宗教と「癒し」―新霊性運動について
7　宗教と「カルト」問題（1）―「認知的不協和理論」から
8　宗教と「カルト」問題（2）―いくつかの事例を元に
9　キリスト教と政治―『Jesus Camp』を中心に
10　宗教と生命倫理（1）―妊娠人工中絶をめぐって
11　宗教と生命倫理（2）―先端医療技術との関係から
12　宗教と社会貢献―「社会参加する仏教 engaged Buddhism」を中心に
13　宗教と女性問題（1）―日本の「寺族」について
14　宗教と女性問題（2）―新約聖書の女性観と女性聖職者問題
15　宗教と女性問題（3）―イスラームの女性観と現代的問題
（順序などは変更の可能性あり）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50793401
科目名	質的社会調査法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	質的調査は他者理解の優れた方法のひとつです。調査者が調査される人々とコミュニケーションを取りながら、その内側に入って行き、その豊かな世界を共に味わうことができるからです。とはいうものの、質的調査の作品は文学作品ではありませんから、どこかで客観性が担保されなければなりません。本講義では社会科学の方法論としての質的調査のあり方を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査を実施しそれを作品に仕上げるまでの具体的な方法についても教授します。受講生の皆さんは実際に調査を行い、その成果を作品として提出しなければなりません。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	提出物（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	質的調査を実施し,それを作品に仕上げる。		
準備学習	他者への感受性をあげておく。毎回課題が課されるので、それを次回までにしておくこと。		

受講者への要望

提出された作品の評価は、全講義出席の前提のもとに行います。講義を欠席する場合は、その講義の内容を、自分自身でフォローしておくことが必要です。

講義の順序とポイント

１質的調査　質的調査の特徴と代表的な質的調査の方法について概括する
２ライフヒストリー　クラスメイトのライフヒストリーを聞き取り、それを記述する。
３ライフヒストリー　方法論としてのライフヒストリーを考える。
４ライフヒストリー　代表的なライフヒストリーの作品を読む。
５ライフヒストリー　前回の作品をグループ毎に検討し、次の作品へのインタビュー計画を個々に立てる。
６フィールドワーク　人類学的なフィールドワーク方法について概括する。
７フィールドワーク　人類学的手法によるモノグラフを読む。
８フィールドワーク　民俗学的なフィールドワークについて概括する。
９フィールドワーク　民俗学的手法による民族誌を読む。
１０フィールドワークの企画　個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画する。
１１聞き手と語り手　インタビュー調査やフィールドワークにおける聞き手と語り手の権力関係について考える。
１２ライフヒストリー作品の作成　インタビュー済みの資料をライフヒストリー作品にまとめる。
１３モノグラフの作成　フィールドで得た資料をモノグラフに記述する。
１４日本におけるフィールドワークの歴史
１５作品合評会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J50793501
科目名	社会学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J50793601
科目名	社会学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J50793701
科目名	メディア・リテラシー	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーションするための手段」であるメディアは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等を経て、今日のデジタルな時代に至る。新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。 本講義は、そのような「メディアと社会」を大学で学ぶための入門的講義である。時間や空間を越えて、より多くの人たちとの、音や映像等さまざまなメディアを用いたコミュニケーションの、これまで／これからを具体的な事例を基に考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	各メディアの歴史やその社会的な役割を知る。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション： 02　メディアとは（1） 03　過去／未来の人とのコミュニケーション（１） 04　過去／未来の人とのコミュニケーション（２） 05　遠くの人とのコミュニケーション（１） 06　遠くの人とのコミュニケーション（２） 07　多くの人たちとのコミュニケーション（１） 08　多くの人たちとのコミュニケーション（２） 09　映像を見る／読む（１） 10　映像を見る／読む（２） 11　音を聴く／音を視る（１） 12　音を聴く／音を視る（２） 13　これから生まれる（かもしれない）こと・もの・仕事（１） 14　これから生まれる（かもしれない）こと・もの・仕事（２） 15　メディアとは（2）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J50793702
科目名	メディア・リテラシー	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーションするための手段」であるメディアは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等を経て、今日のデジタルな時代に至る。新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。 本講義は、そのような「メディアと社会」を大学で学ぶための入門的講義である。時間や空間を越えて、より多くの人たちとの、音や映像等さまざまなメディアを用いたコミュニケーションの、これまで／これからを具体的な事例を基に考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	各メディアの歴史やその社会的な役割を知る。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション： 02　メディアとは（1） 03　過去／未来の人とのコミュニケーション（１） 04　過去／未来の人とのコミュニケーション（２） 05　遠くの人とのコミュニケーション（１） 06　遠くの人とのコミュニケーション（２） 07　多くの人たちとのコミュニケーション（１） 08　多くの人たちとのコミュニケーション（２） 09　映像を見る／読む（１） 10　映像を見る／読む（２） 11　音を聴く／音を視る（１） 12　音を聴く／音を視る（２） 13　これから生まれる（かもしれない）こと・もの・仕事（１） 14　これから生まれる（かもしれない）こと・もの・仕事（２） 15　メディアとは（2）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J50793801
科目名	経済学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、本授業の続篇として、秋学期の経済学概論Ｂの授業では、マクロ経済理論について講義する予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）（eBook（電子書籍）付きの教科書を希望する学生は、最初の授業の際に申し込んでいただきます。）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理Ⅰ 2. 経済学の十大原理Ⅱ 3. 科学者としての経済学者 4. 政策アドバイザーとしての経済学者 5. グラフの用法： 概観 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 比較優位の原理 8. 市場と競争、需要と供給 9. 市場における需要と供給の作用 10. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ（価格規制） 11. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ（税金） 12. 消費者余剰と生産者余剰 13. 市場の効率性 14. 外部性と市場の非効率性 15. 外部性の解決法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J50793A01
科目名	考古学概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための大事な手助けとなる学問である。過去に日本のさまざまな分野に大きな影響を与えた中国の考古学的な状況を知ることもその大事な一部となる。この講義では中国の考古学的な通史に対する理解を身につけることを目的として、その歴史的発展を考えてゆく。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	西江清高ほか『中国の考古学』（世界の考古学７、１９９９年、同成社）		
教材（その他）	毎回、教材プリントを配布する。授業はこのプリントに沿って行う。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	江戸時代以前において、日本の歴史・文化遺産に大きな影響を与えた中国の歴史・文化遺産を考古学的に理解できるようになることを目標とする。		
準備学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードを２・３提示するので、参考文献などを用いて、その基本的意味内容を調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものには、他の学生の妨げとなるので退室を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
1.　中国の歴史の概説 2.　旧石器時代　　北京原人と周口店遺跡 3.　新石器時代１　　華北の彩陶文化の発達 4.　新石器時代２　　華中の河姆渡遺跡と稲作文化 5.　殷周時代１　　殷の城壁都市と王墓 6.　殷周時代２　　西周の周原遺跡と青銅器 7.　春秋戦国時代　　貨幣経済の発達 8.　秦漢時代１　　秦の始皇帝 9.　秦漢時代２　　前漢の都・長安と皇帝陵 10. 魏晋南北朝時代１　　魏晋の都城と城坊制都市 11. 魏晋南北朝時代２　　仏教の伝来と石窟寺院 12. 隋唐時代１　　国際都市・長安と陵墓の構造 13. 隋唐時代２　　唐三彩と大運河の物資輸送 14. シルクロードの考古学（中国の海外交流） 15. 明・清時代の故宮と皇帝陵（古代の都城・陵墓との比較）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50793B01
科目名	考古学概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための手助けとなる。その基礎の上に今の日本がある。この講義では主に奈良時代以前の日本の政治・経済・文化の様相に対する理解を身につけることを目的として、日本の歴史的発展を考えてゆく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。毎回、教材プリントを配布する。		
教材（参考文献）	「日本の古代遺跡」４（奈良飛鳥）、同７（奈良北部）（保育社刊、２００５年）		
教材（その他）			
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	古代において文字通り日本の中心であった奈良（大和の国）の時代的発展を考古学的に理解することを通して、我々日本人の現在の立ち位置を理解できるようになることを目標とする。		
準備学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードを２・３提示するので、参考文献などを用いて、その基本的意味内容を調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものは、他の学生の妨げとなるので退室を求める。			
講義の順序とポイント			
1.　大和（奈良）の歴史概説 2.　大和（奈良）の地理・交通路 3.　旧石器時代・縄文時代 4.　弥生時代・古墳時代前期 5.　古墳時代中期・後期 6.　古墳時代特論（纏向遺跡） 7.　飛鳥時代１ー　宮殿・苑池遺跡 8.　飛鳥時代２－　飛鳥寺・水落遺跡 9.　飛鳥時代３－　高松塚古墳・キトラ古墳 10. 飛鳥時代４－　飛鳥の石造物 11. 藤原京の時代 12. 奈良時代１ー平城京 13. 奈良時代２ー東大寺大仏の建立 14. 奈良時代３－正倉院宝物 15. 奈良時代４－シルクロードと遣唐使			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J50794A01
科目名	社会心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、１テーマ１時間を原則として順次解説します。社会心理Ⅰでは主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		

受講者への要望

基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
数字は、教科書の章番号を示しています。

第１回 概論
第２回 感情と記憶
第３回 認知心理学の基礎
第４回 対人認知
第５回 推論
第６回 自己概念
第７回 自己評価
第８回 動機
第９回 表情判断
第10回 非言語的コミュニケーション
第11回 説得的コミュニケーション
第12回 態度
第13回 マインドコントロール
第14回 対人関係
第15回 レポート指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50794B01
科目名	社会心理学II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理IIでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		
受講者への要望			
基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。			
講義の順序とポイント			
第1回　状況の力 第2回　攻撃性と援助行動 第3回　社会的影響 第4回　集団の意思決定 第5回　集団過程 第6回　リーダーシップ 第7回　社会的アイデンティティ 第8回　社会的共有認知 第9回　ジレンマ状況 第10回 集合現象 第11回 メディア 第12回 ネットワーク 第13回 インターネット 第14回 文化と進化 第15回 レポート指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50795101
科目名	歴史地理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学では、心理学や文化人類学の研究成果を積極的に取り入れた、人文主義地理学の観点からの歴史地理学の研究史、方法論を紹介、検討する。また、この方法論にもとづく野外調査（特に聞き取り調査）の方法についても講義する。 特に歴史地理学では、文化・民俗・環境に焦点を当てる。私たちの祖先の地理的行動は、彼らの時代の文化や民俗を知ることなしには説明できない。彼らがどのように環境を知覚し、行動を起こし、環境と共存してきたのかを知ることは、歴史時代の地理的行動の知識を得るだけでなく、これからの私たちの環境思想にとっても重要なことである。以上のような観点から、古代文化、異文化から現在に伝承される民俗までを見据え、過去の人間集団の環境への接し方から、これからの環境問題についても講義する。		
教材（テキスト）	佐々木高弘『神話の風景』古今書院、2014。		
教材（参考文献）	菊池利夫『歴史地理学方法論』大明堂。佐々木高弘『民話の地理学』古今書院。		
教材（その他）	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）学期末レポート（８０％）		
到達目標	歴史地理学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、配布されたプリントの予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　歴史地理学の三つの分野と領域、歴史地理学の時代区分 2　北欧神話の歴史地理－オーディンの供儀 3　象徴化される生き物－オシリスの冥界： 4　土蜘蛛と蛇－オホクニヌシの苦悩 5　星座の神話の風景―世界を守護する北極星 6　星座の伝承と古代都市－天と地を結ぶ物語 7　旧約聖書の原初的風景、世界軸、信濃の国造り神話―神話世界の風景① 8　上田市の口頭伝承群、開拓神話の原点―神話世界の風景② 9　北欧神話の風景－ウプサラの樹と排水 10　中つ国（中間世界）へ語りかける神々―深層心理学的解釈 11　洪水神話の環境知覚－災害知覚の歴史地理 12　洪水神話の構造と変容－伝承から神話へ 13　日本の洪水神話－失われた伝承 14　平安京の神話空間－疫病の神の登場 15　永遠回帰の神話風景－想像された欠損と充足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J50795A01
科目名	社会福祉論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	人は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅰでは、社会保障・社会福祉の概要、社会保障や社会福祉を取り巻くさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんと考えたい。社会福祉論Ⅰでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	「社会福祉の成立と課題」　井村圭壮・相澤譲治編著　勁草書房（2012 年）		
教材（参考文献）	「社会福祉学」　平岡公一他　有斐閣（2011） その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
教材（その他）	テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		
受講者への要望			
社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。			
講義の順序とポイント			
１　障がいを持って生きるということ ２　社会保障と社会福祉の動向 ３　社会保障制度①制度体系 ４　社会保障制度②医療制度の諸問題 ５　ゲストスピーカーの講義① ６　社会保障制度③年金制度の諸問題 ７　社会保障制度④雇用と労働の諸問題 ８　社会福祉①体系と理念 ９　社会福祉②対象者と福祉サービス １０　社会福祉③　その他 １１　ゲストスピーカーの講義② １２　低所得・貧困と公的扶助 １３　介護保険制度について １４　社会福祉の仕事と資格について １５　社会福祉の今後の動向とポイント ※講義の内容を変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	-	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50795B01
科目名	社会福祉論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	人は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅱの授業テーマとしては、ノーマライゼーション、バリアフリー、障害者の自立生活、虐待など、高齢者・障がい者・児童にまつわるさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんとともに考えたい。社会福祉論Ⅱでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	「社会福祉の成立と課題」　井村圭壮・相澤譲治編著　勁草書房（2012 年）		
教材（参考文献）	「社会福祉学」　平岡公一他　有斐閣（2011） その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
教材（その他）	テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		

受講者への要望

社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。

講義の順序とポイント

1　障がいを持って生きるということ　脳性マヒの日常生活とその心理
2　戦争と社会福祉
3　ノーマライゼーションの思想
4　障がい者運動と青い芝の会
5　障害者の自立生活の思想
6　ゲストスピーカーの講義①
7　バリアフリーについて
8　バリアフリーとまちづくり
9　認知症とグループホーム　社会起業の一例
１０　ゲストスピーカーの講義②
１１　若年介護とヤングケアラー
１２　社会福祉と司法（累犯高齢者・障がい者）
１３　児童・高齢者・障がい者の虐待
１４　障がい者の恋愛と性
１５　強制不妊手術と新型出生診断
※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	J50796A01
科目名	心理統計学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	心理統計学入門
講義概要	心理学研究では，データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学Ⅰでは，質的変数と量的変数のそれぞれについて，分析の視点，データの収集と整理の方法，分析結果の解釈の仕方について，記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して，自ら収集したデータを解析できる能力，また公刊されている論文や資料等の統計分析結果を読むことができる能力を養成する。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学研究に必要な統計手法のうち，表やグラフの作成，要約指標（平均，標準偏差，相関係数，等）の算出とについて，以下を達成する。 (1)研究計画と収集されるデータの種類に応じて適切な手法を選択することができる。 (2)各手法を用いて計算や作表等の実際の分析を行うことができる。 (3)分析結果を適切に判断することができる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 統計データの役割，種類，収集の方法
2. 変数のタイプ分類（量的変数と質的変数）とその分析の視点
3. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(1)：　クロス集計表を用いた記述，比率の比較
4. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(2)：　連関と連関係数
5. 量的変数の分析(1)：　度数分布とヒストグラム，代表値
6. 量的変数の分析(2)：　代表値と散布度，グラフによる記述
7. 量的変数の分析(3)：　変数の標準化と集団内での相対的位置の評価，正規分布
8. 量的変数の条件間比較(1)：　条件間比較のポイント，グラフを用いた比較，散布度の重要性，効果量
9. 量的変数の条件間比較(2)：　t 検定の概説
10. 量的変数の条件間比較(3)：　対応のあるデータ（反復測定データ）の性質とその分析方法
11. 量的変数の条件間比較(4)：　分布の偏りに関する留意点，平均と中央値の違い
12. 二つの量的変数間の関係の分析(1)：　散布図と相関係数
13. 二つの量的変数間の関係の分析(2)：　相関係数の算出方法と特性
14. 二つの量的変数間の関係の分析(3)：　相関の解釈における留意点，相関関係と因果関係
15.学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50796B01
科目名	心理統計学 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	心理統計学
講義概要	心理学を学ぶ学生が，研究に必要な統計的手法を理解し，自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学 II では，心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について，推測統計の手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で，各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと，分析結果の解釈のしかたの学習を進める。また，分析を正しく使用するために必要な，分析手法の原理の解説を行う。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理時計学 I での学習内容を基礎として，以下の事項を理解・習得する。 (1) 推測統計の原理を理解し，統計的検定を正しく用いることができる。 (2) 各種の統計的検定の目的を理解し，研究計画に合わせて適切な手法を選択できる。 (3) 各手法を正しく使用できる。 (4) 特に，分散分析の原理と使用方法，結果の意味を理解し，実験計画に合わせて適切に使用できる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

心理統計学 I を先に履修しておくこと。
学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点
2. 統計的検定の原理(1)：　t 検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本の概念
3. 統計的検定の原理(2)：　確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布）
4. 統計的検定の原理(3)：　帰無仮説と対立仮説，第 1 種の誤りと第 2 種の誤り，検定力
5. 相関係数に関する検定
6. クロス集計表の独立性：　連関係数，χ2 乗検定
7. 検定手法の選択基準と手法間の関係
8. 分散分析の導入，一要因分散分析(1)
9. 一要因分散分析(2)，多重比較
10. 二要因分散分析(1)：　要因と水準，各要因の主効果
11. 二要因分散分析(2)：　交互作用効果
12. 二要因分散分析(3)：　主効果と交互作用の意味と解釈，単純効果の検定
13. 被験者内要因の分散分析
14. ノンパラメトリック検定
15. 学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50797A01
科目名	発達心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　年晶	旧科目名称	
講義概要	ヒトは誕生後，母子関係を中心として，徐々に世界を広げていく。その中で，認知や感情，社会性等，人間が生きていくために必要な基礎的能力を獲得していく。人間発達の成長にとって初期の経験がどのような意味を持つのだろうか。本講義では，胎児期から児童期までの発達について，理論や研究を通して，科学的な視点から理解を深める。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%），期末試験（60%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，胎児期から児童期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る		
準備学習	毎回講義の初めに，前回の講義内容に関する小テストを行いますので，各自で復習をしておいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席をしてください。また，遅刻や私語は厳禁とします。遅刻の場合，その理由を求めます。私語が過ぎれば，他の受講者への迷惑を勘案し，退出を求める場合もあります。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　胎児期・新生児期
3　乳児期の発達と愛着の形成
4　乳児期の知覚発達
5　乳児期の身体発達
6　乳幼児の認知能力①言語の発達
7　乳幼児の認知能力②ピアジェ理論
8　乳幼児の認知能力③ポストピアジェ理論
9　乳幼児の感情発達
10 乳幼児の社会性発達
11 乳幼児の道徳性発達
12 児童期の発達と仲間関係
13 学校への適応と心の問題
14 子どもの発達障害
15 講義内容の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50797B01
科目名	発達心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　年晶	旧科目名称	
講義概要	かつては，子どもが大人になるまでの成熟過程が発達であると考えられ，成人期以降の発達については重視されてこなかった。しかし，今日，乳幼児期や児童期だけでなく，高齢期までの発達に着目した，いわゆる「生涯発達」の視点が重視されている。特に思春期以降は，子どもたちが過ごす生活範囲や重視する人間関係が家庭外へと広がり，自立した人間として成長していく重要な時期に当たる。また，高齢期でも喪失や機能の低下だけではなく，新たに獲得する心理的機能の存在が明らかにされつつある。本講義では，青年期から高齢期までの発達に着目し，身体的・認知的発達，社会関係の形成やサクセスフル・エイジングまで幅広く理解することを目的とする。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内の小テスト等による平常点（40%），期末試験（60%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，青年期から高齢期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る。		
準備学習	毎回講義の初めに，前回の講義内容に関する小テストを行いますので，各自で復習をしておいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席をしてください。また，遅刻や私語は厳禁とします。遅刻の場合，その理由を求めます。私語が過ぎれば，他の受講者への迷惑を勘案し，退出を求める場合もあります。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　青年期の身体的変化と自尊感情の発達
3　育児スタイルと青年期発達
4　エリクソンの人格発達理論
5　青年期の発達課題とアイデンティティ
6　青年期における他者との親密な関係（1）
7　青年期における他者との親密な関係（2）
8　青年期と摂食障害
9　青年の自立と職業選択
10　中年期の危機
11　高齢期の生物的加齢
12　高齢期の心理的加齢
13　高齢期の社会関係
14　高齢期の適応
15　講義内容の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	―	★	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J50798A01
科目名	東洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
講義概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を社会経済史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる日本との対比・関係を重視する。		
教材（テキスト）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず参照すること。 岡本隆司『近代中国史』ちくま新書（2013 年） 岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年）		
教材（参考文献）	岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会（2013 年） 岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績によって、評価をくだす。試験は論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
準備学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		
受講者への要望			
参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。			
講義の順序とポイント			
授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：公権力と社会 第３回：古代中世のアジア史――草原世界と農耕世界 第４回：二元的世界の形成――中国江南の開発と唐宋変革の世界史的意義 第５回：14 世紀の危機と明朝の世界史的位置 第６回：明から清へ――「近世」の日本との対比 第７回：マクロな社会経済動向 第８回：19 世紀の転換 第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本） 第１０回：動乱の時代と社会構成の変化 第１１回：「督撫重権」――アジアからの視点と国民国家と対比 第１２回：「洋務」の時代――日本・西アジアとの比較 第１３回：国民経済へ向かって 第１４回：産業革命と「黄金時代」――第一次大戦前後 第１５回：戦争と革命 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50798B01
科目名	東洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
講義概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を政治外交史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる朝鮮・日本との関係を重視する。		
教材（テキスト）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず参照すること。 岡本隆司『李鴻章』岩波新書（2011 年） 岡本隆司『世界のなかの日清韓関係史』講談社選書メチエ（2008 年）		
教材（参考文献）	岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年） 岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績によって、評価をくだす。試験は論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
準備学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		
受講者への要望			
参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。			
講義の順序とポイント			
授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：「東アジアにおける古代の終末」――東アジア世界の特質と西アジア・中央アジア 第３回：多元化のアジア――宋・遼・金とイスラーム世界 第４回：モンゴル帝国の「混一」と「蒙古襲来」の位置づけ 第５回：14 世紀の危機と秩序の再編――「朝貢システム」とティムール・オスマン 第６回：大航海時代――16 世紀の世界 第７回：日本と満洲族の興起――17 世紀の北東アジア 第８回：清朝と徳川の平和――18 世紀の東アジアとイスラーム世界の危機 第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本） 第１０回：日清修好条規と日朝修好条規 第１１回：台湾出兵と琉球処分――西アジアとの比較 第１２回：李鴻章と対外関係――グレートゲームのなかで 第１３回：日清戦争――東アジアの分水嶺 第１４回：変法・反動・列強 第１５回：日露戦争から革命へ――アジアの変貌 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50799A01
科目名	西洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアの人口と身分構成 ３．古代ギリシアの奴隷と社会（１） ４．古代ギリシアの奴隷と社会（２） ５．犯罪と刑罰（１） ６．犯罪と刑罰（２） ７．犯罪と刑罰（３） ８．動物裁判（１） ９．動物裁判（２） １０．動物裁判（３） １１．新大陸の征服史（１） １２．新大陸の征服史（２） １３．新大陸の征服史（３） １４．近代奴隷貿易の展開（１） １５．近代奴隷貿易の展開（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50799B01
科目名	西洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアにおける女性と社会 ３．古代ギリシアにおける女性の財産権 ４．古代ギリシアにおける女性の地位 ５．疫病の歴史（１） ６．疫病の歴史（２） ７．疫病の歴史（３） ８．「流行」と社会（１） ９．「流行」と社会（２） １０．「流行」と社会（３） １１．近代世界システムの理論の概要（１） １２．近代世界システムの理論の概要（２） １３．近代世界システムの成立史（１） １４．近代世界システムの成立史（２） １５．近代世界システムと奴隷制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J50800101
科目名	心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・柾木）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・柾木）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・柾木）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800102
科目名	心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・柾木）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・柾木）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・柾木）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800103
科目名	心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・柾木）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・柾木）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・柾木）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800104
科目名	心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・柾木）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・柾木）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・柾木）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800105
科目名	心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・柾木）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・柾木）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・柾木）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800106
科目名	心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	柾木　隆寿	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・柾木）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・柾木）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・柾木）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800201
科目名	心理学基礎実験 B（実践プロジェクト B）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

質問紙調査法　（担当：　伊原・服部・柾木・福田）
第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成
第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施
第３回：予備調査２：結果の分析
第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施
第５回：本調査２：結果の分析

実験法　（担当：　有馬・服部・柾木・福田）
第６回　社会　：集合知実験
第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果
第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果
第９回　生理①　：表情フィードバック
第１０回　生理②　：表情フィードバック

臨床実習　　（担当：川畑・服部・柾木・福田）
第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習
第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。
第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。
第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。

第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800202
科目名	心理学基礎実験 B（実践プロジェクト B）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

質問紙調査法　（担当：　伊原・服部・柾木・福田）
第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成
第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施
第３回：予備調査２：結果の分析
第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施
第５回：本調査２：結果の分析

実験法　（担当：　有馬・服部・柾木・福田）
第６回　社会　：集合知実験
第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果
第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果
第９回　生理①　：表情フィードバック
第１０回　生理②　：表情フィードバック

臨床実習　　（担当：川畑・服部・柾木・福田）
第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習
第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。
第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。
第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。

第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800203
科目名	心理学基礎実験 B（実践プロジェクト B）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

質問紙調査法　（担当：　伊原・服部・柾木・福田）
第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成
第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施
第３回：予備調査２：結果の分析
第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施
第５回：本調査２：結果の分析

実験法　（担当：　有馬・服部・柾木・福田）
第６回　社会　：集合知実験
第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果
第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果
第９回　生理①　：表情フィードバック
第１０回　生理②　：表情フィードバック

臨床実習　　（担当：川畑・服部・柾木・福田）
第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習
第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。
第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。
第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。

第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800204
科目名	心理学基礎実験 B（実践プロジェクト B）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

質問紙調査法　（担当：　伊原・服部・柾木・福田）
第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成
第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施
第３回：予備調査２：結果の分析
第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施
第５回：本調査２：結果の分析

実験法　（担当：　有馬・服部・柾木・福田）
第６回　社会　：集合知実験
第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果
第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果
第９回　生理①　：表情フィードバック
第１０回　生理②　：表情フィードバック

臨床実習　　（担当：川畑・服部・柾木・福田）
第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習
第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。
第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。
第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。

第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800205
科目名	心理学基礎実験 B（実践プロジェクト B）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
講義概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

質問紙調査法　（担当：　伊原・服部・柾木・福田）
第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成
第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施
第３回：予備調査２：結果の分析
第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施
第５回：本調査２：結果の分析

実験法　（担当：　有馬・服部・柾木・福田）
第６回　社会　：集合知実験
第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果
第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果
第９回　生理①　：表情フィードバック
第１０回　生理②　：表情フィードバック

臨床実習　　（担当：川畑・服部・柾木・福田）
第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習
第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。
第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。
第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。

第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800206
科目名	心理学基礎実験 B（実践プロジェクト B）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	柾木　隆寿	旧科目名称	
講義概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

質問紙調査法　（担当：　伊原・服部・柾木・福田）
第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成
第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施
第３回：予備調査２：結果の分析
第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施
第５回：本調査２：結果の分析

実験法　（担当：　有馬・服部・柾木・福田）
第６回　社会　：集合知実験
第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果
第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果
第９回　生理①　：表情フィードバック
第１０回　生理②　：表情フィードバック

臨床実習　　（担当：川畑・服部・柾木・福田）
第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習
第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。
第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。
第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。

第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800A01
科目名	日本史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学では、年号やキーワードの暗記ではなく、その出来事の歴史的な意味を論理的に考えることが重要です。また歴史といえば、テレビドラマやコミック漫画、ゲーム等で描かれることの多い、戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。が、歴史は一部の有名人だけで成り立つわけではありません。本授業では、日本の近世から近代（江戸、幕末維新、明治、大正、昭和時代）の歴史に関する、さまざまなトピックをとりあげながら、歴史学の基本―史料・資料に基づき、過去の社会のありようや人びとの営みを明らかにする―を学び、歴史的な感覚を養ってもらいます。		
教材（テキスト）	とくに使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（出席、小レポート等）50％ 学期末課題（レポート）50％		
到達目標	日本史、とくに近世から近代までの歴史の大きな流れを把握して、史料から歴史をよみとく歴史学の学問的な特徴を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマ等の歴史ドラマを見たり、近所の史跡・神社仏閣・石碑等にしたしむなどｌ普段の生活のなかで歴史を意識するよう心掛けてください。また講義の後にはかならずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
ばくぜんと受け身で聴くのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢で授業にのぞんでください。積極的な疑問・感想の提出をもとめます。			
講義の順序とポイント			
１　ガイダンス ２　NHK 朝の連続テレビ小説「あさが来た」から歴史を考える ３　歴史学と歴史創作　―新選組を事例に― ４　古文書のなかの新選組 ５　風説書の世界 ６　「志士」の創造 ７　名所図会の世界 ８　旅の文化 ９　初詣の歴史 １０　江戸時代の法 １１　江戸時代のゴミ問題 １２　江戸時代の祇園祭 １３　坂本龍馬の書状をよみとく １４　歴史書の裏側 １５　日記をつづるということ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50800B01
科目名	日本史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学で学ぶ歴史では、年号の暗記を求められたりはしません。また歴史といえば、テレビや漫画などで描かれる戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。しかし歴史は一部の有名人だけが活躍するものではありません。本講義では、主に江戸時代以降の日本史に関して、さまざまな話題をとりあげながら、歴史学の基本である、史料に基づきながら、過去の社会のありようや人々の営みを明らかにする手法を学び、当時の社会の仕組みや、その歴史の流れを把握してもらいます。		
教材（テキスト）	特に使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の感想・質問ペーパー（50%） 定期テスト（50%）		
到達目標	日本の社会や文化の歴史にかんして興味をもち、それを深く知るために、史料から歴史を読み解く歴史学の学問としての基礎を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマをみたり、近所の神社仏閣に訪れたり、普段の生活のなかで歴史を意識してみて下さい。また講義の後は必ずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。			
講義の順序とポイント			
第１回：歴史と歴史学 第２回：歴史と史料について 第３回：秀吉の平和 第４回：島原の乱と考古史料 第５回：江戸幕府の政治体制と史料批判 第６回：生類憐れみの令と〈子供〉の発見 第７回：江戸時代の教育 第８回：都市京都の発展と祇園の舞妓はん 第９回：江戸時代の病とその対処 第１０回：新選組！ 第１１回：戊辰戦争と天皇 第１２回：近代社会と年中行事 第１３回：自由民権運動と民衆・国民 第１４回：戦争と軍隊 第１５回：災害と社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J50801A01
科目名	フィールドワーク京都 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回終了時に課するレポートにより評価する。		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となること。		
準備学習	探訪先について、事前に文献等で調査しておくことが望ましい。		

受講者への要望

授業には交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

講義の順序とポイント

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　　月日　　4 月 9 日（土）
集合場所　京町家キャンパス
集合時間　午前 9 時
探訪場所　午前中は京都御所の一般公開を見学。午後は京都を愛した文豪・谷崎潤一郎の旧邸を見学する。
費用　　交通費のみ。拝観料は無料。

第二回　月日　　5 月 15 日(日)・・・葵祭行列当日
集合場所　京都御所建礼門前
集合時間　午前１０時
探訪場所　京都御所　上賀茂神社
費用　　交通費のみ

第三回　月日　　6 月 18 日（土）
集合場所　京都国立博物館入口
集合時間　午前 9 時 30 分
探訪場所　京都国立博物館～三十三間堂～方広寺など
費用　　拝観料が必要。
なお、学生証を必ず持参すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50801B01
科目名	フィールドワーク京都 B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回終了時に課するレポートにより評価する。		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となること。		
準備学習	探訪先について、事前に文献等で調べておくことが望ましい。		

受講者への要望

授業には、交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

講義の順序とポイント

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　月日　　11 月 5 日（土）
　　集合場所　百万遍交差点南東角
　　集合時間　午前 9 時 30 分
　　探訪場所　京大総合博物館　京大構内　同志社構内　相国寺
　　費用　　交通費　博物館入館料（５００円程）

第二回　月日　　12 月 3 日（土）
　　集合場所　　京町家キャンパス
　　集合時間　　午前 9 時
　　探訪場所　　黒谷金戒光明寺～黒谷会津藩士墓地～真如堂～泉屋博古館
　　費用　　泉屋博古館は拝観料が必要。

第三回　月日　　2017 年 1 月 21 日（土）
　　集合場所　京都太秦キャンパス図書館内コモンズスペース
　　集合時間　8 時 50 分
　　探訪場所　午前は嵐山の百人一首殿堂時雨殿。午後は京都市内の平安京大内裏跡をめぐる。
　　費用　　時雨殿は入館料 500 円が必要。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J50802A01
科目名	文化人類学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、人間の日々の営みから、文化とはなにか、人間とはなにかを考える学問です。 春学期は、関係性に注目して、それらを考えてみましょう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末考査、授業内提出物、授業内発表などを総合的に評価する。		
到達目標	文化人類学とはどのような学問であるかを理解するとともに、フィールドワークの実践を試みる。		
準備学習	講義中に挙げられた文献は読んでおくこと。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
１人間の鏡 ２わたしとあなたを分かつもの ３わたしとあなたを繋ぐもの ４出自 ５イエ ６親子 ７贈り物をすると幸せになる ８モノの交換 ９結婚 １０言葉の交換 １１物資と記憶 １２わたしが上の世代からもらって次の世代に引き継ぎたいもの １３作ってみよう １４映像の世界 １５作品発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J50802B01
科目名	文化人類学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、人間の日々の営みから、文化とはなにか、人間とはなにかを考える学問です。 秋学期は、世界観に注目して、それらを考えてみましょう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末考査、授業内提出物、授業内発表などを総合的に評価する。		
到達目標	文化人類学とはどのような学問であるかを理解するとともに、フィールドワークの実践を試みる。		
準備学習	講義中に挙げられた文献は読んでおくこと。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
１　わたしとは異なる世界に生きている人がいる ２　宗教的職能者 ３　シャーマニズムⅠ ４　シャーマニズムⅡ ５　時計と暦がなければ ６　クックの死 ７　ホピの世界観 ８　ドゴンの世界観 ９　ミャオの世界観 １０神話 １１文字の発明 １２文字Ⅰ １３文字Ⅱ １４フィールドワークとは １５フィールドワークをやってみよう			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J60001001
科目名	自然保護思想	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy of nature conservation		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	自然環境や動植物を直接利用する役立つ資源としてのみならず、神としてあがめたり、あるいは我々の存在の基盤として尊重する思想は太古より存在した。自然保護思想は、原生的な自然環境の保護のみならず、都市環境デザインやランドスケープデザインにも歴史的に反映されてきたところである。しかし、人類の自然に対するインパクトは、農耕革命、産業革命を経て、ここ半世紀の間に急激に拡大し、人類の生存基盤の持続可能性が危ぶまれている現在、自然保護概念にもまた、新たな展開がみられる。そのひとつは、「生物多様性」という自然保護概念の革命であり、もうひとつは、里山・里海のありかたに見られる自然共生の概念である。 この講義では、自然保護思想の歴史的に重要な展開イベントを踏まえ、いくつかの基本的なコンセプトの紹介と検討を行い、学生自らが豊かな自然観を形成する基盤の獲得を目標とする。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	鬼頭秀一著『自然保護を問いなおす』ちくま新書 守山弘著『自然を守るとはどういうことか』農文協、1988 年 守山 弘著『水田を守るとはどういうことか―生物相の視点から』（人間選書（204） 加藤尚武著『環境倫理学のすすめ』（丸善ライブラリー）		
教材（その他）			
評価方法	復習テスト、ミニ・レポート、期末課題レポートを総合して評価する。		
到達目標	自然保護に関する重要な概念を理解し、現代における自然保護の意義と方向性を認識できるようになる。		
準備学習	新聞、テレビ等の自然環境関連のニュースに気をつける。前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。		

受講者への要望

受講だけでなくフィールドを忘れずに。昆虫採集、魚釣り、植物採集は自然保護の原点です。農作物をつくるときも「ただの虫」を忘れずに。

講義の順序とポイント

1. 導入:ゴキブリ、クジラ、エボラ、オオカミ・・・・
　　第Ⅰ部：歴史的な自然保護・自然共生概念
2. 最古の森林への賛歌とエデンの園
3. 西洋庭園に見る「自然に帰れ」イギリス自然風景式庭園
4. 鎮守の森：南方熊楠と自然保護の先駆け
　　第Ⅱ部：現代の自然保護・自然共生概念
5. 現代自然保護の幕開け：国立公園とウィルダネス
6. 保護と保全の対立：ディープエコロジー、ソーシャルエコロジー
7. 樹木の当事者適格、自然の生存権
8. 世代間倫理・地球全体主義
9. 将来世代からの警告：レーチェル・カーソン、ローマクラブ
10. ベジタリアンと動物保護
　　第Ⅲ部：地球環境危機と自然保護
11. 生物多様性という革命
12. Ｓａｔｏｙａｍａというソルーション
13. 自然保護の現場から（1）
14. 自然保護の現場から（2）
15. 国際政治のなかの自然保護

（※進行に応じて適宜変更することがある）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J60006001
科目名	環境教育・富良野自然塾	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Education/ Furano Field		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都の単位互換科目として開講するもの。「北の国から」などで著名な脚本家の倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」（講座協賛 三井住友銀行）の全面的協力で、北海道での現地実習を行う。京都における事前学習および事後学習も実施する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	・「愚者の質問」　倉本聰、林原博光 著　（日本経済新聞出版社　2010 年） ・「ヒトに問う」　倉本聰 著　（双葉社　2013 年）		
教材（その他）			
評価方法	事前学習、現地実習、事後学習の出席状況や実習への取り組み状況等による（７０％） レポート（３０％）		
到達目標	森林フィールドでの環境教育についての深い理解と体験（遊学）		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献を読んでおいてください。		

受講者への要望

自然のなかで無心に遊んでみてください。鈍感になった感性が生き返ってきます。楽しい協力的な集いになるように、各人それぞれが心がけてください。
「富良野自然塾・倉本聰対談集　愚者の質問」日本経済新聞出版社を読んでおくと参考になります。

講義の順序とポイント

環境問題に対する特定の解決策を導き出すことを目的としているのではなく、自然体験活動と学生間の交流を通して、環境問題や自然環境に関する豊かな見かたや価値観が醸成されてくることをめざす。 富良野自然塾は、人間が自らの五感を使って自然から学ぶことをデザインした環境教育・五感プログラムを、そしてそれらのすぐれたインストラクターを用意している。

富良野自然塾からのメッセージ（エクアドルの民話「ハチドリの一滴」）：　山火事のおこった森林で、/小さなハチドリが一滴ずつ/水を運んで火を消そうとします。/ そんなことして山火事が消せるかと、/ 動物たちが笑います。/でもハチドリは真剣に云います。/ 「ジブンニデキルコトハコレクライダカラ」と。/ 我々の仕事はハチドリの一滴に過ぎません。/ でも、全ては一滴からしか始まりません。

事前学習（キャンパスプラザ京都）：７月２９日（金）　１８：１０～（３時間）

現地実習（北海道・富良野自然塾）：９月２日（金）～４日（日）

事後学習（キャンパスプラザ京都）：９月９日（金）　１６：２０～（３時間）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J60007001
科目名	科学技術史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science and Technology		
担当者名	但馬　亨	旧科目名称	
講義概要	現在の科学技術の発展の鍵は制度化・巨大化・精密化という三語に要約されるといえます．この講義では，科学技術の発展過程が必ずしも単線的・直線的になされてきたわけではないことを明らかにし，科学的知識のもつ本質的性質と呼べるものを浮き彫りにすることを目的としています．また，この性質の理解から科学者の在るべき姿について考察するという科学技術倫理の要素も講義には含まれています．実際に扱うトピックとしては数学や物理学，情報工学，環境についての諸問題があり，幅広い問題関心が講義参加者には必要だと思われます．		
教材（テキスト）	特になし．プリント配布します．		
教材（参考文献）	野家 啓一（著）『パラダイムとは何か クーンの科学史革命』講談社学術文庫，2008 年		
教材（その他）	上記以外にも適切な参考書を複数紹介します．パワーポイントや映像資料も用います．		
評価方法	小テスト等（30%）、定期試験(70%)． 有意義な意見の発表等がある場合等は加点します． また授業参加者の状況を考慮して，ディベート課題を出す場合があります．		
到達目標	1．各時代ごとの科学的技術的知識の形態を正しく把握すること． 2．科学理論の変遷についての理論的把握を行うこと． 3．現代科学に内在する問題点について批判的検討を加える視点をもつこと．		
準備学習	授業内で紹介する文献や資料等を授業開始前までに調べて，次週の講義開始以前に知識を得ていること． そして授業終了前に出される問題に取り組むこと．次回授業開始時に小テスト等を行い考察の成果を確認します．		

受講者への要望

1．自然科学だけでなく文理問わない幅広い知的好奇心をもって積極的に講義に臨んでください．
2．私語や携帯電話の使用等には、減点や期末試験の受験を認めないなど厳しく対処します．

講義の順序とポイント

1．　ガイダンス
2．　古代の科学：ギリシャにおける科学の曙
3．　中世の科学：精密科学としての天文学
4．　アラビア科学の成立
5．　初期近代(1)：万能人と人文主義的科学
6．　初期近代(2)：近代解剖学の成立，印刷技術の発展
7．　前半内容の確認
8．　17 世紀(1)：二つの科学革命論
9．　17 世紀(2)：科学方法論の成立，ガリレオ，デカルト
10．18 世紀：ニュートンと啓蒙主義
11．19 世紀(1)：フランス革命後の社会と科学の制度化
12．19 世紀(2)：ダーウィニズムと自然誌
13．20 世紀(1)：巨大科学の誕生と戦争
14．20 世紀(2)：情報科学の発展
15．21 世紀の諸問題：環境と科学技術の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J60008001
科目名	日本の農業	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Agriculture		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	農耕の起源と農業技術の発達史を概観し、農業及びその関連産業が果たすべき役割について概説する。また、日本及び世界の農業動向、日本の農業生産性や農業経営、農業政策、農業と環境との関わりなど農業に関する諸課題を概説する。特に、日本の農業が直面する課題である、生産性、食料、環境などの現状とそれらの課題の解決に向けた技術を紹介する。		
教材（テキスト）	資料を配布する。		
教材（参考文献）	祖田修・杉村和彦　編　「食と農を学ぶ人のために」　世界思想社（2010）		
教材（その他）	講義の中で順次紹介する。		
評価方法	小テストと平常点（３０％）およびテスト（７０％）で評価する。		
到達目標	農業及び農業技術の歴史、農・畜産業や食品産業と他産業との関わりを学び、農業に対する基本的な知識を習得し、農業の社会的な意義や役割について理解する。また、農業に関する諸課題を学び、日本の農業の将来や食の姿について主体的に考える能力を養う。		
準備学習	講義終了時に次回の講義資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。		

受講者への要望

１０回程度小テストを行うので、講義内容を復習しておくこと。

講義の順序とポイント

１．はじめに、農業とは何か
２．作物の栽培化
３．農耕の起源と伝播
４．世界の農業
５．日本の農業発達史
６．日本の農業の現状と農業政策
７．穀物の生産（米）
８．穀物の生産（その他の穀類、マメ類）
９．畑作物の生産（イモ類など）
１０．野菜の生産
１１．果樹・花き・茶などの生産
１２．畜産
１３．飼料生産と畜産の環境問題
１４．日本の食と農業の問題点
１５．農業技術の発達と農業の今後の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60009001
科目名	食の安全安心（2014 生まで）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	植野　洋志	旧科目名称	
講義概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは，ヒトの生命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である．どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと，安全安心の概念は生じない． 本講義では，「食」を１）食素材から食品という製品として，２）食物として体内に取り込み，代謝されるとき，３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか，という点を中心に理解を深めることになる． 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには，「食」のもつ性質を知る必要がある．食の性質とは，もちろん，物質としての概念であろう．食素材は化学物質としてとらえないとだめで，その本質は，食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない．一般教養として，食素材がどのように変化するのかを理解し，いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする． 近年，「食」と安全で話題になっている鳥インフルエンザ，遺伝子組み換え食品，バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる．		
教材（テキスト）	別に用いない		
教材（参考文献）	補足プリントと e-ラーニング		
教材（その他）			
評価方法	毎回実施する予定でいる小テスト（40%）（京学なび），とレポート提出（60%）を総計して評価する．場合によっては，筆記試験を期末試験とする．		
到達目標	生命現象，そのなかで「食」については，化学というツールで眺めることが大切である．化学というツールで地球上で生息する生物を眺めると，共通する基本概念が見えてくる．生命の大原則と「食」が密接につながっていること，また，その関連性に影響をあたえるようが現象が安全安心という側面から理解することができる．このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である．		
準備学習	予習については，事前に講義についての概要を説明するので，ネット検索をして予備知識をもつこと．当日は，簡単な小テストにて学習度のチェックを行う．復讐に関しては，不定期に小テストを実施する．また，ネットを利用して，教材（配布プリントと授業でのパワポ）を閲覧できるようにする．		
受講者への要望			
一般教養的内容なのと，生活と密接に関係するので，講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある．きちんとノートやメモをとれることを学習しよう．質問はできるだけその場でするように心がけよう．積極的な授業への参加が望ましい．			
講義の順序とポイント			
1〜2. ヒトの体に影響を与える食生活について，DVD を教材として学習する 3〜4. 体に取り込まれる栄養素はどのようにして使われるのか，代謝という概念を習得する 5〜6. 化学反応が生命体の基本であることを学ぶ 7〜8. 食素材がもたらす効果（たとえば，食中毒）について，安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める 9〜10. 遺伝子組換え技術について概説する 11〜12. 食品の保存・保蔵の基礎と原理を理解する 13〜15. 食にまつわる制約（法律や規則），輸入食品の安全性，農薬とはなど広く生活に関係する話題を共有する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J60009002
科目名	食の安全安心（2014 生まで）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	食の安全については、毎年のように表示偽造や、食中毒が発生しており、またその原因に大手食品企業がなることも多く、大きな社会問題となっている。ここ数年で、食の安全性が問われた事件の一つに福島原発事故があるが、未だにその解決の目処は立っていない。一方で、一般家庭における食の安全に関する知識も、このような問題が起こったときには、その都度高まりはするが、その時だけで終わってしまい定着しているとはいえないのが現状である。 ところで、多くの一般の人が食品に手を触れ、眼に入れることが多いのは、スーパーや飲食店であろう。このように食品が流通するためには、厚生労働省、農林水産省、等の多くの省庁が絡んだ基準や規格が多く存在している。例えば食品に記載されている義務表示に関しても、カップラーメン一つとっても原材料表示をはじめとして、エネルギー量などの栄養表示、卵由来などのアレルギー表示さらには分別に関する、「プラ」や「紙」等の表示もあり、すべてを理解している消費者は少ないであろう。さらに、これに関わる表示基準を正確に理解することは、食品を扱う会社のも者であっても大変難しい。 一方、食品を安全に流通させるためには、加工食品であれば、保存料等の食品添加物、農産物であれば農薬を使用しており、これらの使用方法や事例について、単に「化学合成品」であるから危険、と言うイメージだ判断するのではなく、どのようにその安全基準が決められているのかを知る機会は少ないと思われる。 また、生鮮食品も必ずしも安全というわけではなく、調理法を誤れば、ジャガイモやインゲン豆でも毒になり得ることを理解しておかなければいけない。 そこで、本講義では、食品の安全や安心について、より身近なところの知識を得ることを目的として、日常生活に生かせる講義を行いたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	講義に使用するパワーポイント等、資料を配付する。 参考図書：「食をめぐるほんとうの話」講談社現代新書		
教材（その他）			
評価方法	指定した課題に対するレポート 80％ 授業内小テスト 20％		
到達目標	本来、「安全」とは、客観的な科学的根拠を持って評価される物であり、逆に「安心」とは主観的であり、個人によってとらえ方が異なる物である。本講義においては、「安全」について、どのように科学的に検証されてきたかを理解してどのように担保されてきたのかを考えると共に、それを前提に「安心」をどのようにとらえるかについて学習する。		
準備学習	参考図書を読むことや、消費者庁の食の安全性に関するホームページや、食品安全委員会のホームページを閲覧するなど、安全性に関する知識を得るとともに、現在どのようなことが問題になっているか、知るように努める。 消費者庁 HP {http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/} 食品安全委員会 HP {http://www.fsc.go.jp/index.html}		
受講者への要望			
いつも食べている食品について関心を持って授業にのぞんで欲しい。			
講義の順序とポイント			
1〜3：食品の表示について理解しよう。 食品に表示する義務のある事項、表記方法について学ぶ(食品表示基準)。 4〜6：加工食品や農産物に使用される食品添加物や農薬について理解しよう。 食品添加物や農薬がどのように評価され使用されてきたかを学ぶ。 7〜9：食品の加工や流通における安心システムについて理解しよう。 安全な食品を担保するための加工システム（HACCP、等)や流通経路についても学ぶ。 10〜13：生鮮食品に潜んでいる食中毒の原因について理解しよう。 農産物、海産物にひそんでいる食中毒の原因を知るとともに、これを解決してきた加工技術について学ぶ。 14、15：日常生活での食品の安全について理解しよう。			

1～13 までの講義を受けて、日常生活での食品の安全から安心をどのように担保されているのかを学ぶ。
講義全体を通して、専門的な知識を得ることを目的にするのではなく、より日常生活に生かせる食の安全について知ることを目的として進めていく。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J60010001
科目名	シリーズ特別講義 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture Series A		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	現代社会が直面している環境問題は人間社会が解決すべき緊急の課題である。本シリーズでは、自然環境、生産環境、消費環境の現場で発生している諸問題に取り組んでいる先達の豊かな活動経験を聴くことによって、環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性を各人が思考し、バイオ環境学部での学習のおもしろさと重要性を認識するきっかけとなることを期待する。		
教材（テキスト）	特に定めないが、各講師の方から、講義中に参考書を推薦してもらう。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	受講態度、講義後に提出する感想・意見の文章内容による平常点(70%) レポート(30%)		
到達目標	環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性、そしてバイオ環境学部での学習の重要性を認識する。		
準備学習	種々の環境問題に視野をできるだけ広くとって、日常生活を送ること。講義内容に関連する話題がニュースとして取り扱われることも多いので、新聞などで情報収集に努めること。復習として、各講師が執筆している著作を含め関連分野の書籍の読書を求める。		

受講者への要望

各講師が活動の経験を聞き、大学で学習する意義をつかんで欲しい。

講義の順序とポイント

1)　はじめに。この講義の意義とねらいを説明する。
2)～5)　農業、漁業、林業の現場で働いている人たちからメッセージ。
6)～8)　農協、漁協、林業組合で働いている人たちからのメッセージ。
9)～11)　工業、商業の現場で環境問題に取り組んでいる人たちからのメッセージ。
12)～14)　廃棄物問題、開発問題に関わっている専門家や市民運動関係者からのメッセージ。
15)　おわりに。14 回目の講義までに学んだ内容について復習するとともに、得たことについて考察する。
　以上の諸課題に関して、学外の先達に 1 コマずつの講義をお願いする。なお、講師の方々との日程調整上、 順序は未定である。
昨年（2015 年）度の実績は以下のとおりである

・　土井 孝則　亀岡市文化資料館主任研究員
　　亀岡の歴史と文化について
・　尾崎 零　産消循環自給農場代表
　　保障なき時代を生きる～“自立農力”探求のすすめ
・　川上 聰　淀川水系流域委員会・元委員の会
　　特別天然記念物オオサンショウウオから考える川とダム
・　佐伯 昌和　京野菜無農薬栽培農業経営
　　三里四方の旬
・　前田 壮一郎　野良師
　　暮らす、こと。
・　松岡 正富　琵琶湖漁師・滋賀県朝日漁協組合副委員長
　　琵琶湖の漁業
・　藤井 絢子　NPO 菜の花プロジェクトネットワーク代表
　　地域からのエネルギー改革：菜の花プロジェクトから学ぶ
・　湯浅 勲　南丹市日吉森林組合理事
　　今日は森林のことを考えてみよう
・　塩見 直紀　半農半Ｘ研究所代表
　　半農半Ｘという生き方～小さな農と天職と大好きなまちと

・　浄慶 耕造　大徳醤油代表取締役
　小さな醤油蔵の役割
・　丸谷 一耕　NPO 法人木野環境 EMS 構築支援部
　環境学生ベンチャーNPO 法人木野環境
・　佐藤 正吾　公益財団法人京都市都市緑化協会
　「和の花プロジェクト」と都市の生物多様性
・　伊与田 昌慶　NPO 法人気候ネットワーク研究員
　地球温暖化の現状と対策

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J60011001
科目名	シリーズ特別講義B	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture Series B		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	日本のバイオ技術は、農学分野だけでなく、食品、医薬品等、幅広く応用されている。このような技術は、日本にとどまらず、世界に向け技術発信されている。この講義では、各分野で第一線で活躍されている、企業や研究施設で研究されている、研究者・技術者の方々を講師としてお招きし、バイオテクノロジーを応用した商品開発について講演して頂き、将来の展望についてもお話をして頂く。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	指定した課題に対するレポート 80% 定期試験 20%		
到達目標	商品開発にバイオの技術がどのように生かされているかを理解する。 最前線で働いている研究者の生の声を聞くことで、研究することの意義やその進め方について勉強する。また、このような技術開発に必要な項目について学び取る。 今後、バイオ環境学部で勉強していく時に、バイオ技術を応用することで何ができそうか、自分なりに考えてみて、学習のための意欲を高める。		
準備学習	各回の講義で、講師が異なり、講演内容もかわるため事前の準備は難しいかもしれないが、関連する産業やバイオ技術について興味を持って情報収集を行うこと。		

受講者への要望

講義の中で説明された技術に関して、自分なりに興味を持った分野について勉強し、レポートを書く際に反映させて欲しい。
また、レポートの書き方についても、相手にわかりやすいように工夫ができるようにして欲しい。

講義の順序とポイント

講義の順番に関しては、講師の方の都合により内容や順番が入れ替わる可能性があるため、現時点では確定してないが、下記の内容で行う予定である。
1)科学技術とバイオテクノロジー
2)バイオ基盤技術産業(I)
3)バイオ基盤技術産業(II)
4)創薬産業(I)
5)創薬産業(II)
6)生化学産業(I)
7)生化学産業(II)
8)食品産業(I)
9)食品産業(II)
10)醸造産業(I)
11)醸造産業(II)
12)植物関連産業(I)
13)植物関連産業(II)
14)バイオ基盤産業(I)
15)バイオ基盤産業(II)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2016	授業コード	J60012001
科目名	社会と環境問題	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Problems and Society		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	2011 年に、福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が環境中へ撒き散らされ、現在も、放射性物質の排出は、一時よりは減ったとはいえ、まだ続いている。排出された放射性物質からは、放射線が長期にわたって出る。そしてやがて健康被害が顕在化してくるものと思われる。このような放射能汚染という環境問題に、私たちは、どう対処すべきなのかについては、過去に起こった環境問題において加害者がどう行動し、被害者や一般市民がどう考えて、どう対処したのかということが、私たちに多くの重要な知恵を与えてくれる。 明治期には、工業や鉱業の発展によって、有毒な排ガスや廃水が放出されて、作物が育たないという事態や健康被害が起こった。戦後には、工業のめざましい発達に伴い、空気、水、および食べ物の汚染が急激に進行して、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど、大きな健康被害が出た。しかし、このような健康被害について、被害者全員が十分に補償を受けたわけではない。多くの被害者は悲惨な状況下に置かれた。加害者の責任逃れの行為が目立ち、また、一般市民が被害者をさらに悲惨な状況に追いやってしまう事態も発生した。この講義では、過去の環境問題とその時の社会情勢を説明し、現在の環境問題への対処を考える。		
教材（テキスト）	小田康徳編「公害･環境問題史を学ぶ人のために」世界思想社、2000 円＋消費税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	期末試験（60%）、随時行うテスト（40%）		
到達目標	現在の環境問題を自分なりに考えられるようにする		
準備学習	教科書の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。		

受講者への要望

「環境化学」を受講しておくことが望ましい。
わからないことがあれば、授業の途中でもよいから質問をすること。
放射能に関連するニュースなど、現在の環境問題の関する情報をを把握して、自分なりに解決策を考えること。

講義の順序とポイント

1．現在の環境問題：放射性物質による汚染
2．現在の環境問題：公共工事による環境破壊
3．汚染による被害と損害賠償について
4．明治期の富国強兵政策と足尾鉱毒事件の発生（教科書 p.22-24）
5．足尾鉱毒事件への政府の対応と田中正造の直訴（p.24-26）
6．足尾鉱毒事件のその後（p.93-94）、今も続く鉱山排水問題
7．別子銅山煙害事件（p.95-99）、煙害防止技術（p.31-34）
8．戦前の大阪の工業化と大気汚染（p.101-106）、戦前の石炭鉱業被害（p.112-118）
9．戦後の高度成長と公害の発生（p.45-52）水俣病の発生（p.119-125）
10．水俣病の補償問題（p.125-126）、公害被害者への差別と住民間の対立（p.227-232）
11．　イタイイタイ病（p.127-133）、四日市公害（p.133-139）
12．四日市の水質汚濁、公害法規（p.198-204）
13．公益・公共性の思想と公害（p.221-226）
14．歴史から学ぶ教訓
15．現在の環境問題を考える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60016001
科目名	生物の分類	単位数	2
科目名（英語表記）	Taxonomy		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	私たちは、さまざまな生き物を、種として認識している。このような生き物を類別することについて学ぶ。種はさらに上位の分類群にまとめられて、種と種の関係が示されている。これを系統関係と呼ぶが、系統関係を論理的に構築する方法について概説し、生物の進化の道筋についても考える。さらに、現在、地球上に暮らしているといわれている数千万種の生物を概観してみたい。数千万種を見渡すのはあまりに無謀なので、様々な分類群を紹介し、地球にどんな生き物がいるのかを「知る」努力を試みる。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	講義中の提出物等によって評価する		
到達目標	生物には種名がつけられているが、私たちが生物を種別に認識していることについて考えを深める。また、この地球にはどのような生き物がいて、どのような進化の歴史をたどったと考えられているのかについても概観し、地球上の様々な生物を知る。		
準備学習	これまでに生物学を学んだかどうかは、不問。　教科書の該当部分をよく読み、わからない専門用語等を調べておくこと。		
受講者への要望			
地球上には数千万種の生物が暮らしていると言われています。こうした自然界の驚異を楽しんでください。			
講義の順序とポイント			
１　種概念 ２　種分化 ３　地球の生命史 ４　系統と生命の樹 ５　絶滅の歴史 ６　現生の生物　細菌と古細菌 ７　現生の生物　原生生物 ８　現生の生物　植物 ９　現生の生物　菌類 １０　現生の生物　動物（無脊椎動物１） １１　現生の生物　動物（無脊椎動物２） １２　現生の生物　動物（脊椎動物の起源と進化１） １３　現生の生物　動物（脊椎動物の起源と進化２） １４　現生の生物　ヒトの系統 １５　生物地理学			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J60018001
科目名	昆虫の科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Entomology		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	昆虫種の数は、地球上に存在する生物種の半数以上、未知種が加わると 80%にも達すると推定されるほど多様性に富み、海中以外のあらゆる場所に生息している。本講義では、昆虫の初歩的分類学や形態と機能といった生理学的側面を中心に学び、同種並びに他種生物との相互作用といった生態学的理解への基礎を深める。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	適宜推薦する		
教材（その他）			
評価方法	期間中のレポート(小論文数回)と期末試験を基本とし、これに平常点を加味して評価する。		
到達目標	人々の生活を豊かにするものもあり、危険にさらすものもある。あるものはヒトの生活とは無縁な存在でもある。そのような昆虫という多様な生き物の多様な生活についての関心と理解を深め、基本的知識を養う。		
準備学習	次回の資料を授業終了時に配布するので必ず読み込んでくること。また、昆虫にに関する書物を 1 冊以上読破してほしい。		
受講者への要望			
昆虫をはじめとした生き物の生活への関心を深め、たとえ「昆虫嫌い」の人でも、生き物をいつくしむ心を育ててほしい。そして、生き物をいつくしむ心をほかの誰かに伝えられるようにしてほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 昆虫とは　－　昆虫学事始め 2. 昆虫の形態学　－　ヒトとの体構造との違い 3. 昆虫の分類学　－　多様性に富む生物群 4. 昆虫の成長　－　生活様式を一変させる変態・時空間を旅する休眠 5. 昆虫の栄養　－　意外と似ているヒトと昆虫 6. 昆虫の呼吸　－　まったく異質なヒトと昆虫 7. 昆虫の感覚　－　昆虫には第六感がある！ 8. 昆虫の行動　－　昆虫行動研究でノーベル賞 9. 昆虫の生殖　－　不思議な雌雄のめぐり逢い 10. 昆虫の移動　－　海を渡る昆虫たち 11. 捕食と寄生　－　エレガントにして残酷な関係 12. 役に立つ昆虫　－　日本の近代化を支えた昆虫とは？ 13. 個体群動態　－　昆虫の大発生が予言する未来とは 14. 農作物害虫の管理　－　環境保全型農業をめざして 15. 昆虫の学名　－　”芸者”という名の昆虫			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J60019001
科目名	土壌の科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Soil Science		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	土壌の科学
講義概要	土壌は陸上植物にとって、必須の環境のひとつである。特に高等植物の生存を支え、農業生産において重要な役割を持っている。土壌の生成や機能について学ぶことは、バイオ環境を理解する上で欠かせない。土壌の特性について理解を進め、土壌と植物、農作物を栽培する土壌、土壌と地球環境との関わり、あわせて農作物の生産性を高める適切な土壌管理方法について学ぶ。全講義期間を通じて数回ワークシートを配布し、理解度を確認する。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「土壌学の基礎　―生成・機能・肥沃度・環境－」松中照夫著、農文協 「土壌診断と対策」土壌医検定１級試験対応、日本土壌協会		
教材（その他）	「土の科学」PHP 新書、久馬一剛著、PHP 出版 「「健康な土」「病んだ土」」岩田進午著、新日本出版		
評価方法	ワークシートの理解度判定 20 点、定期試験 80 点。		
到達目標	植物の生育を支える土壌について、基礎的理解を深める。		
準備学習	毎回の講義後にプリントとノートで復習し、不明な点は提示した参考書などで該当する部分を読んで、理解を確かなものにしてほしい。		

受講者への要望

農業生産をする上で、土壌は重要な役割を果たしている。また、農業を主要産業とする地域の環境を考える上で、重要な要素のひとつである。本講義では、農耕地土壌を主な対象とするが、多くの学生に土壌についての基礎的な知識と、現代的課題を学んでほしい。

講義の順序とポイント

１　土壌とは何か？　～地球の生命を支える土壌～
２　土壌はどうして作られるのか？　～土壌は環境の産物～
３　土壌のなかみは何か？　～有機物が土壌をつくる～
４　土壌の物理的な性質　～水と空気との関係～
５　土壌の化学的な性質　～マイナス荷電と酸度～
６　土壌生物の働き　～物質の合成と分解～
７　水田土壌　～人が作った土壌～
８　畑土壌　～野菜、麦、豆類の土壌～
９　草地・樹園地土壌　～牧草、果樹、チャの土壌～
１０　土壌の肥沃度と作物の生産　～農作物の生産性を高める手だて～
１１　作物養分の種類と土壌中での動き　～養分のストックとフロー～
１２　作物生産のための土壌診断　～土壌の健康診断～
１３　作物生産のための土壌管理　～実践的な管理方法～
１４　土壌汚染と環境汚染　～環境汚染との関係～
１５　土壌と地球環境　～持続的食料生産への課題～

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60020001
科目名	微生物の世界	単位数	2
科目名（英語表記）	The World of Microorganisms		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	地球上には、きわめて多数のまた多種類の微生物が存在し、動物、植物とともに人間生活に影響を与えている。これらの微生物は、健康へ負の影響を与えたり、発酵食品、工業製品などの有用物質の生産にかかわり、また、自然界の物質循環に関与することにより地球環境の保全さらには環境浄化に役立っている。 本講義では、人間生活において微生物の果たしている役割を、生物学的、産業的、環境的視点から解説し、暮らしの中の微生物について理解させる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第2版　（２００８）　清水昌、堀之内末治　編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（２００８）熊谷英彦ら　編　朝倉書店		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	以下の項目に基づいて評価する。 ・平常点（課題の提出など）（40％） ・期末試験　（60％）		
到達目標	1）生物界における微生物の位置を理解する。 2）生態系における微生物の存在形態を理解する。 3）人間生活と微生物との関わりについて具体的に理解する。		
準備学習	人間生活と微生物との関わりについて関心をもつこと。講義終了時に予習の内容を課すので授業までに調べておくこと。講義中に取ったノートを整理しておくこと，また単元の区切りごとのレポートを課す。		
受講者への要望			
ノートに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。 興味を持った内容について関連する書籍を読んで、理解を深めておくこと。			
講義の順序とポイント			
1）　緒論 2）　生物界における微生物の位置 3）　有用微生物：食品の製造 4）　有害微生物：病原微生物、腐敗 5）　文化と微生物 6）　健康と微生物 7）　家庭環境と微生物 8）　環境浄化と微生物 9）　共生と微生物 １０）　生物の進化と微生物 １１）　農林水畜産業と微生物 １２）　鉱業と微生物 １３）　石油と微生物 １４）　食糧と微生物 １５）　エネルギー問題と微生物 （上記内容は目安であり、講師の方の都合などによって変更する場合がある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J60021001
科目名	生物の多様性	単位数	2
科目名（英語表記）	Biodiversity		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生態系を理解し、生物との共存を考える上で欠くことのできない生物多様性について、さまざまな階層での生物の多様性のあり方を理解し、生物多様性を保全することで、人間の生活を改善して持続的発展を実現する視点を養う。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	講義中の提出物等によって評価する		
到達目標	多様性の意味、多様性が生み出される仕組み、人間活動の持続性に多様性が果たす役割を理解すること。		
準備学習	身近に生物の多様性はたくさんみられます。これらについて調べ、自分の身の回りの生物多様性を理解できる知識を持って講義に臨むこと。　教科書の該当部分をよく読み、わからない専門用語等を調べておくこと。		
受講者への要望			
日頃から、自分の身の回りの生物多様性を理解するようにつとめ、講義内容を自分の身近な問題として関連付け、理解を深めること。事前に生物学的な知識は問わないが、事実を柔軟な視点で理解する力が必要。			
講義の順序とポイント			
１）様々な多様性と多様性の必要性 ２）遺伝的変異と進化 ３）植物の多様性 ４）動物の多様性 ５）地球環境の地域差、季節性、歴史的変化 ６）気候による生物の分布の多様性 ７）撹乱による生物の分布の多様性 ８）水界の多様性の区分 ９）生物の分散と分布 １０）生物の分布に影響する生物的要因 １１）生物の分布に影響する非生物的要因 １２）生活史の多様性 １３）群集の多様性と栄養構造 １４）群集の多様性と撹乱 １５）群集の多様性と地理的要因			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J60022001
科目名	生物学 -k(2014 生まで)	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書 9 版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考文献）	東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第 2 版―分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ」羊土社 日本生態学会編「生態学入門」東京化学同人		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験・課題を勘案する		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
準備学習	生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。教科書の関連箇所を事前に予習して講義に臨むこと。		

受講者への要望

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

講義の順序とポイント

1　イントロダクション　生物とは何か　生物構成する物質
2　メンデルと遺伝子の概念
3　染色体の挙動と遺伝子
4　遺伝子の分子機構（1）
5　遺伝子の分子機構（2）
6　タンパク質の構造と機能（1）
7　タンパク質の構造と機能（2）
8　遺伝子からタンパク質へ　遺伝子の発現制御
9　細胞
10　動物の生殖と発生
11　動物の内分泌系と神経系
12　種の起源
13　ダーウィンの生命観　集団の進化（1）
14　ダーウィンの生命観　集団の進化（2）
15　動物の行動の進化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J60022002
科目名	生物学 -s(2014 生まで)	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	本講義は、バイオ環境学部で行われる様々な講義の導入科目として位置づけている。従って、生物学全般についてできるだけ幅広くその概略を説明するとともに、以後の学科の講義で必要となる基礎知識、専門用語をしっかりと理解する。この講義をとおして、生命活動を物質レベルで考える力を身につける。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	Eric J. Simon 著　池内正彦監訳 『エッセンシャル　キャンベル生物学』　丸善　7,000 円 Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 Richard Allan 著 後藤太一郎監訳 『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第 2 版』オーム社　3,000 円 南雲保　編著　今井一志・大島海一・鈴木秀和・田中次郎　著 『やさしい基礎生物学第 2 版』羊土社　2,900 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(50%)　毎回の演習およびレポート(25%)　授業態度などの平常点(25%)		
到達目標	生物学の基本事項について正しく理解する。 生物学の専門用語について説明ができる。 生物学関連のマスコミや科学雑誌などの記事を理解し、説明できる。 講義後に行う演習問題をしっかりと理解し解答することができる。		
準備学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。 講義で学んだ基本事項、専門用語については、次の講義までに説明できるようにしておくこと。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの講義を受けること。
演習問題やレポート提出などが重要な評価対象となるので、講義には毎回出席すること。
日頃から生物学の分野について関心を持つように心がける。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　（科目の概略説明。講義の心構え、勉強の方法などについて言及）
2. 生物学とは？　（生物と無生物の違い、バイオとは？）
3. 生物の進化　（進化論、生物多様性など）
4. 生態学　（生物の分布、個体群、生態系など）
5. 細胞の基本構造　（生命の基本単位である細胞とは）
6. 生命の化学 I　（生命の化学的基盤、水と環境）
7. 生命の化学 II　（生命分子の多様性、高分子の構造）
8. 確認試験とその解説
9. 遺伝のしくみ（メンデルと遺伝子の概念）
10. 遺伝子からタンパク質へ　（遺伝子の複製、転写、翻訳、セントラルドグマなど）
11. バイオテクノロジー　（バイオ研究の基本技術）
12. 生物の恒常性　（内分泌系とホルモンなど）
13. 植物の機能　（光合成、植物のバイオテクノロジーなど）
14. 細胞呼吸と発酵　（解糖系、電子伝達系など）
15. 生物学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J60023001
科目名	化学 -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	
講義概要	化学は物質の構造や性質、反応について追究する学問であるとされる。我々の肉体はもちろんのこと、我々を取り巻く世界そのものが物質の集合体であり、我々の体内や身の回りで起こるすべての事象－そこには心や感情の動きすらも含まれる－には、物質による化学反応が関与している。したがって、それらの反応について深く考察できる力は、社会に対して説得力のある意見を発する力や、人生の分岐点において的確な判断を下せる力につながる。そのように成長するための教養として物質の構造や性質、つまり「化学反応を支配する要素」について学ぶ。		
教材（テキスト）	サイエンスビュー化学総合資料　（実教出版）		
教材（参考文献）	ベーシック化学　高校の化学から大学の化学へ　（化学同人）		
教材（その他）	ビデオ　「ホフマンの化学の世界」　ほか		
評価方法	開講期間に課す 1 回のレポート（30%）と授業時間内に行う小テスト（20%)、および期末試験（50%）によって評価する。		
到達目標	1）　原子や分子の構造について、電子軌道を関連付けて理解できる。 2）　種々の化学反応について、分子の電子状態から反応性を予測できる。		
準備学習	元素の周期表を眺める習慣を身につけることが望ましい。		

受講者への要望

原子や分子の性質および反応性をより深く理解するためには、「電子」について捉え直す必要がある。
大学の化学は「電子」から始まると思ってほしい。
逆に言えば、どこかでつまずいたときには電子の概念に帰ればよい、ということである。

講義の順序とポイント

1．物質の基本概念と化学
2．原子と分子、元素と化合物
3．電子配置と電子軌道
4．モルの概念
5．元素の周期律
6．化学結合
7．化学式・組成式・分子式・構造式
8．化学反応と化学熱力学
9．反応速度
10．酸と塩基
11．中和滴定と緩衝液（バッファー）
12．無機化合物　(C, N, O, P, S)
13．ミネラル
14．環境と化学　I
15．環境と化学　II

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60023002
科目名	化学 -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	湊　和也	旧科目名称	
講義概要	化学は物質の構造や性質、反応について追究する学問であるとされる。我々の肉体はもちろんのこと、我々を取り巻く世界そのものが物質の集合体であり、我々の体内や身の回りで起こるすべての事象－そこには心や感情の動きすらも含まれる－には、物質による化学反応が関与している。したがって、それらの反応について深く考察できる力は、社会に対して説得力のある意見を発する力や、人生の分岐点において的確な判断を下せる力につながる。そのように成長するための教養として物質の構造や性質、つまり「化学反応を支配する要素」について学ぶ。		
教材（テキスト）	サイエンスビュー化学総合資料　（実教出版）		
教材（参考文献）	ベーシック化学　高校の化学から大学の化学へ　（化学同人）		
教材（その他）	ビデオ　「ホフマンの化学の世界」　ほか		
評価方法	開講期間に課す 1 回のレポート（30%）と授業時間内に行う小テスト（20%)、および期末試験（50%）によって評価する。		
到達目標	1）　原子や分子の構造について、電子軌道を関連付けて理解できる。 2）　種々の化学反応について、分子の電子状態から反応性を予測できる。		
準備学習	元素の周期表を眺める習慣を身につけることが望ましい。		

受講者への要望

原子や分子の性質および反応性をより深く理解するためには、「電子」について捉え直す必要がある。
大学の化学は「電子」から始まると思ってほしい。
逆に言えば、どこかでつまずいたときには電子の概念に帰ればよい、ということである。

講義の順序とポイント

1．物質の基本概念と化学
2．原子と分子、元素と化合物
3．電子配置と電子軌道
4．モルの概念
5．元素の周期律
6．化学結合
7．化学式・組成式・分子式・構造式
8．化学反応と化学熱力学
9．反応速度
10．酸と塩基
11．中和滴定と緩衝液（バッファー）
12．無機化合物　(C, N, O, P, S)
13．ミネラル
14．環境と化学　I
15．環境と化学　II

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J60023003
科目名	化学 -kf	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	原子と分子、無機化学および有機化学の各項目について概要を説明し、我々を取り巻く世界が物質の集合体であり、物質の構成と物質の反応を取扱う学問が化学であることを理解する。更に、我々の周囲で起きる科学や技術に関する問題、特に環境問題に関連する事項について化学的知識を元に考察できる習慣をつける。		
教材（テキスト）	中川徹夫著　『化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本』　化学同人　1500 円＋税		
教材（参考文献）	A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税 J.E.Brady, G.E.Humiston 著　『一般化学』（上）（下）　東京化学同人　各 2980 円＋税		
教材（その他）	A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－　問題と解答』　東京化学同人　1700 円（＋税）		
評価方法	小テスト等講義中の課題（50%）、宿題（10%）、定期テスト（40%）		
到達目標	単位の変換や有効数字を理解し、計算することができる。 物質の成り立ちを理解し、原子の構造が説明できる。 物質量の概念を理解し、説明や計算ができる。 様々な濃度計算の式をたてることができる。 物質変換を化学反応として認識し、反応式を作成することができる。		
準備学習	次回の講義内容に相当する部分のテキストを読んでおく。毎回講義後に講義内容を復習し、該当する部分の例題や演習問題を自習する。		

受講者への要望

これまでの化学の履修経験は問わない。授業と並行して例題や教材（その他）の問題集などの演習に積極的に取り組むことが望ましい。あわせて講義で学んだ部分を参考文献などで自習し、理解を深めてもらいたい。評価とは関係のない確認テストも行うことがあるので、1 週間で学んだことを身に付けておく。

講義の順序とポイント

授業の進度によってはずれることもある

1. 化学とはどのような学問か（テキスト 0 章）
2. 測定の体系（テキスト付録）
3. 有効数字（テキスト付録）
4. 原子の構造（テキスト 1 章 1.1）
5. 同位体と原子量（テキスト 1 章 1.2－1.4）
6. 電子配置（テキスト 2 章 2.1－2.4）
7. 化学結合 1：共有結合（テキスト 2 章 2.5－2.6）
8. 化学結合 2：イオン結合（テキスト 3 章）
9. 分子間結合（テキスト 4 章）
10. 物質量（テキスト 5 章）
11. 物質量とその他の物理量（テキスト 6 章）
12. 溶液の濃度 1：百分率濃度（テキスト 7 章 7.1－7.2）
13. 溶液の濃度 2：モル濃度（テキスト 7 章 7.3－7.4）
14. 化学反応式（テキスト 8 章）
15. 化学反応式の量的関係（テキスト 9 章）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J60025001
科目名	地球科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Earth Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる宇宙空間，太陽系，惑星運動，固体地球，地球回転などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学，物理学を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．宇宙空間（1）：膨張宇宙
2．宇宙空間（2）：銀河
3．宇宙空間（3）：恒星
4．太陽系（1）：銀河系
5．太陽系（2）：惑星
6．太陽系（3）：衛星
7．惑星運動（1）：万有引力
8．惑星運動（2）：惑星軌道
9．惑星運動（3）：公転周期
10．固体地球（1）：地球測定
11．固体地球（2）：経緯度
12．固体地球（3）：地球楕円体
13．地球回転（1）：重力
14．地球回転（2）：ジオイド
15．地球回転（3）：転向力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J60026002
科目名	数学	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では数学の体系の中で解析学の基礎となる行列，行列式，微分，積分，複素関数などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	数学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
物理学，地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．行列（１）：ベクトル ２．行列（２）：スカラー積 ３．行列（３）：行列演算 ４．行列式（１）：逆行列 ５．行列式（２）：ベクトル積 ６．行列式（３）：関数行列式 ７．微分（１）：スカラー場 ８．微分（２）：ベクトル場 ９．微分（３）：直交曲線座標 10．積分（１）：線積分 11．積分（２）：面積分 12．積分（３）：体積積分 13．複素関数（１）：複素微分 14．複素関数（２）：複素積分 15．複素関数（３）：級数展開			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60027001
科目名	生物学実験 -k(春前半)…3･4 連続,(春後半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生物を扱うときに、まず、自分が扱っている生き物が、なんという生き物なのかを知ることが必要となる。近年、さまざまな分類群について検索図鑑が出版され、より正確に生物を同定できるようになった。そこで、前半で、魚類標本を材料に、検索図鑑を用いて生物の同定、計測方法を学ぶ。 後半は、土壌動物相の比較、野外での動物観察を行い、野外での生物観察の基本を習得する。得られたデータは、コンピュータを用いて統計処理を行い、比較の方法について学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	中坊徹次編「日本産魚類検索」東海大学出版会 青木淳一編「日本産土壌動物」東海大学出版会 市原清志「バイオサイエンスの統計学」南江堂		
教材（その他）	適宜配布する		
評価方法	レポートによる		
到達目標	どのような考え方で、２つのものを「同じ」ものだと判断するのか、「違う」ものだと判断するのか、基本的な考え方を習得する。		
準備学習	これまでに生物学を学んだかどうかは問いません。身近な生物について、日々、観察の目を向けてください。実験が終了した日にデータ整理を行い、次回に集中すべき内容を整理しておくこと。		
受講者への要望			
観測事実に基づいて、論理的な思考を展開し、生命現象を理解するという訓練をしてもらいたい。また、事実を観測するにあたって、丁寧に根気よく観察する力を養ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1　魚類の分類と同定　検索図鑑の使い方（同定） 2　魚類の分類と同定　標本の記載（計測） 3　魚類の分類と同定　標本の記載（スケッチ） 4　土壌動物の採集と固定　サンプル採取（１） 5　土壌動物の採集と固定　サンプル採取（２） 6　土壌動物の採集と固定　サンプル同定 7　土壌動物の採集と固定　統計を使ったデータ処理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J60027002
科目名	生物学実験 -s(秋後半)…3･4 連続,(秋前半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	講義の概要： 生物学で学んだ知識を習得・錬成するために、様々な微生物、植物、動物を材料として実験・観察を行う。これから学ぶバイオサイエンス系の実験の基礎をこの生物学実験をとおして体得する。また、レポートの書き方、生物データーの扱い方も学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 『フローチャート標準生物学実験』　実教出版　2,300 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	実験レポート(80%)　実験ノートと実験への取り組み方（20%）		
到達目標	実験に臨む心構えや態度を身につける。 実験に必要な器具の使用法を習熟する。 実験結果の扱い方とレポートの書き方を習得する。 実験をとおした生物学の実践的知識を習得する。 生物データーの統計学的計算法を習得する。		
準備学習	事前に配られたテキストで実験内容を予習し、実験ノートを作成しておくこと。 実験終了後は、理解できなかったところを調べて、次の実験までに解決しておくこと。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの実験を受けること。春学期の生物学とセットでとると良い。
レポート提出が重要な評価対象となるので、実験終了後は実験結果をしっかりと整理してレポートを作成すること。
実験結果に基づいて、論理的な思考を持ち、生命現象を理解する訓練をして欲しい。また根気よく観察する力を養ってもらいたい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 統計的な考え方
3. 微生物の観察
4. 植物細胞の観察
5. 体細胞分裂の観察
6. 動物細胞の観察
7. 酵素実験
8. クロロフィルの分析

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J60027003
科目名	生物学実験 -f(秋前半)…3･4 連続	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生物を扱うときに、まず、自分が扱っている生き物が、なんという生き物なのかを知ることが必要となる。近年、さまざまな分類群について検索図鑑が出版され、より正確に生物を同定できるようになった。そこで、前半で、魚類標本を材料に、検索図鑑を用いて生物の同定、計測方法を学ぶ。 後半は、土壌動物相の比較、野外での動物観察を行い、野外での生物観察の基本を習得する。得られたデータは、コンピュータを用いて統計処理を行い、比較の方法について学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	中坊徹次編「日本産魚類検索」東海大学出版会 青木淳一編「日本産土壌動物」東海大学出版会 市原清志「バイオサイエンスの統計学」南江堂		
教材（その他）	適宜配布する		
評価方法	レポートによる		
到達目標	どのような考え方で、２つのものを「同じ」ものだと判断するのか、「違う」ものだと判断するのか、基本的な考え方を習得する。		
準備学習	これまでに生物学を学んだかどうかは問わない。身近な生物について、日々、観察の目を向けてください。実験が終了した日にデータ整理を行い、次回に集中すべき内容を整理しておくこと。単元の区切りごとにレポートを課す。		
受講者への要望			
観測事実に基づいて、論理的な思考を展開し、生命現象を理解するという訓練をしてもらいたい。また、事実を観測するにあたって、丁寧に根気よく観察する力を養ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1　魚類の分類と同定　検索図鑑の使い方（同定） 2　魚類の分類と同定　標本の記載（計測） 3　魚類の分類と同定　標本の記載（スケッチ） 4　土壌動物の採集と固定　サンプル採取（１） 5　土壌動物の採集と固定　サンプル採取（２） 6　土壌動物の採集と固定　サンプル同定 7　土壌動物の採集と固定　統計を使ったデータ処理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J60028001
科目名	化学実験 -s(秋前半)…3･4 連続,(秋後半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	化学実験を行う上で基本となる試薬の取り扱いや実験器具・機器類の正しい使用法を実践的に学ぶ。また実験により得られたデータの扱いとまとめ方を実験ノートとレポートの書き方を通して習得する。実験を安全に行うために、危険物の取扱方法等の教育訓練も適宜行う。		
教材（テキスト）	実験指示書（生物有機化学研究室編集・化学実験指示書） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	安全の手引き（京都学園大学バイオ環境学部編）		
教材（その他）	ビデオ「安全な化学実験のために」 各種データ処理に使用する関数電卓（1500 円程度）		
評価方法	実験レポートの成績(70%)、受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	化学関連の実験に共通の実験操作を経験させるとともに、化学の研究を進めるうえで要求される観察力、論理的思考力、想像力を養う。		
準備学習	配布資料の実験指示書を予め読み、実施内容の概要を把握しておく。　その上で、実験ノートに当日行う実験の目的と方法を事前に記載して実験を行う。		

受講者への要望

専門課程の実験や卒業研究の際の基本になる実験態度、化学物質の取扱方法、器具や機器の使用法を習得する良い機会なので、受講者は毎講時出席した上で実験に慣れて欲しい。

講義の順序とポイント

1. 安全講習、実験器具の取り扱い、ガラス細工
2. 秤量操作と滴定操作の習得
3. 各種試薬・溶液の調製
4. 弱酸の電離平衡と電離定数
5. 緩衝液（バッファー）の pH
6. 反応速度と濃度・温度の関係
7. 植物から精油の抽出
8. 化学実験に必要な基礎知識の理解度テスト、実験器具の整理整頓

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J60028002
科目名	化学実験 -k(春前半)…3･4 連続,(春後半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	化学で学んだ理論を定性および定量実験を通して理解することを目的としている。さらに、化学的な実験をおこなうための基本的な技術を習得する。実験の基本的な考え方を身につける。		
教材（テキスト）	初日に配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税		
教材（その他）	高等学校の化学の教科書 化学の図録		
評価方法	レポート（60%）、小テスト（30%）、平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験操作を習得し、説明することができる。 基本的な実験器具の名称と特徴を理解できる。 化学実験のレポートの基本的な書き方が理解し、適切に記述することができる。		
準備学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講者への要望			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 化学の理論を勉強しておくこと。 環境化学実験と合わせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、化学実験基礎操作１（ガラス器具の名称） 2.　化学実験基礎操作２ーフェーリング反応－（はかり、バーナーの使い方） 3.　化学実験基礎操作３ー残留塩素測定ー（定量ガラス器具の扱い方） 4.　クロマトグラフィーによる混合物の分離 5.　アボガドロ数の測定 6.　無機定性実験１（金属イオンの分離と確認） 7.　無機定性実験２（未知イオンの同定） 8.　小テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J60028003
科目名	化学実験 -f(春前半)…3･4 連続,(春後半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	化学で学んだ理論を定性および定量実験を通して理解することを目的としている。さらに、化学的な実験をおこなうための基本的な技術を習得する。実験の基本的な考え方を身につける。		
教材（テキスト）	初日に配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円（＋税）		
教材（その他）	高等学校の化学の教科書 化学の図録		
評価方法	レポート（60%）、小テスト（30%）、平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験操作を習得し、説明することができる。 基本的な実験器具の名称と特徴を理解できる。 化学実験のレポートの基本的な書き方が理解し、適切に記述することができる。		
準備学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講者への要望			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 化学の理論を勉強しておくこと。 環境化学実験と合わせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、化学実験基礎操作１（ガラス器具の名称） 2.　化学実験基礎操作２ーフェーリング反応－（はかり、バーナーの使い方） 3.　化学実験基礎操作３ー残留塩素測定ー（定量ガラス器具の扱い方） 4.　クロマトグラフィーによる混合物の分離 5.　アボガドロ数の測定 6.　無機定性実験１（金属イオンの分離と確認） 7.　無機定性実験２（未知イオンの同定） 8.　小テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J60029001
科目名	物理学実験（春前半)…3･4 連続,(春後半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Physics		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，長さ，質量，時間，単振子，ばね振子，衝突，電気，磁気などあらゆる測定の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集･処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習，地球科学・演習，環境物理学・実験，環境地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．長さ：面積・体積 ２．質量：天秤・密度 ３．時間：速度・加速度 ４．単振子：振幅・周期 ５．ばね振子：力・振動数 ６．衝突：運動量・力学的エネルギー ７．電気：電流・ジュール熱 ８．磁気：電磁石・磁力			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J60030001
科目名	地球科学実験（秋前半)…3･4 連続,(秋後半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Earth Science		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，年周視差，恒星，惑星，重力，自転，太陽，気象，海洋などあらゆる測定の基本となる観測量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集･処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．年周視差：天文単位・パーセク ２．恒星：光度・絶対等級 ３．惑星：平均距離・公転周期 ４．重力：万有引力・重力加速度 ５．自転：遠心力・転向力 ６．太陽：視直径・太陽定数 ７．気象：気温・気圧 ８．海洋：塩分・組成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J6003300E
科目名	科学英語Ⅰ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English I		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎
2．英文・和文基礎演習
3．可算名詞・不可算名詞
4．可算名詞・不可算名詞演習
5．自動詞・他動詞・人称代名詞
6．自動詞・他動詞・人称代名詞演習
7．第１文型・第３文型
8．第１文型・第３文型演習
9．形容詞
10．形容詞演習
11．第２文型
12．第２文型演習
13．第４文型・第５文型
14．第４文型・第５文型演習
15．総合演習（１）
16．総合演習（２）
17．副詞
18．副詞演習
19．形容詞・副詞の比較級・最上級
20．形容詞・副詞の比較級・最上級演習
21．前置詞
22．前置詞演習
23．助動詞
24．助動詞演習
25．動詞の時制
26．動詞の時制演習
27．受動態
28．受動態演習
29．総合演習（３）
30．総合演習（４）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J6003400A
科目名	科学英語Ⅱ -s1(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜16.　「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。 17.　中間テストをする。 18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J6003400B
科目名	科学英語 II -s2(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English II		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ｉ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語 II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜16.　「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。 17.　中間テストをする。 18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J6003400C
科目名	科学英語Ⅱ -s3(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜16.　「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。 17.　中間テストをする。 18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J6003400E
科目名	科学英語Ⅱ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．基本英語演習
3．疑問詞・特殊疑問文
4．疑問詞・特殊疑問文演習
5．一般・選択・付加疑問文
6．一般・選択・付加疑問文演習
7．命令文・特殊な文
8．命令文・特殊な文演習
9．否定文
10．否定文演習
11．動名詞・不定詞
12．動名詞・不定詞演習
13．分詞・不定詞基本
14．分詞・不定詞基本演習
15．総合演習（1）
16．総合演習（2）
17．品詞・句・節
18．品詞・句・節演習
19．目的語をとる分詞句
20．目的語をとる分詞句演習
21．目的語をとる不定詞句
22．目的語をとる不定詞句演習
23．使役動詞と原型不定詞
24．使役動詞と原型不定詞演習
25．知覚動詞
26．知覚動詞演習
27．等位接続詞
28．等位接続詞演習
29．総合演習（3）

30. 総合演習（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	★	−	★

年度	2016	授業コード	J6003400F
科目名	科学英語Ⅱ -s 春(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜16.　「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。 17.　中間テストをする。 18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J6003500A
科目名	科学英語A -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	総合英語ならびに科学英語基礎で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（テキスト）	”The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）（Prieto Rafael 京都学園大学）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内の小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講者への要望

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

1）　Guidance
2, 3）　Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5）　Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7）　Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9）　Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11）　Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13）　Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15）　Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16）　Midterm Exam
17, 18）　Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20）　Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22）　Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24）　Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26）　Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28）　Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30）　Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	★	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J6003500B
科目名	科学英語Ａ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（１）
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（１）
23．分詞構文（２）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題
26．仮定法
27．準否定と部分否定
28．二重否定
29．読解問題
30．総合演習（２）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J6003500C
科目名	科学英語A -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
講義概要	総合英語ならびに科学英語基礎で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（テキスト）	”The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）（Prieto Rafael 京都学園大学）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内の小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講者への要望

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

1）　Guidance
2, 3）　Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5）　Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7）　Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9）　Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11）　Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13）　Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15）　Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16）　Midterm Exam
17, 18）　Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20）　Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22）　Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24）　Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26）　Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28）　Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30）　Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J6003500D
科目名	科学英語Ａ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（1）
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（1）
23．分詞構文（2）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題
26．仮定法
27．準否定と部分否定
28．二重否定
29．読解問題
30．総合演習（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	★	-	★

年度	2016	授業コード	J6003500E
科目名	科学英語A -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	総合英語ならびに科学英語基礎で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（テキスト）	”The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）（Prieto Rafael 京都学園大学）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内の小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講者への要望

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

1） Guidance
2, 3） Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5） Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7） Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9） Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11） Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13） Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15） Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16） Midterm Exam
17, 18） Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20） Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22） Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24） Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26） Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28） Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30） Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J6003500F
科目名	科学英語 A -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。「科学英語 A」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目的とする。		
教材（テキスト）	『The Earth and Our Health』　（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版　（文英堂編集部　文英堂）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社）		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、課題の提出 ：（20%） 中間試験 ：（20%） 期末試験 ：（60%）		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また、毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

各講義で確認小テストを実施する。
シグマ基本問題集英文法の学習を宿題として毎回課し、その内容は小テストの出題範囲とする。

講義の順序とポイント

『The Earth and Our Health』を精読することによって、英語のパラグラフ構成を理解し、科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。

1.　ガイダンス
2. 3. Unit 1 : よく寝てよく学べ
4. 5. Unit 2 : 散歩は健康の第一歩
6. 7. Unit 3 : 喫煙は不健康な選択
8. 9. Unit 4 : ストレスは病気のもと
10. 11. Unit 5 : もういや！アレルギーよ、さらば
12. 13. Unit 6 : がんの徴候を見逃すな
14. 15. まとめ①
16.　中間試験と解説
17. 18. Unit 7 : 酒は百薬の長って本当だった？
19. 20. Unit 8 : 自然の摂理はどうなる？遺伝子組み換え作物
21. 22. Unit 9 : この中に何が入っているの？変わる有機食品表示
23. 24. Unit 10 : さらに頑張る人のためのスポーツ・サプリメント
25. 26. Unit 11 : チキンスープより効果がある新しいかぜ薬
27. 28. Unit 12 : 薬をはねつける耐性菌
29. 30.　まとめ②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J6003500G
科目名	科学英語 A -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。「科学英語 A」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目的とする。		
教材（テキスト）	『The Earth and Our Health』　（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版　（文英堂編集部　文英堂）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社）		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、課題の提出 ：（20%） 中間試験 ：（20%） 期末試験 ：（60%）		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また、毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

各講義で確認小テストを実施する。
シグマ基本問題集英文法の学習を宿題として毎回課し、その内容は小テストの出題範囲とする。

講義の順序とポイント

『The Earth and Our Health』を精読することによって、英語のパラグラフ構成を理解し、科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。

1.　ガイダンス
2. 3. Unit 1 : よく寝てよく学べ
4. 5. Unit 2 : 散歩は健康の第一歩
6. 7. Unit 3 : 喫煙は不健康な選択
8. 9. Unit 4 : ストレスは病気のもと
10. 11. Unit 5 : もういや！アレルギーよ、さらば
12. 13. Unit 6 : がんの徴候を見逃すな
14. 15. まとめ①
16.　中間試験と解説
17. 18. Unit 7 : 酒は百薬の長って本当だった？
19. 20. Unit 8 : 自然の摂理はどうなる？遺伝子組み換え作物
21. 22. Unit 9 : この中に何が入っているの？変わる有機食品表示
23. 24. Unit 10 : さらに頑張る人のためのスポーツ・サプリメント
25. 26. Unit 11 : チキンスープより効果がある新しいかぜ薬
27. 28. Unit 12 : 薬をはねつける耐性菌
29. 30.　まとめ②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J6003500H
科目名	科学英語Ａ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（1）
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（1）
23．分詞構文（2）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題
26．仮定法
27．準否定と部分否定
28．二重否定
29．読解問題

30. 総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	★	−	★

年度	2016	授業コード	J6003600A
科目名	科学英語Ｂ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。		
教材（テキスト）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,944 円		
教材（参考文献）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・　英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2016	授業コード	J6003600B
科目名	科学英語Ｂ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（1）
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（2）
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（3）
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（4）
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（5）
6．総合演習（1）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）
12．総合演習（2）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）
18．総合演習（3）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）
24．総合演習（4）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）
26．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（2）
27．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（3）
28．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（4）
29．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（5）
30．総合演習（5）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J6003600C
科目名	科学英語Ｂ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
講義概要	自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。		
教材（テキスト）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,944 円		
教材（参考文献）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・ 英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	J6003600D
科目名	科学英語Ｂ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（1）
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（2）
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（3）
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（4）
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（5）
6．総合演習（1）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）
12．総合演習（2）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）
18．総合演習（3）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）
24．総合演習（4）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）
26．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（2）
27．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（3）
28．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（4）
29．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（5）
30．総合演習（5）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	★	-	★

年度	2016	授業コード	J6003600E
科目名	科学英語Ｂ -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。		
教材（テキスト）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,944 円		
教材（参考文献）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・ 英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	J6003600G
科目名	科学英語Ｂ -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	「科学英語Ａ」に続く科目として、2 回生の秋学期に開講する。科学英語Ａ同様に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現の習得を目指しながら、さらに自然科学分野で多用される専門用語の理解を深め、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	『The Earth and Our Health』（小林 敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部 文英堂）		
教材（参考文献）	『ライフサイエンス必須英和・和英辞典』 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、課題の提出：20% 中間試験：40% 定期試験：40%		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。確認小テストをやります。

講義の順序とポイント

『The Earth and Our Health』の続きを精読することによって、英語のパラグラフ構成を理解し、科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。

1.　ガイダンス
2. 3. 科学英語 A の復習
4. 5. 科学英語 A の復習
6. 7. Unit13： Global Warming
8.9.　Unit 14　Solar Energy
10.11. Unit15　A Dropin the Bucket
12. 13. Unit 16 A Brown Cloud over Asia
14. 15. Unit 17 Cleaning up the Mess
16.　中間テスト
17. 18. Unit 18 Building a Nuclear Mountain
19. 20. Unit 19 Where Have All the Forests Gone?
21. 22. Unit 20 Dust in the Wind
23. 24. Unit 21 Keeping the Dead Sea Alive
25. 26. Appendix 1
27. 28. Appendix　2
29. 30. Appendix　3

Appendix は別途資料を準備する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	–

年度	2016	授業コード	J6003600H
科目名	科学英語Ｂ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（1）
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（2）
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（3）
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（4）
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（5）
6．総合演習（1）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）
12．総合演習（2）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）
18．総合演習（3）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）
24．総合演習（4）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）
26．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（2）
27．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（3）
28．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（4）
29．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（5）

30. 総合演習（5）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	★	−	★

年度	2016	授業コード	J6004300A
科目名	バイオサイエンス概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bioscience Research		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	バイオ環境概論Ⅰ
講義概要	バイオサイエンス学科の全専任教員が担当する。各自が関わってきたそれぞれの研究や学問分野のトピックスを講義し、環境問題に配慮したバイオサイエンスの諸科学やその展開過程での考え方、哲学、面白さなどを伝授するオムニバス形式の講義である。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	パワーポイントでの講義となる。		
評価方法	興味をもった教官の講義 2 件について、期末に内容を 1000 字程度のレポートとして提出してもらい、当該教員がその内容を評価する。		
到達目標	バイオサイエンスのカバーする広い分野について、全般的な理解をして貰うことが狙いである		
準備学習	オムニバス形式の講義で、予習を指示するのが難しいが第 1 回目のイントロダクションで 15 回の講義の概要を解説するので、関連事項を web などで調べておくこと。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の専任教員全員の専門分野の紹介であるので、将来の卒論を始め、この学科での学びのバックグラウンドとして真剣に受講して欲しい。

講義の順序とポイント

1　イントロダクション（バイオサイエンス概論とは）オムニバス形式の講義内容の紹介。
2　植物環境連関学（不良環境に対する植物の適応戦略）不良土壌に対する植物の適応と遺伝子工学による耐性獲得。
3　植物細胞工学（植物バイオの現状と展望）持続可能な社会における「植物」の役割と植物バイオ技術の現状と展望。
4　分子植物生理学（植物の形つくりの秘密）植物を形づくる細胞生長過程ー細胞伸長の制御タンパク質を中心に。
5　食品化学（機能性食品の開発）食品及び食品成分の栄養性、健康機能性の解説。
6　生体栄養科学（がん発生にからむ健康と食品）がん発生のメカニズム、食品中の発がん性物質および発がん抑制物質の紹介。
7　食品薬理学(食品の持つ生体調節機能)食品の持っている医薬品に似た効能効果やその評価法について。
8　化学生態学（化学生態学とは何か）生物学と有機化学の境界領域である化学生態学の概要紹介。
9生物有機化学（生理活性物質の化学）生物活性物質を生合成、機能からとらえ、理論と具体例について解説する。
１０　　天然物化学（さまざまな機能性分子）有機化学の基礎の解説、多様な生理活性物質の紹介。
１１　遺伝子工学（遺伝子からみた生物の環境適応）環境ストレスに応答する遺伝子について、基礎的な話題や研究の展望の紹介。
１２　分子生物学（遺伝子、タンパク質研究の最前線）生命活動や病気との関わりなども含め、遺伝子やタンパク質研究の最前線について概説。
１３　応用微生物学（役に立つ微生物）微生物はどのように人間の役に立ってきたか。発酵・醸造や物質生産への応用について。
１４　産業微生物学（微生物と環境問題）環境問題、地球温暖化問題に対して微生物に何ができるか。産業微生物学からの解答。
１５　（総合討論）　バイオサイエンス概論を学んで。このオムニバス講義で得た新しい知見や視点についての討議。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J6004500A
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA） -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	実習農園で各自に一定面積の受持ちの区画を配分する。夏野菜を中心に栽培し、苗作りからその収穫までの栽培法や栽培環境管理方法などを体験する。単に栽培技術の重要性の認識だけでなく、この作物栽培実習を通して、土壌、温度などの物理的環境、肥料、農薬などの化学的環境、病害虫や益虫などの生物的環境など生物と環境について広く考えるきっかけを作る。「キャンパスの横に農場がある」、「農場の中に教室がある」地の利を活かし、実習時間以外の観察・体験も大切にし、作物を育て、収穫し、食する喜びを体験する。		
教材（テキスト）	なし、適宜講義プリントを配布する。		
教材（参考文献）	「新版野菜栽培の基礎」池田英男・川城英男編著、農山漁村文化協会 「おいしい野菜づくり」加藤義松監修、成美堂出版など		
教材（その他）	野菜や作物の栽培に関する図書が図書館バイオ環境分室にあるので適宜参考にすること。		
評価方法	平常点（栽培作業状況など）　50% レポート　50%		
到達目標	作物栽培を通じて植物の生育や環境に対する観察力、生物と環境のかかわりについて考える基礎力を養う。		
準備学習	毎回の実習で観察したこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことなどを調べて、次回の実習に活かすように心がける。　次回実習に向けた調べ学習を指示するので、書籍やインターネットなどで調べておくこと。また作業中に超面した疑問などを持ち帰り、書籍やインターネットで調べ直し、疑問を持ち越さないように務めること。		

受講者への要望

トレーナーなど作業ができる服装、長靴、軍手などは受講者が用意する。
野帳（持ち運びできるハンディーな観察記録ノート）に栽培中に観察したことなどを必ず記録する。
実習中の観察などからある項目をとりあげ、これについて調べ、レポートにまとめる積極的な取組みを望む。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション、種まき、作物資料調査
2．実習講義および区割り，耕起・畝立て・整地、種まき
3．実習講義および耕起・畝立て・整地
4．実習講義および移植、支柱の準備などの栽培管理と記録
5．実習講義および除草，施肥、支柱やネットの設置などの栽培管理と記録
6．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
7．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
8．中間検討会
9．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
10．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
11．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
12．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
13．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
14．収穫、後片付けと整理、品評会および検討会
15．収穫、後片付けと整理、栽培記録の取りまとめ、レポート作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J6004500B
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA） -k	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	作物栽培管理実習
講義概要	畑（夏野菜・黒豆）と水田（イネ）での栽培体験を通じて作物の栽培の大筋をつかむ。同時に栽培にかかわる準備調整についても手順や内容について理解をする。畑水田のあぜなどの周辺部の管理を確認する。栽培技術については敷藁などの生物素材の有効性について理解を深める。		
教材（テキスト）	作物リスト、その栽培法など必要に応じて準備します。		
教材（参考文献）	京野菜を楽しむ　淡交社 現代農業など		
教材（その他）	農業資材・肥料などについては実物を用意しますので各自判断をして使用してください。		
評価方法	管理作業状況 70%、レポート 30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化をまなぶ。また栽培技術の初歩を習得する。イネおよび黒豆の収穫は秋期になりますので夏休みの対策を考えておくこと。		
準備学習	農業関係の書籍を読んで置くこと。例えば現代農業、最新園芸技術 6 野菜の生態と作型の該当する作物について読んで理解を深めておくこと。さらにキャンパス周辺の農地などを観察し,どのような作業をしているかをつかんでおく。最終的にまとめのレポートを提出数ｒことも考慮し、毎回終了後の作業日誌などの記録を必ず取っておくこと。		
受講者への要望			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてのことと思われます。毎週自分の管理する作物と農地（畑と水田）の変化を記録するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.実習のガイダンス 2.資材の調達（支柱、敷き藁、ネット、肥料の調整） 3.畑作業と記録１（整地、区割り、ネット） 4.畑作業２（播種） 5.水田作業と記録１（区割りなど田植え準備） 6.水田作業と記録２（田植え） 7.畑作業と記録３（敷き藁調整、畦除草） 8.畑作業と記録４（除草） 9.畑作業と記録５（除草） 10.水田管理と記録３（施肥と除草） 11.水田管理と記録４（水田生物観察と除草効果観察） 12.畑作業と記録６（黒豆播種、除草と記録） 13.水田管理と記録５（病害虫の観察、除草） 14.畑作業と記録７（収穫、重量測定記録） 15.農作物の加工と利用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	J6004500C
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA） -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	畑圃場（夏野菜・黒豆）と水田（イネ）での栽培体験を通じて作物の栽培の大筋をつかむ．同時に栽培にかかわる準備調整についても手順や内容について理解をす る．畑圃場・水田のあぜなどの周辺部の管理を確認する．栽培技術については敷きわらなどの生物素材の有効性についての理解をも深める．		
教材（テキスト）	作物リスト，その栽培法などを必要に応じて準備する．		
教材（参考文献）	「京野菜を楽しむ」　上田耕司・星川真一　著　（淡交社） 月刊 「現代農業」 （農文教）　など		
教材（その他）	農業資材・肥料などについては実物を用意するので，各自判断をして使用する．不明の場合は教員に質問すること．		
評価方法	管理作業状況７０％、レポート 30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化を学ぶ．また複数の作物を栽培することにより，その栽培技術の初歩を習得する．		
準備学習	農業関係の書籍を読んで置くこと．例えば月刊誌である「現代農業」,「最新園芸技術　6　野菜の生態と作型」の該当する作物について読んで理解を深めておくこと．さらにキャンパス 周辺の農地などを観察し，どのような作業をしているかをつかんでおく．最終的にまとめのレポートを提出することも考慮し，毎回終了後の作業日誌などの記録 を必ず取っておくこと．		

受講者への要望

多くの学生にとって作物の栽培は初めてのことと思われる．どのよう作業を行い，それが収穫物にどのような影響を与えたかを理解するために，毎週自分の管理する作物と農地（畑と水田）の変化を記録するのが望ましい．

講義の順序とポイント

1．実習のガイダンス
2．資材の調達（支柱，ポリマルチ，肥料の調整）
3．畑作業と記録１（整地，区割り，マルチ敷設）
4．畑作業２（播種・定植）
5．水田作業と記録１（区割りなど田植え準備）
6．水田作業と記録２（田植え）
7．畑作業と記録３（畑圃場除草・畦除草）
8．畑作業と記録４（除草）
9．畑作業と記録５（除草）
10．水田管理と記録３（施肥と除草）
11．水田管理と記録４（水田生物観察と除草効果観察）
12．畑作業と記録６（黒豆播種，除草と記録）
13．水田管理と記録５（病害虫の観察，除草）
14．畑作業と記録７（収穫，重量測定記録）
15．農作物の加工と利用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2016	授業コード	J60047001
科目名	バイオ環境技術動向	単位数	2
科目名（英語表記）	Trends in Bioenvironmental Techniques		
担当者名	田﨑　雅晴	旧科目名称	
講義概要	地球環境が危惧されている現代、バイオテクノロジーを利用した技術が注目されている。しかし我々はそれ以前より、環境に生物を取り入れた技術の恩恵を受けている。 本講義では、生物と環境との基本的な繋がりを確認して、それを利用してきた技術の流れを理解してもらうことから始める。それを理解した上で、「地球環境の現状と対策」「環境の利用/浄化」「環境の創造」等について、普遍的な環境バイオ技術から、近年注目されている新しい環境バイオの話題までを紹介する。 この講義により環境バイオテクノロジーを学ぶ研究者としての最低限の知識と考え方を身につけて頂きたい。		
教材（テキスト）	使用せず		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布		
評価方法	前半及び後半での筆記試験と平常点（受講態度、積極性等）。		
到達目標	・環境とバイオテクノロジーの歴史を理解する。 ・身の回りの生活にバイオテクノロジーが密着に関与していることを認識する。 ・現社会における問題とバイオテクノロジーとの関連を理解する。 ・生態系、生物多様性の意味と重要性を理解する。		
準備学習	・報道されている現代社会の問題を「地球環境」「バイオテクノロジー」を研究する者の目で考えておく。		

受講者への要望

・常識的な態度で受講すること。
・試験は前半と l 後半の 2 回に分けて実施する予定である。
・就職活動等、正当な理由での欠席の場合は、必ず申し出て、所定の手続きを行うこと。

講義の順序とポイント

1．環境とは何か？
2．バイオテクノロジーを利用した環境の利用/浄化
●バイオテクノロジーと環境
●地球環境の現状（温暖化への対策）
●バイオマスの利用技術について
●生物を利用した水質浄化（水処理）について
●バイオテクノロジーを利用した土壌汚染浄化について
●環境に関するトピックス
3．自然環境の保全・修復・創造
●生物多様性保全と企業の役割
●生態系のプランニング（生態計画技術）
●環境アセスメントとミティゲーション（生態系保全技術）
●参加型の環境創造に向けて（住民や学生の参加によるビオトープ計画）
●これからの環境計画

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J6004900A
科目名	基礎バイオサイエンス実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Bioscience		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンス学科の全ての専任教員による各分野の基本的な実験をオムニバス方式で体験する。 バイオサイエンス各分野の特徴的な基礎実験を体験することで、専門分野で必要となる機器操作や基本技術、実験に関する規範を修得する。 バイオ環境学部バイオサイエンス学科の共通教育過程で重要な専門基礎科目である。		
教材（テキスト）	各分野毎に、各研究室から配布される実験の手順書や指南書を用いる。		
教材（参考文献）	『イラストで見る超基本バイオ実験ノート』（羊土社）(ISBN4-89706-920-3) 『アット・ザ・ベンチ』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）(ISBN4-89592-258-8)		
教材（その他）	必要に応じて実験時間中に、教材を紹介する。		
評価方法	すべての実験レポート提出が必須であり、各分野毎に実験レポートの成績（70%)と教員各位からの実験課題の内容を評価（30%)し、研究分野毎の評価を総計し、五研究室分の評価を総合して評価する。		
到達目標	バイオサイエンス分野の基礎的な実験の内容と原理を理解し、技法を習得し、結果を整理し、まとめて発表できるレポートを毎回期日内に作成する。 基本的な技量を身につけ、各課題を探求し学修することで理解を深めることを達成目標にする。		
準備学習	各実験の実験指示書に前もって必ず目を通し、実験前に自分で実験の概要を各自の実験ノートに記載し、準備すること。 実験課題について先ず把握に努め，理解できる部分と不明な部分、理解できない部分、疑問点などを区別できるように準備して実験実習に臨むこと。		
受講者への要望			
バイオサイエンス分野で必要となる専門実験実習の正しい基本を習得するものであり、レポート作成も含めて基礎教育訓練であるから、事前にしっかり準備して、実験開始の 10 分前までに白衣に着替えて大実験室に入室すること。			
講義の順序とポイント			
1. 実験全体の説明・実験室の機器利用説明・実験準備・レポートの書き方など （中村） 〔2016 年 9 月 29 日〕 2. グリニャール反応を利用したトリフェニルカルビノールの合成 （若村・一丸・清水伸） 〔2016 年 10 月 6 日〕 3. クロマトグラフィーによる物質の分離 （若村・一丸・清水伸） 〔2016 年 10 月 13 日〕 4. 定性分析実験と機器分析の基礎実習 （若村・一丸・清水伸） 〔2016 年 10 月 27 日〕 5. 生体試料の扱いと DNA の抽出と定量 （中村・松原） 〔2016 年 11 月 3 日〕 6. 生体試料からのタンパク質の調製と分画の基礎 （中村・松原） 〔2016 年 11 月 10 日〕 7. 微生物学実験法：顕微鏡観察法 （萩下・櫻間） 〔2016 年 11 月 17 日〕 8. 微生物学実験法：染色法 （萩下・櫻間） 〔2016 年 11 月 24 日〕 9. 澱粉の加水分解と生成グルコースの定量 （矢野・藤田） 〔2016 年 12 月 1 日〕 10. 食品中に含まれるビタミンＣの定量分析 （矢野・藤田） 〔2016 年 12 月 8 日〕 11. 植物の生体成分の定量 （髙瀬・プリエト） 〔2016 年 12 月 15 日〕 12. 植物のタンパク質含量の定量 （髙瀬・プリエト） 〔2016 年 12 月 22 日〕 13. 薬品の種類とそれらの取扱い・廃棄・管理・濃度計算などについて（中村）[2017 年 1 月 12 日] 14. “基礎バイオサイエンス実験”の基本ポイントから、“専門実験への道”（中村） 〔2017 年 1 月 19 日〕 15. 3 回生の専門実験に向けてのグループ討論 （中村） 〔2017 年 1 月 24 日〕			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2016	授業コード	J6005000A
科目名	バイオ環境事業見学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Trips for Learning Bioenvironmental Scie nce		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境の事業体・事業地ないしは工場の現地見学。		
教材（テキスト）	見学先事業所から配布される資料。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	見学先事業所のホームページ、類似する事業所のウエブサイト、バイオ環境に関わる事業に関する一般書籍。		
評価方法	実習レポート評価（100％）		
到達目標	百聞は一見に如かず。　バイオ環境事業所の現場の取り組みを知る。		
準備学習	訪問する事業所の情報をインターネット等で収集し、事業内容、取り組み、社会的背景、歴史的背景などを事前学習すること。また、調べたことをレポート作成に生かすこと。		
受講者への要望			
事前学習で生じた疑問、事業所を訪れて生じた疑問、提案などを積極的に質問してください。			
講義の順序とポイント			
複数のコース中の１コースを選択し、バイオ関連企業の工場、ないしは環境保全事業体などを訪れ、実地に現場技術と現場・経営環境を見学し、説明案内を受ける。実習後、レポートを提出する。なお、予備知識を得るため、事前説明（集中）を実施する。見学実習は９月中旬を予定している。実施詳細は７月に公示する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J60051001
科目名	環境生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Biology		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	地球温暖化、森林破壊、食糧危機など、21 世紀に深刻化することが危惧される諸問題の理解には、地球環境や地域環境に対する学際的・分野横断的なアプローチが不可欠である。本科目では、大気、地形、土壌などの非生物的環境と、その中で生きる主体としての生物との相互作用を理解すると共に、その相互作用の中での人間活動の関わりを総合的な視点で捉えることを目指す。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	分野が多岐にわたるため、毎回の授業の中で紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（50 点）と、期末試験（50 点）により評価する。		
到達目標	非生物的環境と生物の相互作用に関わる基礎知識の習得と、その相互作用の中での人間活動の関わりを理解する。また、これまでの人間活動の功罪と、今後の暮らしのあり方を論ずる視点を身につける。		
準備学習	講義のレジメを事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 また、毎回の講義で、前回講義の復習のための小テスト（ノート持込み可）を行うので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。

講義の順序とポイント

1　環境生物学とは？
2　土壌は一日にしてならず：岩石が土に変わるまで
3　土壌と生物の相互作用：いのちを育む土の役割
4　大気と生物の相互作用：炭素循環を考える
5　世界を変えた窒素固定：ハーバー・ボッシュ法の功罪
6　自然の価値の評価法の変遷：自然度から生物多様性へ
7　自然条件下の植生遷移：極相林と動的平衡
8　人為作用下の植生遷移：草地や林地の持続的管理
9　競争排他 vs 多種共存：生物の多様性を支えるしくみ
10　動物と植物の相互作用 1 ：送粉
11　動物と植物の相互作用 2 ：種子散布
12　農地と林地の複合利用：アグロフォレストリーの展望
13　森を畑に、畑を森に：焼畑に受け継がれる在来知
14　焼畑を活かした日本の森づくり：焼畑の現代的意義
15　生態資源の持続的利用：生物生産と環境保全の調和

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J60052001
科目名	環境化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	私たちの身の回りには、私たちの健康に直接の害作用がある物質がいくつかある。これらの物質は、空気を通じて、また飲み水や食べ物を通じて体内に入り込み、害作用を示す。このような直接的に害作用を及ぼす物質が、どこで発生して、どんな害をもたらすのかを化学的な視点から講義する。前半では、ダイオキシンや農薬などの問題などを取り上げる。またそれに加え、放射性物質についても取り上げる。後半では、地球環境問題として二酸化炭素の発生、アスベスト問題、シックハウス症候群、重金属汚染問題などを取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	新版生活と環境三共出版 わかる環境科学三共出版 「放射線･アイソトープを取り扱う前に－教育訓練テキスト－」、日本アイソトープ協会、丸善、2005		
教材（その他）	講義に必要な教材は適宜指示あるいは配布する		
評価方法	前半はレポートと事前学習などの平常点(30 点)と中間小テスト(20 点)で 50 点、後半の無機分野分野は小テスト(20 点)期末テス(30 点)で 50 点、合計 100 点満点で評価する。		
到達目標	各種の環境化学物質について正当な評価ができ、害がある物質で被害を受けないように、基礎知識を身に付ける。		
準備学習	身近にある食品、洗剤、化粧品、スプレーなどに書いてある「成分」の表示を普段から見るように心がけること。また、ＴＶや新聞に見かける化学物質についてインターネットなどで化学構造や性質について調べる習慣をつけること。講義に必要な資料は事前配布する。予習して内容や質問点をまとめておくこと。		
受講者への要望			
本講義を通して、環境問題の本質を理解して貰いたい。また、秋学期に「社会と環境問題」履修する人は、この講義を必ず履修して欲しい。			
講義の順序とポイント			
1.　ダイオキシン問題　－　その後ん十年、今も続くリスク 2.　ダイオキシンと環境ホルモン　－　おそれるな、あなどるな 3.　放射性物質とは　－　核爆弾と原子炉で作られる人工放射性物質 4.　放射線の生物への影響　－　放射線で誘発される突然変異 5.　放射線の人体への影響　－　原爆被爆者と原子炉事故の被曝者の健康状態から推定するしかない 6.　農薬の基礎知識　－　農薬取締法 7.　「農薬」をめぐる様々な問題　－　功罪を冷静に見きわめよう 8.　化学物質の名称（化学式の書き方、有機物と無機物）　－　同じ物質にいくつも名前がある！ ☆ 中間小テスト☆ 9.　燃焼の化学　－　一酸化炭素と二酸化炭素の発生 10.　石油石炭の燃焼　－　硫黄酸化物と窒素酸化物の発生、光化学オキシダントの生成 11.　アスベスト（石綿）問題 12.　シックハウス症候群　－　ホルムアルデヒドや有機溶剤の害 13.　混ぜるな危険　－　塩素ガスの発生 14.　鉱工業からの廃水　－　重金属による公害病 15.　食中毒			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J60053001
科目名	環境物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で環境物理学の基礎となる質点系，連続体，振動，波動，光などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学実験，環境地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．質点系（１）：並進運動 ２．質点系（２）：回転運動 ３．質点系（３）：角運動量保存則 ４．連続体（１）：剛体 ５．連続体（２）：弾性体 ６．連続体（３）：流体 ７．振動（１）：円運動 ８．振動（２）：単振動 ９．振動（３）：弾性ポテンシャル 10．波動（１）：波動方程式 11．波動（２）：音波 12．波動（３）：光波 13．光（１）：干渉 14．光（２）：回折 15．光（３）：偏光			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60053002
科目名	環境物理学（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で環境物理学の基礎となる質点系，連続体，振動，波動，光などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学実験，環境地球科学を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．質点系（1）：並進運動
2．質点系（2）：回転運動
3．質点系（3）：角運動量保存則
4．連続体（1）：剛体
5．連続体（2）：弾性体
6．連続体（3）：流体
7．振動（1）：円運動
8．振動（2）：単振動
9．振動（3）：弾性ポテンシャル
10．波動（1）：波動方程式
11．波動（2）：音波
12．波動（3）：光波
13．光（1）：干渉
14．光（2）：回折
15．光（3）：偏光

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60054001
科目名	環境地球科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Earth Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる地殻，地震，火山，地球内部，地球磁場などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学・実験を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．地殻（1）：大陸地殻
2．地殻（2）：海洋地殻
3．地殻（3）：アイソスタシー
4．地震（1）：プレートテクトニクス
5．地震（2）：地震波
6．地震（3）：マグニチュード
7．火山（1）：火山活動
8．火山（2）：マグマ
9．火山（3）：火山地形
10．地球内部（1）：マントル
11．地球内部（2）：外核
12．地球内部（3）：内核
13．地球磁場（1）：磁極
14．地球磁場（2）：地磁気
15．地球磁場（3）：極性変化

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60054002
科目名	環境地球科学（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Earth Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる地殻，地震，火山，地球内部，地球磁場などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学・実験を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．地殻（1）：大陸地殻
2．地殻（2）：海洋地殻
3．地殻（3）：アイソスタシー
4．地震（1）：プレートテクトニクス
5．地震（2）：地震波
6．地震（3）：マグニチュード
7．火山（1）：火山活動
8．火山（2）：マグマ
9．火山（3）：火山地形
10．地球内部（1）：マントル
11．地球内部（2）：外核
12．地球内部（3）：内核
13．地球磁場（1）：磁極
14．地球磁場（2）：地磁気
15．地球磁場（3）：極性変化

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60055001
科目名	環境生物学実験 -f(秋前半)…3･4 連続	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	本科目では、里山などの身近な自然の植生調査や検索図鑑を用いた植物の同定、土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得すると共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深めることを目指す。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	実習への参加状況等による平常点（50 点）と、最終レポート（50 点）により評価する。		
到達目標	植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。		
準備学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。		
受講者への要望			
フィールドでの体験を通じ、身近な自然を読み解く目を養ってください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取 3　里山の環境を調査するII：植物相調査 4　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定 5　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ 6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する 7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析 8　レポートのまとめ方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J60055002
科目名	環境生物学実験 -s(秋前半)…3・4 連続,(秋後半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	野外での生物調査で必要となる生物の同定・分類、調査・分析、データ解析の基礎的な方法を体験する。特に本科目では樹木植生と土壌に関する調査に焦点を当て、検索図鑑を用いた植物の同定、里山などの身近な自然の植生調査や土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	実習への参加・フィールドノート作成状況等による平常点（50 点）と、最終レポート（50 点）により評価する。		
到達目標	植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。と共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深める。		
準備学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。野外での調査では調査内容を記録することが、その後の調査計画・仮説立案にとって重要となる。本実験用に記録ノートを準備すること。		

受講者への要望

フィールドでの体験を通じ、身近な自然に潜む因果関係に対する洞察力を養ってください。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定
3　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ
4　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取
5　里山の環境を調査するII：毎木調査
6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する
7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析
8　レポートのまとめ方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J60055003
科目名	環境生物学実験 -k(春後半)…3・4 連続,(春前半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	本科目では、里山などの身近な自然の植生調査や検索図鑑を用いた植物の同定、土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得すると共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深めることを目指す。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	実習への参加状況等による平常点（50 点）と、最終レポート（50 点）により評価する。		
到達目標	植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。		
準備学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。		
受講者への要望			
フィールドでの体験を通じ、身近な自然を読み解く目を養ってください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取 3　里山の環境を調査するII：植物相調査 4　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定 5　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ 6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する 7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析 8　レポートのまとめ方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	J60056001
科目名	環境化学実験 -s(秋後半)…3・4 連続,(秋前半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	環境分析法の初歩的な実習として無機環境化学実験（3 回分）と有機環境化学実験（4 回分）を秋学期の後半に実施する。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	特に定めない		
教材（その他）	必要な教材・器具は教官が配布あるいは準備するが、一部の材料は実験者自身で準備する。		
評価方法	実験ごとのレポート(7 回分)と実験ノートの内容で 80%、これに準備学習や受講態度などの平常点 20%を加味して評価する。		
到達目標	生活に欠かせない水。生活や産業活動により、様々な物質が水に含まれてくる。水の浄化や水質検査の基本的な手法に触れ、分析法の基本的技術を学んでほしい。生活の中で廃棄せざるを得ないプラスチックや食用油の再利用法を実際に行ってみて、分別や再利用の大切さや問題点についての認識を深めてほしい。		
準備学習	実験の１週間前には、実験指示書を配布して概要を説明する。実験当日までに指示書を熟読し、手順や質問事項を実験ノートにまとめておくこと。また、それぞれの実験の基礎的知見に関する課題を出題する。実験当日までに、書籍やインターネットを活用して調べておくこと。		

受講者への要望

本実験は、これに先立つ化学実験に続いて化学の基本操作を習熟し、２回生配分の基礎バイオ実験に橋渡しする意味でも重要でもある。化学と化学実験を受講して基本的な知識と操作について習熟しておいてほしい。
実験には、危険性が高い操作が含まれる。取り扱い方を間違えると取扱者自身だけでなく、近くにいる人にも危害が及ぶ。実験開始前の教員の説明と指示を注意深く聴き、役割分担について同じ班のメンバーと十分に意思疎通をはかって進めること。
実験には、背綴じのノートを持参すること。ページの差し替え可能なルーズリーフタイプは不可。
実験ノートは、実験の最初から最後まですべての記録であると心得てほしい。

講義の順序とポイント

有機環境化学実験
1 プラスチック製品の科学的識別　－　身近なプラスチックの素材を見分ける
2 発泡ポリスチレンのリサイクル　－　かさばるポリスチレンをコンパクトに回収
3 廃食用油からバイオジーゼル燃料油の調製　－　エステル交換反応
4 廃食用油からセッケンを作る　－　油脂のけん化
実験２～４にはそれぞれ１週間放置する操作が含まれるため、２～３回にわたって実施する。
操作は２～３回にわたっても、レポートはそれぞれの実験テーマごとに提出する。
無機環境化学実験
1 環境水水質と浄化　－　汚濁水の浄化とは
2 環境水中のチッソ成分の測定　－　アンモニア態チッソと硝酸態チッソを別々に測定
3 水道水中の残留塩素の測定　－　水道水を安全に飲めるのは？

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J60056003
科目名	環境化学実験 -k(春後半)…3・4 連続,(春前半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	環境の評価は化学的な分析による数値を元に行う場合が多い。そこで、滴定を中心とした実験をおこない、定量実験の手法、データ解析を理解する。また、考察内容を決めて、実際に実験計画を立てて実行する。		
教材（テキスト）	初日に配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 中川徹夫著『化学の基礎ー元素記号からおさらいする化学の基礎』　化学同人　1500＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（90%）、平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験の操作を習得する。 化学反応式から定量的な解析ができる。 検量線を用いた定量分析の解析ができる。 考察内容を考えながら実験計画を立てることができる。		
準備学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講者への要望			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。 化学実験とあわせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス－注意事項－　実験の基礎操作の復習 2.　pH の測定と緩衝液 3.　中和滴定 4.　酸化還元滴定 5.　廃油のリサイクル１（石鹸） 6.　廃油のリサイクル２（BDF） 7.　廃油のリサイクル３　窒素酸化物の定量１ 8.　窒素酸化物の定量２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J60056004
科目名	環境化学実験 -f(春後半)…3・4 連続,(春前半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	環境評価は化学的な分析による数値を元に行う場合が多い。そこで、滴定を中心とした実験をおこない、、定量実験の手法、データ解析を理解する。また、考察内容を決めて、実際に実験計画を立てて実行する。		
教材（テキスト）	初日に配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 中川徹夫著『化学の基礎ー元素記号からおさらいする化学の基礎』　化学同人　1500＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（90%）、平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験の操作を習得する。 化学反応式から定量的な解析ができる。 検量線を用いた定量分析の解析ができる。 考察内容を考えながら実験計画を立てることができる。		
準備学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講者への要望			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。 化学実験とあわせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス－注意事項－　実験の基礎操作の復習 2.　pH の測定と緩衝液 3.　中和滴定 4.　酸化還元滴定 5.　廃油のリサイクル１（石鹸） 6.　廃油のリサイクル２（BDF） 7.　廃油のリサイクル３　窒素酸化物の定量１ 8.　窒素酸化物の定量２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J60057001
科目名	環境物理学実験（春後半)…3･4 連続,(春前半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Phy sics		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，連成系，回転系，流体，音波，光波，固体，熱，気体などあらゆる測定の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集･処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学，環境地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．連成系：重心・安定平衡 2．回転系：角速度・遠心力 3．流体：浮力・密度 4．音波：振動数・音階 5．光波：反射・屈折 6．固体：原子半径・モル体積 7．熱：温度・比熱 8．気体：ボイル・シャルル			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J60058001
科目名	環境地球科学実験（秋後半)…3･4 連続,(秋前半)と同時登録可	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Ear th Science		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，アイソスタシー，地震，地磁気，岩石，鉱物，結晶，地質，化石などあらゆる測定の基本となる観測量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集･処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．アイソスタシー：大陸地殻・海洋地殻 ２．地震：走時・震央距離 ３．地磁気：偏角・伏角 ４．岩石：色指数・造岩鉱物 ５．鉱物：硬度・密度 ６．結晶：結晶格子・対称性 ７．地質：地形図・地質図 ８．化石：示準化石・示相化石			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J60063001
科目名	バイオ環境デザイン原論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of sustainable design		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境学部の教育目標を理解し、学部を取り巻く大きな流れとして、少子高齢化社会、産業構造や土地利用の変遷について学ぶ。次に、農村や都市の疲弊を象徴する空き家問題から始まる身近な社会の諸問題に関心を広げる。このような地域の問題への対処として地域の再生が各地で広がってきていることの情報を整理し、デザインというキーワードを中心に地域再生の具体的な手法を学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	地域の課題をすくい取り、何が問題か、それを理解することで地域再生の方向性を見つけ出せる力を養う		
準備学習	各地での地域再生などの事例やニュースなどに触れておくこと		
受講者への要望			
講義以外の時間にビデオ学習などがあるので積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			

1.バイオ環境学部の目標とデザインが意味するもの
2.関係性に着眼したデザインの重要性
3.地域構造・産業構造・土地利用の歴史的変遷

4.人口減少と少子高齢化社会、過疎化の促進

5.離島問題と離島振興
6. TPP(環太平洋戦略的経済連携協定）とは何か
7.地域の創造と再生に向けた活動事例

8.空き家問題と古民家再生

9.地域資源の発見手法１　土地の記憶、暮らしの記憶

10.地域資源の発見手法２　地域の遊び仕事
11.地域資源としての道空間の活用　長距離自然歩道、街道

12.ダークツーリズムとは何か　新たな観光資源　廃線跡の活用
13.コミュニティデザイン・ローカルデザインとは何か

14.地域資源の情報化　クラウドコモンズ（川・道・山・鉄・島）を例として
15.地域資源の情報化による観光振興

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J60064001
科目名	環境汚染物質動態論	単位数	2
科目名（英語表記）	Evolution of Contaminants in the Environ ment		
担当者名	古武家　善成	旧科目名称	
講義概要	現代社会は多くの合成化学物質の恩恵を受け私たちの生活は化学物質で溢れている。しかし，合成化学物質の多くは何らかの有害性を有するため，健康影響や環境影響が強く懸念されており，化学物質による環境汚染問題は地球温暖化などと同様に地球規模の環境問題として認識されている。また，重金属類は日本および各国の公害病の主要な原因の一つであり，今なお環境と健康に影響を及ぼしている。 本講義では，新規化学物質を含めこれら環境汚染物質について，汚染状況・環境動態・毒性・リスク等に関する基礎を学ぶ。また，東日本大震災が引き金となった福島第一原発事故を理解するために，原発の原理と環境リスクについて環境科学特論として学ぶ。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	「環境科学入門：地球と人類の未来のために」川合真一郎，張野宏也　山本義和，化学同人（2011）		
教材（その他）	資料プリントを毎回配布する。講義はパワーポイントと板書で行う。		
評価方法	感想文等授業提出物への対応：10% 課題レポート：90%（まとめ小テスト（資料持込可）が 60 点以上でないと，課題レポート提出を認めない） 新たに復習の評価を行う。復習に関して授業中に質問し，その解答により加点・減点を行う。		
到達目標	日本の環境問題の歴史や現状を把握するとともに，重金属や合成化学物質の汚染状況・環境動態・毒性・リスクに関する基礎知識を習得する。 環境ディベートを通して，自分の意見をまとめ発表するスキルを磨く。		
準備学習	授業前 1 週間の環境関連ニュースをそれぞれ短い文章でまとめ，授業時に結果を発表する。 授業中の質問に対処するために復習を行う。		

受講者への要望

環境問題の解決には，暗記的知識による対応ではなく自分の発想法で対処することが重要である。しかし，発想法を高めるためには基礎的知識の十分な習得が必要である。十分な復習とレポート作成を通して両方の重要性を学んでほしい。

講義の順序とポイント

1) ガイダンスおよび「環境科学序論」日本の環境問題の歴史
2) 「環境科学概論 1」地域環境問題と地球環境問題の特徴と関係（1）
3) 「環境科学概論 2」地域環境問題と地球環境問題の特徴と関係（2）
4) 「環境科学特論」原子力発電の原理と原発事故の機序・現状
5) 「重金属汚染とその動態」イタイイタイ病・ヒ素中毒・水俣病
6) 「化学物質汚染とその動態 1」化学物質汚染総論　発生と毒作用・影響評価と管理
7) 「化学物質汚染とその動態 2」化学物質汚染各論　強毒性物質の汚染機序と影響
8) 環境ディベート 1
9) 環境ディベート 2
10) 環境ディベート 3（選抜対抗）・環境ビデオ鑑賞
11) 「化学物質汚染とその動態 3」化学物質汚染各論　微量有害化学物質の広域汚染
12) 「身近な環境問題 1」家庭の化学物質問題　洗剤・医薬品・香粧品
13) 「身近な環境問題 2」ゴミ問題と食品添加物
14) 「環境問題の展望」低炭素・循環型・グリーン社会と再生可能エネルギー
15) 「まとめ小テスト」授業全体の復習のための小テスト（資料持込可）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	＊	－	－	－	＊	＊＊

年度	2016	授業コード	J60065001
科目名	保全生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Conservation Ecology		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	保全生態学は、生物の自生地における、種や個体群およびその遺伝的多様性の保全、生態系や景観の保全において重要な役割を果たす学問である。また、問題の所在を科学的に明らかにし、保全の科学的な方法や技術を提示し、科学的な立場から社会に実践を要求する応用科学である。本講義では、保全生態学の基本的な理論を学び、様々な事例学習の科学的な立場を理解する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「保全生態学入門」鷲谷いづみ、矢原徹一著（文一総合出版 1996 年） 「保全生物学のすすめ」改訂版リチャード B プリマック、小堀洋美著(文一総合出版 2008 年）		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（50%）、課題レポート（50%）により評価する。		
到達目標	生物多様性を保全することの意義を理解し、自分の考えを論ずることができる。		
準備学習	社会で実際に起こっている生物多様性に係る問題に関心を持ち、自ら理解を深めておく。		
受講者への要望			
教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。			
講義の順序とポイント			
1.保全生態学とは 2.生物多様性 3.人間の影響 4.生息地の破壊 5.生息地の攪乱 6.生息地の攪乱：外来種 7.保護区の設定 8.保護地域の管理：法律 9.種の保護：生息地での保全 10.種の保護：生息地以外での保全と再導入 11.生態系保全と経済学 12.事例学習：アユモドキ 13.事例学習：コウノトリ 14.事例学習：獣害 15.事例学習：まとめ 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J60066001
科目名	食品安全学	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品は人の生命を維持するために必要不可欠であり、その安全性について考慮することが非常に重要である。 本講義では残留農薬、環境汚染物質、食品添加物等の作用と安全性についての解説を行い、これらの化学物質による健康への影響についての理解を深める。また、食糧の確保や安全の面から注目されている遺伝子組換え食品や BSE について解説し、食品の安全性を確保するための法的規制や方策についても触れる。 さらに、従来のように食品成分だけに注目した安全性を考えるのではなく、自然環境、社会制度、経済構造、国際的な食糧需給など，幅広い視野から食の安全性を考察する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	菅家 祐輔編『食安全の科学』三共出版　2,940 円 小倉 諭編『イラスト　食の安全性』東京教学社　2,300 円		
教材（その他）	授業中にプリント配布する。 京学なびおよびＲドライブによりファイルを提供する。		
評価方法	レポート(100％)		
到達目標	食品の安全性について，科学的根拠に基づき幅広い観点から評価出来るように，安全評価法や社会制度などの食品安全に関連する基本的知識を習得する。		
準備学習	講義終了時に，次回の講義のアウトラインを示すので，関連分野について調べておくこと。 日頃から食の安全性を意識し，新聞等のメディアや自分自身が摂取している食品成分に関心を持っておくこと。		

受講者への要望

講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。
感情やイメージではなく科学的根拠に基づいて食品の安全性を考える視野を養ってほしい。

講義の順序とポイント

1.はじめに　－食品の安全性とは何か－
2.食品安全の基準　－わが国の食品安全行政の構図と関連法規－
3.食品の安全評価法　－食品成分の分析法とその安全評価システム－
4.生体異物の体内動態　－農薬や環境汚染物質等の毒性と代謝－
5.食品添加物の用途　－食品添加物の定義，種類，構造ならびに効能－
6.食品添加物の安全性　－食品添加物の安全基準と使用規制の現状－
7.農薬の種類と安全性　－農薬の種類，構造，効能，安全基準および使用リスク－
8.環境汚染物質のよる食品汚染　－PCB，ダイオキシン等による食品汚染の現状とそのリスク－
9.遺伝子組換え作物の安全性　－遺伝子組換え作物の導入効果とそのリスク－
10.食中毒とその対策　－食中毒の発生メカニズムと予防のための衛生管理システム－
11.BSE 汚染とその対策　－BSE 対策の歴史と現状におけるリスク－
12.放射線照射食品の安全性　－放射線照射食品の長所とリスク－
13.健康食品の安全性　－健康食品の効能とリスクおよび法的規制－
14.食品成分表示の現状と問題点　－食品の規格，表示規制とトレーサビリティーシステム－
15.食のグローバリゼーションとハーモニゼーション　－国際化時代における食の安全確保のための課題と方向性－

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60067A01
科目名	測量学	単位数	2
科目名（英語表記）	Surveying		
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	測量学Ⅰ
講義概要	測量学は３次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。この講義では３次元空間における基本的な測量を，測量学の構成原理にもとづいて具体的な地形の測定方法を考察する。		
教材（テキスト）	堤　隆　著『改訂　測量学Ⅰ』コロナ社　３，０２４円		
教材（参考文献）	細川　吉晴　他　著『よくわかる測量実習』コロナ社　３，０２４円　：　測量学実習のテキストとして使用		
教材（その他）			
評価方法	小テスト１４回（１００％）		
到達目標	測量学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	１次方程式、三平方の定理、三角比、三角関数の基本的公式と度数法を理解しておくこと。 テキストの次回範囲を通読しておくこと。		
受講者への要望			
数学を履修しておくこと。測量学実習を並行履修することが望ましい。テキストを必ず持参すること。			
講義の順序とポイント			
１．測量器械、測量図の概説・測量で使う数学 ２．測量学概説・面積の計算 ３．距離測量 ４．平板測量 ５．平板測量 ６．平板測量 ７．水準測量 ８．水準測量 ９．水準測量 10．角測量 11．角測量 12．トラバース測量 13．トラバース測量 14．トラバース測量 15．トラバース測量・スタジア測量			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2016	授業コード	J60068A01
科目名	測量学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Surveying		
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	測量学実習Ⅰ
講義概要	測量学は３次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。測量学実習では定量的に測定されたデータから３次元の空間概念を具体的に認識することができる。したがって，この実習では３次元空間における基本的な測量を，測量学の構成原理にもとづいて具体的な地形の測定を通して行い，得られたデータの信頼性についても考察する。		
教材（テキスト）	細川　吉晴　他　著『よくわかる測量実習』コロナ社　３，０２４円		
教材（参考文献）	堤　隆　著『改訂　測量学Ⅰ』コロナ社　３，０２４円：測量学のテキストとして使用		
教材（その他）			
評価方法	製図課題およびレポート（１００％）		
到達目標	測量学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	１次方程式、三平方の定理、三角比、三角関数の基本的公式と度数法を理解しておくこと。 テキストの次回範囲を通読しておくこと。		
受講者への要望			
数学、製図実習を履修しておくことと，測量学を並行履修することが望ましい。テキストを必ず持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. 測量実習の基礎（1）　［P．１　実習１　演習シート］ 2. 測量実習の基礎（2）　［P．１　実習１　データシート１］ 3. 距離測量　［P．７　実習２　データシート２］ 4. 平板測量（1）　［P．１７実習４　大実験室の製図］ 5. 平板測量（2）　［P．２４実習６　バイオ環境館敷地の製図］ 6. 平板測量（3）　〃 7. 平板測量（4）　〃 8. 平板測量（5）　〃 9. 平板測量（6）　〃 10. 水準測量（1）　［P．２７実習７　データシート４］ 11. 水準測量（2）　［P．３４実習８　データシート５～８］ 12. 水準測量（3）　〃 13. トラバース測量（1）　［P．３９実習９　データシート１０］ 14. トラバース測量（2）　［P．３９実習９　データシート１１］ 15. スタジア測量　［P．５１実習１２　データシート１５］			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★★	★★	★★	★

年度	2016	授業コード	J60072001
科目名	生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecology		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生態学は生物の生活様式・相互作用を合理的に解釈・説明することを目的とする。生物社会における個体・個体群・群集の各階層でみられる生活様式・相互作用を概観し、どのような合理的解釈・説明がなされているのかについて講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・伊藤嘉昭ら著 『動物生態学』　蒼樹書房 ・John R. Krebs & Nicholas B. Davis 著　山岸哲、巌佐庸監訳 『進化から見た行動生態学』　蒼樹書房 ・長谷川真理子ら著 『シリーズ進化学 6　行動・生態の進化』　岩波書店		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト・レポート課題（50%）、期末テスト（50%）により評価する。		
到達目標	生態現象の合理的説明の根本は適応・進化の原理であることを理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		

受講者への要望

現在のあなたが持っている生態現象に対する解釈と講義でなされた解釈は同じであるだろうか、異なるものであろうか。どちらの解釈がもっともらしいと感じるだろうか。それはなぜだろうか。考えながら講義に臨んでほしい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 適応進化と最適戦略
3. 採餌理論
4. 最適卵サイズ、表現型可塑性
5. タカハトゲーム
6. 性比
7. 同性内の性淘汰
8. 異性間の性淘汰
9. 利他行動
10. 個体群動態
11. 資源競争
12. 食う-食われる関係
13. 捕食回避・寄生・共生
14. 群集生態学
15. 総合：生態学の研究例紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J60073001
科目名	水環境化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	水環境について、全球的な規模の水環境から身近な水環境まで、特に化学の観点から幅広く講義する。水環境を評価するための様々な指標について紹介し、今後の水環境と人間活動について考察する。小テスト・レポートを実施する		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）	生物海洋学入門　第 2 版　監訳：關文威, 訳：長沼毅　講談社　4212 円		
教材（その他）			
評価方法	小テスト・レポート等による平常点（30%） 定期テスト（70%）		
到達目標	海洋・湖沼・河川を含む水環境の役割を理解し、水環境の現状を評価するための様々な指標について幅広い知識を得る		
準備学習	講義内容をしっかり復習して、次週の講義に備えること		
受講者への要望			
講義内容に関する小テスト・ミニレポートを作成し提出していただくので、気を抜くことなく取り組んでいただきたい			
講義の順序とポイント			
1. 水環境化学への招待 2. 水の特殊性と水循環 3. 海洋環境の特性 4. 海洋の化学環境 5. 海洋における物質循環 6. 海洋炭素循環その 1 7. 海洋炭素循環その 2 8. 海と地球環境 9. 河川と海 10. 水環境の物理学的特性 11. 水環境の生物学的特性 12. 窒素循環とリン循環 13. 日本の水環境その 1 14. 日本の水環境その 2 15. 人間生活と水環境			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★

年度	2016	授業コード	J60074001
科目名	水環境化学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	水環境（河川、湖沼、海洋等）の現状を定量的に把握するための高度な分析技術を習得し、水環境について生物・物理・化学的側面から総合的に解釈することを目指す		
教材（テキスト）	教科書：実験指導書（水環境化学実験ノート）を配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	なし		
評価方法	実験への取組態度、各実験レポートを総合的に評価する		
到達目標	水環境の種々の環境要素（物理・化学・生物的要素）の現状を定量的に把握するための高度な分析技術を習得する		
準備学習	毎回の実験を受講するまでに実験指導書の当該範囲を熟読し、わからない専門用語などを調べ、実験内容をよく理解しておくこと。また、実験レポートの提出を求める		

受講者への要望

すべての実験に積極的に取り組むこと
班のメンバーで取り組む実験では意思疎通を図り、協力して行うこと

講義の順序とポイント

1. 実験オリエンテーションと化学実験の基礎講習
2. 廃水処理に使われる活性汚泥の沈降性の測定と顕微鏡観察
3. 廃水処理に使われる活性汚泥の微生物濃度の測定と凝集沈殿
4. メタン発酵法
5. プランクトン採集と顕微鏡観察
6. クロロフィルａの定量
7. COD（化学的酸素要求量）の定量
8. 河川での流量測定
9. 一般環境項目の水質測定と採水
10. 溶存酸素濃度の定量
11. アンモニア態窒素の定量
12. リン酸態リンの定量
13. キレート滴定によるカルシウムイオン、マグネシウムイオンの濃度分析、硬度の計算
14. 原子吸光分析によるカルシウムイオンの濃度分析、残留塩素の分析
15. 水環境化学実験のまとめ、効果的な水質調査方法について検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J60076001
科目名	流域環境デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Watershed Design		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	亀岡市で使用した水の大部分は保津川（正式名称は桂川）に入り、淀川を経て大阪湾に流れ込んでいる。淀川の水は大阪府民の水道資源として利用されており、亀岡市においては、生活廃水などを適切に処理して、保津川へ流れ込む水の質を良好に保つことが求められている。生活廃水の処理については、下水処理場で処理するという考え方だけでなく、水路や河川での浄化作用も利用することが重要である。なぜなら、現在の多くの河川の水質は、下水処理場から放流される処理水よりも格段に良好であり、下水処理場に廃水を流し込むことだけを考えるよりは、自然の浄化能力を利用することも考えた方が、水質が良くなると考えられるからである。従来からの考え方では、家庭下水は人工的に処理を行うということだけであったが、今後は、これに自然の浄化能力を利用するという考え方を加えて、全体として、よりよい水質を実現することが重要である。そこで、家庭下水と工場廃水について、BOD 成分の除去だけではなく、窒素とリンの除去も含めて人工的に処理を行うことと、家庭下水を河川へそのまま流した場合の河川での自然の浄化について解説し、地域の特性に応じた方法による河川の水質を改善するための方策を考える。		
教材（テキスト）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』リーダーズノート社、2,200 円＋消費税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	期末試験（60 点）、適宜行う小テスト（40 点）		
到達目標	河川の水質を良くするためには何をどうすべきかを理解する		
準備学習	教科書の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。また、教科書に記述されていない内容を講義するに当たっては、プリントの配布などを行って事前に勉強をするための材料を与えるので、読んで、理解しておくこと。		

受講者への要望

黒板やスライドの文字を書き写すだけでなく、話を聞きながらメモをとること

講義の順序とポイント

1．水質汚濁をもたらす物質：毒物、有機物、栄養塩類
2．なぜ下水処理が必要なのか？　河川水の溶存酸素
3．有機物の生物学的除去技術の概要（教科書 p.23-66）
4．河川中での有機物の除去
5．下水処理場での処理技術と河川への放流水の水質
6．環境基準はどうなっているか
7．富栄養化の防止：窒素化合物の生物学的除去技術（1）（p.139）
8．富栄養化の防止：窒素化合物の生物学的除去技術（2）
9．富栄養化の防止：リンの除去技術
10．自然環境中での水質の浄化（p.99-109）
11．環境微生物の働き（p.14-22）
12．環境中の微生物を理解する（1）（p.146-154）
13．環境中の微生物を理解する（2）（p.155-171）
14．環境中の微生物を有効に利用する（p.115-144）
15．自然界の生物の作用を活かした家庭下水の処理政策（p.110-114）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J60077001
科目名	ランドスケープエコロジー	単位数	2
科目名（英語表記）	Landscape Ecology and Planning		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープ＝地域の景観は人と自然の共同作品である。地球４６億年の歴史とともに、人間によるごくわずかな期間の間になされた、大きな働きかけ＝土地利用と資源利用、およびその結果発生したさまざまなインパクトが、景観を作ってきた。それゆえ、景観を丁寧に分析すれば、自然環境の論理と、それに対応してきた人間の文化の論理を浮かび上がらせることができる。 一方、地球環境危機の現在、自然との共生や低炭素、循環型社会への転換が求められる中、自然立地的な土地利用への転換が不可欠である。この講義では、そのプランニングとデザインの手がかりとして、景観生態学の基礎を学ぶ。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	森本幸裕・編著『景観の生態史観－攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社（2100 円） モニカＧ．ターナー（中越・原、監訳)『景観生態学生態学からの新しい景観理論とその応用』文一総合出版		
教材（その他）	日本景観生態学会のブログ http://jale.sblo.jp/index-11.html		
評価方法	小テスト等による平常点（50%)、課題レポート（50%）により評価する。		
到達目標	身の回りから国土レベルまで、景観をその生成要因とともにとらえられるようになり、新たな望ましい景観がイメージできるようになること。		
準備学習	いいな、と思った景観の成り立ちについて、調べる習慣をつけてください。		
受講者への要望			
わかりにくいところ、疑問点があれば、遠慮なく質問をしてください。			
講義の順序とポイント			
1.景観生態学とは 2.スケール 3.スケール 4.景観パターン 5.景観パターン 6.生物と景観パターン 7.生物と景観パターン 8.景観と攪乱 9.景観と攪乱 10.景観における生態系プロセス 11.景観における生態系プロセス 12.景観生態学におけるモデル 13.景観生態学におけるモデル 14.景観生態学の応用：都市計画 15.景観生態学の応用：森林管理 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J60078001
科目名	治山治水論	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecosystem approach to disaster risk reduction		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	我が国は世界的に見ても、最も災害の多い国である。しかし、一方でその災害をもたらす地盤、水、大気の動きは自然の恵みの源泉でもある。したがって、如何に豊かな自然の恵みを損なわずに、災害による人命財産の損失を少なくするか、という課題が重要である。明治以降の「治山治水」と「はげ山緑化」の流れを踏まえつつ、特に「緑化」に関する理論と技術を解説するとともに、「防災」から「減災」へ、「緑化」から「自然再生」へ、「ハード偏重」の防災から流域の「エコシステム・マネジメント」へのパラダイムシフトを検討する。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	森本幸裕・小林達明編著『最新・環境緑化工学』朝倉書店、吉川勝秀著『河川流域環境学-21 世紀の環境学』技報堂出版、大熊孝著『[増補] 洪水と治水の河川史』平凡社、太田猛彦著『森林飽和：国土の変貌を考える』ＮＨＫブックス		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点（20%）　授業中のミニレポート（20%）　最終レポート（60%）		
到達目標	生態系サービスのトレードオフの考え方を身につけ、エコシステム・マネジメントの発想を獲得すること		
準備学習	環境白書のなかの「環境保全の観点からみた地域の捉え方」を読んでおいてください。 {http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/honbun.php3?kid=210&bflg=1&serial=10628}		

受講者への要望

災害はマイナス面ばかりでないこと、防災がもたらすマイナス面も理解してください。

講義の順序とポイント

1．　導入：治山治水からエコシステム・マネジメントへ
2．　・天災/人災？　日本の三大災害？
　　・地盤災害、気象災害、地震、津波、
3．　・日本における土砂・水災害と対策の歴史
4－7．治山砂防と緑化
　　・地すべり、崩壊と侵食の理論と地盤災害対策
　　・流域の土砂移動とその制御対策
　　・植生による水土保全機能
　　・地盤安定の基礎工
　　・植生工と植生管理
8－10．河川と治水・利水＋環境
　　・河川の科学：形態、洪水と渇水
　　・河川構造物の種類・機能・設計
　　・ダムの役割と構造
　　・多自然川づくりと自然再生
　　・都市における雨水管理と雨庭
11－14．「流域圏・共生」の時代の治山治水
　　・「河川環境」と治水・利水
　　・海岸砂防、海岸浸食と流域土砂管理
　　・流域管理と合意形成
15．　まとめにかえて：防災から減災へ
　　・震災復興と自然再生（東日本大震災のケーススタディ）

＊）進度に応じて適宜変更することもある

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	－	★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J60079001
科目名	エコミュージアム構想学	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecomuseum Design		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	エコミュージアムは、地域の暮らしの知恵が地域の環境の中で息づく博物館です。従来型の博物館や知識に対する評価では、地域の暮らしの知恵には価値を見いだせませんでしたが、エコミュージアムが大切にするのは、こうした日常的な暮らしの知恵です。また、日常的な出来事を建物の中に保存することは難しいので、必然的に人が暮らしている日常そのものを活用して、住民が主体となる生活空間そのものが従来の博物館と同等の価値を持つという考え方です。 　この視点は、バイオ環境デザインにおいて欠くことができません。なぜなら、地域の人の暮らしを抜きにしたバイオ環境のデザインはあり得ないからです。 　本講義では、実際の国内でのエコミュージアム活動を紹介し、関連する農村開発やエコツーリズムなどと比較することで、エコミュージアムの特徴をさぐり、どのような状況でエコミュージアム活動が生きるのかを探ります。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	星山幸男「自然との共生とまちづくり」北樹出版 大原一興「エコミュージアムへの旅」鹿島出版会 小松光一編「エコミュージアム」家の光協会		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	講義内でのレポート発表、レポート提出の双方を勘案する		
到達目標	人の暮らしについて、さまざまな視点から見つめ直して、人の暮らしを重視した地域発展に必要な視点を理解すること。		
準備学習	農業など、人の生業（なりわい）に関連する講義を受講しておくことが望ましい。参考文献を読み講義に臨むこと。		

受講者への要望

地域の人の暮らしに関心のある学生の参加を待っています。既存の議論や価値観にとらわれずに、人の暮らしについて何が大事なことなのかをよく考えて、自由な発想で各自のエコミュージアム構想を展開してください。

講義の順序とポイント

1　エコミュージアムとはなにか
2　日本におけるエコミュージアムの現状
3　国内の事例紹介　山形県朝日町
4　国内の事例紹介　兵庫県豊岡市
5　国内の事例紹介　岡山県賞田町
6　国内の事例紹介　高知県柏島
7　農村開発との比較
8　エコツーリズムとの比較
9　ナショナルトラスト運動との比較
10　環境保全活動との比較
11　エコミュージアム構想１　調査結果の発表会
12　エコミュージアム構想２　調査結果の発表会
13　エコミュージアム構想３　調査結果の発表会
14　エコミュージアム構想４　調査結果の発表会
15　エコミュージアムのゆくさき　これから何を目指すのか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J60080001
科目名	流域環境デザイン演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Environmental Waters hed Design		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	持続可能な環境社会・豊かな水環境を実現するため、まず、水環境を評価するための手法を計算問題を通して理解する。さらに、多項目にわたる水環境の実測データを用いて、必要情報の抽出・計算・図表の作成等を行うことで、水環境の現状を把握し、今後の水環境のあり方を考察する。演習課題、ミニレポートの提出、小テストを実施する。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	海洋観測ガイドライン　日本海洋学会　http://kaiyo-gakkai.jp/jos/guide/content		
評価方法	演習課題、ミニレポート、小テストの結果を総合的に評価する		
到達目標	水環境を定量的に評価するための手法を理解し、その手法により、実際の水環境を評価することができる		
準備学習	講義内容をしっかり復習して次回の講義に備えること。水環境化学、水環境化学実験受講者は内容を復習しておく		

受講者への要望

湖沼・河川・海洋を含む水環境の利用・再生・環境問題に関する話題は新聞紙上などで頻繁に出てくるので、常に情報収集に努めること

講義の順序とポイント

1. 水の循環
2. 水中の主要成分 1
3. 水中の主要成分 2
4. 生活環境項目
5. 栄養塩
6. 地球気候変動の影響
7. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 1
8. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 2
9. 汚染物質の負荷量計算 1
10. 汚染物質の負荷量計算 2
11. 水環境の評価（データの選択・抽出、グラフ化）
12. 水環境の評価（データの関連性、再検討）
13. 水環境の評価（考察）
14. 水環境の歴史
15. 水環境の将来

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J60081001
科目名	農環境論	単位数	2
科目名（英語表記）	Agricultural Environments		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	農業は人間が生きていく上で不可欠な，食糧供給という重要な役割を担っている．その農業の発達過程と実態を理解するとともに，我々が生活している様々な環境との関連について考えてみる．さらに食料生産のための制御された環境での栽培，つまり施設栽培や植物工場についても講じる．		
教材（テキスト）	特に指定しない．必要に応じてプリントを配布する．		
教材（参考文献）	藤本文弘　著　「生物多様性と農業」　農文協		
教材（その他）	必要に応じて資料を配付する．		
評価方法	平常点（30 %）およびレポートと小テスト（70 %）で評価する．		
到達目標	日々の生活環境と農業との関わりを理解する．		
準備学習	農業に関する書物を１冊で良いから読んでおくこと．		

受講者への要望

日常生活の中で出会う「生き物」に関心を持ち，観察眼を養うように心がけて欲しい．

講義の順序とポイント

1．農業が環境におよぼす影響　(1) 農業の成立と歴史　その１
2．農業が環境におよぼす影響　(2) 農業の成立と歴史　その２
3．農業が環境におよぼす影響　(3) 我が国の農業生産の実態　その１
4．農業が環境におよぼす影響　(4) 我が国の農業生産の実態　その２
5．農業が環境におよぼす影響　(5) 栽培植物の成立と自然環境
6．農業が環境におよぼす影響　(6) 農業生産が与える環境への負荷
7．農業が環境におよぼす影響　(7) 農業の持つ多面的機能　／　課題レポート作成
8．環境が農業におよぼす影響　(1) 作物の成育におよぼす環境の影響～日長と花芽分化
9．環境が農業におよぼす影響　(2) 作物の成育におよぼす環境の影響～低温と花芽分化
10．環境が農業におよぼす影響　(3) 地球温暖化の影響
11．環境が農業におよぼす影響　(4) 汚染物質の影響
12．農業と生物多様性　(1) 農地の生態
13．農業と生物多様性　(2) 農耕地における生物多様性
14．農業の多様性　～ 施設栽培と植物工場 ～
15．わが国の環境と農業生産の今後　／課題レポート作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J60082001
科目名	野生動物保全学	単位数	2
科目名（英語表記）	Wildlife Management		
担当者名	高柳　敦	旧科目名称	
講義概要	野生動物の保全には、絶滅しないようにして生物の多様性を保つことと、人間に大きな被害をもたらさないようにすることの 2 つの目標があり、その 2 つの目標をいかにバランスよく実現しながら、野生動物のもたらす価値を享受するかが重要な課題である。本講義では、カモシカやシカ、クマなどの大型野生動物による農林業被害の問題を中心に、この課題の背景、解決のための科学的なアプローチについて解説する。特に、被害問題の現状について理解を深めると共に、被害問題の解決には、野生動物の生態や被害の発生プロセス、人間社会の対応の在り方など、さまざまな要素が関係していることについて理解する。また、自分の関心のあるテーマを見つけて、それについて自分の意見を文章化する技能についても学ぶ。		
教材（テキスト）	適切な教材がないので、特に指定していません。以下に、参考図書の中でも特に講義内容に近いものを上げておきます。 「森林の再発見」（p285-316：第 8 章「人間と野生動物との新たな関係」） 大田誠一編、京都大学学術出版会、2007　（4,410 円） 「ワイルドライフ・マネジメント入門」三浦慎吾、岩波書店、2008　（1,260 円） 「野生動物管理―理論と技術」　羽山伸一，三浦慎悟　文永堂出版 2012 (7,350 円)		
教材（参考文献）	被害問題に関する文献として 「森林環境〈2007〉動物反乱と森の崩壊」森林環境研究会、森林文化協会　2007 「動物たちの反乱」河合 雅雄・ 林 良博編著　PHP サイエンスワールド新書　2009 「動物による農作物被害の総合対策」江口祐輔　監修　誠文堂新光社　2013 「シカ問題を考える－バランスを崩した自然の行方」　高槻成紀著　山と渓谷社　2015		
教材（その他）	生物の保全に関する文献として 「生物保全の生態学」鷲谷いづみ　共立出版　1999 「保全生物学のすすめ 改訂版」リチャード B プリマック　文一総合出版 2008 「野生生物保全事典」野生生物保全論研究会 2008		
評価方法	期末の試験と 1 回のレポート提出の成績で評価する。試験とレポートの評価の比率は 8 対 2 から 6 対 4 で、試験結果などを基に決定する。評価に当たっては出席状況も考慮する。　評価方法については最初の講義で説明する。		
到達目標	生物多様性の保全において重要な事項を理解すること。ニホンカモシカ、ニホンジカ、ツキノワグマの生態とその被害の発生と防除の関連について理解すること。野生動物の保護管理を総合的に行うとはどういうことかを理解すること。		
準備学習	野生動物の保全の問題は、テレビ番組や新聞記事で触れるだけでなく、必ず身近なところにも見られる問題である。知識として何かを学ぶというより、自分の身近な問題を解決するという能動的な姿勢で講義に臨んで欲しい。講義では、指名して知識や意見などを尋ねるので、必ず答えるように心がけて欲しい。		
受講者への要望			
講義への関心を高めるために出席カードに講義に関連する質問を挙げてあるので、それには講義の内容を答えるのではなく、講義の内容などを参考にしながら自分の意見を書くようにして下さい。			
講義の順序とポイント			
第　1回　野生動物を保全するとはどういうことか。野生動物保全学へのイントロダクション。 第　2回　生物多様性とは何か、なぜ生物多様性の保全が重要か。生物多様性を理解する。 第　3回　日本の野生動物相はどういう特徴があるのか。日本の野生動物についての基礎。 第　4回　外来生物とはどんな生物でなぜ問題か。外来生物問題の解説。 第　5回　レポート計画発表会 第　6回　カモシカなど希少生物の保全の抱える課題について解説。 第　7回　カモシカによる農林業被害問題とは何か。被害問題の背景などについて解説。 第　8回　保護地域による野生動物の保全。保護地域による保全の課題について解説。 第　9回　ニホンジカの生態とその被害について解説。 第１０回　ニホンジカ被害問題をの背景、解決のための個体数の捕殺や被害防除について解説。 第１１回　京都府南丹市芦生地域における野生動物保護管理について解説。 第１２回　クマ類の生態と保全。ツキノワグマを中心にクマ類の生態と保全について解説。		

第１３回　ツキノワグマによる被害と防除。林業被害や出没被害について解説。
第１４回　野生動物のもたらす被害とその防除、および総合的管理と野生動物が組み込まれた社会について解説。
第１５回　全体の復習
　以上は進行の目安であり、受講者の理解や興味などによって変更することもある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★★	★

年度	2016	授業コード	J60083001
科目名	農・森林環境デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Design of Regional Ecosystem and Land Us e		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	かつての日本の農業は後背地の森林や河川と有機的なつながりのもとで営まれていた。しかし、近代化の過程で森林・農地・河川は分断され、個別の場での効率が追い求められてきた結果、多くの環境問題を引き起こし、良好な生産や環境の維持が困難な状況に至った。そこで、森林から海までの物質の移動、水の流れを基にして、望ましい森林環境、望ましい農業環境を再生する方法について、国内外の学術的・実践的事例に学び、日本の将来の森林像・農業像を考察する。里山学や有機農業論を並行して受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	講義時に随時配布する		
教材（参考文献）	岩坪 五郎　著　「森林生態学」　文永堂出版 佐藤 洋一郎　監　「森と田んぼの危機」　朝日選書 武内 和彦 他偏著「里山の環境学」　東京大学出版会 中尾 佐助 著 「栽培植物と農耕の起源」　岩波新書 西尾 道徳 他編著　「環境と農業」　農文協		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	時間ごとの小レポートの達成度と最終レポートで評価する。		
到達目標	望ましい森林環境、望ましい農業環境を再生する方法について考え、その考えに実践や先行事例を元に裏付けを与える。		
準備学習	参考文献や農学関連、森林関連の資料に事前に目を通しておくこと。また、毎回の講義で学んだ基礎知識、専門用語、実践的事例等を整理し、次の講義までに要点を説明できるようにしておくこと。		
受講者への要望			
専門書を読むに堪える能力をみにつけること。 「現場」の出来事と日々向き合い、学ぶこと。			
講義の順序とポイント			
1.　農・森林環境デザインとは？（鈴木・佐藤） 2.　森と水田の日本史（鈴木） 3.　日本の林業の現状と課題（鈴木） 4.　「農」と「森林」のつながりⅠ：里山の生態系（鈴木） 5.　「農」と「森林」のつながりⅡ：焼畑の生態系（鈴木） 6.　焼畑は森林破壊の元凶か？：ミャンマー・バゴー山地の事例（鈴木） 7.　日本農業の成り立ち（佐藤） 8.　農業を取り巻く環境要因（佐藤） 9.　生物多様性と農業（佐藤） 10.　中山間地域の農業とは（佐藤） 11. 生き物にとっての望ましい農業環境（佐藤） 12. 農業の環境を視野に入れたリデザイン［1］（佐藤） 13. 農業の環境を視野に入れたリデザイン［2］（佐藤） 14. 亀岡市の農業環境を視野に入れたリデザイン（佐藤） 15. 望ましい「農」と「森林」のつながりの構築に向けて（鈴木・佐藤）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。
履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J60084001
科目名	森林環境・林業論	単位数	2
科目名（英語表記）	Forest Environment and Forestry		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	森林は林業資源としての性質を持っているだけでなく、森林生態系として環境を形成し、人間社会からみて、多面的機能と呼ばれるさまざまな恵みも提供している。 その豊かな恵みを持続的に享受していくことを目的として、森林生態系の現状と傾向、課題と対応について概説し、これからのありかたを展望する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	日本生態学会編『森の不思議を解き明かす』文一総合出版 森林・林業白書（林野庁）		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（50%）、課題レポート（50%）により評価する。		
到達目標	森林・林業をめぐる循環と共生、ストック（生態系、林木蓄積）とフロー（生態系サービス、林木成長の収穫）、伐採と更新、時間と空間の秩序づけ等々における深さと豊かさについての理解をめざす。 木を見て森を見ないという諺がありますが、森をみて森の多様な構成者や環境や履歴や人との関わりも見えるようになってください。		
準備学習	自宅周辺や通学途中で森林を観察してください。		
受講者への要望			
わからないところや質問はできるだけ授業中にその場で遠慮なくしてください。			
講義の順序とポイント			
1.ガイダンス 2.森を読む：森林構成種 3.森を読む：森林構成種 4.森を読む：樹木の適応戦略 5.森を読む：森林の構造 6.森を読む：森林の成長・再生 7.日本の森林植生：植生単位 8.日本の森林植生：植生分布 9.植生の判読：植生図の作成 10.植生の判読：植生図の作成 11.人と森林の関わりの変遷 12.林業の現状 13.林業の仕組み：森林計画 14.林業の仕組み：造林・育林・収穫・更新 15.森林認証と REDD、オフセット 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J60085001
科目名	里山学	単位数	2
科目名（英語表記）	SATOYAMA Studies		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	人々の暮らしが生み出してきた二次的自然である里山は、原生的自然とは異なる多様な生物を育んできた。しかしながら、人間生活の変化に伴い、このような二次的自然は急速に失われようとしている。また、近代化の過程で森林・農地・河川は分断され、個別の場での効率が追い求められてきた結果、多くの環境問題を引き起こし、良好な生産や環境の維持が困難な状況に至っている。本講義では、失われつつある二次的自然の価値を見直しながら、国内外の学術的・実践的事例に学び、人と多様な生物の共生を可能とする暮らしのあり方を考察する。また、これらの内容に関連するテーマを各自が設定して文献調査や聞き取り調査等を行い、その成果をレポートにとりまとめ、口頭発表を行う。		
教材（テキスト）	講義時に随時配布する		
教材（参考文献）	武内 和彦 他偏著「里山の環境学」　東京大学出版会 広木詔三偏「里山の生態学」　名古屋大学出版会 養父志乃夫著「里地里山文化論」農文協		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	発表への取り組みやデスカッションへの参加状況等による平常点（40 点）、口頭発表（30 点）、最終レポート（30 点）で評価する。		
到達目標	人と多様な生物の共生を可能とする暮らしのあり方について考え、その考えに実践や先行事例を元に裏付けを与える。また、テーマ設定・レポート作成に必要な論理的思考力、分かりやすい口頭発表に必要なプレゼンテーション能力を習得する。		
準備学習	講義のレジメや講義で使用する学術論文を事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 各自の口頭発表・レポート作成に活かせるよう、講義で使用した学術論文の背景・目的・方法・結果・考察・まとめの流れを復習しておくこと。		

受講者への要望

専門書を読むに堪える能力をみにつけること。
「現場」の出来事と日々向き合い、学ぶこと。

講義の順序とポイント

1　里山学とは？
2　里山の暮らしと生物多様性
3　里山の機能Ⅰ：水田の生態系
4　里山の機能Ⅱ：焼畑の生態系
5　日本の里山の現状と課題Ⅰ
6　里山林の保全と循環型農業
7　生物保全と水田農業の関わり：アユモドキとコウノトリ
8　日本の里山の現状と課題Ⅱ
9　日本の水田と里山：亀岡市西別院町大槻並の事例
10　日本の焼畑と里山：長浜市余呉町中河内の事例
11　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅠ
12　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅡ
13　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅢ
14　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅣ
15　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅤ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J60086001
科目名	里山学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance I		
担当者名	太田　明	旧科目名称	里山学Ｂ、里山学Ⅱ
講義概要	人家に近い森林である里山は長い間人手が加わることで維持され、そこから燃料、肥料、山菜やきのこ類などが採取されてきた。しかし、近年、里山の環境は大きく変化し、健全な里山を維持するための作業が急務となっている。京都の里山アカマツ林では、市場価値の高い「丹波マツタケ」が採れる。その増産は地元の人々の大きな期待でもあることから、実際にアカマツ林の再生とマツタケ増産のための作業を行い、これをとおして里山の理解を図る。なお、この実習は、亀岡市寺生産森林組合の全面的な協力のもとに実施する。		
教材（テキスト）	なし、必要に応じプリントを配付する。		
教材（参考文献）	丸山徳次・宮浦富安編『里山学のすすめ』昭和堂、2007 マツタケ研究懇話会編『マツタケ山のつくり方』創文、1983 吉村文彦著『ここまで来た！まつたけ栽培』トロント、2004 黒田慶子編著『ナラ枯れと里山の健康』全国林業改良普及協会、2008　など		
教材（その他）	適宜資料を配付する。 講義時はパワーポイント等を使用する。		
評価方法	実習の理解度を尋ねる小テストや実習態度等による平常点（５０％）。授業中に課すレポート（５０％）。		
到達目標	里山の再生・管理作業をとおし、里山の生態系の見方や人にとっての里山の大切さを体験に基づいて理解する。		
準備学習	・春学期の早い段階に、上記参考書などを読んで、地域の人々が里山（特にマツタケ山）とどのようにかかわってきたかを理解しておく。 ・実習内容に合わせてレポートを課すので、翌週提出すること。 ・普段から森林生態や環境保全に関する新聞記事等に注意し、批判力をもって読む習慣を身につける。		

受講者への要望

次項に講義と書かれた日以外は、実際にアカマツ林に入って作業を行うので、それに適した服装（引っかかりにくいもの、汚れてもかまわないもの）、作業手袋（軍手など）、タオル、山歩きのできる運動靴か長靴、飲み物、急な雨の可能性があるときは雨具を準備してください。
大学から現地へは大学バスで移動するので（所用時間はバス 30 分＋徒歩 10 分）、乗り物に弱い人は対策をすること。
雨などで作業不能のときは、講義に変更します。どちらになるか判断が難しいときは、野外実習と室内講義の両方の準備をしておいてください。

講義の順序とポイント

１．里山の現状と問題、本実習に関する基礎知識（講義）
２．アカマツ林の再生―広葉樹の整理
３．　同上
４．アカマツの播種
５．　同上
６．アカマツ林の植生調査
７．樹木と菌類の関わり、マツタケ山づくりの考え方（講義）
８．優良マツタケ山施業地見学
９．マツタケ山づくり―適地判定、作業方針の決定
１０．不要広葉樹の伐採と搬出
１１．残存広葉樹の整理
１２．地かき、腐植の搬出
１３．作業による植生変化の調査
１４．施業地のきのこ相調査
１５．実習のまとめ、より人工的な栽培のための考察（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J60087001
科目名	有機農業論	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Agriculture		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	わが国における有機農業および世界の有機農業の現状を把握する． 有機農業の今後の展望について理解する．		
教材（テキスト）	特に指定しないが，講義の中で順次紹介・指示する．		
教材（参考文献）	講義の中で適宜紹介・指示する．		
教材（その他）	資料を配付する．		
評価方法	平常点（１０％）および課題レポート（９０％）で評価する．		
到達目標	有機農法を科学的な観点から理解することを目標とする．		
準備学習	板書を基にしてノートをとることが多いので，講義終了後にノートをまとめ直すなどの復習を確実に行い，次回の授業に備えること．		
受講者への要望			
有機農業についてはマスコミなどで取り上げられることが多く，耳にする機会も多いが誤った情報も多い．科学的な視点から有機農業の本来の意味を理解できるよう努力してほしい．			
講義の順序とポイント			
１．はじめに　～有機農業の概要～ ２．有機農業の歴史 ３．作物と肥料 ４．施肥と作物の生育 ５．作物と土壌　（土壌の生成と作物生産） ６．作物と土壌　（土壌における物質の流れと作物生産） ７．作物の生育と環境　（土壌成分、土壌特性） ８．作物の生育と環境　（環境の複合要因と作物生産）　【課題レポート①】 ９．作物の生育と環境　（アレロパシーについて） １０．有機農業に対する科学的裏付け １１．日本と世界の有機農業について １２．有機農業の実践（水稲） １３．有機農業の実践（野菜） １４．有機農業の実践（果樹） １５．日本の有機農業の展望について　【課題レポート②】			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J60090001
科目名	都市環境論	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Environments		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	都市水辺環境論
講義概要	過去の全国総合開発計画の内容から都市や村落などの地域の発展経緯についてまず概観する。次に、都市や地域での一定の地区や集落単位など、比較的小さな空間スケールでの自然、地形、気候、人口、交通、産業、歴史、文化などを総合的に把握する手法を学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストと平常点の総合的な評価とする		
到達目標	都市や地域が国土の中でどのように発展してきたかを理解し、現在の生活と環境の諸問題を総合的に把握し、地域の再生、都市の再生に繋げる		
準備学習	新聞やテレビその他のメディアなどへのアンテナを立て関心を高めておくこと		

受講者への要望

講義以外の時間にフィールドワーク、ビデオ学習、PDF 学習、映画上映などがあるので積極的に参加し、わからないことは授業終了後、いつでも聞きにきてください

講義の順序とポイント

1.全国総合開発計画について

2.地域の身近な環境と暮らし　水辺・森
3.地域の身近な自然と暮らし　地形

4.地域の身近な自然と暮らし　気象

5.地域の人口　集落（字）単位の人口
6.地域の交通　集落間を結ぶ里道

7.地域の産業　第一次産業　農林水産業
8.地域の産業　第二次産業　工業　製造業

9.地域の産業　第三次産業　都市型産業

10.地域の歴史　地方誌を通じて
11.地域の文化　水文化
12.地域の観光　身近な観光資源の発掘

13.地域のコミュニティ　結（ゆい）　水防団

14.地域の災害　土砂災害　河川氾濫　火災
15.地域の景観　里山景観　山岳景観

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J60092001
科目名	地域再生・まちづくり論	単位数	2
科目名（英語表記）	Community Development		
担当者名	寺川　政司	旧科目名称	
講義概要	わが国の都市や町の成り立ちを振り返りながら現在のまちが抱える多様な問題について学び、都市のマイノリティに関わる居住問題と実践事例をもとに市民参画型のまちづくりと今後の専門家のあり方について考察する。とくに、亀岡市内のフィールドワークを通じて、現在のまちづくりの手法を学びながら、現代的なテーマ型まちづくりの課題と展望を考察する。		
教材（テキスト）	プリントを配布		
教材（参考文献）	「これからの住まいとまち―住む力をいかす地域生活空間の創造」朝倉書店 「現代集合住宅のリ・デザイン―事例で読む[ひと・時間・空間]の計画」彰国社 内田雄造編著「まちづくりとコミュニティワーク」解放出版社 寺川政司監修「北芝まんだら物語」		
教材（その他）	資料を授業時に配布する。		
評価方法	授業時提出のレポート　20% 授業に対する熱意　30% フィールドワーク等への参画と成果　50%		
到達目標	・日本のまちの成り立ち、制度を学びながら、歴史的経緯から現在をとらえる感覚を学ぶ。 ・多様なテーマで実践されているまちづくりのダイナミズム、面白さ、課題等について理解する。 ・大学が位置する亀岡市のまちづくりを体感するとともに、今後の自分自身とまちとの積極的な関わり方を意識する。		
準備学習	・様々なメディア（新聞・冊子・ＴＶ・Ｗｅｂ・現場　等）を用いて、「テーマ型まちづくり」に関する情報を得ておくこと。		

受講者への要望

フィールドワーク等への参画と授業に対する意欲を重視します。

講義の順序とポイント

1. まちづくり概論
2. わが国の都市とまちの変遷
3. 住宅政策の変遷とまちづくり
4. 共同住宅団地の変遷＜軍艦アパート＞
5. 戦前長屋地域の再生　＜関西の戦前長屋と空堀地区の挑戦＞
6. まちの再生と多様な住まい＜コーポラティブ住宅・コレクティブ住宅＞
7. マイノリティコミュニティにおける地域再生とまちづくり

8.~14　亀岡市フィールドワーク・ワークショップ

15.コミュニティマネジメントとコレクティブタウン
　（市民主体のまちづくりと専門家）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★★		★	

年度	2016	授業コード	J60093001
科目名	都市自然化デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Design of Urban Naturalization		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	本講義ではフィールドワークという方法論を学ぶ。地域の問題を発見し、課題解決の提案をしていくためには、実際に現場に入り課題をすくい取ってくることができる訓練が必要である。そのためには、地域の生活や社会、自然についての文献、地図、写真、衛星データなどを読み解き、また、地元の方々などへのヒアリングやアンケートなどの情報も総合的に活用できる力が必要となる。本講義では、グループ単位でフィールドワークの実践と企画を行い、フィールドワークの果たす役割を理解し、将来的には地域調査士として社会で活躍できる基礎を固める。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	フィールドワーク　新曜社 地域診断法　新評論 学びの旅　地域の見方・とらえ方・楽しみ方 ワークショップ　学芸出版 コミュニティデザインの時代　中公新書		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオ上映など。		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	フィールドワークを実際に自分で企画運営できること		
準備学習	自分でも各地に自主的なフィールドワークに参加し、現場から問題点を発見することになれておくこと 確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講者への要望			
この講義はフィールドワークの方法論がテーマであるので、フィールドワーカーとして将来活躍していきたい学生に積極的に受講してもらいたい			
講義の順序とポイント			
1.フィールドワークとは何か 2.フィールドワークの企画 3.文献・地図・史資料の収集整理の仕方 4.調査項目の絞込み 5.25000 分の 1 の地図の読み方と地形判読 6..空中写真の見方と利用の仕方 7..聞き取り調査、アンケート調査の手法 8.フィールドワークの実施にあたって 9.フィールドワークの実施 10.入手データの分析（人口、社会） 11 入手データの分析（経済、地域構造） 12.フィールドワークのまとめ 13.GIS による地図化、可視化 14.フィールドワークの結果発表 15.フィールドワークの結果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J60094001
科目名	都市緑化材料学	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials for Urban Tree-Planting		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	都市緑化に用いられる植物材料の種類とその性質を解説するとともに、環境緑化全般の技術体系についても紹介する。		
教材（テキスト）	「最新環境緑化工学」朝倉書店		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	復習小テストとレポートで評価する。		
到達目標	庭園、公園、街路樹、自然再生を含む各種環境緑化事業の際に用いられる材料と緑化技術の概要に関する知識を身につける。		
準備学習	「樹木学」を履修しておくこと。		

受講者への要望

特に指定はしないが、樹木に関する図鑑類を購入し、樹木を同定する習慣を身につけておいてください。

講義の順序とポイント

1．総論　　：緑化の基本的な考え方
2．　　庭園、公園、街路、環境林と緑化材料
3．　　植栽基盤整備
4．　　気候変動と緑化材料
5．材料各論：樹木とその性質（1）
6．　　樹木とその性質（2）
7．　　草本とその性質（1）
8．　　草本とその性質（2）
9．緑化各論：樹木の活力の評価法
10．　　芝生と地被
11．　　屋上緑化とその材料
12．　　壁面緑化とその材料
13，　　室内緑化とその材料
14．　　街路樹とその管理
15．　　環境林の造成と管理
＊進行状況によって、変更することもある。また、フィールドワーク（土日）も企画中である。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2016	授業コード	J60096001
科目名	都市排水廃棄物論	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Drain Water		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	普段私たちが使っている水はどこからきてどこに行くのか。また、ゴミはどこからきてどこに行くのか。このような普段の生活の中で、無意識のうちに当たり前のように使っている水と物質に着眼し、その流れを追跡しながら、都市での排水、廃棄物の問題を掘り下げ、どこに問題が潜んでいるのかを探る。亀岡市の水と廃棄物に関する施設を実際に訪問することなどを通じて課題を認識し、KJ 法などのグループ間でのディスカッションによりさらに掘り下げる。さらに、20 世紀末に進んだ大量生産、大量消費、大量廃棄の時代からこれからの私たちの社会のあり方を学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、演習用のプリントを配布する		
教材（参考文献）	下水道バランスシート　北斗出版 発想法　創造性開発のために　中公新書 PCM 手法に基づくモニタリング・評価　財団法人　国際開発高等教育機関		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、ビデオ上映など		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	都市の排水廃棄物に関する問題抽出手法について理解すること		
準備学習	都市の中の排水や廃棄物は身近な問題でもあるので、家庭や地域において関心を高めるようにすること 確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講者への要望			
毎週授業内容の確認小テストを実施するので、授業には毎回出席すること			
講義の順序とポイント			
1. 都市排水廃棄物論の概要 2. 都市における排水の状況 3. 都市排水の処理 4. 都市における廃棄物の状況 5. 都市廃棄物の処理 6. フィールドワーク 1 7. フィールドワーク 2 8.フィールドワーク 3 9. 江戸時代のリサイクル社会 10. 現代の資源の再利用 11. 自然の力を生かした排水処理 12. 下水汚泥の再利用 13. PCM 手法の解析 14. PCM 手法の実施 15. PCM 手法の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J60097001
科目名	都市環境解析学	単位数	2
科目名（英語表記）	Analysis of Urban Environments		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	都市環境診断学
講義概要	本講義では、都市環境を診断する上でのツールとして地域統計学を学ぶ。最初に、統計の基礎的な理論から始まり、グラフ表現、重要な統計解析手法の概念と応用例を学習する。解析結果に関しては地理情報システム（GIS）と連携させた表現方法を習得する。その後、実際の地域をケーススタディとして取り上げて、統計的な手法により地域特性分析を行う。また、集落診断として、亀岡のいくつかの集落をフィールドサイトとして、質問表の作成方法などを学びながら、集落の総合的な診断へとつなげる。春学期の都市自然化デザイン論（フィールドワーク）とも関連が深いので合わせて受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）	環境統計学入門　オーム社 多変量解析の実践　上下　現代数学社 統計解析の話　東京図書 分散分析の話　東京図書		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	都市環境や持続可能な社会に関する指標について理解し、グループ単位でのフィールドワークと発表が行うことができることを目標とする		
準備学習	都市の問題に関しては新聞やテレビその他のメディアに登場する頻度が高いので、アンテナを立てて関心を高めておくこと。確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講者への要望			
フィールドワークはグループ単位で実施する。グループリーダーはその後パワーポイントで教室にて発表をする。			
講義の順序とポイント			
1.統計の基礎理論その 1 2.統計の基礎理論その 2 3.地域における統計データの種類 1 4.地域における統計データの種類 2 5.統計データの表現手法（可視化）その 1 6.統計データの表現手法（可視化）その 2 7.可視化されたデータから地域特性分析手法その 1 8.可視化されたデータから地域特性分析手法その 2 9.サンプリングによる調査手法 10.アンケート調査の設計 1 11.アンケート調査の設計 2 12.多変量解析その 1 実習 13.多変量解析その 2 実習 14.数量化理論その 1 実習 15.数量化理論その 2 実習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J60098001
科目名	ランドスケープデザイン実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental design studio: Urban landscapes		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	都市自然化デザイン演習
講義概要	都市域から里地、山地にわたる、自然と文化のおりなす美しいランドスケープの保全／再生／創造の「計画」「設計」「施工」「マネジメント」がランドスケープ・アーキテクトの仕事です。この授業では、そのなかでもデザインの領域について、実際の空間を対象に行うデザイン・スタジオです。 初めて空間のデザインを行う学生を対象とし、設計のための基礎知識や技術の習得のほか、空間デザインの役割や意義、よい空間のデザインとは何なのかを学習します。 そのために、デザイン・サーベイを行って空間の把握と評価の方法、自分の考えを表現します。さらに、優れた作品や風景のクイックスケッチをいくつか行いつつ、具体的な空間を対象に、敷地計画の分析・評価し、そこをデザインします。まず、デザインコンセプトを検討し、その具体化の方法を検討し、その表現方法を検討し、作品に仕上げ、合評会で各自が自分の作品のプレゼンテーションと他の作品の批評を行います。模型も表現手法としてのみならず、重要なデザイン検討手段としても取り組みます。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	森本幸裕・白幡洋三郎編著『環境デザイン学：ランドスケープの保全と創造』朝倉書店（比較流域景観論と共通） RLA ガイドブック出版の会『ランドスケープアーキテクトになる本』 都田徹・中瀬勲著『アメリカンランドスケープの思想―ランドスケープ・デザインを志す若人へのメッセージ』鹿島出版会 八木健一『はじめてのランドスケープデザイン』学芸出版		
教材（その他）			
評価方法	皆勤出席が前提（無届欠席の場合は成績評価しない）。課題提出作品とプレゼンテーションで評価。		
到達目標	身近なランドスケープ・デザインが提案できるようになること。		
準備学習	１）Youtube のリンク　I want to be a Landscape Architect {http://www.youtube.com/watch?v=zbx3FDDNeQM} をじっくり見て、モチベーションを高めておく。 ２）樹木や草花に親しむ。 ３）スケッチブック（A3 サイズが挟めるように、Ｆ６号）を購入し、気に入った風景のスケッチと特徴の記述の練習をする。 （スケッチブック購入は必須です）		
受講者への要望			
「比較流域景観論」とあわせて受講することが望ましい。ランドスケープ関係への進学・就職、およびランドスケープデザイン研究室への分属を考えている学生は、ぜひ受講してください。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス、ランドスケープ入門、クイックスケッチ、製図の方法 ２．クイックスケッチ１, desk crit ３．デザイン・サーベイ（１：穴大寺） ４・デザイン・サーベイ（２：京都駅、梅小路公園など） ５．デザイン・サーベイ・レポート作成 ６．主課題発表：敷地調査、敷地分析結果の空間的表現 ７．クイックスケッチ２, desk crit、コンセプトづくり ８．エスキース：コンセプトの具体化 ９．平面図とスタディ模型を用いた発表、改善点の洗い出し １０．クイックスケッチ３, desk crit、デザインの精製 １１．クイックスケッチ４, desk crit、デザインの精製 １２．プレゼン資料作成			

１３．プレゼン資料作成
１４．合評会
１５．ポートフォリオ作成・提出
＊主課題については当日までに発表する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	―	★	－	―

年度	2016	授業コード	J60099001
科目名	環境地球科学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	環境地球科学演習		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる岩石，鉱物，結晶，地質，地史などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・実験を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．岩石（1）：火成岩
2．岩石（2）：堆積岩
3．岩石（3）：深成岩
4．鉱物（1）：造岩鉱物
5．鉱物（2）：偏光顕微鏡
6．鉱物（3）：ケイ酸塩鉱物
7．結晶（1）：結晶格子
8．結晶（2）：結晶系
9．結晶（3）：結晶光学
10．地質（1）：地形
11．地質（2）：地層
12．地質（3）：地質構造
13．地史（1）：化石
14．地史（2）：地質年代
15．地史（3）：放射年代

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60105001
科目名	バイオマス概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Biomass		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	今日の私たちの生活は、再生不可能な資源である化石資源（石油、石炭、天然ガスなど）に大きく依存しており、このことが、地球の温暖化や大気汚染、水質汚染など、様々な環境問題を引き起こしている。さらには、私たちの生活を支える基盤であるこのような資源が、近い将来に枯渇することが確実視されており、現在のような大量生産、大量消費の生活様式はやがて破綻する。また、原子力で生産する電気に頼るのも、災害の危険性や使用済み核燃料の処分の困難さなど、多くの問題を抱えている。一方、古来より人類は、樹木や草木（イネ、麦、野菜など）を、食料、原材料、エネルギー源として利用してきた。これらは、太陽エネルギーを利用して育った生物であり、持続的に再生可能な資源である。この講義では、人類の生存を支えてきた生物システムの全体像を、地球規模での物質循環という視点から説明し、生物由来の再生可能な資源（バイオマス）の利用のあり方や、環境問題およびエネルギー問題を考えるための基礎的な事項を講義する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』リーダーズノート社、2,200 円＋消費税		
教材（その他）	プリントを配布する		
評価方法	期末試験（70 点）、適宜行う小テスト（30 点）		
到達目標	人類の生存を支える生物システムを理解し、そこから環境問題およびエネルギー問題を自らの視点で考えられるようにする。		
準備学習	講義の終了時に次回の講義の資料を配布するので、読んでおくこと。復習をしっかりと行うこと。		

受講者への要望

バイオマスに関連するニュースを読んでおくこと

講義の順序とポイント

1．バイオマスを有効利用していた昔の生活と、ナウル共和国（資源枯渇の 10 年前から対策を打ち始めたが失敗した）の事例
2．自然界での食物連鎖と物質の循環。有機物の生産と消費。生物の生育に必須である水の循環。
3．地球規模でのリンの循環：リンの循環での生物の大きな役割
4．地球規模での窒素の循環（1）：窒素循環の全体像
5．地球規模での窒素の循環（2）：窒素循環の個別の解説
6．地球規模での窒素の循環（3）：過剰な窒素化合物の害と窒素化合物の処理
7．地球規模での物質循環のまとめ
8．バイオマスの枯渇と文明の滅亡
9．バイオマス利用の長所と欠点
10．バイオマスの利用技術の概要（1）：炭化、化学的ガス化、メタン発酵
11．バイオマスの利用技術の概要（2）：エタノール発酵の方法
12．バイオマスの利用技術の概要（2）：バイオエタノール・バイオディーゼルの製造
13．バイオマスの利用技術の概要（3）：堆肥化の方法
14．バイオマスの利用技術の概要（4）：堆肥の効能。堆肥化の利点と欠点。
15．バイオマス利用の将来性

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J60106001
科目名	環境化学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	環境に関係するさまざまな事象について、計算問題を解くなどの演習を通じて理解を深め、事象を定量的に把握できるようにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』リーダーズノート社、2,200 円＋消費税		
教材（その他）	演習のためのプリントを配布する		
評価方法	期末試験（60 点）、適宜行う小テスト（40 点）		
到達目標	環境に関する諸問題を定量的にとらえる力を身に付ける。		
準備学習	プリントの配布を行うので、事前に読んでおくこと。また、前回の復習をしておくこと。		

受講者への要望

環境問題に関するニュースなどを普段から読むようにこころがけること。

講義の順序とポイント

1．濃度と希釈の基本
2．モル濃度
3．水質汚濁（1）：チッソ、リン濃度
4．水質汚濁（2）： 有機物の酸化分解
5．水質汚濁（3）： BOD と COD と測定方法
6．水質汚濁（4）： BOD と COD と水質基準
7．廃水処理（1）：滞留時間
8．廃水処理（2）：BOD 負荷
9．廃水処理（3）：BOD 除去率、BOD 除去速度
10．メタン発酵：メタン生成量
11．大気汚染：気体の体積、重さ
12．気体の爆発
13．放射線の影響（1）：シーベルト
14．放射線の影響（2）：ベクレル
15．放射線の影響（3）：外部汚染、内部汚染

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J60107001
科目名	バイオマスプロセス工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomass Processing Technology		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	環境への関心の高まりと共にバイオマスの資源としての価値が再評価されてきている。この講義では、バイオマスとは何なのかという基本的なことを理解したうえで、今までどのように使われてきたのか、どのように変換されるのかということを説明する。特に、農業への利用という点を重視し、生物学的変換の代表的な例である堆肥化を中心に講義を行う。さらに、バイオマスタウンに代表されるバイオマス利用の事例を挙げながら、そこで用いられている技術について触れる。そのうえで、バイオマス利用の問題点を認識し、将来の利用について考える。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	アルバート・ハワード著　『農業聖典』　日本有機農業研究会 藤田賢二著　『コンポスト化技術』　技報堂出版		
教材（その他）	なし		
評価方法	講義内の課題等（60%）、定期テスト（40% ）		
到達目標	バイオマスがどのようなものか、なぜ注目されているのかを理解する。 バイオマスの生物化学的変換技術（特に堆肥化）について理解を深める。 現在行われているバイオマス利用の問題点を整理した上で、新しい提案をできる力を身に付ける。		
準備学習	毎回講義ののちに講義内容を自分なりにまとめておく。提出を求めることもある。 講義終了時に課題を課されたときは、資料を探して読むなどの予習を行う。		

受講者への要望

バイオマスの利用に関する新聞記事やニュースなどを探して読み、自分が特に関心を持つバイオマス利用を見つける。

講義の順序とポイント

1. バイオマスとは何か、環境問題とバイオマス
2. 里山のバイオマスの特徴（気候・分布・材料特性）
3. バイオマス利用の歴史（食品・材料・エネルギー）
4. バイオマスの変換方法１　熱化学的変換
5. バイオマスの変換方法２　生物学的変換
6. 微生物・酵素の働き
7. 農業におけるバイオマス利用
8. 堆肥化１　堆肥化の原料と生成過程
9. 堆肥化２　製品化と施用効果
10. バイオマスの農業利用の事例１　亀岡カーボンマイナスプロジェクト
11. バイオマスの農業利用の事例２　生ごみ堆肥化
12. バイオマスタウンの事例　エネルギー生産
13. 海外でのバイオマス利用の事例（北欧・欧州）
14. バイオマス利用の問題点と今後
15. バイオマス利用の提案

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J60109001
科目名	バイオマス科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomass Science		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	バイオマス資源材料学
講義概要	バイオマスの中で木質系のバイオマスの占める割合は高い。特に樹木は重要なバイオマスである。樹木の組織のほとんどは細胞壁である。木材の一般的な性質は細胞壁の構造や成分によるところ多い。樹木には大きく分けると針葉樹と広葉樹が存在するが、両者には外観のみならず細胞組織に大きな違いがあり、木材の性質に影響を与えている。本講義では針葉樹材、広葉樹材の比較をしながら、木材の理解に必要な生物学的・物理学的・化学的性質を解説する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	古野毅・澤辺攻編　『木材科学講座 2 組織と材質』 海青社 高橋徹・中山義雄編　『木材科学講座 3 物理』　海青社 城代進・鮫島一彦編　『木材科学講座 4 化学』　海青社		
教材（その他）	なし		
評価方法	小テスト（60%）、定期テスト（40% ）		
到達目標	木本植物の特徴を理解する。 針葉樹および広葉樹の構造の違いを理解する。 細胞壁の成分を理解する。 構造や成分がどのような特性と関係するかが説明できる。		
準備学習	初日の講義が始まるまでに、針葉樹材や広葉樹材がどこに利用されているかを考えて、特徴を推測しておく。平時の講義の際は、予習よりも復習を行う。具体的には、講義のテーマごとに、針葉樹の特徴と広葉樹の特徴、木材として共通の特徴を分類してまとめておく。最終的に組織、化学成分、物理特性の横の関係がつながるようにする。		
受講者への要望			
受講中に、常に「針葉樹」「広葉樹」の類似点や相違点を整理しておくこと。			
講義の順序とポイント			
1.　樹木の外観構造 2.　木本植物の植物学上の分類 3.　針葉樹の細胞 4.　広葉樹の細胞 5.　その他の木化植物の細胞 6.　小テスト１　伸長生長と二次肥大生長 7.　細胞壁の構造 8.　特殊な細胞壁（あて材） 9.　小テスト２　糖科学の基礎（多糖と単糖） 10.　細胞壁の主要 3 成分 1　セルロース 1 (分子構造・立体配座・立体配置) 11.　細胞壁の主要 3 成分 1　セルロース 2 （水素結合） 12.　細胞壁の主要 3 成分 2　ヘミセルロース （化学構造） 13.　細胞壁の主要 3 成分 3　リグニン （前駆体物質・合成過程） 14.　小テスト３　木材の三大欠点－燃える・狂う・腐る－　（水分と物理的性質） 15.　木材の物理特性　（力学的特性）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J60110001
科目名	バイオマスエネルギー工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomass Energy Technology		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	バイオマスエネルギー学
講義概要	現在のエネルギー事情から、バイオマスエネルギーが注目される理由を理解する。過去にすでに利用されているバイオマスエネルギーから現在研究途上のバイオマスのエネルギー変換までその原理を解説する。特に、発電についてはバイオマスに限らず、自然エネルギーや原子力などについても触れ、これからのエネルギーのあり方について考える。さらに環境問題を考えるうえで、物質変換やエネルギーの原理を知ることは重要であるので、基本的となる熱力学の法則について講義を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	横山 伸也・芋生 憲司　著　『バイオマスエネルギー』　森北出版　2730 円＋税		
教材（その他）	なし		
評価方法	定期テスト（100% ）		
到達目標	エネルギーは形が変化するだけで、量が変化しないこと（熱力学の法則）を理解する。 同じ量のエネルギーであっても質のよいものと悪いものがあること（熱力学の法則）を理解する。 バイオマスのエネルギー利用において、水の存在の重要性を理解する。 基本的な変換である熱化学的変換と生物学的変換の特徴を理解する。		
準備学習	講義が始まる前に、物理学や化学で使用する単位について予習をしておく。 毎回の講義については、予習ではなく復習を中心としノートの整理を行う。 秋学期を通して、参考文献や他のバイオマスに関する書籍あるいは新聞や雑誌を読み、どのような利用法があるのかの情報を集める。また、熱力学（特にエントロピー）に関する読み物（例えばエントロピーの科学コロナ社）などを読む。		

受講者への要望

バイオマス料学を受講していることが望ましい。

講義の順序とポイント

1. エネルギーとは何か、一次エネルギーと二次エネルギー
2. 現在のエネルギー事情（エネルギー白書から）
3. 新エネルギー政策とバイオマスの種類
4. バイオマスの性質と発熱量（HHV）（LHV）
5. バイオマス変換法、燃焼木質資源
6. 熱化学的変換１　基本性質、熱分解・ガス化
7. 熱化学的変換２　物質の状態図と超臨界分解
8. 生物学的変換１　メタン発酵・水素発酵
9. 生物学的変換２　バイオエタノール（SSF、SHF、CBP）
10. その他の変換　脂質の化学とバイオディーゼル
11. 発電原理とバイオマス発電
12. 太陽光発電（半導体の利用例）
13. エネルギー科学の基礎 1　エネルギー保存則
14. エネルギー科学の基礎 2　熱効率
15. エネルギー科学の基礎 3　エネルギーの質

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J60112001
科目名	バイオマス実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Biomass		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	バイオマス実験B、バイオマスエネルギー実験
講義概要	木質バイオマスの一般的な成分分析を通して、木質バイオマス、特に針葉樹と広葉樹の相違点を理解する。バイオマス科学の講義内容を実験を通じて、より深く理解する。また、バイオマスエネルギー工学の講義で紹介するバイオマスの生物学的変換過程において、重要な役割をする酵素について実験を通して理解をする。具体的には全体を三部に分けそれぞれ、一部:木材の成分分析、二部:酵素活性測定、三部:木材の組織観察を行う。		
教材（テキスト）	実験書（実験初日に配布）		
教材（参考文献）	古野毅・澤辺攻編　　『木材科学講座 2 組織と材質』 海青社 城代進・鮫島一彦編　『木材科学講座 4 化学』　海青社		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	木材の分析法を学び、木材の成分に対する理解を深める。酵素反応実験を通して、実験操作を習得するとともに酵素の性質を理解する。 永久プレパラートの作り方や顕微鏡の扱い方を習得する。 実験の方法を順序立てて説明することができる。 得られた実験結果を適切に処理し、得られた内容を考察することができる。		
準備学習	必ず実験の予習をし、手順を実験ノートに簡単にまとめる。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		

受講者への要望

バイオマス科学を受講していることが望ましい。
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。
実験に積極的に参加すること。
実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。「提出さえすればいい」わけではないことを理解しておく。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　注意事項
2. 一般木材分析 1　含水量、灰分量の測定
3. 一般木材分析 2　有機溶媒抽出物の定量
4. 一般木材分析 3　リグニンの定量
5. 一般木材分析 4　ヘミセルロースの定量
6. 一般木材分析 5　セルロースの定量
7. 酵素反応実験 1　至適条件測定 1
8. 酵素反応実験 2　標準溶液の調整
9. 酵素反応実験 3　至適条件測定 2
10. 酵素反応実験 4　複数のセルラーゼ活性の比較
11. 酵素反応実験 5　ろ紙崩壊活性測定
12. プレパラートの作製
13. 組織の観察 1　針葉樹
14. 組織の観察 2　広葉樹
15. 組織の観察 3　草本類

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2016	授業コード	J60113001
科目名	環境アセスメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Assessment		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	日本における自然環境、自然災害、環境問題の変遷の大きな流れを学び、環境アセスメントの制度が成立してきた経緯を理解する。環境アセスメントを実施する際、地域の概況を的確に理解することは、その後の環境影響評価を行う上で重要なステップであり、本講義では自然地理学の観点から、地域の概況に関する地圏、気圏、水圏、生物圏の仕組みの掴み方を学ぶ。また、環境アセスメント実施後の、環境モニタリング、環境保全計画に関しても学ぶ		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。		
到達目標	環境アセスメントの基本概念と地域の概況調査に必要となる地圏、気圏、水圏、生物圏の基礎について理解する		
準備学習	環境アセスメントはダムや道路などの公共事業のあり方と密接に関連づいているので、政治や経済の動向にも関心を寄せること。		
受講者への要望			
講義以外の時間にフィールドワークやビデオ学習、PDF 学習などがあるので積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			

1. 日本列島の形成と国土の基盤である自然環境を大きく捉える

2.明治以降の環境問題の変遷

3.近年における自然災害の増大

4.環境アセスメントの制度の概要

5.環境アセスメントの手法と課題

6.地域の地圏の把握　その 1

7.地域の地圏の把握　その 2

8.地域の気圏の把握　その 1

9.地域の気圏の把握　その 2

10.地域の水圏の把握　その 1

11.地域の水圏の把握　その 2

12.地域の生物圏の把握　その 1

13.地域の生物圏の把握　その 2？

14.地域の生物圏の把握　その 3

15.環境モニタリングと環境保全計画の概況

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J60114001
科目名	環境アセスメント演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Environmental Assess ment		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	本講義では、地理情報システム(GIS:Geographical Information System)の理論と実際の使い方を学ぶ。GIS は環境アセスメントの実践の中でも広く使われてきているが、防災、教育、マーケティングなど、その他の分野でも幅広く利活用が進んでいる汎用的な意思決定のためのツールである。最初に GIS の理論を講義形式で学び、次に GIS のソフトウェアを 3Ｆのパソコンルームで実際に起動させることによって、基礎から応用まで体感的に理解し、自由に操作できるレベルを目指す。その際、日本国土の生活、社会、自然などに関する空間データの利用方法、表現の仕方についても習得する。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、演習用のプリントを配布する		
教材（参考文献）	ARCGIS　Desktop 逆引きガイド　ＥＳＲＩジャパン株式会社　著 ARCGIS10　PART1　身近な事例で学ぼう　古今書院		
教材（その他）	GIS 演習データ、適宜プリントを配布、パワーポイントなど		
評価方法	講義中に複数回、レポートの提出を実施する。レポートの合計点と平常点の総合的な評価とする		
到達目標	環境アセスメントにおける GIS など空間情報の解析ツールの操作方法を習得する		
準備学習	R ドライブや U ドライブなど、コンピュータの基礎的な事項を十分に理解しておくこと。レポートはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		

受講者への要望

授業の後半は 3 階の PC ルームにて実施するので PC 操作に慣れておくこと。
なお、春学期の環境アセスメントの単位を取得していることと、スマートフォンを講義で使うので、スマートフォンを所有することを履修登録の条件とする。また、この演習は ARCGIS のライセンスの関係から 50 名を限度とする。50 名を超える場合は、上回生を優先し、２回生に関しては抽選とする

講義の順序とポイント

1. GIS とはどのような概念か（講義）
2.GIS の発展経緯と活用事例（講義）
3. 25000 分の 1 の地図の読み方 1（講義）
4.25000 分の 1 の地図の読み方 2（実習）
5.カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 1（講義）
6.カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 2（実習）
7. カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 3（実習）
8. カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 4（実習）
9. カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 3（実習）
10. GIS の基本的な操作方法 1（実習）
11. GIS の基本的な操作方法 2（実習）
12. GIS の基本的な操作方法 3（実習）
13. GIS の基本的な操作方法 4（実習）
14. GIS の基本的な操作方法 5（実習）
15. GIS の基本的な操作方法 6（実習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J60115001
科目名	環境リスクマネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Risk Management		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	環境と人間活動との相互作用により生じる様々な負の影響（リスク）を管理（マネジメント）するための分類・評価手法について講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	化学物質評価研究機構著　「化学物質のリスク評価がわかる本」　丸善出版 吉田喜久雄，中西準子著　「環境リスク解析入門」　東京図書 浦野紘平，松田裕之共編　「生態環境リスクマネジメントの基礎」　オーム社 松田裕之著　「生態リスク学入門：予防的順応的管理」　共立出版		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	リスクを 0 にすることは難しいことを理解し、リスク管理の客観的、論理的説得力の重要性を理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		

受講者への要望

リスクに対する当事者意識を持ち、講義に臨んでほしい。

講義の順序とポイント

1） ガイダンス　環境リスクマネジメントの意義
2） 環境リスク評価の基本的考え方
3） 環境リスクの評価方法：閾値がある場合 1
4） 環境リスクの評価方法：閾値がある場合 2
5） 環境リスクの評価方法：閾値がない場合
6） リスクのトレードオフ：水道水の塩素消毒による感染症防止
7） リスクのトレードオフ：水道水の塩素消毒による発ガン性物質の生成
8） 水銀のリスク評価
9） 生態リスクの評価方法 1
１0） 生態リスクの評価方法 2
１1） 外来生物のリスク評価
１2） 生物多様性の喪失と絶滅危惧種
１3） 野生動物の保護と獣害
１4） リスク管理と生物多様性
１5） リスクコミュニケーション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J60117001
科目名	環境マネジメント演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	蔡　佩宜	旧科目名称	
講義概要	現代の様々な環境問題を考え、環境マネジメントシステムを現実的に理解する。本講義では、環境経済学の知見を活用しながら、持続可能性な環境マネジメントシステムを構築するために必要な基礎知識や概念、手法について学びます。また、企業・行政が行っている環境マネジメントの実際についても理解を深めます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回の授業でプリントを配布します。		
評価方法	レポート（70%）と平常点（30%）によって評価します。なお、平常点は各回の授業で受講者に書いてもらうコメントシートの内容に基づいて評価します。		
到達目標	環境マネジメントの基本的知識を習得し、環境問題を多面的に考える力をつけます。		
準備学習	毎回の授業で配布するプリントの内容を、次回の授業を受ける前に復習すること。		

受講者への要望

原発や再生可能エネルギー、地球温暖化など、私たちの暮らしは様々な環境問題に直面しています。受講者の皆さんには、ぜひ自分の将来に関わる問題の一つとして環境問題を考えてほしいと思います。日頃から、インターネットや新聞、または環境本を活用して、自分の興味のある環境問題をフォローしておくようにして下さい。

講義の順序とポイント

講義の計画は以下の通りです。

1. オリエンテーション
2. 現代の環境問題考察（1）
3. 現代の環境問題考察（2）
4. 環境問題発生のメカニズム
5. 環境政策の理論
6. 政策手段の選択
7. 環境の価値評価（1）
8. 環境の価値評価（2）
9. 持続可能な発展（1）
10. 持続可能な発展（2）
11. 環境アセスメント
12. 企業の環境マネジメント
13. 企業の環境的責任
14. 地域住民による環境マネジメント
15. 授業のまとめ、レポート提出

なお、受講者の数や問題関心、授業の進捗状況に応じて、講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★★	★

年度	2016	授業コード	J60118001
科目名	化学生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemical Ecology		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	本講義では、「生物間で取り交わされる情報化学物質を読み解いて生き物の生態を解き明かす生物学」という見地にたって、生物間相互作用について学ぶ。すべての生物は他の生物との相互作用の中で生活している。ヒトもその例外ではない。相互作用の基本は、食う－食われるという栄養関係にあるが、本講義の中心は、たとえば食物探索に利用される匂いや味といった情報を運ぶ化学物質とその役割について学ぶことにある。すなわち、同種、異種の生物間でやりとりされる生物情報について、情報化学物質とその機能を中心に知識と理解を深める。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	ハルボーン化学生態文永堂 化学生態学への招待三共出版		
教材（その他）	講義に必要な教材は、１回前の授業終了時に配布する。		
評価方法	期間中および期末のレポート(小論文、4～5 回)で評価する。 本科目では知識の多寡だけを問わない。知見の整理と情報発信力を中心に小論文形式のレポートで評価し、試験は実施しない。したがって、レポート提出が１回でも滞ると単位認定が危うくなること、認定されてもごく低い評価点にとどまることに留意すること。		
到達目標	自然界における化学物質による生物間の相互作用についての関心を高め、理解を深める。		
準備学習	生物学と有機化学の境界領域である。授業内容の理解に有機化学の知識が不可欠というわけではない。化学の専門知識がなくても、十分楽しめる内容であるが、より深い理解には、有機化学の基本的知識が必要になるであろう。受講中に興味がわき化学的知識の不足を感じることがあれば、化学を学びなおすきっかけにすれば良いではないか。事前に配布した資料をよく読み込んで、興味や質問を整理しておくこと。		
受講者への要望			
対象となる生物や現象が非常に多様である。多くの知識を得ることも大切であるが、それ以上に、それぞれの生き物が多様で巧みな生き方をしていることを、だれか他の人にも面白く楽しく語って伝えてほしい。 生物有機化学研究室分属希望の学生は、必ず受講すること。			
講義の順序とポイント			
1. 化学生態学とは 2. 昆虫と寄主植物摂食刺激物質－カイコはなぜクワしか食べないか?－ 3. 昆虫と寄主植物植物の有毒物質－カイコはなぜクワを食べられるのか？－ 4. アレロパシー植物間の化学的交渉 5. 動物による送粉－ 動物と植物の共進化 6. フェロモン－ 化学物質で交わす言葉 7. 昆虫のフェロモン－ 配偶者探索におけるフェロモンの役割 8. 合成性フェロモンの農作物害虫防除への利用 9. 性フェロモンの化学的解明－ 超微量分析化学 10. 社会性昆虫の化学交信－ アリは化学物質で周りを「見て」いる！ 11. 社会性昆虫の化学交信－ ミツバチの不思議 12. 天敵の寄主探索－ 寄主の化学交信に付け込む天敵たち 13. 病原菌から身を守る植物－ 抗菌物質で森林浴 14. 昆虫が誘導する植物の病原菌抵抗性 －ウンカに吸汁されるといもち病に強くなる？ 15. 脊椎動物のフェロモン － 哺乳類の複雑さ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J60119001
科目名	応用微生物学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Microbiology B		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	産業微生物学
講義概要	産業微生物学を取り扱う。 微生物機能を活用するバイオプロセスを使った医薬品・精密化学品・食品の製造について、産業上有用な微生物の探索・機能開発と微生物利用による工業生産の背景・特徴など具体例を提示しながら説明する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）　応用微生物学　第２版（2008）　清水昌、堀之内末治　編　文永堂出版 2）　遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦　他　編　朝倉書店		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	以下の項目に基づいて評価する。 ・授業内小テスト・レポート（40%） ・期末試験（60%）		
到達目標	1）微生物利用による工業的生産方法の特徴・利点を理解する。 2）個々の事例について、産業として成立した時代的背景、社会的要請、技術の優秀性などの観点から理解する。		
準備学習	受講者は「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくことが望ましい。 講義終了時に次回の範囲のミニレポート課題を指定するので、次回の授業開始時に提出すること。講義中に取ったノートを整理しておくこと、また単元の区切りごとのレポートを課す。		
受講者への要望			
ノートに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。 微生物産業についての理解を深めるため、「応用微生物学 A」とあわせて受講することを推奨する。			
講義の順序とポイント			
1）身近なバイオとものづくり 2）生命の仕組みの本質的理解とその応用 3）アルコール発酵 4）有機酸発酵 5）アミノ酸発酵（1） 6）アミノ酸発酵（2） 7）核酸関連物質（1） 8）核酸関連物質（2） 9）抗生物質の発見 10）抗生物質の特徴 11）抗生物質生産 12）生理活性物質 13）酵素の発見と酵素産業 14）微生物を利用した環境浄化 15）世の中に役に立つ微生物			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J6012100A
科目名	専門外書講読Ａ -1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけること及び、当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識を系統的に養うことである。このために秋学期の専門外書講読Ｂと同じ教科書を使い、両講義の連続性を保ち、科学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。		
教材（テキスト）	“General, Organic, and Biochemistry" , Eighth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill)		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第３版（羊土社） 英和辞書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験(20%)、期末試験(40%)、毎回の理解度テスト(20%)、受講態度や発表への取り組み方(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。学業は自ら学ぶ意思を持ち、それを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2. Protein Building Blocks: The α Amino Acids
3. The Peptide Bond
4. The Primary Structure of Proteins
5. The Secondary Structure of Proteins
6. The Ternary Structure of Proteins
7. The Quaternary Structure of Proteins
8. 中間試験
9. An Overview of Protein Structure and Function
10. Myoglobin and Hemoglobin
11. Denaturation of Proteins
12. Dietary Protein and Protein Digestion
13. Medical Perspective: Collagen, Cosmetic Procedures, and Clinical Applications
14. Medical Perspective: Immunoglobulins: Proteins That Defend the Body
15. Nature Topics

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J6012100B
科目名	専門外書講読A -2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	教養レベルの有機化学と生化学の専門外書を精読する。科学論文で汎用される専門用語を学習し、英文読解力を高める。		
教材（テキスト）	『General, Organic, and Biochemistry』 7th edition,　MacGraw Hill		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）、英和辞書		
教材（その他）			
評価方法	以下で評価する。 中間テスト（45%） 定期試験（45%） 訳文の提出など（10%）		
到達目標	英文教科書を読むことによって、多くの専門用語を理解し、内容を把握する。		
準備学習	予習として、テキストの英文とその訳文を並列して、ワード文書で書き、その日の終了時にレポートとして提出する。		
受講者への要望			
予習は必ず行うこととする。必ず予習したこと（和訳）をワードで書き、授業時間に間違った箇所を修正して、終了時に提出することになる。提出しない場合は平常点は 0 である。			
講義の順序とポイント			
第 1 週　ガイダンス（講義の進め方、勉強の方法など） 第 2 週～第 15 週「General, Organic, and Biochemistry」を通して、科学英語の読解力を高める。第 8 週に中間テストを実施する。定期試験も実施し、両試験も含めて成績を評価する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J6012100C
科目名	専門外書講読A -3	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	科学英語Ⅰ～Ⅳで学習した基礎的な英語力を運用し、バイオサイエンス分野の教科書の英文テキストを精読する。英文法についての理解をさらに深めると共に、分野の専門用語、科学論文の表現法を学習する。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	・General, organic and biochemistry, 7th ed. （McGraw-Hill） Denniston, Topping, Caret 共著 ・ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社 2010） ・ライフサイエンス文例で身につける英単語・熟語（河本健，大武博／著　ライフサイエンス辞書プロジェクト／監　Dan Savage／英文校閲・ナレーター　羊土社　2009） ・シグマ基本問題集英文法　新装版（文英堂編集部　文英堂） （科学英語 III で一部の人は使用したもの）		
教材（その他）	・上記の「ライフサイエンス文例で身につける英単語・熟語」を単語テストの教材とするが、英単語・熟語のリストは配布するので、必ずしも購入する必要はない。 ・再履修者等については、上記の「シグマ基本問題集英文法　新装版」を使って課題を与える。		
評価方法	平常点（毎回の単語テストの成績・宿題の英文和訳の提出）（50%） 期末試験（50%）		
到達目標	3回生修了時にバイオサイエンス分野の原著論文を通読するだけの英語力を身につけるという目標に向かって、各自の英語力をレベルアップする。		
準備学習	・事前に配布されたプリントについて、単語帳作成、構文解析を行い、翻訳をつけてくること。これを毎回の授業でテストする。 ・次回の授業時の単語テストの範囲の単語を覚えてくること。		
受講者への要望			
科学英単語・熟語の暗記を毎回の宿題とする。			
講義の順序とポイント			
1) Chemistry (1) 2) Chemistry (2) 3) Chemistry (3) 4) Biochemistry (1) 5) Biochemistry (2) 6) Biochemistry (3) 7) Molecular biology (1) 8) Molecular biology (2) 9) Molecular biology (3) 10) Microbiology (1) 11) Microbiology (2) 12) Microbiology (3) 13) Plant physiology (1) 14) Plant physiology (2) 15) Plant physiology (3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J60121A0A
科目名	専門演習Ａ -1	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためには、まず最初に英語の文章構造の理解と 文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体 例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円 その他　英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
教材（その他）			
評価方法	演習課題（100%）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして提出すること。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．What are the ages?
2．Prove that!
3．Where do you live?
4．Find the positive value!
5．What is the relationship?
6．What is the minimum number?
7．Which lockers?
8．Into how many regions?
9．Can you deduce?
10．Is it possible to tile?
11．What is the speed?
12．When was sunrise?
13．How many steps?
14．What is the length?
15．What is the winning strategy?

注）進行状況等により適宜変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J60121A0B
科目名	専門演習Ａ -2	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためには、まず最初に英語の文章構造の理解と 文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体 例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円 その他　英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
教材（その他）			
評価方法	演習課題（100%）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして提出すること。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．What are the ages?
2．Prove that!
3．Where do you live?
4．Find the positive value!
5．What is the relationship?
6．What is the minimum number?
7．Which lockers?
8．Into how many regions?
9．Can you deduce?
10．Is it possible to tile?
11．What is the speed?
12．When was sunrise?
13．How many steps?
14．What is the length?
15．What is the winning strategy?

注）進行状況等により適宜変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J60121B0A
科目名	専門演習Ｂ -1	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading B		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円		
教材（その他）	英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	参考文献『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』を熟読しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．How many people?
2．How do you do it?
3．What is the smallest possible value?
4．What happened?
5．Can they do it?
6．How many faces?
7．Prove this by induction!
8．What is the largest integer n?
9．Complete the proof!
10．What can you say?
11．Can you do it with a picture?
12．Solve it in a few seconds!
13．What is the length?
14．Determine the minimum perimeter!
15．How high above the floor?

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	J60121B0B
科目名	専門演習Ｂ -2	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading B		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円		
教材（その他）	英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	参考文献『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』を熟読しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．How many people?
2．How do you do it?
3．What is the smallest possible value?
4．What happened?
5．Can they do it?
6．How many faces?
7．Prove this by induction!
8．What is the largest integer n?
9．Complete the proof!
10．What can you say?
11．Can you do it with a picture?
12．Solve it in a few seconds!
13．What is the length?
14．Determine the minimum perimeter!
15．How high above the floor?

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	J6012200A
科目名	専門外書講読Ｂ -1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	春学期の専門外書講読 A に続く科目である。一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけること及び、当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識を系統的に養うことである。このために秋学期の専門外書講読 A と同じ教科書を使い、両講義の連続性を保ち、科学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。		
教材（テキスト）	“General, Organic, and Biochemistry" , Eighth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill)		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第 3 版（羊土社） 英和辞書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験(20%)、期末試験(40%)、毎回の理解度テスト(20%)、受講態度や発表への取り組み方(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。学業は自ら学ぶ意思を持ち、それを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2. The Structure of the Nucleotide
3. The Structure of DNA and RNA
4. DNA Replication
5. Information Flow in Biological Systems
6. The Genetic Code
7. Protein Synthesis
8. 中間試験
9. Mutation, Ultraviolet Light, and DNA Repair
10. Recombinant DNA
11. Polymerase Chain Reaction
12. The Human Genome Project
13. Medical Perspective: Molecular Genetics and Detection of Human Genetic Disorders
14. Medical Perspective: Carcinogens
15. Nature Topics

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J6012200B
科目名	専門外書講読Ｂ -2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	春学期の専門外書講読 A に続く科目である。一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を引き続き精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、当該外書に記載されている内容を英語で理解するとともに、すでに学んできた有機化学や生化学の内容を復習し、理解と知識の蓄積を深める。		
教材（テキスト）	『General, Organic, and Biochemistry』 7th edition,　MacGraw Hill		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）、英和辞書		
教材（その他）			
評価方法	以下で評価する。 中間テスト（45%） 定期試験（45%） 訳文の提出など（10%）		
到達目標	英文教科書を読むことによって、専門用語を理解し、内容を把握する。今まで学んだ有機化学や生化学の知識を英語で再認識する。科学論文が辞書を引きながら読んで理解できるようになる。		
準備学習	予習として、テキストの英文とその訳文を並列して、ワード文書で書き、その日の終了時にレポートとして提出する。		
受講者への要望			
予習は必ず行うこととする。必ず予習したこと（和訳）をワードで書き、授業時間に間違った箇所を修正して、終了時に提出することになる。提出しない場合は平常点は 0 である。			
講義の順序とポイント			
第 1 週　ガイダンス（講義の進め方、勉強の方法など） 第 2 週～第 15 週「General, Organic, and Biochemistry」の春学期とは異なる章を順次精読する。 第 8 週に中間テストを実施、さらに定期試験を実施する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	–

年度	2016	授業コード	J6012200C
科目名	専門外書講読Ｂ -3	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	科学英語 I～IVを総括する科目として、有機化学と生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を講読する。科学論文独特の用語や英語表現、関連する文法について学習する。テキストはバイオサイエンス分野の科学的基礎知識を英語で養うのに最適なものである。また当講義は、関連する講義（生化学、有機化学など）と内容の系統的理解を深めることができるため、次学年で取り組む卒業研究および専攻演習の事前学習と位置付ける。		
教材（テキスト）	General, organic and biochemistry （McGraw-Hill）, 8th edition Denniston, Topping, Caret 共著		
教材（参考文献）	英和辞書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験（３０％）、定期試験（４０％）、授業内の理解度テスト等による平常点（３０％）		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容が理解できるように基礎学力をつける。最終的に卒業研究で必要となる科学原著論文の読解力を身につける。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テスト（単語と和訳）を行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業後には復習を行い英文読解の基礎力を確実に身につける。 併せて授業内容と合致する単元を、他の関連する講義（生化学、有機化学など）で使用した教科書等を参考にして内容をより深く理解する。			
講義の順序とポイント			
1. 講義の進め方を説明する。"Introduction to molecular genetics "の Introduction を読む。 2. The structure of DNA and RNA I 3. The structure of DNA and RNA II 4. DNA replication I 5. DNA replication II 6. Information flow in biological systems I 7. Information flow in biological systems II 8. 中間試験 9. The genetic code I 10. The genetic code II 11. Mutation, ultraviolet light, and DNA repair I 12. Mutation, ultraviolet light, and DNA repair II 13. Recombinant DNA I 14. Recombinant DNA II 15. Polymerase chain reaction, The human genome project			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J6012300A
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究遂行に資する分析技術（原理、用途、操作法など）の紹介や解析技術の習得、自身のテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また実験の進捗状況を発表する。また関係する文献の輪読を行う		
教材（テキスト）	教員からの配布資料、および各自が用意する資料。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習への出席、受講態度を含め、卒業研究論文及び口頭発表で評価する。		
到達目標	各自が発表することによって、内容の理解が深くなり、実験の進捗報告と相まって、問題点の整理が深まることを期待している。各自の発表と相互の討論を重視する。		
準備学習	各自が資料を読み込み、聞き手が発表内容を理解しやすいように工夫する。		
受講者への要望			
積極的に質問やコメントを行うこと。			
講義の順序とポイント			
春学期（第１回～第１５回） 共通する化学情報や文献情報を共有するために、各自のテーマに関連した文献の輪読、調査内容の発表を行う。 秋学期（第１６回～第３０回） 生物有機化学研究室の基本スキルである有機機器分析に関するデータ解析、テーマに関連した項目の調査および内容発表を持ち回りで順次行う。また、各自が卒業研究の進捗状況の発表を２回程度行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012300B
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	生体の内外環境変化に応じて遺伝子とその産物である mRNA やタンパク質の発現調節とその制御機構を (1) ゲノムの構造レベル (2) 細胞の分化・発生の時空間的レベル・組織特異的なレベル (3) 情報伝達の経路レベル (4) シグナル伝達に関わる分子レベル (5) その他，関連の生体高分子の複合体構成分子レベルについて， 基本的な専門技法の習熟，専門知識の習得と理解を各自のレベルに応じて，専門課題に取り組む． 研究テーマの理解，課題の設定，計画の立案，実行，成果の整理，課題を解決する能力を育成する． それらとともに、ゼミ参加学生間のコミュニケーションと連帯的な作業環境の構築を築き，社会性を強化する．		
教材（テキスト）	最新の学術雑誌の発表論文や総説を題材として扱う． 春学期は専門分野の概要を把握できる題材を， 秋学期は専門分野の優れた英文の論文を題材にする．		
教材（参考文献）	各専門分野の教科書，参考書，辞典など．		
教材（その他）	専門分野の公共データーベースを活用する．		
評価方法	選択課題の理解度，課題の整理，解決手段や技法の理解，成果の理解と分析，結果とその評価について，全体を要約し理解できる能力（50%）と表現力（30%），事後調査や整理（20%）を総合的に判断する。		
到達目標	ライフサイエンス分野の研究の理解と成果を評価できることとさらに応用や発案できる力量を習熟すること． また，学習の終えた領域については，キーワードを整理し，正しく内容を説明できるようにする．		
準備学習	講義概要の（1）から（5）の内容に合わせて，3 回生までに修学したことを整理し，各人の卒業研究に必要な重点項目を理解できていることと，不十分な理解を区別して把握することを事前に準備して，専攻演習に臨むこと．		

受講者への要望

勤勉に取り組むことと失敗の内容を認識し、同じ失敗を繰り返さないように努力し，常に課題解決に意欲的に研究課題に取り組むこと．
時間の自己管理をしっかりすること．
具体的には，
　研究室レベルでの共同時間．
　卒業研究に向けての自己管理の時間．
　完全なプライベートな時間．
この 3 種を明確に区別をつけて過ごすこと．

講義の順序とポイント

1-2.　ゲノム構造の理解
3-4.　ゲノム構造に関わるタンパク質と複合体の機能
5-6.　ゲノム構造のエピジェネティック変化とは何か
7-8.　初期胚発生の理解と ES 細胞，iPS 細胞とは
9-10.　細胞分化の制御と組織特異性の制御
11-12.　組織特異的な制御とそれらの維持と破綻
13-14.　細胞外シグナルの種類と受容体の特異性
15-16.　シグナル伝達経路と関連因子の機能
17-18.　シグナルの分子形態
19-20.　シグナルの発生と消失と細胞周期

21-22. 新規解析手法の理解
23-24. 地域･個体･組織･細胞･分子レベルでの生物多様性の解析手法
25-26. 病因関連因子の動態と解析法
27-28. 生体の恒常性維持と破綻
29-30. 科学リテラシーと文献･特許などの調査とプレンゼンテーション技法について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	―	★	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J6012300C
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンスの知識と技術で社会に貢献するためには、当該分野に関する幅広い文献・資料を読み解くことが出来るだけの基礎的な読解力、背景知識、及び英語力が必要である。本演習では、各受講生の課題研究のテーマ、および微生物学・応用微生物学分野一般についての文献・資料を題材に、科学的思考や学術論文の様式について学び、科学英語の読解力を養成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教材（その他）	微生物学に関する文献・資料（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	・ゼミへの取り組み（50%） ・文献・資料の理解度（25%） ・科学英語の読解力（25%）		
到達目標	1）化学、生化学などの基礎知識、ならびに応用微生物学の専門知識が、創造的な研究活動にどのように応用されるのかを理解する。 2）科学英語の読解力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
受講生は教員の指導の下、それぞれの課題研究のテーマに関する文献・資料に基づいてグループでディスカッションを行う。主体的な取り組みを要求する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・資料の読み方についての講述（1） 2）　担当教員による文献・資料の読み方についての講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料1） 4）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料2） 5）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料3） 6）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料4） 7）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料5） 8）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料6） 9）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料7） １０）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料1） １１）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料2） １２）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料3） １３）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料4） １４）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料5） １５）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料6）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012300D
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	各自が分析技術・機能性評価技術（原理、用途、操作法など）の紹介およびテーマおよびテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また、実験の進捗の報告を行なう。		
教材（テキスト）	各自資料を準備する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下で評価する。 発表のための準備状況（20%） プレゼンテーション力（20%） 質疑に対する的確な応答（20%） 質疑への参加度（20%） 平常点（20%）：受講態度など		
到達目標	各自が発表することによって、内容を深く理解する。実験の進捗報告によって、問題点等を理解する。プレゼンテーションにも慣れる。		
準備学習	各自、発表内容を準備し、発表資料とする。		
受講者への要望			
必ず出席すること。発表内容のポイントを理解すること。			
講義の順序とポイント			
春学期（週 1 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 秋学期（週 2 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 各自の実験進捗（10 分、各自隔週に発表）。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2016	授業コード	J6012300E
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	テーマを決めて、適切な原著論文を検索・精選し、それを精読してその内容を理解する。これを取りまとめて研究の背景と目的、実験方法、実験結果の解釈などを要約してレジメを作成し、パワーポイント等も使用しながら紹介する。また紹介した論文をもとに、その分野の研究の展望などについてグループ討論する。これらを通して、問題抽出能力や問題解決能力を養う。また卒業研究をそざいにして研究の取りまとめとプレゼンテーション能力の修得を行う。		
教材（テキスト）	学術雑誌などを適宜指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習用教材の理解度・発表・討論への参加状況などから評価する。		
到達目標	植物バイオテクノロジーを支える知識と理論の理解を深め、問題解決能力、取りまとめ能力、プレゼンテーション能力を涵養し、植物バイオテクノロジーの情報を理解、考察、情報発信、評価する力を身に付ける。		
準備学習	事前に参考資料などを提示するので、理解を深めておくこと。また、理解が不足していた点は、再度参考資料などで補足すること。		

受講者への要望

これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習する。英語の教材を使用することが望ましいことから、英語論文に慣れ親しむこと、英語力をつけることに努める。
４年間の総集編として、積極的かつ自発的に取り組むことを望む。

講義の順序とポイント

１．ガイダンスと原著論文の検索法等の実習
２．演習用教材の準備
３．原著論文の構成や論理構成等についての説明
４～３０．原著論文や研究結果等の取りまとめ、紹介、発表、討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012300F
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	卒業研究として取り組む研究課題に関して、必要となる文献・資料の調査、各自の研究活動での進捗状況の検討を行い、卒業研究を完成させるための基礎力を充実させる		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	自分の研究について周辺知識を身につけ、計画を立て、実行し、論理的に考察することができる基礎力を充実させる		
準備学習	自分が希望する研究テーマについて、事前に十分な勉強を済ませておく。具体的には、文献・資料について十分な検索を行い、先行研究について多くの知見を得ておく		

受講者への要望

演習・研究・発表に気力を充実させて臨むこと

講義の順序とポイント

1. 研究の基本的なことがら
2. 研究論文の書き方の紹介と実例紹介
3. 研究計画発表（1）
4. 研究計画発表（2）
5. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
6. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
7. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
8. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
9. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
10. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
11. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
12. 各自の研究計画発表　予算会議
13. 各自の研究計画発表　予算会議
14. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
15. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
16. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
17. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
18. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
19. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
20. 各自の研究中間報告　修正予算会議
21. 各自の研究中間報告　修正予算会議
22. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
23. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
24. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
25. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
26. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
27. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
28. 研究のまとめ方について
29. 各自の研究発表
30. 各自の研究発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2016	授業コード	J6012300G
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	「卒業研究」と一体化させて、都市の自然環境とランドスケープの保全と復元に関する、さまざまな現代的な課題への取組みについて、演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	「卒論研究」と一体的に評価する。平常点（１００％）		
到達目標	課題発見能力を向上させ、取組みの枠組みを構築する能力を高め、自分で新たな課題に取り組む方法が身につく。		
準備学習	ランドスケープとその科学・計画・デザイン・マネジメントに関する参考図書や雑誌、論文などたくさん読むとともに、環境関連の各種報道もチェックし、基礎能力を高めること。		
受講者への要望			
卒業研究の課題設定と遂行にあたっては自主性・自立性を尊重しますが、ゼミの仲間と緊密に協力して進めてください。お互いの効率と向上に貢献するのみならず、幅広いランドスケープ分野の豊かな理解に役立ちます。			
講義の順序とポイント			
１～３回　卒業研究の課題設定について ＜参考＞ ・京都のエコロジカルネットワーク「和の花」プロジェクト ・大阪万博記念公園の森づくりモニタリング ・ビオトープいのちの森のモニタリング ・雨庭（レインガーデン）の計画とデザイン ・樹木医や自然再生士のサポートツール ・宝ヶ池「里山公園」のマネジメント ・癒しのランドスケープデザイン ・UAV を利用した生態系モニタリング ４～７．調査研究方法についての基礎演習 ８～１１．各課題の進捗状況に応じた演習 １２．中間発表 １３～１５．分析評価の手法と取りまとめの指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	—	—	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012300H
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	卒業研究をすすめるにあたって必要な、英語文献の読解や、方法論の検討などについて、演習を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	各自の卒業研究を専門分野の中で位置付け、バイオ環境の実現の上でのどのような意義があるのかを提示すること。		
準備学習	生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験、流域環境デザイン論、流域環境デザイン演習などの習得が必要。卒業研究に関連する論文紹介、レビューを課すので、日頃から、卒業研究に関連する文献の検索、精読を行い、研究の関連分野に関して幅広い知見を深めること。		
受講者への要望			
課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。			
講義の順序とポイント			
客観的な視点で、文献や資料を読解し、議論の妥当性や方法論の妥当性などについて検討する中で、観測事実と向き合い、理解を深める過程について深く検討する。これらの経験をもとに、各自の卒業研究の進め方などについても議論を重ねたい。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★	-	★★

年度	2016	授業コード	J6012300I
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各自が卒業研究で取り組む研究課題を題材に、先行研究の検索と読解、研究課題設定のポイント、フィールド調査やデータ解析の方法論、データの解釈とディスカッション、論文骨子の作成、効果的なプレゼンテーションの手法等に関する基礎知識と応用力を身につけるための演習を行う。		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	「これからレポート・卒論を書く若者のために」　酒井聡樹 著　（2007 年　共立出版） 「これから学会発表する若者のために」　酒井聡樹 著　（2008 年　共立出版） 「論文の教室　レポート作成から卒論まで」　戸田山和久 著　（2012 年　NHK 出版）		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	演習への出席状況、中間発表・最終発表の内容、ディスカッションへの参加状況により総合的に評価する。		
到達目標	先行研究の効率的な検索・収集方法の習得。 関連分野の論文読解力と、未解決の課題を発見する能力の涵養。 データ解析や論文骨子作成に必要な論理的思考力の習得。 効果的なプレゼンテーション技術の習得。		
準備学習	参考文献に挙げた文献を、学期中に熟読しておくこと。		
受講者への要望			
文献紹介、中間発表、最終発表等は、決められた期日に必ず行ってください（締切厳守）。また、他人の発表をよく聴き、積極的にディスカッションに参加してください。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２－３．関連分野の論文検索・読解 ４－６．文献紹介 ７－９．研究テーマの設定 １０－１２．フィールド調査手法の検討 １３－１５．中間発表 １６－２０．データ解析手法の検討 ２１－２３．データの解釈とディスカッション ２４－２５．論文骨子の作成 ２６．プレゼンテーションの方法論 ２７－３０．最終発表・総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012300L
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の取りまとめに必要となる、文章の書き方、論文のまとめ方に関して書籍の PDF 学習を通じて基本を理解する。また、論文中に使用する地図などの自由に取り扱うことができるよう、地理情報視システム（GIS）の操作方法に関して学ぶ。また、ビデオ学習、書籍の PDF 学習、月 1 回程度のフィールドワークなどを通じて、幅広く知識と経験を積み上げる。現場での調査に必要となるフィールドワークのための、基本的な野外での測定道具の使い方、2 万 5 千分の 1 の地形図の読み方を深める。		
教材（テキスト）	・逆引き ARCGIS　ESRI 社		
教材（参考文献）	フィールドワークは各地の地図と 25000 分の 1 の地形図などを利用する		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	出席状況・学ぶ意欲・フィールドワーク参加・関連ビデオ学習による総合評価		
到達目標	GIS に関連するデータベースの包括的な理解と現場での環境課題の抽出		
準備学習	環境アセスメント演習などの GIS 学習やこれまでの講義で学んだことをよく理解しておくこと		
受講者への要望			
フィールドワークは、普段歩きなれていない学生には最初体力面でついていけないかもしれないが、徐々にペースアップして慣れるようになってほしい			
講義の順序とポイント			
週に 1 回程度の割合で、ビデオ学習を実施する。ビデオの見て（大学、自宅の双方でみれるように配慮する）概要 200 字、感想 200 字にまとめて、翌週提出する。ビデオの内容は、就活や卒業研究に関連するものを中心に選定し、各人の希望も取り入れる			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2016	授業コード	J6012300O
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	この演習では，無機系環境材料の開発と応用および資源の有効利用に関する研究に必要な，物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から学修する。この演習では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて修得する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	量子物理学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験，物理化学を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．結晶構造（1）
2．結晶構造（2）
3．結晶構造（3）
4．Ｘ線回折（1）
5．Ｘ線回折（2）
6．Ｘ線回折（3）
7．結晶解析（1）
8．結晶解析（2）
9．結晶解析（3）
10．分子結合（1）
11．分子結合（2）
12．分子結合（3）
13．結晶結合（1）
14．結晶結合（2）
15．結晶結合（3）
16．エネルギーバンド（1）
17．エネルギーバンド（2）
18．エネルギーバンド（3）
19．共有結晶（1）
20．共有結晶（2）
21．共有結晶（3）
22．金属結晶（1）
23．金属結晶（2）
24．金属結晶（3）
25．半導体（1）
26．半導体（2）
27．半導体（3）
28．光学物性（1）
29．光学物性（2）

30. 光学物性（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J6012300P
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	研究とは何をすることをいうのか、科学的な思考とはどういうものか、最新の研究はどのような形で発表されるのか、どのようにして自分の研究を外部に発表するかを講義する。また、論理的な思考の訓練として、英語で記述された文章を受講者が音読し、日本語に訳す。さらに、受講生が各自の研究テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容について受講者全員で討議する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業のはじめに教材を配布する		
評価方法	受講態度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	自分の研究について、実験結果から論理的に結論を導き出す思考方法と、結果を論文としてまとめる技術を身に付ける。		
準備学習	配布した教材の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。		

受講者への要望

疑問に思うことは、その都度、積極的に発言して、理解を深めるように努めること

講義の順序とポイント

１．研究の基本的なことがら
２．研究論文の書き方の紹介と研究論文の実例紹介
３．配布した英語教材の音読と翻訳　p.1-10
４．配布した英語教材の音読と翻訳　p.11-20
５．配布した英語教材の音読と翻訳　p.21-30
６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.31-40
７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.41-50
８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.51-60
９．各自の卒業研究の研究テーマと進捗状況の紹介（１）
１０．配布した英語教材の音読と翻訳　p.61-70
１１．配布した英語教材の音読と翻訳　p.71-80
１２．配布した英語教材の音読と翻訳　p.81-90
１３．配布した英語教材の音読と翻訳　p.91-100
１４．各自の卒業研究の研究テーマと進捗状況の紹介（２）
１５．配布した英語教材の音読と翻訳　p.101-110
１６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.111-120
１７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.121-130
１８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.131-140
１９．各自の研究の中間報告（１）
２０．各自の研究の中間報告（２）
２１．研究のまとめ方について
２２．配布した英語教材の音読と翻訳　p.141-150
２３．配布した英語教材の音読と翻訳　p.151-160
２４．卒業論文の実例を使った演習（１）
２５．卒業論文の実例を使った演習（２）
２６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.161-170
２７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.171-180
２８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.181-190
２９．各自の研究発表（１）
３０．各自の研究発表（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012300Q
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	野菜の育種と生産について，まず基礎的な部分を学ぶ．次いで，専門誌等に掲載された新しい知見について自ら学び，理解した点について発表する．後半では各自の卒業論文のためのテーマに関する文献を精読し，発表を行う．		
教材（テキスト）	特に定めない．		
教材（参考文献）	授業時に配布する．		
教材（その他）	授業時に配布する．		
評価方法	日常の達成度により評価する．		
到達目標	野菜の育種と生産技術に関する知見をよく理解する．この知識に基づき，卒業研究を進めてもらいたい．		
準備学習	卒業研究のために実際に野菜を育てているので，その成育等について常に目を配っていることが大切である．		
受講者への要望			
最初は教員が提示する資料に基づき発表を行うが，それに頼ることなく，自ら必要な文献を探す努力をし，それを習慣としてほしい．また，自分が理解したことを他の人に説明するための努力，つまりコミュニケーション力もつけてほしい．			
講義の順序とポイント			
1．野菜の育種に関する問題を検討する／発表 2．野菜の育種に関する問題を検討する／発表 3．野菜の育種に関する問題を検討する／発表 4．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表 5．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表 6．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表 7．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表 8．プレゼンテーション技術について 9．論文の取りまとめ方法について 10．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表 11．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表 12．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表 13．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表 14．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表 15．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J6012300S
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	科学論文を読むための訓練と、論理的な思考の訓練として、英語で記述された文章を音読し日本語に訳す。また、英語あるいは日本語の論文を深く読み込み、他者への紹介説明を通して、論理的思考力を高め、科学的なものの見方を学び、表現力を高める。 各自の研究テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容についてディスカッションを行い、批判的なものの見方を身に付ける。		
教材（テキスト）	授業のはじめに指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて配布する。		
評価方法	受講態度（５０％）、発表内容（５０％）		
到達目標	日本語および英語の読解力を身につけるとともに、自分の研究を論理的に組立て、考察して卒業論文としてまとめる技術を身に付ける。		
準備学習	中間報告や論文紹介、輪読などの発表の準備を十分に行う。		
受講者への要望			
失敗を恐れずに、積極的に発表や質問をすること。受講態度のみならず生活態度においても、社会人になるという自覚を持って自ら考え行動すること。			
講義の順序とポイント			
１．研究の基本 ２．研究論文の書き方の紹介と研究論文の実例紹介 ３－１０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告 １１－１５．日本語あるいは英語論文の紹介 １６－１７．各自の研究テーマの中間報告 １８－２０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告 ２１－２５．日本語あるいは英語論文の紹介 ２６－２７．各自の研究テーマの中間報告 ２８－３０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012400A
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	生物有機化学研究室の卒業研究では、生理活性天然有機化合物の単離構造決定、合成実験及びフェロモン等による化学生態学的研究や行動科学的研究を主として行う。材料としてはハチ類等の昆虫、ダニ、その他節足動物である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究論文及び口頭発表で評価するが、日常的な研究態度も評価対象とする。		
到達目標	卒業論文を「緒論、材料及び方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
準備学習	指導者との意思疎通を十分に図った上で、実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行う。安全面に留意して実験を行えるように準備する。また実際のポイントを整理しておく。		
受講者への要望			
毎日決められた時間に登校し、周囲の教員や学生とも協調して実験を進める。就活や欠席などの届けはきちんと行い、社会人になるための訓練と認識して節度ある言動をする。			
講義の順序とポイント			
１－５週　実験テーマの設定 ６－１５週　テーマに関する文献情報や Web 情報の取得、理解 １６－５０週　テーマの取り組み ５１－５８週　卒業論文の作成 ５９－６０週　卒業研究の発表練習および発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012400B
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の課題はバイオサイエンス分野の中でも (1)　生体内・生体外の環境変化に伴う遺伝子の発現・抑制機構に関して，その分子的な基盤を解明すること。 (2)　ゲノミクス・プロテオミクスによる環境ストレス応答シグナル伝達機構を解明すること。 (3)　遺伝子やタンパク質の構造と機能解析のための新たな技法の開発を対象にした課題に取り組む。 (4)　病気の原因解明や健康の維持に関する課題に分子レベルで取り組む。		
教材（テキスト）	最新の学術雑誌の発表論文や総説などの文献や特許申請書類などを有効に利用する.		
教材（参考文献）	ライフサイエンス分野の学術雑誌，技術書，総説，単行書，バイオ関連公共データーベースなどを利用する。		
教材（その他）	関連分野の第一人者の講演やセミナーのほか、関連学会や研究会、セミナーなどからも重要な情報を把握すること.		
評価方法	卒業研究の課題の把握と理解　(20%), 実験計画の策定　(20%), 実験の遂行と結果　(20%) およびその評価　(20%), 他者からの評価を議論できる能力　(10%), 発表表現能力　(10%) などを総合的に評価する.		
到達目標	新規性を追求して、課題に真摯に向かい、オリジナルな卒業論文として完成させること。		
準備学習	研究進行中に遭遇した失敗を一つ一つ反省し，同じミスをくり返さないように事前に心がけ、準備と対策を整えることを習得すること。		

受講者への要望

研究室で求められることは，社会に出ても求められることになります.
大学生活の集大成として与えられた研究テーマに意欲的に取り組むこと.
研究室構成員の一員として，各自が研究活動の遂行と維持に協力し合うこと.
大学院進学希望者は，いつからでも随時個別指導をおこなうので申し出ること.
　各自の進行状況は，随時教員に報告し，事前事後の対策などを議論することで
　各自の課題解決能力を育成することを目指しています。

講義の順序とポイント

主に以下の内容の研究活動をおこなうので，分担以外の他の研究課題にも相互に理解すること.

1-5.　神経疾患（パーキンソン病など）に関与するシグナル伝達因子の機能解析
6-10.　ガン疾患に関与するシグナル因子の機能解析
11-15.　機能性食品成分の機能解析と生体内応答反応因子の探索
16-20.　環境変化に応答する微生物の機能タンパク質の探索
21-25.　特定環境の生態系および生物の多様性（バイオーム）を解析するための環境プロテオミクス
26-30.　脂肪細胞，筋細胞，骨細胞，色素細胞などの分化制御機構の解析
31-35.　脂肪細胞，筋細胞，骨細胞，色素細胞などの分化制御機構におけるエピジェネティクスな変化の解析
36-40.　胚発生時のヌクレオソーム結合タンパク質および複合体の機能解析
41-45.　DNA 修飾パターンと関連タンパク質の修飾反応に関与するタンパク質の機能解析
46-50.　環境因子による発現変化（環境エピゲノム）の解析
51-55.　改変タンパク質の機能変化の評価と構造解析
56-60.　エピゲノムおよび環境プロテオーム解析のための技術評価と開発

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J6012400C
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	微生物機能開発学領域における課題研究を通して、バイオサイエンスの知識と技術を実践的に修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、（1）微生物相の解析、（2）微生物のスクリーニング、（3）微生物機能の代謝／酵素／遺伝子レベルでの解析、といった実験を行う。これらの研究の成果を卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	課題研究と卒業論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・バイオサイエンスの知識と技術の修得度（25%） ・卒業論文の論理性（25%）		
到達目標	1）バイオサイエンスの知識と技術の実践を通じた修得。 2）一定の様式に則り論理的に完結した応用微生物学分野の卒業論文（和文）の完成。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
・微生物機能の開発をテーマとした課題研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の指示に従って実験を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。 ・1 年間、全力で努力することを求める。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	★	ー	★★

年度	2016	授業コード	J6012400D
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	卒業研究では野菜・作物から低分子成分を抽出・単離し、分析技術を駆使して、それらの成分を同定する。機能性評価技術を通して、機能性のプロファイリングを行う。また、新しい機能性評価方法を確立する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究論文およびその口頭発表で評価する。		
到達目標	卒業論文を「緒論、実験方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
準備学習	実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行なう。また、実験のポイントを整理しておく。		
受講者への要望			
毎日 9 時半に研究室にくること。			
講義の順序とポイント			
1．実験テーマの設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．テーマの取り組み 4．卒業論文の作成 5．卒業研究の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2016	授業コード	J6012400E
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	特定の課題について、その課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析・考察し、ついで論文としての取りまとめ、中間検討会や卒業研究発表会で発表を行う。これら一連の卒業研究を行うことを通して課題解決能力を涵養する。		
教材（テキスト）	研究の遂行に必要な学術論文や資料などを適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	特定の課題の理解度、実験・研究の実施および取りまとめ･発表などから評価する。		
到達目標	特定の課題について実験的研究を行うことによって、問題点の抽出、課題の設定、実験技法、取りまとめ方などを学びながら、論文として取りまとめ、発表する能力を修得し、理解の深化を図る。		
準備学習	これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習しておくことが望ましい。事前打ち合わせを通じ、参考資料などで課題、実験手法などの確認と理解の深化させること。実験ノートには、事前に実験計画と手順、事後には結果の整理と今後の予定をまとめること。また、課題・実験手順・結果をプレゼン資料としてまとめる。		
受講者への要望			
４年間の総集編として、積極的かつ自発的に卒業研究に取り組むことを望む。これまでの学習が不十分であったと思われる場合は、卒業研究を実施する中で実践的に補って欲しい。			
講義の順序とポイント			
特定の課題を設定し、課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析、考察、論文作成を行う。この間、中間発表会を３回程度行う。また取りまとめた卒業研究を卒業研究発表会で各自発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★★

年度	2016	授業コード	J6012400F
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	水環境デザインは多様・多元的なアプローチを必要としている。卒業研究では野外調査・ケース・スタディを重視する。選んだテーマと地域に即し、現地実態調査とその分析を指導する。また、ケース・スタディとして室内培養実験等も実施する。湖沼・河川・海洋それぞれの水環境において、人間活動がその水域に及ぼしている影響や、水環境と生物の関わり、物質循環について研究テーマを設定し、研究を行う		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する		
到達目標	各自が選び、取り組んだテーマに関して、得られた研究成果を科学論文にふさわしい内容で卒業論文を完成させる		
準備学習	自分が希望する研究テーマに関して、事前に十分な下調べをしておく。研究テーマを決定してからは、自分の研究テーマに関連する文献・資料について十分な検索を行い、先行研究についてできる限り多くの情報を集めておく。また、卒業論文の書き方についても検討しておくこと		
受講者への要望			
卒業研究に全力で専念できるだけの単位数をすでに取得していること			
講義の順序とポイント			
1-5. 研究テーマの選定と関連資料の検索 6-10. 調査や実験の計画立案 11-25. 調査や実験の実施 26-30. 調査や実験の結果の中間段階のまとめ 31-45. 調査や実験の実施 46-50. 調査や実験結果のまとめ 51-55. 論文の作成 56-58. 研究内容の口頭発表の準備 59. 研究内容の口頭発表の予行演習 60. 口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J6012400G
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	各自が主体的に取組むテーマを定めて、実験、フィールド調査、文献購読、計画・デザイン、分析評価、取りまとめなど、完結した一連の研究課程を経験する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業論文やプレゼンテーションなどの最終成果とともに、取組みの課程とその熱心さもふくめて評価する。		
到達目標	ランドスケープに関する現代的課題背景を理解し、限られたリソースを有効に活用して、自分なりにオリジナルな知見や課題解決への道筋などを見つけて取りまとめ、プレゼンテーションができるようになる。		
準備学習	ランドスケープの科学・計画・デザインに関する基礎知識の修得		

受講者への要望

世の中には、ランドスケープに関して、いっぱいテーマが転がっています。目と耳を開いて、本質に迫ってみろう。

講義の順序とポイント

以下の順で行う。
1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）
2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討
3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする)
4）とりまとめ
＊過去の研究テーマ例：
1）淀川－鶴見緑地のエコロジカルネットワークの提案とその評価
2）大阪万博記念公園のパッチダイナミクスを応用した森づくりモニタリング
3）ビオトープいのちの森のモニタリング
4）雨庭（レインガーデン）の計画とデザイン
5）団地に自生する草本植物の実態とその生育要因
6）旧巨椋池氾濫原植生の散布体バンクを利用した再生
◆これから検討しているテーマ例
緑地モニタリングへの UAV の利用、樹木医や自然再生士養成サポート、京都のエコロジカルネットワーク計画の推進、「和の花」プロジェクト推進、癒しのランドスケープデザインなど

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012400H
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	フィールドワークを通じた観察から、課題（研究テーマ）を定め、その課題を探求・解決・実践する。 主な対象は以下の通り。 １）水田生態系・農地生態系の動物の生態・行動・保全に関わる課題 ２）上記と関連して、エコ ミュージアム、国立公園、ナショナルトラスト運動、保全活動、自然保護区などの周辺住民との関係についての課題		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	各自の卒業研究を専門分野の中で位置付け、バイオ環境の実現の上でのどのような意義があるのかを提示すること。		
準備学習	生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験などの習得が必要。　研究のプログレスレポートを課すので、日頃からデータの整理を心がけ、ゼミ発表などで受けたアドバイスを反映させつつ、研究を進めること。		
受講者への要望			
課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。			
講義の順序とポイント			
実際にフィールドで観測された現象をもとに、自分で課題を設定して、その普遍的な意義について深く検討する。そして、その成果が、バイオ環境を実現するにあたって、どのような意味を持つのかについて議論する過程で、柔軟かつ論理的な思考能力を培う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012400I
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各自が主体的に設定した研究課題に基づき、フィールド調査や化学分析などを行い、「専攻演習」と一体的な指導の下、卒業論文をとりまとめる。卒業論文の研究課題の例としては、以下のようなものが挙げられる。 １）二次的自然の生物多様性やその保全に関する調査研究 ２）里山林や放棄里山林における森林動態に関する調査研究 ３）地形や土壌などの自然環境条件が森林植生に及ぼす影響に関する調査研究 ４）焼畑の火入れが土壌肥沃度や休閑期の植生回復に与える影響に関する調査研究 ５）焼畑の技術と知恵を活かした里山再生と中山間地域の活性化に向けた実践的研究 ６）東南アジアにおける焼畑休閑地の植生回復や生物多様性に関する研究		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	授業時に紹介する。		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	卒業論文と口頭発表の完成度をもとに評価する。		
到達目標	各自が興味を持った専門分野に関する知識を深める。 各自が取り組んだ研究課題の専門分野における位置づけを理解し、その学術的意義を論理的に説明できる能力を身につける。 「専攻演習」で学んだ内容を踏まえ、科学論文にふさわしい内容の卒業論文を完成させる。		
準備学習	各自の研究課題に関連する論文や文献を紹介するので、必ず読んでおくこと。また、主体的に関連論文の検索・収集を行い、最低でも 3−5 本の論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
卒業研究を完成させるのに必要な論理的思考力、課題発見力、行動力などは、社会にでてからも必ず役立つ能力です。各自が興味を持って１年間取り組み続けられるテーマをみつけ、主体的に卒業研究に取り組んでください。			
講義の順序とポイント			
１．　はじめに ２－９．　先行研究の読解と研究課題の設定 １０－２４．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証 ２５－２８．データ解析・論文のとりまとめ ２９－３０．口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012400L
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	卒業研究では、「地域の再生」、「暮らしの中の水」、「身近な生き物の里」、「マップづくり」、「フィールドワーク」などをキーワードとして、ゼミ生のほうから主体的に自分のやりたいテーマに関して提案をすること。マップとフィールドワークはどのような研究テーマでも必須となるので、縦横に活用できる準備が必要となる。具体的な卒業論文の絞込みや進め方は、教員との協議やゼミでの発表などを通じて具体化していく。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントや GIS データを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	出席状況・学ぶ意欲・卒業研究の成果による総合評価		
到達目標	ゼミへの出席と研究発表を通じて卒業研究として所定の水準を超えること		
準備学習	並行する専攻演習や3回生までの講義で学んだことをよく理解しておくこと		
受講者への要望			
就職活動と同時進行となるが、しっかりとゼミに出席してほしい。結果的にはその緊張感が就職にも結びつく。			
講義の順序とポイント			
毎週、春学期と秋学期で通算約 30 回の卒論ゼミを行う。発表は、 1 回につき 3 名程度とし、順に発表を行うので、おおむね 3 週間に 1 回の発表となる。発表は、パワポイントで行い、事前にレジュメを学生の人数分用意しておくこと。発表の学生は事前にパワポとレジュメを準備する。発表のあと、他の学生は質問や感想を一人一人必ず述べること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2016	授業コード	J6012400O
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	この研究では，無機系環境材料の開発と応用および資源の有効利用に関する研究に必要な，物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から学修する。この研究では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，実験的な面からの系統的な取り扱いについて修得する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	卒業論文（１００％）		
到達目標	量子物理学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験，物理化学を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．結晶合成法（1）
2．結晶合成法（2）
3．結晶合成法（3）
4．結晶合成実験（1）
5．結晶合成実験（2）
6．結晶合成実験（3）
7．結晶解析法（1）
8．結晶解析法（2）
9．結晶解析法（3）
10．結晶解析実験（1）
11．結晶解析実験（2）
12．結晶解析実験（3）
13．成分分析法（1）
14．成分分析法（2）
15．成分分析法（3）
16．成分分析実験（1）
17．成分分析実験（2）
18．成分分析実験（3）
19．結晶評価法（1）
20．結晶評価法（2）
21．結晶評価法（3）
22．結晶評価実験（1）
23．結晶評価実験（2）
24．結晶評価実験（3）
25．固体物性測定法（1）
26．固体物性測定法（2）
27．固体物性測定法（3）
28．固体物性測定実験（1）
29．固体物性測定実験（2）

30. 固体物性測定実験（３）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J6012400P
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	河川の自然浄化能力の調査、新しい廃水処理技術の開発、廃水処理などに関与する微生物集団の研究、その微生物集団を研究するための DNA 解析法、さらには DNA 解析法の応用などの中からテーマを選び、調査や研究を行ない、卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	研究テーマに則した教材を選んで貸与する		
教材（その他）	研究テーマに即した文献を自分で検索してコピーする。		
評価方法	平常点（50%）、卒業論文（50%）		
到達目標	テーマに沿って調査や実験を実施し、その内容を口頭で発表する能力と論文としてまとめる能力を身に付ける。		
準備学習	配布した教材を読んで内容を理解すること。多くの文章を読んで、文章によって表現する能力を高めるように心がけること。		
受講者への要望			
研究室は勉学の場であることを常に念頭において行動すること。使用した器具類の後片付けや整理整頓をしっかりと行うこと。疑問点は積極的に質問して理解を深めるように努めること。			
講義の順序とポイント			
１～５．研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解 ６～１０．調査や実験計画の立案 １１～２５．調査や実験の実施 ２６～３０．調査や実験の結果の中間段階でのまとめ ３１～４４．調査や実験の実施 ４５～４９．調査や実験結果のまとめ ５０～５４．論文の作成 ５５～５８．研究内容の口頭発表の準備 ５９．研究内容の口頭発表の予行演習 ６０．口頭発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J6012400Q
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	各自が興味を持つ課題解決のために実験を行い、研究論文の完成をめざす。		
教材（テキスト）	特に指定しない.		
教材（参考文献）	授業時に配布する.		
教材（その他）	授業時に配布する.		
評価方法	研究に対する取り組み方と論文の完成度で評価する.		
到達目標	実験・研究の方法を身につけ，結果の解析能力をつける.		
準備学習	新しい実験手法を使うことが多いので，自ら勉強しておくこと.		

受講者への要望

ほぼ1年近くをかけて実験を行うので，規則的な生活を送るように努めること．特に栽培に関わることが多いので，夏休み中も植物の面倒を見る必要が出てくることを理解してほしい.

講義の順序とポイント

1． はじめに
2．問題点の設定について
3．問題点の設定について
4．問題点の解決法について
5．問題点の解決法へのアプローチ
6．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
7．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
8．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
9．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
10．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
11．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
12．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
13．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
14．論文の構成
15．論文の発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J6012400S
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	バイオマス特に木質系バイオマスはエネルギーや物質の材料として有効な資源であり、かつ里山に豊富に存在する資源である。バイオマスの農業利用や地域循環型の資源利用に関する調査や研究を行ない、卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	研究テーマに即した書籍や文献を適宜指示する。 研究テーマに即した文献を自ら検索する。		
教材（その他）	なし		
評価方法	卒業論文（100%）		
到達目標	問題点を見出す力や解決への道筋を策定する力を身に付ける。調査や実験を実施する力を身に付ける。研究内容を口頭で発表し、かつ論文としてまとめる能力を身に付ける。		
準備学習	実験テーマやその背景を理解するために、関連する文献等を読む。また、実験の成果を文章によって表現する。		

受講者への要望

自発的かつ積極的に卒業研究に取り組んでもらいたい。
実験室は共同で使用するので、片付けや整理整頓をきちんとし、研究室の維持を協力して自主的に行ってもらいたい。

講義の順序とポイント

１－４．研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解
５－１０．実験計画の立案
１１－２６．実験の実施
２７－３０．実験の結果の中間まとめ
３１－５０．実験の実施
５１－５４．卒業論文の作成
５５－５９．研究内容の口頭発表の準備
６０．研究内容の口頭発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J60125001
科目名	有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Chemistry		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	
講義概要	有機化学は「炭素原子を含む化合物の学問」と言われる。確かにその通りであるが、より本質的な理解を求めるのであれば、原子核を取り巻く「電子」の性質から目をそらすことはできない。本講義では「電子雲」という概念に触れながら、電子によってもたらされる有機化合物の構造特性や反応性について解説する。また、様々な有機化合物が「生物活性」という形で我々の生活に深く関わっていることを紹介する		
教材（テキスト）	特に指定しない。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	特に指定しない。プリントを配布する。		
教材（その他）	HGS 分子構造模型 B　有機化学用セット（丸善）		
評価方法	期末試験の成績（50%）および授業時に行う小テスト、課題プリント（50%）を考慮して評価する。		
到達目標	1）　化学結合を形成する電子の混成軌道についてイメージできる。 2）　有機化合物中の任意の原子について、その混成軌道を指摘できる。 3）　有機化合物の構造や電子密度から反応性を予測できる。 4）　有機反応における反応生成物を描くことができる。		
準備学習	有機化学に頻繁に登場する原子の原子番号および原子量を頭に入れておくことが望ましい。 具体的には、 C = 12　　（原子番号 = 6） H =　1　　（原子番号 = 1） N =14　　（原子番号 = 7） O =16　　（原子番号 = 8） P = 31　　（原子番号 = 15） S = 32　　（原子番号 = 16）　である。		

受講者への要望

結合を形成するための電子配置として、「混成軌道」という考え方が登場する。これをしっかり理解すること。
理解できない場合は空き時間を利用し、教員へ直接聞きに来ること。

講義の順序とポイント

1．電子と軌道と化学結合
2．共役と共鳴と芳香族性
3．酸素を含む有機化合物　～アルコールとエーテル～
4．酸素を含む有機化合物　～アルデヒドとケトン～
5．酸素を含む有機化合物　～カルボン酸～
6．酸素を含む有機化合物　～カルボン酸誘導体～
7．窒素を含む有機化合物
8．硫黄を含む有機化合物
9．リンを含む有機化合物
10．酸と塩基　～pKa という考え方～
11．アルカン・アルケン・アルキン
12．ベンゼン誘導体の反応
13．求核置換反応と脱離反応
14．立体化学Ⅰ
15．立体化学Ⅱ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J60125002
科目名	有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Chemistry		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	
講義概要	有機化学は「炭素原子を含む化合物の学問」と言われる。確かにその通りであるが、より本質的な理解を求めるのであれば、原子核を取り巻く「電子」の性質から目をそらすことはできない。本講義では「電子雲」という概念に触れながら、電子によってもたらされる有機化合物の構造特性や反応性について解説する。また、様々な有機化合物が「生物活性」という形で我々の生活に深く関わっていることを紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	ブラウン　有機化学　上・下　（東京化学同人）		
教材（その他）	HGS 分子構造模型 B　有機化学用セット　（丸善）		
評価方法	期末試験の成績（50%）および授業時に行う小テスト、課題プリント（50%）を考慮して評価する。		
到達目標	1）　化学結合を形成する電子の混成軌道についてイメージできる。 2）　有機化合物中の任意の原子について、その混成軌道を指摘できる。 3）　有機化合物の構造や電子密度から反応性を予測できる。 4）　有機反応における反応生成物を描くことができる。		
準備学習	有機化学に頻繁に登場する原子の原子番号および原子量を頭に入れておくことが望ましい。 具体的には、 C = 12　（原子番号 = 6） H =　1　（原子番号 = 1） N = 14　（原子番号 = 7） O = 16　（原子番号 = 8） P = 31　（原子番号 = 15） S = 32　（原子番号 = 16）　である。		

受講者への要望

結合を形成するための電子配置として、「混成軌道」という考え方が登場する。これをしっかり理解すること。
理解できない場合は空き時間を利用し、教員へ直接聞きに来ること。

講義の順序とポイント

1．電子と軌道と化学結合
2．共役と共鳴と芳香族性
3．酸素を含む有機化合物　～アルコールとエーテル～
4．酸素を含む有機化合物　～アルデヒドとケトン～
5．酸素を含む有機化合物　～カルボン酸～
6．酸素を含む有機化合物　～カルボン酸誘導体～
7．窒素を含む有機化合物
8．硫黄を含む有機化合物
9．リンを含む有機化合物
10．酸と塩基　～pKa という考え方～
11．アルカン・アルケン・アルキン
12．ベンゼン誘導体の反応
13．求核置換反応と脱離反応
14．立体化学　Ⅰ
15．立体化学　ⅠⅠ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60126001
科目名	有機機器分析学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Organic Spectroscopy		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	低分子の有機化合物の構造決定を目的として、分離技術、核磁気共鳴分光法（NMR)、質量分析法（MS)、赤外分光法（IR)、紫外・可視分光法（UV-VIS）について解説する。講義の後半では、各種スペクトルデータを組み合わせた有機化合物の構造決定に関する演習を重点的に行う。		
教材（テキスト）	『基礎から学ぶ有機化合物のスペクトル解析』　小川桂一郎ら 著　（東京化学同人） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『入門機器分析化学』　庄野利之、脇田久伸 編著　（三共出版） 『入門クロマトグラフィー第 2 版』　Roy J. Gritter ほか 著/原昭二 翻訳　（東京化学同人） 『第 2 版　機器分析のてびき―IR、NMR、MS、UV データ集』　泉美治ら監修　（化学同人）		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	試験（７０％)、理解度テスト（３０％）		
到達目標	各種スペクトルより主要な情報を的確に抽出できる。また、自分が必要とする情報を得るには、どのようなスペクトルを測定すればよいかが判断できる。最終的には、分離法から分析法まで一連の構造決定スキームを立案できる。		
準備学習	有機化学の基礎（有機化合物の構造とその特徴、命名法）をよく理解しておく。 講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておくこと。		

受講者への要望

単に有機化合物の分離法、分析機器の操作、方法を覚えるのではなく、原理や構造を十分理解して、応用能力を養ってもらいたい。本講義で学んだ内容は、バイオサイエンス分野の卒業研究で十分活かしていただきたい。

講義の順序とポイント

1. クロマトグラフィーⅠ（ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー）
2. クロマトグラフィーⅡ（薄層クロマトグラフィー、カラムクロマトグラフィー）
3. 紫外・可視分光法（UV-VIS）
4. 赤外分光法（IR）Ⅰ
5. 赤外分光法（IR）Ⅱ（IR スペクトルの解析）
6. 核磁気共鳴分光法（NMR）Ⅰ（基本原理、1H NMR）
7. 核磁気共鳴分光法Ⅱ（1H NMR の応用）
8. 核磁気共鳴分光法Ⅲ（13C NMR）
9. 核磁気共鳴分光法Ⅳ（NMR スペクトルの解析）
10. 質量分析法（MS）Ⅰ（基本原理、測定装置）
11. 質量分析法Ⅱ（イオン化法、開裂パターン、フラグメンテーション）
12. 質量分析法Ⅲ（マススペクトルの解析）
13. 総合演習Ⅰ（各種スペクトルを組み合わせた有機化合物の構造解析）
14. 総合演習Ⅱ（各種スペクトルを組み合わせた有機化合物の構造解析）
15. 総合演習Ⅲ（各種スペクトルを組み合わせた有機化合物の構造解析）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60127001
科目名	有機反応機構論	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Reaction Mechanisms		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	代表的な有機反応の機構を、共鳴理論に基づく有機電子論の立場から平易に解説していく。授業内容はできるだけ精選し、網羅的ではなく、本質的で重要な事項に限定する。基礎的な概念を十分理解できるように演習問題を多く解き、知識を整理して概念の応用力を身につける。		
教材（テキスト）	『有機化学の基本～電子のやりとりから反応を理解する～』 富岡秀雄ら（化学同人） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『ブルース有機化学概説』Paula Y. Bruce 著/大船ら 監訳（化学同人） 『マクマリー有機化学 上・中 第６版』John McMurry 著/伊東ら 訳（東京化学同人）		
教材（その他）	ＨＧＳ分子構造模型Ｃ型セット		
評価方法	試験（７０％）、理解度テスト（３０％）		
到達目標	有機化合物の反応形式がどのようであり、またなぜそうなるかを体系的に理解する。		
準備学習	有機化学の基礎（有機化合物の構造とその特徴、命名法）をよく理解しておく。 講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておくこと。		

受講者への要望

有機化学反応のメカニズムはただ暗記するのではなく、有機化学の基礎を踏まえた上で考察することが重要である。独自の反応機構を提案し、議論できることを期待している。

講義の順序とポイント

1. 有機化合物の結合と構造式
2. 結合の開裂・生成と電子の動き
3. 電子の偏りと結合の分極
4. 電子の非局在化と共鳴
5. 酸と塩基、求核剤と求電子剤
6. 有機化合物の立体構造
7. アルケンとアルキンⅠ
8. アルケンとアルキンⅡ
9. 芳香族化合物Ⅰ
10. 芳香族化合物Ⅱ
11. 求核置換反応
12. 脱離反応
13. カルボン酸誘導体
14. カルボニル化合物Ⅰ
15. カルボニル化合物Ⅱ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60128001
科目名	生物有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Bioorganic Chemistry		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	
講義概要	我々人間を含めたあらゆる生物は、有機化合物の集合体である。したがって、有機化合物の構造特性や反応様式は、人間の心理や行動様式に通じるものがあると考えることができる。そのような情緒にも思いをやりながら、生命現象に影響を与える有機化合物、すなわち「生物活性物質」について紹介していく。特に生体内における化合物の合成経路や、生成した化合物の構造と活性の相関について詳しく解説する。		
教材（テキスト）	生物有機化学―生物活性物質を中心に―　（東京化学同人）		
教材（参考文献）	ブラウン　有機化学　上・下　（東京化学同人）		
教材（その他）	HGS 分子構造模型 B　有機化学用セット　（丸善）		
評価方法	授業開始時に配布するプリントに授業内容をまとめ、終了時に提出してもらう。 これをレポートとして評価する（30%）。提出がない場合には「欠席」として処理する。 プリントは次回の授業開始時に返却するので、保管して期末試験（70%）に向けた学習に活用してほしい。		
到達目標	生物活性を有する有機化合物について、 １）　構造式が描ける。 ２）　構造式から分子式を導き、分子式から分子量を計算できる。 ３）　構造全体を眺めた時の特性や、構造に含まれる官能基を指摘できる。 ４）　構造の特性や構造中の官能基がもたらす生物活性について考察できる。		
準備学習	テキスト内の授業回に対応するページをあらかじめ読んでおくこと。 授業終了時に次回の授業範囲となるページを指示する。また、シラバスにも掲載しておく。 参考文献（ブラウン　有機化学）はバイオ環境館の図書館分室にて閲覧できる。		

受講者への要望

授業では様々な生物活性物質の構造式を板書することになる。受講者もそれらをプリント上に描き、有機化合物に慣れ親しんでくれるとよい。複雑な構造の中に、活性の決め手となる単純な官能基が隠れている。描いた構造式を何度もじっくりと眺めることで、それらを見出す楽しみを味わってほしい。

講義の順序とポイント

１．生物有機化学と生物活性物質　（p.1-p.25）
２．脂肪酸　（p.25-p.33）
３．ポリケチド　（p.33-p.42）
４．テルペノイド　（p.42-p.60）
５．シキミ酸経路とフラボノイド　（p.60-p.65）
６．アルカロイド　（p.65-p.69）
７．ペプチド Ⅰ　（p.69-p.80）
８．ペプチド Ⅱ　（p.69-p.80）
９．植物ホルモンとファイトアレキシン　（p.81-p.92, p.136-p.137）
１０．動物のホルモン　（p.92-p.123）
１１．フェロモン　（p.123-p.132）
１２．ビタミン　（p.146-p.153）
１３．抗生物質　（p.157-p.170）
１４．呼吸鎖電子伝達系と阻害剤　（資料配布）
１５．生物毒　（p.177-p.185）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J60130001
科目名	生化学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry I		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	生きている細胞を構成している物質を理解することに重点をおき、生体高分子であるタンパク質・核酸・多糖類・脂質とその構成単位であるアミノ酸,ヌクレオチド,糖,脂肪酸などについて化学的な分子基盤を理解し,生体物質の特性を理解することから,生化学 II での生命体の維持にかかわる分子機能を学習するための基礎力の習得をめざす.		
教材（テキスト）	教科書：『ヴォート基礎生化学（第 4 版)』　2014 年 9 月発行，東京化学同人		
教材（参考文献）	『ヴォート生化学 上、下』（第 4 版），東京化学同人 『Essential 細胞生物学』（原書第 3 版），南江堂 『生化学事典』（第 4 版），東京化学同人 その他、バイオ図書室で紹介している推薦指定図書を参考にする。		
教材（その他）	"Molecular Biology of The Cell" (fifth edition), Garland Science 『レーヴン/ジョンソン　生物学 〔上・下〕』培風館 アメリカ版大学生物学の教科書　第 1 巻細胞生物学，第 2 巻分子遺伝学，第 3 巻分子生物学　講談社 その他、講義などで紹介する教育動画サイト。		
評価方法	各講義の理解度・配布資料の整理・ノートの整理・講義後の把握度確認(ミニッツﾍﾟｰﾊﾟｰ)などの平素の受講評価（30%）と期末テスト(70%）について，その結果とまとめ方，理解度，応用力，表現力などを総合的に評価する。		
到達目標	生化学 II の代謝を中心にした学習に必要な基礎的な概念とその応用を習得.		
準備学習	高校生物の範囲を復習しながら、講義を受けて下さい. 教科書の各章巻頭の学習のポイント、目標の内容を把握し、序論部分を通読しておくこと.		

受講者への要望

授業毎に理解度を確認し,必ず資料やノートを整理し，教科書や参考書を利用した復習をして欲しい。
各自の My Notebook を作り上げて欲しい。
授業後の課題について、ミニッツペーパーで答えられなかった場合には、授業配布のプリントや教科書などを参考に復習して下さい。
不明な点や疑問は積極的にミニッツペーパーに記載し，質問するかオフィスアワーなどを活用して研究室を訪ねて，質問してください　（質問受付：随時、B10-3 研究室)。

講義の順序とポイント

1. 地球と生命：地球の歴史と生命の進化，水と生体分子，細胞の構造，同化と異化
2. 生命科学の概要：生命の不思議，右向きと左向き，右巻きと左巻き，右回りと左回り
3. 核酸と染色体,遺伝子の構造的特徴とはなんだろう
4. アミノ酸は何種類あるのだろうか
5. アミノ酸の機能、機能性ポリペプチドとは
6. タンパク質の種類と機能
7. タンパク質の基本構造とドメインの種類
8. 単糖と多糖、その種類と機能
9. 複合糖質とその特徴
10. 脂質と生体膜の表と裏　；なぜ表と裏は違うのか
11. 機能性分子が活躍するときの振る舞い
12. 驚く酵素のスーパー機能と特徴
13. 目で見えない生体分子を取り扱うには
14. 生命科学の課題（情報）と科学リテラシー
15. これからの生化学の魅力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	ー	★	★	★★	ー

年度	2016	授業コード	J60131001
科目名	生化学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry II		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	生命体ではどのような酵素化学反応が調節され，効率的におこなわれているかを理解し，調和のとれた生物の個体を維持するエネルギーの産生と貯蔵のシステム，個々の生体構成物質の動的な変化過程や調節機能や再利用機構がどのように働いているかを把握する．生物がもっている巧みな機構を認識し，生命の基本システムを学習することを目標とし，広く生命科学の発展学習に必要な基礎学力の習熟をめざす.		
教材（テキスト）	教科書：『ヴォート基礎生化学（第 4 版)』　2014 年 9 月発行，東京化学同人		
教材（参考文献）	『ヴォート生化学 上、下』(第 4 版)，東京化学同人 『Essential 細胞生物学』(原書第 3 版)，南江堂 『生化学事典』(第 4 版)，東京化学同人 その他、バイオ図書室で紹介している推薦指定図書を参考にする.		
教材（その他）	"Molecular Biology of The Cell" (fifth edition), Garland Science 『レーヴン/ジョンソン　生物学 〔上・下〕』培風館 アメリカ版大学生物学の教科書　第 1 巻細胞生物学，第 2 巻分子遺伝学，第 3 巻分子生物学　講談社 その他、講義などで紹介する教育動画サイト。		
評価方法	各講義の理解度・配布資料の整理・ノートの整理・講義後の把握度確認(ミニッツﾍﾟｰﾊﾟｰ)などの平素の受講評価（30%）と期末テスト(70%）について，その結果とまとめ方，理解度，応用力，表現力などを総合的に評価する。		
到達目標	生命科学全般の学習に必要な基礎的な概念とその応用を習得.		
準備学習	高校生物の範囲を復習しながら、生化学 I の講義を復習して下さい。 教科書の各章巻頭の学習のポイント、目標の内容を把握し、序論部分を通読しておくこと。		

受講者への要望

授業毎に理解度を確認し,必ず資料やノートを整理し，教科書や参考書を利用した復習をして欲しい。
各自の My Notebook を作ってください。
授業後の課題について、ミニッツペーパーで答えられなかった場合には、授業配布のプリントや教科書などを参考に復習して下さい。
不明な点や疑問は積極的にミニッツペーパーに記載し，質問するかオフィスアワーなどを活用して研究室を訪ねて，質問してください　（質問受付：随時、B10-3 研究室)。

講義の順序とポイント

1.　生化学 I の復習と"代謝"とは何か
2.　細胞と組織の機能分担と生体膜の役割
3.　生体エネルギーの産生と貯蔵形態
4.　グルコースを利用する反応
5.　解糖の調節機構と破綻
6.　貯蔵多糖とアスリート
7.　TCA サイクル・エンジンとは
8.　ミトコンドリアのパワーと呼吸
9.　葉緑体のパワーと光合成
10. 生物多様性から見る生物間の物質循環
11.　貴重な脂肪と余分な脂肪　その違いは何か
12.. 生活習慣病と生体物質の代謝能
13.. アミノ酸の供給分解と窒素代謝の特徴
14.　臓器と器官の相互役割分担と制御
15.　ヒトの特徴を決める高次機能と脳の代謝

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60132001
科目名	生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	生体は多種多様な外部環境の変化に曝されているにもかかわらず，その内部環境は常にある一定の状態に維持されている。この恒常性の維持には生体を構成している組織，器官，臓器などの連携と調和が必要不可欠である。本講義では人体の恒常性の維持機構を理解するために神経系，内分泌系および免疫系を中心に講義し，個体全体がどのようにして生体反応を統合的に制御し，生体システムを維持しているのかについて学ぶ。さらに，生体システムの破綻が引き起こす疾病についても触れる。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	森本武利 編『やさしい生理学』南江堂 高津聖志 監訳『免疫学イラストレイテッド』南江堂		
教材（その他）	授業中にプリント配布する。 京学なびおよびRドライブにより授業資料およびレポートを提供する。		
評価方法	授業内確認テスト（40%），　期末テスト(40%)，　レポート(20%)		
到達目標	ヒトの生体システム全体がどのようなメカニズムで統合的に制御されているかを理解する。		
準備学習	生化学ⅠおよびⅡの内容を復習しておくこと。 毎回，京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートの内容だけに留まらず，関連分野についても発展的に調べておくこと。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に，毎回提供する発展的課題についても意欲的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに　ー生理学とはー 2.血液成分，体液成分とその機能 3.血液循環とその調節 4.肺による体液成分の調節 5.腎による体液成分の調節 6.情報伝達物質とその受容体 7.ホルモンの作用 8.ニューロンとシナプス 9.中枢神経と末梢神経 10.自律神経 11.代謝の統合的調節 12.免疫担当細胞の種類と働き 13.体液性免疫と細胞性免疫 14.免疫疾患 15.生体システムの総合的な維持機構			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60133001
科目名	生体高分子学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomacromolecular Science		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	生命機能に関わる種々のタンパク質，核酸に重点をおき，これらの生体高分子がどのようにして，どのような機能発現を示すのかを理解し，生体高分子の相互作用の把握から生命体が進化の過程で獲得してきた特異な機能とその多様性および巧みな調節機能を理解し，生命科学で注目されている主要な課題について，個々のテーマを生化学・分子生物学・細胞生物学・生理学・バイオインフォマティクス・遺伝子工学で学んだことを相互に関連づけ，体系的に理解し，要約説明できることをめざす.		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない. 配布プリント・パワーポイント・ＤＶＤ等を利用する．また，課題追求のための教材は随時紹介する.		
教材（参考文献）	1．2 回生で用いた分子生物学・細胞生物学・生化学などの参考図書と最新の文献を参考にする.		
教材（その他）	”Molecular Biology of The Cell” (Fifth Ed.) B.Alberts et.al. ”Developmental Biology” (Eighth Ed) S.C. Gilbert ”Biochemistry” (4th Ed) D. Voet & J. Voet		
評価方法	課題レポート（20%），課題研究と発表（50%），講義の要約（15%），講義中の質疑（15%）について総合的に評価する.		
到達目標	生命科学分野の進歩は目覚ましく、日夜新たな発見が報告され、新たな成果を目にすることが多い分野である。 本講義の受講によって、多くのバイオ関連新情報をもとに、的確な理解と判断ができるように、公的なバイオ関連情報データーベースにアクセスして、真偽を把握し、理解するとともに、今後の関連分野を一般的に易しく説明できる自己の能力を身につけ、基本的な能力を修得していただきたい。		
準備学習	検討課題毎に，既に修学した生化学・分子生物学・細胞生物学・生理学・バイオインフォマティクス・遺伝子工学などで学んだことを把握して講義に望むこと. 毎回の講義での達成目標は、実際にバイオインフォマティクスをデーターベースにアクセスし、予定の結果を得ることができたかどうかを確認し、次のステップに進むに必要な技量を身に着けるトレーニングを各自実行すること.		

受講者への要望

講義内容を十分に理解するよう復習と実習して欲しい.

課題を追求し，調査する能力を身につけること.
情報処理能力を鍛えるために，Database 検索力を磨いて欲しい。
従って，講義時間以外に Database にアクセスし，情報の価値を知って欲しい.
不明な点，疑問などは積極的にオフィスアワーなどを活用して質問してください（随時受付）.
遅刻厳禁.

講義の順序とポイント

1. 細胞分裂と細胞周期
2. クロマチンの構造と細胞機能
3. 遺伝子の活性化機構と転写制御機構
4. 転写 snRNA と新機能
5. 転写の開始と転写の終止
6. 発ガンとガン抑制
7. 核膜孔と細胞内輸送システム
8. 細胞骨格と細胞外マトリックス
9. トランスポーターと多彩なシグナル伝達機構
10. 発生を制御する細胞機能
11. ウイルス感染の分子機構と免疫系の相互認識機構

12. 免疫系の細胞間相互認識機構
13. エピジェネティックな制御
14. タンパク質の高次複合体構造解析の現状
15. 課題研究の Databese の利用とまとめ方
（タンパク質のすべての構造ドメインリストを利用して，各自が一つずつ今まで学習してきたことをまとめて、バイオインフォマティクスのレベルで発表内容をまとめることができるように PC 室にて指導する）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J60136001
科目名	分子生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Molecular Biology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	分子生物学では，生命現象の基本である遺伝とタンパク質合成を中心に，生体高分子合成反応を理解することを目標とする。本講義では，DNA の二重らせん構造と染色体構造，DNA の複製と DNA からタンパク質へ遺伝情報が伝達される仕組み（転写，翻訳）及びその調節機構を分子レベルで解説する。さらに，遺伝子の組換え，DNA の突然変異，修復及び環境適応等についても分子レベルで講義する。遺伝子の構造と機能に関する重要な知見は実際どのような実験によって明らかになったかをふまえた講義とする。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	Donald Voet 他著『ヴォート基礎生化学、第 2 版』（東京化学同人）。 田村隆明、村松正實著『基礎分子生物学、第 2 版』（東京化学同人）。 Bruce Alberts 他著『Essential 細胞生物学、第 2 版』（南江堂）。		
教材（その他）	和田勝著　『基礎から学ぶ生物学．細胞生物学』（羊土社）。 福岡伸一『生物と無生物のあいだ』（講談社）。 プリント（配布する）、DVD など。		
評価方法	期末試験（50%）、小テスト、実力問題、課題など（50%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	分子生物学の全体像を理解することを目標としている。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　講義終了時に、小テストを行って、次回の授業の最初にその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。資料の実力問題と課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。			
講義の順序とポイント			
1. シラバスの説明、ガイダンス、分子生物学とは？ 2. 生物と遺伝とは。メンデルの遺伝法則 3. 情報高分子：DNA と RNA の化学的構造とその立体構造。核酸の物理的性質 4. 情報物質としての遺伝子、染色体、染色質（クロマチン）の性質 5. 生体高分子集合体：原核生物と真核生物のゲノム構造 6. 遺伝子が組換わる：相同組変えと非相同組変え 7. 遺伝子地図 8. 遺伝情報の保存：DNA ポリメラーゼ、DNA の二方向複製メカニズム、DNA の修復 9. 遺伝情報の転写：RNA ポリメラーゼによる RNA 合成メカニズム 10. 真核生物 RNA の転写後修飾とスプライシング 11. 真核生物における発現制御機構 12. 原核生物の転写制御：トリプトファンオペロンの調節、ラクトースオペロンの調節 13. 遺伝暗号の翻訳：mRNA の読み枠、tRNA の合成とアミノ酸選択機構 14. タンパク質の合成機構の流れ：リボゾームの構造、ペプチド鎖伸長の分子機構 15. DNA の変異：突然変異の種類、変異と適応			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J60137001
科目名	細胞生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Cell Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	生化学 I,II および分子生物学を充分に理解したことを前提に、生命現象の基本単位である細胞の構造と機能について分子レベルで解説する。 具体的には生命現象における様々な物質の挙動を各細胞内小器官との関連で説明するとともに、その解析法についても解説する。また、細胞輸送、細胞骨格、細胞間コミュニケーションなど、多細胞生物に必要な仕組み、更に細胞内情報伝達、細胞周期、細胞分裂、細胞死の制御機構やこれらの異常と各種疾患との関連についても概説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	Bruce Alberts 他　著（中村桂子他　監訳）『Essential 細胞生物学　原書第 3 版』（南江堂）8,000 円 和田勝著　『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第 3 版』（羊土社）3,200 円 尾張部克志、神谷律　著『ベーシックマスター細胞生物学』（オーム社）3,600 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	期末試験(60%)、毎回のレポート(30%)、講義での発表、受講態度などの平常点(10%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・生物を構成する基本単位「細胞」の構成要素および細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・細胞内区画と物質の輸送、細胞内シグナル伝達機構のしくみを理解する。 ・細胞骨格や細胞接着、細胞内マトリックスに関わるタンパク質の種類と役割について概説できる。 ・正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。 ・この講義で学んだことを、専門実験や卒業演習で適用できる能力を身につける。		
準備学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、復習を積極的に行うようにしてください。
疑問点があれば積極的に聞くようにしてください。
細胞生物学で学んだ用語について、自分の言葉で表現できる能力を身につけること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 細胞とは何か
3. 細胞の膜構造と細胞小器官
4. 細胞内区画と細胞内輸送
5. 細胞骨格と細胞運動
6. 細胞外マトリックスと細胞間コミュニケーション
7. 細胞内情報伝達
8. 細胞周期、時間の細胞生物学
9. がんの細胞生物学①
10. がんの細胞生物学②
11. 生殖と発生・細胞分化
12. 細胞の再生、老化と細胞死
13. 脳神経系の細胞生物学
14. 免疫系の細胞生物学
15. 細胞生物学に関する最新技術動向

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60138001
科目名	遺伝子工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Genetics Engineering		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	ゲノム解析がもたらす多大なゲノム配列情報と種々の技術との融合で新たに可能となる学問領域について，その分子生物学的な基礎から具体的な応用例までを原理と技法の理解と応用演習を通じて習熟を深め，多様な遺伝子産物の応用と有用性を学習し，生命科学が現代社会にどのように貢献できるかを考察しながら理解する．		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない．配布プリント等を利用して，授業内容を整理し，My Textbook を各自で作る．		
教材（参考文献）	1，2 回生で用いた分子生物学，細胞生物学，生化学などの参考図書を参考にする．		
教材（その他）	"Current Protocols in Molecular Biology", "Molecular Cloning -A Laboratory Manual" などに 掲載されている基本的な技法を教材にする．		
評価方法	期末試験 （70%） ・課題レポート，小テスト，講義中の評価(30%） として，総合的に評価する．		
到達目標	生物の遺伝子情報を整理し，正しく読み取り，緻密に理解できる力量の習熟をめざし，種々の遺伝情報に対応できることを目標にする． バイオインフォティクスの技能上達には、色々なデータベースから種々のソフトを利用して、2 次情報整理した形で取得できるようにすることと、その内容をしっかり読み取る能力を身につけることである。 繰り返し、反復練習をして、色々な応用力を独習すること．		
準備学習	分子生物学の基本事項を正確に把握して，遺伝子工学の個々の課題を理解できる準備学習が必要である． 配布プリントで示されている課題に挑み、理解できた部分と不十分なところを各自が自己判定しておくこと．		

受講者への要望

遅刻厳禁．講義には欠かさず出席し，各回の講義内容を十分に理解するよう復習をして欲しい．専門実験でおこなう種々の実験と連動して、より理解を深めることを望む．実験レポート作成においては，本講義の内容を十分に生かすことを望む．不明な点や疑問は積極的にオフィスアワーや専門実験などの時間を活用して質問してください（随時受付：B10-3 研究室).

講義の順序とポイント

1. 遺伝子工学開発の歴史と染色体について
2. 遺伝子工学の原理と基礎技術について
3. タンパク質工学
4. ゲノム解析と遺伝子診断
5. 細胞工学
6. モノクローナル抗体・人工染色体
7. 遺伝子改変動物と遺伝子改変植物
8. 人工臓器・再生臓器・組織培養
9. 胚と生殖工学・クローン動物
10. 単為発生とゲノムインプリンティング
11. ES 細胞と iPS 細胞
12. RNA 工学
13. 遺伝子治療と遺伝子工学の新展開
14. 遺伝子操作技法の応用演習
15. バイオインフォマティクスについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J60141001
科目名	微生物学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Microbiology II		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	微生物の進化・分類・多様性や、自然環境中での働きなど、マクロな視点から微生物の性質について学ぶ。 微生物生態の研究に用いられる最新の分子生物学的解析技術についても解説する		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	『IFO 微生物学概論』　発酵研究所 監修 培風館　4,700 円 『環境微生物学』　久保 幹 他著 化学同人　3,000 円		
教材（その他）			
評価方法	確認テスト（40%） 期末試験（60%）		
到達目標	1）微生物の系統分類と多様性について理解する 2）微生物の生態と地球環境における役割について理解する 3）微生物の分子生物学、遺伝学を理解する 4）ウイルス学の基礎を理解する		
準備学習	理解できなかった部分は参考文献などを参照し、テキストを増補して自分オリジナルの微生物学のテキストを作っていくこと		
受講者への要望			
微生物は発酵食品、環境浄化に代表される身近な領域で多いに活躍しています。授業で学んだ微生物の知識と、自分の生活とのつながりを見つけるなどして、意欲的に学習に取り組んでください			
講義の順序とポイント			
１．　微生物の進化 ２．　微生物の系統分類 ３．　微生物の進化・変異の遺伝学的メカニズム ４．　特徴的な微生物グループ（ラン藻、放線菌、酵母など） ５．　第１～４回の確認テストと解説 ６．　微生物の生態系 ７．　微生物による元素循環 ８．　生物間相互作用　（微生物の共生） ９．　微生物生態の解析手法　1 １０．　第６～９回の確認テストと解説 １１．　微生物生態の解析手法　2 １２．　微生物のゲノム １３．　ウイルス の性質 １４．　ウイルス の環境生態 １５．　第１１～１４回の確認テストと解説			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60142001
科目名	応用微生物学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Microbiology A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	発酵・醸造学
講義概要	明治時代にヨーロッパから導入された近代微生物学の最初の研究対象のひとつは、長い伝統を持ち、世界的にもきわめて優れた技術でつくられていた日本の発酵・醸造物であった。本講義では、微生物を使って製造される各種の食品・飲料・調味料について、製法とその微生物学、生化学、化学を解説し、さらに産業としての歴史と、現在のありようについて触れる。加えて、京都、亀岡の発酵・醸造関連企業で働いておられる方々から実際のお話を伺う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	醸造・発酵食品の事典　吉沢 淑 他編（2002）朝倉書店		
教材（その他）			
評価方法	・小テスト（30%） ・定期試験（20%） ・レポート（50%）		
到達目標	１）発酵・醸造学の基本的な事項を知識として身につける。 ２）日本には特に様々な発酵・醸造製品が発達していることを理解する。 ３）日常生活の中で発酵・醸造製品に関心を持てるようになる。		
準備学習	「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくことが望ましい。各講義の内容は、発酵・醸造食品の製造法とマーケットへの展開法のコンセプトが中心となるので、日常の生活とのかかわりを予め調べて理解しておくことが望ましい。		

受講者への要望

・発酵・醸造学の基本的な事項に関する小テストを数回行い、そこから定期試験を出題する。
・各種の食品・飲料・調味料の中から一つを選び、自分の関心のあるテーマについて詳しく調査したレポートを提出する。
・レポートについては、解説書を参照して調査の仕方、論述の仕方、様式について自学すること。

講義の順序とポイント

１）　発酵・醸造学とは何か：その微生物学・生化学・化学
２）　酒類総論：ワイン・ビール・清酒・蒸留酒
３）　酒類各論：ワイン
４）　酒類各論：ビール
５）　酒類各論：清酒（１）
６）　酒類各論：清酒（２）
７）　発酵調味料総論：醤油・味噌・食酢・味醂
８）　発酵調味料各論：醤油
９）　発酵調味料各論：味噌
１０）　発酵食品総論：野菜・畜産物・水産物・パン
１１）　発酵食品各論：漬物（１）
１２）　発酵食品各論：漬物（２）
１３）　発酵食品各論：なっとう
１４）　発酵食品各論：乳製品
１５）　発酵食品各論：パン
（順番、内容は講師の方の都合によって変更する場合がある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★	★★	ー

年度	2016	授業コード	J60143001
科目名	バイオインダストリー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Bioindustry		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	今世紀の社会の様々な問題は、バイオサイエンスを基盤とした産業を抜きに考えることは出来ない。本講義ではまず、20 世紀に展開されたバイオインダストリーについて、日本の産業の動向と共に概括する。ついで、21 世紀の食品・化学工業、環境問題、エネルギー・資源問題、食糧問題へのバイオテクノロジーのアプローチについて、その可能性と展望を日本の科学技術政策及び世界の動向を紹介しながら考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	応用微生物学 第 2 版　清水 昌、堀之内末治 編（2008）文永堂出版		
教材（その他）	ビデオ教材やプレゼンテーションソフト等を用い、適宜プリントを配布する。		
評価方法	・平常点（授業内の小テスト、発表など）（20%） ・レポート（30%） ・定期テスト（50%）		
到達目標	微生物の多様な機能（能力）について科学的に理解するとともに、産業利用の観点から考察し、理解する。		
準備学習	「微生物学Ⅰ」「微生物学Ⅱ」「応用微生物学 A」「応用微生物学 B」を受講しておくことが望ましい。各講義内容について、新聞などの情報にも気を配って調査することが望ましい。		

受講者への要望

・能動的な姿勢で講義に出席すること。
・遅刻や私語は厳禁である。遅刻の場合は理由を申告すること。
・常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。

講義の順序とポイント

1） 科学技術とバイオ
2） 日本の産業の動向とバイオインダストリーの展望
3） 日本の科学技術政策
4） エネルギー／資源問題とバイオ －1
5） エネルギー／資源問題とバイオ －2
6） 食糧問題の展望
7） 環境問題の現状
8） 環境問題解決へのバイオのアプローチ －1
9） 環境問題解決へのバイオのアプローチ －2
10） 医薬品工業の現状と展望
11） 食品工業の現状と展望 －1
12） 食品工業の現状と展望 －2
13） 化学工業とバイオ －1
14） 化学工業とバイオ －2
15） 最近のトピックス
順序・内容は状況によって変更することがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J60144001
科目名	食品化学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Chemistry I		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品は栄養性（一次機能）、嗜好性（二次機能）の他に三次機能として、健康機能性が現在注目されている。おもな食品成分を上記機能に関連付けて化学的側面から理解する。蛋白質、脂肪、炭水化物の分解・吸収およびエネルギーを含む栄養としての体内での変化について、わかりやすく概説する。これらはすべて化学変化であり、食品・栄養に必要な有機化学（加水分解、脱水、酸化・還元反応など）を復習し、さらにそれらを触媒する酵素についても簡単に取り上げる。さらに、嗜好性に影響を持つ食品の物性（コロイド、レオロジー、テクスチャー）についても説明する。これらを理解することによって、食品に関して知識を深め、さらに深い食品成分あるいは食品製造への理解の基礎とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	早瀬文孝・佐藤隆一郎編著『わかりやすい食品化学』（三共出版）（ISBN978-4-7827-0549-0）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績（70%） キーワードの事前調査レポート（10%） 各章ごとの練習問題（10%） 受講態度など（10%）		
到達目標	食品の機能性や成分を理解するための基礎知識を得る。		
準備学習	①各章の講義の事前学習として、キーワードを提示するのでそれについて調査してくる。これをレポートとして講義前に提出する。場合によっては指名された学生はレポート内容を発表する。 ②各章の講義の終了後に練習問題（3 問程度）を課すので次回までに解いておく。それらの問題の解答を次回に示す。問題の解答用紙は提出する。		
受講者への要望			
事前調査と練習問題は必ずやっておくこと。期末試験の一部はその問題を少し改変して問題とする。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに（食品化学で学ぶことおよび食品化学の講義とは） ２．食品成分の概要と機能性 ３．食品・栄養を理解するための化学１（化学構造、加水分解反応および関与する酵素） ４．食品・栄養を理解するための化学２（脱水反応および関与する酵素） ５．食品・栄養を理解するための化学３（酸化・還元反応および関与する酵素） ６．水（水と食品の関わり） ７．炭水化物１（炭水化物の種類とその化学的性質） ８．炭水化物２（炭水化物の利用） ９．脂肪（脂肪の種類とその化学的性質、およびその利用） １０．蛋白質（アミノ酸、蛋白質の構造と化学的性質） １１．蛋白質（アミノ酸、蛋白質の利用） １２．ビタミン・ミネラル（種類と生体での分布・作用） １３．食品の物性（コロイド・テクスチャー） １４．食品の安全（食品安全の用語、GMO や BSE などについて解説する） １５．各項目のポイントレビュー			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J60145001
科目名	食品化学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Chemistry II		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	植物性食品や動物性食品の成分と機能性について詳しく説明する。また、加工や食品の工業的な製造法についても説明する。いくつかの機能性成分や色素については化学構造と機能性を理解する。貯蔵・加工・調理における食品成分の変化を化学的な側面から理解する。		
教材（テキスト）	資料を提供する。		
教材（参考文献）	川岸舜朗・中村良編著『新しい食品化学』（三共出版）（ISBN4-7827-0425-9 C3061） 安井勉・桐山修八編著『食品科学』（三共出版）（ISBN4-7827-0285-X）		
教材（その他）	各章ごとに資料は提供する。		
評価方法	定期試験の成績（70%） 課題調査と発表（20%） 受講態度など（10%）		
到達目標	農産物由来および動物由来食品の機能性や成分を理解する。また、食品の製造過程における化学変化を理解する。		
準備学習	準備学習として、各章ごとにキーワードを提示するので担当キーワードは必ず調査する。そのレポートは発表形式でまとめる。その章の講義前に提出し、指名した学生は発表する。		
受講者への要望			
席は指定席とする。課題を与えるので必ず、それを調査し、発表形式でまとめる。発表時間を設けている。また、講義はしっかり聴き、積極的に質問をすること。			
講義の順序とポイント			
１．　植物性食品１（米、麦の成分と機能性） ２．　植物性食品２（大豆、芋、野菜および果実の成分と機能性） ３．　植物性食品３（植物性食品の製造） ４．　動物性食品１（食肉の成分と機能性） ５．　動物性食品２（牛乳、卵および乳製品の成分と機能性および製造） ６．　油脂食品（油脂および油脂製品の成分と機能性および製造） ７．　嗜好品と調味料（飲料、甘味料、調味料、香辛料の成分と機能性および製造） ８．　機能性成分１（植物成分のポリフェノール、リグニン構造と機能性） ９．　機能性成分２（その他の植物成分および動物成分の構造と機能性、機能性食品） １０．　食品色素の化学（食品成分としての色素の構造と機能性） １１．　貯蔵・加工・調理に伴う食品成分の化学変化１（糖、アミノ酸、脂肪酸） １２．　貯蔵・加工・調理に伴う食品成分の化学変化２（核酸、ポリフェノールなど） １３．　食品の安全性（有害微生物その他による食品の汚染と防止） １４．　特定保健用食品（その制度、トクホ食品および実例の紹介） １５．　各項目のポイントレビュー			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J60147001
科目名	生体栄養科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Nutritional Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	何をどのくらい食べたらどうなるか？について生化学的なアプローチで解説を行う。すなわち，個体の栄養成分である糖、タンパク質、脂質、ビタミンなどの機能や代謝系、これらを摂取した時の生体反応や調節機構について解説を行い、全ての栄養素が相互に関連しあって生体が維持されていることについて理解を深める。さらに、動脈硬化や糖尿病といった生活習慣病と食品成分との関係など、栄養と疾病との関わりについて、その研究方法などを含め概説を行い、知識を深める。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	薗田勝 編『栄養科学イラストレイテッド生化学』羊土社　2,800 円 垣沼淳司 著『分子栄養学―栄養素と生活習慣病の分子生物学 』光生館　2,520 円		
教材（その他）	授業中にプリント配布する。 京学なびおよびRドライブにより授業資料およびレポートを提供する		
評価方法	授業内確認テスト（40%），　期末テスト(40%)，　レポート(20%)		
到達目標	生体の維持機構を理解するために，栄養成分の生理機能や代謝系とその調節機構についての知識を習得する。		
準備学習	生化学ⅠおよびⅡの内容を復習しておくこと。 毎回，京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートによる授業の予復習に留まらず，関連分野についても発展的に調べておくこと。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に，毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに　ー生体栄養科学とはー 2.栄養成分の消化吸収 3.糖質の化学 4.糖質の機能と代謝 5.アミノ酸とタンパク質の化学 6.アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 7.脂質の化学 8.脂質の機能と代謝 9.三大栄養素の相互変換 10.代謝の調節と疾病 11.ビタミンの生理作用 12.ミネラルの生理作用 13.食品成分の生体調節機能（１）ー抗酸化作用ー 14.食品成分の生体調節機能（２）ー代謝調節作用ー 15.機能性食品の現状と今後			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60148001
科目名	食品衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Hygiene		
担当者名	山﨑　裕康	旧科目名称	
講義概要	生活の基本である「食」は、我々の健康ひいては生命に直接影響を及ぼすきわめて重要な因子であることから、食品の安全性確保に関する知識と理解を深めることを目標とする。 食品の安全確保は、我々の生活の質（QOL）に直接影響するものであるが、近年における我が国の食生活多様化と輸入食品の増大に伴い、その重要性がますます高まってきている。本講義では、我が国における食品の安全確保のための法的規制と体制ならびに手法について概説すると共に、食品に起因する健康障害について原因別に解説し、同時に健康障害防止策についても述べる。		
教材（テキスト）	教科書：食品衛生学－「食の安全」の科学－ 改訂第２版（那須正夫、和田啓爾編）南江堂		
教材（参考文献）	国民衛生の動向 2015/2016（厚生労働統計協会）		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（70%）、講義終了時に適宜実施する到達度確認小テスト（30%）により評価する。ただし、受講出席状況が２／３未満の場合は定期試験受験資格を与えない。		
到達目標	１．我が国における食品の安全確保政策について説明できる。 ２．食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。 ３．腐敗、変敗の機構および食品保存法について説明できる。 ４．代表的な食中毒原因（微生物や自然毒）について説明できる。 ５．調理等による食品成分の有害化について説明できる。 ６．食品添加物の法的規制および代表的な食品添加物について、用途、働きを説明できる。		
準備学習	講義のはじめに前回の簡単な復習を、また最後に次回の講義内容を予告するので、教科書該当ページに目を通しておくこと。		

受講者への要望

食品衛生に関するニュース等に常日頃から関心を持つように心がけること。
私語は厳禁とする。私語が過ぎる場合には、他の受講者への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

第 1 回　わが国の食品衛生行政と法的規制
第 2 回　わが国の食品衛生行政と法的規制（その 2）
第 3 回　食品の安全確保（HACCP 他）
第 4 回　食品に起因する健康障害、食中毒発生状況
第 5 回　微生物による食中毒(1)
第 6 回　微生物による食中毒(2)
第 7 回　自然毒(1) 植物性自然毒
第 8 回　自然毒(2) 動物性自然毒
第 9 回　カビ毒
第 10 回　化学物質による食品汚染(1) 環境汚染重金属
第 11 回　化学物質による食品汚染(2)有害有機化合物
第 12 回　食品の変質、食品保存法
第 13 回　食品成分の有害化、遺伝子組み換え食品
第 14 回　食品添加物総論
第 15 回　食品添加物各論
第 16 回　定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	☆☆	☆

年度	2016	授業コード	J60149001
科目名	植物生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Physiology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	植物は、太陽エネルギーを利用して無機物から種々の有機物を作ることにより地上のあらゆる生物の生命維持に極めて重要な役割を担っている。本講義では、植物や細胞の構造と機能、水・重力・光などの環境要因と植物、植物ホルモン、光合成、植物の栄養などの植物で行われている様々な生化学反応を知ることにより、植物の生理的な機構および環境応答について学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	L. Taiz, E. Zeiger ら著「テイツ・ザイガー植物生理学（第３版）」（培風館）。 B.B. Buchanan ら著「植物の生化学・分子生物学」（学会出版センター）。 その他の参考書については最初の講義で紹介する。		
教材（その他）	プリント（配布する）、ビデオなど。パワーポイントを活用して講義を進める。		
評価方法	期末試験（50%）、小テスト、実力問題、課題など（50%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	農資源やバイオテクノロジーについて学ぼうとする人が、植物の生理機能について個体、細胞、分子のレベルで理解することを目標とする。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　講義終了時に、小テストを行って、次回の授業の最初にその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。資料の実力問題と課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。			
講義の順序とポイント			
１．シラバスの説明、ガイダンス、植物生理学とは ２．植物細胞の構造と機能 ３．植物の成長と分化 ４．水と植物細胞 ５．無機栄養。物質輸送 ６．葉緑体の構造と機能 ７．光合成の明反応：光合成における電子伝達反応 ８．光合成の暗反応：カルビン回路、 ９．光合成：光呼吸とＣ４光合成 １０．デンプンとショ糖の生合成 １１．植物ホルモンとその作用（１）オーキシン １２．植物ホルモンとその作用（２）サイトカイニン １３．植物ホルモンとその作用（３）エチレン １４．植物ホルモンとその作用（４）　ジベレリン １５．植物ホルモンとその作用（５）　アブシジン酸他			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J60150001
科目名	植物生化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Biochemistry		
担当者名	關谷　次郎	旧科目名称	分子植物生理学 II
講義概要	植物は人間を頂点とする食物連鎖において、糖質や有機窒素化合物（アミノ酸やタンパク質）の第 1 次供給者である。これらの化合物の生合成はの中心に光合成があり、植物の機能の中でとりわけ重要である。本講義では光合成の場である葉や葉緑体の構造と光合成の概要を説明した後、C3 光合成のそれぞれの要素過程（明反応、暗反応、光呼吸など）について詳述する。その後 C4 光合成などについても述べる。さらに光合成産物として重要なショ糖やデンプンの生合成についても理解する。窒素代謝も植物特有であり、その中で窒素同化は光合成過程の明反応とリンクしている。窒素同化について詳述する。また窒素固定細菌による窒素固定についても取り上げる。最後に光合成と窒素同化の全体像について理解を深め、その重要性を確認する。全講義期間を通じて数回のワークシートによって理解度の確認を行う。		
教材（テキスト）	なし、毎回配布した講義プリントを使用する。講義プリントは少なくとも 1 週間前に配布する。		
教材（参考文献）	(1)「テイツ・ザイガー植物生理学（第 3 版）」J.L.テイツ/E.ザイガー著、西谷和彦/島崎健一郎監訳、培風館 (2)「植物の生化学・分子生物学」　B.B.Buchanan ら著、岡田清隆ら監訳、学会出版センター		
教材（その他）	パワーポイントを活用しながら講義を進める。		
評価方法	平常点（30%）出席状況やワークシート等による。定期試験（70%）。		
到達目標	生物圏における太陽の光エネルギーの補足という重要な機能を有する植物の光合成および窒素同化について理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義プリントを配布するので、講義で学ぶことの概要をつかみ、わからない語句などを調べておくこと。また数回分の講義内容に関する小試験を行うのでよく復習をしておくこと。		
受講者への要望			
植物生化学では光合成と窒素代謝に重点をおいて講義するので、生物に共通する代謝・機能など（例えば解糖系や酸化的リン酸化）については取り扱わない。そのため生化学 I 及び II は必ず履修すること。また植物生化学からさらに植物細胞工学、植物代謝工学へと発展させることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．　光合成とは、葉緑体の構造 2．　光合成（1）明反応 3．　光合成（2）明反応 4．　光合成（3）暗反応 5．　光合成（4）暗反応 6．　光合成（5）光呼吸と C4 光合成 7．　ショ糖の合成 8．　デンプンの合成、セルロースの合成 9．光合成と転流 １０．窒素の代謝（1）窒素同化 １１．窒素の代謝（2）窒素同化とその調節 １２．窒素の代謝（3）アミノ酸の生合成、 １３．窒素の代謝（4）窒素固定 １４．窒素の代謝（5）窒素固定 １５．植物のエネルギー代謝の特徴			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J60151001
科目名	植物細胞工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Cell Engineering		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物細胞工学の基礎となる個体の成り立ち、細胞の構造と機能、遺伝子の構造と機能発現、組織培養の要素技術、遺伝子組換えの要素技術を概説する。また、組織培養と遺伝子組換え技術の具体的な事例と課題、今後の可能性について紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	植物バイテクの実際（農山漁村文化協会)、植物バイオテクノロジー（理工図書)、レクチャーバイオテクノロジー（培風館)、植物バイオテクノロジー（幸書房)。 細胞の分子生物学（ニュートンプレス)、ヴォート基礎生化学 第 2 版（東京化学同人)、植物の生化学・分子生物学（学会出版センター)。		
教材（その他）	毎回、講義資料を配布し、パワーポイントを活用する。適宜、ビデオ教材などを活用する。		
評価方法	平常点（提出課題など）　30% 定期試験　70%		
到達目標	植物細胞の基本構造とその働きを分子レベルで理解する。 植物遺伝子の構造と機能発現を分子レベルで理解する。 細胞・組織培養の基礎と意義を理解する。 遺伝子組換え技術の基礎と意義を理解する。		
準備学習	次回講義の内容を紹介するので、配布プリントに目を通し、該当する植物生理学、植物生化学、生化学、分子生物学の分野の振り返りをした上で講義に望むこと。毎回、課題をだすので、配布プリントに基づき、講義内容を振り返り、理解を定着させ、次回の講義までに提出すること。		
受講者への要望			
講義内容は連続性があり、理解には積み重ねが不可欠となる。生活や産業と植物バイオテクノロジーの関わりに興味を持ち続けて欲しい。より高度な内容を学びたい学生には、個別に参考図書等を紹介する。			
講義の順序とポイント			
1．植物細胞工学の歴史と概要 2．植物個体の成り立ち 3．植物細胞の機能発現（1） 4．植物細胞の機能発現（2） 5．植物組織培養技術の基礎（1） 6．植物組織培養技術の基礎（2） 7．植物組織培養技術の産業への応用（1） 8．植物組織培養の産業への応用（2） 9．植物遺伝子の構造と機能 10．植物遺伝子の機能発現 11．遺伝子の機能発現の制御 12．植物遺伝子組換え技術の基礎（1） 13．植物遺伝子組換え技術の基礎（2） 14．植物遺伝子組換え技術の産業への応用 15．植物細胞工学の展開			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J60152001
科目名	植物代謝工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Metabolic Engineering		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物における基本的な一次代謝物と二次代謝物とその生合成経路を概説する。また、植物代謝工学の基礎となる代謝調節の仕組みと代謝工学の原理、遺伝子組換え技術を用いた代謝工学研究の具体的事例、今後の課題と可能性について紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）、テイツ・ザイガー植物生理学（第３版）（培風館）、植物生化学（シュプリンガー・フェアラーク東京）、植物生理学（シュプリンガー・フェアラーク東京）など		
教材（その他）	講義資料を配布する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（提出課題など）　30% 定期試験　70%		
到達目標	植物固有の代謝物とその生合成について理解する。植物における代謝物の高次機能について理解する。代謝調節とその多段階的な制御機構を通じて、代謝工学の基礎・原理を分子レベルで理解する。代謝工学の意義と課題を理解する。		
準備学習	次回講義の内容を紹介するので、配布プリントに目を通し、該当する植物生理学、植物生化学、生化学、分子生物学の分野の振り返りをした上で講義に望むこと。毎回、課題をだすので、配布プリントに基づき、講義内容を振り返り、理解を定着させ、次回の講義までに提出すること。		
受講者への要望			
講義内容は連続性があり、理解には積み重ねが不可欠となる。生活や産業と植物バイオテクノロジーの関わりに興味を持ち続けて欲しい。より高度な内容を学びたい学生には、個別に参考図書等を紹介する。			
講義の順序とポイント			
１．植物代謝工学とは ２．代謝調節とその仕組み ３．窒素代謝 ４．窒素代謝と環境応答 ５．窒素代謝工学 ６．窒素代謝工学の応用事例 ７．脂肪酸代謝 ８．脂肪酸代謝工学 ９．　脂肪酸代謝工学の応用事例 10．二次代謝とは 11．アルカロイド 12．アルカロイドの生合成とその制御 13．アルカロイド代謝工学 14．テルペン類の生合成とその制御 15．フェノール性化合物の生合成とその制御			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J60153001
科目名	有用産業植物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plants of Industrial Interest		
担当者名	秋田　徹	旧科目名称	
講義概要	植物は、古くから香辛料あるいは医薬品や食品添加物の素材として人類に利用されてきたが、２１世紀の今日、人類は植物に対して産業素材として大きな期待を寄せている。新たなバイオアッセイ法との組み合わせで新規な生理活性を示す植物成分の発見、あるいはメタボリックエンジニアリングによって有用成分の生産性の向上が計られるなど産業的にも植物が再評価されている。これら産業的に有用な植物を医薬品に関連する植物、食品産業に有用な植物に分けて、その特性などについて理解を深めることを目標とする。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義の最初に紹介する。		
教材（その他）	パワーポイントを用いる。		
評価方法	平常点（10%）は受講態度等による。各講義日の最後に行う試験によって評価（90%）する。		
到達目標	医薬品、食品添加物などの産業で重要な役割を果たしている植物について理解する。		
準備学習	これまでに履修した本講義に関連する植物の分類や植物生理生化学、有機化学、食品化学などについて事前によく復習（予習）しておくこと。また教材の講義プリントを事前に配布するので予習しておくこと。		
受講者への要望			
講義中に疑問に思った点があれば積極的に質問などをしてほしい。 講義プリントとパワーポイントを用いて講義を進めるが、重要な点はメモを取ること。			
講義の順序とポイント			
１．医薬品と植物（１）薬用植物の定義（ハーブから最新医薬品まで） ２．医薬品と植物（２）医薬品の歴史 ３．医薬品と植物（３）生薬としての利用 ４．医薬品と植物（４）植物からの医薬品創製（成分としての利用） ５．医薬品と植物（５）現在と将来、そして課題 ６．食品と植物（１）食品添加物概説 ７．食品と植物（２）食品添加物と植物 ８．食品と植物（３）多糖類の利用１ ９．食品と植物（４）多糖類の利用２ １０．食品と植物（５）色素成分の利用１ １１．食品と植物（６）色素成分の利用２ １２．食品と植物（７）香料成分の利用１ １３．食品と植物（８）香料成分の利用２ １４．食品と植物（９）機能性食品への応用 １５．食品と植物（１０）まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2016	授業コード	J60162001
科目名	化学演習 -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	春学期の化学に引き続き化学の基礎知識を講義する。化学物質の基本構造が分子や原子であることを理解したうえで、実際に起きている化学反応について理解を深める。特に、熱化学反応式や化学平衡を中心に講義する。あわせて演習を行い、具体例の中から理解を深め、反応を数的に理解できるようにする。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	中川徹夫著　化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本　1 500 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円（＋税） J.E.Brady, G.E.Humiston 著　『一般化学』（上）（下）　東京化学同人　各 2980 円＋税		
教材（その他）	A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－　問題と解答』　東京化学同人　1700 円（＋税）		
評価方法	定期テスト（40%）、講義中の小テスト（60%）		
到達目標	化学量論の計算を一般式を使って表記することができる。 酸と塩基を説明し、pH との関係を明らかにすることができる。 酸化、還元の意味を説明できる。 化学平衡の概念を説明できる。 中和反応や酸化還元反応などの反応式を作り、量的関係やエネルギーの出入りを理解できる。		
準備学習	「化学」の受講者はテキストであった中川徹夫著「化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本」を熟読しておくこと。また、未受講者は、同本の内容を確認し、苦手な部分があれば、自習しておくこと。 次回講義時に確認テストをするので、毎回講義内容をしっかりと復習し次回の確認テストに臨むこと。また、確認テストの正解率が低い場合は、その部分の復習を必ず行い、苦手な部分を克服する。		
受講者への要望			
授業と並行して例題や教材（その他）の問題集などの演習に積極的に取り組み、さらに、講義で学んだ部分を参考文献などで自習すること。疑問点や苦手な点は質問をするなどして次回の講義までには解決するように努力すること。			
講義の順序とポイント			
1. 化学反応式・濃度の復習 2. 物質の三態 3. 化学式の種類（示性式・組成式・構造式） 4. 酸と塩基 1－アレニウスの定義 5. 酸と塩基 2－ブレンステッドの定義 6. 酸と塩基 3－ルイスの定義 7. 化学平衡 8. 酸塩基の強さ（酸解離定数と塩基解離定数） 9. 中和反応と塩 10. 水素イオン濃度と pH 11. 緩衝液 12. 酸化数 13. 酸化と還元 14. 酸化還元反応 15. 熱化学反応式			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	－

年度	2016	授業コード	J60162002
科目名	化学演習 -k	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	環境科学を学ぶ上で必要な化学の基礎知識を演習を行いながら講義する。前回までの内容の理解度確認としてチェックプリントを実施する。小テストを複数回実施する。		
教材（テキスト）	授業中にプリントを配布する場合がある		
教材（参考文献）	中川徹夫著　化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本　化学同人　1500 円＋税 多賀光彦、中村博、吉田登著　物質化学の基礎　三共出版　2808 円		
教材（その他）	高等学校の化学の教科書		
評価方法	チェックプリント、授業中の演習問題に対する取組態度等による平常点（30%）、小テスト（30%）、定期テスト（40%）		
到達目標	化学量論の計算を一般式を使って表記することができる 酸と塩基を説明し、pH との関係を明らかにすることができる 化学平衡の概念を説明できる 中和反応のの反応式を作り量的関係を理解できる 酸化・還元の意味を説明し、反応式を作ることができる		
準備学習	「化学」の受講者はテキストであった中川徹夫著「化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本」を熟読しておくこと。また、未受講者は、同本の内容を確認し、苦手な部分があれば自習しておくこと		
受講者への要望			
授業と並行して例題の問題集などの演習に積極的に取り組むこと。疑問点や苦手な点は自習して次回の講義までには解決するように努力すること			
講義の順序とポイント			
授業の進度によって外れることがある 1. 化学反応式・濃度の復習 2. 物質の三態 3. 化学式の種類 4. 酸と塩基　その 1 5. 酸と塩基　その 2 6. 酸と塩基　その 3 7. 化学平衡 8. 酸・塩基の強弱と電離定数 9. 中和反応と塩 10. 水素イオン濃度と pH 11. 塩の加水分解 12. 緩衝液 13. 酸化数 14. 酸化と還元 15. 酸化還元反応			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J60163001
科目名	数学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Mathematics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では数学の体系の中で解析学の基礎となる直交関数系，積分変換，常微分方程式，偏微分方程式，変分法などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	数学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学，物理学・演習，地球科学・演習を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．直交関数系（1）：内積
2．直交関数系（2）：直交多項式
3．直交関数系（3）：フーリエ級数
4．積分変換（1）：フーリエ変換
5．積分変換（2）：ラプラス変換
6．積分変換（3）：δ 関数
7．常微分方程式（1）：変数分離形
8．常微分方程式（2）：線形同次方程式
9．常微分方程式（3）：線形非同次方程式
10．偏微分方程式（1）：ラプラス方程式
11．偏微分方程式（2）：熱伝導方程式
12．偏微分方程式（3）：波動方程式
13．変分法（1）：変分原理
14．変分法（2）：最速降下線
15．変分法（3）：懸垂線

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60164001
科目名	物理学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる電場，電流，磁場，電磁誘導，電磁波などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学，地球科学・演習を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．電場（1）：静電場
2．電場（2）：静電ポテンシャル
3．電場（3）：誘電体
4．電流（1）：電荷保存
5．電流（2）：定常電流
6．電流（3）：電力
7．磁場（1）：静磁場
8．磁場（2）：磁気ポテンシャル
9．磁場（3）：磁性体
10．電磁誘導（1）：変動電場
11．電磁誘導（2）：変動磁場
12．電磁誘導（3）：電磁誘導
13．電磁波（1）：電磁ポテンシャル
14．電磁波（2）：電磁方程式
15．電磁波（3）：波動方程式

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J60166001
科目名	樹木学実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	物質生産や生物の多様性の場である森林を構成する樹木について、その形態や生態を中心に実物を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	特になし。		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。		
評価方法	課題の提出等による平常点（50%）、実習での理解（50%）により評価する。		
到達目標	実際の樹木を正確に観察しスケッチすることや立木を観察することで生物の多様性の理解を深める。		
準備学習	キャンパスをはじめとする身近にある樹木を観察するようにしてください。実習であることから、特に内容の整理作業は必要ないが。スケッチの仕上げなど時間内に終わらない場合には自習し、遅れないように務めること。		
受講者への要望			
生物に対する漠然とした見方を変え、生き物を突き詰めて観察することを勧めます。			
講義の順序とポイント			
1.種子の観察１：樹木の源である種子の観察を行い種子発芽につなげる 2.種子の観察２ 3.冬芽の観察１：普段見ないさまざまな樹木の冬芽の構造を観察する 4.冬芽の観察２ 5.花の観察１：普段見ないさまざまな樹木の花の構造を観察する 6.花の観察２ 7.根の観察１：普段見ない根について観察する 8.根の観察２ 9.樹形の観察１：樹形の特徴を学ぶ 10.樹形の観察２ 11.樹皮の観察１：樹種による樹皮の違い及び樹齢による差異を理解する 12.樹皮の観察２ 13.木材の観察木材の組織を観察する 14.森林の観察１ 15.森林の観察２ 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	J60168001
科目名	環境物理学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では物理学の体系の中で環境物理学の基礎となる熱，熱力学，相対論，量子論，物性論などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・実験，環境地球科学・演習・実験を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．熱（1）：温度
2．熱（2）：熱伝導方程式
3．熱（3）：状態方程式
4．熱力学（1）：第１法則
5．熱力学（2）：第２法則
6．熱力学（3）：第３法則
7．相対論（1）：相対運動
8．相対論（2）：特殊相対性原理
9．相対論（3）：一般相対性原理
10．量子論（1）：量子仮説
11．量子論（2）：波動方程式
12．量子論（3）：原子構造
13．物性論（1）：共有結合
14．物性論（2）：イオン結合
15．物性論（3）：金属結合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60169001
科目名	樹木医学	単位数	2
科目名（英語表記）	Woody Plant Health		
担当者名	本位田　有恒	旧科目名称	
講義概要	全国各地の巨樹、古木等は緑豊かで、快適な環境をつくる貴重な資源であり、地域の人々から「緑の文化財」として長い間親しまれ、また、ふるさとのシンボルとして、保護・保存が行われている。しかし、これらの樹木の中には、病害虫や環境悪化などにより、樹勢の著しく衰えたものも認められ、適切な保護対策が緊急の課題となっている。(引用：財団法人日本緑化センター「樹木医とは」より) これら樹木における樹勢回復や保護、保存などを行う樹木医に関する知識について学ぶ。		
教材（テキスト）	堀大才・岩谷美苗「図解　樹木の診断と手当て」農文協　１，６２０円		
教材（参考文献）	財団法人日本緑化センター「最新・樹木医の手引き」改訂４版(Ｈ２６発刊予定)　８，５００円＋消費税 もしくは、なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点(５０％)学習に対する興味と取り組み状況、レポート(５０％)により評価する。		
到達目標	樹木医に関する知識と技術を理解し、樹木医補としての自覚をもつ。		
準備学習	教材(テキスト)を講義開始までに、読んで予習をしておくこと。 講義開催日毎の最終講義において、復習のレポートを提出すること。 なお身近な樹木についても、日々関心を持って見ること。		
受講者への要望			
遅刻や私語は厳禁。各講義で小テストを行う可能性あり。			
講義の順序とポイント			
①樹木医概論その１ ②樹木医概論その２ ③樹木の保護と保存 ④樹木の文化 ⑤都市における樹木(公園、街路) ⑥診断の方法と手順 ⑦病害の診断と防除 ⑧腐朽病害基礎 ⑨虫害の診断と防除 ⑩樹木の危険度診断(街路樹) ⑪樹木の剪定技術 ⑫樹木の外科的対策 ⑬樹木の移植法 ⑭植栽基盤 ⑮土壌改良と発根促進			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★★	★★	－

年度	2016	授業コード	J60172001
科目名	森林立地・土壌学	単位数	2
科目名（英語表記）	Forest Stand and Soil Science		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	本講義では、森林の成立に関与する土壌・気象・地形等の立地環境因子とその相互作用に焦点をあて、これらの因子が森林の種組成・構造・遷移などの諸特性にどのような影響を与えているかを考える。樹木－土壌－大気－水はひとつにつながった生態系であり、相互に影響を及ぼしながら物質のやりとりをしている。本講義では、森林における物質循環を取り上げ、森林生態系の機能や役割について考える。また、人為の影響を受けた二次林の成り立ちや特徴を学びながら、持続可能な森林管理のあり方を検討する。また、熱帯林を取り巻く立地環境と熱帯の林業の特徴についても学び、温帯と熱帯おける立地環境の違いと樹木の生理生態的特性を踏まえながら、各々の地域の森林の造成・保全上の問題点を解決する方法を検討する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「森のスケッチ」　中静 透 著　（東海大学出版会　2004 年） 「森林生態学」　岩坪 五郎 編　（文永堂出版　2003 年） 「最新土壌学」　九馬 一剛 編　（朝倉書店　1997 年）		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（50 点）と、期末試験（50 点）により評価する。		
到達目標	森林の物質循環や遷移と撹乱、樹木の生活史戦略など、森林生態学・森林土壌学分野の基本的な知識を習得すると共に、人と森との関わり方の変遷や問題点を学び、森林生態系や森林資源利用に関する多角的視点を習得する。		
準備学習	講義のレジメを事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 また、毎回の講義で、前回講義の復習のための小テスト（ノート持込み可）を行うので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。			
講義の順序とポイント			
1　森林立地とは？ 2　立地環境と森林土壌 3　森林の組成と環境要因 4　地形が生み出す植生の多様性 5　森林土壌と植生のつながりⅠ：森林の炭素循環 6　森林土壌と植生のつながりⅡ：森林の養分循環 7　森林生態系における分解者の役割 8　森林の遷移と攪乱 9　樹木の生活史戦略 10　森林の分断化と孤立化 11　植生復元：土壌シードバンクの機能 12　二次林の成り立ちと土地利用の履歴 13　熱帯の林業Ⅰ：択伐林業 14　熱帯の林業Ⅱ：タウンヤ林業 15　持続的な森林資源利用に向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60173001
科目名	樹木医学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Course in Woody Plant Health		
担当者名	本位田　有恒	旧科目名称	
講義概要	全国各地の巨樹、古木等は緑豊かで、快適な環境をつくる貴重な資源であり、地域の人々から「緑の文化財」として長い間親しまれ、また、ふるさとのシンボルとして、保護・保存が行われている。しかし、これらの樹木の中には、病害虫や環境悪化などにより、樹勢の著しく衰えたものも認められ、適切な保護対策が緊急の課題となっている。(引用：財団法人日本緑化センター「樹木医とは」より) これら樹木における樹勢回復や保護、保存などを行う樹木医に関する技術について学ぶ。		
教材（テキスト）	堀大才・岩谷美苗「図解　樹木の診断と手当て」農文協　１，５００円		
教材（参考文献）	財団法人日本緑化センター「最新・樹木医の手引き」改訂４版(Ｈ２６発刊予定)　８，５００円＋消費税		
教材（その他）	プリントやビデオ、パワーポイントを使う。		
評価方法	平常点(５０％)学習に対する興味と取り組み状況、レポート(５０％)により評価する。		
到達目標	樹木医に関する知識と技術を理解し、樹木医補としての自覚をもつ。		
準備学習	樹木医学で配布した教材(プリント)を実習開始までに、読んで予習をしておくこと。 講義開催日毎の最終講義において、復習のレポートを提出すること。 なお身近な樹木についても、日々関心を持って見ること。		
受講者への要望			
遅刻や私語は厳禁。			
講義の順序とポイント			
①樹木の病虫害観察実習Ⅰ ②樹木の病虫害観察実習Ⅱ ③樹木の病虫害観察実習Ⅲ ④樹木の腐朽病害観察実習Ⅰ ⑤樹木の腐朽病害観察実習Ⅱ ⑥周辺環境調査 ⑦樹木の地上部調査Ⅰ ⑧樹木の地上部調査Ⅱ ⑨樹木の地下部調査 ⑩危険度診断 ⑪剪定実習 ⑫剪定実習 ⑬剪定実習 ⑭土壌改良実習 ⑮土壌改良実習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★★★	－

年度	2016	授業コード	J60177001
科目名	生物化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biological Chemistry		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	私たちは、毎日、食べ物を食べて、これを消化して吸収し、分解してエネルギーを得るとともに、体を構成している細胞を新しく作り直して、古い細胞と入れ替えている。その細胞の中では、化学反応が常に行われており、私たちの日々の活動を可能にしている。生物の体内はどんな反応が起こり、どのようにして生命が維持されるのかは、私たちの健康や、生物の生態を考える上での基本となる事柄であり、その概要を講義する。		
教材（テキスト）	森　誠著「生化学ノート」　講談社　2200 円＋消費税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ＤＶＤやパワーポイントを活用する。色鉛筆（12 色）を使用するので持参すること。		
評価方法	期末試験（60%）と小テスト（40%）		
到達目標	生物の体内での物質変換と遺伝を理解する。		
準備学習	シラバスに毎回の講義の範囲を書いているので、予習をしておくこと。なお、授業の進行によって、シラバスの記載とのズレを生じたときには、講義終了時に次回の講義範囲を指定する。		
受講者への要望			
復習をしっかりと行い、基本となる用語を、その日のうちに理解しておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．生きるために必要な物質（1）： 糖、脂質 ２．生体をつくる物質（2）：タンパク質の構造、いろいろなタンパク質 ３．生体をつくる物質（3）：核酸 ４．体の中の化学反応（1）：酵素、補酵素 ５．体の中の化学反応（2）：酵素の反応速度 ６．タンパク質と遺伝子の関係（1）：転写 ７．タンパク質と遺伝子の関係（2）：翻訳 ８．遺伝子発現の調整 ９．DNA の複製 １０．遺伝子工学（1）：PCR 法 １１．遺伝子工学（2）：サンガー法 １２．遺伝子工学（3）：遺伝子組換え技術 １３．炭水化物の消化と吸収 １４．糖質代謝、エネルギーの獲得 １５．脂質とアミノ酸の代謝			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60178001
科目名	微生物学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Microbiology I		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	微生物はわれわれの身体の内外をとりまくあらゆる環境中に存在している。これについての基礎的な学問である一般微生物学から、主に細胞機能、代謝、培養、病原性の項目を取り扱う。		
教材（テキスト）	テキストを配布する。		
教材（参考文献）	『Brock 微生物学』　Madigan MT 他著、室伏きみ子 他訳 オーム社　18,000 円 『IFO 微生物学概論』　発酵研究所 監修 培風館　4,700 円		
教材（その他）			
評価方法	確認テスト（40%） 定期試験（60%）		
到達目標	1）微生物学の歴史的展開を理解する 2）細菌・アーキア・真核生物それぞれの細胞構造の特徴を理解する 3）微生物の代謝とその生理的な意味を理解する 4）微生物を取り扱う方法（培養・滅菌）を理解する 5）微生物による感染症とヒトの防御機構の基礎を理解する		
準備学習	前回までのテキストについて、空欄の抜けを無くしておくこと 理解できなかった部分は参考文献などを参照し、テキストを増補して自分オリジナルの微生物学のテキストを作っていくこと		
受講者への要望			
微生物の総合的な理解のため、また微生物実験に係る基礎知識修得のために、本講義と「微生物学 II」とをあわせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1）　微生物学の歴史 2）　微生物の形態 3）　微生物の細胞構造 4）　微生物の栄養と生育 5）　第１～４回の確認テストと解説 6）　微生物の培養と滅菌 7）　微生物の一般的な代謝 8）　微生物の代謝の多様性　1 9）　微生物の代謝の多様性　2 １０）　第６～９回の確認テストと解説 １１）　微生物感染 １２）　細菌由来の感染症 １３）　真菌・原生動物由来の感染症 １４）　ウイルス由来の感染症 １５）　第１１～１５回の確認テストと解説			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60180001
科目名	京野菜栽培加工実習 -sk 旧文系	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
講義概要	京都に在来する野菜を栽培しつつ京都文化を理解する．京都野菜の栽培と加工を通じて生き物を育てることの意義と食生産の重要性を理解する．さらに収穫物を加工し口にすることの意義をフィールドで理解させる．　なお，１回は京都大学の農場で果樹を中心とした実習を行う．		
教材（テキスト）	特に指定しない．		
教材（参考文献）	「図説　野菜新書」　朝倉書店　　「京野菜を楽しむ」　淡交社		
教材（その他）			
評価方法	管理作業状況　70%,　レポート　30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化を学ぶ．また栽培技術の初歩を習得する．さらに共食の重要性を気づかせる．		
準備学習	農業関係，食関係の書籍を読んでおくこと．特に京野菜の文献「京野菜を楽しむ」,「地方野菜大全」は必ず目を通し関連の作物についてメモをとること．		
受講者への要望			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてであると思うので，努めて畑に通い，その変化を観察することが重要である．また様々な食文化について情報を得るようにする．特に和食については社会が注目しているので，新聞や他のメディアを通じ情報収集するように努力すること．			
講義の順序とポイント			
１．京野菜のガイダンス ２．土づくりと播種準備，栽培に向けての注意事項 ３．うね立てと整地 ４．播種 ５．畑作業と記録 ６．除草中耕 ７．間引きと記録 ８．追肥・除草と地中温度の測定 ９．除草・中耕と土壌中の生き物観察 10，間引き菜の料理と生体内硝酸態窒素の測定 11．ミズナの試食と生体内硝酸態窒素の測定 12．畑作業の記録（畑作物の病虫害の観察） 13．加工実習　漬物／京都大学農場実習 14．加工実習　漬物／京都大学農場実習 15．加工実習　野菜の料理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★★	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	J60180002
科目名	京野菜栽培加工実習 -f	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	京都に在来する野菜を栽培しつつ京都文化を理解する．京都野菜の栽培と加工を通じて生き物を育てることの意義と食生産の重要性を理解する．さらに収穫物を加工し口にすることの意義をフィールドで理解させる．　なお，１回は京都大学の農場で果樹を中心とした実習を行う．		
教材（テキスト）	特に指定しない．		
教材（参考文献）	「図説　野菜新書」　朝倉書店　　「京野菜を楽しむ」　淡交社		
教材（その他）			
評価方法	管理作業状況　70%,　レポート　30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化を学ぶ．また栽培技術の初歩を習得する．さらに共食の重要性を気づかせる．		
準備学習	農業関係，食関係の書籍を読んでおくこと．特に京野菜の文献「京野菜を楽しむ」,「地方野菜大全」は必ず目を通し関連の作物についてメモをとること．		
受講者への要望			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてであると思うので，努めて畑に通い，その変化を観察することが重要である．また様々な食文化について情報を得るようにする．特に和食については社会が注目しているので，新聞や他のメディアを通じ情報収集するように努力すること．			
講義の順序とポイント			
１．京野菜のガイダンス ２．土づくりと播種準備，栽培に向けての注意事項 ３．うね立てと整地 ４．播種 ５．畑作業と記録 ６．除草中耕 ７．間引きと記録 ８．追肥・除草と地中温度の測定 ９．除草・中耕と土壌中の生き物観察 10，間引き菜の料理と生体内硝酸態窒素の測定 11．ミズナの試食と生体内硝酸態窒素の測定 12．畑作業の記録（畑作物の病虫害の観察） 13．加工実習　漬物／京都大学農場実習 14．加工実習　漬物／京都大学農場実習 15．加工実習　野菜の料理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2016	授業コード	J60181001
科目名	作物栄養学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	作物栄養学
講義概要	高等植物は、一般に光独立栄養生物であり、光と水と空気、土壌から供給されるミネラル栄養を吸収することによってその生活環を完了することができる。本講義では、主に土壌から供給される水やミネラルの吸収メカニズムやそれらの機能について理解することを目的としている。また、作物の栄養として土壌に投入する肥料等の種類や性質、それらを用いた農作物の肥培管理の考え方を理解する。全講義期間を通じて数回ワークシートを配布し、理解度を確認する。		
教材（テキスト）	教材（テキスト）　なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「植物栄養学」第２版　間藤 徹、馬 建鋒、藤原 徹　編 著、文英堂出版 「土壌学の基礎―生成・機能・肥沃度・環境」松中照夫 著、農文協 「土壌診断と対策」土壌医検定１級試験対応、日本土壌協会		
教材（その他）	「肥料の来た道帰る道」高橋英一著、研成社		
評価方法	ワークシートの理解度判定 20 点、定期試験 80 点。		
到達目標	植物が必要とする栄養成分や、体内での物質代謝について、基礎的理解を深める。また、農作物の肥培管理の考え方を理解する。		
準備学習	毎回の講義後にプリントとノートで復習し、不明な点は提示した参考書などで該当する部分を読んで、理解を確かなものにしてほしい。		

受講者への要望

植物の栄養確保の方法や、確保した栄養の体内代謝に関する基礎的な知識を学び、それらの知識に基づいて肥培管理技術が開発されてきたことを学んでほしい。

講義の順序とポイント

１　農作物の生育の特徴と栄養特性	～植物と動物の栄養の違い～
２　植物の物質生産　光合成と呼吸	～植物によるエネルギーの生産と消費～
３　植物の必須元素（１）　窒素、リン、カリウム	～植物の３大栄養～
４　植物の必須元素（２）　その他の多量必須元素	～植物が必要とする栄養１～
５　植物の必須元素（３）　微量必須元素、有用元素	～植物が必要とする栄養２～
６　養水分の吸収と体内移動	～植物による栄養の吸収と循環～
７　作物の栄養特性	～どんな成分が、どれだけ含まれているのか？～
８　不良土壌への植物の応答	～困難な状況でも、がんばる植物～
９　土づくりと肥料の役割	～健全な土壌に健全な作物が育つ～
１０　肥料の種類と性質　化学肥料	～すばやく摂取できる栄養～
１１　肥料の種類と性質　有機質肥料	～ゆるやかに摂取できる栄養～
１２　肥料の種類と性質　肥効調節型肥料	～効率良く摂取できる栄養～
１３　土壌改良資材	～栄養摂取の環境を改善する・整える～
１４　生育障害の原因究明	～栄養の不足、栄養の偏りを見つける～
１５　施肥設計の実践	～作物の栄養摂取のレシピづくり～

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60182001
科目名	分子生物学演習 …春第二期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンス分野では日々新たなバイオ技術が使われ，今日のバイオ産業に発展を担ってきました．本講義では，それぞれの技法の基本的なコンセプトを理解することで，技法を習得することで，将来の応用力の基礎を身につけることを目指しています． 生体高分子であるタンパク質と核酸の分子性状と特性を把握し，種々の応用実験の原理と活する展開を理解できる課題に取り組み，種々のタンパク質に対応できる技術基盤とあらゆる生物の遺伝子資源を活用できる基盤技術の理解と習得をめざします．		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない． 必要に応じて，専門実験の分子生物学実験の実験指導書を利用し，適宜プリントも配布する．		
教材（参考文献）	分子生物学分野の最新技法の理解を深めるのに必要な参考図書や実験技法のビデオライブラリーなどは，バイオ環境館・図書室内に推薦参考図書・ビデオなどを，閲覧活用できるような利便を図っている．		
教材（その他）	毎回の演習資料などパワーポイントやビデオなどを活用して，演習時間内に提示する．		
評価方法	必修の演習であり，全回出席しなければならない． 成績の評価は，以下に示す内容を考慮し，総合的に評価する． ・演習課題の達成度(70%) ・演習中の評価・実験ノートやレポートの課題の評価(15%) ・実験課題の発表会の発表(15%)		
到達目標	以下の 5 項目を重点的な達成目標とする． ・演習課題の理解・解決の達成 ・実験に必要な試薬濃度などの計算演習の習得と実験結果の整理法の把握 ・実験機器の操作手順と注意事項の把握 ・実験成果のプレゼン・スキルの習得 ・研究グループ内のコミュニケーションによる意思疎通の徹底		
準備学習	事前に演習内容を把握しておくこと． 履修する前に配布してある実験手引書の指定日時の実験前に、実験を理解するうえで重要な原理・原則の項目をしっかり精読し、自分の実験ノートに実験の目的と実験目標となる技能をしかっり認識して実験講義に臨むこと．		
受講者への要望			
遅刻は安全な実験を行う上であってはならないことである．開始前の注意事項や連絡事項をメモする機会であるから，しっかりメモする習慣も身につけること．午後の始めにある演習であることから，自己の体調管理をしっかりして臨むこと． 理解が十分でない点は，積み残さないで，演習担当者から早めに演習を受けること			
講義の順序とポイント			
1.　分子生物学演習のガイド 2.　実験結果の精度と誤差および統計処理について 3.　緩衝液の原理と pH の理解 4.　タンパク質の等電点とアミノ酸組成について			

5. イオン交換クロマトグラフィーの原理
6. ゲルろ過クロマトグラフィーの理解
7. アクリルアミドゲル・アガロースゲルの理解
8. 電気泳動・遠心力による生体高分子の分離原理の理解
9. 検量線作成の基本と理解
10. 分子量の求め方について
11. PCR 反応や酵素反応の反応特性の理解
12. 遺伝子組換え操作と制限酵素や修飾酵素の理解
13. 遺伝子選別の原理と遺伝子発現制御機構の理解
14. 測定機器の操作と原理の理解
15. 測定器具の操作と原理の理解

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J60183001
科目名	有機化学演習 …春第一期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	有機化学実験を実施するにあたり、必須事項である有機化合物の性質、安全な取扱い方法、実験器具や機器についての正しい使用法等を演習形式で習得する。また、有機機器分析法の基本概念や、生物試験の特徴を習得する。合わせて、実験ノートや報告書の作成についての演習を行う。		
教材（テキスト）	有機化学実験指示書、配布資料		
教材（参考文献）			
教材（その他）	関数電卓、分子模型		
評価方法	レポート、小テストの成績(70%)、受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	有機化学実験の目的と内容、手順を理解すること。実験結果の整理、解釈、考察が適切に出来ることを目標とする。		
準備学習	指示書、配布資料を熟読して、有機合成化学実験にかかわる知識、手順を整理しておく。		

受講者への要望

本演習は有機合成化学実験をスムーズかつ効果的に実施するために必要な知識や手順を体得するためのものである。本演習を受講しない学生や遅刻した学生には安全対策の観点から実験の履修を認めない。

講義の順序とポイント

1）　有機合成化学、安全教育
2）　酸化反応、甘味料
3）　実験ノート、実験報告書の作成
4）　バイオアッセイ　（甘味試験他）
5）　光学異性体の旋光度測定
6）　光学分割
7）　光学異性体と天然物
8）　光学異性体と不斉合成
9）　置換反応、植物生長調節剤の用途、農薬
10）　有機反応機構
11）　バイオアッセイ　（植物試験他）
12）　クロマトグラフィー
13）　Ｗｉｔｔｉｇ反応と炭素－炭素結合形成反応
14）　有機機器分析Ⅰ
15）　有機機器分析Ⅱ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J60184001
科目名	食品・栄養科学演習 …春第三期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品・栄養科学実験の各課題に対して、その実験の背景、必要な試薬の濃度計算や調製法、実験機器の使用法、測定法の原理等の基礎知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。 演習書をプリントにして配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）、レポート（40%）、試験（40%）。		
到達目標	実験の背景を理解する。正確な実験を遂行するための基礎知識を習得する。結果発表会はチーム（4 人）が協力し合い、プレゼンテーションを意識した資料の作成・発表ができる。		
準備学習	必ず実験前までにプリントを読み、内容を理解する。また、実験の実施のポイントを整理しておく（フローチャートを作る）。		

受講者への要望

この演習は食品・栄養科学実験の内容説明も兼ねている。この演習に出席しないものは食品・栄養科学実験の履修を認めない。

講義の順序とポイント

1．食品・栄養科学実験オリエンテーション（食品実験のための心得など）
2．濃度計算
3．食品からのタンパク質分離精製法
4．タンパク質の定量法
5．脂肪のケン化と GC 分析による脂肪酸定量法
6．原子吸光によるカルシウム定量法
7．麹酵素の精製と力価測定法
8．食品の微生物検査法
9．実験動物の取扱方
10．アントシアニンの吸着樹脂による単離・精製法
11．結果発表会（中間時期および終了時期の計２回）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J60185001
科目名	応用微生物学演習 …秋第一期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	応用微生物学実験に伴い、実験の背景となる学問内容の講義と問題演習を行う。		
教材（テキスト）	応用微生物学実験と共通		
教材（参考文献）	Laboratory Experiments in Microbiology. 8th ed. T.R. Johnson and C. L. Case (2007) Pearson Benjamin Cummings 農芸化学実験書 第 2 巻、第 3 巻 京都大学農学部農芸化学教室編（1965）産業図書 生物工学実験書 日本生物工学会編（2002）培風館 微生物学実験法 杉山純多 他編（1999）講談社 微生物実験マニュアル 協和発酵東京研究所編（1986）講談社		
教材（その他）			
評価方法	応用微生物学実験と共通		
到達目標	基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 実験ノートの書き方を学ぶ。		
準備学習	「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくこと。 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」を受講すると、より理解が深まる。各講義項目に関する学術論文を予め調査することで理解を深めておくことが望ましい。 また、応用微生物学実験とリンクして進行するので実験法との関連を把握しておくこと。		
受講者への要望			
全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。			
講義の順序とポイント			
１） 培地の調製 ２） 微生物の染色 ３） 微生物の増殖 ４） 微生物の代謝１ ５） 微生物の代謝２ ６） 微生物の代謝３ ７） 有用微生物のスクリーニング１ ８） 有用微生物のスクリーニング２ ９） 有用微生物のスクリーニング３ １０） 微生物による物質生産１ １１） 微生物による物質生産２ １２） 微生物による物質生産３ １３） 発酵・醸造１ １４） 発酵・醸造２ １５） 発酵・醸造３ 実際にはそれぞれの課題を並行して実施する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	J60186001
科目名	植物バイオ演習 …秋第二期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物の生長解析や細胞工学の基礎となる、① 植物の細胞・組織培養、 ② 光合成活性、 ③ 窒素代謝などを取りあげて、その背景を理解するとともに、実験法や解析法などについての演習を行う。		
教材（テキスト）	なし、最初に植物バイオ実験と共通のプリントを配布する。		
教材（参考文献）	最初の時間に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	演習解答などの平常点（50%）および小試験（50%）から評価する。		
到達目標	植物の基本的な機能の実験法や解析法に対する理解を深める。		
準備学習	植物バイオ実験と共通のテキストを配布するので、掲載の実験法、解析法について事前に理解を深めておくことが望ましい。		

受講者への要望

植物生理学、植物生化学、植物細胞工学、植物代謝工学、分子生物学などを復習し、理解を深めておくこと。

講義の順序とポイント

1. 植物の組織培養実験法および解析法（１）
2. 植物の組織培養実験法および解析法（２）
3. 植物の組織培養実験法および解析法（３）
4. 植物の組織培養実験法および解析法（４）
5. 植物の組織培養実験法および解析法（５）
6. 光合成実験法および解析法（１）
7. 光合成実験法および解析法（２）
8. 光合成実験法および解析法（３）
9. 光合成実験法および解析法（４）
10. 光合成実験法および解析法（５）
11. 植物栄養代謝実験法および解析法（１）
12. 植物栄養代謝実験法および解析法（２）
13. 植物栄養代謝実験法および解析法（３）
14. 植物栄養代謝実験法および解析法（４）
15. 植物栄養代謝実験法および解析法（５）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J6018700A
科目名	有機化学実験 …春第一期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	有機合成化学実験を中心に、最も重要である化学物質を取扱うための知識と技術および合成化学実験で用いる器具や機器についての正しい使用法を習得する。更に、有機機器分析実験を通して、最新の分析技術、生物試験を通して生物への反応の特徴を習得する。実験結果のまとめ方や報告書の作成についても習熟する。実験を安全に行うために、危険物の取扱方法等の教育訓練も行う。		
教材（テキスト）	配布資料（生物有機化学研究室編・実験指示書　有機化学実験） 安全の手引き（京都学園大学バイオ環境学部編）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	関数電卓		
評価方法	実験レポートの成績(70%)、出席状況・受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	実験の目的と内容、手順を理解することと、実験操作の習熟と実験結果の整理、解釈、考察が出来ることを目標とする。		
準備学習	指示書を熟読して、器具、薬品等の取扱いを含め、実験手順を整理しておく。		

受講者への要望

有機化学演習での解説や実験開始前に指示書に従い説明する実験内容を十分に理解すること。演習および実験説明に遅刻した学生には安全対策の観点から実験の履修を認めない。

講義の順序とポイント

1）　オリエンテーション、安全講習、ガラス細工
2）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　1
3）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　2
4）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　3、甘味試験
5）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　1
6）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　2
7）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　3
8）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　4
9）　置換反応による植物生長調節剤２，４－Ｄの合成　1
10）　置換反応による植物生長調節剤２，４－Ｄの合成　2
11）　置換反応による植物生長調節剤２，４－Ｄの合成　3、植物試験
12）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　1
13）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　2
14）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　3、機器分析
15）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　4、機器分析

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J6018900A
科目名	食品・栄養科学実験 …春第三期	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Food Science		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品・栄養科学実験を通じて、食品成分、食品の機能性、動物の扱い、食品における微生物管理など食品分野で重要かつ基礎的な実験技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	実験指導書をプリントにして配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（80%）：実験ノートおよびチェックシートの記入、結果発表会での資料作成と発表、出席状況、実験への取り組みなど。 試験（20%）。		
到達目標	実験技術、実験内容を理解する。実験結果の解析を行なうことができる。チーム 4 人が意志の疎通をはかり、協力し合って実験をスムースに進めることができる。結果発表会はプレゼンテーションを意識した資料の作成・発表ができる。		
準備学習	必ず実験前までにプリントを読み、内容を理解する。また、実験の実施のポイントを整理しておく（フローチャートを作る）。		
受講者への要望			
実験の心得に従うこと。遅刻厳禁（遅刻者は記録し、ペナルティを与える）。			
講義の順序とポイント			
1．食品成分の分離（牛乳からカゼインの分離）とアミノ酸、タンパク質の定性・定量実験（呈色反応）、脂肪のケン化と GC 分析による定量およびカルシウムの定量（原子吸光分析）。 2．麹の酵素（アミラーゼ）力価を測定。 3．食品の微生物検査。 4．高脂肪食ラットの血清脂質および肝臓脂質の測定。 5．アントシアニンの吸着樹脂による単離・精製。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J6019100A
科目名	応用微生物学実験 …秋第一期	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Applied Microbiology		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	2 回生秋学期の「基礎バイオサイエンス実験」での微生物学実習に引き続き、一般微生物学の基礎的な技法について学ぶ。さらに、それらの技法を使って応用微生物学に関する実験を行う。		
教材（テキスト）	テキスト（ワークブック＋実験ノート）を配布する。		
教材（参考文献）	Laboratory Experiments in Microbiology. 8th ed. T.R. Johnson and C. L. Case (2007) Pearson Benjamin Cummings 農芸化学実験書 第 2 巻、第 3 巻 京都大学農学部農芸化学教室編（1965）産業図書 生物工学実験書 日本生物工学会編（2002）培風館 微生物学実験法 杉山純多 他編（1999）講談社 微生物実験マニュアル 協和発酵東京研究所編（1986）講談社		
教材（その他）			
評価方法	・実験態度、実験台の整理整頓（20%） ・実験ノートへの適切な記述（40%） ・ワークブックの問題への解答（40%） 「ノートチェック」として実習中にワークブック、実験ノートを 3 回評価し、その評点の合計を元に総合的に評価する。		
到達目標	基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 実験ノートの書き方を学ぶ。		
準備学習	「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくこと。 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」を受講すると、より理解が深まる。応用微生物学演習とリンクして進行するので、予め実験法の原理を理解しておくこと。		
受講者への要望			
全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。			
講義の順序とポイント			
1） 培地の調製 2） 微生物の染色 3） 微生物の増殖 4） 微生物の代謝 1 5） 微生物の代謝 2 6） 微生物の代謝 3 7） 有用微生物のスクリーニング 1 8） 有用微生物のスクリーニング 2 9） 有用微生物のスクリーニング 3 １０） 微生物による物質生産 1 １１） 微生物による物質生産 2 １２） 微生物による物質生産 3 １３） 発酵・醸造 1 １４） 発酵・醸造 2 １５） 発酵・醸造 3 実際にはそれぞれの課題を並行して実施する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	J6019200A
科目名	植物バイオ実験 …秋第二期	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Plant Science		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物の生長解析や細胞工学の基礎となるいくつかのテーマを取りあげ、その背景を理解しつつ実験技術とその解析法を修得することを目的とする。 第 1 に、植物細胞工学の基礎となる植物組織・細胞培養を取りあげ、無菌操作・無菌培養などの基礎技術の修得や植物ホルモンとの関連などについて理解する。 第 2 に、光合成を取りあげ、細胞分画の基礎、光合成活性測定とその解析法などを修得する。 第 3 に、窒素栄養代謝を取りあげ、その生化学的実験技術や解析法、成分分析法などについて修得する。		
教材（テキスト）	実験の最初にプリント（テキスト）を配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実験レポートで評価する。		
到達目標	植物の基本的細胞機能の解析に必要な実験法・実験技術を取得し、実験データを適切に解釈し、表現できること。		
準備学習	実験テキストについて、当日までに研究背景、目的、実験手順の要点を実験ノートにまとめておくこと。実験終了時には、実験データを整理し、データの解釈を行い、実験ノートにまとめること。事前学習で不十分な点を、実験テキストと一緒に配布済の参考資料などで、補足し、レポート作成、発表の準備に繋げること。また、「安全の手引き」の内容は常に確認しておくこと。		

受講者への要望

関連する講義課目（植物生理学、植物生化学、植物細胞工学、植物代謝工学、分子生物学）を受講しておくことが望ましい。
実験を安全に行うために、服装や受講態度に留意し、教員や実験助手の指示を守ること。
関連する講義課目と専門実験の総仕上げに当たることを意識し、主体的に取り組む。

講義の順序とポイント

1. 植物の組織培養実験法および解析法（1）
2. 植物の組織培養実験法および解析法（2）
3. 植物の組織培養実験法および解析法（3）
4. 植物の組織培養実験法および解析法（4）
5. 植物の組織培養実験法および解析法（5）
6. 光合成実験法および解析法（1）
7. 光合成実験法および解析法（2）
8. 光合成実験法および解析法（3）
9. 光合成実験法および解析法（4）
10. 光合成実験法および解析法（5）
11. 植物栄養代謝実験法および解析法（1）
12. 植物栄養代謝実験法および解析法（2）
13. 植物栄養代謝実験法および解析法（3）
14. 植物栄養代謝実験法および解析法（4）
15. 植物栄養代謝実験法および解析法（5）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	J6019300A
科目名	分子生物学実験 …春第二期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンス分野の基本的な実験である生化学実験や遺伝子化学実験をおこなう．生体物質であるタンパク質の基本的な実験と酵素反応を解析する実験，および遺伝子である DNA の扱いと塩基配列解析実験と組み換え遺伝子の発現実験を通じて，種々の実験機器を扱う基本的な技術基盤を理解し，操作も習得し，基本技法の原理の理解を深め，タンパク質の性状，機能などの理解と DNA の性状，遺伝子の調節機能などの理解を深化させる実験実習をめざす．		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない． 実験指導書はプリントにして，開講時に配布する． 実験レポートの課題や発表会の課題は，実験進行に合わせて，案内する．		
教材（参考文献）	実験の理解を深める参考図書などは，実験実習時間内に案内するほか，バイオ環境館・図書室内に推薦参考図書を指定し，活用の利便性も図っている．		
教材（その他）	必要に応じて，毎回の実験開始前にパワーポイントやビデオ教材などを活用して，提示する．		
評価方法	必修の演習であり，全回出席しなければならない． 成績の評価は，以下に示す内容を考慮し，総合的に評価する． ・演習課題の達成度(70%) ・演習中の評価・実験ノートやレポートの課題の評価(15%) ・実験課題の発表会の発表(15%)		
到達目標	以下の 5 項目を重点的な達成目標とする． ・演習課題の理解・解決の達成 ・実験に必要な試薬濃度などの計算演習の習得と実験結果の整理法の把握 ・実験機器の操作手順と注意事項の把握 ・実験成果のプレゼン・スキルの習得 ・研究グループ内のコミュニケーションによる意思疎通の徹底		
準備学習	配布された実験手順書を事前に読み，実験手順の概要などを実験ノートに整理して，実験当日の手順の操作や時間経過の計画をまとめること． さらに手順書に書かれている内容や課題を十分理解できない場合は，事前に下調べをしておくこと． なお、事前準備の後でも，疑問や不明なことがあれば，必ず実験開始前の質問タイムを利用して，質問内容を整理して教員に質問すること．		
受講者への要望			
バイオサイエンス分野で必要な専門実験実習について正しい基本を習得するものである．比較的長時間集中しなければ実験の進行が滞るので，過密なスケジュールにならないように，各自のタイムマネージメント（実験期間の体調自己管理も大切）も大切である． 実験レポート・課題演習・実験結果報告会も含めて，グループ内でメンバー間の円滑なコミュニケーションを図り，自己のスキルを磨いてほしい． 専門実験で身につけたスキルは，卒業研究や就活にも必要な基本的な能力を高めるものであることを確信して下さい．			
講義の順序とポイント			
1-2.　実験概要の全体説明と実験試薬などの準備、緩衝溶液の作成や濃度計算と滅菌方法 3-4.　　実験試料の取扱い・抽出操作・分離・分画の操作 5-6.　　タンパク質の抽出と可溶化とタンパク質の定量 7-8.　　タンパク質の分離・分別と精製，タンパク質の電気泳動ゲルの作成 9-10.　タンパク質の SDS-PAGE と膜への転写・ウエスターンブロット			

11-12. 酵素反応の解析(反応条件の解析)
13-14. 酵素反応の解析(基質濃度と阻害剤濃度による反応解析)
15-16. コンピテント細胞の作製と形質転換
17-18. プラスミド DNA の抽出と調製と精製
19-20. 遺伝子断片の増幅とサブクローニング
21-22. PCR の理解と活用
23-24. 組換えタンパク質の発現誘導と可溶化精製
25-26. 発現タンパク質の機能解析と純度検定
27-28. 実験成果の整理とグループ内検討
29-30. 実験結果の評価と相互に検討課題の発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2016	授業コード	J60194001
科目名	地球科学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる太陽放射，超高層，大気，気象，海洋などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習，地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．太陽放射（１）：核融合 ２．太陽放射（２）：黒体放射 ３．太陽放射（３）：太陽定数 ４．超高層（１）：磁気圏 ５．超高層（２）：電離圏 ６．超高層（３）：熱圏 ７．大気（１）：成層圏 ８．大気（２）：対流圏 ９．大気（３）：大循環 10．気象（１）：気象現象 11．気象（２）：天気図 12．気象（３）：季節変化 13．海洋（１）：海水 14．海洋（２）：潮汐 15．海洋（３）：海流			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60195001
科目名	健康食品学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	高齢化社会を迎え，健康食品の効果，安全性，医薬品との関係など，健康食品をめぐる問題は多く，摂取の仕方によっては，人の健康に深刻な影響を与える。本講義では，食品学および栄養学などの基礎にたって，健康食品がもつ問題を多角的に論じ，正しい健康食品のあり方，適用法について学ぶ。また健康食品を中心とした食のリスクコミュニケーターとしての役割についても論じる。なお，この科目は健康食品管理士認定試験の受験資格に必須であり，この講義中に認定試験のための事前準備も行う。		
教材（テキスト）	「新版 健康食品学」および「新版 問題解説集」一般社団法人日本食品安全協会　5,142 円/セット 上記教材は一般の書店で取り扱っていないため、下記のホームページを参考に、各自で購入するか、担当教員に相談して購入すること。特に健康食品管理士認定試験の受験を予定しているものは必ず購入すること。 http://www.ffcci.jp/publication/index1_2.html		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	小テスト(40%)，レポート(30%)，授業態度等の平常点(30%)を総合的に評価する。		
到達目標	健康食品管理士の資格取得を目標とする。更に，健康食品について現状を正確に把握し，科学的知見に基づいて判断できる食のリスクコミュニケーターの素養も身につける。更に興味ある学生は，健康食品管理士の資格取得を目標としても良い。		
準備学習	講義終了時に，次回の範囲を指定するので，テキストを熟読しておくこと。その範囲内の問題解説集も読んでおくこと。毎回の授業で行った小テストの復習を行うこと。		

受講者への要望

健康食品管理士認定試験に合格することを目指して欲しい。そのためには，講義には必ず出席し，予習，復習を積極的に行い，疑問点があれば積極的に聞くようにすること。また，健康食品学で学んだ用語について，自分の言葉で表現できる能力を身につけること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 食のリスクコミュニケーターの役割
3. 健康食品総論（１）
4　健康食品総論（２）
5. 医薬品と健康食品の相互作用
6. 疾患と病態解析
7. 健康食品の関係法規
8. 中間試験
9. 健康食品各論（１）
10. 健康食品各論（２）
11. 健康食品をめぐる問題点
12. 食品の安全性
13. 食品の表示
14. 健康食品の品質管理
15. 健康食品学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J60196031
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～7.　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J60196032
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～7.　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J60196033
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s3	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～7.　　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　　中間テストをする。 9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J60196034
科目名	科学英語基礎Ⅰ -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎演習
2．可算名詞・不可算名詞演習
3．自動詞・他動詞・人称代名詞演習
4．第１文型・第３文型演習
5．形容詞演習
6．第２文型演習
7．第４文型・第５文型演習
8．総合演習（１）
9．副詞演習
10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習
11．前置詞演習
12．助動詞演習
13．動詞の時制演習
14．受動態演習
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J60196035
科目名	科学英語基礎Ⅰ -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎演習
2．可算名詞・不可算名詞演習
3．自動詞・他動詞・人称代名詞演習
4．第１文型・第３文型演習
5．形容詞演習
6．第２文型演習
7．第４文型・第５文型演習
8．総合演習（１）
9．副詞演習
10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習
11．前置詞演習
12．助動詞演習
13．動詞の時制演習
14．受動態演習
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	★	-	★

年度	2016	授業コード	J60196036
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～7.　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J60196037
科目名	科学英語基礎Ⅰ -k(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講者への要望			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．英文・和文基礎演習 ２．可算名詞・不可算名詞演習 ３．自動詞・他動詞・人称代名詞演習 ４．第１文型・第３文型演習 ５．形容詞演習 ６．第２文型演習 ７．第４文型・第５文型演習 ８．総合演習（１） ９．副詞演習 10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習 11．前置詞演習 12．助動詞演習 13．動詞の時制演習 14．受動態演習 15．総合演習（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J60197031
科目名	科学英語基礎Ⅱ -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～8.　　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 9.　　中間テストをする。 10～15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J60197032
科目名	科学英語基礎Ⅱ -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2～8.　　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

9.　　中間テストをする。

10～15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J60197033
科目名	科学英語基礎Ⅱ -s3	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～8.　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 9.　中間テストをする。 10～15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J60197034
科目名	科学英語基礎Ⅱ -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語演習
2．疑問詞・特殊疑問文演習
3．一般・選択・付加疑問文演習
4．命令文・特殊な文演習
5．否定文演習
6．動名詞・不定詞演習
7．分詞・不定詞基本演習
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節演習
10．目的語をとる分詞句演習
11．目的語をとる不定詞句演習
12．使役動詞と原型不定詞演習
13．知覚動詞演習
14．等位接続詞演習
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J60197035
科目名	科学英語基礎Ⅱ -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語演習
2．疑問詞・特殊疑問文演習
3．一般・選択・付加疑問文演習
4．命令文・特殊な文演習
5．否定文演習
6．動名詞・不定詞演習
7．分詞・不定詞基本演習
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節演習
10．目的語をとる分詞句演習
11．目的語をとる不定詞句演習
12．使役動詞と原型不定詞演習
13．知覚動詞演習
14．等位接続詞演習
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	★	-	★

年度	2016	授業コード	J60197036
科目名	科学英語基礎Ⅱ -s(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2～8.　　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

9.　　中間テストをする。

10～15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J60197037
科目名	科学英語基礎Ⅱ -k(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語　Ⅰ・科学英語基礎　Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語演習
2．疑問詞・特殊疑問文演習
3．一般・選択・付加疑問文演習
4．命令文・特殊な文演習
5．否定文演習
6．動名詞・不定詞演習
7．分詞・不定詞基本演習
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節演習
10．目的語をとる分詞句演習
11．目的語をとる不定詞句演習
12．使役動詞と原型不定詞演習
13．知覚動詞演習
14．等位接続詞演習
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J6019800A
科目名	ランドスケープエコロジー実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープエコロジーの理論を応用しながら、GIS で空間分析を行い、課題解決のための主題図を作成する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	ArcGIS for Desktop 逆引きガイド（ESRI ジャパン）		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。		
評価方法	課題レポート（100%）により評価する。		
到達目標	基本的な GIS 操作技術を身につけ、意図した主題図をつくることができる。		
準備学習	PC 教室で GIS を操作してみる。		
受講者への要望			
身近な地理情報や地図について関心を持つ。			
講義の順序とポイント			
1.GIS の基本操作 2.GIS の基本操作 3.GIS の基本操作 4.空間解析の練習 5.空間解析の練習 6.空間解析の練習 7.課題設定 8.データ作成 9.データ作成 10.分析 11.分析 12.課題レポート作成 13.課題レポート作成 14.課題レポート発表 15.課題レポート発表 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	-	★	★

年度	2016	授業コード	J60199001
科目名	ランドスケープデザイン	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープ＝地域の景観は人と自然の共同作品である。地球４６億年の歴史とともに、人間によるごくわずかな期間の間になされた、大きな働きかけ＝土地利用と資源利用、およびその結果発生したさまざまなインパクトが、景観を作ってきた。それゆえ、景観を丁寧に分析すれば、自然環境の論理と、それに対応してきた人間の文化の論理を浮かび上がらせることができる。 一方、地球環境危機の現在、自然との共生や低炭素、循環型社会への転換が求められる中、自然立地的な土地利用への転換が不可欠であって、流域は重要な景観単位となる。この講義では、そのプランニングとデザインの手がかりとして、流域景観＝ランドスケープから都市緑地、庭園、など具体的なプランニング、デザイン、マネージメントの提案を行うランドスケープ・アーキテクチャーの世界を紹介する。		
教材（テキスト）	森本幸裕・編著『景観の生態史観－攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社（2100 円）		
教材（参考文献）	森本幸裕・白幡洋三郎編著『環境デザイン学 - ランドスケープの保全と創造』　（「比較流域景観論」と共用） 樋口忠彦著『景観の構造』技報堂出版、 佐々木葉二ら著『ランドスケープの近代』鹿島出版会		
教材（その他）	日本景観生態学会のブログ{http://jale.sblo.jp/index-11.html} 日本造園学会の HP{http://www.jila-zouen.org/} を参考にしてください。		
評価方法	出席状況等による平常点（２０％）　授業中のミニレポート（20%）　期末課題レポート（60%）		
到達目標	身の回りから国土レベルまで、景観をその生成要因とともにとらえられるようになり、新たな望ましい景観がイメージできるようになること		
準備学習	いいな、と思った景観の成り立ちについて、調べる習慣をつけてください。 休日などを利用して「名勝」「文化的景観」や良好な緑地を訪れてください。		
受講者への要望			
わかりにくいところ、疑問点があれば、遠慮なく質問をしてください。			
講義の順序とポイント			
１．導入：ランドスケープの世界：フィジオトープとバイオトープと文化：京都の景観 ２．ランドスケープ・アーキテクト、その専門職能：大阪花博を例に ３．歴史・原論：庭から公園へ、都市公園の原点 ４．緑化からハビタット再生へ：大阪万博記念公園を例に ５．近代ランドスケープデザイン・プランニングの主要コンセプト ６．アートとランドスケープ：イサム・ノグチ、ガウディ、越後妻有 ７．文化財としてのランドスケープ：名勝と文化的景観 8～11．現代都市ランドスケープデザインのコンセプト （１）景観政策 （２）街路樹 （３）健康とみどり （４）都市の生物多様性指標 12～14．自然公園とその展開 （１）京都の自然公園 （２）我が国の自然公園 （３）世界の自然公園 １５．ランドスケープマネジメント （※進行状況に応じて適宜変更することがある）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	★	―	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J6020100A
科目名	実践プロジェクトB -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	地域の農業経営者や食品企業などが抱える現実に存在する問題や仮想の問題、あるいはまだ顕在化していないがいずれ問題となると思われる事柄について、問題を深く理解したうえで解決策を考える。具体的には、数名からなるグループを形成し、バイオサイエンスに関わる課題を自ら発見・設定し、グループ内、グループ間、グループ外とのコミュニケーションをとりながら、調査・研究活動を主体的に実施し、活動の成果をとりまとめ、発表する。その中で、現実社会の様々な問題を理解し「対案を提起する力」を「コミュニケーション力」とともに実践的に養う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	グループ発表の成果(30%)に、個々の学生に課すレポート(70%)を加味して評価する。		
到達目標	課題を発見し、問題点を絞り込み、主体的に調査・研究、必要に応じて実験を行い、調査研究結果を取りまとめ、発表する基礎力を養う。		
準備学習	バイオサイエンス分野だけでなく、社会一般の出来事や問題について日常的に考える習慣を養っておく。		

受講者への要望

学生各自が自発的主体的に取り組むことが不可欠である。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. モデルケースでの問題解決プロセスの習得１　グループ作り
3. モデルケースでの問題解決プロセスの習得２　課題の解決プロセスの策定
4. モデルケースでの問題解決プロセスの習得３　情報の活用
5. モデルケースでの問題解決プロセスの習得４　内容のまとめ方
6. プロジェクト課題の提案と討議
7. プロジェクト課題についての絞り込み
8. 調査・研究・情報交換
9. 調査・研究・情報交換
10. 中間発表会(1)
11. 中間発表会(2)
12. 追加調査・研究・情報交換
13. 追加調査・研究・情報交換
14. 発表会(1)
15. 発表会(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★★	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J6020100B
科目名	実践プロジェクトＢ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	自然環境や公園緑地関連行政、NPO、教育研究機関、およびこれら多様なセクターの協議会と連絡をとり、生物多様性とその恵みの保全および再生と普及啓発活動に協働参画する。成果はグループごとに取りまとめて発表する。 例えば、概ね５名程度のグループごとに、京都市梅小路公園をフィールドに、（公財）京都市都市緑化協会と新たな公園マネジメントの取組みテーマを定め、提案と試行を行う。		
教材（テキスト）	特に無し。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	グループワーク、学外者との協働状況、活動の内容とともに、個人の意欲、創造性、協調性、誠実さ、実行力などを総合評価する。		
到達目標	グループワークを通して自然環境や公園緑地の課題の一端を理解し、実効性のある対応が企画できるようになる。		
準備学習	「生物多様性国家戦略」や京都市の「生物多様性プラン」、「みどりの基本計画」などに目を通しておいてください。		
受講者への要望			
教員や協働する学外者とともに、グループ内でも、報告、連絡、相談、を密に行い、問題意識と情報の共有を図ってください。			
講義の順序とポイント			
１：オリエンテーション@教室 ２－５：現場研修（日・祝日に集中で行う） ６－９：企画検討（日・祝日に集中で行う） １０－１３：実施（日・祝日に集中で行う） １４－１５：まとめと発表@教室 ＊進行状況および選択するプロジェクトによって、相談の上、予定を変更することもある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	—	★	–	—

年度	2016	授業コード	J6020100C
科目名	実践プロジェクトＢ -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	地域や企業等が抱える現実に存在する問題点や仮想の問題点に対し、その解決をどのように目指すのかを考える。あるいはまだ顕在化していないがいずれ問題となると思われる点の抽出を行う。具体的には、実地調査や資料調査、その解析、ディスカッションを行い、問題解決の力を実践的に身に付ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への取り組む姿勢 80% 成果発表 20%		
到達目標	１．正しい情報を集めることができる。 ２．情報をもとにして、課題取組の計画を立てることができる。 ３．チームで協力して物事に取り組むことができる。 ４．チームで取り組みの内容をまとめることができる。		
準備学習	日常生活の中から課題を見つける。グループ内で決められた仕事を次の時間までに完成させる。		
受講者への要望			
グループのメンバーとしての責任を持って積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
１ガイダンス ２モデルケースでの問題解決プロセスの習得１　グループ作り ３モデルケースでの問題解決プロセスの習得２　課題の解決プロセスの策定 ４モデルケースでの問題解決プロセスの習得３　情報の活用 ５モデルケースでの問題解決プロセスの習得４　内容のまとめ方 ６課題決定 ７情報収集 ８計画立案 ９調査１ １０調査２ １１調査３ １２内容のまとめ １３発表原稿作成 １４発表会１ １５発表会２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2016	授業コード	J6020101B
科目名	実践プロジェクトB -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	水環境に関係する施設を訪問し従業員に取材して取材内容をとりまとめて口頭およびポスターで発表する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	取材内容（50%）、発表（50%）		
到達目標	労働の現場で取材して内容を的確に取りまとめる		
準備学習	現地施設を訪問する前に、施設の概要を調べて頭に入れておき、取材すべき内容を事前にメモ書きで準備すること。		
受講者への要望			
川、海、湖などや、上下水道など、水に関するニュースを日ごろから読んでおくこと			
講義の順序とポイント			
１．授業の概要説明と現地調査に必要な基礎知識 ２．第１回現地調査の要領 ３－５．第１回現地調査（予定日は 4 月 24 日） ６．第２回現地調査の要領 ７－９．第２回現地調査（予定日は 5 月 5 日） １０－１３．調査内容を１人ずつ発表 １４－１５．個人ごとの調査内容を 4-5 人のグループでとりまとめて、発表ポスターを製作			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2016	授業コード	J60202001
科目名	実践プロジェクトC	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience C		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	「社会コミュニケーション基礎演習」では、社会のなりたちや動き、人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行ないます。フィールドワークの準備と実施や、プレゼンテーションなどをおこないます。 この科目には３つのクラスがあり、このクラス（岡本裕介担当）では、「イベント企画を通した社会調査入門」というテーマですすめていきます。イベント企画は今のところ、里山で芸術作品制作をしている方のトークと展示を予定しています。制作者に聞き取り調査をして、社会で活動している人の考え方をとらえる方法を学びます。また、イベント参加者に簡単な調査票を配布して集計し、イベントのニーズなどを調べます。せっかくのイベント企画なので、何とか成功するような工夫もしたいと思います。 　なお、イベントとフィールドワークは土曜日に実施し、演習に振り替えます。それ以外に、準備などで数回学外に出かけることがあります。		
教材（テキスト）	演習時に指示します。		
教材（参考文献）	演習時に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて配布・指示します。		
評価方法	フィールドワークの準備と実施（社会調査の設計・実施・結果集約・整理分析：50%）、プレゼンテーション（30%）、討論（20%）		
到達目標	簡単なフィールドワークを計画・実施し、プレゼンテーションおこなう力を身につける。社会調査法をはじめ、大学で学びつつあることと社会との接続を理解する。		
準備学習	各回の最後に次回分を指示します。		

受講者への要望

科目の趣旨から考えて、積極的に参加してほしい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（この科目のねらいなど）
2. フライヤーの作成、配布先の検討
3. 会場挨拶・見学、フライヤーの配布
4. 社会調査法概説
5. 聞き取り調査のコツ（外部講師）
6. 調査票の作成(1)
7. 調査票の作成(2)
8. イベント準備
9. イベント実施およびフィールドワーク
10. エディティング（調査データの整理）
11. コーディングと集計
12. ミニレポートの作成
13. 討論と発表(1)
14. 討論と発表(2)
15. ミニレポートの修正、フィードバックの作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J60202002
科目名	実践プロジェクトC	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience C		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	「社会コミュニケーション基礎演習」では、社会や人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行ないます。フィールドワークの準備と実施や、プレゼンテーションなどをおこないます。３つのクラスがあり、このクラス（小川賢治担当）では、「京都についての社会学的調査」というテーマで進めていきます。 そのテーマのもとに、京都に関する事柄について社会学の考え方から調査します。社会学では、「伝統」と言われるものは必ずしも長い歴史を持つとは限らず、比較的近年に作り出されたものもある、と考えていますが、このことを京都の平安神宮を訪れて考えます。また、身分差があった時代には、上流階級だけが味わえる文化が生み出されていました。その例の一つと考えられる枯山水庭園を実際に見て、そのことについて考えます。 京都市内の施設・寺社への見学・フィールドワークに３回出かけます（土曜日を使って、１回３時間ぐらい）。そのため、通常の教室での授業は６回分、休みになります。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	演習時に指示します。		
教材（その他）	資料を配付します。		
評価方法	フィールドワークの準備と実施（50%）、プレゼンテーション（30%）、討論（20%）		
到達目標	簡単なフィールドワークを計画・実施し、プレゼンテーションおこなう力を身につける。		
準備学習	各回の終了時に次回の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
フィールドワークの計画と実施に積極的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１，ガイダンス。この科目のねらい等について ２，フィールドワークについての基礎的な学習 ３，質的調査法、特にインタビュー技法について ４，京都に関する基礎的な学習 ５，６，博物館での「京都」に関するフィールドワークの実施 ７，報告と討論 ８，京都の寺社でのフィールドワークの計画 ９，１０，京都の寺社でのフィールドワークの実施 １１，報告と討論 １２，枯山水庭園でのフィールドワークの計画 １３，１４，枯山水庭園でのフィールドワークの実施 １５，報告と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	―	★★	―	―

年度	2016	授業コード	J60202003
科目名	実践プロジェクトC	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience C		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	「社会コミュニケーション基礎演習」では、社会のなりたちや動き、人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行ないます。フィールドワークの準備と実施や、プレゼンテーションなどをおこないます。 この科目には３つのクラスがあり、このクラス（君塚洋一担当）では、「達人に聞く。仕事で人生・まちを盛り上げるには？」というテーマですすめていきます。 具体的には、亀岡・京都で活躍するさまざまな仕事の達人へのインタビューを通じて、プロたちはどのように自分のキャリアをつくってきたのか、仕事において何をきわめているのか、仕事を通じてどのようにまちづくりに貢献しているかを学びます。実際に達人たちの活躍する現地に出かけてインタビューを行い、体験を通じて見えてきた受講生自身のキャリアへの展望をまとめ、受講生の関心に応じて、まちづくりへの提案も行います。		
教材（テキスト）	演習時に指示します。		
教材（参考文献）	演習時に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて配布・指示します。		
評価方法	フィールドワークの準備と実施（社会調査の設計・実施・結果集約・整理分析：50%）、プレゼンテーション（30%）、討論（20%）		
到達目標	簡単なフィールドワークを計画・実施し、プレゼンテーションを行う力を身につけます。教室を飛び出し、地域・まちとかかわる仕事についてインタビューを行うことにより、社会調査の基礎（主に定性調査）を身につけ、「働くということ」についての自分なりのイメージを描けるようにします。		
準備学習	各回の最後に次回分を指示します。		

受講者への要望

受講生はこれまで、主に家族・親戚、友人、学校関係者、クラブなど身近な人たちを中心とした人間関係の中で生きてきたのではないかと思います。このフィールドワークでは、大学の中を飛び出し、自分にとって新しい土地や人々と出会い、そこでの関係づくりやコミュニケーションを行うことを趣旨としています。世の大半の人は、身近な人間関係の外に新しい人々との関係をつくって社会人としての仕事にとりくみ、成果をあげています。ですから、たいていの人は、相応の準備と慣れによって、はじめての土地や相手に対してもコミュニケーションや行動をとることができるようになります。受講生同士が同じテーマで協力し合いながら作業をすすめ、意見交換を行うことも大切な経験になるでしょう。そのことを頭におき、心を開いて積極的にとりくんでください。このフィールドワークは、3 回生以降の専門演習や卒業研究はもちろん、将来の進路や就職活動のヒントになり、またそれらに役立つ体験となるはずです。

講義の順序とポイント

・第 01 回：オリエンテーション
・第 02・03 回：亀岡の概要／インタビュー調査の基礎
・第 04・05 回：第 1 回フィールドワーク（亀岡まち歩き）
・第 06 回：第 1 回フィールドワークのまとめ／次回準備
・第 07・08 回：第 2 回フィールドワーク（亀岡の達人訪問）
・第 09 回：第 2 回フィールドワークのまとめ／次回準備
・第 10・11 回：第 3 回フィールドワーク（京都編：予定）
・第 12 回：第 3 回フィールドワークのまとめ
・第 13 回：第 1 回～第 3 回の比較分析と総合的な考察
・第 14 回：最終レポート編集
・第 15 回：最終プレゼンテーション／ふりかえり

※上記は予定であり、ゲスト講師都合などにより変更を行う場合がある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J6020200A
科目名	実践プロジェクトC -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience C		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	地域おこしや企業との連携を実践的に行うことを目的とする。内容については、企業や地元からの依頼を受けたものや実践プロジェクトBで自ら考案したものとする。それぞれの目的のために少人数のグループを作り、自ら考え行動することによって、自己表現力や協調性、行動力、課題解決能力を養う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	チームへの参加程度（積極的に参加しているか：50%）、3回以上の時間外の参加（30%）、発表会の準備と参加（20%）		
到達目標	実践プロジェクトBのさらなる発展、または地域の行政、研究所や企業との共同で進める事業、食品開発センターでのものづくりを通じて、問題解決法の提案、大学間コンペへの参加、ものづくりや商品づくりのターゲットの明確化が図れる。		
準備学習	ターゲットに対する技術調査、実験・実習法の理解、技術習得などをはかる。		

受講者への要望

チーム活動であるために、積極的な参加が第一優先。チームで完成させる思いを持って欲しい。

講義の順序とポイント

第1回： 計画づくり
第2回： 計画づくり
第3回： 計画づくり
第4回： 実習・実験・フィールド調査
第5回：実習・実験・フィールド調査
第6回：実習・実験・フィールド調査
第7回： 総括（打ち合わせ）
第8回：実習・実験・フィールド調査
第9回：実習・実験・フィールド調査
第10回：総括（打ち合わせ）
第11回：実習・実験・フィールド調査
第12回：実習・実験・フィールド調査
第13回：発表準備（まとめ）
第14回：発表準備（まとめ）
第15回：課題発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2016	授業コード	J6020500A
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -s	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	「実践プロジェクト A」および「実践プロジェクト B」で得た、さまざまな経験や体験を踏まえ、数名からなるグループを形成し、バイオサイエンス関連産業に関連する課題を発見し、グループ内、グループ間、特に関連企業とのコミュニケーションを発展させながら、調査・研究活動を主体的に実施し、活動の成果をとりまとめ、発表会でスライドを用いて発表するとともに、ポスターまたはパンフレットとして発表する。そのような活動を通じ、人に伝える力、文章作成力、自己表現力を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	グループ発表の成果(30%)に、個々の学生に課すレポート(70%)を加味して評価する。		
到達目標	具体的な事象から、課題を発見し、主体的に調査・研究・実験を実施し、調査研究結果を取りまとめ、発表する基礎力を発展させる。		
準備学習	実践プロジェクトで取り上げた課題だけでなく、社会一般の出来事や問題について日常的に考える習慣を身に着ける。		
受講者への要望			
学生各自が自発的主体的に取り組むことが不可欠である。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 課題発見　(学園大提携企業*からの問題提起) 3. プロジェクト課題の提案と討議 4. プロジェクト課題についての絞り込み 5. 調査・研究・情報交換 6. 調査・研究・情報交換 7. 中間発表会(1) 8. 中間発表会(2) 9. 追加調査・研究・情報交換 10. 発表会(1) 11. 発表会(2) 12. ポスター制作 13. ポスター制作 14. ポスター発表会(1) 15. ポスター発表会(2) 中間発表会や発表会には、問題提起された提携企業関係者を招く			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J6020500B
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	実践プロジェクトＡ（作物栽培実習）および実践プロジェクトＢで得た様々な体験・経験を発展させ、フィールドでの観察眼、論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを高めることを目的とする。 本講座では、3−4 名程度の班に別れてバイオ環境園におけるフィールドワークを行い、1）バイオ環境園の植生図作成、2）森林に生息するノネズミの環境選好性、3）森林の群落構造から読み解く土地利用の履歴の 3 つのテーマについて、文献調査・仮説形成・フィールド調査・データ解析と仮説検証・成果発表までの一連の調査研究活動に必要な基礎知識と応用力を身につけることを目指す。		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	森林立地調査法編集委員会 編　「森林立地調査法 -森の環境を測る」 博友社 日本林学会　森林科学編集委員会 編　「森をはかる」　古今書院		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	フィールドワークの取り組み状況、グループディスカッションへの参加状況、最終発表内容により総合的に評価する。		
到達目標	森林生態系の基礎的調査手法（空中写真判読・GPS の活用・植生調査と樹木の同定・生長錐を用いた年輪解析・シャーマントラップによる野ネズミの捕獲等）の習得。 フィールドでの体験を通じた身近な自然を読み解く観察眼の涵養。 関連分野の論文読解力とデータ解析に必要な論理的思考力の習得。 効果的なプレゼンテーション技術の習得。		
準備学習	事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。		
受講者への要望			
環境コンサルタントや環境調査関連の企業・研究所への就職を希望する学生は、積極的に受講してください。			
講義の順序とポイント			
１．バイオ環境園を歩く ２．バイオ環境園の植生図作成１：空中写真から分かること・分からないこと ３．バイオ環境園の植生図作成２：フィールドでみえること・みえないこと ４．森林に生息するノネズミの環境選好性１：関連文献による仮説形成 ５．森林に生息するノネズミの環境選好性２：シャーマントラップによるノネズミの捕獲 ６．森林に生息するノネズミの環境選好性３：ノネズミ捕獲地点の環境を探る ７．森林の群落構造から読み解く土地利用の履歴１：関連文献による仮説形成 ８．森林の群落構造から読み解く土地利用の履歴２：植生調査と年輪解析 ９．森林の群落構造から読み解く土地利用の履歴３：樹木の同定 １０．森林の群落構造から読み解く土地利用の履歴４：放棄薪炭林を探す １１．森林の群落構造から読み解く土地利用の履歴５：バイオ環境園の歴史を読み解く １２−１４．データ解析・発表準備 １５．成果発表会・総括		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J6020500C
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -f	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	実践プロジェクトＡおよびＢで得た様々な体験、経験を踏まえて、自分の強みを理解する。また、さらに深く課題に取り組み、その成果をより洗練された報告書にするとともに、口頭で体験を伝える。これらの実践により、人に伝える力、文章作成力、自己表現力を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業へ取り組む姿勢 50%　成果の発表およびその準備への貢献 50%		
到達目標	１．収集した情報から適切な結論が導ける。 ２．状況を考えながら、課題取組の計画の修正ができる。 ３．取り組みについて、人前で話すことができる。 ４．成果を発表することができる。 ５．成果を文章でまとめることができる。		
準備学習	実践プロジェクトＢの結果を受けて、あらたな課題を見つける。次回の授業での作業内容を事前に考えておく。		
受講者への要望			
グループの一員として責任ある取り組みをしてほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　課題決定 2.　情報収集 3.　計画立案 4.　調査１ 5.　調査２ 6.　内容のまとめ１ 7.　中間報告会１ 8.　中間報告会２ 9.　計画の見直し 10.調査３ 11.調査４ 12.内容のまとめ２ 13.発表原稿作成 14.発表会１ 15.発表会２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J6020501B
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	数は社会のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，社会現象の理解のためにはまず最初に数的概念とその活用法の修得が必要となる。この講義では数の体系の中で算術の基礎となる演算，数式，整数，分数，小数，図形，集合，論理などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	小田　敏弘　著　『本当はすごい小学算数』　日本実業出版社（１，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	数学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの問題を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から社会現象について数的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．演算：演算規則 ２．数式（１）：試行錯誤 ３．数式（２）：方程式 ４．整数（１）：偶数・奇数 ５．整数（２）：素数 ６．分数（１）：逆数 ７．分数（２）：比 ８．小数（１）：数表現 ９．小数（２）：桁 10．図形（１）：三角形 11．図形（２）：円周率 12．集合（１）：グループ化 13．集合（２）：対応関係 14．論理（１）：グラフ理論 15．論理（２）：平均			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J6020502B
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k3	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	亀岡、京都の周辺で地域の自然、歴史、文化、風土を学ぶことができるフィールドワークを実施し、それぞれのレポートを提出し、最後に総合的なディスカッションで取りまとめる		
教材（テキスト）	必要に応じて地図や冊子を配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ここのフィールドワークのレポートと最後の総合討論など、積極的な参加の程度を判定、評価する		
到達目標	実際に現場を歩いて、現場から問題点や特徴を抽出できる力を養う、また、そういった意見をグループの中で発言できるように取りまとめる力も養う		
準備学習	ある程度の山道で距離のある区間を歩けるように準備を整えておくこと		
受講者への要望			
リュックサック、靴、帽子など、山歩き、街歩きなどの道具を準備しておくこと			
講義の順序とポイント			
1-4　京の水辺・疏水の歴史・文化を学ぶ（集合場所：京町家キャンパス、終日） 5-8　保津峡の渓流をめぐり生き物と出会う（集合場所：保津峡駅、終日） 9-12　かめおか里道トレイル、マップ片手に歩こう（集合場所：トロッコ亀岡駅、終日） 13-15　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J60207001
科目名	食文化論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	三吉　章雄	旧科目名称	
講義概要	南北に長く、地形、気候の変化に富むわが国では、各地域で農業、畜産、漁業、場合によっては森林利用分野まで組み合わせた食文化が発達してきた。 食文化は、さらに土壌、水文（陸上での水の状態や変化）をはじめとする諸環境に加え、歴史、風土、国民性および宗教などによってきわめて多様である。 　これらを比較することで、多彩な食文化と環境や１次産業の相互関連についての基礎的な理解を深める。さらに世界の食文化を知り、理解を深める。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	農林水産省編　「和食；日本人の伝統的な食文化」 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業に対する態度・意欲等による平常点（40%）。授業中に課すレポート（60%）。		
到達目標	わが国の食文化を形成する基本となる豊かな自然（森林）環境を理解し、美しい景観や生き物の賑わい、安全・安心でメリハリのある食生活、周りとのコミュニケーションがこころ豊かな生き方にとって重要であることを理解する。		
準備学習	シラバスに提示してある講義内容については、参考文献　農林水産省編　「和食；日本人の伝統的な食文化」の各単元を事前に読んでおくこと。		

受講者への要望

- 積極的な態度で講義に参加するよう心がけてもらいたい。
- 提出レポートの内容には柔軟な発想や思考を期待する。
- 講義中に私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

第１回　「食文化論」の概説　ー 森・里・海が連関する食文化 ー
第２回　食文化を形成する日本の森林環境　ー 食文化の源流は森と水にあり ー
第３回　森と食に共通する表裏一体　－ 美と醜は生と死に通じる ー
第４回　日本の伝統的食文化を育んだ森の恵み　ー 国土の７割を占める森林 ー
第５回　日本食の歴史　－ 美食は権力の象徴、飽食ならぬ豊食は庶民の知恵 ー
第６回　調理と地域性　－食材・調理法・食事作法の相乗効果 ー
第７回　日本人の味覚と嗜好　ー だしの旨みは家庭教育から　ー
第８回　栄養面からみた日本的特質　ー 動物性タンパクの摂取がポイント ー
第９回　メタボ状態の森林土壌と食文化　－ 知らぬ間に忍び寄る存続の危機 ー
第10回　飢餓・飢饉は農業の罪と罰　ー 狩猟生活にはなかった他力本願 ー
第11回　食のタブーと美食の同居　ー 集団を守る善と個人を魅了する悪 ー
第12回　食材の流通と変化　－ グローバル経済と侵略的外来生物の共通点 ー
第13回　京の食文化　－ 京都の地理的特徴とおばんざいの役割 ー
第14回　年中行事と食文化　ー 「はれ」と「け」の復活が豊かな生き方を生む ー
第15回　豊かな森と和食文化を世界に発信　ー 世界に誇れる日本の宝を英語で伝える ー

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	★	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	J60208001
科目名	作物史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	作物は野生植物に改良が加えられて作られたものである．現在存在する作物に至る改良の過程を追いながら，自然と人間が作り出す作物の歴史と作物の多様性について学ぶ．また，伝播の過程や人間の利用形態の変遷とととともに姿を変えてきた作物のいくつかを事例を通して，その歴史のみならず，今後の新たな作物誕生の可能性を考察する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「栽培植物の自然史」　山口裕文･島本義也　編著　（北海道大学図書刊行会） 「品種改良の世界史　作物編」　鵜飼保雄・大澤良　編著　（悠書館）		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布する．		
評価方法	毎回授業の最後に課す小レポート（50%）と期末試験（50%）で評価する．		
到達目標	私たちが当たり前のようにして食べている穀物・野菜や果実，あるいはキノコの起源はどこにあったのか，どのような手法を用いて今の形になったかを理解する．		
準備学習	毎回の授業の終わりに課すミニレポートのテーマは，その日の授業で最も大切な項目であるとともに，次回の授業を理解するのに必要な事項である．従って，特にその点について復習をしてから次の授業に臨んでほしい．		

受講者への要望

植物はヒトにとって有用になるようにその形態を変えたり，品質を変える非常に大きな潜在能力を持っている．この授業では具体的に色々な作物を取り上げてその変化について論じるので，これらの作物に関する基礎知識を興味を持ってあらかじめ得ておくようにしてほしい．

講義の順序とポイント

１．農耕の起源と植物改良の始まり
２．栽培植物の種と品種
３．栽培植物の起源地
４．栽培植物における自己認識システム（1）自家不和合性
５．栽培植物における自己認識システム（2）雄性不稔
６．イネの起源と系譜
７．コムギの起源と系譜
８．ダイズの進化
９．ソバの起源と伝搬
１０．トウモロコシの起源と系譜
１１．ブドウ品種の多様性とワイン
１２．アブラナ科植物の系統分化
１３．ナス科植物の起源
１４．ネギ属・イチゴの起源
１５．キノコの栽培化

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60209001
科目名	亀岡学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	古い歴史と独特な気候風土が融合した亀岡市およびその周辺地域には、農畜産業と農産物の加工の高い保有技術で京文化を支え、同時に亀岡固有の文化を育ててきた。本論では保津川の川霧などの特異な気候と、京野菜を中心とした農産物の関連、背景について広汎な視点で紹介する。また民俗学、歴史学、地理学、生物保全学、農学、森林科学、食品科学といった様々な分野を組みいれ、総合的な視野で亀岡を理解する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート 5 回以上（50%）、調査課題提出（20%）、講義への積極的参加（20%）、受講態度など(10%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	亀岡の食、農、歴史、文化を知ることによって、また農業、食産業や販売流通の経営者の講義、地域おこしの実践例の講義を受けることによって、亀岡で、また日本の各地域で地域おこしや農業経営、食産業の起業の考え方を知る。		
準備学習	亀岡を市の HP などであらかじめ調査し、少なくとも 1 箇所は実地調査する。地方（自分の故郷の町でもよい）での地域おこしの例を調べる。		

受講者への要望

自分が将来農業や食産業で起業する、あるいは地域おこしのリーダーや参画者になるつもりでしっかり受講する。

講義の順序とポイント

1. はじめに （亀岡学の意義）
2. 亀岡の農商工業の現状
3. 亀岡の歴史や民俗
4. 亀岡の農業環境（地理的、地質的、生態的要素）
5. 京野菜について
6. 亀岡の食産業
7. 発酵食品と健康
8. 農業経営について（農業経営者に聴く）
9. 食産業経営について（食関連経営者に聴く）
10. 流通について（流通関係者に聴く）
11. 地域おこし実例 1
12. 地域おこし実例 2
13. 地域おこし実例 3
14. 日本での地域活性化活動
15. 調査課題発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2016	授業コード	J60210001
科目名	統計処理論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	農業・食品業界における日常業務から得られる数値データの取り扱いに関して、Excel を用いた実践的な統計処理手法について学習する。		
教材（テキスト）	配布資料		
教材（参考文献）	『ビジネスで本当に使える超統計学』 村上知也、矢本成恒 著 （秀和システム）		
教材（その他）			
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	統計処理の有用性を学び、ビジネスの現場で実際に活用できることを目標とする。		
準備学習	Excel を使って授業を進めていくので、Excel の基本操作が出来ていることが望ましいが、授業の中でも適宜指導するつもりである。これまで受講した Excel の授業を復習しておきましょう。		
受講者への要望			
積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。			
講義の順序とポイント			
1. 母集団と標本 2. 平均値 3. 正規分布 4. ヒストグラム 5. 分散・標準偏差 6. 同上 7. 単回帰分析 8. 同上 9. 重回帰分析 10. 同上 11. 相関係数 12. 同上 13. 検定（z 検定） 14. 検定（t 検定） 15. 検定（F 検定）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J60211001
科目名	食農概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	人間はその生存のためのエネルギーや栄養素の多くを栽培植物から得ている．植物の栽培－農業－は食の基本であり，農業を理解することはここの生存に深くかかわることである．また，食の生産と環境問題は切り離すことができないものである．さらに，安全でかつ健康に資する食の供給が要請されている．先人の農業への思いを渉猟しつつ，時代とともに変わりゆく食と農を撮ります環境について学び，考察する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布する．		
教材（その他）			
評価方法	２回の課題レポート（各 40%）と小レポーt-（20%）で評価する．		
到達目標	我が国における農業の実態を理解し，食料生産にどのように関与しているのか，また食の生産と環境問題を理解するために，生産に係わるエネルギー収支について知る．生産された食料の加工についても理解する．これらの知識を基に，これからの食料生産について考察できる能力を持つ．		
準備学習	講義内容は順を追って展開していくので，必ず復習をしてから次の授業に臨むこと．		

受講者への要望

農と食についてはマスコミでも取り上げられることが多い．日頃からそのような問題に興味を持ち、自分なりの意見を持つようにしてほしい．

講義の順序とポイント

1．農業と食料生産の概要
2．日本の農業と食料生産
3．農業生産物の流通
4．食料生産におけるエネルギー効率（1）畜産・作物
5．食料生産におけるエネルギー効率（2）果樹･野菜
6．とりまとめ～課題レポート作成
7．農産物の加工（1）野菜と果実の取り扱いと保存
8．農産物の加工（2）保存食品（ジャム、砂糖漬け、梅干し）
9．農産物の加工（3）漬物
10．農産物の加工（4）発酵食品（酒以外）
11．農産物の加工（5）酒類
12．とりまとめ～課題レポート作成
13．食の安全と農業生産
14．これからの食料生産（1）消費者の動向
15．これからの食料生産（2）新しい技術の導入　～小レポート作成～

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J60212001
科目名	食農基礎実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	食品分野と農業分野から複数のテーマをとりあげ、実験を通して生物実験や化学実験の基礎である、スケッチ技術、顕微鏡の取り扱い方、培養操作、一般ガラス器具類の取り扱い方、pH メーターや分光光度計、遠心分離機などの汎用機器の取り扱い方およびデータ処理法を体得する。		
教材（テキスト）	オリエンテーションで配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 羽柴輝良・金浜耕基　編　『新農学実験マニュアル』　ソフトサイエンス社　6000 円＋税		
教材（その他）			
評価方法	レポート 60%　実験ノート 10%　テスト 30%		
到達目標	実験のレポートを正しく書くことができる。 光学あるいは実体顕微鏡を使って組織を観察することができる。 微生物培養に必要な操作ができる。 定量容器の性質を理解し、検量線法を含む定量分析ができる。 統計用語を理解し、パソコンソフトなどを使ってデータの解析ができる。		
準備学習	事前に次回の実験について予習をしておく。操作が必要なものなどは実験ノートに手順を簡単にまとめておく。		

受講者への要望

基本的な操作を学ぶので、実験後も復習をしてすべて覚えるような心持で取り組んでほしい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション（注意に関する説明など）
Aコース
2．顕微鏡観察１ 光学顕微鏡による植物組織の観察
3．顕微鏡観察２ 実体顕微鏡による植物の観察
4．顕微鏡観察３ 成熟分裂（減数分裂）の観察
5．統計解析１ 作物の収量と粒度の測定
6．統計解析２ 平均，分散，標準偏差，ヒストグラム
7．検量線法A Microsoft Excel を用いた検量線
8．グラフ作成法 パスタの吸水速度測定　　小テスト
Bコース
9．微生物実験１ 滅菌・殺菌・消毒の方法の説明　培地の作製（試薬の秤量）
１０．微生物実験２ 無菌操作の説明・植菌　培養液中の菌数を評価
１１．微生物実験３ 菌数評価（続き）　観察（肉眼・顕微鏡）
１２．定量分析１ 水耕栽培準備　濃度調整
１３．定量分析２ 滴定法　酸度の測定
１４．検量線法Ｂ 肥料分析（リンの定量）　最小二乗法を利用した検量線
１５．データ分析 水耕栽培評価　小テスト

班によってはＢコース、Ａコースの順に行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	★

年度	2016	授業コード	J60213001
科目名	作物栽培学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	作物生産の全体像を理解したあと、代表的な作目を取り上げて具体的な栽培技術について学ぶ。種子や苗を出発点として収穫・流通にいたる流れを理解する。さらに、新しい技術としてのバイオテクノロジーを理解し、作物栽培における応用について講義する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「栽培学 ―環境と持続的農業―」　森田茂紀 ・大門弘幸 編／阿部淳 編著　（朝倉書店） 「栽培学大要」江原　薫　著　（養賢堂）		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布する.		
評価方法	期末試験（50%），中間の課題レポート（30%），毎回のミニレポート（20%）		
到達目標	農業生産に関わる作物として多種多様な植物が用いられている。それらの栽培に当たって多くの技術が開発されている。これらの技術がどのように利用され、安心安全な食料生産を可能にし、人の生活を豊かにしているかについて理解する。		
準備学習	毎回授業終了時にその日の講義に関するミニレポートを課す．次回の授業に必要な内容に関するテーマを設定するので，それを復習の目標点とすること.		

受講者への要望

栽培については１回生時の作物栽培実習や京野菜栽培加工実習で実際に体験してきた．この授業ではその経験を基礎知識として持っていることを前提とするので，よく思い出してほしい．さらに，栽培に関する書物にも興味を持ってほしい.

講義の順序とポイント

１．作物生産の食糧供給における役割と実態
２．作物の種類と特徴（１）　イネ・ムギ類・トウモロコシ
３．作物の種類と特徴（２）　野菜・果樹
４．作物の種類と特徴（３）　花き
５．作物栽培と栽培管理（１）　発芽生理と種子繁殖
６．作物栽培と栽培管理（２）　栽培環境と成育の調節
７．作物栽培と栽培管理（３）　栄養繁殖
８．作物栽培と栽培管理（４）　育苗
９．作物栽培と栽培管理（５）　水管理･土壌管理
１０．病害虫管理と作物の安全性
１１．作物栽培の機械化
１２．作物経営と生産物の流通
１３．植物組織培養の基礎と実用化
１４．植物遺伝子の組換えとその応用
１５．植物バイオテクノロジーの作物生産への応用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J60217001
科目名	植物生理生態学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	植物を理解するのに必要な基本的事項を分子、細胞、個体、群落のレベルで理解し、将来の応用的展開を計る際の基礎力をつけることを目標とする。具体的には、植物や細胞の構造と機能、水・重力・光などの環境要因と植物、植物ホルモン、光合成、植物の栄養などについて理解する。またアレロパシー、群落における光合成、植物と微生物の共生などについても理解する。 全講義期間を通じて数回ワークシートを配布し、理解度を確認する。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「植物生理学」　三村 徹郎・鶴見 誠二編著　化学同人 「植物の生態」－生理機能を中心に－　寺嶋一郎著　裳華房		
教材（その他）	「植物が地球をかえた」葛西 奈津子 著、化学同人		
評価方法	ワークシートの理解度判定３０点、定期試験７０点。		
到達目標	植物の生存戦略に関して、形態形成や物質代謝の特徴や、植物間や微生物との競争、共生関係について基礎的理解を深める。		
準備学習	毎回の講義後にプリントとノートで復習し、不明な点は提示した参考書などで該当する部分を読んで、理解を確かなものにしてほしい。		
受講者への要望			
農作物生産においては、作物の特性を踏まえて、栽培技術が形作られてきた。本講義では、植物の特性をその生命戦略ととらえ、それを支える現象とその機構について学んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1　植物の起源と特徴 2　光合成のしくみ 3　物質合成のしくみ 4　エネルギー生産の戦略 5　物質の輸送路 6　無機栄養素の同化と代謝 7　細胞分裂と細胞成長 8　形態形成と成長調節物質との関係（1） 9　形態形成と成長調節物質（2） １０　光形態形成 １１　栄養成長と生殖成長 １２　個体としての環境適応 １３　群落としての生存戦略 １４　病原体に対する植物の防御 １５　微生物との共生			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J60223001
科目名	地域食農論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
講義概要	全国ブランドとなっている京野菜の産地である京都市をはじめとする京都府内の中で亀岡市周辺地域を中心に京野菜などの農産物の特徴と、さまざまな加工技術の組み合わせの特殊性について紹介する。さらに京野菜が成立した時代背景や歴史を学ぶとともに、現代における京野菜を中心とした食品の嗜好について言及し、今後の新しい農産物を中心とした新品種作出および 6 次産業化について学ぶ。さらに全国の事例をあげて方向性を理解する。		
教材（テキスト）	講義に合わせて準備する。		
教材（参考文献）	京野菜：淡交社、歳時記「京の伝統野菜と旬野菜」：トンボ出版、日本の野菜、江戸の野菜：八坂書房、食材図鑑：小学館、B 級グルメの地域ブランド戦略：新評論		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績　（40%） 調査レポートおよび発表等　（50%） 授業中の積極的な発言　（10%）		
到達目標	わが国における農産物とそれらを利用した加工食品について、地域を生かした農産物の生産およびそれらの加工を伝統的な京野菜を通じて理解する。亀岡市を含む京都府内の農産物生産と加工品の事例や全国における成功事例から地域おこしの基本的な考え方や方策を学び、特色ある農産物の生産加工の実践に役立てる。		
準備学習	野菜を中心に講義を進めるので、参考文献に示した、あるいは講義中に紹介する日本の野菜に関する専門書を 1 冊は読むとともに、各種新聞や雑誌においても関連記事には目を通すようにする。		
受講者への要望			
現在、地域の抱える農業や食料・食品に関する問題点は何なのか、常に意識をしながら講義に臨んでほしい。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　：　わが国の野菜生産の現状 第 2 回　：　わが国の野菜消費の動向 1　果菜類 第 3 回　：　わが国の野菜消費の動向 2　葉根菜類 第 4 回　：　独自に発展してきた地方野菜 第 5 回　：　京野菜の種類と特殊性 第 6 回　：　京野菜の生産地亀岡市の野菜生産の現状と特性としての気候・環境 第 7 回　：　亀岡市の野菜生産者から見た特性 第 8 回　：　亀岡の野菜の流通と消費 第 9 回　：　新しい嗜好を反映した新京野菜の作出 第 10 回：曙好を活かす食品加工企業概要 第 11 回：亀岡市における 6 次産業の事例 第 12 回：全国における農産加工の成功事例 第 13 回：世界に向けた農産物や農産加工品の事例 第 14 回：地域おこしと農産物および農産加工食品 第 15 回：調査課題発表会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J60224001
科目名	食品加工学 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	加工食品は、農林畜水産物を原料に、物理的単位操作（加熱・殺菌・蒸留・抽出・混捏・乳化・乾燥 等）と化学的・生物的処理操作（発酵，酵素反応 等）を組み合わせた種々のプロセスを組み合わせて作られる。本講義では、実際の加工食品を例に挙げながら食品の特性と加工原理を理解し、安全な食料供給の仕組みを学ぶ。		
教材（テキスト）	『食品をつくる基礎科学 食品工学入門』　安達修二、古田武　著　（カルチュレード）		
教材（参考文献）	『スタンダード栄養・食物シリーズ 5 食品学 －食品成分と機能性－，第 2 版』 久保田喜久枝、森光康次郎編　（東京化学同人）		
教材（その他）			
評価方法	授業時間内に行う小テストによる各項目の理解度（30%）と定期試験による総合的な問題を解く能力（70%）により評価する.		
到達目標	食品製造に必要な知識と技術を習得させ，食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解させるとともに，品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。		
準備学習	日頃から、身近な加工食品の原材料や作り方、保存方法などに関心を持つこと。 その日の講義中に理解できなかったことは、その週のうちに書籍やインターネットで調べものをするなどして、次回の講義までに理解できるようにしておくこと。		
受講者への要望			
化学を履修することが望ましい。 受け身ではなく、積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. 食品の役割と食品加工の目的 2. 食品加工の原理と方法①　（物理的な方法による加工） 3. 食品加工の原理と方法②　（化学的な方法による加工） 4. 食品加工の原理と方法③　（発酵食品の加工） 5. 食品保存の原理①　（温度操作・水分制御・pH の調節による保存） 6. 食品保存の原理②　（殺菌・食品添加物による保存） 7. 食品の特性と加工 8. 食品の変質と貯蔵 9. 食品機械について 10. 小麦粉加工食品とその製造工程 11. 乳製品とその製造工程 12. 油脂類・甘味料・調味料・香辛料 13. 衛生管理と生産管理 14. 食品の規格と表示 15. 新しい食品加工技術			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J60227001
科目名	食品分析化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	本講義では、食品分析に関わる各種法規制・表示法・公定分析法ならびに試料調製・一般成分分析・分光測色法を利用した分析法、電気泳動法・酵素反応を用いる分析法、クロマトグラフィーによる品質成分分析等について概説する。さらに、実際の加工食品を例に挙げながら各種成分の分析法を学習する。		
教材（テキスト）	配布資料		
教材（参考文献）	『分析化学実技シリーズ 応用分析編 5　食品化学』　（公社）日本分析化学会 編、中澤祐之 ほか 著 （共立出版）		
教材（その他）			
評価方法	授業時間内に行う小テストによる各項目の理解度（30%）と定期試験による総合的な問題を解く能力（70%）により評価する。		
到達目標	食品成分分析と検査に必要な知識と技術を習得させ、食品の成分と栄養的価値を理解させるとともに、食品製造及び農業の各分野で応用する能力と態度を育てる。		
準備学習	教科書の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。		
受講者への要望			
化学を履修することが望ましい。 受け身ではなく、積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. 食品分析の現状（サンプリング・試料調製法） 2. 一般成分分析（水分・タンパク質） 3. 一般成分分析（脂質・炭水化物） 4. 一般成分分析（ビタミン・ミネラル） 5. 比色分析 6. クロマトグラフィー 7. 電気泳動法（電気泳動・キャピラリー電気泳動） 8. 酵素分析法① 9. 酵素分析法②（酵素免疫測定法） 10. 炭水化物の分析 11. 脂質分析 12. 香気成分分析 13. ビタミン分析 14. 機能性の評価 15. 官能評価			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J72057001
科目名	【院】計量経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Methods of Econometrics		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	統計分析には多くのアプローチが考えられるが、この講義では基礎的な「計量モデル分析」を中心とした講義を行う。 モデルの対象はマクロ経済、企業経営、都市経営、等様々考えられる。モデルに含まれる要素間の関係を構造方程式の体系として表現する基礎的訓練と、構造パラメータの推定をいかに行うか種々考察する。安定したモデル構造を 推定し、これを通じて各種シュミレーション分析をする。ただし、いきなり高度なモデルを扱うより、初学者を意識したレ ベルから始める。 パラメータの推定と評価に必要となる統計知識を授業の各所で必要に応じ講義する。ただし、確率論は最小限の知 識にとどめ、実際的な統計分析に重点を置く。この分析にはアメリカでは標準的なツールとなっている EViews を利用 する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表内容による(100%)		
到達目標	計量経済学の入門知識の習得		
準備学習	適宜参考文献や資料調査を指示するので、授業時間外で準備しておくこと。 これ以外に適宜レポート等の宿題を課すのでその準備をすること		
受講者への要望			
基礎的知識だけでなく、実証分析への関心を高めて欲しい			
講義の順序とポイント			
1 単回帰モデル 2 単回帰の実際 3 重回帰 4 分散の不均一性 5 分散の不均一性その 2 6 系列相関 7 ＤＷとその実際 8 トレンドとモデルの工夫 9 多重共線性 １０ 多重共線性の例と工夫 １１ ダミー変数の扱い １２ ダミー変数の扱いその 2 １３ 同時方程式モデル １４ 同時方程式の簡単な例 １５ 同時方程式の例			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J72058001
科目名	【院】経済統計学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Statistics		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済統計学では、ＳＮＡ統計を中心に、各種統計の内容理解を前提に、これの実証分析への応用を主な課題とする。すなわち、統計データの数量的分析手法については、単一方程式による各種回帰分析手法、及び、同時方程式体系の解法を系統的に解説する。また、既に実用化されているいくつかの計量モデルの分析を通じて、計量モデルの構造や作成のプロセスを理解させると共に、自ら簡単なモデル作成とシミュレーション分析を行えるような訓練を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表内容による(100%)		
到達目標	経済データを背景の理論に関連づけて理解すること		
準備学習	適宜参考文献や資料調査を指示するので、授業時間外で準備しておくこと。 これ以外に適宜レポート等の宿題を課すのでその準備をすること		
受講者への要望			
特にありませんが、日経データなどはいつも利用できるようにしてもらいます。			
講義の順序とポイント			
１　時系列データの処理 ２　トレンドと季節調整 ３　指数 ４　物価指数の実際 ５　労働力 ６　賃金と労働市場 ７　労働市場の動向 ８　労働時間と生産性 ９　賃金と失業 １０　家計－所得と貯蓄・消費 １１　家計調査 １２　消費構造 １３　消費構造と国際比較 １４　景気変動 １５　景気変動と経済政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J72059001
科目名	【院】時系列データ分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	マクロ金融システムの時系列データを分析する。マネー、GDP、短期・長期の金利、物価などの経済指標の時系列データの特性を統計学の観点から分析する。定常、非定常、トレンド、AIC、VAR モデルなどの基礎概念を修得する。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、２００９		
教材（その他）			
評価方法	毎回の小課題(50%)と２回のレポート(50%)を評価		
到達目標	経済時系列を統計学的に分析できること。		
準備学習	統計分析に必要な数学やコンピュータの知識は分析ソフトを使いながら慣れればよいので、はじめから高いレベルを要求しないが、経済現象の理解は必須である。ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論などの基礎知識をもとに、インフレ、デフレ、金融政策、財政政策などを理解していることが望ましい。 事前学習：マクロ経済学、金融論などの基本を理解しておくこと。 事後学習：参考文献「EViews による計量経済分析入門」を、春学期の終わりまでに読み終えておくこと。		

受講者への要望

統計学やパソコンは使っているうちにだんだん慣れてくる。はじめは難しく感じるかもしれないが、苦手意識から拒絶反応を持たないようにしてほしい。

講義の順序とポイント

1.データの取得と加工・修正
　日次、週次、月次、四半期、などのデータ特性と季節調整の概念
2.同上
　散布図、回帰直線、トレンドの検出
3.定常・非定常の検定
　　経済・金融データの多くが非定常変数であるので、単位根検定の方法を知る。
4.　同上
　日本のデータを分析
5.同上
　ヨーロッパ・アメリカのデータを分析
6.パラメータ推定の方法
　最小自乗法、ｔ－値、
7.同上
　最尤法、GMM 法
8.AIC の考え方
　データ・フィッティングの基礎となる AIC 評価規範の考え方
9.同上
　各種の具体例
10.金融分析
　Marshall の k、マネー、GDP、金利の相互関係
11.同上
　貨幣需要関数
12.VAR モデルの考え方
　相互依存する変数の時間遅れを伴う相関の強さ
13.同上
　成長率モデルとレベル変数の扱い
14.VEC モデルの考え方
　非定常変数の長期均衡関係と、定常な成長率モデルとの関係

15.同上

長期均衡の観点から見た貨幣需要関数

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J72060001
科目名	【院】時系列モデル	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Models		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	マネー、GDP、短期・長期の金利、物価などから時系列マクロ金融モデルを作成し、モデルを用いた経済現象の分析を行う。金融問題として扱われるデフレ、流動性の罠、金融不安の定量分析、貨幣需要関数の安定性などを考察する。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	Hamilton,J.D.　"Time Series Analysis"		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題(50%)と 2 回のレポート(50%)		
到達目標	マクロの時系列モデルを、各国のデータで作成すること。		
準備学習	経済現象の理解が不可欠である。ミクロ、マクロ、金融論などを基本知識として、インフレ、デフレなどの現象を理解しておくこと。 事前学習：マクロ経済学、金融論などの基本を理解しておくこと。 事後学習：参考文献「Time Series Analysis」において、授業で学んだ箇所と対応する章を読んでおくこと。		

受講者への要望

経済データ専用の分析ソフトを使うので、操作方法などよりも、何を分析し、その分析結果が経済学的に何を意味しているのかという理解がもっとも大事である。長い道のりではあるが、がんばってほしい。

講義の順序とポイント

1.VAR モデル作成
　Vector Auto Regressive モデルの作成方法を学ぶ。
2.同上
　遅れ次数、変数の増減（取捨選択）などの確認
3.インパルス応答
　VAR モデルにおけるインパルス応答とその解釈
4.同上
　成長率とレベル変数におけるインパルス応答の意味
5.VEC モデル作成
　Vector Error Correction モデルの作成方法を学ぶ。
6.同上
　共和分と、非定常変数間の長期均衡関係
7.同上
　VEC モデルにおけるインパルス応答
8.不均一分散モデル（GARCH モデル）の作成
　GARCH モデルの成り立ちとその意味
9.TARCH モデル、EGARCH モデルの作成
　各種の不均一分散モデルの比較検討
10.投資リスクと金融資産のリスク管理
　株式収益率のボラティリティ変動モデル（ARCH モデル）
11.同上
　株式収益率のボラティリティ変動モデル（確率ボラティティモデル）
12.不均一分散モデルの応用
　金融不安の導出（日銀 DI による資金繰り判断と貸出金利）
13.共和分手法による金融問題の解析
　流動性の罠
14.同上
　貨幣需要関数
15.同上

長短金利が貨幣需要関数に及ぼす影響

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J72062001
科目名	【院】金融経済論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	まず、金融システムの概要を理解し、株式、債券市場の分析を通じて、株価決定の理論、債券利回りの構造など、資産運用において欠くことのできない、ファイナンスの知識を教授する。　具体的には、受講者の基礎知識、関心度に基づき、テキストを選定するが、できれば、本年度は英書をテキストとしたい。出席が重視されので、休まないようにしてほしい。		
教材（テキスト）	Frederic Mishkin, The Economics of money, Banking and Financial Markets, Addison Wesley、2008		
教材（参考文献）	Laurence Ball, Moeny, Banking, and Financial Markets, Worth Publishers, 2009		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	ファイナンスの基本知識の習得につとめ、経済および景気に関する日々生ずる現実の問題に自分なり考えが持てるようにする。また、将来金融機関に就職する場合の基本的知識を習得する。		
準備学習	毎回次の講義の資料提供をおこなうので、しっかり事前の予習をすること。		

受講者への要望

欠席は講義の進行を妨げ、他の受講者の迷惑になるので、よほどの事以外、認めない。日々の経済状況を新聞、テレビニュースで把握しておくこと。

講義の順序とポイント

1．金融の仕組み
2．銀行とその役割
3．証券会社とその役割
4．保険会社とその役割
5．経済情報の見方
6．　短期金融市場
7．　長期金融市場
8．　株式市場
9．　外国為替市場
10．証券投資のリスクとリターン
11．　金利の期間構造
12．　オプションとディリバティブ
13.　金融規制
14.　金融危機
15.　ライフプランと資産運用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72066001
科目名	【院】公共経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	公共経済学の主たる判断基準のひとつは「社会的厚生」に置かれる。そして、この社会的厚生の定義は、基本的には社会の構成員の効用の集計として設定される。したがって、個人の効用を規定し影響を与える諸要因と効用との関係を明確に理解することが公共経済学の分析にとっての第一歩となる。 本講義では、個人の生涯設計に関連する各ステージにおける主体的選択問題を、ミクロ経済学の制約付き最適化問題および費用＝便益分析を用いて理解する。		
教材（テキスト）	麻生良文『公共経済学』有斐閣 小崎・牧野・吉田『キャリアと労働の経済学』日本評論社 仁科一彦・倉澤資成『ポートフォリオ理論－基礎と応用』中央経済社		
教材（参考文献）	Auerbach&Feldstein, Handbook of Public Economics, North-Holland. 根岸康夫『現代ポートフォリオ理論講義』金融財政事情研究会		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内報告 50％　レポート 50％		
到達目標	社会的厚生を規定する個人の効用の性質について理解する。その上で、個人の主体的選択問題とその応用としての各種の公共政策の導入・変更が個人の効用に与える影響について理解すると同時に、市場および社会的厚生への影響を確認する。		
準備学習	ミクロ経済学の基礎理論は復習しておくこと。特に、制約付き最適化問題および社会的厚生についての理解は不可欠である。		

受講者への要望

（1）丁寧な理解を心がけ、曖昧な点は質問し、確実な理解に到達するまで取り組む。
（2）理論分析の前提条件の妥当性、およびその修正がもたらす結論への影響について考える。
（3）現実社会を前提に、経済理論が提示する結論の有効性とその限界について考える。

講義の順序とポイント

1．効用の性質：基数的効用と序数的効用、各種の効用関数の特徴
2．ライフサイクル理論の基本：貯蓄の決定、利子率の変化の貯蓄への影響
3．ライフサイクル理論の応用：不労所得の変化の貯蓄への影響、ダクラス＝有沢の法則
4．労働供給の経済学１：余暇と労働の選択、ベドニック賃金関数、ワークライフ・バランス
5．労働供給の経済学２：公的年金の労働供給への影響、退職促進効果
6．キャリアの経済学１：人的資本理論、シグナリング理論
7．キャリアの経済学２：サーチ理論、昇進のトーナメント理論
8．貯蓄の経済学１：モダン・ポートフォリオ理論、２ファンド分離定理
9．貯蓄の経済学２：資本資産価格モデル、裁定価格付け理論
１０．リスクの経済学：期待効用理論、リスク選好、標準偏差と期待収益の選択
１１．保険の経済学１：モラルハザード、情報の非対象性、レモンの原理
１２．結婚の経済学：ベッカー・モデル、ヴェイス・モデル、最適停止問題
１３．出生の経済学：ライベンシュタイン・モデル、ベッカー・モデル、イースタリン・モデル
１４．社会保障の経済学１：公的年金、私的年金
１５．社会保障の経済学２：失業保険、労災保険、医療保険、介護保険

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★

年度	2016	授業コード	J72068001
科目名	【院】経済社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Sociology		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、まず近代という時代がいかなる歴史的背景の下に誕生し、そしてどのような特質を持つのかを概観する。次に、そこへ登場する社会構想である自由主義の特徴と限界について考察し、近代のもう一つの体制構想である社会主義についても検討を行う。また、近代民主主義の理念とその変質にも目を向ける。 さらに、戦後西側諸国で指導像とされた福祉国家について、その理想と現実とはどのようなものであったかを考察した上で、近代の転換の方位と新たな社会の原理について展望する。 なお、受講者には毎回事前に配布する資料等を熟読しておくことが求められ、授業の中でその内容等について報告を行ってもらうこともある。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	野尻武敏『第三の道』晃洋書房 野尻武敏『転換期の政治経済倫理序説』ミネルヴァ書房		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	授業内（平常）の課題（小レポート等）(50%)、期末レポート（50%)。		
到達目標	近代社会の特質と近代の体制構想、および経済社会体制の転換の方向について理解する。		
準備学習	予め指示する文献等を熟読し、指定する範囲をレジュメにまとめて毎回の授業時に提出すること。		

受講者への要望

受講者には授業の中でテキスト等の文献の内容について報告を行ってもらうことがあるので、十分な準備（予習）の上で授業に臨むことが求められる。

講義の順序とポイント

1．近代の誕生
2．近代の特性
3．自由主義社会思想
4．自由資本主義の展開
5．体制混合化
6．自由市場経済の諸機能
7．新自由主義の思潮
8．社会主義の新展開
9．近代民主主義社会
10．利益団体と多元社会化
11．福祉国家の形成と挫折
12．高齢化の進行
13．少子化問題
14．近代の原理と社会保障の困難
15．福祉社会の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2016	授業コード	J72073001
科目名	【院】経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	政策主体を巡る議論を整理したのち，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，政策形成過程の問題を取りあげ，経済社会の「三重秩序構想」を紹介する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート（50%）		
到達目標	経済政策論基礎理論についての理解を深める		
準備学習	配付資料に目を通し，関連する経済動向と政策的対応について，新聞報道や雑誌記事等を通じて事前に確認する．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させる			
講義の順序とポイント			
１．日本経済の現況と課題 ２．日本経済の現況と課題 ３．経済社会の多元化と政策主体の多様化 ４．成長政策 ５．分配政策 ６．経済安定化政策 ７．経済安定化政策 ８．経済安定化政策 ９．経済安定化政策 １０．経済安定化政策 １１．政策形成過程 １２．政策形成の担い手 １３．政策形成のパラダイム １４．協調的政策形成 １５．経済社会の三重秩序論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J72074001
科目名	【院】比較経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Comparative Analysis of Economic Policy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	共通する政策課題でも，その対応策は多様である．それぞれの国の歴史的・社会的・経済的な背景が異なるからである．とはいえ，諸外国の政策的取組が参考にならないことはないし，政策にも流行がある．例えば，先進各国で今日広く強調されているのが積極的労働市場政策であり，ワーク・ライフ・バランスである．そのことを通じて労働市場での人間の主権回復が目指されていると言ってもよい．我が国の政策課題を EU の経済社会政策を中心に比較検討する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート(50%)		
到達目標	EU の政策実践と我が国のそれを比較検討し，日本の政策課題と政策提言をまとめる．		
準備学習	欧州統合の拡大と深化が進む中，EU の政策は創意工夫に富んでいる．新聞や雑誌記事等を通じて，欧州委員会の取組を事前に確認する．		
受講者への要望			
政策課題をできるだけ具体的に絞り込み，EU と日本のそれぞれの政策的対応を注視しよう．			
講義の順序とポイント			
１．我が国の経済社会の変容と政策課題 ２．我が国の経済社会の変容と政策課題 ３．我が国の経済社会の変容と政策課題 ４．欧州社会モデル ５．欧州統合の拡大 ６．欧州統合の拡大 ７．欧州統合の深化 ８．欧州統合の深化 ９．欧州統合の深化 １０．リスボン戦略の展開 １１．欧州雇用政策の展開 １２．欧州雇用政策の展開 １３．フレキシキュリティ政策 １４．欧州 2020 １５．福祉国家からワークフェアー国家へ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J72075001
科目名	【院】公共政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Policy		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	「公共性」とは何か、さらに公共の利益をどのような概念で捉え、それを測定可能な具体的指標として何に注目すべきであるのか。これらの問題は、価値判断を伴う規範的アプローチによって捉えていくしかない。すなわち、公共性の問題は公共の哲学から独立には論じ得ない。 また、公共の利益の実現およびその拡大を図る役割の一部は政府が担うが、その政府は不完全であり、政府が公共の利益を損なう場合も生じうる。民主主義社会における政府の意思決定メカニズムに内在する欠陥について、経済学的視点から分析するのが「公共選択論」である。 さらに、現日本社会や国際社会が現実の社会問題を解決するために法的規制や予算編成、あるいは公共サービスの供給を行っているが、それらの背景にある具体的な政策目標や政策理論についても検討していく。		
教材（テキスト）	（1）Muller,D.C., Public Choice Ⅱ, Cambridge University Press. （2）宮本憲一『公共政策のすすめ：現代的公共性とは何か』有斐閣。		
教材（参考文献）	（1）ミューラー,D.C.,『ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ・公共選択の展望』Ⅰ－Ⅲ　関谷・大岩訳　多賀出版。 （2）新藤宗幸『概説日本の公共政策』東京大学出版会。		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内報告 50%　レポート課題 50%		
到達目標	公共性とは何か、公共の利益を実現すべき政府の意思決定における欠陥は何か、現代の日本および国際社会が目指す公共の利益とその政策手段は何か、について効率性を主要な判断基準として理解する。		
準備学習	（1）ミクロ経済学の基礎を復習しておくこと。 （2）配布資料の指定箇所を予習しておくこと。		
受講者への要望			
（1）「公共経済学」と合わせての履修が望ましい。 （2）現代日本の公共政策に関する具体的な課題について、日頃から関心を持って能動的に情報に接する。			
講義の順序とポイント			
第１回：公共性の概念と哲学 第２回：政府とは何か 第３回：政府の失敗とそのメカニズム 第４回：公共選択論（１）投票のルール 第５回：公共選択論（２）投票のパラドックスと中位投票者モデル 第６回：公共選択論（３）選挙制度と政治家の行動 第７回：公共選択論（４）官僚 第８回：公共政策（１）年金・医療・介護 第９回：公共政策（２）労働政策 第１０回：公共政策（３）社会資本整備 第１１回：公共政策（４）公債管理政策 第１２回：国際公共政策（１）国際公共財とは何か 第１３回：国際公共政策（２）地球環境政策 第１４回：国際公共政策（３）途上国の開発援助 第１５回：国際公共政策（４）安全保障			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★	★

年度	2016	授業コード	J72076001
科目名	【院】社会政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、まず社会政策実践およびドイツ語圏における社会政策論の展開を概観することを通じて、社会保障の原理的・思想的基盤について考察を行う。 次に、今日の社会保障制度の中から医療・年金・介護に関する各分野を取り上げ、それらの方法、目的および意義を考察するとともに、少子高齢社会においてそれらが直面する課題について検討を行うことにより、わが国の社会保険制度への理解を深めることを目指す。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	授業内（平常）の課題（小レポート等）(50%)、期末レポート（50%)。		
到達目標	社会保障の意義と社会保険の各制度について理解する。		
準備学習	予め指示する文献等を熟読し、指定する範囲をレジュメにまとめて毎回の授業時に提出すること。		
受講者への要望			
・受講者には指示する文献の内容について授業の中で報告を行ってもらうことがあるので、十分な準備（予習）の上で授業に臨むことが求められる。 ・学部在学中に「社会政策」（または「社会保障論」等の社会保障をテーマにした科目）を受講し単位取得済みであることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. 社会保障の制度と定型 2. 社会政策から社会保障へ 3. 社会政策の構造機能 4. 社会保障と補完性原則 5. 社会保険の概要 6. 医療保険の概念と制度体系 7. 健康保険 8. 国民健康保険 9. 公的年金制度の体系と意義 10. 国民年金 11. 厚生年金 12. 公的年金制度と高齢化 13. 介護と社会保険 14. 介護保険の基礎知識 15. 介護保険制度の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J72079001
科目名	【院】金融政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Monetary Policy		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融政策の具体的手法について学び、マクロ経済の動向、金融政策と景気変動、マネーストックと実体経済の関係についての理解を深める。本年度はいま注目されている、アベノミクスについて学び、日本経済の長期デフレと金融政策の関係を中心に講義するが、これまで世界で起きたさまざまな金融危機についても学ぶ。講義は出席を重視するので、休まないでほしい。		
教材（テキスト）	Frederic Mishkin, The Economics of money, Banking and Financial Markets, Addison Wesley、 2008		
教材（参考文献）	P.Howels and K. Bain, The Economics of Money, Banking and Finance, Second. Ed. Prentice Hall, 2002. L. Jonung, J. Kiander, and P. Varita, The Great Financial Crisis in Finland and Sweden, Edward Elger, 2009.		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融政策全般の知識を習得し、金融危機などの現実問題に自分なりの意見を持てるようにする。		
準備学習	毎回つぎの時間の講義資料を提供するので、事前に予習をよくしておくこと。		
受講者への要望			
日々新聞の経済記事をよく読み、経済の現状を把握していること。宿題を多くだすので、その提出を怠らないこと。			
講義の順序とポイント			
１．　金融政策とは何か ２．　日本銀行の金融調節 ３．　高度成長と金融① ４．　高度成長と金融② ５．　バブル経済と金融① ６．　バブル経済と金融② ７．　金融自由化と金融危機① ８．　金融自由化と金融危機② ９．　アメリカの S&L 金融危機 １０．　メキシコの金融危機 １１．　北欧の金融危機① １２．　北欧の金融危機② １３．　東アジア金融危機 １４．　サブプライムローンと金融危機 １５．　1930 年代の世界大恐慌			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72090001
科目名	【院】技術戦略論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	21 世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業には、いまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。それら産業競争力の強化の一つの手段として、企業の技術経営における「技術戦略」は重要な位置付けであると考えられる。本講義では「技術戦略」についての知識を習得し企業の技術経営の事例等を学習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義で適時指示する。		
教材（その他）			
評価方法	レポート(60%)+平常点(40%)		
到達目標	技術経営に関する知識の習得。		
準備学習	技術経営、技術戦略の興味ある事例を予習しておくことが望ましい。		

受講者への要望

1)　講義には積極的な質疑応答を心がけるんど能動的な姿勢で出席すること。
2) 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める。

講義の順序とポイント

1　技術戦略論とは
2　市場ニーズに基づいた技術経営の必要性
3　技術と競争優位
4　技術戦略と事業化
5　価値連鎖と技術戦略
6　術戦略決定のプロセス
7　キーテクノロジーの抽出
8　将来的技術変化の分析
9　自社技術の評価・技術取得に関する優先順位の決定
10　競争優位の源泉としての技術戦略
11　優れた資産と特徴的な能力
12　戦略的連携
13　不確定性の中での意思決定
14　4 つの代替オプション
15　技術投資の意思決定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	★	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J72091A01
科目名	【院】技術移転論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業にはいまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は重要な位置付けであると考えられている。 　本演習にて「業界別のニーズ事例調査」、「大学発ベンチャーの事例調査」などの「技術移転」についての事例を調査演習をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	演習時に適宜指示		
教材（その他）			
評価方法	レポート(60%)＋平常点(40%)		
到達目標	技術移転に関する知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を予習しておくこと。		
受講者への要望			
１）講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1　演習の内容と進め方 2　業界別のニーズ事例調査演習(1) 3　業界別のニーズ事例調査演習(2) 4　業界別のニーズ事例調査演習(3) 5　大学発ベンチャーの事例調査演習(1) 6　大学発ベンチャーの事例調査演習(2) 7　大学発ベンチャーの事例調査演習(3) 8　日本の技術移転の事例調査演習(1) 9　日本の技術移転の事例調査演習(2) 10 日本の技術移転の事例調査演習(3) 11 日本の技術移転の事例調査演習(4) 12 演習レポート作成(1) 13 演習レポート作成(2) 14 演習レポート作成(3) 15　演習レポート発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J72091B01
科目名	【院】技術移転論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	現代の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業にはいまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は重要な位置付けであると考えられている。 本演習にて「地域資源」についての事例を調査研究し、地域資源に関する産学官連携事例、地域との連携事例等に関し演習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	演習時に適宜指示		
教材（その他）			
評価方法	レポート(60%)＋平常点(40%)		
到達目標	技術移転に関する知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を予習しておくこと。		
受講者への要望			
１）講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1　演習の内藤と進め方 2　地域資源について事例調査演習(1) 3　地域資源について事例調査演習(2) 4　地域資源について事例調査演習(3) 5　地域資源について事例調査演習(4) 6　地域と大学の連携事例調査演習(1) 7　地域と大学の連携事例調査演習(2) 8　地域と大学の連携事例調査演習(3) 9　地域社会への技術移転の事例調査演習(1) 10 地域社会への技術移転の事例調査演習(2) 11 地域社会への技術移転の事例調査演習(3) 12 演習レポート作成(1) 13 演習レポート作成(2) 14 演習レポート作成(3) 15 演習レポート発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J72122A01
科目名	【院】金融経済論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Finanial Economics A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	演習では、受講者と相談の上、研究タイトルを決め、それに従って論文指導を実施する。ただし、金融危機に関するものでなくてはならない。1 年目は論文の基礎として、1985 年のプラザ合意以降、わが国でどのようにバブルが発生し、その後日本経済が長期のデフレ不況に陥っていったかを研究する。また、それと関連して、1930 年代に生じたアメリカ大恐慌についても研究をする。		
教材（テキスト）	田中隆之『現代日本経済：バブルとポストバブルの奇跡』日本評論社		
教材（参考文献）	若田部　『危機の経済政策』　日本評論社 小川一夫　『失われた 10 年の真実』　東洋経済新報社 藤井真理子　『金融革新と市場危機』　日本経済新聞社 伊藤隆敏他　『ポスト平成不況の日本経済』　日本経済新聞社 村松・奥野　『平成バブルの研究上,下』　東洋経済新報社 浜田・原田　『長期不況の理論と実証』　東洋経済新報社 深尾　『マクロ経済と産業構造』　慶応大学出版会 池尾　『不良債権と金融危機』　慶応大学出版会 吉川　『バブル・デフレ期の日本経済と金融政策』　慶応大学出版会 星・カシャップ　『日本金融システム進化論』　日本経済新聞社		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融危機についての基本的理解ができること。		
準備学習	毎時間与えられるアドバイスに従い、次回の講義までに論文の修正をすること。		
受講者への要望			
論文作成に専念すること。			
講義の順序とポイント			
論文完成を目指して、その準備をおこなう。 1.日本のマクロ経済構造 2.日米経済摩擦の展開とプラザ合意 3.政策協調と財政金融政策 4.円高の役割 5.金融自由化のインパクト 6.金融監視と規律の欠如 7.バブルと金融機関行動 8.バブルと資産価格高騰とそのメカニズム 9.バブルと実体経済 10.バブルの崩壊過程 11.その理念 12.経済主体の行動 13.不良債権問題の発生と展開 14.金融機関の破綻処理 15.量的金融緩和政策とその効果について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72122B01
科目名	【院】金融経済論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Finanial Economics B		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	演習Ａに準ずる。　演習では、受講者と相談の上、研究タイトルを決め、それに従って論文指導を実施する。ただし、金融危機に関するものでなくてはならない。1 年目は論文の基礎として、1985 年のプラザ合意以降、わが国でどのようにバブルが発生し、その後日本経済が長期のデフレ不況に陥っていったかを研究する。また、それと関連して、1930 年代に生じたアメリカ大恐慌について研究をする。		
教材（テキスト）	ミルトン・フリ-ドマンとアンナ・シュウォ－ツ『大収縮 1929-1933』日経ＢＰクラシックス		
教材（参考文献）	Ben Bernanke, Essays on the Great Depression, Prenceton University, 2000. Edward Chancellor,　Devil Take the Hindmost:: A History of Financial Speculation（山岡訳『バブルの歴史』日経ＢＰ社） Ｆ. Allen, Only Yesterday--A Informal History of the Nineteen Twenties, New York, Harper and Brothers. Peter Temin, Did Monetry forces Cause the Great Depression ?, W.Norton, 1976. Peter Temin, Lessons From the Great Depresion, Cambridge, 1989. C. Kindleberger, Maniacs, Panics and Crashes, Basic books Inc., NY.1989. パ-カ-『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融危機について自分の意見が語れること。		
準備学習	毎日かなり多くの資料、文献を読むことが要求される。		
受講者への要望			
金融危機の解明に情熱が持てること。英語の文献を読む機会が多いので、英語の読解力があること。			
講義の順序とポイント			
論文完成を目指して、その準備をおこなう。 １．　１９２０年代のアメリカ ２．　金本位制の問題 ３．　金融仮説とフリードマン① ４．　金融仮説とフリードマン② ５．　バーナンキの貸付仮説① ６．　バーナンキの貸付仮説② ７．　B.ストロングの死と金融政策 ８．　金融政策指標と大恐慌 ９．　真正手形ドクトリン １０．　ケインズと大恐慌 １１．　ルーズベルトの金融改革① １２．　ルーズベルトの金融改革② １３．　37 年の出口問題 １４．　第二次世界大戦は恐慌を終了させたか。 １５．　来年度の研究方針			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	*	**

年度	2016	授業コード	J72154A01
科目名	【院】租税論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax Policy A		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	本演習では租税論および租税法の基礎的・体系的理解を深めることを目的とする。わが国の税制は国税だけでも法人税、所得税、相続税、消費税等々その範囲が膨大でその全体を理解するのは容易ではない。それぞれの税目を概観しながら、わが国税制の現状と問題点を考察する。		
教材（テキスト）	林正寿著『租税論』有斐閣		
教材（参考文献）	江島一彦編『図説日本の税制（平成 27 年度版)』　財経詳報社 金子宏著『租税法（最新版)』　弘文堂		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	わが国の税制を体系的に理解し、現状と問題点を把握する。		
準備学習	税制に関する基礎的な文献や、新聞報道などを関心をもって読むこと。		
受講者への要望			
授業中の活発な議論を期待する。			
講義の順序とポイント			
1．わが国の税制の概要 2．租税制度の変遷（1） 3．租税制度の変遷（2） 4．租税制度の変遷（3） 5．租税制度の現状（所得税 1） 6．租税制度の現状（所得税 2） 7．租税制度の現状（法人税 1） 8．租税制度の現状（法人税 2） 9．租税制度の現状（法人税 3） 10.租税制度の現状（法人税 4） 11.租税制度の現状（消費税 1） 12.租税制度の現状（消費税 2） 13.租税制度の現状（消費税 3） 14.国際課税制度 15.最近の税制改正			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72154C01
科目名	【院】租税論演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax policy C		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	租税論に関する受講者各自の研究テーマに基づき、個別論点を掘り下げ、修士論文にまとめ完成させることを目的とする。論文とレポートとの違いは問題意識の有無にある。常に社会・経済の動きを注視し、高い問題意識を持って、現行税制の現状と問題点を洞察し、あるべき税制の姿まで踏み込んだ論文作成が望まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	現行税制の問題点を掘り下げ、あるべき税制の姿を探求し、修士論文を完成する。		
準備学習	研究テーマに関する広範な文献、租税判例、資料を読破する。		

受講者への要望

社会変化を見据え、高い問題意識を持って研究テーマを探求すること。

講義の順序とポイント

1. 研究テーマと研究計画の検討（1）
2. 研究テーマと研究計画の検討（2）
3. 研究テーマと研究計画の検討（3）
4. 研究テーマに関する先行研究の報告と議論（1）
5. 研究テーマに関する先行研究の報告と議論（2）
6. 研究テーマに関する先行研究の報告と議論（3）
7. 修士論文の進捗状況の報告と議論（1）
8. 修士論文の進捗状況の報告と議論（2）
9. 修士論文の進捗状況の報告と議論（3）
10. 修士論文の各章の報告と議論（1）
11. 修士論文の各章の報告と議論（2）
12. 修士論文の各章の報告と議論（3）
13. 修士論文の章構成の報告と議論（1）
14. 修士論文の章構成の報告と議論（2）
15. 夏季休暇中の研究計画の確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72154D01
科目名	【院】租税論演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax policy D		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	租税論に関する受講者各自の研究テーマに基づき、個別論点を掘り下げ、修士論文にまとめ完成させることを目標とする。社会・経済の動きを注視し、高い問題意識を持って、現行税制の現状と問題点を洞察し、あるべき税制の姿まで踏み込んだ論文作成が望まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（30%）　修士論文の内容（70%）		
到達目標	わが国の現行税制の問題点を掘り下げ、あるべき税制の姿を探求する修士論文を完成する。		
準備学習	研究テーマに関する広範な文献、租税判例、資料を読破する。		

受講者への要望

修士論文作成にあたっては、数多くの文献等にあたり、先行研究を読み込むことが必要なことはいうまでもないが、研究テーマを広げすぎると論文としてまとまらない。極力テーマを絞込み、掘り下げることが肝要である。また、思考とともに、常に手を動かし文章化作業を進めていくことが重要である。

講義の順序とポイント

1. 夏季休暇中の修士論文進捗状況の報告
2. 修士論文の全体構想の報告と議論（1）
3. 修士論文の全体構想の報告と議論（2）
4. 修士論文の全体構想の報告と議論（3）
5. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（1）
6. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（2）
7. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（3）
8. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（4）
9. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（5）
10. 修士論文全体の草稿の報告と議論（1）
11. 修士論文全体の草稿の報告と議論（2）
12. 修士論文全体の草稿の報告と議論（3）
13. 修士論文全体の草稿の報告と議論（4）
14. 修士論文全体の草稿の報告と議論（5）
15. 参考文献目録等を含めた修士論文の最終検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72155B01
科目名	【院】租税論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax Policy B		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	本演習では、租税論演習Ａで学んだ知識のうえに立ち、受講者の関心のある税目につき、より掘り下げた個別問題を研究する。基本書や研究論文等の講読や、判例研究を地道に行うことを第一歩として、その上で高い問題意識を持って、個別論点の検討を行うことによって、修士論文にふさわしいテーマを見出すことが望まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル１（所得税編）』　税務経理協会 三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル２（法人税編）』　税務経理協会 三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル３（相続税・消費税編）』　税務経理協会		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	わが国の税制を体系的に理解し、現状と問題点を把握する。		
準備学習	税制に関する基礎的な文献や、新聞報道などを関心をもって読むこと。		
受講者への要望			
授業中の活発な議論を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．所得税の現状と問題点（１） ２．所得税の現状と問題点（２） ３．所得税の現状と問題点（３） ４．法人税の現状と問題点（１） ５．法人税の現状と問題点（２） ６．法人税の現状と問題点（３） ７．法人税の現状と問題点（４） ８．法人税の現状と問題点（５） ９．法人税の現状と問題点（６） 10.消費税の現状と問題点（１） 11.消費税の現状と問題点（２） 12.消費税の現状と問題点（３） 13.資産税の現状と問題点（１） １４.資産税の現状と問題点（２） １５.資産税の現状と問題点（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72159001
科目名	【院】マクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics		
担当者名	寺本　博美	旧科目名称	
講義概要	私たちが直面する重大な経済問題を考えるときに，経済学の考え方がどれほど役立つか，マクロ経済学を学ぶことで現実の世界の理解を進めることができる。 本講義ではマクロ経済学における長期分析（経済成長，自然失業率，持続的インフレーション，国債の影響など）に関するモデルを理解する。		
教材（テキスト）	『マンキュー　マクロ経済学（第 3 版）II　応用編』東洋経済新報社		
教材（参考文献）	『マンキュー　マクロ経済学（第 3 版）I　入門編』東洋経済新報社。その他講義時に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	演習問題や宿題 50%，平常点 50%		
到達目標	1　マクロ経済学の基本的な考え方や基礎理論を理解し，整合的に説明することができる。 2　マクロ経済学とミクロ経済学との間のつながりを理解できる。 3　修士論文を完成させるためのツールとして活用できる。		
準備学習	1　講義終了時に，次回の範囲を指定するので予習しておくこと。 2　講義終了時に，演習課題，宿題を指定するので，次回講義開始時に提出すること。		

受講者への要望

(1)能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。
(2)無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

(1)科学としてのマクロ経済学
(2)短期の経済：景気循環理論
(3)経済成長 I：資本蓄積と人口成長
(4)経済成長 II：技術・実証・政策
(5)マクロ経済政策論争 1：安定化政策
(6)マクロ経済政策論争 2：政府負債と財政赤字
(7)マクロ経済学のミクロ的基礎（消費）1：ケインズとフィッシャー
(8)マクロ経済学のミクロ的基礎（消費）2：モディリアーニとフリードマン
(9)マクロ経済学のミクロ的基礎（消費）3：ホールとレイブソン
(10)マクロ経済学のミクロ的基礎（投資）1：トービン
(11)マクロ経済学のミクロ的基礎（投資）2：住宅投資，在庫投資
(12)貨幣供給，貨幣需要と銀行システム
(13)総需要と総供給の動学モデル 1：モデルの要素と解
(14)総需要と総供給の動学モデル 2：モデルの利用
(15)マクロ経済学の最重要な教訓と未解決の問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72160001
科目名	【院】マクロ経済分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomic Analysis		
担当者名	寺本　博美	旧科目名称	
講義概要	私たちにとって直面する重大な経済問題を考えるときに，経済学の考え方がどれほど役立つかを知ることはより良き人生をすごすために大切である。マクロ経済学を学ぶこと，同時に実際を分析し現実の世界の理解を進めることでこの目的を達成することができる。本講義ではマクロ経済学における分析モデルを学修するが，経済成長，自然失業率，持続的インフレーション，国債の影響などに関するモデルを数量的あるいは計量的に理解する。		
教材（テキスト）	『ジョーンズ　マクロ経済学 1 長期成長編』東洋経済新報社		
教材（参考文献）	講義に沿って適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	演習問題や宿題 50%，平常点 50%		
到達目標	1　マクロ経済学の基本的な考え方や基礎理論を理解し，計量的に整合的に説明することができる。 2　マクロ経済学とミクロ経済学との間のつながりを理解できる。 3　修士論文を完成させるためのツールとして活用できる。		
準備学習	1　講義終了時に，次回の範囲を指定するので予習しておくこと。 2　講義終了時に，演習課題，宿題を指定するので，次回講義開始時に提出すること。		
受講者への要望			
1　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。 2　無断欠席は厳禁である。			
講義の順序とポイント			
(1)マクロ経済学の見方と計測 (2)経済成長：経済成長とは，生産関数 (3)新古典派成長論：ソロー・モデル (4)内生的成長論 1：ローマー・モデル (5)内生的成長論 2：成長会計 (6)労働市場：労働需要と労働供給 (7)インフレーション：実質利子率と期待 (8)金融政策と物価：フィリップス曲線 (9)短期モデル：IS 曲線とモデル分析 (10)AS-AD 分析：安定化政策 (11)マクロ経済学のミクロ的基礎 1：消費行動 (12)マクロ経済学のミクロ的基礎 2：投資行動 (13)財政政策：政府の役割と財政赤字 (14)社会保障と人口動態 (15)マクロ経済統計における最重要な教訓と未解決の問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72161001
科目名	【院】情報科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のネットワーク社会の安全を守る基本的な技術として暗号があります。この講義では暗号の理論的な基礎であ る初等整数論の話を表計算ソフト Excel を使って学びます。それを踏まえて公開鍵暗号方式の仕組みと安全性を考 察します。また、実際のネットワーク環境での利用方法を実習します。		
教材（テキスト）	靍浩二著「Excel で学ぶ暗号技術入門」オーム社 2808 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点すなわち授業姿勢(40%)と、授業内レポートとレポート(60%)で評価します。		
到達目標	暗号技術について、実社会での意味と、具体的技術的な内容を把握することです。		
準備学習	現代社会におけるセキュリティ技術やネットワークにおける脅威・事件を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。		
受講者への要望			
数学の計算を厭わないことと、コンピュータの操作が一通り出来ることです。懇切丁寧なテキストを採用していますので毎回予習して おいてください。			
講義の順序とポイント			
講義の順序は 1. 暗号入門 2. 初等整数論 1 3. 初等整数論 2 4. 初等整数論 3 5. 暗号技術(1)共通鍵暗号 6. 暗号技術(2)公開鍵暗号 7. 暗号技術(3)ハッシュ関数とデジタル署名 8. 暗号攻撃方法 9. 情報セキュリティ技術(1)電子認証技術 10. 情報セキュリティ技術(2)SSL 11. 情報セキュリティ技術(3)SSH 12. 情報セキュリティ技術(4)IPSec 13. ネットワーク社会と暗号 14. 量子暗号 15. 暗号技術の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J72162001
科目名	【院】経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	アダム・スミスに始まるイギリス古典派経済学を中心に講義をおこなう。「現代経済学」の源流はスミスの『国富論』(1776 年)に求められ、このスミスからリカードウとマルサスをへて、Ｊ．Ｓ．ミルにいたる系譜をイギリス古典派経済学と呼んでいる。 この講義では、サミュエル・ホランダー著『古典派経済学』をテキストにして、イギリス古典派経済学の系譜をスミスからミル、そしてマルクスまでたどり、(i)「価値と分配の理論」、(ii)「資本・雇用・成長理論」、(iii)「経済学方法論」という三つの視点から講義を行う予定である。		
教材（テキスト）	サミュエル・ホランダー著（千賀重義他訳）『古典派経済学』（多賀出版）1991 年		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち―先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫：2001 年）、同編『経済学の巨人たち―危機と闘う』（同上：2012 年）、同編『経済学４１の巨人－古典から現代まで』（日本経済新聞社：2014 年）		
教材（その他）	毎回講義資料を配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	教科書を予習してくることは当然のこととして、教科書に出てくるスミス、マルサス、リカードウ、Ｊ．Ｓ．ミル、マルクスといった人物の経済学上の古典については、翻訳でもよいので、直接原典にあたって学習する習慣を身につけてもらいたい。		
受講者への要望			
講義でとりあげるイギリス古典経済学の著作であれば翻訳でもいいので、少なくとも 1 冊は通読するすることも求めたい。			
講義の順序とポイント			
１．経済学史におけるイギリス古典派経済学の位置 ２．アダム・スミスの先行者たち ３．重農主義者たち ４．価値と分配の理論(1)： スミス ５．価値と分配の理論(2)： リカードウ ６．価値と分配の理論(3)： Ｊ・S・ミル ７．資本・雇用・成長理論(1)： スミス ８．資本・雇用・成長理論(2)： リカードウ ９．資本・雇用・成長理論(3)： Ｊ・S・ミル １０．貨幣と銀行 １１．経済学方法論(1) １２．経済学方法論(2) １３．経済学方法論(3) １４．マルクス経済学の古典的特徴 １５．古典派経済学から近代経済学へ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J72163001
科目名	【院】近代経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Modern Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	1870 年代は古典派経済学が解体し、それを契機としてマルクス経済学と近代経済学が成立した時代である。限界革命をもって始まった近代経済学は、1930 年代にケインズ経済学が登場することよって危機の時代を乗り切り、さらに今日の新古典派経済学は、「環境」「教育」「医療」「政治」といった社会のあらゆる分野にまで考察領域を拡大し、進化を続けている。こうした近代経済学の成立と発展の過程を現代まで紹介することが、本講義の課題である。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、配布する講義資料によって授業を進める。		
教材（参考文献）	菱山泉『近代経済学の歴史―マーシャルからケインズまで』（講談社学術文庫：1997 年） 馬渡尚憲『経済学史』（有斐閣：1997 年）		
教材（その他）	講義資料やプリントを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	この講義では、「限界革命」に始まる近代経済学の発展を現代までたどり、時代的制約を免れえない経済学の科学としての問題性を解明するとともに、現代社会の諸問題を解決しうる新しい経済学とはどうあるべきかについて探求することを、あわせて目標とする。		
準備学習	テキストは使用しないので、教材として指示した参考文献、さらには事前に配布する講義資料に必ず目を通しておくこと。		
受講者への要望			
授業や参考文献に出てくる経済学の古典的文献のなかで、とくに翻訳があるものについては、可能なかぎり原典に直接あたることを求める。			
講義の順序とポイント			
１．「限界革命」と近代経済学の成立 ２．ジェヴォンズ ３．メンガー ４．ワルラス ５．ケンブリッジ学派――マーシャルとピグー ６．シュンペーターの経済学 ７．ヴェブレンと制度派経済学 ８．ケインズ革命(1) ９．ケインズ革命(2) １０．ケインズ革命(3) １１．新古典派的総合――サミュエルソン １２．新古典派経済学の諸潮流(1) １３．新古典派経済学の諸潮流(2) １４．新古典派経済学の諸潮流(3) １５．新古典派経済学批判の新潮流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J72164001
科目名	【院】社会経済史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Social Economy		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	今日、中華人民共和国政府が進めている「一帯一路」政策は、かつてのシルクロードを念頭に置いたものだとされる。そこで、シルクロードの歴史について考えることにする。		
教材（テキスト）	森安孝夫(2007)『シルクロードと唐帝国』講談社。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	シルクロードを多面的に理解する。		
準備学習	上記の教材を前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

中国の蚕糸業も取り上げるので、史料を読むために中国語が理解できなければならない。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　シルクロードとは何か
3　シルクロード史観論争
4　ソグド人の社会と商業
5　ソグド＝ネットワーク
6　ソグド人の東方への進出
7　多民族国家・唐
8　唐の最盛期
9　唐と西域
10　唐代の奴隷市場
11　唐と突厥
12　ウイグルの登場
13　ソグド＝ネットワークの変質
14　シルクロード貿易の実態①
15　シルクロード貿易の実態②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	-	-

年度	2016	授業コード	J72165001
科目名	【院】西洋経済史	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	大航海時代に世界経済が一体化していく過程を跡付けていきます。具体的には、スペイン領アメリカから持ち出された銀と中国（明朝）から持ち出された絹織物や陶磁器がフィリピンで交換された事例などについて検討を加えます。		
教材（テキスト）	網野徹哉（2008）『インカとスペイン　帝国の交錯』講談社。 増田義郎（2008）『大航海時代』河出書房新社。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	大航海時代とはどのような時代だったのかを理解する。		
準備学習	上記の教材（テキスト）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
上記の教材（テキスト）はいずれも本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　陸の道と海の路 3　地中海世界とインド洋 4　インド洋世界の発展 5　騎士・商人・伝道者 6　ジェノヴァとポルトガル 7　コロンブスとインディアス 8　ポルトガルのアジア進出 9　香料諸島をめぐる争い 10　大航海時代と近代世界 11　征服者と被征服者 12　植民地社会の形成 13　インカ王朝の終焉 14　銀を運んだ道 15　アメリカ大陸とアジア世界の交流			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	-	-

年度	2016	授業コード	J72168001
科目名	【院】交通経済論	単位数	2
科目名（英語表記）	Transportation Economics		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	交通に限らずさまざまな社会経済活動に対する規制のありかたを主としてミクロ経済学と市場の失敗に基づいて議論する論文を書く履修者について、その論文作成を指導します。 テーマは受講者の興味に応じて相談のうえきめます。		
教材（テキスト）	大学院の授業であり、かつ演習授業なので、教科書は使いません。		
教材（参考文献）	受講者の発表テーマが決まり次第、考えた場合は適宜指示しますが、学生自身が探してくることが基本です。		
教材（その他）	教材（テキスト）および参考文献に同じ。		
評価方法	半期に１本、修士論文の１章になり得る程度の論文を書くことを求め、基本的にはその内容によって判断します(100%)。 無論、礼儀作法、執筆意欲など常識的な項目はここに記すまでもありませんが、当然、それが備わっていない学生は論文提出を認めません（100%)。		
到達目標	修士論文を書くための補助作業になり得ること。具体的には修士論文の１章となり得る論文を書くこと。		
準備学習	発表の準備。言わずもがなですが。論文の進展に応じて当然、次回の発表内容を指示します。		

受講者への要望

テーマについては相談に応じますが、ミクロ経済学の基本的知識、できれば、公共経済学の基本的知識があることと、学術的な修士論文を書く意欲が求められます。

講義の順序とポイント

1．研究テーマについての相談
2．履修者による発表とコメント、議論
3．履修者による発表とコメント、議論
4．履修者による発表とコメント、議論
5．履修者による発表とコメント、議論
6．履修者による発表とコメント、議論
7．履修者による発表とコメント、議論
8．履修者による発表とコメント、議論
9．履修者による発表とコメント、議論
10．履修者による発表とコメント、議論
11．履修者による発表とコメント、議論
12．履修者による発表とコメント、議論
13．履修者による発表とコメント、議論
14．履修者による発表とコメント、議論
15．履修者による発表とコメント、議論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J72169001
科目名	【院】租税論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Policy		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	本講義では租税論の重要問題について理解を深めることを目的とする。租税は経済や国民生活に直結する極めて重要なものであり、その正しい理解は不可欠である。とくに将来税理士等の職業会計人を目指す者にとっては、租税の理論的、体系的な理解は必須である。公平・中立・簡素の租税原則、租税の転嫁と帰着などの基本問題の十分な理解のうえに立って、今後のあるべき税制の姿を議論して行きたい。		
教材（テキスト）	井堀利宏著『要説：日本の財政・税制（4 訂版)』　税務経理協会 林　正寿著『租税論』　有斐閣		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	授業中の報告や議論内容（50%）、レポート（50%）		
到達目標	わが国の租税体系を理解し、所得税、法人税、消費税などの主要税目のしくみや問題点を理解する。		
準備学習	税制に関する入門書（『図解　日本の税制（最新版)』財務詳報社など）を読んでおくこと。		

受講者への要望

授業中の活発な議論を期待する。

講義の順序とポイント

1. 租税の意義
2. 租税の経済理論
3. 租税原則
4. 租税の種類、わが国の租税体系
5. 所得税の概要
6. 所得税の課税標準
7. 法人税の概要
8. 法人税の課税標準
9. 法人税の課税所得の計算原理（１）
10. 法人税の課税所得の計算原理（２）
11. 消費税の概要
12. 消費税の課題
13. 国際課税
14. 組織再編税制
15. 税務執行と租税回避

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72170001
科目名	【院】租税制度論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Taxation System		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	本講義では、主に租税制度の変遷過程を学ぶことを通じて、わが国における租税制度の重要問題についての理解を深めることを目的とする。経済活動のグローバル化の進展に対応して、所得課税においては近年の税制改革は税率引き下げ、課税ベース拡大の方向にある。一方で、消費税の導入、税率引き上げ等で消費課税のウェイトが高まっている。現在わが国では税収入が一般会計歳出の 50％を下回り、巨額の国債残高をかかえ財政危機に陥っている中にあって、今後のあるべき税制について議論していきたい。資産課税においては、従前から現行の相続税の課税方式の見直しが議論されている。また、昨年の基礎控除の引下げで課税対象者が倍増する状況となっている。これらについても事業承継問題と関連させながら検討する。		
教材（テキスト）	山本守之著『租税法の基礎理論』　税務経理協会		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業内容に沿ったレジュメを適宜配布する。		
評価方法	授業中の報告や議論内容（50%）、レポート（50%）		
到達目標	わが国の租税制度の変遷を理解し、今後のあるべき税制の姿を探求することを目的とする。		
準備学習	税制に関する入門書（とくに相続税関係）を読んでおくこと。		
受講者への要望			
授業中の活発な議論を期待する。			
講義の順序とポイント			
1．租税の意義 2．租税理論の変遷 3．租税制度の沿革（1） 4．租税制度の沿革（2） 5．シャウプ勧告による税制 6．第１次税制改革（昭和６１年） 7．第２次税制改革（平成６年） 8．第３次税制改革（平成１０年） 9．連結納税制度 10.財政再建 11.資産課税の変遷 12.相続税の概要 13.財産評価の概要 14.事業承継税制 15.今後の税制改革			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72171A01
科目名	【院】計量経済学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Econometrics A		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	日本経済の計量モデルや国際モデルなどできるだけ多くの現実のモデルを例題として、その構造を理論面、実証面から解析する。また、それに基づいて、実際に自分で類似のモデルを構築してみる。それらの作業を通じて、モデルビルダーとしての力量を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表内容による(100%)		
到達目標	計量経済モデルに対する理解と実践		
準備学習	統計学の入門テキスト、EViews の解説書を読んでおくこと。 適宜課題を与えるので、それを詳細に調べてくること		
受講者への要望			
特に無い			
講義の順序とポイント			
受講者と共にモデリングに取り組む 第１回　ガイダンス 第２回　回帰分析入門(EViews 入門) 第３回　EViews その２ 第４回　EViews その３ 第５回　重回帰分析 第６回　重回帰分析その２ 第７回　重回帰分析とその解釈 第８回　社会データを用いた事例分析 第９回　事例分析その２ 第１０回　論文様式の発表とチェック 第１１回　論文様式の発表とチェック 第１２回　重回帰分析の応用 第１３回　応用その２ 第１４回　分析の発表 第１５回　分析の発表と討議			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J72171B01
科目名	【院】計量経済学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Econometrics B		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	日本経済の計量モデルや国際モデルなどできるだけ多くの現実のモデルを例題として、その構造を理論面、実証面から解析する。また、それに基づいて、実際に自分で類似のモデルを構築してみる。それらの作業を通じて、モデルビルダーとしての力量を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常の発表内容による(100%)		
到達目標	計量経済モデルに対する理解と実践		
準備学習	統計学の入門テキスト、EViews の解説書を読んでおくこと。 適宜課題を与えるので、それを詳細に調べてくること		
受講者への要望			
特に無い			
講義の順序とポイント			
受講者と共にモデリングに取り組む 第１回　ガイダンス 第２回　回帰分析入門(EViews 入門) 第３回　EViews その２ 第４回　EViews その３ 第５回　重回帰分析 第６回　重回帰分析その２ 第７回　重回帰分析とその解釈 第８回　社会データを用いた事例分析 第９回　事例分析その２ 第１０回　論文様式の発表とチェック 第１１回　論文様式の発表とチェック 第１２回　重回帰分析の応用 第１３回　応用その２ 第１４回　分析の発表 第１５回　分析の発表と討議			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J72172A01
科目名	【院】時系列解析演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Time Series Analysis A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済時系列データの解析手順を修得する。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	縄田和満、「EViews による計量経済分析入門」、朝倉書店、２００９		
教材（その他）			
評価方法	4 回のレポートを評価(大きなテーマごと、各 25%)		
到達目標	経済時系列データの解析手順を修得する。VAR モデルの理解。		
準備学習	数学やコンピュータの理解は慣れてくれば出来る。経済学の基礎勉強が欠かせない。 事前学習：金融論、マクロ経済学を理解しておくこと。 事後学習：参考文献を 1 年次演習終了までに読み終えておくこと。		
受講者への要望			
経済学の基礎をよく勉強しておいてほしい。			
講義の順序とポイント			
1.VAR モデルの作成 2.同上 3.同上 4.同上 5.日本のマクロデータへの応用 6.同上 7.同上 8.同上 9.ヨーロッパのマクロデータへの応用 10.同上 11.同上 12.同上 13.株式データへの応用 14.同上 15.同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J72172B01
科目名	【院】時系列解析演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Time Series Analysis B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	VEC モデルの理解と作成方法の習得、同時方程式モデルの理解と IV 法の習得		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	Hamilton,J.D., "Time Series Analysis"		
教材（その他）			
評価方法	レポート（複数回）		
到達目標	VEC モデルの作成、同時方程式モデルの作成		
準備学習	経済学の勉強 事前学習：縄田和満「EViews による計量経済学分析入門」を読んでおくこと。 事後学習：Hamilton の"Time Series Analysis"の該当箇所（指示する）を読んで理解しておくこと。		
受講者への要望			
数学は気にせず、経済学的な意味合いを理解することが重要。			
講義の順序とポイント			
1.VEC モデルの作成 2.同上 3.同上 4.日本、ヨーロッパ、USA のマクロデータへの応用 5.同上 6.同上 7.同時方程式モデルの作成 8.同上 9.同上 10.株日本、ヨーロッパ、USA のマクロデータへの応用 11.同上 12.同上 13.不況時のマクロマネー系（金融不安要因の導入） 14.同上 15.同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J72173A01
科目名	【院】経済学史演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Economic Thought A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	「経済学の父」とよばれるアダム・スミスが 1776 年に刊行した『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包含する、壮大な経済学体系であり、全部で 5 編からなっている。本演習 A では第 1・第 2 編の経済理論をとりあげ、その内容を現在の経済理論と比較しながら検討することにしたい。		
教材（テキスト）	アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・前 4 分冊）[第 1・第 2 分冊]		
教材（参考文献）	授業前に適宜指示する。		
教材（その他）	必要な資料については適宜プリントして配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	演習での古典文献の読解を通じて、修士論文作成に必要な基本的な学習能力と学習方法の習得を目標とする。		
準備学習	受講生は、テキストと指示された参考う文献をしっかり予習して授業に臨むこと。また報告を指示された受講生については、指定された当該範囲のレジュメを準備して演習に参加すること。		

受講者への要望

テキストは、水田洋監訳『国富論』（岩波文庫）を使用するが、受講生はつねに『国富論』の原文に直接あたる習慣を身につけるように求める。

講義の順序とポイント

１．『国富論』体系について
２．分業論(1)
３．分業論(2)
４．貨幣論
５．価値論(1)
６．価値論(2)
７．価格と市場理論(1)
８．価格と市場理論(2)
９．賃金論
１０．利潤論
１１．地代論
１２．資本の理論(1)
１３．資本の理論(2)
１４．資本蓄積論
１５．資本投下順位論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J72173B01
科目名	【院】経済学史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Economic Thought B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包括する、全５篇からなる壮大な経済学の体系である。本演習Ｂでは、第５編の国家財政論を、」経費論・収入論・公債論の順序で集中的に検討する。		
教材（テキスト）	アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・前４分冊）［第４分冊］		
教材（参考文献）	授業前に適宜指示する。		
教材（その他）	資料を適宜プリントして配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	古典文献の読破を通して、修士論文の作成に必要な基本的な学習の能力と学習方法を鍛錬する。修士論文の大まかな構想を固めることが、演習Ｂの到達目標である。		
準備学習	受講生は、テキストとともに指示された参考文献をしっかり予習してゼミに臨むこと。また報告を指名された受講生は、指定された当該範囲のレジュメを作成して出席すること。		

受講者への要望

テキストについては、水田洋監訳『国富論』（岩波文庫）を使用するが、受講生には、つねに『国富論』の原文にあたって学習する習慣を身につけるように求める。

講義の順序とポイント

１．スミスの国家財政論について
２．経費論と政府の役割(1)
３．経費論と政府の役割(2)
４．経費論と政府の役割(3)
５．経費論と政府の役割(4)
６．経費論と政府の役割(5)
７．租税論(1)
８．租税論(2)
９．租税論(3)
１０．租税論(4)
１１．租税論(5)
１２．公債論(1)
１３．公債論(2)
１４．公債論(3)
１５．スミス国家財政論の総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J72173C01
科目名	【院】経済学史演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Economic Thought C		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包含する、全部で５篇からなる壮大な経済学体系である。本演習〔Ｃ〕では、第４編の中心テーマである重商主義政策批判をとりあげ、スミスにおける経済的自由主義の基本思想を学習する。		
教材（テキスト）	アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・全４分冊）：第２・第３分冊		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントや資料を配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	演習における基礎的能力の鍛錬と、修士論文作成のための構想と準備にいたる基本的指導をおこなう。		
準備学習	受講生は、テキストと指示された参考文献とをしっかり予習すること。また報告を指名された受講生については、指定された当該範囲分のレジュメを作成して、演習に出席すること。		
受講者への要望			
テキストについては、岩波文庫版（水田監訳）の『国富論』を使用するが、受講生には、つねに『国富論』の原文に直接あたる習慣を身につけるように求める。			
講義の順序とポイント			
１．スミスにおける自由主義の経済政策論 ２．商主義政策の経済理論 ３．輸入制限政策(1) ４．輸入制限政策(2) ５．戻し税と通商条約 ６．奨励金について(1) ７．奨励金について(2) ８．穀物貿易と穀物法(1) ９．穀物貿易と穀物法(2) １０．東西インド貿易論 １１．アメリカ革命論 １２．植民地問題(1) １３．植民地問題(2) １４．植民地問題(3) １５．重商主義批判の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J72173D01
科目名	【院】経済学史演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Economic Thought D		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	スミスの『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包含する、全部で５篇からなる壮大な経済学体系である。本演習〔D〕の前半では、３編の近代社会成立の歴史分析と第４編・第９章の重農学派批判をとりあげ、スミスにおける近代社会の歴史認識と自由主義の経済思想との関係について、より踏み込んだ検討を試みる。本演習〔D〕の後半では、修士論文の完成まで、個別指導を徹底したいと考えている。		
教材（テキスト）	アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・全４分冊）：第２・第３分冊		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントや資料を配布する。		
評価方法	平常点（５０%）受講態度等＋レポート（５０%）		
到達目標	演習における基礎的能力の鍛錬と修士論文の完成。		
準備学習	受講生は、テキストと指示された参考文献とをしっかり予習すること。また報告を指名された受講生については、指定された当該範囲分のレジュメを作成して、演習に出席すること。		

受講者への要望

演習〔D〕の後半は、修士論文を仕上げるきわめて重要な時期である。演習に無断で欠席しないことはもちろん、つねに緊密に演習担当者と連絡を蜜にするように要望する。

講義の順序とポイント

１．近代社会の成立とスミスの歴史認識
２．富裕の自然的進歩
３．中世ヨーロッパの農村
４．中世ヨーロッパの都市
５．都市の商業による農村の改良
６．スミスの重農学派批判(1)
７．スミスの重農学派批判(2)
８．修士論文の指導(1)
９．修士論文の指導(2)
１０．修士論文の指導(3)
１１．修士論文の指導(4)
１２．修士論文の指導(5)
１３．修士論文の指導(6)
１４．修士論文の最終チェック
１５．修士論文の完成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J72174A01
科目名	【院】社会経済史演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Social Economy A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	19 世紀から 20 世紀前半までの世界生糸市場の歴史を取り上げます。具体的には、イタリア・フランス・日本・中国の蚕糸業において展開された国際競争を跡付けていきます。		
教材（テキスト）	（1）石井寛治（1972）『日本蚕糸業史分析』東京大学出版会。 （2）大野彰（2015）「1900 年前後に欧米で日本産生糸は絹織物の経糸にはならなかったのか」『社会経済史 学』　第 81 巻第 2 号。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	通説の再検討を通じて経済史研究の方法論について理解を深める。		
準備学習	上記の教材（テキスト）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
経済史・経営史・技術史の観点から蚕糸業の歴史について理解を深めてほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　生糸世界市場の成立 3　主要生糸生産国の動向 4　日本産生糸の進出 5　いわゆる「第Ⅱ類型製糸家」 6　いわゆる「第Ⅰ類型製糸家」 7　転換期としての 1910 年代 8　通説の再検討 9　絹織物の種類 10　製糸の原理 11　繰糸法の比較 12　横浜市場の特質 13　繰糸法の革新 14　蚕品種の改良 15　第一次世界大戦下の生糸市場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	-	-

年度	2016	授業コード	J72174B01
科目名	【院】社会経済史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Social Economy B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	中国の器械製糸業が、イタリアやフランスから技術を移転することによって発展した過程をたどります。あわせて中国の器械製糸業の長所と短所について整理します。		
教材（テキスト）	（１）曽同春（1913)『中国糸業』商務印書館。 （２）清川雪彦（2009)『近代製糸技術とアジア』名古屋大学出版会。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内発表（100％）		
到達目標	経済史・経営史・技術史を総合して多面的に考察する。		
準備学習	上記の教材（テキスト）のうち（２）が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
経済史において蚕糸業が有した意義について理解を深めてほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　中国の生糸産地概観 3　生糸生産に影響を与えた要因 4　中国の栽桑業 5　中国の養蚕業 6　中国の在来製糸法 7　イタリア・フランスの製糸技術 8　イタリア・フランスの労務管理法 9　イタリアから中国への技術移転 10　上海の器械製糸業の特徴 11　上海の器械製糸業の長所と短所 12　フランスから中国への技術移転 13　広東の器械製糸業の特徴 14　広東の器械製糸業の長所と短所 15　日本の製糸業との比較			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	-	-

年度	2016	授業コード	J72175A01
科目名	【院】経済政策論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	修士論文テーマに関連する文献リサーチ		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート(50%)		
到達目標	修士論文のテーマ設定		
準備学習	関連文献の収集と研究		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させよう.			
講義の順序とポイント			
1　基礎データの整理① 2　基礎データの整理② 3　基礎データの整理③ 4　基礎データの整理④ 5　基礎データの整理⑤ 6　問題の所在の確認① 7　問題の所在の確認② 8　問題の所在の確認③ 9　問題の所在の確認④ １０　問題の所在の確認⑤ １１　基本文献の講読　① １２　基本文献の講読　② １３　基本文献の講読　③ １４　基本文献の講読　④ １５　基本文献の講読　⑤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J72175B01
科目名	【院】経済政策論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Economic Policy B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	修士論文テーマに関連する文献リサーチ		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート(50%)		
到達目標	修士論文の骨子の確定		
準備学習	関連文献の収集と研究		

受講者への要望

経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させよう．

講義の順序とポイント

1　基本文献の講読①
2　基本文献の講読②
3　基本文献の講読③
4　基本文献の講読④
5　基本文献の講読⑤
6　基本文献の講読⑥
7　基本文献の講読⑦
8　基本文献の講読⑧
9　論文の概要と章節構成の作成①
１０　論文の概要と章節構成の作成②
１１　論文の概要と章節構成の作成③
１２　論文の概要と章節構成の作成④
１３　論文の概要と章節構成の作成⑤
１４　論文の概要と章節構成の作成⑥
１５　論文の概要と章節構成の作成⑦

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J72176A01
科目名	【院】公共経済学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Public Economics A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	公共経済学の理論研究の基礎を固めながら、現実の政策課題への応用分析例を概観していく。		
教材（テキスト）	井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣		
教材（参考文献）	IHORI, H., Public Finance in an Overlapping Generations Economy, Macmillan 1996.		
教材（その他）	適宜、案内・配布する。		
評価方法	授業内報告５０％　　レポート課題５０％		
到達目標	公共経済学の応用研究について概観し、経済学の技術および手法の使用について基礎を固める。		
準備学習	（1）テキストの指定箇所を読み、ノートを作成する。 （2）関連資料を集めて整理し、それに基づく報告資料を作成すること。		
受講者への要望			
（1）現代日本の政策課題への関心を持ち、日頃から雑誌や新聞、web で情報収集を心がける。 （2）「記憶」よりも「理解」を優先して欲しい。また、理解には妥協無く正確に納得できる水準まで取り組むことが重要である。			
講義の順序とポイント			
第１回：講義の概要とテキストの紹介 第２回：市場機構と公的介入 第３回：自然独占産業と公的規制 第４回：最適課税の理論 第５回：公共財の理論 第６回：公共選択の理論 第７回：政党と官僚の経済分析 第８回：公債の負担 第９回：公債発行と財政運営 第１０回：高齢化と年金改革 第１１回：政府支出政策のマクロ効果 第１２回：公共投資 第１３回：開放経済での公共政策 第１４回：国と地方の分担システム 第１５回：現代日本の公共経済学的課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J72176B01
科目名	【院】公共経済学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Public Economics B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	公共経済学の理論研究の基礎を固めながら、現実の政策課題への応用分析例を概観していく。		
教材（テキスト）	Presson & Tabellini, Political Economics, MIT Press.		
教材（参考文献）	（１）Presson & Tabellini, Monetary and Fiscal Policy, MIT Press. （２）クリスタル＆ペナンリー著・黒川監訳『経済政策の公共選択分析』　勁草書房		
教材（その他）	適宜、案内・配布する。		
評価方法	授業内報告５０％　　課題レポート５０％		
到達目標	政策決定の政治過程に焦点を当てた経済分析を学び、伝統的経済学の分析で不足する部分を確認する。		
準備学習	（１）テキストの指定した箇所を読み、ノートを作成する。 （２）理論および英語で理解が曖昧な箇所を事前に明確にしておく。 （３）関連資料を集め整理し、その内容についての報告資料を作成する。		
受講者への要望			
英文のテキストを利用するが、受講者の英語力に応じて進度は調整する。経済学で使用される英語は「慣れ」で克服できるので、辛抱強く取り組んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
第１回：講義の概要とテキストの紹介 第２回：General Introduction 第３回：Preference and Institutions 第４回：Electoral Competition 第５回：Agency 第６回：Partisan Politicians 第７回：General-Interest Politics 第８回：Special-Interest Politics(1) 第９回：Special-Interest Politics(2) 第１０回：Electoral Rules and Electoral Competition 第１１回：Institutions and Accountability 第１２回：Political Regimes 第１３回：Dynamic Policy Problems 第１４回：Public Debt 第１５回：Intergenerational Transfers through Social Security Programs			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J72189001
科目名	【院】ミクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics		
担当者名	竹内　哲治	旧科目名称	
講義概要	経済や企業は絶えず変化しているから、この科目の目標は、生涯に亘ってさまざまな問題に対処できる汎用性のある問題解決能力を身につけることである。そしてそのような能力は、ミクロ経済学・マクロ経済学という基礎的な経済学のトレーニングによって培うことができる。この講義ではミクロ経済学の基本的な考え方を学びことを目的としており、なかでも １．消費者と企業の行動を経済学的な観点からどのように表現するか理解する。 ２．競争市場とその均衡の経済学的な意味を理解する。 ３．不完全競争下の企業行動がどのように経済に影響するか理解する。 ４．不確実性下の問題とゲーム理論によるアプローチの基礎を理解する。 の４点に注力を注ぎます。		
教材（テキスト）	武隈慎一（1999）『ミクロ経済学　増補版』　新世社　￥2,850 円　ISBN-13: 978-4883840045		
教材（参考文献）	伊藤元重（2003）『ミクロ経済学　第２版』　日本評論社　￥3,000 円　ISBN-13: 978-4535552616 家森信善・小川光（2016/3 月発刊予定）　『ミクロ経済学の基礎』　中央経済社　￥未定　ISBN-13: 978-4502179518		
教材（その他）	授業中に，適宜指示します。		
評価方法	授業内報告（30%）・レポート（40%）・試験（30%）により総合的に評価します。 下記は通常評価の例ですが，適宜応談します。 授業内報告とは，講義もしますが，輪読で行う際の報告を指します。 レポートは基本的に教科書ならびに資料のまとめや章末にある練習問題です。 試験はレポートで行った内容が主な出題です。		
到達目標	ミクロ経済学は経済学的な考え方の基礎的な道具となっていますので，この授業では基本概念と分析方法をおさえ，応用分野で利用できるようにすることを目標とします。		
準備学習	適宜講義の終わりに指示しますが基本的には教科書に従って進めますので，次の講義に必要な基本的な用語を事前に認識し，何を目的としてどのような範囲を対象としているかを留意して概観を捉えてくることを薦めます。授業中はポイントや考え方導き方のコツを涵養してもらいますし，準備学習で気付いた疑問点を解決していきたいと思います。		
受講者への要望			
１）積極的な姿勢で講義に臨むことが望ましい。 ２）質問が無ければ全て理解していると判断しますので，分からないことは後回しにせずにいつでも聞いて下さい。			
講義の順序とポイント			
1)　基本概念と分析手法 2)　消費者行動（１）－効用関数と需要曲線 3)　消費者行動（２）－需要の変化と双対性アプローチ 4)　企業行動（１）－生産技術の数学的表現 5)　企業行動（２）－利潤最大化と費用最小化 6)　競争経済の均衡（１）－需要と供給の調整 7)　競争経済の均衡（２）－交換経済の均衡 8)　経済厚生（１）－パレート効率性 9)　経済厚生（２）－厚生経済学の基本定理 10)　不完全競争（１）－独占企業の利潤最大化 11)　不完全競争（２）－クールノーの均衡 12)　不確実性Ⅰ 13)　不確実性Ⅱ 14)　ゲーム理論Ⅰ 15)　ゲーム理論Ⅱ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2016	授業コード	J72190001
科目名	【院】ミクロ経済分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomic Analysis		
担当者名	竹内　哲治	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は，ミクロ経済学の分析方法を用いた応用および発展分野について考察することである。特に，不確実性下でのミクロ経済学のアプローチからはじめ，証券市場分析について学ぶ。また，ゲーム理論についても学び情報がどのように市場や企業に影響しているかを学ぶ。		
教材（テキスト）	武隈慎一（編著）(2005)『エコノミクス 入門ミクロ経済学』 ダイヤモンド社 ￥3,240 円（税込） ISBN-13: 978-4478210550		
教材（参考文献）	家森信善・小川光（2016/3 月発刊予定） 『ミクロ経済学の基礎』 中央経済社 ￥未定 ISBN-13: 978-4502179518 仁科一彦・倉澤資成 (2009)『ポートフォリオ理論―基礎と応用』 中央経済社 ￥2,800 円 ISBN-13: 978-4502669606 他，適宜指示します。		
教材（その他）	一部，PPT の資料を活用し，配布します。 他，授業中に適宜配布します。		
評価方法	授業内報告（30%）・レポート（40%）・試験（30%）により総合的に評価します。 下記は通常評価の例ですが，適宜応談します。 授業内報告とは，講義もしますが，輪読で行う際の報告を指します。 レポートは基本的に教科書ならびに資料のまとめや章末にある練習問題です。 試験はレポートで行った内容が主な出題です。		
到達目標	ミクロ経済学の基本的な考え方を学び，応用分野である証券市場分析を理解することを目標とします。また，実際のシミュレーションゲームを行うことでポートフォリオの経済効果を学んで頂きます。		
準備学習	適宜，授業の終わりに次回の内容について説明し，指示します。		

受講者への要望

1）積極的な姿勢で講義に臨むことが望ましい。
2）質問が無ければ全て理解していると判断しますので，分からないことは後回しにせずにいつでも聞いて下さい。

講義の順序とポイント

1)　証券市場とミクロ経済学
2)　期待効用関数
3)　リスク回避度と平均分散分析
4)　状態依存と均衡概念
5)　資本資産価格モデル
6)　同額モデル
7)　資産をめぐる問題
8)　ファイナンスとの関係
9)　ミクロ的な経済統計
10)　代表的な指標：マクロ指標・市場動向・企業財務情報
11)　ポートフォリオシミュレーションゲーム 1
12)　ポートフォリオシミュレーションゲーム 2
13)　ポートフォリオシミュレーションゲーム 3
14)　ゲーム理論 I
15)　ゲーム理論 II

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2016	授業コード	J72191001
科目名	【院】国際金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	為替レート決定理論，および為替レート変動が及ぼすマクロ経済効果について主に身につけることを目的とする．		
教材（テキスト）	未定.		
教材（参考文献）	○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○河合正弘(1994)『国際金融論』　東京大学出版会 ○藤田誠一・小川英治(2006)『国際金融理論』　有斐閣		
教材（その他）	○Mark(2001), “International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods” Wiley-Blackwell. ○Sarno and Taylor(2003), “The economics of exchange rates”　Cambridge University Press. ○Obstfeld and Rogoff(1996), “Foundations of international Macroeconomics”　The MIT Press.		
評価方法	授業中の報告を評価の中心とする． 適宜，レポート，テストなどを課し，理解度の判断・評価材料にすることもある．		
到達目標	学部上級から大学院中級レベルの内容を理解することによって，修士論文が書けるまで学力を引き上げることを目標とする．		
準備学習	学部初級レベルの国際金融，また大学院の国際金融を学ぶ上で必要なマクロ経済学，金融論の知識を授業外で整理しておくこと．また，（必要に応じて講義も行う予定であるが）授業は教材・資料の輪読を中心に進める予定である．それゆえ，事前に指示した教材・資料の予習をしておくこと．		
受講者への要望			
数学的な内容の授業を行う．しかし，徐々に慣れてくるので，途中で投げ出さず頑張ってもらいたい．			
講義の順序とポイント			
第 1 回：為替レートの基礎概念 第 2 回：国際収支の基礎概念 第 3 回：為替レートの決定理論 1 第 4 回：為替レートの決定理論 2 第 5 回：為替レートの決定理論 3 第 6 回：為替レートの決定理論 4 第 7 回：為替レートの決定理論 5 第 8 回：為替レートの決定理論 6 第 9 回：開放経済における政策効果 1 第 10 回：開放経済における政策効果 2 第 11 回：開放経済における政策効果 3 第 12 回：開放経済における政策効果 4 第 13 回：開放経済における政策効果 5 第 14 回：開放経済における政策効果 6 第 15 回：開放経済における政策効果 7			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J72192001
科目名	【院】国際経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年の国際経済学・国際マクロ経済学の理論モデルを身につけることを目的とする.		
教材（テキスト）	未定.		
教材（参考文献）	○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣 ○大川昌幸(2006)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○藤田誠一・小川英治(2006)『国際金融理論』　有斐閣		
教材（その他）	○Obstfeld and Rogoff(1996), “Foundations of International Macroeconomics”, The MIT Press. ○授業に関連した学術雑誌掲載論文		
評価方法	授業中の報告を評価の中心とする. 適宜，レポート，テストなどを課し，理解度の判断・評価材料にすることもある.		
到達目標	学部上級から大学院中級レベルの内容を理解することによって，修士論文が書けるまで学力を引き上げることを目標とする.		
準備学習	学部初級レベルの国際経済学，また国際経済学を学ぶ上で必要なミクロ経済学，マクロ経済学を授業外で整理しておくこと．また，（必要に応じて講義も行う予定であるが）授業は教材・資料の輪読を中心に進める予定である．それゆえ，事前に指示した教材・資料の予習をしておくこと.		
受講者への要望			
数学的な内容の授業を行う．しかし，徐々に慣れてくるので，途中で投げ出さず頑張ってもらいたい.			
講義の順序とポイント			
第１回：リカード・モデル１ 第２回：リカード・モデル２ 第３回：ヘクシャー・オーリンモデル１ 第４回：ヘクシャー・オーリンモデル２ 第５回：ヘクシャー・オーリンモデル３ 第６回：ヘクシャー・オーリンモデル４ 第７回：マンデル・フレミングモデル１ 第８回：マンデル・フレミングモデル２ 第９回：マンデル・フレミングモデル３ 第１０回：マンデル・フレミングモデル４ 第１１回：New Open Economy Macroeconomics　1 第１２回：New Open Economy Macroeconomics　2 第１３回：New Open Economy Macroeconomics　3 第１４回：New Open Economy Macroeconomics　4 第１５回：New Open Economy Macroeconomics　5			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J72193001
科目名	【院】財政学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance		
担当者名	寺本　博美	旧科目名称	
講義概要	財政現象を経済と政治，さらには社会との交錯現象として理解することは重要である。本講義では，財政学の伝統に従い，経費論，租税論，受益者負担，公債，予算制度を中心に財政問題を理論的な側面および歴史，制度の側面から考察し，講義する。同時に，実証的な側面を理解するために関連する財政統計データを利用する。		
教材（テキスト）	神野直彦『財政学 改訂版』有斐閣，3,456 円（税抜）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜ハンドアウトを配布する。		
評価方法	レポート課題 50%，および平常点 50%		
到達目標	1　日本の財政構造の特徴を説明できる。 2　財政理論のモデルに基づいて日本および欧米先進国の現状を説明できる。 3　民主主義の財政過程を説明できる。		
準備学習	1　講義終了時に次回の範囲を指定するので，予習しておくこと。 2　講義終了時に課題を指定するので，次回講義開始時に提出すること。		

受講者への要望

大学院生の本文として，学術を志向し，真摯にコンプライアンス意識をもって学修・研究に取り組んでもらいたい。無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

講義は原則として教科書に従うが，各回の講義サブタイトルは下記のとおりである。

(1) 財政とその性質
(2) 日本財政の現状
(3) 財政学の成立
(4) 財政および財政学説の生成
(5)現代の財政と財政学説
(6)公共経費の理論
(7)公共経費発展の理論
(8)日本の経費分類，発展と構造
(9)租税の意義
(10)租税構造の変遷
(11)租税原則とその意味
(12)租税の経済効果
(13)受益者負担
(14)公債の経済学
(15)予算制度と民主主義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72194001
科目名	【院】財政政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Policy		
担当者名	寺本　博美	旧科目名称	
講義概要	私たちが直面する重大な経済問題を考えるときに，経済学の考え方がどれほど役立つか，経済学を学ぶことで現実の世界の理解を進めることができる。 本講義では政府の重要な経済的役割である財政政策を考える。財政政策はマクロおよびミクロ経済政策の貨幣的側面に特徴があり，具体的には政府が公共事業を拡大または縮小することによって，あるいは増税または減税をすることによって，需要の拡大や抑制を図る政策である。他方，現代では環境政策や医療・介護，福祉などの社会保障問題解決の手段として財政手段が用いられる。したがって，ミクロ経済的（資源配分）との関連においても考える。		
教材（テキスト）	伊藤隆敏『日本財政「最後の選択」』日本経済新聞社		
教材（参考文献）	『マンキュー　マクロ経済学（第 3 版）』I および II，東洋経済新報社。その他講義時に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	演習問題や宿題 50%，平常点 50%		
到達目標	1　マクロ経済学の基本的な考え方や基礎理論を理解し，時論として整合的に説明することができる。 2　マクロ経済政策とミクロ経済政策との間のつながりを理解できる。 3　修士論文を完成させるための事例として活用できる。		
準備学習	1　講義終了時に，次回の範囲を指定するので予習しておくこと。 2　講義終了時に，演習課題，宿題を指定するので，次回講義開始時に提出すること。		
受講者への要望			
1　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。 2　無断欠席は厳禁である。			
講義の順序とポイント			
(1) 財政政策の経済学：概説 (2) ケインズ理論とフィスカル・ポリシー (3) 所得分析とフィスカル・ポリシー (4) インフレーションとフィスカル・ポリシー (5) 財政・金融のポリシー・ミックス (6) 財政のビルトイン・スタビライザー (7) マクロ・エコノメトリック・モデルとフィスカル・ポリシー (8) 公債管理と金融政策 (9) 公債の経済的作用 (10) 財政政策としての財政投融資 (11) 課税の経済効果 (12) 最適課税の理論 (13) 資本所得課税と経済成長 (14) 環境政策と財政 (15) 社会保障財政と福祉			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J72195001
科目名	【院】パーソナルファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）	Personal Finance		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	個人が社会生活を営むにあたり、個人の誕生→結婚→住宅取得→退職→老後の生活という道順を辿ることになる。その過程で資金を準備して、住宅を購入することは、人生最大のファイナンスといえる。近年では景気刺激策の一環として相続時清算課税制度、住宅ローン減税、居住用財産の買換えの特例等の住宅取得を後押しする施策が実施されている。しかしながら、これらのほとんどは時限的なものであり、相続税、贈与税、所得税、住民税等に連鎖し、申告義務が発生する。本講義ではＣＦＰ資格審査試験「タックスプランニング」を基軸に「不動産運用設計」「パーソナルファイナンス」分野、不動産自体の知識の習得をしながら、不動産の税金に関するケーススタディを行う。なお、提案書の作成も併せて行い、実際の応用の確認をはかる。その中で所得税、固定資産税、住民税、相続税、贈与税等の知識の習得に努めてもらいたい。		
教材（テキスト）	講義の中で指示を行う。		
教材（参考文献）	貝塚啓明『タックスプランニング』日本ＦＰ協会　１９４４円 貝塚啓明『パーソナルファイナンス』日本ＦＰ協会　１９４４円 川口有一郎『不動産運用設計』日本ＦＰ協会　１９４４円 宮口定雄『税務ハンドブック　平成 28 年度版』パーソナル社　１９５０円		
教材（その他）			
評価方法	レポート（５０％）・講義の中での発表(５０％)		
到達目標	実際にローンを組み、収入に見合った不動産を購入することを想定し、課税関係を含めた提案書の作成をできるようにする。		
準備学習	春学期に履修をする「リスクの経済学」で学ぶ税金・社会保障の問題を基に「リスク・マネジメント」「パーソナルファイナンス」で学ぶ知識を加えてレポート(提案書)の作成を行う。受講者は順番に指示する内容についての発表を行うこととなるが、発表者以外の者は必ずその内容を事前に調べ、質問事項の準備をしておくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席して、疑問点をその講義内に解決できるようする。そのためには予習をきっちりとしてくること。

講義の順序とポイント

１、　不動産の取得にかかわる税金①　　不動産取得税・登録免許税・不動産契約時の印紙税
２、　不動産の取得にかかわる税金②　　住宅用家屋の軽減税率、固定資産税・都市計画税の特例
３、　不動産の取得にかかわる税金③　　相続税と配偶者の軽減税率
４、　不動産の取得にかかわる税金④　　住宅取得等資金に係る手段と相続時清算課税制度の特例
５、　不動産の取得にかかわる税金⑤　　不動産取得のケーススタディ
６、　不動産の保有にかかわる税金　　固定資産税・都市計画税の特例と負担調整措置
７、　不動産の譲渡にかかわる税金①　　土地・建物の譲渡課税の概要
８、　不動産の譲渡にかかわる税金②　　所得税と特定の居住用財産の買換えの特例・住宅ローン控除
９、　不動産の譲渡にかかわる税金③　　土地・建物の譲渡のケーススタディ
１０、不動産の譲渡にかかわる税金④　　土地・建物の譲渡のケーススタディ
１１、年金の補完の為のリバースモーゲージと固定資産税
１２、不動産税制の改正事項の確認
１３、提案書の作成①
１４、提案書の作成②
１５、提案書の作成③

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J72196001
科目名	【院】リスクの経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics on Risk Management		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	社会保障は、個人が生活を営むうえで直面するリスクを社会的にプールする仕組みである。今日、社会保障費の増大により増税は避けられないのが現状である。しかしながら現役世代と高齢世代との世代間格差を考えると、消費税の税率を上げ社会保障の原資とするのか、あるいは他の税金で賄うのかには一考の余地がある。本講義では増税の是非を議論されている消費税を基軸に捉え、社会全体が直面するリスク→税体系→個人のリスクについての考察を行うものとする。		
教材（テキスト）	土居史朗『日本の税をどう見直すのか』 日本経済新聞社		
教材（参考文献）	伊多波良雄『現代社会の財政学』　晃洋書房 三木義一『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	日本ＦＰ協会『リスク・マネジメント』、『タックスプランニング』		
評価方法	レポート(５０％)・講義の中での発表(５０％)		
到達目標	社会保障と税制改革についての根拠のある意見を述べてほしい。		
準備学習	世代間格差と税制との問題について、新聞報道等で如何に論じられているかを掌握をしておくこと。		
受講者への要望			
ＡＦＰ資格の取得を考えている場合には必ず本講義と秋学期の「パーソナルファイナンス」「リスク・マネジメント」を併せて受講すること。			
講義の順序とポイント			
１　財政悪化の現状 ２　日本の税制 ３　社会保障財源の負担 ４　租税原則と税の役割 ５　消費税導入の歴史的背景 ６　消費税の仕組み ７　消費税をめぐる課題① ８　消費税をめぐる課題② ９　社会保障制度と税① １０　社会保障制度と税② １１　所得課税と社会保険料 １２　介護保険制度と消費税 １３　個人所得課税 １４　税額控除の妥当性 １５　個人生活に及ぼす影響			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J72197001
科目名	【院】リスク・マネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Risk Management		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	企業経営に関わるリスクを中心に個人の関わるリスク、その防衛策・対処方法について講義する．財務リスクにも言及し、保険でカバーすることができるリスクについて、回避・移転等する方法を指導する。具体的には FP の上級資格である CFP 資格審査試験・CFP 認定者の「リスクと保険」分野を意識し，そこで要求されている知識を習得し、応用できる水準を目指す．受講するにあたっては多岐にわたり税金に関連するため、AFP レベルの知識の他、所得税・法人税等の知識を有していることが望ましい。AFP の資格取得には、春学期に【院】リスクの経済学で基本を習得したうえで秋学期の【院】パーソナルファイナンスを受講して提案書提出が必須となる。		
教材（テキスト）	講義の中で指示を行う。		
教材（参考文献）	宇野典明『リスクマネジメント』日本ＦＰ協会　1944 円 宮口定雄『税務ハンドブック平成 28 年度版』パーソナル社 1950 円		
教材（その他）			
評価方法	レポート（５０％）・講義の中での発表(５０％)		
到達目標	企業経営におけるリスクの抽出、対処方法など本質的なことを理解できるようにしたい。		
準備学習	春学期に履修をする「リスクの経済学」で学ぶ税金・社会保障の問題を基に「リスク・マネジメント」「パーソナルファイナンス」で学ぶ知識を加えてレポート(提案書)の作成を行う。受講者は順番に指示する内容についての発表を行うこととなるが、発表者以外の者は必ずその内容を事前に調べ、質問事項の準備をしておくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席して、疑問点をその講義内に解決できるようする。そのためには予習をきっちりとしてくること。

講義の順序とポイント

１．　危機管理とリスクマネジメント
２．　企業のリスクマネジメント
３．　リスクファイナンスの活用
４．　財務リスク
５．　個人生活におけるリスク
６．　損害保険業界の動向
７．　損害保険の仕組み(１)
８．　損害保険の仕組み(２)
９．　損害保険の税務
１０．法人のリスクマネジメントと保険設計
１１．個人のリスクマネジメントと保険設計
１２．法人生命保険契約の税務(１)
１３．法人生命保険契約の税務(２)
１４．保険業法
１５．おわりに・保険約款・手続きについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J72200A01
科目名	【院】社会政策論演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	修士論文作成のための準備の第一歩として、社会政策および関連分野から各受講者が選択したテーマについて、受講者に文献の要約報告を行ってもらう。		
教材（テキスト）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（参考文献）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（その他）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
評価方法	平常点（報告内容等）（50%）、レポート（50%）		
到達目標	修士論文作成に向けて研究の方向性を明らかにすること。		
準備学習	参考文献を収集して熟読し、報告用のレジュメを毎回作成しておくこと。		
受講者への要望			
十分な準備の上で授業に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス　―受講者の関心の確認と授業の方針の説明― ２．基礎的・概論的文献の購読① ３．基礎的・概論的文献の購読② ４．基礎的・概論的文献の購読③ ５．基礎的・概論的文献の購読④ ６．研究テーマの絞り込みと方向性の確認 ７．研究テーマに関する現状の確認① ８．研究テーマに関する現状の確認② ９．研究テーマに関する現状の確認③ １０．研究テーマに関する現状の確認④ １１．研究テーマに関する政策的課題の確認① １２．研究テーマに関する政策的課題の確認② １３．研究テーマに関する政策的課題の確認③ １４．研究テーマに関する政策的課題の確認④ １５．論点の整理と今後の研究の方向についての検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J72200B01
科目名	【院】社会政策論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	修士論文作成に向けて、「社会政策論演習Ａ」で得た知識を元にさらに理解を深め、テーマの絞り込みを行う。そのために、受講者に文献の要約報告等を行ってもらう。		
教材（テキスト）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（参考文献）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（その他）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
評価方法	平常点（報告内容等）(50%)、レポート（50%）		
到達目標	修士論文のテーマを明確にすること。		
準備学習	参考文献を収集して熟読し、報告用のレジュメを毎回作成しておくこと。		
受講者への要望			
十分な準備の上で授業に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．研究の進捗状況の確認 ２．政策的課題の要因分析① ３．政策的課題の要因分析② ４．政策的課題の要因分析③ ５、政策的課題の要因分析④ ６．政策的課題の要因分析⑤ ７．政策的課題の要因についての考察① ８．政策的課題の要因についての考察② ９．政策的課題の要因についての考察③ １０．政策的課題の要因についての考察④ １１．政策的課題の要因についての考察⑤ １２．修士論文のテーマの検討① １３．修士論文のテーマの検討② １４．修士論文の構成の検討① １５．修士論文の構成の検討②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J73020A01
科目名	【院】会計学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting A		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本「演習 A」担当者が予定している内容展開に先立って、まずは、受講者が入学段階で申請していた「研究 計画書」の内容について本人に改めて報告させ、当該内容の再確認を行う。そうした再確認作業の中で、 当初予定していた当該研究計画内容の延長線上での修士論文作成に取り組むのか否かを再検討させる。 （2）本「演習 A」は、後期の「演習 B」と併せて、「財務会計分野における諸問題の研究」との主題のもとで展開さ れ、次年度の演習 C・D で完成すべき修士論文の作成に向けての「序章」と位置づける。 （3）そこで、初年度前期の「演習 A」としては、財務会計分野において展開されている諸問題を整理して明確に すべく、現行会計制度の内容確認を行う。 （4）そのうえで、後期の「演習 B」では、IFRS(国際財務報告基準）の動向やそれに対する我が国の対応などを 中心に取り上げる。IFRS の各国会計制度へ及ぼす影響は大きく、我が国においても上場企業の連結決算 への強制適用の有無が未定になっている現状で、今後の動向が注目されているところであるが故である。 （5）以上のような現行会計制度における会計基準に関する現状分析の中で、既述の主題に関する幅広い研究 素材を提供することとしたい。こうした広範な考察を通じて、財務会計分野における諸問題を整理・確認した うえで、受講者が修士論文のテーマ決定を行い、後期開始までに問題整理や資料収集に努め、次年度の論文完成に向けて余裕をもって展開できるよう指導する。 （6）なお、税理士志望の院生には、特に将来の専門職業人としての活躍の場をも意識した論文テーマの選定と その課題内容の更なる深化に努めていただきたい。		
教材（テキスト）	（1）中田信正 著『財務会計・法人税法論文の書き方・考え方―論文作法と文献調査―』同文舘出版 （2）履修者と相談のうえ、各々の研究テーマに応じて、適宜指示する。		
教材（参考文献）	研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布等を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき総合評価を行う。		
到達目標	（1）修士論文作成の基本に関して、論文作法と文献調査法を理解している。 （2）自己の将来方向を踏まえた適切な修士論文のテーマ選定ができる。 （3）わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 （4）わが国の会計制度へ及ぼす IFRS(国際財務報告基準）の影響等について理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義時に自らの問題意識のもとで課題や疑問を提示できるよう、準備を行って講義に臨む。 （2）報告担当課題などについて、事前に周到な準備を行い、レジュメなども作成して、報告に臨むこと。		
受講者への要望			
（1）自主性と双方向性を意識し、毎回、自らの課題や疑問をもって演習に臨むこと。 （2）輪番制で報告させるのを常とするので、自主的問題意識をもった積極的な取り組みを期待する。			
講義の順序とポイント			
上記の講義概要を遂行するため、次のような展開を予定している。 1．本演習のガイダンス 2．修士論文の作成に関する基礎指導 3．会計分野に関する修士論文の作成指導			

4．わが国の制度会計の現状
5．わが国の会計制度を取り巻く諸問題
6．論題の選定に関する指導
7．論題の選定に関する報告と討議
8．選定論題に関する問題点の報告(1)
9．選定論題に関する問題点の報告(2)
10．資料一覧の作成指導
11．資料一覧の作成報告
12．論文構成に関する指導(1)
13．論文構成に関する指導(2)
14．論文構成に関する指導(3)
15．総括および質疑応答

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J73020B01
科目名	【院】会計学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting B		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本「演習 B」は、前期「演習 A」に続いて「財務会計分野における諸問題の研究」との主題のもとで展開され、 次年度の演習Ｃ・Ｄで完成予定の修士論文の作成に向けての「序章」と位置づけられるべきものである。 （２）そこで、初年度後期の「演習 B」としては、前期において収集整理した財務会計分野に関する諸問題を吟味 するなかで、修士論文として取り上げるテーマを絞り込んでいく作業を行う。 （３）特に後期の本演習では、まずは IFRS(国際財務報告基準）の動向やそれに対する我が国の対応などを中 心に取り上げる。IFRS の各国会計制度へ及ぼす影響は大きく、我が国においても、上場企業の連結決算 への強制適用の有無が未定になっている現状で、今後の動向が注目されているが故である。 IFRS に関 する議論の方向性が、わが国の会計基準に関する議論にも非常に大きな影響を及ぼすようになってきて いるのである。 （４）以上のような現行会計制度における会計基準の現状分析の中での広範な考察を通じて、財務会計分野の 諸問題を整理・確認したうえで、前期終了時期に焦点を絞ったテーマを中心に、いよいよ修士論文の論題 決定と当該論題に関する論点整理、そして更なる資料収集と十分な読込みと整理に努めていただき、次年 度の論文完成に向けて指導していくことになる。 （５）なお、税理士志望の院生には、特に将来の専門職業人としての活躍の場をも意識して、当該論文テーマの 選定には慎重に進めていただきたい。		
教材（テキスト）	履修者と相談のうえ、各々の研究テーマに応じて、適宜指示する。		
教材（参考文献）	研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（１）修士論文の作成の基本に関して、論文作法と文献調査法を理解している。 （２）自己の将来方向を踏まえた適切な修士論文のテーマ選定ができる。 （３）わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 （４）わが国の会計制度へ及ぼす IFRS(国際財務報告基準）の影響について理解している。		
準備学習	（１）毎回の講義時に自らの問題意識のもとで課題や疑問を提示できるよう、準備を行って講義に臨む。 （２）報告担当課題などについて、事前に周到な準備を行い、レジュメなども作成して、報告に臨むこと。		
受講者への要望			
自主的な問題意識をもった積極的な取り組みを期待する。			
講義の順序とポイント			
初年度後期の所期の目的を達成し、次年度へ引き継ぐために、次の予定で展開することにしたい。 １．秋セメスターのガイダンス ２．論文構成に関する報告と討議(1) ３．論文構成に関する報告と討議(2) ４．論文構成に関する報告と討議(3) ５．論文構成に関する報告と討議(4) ６．論文構成に関する報告と討議(5)			

7．論文構成に関する報告と討議(6)
8．資料収集状況の確認
9．下書きの部分的報告と指導(1)
10．下書きの部分的報告と指導(2)
11．下書きの部分的報告と指導(3)
12．下書きの部分的報告と指導(4)
13．下書きの部分的報告と指導(5)
14．下書きの部分的報告と指導(6)
15．総括および質疑応答

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J73020C01
科目名	【院】会計学演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting C		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本研究科における最終年となる２年目の演習では、１年間を通じて、修士論文の作成指導をその主内容として展開する。 （２）そこで、前期の「演習 C」では、前年度での指導を通じて具体化してきた修士論文のテーマ・構成内容、さらには資料収集を再確認したうえで、下書内容について部分的報告を受けつつ、指導を重ねることになる。		
教材（テキスト）	修士論文の研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。		
教材（参考文献）	修士論文の研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、必要なプリント配布を行う。		
評価方法	授業への平素の取組状況（50%）と授業内報告（50%）を総合して評価する。		
到達目標	（１）税理士試験科目の会計科目免除申請を志望する院生は、別途定める論文要件の枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成すること。 （２）上記志望以外の目的で入学した院生の修士論文についても、枚数以外の論文要件は同様であり、あくまで「修士論文」としての要件を満たす形式と内容に到達した論文作成を心がけること。		
準備学習	毎回の講義時の報告に間に合うように、論文作成作業の進展に努めること。		

受講者への要望

（１）原則的に、税理士試験科目の会計科目免除申請などの場合のように、大学院修了後に第三者評価を受けることを念頭に、論文要件としての枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成するよう、心がけて頂きたい。
（２）税理士試験の会計科目免除申請を志望される場合、申請に際しての Q&A でも指摘されている次の２点に特に注意されたい。
①認定対象となる「会計学に属する科目等」とは、簿記論・財務諸表論・原価計算論・会計監査論などの科目であり、原則的には、こうした科目内容に関する研究論文が認定の対象となる。
②提出を求められる学位論文のコピーについては、「学位論文の写し（概要ではなく全部の写し。また、学位論文の目次（ページ数が記入されているもの）及び参考（引用）文献目録を必ず添付。）」となっている。
（３）以上の点も踏まえて、修士論文としての実質用件はもちろん、形式要件（ページ数を明示した目次と参考（引用）文献目録の付記）についても十分注意されたい。

講義の順序とポイント

最終年度における修士論文作成の前半部として、次の予定で展開することにしたい。

１．本演習のガイダンス
２．論文構成及び資料収集等に関する再確認（1）
３．論文構成及び資料収集等に関する再確認（2）
４．下書きの部分的報告と指導(1)
５．下書きの部分的報告と指導(2)
６．下書きの部分的報告と指導(3)
７．下書きの部分的報告と指導(4)
８．下書きの部分的報告と指導(5)
９．下書きの部分的報告と指導(6)
10．下書きの部分的報告と指導(7)
11．下書きの部分的報告と指導(8)
12．下書きの部分的報告と指導(9)
13．下書きの部分的報告と指導(10)
14．下書きの部分的報告と指導(11)
15．総括および質疑応答

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J73020D01
科目名	【院】会計学演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting D		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本研究科における最終年となる２年目の演習では、１年間を通じて、修士論文の作成指導をその主内容として展開する。 （２）そこで、後期の「演習 D」では、前期に引き続き、論文の推敲を重ねて、10 月頃には一応の完成を予定に指導する。その後は、微修正などを通じてより充実したものへと仕上げる努力をして頂くように指導する。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	必要に合わせて、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	授業への平素の取組状況（50%）と授業内報告（50%）を総合して評価する。		
到達目標	（１）税理士試験科目の会計科目免除申請を志望する院生は、別途定める論文要件の枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成すること。 （２）上記志望以外の目的で入学した院生の修士論文についても、枚数以外の論文要件は同様であり、あくまで「修士論文」としての要件を満たす形式と内容に到達した論文作成を心がけること。		
準備学習	毎回の講義時の報告に間に合うように、論文作成作業の進展に努めること。		

受講者への要望

（１）原則的に、税理士試験科目の会計科目免除申請などの場合のように、大学院修了後に第三者評価を受けることを念頭に、論文要件としての枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成するよう、心がけて頂きたい。
（２）税理士試験の会計科目免除申請を志望される場合、次の２点に注意されたい。
①認定対象となる「会計学に属する科目等」とは、簿記論・財務諸表論・原価計算論・会計監査論などの科目であり、原則的には、こうした科目内容に関する研究論文が認定の対象となる。
②提出を求められる学位論文のコピーについては、「学位論文の写し（概要ではなく全部の写し。また、学位論文の目次（ページ数が記入されているもの）及び参考（引用）文献目録を必ず添付。）」となっている。
（３）以上の点も踏まえて、論文の形式としてページ数を記載した目次と参考（引用）文献目録を明示するよう注意されたい。

講義の順序とポイント

最終年度における修士論文完成に向けて、次の予定で展開することにしたい。

1．秋セメスターのガイダンス
2．論文構成に関する再確認（1）
3．論文構成に関する再確認（2）
4．論文内容の討議と推敲(1)
5．論文内容の討議と推敲(2)
6．論文内容の討議と推敲(3)
7．論文内容の討議と推敲(4)
8．論文内容の討議と推敲(5)
9．論文内容の討議と推敲(6)
10．論文内容の討議と推敲(7)
11．論文内容の討議と推敲(8)
12．論文内容の討議と推敲(9)
13．論文内容の討議と推敲(10)
14．論文内容の討議と推敲(11)
15．総括および質疑応答

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J73024A01
科目名	【院】会計学研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research A		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本講義では、第一に経営学研究科において会計学を専攻し、将来的には税理士等の専門職を志向される 院生を強く意識し、修士論文のテーマ選定に際しての有益な基礎知識を得ようとする目的にも資するよう に、わが国における現行会計制度の展開内容に関する諸問題を整理し、考察する。 （２）第二に、他研究科の院生、特に会計専門職志望生の受講も意識し、わが国の制度会計の現状を整理・考 察し、更には最近の国際会計基準の影響と展開をも加味して、今後の展望も含めた会計基準の内容を研究する。 （３）以上の観点から、まずは、会計学及び税法に関する修士論文の作成に資するよう、第一のテキストを活用 して論文作法の再確認を行う。そのうえで、制度会計としての会社法会計及び金融商品取引法会計の内容 について、第二のテキストを資料に輪番制で受講生の報告を求め、質疑応答を行う。		
教材（テキスト）	（１）中田信正 著『財務会計・法人税法論文の書き方・考え方―論文作法と文献調査―』同文舘出版 （２）山地範明 著　『会計制度(五訂版)』　同文舘出版		
教材（参考文献）	（１）川崎 照行・万代 勝信 編著 『詳解 中小会社の会計要領』 中央経済社 （２）講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（１）修士論文作成の基本に関して、論文作法と文献調査法を理解している。 （２）修士論文としての適切なテーマ選定ができる。 （３）わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 （４）わが国の会計制度へ及ぼす国際会計基準の影響について理解している。		
準備学習	（１）毎回の講義時に、自らの問題意識のもとで課題を提示する準備をする。 （２）毎回の講義における質疑応答などの機会には積極的に発言するよう、事前準備を行っておく。 （３）報告担当箇所などについては、事前に準備し、レジュメなども作成して報告に臨むこと。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
原則的に、次のような内容を展開する。 １．本講義の意義と内容等のガイダンス ２．修士論文の作成に関する基本指導 ３．会計及び税法に関する修士論文の作成指導 ４．わが国における企業会計制度の動向 ５．会計制度の国際動向とわが国の対応 ６．企業会計原則と概念フレームワーク ７．会社法会計の内容 ８．会社法に基づく開示制度 ９．会社法における計算書類 10．金融商品取引法会計の内容 11．金融商品取引法に基づく開示制度 12．有価証券報告書の意義と内容 13．新会計基準 14．タックスプランニング 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J73024B01
科目名	【院】会計学研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research B		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）研究Ａの考察を受けて、課題及び自主テーマに基づく報告と討議を重ねることにより、わが国の会計制度 に関する理解を深めることにしたい。 （２）現行の会計基準などの動向に関しては、その都度の最新情報を提供して、考察する。		
教材（テキスト）	山地 範明 著　『会計制度(五訂版)』 同文舘出版		
教材（参考文献）	講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（１）わが国の制度会計としての会社法会計と金融商品取引法会計の現状と問題点について理解しており、説 明できる。 （２）国際会計基準の影響に関する最新情報について理解しており、説明できる。 （３）わが国の制度会計に関する課題を選定し、報告できる。		
準備学習	（１）わが国の制度会計について、事前にテキスト内容を再確認して、知識を整理しておく。 （２）課題を付与された場合には、報告までに事前にまとめ、レジュメを作成して準備しておく。 （３）後半部分では、自主テーマを選定し、まとめ、レジュメ作成を含めて報告準備をしておく。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
課題および自主テーマに基づく報告と討議を中心に展開する。 1．本講義の展開内容等のガイダンス 2．わが国における制度会計の現状と国際会計基準 3．わが国の制度会計における諸問題の確認 4．課題設定に関する概要説明と討議 5．課題に基づく報告と討議(1) 6．課題に基づく報告と討議(2) 7．課題に基づく報告と討議(3) 8．課題に基づく報告と討議(4) 9．課題に基づく報告と討議(5) 10．自主テーマに基づく報告と討議(1) 11．自主テーマに基づく報告と討議(2) 12．自主テーマに基づく報告と討議(3) 13．自主テーマに基づく報告と討議(4) 14．自主テーマに基づく報告と討議(5) 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J73024C01
科目名	【院】会計学研究Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research C		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本講義では、将来的には税理士等の専門職を志向される院生を強く意識し、将来の職業人として問われる会計知識の累積を目的として、改めてわが国の現行会計制度の内容に関する理論的再吟味を行う。 （２）上記の内容として、２年目の本研究Ｃおよび Ｄでは、最近の国際会計基準の影響と展開をも加味するが、特に中小企業経営に必要な会計知識の再確認を心がけた講義内容としたい。 （３）以上の観点から、前期では、現行会計制度の裏付けとなる基礎的会計理論の内容を再検討し、後期は、中小企業経営を意識した会計理論の内容を再確認することにより、会計専門職への道程での効果的な学習としたい。		
教材（テキスト）	橋本 尚 著　『財務会計理論（八訂版)』　同文舘出版		
教材（参考文献）	（１）川崎 照行・万代 勝信 編著 『詳解 中小会社の会計要領』 中央経済社 （２）講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%)、授業内報告（30%)、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	(1) わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 （２）わが国で展開されている「中小企業会計」に関する知識を有している。 （３）わが国の会計制度へ及ぼす国際会計基準の影響について理解している。		
準備学習	（１）毎回の講義時に、自らの問題意識のもとで課題を提示する準備をする。 （２）毎回の講義における質疑応答などの機会には積極的に発言するよう、事前準備を行っておく。 （３）報告担当箇所などについては、事前に準備し、レジュメなども作成して報告に臨むこと。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
原則的に、次のような内容を展開する。 １．本講義の意義と内容等のガイダンス ２．財務会計の基礎の確認 ３．わが国の会計規範の体系 ４．会計規範の理論構造 ５．一般原則と重要性の原則 ６．貸借対照表の基礎概念 ７．資産会計（１） ８．資産会計（２） ９．資産会計（３） 10．負債会計 11．純資産会計 12．損益計算書の基礎概念 13．収益・費用会計（１） 14．収益・費用会計（２） 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J73024D01
科目名	【院】会計学研究D	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research D		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）研究 C において展開された研究内容を受けて、本講義では、特に中小企業会計を前提とした研究内容に取り組むことにしたい。そこにおいては、将来の会計専門職として特に税理士を志す院生にとって必須事項となる内容を、本講義において再確認することが目的である。 （2）上記内容を展開するため、具体的には、いわゆる「中小企業会計指針」と「中小企業会計要領」を考察対象として取り上げることにしたい。		
教材（テキスト）	（1）日本税理士会連合会 監修、近畿税理士会調査研究部 編著 『最新版 「中小企業の会計に関する指針」ガイドブック』　清文社 （2）その他、適宜、必要な資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）川崎 照行・万代 勝信 編著 『詳解 中小会社の会計要領』　中央経済社 （2）武田隆二 編著 『中小会社の会計指針』　中央経済社 （3）その他、講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）わが国の制度会計の現状について理解している。 （2）国際会計基準の影響に関する最新情報について理解している。 （3）わが国の「中小企業会計」の内容について、十分理解している。		
準備学習	（1）わが国の制度会計について、事前に関連書籍を精読して、知識を整理しておく。 （2）課題を付与された場合には、報告までに事前にまとめ、レジュメを作成して準備しておく。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
課題および自主テーマに基づく報告と討議を中心に展開する。 1．本講義の展開内容等のガイダンス 2．わが国の制度会計の現状 3．中小企業に関する会計基準の現状 4．中小企業会計に関する概要説明 5．課題に基づく報告と討議(1) 6．課題に基づく報告と討議(2) 7．課題に基づく報告と討議(3) 8．課題に基づく報告と討議(4) 9．課題に基づく報告と討議(5) 10．自主テーマに基づく報告と討議(1) 11．自主テーマに基づく報告と討議(2) 12．自主テーマに基づく報告と討議(3) 13．自主テーマに基づく報告と討議(4) 14．自主テーマに基づく報告と討議(5) 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J73036A01
科目名	【院】管理会計論研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting Research A		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	この講義では、経営管理上の意思決定問題に対して、会計情報がどのように利用されるのかについて学びます。会計情報は企業の様々な意思決定の場面で利用されます。例えば、経営戦略や計画・投資の決定、製品価格の決定、セールス・ミックスの決定、アウトソーシングの決定などがあります。管理会計は、実務の中で広く実践されており、今日の環境変化に対する実務の革新や研究者の新たな知見を加えながら、その内容を豊かにしてきています。この講義では、最新の管理会計実務の全体像を理解することを目的とし、まず、意思決定会計における管理会計の基本的概念や諸技法について学習します。その上で、最新の管理会計実務を紹介したいと思います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著　「管理会計の基礎 第 4 版」　税務経理協会		
教材（参考文献）	加登豊編著　「インサイト管理会計」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	プレゼンテーション 40%　レポート課題 40%　ディスカションへの貢献 20%		
到達目標	伝統的な管理会計の分析手法の習得と、今日の企業で実践されている最新の管理会計手法の理解		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
意思決定における会計的分析視点を養うために、学習した内容の演習問題を解いておくこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　イントロダクション　意思決定と会計の役割 第 2 回　財務諸表の読み方（1） 第 3 回　財務諸表の読み方（2） 第 4 回　原価計算の基礎 第 5 回　経営戦略と経営計画の策定（1） 第 6 回　経営戦略と経営計画の策定（2） 第 7 回　短期利益計画と CVP 分析（1） 第 8 回　短期利益計画と CVP 分析（2） 第 9 回　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（1） 第 10 回　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（2） 第 11 回　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（3） 第 12 回　設備投資の意思決定（1） 第 13 回　設備投資の意思決定?（2） 第 14 回　設備投資の意思決定?（3） 第 15 回　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J73036B01
科目名	【院】管理会計論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting Research B		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	この講義では、経営管理に役立つ会計情報の利用方法について学びます。特に、経営管理者の多様な意思決定や分権化された組織活動が、全社的にどのように調整・統合されるのか、組織活動の成果がどのように測定され、評価されるのかについて学びます。 管理会計は、実務の中で広く実践されており、今日の環境変化に対する実務の革新や研究者の新たな知見を加えながら、その内容を豊かにしてきています。この講義では、最新の管理会計実務の全体像を理解することを目的とし、まず、管理会計の基本的概念や諸技法について学習します。その上で、最新の管理会計実務を紹介したいと思います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著　「管理会計の基礎　第４版」　税務経理協会		
教材（参考文献）	加登豊編　「インサイト管理会計」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	プレゼンテーション 40%　レポート課題 40%　ディスカッションへの貢献 20%		
到達目標	伝統的な管理会計の業績管理手法の習得と、今日の企業で実践されている最新の管理会計手法の理解		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
講義前に、教科書をじっくり読んで疑問点を明らかにしておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　イントロダクション　企業経営と業績管理 第２回　予算管理（１） 第３回　予算管理（２） 第４回　分権制組織の会計管理（１） 第５回　分権制組織の会計管理（２） 第６回　分権制組織の会計管理（３） 第７回　原価管理（１） 第８回　原価管理（２） 第９回　ABC・ABM（１） 第 10 回　ABC・ABM（２） 第 11 回　戦略的コストマネジメント（１） 第 12 回　戦略的コストマネジメント（２） 第 13 回　戦略的コストマネジメント（３） 第 14 回　価値創出経営 第 15 回　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J73044A01
科目名	【院】起業論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Research A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、起業についての基礎理論の修得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する。起業についての研究はここ数年で増加してきた。新しい商品やサービスの開発，新しいマーケットの創造，そして経済の競争力を高める上で，起業家が占める役割は大きい。全体像を把握するためのデータや、日本およびアメリカ等のケースとともに、ビジネス・プランの立て方，ビジネス機会発見の方法，マーケット分析，そしてファイナンシアル・リソースや人材の獲得等について、講義および議論により整理していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	高橋徳行『起業学の基礎』勁草書房		
教材（その他）	関連論文・専門誌掲載記事等、必要に応じてコピー配布		
評価方法	授業内発表（60%）・レポート（40%）。		
到達目標	起業に関わる理論やデータの概観を把握すること。		
準備学習	・授業終了時に配布する資料を次回までに読んでおくこと。 ・起業に関心を持ち、関連する新聞や雑誌等の記事から情報収集しておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。			
講義の順序とポイント			
1.　起業についての社会的意義の整理 2.　起業に関わる内外データから見る現状把握① 3.　〃　② 4.　先行研究から見る起業論① 5.　〃　② 6.　起業活動と経済活動 7.　起業活動と経営戦略 8.　〃　ケーススタディ 9.　起業家の資質 10.　〃　ケーススタディ 11.　事業機会の認識と評価 12.　〃　ケーススタディ 13.　起業活動とビジネスモデルの構築 14.　〃 15.　今後の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J73044B01
科目名	【院】起業論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Research B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、起業論研究Ａに引き続き、起業についての基礎理論の修得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する 起業についての研究はここ数年で増加してきた。新しい商品やサービスの開発，新しいマーケットの創造，そして経済の競争力を高める上で，起業家が占める役割は大きい。全体像を把握するためのデータや、日本およびアメリカ等のケースとともに、ビジネス・プランの立て方，ビジネス機会発見の方法，マーケット分析，そしてファイナンシアル・リソースや人材の獲得等について、講義および議論により整理していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	高橋徳行『起業学の基礎』勁草書房		
教材（その他）	関連論文・専門誌掲載記事		
評価方法	授業内発表（60%）・レポート（40%）		
到達目標	起業家のケースをステップ毎に学ぶことにより、起業の基礎理論を修得する。		
準備学習	・授業終了時に配布する資料を次回までに読んでおくこと。 ・日常的に起業に関心を持ち、関連する新聞や雑誌等の記事から情報収集しておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的参加・発表を期待します。			
講義の順序とポイント			
1.　起業のステップ 2.　創業期のマーケティング 3.　〃　ケーススタディ 4.　人材の確保と活用 5.　〃　ケーススタディ 6.　資金調達 7.　〃　ケーススタディ 8.　競争戦略・成長戦略 9.　〃　ケーススタディ 10.　女性起業家の特質 11.　〃　ケーススタディ 12.　起業支援体制の変化 13.　〃 14.　起業家人材の育成 15.　起業家創出の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J73069A01
科目名	【院】経営史演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Management History A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	ケーススタディは経営史研究の生命である。したがって、演習ＡＢにおいては、研究テーマを決定し、その基礎となる質と量を備えた一次史料の発掘・収集とその整理に努め、これを順次報告しなければならない。基本的史料の発掘・収集は、夏季・春季の長期休暇に集中的に行う必要がある。同時に、研究テーマに不可欠の文献・論文をリストアップ・探索・収集し、問題意識の深化に努めねばならない。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	文献研究の進捗度（70%）、史料収集（30%）		
到達目標	経営史の基礎的知識を習得し、企業・経営発展研究への視座を獲得する。		
準備学習	修士論文の完成に向け最大限の努力を傾注しなければならない。 毎回各自の作業・文献研究の進捗状況を報告し、報告レジュメの作成を求める。		
受講者への要望			
２年間は短い。演習においては、このわずかな時間のうちに文献研究と史料収集を通じて修士論文の完成に努めねばならない。			
講義の順序とポイント			
1.本演習についての概説 2.修士論文作成に関する基礎的説明 3.本学図書館利用に関する説明（所蔵文献・情報検索法の説明） 4.研究テーマの選定に関する指導 5.研究テーマの選定に関する報告 6.研究課題に関する文献研究(1) 7.研究課題に関する文献研究(2) 8.研究テーマに関する問題点の整理 9.基本文献の研究報告(1) 10.基本文献の研究報告(2) 11.基本文献の研究報告(3) 12.論文構成に関する指導(1) 13.論文構成に関する指導(2) 14.関係史料への一次的接近のための情報収集(1) 15.関係史料への一次的接近のための情報収集(2)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J73069B01
科目名	【院】経営史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Management History B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	ケーススタディは経営史研究の生命である。したがって、演習ＡＢにおいては、研究テーマを決定し、その基礎となる質と量を備えた一次史料の発掘・収集とその整理に努め、これを順次報告しなければならない。基本的史料の発掘・収集は、夏季・春季の長期休暇に集中的に行う必要がある。同時に、研究テーマに不可欠の文献・論文をリストアップ・探索・収集し、問題意識の深化に努めねばならない。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	終了レポート（100％）		
到達目標	経営史の基礎的知識を習得し、企業・経営発展研究への視座を獲得する。		
準備学習	修士論文の完成に向け最大限の努力を傾注しなければならない。 毎回各自の作業・文献研究の進捗状況を報告し、報告レジュメの作成を求める。		
受講者への要望			
２年間は短い。演習においては、このわずかな時間のうちに文献研究と史料収集を通じて修士論文の完成に努めねばならない。			
講義の順序とポイント			
16.収集史料を基にした研究報告(1) 17.収集史料を基にした研究報告(2) 18.収集史料を基にした研究報告(3) 19.先行研究の整理(1) 20.先行研究の整理(2) 21.研究テーマに関する問題点の整理(1) 22.研究テーマに関する問題点の整理(2) 23.基本文献の研究報告(1) 24.基本文献の研究報告(2) 27.追加的史料の情報収集(1) 28.追加的史料の情報収集(2) 29.追加的史料の情報収集(3) 30.追加的史料の情報収集(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J73105A01
科目名	【院】情報管理論研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Management A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	プリント配布。		
評価方法	レポート(40%)、受講・発表など授業での取り組み(60%)で評価する。		
到達目標	経営情報システム及び企業経営における情報の適切な利活用と管理について考察していく。そして、ホワイトカラー職務能力評価試験の筆記試験合格レベルの知識習得を目標とする。		
準備学習	経営学及び経営情報の基本部分はキッチリおさえていて欲しい。 ビジネス・キャリア試験レベルまでの事前学習をすすめて欲しい。		

受講者への要望

常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。

講義の順序とポイント

授業は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
　ワードプロセッシング演習
　スプレッドシート演習
　Gmail、One Drive、Thinkfree、Evernote、Twitter、Dropbox アカウント取得
2．プレゼンテーション基礎演習
3．プレゼンテーション応用演習
4．情報化技術の理解
5．経営戦略の理解
6．情報化戦略の立案
7．情報の収集 1
8. 情報の収集 2
9. 情報の整理 1
10. 情報の整理 2
11. 情報の加工
12. 情報の表現
13. パソコンソフトの活用
14. 関連法規の理解
15. 理論的側面の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J73105B01
科目名	【院】情報管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Management B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	プリント配布。		
評価方法	レポート(40%)、受講・発表など授業での取り組み(60%)で評価する。		
到達目標	経営情報システム及び企業経営における情報の適切な利活用と管理について考察していく。そして、ビジネス･キャリア検定試験の筆記試験合格レベルの知識習得を目標とする。		
準備学習	経営学及び経営情報の基本部分はキッチリおさえていて欲しい。 ビジネス・キャリア試験レベルまでの事前学習をすすめて欲しい。		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
講義の順序とポイント			
授業は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1．受講ガイダンス 2. アイデアプロセシング演習基礎 1 3. アイデアプロセシング演習基礎 2 4. アイデアプロセシング演習応用 1 5. アイデアプロセシング演習応用 2 6. 情報システムの種類 7. IT ソリューションの調達方法 8. IT ソリューションの活用 9. システム化計画の立案 10. システム要求の分析と要件定義 11. システム開発におけるその他の業務 12. システムの運用 13. 情報セキュリティ 14. 情報システム導入の失敗の原因 15. システム面からの課題と展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J73110A01
科目名	【院】情報処理研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	現在、パソコン用アプリケーションソフトの多くは、オブジェクト指向プログラミング言語を用いて開発されている。さらに最近では、オブジェクト指向のスクリプト言語が開発され、その扱い易さから、多方面に利用されるようになってきた。 本講義では、スクリプト言語を用いて、オブジェクト指向プログラミングの技法の習得とともに、その言語構造について考察する。また、このようなスクリプト言語による GUI アプリケーションの開発は最近始められたところであり、その可能性についても考察する。 使用するスクリプト言語には、Ruby を予定している。この言語を用い、データベースの検索プログラムの作成等を通して、オブジェクト指向プログラミングの技法を習得する。 本講義は、参考書や配布資料を用いてゼミ形式で行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	テキストの代わりとして、プリントを配布する。		
評価方法	報告等による平常点(50%)　　レポート(50%)		
到達目標	・オブジェクト指向プログラミング言語の言語構造を理解している。 ・オブジェクト指向プログラミング言語のプログラミング技法を身に付けている。		
準備学習	講義内容に関する項目を予習しておくこと。		

受講者への要望

毎回プログラム作成を行うので、ノートパソコンを持参すること。
能動的な姿勢で講義に取組むことを望む。

講義の順序とポイント

1　イントロダクション
2　Ruby の基礎(1)　文字と数値
3　Ruby の基礎(2)　制御構造
4　Ruby の基礎(3)　オブジェクトと変数
5　Ruby の基礎(4)　条件判断と繰り返し
6　Ruby の基礎(5)　メソッド
7　オブジェクト指向プログラミング(1)　クラス
8　オブジェクト指向プログラミング(2)　継承
9　オブジェクト指向プログラミング(3)　モジュール
10　クラスの利用(1)　数値、配列、文字列
11　クラスの利用(2)　入出力、ファイル、日付
12　検索プログラムの作成(1)
13　検索プログラムの作成(2)
14　レポートの作成(1)
15　レポートの作成(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	J73110B01
科目名	【院】情報処理研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	現在、パソコン用アプリケーションソフトの多くは、オブジェクト指向プログラミング言語を用いて開発されている。さらに最近では、オブジェクト指向のスクリプト言語が開発され、その扱い易さから、多方面に利用されるようになってきた。 本講義では、スクリプト言語を用いて、オブジェクト指向プログラミングの技法の習得とともに、その言語構造について考察する。また、このようなスクリプト言語による GUI アプリケーションの開発は最近始められたところであり、その可能性についても考察する。 使用するスクリプト言語には、Ruby と Ruby/Tk を予定している。GUI を用いたデータベース検索プログラムの作成を通して、オブジェクト指向プログラミングの技法を習得する。 本講義は、参考書や配布資料を用いてゼミ形式で行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	テキストの代わりとして、プリントを配布する。		
評価方法	報告等による平常点(50%)　　レポート(50%)		
到達目標	・オブジェクト指向プログラミング言語の言語構造を理解している。 ・オブジェクト指向プログラミング言語のプログラミング技法を身に付けている。		
準備学習	講義内容に関する項目を予習しておくこと。		

受講者への要望

毎回プログラム作成を行うので、ノートパソコンを持参すること。
能動的な姿勢で講義に取組むことを望む。

講義の順序とポイント

1　イントロダクション
2　Ruby/Tk の基礎(1)　ラベル
3　Ruby/Tk の基礎(2)　ボタン
4　Ruby/Tk の基礎(3)　エントリ
5　Ruby/Tk の基礎(4)　フォント、ウィンドウ
6　検索プログラムの作成(1)　GUI の作成
7　検索プログラムの作成(2)　GUI の作成
8　検索プログラムの作成(3)　GUI の作成
9　検索プログラムの作成(4)　GUI の作成
10　検索プログラムの作成(5)　GUI との結合
11　検索プログラムの作成(6)　GUI との結合
12　検索プログラムの作成(7)　GUI との結合
13　レポートの作成(1)
14　レポートの作成(2)
15　レポートの作成(3)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	J73115A01
科目名	【院】人的資源管理論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	人的資源管理[HRM(Human Resources Management)]というコンセプトはアメリカで生まれた。人事管理[PM（Personnel Management）]と HRM の相違については未だ同意は築かれてはいないが、広範囲にわたる論点を含みつつ、もはや PM という用語を見ることはできないほど HRM という用語は浸透している。 　経営戦略と人材管理･開発の制度や実践との適合性が考察される場合もあれば、能力や知識とは何か,それらをどのように測定し,育むか,等の観点からの論文もある。はたまた、外部労働市場の動向に焦点を合わせる研究もある。これらをできるだけ分かり易く解説することを通して、また受講者のキャリア設計に役立つように進めていくことによって、人財という財宝に向けて指導していきたい。		
教材（テキスト）	第１回目に学部時代の学習状況を聞き、テキストを決定する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	毎回の発表内容（70%）および発表・取組姿勢（30%）により評価する。		
到達目標	以下の修得を目指す。 企業をはじめとする「組織」の仕組みを人的資源と関連付けて理解できる。		
準備学習	＊テキストの担当箇所を要約し、レジュメに仕立てること。誰が何ページまでをいつまでに,ついては毎回、指示する。 ＊小テストやレポートなどを通して学習したことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料やテキストを必ず熟読しておくこと。		
受講者への要望			
学部時代に人事・労務管理論やＨＲＭを学んだことのある方を望む。			
講義の順序とポイント			
1.人事・労務管理と HRM の相違は？① 2.人事・労務管理と HRM の相違は？② 3.人事・労務管理と HRM の相違は？③ 4.経営戦略と HRM の関係① 5.経営戦略と HRM の関係② 6.経営戦略と HRM の関係③ 7.行動科学と HRM の関係① 8.行動科学と HRM の関係② 9.行動科学と HRM の関係③ 10.日本における人事・労務管理論および HRM 研究の展開について① 11.日本における人事・労務管理論および HRM 研究の展開について② 12.日本における人事・労務管理論および HRM 研究の展開について③ 13.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは？① 14.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは？② 15.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは？③			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2016	授業コード	J73115B01
科目名	【院】人的資源管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	人的資源管理[HRM(Human Resources Management)]というコンセプトはアメリカで生まれた。人事管理[PM（Personnel Management）]と HRM の相違については未だ同意は築かれてはいないが、広範囲にわたる論点を含みつつ、もはや PM という用語を見ることはできないほど HRM という用語は浸透している。 　経営戦略と人材管理･開発の制度や実践との適合性が考察される場合もあれば、能力や知識とは何か,それらをどのように測定し,育むか,等の観点からの論文もある。はたまた、外部労働市場の動向に焦点を合わせる研究もある。これらをできるだけ分かり易く解説することを通して、また受講者のキャリア設計に役立つように進めていくことによって、人財という財宝に向けて指導していきたい。		
教材（テキスト）	第１回目に学部時代の学習状況を聞き、テキストを決定する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	毎回の発表内容（70%）および発表・取組姿勢（30%）により評価する。		
到達目標	以下の修得を目指す。 企業をはじめとする「組織」の仕組みを人的資源と関連付けて理解できる。		
準備学習	＊テキストの担当箇所を要約し、レジュメに仕立てること。誰が何ページまでをいつまでに,ついては毎回、指示する。 ＊小テストやレポートなどを通して学習したことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料やテキストを必ず熟読しておくこと。		
受講者への要望			
学部時代に人事・労務管理論やＨＲＭを学んだことのある方を望む。			
講義の順序とポイント			
1.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは？② 2.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは？③ 3.日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について① 4.日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について② 5.日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について③ 6.アメリカ企業における先任権、職務給、報奨、MBA の待遇、等について① 7.アメリカ企業における先任権、職務給、報奨、MBA の待遇、等について② 8.IR(労使関係)と HRM の関係は？① 9.IR と HRM の関係は？② 10.IR と HRM の関係は？③ 11.HRM の｢システム｣とは？①　ベストプラクティス、コンティンジェンシー、コンフィギュレーション、等の観点から 12.HRM の｢システム｣とは？②　ベストプラクティス、コンティンジェンシー、コンフィギュレーション、等の観点から、および一般システム論と自己組織化研究、等の観点から 13.所得と格差社会について 14.修士論文のテーマ発表① 15.修士論文のテーマ発表②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2016	授業コード	J73125A01
科目名	【院】中小企業経営論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Small Business Management A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	中小企業経営の研究に必要とされる、基本的な研究書、論文などの先行研究を中心に、中小企業経営の本質を理解する。そのうえで「研究計画書」との適合性や修正などを視野に入れ、研究テーマのスキームを探る。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	取組姿勢（研究への取組姿勢など）（50%）レポートなど報告内容（50%）		
到達目標	中小企業経営論は、学問領域が多岐にわたっているため、文献研究などを通して、中小企業経営全般にわたる基礎的概念を整理、理解したうえで、研究領域への絞り込みを行い、研究テーマを設定する。		
準備学習	研究テーマを念頭に、研究書、論文、資料など一次文献の幅広い収集を心掛けるとともに、文献に基づき研究テーマに関する整理を行う。		

受講者への要望

到達点を念頭においた、積極的な演習への取組を期待します。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　論文作成に関する基礎指導①
3　論文作成に関する基礎指導②
4　中小企業経営に関する総論①
5　中小企業経営に関する総論②
6　論題選定に関する指導、報告①
7　論題選定に関する指導、報告②
8　論題に関する文献研究についての報告と討議①
9　論題に関する文献研究についての報告と討議②
10　論題に関する文献研究についての報告と討議③
11　論題に関する問題点、課題の整理①
12　論題に関する問題点、課題の整理②
13　論文構成に関する指導①
14　論文構成に関する指導②
15　論文構成に関する指導③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J73125B01
科目名	【院】中小企業経営論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Small Business Management B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	収集した研究書、論文、資料などの研究分析を進め、論題の方向性を見定める。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	取組姿勢（研究への取組姿勢など）（５０％）レポートなど報告内容（５０％）		
到達目標	研究テーマを選定するとともに、テーマに沿った論文作成を可能たらしめる幅広い知識の習得		
準備学習	論文作成のため必要とする、研究所、論文、資料など収集には、問題意識を持つとともにそれらの理解に努め、自身の論文作成に活用することを、心掛けて演習に臨む。		
受講者への要望			
到達点を念頭におき、積極的に論文作成に取組む			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　論文にかかる情報の整理① 3　論文にかかる情報の整理② 4　論題によるフィールドワークの実施① 5　論題によるフィールドワークの実施② 6　論題によるフィールドワークの実施③ 7　論題によるフィールドワークの実施④ 8　論文構成に関する報告と討議① 9　論文構成に関する報告と討議② 10　論文構成に関する報告と討議③ 11　論文構成に関する報告と討議④ 12　論文構成に関する報告と討議⑤ 13　追加的資料の収集① 14　追加的資料の収集② 15　追加的資料の収集③			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J73129A01
科目名	【院】中小企業経営論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	戦後日本の中小企業は、高度成長、バブル期を経て、現在失われた 20 年と揶揄される時代を迎えているが、中小企業ではその独自性を活かし、自助努力により活力を持って日本経済を支えている存在である。 この間事業所数ベースで約 99 パーセントの割合を占める中小企業が、日本経済の発展成長に果たした役割には多大なものがあるといえる。 このため中小企業経営論の研究に当たり、本講座では、戦後の中小企業の歩みについてその実態の理解を進めるとともに、国の中小企業政策面からの考察も行い、中小企業経営に国の政策面から何が求められ、それに対して、中小企業がどのように対応したか、そして現状における課題およびそれをどのように解決していくのかについて、中小企業論を踏まえた中小企業経営論の解明を行いたい。 このため研究の中心は、中小企業基本法、中小企業白書、国の中小企業政策の推移等を中心に据えての講義となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要の都度紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	取組姿勢 50％、レポート 50％		
到達目標	日本における中小企業の戦後の軌跡、現状と課題を中小企業論の観点を踏まえ理解習得する事によって、実際の中小企業経営に資する、能力の涵養を図る。 当該講座により習得した知識およびスキルは、起業はもとよりありとあらゆる組織の一員としても、活用できるものである。		
準備学習	日常から中小企業に対する興味を持つとともに現状や動向についての情報入手に努める。 特に最近は中小企業研究の著書が減少傾向にあることから、政府機関など公的機関がが発行する中小企業関連冊子、ネット情報などの取得にも留意されたい。		

受講者への要望

中小企業への関心を常にもって、中小企業の課題などの解決に必要とされるマネジメントを念頭に、双方向の授業となりますので、積極的な参加をお願いします。

講義の順序とポイント

1　はじめに（本講座の概要）
2　戦後中小企業の軌跡～戦後復興期
3　～高度成長期
4　～バブル期から現在
5　中小企業基本法と中小企業経営～改正前基本法
6　～改正後基本法
7　～経営革新、創業、連携を中心とした経営
8　中小企業白書に見る中小企業経営の現状と課題①
9　②
10　③
11　中小企業政策と中小企業経営①
12　②
13　③
14　これからの中小企業経営①
15　②

適宜講義内容を踏まえた課題に基づき、グループワークを行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J73129B01
科目名	【院】中小企業経営論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	中小企業経営は、中小がゆえの特色と独自性を持って行われてきた。しかしながら総じてその経営は、大企業経営と比較して、生産性が低い、賃金が低い、設備が前近代的である、家計と企業が未分離で経営実体が把握できないなどさまざまな経営上の問題を抱えて行われてきたことは周知のことである。 　この事に加え企業のライフサイクル面からの考察を加えれば、スタートアップ期、発展成長期、安定期、衰退期（事業承継期）それぞれのステージにおいて求められるマネジメントの方法は、おのずと差異が生じると考えられる。 　以上から中小企業の特色を踏まえた、各ライフステージにおける中小企業経営論について考察を進めたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要の都度紹介する。		
教材（その他）	必要の都度プリントを配布		
評価方法	取組姿勢　50%　　レポート点　　50%		
到達目標	本講座受講により得た知識は、実際の中小企業経営に資する知識とスキルの習得を行う。 　なお中小企業経営に限らず、どのような進路を選択肢を選ぼうとも、活用できるよう研究を進める。		
準備学習	日常においても中小企業経営に関心を持ち、関連する情報について、専門書、専門雑誌、ネットなどにより、収集に努める。		

受講者への要望

双方向の講座を目指していますので、積極的な授業への参加をお願いいたします。

講義の順序とポイント

1　はじめに（本講座の概要）
2　中小企業経営における特質
3　スタートアップ（起業）時における中小企業経営）～ビジネスチャンスの発見
4　～経営資源の調達
5　～ビジネスシステムの構築
6　発展・成長期における中小企業経営 ～内部統制
7　～生産性向上
8　～ＩＴ戦略
9　安定期における中小企業経営～ＣＳＲ（企業の社会的責任）
10　～知的資産経営
11　～海外展開
12　～経営革新
13　衰退期（事業承継期）における中小企業経営～事業承継
14　～事業再生
15　中小企業経営への展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J73141A01
科目名	【院】経営管理論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Research A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	経営管理の代表的な学説を学ぶとともに、現代企業を取り巻くさまざまな活動を経営管理という視点から考察します。経営管理は、日常何らかの組織にかかわりをもっている私たちにとって、最も関連の深い学問です。経営を構成体としてみれば組織であり、組織が成立するところには組織を形成・維持するための管理機能が生じます。 　この講義では、まず、管理論が生成した背景を学びます。次に、経営管理の理論的な発展過程を体系的に理解します。今日の経営管理論の基礎は、テイラーの科学的管法やファヨールの管理論の出現によって 20 世紀初頭に築かれました。その後、近代管理論、人間関係論などさまざまな理論が発展しています。これらの理論を踏まえて、組織をどう統制し、戦略はどう策定するのかという課題を、実例を通して考察します。講義を通じて、いま企業がどのような課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかを、経営管理論という立場から説明できるようになることをめざします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。新聞記事やビデオ教材を使用することもあります。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（60%）。授業中に課すレポート（40%）。		
到達目標	経営管理の代表的な学説を体系的に把握できること。 現代企業を取り巻くさまざまな活動を、経営管理の視点から考えられるようになること。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義で使用するテキストの範囲を指示するので、熟読しておいてください。報告者はレジュメを作成します。		

受講者への要望

この講義は事前学習を必要とします。テキストを事前に読んでまとめ、講義時に報告します。それを踏まえて、意見交換もします。また、事例分析では、新聞記事を読んだりビデオを鑑賞したりして、考えをまとめる作業などもします。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　（授業の進め方や目的の説明等）
2　企業の形態と株式会社について
3　経営管理の生成①　（所有と経営の分離など）
4　経営管理の生成②　（所有と経営の分離の事例分析）
5　経営管理の生成③　（持株会社の事例分析）
6　経営管理の発展①　（経営管理の諸理論）
7　経営管理の発展②　（経営管理の諸理論）
8　組織のデザイン①　（組織構造の種類、利点と問題点）
9　組織のデザイン②　（組織構造の事例分析）
10　経営戦略①　（代表的な理論）
11　経営戦略②　（事例分析）
12　資源の管理①　（代表的な理論）
13　資源の管理②　（事例分析）
14　企業の社会的責任と CSR
15　経営管理論研究 A を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	- -	- -	- -	- -	★	★★

年度	2016	授業コード	J73141B01
科目名	【院】経営管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Research B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	経営管理の代表的な学説を学ぶとともに、現代企業を取り巻くさまざまな活動を経営管理という視点から考察します。経営管理は、日常何らかの組織にかかわりをもっている私たちにとって、最も関連の深い学問です。経営を構成体としてみれば組織であり、組織が成立するところには組織を形成・維持するための管理機能が生じます。今日の経営管理論の基礎は、テイラーの科学的管法やファヨールの管理論の出現によって 20 世紀初頭に築かれました。その後、近代管理論や人間関係論などの理論が発展してきました。 　この講義では、経営管理の基本的な理論を踏まえて、企業の活性化や変革、情報通信技術を利用した組織デザインなど、現代企業が直面するさまざまな課題について検討します。 　講義を通じて、いま企業がどのような課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかという実践的なプロセスを理論的に説明できるようになることをめざしています。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男著『経営管理論 新版』有斐閣アルマ,2009 年,1995 円。 その他、授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。新聞記事やビデオ教材を使用することもあります。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（60%）。授業中に課すレポート（40%）。		
到達目標	経営管理の代表的な学説を体系的に把握できること。 現代企業を取り巻くさまざまな活動を、経営管理の視点から考えられるようになること。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義で使用するテキストの範囲を指示するので、熟読しておいてください。報告者はレジュメを作成します。		

受講者への要望

この講義は事前学習を必要とします。テキストを事前に読んでまとめ、講義時に報告します。それを踏まえて、意見交換もします。また、事例分析では、新聞記事を読んだりビデオを鑑賞したりして、考えをまとめる作業などもします。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　（授業の進め方や目的の説明等）
2　モチベーションと組織活性化①　（人間関係論、動機づけ理論など）
3　モチベーションと組織活性化②　（事例分析）
4　経営のリーダーシップ①　（代表的な理論）
5　経営のリーダーシップ②　（事例分析）
6　企業文化の創造と変革
7　日本の経営管理　（日本的経営について）
8　組織間関係の管理①　（戦略的提携に向けての基礎）
9　組織間関係の管理②　（事例分析）
10　グローバル戦略①　（日本企業の国際化の論理）
11　グローバル戦略②　（事例分析）
12　情報管理①　（代表的な理論）
13　情報管理②　（事例分析、インターネットビジネス）
14　情報管理③　（事例分析、テレワーク）
15　経営管理論研究 B を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	- -	- -	- -	- -	★	★★

年度	2016	授業コード	J73146A01
科目名	【院】財務諸表論研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 A では、従来の日本の会計制度の根底にある理論と、国際会計基準の理論的な背景を対比しつつ、財務会計の総論的な問題を取り扱う。財務諸表論研究 B では、個別の会計処理において問題となる理論的背景を比較しつつ、日本の会計基準と国際会計基準の相違について考察する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示する		
教材（その他）	その都度指示する		
評価方法	日常の受講姿勢(40%)およびレポート(60%)		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：講義の目的と視点 2. 企業経営における会計の基本的な機能 3. 会計の本質と概念フレームワーク 4. 日本の会計制度 5. 会計の国際化とコンバージェンス 6. 財務会計のシステムと複式簿記 7. 会計公準と会計原則 8. 一般原則 9. 損益計算書原則 10. 貸借対照表原則 11. 貸借対照表の様式と見方 12. 損益計算書の様式と見方 13. キャッシュ･フロー計算書の様式と見方 14. その他のディスクロージャー 15. 総括と残された課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J73146B01
科目名	【院】財務諸表論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 A では、従来の日本の会計制度の根底にある理論と、国際会計基準の理論的な背景を対比しつつ、財務会計の総論的な問題を取り扱う。財務諸表論研究 B では、個別の会計処理において問題となる理論的背景を比較しつつ、日本の会計基準と国際会計基準の相違について考察する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示する		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加および報告などの平常点 50%、最終レポート 50%		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. 資産の会計 1：金融商品 2. 資産の会計 2：棚卸商品 3. 資産の会計 3：有形固定資産 4. 資産の会計 4：無形固定資産 5. 資産の会計 5：減損 6. 負債の会計 1：引当金 7. 負債の会計 2：退職給付 8. 負債の会計 3：資産除去債務 9. 純資産の会計 10. 収益の認識と測定 11. 費用の認識と測定 12. 企業集団と連結会計 13. 企業結合の会計 14. 税効果会計 15. 総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J73146C01
科目名	【院】財務諸表論研究C	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research C		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 C では、国際会計基準の概念フレームワークを中心に扱いながら、会計基準の根底にある理論的な基礎を学んで行く。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	齊藤静樹『詳解　討議資料・財務会計の概念フレームワーク』中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	日常の受講姿勢(40%)およびレポート(60%)		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：講義の目的と視点 2. 会計と環境 3. 国際会計基準設定の経緯 4. 国際会計基準と日本基準 5. 会計基準の国際的調和の動向 6. 会計の本質と概念フレームワーク 7. 概念フレームワークの役割 8. 財務報告の目的 9. 会計情報の質的特性(1) 10. 会計情報の質的特性(2) 11. 財務諸表の構成要素(1) 12. 財務諸表の構成要素(2) 13. 財務報告の表示プロジェクト 14. 国際会計基準をめぐる最新の動向 15. 総括と残された課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J73146D01
科目名	【院】財務諸表論研究D	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research D		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 D では、個別の会計処理を規定する会計基準を順次検討し、コンバージェンスを進める際の課題となる日本の会計基準と国際会計基準の差異についても考察する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示する		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加および報告などの平常点 50%、最終レポート 50%		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. 資産の会計 1：金融商品(1) 2. 資産の会計 2：金融商品(2) 3. 資産の会計 3：棚卸商品 4. 資産の会計 4：有形固定資産(1) 5. 資産の会計 5：有形固定資産(2) 6. 資産の会計 6：無形資産 7. 資産の会計 7：リース 8. 負債の会計 1：退職給付 9. 負債の会計 2：資産除去債務 10. 負債の会計 3：引当金 11. 収益 12. ストック・オプション 13. 企業結合の会計(1) 14. 企業結合の会計(2) 15. 総括：コンバージェンスをめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J73150A01
科目名	【院】起業論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Seminar A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、起業論として展開されている国内外の理論をケーススタディの手法によって知識を深めるとともに、自らの課題設定ができるように指導する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『アントレプレナーシップ』（ウィリアム・バイグレイブ、アンドリュー・ザカラキス著、日経ＢＰ社） 『アントレプレナーシップ入門』（Ｄ・Ｊ・ストーリー著、有斐閣） 『アントレプレナー創造』（高木晴夫著、生産性出版）		
教材（その他）	関連論文、専門誌掲載記事等		
評価方法	授業内発表（50%）・レポート（50%）		
到達目標	起業に関わる理論やデータの概観を把握し、事例を研究分析する基礎力をつける。		
準備学習	事前に配布する資料を読み、理解しておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。			
講義の順序とポイント			
1. 起業についての総論 2. 起業と経済成長① 3. 〃 ② 4. 起業論の分類 5. 起業論の評価 6. ケーススタディの方法 7. ケースライティングについて 8. 〃 9. ケースの設定 10. ケーススタディ① 11. 〃 ② 12. 〃 ③ 13. 〃 ④ 14. ケース分析① 15. 〃 ②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J73150B01
科目名	【院】起業論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Seminar B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	起業についての基礎理論と習得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する。 演習Ａで学んだことを基に、起業家や起業支援機関の調査やヒアリングを行い、自分自身の研究テーマを見つける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『アントレプレナーシップ』（ウィリアム・バイグレイブ、アンドリュー・ザカラキス著、日経ＢＰ社） 『アントレプレナーシップ入門』（Ｄ・Ｊ・ストーリー著、有斐閣） 『アントレプレナー創造』（高木晴夫著、生産性出版）		
教材（その他）	関連論文、専門誌掲載記事等		
評価方法	授業内発表（50%）・レポート（50%）		
到達目標	起業に関わる理論やデータの概観を把握し、研究分析力をつける。		
準備学習	事前に与えられた課題を実行すること。		

受講者への要望

授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。

講義の順序とポイント

1. 演習Ａの振り返りとガイダンス
2. 研究テーマ設定の考え方
3. テーマ設定と周辺情報収集の方法
4. 情報収集と整理①
5. 〃　②
6. 調査及びヒアリングの方法
7. 起業家・支援機関のヒアリング計画
8. 〃
9. ヒアリング
10. ヒアリング
11. ヒアリング結果の整理
12. 論文作成の基本
13. 〃
14. 論文構成について
15. 〃

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J73151A01
科目名	【院】財務諸表論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自が特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 まず最初のセメスターでは、論文テーマの選択を見据えながら、会計の基礎的概念を理解することを中心に研究の基礎を固めていきたい。		
教材（テキスト）	開講後、受講者と相談しながら決定する		
教材（参考文献）	斎藤静樹編著『詳解　討議資料　財務会計の概念フレームワーク』第 2 版　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を用意するので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識をもって課題に取り組み、受講すること			
講義の順序とポイント			
1.オリエンテーション 2.修士論文の方向性に関する指導(1) 3.修士論文の方向性に関する指導(2) 4.図書館を中心とする資料検索の方法に関する指導 5.会計上の諸概念の検討(1) 6.会計上の諸概念の検討(2) 7.会計上の諸概念の検討(3) 8.会計上の諸概念の検討(4) 9.会計基準を巡る諸問題の検討(1) 10.会計基準を巡る諸問題の検討(2) 11.会計基準を巡る諸問題の検討(3) 12.会計基準を巡る諸問題の検討(4) 13.会計基準を巡る諸問題の検討(5) 14.会計基準を巡る諸問題の検討(6) 15.演習 B に向けての課題設定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J73151B01
科目名	【院】財務諸表論演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけてっ最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 演習 B では、テーマもしくは題材を決定し、先行研究をリファーしながら本人の方向性を決定していくことにする。このセメスターのうちにある程度論文のフローチャートが完成することが望ましい。		
教材（テキスト）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考文献）	斎藤静樹編著　『詳解　討議資料　財務会計の概念フレームワーク』第 2 版　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
講義の順序とポイント			
1.論題の設定に関する報告と指導(1) 2.論題の設定に関する報告と指導(2) 3.論題に関する論点整理(1) 4.論題に関する論点整理(2) 5.論文構成に関する報告と指導(1) 6.論文構成に関する報告と指導(2) 7.テーマに沿った基本文献の精読(1) 8.テーマに沿った基本文献の精読(2) 9.テーマに沿った基本文献の精読(3) 10.先行研究の調査と報告(1) 11.先行研究の調査と報告(2) 12.先行研究の調査と報告(3) 13.論文構成に関する報告と指導(3) 14.論文構成に関する報告と指導(4) 15.演習 C に向けての課題整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J73151C01
科目名	【院】財務諸表論演習C	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements C		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 演習 C では、履修生各自が設定したテーマに基づいて、論文のフローチャートを完成し、論文の骨格づくりをめざす。		
教材（テキスト）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考文献）	各自のテーマに沿って指示する。		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
講義の順序とポイント			
1.論題の設定に関する報告と指導(1) 2.論題の設定に関する報告と指導(2) 3.論題に関する論点整理(1) 4.論題に関する論点整理(2) 5.論文構成に関する報告と指導(1) 6.論文構成に関する報告と指導(2) 7.テーマに沿った基本文献の精読(1) 8.テーマに沿った基本文献の精読(2) 9.テーマに沿った基本文献の精読(3) 10.先行研究の調査と報告(1) 11.先行研究の調査と報告(2) 12.先行研究の調査と報告(3) 13.論文構成に関する報告と指導(3) 14.論文構成に関する報告と指導(4) 15.演習 D に向けての課題整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J73151D01
科目名	【院】財務諸表論演習D	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements D		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 演習 D では、1 月中旬に予定されている修士論文提出に向けての最終段階として、中間報告会。		
教材（テキスト）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	修士論文中間報告 30%　最終提出論文 70%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
講義の順序とポイント			
1.論文内容の報告と指導(1) 2.論文内容の報告と指導(2) 3.論文内容の報告と指導(3) 4.論文内容の報告と指導(4) 5.中間報告に向けての準備指導 6.中間報告の予行演習 7.中間報告における指摘内容の確認 8.論文内容の報告と指導(5) 9.論文内容の報告と指導(6) 10.論文内容の報告と指導(7) 11.論文内容の報告と指導(8) 12.論文内容の調査と報告(9) 13.提出論文の最終確認 14.口頭試問に向けての指導(1) 15.口頭試問に向けての指導(2)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J73157A01
科目名	【院】アジア情報研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Situation Analysis in Asia A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化を 学びつつ、今後様々な形で世界経済に大きな影響を与えるであろうこの地域の将来を総合的に展望する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、レポート（５０%）。		
到達目標	インドを中心とする南アジア圏の歴史と文化について学び、 現在の政治・経済の背景にある問題について理解する。		
準備学習	英語の新聞やインターネット上の英語のページなどを通じて、日本以外の国々の情報も得るようにこころがけること。毎回授業終了時に次回の内容と次回までに予習・復習すべき点を指示する。		
受講者への要望			
履修登録の前に、担当者（山下）に必ず相談に来ること。 受講者による自主的な報告やディスカッションを中心として授業を進めるので、 特に南アジア圏の文化や現状に関心のある受講者の参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．授業ガイダンス ２．インドの歴史１ ３．学生による報告・ディスカッション ４．インドの歴史２ ５．学生による報告・ディスカッション ６．インドの文化１ ７．学生による報告・ディスカッション ８．インドの文化２ ９．学生による報告・ディスカッション １０．インドの宗教１ １１．学生による報告・ディスカッション １２．インドの宗教２ １３．学生による報告・ディスカッション １４．南アジアと東アジアについて １５．今後の学習の展望について （なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J73157B01
科目名	【院】アジア情報研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Situation Analysis in Asia B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化を 学びつつ、今後様々な形で世界経済に大きな影響を与えるであろうこの地域の将来を総合的に展望する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、レポート（５０%）。		
到達目標	インドを中心とする南アジア圏の歴史と文化について学び、 現在の政治・経済の背景にある問題について理解する。		
準備学習	英語の新聞やインターネット上の英語のページなどを通じて、日本以外の国々の情報も得るようにこころがけること。　毎回授業終了時に次回の内容と次回までに予習・復習すべき点を指示する。		
受講者への要望			
履修登録の前に、担当者（山下）に必ず相談に来ること。 受講者による自主的な報告やディスカッションを中心として授業を進めるので、 特に南アジア圏の文化や現状に関心のある受講者の参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．授業ガイダンス ２．インドの政治１ ３．学生による報告・ディスカッション ４．インドの政治２ ５．学生による報告・ディスカッション ６．インドの経済１ ７．学生による報告・ディスカッション ８．インドの経済２ ９．学生による報告・ディスカッション １０．インドの企業１ １１．学生による報告・ディスカッション １２．インドの企業２ １３．学生による報告・ディスカッション １４．インドの将来について １５．今後の学習の展望について （なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J73158A01
科目名	【院】経営史研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management History A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	人間社会は変化して留まるところを知らないが、刻々と変化を遂げる表層の下に、容易に変化することのない基層を見いだすことが出来る。歴史学は、変化の様相を探索し、変化の動力を見い出し、変化の極点として現代を把え、変化の向こうの核に接近しようとする。経営史学は、技術や市場の変化のなかで、企業家がどのように事業機会を見出し、どのように組織・経営を革新したかを追求するもの、と言うことも出来よう。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の報告・レジュメ（100%）		
到達目標	経営史の研究状況を把握し、長期的・歴史的観点からの分析手法を理解する。		
準備学習	輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジメを作成する。		

受講者への要望

経営史的研究を通じて、各自の研究にどう生かせるかを考えること。

講義の順序とポイント

Ⅰ
1.日本経営史の課題、
2.江戸時代の経済発展、
3.江戸時代の商家経営、
4.江戸期商家の経営システム、
5.商家の経営管理システム
Ⅱ
6.明治前・中期の日本経済、
7.近代的経営組織の形成、
8.近代的経営管理の形成、
9.明治国家と企業
Ⅱ
10.日露戦後から昭和初年に至る日本経済、
11.大企業時代の到来、
12.新興産業の勃興と産業開拓活動、
13.企業活動の国際化、
14.経営管理の進展、
15.現代的課題と展望
＊受講者の顔触れにより、講義の順序や重点を変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J73158B01
科目名	【院】経営史研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management History B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	人間社会は変化して留まるところを知らないが、刻々と変化を遂げる表層の下に、容易に変化することのない基層を見いだすことが出来る。歴史学は、変化の様相を探索し、変化の動力を見い出し、変化の極点として現代を把え、変化の向こうの核に接近しようとする。経営史学は、技術や市場の変化のなかで、企業家がどのように事業機会を見出し、どのように組織・経営を革新したかを追求するもの、と言うことも出来よう。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の報告・レジュメ（100%）		
到達目標	経営史の研究状況を把握し、長期的・歴史的観点からの分析手法を理解する。		
準備学習	輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジュメを作成する。		

受講者への要望

経営史的研究を通じて、各自の研究にどう生かせるかを考えること。

講義の順序とポイント

Ⅲ
1.日本経営史の課題、
2.戦前から戦後へ--経済政策の展開と経営環境の変化、
3.大企業体制の変遷、
4.労使関係の変化、
5.技術開発の推進、
6.経営管理の展開
Ⅳ
7.高度成長とその後の日本経済の変転、
8.成長を実現したメカニズム--中間組織の成長促進機能、
9.日本的経営と協調的労使関係、
10.資本家企業の急成長、
11.中小企業の役割と第三次産業の動向、
12.技術革新と技術開発、
13.多品種少量生産体制の構築、
14.日本的経営の光と影、
15.現代的課題と展望
＊受講者の顔触れにより講義の順序や重点を変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J73161A01
科目名	【院】マーケティング論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Studies A on Marketing		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義では、マーケティング分野の先行研究で行われた実証方法を、追試（Replication Study）が行える水準まで精緻に学ぶ。具体的には、①『流通研究』や『消費者行動学研究』あるいは Journal of Marketing などといった査読付き論文を精読する。②①で読み取った方法とまったく同じ方法を使ってデータを収集し分析する。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	適宜、指示する。		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	マーケティング分野の先行研究の追試（Replication Study）ができる。		
準備学習	Word や EXCEL および SPSS の新しい使い方を、講義ごとに追加して教えていくので、その使い方を復習しておくこと。		
受講者への要望			
テキスト選定（第 2 回）までに修士論文の大まかなテーマを伝えられるようにしておくこと。また、復習のためにも、パソコンを多用するので、扱い方に慣れておくこと。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「レジュメの作り方」：報告書の作り方を解説する 3.「テキスト輪読 1」：担当者がレジュメで内容を報告する 4.「テキスト輪読 2」：担当者がレジュメで内容を報告する 5.「テキスト輪読 3」：担当者がレジュメで内容を報告する 6.「テキスト輪読 4」：担当者がレジュメで内容を報告する 7.「リサーチ 1」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 8.「リサーチ 2」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 9.「リサーチ 3」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 10.「リサーチ 4」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 11.「リサーチ結果の報告」：全員で収集したデータを確認する 12.「追試結果の報告 1」：レジュメで追試結果を報告する 13.「追試結果の報告 2」：レジュメで追試結果を報告する 14.「追試結果の報告 3」：レジュメで追試結果を報告する 15.「最終討議」：これまでの結果をもとに討議する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2016	授業コード	J73161B01
科目名	【院】マーケティング論研究B	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Studies B on Marketing		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義では、マーケティング分野の先行研究で行われた実証方法を、修士論文で扱える水準まで精緻に学ぶ。具体的には、①『流通研究』や『消費者行動学研究』あるいは Journal of Marketing などといった査読付き論文を精読する。②①で読み取った方法を使って、修士論文のテーマで扱う対象を分析する。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	適宜、指示する。		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	マーケティング分野の先行研究の実証方法を他分野に応用できる。		
準備学習	Word や EXCEL および SPSS の新しい使い方を、講義ごとに追加して教えていくので、その使い方を復習しておくこと。		

受講者への要望

テキスト選定（第 2 回）までに修士論文のテーマを伝えられるようにしておくこと。また、復習のためにも、パソコンを多用するので、扱い方に慣れておくこと。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「レジュメの作り方」：報告書の作り方を解説する
3.「テキスト輪読 1」：担当者がレジュメで内容を報告する
4.「テキスト輪読 2」：担当者がレジュメで内容を報告する
5.「テキスト輪読 3」：担当者がレジュメで内容を報告する
6.「テキスト輪読 4」：担当者がレジュメで内容を報告する
7.「リサーチ 1」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する
8.「リサーチ 2」：全員がテキストの方法を応用してデータを収集する
9.「リサーチ 3」：全員がテキストの方法を応用してデータを収集する
10.「リサーチ 4」：全員がテキストの方法を応用してデータを収集する
11.「リサーチ結果の報告」：全員で収集したデータを確認する
12.「分析結果の報告 1」：自分で応用した結果をレジュメで報告する
13.「分析結果の報告 2」：自分で応用した結果をレジュメで報告する
14.「分析結果の報告 3」：自分で応用した結果をレジュメで報告する
15.「最終討議」：これまでの結果をもとに討議する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2016	授業コード	J73165A01
科目名	【院】経営戦略論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	代表的な経営戦略策定手法を紹介し、それをケーススタディで実際に活用することで、修得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	経営戦略策定の手法を修得する。		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 財務分析 3. 〃 ケーススタディ 4. SWOT 分析 5. 〃 ケーススタディ 6. PPM 7. 〃 ケーススタディ 8. 競争戦略 9. 〃 ケーススタディ 10. 成長戦略 11. 〃 ケーススタディ 12. BPR 13. 〃 ケーススタディ 14. 戦略マップ 15. 〃 ケーススタディ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J73165B01
科目名	【院】経営戦略論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	企業の経営戦略についてのケーススタディを行う。 個人ごとに日本の企業の中から１社を選んで、文献、雑誌記事、新聞記事、企業のホームページなどを基に、その企業の経営戦略について調査・分析・考察を行う。それをパワーポイントを使って発表し、全体で討議を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	企業分析の方法を修得する。 自分が研究対象として選んだ企業の経営戦略についてプレゼンテーションできる。		
準備学習	各自の研究成果の発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. 研究対象企業の選択 2. 関連文献、資料の調査① 3. 関連文献、資料の調査② 4. 研究概要の発表、討議① 5. 研究概要の発表、討議② 6. 分析、発表資料作成① 7. 分析、発表資料作成② 8. 中間発表、討議① 9. 中間発表、討議① 10. 追加調査・分析、発表資料作成① 11. 追加調査・分析、発表資料作成② 12. 発表、討議① 13. 発表、討議② 14. 発表、討議③ 15. 発表、討議④			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J73166A01
科目名	【院】経営戦略論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略に関する文献を何冊か読みながら、修士論文のテーマ探しを行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	修士論文のテーマ選定に向けての準備。		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2～14．文献、資料の調査と発表（テーマ等適宜指導） 15．まとめと秋学期への準備			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J73166B01
科目名	【院】経営戦略論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	春学期の成果に基づき、修士論文のテーマを仮決定し、それに関する文献や資料の調査を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	修士論文のテーマを決定。		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．修士論文テーマ仮決定 2～14．テーマに関連する文献、資料の調査と発表（テーマは必要に応じて適宜見直し） 15．修士論文テーマ決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J74001A01
科目名	【院】労働法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Law A		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	【院】労働法 I
講義概要	本講義では、労働法上の重要なテーマを取り上げ検討していく。労働法の領域のうち個別的労働関係法を中心に、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な問題、就業規則の不利益変更、わが国の解雇法制、時間外労働に対する規制、配転・出向、および、セクシュアル・ハラスメントなどの問題につき、判例や論文等を素材に受講者全員で考察していく。 各テーマを受講生に割り当てたうえ発表・報告してもらう。報告者以外の受講生にもそのテーマについての予習を前提に授業を進めていく。特に報告者は相当の時間と労力を注ぎ込む覚悟が必要である。熱意のある受講生を希望する。		
教材（テキスト）	教科書（テキスト）は特に指定しない。		
教材（参考文献）	参考文献等については開講時に説明する。		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
評価方法	出席を前提に、授業時の報告およびレポート（70%）と期末の面接試験（30%）とで行なう予定である。		
到達目標	労働法上の重要テーマを通じて、労働法の基礎知識をはじめ、労働法の考え方や労働法の判例の読解力を身につけること。		
準備学習	授業で取り上げる各テーマについて、菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税を事前に必ず読んでおくこと。		
受講者への要望			
授業で取り上げた各テーマについて法的な問題点を探し、それに関して自分で調べ、考えて授業に臨むこと。報告の際は相当時間をかけて取り組む姿勢を求める。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　講義の進め方・その他諸注意　－－最近の労働法上の問題点について 第 2 回　労働条件の不利益変更　その 1 第 3 回　労働条件の不利益変更　その 2 第 4 回　労働条件の不利益変更　その 3 第 5 回　解雇制約法理について　その 1 第 6 回　解雇制約法理について　その 2 第 7 回　解雇制約法理について　その 3 第 8 回　時間外労働の問題について　その 1 第 9 回　時間外労働の問題について　その 2 第 10 回　配転・出向問題について　その 1 第 11 回　配転・出向問題について　その 2 第 12 回　配転・出向問題について　その 3 第 13 回　セクシュアル・ハラスメント問題について　その 1 第 14 回　セクシュアル・ハラスメント問題について　その 2 第 15 回　パワー・ハラスメント問題について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J74001B01
科目名	【院】労働法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Law B		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	【院】労働法Ⅱ
講義概要	本講義では、労働法上の重要なテーマを取り上げ検討していく。労働法の領域のうち個別的労働関係法および集団的労働関係法を中心に、テーマについては受講生とも相談しながら決めていく。基本的には労働法Ａを受講・履修していることが望ましい。 重要な裁判例や論文等を素材に、各テーマにつき受講生に割り当て、発表・報告したうえで、受講者全員で考察していく。報告者以外の受講生にもそのテーマにつき十分な予習を要求する。学問に対して熱意ある受講生を希望する。		
教材（テキスト）	教科書（テキスト） は特に指定しない。		
教材（参考文献）	参考文献等については開講時に説明する。		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
評価方法	出席を前提に、 授業時における積極的な姿勢・発言内容等を重視したうえで（60%）、報告内容や期末のレポート（40%）をもとに行なう予定である。		
到達目標	労働法上の重要テーマを通じて、各争点における学説や裁判例における見解を法理論的に分析したうえで、当該争点につき各自の意見を明確に提示できるようにすること。		
準備学習	授業で取り上げる各テーマについて菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税を前に必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回取り上げた各テーマについて積極的に調べ、考察し、そのうえで授業に臨むこと。報告の際は相当時間をかけて取り組むことを求める。

講義の順序とポイント

本講義で取り扱うテーマについては、受講生とも相談しながら決定するので、講義の順序に沿った形では記載できないが、参考までに取り扱う可能性のあるテーマを下記に掲げておく（各テーマにつき授業回数としては 3 回程度である）。

第 1 回　労働条件の個別化に伴う問題について その 1
第 2 回　労働条件の個別化に伴う問題について その 2
第 3 回　労働条件の個別化に伴う問題について　その 3
第 4 回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その 1
第 5 回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その 2
第 6 回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その 3
第 7 回　労働法の規制緩和について　その 1
第 8 回　労働法の規制緩和について　その 2
第 9 回　雇用の平等に関連する問題について　その 1
第 10 回　雇用の平等に関連する問題について　その 2
第 11 回　雇用の平等に関連する問題について　その 3
第 12 回　職場におけるプライバシー問題について　その 1
第 13 回　職場におけるプライバシー問題について　その 2
第 14 回　労働組合法制の再検討について　その 1
第 15 回　労働組合法制の再検討について　その 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J74029A01
科目名	【院】行政法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Seminar A		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論のうち、基礎理論、行政組織、行政作用の部分を判例を素材に学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点（100%）		
到達目標	行政法の基礎知識をもとに、判例を素材により学習することにより理論・学説の実際の具体化状況を学ぶ。		
準備学習	次週のテーマについて、教科書の該当頁、法令、判例の予習をすること。		

受講者への要望

行政法の講義科目を履修すること。

講義の順序とポイント

1　公法と私法
2　法律による行政の原理
3　行政主体と行政庁
4　権限の委任と代理
5　行政立法
6　行政裁量
7　行政行為の瑕疵
8　行政契約
9　行政指導
１０　行政計画
１１　行政上の義務履行確保
１２　行政罰
１３　行政手続
１４　情報公開
１５　個人情報保護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	J74029B01
科目名	【院】行政法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Seminar B		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論のうち、行政救済法の部分を判例を素材に学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点（100%）		
到達目標	行政法の基礎知識をもとに、判例を素材により学習することにより、理論・学説の具体化の状況を学ぶ。		
準備学習	次週のテーマについて、教科書の該当頁、法令、判例の予習をすること。		

受講者への要望

行政法の講義科目を履修すること。

講義の順序とポイント

1　損失補償
2　国家賠償１条
3　国家賠償２条
4　賠償と補償の谷間
5　行政上の不服申し立て
6　行政事件訴訟法
7　取消訴訟の対象
8　取消訴訟の原告適格
9　訴えの利益
１０　取消訴訟の審理
１１　執行停止制度
１２　取消訴訟以外の抗告訴訟
１３　当事者訴訟・争点訴訟
１４　機関訴訟
１５　民衆訴訟

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	J74047001
科目名	【院】企業取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporate Dealings Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	企業取引の総則に該当する商法総則について、個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者には重要テーマについて報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。受講者は基本図書を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（テキスト）	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法＜第 2 版補訂版＞』（有斐閣、2014 年） 2,160 円 江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年） 2,592 円		
教材（参考文献）	個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合 による平常点（60%）。学期末レポート（40%）。		
到達目標	商法総則の規定と基本的な判例法理について理解でき、それを説明できる。また、応用的な問題に遭遇した場合に、自力で調査して妥当な解を発見できる。		
準備学習	各講義の最後に次の講義に関する文献を指示するので予習しておくこと。		
受講者への要望			
民法を履修済みか並行して履修していること。			
講義の順序とポイント			
1. 商法と民事一般法の規制区分 2. 商法総則と会社法総則 3. 絶対的商行為 4. 営業的商行為 5. 営業概念 6. 営業譲渡 7. 商業登記 8. 商号・商号登記 9. 商号権 10. 支配人・商業使用人 11. 支配人の代理権 12. 代理商 13. 外観主義 14. 名板貸法理 15. 商業登記と外観主義			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	—	—	—	—	—	—

年度	2016	授業コード	J74061001
科目名	【院】租税法総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Introduction		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	租税法理論の基本的部分に当たる、租税の意義、租税法の基本原則、解釈と適用、課税要件(総論及び基礎的な各論)に関する事項を中心に研究を行う。そこで、実定法である租税法がいかなる原理に基づいて構築され、その解釈はどうあるべきかを考えるための、ベースとなる知識や考え方を整理し深めてゆく。 授業は、基礎的な事項についての講義を行った後、重要判例について演習形式で行い、受講生からの報告に基づき、議論･検討をする中で、問題点を明らかにし理解を深める。 なお、演習の事例は予定であり、変更の場合がある。		
教材（テキスト）	金子宏『租税法(第 21 版)』(弘文堂)		
教材（参考文献）	別冊ジュリスト『租税判例百選(第 5 版)』 その他は講義中に指示する。		
教材（その他）	講義内容に沿ったレジュメを毎回配布する予定		
評価方法	報告内容 30%、レポート 30%及び平常点 40%(授業への積極的な参加の程度等による) 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	1　租税法の基本原則と憲法との関係を理解し、問題点を把握する。 2　租税法の具体的な適用に当たっての問題点を理解し、その解釈はどうあるべきかを理論的に追求できることを目標とする。		
準備学習	租税実体法(法人税、所得税等)の基礎的な理解を深めておくこと。		

受講者への要望

憲法、民法、会社法、行政法の履修が望ましい。
税法が記載された六法、法規集を持参する。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい。

講義の順序とポイント

1. 租税と租税法　税制の概要
2. 租税法の基本原則　租税法律主義と租税公平主義 1
3. 租税法の基本原則　租税法律主義と租税公平主義 2
4. 事例演習　大島訴訟 最高裁昭 60.3.27
5. 事例演習　旭川市国民健康保険条例事件 最高裁平 18.3.1 他
6. 租税法の法源と効力　租税法の法源と効力
7. 租税法の解釈と適用　租税法と私法
8. 租税法の解釈と適用　租税回避
9. 事例演習　錯誤による財産分与契約事件　最高裁平元.9.14 他
10. 事例演習　相互売買事件　東京高裁平 11.6.21
11. 課税要件総論　課税要件、要件事実論
12. 課税要件各論　個人所得課税の基礎(所得税の仕組みと概要)
13. 課税要件各論　法人所得課税の基礎(法人税の仕組みと概要)
14. 課税要件各論　消費税及び国際課税の基礎
15. タックス・プランニングの基礎

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2016	授業コード	J74062001
科目名	【院】所得税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Income Tax Law		
担当者名	橋本　清治	旧科目名称	
講義概要	受講者に各テーマを分担していただき、各回、報告していただきます。 その後、全員でその報告に係る問題点について検討を加えます。 本講義は、教科書の「所得税」の部分を学習し、その事項の判例等の検討を 行います。また、税務事例や税理士実務について触れていく予定です。		
教材（テキスト）	金子宏『租税法（最新版)』弘文堂		
教材（参考文献）	『租税判例百選』有斐閣、『租税判例六法』有斐閣 酒井克彦『所得税法の論点研究』財経詳報社 酒井克彦『ブラッシュアップ租税法』財経詳報社 谷口勢津夫『税法基本講義』弘文堂 佐藤英明『スタンダード所得税法』弘文堂 佐藤英明編『租税法演習ノート２１問』弘文堂		
教材（その他）			
評価方法	報告内容、毎回の議論への参加度合（50%)、レポート（レジュメ）(50%)		
到達目標	所得税法の基本を理解する。 所得税に係る判例を検討できる。		
準備学習	木山泰『弁護士が教える分かりやすい「所得税法」の授業』(光文社）を 講義開始時までに読んでできてください。		
受講者への要望			
税務六法等の法規集持参またはＷｅｂによる法令利用			
講義の順序とポイント			
１．　所得税・所得の意義 ２．所得税の類型・課税単位 ３．納税義務者・課税標準と税額算出 ４．各種所得の意義と範囲（利子・配当・不動産） ５．各種所得の意義と範囲（事業・給与） ６．各種所得の意義と範囲（退職・山林・雑） ７．各種所得の意義と範囲（譲渡・一時） ８．収入金額 ９．収入金額 １０．必要経費 １１．必要経費 １２．税額計算等 １３．事例研究 １４．事例研究 １５．事例研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J74063001
科目名	【院】法人税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Tax Law		
担当者名	橋本　清治	旧科目名称	
講義概要	受講者に各テーマを分担していただき、各回、報告していただきます。 その後、全員でその報告に係る問題点について検討を加えます。 本講義は、教科書の「法人税」の部分を学習し、その事項の判例等の検討を 行います。また、税務事例や税理士実務について触れていく予定です。		
教材（テキスト）	金子　宏『租税法』		
教材（参考文献）	租税判例百選（有斐閣）、租税判例六法（有斐閣） 成道秀雄『税務会計ー法人税の理論と応用』第一法規 酒井克彦『裁判例からみる法人税法』大蔵財務協会 酒井克彦『ブラシュアップ租税法』財経詳報社 谷口勢津夫『税法基本講座』弘文堂		
教材（その他）			
評価方法	報告内容、毎回の議論への参加度合い（５０％）、レポート（レジュメ）（５０％）		
到達目標	法人税法の基本を理解する。 法人税に係る判例を検討できる。		
準備学習	税大講本（法人税）を開講時までに目をとをしておく。		
受講者への要望			
税務六法等の法規集を持参またはＷｅｂによる法令利用			
講義の順序とポイント			
１．法人税の意義・性質等 ２．納税義務者と課税所得の範囲 ３．法人所得計算の総説（法人税法２２条） ４．益金の額の計算 ５．益金の額の計算 ６．益金の額の計算 ７．損金の額の計算 ８．損金の額の計算 ９．損金の額の計算 １０．法人税額の計算 １１．同族会社と所得課税 １２．租税回避行為 １３．事例研究 １４．事例研究 １５．事例研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J74068A01
科目名	【院】租税法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar A		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	受講者が、租税法の基本原理を理解し、主要税目の基本的仕組みや理論を習得できるよう、講義及び受講者による報告を行う。 修士論文の作成に向けて、テーマの選択及び問題点探究のための個別指導を行う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点で評価する。		
到達目標	租税法の基本原理、主要税目の仕組みや理論、及びそれらの問題点について、理解することを目標とする。 研究テーマの選択、及びテーマに合わせた知識の蓄積と問題点の把握を目標とする。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		

受講者への要望

税法の理解のために必須となる、簿記・会計学の基礎的知識を習得すること。
数多くの論文を読むこと。

講義の順序とポイント

1 ガイダンス 税法の学び方について 個人面談
2 研究計画について 今後の研究計画に関しての「研究・指導スケジュール」の説明、研究計画書の作成について
3 判例研究の方法等 論文の読み方、判例研究の方法、基本書・参考文献等について
4、5 基本文献講読 講義形式による基本文献の講読
6 修士論文テーマ報告会 院生(２回生)による修士論文のテーマ報告とそれに対する質疑応答を行う。
7～13 基本文献講読 基本書(未定)を指定し、その章ごとに、院生の報告とそれに対する議論を行う。
14,15 判例研究 基本的な判例を指定し、院生による判例研究の報告と、それに対する議論を行う。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J74068B01
科目名	【院】租税法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar B		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成に向けて、テーマの選択及び問題点探究のための個別指導を行う。 併せて、税目横断的な事例研究、タックス・プランニング事例の検討等により、実務における税務問題に対しても理論的に解明し対応できる能力を養う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点で評価する。		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、知識の蓄積と問題点の把握を目標とする。 実務上の税務問題に対する理論的な解明のための能力の涵養を図る。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		
受講者への要望			
数多くの論文を読むこと。			
講義の順序とポイント			
1　研究計画について 研究計画について、その方向性と今後の研究方法に関して(個人面談等) ２～５　基本文献講読 基本書(未定)を指定し、その章ごとに、院生の報告とそれに対する議論を行う。 6　修士論文中間報告会 院生(２回生)による修士論文の中間報告とそれに対する質疑応答を行う。 7～13　研究報告(判例研究等) 各院生が、自分の研究テーマ(又は興味のある分野)に関する判例研究等の報告を行い、それを基にして議論を行う。 14,15　事例研究 実務的な事例(実務で発生しやすい、税目横断的な税務問題)を設定し、その問題に対する対応方法や解決策を検討する(院生による報告と議論による。)。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74068C01
科目名	【院】租税法演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar C		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	各院生の選択するテーマに合わせ、修士論文の完成に向けて、個別指導を行う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点で評価する。		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、問題点の理論的な解明を目標とする。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		
受講者への要望			
自らのテーマにとらわれず、税法、税実務に対する幅広い興味を持ち続けること。			
講義の順序とポイント			
1　研究計画について　「研究計画の概要」に基づいて、今後の研究方法に関しての検討(個人面談等) ２～５　研究報告 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。 6　修士論文テーマ報告会 修士論文のテーマ報告とそれに対する質疑応答を行う。 7～15　研究報告 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74068D01
科目名	【院】租税法演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar D		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	各院生の選択するテーマに合わせ、修士論文の完成に向けて、個別指導を行う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点で評価する。		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、問題点の理論的な解明を目標とする。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		
受講者への要望			
自らのテーマにとらわれず、税法、税実務に対する幅広い興味を持ち続けること。			
講義の順序とポイント			
1　研究計画について 今後の研究方法に関しての検討(個人面談等) ２～５　研究報告 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。 6　修士論文中間報告会 修士論文の中間報告とそれに対する質疑応答を行う。 7～15　研究報告 各院生が、修士論文に沿った研究報告を行い、それを基にして議論を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74074A01
科目名	【院】国際関係論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations A		
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義では、国際関係論の最重要基本文献の１つであるヘドリー・ブルの著作『国際社会論　（原題は、The Anarchical Society: A Study of Order in World Politics)』を読む。この著作においてブルは、世界政治における秩序の性質、現代国際社会における秩序の維持のされ方、主権国家システム変容期における新たな秩序の模索、という３つの問題について論考を加えている。いずれも、グローバル化の進む今日の国際社会においてこそ、真剣に考えられなければならない重要な論点ばかりだといえる。 そこで本講義では、この著作を精読することを通じて、21 世紀国際社会のあり方について考える際の出発点を確認することとしたい。講義では、報告担当者の報告をもとにして参加者全員で討論を行い、内容についての理解を深める。その際に報告者には、レジメの作成と３０分程度の報告が求められる。報告者以外には、該当部分を熟読し、講義で質問・議論ができる程度に理解してくることが求められる。報告の分担等については、初回の講義で決定する。なお、講義終了時に、５０００字程度のレポートを提出していただく。		
教材（テキスト）	ヘドリー・ブル『国際社会論　アナーキカル・ソサイエティ』臼杵英一訳（岩波書店、２０００年）		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	報告（５０％）、討論への参加（２０％）、レポート提出（３０％）。		
到達目標	１）テキストの内容を十分に理解したうえで、ブルの主張を説明できるようになること。 ２）テキストの内容をもとに、21 世紀における国際社会のあるべき姿について、自己の見解を説得的に提示できるようになること。		
準備学習	テキストを熟読しておくこと。		
受講者への要望			
学部時代に、国際政治学（国際関係論）の講義を受けてきた者が望ましい。国際政治を深く理解したいという学生の受講を歓迎する。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス（講義の進め方に関する相談など） ２．世界政治秩序の概念 ３．世界政治秩序は存在するか ４．世界政治秩序はどのようにして維持されているのか ５．世界政治「秩序」対「正義」 ６．勢力均衡と国際秩序 ７．国際法と国際秩序 ８．外交と国際秩序 ９．戦争と国際秩序 １０．大国と国際秩序 １１．現代主権国家システムにかわる選択肢 １２．主権国家システムの衰退？ １３．主権国家システムは時代錯誤か？ １４．主権国家システムの改革？ １５．結論－総括と展望－			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J74074B01
科目名	【院】国際関係論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations B		
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義では、アマルティア・センの著作『自由と経済開発（原題は Development as Freedom)』を読む。この著作は、開発経済学分野におけるセンの論考の集大成とでもいえるものであり、その根底を貫いているのは、「善き生とは何か」という極めて倫理的な問題意識である。この著作から数章を選んで精読することとするが、講義に参加する諸君には、その作業を通じてを通じて社会の在り方を根底から考え直すきっかけを手に入れていただきたい。 講義では、報告担当者の報告をもとにして参加者全員で討論を行い、内容についての理解を深める。その際に報告者には、レジメの作成と３０分程度の報告が求められる。報告者以外には、該当部分を熟読し、講義で質問・議論ができる程度に理解してくることが求められる。報告の分担等については、初回の講義で決定する。なお、講義終了時に、５０００字程度のレポートを提出していただく。		
教材（テキスト）	アマルティア・セン『自由と経済開発』石塚雅彦訳（日本経済新聞社、２０００年）		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	報告（５０％）、討論への参加（２０％）、レポート提出（３０％）。		
到達目標	１）アマルティア・センの思想を十分に理解し、説明できるようになること。 ２）テキストの内容をもとに、「善き生とは何か」という質問に対して自説を交えながら一定の見解を述べることができるようになること。		
準備学習	テキストを熟読しておくこと。		
受講者への要望			
アマルティア・センの思想に関心があり、それについて深く学びたいという学生の受講を希望する。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．自由としての開発（序章） ３．自由についての見解（第１章） ４．開発の目的と手段（第２章） ５．自由と正義の基礎（第３章） ６．潜在能力の欠如としての貧困（第４章） ７．市場、国家、社会的機会（第５章） ８．民主主義の重要性（第６章） ９．飢饉、その他の危機（第７章） １０．女性の能動的な力と社会変化（第８章） １１．人口、食料、自由（第９章） １２．文化と人権（第１０章） １３．社会的選択と個人の行動（第１１章） １４．社会的目標としての個人の自由（第１２章） １５．総括と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J74075001
科目名	【院】有価証券法	単位数	2
科目名（英語表記）	Negotiable Instruments Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	手形法について、個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者には重要テーマについて報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。受講者は基本書を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。また、手形法は、企業の道具として考案されたという経緯から、強度の論理一貫性に彩られた極めて技術的な法制度であり、理解のポイントは、「民法の原則をいかに修正（あるいは維持）するか」という点にある。このため民法（とくに総則）についても十分復習しておいてもらいたい。		
教材（テキスト）	『別冊ジュリスト 222 号・手形小切手判例百選[第 7 版]』（有斐閣・2014 年） 2,376 円		
教材（参考文献）	個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容 ・議論への参加度合による平常点（60%）。学期末レポート（40%）。		
到達目標	手形法について、その基本理論をもとに、理論がどのように判例に現われているかを理解し、実際問題を処理できる能力を身につける。		
準備学習	各講義の最後に次の講義に関する文献を指示するので予習しておくこと。		
受講者への要望			
どんな些細な点でも、間違いを恐れず発言しようとする能動的な姿勢が大事である。			
講義の順序とポイント			
１．手形行為の方式と解釈 ２．手形行為の成否 ３．手形行為の代理 ４．手形の偽造と変造 ５．手形の善意取得 ６．人的抗弁の制限 ７．手形の振出し ８．手形の裏書 ９．手形保証 １０．手形の支払・遡求 １１．手形交換 １２．手形の時効 １３．除権判決 １４．利得償還請求権 １５．手形割引			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	―	―

年度	2016	授業コード	J74076A01
科目名	【院】英語文献研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Document Research A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、下記の英語で書かれた国際法の標準的な教科書の第１章「国際社会の主要な法的特徴」(3-21頁）を講読し、法律英語を学びながら、国際社会や国際法の基本的性質を理解する。テキストの著者であるA.Cassese 教授は世界を代表する国際法学者の１人であり、旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所所長なども務めた。 受講生は担当部分の訳文を作成し、それをチェックしながら内容を理解し検討する。なお、受講生の要望によって、テキストの他の章を読むことも可能である。		
教材（テキスト）	Antonio Cassese, International Law, 2nd ed. (Oxford University Press, 2005) ．初回の講義で、該当章のコピーを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席状況、予習状況）７０点、翻訳のレポート３０点。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．国際社会や国際法の独自の基本的性質を理解する。 ２．法律英語になじみ、基本的な専門用語を理解する。 ３．翻訳を通じて、法学分野における日本語能力を向上させる。		
準備学習	１．講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、教科書を事前に必ず講読してくること。 ２．割り当てられた翻訳の担当範囲は事前に必ず訳してくること。		

受講者への要望

１．途中で投げ出さずに、忍耐強く取り組むこと。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．履修ガイダンス
２．「1.1 はじめに」、「1.2 国際法主体の性質」
３．「1.2 国際法主体の性質」
４．「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」
５．「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」
６．「1.4 集団的責任」
７．「1.4 集団的責任」
８．「1.5 多くの国際法規則が国内法に移される必要性」
９．「1.6 国家の行動の自由の範囲」
１０．「1.6 国家の行動の自由の範囲」
１１．「1.6 国家の行動の自由の範囲」
１２．「1.7 実効性の最も重要な役割」
１３．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」
１４．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」
１５．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74076B01
科目名	【院】英語文献研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Document Research B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、自由権規約委員会(*)が日本政府の第６回定期報告書を審査し、２０１４年７月に採択した総括所見（Concluding Observations）を講読することを通じて、国際人権法に照らした日本の人権問題について検討を行う。具体的には、男女平等、死刑廃止等の刑事法関連問題、在日コリアンやアイヌなどの少数者の権利などを扱う。 本講義では、国際法だけでなく、憲法、刑事法、家族法、労働法、社会保障法などの専門用語についても英語で学ぶことができるはずである。 ＊国際人権規約の自由権規約に基づいて設置された条約機関で、締約国による規約の履行を監視する。		
教材（テキスト）	国際人権規約の自由権規約委員会が日本政府による第６回国家報告書を審査して 2014 年に採択した総括所見（Concluding Observations, UN Doc., CCPR/C/JPN/CO/6, 23 July 2014）。初回の講義でテキストのコピーを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	最新版の六法および英和辞書を持参すること。		
評価方法	平常点（出席状況、予習状況）７０点、翻訳のレポート３０点。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．法律英語になじみ、基本的な専門用語を理解する。 ２．国際人権保障の意義や仕組みを理解する。 ３．国際人権法から見て、日本にはどのような人権問題が存在するのか把握し、国際基準に照らして考える。		
準備学習	１．講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、テキストを事前に必ず熟読してくること。 ２．割り当てられた翻訳の担当範囲は事前に必ず和訳してくること。		
受講者への要望			
１．途中で投げ出さずに、忍耐強く取り組むこと。 ２．無断欠席はしないこと。			
講義の順序とポイント			
１．履修ガイダンス ２．国際人権保障についての講義 ３．「序論」、「肯定的側面」（男女共同参画社会第３次基本計画の策定など） ４．「主要な懸念事項および勧告」（人権条約の国内実施など） ５．「主要な懸念事項および勧告」（男女差別） ６．「主要な懸念事項および勧告」（ヘイトスピーチに関わる問題） ７．「主要な懸念事項および勧告」（死刑に関わる問題） ８．「主要な懸念事項および勧告」（「従軍慰安婦」問題） ９．「主要な懸念事項および勧告」（代用監獄に関わる問題など） １０．「主要な懸念事項および勧告」（庇護申請者の扱いなど） １１．「主要な懸念事項および勧告」（「公共の福祉」に基づく人権の制限など） １２．「主要な懸念事項および勧告」（特定秘密保護法に関わる問題など） １３．「主要な懸念事項および勧告」（福島原発事故に関わる問題など） １４．「主要な懸念事項および勧告」（アイヌや沖縄・琉球人の人権、フォローアップ手続など） １５．国際基準から見た日本の人権問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74080A01
科目名	【院】刑法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law A		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法総論の代表的な概説書、研究書及び重要論文を読み進めることにより、刑法総論の重要争点を検討し、問題解決のための方法を身につけることを目標とする。 修士論文作成に向けたアドバイスを適宜行う。 時間割に指定された時間帯にとらわれず、受講生と相談の上、演習日時を柔軟に設定する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する。 なお、刑事法専攻の院生が参加する場合には、外国語（独または英）の文献講読を別途行う。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて紹介する。		
評価方法	演習への取り組み姿勢、発表内容により評価する。		
到達目標	学部で学んだ刑法学の基礎をより確実なものとする。 刑法総論の重要問題について、学説を踏まえて自らの見解を示すことができる力を身につける。		
準備学習	指定した文献を読み、その概要をまとめて授業に臨むこと。 概説書のみならず研究論文等を適宜参照することが望ましい。		
受講者への要望			
受講にあたっては予習等大きな負担がかかるが、成果は大きいので頑張ってほしい。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下のテーマを候補とするが、受講生の関心に応じて柔軟に対応する。 １．開講にあたって ２．刑法学の歴史・あゆみ ３．罪刑法定主義の沿革 ４．刑罰論 ５．刑法の適用範囲をめぐる諸問題 ６．実行行為性をめぐる諸問題 ７．因果関係をめぐる諸問題 ８．事実の錯誤をめぐる諸問題 ９．構成要件的過失をめぐる諸問題 １０．緊急行為をめぐる諸問題 １１．被害者の同意をめぐる諸問題 １２．違法性の錯誤をめぐる諸問題 １３．期待可能性をめぐる諸問題 １４．未遂犯をめぐる諸問題 １５．中止未遂をめぐる諸問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J74080B01
科目名	【院】刑法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law B		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ａに引き続き、刑法総論の代表的な概説書、研究書、及び重要論文を読み進めることにより、刑法総論の重要争点を検討し、問題解決のための方法を身につけることを目標とする。 修士論文作成に向けたアドバイスを適宜行う。 時間割に指定された時間帯にとらわれず、受講生と相談の上、演習日時を柔軟に設定する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する。 なお、刑事法専攻の院生が参加する場合には、外国語（独または英）の文献講読を別途行う。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて紹介する。		
評価方法	演習への取り組み姿勢、発表内容により評価する。		
到達目標	学部で学んだ刑法学の基礎をより確実なものとする。 刑法総論の重要問題について、学説を踏まえて自らの見解を示すことができる力を身につける。		
準備学習	指定した文献を読み、その概要をまとめて授業に臨むこと。 概説書のみならず研究論文等を適宜参照することが望ましい。		
受講者への要望			
受講にあたっては予習等大きな負担がかかるが、成果は大きいので頑張ってほしい。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下のテーマを候補とするが、受講生の関心に応じて柔軟に対応する。 １．開講にあたって ２．間接正犯をめぐる諸問題 ３．正犯と共犯をめぐる諸問題 ４．実行共同正犯をめぐる諸問題 ５．共謀共同正犯をめぐる諸問題 ６．承継的共同正犯をめぐる諸問題 ７．過失の共同正犯をめぐる諸問題 ８．狭義の共犯をめぐる諸問題 ９．共犯の離脱をめぐる諸問題 １０．共犯の錯誤をめぐる諸問題 １１．共同正犯と正当防衛をめぐる諸問題 １２．身分犯の共犯をめぐる諸問題 １３．包括一罪をめぐる諸問題 １４．観念的競合をめぐる諸問題 １５．かすがい現象をめぐる諸問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J74082A01
科目名	【院】民事法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Seminar A		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民事法に関する修士論文作成のための民事法の基礎知識につき、また、実務知識として、民事法が社会においていかにして適用されているのかにつき解説する。学習から研究へ、既存知識の整理だけでなく新たな知見を引き出すことが論文作成方法であり研究であることを教授する。論文を書く能力、解釈方法の多様性につき解説し、各人が選定した修士論文テーマに合わせ、質疑に応じつつ、講義する。		
教材（テキスト）	なし（選定テーマに応じて指定することがある）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	近江幸治「学術論文の作法」(2011 年、成文堂)		
評価方法	演習における出欠、質疑と発言内容、各自が作成した論文下書きの内容等による（100%）		
到達目標	民事法に関する修士論文を完成させることを目標とする。		
準備学習	選定テーマに関する判例・学説にあたって十分に予習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者の予習・論文下書きの作成など積極的な受講態度を望む。
民事法に関する論文の着想、構想、表現力につき自問自答すること。

講義の順序とポイント

・各人の能力、修士論文の準備、進行状況に左右されるので詳細を記さない。
・個別に修士論文につき指導をする。
・民事法を掘り下げて勉強をするには、多分時間が足らないので修士論文テーマの選択を早めにすること。

学習配分例
1.取引主体（人、権利能力なき社団財団、法人）
2.法律行為、意思表示の到達
3.代理取引の実態
4.不動産物権変動
5.動産物権変動、集合動産
6.所有権、占有権、地上権
7.賃貸借（土地）－契約書を中心に
8.賃貸借（建物）－契約書を中心に
9.請負取引の実務
10.委任取引の実務
11.銀行取引実務　融資（1）
12.　〃　融資（2）
13.　〃　預金
14.　〃　振込、貸金庫
15.民事法文献の活用、論文中間指導、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J74082B01
科目名	【院】民事法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Seminar B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民事法に関する修士論文作成のための民事法の基礎知識につき、また、実務知識として、民事法が社会においていかにして適用されているのかにつき解説する。学習から研究へ、既存知識の整理だけでなく新たな知見を引き出すことが論文作成方法であり研究であることを教授する。論文を書く能力、解釈方法の多様性につき解説し、各人が選定した修士論文テーマに合わせ、質疑に応じつつ、講義する。		
教材（テキスト）	なし（選定テーマに応じて指定することがある）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	近江幸治「学術論文の作法」(2011 年、成文堂)		
評価方法	演習における出欠、質疑と発言内容、各自が作成した論文下書きの内容等による（100%）		
到達目標	民事法に関する修士論文を完成させることを目標とする。		
準備学習	選定テーマに関する判例・学説にあたって十分に予習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者の予習・論文下書きの作成など積極的な受講態度を望む。
民事法に関する論文の着想、構想、表現力につき自問自答すること。

講義の順序とポイント

・各人の能力、修士論文の準備、進行状況に左右されるので詳細を記さない。
・個別に修士論文につき指導をする。

学習配分例
1.債権の効力と実務
2.責任財産の保全
3.保証の実務
4.債権譲渡･債務引受
5.債権の消滅－相殺を中心に
6.担保物権の総合知識
7.留置権と実務
8.先取特権
9.抵当権の効力
10.抵当権と物上代位
11.抵当権と法定地上権
12.抵当権侵害、抵当物件の競売
13.質権の実務
14.譲渡担保実務
15.民事法文献の活用、論文指導、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★★

年度	2016	授業コード	J74094A01
科目名	【院】会社法 A（コーポレート・ファイナンス）	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law (Corporate Finance)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法におけるコーポレート・ファイナンス分野を中心に扱う。個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者に関連テーマを報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。なお、必要に応じ、金融商品取引法との交錯分野を扱う場合もある。受講者は、基本書等を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（テキスト）	江頭憲治郎『株式会社法　第 6 版』（有斐閣、2015 年）　6,048 円 『別冊ジュリスト No.205 会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）　2,345 円		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点　（60％）。学期末レポート（40％）。		
到達目標	会社法（コーポレート・ファイナンス分野）について、法の具体的な適用の形である判例を研究し、理論上・実務上の問題を処理する能力を身につける。		
準備学習	毎回の講義終了時に次回講義の関連文献を指定するので、これらを読了し検討を行っておくこと。		
受講者への要望			
会社法 B（コーポレート・ガバナンス）と併せて履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．株主平等の原則 ２．名義書換 ３．株式の譲渡 ４．譲渡制限株式 ５．従業員持株制度 ６．略式質 ７．自己株式 ８．第三者に対する新株の有利発行 ９．買取引受と不公正発行価額 １０．第三者割当増資による企業買収 １１．防衛策としての第三者割当増資 １２．著しく不公正な方法による第三者割当増資 １３．新株発行無効事由 １４．新株予約権発行の差止め １５．社債権者			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	―	―

年度	2016	授業コード	J74094B01
科目名	【院】会社法Ｂ（コーポレート・ガバナンス）	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law (Cooperate Governance)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法におけるコーポレート・ガバナンス分野を中心に扱う。個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者に関連テーマを報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。なお、必要に応じ、金融商品取引法との交錯分野を扱う場合もある。受講者は、基本書等を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（テキスト）	江頭憲治郎『株式会社法　第 6 版』（有斐閣、2015 年）　6,048 円 『別冊ジュリスト　No205　会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年）　2,345 円		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点　（60％）。学期末レポート（40％）。		
到達目標	会社法（コーポレート・ガバナンス分野）について、法の具体的な適用の形である判例を研究し、理論上・実務上の問題を処理する能力を身につける。		
準備学習	毎回の講義終了時に次回講義の関連文献を指定するので、これらを読了し検討を行っておくこと。		
受講者への要望			
会社法Ａ（コーポレート・ファイナンス）と併せて履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．株主総会の招集・議事進行 ２．株主総会決議の瑕疵 ３．代表機関の代表行為と取引の安全 ４．競業取引・利益相反取引 ５．取締役の報酬規制 ６．取締役の会社に対する責任 ７．取締役の第三者に対する責任 ８．責任追及の訴え（株主代表訴訟） ９．監査役・会計監査人 10.委員会設置会社 11.持分会社 12.合併 13.会社分割 14.事業譲渡 15.企業買収			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	―	―

年度	2016	授業コード	J74097001
科目名	【院】租税手続法	単位数	2
科目名（英語表記）	Taxes Procedure Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	租税の確定から徴収に至る租税手続について、重要な論点を中心に理解を深める。 授業は、基礎的な事項についての講義を行った後、重要判例について演習形式で行い、受講生からの報告に基づき、議論･検討をする中で、論点を整理し理解を深める 演習の事例は予定であり、変更の場合がある。 なお本年は、併せて、租税実体法中の基幹税目の一つである相続税及び贈与税について、事業承継の観点から学習する。		
教材（テキスト）	金子宏『租税法(第 21 版)』(弘文堂)		
教材（参考文献）	別冊ジュリスト『租税判例百選(第 5 版)』 その他は講義中に指示する。		
教材（その他）	講義内容に沿ったレジュメを毎回配布する予定		
評価方法	報告内容 30%、レポート 30%及び平常点 40%(授業への積極的な参加の程度等による) 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	租税実体法との関係において、租税手続に係る重要な論点を理解することを目標とする。		
準備学習	租税実体法(法人税、所得税等)の基礎的な理解を深めておくこと。		

受講者への要望

租税実体法についての基礎的な知識があること。憲法、民法、会社法、行政法の履修が望ましい。
税法が記載された六法、法規集を持参する。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい。

講義の順序とポイント

1. 導入租税手続法の意義、租税行政組織
2. 租税確定手続申告納税方式(申告、更正の請求、更正・決定)
3. 租税確定手続申告納税方式(推計課税)、賦課課税方式、除斥期間、質問検査権
4. 事例演習更正の請求の可否最高裁昭 57.2.23
5. 事例演習推計課税 東京高裁平 6.3.30 質問検査権 最高裁昭 48.7.10
6. 租税徴収手続納付と徴収
7. 租税徴収手続源泉徴収
8. 租税徴収手続滞納処分
9. 事例演習源泉徴収最高裁昭 45.12.24 平 4.2.18
10. 事例演習滞納処分と民法 177 条最高裁昭 35.3.31
11. 事例演習一括システムと国税徴収最高裁平 15.12.19
12. 相続の概要及び相続・事業承継の考え方
13. 相続税の仕組みと計算
14. 贈与税、財産評価
15. 事業承継の考え方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J74100A01
科目名	【院】経済法演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law Seminar A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	経済法 A 及び経済法 B で学んだことを前提として、独占禁止法の重要な基本判例および審決を取り上げ、独占禁止法の概念について理解を深める。受講生が、担当する判例について調べ、レジュメを作成して報告し、それに基づき検討を進めてゆく。企業結合を除く独占禁止法の重要な事件、具体的には、不当な取引制限の禁止、事業者団体の活動規制、不公正な取引方法に関する事件を主に取り上げる。なお、具体的な授業の進め方、講義の順序とポイントに書かれている事件は、取り上げる事件の目安である。受講生の研究テーマに応じて、 変更がありうる。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案したうえで決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	平常点（発言・授業内レポート）２０％ 報告４０％ 期末レポート４０％		
到達目標	判例の研究を通じて、独占禁止法の重要概念についての理解を深め、主にカルテルの事案につき、独占禁止法に基づいた判断ができるようになる。		
準備学習	第１回の準備学習　　経済法 A の内容の復習　　重要なキーワードについて説明できるようにしておくこと。 第２～１５回の準備学習 全員　各回で取り上げる事件について、次の２点を行う。 （１）判例百選または重要判例解説の該当部分を読む。 （２）事実関係を図式化する。 報告予定者は、（１）（２）に加えて、次のことを行う。 （３）報告用レジュメを作成する。		
受講者への要望			
十分な学習時間を確保した上で、担当する事例について責任を持って準備すること。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２．東芝ケミカル事件 ３．シール談合事件 ４．協和エクシオ事件 ５．郵便番号自動読取機事件 ６．広島県石商広島市連合会事件 ７．石油カルテル刑事事件 ８．日本遊戯銃協会事件 ９．日本医療食協会事件 １０．北海道新聞事件 １１．都営芝浦と畜場事件 １２・東芝エレベーター事件 １３．資生堂東京販売事件 １４．ローソン事件 １５．総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74100B01
科目名	【院】経済法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law Seminar B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	経済法 A および経済法 B で学んだことを前提として、独占禁止法の企業結合等に関する実際の事例を取り上げて検討する。受講生が、担当する事案について調べ、レジュメを作成して報告し、それに基づき検討を進めてゆく。前半は、企業結合に関する事例を取り上げる。後半は、受講生の興味関心を尊重して、とりあげる分野及び事例を決定するので、講義の順序に掲載されている後半部分の事例は目安である。受講生と相談の上、変更する場合がある。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案して最初の授業で決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（発言・授業内レポート）２０％ 報告４０％ 期末レポート４０％		
到達目標	独占禁止法の企業結合規制における分析方法を理解し、独占禁止法の重要概念についての理解を深める。		
準備学習	第１回の準備学習　　経済法 B の内容の復習　　重要なキーワードについて説明できるようにしておくこと。 第２～１５回の準備学習 全員　各回で取り上げる事件について、次の２点を行うこと。 （１）判例百選または重要判例解説の該当部分を読む。 （２）事実関係を図式化する。 報告予定者は、（１）（２）に加えて、次のことを行うこと。 （３）報告用レジュメを作成する。		

受講者への要望

十分な学習時間を確保し、担当する事例について責任を持って準備すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　広島電鉄事件
3　東宝・スバル事件
4　新日鉄合併事件
5　JAL・JAS 事業統合事例
6　ポリオレフィン事業統合事例
7　UFJ ホールディングスの事例
8　企業結合規制のまとめ
9　ロックマン工法事件
１０　LP ガス販売差別対価差止請求事件
１１　有線ブロードネットワークス事件
１２　野村証券事件
１３　鶴岡灯油事件
１４　奈良県入札談合住民代位損害賠償請求事件
１５　総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74101A01
科目名	【院】法哲学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy A		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	いわゆる司法改革の名の下で、さまざまなことが提案され実施されている（或いは実施されようとしている）が、その向かうところはどこなのであろうか。この現代的な課題を廻って、本講義は、そもそも正義とは何かという原理的な問い（この問いのうちには当然法と倫理との関係といった問いも含まれてくる）を中心に、その正義を実現するにふさわしい法体制のありようを考察する。 下記のテキストの著者ハワード・ゼアは、近代以降の法体制が国家権力が支配してきた「応報的」正義を中心に構築されたとし、これに対して、「参加と対話」が奨励され「コミュニティが重要な役割を演ずる」「関係修復的」正義を中核とする法体制の可能性を提示する。 本講義の展開は、強制としての正義・法から合意による正義・法へというパラダイムの変更という今日的な問題に通底するものがある。		
教材（テキスト）	ハワード・ゼア　『修復的司法とは何か』　新泉社		
教材（参考文献）	随時指示		
教材（その他）			
評価方法	講義時の発言内容 30 点と学期末レポート 70 点		
到達目標	１．法に関わる哲学的思考様式が身に付く。 ２．正義論を展開する際の諸課題が理解できる。 ３．正義論の諸原則を具体的文脈の中で展開できる。		
準備学習	輪読の当番の有無にかかわらず、事前に指定された、テキストの範囲を精読し、自分なりの問題意識を深めておくこと。		

受講者への要望

テキストを丹念に読み多角的に考える姿勢で受講してください。

講義の順序とポイント

１．序論　正義論の意味
２．　　同上
３．第１章　問題整理：ケーススタディ①
４．　　問題整理：ケーススタディ②
５．第２章　応報的正義①
６．　　応報的正義②
７．　　補遺：法と強制
８．第３章　パラダイムとしての正義①
９．　　パラダイムとしての正義②
１０．　　補遺：法的な思考の構成
１１．第４章　コミュニティ的正義①
１２．　　コミュニティ的正義②
１３．　　補遺：法と実践的知恵
１４．終章　　応報的正義からコミュニティ的正義へ①
１５．　　応報的正義からコミュニティ的正義へ②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2016	授業コード	J74101B01
科目名	【院】法哲学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy B		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	いわゆる司法改革の名の下で、さまざまなことが提案され実施されている（或いは実施されようとしている）が、その向かうところはどこなのであろうか。この現代的な課題を廻って、本講義は、そもそも正義とは何かという原理的な問い（この問いのうちには当然法と倫理との関係といった問いも含まれてくる）を中心に、その正義を実現するにふさわしい法体制のありようを考察する。 下記のテキストの著者ハワード・ゼアは、近代以降の法体制が国家権力が支配してきた「応報的」正義を中心に構築されたとし、これに対して、「参加と対話」が奨励され「コミュニティが重要な役割を演ずる」「関係修復的」正義を中核とする法体制の可能性を提示する。 本講義の展開は、強制としての正義・法から合意による正義・法へというパラダイムの変更という今日的な問題に通底するものがある。		
教材（テキスト）	ハワード・ゼア　『修復的司法とは何か』　新泉社		
教材（参考文献）	随時指示		
教材（その他）			
評価方法	講義時の発言内容 30 点と学期末レポート 70 点		
到達目標	１．法に関わる哲学的思考様式が身に付く。 ２．正義論を展開する際の諸課題が理解できる。 ３．正義論の諸原則を具体的文脈の中で展開できる。		
準備学習	輪読の当番の有無にかかわらず、事前に指定された、テキストの範囲や参考資料を精読し、自分なりの問題意識を深めておくこと。		
受講者への要望			
テキストを丹念に読み多角的に考える姿勢で受講してください。			
講義の順序とポイント			
１．序論　正義論の意味 ２．　同上 ３．第１章　問題整理：ケーススタディ① ４．　問題整理：ケーススタディ② ５．第１章　契約の正義① ６．　契約の正義② ７．　補遺：宗教と法 ８．第２章　被害者と加害者の和解プログラム① ９　被害者と加害者の和解プログラム② １０．　補遺：実践と理論 １１．第３章　関係修復的正義のパラダイム① １２．　関係修復的正義のパラダイム② １３．第４章　変革的正義としての関係修復的正義① １４．　変革的正義としての関係修復的正義② １５．終章　我々はどこにいるのか？			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74102C01
科目名	【院】憲法Ｃ（ヨーロッパ人権論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law C (Human Rights in Eu rope)		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	本講義では、「ヨーロッパ公序の憲法的文書」とも称されるヨーロッパ人権条約について学び、ヨーロッパ人権裁判所の判例を検討する。この条約は 1950 年に採択され、現在の締約国数は 47 カ国に及び、トルコやロシアも含まれる。人権裁判所などの実施機関の半世紀を超える実行を通じて、条約はヨーロッパ諸国における人権保障に対して大きな影響を与えてきた。人権裁判所の代表的な判例を検討することで、第二次大戦後から今日までのヨーロッパでの人権保障の発展における条約の意義についてともに考えてみたい。		
教材（テキスト）	戸波江二ほか編『ヨーロッパ人権裁判所の判例』（信山社、２００８年）		
教材（参考文献）	【邦文による概説書】 フレデリック・スュードゥル（著）・建石真公子（訳）『ヨーロッパ人権条約』（有信堂、１９９７年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法［第３版］』（日本評論社、２００９年） 【条約集】 松井芳郎編『ベーシック条約集』（東信堂） 奥脇直也編『国際条約集』（有斐閣） その他の専門書等については適宜紹介する。		
教材（その他）	ヨーロッパ人権条約の条文（翻訳）のコピーを配布する。		
評価方法	平常点（出席状況、予習状況）５０点、報告３０点、レポート２０点。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．ヨーロッパ人権条約による人権保障の意義と仕組みを理解する。 ２．判決の事案や判旨などを適切に紹介したレジュメを作成し、効率的に報告する。 ３．判決の意義や問題点について自ら考えることができるようになる。		
準備学習	受講生は次回の授業で取り上げる判例の要旨を読んでくること。		

受講者への要望

１．積極的な参加を希望する。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．ヨーロッパ人権条約の概説（担当教員による講義）
３．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
４．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
５．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
６．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
７．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
８．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
９．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１０．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１１．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１２．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１３．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１４．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１５．ヨーロッパ人権条約による人権保障の意義の検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74103A01
科目名	【院】刑事訴訟法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure A		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	刑事手続の各段階で生じる法解釈上の重要な問題を取り上げて検討する。検討の内容は、問題について包括的に研究した諸文献による理論研究、重要判例の判例研究および外国文献の講読を通じた比較研究である。また、必要に応じて、少年事件といった各種の手続や刑事手続をめぐる最近の法改正なども検討の対象とする。 ゼミの進め方は、受講者が報告者となって、毎回、指定されたテーマについて報告するというものである。		
教材（テキスト）	古江頼隆『事例演習刑事訴訟法』（2011、有斐閣）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じてそのつど紹介する。		
教材（その他）	資料などを掲載したプリントを配布する。		
評価方法	出席状況、報告の内容および報告をふまえて作成されたレポートが主な評価の材料である。		
到達目標	特定のテーマについて体系的に検討したレポートを作成する。		
準備学習	テキスト欄に挙げた文献を学期中に読破する。		

受講者への要望

学部において刑法および刑事訴訟法の両分野を良好な成績で学修していなければ、授業の内容を理解することは不可能である。これに十分留意したうえで受講すること。

講義の順序とポイント

1　はじめに
2　任意捜査と強制捜査
3　職務質問・所持品検査
4　任意取調べ
5　身柄拘束の諸問題（1）
6　身柄拘束の諸問題（2）
7　身柄拘束の諸問題（3）
8　令状による捜索・差押え（1）
9　令状による捜索・差押え（2）
10　逮捕に伴う無令状捜索・差押え（1）
11　逮捕に伴う無令状捜索・差押え（2）
12　おとり捜査
13　接見交通
14　被疑者取調べ
15　被疑者の権利

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	―	―	―	―	―	―

年度	2016	授業コード	J74103B01
科目名	【院】刑事訴訟法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure B		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	刑事手続の各段階で生じる法解釈上の重要な問題を取り上げて検討する。検討の内容は、問題について包括的に研究した諸文献による理論研究、重要判例の判例研究および外国文献の講読を通じた比較研究である。また、必要に応じて、少年事件といった各種の手続や刑事手続をめぐる最近の法改正なども検討の対象とする。 ゼミの進め方は、受講者が報告者となって、毎回、指定されたテーマについて報告するというものである。		
教材（テキスト）	古江頼隆『事例演習刑事訴訟法』（2011、有斐閣）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じてそのつど紹介する。		
教材（その他）	資料などを掲載したプリントを配布する。		
評価方法	出席状況、報告の内容および報告をふまえて作成されたレポートが主な評価の材料である。		
到達目標	特定のテーマについて体系的に検討したレポートを作成する。		
準備学習	テキスト欄に挙げた文献を学期中に読破する。		

受講者への要望

学部において刑法および刑事訴訟法の両分野を良好な成績で学修していなければ、授業の内容を理解することは不可能である。これに十分留意したうえで受講すること。

講義の順序とポイント

1　はじめに
2　訴因の特定
3　訴因変更の要否
4　訴因変更の可否
5　科学的証拠
6　法律上の推定
7　類似事実証拠排除法則
8　自白の証拠能力（1）
9　自白の証拠能力（2）
10　公訴の提起（3）
11　伝聞法則（1）
12　伝聞法則（2）
13　伝聞法則（3）
14　違法収集証拠排除法則（1）
15　違法収集証拠排除法則（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	J74104001
科目名	【院】行政作用法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Action Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論の部分のうち、基本原理、行政組織、行政作用法を扱う。		
教材（テキスト）	高橋　滋『行政法　Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点(100%)		
到達目標	行政法の基本原理を習得し、組織法、作用法の全体像の理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当部項目を読み、基本用語、法令、判例をチェックすること。		

受講者への要望

行政法の学説に関する基礎知識と基本判例を習得することを目標にするので、参考文献の熟読と判例百選などを使った予習、復習が必要である。

講義の順序とポイント

1．　行政と法
2．　行政活動の規制原理
3．　行政組織
4．　行政立法
5．　行政行為－概念・種類
6．　行政行為－裁量
7．　行政行為－効力・瑕疵・取消しと撤回
8．　行政行為－瑕疵・取消しと撤回・附款
9．　行政計画
10．行政契約・行政指導
11．行政上の強制執行
12．行政上の即時強制・行政罰
13．行政手続法
14．情報公開
15．個人情報保護

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	J74105001
科目名	【院】行政救済法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Remedies Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論は、行政組織法、作用法、救済法の３つの柱で構成される。本講義では、行政救済法の部分を扱う。		
教材（テキスト）	高橋　滋『行政法　Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（参考文献）	宇賀克也・交告尚史『行政判例百選Ⅰ[第６版]』、『行政判例百選Ⅱ[第６版]』（有斐閣、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点（１００％）		
到達目標	国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合の救済手段の内容を理解し、それら救済手段の果たす役割についての認識を深める。		
準備学習	次回の講義の項目と関連判例を予習すること。		

受講者への要望

行政作用法も履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション－行政法の学び方、行政救済法の体系
２．　行政不服申立て①
３．　行政不服申立て②
４．　行政事件訴訟の概観、種類
５．　取消訴訟の訴訟要件①
６．　取消訴訟の訴訟要件②
７．　取消訴訟の訴訟要件③
８．　取消訴訟の審理、判決、教示
９．　行政事件訴訟法のその他の論点
１０．国家賠償制度
１１．国家賠償法１条
１２．国家賠償法２条
１３．損失補償制度①
１４．損失補償制度②
１５．行政救済法の改正動向

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	J74106001
科目名	【院】家族法	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法の家族法分野について判例研究を行う。具体的な進め方については受講生と相談のうえ決める予定である。		
教材（テキスト）	講義資料を適宜配布する。		
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	参加状況（50%）、研究への取り組み状況（50%）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を報告し、他者の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。		
準備学習	報告担当者は十分に準備をし、当日は必ず出席すること。担当者以外の出席者もあらかじめ指示された判例・文献に目を通しておくこと。		

受講者への要望

家族法を履修したことがない者については、家族法の教科書・概説書を 1 冊通読しておくことが望ましい。

講義の順序とポイント

各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。

１．　婚姻外の男女関係の解消
２．　近親婚と遺族年金受給権
３．　夫婦同氏制度の合憲性
４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権
５．　有責配偶者の離婚請求
６．　財産分与と慰謝料請求権との関係
７．　推定の及ばない子
８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用
９．　代理出産と母子関係
１０．子の命名権
１１．面会交流権
１２．成年に達した子に対する扶養義務
１３．熟慮期間の起算点
１４．生命保険金請求権の相続財産性
１５．高齢者の遺言能力

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J74107A01
科目名	【院】経済法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	市場経済が期待される機能を適切に発揮するには、市場における企業間の「公正かつ自由な競争」が前提となる。そのために、独占禁止法が、市場における競争を制限するカルテルなどを禁止している。競争に悪影響を及ぼす行為には様々なものがあるが、カルテルがその典型である。 本講義では、カルテルの様々な形態を理解し、なぜカルテルが行われるのか、カルテルを規制するにはどのようにすればよいのか、カルテルが独占禁止法違反かどうかを判断する際に必要な、基本概念について学ぶ。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案して、最初の授業で決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）	毎回レジュメ等を配布する		
評価方法	平常点（発言、授業内レポート、出席状況など）４０％ 学期末レポート６０％		
到達目標	カルテルの形態や仕組みについて理解し、独占禁止法の観点から分析できるようになる。		
準備学習	各回の最後に、次回までに読むべき教科書等の範囲を指示するので、事前に読んでおくこと。		
受講者への要望			
企業活動一般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション　　独占禁止法の概要 2　カルテル規制の全体像 3　カルテルの仕組みと形態 4　意思の連絡（東芝ケミカル事件） 5　競争の実質的制限 6　入札談合（安藤造園事件） 7　行政指導とカルテル（石油カルテル事件） 8　事業者団体とカルテル（大阪バス協会事件） 9　医師会とカルテル（観音寺市医師会事件） １０　カルテルに対する措置の概要と手続き １１　課徴金 １２　刑事責任 １３　民事責任 １４　米国・EU におけるカルテル規制 １５　総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J74107B01
科目名	【院】経済法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	グローバル経済においては、企業結合が活発に行われている。経済活動のルールを定める独占禁止法は、「公正かつ自由な競争」を維持・促進するため、カルテルなど、市場における競争に悪影響を及ぼす行為を禁止するだけでなく、市場構造に影響を与える企業結合も規制している。しかし、企業結合規制の場合、企業結合が競争を促進する可能性と競争を制限する可能生徒を慎重に判断する必要がある。 本講義では、企業結合の目的及び態様を理解したうえで、独占禁止法の企業結合規制について検討する。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等に応じて、最初の授業で決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）	毎回レジュメ等を配布する。		
評価方法	平常点（発言、授業内レポート、出席状況）４０％ 学期末レポート６０％		
到達目標	企業結合が市場における競争に及ぼす影響を理解し、独占禁止法の視点から、企業結合を分析できるようになる。		
準備学習	各回の最後に、次回までに読むべき教科書等の範囲を指示するので、事前に読んでおくこと。		
受講者への要望			
企業活動全般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション　　企業結合規制の全体像 2　企業結合の態様と目的① 3　企業結合の態様と目的② 4　一般集中規制①概要と歴史 5　一般集中規制② 6　市場集中規制の概要 7　市場画定の方法 8　水平型企業結合 9　垂直型企業結合 １０　混合型企業結合 １１　総合事例問題① １２　総合事例問題② １３　米国の企業結合規制 １４　EU の企業結合規制 １５　総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74108A01
科目名	【院】国際法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、下記の国際法の標準的な教科書を精読し、国際法の基本的性質や機能を理解することを主な目的とする。受講生は、担当教員から出された論点を中心に担当部分のレジュメを作成し、報告を行う。そして、受講生の報告を踏まえて、全員で内容を検討する。可能であれば他の教科書との比較検討も行いたい。		
教材（テキスト）	杉原高嶺ほか『現代国際法講義［第５版］』（有斐閣、２０１２年）		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺『国際法学講義［第２版］』（有斐閣、２０１３年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ベーシック条約集』（東信堂） 奥脇直也編『国際条約集』（有斐閣） 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席状況、予習状況）７０点、レポート３０点。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．国際社会や国際法の独自の基本的性質を理解する。 ２．国際法の基本的な専門用語を理解する。 ３．詳細なレジュメを作成し、効率的に報告する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、教科書を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．積極的な参加を希望する。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．履修ガイダンス
２．「第１章　国際法の基本構造」
３．「第２章　国家の成立と変動」
４．「第３章　国家の基本的権利義務と管轄権」
５．「第４章　国家領域」
６．「第５章　海洋法」
７．「第６章　国際化地域と空域の利用」
８．「第７章　国際関係における国家機関」
９．「第８章　国際法における個人」
１０．「第９章　国際機構」
１１．「第１０章　条約法」
１２．「第１１章　国家責任」
１３．「第１２章　環境の国際的保護」
１４．「第１３章　紛争の平和的解決」

１５.「第１４章　武力行使の規制」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74108B01
科目名	【院】国際法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、国際法の各分野の代表的な判例検討を通じて、国際法が実際の紛争においてどのように適用され、どのように機能しているかをともに学ぶ。受講生は、担当判例について適切に紹介したレジュメを作成し、報告を行う。受講生の報告を踏まえ、判決の意義や問題点などについて全員で検討する。国際法の判例検討を通じて、国内法とは異なる国際法の世界を見てみよう。		
教材（テキスト）	小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年）		
教材（参考文献）	【教科書】 杉原高嶺『国際法学講義［第２版］』（有斐閣、２０１３年） 杉原高嶺ほか編『現代国際法講義［第５版］』（有斐閣、２０１２年） 浅田正彦編『国際法』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 松井芳郎編『ベーシック条約集』（東信堂） 奥脇直也・小寺彰編集代表『国際条約集』（有斐閣） 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席状況、予習状況）７０点、レポート３０点。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．判決の事案や判旨などを適切に紹介したレジュメを作成し、効率的に報告する。 ２．判決の意義や問題点について自ら考えることができるようになる。 ３．国内裁判とは異なる国際裁判について理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、予習判例は事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．積極的に参加すること。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．履修ガイダンス
２．国際法における国家
３．国家管轄権（１）
４．国家管轄権（２）
５．国家領域（１）
６．国家領域（２）
７．国際機構
８．国際法における個人（１）
９．国際法における個人（２）
１０．国際法における個人（３）
１１．条約
１２．平和と安全の維持（１）
１３．平和と安全の維持（２）

１４．国際経済活動
１５．環境の国際的保護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J74109A01
科目名	【院】独語文献研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	German Document Research A		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読み、ドイツ民法を少し覗く。		
教材（テキスト）	講義時に紹介する		
教材（参考文献）	山田晟『ドイツ法律用語辞典』（大学書林） ベルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典』（成文堂）		
教材（その他）	中島 悠爾、朝倉 巧、平尾 浩三『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）		
評価方法	講義における取組み具合により評価する。		
到達目標	ドイツ語に親しみながら、ドイツ民法の内容についての知識を得る。		
準備学習	・他の受講生の担当部分についても、一読する。		

受講者への要望

・担当部分については、責任を持って訳出してくること。
・自らの担当部分は翻訳をプリントして持参すること。

講義の順序とポイント

Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読む。

受講者のドイツ語能力に大きく作用されるため、進度は不明であるが、第 2 章法律行為から読み進めることにする。
各回 1 頁程度進めるのが理想である。それを前提にすれば、各回の内容は以下の通りである。

(1) ガイダンス・担当順の確定等
(2) "§4 Vertrag, Willenserklaerung und Rechtsgeschaeft"中の
"Faelle"及び"I. Vertrag 1. Bedeutung "
(3) 同 "2. Vertragsfreiheit"
(4) 同 "3. Begriff"
(5) 同 "II. Willenserklaerung 1. Begriff"
(6) 同上
(7) 同上
(8) 同上
(9) 同 "2. Arten"
(10) 同 "3. Abgrenzung"
(11) 同 "III. Rechtsgeschaeft 1. Begriff"
(12) 同 "2. Arten"
(13) "§5 Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte" 中の"Faelle"
(14) 同 "I. Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte 1. Verpflichtungsgeschaefte"
(15) 同 ”2. Verfuegungsgeschaefte”

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J74109B01
科目名	【院】独語文献研究B	単位数	2
科目名（英語表記）	German Document Research B		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読み、ドイツ民法をもう少し覗く。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	山田晟『ドイツ法律用語辞典』（大学書林） ベルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典』（成文堂）		
教材（その他）	中島 悠爾、朝倉 巧、平尾 浩三『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）		
評価方法	講義中における取組み具合を評価する。		
到達目標	ドイツ語に親しみながら、ドイツ民法の内容についての知識を得る。		
準備学習	・他の受講生の担当部分についても、一読する。		

受講者への要望

・担当部分については、責任を持って訳出してくること。
・自らの担当部分は翻訳をプリントして持参すること。

講義の順序とポイント

Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読む。

本講義では「独語文献研究A」の続きを読むことにする。当然受講者の習得具合にあわせるが、できる限り各回1頁ずつ読み進めることを目標とする。それを前提として各回の内容は主に次の通りである。

(1) ガイダンス／報告順の決定等
(2)"§5 Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte"中の
"I. Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte 3. Unterschiede"
(3) 同 "II. Kausale und abstrakte Geschaefte 1. Einfuehrung"
(4) 同 "2. Kausale Geschaefte"
(5) 同 "3. Abstrakte Geschaefte"
(6) 同 "III. Abstraktionsgrundsatz 1. Bedeutung"
(7) 同 "2. Auswirkungen"
(8) 同 "3. Gesezgeberischer Grund"
(9) 同 "4. Nachteile des Abstraktionsprinyips"
(10) 同上
(11)"§6 Die Auslegung des Rechtsgeschaefts" Faelle
(12) 同 "I. Einfache Auslegung 1. Ziel, Weg und Bedeutung"
(13) 同上
(14) 同 "2. Auslegungsmethode"
(15) 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2016	授業コード	J74111001
科目名	【院】担保物権法	単位数	2
科目名（英語表記）	Collateral Right Method		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・債権担保のために用いられる担保物権について学ぶ。 ・法定担保物権には、質権と抵当権のほか、先取特権と留置権があるが、本講では特に、一般によく用いられる抵当権を重点的に取り上げる。 ・基本的には、講義をおこない、重要な判例について、受講者が報告をする方法で進める。		
教材（テキスト）	内田貴『民法 III　債権総論・担保物権（第 3 版)』(東京大学出版会)		
教材（参考文献）	『民法判例百選　I -- 総則・物権（第 7 版)』別冊ジュリスト 223 号 鎌田薫ほか『民事法 II 担保物権・債権総論（第 2 版)』(日本評論社、2010)		
教材（その他）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』(法律文化社、2007) 978-4589030276		
評価方法	希望テーマに基づく報告の内容（50%)、報告への質疑その他講義への参加の度合いなど（50%）を評価の対象とする。		
到達目標	担保物権法の内容を理解し、理解を深める。		
準備学習	・事前に教科書の該当箇所に目を通してくること。 ・下記の判例中、報告のない場合にも判例百選で確認すること。		

受講者への要望

・各受講者には 1〜2 度判例の報告を求める。

講義の順序とポイント

1　担保物権序説
　・抵当権とは何か
2　抵当権の目的物
　・抵当権の及ぶ範囲
　　最判昭 44・3・28 民集 23-3-699（従物）
　　最判昭 40・5・34 民集 19-4-811（借地権）
　・物上代位
　　最判平元・10・27 民集 43-9-1070（賃料：改正前）
　　最判平 10・1・30 民集 52-1-1
　　民事法 II 72 頁
3　抵当権の目的物 2
　・法定地上権
　　最判昭 36・2・10 民集 15-2-219（更地）
　　最判平 9・2・14 民集 51-2-375（共同抵当と再築）
　　民事法 92
4　実行前の効力
　・設定者の使用収益権
　・第三者への利用権の設定
5　実行前の効力 2
　・侵害に対する効力
　　最判大平 11・11・24 民集 53-8-1899（代位行使；傍論で直接請求に言及）
　　最判平 17・3・10 民集 59-2-256（直接請求を承認）
　　民事法 II 20 頁
　・第三取得者との関係
6　実行前の効力 3
　・抵当権の処分
7　実行段階の問題
　・担保不動産競売
　・担保不動産収益執行
8　実行段階の問題 2
　・共同抵当

最判昭 53・7・4 民集 32-5-785（異時配当）
最判平 4・11・6 民集 46-8-2625（同一物上保証人所有型の配当）
民事法 II 111 頁

9　抵当権の消滅
大判昭 15・11・26 民集 19-2100

10　根抵当

11　質権

12　留置権
最判昭 46・7・16 民集 25-5-749（解除の場合の必要費・有益費と留置権）

13　先取特権

14　譲渡担保
民事法 II 129 頁

15　所有権留保

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2016	授業コード	J74112001
科目名	【院】債権総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Claim Introduction		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法第三編第一章の内容を扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	●初めて債権総論を学ぶ者 ・野村 豊弘、池田 真朗、栗田 哲男、 永田 真三郎『民法 (3) 債権総論 （有斐閣 S シリーズ)』(有斐閣、第 3 版補訂版) ●一度勉強したことのある者 ・中田裕康『債権総論』(岩波書店、2013) ・川井健『債権総論』(有斐閣、第 2 版補訂版、2009)		
教材（その他）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』(法律文化社、2007) 潮見佳男『民法(債権関係)改正法案の概要』(きんざい、2015)		
評価方法	講義を行う場合には期末試験を行い、希望テーマに基づき報告を行う場合には、その内容、参加の度合いなどを評価の対象とする。		
到達目標	債権法の内容を理解し、理解を深める。		
準備学習	参考文献欄に掲げた文献の 1 冊を選び、各回のテーマにつき、事前に内容を確認しておくこと。		

受講者への要望

主体的に参加し、報告する場合には責任を持って行うこと。

講義の順序とポイント

受講者の要望に従うが、講義を行う場合には、次の順序で行う。

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率）
第 3 回　債権の目的と種類 3（利息制限）; 債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行 ）
第 4 回　債務不履行 2（債務者の帰責事由）
第 5 回　債務不履行 3（履行の強制）
第 6 回　債務不履行 4（416 条の理解）
第 7 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権 ）
第 8 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権 ）
第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務；連帯債務）
第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務；保証債務 ）
第 11 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 12 回　当事者の交替 2（債務引き受け ）
第 13 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済 ）
第 14 回　債権の消滅 2（代物弁済・供託・相殺 ）
第 15 回　債権の消滅 3（更改・免除・混同 ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J74113001
科目名	【院】契約法	単位数	2
科目名（英語表記）	Contract Method		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	重要判例を素材にして、関連判例や学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、各論点の理解を深めていく。 ロースクールにおける講義方法をイメージしながら、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。		
教材（テキスト）	民法判例百選Ⅱ債権［第７版］		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	個別報告（50%）・レポート（50%）によって評価する。		
到達目標	民法の中の「契約法」分野における主要な制度について、判例に基づいて説明することができる。また、紛争当事者の立場から、具体的問題について議論することができる。		
準備学習	テキストを十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくること		

受講者への要望

授業では、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進めることとするので、予習を十分しておいてほしい。また、契約法の教科書・概説書等は、別に目を通すようにしていただきたい。

講義の順序とポイント

1　事情変更の原則の要件
2　付随的債務の不履行と解除
3　複数契約上の債務不履行と契約解除
4　手付と履行の着手
5　民法５６１条による解除と買主の使用利益の返還義務
6　不特定物の売買と瑕疵担保
7　敷地利用権付建物の売買と瑕疵担保
8　制限超過利息を任意に支払った場合と貸金業法４３条
9　正当事由と建物賃借人の事情
１０　信頼関係破壊の法理
１１　土地賃借権の移転と敷金の承継
１２　サブリースと賃貸料減額請求
１３　請負契約における所有権の帰属
１４　誤振込金の返還請求と預金債権
１５　預金債権の帰属

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J74114001
科目名	【院】不法行為法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tort Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	重要判例を素材にして、関連判例や学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、各論点の理解を深めていく。 ロースクールにおける講義方法をイメージしながら、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。		
教材（テキスト）	民法判例百選Ⅱ債権［第７版］		
教材（参考文献）	・潮見佳男「基本講義 債権各論〈2〉不法行為法」（新世社･ライブラリ法学基本講義、2009 年）		
教材（その他）	民法判例百選Ⅱ債権［第６版］ に参考文献として指示されている資料。		
評価方法	個別報告（50％）・レポート（50％）		
到達目標	不法行為法の制度・目的、または基本概念について判例に基づいて説明することができる。また、紛争当事者の立場から、具体的問題について議論することができる。		
準備学習	参考文献欄に示した基本書を十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくること		

受講者への要望

個別判例を素材にして、双方向的に検討を進めることとするので、授業で検討を予定している判例については、テキスト等に基づき、予習を十分しておいてほしい。

講義の順序とポイント

1　景観利益
2　意見ないし論評の表明と名誉毀損
3　過失の意義
4　因果関係の立証
5　未成年者と監督義務者の責任
6　暴力団組長の使用者責任
7　共同不法行為の要件
8　共同不法行為と使用者責任の競合と求償
9　年少女子の逸失利益と家事労働分の加算
１０　名誉毀損と慰謝料
１１　過失相殺の要件
１２　過失相殺と身体的特徴の斟酌
１３　慰謝料請求権の相続性
１４　民法 724 条後段の除斥期間の起算点
１５　差止請求

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－???	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J74115001
科目名	【院】法情報処理	単位数	2
科目名（英語表記）	Law Information Processing		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	法学部出身者ではない者が、法学の修士論文を作成するに際し必要となるスキルの習得を目指す。 具体的には、法律の基礎知識を確認するとともに論文の構成や引用方法を身につける必要がある。まず、法律の仕組みを学び、関連する法律を探し出し、法律を読む練習を重ねる。次に、裁判の仕組み及び判例の構造を学ぶ。 　論文の執筆に必要な力は、実際に小論文を作成し、推敲するという実践を経なければ身につくものではない。半年間の講義の中で２回レポート（小論文）を実際に執筆し、その添削を受け、それを推敲するという作業を繰り返す。そのような実践と並行して、学術論文の構造を理解し、学術論文を探し、読み解く作業を行う。レポートのテーマについては、受講生の関心のあるテーマを考慮して決定する。		
教材（テキスト）	初回の授業で指示する。		
教材（参考文献）	法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣） その他は初回の授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメや資料を配布する。		
評価方法	平常点（課題・出席状況など）２０％ レポート（２つ）８０％		
到達目標	必要な法律分野の資料を収集し、論理的な文章構成について理解し、資料に基づく法学分野のレポートを作成するための方法を理解できるようになる。		
準備学習	各講義の最後に指示する次の講義のための準備学習に取り組むこと。		

受講者への要望

十分な予習復習、小論文執筆のための時間の確保すること。
大学院生としての自覚。

講義の順序とポイント

以下は取り上げる内容の順番の目安である。受講生の人数及び学習歴に応じて変更がありうる。

1　オリエンテーション
2　論文の構成・図書館ガイダンス
3　法律の読み方
4　裁判制度
5　レポートの推敲
6　判例の探し方・読み方①
7　判例の読み方②
8　報告１
9　報告２
１０　報告３
１１　論文の読み方①・引用方法
１２　論文の読み方②
１３　レポートの推敲①
１４　レポートの推敲②
１５　総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J74172A01
科目名	【院】商事法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Law Seminar A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	修士論文を完成させる能力を身につけるため、会社法関係を中心とした文献の講読や近時の判例の検討を行う。おおむね会社法 A の範囲を取り扱う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。必要に応じ、判例・文献などを指示する。		
教材（参考文献）	江頭憲治郎『株式会社法　第 6 版』（有斐閣、2015 年）　6,048 円		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点（70%）。レポート（30%）。		
到達目標	修士論文を完成させるために必要な知識、能力を身につける。		
準備学習	授業中に、関連する文献や判例を指定するので、次回までに読了し検討しておくこと。		
受講者への要望			
関係する文献を十分消化すること。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．名義書換 3．株主平等の原則 4．株式譲渡 5．譲渡制限株式 6．略式質 7．自己株式 8．第三者に対する新株の有利発行 9．不公正発行価額 10.第三者割当増資による企業買収 11.防衛策としての第三者割当増資 12.著しく不公正な方法による第三者割当増資 13.新株発行無効事由 14.新株予約権発行の差止め 15.社債権者			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	—	—	—	—	—	—

年度	2016	授業コード	J74172B01
科目名	【院】商事法演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Law Seminar B		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	修士論文を完成させる能力を身につけるため、会社法関係を中心とした文献の講読や近時の判例の検討を行う。おおむね会社法 B の範囲を取り扱う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。必要に応じ、判例・文献などを指示する。		
教材（参考文献）	江頭憲治郎『株式会社法　第 6 版』（有斐閣、2015 年）　6,048 円		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点（70%）。レポート（30%）。		
到達目標	修士論文を完成させるために必要な知識、能力を身につける。		
準備学習	授業中に、関連する文献や判例を指定するので、次回までに読了し検討しておくこと。		

受講者への要望

関係する文献を十分消化すること。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション
2．株主総会に関する諸問題
3．経営判断の原則
4．競業取引
5．利益相反取引
6．取締役の会社に対する責任
7．取締役の第三者に対する責任
8．責任追及の訴え（株主代表訴訟）
9．監査役・会計監査人
10.委員会設置会社
11.持分会社に関する諸問題
12.合併
13.会社分割
14.事業譲渡
15.企業買収

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	—	—	—	—	—	—

年度	2016	授業コード	J75007A01
科目名	【院】コミュニケーション社会学特論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Sociology of Communi cation A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要な理論を紹介し、これを適用しながら現代社会の理解に努める。 「コミュニケーション社会学特論 A」では、社会を理解する手段としてのコードの理論を理解し、その活用を試みる。G.H.ミードからエスノメソドロジーまでのアメリカ社会学のある潮流の源泉には C.S.パースの記号論がある。その影響は、社会学にとどまらず、多方面の文化研究や哲学的思考に影響を与えており、この点はソシュールの記号学についても同様である。講義では、これらの理論の基本的な考え方、社会学的思考とのかかわりについて論じる。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	ディスカッション（50%）、レポート（50%）。		
到達目標	現代社会のコミュニケーション状況を分析できるようになること。できれば、自らの研究対象を講義で解説した諸理論を使って分析すること。		
準備学習	1 週間前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		
受講者への要望			
講義形式の授業ではあるが、受講生には毎回意見を求める。積極的に参加すること。また、講義と並行して、自分の研究テーマを明確にする作業を進めること。			
講義の順序とポイント			
1. 講義概要、予備知識 2. コミュニケーションとコード 3. 記号論 4. 記号学(1) 5. 記号学(2) 6. メタ言語と対象言語 7. ダブルバインド 8. デノテーションとコノテーション(1) 9. デノテーションとコノテーション(2) 10. 語りと示し 11. ラベリング 12. 二元論(1) 13. 二元論(2) 14. 物語 15. 全体の復習と総合的な議論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J75011001
科目名	【院】コミュニティ・アプローチ特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Community Approach		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学の目的は対象とする人の援助であることを考えると、その人が面接室の心理臨床家の前にいる時間はほんのわずかであるので、それ以外の時間における援助についても思いを致すことになる。また、面接室での面接もそのことの影響を受けたり、援助全体をより広い視野で組み立て直す必要が出てきたりする。さらに、予防的観点から一般住民に働きかけるべき内容も臨床家は自らの内にもつことになり、社会のあり方についてもより深く考えるようになる。そのようなより広い視野をもち、その人や住民の生活する地域全体、いろんな専門家や非専門家に対してもアプローチしていこうとするのがコミュニティ心理学である。言い換えれば、ソーシャル・ワークの一部も含み込んだ臨床心理学であり、臨床実践を行っていくうえでの必要不可欠なアプローチである。授業では、児童福祉臨床業務におけるコミュニティ・アプローチの実際を中心に検討し、またコミュニティ・アプローチの諸概念や方法について整理したい。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	植村・高畠・原・久田編著「よくわかるコミュニティ心理学」2006 ミネルヴァ書房		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（５０％）。課題への取り組みについての評価点（５０％）。		
到達目標	対人援助についてより広い視野で検討し、実践に移すことのできるようなセンスを学ぶ。		
準備学習	コミュニティ心理学に関する文献に目を通しておくのが望ましい。		
受講者への要望			
対人援助に関する社会的取り組みは多く、よく報道もされているので、日頃から関心をもち情報収集に努めてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．児童相談所業務におけるコミュニティ・アプローチ ２．コミュニティ心理学とは何か ３．発想と理論 ４．介入や援助① ５．同　② ６．家庭・地域・学校関連① ７．同　② ８．同　③ ９．医療・保健・福祉関連① １０．同　② １１．同　③ １２．産業・職場関連 １３．多文化コミュニティや新しい手段 １４．あらためてコミュニティ心理学とは何か １５．コミュニティ心理学をどのように実践するか ※上記の内容や順序については変更される場合がある。 コミュニティ・アプローチに関する見学や実習の機会がタイミングよくあれば、それに替える回もあり得る。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J75012A01
科目名	【院】ジェンダー社会学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology of Gender A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると認識されはじめて４０年余り。ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性の問題、そしてセクシュアリティと幅広い。現在のジェンダー社会学では、様々な社会問題を理解するにはジェンダー抜きでは不可能であるが、またジェンダーだけでも不十分だという認識がなされている。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。		
教材（テキスト）	最初の授業で文献リスト配布し、使用する資料と範囲を指定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で文献リスト配布し、使用する資料と範囲を指定する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席など）40%,期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念の基礎的理解と先行研究の把握		
準備学習	指定文献と資料を読んでくる		
受講者への要望			
先行研究には英語文献を含むので、英語の読解力が求められる			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2, 研究計画書とスケジュールについて 3.ジェンダー社会学の系譜 4. ジェンダー社会学の基礎文献購読 5.〜13.　ジェンダー社会学の基礎文献購読 14. ジェンダー社会学の文献の注釈目録（annotated bibliography）の作成 15, ジェンダー社会学の基礎の概観			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	J75012B01
科目名	【院】ジェンダー社会学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology of Gender B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると認識されはじめて４０年余り。ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性の問題、そしてセクシュアリティと幅広い。現在のジェンダー社会学では、様々な社会問題を理解するにはジェンダー抜きでは不可能であるが、またジェンダーだけでも不十分だという認識がなされている。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席など）40%,期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念の基礎理解と先行研究の把握を行い、修士論文と関連づける		
準備学習	指定資料を読んでくる		
受講者への要望			
各自の研究の先行研究を把握すること			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント 1, イントロダクション 2, ～3. ジェンダー社会学文献リストより注釈目録のフィードバック 4.～13, 各自研究の先行研究の文献購読 14.～15　ジェンダー社会学の概観と調査計画書について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	J75012C01
科目名	【院】ジェンダー社会学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology of Gender C		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると認識されはじめて４０年余り。ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性の問題、そしてセクシュアリティと幅広い。現在のジェンダー社会学では、様々な社会問題を理解するにはジェンダー抜きでは不可能であるが、またジェンダーだけでも不十分だという認識がなされている。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席など）40%,期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念の基礎理解と先行研究の把握を行い、修士論文と関連づける		
準備学習	指定資料を読んでくる		
受講者への要望			
指定された演習予習をしてくること			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント 1, イントロダクション 2, ～3. 各研究の方法論について 4.～13, 各自研究のリサーチ進捗状況の報告とフィードバック 14.～15 、各自研究の構成と執筆について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	J75012D01
科目名	【院】ジェンダー社会学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology of Gender D		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると認識されはじめて４０年余り。ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性の問題、そしてセクシュアリティと幅広い。現在のジェンダー社会学では、様々な社会問題を理解するにはジェンダー抜きでは不可能であるが、またジェンダーだけでも不十分だという認識がなされている。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席など）40%,期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念の基礎理解と先行研究の把握を行い、修士論文と関連づける		
準備学習	指定された演習予習をしてくること		
受講者への要望			
各自の研究の先行研究を把握すること			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2, ～3. 各研究のリサーチ進捗状況の報告 4.～13, 論文執筆の報告とフィードバック 14.～15 、論文サマリー報告とフィードバック			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	J75015A01
科目名	【院】ジェンダー社会学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Sociology of Gender A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	女と男の関係は、長い間、社会のなかで最も自明視されてきた側面 の一つである。それを読み解くために必要なのが「ジェンダー」とい う概念である。ジェン ダー社会学では、男性と女性という身体的カテ ゴリーにまつわる様々な社会的意味の研究が行われてきた。そしてそ こには、「人間」という性別中立（性別不 問）の分析では、女性だけ でなく男性の経験も正確に捉えることはできないという認識がある。 本講義では、女と男の関係がどのようにつくられ、個 人や集団の生 き方に影響しているかということを理解するために、主に日本とアメリカの 基礎的な文献を読み、社会学や隣接分野で行われているこの種の議論に慣れ、 批判的思考力を養う。		
教材（テキスト）	適宜指定または配布する		
教材（参考文献）	①　『日本人はなぜ存在するか』与那覇潤　集英社インターナショナル　2013 ②　『ジェンダー・ステディーズ』牟田和恵他編著　大阪大学出版会　2009 ③　『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子他編著　ミネルヴァ書房　2013 ④　世界民族百科事典　国立民族学博物館編　丸善出版 2014		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席と発表など）40%、期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念と社会的差異の構築を理解する		
準備学習	議論に参加できるように指定文献を読んでくること。		
受講者への要望			
批判的思考力			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2.　ジェンダー・スタディーズとは 3,「女はつくられる」 4〜6 , ジェンダー・スタディーズ、差異の構築 7. ジェンダーと差異の構築 8.「男もつくられる」 9.　セクシュアリティの構築 10.　本質主義と構築主義を越えて 11〜15　ジェンダー・スタディーズ　各論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	J75024A01
科目名	【院】ジャーナリズム研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Journalism A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	【院】ジャーナリズム研究演習Ⅰ
講義概要	演習では高度情報化社会とマス・メディア、情報消費者の相互関係を考察する過程において、ジャーナリズムが抱える課題を浮き彫りにする。つまり、演習の核心は「批判性」である。実際的には、受講生のテーマ研究が中心になるが、まず第１に研究テーマの設定、第２にそのテーマに関する実態把握のための情報収集、第３に関連文献の蒐集と読解、第４にメディアなどの現場取材、第５に総合把握と問題点の集約、第６に研究発表（プレゼンテーション）、最後の第７が修士論文の作成である。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムーー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	研究テーマに関連する新聞各紙やテレビニュース映像、さらに雑誌や書籍の関連資料を配布します。		
評価方法	授業内レポート５０％、各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション３０％、平常点（授業への参加度合い）２０％。		
到達目標	少人数の課題追求型学習であることは当然だが、修士論文作成を目的とする院生のために、その専門研究とあわせてその周辺研究も課する。つまり、狭い領域の研究にこだわっていると普遍性という点で研究の意味が減退するためで、そのような指導を通じて院生の専門研究が修士号レベルに達するまで高めることに全力を挙げる。それと併せて、その研究が将来の就職に反映されるよう現実的な配慮もする。		
準備学習	ジャーナリズム研究はいわば実証学でもあるので、テレビや新聞、雑誌などで研究テーマがどのように報じられているのか、事前に検証しておいてほしいと思います。また、毎回の研究授業を円滑に進めるために、前回の授業でしてきされた予習を確実に行うことと、授業終了時には復習用の課題を出すので、それを次回の授業時に必ず提出してもらいます。		

受講者への要望

マス・メディアが対象とする社会事象は、政治、経済、社会、国際、文化分野など、高度情報化社会を反映して多岐にわたっている。それだけに、修士論文にまとめるための「研究テーマ」の設定は重要で、出来るだけ具体的な文献研究やリサーチ、フィールドワークが可能な主題を選択することが望まれる。もちろん、独創的かつ客観性のあるジャーナリズム批判は大歓迎である。

講義の順序とポイント

1　大学院における研究計画とそのスケジュール
2　研究テーマ設定に関する討議
3　研究テーマ設定に対する評価と指導
4　方法論決定に関する協議
5　方法論策定のための資料選択
6　具体的な研究計画の決定
7　研究計画の具体化としての文献・調査対象の選定
8　研究結果報告と指導
9　研究結果報告と指導
１０　研究結果報告と指導
１１　研究・調査結果の報告と指導
１２　文献目録の作成
１３　経過発表と討論
１４　研究領域に関する研究書の講読

１５　研究全体を総括して討議

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75024B01
科目名	【院】ジャーナリズム研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	【院】ジャーナリズム研究演習Ⅱ
講義概要	演習では高度情報化社会とマス・メディア、情報消費者の相互関係を考察する過程において、ジャーナリズムが抱える課題を浮き彫りにする。つまり、演習の核心は「批判性」である。実際的には、受講生のテーマ研究が中心になるが、まず第１に研究テーマの設定、第２にそのテーマに関する実態把握のための情報収集、第３に関連文献の蒐集と読解、第４にメディアなどの現場取材、第５に総合把握と問題点の集約、第６に研究発表（プレゼンテーション）、最後の第７が修士論文の作成である。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムーー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習に対する取り組み姿勢やレポート 50%、各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション３０％、平常点（授業への参加の度合い）２０％。		
到達目標	研究論文を修士号レベルに高めるのは当然であるが、それと同時に、その研究成果を将来の進路、つまり就職に結びつけることが最終的な目標である。		
準備学習	ジャーナリズム研究はテレビや新聞、雑誌など様々なメディア研究を抜きにしては語れず、その意味に於いて幅広い情報収集が求められる。このジャンルは幅が広いため、できるだけ早く研究テーマを絞っておくことが肝要と思われる。		

受講者への要望

マス・メディアが対象とする社会事象は、政治、経済、社会、国際、文化分野など、高度情報化社会を反映して多岐にわたっている。それだけに、修士論文にまとめるための「研究テーマ」の設定は重要で、出来るだけ具体的な文献研究やリサーチ、フィールドワークが可能な主題を選択することが望まれる。もちろん、独創的かつ客観性のあるジャーナリズム批判は大歓迎である。

講義の順序とポイント

1　研究論文の進行状況発表
2　調査結果報告
3　資料蒐集（新聞・文献）
4　資料検索と蒐集（ウェッブ）
5　研究と論文作成の方法について
6　研究の中間発表と討議
7　研究の中間発表と討議
8　研究課題に関する実際的検証
9　既存（類似・参考）論文の蒐集結果の発表
１０　専門研究書の輪読
１１　各種データの蒐集と整理（客観化）
１２　各種データの蒐集と整理（客観化）
１３　研究結果の報告とそれに対する指導
１４　研究結果の報告とそれに対する指導
１５　演習全体を総括して最終討議

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75032A01
科目名	【院】ジャーナリズム特論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Journalism A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	今日の高度情報化社会において、新聞やテレビによる報道、さらにインターネット上を玉石混交の様々な情報が流れているが、それらを「賢い情報人」としていかに正確に、そして批判的に読み解くかが問われている。そうしないと、人々は本当に必要な情報とは何かを特定できないまま、圧倒的なメディアの力による情報洪水に流されてしまうことになりかねない。この授業ではそのような観点から、教科書によってジャーナリズムの根幹を学ぶとともに、日々発生している様々な社会事象について、共に考え検証していく。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙や各局のテレビニュースのビデオ、さらに専門雑誌や書籍の関連資料を配布します。		
評価方法	講義途中や終了時におけるレポート（70%）、小テスト（１０%）、さらに授業参加の度合い（２０%）などを総合して判断する。		
到達目標	少人数の課題追求型学習によってメディアに取り上げられる様々な社会事象を正確に分析し、客観化された見解の醸成を目標とする。今日の高度情報化社会を左右している各種メディアの現況やメカニズムの理解、その上に立ってニュースを正確に分析することによって社会事象に対する客観的認識を深める。		
準備学習	教科書を中心に授業を行うので、以下に記したように予習と復習をきちんとすることが大事です。教科書や事前に配布した資料をよく読んでおくこと、さらにテレビ報道など日々のニュースに対する感度を上げておくこととも大事です。また、授業終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業時に提出してもらいます。 1　「 ジャーナリズム概説入門」については事前に教科書の「はしがき」をよく読んで予習をしておいてください。 2　「日本の新聞、テレビ、インターネット概況」については、事前配布した各種資料に目を通して理解を深めておくこと。 3　「戦国時代を迎えた米国のメディア状況」については、教科書の第 1 章と第 2 章の全体に目を通しておいてください。 4　「世界に影響を与える巨大メディア複合企業の出現」については第 2 章の 21 ページ～27 ページ、38 ページ以降を読んで予習しておくこと。 5　「新旧メディアの葛藤と協調を含めた現状と課題」については事前配布の資料で予習しておいてください。 6　「マルチメディア時代にジャーナリズムは社会的使命を果たせるか」については教科書の「はしがき」と 27 ページ～38 ページを予習しておくこと。 7　「IT 革命と新情報時代の到来によって様変わりする「情報人」については、教科書の第 1 章全体を読んでおいてください。 8　「新旧メディア企業による M&A（合併・吸収）戦争」について j は、教科書の「仁義なきメディア・ウォーズ」を読んで理解を深めておいてください。 9　「各種メディアにおけるメディア産業論」については、事前配布の資料を読んで参考にしておいてください。 10　「新聞はオールドメディアで消えゆく運命か」については、教科書の「ネット時代に新聞の未来はあるか」の項を予習しておくこと。 11　「圧倒的影響力を誇るテレビメディの功罪」については、教科書の第 3 章、4 章を読んでおくこと。 12　「ジャーナリズムとポピュリズムの問題」については、教科書の第 5 章「ポピュリズムに翻弄されるメディア」を予習しておくこと。 13　「政治によるジャーナリズムへの圧力や密接な関係」については、教科書の第 6 章（129 ページ～153 ページ）をよく読んで理解しておいてください。 14　「コマーシャリズムによってジャーナリズムは衰退するのか」については、教科書の第 2 章 2 項、5 項、そして第 7 章をよく読んでおいてください。 15　「ジャーナリズムとアカデミズムの相克と協調」については、教科書の第 12 章「ジャーナリズムとアカデミズム」をよく予習しておいてください。		

受講者への要望
出来るだけ最新のニュースについて、学生とともに分析しながらリテラシー能力を高めたいと思っているが、大学院である限り、やはりジャーナリズムのアカデミックな原理（原論）を学ぶ必要があると思います。そのために、ジャーナリズムをより深く考察するために教科書利用は欠かせません。教科書必携です。
講義の順序とポイント
1　ジャーナリズム概説入門 2　日本の新聞、テレビ、インターネット概況 3　戦国時代を迎えた米国のメディア状況 4　世界に影響を与える巨大メディア複合企業の出現 5　新旧メディアの葛藤と協調を含めた現状と課題 6　マルチメディア時代にジャーナリズムは社会的使命を果たせるか 7　IT 革命と新情報時代の到来によって様変わりする「情報人」 8　新旧メディア企業による M&A（合併・吸収）戦争 9　各種メディアにおけるメディア産業論 10　新聞はオールドメディアで消えゆく運命か 11　圧倒的影響力を誇るテレビメディの功罪 12　ジャーナリズムとポピュリズムの問題 13　政治によるジャーナリズムへの圧力や密接な関係 14　コマーシャリズムによってジャーナリズムは衰退するのか 15　ジャーナリズムとアカデミズムの相克と協調

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75032B01
科目名	【院】ジャーナリズム特論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	今日の高度情報化社会において、新聞やテレビによる報道、さらにインターネット上を玉石混交の様々な情報が流れているが、それらを「賢い情報人」としていかに正確に、そして批判的に読み解くかが問われている。そうしないと、人々は本当に必要な情報とは何かを特定できないまま、圧倒的なメディアの力による情報洪水に流されてしまうことになりかねない。この授業ではそのような観点から、教科書によってジャーナリズムの根幹を学ぶとともに、日々発生している様々な社会事象について、共に考え検証していく。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙や各局のテレビニュースのビデオ、さらに専門雑誌や書籍の関連資料を配布します。		
評価方法	講義途中や終了時におけるレポート（70%）、小テスト（１０%）、さらに授業参加の度合い（２０%）などを総合して判断する。		
到達目標	少人数の課題追求型学習によってメディアに取り上げられる様々な社会事象を正確に分析し、客観化された見解の醸成を目標とする。今日の高度情報化社会を左右している各種メディアの現況やメカニズムの理解、その上に立ってニュースを正確に分析することによって社会事象に対する客観的認識を深める。		
準備学習	教科書を中心に授業を行うので、以下に記したように予習と復習をきちんとすることが大事です。教科書や事前に配布した資料をよく読んでおくこと、さらにテレビ報道など日々のニュースに対する感度を上げておくこととも大事です。また、授業終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業時に提出してもらいます。 1　「ジャーナリズム概説入門」については事前に教科書の「はしがき」をよく読んで予習をしておいてください。 2　「日本の新聞、テレビ、インターネット概況」については、事前配布した各種資料に目を通して理解を深めておくこと。 3　「戦国時代を迎えた米国のメディア状況」については、教科書の第 1 章と第 2 章の全体に目を通しておいてください。 4　「世界に影響を与える巨大メディア複合企業の出現」については第 2 章の 21 ページ～27 ページ、38 ページ以降を読んで予習しておくこと。 5　「新旧メディアの葛藤と協調を含めた現状と課題」については事前配布の資料で予習しておいてください。 6　「マルチメディア時代にジャーナリズムは社会的使命を果たせるか」については教科書の「はしがき」と 27 ページ～38 ページを予習しておくこと。 7　「IT 革命と新情報時代の到来によって様変わりする「情報人」については、教科書の第 1 章全体を読んでおいてください。 8　「新旧メディア企業による M&A（合併・吸収）戦争」について j は、教科書の「仁義なきメディア・ウォーズ」を読んで理解を深めておいてください。 9　「各種メディアにおけるメディア産業論」については、事前配布の資料を読んで参考にしておいてください。 10　「新聞はオールドメディアで消えゆく運命か」については、教科書の「ネット時代に新聞の未来はあるか」の項を予習しておくこと。 11　「圧倒的影響力を誇るテレビメディの功罪」については、教科書の第 3 章、4 章を読んでおくこと。 12　「ジャーナリズムとポピュリズムの問題」については、教科書の第 5 章「ポピュリズムに翻弄されるメディア」を予習しておくこと。 13　「政治によるジャーナリズムへの圧力や密接な関係」については、教科書の第 6 章（129 ページ～153 ページ）をよく読んで理解しておいてください。 14　「コマーシャリズムによってジャーナリズムは衰退するのか」については、教科書の第 2 章 2 項、5 項、そして第 7 章をよく読んでおいてください。 15　「ジャーナリズムとアカデミズムの相克と協調」については、教科書の第 12 章「ジャーナリズムとアカデミズム」をよく予習しておいてください。		

受講者への要望
出来るだけ最新のニュースについて、学生とともに分析しながらリテラシー能力を高めたいと思っているが、大学院である限り、やはりジャーナリズムのアカデミックな原理（原論）を学ぶ必要があると思います。そのために、ジャーナリズムをより深く考察するために教科書利用は欠かせません。教科書必携です。
講義の順序とポイント
1　ジャーナリズム概説入門 2　日本の新聞、テレビ、インターネット概況 3　戦国時代を迎えた米国のメディア状況 4　世界に影響を与える巨大メディア複合企業の出現 5　新旧メディアの葛藤と協調を含めた現状と課題 6　マルチメディア時代にジャーナリズムは社会的使命を果たせるか 7　IT 革命と新情報時代の到来によって様変わりする「情報人」 8　新旧メディア企業による M&A（合併・吸収）戦争 9　各種メディアにおけるメディア産業論 10　新聞はオールドメディアで消えゆく運命か 11　圧倒的影響力を誇るテレビメディの功罪 12　ジャーナリズムとポピュリズムの問題 13　政治によるジャーナリズムへの圧力や密接な関係 14　コマーシャリズムによってジャーナリズムは衰退するのか 15　ジャーナリズムとアカデミズムの相克と協調

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75037A01
科目名	【院】マルチメディア特論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Multi-media Society A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	人間を拡張すると同時に人間を社会的に枠づける役割を果たす「メディア（media）」に関しての基礎的な文献購読を基に、メディアと社会の関係を歴史的に省察し、今日のメディアと社会の関係について考えていく。		
教材（テキスト）	授業内に相談の上、指示。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアと社会を自分の視点で考える。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。

講義の順序とポイント

基礎文献購読／個人発表。

01　オリエンテーション
02　文献講読 01
03　文献講読 02
04　文献講読 03
05　文献講読 04
06　文献講読 05
07　文献講読 06
08　文献講読 07
09　文献講読 08
10　文献講読 09
11　文献講読 10
12　文献講読 11
13　文献講読 12
14　個人発表 01
15　個人発表 02

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	☆	☆

年度	2016	授業コード	J75051A01
科目名	【院】広告広報特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Advertising and Publ ic Relations A		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や組織のマーケティング、広告活動、広告産業の実際などについての文献を講読し、またさまざまな広告キャンペーンやクリエイターの作品の分析などにもとづき、PR 活動や戦略的なコミュニケーション活動、そこでのクリエイティブ（広告表現）の展開について考察を行う。		
教材（テキスト）	受講生の関心などもふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）：授業での発表 試験：期末レポート（６０%）		
到達目標	組織のコミュニケーション活動、PR 活動、広告展開について、理論や実際をリアルに学習した上で、その必要性と問題性を認識し、送り手・受け手の双方の立場からの洞察を行えるようになること。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者）、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		
受講者への要望			
広告や広報は、どのような個人や組織も自らの活動への支持を形成し、その成就を果たすために不可欠な発想や行動である。どんな進路を考える者も幅広い視野でこのテーマをとらえ、参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
＜講義予定＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：テキスト講読・発表（1） 第 3 回：テキスト講読・発表（2） 第 4 回：テキスト講読・発表（3） 第 5 回：テキスト講読・発表（4） 第 6 回：テキスト講読・発表（5） 第 7 回：テキスト講読・発表（6） 第 8 回：テキスト講読・発表（7） 第 9 回：テキスト講読・発表（8） 第 10 回：テキスト講読・発表（9） 第 11 回：テキスト講読・発表（10） 第 12 回：テキスト講読・発表（11） 第 13 回：テキスト講読・発表（12） 第 14 回：テキスト講読・発表（13） 第 15 回：ふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J75059A01
科目名	【院】社会学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	【院】社会学研究演習 I
講義概要	「社会学研究演習」A・B・C・D を通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関係資料を配付する。		
評価方法	研究発表とレポート・論文に依る。		
到達目標	修士論文を執筆する。		
準備学習	授業終了時に次回の授業の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、授業の初めに、前回の授業内容に関する復習・確認をおこなうので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的に研究に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
1 -10, 文献研究 11-15, レポート・論文執筆			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J75059B01
科目名	【院】社会学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	【院】社会学研究演習Ⅱ
講義概要	「社会学研究演習」Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄを通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	研究発表とレポート・論文に依る。		
到達目標	修士論文を執筆する。		
準備学習	個人的にも社会学の文献の研究を進めておく。		
受講者への要望			
積極的に研究に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
1－10，文献研究 11-15，レポート・論文執筆			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J75068B01
科目名	【院】社会心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Social Psychology B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	【院】社会心理学特論Ⅰ
講義概要	Facebook や Twitter などのソーシャルネットワークは、今後の社会においてより重要な機能を果たすと考えられる。本講では、このソーシャルネットワークが社会及び対人関係におよぼす影響について検討する。関連する知識として、ネットワークの科学、ゲーミニフィケーション、集合知ついても触れる。受講生には実際にいくつかの SNS を使用していただいて、ディスカッションを深めたい。		
教材（テキスト）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）と、発表(30%)と最終レポート(30%)により評価する。		
到達目標	文献を読みこなして論考する力を養う。		
準備学習	これまでに培った英語力を持続させておくこと。		
受講者への要望			
授業を中断させてもかまいませんので、積極的に疑問点や思いついたことを述べてください。			
講義の順序とポイント			
1〜2. 集団極化現象 3〜4. 集団の情報処理システム 5〜6. 世論変動と普及過程 7〜8. 社会的アイデンティティ 9~10. リーダーシップと集団間コンフリクト 12~13. インターネットと集合知 14〜15. 討論と発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75071001
科目名	【院】障害児心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychology for Disab ility Children		
担当者名	清水　里美	旧科目名称	
講義概要	障害のある子ども、または障害の疑われる子どもの心理特性について、発達心理学および臨床心理学の立場から考察する。とりわけ、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害などいわゆる発達障害を中心に、さまざまな適応上の問題を抱える子どもの知的側面や情緒的側面に関する心理アセスメントおよび心理治療、発達支援について概説する。　また、保護者支援における留意点や保育・学校現場に対するコンサルテーションのあり方についても、具体的な事例をまじえながら解説する。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。各講義で印刷資料を配布する。		
教材（参考文献）	中瀬惇他編著『新版Ｋ式発達検査反応実例集』ナカニシヤ出版、生澤雅夫他編著『新版Ｋ式発達検査法』ナカニシヤ出版、ジェルソー他著、清水里美訳『カウンセリング心理学』ブレーン出版、佐藤泰正著『障害児の心理』学芸図書株式会社、柘植雅義・井上雅彦編著『発達障害の子を育てる家族への支援』金子書房、 その他授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（２0%）出席状況等による。授業中の課題（30%）　期末レポート（５0%）		
到達目標	発達心理学および臨床心理学の立場から障害のある子どもの心理特性や支援を考えるうえで必要とされる観点を理解し、実践の場で活用できる力を身につけることを目標とする。		
準備学習	障害児問題に関する世の中の動きを常に意識し、新聞などの記事およびテレビ番組などにも関心をもっておくこと。 各講義の中で、次の講義のための準備学習を適宜指示する。		

受講者への要望

障害児心理学について、広く関心をもって授業に臨んでほしい。
講義の中で、意見交換をしたり、体験したりする時間を設けるので、積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

1.子どもの発達過程：胎児期からの子どもの発達の様子を映像も用いながら解説する。
２．発達のアセスメント：乳幼児期から学童期にかけて発見される発達の問題とそのアセスメントの方法について解説する。
３．知的障害と肢体不自由：知的障害児と肢体不自由児の障害特性および心理アセスメントにおける留意点について概説する。
４．視覚・聴覚障害と言語障害：視覚・聴覚障害児と言語障害児の障害特性および心理アセスメントにおける留意点について概説する。
５．情緒障害と病弱・虚弱：情緒障害児と病弱・虚弱児の障害特性および心理アセスメントについて概説する。
６．発達障害その１：発達障害概念の変遷および最新の脳科学研究における知見について概説する。
７．発達障害その２：発達障害特性の最新のアセスメント方法と支援について概説する。
８．保護者への支援：障害のある子どもの保護者の心理と支援の実際について概説する。
９．障害児へのソーシャルサポートと特別支援教育：さまざまなソーシャルサポートや特別支援教育の現状について概説する。
１０．幼稚園保育園における支援：具体的な事例をもとに、幼稚園における支援の実際について概説する。
１１．小学校における支援：具体的な事例をもとに、小学校における支援の実際について概説する。
１２．中学校における支援：具体的な事例をもとに、中学校における支援の実際について概説する。
１３．高校・大学における支援：具体的な事例をもとに、高校・大学における支援の実際について概説する。
１４．就労支援：障害のある人への就労支援のあり方について概説する。
１５．まとめと今後の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J75078A01
科目名	【院】心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology A		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	本演習では，各自の興味や将来の進路に合わせて，人間の認知活動に関する内外の文献や資料を収集し，レジュメを作成して発表し，解明すべき問題などについて討論を行う。また，授業時間外に実験を実施し，得られたデータを分析して発表する。そのような文献研究および実験の実施によって修士論文を作成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）		
到達目標	人間の認知と情動を深く理解できる能力を身につけさせる。		
準備学習	レジュメの作成		

受講者への要望

いつでも研究発表できるよう準備しておくこと。

講義の順序とポイント

1－①研究テーマを設定する。
2－②研究テーマを設定する。
3－③研究テーマを設定する。
4－①修士論文作成計画を立てる。
5－②修士論文作成計画を立てる。
6－③修士論文作成計画を立てる。
7. ①修士論文作成計画に基づいて修士論文の指導計画を立てる。
8. ②修士論文作成計画に基づいて修士論文の指導計画を立てる。
9. ③修士論文作成計画に基づいて修士論文の指導計画を立てる。
10. ①研究テーマに関する内外の文献収集を行い発表する。
11. ②研究テーマに関する内外の文献収集を行い発表する。
12. ③研究テーマに関する内外の文献収集を行い発表する。
13. 解明すべき問題点を明らかにする。
14. 実験計画に沿って，予備調査あるいは予備実験を行う。
15. 調査データあるいは実験データを分析し，発表する。

－－－－－－－－－－－－－－－

●修士論文作成のための指導計画

1. 1回生の春学期に文献検索等をしながら修士論文のテーマを設定し，予備調査あるいは予備実験を行う。
2. 1回生の秋学期に修士論文のテーマに関する引用・参考文献一覧を作成しながら，本調査（実験）を行う。
3. さらに，本調査（実験）の結果と考察を作成し，第3調査あるいは第3実験を行う。
4. 2回生では，全調査（実験）の結果と考察を作成し，序論と方法を作成して，修士論文を完成させる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J75078A02
科目名	【院】心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology A		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学における発展的課題に各自で取り組む。将来のために、少しずつ英語の文献を輪読し、CMC を用いたサイト構築の実習を行う予定。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要な教材は適宜授業中に配布する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、Edomodo 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Edomodo にアップする。		
到達目標	実験計画的な思考と複雑系システムである人間社会を理解する視点を備えることが目的となる。		
準備学習	学部時代の研究結果および、指示された文献を発表の日までに読んでレジュメを作成しておくこと		
受講者への要望			
簡単なところからでよいので、英語と IT 関連技術にリテラシーを持っておいてください			
講義の順序とポイント			
1. 卒業論文報告 1 2. 卒業論文報告 2 3. 卒業論文報告 3 4. 研究テーマディスカッション 1 5. 研究テーマディスカッション 2 6. 研究テーマディスカッション 3 7. 文献探索 1 8. 文献探索 2 9. 文献探索 3 10. 文献報告 1 11. 文献報告 2 12. 文献報告 3 13. ディスカッション 1 14. ディスカッション 2 15. 夏休みの課題決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J75078B01
科目名	【院】心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology B		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	本演習では，各自の興味や将来の進路に合わせて，人間の認知活動に関する内外の文献や資料を収集し，レジュメを作成して発表し，解明すべき問題などについて討論を行う。また，授業時間外に実験を実施し，得られたデータを分析して発表する。そのような文献研究および実験の実施によって修士論文を作成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）		
到達目標	人間の認知と情動を深く理解できる能力を身につけさせる。		
準備学習	レジュメの作成		

受講者への要望

いつでも研究発表できるよう準備しておくこと。

講義の順序とポイント

1. 研究テーマを設定し，修士論文作成計画を提出させる。
2. 修士論文作成計画に基づいて修士論文の指導計画を立てる。
3. 設定されたテーマに関する内外の文献収集を行う。
4. 収集した文献のレジュメを作成して発表し，解明すべき問題点を明らかにする。
5. 研究テーマを再調整する。
6. 実験計画を立て，授業時間外に実験を実施する。
7. 実験データを分析し，発表する。
8. 研究レポートを作成する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J75078B02
科目名	【院】心理学研究演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学における発展的課題に各自で取り組む。将来のために、少しずつ英語の文献を輪読し、データ解析、アクセス解析の実習をおこなう予定。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要な教材は適宜授業中に配布する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、Edomodo 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Edomodo にアップする。		
到達目標	将来に向けて必要なスキルと思考力を備えること		
準備学習	実験に必要なスキルは、授業中にも指導しますが、できるだけ自己学習も継続させてください。		
受講者への要望			
簡単なところからでよいので、英語と IT 関連技術にリテラシーを持っておいてください			
講義の順序とポイント			
1. 研究報告 1　心理学専門演習 I・II でまとめたレポートの発表 2. 研究報告 2 3. 研究報告 3 4. 研究報告 4 5. 研究報告 5 6. 分析 1　データ分析指導 7. 分析 2 8. 分析 3 9. 分析 4 10. 分析 5 11.　研究結果ディスカッション　1 12.　研究結果ディスカッション　2 13.　研究結果ディスカッション　3 14.　研究結果ディスカッション　4 15.　春休みの課題決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J75086001
科目名	【院】心理学研究法特論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychology Research Method A		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理学研究のデザインについて，実験法や調査法等のデータ収集方法，独立変数と従属変数の設定，因果関係の検証可能性，などの視点から整理する。また，そうした研究を進めるために必要な，各種の統計手法を学習する。 受講者各自のこれまでに行ってきた研究や現在進めている研究（学部卒業研究や修士研究など），興味を持っている研究などを可能な限り具体例として取り上げながら，実際の研究場面でのデザイン設定のポイント，適切な統計分析手法の選択と，データ解析結果の解釈の仕方，などを検討する。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	題材とする心理学論文は受講者と相談の上で授業の中で指定する。		
評価方法	授業への出席および討論への参加状況等の平常点(50%)，および発表(50%)によって評価する。		
到達目標	心理学の研究計画を立てるために必要な基本事項を修得する。 量的研究を行うための，統計的方法の基礎を修得する。 どのような研究計画にどのような統計方法が適切なのかを判断できるようになる。		
準備学習	実際の研究論文を題材として授業を進めるので，各回の授業の材料となる論文に目を通してから授業に出席すること。さらに，発表担当の学生は十分な発表の準備をして授業に望むこと。		

受講者への要望

各自がこれまでに行った研究や現在興味をもっている先行研究などの具体例を積極的に提供し，主体的に学習を行うことを希望する。
統計学の初歩的な内容について理解していることを前提として授業を進める。学部段階で統計学の学習をしていない者は，この授業と平行して統計学の入門的な内容を自習をすること。

講義の順序とポイント

1. 心理学研究法にかかわる基本的事項の整理
2. 推測統計の原理と必要性(1)
3. 推測統計の原理と必要性(2)
4. 実験操作を用いた研究デザインとその分析方法(1)
5. 実験操作を用いた研究デザインとその分析方法(2)
6. 相関研究とその分析方法(1)
7. 相関研究とその分析方法(2)
8. カテゴリカルデータの分析方法(1)
9. カテゴリカルデータの分析方法(2)
10. 測定の信頼性と妥当性(1)
11. 測定の信頼性と妥当性(2)
12. 探索的因子分析と関連手法(1)
13. 探索的因子分析と関連手法(2)
14 .その他の多変量解析(1)
15. その他の多変量解析(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J75087A01
科目名	【院】心理療法特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	【院】心理療法特論Ⅰ
講義概要	システム論的家族療法に関して、まず担当者のスタンスや経験、家族療法の基礎的事項について紹介し、次には模擬面接場面のビデオ視聴や文献購読、面接実習等を行ないたい。実習は家族合同面接の実施、家族の特徴の見立て、自分の家族に関するもの等である。 家族療法は、とくに児童臨床の場合、子どもと子どもが育つ場の育成を考えるときに有用な視点であり方法である。またシステム論的家族療法の視点は、家族員間だけでなくセラピストとクライエントの関係等のシステムにも目を配らせてくれるので、他の療法を行なう場合にも役に立ち、さらに家族だけでなく、その上位システム（様々な社会的集団等）を扱う場合にも力を貸してくれるので、コミュニティ・アプローチの際にも有用である。		
教材（テキスト）	川畑　隆著「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」2009 明石書店…初回の授業で割引販売するので事前購入する必要はない。		
教材（参考文献）	川畑隆編著「子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ～よりよい臨床のための４つの視点、８つの流儀」2015 明石書店 宮井研治編著「子ども・家族支援に役立つ面接の技とコツ～＜仕掛ける・さぐる・引き出す・支える・紡ぐ＞児童福祉臨床」2012 明石書店 団士郎著「対人援助職のための家族理解入門～家族の構造理論を活かす」2013 中央法規出版 亀口憲治編著「心理療法プリマーズ 家族療法」2006 ミネルヴァ書房 中釜洋子著「家族のための心理援助」2008 金剛出版 その他については、授業で随時紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	家族とのジョイニング（親しくなるための働きかけ）や、一定の家族アセスメントを可能とする家族合同初回面接を初級レベルで行なえるようになること。		
準備学習	教科書や紹介する参考書を読み込む。		
受講者への要望			
実際の臨床場面に役立つ内容なので、より熱心に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１．　担当者と家族療法 ２．　家族療法の基礎 ３．　ビデオ視聴や文献講読① ４．　同　② ５．　同　③ ６．　同　④ ７．　同　⑤ ８．　同　⑥ ９．　同　⑦ １０．　同　⑧ １１．　面接実習　① １２．　同　② １３．　同　③ １４．　同　④ １５．　同　⑤ （上記の内容や順序については変更があり得る）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J75087B01
科目名	【院】心理療法特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy B		
担当者名	根本　眞弓	旧科目名称	
講義概要	心の悩みや精神病理を抱えたクライエントを対象に心理療法やプレイセラピーの臨床実践を行う際の基礎理論となるフロイトの精神分析理論や、パーソナリティ理解に役立つ早期乳幼児期の情緒発達理論（ウィニコット、マーラー、スターンなど）について学ぶ。さらに神経症や精神病などの精神病理を抱えた人への理解を深め、治療的アプローチに援用できる対象関係論理論（クライン、ビオンなど）について理解を深める。到達目標としては、事例を通して理論と臨床実践の融合を図り、実際の心理臨床活動に役立つ視点の獲得を目指す。		
教材（テキスト）	対象関係論を学ぶ　松木邦裕著　岩崎学術出版 保育に生かす心理臨床　馬場禮子・青木紀久代編　ミネルヴァ書房 私説対象関係論的心理療法入門　松木邦裕　金剛出版		
教材（参考文献）	図説　臨床精神分析学　前田重治　誠信書房 集中講義・精神分析（上・下）　藤山直樹　岩崎学術出版 精神分析的人格理論の基礎　馬場禮子　岩崎学術出版		
教材（その他）	乳幼児の心の発達に関するビデオ、パワーポイントを使用する。		
評価方法	出席状況及び受講態度・文献まとめ・発表・ディスカッションへの参加度　(70%) レポートの評価　(30%)		
到達目標	臨床実践を行う際の基礎となる精神分析理論（対象関係論)、パーソナリティ構造や精神病理への理解を深めるとともに、実践的臨床感覚を身につける。		
準備学習	課題①　「保育に生かす心理臨床」馬場禮子・青木紀久代編　ミネルヴァ書房ｐ１－５６を、分担してレジュメを 作成すること。各章Ａ４、１枚程度。(2)～(4)の授業で発表する。 課題②　「対象関係論を学ぶ」松木邦裕著　岩崎学術出版の、第Ｉ部、ｐ３～５４を分担してレジュメを作成する こと。各項A4、1枚程度。(8)（9）の授業で発表する。 課題③　「私説対象関係論的心理療法入門」松木邦裕　金剛出版　Ｐ９～１０６を分担してレジュメを作成するこ と。各章Ｂ４、１枚程度。(11)～(13)の授業で発表する。		

受講者への要望

主体的に学ぶ姿勢をもって出席し、自分の考えや感じたことをできるだけ言語化するようにしてください。

講義の順序とポイント

1，導入・精神分析とは
2，乳幼児のこころ（愛着の発達・関わりの発達）
3，乳幼児のこころ（身体と心の結びつき・分離－個体化の発達）
4，乳幼児のこころ（自我と自己の初期発達－ウィニコット・スターン）
5，まとめと振り返り

6，フロイトの精神分析理論（構造論・防衛機制）
7，フロイトの代表事例（アンナ・0、ハンス、ねずみ男、狼男、シュレーバー）
8，対象関係論（内的世界）
9，対象関係論（妄想分裂ポジション・抑うつポジション）
10，まとめと振り返り

11，対象関係論的心理療法の実際（分析空間の創り方・治療対象の「見立て」とその進め方）
12，対象関係論的心理療法の実際（治療契約と治療者の身の置き方・耳の傾け方）
13，対象関係論的心理療法の実際（口のはさみ方）
14，対象関係論的心理療法の実際（事例から学ぶ）
15，全体のまとめと振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J75087C01
科目名	【院】心理療法特論C	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy C		
担当者名	片山　知子	旧科目名称	
講義概要	心理療法特論 C では、遊戯療法についての講義と実習を行う。遊戯療法は、ノンバーバルコミュニケーションなどの心理療法全般に通じるエッセンスを含んでいる。そこで遊戯療法を中心とした講義を、①理論、②体験実習、③事例研究、④ディスカッションの側面から行う。まず実習で体験してから、理論や事例研究を理解できるように授業をすすめる。遊戯療法を知らない人には実習によって関係の中で何かをつくりだす体験を、経験者には自分や遊戯療法の理解を深めて欲しい。また、受講者それぞれの心理学に対する経験に差違があると思われるが、そこで共同作業を行う事も学んでもらえたら良いと思う。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示、紹介する。		
教材（その他）	スライドや写真など、教材は準備、指示します。		
評価方法	授業中の取り組みと積極的な発言（50%）。授業中に行う事例研への準備およびプレゼンテーション（20%）授業後のレポート（30%）。		
到達目標	遊戯療法の理論に加え、体験実習や事例検討のディスカッションによって、遊戯療法に必要な基礎知識を習得する。		
準備学習	自分で１つ遊戯療法の事例を選び、コピーし、最初の授業に必ず持参して下さい。持参した事例研究は、選択した理由や概要をプレゼンテーションしてもらいます。事前に自分の選択した研究を読んで既述に備えておいてください。		
受講者への要望			
ディスカッションや実習へ積極的に参加してください。また実習での体験を大切にし、それをもとに、事例研究の検討に望んで下さい。授業中は自分の意見や疑問を自由に発言する事が望ましいです。			
講義の順序とポイント			
1. 講義１　オリエンテーション・遊戯療法の基礎 2. 講義２　様々な子供たちとの遊戯療法（情緒障害・発達障害・被虐待児童など） 3. 講義３　大人のイメージ療法 4. 実習１　箱庭療法の実習と理論１ 5. 実習２　箱庭療法の実習と理論２ 6. 実習３　コラージュの実習と理論 7. 実習４　スクイグルの実習と理論 8. 実習５　グループ体験 9. 実習６　実習のまとめ 10. 事例検討１　事例研究におけるグループディスカッション１ 11. 事例検討２　事例研究におけるグループディスカッション２ 12. 事例検討３　事例研究におけるグループディスカッション３ 13. 事例検討４　事例研究におけるグループディスカッション４ 14. 事例検討５　事例研究におけるグループディスカッション５ 15. 講義４　総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	ー	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J75094001
科目名	【院】人間文化基礎特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Introduction to Humanities and Social Sciences		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	人文学と社会科学を交差させることによって、歴史、文化、社会システム、心の相互関連を理解し、受講生各自の研究テーマをその中に位置づける複眼的視野の形成を狙う。心理・社会情報・歴史文化を専門とする教員より各分野の基礎概念と方法論を学びながら、各自の研究テーマを深化させる。各担当教員よりそれぞれのレポート課題を課す予定。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	教材は授業時間中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業での課題・発表：50%）、レポート（50%） なお、レポートは３分野それぞれについて提出。		
到達目標	１．受講生の研究テーマ・問題関心を、幅広い視野から位置づけなおす。 ２．修士論文執筆に必要な方法的基礎を知る。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

出席重視のため、遅刻、欠席のないように。
やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。

講義の順序とポイント

第１回　コミュニケーションとは何か？（君塚）
第２回　コミュニケーションとメディア（君塚）
第３回　コミュニケーションと社会――社会が「現実」をつくる（君塚）
第４回　社会と研究――研究者の立ち位置（君塚）
第５回　コミュニケーションと調査・研究――まとめ・ふりかえり（君塚）

第６回　心理療法における研究法（橋本）
第７回　現代の意識と心理療法（橋本）
第８回　現代の意識の特徴、従来とどう異なるのか（橋本）
第９回　心理療法における２の世界と非２の世界①（橋本）
第 10 回　心理療法における２の世界と非２の世界②（橋本）

第 11 回　なぜ歴史を学ぶのか（平）
第 12 回　歴史学におけるパラダイムの転換（１）（平）
第 13 回　歴史学におけるパラダイムの転換（２）（平）
第 14 回　日本仏教とジェンダー（平）
第 15 回　仏教とナショナリズム（平）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J75097A01
科目名	【院】政治社会学特論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Political Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	2015 年には『昭和天皇実録』が公刊され、今まで知られていなかった事実が明らかになったこともあって、昭和天皇への関心があらためて高まった。この特論では、昭和天皇が第二次大戦後の日本の政治構造の形成にどのような役割を果たしたのかについて、あらためて考える。 2015 年は第二次大戦終戦から 70 年目の年であり、例年に増して戦後の日本の社会と政治に関する議論が行われていた。70 年の間に日本の社会も政治も大きく変わったが、変わっていない点も少なくない。この特論では特に、変わっていない点について考える。		
教材（テキスト）	豊下楢彦、『昭和天皇の戦後日本』（2015 年、岩波書店）		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	発表と期末レポートによって評価する。		
到達目標	第二次大戦後の日本の政治体制の成立と、その際に昭和天皇が果たした役割を理解する。		
準備学習	現代の政治や社会を第二次大戦直後の政治や社会と比較するため、日頃、新聞などにも関心を持つようにする。		

受講者への要望

積極的に参加してほしい。
自分自身の本来の研究分野に対して、別の学問分野がどのような関係をもちうるかについて考えてほしい。

講義の順序とポイント

1，天皇制廃止論
2，戦犯訴追
3，憲法改正
4，東京裁判
5，天皇独白録
6，転換点としての 1947 年
7，昭和天皇の二つのメッセージ
8，安保国体の成立
9，立憲主義と昭和天皇
10，戦後日本の岐路
11，憲法・安保体制
12，「戦後レジームからの脱却」
13，明仁天皇
14，現代と天皇制
15，将来と天皇制

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J75102001
科目名	【院】精神医学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychiatric Medicine		
担当者名	佐々木　徹	旧科目名称	
講義概要	今日、クリニックを訪れるクライアントの病態は多彩であり、彼らの訴えや問題もまた多岐にわたる。その中で個々の訴えや症状に目を奪われることなく彼らの状態像を正しく見極め、適切に評価してゆくことが心理臨床にも期待されるだろう。そしてさらに、医学的検査・治療が必要となる状況や可能性に対しても、常に目が開かれていなければならない。そのためには、個々のケースに際し、評価や判断の前提となる医学的知見もまた必要とされるであろう。 本講義はクリニックにおける心理臨床を円滑に行ってゆくためにも、精神医学の基本的な理解に基づいて個々のケースが一層多面的に捉えられるよう進められる。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリント等を配布する。		
評価方法	ディスカッションならびにプレゼンテーション（60%）。　レポート（40%）。		
到達目標	疾病や障害についての理解を深め、そこにおいて得られた知見を心理臨床の現場へとつなげる。 また、適宜実習やボディワークを行い、より実践的なスキルを身につける。		
準備学習	前回の講義を振り返り、まとめて把握しておくこと。		
受講者への要望			
心理臨床の個々のケースを念頭において、講義がより実践的に活用されるよう期待する。			
講義の順序とポイント			
01.　こころとはなにか 02.　日常生活の中に見出されるこころとからだ 03.　こころとからだの関係 04.　こころとからだの失調状態としての疾病 05.　「全体」と「部分」という視点 06.　いのちの諸相Ⅰ（動物的ということ） 07.　いのちの諸相Ⅱ（植物的ということ） 08.　精神 mind と心情 soul 09.　からだについてⅠ（病理的次元） 10.　からだについてⅡ（文化社会的表現） 11.　からだについてⅢ（間身体的あり方） 12.　行為と環境 13.　生態学的観点 14.　からだへのアプローチの方法についてⅠ 15.　からだへのアプローチの方法についてⅡ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2016	授業コード	J75115B01
科目名	【院】都市文化史特論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in History of Urban Cul ture B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	都市そのものが既知のものであるとは見なさない。例えば都市伝説というようなコトバに使われている「都市」は、これまでの都市論の範疇からは大きく外れている。1988 年に敢えて世間話という学術用語を捨てて都市伝説という用語を世に問うた民俗学者大月隆寛はこう述べている。 「フォークロアを見つめる眼にとって最も近い距離で問題になってくるのは、限られた地理的空間としての都市でもなく、具体的な人間関係の複合体としての都市でもなく、まして記号の集積としての都市でもない。都市として設定される大きさそのものを何らかのことばによって(中略)操作可能なものとしてあらかじめ囲い込もうとするところから始めるのではなく、そのような『とほうもないもの』がそれぞれの生きている場にとってどのような効果を与えるものかについて考えるための補助線として、僕たちの民俗学は初めて『都市』を設定し得るはずだ。」(『消えるヒッチハイカー』解説) 必要に応じて民俗学、文化人類学などの成果も活用しながら文化史の立場から都市を見渡していく。		
教材（テキスト）	Ikumi Kaminishi "Explaining Pictures ; Buddhist Propaganda and Etoki Storytelling in Japan" University of Hawai'i Press, ISBN 978-0-8248-2697-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）出席状況等による。レポート（50%）		
到達目標	自立的な研究活動を行うための方法を学んでいく。		
準備学習	時には英語文献などの読解も行うので、あらかじめ訳しておくこと。		
受講者への要望			
方法を理解し、自らの課題解決に応用できるようにしてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
(1)イントロダクション (2)英文による文献読解～（8) (9)文化的背景を学ぶ～(15)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J75124A01
科目名	【院】日本言語文化研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Language A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	【院】日本言語文化研究演習Ⅰ
講義概要	研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいのか」「何をどのように調べればよいのか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。		
教材（テキスト）	授業中に指示する。		
教材（参考文献）	個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。		
教材（その他）	国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。		
評価方法	授業中の発表（５０点）と期末レポート（５０点）とで総合的に評価する。		
到達目標	個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。		
準備学習	卒業論文の推敲。		

受講者への要望

院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。

講義の順序とポイント

1　半年間の授業の概要説明
2　卒業論文の要約発表
3　卒業論文の要約発表
4　卒業論文の要約発表
5　各自の研究項目に関する発表
6　発表
7　発表
8　発表
9　合評会
10　発表
11　発表
12　発表
13　発表
14　発表
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J75124B01
科目名	【院】日本言語文化研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Language B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	【院】日本言語文化研究演習Ｉ
講義概要	研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいのか」「何をどのように調べればよいのか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。		
教材（テキスト）	授業中に指示する。		
教材（参考文献）	個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。		
教材（その他）	国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。		
評価方法	授業中の発表（５０点）と期末レポート（５０点）とで総合的に評価する。		
到達目標	個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。		
準備学習	卒業論文の推敲。		

受講者への要望

院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。

講義の順序とポイント

1　半年間の授業の概要説明
2　卒業論文の要約発表
3　卒業論文の要約発表
4　卒業論文の要約発表
5　各自の研究項目に関する発表
6　発表
7　発表
8　発表
9　合評会
10　発表
11　発表
12　発表
13　発表
14　発表
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J75124D01
科目名	【院】日本言語文化研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Language D		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	【院】日本言語文化研究演習Ｉ
講義概要	研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいのか」「何をどのように調べればよいのか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。		
教材（テキスト）	授業中に指示する。		
教材（参考文献）	個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。		
教材（その他）	国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。		
評価方法	授業中の発表（５０点）と期末レポート（５０点）とで総合的に評価する。		
到達目標	個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。		
準備学習	卒業論文の推敲。		

受講者への要望

院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。

講義の順序とポイント

1　半年間の授業の概要説明
2　卒業論文の要約発表
3　卒業論文の要約発表
4　卒業論文の要約発表
5　各自の研究項目に関する発表
6　発表
7　発表
8　発表
9　合評会
10　発表
11　発表
12　発表
13　発表
14　発表
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J75131A01
科目名	【院】日本言語文化特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese Language A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	中世の日本語資料を読む。 大学院の場合、各院生ごとに研究テーマは決まっているが、求められる研究姿勢は同じである。中世の日本語資料をたたき台にして、研究に必要な能力を養っていく。取り扱う時代が中世であっても、その前後の時代、また現代の事象も常々念頭に置いておかねばならない。該博な知識が得られるような授業にしたいと思っている。		
教材（テキスト）	『土佐日記』　変体仮名を読む。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点のみ。		
到達目標	原書に親しむ習慣をつける。		
準備学習	変体仮名の読み方を練習すること。		
受講者への要望			
しっかりと予習をしてほしい。			
講義の順序とポイント			
１　中世資料の概要 ２　中世資料の購読 ３　同上 ４　同上 ５　同上 ６　同上 ７　同上 ８　同上 ９　同上 １０　同上 １１　同上 １２　同上 １３　同上 １４　同上 １５　同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J75134A01
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature A		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	江戸後期の上田秋成の読本『春雨物語』を題材とする。 雨月物語の姉妹編であるが、江戸時代に刊行されることはなかった。 怪奇小説として高い評価を得ている。 各自のテーマにそって問題点を採り上げ、自分で調べてきて、時間中に報告してもらう。		
教材（テキスト）	春雨物語・書初機嫌海（新潮社）		
教材（参考文献）	その都度適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点１０％　レポート９０％		
到達目標	江戸時代の様々の風俗、歴史や先行文学作品の影響 など、調べる方法を身に付けること		
準備学習	春雨物語の現代語訳を読んでおくと良い		
受講者への要望			
授業中、積極的に発言すること 受講生の要望やレベルに沿った内容にしたいと考えている。			
講義の順序とポイント			
１　春雨物語の概説 ２　発表　血かたびら（取り上げる話は授業中に相談） ３　同じ ４　同じ ５　発表　　一つ目の神 ６　同じ ７　同じ ８　発表　宮木が塚 ９　同じ １０　同じ １１　先行作品との比較 １２　関係論文 １３　諸本の話 １４　雨月物語との比較 １５　現在の研究の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★	★

年度	2016	授業コード	J75134A02
科目名	【院】日本古典文学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	紫式部と源氏物語		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の発表内容で評価する。		
到達目標	紫式部の人生と源氏物語の関係について深く考察し、独自の考え方で文章にまとめる。		
準備学習	紫式部の人生について概観しておくこと。 また、源氏物語の内容について概観しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
講義の順序とポイント			
第一回　講義の進め方 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75134C02
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	紫式部と源氏物語		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の発表内容で評価する。		
到達目標	紫式部の人生と源氏物語の関係について深く考察し、独自の考え方で文章にまとめる。		
準備学習	紫式部の人生について概観しておくこと。 源氏物語の内容について概観しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには、受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
講義の順序とポイント			
第一回　今期の授業の進め方と目標設定 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75139B01
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｂ【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	受講生各自のテーマに沿った内容を取りあげることとする		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	その都度必要に応じて紹介する		
教材（その他）			
評価方法	授業中の発表とレポート		
到達目標	修士論文を執筆する科学的態度、 資料の正しい読解と客観的処理 などが身に付くこと		
準備学習	各自のテーマに即した先行研究に目を通しておくこと		
受講者への要望			
自分で自分のテーマに沿って研究を進めつつ、 教員や院生同士を相手に、発表してみて まわりの意見を採り入れること			
講義の順序とポイント			
１～５　各自の先行研究を自分でどういう意味があると考えているか紹介する ６～８　各自の研究の小さい部分を発表する ９，１０　教員のアドバイスを受けつつ各自で章立てを考える １１～１５　執筆した部分を発表し討論しつつ、論文を修正していく			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★	★

年度	2016	授業コード	J75139B02
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｂ【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	紫式部と源氏物語		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の発表内容によって評価する。		
到達目標	紫式部の人生と源氏物語の関係について深く考察し、独自の考え方で文章にまとめる。		
準備学習	紫式部の人生について概観しておくこと。 源氏物語の内容について概観しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
講義の順序とポイント			
第一回　講義の進め方 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75139D02
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｄ【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	紫式部と源氏物語		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の発表により評価する。		
到達目標	紫式部の人生と源氏物語の関係について深く考察し、独自の考え方で文章にまとめる。		
準備学習	紫式部の人生について概観しておくこと。 また、源氏物語の内容について概観しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
講義の順序とポイント			
第一回　講義の進め方 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75143C01
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature C		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	紫式部と源氏物語		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の発表内容で評価する。		
到達目標	紫式部の人生と源氏物語の関係について深く考察し、独自の考え方で文章にまとめる。		
準備学習	紫式部の人生について概観しておくこと。 源氏物語の内容について概観しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには、受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
講義の順序とポイント			
第一回　今期の授業の進め方と目標設定 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75144D01
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｄ【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature D		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	紫式部と源氏物語		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の発表により評価する。		
到達目標	紫式部の人生と源氏物語の関係について深く考察し、独自の考え方で文章にまとめる。		
準備学習	紫式部の人生について概観しておくこと。 また、源氏物語の内容について概観しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
講義の順序とポイント			
第一回　講義の進め方 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75151A01
科目名	【院】日本古典文学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese classic lit erature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	源氏物語の文化と思想		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）	授業時に提示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末レポートで評価する。		
到達目標	『源氏物語』の内容を知り、そこに見える平安文化および思想について考える。		
準備学習	『源氏物語』のあらすじを学習しておくこと。		

受講者への要望

しばしば質問するので、積極的に発言してほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
2　桐壷１
3　桐壷２
4　帚木１
5　帚木２
6　空蝉１
7　空蝉２
8　夕顔１
9　夕顔２
10　若紫１
11　若紫２
12　若紫３
13　末摘花
14　紅葉賀
15　花宴

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75157D01
科目名	【院】日本古典文学特論Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese classic lit erature D		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	江戸時代の前期には、庶民の間で謡と俳諧がおおいに流行しました。 謡と茶道、俳諧は近世の町人の文化に欠かせないもので お互い深く関わり合っています。 俳諧の中でも談林俳諧はわかりやすい内容で、謡曲との関連性が知られています。 また、俳諧の手引き書でもある 『俳諧類船集』は連想語の宝庫ですが、それを片手に、 西鶴の俳諧作品『西鶴大矢数』を読み解いてみます。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	前田金五郎著『西鶴大矢数注釈』第一巻～第五巻および　索引篇		
教材（その他）			
評価方法	授業内の担当部分の発表。		
到達目標	江戸時代の文化の諸相を知る。俳諧の面白さを理解する。		
準備学習	基礎的な知識を復讐しておくこと。		

受講者への要望

留学生は活字で、日本人学生はくずし字で『俳諧類船集』を読んで予習すること。
発表を担当すること。

講義の順序とポイント

1　俳諧
2　謡曲
3　俳諧と謡曲
4　『西鶴大矢数』
5　語彙１
6　語彙２
7　語彙３
8　発表１
9　発表２
10　発表３
11　語彙と作品
12　付け合
13　付け合
14　付け合
15　俳諧と能の社会的影響力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	★	ー	★	★

年度	2016	授業コード	J75166A01
科目名	【院】日本歴史文化特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese Culture His tory A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	本講義では、受講者の発表により、最先端の歴史学の論文を読み解いていきます。論文を批判的に読み解きながら、最先端の学問成果を学び、自らの修士論文作成の刺激としてください。		
教材（テキスト）	論文のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点　　50%　授業への取り組み方 レポート　50%　レポート内容については、講義内で指示します。		
到達目標	・論文を批判的に読み解けるようになること ・最新の歴史学の動向を押さえること		
準備学習	毎回一本の論文を読んでいきます。担当となった受講者は、論文の要約を行った上で、論文に対する疑問点や、史学史上の位置付けなどを発表してもらいます。		
受講者への要望			
一本の論文の背後には、連々とした研究史の流れがあり、膨大な史料の正確な読解の蓄積が存在しています。つまり一本の論文を正確に読み取るには、何十本もの文献を読み解き、史料を正確に読み解く力が必要になります。担当者は論文の注にあがっている文献は全て読むくらいの熱意で発表に取り組んでみて下さい。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンス 2～15　担当論文の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J75174A01
科目名	【院】認知心理学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Congnitive Psycholog y A		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	人間の脳は外界をどのように認知し，心は外界の情報をどのように処理するのかに関して，ある程度深く論述する。そして、一般的に言われている脳と心を活性化させる様々な方法の有効性を検討する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%）は出席状況等による。発表 50%。		
到達目標	人間の認知機能と心の働きを深く理解できるようになる。		
準備学習	授業のテキスト（レジュメ）を京学なびの「授業資料」に，授業の１週間前までにアップロードするので，プリントアウトして，必ず事前に読んで理解しておくこと。 復習の課題は，京学なびの「課題提出」に提示するので，指定期日までに京学なびの「課題提出」に提出すること。		

受講者への要望

脳と心の働きについて実践的に学びたい大学院生の受講を望みます。

講義の順序とポイント

1.人間は外界をどのように認知するか
①視覚認知
②聴覚認知
③その他の認知機能
2.脳の構造と機能
④脳の構造
⑤大脳半球機能差
⑥脳機能を高める運動
⑦脳機能を高める食生活
⑧短期記憶と長期記憶の増進法
⑨脳の性差
3.心とは何か
⑩どのようにして心が生み出されるか
⑪脳の神経伝達物質
⑫脳からストレスを撃退する方法
⑬脳の働きを高める，感じる脳の鍛え方
⑭脳に悪い習慣
⑮人間として如何に生きるか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J75184B01
科目名	【院】発達心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Developmental Psycho logy B		
担当者名	柴田　長生	旧科目名称	
講義概要	「人における発達」という現象に即して展開していかなければ、切り拓いていけない臨床実践の領域が存在する。また、臨床実践を展開する際に、人を「発達する存在」として捉え、発達心理学の知見から臨床実践の俯瞰と展開をめざす方法がある。本講では、子どもの症例検討を通して、上に述べた２つの事柄への発達心理学的接近を試みる。本講では、発達を系統的に述べることはせず、児童臨床の中で扱われる「発達的視点」の多様性と重要性を、臨床事例にあわせて徹底的に講義し、心理臨床における発達的な視点の涵養をめざす。		
教材（テキスト）	特に使用しない。資料をその都度配布する。		
教材（参考文献）	麻生武・浜田寿美男編「よくわかる臨床発達心理学（第４版）」（ミネルヴァ書房）、浜田寿美男・山口俊郎著「子どもの生活世界のはじまり」（ミネルヴァ書房）、H.ワロン著・浜田寿美男訳「身体・自我・社会」（ミネルヴァ書房）、浜田寿美男編著「「私」というもののなりたち」（ミネルヴァ書房）、浜田寿美男著「ピアジェとワロン：個的発想と類的発想」（ミネルヴァ書房）		
教材（その他）			
評価方法	出席率および受講への積極性（50%）、終了時のレポート（50%）		
到達目標	1　児童臨床における、「発達的観点」の重要性を学ぶ 2　発達を「からだ」「こころ」「社会」の３つの観点から捉えることを学ぶ 3　臨床において、発達的観点をどのように織り込むのかについて、事例から学ぶ 4　発達理論と、日々の臨床との接点について考える		
準備学習	何らかの発達理論に関心を持ち、体系的に事前学習しておくことが望ましい。また、発達をアセスメントするということの具体的理解として、「新版Ｋ式発達検査」に関する何らかの学習や実習を行っていることが望ましい。更に、障害児に関する基礎知識を学んでいることが望ましい。		

受講者への要望

講師がこれまでの児童臨床で扱った事例紹介が中心です。長年考え続けてきた「発達と臨床」に関するエポックを出来るだけリアルに伝えるつもりです。資料はすでに発表した印刷物なのですが、ベースは実例ですから、そこから真摯に学び、事例の取り扱いには十分留意してください（守秘義務を課します）。授業では、各事例に関する問いかけを多く行いますので、積極的に考え，積極的に発言することを求めます。

講義の順序とポイント

1 序論　発達臨床とはなにか　「事象を発達的に捉える」ということ
2 発達を「みる」　（生後１年間の乳児ＶＴＲ観察から）
3 事例検討１　「からだ」ということと発達　（発達における「非同期」の問題）
4 事例検討２　睡眠リズムと成熟　（サーカディアンリズムの成立要件）
5 事例検討３　ベーシックに個体を支える身体要件である「体温」
6 事例検討４　重度自閉症児の「言葉？」の獲得例　（自閉症の発達的検討）
7 事例検討５　高機能自閉症と思われる子どもの特異発達１　（治療教育再考１）
8 事例検討６　高機能自閉症と思われる子どもの特異発達２　（治療教育再考２）
9 事例検討７　自分の障害に気づき始めた子ども　（障害を引き受けるということ）
10 事例検討８　障害受容と自我形成　（思春期の障害児の事例から）
11 事例検討９　障害受容と家族システム１　（システム論の立場から１）
12 事例検討１０　障害受容と家族システム２　（システム論の立場から２）
13 事例検討１１　からだ・こころ・社会１　（事例検討のためのワロン心理学概説）
14 事例検討１１　からだ・こころ・社会２　（特異な身体・情動基板を有する最重度障害児の事例を、ワロン理論から考える）
15 まとめ　臨床を発達的に取り扱うことの意義と意味

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J75196B01
科目名	【院】文化人類学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Cultural Geography B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	人類学的なセンスを持つために、あるいは修士論文を作成するために、必要な文献をよむ。論文は、日本語のものの他、英語、中国語のものも取り上げる予定。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点		
到達目標	必要な論文を探しだし、読解する能力を身につける。		
準備学習	必ず予習すること。		
受講者への要望			
予習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 取り上げる論文を選択する。 2～15　論文を輪読する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★

年度	2016	授業コード	J75199A01
科目名	【院】文化地理研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	文化地理学では、あるゆる文化は、土地に根ざしていると考えている。しがたって、文化地理学の研究テーマは、簡単にいえば、人と土地そして文化との相互関係を探ることだと考えてよい。文化地理学には、そのような関係を分析する、様々な方法論や考え方がある。まずはそういった点を基本的な文献を解読することで学ぶ。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメ		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の基礎的文献を理解することを目標とする。		
準備学習	出来るだけ多くの学術論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
自身のテーマと文化地理学の関係を念頭に置くこと。			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント １　演習生のテーマ設定と基本文献の選定 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J75199B01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	文化地理学では、あるゆる文化は、土地に根ざしていると考えている。しがたって、文化地理学の研究テーマは、簡単にいえば、人と土地そして文化との相互関係を探ることだと考えてよい。文化地理学には、そのような関係を分析する、様々な方法論や考え方がある。演習ＢではＡで発表した内容と自身のフィールドワークの成果との関係を発表。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上、決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の理論・方法論と自身のテーマの合致点を探り理解すること。		
準備学習	フィールドワークをしておくこと。		
受講者への要望			
自身のテーマと文化地理学の関係を説明出来るようにしておくこと。			
講義の順序とポイント			
１　演習生のテーマ設定とフィールドの報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J75199C01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography C		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	文化地理学は様々な人文・社会科学系の理論や方法論の成果と共に発展してきた。したがって広く人文・社会科学系にも目を配っておく必要がある。そのためには欧米で発表されている最新の成果に注目しなければならない。その上で演習生のフィールドの成果にどのように最新の成果が応用できるかを考えていく。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の理論・方法論を自身のテーマに応用して修士論文の基礎を構築。		
準備学習	修士論文の研究計画書と構成を作成しておくこと。		
受講者への要望			
広く人文・社会科学系の理論・方法論も視野に入れること。			
講義の順序とポイント			
１　演習生のフィールドと採用する理論・方法論の報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J75199D01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography D		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	ここまで行ってきた研究成果のまとめに入る。演習生はそれぞれの修士論文の途中経過を発表する。１１月に開催される歴史民俗学専攻の卒業論文・修士論文の中間発表では、最終的な成果を発表してもらう。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	発表（５０％）論文の提出（５０％）		
到達目標	修士論文の作成。		
準備学習	修士論文の下書きを作成しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の進展状況の報告を常に求める。			
講義の順序とポイント			
１　演習生の修士論文の進捗状況の報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J75206A01
科目名	【院】文化地理特論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Cultural Geography A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	まず、近年の文化地理学の動向を見る。その上で、私たちの心と景観の交流のあり方を探る。文化地理学には数多くの研究テーマと方法がある。その中でも、「心のなかの景観」は視覚以外の感覚での環境知覚に注目している。私たちは、景観は目で見るものと考えがちであるが、そうではない。人間は、聴覚・嗅覚・味覚・触覚をも使って、環境からの情報を知覚しているのである。そのような景観を「見えない景観」と呼ぶこともできるだろう。またそのような景観は、私たちの心と深く関わっているとも言える。本講義では、このような「心のなかの景観」研究の視点から、私たち人間の環境知覚を探っていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2003 年。		
教材（その他）	適宜配布		
評価方法	講義内での発言 40%、学期末レポート 60%		
到達目標	民話を通じて地理学と心理学の接点を見いだし、具体的事例に則して理解してもらうことを到達目標とする。		
準備学習	参考文献を事前に読み、講義中の議論に参加できる準備をしておくこと。		
受講者への要望			
教科書、参考書、配付資料を熟読してレジュメを作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　心と景観の交流 2　文化地理学のテーマと研究方法 3　近年の動向 4　環境知覚研究の意義 5　人文主義地理学とは 6　心のなかの景観研究 7　昔話の象徴性 8　ユング派の昔話研究 9　民俗学の昔話研究 １０　文化人類学の昔話研究 １１　昔話と心のなかの景観：事例１ １２　事例２ １３　事例３ 14　事例４ 15　まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J75212B01
科目名	【院】理論社会学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Theoretical Sociolog y B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	なぜ理論社会学を学ぶべきなのか。 人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団=社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。19 世紀の終りごろから発展しはじめた社会学はそうした「社会」（とくに近代的な社会）というものの力の大きさを発見していった。そして、社会のなかで生起する様々な現象のなかに法則や傾向を見出しながら、隣接領域の成果も取り込んで、理論として発展してきた。 この授業では、こうして発展してきた理論社会学を学んでいく。具体的に学ぶ内容と方法は、履修者の知識水準と修学の方針をふまえて話合いのうえで決めるが、履修者が確定していない現段階ではつぎのような内容を想定している。様々な社会にかかわる諸理論のなかでもとくに、社会のなかで人々の価値観や欲望や希望のありようが形成され変化していく社会的・心理的なダイナミクスについての諸理論に焦点をあてて学びながら、身近な社会的・人間的現象（とくに映画や漫画などのポピュラーな物語）をとりあげて、その学説・理論を応用して分析をしてみる。そのような学習と分析の作業を繰り返していくことで、諸理論と諸現象についての洞察と理解を深める。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介していく。		
教材（その他）	適宜プリントを配る。		
評価方法	授業での発表をはじめとする授業での取り組みを総合的に評価（100%）		
到達目標	社会学の諸理論を理解し分析に適切に使えるようになること。		
準備学習	授業での発表をはじめとして授業内での取り組みができるように準備する。		
受講者への要望			
受講者の学習状況や取り組んでいる課題に応じて授業の内容と方法を修正します。社会学の理論だけではなく、必要に応じて、心理学的な研究をはじめ人文系の学問の様々な理論も紹介します。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　はじめに（学習方針の決定） 第 2 、 3 回　社会学的な理論の学習、その 1 第 4 、 5 回　社会的現象の分析、その 1 第 6 、 7 回　社会学的な理論の学習、その 2 第 8 、 9 回　社会的現象の分析、その 2 第 10、11 回　社会学的な理論の学習、その 3 第 12、13、14 回　社会的現象の分析、その 3 第 15 回　全体のふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待					＊＊	＊

年度	2016	授業コード	J75218A01
科目名	【院】臨床心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	文献の購読、発表を通して研究テーマを縛り込み修士論文作成の準備を行う。各自の研究内容に即して、研究の目的、その研究領域における位置づけ、意義を明らかにし研究内容の幅が拡げられるように指導をする。また研究指導とともに心理臨床の実践的指導も行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	評価方法 発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	心理臨床の基礎的な理解。修士研究の方向性を見極める。		
準備学習	次回発表の内容と関わる文献を読んで授業に望むこと。		

受講者への要望

研究に対して積極的・能動的に取り組むこと。心理臨床に携わることに関しての自覚を持つこと。

講義の順序とポイント

1　文献講読・発表・討論
2　文献購読・発表・討論
3　文献講読・発表・討論
4　文献講読・発表・討論
5　文献講読・発表・討論
6　文献講読・発表・討論
7　研究発表・討論
8　研究発表・討論
9　研究発表・討論
10 研究発表・討論
11 研究発表・討論
12 研究発表・討論
13 研究発表・討論
14 研究発表・討論
１５　研究発表・討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75218A02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ａ・Ｂでは、修士論文の作成に向けて、各自が研究テーマを絞り込み、そのテーマに即して先行研究を展望し、発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　学部卒業研究の振り返り ３　学部卒業研究の振り返り ４　学部卒業研究の振り返り ５　学部卒業研究の振り返り ６　合同演習 ７　自由研究発表 ８　自由研究発表 ９　合同演習 １０　自由研究発表 １１　合同演習 １２　先行研究の総括の発表 １３　先行研究の総括の発表 １４　先行研究の総括の発表 １５　先行研究の総括の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J75218A03
科目名	【院】臨床心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマが十分に検討され、絞られる。		
準備学習	自らの研究テーマに関する学習を地道に行なうこと。		

受講者への要望

最初の授業で企画された内容にしたがって、各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。

講義の順序とポイント

1.研究演習の企画及び諸研究論文の検討について
2.諸研究論文の検討（1）
3.　〃　（2）
4.　〃　（3）
5.　〃　（4）
6.　〃　（5）
7.研究演習（1）
8.　〃　（2）
9.　〃　（3）
10.　〃　（4）
11.　〃　（5）
12.　〃　（6）
13.　〃　（7）
14.　〃　（8）
15.　〃　（9）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75218B01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	文献の購読、発表を通して研究テーマを縛り込み修士論文作成の準備を行う。各自の研究内容に即して、研究の目的、その研究領域における位置づけ、意義を明らかにし研究内容の幅が拡げられるように指導をする。また研究指導とともに心理臨床の実践的指導も行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	修士研究の方向性を定める。 心理臨床の実践の理解を深める。		
準備学習	次回の発表に関する文献を積極的に読んでおくこと。		

受講者への要望

主体的・積極的に研究を広め、深めること。

講義の順序とポイント

1　研究発表・討論／文献紹介
2　研究発表・討論／文献紹介
3　研究発表・討論／文献紹介
4　研究発表・討論／文献紹介
5　研究発表・討論／文献紹介
6　研究発表・討論／文献紹介
7　研究発表・討論／文献紹介
8　研究発表・討論／文献紹介
9　研究発表・討論／文献紹介
10 研究発表・討論／文献紹介
11　研究発表・討論／文献紹介
12　研究発表・討論／文献紹介
13　研究発表・討論／文献紹介
14　研究発表・討論／文献紹介
15 研究発表・討論／文献紹介

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75218B02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ａ・Ｂでは、修士論文の作成に向けて、各自が研究テーマを絞り込み、そのテーマに即して先行研究を展望し、発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　学部卒業研究の振り返り ３　学部卒業研究の振り返り ４　学部卒業研究の振り返り ５　学部卒業研究の振り返り ６　合同演習 ７　自由研究発表 ８　自由研究発表 ９　合同演習 １０　自由研究発表 １１　合同演習 １２　先行研究の総括の発表 １３　先行研究の総括の発表 １４　先行研究の総括の発表 １５　先行研究の総括の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J75218B03
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマが十分に検討され、絞られる。		
準備学習	自らの研究テーマに関する学習を地道に行なうこと。		

受講者への要望

各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。

講義の順序とポイント

1.研究演習（１）
2.　〃　（２）
3.　〃　（３）
4.　〃　（４）
5.　〃　（５）
6.　〃　（６）
7.修士論文の計画に関して（１）
8.　〃　（２）
9.　〃　（３）
10.　〃　（４）
11.　〃　（５）
12.　〃　（６）
13.　〃　（７）
14.　〃　（８）
15.　〃　（９）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75221C01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマに即して修士論文作成を行う。また、心理臨床の実践の理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	修士論文作成の計画を立て、実施。心理臨床の基本的な理解を身につけて実践力を習得すること。		
準備学習	次回の発表に関わる文献を読んでおくこと。		

受講者への要望

積極的、計画的に研究を進めること。

講義の順序とポイント

【院】臨床心理学研究演習 A と同時開講であるため、受講生の実情に併せて発表内容を調整する。修論中間発表を 2 回行う（他の教員の演習と合同で実施）。時期は受講生の人数などの状況に合わせて設定する。

1　修士論文の先行研究に関する発表・討論
2　修士論文の先行研究に関する発表・討論
3　修士論文の先行研究に関する発表・討論
4　修士論文の先行研究に関する発表・討論
5　修士論文の計画発表・討論
6　修士論文の計画発表・討論
7　修士論文の計画発表・討論
8　修士論文の計画発表・討論
9　文献講読・討論
10　文献講読・討論
11　文献講読・討論
12　修士論文計画指導
13　修士論文計画指導
14　修士論文計画指導
15　修士論文計画指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75221C02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ｃ・Ｄでは、各自の研究テーマに即して、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文に仕上げる。また、研究の進行に合わせて、中間発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　研究計画の発表 ３　研究計画の発表 ４　研究計画の発表 ５　研究計画の発表 ６　合同演習 ７　修士論文作成中間発表 ８　修士論文作成中間発表 ９　合同演習 １０　修士論文作成中間発表 １１　合同演習 １２　修士論文作成中間発表 １３　修士論文作成中間発表 １４　修士論文作成中間発表 １５　修士論文作成中間発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J75221C03
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマについての検討と並行して、修士論文の執筆に向けた作業と執筆が進行する。		
準備学習	自らの研究テーマに関する学習と、修士論文執筆に向けた取り組みを着実に行なうこと。		
受講者への要望			
各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。			
講義の順序とポイント			
1.修士論文のための研究実施に関して　（1） 2.　〃　（2） 3.　〃　（3） 4.　〃　（4） 5.　〃　（5） 6.　〃　（6） 7.　〃　（7） 8.　〃　（8） 9.　〃　（9） 10.　〃　（１０） 11.　〃　（１１） 12.　〃　（１２） 13.　〃　（１３） 14.　〃　（１４） 15.　〃　（１５）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J75221D01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を行う。また心理臨床の実践の理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表、出席、討論への参加状況などを総合的に評価する。		
到達目標	修士論文の完成。心理臨床の基本的な理解を身につけて実践力を習得。		
準備学習	次回の発表に関する文献を読んでおくこと。		

受講者への要望

積極的・計画的に研究を進めること。

講義の順序とポイント

【院】臨床心理学研究演習 B と同時開講であるため、受講生の実情に併せて発表内容を調整する。修論中間発表を 2 回行う（他の教員の演習と合同で実施）。時期は受講生の人数などの状況に合わせて設定する。

1　修士研究の進捗状況発表
2　修士研究の進捗状況発表
3　修士研究の進捗状況発表
4　文献講読
5　文献講読
6　文献講読
7　修士論文中間発表
8　修士論文中間発表
9　修士論文中間発表
10　修士論文作成指導
11　修士論文作成指導
12　修士論文作成指導
13　修士論文作成指導
14　修士論文作成指導
15 修士論文内容発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75221D02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ｃ・Ｄでは、各自の研究テーマに即して、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文に仕上げる。また、研究の進行に合わせて、中間発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　修士論文作成個別指導 ３　修士論文作成個別指導 ４　修士論文作成個別指導 ５　修士論文作成個別指導 ６　合同演習 ７　修士論文作成個別指導 ８　修士論文作成個別指導 ９　合同演習 １０　修士論文作成個別指導 １１　合同演習 １２　修士論文作成個別指導 １３　修士論文作成個別指導 １４　修士論文作成個別指導 １５　修士論文作成個別指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J75221D03
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマについての検討と並行して、修士論文の執筆に向けた作業と執筆が進行し、論文が完成する。		
準備学習	自らの研究テーマに関する学習と、修士論文執筆に向けた取り組みを着実に行なうこと。		
受講者への要望			
各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。			
講義の順序とポイント			
1.修士論文の執筆に関して（1） 2.　〃　（2） 3.　〃　（3） 4.　〃　（4） 5.　〃　（5） 6.　〃　（6） 7.　〃　（7） 8.　〃　（8） 9.　〃　（9） 10.　〃　（１０） 11.　〃　（１１） 12.　〃　（１２） 13.大学院での研究を今後にどう活かすか（1） 14.　〃　（2） 15.　〃　（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J75225001
科目名	【院】臨床心理学研究法特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical Psychology Method		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学の研究法について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に配布する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点・発表及びレポートを総合的に評価する。		
到達目標	臨床心理学の様々な研究法を習得し、修士研究作成に生かす。		
準備学習	次回の授業までに読んでくる資料を配布するので、読んでから出席すること。		
受講者への要望			
修士研究を念頭において能動的に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　臨床の知とは 2　心理臨床の歴史的パラダイム 3　心理臨床の歴史的パラダイム 4　心理臨床における研究 5　心理臨床における研究 6　心理臨床学の論文を読む・発表 7　心理臨床学の論文を読む・発表 8　心理臨床学の論文を読む・発表 9　心理臨床学の論文を読む・発表 １０　心理臨床学の論文を読む・発表 １１　心理臨床における事例研究 １２　事例研究の論文を読む １３　事例研究の論文を読む １４　事例研究の論文を読む １５　事例研究の論文を読む			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75226A01
科目名	【院】臨床心理学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical Psychology A		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	【院】臨床心理学特論Ⅰ
講義概要	本特論では、まず前半に、臨床心理学の学問体系や臨床心理士を養成する大学院教育について概観し、その上で、臨床心理学に関わる各学派（精神分析学派、ユング派、ロジャース派、行動療法学派など）の鍵となる概念を比較検討することによって、臨床心理学の総合的な観点の習得を目指す。さらに、各学派の人格理論、精神病理論、治療論などの理解を深める。また、そうした理解が単に知的な理解に留まることなく、心理臨床実践に活かされるものになるように配慮して指導を行う。後半は、精神分析理論や対象関係論の立場から転移や逆転移などの概念を用いて、クライエントと治療者の関係性に着目する形で、見立てや面接経過の理解が深まることを目標にした指導を行う。 講義と演習形式を併用するが、必要に応じて実習も取り入れて、授業を進める予定である。		
教材（テキスト）	大塚義孝編　「臨床心理学原論」　誠信書房 東山紘久編　「臨床心理面接学」　誠信書房 丸田俊彦著　「サイコセラピー練習帳」　岩崎学術出版社		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、レポート（３０％）、発表（３０％）。		
到達目標	心理臨床を実践していく上で必要とされる臨床心理学の理論や技法の習得を目指す。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習形式での発表や議論には積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　臨床心理学の理念と方法 ３　臨床心理学の歴史 ４　臨床心理士の養成 ５　臨床心理学の倫理問題 ６　心理アセスメントの実際問題 ７　精神分析的アプローチ ８　クライエント中心療法的アプローチ ９　認知行動療法的アプローチ １０　診断面接 １１　治療契約と治療同盟 １２　転移と逆転移 １３　ワーキングスルー（徹底操作） １４　対象関係論的アプローチ １５　臨床実習やスーパーヴィジョンの心構え			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J75226B01
科目名	【院】臨床心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical Psychology B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	【院】臨床心理学特論Ⅱ
講義概要	心理臨床を実践するためには、理論および技法を単に知識として勉強するだけではなく、自らの具体的な経験と関連付けながら身につけることが必要不可欠である。 本講義においては、臨床心理学特論 A で学んだことを前提に、より詳細に各学派の理論や技法について学習すると同時に、実際の心理臨床において、如何にそれを応用していくかを学ぶ。		
教材（テキスト）	北山修著「精神分析理論と臨床」　誠信書房		
教材（参考文献）	主として扱う文献に関連した図書を、適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業での発表、レポートなどを総合して評価する。		
到達目標	心理臨床を実践していく上で必要不可欠な理論および技法を、実践に役立つ形で身につける。		
準備学習	臨床心理学に関する基礎的な理論について、復習しておくこと。毎時間発表となるので、担当箇所について次回までにレジュメを作成すること。		
受講者への要望			
積極的な参加を望みます。			
講義の順序とポイント			
1.精神分析の理論 2.対象関係論の展望 3～4.フロイトの症例「ドラ」から学ぶ 5～6 フロイトと鼠男について 7.言葉と夢の関係 8～9 神経症 10～11.「性格的困難」のための覚書 12～13.思春期の危機 14.精神療法の実際 15.まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J75232A01
科目名	【院】臨床心理基礎実習 A	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Basic A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	【院】臨床心理基礎実習 I
講義概要	カウンセリング・心理療法の基本構造を知識として理解することと並行して、ロール・プレイによる応答練習を丁寧に行ない、相手の感情の動きを実際に擬似体験し、その気持ちを言語化・意識化する訓練を実施する。また箱庭制作なども経験し、自らの心の動きを感じる。 同時に、グループ・ディスカッションなどを通して自己理解を深めるとともに、実習先での対応についても検討する。 実習の十分な効果を得るため、授業時間を適宜変更し、集中して実施することもある。		
教材（テキスト）	必要に応じて講義途中で指定する場合がある。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	受講態度、発表、およびレポートなどを総合して評価する。		
到達目標	受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。		
準備学習	臨床心理学の基礎理論について復習すること。また毎週実習課題を指示するので、翌週までに実施すること。		
受講者への要望			
臨床家になるために、自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。			
講義の順序とポイント			
（流れによって以下の計画に変更があり得る） 1 オリエンテーション 2〜3 面接の流れについて 4〜7 応答練習 8〜10 箱庭制作 11〜13 箱庭制作の振り返り・検討 14〜15 実習先での訓練について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J75232A02
科目名	【院】臨床心理基礎実習 A	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Basic A		
担当者名	飯野　秀子	旧科目名称	【院】臨床心理基礎実習 I
講義概要	カウンセリング・心理療法の基本構造を知識として理解することと並行して、ロール・プレイによる応答練習を丁寧に行ない、相手の感情の動きを実際に擬似体験し、その気持ちを言語化・意識化する訓練を実施する。また箱庭制作なども経験し、自らの心の動きを感じる。 同時に、グループ・ディスカッションなどを通して自己理解を深めるとともに、実習先での対応についても検討する。 実習の十分な効果を得るため、授業時間を適宜変更し、集中して実施することもある。		
教材（テキスト）	必要に応じて講義途中で指定する場合がある。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	受講態度、発表、およびレポートなどを総合して評価する。		
到達目標	受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。		
準備学習	臨床心理学の基礎理論について復習すること。また毎週実習課題を指示するので、翌週までに実施すること。		
受講者への要望			
臨床家になるために、自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。			
講義の順序とポイント			
（流れによって以下の計画に変更があり得る） 1 オリエンテーション 2〜3 面接の流れについて 4〜7 応答練習 8〜10 箱庭制作 11〜13 箱庭制作の振り返り・検討 14〜15 実習先での訓練について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75232B01
科目名	【院】臨床心理基礎実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Basic B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	【院】臨床心理基礎実習Ⅱ
講義概要	実習先での訓練が中心となる。 心理職をめざそうとする自分に目を向けるため、ロールプレイなどを実施し、自らの心理的な構えや課題について検討する。 同時に、グループ・ディスカッションや様々な体験学習を通して自己理解を深める。 十分な効果を得るために、授業時間を変更し、集中的な検討会を実施することがある。		
教材（テキスト）	必要に応じて講義途中で指定する場合がある。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	平常点、発表、およびレポートなどを総合して評価する。		
到達目標	実践の現場での経験を通して、受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。		
準備学習	臨床心理基礎実習Ａで学習した内容について振り返りを実施し、自らの課題について考察しておくこと。次回までの課題については、講義の最後に指示する。		
受講者への要望			
自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。			
講義の順序とポイント			
（流れによって以下の計画に変更があり得る） 1　春学期のふりかえり 2～4　臨床心理職をめざそうとする自分 5～7　マイクロ・カウンセリング 8～11　対応のバリエーション（ロール・プレイ） 12～14　実習先での経験について 15　心理臨床とは			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J75232B02
科目名	【院】臨床心理基礎実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Basic B		
担当者名	飯野　秀子	旧科目名称	【院】臨床心理基礎実習Ⅱ
講義概要	実習先での訓練が中心となる。 心理職をめざそうとする自分に目を向けるため、ロールプレイなどを実施し、自らの心理的な構えや課題について検討する。 同時に、グループ・ディスカッションや様々な体験学習を通して自己理解を深める。 十分な効果を得るために、授業時間を変更し、集中的な検討会を実施することがある。		
教材（テキスト）	必要に応じて講義途中で指定する場合がある。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	平常点、発表、およびレポートなどを総合して評価する。		
到達目標	実践の現場での経験を通して、受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。		
準備学習	臨床心理基礎実習Ａで学習した内容について振り返りを実施し、自らの課題について考察しておくこと。次回までの課題については、講義の最後に指示する。		
受講者への要望			
自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。			
講義の順序とポイント			
（流れによって以下の計画に変更があり得る） 1　春学期のふりかえり 2～4　臨床心理職をめざそうとする自分 5～7　マイクロ・カウンセリング 8～11　対応のバリエーション（ロール・プレイ） 12～14　実習先での経験について 15　心理臨床とは			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J75236A01
科目名	【院】臨床心理査定演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Practicum on psychological Assessment A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	【院】臨床心理査定演習Ⅰ
講義概要	子どもの臨床においてだけではないのだが、指導的、治療的アプローチを行なう前提として、子どもの状態の査定、仮説の構成を行なうことが必要である。査定の道具としての検査の実施においては、発達指数（ＤＱ）や知能指数（ＩＱ）を算出すればすむものでは決してない。具体的データから子どもの目からは世の中がどう見え、耳からはどう聞こえているのかを、その子の身になって思い浮かべられるようになりたい。そのためにも、検査者と被検査者との関係のなかでの子どもの行動を観察して読む作業が要る。そして、それらの検査者のなかでのみたての統合をとおして次の援助に移すことができる。 個人のアセスメントにおける重要点を解説したあと、現場の児童臨床で不可欠な新版Ｋ式発達検査 2001 を実施し役立てることができるようになるための入門演習を行ない、ＷＩＳＣその他の知能・発達検査の概要についても確認しておく。さらに、ロールシャッハ・テストは、おとなだけでなく子どもにとっても有力な検査なので、学習を進めるための基礎を確認しておきたい。		
教材（テキスト）	高石浩一・大島剛・川畑隆共編「心理学実習 応用編１ 知能・発達検査実習～新版Ｋ式を中心に」2011 培風館 ・・・初回の授業で割引販売するので事前購入する必要はない。		
教材（参考文献）	川畑隆編著「子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ～よりよい臨床のための４つの視点、８つの流儀」2015 明石書店 大島剛・川畑隆・伏見真里子ほか著「発達相談と新版式発達検査～子ども・家族支援に役立つ知恵と工夫～」2013 明石書店 新版Ｋ式発達検査 2001、ＷＩＳＣ－Ⅲの実施マニュアル、片口法によるロールシャッハ・テスト関連図書など…　備品図書を利用するので購入する必要はない。 川畑隆・菅野道英・大島剛ほか著「発達相談と援助～新版Ｋ式発達検査 2001 を用いた心理臨床～」 2005 ミネルヴァ書房		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	実習した検査を実際に用いることができるようになる、あるいはその基礎が得られる。		
準備学習	演習時間内にできることには限りがあるので、時間外にも自主的に学習を行なってもらいたい。		
受講者への要望			
教科書をよく読み、演習時間外においても実際に検査用具を手にし、検査の施行法を身につけていってほしい。			
講義の順序とポイント			
１．発達・発達障害・発達検査・発達診断・発達援助・家族援助などについて ２．アセスメントにおける重要なことがら ３．Ｋ式発達検査の概要と試行法① ４．　② ５．Ｋ式発達検査の結果の整理法① ６．　② ７．Ｋ式発達検査の読み取りの基本① ８．　② ９．　③ １０．　④ １１．検査等にもとづいた子どもの保護者等への助言とその後について １２．その他の知能・発達検査 １３．ロールシャッハテストの基本～施行法とスコアリング １４．同　～スコアリング演習① １５．同　② ※上記の順序等については変更があり得る。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J75236B01
科目名	【院】臨床心理査定演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Practicum on psychological Assessment B		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	【院】臨床心理査定演習Ⅱ
講義概要	心理臨床の現場で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目指す。特に、投影法、質問紙法、作業法などのパーソナリティ検査を用いて、様々な事例の分析を行う。また、技術面のことのみにとどまらず、臨床現場で出会う様々な問題についても考察する。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）	片口安史著　「新・心理診断法」　金子書房		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、レポート（３０％）、発表（３０％）。		
到達目標	心理臨床場面で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。実習した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講者への要望

演習での発表や議論には積極的・主体的な参加を望む。

講義の順序とポイント

１　オリエンテーション
２　心理アセスメントと精神医学的診断
３　ウェクスラー式知能検査による事例分析
４　内田－クレペリン作業検査による事例分析
５　ＭＭＰＩ による事例分析
６　ロールシャッハテストによる事例分析　A
７　ロールシャッハテストによる事例分析　B
８　ロールシャッハテストによる事例分析　C
９　ロールシャッハテストによる事例分析　D
１０　ロールシャッハテストによる事例分析　E
１１　ロールシャッハテストによる事例分析　F
１２　ＴＡＴ による事例分析
１３　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　A
１４　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　B
１５　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　C

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	J75242A01
科目名	【院】臨床心理実習Ａ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。		
教材（テキスト）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して事例の読み方を学び、心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	教材のテキストを読んでおくこと。 参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。　発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

心理教育相談室のスタッフとして毎回出席が義務である。
事例を扱う実習なので、各自守秘義務は徹底すること。

講義の順序とポイント

Ⅰ　ケースカンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
11　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
7月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J75242A02
科目名	【院】臨床心理実習Ａ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d A		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。		
教材（テキスト）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して事例の読み方を学び、心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	教材のテキストを読んでおくこと。 参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。　発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

心理教育相談室のスタッフとして毎回出席が義務である。
事例を扱う実習なので、各自守秘義務は徹底すること。

講義の順序とポイント

Ⅰ　ケースカンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
11　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
7月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75242A03
科目名	【院】臨床心理実習Ａ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d A		
担当者名	飯野　秀子	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。		
教材（テキスト）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して事例の読み方を学び、心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	教材のテキストを読んでおくこと。 参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。　発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

心理教育相談室のスタッフとして毎回出席が義務である。
事例を扱う実習なので、各自守秘義務は徹底すること。

講義の順序とポイント

Ⅰ　ケースカンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
11　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
7 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75242B01
科目名	【院】臨床心理実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

毎回の出席を義務とする。
守秘義務の徹底。

講義の順序とポイント

Ⅰ　　カンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
１１　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
1 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
2 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J75242B02
科目名	【院】臨床心理実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d B		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

毎回の出席を義務とする。
守秘義務の徹底。

講義の順序とポイント

Ⅰ　　カンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
１１　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
1 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
2 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75242B03
科目名	【院】臨床心理実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d B		
担当者名	飯野　秀子	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

毎回の出席を義務とする。
守秘義務の徹底。

講義の順序とポイント

Ⅰ　　カンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
１１　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
1 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
2 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75246A01
科目名	【院】臨床心理面接特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Methods of Clinical Interview A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	【院】臨床心理面接特論Ⅰ
講義概要	臨床心理面接の基礎を学ぶ		
教材（テキスト）	心理療法序説　　河合隼雄　岩波書店		
教材（参考文献）	Ａ・ストー　　心理面接の教科書　創元社 ユング派心理療法　河合俊雄編　ミネルヴァ書房		
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加、課題の提出などにより評価する。		
到達目標	面接の基本について理解を深めること。		
準備学習	臨床の事例に接したり,単元ごとに授業に関連する文献を提示するので、読んでおくこと。		

受講者への要望

積極的に参加して下さい.

講義の順序とポイント

1、　心理療法の勧め方て
2、　初回面接で気をつけること
3、　心理療法の進展
4、　心理療法の技法、関係性
5、6、　事例から学ぶ　　子どもの事例
7，8、　事例から学ぶ　　思春期の事例
9，１０、　事例から学ぶ　　成人の事例
１１，１２　事例から学ぶ」　母親面接
１３　夢について
１４、発達障害について
１５、発達障害の事例

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J75246B01
科目名	【院】臨床心理面接特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Methods of Clinical Interview B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学の研究法について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に配布する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点・発表及びレポートを総合的に評価する。		
到達目標	臨床心理学の様々な研究法を習得し、修士研究作成に生かす。		
準備学習	次回の授業までに読んでくる資料を配布するので、読んでから出席すること。		
受講者への要望			
修士研究を念頭において能動的に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　臨床の知とは 2　心理臨床の歴史的パラダイム 3　心理臨床の歴史的パラダイム 4　心理臨床における研究 5　心理臨床における研究 6　心理臨床学の論文を読む・発表 7　心理臨床学の論文を読む・発表 8　心理臨床学の論文を読む・発表 9　心理臨床学の論文を読む・発表 １０　心理臨床学の論文を読む・発表 １１　心理臨床における事例研究 １２　事例研究の論文を読む １３　事例研究の論文を読む １４　事例研究の論文を読む １５　事例研究の論文を読む			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75251A01
科目名	【院】日本歴史文化研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Culture His tory A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	鎌倉後期の藤原兼仲の日記である『勘仲記』の輪読と、各人の研究発表を織り交ぜながら進める。史料読解では、国立歴史民俗博物館が所蔵する写本の写真版と『増補史料大成　勘仲記』の翻刻とを対照させながら読み進める。それぞれの記事の歴史的背景を考察しながら、厳密な読解につとめたい。この演習を通して、問題の所在についての認識を深めるとともに、漢文史料の読解能力や史料操作の方法を鍛える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	報告や討論など平常の授業での貢献度（50%）、レポート（50%）		
到達目標	・貴族の日記史料の正確な読解力と分析力をつける。 ・日本史学の課題と研究方法を理解し、論文執筆の実力を涵養する。		
準備学習	・担当する史料については事前に割り振っておくので、十分な準備が必要である。		

受講者への要望

・輪読では何をどのようにして調べるかを、あらかじめ指示するので、それに従って徹底した調査が望まれる。
・レポートの内容については、講義内で指示する。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　『勘仲記』の輪読
3　『勘仲記』の輪読
4　『勘仲記』の輪読
5　『勘仲記』の輪読
6　『勘仲記』の輪読
7　研究発表と討論
8　研究発表と討論
9　『勘仲記』の輪読
10　『勘仲記』の輪読
11　『勘仲記』の輪読
12　『勘仲記』の輪読
13　『勘仲記』の輪読
14　『勘仲記』の輪読
15　『勘仲記』の輪読

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J75251B01
科目名	【院】日本歴史文化研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Culture His tory B		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	鎌倉幕府の正史である『吾妻鏡』の輪読と、論文講読を交えながら授業を進める。輪読ではそれぞれの記事の史的背景を考察しながら、漢文史料の厳密な読解を進め史料操作の方法を鍛える。論文講読では、問題の所在についての認識を深めるとともに、日本史学の課題を理解する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	報告や討論など平常の授業での貢献度（50%）、レポート（50%）		
到達目標	・漢文史料の正確な読解力と分析力をつける。 ・日本史学の課題と研究方法を理解し、論文執筆の実力を涵養する。		
準備学習	・担当する史料については事前に割り振っておくので、きちんとした準備が必要である。 ・論文講読では、報告者は当該論文の他に関係論文を１本以上読んだ上で、当該論文の論旨を的確にまとめ、論文の長所と問題点・疑問点を指摘したレジュメを全員に配付する。報告者以外の授業参加者は全員ノートをとりながら論文を読んでくる。授業の最初に、当該論文の要旨および論文の長所と疑問点を記したノートのコピー１部を提出する。		
受講者への要望			
・輪読では何をどのようにして調べるかは、あらかじめ指示しておくので、きちんと調べてくることが必要である。 ・レポートの内容については、講義内で指示する。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　『吾妻鏡』の輪読 3　『吾妻鏡』の輪読 4　『吾妻鏡』の輪読 5　論文の講読 6　『吾妻鏡』の輪読 7　『吾妻鏡』の輪読 8　『吾妻鏡』の輪読 9　『吾妻鏡』の輪読 10　　論文の講読 11　『吾妻鏡』の輪読 12　『吾妻鏡』の輪読 13　『吾妻鏡』の輪読 14　『吾妻鏡』の輪読 15　論文の講読			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J75253A01
科目名	【院】環境社会特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講義では、環境経済学の研究に経済理論や計量的手法を応用する。また、環境経済学の分野における諸問題及び分析手法を学ぶために、多くの主題を幅広く概観する。前半は、外部効果の問題や、外部効果の存在する市場の機能を改善するための方法について学ぶ。後半は、環境の改善によって得られる利益の評価の問題を考察し、特に非市場財の価値評価の方法における問題を紹介する。講義では特に以下の点に重点を置いて進めていく。 １）環境計画や環境経済学の歴史・発展過程を簡潔に概観すること。 ２）環境汚染を引き起こす社会制度や経済的理由を理解し、汚染を制御するためのメカニズムについて学ぶ こと。 ３）環境資産や環境の損失を価値評価するための経済理論や方法について理解すること。 ４）環境政策における不確実性の影響や持続的環境管理の可能性について考察すること。		
教材（テキスト）	James R. Kahn 1998. The Economic Approach to Environmental and Natural Resources, Dryden Press, 2nd Ed. （ジェームズ・R. カーン著・内藤 登世一訳［1998］『環境と資源への経済学的アプローチ』 未出版）		
教材（参考文献）	① David W. Pearce and R. Kerry Turner. [1990] Economics of Natural Resources and Environment., Johns Hopkins Press. ② A. Myrick Freeman, III. [1993] The Measurement of Environmental and Resource Values: Theory and Methods, Resources for the Future Inc., 2nd Ed.		
教材（その他）			
評価方法	授業内ディスカッション（５０％）・期末レポート（５０％）		
到達目標	環境汚染を引き起こす社会制度や経済的理由を理解し、汚染を制御するためのメカニズムについて理解できるようになること。		
準備学習	授業の前に、毎回の内容について、教科書を読んで準備すること。		
受講者への要望			
講義の前に参考書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。			
講義の順序とポイント			
1. 序論・歴史 2. 環境管理及び環境経済学の進化発展 3. 環境政策から生じる便益や費用についての分析 4. 厚生変化の測定についての基本的概念 5. 外部効果・財産所有権 6. 環境政策・政策手段 － 概観 7. 環境税・環境基準・排出権取引制度 8. 環境政策から生じる便益や費用の配分 9. 間接的便益評価・非使用価値 10. 価値評価のための仮説的手法 11. 生産要素投入としての環境の質 12. 財産価値・レクリェーションからの便益 13. 環境管理における不確実性の役割 14. 持続的環境管理 15. 総括・環境経済学の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J75254A01
科目名	【院】文化人類学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、これまで文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50% フィールドワーク　25% レポート・民俗誌提出　25%		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 短期のフィールドワークの行うことができる。		
準備学習	予習をしてくること。		
受講者への要望			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 基本文献の選定 2～7　文献の講読 7～10 フィールドワークの計画と実施 11～15　文献の講読と民俗誌の作成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J75254B01
科目名	【院】文化人類学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、これまで文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ フィールドワーク　25％ レポート・民俗誌提出　25％		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 短期のフィールドワークの行うことができる。		
準備学習	予習をしてくること。		
受講者への要望			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 基本文献の選定 2～7　文献の講読 7～10 フィールドワークの計画と実施 11～15　文献の講読と民俗誌の作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J75254C01
科目名	【院】文化人類学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、これまで文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ フィールドワーク　25％ レポート・民俗誌提出　25％		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 中期のフィールドワークの行うことができる。		
準備学習	予習をしてくること。		
受講者への要望			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 基本文献の選定 2～7　文献の講読 7～10 フィールドワークの計画と実施 11～15　文献の講読と民俗誌の作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J75254D01
科目名	【院】文化人類学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、これまで文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ フィールドワーク　25％ レポート・民俗誌提出　25％		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 中期のフィールドワークの行うことができる。		
準備学習	予習をしてくること。		
受講者への要望			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 基本文献の選定 2～7　文献の講読 7～10 フィールドワークの計画と実施 11～15　文献の講読と民俗誌の作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J75255A01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。受講生は、この主題にそったテーマを各自で選び、内容を吟味する。		
教材（テキスト）	最初の演習で、講読文献リストを配付して指定する。		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）、レポート（50%）。		
到達目標	コミュニケーション社会学の諸理論の基本的な理解。		
準備学習	テキストおよびその背景知識の予習。		
受講者への要望			
自分の研究と社会とのかかわりを常に意識すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 研究計画に関する議論 3.〜14. 講読 15. 総合的な議論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J75255B01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。受講生は、この主題にそったテーマを各自で選び、内容を吟味する。		
教材（テキスト）	最初の演習で、講読文献リストを配付して指定する。		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）、レポート（50%）。		
到達目標	コミュニケーション社会学の諸理論の専門的な理解。		
準備学習	テキストおよびその背景知識の予習。		
受講者への要望			
自分の研究と社会とのかかわりを常に意識すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 研究計画に関する議論 3.〜14. 講読 15. 総合的な議論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J75255C01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。受講生は、この主題にそったテーマを各自で選び、内容を吟味する。		
教材（テキスト）	最初の演習で、講読文献リストを配付して指定する。		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）、レポート（50%）。		
到達目標	研究内容の具体化。		
準備学習	テキストおよびその背景知識の予習。研究内容の吟味。		
受講者への要望			
自分の研究と社会とのかかわりを常に意識すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 研究計画に関する議論 3.〜14. 講読と研究内容の吟味 15. 総合的な議論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J75255D01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。受講生は、この主題にそったテーマを各自で選び、内容を吟味する。		
教材（テキスト）	適宜指定する。		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）、修士論文（50%）。		
到達目標	修士論文の完成。		
準備学習	研究内容の吟味。		
受講者への要望			
自分の研究と社会とのかかわりを常に意識すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 研究計画に関する議論 3.〜14. 研究内容の吟味 15. 総合的な議論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J75256A01
科目名	【院】広告広報研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。		
教材（テキスト）	受講生の関心をふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考文献）	同上		
教材（その他）	同上		
評価方法	出席、および修士論文の構成、論文のための調査、草稿執筆などの進捗を総合的に評価する。		
到達目標	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などの研究に必要な理論や方法を十分に修得する。広告論・メディア論・マーケティング論などの理論や、消費者調査、広告などの作品分析、広告キャンペーンなどの事例研究、広告産業やクリエイターの研究などの方法について学び、修士論文のテーマに最適なアプローチができるよう努める。		
準備学習	到達目標に掲げたさまざまな理論や方法について、自主的に理解を深めること。		
受講者への要望			
広告広報の研究は、実践の成就に資する政策科学であると同時に、メディアや社会・文化の分析・批評でもある。自らの研究の目的と立ち位置について十分にきわめてほしい。			
講義の順序とポイント			
<講義予定> 第 1 回:オリエンテーション 第 2 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(1) 第 3 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(2) 第 4 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション 第 5 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション 第 6 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション 第 7 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション 第 8 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション 第 9 回:修士論文の発表・指導 第 10 回:修士論文の発表・指導 第 11 回:修士論文の発表・指導 第 12 回:修士論文の発表・指導 第 13 回:修士論文の発表・指導 第 14 回:修士論文の発表・指導 第 15 回:ふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J75256B01
科目名	【院】広告広報研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。		
教材（テキスト）	受講生の関心をふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考文献）	同上		
教材（その他）	同上		
評価方法	出席、および修士論文の構成、論文のための調査、最終稿を総合的に評価する。		
到達目標	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などの研究に必要な理論や方法を十分に修得する。広告論・メディア論・マーケティング論などの理論や、消費者調査、広告などの作品分析、広告キャンペーンなどの事例研究、広告産業やクリエイターの研究などの方法について学び、修士論文のテーマに最適なアプローチができる		
準備学習	到達目標に掲げたさまざまな理論や方法について、自主的に理解を深めること。		

受講者への要望

広告広報の研究は、実践の成就に資する政策科学であると同時に、メディアや社会・文化の分析・批評でもある。自らの研究の目的と立ち位置について十分にきわめてほしい。

講義の順序とポイント

<講義予定>
第 1 回:オリエンテーション
第 2 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(1)
第 3 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(2)
第 4 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 5 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 6 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 7 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 8 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 9 回:修士論文の発表・指導
第 10 回:修士論文の発表・指導
第 11 回:修士論文の発表・指導
第 12 回:修士論文の発表・指導
第 13 回:修士論文の発表・指導
第 14 回:修士論文の発表・指導
第 15 回:ふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J75257A01
科目名	【院】英語言語学特論A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is designed as an introduction to the various concepts and theories of linguistics, using the English language as a model.		
教材（テキスト）	First steps in English Linguistics (2nd. Edition), Kuroshio Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class exercises: 30%, reports/presentations: 70%		
到達目標	By the completion of this course, students will have a basic working knowledge of the key areas of linguistics as they pertain to the English language. They will be able to use this knowledge to linguistically analyze other languages.		
準備学習	Students wishing to undertake this course of study are advised to familiarize themselves with basic academic English.		

受講者への要望

All students are expected to attend all scheduled classes and take responsibility for their own learning. This means students are prepared to critically engage with the topics presented, and conduct thorough preview and review of the course material. It is also advised that all students bring a quality English-Japanese dictionary.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the Course
2. Why Study English Linguistics?
3. How English Has Changed over the Centuries
4. How Words Are Made：Morphology
5. How Words Mean： Semantics I
6. How English Phrases Are Formed： Syntax I
7. How English Sentences Are Formed： Syntax II
8. How Sentences Mean： Semantics II
9. How to Communicate with Other People： Pragmatics
10. The Sounds of English： Phonetics and Phonology
11. Regional Varieties of English： Sociolinguistics I
12. English in Society： Sociolinguistics II
13. How English Is Acquired： Psycholinguistics
14. How English as a Second／Foreign Language Is Acquired：Applied Linguistics
15. Overview of Course/ Presentations

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J75258A01
科目名	【院】集団心理学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	【院】社会心理学特論Ⅰ
講義概要	集合知および、群の行動、集団の意思決定についての理解を深める。 集団と群集行動の研究は、社会心理学の中では古いテーマとなるが、近年のインターネット技術の発展に伴い、昆虫などに見られる群の知性（集合知）が注目を浴びている。このテーマは社会心理だけでなく複数の領域に関連するため、各領域における基本概念について、参考文献から知識を得たのち、最近の関連文献に基づいた近年の研究の展開について検討する。英語文献についても時間があれば購読する予定。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	群はなぜ同じ方向を目指すのか？　群知能と意思決定の科学 レン・フィッシャー著　白楊社		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）と、発表(30%)と最終レポート(30%)により評価する。		
到達目標	文献を読みこなして論考する力を養う。		
準備学習	指示された文献をあらかじめ読んでおいてください。		
受講者への要望			
授業を中断させてもかまいませんので、積極的に疑問点や思いついたことを述べてください。			
講義の順序とポイント			
1. 集団過程概論 2. 集合現象概論 3. 昆虫の群知能 4. 自己組織化 5. 渋滞学 6. 群集の心理 7. 集団の意思決定 8. 投票制度 9. ネットワーク 10. ネットワーク２ 11. インターネット 12. インターネット２ 13. 集合知 14. リーダーシップ 15. 世論変動			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J75259001
科目名	【院】計量心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理学研究で使用されることの多い，計量的な方法について学習する。扱う手法は，量的な心理学研究を行う上で有用であるとともに，臨床場面で心理尺度を利用するための基礎知識としても重要である。 標準得点の役割，テスト理論（古典的テスト理論，項目反応理論），代表的な多変量解析の手法を主に取り上げる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	授業中に紹介する		
教材（その他）	プリントを配付する。		
評価方法	授業への出席および討論への参加状況等の平常点(50%)，および発表(50%)によって評価する。		
到達目標	心理尺度の得点の表現として利用されることの多い標準得点の原理と解釈の仕方を学ぶ。 テスト理論の基本を理解し，自らの研究でその利用ができるようになる。 多変量解析の主要な手法について，その目的を理解し，論文等に書かれた分析結果を適切に読み取れるようになる。また，自らの研究で必要になった時に，それを使いこなすための基礎力を獲得する。		
準備学習	毎回の授業の復習を十分に行うこと。 授業の例題となる文献を授業内で指定するので，それに目を通した上で次の授業に出席すること。		

受講者への要望

統計学の初歩的な内容について理解していることを前提として授業を進める。学部段階で統計学の学習をしていない者は，この授業と平行して統計学の入門的な内容を自習をすること。

講義の順序とポイント

1. 平均，分散，標準偏差，相関
2. 標準得点と正規分布
3. 信頼性(1) 古典的テスト理論の基本モデルと信頼性の概念
4. 信頼性(2) 信頼性の評価方法
5. 測定誤差の評価(1) 統計的検定と区間推定の考え方
6. 測定誤差の評価(2) 誤差の大きさの評価，得点間の差の評価
7. 妥当性
8. 多変量解析(1) 相関と回帰
9. 多変量解析(2) 確認的因子分析と探索的因子分析
10. 多変量解析(3) 構造方程式モデリング(1)
11. 多変量解析(4) 構造方程式モデリング(2)
12. 項目反応理論(1)
13. 項目反応理論(2)
14. 項目反応理論(3)
15. 尺度の等化，リンキング，適応型テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J76001A01
科目名	【院】生物有機化学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry I		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、文献や関連原著論文に対する十分な読解力を要する。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須の用件である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、様々な研究に接し、客観的な評価力を養うことを目的とする。		
教材（テキスト）	解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文（各回ごとに受講生に配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	化学生態学および天然物化学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。		
準備学習	予め配布された文献や資料の概要を把握しておく。		
受講者への要望			
講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
１．担当教員による各種文献の探索方法、入手方法についての解説 ２．担当教員による文献の読解法についての解説 ３．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献１） ４．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献２） ５．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献３） ６．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献４） ７．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献５） ８．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献１） ９．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献２） １０．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献１） １１．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献２） １２．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献３） １３．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献４） １４．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献５） １５．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献６）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J76001B01
科目名	【院】生物有機化学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry II		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、様々な文献や関連原著論文に対する高度な読解力を要する。原著論文には一定の記述様式があり、これに精通することが、論文の内容を理解する上で必須の要件となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文（各回ごとに受講生に配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	生物有機化学特別演習 I で修得した内容を基盤として、化学生態学、天然物化学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。		
準備学習	配布される文献や資料の概要を把握しておく。発表に際しては計画的に準備をして、発表のスキルを向上させるよう努力する。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員による生物有機化学特別演習 I の習熟度評価
２．担当教員による文献の収集・整理についての解説
３．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献１）
４．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献２）
５．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献３）
６．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献１）
７．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献２）
８．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献１）
９．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献２）
１０．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献３）
１１．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献４）
１２．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献５）
１３．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献６）
１４．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献７）
１５．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献８）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	--	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J76001C01
科目名	【院】生物有機化学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry Ⅲ		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. 研究手法の統合的な整理　（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J76001D01
科目名	【院】生物有機化学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry IV		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J76002006
科目名	【院】生物有機化学特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Bioorganic Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	よりよいバイオ環境を目指して、化学生態学に焦点を当て、コナダニ類や昆虫類を材料として研究を行なう。受講生に担当させる具体的な研究テーマは秘密情報であり、また当教室の状況や当該分野の外部情報によって変化する。研究分野の概要としては、新規ダニ種のフェロモンの同定、フェロモンの作用機構、昆虫の産卵・摂食阻害物質の探索、ニホンミツバチのフェロモンの同定、ニホンミツバチとスズメバチの化学生態学、行動科学、昆虫-植物-寄生蜂間のいわゆる”３者関係”の化学生態学があげられる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	担当するテーマの関連論文、Web での検索情報		
教材（その他）			
評価方法	修士論文および口頭発表（８０％）で主に評価し、日常の研究態度、教室運営への協力度（２０％）を合わせて総合的に評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに生物有機化学分野で何らかの新しい知見を得る。研究成果を学会発表、論文投稿などで公表する。		
準備学習	研究を推進するに当たり、文献を的確に収集し、関連情報を把握する。その情報を元に具体的な目標設定や実験計画を立案する。		
受講者への要望			
原著論文や関連速報論文の読解が研究の初期には特に重要であり、科学英語の理解力を向上させる。また、その分野での新しい発見には新しい視点や広い視野、そして深い洞察が必須であり、これらを獲得するためにどうすれば良いかを常に考えて行動して欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．テーマの企画 ２．テーマに関する文献情報の収集、内容の理解 ３．実験計画の立案 ４．実験、考察、実験計画の変更、再実験、考察の繰り返し ５．論文の作成 ６．研究発表 上記の 1.～4.項目を順番に、あるいは適宜組み合わせて繰り返す。論文の作成が可能なものについては論文作成して学会などで発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	+	-	-	--

年度	2016	授業コード	J76003A01
科目名	【院】分子生物学特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology I		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	生命科学研究に関連する文献の探索と理解力を強化するとともに，研究課題の発見力を養成する． 　今日の生命科学の飛躍的な発展は，多様な生物の遺伝子情報の蓄積と多くの先端技術が基盤となっている．生命科学研究には膨大な専門用語の習熟と関連文献の読解力と理解力を必要としている．本演習では，各受講者の研究課題に即した関連分野の文献検索と主要な研究論文の読解力と手技手法の理解力を育成し，研究課題関連領域の最新の全容を把握することと課題の発見と評価する力量の育成を目的とする．		
教材（テキスト）	毎回，必要に応じた教材資料を配布する．		
教材（参考文献）	Molecular Biology of The Cell (Fifth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter		
教材（その他）	必要に応じて，個別に教材を推薦する． 最先端の研究内容を理解し，学術的な価値観を共有できるようにする．		
評価方法	評価方法 論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう． ・文献概要の理解度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の理解度（20%） ・研究手法の原理と手技手法の理解度（20%） ・研究成果の理解度（20%） ・研究の課題点の発見力と価値評価力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	発表論文の概要の理解・研究分野の背景と目的を理解・研究手法の原理と手技手法の理解・課題点の発見と評価・キーワードの理解と要約作成ができることを目標にする．		
準備学習	事前に配布された資料を把握しておくこと．遅刻厳禁．		
受講者への要望			
講義ごとに受講者１名を順次割り当てる．当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献を選び，精読し，発表準備の指導も受け，発表資料を作成し，その内容を発表する．その他の受講者は，質疑に積極的に参加する．また，紹介された論文のキーワードを選び出し，説明文を作成する．			
講義の順序とポイント			
1.　担当教員より研究領域の総説と文献検索、課題文献の読み方について 2.　担当教員より課題文献のデータの読み方と関連データの検索法について 3.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献１） 4.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献２） 5.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献３） 6.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献４） 7.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献１） 8.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献２） 9.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献３） 10.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献４） 11.　受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献１） 12.　受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献２）			

13. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献３）
14. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献４）
15. 応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅰの総括と課題の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J76003B01
科目名	【院】分子生物学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology II		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	分子生物学特別演習 I で修得した内容を基盤に，生命科学研究の原著論文の読解力を養成し，科学的課題の理解力を鍛える． 　最新の生命科学研究の知見の習得には，先端技術の理解力と多様な専門文献や原著論文に対する読解力と膨大な生命科学情報データバンクの調査能力を必要としている。本演習では，各受講者の研究課題に即した関連分野の文献解析と関連データ検索とデータ解析処理の演習を通じて，主要な原著論文の読解力と成果の解析能力の習熟を目的とし，研究成果の客観的な評価力を醸成し，新たな課題の発見や追求できる能力の育成を目的とする．		
教材（テキスト）	毎回，必要に応じた教材資料を配布する． 最新の学術論文に対して，デジタル機器を使って，アクセス可能なものを選択する．		
教材（参考文献）	Molecular Biology of The Cell (Fifth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter		
教材（その他）	必要に応じて，個別に教材を推薦する．		
評価方法	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう． ・文献概要の理解度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の理解度（20%） ・研究手法の原理と手技手法の理解度（20%） ・研究成果の理解度（20%） ・研究の課題点の発見力と価値評価力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	発表論文の概要の理解・研究分野の背景と目的を理解・研究手法の原理と手技手法の理解・課題点の発見と評価・キーワードの理解と要約作成ができることを目標にする．		
準備学習	事前に配布された資料を把握しておくこと．遅刻厳禁．		

受講者への要望

講義ごとに受講者１名を順次割り当てる．当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献を選び，精読し，発表準備の指導も受け，発表資料を作成し，その内容を発表する．その他の受講者は，質疑に積極的に参加する．また，紹介された論文のキーワードを選び出し，説明文を作成する．

講義の順序とポイント

1. 担当教員による応用生化学・遺伝子機能学特別演習 I の習熟度の評価と本演習の課題目標について
2. 担当教員による課題設定と目標についての具体例の紹介
3. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献１）
4. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献２）
5. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献３）
6. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献４）
7. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献１）
8. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献２）
9. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献３）

10. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献４）
11. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献１）
12. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献２）
13. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献３）
14. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献４）
15. 応用生化学・遺伝子機能学特別演習 II の総括と課題の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	J76003C01
科目名	【院】分子生物学特別演習III	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology III		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	分子生物学特別演習 II までに習熟した内容を基盤として，生命科学研究の原著論文の読解力をさらに強化し，科学的課題の解決力を養成する。 最新の生命科学研究遂行には多様な関連研究成果の探索¥と理解に基づいて、新たな研究課題の設定と研究課題の妥当な解決方法の計画と手技手法のスキルの習熟が必要である。 分子生物学特別演習 I ・ II までの習得内容を基盤として、主要関連論文の高度な読解力と関連分野の解析力と理解力を基軸に、各受講者の研究課題分野の現状認識と課題解決法の客観的な設定と企画力の力量の養成を目的とする。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		

受講者への要望

講義ごとに受講者１名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献と複数の関連文献を選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を作成し、その抄読内容を整理して発表する。その他の受講者は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による応用生化学・遺伝子機能学特別演習 II の習熟度の評価と本演習の課題目標について
2. 担当教員による国際的な主要な原著論文と関連分野の論述動向と内容について
3. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文１）
4. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文２）
5. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文３）
6. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文４）
7. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文１）
8. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文２）
9. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文３）
10. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文４）
11. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文１）
12. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文２）
13. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文３）
14. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文４）
15. 応用生化学・遺伝子機能学特別演習IIIの総括と課題の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76003D01
科目名	【院】分子生物学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology IV		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	分子生物学特別演習Ⅲまでに習熟した内容を基盤として、具体的な科学的課題の解決に必要な企画力と研究力を養成する。 膨大な研究成果が発表される生命科学研究分野では、研究成果を公表する場合には常に最新の成果の理解と有効性を判断し、学問領域の最新の現状を把握する必要がある。本演習では、各受講者の研究課題に関連した研究領域の客観的な最新の現状認識力とともに、生命科学領域の学術誌への論文投稿のための研究背景説明や研究成果の解析、整理、表現の検討と論述展開や引用文献の扱いなどスキルの養成を目標とする。		
教材（テキスト）	受講者自身が関連分野の原著論文や総説のリストを作成し配布する。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。 ・課題に対する関連文献選択の適正度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の価値評価力（20%） ・研究の手技手法の理解度と新規性の評価力（20%） ・研究結果の理解度と解析評価力（20%） ・新規課題の提案企画力と論述力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。 ・課題に対する関連文献選択の適正度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の価値評価力（20%） ・研究の手技手法の理解度と新規性の評価力（20%） ・研究結果の理解度と解析評価力（20%） ・新規課題の提案企画力と論述力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
準備学習	事前に配布された資料で予習しておくこと。		
受講者への要望			
講義ごとに受講者１名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで関連分野の文献を複数選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を論述形式でレジメを作成し、その内容を発表する。生命科学領域に関わる論文作成のスキルを養成する。その他の受講者も、論文作成のスキル習得に参加する。			
講義の順序とポイント			
1.　担当教員による応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅲの習熟度の評価と本演習の課題目標について 2.　担当教員による国際的な主要論文の論述形式と整理ポイントについて 3.　著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文１） 4.　著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文２） 5.　著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文３） 6.　著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文４） 7.　著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文５） 8.　担当教員による論文構成と論述形式とデータ整理と DataBank 登録について 9.　担当教員による論文投稿規定と論文作成のスキルについて 10. 受講者の研究課題の背景整理とデータ整理について（１） 11. 受講者の研究課題の背景整理とデータ整理について（２） 12. 受講生作成の研究論文発表に対しての討論（１） 13. 受講生作成の研究論文発表に対しての討論（２）			

14. 受講生作成の研究論文発表についての評価と問題点の指摘
15. 受講生作成の研究論文発表についての改善案の検討と討議

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76004006
科目名	【院】分子生物学特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Molecular Biology		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	生体や細胞内外の環境変化に対し機能維持に遺伝子やその産物がどのような制御機構を用いているのかを (1) ゲノムの構造レベル (2) 細胞の分化・発生の時空間レベル (3) 情報の伝達レベル (4) シグナル分子レベル (5) 多分子の複合体レベルでの機能解析に取り組む研究課題を選択し， 課題の把握と理解に努め，必要な手技技法にも熟達し，研究に励み，妥当な結論から研究成果の学問上の意義や社会的な活用法にも考察して修士論文としてまとめ上げる.		
教材（テキスト）	研究課題に応じ，研究の進展に伴い，個別に教材や文献を提供する.		
教材（参考文献）	必要に応じて，Databank などの資料を指示する.		
教材（その他）			
評価方法	修士論文の研究課題の把握と理解（20%), 実験計画の策定（20%), 実験の遂行と結果（20%） およびその評価（20%), 他者からの評価を議論できる能力（10%), 発表表現能力（10%)などを 総合的に評価する.		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。		
準備学習	事前準備については，指導教員が個々に必要に応じた最適な指導をする.		

受講者への要望

社会が求めている人材を各自イメージしながら，グリーンバイオ技術者や研究者に必要なスキルと知識を身につけること.
目標とする研究テーマに真剣に意欲的に忍耐強く立ち向かって取り組むこと.
研究室構成員の一員として，院生は研究活動の遂行と維持にリーダー的な立場で行動すること.
研究科内で実施される大学院生専門情報交換会へ積極的に参加し，特別研究のスキル上達に研鑽すること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-3.　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
4-6.　研究計画の策定と研究方法の検討
7-9.　ゲノムレベルでの研究課題の検討
10-13. 細胞レベルでの研究課題の検討
14-17. 修飾分子レベルでの研究課題の検討
18-21. 生体高分子複合体・細胞内オルガネラ等での検討
22-30. 予備実験の実施と結果の検討

(2 年次)
31-34. 実験計画の吟味と改善
35-40. 実験の実施と再現性及び信頼性の確立

41-50. 発展的な実験の実施と結果の検討
51-54. 関連分野の実験成果と比較し，新規性の確認と検討
55-58. 成果の整理と検討及び発表形式の検討
59-60. 発表形式の検討と確認

尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある．

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76005A01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology I		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通していなくてはならず、そのためには様々な文献に対する高度な読解力が必要になる。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語に習熟することも必須である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマについて文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　谷 吉樹 著（1992）コロナ社 2）応用微生物学 第2版　清水 昌、堀之内末治 編（2008）文永堂出版 3）遺伝子から見た応用微生物学　熊谷英彦 他 編（2008）朝倉書店 4）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.　Madigan, M.T. et al.（2010）　Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学に関連する文献の読解力を強化し、科学的な問題解決力を養成する。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献の読み方についての講述（1） 2）　担当教員による文献の読み方についての講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献1） 4）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献2） 5）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献3） 6）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献4） 7）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献5） 8）　受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献1） 9）　受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献2） 10）　受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献3） 11）　受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献1） 12）　受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献2） 13）　受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献3） 14）　受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献1） 15）　受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献2）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J76005B01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology II		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通していなくてはならず、そのためには様々な文献に対する高度な読解力が必要になる。原著論文には一定の記述様式があり、そのことに精通することが論文の内容を理解する上で必須の要件である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマについて文献の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学特別演習 I で修得した内容を基盤として、微生物機能開発学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してプレゼンテーションソフト等でその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による微生物機能開発学特別演習 I の習熟度評価 2）　担当教員による文献の収集・整理法についての講述 3）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 1） 4）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 2） 5）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 3） 6）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 1） 7）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 2） 8）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 3） 9）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 4） １０）　受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 1） １１）　受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 2） １２）　受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 3） １３）　受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 4） １４）　受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 5） １５）　総合討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J76005C01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology Ⅲ		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状と問題点を、第三者が理解できるようにまとめ上げる能力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第2版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献・原著論文を受講生がまとめた資料（各回ごとに配布する）		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・問題設定の適性度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、各問題の現状認識と技術の将来予測をするための能力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。さらに発表のための資料を作成し、その内容を紹介する。その他の受講生は総説の学術的内容に関する質疑に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（1） 2）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（1） 4）　受講生の発表と質疑（2） 5）　受講生の発表と質疑（3） 6）　受講生の発表と質疑（4） 7）　受講生の発表と質疑（5） 8）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1） 9）　受講生の発表と質疑（6） １０）　受講生の発表と質疑（7） １１）　受講生の発表と質疑（8） １２）　受講生の発表と質疑（9） １３）　受講生の発表と質疑（１０） １４）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2） １５）　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J76005D01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology IV		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状を認識する能力と、微生物機能開発学領域における論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第2版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	受講生が作成したレジュメなど。		
評価方法	選択した各文献・原著論文と執筆した論文について、次の点で評価する。 ・問題設定の適性度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	英文誌に投稿可能な様式で論文を執筆する力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
前半は微生物機能開発学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述 2）　受講生の発表と質疑（1） 3）　受講生の発表と質疑（2） 4）　受講生の発表と質疑（3） 5）　受講生の発表と質疑（4） 6）　受講生の発表と質疑（5） 7）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 8）　担当教員による論文作成のスキルの解説 9）　受講生が作成した論文に対する質疑（1） １０）　受講生が作成した論文に対する質疑（2） １１）　受講生が作成した論文に対する質疑（3） １２）　受講生が作成した論文に対する質疑（4） １３）　受講生が作成した論文に対する質疑（5） １４）　担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 １５）　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J76006006
科目名	【院】微生物機能開発学特別研究 (2016-2017)	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Microbial Biotechnology		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	微生物機能開発学領域における学術研究を通して、応用微生物学分野の専門知識と技術を高いレベルで修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、目的とする機能を最高レベルで保持する菌株を探索し、（1）当該機能の微生物学的・生化学的意義の解明、（2）遺伝子レベルでの機能解明、（3）遺伝子工学的手法による機能増強、（4）物質生産の場合はその生物工学的諸条件の確立、といった過程を通じた機能開発を行う。これらの研究の成果を修士論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	学術研究と修士論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・修士論文の論理性（25%） ・修士論文の学問的到達度（25%）		
到達目標	1）応用微生物学分野の専門知識と技術の高いレベルでの修得。 2）応用微生物学分野の学問的意義のある修士論文（英文）の完成。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
・微生物機能の開発をテーマとした学術研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の助言に従って研究を展開し、その成果を修士論文としてまとめる。 ・学術研究への 2 年間の徹底的な没頭を求める。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76007A01
科目名	【院】食品機能学特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science I		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	学位論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	学位論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76007B01
科目名	【院】食品機能学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品科学で修得した内容を基盤として、食品科学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）	食品科学に関する原著論文（各回ごとに配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容をさらに迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的･技術的観点から把握できる。また、その論文の結果から新しい仮説や予測ができる。さらに明確で的確なプレゼンテーションができる。		
準備学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		
受講者への要望			
講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
１．担当教員による食品科学特別演習 I の習熟度評価。 ２．担当教員より文献の収集・整理について講述する（１）。 ３．担当教員より文献の収集・整理について講述する（２）。 ４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１） ５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２） ６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３） ７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１） ８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２） ９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３） １０．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文１） １１．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文２） １２．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文３） １３．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文１） １４．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文２） １５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76007C01
科目名	【院】食品機能学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science Ⅲ		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品機能・健康科学演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、研究テーマに関する文献・原著論文からその分野の問題の現状認識と技術の将来予測を議論し、それらの能力を養成する。		
教材（テキスト）	取りまとめられた文献・原著論文をまとめた冊子（各回ごとに配布）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成する。		

受講者への要望

受講生に複数時間の講義時間を割り当てる。受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料も作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1．文献・原著論文の収集・整理法の講述
2．受講生の発表と質疑（1）
3．受講生の発表と質疑（2）
4．受講生の発表と質疑（3）
5．受講生の発表と質疑（4）
6．受講生の発表と質疑（5）
7．受講生の発表と質疑（6）
8．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9．受講生の発表と質疑（7）
10．受講生の発表と質疑（8）
11．受講生の発表と質疑（9）
12．受講生の発表と質疑（10）
13．受講生の発表と質疑（11）
14．受講生の発表と質疑（12）
15．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	★	−

年度	2016	授業コード	J76007D01
科目名	【院】食品機能学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science IV		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品機能・健康科学演習Ⅲと同様に、各問題の現状認識と技術の将来を予測するための能力を養成するとともに、論文作成の能力を養成する。。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなど。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得するとともに論文作成のスキルを習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成するとともに、論文作成のためのデータを整理する。		

受講者への要望

前半は食品機能・健康科学演習Ⅲと同様に進める。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。

講義の順序とポイント

1．受講生の発表と質疑（1）
2．受講生の発表と質疑（2）
3．受講生の発表と質疑（3）
4．受講生の発表と質疑（4）
5．受講生の発表と質疑（5）
6．受講生の発表と質疑（6）
7．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8．論文作成のスキルを解説
9．受講生が作成した論文に対する質疑（1）
10．受講生が作成した論文に対する質疑（2）
11．受講生が作成した論文に対する質疑（3）
12．受講生が作成した論文に対する質疑（4）
13．受講生が作成した論文に対する質疑（5）
14．受講生が作成した論文に対する質疑（6）
15．受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	★	−

年度	2016	授業コード	J76008006
科目名	【院】食品機能学特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Food Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	野菜・作物の機能性成分の化学および生理機能に関する研究を行い、食品科学の分野で新しい知見を得る。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	修士論文および口頭発表で評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに食品科学分野で何らかの新しい知見を得る。場合によっては、学会などで発表する機会を持つ。		
準備学習	研究を推進するにあたって、関連文献を収集する。それらを読んで、目標設定や実験計画を立案する。		
受講者への要望			
原著論文の読み込みは必須であり、科学英語の読解力を向上させる。常に何をすべきかを考えて生活する（考動する）ことを心掛ける。			
講義の順序とポイント			
1．テーマの企画・設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．実験計画の立案 4．テーマの取り組み 5．修士論文の作成 6．研究の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2016	授業コード	J76009A01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology I		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%）、（２）研究目的の理解度（20%）、（３）研究手法の理解度（20%）、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%）、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員より文献の読み方について講述する（１）
2. 担当教員より文献の読み方について講述する（２）
3. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
4. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
5. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
6. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
7. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
8. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
9. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
10. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
11. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
12. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
13. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
14. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
15. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76009B01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology Ⅱ		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%）、（２）研究目的の理解度（20%）、（３）研究手法の理解度（20%）、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%）、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 植物バイオテクノロジー特別演習Ⅰの習熟度評価
2. 文献の検索、収集、整理などに講述し、パソコンを用いての検索演習を行う
3. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
4. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
5. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
6. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
7. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
8. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
9. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
10. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
11. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
12. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
13. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
14. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）
15. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76009C01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology Ⅲ		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げ、パワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講者が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%）、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%）、（３）科学的・技術的寒天からの現状の把握度（30%）、（４）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うため、原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力、取りまとめて発表する能力などを修得し、あわせ問題点解決に活用する能力も修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（１）
2. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（２）
3. 受講生の発表と質疑（１）
4. 受講生の発表と質疑（２）
5. 受講生の発表と質疑（３）
6. 受講生の発表と質疑（４）
7. 受講生の発表と質疑（５）
8. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（１）
9. 受講生の発表と質疑（６）
10. 受講生の発表と質疑（７）
11. 受講生の発表と質疑（８）
12. 受講生の発表と質疑（９）
13. 受講生の発表と質疑（１０）
14. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（２）
15. まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76009D01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology IV		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習 I および II で修得するさ文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げる。　またパワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%)、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（３）論文作成および発表能力（50%）		
到達目標	ある分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生 1～２名を割り当てる。前半では、当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに発表資料を作成して発表し、参加者を含めて質疑応答を行う。このための準備を常に行っておくこと。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。
2. 受講生の発表と質疑（１）
3. 受講生の発表と質疑（２）
4. 受講生の発表と質疑（３）
5. 受講生の発表と質疑（４）
6. 受講生の発表と質疑（５）
7. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8. 担当教員による論文作成のスキルを解説する。
9. 受講生が作成して論文に対する質疑（１）
10. 受講生が作成して論文に対する質疑（２）
11. 受講生が作成して論文に対する質疑（３）
12. 受講生が作成して論文に対する質疑（４）
13. 受講生が作成して論文に対する質疑（５）
14. 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘
15. まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76010006
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Plant Biotechnology		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	研究テーマの設定、研究テーマの背景認識、実験計画の設定、実験の実施、実験結果の解析・取りまとめ、考察、論文作成などについて必要な能力、すなわち研究を自立的に実施できる能力を涵養する。		
教材（テキスト）	適宜、原著論文、実験マニュアル、機器取扱い書などを掲示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	研究立案、実施、取りまとめ、発表・論文作成などの能力の修得状況から評価する。		
到達目標	自立して技術開発あるいは研究を行える能力の修得を目標とする。		
準備学習	日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他の研究発表などを聞くこと。		
受講者への要望			
①日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他者の研究発表などを聞き、自分の研究課題実施に役立てること。 ②幅広く科学的思考能力の向上に努めること。			
講義の順序とポイント			
修士論文研究の進展と関連させながら、研究テーマの設定、研究テーマの背景や意義の認識の深化、実験計画の設定や実験方法の検討、実験の実施、結果の解析・取りまとめ、考察、取りまとめ資料の作成・論文作成について議論あるいは指導する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76021A01
科目名	【院】科学英語演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Scientific English I		
担当者名	Judith Anne Tabohashi	旧科目名称	
講義概要	This is an academic oral presentation skills course conducted entirely in English. The development of group discussion and academic oral presentation skills will be emphasized.		
教材（テキスト）	No text book is assigned. Prints and relevant materials to be provided by the teacher.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Students will be evaluated on the following criteria: 1/ Discussion leadership skills 20% 2/ Discussion participant skills 20% 3/ Oral Presentation skills 50% 4/ Review Quizzes 10%		
到達目標	On completion of this intensive course, students will feel confident to conduct academic discussions and make formal oral presentations in English.		
準備学習	Although there is no textbook, students will be expected to bring and maintain an A4 size file for the prints and notes that will be given in each lesson. Homework will be assigned as preparation for the following day's classes. It is essential that students do the homework as a prerequisite to attending the class. Students will be expected to conduct individual research to prepare for their presentation.		

受講者への要望

Very active class participation and complete attendance is required to pass this class.

講義の順序とポイント

1/ Introduction to the course and introduction to academic discussion
2/ General discussion skills development
3/ Audience analysis
4/ Question formation 1
5/ Question formation 2
6/ Developing listening skills
7/ Oral summary skill development
8/ Small group discussion presentation
9/ Presentation skills development 1
10/ Presentation skills development 2
11/ Presentation skills development 3
12/ Presentation Practice and Peer Feedback session
13/ Presentations 1
14/ Presentations 2
15/ Presentation Review and Feedback

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J76021B01
科目名	【院】科学英語演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Scientific English I I		
担当者名	Amundrud Thomas Martin	旧科目名称	
講義概要	ライティングの練習や論文執筆を通じて、英語の科学論文のライティングの構成、文法、語彙、文体上の要素、編集などを学ぶ。また。クラスでの演習を通じて、英語によるコミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを磨く。		
教材（テキスト）	理系研究者のためのアカデミックライティング（Science research writing for non-native speakers of English).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	評価は以下のようにして行う ・授業中に行なう演習とプレゼンテーション（30%） ・ライティングの課題や宿題の遂行能力と正確さ（50%） ・授業への参加と授業中の態度（20%）		
到達目標	学術雑誌および会議のための出版可能なレベルの英語文書を作成するために必要な基礎的スキルを身につける。		
準備学習	修士論文研究を題材にして、英語要旨や英語論文を作成しておくことが望ましい。また修士論文研究に関連した論文やパソコンに取り込んだ資料を準備することが望ましい。		

受講者への要望

英語の科学論文全体を作成する十分な時間がないため、修士論文研究の要旨を上手に書き上げることができるようになることを目指す。受講生は修士論文研究について英語で説明したりすることを求められる。

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course & basics of paragraph writing
2. What makes scientific writing in English difficult?: The passive voice
3. Introduction to the structure of scientific articles: Overview
4. Introduction to the structure of scientific articles: The introduction
5. Review: Scientific article introductions and passive voice
6. Introduction to the structure of scientific articles: The methodology section
7. What makes scientific writing in English difficult?: Using prefixes, roots, and suffixes
8. How to summarize
9. Review: The methodology section
10. Introduction to the structure of scientific articles: The results section
11. How to write an abstract in English (1)
12. How to write an abstract in English (2)
13. Review: The results section
14. Introduction to the structure of scientific articles: The discussion and conclusion
15. Using citations and references

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2016	授業コード	J76033001
科目名	【院】環境デザイン最先端技術特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Techniques in Bioenvi ronmental Design		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	人とともに多様な生き物が共生できる環境を実現する技術として、最新の様々な情報を提供する。積極的に学外からの講師を招いて、技術の紹介をしてもらう。紹介された内容への理解を深めるため、受講生がさまざまな角度から検討して討議する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）			
教材（その他）	講義の内容を書いたプリントを予め配布する		
評価方法	レポート（８０%）、授業中の討議内容と受講態度（２０%）		
到達目標	人とともに多様な生き物が共生できる環境を実現するための技術を学び、それを応用する力を身に付ける。		
準備学習	講義に使用するプリントをあらかじめ配布するので、読んで理解してから授業を受けること		

受講者への要望

疑問に思う点があれば、積極的に質問をすること

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 最先端技術の紹介と討議（1）
3. 最先端技術の紹介と討議（2）
4. 最先端技術の紹介と討議（3）
5. 最先端技術の紹介と討議（4）
6. 最先端技術の紹介と討議（5）
7. 最先端技術の紹介と討議（6）
8. これまでに紹介された技術全体についての討議（1）
9. 最先端技術の紹介と討議（7）
10. 最先端技術の紹介と討議（8）
11. 最先端技術の紹介と討議（9）
12. 最先端技術の紹介と討議（１０）
13. 最先端技術の紹介と討議（１１）
14. 最先端技術の紹介と討議（１２）
15. これまでに紹介された技術全体についての討議　（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J76035001
科目名	【院】知的財産権特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Intellectual Property Rights		
担当者名	遠藤　真治	旧科目名称	
講義概要	今日、知的財産権はビジネスのあらゆる分野で重要視されてきているが、今後 IT 化・グローバル化がさらに加速していくと、知的財産権の重要性は飛躍的に高まっていくことが予想される。本講義は、これから社会や産業界で知的財産や知的ビジネスに関わる際に必要な基礎知識の理解を深め、次いでバイオテクノロジーや環境分野にポイントを絞った各論でさらに知的財産に関する認識を深めることを目的とする。		
教材（テキスト）	平成 27 年度知的財産権制度説明会(初心者向け)テキスト『知的財産権制度入門』(特許庁編)		
教材（参考文献）	平成 26 年度産業財産権を巡る国際情勢について(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書幹細胞関連技術（要約版）(特許庁編)(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書再生医療（要約版）(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書　マイクロアレイ関連技術（要約版）(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書固体廃棄物及び土壌汚染の処理技術（要約版）(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書バイオベースポリマー関連技術（要約版）(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書メタンハイドレート（要約版）(特許庁編) iPS 細胞関連技術及びヒト ES 細胞関連技術に関する特許出願・論文発表の状況について（特許庁編）		
教材（その他）			
評価方法	（1）特許実用新案法、（2）著作権法、（3）不正競争防止法、（4）意匠法、 （5）商標法の 5 分野について、授業時間中に課す小テストの結果と、授業中の発言の内容を元に評価する。		
到達目標	知的財産権の基礎知識の理解を深め、バイオテクノロジーや環境分野に関してさらに認識を深める。		
準備学習	新聞やインターネット等で新製品開発は特許に関する記事等を読むなどして、知的財産に関する興味を持っておいてほしい。		

受講者への要望

知的財産権について初歩者にも理解できるように述べるが、しっかりと復習することを希望する。

講義の順序とポイント

1.知的財産制度の現状　知的財産戦略の意義・役割（1）
2.知的財産制度の現状　知的財産戦略の意義・役割（2）
3.知的財産法概論
4.特許法・実用新案法(1)
5.特許法・実用新案法(2)
6.特許法・実用新案法(3)
7.特許法・実用新案法(4)
8.意匠法
9.商標法
10.著作権法・不正競争防止法
11.一般社会・ビジネス社会における知的財産問題
12.バイオテクノロジーと環境分野における知的財産権（1）
13.バイオテクノロジーと環境分野における知的財産権（2）
14.バイオテクノロジーと環境分野における知的財産権（3）
15.バイオテクノロジーと環境分野における知的財産権（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2016	授業コード	J76036001
科目名	【院】環境倫理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Environmental Ethics		
担当者名	神崎　宣次	旧科目名称	
講義概要	環境倫理学は、環境問題を自然や生態系の観点ではなく、それらと関わりを持つ人間とその生活の観点からも検討する学問です。本講義では、1）環境倫理学の歴史的な展開について概説した上で、2）現在における環境倫理学の課題を明らかにするとともに、3）日本での環境倫理学の方向性について論じます。		
教材（テキスト）	近畿化学協会 化学教育教育研究会 編著『環境倫理入門 地球環境と科学技術の未来を考えるために』（化学同人、2012 年)、2200 円		
教材（参考文献）	鬼頭秀一『自然保護を問いなおす―環境倫理とネットワーク』(筑摩書房、1996 年)、798 円 宮内泰介編『なぜ環境保全はうまくいかないのか―現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』(新泉社、2013 年)、2520 円		
教材（その他）	ビデオなどを用いる場合もある。		
評価方法	評価は各授業日の最後に内容理解度を確認するための小テストを行い、それで評価する。評価に対する比率は、初日二日目が各 30%、最終日が 40%とする。		
到達目標	環境倫理学の意義と可能性と必要性について理解し、倫理学的な思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	積極的に講義に参加し、次の項目について事前にテキストを見ておく。日頃から新聞などを通して、環境関連の出来事に注目していく。		
受講者への要望			
講義に積極的に参加する、つまり、まじめに出席するとともに、疑問点などについては、積極的に質問するようにしてほしい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2-3. 保全主義について 4-5. 環境危機の時代の思想 6-7. 歴史的観点からの環境倫理学の位置付けと評価 8-10. 持続可能性、生物多様性、予防、順応的管理等の概念についての検討 11-12. 資源管理等の事例の検討 13-14. その他の環境関連領域との連携のあり方 15. まとめ（講義全般に関する総合的な講評）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2016	授業コード	J76037001
科目名	【院】環境行政法特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Environmental Adminis trative Law		
担当者名	吉田　佳督	旧科目名称	
講義概要	本講義では地球温暖化など地球規模の課題から、生活環境まで、幅広い環境問題に対する行政の制度的対応のあり方を、持続可能な社会を実現するための社会的なしくみとしての行政法の視点から、基本的な議論を紹介する。 具体的には、環境行政法の基本となる「環境」の公益性について、環境経済学的なアプローチも紹介しつつ検討を行う。 次に国内外における各政策分野の環境行政の特徴をこれまでの歴史にも触れながら検討する。 さらに、具体的な環境基準値の設定根拠について解説する。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。講義で使用する資料等については、適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	条例の事例等を適宜コピーして配布する。		
評価方法	平常点（５０％）　出席状況等による レポート（５０％）　講義終了時に出題する		
到達目標	環境行政法の基礎的な概念を把握する。 環境問題への環境行政法による対応について，事例を基に理解する 国と地方自治体の環境法制の違いと特色の概略を理解する 環境基準値の設定根拠を理解する。		
準備学習	最近の国内外の環境にまつわる検討課題について、その概要を予習しておくこと 中央省庁並びに地方自治体での環境行政の担当部局とその担当事務を調査しておくこと		
受講者への要望			
環境問題に対応するためには科科学技術だけでなく、法律や制度そして生活意識など、社会科学・人文科学的なアプローチが重要であることを学んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション　環境法制の歴史と意義 ２．環境法制の概要 ３．持続可能社会の構築に向けた制度的対応　Ⅰ ４．持続可能社会の構築に向けた制度的対応　Ⅱ ５．公害から環境へ ６．環境から持続可能性へ ７．フリーディスカッション（環境行政と現在の研究内容との関係について１） ８．フリーディスカッション（環境行政と現在の研究内容との関係について２） ９．環境行政法のカテゴリー 10．環境行政法の社会的機能 11．国際的な環境問題 12．環境行政法とリスクコミュニケーション 13．環境行政法と環境基準値の設定根拠 14．環境行政法と技術 15．フリーディスカッション?			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2016	授業コード	J76038001
科目名	【院】インターンシップ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	関連企業および研究機関で、生産及び開発研究を体験し、大学の研究室で学んだことが実社会でどのように生かされているかを知ることを目的とする。 研究指導教員から、各大学院生の研究テーマを勘案してインターンシップ先を選定し、必要事項を調整する。 終了後にレポートを提出させるとともに、インターンシップ先での状況を把握して、専門的な職業人になるための指導をおこなう。		
教材（テキスト）	インターンシップ先に応じて、適切で必要なものがあれば紹介する。 基本的な研究マナーを把握できるように、テキストを事前に進める。		
教材（参考文献）	参考図書として、以下のものを事前に読むことを薦める。 『アット・ザ・ベンチ』　バイオ研究完全指南　Kathy　Barker　中村敏一監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル　（ISBN　4-89592-258-8）		
教材（その他）			
評価方法	以下の評価をおこなう。 ・インターンシップのための事前学習　　(20%) ・インターンシップ先での評価　　(60%) ・インターンシップ参加後の自主学習と自己評価　(20%)		
到達目標	社会人として必要な専門的な技能を身につけ、自己の目標設定を把握できること。		
準備学習	社会的な話題や業界の現状を事前に研究しておくこと。		
受講者への要望			
多様なインターンシップ先で職場の規律を遵守できること。			
講義の順序とポイント			
1-2.　事前準備学習 3-12.　インターンシップ先に応じて、相互に事前打ち合わせを元にして、種々のプログラムを提案する。 13.　インターンシップの報告発表会 14.　業界研究と職業研究と科学リテラシー 15.　自己の人生設計とスキル			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	–	–	–

年度	2016	授業コード	J76039001
科目名	【院】食農最先端技術特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食農分野研究にあたり、最新の技術等を各専門分野を通して理解する。農業分野では施設栽培技術および緑茶栽培技術、食品分野では、農産物や食品の含有成分を定量するためやその成分を同定するための機器分析手法とその実際の使用法習得する。また、食品の機能性成分の含有量や機能性などが必須となる特定保健用食品や機能性表示食品も把握する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	機器分析の手引き 化学同人 「図解　茶生産の最新技術」　－栽培編－　社団法人静岡県茶業会議所		
教材（その他）	各項目に関連する資料をプリント等で提供する。		
評価方法	各種レポートと発表（60%） 討論などの講義への参加（40%）		
到達目標	各分野の技術情報を理解し、各自の研究分野に関わる項目はさらに深く調べ、理解し、実践し、各自に必要な研究に生かす。		
準備学習	予め、講義項目は調べておく。		
受講者への要望			
レポート・発表等を課すので、情報収集は必ずしておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．施設栽培の歴史と概要 ２．施設内の環境制御技術 ３．太陽光利用型植物工場 ４．閉鎖型植物工場 ５．施設栽培の利点と欠点および将来のあり方に関する討論 ６．茶の栽培法 ７．茶の製造法 ８．日本茶のイノベーションの歴史と嗜好性の変化 ９．茶の被覆栽培とその化学的な特徴 １０．日本茶の化学成分とおいしい淹れ方の理論 １１．食品成分分析法１ １２．食品成分分析法２ １３．特定保健用食品と機能性表示食品について １４．機能性表示食品の開発の実例 １５．食品成分の分析の実際			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J76041A01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習Ⅰではランドスケーププランニングを取り扱う。		
教材（テキスト）	「景観の生態史観－攪乱が再生する豊かな大地」森本幸裕編著		
教材（参考文献）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 日本景観生態学会誌 日本造園学会誌「ランドスケープ研究」		
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	特に設けない。状況に応じて設定する。		
準備学習	「景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地（森本編）」の興味をもったところから読み進め、１ヶ月以内に読破すること。		
受講者への要望			
文献をしっかり読んで下さい。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～ⅳを以下の順で行う。 Ⅰ エコロジー II プランニング III デザイン ⅳ マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回） ３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする）（７～１２回） ４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回） 課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。 具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	—	—	–	–

年度	2016	授業コード	J76041B01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 II ではランドスケープ・デザインを取り扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「ランドスケープ・デザイン」		
教材（その他）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 日本景観生態学会誌 日本造園学会誌「ランドスケープ研究」		
評価方法	総合的に行う。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	よいと思ったランドスケープについて写真やスケッチで記録をとるのを習慣にしてください。		

受講者への要望

しっかり勉学して下さい。

講義の順序とポイント

特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～iv を以下の順で行う。
Ⅰ エコロジー
II プランニング
III デザイン
iv マネジメント
1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（1～4回）
2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（5～6回）
3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする)（7～12回）
4）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（13～15回）

課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。
具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	—	–	—	–	–	–

年度	2016	授業コード	J76041C01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に最近の傾向を把握しておいてください。		
受講者への要望			
しっかり勉学して下さい。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～ⅳを以下の順で行う。 1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む） 2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討 3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする) 4）とりまとめ 課題については、各自の興味と能力を第一に尊重する。 エコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J76041D01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 Ⅳ ではランドスケープマネジメントを取り扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「日本景観生態学会誌」「日本造園学会・ランドスケープ研究」「日本緑化工学会誌」		
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に最近の傾向を把握しておいてください。		
受講者への要望			
調べものなどは受講生相互に助け合ってください。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～iv を以下の順で行う。 Ⅰ エコロジー II プランニング III デザイン iv マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回） ３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする）（７～１２回） ４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回） 課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。 具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J76042006
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまな課題の発見、問題設定、研究計画策定、実施、取りまとめを指導する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	適宜目標を設定する。		
準備学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に探求したいテーマについて考えておいてください。		
受講者への要望			
しっかり研究に励んで下さい。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～ⅳを以下の順で行う。 1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む） 2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討 3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする) 4）とりまとめ 課題については、各自の興味と能力を第一に尊重する。 エコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	J76043A01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	水環境保全技術の最新情報を得るには、国内外の情報を読み解くことが必要である。そこで、適当なキーワードを選んで、水環境保全技術に関する学術論文を検索し、得られた学術論文を読んで理解する技術を習得させる。最初は国内で発行されている日本語の原著論文を受講生が検索し、その中から適当な原著論文を選んで読み、内容を理解した上で、その内容を他の受講生に紹介する。原著論文を読むことで、原著論文のスタイルに慣れさせるとともに、原著論文をどのように読み解くのかを習得させる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講生の発表内容（６０％）、質疑応答内容（４０％）		
到達目標	水環境保全技術に関する国内の情報を収集する方法を習得し、その内容を読解する力を付ける		
準備学習	選んだ論文を事前に十分に読んでおくこと。		
受講者への要望			
論文の内容について、理解できない部分を教員にくり返し質問して、理解に努めること			
講義の順序とポイント			
1. 原著論文とは何か、研究とは何かの基本的な事項を講義する。 2. イネターネットなどを使用して文献検索を行って、適当な原著論文を選ぶ。 3. 学術論文を読むに当たって必要な基本的な点を講義する。 4. 受講生による発表と質疑応答（1） 5. 受講生による発表と質疑応答（2） 6. 受講生による発表と質疑応答（3） 7. 受講生による発表と質疑応答（4） 8. 受講生による発表と質疑応答（5） 9. 受講生による発表に対する総合的な講評（1） 10. 受講生による発表と質疑応答（6） 11. 受講生による発表と質疑応答（7） 12. 受講生による発表と質疑応答（8） 13. 受講生による発表と質疑応答（9） 14. 受講生による発表と質疑応答（１０） 15. 受講生による発表に対する総合的な講評（2）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76043B01
科目名	【院】水環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	水環境保全技術の最新情報を得るには、国内からの情報だけでなく、海外からの情報も読んで理解することが必要である。そこで、水環境保全技術に関する英文の情報を検索し、得られた英文の学術論文を読んで理解する技術を習得させる。まず、英語の原著論文を受講生が検索し、その中から適切なものを選んで読み、内容を理解した上で、その内容を他の受講生に紹介する。英文の原著論文を読むことで、独特のスタイルや、専門的な英単語に慣れるようにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講生の発表内容（６０％）、質疑応答内容（４０％）		
到達目標	水環境保全技術に関する英文の情報を読解する力をつける		
準備学習	選んだ英語の論文を事前に読んで、理解に努めること。		
受講者への要望			
英文を翻訳しただけでは、理解したことにはならず、その内容を把握することが論文を理解するということであり、わからないところは、教員に質問して理解に努めること。			
講義の順序とポイント			
1. 文献検索を行って、適当な英文の原著論文を選ぶ 2. 英文の原著論文を読むに当たっての基本を講義する 3. 学術論文を読むに当たって必要な基本的な点を講義する。 4. 受講生による発表と質疑応答（１） 5. 受講生による発表と質疑応答（２） 6. 受講生による発表と質疑応答（３） 7. 受講生による発表と質疑応答（４） 8. 受講生による発表と質疑応答（５） 9. 受講生による発表に対する総合的な講評（１） 10. 受講生による発表と質疑応答（６） 11. 受講生による発表と質疑応答（７） 12. 受講生による発表と質疑応答（８） 13. 受講生による発表と質疑応答（９） 14. 受講生による発表と質疑応答（１０） 15. 受講生による発表に対する総合的な講評（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76043C01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J76043D01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76044006
科目名	【院】水環境特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の事項を教える． 　受講生との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる．		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて紹介する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書．		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%）， 実験計画の策定と独創性（20%）， 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%）， 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%）， 成果の発表表現能力（10%）　などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする．		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること．		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること．			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある．			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J76045A01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	修士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する。各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。		
教材（テキスト）	研究課題に即した国際学術文献を選定する		
教材（参考文献）	必要に応じて、各自に紹介する		
教材（その他）			
評価方法	・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	修士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。		
準備学習	都市環境の中で水や緑に関する情報はメディアに取り上げられることが多いので、注意して情報を収集しておいてください。「里地里山文化論」は通読しておくこと。		

受講者への要望

社会とのつながりを軸に持てるよう視野を広く持ち、専門について知見を深めていってほしい。

講義の順序とポイント

1. 研究課題の選定
2. 文献検索法
3. 文献整理術
4. 関連分野の学術論文の理解と整理（1）
5. 研究計画と研究方法論　(1)
6. 研究手法の理解と検討　(1)
7. 関連分野の学術論文の理解と整理（2）
8. 研究計画と研究方法論　(2)
9. 研究手法の理解と検討　(2)
10. 関連分野の学術論文の理解と整理（3）
11. 研究計画と研究方法論　(3)
12. 研究手法の理解と検討　(3)
13. 関連分野の学術論文の理解と整理（4）
14. 研究計画と研究方法論　(4)
15. 研究手法の理解と検討　(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J76045B01
科目名	【院】都市自然化特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	都市及びそれを含む流域全体における水と環境分野を中心とした解析・評価手法について学ぶ。特に GIS とリモートセンシングに係る比較的高度な手法を用いることで、水系解析、土地利用分類、動植物の生息空間評価、流域診断などの基本的な手法を習得する。使用するソフトウエアは ArcGIS、TNTmips など比較的この分野で幅広く使用されているものを対象とする。都市・地域・流域などの空間的広がりのある範囲において GIS とリモートセンシングを縦横に利活用できる技術を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	図解 Ar c GIS　GIS 実践に向けてのステップアップ（川崎昭如他）古今書院 自然環境解析のためのリモートセンシング・GIS ハンドブック（長澤良太他）古今書院		
教材（その他）			
評価方法	流域解析（30%）、指標解析（30%）、生物生息空間評価（40%）		
到達目標	都市・地域空間の解析ツールとしての GIS 技術の習得		
準備学習	都市地域空間の解析すべき内容について各自で整理しておいてください。		

受講者への要望

自然環境解析に用いる情報解析技術については社会でよく取り上げられるので注意して情報を収集してください。

講義の順序とポイント

1 . ArcGIS の基本操作
2 .ArcGIS と GoogleEarth
3 .ArcGIS の ToolBox の使い方
4 .ArcGIS のエクステンションの使い方（Spatial Analyst）
5 .ArcGIS のエクステンションの使い方(3D Analyst)
6 .ArcGIS のエクステンションの使い方(その他のエクステンション)
7 .ArcGIS のエクステンション（バランスツールボックスの使い方）
8 .ArcGIS による流域解析 1
9 .ArcGIS による流域解析 2
10 .ArcGIS による指標解析 1
11 .ArcGIS による指標解析 2
12 .ArcGIS による指標解析 3
13 .ArcGIS による生物生息空間評価 1
14 .ArcGIS による生物生息空間評価 2
15 .ArcGIS による生物生息空間評価 3

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J76045C01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	地形の高低差に着眼してフィールドワークにより、地域の歴史、文化を探る方法論について学ぶ。地形や地質の形成は理学の分野であり、歴史や文化は人文社会系であり、文理連携よる手法により展開する。この手法は、NHK のテレビ番組「ブラタモリ」で広く社会に行き渡り、新しい視点による地域理解を提供してくれることが特徴となっている。本講義では、実際にテレビ番組を見ることなど、文理連携のイメージを最初に形成し、実際おフィールドワークを重ねることで学ぶ		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	フィールドワークのレポートや講義終盤の総合討論への参加により総合評価する		
到達目標	地形の高低差から隠された地域の歴史や文化などの痕跡を知る手法を理解する		
準備学習	事前にビデオや PDF 書籍などに目をとおして、各地の地域理解をしておくこと		
受講者への要望			
フィールドワークでの歩くことが基本となるので、リュック、靴、防止等、自由に動ける準備をしておくこと			
講義の順序とポイント			
1.　地形の高低差から歴史を学ぶ 2-5　亀岡、京都など近辺でのフィールドワークその 1 6-9　亀岡、京都など近辺でのフィールドワークその 2 9--12　亀岡、京都など近辺でのフィールドワークその 3 13.-15　総合討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★	－

年度	2016	授業コード	J76045D01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	都市空間における新しい環境指標及び生物指標の開発を行う。既存の環境指標及び生物指標についての整理したのち、都市空間において今後必要とされる新しい指標について考察を加える。複数の新しい指標の概念を明らかにし、これらの指標を用いて実際に複数の都市を対象とした空間評価を行う。新しい指標としては、水循環、持続可能性、エコロジカルフットプリント、地産地消、ヒートアイランド、幸せの指標など、これからの新しい都市の在り方を検討する上で重要と考えられる概念を掘り下げることとする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	環境指標　その考え方と作成手法（内藤正明他）学陽書房 環境指標の展開（内藤正明他）学陽書房 エコロジカルフットプリント（和田喜彦監訳）合同出版		
教材（その他）			
評価方法	既存の指標のレビュー（30%）、新しい指標の概念（30%）、都市環境の評価（40%）		
到達目標	新しい環境指標及び生物指標の構築		
準備学習	2 箇所以上都市で起きている特徴的なエコロジカルな活動を探し、その情報を収集し現地確認をしてショートレポートを作成しておいてください		
受講者への要望			
参考図書の 1，2 について読み込んでおいてください。			
講義の順序とポイント			
1 .環境指標と生物指標について（イントロダクション） 2 .既存の環境指標・生物指標の整理 1 3 .既存の環境指標・生物指標の整理 2 4 .既存の環境指標・生物指標の整理 3 5 .新しい環境指標の概念づくり 1 6 .新しい環境指標の概念づくり 2 7 .新しい環境指標の概念づくり 3 8 .新しい環境指標の概念づくり 4 9 .新しい環境指標の概念づくり 5 10 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 1 11 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 2 12 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 3 13 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 4 14 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 5 15 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 6			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76046006
科目名	【院】都市自然化特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	都市自然化研究室での修士論文作成のために必要となる研究スキルを磨くことと、研究テーマの絞り込みのための文献調査を中心に行う。人数も限定されることから学部までの大勢の講義形式ではなく、学生と教員とで適宜定期的にとれる時間をみて行うこととする。研究スキルとしては、論文の書き方、英語論文の読み方、現場での調査手法の取得、GIS やリモセンデータの使い方、空間的な解析手法などについて学生が主体として行い、教員が適宜アドバイスを取る形とする。研究テーマの絞り込みに関しては、幅広い文献を継続的に読むことと、現地での調査を繰り返すことによって進めていくものとする。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した学術文献を選定する		
教材（参考文献）	必要に応じて、紹介する		
教材（その他）			
評価方法	・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること		
準備学習	これまでの研究・学習を整理しておくこと。		
受講者への要望			
幅広い情報収集と進化させる研究を進展させるよう努めてください。			
講義の順序とポイント			
研究の進展に基づいて適宜指導する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J76047A01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生物の行動、生態を通じて、自然現象を理解する基本的な理論、手法などを豊富な研究例から学び、フィールドサイエンスとしての行動学、生態学の研究を遂行する基礎的な素養を修得する		
教材（テキスト）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（参考文献）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（その他）	適宜、資料を配布、紹介する		
評価方法	講義中の演習課題、レポートなどを勘案して評価する		
到達目標	生物の行動や生態について、観測事実を論理的に理解する視点を涵養し、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力の修得		
準備学習	配布資料を精読した上で、講義に臨むこと。また、日常から、自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般、生物一般を自学自習することが望ましい			
講義の順序とポイント			
１）野外調査の基礎１ ２）野外調査の基礎２ ３）野外調査の基礎３ ４）野外調査の基礎４ ５）野外調査の基礎５ ６）野外研究調査事例１ ７）野外研究調査事例２ ８）野外研究調査事例３ ９）野外研究調査事例４ １０）野外研究調査事例５ １１）野外実験方法１ １２）野外実験方法２ １３）野外実験方法３ １４）野外実験方法４ １５）野外実験方法５			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J76047B01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から研究する。この演習では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて議論する。		
教材（テキスト）	宇野　良清　他　訳　『キッテル　固体物理学入門』　丸善（７，０００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	固体物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般，物理学一般，量子物理学，固体物理学を自学自習することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．結晶構造総論（１） ２．結晶構造総論（２） ３．結晶構造総論（３） ４．Ｘ線回折総論（１） ５．Ｘ線回折総論（２） ６．Ｘ線回折総論（３） ７．結晶解析総論（１） ８．結晶解析総論（２） ９．結晶解析総論（３） 10．分子結合総論（１） 11．分子結合総論（２） 12．分子結合総論（３） 13．結晶結合総論（１） 14．結晶結合総論（２） 15．結晶結合総論（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J76047C01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生物の行動、生態を通じて、自然現象を理解する基本的な理論、手法などを豊富な研究例から学び、フィールドサイエンスとしての行動学、生態学の研究を遂行する基礎的な素養を修得する		
教材（テキスト）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（参考文献）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（その他）	適宜、資料を配布、紹介する		
評価方法	講義中の演習課題、レポートなどを勘案して評価する		
到達目標	生物の行動や生態について、観測事実を論理的に理解する視点を涵養し、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力の修得		
準備学習	配布資料を精読した上で、講義に臨むこと。また、日常から、自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般、生物一般を自学自習することが望ましい			
講義の順序とポイント			
１）統計解析方法１ ２）統計解析方法２ ３）統計解析方法３ ４）統計解析方法４ ５）統計解析方法５ ６）データの可視化１ ７）データの可視化２ ８）データの可視化３ ９）データの可視化４ １０）データの可視化５ １１）プレゼンテーションの技法１ １２）プレゼンテーションの技法２ １３）プレゼンテーションの技法３ １４）プレゼンテーションの技法４ １５）プレゼンテーションの技法５			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J76047D01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から研究する。この演習では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて議論する。		
教材（テキスト）	宇野　良清　他　訳　『キッテル　固体物理学入門』　丸善（７，０００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	固体物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般，物理学一般，量子物理学，固体物理学を自学自習することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．エネルギーバンド総論（１） ２．エネルギーバンド総論（２） ３．エネルギーバンド総論（３） ４．共有結晶総論（１） ５．共有結晶総論（２） ６．共有結晶総論（３） ７．金属結晶総論（１） ８．金属結晶総論（２） ９．金属結晶総論（３） 10．半導体総論（１） 11．半導体総論（２） 12．半導体総論（３） 13．光学物性総論（１） 14．光学物性総論（２） 15．光学物性総論（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J76048006
科目名	【院】環境教育特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	人と多様な生きものが共生できる環境（バイオ環境）の実現のためには、この課題の本質を見極め、自分自身の問題として捉え、自分が実現可能な身近な課題から取り組んでいくことが重要です。このプロセスに関わる基礎研究、問題解決に向けた取り組み、啓発活動など、環境教育に必要な要素を俯瞰しつつ、問題の本質的理解に取り組みます。		
教材（テキスト）	適宜紹介する		
教材（参考文献）	意義紹介する		
教材（その他）	各自の研究課題に関連する論文など		
評価方法	研究に対する取り組み、研究成果などを総合的して判断する。		
到達目標	各自の研究課題に対して適宜目標を設定する。		
準備学習	必要に応じて指示する。		
受講者への要望			
各自の設定した課題に従って得られた観測事実に基づき、その本質を捉えて論理的に思考する訓練を積んでください。			
講義の順序とポイント			
1）研究課題の設定 2）研究課題の解決に向けた調査・研究計画策定 3）研究課題の解決に向けた調査・研究の実施 4）とりまとめ 研究課題は、環境教育に関連する環境に関する基礎調査、環境問題を解決するための取り組み、環境問題に関する啓発活動など、各自の関心に従って、設定する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76049A01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	里山の環境について、生理・生態的側面も含めて、いくつかの文献を精読・理解して、研究の背景、研究方法、結果と考察などについて報告する。さらに、その内容についての議論を行い、研究論文の評価能力を涵養する。また、課題を課し、それについて検討し発表する。		
教材（テキスト）	適宜資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中で紹介する。		
教材（その他）	基本的な文献資料を配付する。		
評価方法	論文などの読解力（５０％）、フィールドでの観察力と考察力（２０％）、発表内容の構想力（３０％）で評価する。		
到達目標	里山の生態系と生業のかかわりを理解する。		
準備学習	日頃から里山保全や環境についての論文に目を通しておく。		
受講者への要望			
植物を見る眼を十分に養うことを望む。			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）文献輪読〔１〕（学生の発表と質疑） 3）文献輪読〔２〕（学生の発表と質疑） 4）文献輪読〔３〕（学生の発表と質疑） 5）〔１〕、〔２〕、〔３〕のまとめの討論および補則解説 6）文献輪読〔４〕（学生の発表と質疑） 7）文献輪読〔５〕（学生の発表と質疑） 8）文献輪読〔６〕（学生の発表と質疑） 9）〔４〕、〔５〕、〔６〕のまとめの討論および補則解説 10）フィールドでの実習討論〔１〕 11）フィールドでの実習討論〔２〕 12）課題についての発表〔１〕 13）課題についての発表〔２〕 14）課題についての発表〔３〕 15）各課題の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76049B01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	里山や農・森林環境に関係する文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用するための能力を涵養する。		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語文献を使用。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０％）、内容の理解度（７０％）、発表の取りまとめや表現の適切さ（１０％）の割合で評価する。		
到達目標	文献の読解力の育成		
準備学習	英語文献に関連した日本語の本を読んでおくこと。		
受講者への要望			
生産を基本とした環境デザインの構築を理解した新しい考え方を展開してほしい。			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）英語の基礎的な論文を読解する（1） 3）英語の基礎的な論文を読解する（2） 4）英語の基礎的な論文を読解する（3） 5）英語の基礎的な論文を読解する（4） 6）英語の基礎的な論文を読解する（5） 7）（1）～（5）の内容などについての討論 8）フィールドでの実証・実体験（1） 9）英語の基礎的な論文を読解する（6） 10）英語の基礎的な論文を読解する（7） 11）英語の基礎的な論文を読解する（8） 12）英語の基礎的な論文を読解する（9） 13）（6）～（9）の内容などについての討論 14）フィールドでの実証・実体験（2） 15）フィールドでの各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76049C01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	里山や農・森林環境に関する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として整理して問題点解決に活用するための能力を涵養する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	教員と相談して選んだ英文文献		
教材（その他）	特になし		
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０%）．内容の理解度（７０%）．発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する。		
到達目標	論文の読み方と発表のスキルを修得する。		
準備学習	日々興味のある論文に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
関連論文を事前によく読んでおくこと。			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）英語論文を読解する（1） 3）英語論文を読解する（2） 4）英語論文を読解する（3） 5)英語論文を読解する（4） 6）英語論文を読解する（5） 7）（1）～（5）内容をもとに討論 8）フィールドでの実証・実体験（1） 9）英語論文を読解する（6） 10）英語論文を読解する（7） 11)英語論文を読解する（8） 12)英語論文を読解する（9） 13）（6）～（9）の内容をもとに討論 14）フィールドでの実証・実体験（2） 15）フィールドでの各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76049D01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでに学んだ里山環境デザイン特別演習を基本として、各受講生の研究テーマに関連した課題に関する現状認識の能力に加えて、農・森林環境デザインに関わる論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語論文の文献		
教材（参考文献）	その都度与える。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	第６回までにつて、英語文献の選択の適切さ（１０%)、内容の理解度（４０%)、発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する。第７回以降は、作成論文の内容の適切さ（３０%)、発表方法（１０%）で評価する。		
到達目標	里山環境に関する論文の読破と論文の書き方を修得する。		
準備学習	本演習に関する和文の論文をできるだけ多く読んでおくこと。		
受講者への要望			
自然の観察を日々行っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1）担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。 2）関連英語論文を解読し、発表と質疑（１） 3）関連英語論文を解読し、発表と質疑（２） 4）関連英語論文を解読し、発表と質疑（３） 5）関連英語論文を解読し、発表と質疑（４） 6）関連英語論文を解読し、発表と質疑（５） 7）担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘 8）担当教員による論文作成のスキルを解説する。 9）受講生が作成した論文に対する質疑（１） 10）受講生が作成した論文に対する質疑 11）受講生が作成した論文に対する質疑 12）受講生が作成した論文に対する質疑 13）受講生が作成した論文に対する質疑 14）各人の論文内容の概要発表。 15）担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J76050006
科目名	【院】里山環境特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義． 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる．		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書．		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%）， 実験計画の策定と独創性（20%）， 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%）， 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%）， 成果の発表表現能力（10%）　などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする．		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること．		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること．			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある．			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J76051A01
科目名	【院】農業生産学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	生産と環境について，生理・生態的側面も含めて，いくつかの文献を精読・理解して研究の背景，研究方法，結果と考察などについて報告する．さらに，その内容についての議論を行い研究論文の評価能力を涵養する．また，課題を課しそれについて検討し発表する．		
教材（テキスト）	適宜資料を配付する．		
教材（参考文献）	講義の中で紹介する．		
教材（その他）	基本的な文献資料を配付する．		
評価方法	論文などの読解力（５０％），フィールドや実験室での観察力と考察力（２０％），発表内容の構想力（３０％）で評価する．		
到達目標	食料生産技術の基礎を理解する．		
準備学習	日頃から食料生産についての論文に目を通しておく．		
受講者への要望			
常日頃から植物を見る目を養うよう心がけること．			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）文献輪読〔１〕（学生の発表と質疑） 3）文献輪読〔２〕（学生の発表と質疑） 4）文献輪読〔３〕（学生の発表と質疑） 5）〔１〕、〔２〕、〔３〕のまとめの討論および補則解説 6）文献輪読〔４〕（学生の発表と質疑） 7）文献輪読〔５〕（学生の発表と質疑） 8）文献輪読〔６〕（学生の発表と質疑） 9）〔４〕、〔５〕、〔６〕のまとめの討論および補則解説 10）フィールドでの実習討論〔１〕 11）フィールドでの実習討論〔２〕 12）課題についての発表〔１〕 13）課題についての発表〔２〕 14）課題についての発表〔３〕 15）各課題の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76051B01
科目名	【院】農業生産学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	農業生産に関係する文献・原著論文等を的確に収集し，整理してまとまった情報として理解し，これを問題点解決に活用するための能力を涵養する.		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語文献を使用。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０％），内容の理解度（７０％），発表の取りまとめや表現の適切さ（１０％）の割合で評価する.		
到達目標	文献の読解力の育成.		
準備学習	英語文献に関連した日本語の本を読んでおくこと.		
受講者への要望			
文献から得られる新しい知見を元にして，農業生産に関わる新しい考え方を展開してほしい.			
講義の順序とポイント			
1) 概要と意図説明 2) 英語の基礎的な論文を読解する（1） 3) 英語の基礎的な論文を読解する（2） 4) 英語の基礎的な論文を読解する（3） 5) 英語の基礎的な論文を読解する（4） 6) 英語の基礎的な論文を読解する（5） 7) （1） ～ （5） の内容などについての討論 8) 圃場･実験室での実証・実体験（1） 9) 英語の基礎的な論文を読解する（6） 10) 英語の基礎的な論文を読解する（7） 11) 英語の基礎的な論文を読解する（8） 12) 英語の基礎的な論文を読解する（9） 13) （6）～（9）の内容などについての討論 14) 圃場･実験室での実証・実体験（2） 15) 圃場･実験室での各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J76051C01
科目名	【院】農業生産学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	農業生産と環境に関する文献・原著論文の読解力に加えて，関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し，整理してまとまった情報として整理して問題点解決に活用するための能力を涵養する.		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	教員と相談して選んだ英文文献.		
教材（その他）	特になし		
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０%）. 内容の理解度（７０%）. 発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する.		
到達目標	論文の読み方と発表のスキルを修得する.		
準備学習	関連論文を事前によく読んでおくこと.		
受講者への要望			
関連論文を事前によく読んでおくこと.			
講義の順序とポイント			
1) 概要と意図説明 2) 英語論文を読解する（1） 3) 英語論文を読解する（2） 4) 英語論文を読解する（3） 5)英語論文を読解する（4） 6) 英語論文を読解する（5） 7) （1）～（5）内容をもとに討論 8) 圃場･実験室での実証・実体験（1） 9) 英語論文を読解する（6） 10) 英語論文を読解する（7） 11)英語論文を読解する（8） 12)英語論文を読解する（9） 13) （6）～（9）の内容をもとに討論 14) 圃場･実験室での実証・実体験（2） 15) 圃場･実験室での各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76051D01
科目名	【院】農業生産学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	これまでに学んだ農業生産学特別演習を基本として，各受講生の研究テーマに関連した課題に関する現状認識の能力に加えて，農業生産に関わる論文作成のためのスキルを養成する.		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語論文の文献.		
教材（参考文献）	その都度配布する.		
教材（その他）	特になし		
評価方法	第６回までにつては英語文献の選択の適切さ（１０%），内容の理解度（４０%），発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する．第７回以降は作成論文の内容の適切さ（３０%），発表方法（１０%）で評価する.		
到達目標	農業生産に関する論文の読破と論文の書き方を修得する.		
準備学習	本演習に関する和文の論文をできるだけ多く読んでおくこと.		
受講者への要望			
自然における植物の観察を日々行っておくこと.			
講義の順序とポイント			
）担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する. 2）関連英語論文を解読し，発表と質疑（１） 3）関連英語論文を解読し，発表と質疑（２） 4）関連英語論文を解読し，発表と質疑（３） 5）関連英語論文を解読し，発表と質疑（４） 6）関連英語論文を解読し，発表と質疑（５） 7）担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘 8）担当教員による論文作成のスキルを解説する. 9）受講生が作成した論文に対する質疑（１） 10）受講生が作成した論文に対する質疑 11）受講生が作成した論文に対する質疑 12）受講生が作成した論文に対する質疑 13）受講生が作成した論文に対する質疑 14）各人の論文内容の概要発表。 15）担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J76052006
科目名	【院】農業生産学特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	研究論文の構成力・書き方について論述し，論文を作成する.		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	適宜資料を配付し，教材などを指示する.		
教材（その他）	基本的な文献・資料を配付する.		
評価方法	論文の完成度・発表力について評価する.		
到達目標	論文の完成.		
準備学習	これまでの学習課題のまとめ.		
受講者への要望			
常に新しい発見があるように努める.			
講義の順序とポイント			
1）はじめに 2）論文作成に向けての課題についての検討 3）論文作成に向けての課題についての検討 4）論文の構成について 5）論文の構成について 6）研究論文作成に向けての実験・実習 7）研究論文作成に向けての実験・実習 8）研究論文作成に向けての実験・実習 9）研究論文作成に向けての実験・実習 10）研究論文作成に向けての実験・実習 11）研究論文作成に向けての実験・実習 12）研究論文作成に向けての実験・実習 13）研究論文作成に向けての実験・実習 14）論文のまとめについての検討 15）完成論文についての検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76053A01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、研究者の倫理や研究に関する倫理について学び、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	講義資料あるいは受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%）、（２）研究目的の理解度（20%）、（３）研究手法の理解度（20%）、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%）、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	研究者や研究に対する倫理について理解を深め、次いで農地環境に対する技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 研究者の倫理や研究に対する倫理について
2. 担当教員より文献の読み方（１）
3. 担当教員より文献の読み方（２）
4. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
5. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
6. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
7. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
8. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
9. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
10. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
11. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
12. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
13. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
14. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
15. 受講生による演習に関する意見発表と改善点の提案

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J76053B01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。また農地環境に関連する事業所やプロジェクト先を訪問・見学し、現場での研究者や技術者との意見交換を行う。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%)、（２）研究目的の理解度（20%)、（３）研究手法の理解度（20%)、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%)、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	農地環境に関連した分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。またこの分野の研究や技術の現況の一端を理解する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。事業所やプロジェクト訪問は、事前にその事業所やプロジェクト内容を調べておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 農地環境分野の特別演習Ⅰの習熟度評価
2. 文献の検索、収集、整理法および演習
3. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
4. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
5. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
6. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
7. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
8. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
9. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
10. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
11. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
12. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
13. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
14. 農地環境に関連する事業所やプロジェクトを訪問・見学・意見交換（適宜）
15. 農地環境に関連する事業所やプロジェクトを訪問・見学・意見交換（適宜）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J76053C01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、農地環境特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げ、パワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講者が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%)、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（３）科学的・技術的寒天からの現状の把握度（30%)、（４）質疑への参加度（20%）		
到達目標	農地環境及び関連する分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うため、原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力、取りまとめて発表する能力などを修得し、あわせて問題点解決に活用する能力も修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（１）
2. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（２）
3. 受講生の発表と質疑（１）
4. 受講生の発表と質疑（２）
5. 受講生の発表と質疑（３）
6. 受講生の発表と質疑（４）
7. 受講生の発表と質疑（５）
8. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（１）
9. 受講生の発表と質疑（６）
10. 受講生の発表と質疑（７）
11. 受講生の発表と質疑（８）
12. 受講生の発表と質疑（９）
13. 受講生の発表と質疑（１０）
14. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（２）
15. まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76053D01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げる。　またパワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%)、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（３）論文作成および発表能力（50%）		
到達目標	ある分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生 1～２名を割り当てる。前半では、当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに発表資料を作成して発表し、参加者を含めて質疑応答を行う。このための準備を常に行っておくこと。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。
2. 受講生の発表と質疑（１）
3. 受講生の発表と質疑（２）
4. 受講生の発表と質疑（３）
5. 受講生の発表と質疑（４）
6. 受講生の発表と質疑（５）
7. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8. 担当教員による論文作成のスキルの解説
9. 受講生が作成した論文に対する質疑（１）
10. 受講生が作成した論文に対する質疑（２）
11. 受講生が作成した論文に対する質疑（３）
12. 受講生が作成した論文に対する質疑（４）
13. 受講生が作成した論文に対する質疑（５）
14. 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘
15. まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76054006
科目名	【院】農地環境特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	研究テーマの設定、研究テーマの背景認識、実験計画の設定、実験の実施、実験結果の解析・取りまとめ、考察、論文作成などについての必要な能力、すなわち研究を自立的に実施できる能力を涵養する。		
教材（テキスト）	適宜、原著論文、実験マニュアル、機器取扱い書などを提示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	研究立案、実施、取りまとめ、発表・論文作成などの能力の修得状況から評価する。		
到達目標	自立して技術開発あるいは研究を行える能力の修得を目標とする。		
準備学習	日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他の研究発表などを聞くこと。		
受講者への要望			
①日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他者の研究発表などを聞き、自分の研究課題実施に役立てること。 ②幅広く科学的思考能力の向上に努めること。			
講義の順序とポイント			
修士論文研究の進展と関連させながら、研究テーマの設定、研究テーマの背景や意義の認識の深化、実験計画の設定や実験方法の検討、実験の実施、結果の解析・取りまとめ、考察、取りまとめ資料の作成・論文作成について議論あるいは指導する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J76055A01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要があり、それには、様々な文献や原著論文に対する高度な読解力が必要になる。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須の要件である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 ２）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学に関連する文献の読解力を強化し、科学的な問題解決力を養成する。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
１） 担当教員による文献の読み方についての講述（１） ２） 担当教員による文献の読み方についての講述（２） ３） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献１） ４） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献２） ５） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献３） ６） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献４） ７） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献５） ８） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献１） ９） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献２） １０） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献３） １１） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献１） １２） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献２） １３） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献３） １４） 受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献１） １５） 受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76055B01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要があり、それには、様々な文献や原著論文に対する高度な読解力が必要になる。原著論文には一定の記述様式があり、そのことに精通することが、論文の内容を理解する上で必須の要件となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 ２）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献・原著論文の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学特別演習Ｉで修得した内容を基盤として、発酵醸造学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を身につける。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
１）　担当教員による発酵醸造学特別演習Ｉの習熟度評価 ２）　担当教員による文献の収集・整理についての講述 ３）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文１） ４）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文２） ５）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文３） ６）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文１） ７）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文２） ８）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文３） ９）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文４） １０）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文１） １１）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文２） １２）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文３） １３）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文４） １４）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文５） １５）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76055C01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状と問題点を、第三者が理解できるようにまとめ上げる能力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 2）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献・原著論文を受講生がまとめた資料（各回ごとに配布する）		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、各問題の現状認識と技術の将来予測をするための能力を身につける。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。さらに発表のための資料を作成し、その内容を紹介する。その他の受講生は総説の学術的内容に関する質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（1）
2）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（2）
3）　受講生の発表と質疑（1）
4）　受講生の発表と質疑（2）
5）　受講生の発表と質疑（3）
6）　受講生の発表と質疑（4）
7）　受講生の発表と質疑（5）
8）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9）　受講生の発表と質疑（6）
１０）　受講生の発表と質疑（7）
１１）　受講生の発表と質疑（8）
１２）　受講生の発表と質疑（9）
１３）　受講生の発表と質疑（１０）
１４）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）
１５）　まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76055D01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状を認識する能力と、発酵醸造学領域における論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 ２）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	受講生が作成したレジュメなど。		
評価方法	選択した各文献・原著論文と執筆した論文について、次の点で評価する。 ・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	査読誌に投稿可能な様式で論文を執筆する力を身につける。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
前半は発酵醸造学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は受講生が作成した論文をもとに、質疑応答を行う。			
講義の順序とポイント			
１）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述 ２）　受講生の発表と質疑（１） ３）　受講生の発表と質疑（２） ４）　受講生の発表と質疑（３） ５）　受講生の発表と質疑（４） ６）　受講生の発表と質疑（５） ７）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 ８）　担当教員による論文作成のスキルの解説 ９）　受講生が作成した論文に対する質疑（１） １０）　受講生が作成した論文に対する質疑（２） １１）　受講生が作成した論文に対する質疑（３） １２）　受講生が作成した論文に対する質疑（４） １３）　受講生が作成した論文に対する質疑（５） １４）　担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 １５）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76056006
科目名	【院】発酵醸造学特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	発酵醸造学領域における学術研究を通して、その専門知識と技術を高いレベルで修得する。発酵醸造物の生産プロセスの開発と改善、そこで微生物の果たす役割の解明、発酵醸造物の付加価値向上に資する科学的知見の集積といった課題に関して研究開発を行い、その成果を修士論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 2）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	学術研究と修士論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・修士論文の論理性（25%） ・修士論文の学問的到達度（25%）		
到達目標	1）発酵醸造学分野の専門知識と技術の高いレベルでの修得。 2）発酵醸造分野の学問的意義のある修士論文の完成。		
準備学習	「発酵醸造学会誌」などの関連学会誌を精読する。		
受講者への要望			
・発酵醸造の技術開発をテーマとした学術研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の助言に従って研究を展開し、その成果を修士論文としてまとめる。 ・発酵醸造をテーマとした学術研究への 2 年間の徹底的な没頭を求める。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J76057A01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品科学および食品加工学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）	食品科学あるいは食品加工学に関する文献（各回ごとに配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容を迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的・技術的観点から把握できる。明確で的確なプレゼンテーションができる。		
準備学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員より文献の検索法について講述する。
２．担当教員より文献の読み方について講述する（１）。
３．担当教員より文献の読み方について講述する（２）。
４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献１）
５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献２）
６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献３）
７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献１）
８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献２）
９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献３）
１０．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献１）
１１．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献２）
１２．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献３）
１３．受講生の発表と質疑（食品物性評価に関する文献１）
１４．受講生の発表と質疑（食品物性評価に関する文献２）
１５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する文献１）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J76057B01
科目名	【院】食品加工学特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品科学および食品加工学で修得した内容を基盤として、食品科学および食品加工学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）	食品科学あるいは食品加工学に関する原著論文（各回ごとに配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容をさらに迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的･技術的観点から把握できる。また、その論文の結果から新しい仮説や予測ができる。さらに明確で的確なプレゼンテーションができる。		
準備学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員による食品加工学特別演習Ｉの習熟度評価。
２．担当教員より文献の収集・整理について講述する（１）。
３．担当教員より文献の収集・整理について講述する（２）。
４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
１０．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文１）
１１．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文２）
１２．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文３）
１３．受講生の発表と質疑（食品の物性に関する原著論文１）
１４．受講生の発表と質疑（食品の物性に関する原著論文２）
１５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J76057C01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品加工学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献･原著論文の読解力を基盤として、研究テーマに関する文献･原著論文からその分野の問題の現状認識と技術の将来予測を議論し、それらの能力を養成する。		
教材（テキスト）	取りまとめられた文献・原著論文をまとめた冊子（各回ごとに配布）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成する。		

受講者への要望

受講生に複数時間の講義時間を割り当てる。受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料も作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．文献・原著論文の収集・整理法の講述
２．受講生の発表と質疑（１）
３．受講生の発表と質疑（２）
４．受講生の発表と質疑（３）
５．受講生の発表と質疑（４）
６．受講生の発表と質疑（５）
７．受講生の発表と質疑（６）
８．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（１）
９．受講生の発表と質疑（７）
１０．受講生の発表と質疑（８）
１１．受講生の発表と質疑（９）
１２．受講生の発表と質疑（１０）
１３．受講生の発表と質疑（１１）
１４．受講生の発表と質疑（１２）
１５．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J76057D01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品加工学特別演習Ⅲと同様に、各問題の現状認識と技術の将来を予測するための能力を養成するとともに、論文作成の能力を養成する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなど。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得するとともに論文作成のスキルを習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成するとともに、論文作成のためのデータを整理する。		
受講者への要望			
前半は食品加工学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。			
講義の順序とポイント			
１．受講生の発表と質疑（１） ２．受講生の発表と質疑（２） ３．受講生の発表と質疑（３） ４．受講生の発表と質疑（４） ５．受講生の発表と質疑（５） ６．受講生の発表と質疑（６） ７．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 ８．論文作成のスキルを解説 ９．受講生が作成した論文に対する質疑（１） １０．受講生が作成した論文に対する質疑（２） １１．受講生が作成した論文に対する質疑（３） １２．受講生が作成した論文に対する質疑（４） １３．受講生が作成した論文に対する質疑（５） １４．受講生が作成した論文に対する質疑（６） １５．受講生の作成論文の評価と問題点の指摘			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J76058006
科目名	【院】食品加工学特別研究（2016-2017）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	野菜・作物の食品加工および加工物の応用あるいは食品加工に伴う食品成分の化学的変化や食品の物性に関する研究を行い、食品科学の分野で新しい知見を得る。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	修士論文および口頭発表で評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに食品科学分野で何らかの新しい知見を得る。場合によっては、学会などで発表する機会を持つ。		
準備学習	研究を推進するにあたって、関連文献を収集する。それらを読んで、目標設定や実験計画を立案する。		
受講者への要望			
原著論文の読み込みは必須であり、科学英語の読解力を向上させる。常に何をすべきかを考えて生活する（考動する）ことを心掛ける。			
講義の順序とポイント			
1．テーマの企画・設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．実験計画の立案 4．テーマの取り組み 5．修士論文の作成 6．研究の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76059001
科目名	【院】分子生命科学特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	本講義では、化学生態学および天然物化学分野と分子生物学分野から講義を行う。化学生態学分野からは、昆虫類を対象とした最近の研究の進歩を紹介する。具体的には、近年著しく進歩した機器分析手法の解説やそれらの進歩により可能となった少量の材料による実験法、それに伴う微量天然物の取扱い手法について、生物有機化学研究室に蓄積されたダニ類のフェロモン、ガ類や甲虫類のフェロモンや行動科学の研究成果を中心にした知見を事例に紹介する。分子生物学分野からは、最新の生命科学の発見を理解できる素養を身につけるため、まず、細胞の内外からの多様なシグナル伝達因子とその作用経路について、聴いて学び、読んで学び、さらに説明するという実践的なスタイルで理解度を深め、疾患関連タンパク質の機能解析やプロテオーム解析を理解し、創薬や細胞イメージング・ダイナミクス研究の現状と展望についての理解を深める。これによって現行技術を理解し、それを基にして関連分野の技術革新のための素養を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	各項目に関連する資料をパワーポイントやプリントなどで提供する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各項目に対してレポート提出を課し、次の 3 項目の理解度および習熟度で評価する。 ・化学生態学および分子生物学の応用と社会的基盤（30%） ・各知見・手法・技術の有機化学および分子生物学的基盤（40%） ・関連課題の調査と整理（30%）		
到達目標	生物有機化学および分子生物学の観点から生命科学全体について、とりわけ最新の知見を中心に種々の現象を理解し、有機化学的および分子生物学的基盤に基づき、説明できる学問基盤を身につける。		
準備学習	事前に配布する参考文献や資料の概要を把握しておく。		

受講者への要望

上記の評価基準に照らして、各項目のレポートを作成し、期限までに提出すること。

講義の順序とポイント

1. コガネムシ類のフェロモンと機能
2. カミキリムシフェロモンと植物との関わり
3. ガ類の性フェロモンとその利用
4. 土壌動物のフェロモンの化学
5. 土壌動物のフェロモンの有機合成
6. 土壌動物のフェロモンの生合成
7. 生理活性物質の構造と物性
8. 生理活性物質の標的タンパク質に対する作用
9. 標的タンパク質の同定

細胞の内外からの多様なシグナル伝達因子とその作用経路について

10. ”聴いて，学ぶ”スタイルで，講演会や学会の発表を理解する.
11. 事前に”読んで，調べて学ぶ”スタイルで，最新の文献などの探求をおこなう.
12. 各自に与えられた課題を”説明する”スタイルで，各 自の理解度や議論のスタイルを深める.

13. 疾患関連タンパク質の機能解析：神経変性疾患、がんなどに関連するタンパク質
14. プロテオーム解析の基本とその応用
15. 構造生物学とケミカルバイオロジー、創薬の現状と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	-

年度	2016	授業コード	J76060001
科目名	【院】生物機能開発特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	微生物を用いる産業技術、すなわち微生物バイオテクノロジーは、伝統的な食品製造技術を基盤として発展し、過去 100 年の間に化学工業、環境改善技術、医薬品製造などへとその領域を拡大してきた。今後は低炭素社会を支える中心的技術に発展すると考えられているが、この分野の日本の技術レベルは世界の最先端にあり、人類社会への貢献が強く期待される。本講義では、伝統的な醸造工業の技術基盤、化成品製造における微生物酵素の活用、抗生物質等の医薬品製造、汚染環境の改善技術等に関連する具体例を示すことによって現行技術を理解し、それを基にして技術革新のための素養を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	各項目に関連する資料をプリント等で提供する。		
評価方法	各項目に対してレポートを課し、以下の 3 点の理解度および習熟度に基づいて評価する。 ・微生物産業の社会的基盤（30%） ・各技術の基盤となる微生物学および生化学的学問基盤（40%） ・各技術開発要素解析（30%）		
到達目標	微生物を用いる食品製造、物質生産、環境改善、医薬品製造等に関する技術開発の学問基盤に習熟する。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
上記の評価基準に照らして各項目のレポートを作成し、期限までに提出する。			
講義の順序とポイント			
1）　序論 2）　伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類１） 3）　伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類２） 4）　伝統的な醸造工業の技術基盤（食酢、その他） 5）　化成品製造における微生物酵素の活用（微生物酵素の特徴） 6）　化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物１） 7）　化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物２） 8）　抗生物質等の医薬品製造（抗生物質１） 9）　抗生物質等の医薬品製造（抗生物質２） １０）　抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤１） １１）　抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤２） １２）　環境改善技術（廃水処理技術の微生物基盤） １３）　環境改善技術（微生物を用いる環境改善技術） １４）　環境改善技術（酵素を用いる環境改善技術） １５）　エネルギー生産と微生物			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J76061001
科目名	【院】環境再生特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	地球環境問題の深刻化を背景とした様々な環境課題への対応のありかたについて講義する。個々の現場や個別の技術のみならず、全体像の把握や新たな提案とその無理のない進め方、つまり環境に関する科学、技術、デザイン、マネジメントの観点から環境再生のありかたについて５人の専門家が担当するオムニバス講義である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	森本幸裕編著『 景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社 金川貴博著『ありがとう、微生物たち』東洋書店		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等に配慮しつつ、５つのテーマごとに評価し、総合する。		
到達目標	時間的かつ空間的に階層的なランドスケープという見方を身につける。 微生物集団の力を環境の浄化に有効に利用するための基本的な考え方を身に付ける。 環境情報の地図化という手法を理解する。 水圏における環境問題に関してグローバル・ローカルな視野を身につける。		
準備学習	関連分野、情報処理に関する基礎的能力の向上にこころがけてください。 また、環境問題とその対応に関するマスコミ報道などにはこまめに目を通すとともに、これからの対応のありかたを自分で考える習慣を身につけてください。		
受講者への要望			
自分の専門とする領域にとらわれずに、さまざまな手法や課題に取り組んでください。			
講義の順序とポイント			
１．京都のランドスケープ：その重層的構造（森本） ２．ランドスケープデザインが開いた世界（森本） ３．これからのランドスケープデザイン（森本） ４．環境情報を集める（丹羽） ５．環境情報を分析・評価し地図化する①（丹羽） ６．環境情報を分析・評価し地図化する②（丹羽） ７．微生物集団を利用した環境関連技術の概要（金川） ８．DNA に着目した微生物集団解析方法（金川） ９．微生物集団の有効利用方法（金川） １０．私たちの暮らしに身近な生物の不思議について学ぶ（原） １１．私たちの暮らしに身近な水の不思議について学ぶ（原） １２．私たちの暮らしに身近な歩く道の多様性について学ぶ（原） １３．水圏における環境課題（高澤） １４．日本沿岸域の取り組み（高澤） １５．極域の環境学（高澤） （※担当者が適宜変更することがある）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	—	—	–	–	–	–

年度	2016	授業コード	J76062001
科目名	【院】生物・環境特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	環境について議論するための礎となる地球科学と生態学の両方の視点からバイオ環境の実現へのアプローチを探る。		
教材（テキスト）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（参考文献）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（その他）	適宜、資料を配布、紹介する		
評価方法	講義中の演習課題、レポートなどを勘案して評価する		
到達目標	研究課題となる環境問題に直面した時に、地球科学的な発想と生態学的な発想の二つの視点から、事象を理解することを修得すること		
準備学習	配布資料などを精読した上で、講義に臨むこと		
受講者への要望			
数学一般、物理一般、地球科学一般、生物学一般を自学自習することが望ましい			
講義の順序とポイント			
1）地球科学から見た環境へのアプローチ１ 2）地球科学から見た環境へのアプローチ２ 3）地球科学から見た環境へのアプローチ３ 4）地球科学から見た環境へのアプローチ４ 5）地球科学から見た環境へのアプローチ５ 6）生態学から見た環境へのアプローチ１ 7）生態学から見た環境へのアプローチ２ 8）生態学から見た環境へのアプローチ３ 9）土壌と植生から見た環境１ １０）土壌と植生から見た環境２ １１）土壌と植生から見た環境３ １２）環境に暮らす人１ １３）環境に暮らす人２ １４）環境に暮らす人３ １５）環境に暮らす人４			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J76063001
科目名	【院】食資源特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	人間が生きていくのに不可欠な物が食資源である．本講義においては植物由来の食資源を中心に，生産に関わる様々な土壌条件，環境要因，社会的要因について講じる．また，より優良な食資源を得るための園芸作物の育種についても述べる．さらに，食資源としての動物を含めた野生生物の利用についても講じる．		
教材（テキスト）	プリントで授業時に配布する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	5 人の担当教員がそれぞれ課すレポートによって評価する．		
到達目標	食資源のあり方について，多面的に考えることができるための知識を身につける．		
準備学習	本講義は，今まで学んできた里山，土壌，栽培，育種などに関する基礎的知識の発展型として位置づけている．これらの知識をあらかじめ整理して講義に臨んでほしい．		
受講者への要望			
日常生活においても食のあり方について考えていてほしい．マスコミでも報道される機会が多いテーマなので，常に関心を持っていてもらいたい．			
講義の順序とポイント			
1．食資源の成立（大城） 2．野菜を中心とした食資源の現状（大城） 3．野菜を中心とした食資源の今後（大城） 4．普通作物の特性とその利用　(1) イネ　（河田） 5．普通作物の特性とその利用　(2) コムギとオオムギ　（河田） 6．普通作物の特性とその利用　(3) ダイズとトウモロコシ　（河田） 7．農地土壌の特性（藤井孝） 8．土壌改良資材（藤井孝） 9．民間の土壌改良資材（藤井孝） 10．里山資源の特徴（藤井康） 11．農業とバイオマス（藤井康） 12．農地土壌の在り方（藤井康） 13．野生植物の利用（佐藤） 14．野生植物から栽培植物へ（佐藤） 15．栽培植物と環境要因（佐藤）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76064001
科目名	【院】食品開発特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	21 世紀の先進国社会において人々が食品に求める価値は、従来の「栄養」「安全」「美味しさ」にとどまらず、「健康の増進」「環境への配慮」「安心」「物語性」などといった、より高度かつ抽象的なものへと拡大している。そうした社会における食品の開発は、栄養学、食品衛生学、食品加工学といった伝統的な食品科学だけでなく、より幅広い視点からの検討を必要とする。 本講義では、本学で開発しようとする具体的な食品ないし醸造物について、市場調査から研究開発、生産、販売までの各プロセスを構築あるいは改善することを題材として、さまざまな専門家とともに講義やディスカッションを展開する。そのなかで、そうした高い付加価値を持つ食品を生み出すために必要な視点と考え方を体得することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）On Food and Cooking: The Science and Lore of the Kitchen（2004）Harold McGee（著） Scribner ２）Technology Brewing & Malting 5th edition (2014) Wolfgang Kunze（著）		
教材（その他）	各項目に関連する資料をプリント等で提供する。		
評価方法	適宜レポートを課し、以下の 3 点の理解度および考察量を評価する。 ・食品開発の社会的側面（30%） ・食品開発の学問的・技術的側面（40%） ・ディスカッションへの寄与（30%）		
到達目標	実際の食品・醸造物の開発を通じて、食品開発に必要な諸要素を理解しながら、それに貢献できる総合的な力を身につける。		
準備学習	食品加工学や発酵醸造学といった食品開発の学問基盤に習熟するほか、社会の出来事や風潮といった時代性への感度を高めておく。		
受講者への要望			
上記の評価基準に照らしてレポートを作成し、期限までに提出する。			
講義の順序とポイント			
１）　序論 ２）　機能性食品の開発事例 ３）　加工食品の実際 ４）　最新の粉末化技術 ５）　食品加工と調理の科学１ ６）　食品加工と調理の科学２ ７）　食品加工と調理の科学３ ８）　村おこしのための農産物加工の事例 ９）　地域産醸造物の開発：原料の農産１ １０）　地域産醸造物の開発：原料の農産２ １１）　地域産醸造物の開発：原料処理 １２）　地域産醸造物の開発：醸造１ １３）　地域産醸造物の開発：醸造２ １４）　地域産醸造物の開発：販売 １５）　総合討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J76D01AAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01ABB
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01ACC
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01ADD
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01AEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		

受講者への要望

視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．

講義の順序とポイント

1. 研究課題の選定
2. 文献検索法
3. 文献整理術
4. 関連分野の学術論文の理解と整理（1）
5. 研究計画と研究方法論　(1)
6. 研究手法の理解と検討　(1)
7. 関連分野の学術論文の理解と整理（2）
8. 研究計画と研究方法論　(2)
9. 研究手法の理解と検討　(2)
10. 関連分野の学術論文の理解と整理（3）
11. 研究計画と研究方法論　(3)
12. 研究手法の理解と検討　(3)
13. 関連分野の学術論文の理解と整理（4）
14. 研究計画と研究方法論　(4)
15. 研究手法の理解と検討　(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01AFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01AGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01AHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01AII
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01AJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01AKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01ALL
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01AMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		

受講者への要望

視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．

講義の順序とポイント

1. 研究課題の選定
2. 文献検索法
3. 文献整理術
4. 関連分野の学術論文の理解と整理（1）
5. 研究計画と研究方法論　(1)
6. 研究手法の理解と検討　(1)
7. 関連分野の学術論文の理解と整理（2）
8. 研究計画と研究方法論　(2)
9. 研究手法の理解と検討　(2)
10. 関連分野の学術論文の理解と整理（3）
11. 研究計画と研究方法論　(3)
12. 研究手法の理解と検討　(3)
13. 関連分野の学術論文の理解と整理（4）
14. 研究計画と研究方法論　(4)
15. 研究手法の理解と検討　(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01ANN
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		

受講者への要望

視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．

講義の順序とポイント

1. 研究課題の選定
2. 文献検索法
3. 文献整理術
4. 関連分野の学術論文の理解と整理（1）
5. 研究計画と研究方法論　(1)
6. 研究手法の理解と検討　(1)
7. 関連分野の学術論文の理解と整理（2）
8. 研究計画と研究方法論　(2)
9. 研究手法の理解と検討　(2)
10. 関連分野の学術論文の理解と整理（3）
11. 研究計画と研究方法論　(3)
12. 研究手法の理解と検討　(3)
13. 関連分野の学術論文の理解と整理（4）
14. 研究計画と研究方法論　(4)
15. 研究手法の理解と検討　(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2016	授業コード	J76D01BAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BII
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01BNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2016	授業コード	J76D01CAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CII
科目名	【院】バイオ環境特別演習III	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science III		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01CNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J76D01DAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DII
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01DNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J76D01EAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01EBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01ECC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01EDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01EEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01EFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01EGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01EHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01EII
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01EJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01EKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01ELL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01EMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01ENN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J76D01FAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FII
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J76D01FNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J76D020A6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020B6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020C6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020D6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020E6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020F6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020G6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020H6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020I6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020J6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020K6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020L6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020M6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J76D020N6
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2016-2018）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80000101
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放つことになる．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる一方、軽減税率も導入される予定である．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J80000102
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放つことになる．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる一方、軽減税率も導入される予定である．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J80000201
科目名	経営学総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Business Administration		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	欧米では「経営学」という名称は一般的には使われていない。わが国でいう「経営学」とは、欧米の経営経済学・経営社会学・経営心理学・経営工学の総体をさす。そしてそれぞれが別個の研究者によって研究が進められている。またそれぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ。したがって、わが国でも、「経営学」という名称よりも「経営諸学」という名称の方が正確なのである。「経営学」という名称は便宜的に使われているに過ぎない。 本講義では、この「経営諸学」の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明したい。これによって、経営学とはどのようなことを研究するのか、またどのような応用ができそうなのか、分かってもらえればよい。もともと経営学は難しいところがある。時には論者の主張が対立し、矛盾さえ感じることもある。このようなことも分かってもらえればよい。こうした中で、より重要で本質的なことを考える手立てとしてもらいたい。 より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってもらいたい。		
教材（テキスト）	・教科書は使いませんが、毎回の講義用の資料は、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上にアップロードしておきます。 ・「長谷川正の研究室へようこそ」というトップページの中の「講義用資料」→「経営学総論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通してから講義を聞いて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第１回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて穴埋めをして下さい。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（参考文献）	一般的な「経営学総論」の参考書は第１回目の講義で言います。本によっては、『経営学原理』とか『経営学概論』とか「『経営学入門』とか単に『経営学』という書名になっています。書店で買い求めて、大学４年間で、最低２冊は頭に叩き込むようにして下さい。 各回の講義の参考書は、上記参考書にも載っていますが、それ以外はそのつど指示します。		
教材（その他）	・パワーポイントを使って、虫食い状態でない講義用資料に基づいて講義を進めます。 ・ビデオや新聞の切抜き等も使います。		
評価方法	ときどき行う小テスト　　20% 期末試験　　80%		
到達目標	経営学とはどういう学問かを理解し、そして経営学を深めていき、それを応用できるための基礎的な知識を習得すること。 経営学は、経営学部生に限らず現代人すべてにとって必須の学問である。		
準備学習	事前に講義用のプリントに目を通しておくこと。		
受講者への要望			
・私語は禁止とする。時々小テストをするので、熱心に聞いておくこと。 ・質問があれば、オフィスアワーを利用すること。			
講義の順序とポイント			
０１．豊かさの時代と企業 ０２．大企業の誕生 ０３．大企業の行きづまり ０４．日本企業 ０５．企業の新たな歩み ０６．経営･企業･管理 ０７．アメリカの経営学 ０８．ドイツの経営学 ０９．経営組織のいろいろ １０．経営戦略の基礎 １１．「選択と集中」と組織能力の戦略 １２．企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは			

１３．企業の国際化と比較優位の理論 １４．未来を見据えて－製造業編 １５．これからの日本の産業と経営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J80000301
科目名	ビジネスデータの見方	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済の動き、企業を取り巻く環境を理解するためには、現実のデータ（経済統計、企業統計など）から現状を見る必要があります。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きは SNA というシステムにまとめられています。GDP など経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深めます。 　また、企業活動から見たデータもビジネスをとらえるために重要です。事業所や、売り上げ、利益など経済だけにとどまらないデータを紹介し、理解を深めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	何回か授業内テストをします。このテストは出席調査も兼ねています。その成績が 30%。（毎回必ず出席しなければ得点できません） 期末試験が残りの 70%です。		
到達目標	マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連（理論的バックグラウンド）を理解する。 企業関連データの実際を知る。		
準備学習	マクロ経済学を勉強することが望ましい。 時々、宿題を出すので、授業外の時間にそれをまとめ、次回の授業で提出する。 予習復習、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		

受講者への要望

①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない
②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする

講義の順序とポイント

1　講義の全体構成
2　付加価値とＧＤＰ
3　ＧＤＰと需要項目
4　１人あたりＧＤＰ、日本は豊かな国か
5　経済成長と需要の寄与度
6　景気変動と景気動向
7　物価指数
8　物価指数の実際
9　人口 、労働人口、失業
１０　マネー
１１　為替と貿易
１２　産業構造、事業所
１３　利益の構造
１４　企業の世界展開
１５　ブラック企業

資料はプリントを配布します。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J80000401
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといってよいでしょう。 日本商工会議所が主催する日商簿記検定試験は、簿記検定試験の中でも最も規模が大きく、知名度の高い検定試験であり、一般的には３級の資格から履歴書に書ける資格であると言われています。 この授業では、はじめて簿記を学ぶ人を対象に、日商簿記検定試験３級合格レベルの知識を身につけるとともに、練習問題を多く取り入れることでその技術を高めることを目指します。		
教材（テキスト）	『合格テキスト日商簿記３級　Ver．７．０』（ＴＡＣ出版）		
教材（参考文献）	必要に応じて指示します。		
教材（その他）	授業内でプリント等を配布します。		
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	日商簿記検定試験３級の出題範囲の知識の習得を目指します。		
準備学習	次の授業までに必ず前回の授業内容の復習と練習問題の解答を心掛けるようにしてください。		
受講者への要望			
この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に参加し、簿記に対する関心を深め、しっかりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けて下さい。			
講義の順序とポイント			
１．　簿記って何！簿記の目的と種類 ２．　簿記の５要素 ３．　損益計算書 ４．　貸借対照表 ５．　仕訳①と練習問題 ６．　仕訳②と練習問題 ７．　仕訳③と練習問題 ８．　決算処理①１と練習問題 ９．　決算処理②と練習問題 １０．決算処理③と練習問題 １１．主要簿と補助簿 １２．試算表と練習問題 １３．精算表と練習問題 １４．伝票会計 １５．日商簿記検定試験３級対策実践練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J80000402
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J80000404
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	本間　憲	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社　￥1,260		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J80000405
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	本間　憲	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J80000501
科目名	ビジネスのための数学入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、高校で既習の 1 次関数・2 次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容（B で取り上げる）に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（52%），その理解度を確認する演習・試験（48%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用などの能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。
高校数学の復習から始めるので事前に高校教科書の該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1. 数と集合
2. 集合と命題
3. 整式の計算・方程式・不等式
４．２次関数・２次不等式・２次不等式・
5. 数列
6. 数列の極限
7. 関数
8. 集合・関数・方程式・不等式・数列について総合演習
9. 指数関数
１０．対数関数
11. 関数の極限と微分
12. 微分の公式
13. 微分の計算
14. 微分の応用
15. 指数・対数関数・関数の極限・微分法について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J80000601
科目名	民事法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Civil Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民法の総則、債権などの財産法についての入門的な講義を行います。民法は、私たちが市民社会・企業社会の中で生きていくための不可欠のルールですので、確実の自分のものにする必要があります。 講義では、市民社会や企業社会で起こっている具体的な事例を素材にして、参加者同士が円滑の利害調整を図るためには、どのように問題解決を図っていくか、これを考えていくことにしたいと思います。これらの作業を通して、「民法」というルールの役割と課題を習得するというのが、私のねらいとするところです。 なお、「民法」は、現在開会中の通常国会に改正案が付議されています。私たちの学びの対象は、あくまで現在施行されている民法ですが、これを理解するためには、なぜ改正が必要とされたのかを理解することも重要です。そういった観点から、改正法案についても極力取り上げるようにしたいと思います。		
教材（テキスト）	●野村豊弘「民事法入門」(有斐閣アルマ、2014)		
教材（参考文献）	●道垣内弘人「リーガルベイシス民法入門」(日本経済新聞社、2014) ●「ポケット六法」などの小型六法		
教材（その他）			
評価方法	・定期試験（７０％） ・小テストおよび授業課題（３０％）		
到達目標	(1) 民法の財産法ルールがどのような内容のものであるか、概要を把握する。 (2) 市民社会･企業社会で実際に起こっている紛争事例において、その解決のために、財産法ルールをどのように適用していけばよいか、その方法を体得する。		
準備学習	各回の授業範囲について、テキストをひととおり読んでおくこと。		

受講者への要望

小テストは四択問題・記述問題とするが、テスト時間にいくつかのヒントを提示する。これを聞きながら解答に取り組んでもらうことになるが、ヒントを理解するためには、各授業ごとの予習・復習が重要であることは強調しておきたい。

授業課題は、授業終了時に簡単な質問を提示するので、これを京学ナビ・課題管理に入力していただく。その記入内容によって講義がしっかり聴けているかを評価するので、授業内容については確実に理解するようにしていただきたい。

講義の順序とポイント

1　民事法
　　民事法の意義
　　民事法の構造
　　法源
2　民法と民法典
　　民法の意義（一般法としての民法と特別法としての商法）
　　民法の構造
　　民法の歴史
　　民法（債権法）改正の意義
3　権利と義務
　　意義
　　物権と債権
　　権利の濫用
4　契約・法律行為(1)
　　意思表示・契約・法律行為
　　公序良俗

5　契約・法律行為(2)
　　意思表示の瑕疵
　　無効と取消し
6　課題演習（小テスト）と解説
7　権利能力・意思能力・行為能力
　　権利能力
　　意思能力・行為能力
　　課題演習
8　代理(1)
　　代理とはどういう制度か
　　代理権に関する諸問題
　　代理人および代理行為に関する問題
9　代理(2)
　　無権代理
　　表見代理
　　課題演習
10　契約(1)
　　契約の成立
　　契約の効果
　　双務契約における 2 つの債務の関係
11　契約(2)
　　契約の履行（債務の履行）
　　契約の不履行（債務不履行）
12　課題演習（小テスト）と解説
13　不法行為(1)
　　不法行為制度の意義と機能
　　不法行為の要件
14　不法行為(2)
　　不法行為責任の内容
　　その他の問題
　　特殊的不法行為
15　課題演習（小テスト）と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J80000701
科目名	刑事法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Criminal Law		
担当者名	小野　晃正	旧科目名称	
講義概要	・経済経営学部の専門科目には、「刑法」、「刑事訴訟法」、「少年法」、「刑事政策」がある。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。 ・本講義は、この「刑事法」を広い視点から概観したのち、刑罰の正当化根拠や効果を考察する刑罰論の学習を経て、主として全犯罪に共通する「犯罪の成立要件」を対象とする刑法総論を取り扱う。 ・この講義では、刑事法学上の諸問題を具体的に検討し、刑事法への関心を高めることを通じて、刑法総論の見取り図を得ることを目的とする。 ・教員側からの一方通行的な講義にならないよう、学生と教員の双方向理解を目指すべく、予習を前提とした質疑応答を講義中に行う。		
教材（テキスト）	・佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義（第 2 版）』（有斐閣・2013 年・ISBN 978-4-641-04293-3）を教科書として指定するので、書籍部その他を通じて必ず入手すること。 ・なお、近時において刑事法は相次いで法改正がなされていることから、最新の六法を持参すること。 たとえば、平成 28 年版『ポケット六法（有斐閣）』、『平成 28 年版判例六法（有斐閣）』、『平成 28 年版デイリー六法』（三省堂）、および、『平成 28 年版模範小六法』（三省堂）などが望ましい。		
教材（参考文献）	学習の便宜上、刑法総論の判例集を参照することが望ましい。 たとえば、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選 I 総論（第 7 版）』（有斐閣・2014・ISBN 978-4-64111520-0） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・2011・ISBN 978-4-78571907-4） などがある。		
教材（その他）	必要に応じて紙媒体の配布物（講義の要旨を記した資料など）を交付する。		
評価方法	原則として期末試験の成績による。ただし、質疑応答や理解度を試す小テストを実施した場合には、その評価内容も成績評価に加味することがある。		
到達目標	１．刑事法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解する。 ２．刑罰制度の問題点について、基本的な知識を身につける。 ３．刑法総論の基本的な考え方に触れ、犯罪成立要件の概要を理解する。		
準備学習	・教科書を入手したうえで、各回に予定されている講義内容をふまえた予習をすること。 ・新聞（朝刊や夕刊）の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている記事を読みましょう。この科目に限らず多方面で良い効果を発揮するはずです。		
受講者への要望			
・講義の順序は、教科書の見出しにほぼ対応していますので、講義前に教科書の該当箇所を一読して予習をしてください。 ・法学を体得するには、自らの手を動かして教科書に掲載された問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは身につきません。とにかく手を動かしましょう。			
講義の順序とポイント			
第 1 回：刑事法とは何か　－刑法、刑事手続法、刑事学の概要、刑罰の正当化根拠 第 2 回：刑法の解釈と運用（刑法の機能、罪刑法定主義、犯罪論の体系） 第 3 回：構成要件該行為（構成要件の機能と要素、実行行為、作為犯と不作為犯、因果関係） 第 4 回：未遂犯（実行の着手、不能犯、中止未遂） 第 5 回：故意犯と事実の錯誤（故意犯の原則、故意の内容、事実の錯誤） 第 6 回：過失犯と危険の分配（例外としての過失犯、過失の内容、管理・監督過失） 第 7 回：違法性阻却（違法性の実質、被害者の同意、正当行為） 第 8 回：緊急行為（正当防衛と緊急避難） 第 9 回：責任（責任の本質、責任能力） 第 10 回：責任能力をめぐる諸問題（原因において自由な行為、実行途中の責任能力低下） 第 11 回：故意犯と違法性の錯誤（違法性の錯誤、違法性に関する錯誤、期待可能性） 第 12 回：正犯と共犯（間接正犯と共同正犯、教唆犯、幇助犯） 第 13 回：共犯の諸問題①（承継的共犯、過失犯の共同正犯、共犯関係の消滅と解消） 第 14 回：共犯の諸問題②（身分犯と共犯、共犯と錯誤、共同正犯と正当防衛）			

第 15 回：罪数

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J80000801
科目名	ビジネス法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Business Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスを行うには、ビジネスに関係の深い法律を理解し、それらの法律に違反しないだけでなく、法律が用意している制度とその仕組みを上手く活用することが求められます。例えば、会社を作ってビジネスをするには、どのような種類の会社があるのか、ビジネスに必要な資金の集め方にはどのような種類があるのか、もしもビジネスに失敗して会社をたたむ場合にはどのような方法があるのか、といったことが重要です。これら全てに法律が関係してきます。具体的には、特に「民法」「商法」「会社法」「金融商品取引法」など、様々な法律が関係します。この授業では、これらの法律の中から、非常に重要な基本的な制度とその仕組みについて学びます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	龍田節・杉浦市郎『企業法入門（第四版)』（悠々社）		
教材（その他）	毎回レジュメ（プリント）を配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポートを基本とし、出席状況・受講態度を加味する）（５０％） 期末試験（５０％） 課題レポート（一定の条件を満たした場合に限り、１０点を上限として、成績評価に加える。）		
到達目標	企業に関する基本的な仕組みについて理解し、説明できるようになる。		
準備学習	毎回の授業内容について、キーワードを中心を復習し、次の回の冒頭に行う確認クイズに備える。		
受講者への要望			
１　普段から経済や企業関係のニュースに関心を持って、新聞を読んだり、ニュースを見ること ２　　毎回の授業には、最新版の六法をもち、体調を整えて出席すること			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション・民法と商法の違い ２．会社の種類 ３．株式会社の基本・日本型資本主義・バブル ４．商品の流通１ ５．商品の流通２・金の流れと決済　１ ６．金の流れと決済　２ ７．企業の組織１ ８．企業の組織２ ９．企業のグループ １０．企業の資金 １１．投資と利殖 １２．企業の失敗 １３．企業と責任 １４．権利の乗物－有価証券－ １５．会社法の沿革と総復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J80000901
科目名	京都のビジネス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	京都は伝統と進取の気質に富むまちであり、観光などのサービス産業だけでなく、中小・中堅企業を中心にした「ものづくり産業」が地域経済を支えている。本講義「京都のビジネス」は、地域金融、観光、情報、医療、ものづくりなどの各分野で京都経済界を担う経営者などをゲストスピーカーとして招き、京都経済の特徴と魅力を論じる。これにより、企業を見る眼を養うとともに、ビジネスシーンへの理解を深め、各専門分野における学修への動機づけを与える。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業中に毎回課すレポート（100%）。		
到達目標	１．各業界のビジネスシーンの理解を深めるとともに、企業を見る眼を養う。 ２．企業が、さまざまな状況の中で、どのような問題をどのように解決しようとし、どのような人材を求めているのかということを把握する。		
準備学習	授業のレジュメを京学なびの「授業資料」に授業１週間前までにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。毎回の授業において前回授業内容を前提としたレポートも課すので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
各業界の動向について、新聞などのニュースソースから自分なりに把握するよう心掛けてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．京都産業の概観 ２．観光産業１ ３．観光産業２ ４．金融業界 ５．陶磁器製造業界 ６．電気電子部品業界 ７．飲食業界 ８．農林業界 ９．医療業界 10.印刷業界 11.繊維業界 12.金属精密加工業界 13.製茶・抹茶・カフェ業界 14.食品加工業界 15.京都におけるビジネスの課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	★	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J80001001
科目名	株式投資入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	株式投資学習ゲームを活用し、各学生に 1000 万円の仮想資金を割り当て、その運用を通して、株式投資を学んでいきます。 株式投資は、様々な学問のエッセンスを活用する、まさに実践の場、学際的領域です。 ファイナンス論で学ぶ企業価値評価。 財務諸表論で学ぶ財務諸表の読み方。 マクロ経済学で学ぶ経済に対する見通し。 ミクロ経済学で学ぶ市場の仕組み。 経営学で学ぶバリューチェーンや 5force 分析。 これらの学問が株式投資という実践にどのように活用されるかを知ることで、それぞれの学問の意義を学習していきます。企業を事例として取り上げながら、様々な企業が存在することを知ることにもつながります。 この授業では、各学問の知見を株式投資にいかに実践するかにとどまらず、学生が就職する企業を選ぶ際のポイントを学ぶことにもつながります。 就職は、学生がどの企業に自らの大切な時間を投資するか？という投資意思決定だといえます。自らの就職先を選ぶ際にも、この授業で学んだ内容が役立つはずです。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、企業分析レポートの作成とする。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	企業を「株式投資の投資対象」として見ることを前提として、企業を「財務・業績」「企業価値」「業種・業界」「マクロ経済」など多面的に、企業を理解・分析できるようになることを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントと解説を実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講者への要望			
「株式投資」と「就職活動における企業選び」には、いずれも「投資」という共通点があります。株式投資は「お金の投資」であり、就職は「あなたの時間の投資」です。 企業を理解・分析する眼を養い、結果として、就職活動にも活きる授業内容にしたいと思いますので、積極的に参加してください。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに　～上場会社から 1 社を選ぶ～ いくつかの上場企業を紹介し、そのなかから 40 年後に株価が上昇してそうな 1 社を選択してもらいます。 40 年後とは、学生のみんなが定年退職をする頃です。将来を見通しましょう。 「株式投資学習ゲーム」という教材を通して、仮想資金 1000 万円を各生徒に割り当て、それを運用してもらいます。 2.株主価値評価 1　～上場会社の企業価値を評価する～ 企業価値、株主価値、負債価値の概念を理解します。 3.株主価値評価 2　～上場会社の株主価値を評価する～			

実際の企業について、株主価値を算定し、現在の株価が割安か、適正か、割高か、を判断する練習をします。
DCF 法（ディスカウント・キャッシュ・フロー法）により、株主価値を算定します。

4.株主価値評価 3　～エクイティ DCF 法～
DCF 法を取り上げます。
FCF（フリー・キャッシュ・フロー）、WACC（ワック）について、実際の企業を例に算定します。

5.株主価値評価 4　～フリーキャッシュフロー～
ソフトバンク、ファーストリテイリング等、実在の企業について中期経営計画等をもとに、DCF 法による株主価値を算定する演習を行います。

6.株主価値評価 5　～財産価値評価～

実際の企業の財務諸表を読み解き、財務内容の特徴を理解します。（製造業、サービス業、銀行業、保険業）
特に、非事業性資産とはなにか、について理解し、実際の財務諸表から非事業性資産を特定し、金額を算定できるようにします。

7.業界分析 1　～マトリックス、
プロダクトライフサイクル、
景気循環～

マーケットを、「ディフェンシブ、景気循環」×「成長、成熟、衰退」の 6 つに分類して理解します。
ディフェンシブ、景気循環、成長、成熟、衰退の意味を説明するとともに、実際のマーケットがどこに分類されるかを考えます。

8.業界分析 2　～業種一覧、
業種見取図、
サービス業×ディフェンシブ～
上場企業は 33 の業種に分類されています。
どのような分類があり、どのような企業が各業種に分類されているかを確認します。
特に、サービス業等のディフェンシブな業種・業界を取り上げます。

9.業界分析 3　～業界ごとの特徴～
特に製造業等の景気循環の影響を受ける業種・業界を取り上げます。
業界の特性を反映した株主価値評価方法を取り上げます。

10.バフェットとゲイツ

天才投資家ウォーレン・バフェットとマイクロソフトの創業者ビル・ゲイツを紹介します。

11.マクロ経済 1　～景気の先行指標～

景気の先行指標として、景気動向指数を学習します。
景気動向指数に含まれる、重要なマクロ経済指標と株式投資の関係について、取り上げます。

12.マクロ経済 2　～GDP～
景気循環を深く理解するために、GDP を取り上げます。
GDP とは何か、どのようにして GDP を知ることができるか。
景気循環と GDP を理解していきます。
また、5force 分析、SWOT 分析により上場企業を分析します。

13.インサイダー取引、コーポレートガバナンス
株式市場のルール（インサイダー取引等）を取り上げます。
取締役、監査役による企業統治がどうあるべきか？　上場企業は現実にどのようなコーポレートガバナンス体制を構築しているかを学びます。上場企業が会社法に違反し、株主価値が大きく損なわれた事例を学びます。
その前提として、株式会社の機関としての株主、取締役、監査役の意義を取り上げます。また、株主にどのような権利があるか

を確認します。

14.企業の社会的責任、機関投資家とスチュワードシップ・コード
　上場企業が社会的責任をどのように果たしているかを取りあげます。障がい者雇用、環境に優しい技術の開発など、社会的責任を率先して果たしている上場企業を取りあげます。
　さわかみ投信、鎌倉投信など、独立系投資信託の哲学とスチュワードシップ・コードを知ることを通して、株式投資の意義を考えます。

【情報リテラシー】
15.日本経済新聞を使った情報収集
　投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？
　日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。
　また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J80100101
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	本学が京都市内に立地しているメリットを活かして京都の伝統産業の一つである京友禅について学びます。 京友禅 とは京都で生産されている後染めの絹織物で、着物や浴衣として出荷されます。授業では京友禅の工房を訪問してインタビューしたり京友禅をレンタルしている業者を訪問して聞き取り調査をおこなったりします。 京友禅の美にふれて、その価値を知ってもらえればと思っています。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学外で行う調査研究への参加（50%）、授業内レポート（50%）		
到達目標	京都の伝統産業に対する理解を深める。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

大学の外に出て調査を行う際にはマナーに気をつけて行動してほしい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション（概要の説明）
2　オリエンテーション（マナー等を学ぶ）
3　事前学習①　京友禅とは何か
4　事前学習②　京友禅の歴史と現状
5　中間学習①　京友禅の見学
6　中間学習②　京友禅の制作体験
7　中間学習③　京友禅の制作体験
8　事後学習Ⅰ　京友禅の魅力の整理
9　中間学習④　京友禅に関する聞き取り調査・アンケート調査
10　中間学習⑤　京友禅に関する聞き取り調査・アンケート調査
11　事後学習Ⅱ　京友禅が直面している課題の整理
12　中間学習⑥　京友禅の魅力再発信に関する企画・提案の作成
13　中間学習⑦　京友禅の魅力再発信に関する企画・提案の作成
14　中間学習⑧　京友禅の魅力再発信に関する企画・提案の作成
15　事後学習Ⅲ　いかにして京友禅をアピールするか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★★	★	−

年度	2016	授業コード	J80100102
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	近年、特に経済学や政策科学分野で注目される「幸福度指標」について学び、地域政策への活用を視野に、特に若年層を対象の中心としその指標作りと調査を実践する。		
教材（テキスト）	スティグリッツ，フィトシ，セン『暮らしの質を測る－経済成長率を超える幸福度指標の提案』金融財政事情研究会		
教材（参考文献）	・フライ＆スタッツァー『幸福の政治経済学』ダイヤモンド社 ・デレック・ボック『幸福の研究』東洋経済新報社 ・厚生労働省『平成２６年度厚生労働白書』 ・OECD『OECD 幸福度白書』明石書店 ・大竹・白石・筒井『日本人の幸福度　格差・労働・家族』日本評論社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50％　　報告レポート 50％		
到達目標	（１）幸福度指標について理解・整理する。 （２）内閣府の幸福度調査データを分析する。 （３）京都市の大学生を対象に幸福度に関するフィールド調査を行う。 （４）内閣府の全国データと京都市の大学生データの比較分析をまとめ、発表する。		
準備学習	（１）テキストの指定箇所を精読し、理解しておくこと。 （２）毎回の配布資料を精読し、プロジェクト全体の中での位置づけを確認しておくこと。		

受講者への要望

（１）フィールド調査とその結果の活用を視野に、日頃から問題意識を持って学ぶこと
（２）Excel の基本的な操作方法を確認しておくこと
（３）チームで取り組むプロジェクトであるため、休まずに自分の責任を果たすこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】幸福度指標と調査事例の研究
１．講義の目的と概要：幸福度指標とは何か、フィールド調査とは何か
２．幸福度指標の事例１：OECD 調査による国際比較
３．幸福度指標の事例２：内閣府による幸福度調査
４．幸福度指標の事例３：荒川区の幸福度調査
５．幸福度調査の事例４：京都府の幸福度調査

【Ⅱ】内閣府の調査結果の分析
６．分析１：全体集計結果の分析
７．分析２：年齢階級別での分析１
８．分析３：年齢階級別での分析２
９．分析４：男女別での分析１
１０．分析５：男女別での分析２

【Ⅲ】発表準備と実施プラン作成
１１．内閣府調査分析の報告資料作成１
１２．内閣府調査分析の報告資料作成２
１３．調査票の作成１
１４．調査実施プランの作成１
１５．調査実施プランの作成２

夏季休暇中のフィールド調査の実施

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J80100103
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	(1)　1年以内に、ファイナンシャル・プランナー3級合格をめざす。 (2)　ケーススタディとして、自分の属する家庭の現状を題材として、将来設計を行う提案書を作成する。 (3)　フィールドワークは、金融資産形成の一環として証券会社のディーリングルームで何回かの研修を受ける。		
教材（テキスト）	授業のたびに資料配布		
教材（参考文献）	ファイナンシャルプランナー3級 FP テキスト（第1分冊)、2015～2016 年版 （FPK 研修センター株式会社）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（毎回の確認テストを含む）100％		
到達目標	年度内にファイナンシャルプランナー3級合格		
準備学習	（1）毎回のシラバスに沿って講義するので、事前に教科書の該当する章を読んでおくこと。予習の範囲は、前の授業時に指示する。 （2）毎回の授業終了前に確認テストをする。授業終了後に、できなかったところを復習しておくこと。テストは次回の授業開始時に返還する。		

受講者への要望
金融の基礎知識は、将来に金融関係への就職を希望するしないにかかわらず各自のライフプランの将来設計をするという意味で重要である。がんばって授業についてきてほしい。
講義の順序とポイント
1．ファイナンシャル・プラニング入門1 2．ファイナンシャル・プラニング入門2 3．ファイナンシャル・プラニング入門3 4．金融資産運用設計1 5．金融資産運用設計2 6．金融資産運用設計3 7．金融資産運用設計4 8．証券会社ディーリングルーム研修1 9．証券会社ディーリングルーム研修2 10．リスクマネージメント1 11．リスクマネージメント2 12．リスクマネージメント3 13．リスクマネージメント4 14．パーソナルファイナンス1 15．パーソナルファイナンス2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J80100104
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	（テーマ）「経済団体の情報を活用し、ユニークな地元企業を調査する」 京都には、京都の地場企業を束ねる「京都経営者協会」「京都商工会議所」「京都工業会」「京都中小企業家同友会」などの経済団体がある。こうした各種経済団体の企業情報を収集し、地元京都のユニークな企業について実地調査することが、この実践プロジェクト（A・B）の課題である。 実践プロジェクトA（春学期）では、まず調査チームをつくり、経済団体からの紹介情報を参考にして、訪問先企業を決定する。各調査チームは、訪問予定先の企業情報を十分に分析し、調査項目を取りまとめた「実地調査計画書」を作成したのち、夏休み期間を利用して、選定した企業を実際に訪問し、事前にまとめた調査項目についてリサーチする。 実践プロジェクトB（秋学期）では、夏休みに実施した実地調査を「調査報告書」として取りまとめる作業を行う。また訪問先企業から課題が出された場合には、その課題にも取り組み、「提案書」を作成する。「調査報告書」および「提案書」が完成した段階で、各調査チームは訪問先企業を招いてプレゼンテーションを行うものとする。		
教材（テキスト）	テキストは使用しないが、必要な資料は適宜配布する。		
教材（参考文献）	・日本経済新聞社（編集）『京都の躍進企業―「ベンチャーの都」の 103 社』（日本経済新聞社：2002 年） ・徳賀芳弘（監修）『京都企業の分析』（中央経済社：2011 年）		
教材（その他）	関係資料は適宜配布し、必要とされる情報はその都度提供する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋「活動計画書」（１０点）＋「実地調査計画書」（５０％）＋個人評価（１０％）		
到達目標	グループワークでの協調性とコミュニケーション能力の向上、企業人と直接接触する体験を通じて社会的マナーを身につけること、また企業や仕事内容を実際に調査するなかで、近い将来の自分の就活に役立つ情報を得ることを目標とする。		
準備学習	調査チームができたら、「活動計画書」で決定されたチーム・メンバーとしての各自の役割を誠実に遂行すること。そのためには常にチーム内での連絡を密にし、次週までに実現しなければならない自分の課題を、自宅学習においてしっかりと果たして、授業に臨むことが必要とされる。		

受講者への要望

① 経済団体や企業の方と接触する機会が多いので、挨拶・言葉づかい・衣服・態度など、本学学生として求められる基本マナーに注意する。
② 調査グループ内での意思疎通をしっかり図り、キャップのリーダーシップのもとチームメンバー同士が積極的に協力すること。
③ 各調査グループは教員との連絡を密にするとともに、メンバー１人ひとりの身勝手な個人行動は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション
２．京都の企業について（経済団体関係者）
３．調査チーム・ビルディング（メンバー、キャップの決定）
４．訪問先企業の選定
５．調査チーム「活動計画書」の作成
６．（同上）
７．実践プロジェクト活動マニュアル
８．（同上）
９．企業研究
１０．（同上）
１１．「実地調査計画書」の作成
１２．（同上）
１３．（同上）

１４．訪問先企業との調整（確認連絡・事前訪問）
１５．（同上）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J80100105
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている社会・経済動向を学ぶ。春学期の実践プロジェクト A では、経済と株式投資の基本について学ぶ。また、証券会社の協力によって、学生は証券会社に直接赴き、証券市場についての理解を一層深める。		
教材（テキスト）	適宜、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	随時、指示する。		
教材（その他）	日本経済新聞記事など。		
評価方法	平常点(60%); 講義内での報告等による。 講義への参加熱意(40%)		
到達目標	本講義の目標は、日本証券業協会/東京証券取引所が主催する「株式学習ゲーム」用いて模擬売買を行うことで、株価変動の背景となっている社会・経済動向を理解することである。証券会社の協力によって、学生は証券会社に直接赴き、証券市場についての理解を一層深める。また、証券会社から投資に関するアドバイスを受けることで、より実践的な力へと発展させることを目標としている。		
準備学習	証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 自分の好きな企業の経営方針、事業内容および財務情報等を学期中に調査すること。 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。		

受講者への要望

金融や投資、資産管理に興味のある学生が望ましい。
授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 経済の動きと株式 ①
3. 経済の動きと株式 ②
4. 証券市場の仕組み
5. 経済指標の捉え方
6. 財務諸表の見方
7. 証券投資の魅力とリスク
8. 株価の変動要因
9. 投資の基礎知識 ①
10. 投資の基礎知識 ②
11. 投資の基礎知識 ③
12. 株式投資の実際 ①（外部講師）
13. 株式投資の実際 ②（外部講師）
14. 株式学習ゲームの紹介とグループ分け
15. 資産運用について・まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J80100106
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	経済社会の動向を分析するときには、マクロ・メゾ・ミクロの観点からの総合的な分析が不可欠である.「日本創成会議」人口減少問題検討分科会が 2014 年 5 月に、2040 年までに 1800 の市町村のうちのおよそ半数 896 市町村を「消滅可能性都市」として特定したことから、「地方創生」がアベノミックスの重点施策として取り上げられることとなった. これまでにも政府は 1988 年から 1989 年にかけて「ふるさと創生事業」を展開するなど地域活性化に向けて取り組んできた. これまでの取組と現在の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」あるいはその一環として各市町村が策定を進める「地方版総合戦略」の社会的背景の違いを理解するとともに、「ものづくり」に焦点を当ててその比較検討を行う. A では各市町村を対象に聞き取り調査を実施する.		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	その都度指示する		
教材（その他）	参考資料を配付する		
評価方法	課題レポート(100%)		
到達目標	身近な問題を多面的・総合的に把握できること		
準備学習	配付資料の事前学習		
受講者への要望			
対象とした地域社会の動向に関する情報を幅広く収集すること			
講義の順序とポイント			
1．概要の説明 2．グループ分けと問題意識の共有 3．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 4．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 5．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 6．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 7．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解 8．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解 9．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解 10．A 市の地方版総合戦略に関する質問項目の精査 11．A 市の地方版総合戦略に関する質問項目の精査 12．A 市の地方版総合戦略に関する A 市への質問項目の送付 13．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解（補足） 14．A 市へのインタビュー 15．A 市へのインタビュー結果のまとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2016	授業コード	J80100107
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	高齢化、少子化が進むわが国では、街づくりにおけるユニバーサルデザイン（すべての人にとって使いやすいデザイン）の考え方やバリアフリー化（物理的、心理的障害の除去）は不可欠となっている。そこで本科目では、「公共空間におけるバリアフリーとユニバーサルデザイン」をテーマとして、身近な公共空間においてそれらの現状を調査するとともに、そこにある課題について確認する。また、それをもとにこれからの街づくりのあり方について考察し、行政等に望まれる施策について検討する。		
教材（テキスト）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に指示する。		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	平常点（議論や調査への関与の程度・積極性、提出物の提出状況等）（60%）、期末レポート（調査結果報告等）（40%）		
到達目標	地域社会への理解を深めるとともに、少子・高齢社会における公私の役割について考えるための視座を得ること。		
準備学習	・社会保障関係をはじめ、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・平素からこのプロジェクトのテーマを意識し、日常生活において気づいたことがあればメモしておくこと。		

受講者への要望

・　無断欠席、遅刻を厳禁する。授業回数の 3 分の 1 以上に欠席（20 分以上の遅刻を含む）をした場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、正当な理由による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。

・　毎回必ず 1 回以上発言（質問、提案等）をすること。

・　担当教員から学生への連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション：本科目の特徴と目的について
2. 事前学習 1 ：テーマに関する理念、歴史、制度等についての学習
3. 事前学習 2 ：テーマに関する理念、歴史、制度等についての学習
4. 事前学習 3 ：課題の設定と調査方法の検討
5. 事前学習 4 ：課題の設定と調査方法の検討
6. 調査準備 1 ：調査手順の確認
7. 調査準備 2 ：調査手順の確認
8. 調査 1 ：近隣における調査とその結果の確認
9. 調査 2 ：近隣における調査とその結果の確認
10. 中間整理：調査における問題点の確認と修正
11. 調査 3 ：近隣における調査とその結果の確認
12. 調査 4 ：近隣における調査とその結果の確認
13. 事後学習 1 ：調査結果の報告
14. 事後学習 2 ：調査結果の検討
15. 事後学習 3 ：秋学期に向けての方向付け

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2016	授業コード	J80100108
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	1990 年代後半以降，日本はゼロ金利水準に突入し，もはや銀行の預金では，資金運用手段として不適切な状況になっている．そのため，この実践プロジェクト（A・B）では，人々がどのような資産で運用することに関心があるかをヒアリングすることにより，資産運用に関する意識調査することを目的とする．実践プロジェクト A では，まず金融資産に関する知識を深め，その知識に基づいてアンケート作成に着手することを課題とする．		
教材（テキスト）	なし，プリントを適宜配布する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点：授業への参加度合い等 50%　授業内課題 50%		
到達目標	(1) 資産運用を行う際のマクロ的条件について理解する． (2) 金融資産について理解する． (3) アンケートを作成する．		
準備学習	授業中に配布する資料を精読し，理解しておくこと．		

受講者への要望

(1) 遅刻や私語を厳禁とする．また，チームでのプロジェクトであるため積極的に取り組み，休まず自分の責任を果たすこと．
(2) Word の基本的な操作を確認しておくこと．

講義の順序とポイント

1. ガイダンス: 概要の説明
2. 事前学習 (1): 資産運用のマクロ的条件について（金利・為替レート等）
3. 事前学習 (2): 資産運用のマクロ的条件に影響を与える要因について（物価）
4. 事前学習 (3): 資産運用のマクロ的条件に影響を与える要因について（GDP・貿易収支）
5. 事前学習 (4): 金融商品について（国内預金）
6. 事前学習 (5): 金融商品について（国内株式）
7. 事前学習 (6): 金融商品について（国内債券）
8. 事前学習 (7): 金融商品について（金）
9. 事前学習 (8): 金融商品について（外貨預金）
10. 事前学習 (9): 金融商品について（外国株式）
11. 事前学習 (10): 金融商品について（外国債券）
12. 事前学習 (11): 金融商品について（投資信託）
13. 事前学習 (12): 金融商品について（投資信託）
14. 中間学習 (1): フィールドワークのための課題設定・アンケート作り
15. 中間学習 (2): フィールドワークのための課題設定・アンケート作り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J80100109
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	日本は世界有数の貿易大国であり、本授業は日本の貿易の現状と課題を学修することを目的とする。 実践プロジェクト A では、まず、世界貿易機関（WTO）や経済連携協定（EPA）・自由貿易協定（FTA）に関する講義を通じて、国際貿易の法制度や仕組みについて学ぶ。次に、日本や京都の企業の貿易の動向について、受講者が主要な品目や国ごとに調べ、日本の貿易の特徴や課題について報告し、レポートにまとめる。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない。毎回資料等を配布する。		
教材（参考文献）	中川　淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 西川　潤『新・世界経済入門』（岩波新書、２０１４年） ＊その他のもの、とくに行政機関やジェトロが公表している報告書等については授業で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席状況、受講態度など）５０点、報告２０点、レポート３０点。詳細は初回の授業で説明する。 ただし、報告を無断で怠った場合または出席状況が 2/3 に満たない場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．世界の貿易の仕組みや日本の貿易の特徴を理解する。 ２．与えられた課題について、適切な資料を探して調べられるようになる。 ３．調べたことをレポートにまとめ、簡単な報告ができるようになる。		
準備学習	何度か復習テストを行ったり、次回までの課題を提示する。		

受講者への要望

１．日常生活でも世界や日本の貿易問題について関心を持とう。
２．無断欠席はしない。
３．与えられた課題について、途中で投げ出さず、根気強く最後まで取り組もう。

講義の順序とポイント

１．履修ガイダンス
第１部：世界の貿易の仕組み
２．世界の貿易と日本
３．WTO（１）：歴史的展開と基本原則
４．WTO（２）：サービス貿易、知的財産権、紛争解決
５．自由貿易協定、経済連携協定
６．TPP と日本
第２部：日本の貿易
７．国別（１）：中国との貿易
８．国別（２）：アメリカ合衆国との貿易
９．国別（３）：EU との貿易
１０．国別（４）：その他の国との貿易
１１．品目別（１）：輸送用機器、電子機器、原料別製品等
１２．品目別（２）：鉱物性燃料、衣類等
１３．品目別（３）：食料品
１４．受講生による報告（１）
１５．受講生による報告（２）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J80100110
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	消費者は、なぜ買ってから後悔するような物を買ってしまうのだろうか？販売する側は、人間の心理のどのような特徴を利用しているのだろうか。 実践プロジェクトAでは、まず準備段階として、マーケティングにおいて利用される手口を理解するtために、社会心理学的な理論を学びます。それを通じて、消費者が、なぜ、どのような手口で騙されるのかについて理解いする枠組みを習得します。その上で、特に大学生を対象として、どのような手口があるのかを実際に調査します。調査結果をもとに、それらの手口が、どのような心理を悪用しているのかを考え、騙されるのを防ぐにはどうすればよいのかを考えます。		
教材（テキスト）	ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器（第３版）』（誠信書房、2015）		
教材（参考文献）	最初の授業で指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（報告・発言・授業内レポート）５０％ アンケート及びレポート　５０％		
到達目標	・消費者に対するマーケティングで利用され、時には悪用されがちな心理学の理論を理解し、そのような手口に遭遇した時に、気付けるようになる。 ・一定量の文章の作成を何度も繰り返すことを通じて、論理性を意識しながら文章を書けるようになる。 ・調べたことを人前で分かりやすく報告にすることに慣れる。		
準備学習	・ネット上や街中にあふれている広告やマーケティングに関心を持つ。 ・授業中に指示された復習に取組む。		

受講者への要望

・知的好奇心
・報告を担当する際には、十分な準備をして分かりやすく報告すること
・文章力を高めたいという意欲
・学んだことを良い目的に使うこと

講義の順序とポイント

1　オリリエンテーション・報告の分担決定
2　返報性
3　希少性
4　権威
5　コミットメントと一貫性
6　好意
7　社会的証明
８～１０　悪徳商法の実際
１１～１５　アンケートの作成・実施・レポート作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2016	授業コード	J80100111
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	（テーマ）「犯罪予防に必要なことを学生の目線で考え提案する」 平成２６年７月３１日に、京都市と京都府警察は、「世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動」の協定を締結し、右京区がその先行実施行政区として、選ばれ、平成２７年３月から「安全・おもてなしのまち右京　共創プログラム」を実施している。 京都学園大学も新たに、京都市右京区に太秦キャンパスを開設したことを鑑みて、本実践プロジェクトAでは、右京区における犯罪予防の取り組み等について調べ、学生ならでは視点から、右京区役所、右京警察署、右京区防犯推進協議会などに、聞き取り調査を行い、問題点の抽出・解決に向けての提案等を行っていくものである。 その前提として、まず、現在の犯罪状況やを知っておく必要があるので、警察署見学や裁判所見学等を通じて、実務を体験しつつ、自ら調べ報告する形式をとる。その上で、最終的には、右京区役所、右京警察署、右京区防犯推進委員などにヒアリング調査を行い、その活動内容を調査、紹介し、問題点を抽出して、問題解決に関する提案を行っていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	犯罪白書　警察白書　消防白書など、授業内で適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜授業内で配布する。		
評価方法	犯罪状況の報告　３0% 裁判所見学、警察署見学の報告及びレポート　１０％ 各団体の紹介および課題解決への提案プレゼンテーション　６０％		
到達目標	犯罪状況を理解し、右京区での各団体の防犯に関する取り組みについて知り、新たな課題解決の提案を行っていくこと。		
準備学習	前の授業で次までに調べてくることを指示するので、授業までに資料収集や準備などをしっかりしてほしい。		
受講者への要望			
このゼミでは、担当者を決め、調査・報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、法学、刑事法入門等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス自己紹介 2　班分け、裁判所見学について（見学の仕方） 3　日本の犯罪状況はどうなっているのか？ 4　プレゼン資料の作り方、資料収集について 5　現在の犯罪状況についての報告① 6　現在の犯罪状況についての報告② 7　警察署見学（京都府警本部） 8　裁判所見学報告会 9　各団体へのアポイントメント、ヒアリングの注意点 10　各団体への聞き取り調査・発表準備 11　（同上） 12　（同上） 13　（同上） 14　それぞれの団体の防犯に対する取り組み・問題点および解決法を発表 15　防犯における取り組みで今後必要なことを提案			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	―	―	―	★

年度	2016	授業コード	J80100112
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	公務員の仕事が具体的な各職場でどのような業務を知ることにより、将来、公務員を希望する人への導入的な講義を目指す。 　具体的には、京都市あるいは右京区役所の協力のもとで、住民に最も身近な公務員のみなさんがどのような業務をこなしており、多くの課題を抱えていることを知ってもらい、将来の進路選択に役立ててもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内の取り組み（70%）　最終プレゼン（30%）		
到達目標	現場の公務員の仕事や右京区や京都市が抱えている課題を理解することにより、将来、どこかの自治体労働者として勤務するための基礎的な知識や素養を習得することを目標とする。		
準備学習	京都市や関連するホームページを参考に自主的に情報収集すること。指導する教員が指示する課題を確実に準備すること。		
受講者への要望			
できれば、将来公務員になることを希望している学生を求める。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション 2　地方自治体のしくみ 3　公務員とは（公務員の種類・公務員試験） 4　公務員の仕事（国家公務員・地方公務員・職種の違い） 5　京都市役所の仕事・右京区役所の仕事 6　どの課の仕事に着目するか 7　区役所を訪ねる 8　班分け（どの課の仕事を調べるか） 9　担当課についての学習（途中で聞き取り調査） １０　〃 １１　〃 １２　〃 １３　〃 １４　報告会 １５　報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	ー	★	★	ー

年度	2016	授業コード	J80100121
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	本演習は、京學堂の活動の一環として、京學堂における新規事業の企画を行う。 具体的には、京學堂に関するお客様の声の調査、近隣商業施設の調査等を行い、それらを踏まえて、新規事業のアイデア検討、事業化計画作成を行う。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①事業化計画作成の手順を修得する。 ②グループ討議に積極的に参加し、自分の意見を的確に伝える力を養う。		
準備学習	実践プロジェクトの時間はグループ討議や発表が中心になるので、事前に調査や資料準備をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「リサーチ①」：リサーチ案を討議し、リサーチのグループ分けを行う 3.「リサーチ②」：グループごとに、リサーチ案に沿って実査を行う 4.「リサーチ③」：グループごとに、リサーチ案に沿って実査を行う 5.「発表」：グループごとにリサーチの成果を報告しあい、新規事業のアイデアを検討する 6.「新規事業のアイデア検討①」：希望するアイデアごとにグループ分けを行い、新規事業のアイデアを具体的に検討する 7.「新規事業のアイデア検討②」：引き続き新規事業のアイデアを具体的に検討する 8.「発表」：グループ間で検討したアイデアを報告しあう 9.「事業化計画作成①」：事業化計画を作成する 10.「事業化計画作成②」：事業化計画を作成する 11.「事業化計画作成③」：事業化計画を作成する 12.「発表」：グループ間で検討した事業化計画を報告しあう 13.「事業化計画作成④」：他グループの意見も参考に事業化計画を修正する 14.「事業化計画作成④」：引き続き事業化計画を修正する 15.「成果報告会」：すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J80100122
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	本演習では、わが国の企業についてのケーススタディを行う。企業研究の基礎的手法を習得することにより、経営学についての理解を深めることを目的とする。 まず、会社史についての基礎的知識を習得し、本学亀岡の図書館に所蔵する会社史を利用して、創業期の会社についてレポートをまとめ、グループワークにより業界調査を実施する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①調査の具体的計画を立てることにより企画力と実践力を養う。 ②グループ討議やプラン実施に参加することにより、協同する力を養う。		
準備学習	Excel、PowerPoint を使えるようにしておく		
受講者への要望			
積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 会社史の解説とその刊行状況 3. 企業研究の手法と事例 4. 会社史研究の基礎的作業① 5. 会社史研究の基礎的作業② 6. 会社史研究① 7. 会社史研究② 8. 会社史研究の報告会① 9. 会社史研究の報告会② 10. 会社史研究の報告会③ 11. 会社史から見る業界研究① 12. 会社史から見る業界研究② 13. 研究成果の報告① 14. 研究成果の報告② 15. 研究成果の報告③			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J80100123
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、企業や店舗（商店街、商業ビル等）についてのケーススタディとフィールドワークを行う。企業研究の基礎的手法を習得することにより、経営学についての理解を深めることを目的とする。 まず、業界についての基礎的知識を習得するとともに、グループワークで計画を立て、見学及び調査を実施する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①調査の具体的計画を立てることにより企画力と実践力を養う。 ②グループ討議やプラン実施に参加することにより、協同する力を養う。		
準備学習	・Excel、PowerPoint を使えるようにしておく ・次回授業に必要な資料を事前に準備しておく		
受講者への要望			
積極的に参加し、自発的に動くこと			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 基礎学習：業界とその特徴 3. 基礎学習：　企業研究の手法と事例① 4. 基礎学習：　〃　② 5. グループづくりと、フィールドワーク企画書作成 6. 企画書のブラッシュアップ。 7. フィールドワークの下調べとアポイントの取り方。 8. 各グループによる計画の発表。 9. 実地調査のためのヒアリングシート作成 10. 実地調査に関わる事項 11. 実地調査 12.「発表」：グループ間で調査した結果を報告しあう 13. 成果報告書作成 14. 成果報告書のまとめ 15. 成果報告会：各グループにより、発表報告会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	★★	★	−

年度	2016	授業コード	J80100124
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。 プロスポーツビジネスの業界研究と経営情報システムを学ぶことにより、スポーツビジネスにおける情報システムの関わりついて知識を深める。 スポーツ業界の基礎的知識とそこで利用される情報システムを学び、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（70%）、発表成果物（30%）		
到達目標	1　研究するためのリサーチ手順など、基礎知識を養う。 2　グループによる事前準備から報告までの中で、コミュニケーション力を養う。 3　社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを養う		
準備学習	Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ステークホルダのニーズや欲求に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。		
受講者への要望			
積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例① 3. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例② 4. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例③ 5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する 6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する 7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる 8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する 9. フィールドワーク事前指導：現場での基礎知識や基礎テクニックを学ぶ 10. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する 11. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する 12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる 13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる 14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションによる報告 15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションによる報告		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J80100125
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	ビジネスプランニングコンテストに向けてビジネスプランの策定を行う。まずは本学で開催されるビジネスプランニングコンテストへの応募を主たる目標とし、＊本学亀岡や太秦キャンパス内の施設や拠点などを活用して（あるいは新たに設けて）実行するプラン、＊本学太秦キャンパスの京學堂を活用したプラン、＊キャンパス外での活動を中心としたプラン、など多様な観点から独創性あふれるプランの策定を目指す。 　この目標の達成に向けて近隣や他大学での調査や企業の現場での学習に重きを置いている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［ビジネスプラン策定に向けての取組姿勢,など］80%、プランの内容　20%。		
到達目標	就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊毎回、次回までに行うべきことを指示する。		

受講者への要望

＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ニーズ調査や企業内実習などが行われることもある(交通費等受講者負担)。
＊ビジネスプランニングコンテストに関心を有する者の受講が望ましい。
＊学外での活動を含むことから全員そのための保険に加入してもらいます。

講義の順序とポイント

1　はじめに（本プロジェクトの概要）
2 ビジネスプランを策定する上での基礎学習
3 ビジネスプランを策定する上での基礎学習
4 調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて）
5 調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて）
6 調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて）
7 ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析）
8 ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析）
9 ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析）
10 他大学や近隣での調査（：学外実習）
11 他大学や近隣での調査（：学外実習）
12 ビジネスプランの策定
13 ビジネスプランの策定
14 ビジネスプランの策定
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★	－

年度	2016	授業コード	J80100127
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、京學堂の活動の一環として、会計が経営管理に果たす役割を実践的に学ぶことを目的とする。京學堂における経営活動は簿記を通していかに会計的に認識され、そこから得られる情報をどのようにして経営にフィードバックしていくか学ぶ。 最終的には、京學堂の経営上の課題を発見し、改善提案していくことをめざす。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①簿記の基本原理と経営管理に活かす手法を理解する。 ②グループ討議に積極的に参加し、自分の意見を的確に伝える力を養う。		
準備学習	資産・負債・資本・収益・費用といった会計の基礎概念や仕訳を理解しておくこと。		

受講者への要望

積極的に参加すること

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方
2.「企業活動と簿記①」：簿記の基本概念を学ぶ
3.「企業活動と簿記②」：初歩的な簿記の仕組み①貸借対照表
4.「企業活動と簿記③」：初歩的な簿記の仕組み②損益計算書
5.「企業活動と簿記④」：初歩的な簿記の仕組み③仕訳と勘定記入
6.「商品仕入の管理」：商品仕入と伝票処理
7.「商品販売の管理」：商品販売の管理
8.「受託販売の管理」：受託販売の仕組みと会計処理
9.「在庫管理」：在庫管理と棚卸、減耗、評価損の処理
10.「フィールドワーク」：商品の仕入れ先等を訪問し、商品の実際の動きを理解する
11.「月次決算①」
12.「月次決算②」
13.「決算整理①」：期末棚卸と商品売買益の計算
14.「決算整理②」：期末決算整理
15.「決算報告」：

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J80100128
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	本講義では GIP（グローバル・インターンシップ・プログラム）への参加を考えている学生が、相手国（当面は中国）において（模擬的に）事業を展開することを目的にする。そのために、ビジネスマナー、相手国の言語から勉強を始め、進出企業のいろいろな業種（※）を調査・研究し、経営戦略の策定、進出企業の問題発見、ソリューションの発見、将来展望をする。 （※）この場合の業種とは、技術系、IT 系、エネルギー関連系、小売店系、飲食店系、イベント系、農業系、公企業系を考えている。		
教材（テキスト）	長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012 年）		
教材（参考文献）	経営学の入門書、教員が保有する教材、各企業の HP、経済雑誌等		
教材（その他）			
評価方法	調査研究への積極的参加態度（70%）、成果報告（30%）		
到達目標	・GIP 参加学生内の他者との共同作業を通じ、知識の共同化を行う ・GIP 参加学生内と外との討論により、事業の論理的な整合性を追求する ・各自において、討論と調査を通じて、理論の定着化を図る		
準備学習	日本におけるビジネスの実践に関心を持つと同時に、相手国の経済・社会・法・商習慣などにも関心を持つ		

受講者への要望

・マナー、およびビジネスマナーを習得していってもらう
・具体的企業の経営内容や、企業における人々の行動・発言を調査する場合でも、「理屈」を付けられるようにする（理論付けをする）

講義の順序とポイント

01　ガイダンス・名刺作成
02　ビジネスマナー　その 1
03　ビジネスマナー　その 2
04　ビジネスマナー　その 3　（メール）
05　海外進出企業Ⅰを訪問、聞き取り調査
06　業界 A の a 社の調査
07　業界 A の b 社の調査
08　業界 B の c 社の調査
09　業界 B の d 社の調査
10　海外進出企業Ⅱを訪問、聞き取り調査
11　業界 C の e 社の調査
12　業界 C の f 社の調査
13　業界 D の g 社の調査
14　業界 D の h 社の調査

15　「実践プロジェクト B」への橋渡し

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	★★	–	★

年度	2016	授業コード	J80100130
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、ビジネス・プランを作成することを目標にし、事業計画の立て方と、それを効果的に伝える方法を学ぶ。 具体的には、ビジネス・プランニング・コンテストにプランを提出するために、①事業計画の立て方を学ぶ、②グループごとにプランを作成する、③グループの成果をプレゼンテーションすることにより効果的な伝え方を学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）。		
到達目標	企画書の作成ができること。 プレゼンテーション能力を高めること。		
準備学習	準備学習　　グループで成果をパワーポイントにまとめるため、パソコン作業に習熟すること。		
受講者への要望			
受講生は経営企画者になりきり、いかにしてビジネスで成果を上げるのかを真剣に考えること。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション（授業の目標と進め方） 2. ビジネス・プラン作成の基礎（ビジネス・プランの基礎を学ぶ） 3. グループ化（調査と成果報告を行うグループを決定する） 4. テーマ決定①（グループ内でテーマにするビジネスを討議する） 5. テーマ決定②（グループ内でテーマにするビジネスを決定する） 6. リサーチ①（決定したテーマに沿ったリサーチ案を討議する） 7. リサーチ②（リサーチ案に沿って実査を行う） 8. ビジネス・プラン作成①（ビジネス・プランを作成する） 9. ビジネス・プラン作成②（ビジネス・プランを作成する） 10. リハーサル（グループ間でまとめた成果を報告しあう） 11. 質問事項の確認（各グループに対する質問をグループ内で整理する） 12. 質問事項の対応策の検討（質問についてグループ内で討議する） 13. 質問事項に対する回答（質問に対する回答をする） 14. ビジネス・プラン作成③（ビジネス・プランを手直しする） 15. 成果報告会（すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう） 授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	- -	★	- -	- -

年度	2016	授業コード	J80100131
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。プロスポーツビジネスの業界研究と経営学を学ぶことにより、スポーツビジネスについて知識を深める。 スポーツビジネス業界の基礎的知識を身につけ、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①研究するためのリサーチ手順など、基礎知識を養える。 ②グループによる事前準備から報告までの中で、コミュニケーション力を養える。		
準備学習	Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。		

受講者への要望

演習への積極的参加する。日頃からスポーツビジネスに興味を持ちアンテナを張る。

講義の順序とポイント

1. 「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例①
3. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例②
4. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例③
5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する
6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する
7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる
8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する
9. フィールドワーク事前指導：現場での基礎知識や基礎テクニックを学ぶ
10. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する
11. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する
12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告
15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	ー	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J80100132
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	大学生に関係する消費者被害に遭遇しないため、どのような被害があるかを探り、遭遇してしまった場合に何ができるのかについて調べ、報告書を作る。1 グループ 5 名程度の班に分け、原則として各班での作業を基本とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	消費者白書、国民生活年報		
教材（その他）	国民生活センターウェブサイト		
評価方法	授業への参加 50%、最終提出物 50%		
到達目標	どのような消費者被害が大学生の間で生じているのかを知る。その問題に対して法律がどのように対処しているのかを知る。		
準備学習	・日々ニュースを見たり、新聞を読んだりして「消費者」を意識すること。		

受講者への要望

・授業にはきちんと参加し、他の受講生と協力して作業すること。
・欠席は認めないが、やむを得ず欠席せざるを得ないときは、必ず事前に連絡をすること。
・自らが遭遇したと想定して、その問題に真剣に取り組むこと。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション
趣旨説明、自己紹介、班分け
第 2 回　被害のリサーチ 1
各班で、自分達、友人または先輩等からの聴き取りも含めて、様々な手段を駆使して大学生が遭遇しそうな事例をリサーチ
第 3 回　被害のリサーチ 2
第 4 回　被害のリサーチ 3
第 5 回　リサーチした被害の報告
第 6 回　法令・判例・文献検索について
第 7 回　調査対象被害の決定と再調査
第 8 回　解決方法の調査及び理解 1
国民生活センター等で解決方法を探す。
第 9 回　解決方法の調査及び理解 2
引続き解決方法を探すとともに、発見した解決方法を理解する。
第 10 回　解決方法の調査及び理解 3
引続き解決方法を探すとともに、発見した解決方法を理解する。
第 11 回　各班の途中経過発表。質問合戦。― 伝え方、自らの理解の再確認。
第 12 回　最終調査
第 13 回　報告書原稿作成
第 14 回　報告書最終校正
第 15 回　最終発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2016	授業コード	J80100133
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この授業では、「会社研究」と「株式投資」をやってもらうことにします。 「会社研究」は、数多くある会社の中から、情報を集め、自分なりに分析して、選択するというプロセスです。就活では、どの会社に「自分の人生」を託するかを決めるために、欠かせない取組になります。株式投資では、「自分のお金」を託することができる会社かどうか、これを決めることがポイントです。 会社とは何か、活き活きと捉えていきたいと思います。そのために何をどう調べていけばよいか、いろんな角度から考えていきます。そして、考えるだけではなく、その成果を、「株式投資」という場面で使っていきたいと思います。東京証券取引者が提供している『株式学習ゲーム』に参加します。３～４人のチームに分かれ、仮想所持金（1,000 万円）をもとに、東京証券取引所市場第一部の銘柄のうち 300 銘柄を中心に、どの銘柄を売買するのか議論しながら、実際の株価（終値）に基づいて株式の模擬売買を行います。 こうして、「会社研究」を学ぶことにより、その成果を就活にも活かしていきたいと思います。		
教材（テキスト）	『大学生のための証券市場と株式会社の基礎知識』(東京証券取引所提供教材)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	会社(基本情報)の研究報告・会社(活動)の研究報告のプレゼンテーション　50% プレゼンテーションを聞いて、これに対する質問・意見など発言回数　30% インターンシップへのエントリー　20%		
到達目標	「会社研究」の方法を学び、その成果でもって「株式投資」「インターンシップ」にチャレンジする。		
準備学習	会社(基本情報)の研究、会社(活動)の研究は、教室では行わない。各チームで行い、教室ではその成果を発表する場とする。教室外での学習が他の科目よりも多くなることには覚悟しておいてほしい。		
受講者への要望			
準備学習を確実に行い、積極的に授業に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1.基本ガイダンス、チーム編成 2.株式の仕組みや機能をしる(実践ガイダンス(1)) 3.会社(基本情報)の研究報告(1) 4.　同　(2) 5.　同　(3) 6.　同　(4) 7.　同　(5) 8.日経新聞から会社の動きを知る(実践ガイダンス(2)) 9.会社(活動)の研究報告(1) 10.　同　(2) 11.　同　(3) 12.　同　(4) 13.　同　(5) 14.株式投資・成果報告 15.まとめ　明らかにされたこと 表彰式(投資成果が上がったチームの表彰)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	J80100134
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、スポーツ・レクリエーション・健康増進・介護予防ビジネスについてフィールドワークを行う。プロスポーツビジネスだけでなく、人を笑顔にし幸福度をあげるビジネスの業界研究とイベント運営の経営やマネジメントを学ぶことにより、健康長寿やスポーツツーリズムのビジネスについて知識を深める。 ビジネス業界の基礎的知識を身につけ、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①周囲を説得するための企画書の作成と実践ができる。 ②自らのメッセージを端的に伝え、１つの目的に向かい協働することができる。		
準備学習	グループで成果をパワーポイントにまとめるため、パソコン作業に習熟すること		
受講者への要望			
受講生は実践から学んでいくため、リレーフォーライフやワークショップに参加する。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「グループ化」：企画・実践と成果報告を行うグループを決定する 3.「リレーフォライフ」：グループ内で4部門に分かれる 4.「リレーフォライフ」：グループ内で実行委員インタビューで仕事を知る 5.「コンセプトメイキング」：決定したテーマに沿ったリサーチ案を討議する 6.「AAR」：振り返り 7.「レクリエーション実習①」：グループ間でプログラムを練る 8.「レクリエーション実習②」：プログラムの実践 9.「高齢者への実践」：高齢者施設訪問 10.「AAR」：振り返り 11.「フィットネス施設の見学」 12. 業界研究① 13. 業界研究② 14.「成果報告会」資料作成 15.「成果報告会」：すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2016	授業コード	J80100151
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	この授業では、歴史都市京都において展開したさまざまな時代の歴史に関係する実際の現場を訪れ、歴史を体感します。その際、たんに現地を訪れるだけではなく、古文書や絵巻物など、通常ではみられないような史料も観覧します。また受講生には事前に下調べをしてもらい、事前にレジュメを作成して、現地で発表をしてもらったり、さらに現地で調査を行ったりすることも求めます。またその調査の成果を、オープンキャンパスで発表してもらうことも想定しています。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	『京都市の地名』（日本歴史地名大系 27、平凡社） 『京都府 上・下巻』（角川日本地名大辞典 26‐〔1・2〕」（角川書店） 『慶長昭和京都地図集成 1611（慶長 16）年～1940(昭和 15)年』（柏書房） 『京都・山城寺院神社大事典』（平凡社） 『新修京都叢書』全 25 巻（臨川書店） 『新撰京都叢書』全 12 巻（臨川書店）		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	現地での発表・作成したレジュメ（50%） 授業への参加度（50%）		
到達目標	京都の歴史文化への知識を身につけること。 京都の歴史文化の調べ方、関係図書について熟知すること。		
準備学習	毎月の見学先について、班ごとに調べものをした上でレジュメを作成してもらいます。		

受講者への要望

この授業は、教員が引率する観光旅行ではありません。みなさん自身が見学先について、事前調査を行い、深い知識を身につけ、それを他の人に説明することが求められます。また現地で実際に歴史の現場をみることで、初めてわかることもあると思います。また現地には土日に訪れますので、ガイダンスで発表する予定を確認の上、スケジュール調整をしてください。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　壬生寺周辺の下調べ
3　壬生寺周辺の下調べ
4　壬生寺フィールドワーク（4月末）
5　下鴨神社周辺の下調べ
6　下鴨神社周辺の下調べ
7　下鴨神社周辺の下調べ
8　下鴨神社のフィールドワーク（5月末）
9　二条城・神泉苑周辺の下調べ
10　二条城・神泉苑周辺の下調べ
11　二条城・神泉苑周辺のフィールドワーク（6月末）
12　京都市歴史資料館の下調べ
13　京都市歴史資料館の下調べ
14　京都市歴史資料館のフィールドワーク（7月中旬）
15　巡見結果の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	–	★	–	–

年度	2016	授業コード	J80100152
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、実践プロジェクト（民俗学）を通じてフィールドワークの技法について学ぶとともに、民俗事象について理解を深めようとするものです。 したがって実践プロジェクト（民俗学）の授業は、民俗学のフィールドワークを中心に行うことになります。フィールドワークは民俗学という学問の根幹にあるもので、民俗学を学ぶ者が宝物のように大切にしているものです。単なる現地見学ではありません。 フィールドワークの前には、その準備として講義形式の授業があります。概ね一回のフィールドワークにつき一回の講義が行われます。 実践プロジェクト（民俗学）の授業は、佐々木、堀田、手塚の三人の教員が共同で担当します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	フィールドワークおよび資料整理への貢献度、成果発表会の成果などを総合的に評価する。		
到達目標	フィールドワークを計画、実施し、その資料を整理した上で、研究成果を発表できるようになること。		
準備学習	フィールドワークに行く前に教員は準備課題を出します。課された課題は済ませた状態で、フィールドワークに臨むこと。		

受講者への要望

フィールドワークに関係する授業ですので、原則、全回出席を求めます。　フィールドワークは学外に出ますので、半日もしくは一日がかりとなります。また交通費などがかかります。

講義の順序とポイント

春学期に計画しているフィールドワークは以下の通りです。フィールドワークですので、天候や相手先の都合などにより、計画を変更することがあります。

フィールドワーク１　城下町としての亀岡
フィールドワーク２　都をつくった川・保津川
フィールドワーク３　土地と伝説（亀岡市）
フィールドワーク４　土地と伝説（京都市郊外）
夏合宿

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J80100153
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	祇園祭の成り立ちを研究し、スタッフとして参加する体験をして、京都の祭りの特性を考察する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	適宜、授業で提示する。		
教材（その他）			
評価方法	参加型の授業なので、毎回の内容への積極的参加度によって評価する。		
到達目標	京都の伝統的な祭りに対する京都人の思いを理解するとともに、その積極的な担い手として、祭りにおける役割をきちんと務めること		
準備学習	特になし		

受講者への要望

授業は原則として、水曜日1時間目に行う。キャンパス移動や二時間続きの内容があるため、2時間目の授業登録はしないことが望ましい。
また、学外の地域の方と交流する機会があるので、京都学園大学生としての自覚を持ち、模範となるように行動すること。

講義の順序とポイント

講義内容と実施場所は、下記のとおりである。
京都太秦キャンパス以外の場所で行うことがあるので、注意すること。
また、二時間続きの授業を行うことがあるので、注意すること。
＊6以降の内容は、祇園祭地元の町の都合により、日程が変わることがある。

1 授業の概要　京都太秦キャンパス
2 座学　祇園祭の始まり（古代）　京都太秦キャンパス
3 座学　祇園祭の歴史（中世）　京都太秦キャンパス
4 座学　祇園祭の歴史（近世）　京都太秦キャンパス
5 しつらえ替え　夏　（二時間続き）　京町家キャンパス
6 座学　祇園祭　地元の方レクチャー　京町家キャンパス
7 祇園祭　ちまきづくり　（二時間続き）京町家キャンパス
8 祇園祭　小学生にちまき作り方指導　二時間　京町家キャンパス
9 祇園祭　浴衣着付け　京町家キャンパス
10 祇園祭　売店販売または会所掃除　京町家キャンパス
11 祇園祭　巡行等見学　（二時間続き）フィールドワーク

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J80100154
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	この実践プロジェクトでは、２つの観点から、京都の近代の歴史を考察する。 ・京都の近代化遺産 日本の近代化遺産がユネスコの世界遺産に認定されたこともあり、最近注目を集めている。では、京都ではどのような近代化遺産があるのだろうか。京都の近代化遺産について調べ、それをフィールドワークして、日本の近代化にどのような貢献をしたのかを明らかにしたい。そして、そもそも近代化とは何を意味するのか、近代とはどのような時代なのかを考えたい。 ・京都の映像文化 Google 等で“kyoto”で検索をすれば､日本文化を象徴する膨大な量の画像を見つけることができる｡YouTube 等で検索しても京都を舞台にした古い日本映画が英語の字幕で世界中で共有されていることを確認できる。特に注目すべきは、1897 年四条河原町の元・立誠小学校で最初の試写がおこなわれ「日本映画」がはじまった。そして、昭和初期には「日本のハリウッド」と呼ばれる映画産業の中心地となって繁栄することになった。京都は日本の映像文化を語る際に欠くことのできない都市なのである。京都の近代の歴史を、そのような映像文化を多角的にフィールドワークをすることによって考えてみる。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	フィールドワークの報告レポート等で総合的に評価する。		
到達目標	京都の近代化遺産／映像文化を実践的に考察する。		
準備学習	配布するレジュメ等に記載している文献等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション 02　京都の近代化遺産（１） 03　京都の近代化遺産（２） 04　京都の近代化遺産（３） 05　京都の近代化遺産（４） 06　京都の近代化遺産（５） 07　京都の近代化遺産（６） 08　京都の近代化遺産（７） 09　京都の映像文化（１） 10　京都の映像文化（２） 11　京都の映像文化（３） 12　京都の映像文化（４） 13　京都の映像文化（５） 14　京都の映像文化（６） 15　京都の映像文化（７）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★	－

年度	2016	授業コード	J80100155
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	京都は言わずと知れた国際観光都市であり、２年連続で「魅力のある街世界一」に選ばれた。したがって、その観光地に関する案内書は無数にあり、すべて紹介され尽した感がある。しかし、とはいえ、まだまだ無名の観光資源は眠っているはずで、それを掘り起こすのが本授業の目的である。 「事前調査」→「現地調査」→「観光案内作成」→「観光案内英語版作成」 春学期は、「観光案内作成」までを行う予定である。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	学生諸君に探してもらう。		
教材（その他）			
評価方法	「観光案内」の出来栄えで評価する。		
到達目標	あまり知られていない京都の観光資源を発掘し、その観光案内を作成することによって、将来観光産業などで働きたい学生諸君の入門にしたい。		
準備学習	特になし。		
受講者への要望			
これこそフィールドワークの真髄であると思う。楽しみながら、学んで頂きたい。			
講義の順序とポイント			
１．概要説明 ２．グループ分け ３．新観光地の探索 ４．同上 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．現地探索 ９．レポート作成 １０．レポート作成 １１．他の観光案内研究 １２．同上 １３．正式な観光案内作成 １４．同上 １５．同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J80100201
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	本学が京都市内に立地しているメリットを活かして京都の伝統産業の一つである西陣織について学びます。 西陣織 とは京都市内の約3キロ四方で生産されている先染めの絹織物で、着物・帯・ネクタイなどの製品として出荷されます。授業では西陣織を織っている方にインタビューしたり帯を扱っている問屋を訪問して聞き取り調査をおこなったりします。西陣織の美にふれて、その価値を知ってもらえればと思っています。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学外で行う調査研究への参加（50%）、授業内レポート（50%）		
到達目標	京都の伝統産業に対する理解を深める。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
大学の外に出て調査を行う際にはマナーに気をつけて行動してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション（概要の説明） 2　オリエンテーション（マナー等を学ぶ） 3　事前学習①　西陣織とは何か 4　事前学習②　西陣織の歴史と現状 5　中間学習①　西陣織の見学 6　中間学習②　西陣織の制作体験 7　中間学習③　西陣織の制作体験 8　事後学習Ⅰ　西陣織の魅力の整理 9　中間学習④　西陣織に関する聞き取り調査・アンケート調査 10　中間学習⑤　西陣織に関する聞き取り調査・アンケート調査 11　事後学習Ⅱ　西陣織が直面している課題の整理 12　中間学習⑥　西陣織の魅力再発信に関する企画・提案の作成 13　中間学習⑦　西陣織の魅力再発信に関する企画・提案の作成 14　事後学習Ⅲ　いかにして西陣織をアピールするか 15　報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★★	★	−

年度	2016	授業コード	J80100202
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	近年、特に経済学や政策科学分野で注目される「幸福度指標」について学び、若年者を調査対象の中心として地域政策への活用を視野に、その指標作りと調査を実践する。		
教材（テキスト）	スティグリッツ，フィトシ，セン『暮らしの質を測る－経済成長率を超える幸福度指標の提案』金融財政事情研究会		
教材（参考文献）	・フライ＆スタッツァー『幸福の政治経済学』ダイヤモンド社 ・デレック・ボック『幸福の研究』東洋経済新報社 ・厚生労働省『平成２６年度厚生労働白書』 ・OECD『OECD 幸福度白書』明石書店 ・大竹・白石・筒井『日本人の幸福度　格差・労働・家族』日本評論社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50%　　報告レポート 50%		
到達目標	（1）フィールド調査結果の集計を分析を行う （2）調査結果をまとめた報告書を作成する （3）調査結果を発表する		
準備学習	（1）他の調査・分析の結果との比較を意識すること （2）調査結果の見せ方として、参考となるモデルを見つけておくこと		
受講者への要望			
（1）フィールド調査結果の実際の活用を視野に入れ、日頃から問題意識を持って取り組むこと （2）Excel や PowerPoint の基本的な操作方法を確認しておくこと （3）チームで取り組むプロジェクトであるため、休まずに自分の責任を果たすこと			
講義の順序とポイント			
【Ⅰ】調査結果の集計と分析 1．調査結果の集計表の作成と入力１ 2．調査結果の集計表の作成と入力２ 3．調査結果の集計表の作成と入力３ 4．回答者の属性別の分析１ 5．回答者の属性別の分析２ 【Ⅱ】調査結果のまとめ：何が分かったか 6．調査結果の報告書作成１ 7．調査結果の報告書作成２ 8．調査結果の報告書作成３ 9．調査結果の報告書作成４ １０．調査結果の報告書作成５ 【Ⅲ】調査結果の報告 １１．プレゼン資料の作成１ １２．プレゼン資料の作成２ １３．プレゼン資料の作成３ １４．報告会の予行練習 １５．学内報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J80100203
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	(1)　１年以内に、ファイナンシャル・プランナー３級合格をめざす。 (2)　ケーススタディとして、自分の属する家庭の現状を題材として、将来設計を行う提案書を作成する。 (3)　フィールドワークは､金融資産形成の一環として証券会社のディーリングルームで何回かの研修を受ける。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	ファイナンシャルプランナー3 級 FP テキスト（第 2 分冊)、2015～2016 年版 （FPK 研修センター株式会社）		
教材（その他）			
評価方法	平常点３０％ 提案書７０％		
到達目標	年度末までにファイナンシャル・プランナー３級合格		
準備学習	シラバスに沿って講義するので、次回の予習をしておくこと。前の授業で予習範囲を示す。 毎回の授業終了前に確認テストをする。できなかった部分を復習しておくこと。テスト結果は次回の授業の始めに返還する。		
受講者への要望			
金融の基礎知識は、将来に金融関係に就職してもしなくても、各自のライフプランを将来設計する意味で重要である。がんばってついてきてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．パーソナルファイナンス３ ２．パーソナルファイナンス４ ３．相続・事業承継設計１ ４．相続・事業承継設計２ ５．証券会社ディーリングルーム研修３ ６．証券会社ディーリングルーム研修４ ７．不動産運用設計１ ８．不動産運用設計２ ９．タックスプラニング１ １０．タックスプラニング２ １１．提案書作成１ １２．提案書作成２ １３．提案書作成３ １４．提案書作成４ １５．提案書作成５			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J80100204
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	（テーマ）「経済団体の情報を活用し、ユニークな地元企業を調査する」 京都には、京都の地場企業を束ねる「京都商工会議所」「京都経営者協会」「京都工業会」「京都中小企業家同友会」など経済団体がある。こうした京都の各種経済団体の企業情報を収集し、地元京都のユニークな企業について実地調査することが、この実践プロジェクトの課題である。 実践プロジェクトA（春学期）では、各調査チームが選んだ企業を研究し、「実地調査計画書」を作成した。 実践プロジェクトB（秋学期）では、夏休み期間中に訪問した企業リサーチをもとに、「実地調査報告書」のとりまとめを行う。また、訪問先企業から課題が出された場合には、その課題にも取り組み「提案書」を作成する。「報告書」と「提案書」が完成した段階で、各調査チームは訪問先企業を招いてプレゼンテーションを行うものとする。		
教材（テキスト）	テキストは使用しないが、必要な資料は適時配布する。		
教材（参考文献）	・日本経済新聞社（編集）『京都の躍進企業―「ベンチャーの都」の 103 社』（日本経済新聞社：2002 年） ・徳賀芳弘（監修）『京都企業の分析』（中央経済社：2011 年）		
教材（その他）	関係資料は適宜配布し、必要とされる情報はその都度提供する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋「実地調査報告書」・「提案書」（４０％）＋プレゼンテーション（２０％）＋個人評価（１０％）		
到達目標	グループワークでの協調性とコミュニケーション能力の向上、企業人と直に接触する体験を通じて社会的マナーを身につけること、また企業や仕事内容を実際に調査するなかで、近い将来の自分の就活に役立つ情報を得ることを目標とする。		
準備学習	「活動計画書」で決められたチーム・メンバーとしての自分の役割を誠実に遂行すること。そのため常にチーム内の連絡を密にして、自主までに実現しなければならない自分の課題を、自宅学習においてしっかりと果たし、授業に臨むことが必要とされる。		

受講者への要望

① 経済団体や企業の方と接触する機会が多いので、挨拶・言葉づかい・衣服・態度など、本学学生として求められる基本マナーには十分注意すること。
② 調査グループ内での意思疎通をしっかり図り、キャップのリーダーシップのもとチームメンバーは相互に積極的に協力すること。
③ 各調査チームは教員との連絡を密にするとともに、メンバー１人ひとりの身勝手な個人行動は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

１．実地調査結果の確認（進捗状況、再調査）
２．（同上）
３．「実施調査報告書」の作成
４．（同上）
５．（同上）
６．（同上）
７．中間報告会
８．「提案書」作成の検討会
９．「提案書」の作成
１０．（同上）
１１．（同上）
１２．最終報告会（経済団体、企業関係者来校）
１３．（同上）
１４．（同上）
１５．最終評価（調査チーム別：面談、振り返り）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2016	授業コード	J80100205
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている社会・経済動向を学ぶ。 実践プロジェクト B では、春学期で学習した証券投資の知識を前提に、ゼミ学生を 3-4 人のチームに分割し、各チームで情報を収集しながら、模擬株式売買を行わせる。模擬売買には、日本証券業協会/東京証券取引所が主催する「株式学習ゲーム」を用いる。また、証券の実務担当経験者を授業内講師として招き、投資に関するアドバイスを受けることで、自分たちの資産ポートフォリオを見直す。2 週間に 1 度、各グループは、投資状況をゼミで報告し、ディスカッションをする。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	特になし。		
教材（その他）	日本経済新聞記事 Yahoo ファイナンス、会社四季報 online 等の株式情報サイト		
評価方法	平常点(60%); 講義内での報告等による。 講義への参加熱意(40%)		
到達目標	日本証券業協会/東京証券取引所が主催する「株式学習ゲーム」用いて模擬売買を行うことで、株価変動の背景となっている社会・経済動向に学生の目を向けさせる。証券会社の協力によって、学生は証券会社に直接赴き、証券市場についての理解を一層深める。また、証券の実務担当経験者から投資に関するアドバイスを受けることで、より実践的な力へと発展させることを目標としている。		
準備学習	証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 自分の好きな企業の経営方針、事業内容および財務情報等を学期中に調査すること。 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。		
受講者への要望			
金融や投資、資産管理に興味のある学生が望ましい。 授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンスおよび模擬売買の実行 2-13. 投資成果の報告とディスカッション（第 13 回講義まで、繰り返し） 14. ゼミ全員での結果評価（外部講師にも参加いただく） 15. 最終報告会（他プロジェクトと合同発表会）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★★

年度	2016	授業コード	J80100206
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	経済社会の動向を分析するときには、マクロ・メゾ・ミクロの観点からの総合的な分析が不可欠である．現在「日本創成会議」人口減少問題検討分科会が 2014 年 5 月に、2040 年までに 1800 の市町村のうちのおよそ半数 896 市町村を「消滅可能性都市」として特定したことから、「地方創生」がアベノミックスの重点施策として取り上げられることとなった． 実践プロ A で取り上げた「地方版総合戦略」に関連する地域における民間企業や団体を対象にした聞き取り調査を実施する．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	その都度指示する		
教材（その他）	参考資料を配付する		
評価方法	課題レポート(100%)		
到達目標	身近な問題を多面的・総合的に把握できること		
準備学習	配付資料の事前学習		

受講者への要望

対象とした地域社会の動向に関する情報を幅広く収集すること

講義の順序とポイント

経済社会の動向を分析するときには、マクロ・メゾ・ミクロの観点からの総合的な分析が不可欠である．現在「日本創成会議」人口減少問題検討分科会が 2014 年 5 月に、2040 年までに 1800 の市町村のうちのおよそ半数 896 市町村を「消滅可能性都市」として特定したことから、「地方創生」がアベノミックスの重点施策として取り上げられることとなった．実践プロ B では、実践プロ A で取り上げた「地方版総合戦略」に関連する地域における民間企業や団体を対象にしたインタビューを実施する．

1．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
2．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
3．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
4．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
5．A 市の民間団体と民間企業への質問項目の精査
6．A 市の民間団体と民間企業への質問項目の精査
7．A 市の民間団体と民間企業への質問項目の精査
8．A 市の民間団体と民間企業への質問項目送付
9．A 市の民間団体と民間企業へのインタビューの実施
10．A 市の民間団体と民間企業へのインタビューの実施
11．A 市の民間団体と民間企業の回答のまとめ
12．プレゼン資料の作成
13．プレゼン資料の作成
14．プレゼン資料の作成
15．プレゼン

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2016	授業コード	J80100207
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	春学期の「実践プロジェクトA」に引き続き、「公共空間におけるバリアフリーとユニバーサルデザイン」をテーマとして、身近な公共空間においてそれらの現状を調査するとともに、そこにある課題について確認する。特に今学期は、春学期に行った調査等から浮かび上がった課題について、さらなる調査内容（アンケート調査など）を検討し、調査を実施する。そして、それをもとにこれからの街づくりのあり方について考察し、行政等に望まれる施策について検討するとともに、それらを最終レポートにまとめ、発表する。		
教材（テキスト）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に指示する。		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	平常点（議論や調査への関与の程度・積極性、提出物の提出状況等）（60%）、期末レポート（調査結果報告等）（40%）		
到達目標	地域社会への理解を深めるとともに、少子・高齢社会における公私の役割について考えるための視座を得ること。		
準備学習	・社会保障関係をはじめ、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・平素からこのプロジェクトのテーマを意識し、日常生活において気づいたことがあればメモしておくこと。		

受講者への要望

・　無断欠席、遅刻を厳禁する。授業回数の 3 分の 1 以上に欠席（20 分以上の遅刻を含む）をした場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、正当な理由による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。

・　毎回必ず 1 回以上発言（質問、提案等）をすること。

・　担当教員から学生への連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。

講義の順序とポイント

1. 事前学習：春学期の結果の再検討と代表的な調査手法についての学習
2. 調査準備 1 ：調査内容の検討
3. 調査準備 2 ：調査内容の検討
4. 調査準備 3 ：質問票等の完成
5. 調査準備 4 ：調査方法と手順の整理
6. 調査 1 ：アンケート調査等の実施
7. 調査 2 ：アンケート調査等の実施
8. 調査 3 ：アンケート調査等の実施
9. 事後学習 1 ：調査結果の整理と分析
10. 事後学習 2 ：調査結果の整理と分析
11. 事後学習 3 ：調査結果の整理と分析
12. 事後学習 4 ：調査結果の整理と分析
13. 事後学習 5 ：ゼミ内の成果報告会
14. 事後学習 6 ：ゼミ内の成果報告会
15. 最終報告会：他ゼミとの合同成果報告会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2016	授業コード	J80100208
科目名	実践プロジェクト B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	1990 年代後半以降，日本はゼロ金利水準に突入し，もはや銀行の預金では，資金運用手段として不適切な状況になっている．そのため，この実践プロジェクト（A・B）では，人々がどのような資産で運用することに関心があるかをヒアリングすることにより，資産運用に関する意識調査することを目的とする．実践プロジェクト B では，実践プロジェクト A で着手したアンケートを完成させ，アンケートの実施・アンケートの分析・分析結果の報告を行う．		
教材（テキスト）	なし，プリントを適宜配布する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点：授業への参加度合い等 50%　授業内課題 50%		
到達目標	(1) アンケートを作成する (2) アンケートを実施する (3) 調査結果を分析する (4) 調査結果を発表する		
準備学習	関連するアンケートをインターネット上等で見つけ，独自性のあるアンケートを作る意識をもっておくこと．また，分析モデルに関しても授業中に検討するのではなく，事前に考えておくこと．		
受講者への要望			
(1) 遅刻や私語を厳禁とする．また，チームでのプロジェクトであるため積極的に取り組み，休まず自分の責任を果たすこと． (2) Word・Excel・PowerPoint の基本的な操作方法を確認しておくこと．			
講義の順序とポイント			
1. 中間学習（3): フィールドワークのための課題設定・アンケート作り 2. 中間学習（4): フィールドワークのための課題設定・アンケート作り 3. 中間学習（5): フィールドワークのための課題設定・アンケート作り 4. 中間学習（6): フィールドワークのための課題設定・アンケート作り 5. 中間学習（7): アンケート調査 6. 中間学習（8): アンケート調査 7. 中間学習（9): アンケート調査 8. 中間学習（10): アンケート調査 9. 中間学習（11): アンケート調査 10. 事後学習（1): 調査結果の整理・分析 11. 事後学習（2): 調査結果の整理・分析 12. 事後学習（3): 調査結果の整理・分析 13. 事後学習（4): 調査結果の整理・分析 14. 事後学習（5): 調査結果の整理・分析 15. 最終報告会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J80100209
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	日本は世界有数の貿易大国であり、本授業は日本の貿易の現状と課題を学修することを目的とする。 実践プロジェクトBでは、Aで行ったレポートを踏まえて、フィールドワークとして、日本貿易振興機構（ジェトロ）京都への訪問や市場調査などを行い、成果報告のプレゼンテーションを行う。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない。毎回資料等を配布する。		
教材（参考文献）	中川　淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 西川　潤『新・世界経済入門』（岩波新書、２０１４年） ＊その他のもの、とくに行政機関やジェトロが公表している報告書等については授業で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点５０点（出席状況、受講態度など）、報告２０点、成果報告会でのプレゼンテーション３０点。詳細は初回の授業で説明する。 ただし、報告を無断で怠った場合または出席状況が2/3に満たない場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．日本の貿易の特徴や課題について、実践的に理解できるようになる。 ２．フィールドワークや企業訪問の方法やマナーを身につける。 ３．調査したことを報告資料にまとめ、プレゼンテーションができるようになる。		
準備学習	次回までの課題を毎回提示する。		

受講者への要望

１．日常生活でも世界や日本の貿易問題について関心を持とう。
２．無断欠席はしない。
３．与えられた課題について、途中で投げ出さず、根気強く最後まで取り組もう。

講義の順序とポイント

１．履修ガイダンス
２．企業訪問の準備（１）
３．企業訪問の準備（２）
４．日本貿易振興機構京都への訪問
５．訪問の成果のまとめ
６．訪問の成果の報告
７．市場調査の準備（１）
８．市場調査の準備（２）
９．市場調査
１０．市場調査の成果のまとめ
１１．市場調査の報告
１２．成果報告会の準備（１）
１３．成果報告会の準備（２）
１４．成果報告会の準備（３）
１５．成果報告会

＊進度により、若干変更する場合がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J80100210
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	実践プロジェクト A では、消費者を騙すために悪用される社会心理学の理論を学び、レポートを作成します。それを踏まえ、まず、実践プロジェクト B では、実践プロジェクト A で調べた内容をクラスメートの前で報告します。そして、消費者を守るためにどのような法律や制度があるのかを調べます。そして、それらをどのように活用すればよいのか考えます。最終的に、そもそも騙されにくい消費者、および、騙されたときの対処法を身に付けた消費者になるために必要なことを学びます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	授業において指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（報告・発言・授業内レポート）５０％ 学期末レポート　５０％		
到達目標	・悪徳商法などから消費者を守るために、どのような法制度があるのか理解する。 ・もしも実際に悪徳商法などにより不本意な取引をしてしまったときに、後から、どのように対処すればよいか具体的な方法を理解する。 ・一定量の文章の作成を何度も繰り返すことを通じて、論理性を意識しながら文章を書けるようになる。 ・調べたことを人前で分かりやすく報告にすることに慣れる。		
準備学習	ネット上や街中にあふれている広告やマーケティングに関心を持つ。授業中に指示された復習に取組む。		

受講者への要望

・知的好奇心
・報告を担当する際には、十分な準備をして分かりやすく報告すること
・文章力を高めたいという意欲

講義の順序とポイント

1　　オリエンテーション
2・3　レポートの報告
4　　消費者を守る法律制度の全体像
5　　表示の規制―景品表示法
6　　景品の規制―消費者契約法
7　　クーリングオフ
8　　金融商品の場合の規制
9～１２　　消費者センター等の訪問・レポート作成
１３　発表①
１４　発表②
１５　発表③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2016	授業コード	J80100211
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	（テーマ）「防災防火のために必要なことを学生の目線で考え提案する」 本学は、２０１５年から新たに京都市右京区に太秦キャンパスが開設された。実践プロジェクトAでは、主に右京区役所や右京警察署の防犯の取り組みについて検討した。その検討を活かして、実践プロジェクトBでは、「世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動」右京区推進協議会の一つ、右京消防署における防災防火の取り組みについて取り上げる。 太秦キャンパスがある京都市の消防局の地域では、多くの消防団があり、「京の消防団」として、日々地域の防災防火に貢献している。また、京都市消防局では、学生のまち京都ならではの取り組みとして、「京都学生消防サポーター」や「学生消防団活動認証制度」などを実施している。本実践プロジェクトBでは、右京区における防災防火の取り組みについて調べ、学生ならではの視点から、右京区役所、右京消防署、右京区内の消防団等に、聞き取り調査を行い、問題点の抽出・課題解決に向けての提案を行っていくものである。その前提として、消防組織と活動内容を知っておく必要があるので、消防学校見学（夏休み　京都府消防学校）京都市防災センター見学、消防署の方の防災教室等を通じて、実務を体験しつつ、自ら調べ報告する形式を取る。その上で、最終的には、右京区での防災防火に関する取り組みに着目して、右京区役所、右京消防署、右京区の消防団等に、ヒアリング調査を行い、その活動内容を調査、紹介し、問題点を中室して、解決に関する提案を行っていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	犯罪白書　消防白書　防災白書など、その他適宜授業内で指定する。		
教材（その他）	適宜授業内で配布する。		
評価方法	消防組織と活動内容の報告　30% 消防学校見学、京都市防災センター見学の報告及びレポート　１０％ 各団体の紹介および課題解決への提案プレゼンテーション　６０％		
到達目標	消防組織と活動内容を理解し、右京区での各団体の防災防火に関する取り組みについて知り、新たな課題解決の提案を行っていくこと。		
準備学習	前の授業で次までに調べてくることを指示するので、授業までに資料収集や準備などをしっかりしてほしい。		
受講者への要望			
このゼミでは、担当者を決め、調査・報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス・自己紹介 2　班分け、レジュメプレゼン資料の作成について 3　防災、消防関連施設見学の感想、報告 4　消防について知っていることを話し合ってまとめる。 5　消防組織と活動内容についての報告① 6　消防組織と活動内容についての報告② 7　消防団等における地域防災力向上の取り組みについての報告 8　消防署の方の防災教室 9　各団体へのアポイントメント、ヒアリングの注意点 10　各団体への聞き取り調査・発表準備 11　（同上） 12　（同上） 13　（同上） 14　それぞれの団体の防犯に対する取り組み・問題点および解決法を発表 15　最終報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	ー	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	J80100212
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	公務員の仕事が具体的な各職場でどのような業務を知ることにより、将来、公務員を希望する人への導入的な講義を目指す。 　具体的には、京都市あるいは右京区役所の協力のもとで、住民に最も身近な公務員のみなさんがどのような業務をこなしており、多くの課題を抱えていることを知ってもらい、将来の進路選択に役立ててもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内の取り組み（70%）　最終プレゼン（30%）		
到達目標	現場の公務員の仕事や右京区や京都市が抱えている課題を理解することにより、将来、どこかの自治体労働者として勤務するための基礎的な知識や素養を習得することを目標とする。		
準備学習	京都市や関連するホームページを参考に自主的に情報収集すること。指導する教員が指示する課題を確実に準備すること。		
受講者への要望			
できれば、将来公務員になることを希望している学生を求める。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション 2　京都市や右京区の政策に即して研究する 3　班分けと研究計画 4　具体的な政策課題に応じて班毎に研究する 5　防災、街づくり、観光、交通、ゴミ処理、産業振興など 6　班毎に研究準備、計画作成 7　行動開始 8　〃 9　〃 １０　〃 １１　〃 １２　〃 １３　報告会 １４　報告会 １５　全体のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	ー	★	★	ー

年度	2016	授業コード	J80100221
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	本演習は、京學堂の活動の一環として、京學堂における新規事業の企画を行う。 具体的には、京學堂に関するお客様の声の調査、近隣商業施設の調査等を行い、それらを踏まえて、新規事業のアイデア検討、事業化計画作成を行う。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①事業化計画作成の手順を修得する。 ②グループ討議に積極的に参加し、自分の意見を的確に伝える力を養う。		
準備学習	実践プロジェクトの時間はグループ討議や発表が中心になるので、事前に調査や資料準備をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「リサーチ①」：リサーチ案を討議し、リサーチのグループ分けを行う 3.「リサーチ②」：グループごとに、リサーチ案に沿って実査を行う 4.「リサーチ③」：グループごとに、リサーチ案に沿って実査を行う 5.「発表」：グループごとにリサーチの成果を報告しあい、新規事業のアイデアを検討する 6.「新規事業のアイデア検討①」：希望するアイデアごとにグループ分けを行い、新規事業のアイデアを具体的に検討する 7.「新規事業のアイデア検討②」：引き続き新規事業のアイデアを具体的に検討する 8.「発表」：グループ間で検討したアイデアを報告しあう 9.「事業化計画作成①」：事業化計画を作成する 10.「事業化計画作成②」：事業化計画を作成する 11.「事業化計画作成③」：事業化計画を作成する 12.「発表」：グループ間で検討した事業化計画を報告しあう 13.「事業化計画作成④」：他グループの意見も参考に事業化計画を修正する 14.「事業化計画作成④」：引き続き事業化計画を修正する 15.「成果報告会」：すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J80100222
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	本演習では、わが国の企業についてのケーススタディを行う。企業研究の基礎的手法を習得することにより、経営学についての理解を深めることを目的とする。 まず、会社史についての基礎的知識を習得し、本学亀岡の図書館に所蔵する会社史を利用して、創業期の会社についてレポートをまとめ、グループワークにより業界調査を実施する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①調査の具体的計画を立てることにより企画力と実践力を養う。 ②グループ討議やプラン実施に参加することにより、協同する力を養う。		
準備学習	Excel、PowerPoint を使えるようにしておく		
受講者への要望			
積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 会社史の解説とその刊行状況 3. 企業研究の手法と事例 4. 会社史研究の基礎的作業① 5. 会社史研究の基礎的作業② 6. 会社史研究① 7. 会社史研究② 8. 会社史研究の報告会① 9. 会社史研究の報告会② 10. 会社史研究の報告会③ 11. 会社史から見る業界研究① 12. 会社史から見る業界研究② 13. 研究成果の報告① 14. 研究成果の報告② 15. 研究成果の報告③			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J80100223
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、企業や店舗（商店街、商業ビル等）についてのケーススタディとフィールドワークを行う。企業研究の基礎的手法を習得することにより、経営学についての理解を深めることを目的とする。 まず、業界についての基礎的知識を習得するとともに、グループワークで計画を立て、見学及び調査を実施する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①調査の具体的計画を立てることにより企画力と実践力を養う。 ②グループ討議やプラン実施に参加することにより、協同する力を養う。		
準備学習	・Excel、PowerPoint を使えるようにしておく ・次回授業に必要な資料を事前に準備しておく		
受講者への要望			
積極的に参加し、自発的に動くこと			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 基礎学習：業界とその特徴 3. 基礎学習：　企業研究の手法と事例① 4. 基礎学習：　〃　② 5. グループづくりと、フィールドワーク企画書作成 6. 企画書のブラッシュアップ。 7. フィールドワークの下調べとアポイントの取り方。 8. 各グループによる計画の発表。 9. 実地調査のためのヒアリングシート作成 10. 実地調査に関わる事項 11. 実地調査 12.「発表」：グループ間で調査した結果を報告しあう 13. 成果報告書作成 14. 成果報告書のまとめ 15. 成果報告会：各グループにより、発表報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J80100224
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。 プロスポーツビジネスの業界研究と経営情報システムを学ぶことにより、スポーツビジネスにおける情報システムの関わりついて知識を深める。 スポーツ業界の基礎的知識とそこで利用される情報システムを学び、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（70%）、発表成果物（30%）		
到達目標	1　研究するためのリサーチ手順など、基礎知識を養う。 2　グループによる事前準備から報告までの中で、コミュニケーション力を養う。 3　社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを養う。		
準備学習	Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ステークホルダのニーズや欲求に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。		
受講者への要望			
積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 業界基礎学習　：スポーツビジネスにおける情報システムの事例① 3. 業界基礎学習　：スポーツビジネスにおける情報システムの事例② 4. 業界基礎学習　：スポーツビジネスにおける情報システムの事例③ 5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する 6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する 7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる 8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する 9. フィールドワーク事前指導：現場、情報システムの基礎知識を学ぶ 10. フィールドワーク：現場と利用している情報システムを体験する 11. フィールドワーク：現場と利用している情報システムを体験する 12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる 13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる 14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションによる報告 15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションによる報告		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	ー	★	★	ー

年度	2016	授業コード	J80100225
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	Aに引き続いて、ビジネスプランニングコンテストに向けてビジネスプランの策定を行う。まずは本学で開催されるビジネスプランニングコンテストへの応募を主たる目標とし、＊本学亀岡や太秦キャンパス内の施設や拠点などを活用して（あるいは新たに設けて）実行するプラン、＊本学太秦キャンパスの京學堂を活用したプラン、＊キャンパス外での活動を中心としたプラン、など多様な観点から独創性あふれるプランの策定を目指す。 　　この目標の達成に向けて近隣や他大学での調査や企業の現場での学習に重きを置いている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［ビジネスプラン策定に向けての取組姿勢,など］60%、プランの内容　30% ビジネスプランコンテスト終了後のレポート 10%		
到達目標	就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊毎回、次回までに行うべきことを指示する。		
受講者への要望			
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ニーズ調査や企業内実習などが行われることもある(交通費等受講者負担)。 ＊ビジネスプランニングコンテストに関心を有する者の受講が望ましい。 ＊学外での活動を含むことから全員そのための保険に加入してもらいます。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本プロジェクトの概要） 2 ビジネスプランを策定する上での基礎学習 3 ビジネスプランを策定する上での基礎学習 4 調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて） 5 調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて） 6 調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて） 7 ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析） 8 ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析） 9 ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析） 10 他大学や近隣での調査（：学外実習） 11 他大学や近隣での調査（：学外実習） 12 ビジネスプランの策定 13 ビジネスプランの策定 14 ビジネスプランの策定 15 今期の反省と来期の活動について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★	－

年度	2016	授業コード	J80100227
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、京學堂の活動の一環として、会計が経営管理に果たす役割を実践的に学ぶことを目的とする。京學堂における経営活動は簿記を通していかに会計的に認識され、そこから得られる情報をどのようにして経営にフィードバックしていくか学ぶ。 最終的には、京學堂の経営上の課題を発見し、改善提案していくことをめざす。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①簿記の基本原理と経営管理に活かす手法を理解する。 ②グループ討議に積極的に参加し、自分の意見を的確に伝える力を養う。		
準備学習	資産・負債・資本・収益・費用といった会計の基礎概念や仕訳を理解しておくこと。		
受講者への要望			
積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「春学期決算①」 3.「春学期決算②」 4.「春学期の経営分析①」：分析手法の検討 5.「春学期の経営分析②」：売上分析① 6.「春学期の経営分析③」：売上分析② 7.「春学期の経営分析④」：キャッシュ・フロー分析 8.「中間発表」：分析結果の報告 9.「未認識費用の検討①」：現金支出のない費用の認識 10.「未認識費用の検討②」：現金支出のない費用の認識 11.「秋学期月次決算①」 12.「秋学期月次決算②」 13.「年次決算①」 14.「年次決算②」 15.「決算報告」			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J80100228
科目名	実践プロジェクト B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	本講義では GIP（グローバル・インターンシップ・プログラム）への参加を考えている学生が、相手国（当面は中国）において（模擬的に）事業を展開することを目的にする。そのために、ビジネスマナー、相手国の言語から勉強を始め、進出企業のいろいろな業種（※）を調査・研究し、経営戦略の策定、進出企業の問題発見、ソリューションの発見、将来展望をする。 （※）この場合の業種とは、技術系、IT 系、エネルギー関連系、小売店系、飲食店系、イベント系、農業系、公企業系を考えている。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	経営学の入門書、教員が保有する教材、各企業の HP、経済雑誌等		
教材（その他）			
評価方法	調査研究への積極的参加態度（70%）、成果報告（30%）		
到達目標	・GIP 参加学生内の他者との共同作業を通じ、知識の共同化を行う ・GIP 参加学生内と外との討論により、事業の論理的な整合性を追求する ・各自において、討論と調査を通じて、理論の定着化を図る		
準備学習	日本におけるビジネスの実践に関心を持つと同時に、相手国の経済・社会・法・商習慣などにも関心を持つ		

受講者への要望

・「実践プロジェクト A」をふまえて、それぞれの国の社会をよく見る
・具体的企業の経営内容や、企業における人々の行動・発言を調査する場合でも、「理屈」を付けられるようにする（理論付けをする）

講義の順序とポイント

01　業界展望
02　相手国での事業立ち上げ　その 1-1
03　相手国での事業立ち上げ　その 1-2
04　相手国での事業立ち上げ　その 1-3
05　相手国での事業立ち上げ　その 1-4
06　相手国での事業立ち上げ　その 1-5
07　企業人によるフィージビリティー（採算可能性）の検証
08　相手国での事業立ち上げ　その 2-1
09　相手国での事業立ち上げ　その 2-2
10　相手国での事業立ち上げ　その 2-3
11　相手国での事業立ち上げ　その 2-4
12　相手国での事業立ち上げ　その 2-5
13　企業人によるフィージビリティーの検証
14　残された課題　その 1　歴史的背景の検討
15　残された課題　その 2　政治・経済情勢の検討

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J80100230
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、ビジネス・プランを作成することを目標にし、事業計画の立て方と、それを効果的に伝える方法を学ぶ。 具体的には、ビジネス・プランニング・コンテストにプランを提出するために、①事業計画の立て方を学ぶ、②グループごとにプランを作成する、③グループの成果をプレゼンテーションすることにより効果的な伝え方を学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）。		
到達目標	企画書の作成ができること。 プレゼンテーション能力を高めること。		
準備学習	グループで成果をパワーポイントにまとめるため、パソコン作業に習熟すること。		
受講者への要望			
受講生は経営企画者になりきり、いかにしてビジネスで成果を上げるのかを真剣に考えること。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション（授業の目標と進め方） 2. ビジネス・プラン作成の基礎（ビジネス・プランの基礎を学ぶ） 3. グループ化（調査と成果報告を行うグループを決定する） 4. テーマ決定①（グループ内でテーマにするビジネスを討議する） 5. テーマ決定②（グループ内でテーマにするビジネスを決定する） 6. リサーチ①（決定したテーマに沿ったリサーチ案を討議する） 7. リサーチ②（リサーチ案に沿って実査を行う） 8. ビジネス・プラン作成①（ビジネス・プランを作成する） 9. ビジネス・プラン作成②（ビジネス・プランを作成する） 10. リハーサル（グループ間でまとめた成果を報告しあう） 11. 質問事項の確認（各グループに対する質問をグループ内で整理する） 12. 質問事項の対応策の検討（質問についてグループ内で討議する） 13. 質問事項に対する回答（質問に対する回答をする） 14. ビジネス・プラン作成③（ビジネス・プランを手直しする） 15. 成果報告会（すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう） 授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	- -	★	- -	- -

年度	2016	授業コード	J80100231
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。プロスポーツビジネスの業界研究と経営学を学ぶことにより、スポーツビジネスについて知識を深める。 スポーツビジネス業界の基礎的知識を身につけ、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①研究するためのリサーチ手順など、基礎知識を養える。 ②グループによる事前準備から報告までの中で、コミュニケーション力を養える。		
準備学習	Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。		

受講者への要望

演習への積極的参加する。日頃からスポーツビジネスに興味を持ちアンテナを張る。

講義の順序とポイント

1. 「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例①
3. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例②
4. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例③
5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する
6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する
7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる
8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する
9. フィールドワーク事前指導：現場での基礎知識や基礎テクニックを学ぶ
10. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する
11. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する
12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告
15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	ー	★★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J80100233
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、スポーツ・レクリエーション・健康増進・介護予防ビジネスについてフィールドワークを行う。 プロスポーツビジネスだけでなく、人を笑顔にし幸福度をあげるビジネスの業界研究とイベント運営の経営やマネジメントを学ぶことにより、健康長寿やスポーツツーリズムのビジネスについて知識を深める。 ビジネス業界の基礎的知識を身につけ、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①周囲を説得するための企画書の作成と実践ができる。 ②自らのメッセージを端的に伝え、１つの目的に向かい協働することができる。		
準備学習	グループで成果をパワーポイントにまとめるため、パソコン作業に習熟すること		
受講者への要望			
受講生は実践から学んでいくため、京都体操祭やワークショップに参加する。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「グループ化」：企画・実践と成果報告を行うグループを決定する 3.「京都体操祭」：グループ内で4部門に分かれる 4.「京都体操祭」：グループ内で実行委員インタビューで仕事を知る 5.「コンセプトメイキング」：決定したテーマに沿ったリサーチ案を討議する 6.「AAR」：振り返り 7.「レクリエーション実習①」：グループ間でプログラムを練る 8.「レクリエーション実習②」：プログラムの実践 9.「高齢者への実践」：高齢者施設訪問 10.「AAR」：振り返り 11.「フィットネス施設の見学」 12. 業界研究① 13. 業界研究② 14.「成果報告会」資料作成 15.「成果報告会」：すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	★	★	–	–

年度	2016	授業コード	J80100234
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	本講座のキーワードは、「「座学」から「実学」へ」である。すなわち講義科目で習得した経営に関連する知識を駆使して、実現可能な事業構想、事業計画の作成に取り組むことを、本旨とした講座である。 そして事業構想を行う過程において「企業内起業家」「起業家」「女性起業家」「事業後継者」にとって必要とされる実践的能力の涵養を図ることを最大の目的としている。 このためグループワークｔ及びフィールドワークを中心に、コミュニケーション、リーダーシップなど組織にとって重要なスキルを取得するとともに、グループワーク及びフィールドワークを通して、観察し、認知し、実践するマネジメント能力の習得を図りたい。		
教材（テキスト）	梅木晃ほか編著　　『事業構想と経営』 日本政策金融公庫編　　『創業の手引き』		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点　50%、研究成果 50%		
到達目標	企業など経営に必要な知識を活用することにより、実現可能な事業構想、事業計画を実践的に、創造し、そのプロセスにおいて、経営学を実践することの、基本と原則を習得することを、最大の到達目標としている。		
準備学習	事業構想、事業計画の原石は、日常生活のいたるところに、散在している。その原石を原石として見いだされるか否かが、事業構想、事業計画を実現させて行くうえでのもっとも重要な要因と言える。 このため社会経済における、企業などのビジネス活動に興味を抱くとともに、ビジネスへの感性を日頃から磨くことに努力されたい。		

受講者への要望

企業内起業家（サラリーマン)、起業家、女性起業家、事業後継者を目指す受講生を希望します。
またグループワーク及びフィールドワーク中心の講座ですので、時間管理、進捗管理を含め自己管理をしっかりとできる自信のある受講生を，重ねて希望します。

講義の順序とポイント

1　本講座の概要（講義）
2　事業構想及び事業計画（以下事業構想計画という。）に必要とされる知識とスキルの取得（グループワーク）①
3　事業構想計画に必要とされる知識とスキルの取得（グループワーク）②
4　事業構想計画のための起業機会の認識（対象とする業界、業種についての調査研究（フィールドワークの実施））①
5　事業構想計画のための起業機会の認識（対象とする業界、業種についての調査研究（フィールドワークの実施））②
6　中間発表会（プレゼンテーション、質疑応答）
7　事業構想計画のための経営資源の調達（経営資源調達のための調査研究（フィールドワークの実施））①
8　事業構想計画のための経営資源の調達（経営資源調達のための調査研究（フィールドワークの実施））②
9　中間発表会（プレゼンテーション、質疑応答）
10　事業構想計画のためのビジネスシステムの構築（ビジネスシステム構築のための調査研究（フィールドワークの実施））①
11　事業構想計画のためのビジネスシステムの構築（ビジネスシステム構築のための調査研究（フィールドワークの実施））②
12　中間発表会（プレゼンテーション、質疑応答）
13　最終事業構想計画の作成（グループワーク）①
14　最終事業構想計画の作成（グループワーク）②
15　最終事業構想計画のプレゼンテーション（質疑応答、評価）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★★	★★	★

年度	2016	授業コード	J80100251
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	この授業では、歴史都市京都において展開したさまざまな時代の歴史に関係する実際の現場を訪れ、歴史を体感します。その際、たんに現地を訪れるだけではなく、古文書や絵巻物など、通常ではみられないような史料も観覧します。また受講生には事前に下調べをしてもらい、事前にレジュメを作成して、現地で発表をしてもらったり、さらに現地で調査を行ったりすることも求めます。またその調査の成果を、オープンキャンパスで発表してもらうことも想定しています。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	『京都市の地名』（日本歴史地名大系 27、平凡社） 『京都府 上・下巻』（角川日本地名大辞典 26‐〔1・2〕」（角川書店） 『慶長昭和京都地図集成 1611（慶長 16）年～1940(昭和 15)年』（柏書房） 『京都・山城寺院神社大事典』（平凡社） 『新修京都叢書』全 25 巻（臨川書店） 『新撰京都叢書』全 12 巻（臨川書店）		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	現地での発表・作成したレジュメ（50%） 授業への参加度（50%）		
到達目標	京都の歴史文化への知識を身につけること。 京都の歴史文化の調べ方、関係図書について熟知すること。		
準備学習	毎月の見学先について、班ごとに調べものをした上でレジュメを作成してもらいます。		

受講者への要望

この授業は、教員が引率する観光旅行ではありません。みなさん自身が見学先について、事前調査を行い、深い知識を身につけ、それを他の人に説明することが求められます。また現地で実際に歴史の現場をみることで、初めてわかることもあると思います。また現地には土日に訪れますので、ガイダンスで発表する予定を確認の上、スケジュール調整をしてください。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　北野天満宮周辺の下調べ
3　北野天満宮周辺の下調べ
4　北野天満宮周辺のフィールドワーク（10 月中旬）
5　延暦寺周辺の下調べ
6　延暦寺周辺の下調べ
7　延暦寺周辺の下調べ
8　延暦寺のフィールドワーク（11 月中旬）
9　吉田山・京都大学古文書室の下調べ
10　吉田山・京都大学古文書室の下調べ
11　吉田山・京都大学古文書室のフィールドワーク（12 月中旬）
12　書物文化遺産の下調べ
13　書物文化遺産の下調べ
14　書物文化遺産のフィールドワーク（１月中旬）
15　巡見結果の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	–	★	–	–

年度	2016	授業コード	J80100252
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、実践プロジェクト（民俗学）を通じてフィールドワークの技法について学ぶとともに、民俗事象について理解を深めようとするものです。 　したがって実践プロジェクト（民俗学）の授業は、民俗学のフィールドワークを中心に行うことになります。フィールドワークは民俗学という学問の根幹にあるもので、民俗学を学ぶ者が宝物のように大切にしているものです。単なる現地見学ではありません。 　フィールドワークの前には、その準備として講義形式の授業があります。概ね一回のフィールドワークにつき一回の講義が行われます。 　実践プロジェクト（民俗学）の授業は、佐々木、堀田、手塚の三人の教員が共同で担当します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	フィールドワークおよび資料整理への貢献度、成果発表会の成果などを総合的に評価する。		
到達目標	フィールドワークを計画、実施し、その資料を整理した上で、研究成果を発表できるようになること。		
準備学習	フィールドワークに行く前に教員は準備課題を出します。課された課題は済ませた状態で、フィールドワークに臨むこと。		
受講者への要望			
フィールドワークに関係する授業ですので、原則、全回出席を求めます。　フィールドワークは学外に出ますので、半日もしくは一日がかりとなります。また交通費などがかかります。			
講義の順序とポイント			
秋学期に計画しているフィールドワークは以下の通りです。フィールドワークですので、天候や相手先の都合などにより、計画を変更することがあります。 　夏休み合宿 　フィールドワーク１　祭礼調査（亀岡） 　フィールドワーク２　御朱印状を持つ村（保津町） 　フィールドワーク３　テーマを持ってフィールドワークをする（京都市郊外） 　フィールドワーク４　テーマを持ってフィールドワークをする（京都市）		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J80100253
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	祇園祭の成り立ちや京都の暮らし、京町家について研究し体験することを通じて、京都の文化の特性を考察する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	適宜、授業で提示する。		
教材（その他）			
評価方法	参加型の授業なので、毎回の内容への積極的参加度によって評価する。		
到達目標	京都の伝統的な祭りや京町家での暮らしについて理解し、京都文化について考察すること		
準備学習	特になし		

受講者への要望

授業は原則として、水曜日 1 時間目に行う。キャンパス移動や二時間続きの内容があるため、2 時間目の授業登録はしないことが望ましい。
また、学外の地域の方等と交流する機会があるので、京都学園大学生としての自覚を持ち、模範となるように行動すること。

講義の順序とポイント

講義内容と実施場所は、下記のとおりである。
京都太秦キャンパス以外の場所で行うことがあるので、注意すること。
また、二時間続きの授業をおこなうことがあるので、注意すること。

1　授業の概要　　京都太秦キャンパス
2　しつらえ替え　秋　二時間続き　　京町家キャンパス
3　茶道　調べ学習と発表　　京町家キャンパス
4　茶道資料館　（二時間続き）フィールドワーク
5　華道　調べ学習と発表　　京町家キャンパス
6　六角堂と池坊会館　文化博物館（二時間続き）　　フィールドワーク
7　座学　祇園祭の山鉾　　中国の故事　　京町家キャンパス
8　座学　祇園祭の山鉾　　日本の故事　　京町家キャンパス
9　座学　祇園祭の飾り　　京町家キャンパス
10　山鉾の刺繍の作業場見学　　京町家キャンパス
11　座学　京料理と京菓子　　京町家キャンパス
12　京料理の学習と試食（二時間続き）　　京町家キャンパス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J80100254
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	この実践プロジェクトでは、２つの観点から、京都の近代の歴史を考察する。 ・京都の近代化遺産 日本の近代化遺産がユネスコの世界遺産に認定されたこともあり、最近注目を集めている。では、京都ではどのような近代化遺産があるのだろうか。京都の近代化遺産について調べ、それをフィールドワークして、日本の近代化にどのような貢献をしたのかを明らかにしたい。そして、そもそも近代化とは何を意味するのか、近代とはどのような時代なのかを考えたい。 ・京都の映像文化 Google 等で“kyoto”で検索をすれば､日本文化を象徴する膨大な量の画像を見つけることができる｡YouTube 等で検索しても京都を舞台にした古い日本映画が英語の字幕で世界中で共有されていることを確認できる。特に注目すべきは、1897 年四条河原町の元・立誠小学校で最初の試写がおこなわれ「日本映画」がはじまった。そして、昭和初期には「日本のハリウッド」と呼ばれる映画産業の中心地となって繁栄することになった。京都は日本の映像文化を語る際に欠くことのできない都市なのである。京都の近代の歴史を、そのような映像文化を多角的にフィールドワークをすることによって考えてみる。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	フィールドワークの報告レポート等で総合的に評価する。		
到達目標	京都の近代化遺産／映像文化を実践的に考察する。		
準備学習	配布するレジュメ等に記載している文献等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション 02　京都の近代化遺産（１） 03　京都の近代化遺産（２） 04　京都の近代化遺産（３） 05　京都の近代化遺産（４） 06　京都の近代化遺産（５） 07　京都の近代化遺産（６） 08　京都の近代化遺産（７） 09　京都の映像文化（１） 10　京都の映像文化（２） 11　京都の映像文化（３） 12　京都の映像文化（４） 13　京都の映像文化（５） 14　京都の映像文化（６） 15　京都の映像文化（７）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★	－

年度	2016	授業コード	J80100255
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	京都は言わずと知れた国際観光都市であり、２年連続で「魅力のある街世界一」に選ばれた。したがって、その観光地に関する案内書は無数にあり、すべて紹介され尽した感がある。しかし、とはいえ、まだまだ無名の観光資源は眠っているはずで、それを掘り起こすのが本授業の目的である。 「事前調査」→「現地調査」→「観光案内作成」→「観光案内英語版作成」 秋学期は英語版を作成する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	学生諸君に探してもらう。		
教材（その他）			
評価方法	出来上がった観光案内で評価する。		
到達目標	あまり知られていない京都の観光資源を発掘し、その観光案内を作成することによって、将来観光産業などで働きたい学生諸君の入門にしたい。		
準備学習	特になし。		
受講者への要望			
これこそフィールドワークの真髄であると思う。楽しみながら、学んで頂きたい。			
講義の順序とポイント			
１．概要説明 ２．グループ分け ３．新観光地の探索 ４．同上 ５．同上 ６．現地探索 ７．レポート作成 ８．同上 ９．同上 １０．日本語版観光案内作成 １１．同上 １２．英語版観光案内作成 １３．同上 １４．同上 １５．同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J80100321
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
2.就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
3.自分探し：過去の自分を振り返る
4.自分史１：自分の歴史を整理する
5.自分史２：自分の歴史を整理する
6.自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
7.自己分析シート下書き
8.自己分析シート清書
9.自己分析シートの完成と提出
10.就職サイトの活用方法
11.自己ＰＲ文（１）の作成
12.自己ＰＲ文（１）の完成
13.自己ＰＲ文（２）の作成
14.自己ＰＲ文（２）の完成
15.自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J80100322
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
2.就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
3.自分探し：過去の自分を振り返る
4.自分史１：自分の歴史を整理する
5.自分史２：自分の歴史を整理する
6.自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
7.自己分析シート下書き
8.自己分析シート清書
9.自己分析シートの完成と提出
10.就職サイトの活用方法
11.自己ＰＲ文（１）の作成
12.自己ＰＲ文（１）の完成
13.自己ＰＲ文（２）の作成
14.自己ＰＲ文（２）の完成
15.自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J80100323
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
2.就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
3.自分探し：過去の自分を振り返る
4.自分史１：自分の歴史を整理する
5.自分史２：自分の歴史を整理する
6.自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
7.自己分析シート下書き
8.自己分析シート清書
9.自己分析シートの完成と提出
10.就職サイトの活用方法
11.自己ＰＲ文（１）の作成
12.自己ＰＲ文（１）の完成
13.自己ＰＲ文（２）の作成
14.自己ＰＲ文（２）の完成
15.自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J80100324
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
2.就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
3.自分探し：過去の自分を振り返る
4.自分史１：自分の歴史を整理する
5.自分史２：自分の歴史を整理する
6.自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
7.自己分析シート下書き
8.自己分析シート清書
9.自己分析シートの完成と提出
10.就職サイトの活用方法
11.自己ＰＲ文（１）の作成
12.自己ＰＲ文（１）の完成
13.自己ＰＲ文（２）の作成
14.自己ＰＲ文（２）の完成
15.自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J80100325
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
2.就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
3.自分探し：過去の自分を振り返る
4.自分史１：自分の歴史を整理する
5.自分史２：自分の歴史を整理する
6.自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
7.自己分析シート下書き
8.自己分析シート清書
9.自己分析シートの完成と提出
10.就職サイトの活用方法
11.自己ＰＲ文（１）の作成
12.自己ＰＲ文（１）の完成
13.自己ＰＲ文（２）の作成
14.自己ＰＲ文（２）の完成
15.自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J80100326
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
2.就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
3.自分探し：過去の自分を振り返る
4.自分史１：自分の歴史を整理する
5.自分史２：自分の歴史を整理する
6.自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
7.自己分析シート下書き
8.自己分析シート清書
9.自己分析シートの完成と提出
10.就職サイトの活用方法
11.自己ＰＲ文（１）の作成
12.自己ＰＲ文（１）の完成
13.自己ＰＲ文（２）の作成
14.自己ＰＲ文（２）の完成
15.自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J80100327
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
2.就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
3.自分探し：過去の自分を振り返る
4.自分史１：自分の歴史を整理する
5.自分史２：自分の歴史を整理する
6.自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
7.自己分析シート下書き
8.自己分析シート清書
9.自己分析シートの完成と提出
10.就職サイトの活用方法
11.自己ＰＲ文（１）の作成
12.自己ＰＲ文（１）の完成
13.自己ＰＲ文（２）の作成
14.自己ＰＲ文（２）の完成
15.自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J80100421
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.自己 PR の口頭発表
2.業界研究
3.仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
4.仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
5.仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
6.仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
7.就職活動の実例：経験者の話しを聞く
8.履歴書を書く
9.エントリーシートを書く（1）
10.エントリーシートを書く（2）
11.エントリーシートを書く（3）
12.エントリーシートを書く（4）
13.実践練習：エントリーシートの内容を話す
14.実践練習：面接の要領・グループ面接
15.就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J80100422
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.自己 PR の口頭発表
2.業界研究
3.仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
4.仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
5.仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
6.仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
7.就職活動の実例：経験者の話しを聞く
8.履歴書を書く
9.エントリーシートを書く（1）
10.エントリーシートを書く（2）
11.エントリーシートを書く（3）
12.エントリーシートを書く（4）
13.実践練習：エントリーシートの内容を話す
14.実践練習：面接の要領・グループ面接
15.就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J80100423
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.自己 PR の口頭発表
2.業界研究
3.仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
4.仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
5.仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
6.仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
7.就職活動の実例：経験者の話しを聞く
8.履歴書を書く
9.エントリーシートを書く（1）
10.エントリーシートを書く（2）
11.エントリーシートを書く（3）
12.エントリーシートを書く（4）
13.実践練習：エントリーシートの内容を話す
14.実践練習：面接の要領・グループ面接
15.就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J80100424
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.自己 PR の口頭発表
2.業界研究
3.仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
4.仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
5.仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
6.仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
7.就職活動の実例：経験者の話しを聞く
8.履歴書を書く
9.エントリーシートを書く（1）
10.エントリーシートを書く（2）
11.エントリーシートを書く（3）
12.エントリーシートを書く（4）
13.実践練習：エントリーシートの内容を話す
14.実践練習：面接の要領・グループ面接
15.就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J80100425
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.自己 PR の口頭発表
2.業界研究
3.仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
4.仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
5.仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
6.仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
7.就職活動の実例：経験者の話しを聞く
8.履歴書を書く
9.エントリーシートを書く（1）
10.エントリーシートを書く（2）
11.エントリーシートを書く（3）
12.エントリーシートを書く（4）
13.実践練習：エントリーシートの内容を話す
14.実践練習：面接の要領・グループ面接
15.就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J80100426
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.自己 PR の口頭発表
2.業界研究
3.仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
4.仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
5.仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
6.仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
7.就職活動の実例：経験者の話しを聞く
8.履歴書を書く
9.エントリーシートを書く（1）
10.エントリーシートを書く（2）
11.エントリーシートを書く（3）
12.エントリーシートを書く（4）
13.実践練習：エントリーシートの内容を話す
14.実践練習：面接の要領・グループ面接
15.就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J80100427
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1.自己 PR の口頭発表
2.業界研究
3.仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
4.仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
5.仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
6.仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
7.就職活動の実例：経験者の話しを聞く
8.履歴書を書く
9.エントリーシートを書く（1）
10.エントリーシートを書く（2）
11.エントリーシートを書く（3）
12.エントリーシートを書く（4）
13.実践練習：エントリーシートの内容を話す
14.実践練習：面接の要領・グループ面接
15.就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J80100501
科目名	社会コミュニケーション基礎演習(実践プロジェクトC)	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	「社会コミュニケーション基礎演習」では、社会のなりたちや動き、人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行ないます。フィールドワークの準備と実施や、プレゼンテーションなどをおこないます。 この科目には３つのクラスがあり、このクラス（岡本裕介担当）では、「イベント企画を通した社会調査入門」というテーマですすめていきます。イベント企画は今のところ、里山で芸術作品制作をしている方のトークと展示を予定しています。制作者に聞き取り調査をして、社会で活動している人の考え方をとらえる方法を学びます。また、イベント参加者に簡単な調査票を配布して集計し、イベントのニーズなどを調べます。せっかくのイベント企画なので、何とか成功するような工夫もしたいと思います。 　なお、イベントとフィールドワークは土曜日に実施し、演習に振り替えます。それ以外に、準備などで数回学外に出かけることがあります。		
教材（テキスト）	演習時に指示します。		
教材（参考文献）	演習時に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて配布・指示します。		
評価方法	フィールドワークの準備と実施（社会調査の設計・実施・結果集約・整理分析：50%）、プレゼンテーション（30%）、討論（20%）		
到達目標	簡単なフィールドワークを計画・実施し、プレゼンテーションおこなう力を身につける。社会調査法をはじめ、大学で学びつつあることと社会との接続を理解する。		
準備学習	各回の最後に次回分を指示します。		
受講者への要望			
科目の趣旨から考えて、積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス（この科目のねらいなど） 2. フライヤーの作成、配布先の検討 3. 会場挨拶・見学、フライヤーの配布 4. 社会調査法概説 5. 聞き取り調査のコツ（外部講師） 6. 調査票の作成(1) 7. 調査票の作成(2) 8. イベント準備 9. イベント実施およびフィールドワーク 10. エディティング（調査データの整理） 11. コーディングと集計 12. ミニレポートの作成 13. 討論と発表(1) 14. 討論と発表(2) 15. ミニレポートの修正、フィードバックの作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2016	授業コード	J80100502
科目名	社会コミュニケーション基礎演習(実践プロジェクトC)	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	「社会コミュニケーション基礎演習」では、社会のなりたちや動き、人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行ないます。フィールドワークの準備と実施や、プレゼンテーションなどをおこないます。 この科目には３つのクラスがあり、このクラス（岡本裕介担当）では、「イベント企画を通した社会調査入門」というテーマですすめていきます。イベント企画は今のところ、里山で芸術作品制作をしている方のトークと展示を予定しています。制作者に聞き取り調査をして、社会で活動している人の考え方をとらえる方法を学びます。また、イベント参加者に簡単な調査票を配布して集計し、イベントのニーズなどを調べます。せっかくのイベント企画なので、何とか成功するような工夫もしたいと思います。 　なお、イベントとフィールドワークは土曜日に実施し、演習に振り替えます。それ以外に、準備などで数回学外に出かけることがあります。		
教材（テキスト）	演習時に指示します。		
教材（参考文献）	演習時に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて配布・指示します。		
評価方法	フィールドワークの準備と実施（社会調査の設計・実施・結果集約・整理分析：50%）、プレゼンテーション（30%）、討論（20%）		
到達目標	簡単なフィールドワークを計画・実施し、プレゼンテーションおこなう力を身につける。社会調査法をはじめ、大学で学びつつあることと社会との接続を理解する。		
準備学習	各回の最後に次回分を指示します。		
受講者への要望			
科目の趣旨から考えて、積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス（この科目のねらいなど） 2. フライヤーの作成、配布先の検討 3. 会場挨拶・見学、フライヤーの配布 4. 社会調査法概説 5. 聞き取り調査のコツ（外部講師） 6. 調査票の作成(1) 7. 調査票の作成(2) 8. イベント準備 9. イベント実施およびフィールドワーク 10. エディティング（調査データの整理） 11. コーディングと集計 12. ミニレポートの作成 13. 討論と発表(1) 14. 討論と発表(2) 15. ミニレポートの修正、フィードバックの作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2016	授業コード	J80100503
科目名	社会コミュニケーション基礎演習(実践プロジェクトC)	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	「社会コミュニケーション基礎演習」では、社会のなりたちや動き、人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行ないます。フィールドワークの準備と実施や、プレゼンテーションなどをおこないます。 この科目には３つのクラスがあり、このクラス（岡本裕介担当）では、「イベント企画を通した社会調査入門」というテーマですすめていきます。イベント企画は今のところ、里山で芸術作品制作をしている方のトークと展示を予定しています。制作者に聞き取り調査をして、社会で活動している人の考え方をとらえる方法を学びます。また、イベント参加者に簡単な調査票を配布して集計し、イベントのニーズなどを調べます。せっかくのイベント企画なので、何とか成功するような工夫もしたいと思います。 　なお、イベントとフィールドワークは土曜日に実施し、演習に振り替えます。それ以外に、準備などで数回学外に出かけることがあります。		
教材（テキスト）	演習時に指示します。		
教材（参考文献）	演習時に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて配布・指示します。		
評価方法	フィールドワークの準備と実施（社会調査の設計・実施・結果集約・整理分析：50%）、プレゼンテーション（30%）、討論（20%）		
到達目標	簡単なフィールドワークを計画・実施し、プレゼンテーションおこなう力を身につける。社会調査法をはじめ、大学で学びつつあることと社会との接続を理解する。		
準備学習	各回の最後に次回分を指示します。		
受講者への要望			
科目の趣旨から考えて、積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス（この科目のねらいなど） 2. フライヤーの作成、配布先の検討 3. 会場挨拶・見学、フライヤーの配布 4. 社会調査法概説 5. 聞き取り調査のコツ（外部講師） 6. 調査票の作成(1) 7. 調査票の作成(2) 8. イベント準備 9. イベント実施およびフィールドワーク 10. エディティング（調査データの整理） 11. コーディングと集計 12. ミニレポートの作成 13. 討論と発表(1) 14. 討論と発表(2) 15. ミニレポートの修正、フィードバックの作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2016	授業コード	J80110101
科目名	ＡＩＰ入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Internship (Introduction)		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	学生が京都の企業に企業留学し，学修へのモチベーションを高めるとともに，卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（アドバンスト・インターンシップ・プログラム；ＡＩＰ）の「最初」に位置付けられる科目である。 ①ビジネスマナー等のビジネススキルの実習を行うほか、②なぜ、インターンシップに取り組むのかを考え、実習に向けた目標の設定をグループワーク形式で行い、実習メンバー間の目的意識を共有することを通じて、実習経験を最大限活かせるような「態度」を身につけることとする。		
教材（テキスト）	プリント資料の配付		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	事前授業の取組態度(20％) 具体的には、発言等々の授業への参加状況を総合的に評価する 実習前の「事前レポート」(80％)		
到達目標	１．企業で働く上で、必要となる基礎的マナーを身につける ２．企業で働く上でのルールや注意しなければならない点について理解する。 ３．実習に取り組む上で個人的な目標設定を行う。 ４．インターンシップそのものの重要性について理解する。		
準備学習	講義内容は全て今後の実習において実際に活用しうる内容であるため、必ず復習を行い、実践できるようにすること。また、予習として新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れること。 （授業内でも、当日の新聞･雑誌記事を素材に、意見交換を行うことがある。）		

受講者への要望

授業は、教員･学生間双方向でやっていく予定であるので、あらゆる局面において、自分の意見を持ち、活発な意見交換をお願いする。これからのインターシップ実習を想定しながら、意欲的に取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

Ⅰ　目的意識の明確化
1. 参加メンバーの相互理解
2. インターンシップに取り組む目的とその共有
3. 先輩から学ぶ AIP
4.大学の学びとインターンシップ①
　　－学部での学びから次の STEP へ
5. 大学の学びとインターンシップ②
　　－インターンシップで何を学ぶか

Ⅱ　職場での基礎的なルールとマナーを学ぶ
6. ビジネスでのルールを知る①
7. ビジネスでのルールを知る②
8. ビジネスでのルールを知る③
9. メンタルヘルス①
10. メンタルヘルス②
11. インターンシップの危機管理

Ⅲ　実習に向けた準備
12. 実習に向けた目標設定①
13. 実習に向けた目標設定②

14. 実習に向けた目標設定③ 15.実習に向けた目標設定④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	J80110201
科目名	京の企業Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small and Medium Enterprises in Kyoto Ⅰ		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業で「働く」という事に対する理解を深めると同時に，京都の企業に対する興味関心を深め，自分なりの「働く」ことに対する意味を探求する科目です。組織の中で働くとはどういうことか，そして与えられた役割を果たすとはどういうことかについて考え，職業社会への参入に向けた準備を行います。なお，本科目はアドバンスト・インターンシップ・プログラムを修了する為の必須科目（事前学修科目）に指定されています。		
教材（テキスト）	特になし．必要に応じて適宜指示する．		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する．		
教材（その他）	必要に応じて適宜指示する．		
評価方法	授業中に指示する課題への取組(50%)，レポート課題(50%)		
到達目標	企業で働くことに対する理解を深めることができる 京都の企業に対する理解を深めることができる 「働く」ことに対する自分なりの意味づけを持つことができる		
準備学習	授業内で提示した課題に関する事前調査が必須となるので，授業開始時までに必ず指示した内容について調べ，内容を整理しておくこと．		

受講者への要望

本科目はインターンシップとして職業社会に参入するための準備的意味合いを持つ科目です。よって，普段の行動についても社会人と同様の水準で評価します。理由なき遅刻，欠席は厳禁です。提出物についても必ず期日を守ること。また，本科目を受講しなければ企業実務への参加をすることが出来ませんので，真摯な態度で受講してください。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス＆職業の意義とは何か？
2.先輩から学ぶインターンシップ
3.「社会的役割を果たす」とは？
4.「労働力」と「給料」
5.「天職とは？」
6.日本の雇用と働く仕組み
7.京都の企業を知る①
8.京都の企業を知る②
9.京都の企業を知る③
10.職務を理解する①
11.職務を理解する②
12.職務を理解する③
13.「社会的役割」としての仕事①
14.「社会的役割」としての仕事②
15.「社会的役割」としての仕事③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80110301
科目名	京の企業II	単位数	2
科目名（英語表記）	Small and Medium Enterprises in Kyoto II		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	本科目はインターンシップを通じた実務経験の振り返りを通じて,「働く」ことの意味について再構築する科目です。インターンシップでの実務経験と対比しながら「働く」ということについて考えると同時に，社会で必要となる「学び」の形とは何かについて考えます。なお，本科目はアドバンスト・インターンシップ・プログラムを修了する為の必須科目（事後学修科目）に指定されています。		
教材（テキスト）	特になし．必要に応じて資料を配付する．		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する．		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する．		
評価方法	授業中に提示する課題への取組(50%)とレポート課題(50%)		
到達目標	「働く」ことについて，実務経験を踏まえてその意味を再認識することができる 社会で必要となる「学び」の形について深く理解することができる インターンシップでの経験を体系化してまとめることができる		
準備学習	実務経験を通じて感じた事柄を具体化していく作業を授業内で実施しますので，自分の考えや感じたことをあらかじめメモや文章などにしてまとめておくことが必要となります。また，授業内で資料作成等の指示を出しますので，期日までに必ず完成させること。		

受講者への要望

これまでの経験を踏まえ，普段の行動についても社会人と同様の水準で評価します。理由なき遅刻，欠席は厳禁です。提出物についても必ず期日を守ること。

講義の順序とポイント

1.実務経験を考える
2.組織社会化①
3.組織社会化②
4.職業の意義・再考
5.企業で働くことの意味①
6.企業で働くことの意味②
7.学校から職業への移行①
8.学校から職業への移行②
9.京の企業で働く①
10.京の企業で働く②
11.京の企業で働く③
12.社会に繋がる学び①
13.社会に繋がる学び②
14.社会に繋がる学び③
15.社会に繋がる学び④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80110801
科目名	現代アジア事情 A	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この科目は、アジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」では、本学の提携大学である南通大学における中国語語学研修を通じて、中国の文化や歴史に触れることを目的とします。中国語入門レベルの文法、リスニング、語彙、スピーキングの基礎を習得することを目指します。研修後に予定されている中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、日常会話や職場内での基本的なコミュニケーションがとれるようになることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	授業内で配布します。		
教材（参考文献）	授業で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国語および中国語文化、社会,経済事情に対する初歩的な知識を身に着け、中国の現代社会において最低限必要なコミュニケーションをとるための語学力の基礎を習得します。		
準備学習	各講義の前に復習、予習時間の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズを必ず声に出して読んだ上、暗記するようにしてください。また、授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講者への要望

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、中国語による自己紹介、あいさつの方法
   授業内容の説明
2. 発音(1)　四声と母音
3. 発音(2)　母音の後半と子音
4. 発音(3)　鼻母音、名前の中国語読み・挨拶の言葉
5. 発音の復習、中国語文化(1)
6. 中国語文法：指示代名詞など
7. 中国語文法、発音の復習、中国経済事情（1）
8. 会話演習（1), 中国語文化(2), 太極拳（１）
9. 中国語文法：場所代名詞、副詞など、中国語文化（3）
10. 会話演習（2), 中国語文法：代名詞、副詞の復習、中国経済事情（2）
11. 中国語文法：　疑問詞、不定の表現、太極拳(2)
12. 会話演習（3), 中国語文法：　方位詞、数量詞と存在の表現、中国経済事情(3)
13. 中国語文法：比較、動詞の可能形、発音復習、太極拳(3)
14. 会話演習(4)
15. 会話演習(5), 中国語文化（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J80110901
科目名	現代アジア事情 B	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」に引き続き、さらなる語学の修得を目指しつつ、中国の文化や歴史、現在の社会、経済事情、法律などを把握することを目的とします。研修後に予定されている、中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、中国における文化や習慣、マナー、経済事情や社会について理解し、企業実習を行うにあたって、スムーズにコミュニケーションがとれる力をつけることを目標とします。		
教材（テキスト）	授業内で配布します。		
教材（参考文献）	授業で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済、社会、法律の事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケーションをとるための語学力の基礎を習得します。		
準備学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講者への要望

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション、授業に関する説明、中国語文化(1)
2.　読解(1)，中国語文化（2）
3.　会話演習(1)、中国ｊ経済事情（1）
4. .会話演習と作文（1)、中国語文化（3)
5.　読解(2)，太極拳(1)
6.　会話演習(2)、中国経済事情(2)
7.　会話演習と作文（2)
8.　読解(3)，太極拳（2）
9. 会話演習(3)，中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3)
11. 読解(4)、中国語文化（4)
12. 会話演習(4)，太極拳（3）
13. 会話演習と作文（4)
14. 会話と作文の復習、中国経済事情(4)
15. 中国文化(5)，会話演習復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J80111001
科目名	現代アジア事情C	単位数	2
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia C		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」、「現代アジア事情 B」に引き続き、「現代アジア事情 C」では、中国語という言語の学習を通じて、中国の文化や歴史、現在の中国の社会、歴史、経済事情、中国の法律などを理解することを目的とします。中国語の初級レベルの文法、リスニング、スピーキングの訓練をさらに強化します。研修後予定されている中国の日系企業などでのインターンシップにおいて、基本的なコミュニケーションができる程度の中国語の基礎力、ビジネスマナーをを身につけることを狙いとします。		
教材（テキスト）	授業内で配布します。		
教材（参考文献）	授業で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。また、研修終了後に予定されている企業でのインターンシップに必要なマナー、中国の経済事情、社会についての基礎知識を身につけます。		
準備学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレ－ズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講者への要望

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

講義の順序とポイント

1. 授業に関する説明
2. 中国語文法(1)，中国の文化と社会'(1)
3. 会話演習(1)，中国経済事情(1)
4. 会話演習と作文（2)，太極拳（1）
5. 中国語文法（2)，　中国の文化と社会(2)
6. 会話演習(2)，中国経済事情（2）
7. 会話演習と作文（1)、太極拳（2）
8. 中国語文法（3)，中国の文化と社会(3)
9. 会話演習(3)、中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3)、太極拳（3）
11. 中国語文法（4)，中国の文化と社会(4)
12. 会話演習(4)、中国経済事情（4）
13. 会話演習と作文（4)、太極拳（4）
14. 会話と作文の復習、中国の文化と社会(5)
15. 会話演習復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J80111101
科目名	海外企業実務Ａ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad A		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、期間最初の１ヶ月目に履修する科目です。1 ヶ月目は、実務経験を通じて感じた職業社会と大学生活の違い（ギャップ）について考え、整理していくことを目標とする。また、海外で仕事をするにあたって、必要とされる文化や習慣を考え、整理していくことを目標とする。海外企業実務の当初設定した目標を再度確認し、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80111102
科目名	海外企業実務Ａ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、期間最初の１ヶ月目に履修する科目です。1 ヶ月目は、実務経験を通じて感じた職業社会と大学生活の違い（ギャップ）について考え、整理していくことを目標とする。また、海外で仕事をするにあたって、必要とされる文化や習慣を考え、整理していくことを目標とする。海外企業実務の当初設定した目標を再度確認し、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80111201
科目名	海外企業実務Ｂ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad B		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、2 ヶ月目に履修する科目です。2 ヶ月目は、実務経験における自分の業務が職場の中でどう役立っているのか、また、仕事全体を俯瞰し、仕事全体から見た自分の業務の位置づけ・重要性について考え、整理していくことを目標とする。加えて、海外で仕事をするにあたって、必要とされる知識や能力を考え、整理していくことを目標とする。また、2 か月の実習を振り返り、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ａを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80111202
科目名	海外企業実務Ｂ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、2 ヶ月目に履修する科目です。2 ヶ月目は、実務経験における自分の業務が職場の中でどう役立っているのか、また、仕事全体を俯瞰し、仕事全体から見た自分の業務の位置づけ・重要性について考え、整理していくことを目標とする。加えて、海外で仕事をするにあたって、必要とされる知識や能力を考え、整理していくことを目標とする。また、2 か月の実習を振り返り、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ａを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80111301
科目名	海外企業実務Ｃ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad C		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、3 ヶ月目に履修する科目です。3 ヶ月目は、海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80111302
科目名	海外企業実務Ｃ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad C		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、3 ヶ月目に履修する科目です。3 ヶ月目は、海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80111401
科目名	海外企業実務Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship Abroad D		
担当者名	畔上　秀人	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として履修する。3 ヶ月目の実習期間が 2 週間の場合に履修する科目です。海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80111402
科目名	海外企業実務Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship Abroad D		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として履修する。3 ヶ月目の実習期間が 2 週間の場合に履修する科目です。海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J80112101
科目名	警察・消防特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Police Officer and Fir e Fighter Examinations		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	警察官、消防官の仕事はどのようなものか、警察官、消防官になるためにはどのような準備が必要かを明らかにし、警察官、消防官になるための準備を助けることを内容とする。 警察官、消防官採用試験の教養試験は一般知識と一般知能からなる。本講義では一般知能のうち判断推理と数的推理の実力を向上させることを目標とする。この分野を苦手とする人が多いようであるが、一度要領をつかむと、確実に得点がとれるようになるので、努力のしがいがあると思われる。講義は、問題のパターンごとに解き方を示して、いくつかの例題を解いてみるという形で進行する予定である。 なお、刑務官採用試験などもほぼ同様の出題傾向であるから、これらを志望する人にとっても役立つだろう。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義内で紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	授業内テスト 70%、期末テスト 30%		
到達目標	警察や消防の仕事に理解を深めるとともに、採用試験に臨む心構えをつくり、学生の採用試験の筆記試験(択一式)の準備を促すことを目標とする。		
準備学習	講義時に配付した、練習問題を次回までに復習として取り組み、次回講義開始時に、その解答を提出させる。また、５回の小テスト、中間テスト、後半テストとして単元の区切りごとに授業内テストを課すので、練習問題を使って復習をしっかりやっておくこと。		
受講者への要望			
本講義は３回生以下の学生のバックアップを目的としている。就職活動で出席できそうにない４回生の登録は、歓迎しない。			
講義の順序とポイント			
1　論理的問題 2　集合・うそつき問題 3　暗号解読 4　対応表を使いこなす 5　位置・順序を決める 6　図形を読み取る 7　整数の性質 8　方程式 9　割合、比、濃度算、損益算 １０　速度算、時計算、年齢算 １１　順列・組合せ １２　確率 １３　平面図形に慣れる １４　立体図形に慣れる １５　警察官・消防官に合格した４回生との座談会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★★	ー	ー	★

年度	2016	授業コード	J80112201
科目名	公務員特別研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions A		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	わが国の公務員制度、仕事の内容、公務員試験の概要を学んだうえで、公務員試験準備のための学習をおこなう。試験の範囲のうち、憲法、行政法、地方自治法の基礎的な知識の習得と過去問演習をおこなう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	LEC 東京リーガルマインド編著『公務員試験　過去問　新クイックマスター　憲法　第 5 版』、『公務員試験　過去問　新クイックマスター　行政法　第 5 版』		
教材（その他）			
評価方法	出席状況、授業内レポート等による平常点（70%）　講義内での課題に対する評価（30%）		
到達目標	憲法、行政法、地方自治法の講義を受けて、過去問を解くことにより、公務員試験試験に合格するための基礎力を養成する。		
準備学習	講義終了時に、毎回、公務員試験の過去問を解く。 次回の範囲を指定するので、講義の際に紹介する参考書の該当頁を読んでおくこと。		
受講者への要望			
公務員試験と行政書士試験の合格をめざす科目なので、はっきり目的意識をもった学生の受講をのぞむ。憲法の復習は適宜行っていくが、できれば憲法をすでに履修したか、履修中であることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　わが国の公務員制度 ２．　公務員試験とは ３．　憲法とは ４．　包括的人権と法の下の平等 ５．　思想・良心・信教の自由　・表現の自由 ６．　経済的自由・生存権・人身の自由 ７．　国会・内閣・裁判所 ８．　行政法の基本原理 ９．　行政組織 １０．行政作用の種類 １１．行政の義務履行確保、行政罰 １２．行政救済法①（行政上の不服申立て・行政訴訟） １３．行政救済法②（国家賠償・損失補償） １４．地方自治法① １５．地方自治法②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J80112301
科目名	公務員特別研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions B		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	公務員志望者を対象に、試験科目のひとつである民法について講義と問題演習を行う。講義は公務員試験において頻繁に出題される分野に絞って行い、これを踏まえて過去問の演習を繰り返す。		
教材（テキスト）	適宜、レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第５版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	数回実施する小テストの結果による。出席状況、講義中の質問への応答等を補充的に考慮する。		
到達目標	公務員試験等の合格に必要な民法の基礎知識を習得する。		
準備学習	講義時間の多くを問題の解説に費やすため、受講者は前回の講義までに配布された問題をあらかじめ解いておくこと。予習・復習のために自習室等を積極的に活用すること。		

受講者への要望

本講義は公務員試験を受験する明確な意思がある者を対象としている。単位の数合わせや空き時間を埋めるために本講義を登録することはご遠慮願いたい。受講者には、漫然と出席することなく、自主的に受験勉強に取り組むことが求められる。なるべく民法関連科目を履修済み、または並行して履修することが望ましい。なお、同じ担当者による「宅建特別研究」と内容的に重複する部分がある。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション
２．　制限行為能力
３．　代理
４．　債務不履行・解除（１）
５．　債務不履行・解除（２）
６．　契約総則（１）
７．　契約総則（２）
８．　契約各論（１）
９．　契約各論（２）
１０．不法行為
１１．物権変動（１）
１２．物権変動（２）
１３．抵当権
１４．保証・連帯債務
１５．横断的な問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J81000102
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した資料		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 40%、最終レポート試験 50%		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2016	授業コード	J81000103
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した資料		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 40%、期末試験 50%		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2016	授業コード	J81000104
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した資料		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 40%、最終レポート試験 50%		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	★★

年度	2016	授業コード	J81000202
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	本講義ではミクロ経済学の基本的な考え方を説明します。 経済学では、「社会全体にとっての幸せの大きさ」から「その幸せの実現のために必要とされる費用」をひいた、ネットの幸せの部分を最大化することが目的とされます。この点を理解するためには、消費者や生産者といった経済主体がどのような意思決定に基づいて行動するのかを知る必要があります。 これを体系的に学ぶのが２年生時に履修する「ミクロ経済学」の講義ですが、その前に、経済学の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性などについてわかりやすく話すのが本入門講座の目的です。 ミクロ経済学では、経済主体は明確な目的をもって合理的に行動することが前提とされますが、そのような行動の軌跡と帰結を、なるべく現実の事例や数値例をあげながら説明します。		
教材（テキスト）	「ミクロ経済学」と同じ教科書を使用する予定です。		
教材（参考文献）	基本的に使用しません。		
教材（その他）	毎回の講義内容の概略を京学なびに upload する予定です。		
評価方法	学期末試験 80%と授業内演習の準備の程度及び参加の態度 20%。必要に応じて小テストを実施するかもしれません。		
到達目標	２年生時にミクロ経済学をきちんと学びたいと思うようになること。		
準備学習	毎回のグループ発表の準備（原稿の作成、コピー、PPT の作成など）。詳細は授業で説明します。		

受講者への要望

授業に出席するに際して基本的に必要な礼儀、気遣い、心構えについては、言うまでもないので記しませんが当然守ってください。

講義の順序とポイント

1．経済学の目的は社会全体の幸せの最大化
　～「効率化」、「資源配分の適正化」、「総余剰の最大化」とは？
2．経済学における「効率」とは？
3．効用とは「幸せ」のこと
4．需要曲線と効用
5．弾力性の概念～価格弾力性、所得弾力性～
6．消費均衡
7．「限界」と「平均」の概念～限界費用、平均費用、総費用～
8．「限界」と「平均」の概念（続）
9．市場メカニズムの役割と社会の幸せの最大化～余剰分析～
10．完全競争市場
11．完全独占市場
12．生産関数
13．リスクと保険
14．市場の失敗
15．計画経済と市場経済

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J81000203
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中条　潮	旧科目名称	経済学 A
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる主な内容は、ミクロ経済学の基礎となる、(1)需要曲線と供給曲線、(2)均衡価格の決定と、その意味、(3)余剰分析である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント等		
教材（その他）	新聞記事などを適宜紹介する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 40%、期末試験 50%		
到達目標	経済的な取引を需要曲線と供給曲線によって上手く表せることを理解する。 需要曲線と供給曲線を描いて余剰分析ができるようになる。		
準備学習	・次に学習する内容の中で用いられる概念の予習をする。その実施は授業中の口頭による質疑応答で確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
１．需要と供給　需要曲線 ２．需要と供給　供給曲線 ３．価格の決定　供給量の変化と均衡価格 ４．需要と供給の応用　需要曲線のシフト ５．需要曲線と消費者行動　需要曲線の形と支出額 ６．需要曲線と消費者余剰　消費を通して得られる利益 ７．消費者行動のまとめ ８．費用の構造①　費用の分類 ９．費用の構造②　各種費用曲線 １０．利潤最大化　供給曲線と費用 １１．生産者余剰　収入と費用 １２．完全競争市場　価格調整と均衡 １３．余剰分析　市場取引と資源配分 １４．市場競争と経済発展　競争のメリット １５．重要事項の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2016	授業コード	J81000204
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学 A
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる主な内容は、ミクロ経済学の基礎となる、(1)需要曲線と供給曲線、(2)均衡価格の決定と、その意味、(3)余剰分析である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント等		
教材（その他）	新聞記事などを適宜紹介する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 40%、期末試験 50%		
到達目標	経済的な取引を需要曲線と供給曲線によって上手く表せることを理解する。 需要曲線と供給曲線を描いて余剰分析ができるようになる。		
準備学習	・次に学習する内容の中で用いられる概念の予習をする。その実施は授業中の口頭による質疑応答で確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
１．需要と供給　需要曲線 ２．需要と供給　供給曲線 ３．価格の決定　供給量の変化と均衡価格 ４．需要と供給の応用　需要曲線のシフト ５．需要曲線と消費者行動　需要曲線の形と支出額 ６．需要曲線と消費者余剰　消費を通して得られる利益 ７．消費者行動のまとめ ８．費用の構造①　費用の分類 ９．費用の構造②　各種費用曲線 １０．利潤最大化　供給曲線と費用 １１．生産者余剰　収入と費用 １２．完全競争市場　価格調整と均衡 １３．余剰分析　市場取引と資源配分 １４．市場競争と経済発展　競争のメリット １５．重要事項の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2016	授業コード	J81000301
科目名	国際経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済入門では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデル，例えば，部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．加えて，近年，TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきましたが，関税が賦課されていると，１国の国益がどのように損なわれるかも説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればミクロ経済学を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J81000302
科目名	国際経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済入門では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデル，例えば，部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．加えて，近年，TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきましたが，関税が賦課されていると，１国の国益がどのように損なわれるかも説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればミクロ経済学を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J81000401
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面しています．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きいといえます．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類することができます．こうした個別具体的な政策を 理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論を理解する必要があります． 本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J81000402
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面しています．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きいといえます．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類することができます．こうした個別具体的な政策を 理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論を理解する必要があります． 本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J81000501
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.市場と政府の役割 2.財政の 3 機能 3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性 4.経済安定化機能(2):需要と景気 5.経済安定化機能(3):政府の景気対策① 6.経済安定化機能(4):政府の景気対策② 7.所得再分配(1):再分配の必要性 8.所得再分配(2):再分配の方法 9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差 10.資源の効率的配分(1):需要と供給 11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム 12.資源の効率的配分(3):市場の失敗 13.租税(1):租税三原則 14.租税(2):所得税と消費税① 15.租税(3):所得税と消費税②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J81000502
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.市場と政府の役割 2.財政の 3 機能 3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性 4.経済安定化機能(2):需要と景気 5.経済安定化機能(3):政府の景気対策① 6.経済安定化機能(4):政府の景気対策② 7.所得再分配(1):再分配の必要性 8.所得再分配(2):再分配の方法 9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差 10.資源の効率的配分(1):需要と供給 11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム 12.資源の効率的配分(3):市場の失敗 13.租税(1):租税三原則 14.租税(2):所得税と消費税① 15.租税(3):所得税と消費税②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J81000601
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		
受講者への要望			
毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて ２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み ３．　マネープランの必要性と金融商品 ４．　債券の基礎知識 ５．　債券投資の実際 ６．株式投資の魅力とリスク ７．　株価の変動要因 ８．　決算書の見方 ９．　主な投資指標の見方 １０．　株式投資の判断 １１．　投資信託をの基礎知識 １２．　投資信託を選ぶポイント １３．　資産運用の概要 １４．　資産運用はどうあるべきか １５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J81000602
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		
受講者への要望			
毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて ２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み ３．　マネープランの必要性と金融商品 ４．　債券の基礎知識 ５．　債券投資の実際 ６．株式投資の魅力とリスク ７．　株価の変動要因 ８．　決算書の見方 ９．　主な投資指標の見方 １０．　株式投資の判断 １１．　投資信託をの基礎知識 １２．　投資信託を選ぶポイント １３．　資産運用の概要 １４．　資産運用はどうあるべきか １５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J81001101
科目名	経済史入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	農耕の始まりから産業革命に至るまでの経済の歴史を通観します。まず、西アジアで始まったムギの栽培や牧畜がヨーロッパに伝わり発達していった過程を跡付けます。併せてヨーロッパの粗放的な休閑農業と日本の労働集約的な中耕農業を比較します。 　次いで大航海時代の到来に伴うヨーロッパ諸国の海外進出が産業革命へと連なっていく過程を追います。新世界（アメリカ大陸）と旧世界（ヨーロッパ）の出会いから生じた様々な変化について考えます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	鵜飼保雄・大澤良（2010 年）『品種改良の世界史　作物編』悠書館。		
教材（その他）			
評価方法	中間試験（60%）、授業内発表（20%）、レポート（20%）		
到達目標	経済史の大きな流れを理解する。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
この科目は経済の歴史を扱う科目なので、高校時代に「世界史」や「日本史」に興味をもっていた学生が履修するのが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　農耕の始まり 3　西洋のムギ栽培① 4　西洋のムギ栽培② 5　東洋のイネ栽培 6　鉄と火薬の歴史 7　キリスト教世界の膨張（レコンキスタ） 8　コロンブスとはどのような人物だったのか（大航海時代の幕明け） 9　インド航路の開拓 １０　移民の歴史① １１　移民の歴史② 12　アメリカ大陸から来た栽培植物① 13　アメリカ大陸から来た栽培植物② 14　アメリカ大陸から来た栽培植物③ 15　産業革命（工業化）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J81001201
科目名	社会政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本科目では、まず雇用・労働、福祉・介護、年金といった分野において政府が対応を求められてきた代表的な「社会問題」を取り上げ、それらを引き起こしている要因について考える。その上で、それらの問題を解決するために実際にどのような手段が講じられているか、またその際にどのような課題に直面しているかについて説明する。 こうして、政府による社会問題解決に向けた政策、すなわち社会政策の実例を考察することを通じて、社会政策の意義と必要性、および今日的課題についての理解を促す。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会政策の概要とそれに関する今日の社会問題について理解すること。		
準備学習	・社会保障関係をはじめ、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と概要：社会政策とは
２．少子化と人口減少：少子社会の現状と課題
３．高齢化の進行：高齢社会の現状と将来
４．労働と雇用①：労働時間をめぐる課題
５．労働と雇用②：若年者の雇用問題
６．貧困と格差①：生活保護制度
７．貧困と格差②：格差社会の現状
８．高齢者介護問題①：介護をめぐる状況
９．高齢者介護問題②：介護保険制度
１０．医療問題①：国民皆保険制度
１１．医療問題②：医療保障の危機
１２．年金問題①：国民皆年金制度
１３．年金問題②：年金の危機
１４．社会保障の給付と負担：社会保障給付費の増加
１５．少子高齢社会：政策的対応のあり方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J81001301
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	（１）　本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 （２）　毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （３）　白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（テキスト）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考文献）	（１）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （２）各省庁発表の白書の本文は、省庁ＨＰ上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。		
教材（その他）	適宜、指定・紹介する。		
評価方法	①毎回の受講レポート 70% ②中間試験および授業内発表 30%		
到達目標	①　現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法を学び、時事問題への確実な理解を深める。 ②　学生各自の専門分野と直接・間接に関連する政策課題について理解を深め、卒業研究に役立てる。 ③　聞き取り力、質問力、表現力など、就職活動の実践で役立つスキルの向上を目指す。		
準備学習	①　講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、それらに目を通しておく。 ②　省庁ＨＰ上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。		
受講者への要望			
１．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。 ２．卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。 ３．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
講義の順序とポイント			
１．講義の順序 第１回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か 第２回－第７回（前半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第８回：前半の白書の要点整理とその確認テスト 第９回－第１４回（後半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第１５回：後半の白書の要点整理とレポート課題の案内 ２．昨年 2015 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。 ① 経済財政白書（内閣府）　② 労働経済白書（厚生労働省）　③ 消防白書（消防庁）　④ 厚生労働白書（厚生労働省）　⑤ 国土交通白書（国土交通省）　⑥ 食料・農業・農村白書（農林水産省）　⑦ 防衛白書（防衛省）　⑧ 外交青書（外務省）　⑨ 観光白書（観光庁）　⑩ 犯罪白書（法務省）　⑪ 情報通信白書（総務省）　⑫ 京都市・地域創生計画（京都市）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J82010101
科目名	経済思想史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するための学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも１６世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始された。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成され、その後今日に至まで 200 年以上の歴史をへて発展してきた。 経済思想史では、近代国家の成立とともに始まる経済学の歴史を、第１部「資本主義成立期の経済学」（重商主義と重農主義）と第２部「古典派経済学の成立と解体」（スミスからＪ・Ｓ・ミルまで）にわけて概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち－先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同編『経済学の巨人－ 危機と闘う』（同上）、同編『経済学４１の巨人－古典から現代まで』（日本経済新聞社、2014 年）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・受講態度等＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該章をしっかり予習してから授業に出席すること。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、教員から受講生に授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの問いかけに対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済思想史の課題
２．重商主義の定義
３．重商主義の経済政策論
４．重商主義の経済学説
５．重農主義成立の歴史的背景
６．ケネー『経済表』の分析(1)
７．ケネー『経済表』の分析(2)
８．アダム・スミスの生涯と著作
９．『国富論』解説(1)
１０．『国富論』解説(2)
１１．『国富論』解説(3)
１２．マルサス人口論
１３．リカードウの経済学(1)
１４．リカードウの経済学(2)
１５．Ｊ・Ｓ・ミルと現代

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J82010201
科目名	経済史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	コーヒーと絹（生糸）の２つの物産を通して経済の歴史について考えます。　絹（シルク）を世界で最初に利用したのは中国ですが、絹織物の原料になる生糸を器械的に生産する技術はヨーロッパで確立されました。日本は器械製糸の技術を富岡製糸場などを通じて知り、世界最大の生糸輸出国へと成長したのですが、その過程で様々な困難を解決しなければなりませんでした。生糸の輸出をめぐって日本がイタリアや中国を相手に展開した国際競争について考えます。 　現在の日本では大手コーヒー・チェーン店が各地にあるため、コーヒーは欧米のものだと思い込んでいる人がいるようです。しかし、コーヒーを世界で最初に飲んだのはイスラーム世界の人びとでした。その後、ヨーロッパ諸国が植民地でコーヒーを生産するようになり、ジャワやサントスといったブランドが誕生した過程をたどります。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	玉川寛治（2002 年）『製糸工女と富国強兵の時代』新日本出版社。		
教材（その他）			
評価方法	中間試験（60%）、授業内発表（20%）、レポート（20%）		
到達目標	経済の歴史を学びながら経済学の基本的な考え方を身につける。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
この科目は経済の歴史を扱う科目なので、高校時代に「世界史」や「日本史」に興味をもっていた学生が履修するのが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　シルクロードと絹の西漸 3　19 世紀の生糸輸出国（機会費用との関連で） 4　19 世紀の生糸輸入国（投入物の相対価格との関連で） 5　世界遺産・富岡製糸場 6　モラルハザードへの対応①ヨーロッパと中国の事例 7　モラルハザードへの対応②日本の事例 8　風土と蚕品種（ヨーロッパ・日本・中国の比較） 9　絹織物の経糸を巡る議論 10　コーヒーに関する予備知識 11　イスラーム世界におけるコーヒーの発見と普及 12　ヨーロッパ諸国へのコーヒーの伝播 13　ヨーロッパ諸国の植民地におけるコーヒーの生産 14　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展① 15　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J82010301
科目名	経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成されたが、経済学史では、そのスミスに始まるイギリス古典派経済学の解体にともなう近代経済学成立と、「ケインズ革命」を経て現代に至るまでの現代経済学の発展史を概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『現代経済学の巨人たち―20 世紀の人・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同編『経済学の巨人― 危機と闘う』（同上）、同編『経済学４１の巨人』（日本経済新聞社、2014 年）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・受講態度等＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の出発点は 1870 年代の「限界革命」理論の確立に求められる。この「限界革命」と 1930 年代の「ケインズ革命」によって飛躍的な発展をとげた現代経済学の流れを正しく理解することによって、今日の経済問題の解明について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定されたテキストを予習してから授業に出席すること。テキストに記載がない項目については、事前に授業資料を「京学なび」にアップしておくので、予習しておくことを求める。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、こちらからも授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの質問に対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史の課題――古典派経済学から近代経済学へ
２．マルクスと現代(1)
３．マルクスと現代(2)
４．マルクスと現代(3)
５．近代経済学の成立(1)
６．近代経済学の成立(2)
７．イギリス・ケンブリッジ学派の経済学（マーシャルとピグー）
８．シュンペーターの経済学
９．ソースタイン・ヴェブレンの制度主義経済学
１０．ケインズ革命(1)
１１．ケインズ革命(2)
１２．ケインズ革命(3)
１３．ケインズ以降の現代経済学の展開(1)
１４．ケインズ以降の現代経済学の展開(2)
１５．現代経済学の新潮流

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82010401
科目名	国際経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果を持つのかを学習するのが国際経済学という学問である．まず，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，国際経済入門で講義した初歩的な貿易モデルを念頭に置きながら，応用的な貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益を説明する．また，別のグローバル化の要因であるヒトやカネの国際移動が経済に与える影響についても説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の主要な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，生産要素移動の経済に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学と国際経済入門の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの科目を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. リカード・モデル：絶対優位と比較優位 3. リカード・モデル：生産可能性フロンティア 4. リカード・モデル：相対価格と貿易パターン 5. リカード・モデル：世界市場での相対価格の決定 6. リカード・モデル：自由貿易均衡と貿易利益 7. ヘクシャー=オリーン・モデル：リカード・モデルとヘクシャー=オリーン・モデル 8. ヘクシャー=オリーン・モデル：固定係数モデル 9. ヘクシャー=オリーン・モデル：リプチンスキー定理 10. ヘクシャー=オリーン・モデル：ヘクシャー=オリーン定理 11. ヘクシャー=オリーン・モデル：ストルパー=サミュエルソン定理 12. ヘクシャー=オリーン・モデル：要素価格均等化定理 13. 生産要素の国際移動：国際間の資本移動とは 14. 生産要素の国際移動：リカード・モデルにおける労働移動の効果 15. 生産要素の国際移動：2 生産要素モデルでの資本移動の効果			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J82010501
科目名	金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融の基礎について講義をする。貨幣の役割、中央銀行の役割、民間金融機関の役割を中心に、金融を学ぶことは何故必要かが分かってもらえる講義にする。短期金融市場、株式市場、債券市場、為替市場についても説明し、ファイナンシャルプランナーを目指す人、金融機関就職を希望する人はもちろんのこと、今後社会に出た時に必要な基礎教養を身に付けたい人にも十分役立つ講義にする。金融政策を中心に扱う金融政策論も併せて受講してほしい。		
教材（テキスト）	第１回目の講義時に紹介する。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、小テスト 20%		
到達目標	ファイナンスについての基本的知識を身につける。		
準備学習	講義前に新聞やニュースでその日の経済の動きを事前に把握しておくこと。少なくともその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		
受講者への要望			
「金融政策論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい			
講義の順序とポイント			
1.貨幣とは何か 2.銀行の役割 3.中央銀行の役割 4.金融政策の方法 5.信用創造について 6.金融政策はどのように経済に影響するのか 7.短期金融市場の役割 8.債券についてⅠ 9.債券についてⅡ 10 株式についてⅠ 11 株式についてⅡ 12.為替レートについてⅠ 13..為替レートについてⅡ 14.物価の決定理論Ⅰ 15.物価の決定理論Ⅱ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J82010601
科目名	国際金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国家間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である．本講義では，まず，国際金融取引の現状を説明したうえで，そこで必要となる為替レートがどのようなアプローチに基づいて決まるかを説明する．加えて，為替レートが変動することに伴い実体経済がどのような影響を受けるかも重要な点であるため，為替レートの変動と実体経済に生じる影響の関係についても説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	為替レートの決定と為替変動がマクロ経済に与える影響について理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの授業を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．国際金融取引の基礎：グローバル化するもの・お金の動き 3．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 4．国際金融取引の基礎：国際資本移動が生じる理由 5．外国為替の基礎：為替レートの見方，名目為替レートと実質為替レート 6．為替レートと貿易収支の調整：円高・円安と貿易収支 7．為替レートと貿易収支の調整：マーシャル・ラーナー条件，Ｊカーブ効果 8．為替レートの決定：購買力平価，金利平価 9．為替レート決定理論：伸縮価格マネタリーモデル 10．為替レート決定理論：硬直価格マネタリーモデル 11．為替レート決定理論：為替リスク，リスク・プレミアム 12．為替レート決定理論：ポートフォリオ・バランス・モデル 13．為替介入の方法と効果：介入の仕組みと効果経路 14．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策 15．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J82010701
科目名	マクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	本講義はマクロ経済学入門に続く講義である。財市場と貨幣市場を想定したマクロ経済モデルでは、均衡において国内所得と利子率が決定する。しかし、均衡状態は他の事情が変化することによって不均衡状態となる。また、均衡における国内所得が失業を見過ごせないほど低い場合がある。このような場合の経済の動きを解説する時に IS-LM モデルが用いられる。講義としては、労働市場を考慮し、国際間の経済取引を導入するといった方向で展開していく。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	プリント、動画教材等		
教材（その他）	適宜指定する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	毎日の新聞報道に登場する経済事象を、マクロ経済モデルを用いて説明できるようになることが目標である。		
準備学習	かなり複雑な経済モデルになるので、毎回練習問題を復習する必要がある。それを行ったかどうかは講義中の口頭による質疑応答で確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済モデルの復習 第 2 回 IS-LM モデルの応用 第 3 回 物価の変化と IS-LM モデル 第 4 回 総需要曲線と総供給曲線 第 5 回 財政とマクロ経済 第 6 回 初期の経済成長モデル 第 7 回 新古典派の経済成長モデル 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 開放経済と外国為替 第 10 回 外国為替レートの変動要因 第 11 回 マンデル=フレミングの理論 第 12 回 比較優位 第 13 回 景気循環 第 14 回 景気動向指数の仕組み 第 15 回 マクロ経済学と関わる経済学の他分野			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2016	授業コード	J82010801
科目名	ミクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics		
担当者名	竹内　哲治	旧科目名称	
講義概要	経済や企業は絶えず変化しているから、この科目の目標は、生涯に亘ってさまざまな問題に対処できる汎用性のある問題解決能力を身につけることである。そして そのような能力は、ミクロ経済学・マクロ経済学という基礎的な経済学のトレーニングによって培うことができる。この講義ではミクロ経済学の基本的な考え方 を学びことを目的としており、なかでも １．消費者と企業の行動を経済学的な観点からどのように表現するか理解する。 ２．競争市場とその均衡の経済学的な意味を理解する。 ３．不完全競争下の企業行動がどのように経済に影響するか理解する。 ４．不確実性下の問題とゲーム理論によるアプローチの基礎を理解する。 の 4 点に注力を注ぎます。		
教材（テキスト）	家森信善・小川光（2016/3 月発刊予定） 『ミクロ経済学の基礎』　中央経済社　￥未定　ISBN-13: 978-4502179518		
教材（参考文献）	伊藤元重（2003）『ミクロ経済学　第 2 版』　日本評論社　￥3,000 円　ISBN-13: 978-4535552616 井堀利宏（2015）『大学 4 年間で経済学が 10 時間でざっと学べる』　￥1,500 円　ISBN-13: 978-4046011688		
教材（その他）	一部，PPT の資料を活用します。 他，授業中に適宜配布します。		
評価方法	授業内演習（30%）・レポート（40%）・試験（30%）により総合的に評価します。		
到達目標	ミクロ経済学は経済学的な考え方の基礎を成しています。はじめに，基本的な用語に慣れるようにして下さい。次に，どのような分析手法を用いているか一つ一つ理解し，友達に説明できるくらいになりましょう。最終的には，分析手法を用いて応用分野にチャレンジできるようにしましょう。		
準備学習	適宜，授業の終わりに次回の内容について説明・指示しますが，基本的には教科書に従って進行しますので事前に専門用語は認識し，概要をおさえることに努めて下さい。		

受講者への要望

１）私語厳禁とします。授業中の質問も周りの人に聞くのではなく恥ずかしがらずに私に聞いて下さい。貴方の疑問はクラス全員の疑問だと思って結構です。みんな同じ疑問を持っていると思って下さい。もしくは，私の説明不足と思ってもらって結構ですのでいつでも授業を止めて質問して下さい。よって，授業中に話をしている場合は他の学生への迷惑行為として即座に退席して頂きます。その際，演習を行う場合にはその回は放棄したものとみなします。
２）スマホや携帯の使用はご遠慮ください。
３）確認テストや小テストを行うことがあります。
４）欠席した際は，次週の授業までに自己責任で準備し対処して下さい。
５）その他，必要に応じて適宜クラス内での約束事を決めることがあります。

講義の順序とポイント

1)　ミクロ経済学で学ぶこと
2)　需要の理論
3)　消費者行動の理論：需要の理論の背景にあるもの
4)　企業行動
5)　供給の理論
6)　需給曲線と弾力性
7)　市場の理論
8)　不完全競争
9)　需要と供給で解く経済問題
10)　余剰分析で解く経済問題
11)　市場の失敗(1)：外部効果と公共財
12)　市場の失敗(2)：情報の非対称性
13)　市場の失敗(3)：独占
14)　不確実性
15)　ゲーム理論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82010901
科目名	経済統計学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Statistics		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済の諸現象を量的に把握したものが経済統計である。統計調査やその利用・分析を重点的に展開する。 とくに分析に必要となる「データのまとめ方」や「統計利用の実際」を重視するが、統計分析の初歩も当然必要となる。 SNA 統計や、物価、労働、金融、為替、外国貿易等様々な統計データを用いて、その処理方法や数量的分析の基礎を学習する。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って表や図、数値指標にまとめて分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。 出席は当然であるので、1/3 回以上欠席した場合不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなし、統計的処理の基礎を固める 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		

受講者への要望

ノートを必ず作り書き込むこと。これは特に重要である。
積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが必要。
授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退室は厳禁である。

講義の順序とポイント

以下のように講義を進めるが、取り扱う内容は上記のように各種関連統計を随時利用する。
1　講義の全体構成
2　表を作る
3　グラフの作成と大小関係
4　円グラフと比率
5　折れ線グラフと時間の推移
6　棒グラフとその性質
7　2 軸を使った複合グラフの分析
8　ヒストグラムと分布
9　データのばらつき
１０　散布図と 2 変数の関係
１１　不平等、格差を測る
１２　経済成長を測る
１３　世界の豊かさ
１４　相関係数の話
１５　回帰分析の話

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J82011001
科目名	計量経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析するための統計手法の学習、データ分析の実際を学ぶ。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 とくに最小 2 乗法や検定（t 検定）を理解することが重要である。また、実際の分析には重回帰分析や、要因分析、これらを駆使したデータマイニングの課題を解いていくことが重要である。 こういった分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 （なぜ注意されるのか、どう修正すれば社会的要求水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。 出席は当然であり、1/3 回以上欠席した場合は不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		
受講者への要望			
ノートを必ず作り書き込むことが重要である。 積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすること。 授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退席は厳禁である。			
講義の順序とポイント			
1　講義の全体構成 2　平均と分散 3　平均と分散の実例 4　課題（1）の分析 5～7　課題（1）の修正と完成 8　回帰分析その 1 9　回帰分析その 2 10　より進んだ回帰分析 11　回帰分析と評価 12　回帰分析と評価その 2 13　回帰分析と評価その 3 14　課題（2）の分析 15　課題（2）の修正と完成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J82011101
科目名	時系列解析	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、最小二乗法を中心に、定常、非定常の検定を学ぶ。EViews という分析ソフトを使用。EViews という経済分析ソフトを使って、経済データのいろいろな分析、推計、モデル作成などを行う。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」にて、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで配布。		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と 2 回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（1）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果が解釈できる。 （2）経済データが定常か非定常かを単位根検定できる。 （3）系列相関の有無（毎回の経済ショックが過去の影響を引きずっているか）。		
準備学習	EViews というソフトはクリックするだけで結果を出してくれる。計算手法そのものの理解は、統計学や数学、コンピュータのプログラムなど膨大な知識を要求するので、気にしなくてもよい。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いである。経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回の資料を「京学なび」で事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料（課題）の最後に、次週までに解いておくべき課題（発展問題）を示しておくので、その課題を解いて、次の授業までに「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講者への要望

数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。
経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。

講義の順序とポイント

（1）データ取得と加工、EViews の基本操作とグラフ表示
（2）季節調整、平均化、smoothing、記述統計
（3）最小二乗法による推定――回帰直線
（4）最小二乗法による推定――重回帰
（5）最小二乗法による推定――ダミー変数導入による賃金の推定（男女、年齢、経験の影響）
（6）自己相関、相互相関
（7） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響）
（8）レベル変数（非定常）と階差変数（定常）
（9）系列相関の考え方
（10）単位根検定（定常、非定常）――トレンドの検定、ERS 検定、KPSS 検定
（11）単位根検定――日本のデータ
（12） 単位根検定――ヨーロッパのデータ、アメリカのデータ
（13）レベル変数間の推定
（14）階差変数（成長率）間の推定
（15）レベル推定と階差推定の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J82011201
科目名	技術移転論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	アジア各国において２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。２０世紀の企業における技術経営戦略の一つであった「追いつき、追い越せ」のキャッチアップ時代とは異なり、いまや我々の前に進むべき用意された道はなく日本をはじめアジア各国は共同体としてお互い関係強化をはかり、自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の一つの手段として大学等の「知」を活用し産学官連携におけるアジア各国での技術移転は２１世紀における重要な位置付けであると考えられている。 　本講義ではアジア各国の産業競争力を強化させるための「技術移転」についての基礎知識を習得し、将来においてはアジア共同体となるかもしれない各国の経済状況と産学官連携や企業の技術経営の事例、地域との連携事例を学習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	「産学官連携推進の知恵」、文部科学省産学官連携企画編集員会 「産学官連携の新たな展開に向けて」、文部科学省研究振興局		
教材（その他）			
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)＋「レポート＋試験」(50%)　＋平常点(30%)		
到達目標	技術移転に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
１）　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1.　講義の内容と進め方 2.　技術移転とは？　産学官連携とは？ 3.　共同研究契約と知的財産権 4.　日本の経済と技術移転（1） 5.　日本の経済と技術移転（2） 6.　日本の経済と技術移転（3） 7.　中国の経済と技術移転 8.　台湾の経済と技術移転 9.　東南アジア各国の経済と技術移転（1） 10. 東南アジア各国の経済と技術移転（2） 11. 東南アジア各国の経済と技術移転（3） 12. 東南アジア各国の経済と技術移転 13. 東アジア地域の経済と技術移転 14.東アジア地域の経済と技術移転 15. アジア各国のこれからの連携と技術移転			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2016	授業コード	J82011301
科目名	環境経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	近年、地球温暖化を抑制するための環境政策として、「環境税」や「排出量取引」といった経済的政策（経済的インセンティブに基づく政策）が世界の多くの国で採用されています。日本においても、環境税としての「地球温暖化対策税」が、2012 年 10 月 1 日から導入されました。また、排出量取引については、2005 年から自主参加型として開始し、2008 年からは実験をはじめて 5 年後の導入を計画していました。しかしながら、政府は 2010 年の COP16 閉幕後に、排出量取引の導入をいったん凍結させ、検討会だけを継続しています。（ただ、東京都は 2010 年から、また埼玉県は 2011 年から独自に実施しています。） 世界における排出量取引の実施は EU が最初で、それは 2005 年 1 月のことでした。その後スイスとニュージーランドが 2008 年、アメリカとカナダは国家ではなく州（カリフォルニア州とケベック州）が、2013 年から開始しています。最近では、アジアにおいても中国（2 省 5 市でモデル事業）とカザフスタンが 2013 年から開始し、韓国も 2015 年から実施しています。 従来、環境政策といえば、政府による直接規制（環境基準で規制する政策）が主流でした。しかし、近年になって上記のような経済的政策が、地球温暖化問題に対する効果的な環境政策として世界的に認められるようになってきました。それは、経済的政策には直接規制にあるいくつかの短所を克服する優れた長所があるからです。 本授業の目的は、地球温暖化を抑制する環境政策として、経済的政策がなぜ直接規制よりも優れた環境政策なのかを理解することにあります。授業の前半は、政策の優位性の証明に必要な分析道具として経済学の基礎を確認し、その応用としての環境経済学の理論や分析手法などを習得していきます。後半は、前半で学んだ分析道具を使用して従来の直接規制の短所を明らかにし、また経済的政策（汚染排出税や排出量取引）の長所について理解を深めていきます（最後の授業では学生諸君に実際に排出量取引の実践を体験してもらいます）。なお、毎回授業のはじめには、新聞記事などの資料を配布し、地球温暖化問題への世界や日本の取組の状況についても紹介していきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	＜訳本＞ バリー・C・フィールド著・秋田次郎他訳『環境経済学入門』日本評論社（1997 年） ＜原書＞ Barry C. Field Environmental Economics: An Introduction (5th ed.), McGraw-Hill, 2010		
教材（その他）	毎回、書き込み式の授業ノートと資料等を配布する。		
評価方法	授業内レポート 5 回 （25%）、中間試験（take home） （25%）、学期末試験（50%）		
到達目標	経済学及び環境経済学の諸原理を理解し、地球温暖化や大気汚染等の環境問題を解決するための経済的環境政策のしくみや長所について説明できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、できれば講義の前には必ず目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		

受講者への要望

できるだけ講義に出席して内容を理解すること。経済学及び環境経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習や講義の後の復習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。

講義の順序とポイント

1. シラバスの説明・環境経済学とは・経済学の十大原理

＜環境経済学の基本的概念＞

2. 分析道具Ⅰ（支払意思・便益）
3. 〃 （費用・技術・限界費用均等化原理）
4. 分析道具Ⅱ（経済効率性・衡平性・市場）
5. 〃 （外部性・市場の失敗）
6. 分析道具Ⅲ（汚染被害・削減費用）
7. 〃 （効率的な排出水準）

中間試験（take home）

＜効果的・効率的な環境政策＞

8. 分権的政策（責任法）

9.　　〃　　（財産権・コースの定理）
10.　中央集権的政策（直接規制のしくみ）
11.　　〃　　（直接規制の短所）
12.　経済的政策Ⅰ（汚染排出税のしくみ）
13.　　〃　　（汚染排出税の長所）
14.　経済的政策Ⅱ（排出量取引のしくみ・長所）
15.　　〃　　（排出量取引の実践）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82011401
科目名	経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法（第４版)』(有斐閣、２０１４年)		
教材（参考文献）	・船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編 『経済法判例・審決百選』(有斐閣、２０１０年) ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』(有斐閣、２０１０年)		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%） 小テスト２回（60%）		
到達目標	入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の全体像 ３．不当な取引制限①（入札談合） ４．不当な取引制限②（規制の概要） ５．不当な取引制限③（行為要件） ６．不当な取引制限④(弊害要件) ７． 前半のまとめと小テスト１ ８．小テスト１の解説と事業者団体規制 ９．課徴金制度 １０．私的独占①（規制の概要） １１．私的独占②（排除型私的独占） １２・私的独占③（支配型私的独占） １３．エンフォースメント①（全体像・公正取引委員会・行政処分） １４．エンフォースメント②（民事救済・刑事罰） １５．独占禁止法の課題と小テスト２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82011501
科目名	国際法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法は基本的に国と国の間の関係について定めた法であり、私たちの日常生活とは関わりがないと感じるかもしれない。しかし、近年は国以外のアクター（国際機構、個人、企業、NGO など）の役割も国際社会ではますます重要になっており、国際法が扱う問題（平和、貿易、環境など）もわれわれと決して無関係ではない。本講義では、冒頭で具体例を提示してポイントを明確にし、その上で、国際法の基本的な考え方やはたらきを分かりやすく講義したい。		
教材（テキスト）	徳川信治・西村智朗『テキストブック法と国際社会』（法律文化社、２０１２年）		
教材（参考文献）	【教科書】 山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 浅田正彦編『国際法［第２版］』（東信堂、２０１３年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） ＊その他のものについては、講義で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかを理解する。 ２．国家の基本的な権利・義務や地球上の空間が法的にどのように構成されているのかを理解する。 ３．平和や環境のような世界全体の問題について、国際機構を中心にしてどのような協力の仕組みが設けられているのかを理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．好奇心を持って、国際問題に興味を示そう。
２．講義中は私語をつつしむ。
３．講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨む。

講義の順序とポイント

１．導入－国際社会の性質と国際法（冒頭に履修ガイダンス）
第１部　国際法における国家と国際社会の空間秩序
２．国際法主体としての国家（１）－国家の成立と変動
３．国際法主体としての国家（２）－国家機関、国家の基本的権利義務
４．国家領域と国際公域
５．海洋法（１）－現代海洋秩序の構造
６．海洋法（２）－航行利用制度、海域の境界画定など
第２部　国際法の形成と適用・実施
７．国際法の法源、条約法（１）－条約の成立、日本法秩序における条約の効力
８．条約法（２）－条約の留保、条約の無効など
９．紛争の平和的処理－司法的解決を中心に
第３部　国際社会における相互依存と国際協力
１０．国際社会の組織化と国際機構（国連に関するＤＶＤ鑑賞も行う）

１１．平和と安全の維持（１）－武力行使の禁止と国連の集団安全保障体制
１２．平和と安全の維持（２）－国連の平和維持活動、軍縮
１３．国際人権保障
１４．経済的国際協力
１５．環境保全

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J82011601
科目名	国際経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economic Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、国際貿易・海外投資・国際金融を中心にして国際経済に関わる国際法について講義する。現代では、経済分野の国内法や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっている。また、貿易や海外投資に関する紛争が国際法に依拠して司法的に解決される事例が急増しており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。 講義では、冒頭で具体例を提示してポイントを明確にする。その上で、日本に関わる具体的な事例や TPP などの時事問題にも触れながら、WTO 体制、海外投資、国際金融・通貨を中心しながら国際経済についての法的枠組みについて分かりやすく説明していきたい。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法［第２版]』（有斐閣、２０１２年） 小室程夫『新版　国際経済法』（東信堂、２００７年） 滝川敏明『WTO 法［第２版]』（三省堂、２０１０年） 中川淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 【判例集】 松下満雄ほか編『ケースブック WTO 法』（有斐閣、２００９年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集［第２版]』（東信堂、２００２年）		
教材（その他）			
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか理解する。 ２．WTO 体制を中心にした国際貿易の法的枠組みを理解する。 ３．海外投資や国際金融についての法的枠組みを理解する。		
準備学習	１．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 ２．講義では、休憩も取ることもあるので集中力を切らさずに臨むこと。		
受講者への要望			
１．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 ２．講義では、休憩も取ることもあるので集中力を切らさずに臨むこと。			
講義の順序とポイント			
導入部 １．受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法 第１部　国際貿易と国際法 ２．貿易に関する国際法の展開 ３．GATT の成立と展開 ４．WTO 体制の成立と概要 ５．WTO の紛争解決手続 ６．WTO におけるサービス貿易 ７．WTO における知的財産権 ８．WTO における農業貿易 ９．WTO と地域経済統合 １０．WTO と途上国			

１１．WTO と非貿易的価値

第２部　海外投資および国際金融と国際法
１２．海外投資に関する国際法の展開
１３．投資紛争解決
１４．国際金融に関する国際法の展開
１５．ＩＭＦ・世界銀行の組織構造と活動

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J82011701
科目名	経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	我が国は人口減少社会に移行する中，経済社会のあり方が問われています．高度経済成長の成果を踏まえ，「日本型福祉国家」の建設を目指してきましたが，経済的・社会的環境の変化により，福祉国家政策は行き詰まり，いまや政策体系の根本的な見直しを迫られています．欧州諸国でも「福祉国家の危機」が，1980 年以降急速に政治問題化し，欧州委員会を中心に「持続可能な社会保障制度の再構築」が模索されています． 本講義では，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，人口減少社会における持続可能な社会保障制度のあり方について考えます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	人口減少社会における社会保障保を巡る諸問題の理解を目標とする		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1. 社会体制と政策思想 2.福祉国家の 2 類型 3.新しい社会問題 4.福祉国家の基本構想 5.成長と分配の総合政策（１） 6.成長と分配の総合政策（２） 7.成長と分配の総合政策（３） 8.成長と分配の総合政策（４） 9.成長と分配の総合政策（５） 10.雇用と経済安定化政策（１） 11.雇用と経済安定化政策（２） 12.雇用と経済安定化政策（３） 13.移行的労働市場論 14.フレキシキュリティ政策 15.社会的包摂のための政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J82011801
科目名	金融政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融政策および金融システムについて講義する。具体的には日本銀行やアメリカの中央銀行、連邦準備銀行は日々どのように金融政策を実施し、危機が生じたときにどのように政策対応するのか、また金融システムを健全に維持するためにはどのような規制が必要であるかを中心に講義する。とくに本年度は、アベノミクスを中心に日本の長期デフレ不況と日銀の金融政策について解説する。身近な事例を紹介しつつ、金融政策の理解を深める。できるだけ平易な解説になるように努めたい。		
教材（テキスト）	講義開始時に紹介する。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて参考文献を紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、および小テスト 20%		
到達目標	金融政策、金融危機に関する、新聞記事などが十分理解でき、経済政策、とくに金融政策に関して自分なりの意見が述べられるようにする。		
準備学習	ノートを整理すること。新聞の経済記事をよく読んでおくこと。講義の前に必ずその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講者への要望

「金融論 A」「企業金融論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい。

講義の順序とポイント

1 金融危機と金融政策（概説）
2 伝統的金融政策と非伝統的金融政策
3 日銀の伝統的金融調節
4 連邦準備の伝統的金融政策
5 デフレと金融政策
6 金融政策の評価
　テーラルール、NAIRU、オーカンの法則
7 大恐慌（29 年の株価大暴落と連銀の政策対応）
　金本位制、債務デフレ、クレディットビュー、マネビュー
8 日本のバブル：1980 年代後半の金融政策と政治
9　日本の長期デフレ不況：1990 年代
10　アベノミクス登場の背景と意義
11 アメリカの住宅バブルと金融政策
12 リーマンショックと金融政策
　too big to fail 政策、モラルハザード、影の金融システム、スティグマ
13　2000 年代の金融政策、日米比較
14 北欧の金融システムと金融危機
　公的資金の役割、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー
15 金融規制のあり方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J82011901
科目名	社会政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本科目では、社会政策実践の歴史について、その源流から今日までを振り返り、それらがいかなる事情と目的の下に展開されてきたかを説明する。さらに、その間に社会政策の対象や概念がどのように変化してきたかに着目することを通じて、社会政策の意義と必要性、そしてその体系について理解を深める。また、少子高齢化や人口減少など、わが国が直面している社会構造の変化を念頭に置きつつ、今日の社会政策に期待される役割とそこに生じている課題について検討を行う。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版 社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・社会保障関係はもちろんのこと、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・「社会政策入門」を受講済みであることが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
2．社会保障の概念と制度①
3．社会保障の概念と制度②
4．社会保障の体系と二定型
5．わが国における社会保障の概念
6．社会保障の必要性：超歴史的視点から①
7．社会保障の必要性：超歴史的視点から②
8．社会保障の必要性：歴史的視点から①
9．社会保障の必要性：歴史的視点から②
10．社会保障の必要性：歴史的視点から③
11．社会保障の源流
12．社会保障の登場と発展
13．福祉国家の光と陰①　福祉国家の発展
14．福祉国家の光と陰②　福祉国家の危機
15．わが国における社会保障の歴史的展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J82012001
科目名	国際関係論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Accounting		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	この講義では、現代の国際社会を特徴づける紛争形態の変化、グローバル化の進展、非国家主体の役割の拡大、地球環境問題の深刻化などの変化が、国際関係にもたらした影響を説明する。現代の国際関係における諸問題はきわめて複雑化・多元化し、一面的な認識で把握することは難しい。本講義において現実の国際関係を理解する多様なアプローチを習得することを通じ、受講生が、現代の国際システムの特徴を正しく理解すること、現代の国際関係における諸問題への対応を各自で見いだすスキルを身につけることを目標としている。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況などによる。学期末レポート（70%）		
到達目標	(1) 国際関係で発生するさまざまな事象を理解するアプローチを身に付ける。 (2) 現代の国際社会が取り組むべき課題を把握し、望まれる対応を各自考察することができる。		
準備学習	(1) リアルタイムの国際関係の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1．　国際関係論への招待 2．　導入のための事例 3．　国際関係のイメージ 4．　国際関係の主体 5．　国際システムと世界システム 6．　冷戦と冷戦後 7．　グローバル化とは何か 8．　「帝国」としての米国 9．　東アジアの国際関係 10.　地域主義と地域統合 11.　非国家行為体の活動 12.　ナショナリズムの諸相 13.　南北問題と国際協力 14.　地球的問題群 15.　未来について考える			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J82012101
科目名	公共経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では政府の経済的役割について検討する。まず、「資源配分の効率性」に関する判断基準を学び、市場が効率的な資源配分に失敗するいくつかケースについて考察する。そのうえで、政府が果たすべき役割を、社会的厚生から見た理論的な経済政策と、実行可能性から見た現実的な経済政策の 2 つの観点から検討する。また、政府の失敗についても経済学的な視点から検討を加える。		
教材（テキスト）	教科書は特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（１）井堀利宏『基礎コース・公共経済学』新世社 （２）土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社 （３）スティグリッツ『公共経済学（上)』東洋経済新報社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（１）資源配分の効率性とは何か、またその経済学的な判断基準を理解する。 （２）市場の失敗において生じる資源配分の非効率性を理解する。 （３）市場の失敗への政府の政策対応がもたらす資源配分上の効果について理解する。 （４）政府の失敗が生じるメカニズムについて理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所について事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にして講義に臨むことが望ましい。		

受講者への要望

（１）現代社会の公共経済学的課題とその背景を理解しよう。
（２）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考えよう。

講義の順序とポイント

１．公共経済学とはどのような学問か　：公共経済学の分析対象、公共経済学成立の歴史的背景、政府部門拡大のメカニズム
２．公共経済学における政府の役割　：政府の範囲、資源配分機能、所得再配分機能、安定化機能
３．所得分配の公平性：所得再分配と公正、補償原理、功利主義、ロールズ基準
４．資源配分の効率性（1)：パレート最適、ｴｯｼﾞﾜｰｽﾎﾞｯｸｽ・ﾀﾞｲｱｸﾞﾗﾑ、効用可能性曲線
５．資源配分の効率性（2)：完全競争市場均衡、消費者余剰、生産者余剰
６．資源配分の効率性（3)：政府の市場介入と死荷重１、価格規制、数量規制
７．資源配分の効率性（4)：政府の市場介入と死荷重２、参入規制、課税
８．市場の失敗（1)：独占、費用逓減産業
９．市場の失敗（2)：外部効果の内部化、ピグー税
10.市場の失敗（3)：公共財の定義、公共財の最適供給、リンダール均衡
11．政府の失敗（1)：財政赤字、基礎的財政収支、ソブリン・リスク、クラウディング・アウト
12．政府の失敗（2)：公債、リカードの中立性命題、公債の世代間負担問題
13．公共選択論（1)：民主主義の失敗、投票の理論、政治家と選挙の問題
14．公共選択論（2)：官僚機構の問題、レント・シーキングの問題
15．現代日本における公共経済学的課題：震災からの復興、社会保障制度改革、税制改革

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J82012201
科目名	財政学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	国内に目を向けたときに、医療・介護・教育・防犯などの日常生活に不可欠なサービスは、地方自治体が担う。また、国際的な潮流に目を向けたときに、グローバル経済社会の中で日本政府の舵取りが、国民の生活に直結していることが見て取れる。本講義では、国内の地方自治体と国際的な視点から、政府のあり方を学ぶ。そして我が国が抱えている様々な課題に対する政策のあり方について理解を深め、学生個々人が社会問題の原因を追究するための基礎力を身につけることを目的としている。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社 「はじめての社会保障　第 11 版」　椋野美智子　田中耕太郎　有斐閣アルマ		
教材（その他）	・レジュメを配布する。 ・適宜、海外の事例や制度を紹介する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	我が国が抱えている様々な課題に対する政策のあり方について理解を深め、学生個々人が社会問題の原因を追究するための基礎力を身につける。		
準備学習	・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・我が国や海外の制度を理解し、相違点など考察してください。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1.財政とは
2.財政の 3 機能:資源の効率的配分
3.財政の 3 機能:所得再分配
4.財政の 3 機能:経済安定化
5.我が国の医療制度(1)国民皆保険制度とは
6.我が国の医療制度(2)医療制度の今後の課題
7.地域福祉と介護(1)少子高齢化の現状
8.地域福祉と介護(2) 我が国の介護制度
9.雇用保険
10.生活保護
11.公的教育(1)我が国の公的教育制度の現状
12.公的教育(2) 公的教育の役割
13.公的教育(3)教育と所得再分配機能
14.道州制(1)道州制とは
15.道州制(2)道州制のもたらすもの

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J82012301
科目名	地方財政論	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	経済発展とともに、都市部への過密化と地方の過疎化の進展が観測される。それに伴い地域経済の基礎となる制度や設備の整備、そして地域経済の活性化は重要な課題となる。特に我が国では東京への一極集中化と、地方経済の衰退が問題となっている。本講義では、経済学的な見地から、都市が形成されるメカニズム、そして地域が抱える問題や原因、その対策について学ぶ。さらに地域社会における地方財政の意義や在り方について理解を深めることを目的としている。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	入門地方財政第 3 版　林宏昭　橋本恭之　中央経済社		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題(10%)、中間試験(20%)、期末試験(70%)		
到達目標	・都市の形成や地域が抱える問題や原因を学ぶこと。 ・地方財政の意義や在り方を理解すること。		
準備学習	受講に当たり、ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的な内容を確認しておくこと。		

受講者への要望

・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。
・質問はいつでも歓迎します。
・事前に経済学の基本的な考え方を学んでおくことが望ましい。

講義の順序とポイント

1.中央政府と地方政府とは
2.データで見る各都道府県人口の変化
3.都市形成のメカニズム
4.地方財政の構造(1)財政とは
5.地方財政の構造(2)地方財政の仕組み
6.地方財政の構造(3)歳出と歳入
7.地方税原則と、その体系(1)
8.地方税原則と、その体系(2)
9.地方税制度(1)住民税・法人課税
10.地方税制度(2)消費税・固定資産税
11,国庫支出金(1)国庫支出金とは
12.国庫支出金(2)補助金の効果
13.地方債(1)地方債とは
14.地方債(2)地方債の現状と課題
15.民間企業と公的企業

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J82012401
科目名	社会保障論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social　Security		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（テキスト）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版 足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について考察するための視座を得ること。		
準備学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講者への要望

・「社会政策入門」を受講済みであることが望ましい。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。レポートの代筆など、その他の不正行為に対しても、上記同様に厳正に対処するので、絶対にしないこと。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度
３．少子・高齢化の進行
４．医療保障の概念と方法
５．医療保険制度の概要
６．医療保険制度の現状と課題
７．高齢者介護をめぐる状況
８．介護保険制度の概要
９．介護保険制度の現状と課題
１０．所得保障の諸制度
１１．年金制度の概要
１２．年金制度の現状と課題
１３．社会保障の必要性
１４．社会保障の誕生と歴史的展開
１５．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J82012501
科目名	行政法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法の全体像を学ぶ入門科目である。具体的には、行政法序論、行政組織法、行政作用法、行政救済法の概略を学ぶ。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	LEC 東京リーガルマインド編著『公務員試験　過去問　新クイックマスター　行政法　第５版』		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（80%）　出席状況、授業内レポート等による平常点（20%）		
到達目標	法学を専門にしていない学生のみなさんを対象に行政法の全体像を簡潔に理解してもらうことと、行政書士試験や公務員試験をめざす人たちの入門講義になることをめざす。		
準備学習	法学を専門に学んでいない人なので、必ず教科書の該当箇所を予習するとともに、講義で配布するレジュメを使って各テーマの復習を必ずすること。		
受講者への要望			
講義に出席し、毎回の予習、復習をしなければ到底この科目は理解できない。また、行政法に関する時事的な話題を紹介するので、参考にしてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．行政法とは何か ２．行政法の基本原理 ３．行政組織 ４．行政立法 ５．行政行為① ６．行政行為② ７．行政裁量 ８．行政計画・行政指導・行政契約 ９．行政の実効性の確保 １０．行政手続 １１．情報公開・個人情報保護 １２．行政上の不服申立て １３．行政訴訟① １４．行政訴訟② １５．国家賠償・損失補償			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J82012601
科目名	労働法	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら展開する。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち労働法を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第６版〕』（有斐閣、2016 年）価格未定 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第８版〕」（有斐閣、2009 年）2476 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則１回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	職場において必要とされる法律知識のうち、本講義では個別的労働法に比重をおいてて講義を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や判例理論等を身に着けてもらうことが本講義の到達目標である。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。

また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務
第５回　就業規則
第６回　労働協約
第７回　募集・採用内定
第８回　男女雇用平等
第９回　解雇・労働契約の終了
第 10 回　賃金・退職金
第 11 回　労働時間
第 12 回　労働組合の結成
第 13 回　労働組合の運営
第 14 回　団体交渉
第 15 回　最近の労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J82012701
科目名	社会保障法	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	髙﨑　亨	旧科目名称	
講義概要	本講は、現代日本の社会保障制度について、その仕組みと課題について、受講生おひとりおひとりに考えていただくことを目的としています。そこで、まずはじめに、平均的な大学生が社会生活をおこなうにあたって、直面するさまざまな生活上のリスクとその管理方法を学びます。そのうえで、そうした生活リスクの保障方法(制度)の基礎となる社会保障(法)制度の概要について、学んでいただきます。本講ではとくに、医療(健康)保険と年金保険について、とりあげます。現代日本で社会生活を営むうえで、知っておくことは必須であるにもかかわらず、普段まったく意識しない社会保障(法)制度というものが、何であるか、なぜ存在するのか、そして毎日の大学生活に、どのようにかかわっているのか。この講義を通じて考えましょう。		
教材（テキスト）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2014 年）2100 円＋税		
教材（参考文献）	西村健一郎ほか編「社会保障判例百選〔第 4 版〕」（有斐閣、2008 年）2600 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税 岩村・菊池・嵩編『目で見る社会保障法教材(第 4 版)』(2007 年、有斐閣)		
教材（その他）	その他の参考文献等については開講時に指示します。		
評価方法	出席を前提に、期末試験（70%）および授業内小テスト等（30%）で評価する。小テストは毎回おこなう。		
到達目標	(1)イマドキの大学生に求められる医療保険・年全保険等の社会保障(法)制度の仕組みと意義を理解すること。とくに、自分や家族が社会保障制度が想定しているような生活リスクに直面した際にどのようなリスク保障手段を活用できるのか、そのためにはどのような法的手続きが必要なのか等、「つかえる」知識を身に着けましょう。 (2)わが国の社会保障法制上の問題について、自分の意見が(思い付きではなく)云えるようになること。		
準備学習	毎回小テストがあるので、前回の復習をしておくこと。		

受講者への要望

教科書および六法は必携。またＴＶニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。
受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。
詳細を第一講でお知らせしますので、受講予定者は、必ず出席してください。

講義の順序とポイント

第 1 回　ガイダンスと注意事項，リスク管理と生活設計，社会保障
第 2 回　リスク管理と生活設計①就職活動とキヤリアデザイン
第 3 回　リスク管理と生活設計②暮らしの中の社会保障
第 4 回　医療保険法①健康保険と国民健康保険
第 5 回　医療保険法②「保険証」のふしぎ
第 6 回　年金保険法①国民年金と厚生年金
第 7 回　年金保険法②学生納付特例の手続き
第 8 回　介護保険法のしくみ
第 9 回　労災保険法①アルバイト中に事故にあったら？
第 10 回　労災保険法②「第三者行為」災害と給付調整の手続き
第 11 回　雇用保険法のしくみ
第 12 回　生活保護法のしくみ
第 13 回　社会福祉法①高齢者サービスと障碍者サービス
第 14 回　社会福祉法②保育所・幼稚園・こども園
第 15 回　社会保険の世界史

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★★	–	–	★

年度	2016	授業コード	J82012801
科目名	刑法	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law		
担当者名	小野　晃正	旧科目名称	
講義概要	・経済学部、経営学部、および、経済経営学部の専門科目には、「刑法」、「刑事訴訟法」、「少年法」、「刑事政策」が配当されている。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。 ・本講義の内容は、このうち「刑法」を対象とするが、主として、殺人、窃盗、強盗、放火など個別犯罪の成立要件を検討する「刑法各論」を概観する。 ・本講義では、刑法各論上の諸問題を具体的に検討し、刑法への関心を高め、刑法学全体の見取り図を得ることを目的とする。 ・教員からの一方的な講義にならないよう、学生と教員との双方向理解をきすべく、質疑応答もできる限り行いたい。		
教材（テキスト）	・佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義（第 2 版）』（有斐閣・2013 年）を教科書として指定する。講義は、教科書の内容に沿って行うので必ず購入すること。 ・なお、刑事法は相次いで法改正がなされているので、最新の六法を持参すること。たとえば、『平成 28 年版ポケット六法（有斐閣）』、あるいは、『平成 28 年版判例六法』（有斐閣）などが望ましい。		
教材（参考文献）	・判例教材として、山口厚＝佐伯仁志/編著『刑法判例百選 II 各論（第 7 版）』（有斐閣・2014 年）がある。		
教材（その他）	・必要に応じて紙媒体の配布物（講義内容の要旨）を交付する。		
評価方法	原則として期末試験の成績によるが、理解度を試す小テストを行うことがあり、これを実施した場合は成績評価に加味する。		
到達目標	1．刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解する。 2．個人的法益に対する罪の重要ポイントを整理し、理解する。 3．財産犯の体系を理解し、それぞれの罰条の適用範囲・限界をおさえる。 4．社会法益に対する罪、国家法益に対する罪のうち、重要犯罪の構造と適用範囲の限界をおさえる。		
準備学習	・新聞（朝刊や夕刊）の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている様々な記事を読みましょう。この科目に限らず多方面で良い効果を発揮するはずです。		

受講者への要望

・授業に出席したときは、何かを得て帰るように努めてください。
・法学を体得するには、自らの手を動かして問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは身につきません。とにかく手を動かしましょう。

講義の順序とポイント

第 1 回：ガイダンスと文献紹介、罪刑法定主義、犯罪成立要件、保護法益と刑法各論
第 2 回：殺人の罪、遺棄の罪
第 3 回：傷害の罪
第 4 回：逮捕･監禁の罪、性犯罪
第 5 回：住居を侵す罪、信用･業務に対する罪
第 6 回：財産犯総論
第 7 回：窃盗の罪
第 8 回：強盗･恐喝の罪
第 9 回：詐欺の罪
第 10 回：横領･背任の罪
第 11 回：盗品等に関する罪、器物損壊等の罪
第 12 回：放火の罪
第 13 回：文書偽造等の罪
第 14 回：公務執行妨害の罪
第 15 回：賄賂の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82012901
科目名	刑事訴訟法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法
講義概要	テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。 では、実際の刑事手続はどのような流れか知っているだろうか。事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか。このルールとして刑事手続を定める法律の代表格が「刑事訴訟法」である。 この講義では、刑事手続の流れと刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観したうえで、主として公訴が提起される前の段階について解説する。		
教材（テキスト）	渡辺咲子『刑事訴訟法講義』（信山社、第 7 版、2014）		
教材（参考文献）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 9 版、2011）		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（６０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（４０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れや捜査に関して定めた条文について理解し、刑事手続に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。さらに、それとともに、新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
1　刑事訴訟法とは 2　強制捜査 3　任意捜査 4　捜査の端緒 5　小テスト①と解説 6　逮捕・勾留 7　検証・捜索・差押え① 8　捜索・差押え② 9　被疑者の身体に関する検査 １０　小テスト②と解説、 １１　起訴状 １２　刑事裁判の基本、訴因変更 １３　違法収集証拠排除法則 １４　自白 １５　伝聞			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	ー	★★

年度	2016	授業コード	J82013001
科目名	刑事政策	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	毎日ニュースをながめていると、殺人、交通事故、少年非行、犯罪被害者など、日々世の中では犯罪が起こり、それに伴い、日本における刑事事件に関する政策がさまざまに変わってきている。特に、２０００年以降は、刑事立法の改正が進み、新たな法律、新たな制度など刑事司法が動いている時代である。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会がつくれるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪を犯した人は、どのように処遇されているのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。この講義では、まず、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度などについて検討したうえで、近年改正がなされた犯罪被害者、児童虐待、交通犯罪関連の特別法における犯罪対策についての理解を深めていく予定である。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）。その他は授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。		
評価方法	学期末の論述式試験の結果（８０％）、そのほか、授業の中で行う感想文等（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事司法制度の現状を正しく理解し、日々の刑事政策に関するニュースを理解して見ることができるようになり、各種の犯罪対策の現状と問題点を考察することができるようになる。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、単元ごとに、それまでの授業の感想文や小テストを求めるので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。特に、理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
１　犯罪学、刑事政策とは ２　犯罪情勢 ３　犯罪の原因 ４　犯罪化と非犯罪化 ５　日本の警察制度 ６　刑罰制度 ７　犯罪者の施設内処遇 ８　犯罪者の社会内処遇 ９　犯罪者処遇の新しい動き １０　犯罪被害者の方の講演 １１　少年非行対策 １２　犯罪被害者対策 １３　交通犯罪 １４　薬物犯罪 １５　精神障害者の犯罪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J82013101
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　久嗣	旧科目名称	
講義概要	本講義はＦＰの基礎である不動産運用設計、金融商品設計、保険、リタイヤメントプランニングの基礎を学習する。また、春学期の「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ資格の認定講義となっているため、本講義の位置づけはそれらの科目と同様にＦＰ資格取得を目指す講義としたい。		
教材（テキスト）	『ファイナンシャル・プランニング入門　第 3 版』(日本 FP 協会)および、「FP 基礎」学習時のテキストとして、『FP 総論』(日本 FP 協会)		
教材（参考文献）	宮口定雄『税務ハンドブック　平成 28 年度版』コントロール社、『3 級 FP テキストⅠ・Ⅱ　2016～2017 年度版』　FPK 研修センター		
教材（その他）	問題集の使用を予定		
評価方法	レポートの提出を義務づける。そのレポートの内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	難易度を高く設定はしないが、FP としての基本を理解し、AFP 資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者への要望

春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)

講義の順序とポイント

1　ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味
2　FP の社会的役割
3 社会的責任とコンプライアンス
4 不動産の見方
5 不動産の動向と分析
6 金融・経済の知識
7 最近の金融動向
8 利回り計算と割引現在価値
9 株式と債券
10 投資信託
11 金融派生商品
12 生命保険
13 損害保険
14 リタイヤメントプラントと年金問題
15 ファイナンシャルプランニングⅡに向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	J82013201
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅡ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	税法の改正に伴い、最新の知識を得るため、本講義ではタックスプランニングを基軸としての講義となる。日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。よって「税金の話」だと考えてもらいたい。なお、税金以外の住宅取得、金融商品売買、退職等を含むその他のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（テキスト）	『タックスプランニング』(日本 FP 協会)、『税務ハンドブック　平成 28 年度版』(宮口定雄著・コントロール社)他		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」(平成 28 年度版) 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャル・プランニングⅡ」「ファイナンシャル・プランニングⅢ」４科目を併せて AFP 認定の講義の要件となっているので、FP 資格に興味のある学生は必ず４科目を同時に履修することをお願いしたい。			
講義の順序とポイント			
1　租税法律主義と税法体系 2　申告納税方式と賦課課税方式 3　利子所得 4　不動産所得 5　給与所得 6　山林所得 7　一時所得 8　非課税所得 9　相続税 10　贈与税 11　金融商品売買に関わる税金 12　不動産に関わる税金① 13　不動産に関わる税金② 14　公的年金等の税金 15　実例の考察			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J82013301
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅢ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	税法の改正に伴い、最新の知識を得るため、本講義ではタックスプランニングを基軸としての講義となる。日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。よって「税金の話」だと考えてもらいたい。なお、税金以外の住宅取得、金融商品売買、退職等を含むその他のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（テキスト）	『タックスプランニング』(日本 FP 協会)、『税務ハンドブック　平成 28 年度版』(宮口定雄著・コントロール社)他		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」(平成 28 年度版) 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

春学期のファイナンシャル・プランニングⅠと金融入門・ファイナンシャル・プランニングⅡ・ファイナンシャルプランニングⅢと併せて AFP 認定の講義となっているので FP 資格に興味のある学生は必ず履修することをお願いしたい。

講義の順序とポイント

1　直接税と間接税
2　所得税の概要と仕組み
3　配当所得
4　事業所得
5　退職所得
6　譲渡所得
7　雑所得
8　相続税①
9　相続税②
10　贈与税
11　金融商品売買に関わる税金
12　不動産に関わる税金
13　公的年金等の税金①
14　公的年金等の税金②
15　実例の考察

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J82013401
科目名	ファイナンスの数理	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics of Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、投資理論として「どのようなポートフォリオを構築すればよいのか」について代表的な考えを述べる。 具体的には、PC 上で稼働する表計算ソフトとして幅広く利用されている Excel を活用しながら、証券投資分析手法を寛容に学んでいく。証券投資理論に関しては、株式投資分析、債券投資分析、先物とオプションについて、講義を行うつもりである。特に、先物とオプションに関しては、離散時間型の簡単な 2 項モデルを紹介し、このモデルを基に、裁定取引の考え方およびオプション価格(プレミアム)の決定方法を学ぶ。また、ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に、PC を使いながら出来るだけ平易に解説するつもりである。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント配布を行う。		
教材（参考文献）	藤林/岡村/矢野（2009）『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』 第 3 版, 金融財政事情研究会. 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社. 野口 悠紀雄（2000）『金融工学、こんなに面白い』文春新書.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(30%)；複数回のレポート等による。 定期試験(70%)。		
到達目標	ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解度を深めてゆく 。		
準備学習	証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 複数回、小テストを行うので前回の講義内容を復習すること。 ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		
受講者への要望			
統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。 レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。			
講義の順序とポイント			
１．ポートフォリオのリターンとリスク ２．同上 ３．マーケット・モデル ４．同上 ５．資本資産価格モデル（CAPM） ６．同上 ７．債券の価格と利回り ８．同上 ９．イールドカーブの特性 １０．債券のリスク（価格変動リスク、信用リスク）とポートフォリオ １１．同上 １２．先物の理論価格とヘッジ １３．オプションの概要 １４．同上 １５．まとめ： 演習の復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J82013501
科目名	デリバティブ論基礎	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
講義概要	資産運用の必要性が強調される時代において、金融商品が多様化している。 伝統的な金融商品はもちろん、今日においては、金融派生商品を利用した商品が数多く販売されている。 金融派生商品（デリバティブ）の内容を理解せずに、投資行動を起こすことは、 人生をリスクにさらしていると同義である。 この講義では、代表絵的なデリバティブである、先物・オプション・スワップの各取引形態を、 その背景や機能について理解し、その利点とリスクについて 入門的解説を行う。 先物価格の決定方法やオプションプレミアムの決定を、 実例に置き換えて、数式や複雑な数学を使うことなく、図式を中心に 直感的に理解できるように工夫して解説を行う。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	授業中に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%）		
到達目標	先物取引、オプション取引、スワップ取引、それぞれの意味と内容を理解し、 金融の世界で、どのように活用されているかを把握できるようになるまでを目標とする。		
準備学習	日本経済新聞のマーケット総合欄を日々確認すること。 短期金融・債券・株式の各市場の数値を記録しておくのが望ましい。 講義開始から終了までの半期で金融市場とデリバティブの関係が理解できるようになる。		

受講者への要望

各回の講義内容は難しいものではありません。
履修動機は問いませんが、成績は、公表している評価方法により厳密に判定します。

経済状況を知る上で、新聞は必読です。購読が無理でも図書館で確認してください。
日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。
半期続ければ、今後の展開に自分なりの意見が持てるようになります。

講義の順序とポイント

1.デリバティブの概念
2.デリバティブ市場の規模
3.デリバティブの歴史
4.金融市場の知識 1（金融市場取引．相対取引）
5.金融市場の知識 2（株式と株価指数、金利と債券、外国為替市場と商品市場）
6.先物取引の基礎 1（先渡取引と先物取引、価格決定のメカニズム）
7.先物取引の基礎 2（先物価格と現物価格、為替予約）
8.先物取引の基礎 3（レバレッジ、決済方法、裁定取引）
9.オプション取引の基礎 1（オプションとは、保険や手付金など）
10.オプション取引の基礎 2（オプション価格の決定、コールとプット）
11.オプション取引の基礎 3（リスクと行使期間、レバレッジ）
12.スワップ取引の基礎 1（キャッシュフロー）
13.スワップ取引の基礎 2（金利スワップの仕組み）
14.スワップ取引の基礎 3（通貨スワップの仕組み）
15.デリバティブを利用して 1（天候や物価デリバティブ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82013601
科目名	デリバティブ論応用	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
講義概要	デリバティブ市場の発達によって、従来の金融機関の区別や役割が大きく変化している。 その変化に伴い、個別の金融機関・各国家ごとの金融規制では対応できない事例も表面化している。 デリバティブの有効性を理解し、適切に利用・活用するためにはどのような対応が必要なのかを、 確認および検討する講義となる。 新しい時代に対応した金融行政、金融規制派手のようなものが適切なのかを 既存のデリバティブ商品を参考にしながら、講義する。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義内にて適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	授業中に行う確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期試験（40%）		
到達目標	今日の世界経済において、デリバティブがどのように活用され、また役割を果たしているかを理解し、 今後の情勢に合わせ、どのように各デリバティブを利用し、ポジションを取ったほうがよいかを 自分で判断できるようになるまでを目標とする。		
準備学習	日本経済新聞等、マーケット総合欄を日々確認すること。 短期金融・債券・株式の各市場動向と、終値などの数値を記録しておくのが望ましい。 講義開始から終了までの半期で、金融市場とデリバティブの関係が理解できるようになる。		

受講者への要望

前期「デリバティブ論基礎」の内容を踏まえての講義となるので、基本的知識がなければかなり負担のかかる講義でとなります。

金融情勢は日々変化しており、デリバティブ取引においても講義期間内に大きな変動は想定されます。
時々の情勢を認識しながら、その先に取るべきポジションを考えるなど、論理的な思考や想像力を求める講義となります。

デリバティブに限りませんが、特に投資理論は「推察→実証→検証→推論」を繰り返す必要があります。
いろいろな情報にアンテナを張り、情報感度を高めなければなりません。

毎回の確認テストにて、質問をしていきますので、新聞の経済ニュースは必読とします。

講義の順序とポイント

1.デリバティブ商品とは
2.デリバティブを利用しているケーススタディ
3.サブプライム危機とデリバティブの関係
4.デリバティブを活用したヘッジ
5.株式信用取引、為替証拠金取引とデリバティブ
6.先物取引の実際（国債と債券先物、株式と株価指数先物）
7.オプションによるヘッジと利用（株式を中心に）
8.スワップの利用（金利スワップとと為替スワップ）
9.コモディティデリバティブと応用
10.デリバティブを使った金融商品 1（EB.DC.満期選択などの仕組債）
11.デリバティブを使った金融商品 2（カバードワラントを使って）
12.伝統的金融商品と金融派生商品
13.リスク対応にデリバティブをどのように活用するか
14.デリバティブによる商品組成
15.今後のデリバティブ展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82013701
科目名	証券市場論	単位数	2
科目名（英語表記）	Securities Trading		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
講義概要	当講義は受講生が金融市場、資本市場の仕組みを基本から理解することを目的とし、「お金」の仕組みを根本から、実用まで深く理解することを根底に持つこととする。 「算数」の基礎知識と「意欲」を持ってすれば学べる「場」とし、基本出席を前提とする。また講義を通じて株式銘柄を選定し、擬似ポートフォリオを作成し、そのパフォーマンスと分析の深さを競うことも行う。 日本語、英語で講義するか？また証券アナリスト１次試験レベルまで議論を進めるかは受講生の基礎理解力を見て判断するものとする。 This course is designed for the attendants to understand the system of capital market and security market, and deeply recognize the fundamentals of “what is Money?” from the theory to the practical manor. Expected all attendants to bring a skill of “arithmetic” and “passion to learn” to the classroom. Also setting stock picking and will run hypothetical stock portfolio through the whole sessions, the all attendants will be examined on their performance and depth of analysis. Japanese class or English class? Or extending into CFA level one level would be determined after checking the attendant’s skill level.		
教材（テキスト）	講義毎配布される Will be delivered at each session		
教材（参考文献）	講義毎配布される Will be delivered at each session		
教材（その他）	講義毎配布される Will be delivered at each session		
評価方法	50 % Class Contribution 35% Presentation / Portfolio at the last session 15% Quiz at each session		
到達目標	証券、金融市場の用語を理解すると共に、「お金」の仕組みを理解する On top of understanding of fundamental terms of capital and security market, also expected to understand fundamental system of Money.		
準備学習	算数のスキルを確認すること To check the skill of arithmetic		
受講者への要望			
Be Passionate Be Hungry			
講義の順序とポイント			
事前に自らの今までの履歴、バックグラウンドを説明できるようにすること To prepare to be able to explain your Bio. Session 1 Orientation オリエンテーション Session 2 On Market マーケットとは？そのメカニズムの基礎 Session 3　On Money 「貨幣」「貨幣価値」の定義			

Session 4　On Stock
「株式」の仕組み

Session 5　On Bond, FX, Commodity
債券、為替、商品市場の仕組み

Session 6　On Portofolio
ポートフォリオの仕組み

Session 7　On Stock Picking
銘柄選択の方法

Session 8　Portfolio Setting
擬似ポートフォリオの選定：中間評価

Session 9　On Capital Market
資本市場、調達の仕組み

Session 10　On Fund Raising / IPO
資金調達、IPO に関して

Session 11　On Venture Capital
ベンチャーキャピタルに関して

Session 12　On Valuation
投資評価に関して

Session 13　On Corporate Analysis 1
受講者が興味ある企業をあげてその企業分析 Part 1

Session 14　On Corporate Analysis 2
受講者が興味ある企業をあげてその企業分析 Part 2

Session 15
Presentation

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★	ー	★★

年度	2016	授業コード	J82013801
科目名	金融商品取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Instruments and Exchange Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	たとえある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスで成功することはできません。企業がビジネスに必要な資金を銀行から借りる場合、たとえ赤字でも借りた資金は利子をつけて返さなければなりません。しかし、株式を発行して集めた資金は、その企業が存続する限り返す必要はなく、黒字の時だけ株主に利益の分け前である配当を渡せばよいのです。リスクがつきもののビジネスにとっては、株式による資金調達が非常に適していることは明らかです。 　しかし、投資が安心して株式を買うためには、様々なルールが整っていることが必要です。金融商品取引法は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することを目的にしています。 　この講義では金融商品取引法の基本的な仕組みを中心に学びます。		
教材（テキスト）	近藤光男ほか『基礎から学べる金融商品取引法 第３版　』（弘文堂，２０１５年）		
教材（参考文献）	黒沼悦郎『金融商品取引法入門　第６版』（日経文庫、２０１５年）		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポート等 40%）　　小テスト２回（60%）		
到達目標	金融商品取引法の基本概念を理解し、企業の資金調達に関係するニュースに関心を持ち、何が問題になっているのか、理解できるようになる。		
準備学習	次回の内容を予告するので、教科書の該当部分を読んでおくこと。		
受講者への要望			
企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること			
講義の順序とポイント			
１　金融商品市場の基本的な仕組み ２　金融商品取引法の目的と全体像 ３　有価証券の取引方法 ４　企業内容の開示規制①（発行開示制度） ５　企業内容の開示規制①（継続開示制度） ７　金融商品取引業者の規制と小テスト１ ８　小テスト１の解説と企業支配に関する開示制度①（公開買い付け） ９　企業支配に関する開示制度②（株券等の大量保有状況の開示） １０　投資信託および集団投資スキーム １１　不公正な取引方法の規制①（インサイダー取引） １２　不公正な取引方法の規制②（相場操縦） １３　不公正な取引方法の規制③（金融商品取引業者による不公正取引） １４　罰則と課徴金 １５　金融商品取引法の課題と小テスト２		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82013901
科目名	税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。 内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味がもてるような内容とする。		
教材（テキスト）	清永敬次『税法(新装版)』(ミネルヴァ書房)　3,360 円　(改訂の可能性あり)		
教材（参考文献）	岡村忠生ほか『ベーシック税法(第 7 版)』(有斐閣アルマ)　2,205 円(改訂の可能性あり) その他は、初回の講義時に説明する。　また、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要なレジュメはその都度(概ね毎回)配布する。		
評価方法	定期テストの成績で評価する。 平常点(出席状況等による)及びレポート・小テスト(2~3 回)の評価を加味する。 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	1　税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2　税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3　主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題の所在を知ることを目標とする。		
準備学習	日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。 講義初回に詳細な授業計画(各回のテキストの該当頁を記載したもの)を配布するので、次回履修予定部分のテキスト該当頁を予習しておくこと。 授業中に配布したプリント(毎回配布)の重要項目については、テキスト、参考文献で確認(復習)しておくこと。復習のための小テストを実施予定。		

受講者への要望

税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初回の講義時に指示する)。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　導入、租税と税法
2. 総論１　租税の意義と根拠
3. 総論２　租税法律主義・租税平等主義
4. 総論３　租税法の解釈と適用
5. 所得税１　所得税の概要、納税義務者
6. 所得税２　所得概念、帰属
7. 所得税３　所得税の計算の仕組み、課税標準
8. 所得税４　収入金額
9. 所得税５　必要経費
10. 所得税６　所得控除、税率、確定申告、確定申告書作成演習
11. 法人税１　法人税の概要
12. 法人税２　納税義務者、課税所得
13. 法人税３　益金及び損金の原則
14. 法人税４　益金及び損金の別段の定め(その 1)
15. 法人税５　益金及び損金の別段の定め(その 2)、税額計算

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J82014001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。　したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（テキスト）	小池敏範緒『実務家要請シリーズ　わかりやすい法人税』（税務研究会出版局）		
教材（参考文献）	渡辺淑夫著『法人税法　平成 27 年版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教材（その他）	随時、法人税申告書の記載例や参考資料を配布する。		
評価方法	授業中の報告や議論内容（30%）、レポート（70%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
準備学習	事前に配布するレジュメ等を読んで予習しておくこと。		
受講者への要望			
税制に関連するマスコミ報道等に関心を持つこと。			
講義の順序とポイント			
1.　法人の区分と課税の範囲、法人税の体系 2.　課税所得の計算構造 3.　損益の期間帰属、受取配当等 4.　外貨建取引、減価償却資産、繰延資産 5.　給与、寄附金、交際費、その他の損金 6.　引当金・準備金制度、圧縮記帳制度 7.　税額の計算 8.　税効果会計（1） 9.　税効果会計（2） 10.　新会計基準と法人税（1） 11.　新会計基準と法人税（2） 12.　新会計基準と法人税（3） 13　中小企業の会計 14.　グループ法人税制 15.　法人税申告書			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J82020101
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	企業や業界を選んで、その企業や業界の現状および経営戦略を調査・分析します。文献、新聞記事、雑誌記事、企業のホームページなどを調べて、それを Excel で分析し、PowerPoint でプレゼン資料にまとめ、発表してもらいます。これらの作業を通じて、実際に企業の実務で役立つスキルを身につけてもらうと同時に、就活での業界研究や企業研究にも役立ててもらいます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	平常点（受講姿勢やグループワークでの貢献度など）50%。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	書籍、新聞、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業の経営戦略を分析することができる。		
準備学習	ゼミの時間は発表が中心になるので、事前に発表のための調査や資料準備をしておくこと。		

受講者への要望

キャリアゼミＢ、専門ゼミＡ～Ｄは連続して受講することを前提に授業を進めますので、連続して受講することを望みます。
資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。
なお、経営戦略論入門、経営戦略論を事前あるいは本ゼミと併行して履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

キャリアゼミＢ、専門ゼミＡ～Ｄは連続して受講することを前提にしています。専門ゼミＡでは、キャリアゼミＢで学んだことを活かして、さらに深く企業の経営戦略を分析します。
また、一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定です。

1. オリエンテーション
2. 企業の選択、参考文献の紹介
3. 参考文献の要点整理
4. 参考文献の要点整理
5. 中間発表、ディスカッション
6. 中間発表、ディスカッション
7. 情報収集と分析
8. 情報収集と分析
9. 中間発表、ディスカッション
10. 中間発表、ディスカッション
11. 追加調査
12. 追加調査
13. 発表、ディスカッション
14. 発表、ディスカッション
15. 専門ゼミＡのまとめと専門ゼミＢへの課題提示

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J82020102
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	各自関心のある企業または業界を選び、経営分析をすすめていく。適宜、研究の途中経過をプレゼンテーションしてもらう予定である。 演習終了時にレポートを課す。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常の講義への取り組み姿勢(40%)と最終レポート(60%)		
到達目標	会計情報から企業の財政状態、経営成績、資金状況を理解できる。 企業の業績や財務状態に影響を及ぼす外部要因、内部要因について説明できる。		
準備学習	各自に報告テーマを課すので、パワーポイント等によるプレゼン資料の準備をしてくること。報告に当たっていないものは、各自次回の内容について、指示されたテキストを読んでくること。 問題意識を持って新聞記事等のニュースに注意を向けること。		

受講者への要望

積極的に議論に参加すること。
毎回きちんと出席すること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。これは社会人としての常識であり、ゼミ生には、大人として、社会人としての自覚ある行動を身につけていただきたい。

講義の順序とポイント

1. 演習計画のガイダンス
2. ゼミ・レポートの書き方
3. 研究テーマの報告と決定(1)
4. 研究テーマの報告と決定(2)
5. 図書館での資料検索
6. 財務データの入手方法
7. 貸借対照表の見方
8. 損益計算書の見方
9. キャッシュ・フロー計算書の見方
10. クロスセクション分析と時系列分析
11. 財務分析の手法(1)　収益性分析
12. 財務分析の手法(2)　安全性分析
13. 財務分析の手法(3)　成長性分析
14. 財務分析結果の報告(1)
15. 財務分析結果の報告(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J82020103
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。 その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	8GB 以上の USB メモリ。 ノート PC または Windows タブレット+キーボード。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 60%、演習課題及びレポート 40%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。 1.現在の情報システムの動向や問題点を整理する。 2.現在の情報管理の動向や問題点を整理する。 ことを重点目標とする。		
準備学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学期末に 400 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。		
受講者への要望			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
専門ゼミの内容から、関心のあるテーマを選び、個人研究報告または共同研究報告をすすめていく。 1.はじめに 2.レポートの書き方の復習 3.経営学の基礎知識の復習 4.外部アカウントの取得 5.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新 WAMP の構築 6.ホームページの作成(1) 7.ホームページの作成(2) 8.ホームページの作成(3) 9.ホームページの作成(4) 10.プログラミング(1) 11.プログラミング(2) 12.プログラミング(3) 13.プログラミング(4) 14.レジュメの作成 15.報告発表会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	★	ー	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	J82020104
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	今日のビジネスでは、インターネットに代表される情報ネットワークが重要なツールとして活用されています。そこでインターネットを活用したビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を身につけることを目的とします。 春学期には表計算ソフトを使いデータを加工、処理する知識を身につけます。また、就職活動に役立つことも取り入れていきます。例えば、企業へのエントリーや、教養試験等の対策をします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。 ビデオ教材、新聞記事、雑誌記事等を活用します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（６０％）。授業中に課すレポート（４０％）。		
到達目標	インターネットビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を理解することを目標とします。 表計算ソフトを使いデータを加工・処理する知識を身につけることを目標とします。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 企業経営の動向を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。		

受講者への要望

出席を重視します。欠席・遅刻をしないこと。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　レポートの書き方の復習①
3　レポートの書き方の復習②
4　ワープロソフト、プレゼンテーションソフトの使い方の復習
5　表計算ソフトの使い方（関数、グラフの作成）
6　表計算ソフトの使い方（データベース機能など）
7　表計算ソフトの使い方（応用）
8　経営学の知識①（共通教材の提供）
9　経営学の知識②（情報収集の仕方）
10　経営学の知識③（レジュメの作成）
11　経営学の知識④（レジュメの作成）
12　経営学の知識⑤（発表）
13　経営学の知識⑥（まとめ）
14　SPI、時事問題等
15　専門ゼミ A を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	- -	- -	- -	★	★

年度	2016	授業コード	J82020105
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A は文献研究により進める。参考文献の指定箇所を読み、報告し、質疑応答する中で、経営史や企業家活動の基礎的知識の習得に努めねばならない。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編著『１からの経営史』碩学社 宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣		
教材（その他）			
評価方法	報告・レポート（100％）		
到達目標	歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史の中に位置づけることができる。		
準備学習	輪番形式で進め、報告者にはレジュメの作成を課すので、順次各自の担当部分を読み進め速やかにレジュメを作成すること。		

受講者への要望

出席は義務である。しかし、ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。

講義の順序とポイント

指定された文献を読み報告する。

1.江戸時代の経営
2.明治の企業家たち
3.近代産業経営の成立
4.財閥の多角化と組織
5.重化学工業化と新興財閥
6.技術経営の誕生
7.「日本的」人事管理とサラリーマンの誕生
8.都市型ビジネスの成立
9.「経済民主化」と企業変革
10.大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展
11.企業集団とメインバンク
12.日本的生産システム
13.流通のイノベーション
14.変貌する総合商社
15.日本的経営とその変容

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J82020106
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	企業を経営するうえで重要な資源としての人材の重要性について把握し、どういう育成をすれば人は成長し、企業の業績アップに効果を与えるか。また、個人の立場としては、自らの能力を活用するためにはどうすればいいのかを考える。 さまざまな業界の可能な限り最新の企業のケースを用い、自分が経営者ならどうするか、従業員ならどうするかを考えていく。 内容に応じて、グループワークと個人作業を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要に応じて、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（受講姿勢及びグループワーク）70%、レポートおよび発表（30%）		
到達目標	企業経営における人材の重要性を理解し、関心のある企業について調べる力をつけることを目標とする。 また、グループワーク等を通じて、問題解決能力、企画力、提案力を身につける。		
準備学習	学習の段階に応じて課題として選択したテーマに基づいて資料を収集しておくこと。		
受講者への要望			
キャリアゼミB、専門ゼミA～Dは連続受講を前提とします。 グループワークだけでなく、個人作業もあります。自ら課題に興味をもち積極的な参加をすることを求めます。			
講義の順序とポイント			
1.　オリエンテーション（ゼミの目的と進め方） 2.　グループワーク①　グループディスカッション 3.　グループワーク②　企業の事例の課題 4.　ケーススタディ①新聞・雑誌から 5.　ケーススタディ②　〃 6.　ケーススタディ③映像で見る事例 7.　ケーススタディ④　〃 8.　企業と個人のキャリアの関係① 9.　企業と個人のキャリアの関係② 10. グループ研究テーマ設定と発表 11. グループでの調査① 12.　〃　② 13. グループでのまとめ① 14.　〃　② 15.　発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82020107
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A は担当者の専門とするスポーツビジネス・レクリエーション・ヘルスプロモーションなど多様なビジネスを対象として調査研究・実践を行います。 企業が果たす社会的使命とは何か?何が必要なのか？新しい公共の理念に沿った企業の発展に何が大切なのか。そんなことも大きな研究テーマのひとつです。企業の仕組みを学びつつ、担当者の専門とするスポーツ・レクリエーション・ヘルスプロモーションと関わりながら「未来」を考える時間を学生の時期に体験し、実践で経験知を高め、企画・運営・振り返りでマネジメントサイクルが回せるようにしていきます。		
教材（テキスト）	スポーツビジネス最強の教科書（平田竹男著、東洋経済新報社）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	1. 経営学の基礎的な知識の習得に努める。 2. スポーツ・その他のビジネスの文献を検索し、内容を要約できる。 3. ２つの文献から、ビジネスの課題を把握し、自らのテーマとすることができる。 4. みんなの前で、プレゼンテーションができる。		
準備学習	1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、配布用のレジュメを準備する。 3. わからない専門用語は前もって調べておく。		

受講者への要望

1. ゼミには積極的に参加する。
2. 遅刻や無断欠席をしない。
3. 自分で進んで興味のあることを見つける努力をし、それに関する文献などを集める。

講義の順序とポイント

毎回の講義は個人々々の自主・自発性で学びの密度が変化します。皆さんが積極的に課題に取り組んでいきましょう。

１．春学期オリエンテーション、スポーツビジネスの世界
２．スポーツビジネスの本質を考える
３．スポーツの起源、産業革命とスポーツ文化
４．日本のスポーツビジネス
５．観光とスポーツ
６．プロスポーツの現状
７．Ｊリーグの理念と１００年構想
８．Ｊリーグのチーム比較をしよう
９．プロ野球と報道、メディアスポーツの現状について調べよう
１０.個人競技のスポーツビジネス
１１.世界のスポーツ、大学スポーツ
１２.スポーツとインターネット
１３.スポーツとスポンサーシップ
１４.スポーツ産業の動向
１５.スポーツ産業の動向

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J82020108
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	就職活動予定者を対象とするこのゼミにおいては、まずは HRM(Human Resources Management)に関する事例を輪読し、採用、動機づけ、解雇、などがいかにして企業で行われているかを理解する。また、若年労働市場の現状と課題を学ぶ。10%にせまる失業率、多くのフリーターやニート、就職して 3 人に 1 人が辞めるという大卒の離職率、週 50 時間にせまる長時間労働、などの若年労働者の現状についてゼミで討議する。 　加えて、あなたが大学卒業後に進みたい業界あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題を発見し、そしてその問題が生ずる理由を明らかにしていただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ作成・発表し、最終的には、レポートあるいは論文に仕立ててもらう。		
教材（テキスト）	なし。資料を適時配布する。		
教材（参考文献）	なし。資料を適時配布する。		
教材（その他）	なし。資料を適時配布する。		
評価方法	課題・宿題（30%）、および受講・発表・取組姿勢（70%）により評価する。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。 ＊エントリーシートや筆記試験に対応できる。		
準備学習	＊初回の授業においてこれから使う資料について説明を行う。どの資料を次回使用するかを毎回指示するので、熟読しておくこと。 ＊例えば、新規学卒就職者の 3 年以内の離職率データを使い、業界による相違やその相違理由を明らかにせよ、などの課題・宿題を指示する。 ＊宿題や小テストなどを通してゼミで習ったことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料を必ず熟読しておくこと。		

受講者への要望

＊就職活動予定者を対象としているのでゼミ選択の際には注意すること。
＊パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。ワードやエクセル等のソフトを活用できる方が望ましい。
＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。

講義の順序とポイント

1.パソコンの起動、メールの設定、ゼミの進行について 各種ビジネスソフトの教習①
2.各種ビジネスソフトの教習②
3.各種ビジネスソフトの教習③
4.企業規模・年齢・業界別の所得分析
5.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について①
6.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について②
7.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について③
8.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について④
9.勤務地限定制度の有無、労働時間について①
10.勤務地限定制度の有無、労働時間について②
11.エントリーとは？　エントリーシートの書き方について①
12.エントリーとは？　エントリーシートの書き方について②
13.エントリーシートの書き方について③
14.未上場企業の HRM について①
15.未上場企業の HRM について②、秋学期について、専門ゼミ B について、個人面談。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★	★

年度	2016	授業コード	J82020111
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	私が「フリー・ゼミ」（自由ゼミ）とよぶやり方で、ゼミをおこなう。「フリー・ゼミ」方式とは、ゼミ担当教員があらかじめいくつかの基本テーマを設定し、その枠内でゼミ生一人ひとりが自分で取り組んでみたいテーマを自由に選び、同じ関心をもつゼミ生とグループを組んで研究するゼミ運営のことです。各グループでテーマが確定したら、各グループの代表（キャップ）と、テキストや資料を選び、研究計画を立てて、研究報告やレポート作成をおこないます。 昨年のゼミのテーマを参考のために示せば、「コマーシャルの経済効果」、「情報社会」（アップル vs. グーグル）、「財政問題」（年金・消費税）でしたが、過去のゼミでは、「アベノミクス研究」、「国際金融」、「地球環境（温暖化）問題」、「格差社会」（貧困問題）、「自動車産業」（ハイブリッド、電気自動車）などのテーマにも取り組みました。		
教材（テキスト）	1 回目のゼミにおいて、各テーマごとの文献リストを提示します。文献リストには、比較的入手しやすい最近の新書や文庫を示しています。最終的には、担当教員のアドバイスを参考にしながら、各グループの判断でテキストを選びます。		
教材（参考文献）	各テーマごとに参考文献を配布する。それ以外のものについては、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜情報を提供し、必要な資料については印刷して配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋グループ研究報告 2 回（４０％）＋個別レポートの作成（３０％）		
到達目標	ゼミ活動を通してゼミ生が自主的な学習スタイルを確立し、グループ研究において自己が果たすべき責任能力を身につけてもらうことを目標とします。		
準備学習	１．日頃から社会問題に広く関心をもち、自分が研究したいと思うテーマに関する資料を収集する。 ２．ゼミの研究テーマについては、自宅でも自主的に学習する時間を充分に確保する。 ３．研究グループ内でミーティングをしっかり行い、各自のはたすべき役割を着実に実行する。		

受講者への要望

各グループには、責任者としてキャップをおきます。キャップがしっかり内部調整しなければ、あるいは逆にグループメンバーがキャップに積極的に協力する姿勢で取り組まなければ、所定の期日に研究報告ができなかったり、レポート作成も未完成のままになるグループがでてきます。そうしたグループについては、運営方法の改善を指導し、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散をおこなう。

講義の順序とポイント

１．専門ゼミ A のガイダンス
２．研究グループおよび研究テーマとテキストの決定
３．教員による模擬研究報告
４．研究計画の策定と提出
５．研究報告(1)
６．研究報告(2)
７．研究報告(3)
８．研究報告の批評(1)
９．研究報告(4)
１０．研究報告(5)
１１．研究報告(6)
１２．研究報告の批評(2)
１３．研究報告(7)
１４．研究報告(8)
１５．研究報告の批評(3)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★★	★	−	★	−
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J82020112
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	株式会社という言葉は誰でも知っていると思いますが、株式会社とはどのような会社なのか正確に理解している人は少ないと思います。このゼミでは株式会社に関する基本的な知識を身につけるようにします。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	神田秀樹（2015）『会社法入門』岩波書店（岩波新書、新赤版 1554）。		
教材（その他）			
評価方法	授業時の質疑応答（70%）、小テスト（30%）		
到達目標	会社制度に対する理解を深める。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

いろいろなことに取り組んで成長してほしい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　企業と会社制度
3　社団とは何か
4　法人とは何か
5　合名会社とは何か
6　合名会社の意義と限界
7　合資会社とは何か
8　合資会社の意義と限界
9　株式会社における有限責任制の意義
10　株式会社の種類
11　監査役会設置会社の株主総会
12　監査役会設置会社の取締役会と代表取締役
13　監査役会設置会社の監査役と監査役会
14　監査役会設置会社の会計監査人
15　エージェンシー問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J82020113
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済データのなかで、マクロマネー系を扱う。特に、量的金融緩和期におけるマネーの動きと金融緩和の有効性を分析する。日本における量的金融緩和を分析する。		
教材（テキスト）	必要に応じて、資料配布。		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	平常点（80%）、レポート（20%）		
到達目標	金融システムの理解、EVIEWS の操作方法の習得。		
準備学習	金融論、ミクロ、マクロなどの基礎知識を勉強しておくこと。 予習：マクロ経済学、金融論 A、B を事前に履修（または同時に履修登録）して内容を理解しておくこと。 復習：春学期の終了までに、参考文献の半分までを読み終えておくこと。		
受講者への要望			
出席が非常に大事。数理的な部分をすこしずつ理解できるように進めていくので、休んでしまうとついて来れなくなる。			
講義の順序とポイント			
１．EViews の使い方その１ ２．EViews の使い方その２ ３．EViews の使い方その３ ４．データ分析（回帰分析） ５．データ分析（定常・非定常） ６．データ分析（推定） ７．データ分析（系列相関） ８．マクロシステムの推定その１ ９．マクロシステムの推定その２ １０．マクロシステムの推定その３ １１．マネー（通貨と準通貨）と金利（短期、長期、スプレッド） １２．同上 １３．GDP、物価、日銀の金融政策 １４．同上 １５．まとめ(基本的な推定方法のサーベイ)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J82020114
科目名	専門ゼミＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	本講義では、マクロ経済学の基礎理論を復習し、それに基づき現代の日本経済および世界経済の抱える諸問題に対する理解を深める。それぞれ経済問題の本質を踏まえ、それが及ぼす経済的影響とそのメカニズムを確認し、解決に有効な経済政策の在り方を検討する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。毎回の授業で講義用の資料を配布する。		
教材（参考文献）	酒井・寺本・村上・吉田　『経済政策入門』第２版　成文堂 高橋洋一『図解ピケティ入門』　あさ出版 ｼﾞｮｾﾌ・Ｅ・ｽﾃｨｸﾞﾘｯﾂ『世界に分断と対立をま撒き散らす経済の罠』徳間書店		
教材（その他）	日本経済新聞など経済ニュースに日頃から目を通すことが望ましい。		
評価方法	授業内試験１００％		
到達目標	（１）マクロ経済学の基礎理論を理解する。 （２）日本経済の諸問題の本質とその影響が生じるメカニズムを理解する。 （３）世界経済の諸問題の本質とその影響が生じるメカニズムを理解する。		
準備学習	（１）国民経済統計を調べる。 （２）政府の経済政策の種類とその効果を調べる。 （３）経済の時事問題を調べる。		

受講者への要望

（１）欠席３回で成績評価の対象から除外する。
（２）内容は経済学の基本である。記憶も理解も徹底せよ。
（３）社会人への準備となる取り組みにも意識的・積極的に参加せよ。

講義の順序とポイント

講義の流れは以下の通りである。毎回、日本地図や世界地図を頭に入れながら、地域や国ごとの関連する統計データや経済問題についても解説する。

第１回：ゼミの運営とルール、自己紹介の作法
第２回：国民所得とは何か、ＧＤＰとＧＮＰの違い、国の稼ぐ力
第３回：経済成長率と失業率の関係
第４回：有効需要の原理、総需要
第５回：消費関数と投資関数
第６回：経常収支と為替レート
第７回：公共支出と減税の経済効果
第８回：金融政策の経済効果
第９回：アベノミクス 1、三本の矢
第 10 回：アベノミクス 2、新三本の矢
第 11 回：日本の財政赤字問題
第 12 回：世界の財政赤字問題、ソブリン・リスク
第 13 回：税と社会保障の一体改革
第 14 回：世界の金融システムの歴史と問題点
第 15 回：日本と世界の格差の問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★	-

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J82020115
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	日本学生経済ゼミナール大会（インター大会）への出場に向けて、ゼミを行う。具体的には、ゼミ学生を 2 チームに分割し、各チームで情報を収集しながら、論文作成をする。各チームは、金融および経済政策の中から論文テーマを選定し、ゼミ内で資料作成や報告を行う。論文テーマの例としては、「日本経済とアベノミックス」、「欧米の金融イノベーションの動向：FinTech をめぐる最近の動向」、「日米欧の非伝統的金融政策の効果の比較」、「多国籍企業の国際的租税回避問題」、「経済成長と所得格差」、「我が国における対内直接投資の現状と課題」等が考えられる。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	金融危機およびアベノミックスに関する書籍： ・岩田規久男（2009）『金融危機の経済学』 東洋経済. ・岩田規久男/浜田宏一/原田泰 編（2013）『リフレが日本経済を復活させる』 中央経済社. ・植田和男 編（2010）『世界金融・経済危機の全貌』 慶応義塾大学出版会. ・白川方明（2008）『現代の金融政策』 日本経済新聞社. ・服部茂幸（2014）『アベノミックスの終焉』 岩波新書. 経済格差に関する書籍： ・Piketty, Thomas, (2014), “Capital in the Twenty-First Century”, The Belknap Press of Harvard University Press （邦訳「21 世紀の資本」みすず書房）.		
教材（その他）	適宜、論文を指定する。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。 ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	収集した資料に基づいて意見を述べ、論文を作成する能力を身に着けること。		
準備学習	発表にあたっているグループは協力して、しっかりとレジュメ作成をしなければならない。		
受講者への要望			
無断欠席、遅刻を厳禁する。 ゼミは学生主体であるため、積極的な姿勢でゼミに取り組むことが求められる。 インター大会への参加を単位要件としており、そのための論文作りに励んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。 9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。 テーマは、金融および経済政策に関する諸問題から選ぶ。 １． インター参加のグループ分け ２． インター参加テーマの設定 ３． テーマごとの参考文献の紹介 ４． グループ 1 の報告① ５． グループ 1 の報告② ６． グループ 2 の報告① ７． グループ 2 の報告② ８． グループ 1 の報告③ ９． グループ 1 の報告④ １０． グループ 2 の報告③ １１． グループ 2 の報告④ １２． レポートの書き方指導 １３． レポート作成① １４． レポート作成② １５． レポート作成③			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J82020116
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	自由経済体制の中にあっても，我々の日常生活は多くの規制にとりかこまれています。たとえば，麻薬の所持・使用、一方的な離婚、希少動物の捕獲、プロ野球球団の自由な選択等は禁止されています。 これらの規制は一見，社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののようにみえますが，人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実に照らせば，これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能です。 この研究会(ゼミ)では、社会的問題とされている様々な問題について、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論します。 テーマは、教育自由化、医療保険の民営化、地方分権、農業保護の撤廃、上下水道・電気通信・電力など公益事業の規制緩和、外国人労働者問題、政府開発援助、大型店舗規制の廃止、自然保護、ゴミ処理、音楽のダウンロード 問題、刑罰の経済学的考察、芸術保護、性表現、プロ野球、オリンピック、航空自由化、大都市鉄道、リニアなど多岐にわたります。 演習授業ですので、学生の自主的な運営と発表、ディスカッションを中心にすすめます。授業は 2 コマ分に延長して実施します。 専門ゼミ A、B では共同論文の執筆を中心作業といします。専門ゼミ C、D では卒業論文の執筆を中心作業とします。		
教材（テキスト）	ゼミの教科書はありません。ゼミは演習なので、教材を自分で探すところから勉強が始まります。また、テーマは諸君の自由ですので、テーマが決まったら、教材の探し方についてお話します。また、テーマ次第でその都度、必要な文献を示唆します。 あえていえば、「ミクロ経済学」の授業で使用した教科書を基礎的な教科書と考えてください。		
教材（参考文献）	教科書の項を参照してください。		
教材（その他）	教科書の項を参照してください。		
評価方法	論文、発表内容（100%）、ゼミ活動全体（勉強以外のイベントへの参加運営など）への貢献の程度（100%）。特定項目が非常に優れていればそれだけで 100%の評価をします。一方、基本的な常識、意欲がかけている場合はほかが 100 点でも 0 点とすることもあります。		
到達目標	自分の言葉で話せる人間になること。		
準備学習	毎回発表するのですから、その準備が必要なことは言うまでもないです。 具体的には、テーマや興味の持ち方、能力に応じて、指示します。		

受講者への要望

ゼミ活動は教室での発表と論文作成のみならず、他校との討論会、学園祭への参加、様々なイベントへの参加など多岐にわたります。それをこなす能力と意欲と財力が求められます。

当初から当研究会を志望しておらず、機械的に配分された受講者のみなさんとは、あらためてゆっくりお話をする際に要望を伝えます。

講義の順序とポイント

1．自己紹介
2．入ゼミ課題論文の発表
3．入ゼミ課題論文の発表
4．入ゼミ課題論文の発表
5．ミクロ経済学の復習
6．ミクロ経済学の復習
7．ミクロ経済学の復習
8．ミクロ経済学の復習
9．市場の失敗理論の基礎学習
10．市場の失敗理論の基礎学習
11．共同論文の作成
12．共同論文の作成
13．共同論文の作成

14. 共同論文の作成
15. 共同論文の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82020117
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	企業組織では、スポーツ組織と共有できるチームマネジメント論が存在する。現在、企業では高度成長期に日本で意識付けられた、ソーシャルキャピタルの精神が見直されて来ている。スポーツ組織でも、仲間同士での協調行動により、信頼関係を築き効率性向上を図るため、コーチングやリーダーシップなどのチームマネジメント力が必要となる。当ゼミナールでは、実在の企業による組織マネジメントを参考に、スポーツのチームマネジメントを通して、企業の理解を深め組織マネジメントの知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布します。		
評価方法	平常点（出席や受講態度）７０%、レポート３０%により評価する。		
到達目標	企業組織とスポーツ組織の共通するマネジメントを理解して整理し、身近な社会組織の中で実践する知識と行動力を身に付ける。		
準備学習	講義の内容を復習し、次回の講義までに指示された内容を調べる。		
受講者への要望			
授業には積極的に参加し、受講者全員で進めて行ける心構えを持つこと。			
講義の順序とポイント			
１．　オリエンテーション ２．　経営学部で学ぶための基礎 ３．　グループワークとプレゼンテーションの方法 ４．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究① ５．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究② ６．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究③ ７．　レポートの書き方 ８．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究④ ９．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究⑤ １０．企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究⑥ １１．レポート作成 １２．レポート作成 １３．レポート発表 １４．レポート発表 １５授業内容の振り返り（ディスカッション方式）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	ー	ー	★	ー
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J82020201
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	企業や業界を選んで、その企業や業界の現状および経営戦略を調査・分析します。文献、新聞記事、雑誌記事、企業のホームページなどを調べて、それを Excel で分析し、PowerPoint でプレゼン資料にまとめ、発表してもらいます。これらの作業を通じて、実際に企業の実務で役立つスキルを身につけてもらうと同時に、就活での業界研究や企業研究にも役立ててもらいます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	平常点（受講姿勢やグループワークでの貢献度など）50%。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	書籍、新聞、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業の経営戦略を分析することができる。		
準備学習	ゼミの時間は発表が中心になるので、事前に発表のための調査や資料準備をしておくこと。		

受講者への要望

キャリアゼミＢ、専門ゼミＡ～Ｄは連続して受講することを前提に授業を進めますので、連続して受講することを望みます。
資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。
なお、経営戦略論入門、経営戦略論を事前あるいは本ゼミと併行して履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

キャリアゼミＢ、専門ゼミＡ～Ｄは連続して受講することを前提にしています。専門ゼミＢでは、専門ゼミＡで学んだことを活かして、さらに深く企業の経営戦略を分析します。
また、一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定です。

1. オリエンテーション
2. 企業の選択、参考文献の紹介
3. 参考文献の要点整理
4. 参考文献の要点整理
5. 中間発表、ディスカッション
6. 中間発表、ディスカッション
7. 情報収集と分析
8. 情報収集と分析
9. 中間発表、ディスカッション
10. 中間発表、ディスカッション
11. 追加調査
12. 追加調査
13. 発表、ディスカッション
14. 発表、ディスカッション
15. 専門ゼミＢのまとめと専門ゼミＣへの課題提示

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J82020202
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A に引き続き、各自が選択した企業または業界について、発展的な経営分析をすすめていく。適宜、経過報告をプレゼンテーションしてもらう予定である。 演習終了時にレポートを課す		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常の講義への取り組み姿勢(40%)と最終レポート(60%)		
到達目標	会計情報から企業の財政状態、経営成績、資金状況を理解できる。 企業の業績や財務状態に影響を及ぼす外部要因、内部要因について説明できる。		
準備学習	各自に報告テーマを課すので、パワーポイント等によるプレゼン資料の準備をしてくること。報告に当たっていないものは、各自次回の内容について、指示されたテキストを読んでくること。 問題意識を持って新聞記事等のニュースに注意を向けること。		

受講者への要望

積極的に議論に参加すること。
毎回きちんと出席すること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。これは社会人としての常識であり、ゼミ生には、大人として、社会人としての自覚ある行動を身につけていただきたい。

講義の順序とポイント

1. 企業経営と会計
2. 日本の会計制度の概要
3. 業種による財務データの違い
4. 会計情報の開示制度
5. 有価証券報告書の見方
6. 企業集団と連結会計
7. セグメント情報
8. 企業の戦略と会計
9. 企業の抱えるリスク
10. 株価と財務データ
11. 配当と株価
12.業績見通しと株価
13.総合評価の方法
14.最終報告(1)
15.最終報告(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J82020203
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。 その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	8GB 以上の USB メモリ。 ノート PC または Windows タブレット+キーボード。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 60%、演習課題及びレポート 40%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。 1.情報システム、情報管理の手法を実際に構築する。 2.構築したシステム、手法を検討する。 ことを重点目標とする。		
準備学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学年末に 450 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。		
受講者への要望			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
情報管理手法をパソコンに展開し、情報システムの構築を行う。 そして、その成果を個人研究報告または共同研究報告してもらう。 1.はじめに、セキュリティアップデート 2.経営学の基礎知識の復習 3.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新 4.情報システムの構築演習(1) 5.情報システムの構築演習(2) 6.情報システムの構築演習(3) 7.情報システムの構築演習(4) 8.情報システムの構築演習(5) 9.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新 10.各自の情報管理テーマ（設定） 11.各自の情報管理のテーマ（レジュメの作成） 12.各自の情報管理のテーマ（レジュメの作成） 13.各自の情報管理のテーマ（発表） 14.各自の情報管理のテーマ（発表） 15.学年末発表会 授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	J82020204
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミＢでは、専門ゼミＡに引き続いて、インターネットを活用したビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を身につけることを目的とします。 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使って、データを加工・処理・表現していきます。また、就職活動に役立つことも取り入れていきます。例えば、企業へのエントリーや、教養試験等の対策をします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。 ビデオ教材、新聞記事、雑誌記事等を活用します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（６０％）。授業中に課すレポート（４０％）。		
到達目標	インターネットビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を理解することを目標とします。 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使い、データを加工・処理・表現する知識を身につけることを目標とします。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 企業経営の動向を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。		

受講者への要望

出席を重視します。欠席・遅刻をしないこと。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　経営学の知識の復習①
3　経営学の知識の復習②
4　経営学の知識の復習③
5　インターネットビジネスの研究①（各自のテーマの設定）
6　インターネットビジネスの研究②（資料収集）
7　インターネットビジネスの研究③（概要の作成）
8　インターネットビジネスの研究④（概要の作成）
9　インターネットビジネスの研究⑤（発表）
10　業界研究①
11　業界研究②
12　企業研究①
13　企業研究②
14　企業研究③
15　専門ゼミＢを通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	- -	- -	- -	★	★★

年度	2016	授業コード	J82020205
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	春学期の文献研究を踏まえて各自課題を選び、夏季休暇中に研究を進め、秋学期には各自の研究成果を報告し、ゼミナールⅠ終了レポートをまとめてもらう。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	報告・レポート（100%）		
到達目標	歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
準備学習	輪番報告の形式で進め、報告者にはレジュメの作成を課すので、順次各自の資料をを読み進め速やかにレジュメを作成すること。		
受講者への要望			
出席は義務である。ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
秋学期：夏季休暇中に進めた各自の研究を逐次報告してもらう。 16～20.各自の研究報告第一回（１）～(5) 21～25.各自の研究報告第二回（１）～(5) 26～30.各自の研究報告第三回（１）～(5)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82020206
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	企業を経営するうえで重要な資源としての人材の重要性について把握し、どういう育成をすれば人は成長し、企業の業績アップに効果を与えるか。また、個人の立場としては、自らの能力を活用するためにはどうすればいいのかを考える。 さまざまな業界の可能な限り最新の企業のケースを用い、自分が経営者ならどうするか、従業員ならどうするかを考えていく。 内容に応じて、グループワークと個人作業を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要に応じて、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（受講姿勢及びグループワーク）70%、レポートおよび発表（30%）		
到達目標	企業経営における人材の重要性を理解し、関心のある企業について調べる力をつけることを目標とする。 また、グループワーク等を通じて、問題解決能力、企画力、提案力を身につける。		
準備学習	学習の段階に応じて課題として選択したテーマに基づいて資料を収集しておくこと。		
受講者への要望			
キャリアゼミＢ、専門ゼミＡ～Ｄは連続受講を前提とします。 グループワークだけでなく、個人作業もあります。自ら課題に興味をもち積極的な参加をすることを求めます。			
講義の順序とポイント			
1.　オリエンテーション　グループ研究振り返りと今後の計画 2.　業界と企業についての動向① 3.　〃　② 4.　課題抽出の方法 5.　問題解決の技法と実例① 6.　〃　② 7.　個人テーマの設定 8.　個人テーマの発表と意見交換 9.　レポート作成 10.　レポート作成 11.　レポート作成 12.　レポート発表 13.　レポート発表 14.　振り返りとまとめ 15.　専門ゼミＣに向けて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J82020207
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ B では、ゼミ生の興味を主体にスポーツだけでなく、あらゆるビジネスを研究対象に、文献やインターネットからの情報などの研究成果を学び、学生自身が課題を見つけることを出発とします。 しかし、それまでに総合学問としての経営学の基礎を復習し、 組織経営や人的管理、心理学や生理学など、スポーツに関連する多様な学びを深め、研究の視点を広げてください。 　さらに組織の行動と個人の行動の本質を探り、スポーツビジネスに応用するというビジネスマインドを持ってください。ビジネスは今後さらに進化していくと考えられますが、それをけん引するシステムを構築するぐらいの気持ちで取り組みたいものです。 　本研究ゼミナールは担当者の専門とするスポーツビジネス研究というテーマだけでなく、多様なビジネスを対象として調査研究・実践を行います。企業が果たす社会的使命とは何か？　何が必要なのか？　新しい公共の理念に沿った企業活動や企業スポーツの地域の発展に何が大切なのか。そんなことも大きな研究テーマのひとつです。特に将来、経営を専門に学んで世に出て行く皆さん、企業の仕組みを学びつつ、担当者の専門とするスポーツに親しみながら「スポーツの未来」を考える時間を学生の時期に作ってほしいと願っています。次年度の専門ゼミ C・D に向かって、実践と理論を結び付けていきましょう。		
教材（テキスト）	事前に、指示します。		
教材（参考文献）	参考文献を適宜紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	毎回のグループワークや課題提出など（50%）。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	研究に必要な情報を資料収集し、Excel や PowerPoint にまとめ、より良いプレゼンテーションが出来るようになる。 1. 経営学の基礎的な知識のさらなる習得に努める。 2. スポーツ・その他のビジネスの文献を検索し、内容を深く理解できる。 3. ２つの文献から、ビジネスの課題を把握し、新たな課題を発見することができる。 4. みんなの前で、積極的にプレゼンテーションができる。		
準備学習	1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、配布用のレジュメを準備する。 3. わからない専門用語は前もって調べておく。		
受講者への要望			
シラバスを読み、興味を持ち受講すること。 グループディスカッションやプレゼンテーション発表など、実習が中心となるので、積極的な参加を要望します。			
講義の順序とポイント			
毎回の講義は個人々々の自主・自発性で学びの密度が変化します。皆さんが積極的に課題に取り組んでいきましょう。 １.秋学期オリエンテーション ２.スポーツ基本法を読み解く ３.2020 東京オリンピックとパラリンピック関連イベント検索 ４.スポーツ・健康増進と未来ビジョン ５.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成 ６.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成 ７.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成 ８.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成 ９.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成 １０.個人研究と報告・レポート作成 １１.個人研究と報告・レポート作成 １２.個人研究と報告・レポート作成			

１３.論文の書き方①
１４.論文の書き方②
１５.研究計画の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J82020208
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	就職活動予定者を対象とするこのゼミにおいては、専門ゼミAに引き続いて、日本企業におけるHRM(Human Resources Management)の特徴を理解することに重点を置く。 　加えて、専門ゼミBでは、大学卒業後にあなたが進みたい業界あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題の発見、および、問題が生ずる理由の解明に着手していただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ作成・発表し、最終的には、レポートあるいは論文に仕立ててもらう。		
教材（テキスト）	なし。資料を適時配布する。		
教材（参考文献）	なし。資料を適時配布する。		
教材（その他）	なし。資料を適時配布する。		
評価方法	課題・宿題（30%）、および受講・発表・取組姿勢（70%）により評価する。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。 ＊エントリーシートや筆記試験に対応できる。		
準備学習	＊初回の授業においてこれから使う資料について説明を行う。どの資料を次回使用するかを毎回指示するので、熟読しておくこと。 ＊例えば、新規学卒就職者の3年以内の離職率データを使い、業界による相違やその相違理由を明らかにせよ、などの課題・宿題を指示する。 ＊宿題や小テストなどを通してゼミで習ったことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料を必ず熟読しておくこと。		

受講者への要望

＊就職活動予定者を対象としているのでゼミ選択の際には注意すること。
＊パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。ワードやエクセル等のソフトを活用できる方が望ましい。
＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。

講義の順序とポイント

1.エントリーとは？　エントリーシートの書き方について①
2.エントリーとは？　エントリーシートの書き方について②
3.エントリーシートの書き方について③
4.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について①
5.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について②
6.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について③
7.成果主義・能力主義とは何か？①
8.成果主義・能力主義とは何か？②
9.初任給は決め手にならない。昇給・昇進・出向や転籍に関して①
10.初任給は決め手にならない。昇給・昇進・出向や転籍に関して②
11.不祥事を起こした会社・人財軽視の会社について①
12.不祥事を起こした会社・人財軽視の会社について②
13.エントリーシートの書き方について④　留学・進学について
14.SPI、時事問題③
15.研究論文について①、来期について。専門ゼミCについて。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★

年度	2016	授業コード	J82020211
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミＡと同じく、「自由ゼミ」方式とよぶやり方で、ゼミをおこなう。「自由ゼミ」方式とは、ゼミ担当教員があらかじめいくつかの基本テーマを設定し、その枠内でゼミ生一人ひとりが自分で取り組んでみたいテーマを自由に選び、同じ関心をもつゼミ生とグループを組んで研究するゼミ運営のことです。各グループでテーマが確定したら、各グループの代表（キャップ）と、テキストや資料を選び、研究計画を立てて、研究報告やレポート作成をおこないます。 昨年の専門ゼミテーマを参考のために示せば、「コマーシャルの経済的効果」、「情報社会」（アップル vs. グーグル）、「財税問題」（消費税・年金）でした。		
教材（テキスト）	1 回目のゼミにおいて、各テーマごとの文献リストを参考資料として提示する。文献リストには、比較的入手しやすい最近の新書や文庫を示しています。最終的には、担当教員のアドバイスを参考にして、各グループの判断でテキストを選ぶものとする。		
教材（参考文献）	各グループのテーマが決まれば、その段階で研究テーマごとに文献リストを提示する。		
教材（その他）	適宜情報を提供し、必要な資料については印刷し配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋グループ研究報告２回（６０％）＋個別報告１回（１０％）		
到達目標	ゼミ活動を通じて学生が自主的な学習スタイルを形成し、グループ研究において個人が果たすべき責任能力を身につけてもらうことを目標としている。		
準備学習	① 日頃から社会・経済問題に広く関心をもち、自分が研究したいと思うてえーまに関する資料を収集する。 ② ゼミの研究テーマについては、自宅でも自主的に学習する時間を十分に確保する。 ③ 研究グループ内でのミーティングをしっかり行い、各自が個人で果たすべき役割を着実に誠意をもって実行する。		

受講者への要望

各グループには、研究責任者としてキャップをおく。キャップがしっかりと内部調整をしなかったり、あるいは逆にグループメンバーがキャップに積極的に協力する姿勢で取り組まないと、研究報告書が未完成になったり、所定の期日に研究報告ができなかったりする。結果を達成できなかったグループについては、運営方法の改善を指導したり、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散を行う。

講義の順序とポイント

１．専門ゼミＢのガイダンス
２．研究グループと研究テーマ＆テキスト等の決定
３．教員による模擬研究報告
４．研究計画書の作成と提出
５．研究報告書の報告・説明
６．個別研究報告(1)
７．個別研究報告(2)
８．個別研究報告(3)
９．研究報告の批評(1)
１０．グループ中間報告
１１．個別研究報告
１２．個別研究報告
１３．研究報告の批評(2)
１４．グループ研究報告
１５．研究報告の総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J82020212
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	株式会社と合同会社に関する理解を深めていきます。さらに好業績を挙げている会社または不振に陥った会社の中から一社を選び、好調ないし不振の理由に関する小論文を作成してもらいます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	松嶋隆弘（2015）『会社法講義 30 講』中央経済社。		
教材（その他）			
評価方法	授業時の質疑応答（50%）、小論文（50%）		
到達目標	企業の盛衰について理解を深める。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

いろいろなことに取り組んで成長してほしい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　指名委員会等設置会社とは何か
3　指名委員会等設置会社の実例と成果
4　監査等委員会設置会社とは何か
5　監査等委員会設置会社の実例と成果
6　上記以外の株式会社
7　合同会社とは何か
8　企業研究
9　企業研究
10　企業研究
11　企業研究
12　企業研究
13　企業研究
14　企業研究
15　企業研究

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J82020213
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済データのなかで、マクロマネー系を扱う。特に、量的金融緩和期におけるマネーの動きと金融緩和の有効性を分析する。日本における量的金融緩和を分析する。マクロマネーシステムを学ぶ。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	平常点（80%）、レポート（20%）		
到達目標	マネー、GDP、金利の関係を明らかにする		
準備学習	経済学の基礎知識を確かなものにしておく. 予習：マクロ経済学、金融論 A、B を事前に履修（または同時に履修登録）して内容を理解しておくこと。 復習：秋学期の終了までに、参考文献を読み終えておくこと。		
受講者への要望			
休まずに出席すること			
講義の順序とポイント			
1.日銀の景況判断 DI 2.好況、不況時のマネー 3.precautionary demand の変動と推定 4.同上 5.同上 6.貨幣需要関数（transaction demand）の推定 7.同上 8.同上 8.マネーと GDP と金利の関係 9.同上 10.同上 11.デフレの特徴 12.同上 13.インフレの特徴 14.同上 15.まとめ(各種推定方法の応用のサーベイ)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J82020214
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	統計学の基本理論を理解する。その上で、Excel を用いた統計処理の基本を学ぶ。さらに、ビジネス・シーンを意識した Excel 統計の活用方法を身に着ける。最後に、各自が現代経済の課題を 1 つ取り上げ、その本質を各種統計データを処理することで描写し、レポートに仕上げる。		
教材（テキスト）	西内啓『エクセルでできる！簡単統計解析の基本』　日経 BP 社		
教材（参考文献）	西内啓『統計学は最強の学問である＜実践編＞』　ダイヤモンド社 高橋威知郎『トップデータサイエンティストが教える　データ活用実践教室』　日経 BP 社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内試験 70％　レポート 30％		
到達目標	(1) Excel の基本機能を使いこなせる (2) 統計学の基本理論を理解する (3) Excel を使った統計処理ができる (4) 現実的な諸課題に対して統計分析によるアプローチができる		
準備学習	(1) Excel 操作の基本を説明するガイドブックを読む (2) 統計分析が有効となるための諸条件を確認する		

受講者への要望

(1) 課題未提出 1 回をもって成績評価の対象から除外される
(2) 道具としての PC 活用術を高める日常の取組みを意識的に行う
(3) 社会人生活を見据えた数字・データの活用術を身に着け、それをもって何が言え何が言えないのかの境界を理解する
(4) 数学は必要なく、四則算のみで十分である。計算は PC が行い、人間は意味の理解と解釈の技術を身に着ける

講義の順序とポイント

1. 統計学は役に立つ(1)：傾向と関係、予想と説明
2. 統計学は役に立つ(2)：事例研究 1　ソフトバンクとトヨタ自動車
3. 統計学は役に立つ(3)：事例研究 2　経済財政白書と防衛白書
4. 記述統計の基礎(1)：度数分布表、クロス集計表
5. 記述統計の基礎(2)：平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差
6. 推測統計の基礎(1)：z 検定、t 検定
7. 推測統計の基礎(2)：回帰分析、重回帰分析
8. 推測統計の基礎(3)：ロジスティック回帰
9. 推測統計の基礎(4)：因子分析
10. 推測統計の基礎(5)：クラスター分析
11. 統計解析(1)：統計解析の正しい進め方－価値ある分析を行うための 3 つのポイント
12. 統計解析(2)：ビジネスに役立つ統計解析の実践 1－統計解析で売上高を計る
13. 統計解析(3)：ビジネスに役立つ統計解析の実践 2－統計解析で営業戦略を立てる
14. 統計解析(4)：ビジネスに役立つ統計解析の実践 3－統計解析で顧客行動を分析する
15. 報告：今後の研究課題のフレームワーク

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	J82020215
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	春学期に続き、日本学生経済ゼミナール大会（インター大会）への出場に向けて、ゼミを行う。具体的には、ゼミ学生を 2 チームに分割し、各チームで情報を収集しながら、論文作成をする。各チームは、金融および経済政策の中から論文テーマを選定し、ゼミ内で資料作成や報告を行う。論文テーマの例としては、「日本経済とアベノミックス」、「欧米の金融イノベーションの動向：FinTech をめぐる最近の動向」、「日米欧の非伝統的金融政策の効果の比較」、「多国籍企業の国際的租税回避問題」、「経済成長と所得格差」、「我が国における対内直接投資の現状と課題」等が考えられる。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	金融危機およびアベノミックスに関する書籍： ・岩田規久男（2009）『金融危機の経済学』 東洋経済. ・岩田規久男/浜田宏一/原田泰 編（2013）『リフレが日本経済を復活させる』 中央経済社. ・植田和男 編（2010）『世界金融・経済危機の全貌』 慶応義塾大学出版会. ・白川方明（2008）『現代の金融政策』 日本経済新聞社. ・服部茂幸（2014）『アベノミックスの終焉』 岩波新書. 経済格差に関する書籍： ・Piketty, Thomas, (2014), “Capital in the Twenty-First Century”, The Belknap Press of Harvard University Press （邦訳「21 世紀の資本」みすず書房）.		
教材（その他）	適宜、指定する。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。 ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	インター大会に参加し、他大学の学生と徹底した議論ができること。		
準備学習	インター大会における議論のための資料集め、およびゼミ生同士のディスカッション。		

受講者への要望

無断欠席、遅刻を厳禁する。
ゼミは学生主体であるため、積極的な姿勢でゼミに取り組むことが求められる。
インター大会への参加を単位要件としており、そのための論文作りに励んでもらいたい。

講義の順序とポイント

12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。
9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。
テーマは、金融および経済政策に関する諸問題から選ぶ。

1． グループ 1 論文発表①
2． グループ 1 論文発表②
3． グループ 1 論文発表③
4． グループ 2 論文発表①
5． グループ 2 論文発表②
6． グループ 2 論文発表③
7． ディベート①
8． ディベート②
9． インター参加の注意と説明
10． 反省会①
11． 反省会②
12． 論文まとめ①
13． 論文まとめ②
14． 論文まとめ③
15． 来年度にむけて諸注意

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J82020216
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A の延長活動です。 方針、内容は同じです。		
教材（テキスト）	専門ゼミ A に応じです。		
教材（参考文献）	専門ゼミ A に同じです。		
教材（その他）	専門ゼミ A に同じです。		
評価方法	専門ゼミ A と同じです。		
到達目標	自分の言葉で話せる人間になること。		
準備学習	専門ゼミ A に同じです。		

受講者への要望

研究会への参加については、要望は山のようにあります。授業に際してその都度、伝えます。

講義の順序とポイント

1．共同論文の作成
2．共同論文の作成
3．共同論文の作成
4．共同論文の作成
5．共同論文の作成
6．共同論文の作成
7．共同論文の作成
8．共同論文の作成
9．共同論文の作成
10．他大学との共同報告会の準備
11．他大学との共同報告会の準備
12．リクルート活動の方針決定と実施
13．リクルート活動の方針決定と実施
14．リクルート活動の方針決定と実施
15．リクルート活動の方針決定と実施

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	−	★

年度	2016	授業コード	J82020217
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	企業組織では、スポーツ組織と共有できるチームマネジメント論が存在する。現在、企業では高度成長期に日本で意識付けられた、ソーシャルキャピタルの精神が見直されて来ている。スポーツ組織でも、仲間同士での協調行動により、信頼関係を築き効率性向上を図るため、コーチングやリーダーシップなどのチームマネジメント力が必要となる。当ゼミナールでは、実在の企業による組織マネジメントを参考に、スポーツのチームマネジメントを通して、企業の理解を深め組織マネジメントの知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布します。		
評価方法	平常点（出席や受講態度）７０％、レポート３０％により評価する。		
到達目標	企業組織とスポーツ組織の共通するマネジメントを理解して整理し、身近な社会組織の中で実践する知識と行動力を身に付ける。		
準備学習	企業経営やスポーツ経営のニュース（テレビ・新聞・ネットなど）に関心を持ち、自分なりの考えを持つように心がける。		
受講者への要望			
授業には積極的に参加し、受講者全員で進めて行ける心構えを持つこと。			
講義の順序とポイント			
１．　オリエンテーション ２．　専門ゼミナールＡの復習 ３．　グループワークとプレゼンテーションの方法 ４．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究① ５．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究② ６．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究③ ７．　レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．　レポートの題材決め １０．レポート資料調査 １１．レポート作成 １２．レポート作成 １３．レポート発表 １４．レポート発表 １５．授業内容の振り返り（ディスカッション方式）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	★	ー	★	★	ー
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	J82020501
科目名	現代社会と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	「ローン・クレジットと保証」 大学生の約４割が利用している日本学生支援機構の奨学金が実はローンであること、また、携帯電話の端末代金の分割払いもクレジットであることはご存じでしょうか。ローンやクレジットは私たちの身近なところで、私たちの学生生活やくらしを豊かにしたり、利便性を提供するため、重要な役割を果たしています。 反面、奨学金の返還や端末代金の支払いを延滞すればどうなるでしょうか。最近、奨学金の返還が滞った利用者や親などに残額の一括返還を求める訴訟の激増が話題になっています。また、携帯端末代金の支払いの遅れた事実がクレジットの指定信用情報機関に登録(ブラックリスト入り」ともいわれています。)され、住宅や自動車のローンなどの審査が通りづらくてなってしまうことも聞かれます。 このゼミでは、このローンやクレジットについて、なぜ利用されるのか、その仕組みはどうなっているのかということから調べていきたいと思います。そして、ローンやクレジットの利便性を一定程度評価するなかで、そこから発生する病理現象とこれに対応する法制度の動向をみていき、法が社会の中で果たしている役割などを考えていきたいと思います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・平常点(40%) 発表の内容・方法、出席・発言の状況により評価する。 ・レポート(60%)		
到達目標	社会問題を社会の仕組みから理解する。 Ｗｅｂを活用してリサーチし、その結果をプレゼンテーションする技術を習得する。 口頭で説明し、それを聞いて質問し、さらに議論を進めていき、問題解決を図っていくという共同作業のノウハウを習得する。		
準備学習	事前テーマに関する周辺情報をＷｅｂ等で見ておくこと。 ゼミでは、最低限１回以上発言できるようにしておくこと。またこれを超えて、より積極的に参加することが望ましい。		

受講者への要望

積極的に参加し、発言すること。とりわけ、ゼミへの積極的な参加意欲を重視したい。

ただ黙って座っているだけというのはやめてほしい。かりに当日のテーマについての勉強が不十分であっても、報告者から必要な情報を聞き取り、発言するようにしてほしい。自分ではつまらないことと思っても、そうして発言することが自分自身のためになるし、また、他のゼミメンバーにも役に立つことがある。

講義の順序とポイント

1．はじめに－－何が問題になるのか
　全体の構成、進め方
2．ローン・クレジットの利便性－－なぜ利用されるのかを知る
　各種カードと支払方法の多様化、ローンカードとクレジットカード
3．ローン・クレジットの契約と信用－－どのようにすれば利用できるのか知る
　契約者の信用と担保・保証の役割、個人信用情報
4．ローンとクレジットの仕組み－－契約の内容を調べ、理解する
　契約の仕組み・金利計算・返済方法
5．わが国の上限金利規制
6．利息制限法とグレーゾーン金利
7．ローンとクレジットによる多重債務者の救済

民事再生・破産
8．貧困問題
9．割賦販売法による規制
支払能力調査義務と過剰与信の禁止
１０．抗弁の対抗と既払い金の返還
クーリングオフ、過剰販売解除権、個別クレジット契約の取消し
１１．保証被害の実情
商工ローン保証
奨学金の保証
賃貸借契約の保証
１２．保証に関する規制
民法の個人保証人保護
１３．個人保証人被害救済
１４．家賃債務保証業者による被害救済
１５．まとめ－－被害にあわないために

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	J82020502
科目名	現代社会と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	このゼミでは、経済学・経営学の隣接分野である法律学について、現代社会との関わりを考慮しつつ、さまざまな角度から総合的に学習する。受講生は、リーガルマインド修得のために、実践的な法を学ぶとともに、幅広い知見と総合的な判断力を養う。具体的には、労働法分野における基礎的な概念・制度の趣旨を把握し、以下の特定のテーマについて、判例によって事例を検討し、タイムリーな論点を取り上げて考察を行なう、そして、いわゆるブラック企業とホワイト企業の峻別をする。		
教材（テキスト）	水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第 2 版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税および最新版六法を必携のこと		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、2014 年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
評価方法	出席を前提にゼミ内での発言内容や報告など（50%）と期末レポート試験（50%）とで評価する予定である。		
到達目標	将来社会人として必要とされる労働法の基本的な知識の取得を目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		

受講者への要望

講義開始までに労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。

講義の順序とポイント

教科書の Unit にしたがって、以下の内容で進める予定であるが、ゼミ生と相談して内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　演習の進め方・その他諸注意・報告の仕方の説明
第 2 回　Unit 1　労働法上の「労働者」
第 3 回　Unit 2　労働法上の「使用者」　Unit 17　労働組合
第 4 回　Unit 19 労働協約
第 5 回　Unit 4　就業規則
第 6 回　Unit 5　労働契約
第 7 回　Unit 6　労働契約の成立　--―オワハラとはなにか
第 8 回　Unit 7　人　事
第 9 回　Unit 8　懲　戒
第 10 回　Unit 9　解　雇
第 11 回　Unit 11　労働者の人格権 ――言葉によるセクシュアル・ハラスメントの内容は
第 12 回　Unit 12　雇用差別――マタハラとされた事例を含めて
第 13 回　Unit 13　賃　金
第 14 回　Unit 14　労働時間　Unit 15　休暇・休業
第 15 回　Unit 18　団体交渉　Unit 20　団体行動

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J85000103
科目名	チャレンジショップ入門Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	J85000104
科目名	チャレンジショップ入門Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	J85000105
科目名	チャレンジショップ入門A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	J85000203
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	J85000204
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	J85000205
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	J85000301
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J85000302
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J85000401
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本経済において流通産業が担う役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。しかし商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く関連学問領域である流通論・マーケティング論をも踏まえて論じられているのが現状である。このため本稿では、商学を商業学・商人学として認識したうえで、商業において中心的役割を果たす小売機構・小売機関を中心として、一般的に論じられている商業に関する社会経済的視点および商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアーオペレーション等についての理解も進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識ス・キルの習得を目指す。		
準備学習	日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　商学の研究対象としての流通・商業 3　商学への接近①（流通・商業・マーケティング） 4　②（伝統的・近代的接近方法） 5　商業の発展(商業・商人学の観点から） 6　商業を担う卸売機構および小売機構 7　卸売機構の現状と課題 8　小売機構①現状と課題 9　②業態発展理論 10　業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店・中小商店など 11　商圏と商業集積の考察　①　商店街 12　②　ショッピングセンター 13　商業の実際　①　マーチャンダイジング 14　②　ストアーオペレーション 15　商学の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J85000402
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本経済において流通産業が担う役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。しかし商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く関連学問領域である流通論・マーケティング論をも踏まえて論じられているのが現状である。このため本稿では、商学を商業学・商人学として認識したうえで、商業において中心的役割を果たす小売機構・小売機関を中心として、一般的に論じられている商業に関する社会経済的視点および商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアーオペレーション等についての理解も進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識ス・キルの習得を目指す。		
準備学習	日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　商学の研究対象としての流通・商業 3　商学への接近①（流通・商業・マーケティング） 4　②（伝統的・近代的接近方法） 5　商業の発展(商業・商人学の観点から） 6　商業を担う卸売機構および小売機構 7　卸売機構の現状と課題 8　小売機構①現状と課題 9　②業態発展理論 10　業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店・中小商店など 11　商圏と商業集積の考察　①　商店街 12　②　ショッピングセンター 13　商業の実際　①　マーチャンダイジング 14　②　ストアーオペレーション 15　商学の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J85000501
科目名	事業構想概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	経営に必要な要件は大きく変化してきている。経済社会の変化を素早く察知できる感受性、新しいニーズを具体化する技術力、市場に的確にアピールできるマーケティング力、自由な発想と柔軟な行動をシステム化できるマネジメント力、そしてリスクに敢然と挑戦する企業家(起業家）精神が求められるようになった。 新たな事業構想が求められるが、事業構想の全体像を把握しようといった講義科目はみられなかった。そこで、事業構想の基本的な理念から具体的な実践活動のあり方まで講義では、幅広く取り上げていきたい。革新的な事業構想を策定しても、現実には実際の事業や経営活動に結び付かない場合も少なくない。それぞれの企業が置かれている環境は激しくかつ急速に変化し、、市場や提供する財・サービスもきわめて細分化・短命化しているからである。「いかに」ではなく「何を、何のために」事業構想を策定するのか、企業をめぐる環境変化の根底にある本質を見抜くことが必要なのである。激しくかつ急速に変化する経営環境のなかで、的確な事業構想をどのように考えて行けば良いのか、原理原則と基本を明らかにしていきたい。		
教材（テキスト）	梅木晃、井形浩治編著　『事業構想と経営』嵯峨野書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	随時プリントを配付する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	経営においてその質が問われる時代を迎え、あらゆる分野で事業構想の立案力が求められている。その根底には、イノベーション力とその源泉となる起業家精神の涵養があると考える。 この講座を通じて構想力、革新力、創造力についての基本と原則に関する知識を身に付けることを目標としたい。		
準備学習	事業構想には知識はもとより感性が必要とされることが多い。感性を磨くためには,単に大学における学習のみならず幅広い日常生活における体験が求められる。このため身の回りにおいて起こるすべてのことに対し、関心と問題意識を持って授業に望まれたい。 また教科書、配布資料などについては事前に熟読するとともに、適宜実施するレポート作成のため、復習にも心がけられたい。		
受講者への要望			
受講マナーを守り、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　経営をめぐる環境の変化 3　事業構想の概念・構想策定の視点 3　事業構想とアントレプレナー（起業家） 4　事業構想における現状認識 5　事業構想策定に関する要件 6　アントレプレナー（起業家）の資質と役割 7　事業構想（起業）プロセスの基本 8　事業機会の認識・経営資源の調達・ビジネスシステムの構築 9　構想策定と経営とのインターフェイス 10　事業構想策定のプロセス 11　構想と経営認識（創造力・効率性・リスクの回避・リーダーシップ） 12　戦略的コスト・リスク・市場への対応 13　具体的な事業構想の手順 と事業構想の評価 14　日本の公的創業支援制度 15　これからの事業構想へ向けて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J85000601
科目名	女性企業家講座	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師をお迎えして、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただきます。どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることを目指します。 ※女子学生だけでなく、男子学生にも有益な講座です。		
教材（テキスト）	未定		
教材（参考文献）	未定		
教材（その他）	メモ用紙を持参し、質問したいことなどをメモしてください。		
評価方法	各回の講義内容についての感想文（100%）。		
到達目標	経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につける。 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得する。		
準備学習	各講師の所属されている会社のホームページなどを読み、予備知識をもって受講してください。		

受講者への要望

企業等から講師をお招きするため、遅刻、私語、居眠りは厳禁、マナーを守れない学生は退出を求めることがあります。
質疑応答のときには、積極的に質問してください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 女性企業家を取り巻く環境
3. (4 /26) 藤川美帆氏 （株式会社 Orange Sunshine 代表取締役）
「強みビジネスコンサルタント」
4. (5/10) 西村和子氏 （アール社会保険労務士事務所）
「社会保険労務士の役割」
5. (5/17) 大奈氏 （Office Daina 代表）
「絶望と人と再生」
6. (5 /24) 三根 早苗氏 （有限会社パワーエンハンスメント 代表取締役）
「リケジョから女性起業家グループのリーダーへ ―自分の天職に出会うまで」
7. (5 /31) 武村幸奈 （株式会社はたけのみかた 代表取締役）
「大学在学中の『起業』にかけた想い ―安全な野菜作りに励む農家と、安心を
求める母親をつなぐ『新しい三方よし』の事業とはー」
8. まとめと予習
9. (6/14) 遠矢家永子氏 （NPO 法人ＳＥＡＮ 副理事長兼事務局長）
「誰のせいでもなく、誰のためでもなく～NPO で仕事をつくる～」
10. (6/21) 未定
11. まとめと予習
12. (7/5) 藤田大子氏（株式会社 藤大 代表取締役）
13. (7/12) 未定
14. (7/19) 未定（京都信用金庫）
15. 女性企業家講座を通して学んだことの展望

講師の都合などにより変更になる可能性があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	- -	- -	★	★★	- -

年度	2016	授業コード	J85000701
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 ポジショニング戦略と競争戦略 3 ポジショニング戦略と競争戦略 2 4 ポイントカード 5 価格戦略 6 価格戦略 2 7 経営と数字 8 事例研究：餃子の王将とサイゼリヤ 9 ビジネスモデル 10 顧客囲い込み 11 デファクトスタンダード 12 株式会社 13 M&A 14 日本型経営 15 日本型経営 2 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J85000702
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 ポジショニング戦略と競争戦略 3 ポジショニング戦略と競争戦略 2 4 ポイントカード 5 価格戦略 6 価格戦略 2 7 経営と数字 8 事例研究：餃子の王将とサイゼリヤ 9 ビジネスモデル 10 顧客囲い込み 11 デファクトスタンダード 12 株式会社 13 M&A 14 日本型経営 15 日本型経営 2 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J85000801
科目名	経営情報システム論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 経営情報概論では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。		
教材（テキスト）	遠山暁／村田潔『経営情報論 新版補訂（有斐閣アルマ)』有斐閣		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(サイズは主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	2/3 以上の受講を単位認定要件とし、単位認定要件を満たした上で、 授業内提出物及び小テスト(40%)、 レポート(30%)、 定期試験(30%) で評価する。		
到達目標	経営情報は・企業経営にとってどのような意味をもつのか、経営的視点および情報システムの観点から考察する。 特に戦略論・組織論・ビジネスプロセスと情報システムの関わりを学ぶ。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．　受講ガイダンス
2.　経営情報論の基礎
3.　経営情報論の基礎理論
4.　経営情報システムの変遷
5. 反転学習(理解度確認)
6.　情報通信技術の進展
7.　経営情報システムの設計・開発
8.　経営情報システムの管理
9.　情報通信技術とビジネス・プロセス革新
10. 反転学習(理解度確認)
11.　ネット・ビジネス
12.　情報通信技術と組織変革
13.　情報通信技術と組織コミュニケーション
14.　情報通信技術と社会
15.　まとめと今後の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	J85000901
科目名	民法総則	単位数	2
科目名（英語表記）	General Principles of Civil Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。また、民法は全体として密接に関連しているので、公務員試験や資格試験等で民法を学習する必要のある受講者は、物権法、契約・不法行為法などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。

講義の順序とポイント

１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力
３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度
４．　権利の主体（３）　法人
５．　法律行為　法律行為とは何か／強行法規違反・公序良俗違反
６．　不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示／錯誤
７．　不完全な意思表示（２）　詐欺／強迫
８．　無効と取消し
９．　代理（１）　代理権
１０．代理（２）　無権代理
１１．代理（３）　表見代理
１２．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効
１３．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止
１４．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間
１５．練習問題を通じた総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J85001001
科目名	契約・不法行為法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法第 3 編のうち、債権発生原因である契約および不法行為を中心に学習する。順序としては、契約一般に共通するルール（契約総則）をみた後に、各種の契約の中でもとくに重要なもの（売買・賃貸借など）を扱い、最後に不法行為法を概観する。講義にあたっては具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第 5 版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．契約および不法行為に関する主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．主要論点に関する判例・学説を理解する。 ３．具体的な事例に条文を当てはめ、解決することができる。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
民法は全体として密接に関連しているので、公務員試験や資格試験等で民法を学習する必要のある受講者は、民法総則、物権法などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
講義の順序とポイント			
１．　受講にあたっての注意／契約・不法行為法序説 ２．　契約の成立 ３．　契約の効力（１）同時履行の抗弁権 ４．　契約の効力（２）危険負担 ５．　契約の解除 ６．　契約総則の復習（練習問題） ７．　売買（１） ８．　売買（２）売主の担保責任 ９．　贈与 １０．賃貸借（１） １１．賃貸借（２） １２．不動産賃貸借～借地借家法 １３．その他の典型契約 １４．不法行為（１） １５．不法行為（２）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J86010101
科目名	経営組織論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは、なんらかの目的のために形成されるものであるが、個人はそのような組織を自ら形成したり、あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては、このような組織がさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって、個人がより良く生きていくためには、組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は、そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているものであるが、まず組織の特徴と組織における個人に関して基本的な点を理解し、その後、アメリカとドイツにおいて経営組織論がどのように生成し、展開されてきたのかということを検討する。そのことによって、現実の組織の諸問題を解明していきたいと考えている。また、本講義を通して、企業組織に参加する自分をイメージしてもらい、現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	バーナード著，山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社，1968 年。 その他，必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 経営組織論の歴史的な変遷を理解する。 2. アメリカの経営組織論とドイツの経営組織論との違いを理解する。		
準備学習	1. 次の講義内容（シラバスに掲載しているとおりであるが、講義終了時にも指示する。）について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。たとえば第 3 回目の講義がはじまるまでに、「科学的管理法」について図書館で文献をさがし、その内容が書かれている部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常においける組織の諸問題に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

1．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
2．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 経営学における組織論の展開
3. アメリカにおける組織論の流れ① - 科学的管理法 -
4. アメリカにおける組織論の流れ② - 管理過程学派 -
5. アメリカにおける組織論の流れ③ - 人間関係論 -
6. アメリカにおける組織論の流れ④ - バーナードの近代組織論① -
7. アメリカにおける組織論の流れ⑤ - バーナードの近代組織論② -
8. 前半のまとめと理解度の確認 （小テストを予定）
9. アメリカにおける組織論の流れ⑥ - バーナードの近代組織論③-
10. アメリカにおける組織論の流れ⑦ - その他の動向① -
11. アメリカにおける組織論の流れ⑧ - その他の動向② -
12. ドイツにおける組織論① - ニックリッシュの組織論 -
13. ドイツにおける組織論② - グーテンベルクの組織論 -
14. ドイツにおける組織論③ - その他の動向 -
15. 経営組織論の講義を通して学んだこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	J86010201
科目名	経営戦略論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 成長マトリックス 3 多角化戦略 4 多角化戦略 2 5 選択と集中 6 ブランド戦略 7 ブランド戦略 2 8 PPM 9 PPM2 10 事例研究：アシックス 11 組織と戦略 12 組織と戦略 2 13 事例研究：デジカメ 14 ソリューションビジネス 15 経営者とは 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J86010301
科目名	日本経営史	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	江戸時代より昭和戦後時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。 20 世紀に入って大企業社会の成長と日本型企業経営の発展について講義する。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎･岡部桂史･平野恭平『１からの経営史』中央経済社 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をしておくこと。これに関連した小レポート実施する。		
受講者への要望			
おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。			
講義の順序とポイント			
1.日本経営史の課題 2..豪商の企業者活動(上方商人・三井家) 3.近江商人の企業家活動 4.滋賀県企業家の多角的出資と役員兼任 5.会社制度の導入と発展 6.三井家の家政改革と財閥の形成過程 7.近代産業企業の誕生と専門経営者の成長 8.大企業時代の到来と企業間関係の変化 9.日本的労務関係の形成 10.市場・百貨店の発展と「商業革命」 11.重化学工業化の進展とコンツェルンの発展 12.戦前から戦後へ、「財界追放」と新経営者の登場 13.消費社会の到来と家電産業 14.自動車産業の発展と日本的生産システム 15.流通の革新と流通企業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J86010401
科目名	マーケティング論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	本講義は、マーケティングを理解するための基礎理論を、事例を紹介しながら解説する。より具体的には、①マーケティングの概念および②4P's を解説する。その主たる問いは、①なぜ世の中にマーケティングがあるのかであり、②マーケティングの仕事とは何なのかである。 マーケティングは商品を売るための万能の道具ではないけれども、複雑なビジネス社会を整理するには有用である。しかし、有用と感じるためには自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	初めての人も、マーケティングという科目について興味を持ち、一通りの知識を得ることができる 社会をマーケティング的な見方で見ることができ、企画する頭を持つことができる		
準備学習	● マーケティングについて解説された場所や商品を、積極的に体験する姿勢を持ってもらいます		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「マーケティングとは」：マーケティングの役割や機能
3.「マーケティングの仕事」：商品開発、宣伝広告、経営課題の解決
4.「マーケティング調査」：ターゲットを知る
5.「マーケティングの技術１」：セグメンテーション（細分化）
6.「マーケティングの技術２」：ラダリング
7.「マーケティングの技術３」：ポジショニング
8.「マーケティングの技術４」：ターゲティングと戦略構築
9.「４Ｐ理論１」：製品政策
10.「４Ｐ理論２」：価格政策
11.「４Ｐ理論３」：販売促進
12.「４Ｐ理論４」：流通対応
13.「トレンド研究」：ヒット商品からトレンドを読む
14.「アイデア開発」：ブレーンストーミング法
15.「企画書の書き方」：企画提案の作法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J86010501
科目名	経営学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Management Theories		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	学説の流れを学ぶことを通して、いかなる経営課題に対して先人はどのように取り組んだかを理解する。経営学は課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは異なってくる。よって、この講義においては、多角的視点の涵養と温故知新につながると捉えている。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。
＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。（テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等）
2.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。
3.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。（メイヨー、レスリスバーガー、等）
4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。
5.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。（バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等）　　中間課題 について。
6.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。
7.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等。（ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等）
8.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
9.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。（ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等）
11.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。
12.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。
13.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。　　期末課題について。
14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。（チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等）
15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2016	授業コード	J86010601
科目名	生産管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Production Management		
担当者名	下左近　多喜男	旧科目名称	
講義概要	生産活動は、材料等をインプットして、加工・組立を行い、製品をアウトプットする活動である。この過程には、企画・設計・生産・諸管理・改善などがある。本生産管理論は、これら一連の諸活動を効果的に行うことを目的としている。実際には、工程管理（モノの作り方）、品質管理（予定の品質を確保）、原価管理（正しい原価を見つける）を中心としている。それらについて、具体例を述べて理解しやすく講義する。		
教材（テキスト）	使用する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	演習問題を課題にする		
評価方法	平常点と出席点（10%）、レポート提出（30%）、定期試験（60%）で評価する。		
到達目標	１．実際の生産管理がイメージできるように具体例を用いて体得させる ２．生産管理のためのに主な手法を説明し、理解できるようにする ３．実際の生産活動に興味を持ち、それらの概要をある程度説明できるように指導する。		
準備学習	１．生産管理に関する予備知識を、ネット検索で調べて理解すること ２．生産方法や生産現場の動画を探して見ておくこと ３．インターネットを通じてバーチャル工場見学を行うこと		
受講者への要望			
学生らしく真面目に受講し、覚えるのではなくて正しく理解すること			
講義の順序とポイント			
１．生産管理の概要 ２．生産計画と工程管理 ３．品質管理 ４．設備管理の基礎 ５．安全管理 ６．資材・購買管理 ７．新製品企画開発、研究開発、製品設計 ８．原価管理とコストダウン ９．生産の合理化 １０．生産情報の活用と見える化 １１．人材開発 １２．環境配慮 １３．ロボットと生産管理 １４．バーチャル工場の生産管理 １５．生産管理と経営自動化システムの将来展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J86010701
科目名	人的資源管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	人的資源管理[HRM(Human Resources Management)]というコンセプトはアメリカで生まれた。人事管理[PM（Personnel Management）]と HRM の相違については未だ同意は築かれてはいないが、広範囲にわたる論点を含みつつ、もはや PM という用語を見ることはできないほど HRM という用語は浸透している。 　経営戦略と人材管理･開発の制度や実践との適合性が考察される場合もあれば、能力や知識とは何か,それらをどのように測定し,育むか,等の観点からの論文もある。はたまた、外部労働市場の動向に焦点を合わせる研究もある。これらをできるだけ分かり易く解説することを通して、また受講者のキャリア設計に役立つように進めていくことによって、人財という財宝に向けて講義していきたい。		
教材（テキスト）	青井 倫一,監修『通勤大学 MBA〈6〉ヒューマンリソース』総合法令出版,2002。 適時プリントを配布する。 ビデオ教材やパワーポイントまたは OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時,指示する。		
教材（その他）	適時,指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを『人』と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		
受講者への要望			
遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。			
講義の順序とポイント			
1)受講・学習・評価の仕方について。人生の大半を何らかの仕事に費やす…HRM を学ぶ重要性について。Taylor の科学的管理法から人事管理論への展開について。人事管理論から HRM になるに至った理由…ドラッカーと人間関係論を用いて…。 2)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]①：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。 3)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]②：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。 4)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]③：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。中間課題の告知・説明。 5)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]④：国民年金、厚生年金、厚生年金基金、健康保険料、介護保険料、厚生年金保険料、児童手当拠出金、労災保険料、雇用保険料,等について。中間課題の告知・説明。 6)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]⑤：国民年金、厚生年金、厚生年金基金、健康保険料、介護保険料、厚生年金保険料、児童手当拠出金、労災保険料、雇用保険料,等について。中間課題の告知・説明。 7)若年労働市場の現状と課題①:文系と理系、大企業志向、ブラック企業、就職率,離職率,失業率、フリーター,ニート、等について。 8)若年労働市場の現状と課題②:文系と理系、大企業志向、ブラック企業、就職率,離職率,失業率、フリーター,ニート、等について。 9)上記における課題解決に向けて①…モチベーション理論、欲求階層説、X-Y 理論、動機付け―衛生理論、連結ピン、システム 4、等（研究者：マズロー、アージリス、マグレガー、ハーズバーグ、リッカート、等)を中心にして。 10)上記における課題解決に向けて②…組織開発論、マネジリアル･グリッド、ソシオ＝テクニカル・システム論、タビストック研究所、チームコンセプト、等（研究者：ブレーク、ムートン、トリスト、ライス、エメリー、等）を中心にして。 11)上記における課題解決に向けて③…期待理論(研究者：ブルーム、ポーター＆ローラーⅢ）を中心にして。 12)上記における課題解決に向けて④…人は資源か、費用か？経営戦略と HRM の関係①：戦略の定義に関する議論（研究者：アンゾフ、チャンドラー、ミンツバーグ)、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（研究機関：BCG)、等を中心にして。期末課		

題の告知・説明。
13)上記における課題解決に向けて⑤…経営戦略と HRM の関係②：ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論,等（研究者：ポーター、ハメル＆プラハラード,等）を中心にして。 期末課題の告知・説明。
14)上記における課題解決に向けて⑥…経営戦略と HRM の関係③：知識創造の理論、暗黙知と形式知、HR アーキテクチャー、コンピテンシー、ナレッジマネジメント,等（研究者：野中、竹内、Lepak & Snell 、Quinn,等）を中心にして。 期末課題の告知・説明。
15)資格と HRM, 情報戦争と就職活動, これからの HRM について。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★

年度	2016	授業コード	J86010801
科目名	広告広報論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	日常生活でふれるさまざまな広告・広報について、消費者としてだけでなく、企業や行政など発信主体の立場から、マーケティングやコミュニケーション戦略の一環としてとらえられるようにする。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

CM や広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、ビジネスの主体の立場を想定しつつ自ら構想する努力が求められよう。

講義の順序とポイント

第 1 回　開講にあたって
第 2 回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体
第 3 回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ）
第 4 回　宣伝（プロパガンダ）と広告
第 5 回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート
第 6 回　宣伝・広報の媒体（１）：人にふれるもの、すべてがメディアになる
第 7 回　宣伝・広報の媒体（２）：放送メディア／印刷メディア
第 8 回　宣伝・広報の媒体（３）：インターネットほか
第 9 回　ブランド商品の誕生と広告
第 10 回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？
第 11 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラ CM 等
第 12 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類 CM 等
第 13 回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードル CM 等
第 14 回　広告広報の課題／授業内レポート
第 15 回　今後の展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2016	授業コード	J86010901
科目名	国際経営論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Management		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	グローバリゼーション（地球規模化）という言葉が使われだして久しい。企業の活動や観光、はたまた犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。 なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、明治以降の変化はあるし、現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。 そこで「国際経営論」ではまず、経済や企業行動を中心におきながら欧米とアジア（特に中国文化圏）との比較をしてみたい。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。 非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。		
教材（テキスト）	長谷川正著『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012 年）		
教材（参考文献）	上記教科書を補う教材としては、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上に資料をアップロード　しておきます。 ・「長谷川正の研究室へようこそ」というトップページの中の「講義用資料」→「国際経営論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通しておいて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第１回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて穴埋めしてください。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（その他）	そのつど、指示します。		
評価方法	ときどき行う小テスト　　20% 期末試験　　80%		
到達目標	世界の、および各国の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成		
準備学習	教科書の該当箇所を読んでおくことと、上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
・私語は禁止する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。 ・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。			
講義の順序とポイント			
０１．はじめに、講義のテーマと方法論 ０２．資本主義の精神 ０３．プロテスタンティズムの倫理 ０４．欧米の経済発展　①科学技術の発展 ０５．欧米の経済発展　②大衆消費社会の到来 ０６．現代中国の企業経営 ０７．秦の始皇帝　①中央集権体制の成立 ０８．秦の始皇帝　②清朝の崩壊と漢の時代 ０９．マックス・ヴェーバーの中国論 １０．儒教と道教 １１．画像で見る台湾略史 １２．台湾の経済と企業経営 １３．朝鮮半島の略史			

１４．韓国の経済と企業経営
１５．東南アジアの社会と経済

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2016	授業コード	J86011101
科目名	商法	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	本講義では、商法分野のうち、「商法総則・商行為法」を中心に講義し、商法上の制度や商取引の仕組みについて基本的な知識を修得する。商法総則とほぼ同内容を会社について規定する「会社法総則」についても適宜触れる。民法上の契約は、商人でない者同士の取引を想定するのに対し、本講義の取り扱う商法総則・商行為は、商人間の取引および商人と消費者の取引が想定される。これらをモデル・ケースを提示しつつ講義し、法的なものの見方を養成する。		
教材（テキスト）	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法＜第 2 版補訂版＞』（有斐閣、2014 年） 2,160 円		
教材（参考文献）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年） 2,592 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期期末試験（60%）。		
到達目標	1.社会において商法がどのように役立っているか、法的に理解できる。 2.商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
民法総則・契約法を履修済であるか、並行して履修すること。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．商法の法源、商人の意義 3．商人資格の得喪 4．営業 5．商号規制 6．商業帳簿、資産の評価 7．商業使用人、代理商 8．商業登記 9．商行為概念とその効果 10.商行為の代理・商事契約の成立 11.商事担保 12.企業取引の補助者 13.商事売買 14.問屋営業・運送営業 15.場屋営業・倉庫営業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J86011201
科目名	物権法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Real Estates		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法典の第 2 編物権を扱う。内容としては物権変動、占有権、所有権、用益物権、担保物権（抵当権、譲渡担保）を扱うことになる。		
教材（テキスト）	石田剛ほか『LEGAL QUEST 民法 2 物権』（有斐閣）		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	講義中に用いるプレゼン資料を事前に京学なびを通じて提供するし、それを講義までに各自でプリントしてもらうことになる予定。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 動産及び不動産に対する権利に関する知識を習得する。 後半は土地に対する権利について言及する。どうして土地だけが問題となっているのかを理解する。		
準備学習	・講義用レジュメを事前に（5 日前をめどに）京学なびにアップロードするので、事前にプリントアウトし、不明な法律用語を調べておくこと（調べられているかは講義中に確認する）。 ・講義で説明した箇所について、もう一度教科書その他の基本書を読んで、知識として身につけること。		

受講者への要望

・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。
・六法は必ず持参すること。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス； 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
2. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
3. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
4. 共同所有 ― 意義・発生・内容・消滅・準共有・建物の区分所有
5. 占有 1 ― 占有の保護・占有と本権
6. 占有 2 ― 不適法占有者と所有者間の法律関係
7. 物権変動 1 ― 物権変動とは・不動産物権変動・対抗問題
8. 物権変動 2 ― 登記を要する物権変動 1
9. 物権変動 3 ― 登記を要する物権変動 2
10. 物権変動 4 ― 177 条の第三者
11. 物権変動 5 ― 動産物権変動の対抗要件・即時取得
12. 担保物権 1 ― 債権者平等の原則・担保物権の種類と性質・抵当権 1（設定・効力の及ぶ範囲）
13. 担保物権 2 ― 抵当権 2（物上代位、法定地上権）
14. 担保物権 3 ― 抵当権 3（抵当不動産の第三取得者と賃借人）
15. 担保物権 4 ― 根抵当権・譲渡担保

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J86011301
科目名	会社法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法 A」では、企業・会社の諸形態、株式会社の設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制や、計算に関する規定などの範囲を扱う。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205 会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 会社の法的性質 3. 会社の種類 4. 会社法の総則規定 5. 株主の有限責任と資本制度 6. 株式会社の設立 7. 株式の意義、株主の権利 8. 株式の内容と種類 9. 株主名簿、株式の譲渡 10. 株式の消却・併合・分割等 11. 株式会社の資金調達 12. 募集株式の発行 13. 新株予約権 14. 社債 15. 計算			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J86011401
科目名	会社法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law B		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法 B」では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）と会社の組織再編について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.205 会社法判例百選　第 2 版』（有斐閣、2011 年） 2,345 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。六法必携。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。期末定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．株式会社の機関設計 ３．株主総会の権限・招集 ４．株主総会の議事・決議 ５．取締役 ６．取締役の義務 ７．取締役会 ８．代表取締役 ９．監査役・監査役会 １０．会計監査人 １１．指名委員会等設置会社 １２．役員等の責任 １３．責任追及訴訟（株主代表訴訟） １４．合併 １５．会社分割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	J86011501
科目名	債権法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法典の第 3 編「債権」中、第 1 章「総則」の内容を取り上げる。		
教材（テキスト）	野村 豊弘ほか『民法（3）債権総論』（有斐閣）　《有斐閣 S シリーズ》		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）	講義中にプロジェクターで表示するものを「京学なび」にて配付します。事前にプリントして持参して下さい。		
評価方法	期末試験の評価に従う。		
到達目標	契約法の基本を押さえる。		
準備学習	・事前に配付資料を一読すること ・講義の前後に教科書の該当部分に目を通すこと。 ・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 以上のことが行われているかは、講義の要所要所に確認する。		

受講者への要望

・内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められ、自らも理解しようと必死で努めることが必要である。
・成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第 3 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第 4 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解）、損害賠償、受領遅滞
第 5 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権）
第 6 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）
第 7 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済）
第 8 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺）
第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）
第 11 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2 ）
第 12 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務）
第 13 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証）
第 14 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 15 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2 、債務引受）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	J86011601
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教材（参考文献）	日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社） 中田邦博、鹿野菜穂子『基本講義消費者法』（日本評論社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法 1
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界 1
5. 消費者契約と民事法 2
   民法の契約ルールとその限界 2
6. 消費者契約と民事法 3
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法 4
   消費者契約法の内容 1
8. 消費者契約と民事法 5
   消費者契約法の内容 2
9. 消費者契約と民事法 6
   事業者の責任
10. 特定商取引法 1
    特定商取引法とは何か
    訪問販売 1
11. 特定商取引法 2
    訪問販売 2 ―クーリング・オフ
12. 特定商取引法 3
    マルチ商法―マルチ商法はなぜ問題か。どのような措置が取られているか。
13. 特定商取引法 4
    通信販売―クーリング・オフに代わる返品権、広告規制
14. 割賦販売法 1
    個別信用購入あっせんとクーリングオフ

15. 割賦販売法２

個別信用購入あっせんと抗弁の対抗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J86011701
科目名	簿記原理	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動の記録は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書(財務諸表）が作成される。現在の会計事務はほとんどコンピュータ処理されているが、取引情報をインプットする場合には、人間の手と頭によらざるを得ない。その際には、「複式簿記」の技法と理論に関する理解が求められることになる。 （2）このような観点から、本講義では、「簿記の基本的原理の習得」をテーマとする。具体的には、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の内容の「前半部分」に関する基礎的知識と記帳技法の効率的な習得を図ることに目的が置かれ、前段階科目としての 「入門簿記」をベースとし、本講義の次のステップとなる科目「商業簿記」に至る効果的な「橋渡しの役割を担うことになる。 （3）したがって、本講義と「商業簿記」とを継続履修することにより、簿記検定試験の３級内容をマスターしてもらえるように展開する。 （4）ところで、こうした簿記学習には継続的な積み重ねの努力が不可欠であり、そのためには、ワークブック等を活用した問題演習が効果的である。そこで、本講義では、下記のテキストを活用して解り易く説明し、そのうえで、可能な限り問題演習を行うことにしたい。 （5）本講義を履修し、そのうえで、次段階の「商業簿記」を履修することにより、、簿記の基礎知識を確かなものとしたうえで、年間３回実施される日商簿記検定試験の３級にも是非挑戦して、成功体験を実感して欲しいところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）加古宜士・穐山幹夫　監修　『段階式 日商簿記 ３級商業簿記』　（税務経理協会） （2）加古宜士・穐山幹夫　監修　『段階式 日商簿記ワークブック ３級商業簿記』　（税務経理協会）		
教材（参考文献）	必要に応じて、講義中に指示する。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	（1）定期試験（筆記試験）の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：80%）の成績に平常成績（提出物・小テスト等を含む：20%）を加味して評価する。		
到達目標	（1）商業簿記に関する基本的な期中取引の内容を理解し、それに基づく仕訳および転記ができる。 （2）現金預金取引や商品売買取引、その他の債権・債務に関する仕訳処理ができる。 （3）「簿記一巡の取引き」を理解し、期中取引のまとめとしての試算表の意義・内容を理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、関係するテキスト個所の予習を事前に行っておくことを要望する。 （2）このような準備学習によって、問題意識が目覚め、学習意識が高揚することが、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		

受講者への要望

（1）本講義では、上記テキストを活用して、複式簿記の基礎についての理論面および実践面双方の実力が身に付くように努めたい。それゆえ、毎回、必ず上記２冊のテキストを持参して、積極的に講義に臨むことを期待する。
（2）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

1．①講義のガイダンス、②貸借対照表と損益計算書
2．簿記上の取引と勘定記入
3．仕訳と転記
4．仕訳帳と総勘定元帳
5．試算表と精算表
6．問題演習―仕訳・転記・試算表の作成―
7．決算手続きと財務諸表の作成

８．現金・預金取引の処理
９．現金過不足・小口現金の処理
１０．商品売買取引の処理（１）
１１．商品売買取引の処理（２）
１２．仕入帳・売上帳と商品有高帳
１３．売掛金と買掛金
１４．その他の債権・債務
１５．総合演習―仕訳、転記、試算表と精算表の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J86011801
科目名	商業簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Bookkeeping for a Commercial Firm		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本講義では、前段階の「簿記原理」における複式簿記の基本原則と記帳技法をベースとして確認した上で、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の内容を完成することを目的とする。 （2）特に、手形の会計処理と決算整理に関連する事項の会計処理などの諸問題を中心に説明し、既履修科目である「簿記原理」での学習事項の再確認と補充をすることによって、簿記検定３級内容の完成を目指すこととする。 （3）前段階の「簿記原理」の内容と本講義の内容に関する十分な理解により、、簿記の基礎知識を確かなものとしたうえで、年間３回実施されている日商簿記検定試験の３級にも是非挑戦して、成功体験を実感して欲しいところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）加古宜士・穐山幹夫　監修　『段階式 日商簿記　３級商業簿記』　（税務経理協会） （2）加古宜士・穐山幹夫　監修　『段階式 日商簿記ワークブック　３級商業簿記』　（税務経理協会）		
教材（参考文献）	必要に応じて、講義中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	（1）定期試験（筆記試験）の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：80%）の成績に平常成績（提出物・小テスト等を含む：20%）を加味して評価する。		
到達目標	（1）商業簿記に関する基本的な期中取引の内容を理解し、それに基づく会計処理ができる。 （2）手形取引の処理や決算処理、そして財務諸表の作成ができ、伝票会計の基礎を理解している。 （3）日商簿記検定試験３級の基本的内容に関して理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、関係するテキスト個所の予習を事前に行っておくことを要望する。 （2）このような準備学習によって、問題意識が目覚め、学習意識が高揚することが、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		

受講者への要望

（1）本講義では、上記テキストを活用して、複式簿記の基礎についての理論面および実践面双方の実力が身に付くように努めたい。それゆえ、毎回、必ず上記２冊のテキストを持参して、積極的に講義に臨むことを期待する。
（2）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

１．①講義のガイダンス、②簿記一巡の手続きに関する再確認
２．売買目的有価証券の処理
３．手形取引の処理（１）
４．手形取引の処理（２）
５．貸倒れの処理と貸倒引当金の設定
６．固定資産と減価償却の処理
７．決算整理（１）　：　費用・収益の繰延べ
８．決算整理（２）　：　費用・収益の見越し
９．資本金・引出金・税金の処理
１０．試算表の作成
１１．８桁精算表の作成（１）
１２．８桁精算表の作成（２）
１３．元帳の締切り
１４．財務諸表の作成

１５．伝票会計

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J86011901
科目名	商業簿記ワークショップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）（複式）簿記において使用される用語は、ビジネス社会における「共通言語」である。したがって、その習得は将来のビジネス人としての基礎知識獲得の意味で非常に有用であるといえる。こうした観点から、本講義においては、①「入門簿記」②「簿記原理」③「商業簿記」と段階的に科目履修し、習得してきた日商簿記検定３級程度の「商業簿記知識」をベースに、さらに上級の商業簿記に関する基礎知識の習得を目標として、演習形式を活用して効率的に学習することにしたい。 （2）具体的には、日商簿記検定２級程度の商業簿記に関する学習内容を演習形式で展開する、文字通りの「商業簿記学習のワークショップ」である。なお、これまでの検定２級内容の特徴をなす項目、たとえば、各種手形取引・特殊商品売買取引・社債取引・本支店会計・帳簿組織などに関して、従来までとは異なった検定対応が必要になってきており、その点も確認しながら、効果的な講義展開を行うようにしたい。 （3）本講義での商業簿記演習を通じて、検定２級の商業簿記に関する基礎知識を確かなものとし、また、同時並行で開講される「工業簿記ワークショップ」をも履修し、双方を合わせた知識習得をもって、年間３回実施されている日商簿記検定試験の２級にも是非挑戦し、貴重な成功体験を実感して頂くよう希望するところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を着実に身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）千葉啓司・蛭川幹夫・増子敦仁・山浦裕幸　著　『新版日商簿記　２級商業簿記テキスト』　実教出版 （2）千葉啓司・蛭川幹夫・増子敦仁・山浦裕幸　著　『新版日商簿記　２級商業簿記問題集』　実教出版		
教材（参考文献）	講義時に指示する。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	（1）定期試験の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：50%）の成績と平常成績（提出物・小テスト等を含む：50%）との総合評価で判定する。		
到達目標	（1）日商簿記検定２級の商業簿記に関する基本的な内容を理解し、それに基づく会計処理ができる。 （2）貸借対照表や損益計算書などの財務諸表の作成ができ、伝票会計の基礎も理解している。 （3）日商簿記検定試験２級の基本的内容に関する習得を通じて、株式会社簿記の基礎を理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、指示されたテキスト等を活用した予習を必ず事前に行っておくよう要望する。 （2）このような準備学習によって、簿記知識が深化され、さらなる学習意識が高揚し、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		

受講者への要望

（1）本講義では、簿記検定３級程度の知識を前提とした講義展開となり、当該レベルの知識が無ければ理解は困難と思われるため、受講（履修）にあたっては「簿記原理」「商業簿記」双方を履修済みか、もしくは日商簿記検定試験３級を取得済みであること、を求めたい。この点は特に注意してください。
（2）上記２冊のテキストと電卓を、毎回忘れずに持参すること。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては常に能動的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

重要項目の一つである本支店会計を検定試験までに取り上げるため、原則的に次のような計画で講義を展開する。
1．　本講義のガイダンス（講義概要、講義計画、成績評価方法等の説明）
2．　現金・預金取引の会計処理
3．　有価証券取引の会計処理
4．　手形取引の会計処理 ※

５．　一般商品売買の会計処理
６．　特殊商品売買の会計処理 ※
７．　①固定資産取引の会計処理　②既習内容に関する Quiz
８．　本支店会計 ※
９．　引当金の会計処理
10.　株式会社の会計処理
11.　社債取引の会計処理 ※
12.　伝票会計
13.　帳簿組織の展開 ※
14.　決算と財務諸表（１）
15.　決算と財務諸表（２）

※上記４．６．８．11．13 回目の講義内容に関しては、今後の日商簿記検定試験２級では大きな変更が予定されていることもあり、そのことを踏まえた講義展開を行うこととしたい。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J86012001
科目名	工業簿記ワークショップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）（複式）簿記において使用される用語は、ビジネス社会における「共通言語」である。したがって、その習得は将来のビジネス人としての基礎知識獲得の意味で非常に有用であるといえる。こうした観点から、本講義においては、①「入門簿記」②「簿記原理」③「商業簿記」と段階的に科目履修し、習得してきた日商簿記検定３級程度の「商業簿記知識」をベースに、上級簿記（２級程度）に挑戦することを目標として、その一部分をなす「工業簿記」について演習形式を活用して効率的に学習することにしたい。工業簿記は製造業に適用される簿記であり、材料等の購入から製造工程を含み、製品等の販売に至るまでの取引を対象とする。 （２）具体的には、日商簿記検定２級に対応する工業簿記の内容を演習形式で展開する、「工業簿記学習のワークショップ」である。ただ、こうした２級程度の工業簿記内容に関する講義が不足している現状から、今回は、工業簿記の基礎から標準原価計算に至る基本問題を内容とする「課題演習」重視のワークショップ形式で展開する。 （３）本講義での工業簿記演習を通じて、検定２級の一部である工業簿記に関する基礎知識を確かなものとし、同時並行で開講される「商業簿記ワークショップ」をも履修することによって、年間３回実施されている日商簿記検定試験の２級にも是非挑戦し、貴重な成功体験を実感して欲しいところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を着実に身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）千葉啓司・蛭川幹夫・増子敦仁・山浦裕幸　著　『新版日商簿記　２級工業簿記テキスト』　実教出版 （2）千葉啓司・蛭川幹夫・増子敦仁・山浦裕幸　著　『新版日商簿記　２級工業簿記問題集』　実教出版		
教材（参考文献）	講義時に指示する。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	（1）定期試験の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：50%）の成績と平常成績（提出物・小テスト等を含む：50%）との総合評価で判定する。		
到達目標	（1）日商簿記検定２級の工業簿記に関する基本的な内容を理解し、それに基づく会計処理ができる。 （2）製造業における「工業簿記と原価計算の関係」および「原価計算制度の基礎」を理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、指示されたテキスト等を活用した予習を必ず事前に行っておくよう要望する。 （2）このような準備学習によって、簿記知識が深化され、さらなる学習意識が高揚し、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		

受講者への要望

（1）工業簿記も商業簿記と同じく「簿記」であり、その学習には簿記検定３級程度の知識が前提として求められる。したがって、当該レベルの知識が無ければ理解は困難と思われるため、受講（履修）にあたっては「簿記原理」「商業簿記」双方を履修済みか、もしくは日商簿記検定試験３級を取得済みであることを強く求めたい。この点、充分に注意してください。
（2）本講義と「商業簿記ワークショップ」の内容を総合して「日商簿記検定２級」程度の内容となることを意識し、双方のワークショップを履修することで「簿記２級」の実力をつけ、是非、検定試験へも挑戦してください。
（3）工業簿記学習の深化のため、「原価計算論」の並行履修が望ましい。なお、受講時には、上記２冊のテキストと電卓を毎回忘れずに持参すること。
（4）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるよう、講義に対しては常に能動的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

1．　本講義のガイダンス（講義概要、講義計画、成績評価方法等の説明）

2．　工業簿記と原価計算
3．　工業簿記のしくみ
4．　材料費の計算と記帳
5．　労務費の計算と記帳
6．　経費の計算と記帳
7．　個別原価計算（1）
8．　個別原価計算（2）
9．　総合原価計算（1）
10．　総合原価計算（2）
11．　総合原価計算（3）
12．　製造業の財務諸表
13．　標準原価計算
14．　直接原価計算と CVP 分析
15．　工場会計の独立

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J86012101
科目名	財務諸表論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業などの経営活動の成果を表す「決算書」(財務諸表)の作成とその読み方については、春学期の「会計 学入門」でその基礎を学んできた。こうした財務諸表の公表を通じて、企業の外部利害関係者の意思決定 に有用な会計情報を提供する会計分野は、いわゆる「財務会計」と呼ばれる分野である。財務会計の主た る内容は、財務諸表の作成及び表示に関する諸原則の展開である。 （2）このような観点から、本講義では「会計学入門」で習得した基礎知識を踏まえて、さらに「財務諸表を読むた めのエッセンス」として、財務会計の基本的な仕組みを企業経営と結び付けて詳解することにしたい。 （3）そこでは、主要財務諸表としての貸借対照表と損益計算書、さらには、キャッシュ・フロー計算書や株主資 本等変動計算書との関連性をも視野に入れながら、全体像を概観する。 （4）春学期の「会計学入門」と本科目により修得できる財務会計の基礎知識は、経営学科における原価計算論・管理会計論・税務会計論など、各種会計分野の専門科目を履修する道しるべとしても有用なものとなろう。		
教材（テキスト）	井出健二郎・高久隆太・成岡浩一・山内 暁 編　『入門会計学―財務諸表を読むためのエッセンス―』実教出版		
教材（参考文献）	（1）明神信夫・笹倉淳史・水野一郎編著　『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』同文舘出版 （2）大阪商工会議所編　『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』　中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが説明できる。 （2）財務諸表の意義・特徴を説明できる。 （3）財務会計の必要性と内容を説明できる。 （4）会計情報の読み方が説明できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）春学期の「会計学入門」で使用したような基本的テキストを十分に読みこなしたうえで、本講義を受講されるよう希望する。
（2）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定である。

1．講義展開のガイダンスと財務会計の意義
2．企業経営と会計制度
3．企業会計と複式簿記システム
4．会計の情報利用者とグローバル化
5．会計情報のディスクロージャーと入手方法
6．財務諸表の体系
7．貸借対照表の意義・様式・構成
8．資産の意義・区分・内容と評価
9．負債及び純資産の意義・区分・内容と評価
10．損益計算書の意義・様式・区分
11．各区分の利益計算構造

12. キャッシュ・フロー計算書の意義・様式と内容
13. 株主資本等変動計算書の意義・様式と内容
14. 主要財務諸表の関連性
15. ケーススタディ「会計情報を読む」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	J86012201
科目名	管理会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting		
担当者名	佐々木　多恵	旧科目名称	
講義概要	管理会計は組織内部のための会計である。予算管理や業績評価などの管理会計技法を効果的・効率的に使えることは，組織の成功に結びつく。そのため，管理会計の知識は組織活動を行う上で不可欠である。また，管理会計は会計学でありながら，経営学など他の学問とも深く関連する学問である。本講義では，基本的な管理会計の知識を学び，簡単な計算ができるようになることを目指す。		
教材（テキスト）	谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計(第 3 版)』中央経済社		
教材（参考文献）	適宜指示します。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です。		
評価方法	定期試験(70%)，レポート(30%)		
到達目標	管理会計の意義・概念を理解している。 意思決定のためのアプローチを理解している。 業績管理のためのアプローチを理解している。 実務における管理会計の活用について理解している。		
準備学習	講義後にしっかり復習を行ってください。		

受講者への要望

積極的に講義に出席してください。
同学期開講の原価計算論と併せて履修すると理解が深まります。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション
2. 管理会計の基礎概念
3. 意思決定アプローチ
4. 業績管理アプローチ
5. 原価管理
6. 長期経営計画
7. 設備投資計画?
8. 設備投資計画?
9. 利益計画
10. 予算管理
11. 事業部業績管理
12. ABC／ABM
13. バランスト・スコアカード
14. 原価企画
15. アメーバ経営

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J86012301
科目名	財務管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Management		
担当者名	中園　宏幸	旧科目名称	
講義概要	本講義では、①個人投資家が投資にかかわる意思決定をどのように行うのか、②企業は資金調達をどのように行うのか、③企業は資金をどのように活用するのかにかかわる諸問題を取り扱う。本講義では、財務管理にかかわる基礎的な考え方や理論を理解してもらうために、多様なケース教材を用いる。なお本講義は、アクティブ・ラーニング型の講義であり、グループ討論や口頭報告が求められる。		
教材（テキスト）	なし。独自の資料を用います。		
教材（参考文献）	砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子（2013）『経営戦略とコーポレート・ファイナンス』日本経済新聞出版社。		
教材（その他）			
評価方法	講義内小レポートや議論に基づくによる平常点（70%）。テスト（15%）。レポート（15%）。		
到達目標	財務管理論にかかわる基礎的な考え方と理論を理解すること。企業経営に財務管理がどのような意味を持つのか理解すること。経営戦略を財務管理の視点から評価できるようになること。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を指定するので、資料や参考文献を活用して予習すること。また、講義で解説した内容を踏まえたうえで、適当な事例を探しておくこと。		

受講者への要望

飲料の持ち込みは許可するが、食事は厳禁とする。遅刻や私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退室を求める可能性がある。数学の基礎的な知識、及びミクロ経済学の基礎的な知識があることが望ましい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション: 多様な視点がある財務管理
2. 財務管理のための基礎固め: 高校数学の復習とミクロ経済の基礎
3. 企業の経営成績評価: 評価する立場になってみる
4. 金融市場における投資家の意思決定: お金儲けは大変
5. 行動ファイナンスの基礎: しっかり考えているつもりでも…
6. 投資家のポートフォリオ: わからないものはわからない
7. 企業の資金調達と負債の意義: 借金生活もわるくない？！
8. 資本コストと資本構成: 企業の立場から投資家をみる
9. コーポレート・ガバナンス: 企業はだれのもの？
10. 内部事業投資プロジェクトの評価: みんな大好き NPV
11. 内部事業投資プロジェクトの選択: まだまだ続く NPV
12. 外部投資プロジェクトの評価: 最新のコーポレート・ベンチャー・キャピタル
13. 企業の買収と合併: 企業の評価と資金の調達と資金の運用と
14. 財務管理的視点に基づく経営戦略論
15. 総括: 企業経営と財務管理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★	−

年度	2016	授業コード	J86012401
科目名	経営分析論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statement Analysis		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	みなさんにとって良い会社とはどのような会社を意味するのでしょうか。技術力があってユニークな製品やサービスを提供している会社、それは消費者の視点からみると確かに良い会社です。給料が高くて休みがたくさんあって福利厚生が充実している会社、就職先としては理想的かもしれません。これらは極端な例ですが、つまるところ、会社に対する視点が変わればよい会社の判断基準も変わってくるのです。 企業を評価する手法として知られる経営分析は、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に代表される会計情報をもとに、収益性、安全性、成長性といった観点から企業の業績や状態を見極める有力な方法です。そのような分析を進めるためにはまず、財務諸表の構造と基本的な性質を理解しておく必要があります。さらには経営学全般にわたる知識も必要になります。 本講義では、このような財務分析の特質をふまえ、経営分析を総合的に把握することから開始し、続いて財務諸表分析の手法について解説していく予定です。		
教材（テキスト）	内藤文雄　『会計学エッセンス』中央経済社　2600 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	会計情報の読み方を理解している。 会計情報の開示制度を理解し、利用できる。 財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できる。		
準備学習	毎回授業の最後に次回の内容を紹介するので、教科書の指定ページを読んでくること		
受講者への要望			
積極的な講義への参加を期待します。			
講義の順序とポイント			
1.　企業分析の意義 2.　会計の役割と株式会社 3.　ディスクロージャー制度 4.　貸借対照表の見方 5.　損益計算書の見方 6.　いくつかの業種の財務諸表 7.　収益性の分析(1) 8.　収益性の分析(2) 9.　 損益分岐点分析(1) 10. 損益分岐点分析(2) 11. 安全性分析 12. 資金繰りの分析 13. キャッシュフロー計算書の見方 14. 企業グループと連結決算 15. 企業の総合評価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J86012501
科目名	原価計算論	単位数	2
科目名（英語表記）	Cost Accounting		
担当者名	北田　智久	旧科目名称	
講義概要	この講義では，企業活動における原価計算のプロセスについて学習する。原価計算というと，会計専門職のための計算科目であり，その主な目的は、財務諸表の作成であると考えられがちである。しかし，原価計算の本質的な役割は，経営者が行う重要な意思決定や判断を支援するための信頼のできる原価情報を提供することである。この講義を通じて，原価計算の基本的な考え方および計算ロジックを身につける。必要に応じて，管理会計や簿記 3 級，簿記 2 級の内容についても言及する。 この講義の内容は，日商簿記 2 級の工業簿記の範囲と深く関連します。		
教材（テキスト）	滝澤ななみ著　『みんなが欲しかった　簿記の教科書　日商 2 級　工業簿記　第 3 版』　TAC 出版		
教材（参考文献）	滝澤ななみ著　『みんなが欲しかった　簿記の教科書　日商 2 級　工業簿記　第 3 版』　TAC 出版		
教材（その他）	毎回プリントを配布する。		
評価方法	平常点（10%）　授業内課題（20%）　期末テスト（70%）		
到達目標	企業活動における原価計算の意義について理解している。 原価計算の計算ロジックについて理解している。		
準備学習	講義終了時に次回の内容を明示するので、教科書の指定された部分を熟読しておくこと。		
受講者への要望			
原価計算の計算問題について，講義内ではできる量に限りがあるので，各自さまざまな問題にあたって復習すること。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　イントロダクション：講義の概要と原価計算の意義 第 2 回　材料費 第 3 回　労務費 第 4 回　経費 第 5 回　個別原価計算 第 6 回　部門別個別原価計算 第 7 回　総合原価計算 I 第 8 回　総合原価計算 II 第 9 回　総合原価計算III 第 10 回　工業簿記における財務諸表 第 11 回　本社工場会計 第 12 回　標準原価計算 第 13 回　直接原価計算 第 14 回　材料副費・製造間接費の予定配賦 第 15 回　簿記一巡			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J86012601
科目名	アントレプレナー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Entrepreneurship		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	急速に変動する社会におけるアントレプレナー（起業家）の現状と課題を知り、新しく事業を起こすために必要な考え方やノウハウとスキル、そのステップを理解する。 単に自ら事業を起こすだけでなく、企業内においても企業内起業や新規事業立ち上げができるアントレプレナーシップ（起業家精神）が求められている。その社会的背景と現状、起業の意義、そして起業するためには何をしなければならないのか、どのような課題設定をし、問題解決しなければならないのかを、起業の段階ごとに事例とともに学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『事業構想と経営』梅木晃、井形浩治、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2004 年） 『ベンチャー型新規開業事業の新動向』梅木晃、井形浩治、村上義昭、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2007 年） 『起業学入門』高橋徳行著（経済産業調査会）		
教材（その他）	毎回レジュメプリントを配布する。 ビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）		
到達目標	アントレプレナーの現状と課題を知り、新しく事業を起こすことの意味を知り、そのために必要な考え方とステップを理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に課題を指定するので、それに関わる新聞や雑誌等を読んでおくこと。		

受講者への要望

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業参加をしてもらいたい。
やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。

講義の順序とポイント

1. アントレプレナーの定義と役割
2. 産業構造の変化とアントレプレナー
3. 労働市場から見た起業の意味
4. 新規開業調査に見る起業の実態
5. さまざまな支援体制
6. 海外のアントレプレナー
7. アメリカのアントレプレナー
8. 起業のステップ
9. ケーススタディ　事業機会の認識
10. 〃　経営資源の調達
11. 〃　資金調達
12. 〃　組織の作り方
13. 〃　人材確保と育成
14. 〃　創業時のマーケティング
15. 起業に関わる動向と課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J86012701
科目名	京都商人論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Kyoto Merchants		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	京都商人論Ⅰ・京都商人論Ⅱ
講義概要	平安遷都以来、長きにわたり日本の政治・経済・文化の中心地であった京都には、独特の風土や慣習が育ち、価値観や気質が醸成された。それらは京都商人のモノ作りや商いの姿勢にも影響を及ぼし、さらには現在の京都の老舗や企業の特徴であるー高い技術水準と品質本位で独自性と高付加価値を追求したモノ作り、伝統と革新を統合・調和させた行動様式、永続性を重視した堅実経営ーに受け継がれている。本講義では、江戸時代から現在に至るまでの京都の老舗や企業の個別事例を取り上げ、その特質を多角的な視点から解説する。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中、適宜指示します。		
教材（その他）	授業は、パワーポイントを使用します。		
評価方法	復習の小テスト（３０％）と 定期試験（７０％）		
到達目標	京都の伝統産業の歴史と発展の過程を学び、京都商人の商いに対する姿勢、考え方を理解する。		
準備学習	各講義の内容は、次週の授業開始時に「復習の小テスト」をおこないます。疑問点やよく理解できなかった部分を整理し、確認しておきましょう。		
受講者への要望			
講義の終了前に「質問タイム」を設けます。疑問点があれば質問して、わからないまま放置しないようにして下さい。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、京都の伝統産業と老舗　　食品①茶 ３、京都の伝統産業と老舗　　繊維①西陣織 ４、京都の伝統産業と老舗　　工芸①香 ５、京都の伝統産業と老舗　　食品②京料理 ６、京都の伝統産業と老舗　　機械 ７、京都の伝統産業と老舗　　醸造①みそ ８、京都の伝統産業と老舗　　繊維②戦後の洋装 ９、京都の伝統産業と老舗　　醸造②清酒 １０、京都の伝統産業と老舗　工芸②仏壇・仏具 １１、京都の伝統産業と老舗　食品③京漬物 １２、京都の伝統産業と老舗　観光・娯楽 １３、京都の伝統産業と老舗　工芸③京焼 １４、京都の伝統産業と老舗　食品④京菓子 １５、今後の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J86012801
科目名	インターネットビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Internet Business		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	今日のビジネスはインターネットの利用を抜きに成り立たないほど、インターネットは企業にとって重要なツールになっています。そのなかで、インターネットを活用して新しいビジネスモデルの構築に成功した企業は、企業間での競争優位を獲得しています。 本講義では、インターネットがどのようにビジネスで利用・活用されているのかを、具体的な事例をまじえながら学んでいきます。その上で、インターネットを利用したビジネスの成功要因や問題点について考察します。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	片岡信弘他著『インターネットビジネス概論』共立出版、2011 年、2600 円。 中村忠之著『ネットビジネス進化論　―e ビジネスからクラウド、ソーシャルメディアへ』中央経済社、2011 年、1900 円。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。ビデオ教材やパワーポイントを活用します。		
評価方法	授業中に課すレポート等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	インターネットの普及とともに企業のビジネスモデルがどのように進化したのかを理解します。 企業がインターネットを使ってビジネスを行う上で、何が重要な要因になっているのかを理解します。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 新聞等のメディアを活用し、インターネットを利用したビジネスの動向に関心を持つようにしてください。		
受講者への要望			
私語や遅刻を厳禁とする。私語が過ぎれば、退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス（授業の進め方、目的の説明等、インターネットビジネスとは） 2　インターネットビジネスの基礎条件 3　消費者向けネットビジネスの特徴（B to C） 4　消費者向けネットビジネスの歴史 5　競争優位を巡る争い（アマゾンの事例） 6　消費者向けネットビジネス（C to C） 7　ソーシャルメディアとビジネス① 8　ソーシャルメディアとビジネス② 9　インターネット広告 10　ネットショップにおける検索戦略（グーグルの事例） 11　インターネットビジネスが社会に与えた影響 ①（コンテンツ産業の変化） 12　インターネットビジネスが社会に与えた影響 ②（働き方の変革） 13　安全なインターネットビジネスのために（インターネットビジネスの安全性のために） 14　電子決済と電子マネー 15　インターネットビジネスの展望 授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	- -	- -	★	- -	★★	★

年度	2016	授業コード	J86012901
科目名	企業家史	単位数	2
科目名（英語表記）	Great Entrepreneurs		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	明治より昭和戦後まで、都市型産業の成長、大量生産体制の構築を先導した企業家を取り 上げる。可能であれば、いま少し取り上げる企業家を増やしたいと考えている。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を推薦する。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社 宇田川・生島編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣		
評価方法	試験（100％）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、企業家の行動原理を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をすること。		

受講者への要望

おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をすること。
日本経済の発展を導いた企業家の考察を通して、その革新性と普遍性について問いかけたい。

講義の順序とポイント

1.企業家史の課題、企業家・企業者と革新
2.財閥組織者の企業家活動(中上川彦次郎)
3.工業化期の建設業の革新(大林芳五郎)
4.電気鉄道網の形成(小林一三)
5.国産ウィスキーの製造と洋酒文化の普及(鳥居信治郎・竹鶴政孝)
6.在来産業・酒造業の革新(大倉恒吉)
7.重化学工業の成長(野口 遵)
8.電気機械国産化の道のり(小平浪平)
9.家庭電器産業の興隆(松下幸之助)
10.自動車国産化への挑戦(豊田喜一郎・鮎川義介)
11.本田宗一郎･藤沢武夫と「世界のホンダ」
12.井深 大･盛田昭夫とソニー
13.日本型生産システムの構築(大野耐一)
14.流通のイノベーション(中内功・鈴木敏文)
15.大量生産時代と大量消費時代の担い手

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J86013001
科目名	中小企業経営論	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management		
担当者名	下左近　多喜男	旧科目名称	
講義概要	学習内容は、以下のとおりです。 （1）中小企業のビジネス現場において、小売業、卸売業、製造業、それぞれのビジネスに必要なマーケティン グ戦略とは何か？ （2）なぜ、中小企業のマーケティング戦略を学ぶことが必要なのか？ （3）中小企業のマーケティング戦略とは、大企業の戦略と具体的に何が違うのか？ （4）中小企業経営におけるマーケティング戦略が、企業業績にどう結び付くのか？		
教材（テキスト）	講義資料配布。その他、講義開始時に指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて、参考文献などを紹介する。.		
教材（その他）	講義用資料や参考資料を配布または紹介する。		
評価方法	講義の途中で指示する「課題」の提出とその内容を評価する。(20%) 講義に対する積極的な取り組みを評価する。(20%) 講義中に可能な範囲でチェックし、成績は、定期試験(60%)と上記の総合評価を示す。		
到達目標	実社会で通用するビジネス・リーダーを養成することが目標で、主に中小企業における ビジネス・マーケティング戦略について分析・判断できる実践的な能力を体得させる。		
準備学習	経営に関する興味があれば、実際の企業や商店を観察して、分からないとか、もっと詳しく 知りたい事柄を講義中に質問してください。		

受講者への要望

「学生だから楽しく遊びましょう」、「学生時代にしか遊べないので、今のうちに思いきり旅行がしたい」・・・と同様の
会話を多く聞くことがありますが、結果は惨めな人生につながります。
事実、「若い間に苦労をして頑張っていれば、後が楽」です。
その反対は、「若い間に楽しく遊んでいれば後が苦しい」と考えられるが、実際は「・・・後が無い」のです。
また、面白く楽しく興味があることをランダムに学ぶのは勉強でも趣味や雑学に近いと考えて下さい。
人生計画を立てて、自分の将来に必要なことを系統立てて学ぶのが勉強です。すなわち、人生計画が無ければ、
何を、どの順に学べばよいか？それすらも分からない学生時代となります。そして優先順位を明確にして生活し、
チェック・リストを作成して、学生生活を自分でコントロールしてください。（できれば、定年退職後も計画してください）

講義の順序とポイント

経営の基本的な知識として、企業経営を８つのマネジメント要素に分けてそのエッセンスを体系的に説明する。すなわち、
以下の８要素を統合的にマネージすることによって、経営の合理性、実現性、納得性が担保される。

1.2
経営理念と企業の価値観：企業活動の最上位に位置付けられる経営の基本思想であり、活動上の求心力となる考え方や思い。
3.4
戦略のマネジメント：どのような持続的優位性を構築し、差別化された付加価値を生み出すのかを明示する企業活動の羅針盤となるシナリオ。
5.6
マーケティングのマネジメント：独自の付加価値を顧客や市場に伝達、浸透させ、顧客の購買を誘引するための「売れるしくみ」づくり。
7.8
組織のマネジメント：企業活動を効果的、効率的に行うための最適組織設計の考え方とグループ経営、コーポレート・ガバナンスのあり方。
9.10

人材のマネジメント：企業経営における最重要資源である人材の効果的な育成・活用・処遇のしくみづくり。
11.12
資金のマネジメント：企業活動の実態を正確かつ公正に公開する会計のしくみと企業経営の「血液」である資金を潤滑に循環させるメカニズム。
13.14
オペレーションのマネジメント：戦略を実行し、成果を生み出す役割を担うオペレーションにおける組織能力の開発。
15
成長と再生のマネジメント：持続的な成長と事業再生を実現する視点としくみ。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	J86013101
科目名	リーダーシップ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Leadership		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在している。そのような組織が目的を達成するためには，その組織の構成員の諸活動を目的達成の方向にむかって１つにまとめなければならないが，そのような働きかけの１つとして重要な役割を果たすものがリーダーシップである。 企業を取り巻く環境が非常に複雑で動態的な今日，このリーダーシップ研究の重要性はますます高くなっている。そこで本講義では，リーダーシップに関する基礎理論の学習を中心に行うことによって，リーダーシップの本質について検討してみたいと考えている。本講義を通して，将来，学生諸子が企業組織に参加したときに，主体的に行動し，活躍するための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで１度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. リーダーシップとはどのようなものかということについて、簡単な説明をすることができる。 2. リーダーシップ論の歴史的な変遷を理解する。 3. 代表的なリーダーシップ論を簡単に説明することができる。		
準備学習	1. 次の講義内容（シラバスに掲載しているとおりであるが、講義終了時にも指示する。）について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。たとえば第 3 回目の講義がはじまるまでに、「リーダーシップの特性論」について図書館で文献をさがし、その内容が書かれている部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常においてリーダーシップに関する現象に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

１．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
２．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 組織におけるマネジメントとリーダーシップ
3. リーダーシップの特性論
4. リーダーシップの行動論① －ミシガン・オハイオ研究－
5. リーダーシップの行動論② －マネジリアル・グリッド－
6. リーダーシップの行動論③ －PM 理論－
7. 個人の動機とリーダーシップ
8. 前半のまとめと理解度の確認　（小テストを予定）
9. リーダーシップの条件適合理論① －リーダー行動の連続線モデル、コンティンジェンシー・モデル－
10. リーダーシップの条件適合理論② －目標経路理論－
11. リーダーシップの条件適合理論③ －3 次元リーダー効果性モデル－
12. リーダーシップ論のその後の動向① －リーダーシップ研究センターの状況対応リーダーシップ－
13. リーダーシップ論のその後の動向② －EQ リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、変革のリーダーシップなど－
14. リーダーシップ論のその後の動向③ －リーダーシップとフォロワーシップ－
15. リーダーシップ論の講義を通して学んだこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J86013201
科目名	スポーツビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Business Theory		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、市場と組織という経営学の基本概念を用いながらスポーツビジネスを解説する。より具体的には、①スポーツビジネスと呼ばれる業界の構造および②スポーツというサービスの流通の仕方を解説する。その主たる問いは、①スポーツビジネスと呼ばれる業界とは何なのかであり、②なぜそのような業界構造が生まれたのかである。 現実のスポーツビジネスはきわめて複雑である。それは、商品化された身体技能の流通に関わるからである。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦［編］『スポーツ政策論』成文堂 2011　3,500 円		
教材（参考文献）	松岡憲司『スポーツ・エコノミクスの発見』法律文化社 1996　1,575 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①スポーツビジネスとは何かを理解することができる。 ②現実のスポーツ界で生じる問題を市場と組織という視点で説明することができる。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		
受講者への要望			
私語は厳禁。 テキストは講義内中試験の試験問題とするので必ず準備するように。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「分析視座」：簡単なゲームから、スポーツビジネスの分析視座を解説する 3.「説明するということ」：社会科学の立場からスポーツを説明する方法を解説する 4.「市場 1」：スポーツの勝敗と販売市場を解説する 5.「市場 2」：スポーツ選手と労働市場を解説する 6.「市場 3」：スポーツの市場における利益率を解説する 7.「組織 1」：強化部と事業部の分業を解説する 8.「組織 2」：試合というサービスの性質を解説する 9.「組織 3」：リーグという市場構造を解説する 10.「中間総括」：これまでの講義を振り返り、ポイントをまとめる 11.「スポーツマネジメント論入門」：スポーツマネジメント論が答える問いを解説する 12.「スポーツマーケティング論入門」：スポーツマーケティング論が答える問いを解説する 13.「スポーツビジネス論の今後」：最新の研究成果および業界事情を解説する 14.「スポーツビジネス論の最新動向」：これまでの講義を総括し、最新の業界動向を解説する 15.「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J86013301
科目名	事業承継論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊藤　久人	旧科目名称	
講義概要	日本経済を支える中小企業では、近年、経営者の高齢化が進行する一方で、後継者の確保がますます困難になっています。　対策をせずに放置していると、いざ事業承継という時に、相続を巡ってもめ事が起きる、後継者が経営ノウハウを知らない、取引先・従業員の信頼を得られない、といった問題が生じ、最悪の場合、廃業に至ってしまいます。 こうした現状を踏まえ、事業承継の背景、承継すべきもの、特に財産の承継以外に重要なその精神、人材といったものまで検討し、現状の問題点や課題の認識その対応策を、学習としてだけではなく実務面を考慮した面からも検討を行いたい。		
教材（テキスト）	事業承継の実務　中野公認会計士事務所　編（中央経済社 2009）を予定しているが、第 1 回目の講義において指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点(取組姿勢)30 点、期末レポート 70 点		
到達目標	1. 事業承継が問題となる状況を把握し、何が問題となっているのかを認識する。 2. 税制を踏まえたその対策について理解する。 3. 円滑な事業承継のために必要なことを自身で検討する。		
準備学習	講義での配賦資料等の復習を中心にしてください。		
受講者への要望			
日本経済を支える中小企業の事業承継という財産面、経営面及びそのたの問題について興味がある者が望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. 事業承継とはなにか 2. 老舗の事業承継の特徴 3. 公開会社の事業承継の特徴 4. 事業承継の手順 5. 事業承継計画とは 6. 事業承継の方法 7. 事業承継の精神 8. 後継者等人材の育成の重要性 9. 財産移転方法（1） 10. 財産移転方法（2） 11. 財産移転方法（3） 12. 相続（1） 13. 相続（2） 14. 遺留分 15. 金融支援策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J86013401
科目名	ベンチャービジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Venture Business Management		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	ベンチャービジネスについては、数次にわたるブーム（流行）の都度盛んに論じられてきた。しかし今日の経営を取り巻く環境変化を考えると、その変化への対応にはイノベーションの概念にかかる理解が不可分であり、ビジネスには、常にイノベーションを根幹とした、ベンチャービジネスの側面があると捉えることも可能である。その意味において、本講座ではベンチャービジネスの「流行」の側面を考察するに留まらず「不易」の側面から本質への接近も行いたい。このためベンチャービジネスの根底にあるイノベーションの概念およびベンチャービジネスをになう企業家(起業家）の理念・戦略・組織を中心に実践的な側面も併せ講義をする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	井形浩治、梅木晃編『事業構想と経営』（嵯峨野書院、2004 年） 井形浩治共著『ベンチャー型新規開業事業の新展開』（嵯峨野書院、2007） P.F.ドラッカー著上田惇夫訳『イノベーションと企業家精神』（ダイヤモンド社、2007）		
教材（その他）	必要に応じて講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	ベンチャービジネスについての「基本と原則」および「実践」についての理解を目標として、社会においてもその知識およびその思考プロセスについて、活用が図れることを目的に学習を行う。		
準備学習	日頃からベンチャービジネスに関心を持つとともに、それらに関する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心掛ける。 授業で用いる資料については事前配布を行うので熟読されたい。		
受講者への要望			
ベンチャービジネスへの興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに(本講義の概要) 2　ベンチャービジネス(以下 VB という）の定義 3　VB の変遷の歴史 4　VB とイノベーション・企業（起業）家精神 5　VB の経営理念 6　VB の組織と戦略 1 7　VB の組織と戦略 2 8　VB とリーダーシップ 9　VB における会計的側面 １０　VB における資本政策と資金調達 １１　VB 創造の実際（VB のデザインからプランニングへ） １２　VB の事業機会の認識(ビジネスチャンスの発見) １３　VB の経営資源の調達(ベンチャー支援策の活用) １４　VB システムの構築(ビジネスモデル特許など) １５　本論の将来展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J86013501
科目名	女性経営者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Women Own's Businesses		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	近年、新規開業率が低下している中、女性が経営する企業は増加し、従来の男性経営者とは違った発想や支店を持つ女性経営者の活躍が注目されている。女性経営者の増加の背景、社会的役割、その経営の特徴を知り、企業経営の多様性を理解する。 女性経営者の特徴として、①生活に密着した視点、属性にとらわれない豊かな人脈、③地域や教育機関等との連携、④ＩＴ化や国際化によるビジネスチャンスの獲得、等が挙げられる。それぞれの事例を基に学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	毎回レジュメプリントと資料を配布する。		
教材（その他）	必要に応じてビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）。		
到達目標	女性経営者の増加の背景とその経営の特徴を知り、企業経営に必要な幅広い視点を持つ重要性を学ぶ。 また、属性にとらわれない人材活用の意味と効果について理解する。		
準備学習	・マスコミに登場する女性経営者や、身近な女性経営者についての情報を収集しておくこと。 ・授業終了時に課したレポートテーマについて、配布資料に基づき次回までに書けるようにしておくこと。		
受講者への要望			
他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業に参加してもらいたい。 女子学生だけでなく、男子学生の受講を期待する。			
講義の順序とポイント			
1 .女性経営者の社会的役割と現状 2. 女性経営者増加の背景と女性の働き方 3. 女性経営者の競争優位性 4. 新規開業者に見る女性経営者の特徴と課題 5. ケーススタディ　事業機会の認識 6. 〃　起業プロセス 7. 〃　資金調達 8. 〃　マーケティング 9. 〃　人材活用 10. 女性が中心となるＮＰＯ 11. ＳＯＨＯと在宅ワーク 12. アメリカの女性経営者 13. ヨーロッパの女性経営者 14. アジアの女性経営者 15. 女性経営者に関わる課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J86013601
科目名	コーチング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Theory of Sport Coaching		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スポーツコーチングは、運動学、スポーツ社会学、心理学、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ医学、栄養学などの科学や歴史、経験に裏づけられた技術指導に加え、選手との信頼関係を確立するためのコミュニケーションスキルや環境を整備するためのマネジメントスキルなど様々な要素が必要とされる。 そこで、コーチング論ではサッカーを中心に、指導者及び選手からの観点を理解し、すべてのスポーツに共通するメンタル、テクニック、フィジカルの知識を学び、トレーニングに活用する能力を身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	必要時にプリントを用意。「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
評価方法	平常点５０％（授業態度含む）、レポート２５％、確認テスト２５％		
到達目標	さまざまな世代にスポーツを指導するためのコーチングの基礎を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で指示する。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．コーチングとは ３．コーチングとスポーツ界の歴史 ４．競技スポーツと生涯スポーツのコーチング ５．各年代の発育発達によるコーチング ６．トレーニングの原理・原則 ７．トレーニング処方 ８．動機づけとその工夫 ９．各種目のトレーニング計画、発表 １０．各種目のトレーニング計画、発表 １１．コーチングの実践 １２．コーチングの実践 １３．コーチングの実践 １４．理想のコーチ像 １５．コーチングの講義を通して学んだこと（ディスカッション方式）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	★	ー	ー	★

年度	2016	授業コード	J86013701
科目名	スポーツチームマネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	講義では、スポーツチームマネジメントの基礎的な考え方と共に、スポーツチームマネジメントに必要な知識と技術について学ぶ。また、プロスポーツ組織のマネジメントとアマチュア組織のマネジメントの差異を考察し、「人財」「資材」「財源」を生み出すチーム運営について学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜プリント配布する。		
教材（参考文献）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	適宜プリント配布する。		
評価方法	平常点（参加態度等）５０％　レポート２５％　発表２５％		
到達目標	スポーツチームマネジメントを題材に、社会組織でも応用できる基礎を学ぶ。		
準備学習	講義で学んだ内容を復習し、次回の講義予習を毎回指示する。		

受講者への要望

授業に積極的に参加し、遅刻等しないこと。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、
２．スポーツチームマネジメントとは
３．学生スポーツをめぐる社会的背景
４．プロスポーツをめぐる社会的背景
５．スポーツ組織のマネジメント概要
６．スポーツクラブマネジメント
７．総合型地域スポーツクラブ
８．中間まとめ
９．スポーツチームマネジメント
１０．スポーツチームマネジメント
１１．研究作成
１２．研究作成
１３．研究発表
１４．研究発表
１５．スポーツチームマネジメントの講義を通して学んだこと（ディスカッション方式）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	ー	★	★

年度	2016	授業コード	J86013801
科目名	家族法	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	民法Ⅶ（家族法）
講義概要	一般に「家族法」と呼ばれる民法第 4 編および第 5 編の内容を学習する。家族法の現行規定を正確に理解した上で、その問題点や解決の方向を考える。講義にあたっては「財産法」の諸制度との関係を意識しつつ、民法の全体像の理解を深めることができるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．家族法の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 2．家族法の主要論点に関する学説・判例を理解する。 3．家族法の問題を把握し、その解決の方向を考える。		
準備学習	1．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分および関連する財産法の部分について自習をする。 2．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 3．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。民法は全体として密接に関連しているので、民法総則、契約・不法行為法などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
講義の順序とポイント			
1．　受講にあたっての注意／家族法序説 2．　離婚の成立 3．　離婚の効果（1）子に関する効果 4．　離婚の効果（2）財産に関する効果 5．　親子（1）嫡出推定・嫡出否認制度（1） 6．　親子（2）嫡出推定・嫡出否認制度（2） 7．　親子（3）認知／現代的な問題 8．　相続法序説 9．　相続人／法定相続分 10．相続資格の剥奪／相続の選択 11．相続財産 12．具体的相続分（1）特別受益・寄与分 13．具体的相続分（2）計算問題 14．遺産分割 15．遺言			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J86013902
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86013903
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J86014004
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86014005
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86014101
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J86014102
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J86014103
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J86014104
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J86014105
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J86014106
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J86014107
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J86014108
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J86014201
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86014202
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86014203
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86014204
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86014205
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86014206
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86014207
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86014208
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J86014301
科目名	スポーツ生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology of Physical Exercise		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	人間の身体構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの１つ。 なお個々のスポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示または配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、期末試験（５０%）。		
到達目標	生理学と解剖学の基礎を修得する。		
準備学習	常に健康や運動について関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

１.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。
２.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
３.教室内は飲食禁止。
４.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であるため、遅刻・早退は認めない。

講義の順序とポイント

１.授業ガイダンス
２.骨・骨格について（その１）
３.骨・骨格について（その２）
４.関節、靱帯、腱について
５.筋肉について
６.骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構
７.筋線維タイプと収縮特性
８.筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋
９.身体運動に関係する骨（その１）
１０.身体運動に関係する骨（その２）
１１.身体運動に関係する骨（その３）
１２.身体運動に関係する筋（その１）
１３.身体運動に関係する筋（その２）
１４.身体運動に関係する筋（その３）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J86014401
科目名	スポーツ指導者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Sports Leader		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スポーツ行動は、本質的には社会特性を持つ現象であり、それ故、単純な自然現象だけでなく、文化的、社会的な側面を持つ。このような人間の営みとしてのスポーツの重要性を学習し、併せて社会生活にどのような意味をもたらすかを考えていく。学校や社会において、また行政においても、スポーツの振興は重要な課題であり、その基盤となるスポーツ指導者の育成と資質の向上、活動環境の整備が行われつつある。本授業では、スポーツの指導について、その目的、方法、計画、安全対策等を学習する。また、レクリエーション・インストラクター資格取得のコンテンツとして、レクリエーション支援に必要なスキルについても学習を深める。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」　（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教材（その他）	印刷資料、ＤＶＤ、参考図書などを随時提示します。		
評価方法	課題解決レポートの評価を 30%、学習態度、テストなどを 70%とする。		
到達目標	スポーツ指導について、正しい知識と効果的な指導法を理解すること。		
準備学習	スポーツ指導者になるためには、スポーツを幅広く学ぶことが大事である。スポーツの歴史やルール、指導者の自伝など、本をできるだけ読んでください。前回授業の復習をしておくこと。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、より高度なレベルの実技能力と、多様な対象に対する指導スキルの知識を修得することである。望ましいスポーツ指導者やリーダーを目指し、真剣に学ぶこと。
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。

講義の順序とポイント

1　はじめに、文化としてのスポーツ・レクリエーション
2　指導者の役割①－人を支える「支援者」にとってのスポーツ・レクリエーション－
3　指導者の役割②－スポーツ・レクリエーション支援の考え方－
4　トレーニング論①
5　トレーニング論②
6　成長・発育のスキルの発達
7　スポーツ指導の方法と運動の学習理論
8　スポーツ指導の方法と運動の学習理論
9　指導計画のたて方
１０　性，年齢に応じたスポーツ指導計画
１１　スポーツ・レクリエーション活動と安全管理
１２　スポーツと栄養
１３　スポーツと心理的な要因
１４　スポーツと法
１５　スポーツ・レクリエーション支援者の資格と期待される役割

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J86014501
科目名	スポーツ活動研究	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット等のメディアを通してスポーツや生涯学習に関する報道がなされない日はない。スポーツ・レクリエーションなどの競技や生涯学習系の活動は人々の生活に活力を与えるだけでなく、さまざまな話題を提供し、人とのコミュニケーションを深めるなどのコンテンツとなりうる。また、実践活動は学び・健康・社会性を育てる・人間ドラマを作る・絆を深めるなど日常生活になくてはならないものとなっている。 フィールドワーク京都（スポーツ活動研研究）では、スポーツ・レクリエーション・スポーツビジネス・生涯学習に関する実践活動や行政施策・ビジネス・世界の動向を題材として、人間の成長に着目し、「情報」「戦略」「コミュニケーション」をキーワードに文献とフィールドワークから、学びを深め、研究活動につなげていく。 各自の学びの成果は毎回の発表とし、スポーツ・レクリエーション・生涯学習に関するビジネスがどのような要素で成立しているかを考えていこう。また、実際のフィールドワークも実施する。スポーツイベントの観察・分析で理解を深め、報告書を作成したり、課題を発見・解決するための調査の方法を学ぶことを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
教材（参考文献）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
教材（その他）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
評価方法	毎回の発表とプレゼンテーション資料、課題レポートによる総合評価		
到達目標	1．プレゼンテーション資料が作成できる。 2．みんなの前で、わかりやすく発表できるようになる。 3．報告書を作成できるようにする。		
準備学習	事前に自分が報告書作成のテーマとするスポーツについて調べておくこと。		
受講者への要望			
土曜日等にフィールドワークへの参加が求められる場合があります。また、交通費等の実費負担が発生する場合があります。 個人又はグループで視察するスポーツイベントを決定し、報告書を作成します。 また、報告書を作成するために興味のあるスポーツイベントについては事前に調べて発表してもらいます。			
講義の順序とポイント			
1. 授業ガイダンス 2. さまざまなスポーツ成立の歴史を調べよう 3.スポーツ競技者人口の動向グラフの作成 4. スポーツ組織と競技大会 5. スポーツ観戦者の動向とグラフの作成 6. スポーツで世界 1 になるために監督・選手たちがどのように取り組んだのか? 7. スポーツ活動の評価をするには? ① 8. スポーツ活動の評価をするには? ② 9. 競技スポーツの展開と視察、ビジネスとして観察しよう 10. スポーツビジネスのしくみ 11.京都スタジアムの建設計画を調べよう。 12. スポーツ観戦レポート作成 13. スポーツ観戦レポート発表 14. 都道府県のスポーツ施策を調べて発表する。 15. 2020 東京オリンピックについて－オリンピックの歴史と未来－			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	－

年度	2016	授業コード	J90003001
科目名	サービス・ラーニング	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	この科目は、社会の一員である個人を認識し、社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学の学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約１週間程度の活動を通して、協働力や適応力、行動力を身につける。また、事前学修で、実習の目的の明確化、目標設定を行うとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。評価は、活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布。		
教材（参考文献）	必要に応じて配布。		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－１]：毎年５月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―２]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、１週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての１週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

１．社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
２．地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
３．実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
４．ビジネスマナーI
５．ビジネスマナーII

実習１週間
（8 時間＋日報１時間）/日*5 日＝45 時間

６．事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
７．事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ）、ワークショップ
８．事後学習 III－レポート作成
９．事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J90004001
科目名	健康医療学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	General Health and Medicine		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	我が国の急速な高齢化に伴い、脳血管疾患、認知症、運動器疾患による要介護状態も増加している。そのため、健康管理、疾病予防、健康で自立した生活の健康寿命を伸ばすための介護予防が重要となっている。さらに、心疾患、糖尿病などの生活習慣病は慢性経過をたどり、医療費の高騰を招いている。本講義ではこれらを踏まえ、健康管理、生活習慣病の予防、運動機能の維持・向上を目指した介護予防、ならびに運動管理に必要なメディカルチェックなどの知識を解説し、医事法規にも触れる。		
教材（テキスト）	テキスト教材が入手できるまでは、配布プリントを中心に解説する。		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト』（健康・体力づくり事業財団）		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．健康の概念、日本の現在の主要な健康問題を認識する。 ２．生活習慣病とその予防、介護予防の概要を理解する。 ３．健康の維持・増進、疾病予防のための運動を安全に行うのに必要な知識を修得する。		
準備学習	毎回の講義を復習し、医学医療用語を修得する。		

受講者への要望

新聞などを読み、現代の医療問題の認識を深めておく。

講義の順序とポイント

１．健康の概念
２．現代社会の健康問題（少子高齢化時代、健康生活づくり）
３．生活習慣病（メタボリックシンドローム、生活習慣）
４．生活習慣病予防（運動予防効果の疫学調査）
５．疾病構造の変化と国民医療費
６．わが国の高齢社会の現状
７．加齢による機能低下と高齢者の総合機能評価
８．介護予防
９．健診項目（血液・尿検査）
１０．健診項目（生理機能検査）
１１．運動の事前メディカルチェック
１２．安静時心電図の読み方
１３．医療総論（医の倫理）
１４．医療総論（医事法制）
１５．医療総論（医療制度）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2016	授業コード	J90005001
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	ヒトのからだの仕組みやはたらきを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第 9 版』　（医学書院）　坂井健雄　岡田隆夫　3,800 円		
教材（参考文献）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜講義用プリントを配布する。		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	１．身体の構造について理解する。 ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 ３．身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
準備学習	１．予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 ３．小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

１．能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
２．単元ごとに小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
３．遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
４．講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

１．人体を構成する細胞・組織の基礎
２．消化管の構造と機能: 咀嚼から胃での消化
３．消化管の構造と機能: 腸での消化と吸収
４．消化管の構造と機能: 膵臓・肝臓・胆嚢
５．呼吸器の構造と換気
６．ガス交換とガスの運搬
７．呼吸運動の調節
８．血液の組性と血液凝固系
９．心臓の構造と拍出機能
１０．心周期
１１．末梢循環系の構造と機能
１２．血液の循環調節
１３．尿の生成
１４．体液調節と酸塩基平衡
１５．総論（まとめ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J90005002
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	ヒトのからだの仕組みやはたらきを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第 9 版』　（医学書院）　坂井健雄　岡田隆夫　3,800 円		
教材（参考文献）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜講義用プリントを配布する。		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	１．身体の構造について理解する。 ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 ３．身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
準備学習	１．予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 ３．小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

１．能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
２．単元ごとに小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
３．遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
４．講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

１．人体を構成する細胞・組織の基礎
２．消化管の構造と機能: 咀嚼から胃での消化
３．消化管の構造と機能: 腸での消化と吸収
４．消化管の構造と機能: 膵臓・肝臓・胆嚢
５．呼吸器の構造と換気
６．ガス交換とガスの運搬
７．呼吸運動の調節
８．血液の組性と血液凝固系
９．心臓の構造と拍出機能
１０．心周期
１１．末梢循環系の構造と機能
１２．血液の循環調節
１３．尿の生成
１４．体液調節と酸塩基平衡
１５．総論（まとめ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J90005003
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	ヒトのからだの仕組みや働きを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（テキスト）	『入門人体解剖学』（南江堂） 藤田恒夫 著 5,400 円		
教材（参考文献）	『プロメテウス解剖学アトラス－解剖学総論／運動器系』（医学書院） 坂井建雄・松村譲兒 監訳 12,960 円		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	細胞・組織・器官の成り立ち、人体における動物性機能系（骨格・筋肉系、神経系、感覚系）の働きを説明できる。		
準備学習	生物学（高等学校）の復習，毎回の講義内容の復習		
受講者への要望			
人体解剖学用語の修得に努める。			
講義の順序とポイント			
１．細胞から個体１（生物体の基本的構成要素である細胞の構造） ２．細胞から個体２（組織・器官） ３．細胞から個体３（個体の形成） ４．筋の収縮１（骨格筋の構造、筋収縮） ５．筋の収縮２（収縮様式、筋電図） ６．神経系１（神経細胞、中枢神経系（脊髄、脳幹、小脳）） ７．神経系２（中枢神経系（間脳、大脳）、脳室、脳脊髄液） ８．神経系３（末梢神経系（脊髄神経、脳神経）） ９．神経系４（下行伝導路、上行伝導路） １０．感覚系（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、痛覚） １１．骨格と関節（人体を構成する骨格・関節の構造） １２．頭頸部（頭頸部と脊柱、胸鎖乳突筋、僧帽筋、肩峰・肩甲棘） １３．脊柱と胸郭 （脊柱の構造、肋骨、肋間筋群、腰椎の構造） １４．上肢（肩関節、肘関節、上腕二頭筋と上腕三頭筋、前腕、手関節） １５．骨盤と下肢 （骨盤の連結構造、大腿骨頭、股関節、膝関節、足関節）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90006001
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第９版』　（医学書院）　坂井健雄　岡田隆夫　3,800 円		
教材（参考文献）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜講義用プリントを配布する。		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	１．身体の構造について理解する。 ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 ３．身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
準備学習	１．予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 ３．小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

１．能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
２．単元ごとに小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
３．遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
４．講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

１．自律神経系
２．視床下部と下垂体
３．ホルモンによる調節
４．骨格と骨格筋
５．上肢の骨格と筋
６．下肢の骨格と筋
７．筋の収縮
８．神経系の構造と機能
９．脊髄と脳
１０．脊髄・脳神経と脳の高次機能
１１．感覚器
１２．生体防御と体温調節（１）
１３．生体防御と体温調節（２）
１４．生殖と発生
１５．総論（まとめ）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90006002
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第９版』　（医学書院）　坂井健雄　岡田隆夫　3,800 円		
教材（参考文献）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜講義用プリントを配布する。		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	１．身体の構造について理解する。 ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 ３．身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
準備学習	１．予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 ３．小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

１．能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
２．単元ごとに小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
３．遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
４．講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

１．自律神経系
２．視床下部と下垂体
３．ホルモンによる調節
４．骨格と骨格筋
５．上肢の骨格と筋
６．下肢の骨格と筋
７．筋の収縮
８．神経系の構造と機能
９．脊髄と脳
１０．脊髄・脳神経と脳の高次機能
１１．感覚器
１２．生体防御と体温調節（１）
１３．生体防御と体温調節（２）
１４．生殖と発生
１５．総論（まとめ）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90006003
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（テキスト）	適切な教科書が入手できるまでは、プリントを使用する。		
教材（参考文献）	『標準生理学』（医学書院）　小澤瀞司・福田康一郎 総編集 12,960 円		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	人体における植物性機能系（血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫系）の働きが説明できる。		
準備学習	生物学（高等学校）の復習、毎回の講義内容の復習		
受講者への要望			
人体生理学ならびに医学用語の修得に努める。			
講義の順序とポイント			
１．人体の植物性機能（内部環境の恒常性、ホメオスターシス） ２．血液１（血液組成、血液型） ３．血液２（止血、血液凝固） ４．呼吸１（内呼吸、血液ガス） ５．呼吸２（外呼吸、呼吸器系の構造、呼吸運動、換気） ６．循環１（心臓の構造、心収縮、心周期、心拍出） ７．循環２（刺激伝導系、活動電位、心電図） ８．循環３（脈管系、脈波、血圧、血流） ９．消化吸収（消化器系の構造と機能、消化管運動、分泌、吸収） １０．栄養代謝（栄養素、エネルギー代謝） １１．生体防御（病原性生物等による感染を防ぐ免疫系、体温調節系） １２．腎機能と体液調節１（体内老廃物の排泄、腎臓の構造と機能） １３．腎機能と体液調節２（体液量調節、酸塩基平衡） １４．内分泌１（生体の内部環境の調節系） １５．内分泌２（生殖、性の分化、成長と老化）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90007001
科目名	生化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	生化学は、すべての生物に見られる構造、機能、化学反応を分子レベルで理解し、生物における共通の基本原理を学ぶ学問である。本講義では、多様な生命現象を物理化学的視点から理解するために、生命を構成する生体高分子としてのタンパク質、脂質、核酸、糖質の構造と機能、エネルギー代謝としての異化・同化、生命の根源を司る自己複製メカニズム、自己と非自己を識別し、細胞外環境変化を細胞内へ伝達する膜系と膜系を介する物質輸送とシグナル伝達についての基礎知識を十分に理解し、修得する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　生化学　第１３版』　（医学書院）　三輪一智、中恵一　2,200 円		
教材（参考文献）	『イラストレイテッド生化学　原書 6 版』　（丸善出版）　Richard A. Harvey, Denise R. Ferrier　7,800 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜講義用プリントを配布する。		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	１．生物を校正する生体成分について分子レベルで理解する。 ２．生体の機能制御を担う酵素と触媒作用について理解する。 ３．生体エネルギー産生と代謝の仕組みについて理解する。 ４．遺伝情報とその発現メカニズムについて理解する。		
準備学習	１．予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．講義終了後に、配布資料・プリントを見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 ３．小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

１．能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
２．単元ごとに小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
３．遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
４．講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

１．化学の基礎と細胞
２．糖類・脂質・タンパク質（１）
３．糖類・脂質・タンパク質（２）
４．核酸・水・無機質
５．血液と尿
６．ホルモンと生理活性物質
７．代謝・酵素
８．ビタミン・補酵素
９．糖代謝
１０．脂質代謝
１１．タンパク質代謝
１２．核酸代謝と代謝異常
１３．遺伝情報（１）
１４．遺伝情報（２）
１５．総論（まとめ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J90008001
科目名	衛生学	単位数	1
科目名（英語表記）	Hygienics		
担当者名	岩永　資隆	旧科目名称	
講義概要	衛生学は自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の保持増進に役立てようとする学問である。種々の自然的・社会的環境要因を認識し、生活の場などで衛生学的な問題意識を持ち、科学的解決を目指す力を獲得することを目標とする。自然要因である、水、公害問題、食品、栄養、感染症などと、社会要因である、学校保健、産業保健、生活習慣病に関する内容を中心に、社会と健康への影響について学修する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』（厚生統計協会） 『衛生行政大綱』（財団法人 日本公衆衛生協会） 『衛生法規の要点』（財団法人 日本公衆衛生協会） 『学校保健の世界』（杏林書院） 『学校医・学校保健ハンドブック』（光文堂）		
教材（その他）	配布資料		
評価方法	1．受講態度（10%） 2．授業内小テスト（10%） 3．レポート課題（30%） 4．定期試験（50%）		
到達目標	衛生学は自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の保持増進に役立てようとする学問である。種々の自然的・社会的環境要因を認識し、生活の場などで衛生学的な問題意識を持ち、科学的解決を目指す力を獲得することを目標とする。		
準備学習	「京学なび」を利用して講義資料を配布するので、講義開始までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
新聞、TV、インターネット等のメディアに取り上げられる、健康、水、公害問題、食品、栄養、感染症、学校保健、産業保健、生活習慣病などの記事を興味を持って視聴・熟読し、それらの背景や関連事項についての資料を検索してよく理解し、自分なりの考え方を持つこと。			
講義の順序とポイント			
1．入門（衛生学序論、歴史、研究方法） 2．環境（物理・化学的条件、室内環境衛生学、公害、地球温暖化） 3．食品衛生（食中毒） 4．感染症対策（感染症法、予防対策、疾病予防と予防接種） 5．学校保健（健診、伝染病） 6．産業保健（労働衛生法、職業病、労働災害、検診） 7．生活習慣病（メタボリックシンドローム、健診） 8．保健統計			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J90009001
科目名	公衆衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Health		
担当者名	里村　一成	旧科目名称	
講義概要	公衆衛生の基本となる知識や関連法規の理解とともに日本における公衆衛生の現状について学習する。また、喫煙や飲酒等を含む生活習慣や、ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ対策等公衆衛生分野において問題となっているトピックについて、そのアプローチや対策等について実例を挙げつつ知見を広げる。健康を維持増進するためには個人的な努力だけでなく、地域社会の環境改善、コミュニティーにおける互いの協力の必要があることについて学ぶ。		
教材（テキスト）	『シンプル公衆衛生学』（南江堂）2592 円（税込み）		
教材（参考文献）	『民衛生の動向』（厚生労働統計協会）2500 円（税込み）		
教材（その他）	適宜、授業の際にプリントを配布する。		
評価方法	定期試験により評価する		
到達目標	個人だけでなく集団としての健康増進、疾病予防を考えるという公衆衛生的な考え方を身につける。 １．日本における保健体制、健康政策を理解する ２．保健・医療・福祉の連携の必要性と現状、及びその問題点について理解する。 ３．疫学的な考え方や衛生統計を理解し、地域保健等にどのように役立てるかを知る。 ４．実践活動としての健康教育、ヘルスプロモーション等について理解する。		
準備学習	授業前にテキストを読んでおくことが望ましい。また、新聞等で社会情勢をみておくことも必要である。		
受講者への要望			
遠慮せずに理解できないこと等について質問すること。 授業中に質問できなかった場合は、メール等で質問することが必要である。			
講義の順序とポイント			
１．健康の概念と公衆衛生 ２．公衆衛生行政と関連衛生法規 ３．医療保健制度と介護、社会保障 ４．健康教育、ヘルスプロモーションと行動変容 ５．母子保健 ６．成人・老人保健 ７．学校保健 ８．精神保健 ９．地域保健 １０．感染症対策 １１．衛生統計と健康の指標、疫学 １２．食品衛生 １３．環境衛生 １４．労働衛生 １５．健康危機管理、国際保健			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J90010001
科目名	栄養学	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Nutrition		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	栄養とは、生物が食物を摂取することによって、生命および健康の維持、発育・成長などの生命活動に必要な物質、すなわち栄養素を体内に取り込み、利用する営みである。本講義では、栄養素の種類とそれらの構造および生理機能、消化・吸収、エネルギー代謝などの基本的概念を正しく理解することを目的とする。さらに、健康の保持・増進、疾病予防と回復促進、体づくりのために必要な栄養と食生活など、実践的な栄養学についても紹介する。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	『ポケットアトラス栄養学』（ガイアブックス）　ハンス・コンラート・ビーザルスキ 著 2,808 円 『基礎栄養学（健康・栄養科学シリーズ）改訂第 4 版』（南江堂）　奥恒行、柴田克己 編 3,024 円		
教材（その他）	授業中にプリントを配布する。 京学なびおよび共通ドライブによりファイルを提供する。		
評価方法	定期テスト（50%）、授業内小テスト（30%）、レポート（20%）		
到達目標	健康づくり・体づくりなどの実践の礎とするために、栄養の基礎知識を正しく理解する。		
準備学習	毎回、京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートによる授業の予復習に留まらず、関連分野についても発展的に調べておく。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に、毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。 日頃から新聞等のメディアを意識し、自分自身が摂取している食事や食品成分に関心を持っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1．はじめに　-栄養学とは- 2．栄養成分の消化吸収 3．糖質の機能と代謝 4．アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 5．脂質の機能と代謝 6．エネルギー代謝 7．ビタミン、ミネラルおよび水の生理作用 8．疾病予防や健康づくり・体づくりのための食生活			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J90011001
科目名	病理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathology		
担当者名	渡邊　信	旧科目名称	
講義概要	ヒトにおける疾病の成り立ちと回復について学ぶ。病理学は、疾病の成立機序、病態形成過程を解明する学問である。本講義では、生命活動が異常をきたした状態に対する理解を深める。具体的には、異常状態の形態学的特徴である病変として、感染に対して組織に生じる炎症、循環障害、腫瘍などを取り上げ、さらに個体側要因である先天異常、代謝異常、免疫異常について学ぶ。症状に対する病態生理、疾病に対する医療についても言及する。		
教材（テキスト）	病理学ノート		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	医療の現場ではここで学んだ疾患を２度３度と学ぶ機会が多い。その折りにこの「病理学ノート」を思い出してもう一度復習、さらには詳しく勉強して戴きたい。ここで勉強したことを全て記憶し続けることは不可能であり、自分が幾度となく遭遇する疾患をしっかりと理解する基礎として戴きたい。		
準備学習	これからの学生は講義を聞く準備をどうやってするかが問われています。この「病理学ノート」に書いてある言葉をキーワードにして、予習をし、講義中の集中力を高めて戴きたい。		
受講者への要望			
講義は密度が濃く、講義中の集中力を高めないと理解できないことがあります。講義の邪魔になる行為（遅刻、私語など）は厳重に謹んで戴きたい。間違っても、「病理学ノート」に記載してあることだけで十分だと考えないで戴きたい。			
講義の順序とポイント			
講義は次の順に行います。病理学ノートにはこの順で項目が記載されています。 １．退行性病変 ２．代謝障害 ３．循環障害 ４．奇形 ５．進行性病変 ６．炎症総論 ７．免疫総論 ８．腫瘍総論 各項目の終わりにスライドをお見せする予定です。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2016	授業コード	J90012001
科目名	内科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Internal Medicine		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	内科学
講義概要	ここ半世紀、日本を含む先進国では、その疾病・死亡構造は感染症から生活習慣病へと大きく変貌してきた。がん、脳血管障害、心臓病、糖尿病などの代謝疾患、アレルギー性疾患などの生活習慣病は、個々人の誕生から現在に至る数十年間にわたる環境履歴により形成されたライフスタイルと遺伝素因が複雑に交絡しあい、加齢による効果と相まって発症する。しかもその発症率は 40~50 歳代から大きく増加することから、我が国のように少子高齢化が急激に進行する社会では、大きな健康脅威となっている。本講義では、このような生活習慣病増加の制御を中心に講義を行う。		
教材（テキスト）	『図解病態治療学』　（診断と治療社）　丹羽利充　3,300 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	スライド		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	生活習慣病を中心に、今日発症頻度の多い疾患について、十分に理解すること。		
準備学習	授業の前に、テキストを読んで予習をしておくこと。また、授業では、触れていない分野に於いても、テキストで自習すること。		

受講者への要望

教科書（テキスト）は、わかりやすく疾患の病態と治療について簡潔にまとめてあるので、この教科書を暗記するくらい、繰り返し読んでいただきたい。また、授業では、ポイントとなる所を講義するので、必ず出席してもらいたい。

講義の順序とポイント

1．健康と疾患、およびその主な症状・徴候
2．虚血性心疾患
3．高血圧と脂質異常症
4．肺炎と気管支喘息
5．肺癌
6．食道、胃、十二指腸の疾患とピロリ菌感染
7．肝臓の疾患(1)
8．肝臓の疾患（2）
9．膵臓の疾患
10．急性腎不全と慢性腎不全
11．糖尿病とメタボリックシンドローム
12．生活習慣病と健康寿命
13．脳血管障害
14．感染症
15．中高年の健康的な食事と栄養

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J90013001
科目名	小児科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatrics		
担当者名	新田　義宏	旧科目名称	
講義概要	子どもは、出生から身体の成長と発達を経て大人になる。小児科学は、出生から思春期までの、身体の構造と機能の異常を扱う診療科目である。本講義では、新生児と幼児期・学童期の成長と発達、出生時や赤ちゃんの観察と神経学的評価、運動・言語・適応行動の発達の指標を学ぶ。また、小児の健康障害として先天異常（ダウン症等）、脳性麻痺、呼吸・循環器疾患、感染症等、各種疾患の原因および経過と症状、治療について解説をする。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内の小テスト等による平常点（30%）。授業中に課すレポート（70%）。		
到達目標	出生から成人に至るまでの身体および精神の成長と発達を正常及び異常である疾患の両面から理解することを目標とする。		
準備学習	８つの単元、つまり「小児の発達と成長」、「胎児医学と出生前医学」、「周産期医学」、「小児の呼吸器および循環器疾患」、「小児の消化器系および血液・造血器疾患」、「小児の腫瘍性疾患」、「小児の代謝性、内分泌性および免疫疾患」、「小児の感染症」についてレポートを課す。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。

講義の順序とポイント

１．小児の呼吸器系および循環器疾患　：11/15（火）冨井 敏宏

小児の呼吸器系および循環器系疾患について理解する。具体的には、喘息、気管支炎、肺炎、先天性心疾患、川崎病、突然　　死等の原因と診断、身体症状と予後、治療を学ぶ。

２．小児の発達と成長　：11/22（火）　瑞木 匡

小児期の発達の区分として、出生前期、新生児期、乳児期、学童期、青年期があり、それぞれの身体的および精神的な成長・発達の特徴を学ぶ。成長の評価として、身長・体重、頭囲・胸囲、生歯、骨の発育、二次性徴を、精神発達については探索、社会、生活習慣、言語の領域から理解し、その評価方法を学ぶ。

３．胎児医学と出生前医学　：11/29（火）福原 正太

先天異常（遺伝子疾患、染色体異常、多因子疾患、薬物や感染症などの胎内の環境要因による疾患）について、主な疾患を取り上げ、その原因と診断、身体症状と予後、治療を解説する。また、出生前診断や胎内治療についてもふれる。

４．周産期医学　：12/6（火）森元 英周

出生時の所見および既往から、生命および予後の危険が高いハイリスク新生児について解説する。具体的には、新生児の疾患としては早産児、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、新生児仮死、未熟児網膜症、メレナ、黄疸、感染症等の原因と診断、身体症状と予後、治療を学ぶ。

５．小児の代謝性疾患、内分泌疾患、免疫疾患　：12/13（火）都間 佑介

小児の代謝性疾患、内分泌疾患および免疫疾患について理解する。先天代謝異常症、糖尿病、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺異常、アレルギー性疾患の原因と診断、身体症状と予後、治療を学ぶ。

６．小児の腫瘍性疾患　：12/20（火）橋口 加名栄

小児がん（悪性新生物）について理解する。具体的には、造血器腫瘍として白血病、悪性リンパ腫、脳腫瘍、骨の悪性腫瘍、ウィルムス腫瘍等の原因と診断、身体症状と予後、治療を学ぶ。骨髄移植にもふれる。

７．小児の消化器系および血液・造血器疾患　：1/10（火）茂原 慶一

小児の消化器系および血液・造血疾患について理解する。具体的には、食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、小腸・大腸の疾患、肝臓・胆道・膵臓の疾患、貧血、出血性疾患等の原因と診断、身体症状と予後、治療を学ぶ。

８．小児の感染症　：1/17（火） 新田 義宏

小児の感染症について理解する。こどもの免疫の特徴について概説し、次にウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症の主なものを取り上げて説明する。また学校伝染病、予防接種についてもふれる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2016	授業コード	J90015001
科目名	リハビリテーション概論	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Rehabilitation		
担当者名	奥田　良樹	旧科目名称	
講義概要	リハビリテーションは、外傷および疾病により生じた機能障害、能力低下、社会的不利に対して、訓練や指導、社会的支援により、障害の回復と自立を促し、全人的な社会復帰を目指す取り組みである。本講義では、リハビリテーションの理念と歴史について、医療的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、現代の日本の医療および福祉とリハビリテーションの現状を取り上げ、その課題について解説をする。		
教材（テキスト）	『リハビリテーション総論』　（診断と治療社）　椿原彰夫		
教材（参考文献）			
教材（その他）	講義内容のスライド		
評価方法	1．日常点 講義と臨床実習では必ず出席をとる。また適時実施される小テスト、レポートを日常点として加味する。 2．試験 系統講義終了時の定期試験筆記試験を行う。追再試験も同様とする。 3．総合成績評価		
到達目標	1．リハビリテーションの概念を理解する。 2．運動器障害、脳血管障害、内部障害、摂食嚥下障害のリハビリテーションについての基礎知識を理解する。 3．リハビリテーションチーム医療の重要性について理解する。 4．最新のリハビリテーション医療について理解する。		
準備学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい 各講義後に確認の小テストを実施する			
講義の順序とポイント			
1．リハビリテーション概論 1 2．リハビリテーション概論 2 3．リハシステム 4．障害評価 1 5．障害評価 2 6．理学療法 7．作業療法 8．義肢装具療法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	_	★★	_	★	★

年度	2016	授業コード	J90016001
科目名	リハビリテーション医学	単位数	2
科目名（英語表記）	Rehabilitation Medicine		
担当者名	奥田　良樹	旧科目名称	
講義概要	リハビリテーション医学は、疾病の医学的治療によって回復できない、身体および精神の能力低下や社会的不利に対して、専門的な訓練と指導により、社会復帰と参加を促進する取り組みである。本講義では、リハビリテーションの評価と治療の枠組み、チーム・アプローチと各職種の役割（医師、看護師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、メディカルソーシャルワーカー、運動指導士他)、リハビリテーションでの基本的な評価と治療 の方法を解説する。		
教材（テキスト）	『リハビリテーション総論　（改訂第 2 版)』　（診断と治療社）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	1　日常点 講義と臨床実習では必ず出席をとる。また適時実施される小テスト、レポートを日常点として加味する。 2　試験 系統講義終了時の定期試験筆記試験を行う。追再試験も同様とする。 3　総合成績評価		
到達目標	リハビリテーションに関与する各疾患について理解を深める。 運動器リハビリテーションについては特に知識を得る。 リハビリテーション関連職種（理学療法士、作業療法士）の業務内容について理解を深める。		
準備学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		

受講者への要望

講義中は私語は行わない。
質問事項があれば適宜これを受ける。
各講義後に確認の小テストを実施する。
リハビリテーションについて興味を抱いていただきたい。

講義の順序とポイント

1. はじめに　復習を兼ねて：4/13（水）⑤
2. 運動器リハビリテーション（１）：4/14（木）②
3. 運動器リハビリテーション（２）：4/28（木）②
4. 理学療法の実際　理学療法士にて：5/18（水）⑤
5. 作業療法の実際　作業療法士にて：5/19（木）②
6. 発達障害・CP：5/26（木）②
7. 高次脳機能障害：6/2（木）②
8. 脊髄損傷：6/9（木）②
9. 切断・神経筋疾患：6/15（水）⑤
10. 関節リウマチ：6/16（木）②
11. 関節疾患・アスリハ・障碍者スポーツ：6/30（木）②
12. 肩・肘疾患：7/7②
13. 手損傷・疾患：7/14（木）②
14. 慢性疼痛・生活習慣病：7/21（木）②
15. 骨粗鬆症：7/28（木）②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90017001
科目名	音声学	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	ヒトが話すことは、社会生活を送るうえで欠かせない。話すことは、言語という信号を話し手が発信することであり、聞き手が受信をすることで音声コミュニケーションは成立する。音声学は、ヒトの話し言葉（音声言語）の科学であり、音声言語の生成と知覚についての学問である。音声言語の特徴を理解することで、日常や仕事での良好なやりとりのための条件を知ることができる。本講義では、ヒト音声の基本的事項（分節と変動）と日本語音声の特徴（母音と子音、超分節）を提示する。ヒトの身体がどのように音声信号を生み出すのか、ヒトはどのようにして連続的な音信号から言葉を解読するのか、代表的な実験を紹介しながら、科学的な疑問と解決の筋道を提示する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『実践音声学入門』（大修館） ジョン・キャットフォード 著 2,700 円 『新ことばの科学入門』（医学書院） 廣瀬肇 訳 6，696 円		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	定期試験（100％）		
到達目標	1．音声学の基本的事項（母音と子音、言語音の生成と知覚）を理解する。 2．ヒト音声の理解のために行われてきた諸実験（方法、結果、考察）を知る。 3．日常の音声言語コミュニケーションの現象を説明できる。		
準備学習	講義の内容を復習する。		

受講者への要望

毎回の講義で示される内容（背景、疑問と実験、用語等の解説、現象の説明）を整理しておくこと。

講義の順序とポイント

（1）音声学 phonetics の世界

1．　音声学の領域と応用、音声学者　　シネマ：「マイフェアレディ」（前半）
2．　音素と音声、異音、音声記号 IPA　　シネマ：「マイフェアレディ」（後半）
3．　音声生成の仕組み：　呼吸・発声、共鳴、構音　　神経系・運動・声道空気力学
4．　言語音（母音と子音）の生成と知覚　　音声信号を見る、「分節の問題」と逆転音声

（2）音声生成と知覚の諸実験

5．　母音の生成　　音声の音響理論、声道モデル、音響分析、Fant の研究
6．　子音の出し分けと識別　　調音点が異なる子音の音響情報の違い　　Stevens らの実験
7．　音環境（前後の音）の影響　　パラトグラムでの観察、構音（運動）の変動　Daniloff の実験
8．　連続音声の理解　　知覚修復　　Warren の実験、視聴覚情報の統合　McGurk 効果
9．　選択的注意と適応行動　　Cocktail Party 効果、騒音下での声＝　Lombard 効果

（3）日常の音声言語コミュニケーションの諸現象

10．　音声（言語）の発達　　子音　Eimas の実験　、母音　Kihl の実験 、子音の獲得（順序性）
11．　話しことばの速さ　　News キャスター、最大能力との関係、話芸　『志の輔落語』
12．　言い誤りの起源　　スピーチエラーの種別、　早口言葉、　いいまつがい（糸井重里）
13．　言語特有の分節・超分節特徴　　2L 学習（特殊音素と抑揚）、外国人の日本語発話、世界言語
14．　音声情報からの話者認識　　犯罪捜査での利用、話者の年齢当て、老人音声の特徴
15．　音声の自動認識　　機械・ソフトウエアによる音声認識、日本語辞書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2016	授業コード	J90018001
科目名	高次脳科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Higher Brain Mechanism		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
講義概要	大脳は、ヒトが複雑な社会を発展させ、その環境に適応した生活を営む過程で進化してきた器官であり、思考、言語、記憶、認知、行為などの高次の機能を司っている。脳の活動と働きは、ｆＭＲＩ 等の画像診断法や検査課題により、近年飛躍的に理解が進んでいる。本講義では、脳神経系の階層的な構造と機能分化に関する基本的知識を解説し、大脳半球の機能的特異性、言語・記憶や認知・行為の実現と異常、未知の課題について論じる。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（70%）、授業内小テスト等（30%）		
到達目標	１．大脳の解剖生理学的概説を理解し、用語を正しく使用できる。 ２．高次脳機能障害の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 ３．代表的な高次脳機能障害の症状と原因病巣、診察方法が理解できる。		
準備学習	事前に資料を配布するので、熟読してくること。		
受講者への要望			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。遅刻や私語は厳禁である。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに、神経系の進化・発達概説：4/12（火）⑤ ２．大脳の解剖生理学的概説（4 つの頭葉の機能分化、大脳の階層構造、主要な機能系）：4/19（火）⑤ ３．失語（主な失語類型の症状と原因病巣、診察方法）：4/26（火）⑤ ４．失認（主な失行類型の症状と原因病巣、診察方法）：5/10（火）⑤ ５．失行（主な失認類型の症状と原因病巣、診察方法）：5/17（火）⑤ ６．記憶障害（記憶の分類、主な記憶障害の症状と原因病巣、診察方法）：5/17（火）⑥ ７．情動障害・社会的認知障害（主な症状と原因病巣、診察方法）：5/24（火）⑤ ８．画像診断：5/24（火）⑥			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J90019001
科目名	臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology		
担当者名	山添　正	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学は、病気や障碍を経験した、またはしている人に働きかける事を焦点化した心理的な処遇に関する心理学です。つまり心の健康について人間の一生を通しての心理的、生物的、社会的、そしてスピリチュアルな側面から、人間の健康の促進、パーフォーマンスや適応スキルの向上、人格の成長等についての心理学的理論と実践方法を学び、一方で、様々な現代日本人が抱えている心理的病気や不適応上の問題に関するアセスメント方法、治療方法、そして予防方法についての様々な理論と実践について学びます。		
教材（テキスト）	『健康心理学入門』（有斐閣） 島井哲志 他（編） 2,052 円		
教材（参考文献）	『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術』（金子書房） ジェラルド・コーレイ著、山添正 監訳 4,104 円		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内作文(30%)、授業中に課すレポート(70%)。		
到達目標	①現代日本人のこころの健康を考える場合、まず「病気と健康」の歴史を広く理解する。②「健康促進」の視点から、現代人の生活レベルより具体的に考える。③「病気のリスクと予防法」の理解。④臨床健康心理学の目指すところを、実践するには、医療者と患者との関係、医療場 面でのコミュニケーション能力が必要性を理解すること。		
準備学習	授業の最後に、授業内容理解を定着させるために、小作文を課しますので、準備学習の時に自分の関心がどこにあるかを確認し、授業を聞きながら何を書くか考えながら作文を書いてください。		

受講者への要望

臨床心理学は、知識でない。人の治療という行動変化を目指すものであり、その実践のためには、到達目標でも書いた、患者とのコミュニケーション能力が必要です。そのため、参考書として指定している本も、授業中に関連を指摘したときは読むようにしてください。

講義の順序とポイント

1.はじめに
2.現代社会とストレスー自律訓練法
3.食生活ーやせ症
4.運動と運動の効果
5.スポーツと自死
6.健康リスク要因とパーソナリティー
7.うつの認知療法
8.健康リスク要因と行動
9.女性と健康
10.高齢者と健康
11.患者の心理と病気対処行動
12.健康心理学の臨床的展開
13.医療場面でのコミュニケーション
14.がん患者への心理的サポート
15.健康ケアシステムの現状と将来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	J90020001
科目名	発達心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental Psychology		
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	発達心理学は、人の心の発達的変化を研究する心理学の一分野であり、その内容には受胎から死まで人の一生の道筋が含まれる。発達は、自分自身や身近な人々に常に起こっている事柄でもある。本講義では、受講者自身の身近な問題と関連させながら、人間の心理や行動がどのように発達するかということと、発達が人間の社会生活とどのように結びついているかについての理解を深める。人間の発達の可塑性の大きさを実感し、自身の過去・現在・未来の生き方を発達的な視点から捉える姿勢を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	『よくわかる発達心理学　第 2 版』（ミネルヴァ書房）　無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）　2,700 円		
教材（参考文献）	『キーワードコレクション　発達心理学　改訂版』（新曜社）　子安増生・二宮克美（編）　2,592 円 『よくわかる認知発達とその支援』（ミネルヴァ書房）　子安増生（編）　2,592 円		
教材（その他）	プリントを配布する		
評価方法	定期試験（50%），授業内小テスト（50%）		
到達目標	1. 人間の発達に関する基礎的な考え方を理解する 2. 人間の誕生から死に至るまでの発達の過程を理解する 3. 各々の発達段階（乳児期，幼児期，児童期，青年期，成人期，老年期）の特徴を理解する 4. 自分自身の過去・現在・未来の生き方を発達心理学的な視点から捉えることができるようになる 5. 発達心理学の知見を，専門知識として活用できるようになる。		
準備学習	1.毎回，授業の最初に，前回の授業の内容に関わる小テストを実施するので，復習を確実にしておくこと 2.「心理学」の授業内容を復習し，十分理解しておくこと 3.日頃から様々な年代の人と接し，心理や行動の発達について考える機会をもつこと		

受講者への要望

1. 授業には「楽しく」しかし「真剣に」参加すること。
2. 授業中は授業中にしかできないこと（授業内容の理解）に努めること。
3. 授業内容に対する質問はその場で教員に直接質問をして，理解不十分なまま放置することがないようにすること。
4. 授業の中では，簡単な調査や実験を通じて具体的に理解を深める機会を提供するので，できるだけ積極的に取り組み，内容の理解につなげること。
5. 人間の誕生から死に至るまでの心と身体の発達について，自分なりに考えを深めること。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション：授業の進め方の説明，発達心理学とは何か
2.　発達の規定要因：発達の持つ性質，発達における遺伝と環境の問題，発達研究法
3.　発達段階と発達課題：初期経験の重要性，発達段階と発達課題の考え方
4.　新生児期・乳児期(1)：乳児の認知能力の発達，視覚の発達，行動の特徴
5.　新生児期・乳児期(2)：人見知り，乳児の気質，愛着の形成と親子関係
6.　幼児期(1)：乳児期～幼児期のことばの発達過程
7.　幼児期(2)：乳児期～幼児期の自我・自己の発達，第一反抗期
8.　幼児期(3)：認知・思考の発達，ピアジェの認知発達論，幼児期の思考の特徴
9.　幼児期(4)：遊びの発達と心の理論
10.　児童期(1)：児童期の仲間関係の発達，集団成員間の人間関係
11.　児童期(2)：「読み書き計算」の能力の発達，道徳性の発達
12.　思春期・青年期(1)：思春期・青年期の認知の発達
13.　思春期・青年期(2)：自我同一性と社会性の発達
14.　成人期・老年期(1)：　成人期，老年期の特徴，家庭生活と職業生活
15.　成人期・老年期(2)：成人期・老年期の知的機能，死への準備

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J90021001
科目名	学習・認知心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning and Cognitive Psychology		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
講義概要	人は、学習によって知識やスキルを身につけ、環境に適応している。本講義では、人間がどのように外的環境を捉えているのか、それに基づいてどのように新しい行動や知識を獲得していくのか、という問題が扱われている。本講義では、感覚、知覚、学習、記憶、思考、言語といった、学習・認知心理学の主要なトピックについて取り上げ、人間の認知システムの仕組みおよび特性について理解を深める。人間および日常生活について、認知心理学的な視点から理解を深めることを目標とする。		
教材（テキスト）	『認知と感情の心理学』 高橋雅延 著 岩波書店 2600 円		
教材（参考文献）	『認知心理学』 箱田裕司・都築誉史・川端秀明・萩原茂 著 有斐閣 3400 円 『スタンダード認知心理学』 原田悦子（編） サイエンス社 2500 円		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、授業内小テスト等による評価。定期試験（５０％）		
到達目標	1. 認知心理学的研究方法（考え方）を理解する。 2. 人間の認知機能についての仮説、理論を理解する思考力を身につける。 3. 人間の認知機能について身につけた知識や考え方を日常に活かす。		
準備学習	単元の区切りごとに小テストを実施するので復習をしておくこと。		
受講者への要望			
上記三つの到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。なお、授業計画は予定である。受講状況等に応じてある程度変更する可能性がある。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション：授業の進め方についての説明、認知を学ぶということ ２．認知心理学研究法：３つのアプローチ（実験認知心理学、認知神経科学、計算論的認知科学） ３．視覚と認知（１）：視覚の基本属性、視覚認知の特徴 ４．視覚と認知（２）：高次な視覚認知 ５．注意と意識（１）：聴覚における注意のメカニズム、視覚における注意のメカニズム ６．注意と意識（２）：制御的処理と自動的処理 ７．記憶（１）：短期記憶とワーキングメモリ ８．記憶（２）：長期記憶、記憶過程についての理論 ９．記憶（３）：自伝的記憶、潜在記憶 １０．言語理解：単語認知、文理解とコネクショニストモデル １１．言語産出：単語産出、文産出とコネクショニストモデル １２．言語獲得：言語獲得と統計的学習能力 １３．思考（１）：知識と表象 １４．思考（２）：問題解決、意志決定 １５．認知と感情：感情の認知プロセス、認知、感情心理学の新しい研究の流れ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★	★	★★	★★

年度	2016	授業コード	J90022001
科目名	カウンセリング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods in Counceling		
担当者名	山添　正	旧科目名称	
講義概要	カウンセリングは、クライエントとカウンセラーの相互作用を通して、クライエントが本来持っている成長力を回復し、自己実現を援助する事です。そのために、まずカウンセリングのプロセスが、クライエントとカウンセラーの出会いから始まり、治療的関係が形成され、カウンセリング作業がどのように進むか学習します。学生がクライエント体験をする事で、自分の話を傾聴される事の意義を理解することで、カウンセラーの役割、人としてのあり方そして様々な理論のテクニックの理解を深めます。		
教材（テキスト）	『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術』（金子書房） ジェラルド・コーレイ著、山添正 監訳 4,104円		
教材（参考文献）	カウンセリング教育サポートセンター(03－3233－3363)		
教材（その他）	『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術 理論と実践(DVD 版)』（金子書房） 10,584 円		
評価方法	各授業後の作文(30%)。授業中に課すレポート(70%)		
到達目標	日常生活の中で、自分自身の人との出会い、人間関係を考えてみる。そして、友人との関係の中で、カウンセリング理論は横に置いて自分の話を友人に聞いてもらえた時（傾聴）の気持ちを考えて、今度は自分が友人の話を傾聴し、友人の反応を確かめる。こうした、実際的な経験をベースにカウンセリングの理論と実践を学ぶ。		
準備学習	授業後に作文を課しますので、準備学習では、その日の学習内容を事前に目を通しながら、興味が引かれたことに印をつけて、授業を聞きながら何を書くか決定し、作文を書いてください。		
受講者への要望			
授業では、カウンセリングの具体的姿をビデオで学習し、より実践的な学びを目指しています。時間が取れれば、横に座っている人とのピアカウンセリング、または指名された受講生が教壇でモデルになっていただきロールプレイをしていただきたいと思っています。恥ずかしがらずに、参加してください。			
講義の順序とポイント			
1.この講義の学び方 2.カウンセリングのはじめ 3.治療的関係 4.治療目標の確立 5.多様性の理解と対応 6.抵抗の理解と対処 7.カウンセリングにおける認知的焦点化 8.カウンセリングにおける感情焦点化 9.カウンセリングにおける行動焦点化 10.統合的視点 11.転移と逆転移 12.過去が現在に与える影響の理解 13.決断と行動変化の作業 14.評価と終結 15.医療とスポーツの中でのカウンセリング			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	J90023001
科目名	社会保障論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（テキスト）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	『社会保障入門』　（中央法規出版）　社会保障入門編集委員会　2,400 円 『社会保障の光と陰』　（高菅出版）　足立正樹、井上久子　2,400 円		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について考察するための視座を得ること。		
準備学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講者への要望

１．授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
２．出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。レポートの代筆など、その他の不正行為に対しても、上記同様に厳正に対処するので、絶対にしないこと。
３．資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度
３．少子・高齢化の進行
４．医療保障の概念と方法
５．医療保険制度の概要
６．医療保険制度の現状と課題
７．高齢者介護をめぐる状況
８．介護保険制度の概要
９．介護保険制度の現状と課題
１０．所得保障の諸制度
１１．年金制度の概要
１２．年金制度の現状と課題
１３．社会保障の必要性
１４．社会保障の誕生と歴史的展開
１５．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J90024001
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	谷村　晋	旧科目名称	
講義概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピューターソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（テキスト）	『保健統計・疫学第 5 版』福富和夫・橋本修二著（南山堂）		
教材（参考文献）	『初心者でもすぐにできるフリー統計ソフト EZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析』神田善伸著（南江堂）		
教材（その他）	『保健・医療研究の進め方入門 —R と EZR を用いて』中澤港著 http://minato.sip21c.org/ebhc-text.pdf 講義スライドをハンドアウト化したものを京なびで配布する。		
評価方法	出席及び課題の提出(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)で合計 100%、合計が 60%以上で合格。 ただし、期末試験の正答率が 60%未満であった場合は、合計得点にかかわらず不合格。		
到達目標	地域保健活動における情報科学及び統計学の知識・技術の利用について具体的に説明ができる。統計的解析方法を用いて練習課題を解くことができる。		
準備学習	情報学や統計学を理解するためには数学の基礎が必要であるため、中学数学 「資料の整理」「確率」、高校数学 II「指数・対数関数」、高校数学 B「確率分布と統計的な推測」について復習しておくこと。また、講義はコンピュータによる実習を含むため、コンピュータの基本操作や基本知識を事前に自己習得しておくこと。特に、表計算ソフトウェア(Excel など)の操作に慣れておくこと。統計解析ソフトウェア R について、事前に調べておくこと。		

受講者への要望

前日までにテキストや参考書の講義予定範囲を通読し、下調べなどの予習を行い、疑問点を明らかにした状態で講義にのぞむこと。統計学の理論的基礎を理解するためには高校卒業レベルの数学知識が要求されるため、数学能力に自信がないものは特に入念に予習すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．情報処理の基礎
3．データの種類と尺度
4．統計調査法と調査票の作成
5．記述統計と視覚化(単純集計、クロス集計、度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度)
6．確率と確率分布
7．指標の標準化
8．年次推移の観察
9．中間試験・統計的推論(点推定、区間推定、仮説検定)
10．統計的検定(t 検定、F 検定、分散分析、Wilcoxon 検定など)
11．統計的検定(分割表の検定)
12．相関分析と無相関検定
13．回帰モデル(重回帰分析、ロジスティック回帰分析、Cox 回帰分析)
14．看護情報科学(情報管理、レコードリンケージ)
15．問題演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J90024002
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	谷村　晋	旧科目名称	
講義概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピューターソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（テキスト）	『保健統計・疫学第 5 版』福富和夫・橋本修二著（南山堂）		
教材（参考文献）	『初心者でもすぐにできるフリー統計ソフト EZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析』 神田善伸著（南江堂） 『看護系の統計調査入門』中野正孝著（真興交易医書出版部）		
教材（その他）	『保健・医療研究の進め方入門 —R と EZR を用いて』中澤港著 http://minato.sip21c.org/ebhc-text.pdf 講義スライドをハンドアウト化したものを京なびで配布する。		
評価方法	出席及び課題の提出(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)で合計 100%、合計が 60%以上で合格。 ただし、期末試験の正答率が 60%未満であった場合は、合計得点にかかわらず不合格。		
到達目標	地域保健活動における情報科学及び統計学の知識・技術の利用について具体的に説明ができる。統計的解析方法を用いて練習課題を解くことができる。		
準備学習	情報学や統計学を理解するためには数学の基礎が必要であるため、中学数学 「資料の整理」「確率」、高校数学 II「指数・対数関数」、高校数学 B「確率分布と統計的な推測」について復習しておくこと。また、講義はコンピュータによる実習を含むため、コンピュータの基本操作や基本知識を事前に自己習得しておくこと。特に、表計算ソフトウェア(Excel など)の操作に慣れておくこと。統計解析ソフトウェア R について、事前に調べておくこと。		

受講者への要望

前日までにテキストや参考書の講義予定範囲を通読し、下調べなどの予習を行い、疑問点を明らかにした状態で講義にのぞむこと。統計学の理論的基礎を理解するためには高校卒業レベルの数学知識が要求されるため、数学能力に自信がないものは特に入念に予習すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．情報処理の基礎
3．データの種類と尺度
4．統計調査法と調査票の作成
5．記述統計と視覚化(単純集計、クロス集計、度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度)
6．確率と確率分布
7．指標の標準化
8．年次推移の観察
9．中間試験・統計的推論(点推定、区間推定、仮説検定)
10．統計的検定(t 検定、F 検定、分散分析、Wilcoxon 検定など)
11．統計的検定(分割表の検定)
12．相関分析と無相関検定
13．回帰モデル(重回帰分析、ロジスティック回帰分析、Cox 回帰分析)
14．看護情報科学(情報管理、レコードリンケージ)
15．問題演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J90024003
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピュータソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（テキスト）	『統計学の図鑑（まなびのずかん)』(技術評論社)　涌井良幸・涌井貞美 著 2,678 円		
教材（参考文献）	『いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ　1　まずは統計アレルギーを克服しよう！』(アトムス)　浅井隆　著　3,024 円 『いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ　2　結果の解釈ができるようになろう！』(アトムス)　浅井隆著　3,024 円 『いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ　3　研究の質を評価できるようになろう！』(アトムス)　浅井隆著　3,024 円 『「医療統計」わかりません！！』(東京図書)　五十嵐中・佐條麻里　著　3,024 円 『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』(北大路書房)　吉田寿夫　著　2,700 円		
教材（その他）	プリントを配布する		
評価方法	授業内課題（50%），定期試験（50%）		
到達目標	1. 基本的な統計学の知識を身につける。 2. 健康・医療・スポーツに関する統計資料を読んだときに，それが何を意味しているのか理解できる力を身につける 3. 健康・医療・スポーツに関する実験・調査データを自ら統計的に処理できる力を身につける		
準備学習	1. 中学・高校で学んだ基本的な数学の知識を復習し，身につけておくこと（平均，平方根，分数，グラフ表現等)。 2. 毎回の授業の復習を確実にすること。		

受講者への要望

1. この授業では主に統計学を扱う。統計学とは，集団の傾向や性質を数量的に明らかにする学問である。算数・数学が苦手な者も，「楽しく」しかし「真剣に」取り組むこと。
2. 授業内での問題演習（課題）には「あせらず・あわてず・あきらめず」取り組むこと。
3. 授業中は授業中にしかできないこと（授業内容の理解）に努めること。
4. 毎回の授業内容が連続しており，復習しながらの積み重ね学習が重要であるため，欠席・遅刻・早退のないようにすること。
5. 授業内容に対する質問はその場で教員に直接して，理解を不十分なまま放置することがないようにすること。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション：健康・医療・スポーツにおける統計学の役割
2.　データの整理：度数分布表・ヒストグラムの作成，相対度数の算出
3.　代表値と散布度：平均値，中央値，分散，標準偏差
4.　クロス集計：質的変数どうしの関連
5.　相関(1)：散布図，相関係数
6.　相関(2)：相関関係と因果関係，疑似相関
7.　統計的検定(1)：統計的検定の考え方，カイ 2 乗検定
8.　統計的検定(2)：平均値に関する検定（t 検定，分散分析）
9.　健康指標：死亡率，罹患率，有病率
10. 人口に関する統計：人口生態統計と人口動態統計
11 .保健統計資料の読み取り(1)：患者調査，国民生活基礎調査
12. 保健統計資料の読み取り(2)：学校保健統計調査，国民栄養基礎調査
13. アンケート調査の方法(1)：調査実施上の注意，調査方法の種類
14. アンケート調査の方法(2)：調査票の設計
15. まとめと考察：社会における保健医療情報の役割

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J90025001
科目名	バイオメカニクス	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomechanics		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	地球上における人体の運動動作は物理的な作用を受ける。筋肉によって生み出された力は関節を介して骨に伝達され、重力に抗した様々な運動動作が生み出される。本講義では骨格筋の働きの仕組みから、骨の構造、巧みな関節の働きを学び、骨格筋の起始と停止を知ることで発揮される協調的な動きを理解する。これらの学びを基に、身近な運動動作を例題にして、人間の身体構造とその動きの素晴らしさを認識するとともに、身体運動発現のメカニズムを運動学および運動力学の両面から理解する。この講義は、学科関連系科目として設定されており、看護学科教員が、看護現場でのバイオメカニクス的な問題についても触れる。		
教材（テキスト）	『スポーツバイオメカニクス』（化学同人） はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ４　宮西智久著 補足テキストとして運動に関与する骨と骨格筋を表した資料などを配布する。		
教材（参考文献）	解剖生理で用いたテキスト。『目で見る動きの解剖学』（大修館書店）　ロルフ・ヴィルヘード 著 2,592 円、適時、講義内容に適した資料を紹介する。		
教材（その他）	手製の資料を、授業内容に合わせて適時配布する。		
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）		
到達目標	人体の骨格や筋肉の名称、関節の働きについての理解を深める。日常生活における例えば歩行やランニングにおける骨格筋の働きや、外部に発揮した力の変化を観察して、これらのメカニズムが説明できる。		
準備学習	前期開講の「健康医療学概論」や、「解剖生理学」が基礎的な講義となるので、十分理解して本講義の受講に備えること。各回の授業終わりに次回の講義内容について説明するので、テキストに目を通して、不明な点などについて確認しておく。あるいは質問の準備とすること。講義の後はあらかじめ不明に思った個所や、専門用語について覚えるように工夫すること。		

受講者への要望

物理学における力学が関係するが、理解しやすいように努める。スライドを中心に授業が進むが、ノートに書き留めること。必要な部分についてノートすることを指示するが、関心のある部分についてもしっかりノートすること。

講義の順序とポイント

１．スポーツバイオメカニクスの基礎１
　バイオメカニクスとは？、人の運動と”てこ”の関係、筋の付着部と関節軸との距離、筋肉って？、関節運動動作の定義、
２．スポーツバイオメカニクスの基礎２
　骨格筋の収縮様式、筋電図って？、筋放電と力、運動単位、単収縮と強縮、骨格筋線維のタイプ
３．スポーツバイオメカニクスの基礎３
　骨格筋線維の種類と特徴、運動強度と運動単位の動員様式（サイズの原理)、筋の長さと張力との関係、筋の起始と停止、
４．スポーツバイオメカニクスの基礎４
　見かけの力と真の力、骨の役割、骨のリモデリング、骨の構造と機能、関節の種類と構造、運動と力学の基礎、国際単位
５．スポーツバイオメカニクスの基礎５
　力の合成と分解、内力と外力、運動量と力積、運動の力学的エネルギー、関節トルクと関節パワー
６．スポーツバイオメカニクスの基礎６
　身体重心とは？、身体と重心および重心線、身体重心を求める方法、
７．スポーツバイオメカニクスの応用
　良い動きのバイオメカニクス的原則：反動動作と振込動作、緩衝動作、歩行運動における効率、経済性と有効性
８．運動器のしくみと働き（実際の身体動作と関連させて）
　歩行と走行のバイオメカニクス
９．関節・運動器の機能（実際の身体動作と関連させて）
　跳ぶということのバイオメカニクス（反動動作、ドロップジャンプホッピングなど）
１０．脳の構造と運動を支配する脳
　脳動静脈、体性感覚野、１次運動野、神経のコントロール（動きのコントロールと反射による動作の調整）
１１．スポーツバイオメカニクスの実際１
　歩行のバイオメカニクス、投げのバイオメカニクス
１２．スポーツバイオメカニクスの実際２
　泳ぐ・蹴る・滑る・押すスポーツバイオメカニクス

１３．スポーツバイオメカニクスの実際３
回る・打つスポーツバイオメカニクス
１４．スポーツ医学とバイオメカニクスによる貢献
１５．スポーツバイオメカニクス分析結果データーから理解できる事
A/D変換って？、力積、筋電図積分値

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J90026001
科目名	エイジングと運動	単位数	2
科目名（英語表記）	Ageing and Exercise		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	高齢者は、心身ともに健康で、いわゆるエイジレスな生活をしたいと願っている。しかし、ヒトは加齢とともに心身の機能低下を避けることはできない。本科目では、加齢に伴って生じる、形態、身体機能（体力・運動能力、呼吸循環機能、神経・筋機能、言語聴覚機能）、および心理面や生活機能の変化を正しく把握し、できる限りそれらの機能低下を防ぐための基礎理論を学習する。あわせて、超高齢社会の進行で増加する虚弱高齢者にも対応できるよう、介護予防の考え方や介護予防のための各種プログラムについても学習する。		
教材（テキスト）	随時資料配付		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成テキスト（上）（下)』健康体力づくり事業財団 『健康運動実践指導士テキスト』健康体力づくり事業財団 鈴木隆雄著『超高齢社会の基礎知識』講談社現代新書		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	ミニテスト（20%)、レポート（10%)、定期試験（70%）		
到達目標	加齢に伴って生じる、形態や身体機能、心理面・生活面での機能の変化とそれらの機能低下を防ぐための基礎理論を理解し、フレイルや要介護をできるだけ先延ばしする（介護予防）ための知識を身につける。		
準備学習	授業の内容（レジュメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
毎回、授業の初めに、前回の内容についてのミニテスト（5 分以内でできる問題）を行うので、そのためにしっかり復習して欲しい。これは定期試験で役立つはず。
身近な高齢者に対して、健康面や生活面への気遣いができるようになって欲しい。

講義の順序とポイント

1．エイジング（ヒトのライフサイクルとエイジング、老化の定義、老化と寿命）
2．生理的老化と病的老化（老化の原因、老化と老年病）
3．加齢に伴う身体機能の変化①（形態、身体組成の変化）
4．加齢に伴う身体機能の変化②（体力・運動能力、呼吸循環機能、神経・筋機能の変化 ）
5．加齢に伴う心理・生活面の変化
6．加齢と認知機能
7．高齢者の体力・運動能力の評価（持久力、筋力の評価）
8．高齢者の心理・生活面の評価
9．高齢者の言語聴覚機能
10．アンチエイジング①（栄養と老化制御、抗酸化と老化制御）
11．アンチエイジング①（運動と老化制御）
12．フレイル（フレイルとは、フレイルがなぜ注目されるか）
13．介護保険と介護予防（介護予防の考え方）
14．介護予防プログラム（口腔ケア、栄養、運動）
15．高齢者の QOL を高めるためのケア

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J90027001
科目名	薬理学	単位数	1
科目名（英語表記）	Pharmacology		
担当者名	武井　義則	旧科目名称	
講義概要	薬物治療における薬物動態と作用機序、薬剤の種類と投与方法、薬効に影響する因子、主な医薬品に関する基礎的知識を学ぶ。具体的には末梢神経系作用薬、中枢神経系作用薬、心臓・血管作用薬、抗炎症薬、呼吸器系作用薬、消化器系作用薬、ホルモン・生殖器系作用薬、抗炎症薬、抗感染症薬、抗悪性腫瘍薬など種々の疾患における薬物治療の概要を理解するとともに、投与方法や副作用とその対策、医薬品の取り扱いに関する留意点を理解する。		
教材（テキスト）	『わかりやすい薬理学』安原 一・小口勝司　編集ヌーベル・ヒロカワ　2,300 円＋税		
教材（参考文献）	『はじめの一歩　イラスト薬理学』石井 邦雄　著　羊土社　2,900 円＋税 授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	定期試験の成績により評価する。		
到達目標	疾病の病態と治療方針を学び、種々の医薬品の作用機序と使い方、副作用・相互作用を知ることにより、看護に必要な基礎知識を習得することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書 p.**から p.**まで）を指定するので、予習しておくこと。 また各回の講義終了ごとに、教科書付属の整理ノートのポイントを読み、確認問題を解くことにより復習をすること。		
受講者への要望			
分からないことがあれば、講義中でも終了後でも構わないので、積極的に質問して欲しい。			
講義の順序とポイント			
1．総論・末梢神経系作用薬：薬理学の概念、自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬：11/17（木）④ 2．中枢神経系作用薬　1：麻酔薬、鎮痛薬、催眠薬、抗不安薬、気分障害治療薬、抗精神病薬：11/24（木）④ 3．中枢神経系作用薬　2：抗てんかん薬、パーキンソン治療薬、アルツハイマー病治療薬：12/1（木）④ 4．心臓・血管作用薬：高血圧、心不全、狭心症の治療薬：12/8（木）④ 5．抗炎症薬・呼吸器系作用薬：抗炎症・抗アレルギー薬、気管支喘息治療薬：12/15（木）④ 6．消化器系作用薬：胃潰瘍治療薬、腸疾患治療薬：12/22（木）④ 7．ホルモン・生殖器系作用薬：糖尿病治療薬、抗甲状腺薬、骨粗鬆症治療薬、生殖器系作用薬：1/12（木）④ 8．抗感染症薬、抗悪性腫瘍薬：抗生物質、抗ウイルス薬、抗腫瘍薬：1/19（木）④			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★		★			★★

年度	2016	授業コード	J90028001
科目名	疫学	単位数	2
科目名（英語表記）	Epidemiology		
担当者名	谷村　晋	旧科目名称	
講義概要	人間集団の健康問題を解決することを目指す公衆衛生において、必要な疫学の原理および基礎的方法について理解する。具体的には、疫学の目的と方法、人間の健康問題に疫学がどのように応用できるのかを理解する。また、罹病や死亡が公衆衛生においてどのように測定され、それらのデータがどのように活用されるかを知る。そして保健統計資料に基づき、疫学で用いられる健康指標、疫学調査法を集団の健康状態の把握や分析に活用する知識を修得する。		
教材（テキスト）	第 1 回から第 4 回：『国民衛生の動向』　（厚生労働統計協会）　2,315 円 第 5 回から第 14 回：『基礎から学ぶ楽しい疫学　第 3 版』　（医学書院）　中村好一　3,000 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席及び課題の提出(20%)、期末試験(80%)で合計 100% 合計が 60%以上で合格。 ただし、期末試験の正答率が 60%未満であった場合は、合計得点にかかわらず不合格。		
到達目標	１．疫学研究の基本と疫学研究から得られることを修得すること。 ２．疫学研究の最新の実態を学ぶことで、今後の疫学研究の在り方について考察すること。		
準備学習	『国民衛生の動向』と『基礎から学ぶ楽しい疫学』は事前に通読しておくことが望ましい。 保健医療情報学を履修していない者は統計学の基礎（確率分布、仮説検定、統計的検定、相関分析、回帰分析）をできるだけ自己学習しておくこと。		
受講者への要望			
疫学の学習では高い論理的思考能力が要求されるため、1 度の聴講では習得しがたい。従って、前日までにテキストや参考書の講義予定範囲を通読し、下調べなどの予習を行い、疑問点を明らかにした状態で講義にのぞむことが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．人口動態（出生、死亡、死因、死産、周産期死亡、乳児死亡）の動向 ３．人口静態（国勢調査）の動向 ４．平均余命・平均寿命・健康寿命と受療状況 ５．疫学の考え方 ６．疾病頻度の捉え方、曝露の効果を表す指標 ７．疫学研究の種類、記述疫学 ８．分析疫学と介入研究 ９．バイアスと交絡、因果関係の推論 １０．スクリーニング検査 １１．アウトブレイクの発見と解析、感染症監視システム（感染症疫学） １２．健康政策のための科学的根拠（政策疫学） １３．社会的格差が健康に与える影響（社会疫学） １４．居住地と罹患リスク（空間疫学） １５．問題演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J90029001
科目名	看護学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Nursing		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	看護とは何かを歴史的側面から概観し、看護の語源、起源、定義および看護の概念・目的を学修する。そこから看護の専門性について考察する。また、看護の対象者である人間の健康やそのライフサイクルを踏まえた健康問題、人間のニードを理解するとともに、看護の提供者の活動領域とその内容、看護の倫理、看護管理、幅広く展開する看護活動についても理解する。さらに、看護の変遷を通して、看護理論について学修し、看護学の展望を概観する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　看護学概論』　（医学書院）　茂野香かおる　2,400 円 『看護の基本となるもの』　（日本看護協会出版社）　ヴァージニア・ヘンダーソン、湯槙ます　1,000 円 『対訳　看護覚え書』　（うぶすな書院）　フローレンス・ナイチンゲール、小林章夫　2,600 円		
教材（参考文献）	『看護理論集』　（日本看護協会出版会）　ジュリア・Ｂ・ジョージ 、南裕子　3,900 円		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。		
評価方法	レポートと発表（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．看護とは何かを歴史的側面から捉え、看護の語源、起源、定義、看護の概念を述べることができる。 ２．看護の対象者である人間の健康やライフサイクルをふまえた健康問題、人間のニードを理解する。 ３．看護の提供者の活動、看護の倫理、看護管理について理解する。 ４．看護の変遷を通して、看護理論について動向や理論的側面を理解する。 ５．看護活動の広がりと展望を理解する。		
準備学習	１．指定されたテーマに応じたレポートと発表を行えるよう準備する。 ２.「看護覚え書」についてのレポートを要約して提出する。 ３．人間のニードを理解し、自分のニードについて述べることができるよう準備する。 ４.「看護体験実習」の中で学んだ内容をフィードバックすることができる。		
受講者への要望			
看護学概論の学修は、自ら文献を読み、まとめ、自らの考えを私見として述べることが求められる。自分の看護に対する考えをまとめ、発表したり意見交換ができるようにする。			
講義の順序とポイント			
１．看護学ガイダンス： 看護とは何か、看護の概念、看護の定義 ２．人間と健康、健康の概念、健康関連行動、家族とライフサイクル ３．看護の提供者 ４．看護の倫理的活動 ５．看護の変遷：古代、中世、日本の近世 ６．看護の変遷：世界の近代 ７．看護の変遷：ナイチンゲール「看護覚え書」にみる看護 ８．看護の変遷： アメリカの看護史 ９．看護の変遷：日本の近代、現代 １０．現代看護理論家達の業績（１）ニード論：ヘンダーソン １１．現代看護理論家達の業績（２）相互作用論：ペプロウ １２．現代看護理論家達の業績（３）システム論：オレム、ロイ １３．看護の提供のしくみ １４．看護管理、医療安全 １５．看護の活動の広がりと展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J90030001
科目名	成長発達Ⅰ（小児の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅰ: Pediatric Health　Nursing		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	「子どもとその家族への看護と役割」を基本テーマに、子どもの看護についてイメージできることを目指す。小児看護の歴史的背景と展望、子どもの権利と擁護、子どもの成長発達の特徴とライフステージにおける小児期の意義と重要性、子どもと環境との関係、家族発達の基礎理論を学び、小児看護の理念・位置づけ・役割について理解する。子どもの権利と擁護についてはグループワークを中心に、成長発達の特徴についてはワークシートの作成を基本に理解を深める。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学　1　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円 『看護のための人間発達学』　（医学書院）　舟島なをみ　3,000 円		
教材（参考文献）	『親と子の心のカルテ』　（新興医学出版社）　前川喜平、井原成男　2,000 円		
教材（その他）	1．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 2．適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	1．子どもの成長・発達に伴う身体的・心理的・社会的特徴を述べることができる。 2．小児看護に必要な成長発達理論について理解することができる。 3．子どもを取り巻く環境について理解することができる。 4．子どもの権利・擁護について考えることができる。 5．小児看護の理念・位置づけ・役割について理解できる。		
準備学習	1．子どもの成長発達に関する基礎知識の獲得に向け、講義予定を示したシナリオを配布するので、シナリオに示されたテキストの講義予定範囲を読んで、授業参加すること。 2．子どもの食事の理解に向けて、市販の離乳食用食品・こども用おやつなどについて調べておくこと。 3．ワークシートの作成を予定しているため、ワークシートの完成のための資料収集をして授業参加すること。		

受講者への要望
子どもの成長・発達と養育支援に関わる看護の役割について講義する。 子どもと子どもの看護についてイメージできるように DVD や写真を使用するが、街中などの生活の場で見かける子どもや親子の様子を観察するよう心がけてほしい。また、 子どもに関する新聞記事等のニュースについても関心を持って情報を得てほしい。

講義の順序とポイント
1．ガイダンス　小児看護の概念と理念・歴史と展望 2．小児看護における倫理と子どもの権利尊重について 3．子どもの成長・発達の概要 4．新生児期における養育と看護 5．乳幼児期における養育と看護 6．学童期・思春期における養育と看護 7．子どもと家族を取り巻く環境・社会と看護の役割 8．子どもの健康問題と看護の機能・役割

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	J90031001
科目名	成長発達Ⅱ（成人の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅱ: Adult Health Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	成人期は人のライフサイクルの中で身体的、精神的に安定し、社会・経済的に大きな役割を背負っている世代といわれている。成人看護学は、人間、環境、健康、看護を思考の枠組みとした看護理論を応用し、生活をしてゆく人を主体に考えてゆくことにある。看護者は時代の変化に関係なく行われるヒューマンケアリングと時代の変化とともに変化する健康問題に対するケアリングの両方の役割を持っていることを学ぶ。主な内容は、成人看護の概念、成人保健の動向、成人各期の特徴と健康問題、成人期の健康障害と看護、成人看護に必要な看護理論である。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[１]　成人看護学総論』　（医学書院）　小松浩子　2,300 円		
教材（参考文献）	『成人看護学』　（医学書院）　黒田裕子　5,800 円 『国民衛生の動向』　（厚生統計協会）　2,315 円		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	定期試験（80%）、課題レポート（20%）		
到達目標	１．成人の身体的・心理的・社会的特徴を理解できている。 ２．現代における成人に生じやすい健康上の問題や成人看護の特性を理解している。 ３．成人期の対象論について理解している。 ４．成人看護学の構成を理解している。		
準備学習	１．成人の発達課題について整理しておく。 ２．ライフサイクルにおける、成人の位置づけと意義について整理しておく。 ３．国民衛生の動向とテキストを参考にして、成人各期の特徴と健康問題について整理をしておく。 ４．成人で活用できる看護理論を概観しておく。		

受講者への要望

１．事前に、テキストを読んでおき、疑問点や理解できない箇所を授業中に解決できるよう、積極的参加を求める。
２．日々、人々の健康に関して関心を持ち、新聞記事等で挙げられた健康問題などを読む習慣をつけることを要望する。
３．テキストの中での参考文献は可能なかぎり授業終了後、読んでおくこと。

講義の順序とポイント

１．成人期にある人の理解
２．生活と健康（成人の生活からとらえる健康・健康を守りはぐくむシステム）

３．成人への看護アプローチの基本
４．健康生活をはぐくむ看護
５．生活ストレスと看護
６．生活行動がもたらす健康問題とその予防
７．健康生活の急激な破綻から回復を促す看護と障害を持ちながらの生活とリハビリテーションについて
８．慢性的な揺らぎの再調整を促す看護から人生最後の時を支える看護について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90032001
科目名	成長発達Ⅲ（高齢者の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health CareⅢ: Geriatric Health Nursing		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	ライフサイクルからみた、高齢者の身体的・心理的・社会的な変化および発達課題を学修することにより、高齢者の多様性や持てる能力について理解する。加えて、介護保険法や成年後見人制度などの社会制度や、高齢者虐待や身体拘束・身体抑制などの社会問題、介護家族の課題、健康長寿などを学修することにより超高齢社会に突入した我が国の高齢者を取り巻く課題について理解し、老年看護学が果たす役割と機能について学修する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』　（医学書院）　北川公子　2,600 円		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』　（厚生労働統計協会）　2,315 円		
教材（その他）	パワーポイント活用　　DVD ビデオ教材活用　各講義プリント配布		
評価方法	『確認の課題』合計点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	1．高齢者のその人らしさを焦点に、加齢過程や発達課題を捉えることができる。 2．我が国の保健・医療・福祉の動向について、統計資料を活用し理解できる。 3．高齢者を取り巻く環境のあり方について、権利擁護・自立支援の視点で考えることができる。 4．ライフサイクルの最終ステージにおける死の概念と支援について考えることができる。 5．老年看護学の対象と役割を家族を含めた統合的支援として捉えることができる。		
準備学習	受講前に教科書の授業範囲を一読しておく。		
受講者への要望			
予習（教科書を一読）を徹底すること。 毎回『授業レジメ』とともに『確認の課題』を配布するので授業終了時必ず提出すること。			
講義の順序とポイント			
1．「老い」の概念 2．身体的・心理的・社会的側面の加齢変化 3．老年期の発達課題　＜喪失体験、死生観、 スピリチュアリティ＞ 4．高齢社会の現状と課題　＜統計的概観、暮らしの中での課題＞ 5．保健医療福祉の動向　＜地域包括ケアシステム、介護保険制度、介護予防＞ 6．　高齢者の権利擁護　＜スティグマ、エイジズム、虐待、アドボカシー＞ 7．老年看護の役割・機能　＜意思決定、死へのステージ、家族支援＞ 8．老年看護と理論・概念　＜看護理論＞			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90033001
科目名	成長発達Ⅳ（女性の生涯発達と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health CareⅣ: Maternal Health Nursing		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	女性のライフステージ各期の特徴と健康問題、女性を取り巻く環境について理解する。女性とその家族の特性を身体的・心理的・社会的側面から捉え、その成長発達と健康生活を支援するための看護の役割を理解する。性と生殖、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの考え方や母子保健事業、母子に関する保健・医療・福祉の動向及び今日的課題を学び、母性看護の役割を学ぶ。さらに、女性と子どもの人権について考え、それを擁護する看護職者の責務についても考察する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　『母性看護学[１]　母性看護学概論』　（医学書院）　森恵美　2,400 円		
教材（参考文献）	『新体系看護学全書　母性看護学①母性看護学概論/ウイメンズヘルスと看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　3,000 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。必要時、資料の配布を行なう。		
評価方法	定期試験（80%）、提出レポートおよび講義への参加態度（20%）で総合的に評価する。		
到達目標	１．母性看護学の理解に必要な基本的知識を習得し、母性看護の役割を理解する。 ２．母子保健に関連する法律、施策、事業の概要を理解する。 ３．女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題について理解する。 ４．リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する健康問題と、性と生殖における倫理的問題について学ぶ。		
準備学習	「看護学概論」で学んだ概念を母性看護学の視点で考える科目なので、基本的知識を復習しておくことが必要です。また、「解剖生理学 B」の知識も必要なので復習しておくことが必要です。そして、テキストを開いて、目次を見て気になるところを読んでおくと、講義がわかりやすいと思います。		

受講者への要望

少子高齢化社会の中で、次の世代を担う母子の健康への支援は重要な社会的課題となっています。具体的には、出生数の減少、子育て不安、子どもの虐待、地域における子育て機能の脆弱化などが指摘されています。女性や家族が安心して子どもを生み育てることができる環境づくりは、現代に必要とされています。そのため、少子化による影響や子育て支援、産科医療を取り巻く問題など、最近のニュースやマスコミで取り上げられる話題にも関心を持ってほしいと思います。母性看護学を学ぶことで、母子とその家族への看護だけでなく、自分自身の今後のパートナーとの関係やライフスタイルを考える機会となることを期待します。

講義の順序とポイント

１．母性看護の対象と、母性看護学の基礎となる概念　4/12(火）③
２．母性のライフサイクルと発達課題、母性・父性の発達と親役割　4/19（火）③
３．日本の母子保健統計の動向と母性看護に関する法律　4/26（火）③
４．国際化社会と母性看護　5/10（火）③
５．思春期の健康と看護　5/17（火）③
６．成熟期、更年期、老年期の看護　5/24（火）③
７．リプロダクティブ・ヘルス／ライツ①ＨＩＶ感染の女性への看護、人工妊娠中絶と看護、喫煙女性の健康と看護　5/31（火）③
８．リプロダクティブ・ヘルス／ライツ② 性暴力・ＤＶ(ドメステック・バイオレンス)を受けた女性への看護、人間の性と生殖における倫理的課題　6/1（水）①

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J90034001
科目名	成長発達Ⅴ（心の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅴ: Psychiatric Nursing		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	精神性的発達論・精神力動論・ライフサイクル理論における発達課題と病理について理解する。精神性的発達論・精神力動理論においては、自我機能、防衛機制、心的装置、パーソナリティの発達における病理を、ライフサイクル理論においては、生まれてから死に至るまでの一生のプロセス（人生周期）における危機、発達課題と病理を理解し、『人間』と『環境』の看護のパラダイムから、人間の生涯の発達成長を理解することができる。また、学修者自身の過去－現在－未来における自己洞察の一助とする。		
教材（テキスト）	『精神看護学』　（南江堂）　野田文隆、萱山真美　3,000 円		
教材（参考文献）	授業の中で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内テスト、出席表の平常点（20%）、レポート（30%）、定期試験（50%）		
到達目標	1．精神性的発達論・精神力動論の概要と臨床への応用について理解できる。 2．ライフサイクル理論における発達課題について具体的に挙げることができる。 3．発達過程の規則性と各発達課題における病理を理解できる。 4．これらの理論を学ぶことにより、学習者自身の過去－現在－未来における自己洞察の一助となる。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲をテキストで指定するので、一読しておく。		
受講者への要望			
1．授業中は携帯・スマホを使用しない。また、電源を切っておく。 2．私語を謹み、質問、不明瞭な点があれば、挙手し、発言する。			
講義の順序とポイント			
1．精神性的発達論 2．無意識と精神的諸力　心的装置（イド・超自我・自我） 3．パーソナリティ論、葛藤、性格．防衛機制 4．ライフサイクル理論の概要 5．乳幼児期、児童期の発達課題と病理 6．青年期の発達課題と病理 7．成人期の発達課題と病理 8．成熟期の発達課題と病理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90035001
科目名	日常生活基盤と看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	岡田　朱民	旧科目名称	
講義概要	看護活動の基本となる看護技術の中で日常生活援助技術を取り上げ、対象となる人の基本的ニーズを充足するための看護援助の基本的な方法およびその原理を学ぶ。看護実践に共通の基盤となる対象の安全性、安楽性、自立性、倫理性を考慮しつつ、既習の形態機能・生理学的知識に基づき、科学的根拠を用いた考え方を身につける。具体的には、活動・休息の援助、療養環境や清潔を整えるための援助、排泄を整えるための援助に関わる技術の習得を目指す。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円		
教材（参考文献）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	1．試験（90%）<筆記試験（45%）および実技試験（45%）> 2．演習記録の提出状況及び内容（10%）		
到達目標	1．看護技術の概念と意義が理解できる。 2．日常生活活動の概念及び支援する意義が理解できる。 3．エビデンスに基づいた安全、安楽な看護技術を提供するための基本原理を理解できる。 4．看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる。 5．ｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、対象者に適した看護技術の提供について検討できる。		
準備学習	既習科目「看護学概論」で学んだ看護の定義や理論、健康の概念を十分理解しておく。		

受講者への要望

1．シラバスを確認し、講義・演習に関連したテキスト及び参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
3．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

講義の順序とポイント

1．看護技術の意義と構造（講義）
2．看護に共通する基本技術（1）コミュニケーション（講義）
3．看護に共通する基本技術（2）生活環境の調整（講義）
4．看護に共通する基本技術（2）ベッドメーキング（演習）
5．看護に共通する基本技術（3）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義）
6．看護に共通する基本技術（3）バイタルサイン測定（演習）
7．看護に共通する基本技術（4）姿勢と体位（講義）
8．看護に共通する基本技術（4）体位変換（演習）
9．看護に共通する基本技術（4）移動と移送（演習）
10．日常生活の援助技術（1）清潔の援助（講義）
11．日常生活の援助技術（1）寝衣交換（演習）
12．日常生活の援助技術（1）全身清拭（演習）
13．.日常生活の援助技術（1）洗髪（演習）
14．日常生活の援助技術（2）排泄の援助（講義）
15．日常生活の援助技術（2）排泄介助（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2016	授業コード	J90035002
科目名	日常生活基盤と看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	岡田　朱民	旧科目名称	
講義概要	看護活動の基本となる看護技術の中で日常生活援助技術を取り上げ、対象となる人の基本的ニーズを充足するための看護援助の基本的な方法およびその原理を学ぶ。看護実践に共通の基盤となる対象の安全性、安楽性、自立性、倫理性を考慮しつつ、既習の形態機能・生理学的知識に基づき、科学的根拠を用いた考え方を身につける。具体的には、活動・休息の援助、療養環境や清潔を整えるための援助、排泄を整えるための援助に関わる技術の習得を目指す。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円		
教材（参考文献）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	1．試験（90%）<筆記試験（45%）および実技試験（45%）> 2．演習記録の提出状況及び内容（10%）		
到達目標	1．看護技術の概念と意義が理解できる。 2．日常生活活動の概念及び支援する意義が理解できる。 3．エビデンスに基づいた安全、安楽な看護技術を提供するための基本原理を理解できる。 4．看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる。 5．ｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、対象者に適した看護技術の提供について検討できる。		
準備学習	既習科目「看護学概論」で学んだ看護の定義や理論、健康の概念を十分理解しておく。		

受講者への要望

1．シラバスを確認し、講義・演習に関連したテキスト及び参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
3．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

講義の順序とポイント

1．看護技術の意義と構造（講義）
2．看護に共通する基本技術（1）コミュニケーション（講義）
3．看護に共通する基本技術（2）生活環境の調整（講義）
4．看護に共通する基本技術（2）ベッドメーキング（演習）
5．看護に共通する基本技術（3）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義）
6．看護に共通する基本技術（3）バイタルサイン測定（演習）
7．看護に共通する基本技術（4）姿勢と体位（講義）
8．看護に共通する基本技術（4）体位変換（演習）
9．看護に共通する基本技術（4）移動と移送（演習）
10．日常生活の援助技術（1）清潔の援助（講義）
11．日常生活の援助技術（1）寝衣交換（演習）
12．日常生活の援助技術（1）全身清拭（演習）
13．.日常生活の援助技術（1）洗髪（演習）
14．日常生活の援助技術（2）排泄の援助（講義）
15．日常生活の援助技術（2）排泄介助（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	J90036001
科目名	公衆衛生看護学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Health Nursing		
担当者名	畑下　博世	旧科目名称	
講義概要	公衆衛生看護活動の歴史的変遷を知った上で、公衆衛生看護と地域社会との関連を考え、公衆衛生看護活動の必要性と役割を理解する。地域で生活する人々の健康課題や、健康問題の解決に向けたヘルスケアシステムについて学び、システムが円滑に機能するための看護職の役割について学修する。また、公衆衛生看護活動の対象や活動の場所といった、個人、家族、集団、地域の特徴を知り、対象に応じた基本的な看護展開について学修する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』　（厚生労働統計協会）　2,500 円		
教材（その他）	授業で適宜提示する。		
評価方法	中間筆記試験（50%）、最終筆記試験（50%）		
到達目標	１．公衆衛生看護の活動領域と対象の特徴について説明できる。 ２．生活者である対象への健康支援の意義について説明できる。 ３．保健活動における法律や施策の重要性について説明できる。 ４．健康の保持増進に向けた公衆衛生看護の役割について考えることができる。 ５．国際社会における保健の意義と看護の役割について考えることができる。 ６．保健活動に必要な最新の情報を調べ、自身の見解を述べることができる。		
準備学習	既修の「公衆衛生学」「社会保障論」の内容をよく復習しておくように。また、本科目は保健師課程のための学修というだけでなく、看護師として公衆衛生活動にいかに参画するかを考える科目であるので、「看護学概論」で学んだ看護の定義、看護の役割をもとに、自身の意見をのべられるよう準備しておくように。		
受講者への要望			
ライフサイクルを通して健康増進や予防対策が実施され、社会情勢などの変化に応じて、その内容も変化する。いつも環境、看護、健康増進、予防を意識しながら他の講義や本講義に臨むように。			
講義の順序とポイント			
１．公衆衛生と公衆衛生看護の役割や機能 ２．公衆衛生看護の歴史（その１国内） ３．公衆衛生看護の歴史（その２国外） ４．公衆衛生看護活動の場（保健所・市町村保健センター）とその特性 ５．プライマリーヘルスケア ６．ヘルスプロモーション ７．公衆衛生看護活動と地域 ８．公衆衛生看護活動と関連法規 ９．公衆衛生看護と母子保健活動 １０．公衆衛生看護と成人・高齢者保健活動 １１．公衆衛生看護と多文化共生 １２．障がい者対策 １３．精神保健対策 １４．感染症対策 １５．歯科保健対策・健康危機管理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J90037001
科目名	看護体験実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Clinical Practice Ⅰ		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	早期体験実習として看護の実際を体験的に学ぶことを通して、看護の対象者やその人をめぐる環境、また看護職者の役割や機能への理解を深める。看護を実践者として必要な基本的態度を身につけるとともに、看護を学ぶ動機づけを図る。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 看護学概論』　（医学書院）2015　茂野香：かおる他著 『看護の基本となるもの』　（日本看護協会出版社）2015　ヴァージニア・ヘンダーソン著 、湯槙ます訳 『対訳 看護覚え書』　（うぶすな書院）2015　フローレンス・ナイチンゲール著、小林章夫他訳 『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ』　（メヂカルフレンド社）　深井喜代子編集		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常点態度(40%)。 実習前レポート(10%) 実習後の記録とレポート提出と内容の評価(50%)。		
到達目標	1）施設の構造と機能、理念を学び、その中で看護専門職者がどのように機能しているかを知る。 2）看護活動の実際を体験し、看護の役割と機能を知る。 3）看護の対象者の療養環境を見学し、療養を受ける人の生活や思いについて知る。 4）臨地実習場面で看護学生として適切な行動がとれ、主体的に学習することができる。		
準備学習	実習のオリエンテーション内容をよく理解しておく 健康状態を整えておく 実習の自己目標や事前学習をまとめて提出する		

受講者への要望

1）実習に対する態度として健康状態に注意を払い、感染予防行動をとる。
2）遅刻や欠席につて実習施設に必ず連絡すし、対応する。
3）臨地実習では、対象者への安全な行動、秘守義務行動をとる。
4）実習出席日数は単位認定するには 80%であるため、欠席しないように自己管理する。
5）臨地実習場面では看護学生として礼節を重んじた行動をとる。
6）臨地実習では積極的な行動をとり、能動的に学習する。

講義の順序とポイント

【事前学習】（学内）
1．実習オリエンテーション
2．実習での課題を明確化し自己目標を立てる
3．実習中の注意事項を理解する

【実習期間のスケジュール】
1日目（学内）：臨地実習実施にあたってのオリエンテーション
2日目（臨地）：施設オリエンテーション（病院の概要・理念・構造、看護部の理念と組織）
病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、日課）

3日目（臨地）：対象者をとりまく環境の観察と看護活動への同行
4日目（臨地）：対象者とのコミュニケーションの体験、看護活動への同行
5日目（学内）：臨地での学びについてのグループ討議、合同カンファレンス、レポート作成

【事後学習】（学内）
1．実習で見学・体験した内容についてグループで討論する
2．実習で見学・体験した内容についてレポートをまとめる
3．実習における自己評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	J90038001
科目名	高齢者生活体験実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Gerontological Health Care Nursing: Clinical Practice		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	健康な高齢者や健康障害を持ちながらも地域で暮らす高齢者とのコミュニケーションや触れ合いを通して、食事や入浴、さらに一日の過ごし方などの基本的な日常生活の有り様や家族や社会とのつながりなどを知り、高齢者の多様性と個別性について具体的に理解し、地域やそこに住む人々が果たす役割について学修する。さらに、高齢者の人生の歩みを知りその歩みが今の高齢者にどのように影響をしているか、そしてその高齢者にとって幸せとは何か、どのように支援をすれば良いのかなどについて思考する能力を身につける。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』　（医学書院）　北川公子　2,600 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実習内容・態度・記録・カンファレンスへの参加度やその内容から評価表にそって行う。 評価表の各評価項目について評価し、その合計を最終評価とする。		
到達目標	1．実習した高齢者施設の理念、機能、特徴を学び、高齢者支援の在り方について考えることができる。 2．日常生活援助の実際を見学し、高齢者の生活援助について考えることができる。 3．高齢者の心身の加齢に配慮したコミュニケーションを工夫することができる。 4．コミュニケーションを通して高齢者の多様性と個別性を具体的に理解し、その高齢者にとっての幸せについて考えることができる。		
準備学習	1．系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院　：P346～358 の該当ページ 2．高齢者施設（特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・ケアハウス）の特徴について 3．高齢者のコミュニケーションの特徴（障害）と関わり方について 4．高齢者への生活援助（移動・食事・清潔・排せつ）について 5．高齢者の加齢変化について		
受講者への要望			
笑顔でのあいさつを心がけましょう。あまり緊張せず、高齢者の方たちとゆっくり、楽しいひと時を過ごしてください。			
講義の順序とポイント			
1．実習 1 日目（月）：学内オリエンテーション＜実習目的・目標の確認、実習スケジュールの説明、実習記録の記述上の注意、カンファレンスの持ち方、欠席、その他アクシデント発生時の注意＞ 2．実習 2 日目（火）：臨地実習＜施設オリエンテーション、施設見学、カンファレンス、ミーティング、記録＞ 3．実習 3 日目（水）：臨地実習＜看護師・介護士の生活援助見学、参加、カンファレンス、ミーティング、記録＞ 4．実習 4 日目（木）：臨地実習＜看護師・介護士の生活援助見学、参加、高齢者とのコミュニケーション、カンファレンス、ミーティング、記録＞ 5．実習 5 日目（金）：学内最終日＜グループ討議、最終カンファレンス、討議内容の共有、記録提出＞			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	J90039001
科目名	小児発達支援実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Child Developmental Nursing: Clinical Practice		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	健康な乳幼児の身体的成長および精神発達の特徴と生活について学び、各発達段階における子どもの日常生活を構成する要素の特徴について、周囲のあらゆる環境側面から考察する。また、乳幼児保育の現場に参加し、その実際を経験し、子どもとの相互関係を通して、健康な乳幼児の身体的成長および精神発達と保育機能（保育の重要性及び役割）との関連と、大人としての子どもへのかかわり方を考える機会とする。グループ単位で保育施設にて 1 週間の実習を行う。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学①　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円		
教材（参考文献）	『看護のための人間発達学』　（医学書院）　舟島なをみ　3,000 円 『0 歳～6 歳　子どもの発達と保育の本』　（学習研究社）　河原紀子　1,700 円 『新保育学』　（南山堂）　岡野雅子　1,900 円		
教材（その他）			
評価方法	4 / 5 以上の出席を原則とし、実習内容・態度・記録をもとに実習評価表に基づき総合的に評価する。 課題レポートを含む実習目標に対する到達度（80%）、実習参加態度（20%）		
到達目標	1．保育現場に参加し、健康な子どもの成長発達と保育機能との関連を考える。 2．子どもの日常生活を構成する要素の特徴を考察することができる。 3．子どもへの有効なコミュニケーションを模索し、がむしゃらに子どもと楽しむことができる。 4．子どもにとっての遊びの重要性を理解し、遊びが生活の中心であることを実感する。 5．子どもとの相互関係の中で、人間や生活に対しての好奇心、感受性を高める。		
準備学習	成長発達 I（小児の健康と看護）での講義内容を基本に、実習で必要となる以下の項目について調べておくこと。 1．小児の成長発達過程 2．成長発達のアセスメント方法について（デンバー式、津守式他） 3．遊びの発達 4．発達段階に応じた遊びの種類と玩具 5．乳幼児期（0 歳～5 歳）の特徴、集団保育について、参考文献を熟読して実習に参加すること。		

受講者への要望

小児発達支援実習は､保育施設での実習である｡健康管理に十分留意し､体調を整えて実習に参加すること｡また実習中の RECOVER の方法に留意すること。常日頃から、生活をコントロールし、体力・精神力を鍛えておくこと。
子ども達と一緒に行動することになるので、服装は、動きやすい格好、汚れてもよいもの、洗濯のきくものを準備すること。着替えを用意しておくこと。

講義の順序とポイント

1．　実習 1 日目：実習オリエンテーション
2．　実習 2 ～ 4 日目：各グループごとに「保育園」で、遊びや設定保育への参加を通して子どもと関わり、 コミュニケーションをとるとともに、子ども同士の関わりを観察する。また、乳幼児の生活場面の観察と日常生活の世話を実践するとともに、乳幼児の反応や保育士の関わりを観察する。 ※日々の実習記録を記載する中で、学習内容の整理をする。

3．実習 5 日目：カンファレンス（学内）
受け持ちクラスの基本的な発育（身体、情緒、社会性の発達など）の特徴、目の当たりにした子どもの能力のす ばらしさ、保育の重要性と保育者の資質との関係などを自由に発表、ディスカッションし、理解を深める。　　※実習中の自分と子どもの関わりの具体的場面を振り返り、「子どもへのかかわり方」を考察し実習記録に記す。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	J90040001
科目名	疾病病態学と看護Ⅰ(成人慢性期疾患)	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅰ: Chronic Nursing		
担当者名	前川　直美	旧科目名称	
講義概要	成人期に見られる代表的疾患の成り立ちと、疫学、成因、病態・おもな症状、検査、診断、治療、予後について学修するとともに、学修した疾患の概要を踏まえた上で、患者の治療・回復過程において、日常生活がどのように障害されるかを考え、必要な看護援助の基礎について学修する。本講義では、呼吸器系疾患、循環器系疾患、血液・造血器系疾患、糖尿病・代謝性疾患、腎・泌尿器系疾患のうち、内科的治療を必要とする代表的疾患と看護について学修する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　成人看護学[1]』　(医学書院)　小松浩子　2,300 円 『系統看護学講座　成人看護学[2]』　(医学書院)　浅野浩一郎　2,400 円 『系統看護学講座　成人看護学[3]』　(医学書院)　吉田俊子　2,400 円 『系統看護学講座　成人看護学[4]』　(医学書院)　飯野京子　1,600 円 『系統看護学講座　成人看護学[5]』　(医学書院)　松田明子　2,700 円 『系統看護学講座　成人看護学[6]』　(医学書院)　黒江ゆり子　2,100 円 『系統看護学講座　成人看護学[8]』　(医学書院)　大東貴志　2,300 円		
教材（参考文献）	スライド		
教材（その他）	配布資料		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	主な内科的疾患の病態と治療を理解した上で、看護について考察する。		
準備学習	医学書院の系統看護学講座成人看護学を読んで、あらかじめ、全体像を把握しておくこと。		

受講者への要望

内科学の全体像を自習も含めて、よく理解すること。

講義の順序とポイント

1．呼吸器感染症　(金子)：4/13（水）①
2．喘息・COPD　(高山)：4/27（水）⑤
3．肺癌　(竹村)：4/27（水）①
4．消化管疾患　(古倉)：5/10（火）①
5．肝臓・胆道・膵臓疾患　(古倉)：5/17（火）①
6．血液疾患の症状、検査について　(黒田)：5/24（火）①
7．白血病、紫斑病、DIC その他の血液疾患　(黒田)：5/31（火）①
8．高血圧・虚血性心疾患　(白山)：6/8（水）①
9．心不全・不整脈　(白山)：6/15（水）①
10．代謝疾患　(田中)：6/23（木）⑤
11．甲状腺・副甲状腺疾患　(田中)：6/30（木）⑤
12．泌尿器疾患の症状と検査　(本郷)：7/6（水）①
13．泌尿器癌の診断と治療　(本郷)：7/13（水）①
14．慢性疾患の特徴と看護　(前川)：7/19（火）①
15．セルフケア・自己管理支援と社会的支援の獲得への援助　(前川)：7/26（火）①

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J90041001
科目名	疾病病態学と看護Ⅱ（成人急性期疾患）	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅱ: Critical Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	本講義では、成人期にみられる主な外科的治療を必要とする疾患の成り立ちと、疫学、成因、病態、おもな症状、検査、治療、予後を理解すると共に、治療・回復過程において必要な看護技術の基礎を学修する。具体的には疾患や外科的治療が患者の日常生活にどのような障がいをもたらすのかを考えた上で、手術による生体侵襲のメカニズムと術前・術中・術後管理とショック、手術が必要な消化器系疾患、循環器系疾患、内分泌系疾患について学修する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　成人看護学「５」消化器』　（医学書院）　松田明子　2,700 円 『系統看護学講座　成人看護学「３」循環器』　（医学書院）　吉田俊子　2,400 円 『系統看護学講座　成人看護学「６」内分泌・代謝』　（医学書院）　黒江ゆり子　2,100 円 『系統看護学講座　成人看護学「９」女性生殖器』　（医学書院）　池田正　2,300 円 『周手術期看護論第３版』　（ヌーベルヒロカワ）　雄西智恵美、秋元典子　2,400 円		
教材（参考文献）	適時提示する		
教材（その他）	プリント・スライド		
評価方法	定期試験（90% ）、レポート（10%）		
到達目標	１．手術療法が患者に与える影響を理解できる。 ２．手術適応となる代表的な疾病と適応手術について理解する。 ３．術前、術中、術後看護の特徴を理解する。 ４．回復過程での早期離床の重要性を理解する。		
準備学習	事前に解剖生理学を復習し、テキストを予習しておくこと		

受講者への要望

テキストは複数あるので、予習をしながら、テキストの確認をして臨んでほしい。

講義の順序とポイント

１．手術侵襲に伴うに対する生体反応と回復過程　（天谷）：4/8（金）②
２．麻酔の基礎知識と全身管理　（天谷）：4/22（金）①
３．麻酔の基礎知識と全身管理　（天谷）：4/22（金）②
４．術後合併症の予防　（天谷）：5/6（金）②
５．消化管手術（開腹手術と内視鏡手術）が生体に与える影響と回復過程　（塩﨑）：5/6（金）⑤
６．胃切除の術前術後管理　（塩﨑）：5/11（水）①
７．肝切除の術前術後管理　（塩﨑）：5/18（水）①
８．大腸手術の術前術後管理　（塩﨑）：5/25（水）①
９．開心手術の適応となる主な疾患の原因・誘因、開心手術が生体に与える影響や回復過程　（池本）：6/22（水）①
１０．開心術後の合併症予防　（池本）：6/29（水）①
１１．乳がん手術における術前・術後管理　（阪口）：6/24（金）②
１２．乳がん手術における手術術式・再建術式の適応について　（阪口）：7/1（金）②
１３．手術期看護の考え方　（山田）：7/8（金）②
１４．周手術期にある人の特徴と理解　（山田）：7/15（金）②
１５．周手術期にあるへの看護援助　（山田）：7/22（金）②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J90042001
科目名	疾病病態学と看護Ⅲ（老年期疾患）	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅲ: Geriatric Nursing		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	本講義では、加齢に伴う身体的、精神的、社会的機能の変化や、老年期における疾病の経過や特徴について理解する。さらにパーキンソン病や骨粗しょう症・骨折、認知症などについて学修する。これら代表的な疾患の成り立ちと病態・おもな症状、検査、治療を理解するとともに、高齢者の治療・回復過程と日常生活の関係を考え、看護援助の基礎についても理解する。具体的には、神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患について学修する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論』　（医学書院）　佐々木英忠　2,200 円		
教材（参考文献）	それぞれの担当講師から説明。		
教材（その他）			
評価方法	それぞれの担当講師の出題による定期テスト		
到達目標	１．基本的な身体的・精神的・社会的機能の加齢変化について理解できる。 ２．高齢期の神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患の特徴的な病態生理、診断・治療方法が理解できる。 ３．高齢期に多発する神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患それぞれの治療・回復期における看護援助のあり方について理解できる。		
準備学習	受講前に教科書の該当ページを一読しておくこと。		

受講者への要望

高齢期に特徴的な病態生理について高い関心を持ち、積極的に学んでください。

講義の順序とポイント

１．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜パーキンソン氏病＞（吉田）9/28（水）④
２．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜パーキンソン氏病＞（吉田）9/28（水）⑤
３．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜脳卒中、骨粗鬆症、骨折＞（笠井）10/5（水）④
４．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜脳卒中、骨粗鬆症、骨折＞（笠井）10/5（水）⑤
５．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜認知症＞（水田）10/12（水）④
６．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜認知症＞（水田）　10/12（水）⑤
７．高齢期の代表的な運動器系疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜転倒、骨折、合併症＞　（井上）　10/19（水）④
８．高齢期の代表的な運動器系疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜転倒、骨折、合併症＞　（井上）　10/19（水）⑤
９．高齢期の代表的な運動器系疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜転倒、骨折、合併症＞　（井上）　10/26（水）④
１０．高齢期の代表的な感覚器系疾患の発生機序、病態、診断、治療
　＜白内障、緑内障、視覚障害＞　（米田）　11/1（火）②
１１．高齢期の代表的な感覚器系疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜老人性難聴と加齢による嚥下障害＞　（久）11/9（水）①
１２．高齢期の代表的な神経系、運動器系、感覚器系疾患が、高齢者に与える身体的変調とアセスメントの視点
　＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　（中野）　11/16（水）①
１３．高齢期の代表的な神経系、運動器系、感覚器系疾患が、高齢者に与える身体的変調とアセスメントの視点
　＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　（中野）　11/23（水）①
１４．高齢期の代表的な神経系、運動器系、感覚器系疾患が、高齢者に与える身体的変調とアセスメントの視点
　＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　（中野）　11/30（水）①
１５．高齢期の代表的な神経系、運動器系、感覚器系疾患が、高齢者に与える身体的変調とアセスメントの視点

＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　　（中野）　12/7（水）①

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J90043001
科目名	疾病病態学と看護Ⅳ（小児・母性）	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅳ: Pediatric and Maternal Nursing		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	本講義では、妊娠・分娩・産褥期の正常と異常、出生前診断や不妊治療について学修する。そして、代表的な女性生殖器疾患の成り立ちと成因、病態、主な症状、検査、治療、予後を理解するとともに、治療・回復過程における看護援助の基礎についても理解する。また、新生児期の異常、小児期における代表的な疾患の成り立ちと成因、病態、主な症状、検査、治療、予後を理解するとともに、治療・回復過程における看護援助の基礎についても理解する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（１）　母性看護学概論』　（医学書院）　森恵美　2,400 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学（１）　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学（２）　小児看護学各論』　（医学書院）　奈良間美保　3,300 円 『子どもの病気の地図帳』　（講談社）　鴨下重彦、柳沢正義　4,000 円		
教材（参考文献）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　女性生殖器』　（医学書院）　末岡浩　2,300 円		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（100％）で評価する。		
到達目標	１．妊娠期、分娩期、産褥期の異常、合併症、不妊の治療について理解できる。 ２．生殖器系の不正出血、子宮内膜症、性感染症など代表的疾患の成因、発生機序、予防、病態、症候、診断、治療について理解できる。 ３．女性生殖器疾患と不妊治療における治療・回復過程における看護援助の基礎について理解する。 ４．新生児・小児の異常と小児に起こりやすい疾患に関する十分な知識とその看護について身につける。		
準備学習	この科目は、解剖生理学の知識を基本に講義をすすめるため、講義単元に関わる身体の構造と機能、とくに小児および母性の身体的特徴を復習して、講義にのぞむこと。講義受講前には、テキストを熟読しておくこと。「成長発達Ⅰ（小児の発達と看護）」「成長発達Ⅳ（女性の生涯発達と看護）」「母性看護学援助論」「小児看護学援助論」の授業も関連が深いので、受講前に復習しておいてください。		
受講者への要望			
今日の産科医療を取り巻く問題や新聞記事などにも関心をもって見聞すると、学習により興味がもてるので、積極的な学習を期待します。私語を厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。			
講義の順序とポイント			
１．妊娠の成立と異常（多胎妊娠、子宮外妊娠）と出生前診断　（藁谷）：9/28（水）③ ２．不妊症と不妊治療　（藁谷）：10/5（水）③ ３．妊娠の異常（流産、早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病）　（藁谷）：10/12（水）③ ４．妊娠の異常（感染症、前置胎盤、常位胎盤早期剥離）　（藁谷）：10/19（水）③ ５．分娩の異常（胎児機能不全、帝王切開術、吸引分娩術）　（藁谷）：10/26（水）③ ６．生殖器系の不正出血、子宮内膜症、性感染症　（藁谷）：11/2（水）③ ７．女性生殖器系疾患患者の看護について　（杉山）：11/9（水）③ ８．不妊治療を受ける患者の看護　（杉山）：11/30（水）③ ９．小児科学総論・血液・腫瘍　（石丸）：9/23（金）② １０．感染症・呼吸器（松尾）：9/30（金）② １１．アレルギー・腎臓・ワクチン　（上原）：10/7（金）② １２．先天異常・代謝・内分泌　（松尾）：10/14（金）② １３．循環器・神経・消化器　（松尾）：10/28（金）② １４．発達障害と看護　（今西）：11/4（金）② １５．子どもの虐待と看護　（今西）：11/11（金）②		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90044001
科目名	ヘルスアセスメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Health Assessment		
担当者名	堀井　たづ子	旧科目名称	
講義概要	看護を科学的に実践するために不可欠なヘルスアセスメントについて理解し、必要な技術を修得する。看護師が行う身体診察の特性を踏まえて、看護におけるヘルスアセスメントの意義を確認し、看護実践における情報収集と観察の方法、留意点について学ぶ。また、身体面の系統的な観察だけでなく、それに付随した心理・社会面の観察の重要性を学び、看護理論を援用して看護の対象の健康問題を導く情報分析のための思考を養うことをねらいとする。呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系についての健康歴の聴取と診察技術を講義と演習を交えて学び、それに加えて事例を用いて看護の対象を総合的にアセスメントする演習を行う。		
教材（テキスト）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学（２）ヘルスアセスメント』　（メディカ出版）　松尾ミヨ子、志自岐康子、城生弘美　3,400 円		
教材（参考文献）	解剖生理学 A、B のテキスト 『系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔２〕　基礎看護技術Ⅰ』　（医学書院）　有田清子　2,600 円 『フィジカルアセスメント　ナースに必要な診断の知識と技術　第４版』（医学書院）　日野原重明　3,200 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。 プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（90%）：筆記試験（45%）および実技試験（45%） ２．演習記録の提出状況（10%）		
到達目標	１．看護におけるヘルスアセスメントの意義を理解できる。 ２．基本的な観察・診査手技を修得できる。 ３．得られた身体情報を人体の構造と機能に基づきアセスメントできる。		
準備学習	既修科目「解剖生理学 A、B」で学ぶ人体の構造と機能、「日常生活基盤と看護」で学ぶ看護技術の特徴を十分復習し、理解しておく。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加してください。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、修得度を向上させてください。

講義の順序とポイント

１．看護におけるヘルスアセスメントの意義・健康歴の聴取（講義）：堀井
２．看護に活かすフィジカルアセスメント（１）：全身・頭部の聴取と診察技法（講義）：堀井
３．全身・頭部の聴取と診察技法（演習）：堀井、和田、岡田
４．看護に活かすフィジカルアセスメント（２）：呼吸器系（講義）：堀井
５．呼吸音聴取と呼吸のアセスメント（演習）：堀井、和田、岡田
６．看護に活かすフィジカルアセスメント（３）：循環器系（講義）：堀井
７．心音聴取と循環のアセスメント（演習）：堀井、和田、岡田
８．看護に活かすフィジカルアセスメント（４）：消化器系（講義）：堀井
９．消化器系聴取と栄養のアセスメント（演習）：堀井、和田、岡田
１０．看護に活かすフィジカルアセスメント（５）：神経・運動器系（講義）：堀井

１１．神経・運動のアセスメント（演習）：堀井、和田、岡田
１２．総合演習（１）：問診・視診（演習）：堀井、和田、岡田
１３．総合演習（２）：身体各部の聴診・触診・打診（演習）：堀井、和田、岡田

１４．総合演習（3）：情報の分析（演習）：堀井、和田、岡田
１５．看護過程につながるヘルスアセスメント（講義）：堀井

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90044002
科目名	ヘルスアセスメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Health Assessment		
担当者名	堀井　たづ子	旧科目名称	
講義概要	看護を科学的に実践するために不可欠なヘルスアセスメントについて理解し、必要な技術を修得する。看護師が行う身体診察の特性を踏まえて、看護におけるヘルスアセスメントの意義を確認し、看護実践における情報収集と観察の方法、留意点について学ぶ。また、身体面の系統的な観察だけでなく、それに付随した心理・社会面の観察の重要性を学び、看護理論を援用して看護の対象の健康問題を導く情報分析のための思考を養うことをねらいとする。呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系についての健康歴の聴取と診察技術を講義と演習を交えて学び、それに加えて事例を用いて看護の対象を総合的にアセスメントする演習を行う。		
教材（テキスト）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学（２）ヘルスアセスメント』　（メディカ出版）　松尾ミヨ子、志自岐康子、城生弘美　3,400 円		
教材（参考文献）	解剖生理学 A、B のテキスト 『系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔２〕　基礎看護技術Ⅰ』　（医学書院）　有田清子　2,600 円 『フィジカルアセスメント　ナースに必要な診断の知識と技術　第４版』（医学書院）　日野原重明　3,200 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。 プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（90%）：筆記試験（45%）および実技試験（45%） ２．演習記録の提出状況（10%）		
到達目標	１．看護におけるヘルスアセスメントの意義を理解できる。 ２．基本的な観察・診査手技を修得できる。 ３．得られた身体情報を人体の構造と機能に基づきアセスメントできる。		
準備学習	既修科目「解剖生理学 A、B」で学ぶ人体の構造と機能、「日常生活基盤と看護」で学ぶ看護技術の特徴を十分復習し、理解しておく。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加してください。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、修得度を向上させてください。

講義の順序とポイント

１．看護におけるヘルスアセスメントの意義・健康歴の聴取（講義）：堀井
２．看護に活かすフィジカルアセスメント（１）：全身・頭部の聴取と診察技法（講義）：堀井
３．全身・頭部の聴取と診察技法（演習）：堀井、和田、岡田
４．看護に活かすフィジカルアセスメント（２）：呼吸器系（講義）：堀井
５．呼吸音聴取と呼吸のアセスメント（演習）：堀井、和田、岡田
６．看護に活かすフィジカルアセスメント（３）：循環器系（講義）：堀井
７．心音聴取と循環のアセスメント（演習）：堀井、和田、岡田
８．看護に活かすフィジカルアセスメント（４）：消化器系（講義）：堀井
９．消化器系聴取と栄養のアセスメント（演習）：堀井、和田、岡田
１０．看護に活かすフィジカルアセスメント（５）：神経・運動器系（講義）：堀井

１１．神経・運動のアセスメント（演習）：堀井、和田、岡田
１２．総合演習（１）：問診・視診（演習）：堀井、和田、岡田
１３．総合演習（２）：身体各部の聴診・触診・打診（演習）：堀井、和田、岡田

１４．総合演習（3）：情報の分析（演習）：堀井、和田、岡田
１５．看護過程につながるヘルスアセスメント（講義）：堀井

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90045001
科目名	看護過程	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Process		
担当者名	安齋　三枝子	旧科目名称	
講義概要	看護の目的を果たすために看護現象を的確に捉え、健康問題ならびに看護独自の問題を抽出し、その解決にあたる組織的な実践プロセスを修得する。ここでは既習の看護の定義と看護理論を対象に実践するため、系統的な看護現象の分析と問題解決に必要な思考を養う。さらに看護の科学性を支える看護過程の歴史的背景、看護診断、その限界についても理解する。具体的には事例を取り上げ、その健康段階および発達段階の情報を取扱いながら思考プロセスを学習する。		
教材（テキスト）	『看護過程学習ガイド　思考プロセスからのアプローチ』　（学習研究社）　斎藤悦子　2,500 円 『看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第 4 版』　（ヌーヴェルヒロカワ）　秋葉公子、江﨑フサ子、玉木ミヨ子、村中陽子　2,000 円 『新体系看護学全書 基礎看護学③　基礎看護技術Ⅰ』（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）深井喜代子 編集		
教材（参考文献）	『基本から学ぶ看護過程と看護診断 第 6 版,2008』　R.アルファロールフィーーヴァ.江本愛子監訳 その他適宜紹介する		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（90%）：筆記試験 ２．演習記録の提出状況（10%）		
到達目標	１．問題解決思考に基づいた看護過程の基本を修得できる。 ２．看護の理論的枠組みと看護過程の連携を理解できる。		
準備学習	既習科目「看護学概論」で学んだ看護の定義や看護の理論を再学習しておく。また、「日常生活基盤と看護」で学んだ看護技術を具体的に患者に適用することをふまえて、看護技術の特性について復習しておく。		
受講者への要望			
１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加してください。 ２．講義の進行に基づいて適宜課題を出しますので、主体的に学習し、必ず提出して学びを積み上げるようにしてください。			
講義の順序とポイント			
１．10/05（水）　講義　　１．看護過程とは ２．10/12（水）　講義　　２．問題解決思考とは ３．10/18（火）②　講義　　３．看護の視点で対象の情報を収集する ４．10/19（水）　講義　　４．看護過程の構成要素：アセスメント ５．10/26（水）　講義　　５．看護過程の構成要素：全体像と関連図 ６．11/02（水）　講義　　６．看護過程の構成要素：問題点抽出 ７．11/09（水）　講義　　７．看護過程の構成要素：計画立案 ８．11/16（水）　演習　　グループワーク１．アセスメント（１） ９．11/23（水）　演習　　グループワーク２．アセスメント（２） 10．11/30（水）　演習　　グループワーク３．関連図 11．12/07（水）　演習　　グループワーク４．看護問題リスト 12．12/14（水）　演習　　グループワーク５．計画立案（１） 13．12/21（水）　演習　　グループワーク６．計画立案（２） 14．1/10（水）　講義　　８．看護過程の構成要素：実施と評価 15．1/18（水）　講義　　９．看護過程と看護診断			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90046001
科目名	看護感染管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Infection Control Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	感染予防技術の基本であるスタンダードプリコーションの概念と具体的行動（マスク、ガウン、手袋等防護具の適用と使用法、手洗い法など）について理解し、感染性廃棄物の取り扱いとその意味、感染の拡大を防止するための方策、消毒、滅菌、無菌操作を学ぶ。無菌操作については、手洗い、ガウンテクニック、無菌手袋の着脱に関して演習を取り入れる。さらに、これら基礎的技術をもとに、無菌操作による導尿について、講義および演習にて修得する。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ』（メジカルフレンド社）深井希代子編		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（90%）　筆記試験（45%）および実技試験（45%） ２．演習記録の提出状況および内容（5%）		
到達目標	１．感染の概要および感染予防の意義を理解できる。 ２．無菌操作の基本原理に則った基本的技術を身につけることができる。 ３．感染予防における看護師の責務と役割、および感染症発生時の対応の基本的知識を理解できる。		
準備学習	既修科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「病理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加してください。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させてください。

講義の順序とポイント

１．9 月 26 日（月）①　感染の成立と感染予防概論（講義）
２．9 月 26 日（月）②　感染症の現状と対策（講義）
３．10 月 3 日（月）①　微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（1）（講義）
４．10 月 3 日（月）②　微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（2）（講義）
５．10 月 3 日（月）③　感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（1）（講義）
６．10 月 10 日（月）①　生体防御機構（1）（講義）
７．10 月 10 日（月）②　生体防御機構（2）（講義）
８．10 月 10 日（月）③　感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（2）（講義）
９．10 月 17 日（月）①　滅菌と消毒（講義）
１０．10 月 17 日（月）②　援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１１．10 月 17 日（月）③　援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１２．10 月 31 日（月）①　援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）

１３．10 月 31 日（月）②　援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）

１４．11 月 7 日（月）①　　援助技術の実際：導尿（演習）
１５．11 月 7 日（月）②　　援助技術の実際：導尿（演習）

12 月 19 日（月）③④　　実技試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J90046002
科目名	看護感染管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Infection Control Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	感染予防技術の基本であるスタンダードプリコーションの概念と具体的行動（マスク、ガウン、手袋等防護具の適用と使用法、手洗い法など）について理解し、感染性廃棄物の取り扱いとその意味、感染の拡大を防止するための方策、消毒、滅菌、無菌操作を学ぶ。無菌操作については、手洗い、ガウンテクニック、無菌手袋の着脱に関して演習を取り入れる。さらに、これら基礎的技術をもとに、無菌操作による導尿について、講義および演習にて修得する。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ』（メジカルフレンド社）深井希代子編		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（90%）　筆記試験（45%）および実技試験（45%） ２．演習記録の提出状況および内容（5%）		
到達目標	１．感染の概要および感染予防の意義を理解できる。 ２．無菌操作の基本原理に則った基本的技術を身につけることができる。 ３．感染予防における看護師の責務と役割、および感染症発生時の対応の基本的知識を理解できる。		
準備学習	既修科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「病理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加してください。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させてください。

講義の順序とポイント

１．9 月 26 日（月）①　感染の成立と感染予防概論（講義）
２．9 月 26 日（月）②　感染症の現状と対策（講義）
３．10 月 3 日（月）①　微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（1）（講義）
４．10 月 3 日（月）②　微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（2）（講義）
５．10 月 3 日（月）③　感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（1）（講義）
６．10 月 10 日（月）①　生体防御機構（1）（講義）
７．10 月 10 日（月）②　生体防御機構（2）（講義）
８．10 月 10 日（月）③　感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（2）（講義）
９．10 月 17 日（月）①　滅菌と消毒（講義）
１０．10 月 24 日（月）③　援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１１．10 月 24 日（月）④　援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１２．10 月 31 日（月）③　援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）

１３．10 月 31 日（月）④　援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）

１４．11 月 7 日（月）③　　援助技術の実際：導尿（演習）
１５．11 月 7 日（月）④　　援助技術の実際：導尿（演習）

12 月 19 日（月）③④　　実技試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J90047001
科目名	看護栄養管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Dietetic Management Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	岡田　朱民	旧科目名称	
講義概要	人間にとっての食事・栄養摂取の意義としくみ（各種栄養素の種類と生体内でのはたらき、エネルギー代謝、消化・吸収の生理的メカニズム）について学び、健康の維持・増進及び疾病回復・悪化予防のために必要な栄養管理に関する基本的知識を学ぶ。また、看護を必要とする人々の健康レベル及び食事行動の自立度に合わせた食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法について学ぶ。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能（3） 栄養学　（第 12 版)』　（医学書院）　小野章史他　1,900 円		
教材（参考文献）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（75%） ２．課題レポート及び演習記録の提出状況と内容（25%）		
到達目標	１．人間にとっての食事・栄養摂取の意義について理解できる。 ２．各種栄養素の種類及び生体内での働き、また消化・吸収の生理的メカニズムについて理解できる。 ３．食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法が理解できる。 ４．対象のｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、健康のレベル及び食事行動の自立度に合わせた援助方法について理解できる。		
準備学習	既習科目「解剖・生理学」「日常生活基盤と看護」で学んだ知識を復習し、十分理解しておくこと。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
３．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

講義の順序とポイント

１．食事と栄養摂取の意義（講義）
２．食欲と消化・吸収に関する生理的メカニズム（講義）
３．栄養素の種類と生体内での働き（講義）
４．栄養素と食事摂取基準（講義）
５．エネルギー代謝と栄養状態の評価（講義）
６．病態別食事療法（講義）
７．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（１）栄養素とエネルギー代謝（講義）
８．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（２）摂食・嚥下機能と消化・吸収機能（講義）
９．栄養状態のｱｾｽﾒﾝﾄの方法（講義）
１０．食事・栄養摂取に関する援助（演習）
１１．経口栄養の援助（演習）
１２．経口栄養の援助（演習）
１３．経管栄養の援助（講義）
１４．経管栄養の援助（演習）
１５．経管栄養の援助（演習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J90047002
科目名	看護栄養管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Dietetic Management Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	人間にとっての食事・栄養摂取の意義としくみ（各種栄養素の種類と生体内でのはたらき、エネルギー代謝、消化・吸収の生理的メカニズム）について学び、健康の維持・増進及び疾病回復・悪化予防のために必要な栄養管理に関する基本的知識を学ぶ。また、看護を必要とする人々の健康レベル及び食事行動の自立度に合わせた食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法について学ぶ。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能（3） 栄養学　（第 12 版)』　（医学書院）　小野章史他　1,900 円		
教材（参考文献）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（75%） ２．課題レポート及び演習記録の提出状況と内容（25%）		
到達目標	１．人間にとっての食事・栄養摂取の意義について理解できる。 ２．各種栄養素の種類及び生体内での働き、また消化・吸収の生理的メカニズムについて理解できる。 ３．食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法が理解できる。 ４．対象のｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、健康のレベル及び食事行動の自立度に合わせた援助方法について理解できる。		
準備学習	既習科目「解剖・生理学」「日常生活基盤と看護」で学んだ知識を復習し、十分理解しておくこと。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
３．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

講義の順序とポイント

１．食事と栄養摂取の意義（講義）
２．食欲と消化・吸収に関する生理的メカニズム（講義）
３．栄養素の種類と生体内での働き（講義）
４．栄養素と食事摂取基準（講義）
５．エネルギー代謝と栄養状態の評価（講義）
６．病態別食事療法（講義）
７．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（１）栄養素とエネルギー代謝（講義）
８．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（２）摂食・嚥下機能と消化・吸収機能（講義）
９．栄養状態のｱｾｽﾒﾝﾄの方法（講義）
１０．食事・栄養摂取に関する援助（演習）
１１．経口栄養の援助（演習）
１２．経口栄養の援助（演習）
１３．経管栄養の援助（講義）
１４．経管栄養の援助（演習）
１５．経管栄養の援助（演習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	J90048001
科目名	看護治療支援技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Treatment: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	本講義では、医薬品の薬理作用や体内動態、副作用などを理解することをとおした薬物治療、および臨床検査の基本を学修する。また、服薬、注射、点滴などによる薬物投与技術、および生体検査・検体検査などの臨床検査について学び、薬物療法および臨床検査に関する看護の基礎的能力を修得する。具体的には、経口および直腸内与薬法、各種注射法、輸液療法、誤薬防止のための方法、静脈血採血の技術に関する基礎的知識・技術を教授する。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子　3,100 円 『新体系看護学全書　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子　3,100 円		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	1．定期試験（90%）：筆記試験（45%）および実技試験（45%） 2．演習記録の提出状況および内容（10%）		
到達目標	1．医薬品の薬理作用や体内動態など、薬物療法の意義を理解できる。 2．看護の対象となる人々に、安全で適切な薬物療法を行うための基本的技術を身につけることができる。 3．薬物療法に関わる安全管理について述べることができる。 4．診断・検査を受ける人々への看護として、生体検査および検体検査に伴う援助を理解できる。		
準備学習	既習科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「薬理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講者への要望

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。

講義の順序とポイント

1．薬物治療の概要、薬理作用と薬物動態（講義）　（四方）：11/14(月)①
2．薬剤の種類と与薬方法、薬効に影響する因子（講義）　（四方）：11/14（月）②
3．主な医薬品概論（講義）　（四方）：11/21（月）①
4．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（1）（講義）　（和田）：11/21（月）②
5．臨床検査とは（1）（講義）　（藤田）：11/28(月)①
6．臨床検査とは（2）（講義）　（藤田）：11/28(月)②
7．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（2）（講義）
8．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（1）（演習）
9．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（2）（演習）
10．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（3）演習）
11．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（1）（演習）
12．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（2）（演習）
13．.診断・検査を受ける対象の看護（穿刺含む）（講義）
14．援助技術の実際：採血（1）（演習）
15．援助技術の実際：採血（2）（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J90048002
科目名	看護治療支援技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Treatment: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	本講義では、医薬品の薬理作用や体内動態、副作用などを理解することをとおした薬物治療、および臨床検査の基本を学修する。また、服薬、注射、点滴などによる薬物投与技術、および生体検査・検体検査などの臨床検査について学び、薬物療法および臨床検査に関する看護の基礎的能力を修得する。具体的には、経口および直腸内与薬法、各種注射法、輸液療法、誤薬防止のための方法、静脈血採血の技術に関する基礎的知識・技術を教授する。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子　3,100 円 『新体系看護学全書　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子　3,100 円		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	1．定期試験（90%）：筆記試験（45%）および実技試験（45%） 2．演習記録の提出状況および内容（10%）		
到達目標	1．医薬品の薬理作用や体内動態など、薬物療法の意義を理解できる。 2．看護の対象となる人々に、安全で適切な薬物療法を行うための基本的技術を身につけることができる。 3．薬物療法に関わる安全管理について述べることができる。 4．診断・検査を受ける人々への看護として、生体検査および検体検査に伴う援助を理解できる。		
準備学習	既習科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「薬理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講者への要望

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。

講義の順序とポイント

1．薬物治療の概要、薬理作用と薬物動態（講義）　（四方）：11/14(月)①
2．薬剤の種類と与薬方法、薬効に影響する因子（講義）　（四方）：11/14（月）②
3．主な医薬品概論（講義）　（四方）：11/21（月）①
4．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（1）（講義）　（和田）：11/21（月）②
5．臨床検査とは（1）（講義）　（藤田）：11/28(月)①
6．臨床検査とは（2）（講義）　（藤田）：11/28(月)②
7．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（2）（講義）
8．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（1）（演習）
9．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（2）（演習）
10．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（3）演習）
11．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（1）（演習）
12．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（2）（演習）
13．.診断・検査を受ける対象の看護（穿刺含む）（講義）
14．援助技術の実際：採血（1）（演習）
15．援助技術の実際：採血（2）（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	★

年度	2016	授業コード	J90049001
科目名	実践基礎看護学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Clinical Practice Ⅱ		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	臨地において、療養の場で生活する看護の対象者のニードを把握し、必要な看護援助を検討および実践する過程を学ぶ。既修の看護過程の思考プロセスを適用することで、臨床の現象を看護の視点でアセスメントする。そして、看護の対象者の持つ課題を解決するために必要な看護計画を立案し、計画に基づいた援助を安全・安楽に留意して実施、その結果を評価する。それに加え、看護専門職者としてふさわしい態度について考え、実践することを目指す。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 11 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』（メヂカルフレンド社）深井喜代子他編 『新体系看護学全書 12 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』（メヂカルフレンド社）深井喜代子他編 『看護の基本となるもの』（日本看護協会出版社）ヴァージニア・ヘンダーソン著　湯槙ます訳 『対訳　看護覚え書』（うぶすな書院）フローレンス・ナイチンゲール著　小林章夫他訳 『ナーシング・グラフィカ基礎看護学②　ヘルスアセスメント』（メディカ出版） 松尾ミヨ子,志自岐康子,城生弘美　編 『看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践』（ヌーヴェルヒロカワ） 秋葉公子,江﨑フサ子,玉木ミヨ子,村中陽子		
教材（参考文献）	『コミュニケーションと共に学ぶ基礎看護技術』（メディカルレビュー社）　大津廣子編		
教材（その他）	ナーシングスキル		
評価方法	平常点(40%)出席状況と態度 実習前レポート(10%) 実習後の記録とレポート提出と内容の評価(50%)		
到達目標	1）対象者の基本的ニードの充足に着目して情報を収集し、アセスメントできる。 2）対象者が持つ看護上の問題を抽出することができる。 3）取り上げた看護問題を解決するための目標設定と看護計画を立案できる。 4）対象者への援助を安全・安楽に実施し、その結果を評価できる。 5）対象者と良好な関係を築くことができる。 6）看護チームにおいて自己の果たすべき役割を理解し、行動することができる。		
準備学習	既修の「看護学概論」、「日常生活基盤と看護」、「ヘルスアセスメント」、「看護過程」、「看護感染管理技術論」、「看護栄養管理技術論」、「看護治療支援技術論」の知識・技術について復習しておく。また、「解剖生理学 A、B」、「疾病病態学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、「成長発達Ⅱ、Ⅲ」での学習内容を活用できるように準備しておく。		

受講者への要望

1）健康状態に注意を払い、感染予防行動をとる。
2）遅刻や欠席につて実習施設へ必ず連絡し、対応する。
3）臨地実習では、対象者への安全な行動、秘守義務行動をとる。
4）単位認定には 80%以上の出席が必要であるため、欠席しないように健康生活管理を行う。
5）臨地実習場面では看護学生として礼節ある行動をとる。
6）臨地実習では積極的な行動をとり、主体的に学習する。

講義の順序とポイント

【事前学習】（学内）
1．実習オリエンテーションを受ける。
2．実習での自己の課題の明確化し目標を立てる。
3．実習中の注意事項を理解する。

【実習期間のスケジュール】
1日目（臨地）：　臨地実習地でのオリエンテーション
施設オリエンテーション（施設の概要・理念・構造・組織）
病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、日課）
対象者の決定、情報収集
2～3日目（臨地）：対象者のケアへの参加と情報収集・分析
対象者の観察とコミュニケーションを実践し、対象者のニーズを理解し、日常生活援助に参加する。

4 日目（学内）：　収集した情報のアセスメント、問題抽出、計画立案
5 日目（臨地）：　対象者のケアへの参加と情報収集・分析、立案した計画の見直し、不足な情報収集を行い、
病棟カンファレンスを行い指導者から助言を受ける。
6～9 日目（臨地）：立案した計画の見直し、実施、評価を行う。
計画した援助を安全・安楽に実施することができる。
実施した援助の目標到達について、対象者の反応をふまえて評価することができる。

病棟カンファレンスを行い指導者から助言を受ける。

10 日目（学内）：　合同カンファレンス、実習のまとめ

【事後学習】
1．臨地実習で日々の観察・実践した内容についてグループで討論するとともに助言を受ける。(臨地)

2．受持ち患者のニードを解釈し看護の必要性を見いだす看護過程についてまとめる。(臨地・学内)

3．実習における自己評価を行い、レポートを作成する。(自宅)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	J90053001
科目名	家族看護	単位数	1
科目名（英語表記）	Family Nursing		
担当者名	畑下　博世	旧科目名称	
講義概要	家族を１つのケアの対象として援助する家族看護では、家族一人ひとりの生活の質の向上を目指すことを学修する。家族自らが健康問題を解決し、健康的な家族生活を送ることができるように介入する。具体的には、家族看護の歴史や家族の概念、家族と文化・社会的背景等を学修し、家族の構造的アプローチをはじめ、家族アセスメント、家族ストレス理論などの諸理論を基に、家族の看護過程を事例をもとに展開し、家族看護に必要な支援方法を学修する。		
教材（テキスト）	『家族看護学　１９の臨床場面と８つの実践例から考える』　（南江堂）　山崎あけみ　2,300 円		
教材（参考文献）	『家族看護学理論と実践　第４版』　（日本看護協会出版会）　鈴木和子、渡辺裕子　3,200 円		
教材（その他）	授業で適宜掲示する。		
評価方法	演習課題（４０％）、筆記試験（６０％）		
到達目標	１．看護における家族の捉え方について理解することができる。 ２．地域の人々と家族、地域における個人と家族の支援について説明することができる。 ３．家族アセスメントの基礎となる理論について説明することができる。 ４．家族を単位とした看護過程について理解できる。		
準備学習	これまでに経験した「看護体験実習」「高齢者生活体験実習」「小児発達支援実習」の場面から、家族について考えをまとめておくこと。		
受講者への要望			
講義内容に関連した文献、新聞記事、報道等に関心を持ち、自ら学びを深める努力をするように。			
講義の順序とポイント			
１．家族とは（形態と機能） ２．看護における家族の捉え方 ３．家族アセスメントの基礎となる理論① ４．家族アセスメントの基礎となる理論② ５．家族看護学における看護過程（事例演習：母子） ６．家族看護学における看護過程（事例演習：成人） ７．家族看護学における看護過程（事例演習：高齢者） ８．家族看護学における看護過程（事例演習：精神）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J90054001
科目名	がん看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Cancer Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	近年日本の死因の第一位はがん疾患であることが続いている。時代の変遷とともにがん疾患の究明や治療法が進歩し、がんは生活習慣病とまで言われるようになり、また、長期がん生存者が増加している。その中でがん看護は、がんとその治療に関する直接的な症状への対応が中心であったが、最近では脱毛などの症状、再発・転移の不安、家族支援、経済的問題を含めた精神的サポート、がん予防なども求められている。ここではがん疾患の医学的知識やがん看護における援助を学修する。		
教材（テキスト）	『がん看護学』　（ヌーベルヒロカワ）　大西和子、飯野京子　3000 円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	定期試験（80 %）、レポート（20%）		
到達目標	様々ながん治療を受ける患者の身体的、精神的援助および、ターミナル期における援助の在り方を、全人的視野で考えることができる。		
準備学習	シラバスを概観し、授業の前に予習復習をしておくこと。		
受講者への要望			
グループワークも取り入れる講義も考えているので、能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．進行癌の内科的治療総論（抗がん剤治療を軸とした集学的治療）　（古倉）：9/28（水）① ２．胃癌・大腸癌の内科的治療　（古倉）：9/30（金）④ ３．癌の免疫療法　（古倉）：9/30（金）⑤ ４．がん治療薬の臨床試験　（古倉）：10/5（水）① ５．がん看護学の概念　（山田）：　10/7（金）④ ６．がん患者の緩和療法とこころのケア　（古倉）：10/12（水）① ７．がん看護に活用される理論・モデル　（山田）：10/14（金）④ ８．補完代替え療法　（山田）：10/19（水）① ９．がんの治療と看護の概論　（山田）：10/26（水）① １０．　がん患者の特徴的な症状マネージメント　（山田）：10/28（金）④ １１．緩和ケア・ターミナルケア・グリーフケアにいたる概論　（山田）：11/4（金）④ １２．がん化学療法を受ける患者の看護の実際　（越智）：11/11（金）④ １３．放射線療法をうける患者の看護の実際　（芦田）：11/18（金）④ １４．緩和ケアの実際（緩和ケアチーム・緩和ケア病棟・チーム医療について実際を学ぶ。）　（藤本）：11/25（金）④ １５．総括：苦痛緩和、特に、がん疼痛のマネジメントについて学ぶ／治療期から緩和ケアを受け、緩和ケア病棟で亡くなった患者の事例をがん看護に特化せず、医療の中の看護師の役割について考える機会を持つ。　（藤本）：11/25（金）⑤		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	J90058001
科目名	高齢者看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Geriatric Nursing: Theory		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	高齢者は、疾病や加齢により心身の諸機能の低下や障害が現れるため生活を支える看護が必要となる。そのため、日常生活援助である食生活や排泄、清潔、歩行などの基礎知識とその援助技術について学修する。さらに、高齢者特有の脱水や摂食・嚥下困難・生活不活発病などや、特に今後増加が予想される認知症などの病態や要因、アセスメント、看護について学修する。加えて、老年看護の特徴の１つである穏やかな死を迎えるための高齢者とその家族への看護についても学ぶ。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』　（医学書院）　北川公子　2,600 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	パワーポイント DVD ビデオ教材活用、各講義のプリント配布		
評価方法	『確認の課題』合計点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．高齢者の加齢による生活機能の低下・変調を正しく理解できる。 ２．老年期の特徴的な疾患への正しいアセスメントのための基礎的な知識を身につけることができる。 ３．回復が望めない重篤な疾患や終末期ケアにおける介護家族への支援を理解できる。 ４．生活の場で療養する高齢者への包括的・継続的支援を理解できる。 ５．高齢者特有の医療事故、リスクマネジメントを正しく理解できる。		
準備学習	受講前に教科書の該当ページを一読しておくこと		
受講者への要望			
高齢期における特徴的な疾患の身体症状やアセスメントについて高い関心を持ち、積極的に学んでください。			
講義の順序とポイント			
１．身体の加齢変化とアセスメント①＜フィジカルアセスメント、皮膚・視聴覚・感覚器のアセスメント＞ ２．身体の加齢変化とアセスメント②＜循環器系、消化・吸収系、ホルモン系、泌尿・生殖器系、運動系＞ ３．身体症状へのアセスメント＜発熱、痛み、掻痒、脱水、嘔吐、浮腫、倦怠感＞ ４．日常生活を支える活動、食事・食生活へのアセスメント＜生活機能を整える、基本動作・環境、転倒、廃用症候群、摂食・嚥下機能＞ ５．排泄、清潔へのアセスメント＜排泄リズム、排泄障害、清潔の意義、清潔セルフケア、皮膚障害、入浴＞ ６．生活リズム、コミュニケーションへのアセスメント＜睡眠と覚醒、コミュニケーション障害＞ ７．回復期・終末期を支える看護①＜検査・治療、栄養ケア・栄養マネジメント＞ ８．回復期・終末期を支える看護②＜放射線療法、化学療法、手術療法＞ ９．疾患を持つ高齢者への看護①＜脳卒中、心不全＞ １０．疾患を持つ高齢者への看護②＜パーキンソン病/症候群、肺炎、ノロウィルス感染症＞ １１．疾患を持つ高齢者への看護③＜骨粗鬆症、骨折、褥瘡＞ １２．認知機能障害への看護＜うつ、せん妄、認知症＞ １３．終末期における看護＜ターミナルケア、緩和ケア、エンドオブライフケア、意思決定、家族へのケア＞ １４．生活・療養の場の看護＜介護予防、ケアマネジメント、保健医療福祉施設、リハビリテーション、家族看護＞ １５．高齢者のリスクマネジメント＜医療事故、リスクマネジメント、救命救急＞		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90061001
科目名	精神看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychiatric Nursing: Theory		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
講義概要	「健康」のパラダイムから、心の健康障害を本来の心の機能の逸脱と捉え、主たる精神疾患（器質性精神障害、神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、パーソナリティ障害、気分障害、てんかん、摂食障害、依存症）症状と看護を展開するための理論と、実践的な治療的コミュニケーション技術を習得する。また、精神力動理論から、精神機能・社会機能・家族機能をアセスメントし、実現可能な、最善のケアを提供するための看護介入とその根拠を理解する。		
教材（テキスト）	『精神看護学Ⅰ』（南江堂）￥2100 『精神看護学Ⅱ』（南江堂）￥2800		
教材（参考文献）	授業の中で適宜紹介していきます。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト、レポート等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．精神疾患患者の治療と看護が理解できる ２．精神の健康問題をもつ対象者を理解するための技術や考え方について、知識を得て、自ら考えることができる。 ３．事例をもとに、対象者の理解を深め、援助について自ら考えることができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を指定するので、必ず予習をしておくこと。		

受講者への要望

１．学んだ理論や知識を自らの体験と照らし合わせて考えてみましょう。
２．遅刻や私語を厳禁とします。私語があまりに多いようなら、他の学生に迷惑となるため退出してもらいます。
３．スケジュールや授業内容は変更する場合があります。その場合は、授業中あるいは京学ナビにて連絡します。

講義の順序とポイント

１．統合失調症と関連疾患の概要　（矢山）
２．統合失調症と関連疾患の治療　（矢山）
３．統合失調症と関連疾患の看護　（矢山）
４．気分障害（うつ病）　（矢山）
５．気分障害（躁うつ病）　（矢山）
６．神経症性障害（パニック障害､強迫性障害）　（松井）
７．身体表現性障害､心身症､ストレス関連障害（PTSD）　（松井）
８．生理的障害（摂食障害）　（松井）
９．精神作用物質関連障害（アルコール依存症､アディクション）　（松井）
１０．パーソナリティ障害（境界性パーソナリティ障害）　（松井）
１１．器質性精神障害（アルツハイマー型認知症）　（矢山）
１２．器質性精神障害（脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症）　（矢山）
１３．精神遅滞､発達障害（アスペルガー症候群）　（松井）
１４．統合失調症と関連疾患ほか（国試対策）　（矢山）
１５．神経症性障害ほか（国試対策）　（松井）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	－	★★

年度	2016	授業コード	J90064001
科目名	小児看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Pediatric Nursing: Theory		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	「小児期の成長発達と健康問題」をテーマに、子どもの発達、健康、生活を総合的に捉え、“子どもを育てるために社会が子どもの健康をどのように守ろうとしているのか“や“小児期に起こりやすい健康問題”についての理解を目指す。また、子どもの発達、健康、生活の総合理解から、さまざまな健康レベルにある子どもの生活と養護に関するシミュレーションを行い、子どもとその家族を主体とした看護援助方法・技術について学生自らが主体的に修得することを目指す。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学②　小児臨床看護各論』　（医学書院）　奈良間美保　3,300 円		
教材（参考文献）	『子どもの病気の地図帳』　（講談社）　鴨下重彦、柳沢正義　4,000 円 『看護のための人間発達学』　（医学書院）　舟島なをみ　3,000 円		
教材（その他）	１．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 ２．適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（100％） ※全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下となる。3 分の 2 以上の出席があった場合においても定期試験で 60 点に満たない場合は不合格となる。		
到達目標	１．子どもの看護に必要な概念（子どもの権利、ストレス・コーピング、プレパレーションなど）について理解できる。 ２．健康障害を持つ子どもとその家族の特徴を理解し、子どもと家族への看護援助について理解できる。 ３．子どもに起こりやすい健康問題とその援助について、子どもの発達、健康、生活や社会政策を含めて理解できる。 ４．子どもの最善の利益について理解を深めることができる。		
準備学習	「成長発達Ⅰ（小児の健康と看護)」「小児発達支援実習」で学んだ内容が基礎となるため、復習しておくこと。また、テキストを熟読して講義にのぞむこと。		

受講者への要望

すべての単元が「小児の健康回復を支える援助」の講義の基礎となる内容であると同時に、講義内容が連続的であることから、講義は休まない事。また、健康障害を持つ子どもへの看護の検討、実施に向けて、応用が行えるよう、授業内で紹介する文献は積極的に学習すること。さらに、解剖・生理、小児に特徴的な疾患に関する関連文献から積極的に知識の習得を図り、講義にのぞむこと。

講義の順序とポイント

１．健康障害を持つ子どもと家族の看護１：子どもとその家族の病気・障害に対する理解と反応

２．健康障害を持つ子どもと家族の看護２：子どもとその家族の病気や障害の治療や健康管理に関する看護

３．小児の状況（環境）に特徴づけられる看護１：入院による子どもと家族への影響

４．小児の状況（環境）に特徴づけられる看護２：外来・在宅における子どもと家族への看護

５．急性期にある子どもと家族の看護
６．周手術期にある子どもと家族への看護

７．慢性期にある子どもと家族への看護

８．終末期にある子どもと家族への看護

９．ハイリスク新生児とそのケア１：ハイリスク新生児と保育器について

１０．ハイリスク新生児とそのケア２：保育器内におけるハイリスク新生児のケア

１１．小児におこりやすい事故・外傷とその看護

１２．症状を示す子どもと家族への看護１：痛み・呼吸困難

１３．症状を示す子どもと家族への看護２：発熱・脱水

１４．症状を示す子どもと家族への看護３：下痢・嘔吐・けいれん

１５．子どもの健やかな成長・発達を支えるために

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J90068001
科目名	母性看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Maternal Health Nursing: Theory		
担当者名	夏山　洋子	旧科目名称	
講義概要	女性のライフサイクルの中の周産期（妊娠・分娩・産褥期および新生児期）は、正常な経過をたどっていても、心身の異常や危機を生じやすい。妊婦の健康管理、安全な分娩、産後の健康管理、新生児の管理等、母子とその家族の身体的・心理的・社会的側面の特徴を理解し、より健康な日常生活に向けての支援を実践するための知識と看護について理解する。また、女性の健康と生命倫理、ウェルネスの視点からの看護支援についても学ぶ。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円		
教材（参考文献）	『新体系看護学全書　母性看護学②母子の健康と看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　4,600 円		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用して行う。また、必要時資料の配布を行う。		
評価方法	定期試験（80%）、提出レポートおよび講義への参加態度（20%）で総合的に評価する。		
到達目標	１．妊娠・分娩・産褥期の正常な経過と、妊産婦、褥婦の身体的・心理社会的特徴を理解し、健康状態のアセスメントとその看護について理解する。 ２．新生児の身体的・心理社会的特徴を理解し、健康状態のアセスメントとその看護について理解する。 ３．周産期の正常な経過から逸脱した対象への看護について理解する。 ４．ウェルネスの看護の視点と母子とその家族を含む看護支援について学ぶ。		
準備学習	「解剖生理学 B」「成長発達Ⅳ（女性の生涯発達と看護）」を復習しておく必要があります。 今日の産科医療を取り巻く問題や新聞記事などにも関心をもって見聞すると、学習により興味がもてると思います。		

受講者への要望

母性看護は女性の一生にわたって、母性の健康を回復・保持・増進することにあります。その中で、妊娠・出産・育児は女性やその家族にとって人生で重要な出来事です。近年の産科医療は、さまざまな問題を、かかえています。医師不足の問題、出産できる施設の減少の問題があります。また、出産年齢が幅広くなり、それに伴いリスクを抱えながら出産するケースも増えています。育児不安やマタニティブルーの問題などもあり、対象者個人だけではなく、夫・家族も含めて支援していく必要があります。この科目では、妊娠・分娩・産褥期・新生児に関する知識と対象者が安全・快適・満足できる看護について学びます。この科目は、母性看護実習に直結します。学習内容が多様で、かつ短時間で進行しますので、積極的に予習・復習をして授業に臨むことを期待します。

講義の順序とポイント

１．妊娠経過のアセスメント（胎児の発育と発達）　6/7（火）①
２．妊娠経過のアセスメント（母体の変化とフィジカルアセスメント）　6/7（火）③
３．妊婦と胎児の健康の保持・増進のためにセルフケア能力を高める援助　6/14（火）③
４．妊娠期の生理的・心理的ニーズや日常生活の理解と看護　6/21（火）①
５．分娩経過と胎児の健康状態のアセスメント　6/21（火）③
６．分娩期のフィジカルアセスメントと看護　6/28（火）①
７．出産が安全、安楽、主体的で満足な体験となるための看護　6/28（火）③
８．産褥期のアセスメント（退行性変化）と看護　7/5（火）①
９．産褥期のアセスメント（進行性変化：母乳育児支援）と看護　7/5（火）③
１０．褥婦と家族への看護　7/12（火）①
１１．新生児の生理的変化と胎外適応のアセスメントと看護　7/12（火）③
１２．新生児の胎外適応（日齢をふまえた新生児の観察）のアセスメントと看護　7/19（火）③
１３．新生児のセルフケアを補い、成長・発達を促す看護　7/20（水）①
１４．ハイリスク妊産褥婦の看護　7/26（火）③
１５．ハイリスク新生児の看護　7/27（水）①

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J90071001
科目名	チーム医療論	単位数	1
科目名（英語表記）	Multidisciplinary Health Care		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	現代医療では、医療を受ける個人のニーズが多様化するとともに、医療の質が問われる時代にある。対象一人ひとりに最良の医療を提供するためには、医療を担う側が目標と情報を共有し、他の医療専門職の役割を理解した上で、専門職としての役割を自覚し役割を遂行しなければならない。本講義では、他職種の専門性を理解した上で、学生それぞれが自分の専門性を認識し、専門職種間のコミュニケーションや情報の共有を円滑にするための方法について、事例を用いて学修する。		
教材（テキスト）	授業時に適宜必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜提示する。		
教材（その他）	授業内容に合わせて授業中に提示する。		
評価方法	授業内課題（40%）、最終レポート課題（60%）		
到達目標	１．医療等健康を支援する専門職の役割について興味関心を持ち、知識を広めることができる。 ２．グループワークを通してコミュニケーション能力を高めるとともに、メンバーへ積極的に働きかけることができる。 ３．チーム医療の必要性を理解できる。		
準備学習	グループワークが中心の授業です。空き時間でグループワークが円滑に実施できるように調整してください。		
受講者への要望			
日頃から健康・医療等に関係する人々と交流し、様々なことに興味・関心を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
１．現代医療と職種間連携の重要性 ２．職種間コミュニケーションについて ３．医療における医師の役割と看護師の役割 ４．言語聴覚士の専門性について　スポーツ外傷とリハビリテーション ５．グループワーク ６．グループワーク ７．グループワーク ８．グループワーク：全体発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2016	授業コード	J90072001
科目名	健康医療リスクマネジメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Medical Safety and Risk Management		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	医療やスポーツといった活動での心身面に視点をあて、リスクを低減するためのマネジメントの基礎知識を学ぶ。医療事故やスポーツ事故の発生メカニズムについて実際の事例をもとに理解する。さらに、リスクマネジメントの理論やプロセス（把握・分析・評価）を学び、リスクを回避すすための組織としての系統的な取り組みについて考える。また、事故を起こした場合の対応の在り方、事故がもたらす法的責任や経済的損失についても学ぶ。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業内で提示する。		
教材（その他）			
評価方法	課題レポート（100%）		
到達目標	1．リスクマネジメントの基礎的知識が理解できる。 2．グループワークを通して事故のメカニズムやリスク回避について、積極的に意見を交わすことができる。 3．リスクマネジメントに関して自身の考えを述べることができる。		
準備学習	日頃から新聞やニュース番組などを通して、リスクマネジメントに関する情報に対して興味・関心を持ってください。		
受講者への要望			
3 学科混合でのグループ学習を中心とした授業である。グループワークでは他者の意見を聞き、積極的に自身の意見を述べるなど、授業へ積極的に参加する姿勢を望みます。			
講義の順序とポイント			
1．リスクマネジメントとは 2．医療事故発生のメカニズム 3．頭頸部外傷のメカニズムと予防策 4．コミュニケーションエラーによる医療事故と対策 5．グループワーク 6．グループワーク 7．グループワーク 8．グループワーク：全体発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	J90084001
科目名	在宅看護概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Visiting Nursing		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
講義概要	高齢化社会等の社会的背景を踏まえて、在宅看護が必要とされている現状と、在宅看護の目的を理解する。また在宅看護が提供される場と、対象の年齢・疾患・療養状態などの特性を理解し、在宅療養者とその家族の生活を支える看護師の役割や訪問看護ステーションの機能について学修する。さらに在宅看護の仕組みについてケアマネジメントの概念や機能をはじめ訪問看護制度、地域包括ケアシステム等の介護保険制度を中心に学修する。		
教材（テキスト）	『在宅看護論』　（医歯薬出版）　木下由美子　2,400 円		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』　（厚生統計協会）　2,315 円		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。適時プリント配布。		
評価方法	定期試験（70%）、課題レポート（30%）		
到達目標	１．在宅看護の目的と概念を理解する。 ２．在宅看護に対する社会のニーズを理解する。 ３．地域で療養する人の持つ多様な特性を理解する。 ４．在宅看護を支える法制度とケアマネジメントを理解する。 ５．地域で療養する人を支える社会資源と多職種連携の必要性を理解する。 ６．在宅看護の課題と展望を考察する。		
準備学習	授業計画第１回～第３回 ＜事前学習＞在宅看護を取り巻く背景と看護の変遷について資料を収集する。 ＜事後学習＞グループ毎にテーマを決めて文献検索とディスカッションを行った結果を整理する。 第４回～第９回 ＜事前学習＞在宅看護にかかわる法制度、ケアマネジメントに関する資料を収集する。 ＜課題レポート＞在宅介護を支える法制度とケアマネジメント＞を作成し提出する。 第１０回～１５回 ＜事前学習＞在宅看護の課題と展望に関する資料を収集する。 ＜事後学習＞「在宅看護の課題と展望」に関する考察をする。		
受講者への要望			
グループワークでは、主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミクスを発揮し、学修を進めることが出来るよう自己の役割を考えながら参加する。			
講義の順序とポイント			
１．現代社会と在宅看護論 ２．在宅看護の目的と概念 ３．在宅看護の対象者 ４．在宅看護における家族の機能・役割・形態について ５．在宅看護に関連する保健医療福祉施策① ６．在宅看護に関連する保健医療福祉施策② ７．在宅で療養する人を支える社会資源 ８．ケアマネジメントの概略 ９．ケアマネジメントの実際 １０．在宅で療養する人を支える多職種との連携、療養者の環境・生活について １１．訪問看護ステーションの成り立ち １２．訪問看護ステーションの事業運営 １３．在宅看護に関連する法的・倫理的問題 １４．日本の在宅看護の歴史、諸外国における在宅看護の現状 １５．在宅看護の課題と展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	－

年度	2016	授業コード	J90088001
科目名	学校保健	単位数	2
科目名（英語表記）	School Health		
担当者名	服部　伸一	旧科目名称	学校保健
講義概要	学校現場における保健管理，保健教育，組織運営や児童・生徒の身体と心の健康問題を取り上げ，学校保健の重要性について理解するとともに，基礎的な知識を身につける。障害児を含めたすべての児童・生徒にとって健康のあり方とはどのようなものなのか，それを実現するために学校はどのようなことを行わなければならないのかを検討し，養護教諭をはじめとした教職員の役割を理解する。さらに，児童・生徒の健康の保持増進のために，あるべき学校保健とは何かを考える。		
教材（テキスト）	門田新一郎・大津一義編著：『新訂 学校保健，大学教育出版』，2015（￥2,400＋税）		
教材（参考文献）	衛藤隆・岡田加奈子編：改訂８版　『学校保健マニュアル』，南山堂，2012 文部科学省：『教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き』，2012		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを使用することがあります。資料を配布するので，散逸しないよう自己管理してください。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 30%，授業中に課すレポート 70%		
到達目標	１．学校保健の概要・構造・行政・関連法規について理解できている。 ２．児童・生徒の発達及び健康状態の把握，評価と対策について理解できている。 ３．学校における保健教育と保健管理について理解できている。 ４．学校保健活動の展開と運営について理解できている。 ５．学校教育場面における精神保健活動について理解できている。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので，各自でテキストを一読して下さい。また，単元のまとまりごとに確認の小テストをするので，取り扱った内容を復習をして下さい。		

受講者への要望

・前時の内容を復習・確認して次の授業を受講して下さい。
・能動的な態度での受講を求めます。注意しても私語が改まらない場合は，退室を求めます。

講義の順序とポイント

１　学校保健の概要（１）校保健の意義と特質／学校保健の構造
２　学校保健の概要（２）学校保健の行政と関係法規
３　児童・生徒の発達と健康
４　学校における保健教育（１）保健教育の位置づけ／保健学習
５　学校における保健教育（２）保健指導
６　学校における保健教育（３）性・エイズ教育
７　学校における保健教育（４）危険行動（飲酒・喫煙・薬物乱用）
８　学校における保健管理（１）保健管理の意義と理解
９　学校における保健管理（２）健康状態の評価とその対応
１０　学校における保健管理（３）健康障害の管理
１１　学校における保健管理（４）健康増進のための保健活動
１２　学校における保健管理（５）学校環境衛生
１３　学校における保健管理（６）学校安全管理
１４　学校保健活動の展開と運営（１）学校保健計画／学校保健関係教職員
１５　学校保健活動の展開と運営（２）組織活動／保健室の機能と運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J90089001
科目名	産業保健	単位数	1
科目名（英語表記）	Occupational Health Nursing		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	
講義概要	業務に起因する健康障害の予防、健康と労働の調和を図り、健康および労働能力の保持増進を図るための産業保健活動について理解する。産業保健の歴史と関連法規を学び、労働者の健康をめぐる課題を検討し、労働衛生管理体制や職業性疾病に対する理解を深め、個人および集団に向け、職業性疾病の予防に向けた対応と指導、労働安全衛生マネジメントシステムや企業へのアプローチについて学修する。また、疾病を持ちながら就労する労働者への支援についても考察する。		
教材（テキスト）	『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子、北山三津子、春山早苗、田村須賀子　3,600 円		
教材（参考文献）	『新版　保健師業務要覧　第３版』　（日本看護協会出版会）　井伊久美子、荒木田美香子　4,200 円		
教材（その他）	パワーポイント等を活用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．産業保健の目的を理解し、産業保健に必要な概念や産業保健の重要性について理解する。 ２．産業保健における医療従事者の役割および職務について理解する。 ３．産業保健の推進体制と推進活動に係る基本的な知識を習得する。 ４．産業保健の動向と現状を理解し、産業構造から労働者の健康課題について検討する。 ５．疾病や障害を持ちながら就労する労働者への支援について考察する。		
準備学習	働く人々に多い病気や疾患については、１年生後期科目「成長発達Ⅱ（成人の健康と看護）」でも触れている。労働災害につながる職業病などは日常的にニュース報道でも見る機会が多いので、事前に調べておくように。		
受講者への要望			
社会を取り巻く情勢についても各自で見識を深め、授業への積極的な参加を望む。また、必ず自分の考えを持って授業参加をすること。そこには、保健師としてだけでなく、看護師としてもいかに臨むかという視点の両方を持つように。			
講義の順序とポイント			
１．産業保健の理念と背景（歴史・概念・関連法規）　（垰田）：11/30④ ２．労働衛生の実態（産業構造・健康をめぐる現状）　（垰田）：11/30⑤ ３．労働の場における健康阻害の要因と健康障害①　（垰田）：12/7④ ４．労働の場における健康阻害の要因と健康障害②　（垰田）：12/7⑤ ５．産業保健における医療従事者の役割①（労働管理体制）　（垰田）：12/14④ ６．産業保健における医療従事者の役割②（作業管理・健康管理・作業環境管理と総括管理、労働衛生教育）　（垰田）：12/14⑤ ７．障害を負いながら就労する労働者への支援　（垰田）：12/21④ ８．がんを患いながら就労する労働者への支援　（古倉）：1/11④			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90090001
科目名	公衆衛生看護管理論	単位数	1
科目名（英語表記）	Management of Public Health Nursing		
担当者名	滝澤　寛子	旧科目名称	
講義概要	地域で生活する個人、集団や地域の特性を踏まえ、保健所や市町村における公衆衛生看護活動について学修し、保健師の役割を理解する。具体的には、保健医療行政の仕組みや行政における公衆衛生看護管理の目的と機能、情報管理、人事管理、保健事業の予算管理、組織運営、災害や感染などの危機的状況における保健師の役割について学修する。また、保健師教育制度の変還と教育課程について学び、保健師の継続教育や専門性について理解を深める。		
教材（テキスト）	『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）		
教材（参考文献）	『最新保健学講座５　地域看護管理論』　（メジカルフレンド社）　平野かよ子　編集 『保健師業務要覧　第３版』（日本看護協会出版会）		
教材（その他）	パワーポイント等、独自に作成したものを使用する。		
評価方法	定期試験（１００％）		
到達目標	１）　行政看護領域における看護管理活動について、保健師の実践活動の過程と管理機能を理解する。 ２）　保健師の専門性として管理的な活動があることを理解する。 ３）　行政看護領域において求められる能力と管理機能について理解する。 ４）　保健医療行政における看護職者のとるべきリーダーシップ、メンバーシップについて考察する。		
準備学習	既修の「公衆衛生学」、「社会保障論」、「公衆衛生看護学概論」、「看護学概論」を振り返り、内容を整理しておくこと。また、第７回、第８回で学ぶ具体例において、看護職者のとるべきリーダーシップおよびメンバーシップについて自身の意見をまとめられるよう、準備しておく。		
受講者への要望			
これまで学んできた、対象にケアを提供するための理論やスキルとは異なり、公衆衛生看護を遂行するためのシステムを学ぶ科目である。広い視野で全体像を把握するように。			
講義の順序とポイント			
１．公衆衛生看護管理の目的と機能 ２．保健所および行政で行われる公衆衛生看護活動（１） ３．保健所および行政で行われる公衆衛生看護活動（２） ４．現任保健師教育の目的と方法 ５．行政保健師に求められる能力と管理機能（１） ６．行政保健師に求められる能力と管理機能（２） ７．行政保健師に求められる能力と管理機能：具体例１　障害児支援体制 ８．行政保健師に求められる能力と管理機能：具体例２　児童虐待支援体制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J90091001
科目名	公衆衛生看護活動論	単位数	2
科目名（英語表記）	Care Service of Public Health Nursing		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
講義概要	地域看護活動の中でも特徴的な集団や地域社会を対象とした看護活動を行うための基礎的能力として、地域住民の心身の健康の保持増進を目的とした看護活動について学修する。発達段階、健康段階に応じた個人、家族、集団、組織の健康状態の把握のため、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、精神保健活動、難病・障がい者（児）保健活動、感染症の保健活動等の看護活動について理解する。また、地域の健康活動に必要な職種間連携や健康支援に必要な制度や社会資源についても学修する。さらに保健活動に必要な技術として、家庭訪問・健康相談・健康教育・住民グループ支援等の展開方法について演習する。		
教材（テキスト）	『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子　　３，６００円 『保健師業務要覧　第３版』　（日本看護協会出版会）　井伊久美子　４，２００円		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』（厚生統計協会）　２，３１５円 その他授業内で適宜提示する		
教材（その他）	授業内で適宜提示する。		
評価方法	課題レポート（３０％）、定期試験（７０％）		
到達目標	１．発達段階、健康段階の特性に応じた保健活動とその動向・施策、制度が理解できる。 ２．各対象が持つ健康課題の特性を理解し、支援技術の展開方法が理解できる。 ３．教育指導技術の具体的な展開を実践し、評価できる。		
準備学習	１年生後期に学んだ「公衆衛生看護学概論」の内容について、十分復習して授業に臨むこと。また、これまでに学んだ教育指導について、具体的な展開を行うので、指導技術について学修しておくこと。		
受講者への要望			
地域看護活動の対象は、あらゆる健康段階、発達段階で、私たちと同じ生活の場で暮らす人々である。普段から時事問題やニュース等にも関心を持ち、人々の生活への理解を深めるようにすること。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス、母子保健活動①：母子保健の理念、母子保健福祉施策の動向、健全母性育成支援 ２．母子保健活動②：乳幼児の発育・発達・子育て支援 ３．母子保健活動③：子育てのリスクを持つ親子への支援 ４．成人保健活動①：成人保健の理念、成人保健施策の動向と健康課題の特徴 ５．成人保健活動②：健康づくり・生活習慣病予防活動 ６．高齢者保健活動①：高齢者保健の理念、高齢者保健施策の動向と課題 ７．高齢者保健活動②：介護予防活動 ８．精神保健活動①：精神保健の理念、精神保健福祉施策の動向と課題 ９．精神保健活動②：精神障害をもつ人の支援活動・心の健康づくり １０．難病保健活動①：難病保健の理念、難病対策の動向と課題・難病患者および家族支援 １１．障害者（児）保健活動①：障害者（児）保健の理念、保健福祉施策の動向と課題・障害児支援 １２．感染症保健活動①：感染症保健の理念、感染症対策の動向と課題 １３．感染症保健活動②：感染症対策（主に結核）における保健活動 １４．家庭訪問、健康教育の実際① １５．家庭訪問、健康教育の演習②、まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	J90096001
科目名	臨床神経学	単位数	1
科目名（英語表記）	Clinical Neurology		
担当者名	近藤　正樹	旧科目名称	
講義概要	神経は、身体の感覚と運動、内臓の働き、感情と思考・言語といった身体のすべての機能を司っている。臨床神経学では、神経学的評価（意識と覚醒、感覚と運動、脳神経テスト、姿勢と歩行)、画像診断法（ＣＴ、ＭＲＩ)、生理検査（血液、脳波、筋電図等)、神経筋疾患の病理と症候、診断法と治療を取り扱う。脳卒中や認知症、パーキンソン病、てんかん等での脳神経機能低下に伴う言語や発声発語の異常、記憶障害、身体運動感覚の異常、非運動症状について解説をする。		
教材（テキスト）	なし（毎回の講義でプリントを配布する）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	授業内小テスト等による課題（30%)。授業中に課すレポート（70%)。		
到達目標	神経筋疾患の病理と症候、診断法と治療についてその概要を理解する。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回授業の最初に、前回の授業内容に係る復習の小テストをするので勉強しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻や私語は厳禁とする。遅刻の場合はその理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 神経診断学総論、認知症（近藤）12/14（水）④ 2. 神経診断学総論、認知症（近藤）12/14（水）⑤ 3. 脳血管障害①（尾原）12/21（水）④ 4. 脳血管障害②（尾原）12/21（水）⑤ 5. 神経免疫疾患、末梢神経・筋疾患（吉田）1/11（水）④ 6. 神経免疫疾患、末梢神経・筋疾患（吉田）1/11（水）⑤ 7. 神経変性疾患（PD,SCD,ALS)、神経感染症（東）1/18（水）④ 8. 神経変性疾患（PD,SCD,ALS)、神経感染症（東）1/18（水）⑤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90097001
科目名	形成外科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Plastic Surgery		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
講義概要	形成外科は外傷、腫瘍切除あるいは先天性に生じた組織欠損を外科手技でもって再建し、患者 QOL の向上を目的としている。具体的には顔面外傷（顔面骨骨折および軟部組織損傷)、手足の外傷、がん切除後の頭頸部再建、乳房再建、熱傷およびその後の瘢痕拘縮等を取り扱う。言語聴覚士との関連ではがん切除後の頭頸部再建および口唇口蓋裂、小耳症などが重要となる。特に、発生頻度の高い（日本では 500 人に 1 人）口唇口蓋裂の治療においては、構音、聴覚、咬合、外観など集学的治療が必要であり、また、頭頸部ガン切除後の再建においても言語聴覚士が果たす役割は極めて大きい。チーム医療における形成外科医と言語聴覚士の関連が理解できるように計画している。		
教材（テキスト）	『標準形成外科学　第 6 版』　(医学書院)　平林慎一・鈴木茂彦 編　6,090 円		
教材（参考文献）	『じょうずに食べる食べさせる』(食べ物文化 8 月号 2005 年別冊)　山崎祥子 著 1,300 円		
教材（その他）	理解を深めるために「解剖学」のテキストが必要です。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	形成外科の基本的手術手技を理解し、その応用として頭頸部ガン切除後の再建、口唇口蓋裂や小耳症など先天異常の治療を理解し、言語聴覚士がチーム医療の一員として参画できるようになる。		
準備学習	授業に先立ち、局所解剖、生理について学習しておく。		
受講者への要望			
チーム医療の一員としてプロフェッショナルを目指してください。			
講義の順序とポイント			
1.形成外科の基本手技 2.口唇裂の治療 3.口蓋裂の治療 4.耳・鼻の再建 5.上顎の再建 6.下顎の再建 7.舌の再建 8.食道の再建			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J90098001
科目名	耳鼻咽喉科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Otolaryngology		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
講義概要	耳鼻咽喉科臨床で遭遇する病態は多様で、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、構音、発声、嚥下などの重要な機能に関係する。なかでも生命維持に必要な呼吸、嚥下機能、社会生活を営むうえで必要な聴覚、音声言語機能については、言語聴覚士として確実に把握しておくべきものである。また、対象疾患が男性、女性とも全年齢層におよび、広い知識と経験に基づいた専門性が要求される分野でもある。可能な限り症状や疾患を中心とした講義とし、随時、解剖学、生理学や病理学の復習を並行して行い、より理解を深めることができるように計画している。		
教材（テキスト）	『言語聴覚士のための基礎知識　耳鼻咽喉科学　第 2 版』（医学書院）　　鳥山稔、田内光 編　 4,104 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	色鉛筆（各自で用意して持参すること）		
評価方法	定期試験（１００％）		
到達目標	耳鼻咽喉科における代表的疾患の診断と治療について理解できる。		
準備学習	授業に先立ち、それぞれ必要な解剖・生理について再確認する。		
受講者への要望			
受け身の態度ではなく、積極的に知識の吸収を目指すこと。			
講義の順序とポイント			
１．耳の解剖と生理 ２．外耳・中耳疾患 ３．内耳疾患 ４．鼻・副鼻腔の解剖と生理 ５．慢性副鼻腔炎とアレルギー性鼻炎 ６．口腔咽頭疾患 ７．気管・食道疾患 ８．頭頸部癌			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90099001
科目名	歯科・口腔外科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Dentistry and Oral Surgery		
担当者名	雨宮　傑	旧科目名称	
講義概要	歯科・口腔外科は、口腔内の構造物（歯、口蓋、舌、口腔底）の形態や機能の修復を行なう診療科目である。本講義では、歯と口腔の発達と加齢、咀嚼の仕組み、唾液腺と唾液分泌、歯周病と全身疾患の関連性、口腔の観察方法、奇形や変形、外傷や炎症、腫瘍、感染症等に伴う歯や口腔の異常、歯と口腔の治療（口唇口蓋裂の手術を含む)、補装具（義歯、口蓋床など)、歯と口腔のケア、について解説をする。歯科・口腔外科での嚥下や発語の問題について、症例を示し、歯科治療や装具、手術の適応と効果について、説明をする。		
教材（テキスト）	『言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学（第２版)』(医歯薬出版)　2016 刊行予定 価格未定		
教材（参考文献）	講義で紹介する。		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	定期試験１００％		
到達目標	1.歯・口腔・顎・顔面の形態と構造・機能、発生と発育を理解する。 2.口腔の診察法、主要な疾患とその治療について知る。		
準備学習	教科書の該当箇所を読む（予習と復習)。		
受講者への要望			
準備学習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
1.歯科概論　（金村）9/29 2.歯・口腔・顎・顔面の形態と構造、発生と発育（その 1）　（雨宮）10/06 3.歯・口腔・顎・顔面の形態と構造、発生と発育（その 2）　（雨宮）10/13 4.歯・口腔・顎・顔面の機能　（雨宮）10/20 5.口腔の診察法　（雨宮）10/27 6.口腔ケア　（雨宮）11/03 7.顔面・顎・顔面の疾患（その１）　（山本）11/10 8.顔面・顎・顔面の疾患（その２）　（山本）11/17 9.顔面・顎・顔面の疾患（その 3）　（山本）11/24 10.歯と歯周組織の疾患とその処置　（大迫）12/01 11.咀嚼障害の評価・診断・治療（その１）　（雨宮）12/08 12.咀嚼障害の評価・診断・治療（その２）　（雨宮）12/15 13.摂食嚥下障害の評価・診断・治療（その１）　（大迫）12/22 14. 摂食嚥下障害の評価・診断・治療（その２）　（大迫）1/12 15. 歯科医師と歯科衛生士の役割、言語聴覚士との連携（相互実習）　（西垣）1/19		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90100001
科目名	心理測定法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Testings		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
講義概要	心理学では、目に見えない「心」のあり方や働きを捉えるために様々な測定法が考え出され用いられてきた。ゆえに、心理測定を理解することは、心理学研究の基礎をなすものである。本講義では、心理測定をすることの意味についての理解を深め、精神物理的測定法、尺度構成法、調査法、検査法、実験法など、心理測定における代表的な研究手法の基礎的な方法論と研究法を修得する。これらの手法を適切に適用する能力を養い、必要なデータを自分で採取し分析できるようになることを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『心理測定法への招待　測定からみた心理学入門』　市川伸一 著 サイエンス社 2700 円 『心理学研究法ー心をみつめる科学のまなざし』　高野陽太郎・岡　隆 （編）有斐閣アルマ　2100 円 『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 吉田寿夫 著 2500 円		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、授業内小テスト等による評価。定期試験（５０％）		
到達目標	1. 心理学における測定の意味とその方法について理解を深める。 2. 授業で学んだ測定法を適切に使う能力を養う。		
準備学習	単元の区切りごとに小テストを実施するので復習をしておくこと。		
受講者への要望			
上記の到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。なお、授業計画は予定である。受講状況等に応じてある程度変更する可能性がある。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション：授業の進め方についての説明、心理学における測定とは ２．心理測定の基本概念（１）：見えかた、記憶の忘却量の測定から ３．心理測定の基本概念（２）：反応時間、個人差の測定から ４．測定値の性質（１）：尺度水準、記述統計、相関と回帰 ５．測定値の性質（２）：母集団と標本、信頼性と妥当性 ６．知覚研究における測定（１）：閾値 ７．知覚研究における測定（２）：精神物理学的測定法 ８．認知研究における測定（１）：記憶、学習の測定 ９．認知研究における測定（２）：実験計画法 １０．社会心理学における測定: 態度測定、質問紙による測定、情動・気分の測定 １１．発達・教育研究における測定: 検査法（知能検査、発達検査）、行動観察 １２．測定結果の扱い（１）：検定の基本的考え方、検定による仮説の検証 １３．測定結果の扱い（２）：適切な検定の選択、基本的な検定法 １４．測定結果の扱い（３）分散分析法、因子分析と主成分分析 １５．測定結果の扱い（４）：因子分析による尺度構成、多次元尺度構成法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★★	★★

年度	2016	授業コード	J90101001
科目名	言語学	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics		
担当者名	林　良子	旧科目名称	
講義概要	言語は、ヒトの思考や認知を支え、コミュニケーションの道具として、社会生活に欠かせない。言語学は、言葉の意味（語彙）、文の組み立て（文法）、言葉の使用（運用）、音の選択と配列（音韻）について、世界言語での普遍性と個別性を探求する学問である。本講義では、日本語を題材として、意味論、統語論、語用論、音韻論について解説をする。言語の獲得、第二学国語の学習、方言、言い誤り現象、言語の変遷について、言語学者の視点で説明を加える。世界言語を俯瞰して、特徴的な言語側面を持つ言語を取り上げ、説明をする。		
教材（テキスト）	『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学』（医学書院） 今泉敏 編 4,104 円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	小テスト・授業中に課す課題（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	１．将来的に言語聴覚士として言語臨床現場に携わる者に必要な、言語学の基礎的な用語、考え方を理解する。 ２．言語学の諸領域を概観するとともに、自分の母語（主に日本語）や諸外国語を客観的に分析する能力を身につける。		
準備学習	単元の区切りごとに小テスト・レポート課題を課す。小テスト・レポート課題の日程、範囲については授業中に予め指示するので、注意すること。言語学は、言語聴覚士にとって他の分野の学問においても基礎となる科目であるため、教科書などを十分に自習することが望ましい。		

受講者への要望

小テストを区切りとして、順序良く学習をすすめていってほしい。言語学は大変に基礎的な学問分野であるため、十分に自分なりに学習と理解をすすめること。　授業中にすすめる参考文献についても、できれば読み進めていってほしい。

講義の順序とポイント

１．言語学の基礎・人間の言語コミュニケーションの特徴
２．言語の諸単位・基本的な考え方
３．音韻論１（音素、音節構造）
４．音韻論２（音韻規則、音韻解釈）
５．まとめ１
６．文法論１（文法論の基礎）
７．文法論２（形態論）
８．文法論３（統語論）
９．意味論の基礎
１０．まとめ２・語用論と談話
１１．文字と表示
１２．言語類型論の基礎
１３．社会言語学の基礎
１４．まとめ３
１５．言語学的にみた日本語

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90102001
科目名	言語心理学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psycholinguistics		
担当者名	林　良子	旧科目名称	
講義概要	言語心理学は、言語の獲得、運用、理解と表出の背景にある心理学的・神経生物学的な要因を取り扱う学問である。本講義では、言語発達の基盤となる認知の発達、言語獲得の過程での語や文の処理や組み立ての正用と誤用、諸家の仮説と実験、言語獲得の正常と異常について、解説をする。言語獲得においてどんな学習がなされ、学習を支えるのにどんな経験が必要なのか、言語獲得における臨界期（適切な学習時期）はあるのか、言語獲得を阻害する認知心理学的障害はどんなものか、考えてみる。		
教材（テキスト）	授業時に適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	『言語心理学（朝倉心理学講座)』(朝倉書店)　針生悦子 編 3,888 円 『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学』(医学書院)　今泉敏 編 4,104 円		
教材（その他）	パワーポイントとビデオ教材を適宜使用する。		
評価方法	小テスト（40%） 定期テスト（60%）		
到達目標	１．言語学・心理学の融合分野としての言語心理学・言語心理学の基礎的な用語、考え方を理解する。 ２．ことばの獲得、消失を中心とした、言語心理学の各トピックを概観し、自分の母語（主に日本語）獲得や外国語習得に関して、観察し、考察する能力を身につける。		
準備学習	２回目以降の授業において、授業冒頭に前の回の内容についてのクイズ（小テスト）を行なう。十分な復習を求む。		
受講者への要望			
授業冒頭に前の回の内容についてのクイズ（小テスト）を行なうため、遅刻せぬよう心掛けること。授業内容に関して、十分な復習をしておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．言語心理学と心理言語学 ２．ことばの理解とスピーチエラー ３．ことばの獲得１（生得と学習） ４．ことばの獲得２（母語と非母語の獲得と学習） ５．ことばの知覚１（音声言語の知覚と認知） ６．ことばの知覚２（文字言語の知覚と認知） ７．言語と思考・その他のトピック（心理学の関連領域） ８．その他のトピック（ジェスチャー等）・まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90103001
科目名	音声学演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	ヒト音声の基本的事項や日本語音声の特徴について、音声の加工や合成、発音時の口や舌の観察を通して、理解を深める。音声（信号）の分節と変動の問題、母音や子音の生成と知覚を学び、音声の収録と聴き取り、国際音声記号を使っての音声の記述、異常音声の表記を行なう。音の異常を理解するために、口腔調音器官の形態・運動と音声との関係について、理解を深める課題を学生に提供する。音声学演習ラボとして、音声信号の特徴（分節と変動)、音声の逆転、発音時の口の構えと舌の動き、聞き間違いの背景、発音の誤りとその原因などを行う。		
教材（テキスト）	『やさしい日本語指導５：音韻／音声（改訂版)』（凡人社）　国際日本語研修協会 編 1,296 円		
教材（参考文献）	『国際音声記号ガイドブック』（大修館）　国際音声学会 編 4,644 円 『日本語音声学入門』（三省堂）　斎藤純男 著 2,160 円 『日本語音声学のしくみ』（研究社）　町田健 編 2,160 円		
教材（その他）	音声表記のドリル、音響分析等の資料を適時配布する。		
評価方法	中間試験　20%、実験（ラボ）・レポート 20%、期末試験 60%。		
到達目標	１．言語音の特徴と生成・知覚の基本を理解する ２．音声記号を適宜用いて発話を表記できる ３．知覚的分析の活用と限界を知る ４．音響分析で音声言語の観察ができる		
準備学習	教科書・参考書の該当部分をよく読む。		
受講者への要望			
ホームワークを必ず行うこと。オンタイムで実験レポートを提出すること。			
講義の順序とポイント			
１．音声言語（連続音声）の特徴、音素と異音 ２．母音と子音の特徴、拍（モーラ）と特殊音素 ３．国際音声記号（IPA)、音声表記 ４．日本語モーラの音声表記：その１ ５．日本語モーラの音声表記：その２ ６．語や文の音声表記 ７．連続音声（発話）の表記：特殊記号 ８．中間試験（音声表記)、音響音声学、知覚的分析と音響分析 ９．音響分析の基本 10．音声波形を見る　　実験 ①：音声信号の特徴、音声の逆転 11．周波数解析、スペクトルとスペクトログラム 12．スペクトルとスペクトログラムを見る　　実験②：スペクトログラムで見る言語音の違い 13．母音と子音の音響特徴 14．異常音声の音響分析：その１ 15．異常音声の音響分析：その２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	−	★

年度	2016	授業コード	J90104001
科目名	音響学	単位数	2
科目名（英語表記）	Acoustics		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	音声の生成と知覚の理解に不可欠な音の物理的性質を最初に学んだうえで、音声波が調音動作によってどのように生成されるかを学び、個々の音韻の弁別的特徴、音響学的特徴および、それらをもとに構成される文の韻律的特徴の理解を図る。高校で物理を履修していない、あるいは数学が不得意な学生がいることを考慮して、極力数式を用いず、実音声や音声サンプルの試聴、供覧、音声分析ソフトを用いての実習を多用して、経験的に理解の促進を図る。		
教材（テキスト）	『言語聴覚士の音響学入門』（海文堂）　吉田友敬 著 2808 円		
教材（参考文献）	『言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学』（医学書院）　今泉敏 編 4104 円		
教材（その他）	プリント　スライド		
評価方法	小テスト・提出物（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	Ⅰ．音声や聴覚関連の専門科目を理解する上で必要な音響学の知識を習得する。 Ⅱ．言語聴覚士として臨床に携わるうえで、必要となる音響学の用語、考え方を理解する。		
準備学習	それまでの講義の内容を復習しておく。		
受講者への要望			
授業内容を時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すためにも、小テストを頻回に行う。			
講義の順序とポイント			
1. 音の性質１： 波の基本的性質 2. 音の性質２： 干渉、定常波、共鳴、回折、屈折 3. 音の強さの尺度１： 音圧、音の強さ、と対数尺度 4. 音の強さの尺度２： 種々のレベル表示、サウンドレベルメータ 5. サウンドレベルメータによる音圧測定 6. 音のスペクトル 7. デジタル音響分析 8. 音声音響学１： 母音の生成 9. 音声音響学２： 母音とフォルマント、 鼻音とアンチフォルマント 10. 音声音響学３： 母音の音響分析 11. 音声音響学４： 子音とフォルマント遷移 12. 音声音響学５： 子音の音響分析 13. 音声音響学６： 調音結合、音声の韻律的特徴 14. 音声音響学７： 調音結合、音声の韻律的特徴の音響分析 15. 音声音響学８： 音響分析の応用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★

年度	2016	授業コード	J90105001
科目名	聴覚心理学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychoacoustics		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	聴覚心理学の基本事項のうち、言語聴覚療法の実務に必要となる基本的な用語、概念、測定法等について学修する。具体的には、音響学での学修内容を確認したうえで、音の強さ、周波数、スペクトルなどの物理的性質が、それを聞いた時のラウドネス、ピッチ、音色等の感覚とどのように対応するかを、健聴耳と種々の難聴耳を対比させて学修する。サンプル音の試聴や聴取実験を多く取り入れ、物理現象としての音と聴覚の関係について体験的に理解を促す。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『言語聴覚士の音響学入門』（海文堂）　吉田友敬 著 2808 円 『聴覚と音響心理』（コロナ社）　境久雄 編著 4968 円		
教材（その他）	プリント スライド		
評価方法	小テスト（30%），定期試験（70%）		
到達目標	1. 主に聴覚系の専門科目を理解するうえで必要な聴覚心理学の知識を習得する。 2. 言語聴覚士として臨床に携わるうえで必要となる聴覚心理学の用語・考え方を理解する。		
準備学習	それまでの講義の内容を復習しておく。		
受講者への要望			
講義内容を授業時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すためにも小テストを頻回に行う。			
講義の順序とポイント			
1. 聴覚心理学とは 2. 耳の感度 3. 聴野とラウドネスレベル 4. ラウドネスの尺度構成 5. ピッチ，音色 6. マスキング 7. 音の弁別，聴覚疲労，短音の知覚 8. 両耳聴，音のパターンと対象の知覚			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★

年度	2016	授業コード	J90106001
科目名	言語発達学	単位数	2
科目名（英語表記）	Language Development		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	ことばが出現するために必要な基礎的能力が発達する乳幼児から、会話でのやりとりが発達する幼児期、さらにコミュニケーション能力や文字を活用する児童期までのことばの発達について概説する。また、ことばの発達に大きく関わる社会性の発達、認知発達等についても学び、それぞれの領域で苦手さを持つ子どもについても触れる。		
教材（テキスト）	『よくわかる言語発達』　（ミネルヴァ書房）　岩立志津夫、小椋たみ子　編　2,592 円		
教材（参考文献）	『ことばの障害と相談室』　（エスコアール）　能登谷晶子　編　972 円		
教材（その他）	パワーポイント、ビデオ教材		
評価方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、レポート(20%)		
到達目標	１．乳幼児期から学童期までのことばの定型発達について理解する。 ２．ことばの発達と関連した領域である運動・認知・知能・社会性の発達について理解する。 ３．定型発達の理解を基礎として、言語発達障害を理解する視点を持つことができる。		
準備学習	１．教科書を読んで授業に臨むこと。 ２．授業内容を具体的にイメージできるよう、日ごろから小児の行動を観察する視点を持つこと。		

受講者への要望

授業で学んだ知識を基に、幼稚園見学を通して定型発達児の行動観察を行いレポート課題とする。
日常の中で子どもに関わる情報収集に努めてほしい。

講義の順序とポイント

１．　言語発達学の概論：言語発達理論

２．　前言語期の発達：表情・感情・視線・動作とコミュニケーション

３．　前言語期の発達：象徴機能の発達

４．　前言語期の発達：相互作用とアタッチメントの発達

５．　前言語期の発達：口腔運動の発達と構音の発達①

６．　幼児期の発達：口腔運動の発達と構音の発達②

７．　幼児期の発達：語彙の発達

８．　幼児期の発達：文の発達①（助詞）

９．　幼児期の発達：文の発達②（構文）

１０．　幼児期の発達：生活言語と学習言語

１１．　幼児期・児童期の発達：学習言語（読み書き能力）の発達

１２．　幼児期・児童期の発達：ことばの働きと社会性の発達

１３．　幼児期・児童期の発達：認知・知能の発達

１４．　児童期の発達：児童期以降の発達

１５．　年齢による言語発達のポイント

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	－

年度	2016	授業コード	J90107001
科目名	言語聴覚障害学概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Speech, Language, and Hearing Disorders Ⅰ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	言語聴覚障害の全体像を理解するためには、ヒトのコミュニケーションの基本を理解し、多様な障害のラベルと特徴を知ることが、初学者にとって大切である。本講義では、コミュニケーションの基本的事項を提供し、言語聴覚障害（発声発語障害：音声障害、構音障害、吃音、言語障害：失語症、言語発達障害、聴覚障害）の基本情報（定義、疫学、特徴、生活上の困難）について示し、症例の音声や画像を解説する。うまく話せなかったら、ことばが理解できなかったら、聞こえなかったら、どうなるのか、体験する機会も学生に与える。		
教材（テキスト）	『言語聴覚障害概論』（医学書院）藤田郁代編　５４００円 『声のなんでも小事典』（講談社ブルーバックス）　和田美代子 著 950 円 『顔面麻痺』（幻冬社文庫）　ビートたけし 著 494 円 『恍惚の人』（新潮文庫）　有吉佐和子 著 724 円		
教材（参考文献）	『言語聴覚療法－臨床マニュアル（第 3 版)』（協同医書）　平野哲雄 他 編 7,344 円 『言葉の誕生を科学する』（河出文庫）　小川洋子、岡ノ谷一夫 著 691 円 『マンウオッチング』（小学館文庫）　デズモンド・モリス 著 926 円 『言葉と脳と心～失語症とはなにか』（講談社現代新書）　山鳥重 著 799 円 『驚異の小器官・耳の科学』（講談社ブルーバックス）　杉浦彩子 著 929 円 『人間であること』（岩波新書）　時実利彦 著 842 円 『小泉今日子　書評集』（中央公論新社）　小泉今日子　著　１５１２円		
教材（その他）	講義内容に関する資料を適宜配布する。		
評価方法	期末試験 50%、体験報告 30%（発表とレポート）　、書評 20%		
到達目標	１．言語聴覚障害の定義、疫学、特徴、生活・社会的困難、経過を知る ２．言語聴覚障害を体験して生活上の困難を感じることができる		
準備学習	教科書や参考書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。		
受講者への要望			
コミュニケーション（障がい）がどう生活に影響するかを考えてみる。			
講義の順序とポイント			
１．ことば、コミュニケーション、ヒトの生活と社会 ２．ことばの異常（１）言語の獲得　　ビデオ：「NHK スペシャル・赤ちゃん」 ３．ことばの異常（２）言語の遅れ　　シネマ：「レインマン」 ４．ことばの異常（３）言語の喪失、失語　　シネマ：「ヴィンセントが教えてくれたこと」 ５．きこえの異常（小児の難聴）　　シネマ：「レインツリーの国」（前半） ６．きこえの異常（成人の難聴）　　シネマ：「レインツリーの国」（後半） ７．声や発音の異常（１）音声障害　　ビデオ：「志の輔らくご」 ８．声や発音の異常（２）構音障害、機能性と言語性　　シネマ：「さよなら Color」（前半） ９．声や発音の異常（３）構音障害、器質性　　シネマ：「さよなら Color」（後半） １０．声や発音の異常（４）構音障害、感覚運動性　　シネマ：「英国王のスピーチ」（前半） １１．声や発音の異常（５）吃音　　シネマ：「英国王のスピーチ」（後半） １２．　頭部外傷に伴う高次脳機能障害　　シネマ：「レナードの朝」（前半） １３．認知症に伴う諸問題　　シネマ：「レナードの朝」（後半） １４．リハビリテーション　　ビデオ：「驚異の小宇宙・脳と心４：秘められた復元力」 １５．体験報告（発表）		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2016	授業コード	J90108001
科目名	言語聴覚障害学概論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Speech, Language, and Hearing Disorders II		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
講義概要	「言語聴覚障害学概論Ｉ」で学んだことを踏まえ、言語聴覚障害を有する人たちの能力と生活について、専門的な立場でどう対処すべきか、問題形式で講義を進める。具体的には、症例自身の困難さについて、どのように評価を進めれば良いのかを、言語聴覚障害自体の問題と、症例の心理的な問題とを、学生に考えさせる。あわせて、症例を取り囲む人達（家族や友人など）の思いを学生に気づかせ、それに対する取り組みについても提示する。		
教材（テキスト）	『言語聴覚障害学概論』（医学書院）　藤田郁代 編　5,４００円		
教材（参考文献）	『ことばの障害と相談室』（エスコアール）　能登谷晶子著　９７２円 『聴こえの障害と金沢方式』（エスコアール）　　能登谷晶子著　1,７２８円		
教材（その他）	高次脳機能障害　DVD		
評価方法	定期試験１００％		
到達目標	言語聴覚障害を有する人たちの問題点を明らかにできる。その上で、専門的な立場からの評価ができるようになる。評価は言語聴覚障害児・者自身だけではなく、その症例を取り囲む人たちからも情報を収集し、評価ができるようになる。		
準備学習	教科書の関連ページの熟読（予習）		

受講者への要望

もし、自分自身が言語聴覚障害を有する人であったり、またそのような子供を授かった場合を考えて欲しい。

講義の順序とポイント

１．言語聴覚障害学概論で学んだ言語聴覚障害の種類を整理する。
２．評価に当たっての全般的注意点を整理する。
３．発声発語系ー音声障害、吃音児・者の問題点に気づき、整理評価を行う。合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
４．発声発語系ー構音障害（小児、成人）の問題点を整理し評価する。合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
５．言語障害系ー失語症による言語障害の評価法を考え提案する。合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
６．言語障害系ー失語以外の高次脳機能障害に伴う言語障害について評価し、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
７．言語障害系ー発達障害を伴う言語習得の問題を持つ児・者の評価法を考え、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
８．言語障害系ー知的障害に伴う言語習得の遅れの児・者に対する評価法を考え、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
９．聴覚障害系ー先天性の聴覚障害に対する評価法を考え、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１０．聴覚障害系ー幼児期から小学生で生じた聴覚障害に対する問題点と評価法を考え、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１１．聴覚障害系ー若年層で生じた聴覚障害に対する問題とその評価法を考え、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１２．聴覚障害系ー熟年層で生じた聴覚障害に対する問題とその評価法を考え、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１３．聴覚障害系ー高齢になって生じた聴覚障害に対する問題とその評価法を考え、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１４．聴覚障害系ー高齢になって生じた聴覚障害に対する問題とその評価法を考え、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１５．まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J90110001
科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Aphasia and Higher Brain Dysfunction Ⅰ		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
講義概要	高次脳機能障害の中で、失語症は成人のコミュニケーション障害の代表で、脳卒中等による原因で生じる言語の障害である。本講義では、失語症の基本的な障害である「話す・聞く・読む・書く」の各領域についての失語症に特異的に見られる基本的な事項を脳の解剖的部位とともに学ぶ。さらに、失語症の各タイプの特徴について代表的な症例を挙げて解説する。演習では、失語症者の観察、評価法について学ぶ。さらに、失語以外の高次脳機能障害についての基本的な知識を得る。		
教材（テキスト）	『失語症学 第 2 版（標準言語聴覚障害学)』(医学書院)　藤田郁代 監修　5,800 円 『高次脳機能障害学 第 2 版（標準言語聴覚障害学)』(医学書院)　藤田郁代 監修　5,184 円 『標準失語症検査マニュアル 改訂第 2 版』(新興医学出版)　日本高次脳機能障害学会 編集　7,560 円		
教材（参考文献）	『言語聴覚療法臨床マニュアル 改訂第 3 版』(協同医書出版)　平野哲雄 他 編集　7,344 円		
教材（その他）	パワーポイント、ビデオ教材、標準失語症検査（SLTA）		
評価方法	定期試験（50%）、小テスト（30%）、レポート（20%）		
到達目標	1．失語症の概念を理解し、他の言語聴覚障害との違いについて説明できる。 2．失語症の評価と診断のプロセスを理解できる。 3．失語症の古典分類を代表とした各タイプの特徴を理解し、解剖学的部位（責任病巣）との関連性について知る。 4．失語症の症状の特徴に応じた基本的な初回面接ができる。 5．標準失語症検査（SLTA）の各課題を適切に実施できる。 6．失語症以外の高次脳機能障害の概要について知る。		
準備学習	1．教科書の予習と復習。 2．解剖生理学、音声学、言語学などの基礎科目の理解。		

受講者への要望

1．これまでに学修した医学的、音声・言語学的な知識に基づき、各障害の理解を深めてください。新規の用語や事柄は、テキストで意味を調べながら理解するようにしましょう。
2．失語・高次脳機能障害学Ⅰで基礎づくりをし、来年度の失語・高次脳機能障害学Ⅱ（評価と診断）につなげるような気持ちをもって、積極的に講義に参加してください。

講義の順序とポイント

1．失語症の定義・歴史・原因疾患と大脳機能局在（講義：能登谷）
2．標準失語症検査（SLTA）（講義：能登谷）
3．聴覚的理解障害（講義：吉村）
4．聴覚的理解障害の評価（演習：外山）
5．発話の障害（講義：吉村）
6．発話の障害の評価（演習：外山）
7．読みの障害（講義：吉村）
8．読みの障害の評価（演習：外山）
9．書きの障害（講義：吉村）
10．書きの障害の評価（演習：外山）
11．文法と談話の障害（講義：吉村）
12．失語症の分類（講義：能登谷）
13．運動性失語（講義：吉村）
14．運動性失語の言語症状（演習：外山）
15．感覚性失語（講義：吉村）
16．感覚性失語の言語症状（演習：外山）
17．超皮質性失語（講義：吉村）
18．超皮質性失語の言語症状（演習：外山）
19．伝導・健忘失語（講義：吉村）
20．伝導・健忘失語の言語症状（演習：外山）
21．その他の失語症（講義：吉村）

２２．失語症者の初回面接と情報収集（演習：外山）
２３．脳卒中患者のバイタルサインと緊急時の対応（講義：滝沢）
２４．失行の概念と分類（講義：能登谷）
２５．遂行機能障害・前頭葉機能障害の概念と分類（講義：能登谷）
２６．失認の概念と分類（講義：能登谷）
２７．注意障害の概念と分類（講義：能登谷）
２８．記憶障害の分類・病巣と症状（講義：能登谷）
２９．右脳損傷によるコミュニケーション障害（講義：能登谷）
３０．認知症の定義・分類・周辺症状（講義：能登谷）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90113001
科目名	言語発達障害学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Child Language Disorders Ⅰ		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	言語発達障害とは、さまざまな要因で話しことば（音声言語）の理解や表現、文字（書字）言語の理解や表現が、同一年齢集団の平均的な発達水準から有意に遅れている状態である。言語発達障害を呈する障害には知的障害、特異的言語発達障害、聴覚障害に伴うもの、自閉症や学習障害など発達障害、脳性麻痺に伴うもの、後天性障害に伴うものなど多岐にわたる。本講義では、健常発達（身体・運動・認知・ことば・社会性等）をふまえて、言語発達遅滞児に対する必要な知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	『言語発達障害学　第２版　（標準言語聴覚障害学)』(医学書院)　藤田郁代監修　5,000 円 『言語発達遅滞検査法マニュアル〈1〉』　（エスコアール）　佐竹恒夫　他　著　2,700 円 『言語発達遅滞検査法マニュアル〈2〉』　（エスコアール）　佐竹恒夫　他　著　4,104 円		
教材（参考文献）	『言語聴覚療法臨床マニュアル　改訂第３版』(協同医書出版)　平野哲雄　他　編　7,344 円		
教材（その他）	パワーポイント、　ビデオ教材、　各種検査用具		
評価方法	定期試験（50%）、　小テスト（30%）、　レポート（20%）		
到達目標	1.言語発達障害とその要因と症状について説明できる。 2.発達・知能・言語検査等の各検査の特徴を理解できる。 3.演習をとおして各検査が正しく実施できる。		
準備学習	1.教科書の予習と復習 2.解剖生理学、音声学、言語学、言語発達学など基礎科目の理解		

受講者への要望

これまでに修得した知識に基づき、言語発達障害について、検査の種類と評価方法について理解を深めてください。
言語発達障害学Ⅰで基礎づくりをし、次年度の言語発達障害学Ⅱ、重複障害学につなげてください。

講義の順序とポイント

1.　健常児の身体・運動・認知・社会性・言語の発達　（講義：橋本）

2.　健常児の身体・運動・認知・社会性・言語の発達評価　（講義：橋本）

3.　言語発達障害の原因とタイプ　（講義：橋本）

4.　知的障害（脳性麻痺、重度心身障害、ダウン症　（講義：橋本）

5.　知的障害とその評価　（演習：橋本）

6.　社会性の障害（自閉症スペクトラム障害）　（講義：橋本）

7.　社会性の障害とその評価　（演習：橋本）

8.　聴覚障害とその評価　（講義：益田）

9.　特異的言語発達障害・LD・ADHD・後天性言語障害の評価　（講義：益田）

10.　発声発語の障害（運動性構音障害、機能性構音障害）　（講義：橋本）

11.　発声発語の障害とその評価　（演習：橋本）

12.　発達検査（新版Ｋ式、KIDS、遠城寺式、津守・稲毛式）　（講義：橋本）

13.　発達検査（新版Ｋ式）の実施と解釈　（演習：弓削）

14.　発達検査（KIDS、遠城寺式、津守・稲毛式）の実施と解釈　（演習：弓削）

１５．　知能検査（ビネー、WISC、WPPSI、K-ABC、Kohs）　（講義：橋本）

１６．　知能検査（WISC、WPPSI）の実施と解釈　（演習：橋本）

１７．　知能検査（ビネー、K-ABC、Kohs）の実施と解釈　（演習：弓削）

１８．　言語発達検査（PVT、S-S 法、ITPA、LC スケール、読書力検査）　（講義：橋本）

１９．　言語発達検査（PVT、ITPA）の実施と解釈　（演習：弓削）

２０．　言語発達検査（S-S 法）の実施　（講義：橋本）

２１．　言語発達検査（S-S 法）の解釈　（講義：橋本）

２２．　言語発達検査（LC スケール）の実施と解釈　（演習：弓削）

２３．　言語発達検査（読書力検査）の実施と解釈　（演習：弓削）

２４．　認知・発達検査（フロスティッグ、ベントン、ベンダーゲシュタルト）　（講義：橋本）

２５．　認知・発達検査（フロスティッグ）の実施と解釈　（演習：弓削）

２６．　認知・発達検査（ベントン、ベンダーゲシュタルト）の実施と解釈　（演習：弓削）

２７．　コミュニケーション行動評価（S-S 法、質問応答検査）　（講義：橋本）

２８．　コミュニケーション行動評価（S-S 法）の実施　（演習：弓削）

２９．　コミュニケーション行動評価（S-S 法）の解釈　（演習：橋本）

３０．　コミュニケーション行動評価（質問応答検査）の実施と解釈　（演習：弓削）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	J90117001
科目名	音声障害学	単位数	2
科目名（英語表記）	Voice Disorders		
担当者名	高ノ原　恭子	旧科目名称	
講義概要	音声障害は声の異常であり、喉頭の病変だけでなく呼吸の制限や精神的要因が背景にあることもある。発声の基本をもとに、声の異常を考えることが、病態を理解し適切な治療を考えるうえで大切である。本講義では、ヒトの声の異常とその起源の多様性を示し、基本的な評価と治療の解説をする。演習では、声の評価（聴取印象：声の大きさや高さ、ふるえ、嗄声など、生理検査：内視鏡や空気力学的計測）、喉頭の外科的治療、音声治療、無喉頭音声とリハビリテーションについて、症例の画像を提示して解説する。		
教材（テキスト）	『言語聴覚士のための音声障害』（医歯薬出版）　大森孝一　編　4,320 円 『改訂音声障害』（建帛社）　苅安誠・城本修　編　3,348 円		
教材（参考文献）	『声のなんでも小事典』（講談社ブルーバックス）　和田美代子　著　950 円 『新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座：口腔・咽頭・喉頭・気管・食道』（メジカルビュー社）　山下敏夫　編　19,440 円		
教材（その他）	補足資料は講義・演習で配布する。		
評価方法	定期試験７０％。　演習レポート３０％。		
到達目標	1.発声の仕組みを説明することができる。 2.声の異常の背景にある病態を理解する。 3.声の評価を実践することができる。 4.発声の訓練と指導の要点を知る。		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
声の異常とそのリハビリテーションについて興味関心を持ってほしい。			
講義の順序とポイント			
1．音声コミュニケーションの特徴と社会生活での声の重要性　（講義：苅安） 2．ライフスパンでの声の異常とその起源の多様性　（演習：苅安） 3．咽頭の解剖　（久：講義） 4．喉頭の生理　（久：講義） 5．発声の仕組み　（久：講義） 6．声の異常いろいろ：耳で聞く・動画で見る　（久：演習） 7．喉頭の内観察①　（久：演習） 8．喉頭の内観察②　（久：演習） 9．音声障害の診察の流れ　（久：講義） 10．診断と治療の概説　（久：講義） 11．音声障害をきたす疾患　（久：講義） 12．咽頭病変や咽頭麻痺の診断　（久：講義） 13．声の評価　（講義：苅安） 14．声質の聴取印象　（演習：苅安） 15．声の高さや大きさとその安定性の聴取印象　（演習：苅安） 16．声の音響分析　（演習：苅安） 17．発声と声道の空気力学　（講義：苅安） 18．呼気流量と声門下圧の計測　（演習：苅安） 19．治療の方法（手術と投薬）　（久：講義） 20．喉頭がんと咽頭摘出　（久：講義） 21．無喉頭での音声機能の再生　（久：講義） 22．音声障害の治療のエビデンス　（久：講義） 23．音声治療の概説（講義：苅安） 24．音声治療の手技（演習：苅安） 25．変声障害への音声治療　（講義：苅安） 26．咽頭病変への音声治療　（講義：苅安） 27．過緊張発声への音声治療（講義：苅安）			

28. 姿勢の評価と整え方　（演習：柳田） 29. 痙攣性発声障害の治療　（久：講義） 30. 無咽頭での代用音声のリハビリテーション　（演習：苅安）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90118001
科目名	構音障害学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Speech Disorders Ⅰ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	構音障害は、正確に音声を作ることができない状態で、神経系の異常、構造上の問題、発音器官の誤った操作が背景にある。本講義では、発声発語の基本的事項（神経と筋活動、運動と声道空気力学）を提示し、発声発語の評価方法を提供する。神経病理と運動異常の理解をはかり、運動性構音障害を診る際の基本的方法と考え方、治療の方法について、代表的な症例をあげながら、解説をする。演習では、発声発語の評価、発声発語器官の観察、病態生理の理解、治療方法の選択と実施方法について学ぶ機会を提供する。		
教材（テキスト）	『みるトレ神経疾患』（医学書院）岩崎 著 『DYSARTHRIA を診る』（医歯薬出版、 9 月以降の刊行）苅安 著		
教材（参考文献）	『臨床神経内科学　第 6 版』（南山堂）　平山惠造　監修　16,200 円 『発語障害へのアプローチ』　（インテルナ出版）　廣瀬肇 監修　4,900 円 『発声発語障害学 第 2 版』　（医学書院）　藤田郁代 監修　5,000 円 『言語聴覚療法臨床マニュアル　改訂第 3 版』　（協同医書出版社）　平野哲雄　他　編　6,800 円		
教材（その他）	配布資料、音声サンプル、DVD		
評価方法	定期試験（60%）、課題（20%）、実技（20%）		
到達目標	1. 発声発語に関わる神経と筋活動、運動と声道空気力学について理解する。 2. 発声発語の観察・評価方法を知り、実践することができる。 3. 音声課題の実施ができ、発話の聴覚印象評価ができる。 4. 運動障害性構音障害の病態生理を推定する考え方を知る。 5. 運動障害性構音障害の治療の基本と実際を知る。		
準備学習	1. 講義の予習・復習をする。 2. 解剖生理学、音声学演習、耳鼻咽喉科学、臨床神経学、歯科・口腔外科学、音声障害学の内容を十分理解して本講義に臨めるよう、復習をする。		

受講者への要望

1. 新規の用語や内容が多いので、テキストを調べて講義の復習をして理解すること。
2. 講義・演習とも積極的に参加し、評価や治療方法を身に付けることを期待する。

講義の順序とポイント

1.　発声発語の生理　（講義：苅安）

2.　発声発語への神経系の関与　（講義：苅安）

3.　音声言語コミュニケーションの特徴と発話困難　（講義：苅安）

4.　標準的な問診と発話の聴取印象　（講義：苅安）

5.　音声課題と音声特徴　（講義：苅安）

6.　音声課題の実施と音声特徴の記述：声　（演習：弓削）

7.　音声課題の実施と音声特徴の記述：共鳴　（演習：弓削）

8.　音声課題の実施と音声特徴の記述：構音と韻律　（演習：弓削）

9.　口腔顔面の観察　（講義：苅安）

10.　口腔顔面の観察の実施　（演習：弓削）

11.　最大能力試験　（講義：苅安）
12.　最大能力試験の実施　（演習：弓削）

１３．　発話明瞭度の評価　（講義：苅安）

１４．　発話明瞭度の評価の実際　（演習：弓削）

１５．　運動障害性構音障害の臨床特徴と疫学　（講義：苅安）

１６．　神経病理と運動異常の関連性　（講義：苅安）

１７．　代表的な疾患と運動・音声所見①　（講義：苅安）

１８．　代表的な疾患と運動・音声所見②　（講義：苅安）

１９．　鑑別診断　（講義：苅安）
２０．　神経疾患の経過と予後　（講義：苅安）

２１．　運動障害性構音障害を診る際の基本的方法と考え方　（講義：苅安）

２２．　運動障害性構音障害のマネージメントの原則　（講義：苅安）

２３．　治療の基本と代表的な方法　（講義：苅安）

２４．　訓練の目標と課題の設定　（講義：苅安）

２５．　訓練の組み立て　（演習：弓削）

２６．　訓練課題の作成　（演習：弓削）

２７．　音声課題、最大能力試験、口腔顔面の観察の実技試験　（演習：苅安，弓削）

２８．　課題（訓練の組み立てと訓練課題の作成）　（演習：弓削）

２９．　症例検討①　（演習：弓削）
３０．　症例検討②　（演習：苅安）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2016	授業コード	J90123001
科目名	聴覚検査学	単位数	2
科目名（英語表記）	Diagnostic Audiology		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	聴覚検査のおもな目的は聴覚障害の性質・程度の把握と難聴疾患の鑑別診断にある。各種聴覚機能検査法について、目的、原理、結果の判定法について体系的に学修し、その直後に実習を行う。聴覚障害の評価・診断に必要な聴覚検査法を目的、症例に応じて選択、実施でき、結果の判定が行えるようになることを目標とする。特に重要な純音聴力検査、語音聴力検査、乳幼児聴力検査については、少人数でのグループ実習により実技の習熟を図る。		
教材（テキスト）	『聴覚検査の実際 （改訂３版)』(南山堂） 日本聴覚医学会 編 3672 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント　スライド		
評価方法	小テストと提出物（40%），定期試験（60%）		
到達目標	1. 各種聴覚機能検査法とその診断的意義について体系的に理解し、演習を通して実技に習熟する。 2. 聴覚障害の評価に必要な聴覚検査法を症例に応じて選択でき、結果の判定が行える。		
準備学習	それまでの講義の内容を復習しておく。		

受講者への要望

授業内容を時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すために、小テストを頻回に行う。

講義の順序とポイント

1. 聴覚伝導路の解剖・生理　（講義）
2. オージオメータ，オージオグラム　（講義）
3. 純音気導・骨導聴力検査法　（講義）
4. 聴力検査におけるマスキング法　（講義）
5. 純音聴力検査演習１
6. 純音聴力検査演習２
7. マスキング法演習１
8. マスキング法演習２
9. 語音聴力検査法１　（講義）
10. 語音聴力検査法２　（講義）
11 .語音聴力検査演習１
12. 語音聴力検査演習２
13. 聴力検査実技評価１　（演習）
14. 聴力検査実技評価２　（演習）
15. 閾値上聴力検査　（講義）
16. インピーダンス・オージオメトリー　（講義）
17. 誘発反応聴力検査　（講義）
18. 耳音響放射、機能性難聴の検査　（講義）
19. 閾値上聴力検査演習１
20. 閾値上聴力検査演習２
21. インピーダンス・オージオメトリー演習１
22. インピーダンス・オージオメトリー演習２
23. 誘発反応聴力検査演習１
24. 誘発反応聴力検査演習２
25. 耳音響放射の検査演習
26. 機能性難聴の検査演習
27. 聴覚障害の基準・選別聴力検査　（講義）
28. 耳鳴とその検査・カウンセリング　（講義）
29. 鼓膜の観察　（演習）
30. 各種聴覚検査による難聴の診断（演習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	J90129001
科目名	臨床実習Ⅰ（見学実習）	単位数	1
科目名（英語表記）	Clinical Practice Ⅰ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	「臨床実習Ⅰ」は、志望する職業の理解をはかり、専門科目の基礎科目と展開科目で学んだ内容を実践する場である。対象者の情報と身体・行動の観察を行い、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響（病態）を考え、病歴（障害歴）を適切な表現を用いて記述することを学生が学ぶ機会を、臨床実習施設の実習指導者の協力を得て提供する。課題は、対象者の情報の収集、対象者の身体・行動の観察と記録、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響（病態）の検討、病歴（障害歴）の記述、対象者の疾患や状態に応じたケアなどの実践とする。		
教材（テキスト）	『言語聴覚療法ー臨床マニュアル』（協同医書）他、これまでに履修した科目の教科書		
教材（参考文献）	これまでに履修した科目の参考書		
教材（その他）	『臨床実習マニュアル』		
評価方法	臨床実習期間および事前・事後学習を合わせて総合的に評価する。 臨床実習では、以下の２点についての３段階評価をする（A　十分　　B　やや不足　　C　かなり不足)。 １．実習への意欲的な参加　　評定（　　） 出席状況、積極的な姿勢（質問、提案など)、課題への取り組み ２．実習での臨床スキルの到達　　評定（　　） 観察、記録・報告、検査・訓練　　＊見学実習では主に観察		
到達目標	１）見学者として適切な行動をとることができる。 ①病院等施設のスタッフの指示に従い見学を行う。 ②対象者に対して適切なケアをすることができる。 ２）以下の臨床スキルを習得する： ①観察した事象を適切な表現と用語を用いて記録することができる（観察)。 ②「対象者（患者）の病歴・障がい歴をまとめて報告することができる（病歴)。		
準備学習	履修した科目、特に医学基礎（解剖生理学)、臨床・専門科目の内容を復習しておく。		
受講者への要望			
臨床の場にふさわしい行動をとること。 学ぶ意欲を示し、臨床スキルの習得に真摯に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
事前学習：　障害別・小児成人別の症例でのシュミレーション 見学準備、情報収集、観察記録の練習、ケアの基本 見学実習（病院等施設により異なる） １日目：　臨床実習施設のオリエンテーション（病院等の概要、所属部署の体制、日課） 病棟や診療部門（リハビリテーション科、言語聴覚部門、その他）の説明 病棟患者の紹介、カルテ閲覧方法の説明 評価・訓練場面の観察と記録 観察ノートの指導者確認と修正 ２日目：　患者の病歴・障害歴と治療経過の指導者・学生ブリーフィング（口頭説明） ～４日目　患者の観察と病歴・障害歴と治療経過の情報収集 評価・訓練場面の観察と記録 臨床経験メモの指導者確認 観察記録の指導者確認と修正（所見と解釈） 自己学習帳の提出と指導者の確認、調べる用語や内容の設定 ５日目：　患者の観察と病歴・障害歴と治療経過の文書提出 評価・訓練場面の観察と記録 臨床経験メモの指導者確認 観察記録の指導者確認と修正 自己学習帳の提出と指導者の確認			

事後学習：　臨床経験メモをまとめる
患者の観察と病歴・障害歴と治療経過のブリーフィング（口頭説明）
評価・訓練の観察記録の個別達成度の確認と追加学習
臨床スキル（所見と解釈）の全体確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2016	授業コード	J90140001
科目名	健康スポーツ総論	単位数	2
科目名（英語表記）	General Health and Sports		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	本学科は、体育・スポーツに特化した教育ではなく、医学的な知識を交えた広い視野で人間を考える人材育成を特徴としている。そこで本授業では、看護学や言語聴覚を主体とした内容に興味関心を抱き、そのうえで健康スポーツ学科での予防医学を主軸とした学修の重要性について学ぶ。それらを通して、健康スポーツ学科の専門科目（支持科目、基礎科目、展開科目、演習科目）および、4 年間の学修について解説し、自身がどういった学びの姿勢を持つべきかを考える。		
教材（テキスト）	適時、講義内容に沿った資料を配布する。		
教材（参考文献）	講義内容に適した図書や新聞記事などを紹介する。また、それらを教材の一部として活用するので印刷配布する場合がある。		
教材（その他）	講義内容の話題性を豊かにするために適した資料を配布する。		
評価方法	定期試験（60%）、レポート（40%）		
到達目標	健康医療学部の設置理念を理解し、なおかつ健康スポーツ学科の教育理念を理解して、4 年後を目指した自らの目標とその過程を設計して、社会に役立つ人材となれるように考えられるようになる。		
準備学習	保健医療や、医学、あるいは政治経済など多岐にわたるジャンルの新聞記事や雑誌に関心を寄せて、興味を持った記事などをコピーする。不明な用語などについて先ず図書館にて調べる。ネットを活用するのは最後の手段とすること。これらを授業の中で発表する時間を持つので各自準備してストックしておく。活発な意見交換を希望する。講義後においては他者の興味ある発表に関して、自分なりに調べて、ノートしてファイルし提出レポートに加える。		
受講者への要望			
新聞を読む習慣を身につけて、今おこっているさまざまな社会問題に関して、興味関心を持ってほしい。			
講義の順序とポイント			
１．この講義について概略の説明。 大学における講義の受け方について。ノートをとることの意義。話の聞き方（受講の仕方）。 ２．健康医療学部を設置した意義 ３．健康スポーツ学とはなにか？ ４．健康医療学部における 3 学科相互の関連性と連携から考える健康スポーツ学 ５．保健体育教員養成の必要性 ６．健康運動指導士の役割と必要性について ７．新聞記事を読んで、要約する ８．新聞記事を読んで要約したものを他者に説明する ９．研究論文を読んでみる（研究論文の構成） １０．健康スポーツ学科教員の専門性紹介 １１．スポーツ科学者から見た健康医療学部と健康スポーツ学科 １２．数組のグループに分かれて、あるテーマについてデイスカッションを行い、内容をまとめて提出する（1 回目） １３．数組に分かれて、あるテーマについてグループデイスカッションする。内容をまとめて提出する（2 回目） １４．各グループでのまとめを発表して全体で討論する １５．各グループでのまとめを発表して全体で意見を交わす			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J90141001
科目名	発達段階と健康	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Promotion at Different Development Stages		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	一人ひとりの健康生活を実現するためには、生涯を通した「健康づくり」が必要である。我が国の健康づくり施策においても、人生の各段階の健康課題や健康観等に応じた対応が求められている。本講義では人の生涯を「幼・少年期」「青・壮年期」「中・高年期」の３段階に分け、各発達段階の特徴と健康課題を理解するとともに、各発達段階において重要な健康観や健康行動を確立する健康づくり支援とその具体的な方策（ライフステージ別の保健活動を含む）について学修する。		
教材（テキスト）	適宜資料を配付する。		
教材（参考文献）	『からだの発達と加齢の科学』　（大修館書店、2012）　髙石昌弘 監修 3,024 円 『事典　発育・成熟・運動』　（大修館書店、1995）　ロバートM. マリーナ、クロード・ブシャール 著 7,560 円		
教材（その他）			
評価方法	課題レポート（30％）、試験（70％）		
到達目標	ライフステージにおける人々の心理、社会、身体的特徴と健康課題について知り、対象の健康行動に結びつく支援の在り方について考えることができる。		
準備学習	次時の内容を指示するので、授業までに予習をすること。 毎時、復習をすると同時に考察を深めること。		
受講者への要望			
既習事項を基に、知識をさらに深めようとする姿勢、態度を求める。受講にあたっては、漠然と講義を受ける態度ではなく，学生自身が考え意見交換をするなど、積極的な姿勢や発言を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．発育発達の概観 ２．胎児期、乳児期の発育発達 ３．幼児期、児童期における発育発達 ４．幼少年期の体力特性と遊び・身体運動と健康づくり ５．現代社会における幼少年期の健康課題と具体的方策 ６．青年期から壮年期にかけての心理、社会的発達 ７．青年期から壮年期にかけての心理、社会的発達課題 ８．青年期から壮年期にかけての身体的発達 ９．青年期から壮年期にかけての身体的発達課題 １０．青年期から壮年期にかけての健康支援活動 １１．働き盛りの健康課題、特に生活習慣病を中心に １２．更年期・向老期の特徴と健康課題 １３．体力・身体機能の加齢変化 １４．介護予防・フレイル １５．老化研究から学ぶ生涯を通じた健康づくりとは			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	J90142001
科目名	救急・応急処置	単位数	2
科目名（英語表記）	First Aid and Emergency Treatments		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	運動・身体活動の際に必要な救急・応急処置の基礎理論と実践的な知識を学ぶ。全身性障害に対する救急蘇生法の概要、局所外傷に対する応急処置、さらに人工呼吸や胸骨圧迫、自動体外式除細動器(AED)の使用方法などの一次救命処置やその科学的根拠を説明する。また本講義では、理論だけではなく RICE 処置、バンテージやテーピングの巻き方、松葉杖を用いた歩行方法、負傷者を安全に担架に乗せる方法などスポーツ現場で役立つ実践的な技術、知識も修得する予定である。		
教材（テキスト）	『救急蘇生法の指針 市民用・解説編 2010』(へるす出版) 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 監修 1,404円 『救急蘇生法の指針 市民用 2010』(へるす出版) 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 監修 432 円		
教材（参考文献）	『新版 トレーナーズ・バイブル』(医道の日本社、2007) William E.Prentice、Daniel D.Arnheim 著 7,128円		
教材（その他）	必要資料は適宜配布する。		
評価方法	期末テスト（60%)、 実技テスト（40%）		
到達目標	健康スポーツ指導者にとって必要な救急・応急処置の理論を理解し、実践的な技術・知識を習得することを目標とする。		
準備学習	講義に参加する前に前回の学修内容を確認しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
実際の人命救助や応急処置において本講義で修得したことが活かせることを希望する。			
講義の順序とポイント			
１．健康スポーツ指導者にとって重要な救急・応急処置の考え方（井口） ２．外科的救急・応急処置を行うにあたっての守るべき一般事項（太田） ３．全身性障害についての外科的処置（井口） ４．局所外傷について応急処置(RICE)とする安静・冷却・圧迫・挙上の外科的処置（井口） ５．部位別スポーツ障害とその救急・応急処置（頭部・頸部・腰部）（太田） ６．部位別スポーツ障害とその救急・応急処置（肩・上肢・手）（太田） ７．部位別スポーツ障害とその救急・応急処置（下肢・足部）（太田） ８．救急蘇生法理論（呼吸器系、換気、ガス交換の異常、1 次と 2 次救命処置、救命の輪、心配蘇生法）（井口） ９．ＡＥＤ（半自動除細動器）の原理と使い方（井口） １０．外傷の種類別（捻挫、骨折、打撲、腱断裂、脱臼、創傷、肉離れ）のテーピングの外科的処置とリハビリ（井口） １１．応用救急処置１（血法、窒息、熱傷）（井口） １２．応用救急処置２（落雷、感電、凍傷、低体温）（井口） １３．応用救急処置３（腹痛・胃腸障害時の処置）（井口） １４．救急処置実践１（包帯、三角巾の使用方法実習）（井口） １５．救急処置実践２（心肺蘇生法と AED、レサシアンを使って実習及び実技テスト（太田）		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	ー	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	J90143001
科目名	健康スポーツトレーニング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本講義では、各トレーニングおよびエクササイズに対する身体の反応について学修することを主な目的とする。トレーニングはその目的によって無酸素系、有酸素系トレーニングなどのように選択する方法が異なる。その理由は、各トレーニングによって起こる様々な適応（トレーニング効果）が、神経系、内分泌系などでそれぞれ異なるためである。本講義では、これらの適応に着目しながら年齢、性別などに応じて選択できるトレーニング方法について幅広く学修する。		
教材（テキスト）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教材（参考文献）	必要な資料があれば、適宜配布する。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト（毎講義初めに行う）(20%)、 中間テスト（30%)、 期末テスト（30%)、 レポート（20%）		
到達目標	各トレーニングの効果を理解し、目的に応じたトレーニングを様々な要求に応じながら安全なプログラムを作成できる能力を育成する。		
準備学習	各講義後、必ず復習し理解を深め次回の講義へ臨むことを期待する。		

受講者への要望

日本体育協会公認スポーツ指導者、健康運動指導士、健康運動実践指導者、GFI、CSCS 資格取得希望者の必修科目である。明確な目的意識で資格取得に目指す事。

講義の順序とポイント

1．トレーニング総論

体力概念、身体の適応能と運動・休養・栄養生活の確立（全面性について)、全身と局所運動の生理学的運動量（エネルギー仕事量と総仕事量)、トレーニングの原則（全面性・反復・個別・意識性・過負荷・負荷漸増)、トレーニングの可逆性、ウォームアップとクーリングダウンの目的方法

2．トレーニング各論 1（トレーニング条件と反応・トレーニング強度）

トレーニングの目標設定と運動効果の特異性反応、効果発現の主要因としての運動強度、運動持続時間の調和、週当たりの頻度と生活時間の対応、効果表出の目標時間（一般的 12 週間)、総運動量、物理的運動強度の指標、生理的運動強度の指標、自覚的運動強度の指標、心拍反応と運動強度

3．トレーニング各論 2（筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果）

静的筋力トレーニングの負荷条件と作業効果、動的筋力トレーニングの負荷条件と作業効果、等速性筋力トレーニングの負荷条件、伸張性筋力トレーニングと筋量増加、トレーニング負荷と筋繊維肥大・線維数の増加、トレーニングによる筋原線維分裂と筋肥大、トレーニングによる神経支配の改善

4．トレーニング各論 3（筋パワー・筋持久力トレーニングの条件とその効果）

筋パワートレーニングと筋持久力トレーニングの目標と負荷条件の差、筋パワートレーニングの理論的負荷条件、筋パワートレーニングの負荷強度と収縮強度の作業効率、筋パワー向上の負荷条件と筋線維タイプの反応、筋持久力トレーニングの負荷条件と作業効果、筋持久力向上と筋毛細血管床・ミトコンドリアの容量の反応

5．トレーニング各論 4（全身運動によるエアロビックトレーニング）

運動種目からみたエアロビックとアネロビック運動、各種エアロビック運動強度の共通指標、軽中強度・長時間トレーニングの負荷条件と作業効果（耐久時間と距離の改善)、ウォーキング・ジョギング速度と消費カロリーの関係、エアロビックトレーニングの生理的効果

6．障害者の運動能力の特徴とトレーニング

身体障害者に対する運動指導の基本的あり方、身体障害者の健康運動トレーニング、身体障害者の筋機能・調整能トレーニング様式、身体運動の心理的効果

7．青少年の発育発達とトレーニング

身長・体重発育と成長期の特徴、発育と生活の影響、暦年齢と生物学的年齢、運動能力の発達の特徴、急速発育期の機能と至適トレーニング刺激（スピード・筋力・持久力）

8．女性の身体的の特徴

胸囲／腰囲、体脂肪率と除脂肪体重、筋機能の性差の特徴（上体と下体の筋量と筋力)、酸素運搬系性差の特徴（呼吸・循環機能と血液組成)、体力・運動能力の性差の特徴、女性のエアロビックトレーニングの負荷とその効果

９．加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング
　加齢に伴う身体活動の低下と体力低下、体力・運動能力のピーク年齢と加齢に伴う自然減退、加齢に伴う機能低下の特徴（形態及び機能の変化)、加齢に伴う最高心拍数の低下（２２０－年齢)、エアロビックトレーニングの生理的効果、生活行動変容と筋力・菌パワーの低下（階段昇降能力の低下)、筋活動の減少と廃用性筋萎縮、運動様式の変化と筋活動部位の不活発化、筋活動期の減少と筋線維タイプの変化、立位機能と生活歩行の為の筋機能トレーニング、高齢者の為の筋機能トレーニングの負荷条件
１０．フィットネスプログラムの実際１（フィットネスプログラムの基本的方法）
１１．フィットネスプログラムの実際２（子ども・女性のフィットネスプログラム）
１２．フィットネスプログラムの実際３（青年期のフィットネスプログラム）
１３．フィットネスプログラムの実際４（壮年・高齢者のフィットネスプログラム）
１４．フィットネスプログラムの実際５（障害者のフィットネスプログラム）
１５．総復習（特に運動効果とフィットネスプログラムについて）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J90144001
科目名	健康スポーツトレーニング実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、一般的なトレーニングプログラムで用いられる基本的なエクササイズテクニックを実習を通して修得することである。実習は動的、静的ストレッチングや有酸素運動を含んだ適切なウォーミングアップ方法からスクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングテクニックの修得を目指す。さらにフィットネスレベルや性別、年齢に応じたフィットネスプログラムを様々なマシーンや機器を使って実習を行う。		
教材（テキスト）	なし（各講義パワーポイントで資料を作成するので各自ダウンロードする）。		
教材（参考文献）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	実技テスト（40%)、定期試験（60%）		
到達目標	１．スクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングを安全に遂行できる能力を修得することを目標とする。 ２．補助者としてレジスタンストレーニングを補助する際に必要な知識、技術を身に付け、実施者を安全にサポートできる能力を修得することを目標とする。 ３．年齢、性別を考慮し、安全で効果的なフィットネスプログラムを作成できる能力を修得することを目標とする。		
準備学習	原則授業 1 週間前までに必要な文献、資料を配布するので、授業までに各自予習しておくこと。		

受講者への要望

本講義は実習の中でレジスタンストレーニングなどを行うので、普段から各自身体を動かし、基礎体力の向上を図っておくことが望ましい。
実習時は運動しやすい服装で参加すること。

講義の順序とポイント

１．健康生活及び競技スポーツでの各種運動・トレーニングの重要性と意義と実習概要
２．ストレッチングと柔軟体操の実際
　レッスン導入「柔軟体操」の実習、アライメントのチェック方法、「スタティックストレッチングとバリスティックストレッチング」、基本的ストレッチング運動座位、立位、臥位ストレッチング、2 人組によるストレッチングの実習、PNF ストレッチングの解説、レッスンのまとめと「指導上の注意」
３．ウォーミングアップとクーリングダウン
　ウォーミングアップとクーリングダウンの意義について理解させる（基本的運動実習）（レッスンのまとめ「指導上の注意」）
４．静的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「静的筋力トレーニングによる抵抗運動」の説明、肢位別自体重エクササイズ、タオル・壁・柱の固定物利用の抵抗運動、パートナーによる抵抗運動と筋力発揮、レッスンのまとめ「指導上の注意」
５．動的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「動的筋力トレーニング法」の説明と方法別比較、チューブやバンドを使用したトレーニング、ダンベル・バーベルの扱いと床および支持台についての注意事項、10RM の重量の決め方の実習、身体部位別動的筋力トレーニング運動の実習、マシントレーニングの説明、トレーニング頻度、回数とトレーニング部位と身体部位の組合せの説明、レッスンのまとめ「指導上の注意」、各種動的レジスタンストレーニング補助のテクニック
６．子どものフィットネスプログラム（種々器具を活用）
７．壮年のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
８．高齢者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
９．女性のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１０．障害者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１１．個別フリーウエイトトレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）
１２．個別フリーウエイトトレーニング２（下半身のトレーニングの実際）
１３．個別フリーウエイトトレーニング３（全身挙上系のトレーニングの実際）
１４．個別マシーントレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）

１５．個別マシーントレーニング２（下半身のトレーニング／小筋群部位系のトレーニングの実際）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2016	授業コード	J90144002
科目名	健康スポーツトレーニング実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、一般的なトレーニングプログラムで用いられる基本的なエクササイズテクニックを実習を通して修得することである。実習は動的、静的ストレッチングや有酸素運動を含んだ適切なウォーミングアップ方法からスクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングテクニックの修得を目指す。さらにフィットネスレベルや性別、年齢に応じたフィットネスプログラムを様々なマシーンや機器を使って実習を行う。		
教材（テキスト）	なし（各講義パワーポイントで資料を作成するので各自ダウンロードする）。		
教材（参考文献）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版）』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	実技テスト（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	１．スクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングを安全に遂行できる能力を修得することを目標とする。 ２．補助者としてレジスタンストレーニングを補助する際に必要な知識、技術を身に付け、実施者を安全にサポートできる能力を修得することを目標とする。 ３．年齢、性別を考慮し、安全で効果的なフィットネスプログラムを作成できる能力を修得することを目標とする。		
準備学習	原則授業 1 週間前までに必要な文献、資料を配布するので、授業までに各自予習しておくこと。		

受講者への要望

本講義は実習の中でレジスタンストレーニングなどを行うので、普段から各自身体を動かし、基礎体力の向上を図っておくことが望ましい。
実習時は運動しやすい服装で参加すること。

講義の順序とポイント

１．健康生活及び競技スポーツでの各種運動・トレーニングの重要性と意義と実習概要
２．ストレッチングと柔軟体操の実際
　レッスン導入「柔軟体操」の実習、アライメントのチェック方法、「スタティックストレッチングとバリスティックストレッチング」、基本的ストレッチング運動座位、立位、臥位ストレッチング、2 人組によるストレッチングの実習、PNF ストレッチングの解説、レッスンのまとめと「指導上の注意」
３．ウォーミングアップとクーリングダウン
　ウォーミングアップとクーリングダウンの意義について理解させる（基本的運動実習）（レッスンのまとめ「指導上の注意」）
４．静的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「静的筋力トレーニングによる抵抗運動」の説明、肢位別自体重エクササイズ、タオル・壁・柱の固定物利用の抵抗運動、パートナーによる抵抗運動と筋力発揮、レッスンのまとめ「指導上の注意」
５．動的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「動的筋力トレーニング法」の説明と方法別比較、チューブやバンドを使用したトレーニング、ダンベル・バーベルの扱いと床および支持台についての注意事項、10RM の重量の決め方の実習、身体部位別動的筋力トレーニング運動の実習、マシントレーニングの説明、トレーニング頻度、回数とトレーニング部位と身体部位の組合せの説明、レッスンのまとめ「指導上の注意」、各種動的レジスタンストレーニング補助のテクニック
６．子どものフィットネスプログラム（種々器具を活用）
７．壮年のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
８．高齢者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
９．女性のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１０．障害者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１１．個別フリーウエイトトレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）
１２．個別フリーウエイトトレーニング２（下半身のトレーニングの実際）
１３．個別フリーウエイトトレーニング３（全身挙上系のトレーニングの実際）
１４．個別マシーントレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）

１５．個別マシーントレーニング２（下半身のトレーニング／小筋群部位系のトレーニングの実際）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J90145001
科目名	スポーツ原理	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy of Sports and Physical Education		
担当者名	柴田　俊和	旧科目名称	
講義概要	体育とは何か、スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理･原則について理解を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割等について、自らの言葉で語ることができる力を養うことを目標とする。体育･スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動を通して行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育･スポーツへの取り組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることができる力を養う。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配付する。		
教材（参考文献）	『教養としての体育原理』（大修館書店）　友添秀則・岡出美則 編著 1,944 円		
教材（その他）	新聞記事や各機関で公表されている資料等を適宜紹介・配布する.。		
評価方法	毎回の小レポート（各 4 点満点の 60 点）と最終レポート（40 点）の合計で評価する。		
到達目標	体育とは何か、スポーツとは何であるかを考える上で必要な原理･原則について理解を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割について、自らの言葉で語ることができる力を養うことを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回授業の最初に、前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
今までの経験のみに基づいた常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
講義の順序とポイント			
１．なぜ、スポーツ原理（体育原理）を学ぶのか ２．スポーツと体育は何が違うのか ３．体育の理念はどのように変わってきたのか ４．体育･スポーツと人間関係 ５．スポーツとフェアプレイ、スポーツマンシップ ６．体育･スポーツと身体形成 ７．子どもの発達に欠かせない体育･スポーツの役割 ８．スポーツと競争 ９．スポーツと技術学習・技能獲得 １０．スポーツ・フォア・オール １１．スポーツと勝利至上主義 １２．スポーツとメディア １３．スポーツとジェンダー １４．障害者にとってのスポーツ １５．オリンピズム、オリンピック・ムーブメントとは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90146001
科目名	健康医学（内科）	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Health: Internal medicine		
担当者名	青井　渉	旧科目名称	
講義概要	健康を維持増進するための運動やスポーツ活動については、年齢や性別、あるいは障害の有無にかかわらず習慣的に実施することで、様々な疾患を予防したり、心身の健康維持に効果的と考えられる。しかしながら運動実施においては表裏一体となる、内科系の急性障害、慢性障害について学修する。また、運動障害に関する予防医学的な観点から、例えば熱中症予防、メデイカルチェックの必要性などに着いても学修する。さらには、近年問題となっているドーピングや薬物依存症についても学修し、健康を主眼とした運動・スポーツのあり方について内科的な側面から総合的に学修する。		
教材（テキスト）	スライド、配布資料		
教材（参考文献）	スライド、配布資料		
教材（その他）	なし		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	健康を維持するために必要な事柄を内科学と結びつけて理解する。		
準備学習	特に無し		
受講者への要望			
予習はしなくても良いが、復習をしっかりすること。			
講義の順序とポイント			
１．ライフステージにおける運動の役割 ２．運動療法の概要 ３．糖尿病予防・改善における運動の理論と方法 ４．高血圧予防・改善における運動の理論と方法 ５．加齢による運動機能の低下と対策 ６．健康づくりにおけるレジスタンス運動の役割 ７．運動前後における栄養補給 ８．熱中症とその対策 ９．スポーツ貧血とその対策 １０．アスリートにおけるドーピング問題とその対策 １１．生活習慣病ってどんな病気？そのスポーツによる予防効果 １２．中高年の好ましい運動、身体のチェック　落とし穴、けがの特徴 １３．生活習慣・体操で膝の痛みや腰の痛みを解決 １４．男女ともに経験する更年期・骨粗しょう症 １５．運動・食事・休養のバランスチェックで生活習慣病を防ぐ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90147001
科目名	健康医学（外科）	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Health: Surgery		
担当者名	常岡　秀行	旧科目名称	
講義概要	健康を維持増進するための運動やスポーツ活動については、年齢や性別、あるいは障害の有無にかかわらず習慣的に実施することで、様々な疾患を予防し、心身の健康維持に効果的と考えられる。本講義では、運動実施に伴う外科系の問題の中でも整形外科領域における急性障害、慢性障害について学修する。比較的好発する傷害の解説とその予防方法、治療中からの運動 再開に向けたリハビリテーションの必要性について学修する。さらには脊髄損傷を伴う重大な症例についても解説し、その原因とメカニズムを学修し予防に努める。傷害予防においては、我々が実施可能な３次救急について、テーピング処置なども含めて学修する。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	教材（参考文献）：授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	毎回の授業後に実施する小テストの合計点で評価する。		
到達目標	①健康の維持、増進に不可欠な運動（スポーツ）の重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。 ②運動やスポーツ活動の際に頻発する傷害（けが、故障）の発生メカニズムや予防対策について理解を深める。		
準備学習	授業終了時に次回の資料を配布するので、必ず目を通しておくこと		
受講者への要望			
①遅刻や私語は厳禁。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出させる。 ②評価方法にも記載の通り、毎回の授業後に小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
１．健康医学概論：ヒトの身体の基本的な構造と機能について ２．運動不足の弊害：代表的な生活習慣病とは ３．運動（スポーツ活動）の効果について ４．ヒトの身体の運動器　①骨の構造と機能 ５．　〃　②関節の構造と機能 ６．　〃　③筋肉について、筋力増進のメカニズム ７．　〃　④神経の分類と機能 ８．スポーツ外傷（けが）　①足首の捻挫 ９．　〃　②膝の外傷 １０．　〃　③応急処置と予防対策 １１．スポーツ障害（故障）　①肘の障害 １２．　〃　②膝の障害 １３．　〃　③成長期に多い障害 １４．　〃　④腰痛の主な発生誘因と予防対策 １５．スポーツ外傷、障害後のリハビリテーション			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J90148001
科目名	生活習慣病	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Style-related Diseases		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生活習慣病と、その予防や治療のための医学的基礎知識について、スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて学修する。学生自身の健康に役立てるとともに将来の有能な健康運動・疾病予防の指導者育成を目指す。生活習慣病について全般的な講義を行い、メタボリックシンドローム、肥満、高血圧、脂質異常、糖尿病、心臓病、脳疾患，認知症、運動器疾患などについて基本的な知識を学修する。さらにこれらの病気を予防するためにはどうすれば良いかについて、及び、食事療法、スポーツ・運動療法などの基礎的知識について学修する。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）	ビデオ:いきいき健康ライフシリーズ		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、定期試験などを 40%とする。		
到達目標	生活習慣病の基礎知識を理解し生活習慣病予防のために、どのように生活習慣を改善すればよいかを、自身の家庭をサンプルにして検討できるようになる。 自身の日常生活における運動習慣を検討できるようにする。		
準備学習	厚生労働省ホームページにある生活習慣病のコラムを読む事。 日本医師会ホームページにある生活習慣病のコラムを通読すること。		

受講者への要望

質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。
生活習慣病の予防は学生自身の今後の人生や、家族の人生に大きな影響があることを理解してほしい。

講義の順序とポイント

1．メタボリックシンドローム
2．健康運動
3．肥満、肥満症 1
4．肥満、肥満症 2
5．高血圧
6．脂質異常症
7．耐糖尿異常、糖尿病
8．虚血性疾患とリハビリテーション
9．ロコモティブシンドローム
１０．運動器退行性疾患
１１．呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患、運動誘発性喘息)
１２．がん(悪性新生物)
１３．軽度認知障害、認知症
１４．脳卒中
１５．生活習慣と改善

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J90155001
科目名	健康スポーツ心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology of Health and Sports		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	身近なトピックから情報を得ることで知識を深め、本講義で得た知識を基に日常生活や競技スポーツの場面において何が必要なのかという課題発見力や課題に対してどう対処するかという問題解決能力を身につける。各テーマを通じて、 健康スポーツにおける心理学の理論・意義・役割について理解することを目標とする。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布する。		
教材（参考文献）	『健康スポーツの心理学』　竹中晃二編　大修館書店		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（60%）、授業中に実施する課題（20%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（20%）		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、健康づくりの運動における行動変容と競技スポーツにおける心理的スキルをさまざまな場面で応用できるようにする。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は原則禁止。5 分前には着席すること。授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。

講義の順序とポイント

1．スポーツと心の基礎１
　<スポーツ活動・運動による気分・自己概念・パーソナリティー形成への長期・短期的効果>

2．スポーツと心の基礎２
　<スポーツ活動・運動による人間形成、パーソナリティーとの特徴、情動との関係>

3．スポーツ指導における動機付け
　<運動意欲、運動意欲満足度向上の方法、「やる気」を高めるトレーニング原理・原則>

4．スポーツコーチングの心理
　<示範、効果的な言葉かけ、トレーニングと心理、トレーニング方法と心理、カウンセリング>

5．メンタルマネジメント
　<基本的な考え方とメンタルトレーニング［リラクゼーション含]、試合にむけての準備、プレッシャーやあがり、スランプ>

6．スポーツ指導者（体育教師含む）のメンタルマネジメント
　<リーダーシップのタイプとスキル、指導者としてのメンタルマネジメントの留意点>

7. 心の健康論
　<メンタルヘルス、メンタルヘルスにおける媒介要因、発達段階に応じて共通するメンタルヘルスの問題>

8．健康づくり運動とカウンセリング１
　<健康運動実践に伴う心理的要因の変化、健康運動達成欲求の多様性、生活習慣病と将来の健康の不安>

9．健康づくり運動とカウンセリング２
　<運動の心理的効果及び効果強化目的の認知的方略、健康運動実践のカウンセリング及び相談指導の技法>

１０．健康運動実践におけるストレスアセスメントと対処法１
　<ストレス概念・定義と生物学的及び社会学的因子とストレス関連疾患、ストレス反応の生物学的測定、ストレスの対処法>

１１．健康運動実践におけるストレスアセスメントと対処法２
　　<カウンセリングと相談指導、カウンセリングと欲求運動の示唆と指導・技法、禁煙指導の具体例紹介と運動指導との関わり>

１２．運動行動変容の理論

１３．運動行動変容の実際と効果

１４．運動との関わりを深める働きかけ方と指導方法、運動指導における心理学的視点を取り入れた指導実践

１５．運動学習効果を高める集団のあり方への指導方法、身体と心を通しての「生きる」力を育む運動学習の効果的指導方法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	J90156001
科目名	スポーツ運動学	単位数	2
科目名（英語表記）	Kinematics of Sports		
担当者名	柴田　俊和	旧科目名称	
講義概要	スポーツ指導者や体育の教員を目指す者は、運動がどのようにして出来るようになるのか、どのようにして人を出来るようにするのかを理解する必要がある。「頭では解っていてもそうは動けない」場面や「運動のことや身体の原理など全く知らないのに素晴らしい動きをする」人に出会う時、「運動を身体で理解する」ということの重要性を痛感する。スポーツ運動を身体で感じ、理解し、伝える力は運動指導に関わる者として必須の能力である。本講義では、このような認識と能力について学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配付する		
教材（参考文献）	『教師のための運動学』（大修館書店）金子明友監修 。『スポーツ運動学、身体知の構造』（明和出版）金子明友著		
教材（その他）			
評価方法	毎回の小レポート（各 4 点満点の 60 点）と最終レポート（40 点）の合計で評価する。		
到達目標	スポーツ運動における自然科学的分析と人間学的分析の意味や役割の違いを理解できるようになり、保健体育の教員やスポーツ指導者を目指す上で欠かすことのできない運動学的な考え方が出来るようになることを目指す。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付したり課題を提示するので、次回までに準備しておくこと。また、毎回授業の最初に、前回授業内容に関する復習質問を行うので、答えられるように復習しておくこと。		
受講者への要望			
自分のこれまでの運動経験を思い出しながら、今にも体を動かしたくなるような、そんな気持ちで授業に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．運動学で扱う「運動」とは ２．自然科学的運動分析と人間学的運動分析の違いについて ３．動感身体知とは ４．運動の発生について①（どのようにして運動が出来るようになるか） ５．運動の発生について②（コツとカンの理解について） ６．運動の習熟位相について ７．運動の指導について①（どのようにして運動を他人に伝えるか） ８．運動の指導について②（他人の運動に共感できるか） ９．運動の指導について③（道しるべの重要性） １０．運動の構造について①（運動を見抜くということ） １１．運動の構造について②（動きの価値と独創性について） １２．運動の構造について③（運動を支える経験について） １３．運動指導者を目指すために必要なこと①（最適化を志向する領域について） １４．運動指導者を目指すために必要なこと②（最高化を志向する領域について） １５．運動指導の全体像			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90157001
科目名	健康スポーツ指導方法論	単位数	2
科目名（英語表記）	Instructional Method for Health and Sports		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	健康・スポーツの指導者の役割（指導者としての心構え・視点、倫理、望ましい人間関係、ミーティングの方法など）、健康スポーツの参加者の増加やスポーツの裾野を広げるという意味でのトップアスリートの発掘・育成・強化の重要性とその方法、指導計画のたて方、健康・スポーツ活動と安全管理、具体的指導方法（個別指導と集団指導、指導効果の評価、情報活用法など）、指導能力を高める方法（コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル）などの指導者に必要な知識とスキルについて学修する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『日本体育協会公認スポーツ指導者テキスト』 日本体育協会 『健康運動指導士テキスト』　健康体力づくり事業財団		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内の実習におけるコミュニケーション・プレゼンテーションスキルの評価（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	健康・スポーツの指導者の役割、健康スポーツの参加者の増加やスポーツの裾野を広げるという意味でのトップアスリートの発掘・育成・強化の重要性とその方法、指導計画のたて方、健康・スポーツ活動と安全管理、具体的指導方法について理解し、説明できるようにする。また、指導者として必要な基本的なコミュニケーション、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。		
準備学習	授業終了時に課題を指定するので、指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
予習、復習をしっかり行い、積極的な態度で講義に出席するよう要望する。			
講義の順序とポイント			
1.　健康・スポーツの指導者の役割１（指導者とは、指導者としての倫理など） 2.　健康・スポーツの指導者の役割２（指導者としての心構え・視点など） 3.　健康・スポーツの指導者の役割３（指導者と被指導者との望ましい人間関係など）指導能力を高める方法（コミュニケーションスキル）１ 4.　健康・スポーツの指導者の役割４（ミーティングの方法など）指導能力を高める方法（コミュニケーションスキル）２ 5.　健康・スポーツの指導者の役割５（アスリートの発掘・育成・強化の重要性など） 6.　健康・スポーツの指導者の役割６（アスリートの発掘・育成・強化の方法など） 7.　健康・スポーツの指導法１（アスリートの育成のための視点など） 8.　健康・スポーツの指導法２（個別指導と集団指導など）指導能力を高める方法（コミュニケーションスキル）３ 9.　健康・スポーツの指導法３（チームマネジメントなど）指導能力を高める方法（コミュニケーションスキル）４ １０.　指導方法（指導効果の評価、情報活用法など） １１.　健康・スポーツ活動と安全管理 １２.　指導計画のたて方、指導能力を高める方法（プレゼンテーションスキル）１ １３.　指導計画のたて方、指導能力を高める方法（プレゼンテーションスキル）２ １４.　指導計画のたて方、指導能力を高める方法（プレゼンテーションスキル）３		

１５．　指導計画のたて方、指導能力を高める方法（プレゼンテーションスキル）４

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	J90158001
科目名	スポーツ栄養学	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Nutrition		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	本講義では、競技力向上を目的にしたスポーツ選手の栄養摂取や食事管理の基本を学修する。具体的には、身体活動量とエネルギー必要量、身体組成、体づくり・スタミナづくりの食事法、水分補給法、サプリメント摂取法、トレーニングの目的に応じた食事法等について、最新の生理学的・生化学的・体力科学的知見を踏まえて学修する。ここでの学修内容は、アスリートやスポーツ愛好家に適用できるのは当然ながら、健康づくりの基盤になるものである。		
教材（テキスト）	樋口満編著『スポーツ栄養学』市村出版 岡村浩嗣編著『市民からアスリートまでのスポーツ栄養学』八千代出版		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	ミニテスト（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%）		
到達目標	スポーツに必要な体づくりや骨づくり、あるいはスポーツ能力に影響するスタミナや疲労回復のための栄養・食事の在り方についてその理論を理解し、実際のスポーツや生活に生かせる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

日頃から、自分の食生活に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。
講義で得た知識を用いて健康増進や競技力向上を目指した食事を実践してほしい。
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。
毎回、授業の初めに、前回の内容についてのミニテスト（5 分以内でできる問題）を行うので、そのためにしっかり復習して欲しい。これは定期試験で役立つはず。

講義の順序とポイント

１．はじめに１(スポーツと栄養、健康と栄養、三大栄養素、エネルギー供給課程)
２．はじめに２(競技のタイプ、トレーニング期分けと栄養計画、アスリートの栄養摂取と食生活)
３．身体組成の評価と健康（各種身体組成評価方法、競技生活と身体組成、健康と身体組成）
４．身体づくりと栄養（筋肉づくりとたんぱく質栄養、トレーニングと栄養の同期、ホルモンの働き）
５．エネルギー代謝と身体活動量（基礎代謝量、身体活動レベル、エネルギー必要量、身体活動量の評価）
６．ウエイトコントロール（減量と増量、効果的な体重管理、生活習慣病と体重・身体組成管理、体重のリバウンド）
７．スタミナづくりと栄養（効果的な成分と方法：グリコーゲン・ローディング、ビタミン（補酵素作用と抗酸化作用)、果糖）
８．運動と水分補給（熱中症対策）
９．骨づくりと骨粗鬆症の予防および貧血予防（骨づくりに効果的な成分・方法と骨形成、運動性貧血、貧血予防と持久力）

１０．サプリメント（サプリメント、保健機能食品、特定保健食品、エルゴジェニックエイド）

１１．競技力向上の栄養計画（コンディショニングと試合前・試合後の食事）
１２．一日の活動量と食事摂取状況の評価と食事計画（アセスメント１）（食事・活動量調査の実践，現状把握）

１３．一日の活動量と食事摂取状況の評価と食事計画（アセスメント２）（エネルギーバランス，身体活動レベル）

１４．Aging（成長・発育･加齢）に伴う身体の変化と運動と栄養（痩せおよび肥満の健康障害、その機序、メタボリックシンドロームとの関連）
１５．まとめ：健康づくりに必要な効果的なトレーニングと食生活（食事摂取基準との関連で）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J90159001
科目名	運動生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Exercise Physiology		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	呼吸循環器系、筋・骨格系、脳・神経系、内分泌系、免疫能などの身体諸機能の基本的構造と機能について学び、一過性の運動がこれらの身体諸機能に及ぼす影響、長期的な運動トレーニングがこれらの身体諸機能に及ぼす効果について学修する。また、暑熱環境・寒冷環境などの環境温が身体諸機能に与える影響、低酸素環境や水中環境が身体諸機能に与える影響など、運動と環境について、さらには、運動と健康、発育発達と加齢による身体諸機能の変化についての基礎知識についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『健康運動実践指導者テキスト』　健康体力づくり事業財団 『健康運動指導士テキスト』　健康体力づくり事業財団 『日本体育協会公認スポーツ指導者テキスト』　日本体育協会		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	確認テスト（50%）(毎回授業の最後に、その日の学修内容の確認テストを実施)、定期試験（50%）		
到達目標	身体諸機能の基本的構造と機能、一過性の運動が身体諸機能に及ぼす影響、長期的な運動トレーニングが身体諸機能に及ぼす効果、暑熱環境・寒冷環境、低酸素環境・水中環境などが身体諸機能に与える影響、および運動と環境の関係、運動と健康、発育発達と加齢による身体諸機能の変化について理解し、説明できるようにする。		
準備学習	授業終了時に課題を指定するので、指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
予習、復習をしっかり行い、積極的な態度で講義に出席するよう要望する。			
講義の順序とポイント			
１．身体諸機能と運動（呼吸・循環器系、脳・神経系、骨格筋系、内分泌系、免疫系の機能と運動の関係） ２．呼吸器系と運動（呼吸器の構造と機能、運動時の換気動態、最大酸素摂取量、呼吸機能に及ぼす長期的運動効果） ３．循環器系のしくみと調節（心臓の構造と心筋の収縮、脈管系の分類と各機能、運動時の循環器系の調節のしくみなど） ４．循環器系と運動（運動時の血流調節・動脈血圧調節のしくみ、長期的運動による心機能・血管機能の変化など） ５．脳・神経系と運動１（脳・神経系の構成、自律神経系の構成と調節機能、反射のしくみと運動制御の階層構造など） ６．脳・神経系と運動２（随意運動と不随意運動、運動・動作の上達のメカニズム、長期的運動伴う脳・神経系機能の変化） ７．骨格筋系と運動１（骨格筋の構造と収縮のしくみ、筋活動の様式と力学的特性、筋収縮のためのエネルギー供給機構） ８．骨格筋系と運動２（筋力・筋パワーの決定要因、筋力トレーニング・有酸素性トレーニングに伴う筋機能向上のしくみ） ９．内分泌系と運動（ホルモンの定義・作用、運動によるホルモンの反応、長期的運動に伴うホルモン分泌変化など） １０．運動と免疫能（免疫系の概要、体力と感染リスクの関連、長期的運動による免疫能の変化など） １１．環境と運動１（環境温と運動時における体温調節機構、熱中症発症のしくみと予防対策、暑熱・寒冷馴化など） １２．環境と運動２（低酸素環境[高地]・水中環境が身体諸機能に与える影響、水中運動およびトレーニングの効果） １３．成長期における体力・基本的動作のスキルの発達（有酸素性体力・無酸素性体力・基本的運動スキルの発達） １４．成人以降の加齢に伴う体力・運動能力、有酸素性体力の低下 １５．体力に及ぼす先天的要因（遺伝）と後天的要因（運動実践の効果）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90161001
科目名	スポーツ社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Sports		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	豊かな健康スポーツライフに存在する社会学的意義と価値について概説する。健康活動とスポーツ活動に関わる社会的現象の実態とその現象の起こるメカニズム（因果関係）を解説する。健康およびスポーツ活動の行為、行動、さらには家族、コミュニティ、集団、組織および社会構造や社会変動に関わる文化としての事象（過去・現在・未来）について概念講義する。健康スポーツ社会学は人間社会での健康とスポーツライフに存在する文化としてスポーツ観・スポーツ行動様式・スポーツ物的事物価値からの生涯学習の基本概念とする。		
教材（テキスト）	『よくわかるスポーツ文化論』（ミネルヴァ書房）　井上俊・菊　幸一編著		
教材（参考文献）	『スポーツ社会学講義』（大修館書店）　森川貞夫、佐伯聰夫 編著 『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（公益財団法人　日本体育協会編集発行）		
教材（その他）			
評価方法	定期テスト（90%）、課題レポート（10%）		
到達目標	1）健康とスポーツの歴史と文化的意義を理解 2）障がい者・子供・高齢者とスポーツの関係について理解 3）健康スポーツの社会学的諸問題に関して理解 4）健康スポーツの法に関する諸問題の理解		
準備学習	指定教科書の予習を事前に熟読して、事前にテーマに添って関連情報を入手しておく。		

受講者への要望

指定教科書を購入準備。着席は前方から学籍番号順に着座をお願いします。
教科書、筆記具以外の机上提示は認めませんので理解下さい。

講義の順序とポイント

1．文化としてのスポーツ１（スポーツの歴史とスポーツ概念）
2．文化としてのスポーツ２（文化としてのスポーツの位置づけやその意義の在り方と重要性、スポーツ文化としてのスポーツ観・スポーツ規範の重要性）
3．社会の中のスポーツ（スポーツの社会的価値、社会におけるスポーツの関わりの重要性）
4．我が国の健康及びスポーツプロモーション（日本の健康増進法及び各種スホ?ーツ振興法についての内容理解）
5．スポーツと法（スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任）
6．スポーツと人権（モラルと人権尊重[事例による体罰及暴言・ハラスメント防止策]）
7．トップアスリートを取り巻く諸問題１（トップアスリートへの科学的サポート）
8．トップアスリートを取り巻く諸問題２（海外遠征の諸問題とその対応）
9．トップアスリートを取り巻く諸問題３（国際競技力向上の為の環境）
１０．トップアスリートを取り巻く諸問題４（情報戦略）
１１．トップアスリートを取り巻く諸問題５（競技者を取り巻く新しい環境と適切な対応）
１２．健康スポーツ文化１（高齢化社会における健康スポーツ文化の価値と意義）
１３．健康スポーツ文化２（生涯スポーツとしての健康スポーツ文化の価値と意義）
１４．健康スポーツ文化３（福祉スポーツとしての健康スポーツ文化の価値と意義）
１５．ボランティア精神と活動の基本的姿勢（アダプテッドスポーツ活動支援の事例）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J90162001
科目名	健康スポーツマネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Management of Sports and Exercise		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	社会における健康並びにスポーツ実践領域におけるマネジメントシステム・事象について講義する。学校・地域・企業・プロスポーツにおいて健康活動とスポーツ活動に関わる「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」に関してのマネジメントの仕組みと仕掛けの方法とそれらの事例事象・事例システムを交えながら説明・解説する。社会の健康並びにスポーツ実践活動がもたらす健康スポーツライフのマネジメント機能が日本・アジアを含めたグローバル社会に与える価値とその意義（未来創造）について総括的な講義とする。		
教材（テキスト）	『図解 スポーツマネジメント』（大修館書店）　山下秋二他５名著		
教材（参考文献）	『最新 学校体育経営ハンドブック―体育の実務と運営』（大修館書店）　宇土正彦編著		
教材（その他）	公認スポーツ指導者テキスト　公益財団法人 日本体育協会編集発刊		
評価方法	定期試験（90%）、課題レポート（10%）		
到達目標	健康スポーツマネジメントの様々な基礎的概念を理解し、そこに存在する具体的事象から健康スポーツマネジメントの本質を学ぶ事を目標とする。加えて、中・高保健体育教職実務となる学校体育経営の管理システム、組織、運営。計画等についても学修し、理解する事を目標とする。		
準備学習	毎日の新聞熟読に努め、社会事象や社会事象の変革を把握して準備学習する事を勧める。		

受講者への要望

本講は社会における健康スポーツに関わるビジネスや組織に関わるマネジメントの仕組みや仕掛けについて学び、それらの各種事象事例からの健康スポーツマネジメントの実態を理解する。加えて、教職必修科目でもある。保健体育教員としての学校体育経営のノウハウも学習する。これらの事を踏まえて、健康スポーツマネジメント職志望並びに日体協指導者資格・保体教免資格取得希望者は目的意識を持って受講して頂きたい。

講義の順序とポイント

１．マネジメントの概念
２．健康スポーツとマネジメント
３．健康スポーツビジネスのマネジメント
４．健康スポーツマーケティングのマネジメント
５．健康スポーツオペレーションのマネジメント
６．スポーツ経営戦略（スポーツ企業とスポーツチームの事例から）
７．アスリートビジネスマネジメント（トッププロアスリートのサポート事例から）
８．スポーツブランドマネジメント（トップスポーツブランドの事例から）
９．健康スポーツ組織の運営、事業計画・事業評価
１０．地域スポーツクラブの機能と役割
１１．広域スポーツセンターの機能と役割
１２．地域におけるスポーツ振興方策と行政とのかかわり
１３．我が国のスポーツ振興施策
１４．学校体育の経営組織と運営
１５．学校体育の活動計画（課外・特別）と運営・管理（財務・施設）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J90170001
科目名	身体運動科学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Science of Physical Kinematics		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	身体運動にかかわる事象は、内部環境からの面と外部環境からの両側面のアプローチが考えられる。内部環境に関しては運動生理学的な知見から観察評価する。また、外部環境に関しては人間工学に基づくバイオメカニクスを用いたアプローチがあり、いずれも身体運動を詳細に観察するのに必要不可欠な内容である。そこで本実習では、①バイオメカニクスの様々な測定方法を体験し、人間が行う巧みな身体運動動作を考える実習、②有酸素的エネルギー供給と無酸素的エネルギー供給を測定し評価する実習、③運動強度と心拍数や主観的運動強度との関係などから健康・体力の向上のための運動方法を考える実習を行い、これらの実習結果をまとめてレポートなどで発表し意見交換を行う。 　授業は 3 名の教員（柳田、平川、谷口）で 3 つのグループに分かれて各テーマに沿って 4 回行う。4 回の実習が終わるとその都度レポートを作成（5 回目）して提出する。		
教材（テキスト）	授業時に印刷物を配布して活用する。		
教材（参考文献）	解剖生理学やバイオメカニクスなどで用いたテキストを活用するので、指示したときに準備すること。		
教材（その他）	実験室やトレーニングルームなどでの実習時には屋内靴を用意すること。ノート型パソコンや、ＵＳＢなどで自分のデータを確保するようにすること。		
評価方法	レポート（100％）		
到達目標	身体運動実験に関係する各種の機器によるデータ取得の原理を学び、そこから身体運動に潜む事象に関心を持つ。パソコンを操作することからデータの扱いに慣れ、事象を図表などで表現するスキルを養う。		
準備学習	解剖生理学による身体の筋骨格を復習する。また、バイオメカニクスや運動生理学で学んだ様々な内容を活用する。		

受講者への要望

実験に際しては安全を最優先にすること。電気を用いることが多く、感電や、火傷などの事故を防ぐように授業場を整理整頓することに努める。仲間との連携を確かなものにして安全確保に注意する。実験の授業であるので汗をかいたり、電極を体に貼付したりするので運動時と同じ服装で参加し、屋内運動靴を持参する必要があるので注意すること。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス（授業計画についての説明。グループ分け。成績評価についての説明。実験に際しての安全について。授業に必要なＰＣや電卓などの物品を確認する。）
２．バイオメカニクス 1、「筋放電量と筋力の関係を比較」（柳田）
３．バイオメカニクス 2、「床反力計測と運動解析」（柳田）
４．バイオメカニクス 3、「動作と変位速度の関係を計測して観察」（柳田）
５．バイオメカニクス 4、「ジャンプ動作を総合的に観察」（柳田）
６．レポート作成
７．運動生理学 1、「身体エネルギー供給メカニズムと運動パフォーマンス」（平川）
８．運動生理学 2、「有酸素的エネルギー供給：最大酸素摂取量」（平川）
９・運動生理学 3、「有酸素的エネルギー供給：無酸素的作業閾値」（平川）
１０．運動生理学 4、「有酸素的エネルギー供給：最大無酸素パワーと血中乳酸」（平川）
１１．レポート作成
１２．体力科学 1、「運動強度と心拍数・主観的運動強度」（谷口）
１３．体力科学 2、「筋力発揮の神経機構ー両側性機能低下」（谷口）
１４．体力科学 3、「１ＲＭの測定・推定」（谷口）
１５．体力科学 4、「負荷重量と反復回数」（谷口）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	J90171001
科目名	体力測定評価論	単位数	2
科目名（英語表記）	Assessment of Body Composition and Pysical Ability		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	本講義では運動や競技レベルに合わせた適切な体力評価法の選択から実施方法、さらにそれらの測定結果を受けて適切なエクササイズ処方ができる能力を習得することを目的とする。体力測定評価であるフィットネステストをトレーニング前後に実施することは、トレーニングやリハビリ効果を定量化する上で非常に重要である。本講義では目的に沿ったテストの選択から結果の解釈、結果を基にした短期的・長期的トレーニングやリハビリプログラムの作成能力を習得することを目的とする。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜資料を配布する。		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト 上』 （健康・体力づくり事業財団 ） 『公認スポーツ指導者養成テキスト』(日本体育協会) 『障害者スポーツ指導教本』(ぎょうせい) 『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』 (ブックハウス・エイチディ)		
教材（その他）			
評価方法	小テスト授業内レポート（50%)、期末試験（50%）で評価する。		
到達目標	運動や競技レベルに合わせた適切な体力評価法の選択から実施方法、さらにそれらの測定結果を受けて適切なエクササイズ処方ができる能力を習得すること。		
準備学習	前回の学修事項を確認したうえで、講義に参加することを望む。		
受講者への要望			
皆さんの身近なトレーニングやダイエットなどと密接に関連した内容ですので、興味を持って積極的な授業参加を期待します。			
講義の順序とポイント			
１：健康体力測定評価の概要１（健康体力の定義、測定の意義・目的・評価データ活用方法） ２：健康体力測定評価の概要２（体力実状を把握し、測定方法の評価の考え方について） ３：健康体力測定評価の実際１（適切な体力測定の条件［妥当性、信頼性、客観性、経済性、安全性、興味性］） ４：健康体力測定評価の実際２（測定１：体力と運動能力の関係：エネルギー発生機序からの体力テスト、運動成績からみた運動能力テスト） ５：健康体力測定評価の実際３（測定２：身体組成、年齢に伴う体力水準の変化体力・運動能力の性差、健康関連の新体力テスト［全年齢共通］の成り立ち） ６：健康体力測定評価の実際４（測定３：局所筋力の測定、相対負荷法［最大筋力当たりの負荷］、局所筋持久力の測定、局所筋パワー［繰り返し最大持ち上げ回数:RM］の測定及び評価法） ７：健康体力測定評価の実際５（測定４：大筋群の筋力・筋パワー測定［脚伸展力・両腕挙上力］及び評価方法） ８：健康体力測定評価の実際６（測定５：全身運動の持久能測定［エルゴメータテスト等］及び評価方法） ９：健康体力測定評価の実際７（測定６：柔軟性・敏捷性・平衡性テスト及び処理分析とその評価法） １０：健康体力測定評価の実際７（分析と活用：データー処理、分析、応用の仕方） １１：健康体力測定評価の実際８（テストデーターを用いての活用方法の理解と検討１：中高年・高齢者データ） １２：健康体力測定評価の実際９（テストデーターを用いての活用方法の理解と検討２：各競技種目特性別データ） １３：健康体力測定評価の実際１０（テストデーターを用いての活用方法の理解と検討３：術後機能回復データ）			

１４：中高年・高齢者の健康体力［運動機能と生活体力］とその測定評価の特徴と方法

１５：障害者の健康体力測定評価とその測定評価の特徴と方法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	J90175001
科目名	健康フィットネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health Fitness		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	一般的な健康志向から本格的アスリートまでそれぞれトレーニングの目的は異なる。本講義では、まず運動不足による弊害や海外のフィットネス事情について学修する。さらに健康管理を目的としたエクササイズ、効果的なウォーミングアップやクールダウン、リカバリーなどに触れ、さらに年齢、性差などに着目したフィットネスエクササイズを紹介する。また、スポーツ相談というチームや個人の要望を聞くインプットからプログラムデザインというアウトプットへの一連の流れも学修する。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト 上』 （健康・体力づくり事業財団 ） 『公認スポーツ指導者養成テキスト』(日本体育協会) 『障害者スポーツ指導教本』(ぎょうせい) 『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版』（第 3 版） (ブックハウス・エイチディ)		
教材（その他）			
評価方法	小テスト授業内レポート（50%）、期末試験（50%）で評価する。		
到達目標	健康・フィットネスに関する現状を理解し、対象者の状況に合わせた運動処方を作成できる能力の育成を図る。		
準備学習	前回の学修事項を確認したうえで、講義に参加することを望む。		
受講者への要望			
対象者の健康状況など様々な情報を参考にし、適切なエクササイズプログラムを作成するため、普段から何らかの運動を習慣づけていることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．日本人と寿命（死因）と運動不足病とは（運動不足病の定義、起因、生活習慣病概要）【谷口】 ２．フィットネス概要（意味、日米事情、青少年と健康、生涯体育）【井口】 ３．フィットネスエクササイズと健康管理１（フィットネス・エクササイズと体調：チェックとの意義と方法）【井口】 ４．フィットネスエクササイズと健康管理２（フィットネス・エクササイズと体調：疲労回復）【井口】 ５．フィットネスエクササイズと安全１（安全面配慮のウォーミングアップ）【井口】 ６．フィットネスエクササイズと安全２（安全面配慮のクーリングダウン）【井口】 ７．中高年者とスポーツ１（中高年者の健康の定義と身体活動ガイドライン［WHO]、加齢の形態・体力・運動機能変化、身体活動不活発の心身への影響、健康スポーツ活動の心身への影響）【井口】 ８．中高年とスポーツ２（健康スポーツ実践のプログラムデザイン上の留意点、健康スポーツ実践プログラム作成の基礎、健康運動プログラムの条件、基本プログラム立案）【井口】 ９．中高年とスポーツ３（個人・集団・性別・地域での実施方法・医学的側面からのアドバイス）【井口】 １０．女性とスポーツ１（女性の身体的特徴とそれらとの運動・トレーニングにおける留意点と影響）【谷口】 １１．女性とスポーツ２（女性のトレーナービリティーとそれを考慮［意見交換含む］したスポーツプログラム）【谷口】 １２．スポーツ相談の意義１（性別、年齢別、目的別の健康スポーツ実践への相談の方法と重要性）【井口】 １３．スポーツ相談の意義２（体力別、経験別の健康スポーツ実践への相談の方法と重要性）【井口】 １４．スポーツ相談の実際（女性相談の内容に応じた対処、相談の内容に応じた運動実践助言）【谷口】 １５．スポーツ相談の実際（中高年・高齢者の内容に応じた対処、相談の内容に応じた運動実践助言）【谷口】			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J90176001
科目名	健康フィットネス実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Health Fitness		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	運動を通して、自身や対象者の身体や心の状態に気づき、体の調子を整える方法を理解する。対象に合わせた種々の運動プログラムの体験と楽しく体を動かす実技を行い、運動プログラムの組み合わせを理解する。具体的に体ほぐしの運動や柔軟性を高める為の運動、ストレッチングの方法、対象に応じた運動プログラムの方法、エアロビックダンスの方法を紹介する。これらの実技を通して、様々な運動の方法を身につけるとともに、基本的な運動の組み合わせや、対象に応じた実技指導が出来るようになることを目標とする。		
教材（テキスト）	随時、必要資料として配布する		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（下)』　（健康体力づくり事業財団） 『GFI　グループエクササイズフィットネスインストラクタ」』テキスト（日本フィットネス協会） 『保健指導に求められる個別運動プログラム作成・実践ガイド』（杏林書院） 久野譜也編『イラストで見る健康づくり運動指導』（市村出版）島岡清著		
教材（その他）			
評価方法	・最終試験を受験するには授業回数の 4 分 3 以上出席していること ・対象者に応じた運動プログラムの作成と実技テスト（50%） ・エアロビックダンス・コンディショニングエクササイズの実技テスト（50%）		
到達目標	①ウォームアップとクールダウンの目的と意義を説明でき、指導原則に従って指導することができる。②高齢者や低体力者、子どもなど対象に応じた基本的な運動の実践方法を説明し、見本を示すことができる。		
準備学習	・受講に際して、健康フィットネス論の単位を修得していること ・健康づくり指導者になるために必要な知識と技術の習得に意欲的であること		
受講者への要望			
受講に際し、服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを着用すること			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス：エクササイズの指導と安全（体調チェックの意義）（三宅） ２．ウォーミングアップとクーリングダウンの実際（三宅） ３．子どもの運動プログラムの実際（三宅） ４．壮年（中年）の運動プログラムの実際（三宅） ５．自立高齢者の運動プログラムの実際（三宅） ６．虚弱高齢者（低体力者）の運動プログラムの実際（三宅） ７．対象に応じた運動プログラムのデザイン（プログラムの作成と指導法）（三宅） ８．対象に応じた運動プログラムの指導（プログラムの指導方法）（三宅） ９．エアロビックダンス：ウォーミングアップとクーリングダウン（谷口） １０．エアロビックダンス：メインエクササイズ１（基本のステップ）（谷口） １１．エアロビックダンス：メインエクササイズ２（プログラムの作成法）（谷口） １２．エアロビックダンス：メインエクササイズ３（プログラムの作成・指導法）（谷口） １３．エアロビックダンス：メインエクササイズ４（プログラムの指導方法）（谷口） １４．コンディショニングエクササイズ１（自体重でのレジスタンストレーニング）（谷口） １５．コンディショニングエクササイズ２（バランス・コーディネーショントレーニング）（谷口）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J90179001
科目名	障がい者スポーツ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Adapted Sports		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	障害の概要を理解するとともに、障害に応じた健康スポーツ指導の留意点について学修する。特別支援教育に対応できるような、インクルーシブ体育のあり方を考察する。スポーツ基本法やスポーツ基本計画を踏まえて、すべての人がスポーツに参加できるよう、障害の種類や程度に応じた配慮を理論と実践を通して学ぶ。また、パラリンピック、障がい者スポーツ大会等についてその実情を知るとともに、障がい者スポーツの現状を理解し、ゲストスピーカーを招いて意義、理念、歴史、福祉、健康・体力など、障がい者スポーツの基礎的内容を学ぶ。		
教材（テキスト）	『障害者（アダプテッド）スポーツの世界』（門川学芸出版、2008 年）　藤田紀明		
教材（参考文献）	『障害者スポーツ指導教本』（ぎょうせい、2009 年）　（財）日本障害者スポーツ協会編 『障害者とスポーツ』（岩波新書、2004 年）　高橋明		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。 適宜プリントで資料を配付する。		
評価方法	レポート(40%)　定期試験(60%)		
到達目標	１）障がい者スポーツについての概要を理解し基本的な知識を身につける。 ２）障がい者スポーツの理念，種目，ルール，歴史，組織等について理解する。 ３）障がい者に対して運動やスポーツの指導を行なうための基礎的な知識や留意点を理解する。		
準備学習	次時の内容を指示するので、授業までに予習をすること。毎時、復習をすると同時に考察を深めること。		

受講者への要望

障がい者の気持ちや生活を思う気持ちを持って誠実に学ぼうとし、既習事項を基に、知識をさらに深めようとする能動的な姿勢、態度を求める。受講にあたっては、漠然と講義を受ける態度ではなく，学生自身が考え意見交換をするなど、積極的な姿勢や発言を期待する。

講義の順序とポイント

１．障がい者スポーツの意義と理念及び歴史
２．障がいの理解とスポーツ（障がい者スポーツの種類の概要、障がい者スポーツの参加の効果、現状と課題）
３．障がい者福祉施策と障害者スポーツ１（障害者福祉施策の体系）
４．障がい者福祉施策と障害者スポーツ２（今後の動向と障害者スポーツとの関連）
５．障がい者のスポーツ指導における留意点１（身体障害①）
６．障がい者のスポーツ指導における留意点２（身体障害②事例研究）
７．障がい者のスポーツ指導における留意点３（知的障害①）
８．障がい者のスポーツ指導における留意点４（知的障害②事例研究）
９．障がい者のスポーツ指導における留意点５（精神障害①）
１０．日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者制度（ゲストスピーカー）
１１．全国障害者スポーツ大会の概要
１２．障がい者の生活と活動量
１３．障がい者の運動・スポーツへの参加と健常者の意識・啓発
１４．障がい者の運動プログラム作成の留意点
１５．障がい者の運動プログラム作成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	J90183001
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ科学コースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．　個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%）、レポート(30%) 2．　全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．　ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 2．　グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 3．　健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 4．　活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		

受講者への要望

実施見学など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。

講義の順序とポイント

1．健康スポーツ科学コースの学修内容
2．専門領域の資格について調べる
3．専門領域の職業について調べる
4．スポーツ大会の運営（1）
5．スポーツ大会の運営（2）
6．中高齢者体力測定の事前学習（1）
7．中高齢者体力測定の事前学習（2）
8．中高齢者体力測定の体験学習（1）
9．中高齢者体力測定の体験学習（2）
10．中高齢者体力測定の事後学習（1）
11．中高齢者体力測定の事後学習（2）
12．運動指導現場観察実習事前学習
13．運動指導現場観察実習体験学習（1）
14．運動指導現場観察実習体験学習（2）
15．運動指導現場観察実習事後学習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	J90183002
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) 2．全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 2．グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 3．健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 4．活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		
受講者への要望			
観察実習見学においてはその場にふさわしい身なり、服装、姿勢等の礼節態度で臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1．コースガイダンスと SPI 2．健康・スポーツマネジメント系の専門職や資格について知る（1）【サービス職】 3．健康・スポーツマネジメント系の専門職や資格について知る（2）【マネジメント職】 4．スポーツ大会の運営（1）【イベント企画：プログラム実行内容・役割分担】 5．スポーツ大会の運営（2）【イベント企画：実行進行・事前備品準備確認等】 6．健康・スポーツマネジメント実践現場の理解について【サービス職の実践理解】 7．健康・スポーツマネジメント実践現場の理解について【マネジメント職の実践理解】 8．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（1） 9．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（2） １１．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（3） １２．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（4） １３．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（5） １４．健康・スポーツマネジメント実践総括（1）【ディスカッション】 １５．健康・スポーツマネジメント実践総括（2）【プレゼンテーション】			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	J90183003
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) 2．全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 2．グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 3．健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 4．活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		

受講者への要望

授業参観など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。

講義の順序とポイント

健康・スポーツ 教育コース 授業の順序とポイント

1．コースガイダンスと SPI
2．授業参観事前指導：保健体育科教育の授業観察の視点と観察記録の取り方について
3．授業参観事前指導：教育現場への訪問、授業参観の心構えや留意点について
4．スポーツ大会の運営（1）
5．スポーツ大会の運営（2）
6．教育現場観察実習：高等学校または中学校の授業参観（1）
7．教育現場観察実習：高等学校または中学校の授業参観（2）
8．授業参観事後指導：教育現場観察実習で気づいたことや疑問点を報告し論議する。
9．授業参観事後指導：参観授業について、レポートにまとめる。
10．教育現場観察実習：小学校または特別支援学校の授業参観（1）
11．教育現場観察実習：小学校または特別支援学校の授業参観（2）
12．授業参観事後指導：教育現場観察実習で気づいたことや疑問点を報告し論議する。
13．授業参観事後指導：参観授業について、レポートにまとめる。
14．教育現場観察実習の事後学習
15．教職という職業観や身に付けるべき資質についての意見交換会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J90184001
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ科学コースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実践プロジェクトAでの学びをもとにさらに各コースの具体的な体験を通してより深く学修する。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．　個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%）、レポート(30%) 2．　全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．　ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 2．　グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 3．　健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 4．　活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		
受講者への要望			
実施見学など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1．健康スポーツ科学コースの学修内容 2．健康運動指導の理論（1） 3．健康運動指導実技実習（1） 4．健康運動指導の理論（2） 5．健康運動指導実技実習（2） 6．健康運動指導の理論（3） 7．健康運動指導実技実習（3） 8．健康運動指導の理論（4） 9．健康運動指導実技実習（4） 10．健康運動指導の理論（5） 11．健康運動指導実技実習（5） 12．運動指導現場観察実習事前学習 13．運動指導現場観察実習体験学習（1） 14．運動指導現場観察実習体験学習（2） 15．運動指導現場観察実習事後学習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2016	授業コード	J90184002
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実践プロジェクトAでの学びをもとにさらに各コースの具体的な体験を通してより深く学修する。目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) 2．全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．ルール遵守で、インターネットや文献検索を活用し、資資収集する。 2．グループワークで、目的意識で建設的な議論ができ、活動に積極的参加。 3．健康スポーツの専門指導者を目指す学生として、知的な態度、姿勢、マナーを体得。 4．活動の中で、必要な課題発見によるレポート作成及びプレゼンができる。 5．目指す専門領域の職業について理解し、自分の目標を持つ。		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。特に普段から国内外健康・スポーツ関連の自治体、団体、企業等のマネジメント情報を積極的に把握しておくこと。		
受講者への要望			
知的思考できる受講態度で臨むこと。			
講義の順序とポイント			
健康・スポーツマネジメントコース講義の順序とポイント 1．健康・スポーツマネジメントコースの学修内容 2．マネジメントの仕組みと仕掛けの理解 3．健康医療戦略とスポーツ立国戦略からのマーケティング（健康延伸とスポーツ活力の期待） 4．スポーツイベントの企画と行動実践（健康スポーツ学科生共催） 5．スポーツマネジメントの実践理解１（健康ビジネス産業事例） 6．スポーツマネジメントの実践理解２（スポーツ製造・物販業事例） 7．スポーツマネジメントの実践理解３（スポーツイベント・組織運営事例） 8．スポーツマネジメントの実践理解４（スポーツ公共事業事例[地域活性]） 9．スポーツマネジメントの知識創造計画１（健康ビジネス産業モデル：ﾚﾎﾟｰﾄ） １０．スポーツマネジメントの知識創造計画２（スポーツ製造・販売業モデル：ﾚﾎﾟｰﾄ） １１．スポーツマネジメントの知識創造計画３（スポーツイベント・組織運営モデル：ﾚﾎﾟｰﾄ） １２．スポーツマネジメントの知識創造計画４（スポーツ公共事業モデル[地域活性]：ﾚﾎﾟｰﾄ） １３．スポーツマネジメント実践プレゼンテーション１（サービス業） １４．スポーツマネジメント実践プレゼンテーション２（物販流通業） １５．スポーツマネジメント実践プレゼンテーション３（イベント事業・人材育成事業）		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	J90184003
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実践プロジェクトAの学修の内容をより深める。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．　個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%）、レポート(30%) 2．　全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 2．グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 3．健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 4．活動の中で、必要な課題を見つけ自分の目標をもち、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
準備学習	保健体育科教育法の学修内容を理解しておくこと。日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		

受講者への要望

実施見学、子どもへの対応など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。

講義の順序とポイント

1．健康・スポーツ教育コースの学修内容
2．スポーツサイエンスプログラムの企画
3．スポーツサイエンスプログラムの各コーナーの立案
4．スポーツサイエンスプログラムの準備
5．スポーツサイエンスプログラムの運営
6．スポーツ大会の運営（1）
7．スポーツ大会の運営（2）
8．保健体育科教育の授業観察の視点と観察記録の取り方について知る。
9．教育現場への訪問、授業参観の心構えや留意点について理解する。
10．教育現場観察実習：高等学校または中学校の授業参観（1）
11．教育現場観察実習：高等学校または中学校の授業参観（2）
12．保健体育科の教材研究
13．保健体育科の指導案作成
14．保健体育科の指導案検討会（1）
15．保健体育科の指導案検討会（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J90187001
科目名	水泳	単位数	1
科目名（英語表記）	Swimming		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
講義概要	本授業では、①基本４泳法の泳力向上と指導法、②カヌー・ヨット・カヤック等海洋スポーツの基礎技術指導、③安全で効果的な野外活動の実践を通して、水泳系運動プログラムの実践能力と安全で効果的な指導法を修得するとともに、野外活動・自然体験活動指導におけるリーダーシップの育成を図る。人と人、人と自然の触れ合う機会が少なくなっている今、子どもたちの健全で健やかなこころとからだの発達に欠かせない身体活動と集団生活について、リーダーとしての運営の資質と能力の獲得をめざす。本授業は、プール実習とと海実習の集中授業として実施する。		
教材（テキスト）	実習全体の要綱を配布する。また、授業内容に応じて適時資料を配布する。		
教材（参考文献）	『水泳の指導法がわかる本』（小学館）　不破央 著 2,052 円 『ＤＶＤ完全レッスン！水泳４泳法』（日本文芸社）　奥野景介 著 1,620 円 『海洋スポーツ指導者ハンドブック』（西文社）		
教材（その他）	水着やスイミングキャップ、サンダル、タオルなど水泳系運動実習に必要な物は各自で準備すること。その他プログラム実習に必要な用具・備品は大学で用意する。		
評価方法	実技試験（40%）、水泳・海洋・野外活動の学びに関するレポート（30%）、および受講に対する実践姿勢等（30%）を総合的に評価する。		
到達目標	基本４泳法の泳力・遠泳と海洋プログラム実習の実践力の向上、および集団の一員として活動できる社会性とコミュニケーション能力と指導者としての資質を高めることを目標とする。		
準備学習	プールと海での実習なので、基本的には泳げることが望ましい。水泳の経験の少ない者は、事前に練習しておくこと。水泳は体力的にもハードなうえ、水中・水上という特殊環境での運動なので、安全について十分な意識を持つとともに、事前の練習を行い、身体能力を高めておくことが望ましい。		

受講者への要望

長い期間の集中授業であり、日常生活から自然・社会環境が変わる実習である。また受講生が多く、安全への配慮と社会性が極めて重要である。しっかりとした自己管理能力を持ち、体調を整えること。集団生活の中での実習であるので、自己中心でなく、利他的視点を持って行動するとともに、その経験を通して社会性を獲得できるよう意識して臨んでほしい。

講義の順序とポイント

１．講義１：水泳実習全体ガイダンス
２．講義２：野外活動・自然体験活動プログラムの組織マネジメントとリスクマネジメント
３．講義３：水泳系運動の運動学的・運動生理学的特長
４．プール実習１：実習全体のガイダンス：泳力チェック・グループ編成
５．プール実習２：クロール、平泳ぎの基本練習、距離泳
６．プール実習３：背泳ぎ、バタフライ泳法の基本練習、距離泳
７．プール実習４：立ち泳ぎ、水中ウオーキング指導
８．プール実習５：遠泳示度、距離泳
９．プール実習６：泳力検査、水中ウオーキング指導
１０．海実習１：海洋プログラム遠泳の練習、カヤック操法実習、講義「ヨットと風の理論」
１１．海実習２：遠泳、　カヌー操作実習
１２．海実習３：ヨット操船実習、講義「水泳運動における救急処置の理論と実際」
１３．海実習４：カヌー・カッター操船実習、磯実習
１４．海実習５：カッター操船指導、磯実習、野外活動実習
１５．総括：水泳・海洋実習における組織マネジメントとリスクマネジメントに関するレポート作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2016	授業コード	J90188001
科目名	体つくり運動	単位数	1
科目名（英語表記）	General Gymnastics		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	体つくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識させ、学校の教育活動や実生活で生かすことができ、生涯にわたって運動を継続できるよう、「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動（遊び）」「体力を高める運動」について、その意義や体の構造との関連、運動の原則などの知識を獲得し、それらの知識の活用や応用にまで発展させる。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考文献）	『学校体育実技指導資料第７集「体つくり運動」（改訂版）』（文部科学省） 『中学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省）		
教材（その他）			
評価方法	・最終試験を受験するには授業回数の３分の２以上出席していること ・授業内課題（40%）：整列・出欠確認・準備体操の実施および出席 ・最終実技試験（60%）		
到達目標	「体つくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動・遊び」「体力を高める運動」に関して、その意義と運動方法を理解する。次にそれらを応用し「体つくり運動」の指導展開ができるようになる。		
準備学習	遊びから体力を高める運動まで、身体の使った運動の多様性について理解しておくことが望ましい。教員の資格取得を目指す人は必修となる科目である。		

受講者への要望

受講に際し、服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを着用すること。本授業では遊びから体力を高める運動まで多種多様な身体の動きを学び、それらを組み合わせて授業プログラムの作成を行うため、自ら考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション・グループ分け
２．多様な動きをつくる運動（遊び）１（バランスや筋力を使う遊びや運動）（三宅）

３．多様な動きをつくる運動（遊び）２（仲間やグループで協力・協働する遊びや運動）（三宅）

４．多様な動きをつくる運動（遊び）３（用具を使った遊びや運動）（三宅）

５．多様な動きをつくる運動（遊び）４（伝承あそびによる運動）（三宅）

６．体ほぐしの運動１（心と体への気づき）（満石）

７．体ほぐしの運動２（体の調子を整える運動）（満石）

８．体ほぐしの運動３（リズムに合わせて動く）（満石）

９．体力を高める運動１（バランス力を高める運動）（谷口）

１０．体力を高める運動２（筋力を高める運動）（谷口）

１１．体力を高める運動３（巧みな動きを高める運動）（谷口）

１２．体力を高める運動４（柔軟性を高める運動）（谷口）

１３．実技課題の提示（谷口、三宅、満石）

１４．実技テスト（谷口、三宅、満石）
１５．実技テスト（谷口、三宅、満石）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2016	授業コード	J90188002
科目名	体つくり運動	単位数	1
科目名（英語表記）	General Gymnastics		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	体つくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識させ、学校の教育活動や実生活で生かすことができ、生涯にわたって運動を継続できるよう、「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動（遊び）」「体力を高める運動」について、その意義や体の構造との関連、運動の原則などの知識を獲得し、それらの知識の活用や応用にまで発展させる。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考文献）	『学校体育実技指導資料第７集「体つくり運動」（改訂版）』（文部科学省） 『中学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省）		
教材（その他）			
評価方法	・最終試験を受験するには授業回数の３分の２以上出席していること ・授業内課題（40%）：整列・出欠確認・準備体操の実施および出席 ・最終実技試験（60%）		
到達目標	「体つくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動・遊び」「体力を高める運動」に関して、その意義と運動方法を理解する。次にそれらを応用し「体つくり運動」の指導展開ができるようになる。		
準備学習	遊びから体力を高める運動まで、身体の使った運動の多様性について理解しておくことが望ましい。教員の資格取得を目指す人は必修となる科目である。		

受講者への要望

受講に際し、服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを着用すること。本授業では遊びから体力を高める運動まで多種多様な身体の動きを学び、それらを組み合わせて授業プログラムの作成を行うため、自ら考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション・グループ分け
２．多様な動きをつくる運動（遊び）１（バランスや筋力を使う遊びや運動）（三宅）
３．多様な動きをつくる運動（遊び）２（仲間やグループで協力・協働する遊びや運動）（三宅）
４．多様な動きをつくる運動（遊び）３（用具を使った遊びや運動）（三宅）
５．多様な動きをつくる運動（遊び）４（伝承あそびによる運動）（三宅）
６．体ほぐしの運動１（心と体への気づき）（満石）
７．体ほぐしの運動２（体の調子を整える運動）（満石）
８．体ほぐしの運動３（リズムに合わせて動く）（満石）
９．体力を高める運動１（バランス力を高める運動）（谷口）
１０．体力を高める運動２（筋力を高める運動）（谷口）
１１．体力を高める運動３（巧みな動きを高める運動）（谷口）
１２．体力を高める運動４（柔軟性を高める運動）（谷口）
１３．実技課題の提示（谷口、三宅、満石）
１４．実技テスト（谷口、三宅、満石）
１５．実技テスト（谷口、三宅、満石）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	J90189001
科目名	陸上競技	単位数	1
科目名（英語表記）	Track and Field		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ指導者・保健体育教職者・健康運動実践指導者・障がい者スポーツ指導員向けの教授方法について実践的に学修する。生涯に亘っての健康生活実践と体育教育に必要な歩く・走る・跳ぶ・投げるの基本動作とその指導方法について修得させる。分習法から全習法へと連結した技能修得と教授方法を修得させる。各専門的指導者にとって陸上運動の個々の指導留意点や指導時の指摘や模範動作の意識ポイントについても各々動作事例を示しながら実践展開する。陸上運動の個別指導とグループ指導のノウハウについても教授し、指導実践環境を想定した授業展開を図り、指導計画案づくりから模擬授業迄の実践的授業展開とする。		
教材（テキスト）	『陸上競技指導教本アンダー16･19 基礎から身につく陸上競技[初級編]』(大修館書店) 日本陸連 編 2,052円		
教材（参考文献）	『陸上競技指導教本アンダー16･19 レベルアップの陸上競技[上級編]』(大修館書店)　日本陸連 編 2,052円		
教材（その他）			
評価方法	１．歩・走・跳・投運動の基礎的技術の習得評価（実技評価７０％） ２．陸上運動指導計画及び指導案作成評価（レポート２０％） ３．受講時の積極的態度・自立的行動評価（授業態度１０％）		
到達目標	１．健常者及び障がい者向けの歩・走・跳・投の基礎技術と指導方法を体得する。 ２．健康ウォーキング・ジョギングの実際と運動処方の基本を理解する。 ３．陸上運動指導上の安全管理の実践的理解をする。 ４．陸上運動指導の対象別指導計画及び指導案の作成		
準備学習	受講に際して陸上競技のルールと陸上運動の特性を事前準備学習を要する。		

受講者への要望

受講に際し、服装はトレーニングウエア、靴はジョギングシューズを着用し、受講の事。

講義の順序とポイント

１．健康ウォーキングの実際と指導方法

ウォーキング実践

ａ）他人にとらわれず、各人の好みの速さで歩き、個人差があらわれることを確かめさせる。

ｂ）性・年齢・体力の違いによって歩行速度が異なることを理解させる。

ｃ）歩行の基本的な姿勢、歩幅と歩数と速さの関係を理解させる。

ｄ）３分間以上同一の速さで歩き、終了直後約１０秒以内に心拍数を数えさせる方法を修得。

ｅ）５速度（楽な速さ、やや速く、もう少し速く、あるいは隣の人と話ができるが速いスピードとその前後の速さ）の実習を行い、ウォーキングの速さと心拍数の関係を理解させる。

ｆ）異なった速さの歩行間には完全休息を置き、ウォーキング運動の特徴・効果を理解させる。

ｇ）ウォーキングと安全に関する留意点を理解させる。

ｈ）頸、肩、腰、膝、足に負担の少ない基本的なウォーキングフォームを習得させる。

２．健康ジョギングの実際と指導方法

・関節負担の少ない基本的走フォームを修得。

・異種速度ジョギングを３分行い、終了後 10 秒心拍計測し、指導。

・異種速度でのジョギングにおいて様々な条件による生体反応の個人差を実践的に修得。

・個人に適した作成プログラムを実践し、消費カロリーの推定を実践学習する。

３．短距離走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

４．短距離走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

５．ハードル走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

６．ハードル走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

７．走り幅跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

８．走り幅跳びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

９．走り高跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

１０．走り高飛びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１１．投擲競技の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・円盤投げ
・ 砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１２．投擲競技の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
・円盤投げ
・砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１３．陸上競技の競技規則の理解と安全管理
１４．障がい者の為の陸上競技の競技規則と選手団コーチの知識・技能の理解
１５．学校教育指導（中・高）における陸上運動の指導計画立案と指導案作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2016	授業コード	J90189002
科目名	陸上競技	単位数	1
科目名（英語表記）	Track and Field		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ指導者・保健体育教職者・健康運動実践指導者・障がい者スポーツ指導員向けの教授方法について実践的に学修する。生涯に亘っての健康生活実践と体育教育に必要な歩く・走る・跳ぶ・投げるの基本動作とその指導方法について修得させる。分習法から全習法へと連結した技能修得と教授方法を修得させる。各専門的指導者にとって陸上運動の個々の指導留意点や指導時の指摘や模範動作の意識ポイントについても各々動作事例を示しながら実践展開する。陸上運動の個別指導とグループ指導のノウハウについても教授し、指導実践環境を想定した授業展開を図り、指導計画案づくりから模擬授業迄の実践的授業展開とする。		
教材（テキスト）	『陸上競技指導教本アンダー16･19 基礎から身につく陸上競技[初級編]』(大修館書店) 日本陸連 編 2,052円		
教材（参考文献）	『陸上競技指導教本アンダー16･19 レベルアップの陸上競技[上級編]』(大修館書店)　日本陸連 編 2,052円		
教材（その他）			
評価方法	１．歩・走・跳・投運動の基礎的技術の習得評価（実技評価７０％） ２．陸上運動指導計画及び指導案作成評価（レポート２０％） ３．受講時の積極的態度・自立的行動評価（授業態度１０％）		
到達目標	１．健常者及び障がい者向けの歩・走・跳・投の基礎技術と指導方法を体得する。 ２．健康ウォーキング・ジョギングの実際と運動処方の基本を理解する。 ３．陸上運動指導上の安全管理の実践的理解をする。 ４．陸上運動指導の対象別指導計画及び指導案の作成		
準備学習	受講に際して陸上競技のルールと陸上運動の特性を事前準備学習を要する。		

受講者への要望

受講に際し、服装はトレーニングウエア、靴はジョギングシューズを着用し、受講の事。

講義の順序とポイント

１．健康ウォーキングの実際と指導方法

ウォーキング実践

ａ）他人にとらわれず、各人の好みの速さで歩き、個人差があらわれることを確かめさせる。

ｂ）性・年齢・体力の違いによって歩行速度が異なることを理解させる。

ｃ）歩行の基本的な姿勢、歩幅と歩数と速さの関係を理解させる。

ｄ）３分間以上同一の速さで歩き、終了直後約１０秒以内に心拍数を数えさせる方法を修得。

ｅ）５速度（楽な速さ、やや速く、もう少し速く、あるいは隣の人と話ができるが速いスピードとその前後の速さ）の実習を行い、ウォーキングの速さと心拍数の関係を理解させる。

ｆ）異なった速さの歩行間には完全休息を置き、ウォーキング運動の特徴・効果を理解させる。

ｇ）ウォーキングと安全に関する留意点を理解させる。

ｈ）頸、肩、腰、膝、足に負担の少ない基本的なウォーキングフォームを習得させる。

２．健康ジョギングの実際と指導方法

・関節負担の少ない基本的走フォームを修得。

・異種速度ジョギングを３分行い、終了後 10 秒心拍計測し、指導。

・異種速度でのジョギングにおいて様々な条件による生体反応の個人差を実践的に修得。

・個人に適した作成プログラムを実践し、消費カロリーの推定を実践学習する。

３．短距離走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

４．短距離走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

５．ハードル走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

６．ハードル走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

７．走り幅跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

８．走り幅跳びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

９．走り高跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

１０．走り高飛びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１１．投擲競技の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・円盤投げ
・ 砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１２．投擲競技の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
・円盤投げ
・砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１３．陸上競技の競技規則の理解と安全管理
１４．障がい者の為の陸上競技の競技規則と選手団コーチの知識・技能の理解
１５．学校教育指導（中・高）における陸上運動の指導計画立案と指導案作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	J90190001
科目名	ダンス	単位数	1
科目名（英語表記）	Dance		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	芸術の１つであるダンスは、音楽を通し各自の感性を身体表現に結びつけることを基本としている。現在、多種多様なダンスがあげられるが、本授業では、個人の感情や考えを身体運動によって表現する創作ダンス、各国・各地に伝わる民族舞踊であるフォークダンス、運酸素運動の１つであるエアロビックダンスについて、特性、効果を理解し、楽しく安全に運動できるようになることを目的とし、学習を進めます。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	小澤治夫　　『最新　フィットネス基礎理論』（社）日本エアロビックフィットネス協会 沢井史穂ら　『新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導』（社）日本エアロビックフィットネス協会		
教材（その他）	なし		
評価方法	創作過程への参加度　50%、パフォーマンステスト　30%、学習内容の理解度　20%。		
到達目標	ダンスを指導するために必要な知識を習得するとともに実技能力を高める。また、指導法を学び、実技指導能力を高める。		
準備学習	平成 24 年度より全面実施となった学習指導要領において、ダンスが必修化された。多くの学校で実践されている「現代的なリズムのダンス」、特にヒップホップダンスなども体験しよう。表現力やコミュニケーションの能力を高めるために、「踊る」「創る」「観る」という活動を行うダンスの教育的役割は大きい。まずはダンスとは何かを予習しておくこと。ダンスの特性，　踊りの由来と表現の仕方，　関連して高まる体力などを理解し，　課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるように積極的に取り組むこと。		

受講者への要望

ダンスの授業は実技の前に講義を行うため、筆記用具を持参のこと。

講義の順序とポイント

１．舞踊（ダンス）の特性（ビデオ鑑賞）
２．ダンスの導入とリズム系ダンス(1)体ほぐしのいろいろ
３　エアロビックダンス初級
４　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
５　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
６　中高年者のためのリズミックダンス
７．いろいろなテーマからの即興表現(1)音楽から
８．いろいろなテーマからの即興表現(2)ものから
９．いろいろなテーマからの即興表現(3)コンタクト・インプロビゼーション
１０．発表とまとめ
１１．イメージから動きの発見(1)
１２．イメージから動きの発見(2)
１３．発表とまとめ
１４．フォークダンスと指導法
１５．レクリエーションダンスと指導法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2016	授業コード	J90190002
科目名	ダンス	単位数	1
科目名（英語表記）	Dance		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	芸術の１つであるダンスは、音楽を通し各自の感性を身体表現に結びつけることを基本としている。現在、多種多様なダンスがあげられるが、本授業では、個人の感情や考えを身体運動によって表現する創作ダンス、各国・各地に伝わる民族舞踊であるフォークダンス、運酸素運動の１つであるエアロビックダンスについて、特性、効果を理解し、楽しく安全に運動できるようになることを目的とし、学習を進めます。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	小澤治夫　　『最新　フィットネス基礎理論』（社）日本エアロビックフィットネス協会 沢井史穂ら　『新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導』（社）日本エアロビックフィットネス協会		
教材（その他）	なし		
評価方法	創作過程への参加度　50%、パフォーマンステスト　30%、学習内容の理解度　20%。		
到達目標	ダンスを指導するために必要な知識を習得するとともに実技能力を高める。また、指導法を学び、実技指導能力を高める。		
準備学習	平成 24 年度より全面実施となった学習指導要領において、ダンスが必修化された。多くの学校で実践されている「現代的なリズムのダンス」、特にヒップホップダンスなども体験しよう。表現力やコミュニケーションの能力を高めるために、「踊る」「創る」「観る」という活動を行うダンスの教育的役割は大きい。まずはダンスとは何かを予習しておくこと。ダンスの特性，　踊りの由来と表現の仕方，　関連して高まる体力などを理解し，　課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるように積極的に取り組むこと。		

受講者への要望

ダンスの授業は実技の前に講義を行うため、筆記用具を持参のこと。

講義の順序とポイント

１．舞踊（ダンス）の特性（ビデオ鑑賞）
２．ダンスの導入とリズム系ダンス(1)体ほぐしのいろいろ
３　エアロビックダンス初級
４　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
５　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
６　中高年者のためのリズミックダンス
７．いろいろなテーマからの即興表現(1)音楽から
８．いろいろなテーマからの即興表現(2)ものから
９．いろいろなテーマからの即興表現(3)コンタクト・インプロビゼーション
１０．発表とまとめ
１１．イメージから動きの発見(1)
１２．イメージから動きの発見(2)
１３．発表とまとめ
１４．フォークダンスと指導法
１５．レクリエーションダンスと指導法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	J90191001
科目名	器械運動	単位数	1
科目名（英語表記）	Gymnastics		
担当者名	柴田　俊和	旧科目名称	
講義概要	本演習では、中高等学校の授業で実際に指導されている器械運動のマット運動、跳び箱運動、鉄棒運動を自身の身体を通して体験し、技能を修得する事によって、技の構造やつまずき、さらには安全に実施するための配慮等を学ぶことを目標とする。さらに、様々な指導法や幇助法、学修の場の工夫や授業展開の方法を学ぶことで、指導者としての実践的力量を高めることを目指す。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配付する。		
教材（参考文献）	『教師のための器械運動指導法シリーズ』（マット運動、とび箱・平均台運動、鉄棒運動）（大修館書店）金子明友著		
教材（その他）			
評価方法	授業への取り組み姿勢（30 点）、実技テスト（60 点）、レポート（10 点）の合計で評価する。		
到達目標	学校体育で行われているマット運動や跳び箱運動、鉄棒運動の代表的な技が出来るようになり、指導法や補助法を身に付けることが出来る。自己の運動や補助している相手の動感を捉えたり、言葉や図でその動感を表現し、伝えることが出来るようになることを目指す。		
準備学習	今までに体験した器械運動の授業で、色々な技がどうやって出来るようになったのか、なぜ出来なかったのかを思い出してください。また、出来る技についても、「私はどんな感じで動いていたのか」を思い浮かべてください。このような認識を確認することが、運動指導や本授業時の教え合いに必要な能力につながります。		

受講者への要望

スポーツ運動においては、「怖い」と感じることによって上手くいかないということが多くあります。この授業では、器械運動の技の習得を通して、その「怖い」に対して、どうやって克服していくのかを学び、運動学習というものを深く考えられる場になると思います。器械運動に対して苦手意識を持っている人ほど積極的に参加してください。腕時計や装身具等は外し、長髪の人は髪を縛って、運動の妨げや補助者の妨害にならないよう準備してください。

講義の順序とポイント

１．マット運動　逆位について（倒立とそのバリエーション）
２．マット運動　前転とその発展技の練習方法について
３．マット運動　後転とその発展技の練習方法について
４．マット運動　側方倒立回転と前方倒立回転跳びの練習方法について
５．マット運動　技の組み合わせと巧技系の運動の練習方法について
６．マット運動　実技テスト
７．跳び箱運動　切り返し系の技の練習方法について
８．跳び箱運動　回転系の技の練習方法について
９．跳び箱運動　実技テスト
１０．鉄棒運動　鉄棒に親しむこと（鉄棒遊びのバリエーション）
１１．鉄棒運動　下り技の練習方法について
１２．鉄棒運動　前方支持回転と後方支持回転の練習方法について
１３．鉄棒運動　足かけ回転技と足かけ上がりの練習方法について
１４．鉄棒運動　振動運動とけ上がりの練習方法について
１５．鉄棒運動と倒立静止　実技テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	J90191002
科目名	器械運動	単位数	1
科目名（英語表記）	Gymnastics		
担当者名	柴田　俊和	旧科目名称	
講義概要	本演習では、中高等学校の授業で実際に指導されている器械運動のマット運動、跳び箱運動、鉄棒運動を自身の身体を通して体験し、技能を修得する事によって、技の構造やつまずき、さらには安全に実施するための配慮等を学ぶことを目標とする。さらに、様々な指導法や幇助法、学修の場の工夫や授業展開の方法を学ぶことで、指導者としての実践的力量を高めることを目指す。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配付する。		
教材（参考文献）	『教師のための器械運動指導法シリーズ』（マット運動、とび箱・平均台運動、鉄棒運動）（大修館書店）金子明友著		
教材（その他）			
評価方法	授業への取り組み姿勢（30 点）、実技テスト（60 点）、レポート（10 点）の合計で評価する。		
到達目標	学校体育で行われているマット運動や跳び箱運動、鉄棒運動の代表的な技が出来るようになり、指導法や補助法を身に付けることが出来る。自己の運動や補助している相手の動感を捉えたり、言葉や図でその動感を表現し、伝えることが出来るようになることを目指す。		
準備学習	今までに体験した器械運動の授業で、色々な技がどうやって出来るようになったのか、なぜ出来なかったのかを思い出してください。また、出来る技についても、「私はどんな感じで動いていたのか」を思い浮かべてください。このような認識を確認することが、運動指導や本授業時の教え合いに必要な能力につながります。		

受講者への要望

スポーツ運動においては、「怖い」と感じることによって上手くいかないということが多くあります。この授業では、器械運動の技の習得を通して、その「怖い」に対して、どうやって克服していくのかを学び、運動学習というものを深く考えられる場になると思います。器械運動に対して苦手意識を持っている人ほど積極的に参加してください。腕時計や装身具等は外し、長髪の人は髪を縛って、運動の妨げや補助者の妨害にならないよう準備してください。

講義の順序とポイント

１．マット運動　逆位について（倒立とそのバリエーション）
２．マット運動　前転とその発展技の練習方法について
３．マット運動　後転とその発展技の練習方法について
４．マット運動　側方倒立回転と前方倒立回転跳びの練習方法について
５．マット運動　技の組み合わせと巧技系の運動の練習方法について
６．マット運動　実技テスト
７．跳び箱運動　切り返し系の技の練習方法について
８．跳び箱運動　回転系の技の練習方法について
９．跳び箱運動　実技テスト
１０．鉄棒運動　鉄棒に親しむこと（鉄棒遊びのバリエーション）
１１．鉄棒運動　下り技の練習方法について
１２．鉄棒運動　前方支持回転と後方支持回転の練習方法について
１３．鉄棒運動　足かけ回転技と足かけ上がりの練習方法について
１４．鉄棒運動　振動運動とけ上がりの練習方法について
１５．鉄棒運動と倒立静止　実技テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	J90192001
科目名	武道	単位数	1
科目名（英語表記）	Martial Arts		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
講義概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習によって、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎遺訓)。 本授業では、初めて柔道を行う者が安全に柔道を楽しめることを目指す。また、高校や中学校の授業で柔道を指導する者として、必要な素養を身につけることを目指す。具体的には、礼法や受身、基本的な投技（立技）や固技（抑込技、絞技、関節技）を学習し、乱取（実践練習）ができるようになる。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	参考文献が必要な方は相談してください。		
教材（その他）	その他について必要な方は相談してください。		
評価方法	授業内の口頭試問 50%と定期試験 50%によって評価します。定期試験では、礼法（立礼、座礼)、受身（後ろ受身、横受身、前受身、前回り受身）を実演してもらいます。		
到達目標	１．柔道の目的（精力善用・自他共栄）や楽しさを理解する。 ２．礼の精神を理解し、礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受身（後ろ受身、横受身、前受身、前回り受身）ができる。 ４．基本的な抑込技、絞技、関節技ができる ５．安全に乱取（実践練習）ができる。		
準備学習	可能であれば学習した内容を復習したり、講義のポイントを予習して来てください。		

受講者への要望

１．安全上、全日本柔道連盟試合服装規定に合う柔道衣を着用してください。
２．指導上、柔道衣にはゼッケンを付けてください（男子は黒文字、女子は赤文字)。
３．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
４．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください)。
５．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
６．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
７．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください)。
８．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
９．貴重品は自己管理でお願いします。

柔道衣やゼッケンについては早川繊維工業を参照してください。
{http://www.kusakura.co.jp/2016catalog/003-052judo.pdf}

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（諸注意、柔道の概要）
２．柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼)、受身（後ろ受身、横受身、前受身）
３．前回り受身、組み方、八方の崩し
４．膝車、横四方固
５．支釣込足、上四方固
６．出足払、袈裟固、
７．燕返、裸絞
８．大内刈、片手絞
９．大外刈、送襟絞
１０．体落、片羽絞
１１．払腰、三角絞
１２．背負投、腕緘
１３．腕挫十字固
１４．審判法
１５．試合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	J90192002
科目名	武道	単位数	1
科目名（英語表記）	Martial Arts		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
講義概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習によって、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎遺訓)。 本授業では、初めて柔道を行う者が安全に柔道を楽しめることを目指す。また、高校や中学校の授業で柔道を指導する者として、必要な素養を身につけることを目指す。具体的には、礼法や受身、基本的な投技（立技）や固技（抑込技、絞技、関節技）を学習し、乱取（実践練習）ができるようになる。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	参考文献が必要な方は相談してください。		
教材（その他）	その他について必要な方は相談してください。		
評価方法	授業内の口頭試問 50%と定期試験 50%によって評価します。定期試験では、礼法（立礼、座礼)、受身（後ろ受身、横受身、前受身、前回り受身）を実演してもらいます。		
到達目標	１．柔道の目的（精力善用・自他共栄）や楽しさを理解する。 ２．礼の精神を理解し、礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受身（後ろ受身、横受身、前受身、前回り受身）ができる。 ４．基本的な抑込技、絞技、関節技ができる ５．安全に乱取（実践練習）ができる。		
準備学習	可能であれば学習した内容を復習したり、講義のポイントを予習して来てください。		

受講者への要望

１．安全上、全日本柔道連盟試合服装規定に合う柔道衣を着用してください。
２．指導上、柔道衣にはゼッケンを付けてください（男子は黒文字、女子は赤文字)。
３．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
４．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください)。
５．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
６．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
７．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください)。
８．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
９．貴重品は自己管理でお願いします。

柔道衣やゼッケンについては早川繊維工業を参照してください。
{http://www.kusakura.co.jp/2016catalog/003-052judo.pdf}

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（諸注意、柔道の概要）
２．柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼)、受身（後ろ受身、横受身、前受身）
３．前回り受身、組み方、八方の崩し
４．膝車、横四方固
５．支釣込足、上四方固
６．出足払、袈裟固、
７．燕返、裸絞
８．大内刈、片手絞
９．大外刈、送襟絞
１０．体落、片羽絞
１１．払腰、三角絞
１２．背負投、腕緘
１３．腕挫十字固
１４．審判法
１５．試合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1000101
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋宿題提出４回（４０％）＋学期末レポート試験（３０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1000102
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋宿題提出４回（４０％）＋学期末レポート試験（３０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1000105
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋宿題提出４回（４０％）＋学期末レポート試験（３０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1000106
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋宿題提出４回（４０％）＋学期末レポート試験（３０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1000201
科目名	経営学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する		
教材（参考文献）	Case Study を提示するが、受講生の興味に応じ提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship 第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント		

Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★	ー	★★

年度	2016	授業コード	JC1000202
科目名	経営学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する		
教材（参考文献）	Case Study を提示するが、受講生の興味に応じ提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship 第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント			

Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JC1000301
科目名	国際関係論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	2015 年秋、パリにおいて同時多発テロが発生、一般市民が多数犠牲となった。この事件は世界各国から注目され、各国より哀悼の意が伝えられた。一方で、前日に中等のベイルートにて同様の一般市民を狙ったテロが発生したが、こちらはほとんど注目されることはなかった。　「人の命は地球より重い」という言葉がある。この言葉に異論がある人はいない。しかし、重さ自体は不平等である。パリの市民、フランス人の命はより重く、ベイルートの市民、レバノン人の命はより軽い。 テロのみならず、戦争、環境問題や経済格差など、様々な問題を現在の国際社会は抱えている。また、中国やインドなどの BRICS の台頭、NEXT11 と呼ばれる新興経済発展諸国の登場やアフリカ諸国の経済発展の開始など、かつての国際政治の状況とは変容のさなかにある。 本講義では、そのような国際政治の事情などに関して議論していくことを目的としている。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇（編）『新グローバル公共政策(改訂版)』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『民族自決の果てに―マイノリティをめぐる国際安全保障』有信堂、3,240 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	・新聞の国際面を読みこなすことができる。 ・現在発生している国際問題に関して概要を理解することができる。 ・国際問題に関するレポートを作成することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業開始時に前回の授業内容にかかわる小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
国際関係論の授業内容説明

第 2 回　国際関係の基礎
政治学・国際政治学における国際関係とは何か。

第 3 回　国際社会の活動単位
国際社会の活動単位である国家、地域、NGO など。

第 4 回　外交政策とその組織
外交政策に携わる諸組織に関して。また、国際連合とは何か。

第 5 回　国家間の相互作用
現代国際社会における国家間の相互作用に関して検討。

第 6 回　国際社会の歴史（1）
国際社会の歴史に関して、古代～ウェストファリア体制までを取り上げる。

第 7 回　国際社会の歴史（2）
国際社会の歴史に関して、ウェストファリア体制以降を取り上げる。

第 8 回　国際社会の歴史（3）
第二次世界大戦以降の冷戦構造と世界。

第 9 回　国際社会の歴史（4）
社会主義国の拡大と多極化、非同盟諸国。

第 10 回　国際社会の歴史（5）
デタント（緊張緩和）と冷戦終結、CSCE。

第 11 回　国際社会の現状（1）
第三世界と途上国。

第 12 回　国際社会の現状（2）
核拡散と軍縮。

第 13 回　国際社会の現状（3）　国際統合（EU、ASEAN など）。

第 14 回　国際社会の現状（4）
冷戦の終結と新たな脅威

第 15 回　まとめ　これまでの授業内容に関して総括を行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	—	—	–	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1000302
科目名	国際関係論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	2015 年秋、パリにおいて同時多発テロが発生、一般市民が多数犠牲となった。この事件は世界各国から注目され、各国より哀悼の意が伝えられた。一方で、前日に中等のベイルートにて同様の一般市民を狙ったテロが発生したが、こちらはほとんど注目されることはなかった。　「人の命は地球より重い」という言葉がある。この言葉に異論がある人はいない。しかし、重さ自体は不平等である。パリの市民、フランス人の命はより重く、ベイルートの市民、レバノン人の命はより軽い。 テロのみならず、戦争、環境問題や経済格差など、様々な問題を現在の国際社会は抱えている。また、中国やインドなどの BRICS の台頭、NEXT11 と呼ばれる新興経済発展諸国の登場やアフリカ諸国の経済発展の開始など、かつての国際政治の状況とは変容のさなかにある。 本講義では、そのような国際政治の事情などに関して議論していくことを目的としている。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇（編）『新グローバル公共政策(改訂版)』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『民族自決の果てに―マイノリティをめぐる国際安全保障』有信堂、3,240 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	・新聞の国際面を読みこなすことができる。 ・現在発生している国際問題に関して概要を理解することができる。 ・国際問題に関するレポートを作成することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業開始時に前回の授業内容にかかわる小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
国際関係論の授業内容説明

第 2 回　国際関係の基礎
政治学・国際政治学における国際関係とは何か。

第 3 回　国際社会の活動単位
国際社会の活動単位である国家、地域、NGO など。

第 4 回　外交政策とその組織
外交政策に携わる諸組織に関して。また、国際連合とは何か。

第 5 回　国家間の相互作用
現代国際社会における国家間の相互作用に関して検討。

第 6 回　国際社会の歴史（1）
国際社会の歴史に関して、古代～ウェストファリア体制までを取り上げる。

第 7 回　国際社会の歴史（2）
国際社会の歴史に関して、ウェストファリア体制以降を取り上げる。

第 8 回　国際社会の歴史（3）
第二次世界大戦以降の冷戦構造と世界。

第 9 回　国際社会の歴史（4）
社会主義国の拡大と多極化、非同盟諸国。

第 10 回　国際社会の歴史（5）
デタント（緊張緩和）と冷戦終結、CSCE。

第 11 回　国際社会の現状（1）
第三世界と途上国。

第 12 回　国際社会の現状（2）
核拡散と軍縮。

第 13 回　国際社会の現状（3）　　国際統合（EU、ASEAN など）。

第 14 回　国際社会の現状（4）
冷戦の終結と新たな脅威

第 15 回　まとめ　　これまでの授業内容に関して総括を行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1000401
科目名	知的財産	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」を対象に、「知的財産」を「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、紛争事例(例えば、東京オリンピックのエンブレムを巡る事例など)なども交えながら、関係法規の基本的な考え方を問題解決のツールとして学ぶこととする。 以上を通して知的財産権の所有と利用、またその侵害に対する排除のルールである「知的財産制度」の役割･機能を具体的に把握することとする。 授業の方法としては、できるだけ双方向のやりとりができるよう、授業内課題・レポート等を活用していくこととする。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布。		
教材（参考文献）	茶園成樹『知的財産法入門』(2013 年、有斐閣) 福井健策『18 歳の著作権入門』(2015 年、ちくまプリマー新書)		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題　10 回程度実施　記入内容に基づき、授業に積極的に参加していたかどうかを評価する(４０％)。 レポート課題　2 回出題　提出されたレポートの体裁・内容に基づき評価する(６０％)		
到達目標	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」について、「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、関係法規の基本的な考え方を学ぶ。		
準備学習	１．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。 ２．授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 ３．知的財産を取り扱った新聞報道によく接するようにし、法的な問題点について関心を持つようにすること。(講義の中でも積極的に取り上げるようにする。) ４．各回の講義で指示する課題に取り組むこと。		
受講者への要望			
授業課題は、授業終了時に簡単な質問を提示するので、これを京学ナビ・課題管理に入力していただく。その記入内容によって講義がしっかり聴けているかを評価するので、授業内容については確実に理解するようにしていただきたい。			
講義の順序とポイント			
１．知的財産と企業経営 「下町ロケット」では、知的財産はどのように取り扱われていたか？ ２．財産に関する基本法・民法の基本 法の役割は何か 財産権の所有・利用・侵害に関する民法ルールは？ ３．知的財産と知的財産法 知的財産権とは何か？ ４．特許法で保護されている「発明」 ５．著作権法で保護されている「著作物」 ６．権利の主体(1)－発明者等 ７．権利の主体(2)－著作者等 ８．特許権の侵害 ９．著作権の侵害 10．知的財産権の利用－ライセンス契約 11．ライセンシーの権利とその保護			

12. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(1)
ＡＫＢ４８の写真を無許可でポスターに使用してよいか？
－パブリシティ権の問題
13. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(2)
米国特許訴訟のリスクマネジメント－パテントロールとは？
14. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(3)
東京五輪エンブレム盗用疑惑問題
１５．最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(4)
ロゴやマークはどう守るか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1000402
科目名	知的財産	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」を対象に、「知的財産」を「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、紛争事例(例えば、東京オリンピックのエンブレムを巡る事例など)なども交えながら、関係法規の基本的な考え方を問題解決のツールとして学ぶこととする。 以上を通して知的財産権の所有と利用、またその侵害に対する排除のルールである「知的財産制度」の役割･機能を具体的に把握することとする。 授業の方法としては、できるだけ双方向のやりとりができるよう、授業内課題・レポート等を活用していくこととする。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布。		
教材（参考文献）	茶園成樹『知的財産法入門』(2013 年、有斐閣) 福井健策『18 歳の著作権入門』(2015 年、ちくまプリマー新書)		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題　10 回程度実施　記入内容に基づき、授業に積極的に参加していたかどうかを評価する(４０％)。 レポート課題　2 回出題　提出されたレポートの体裁・内容に基づき評価する(６０％)		
到達目標	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」について、「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、関係法規の基本的な考え方を学ぶ。		
準備学習	１．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。 ２．授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 ３．知的財産を取り扱った新聞報道によく接するようにし、法的な問題点について関心を持つようにすること。(講義の中でも積極的に取り上げるようにする。) ４．各回の講義で指示する課題に取り組むこと。		
受講者への要望			
授業課題は、授業終了時に簡単な質問を提示するので、これを京学ナビ・課題管理に入力していただく。その記入内容によって講義がしっかり聴けているかを評価するので、授業内容については確実に理解するようにしていただきたい。			
講義の順序とポイント			
１．知的財産と企業経営 「下町ロケット」では、知的財産はどのように取り扱われていたか？ ２．財産に関する基本法・民法の基本 法の役割は何か 財産権の所有・利用・侵害に関する民法ルールは？ ３．知的財産と知的財産法 知的財産権とは何か？ ４．特許法で保護されている「発明」 ５．著作権法で保護されている「著作物」 ６．権利の主体(1)－発明者等 ７．権利の主体(2)－著作者等 ８．特許権の侵害 ９．著作権の侵害 10．知的財産権の利用－ライセンス契約 11．ライセンシーの権利とその保護			

12. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(1)
ＡＫＢ４８の写真を無許可でポスターに使用してよいか？
－パブリシティ権の問題
13. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(2)
米国特許訴訟のリスクマネジメント－パテントロールとは？
14. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(3)
東京五輪エンブレム盗用疑惑問題
１５．最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(4)
ロゴやマークはどう守るか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1000501
科目名	コーポレートガバナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	コーポレートガバナンス（企業統治）には大きく 2 つの狙いがある。第 1 は経営の適性さ、健全性の確保であり、第 2 は、会社の業績の向上である。この授業では、「日本経済と日本的経営」「日本の雇用・労使関係」「会計制度の国際化」「株主代表訴訟とコーポレートガバナンス」「コーポレートガバナンスの展望」などいくつかの入門的トピックを取り上げる。また、経営の適性さ、健全性はコンプライアンス（法令遵守）とも重なるので、その基礎を紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	コーポレートガバナンスとコンプライアンスについての概略とその基本的理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布または指定するので、予習しておくこと。また、毎回の授業で前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞記事の経済面などに努めて目を通し、経済や企業経営に幅広く興味関心を持ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．株式会社とは 3．企業不祥事 4．欧米におけるコーポレートガバナンス 5．日本経済と日本的経営 6．日本の雇用・労使関係とコーポレートガバナンス 7．株主総会のしくみ 8．取締役会のしくみ 9．監査役・会計監査人のしくみ 10.会計制度の国際化とコーポレートガバナンス 11.資金調達とコーポレートガバナンス 12.内部統制システム 13.株主代表訴訟とコーポレートガバナンス 14.コンプライアンスとは 15.コーポレートガバナンスの展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1000502
科目名	コーポレートガバナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	コーポレートガバナンス（企業統治）には大きく 2 つの狙いがある。第 1 は経営の適性さ、健全性の確保であり、第 2 は、会社の業績の向上である。この授業では、「日本経済と日本的経営」「日本の雇用・労使関係」「会計制度の国際化」「株主代表訴訟とコーポレートガバナンス」「コーポレートガバナンスの展望」などいくつかの入門的トピックを取り上げる。また、経営の適性さ、健全性はコンプライアンス（法令遵守）とも重なるので、その基礎を紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	コーポレートガバナンスとコンプライアンスについての概略とその基本的理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布または指定するので、予習しておくこと。また、毎回の授業で前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞記事の経済面などに努めて目を通し、経済や企業経営に幅広く興味関心を持ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．株式会社とは 3．企業不祥事 4．欧米におけるコーポレートガバナンス 5．日本経済と日本的経営 6．日本の雇用・労使関係とコーポレートガバナンス 7．株主総会のしくみ 8．取締役会のしくみ 9．監査役・会計監査人のしくみ 10.会計制度の国際化とコーポレートガバナンス 11.資金調達とコーポレートガバナンス 12.内部統制システム 13.株主代表訴訟とコーポレートガバナンス 14.コンプライアンスとは 15.コーポレートガバナンスの展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1000601
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 第 2 部　生命保険によるリスクへの備え 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　社会保障の仕組みと日本の課題 給与明細を読むことを通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について学びます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。 その他　日本経済新聞を活用して、上記のような情報を取集する方法についても取り上げます。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、投資信託分析レポートの作成とする。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得することを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講者への要望			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
講義の順序とポイント			
1.初任給 198,000 円をどう使う？ 　就職し、大卒の平均初任給 198,000 円を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 　給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 　でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？具体的な金融商品の利回りなどを確認します。 　資産運用のための投資信託、リスクヘッジのための生命保険の必要性について学びます。			

【第 1 部　投資信託】

2.投資信託とは何か？

投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。

委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。

3.交付目論見書の読み方

投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。

実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

4.インデックス型とアクティブ型

投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。

それぞれの特徴や違いを学びます。

5.分配金、シャープレシオ、税制（NISA）

投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。

分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

6.バランス型投資信託、確定拠出年金制度

投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。

また、　確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

7.投資信託の値動きと経済指標の関係

長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

8.投資信託の委託会社、販売会社。主な投資信託。投資信託の損益。スチュワードシップ・コード

主な委託会社にはどのような会社があるか、主な販売会社にはどのような会社があるかを紹介します。

また、投資信託については、純資産総額が 1 兆円を超える投資信託にはどのようなものがあるか、紹介します。

【第 2 部　生命保険】

9.生命保険の 3 類型

家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。

10.定期保険、養老保険の比較

実際の定期保険と養老保険の商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

また、団体信用生命保険を紹介します。

11.終身保険、年金保険の比較、

実際の終身保険、年金保険の商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

12.公的保険、公的年金　～必要保障額の算定～

公的年金、公的保険としてどのような制度が用意されているかを取り上げます。

具体的には遺族年金や高額療養費制度を紹介します。

【第 3 部　社会保障】

13.給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？

さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。

健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。

また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

14.給料から引かれる所得税、住民税とは何なのか？

給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。

所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。

また、所得税や住民税がどのように利用されているか、日本の財政問題も取り上げます。

【情報リテラシー】

15.日本経済新聞を使った情報収集

投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？

日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。

また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1000602
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 第 2 部　生命保険によるリスクへの備え 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　社会保障の仕組みと日本の課題 給与明細を読むことを通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について学びます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。 その他　日本経済新聞を活用して、上記のような情報を取集する方法についても取り上げます。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、投資信託分析レポートの作成とする。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得することを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講者への要望			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
講義の順序とポイント			
1.初任給 198,000 円をどう使う？ 　就職し、大卒の平均初任給 198,000 円を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 　給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 　でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？具体的な金融商品の利回りなどを確認します。 　資産運用のための投資信託、リスクヘッジのための生命保険の必要性について学びます。			

【第 1 部　投資信託】

2.投資信託とは何か？

投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。

委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。

3.交付目論見書の読み方

投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。

実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

4.インデックス型とアクティブ型

投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。

それぞれの特徴や違いを学びます。

5.分配金、シャープレシオ、税制（NISA）

投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。

分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

6.バランス型投資信託、確定拠出年金制度

投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。

また、　確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

7.投資信託の値動きと経済指標の関係

長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

8.投資信託の委託会社、販売会社。主な投資信託。投資信託の損益。スチュワードシップ・コード

主な委託会社にはどのような会社があるか、主な販売会社にはどのような会社があるかを紹介します。

また、投資信託については、純資産総額が 1 兆円を超える投資信託にはどのようなものがあるか、紹介します。

【第 2 部　生命保険】

9.生命保険の 3 類型

家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。

10.定期保険、養老保険の比較

実際の定期保険と養老保険の商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

また、団体信用生命保険を紹介します。

11.終身保険、年金保険の比較、

実際の終身保険、年金保険の商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法）、選択する際のポイントに触れます。

12.公的保険、公的年金　～必要保障額の算定～

公的年金、公的保険としてどのような制度が用意されているかを取り上げます。

具体的には遺族年金や高額療養費制度を紹介します。

【第 3 部　社会保障】

13.給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？

さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。

健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。

また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

14.給料から引かれる所得税、住民税とは何なのか？

給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。

所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。

また、所得税や住民税がどのように利用されているか、日本の財政問題も取り上げます。

【情報リテラシー】

15.日本経済新聞を使った情報収集

投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？

日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。

また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1000701
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後はより詳しく、実践的な内容へと進みます。 第 2 回以降の授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となるので、できるだけ欠席しないこと。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』（2006 年、慶應義塾大学出版会） 下地寛也『コクヨの 1 分間プレゼンテーション』（2011 年、中経出版）		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		
受講者への要望			
毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　レポート・論文の基本事項 第 3 回　わかりやすい文章の書き方 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文 第 6 回　構成 第 7 回　要約 第 8 回　文章を引用する 第 9 回　図表を引用する 第 10 回　意見を述べる 第 11 回　課題 2　論説文 第 12 回　レポートの体裁 第 13 回　レポート作成の注意点 第 14 回　資料収集の方法 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1000702
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後はより詳しく、実践的な内容へと進みます。 第 2 回以降の授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となるので、できるだけ欠席しないこと。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』（2006 年、慶應義塾大学出版会） 下地寛也『コクヨの 1 分間プレゼンテーション』（2011 年、中経出版）		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		
受講者への要望			
毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　レポート・論文の基本事項 第 3 回　わかりやすい文章の書き方 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文 第 6 回　構成 第 7 回　要約 第 8 回　文章を引用する 第 9 回　図表を引用する 第 10 回　意見を述べる 第 11 回　課題 2　論説文 第 12 回　レポートの体裁 第 13 回　レポート作成の注意点 第 14 回　資料収集の方法 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1000703
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後はより詳しく、実践的な内容へと進みます。 第 2 回以降の授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となるので、できるだけ欠席しないこと。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』（2006 年、慶應義塾大学出版会） 下地寛也『コクヨの 1 分間プレゼンテーション』（2011 年、中経出版）		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		
受講者への要望			
毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　レポート・論文の基本事項 第 3 回　わかりやすい文章の書き方 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文 第 6 回　構成 第 7 回　要約 第 8 回　文章を引用する 第 9 回　図表を引用する 第 10 回　意見を述べる 第 11 回　課題 2　論説文 第 12 回　レポートの体裁 第 13 回　レポート作成の注意点 第 14 回　資料収集の方法 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1000704
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後はより詳しく、実践的な内容へと進みます。 第 2 回以降の授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となるので、できるだけ欠席しないこと。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	プリントを配布します。		
教材（参考文献）	佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』（2006 年、慶應義塾大学出版会） 下地寛也『コクヨの 1 分間プレゼンテーション』（2011 年、中経出版）		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		
受講者への要望			
毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　レポート・論文の基本事項 第 3 回　わかりやすい文章の書き方 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文 第 6 回　構成 第 7 回　要約 第 8 回　文章を引用する 第 9 回　図表を引用する 第 10 回　意見を述べる 第 11 回　課題 2　論説文 第 12 回　レポートの体裁 第 13 回　レポート作成の注意点 第 14 回　資料収集の方法 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1000801
科目名	社会貢献	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原田　禎夫	旧科目名称	
講義概要	本講義では、京都を代表する観光地・嵐山を流れる桂川（保津川）をフィールドとした調査・実習を通じて社会貢献のあり方について学びます。近年、新たな環境問題として注目されている海ごみ問題は、その大半は河川を通じて陸域から流出した生活ごみが占めていることが明らかになっています。こうしたごみ問題は桂川でも深刻化していますが、その一方で NPO や企業、行政の緊密な連携による環境保全活動も活発に行われています。そこで、本講義では関係者へのヒアリング調査やフィールドワークを通じて、社会問題の解決はどのようにして実現するのか考えます。		
教材（テキスト）	海ゴミ一拡大する地球環境汚染（中公新書）新書 2007/7 小島 あずさ （著), 眞 淳平 （著） http://www.amazon.co.jp/dp/4121019067		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（40%）出席状況などによる。レポート（3 回、合計 60%）		
到達目標	世界的な環境問題となりつつある海ごみ問題を事例に、問題解決に向けてどのような社会的取り組みが必要か、科学的な観点から理解することを目標とする。		
準備学習	単元の区切りごとにレポートを課す。シラバスにレポオートの課題を記しているので、課題を完成させて指定期日までに提出すること。また、フィールドワーク実習に備えてグループワークなどを通じて準備をしておくこと。		
受講者への要望			
野外での学習も実施するため、作業のできる服装・靴を用意すること。なお詳細については授業中に指示する。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに 2.漂着ごみ問題とは① 3.漂着ごみ問題とは② 4.漂着ごみの分析手法について 5.フィールドワーク① 6.中間報告① 7.フィールドワーク② 8.フィールドワークの成果の検討② 9.海ごみ問題への取り組み①　行政機関の取り組み 10.海ごみ問題への取り組み②　NPO の取り組み 11.ヒアリング調査の手法について 12.フィールドワーク③ 13.中間報告② 14.最終報告書のとりまとめ 15.まとめ（最終報告）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1110101
科目名	文学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの志向や体験を相対化する一助となるであろう。 京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。 また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。 古典文学を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての基礎知識を身につけることができるようにする。		
教材（テキスト）	無し。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（50%）　定期試験（50%）		
到達目標	・日本古典文学を通して、日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
準備学習	配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講者への要望

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺 『今昔物語集』
2 比叡山 『伊勢物語』
3　三十三間堂 『平家物語』(1)
4　三十三間堂 『平家物語』(2)
5　清水寺 『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺『ものくさ太郎』(2)　『義経記』
7 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
8 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)
9　野宮神社 『源氏物語』
10 貴船神社 『鉄輪』　和歌
11 伏見稲荷 『枕草子』
12 下鴨神社『方丈記』
13 仁和寺『徒然草』

14　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受）(1)　 『新古今和歌集』 15　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受（2）　 『更級日記』　　レポート提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	―	★	★★	－

年度	2016	授業コード	JC1110102
科目名	文学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの志向や体験を相対化する一助となるであろう。 京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。 また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。 古典文学を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての基礎知識を身につけることができるようにする。		
教材（テキスト）	無し。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（50%）　定期試験（50%）		
到達目標	・日本古典文学を通して、日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
準備学習	配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講者への要望

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺 『今昔物語集』
2 比叡山 『伊勢物語』
3　三十三間堂 『平家物語』(1)
4　三十三間堂 『平家物語』(2)
5　清水寺 『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺『ものくさ太郎』(2)　『義経記』
7 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
8 北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)
9　野宮神社 『源氏物語』
10 貴船神社 『鉄輪』　和歌
11 伏見稲荷 『枕草子』
12 下鴨神社『方丈記』
13 仁和寺『徒然草』

14　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受）(1)　『新古今和歌集』 15　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受（2）　『更級日記』　　レポート提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC1110201
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	『図説心理学入門　第 2 版』（誠信書房）　齊藤勇（編）　1,800 円		
教材（参考文献）	『医療と福祉のための心理学　対人援助とチームアプローチ』（北樹出版）　青木智子（編著）　2,484 円 『心理学　第 5 版』（東京大学出版会）　鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編）　2,592 円 『キーワードコレクション　心理学』（新曜社）　重野純（編）　3,672 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（50%）、授業内小テスト（50%）		
到達目標	1. 心理学の基礎的な理論について理解する 2. 人間の心や行動についての理解を深める 3. 授業で得た知識をもとに，人間の心・行動・社会について考察する		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

1. 授業には「楽しく」しかし「真剣に」参加すること。
2. 授業中は授業中にしかできないこと（授業内容の理解）に努めること。
3. 授業内容に対する質問はその場で教員に直接して，理解を不十分なまま放置することがないようにすること。
4. 授業の中では，簡単な調査や実験を通じて具体的に理解を深める機会を提供するので，できるだけ積極的に取り組み，内容の理解につなげること。
5. 人間の心と行動について，普段から興味をもち，自分なりに考えを深めること。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション：心と行動 （講義概要の説明）
2. 知覚と認知(1)：知覚・認知とは何か，形の知覚
3. 知覚と認知(2)：空間知覚，運動知覚
4 .欲求と感情(1)：欲求と動機づけ，欲求の種類，フラストレーションとコンフリクト
5. 欲求と感情(2)：感情とは何か，感情の構造，感情に関する理論
6. 学習・思考・記憶(1)：学習とは何か，条件づけ
7. 学習・思考・記憶(2)：概念と問題解決，記憶のしくみ
8. 知能：知能の理論，知能の測定
9. 対人心理と社会心理(1)：対人認知，対人関係
10.対人心理と社会心理(2)： 社会的態度，説得，同調
11. 発達と教育(1)：発達とは何か，乳児期・幼児期・児童期の発達の特徴
12. 発達と教育(2)：青年期，成人期，老年期の発達の特徴
13. パーソナリティ：パーソナリティに関する理論，パーソナリティの測定，パーソナリティの変化
14 .臨床心理と心理療法(1)：精神分析理論
15. 臨床心理と心理療法(2)：「心の病」（統合失調症，うつ病）の特徴とその治療，全体のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1110202
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　50% 授業内小テスト　50%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習心理学 ①条件づけ
7. ② 記憶
8. 思考心理 ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
9. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
10. ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1110203
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 　この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	図説心理学入門　斉藤勇（編）　誠心書房		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリント配布		
評価方法	授業（授業内小テスト　授業内レポートなど）　５０％　試験　５０％		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		
受講者への要望			
自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生が授業を聞く権利を妨害するような態度は厳禁です。その場合には、単位を出さなかったり、退室を求めることもあります。			
講義の順序とポイント			
１、心理学の様々な分野 ２、知覚と認知　①形の知覚　②図と地　③錯視図形 ３、欲求と動機付け　フラストレーションとコンフリクト ４、条件付け・学習　①古典的条件付け　②オペラント条件付け　③学習性無力感 ５、社会的学習　　①模倣学習　②観察学習 ６、記憶　①作業記憶　②長期記憶　③記憶の変容　④記憶の障害 ７、発達とは何か　①エリクソンの理論　②フロイトの理論　③ピアジェの理論 ８、発達①胎児期　乳児期　幼児期 ９、発達②児童期　思春期　青年期 １０、発達③成人期　老年期 １１、性格 １２、対人心理と社会心理　状況の力①他者の存在　②支配と服従　③同調 １３、脳と行為の自己調節　行動のコントロール １４、臨床心理学　カウンセリングとは １５、様々な心理療法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1110204
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	『図説心理学入門　第 2 版』（誠信書房）　齊藤勇（編）　1,800 円		
教材（参考文献）	『医療と福祉のための心理学　対人援助とチームアプローチ』（北樹出版）　青木智子（編著）　2,484 円 『心理学　第 5 版』（東京大学出版会）　鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編）　2,592 円 『キーワードコレクション　心理学』（新曜社）　重野純（編）　3,672 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（50%）、授業内小テスト（50%）		
到達目標	1. 心理学の基礎的な理論について理解する 2. 人間の心や行動についての理解を深める 3. 授業で得た知識をもとに，人間の心・行動・社会について考察する		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

1. 授業には「楽しく」しかし「真剣に」参加すること。
2. 授業中は授業中にしかできないこと（授業内容の理解）に努めること。
3. 授業内容に対する質問はその場で教員に直接して，理解を不十分なまま放置することがないようにすること。
4. 授業の中では，簡単な調査や実験を通じて具体的に理解を深める機会を提供するので，できるだけ積極的に取り組み，内容の理解につなげること。
5. 人間の心と行動について，普段から興味をもち，自分なりに考えを深めること。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション：心と行動 （講義概要の説明）
2. 知覚と認知(1)：知覚・認知とは何か，形の知覚
3. 知覚と認知(2)：空間知覚，運動知覚
4 .欲求と感情(1)：欲求と動機づけ，欲求の種類，フラストレーションとコンフリクト
5. 欲求と感情(2)：感情とは何か，感情の構造，感情に関する理論
6. 学習・思考・記憶(1)：学習とは何か，条件づけ
7. 学習・思考・記憶(2)：概念と問題解決，記憶のしくみ
8. 知能：知能の理論，知能の測定
9. 対人心理と社会心理(1)：対人認知，対人関係
10.対人心理と社会心理(2)： 社会的態度，説得，同調
11. 発達と教育(1)：発達とは何か，乳児期・幼児期・児童期の発達の特徴
12. 発達と教育(2)：青年期，成人期，老年期の発達の特徴
13. パーソナリティ：パーソナリティに関する理論，パーソナリティの測定，パーソナリティの変化
14 .臨床心理と心理療法(1)：精神分析理論
15. 臨床心理と心理療法(2)：「心の病」（統合失調症，うつ病）の特徴とその治療，全体のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1110301
科目名	日本史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
講義概要	現在、一般に京都と言えば、優雅な王朝文化の華開いた都、平安貴族や宮廷女性のきらびやかな生活や豪奢な邸宅といったイメージが強いだろう。しかし、古代の平安京に始まった京都という都市空間は、中世・近世と時代を経るにしたがって大きく変貌していった。そこに暮らす人々も宮廷の貴族・女官だけではなく、武士をはじめ商人・職人・芸能民など様々な身分・階層の人々が居住・生活し、また京都と各地を活発に往来・活動していたのである。 本講義では、古代から近世にかけての京都の歴史について、都市空間の様相とその変化、およびそこに暮らす人々に焦点を当てて検討し、京都という場から日本の歴史の特質について考える。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（テキスト）	特になし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事柄やそれに関連する事柄について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
準備学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも紹介する予定である（高校の日本史教科書を参照してもよい）。また、毎回の授業の後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、指定された参考文献を熟読すると、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講者への要望			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。 私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、平安京の誕生とその都市空間（１） ３、平安京の誕生とその都市空間（２） ４、平安京の変貌と王権・貴族 ５、平安京の都市衛生問題と祇園御霊会（１） ６、平安京の都市衛生問題と祇園御霊会（２） ７、中世京都の成立と展開（１） ８、中世京都の成立と展開（２） ９、武家の都・京都（１） １０、武家の都・京都（２） １１、武家の都・京都（３） １２、室町・戦国期の京都と祇園祭（１） １３、室町・戦国期の京都と祇園祭（２） １４、豊臣秀吉の京都改造 １５、江戸時代の京都			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1110302
科目名	日本史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
講義概要	現在、一般に京都と言えば、優雅な王朝文化の華開いた都、平安貴族や宮廷女性のきらびやかな生活や豪奢な邸宅といったイメージが強いだろう。しかし、古代の平安京に始まった京都という都市空間は、中世・近世と時代を経るにしたがって大きく変貌していった。そこに暮らす人々も宮廷の貴族・女官だけではなく、武士をはじめ商人・職人・芸能民など様々な身分・階層の人々が居住・生活し、また京都と各地を活発に往来・活動していたのである。 本講義では、古代から近世にかけての京都の歴史について、都市空間の様相とその変化、およびそこに暮らす人々に焦点を当てて検討し、京都という場から日本の歴史の特質について考える。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（テキスト）	特になし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事柄やそれに関連する事柄について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
準備学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも紹介する予定である（高校の日本史教科書を参照してもよい）。また、毎回の授業の後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、指定された参考文献を熟読すると、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講者への要望			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。 私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、平安京の誕生とその都市空間（１） ３、平安京の誕生とその都市空間（２） ４、平安京の変貌と王権・貴族 ５、平安京の都市衛生問題と祇園御霊会（１） ６、平安京の都市衛生問題と祇園御霊会（２） ７、中世京都の成立と展開（１） ８、中世京都の成立と展開（２） ９、武家の都・京都（１） １０、武家の都・京都（２） １１、武家の都・京都（３） １２、室町・戦国期の京都と祇園祭（１） １３、室町・戦国期の京都と祇園祭（２） １４、豊臣秀吉の京都改造 １５、江戸時代の京都			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1110401
科目名	東洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	中国史研究においては，伝統的に外交史に十分な蓄積がなされてこなかったが，近年は多くの成果が出ている分野である。前半は，19 世紀初めまでの政治・経済関係を中心とした中国と諸外国との関係を勉強する。後半は，国際法の受容や世界政治の中の中国外交の姿を辿っていく。それによって，中国と諸外国との関係がどのような歴史を歩んできたのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
開講までに現在の中国について調べておいてくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回 古代日本外交史 第２回 岳飛と秦檜 第３回 クビライの挑戦 第４回 永楽帝 第５回 長城の中国史 第６回 倭寇と勘合貿易 第７回 Vietnam and the Chinese Model 第８回 康熙帝の手紙 第９回 アジアの海の大英帝国 第１０回 万国公法の時代 第１１回 外交官の誕生 第１２回 革命とナショナリズム 第１３回 中国外交と国連の成立 第１４回 毛沢東の朝鮮戦争 第１５回 日中国交正常化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1110402
科目名	東洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	中国史研究においては，伝統的に外交史に十分な蓄積がなされてこなかったが，近年は多くの成果が出ている分野である。前半は，19 世紀初めまでの政治・経済関係を中心とした中国と諸外国との関係を勉強する。後半は，国際法の受容や世界政治の中の中国外交の姿を辿っていく。それによって，中国と諸外国との関係がどのような歴史を歩んできたのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
開講までに現在の中国について調べておいてくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回 古代日本外交史 第２回 岳飛と秦檜 第３回 クビライの挑戦 第４回 永楽帝 第５回 長城の中国史 第６回 倭寇と勘合貿易 第７回 Vietnam and the Chinese Model 第８回 康熙帝の手紙 第９回 アジアの海の大英帝国 第１０回 万国公法の時代 第１１回 外交官の誕生 第１２回 革命とナショナリズム 第１３回 中国外交と国連の成立 第１４回 毛沢東の朝鮮戦争 第１５回 日中国交正常化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1110501
科目名	西洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史の課題 ２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１） ３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２） ４．死生観の歴史（１） ５．死生観の歴史（２） ６．魔女裁判（１） ７．魔女裁判（２） ８．犯罪と刑罰の歴史（１） ９．犯罪と刑罰の歴史（２） １０．疫病の歴史（１） １１．疫病の歴史（２） １２．「流行」の歴史（１） １３．「流行」の歴史（２） １４．奴隷貿易の歴史（１） １５．奴隷貿易の歴史（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1110502
科目名	西洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史の課題 ２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１） ３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２） ４．死生観の歴史（１） ５．死生観の歴史（２） ６．魔女裁判（１） ７．魔女裁判（２） ８．犯罪と刑罰の歴史（１） ９．犯罪と刑罰の歴史（２） １０．疫病の歴史（１） １１．疫病の歴史（２） １２．「流行」の歴史（１） １３．「流行」の歴史（２） １４．奴隷貿易の歴史（１） １５．奴隷貿易の歴史（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1110601
科目名	哲学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定）。

講義の順序とポイント

1　導入－－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰
2　ギリシア哲学の人間観１－－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３魂の三分説　４理性的人間像
3　『聖書』の人間観１－－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話
4　キリスト教の人間観１－－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂
5　近代哲学の人間観１－－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配
6　現代思想の人間観１－－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ
7　「社会的動物」としての人間－－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ
8　『聖書』の人間観２－－１知恵の木の実　２カインとアベル
9　ギリシアの神話－－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー
１０　ギリシア哲学の人間観２－－１気概　２魂の四徳
１１　キリスト教の人間観２－－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑
１２　近代哲学の人間観２－－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源
１３　近代哲学の人間観３－－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち
１４　近代哲学の人間観４－－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認
１５　現代思想の人間観２－－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1110602
科目名	哲学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		
受講者への要望			
（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定）。			
講義の順序とポイント			
１　導入－－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰 ２　ギリシア哲学の人間観１－－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３魂の三分説　４理性的人間像 ３　『聖書』の人間観１－－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話 ４　キリスト教の人間観１－－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂 ５　近代哲学の人間観１－－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配 ６　現代思想の人間観１－－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ ７　「社会的動物」としての人間－－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ ８　『聖書』の人間観２－－１知恵の木の実　２カインとアベル ９　ギリシアの神話－－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー １０　ギリシア哲学の人間観２－－１気概　２魂の四徳 １１　キリスト教の人間観２－－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑 １２　近代哲学の人間観２－－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源 １３　近代哲学の人間観３－－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち １４　近代哲学の人間観４－－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認 １５　現代思想の人間観２－－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1110701
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	棚次　正和	旧科目名称	
講義概要	本講義は、生命の尊厳について考えを深め、人間相互の違いを認め合い尊重できる自他共生の倫理観を涵養することを目標とする。1970 年前後にアメリカ合衆国で誕生した生命倫理の基本的な考え方を紹介しながら、QOL（生命の質）と SOL（生命の尊厳）の相違、患者の自己決定権、パーソン論、尊厳死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、出生前診断、健康の定義、緩和ケアとスピリチュアルケアなどの根本問題を取り上げ、何が重要かをともに考える。また、「いのち」の深さの次元や日本固有の生命観についても検討する。 毎回、授業の最後に小テストを行なう。		
教材（テキスト）	小冊子『医療倫理と生命倫理』（私家版）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（50%）。定期試験（50%）。		
到達目標	生命の尊厳について理解を深め、自他共生の倫理観を涵養することを求める。		
準備学習	小冊子（テキスト）を事前に予習しておくこと。		
受講者への要望			
受け身ではなく、積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1　「生命」概念と「倫理」概念の収縮 2　生命倫理と医療倫理 3　生命倫理の四原則 4　患者の自己決定権 5　インフォームド・コンセント 6　SOL（生命の尊厳）と QOL（生命の質） 7　人間の尊厳、自他共生 8　生と死の問題 9　死生学、尊厳死 10　臓器移植と脳死 11　人体実験と臨床試験 12　出生前診断と人工妊娠中絶 13　緩和ケア、スピリチュアルケア 14　健康とは何か 15　日本型の生命倫理の可能性			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC1110702
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鶴　真一	旧科目名称	
講義概要	生命倫理学で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを解説する。毎回テーマを定め、授業用資料に基づいて授業を進めていく。		
教材（テキスト）	オリジナルの授業用資料を使用する		
教材（参考文献）	特になし（授業中に適宜紹介する）		
教材（その他）			
評価方法	１）　感想文（毎回）　：50% ２）　期末レポート（授業終了後１回）：50%		
到達目標	１）　現代の医療現場で何が問題になっているのかを学ぶことで、みずからの生命観、「生きるとは何か」という問題を反省できるようにする。 ２）　生命倫理学の諸問題について、自分の見解を持ち、説明できるようにする。		
準備学習	授業で使用する教材を、京学なびの「授業資料」に事前にアップロードするので、プリントアウトして持参すること。		

受講者への要望

１）　私語厳禁
２）　授業開始１５分以降の入室を禁止する（１５分以内は「遅刻」とし、３回で１回の「欠席」として扱う）

講義の順序とポイント

第　１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価に関する説明）
第　２回　倫理学とは
第　３回　生命倫理学とは
第　４回　道徳的ディレンマ
第　５回　健康と病気
第　６回　生殖技術
第　７回　遺伝子治療
第　８回　人工妊娠中絶（１）
第　９回　人工妊娠中絶（２）
第１０回　パターナリズム
第１１回　インフォームド・コンセント
第１２回　臓器移植（１）
第１３回　臓器移植（２）
第１４回　医療過誤
第１５回　今後の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1120101
科目名	法学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	本講義は、初めて法学を学ぶ大学生向けの入門講義である。 第 1 は、例えば赤ちゃんが生まれたとき、交通事故をほおこしたときなど、法が身近な問題にどう関わっているのか考えていく。 第 2 は、法学の基礎知識や約束事を学ぶと共に、法的なものの考え方に触れる。 第 3 は、スポーツ･消費者･医療などの現代的課題に関して、法がどのような役割りを果たしているのかについて検討する。 第 4 は、死刑制度、派遣労働などを取り上げ、法が今のままでいいのか、考えてみる。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布		
教材（参考文献）	木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』(2012 年、星海社新書) 松井茂記・松宮孝明・曽野裕夫『はじめての法律学[第 4 版]』(2014 年、有斐閣アルマ)		
教材（その他）			
評価方法	レポート 60% 授業中課題 40%		
到達目標	日常生活をはじめ、社会人として活動していく中で、法が果たしている役割･機能について理解をすることができるようにする。		
準備学習	1．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 2．授業内課題・レポートについては、何をどう考え、どのように書き進めていくか具体的に指示するので、これに従って取り組むこと。 3．参考文献については、授業の予習･復習の教材として活用すること。なお、レポートは、これらの文献の参照が必要な場合もあるので、読んでおくこと。		
受講者への要望			
準備学習を確実に行い、積極的に授業に参加すること。			
講義の順序とポイント			
Ⅰ　日常の中から法的問題を見つけよう Ⅱ　私たちが法に出会うとき (1)　「赤ちゃんが生まれた」 私権の享有 権利能力・意思能力・行為能力者制度 (2)　「未成年者は 1 人で契約できない」 契約とは 未成年者の行為の制限 有効・無効ルールと相手方保護 未成年者が携帯を利用するとき (3)　「あなたをお父さんと呼んでいいの」 嫡出子 嫡出推定制度 女性の再婚禁止期間			

(4) 「心のうちにひそむ差別」
映画「Ｅ．Ｔ」を見て、差別と平等に関するさまざまな問題について考える。
(5) 「交通事故を起こした」
刑罰・損害賠償・行政処分

Ⅲ 法の基本を知る
(1) 日本の法大系
公法と私法の区別
財産法・家族法
商法・会社法
経済法、労働法、消費者法・知財法ほか
(2) 法源のはなし
成文法・慣習法、判例、条理
(3) 法の解釈
類推解釈・反対解釈など
何のための解釈か
(4) 法の適用
民事裁判の仕組み
調停制度・ＡＤＲその他

Ⅳ 現代社会における「法」の役割
(1) 消費者問題
(2) 医療過誤問題

Ⅴ 「法」は今のままでよいか
(1) 裁判員の君へ－「死刑」判決を言い渡すことができますか？
死刑制度と裁判員裁判
死刑の執行
存置論と廃止論
考えてみよう
(2) 労働者派遣と法の規制－2015 年改正法の持つ意味
働くことと法の規制
派遣労働の仕組み・現状
労働者派遣の規制
2015 年改正法は何を変えたのか？
(3) 夫婦同姓と夫婦別姓

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1120102
科目名	法学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	本講義は、いわゆる法律学入門である。これまで暗記の対象として認識してきた法規定や一般常識として認識してきたルールに関わる法規定に触れながら、法学という学問を垣間見る。そのために、できる限り具体的な事例を用いながら、そこに登場しうる個々の法律またはその条文と明らかにし、法律とはどのようなものなのか、法律がどのようなことを定めているのかを見ていく。		
教材（テキスト）	・プリントを配布する。		
教材（参考文献）	・池田真朗ほか『法の世界へ』（有斐閣） ・副田隆重ほか『ライフステージと法』（有斐閣） ・松井茂記ほか『はじめての法律学 -- H と J の物語』（有斐閣） ・大谷実編『エッセンシャル法学』（成文堂） ・髙橋明弘『法学への招待』（法律文化社） ・西村裕三編『リーガル・マインド入門』（有信堂）		
教材（その他）			
評価方法	3回の小テストの結果を９０％；講義中に課した課題を１０％で評価する。		
到達目標	・　身近には様々な法律が存在することを知る。 ・　法律の重要性を知る。 ・　身の回りに起こることにどのような法律が関係しているかを知る。		
準備学習	・こまめに小テストを行うので、必ず自宅での復習をしよう。 ・条文を暗記する必要はないが、条文の意味や置かれた理由を理解しよう。 ・レジュメの末尾に関連する参考文献を掲げるので、一読しよう。		
受講者への要望			
・講義中の出入りは周りの迷惑になるのでしないこと。トイレは休み時間中に済ませること。			
講義の順序とポイント			
第１回：《講義》憲法の基本原理 第２回：《講義》憲法の基本原理２ 第３回：《講義》犯罪と刑罰（刑法） 第４回：《講義》消費者法・消費者行政 第５回：《講義》労働法 第６回：（小テスト１）第1〜5 回の内容（20 分程度）；《講義》法源並びに六法及び法の分類 第７回：【講評】小テスト１；《講義》日本の裁判システム 第８回：《講義》交通事故と法律 第９回：《講義》約束と契約、契約違反 第１０回：（小テスト２）第 6〜9 回の内容（20 分程度）；《講義》法律の読み方・法律用語 第１１回：【講評】小テスト２；《講義》土地を借りる（賃貸借契約、用益物権） 第１２回：《講義》クレジット契約（割賦販売法・クーリング・オフ） 第１３回：《講義》結婚と離婚 第１４回：《講義》相続；（小テスト 3）第 10〜14 回の内容（40 分程度） 第１５回：【講評】小テスト３；《講義》今後の法律系科目の履修について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1120201
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 　人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にあるのだ。 　　この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	アンソニー・ギデンズ『社会学（第 5 版）』（而立書房、2009 年）、橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）＋期末試験（30%）		
到達目標	一人の人は、生まれてから死ぬまでずっと何らかの形で社会と関わりながら生きていきている。この授業では、そうした社会学的な視角から、家族・学校・労働など、日本の社会の諸相を、人間の心身の成長にそくして、歴史的視野も織り交ぜながら、幅広く学んでいくことによって、現代社会と社会学についての幅広い知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めていく。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業で予告したテーマないし授業内容についての小レポートを書いてもらうので、その準備をする。ただし、受講者数が 250 名を超える場合は、別途指示する。		
受講者への要望			
世の中にはいろいろな社会的な問題がある。それらをどうとらえるのが適切か、自分ならどうするか？といった当事者意識をもって授業に望んでほしい。なお、川田担当の「社会学概論」と内容上大幅に重なりますので（「社会学概論」の方がより詳しい踏み込んだ内容となります）、そちらを履修した人には本講義の履修をすすめません。			
講義の順序とポイント			
１・個人と社会の関係 ２・出産をとりまく家族と社会の諸問題 ３・最初期の子どもの心身の発達 ４・家族のなかでの成長と葛藤 ５・家族の歴史 ６・現代の家族とその特徴 ７・学校の社会的機能 ８・学校のなかでの葛藤と成長 ９・青春期の様々な心的・社会的課題 １０・労働の歴史的・社会的諸問題 １１・現代日本における労働の諸問題 １２・中年期の葛藤と社会 １３・老年期と脱社会化 １４・最晩年の諸段階と死後の社会的対応 １５・現代社会のなかでの人間の成長			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1120202
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｆ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10，（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11，（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12，（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13，（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14，（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15，社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1120301
科目名	政治学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中川　洋一	旧科目名称	
講義概要	・政治学の一般的な基礎知識や考え方について、幅広い観点から学びます。本授業は講義形式であり、講義内容を纏めたレジュメに基づいて授業を進めます。 ・現在進行中の政治問題を意識しつつ、それについて考えるツールとして政治学を学んで下さい。アクチュアルな政治の重要な案件については、適宜授業の中で取り上げ、解説する機会を持ちます。 ・受講者の理解度や関心に応じて、適宜講義の進度や内容を変更します。また、適宜写真や映像を使用し、視聴覚に訴える多彩な講義を目指します。 ・参考文献については、シラバスに記載している文献とは別に、適宜講義内で紹介します。 ・授業中には講師の話をメモに書きとめ、理解できなかった内容は授業後に質問する、関心のある内容については、授業的で示唆する参考書を頼りに独習するといったように、積極的な「学び」の姿勢が奨励されます。		
教材（テキスト）	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め（第 3 版)』（有斐閣ブックス、2011 年）		
教材（参考文献）	久米・古城・真淵編『政治学』（有斐閣、2003 年） 苅部・宇野・中本編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年） 加茂・大西・石田編『現代政治学（第 4 版)』（有斐閣アルマ、2012 年） 福富満久『国際平和論』（岩波書店、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	出欠、小テスト、授業態度、期末試験、その他より総合的に評価します。		
到達目標	・実社会で活躍する上でも必要な、政治や政治学に関する一般教養知識の獲得 ・マスコミやマスメディアによる政治報道を咀嚼して理解すると共に、一定の自分の意見を持つことができる。		
準備学習	・毎回の授業終了後に必ず復習をすること。 ・日頃から積極的に新聞、雑誌、メディア報道に親しみ、アクチュアルな日本の政治情勢を肌で感じて下さい。 また図書館や本屋に足を運び、関心を持つテーマから初めて構わないので、なるべく政治（学）に関する本を読んで下さい。		

受講者への要望

・授業の進行や、他の学生の学習を妨げる行為（私語、授業途中の退室、睡眠、スマートフォンの使用など）をする者の受講は認めません。学習態度も平常点として加味します。
・難しい内容も登場するかもしれませんが、お互いめげずに頑張って勉強しましょう。不明な内容は授業後に質問して下さい。

講義の順序とポイント

第 1 回；イントロダクション／権力
　　授業の進め方や評価方法についての説明／政治（学）とは何か／権力とは何か／アンケートの実施

第 2 回；政治意識
　　政策の対立軸／政治的無関心／国家の成立と主権概念

第 3 回：国家と主権
　　国家の成立と主権概念／市民の台頭と主権の変容／ナショナリズム

第 4 回：選挙と政治参加、政治制度
　　政治参加とは／投票率の上下の要因／棄権や投票する人のタイプ／投票決定要因／政治制度

第 5 回：マスメディアと政治
　　マスメディアの環境監視機能／メディアフレーム／メディアの影響力／「沈黙の螺旋」

第 6 回：政党と政党政治
組織の類型／派閥／55 年体制／自民党と社会党

第 7 回：執政府
議院内閣制と大統領制／ポピュリズム／リーダーシップのタイプ／比較の中の日本の首相

第 8 回：政治体制としての自由民主主義体制
政治体制とは／自由主義と民主主義／大衆民主主義

第 9 回：非自由民主主義体制
ファシズム・全体主義論・権威主義論／NSDAP の台頭と凋落／民主化の第 3 の波／自由民主主義の変容と課題

第 10 回：政治と経済
「大きな政府」と「小さな政府」／福祉国家の類型／福祉国家の危機と再編

第 11 回：官僚制・利益集団
官僚とは／官僚の役割／多元主義／ネオ・コーポラティズム

第 12 回：地方政治と地方自治
地方政府の役割／地方分権改革／「民主主義の学校」としての地方政治

第 13 回：グローバル化の世界①
ウエストファリア体制／地球的問題群／平和とは何か／人道的介入

第 14 回：グローバル化の世界②
地球温暖化と環境問題／移民問題／開発協力

第 15 回：纏めと学習内容の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1120302
科目名	政治学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中川　洋一	旧科目名称	
講義概要	・政治学の一般的な基礎知識や考え方について、幅広い観点から学びます。本授業は講義形式であり、講義内容を纏めたレジュメに基づいて授業を進めます。 ・現在進行中の政治問題を意識しつつ、それについて考えるツールとして政治学を学んで下さい。アクチュアルな政治の重要な案件については、適宜授業の中で取り上げ、解説する機会を持ちます。 ・受講者の理解度や関心に応じて、適宜講義の進度や内容を変更します。また、適宜写真や映像を使用し、視聴覚に訴える多彩な講義を目指します。 ・参考文献については、シラバスに記載している文献とは別に、適宜講義内で紹介します。 ・授業中には講師の話をメモに書きとめ、理解できなかった内容は授業後に質問する、関心のある内容については、授業的で示唆する参考書を頼りに独習するといったように、積極的な「学び」の姿勢が奨励されます。		
教材（テキスト）	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め（第 3 版)』（有斐閣ブックス、2011 年）		
教材（参考文献）	久米・古城・真淵編『政治学』（有斐閣、2003 年） 苅部・宇野・中本編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年） 加茂・大西・石田編『現代政治学（第 4 版)』（有斐閣アルマ、2012 年） 福富満久『国際平和論』（岩波書店、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	出欠、小テスト、授業態度、期末試験、その他より総合的に評価します。		
到達目標	・実社会で活躍する上でも必要な、政治や政治学に関する一般教養知識の獲得 ・マスコミやマスメディアによる政治報道を咀嚼して理解すると共に、一定の自分の意見を持つことができる。		
準備学習	・毎回の授業終了後に必ず復習をすること。 ・日頃から積極的に新聞、雑誌、メディア報道に親しみ、アクチュアルな日本の政治情勢を肌で感じて下さい。 また図書館や本屋に足を運び、関心を持つテーマから初めて構わないので、なるべく政治（学）に関する本を読んで下さい。		

受講者への要望

・授業の進行や、他の学生の学習を妨げる行為（私語、授業途中の退室、睡眠、スマートフォンの使用など）をする者の受講は認めません。学習態度も平常点として加味します。
・難しい内容も登場するかもしれませんが、お互いめげずに頑張って勉強しましょう。不明な内容は授業後に質問して下さい。

講義の順序とポイント

第 1 回；イントロダクション／権力
　　授業の進め方や評価方法についての説明／政治（学）とは何か／権力とは何か／アンケートの実施

第 2 回；政治意識
　　政策の対立軸／政治的無関心／国家の成立と主権概念

第 3 回：国家と主権
　　国家の成立と主権概念／市民の台頭と主権の変容／ナショナリズム

第 4 回：選挙と政治参加、政治制度
　　政治参加とは／投票率の上下の要因／棄権や投票する人のタイプ／投票決定要因／政治制度

第 5 回：マスメディアと政治
　　マスメディアの環境監視機能／メディアフレーム／メディアの影響力／「沈黙の螺旋」

第 6 回：政党と政党政治
組織の類型／派閥／55 年体制／自民党と社会党

第 7 回：執政府
議院内閣制と大統領制／ポピュリズム／リーダーシップのタイプ／比較の中の日本の首相

第 8 回：政治体制としての自由民主主義体制
政治体制とは／自由主義と民主主義／大衆民主主義

第 9 回：非自由民主主義体制
ファシズム・全体主義論・権威主義論／NSDAP の台頭と凋落／民主化の第 3 の波／自由民主主義の変容と課題

第 10 回：政治と経済
「大きな政府」と「小さな政府」／福祉国家の類型／福祉国家の危機と再編

第 11 回：官僚制・利益集団
官僚とは／官僚の役割／多元主義／ネオ・コーポラティズム

第 12 回：地方政治と地方自治
地方政府の役割／地方分権改革／「民主主義の学校」としての地方政治

第 13 回：グローバル化の世界①
ウエストファリア体制／地球的問題群／平和とは何か／人道的介入

第 14 回：グローバル化の世界②
地球温暖化と環境問題／移民問題／開発協力

第 15 回：纏めと学習内容の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1120401
科目名	日本国憲法	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 現在の改憲動向についてもふれる。		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』（法律文化社、2014 年）		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志『憲法入門』（法律文化社、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%)　出席状況、授業内レポート等による平常点(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている憲法裁判や改憲動向についても理解をすすめる。		
準備学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。		
受講者への要望			
講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。 テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．憲法とは何か ２．天皇制 ３．幸福追求権 ４．法の下の平等 ５．信教の自由と政教分離 ６．表現の自由 ７．経済的自由権 ８．生存権 ９．刑事手続と人身の自由 １０．国会 １１．内閣 １２．裁判所 １３．地方自治 １４．平和主義 １５．改憲の動き			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	JC1120402
科目名	日本国憲法	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 現在の改憲動向についてもふれる。		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%)　出席状況、授業内レポート等による平常点(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている憲法裁判や改憲動向についても理解をすすめる。		
準備学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。		
受講者への要望			
講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。 テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．憲法とは何か ２．天皇制 ３．幸福追求権 ４．法の下の平等 ５．信教の自由と政教分離 ６．表現の自由 ７．経済的自由権 ８．生存権 ９．刑事手続と人身の自由 １０．国会 １１．内閣 １２．裁判所 １３．地方自治 １４．平和主義 １５．改憲の動き			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JC1120501
科目名	人権の歴史と現代	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1120502
科目名	人権の歴史と現代	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で、「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1130101
科目名	科学の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1130102
科目名	科学の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1130201
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生物学は、進化の結果としての生命体を維持している構造、生命継承の仕組み、生命体間の相互作用の原理を解き明かすことを目的とする。本講義では主に動物に焦点を当て、進化、細胞・形態と機能、遺伝、行動・生態の基礎について概観し、最近の話題を取り入れながら講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生物に共通する普遍的性質と生物間で異なる多様な性質を理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		

受講者への要望

各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 進化・適応
3. 細胞の基本構造
4. 細胞膜、細胞間の情報連絡
5. 細胞周期
6. 減数分裂、遺伝の仕組み
7. 染色体と DNA
8. 遺伝子からタンパク質へ
9. 形態と機能の基本原理
10. 免疫系
11. ホルモンと内分泌系
12. 行動生態学
13. 個体群生態学
14. 群集生態学
15. 総合：生物学の研究例紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1130202
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考文献）	東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第２版―分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ」羊土社 日本生態学会編「生態学入門」東京化学同人		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験・課題を勘案する		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
準備学習	生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。教科書の関連箇所を事前に予習して講義に臨むこと。		

受講者への要望

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

講義の順序とポイント

１　イントロダクション　生物とは何か　生物構成する物質
２　メンデルと遺伝子の概念
３　染色体の挙動と遺伝子
４　遺伝子の分子機構（１）
５　遺伝子の分子機構（２）
６　タンパク質の構造と機能（１）
７　タンパク質の構造と機能（２）
８　遺伝子からタンパク質へ　遺伝子の発現制御
９　細胞
１０　動物の生殖と発生
１１　動物の内分泌系と神経系
１２　種の起源
１３　ダーウィンの生命観　集団の進化（１）
１４　ダーウィンの生命観　集団の進化（２）
１５　動物の行動の進化

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1130203
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考文献）	東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第２版―分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ」羊土社 日本生態学会編「生態学入門」東京化学同人		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験・課題を勘案する		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
準備学習	生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。教科書の関連箇所を事前に予習して講義に臨むこと。		

受講者への要望

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

講義の順序とポイント

１　イントロダクション　生物とは何か　生物構成する物質
２　メンデルと遺伝子の概念
３　染色体の挙動と遺伝子
４　遺伝子の分子機構（１）
５　遺伝子の分子機構（２）
６　タンパク質の構造と機能（１）
７　タンパク質の構造と機能（２）
８　遺伝子からタンパク質へ　遺伝子の発現制御
９　細胞
１０　動物の生殖と発生
１１　動物の内分泌系と神経系
１２　種の起源
１３　ダーウィンの生命観　集団の進化（１）
１４　ダーウィンの生命観　集団の進化（２）
１５　動物の行動の進化

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1130204
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	本講義は、バイオ環境学部で行われる様々な講義の導入科目として位置づけている。従って、生物学全般についてできるだけ幅広くその概略を説明するとともに、以後の学科の講義で必要となる基礎知識、専門用語をしっかりと理解する。この講義をとおして、生命活動を物質レベルで考える力を身につける。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	Eric J. Simon 著　池内正彦監訳 『エッセンシャル　キャンベル生物学』　丸善　7,000 円 Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 Richard Allan 著 後藤太一郎監訳 『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第 2 版』オーム社　3,000 円 南雲保　編著　今井一志・大島海一・鈴木秀和・田中次郎　著 『やさしい基礎生物学第 2 版』羊土社　2,900 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(50%)　毎回の演習およびレポート(25%)　授業態度などの平常点(25%)		
到達目標	生物学の基本事項について正しく理解する。 生物学の専門用語について説明ができる。 生物学関連のマスコミや科学雑誌などの記事を理解し、説明できる。 講義後に行う演習問題をしっかりと理解し解答することができる。		
準備学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。 講義で学んだ基本事項、専門用語については、次の講義までに説明できるようにしておくこと。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの講義を受けること。
演習問題やレポート提出などが重要な評価対象となるので、講義には毎回出席すること。
日頃から生物学の分野について関心を持つように心がける。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　（科目の概略説明。講義の心構え、勉強の方法などについて言及）
2. 生物学とは？　（生物と無生物の違い、バイオとは？）
3. 生物の進化　（進化論、生物多様性など）
4. 生態学　（生物の分布、個体群、生態系など）
5. 細胞の基本構造　（生命の基本単位である細胞とは）
6. 生命の化学 I　（生命の化学的基盤、水と環境）
7. 生命の化学 II　（生命分子の多様性、高分子の構造）
8. 確認試験とその解説
9. 遺伝のしくみ（メンデルと遺伝子の概念）
10. 遺伝子からタンパク質へ　（遺伝子の複製、転写、翻訳、セントラルドグマなど）
11. バイオテクノロジー　（バイオ研究の基本技術）
12. 生物の恒常性　（内分泌系とホルモンなど）
13. 植物の機能　（光合成、植物のバイオテクノロジーなど）
14. 細胞呼吸と発酵　（解糖系、電子伝達系など）
15. 生物学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1130205
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義中に適宜紹介する		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験・課題を勘案する		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
準備学習	生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。一番身近な生物は、自分自身です。		

受講者への要望

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

講義の順序とポイント

1　生物とは何か
2　メンデルの遺伝の法則
3　遺伝子からタンパク質へ（1）
4　遺伝子からタンパク質へ（2）
5　タンパク質の構造と機能
6　生物を構成する物質と生物の構造
7　生物の進化（1）
8　生物の進化（2）
9　生物の行動と生態（1）ライオンの生態
10　生物の行動と生態（2）性はなぜあるのか
11　生物の行動と生態（3）性にまつわる話題
12　生物の行動と生態（4）利他行動の進化
13　群集生態学
14　生物の起源
15　生物の分類と系統

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1130301
科目名	物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physics		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学 s
講義概要	物理学は、精密科学として、自然科学の中でも最も基本的な分野をなしている。これは、物理学が数学を基礎としていることに因るところが大きいが、物理の概念を理解するには必ずしも数学は必要としない。 この授業では、日常生活で体験するような身近な自然現象を通して、物理学の基本概念と法則を理解し、自然現象を科学的に捉える態度を身につけることを目標としている。具体的には、音と光、物質と原子、原子核と放射線などを題材にして、講義形式で授業を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1．物理学の講義について 2．音と光(1)　音 3．音と光(2)　波 4．音と光(3)　光 5．音と光(4)　電磁波 6．物質と原子(1)　物質と原子 7．物質と原子(2)　原子 8．物質と原子(3)　原子と光 9．物質と原子(4)　オーロラ1 10．物質と原子(5)　オーロラ2 11．原子核と放射線(1)　原子と原子核 12．原子核と放射線(2)　不安定な原子 13．原子核と放射線(3)　身のまわりの放射線 14．原子核と放射線(4)　放射線の影響 15．原子核と放射線(5)　放射線の利用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1130302
科目名	物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる物理空間，運動法則，放物運動，エネルギー，運動量などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学，地球科学を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．物理空間（1）：位置
2．物理空間（2）：速度
3．物理空間（3）：加速度
4．運動法則（1）：第１法則
5．運動法則（2）：第２法則
6．運動法則（3）：第３法則
7．放物運動（1）：等加速度運動
8．放物運動（2）：自由落下
9．放物運動（3）：斜方投射
10．エネルギー（1）：仕事
11．エネルギー（2）：ポテンシャル
12．エネルギー（3）：エネルギー保存則
13．運動量（1）：衝突
14．運動量（2）：力積
15．運動量（3）：運動量保存則

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1130401
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの代表値，散らばりと四分位範囲
3.分散・標準偏差
4.データの相関
5.回帰分析
6.事象と確率・確率の法則
7.確率変数の期待値と分散
8.データの分析と確率についての総合演習
9.確率変数の和と期待値，独立な確率変数と期待値・分散
10.二項分布
11.正規分布
12.母集団と標本
13.統計的推定
14.統計的検定
15.確率分布と統計的推定検定についての総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1130402
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの代表値，散らばりと四分位範囲
3.分散・標準偏差
4.データの相関
5.回帰分析
6.事象と確率・確率の法則
7.確率変数の期待値と分散
8.データの分析と確率についての総合演習
9.確率変数の和と期待値，独立な確率変数と期待値・分散
10.二項分布
11.正規分布
12.母集団と標本
13.統計的推定
14.統計的検定
15.確率分布と統計的推定検定についての総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1130403
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　京子	旧科目名称	
講義概要	統計学の基本である、記述統計「収集したデータの要約統計量（平均・分散・標準偏差・相関係数など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率の概念（確率変数・期待値等）や確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。毎回時間を、講義 60%、問題演習 40%の割合で実施し概念の修得と応用力を養う。		
教材（テキスト）	『統計学の図鑑（まなびのずかん)』(技術評論社)　涌井良幸・涌井貞美 著 2,678 円		
教材（参考文献）	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』(北大路書房)　吉田寿夫　著 2,700 円 『統計のはなし　基礎・応用・娯楽　改訂版』(日科技連出版社)　大村平　著　1,836 円 『よくわかる統計学 1　基礎編　第 2 版』(ミネルヴァ書房)　　金子治平（編）　2,808 円 『統計学がわかる　ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』(技術評論社)　向後千春・富永敦子　著　1,814 円 『統計学がわかる　　回帰分析・因子分析編　アイスクリームで味わう、“関係”の統計学』(技術評論社)　向後千春・富永敦子　著　1,814 円 『統計解析がわかる（ファーストブック)』(技術評論社)　涌井良幸・涌井貞美　著　2,030 円		
教材（その他）	プリントを配布する　パワーポイントを活用する		
評価方法	授業内課題（50%），定期試験（50%）		
到達目標	1. 基本的な統計学の知識を身につける。 2. 統計資料を読んだときに，それが何を意味しているのか理解できる力を身につける 3. 実験・調査データを自ら統計的に処理できる力を身につける		
準備学習	1. 中学・高校で学んだ基本的な数学の知識を復習しておくこと（平均，平方根，グラフ等） 2. 毎回の授業内容の復習を確実にすること		

受講者への要望

1. 統計学とは，集団の傾向や性質を数量的に明らかにする学問である。算数・数学が苦手な者も，「楽しく」しかし「真剣に」取り組むこと。
2. 授業内での問題演習（課題）には「あせらず・あわてず・あきらめず」取り組むこと。
3. 授業中は授業中にしかできないこと（授業内容の理解）に努めること。
4. 毎回の授業内容が連続しており，復習しながらの積み重ね学習が重要であるため，欠席・遅刻・早退のないようにすること。
5. 授業内容に対する質問はその場で教員に直接して，理解を不十分なまま放置することがないようにすること。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション：統計学とは何か
2.　データの種類：質的変数と量的変数
3.　 データの整理(1)：度数分布，相対度数の算出
4.　データの整理(2)：ヒストグラム
5.　代表値：平均値，中央値，最頻値
6.　散布度(1)：散布度の考え方，範囲，四分位
7.　散布度(2)：分散，標準偏差
8.　測定値の変換：変換の必要性，標準化と標準得点
9.　クロス集計とクロス表の作成
10.　相関(1)：相関の考え方，散布図，相関係数
11.　相関(2)：相関の読み取り，疑似相関
12.　統計的検定(1)：推測統計学の基礎　母集団と標本
13.　統計的検定(2)：統計的検定の考え方
14.　統計的検定(3)：平均値に関する検定
15.　まとめ，補足説明，質問受け付け

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1130501
科目名	生命有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能－1 6　タンパク質の機能－2 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能－1 9　核酸の機能－2 10　脂質 11　ビタミン 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1130502
科目名	生命有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能－1 6　タンパク質の機能－2 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能－1 9　核酸の機能－2 10　脂質 11　ビタミン 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1140101
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JC1140103
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JC1140105
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140106
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140107
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなかおもいどおりにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。（戦略・理論を含む） 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　グリップ 3. グリップと面作りストローク 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる) 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える) 6. ボール出しによるグランドストローク 7. ボレーとストロークの打ち方を覚える 8. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 9. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 10. 簡単なダブルスゲーム 11. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営) 12. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 13. ゲームの運営（5 人でのダブルス） 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1140108
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなかおもいどおりにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。（戦略・理論を含む） 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　グリップ 3. グリップと面作りストローク 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる) 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える) 6. ボール出しによるグランドストローク 7. ボレーとストロークの打ち方を覚える 8. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 9. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 10. 簡単なダブルスゲーム 11. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営) 12. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 13. ゲームの運営（5 人でのダブルス） 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1140111
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート）、個人技能練習（パス）、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス）、個人技能練習（ドリブル）、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル）、スキルテスト（ドリブル）、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス）、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス）、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス）、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	JC1140112
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。
1.　オリエンテーション、フィットネステスト A
2.　コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3.　コーディネーション、スキルテスト（シュート）、個人技能練習（パス）、パッシングゲーム（ハーフコート）
4.　コーディネーション、スキルテスト（パス）、個人技能練習（ドリブル）、ハーフコートゲーム
5.　技能練習（シュート・パス・ドリブル）、スキルテスト（ドリブル）、
　　対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス）、ハーフコートゲーム
6.　技能練習（シュート・ドリブル・パス）、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス）、ゲーム
7.　グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）
8.9.10.　グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ
11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）
12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ
15.　最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	JC1140117
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140118
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140119
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140122
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140123
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140124
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140125
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140126
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140127
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストＡ
2　フィットネステストＢ、トレーニングルーム利用説明
3　ストレッチングの理論と実技
4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技
5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技
6　フィットネスプロフィールの作成
7　フィットネストレーニング
8　フィットネストレーニング
9　フィットネストレーニング
１０　フィットネストレーニング
１１　フィットネストレーニング
１２　フィットネストレーニング
１３　トレーニング計画立案と実践
１４　トレーニング計画立案と実践
１５　トレーニング計画立案と実践

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140128
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140129
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。 フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは 40 メートル、ゴールラインは 20 メートルと従来のサッカーコートの約 9 分の 1 の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少いためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。 授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	講義要項「生涯スポーツプログラム」を参照		
到達目標	フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション、フィットネステストＡ
2．フィットネステストＢ
3．競技の特性及び競技規則を理解する。
4．ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ)
5．パス - 対面パス（固定、動きながら、２グループ）
6．パス - スクエアパス（２タッチ、ワンツー、３人目）
7．シュート - ポストシュート、ドリブルシュート
8．シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト）
9．対人 - １対１、２対１、２対２、３対２
１０．ウォーミングアップ - ゲーム（ドリブル） - クールダウン
１１．ウォーミングアップ - ゲーム（パス） - クールダウン
１２．ウォーミングアップ - ゲーム（シュート） - クールダウン
１３．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン
１４．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	-	★	-	-

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	JC1140130
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。 　フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは 40 メートル、ゴールラインは 20 メートルと従来のサッカーコートの約 9 分の 1 の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少いためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。 　授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	講義要項「生涯スポーツプログラム」を参照		
到達目標	フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション、フィットネステストＡ 2．フィットネステストＢ 3．競技の特性及び競技規則を理解する。 4．ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ) 5．パス - 対面パス（固定、動きながら、２グループ） 6．パス - スクエアパス（２タッチ、ワンツー、３人目） 7．シュート - ポストシュート、ドリブルシュート 8．シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト） 9．対人 - １対１、２対１、２対２、３対２ １０．ウォーミングアップ - ゲーム（ドリブル） - クールダウン １１．ウォーミングアップ - ゲーム（パス） - クールダウン １２．ウォーミングアップ - ゲーム（シュート） - クールダウン １３．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン １４．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン １５．総合的ゲーム運営			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140133
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心をもち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		

受講者への要望

体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。
初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。

講義の順序とポイント

1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します）
2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り
3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３）
6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本）
7-9　　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　　日本剣道型（１～３）
10-13　対人的技能（応じ技)、かかり稽古、互角稽古　　日本剣道型（１～３）
14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合）
15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★　★	ー	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	JC1140134
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心をもち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		
受講者への要望			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
講義の順序とポイント			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技)、かかり稽古、互角稽古　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140135
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	柔道は日本古来の柔術が近代化され、今日では世界で多くの人が競技している。 しかし、本学で取り組む柔道は、生涯スポーツとして位置づけるために、競技力よりも、技術の理論性を理解し、他のスポーツにも応用できるよう実施していきたい。柔道着を持参できない学生は大学より貸し与える。学期末時に必ず返却すること。 3 セメスター以上単位修得者は希望により京都府柔道連盟に初段の推薦をする。（有料）		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	相手と対応して、身体を操作する武道の技術と礼法		
準備学習	前回までの技術の把握、礼法の確認、体調管理		

受講者への要望

柔道着を必ず着用すること。（※柔道着は大学にて貸し出す。）

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、フィットネステストA
2. フィットネステストB　武道としての柔道(現代に生きる礼法)
3. 組み方と体捌き(自然本体と崩し、後方と側方受け身)
4. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技(背負投と受け身)
5. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技(大外刈と受け身)
6. 相手が右横に移動した力を利用して倒す技(送足払と受け身)
7. 相手が左横に移動した力を利用して倒す技(体落と受け身)
8. 相手に倒されないための組み方と移動方法(背負投とその防御) (大外刈とその防御)
9. 連続技の工夫 （送足払、体落とその防御)
10. 寝技の効用・袈裟固とその逃れ方 ・横四方固とその逃れ方
11. 上四方固、縦四方固とその逃れ方 ・安全な締め技の方法　活法の理論と実技 ・力のいらない間接技
12. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技と返し技の工夫
13. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技と返し技の工夫
14. 相手が横に移動した力を利用して倒す技と返し技の工夫
15.レポート指導(自分の生活における精力善用・自他共栄とは)

・実技テスト
相手が前に出てきた力を利用して倒す技
相手が後ろに下がる力を利用して倒す技
相手が横に移動した力を利用して倒す技（上級者同じ技で行う）
・レポート
自分の生活における精力善用・自他共栄とは
自分の生活における礼法とは

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1140136
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	柔道は日本古来の柔術が近代化され、今日では世界で多くの人が競技している。 しかし、本学で取り組む柔道は、生涯スポーツとして位置づけるために、競技力よりも、技術の理論性を理解し、他のスポーツにも応用できるよう実施していきたい。柔道着を持参できない学生は大学より貸し与える。学期末時に必ず返却すること。 3 セメスター以上単位修得者は希望により京都府柔道連盟に初段の推薦をする。（有料）		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	相手と対応して、身体を操作する武道の技術と礼法		
準備学習	前回までの技術の把握、礼法の確認、体調管理		

受講者への要望

柔道着を必ず着用すること。（※柔道着は大学にて貸し出す。）

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、フィットネステストＡ
2. フィットネステストＢ　武道としての柔道(現代に生きる礼法)
3. 組み方と体捌き(自然本体と崩し、後方と側方受け身)
4. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技(背負投と受け身)
5. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技(大外刈と受け身)
6. 相手が右横に移動した力を利用して倒す技(送足払と受け身)
7. 相手が左横に移動した力を利用して倒す技(体落と受け身)
8. 相手に倒されないための組み方と移動方法(背負投とその防御) (大外刈とその防御)
9. 連続技の工夫 （送足払、体落とその防御）
10. 寝技の効用・袈裟固とその逃れ方 ・横四方固とその逃れ方
11. 上四方固、縦四方固とその逃れ方 ・安全な締め技の方法　活法の理論と実技 ・力のいらない間接技
12. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技と返し技の工夫
13. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技と返し技の工夫
14. 相手が横に移動した力を利用して倒す技と返し技の工夫
15.レポート指導(自分の生活における精力善用・自他共栄とは)

・実技テスト
相手が前に出てきた力を利用して倒す技
相手が後ろに下がる力を利用して倒す技
相手が横に移動した力を利用して倒す技（上級者同じ技で行う）
・レポート
自分の生活における精力善用・自他共栄とは
自分の生活における礼法とは

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1140137
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140138
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140139
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	教養としての身体運動・健康科学 東京大学身体運動科学研究室		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	１．運動を楽しむ ２．グループで協力して、役割を果たせる。 ３．運動を計画的に実施できる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
２時間（１８０分）の連続授業です。体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 ２．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス ３．バドミントン ４．レクリエーション ５．バドミントン ６．レクリエーション ７．バスケットボール ８．卓球 ９．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1140140
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	教養としての身体運動・健康科学 東京大学身体運動科学研究室		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	１．運動を楽しむ ２．グループで協力して、役割を果たせる。 ３．運動を計画的に実施できる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
２時間（１８０分）の連続授業です。体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 ２．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス ３．バドミントン ４．レクリエーション ５．バドミントン ６．レクリエーション ７．バスケットボール ８．卓球 ９．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★★	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1140201
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）	とくになし		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、小テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		
受講者への要望			
質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。 講義中は静粛に願います。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策 ２．栄養摂取と運動 ３．骨の病気、筋肉の病気 ４．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(美藤先生・水田先生) ５．人体の解剖・画像解剖(美藤先生・水田先生) ６．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1 ７．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2 ８．生活習慣病としての発癌 ９．解剖学とストレッチ(木下先生) １０．運動療法の基礎 １１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法 １２．スポーツ障害と画像診断 １３．運動負荷試験 １４．運動プログラムの管理 １５．健康管理、まとめ 京都府立医科大学放射線科の美藤先生、水田先生、京都メディカルクラブ　木下先生(日本体育協会公認アスレティックトレーナー)に講義をお願いしています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1140202
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）	とくになし		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、小テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		

受講者への要望

質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。
講義中は静粛に願います。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策
2．栄養摂取と運動
3．骨の病気、筋肉の病気
4．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(美藤先生・水田先生)
5．人体の解剖・画像解剖(美藤先生・水田先生)
6．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1
7．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2
8．生活習慣病としての発癌
9．解剖学とストレッチ(木下先生)
１０．運動療法の基礎
１１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法
１２．スポーツ障害と画像診断
１３．運動負荷試験
１４．運動プログラムの管理
１５．健康管理、まとめ

京都府立医科大学放射線科の美藤先生、水田先生、京都メディカルクラブ　木下先生(日本体育協会公認アスレティックトレーナー)に講義をお願いしています。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1140203
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学出版会）　東京大学身体運動科学研究室 編 2,592 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1140204
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学出版会）　東京大学身体運動科学研究室 編 2,592 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1140301
科目名	食の安全安心（2015 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	植野　洋志	旧科目名称	
講義概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは，ヒトの生命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である．どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと，安全安心の概念は生じない． 本講義では，「食」を１）食素材から食品という製品として，２）食物として体内に取り込み，代謝されるとき，３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか，という点を中心に理解を深めることになる． 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには，「食」のもつ性質を知る必要がある．食の性質とは，もちろん，物質としての概念であろう．食素材は化学物質としてとらえないとだめで，その本質は，食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない．一般教養として，食素材がどのように変化するのかを理解し，いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする． 近年，「食」と安全で話題になっている鳥インフルエンザ，遺伝子組み換え食品，バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる．		
教材（テキスト）	別に用いない		
教材（参考文献）	補足プリントと e-ラーニング		
教材（その他）			
評価方法	毎回実施する予定でいる小テスト（40%）（京学なび），とレポート提出（60%）を総計して評価する．場合によっては，筆記試験を期末試験とする．		
到達目標	生命現象，そのなかで「食」については，化学というツールで眺めることが大切である．化学というツールで地球上で生息する生物を眺めると，共通する基本概念が見えてくる．生命の大原則と「食」が密接につながっていること，また，その関連性に影響をあたえるようが現象が安全安心という側面から理解することができる．このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である．		
準備学習	予習については，事前に講義についての概要を説明するので，ネット検索をして予備知識をもつこと．当日は，簡単な小テストにて学習度のチェックを行う．復讐に関しては，不定期に小テストを実施する．また，ネットを利用して，教材（配布プリントと授業でのパワポ）を閲覧できるようにする．		
受講者への要望			
一般教養的内容なのと，生活と密接に関係するので，講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある．きちんとノートやメモをとれることを学習しよう．質問はできるだけその場でするように心がけよう．積極的な授業への参加が望ましい．			
講義の順序とポイント			
1〜2. ヒトの体に影響を与える食生活について，DVD を教材として学習する 3〜4. 体に取り込まれる栄養素はどのようにして使われるのか，代謝という概念を習得する 5〜6. 化学反応が生命体の基本であることを学ぶ 7〜8. 食素材がもたらす効果（たとえば，食中毒）について，安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める 9〜10. 遺伝子組換え技術について概説する 11〜12. 食品の保存・保蔵の基礎と原理を理解する 13〜15. 食にまつわる制約（法律や規則），輸入食品の安全性，農薬とはなど広く生活に関係する話題を共有する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1140302
科目名	食の安全安心（2015 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	食の安全については、毎年のように表示偽造や、食中毒が発生しており、またその原因に大手食品企業がなることも多く、大きな社会問題となっている。ここ数年で、食の安全性が問われた事件の一つに福島原発事故があるが、未だにその解決の目処は立っていない。一方で、一般家庭における食の安全に関する知識も、このような問題が起こったときには、その都度高まりはするが、その時だけで終わってしまい定着しているとはいえないのが現状である。 ところで、多くの一般の人が食品に手を触れ、眼に入れることが多いのは、スーパーや飲食店であろう。このように食品が流通するためには、厚生労働省、農林水産省、等の多くの省庁が絡んだ基準や規格が多く存在している。例えば食品に記載されている義務表示に関しても、カップラーメン一つとっても原材料表示をはじめとして、エネルギー量などの栄養表示、卵由来などのアレルギー表示さらには分別に関する、「プラ」や「紙」等の表示もあり、すべてを理解している消費者は少ないであろう。さらに、これに関わる表示基準を正確に理解することは、食品を扱う会社のも者であっても大変難しい。 一方、食品を安全に流通させるためには、加工食品であれば、保存料等の食品添加物、農産物であれば農薬を使用しており、これらの使用方法や事例について、単に「化学合成品」であるから危険、と言うイメージだ判断するのではなく、どのようにその安全基準が決められているのかを知る機会は少ないと思われる。 また、生鮮食品も必ずしも安全というわけではなく、調理法を誤れば、ジャガイモやインゲン豆でも毒になり得ることを理解しておかなければいけない。 そこで、本講義では、食品の安全や安心について、より身近なところの知識を得ることを目的として、日常生活に生かせる講義を行いたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	講義に使用するパワーポイント等、資料を配付する。 参考図書：「食をめぐるほんとうの話」講談社現代新書		
教材（その他）			
評価方法	指定した課題に対するレポート 80％ 授業内小テスト 20％		
到達目標	本来、「安全」とは、客観的な科学的根拠を持って評価される物であり、逆に「安心」とは主観的であり、個人によってとらえ方が異なる物である。本講義においては、「安全」について、どのように科学的に検証されてきたかを理解してどのように担保されてきたのかを考えると共に、それを前提に「安心」をどのようにとらえるかについて学習する。		
準備学習	参考図書を読むことや、消費者庁の食の安全性に関するホームページや、食品安全委員会のホームページを閲覧するなど、安全性に関する知識を得るとともに、現在どのようなことが問題になっているか、知るように努める。 消費者庁 HP {http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/} 食品安全委員会 HP {http://www.fsc.go.jp/index.html}		
受講者への要望			
いつも食べている食品について関心を持って授業にのぞんで欲しい。			
講義の順序とポイント			
1〜3：食品の表示について理解しよう。 食品に表示する義務のある事項、表記方法について学ぶ(食品表示基準)。 4〜6：加工食品や農産物に使用される食品添加物や農薬について理解しよう。 食品添加物や農薬がどのように評価され使用されてきたかを学ぶ。 7〜9：食品の加工や流通における安心システムについて理解しよう。 安全な食品を担保するための加工システム（HACCP、等)や流通経路についても学ぶ。 10〜13：生鮮食品に潜んでいる食中毒の原因について理解しよう。 農産物、海産物にひそんでいる食中毒の原因を知るとともに、これを解決してきた加工技術について学ぶ。 14、15：日常生活での食品の安全について理解しよう。			

1～13 までの講義を受けて、日常生活での食品の安全から安心をどのように担保されているのかを学ぶ。
講義全体を通して、専門的な知識を得ることを目的にするのではなく、より日常生活に生かせる食の安全について知ることを目的として進めていく。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	JC1140402
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは心身の発達を健全に促す手立てとして、またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている。 しかし、国民の 2/3 は運動習慣が身についていないという報告もある。また死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%、虚血性心疾患 15.7%、脳血管疾患 13.0%、糖尿病 1.3%、高血圧性疾患 0.6%）を占め、医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。このような現状と、国の施策や地域での取り組みを紹介し、各自の生活スタイル改善を促す。		
教材（テキスト）	『健康科学―知っておきたい予防医学』（丸善出版）　津田謹輔 著 2,052 円		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（上、下)』（健康体力づくり事業財団） 『健康運動指導士養成講習会用テキスト』（健康体力づくり事業財団）		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	レポート（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	1.ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアの基本概念を説明でき、健康に対する様々な価値観を理解する。 2.疾病の予防、寿命の延長、ＱＯＬについて理解し、ヘルスプロモーションとの関連性を考えることができる。 3.ヘルスプロモーションの展開例を身近な生活の中のテーマを取り上げ、考えることができる。 また、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	事前学習：毎日新聞を読み、健康の維持・増進・改善につながる記事を見つける。 事前に配布する資料を一読し、不明点を明らかにしておく。 事後学習：講義で学んだ内容をノートに整理し、自分の考えをまとめる。 事前・事後学習には 0.5 時間以上の時間を充てること。 配布プリントの専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の最後に授業内容についてのミニレポートや京学ナビの課題を提出させる。必ず復習をし、授業をしっかり聞き、健康理論を自分のものとすること。		

受講者への要望

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

講義の順序とポイント

１．健康の定義とヘルスプロモーション
２．個人への働きかけ（健康教育）
３．個人への働きかけ（情報提供）
４．個人の環境への働きかけ（公共政策）
５．個人の環境への働きかけ（環境づくり）
６．個人の環境への働きかけ（地域活動）
７．個人の環境への働きかけ（保健サービス）
８．生活習慣病とヘルスプロモーション
９．こころの健康と日常生活
１０．日本人の食生活の変遷と課題
１１．食の課題とヘルスプロモーション、食事摂取基準について
１２．健康づくりのための人材育成と健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
１３．運動・スポーツ推進のための国の施策・地域での活動
１４．セーフティプロモーションと外傷予防
１５．まとめ:ヘルスプロモーションの個人と集団へのアプローチ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	JC1140403
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションとは何か。自らの力、住民組織の力、支援する環境が組み合わさって、どのような健康状態であっても健康的な生活習慣の実践、社会参加を通して豊かな人生を送れるようにする事です。 主だった生活習慣病への取り組みについても考えてみます。 大学生自身にとって必要なヘルスプロモーションについても考えてみます。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『健康なくに 2011』(医療文化社) 『災害時のヘルスプロモーション』(荘道社) 『健康科学ヘルスプロモーションの理念』(犀書房) 『学生と健康』(南江堂)		
教材（その他）	とくになし		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、小テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康とは何か、健康のために何をすべきかを理解する。		
準備学習	厚生労働省や関連のホームページを見ておくこと。		

受講者への要望

健康は個人だけの課題ではなく、社会全体の問題である事を感じていただければよいと思います。

講義の順序とポイント

1．ヘルスプロモーションの歴史・ヘルスプロモーションとは何か
2．食生活・栄養とヘルスプロモーション
3．脳血管障害とヘルスプロモーション
4．大学生の健康
5．画像で見る生活習慣病(大井先生)
6．タバコとヘルスプロモーション
7．熟年・高齢の健康
8．がんとヘルスプロモーション
9．心身医学、精神衛生学とヘルスプロモーション
10．心臓疾患患者とヘルスプロモーション
11．肥満とヘルスプロモーション
12．認知症とヘルスプロモーション
13．健康診断と健康管理
14．病気を画像で見る
15．身体活動とアンチエイジング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1140404
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは心身の発達を健全に促す手立てとして、またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている。 しかし、国民の 2/3 は運動習慣が身についていないという報告もある。また死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%、虚血性心疾患 15.7%、脳血管疾患 13.0%、糖尿病 1.3%、高血圧性疾患 0.6%）を占め、医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。このような現状と、国の施策や地域での取り組みを紹介し、各自の生活スタイル改善を促す。		
教材（テキスト）	『健康科学　知っておきたい予防医学』（丸善出版）　津田謹輔 著		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（上、下)』（健康体力づくり事業財団） 『健康運動指導士養成講習会用テキスト』（健康体力づくり事業財団）		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	ミニテスト（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%）		
到達目標	1.ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアの基本概念を説明でき、健康に対する様々な価値観を理解する。 2.疾病の予防、寿命の延長、ＱＯＬについて理解し、ヘルスプロモーションとの関連性を考えることができる。 3.ヘルスプロモーションの展開例を身近な生活の中のテーマを取り上げ、考えることができる。 また、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

講義の順序とポイント

１．健康の定義とヘルスプロモーション
　　ヘルスプロモーションに関する歴史と理論
２．長寿・超高齢化の現状と、現代の健康課題
３．がんと日常生活
４．動脈硬化と日常生活
５．糖尿病と日常生活
６．肥満・肥満症と日常生活
７．倹約遺伝子とメタボリックシンドローム
８．ロコモーティブシンドローム、介護予防
９．こころの健康と日常生活
１０．日本人の食生活の変遷と課題
１１．何をどのように食べるのか？　食事摂取基準について
１２．たばことアルコール
１３．運動と健康、健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
１４．セーフティプロモーションと外傷予防
１５．まとめ:ヘルスプロモーションの個人と集団へのアプローチ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1140405
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは心身の発達を健全に促す手立てとして、またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている。 しかし、国民の 2/3 は運動習慣が身についていないという報告もある。また死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%、虚血性心疾患 15.7%、脳血管疾患 13.0%、糖尿病 1.3%、高血圧性疾患 0.6%）を占め、医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。このような現状と、国の施策や地域での取り組みを紹介し、各自の生活スタイル改善を促す。		
教材（テキスト）	『健康科学　知っておきたい予防医学』（丸善出版）　津田謹輔 著		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（上、下)』（健康体力づくり事業財団） 『健康運動指導士養成講習会用テキスト』（健康体力づくり事業財団）		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	ミニテスト（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%）		
到達目標	1.ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアの基本概念を説明でき、健康に対する様々な価値観を理解する。 2.疾病の予防、寿命の延長、ＱＯＬについて理解し、ヘルスプロモーションとの関連性を考えることができる。 3.ヘルスプロモーションの展開例を身近な生活の中のテーマを取り上げ、考えることができる。 また、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

講義の順序とポイント

１．健康の定義とヘルスプロモーション
　　ヘルスプロモーションに関する歴史と理論
２．長寿・超高齢化の現状と、現代の健康課題
３．がんと日常生活
４．動脈硬化と日常生活
５．糖尿病と日常生活
６．肥満・肥満症と日常生活
７．倹約遺伝子とメタボリックシンドローム
８．ロコモーティブシンドローム、介護予防
９．こころの健康と日常生活
１０．日本人の食生活の変遷と課題
１１．何をどのように食べるのか？　食事摂取基準について
１２．たばことアルコール
１３．運動と健康、健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
１４．セーフティプロモーションと外傷予防
１５．まとめ:ヘルスプロモーションの個人と集団へのアプローチ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1210101
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待		★		★★		★

年度	2016	授業コード	JC1210102
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210103
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210104
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210105
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210106
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210107
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210108
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210109
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210110
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210111
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210112
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210113
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210114
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210115
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210116
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210117
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2010 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010		
教材（その他）	e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	授業終了時に、次回の範囲を提示するので、e-learning で復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、e-learning
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210131
科目名	情報リテラシー -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1210132
科目名	情報リテラシー -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1210133
科目名	情報リテラシー -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大澤　晋	旧科目名称	
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	嶋貫　健司　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.情報基礎（１）:情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2.情報基礎（２）:メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3.情報通信（１）:WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4.文書処理（１）:文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5.文書処理（２）:文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6.文書処理（３）:文書作成ソフトによる文章の構造化
7.文書処理（４）:文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成
8.データ処理基礎（１）:表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9.データ処理基礎（２）:表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10.データ処理基礎（３）:表計算ソフトでのグラフの作成
11.データ処理基礎（４）:文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12.情報表現基礎（１）:プレゼンテーションの基礎（１）、プレゼンテーションソフトの基礎
13.情報表現基礎（２）:プレゼンテーションの基礎（２）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14.情報表現基礎（３）:プレゼンテーションの作成
15.情報表現基礎（４）:プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1210134
科目名	情報リテラシー -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大澤　晋	旧科目名称	
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	嶋貫　健司　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.情報基礎（１）:情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2.情報基礎（２）:メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3.情報通信（１）:WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4.文書処理（１）:文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5.文書処理（２）:文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6.文書処理（３）:文書作成ソフトによる文章の構造化
7.文書処理（４）:文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成
8.データ処理基礎（１）:表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9.データ処理基礎（２）:表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10.データ処理基礎（３）:表計算ソフトでのグラフの作成
11.データ処理基礎（４）:文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12.情報表現基礎（１）:プレゼンテーションの基礎（１）、プレゼンテーションソフトの基礎
13.情報表現基礎（２）:プレゼンテーションの基礎（２）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14.情報表現基礎（３）:プレゼンテーションの作成
15.情報表現基礎（４）:プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1210135
科目名	情報リテラシー -f1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1210136
科目名	情報リテラシー -f2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1210137
科目名	情報リテラシー -kf(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	パソコンⅠ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	嶋貫　健司　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.情報基礎（１）:情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2.情報基礎（２）:メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3.情報通信（１）:WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4.文書処理（１）:文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5.文書処理（２）:文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6.文書処理（３）:文書作成ソフトによる文章の構造化
7.文書処理（４）:文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成
8.データ処理基礎（１）:表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9.データ処理基礎（２）:表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10.データ処理基礎（３）:表計算ソフトでのグラフの作成
11.データ処理基礎（４）:文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12.情報表現基礎（１）:プレゼンテーションの基礎（１)、プレゼンテーションソフトの基礎
13.情報表現基礎（２）:プレゼンテーションの基礎（２)、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14.情報表現基礎（３）:プレゼンテーションの作成
15.情報表現基礎（４）:プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1210201
科目名	情報セキュリティ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1210202
科目名	情報セキュリティ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	なし
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　500 円(税別)		
教材（参考文献）	『情報モラル＆情報セキュリティ』　ＦＯＭ出版　500 円(税別)		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

キーボード入力（アルファベット)、キータッチ入力が必要なので、初学段階での標準的なスピード(10 分間に日本語 300 文字程度)でタイピングが出来ること。
また、大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておくこと。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.Linux でのセキュリティ技術
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1210301
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。			
講義の順序とポイント			
1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作 2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成 3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成 4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加 5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と 様々な要素を持つプレゼンテーションの作成 6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定 各種機器への対応 7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成 （テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立） 課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成] 8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影） 9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料） 10.プレゼン資料作成：発表資料作成 課題演習[スライドを仕様に従い修正] 11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して 演習[プレゼン資料の作成] 12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出 課題演習[スライドを仕様に従い修正] 13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	JC1210302
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1210303
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1210304
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1210305
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1210306
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1210331
科目名	情報プレゼンテーション -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
講義概要	情報処理実習Ｉで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論 2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権 3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現 4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ 5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理 6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化 7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化 8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA 9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式 10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式 11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成 12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化 13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化 14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1） 15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2016	授業コード	JC1210332
科目名	情報プレゼンテーション -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
講義概要	情報処理実習Ｉで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論 2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権 3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現 4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ 5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理 6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化 7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化 8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA 9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式 10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式 11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成 12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化 13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化 14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1） 15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210333
科目名	情報プレゼンテーション -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大澤　晋	旧科目名称	
講義概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	新田 英雄 監修　山本　将史　著　『Excel で学ぶ基礎物理学　Excel２０１０/２００７対応版』　オーム社　2800 円 嶋貫　健二　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」(大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル) ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

実習が多いため遅刻しないこと。また私語を慎むこと。

講義の順序とポイント

1.情報機器応用（１）:情報処理実習概論
2.情報機器応用（２）:ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3.情報表現応用（１）:表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4.データ処理応用（１）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（１）数表とグラフ
5.データ処理応用（２）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（２）多数データの統計的処理
6.データ処理応用（３）:表計算ソフトの様々な機能（１）データ処理の省力化
7.データ処理応用（４）:表計算ソフトの様々な機能（２）繰り返し作業のプログラム化
8.データ処理応用（５）:プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9.情報表現応用（２）:長文レポート作成（１）レポートの形式
10.情報表現応用（３）:長文レポート作成（２）データ表現の形式
11.情報表現応用（４）:インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12.情報機器応用（３）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った数学の学習（１）数式の数表化
13.情報機器応用（４）:表計算ソフトを使った数学の学習（２）数式のグラフ化
14.情報機器応用（５）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った物理シミュレーション（１）
15.情報機器応用（６）:表計算ソフトを使った物理シミュレーション（２）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210334
科目名	情報プレゼンテーション -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大澤　晋	旧科目名称	
講義概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	新田 英雄 監修　山本　将史　著　『Excel で学ぶ基礎物理学　Excel２０１０/２００７対応版』　オーム社　2800 円 嶋貫　健二　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」(大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル) ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

実習が多いため遅刻しないこと。また私語を慎むこと。

講義の順序とポイント

1.情報機器応用（１）:情報処理実習概論
2.情報機器応用（２）:ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3.情報表現応用（１）:表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4.データ処理応用（１）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（１）数表とグラフ
5.データ処理応用（２）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（２）多数データの統計的処理
6.データ処理応用（３）:表計算ソフトの様々な機能（１）データ処理の省力化
7.データ処理応用（４）:表計算ソフトの様々な機能（２）繰り返し作業のプログラム化
8.データ処理応用（５）:プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9.情報表現応用（２）:長文レポート作成（１）レポートの形式
10.情報表現応用（３）:長文レポート作成（２）データ表現の形式
11.情報表現応用（４）:インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12.情報機器応用（３）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った数学の学習（１）数式の数表化
13.情報機器応用（４）:表計算ソフトを使った数学の学習（２）数式のグラフ化
14.情報機器応用（５）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った物理シミュレーション（１）
15.情報機器応用（６）:表計算ソフトを使った物理シミュレーション（２）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210335
科目名	情報プレゼンテーション -f1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
講義概要	情報処理実習Ｉで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論 2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権 3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現 4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ 5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理 6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化 7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化 8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA 9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式 10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式 11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成 12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化 13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化 14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1） 15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210336
科目名	情報プレゼンテーション -f2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
講義概要	情報処理実習Ｉで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning(大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム)による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論 2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権 3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現 4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ 5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理 6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化 7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化 8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA 9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式 10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式 11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成 12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化 13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化 14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1） 15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1210337
科目名	情報プレゼンテーション -kf(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	パソコンII
講義概要	情報処理実習Ｉで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	新田 英雄 監修　山本　将史　著　『Excel で学ぶ基礎物理学　Excel２０１０/２００７対応版』　オーム社　2800 円 嶋貫　健二　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」(大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル) ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.情報機器応用（１）:情報処理実習概論
2.情報機器応用（２）:ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3.情報表現応用（１）:表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4.データ処理応用（１）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（１）数表とグラフ
5.データ処理応用（２）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（２）多数データの統計的処理
6.データ処理応用（３）:表計算ソフトの様々な機能（１）データ処理の省力化
7.データ処理応用（４）:表計算ソフトの様々な機能（２）繰り返し作業のプログラム化
8.データ処理応用（５）:プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9.情報表現応用（２）:長文レポート作成（１）レポートの形式
10.情報表現応用（３）:長文レポート作成（２）データ表現の形式
11.情報表現応用（４）:インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12.情報機器応用（３）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った数学の学習（１）数式の数表化
13.情報機器応用（４）:表計算ソフトを使った数学の学習（２）数式のグラフ化
14.情報機器応用（５）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った物理シミュレーション（１）
15.情報機器応用（６）:表計算ソフトを使った物理シミュレーション（２）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	JC1210401
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、多様な視点から概観し、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を論じ、今後の情報化社会を展望する。情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化、情報化が社会に及ぼす影響、情報機器の発達と生活・意識の変化、ネットワーク社会を支える情報技術、知っておくべき安全・安心のための知識について講義する。現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化に対応できる知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞・Web ページ等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1210402
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、多様な視点から概観し、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を論じ、今後の情報化社会を展望する。情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化、情報化が社会に及ぼす影響、情報機器の発達と生活・意識の変化、ネットワーク社会を支える情報技術、知っておくべき安全・安心のための知識について講義する。現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化に対応できる知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞・Web ページ等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1210501
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1210502
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC1220101
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著 Learn the Differences, Broaden Your World.『続・世界の常識』（朝日出版社） その他プリント教材 参考文献 英和、和英、英英辞書など		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
文法：基本文型 (1) ―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry（洗濯物ってどこに干す？）
 文法：基本文型 (2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付の書き方）
 文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
文法: 時制（2）--進行形、完了形

7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)

文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? (何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？)
文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
文法: to 不定詞
10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1220102
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。英語の文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行います。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
   文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
   文法：基本文型（１）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
   文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
   文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
   文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
   文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
   文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? （何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
   文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)

文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）

文法: 受動態

11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）

文法: 分詞／数・量を表す形容詞

12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）

文法: 接続詞／分詞構文

13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）

文法: 原級／比較級／最上級

14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）

文法: 関係代名詞／関係副詞

15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）

文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220103
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	佐藤明彦　他著　Reading Sucesst I 〈リーディング　サクセス　1〉　成美堂　￥２，０００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）			
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読め、基礎的な英作文が作れるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の 2 Word Definitions 3　Complete the Sentences　4 Words in Context はやるので、事前に予習をしておいてほしい。 ２回目　　Lesson 1　Teddy Bears 終了 ３回目　　Lesson 2　April Fool’s Day ４回目　　Lesson 3　The Biggest Birthday Present ５回目　　Lesson 4　Funny English Jokes ６回目　　Lesson 5　Adelie Penguins ７回目　　Lesson 6　Eat Well, Eat Smart ８回目　　Lesson 1-6 の復習及び理解度テスト ９回目　　Lesson 7　Three Popular Mysteries １０回目　Lesson 8　Protect Our Environment １１回目　Lesson 9　Laughing and Thinking １２回目　Lesson 10 Body Art １３回目　Lesson 11 The Most Extreme Marathons １４回目　Lesson 12 Fortune Cookies １５回目　Lesson 7-12 の復習及び理解度テスト 授業の進度・課は変わることがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220104
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Nagaki Kitayama, Margaret Yamanaka, and Keiichiro Fukui 著 『New English Master (リーディングにつなげる英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		

受講者への要望

1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。
3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。

講義の順序とポイント

第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等)
第 2 回 Lesson　1 It's a Long Way to the Top + Japan in English #1 + Movie Script I (1)
第 3 回 Lesson 2 Singapore's Chingay Parade + Japan in English #2 + Movie Script I (2)
第 4 回 Lesson 3 English, for Better or for Worse + Japan in English #3 + Movie Script I (3)
第 5 回 Lesson 4 How Important Is Education to You + Japan in English #4 + Movie Script I (4)
第 6 回 Lesson 5 From Anime to Zen + Japan in English # 5 + Songs (1)
第 7 回 Lesson 6 The Storm + Japan in English #1-5 の総復習
第 8 回 Lesson　1 から Lesson 6 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用]
第 9 回 Lesson 7 Public Works for the State and the Citizens + Japan in English #6 + Movie Script II (1)
第 10 回 Lesson 8 Riding an Old Steam Train + Japan in English #7 + Movie Script II (2)
第 11 回 Lesson 9 Farm Stays + Japan in English #8 + Movie Script II (3)
第 12 回 Lesson 10 Is Sunshine Really Bad for Us? + Japan in English #9 + Movie Script II (4)
第 13 回 Lesson 11 What's in a Name? + Japan in English #10 + Songs (2)
第 14 回 Lesson 12 You Are What You Eat + Japan in English # 6-10 の総復習

第 15 回 Lesson 7 から Lesson 12 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220105
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなければ 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎固めを徹底し、文章構造をつかみ、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220106
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著 Learn the Differences, Broaden Your World.『続・世界の常識』（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
文法：基本文型 (1) ―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry（洗濯物ってどこに干す？）
文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付の書き方）
文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
文法: 時制（2）--進行形、完了形

7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
文法: 助動詞

8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? (何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？)
文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
文法: to 不定詞
10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1220108
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかりながら、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにしていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力を養成し、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力を身につける。 このクラスでは、世界の次世代をリードする日本の革新産業や国際的に有名な日本人を話題とした英文に学び、英語学習の基礎となる英文法を簡単に復習しながら、同時に先端科学の分野において不可欠な英語表現を学んでいく。		
教材（テキスト）	JoAnn Parochetti et. al.、Japan Innovation、南雲堂、1,900円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は59点以下の不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する力が身につく。 3．バイオ環境の分野において必要な基礎的な英語の語彙が身につく。		
準備学習	1．次回授業で取り扱うChapterを確認し、そのReading Textを何十回も音読する。 2．詳細なNotesが施されているので、対象の語句を発音しながら注記内容に目を通しておく。 3．Grammar Reviewについては、文法力が十分な場合には一瞥するだけでよいが、そうでない場合には準備学習段階で何度も読んでおく必要がある。 4．Exerciseの1の問題は必ず解いておく。なお、小テスト問題は、Grammar ReviewもしくはGrammar Exerciseに基づいて作成する。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検やTOEICなどの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。

講義の順序とポイント

1回の授業で1 chapterを終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。
1．演習概要と評価方法に関する説明、Chapter 1: Ken Watanabe、文型
2．Chapter 2: Sakana-kun、時制
3．Chapter 3: Kohei Uchimura、助動詞
4．Chapter 4: Hiromi Miyake、名詞、代名詞
5．Chapter 5: Taiwan、形容詞
6．Chapter 7: B-Class Food Boom、比較
7．中間課題（Chapter 6: Apples、副詞）
8．Chapter 8: Food Traceability、受動態
9．Chapter 9: Naming Rights、不定詞

10. Chapter 10: Smart Cities、分詞
11. Chapter 11: Geopark、動名詞
12. Chapter 12: Rare Earth、関係代名詞
13. Chapter 14: Green Curtains)、前置詞
14. 期末課題（Chapter 13: Biomass、接続詞）
15. Chapter 15: The Robot Industry、数詞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220131
科目名	総合英語Ⅰ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220132
科目名	総合英語Ⅰ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220133
科目名	総合英語Ⅰ -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220134
科目名	総合英語Ⅰ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎
2．可算名詞・不可算名詞
3．自動詞・他動詞・人称代名詞
4．第１文型・第３文型
5．形容詞
6．第２文型
7．第４文型・第５文型
8．総合演習（１）
9．副詞
10．形容詞・副詞の比較級・最上級
11．前置詞
12．助動詞
13．動詞の時制
14．受動態
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	JC1220135
科目名	総合英語Ⅰ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎
2．可算名詞・不可算名詞
3．自動詞・他動詞・人称代名詞
4．第１文型・第３文型
5．形容詞
6．第２文型
7．第４文型・第５文型
8．総合演習（１）
9．副詞
10．形容詞・副詞の比較級・最上級
11．前置詞
12．助動詞
13．動詞の時制
14．受動態
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220136
科目名	総合英語Ⅰ -s(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220137
科目名	総合英語Ⅰ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎
2．可算名詞・不可算名詞
3．自動詞・他動詞・人称代名詞
4．第１文型・第３文型
5．形容詞
6．第２文型
7．第４文型・第５文型
8．総合演習（１）
9．副詞
10．形容詞・副詞の比較級・最上級
11．前置詞
12．助動詞
13．動詞の時制
14．受動態
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	JC1220151
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。この授業では特に、日本の名所の紹介をしている文章を通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。また、基本的な文法事項の復習も行います。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。　さらに、日本文化の紹介を通して、比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回の授業において、前回の授業で学んだ内容についての小テストを行います。そのテストの準備として、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
　　文法：基本文型（1）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
　　文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
　　文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
　　文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
　　文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
　　文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands?　（何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
　　文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
　　文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220152
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	古今東西に言い習わされてきた「ことわざ」を通じて、基礎的な文法事項やイディオムを理解し、聞く・読む・書くの力をつけ、「ことわざ」が持つ人生の知恵を学ぶ。		
教材（テキスト）	樋口千春　松岡ゆりこ共著　Proverbial English ことわざから英語を学ぼう！　南雲堂　￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、聞く・読む・書くの英語の基礎力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成する ３　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の Target Proverb, Grammar 1,2,3 をするので、事前に予習をしておいてもらいたい。 ２回目　　Unit 1　Two dogs fight for a bone and the third runs away. ３回目　　Unit 1 後半と Unit 2 ４回目　　Unit 2 後半と Unit 3 ５回目　　Unit 3 後半と Unit 4 ６回目　　Unit 4 後半と Unit 5 ７回目　　Unit 5 後半と Unit 6 ８回目　　Unit1-6 の復習及び理解度テスト ９回目　　Unit 7 １０回目　Unit 7 後半と Unit 8 １１回目　Unit 8 後半と Unit 9 １２回目　Unit 9 後半と Unit10 １３回目　Unit 10 後半と Unit11 １４回目　Unit 11 後半と Unit12 １５回目　Unit 7-12 の復習及び理解度テスト ただし授業の進度・課は変わることがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220153
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	古今東西に言い習わされてきた「ことわざ」を通じて、基礎的な文法事項やイディオムを理解し、聞く・読む・書くの力をつけ、「ことわざ」が持つ人生の知恵を学ぶ。		
教材（テキスト）	樋口千春　松岡ゆりこ共著　Proverbial English ことわざから英語を学ぼう！　南雲堂　￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、聞く・読む・書くの英語の基礎力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成する ３　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の Target Proverb, Grammar 1,2,3 をするので、事前に予習をしておいてもらいたい。 ２回目　　Unit 1　Two dogs fight for a bone and the third runs away. ３回目　　Unit 1 後半と Unit 2 ４回目　　Unit 2 後半と Unit 3 ５回目　　Unit 3 後半と Unit 4 ６回目　　Unit 4 後半と Unit 5 ７回目　　Unit 5 後半と Unit 6 ８回目　　Unit1-6 の復習及び理解度テスト ９回目　　Unit 7 １０回目　Unit 7 後半と Unit 8 １１回目　Unit 8 後半と Unit 9 １２回目　Unit 9 後半と Unit10 １３回目　Unit 10 後半と Unit11 １４回目　Unit 11 後半と Unit12 １５回目　Unit 7-12 の復習及び理解度テスト ただし授業の進度・課は変わることがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220156
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を使用し、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を養成する。本授業では、海外と日本の文化の違いについて各ユニットのトピックに関する長文を読みます。この長文読解を軸に、関連語彙や文法、リスニング問題にも取り組みます。さらに、グループワークなどを通じて知識の定着化を図るとともに、英語コミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	川田伸道　編著、　Learn the Differences, Broaden Your World! - Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy -『続・世界の常識：違いを知ったら世界も変わる！』　（朝日出版）　1700 円。　その他プリント教材。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる。		
到達目標	海外と日本の文化的違いを理解する。長文読解に必要な文法の知識を身につけ、活用できる語彙を増やす。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第 1 回目の授業を除き、授業のはじめに終了ユニットの小テストを行います。（授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。

Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places
Unit 2: New Year's Day
Unit 3: Laundry
Unit 4: How Do You Write the Date?
Unit 5: The Sakura of Washington D.C.
Unit 6: A Global Beauty Standard?
Unit 7: Crosswalks
Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands?
Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners
Unit10: A Life of School Uniforms and School Lunches
Unit 11: Japanese Animation Heroes Have Fans All Over the World
Unit 12: American Work Hours and Overtime
Unit 13: The Globalization of Christmas
Unit 14: Do you Have to Stop Working When You Have Kids?
Unit 15: Do People's Names Change after Marriage?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	JC1220157
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	―	―	―

年度	2016	授業コード	JC1220158
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220159
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220161
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。この授業では特に、日本の名所の紹介をしている文章を通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。また、基本的な文法事項の復習も行います。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。　さらに、日本文化の紹介を通して、比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回の授業において、前回の授業で学んだ内容についての小テストを行います。そのテストの準備として、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
　　文法：基本文型（１）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
　　文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
　　文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
　　文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
　　文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
　　文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands?　（何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
　　文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
　　文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220162
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を使用し、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を養成する。本授業では、海外と日本の文化の違いについて各ユニットのトピックに関する長文を読みます。この長文読解を軸に、関連語彙や文法、リスニング問題にも取り組みます。さらに、グループワークなどを通じて知識の定着化を図るとともに、英語コミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	川田伸道　編著、　Learn the Differences, Broaden Your World! - Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy -『続・世界の常識：違いを知ったら世界も変わる！』　（朝日出版）　1700 円。　その他プリント教材。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる。		
到達目標	海外と日本の文化的違いを理解する。長文読解に必要な文法の知識を身につけ、活用できる語彙を増やす。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第 1 回目の授業を除き、授業のはじめに終了ユニットの小テストを行います。（授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。

Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places
Unit 2: New Year's Day
Unit 3: Laundry
Unit 4: How Do You Write the Date?
Unit 5: The Sakura of Washington D.C.
Unit 6: A Global Beauty Standard?
Unit 7: Crosswalks
Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands?
Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners
Unit10: A Life of School Uniforms and School Lunches
Unit 11: Japanese Animation Heroes Have Fans All Over the World
Unit 12: American Work Hours and Overtime
Unit 13: The Globalization of Christmas
Unit 14: Do you Have to Stop Working When You Have Kids?
Unit 15: Do People's Names Change after Marriage?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★★	★	ー

年度	2016	授業コード	JC1220163
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」は、主として１回生向けの選択科目です。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語を読み、書き、聞き、話す力を養成します。 この授業では、Reading Access（センゲージラーニング社） を用いて英語の４技能を高めます。このテキストはナショナル・ジオグラフィックを日本の大学生が学習しやすいように初級から初中級向けのリーディング教材としてアレンジしたものです。 まず、「パラグラフごとの内容を理解する」ということに主眼を置き、パラグラフごとのトピックや内容理解を確認しながら学習を進めていきます。選択問題や穴埋め問題も多くあり、学生が自ら問題に取り組み、答えを見つけ、スピーディに情報を整理できるようになっています。 一通りパラグラフを読んだ段階で、文章全体の流れを確認するための問題に取り組みます。 これらの作業に繰り返し取り組んでいけば、徐々に大学生として日強な英文を読むための基礎力が身につきます。 本書には、「１年かけた家族旅行」「ボランティアで余暇」「養子縁組」「アメリカの食育」「動物で癒しを」といって身近な話題から現代の科学技術による「乗り物」や「ロボット」まで幅広い話題が取り上げられています。 授業や自律学習を通じて、英語を総合的に理解し、英語によるコミュニケーション能力を高めて欲しいと願っています。 なお、定員は３５名です。		
教材（テキスト）	Reading Access （センゲージ・ラーニング）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。		
教材（その他）	テキストには CD がついていませんが、テキスト購入者は無料で音声をダウンロードできるようになっています。		
評価方法	「総合英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（20%）、課題提出（20%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	中学や高校で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようになる。日常的な話題および社会の身近な問題について、読み、書き、聞き、話すことができる英語力を身につける。春学期修了までに英検準２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、中学校や高校で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		
受講者への要望			
①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 ③英語学習のための設備がある学志館１階「セルフラーニング室」をできるだけ活用し、自律学習に励んでください。			
講義の順序とポイント			
初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第１回　Introduction 第２回 ＆ 第３回　A Family Sees America Together　（家族でアメリカ再発見） 第４回 ＆ 第５回　Volunteer Vacations　（休暇旅行にボランティア活動） 第６回　How Alike Are Identical Twins?　（双子は似た者同士？） 第７回　The Search for Happiness through Adoption　（養子縁組で幸せをつかむ） 第８回　前半の授業の振り返りおよび反転学習 第９回　A New Way to Go　（暮らしに役立つ発明品） 第 10 回　Improving Lives with Pet Therapy　（ペットセラピーで生活が好転） 第 11 回　A Healthy Diet for Everyone　（食事で人生が変わる） 第 12 回　Alfred Nobel: A Man of Peace　（アルフレッド・ノーベル:　平和の人）			

第 13 回	Marie Curie: Nobel Prize Winner　（マリー・キュリー：　研究に捧げた人生）
第 14 回	Oil as an Important World Resource or Earthquakes: Hard to Predict （これからも石油は重要な資源か？、または地震予知は可能か?）
第 15 回	後半の授業の振り返りおよび反転学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	–
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	JC1220164
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4技能の基礎力を養成する。リスニングのセクションでは、英語の音声面の特徴を、単音・音節・語・句・文などのレベルで学ぶ。絵を見ながら適する英語表現を選び、短い会話の応答を完成する。リーディングのセクションでは、本文を読んだ後、様々な設問を通して理解度をチェックする。グラマーのセクションでは、最低限必要な使える文法の基礎を学ぶ。例文を通して、文法の知識を実践的に確認し、練習問題で理解度をチェックする。		
教材（テキスト）	Forerunner to Power-Up English 南雲堂　1,900＋税		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（３分の２の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の4技能の習得により、基礎的なコミュニケーション能力を養う。		
準備学習	予習・復習の課題を完成させる。		
受講者への要望			
積極的な学習態度で授業に参加する。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食など等は厳禁。積極的に質問してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　はじめに―ストレッチ式「ネイティブ発音」について 2.　自己紹介―つながる音に慣れる（1） 3.　家族・ペット―つながる音に慣れる（2） 4.　趣味―つながる音に慣れる（3） 5.　大学生活―消える音に慣れる（1） 6.　食べ物―消える音に慣れる（2） 7.　コンサート―消える音に慣れる（3） 8.　道案内―変化する音に慣れる（1） 9.　日本文化紹介―変化する音に慣れる（2） 10. ジェスチャー―変化する音に慣れる（3） 11, 観光案内―変化する音に慣れる（4） 12. 航空券を Net で Get―カタカナ語の音に慣れる 13. E-mail を送る―Review 1 14. E-mail を送る―Review 2 15. E-mail を送る―Review 3			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1220165
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Nagaki Kitayama, Margaret Yamanaka, and Keiichiro Fukui 著 『New English Master (リーディングにつなげる英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		
受講者への要望			
1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等) 第 2 回 Lesson　1 It's a Long Way to the Top + Japan in English #1 + Movie Script I (1) 第 3 回 Lesson 2 Singapore's Chingay Parade + Japan in English #2 + Movie Script I (2) 第 4 回 Lesson 3 English, for Better or for Worse + Japan in English #3 + Movie Script I (3) 第 5 回 Lesson 4 How Important Is Education to You + Japan in English #4 + Movie Script I (4) 第 6 回 Lesson 5 From Anime to Zen + Japan in English # 5 + Songs (1) 第 7 回 Lesson 6 The Storm + Japan in English #1-5 の総復習 第 8 回 Lesson　1 から Lesson 6 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用] 第 9 回 Lesson 7 Public Works for the State and the Citizens + Japan in English #6 + Movie Script II (1) 第 10 回 Lesson 8 Riding an Old Steam Train + Japan in English #7 + Movie Script II (2) 第 11 回 Lesson 9 Farm Stays + Japan in English #8 + Movie Script II (3) 第 12 回 Lesson 10 Is Sunshine Really Bad for Us? + Japan in English #9 + Movie Script II (4) 第 13 回 Lesson 11 What's in a Name? + Japan in English #10 + Songs (2) 第 14 回 Lesson 12 You Are What You Eat + Japan in English # 6-10 の総復習			

第 15 回 Lesson 7 から Lesson 12 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220166
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する		
教材（テキスト）	佐藤明彦　他著　Reading Sucesst I 〈リーディング　サクセス　1〉　成美堂　￥２，０００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読め、基礎的な英作文が作れるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の 2 Word Definitions
3　Complete the Sentences　4 Words in Context はやるので、事前に予習をしておいてほしい。
２回目　　Lesson 1　Teddy Bears 終了
３回目　　Lesson 2　April Fool’s Day
４回目　　Lesson 3　The Biggest Birthday Present
５回目　　Lesson 4　Funny English Jokes
６回目　　Lesson 5　Adelie Penguins
７回目　　Lesson 6　Eat Well, Eat Smart
８回目　　Lesson 1-6 の復習及び理解度テスト
９回目　　Lesson 7　Three Popular Mysteries
１０回目　Lesson 8　Protect Our Environment
１１回目　Lesson 9　Laughing and Thinking
１２回目　Lesson 10 Body Art
１３回目　Lesson 11 The Most Extreme Marathons
１４回目　Lesson 12 Fortune Cookies
１５回目　Lesson 7-12 の復習及び理解度テスト
授業の進度・課は変わることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220167
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなければ 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎固めを徹底し、文章構造をつかみ、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220168
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなければ 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎固めを徹底し、文章構造をつかみ、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220201
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ　れは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1220202
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円. その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2 How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3 The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4 What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5 This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6 What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7 Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8 You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9. Day 9　It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10 Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11 I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12 I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13 Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14 Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15 That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220203
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	英文法など英語の基礎固めを徹底し、文章構造を把握できるようになり、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220204
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Nagaki Kitayama, Margaret Yamanaka, and Keiichiro Fukui 著 『New English Master (リーディングにつなげる英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		
受講者への要望			
1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等) 第 2 回 Lesson　13 A Car for the Blind? + Japan in English #1 + Movie Script I (1) 第 3 回 Lesson 14 Talking Drums + Japan in English #2 + Movie Script I (2) 第 4 回 Lesson 15 The Future for Farmers + Japan in English #3 + Movie Script I (3) 第 5 回 Lesson 16 The Extraordinary Steve Jobs + Japan in English #4 + Movie Script I (4) 第 6 回 Lesson 17 A Cool Memory + Japan in English # 5 + Songs (1) 第 7 回 Lesson 18 Homes? Watson? + Japan in English #1-5 の総復習 第 8 回 Lesson　13 から Lesson 18 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用] 第 9 回 Lesson 19 Aussie English + Japan in English #6 + Movie Script II (1) 第 10 回 Lesson 20 Garfiled + Japan in English #7 + Movie Script II (2) 第 11 回 Lesson 21 Climbing + Japan in English #8 + Movie Script II (3) 第 12 回 Lesson 22 Lost in Translation + Japan in English #9 + Movie Script II (4) 第 13 回 Lesson 23 Preservatives + Japan in English #10 + Songs (2) 第 14 回 Lesson 24 The Tramp + Japan in English # 6-10 の総復習			

第 15 回 Lesson 19 から Lesson 24 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220206
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ　れは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1220207
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	さまざまな分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	Casey Malarcher 原田慎一　共著 Intermedeate Faster Reading-New Edition-　速読の実践演習ー最新版ー 成美堂　　￥１，９００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	語彙・文法事項を身につけ、テキストの英文が正確に読め、基礎的リスニングが理解できることを目指す。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。授業では主に前半部分を扱う。
Unit1 の Target Vocabulary と Idioms の予習。本文は第一段落を読んでおいてもらいたい。
後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、3 回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。

２回目　Unit 1　Coffee Culture　　後半
３回目　Unit 2　Helping Others　　前半
４回目　Unit 2 Helping Others　後半
５回目　Unit 3　Movie Directors 前半
６回目　Unit 3　Movie Directors 後半
７回目　Unit 4　Around the World
８回目　Unit 1-4 の復習と理解度テスト
９回目　Unit 5　Yuna Kim
１０回目　Unit 6　The Puffer Fish　　前半
１１回目 Unit 6　The Puffer Fish　　前半
１２回目 Unit 7　Technology in the Classroom　前半
１３回目 Unit 8　Interesting Buildings　　前半
１４回目 Unit 8　Interesting Buildings　　後半
１５回目　Unit 5-8 の復習と理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	JC1220208
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語 I 」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、健康と環境を話題とした VOA（Voice of America）のニュース英文に学び、英語リスニング力の向上をはかりながら、同時にバイオ環境学の分野において不可欠な英語表現を学んでいく。		
教材（テキスト）	Richard S. Lavin et al.、For a Better Future: Health & Environment Topics from VOA、松柏社、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する力を身につける。 3．「総合英語 I 」に続き、バイオ環境の分野において必要な基礎的な英語の語彙をさらに多く習得する。		
準備学習	1．教科書に記載のサイトより先ず音声ファイルをダウンロードしておく（無料）。 2．次回授業で取り扱う VOA の Article を確認し、音声ファイルでそのニュースを何度も聴き、Summary Check に解答し、さらに Text の空所を補充しておく。 3．Summary Check の加えて、Vocabulary、True or False、Vocabulary Buildings の問題にも解答しておく。いずれかを小テスト問題として利用する。なお、Useful Expressions、Translations は授業内演習では省略する。 4．空所補充後の text（VOA ニュース本文）を何十回と音読する。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 article を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Article 1: Don’t Forget Your Coffee!
2．Article 2: Solar Cars in South Africa
3．Article 3: Video Games and Dyslexia
4．Article 4: Let’s Go Fishing … and Farming!
5．Article 5: Scientists Get with the Beat
6．Article 7: Can Mothers’ Milk Beat HIV?
7．中間課題（Article 6: Farmed Christmas Trees: Good for the Environment）
8．Article 8: The World’s Largest Solar power Plant
9．Article 9: Is Community-Based Mental health Treatment Better?

10. Article 10: How Can Farmers Use Social Media?
11. Article 11: How Can We Get Children to Eat Better?
12. Article 13: Diet at the Root of Tooth Decay?
13. Article 14: Concerns about Ethanol
14. 期末課題（Article 12: Making Agriculture Sustainable）
15. Article 15: A New Way to Find Malaria Infections

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JC1220231
科目名	総合英語 II -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語 II 」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220232
科目名	総合英語Ⅱ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語Ⅱ」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.　　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220233
科目名	総合英語Ⅱ -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語Ⅱ」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.　　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220234
科目名	総合英語Ⅱ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	JC1220235
科目名	総合英語Ⅱ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220236
科目名	総合英語Ⅱ -s(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語Ⅱ」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220237
科目名	総合英語Ⅱ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2016	授業コード	JC1220251
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円. その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / Day 1　I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2　How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3　The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4　What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5　This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6　What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7　Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8　You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9. Day 9　It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10　Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11　I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12　I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13　Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14 ?Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15 ?That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220252
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画を楽しみながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、英文読解力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。授業では主に後半部分を扱う。
が、先ずは４章「かもめ食堂」から。P.20 Vocabulary を予習しておいてもらいたい。
後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、４回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。
２回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」前半
３回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」後半
４回目　　Chapter 8　Dear Frankie 前半
５回目　　Chapter 8　Dear Frankie 後半
６回目　　Chapter 9　Seabiscuit　前半
７回目　　Chapter 9　Seabiscuit　後半
８回目　　chapter 4,8,9 の復習と理解度テスト
９回目　　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半
１０回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半
１１回目　Chapter11 Everybody’s Fine　前半
１２回目　Chapter11 Everybody’s Fine　後半
１３回目　Chapter14　A Touch of Spice　前半
１４回目　Chapter14　A Touch of Spice　後半
１５回目　chapter10, 11, 14 の復習と理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220253
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	さまざまな分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	Casey Malarcher 原田慎一　共著 Intermedeate Faster Reading-New Edition-　速読の実践演習ー最新版ー 成美堂　　￥１，９００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	語彙・文法事項を身につけ、テキストの英文が正確に読め、基礎的リスニングが理解できることを目指す。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。授業では主に前半部分を扱う。
Unit1 の Target Vocabulary と Idioms の予習。本文は第一段落を読んでおいてもらいたい。
後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、3 回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。

２回目　Unit 1　Coffee Culture　　後半
３回目　Unit 2　Helping Others　　前半
４回目　Unit 2 Helping Others　後半
５回目　Unit 3　Movie Directors 前半
６回目　Unit 3　Movie Directors 後半
７回目　Unit 4　Around the World
８回目　Unit 1-4 の復習と理解度テスト
９回目　Unit 5　Yuna Kim
１０回目　Unit 6　The Puffer Fish　　前半
１１回目 Unit 6　The Puffer Fish　　前半
１２回目 Unit 7　Technology in the Classroom　前半
１３回目 Unit 8　Interesting Buildings　　前半
１４回目 Unit 8　Interesting Buildings　　後半
１５回目　Unit 5-8 の復習と理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	JC1220256
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I」に引き続き、比較的平易な総合英語教材を使用することで必要な語彙力、文法力、読解力、リスニング力のさらなる習得を図ります。本授業では、日常生活に近い表現を学ぶことができるストーリー仕立てのテキストを使用する。リスニング、読解、英作文の問題演習、ペアワークなどに取り組み、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力をさらに発展させることを目指します。		
教材（テキスト）	Robert Hickling、臼田美里 著.　English Switch.　金星堂.　1900 円。その他プリント教材。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる。		
到達目標	語彙力を増強し、実用的な英語を身につける。自然に話される英語を聞き取る能力を養成し、英語の表現の幅を広げる。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第 1 回目の授業を除き、授業はじめに終了ユニットの小テストを行います。(授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。

Unit 1: Jobs & Careers
Unit 2: Entertainment
Unit 3: Work Schedule
Unit 4: Health & Fitness
Unit 5: Shopping
Unit 6: Business Meeting
Unit 7: Recruitment
Unit 8: Customer Needs
Unit 9: Business Trip
Unit 10: Advertising
Unit 11: Factory Tour
Unit 12: Money Matters
Unit 13: Leisure
Unit 14: Environment
Unit 15: Business Tie-Up

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	JC1220257
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	―	―	―

年度	2016	授業コード	JC1220258
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220259
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220261
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円. その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / Day 1　I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2　How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3　The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4　What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5　This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6　What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7　Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8　You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9. Day 9　It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10　Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11　I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12　I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13　Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14 ?Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15 ?That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220262
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I」に引き続き、比較的平易な総合英語教材を使用することで必要な語彙力、文法力、読解力、リスニング力のさらなる習得を図ります。本授業では、日常生活に近い表現を学ぶことができるストーリー仕立てのテキストを使用する。リスニング、読解、英作文の問題演習、ペアワークなどに取り組み、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力をさらに発展させることを目指します。		
教材（テキスト）	Robert Hickling、臼田美里 著.　English Switch.　金星堂.　1900 円。その他プリント教材。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる。		
到達目標	語彙力を増強し、実用的な英語を身につける。自然に話される英語を聞き取る能力を養成し、英語の表現の幅を広げる。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第 1 回目の授業を除き、授業はじめに終了ユニットの小テストを行います。(授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。

Unit 1: Jobs & Careers
Unit 2: Entertainment
Unit 3: Work Schedule
Unit 4: Health & Fitness
Unit 5: Shopping
Unit 6: Business Meeting
Unit 7: Recruitment
Unit 8: Customer Needs
Unit 9: Business Trip
Unit 10: Advertising
Unit 11: Factory Tour
Unit 12: Money Matters
Unit 13: Leisure
Unit 14: Environment
Unit 15: Business Tie-Up

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★★	★	ー

年度	2016	授業コード	JC1220263
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅱ」は春学期開講の「総合英語Ⅰ」に引き続き、健康医療学部看護学科１回生向けの必修科目です。 この授業では、Take Care!（三修社） を用いて英語の４技能を高めます。このテキストは医療系の大学で学ぶ人を対象として作成されたものです。看護学部における英語学習にふさわしい役に立つ題材を使って、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの４技能をバランスよく学べるように構成されています。 将来の仕事に直結した英語によるコミュニケーション能力の養成を目的として、できる限り実際に使用されている教材を用い、ESP（English for Specific Purposes）の考え方を取り入れて構成されています。 ワークブックの要素も取り入れられていますので、みなさんが書き込みできるようになっており、授業中の活動でアクティブ・ラーニングを行えるようになっています。		
教材（テキスト）	Take Care!（三修社）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。		
教材（その他）	テキストには CD がついていませんが、教室では音声も使ってリスニングやリーディング能力の向上に努めます。		
評価方法	「総合英語Ⅱ」では、授業中の発表など授業参加（20%）、課題提出（20%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	中学や高校で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに医療現場で日常的に使用する専門用語の語彙を獲得し、活用できるようになる。イラストや写真を豊富に使ったエクササイズが用意されているので、読み、書き、聞き、話すという英語力のいっそうの向上をめざす。春学期に英検２級を取得できなかった学生諸君は秋学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、高校や春学期の「総合英語Ⅰ」で学んだ英語の基本語彙、専門用語、文法本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各 Chapter が終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		
受講者への要望			
①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 ③英語学習には継続的な学習習慣が必要であり、自律学習に励んでください。			
講義の順序とポイント			
初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第１回　Inroduction 第２回　Unit 1: What Worries Barbara? 第３回　Unit 2: That's Mama's Hair! 第４回　Unit 3: Menstrual Problems 第５回　Unit 4: Right or Left? 第６回　Unit 5: How to Give First Aid 第７回　Unit 6: A Blind Pianist 第８回　前半の授業の振り返りおよび反転学習 第９回　Unit 7: Are You Being Abused? 第 10 回　Unit 8: Giving Blood 第 11 回　Unit 9: Living　a Healthy Life 第 12 回　Unit 10: Is the Treatment Different or Not?			

第 13 回　Unit 11: Oh, Poor Elderly People! 第 14 回　Unit 12: What Is Homeopathy? 第 15 回　後半の授業の振り返りおよび反転学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2016	授業コード	JC1220265
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	塩田　英子	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な英語総合教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思ってます。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の１シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行う機会を持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。		
教材（テキスト）	(1) Nagaki Kitayama, Margaret Yamanaka, and Keiichiro Fukui 著 『New English Master (リーディングにつなげる英文法)』 Seibido　￥1,900＋税 (2) プリント教材１：日本のニュースを英語で読もう（Japan in English #1-10） (3) プリント教材２：生きた英語で耳を鍛えよう（Movie Script I (1)-(4), Movie Script 2 (1)-(4), Songs (1) & (2)）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。		
評価方法	平常点(20%)：授業態度や各授業内容の理解度などから評価します。 復習テスト 1 (40%)：授業内に実施する復習テスト 1 の結果から評価します。 復習テスト 2 (40%)：授業内に実施する復習テスト 2 の結果から評価します。 ＊なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただし、3 分の 2 以上の出席があった場合、必ず合格するという意味ではないので注意すること。		
到達目標	1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。		
準備学習	1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に授業参加のための準備学習を指示します。		
受講者への要望			
1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 4.授業中の私語や睡眠、テキストを忘れる等、授業態度にはくれぐれもご注意ください。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等) 第 2 回 Lesson　13 A Car for the Blind? + Japan in English #1 + Movie Script I (1) 第 3 回 Lesson 14 Talking Drums + Japan in English #2 + Movie Script I (2) 第 4 回 Lesson 15 The Future for Farmers + Japan in English #3 + Movie Script I (3) 第 5 回 Lesson 16 The Extraordinary Steve Jobs + Japan in English #4 + Movie Script I (4) 第 6 回 Lesson 17 A Cool Memory + Japan in English # 5 + Songs (1) 第 7 回 Lesson 18 Homes? Watson? + Japan in English #1-5 の総復習 第 8 回 Lesson　13 から Lesson 18 の総括と総合課題(1)[第 2 回から第 7 回のまとめと応用] 第 9 回 Lesson 19 Aussie English + Japan in English #6 + Movie Script II (1) 第 10 回 Lesson 20 Garfiled + Japan in English #7 + Movie Script II (2) 第 11 回 Lesson 21 Climbing + Japan in English #8 + Movie Script II (3) 第 12 回 Lesson 22 Lost in Translation + Japan in English #9 + Movie Script II (4) 第 13 回 Lesson 23 Preservatives + Japan in English #10 + Songs (2) 第 14 回 Lesson 24 The Tramp + Japan in English # 6-10 の総復習			

第 15 回 Lesson 19 から Lesson 24 の総括と総合課題(2)[第 9 回から第 15 回のまとめと応用] ＊上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JC1220267
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	総合英語 I を発展させた形で授業を行う。平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力をさらに向上させる。リスニングのセクションでは、、英語独特の音声変化に慣れながら、聞いた英語の意味を理解できるまで繰り返し聞く。さらに学んだ表現が使えるようになるまで反復練習をする。リーディングのセクションの”Read Aloud”では、英語の基本的なリズムパターンを練習する。また、コラムを読んで、トピックに関連した知識や文化をより深く学ぶ。グラマーのセクションでは、文法知識を応用して、英語で自己表現できる能力を養う。		
教材（テキスト）	Forerunner to Power-Up English　南雲堂　1,900＋税		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の 4 技能の習得により、コミュニケーション能力をさらに向上させる。		
準備学習	予習・復習の課題を完成させる。		

受講者への要望

積極的な学習態度で授業に参加する。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食など等は厳禁。積極的な質問を望む。

講義の順序とポイント

1. はじめに―ストレッチ式「ネイティブ発音」について
2. 機内で―日本語にない音（1）
3. 空港で―日本語にない音（2）
4. ホテル―まぎらわしい音の区別（1）
5. レストランで―まぎらわしい音の区別（2）
6. ショッピング―まぎらわしい音の区別（3）
7. ベースボール―まぎらわしい音の区別（4）
8. ミュージカル鑑賞―語頭と語尾で違って聞こえる音
9. 旅行案内―つづりと発音（1）
10. トラブル・シューティング―つづりと発音（2）
11. 体調不良―ポーズの取り方
12. 電話での申し込み―イントネーション
13. さよなら、アメリカ！―Review 1
14. さよなら、アメリカ！―Review 2
15. さよなら、アメリカ！―Review 3

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1220270
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画を楽しみながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、英文読解力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。授業では主に後半部分を扱う。
が、先ずは４章「かもめ食堂」から。P.20 Vocabulary を予習しておいてもらいたい。
後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、４回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。
２回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」前半
３回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」後半
４回目　　Chapter 8　Dear Frankie 前半
５回目　　Chapter 8　Dear Frankie 後半
６回目　　Chapter 9　Seabiscuit　前半
７回目　　Chapter 9　Seabiscuit　後半
８回目　　chapter 4,8,9 の復習と理解度テスト
９回目　　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半
１０回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半
１１回目　Chapter11 Everybody’s Fine　前半
１２回目　Chapter11 Everybody’s Fine　後半
１３回目　Chapter14　A Touch of Spice　前半
１４回目　Chapter14　A Touch of Spice　後半
１５回目　chapter10, 11, 14 の復習と理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220271
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	英文法など英語の基礎固めを徹底し、文章構造を把握できるようになり、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220273
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	英文法など英語の基礎固めを徹底し、文章構造を把握できるようになり、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220301
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself to others.
Lesson 2: Talking about jobs.
Lesson 3: Describing someone's day.
Lesson 4: Talking about meeting people.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Offering and asking for help.
Lesson 7: Telling a story.
Lesson 8: Talking about your plans.
Lesson 9: Explaining things.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about food.
Lesson 12: Talking about the past.
Lesson 13: Talking about TV/movies.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	―	★★	―	★★

年度	2016	授業コード	JC1220303
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself to others.
Lesson 2: Talking about jobs.
Lesson 3: Describing someone's day.
Lesson 4: Talking about meeting people.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Offering and asking for help.
Lesson 7: Telling a story.
Lesson 8: Talking about your plans.
Lesson 9: Explaining things.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about food.
Lesson 12: Talking about the past.
Lesson 13: Talking about TV/movies.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JC1220304
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Final Review. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JC1220305
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself to others.
Lesson 2: Talking about jobs.
Lesson 3: Describing someone's day.
Lesson 4: Talking about meeting people.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Offering and asking for help.
Lesson 7: Telling a story.
Lesson 8: Talking about your plans.
Lesson 9: Explaining things.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about food.
Lesson 12: Talking about the past.
Lesson 13: Talking about TV/movies.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JC1220351
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Final Review. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JC1220352
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself to others.
Lesson 2: Talking about jobs.
Lesson 3: Describing someone's day.
Lesson 4: Talking about meeting people.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Offering and asking for help.
Lesson 7: Telling a story.
Lesson 8: Talking about your plans.
Lesson 9: Explaining things.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about food.
Lesson 12: Talking about the past.
Lesson 13: Talking about TV/movies.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JC1220353
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Final Review. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JC1220354
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises and cartooning in English.		
教材（テキスト）	S. Richmond et al, Conversations in Class:Second Edition, Alma Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests （80%） Written reports （10%） Final test (10%) Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.		
準備学習	Students will be required to complete reading, grammar and writing assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude. Complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course
2. Topic: Where are you from?
3. Topic: Do you like living here?
4. Pragmatics 1 - Silence and Conversation
5. Topic: What time do you usually get up?
6. Topic: How long does it take you to get here?
7. Pragmatics 2- Dynamic Conversations
8. Topic: What clubs are you in?
9. Topic: What's your favorite subject?
10. Topic: How long have you been playing the piano?
11. Topic: What do you think is a good way to study English?
12. Topic: Would you like to get married someday?
13. Topic: What is a good age to have children?
14. Topic: Do you think it's OK to live together before marriage?
15. Final conversations/presentations

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	★	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	JC1220401
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Final Review. Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	―	★	―	★

年度	2016	授業コード	JC1220402
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる***

講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Final Review. Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220403
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220405
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220451
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220452
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220453
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1220454
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises and cartooning in English.		
教材（テキスト）	S. Richmond et al, Conversations in Class：Second Edition, Alma Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests （80%） Written reports （10%） Final test (10%) Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.		
準備学習	Students will be required to complete reading, grammar and writing assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are required to attend all classes and come with a positive and respectful attitude. They should also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course/review
2. Topic: Have you ever been abroad?
3. Topic: Are there any foods I should try in New York?
4. Topic: What have you been up to recently?
5. Topic: What kind of music do you like?
6. Topic: Do you have any plans for the weekend?
7. Topic: Do you have a part-time job?
8. Topic: What do you spend your money on?
9. Topic: What's the weather like where you're from?
10. Topic: What do you do for New Year's?
11. Topic: What's your hometown famous for?
12. Topic: Will you still be living here five years from now?
13. Topic: Would you rather live in Japan, or live overseas?
14. Topic: What would your dream job be?
15. Final conversations/presentations

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	★	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	JC1220551
科目名	ビジネス英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	インターネットの進展と世界のボーダレス化に伴い、高度に情報化・国際化した現代社会において、英語は今やコミュニケーションの手段として、政治、経済、文化、外交などの分野で非常に大きな役割を果たしています。　また、企業の海外進出、海外企業との合弁事業、海外での子会社の設立といった激変するビジネス・ワールドに対応して、ビジネス英語のニーズも急速に増大し、その対象範囲も飛躍的に広がってきています。 この授業では、海外との会社間の取引をストリート化したテキストを用いて、その中で使用されるビジネス英語の基本を分かりやすく学ぶことを目的にしています。内容としては、来客および電話対応、ビジネスEメールやビジネス・レターの書き方、実社会において必要不可欠なビジネス・エチケットとプロトコール、さらに多種のプレゼンテーションやレジュメの作成など、ビジネス英語の基本事項を広範囲に学ぶことができます。 授業では、各ケースを想定したロールプレイ（役割練習）なども取り入れ、ビジネス英語をより身近なものにしていこうと思っています。		
教材（テキスト）	Business English for Bogommers （三修社）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など)。		
教材（その他）			
評価方法	「ビジネス英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（20%)、課題提出（20%)、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	高校や大学１年間で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることを目標としています。EGP（English for General Purposes）から ESP（English for Specific Purposes）へと、ビジネスシーンで英語を活用できるようになる。春学期修了までに TOEIC500 点・英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		
受講者への要望			
① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。			
講義の順序とポイント			
第１回　Intoroduction to the class 第２回　Uni 1:　Receiving Visitors Part 1 第３回　Unit 2: Receiving Visitors Part 2 第４回　Unit 3: Telephoning Part 1 第５回　Unit 4: Telephoning Part 2 第６回　Unit 5: Business Etiquette & Protocol Part 1 第７回　Unit 6: Business Etiquette & Protocol Part 2 第８回　Unit 7: Business Etiquette & Protocol Part 3 および前半のふり返りと反転学習 第９回　Unit 8: Presentations Part 1 第 10 回　Unit 9: Presentations Part 2 第 11 回　Uni　10:　Presentations Part 3 第 12 回　Unit 11: Business Email Writing Part 1 第 13 回　Unit 12: Business Email Writing Part 2			

第 14 回　Unit 13: Business Letters および前半のふり返りと反転学習 第 15 回　Unit 14: Job Hunting Part 1&2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2016	授業コード	JC1220552
科目名	ビジネス英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	将来のビジネス社会において活躍するために、その基礎となる初歩的なビジネス英語の演習を行う。国際化の進展により英語の重要性が高まっており、近年、TOEIC（Test of English for International Communication）のスコアが要求される場面が増えてきた。TOEIC が、国際ビジネス社会での実用英語力を測るものとして有用だからである。TOEIC 対策として基本的な語彙力、聴解力、読解力の向上を目指すが、ただ問題を解くだけではなく、問題の意図を理解し、音読を徹底しながら、総合的な英語の基礎力を養成する。 このクラスでは先ず入門レベルのビジネス英語表現を習得していく。契約書の作成などに必要な専門用語を学ぶ旧来のビジネス英語ではなく、来客や電話応対、ビジネス・レターや E メール作成など、どちらかと言えばビジネス場面の「入り口」で必要となる英語表現を習得していく。		
教材（テキスト）	芳野聡子／他、Business English for Beginners（『はじめてのビジネス・イングリッシュ』）、三修社、1,800円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	１．「総合英語」の履修などで身につけた英語表現をビジネスに特化した場面で応用できるようになる。 ２．TOEIC 問題に頻出する英語使用場面や表現に習熟し、TOEIC において未履修者よりも高いスコアを取得することができる。 ３．日常的な話題や社会の身近な問題についても、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	１．次回授業で取り扱う unit の演習範囲を確認する。概ね、１回の授業で１unit の演習を行う ２．NOTE を参照しながら、Useful Expressions をすべて何度も音読しておく。なお、Useful Expressions は同じテーマの Part 1 にのみ掲載される。 ３．Sample Dialog(s)も声を出して読んでおく。できれば友人とペアを組んで対話練習しておくとよい。 ４．Exercises の問題を解いておく。いずれかを授業内での小テスト問題とする。 ５．「インフォメーション」は、将来のビジネス場面での心得として覚えておくとよい。		

受講者への要望

１．「総合英語」において、大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力を定着化させ、大学においてさらに多くの語彙を習得して活用できるようになった学生の履修を望む。
２．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
３．TOEIC 公開テストか、または学内で実施されると思われる TOEIC-IP テストを受験すること。

講義の順序とポイント

１回の授業で１unit を終える予定であり、授業では省略する演習も生じる。
１．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Receiving Visitors Part 1
２．Unit 2: Receiving Visitors Part 2
３．Unit 3: Telephoning Part 1
４．Unit 4: Telephoning Part 2
５．Unit 5: Business Etiquette & Protocol Part 1
６．Unit 6: Business Etiquette & Protocol Part 2

7．中間課題（Unit 7: Business Etiquette & Protocol Part 3）
8．Unit 8: Presentations Part 1
9．Unit 9: Presentations Part 2
10．Unit 10: Presentations Part 3
11．Unit 11: Business Email Writing Part 1
12．Unit 12: Business Email Writing Part 2
13．Unit 13: Business Letters
14．期末課題（Unit 14: Job Hunting Part 1）
15．Unit 15: Job Hunting Part 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	JC1220553
科目名	ビジネス英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	インターネットの進展と世界のボーダレス化に伴い、高度に情報化・国際化した現代社会において、英語は今やコミュニケーションの手段として、政治、経済、文化、外交などの分野で非常に大きな役割を果たしています。　また、企業の海外進出、海外企業との合弁事業、海外での子会社の設立といった激変するビジネス・ワールドに対応して、ビジネス英語のニーズも急速に増大し、その対象範囲も飛躍的に広がってきています。 この授業では、海外との会社間の取引をストリート化したテキストを用いて、その中で使用されるビジネス英語の基本を分かりやすく学ぶことを目的にしています。内容としては、来客および電話対応、ビジネスEメールやビジネス・レターの書き方、実社会において必要不可欠なビジネス・エチケットとプロトコール、さらに多種のプレゼンテーションやレジュメの作成など、ビジネス英語の基本事項を広範囲に学ぶことができます。 授業では、各ケースを想定したロールプレイ（役割練習）なども取り入れ、ビジネス英語をより身近なものにしていこうと思っています。		
教材（テキスト）	Business English for Bogommers （三修社）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など)。		
教材（その他）			
評価方法	「ビジネス英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（20%)、課題提出（20%)、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	高校や大学1年間で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることを目標としています。EGP（English for General Purposes）から ESP（English for Specific Purposes）へと、ビジネスシーンで英語を活用できるようになる。春学期修了までに TOEIC500 点・英検2級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、高校や大学1年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		
受講者への要望			
① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。			
講義の順序とポイント			
第1回　Intoroduction to the class 第2回　Uni 1:　Receiving Visitors Part 1 第3回　Unit 2: Receiving Visitors Part 2 第4回　Unit 3: Telephoning Part 1 第5回　Unit 4: Telephoning Part 2 第6回　Unit 5: Business Etiquette & Protocol Part 1 第7回　Unit 6: Business Etiquette & Protocol Part 2 第8回　Unit 7: Business Etiquette & Protocol Part 3 および前半のふり返りと反転学習 第9回　Unit 8: Presentations Part 1 第10回　Unit 9: Presentations Part 2 第11回　Uni　10:　Presentations Part 3 第12回　Unit 11: Business Email Writing Part 1 第13回　Unit 12: Business Email Writing Part 2			

第 14 回　Unit 13: Business Letters および前半のふり返りと反転学習 第 15 回　Unit 14: Job Hunting Part 1&2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2016	授業コード	JC1220651
科目名	ビジネス英語II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	この授業は春学期開講の「ビジネス英語Ｉ」の上級クラスです。 世界中がインターネットでつながる現代、今後ますますグローバル化が進み、英語による情報の発信力、受信力がさらに問われる時代になります。この授業では、リスニング中心の奇数章と、リーディング中心の偶数章で構成されたテキストを用いて、ビジネスで必要な情報発信力と情報収集力の両方を学ぶことになります。 実際には、リスニング中心の奇数章では、英語のコミュニケーションをよりスムーズに行うために役立つ発音のこつや、テーマにそった語彙や表現を学びます。さらに発展問題としてストーリー仕立ての素材も用意されていますので、スピーキングに活用できるアクティブなリスニング能力の養成にも役立ちます。 一方、リーディング中心の偶数章では、ビジネスレターから広告や仕様書、操作マニュアルまで多様なジャンルの特徴を学ぶことができます。ビジネス文書や技術文書の多くは、ジャンルごとに特徴的なスタイル（文体）を持っています。こうしたスタイルになれることで、効率的な情報収集が可能となります。 このテキストで学んだ英語の受信力・発進力を目の前に広がるグローバル社会で活かせるよう、授業を進めていきたいと思っています。		
教材（テキスト）	Getting Global （金星堂）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など)。		
教材（その他）	テキストにはCDがついていませんが、テキスト購入者は音声を無料でダウンロードできるようになっています。テキストを購入して、各自で出版社のホームページにアクセスして、ダウンロードしてください。		
評価方法	「ビジネス英語II」では、授業中の発表など授業参加（20%)、課題提出（20%)、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	「ビジネス英語Ｉ」で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることを目標としています。EGP(English for General Purposes)からESP(English for Specific Purposes)へと、ビジネスシーンで英語を活用できるようになる。秋学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEICなどの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。		
受講者への要望			
授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。			
講義の順序とポイント			
第１回　Intoroduction to the class 第２回　Uni 1 & Unit 2:　Telephone 1 Business Email 第３回　Unit 3 & Unit 4:Telephone 1 Business Letter 第４回　Unit 5 & Unit 6: At the Reception Desk & Corporate Websites 第５回　Unit 7 & Unit 8: Company Profile & Product Advertisements 第６回　Unit 9 & Uni　10: Your Job & Productive Specifications 第７回　Unit 11 & Unit 12: Operating Instructions 第８回　Unit 13 & Unit 14:　Taking baout News & Science News 第９回　Unit 15 & Unit 16: Tourinst Information & Safety Signs 第１０回　Unit 17 & Unit 18: Dinner Talk & Abstracts 第１１回　Unit 19 : Preparation for Meetings 第１２回　Unit 20: Data and Graphs			

第 13 回　Unit 21 & Unit 22 : Presentation 1 & Presention 2 第 14 回　Unit 23: Various Requests 第 15 回　Unit 24:　Patent Description

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1220652
科目名	ビジネス英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「ビジネス英語Ⅰ」を発展、継承させる形で中級ビジネス英語演習を行う。英語によるコミュニケーション能力を測る TOEIC（Test of English for International communication）の問題を解くことによって、そのスコアアップを目指す。TOEIC の模擬テストおよび予想問題集を教材として用いて英語コミュニケーションの習熟度を測定し、スコアアップをはかるための実践的な演習を行い、「ビジネス英語Ⅰ」で身につけた基本的な語彙力と聴解力、読解力のさらなる向上を目指す。TOEIC に頻出する語彙、表現、文法事項を学習しながら、問題を体系的に攻略する。 このクラスで使用するテキストはストーリー仕立てとなっており、ストーリーを楽しみながら TOEIC のスコアアップをはかることができる。		
教材（テキスト）	Thomas Koch et. al.、Enjoy Studying the TOEIC Test（『ビジネス・ストーリーで学ぶ TOEIC Test』）、三修社、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．TOEIC に対応した問題演習に継続的に取り組むことにより、少なくとも 100 点以上のスコアアップをはかることができる。 2．ビジネスやビジネスに関連した生活場面で使用される英語表現に習熟し、将来、同様の生活場面において活用することができる。		
準備学習	1．次回授業で取り扱う Chapter の演習範囲を確認し、先ずその範囲の「語彙力増強のヒント」と「英文法一口メモ」とを読んでおく。 2．Listening Section（Parts 1-4）の問題については、問いと選択肢の英文とを読んで、意味のよく分からない語句があれば辞書などで調べておく。 3．Reading Section（Parts 5-7）の問題については、意味のよく分からない語があれば辞書などで調べながら、すべて解いておく。 4．いずれの問題においても、英文は何度も音読しておく。 5．教科書のいずれかの演習問題が小テストとなる。		

受講者への要望

1．「総合英語」において、大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力を定着化させ、大学においてさらに多くの語彙を習得して活用できるようになった学生、あるいは「ビジネス英語Ⅰ」において、初歩的なレベルのビジネス英語表現を習得した学生の履修を望む。

2．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。

3．TOEIC 公開テストか、または学内で実施されると思われる TOEIC-IP テストを受験すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 chapter 以上を終える予定であり、万一時間不足となった場合は、授業では省略する演習も生じる。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Chapter 1: A Presentation at a Meeting

2．TOEIC 公開テストおよび IP に関する説明、Chapter 2: Net Auction

3．Chapter 3: Advent of a Rival & Chapter 4: A Party at a Club

4．続 Chapter 4 & Chapter 5: Business Trip

5．Chapter 6: Physical Exercise & Chapter 7: Takeover a Company

6．続 Chapter 7 & Chapter 8: Childbirth
7．中間課題（Chapter 9: Entertainment of a Guest & Chapter 10: Shopping with a Friend）
8．中間課題の復習（Chapter 9 & Chapter 10）
9．Chapter 11: Workaholics & Chapter 12: Arguments
10．続 Chapter 12 & Chapter 13: Success in Winning a Contest
11．Chapter 14: Wedding Party & Chapter 15: A Failure in Business
12．続 Chapter 15 & Chapter 16: A Traffic Accident
13．Chapter 17: Business Negotiation & Chapter 18: At a Hospital
14．続 Chapter 18 & 期末課題（Chapter 19: Getting a Promotion & Chapter 20: Enjoying Sightseeing）
15．期末課題の復習（Chapter 19: & Chapter 20）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1220654
科目名	ビジネス英語II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	この授業は春学期開講の「ビジネス英語Ｉ」の上級クラスです。 世界中がインターネットでつながる現代、今後ますますグローバル化が進み、英語による情報の発信力、受信力がさらに問われる時代になります。この授業では、リスニング中心の奇数章と、リーディング中心の偶数章で構成されたテキストを用いて、ビジネスで必要な情報発信力と情報収集力の両方を学ぶことになります。 実際には、リスニング中心の奇数章では、英語のコミュニケーションをよりスムーズに行うために役立つ発音のこつや、テーマにそった語彙や表現を学びます。さらに発展問題としてストーリー仕立ての素材も用意されていますので、スピーキングに活用できるアクティブなリスニング能力の養成にも役立ちます。 一方、リーディング中心の偶数章では、ビジネスレターから広告や仕様書、操作マニュアルまで多様なジャンルの特徴を学ぶことができます。ビジネス文書や技術文書の多くは、ジャンルごとに特徴的なスタイル（文体）を持っています。こうしたスタイルになれることで、効率的な情報収集が可能となります。 このテキストで学んだ英語の受信力・発進力を目の前に広がるグローバル社会で活かせるよう、授業を進めていきたいと思っています。		
教材（テキスト）	Getting Global （金星堂）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など)。		
教材（その他）	テキストにはCDがついていませんが、テキスト購入者は音声を無料でダウンロードできるようになっています。テキストを購入して、各自で出版社のホームページにアクセスして、ダウンロードしてください。		
評価方法	「ビジネス英語II」では、授業中の発表など授業参加（20%)、課題提出（20%)、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	「ビジネス英語Ｉ」で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることを目標としています。EGP(English for General Purposes)からESP(English for Specific Purposes)へと、ビジネスシーンで英語を活用できるようになる。秋学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEICなどの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。		
受講者への要望			
授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。			
講義の順序とポイント			
第１回　Intoroduction to the class 第２回　Uni 1 & Unit 2:　Telephone 1 Business Email 第３回　Unit 3 & Unit 4:Telephone 1 Business Letter 第４回　Unit 5 & Unit 6: At the Reception Desk & Corporate Websites 第５回　Unit 7 & Unit 8: Company Profile & Product Advertisements 第６回　Unit 9 & Uni　10: Your Job & Productive Specifications 第７回　Unit 11 & Unit 12: Operating Instructions 第８回　Unit 13 & Unit 14:　Taking baout News & Science News 第９回　Unit 15 & Unit 16: Tourinst Information & Safety Signs 第１０回　Unit 17 & Unit 18: Dinner Talk & Abstracts 第１１回　Unit 19 : Preparation for Meetings 第１２回　Unit 20: Data and Graphs			

第 13 回　Unit 21 & Unit 22 : Presentation 1 & Presention 2 第 14 回　Unit 23: Various Requests 第 15 回　Unit 24:　Patent Description

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	JC1221101
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1221103
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第1課　人称代名詞など
5.発音基礎、第1課「是」など
6.発音基礎、第1課「請」など
7.発音基礎、第2課否定など
8.総合練習、第2課「的」など
9.会話、第3課　形容詞述語文など
10.会話、第3課　疑問詞など
11.会話、第4課　量詞など
12.会話、第4課　数詞など
13.会話、第5課　在、想、要
14.会話、第5課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1221105
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1221106
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	辻　周吾	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1221107
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	辻　周吾	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉頴著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1221201
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1221203
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	辻　周吾	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1221205
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2016	授業コード	JC1221206
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	辻　周吾	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1222101
科目名	ハングル Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1222103
科目名	ハングル Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1222104
科目名	ハングル Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1222105
科目名	ハングル Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1222106
科目名	ハングル Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1222201
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1222203
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1222204
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1222205
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JC1223101
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　発音の基礎（1）
2　発音の基礎（2）
3　自己紹介する
4　趣味を語る
5　お互いの趣味について会話する
6　体調をかたる
7　天候をたずねる
8　お互いの健康状態について会話する
9　時刻をたずねる
10　名詞の性になれる
11　店でいくらかたずねる
12　カフェで飲物を注文する
13　レストランで食物を注文する
14　できること、しなければならないことを語る
15　旅行会話のポイント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	★	ー	★	ー

年度	2016	授業コード	JC1223103
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　発音の基礎（1）
2　発音の基礎（2）
3　自己紹介する
4　趣味を語る
5　お互いの趣味について会話する
6　体調をかたる
7　天候をたずねる
8　お互いの健康状態について会話する
9　時刻をたずねる
10　名詞の性になれる
11　店でいくらかたずねる
12　カフェで飲物を注文する
13　レストランで食物を注文する
14　できること、しなければならないことを語る
15　旅行会話のポイント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JC1223104
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　発音の基礎（1）
2　発音の基礎（2）
3　自己紹介する
4　趣味を語る
5　お互いの趣味について会話する
6　体調をかたる
7　天候をたずねる
8　お互いの健康状態について会話する
9　時刻をたずねる
10　名詞の性になれる
11　店でいくらかたずねる
12　カフェで飲物を注文する
13　レストランで食物を注文する
14　できること、しなければならないことを語る
15　旅行会話のポイント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JC1223105
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　発音の基礎（1）
2　発音の基礎（2）
3　自己紹介する
4　趣味を語る
5　お互いの趣味について会話する
6　体調をかたる
7　天候をたずねる
8　お互いの健康状態について会話する
9　時刻をたずねる
10　名詞の性になれる
11　店でいくらかたずねる
12　カフェで飲物を注文する
13　レストランで食物を注文する
14　できること、しなければならないことを語る
15　旅行会話のポイント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JC1223201
科目名	ドイツ語II	単位数	2
科目名（英語表記）	German II		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	ドイツ語をすでに春学期に学習していて、発音の基礎が身についている学生対象の授業です。春学期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を、さらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。先生の様々な質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。なお、このクラスは、「ドイツ語Ｉ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　　前期のおさらい：命令とジェスチャー
2　　持っているか、持っていないか
3　　これは私のではない
4　　どこへ行くか
5　　どうやって行くか
6　　誰と行くか
7　　何を食べるか
8　　塩をとって
9　　英語を話せるか
10　私と一緒に行こう
11　気に入ってくれるといいね
12　ケーキはおいしい
13　何をしてたか
14　どこに行ってたか
15　楽しかった

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	★	ー	★	ー

年度	2016	授業コード	JC1223203
科目名	ドイツ語II	単位数	2
科目名（英語表記）	German II		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	ドイツ語をすでに春学期に学習していて、発音の基礎が身についている学生対象の授業です。春学期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を、さらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。先生の様々な質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。なお、このクラスは、「ドイツ語Ｉ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　　前期のおさらい：命令とジェスチャー
2　　持っているか、持っていないか
3　　これは私のではない
4　　どこへ行くか
5　　どうやって行くか
6　　誰と行くか
7　　何を食べるか
8　　塩をとって
9　　英語を話せるか
10　私と一緒に行こう
11　気に入ってくれるといいね
12　ケーキはおいしい
13　何をしてたか
14　どこに行ってたか
15　楽しかった

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JC1223204
科目名	ドイツ語II	単位数	2
科目名（英語表記）	German II		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	ドイツ語をすでに春学期に学習していて、発音の基礎が身についている学生対象の授業です。春学期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を、さらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。先生の様々な質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。なお、このクラスは、「ドイツ語Ｉ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　　前期のおさらい：命令とジェスチャー
2　　持っているか、持っていないか
3　　これは私のではない
4　　どこへ行くか
5　　どうやって行くか
6　　誰と行くか
7　　何を食べるか
8　　塩をとって
9　　英語を話せるか
10　私と一緒に行こう
11　気に入ってくれるといいね
12　ケーキはおいしい
13　何をしてたか
14　どこに行ってたか
15　楽しかった

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JC1224101
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		
受講者への要望			
1） 授業への積極的な参加を期待しています。 2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。 3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。			
講義の順序とポイント			
01. はじめに 02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1 03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説） 04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3 05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2 06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説） 07. Lecon 03 名前・住所について-2 08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説） 09. Lecon 04 所有-1 10. Lecon 04 所有-2 11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説） 12. Lecon 05 好み・嗜好について-1 13. Lecon 05 好み・嗜好について-2 14. Lecon 05 好み・嗜好について-3 15. 春学期内容確認、達成度確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	−	★

年度	2016	授業コード	JC1224103
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		
受講者への要望			
1） 授業への積極的な参加を期待しています。 2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。 3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。			
講義の順序とポイント			
01. はじめに 02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1 03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説） 04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3 05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2 06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説） 07. Lecon 03 名前・住所について-2 08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説） 09. Lecon 04 所有-1 10. Lecon 04 所有-2 11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説） 12. Lecon 05 好み・嗜好について-1 13. Lecon 05 好み・嗜好について-2 14. Lecon 05 好み・嗜好について-3 15. 春学期内容確認、達成度確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1224104
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		
受講者への要望			
1） 授業への積極的な参加を期待しています。 2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。 3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。			
講義の順序とポイント			
01. はじめに 02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1 03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説） 04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3 05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2 06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説） 07. Lecon 03 名前・住所について-2 08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説） 09. Lecon 04 所有-1 10. Lecon 04 所有-2 11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説） 12. Lecon 05 好み・嗜好について-1 13. Lecon 05 好み・嗜好について-2 14. Lecon 05 好み・嗜好について-3 15. 春学期内容確認、達成度確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1224201
科目名	フランス語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅱ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 09 身長・体重について-1
13. Lecon 09 身長・体重について-2
14. Lecon 09 身長・体重について-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	–	–	★

年度	2016	授業コード	JC1224203
科目名	フランス語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅱ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 09 身長・体重について-1
13. Lecon 09 身長・体重について-2
14. Lecon 09 身長・体重について-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1224204
科目名	フランス語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅱ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 09 身長・体重について-1
13. Lecon 09 身長・体重について-2
14. Lecon 09 身長・体重について-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1225101
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1225102
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1225103
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1225104
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1225201
科目名	日本語Ⅱ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.全体的な復習 2、試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2016	授業コード	JC1225202
科目名	日本語Ⅱ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.全体的な復習 2、試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1225203
科目名	日本語Ⅱ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.全体的な復習 2、試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1225204
科目名	日本語Ⅱ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.全体的な復習 2、試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1225601
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	JC1225602
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JC1225603
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	留学生に対して中級以上の作文力を養成することを目的とする。具体的にはテキストの練習問題を通じて基本を学び、毎回、小作文を実際に書いてもらうことによって応用力をつける。論文やエッセイ、手紙文といった多様な形式をカバーする。		
教材（テキスト）	小論文作成の１２のステップ　スリーエーネットワーク		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の小作文の累積評価と授業への貢献度		
到達目標	様々な作文の様式を理解し、それぞれ場合によって使い分けられるようになること。		
準備学習	各章のテクストをよく読み、練習問題を事前にやっておくこと。解らない言葉は辞書をひいておくこと。		
受講者への要望			
身近な日本語に関する疑問があれば授業で披露してほしい。みんなで考えましょう。			
講義の順序とポイント			
前半でテクストの解説と練習問題を行い、後半に小作文を書いてもらい、講評をする。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★★

年度	2016	授業コード	JC1225604
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	留学生に対して中級以上の作文力を養成することを目的とする。具体的にはテキストの練習問題を通じて基本を学び、毎回、小作文を実際に書いてもらうことによって応用力をつける。論文やエッセイ、手紙文といった多様な形式をカバーする。		
教材（テキスト）	小論文作成の１２のステップ　スリーエーネットワーク		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の小作文の累積評価と授業への貢献度		
到達目標	様々な作文の様式を理解し、それぞれ場合によって使い分けられるようになること。		
準備学習	各章のテクストをよく読み、練習問題を事前にやっておくこと。解らない言葉は辞書をひいておくこと。		
受講者への要望			
身近な日本語に関する疑問があれば授業で披露してほしい。みんなで考えましょう。			
講義の順序とポイント			
前半でテクストの解説と練習問題を行い、後半に小作文を書いてもらい、講評をする。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★★

年度	2016	授業コード	JC1226101
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	–	–	–

年度	2016	授業コード	JC1226102
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2016	授業コード	JC1226103
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する。		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2016	授業コード	JC1226201
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を１ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	–	–	–

年度	2016	授業コード	JC1226202
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を１ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1226203
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を１ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する。		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	JC1230102
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2016	授業コード	JC1230103
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230104
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230105
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230106
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230107
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230108
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230109
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230110
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230111
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230112
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230113
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230114
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230115
科目名	スタートアップゼミA 【秋入学】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230116
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230117
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として 1 年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400 字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2 回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3 回目：図書館利用ガイダンス。
4 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8 回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13 回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15 回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230120
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230121
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230122
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230123
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230124
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230125
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230126
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230127
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230128
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230130
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1230131
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230132
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230145
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	村田　友紀子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230146
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	夏山　洋子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230147
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	杉島　優子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230148
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230149
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高尾　憲司	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230150
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230151
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松井　達也	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230152
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	岡田　朱民	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230155
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230156
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鈴木　ひとみ	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230157
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230158
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230159
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230160
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230161
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230162
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230170
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む)、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%)、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明)、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明)、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明)、見学先を決める（ゼミ別)、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230171
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む)、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%)、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明)、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明)、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明)、見学先を決める（ゼミ別)、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230172
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む)、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%)、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明)、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明)、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明)、見学先を決める（ゼミ別)、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230173
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む)、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%)、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明)、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明)、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明)、見学先を決める（ゼミ別)、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230174
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む)、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%)、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明)、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明)、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明)、見学先を決める（ゼミ別)、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230176
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む)、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%)、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明)、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明)、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明)、見学先を決める（ゼミ別)、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2016	授業コード	JC1230177
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として健康を意識した生活態度を身につける。4 年間の就学中からケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味を持って対応し、予防医学や基礎医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポールを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介を操作方法の教育を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍などの記事を活用する		
評価方法	与えられた課題について各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	1．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること 2．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする、また、授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		

受講者への要望

自分自身の考えをしっかり持つこと。周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

1．　イントロダクション：大学で学ぶこと
2．　話しを聴くということ
3．　「活字」を読むこと
4．　「言いたいこと」を書く
5．　「聴いたこと」を書く：ノートの作成
6．　「調べる」ということ
7．　調べるための方法1：　図書館の活用
8．　調べるための方法2：　データベースの活用
9．　「考え」を整理する：ブレーンストーミング
10．　「考え」を整理する：KJ 法
11．　情報を集める
12．　集めた情報を読み解く
13．　集めた情報をまとめる
14．　成果発表：まとめた情報の発表
15．　成果発表：まとめた情報の発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JC1230178
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として健康を意識した生活態度を身につける。4 年間の就学中からケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味を持って対応し、予防医学や基礎医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポールを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介を操作方法の教育を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍などの記事を活用する		
評価方法	与えられた課題について各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	1．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること 2．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする、また、授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		

受講者への要望

自分自身の考えをしっかり持つこと。周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

1．　イントロダクション：大学で学ぶこと
2．　話しを聴くということ
3．　「活字」を読むこと
4．　「言いたいこと」を書く
5．　「聴いたこと」を書く：ノートの作成
6．　「調べる」ということ
7．　調べるための方法1：　図書館の活用
8．　調べるための方法2：　データベースの活用
9．　「考え」を整理する：ブレーンストーミング
10．　「考え」を整理する：KJ 法
11．　情報を集める
12．　集めた情報を読み解く
13．　集めた情報をまとめる
14．　成果発表：まとめた情報の発表
15．　成果発表：まとめた情報の発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JC1230179
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として健康を意識した生活態度を身につける。4 年間の就学中からケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味を持って対応し、予防医学や基礎医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポールを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介を操作方法の教育を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍などの記事を活用する		
評価方法	与えられた課題について各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	1．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること 2．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする、また、授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
自分自身の考えをしっかり持つこと。周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。			
講義の順序とポイント			
1．　イントロダクション：大学で学ぶこと 2．　話しを聴くということ 3．　「活字」を読むこと 4．　「言いたいこと」を書く 5．　「聴いたこと」を書く：ノートの作成 6．　「調べる」ということ 7．　調べるための方法1：　図書館の活用 8．　調べるための方法2：　データベースの活用 9．　「考え」を整理する：ブレーンストーミング 10．　「考え」を整理する：KJ 法 11．　情報を集める 12．　集めた情報を読み解く 13．　集めた情報をまとめる 14．　成果発表：まとめた情報の発表 15．　成果発表：まとめた情報の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JC1230180
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として健康を意識した生活態度を身につける。4 年間の就学中からケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味を持って対応し、予防医学や基礎医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポールを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介を操作方法の教育を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍などの記事を活用する		
評価方法	与えられた課題について各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	1．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ 説明できるようになること 2．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする、また、授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		

受講者への要望

自分自身の考えをしっかり持つこと。周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

1．　イントロダクション：大学で学ぶこと
2．　話しを聴くということ
3．　「活字」を読むこと
4．　「言いたいこと」を書く
5．　「聴いたこと」を書く：ノートの作成
6．　「調べる」ということ
7．　調べるための方法1：　図書館の活用
8．　調べるための方法2：　データベースの活用
9．　「考え」を整理する：ブレーンストーミング
10．「考え」を整理する：KJ 法
11．情報を集める
12．集めた情報を読み解く
13．集めた情報をまとめる
14．成果発表：まとめた情報の発表
15．成果発表：まとめた情報の発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	JC1230184
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として健康を意識した生活態度を身につける。4 年間の就学中からケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味を持って対応し、予防医学や基礎医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポールを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介を操作方法の教育を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌・書籍などの記事を活用する		
評価方法	与えられた課題について各ゼミで発表を行い総合的に評価する		
到達目標	1．健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること 2．大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする、また、授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
自分自身の考えをしっかり持つこと。周りの人たちとコミュニケーションを図り、自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション：大学で学ぶこと 2．話しを聴くということ 3．「活字」を読むこと 4．「言いたいこと」を書く 5．「聴いたこと」を書く：ノートの作成 6．「調べる」ということ 7．調べるための方法1：図書館の活用 8．調べるための方法2：データベースの活用 9．「考え」を整理する：ブレーンストーミング 10．「考え」を整理する：KJ 法 11．情報を集める 12．集めた情報を読み解く 13．集めた情報をまとめる 14．成果発表：まとめた情報の発表 15．成果発表：まとめた情報の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JC1230201
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230202
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230203
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230204
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230205
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230206
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230207
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230208
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230209
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230210
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230211
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230213
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2016	授業コード	JC1230221
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
13．レポートを作成する③
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230223
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230224
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
13．レポートを作成する③
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230225
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
13．レポートを作成する③
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230226
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230227
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230228
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
13．レポートを作成する③
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230229
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
13．レポートを作成する③
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230230
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1230231
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
13．レポートを作成する③
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC1230237
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１３．レポートを作成する③
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1230238
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
13．レポートを作成する③
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2016	授業コード	JC1230247
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	杉島　優子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230248
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230249
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	高尾　憲司	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230250
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230251
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	松井　達也	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230252
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	岡田　朱民	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230253
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	夏山　洋子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230254
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	村田　友紀子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230255
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230256
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鈴木　ひとみ	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230257
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230258
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230259
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230260
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230261
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230262
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する。		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーション発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	JC1230271
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
講義概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。「スタートアップゼミA」で得たスタディ・スキルを踏まえて、①「レポートを書く」：個別あるいは全体のテーマで、短いレポートを書く、②「発表をする」：レポートで取り上げた内容についての効果的なプレゼンテーションを準備・実行し、他者との質疑応答や討議をし、教員による評価を行う。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	講義時間内に配布する。		
教材（参考文献）	『学生・研究者のための使える！PowerPoint スライドデザイン　伝わるプレゼン１つの原理と３つの技術』（化学同人）　宮野公樹　著　1,944 円 『学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術　ポスター発表を成功に導くプレゼン手法』(化学同人)　宮野公樹　著　2,052 円 『はじめてのディベート　聴く・話す・考える力を身につける』(あさ出版)　西部直樹　著　1,620 円		
教材（その他）	レポートやディベートに必要となる資料は、「スタートアップゼミ A」で得たスキルをもとに、各自で文献検索をして収集する。		
評価方法	プレゼンテーション（２０％）、中間レポート（３０％）、ディベート（２０％）、期末レポート（３０％） 1.プレゼンテーションおよびディベートの発表当日に欠席した者は、当該評価（各２０％）を０点とする。 2.中間レポートおよび期末レポート（期日厳守）の未提出者は不合格とする。		
到達目標	スタートアップゼミBの目標は、ゼミAで学んだ「情報を集め記述する能力」を基礎として、論理的な議論を展開するための技術を身に付けることである。 個別あるいは全体のテーマでレポートを作成して、効果的なプレゼンテーションを準備・実践する。他者との質疑応答や討論を通して、情報の収集と活用、説得力のある論理の組み立て、相手の主張を理解して問題点を発見・指摘する、といったコミュニケーション能力を育成する。		
準備学習	１．レポートやディベートに必要となる資料は、各自で文献検索をして収集する。 ２．収集した資料は、事前に（次のゼミBの講義までに）読んで内容を把握する。 ３．論点を整理して、プレゼンテーションの方略を検討する。 ４．グループ内で役割を決め、プレゼンテーションを練習する。		
受講者への要望			
テーマに関連する資料を収集しておくなど、準備学習を進めておくことが重要である。グループ活動にあたり、チーム内で役割分担をして、個々人が責任を果たすことを望む。			
講義の順序とポイント			
１．講義概要の説明、情報収集の方法、プレゼンテーションの方法 ２．プレゼンテーションの準備（１日見学のフィードバック） ３．プレゼンテーションの準備（１日見学のフィードバック） ４．プレゼンテーションの実践 ５．プレゼンテーションの実践 ６．プレゼンテーションの実践 ７．プレゼンテーションの実践、中間レポートの提出 ８．ディベートの説明、テーマの設定 ９．情報の収集 １０．情報の収集（収集した情報の共有） １１．立論の作成、反駁の準備 １２．立論の作成、反駁の準備 １３．ディベートの実践 １４．ディベートの実践 １５．ディベートの実践、期末レポートの提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	-	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230272
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	弓削　明子	旧科目名称	
講義概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。「スタートアップゼミA」で得たスタディ・スキルを踏まえて、①「レポートを書く」：個別あるいは全体のテーマで、短いレポートを書く、②「発表をする」：レポートで取り上げた内容についての効果的なプレゼンテーションを準備・実行し、他者との質疑応答や討議をし、教員による評価を行う。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	講義時間内に配布する。		
教材（参考文献）	『学生・研究者のための使える！PowerPoint スライドデザイン　伝わるプレゼン１つの原理と３つの技術』（化学同人）　宮野公樹　著　1,944 円 『学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術　ポスター発表を成功に導くプレゼン手法』(化学同人)　宮野公樹　著　2,052 円 『はじめてのディベート　聴く・話す・考える力を身につける』(あさ出版)　西部直樹　著　1,620 円		
教材（その他）	レポートやディベートに必要となる資料は、「スタートアップゼミ A」で得たスキルをもとに、各自で文献検索をして収集する。		
評価方法	プレゼンテーション（２０％）、中間レポート（３０％）、ディベート（２０％）、期末レポート（３０％） 1.プレゼンテーションおよびディベートの発表当日に欠席した者は、当該評価（各２０％）を０点とする。 2.中間レポートおよび期末レポート（期日厳守）の未提出者は不合格とする。		
到達目標	スタートアップゼミBの目標は、ゼミAで学んだ「情報を集め記述する能力」を基礎として、論理的な議論を展開するための技術を身に付けることである。 個別あるいは全体のテーマでレポートを作成して、効果的なプレゼンテーションを準備・実践する。他者との質疑応答や討論を通して、情報の収集と活用、説得力のある論理の組み立て、相手の主張を理解して問題点を発見・指摘する、といったコミュニケーション能力を育成する。		
準備学習	１．レポートやディベートに必要となる資料は、各自で文献検索をして収集する。 ２．収集した資料は、事前に（次のゼミBの講義までに）読んで内容を把握する。 ３．論点を整理して、プレゼンテーションの方略を検討する。 ４．グループ内で役割を決め、プレゼンテーションを練習する。		
受講者への要望			
テーマに関連する資料を収集しておくなど、準備学習を進めておくことが重要である。グループ活動にあたり、チーム内で役割分担をして、個々人が責任を果たすことを望む。			
講義の順序とポイント			
１．講義概要の説明、情報収集の方法、プレゼンテーションの方法 ２．プレゼンテーションの準備（１日見学のフィードバック） ３．プレゼンテーションの準備（１日見学のフィードバック） ４．プレゼンテーションの実践 ５．プレゼンテーションの実践 ６．プレゼンテーションの実践 ７．プレゼンテーションの実践、中間レポートの提出 ８．ディベートの説明、テーマの設定 ９．情報の収集 １０．情報の収集（収集した情報の共有） １１．立論の作成、反駁の準備 １２．立論の作成、反駁の準備 １３．ディベートの実践 １４．ディベートの実践 １５．ディベートの実践、期末レポートの提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	-	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JC1230273
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	外山　稔	旧科目名称	
講義概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。「スタートアップゼミA」で得たスタディ・スキルを踏まえて、①「レポートを書く」：個別あるいは全体のテーマで、短いレポートを書く、②「発表をする」：レポートで取り上げた内容についての効果的なプレゼンテーションを準備・実行し、他者との質疑応答や討議をし、教員による評価を行う。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	講義時間内に配布する。		
教材（参考文献）	『学生・研究者のための使える！PowerPoint スライドデザイン　伝わるプレゼン１つの原理と３つの技術』（化学同人）　宮野公樹　著　1,944 円 『学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術　ポスター発表を成功に導くプレゼン手法』(化学同人)　宮野公樹　著　2,052 円 『はじめてのディベート　聴く・話す・考える力を身につける』(あさ出版)　西部直樹　著　1,620 円		
教材（その他）	レポートやディベートに必要となる資料は、「スタートアップゼミ A」で得たスキルをもとに、各自で文献検索をして収集する。		
評価方法	プレゼンテーション（２０％）、中間レポート（３０％）、ディベート（２０％）、期末レポート（３０％） 1.プレゼンテーションおよびディベートの発表当日に欠席した者は、当該評価（各２０％）を０点とする。 2.中間レポートおよび期末レポート（期日厳守）の未提出者は不合格とする。		
到達目標	スタートアップゼミBの目標は、ゼミAで学んだ「情報を集め記述する能力」を基礎として、論理的な議論を展開するための技術を身に付けることである。 個別あるいは全体のテーマでレポートを作成して、効果的なプレゼンテーションを準備・実践する。他者との質疑応答や討論を通して、情報の収集と活用、説得力のある論理の組み立て、相手の主張を理解して問題点を発見・指摘する、といったコミュニケーション能力を育成する。		
準備学習	１．レポートやディベートに必要となる資料は、各自で文献検索をして収集する。 ２．収集した資料は、事前に（次のゼミBの講義までに）読んで内容を把握する。 ３．論点を整理して、プレゼンテーションの方略を検討する。 ４．グループ内で役割を決め、プレゼンテーションを練習する。		
受講者への要望			
テーマに関連する資料を収集しておくなど、準備学習を進めておくことが重要である。グループ活動にあたり、チーム内で役割分担をして、個々人が責任を果たすことを望む。			
講義の順序とポイント			
１．講義概要の説明、情報収集の方法、プレゼンテーションの方法 ２．プレゼンテーションの準備（１日見学のフィードバック） ３．プレゼンテーションの準備（１日見学のフィードバック） ４．プレゼンテーションの実践 ５．プレゼンテーションの実践 ６．プレゼンテーションの実践 ７．プレゼンテーションの実践、中間レポートの提出 ８．ディベートの説明、テーマの設定 ９．情報の収集 １０．情報の収集（収集した情報の共有） １１．立論の作成、反駁の準備 １２．立論の作成、反駁の準備 １３．ディベートの実践 １４．ディベートの実践 １５．ディベートの実践、期末レポートの提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	★	−	★

年度	2016	授業コード	JC1230276
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミ A で習得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心あるテーマを設定し、それぞれを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして、設定したテーマについて他者に説明できるようにふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	1．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 2．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 3．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミ A」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．レポート・論文とは 3．レポート・論文の書式 4．テーマ（主題）を決める 5．アウトライン・暫定目次の作成 6．資料・データの収集 7．資料・データの整理 8．目次の詳細検討と確定（理論の道筋の確定） 9．原稿の執筆・表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．学科全体による発表会と総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2016	授業コード	JC1230277
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミ A で習得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心あるテーマを設定し、それぞれを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして、設定したテーマについて他者に説明できるようにふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 ２．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミ A」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート・論文の書式 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（理論の道筋の確定） ９．原稿の執筆・表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．学科全体による発表会と総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JC1230278
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミ A で習得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心あるテーマを設定し、それぞれを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして、設定したテーマについて他者に説明できるようにふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 ２．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミ A」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート・論文の書式 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（理論の道筋の確定） ９．原稿の執筆・表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．学科全体による発表会と総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JC1230279
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで習得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心あるテーマを設定し、それぞれを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして、設定したテーマについて他者に説明できるようにふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 ２．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート・論文の書式 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（理論の道筋の確定） ９．原稿の執筆・表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．学科全体による発表会と総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JC1230284
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミ A で習得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心あるテーマを設定し、それぞれを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして、設定したテーマについて他者に説明できるようにふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 ２．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミ A」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート・論文の書式 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（理論の道筋の確定） ９．原稿の執筆・表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．学科全体による発表会と総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000111
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000112
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2016	授業コード	JC2000113
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000114
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000115
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000116
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000117
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000118
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000119
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000120
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000121
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000122
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000123
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000124
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000125
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000126
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000127
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000128
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000129
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000131
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000132
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000133
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000134
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000135
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000136
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000137
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000138
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JC2000211
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000212
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2016	授業コード	JC2000213
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000214
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000215
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000216
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000217
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000218
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000219
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000220
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000221
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000222
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000223
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000224
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000225
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000226
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000227
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000229
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000230
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000231
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000232
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000233
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000234
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生諸君の場合，卒業後すぐに求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そのため，このような役割の転換に備えて様々な視点を持つことが必要です。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる自己理解・社会理解を促進させることができる 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　働くことを考える（1）
8.　ブラック企業，ブラックバイトを考える
9.　様々な職業，仕事を調べてみよう
10. 働くことを考える（2）
11. 働くこととお金の話
12. 働く上での価値観を知ろう
13. 社会人の働く姿
14. 仕事に対する理解を深めよう
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000301
科目名	労働と社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Society		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	社会における労働の仕組みを理解し、その仕組みの中に法を位置づけて、法の機能を講義する。その際、長期雇用システムからの雇用管理についても講義する。 具体的には、労働における当事者・規範・人事管理・企業の運営・職業キャリアの展開・引退の過程・労働組合運営・労使交渉などについて、法律および判例理論を中心に講義する。		
教材（テキスト）	菅野和夫ほか編『実践・変化する雇用社会と法』（有斐閣、2006 年）2900 円＋税 最新版六法		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則 1 回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	労働の仕組みおよび長期雇用システムの変化について理解する。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

休憩時間にトイレをすませ、携帯電やスマートフォンの電源を切って、能動的な姿勢で講義に出席すること。受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。キャリア科目なので、受講態度はとくに重視する。

教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴニュース等で労働に関連する問題に大いに関心を持つこと。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意
第 2 回　労働の概観（歴史・労働法とは）
第 3 回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第 4 回　労働契約と権利・義務　就業規則
第 5 回　労働協約
第 6 回　個別化する労働条件（1）　成果主義の導入
第 7 回　個別化する労働条件（2）　労働能力不足と解雇
第 8 回　多様化するワークスタイル（1）　パート店長の処遇
第 9 回　多様化するワークスタイル（2）　在宅勤務における労務管理
第 10 回　不安定化する雇用(1)　労働基準法の適用除外とされる管理監督者の範囲
第 11 回　不安定化する雇用（2）　引退の過程における配置転換と出向
第 12 回　男性中心社会からの脱却（1）　コース別人事管理制度と間接差別
第 13 回　男性中心社会からの脱却（2）　家庭責任とキャリア
第 14 回　脱皮を迫られる労働組合（1）　パートタイマーの増加と労働組合の運営
第 15 回　脱皮を迫られる労働組合（2）　労使協議とインサイダー情報規制への対応

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	JC2000302
科目名	労働と社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Society		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	社会における労働の仕組みを理解し、その仕組みの中に法を位置づけて、法の機能を講義する。その際、長期雇用システムからの雇用管理についても講義する。 具体的には、労働における当事者・規範・人事管理・企業の運営・職業キャリアの展開・引退の過程・労働組合運営・労使交渉などについて、法律および判例理論を中心に講義する。		
教材（テキスト）	菅野和夫ほか編『実践・変化する雇用社会と法』（有斐閣、2006 年）2900 円＋税 最新版六法		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則 1 回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	労働の仕組みおよび長期雇用システムの変化について理解する。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

休憩時間にトイレをすませ、携帯電やスマートフォンの電源を切って、能動的な姿勢で講義に出席すること。受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。キャリア科目なので、受講態度はとくに重視する。

教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴニュース等で労働に関連する問題に大いに関心を持つこと。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意
第 2 回　労働の概観（歴史・労働法とは）
第 3 回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第 4 回　労働契約と権利・義務　就業規則
第 5 回　労働協約
第 6 回　個別化する労働条件（1）　成果主義の導入
第 7 回　個別化する労働条件（2）　労働能力不足と解雇
第 8 回　多様化するワークスタイル（1）　パート店長の処遇
第 9 回　多様化するワークスタイル（2）　在宅勤務における労務管理
第 10 回　不安定化する雇用(1)　労働基準法の適用除外とされる管理監督者の範囲
第 11 回　不安定化する雇用（2）　引退の過程における配置転換と出向
第 12 回　男性中心社会からの脱却（1）　コース別人事管理制度と間接差別
第 13 回　男性中心社会からの脱却（2）　家庭責任とキャリア
第 14 回　脱皮を迫られる労働組合（1）　パートタイマーの増加と労働組合の運営
第 15 回　脱皮を迫られる労働組合（2）　労使協議とインサイダー情報規制への対応

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JC2000402
科目名	仕事とキャリア形成	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Career Planning		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「働く」ということについて、社会・組織の視点と個人の視点との双方から考えます。社会・組織の視点として、組織が個人に求める要件の変化や多様化する雇用形態などについて概説します。個人の視点としては、自己の強みや価値観、またモチベーションの原点や人生全体における仕事の位置づけについて考える枠組みを提供します。社会と組織、および個人の双方の視点を取り入れることにより、職業社会へのスムーズな移行と、自己のキャリアを切りひらく力を育むことを目的としています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1.　組織と個人の関係性を踏まえ、職業社会への適応に必要な条件を理解する。 2.　自分が望む生き方や働き方を考え、その実現に向けて一歩踏み出すことができる。		
準備学習	・毎回の授業の最後に、次の授業のテーマを発表し、そのテーマに関係する情報を得てくるよう求める。次の授業の冒頭では、考えたことについて話し合う、もしくは出席票に書く時間を設けるので準備をしてくること。 ・前項とも関係するが、授業の最初と最後に各回のテーマに関する「問い」を出題する。授業開始時と終了時に出した「問い」についての答えが書いている出席票の提出を求める。		
受講者への要望			
1.　講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施する回があるので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス：「働く」ことについて考える 2.　産業社会の変化と働く環境の変化 3.　組織と個人の関係性 I 4.　組織と個人の関係性 II 5.　職業・ワークスタイル研究 I 6.　職業・ワークスタイル研究 II 7.　職業・ワークスタイル研究III 8.　働く人のモチベーション 9.　仕事と人生と幸福感 10.　大学から職業社会への移行の現状 11.　職業人生の始まり：採用する側から捉える「就職活動」 12.　自分が望む働き方を思い描く I 13.　自分が望む働き方を思い描く II 14.　自分が望む働き方を思い描く III 15.　まとめ：幸せな職業人生のために			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	★	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	JC2000403
科目名	仕事とキャリア形成	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Career Planning		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「働く」ということについて、社会・組織の視点と個人の視点との双方から考えます。社会・組織の視点として、組織が個人に求める要件の変化や多様化する雇用形態などについて概説します。個人の視点としては、自己の強みや価値観、またモチベーションの原点や人生全体における仕事の位置づけについて考える枠組みを提供します。社会と組織、および個人の双方の視点を取り入れることにより、職業社会へのスムーズな移行と、自己のキャリアを切りひらく力を育むことを目的としています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1. 組織と個人の関係性を踏まえ、職業社会への適応に必要な条件を理解する。 2. 自分が望む生き方や働き方を考え、その実現に向けて一歩踏み出すことができる。		
準備学習	・毎回の授業の最後に、次の授業のテーマを発表し、そのテーマに関係する情報を得てくるよう求める。次の授業の冒頭では、考えたことについて話し合う、もしくは出席票に書く時間を設けるので準備をしてくること。 ・前項とも関係するが、授業の最初と最後に各回のテーマに関する「問い」を出題する。授業開始時と終了時に出した「問い」についての答えが書いている出席票の提出を求める。		
受講者への要望			
1. 講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施する回があるので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：「働く」ことについて考える 2. 産業社会の変化と働く環境の変化 3. 組織と個人の関係性 I 4. 組織と個人の関係性 II 5. 職業・ワークスタイル研究 I 6. 職業・ワークスタイル研究 II 7. 職業・ワークスタイル研究III 8. 働く人のモチベーション 9. 仕事と人生と幸福感 10. 大学から職業社会への移行の現状 11. 職業人生の始まり：採用する側から捉える「就職活動」 12. 自分が望む働き方を思い描く I 13. 自分が望む働き方を思い描く II 14. 自分が望む働き方を思い描くIII 15. まとめ：幸せな職業人生のために			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JC2000501
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後の 60 年の人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、不確実性やリスクに対する備えという視点から、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的事例に基づいて受講者各自が検討しデザインする。		
教材（テキスト）	滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版		
教材（参考文献）	・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店 ・石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50％　　レポート 20％　　期末試験 30％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）各イベントに関連する費用・支出について概算し、その準備計画を立案する。		
準備学習	翌週に扱う課題についての配布資料を予め目を通しておくこと		

受講者への要望

（1）人生 80 年の基本計画とその実現のための課題を整理すること
（2）Excel の基本的な使用方法を確認しておくこと
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．就職活動とその費用１：概算
4．就職活動費用とその費用２：準備計画
5．結婚とその費用１：概算
6．結婚とその費用２：準備計画
7．住宅取得とその費用１：概算
8．住宅取得とその費用２：準備計画

【Ⅲ】資産運用とリスクへの備え
9．株式投資入門１：配当と株主優待から選ぶ株取引
１０．株式投資入門２：キャピタルゲインを目指しての株取引－各種指標の意味－
１１．株式投資入門３：株取引のシミュレーション
１２．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
１３．失業のリスクへの備え：雇用保険、就職促進給付、教育促進給付、労災保険
１４．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資金計画立案の実践
１５．子ども関連の資金計画：出産と教育を中心とした資金計画の立案

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	JC2000502
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後の 60 年の人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、不確実性やリスクに対する備えという視点から、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的事例に基づいて受講者各自が検討しデザインする。		
教材（テキスト）	滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版		
教材（参考文献）	・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店 ・石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50％　　レポート 20％　　期末試験 30％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）各イベントに関連する費用・支出について概算し、その準備計画を立案する。		
準備学習	翌週に扱う課題についての配布資料を予め目を通しておくこと		

受講者への要望

（1）人生 80 年の基本計画とその実現のための課題を整理すること
（2）Excel の基本的な使用方法を確認しておくこと
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．就職活動とその費用１：概算
4．就職活動費用とその費用２：準備計画
5．結婚とその費用１：概算
6．結婚とその費用２：準備計画
7．住宅取得とその費用１：概算
8．住宅取得とその費用２：準備計画

【Ⅲ】資産運用とリスクへの備え
9．株式投資入門１：配当と株主優待から選ぶ株取引
１０．株式投資入門２：キャピタルゲインを目指しての株取引－各種指標の意味－
１１．株式投資入門３：株取引のシミュレーション
１２．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
１３．失業のリスクへの備え：雇用保険、就職促進給付、教育促進給付、労災保険
１４．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資金計画立案の実践
１５．子ども関連の資金計画：出産と教育を中心とした資金計画の立案

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	JC2000503
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後の 60 年の人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、不確実性やリスクに対する備えという視点から、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的事例に基づいて受講者各自が検討しデザインする。		
教材（テキスト）	滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版		
教材（参考文献）	・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店 ・石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50％　　レポート 20％　　期末試験 30％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）各イベントに関連する費用・支出について概算し、その準備計画を立案する。		
準備学習	翌週に扱う課題についての配布資料を予め目を通しておくこと		

受講者への要望

（1）人生 80 年の基本計画とその実現のための課題を整理すること
（2）Excel の基本的な使用方法を確認しておくこと
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．就職活動とその費用１：概算
4．就職活動費用とその費用２：準備計画
5．結婚とその費用１：概算
6．結婚とその費用２：準備計画
7．住宅取得とその費用１：概算
8．住宅取得とその費用２：準備計画

【Ⅲ】資産運用とリスクへの備え
9．株式投資入門１：配当と株主優待から選ぶ株取引
１０．株式投資入門２：キャピタルゲインを目指しての株取引－各種指標の意味－
１１．株式投資入門３：株取引のシミュレーション
１２．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
１３．失業のリスクへの備え：雇用保険、就職促進給付、教育促進給付、労災保険
１４．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資金計画立案の実践
１５．子ども関連の資金計画：出産と教育を中心とした資金計画の立案

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	JC2000504
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後の 60 年の人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、不確実性やリスクに対する備えという視点から、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的事例に基づいて受講者各自が検討しデザインする。		
教材（テキスト）	滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版		
教材（参考文献）	・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店 ・石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50％　　レポート 20％　　期末試験 30％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）各イベントに関連する費用・支出について概算し、その準備計画を立案する。		
準備学習	翌週に扱う課題についての配布資料を予め目を通しておくこと		

受講者への要望

（1）人生 80 年の基本計画とその実現のための課題を整理すること
（2）Excel の基本的な使用方法を確認しておくこと
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．就職活動とその費用１：概算
4．就職活動費用とその費用２：準備計画
5．結婚とその費用１：概算
6．結婚とその費用２：準備計画
7．住宅取得とその費用１：概算
8．住宅取得とその費用２：準備計画

【Ⅲ】資産運用とリスクへの備え
9．株式投資入門１：配当と株主優待から選ぶ株取引
１０．株式投資入門２：キャピタルゲインを目指しての株取引－各種指標の意味－
１１．株式投資入門３：株取引のシミュレーション
１２．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
１３．失業のリスクへの備え：雇用保険、就職促進給付、教育促進給付、労災保険
１４．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資金計画立案の実践
１５．子ども関連の資金計画：出産と教育を中心とした資金計画の立案

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	★	-

年度	2016	授業コード	JC2100101
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：社会人になるためのビジネスコミュニケーション＆マナー ビジネス教育実践学会監修　中村克彦編著　(株)インフォテックサーブ　(600 円+税) (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	必要に応じて、資料を配布する。		
評価方法	・平常点：60 点（出席、遅刻早退状況、取り組み姿勢、学生の理解度の総合）　提出物と発表：40 点　合計 100 点 ・平常点の評価が大きいため、欠席が 3 分の 1 を超えた場合、単位は付与しない。 ・社会人として必要な事を学ぶ科目である。平常点で取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退室を促す。		
到達目標	・ビジネスの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度や技能を身につける。 ・①②で学んだことをふまえ、実践場面で活用できるようにする。		
準備学習	授業内で指示するテキスト、参考文献等について、指示された箇所を読んでくること。		

受講者への要望

実践的な内容であるため、コミュニケーションを前提とした学生主体の参加型である。参加しなければ目標到達は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方と実践における基本的な考え方
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：基本編①
（5）コミュニケーション：基本編②
（6）コミュニケーション：応対編①
（7）コミュニケーション：応対編②
（8）ビジネス文書の基本
(9) 総合実習①
(10) 総合実習②
(11) 総合実習③
(12) 総合実習④
(13) 総合実習⑤
(14) 総合実習⑥
(15) 総合実習の振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2016	授業コード	JC2100102
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：社会人になるためのビジネスコミュニケーション＆マナー ビジネス教育実践学会監修　中村克彦編著　(株)インフォテックサーブ　(600 円+税) (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	必要に応じて、資料を配布する。		
評価方法	・平常点：60 点（出席、遅刻早退状況、取り組み姿勢、学生の理解度の総合）　提出物と発表：40 点　合計 100 点 ・平常点の評価が大きいため、欠席が 3 分の 1 を超えた場合、単位は付与しない。 ・社会人として必要な事を学ぶ科目である。平常点で取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退室を促す。		
到達目標	・ビジネスの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度や技能を身につける。 ・①②で学んだことをふまえ、実践場面で活用できるようにする。		
準備学習	授業内で指示するテキスト、参考文献等について、指示された箇所を読んでくること。		

受講者への要望

実践的な内容であるため、コミュニケーションを前提とした学生主体の参加型である。参加しなければ目標到達は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方と実践における基本的な考え方
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：基本編①
（5）コミュニケーション：基本編②
（6）コミュニケーション：応対編①
（7）コミュニケーション：応対編②
（8）ビジネス文書の基本
(9) 総合実習①
(10) 総合実習②
(11) 総合実習③
(12) 総合実習④
(13) 総合実習⑤
(14) 総合実習⑥
(15) 総合実習の振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC2100103
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：社会人になるためのビジネスコミュニケーション＆マナー ビジネス教育実践学会監修　中村克彦編著　(株)インフォテックサーブ　(600 円+税) (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	必要に応じて、資料を配布する。		
評価方法	・平常点：60 点（出席、遅刻早退状況、取り組み姿勢、学生の理解度の総合）　提出物と発表：40 点　合計 100 点 ・平常点の評価が大きいため、欠席が 3 分の 1 を超えた場合、単位は付与しない。 ・社会人として必要な事を学ぶ科目である。平常点で取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退室を促す。		
到達目標	・ビジネスの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度や技能を身につける。 ・①②で学んだことをふまえ、実践場面で活用できるようにする。		
準備学習	授業内で指示するテキスト、参考文献等について、指示された箇所を読んでくること。		

受講者への要望

実践的な内容であるため、コミュニケーションを前提とした学生主体の参加型である。参加しなければ目標到達は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方と実践における基本的な考え方
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：基本編①
（5）コミュニケーション：基本編②
（6）コミュニケーション：応対編①
（7）コミュニケーション：応対編②
（8）ビジネス文書の基本
(9) 総合実習①
(10) 総合実習②
(11) 総合実習③
(12) 総合実習④
(13) 総合実習⑤
(14) 総合実習⑥
(15) 総合実習の振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC2100104
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：社会人になるためのビジネスコミュニケーション＆マナー ビジネス教育実践学会監修　中村克彦編著　(株)インフォテックサーブ　(600 円+税) (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	必要に応じて、資料を配布する。		
評価方法	・平常点：60 点（出席、遅刻早退状況、取り組み姿勢、学生の理解度の総合）　提出物と発表：40 点　合計 100 点 ・平常点の評価が大きいため、欠席が 3 分の 1 を超えた場合、単位は付与しない。 ・社会人として必要な事を学ぶ科目である。平常点で取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退室を促す。		
到達目標	・ビジネスの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度や技能を身につける。 ・①②で学んだことをふまえ、実践場面で活用できるようにする。		
準備学習	授業内で指示するテキスト、参考文献等について、指示された箇所を読んでくること。		

受講者への要望

実践的な内容であるため、コミュニケーションを前提とした学生主体の参加型である。参加しなければ目標到達は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方と実践における基本的な考え方
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：基本編①
（5）コミュニケーション：基本編②
（6）コミュニケーション：応対編①
（7）コミュニケーション：応対編②
（8）ビジネス文書の基本
(9) 総合実習①
(10) 総合実習②
(11) 総合実習③
(12) 総合実習④
(13) 総合実習⑤
(14) 総合実習⑥
(15) 総合実習の振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC2100105
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：社会人になるためのビジネスコミュニケーション＆マナー ビジネス教育実践学会監修　中村克彦編著　(株)インフォテックサーブ　(600 円+税) (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	必要に応じて、資料を配布する。		
評価方法	・平常点：60 点（出席、遅刻早退状況、取り組み姿勢、学生の理解度の総合）　提出物と発表：40 点　合計 100 点 ・平常点の評価が大きいため、欠席が 3 分の 1 を超えた場合、単位は付与しない。 ・社会人として必要な事を学ぶ科目である。平常点で取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退室を促す。		
到達目標	・ビジネスの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度や技能を身につける。 ・①②で学んだことをふまえ、実践場面で活用できるようにする。		
準備学習	授業内で指示するテキスト、参考文献等について、指示された箇所を読んでくること。		

受講者への要望

実践的な内容であるため、コミュニケーションを前提とした学生主体の参加型である。参加しなければ目標到達は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方と実践における基本的な考え方
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：基本編①
（5）コミュニケーション：基本編②
（6）コミュニケーション：応対編①
（7）コミュニケーション：応対編②
（8）ビジネス文書の基本
(9) 総合実習①
(10) 総合実習②
(11) 総合実習③
(12) 総合実習④
(13) 総合実習⑤
(14) 総合実習⑥
(15) 総合実習の振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC2100106
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：社会人になるためのビジネスコミュニケーション＆マナー ビジネス教育実践学会監修　中村克彦編著　(株)インフォテックサーブ　(600 円+税) (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	必要に応じて、資料を配布する。		
評価方法	・平常点：60 点（出席、遅刻早退状況、取り組み姿勢、学生の理解度の総合）　提出物と発表：40 点　合計 100 点 ・平常点の評価が大きいため、欠席が 3 分の 1 を超えた場合、単位は付与しない。 ・社会人として必要な事を学ぶ科目である。平常点で取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退室を促す。		
到達目標	・ビジネスの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度や技能を身につける。 ・①②で学んだことをふまえ、実践場面で活用できるようにする。		
準備学習	授業内で指示するテキスト、参考文献等について、指示された箇所を読んでくること。		

受講者への要望

実践的な内容であるため、コミュニケーションを前提とした学生主体の参加型である。参加しなければ目標到達は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方と実践における基本的な考え方
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：基本編①
（5）コミュニケーション：基本編②
（6）コミュニケーション：応対編①
（7）コミュニケーション：応対編②
（8）ビジネス文書の基本
(9) 総合実習①
(10) 総合実習②
(11) 総合実習③
(12) 総合実習④
(13) 総合実習⑤
(14) 総合実習⑥
(15) 総合実習の振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC2100107
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：社会人になるためのビジネスコミュニケーション＆マナー ビジネス教育実践学会監修　中村克彦編著　(株)インフォテックサーブ　(600 円+税) (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	必要に応じて、資料を配布する。		
評価方法	・平常点：60 点（出席、遅刻早退状況、取り組み姿勢、学生の理解度の総合）　提出物と発表：40 点　合計 100 点 ・平常点の評価が大きいため、欠席が 3 分の 1 を超えた場合、単位は付与しない。 ・社会人として必要な事を学ぶ科目である。平常点で取り組み姿勢を評価するため、参加態度が悪い場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退室を促す。		
到達目標	・ビジネスの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度や技能を身につける。 ・①②で学んだことをふまえ、実践場面で活用できるようにする。		
準備学習	授業内で指示するテキスト、参考文献等について、指示された箇所を読んでくること。		

受講者への要望

実践的な内容であるため、コミュニケーションを前提とした学生主体の参加型である。参加しなければ目標到達は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方と実践における基本的な考え方
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：基本編①
（5）コミュニケーション：基本編②
（6）コミュニケーション：応対編①
（7）コミュニケーション：応対編②
（8）ビジネス文書の基本
(9) 総合実習①
(10) 総合実習②
(11) 総合実習③
(12) 総合実習④
(13) 総合実習⑤
(14) 総合実習⑥
(15) 総合実習の振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC2100201
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進む高度情報化社会においても、ビジネスの現場では「文書主義」の原則に基づき、正確でわかりやすい文書を迅速に作成する能力が求められている。講義では、ビジネス文書の機能や目的、種類を理解し、基本ルールを守りマナーにかなった文書作成方法の習得を目的とする。簡潔な文章を書くポイント、状況に応じた適切な敬語表現を学び、一般文書（社内・社外文書）の作成から企画書の策定までを行い、作成した企画書のプレゼンテーションを実践する。事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業のなかで紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントを使用する。		
評価方法	提出物・発表：30%　　平常点（受講態度・授業内小テスト）30%　　期末課題：40%		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類を認識し、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・適切な敬語を用いた表現力を身につけ、活用できるようにする。 ・プレゼンテーションの実践を通して、伝える力の課題を発見する。		
準備学習	講義内容の事前学習として参考資料を配布することがある。次回までに目を通し、忘れずに持参すること。		

受講者への要望

・講義ではワークを中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。提出した課題は、添削して返却する。指摘箇所を復習し、課題克服と改善を目指してもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作、遅刻などを禁止とする。
・配布資料は継続して使用するためファイルにまとめ、講義には必ず持参すること。

講義の順序とポイント

(1) オリエンテーション：講義の内容、目標、進め方、評価方法、注意点等
(2) ビジネス文書（基礎①）：文書の機能と種類
(3) ビジネス文書（基礎②）：文書化の手順と注意点
(4) ビジネス文書（基礎③）：文書化の手順と注意点
(5) ビジネス文書（基礎④）：言葉の一般教養（敬語表現）
(6) まとめ：課題演習
(7) 文書化の実践（応用①）
(8) 文書化の実践（応用②）
(9) 文書化の実践（応用③）
(10) 文書化の実践（応用④）
(11) まとめ：課題演習
(12) 総合演習①：企画書作成とプレゼンテーション
(13) 総合演習②：企画書作成とプレゼンテーション
(14) 期末課題演習(作成)
(15) 期末課題演習(発表)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC2100202
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進む高度情報化社会においても、ビジネスの現場では「文書主義」の原則に基づき、正確でわかりやすい文書を迅速に作成する能力が求められている。講義では、ビジネス文書の機能や目的、種類を理解し、基本ルールを守りマナーにかなった文書作成方法の習得を目的とする。簡潔な文章を書くポイント、状況に応じた適切な敬語表現を学び、一般文書（社内・社外文書）の作成から企画書の策定までを行い、作成した企画書のプレゼンテーションを実践する。事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業のなかで紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントを使用する。		
評価方法	提出物・発表：30%　　平常点（受講態度・授業内小テスト）30%　　期末課題：40%		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類を認識し、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・適切な敬語を用いた表現力を身につけ、活用できるようにする。 ・プレゼンテーションの実践を通して、伝える力の課題を発見する。		
準備学習	講義内容の事前学習として参考資料を配布することがある。次回までに目を通し、忘れずに持参すること。		

受講者への要望

・講義ではワークを中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。提出した課題は、添削して返却する。指摘箇所を復習し、課題克服と改善を目指してもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作、遅刻などを禁止とする。
・配布資料は継続して使用するためファイルにまとめ、講義には必ず持参すること。

講義の順序とポイント

(1) オリエンテーション：講義の内容、目標、進め方、評価方法、注意点等
(2) ビジネス文書（基礎①）：文書の機能と種類
(3) ビジネス文書（基礎②）：文書化の手順と注意点
(4) ビジネス文書（基礎③）：文書化の手順と注意点
(5) ビジネス文書（基礎④）：言葉の一般教養（敬語表現）
(6) まとめ：課題演習
(7) 文書化の実践（応用①）
(8) 文書化の実践（応用②）
(9) 文書化の実践（応用③）
(10) 文書化の実践（応用④）
(11) まとめ：課題演習
(12) 総合演習①：企画書作成とプレゼンテーション
(13) 総合演習②：企画書作成とプレゼンテーション
(14) 期末課題演習(作成)
(15) 期末課題演習(発表)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC2100203
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進む高度情報化社会においても、ビジネスの現場では「文書主義」の原則に基づき、正確でわかりやすい文書を迅速に作成する能力が求められている。講義では、ビジネス文書の機能や目的、種類を理解し、基本ルールを守りマナーにかなった文書作成方法の習得を目的とする。簡潔な文章を書くポイント、状況に応じた適切な敬語表現を学び、一般文書（社内・社外文書）の作成から企画書の策定までを行い、作成した企画書のプレゼンテーションを実践する。事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業のなかで紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントを使用する。		
評価方法	提出物・発表：30%　　平常点（受講態度・授業内小テスト）30%　　期末課題：40%		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類を認識し、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・適切な敬語を用いた表現力を身につけ、活用できるようにする。 ・プレゼンテーションの実践を通して、伝える力の課題を発見する。		
準備学習	講義内容の事前学習として参考資料を配布することがある。次回までに目を通し、忘れずに持参すること。		

受講者への要望

・講義ではワークを中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。提出した課題は、添削して返却する。指摘箇所を復習し、課題克服と改善を目指してもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作、遅刻などを禁止とする。
・配布資料は継続して使用するためファイルにまとめ、講義には必ず持参すること。

講義の順序とポイント

(1) オリエンテーション：講義の内容、目標、進め方、評価方法、注意点等
(2) ビジネス文書（基礎①）：文書の機能と種類
(3) ビジネス文書（基礎②）：文書化の手順と注意点
(4) ビジネス文書（基礎③）：文書化の手順と注意点
(5) ビジネス文書（基礎④）：言葉の一般教養（敬語表現）
(6) まとめ：課題演習
(7) 文書化の実践（応用①）
(8) 文書化の実践（応用②）
(9) 文書化の実践（応用③）
(10) 文書化の実践（応用④）
(11) まとめ：課題演習
(12) 総合演習①：企画書作成とプレゼンテーション
(13) 総合演習②：企画書作成とプレゼンテーション
(14) 期末課題演習(作成)
(15) 期末課題演習(発表)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC2100204
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進む高度情報化社会においても、ビジネスの現場では「文書主義」の原則に基づき、正確でわかりやすい文書を迅速に作成する能力が求められている。講義では、ビジネス文書の機能や目的、種類を理解し、基本ルールを守りマナーにかなった文書作成方法の習得を目的とする。簡潔な文章を書くポイント、状況に応じた適切な敬語表現を学び、一般文書（社内・社外文書）の作成から企画書の策定までを行い、作成した企画書のプレゼンテーションを実践する。事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業のなかで紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントを使用する。		
評価方法	提出物・発表：30%　　平常点（受講態度・授業内小テスト）30%　　期末課題：40%		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類を認識し、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・適切な敬語を用いた表現力を身につけ、活用できるようにする。 ・プレゼンテーションの実践を通して、伝える力の課題を発見する。		
準備学習	講義内容の事前学習として参考資料を配布することがある。次回までに目を通し、忘れずに持参すること。		

受講者への要望

・講義ではワークを中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。提出した課題は、添削して返却する。指摘箇所を復習し、課題克服と改善を目指してもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作、遅刻などを禁止とする。
・配布資料は継続して使用するためファイルにまとめ、講義には必ず持参すること。

講義の順序とポイント

(1) オリエンテーション：講義の内容、目標、進め方、評価方法、注意点等
(2) ビジネス文書（基礎①）：文書の機能と種類
(3) ビジネス文書（基礎②）：文書化の手順と注意点
(4) ビジネス文書（基礎③）：文書化の手順と注意点
(5) ビジネス文書（基礎④）：言葉の一般教養（敬語表現）
(6) まとめ：課題演習
(7) 文書化の実践（応用①）
(8) 文書化の実践（応用②）
(9) 文書化の実践（応用③）
(10) 文書化の実践（応用④）
(11) まとめ：課題演習
(12) 総合演習①：企画書作成とプレゼンテーション
(13) 総合演習②：企画書作成とプレゼンテーション
(14) 期末課題演習(作成)
(15) 期末課題演習(発表)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC2100205
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進む高度情報化社会においても、ビジネスの現場では「文書主義」の原則に基づき、正確でわかりやすい文書を迅速に作成する能力が求められている。講義では、ビジネス文書の機能や目的、種類を理解し、基本ルールを守りマナーにかなった文書作成方法の習得を目的とする。簡潔な文章を書くポイント、状況に応じた適切な敬語表現を学び、一般文書（社内・社外文書）の作成から企画書の策定までを行い、作成した企画書のプレゼンテーションを実践する。事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業のなかで紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントを使用する。		
評価方法	提出物・発表：30%　　平常点（受講態度・授業内小テスト）30%　　期末課題：40%		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類を認識し、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・適切な敬語を用いた表現力を身につけ、活用できるようにする。 ・プレゼンテーションの実践を通して、伝える力の課題を発見する。		
準備学習	講義内容の事前学習として参考資料を配布することがある。次回までに目を通し、忘れずに持参すること。		

受講者への要望

・講義ではワークを中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。提出した課題は、添削して返却する。指摘箇所を復習し、課題克服と改善を目指してもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作、遅刻などを禁止とする。
・配布資料は継続して使用するためファイルにまとめ、講義には必ず持参すること。

講義の順序とポイント

(1) オリエンテーション：講義の内容、目標、進め方、評価方法、注意点等
(2) ビジネス文書（基礎①）：文書の機能と種類
(3) ビジネス文書（基礎②）：文書化の手順と注意点
(4) ビジネス文書（基礎③）：文書化の手順と注意点
(5) ビジネス文書（基礎④）：言葉の一般教養（敬語表現）
(6) まとめ：課題演習
(7) 文書化の実践（応用①）
(8) 文書化の実践（応用②）
(9) 文書化の実践（応用③）
(10) 文書化の実践（応用④）
(11) まとめ：課題演習
(12) 総合演習①：企画書作成とプレゼンテーション
(13) 総合演習②：企画書作成とプレゼンテーション
(14) 期末課題演習(作成)
(15) 期末課題演習(発表)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC2100206
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進む高度情報化社会においても、ビジネスの現場では「文書主義」の原則に基づき、正確でわかりやすい文書を迅速に作成する能力が求められている。講義では、ビジネス文書の機能や目的、種類を理解し、基本ルールを守りマナーにかなった文書作成方法の習得を目的とする。簡潔な文章を書くポイント、状況に応じた適切な敬語表現を学び、一般文書（社内・社外文書）の作成から企画書の策定までを行い、作成した企画書のプレゼンテーションを実践する。事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業のなかで紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントを使用する。		
評価方法	提出物・発表：30%　　平常点（受講態度・授業内小テスト）30%　　期末課題：40%		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類を認識し、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・適切な敬語を用いた表現力を身につけ、活用できるようにする。 ・プレゼンテーションの実践を通して、伝える力の課題を発見する。		
準備学習	講義内容の事前学習として参考資料を配布することがある。次回までに目を通し、忘れずに持参すること。		

受講者への要望

・講義ではワークを中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。提出した課題は、添削して返却する。指摘箇所を復習し、課題克服と改善を目指してもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作、遅刻などを禁止とする。
・配布資料は継続して使用するためファイルにまとめ、講義には必ず持参すること。

講義の順序とポイント

(1) オリエンテーション：講義の内容、目標、進め方、評価方法、注意点等
(2) ビジネス文書（基礎①）：文書の機能と種類
(3) ビジネス文書（基礎②）：文書化の手順と注意点
(4) ビジネス文書（基礎③）：文書化の手順と注意点
(5) ビジネス文書（基礎④）：言葉の一般教養（敬語表現）
(6) まとめ：課題演習
(7) 文書化の実践（応用①）
(8) 文書化の実践（応用②）
(9) 文書化の実践（応用③）
(10) 文書化の実践（応用④）
(11) まとめ：課題演習
(12) 総合演習①：企画書作成とプレゼンテーション
(13) 総合演習②：企画書作成とプレゼンテーション
(14) 期末課題演習(作成)
(15) 期末課題演習(発表)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC2100207
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進む高度情報化社会においても、ビジネスの現場では「文書主義」の原則に基づき、正確でわかりやすい文書を迅速に作成する能力が求められている。講義では、ビジネス文書の機能や目的、種類を理解し、基本ルールを守りマナーにかなった文書作成方法の習得を目的とする。簡潔な文章を書くポイント、状況に応じた適切な敬語表現を学び、一般文書（社内・社外文書）の作成から企画書の策定までを行い、作成した企画書のプレゼンテーションを実践する。事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業のなかで紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントを使用する。		
評価方法	提出物・発表：30%　　平常点（受講態度・授業内小テスト）30%　　期末課題：40%		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類を認識し、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・適切な敬語を用いた表現力を身につけ、活用できるようにする。 ・プレゼンテーションの実践を通して、伝える力の課題を発見する。		
準備学習	講義内容の事前学習として参考資料を配布することがある。次回までに目を通し、忘れずに持参すること。		

受講者への要望

・講義ではワークを中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。提出した課題は、添削して返却する。指摘箇所を復習し、課題克服と改善を目指してもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作、遅刻などを禁止とする。
・配布資料は継続して使用するためファイルにまとめ、講義には必ず持参すること。

講義の順序とポイント

(1) オリエンテーション：講義の内容、目標、進め方、評価方法、注意点等
(2) ビジネス文書（基礎①）：文書の機能と種類
(3) ビジネス文書（基礎②）：文書化の手順と注意点
(4) ビジネス文書（基礎③）：文書化の手順と注意点
(5) ビジネス文書（基礎④）：言葉の一般教養（敬語表現）
(6) まとめ：課題演習
(7) 文書化の実践（応用①）
(8) 文書化の実践（応用②）
(9) 文書化の実践（応用③）
(10) 文書化の実践（応用④）
(11) まとめ：課題演習
(12) 総合演習①：企画書作成とプレゼンテーション
(13) 総合演習②：企画書作成とプレゼンテーション
(14) 期末課題演習(作成)
(15) 期末課題演習(発表)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JC2100301
科目名	インターンシップＡＩ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship ＡＩ		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。そのため、この科目での課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行う。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の４項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として８月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JC2100401
科目名	インターンシップＡII	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship AII		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、「インターンシップＡＩ」を履修した者が、再び２週間程度のインターンシップ実習を行う場合の科目である。１度目の実習を踏まえて、大学における学びと実社会における実践の関係を理解し、有機的に結び付けることにより、理論と実践の融合を図ることを目的とする。事前学習では１度目の実習を振り返り、新たに課題設定し、２週間程度の企業実習を行う。その中で課題発見力や論理的思考力を身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果発表を行う. インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	インターンシップＡＩの成果を踏まえ、新たな目標設定を行って実習することにより、次の各点について一段と高いレベルの態度を示すことができるようにする。 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JC2100501
科目名	インターンシップB	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で4週間程度の就業体験を行うことにより、大学における学びの理論と実社会における実践の場との関係性を深く理解し、有機的に結びつけることにより、幅広く理論と実践の融合を図ることを目的とする。長期間の企業での実習の中で、職場における協働力や適応力、行動力を身につける。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや4週間にわたる実習の成果を発表する。 インターンシップ実習については、本学海外インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムプログレスコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の4項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	到達目標 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学海外インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（8月～9月の間で1か月程度実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
プログレスコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション（プログラムの概要・リスクマネジメント）
　プロジェクト・マネジメントの概要　－PCM の講義-
2　プロジェクトメンバーの相互理解（ワークシート①）
3～4　プロジェクト・マネジメント(ワークシート②、③)
5　修了生によるプレゼンテーション
　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)
6　コミュニケーショントレーニング
7～8　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン）
9　　プロジェクト・マネジメント(今後の活動の確認、活動計画の発表)
10　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)

Ⅱ　実習の実施
　夏休み期間中には、受入れ先ごとにプロジェクトを行う。

Ⅲ　事後学習
11　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト中間報告）
12　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）（ワークシート④）
13　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備①）
14　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備②）
15　プロジェクト・マネジメント（自己評価：プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る）"
16　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備③）"
17～20　成果報告会・修了式

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JC2100601
科目名	サービス・ラーニングA	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学での学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約1週間程度の活動を通して、協働力、適応力、行動力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の 3 つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる.		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1． 社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． 地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
3． 実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習1週間
（8時間＋日報1時間）/日*5日＝45時間

6． 事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
7． 事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
8． 事後学習 III－レポート作成
9． 事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC2100701
科目名	サービス・ラーニングB	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	社会貢献活動を通して、大学における学びと実社会における実践の場との関係性を理解することを目的とする。約2週間程度の活動を通して、理論と実践の融合を図るための課題発見力や論理的思考力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の3つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、大学で学んだ学修を社会活動の中で最大限に生かす。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、2週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間、2週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1．　社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2．　地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
3．　実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
4．　ビジネスマナーI
5．　ビジネスマナーII

実習2週間
（8時間＋日報1時間）/日*10日＝90時間

6．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（1回目）
7．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（2回目）
8．　事後学習I－何を学んだか：ワークショップ
9．　事後学習II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲストorビデオ)、ワークショップ
10．　事後学習III－レポート作成
11．　事後学習IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JC2100801
科目名	サービス・ラーニングC	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning C		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	約1か月程度の社会貢献活動を通して、社会貢献の必要性と有効性を理解することを目的とする。また、社会の発展を目指すための、創造力や発想力、課題解決力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法）、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法）、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の3つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動の中で、具体的な課題解決を図る。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1週間、2週間、1か月の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間、2週間、1か月である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1． 社会貢献と自らの社会的役割：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． NPO組織論：講義、ビデオ or ゲスト
3． 実習目的の明確化と目標設定：ワークショップ（個人の目標設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習1か月（4週間）
（8時間＋日報1時間）/日*20日＝180時間

6． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（1回目）
7． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（2回目）
8． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（3回目）
9． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（4回目）
10． 事後学習I－何を学んだか：ワークショップ
11． 事後学習II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか：講義（ゲスト or ビデオ）、ワークショップ
12． 事後学習III－レポート作成
13． 事後学習IV－レポート作成
14． 事後学習V－報告会準備
15． 事後学習VI－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JC9000201
科目名	インターンシップ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。そのため、この科目での課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習

10　最終報告プレゼンテーションについて

実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認

11　インターンシップ報告会

12　全体総括

教員からの総括(講評)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JE0003001
科目名	ＴＯＥＦＬ研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Preparation Course for TOEFL		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	本講座では TOEFL の教材を用い、英語の基本を大切にしながらも TOEIC の解法、コツ、テクニックを身につけていくことを主眼とします。授業では問題を実際に解き、解説をしていきます。その際、ただ答え合わせをするだけでなく、解答の根拠を明確にします。リスニングでは問題を解くだけでなく、音読、ディクテーションを取り上げて英文構造の把握のトレーニングもします。限られた時間でそれぞれの設問の解法のテクニックを実践練習を通じて身につけていくようにします。		
教材（テキスト）	プリント、ＣＤを配布します。		
教材（参考文献）	文法に自信のない学生は高校時代に利用していた文法書を持ち込むことをお勧めします。		
教材（その他）	英和辞典必携		
評価方法	出席など授業中での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、ただし全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなければ 59 点以下の不合格とします。		
到達目標	英語の基本文法、文章構造をつかみ、TOEFL の形式に慣れることで、試験対策を自発的に取り組むことができるようになることを目的とします。		
準備学習	できるだけ日々の生活で英語にふれるようにしていくようにしてください。CD は繰り返し聞いてください。この講座は学生の自発性、積極性が必要です。		

受講者への要望

授業ではどんどんあてていきます。間違いは決して気にしないこと。この講座を始めるにあたって必要なのは英語力よりも学生の積極性です。間違いは新たな発見、英語力向上のサインです。

講義の順序とポイント

ここに講義の順序を記載しますが、学生のレベルによって変更することもありえるので担当者の指示をしっかりその都度聞くようにしてください。

1.Section 1 Part A 基礎固め
2.Section 1 Part B 基礎固め
3.Section 1 Part C 基礎固め
4.Section 1 Part A 実践問題
5.Section 1 Part B 実践問題
6.Section 1 Part C 実践問題
7.Section 1 総合演習
8.Section 2 Structure 基礎固め
9.Section 2 Written Expression 基礎固め
10.Section 2 Structure 実践問題
11.Section 2 Written Expression 実践問題
12.Section 3 Reading Comprehension 基礎固め
13.Section 3 Reading Comprehension 実践問題
14.Section 2, 3 総合演習
15.総合演習、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	★	★★	ー	★

年度	2016	授業コード	JE0004001
科目名	ＴＯＥＩＣ研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Preparation Course for TOEIC		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	TOEIC の練習問題、模擬テストを用いて習熟度を測定し、スコアアップをはかるための実践的な授業を行います。TOEIC に頻出する語彙、表現、文法事項を学習しながら、問題を体系的に攻略していきます。将来、仕事で英語を使う分野へ就職を希望する学生には必須の科目です。		
教材（テキスト）	植木美千子，　Brent Cotsworth，　山岡浩一，　竹内　理　著. Lightening Up The TOEIC? Test 『重点特化型　TOEIC?テスト実力養成』　（金星堂） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	音声 CD を授業で使用します。		
評価方法	授業で毎回実施する小テスト（50％）、TOEIC 模擬テスト（30％）、課題の提出状況、授業への参加状況（20％）により総合的に評価します。　なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけることを目指します。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。TOEIC420 点以上を取得できる英語力の養成を目標とします。		
準備学習	この授業では、授業で学んだ内容についての小テストを数回行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法、リスニング、読解問題を含みます。		

受講者への要望

①教科書は、必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。教科書がないと、授業での課題を行うことができません。
　教科書を持参しない場合は最終評価から減点することになります。また、英語辞書も必ず持参してください。携帯電話の辞書機能を授業中に使用することはできません。
②欠席、遅刻をしないように努めてください。
③課題は必ず期限までに提出してください。
④授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑤当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習する予定です。ただし、下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。

1. Unit 1--Traveling（旅行の際の表現）
2. Unit 2--Daily Life & Shopping（日常生活とショッピング）
3. Unit 3--At Restaurants（レストランでの会話）
4. Unit 4--Job Hunting（就職活動）
5. Unit 5--At the Office 1（オフィスにて 1）
6. Unit 6--At the Office 2（オフィスにて 2）
7. Unit 7--Review 1　（復習 1）
8. Unit 8--Doing Business Online（オンラインで行うビジネス）
9. Unit 9--Housing（住宅事情）
10. Unit 10--Making Deals & Contracts　（取引と契約）
11. Unit 11--Public Service（公共サービス）
12. Unit 12--Banking & Finance　（銀行での手続きと金融に関する表現）
13. Unit 13--At Seminars & Workshops　（セミナーとワークショップ）
14. Unit 14--News & Media（ニュースとメディアに関する表現）
15. Unit 15--Review 2　（復習 2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	JE0015001
科目名	英語インテンシヴリーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intensive Reading in English		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	インテンシヴ・リーディング（精読）とは、ラピッド・リーディング（速読）と対極をなすもので、正確に読み解く作業に重点を置いた読み方を意味します。 ラピッド・リーディング（速読）は、キーワード検索やパラグラフリーディングなどを通じて、文章を要約したりスキミングしたりするのに有効な読み方です。一方、インテンシヴ・リーディング（精読）は、正確に読み、かつ行間を読む、いわばスキャニングする読み方です。たとえば、小説などの行間にこめられた著者の意図などを読み込むことを目的とした読み方がそれにあたります。 今回は Cultural Portraits: Japan and the US というテキストを用いて、正確に読むことを通して、オールラウンドな英語力の向上をめざします。このテキストを用いて、言葉としての英語に理解を深めるとともに、英語が使われているアメリカの文化を日本文化と比較しながら、その特徴を理解し、さらに日本人が普段は分かっていると思っている自国文化についてもあらためて考える機会とします。大切なことは、「クリティカル・シンキング」という作業をすることです。これは内容に基づいて自分の考えを表したり、話し合ったりすることを想定しています。 英語のレヴェルは TOEIC400-500 程度で書かれていますので、TOEIC400-500・英検準 2 級から 2 級レヴェルです。内容を正確に読んで、自分の意見をしっかりまとめ、他の学生にその意見を伝え、ディスカッションにも参加して欲しいと考えています。		
教材（テキスト）	Cultural Portraits: Japan and the US （金星堂）		
教材（参考文献）	英語辞書(英英・英和・和英）など		
教材（その他）			
評価方法	「英語インテンシブリーディング」では、授業参加（30%）・課題提出（30%）、およびレポート（40%）です。授業参加とは、それぞれの話題に関して自分の意見を述べたり、ディスカッションに参加することを指します。また、課題提出とは、京学なびを通じた課題の提出を求めます。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。		
到達目標	「英語中級リーディング」、「英語ラピッド・リーディング」につづいて、英語で書かれた文献を精読できるようになることを目標とします。 また、この授業では自分の意見をまとめ、ディスカッションに参加して、意見交換ができるようになることも求めます。		
準備学習	授業のテーマに関して図書館の書籍を使ったり、インターネットを活用して、下調べをしてください。また、積極的にディスカッションやプレゼンテーションに参加できるよう各ユニットで用いられている基本語彙や基本表現を自宅で学習しておいてください。		

受講者への要望

① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
② この授業以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト科目を履修するようにしてください。
③ 実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。

講義の順序とポイント

第 1 回　Introduction to the Class
第 2 回　Unit 1:　College Life
第 3 回　Unit 2:　Family Life
第 4 回　Unit 3:　Holidays
第 5 回　Unit 4:　Individualism
第 6 回　Unit 5:　Socializing at Parties
第 7 回　Unit 6:　Dating and Romance
第 8 回　Unit 7:　Pluralistic Society
第 9 回　Unit 8:　Degree of Formality
第 10 回　Uni　9: Volunteerism

第 11 回　Unit 10: Context and Communicaion
第 12 回　Unit 11: Non-Verbal Communication
第 13 回　Unit 12: Debate
第 14 回　Unit 13: Religion
第 15 回　Unit 14: Computers and Communication

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	JE0016001
科目名	英語クリエイティヴライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	Creative Writing in English		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	本授業の受講生は、自由な発想のもと、必ずしも従来の英文レポートの形式にこだわらずに、日記の執筆やエッセイライティングを試みます。さらに、英文によるクリエイティヴライティングの例として、英文エッセイ、英語による俳句、英詩、日本語小説の英訳などを実際に読むことにより、英語表現力の向上を助けます。受講生は、授業内または授業外において、英文エッセイを作成したり、俳句の英訳、日本語による短編小説の英訳などを行ったりします。		
教材（テキスト）	プリント教材（授業で配布します）		
教材（参考文献）	英和、英英辞典など ナタリー・ゴールドバーグ 「魂の文章術―書くことから始めよう！」（春秋社） ジュリア・キャメロン「あなたも作家になろう―書くことは、心の声に耳を澄ませることだから」（風雲舎） (一部授業で配布)		
教材（その他）			
評価方法	定期レポート（60%）、授業への参加、および小課題（40%）により総合的に評価します。		
到達目標	自由な発想により、英語で日記、和文英訳、エッセイなどの執筆を行なうことができるようになる。		
準備学習	一日に 1，2 行でもいいですから、英文で日記を書くことを今日から始めてください。その際、あまり文法や語法の間違いをすることを恐れずに、とにかく「書く」ことから始めてみましょう。		
受講者への要望			
自分の考えを表現することを恐れず、チャレンジ精神を持って授業に臨んでください。また、毎回の授業に必ず辞書（英和、英英辞典など）を持参してください。遅刻、欠席をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
以下の各項目をおおよそ一回の授業で終了します。 1.　Introduction: 授業内容、成績評価方法の説明／「書く」こととは？ 2. Self-Introduction（自己紹介の文）／「身の回り」から書き始めよう！ 3. Writing a Journal（日記を英語で書こう！）　① 4. Writing a Journal（日記を英語で書こう！）　② 5.　Reading Haiku in English（英語で俳句を読む） 6.　Translating Haiku into English (俳句を英訳しよう！) ① 7.　Translating Haiku into English (俳句を英訳しよう！) ② 8.　Writing an Essay (英文エッセイを書く)① 9.　Writing an Essay (英文エッセイを書く)② 10. Writing an Essay (英文エッセイを書く)③ 11. Translating a Japanese Short Story into English　(日本語小説の一部を英訳)① 12. Translating a Japanese Short Story into English(日本語小説の一部を英訳)② 13. Translating a Japanese Short Story into English (日本語小説の一部を英訳)③ 14. 学生の作品発表（英文エッセイ、翻訳など）① 15. 学生の作品発表（英文エッセイ、翻訳など）②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	JE0020001
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Final Review.. Lesson 15: Presentations			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	―	★	―	★

年度	2016	授業コード	JE0020003
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself to others.
Lesson 2: Talking about jobs.
Lesson 3: Describing someone's day.
Lesson 4: Talking about meeting people.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Offering and asking for help.
Lesson 7: Telling a story.
Lesson 8: Talking about your plans.
Lesson 9: Explaining things.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about food.
Lesson 12: Talking about the past.
Lesson 13: Talking about TV/movies.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JE0020004
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself to others.
Lesson 2: Talking about jobs.
Lesson 3: Describing someone's day.
Lesson 4: Talking about meeting people.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Offering and asking for help.
Lesson 7: Telling a story.
Lesson 8: Talking about your plans.
Lesson 9: Explaining things.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about food.
Lesson 12: Talking about the past.
Lesson 13: Talking about TV/movies.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JE0020005
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself to others.
Lesson 2: Talking about jobs.
Lesson 3: Describing someone's day.
Lesson 4: Talking about meeting people.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Offering and asking for help.
Lesson 7: Telling a story.
Lesson 8: Talking about your plans.
Lesson 9: Explaining things.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about food.
Lesson 12: Talking about the past.
Lesson 13: Talking about TV/movies.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JE0020051
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself to others.
Lesson 2: Talking about jobs.
Lesson 3: Describing someone's day.
Lesson 4: Talking about meeting people.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Offering and asking for help.
Lesson 7: Telling a story.
Lesson 8: Talking about your plans.
Lesson 9: Explaining things.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about food.
Lesson 12: Talking about the past.
Lesson 13: Talking about TV/movies.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JE0020052
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself to others.
Lesson 2: Talking about jobs.
Lesson 3: Describing someone's day.
Lesson 4: Talking about meeting people.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Offering and asking for help.
Lesson 7: Telling a story.
Lesson 8: Talking about your plans.
Lesson 9: Explaining things.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about food.
Lesson 12: Talking about the past.
Lesson 13: Talking about TV/movies.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2016	授業コード	JE0020054
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises and cartooning in English.		
教材（テキスト）	S. Richmond et al, Conversations in Class:Second Edition, Alma Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests （80%） Written reports （10%） Final test (10%) Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.		
準備学習	Students will be required to complete reading, grammar and writing assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude. Complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course
2. Topic: Where are you from?
3. Topic: Do you like living here?
4. Pragmatics 1 - Silence and Conversation
5. Topic: What time do you usually get up?
6. Topic: How long does it take you to get here?
7. Pragmatics 2- Dynamic Conversations
8. Topic: What clubs are you in?
9. Topic: What's your favorite subject?
10. Topic: How long have you been playing the piano?
11. Topic: What do you think is a good way to study English?
12. Topic: Would you like to get married someday?
13. Topic: What is a good age to have children?
14. Topic: Do you think it's OK to live together before marriage?
15. Final conversations/presentations

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JE0022001
科目名	英語スピーキングII	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking II		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	英語は世界中、様々な国や文化を超えて使用されるグローバルな言語である。この講義では、たくさんな「英語」を触れながら、中級英会話スキルを身につけます。世界の大学生たちが織りなす楽しくテンポのよい会話を中心に、リーディングやディスカッションなど多彩な課題に取り組んで、積極的にコミュニケーションを取る態度を養成します。		
教材（テキスト）	塩澤 正,Gregory A. King, Global Activator： Your English, My English, World Englishes!, Kinseido Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内会話テスト：60% 課題：20% 期末会話テスト：20% なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	講義終了で、受講者は英会話の中級レベルのスキルを身にし、日常的な話題に会話を使えるようになる。英会話のコミュニケーション・ストラテジーを理解した上、授業でしっかりと練習し、会話に駆使できるようになる。		
準備学習	受講者は全員教科書を用意する必要がある。前期で勉強してきた英語を復習しながら、新らたな角度から英会話を考える姿勢を整えてほしい。しっかりと予習、復習が語学能力に必要だと覚えていただきたい。		

受講者への要望

毎回出席し、広い視野・寛大な心で受講してください。クラスメートを尊敬すること、励ますことも大切。間違いを恐れず積極的に挑戦してください。

講義の順序とポイント

1. College Life: Japan
2. Mobile Phones: England
3. Movies: India
4. Dating: Mexico
5. International Food: Korea
6. World Englishes: Singapore
7. Weekends / Vacations: Hong Kong
8. Music / Songs: USA 1—African-American English
9. Sports: Australia
10. Shopping: China
11. Traveling / Studying Overseas: USA 2—Midwestern English
12. Festivals / Parties: Germany
13. Part-time / Future Jobs: Brazil
14. Experiences: The Philippines
15. Cool Japan: France

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	ー	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	JE0022002
科目名	英語スピーキングII	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking II		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	英語は世界中、様々な国や文化を超えて使用されるグローバルな言語である。この講義では、たくさんな「英語」を触れながら、中級英会話スキルを身につけます。世界の大学生たちが織りなす楽しくテンポのよい会話を中心に、リーディングやディスカッションなど多彩な課題に取り組んで、積極的にコミュニケーションを取る態度を養成します。		
教材（テキスト）	塩澤 正,Gregory A. King, Global Activator： Your English, My English, World Englishes!, Kinseido Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内会話テスト：60% 課題：20% 期末会話テスト：20% なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	講義終了で、受講者は英会話の中級レベルのスキルを身にし、日常的な話題に会話を使えるようになる。英会話のコミュニケーション・ストラテジーを理解した上、授業でしっかりと練習し、会話に駆使できるようになる。		
準備学習	受講者は全員教科書を用意する必要がある。前期で勉強してきた英語を復習しながら、新らたな角度から英会話を考える姿勢を整えてほしい。しっかりと予習、復習が語学能力に必要だと覚えていただきたい。		

受講者への要望

毎回出席し、広い視野・寛大な心で受講してください。クラスメートを尊敬すること、励ますことも大切。間違いを恐れず積極的に挑戦してください。

講義の順序とポイント

1. College Life: Japan
2. Mobile Phones: England
3. Movies: India
4. Dating: Mexico
5. International Food: Korea
6. World Englishes: Singapore
7. Weekends / Vacations: Hong Kong
8. Music / Songs: USA 1—African-American English
9. Sports: Australia
10. Shopping: China
11. Traveling / Studying Overseas: USA 2—Midwestern English
12. Festivals / Parties: Germany
13. Part-time / Future Jobs: Brazil
14. Experiences: The Philippines
15. Cool Japan: France

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JE0023001
科目名	英語スピーチ＆ディベート	単位数	2
科目名（英語表記）	Speech and Debate in English		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	This class is intended to make you feel more comfortable about talking in front of a group of people. We will improve your voice, posture, writing and also computer skills during the course. If you like using computers, then this is your chance to show off your skills! If you are interested in presenting your ideas, please also consider 英語パーソナルコミュニケーション.		
教材（テキスト）	Harrington, D. & LeBeau C., Speaking of Speech New Edition, MacMillan (2009)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Report: 50%		
到達目標	After completing this course you should be more confident speaking and explaining your ideas in front of a group, and with using computers. Students who want to study abroad should take this course		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = no credit. * Read your textbook before and after the lesson. * Speaking in class, writing as homework. * Must use Microsoft Powerpoint		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

****なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***

講義の順序とポイント

The course is divided into three parts: i: The Physical Message ii: The Message iii: The Story Message.

Part i:
Lesson 1: Posture & eye contact.
Lesson 2: Gestures.
Lesson 3: Voice inflection.

Part ii:
Lesson 4: Effective visuals 1 (PC work).
Lesson 5: Effective visuals 2 (PC work).
Lesson 6: Explaining visuals 1.
Lesson 7: Explaining visuals 2 / PRESENTATIONS.

Part iii:
Lesson 8: The introduction 1.
Lesson 9: The introduction 2.
Lesson 10: The body 1.
Lesson 11: The body 2.
Lesson 12: The conclusion 1.
Lesson 13: The conclusion 2.

Lesson 14: Review. Lesson 15: Final presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	―	―	★	★★	★★

年度	2016	授業コード	JE0030001
科目名	英語パーソナルコミュニケーション	単位数	2
科目名（英語表記）	Interpersonal Communication in English		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	his class is intended to make you feel more comfortable about talking in front of a group of people. We will improve your voice, posture, writing and also computer skills during the course. If you like using computers, then this is your chance to show off your skills! If you are interested in presenting your ideas, please also consider 英語スピーチ＆ディベート. Note: this course is a little more challenging than 英語スピーチ＆ディベート, and you will need watch different kinds of presentations and also do research and present something about Japanese culture.		
教材（テキスト）	Alexander, S. Hot Topics Japan 1, (Compass Publishing, 2014)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Report: 50%		
到達目標	After completing this course you should be more confident speaking and explaining your ideas in front of a group, and with using computers. Students who want to study abroad should take this course.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = no credit. * Read your textbook before and after the lesson. * Speaking in class, writing as homework. * Must use Microsoft Powerpoint		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

****なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction
Lesson 2: Personal Space
Lesson 3: Japanese Restaurant Culture
Lesson 4: Collectivism
Lesson 5: Presentations
Lesson 6: Medical Masks in Japan
Lesson 7: Japanese Tea
Lesson 8: Presentations
Lesson 9: Youth Subcultures
Lesson 10: Juku Culture
Lesson 11: Presentations
Lesson 12: Cell Phone Etiquette
Lesson 13: Vending Machines
Lesson 14: Review
Lesson 15: Final presentations

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	―	―	★	★★	★★

年度	2016	授業コード	JE0031001
科目名	英語プラクティカルライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Writing in English		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語のライティング力を伸ばすことに焦点を置いています。実際に英文の E メールや手紙のような実用的な文章を書く練習を通して、身近な出来事や、未来の仕事に必要な応用文型練習をしていきます。英語を正しく書くためには基本文型と文法知識が必要です。この授業ではやさしい短文を例示して正確な英文を書けるようにします。		
教材（テキスト）	Hiroshi Ozono, Andrew Zitmann 著. New Friends: On the Way to Writing Fluency. 『手紙とメールの読解で学ぶライティング・スキルズ入門』　（南雲堂） その他プリント教材		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他のことは授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、ライティング課題（50％）、授業内テスト（30％）よって総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の合格となります。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ 1500 語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解できるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解できるようにします。 3. 基本的な E メールや英文の手紙を書くことができるようにします。		
準備学習	できるだけ多く英語の文章を読む機会を設け、英語文章のパラグラフ、トピックセンテンス（主題文）の構造について理解をしておくようにしてください。また、英語文法の基礎の復習をしておいてください。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。テキストを忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題の提出期限を守り、提出にはなるべく「京学なび」を利用してください。
⑤授業の前までに、必ず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館 1 階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。

1. Unit 1: Masashi's Letter (1) 〈現在形： Present Tense〉
2. Unit 2: Jack's Letter (1) 〈過去形: Past Tense〉
3. Unit 3: Masashi's Letter (2) 〈未来形: Future Tense〉
4. Unit 4: Jack's Letter (2) 〈進行形: Continuous Tense〉
5. Unit 5: Masashi's Letter (3) 〈完了形: Perfect Tense〉
6. Unit 6: Jack's Letter (3) 〈法助動詞: Modal Auxillaries〉
7. Unit 7: Masashi's Letter (4) 〈動詞、名詞、代名詞: Verbs, Nouns, Pronouns〉
8. Unit 8: Jack's Letter (4) 〈形容詞、副詞、前置詞: Adjectives, Adverbs, Prepositions〉
9. Unit 9: E-mail Exchange (1) 〈接続詞 1: Conjunctions 1〉
10. Unit 10: E-mail Exchange (2) 〈接続詞 2: Conjunctions 2〉
11. Unit 11: E-mail Exchange (3) 〈関係詞: Relative Pronouns & Relative Adverbs〉
12. Unit 12: E-mail Exchange (4) 〈間投詞: Interjections〉
13. Unit 13: E-mail Exchange (5) 〈比較: Comparative, Superative〉
14. Unit 14: E-mail Exchange (6) 〈過程: Conditional〉
15. 総復習（Review）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	JE0033501
科目名	英語ゼミVI	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	英語プロジェクト修了研究 I
講義概要	「英語ゼミＶ」に続く＜英語プロジェクト＞の基幹科目（登録必要）であり、ゼミ担当者の専門に応じて演習を行うとともに、ゼミ生がこれまでに修得してきた知識や技能の実際的な応用をはかる。 １つとしては、過去２年半の「英語ゼミ」での成果に基づいて「修了研究」課題を展開させ、その発表原稿を完成させる。今１つは、就職活動のみならず、将来の社会生活においても役立つ実際的な英語文書の作成演習を行う。 「英語ゼミ」ではまた、＜英語プロジェクト＞の終了時までに英検準１級、TOEIC625／TOEFL(PBT)513点を取得できる程度の英語力をつけることも目標としている。 なお、「修了研究」の課題として想定されるのは、英語による論文作成、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ブログ作成、創作、翻訳、朗読などであるが、＜プロジェクト＞での英語学習の成果を広く「修了研究」として受け入れたく、そのほかに、英検、TOEFL、TOEIC などの英語資格試験での高いスコアの取得とその合格体験記や、英語圏への留学とその成果の報告なども「修了研究」として受け入れる。いずれにせよ、「英語ゼミ」最後の「修了研究」は、誰かから与えられる課題ではなく、＜プロジェクト＞修了生が自ら設定して取り組む課題である。		
教材（テキスト）	「英語ゼミＶ」の教科書（Teruhiro Ishiguro et al.、Writing Letters in English、南雲堂）を継続使用		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答／発表を中心とした授業内演習参加状況および「修了研究」への取り組みに関する毎回の活動報告（30%）、英語文書作成の実践課題（20%）、「修了研究」に関する報告と完成稿（50%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	１．＜英語プロジェクト＞の修了要件を満たす研究課題を各自で設定して、必要な資料を収集し、それを完成させることができる。 ２．就職活動を含め、英語で仕事を行うために必要な基本的英語表現が身につく。 ３．英検２級、TOEIC520／TOEFL(PBT)477 点以上の英語力を安定化させる。		
準備学習	１．「英語ゼミＶ」の成果に基づき、必要な情報や資料の収集しながら、「修了研究」となる課題を完成に近づけること。 ２．ハンドアウト教材については、＜京学なび＞「授業資料」から次回分をダウンロードし、注記等を参照しながら教科書の有用表現を学ぶとともに、実践課題があれば取り組んでおくこと。 ４．「ゼミ課題」については、いかなる状況下においても進捗状況を報告し、定められた期限までに中間報告や完成稿の提出を行うこと。		
受講者への要望			
１．「修了研究」が始まってから作成に取り組むのでは遅い！「英語ゼミＶ」課題の初稿を基にこの「VI」でさらなる展開を図り、最終回までに発表原稿を完成させること。 ２．就職活動と重なることが想定されるが、その場合にも必ずゼミ担当者に連絡を取り、活動報告として進捗状況を知らせること。			
講義の順序とポイント			
下記の順序とポイントは、ゼミ課題（修了研究）への取り組みと主教材の利用とを中心としたものである。 １．ゼミ概要・評価方法・活動報告に関する説明、ゼミ課題の概要説明、「修了研究」初稿報告１ ２．「修了研究」初稿報告２、履歴書の書き方と実践１ ３．「修了研究」初稿報告３、履歴書の書き方と実践２ ４．「修了研究」の資料研究１、入学志願・就職希望の手紙の書き方と実践			

5.「修了研究」の資料研究２、紹介状・推薦状の書き方と実践
6.「修了研究」の資料研究３、案内・通知の手紙の書き方と実践１
7.「修了研究」の資料研究４、案内・通知の手紙の書き方と実践２
8.「修了研究」二稿（中間）報告１、予約・注文の手紙の書き方と実践
9.「修了研究」二稿（中間）報告２、苦情・届け出の手紙の書き方と実践
10.「修了研究」二稿修正報告１、お詫びの手紙の書き方と実践
11.「修了研究」二稿修正報告２、依頼の手紙の書き方（復習）と実践
12.「修了研究」二稿修正報告３、親友・恋人への手紙の書き方と実践
13.「修了研究」完成稿報告（プレゼンテーション）１
14.「修了研究」完成稿報告（プレゼンテーション）２
15.「修了研究」完成稿最終版提出、「修了研究」公開の課題整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	JE0033502
科目名	英語ゼミVI	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	英語プロジェクト修了研究 I
講義概要	「英語ゼミＶ」に続く＜英語プロジェクト＞の基幹科目（登録必要）であり、ゼミ担当者の専門に応じて演習を行うとともに、ゼミ生がこれまでに修得してきた知識や技能の実際的な応用をはかる。 １つとしては、過去２年半の「英語ゼミ」での成果に基づいて「修了研究」課題を展開させ、その発表原稿を完成させる。今１つは、就職活動のみならず、将来の社会生活においても役立つ実際的な英語文書の作成演習を行う。 「英語ゼミ」ではまた、＜英語プロジェクト＞の終了時までに英検準１級、TOEIC625／TOEFL(PBT)513点を取得できる程度の英語力をつけることも目標としている。 なお、「修了研究」の課題として想定されるのは、英語による論文作成、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ブログ作成、創作、翻訳、朗読などであるが、＜プロジェクト＞での英語学習の成果を広く「修了研究」として受け入れたく、そのほかに、英検、TOEFL、TOEIC などの英語資格試験での高いスコアの取得とその合格体験記や、英語圏への留学とその成果の報告なども「修了研究」として受け入れる。いずれにせよ、「英語ゼミ」最後の「修了研究」は、誰かから与えられる課題ではなく、＜プロジェクト＞修了生が自ら設定して取り組む課題である。		
教材（テキスト）	「英語ゼミＶ」の教科書（Teruhiro Ishiguro et al.、Writing Letters in English、南雲堂）を継続使用		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答／発表を中心とした授業内演習参加状況および「修了研究」への取り組みに関する毎回の活動報告（30%）、英語文書作成の実践課題（20%）、「修了研究」に関する報告と完成稿（50%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	１．＜英語プロジェクト＞の修了要件を満たす研究課題を各自で設定して、必要な資料を収集し、それを完成させることができる。 ２．就職活動を含め、英語で仕事を行うために必要な基本的英語表現が身につく。 ３．英検２級、TOEIC520／TOEFL(PBT)477 点以上の英語力を安定化させる。		
準備学習	１．「英語ゼミＶ」の成果に基づき、必要な情報や資料の収集しながら、「修了研究」となる課題を完成に近づけること。 ２．ハンドアウト教材については、＜京学なび＞「授業資料」から次回分をダウンロードし、注記等を参照しながら教科書の有用表現を学ぶとともに、実践課題があれば取り組んでおくこと。 ４．「ゼミ課題」については、いかなる状況下においても進捗状況を報告し、定められた期限までに中間報告や完成稿の提出を行うこと。		
受講者への要望			
１．「修了研究」が始まってから作成に取り組むのでは遅い！「英語ゼミＶ」課題の初稿を基にこの「VI」でさらなる展開を図り、最終回までに発表原稿を完成させること。 ２．就職活動と重なることが想定されるが、その場合にも必ずゼミ担当者に連絡を取り、活動報告として進捗状況を知らせること。			
講義の順序とポイント			
下記の順序とポイントは、ゼミ課題（修了研究）への取り組みと主教材の利用とを中心としたものである。 １．ゼミ概要・評価方法・活動報告に関する説明、ゼミ課題の概要説明、「修了研究」初稿報告１ ２．「修了研究」初稿報告２、履歴書の書き方と実践１ ３．「修了研究」初稿報告３、履歴書の書き方と実践２ ４．「修了研究」の資料研究１、入学志願・就職希望の手紙の書き方と実践			

5.「修了研究」の資料研究２、紹介状・推薦状の書き方と実践
6.「修了研究」の資料研究３、案内・通知の手紙の書き方と実践１
7.「修了研究」の資料研究４、案内・通知の手紙の書き方と実践２
8.「修了研究」二稿（中間）報告１、予約・注文の手紙の書き方と実践
9.「修了研究」二稿（中間）報告２、苦情・届け出の手紙の書き方と実践
10.「修了研究」二稿修正報告１、お詫びの手紙の書き方と実践
11.「修了研究」二稿修正報告２、依頼の手紙の書き方（復習）と実践
12.「修了研究」二稿修正報告３、親友・恋人への手紙の書き方と実践
13.「修了研究」完成稿報告（プレゼンテーション）１
14.「修了研究」完成稿報告（プレゼンテーション）２
15.「修了研究」完成稿最終版提出、「修了研究」公開の課題整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JE0034001
科目名	英語プロジェクト修了研究	単位数	2
科目名（英語表記）	English Project Completion Research		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	英語プロジェクト修了研究Ⅱ
講義概要	「英語プロジェクト修了研究」は修了希望者のみの選択科目であるが、＜英語プロジェクト＞の基幹科目であることに変わりはなく、「英語ゼミ」の「Ⅶ」に相当する。過年度の「英語ゼミ」のみならず３年間の＜英語プロジェクト＞での学びの集大成でもあり、修了要件を満たす最後の研究課題に取り組んで、その成果を何らかの形で公開して、社会での実際の仕事に応用できるようにする。 修了研究の課題として想定されるのは、英語による論文の作成、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ブログの公開、創作、翻訳、朗読（レシテーション）、「英検」／TOEFL／TOEIC などの資格試験での高いスコアの取得とその合格体験記や、英語圏への留学とその成果の報告などである。いずれにせよ、最後の「修了研究」は、誰かから与えられる課題ではなく、プロジェクトの修了生が自ら設定して取り組む課題である。 成果の公開方法は、「修了研究」としてどのような課題を選択したかによって異なってくる。しかし、成果をどのように公開するかを考えるのもまた課題のうちであり、助言は得られるであろうが、誰かが公開の方法を教えてくれるわけではない。さらにはまた、公開の機会も誰かが提供してくれるわけではない。社会へと巣立っていく直前となった今、その方法を自ら考案し、その機会を自ら企画して創出して行くのもまた学生としての「修了」課題である。		
教材（テキスト）	過年度「英語ゼミ」で使用した教科書（購入不要）		
教材（参考文献）	各自の修了研究に必要な資料類		
教材（その他）	プリント（ハンドアウト）教材		
評価方法	進捗状況報告を含む演習活動（20%）、英語力最終判定（10%）、修了研究中間報告（20%）、修了研究成果の最終公開（50%）などの項目で総合的に評価する。		
到達目標	１．＜英語プロジェクト＞の修了要件を満たす研究課題を完成させ、それを公開することができる。 ２．研究課題への取り組みを通じて、英語を実際の仕事に応用する技能を身につける。 ３．「英検」準１級、TOEIC700／TOEFL-iBT78 点と同等の英語運用力を身につける。		
準備学習	１．各自の修了研究に応じた公開方法を明確に定めて、実際の公開を企画しておくこと。 ２．修了研究公開に必要な技能を修得し、公開の場においてプレゼンテーションソフトなどを駆使できるようにしておくこと。		

受講者への要望

１．「修了研究」において修了研究を完成させるのでは遅いので、「英語ゼミⅥ」の最終回までに完成させておく。万一それに遅れた場合でも、「修了研究」が始まる前の夏休み中に完成させておく。

２．秋学期においてもなお就職活動と重なることが想定されるが、その場合にも必ずゼミ担当者と密に連絡を取り、研究活動報告として進捗状況を知らせること。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは修了研究課題への取り組みを中心としたものである。ゼミでは過年度の教材類を使用して英語力強化の学習も引き続き行う。

１．＜英語プロジェクト＞科目秋学期最終履修登録相談と確認、「英語ゼミⅥ」の復習
２．修了研究課題の完成版報告１
３．修了研究課題の完成版報告２
４．修了研究課題の完成版報告３
５．修了研究課題の公開企画１
６．修了研究課題の公開企画２
７．修了研究課題の公開練習１
８．修了研究課題の公開練習２
９．修了研究課題の公開練習３

10. 修了研究課題の公開 1
11. 修了研究課題の公開 2
12. 公開後の修了研究課題修正 1
13. 公開後の修了研究課題修正 2
14. 英語アチーヴメントテスト
15. 修了研究最終版提出、修了要件の最終確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	JE0034002
科目名	英語プロジェクト修了研究	単位数	2
科目名（英語表記）	English Project Completion Research		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	英語プロジェクト修了研究Ⅱ
講義概要	「英語プロジェクト修了研究」は修了希望者のみの選択科目であるが、＜英語プロジェクト＞の基幹科目であることに変わりはなく、「英語ゼミ」の「Ⅶ」に相当する。過年度の「英語ゼミ」のみならず３年間の＜英語プロジェクト＞での学びの集大成でもあり、修了要件を満たす最後の研究課題に取り組んで、その成果を何らかの形で公開して、社会での実際の仕事に応用できるようにする。 修了研究の課題として想定されるのは、英語による論文の作成、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ブログの公開、創作、翻訳、朗読（レシテーション）、「英検」／TOEFL／TOEIC などの資格試験での高いスコアの取得とその合格体験記や、英語圏への留学とその成果の報告などである。いずれにせよ、最後の「修了研究」は、誰かから与えられる課題ではなく、プロジェクトの修了生が自ら設定して取り組む課題である。 成果の公開方法は、「修了研究」としてどのような課題を選択したかによって異なってくる。しかし、成果をどのように公開するかを考えるのもまた課題のうちであり、助言は得られるであろうが、誰かが公開の方法を教えてくれるわけではない。さらにはまた、公開の機会も誰かが提供してくれるわけではない。社会へと巣立っていく直前となった今、その方法を自ら考案し、その機会を自ら企画して創出して行くのもまた学生としての「修了」課題である。		
教材（テキスト）	過年度「英語ゼミ」で使用した教科書（購入不要）		
教材（参考文献）	各自の修了研究に必要な資料類		
教材（その他）	プリント（ハンドアウト）教材		
評価方法	進捗状況報告を含む演習活動（20%）、英語力最終判定（10%）、修了研究中間報告（20%）、修了研究成果の最終公開（50%）などの項目で総合的に評価する。		
到達目標	１．＜英語プロジェクト＞の修了要件を満たす研究課題を完成させ、それを公開することができる。 ２．研究課題への取り組みを通じて、英語を実際の仕事に応用する技能を身につける。 ３．「英検」準１級、TOEIC700／TOEFL-iBT78 点と同等の英語運用力を身につける。		
準備学習	１．各自の修了研究に応じた公開方法を明確に定めて、実際の公開を企画しておくこと。 ２．修了研究公開に必要な技能を修得し、公開の場においてプレゼンテーションソフトなどを駆使できるようにしておくこと。		

受講者への要望

１．「修了研究」において修了研究を完成させるのでは遅いので、「英語ゼミⅥ」の最終回までに完成させておく。万一それに遅れた場合でも、「修了研究」が始まる前の夏休み中に完成させておく。

２．秋学期においてもなお就職活動と重なることが想定されるが、その場合にも必ずゼミ担当者と密に連絡を取り、研究活動報告として進捗状況を知らせること。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは修了研究課題への取り組みを中心としたものである。ゼミでは過年度の教材類を使用して英語力強化の学習も引き続き行う。

１．＜英語プロジェクト＞科目秋学期最終履修登録相談と確認、「英語ゼミⅥ」の復習
２．修了研究課題の完成版報告１
３．修了研究課題の完成版報告２
４．修了研究課題の完成版報告３
５．修了研究課題の公開企画１
６．修了研究課題の公開企画２
７．修了研究課題の公開練習１
８．修了研究課題の公開練習２
９．修了研究課題の公開練習３

10. 修了研究課題の公開 1
11. 修了研究課題の公開 2
12. 公開後の修了研究課題修正 1
13. 公開後の修了研究課題修正 2
14. 英語アチーヴメントテスト
15. 修了研究最終版提出、修了要件の最終確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JE0036001
科目名	英語ライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Writing		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語のライティング力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、未来の仕事に必要な応用文型練習をしていきます。英語を正しく書くためには基本文型と文法知識が必要です。この授業ではやさしい短文を例示して正確な英文を書けるようにします。		
教材（テキスト）	Paul McLean 著, Modern College English: Read It, Write It. 金星堂 1550 円 その他プリント教材（授業で配布します。）		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他のことは授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テストと宿題（50%）よって総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ１５００語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解できるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解できるようにします。 3. いろいろな英語の応用文型に慣れて書くことができるようにします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習してください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った内容の応用文を中心としたものです。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。テキストを忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、必ず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館 1 階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. Introduction (授業に関する説明および注意事項)
   My Day (1)
2. My Day (2)
3. My Friend
4. A Letter to Friend (1)

5. A Letter to Friend (2)
6. The Weather
7. My Family
8. A Business Letter (1)
9. A Business Letter (2)
10. On Weekends
11. My Horoscope
12. A Trip
13. Directions

14. A Profile Letter (1)
15. A Profile Letter (2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	JE0036051
科目名	英語ライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Writing		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「英語ライティング」は、英語プログラムの初級英語表現演習科目である。書く技能の習得を中心に、基本的な英文の構造を学び、英語によるコミュニケーション能力の基礎を築いていく。 このクラスでは、英語表現という観点から英文法の基本を再確認し、日常生活でよく使われる表現の演習を通じて、英語で表現する場合に必須の発想法を身につけていく。 英語によるコミュニケーション（意思疎通）のために英会話だけが重視された時代があったが、今日ではインターネットの普及により、コミュニケーションを図る手段としては、直接出会っての会話や電話などよりもＥメールのほうが重用されてきている。会話では、限られた少数の人との間でしか意思疎通をはかることができない。しかし、インターネット、Ｅメールを英語で利用できるようになれば、はるかに多くの人たちとの間で意思疎通を試みることができる。そもそも英文を書く力がなければ、「まっとうな」会話などできはしない。		
教材（テキスト）	Hidehiko Konaka、A Shorter Course in Expressions for Everyday Action（『5 分間 日常動作を表す英語表現』）、南雲堂、700 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表／受講態度などにおける授業内演習評価（約 40%）および毎回の小テストを含む授業内復習テストの成果（約 60%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．日常よく使われる英語表現を用い、身近な話題について短い英文で表現できるようになる。 2．平易な英語でメモや e-mail などを書いたりするための基礎力が身につく。		
準備学習	1．次回授業で取り扱う教科書の範囲を確認し、その範囲の演習問題をすべて解いておく。 2．具体的には、Let’s Learn の空所に適切な語句を補充し、Let’s Try の問題のすべてに指示に従って答えておく。 3．Let’s Warm Up については、[例]の英文を暗記しておく。 4．＜京学なび＞「授業資料」からハンドアウト（解答例）をダウンロードし、復習しておく。		

受講者への要望

初回はもちろんのこと、授業に毎回出席できる学生で、誤りを恐れず自ら進んで発表できる学生の受講を強く望む。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントについては、進度に応じて変更が生じる。

1．演習概要と評価方法などに関する説明、Lesson 1: Living Room & Bedroom
2．Lesson 2: Kitchen、Lesson 3: Bathroom
3．続・Lesson 3: Bathroom、Lesson 4: Housekeeping
4．Lesson 5: Jobs(1)、Lesson 6: Public Transportation
5．続・Lesson 6: Public Transportation、Lesson 7: Car
6．Lesson 8: School、Lesson 9: Hospital
7．復習テスト 1、続・Lesson 9: Hospital
8．Lesson 10: Office、Lesson 11: Sports
9．続・Lesson 11: Sports、Lesson 12: Leisure
10．Lesson 13: Shopping、Lesson 14: Restaurant
11．続・Lesson 14: Restaurant、Lesson 15: Jobs(2)

12. Lesson 16: Street、Lesson 17: Crime & Accident
13. 続・Lesson 17: Crime & Accident、Lesson 18: Party
14. 復習テスト２、Lesson 19: Airport
15. 続・Lesson 19: Airport、Lesson 20: Playground

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JE0038001
科目名	英語ライティングII	単位数	2
科目名（英語表記）	English Writing II		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	英語ライティングスキルの更なる向上を目指す学生向けです。一般的に間違えやすい点の克服や、短い英語の組立を正確に書くトレーニングをします。		
教材（テキスト）	プリント用紙配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出席・積極的参加：４０％ 最終テスト６０％		
到達目標	ライティングのスキルの重点的向上を目指し、より正確な英語になることを最終的な目標とします。		
準備学習	授業への準備は必要ありませんが、簡単な宿題をしてきましょう。		
受講者への要望			
毎回の講義の出席			
講義の順序とポイント			
1. Orientation & Assessments 2. Verbs 3. Tenses 4. Nouns 5. Adjectives (1) 6. Adjectives (2) 7. Adverbs and adverbial phrases 8. Pronouns 9. Prepositions 10. Sentences (1) 11. Sentences (2) 12. Confusable words 13. Time and numbers 14. Spelling and punctuation 15. General review (preparation for the final exam) 講義計画及び内容は変更する可能性があります。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JE0039001
科目名	英語ラピッドリーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Rapid Reading		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	＜英語プロジェクト＞の専門科目であり、「英語中級リーディング」に続いてリーディング力の養成を目的とした演習を行う。特にこの科目では、科目名が示す通り、英文速読に必要な技能の修得を第一とした演習を行う。 英文読解には英文の種類と読み手側の目的とに応じた読み方が必要となるが、本科目では速読法の修得を第一の目的とした演習を行うため、教材には多種類の英文ではなく新聞記事を基にした英文テキストを用いる。その理由は、人びとが日常生活において特に意図せず速読している文章が何かと言えば、何よりも先ず新聞記事のはずだからである。新聞記事はまた、さまざまな分野の話題を提供してくれるので、英語の語彙修得もさまざまな分野においてそれが可能となる。 まとまりごとに意味をくみ取りながら読み進めていく Sense Group Reading という読解の基本を軸に、主要な速読法の体得を試みていく。		
教材（テキスト）	Stephen Edward Rife 他、Reading Crystalline（『英文読解の総合演習』）、三修社、1,700 円		
教材（参考文献）	英語学習には英語の辞書（英和辞典など）が必須である。		
教材（その他）			
評価方法	応答発表／Exercises／小テストなどにおける授業内演習評価（約 60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（約 40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．1 分間に 100 語程度の英文を読んで大要を把握する読解力を修得する。 2．英検、TOEIC、TOEFL などの英語資格試験問題において高いスコアを取得するのに必要な英文速読の技能が身につく。		
準備学習	1．先ず次回授業で取り扱う教科書の unit を確認する。（1 回の授業で 1 unit の演習を行う。） 2．Reading のテキストを語句のまとまり（Sense Group）で区切りながら、何十回も音読する。 3．Exercises の A〜E までの問題に答えておく。 4．＜京学なび＞「授業資料」からハンドアウトをダウンロードし、説明を読んで疑問点があればマークしておくとともに、演習問題があれば取り組んでおく。		

受講者への要望

十分な準備学習を行って毎回の授業に出席すること。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは、実際の進度と各テキストの利用方法とに応じて変更することがある。

1．演習概要・評価方法の説明、The Miracle on the Hudson
2．Down with Selfishness
3．Students and Cell Phones
4．Garmarjobat
5．America’s Game
6．The Night of Sudan
7．中間課題、Lay Judge System
8．The Road to the Presidency
9．The Jazz Funeral
10．Kenichiro Mogi
11．Stem Cell Research
12．“Made in Japan”

13. Nonviolence for a Better World
14. 期末課題、Youth
15. 期末課題の復習、速読法のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	JE0041001
科目名	英語リーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語の読解力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、世界の様々な話題について英語で読み解く練習をしてゆきます。英文読解には、語彙を増やすことも大切ですが、効果的な読解の方法を身につけることも大切です。この授業では効率よく内容を把握するために、トピックセンテンスとパラグラフの構造、原因と結果、分類、時系列に沿っての説明、スピーチの文体など、読む対象によって異なる読解方法を駆使できるように指導してゆきます。		
教材（テキスト）	Osamu Takeuchi, Tomoko Yabukoshi, Seijiro Sumi, Michiko Ueki 著. Reading Stream: Elementary. 金星堂, 1700 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テスト（50%）よって総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ 2000 語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解できるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解するようにします。 3. 時事ニュース、英字新聞、スピーチの文体に慣れるようにします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。テキストを忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館１階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. To Drive or to Ride?--トピックセンテンスとパラグラフの構造
2. Help Yourselves--原因と結果
3. What I Learned from Fay―経験を語る(物語)
4. Ways to Help Others--分類しながら説明する
5. Can Fish Fall from the Sky?―報告する（時事ニュース）
6. How to Prepare a Presentation―手順を説明する
7. International Date Line―事実を時系列に沿って説明する
8. What is Friendship?―定義を示して例示する
9. Entering a Photo Contest―情報を効率的に伝える（e-mail）
10. Getting Money for a Big Project―比較する
11. Accepting the "Salesperson of the Year" Award―スピーチの文体に慣れる
12. Written Art―コミュニケーションのスタイルを理解する

13. Llife Advice Q & A with Dr. Joyce Green―目的をもって尋ねる（人生相談）
14. Stronger Yen Threatens Japanese Economy―経済記事を読んでグラフを完成させる
15. Not Hearing a Gorilla―報告する（科学）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JE0041051
科目名	英語リーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語の読解力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、世界の様々な話題について英語で読み解く練習をしてゆきます。英文読解には、語彙を増やすことも大切ですが、効果的な読解の方法を身につけることも大切です。この授業では効率よく内容を把握するために、トピックセンテンスとパラグラフの構造、原因と結果、分類、時系列に沿っての説明、スピーチの文体など、読む対象によって異なる読解方法を駆使できるように指導してゆきます。		
教材（テキスト）	Osamu Takeuchi, Tomoko Yabukoshi, Seijiro Sumi, Michiko Ueki 著. Reading Stream: Elementary. 金星堂, 1700 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テスト（50%）により、総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ 2000 語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解できるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解するようにします。 3. 時事ニュース、英字新聞、スピーチの文体に慣れるようにします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。
テキストを忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑦英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. To Drive or to Ride?--トピックセンテンスとパラグラフの構造
2. Help Yourselves--原因と結果
3. What I Learned from Fay―経験を語る(物語)
4. Ways to Help Others--分類しながら説明する
5. Can Fish Fall from the Sky?―報告する（時事ニュース）
6. How to Prepare a Presentation―手順を説明する
7. International Date Line―事実を時系列に沿って説明する
8. What is Friendship?―定義を示して例示する
9. Entering a Photo Contest―情報を効率的に伝える（e-mail）
10. Getting Money for a Big Project―比較する
11. Accepting the "Salesperson of the Year" Award―スピーチの文体に慣れる
12. Written Art―コミュニケーションのスタイルを理解する
13. Llife Advice Q & A with Dr. Joyce Green―目的をもって尋ねる（人生相談）
14. Stronger Yen Threatens Japanese Economy―経済記事を読んでグラフを完成させる

15. Not Hearing a Gorilla―報告する（科学）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	–	★

年度	2016	授業コード	JE0043001
科目名	英語リーディングII	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading II		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	最初は、簡単な教材を用いて速読の練習を行います。雑誌や新聞記事などを使って、少しずつ難易度の高い英文を学び、講読形式でも授業を行い、読解力の養成を図ります。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出席・授業態度(40%) 授業内復習テスト(60%)		
到達目標	「英語リーディング」に続いて、英語読解力をさらに高めます。雑誌や、新聞記事、インターネットなどを読んで、 早く的確に情報を捉え、内容を把握できることを目標とします。		
準備学習	特になし		

受講者への要望

復習をするよう習慣づけましょう。

講義の順序とポイント

1. 初級読み物 音読練習
2. 中級読み物 音読練習
3. 上級読み物 音読練習
4. 主題を掴む 1
5. 主題を掴む 2
6. 段落ごとのまとまりを把握する 1
7. 段落ごとのまとまりを把握する 2
8. 構文で読み解く
9. 雑誌で読み解く 1
10. 雑誌で読み解く 2
11. インターネットウェブサイトで読み解く 1
12. インターネットウェブサイトで読み解く 2
13. 新聞記事で読み解く
14. コミックスで読み解く
15. 速読

講義計画及び内容は変更する可能性があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JE0045003
科目名	英語リスニング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Listening		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この科目は初級リスニング演習です。視聴覚教材を装備したオーディオ・ビジュアル教室で CD, DVD, テープなどの教材を活用した演習を行い、英語リスニング力を上達させるための基礎力を養成します。 .		
教材（テキスト）	教材　Barbara H. Foley 著.　　Listen To Me!　　Thomson learning　1680　円 その他プリント教材		
教材（参考文献）	参考文献 毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	教材（その他）Listen To Me! Japan Edition として音声 CD（テキスト付属）を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テスト（50%）により、総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	リスニングの基礎を学び、日常の身近な話題に関する話や簡単なアナウンス、道案内、電話での会話などを英語で聴き、その内容を理解し、簡単なコミュニケーションがはかれる程度の基礎力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは Dictation （書き取り）問題、語彙問題、聴解問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続が大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。
以下の各項目を１回の授業で学習します。 但し、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Lesson 1 Ali
2. Lesson 2 Back in School
3.Lesson 3 City or Country
4. Lesson 4 A Bus Ride
5. Lesson 5 The Supermarket
6. Lesson 6 The Disco
7. Lesson 7 Vacation
8. Lesson 8 Eduardo
9. Lesson 9 Divorce
10. Lesson 10 Ana and Peter

11. Lesson 11 Volunteers
12. Lesson 12 Good Health
13. Lesson 13 Fast Thinking
14. Lesson 14 The Accident
15. Lesson 15 My Neighbor

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JE0045051
科目名	英語リスニング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Listening		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	初級の英語リスニング演習科目である。DVD、ビデオ、CD、テープなどの教材を活用した演習を行い、英語リスニングの基礎力を養成する。 このクラスでは、TOEIC（Test of English for International Communication）の場面別に編纂されたリスニング問題（Parts 1-4）に取り組み、英語資格試験にも日常の英語聴き取りにも役立つ演習を行う。実際のTOEIC 問題を解きながら、リスニング力の向上に不可欠な基礎と、日常生活において役立つ英語表現とを学んでいく。		
教材（テキスト）	Tony Cripps et al.、Tune up for the TOEIC Test Listening、成美堂、900 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答発表／小テストなどにおける授業内演習評価（約 60%）および中間および期末の授業内 Review Tests と応用課題の成果（約 40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．英語リスニングの平易な問題演習により、英語資格試験におけるリスニング部門でのスコアを基礎的なレベルにおいて伸ばすことができる。 2．日常のさまざまな場面で役立つ英語表現を学ぶことにより、英語コミュニケーションを図るための基礎力が養成される。		
準備学習	1．先ず次回授業で取り扱う教科書の unit を確認する。（1 回の授業で通常 2 units の演習を行う。） 2．その units の英語文を何十回も音読する。（別売 CD を購入した場合は、先ずそれを聴くとよい。） 3．何度音読しても意味が伝わってこない箇所があれば、その箇所に下線などを引いておく。 4．下線を引いた意味不明の箇所について辞書を引いて調べてみる。		
受講者への要望			
初回はもちろんのこと、授業に毎回出席できる学生の受講を強く望む。			
講義の順序とポイント			
下記の順序とポイントについては、実際の進度に応じて変更が生じる。 1．演習概要と評価方法などに関する説明、Unit 1: Are you ready to order? 2．Unit 2: Is this to go?、Unit 3: May I help you? 3．Unit 4: Cash or charge?、Unit 5: Go for it! 4．Unit 6: Breathe in, breathe out、Unit 7: What seems to be the problem 5．Unit 8: Take this medicine twice a day、Unit 9: Sing along! 6．Unit 10: The acting is excellent!、Review Tests 1-2 7．Review Tests 1-2 の解説、中間応用課題 8．中間応用課題の解説、Unit 11: It’s conveniently located. 9．Unit 12: How about a leather sofa?、Unit 13: Got it? 10．Unit 14: The paper is due next week、Unit 15: One way or round trip? 11．Unit 16: Enjoy your stay.、Unit 17: Please fasten your seatbelt. 12．Unit 18: It’ll take 20 minutes.、Unit 19: This is our new product. 13．Unit 20: Here’s the latest news.、Review Tests 3-4 14．Review Tests 3-4 の解説、期末応用課題 15．期末応用課題の解説、TOEIC 受験方法とスコア			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	-	★

年度	2016	授業コード	JE0049001
科目名	英語資格試験パソコンワーク	単位数	2
科目名（英語表記）	CALL for English Proficiency Tests		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「英語資格試験パソコンワーク」は、パソコン利用の初級英語演習であり、「英検」（実用英語技能検定）準２級、TOEIC(Test of English for International Communication)380-470 点の資格取得を目標に英語力の養成をはかる科目である。 本学の旧セルフラーニング室に配信される TDK『英検合格コース準２級 DX』の全部および ALC『NetAcademy（初級中級コース）』の一部を活用した演習を行う。当該室が開いている時間帯であればいつでも、両教材を用いた学習を続けることができる。 ３回生からの就職活動を有利に運ぶには、英語の資格は基本的な資格として不可欠である。教科書代は不要なので、その分で必ず「英検」または TOEIC の受験に挑戦してほしい。 なお、パソコン操作に関しては初歩的な知識があれば十分であるが、本学のネットワークにログインできることが受講の条件となる。		
教材（テキスト）	ネットワーク（LAN）教材（教科書の購入不要）		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	達成量を含む授業内演習活動（約 30%）、「英検」テスト演習成果（約 25%）、授業内テスト演習成果（約 15%）、最終課題（約 30%）または「英検」準２級一次試験受験結果などで総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	旧セルフラーニング室でネットワーク教材を活用しながら、語彙、文法、読解、リスニングなどの力をさらに向上させ、英検準２級、TOEIC430 点程度の取得を目標とする。		
準備学習	１．旧セルフラーニング室を活用して「プラクティス」や「テスト」などの続きに取り組み、授業時に指示された範囲の演習目標量を達成する。 ２．＜京学なび＞の「授業資料」から次回授業用のハンドアウトをダウンロードし、教材利用のしかたを予習しておく。 本科目では、授業前の予習よりも授業後の独習による演習継続のほうが準備学習に相当する。		

受講者への要望

１．初回はもちろんのこと、授業に毎回出席できる学生の受講を強く望む。
２．「英検」準２級を受験すること。

講義の順序とポイント

進度に応じて変更するので、下記の順序は暫定に過ぎない。省略も生ずる。
１．演習概要・評価方法の説明、アカウント確認とパスワード変更、英検「語彙・文法」プラクティス
２．英検「語彙・文法」「リスニングⅠ」プラクティス、公式サイトによる「英検」・「TOEIC」の受験案内
３．英検「作文」「リスニングⅠ」プラクティス、TOEIC テスト Part-Ⅰ演習
４．英検「作文」「リスニングⅡ」プラクティス、TOEIC テスト Part-Ⅱ演習
５．英検「読解」「リスニングⅡ」プラクティス、TOEIC テスト Part-Ⅲ演習
６．英検「読解」「リスニングⅢ」プラクティス、TOEIC テスト Part-Ⅳ演習
７．英検「読解」「リスニングⅢ」プラクティス、TOEIC テスト Part-Ⅴ演習
８．英検「語彙・文法」テスト、TOEIC テスト Part-Ⅵ演習
９．英検「作文」テスト、TOEIC テスト Part-Ⅶ演習
10．英検「読解」テスト、「英検」一次試験解答解説
11．英検「リスニングⅠ」テスト、英検二次面接試験の受け方
12．英検「リスニングⅡ」テスト、英検二次面接試験（音読）

13. 英検「リスニングⅢ」テスト、英検二次面接試験（質疑応答）
14. 最終課題、英検二次面接試験演習
15. 最終課題の復習、TOEIC リスニング強化／リーディング強化コース演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JE0051002
科目名	英語資格試験ワーク	単位数	2
科目名（英語表記）	Studies for English Proficiency Test		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	本講座では TOEIC の教材を用い、英語の基本を大切にしながらも TOEIC の解法、コツ、テクニックを身につけていくことを主眼とします。授業では問題を実際に解き、解説をしていきます。その際、ただ答え合わせをするだけでなく、解答の根拠を明確にします。リスニングでは問題を解くだけでなく、音読、ディクテーションを取り上げて英文構造の把握のトレーニングもします TOEIC は時間との闘いでもあるので、限られた時間で大量の設問をこなしていくための解法のテクニックを実践練習を通じて身につけていくようにします。		
教材（テキスト）	プリント、ＣＤを配布します。		
教材（参考文献）	文法に自信のない学生は高校時代に利用していた文法書を持ち込むことをお勧めします。		
教材（その他）	英和辞典必携		
評価方法	出席など授業中での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、ただし全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなければ 59 点以下の不合格とします。		
到達目標	英語の基本文法、文章構造をつかみ、TOEIC の形式に慣れることで試験対策を自発的に取り組むことができるようになることを目的とします。		
準備学習	できるだけ日々の生活で英語にふれるようにしていくようにしてください。CD は繰り返し聞いてください。この講座は学生の自発性、積極性が必要です。		

受講者への要望

授業ではどんどんあてていきます。間違いは決して気にしないこと。この講座を始めるにあたって必要なのは英語力よりも学生の積極性です。間違いは新たな発見、英語力向上のサインです。

講義の順序とポイント

ここに講義の順序を記載しますが、学生のレベルによって変更することもありえるので担当者の指示をしっかりその都度聞くようにしてください。

1.Part 1 基礎固め
2.Part 2 基礎固め
3.Part 3 基礎固め
4.Part 4 基礎固め
5.Part 5, 6 基礎固め
6.Part 7 基礎固め
7.ここまでの復習
8.Part 1, 2 スコアアップ
9.Part 3 スコアアップ
10.Part 4 スコアアップ
11.Part 5 スコアアップ
12.Part 6 スコアアップ
13.Part 7 スコアアップ　読解問題：１つの文書
14.Part 7 スコアアップ　読解問題：２つの文書
15.実践演習、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	★★	ー	★

年度	2016	授業コード	JE0051051
科目名	英語資格試験ワーク	単位数	2
科目名（英語表記）	Studies for English Proficiency Test		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	本講座では主に、TOEIC 受験のための準備をします。現在まだ TOEIC 受験が難しいと考えている学生を主に対象とし、TOEIC の受験対策の基礎固めをします。TOEIC の問題形式、必要な文法、語彙、読解の方法、また TOEIC 受験のために必要なリスニングの攻略法の基礎を学びます。		
教材（テキスト）	Emiko Hirose Horton 著．Cross Over the TOEIC Bridge Test （金星堂）（2000 円） その他プリント教材		
教材（参考文献）	教材（参考文献） 毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。		
教材（その他）	リスニング問題のために音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む、60%）、課題（20%）、授業への参加状況（予習、復習、授業での発表状況など）（20 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	TOEIC の学習方法を身につけ、TOEIC 対策に向けた学習を学生が自発的にできるようにします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分時間をかけて、授業に臨んでください。小テストには語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①毎回の授業に必ずテキスト、辞書を持参してください。忘れた場合は減点の対象になります。
②英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
③当授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。
④実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
以下の内容をおおよそ一回の授業で行います。進度の状況によっては変更になることがあります。毎回授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Introducing Yourself―数えられる／数えられない名詞
2. Eating Out―時制と自動詞、他動詞
3. Going Shopping― 5 文型
4. Having Fun―疑問詞：WH-words
5. Holding a Party―形容詞と副詞
6. Traveling―前置詞
7. Corresponding―助動詞
8. Telephoning―受動態
9. Staying Healthy―比較の表現
10. Finding a Place to Live―不定詞の名詞的・形容詞的・副詞的用法
11. Banking―関係代名詞
12. 関係代名詞　復習
13. Getting a Job―仮定法
14. Talking about the Weather―動名詞をとる動詞と不定詞をとる動詞
15. Cooking―動詞を中心とした熟語

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	JE0053001
科目名	英語資格試験ワークII	単位数	2
科目名（英語表記）	Studies for English Proficiency Test II		
担当者名	プティ　マーク	旧科目名称	
講義概要	TOEIC のスコア向上とリスニング・リーディングの英語上達を目指す学生向けです。学生は、テ ストの各部門をカバーし語学のスキルを向上します。また、能力の最大限の活かし方や、戦略的 な各部門でのアプローチの仕方などを学びます。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出席・授業態度４０％ 宿題２０％ TOEIC 最終テスト（最初のテストとの比較）４０％		
到達目標	全体の TOEIC のスコア向上とリスニング・ライティングの上達を最終目標とします。		
準備学習	授業への準備は必要ありませんが、簡単な宿題をしてきましょう。		
受講者への要望			
毎回の講義の出席			
講義の順序とポイント			
1. Orientation & First TOEIC practice test (Listening Section) 2. First TOEIC practice test (Reading Section) 3. Training No. 1: Reading Part 7 (1) 4. Training No. 2: Reading Part 7 (2) 5. Training No. 3: Listening Part 4 (1) 6. Training No. 4: Listening Part 4 (2) 7. Review of trainings No. 1 to 4 8. Training No. 5: Listening Part 3 (1) 9. Training No. 6: Listening Part 3 (2) 10. Training No. 7: Listening Part 2 11. Training No. 8: Listening Part 1, Part 5 and Part 6 12. Review of trainings No. 5 to 8 13. Second TOEIC practice test (Listening Section) 14. Second TOEIC practice test (Reading Section) 15. Individual guidance and support 講義計画及び内容は変更する可能性があります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	JE0054001
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	―	★	―	★

年度	2016	授業コード	JE0054003
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0054004
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Final Review. Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0054005
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0054051
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Final Review. Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0054052
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0054053
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***
講義の順序とポイント
Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information. Lesson 2: Travelling and transportation. Lesson 3: Talking about lifestyle. Lesson 4: Talking about food. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Describing a vacation. Lesson 7: Making requests. Lesson 8: Giving suggestions. Lesson 9: Describing holidays/festivals. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about change. Lesson 12: Describing abilities. Lesson 13: Describing movies/books/games. Lesson 14: Final Review. Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0054054
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises and cartooning in English.		
教材（テキスト）	S. Richmond et al, Conversations in Class：Second Edition, Alma Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests （80%） Written reports （10%） Final test (10%) Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.		
準備学習	Students will be required to complete reading, grammar and writing assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are required to attend all classes and come with a positive and respectful attitude. They should also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course/review
2. Topic: Have you ever been abroad?
3. Topic: Are there any foods I should try in New York?
4. Topic: What have you been up to recently?
5. Topic: What kind of music do you like?
6. Topic: Do you have any plans for the weekend?
7. Topic: Do you have a part-time job?
8. Topic: What do you spend your money on?
9. Topic: What's the weather like where you're from?
10. Topic: What do you do for New Year's?
11. Topic: What's your hometown famous for?
12. Topic: Will you still be living here five years from now?
13. Topic: Would you rather live in Japan, or live overseas?
14. Topic: What would your dream job be?
15. Final conversations/presentations

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JE0055001
科目名	英語中級ライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Writing		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語のライティング力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、未来の仕事に必要な応用文型や、英文で正式にレポートを書く練習をしていきます。英語を正しく書くためには基本文型と文法知識が必要です。この授業ではやさしい短文を例示して英文を正しく書く練習をして英文構成力を身につけるようにします。		
教材（テキスト）	Yoshihito Sugita と Richard R. Caraker　著, Primary Course on Paragraph Writing　SEIBIDO 1900 円 その他プリント教材（授業で配布します。）		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他のことは授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テストと宿題（50%）よって総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ 2000 語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解でき、それらの単語を応用して文章を書けるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解して感想文を書けるようにします。 3.　いろいろな英語の応用文型や、レポートに慣れて書くことができるようにします。		
準備学習	この授業では毎回、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテスト準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習してください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った内容の応用文を中心としたものとなります。		

受講者への要望

①プリント教材を持参してください。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、必ず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館 1 階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

各項目をおおよそ一回の授業で終了します。ただし、授業の震度に寄って変更になることがあります。

1. Introduction (授業に関する説明および注意事項)
2. Pre-writing activity
3. For writing a draft
4. Revising and editing
5. Family and friends
6. Last weekend
7. Music and sports
8. Japan and the UK
9. University life
10. What is love?
11. Part-time job
12. My hometown
13. Way to keep Healthy
14. Basic of essay writing

15. Writing your essay

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JE0056001
科目名	英語中級リーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Reading		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	実際の英字新聞からの記事を元にした教材を読んでいく。 幅広い分野の様々なニュースを取り上げているので、生きた英語を学びながら躍動する現代という時代を感じ取れるだろう。 新聞の英文は事実をそのまま表現しているので、ある意味読みやすいとも言えるが、背景を知らないとチンプンカンプンであるかもしれない。 日頃から国内・国外の事柄のニュース番組等を見るように希望します。。 今私たちが生きている社会を理解しつつ、英語読解力を向上させて行って もらいたい。		
教材（テキスト）	村尾純子・深山晶子他著 『Insights 2016　世界を読むメディア英語入門２０１６』 金星堂 ￥１，９００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	英字新聞に使われる語彙や英字新聞のスタイルを学ぶ。 また実際の英字新聞の記事を読んだり英語ニュースで リスニングをしたりリアルタイムの英語に慣れる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 1　新しい語句を調べる 2　自分の訳文ノートを作成する 3　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
第１回　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。 Chapter1　Key　Expressions1,2,3 はやるので予習しておいてほしい。 どの chapter をやるかはアンケートを取って決めるので、以下は暫定的な計画と了承してもらいたい。 第２回　Chapter 1 後半　＆Chapter 2 前半 第３回　Chapter 2 後半 第４回　Chapter 3 第５回　Chapter 3 後半　＆Chapter 4　前半 第６回　Chapter 4　後半　＆Chapter 5 前半 第７回　Chapter 5　後半 第８回　Chapter 1-5 の復習及び理解度テスト 第９回　Chapter 6 第 10 回　Chapter 6　後半　＆Chapter 7 前半			

第 11 回　Chapter 7　後半　＆Chapter 8 前半
第 12 回　Chapter 8　後半
第 13 回　Chapter 9　前半
第 14 回　Chapter 9　後半　＆Chapter 10　前半
第 15 回　Chapter 10　後半及び理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JE0057001
科目名	英語文化研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	English Cultural Studies A		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「英語文化研究」は＜英語プロジェクト＞専門科目の 1 つであり、英語圏の文化と英語という言語への理解を深めることを目的とした科目である。日本と英米の文化や言語の比較、英語圏の文化事情を扱ったテキストの読解とテーマについてのディスカッション、英語圏の文学、映像作品の鑑賞などを通して異文化理解を深めていく。 担当者の専門はイギリス文学およびイギリス事情研究であるので、その専門知識が多少とも生かせるように、この「A」では主としてイギリスの社会文化事情を取り扱っていく。とは言え、真に研究してほしいのは受講生それぞれの母国のことであり、テキストの講読によってイギリス事情の一端を知った後は、同一主題の母国事情と比較し、最終的には母国への理解を深めてほしい。		
教材（テキスト）	Anthony Allan et al.、Insight into Britain（『イギリス探訪』）、金星堂、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答・発表・ディスカッションなどの授業内演習活動（約 40%）、Reading Passage 概要報告（約 20%）ならびに課題レポートの報告と成果（約 40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	1．イギリス事情との比較によって、母国の相対物への理解が深まる。 2．「英検」で 2 級レベルの英文から必要な情報を正確に入手するための英語力が身につく。		
準備学習	1．次回授業で取り扱う chapter を確認し、その Reading Passage を何度も何度も音読する。 2．Vocabulary Builder の問題に解答し、かつ、Notes と Background にも目を通しておく。 3．概要報告者は段落ごとの要点をまとめ、所定の用紙に記入して発表できるようにしておく。		

受講者への要望

十分な準備学習を行って毎回の授業に出席すること。

講義の順序とポイント

初回の Chapter 1 以外は、報告者が取り上げる順序によって変わってくるので、“Contents（目次）”の順序通りにはならない。また、課題レポートにも時間を割く必要があるので、いくつかの章は実際には省略することになる。リーディング科目ではないので、Passage の理解を深めるために Comprehension や Summary を利用することはあるが、Tune In! や Write Away! を授業内演習ではまったく取り扱わない。

1．演習概要・評価方法などに関する説明、Chap. 1: Animals: Fictional and Real
2．Chap. 2: Exporting Sport
3．Chap. 3: Literature: The Reading Boom、レポート課題説明
4．Chap. 4: Eating Habit: changing Tastes
5．Chap. 5: Art: Attitudes and Anonymity
6．Chap. 6: Population: Food for Thought、レポート課題調査
7．Chap. 7: Antiques: Older Is Often Better
8．Chap. 8: Smoke-free Britain
9．Chap. 9: Edinburgh: A City of Festivals、レポート課題確認
10．Chap. 10: Television: Reflecting Our Lives

11. Chap. 11: Structures of the Millennium
12. Chap. 12: Leisure: Indoor and Outdoor、レポート課題添削
13. Chap. 13: Education in the UK
14. Chap. 14: Superstition and Beliefs
15. Chap. 15: Pedal Power、課題レポート提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JE0058001
科目名	英語文化研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Cultural Studies B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	このテキストの素材となっている Asian Insight は、NHK World TV および、NHK　BS で現在も世界に向け放映中の、英語によるドキュメンタリー・シリーズです。特に 21 世紀に入って、成長センターとして世界の注目を集めるアジアの新しい姿、、そしてグローバル化の波にもまれる伝統的な姿などを、その背景とともに伝えており、変化するアジアの「いま」を映し出すドキュメンタリーです。 このテキストの重要な点は次の 2 点です。 １．欧米・英語圏の情報に偏らない、特に隣人としてのアジアの情報を教材化している。 ２．アジアの伝統文化や今日の課題をどのように英語で伝えるかを知ることによって、日本についても正しく英語で伝えられるかを考え、その方法のヒントを得ることができる。 このテキストを使って、学生諸君には真のグローバル人材になって欲しいと望んでいます。 『“アジアの今”で学ぶ総合英語／English from 』は、DVD 付き英語総合教材です。近年急速に発展するアジア諸国に、様々な視点から焦点を当て、伝統文化、グローバリゼーションに直面するその国の背景などを知ることができます。DVD を使って、ディクテーション、ライティング、ディスカッションや演習を行い、学習者は 4 技能を鍛えることも可能です。		
教材（テキスト）	『“アジアの今”で学ぶ総合英語／English from NHK World TV』　Macmillan Languagehouse		
教材（参考文献）	英語辞書（英英・英和・和英）など		
教材（その他）			
評価方法	ディスカッションへの参加および毎回の Comprehension など(40%)、試験（40%）およびプレゼンテーション（20%）による評価とします。 まお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。		
到達目標	このテキストには DVD がついており、「読む、聞く（見る)」という receptive な活動（Reading, viewing, Dictation）を軸にして、「書く、話す」という productive な活動（Writing, Dictation）により 4 技能がバランスよく修得できるようになっています。 この教材によって、学生諸君が、時代を共有するアジアの人びととその暮らしや文化のいまを知りながら、英のでの発進力に繋がる skills を学ぶことを目標としています。		
準備学習	毎回の授業のテーマとなる国について事前に図書館の書籍やインターネットなどを活用して情報を収集して、自分の考えを纏めておいてください。また、テキストに目を通し、Question に対する答えを考えておいてください。		
受講者への要望			
このクラスは読解クラスではありませんが、正確に文章を読み内容を理解することを通じて、文化研究本来の目的である他文化理解につなげます。ディスカッションにも積極的に参加することを望みます。			
講義の順序とポイント			
まず、Warm Up で各 Unit で扱う国やトピックに関連のある事柄について知ります。続いて、Reading で各国に関する話題が取り上げられていますので、できるだけ辞書を使わずに読み、Question に対する答えを考えます。その後、Pre-Viewng と Second-Viewing により DVD で内容を把握し、Dictation, Writing, Discussion へとつなげます。 １回の授業で１ユニットを終えていきたいと考えています。 主な内容は次の通りです。 第 1 回　Intoroduction 第 2 回　The Greater Mekong sub-region: A New Era for Cambodia 第 3 回　Singapore Playing Cupid: The Problem of Birthrate Decline 第 4 回　Energy-hungry Nepal: Urban Area 第 5 回　East Timor Now: Medical Situation 第 6 回　Born This Way in Thailand: Gender Identity 第 7 回　Gawad Kalinga Project in the Philippines: Getting People out of the Slums 第 8 回　Vietnam's Cultural Revival: Nha Nhac Court Music 第 9 回　The Greater Mekong Sub-region: Labor Situation in Cambodia 第 10 回　Energy-hungry Nepal: Problems of Rural Areas			

第 11 回　East Timor Now: Mobile Clinics 第 12 回　Born This Way in Thailand: Professional Transgender Women 第 13 回　Gawad Kalinga Project int the Philippines: Supporting New Life 第 14 回　Bietnam's Cultural Revival: Preserbing Cultural Assets 第 15 回　プレゼンテーション合評会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	★★	−
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	JE0058C01
科目名	英語文化研究Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Cultural Studies C		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	この授業では、すべての英語科目の背景となる英語圏の文化と、英語という言葉への理解を深めることを目的とします。日英の文化や言葉の比較、英語圏の文化事情を扱ったテキストの読解とテーマについてのディスカッション、英語圏の文学、映像作品の鑑賞などを通して、異文化理解をはかります。 特にこの授業では、英語による模範的なスピーチを聴解、読解することで、英語という言語とその背景にある文化についての理解を促し、同時にリスニング、リーディングの力を強化します。		
教材（テキスト）	上田伸雄、田村理香、佐久間みかよ 編著. Great American Speeches 『アメリカの名演説：リスニングテキスト』 （CD 付き）. （研究社、2484 円） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英語辞書（英和・和英）など その他授業中に指示します。		
教材（その他）	授業中に音声ＣＤを使用します。		
評価方法	レポートおよび授業内小テスト(50%)、課題の提出状況、授業への参加、発表の状況（50%）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	英語圏文化とアメリカの歴史に対する理解を深め、同時に英語の長文読解力、聴解力の向上を目指します。		
準備学習	本授業でとりあげるスピーチの話者である Martin Luther Kingg 牧師、Malcolm X, Ronald Reagan 元大統領、Bill Clinton 元大統領、Barack Obama 大統領についての基本的な情報をあらかじめ収集しておいてください。また授業の前には付属の CD を使用してスピーチを十分聴き、大まかな内容を理解しておいてください。また、復習として、授業でとりあげたスピーチを聴き返し、授業内小テストに備えてください。		

受講者への要望

①教科書は、必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。教科書がないと、授業での課題を行うことができません。
　また、教科書を持参しない場合は最終評価から減点することになります。また、英語辞書も必ず持参してください。
②欠席、遅刻をしないように努めてください。
③課題は必ず期限までに提出してください。
④授業の前までに、付属の CD を使って、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑤本授業では、授業内小テストを行うことがありますので、十分に復習をしてください。
⑥当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学びます。なお、授業の進行によって、内容が変更になることがあります。

1　Introduction: Famous American Speeches-Introduction
　Martin Luther King Jr. "I've been to the Mountain Top" (1968) (1)
2. Martin Luther King Jr. "I've been to the Mountain Top" (1968) (2)
3. Arnold Schwarzenegger, "This Country Is Truly Open to You" (2004)
4. リスニングコラム(1)Walt Disney, "Disneyland Is Your Land" (1955)
　Larry Page, "Any Nation Can Be Determined by the Care and Preparation Given to Its Yourh" (2009) (1)
5. Larry Page, "Any Nation Can Be Determined by the Care and Preparation Given to Its Yourh" (2009) (2)
　リスニングコラム（2) Eric Schmidt, "Every Human Being in the Planet Will Access Every Place of Information Known on　the Planet" (2009)
6. Jeff Bezos, "You Have to Make the Shopping Experience Fun and Engaging" (1998)
7. Neil Armstrong, "We've Seen Deeply into Our Universe and Looked Backward Nearly to the Beginning of Time" (2008)
8. リスニングコラム（3）　Neil Armstrong, "That's ONe Small Step for a Man, One Giant Leap for Mankind" (1969)
9. Walter Cronkite, "We Are Mired in Stalemate" (1968)
10. Marrissa Mayer, "It's Really Wonderful to Work in an Environment with a Lot of Smart People" (2006)
11. Condoleezza Rice, "We Believe That Human Imperfection Makes Democracy More Important" (2008)
12. Ronald Reagan, "They 'Slipped the Surly Broods of Eath' to Touch the Face of God" (1986)

13. リスニングコラム(5) Michael Jackson, "The Magic, the Wonder, the Mystery, and the Innocence of a Child's Heart, Are the Seeds of Creativity That Will Heal the World" (1993)
14. Bill Clinton, "I Have Sinned" (1998)
15. Barrack Obama, "A New Beginning between the United States and Muslims around the World" (2009)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	JE0060001
科目名	英語文化事情 A	単位数	2
科目名（英語表記）	English Language and Culture A		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	英語の運用能力を高めるには、英語という言語のもつ特性とともに、その背景となっている英語圏の文化事情などを理解する必要もあり、「英語文化事情」では、英語力の向上を視野に入れながら、英語圏の国ぐにのさまざまな社会文化事情について講義を行っている。 「A」では、英語の「母国」イギリスを対象とし、日本とは特に目立って異なる事象を取り上げて比較し、その長短を考えながら、これからの時代を生きる諸君の選択にとって何らかの参考となるような講義を行う。 「英米」（近年では「米英」）と一括りにされ、イギリスもアメリカとほとんど同じような国と思われがちであるが、イギリス人と日本人との間には、大陸に隣接する島国の国民として歴史的に同じような問題を抱えたりもしており、イギリスは日本人にとってはアメリカなどよりも大いに参考となる国の１つであると言ってもよい。		
教材（テキスト）	ハンドアウト（プリント教材）		
教材（参考文献）	各回の講義テーマと関連する文献をその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	応答発表を含む受講状況（約 60%）、復習小テスト（約 30%）および最終授業内課題の成果（約 10%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	１．英語は日本語とはさまざまな点で異なるが、その英語の「母国」であるイギリスという国の歴史的文化的社会的な背景事情が基礎知識として身につく。 ２．表面上の異同に惑わされないよう留意しながら、異文化圏の事象との相違を検証する方法が身につき、相違が生まれてくる背景事情を理解できるようになる。		
準備学習	１．＜京学なび＞「授業資料」から次回授業のハンドアウトをダウンロードする。 ２．ハンドアウトを通読し、空所が設けられていた場合は適切な語句を補充しておく。 ３．理解を深めるために、講義で紹介する参考文献の少なくとも１冊には目を通す。		

受講者への要望

１．講義に休まず出席し、講義中に積極的に発言できる学生の受講を強く望む。
２．英語力向上の努力を続けている学生の受講を望む。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは資料の入手状況などに応じて若干変更することがある。

１．講義概要・評価方法などに関する説明、連合王国
２．伝説の王 King Arthur と England 小史
３．英語小史と The Common Wealth
４．牧場・公園・庭園・駐車場
５．イギリス発祥のスポーツ
６．過激な動物愛護、日常生活におけるマナー
７．王族･貴族と二院制の国会
８．週末の過ごし方、労働時間と勤務形態
９．パブという社交場とイギリス料理
10．village 愛と遺跡管理
11．鉄道発祥国の交通機関
12．学校教育制度と gap year
13．イギリスの文学と映画

14. イギリス生活事情拾遺
15. Auld Lang Syne、最終授業内課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JE0061001
科目名	英語文化事情Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Language and Culture B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	英語文化を理解するにはイギリス文化とともにアメリカ文化への正しい認識が不可欠です。英語文化圏の中でも特にアメリカ合衆国の経済・社会の影響を大きく受けている現代の日本においては、アメリカの歴史と文化を正確に認識することが日本文化の本質を知る上でも重要なことです。 現代では身近な国となったアメリカ合衆国も、その歴史については学生諸君があまり理解できていないことがたくさんあります。この講義では、アメリカという国がどういう理由で成立し、どんな経過をたどって今日まで歩んできたか、また人類全体の中でどんな意味をもっているのか、そしてそのアメリカは、これからどの方向に進もうとしているのかについても考えてみたい。このように、アメリカの歴史の必然性を考察することによって、現代のアメリカ合衆国の基礎となる思想を検討する機会をもうけたいと考えています。		
教材（テキスト）	教科書は購入する必要がありません。毎回レジメを記したプリント教材を配布します。参考書については、講義中に適宜指示します。		
教材（参考文献）	『新アメリカ史叢書１巻～７巻』　南雲堂　（図書館にあります）		
教材（その他）			
評価方法	受講人数によって、評価方法を変更することがあります。現在のところ、下記のように予定しています。 毎回の授業終了時に、「課題確認クイズ」として授業内容に関する簡単なクイズを出します。これを小テストとして、授業参加と合わせて４０％の評価対象とします。それに加えて、レポート（２０％）、定期試験（４０％）の総合評価とします。全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	英語文化のひとつの背景であるアメリカ合衆国の歴史を検証することを通じて、現代のアメリカを考える基礎となる知識を養います。歴史を単なる過去の事象の羅列としてではなく、現代アメリカ社会との関係の中で捉えます。また、同時代の日本の事象にも目を配り、歴史を複眼的に見ていきます。この活動を通して、アメリカ合衆国への理解を深めます。		
準備学習	アメリカ合衆国について、毎回の授業で取り上げる内容について図書館の書籍やインターネットの情報などを活用しながら、事前に調査・研究をしておいてください。 第１回目の授業では、各自がアメリカ合衆国に関する事象で興味や関心を持っていることについて、具体的な項目について説明してください。 また、各授業の最後に次週の授業内容について説明しますので、その内容に関して事前に調べておいてください。		

受講者への要望

受講者数にもよりますが、できるだけ双方向の形（インターラクティブ）で授業を運営したいと思います。多くの学生が、出席するだけでなく、授業に参加することを望みます。
なお、出席は京学なびで把握しますが、授業に出席して終了時点での授業内クイズに対する解答の提出がない場合は欠席と見なします。
履修者みんなで意見を述べあり、実りある授業にしましょう。

講義の順序とポイント

初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。

第１回　アメリカ社会についてのケーススタディ
　－私の目から見たアメリカ社会
第２回　Christpher Columbus は America 大陸を「発見」したのか
　－なぜ、コロンブスはアメリカ大陸をめざしたのか
第３回　Mayflower 号の Pilgrim Fathers（巡礼始祖）たち
　－なぜ、ピルグリムファザーズはアメリカ大陸にわたったのか
第４回　The American Revolution（アメリカ独立戦争）
　－なぜ、イギリスから独立する必要があったのか
第５回　The Constitution of USA 1（アメリカ憲法の制定１）
　－なぜ、憲法が必要だったのか
第６回　The Constitution of USA 2（アメリカ憲法の制定２）

－なぜ、二大政党ができたのか
第７回　Westward Movement（西漸運動）と Manifest Destiny（明白な運命）
－なぜ、人びとは西部をめざしたのか
第８回　The Civil War（南北戦争）－Abraham Lincoln と奴隷制度
－なぜ、南北の州で戦争が生じたのか
第９回　世界大国への道－アメリカ経済発展の再考察１
－なぜ、アメリカ合衆国は産業国家になれたのか
第１０回　世界大国への道－アメリカ経済発展の再考察２
－なぜ、アメリカ合衆国は急速な発展をを遂げられたのか
第１１回　W. W. I （第一次世界大戦）と T. W. Wilson
－なぜ、アメリカ合衆国は第１次世界大戦に参戦したのか
第１２回　１９２０年代のアメリカ－禁酒法と Jazz Age
－なぜ、アメリカ社会は発展し、また腐敗していったのか
第１３回　The Great Depression （大恐慌）と New Deal 政策
－なぜ、世界恐慌は生じたのか
第１４回　レポート合評会と反転学習
第１５回　W. W. Ⅱ（第二次世界大戦）から東西冷戦時代へ
－なぜ、アメリカ合衆国は自由主義世界のリ－ダ－になれたのかふり返り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JE0068A51
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。この授業では特に、日本の名所の紹介をしている文章を通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。また、基本的な文法事項の復習も行います。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。　さらに、日本文化の紹介を通して、比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回の授業において、前回の授業で学んだ内容についての小テストを行います。そのテストの準備として、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
　　文法：基本文型（1）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
　　文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
　　文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
　　文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
　　文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
　　文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands?　（何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
　　文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
　　文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2016	授業コード	JE0068A53
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	古今東西に言い習わされてきた「ことわざ」を通じて、基礎的な文法事項やイディオムを理解し、聞く・読む・書くの力をつけ、「ことわざ」が持つ人生の知恵を学ぶ。		
教材（テキスト）	樋口千春　松岡ゆりこ共著　Proverbial English ことわざから英語を学ぼう！　南雲堂　￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、聞く・読む・書くの英語の基礎力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成する ３　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の Target Proverb, Grammar 1,2,3 をするので、事前に予習をしておいてもらいたい。 ２回目　　Unit 1　Two dogs fight for a bone and the third runs away. ３回目　　Unit 1 後半と Unit 2 ４回目　　Unit 2 後半と Unit 3 ５回目　　Unit 3 後半と Unit 4 ６回目　　Unit 4 後半と Unit 5 ７回目　　Unit 5 後半と Unit 6 ８回目　　Unit1-6 の復習及び理解度テスト ９回目　　Unit 7 １０回目　Unit 7 後半と Unit 8 １１回目　Unit 8 後半と Unit 9 １２回目　Unit 9 後半と Unit10 １３回目　Unit 10 後半と Unit11 １４回目　Unit 11 後半と Unit12 １５回目　Unit 7-12 の復習及び理解度テスト ただし授業の進度・課は変わることがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JE0068A62
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力を養成する。リスニングのセクションでは、英語の音声面の特徴を、単音・音節・語・句・文などのレベルで学ぶ。絵を見ながら適する英語表現を選び、短い会話の応答を完成する。リーディングのセクションでは、本文を読んだ後、様々な設問を通して理解度をチェックする。グラマーのセクションでは、最低限必要な使える文法の基礎を学ぶ。例文を通して、文法の知識を実践的に確認し、練習問題で理解度をチェックする。		
教材（テキスト）	Forerunner to Power-Up English 南雲堂　1,900＋税		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（3 分の 2 の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の 4 技能の習得により、基礎的なコミュニケーション能力を養う。		
準備学習	予習・復習の課題を完成させる。		
受講者への要望			
積極的な学習態度で授業に参加する。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食など等は厳禁。積極的に質問してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　はじめに―ストレッチ式「ネイティブ発音」について 2.　自己紹介―つながる音に慣れる（1） 3.　家族・ペット―つながる音に慣れる（2） 4.　趣味―つながる音に慣れる（3） 5.　大学生活―消える音に慣れる（1） 6.　食べ物―消える音に慣れる（2） 7.　コンサート―消える音に慣れる（3） 8.　道案内―変化する音に慣れる（1） 9.　日本文化紹介―変化する音に慣れる（2） 10. ジェスチャー―変化する音に慣れる（3） 11, 観光案内―変化する音に慣れる（4） 12. 航空券を Net で Get―カタカナ語の音に慣れる 13. E-mail を送る―Review 1 14. E-mail を送る―Review 2 15. E-mail を送る―Review 3			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JE0068A63
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著 Learn the Differences, Broaden Your World.『続・世界の常識』（朝日出版社） その他プリント教材 参考文献 英和、和英、英英辞書など		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
文法：基本文型 (1) ―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry（洗濯物ってどこに干す？）
 文法：基本文型 (2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付の書き方）
 文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
文法: 時制（2）--進行形、完了形

7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)

文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? (何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？)
文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
文法: to 不定詞
10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JE0068A65
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する		
教材（テキスト）	佐藤明彦　他著　Reading Sucesst I 〈リーディング　サクセス　1〉　成美堂　￥２，０００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読め、基礎的な英作文が作れるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 1　新しい語句を調べる 2　自分の訳文ノートを作成する 3　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

1回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の 2 Word Definitions
3　Complete the Sentences　4 Words in Context はやるので、事前に予習をしておいてほしい。
2回目　　Lesson 1　Teddy Bears 終了
3回目　　Lesson 2　April Fool’s Day
4回目　　Lesson 3　The Biggest Birthday Present
5回目　　Lesson 4　Funny English Jokes
6回目　　Lesson 5　Adelie Penguins
7回目　　Lesson 6　Eat Well, Eat Smart
8回目　　Lesson 1-6 の復習及び理解度テスト
9回目　　Lesson 7　Three Popular Mysteries
１０回目　Lesson 8　Protect Our Environment
１１回目　Lesson 9　Laughing and Thinking
１２回目　Lesson 10 Body Art
１３回目　Lesson 11 The Most Extreme Marathons
１４回目　Lesson 12 Fortune Cookies
１５回目　Lesson 7-12 の復習及び理解度テスト
授業の進度・課は変わることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JE0068A66
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	古今東西に言い習わされてきた「ことわざ」を通じて、基礎的な文法事項やイディオムを理解し、聞く・読む・書くの力をつけ、「ことわざ」が持つ人生の知恵を学ぶ。		
教材（テキスト）	樋口千春　松岡ゆりこ共著　Proverbial English ことわざから英語を学ぼう！　南雲堂　￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、聞く・読む・書くの英語の基礎力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成する ３　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の Target Proverb, Grammar 1,2,3 をするので、事前に予習をしておいてもらいたい。 ２回目　　Unit 1　Two dogs fight for a bone and the third runs away. ３回目　　Unit 1 後半と Unit 2 ４回目　　Unit 2 後半と Unit 3 ５回目　　Unit 3 後半と Unit 4 ６回目　　Unit 4 後半と Unit 5 ７回目　　Unit 5 後半と Unit 6 ８回目　　Unit1-6 の復習及び理解度テスト ９回目　　Unit 7 １０回目　Unit 7 後半と Unit 8 １１回目　Unit 8 後半と Unit 9 １２回目　Unit 9 後半と Unit10 １３回目　Unit 10 後半と Unit11 １４回目　Unit 11 後半と Unit12 １５回目　Unit 7-12 の復習及び理解度テスト ただし授業の進度・課は変わることがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JE0068A67
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を使用し、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を養成する。本授業では、海外と日本の文化的な違いについて各ユニットのトピックに関する長文を読みます。この長文読解を軸に、関連語彙や文法、リスニング問題にも取り組みます。さらに、グループワークなどを通じて知識の定着化を図るとともに、英語コミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	川田伸道　編著、　Learn the Differences, Broaden Your World! - Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy -『続・世界の常識：違いを知ったら世界も変わる！』　（朝日出版）　1700 円。　その他プリント教材。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指定します。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる。		
到達目標	海外と日本の文化的違いを理解する。長文読解に必要な文法の知識を身につけ、活用できる語彙を増やす。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第 1 回目の授業を除き、授業はじめに終了ユニットの小テストを行います。（授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。

Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places
Unit 2: New Year's Day
Unit 3: Laundry
Unit 4: How Do You Write the Date?
Unit 5: The Sakura of Washington D.C.
Unit 6: A Global Beauty Standard?
Unit 7: Crosswalks
Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands?
Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners
Unit10: A Life of School Uniforms and School Lunches
Unit 11: Japanese Animation Heroes Have Fans All Over the World
Unit 12: American Work Hours and Overtime
Unit 13: The Globalization of Christmas
Unit 14: Do you Have to Stop Working When You Have Kids?
Unit 15: Do People's Names Change after Marriage?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★★	★	ー

年度	2016	授業コード	JE0068A68
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JE0068A69
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JE0068A70
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	英語の 4 技能を総合的に学びます。授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	森田和子・高橋順子・北本洋子著　　Make it simple　　三修社		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声教材（無料ダウンロード可能）		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読・インテイクしながら暗唱に近づけ、内容要約発表、意見発表等の英語での活動を行えるようにする。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（１）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（２）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JE0068A71
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなければ 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎固めを徹底し、文章構造をつかみ、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★★	ー	★

年度	2016	授業コード	JE0068A73
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなければ 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎固めを徹底し、文章構造をつかみ、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0068A74
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなければ 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎固めを徹底し、文章構造をつかみ、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. ネコ派 VS. イヌ派
2. サッカー派 VS. 野球派
3. 映画館派 VS. DVD 派
4. 子どもが好き派 VS. 子どもなんて大嫌い派
5. カラオケ大好き派 VS. カラオケ大嫌い派
6. 節約家 VS. 浪費家
7. 夏が大好き派 VS. 冬が大好き派
8. 洋食派 VS. 和食派
9. 独身キャリア派 VS. 結婚したい派
10. バーゲン品購入派 VS. 高級品購入派
11. ファストフード派 VS. ファストフード敬遠派
12. 愛煙家 VS.嫌煙派
13. コーヒー派 VS. 緑茶派
14. 収入重視派 VS. 愛情重視派
15. お化粧は自然派 VS.お化粧バッチリ派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0068B03
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画を楽しみながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、英文読解力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。授業では主に後半部分を扱う。
が、先ずは４章「かもめ食堂」から。P.20 Vocabulary を予習しておいてもらいたい。
後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、４回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。
２回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」前半
３回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」後半
４回目　　Chapter 8　Dear Frankie 前半
５回目　　Chapter 8　Dear Frankie 後半
６回目　　Chapter 9　Seabiscuit　前半
７回目　　Chapter 9　Seabiscuit　後半
８回目　　chapter 4,8,9 の復習と理解度テスト
９回目　　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半
１０回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半
１１回目　Chapter11 Everybody’s Fine　前半
１２回目　Chapter11 Everybody’s Fine　後半
１３回目　Chapter14　A Touch of Spice　前半
１４回目　Chapter14　A Touch of Spice　後半
１５回目　chapter10, 11, 14 の復習と理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0068B51
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 Ｉ」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円. その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / Day 1　I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2　How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3　The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4　What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5　This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6　What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7　Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8　You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9. Day 9　It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10　Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11　I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12　I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13　Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14 ?Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15 ?That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JE0068B52
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	さまざまな分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	Casey Malarcher 原田慎一　共著 Intermedeate Faster Reading-New Edition-　速読の実践演習ー最新版ー 成美堂　　￥１，９００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	語彙・文法事項を身につけ、テキストの英文が正確に読め、基礎的リスニングが理解できることを目指す。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。授業では主に前半部分を扱う。
Unit1 の Target Vocabulary と Idioms の予習。本文は第一段落を読んでおいてもらいたい。
後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、3 回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。

２回目　Unit 1　Coffee Culture　　後半
３回目　Unit 2　Helping Others　　前半
４回目　Unit 2 Helping Others　後半
５回目　Unit 3　Movie Directors 前半
６回目　Unit 3　Movie Directors 後半
７回目　Unit 4　Around the World
８回目　Unit 1-4 の復習と理解度テスト
９回目　Unit 5　Yuna Kim
１０回目　Unit 6　The Puffer Fish　　前半
１１回目 Unit 6　The Puffer Fish　　前半
１２回目 Unit 7　Technology in the Classroom　前半
１３回目 Unit 8　Interesting Buildings　　前半
１４回目 Unit 8　Interesting Buildings　　後半
１５回目　Unit 5-8 の復習と理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	JE0068B53
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	さまざまな分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	Casey Malarcher 原田慎一　共著 Intermedeate Faster Reading-New Edition-　速読の実践演習ー最新版ー 成美堂　　￥１，９００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	語彙・文法事項を身につけ、テキストの英文が正確に読め、基礎的リスニングが理解できることを目指す。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。授業では主に前半部分を扱う。
Unit1 の Target Vocabulary と Idioms の予習。本文は第一段落を読んでおいてもらいたい。
後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、3 回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。

２回目　Unit 1　Coffee Culture　　後半
３回目　Unit 2　Helping Others　　前半
４回目　Unit 2 Helping Others　後半
５回目　Unit 3　Movie Directors 前半
６回目　Unit 3　Movie Directors 後半
７回目　Unit 4　Around the World
８回目　Unit 1-4 の復習と理解度テスト
９回目　Unit 5　Yuna Kim
１０回目　Unit 6　The Puffer Fish　　前半
１１回目 Unit 6　The Puffer Fish　　前半
１２回目 Unit 7　Technology in the Classroom　前半
１３回目 Unit 8　Interesting Buildings　　前半
１４回目 Unit 8　Interesting Buildings　　後半
１５回目　Unit 5-8 の復習と理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	JE0068B62
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	総合英語Ⅰを発展させた形で授業を行う。平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4技能の基礎力をさらに向上させる。リスニングのセクションでは、、英語独特の音声変化に慣れながら、聞いた英語の意味を理解できるまで繰り返し聞く。さらに学んだ表現が使えるようになるまで反復練習をする。リーディングのセクションの”Read Aloud”では、英語の基本的なリズムパターンを練習する。また、コラムを読んで、トピックに関連した知識や文化をより深く学ぶ。グラマーのセクションでは、文法知識を応用して、英語で自己表現できる能力を養う。		
教材（テキスト）	Forerunner to Power-Up English　南雲堂　1,900＋税		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（３分の２以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の４技能の習得により、コミュニケーション能力をさらに向上させる。		
準備学習	予習・復習の課題を完成させる。		

受講者への要望

積極的な学習態度で授業に参加する。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食など等は厳禁。積極的な質問を望む。

講義の順序とポイント

1. はじめに―ストレッチ式「ネイティブ発音」について
2. 機内で―日本語にない音（１）
3. 空港で―日本語にない音（２）
4. ホテル―まぎらわしい音の区別（１）
5. レストランで―まぎらわしい音の区別（２）
6. ショッピング―まぎらわしい音の区別（３）
7. ベースボール―まぎらわしい音の区別（４）
8. ミュージカル鑑賞―語頭と語尾で違って聞こえる音
9. 旅行案内―つづりと発音（１）
10. トラブル・シューティング―つづりと発音（２）
11. 体調不良―ポーズの取り方
12. 電話での申し込み―イントネーション
13. さよなら、アメリカ！―Review 1
14. さよなら、アメリカ！―Review 2
15. さよなら、アメリカ！―Review 3

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JE0068B63
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 A」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこ　れは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	JE0068B72
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	英文法など英語の基礎固めを徹底し、文章構造を把握できるようになり、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★★	ー	★

年度	2016	授業コード	JE0068B73
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	英文法など英語の基礎固めを徹底し、文章構造を把握できるようになり、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0068B74
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正反対の意見を持つ二人の対話文を読むことで英文構造を把握し、自己主張する英語力を身につけます。音読、文章構造把握、英作問題では学生にどんどんあてていきます。その上で学生の理解を把握しながら説明、講義していきます。		
教材（テキスト）	なし。プリント教材を用意します。		
教材（参考文献）	指定しませんが、英文法に自信のない学生は高校時代の文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	英文法など英語の基礎固めを徹底し、文章構造を把握できるようになり、相手の意見に振り回されずに自分の意見を主張する英語表現を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎時間プリント配布し、予習、復習の必要な箇所を指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1. 田舎派 VS. 都会派
2. お肉大好き派 VS. ベジタリアン
3. お酒はたしなむ程度 VS. 大酒飲み
4. ショッピング派 VS. 観光派
5. 仕事と子育て両立派 VS. 子育て専念派
6. 孤独を楽しむ派 VS. 大勢で楽しむ派
7. エンタメ派 VS. ニュース派
8. 早起き派 VS. 宵っ張り派
9. 手紙派 VS. E メール派
10. ネット購入派 VS. お店で購入派
11. ビーチ派 VS. 登山派
12. ほめてしつけ派 VS.叱ってしつけ派
13. 一戸建て派 VS. マンション派
14. 会社勤め安定派 VS. 独立企業派
15. 楽観派 VS.悲観派

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0068B75
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JE0068B76
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 A」に引き続き、比較的平易な総合英語教材を使用することで必要な語彙力、文法力、読解力、リスニング力のさらなる習得を図ります。本授業では、日常生活に近い表現を学ぶことができるストーリー仕立てのテキストを使用する。リスニング、読解、英作文の問題演習、ペアワークなどに取り組み、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力をさらに発展させることを目指します。		
教材（テキスト）	Robert Hickling、臼田美里 著.　English Switch.　金星堂.　1900 円。その他プリント教材。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる。		
到達目標	語彙力を増強し、実用的な英語を身につける。自然に話される英語を聞き取る能力を養成し、英語の表現の幅を広げる。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第１回目の授業を除き、授業はじめに終了ユニットの小テストを行います。(授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。

Unit 1: Jobs & Careers
Unit 2: Entertainment
Unit 3: Work Schedule
Unit 4: Health & Fitness
Unit 5: Shopping
Unit 6: Business Meeting
Unit 7: Recruitment
Unit 8: Customer Needs
Unit 9: Business Trip
Unit 10: Advertising
Unit 11: Factory Tour
Unit 12: Money Matters
Unit 13: Leisure
Unit 14: Environment
Unit 15: Business Tie-Up

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	★★	★	ー

年度	2016	授業コード	JE0068B77
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JE0068B78
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	Casy Malarcher, Shinichi Harada 著　Basic Faster Reading [New Edition],　SEIBIDO		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　80 点 授業参加態度　10 点 出席状況等、総合的に判断　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JE0071004
科目名	基礎英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic English 1		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかり理解しておくことが不可欠です。本講義では大量に実践問題やプリント教材を用いた英作問題に取り組みます。さらに、自宅学習用に課題プリントを毎回配布するので、宿題としてこなして提出して頂きます。継続して英語に触れることにより、今後の英語学習のために英文法の基礎固めを完成させ、TOEIC や英検といった資格検定突破へとつながるようにします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	特に指定しませんが、大学入学前にしていた文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況など授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	基本的な英文法を取得することで、英文を正しく理解することができるようにし、今後の英語学習の一助となるようにします		
準備学習	常に指定した教材を持ち歩き、バスや電車を待っている間などの隙間時間を利用して英語の学習をするように心がけてください。授業で配布するプリントでどの箇所を予習、復習すべきかはその都度指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。

1. 授業の説明、英語の基本―動詞
2. 過去から未来へ―時制
3. 動詞のオシャレを演出―助動詞
4. 脇役じゃないの！―名詞
5. 豊かな表現力の持ち主―形容詞
6. どっちがお好き？最も好きなのは？―比較級
7. 愛されるよりも愛されたい―受動態
8. ここまでの復習、演習
9. バラエティーに富む会話のために―不定詞と動名詞
10. 英語にあって日本語にないもの―現在完了
11. 確認させて！―付加疑問文と間接疑問文
12. 英語の達人への道―関係代名詞
13. 形容詞のようになる！―現在分詞
14. ここまでの復習、演習
15. 定期試験に向けての復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★★	ー	★

年度	2016	授業コード	JE0071051
科目名	基礎英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic English 1		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかり理解しておくことが不可欠です。本講義では大量に実践問題やプリント教材を用いた英作問題に取り組みます。さらに、自宅学習用に課題プリントを毎回配布するので、宿題としてこなして提出して頂きます。継続して英語に触れることにより、今後の英語学習のために英文法の基礎固めを完成させ、TOEIC や英検といった資格検定突破へとつながるようにします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	特に指定しませんが、大学入学前にしていた文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況など授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	基本的な英文法を取得することで、英文を正しく理解することができるようにし、今後の英語学習の一助となるようにします		
準備学習	常に指定した教材を持ち歩き、バスや電車を待っている間などの隙間時間を利用して英語の学習をするように心がけてください。授業で配布するプリントでどの箇所を予習、復習すべきかはその都度指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。

1. 授業の説明、英語の基本―動詞
2. 過去から未来へ―時制
3. 動詞のオシャレを演出―助動詞
4. 脇役じゃないの！―名詞
5. 豊かな表現力の持ち主―形容詞
6. どっちがお好き？最も好きなのは？―比較級
7. 愛されるよりも愛されたい―受動態
8. ここまでの復習、演習
9. バラエティーに富む会話のために―不定詞と動名詞
10. 英語にあって日本語にないもの―現在完了
11. 確認させて！―付加疑問文と間接疑問文
12. 英語の達人への道―関係代名詞
13. 形容詞のようになる！―現在分詞
14. ここまでの復習、演習
15. 定期試験に向けての復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JE0072002
科目名	基礎英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic English 2		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかり理解しておくことが不可欠です。本講義では大量に実践問題やプリント教材を用いた英作問題に取り組みます。さらに、自宅学習用に課題プリントを毎回配布するので、宿題としてこなして提出して頂きます。継続して英語に触れることにより、今後の英語学習のために英文法の基礎固めを完成させ、TOEIC や英検といった資格検定突破へとつながるようにします。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	特に指定しませんが、大学入学以前に利用していた文法書を持ち込むことを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	高等学校レベルの英文法を中心に英語の基礎固めをすることを目標とします。		
準備学習	毎時間ごとにプリント教材の予習、復習の箇所を指摘し、宿題プリントを配布するのでそれらをこなすようにしてください。教材は常に持ち歩き、バスや電車を待つ間など隙間時間を見つけて英語に目を通すようにしてください。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1.まずは基本文型の把握を―第 2 文型、第 5 文型
2.十人十色―第 1 文型、第 3 文型、第 4 文型、様々な動詞
3.過去から未来に架ける橋―時制
4.ここまでの復習、演習
5.縁の下の力持ち―助動詞
6.マイペース主義者―不定詞
7.似て非なるもの―動名詞と分詞
8.比べてみない？―比較級①
9.比べてみない？―比較級②
10.バカにされてもほめられても―受動態
11.ここまでの復習、演習
12.詳細は後ほど―関係詞①
13.詳細は後ほど―関係詞②
14.オバケの世界―仮定法①
15.オバケの世界―仮定法②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	―	―	―	★★	―	★

年度	2016	授業コード	JE0072051
科目名	基礎英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic English 2		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかり理解しておくことが不可欠です。本講義では大量に実践問題やプリント教材を用いた英作問題に取り組みます。さらに、自宅学習用に課題プリントを毎回配布するので、宿題としてこなして提出して頂きます。継続して英語に触れることにより、今後の英語学習のために英文法の基礎固めを完成させ、TOEIC や英検といった資格検定突破へとつながるようにします。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	特に指定しませんが、大学入学以前に利用していた文法書を持ち込むことを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	高等学校レベルの英文法を中心に英語の基礎固めをすることを目標とします。		
準備学習	毎時間ごとにプリント教材の予習、復習の箇所を指摘し、宿題プリントを配布するのでそれらをこなすようにしてください。教材は常に持ち歩き、バスや電車を待つ間など隙間時間を見つけて英語に目を通すようにしてください。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1.まずは基本文型の把握を―第 2 文型、第 5 文型
2.十人十色―第 1 文型、第 3 文型、第 4 文型、様々な動詞
3.過去から未来に架ける橋―時制
4.ここまでの復習、演習
5.縁の下の力持ち―助動詞
6.マイペース主義者―不定詞
7.似て非なるもの―動名詞と分詞
8.比べてみない？―比較級①
9.比べてみない？―比較級②
10.バカにされてもほめられても―受動態
11.ここまでの復習、演習
12.詳細は後ほど―関係詞①
13.詳細は後ほど―関係詞②
14.オバケの世界―仮定法①
15.オバケの世界―仮定法②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	-	-	-	★★	-	★

年度	2016	授業コード	JH0001A01
科目名	入門スペイン語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Spanish (s)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 本授業は初めてスペイン語を学ぶ方を対象としています。 スペイン語の発音やしくみに慣れることを目標にしていますので、内容は現在形までのレベルに抑えています。授業はゆっくりと進めます。本授業を終える頃には挨拶や出身地を述べる等、スペイン語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるでしょう。 適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通して、スペイン語の背景にある様々な文化についての理解を深めます。日本のアニメのスペイン語吹き替えを使って、スペイン語の聞き取りにも挑戦します。		
教材（テキスト）	時任まり子　ほか著　『Mi querido espanol 気ままにスペイン語』　三修社　2,400 円		
教材（参考文献）	高垣敏博　ほか編　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円		
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する小テスト＋受講態度（40%）。 2.　達成度確認テスト＋定期テスト（60%）。		
到達目標	1.　スペイン語のしくみや発音に慣れる。 2.　挨拶や出身地などをスペイン語で表現できるようになる。		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

初めての外国語を学ぶ場合、欠席すると次回の授業がわからなくなります。極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方、スペイン語圏についての概要、スペイン語の挨拶、第 0 課アルファベット、発音
2.　第 0 課　アクセント、音節
3.　第 1 課　主語人称代名詞、動詞 ser
4.　第 1 課　文型、国名・国籍
5.　第 2 課　名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞
6.　第 2 課　動詞 hay 「〜がある、〜がいる」、動詞 estar
7.　第 0 課〜第 2 課の復習および達成度確認テスト
8.　第 3 課　形容詞、指示形容詞と指示代名詞
9.　第 3 課　ser + 形容詞、estar + 形容詞「〜な状態である」
10. 第 4 課　動詞 tener、動詞 hacer
11. 第 4 課　天候表現、所有形容詞前置形
12. 第 5 課　規則活用動詞（-ar 動詞）
13. 第 5 課　規則活用動詞（-er、-ir 動詞）
14. 第 3 課〜第 5 課までの復習、学んだ表現を用いたロールプレイング
15. 春学期の総復習およびスペイン語圏の映画紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2016	授業コード	JH0001A02
科目名	入門スペイン語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Spanish (s)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 本授業は初めてスペイン語を学ぶ方を対象としています。 スペイン語の発音やしくみに慣れることを目標にしていますので、内容は現在形までのレベルに抑えています。授業はゆっくりと進めます。本授業を終える頃には挨拶や出身地を述べる等、スペイン語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるでしょう。 適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通して、スペイン語の背景にある様々な文化についての理解を深めます。日本のアニメのスペイン語吹き替えを使って、スペイン語の聞き取りにも挑戦します。		
教材（テキスト）	時任まり子　ほか著　『Mi querido espanol 気ままにスペイン語』　三修社　2,400 円		
教材（参考文献）	高垣敏博　ほか編　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円		
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する小テスト＋受講態度（40%）。 2.　達成度確認テスト＋定期テスト（60%）。		
到達目標	1.　スペイン語のしくみや発音に慣れる。 2.　挨拶や出身地などをスペイン語で表現できるようになる。		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

初めての外国語を学ぶ場合、欠席すると次回の授業がわからなくなります。極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方、スペイン語圏についての概要、スペイン語の挨拶、第 0 課アルファベット、発音
2.　第 0 課　アクセント、音節
3.　第 1 課　主語人称代名詞、動詞 ser
4.　第 1 課　文型、国名・国籍
5.　第 2 課　名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞
6.　第 2 課　動詞 hay 「〜がある、〜がいる」、動詞 estar
7.　第 0 課〜第 2 課の復習および達成度確認テスト
8.　第 3 課　形容詞、指示形容詞と指示代名詞
9.　第 3 課　ser + 形容詞、estar + 形容詞「〜な状態である」
10. 第 4 課　動詞 tener、動詞 hacer
11. 第 4 課　天候表現、所有形容詞前置形
12. 第 5 課　規則活用動詞（-ar 動詞）
13. 第 5 課　規則活用動詞（-er、-ir 動詞）
14. 第 3 課〜第 5 課までの復習、学んだ表現を用いたロールプレイング
15. 春学期の総復習およびスペイン語圏の映画紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JH0001B01
科目名	入門スペイン語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Spanish (f)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 本授業はスペイン語 s を終えた方を対象としています。 引続きスペイン語文法（現在形）を中心に学び、学んだ表現を使用してスペイン語で自己紹介（書く・話す）ができるようになることを目標としています。 適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通して、スペイン語の背景にある様々な文化についての理解を深めます。日本のアニメのスペイン語吹き替えを使って、スペイン語の聞き取りにも挑戦します。		
教材（テキスト）	時任まり子　ほか著　『Mi querido espanol 気ままにスペイン語』　三修社　2,400 円		
教材（参考文献）	高垣敏博　ほか編　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円		
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する小テスト＋受講態度（40%）。 2.　達成度確認テスト＋定期テスト（60%）。		
到達目標	学んだ表現を使用してスペイン語で自己紹介（書く・話す）ができるようになる。		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

初めての外国語を学ぶ場合、欠席すると次回の授業がわからなくなります。極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方と春学期の復習
2.　第 6 課　語幹母音変化動詞（e → ie 型)、(o → ue 型）
3.　第 6 課　語幹母音変化動詞　(e → i 型）
4.　第 7 課　不規則活用動詞（ir、venir)、疑問詞（1）
5.　第 7 課　前置詞
6.　第 8 課　時刻の表現
7.　第 8 課　疑問詞（2）
8.　第 6 課～第 8 課の復習および達成度確認テスト
9.　第 9 課　動詞 acabar、動詞 salir、近接未来、近接過去
10. 第 9 課　疑問詞（3）
11. 第 10 課 比較級
12. 第 10 課 最上級
13. 第 11 課 不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）
14. 第 11 課 目的格人称代名詞
15. 第 9 課～第 11 課の復習および学んだ表現を用いたロールプレイング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2016	授業コード	JH0001B02
科目名	入門スペイン語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Spanish (f)		
担当者名	村上　寿英	旧科目名称	
講義概要	スペイン語は日本語話者にとっては発音がなじみやすく、親しみやすい言語です。 世界で約 4 億人の話者人口を持ち、20 か国以上の国々で話されています。 本授業はスペイン語 s を終えた方を対象としています。 引続きスペイン語文法（現在形）を中心に学び、学んだ表現を使用してスペイン語で自己紹介（書く・話す）ができるようになることを目標としています。 適宜スペイン語圏の映像・音楽・映画等も紹介します。映像を通して、スペイン語の背景にある様々な文化についての理解を深めます。日本のアニメのスペイン語吹き替えを使って、スペイン語の聞き取りにも挑戦します。		
教材（テキスト）	時任まり子　ほか著　『Mi querido espanol 気ままにスペイン語』　三修社　2,400 円		
教材（参考文献）	高垣敏博　ほか編　『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』　小学館　3,024 円		
教材（その他）	文化紹介（DVD 使用）については講師作成のプリントを適宜配布します。		
評価方法	1.　毎回の授業の最初に実施する小テスト＋受講態度（40%）。 2.　達成度確認テスト＋定期テスト（60%）。		
到達目標	学んだ表現を使用してスペイン語で自己紹介（書く・話す）ができるようになる。		
準備学習	予習よりも復習を重視します。週 1 回の授業のため、学んだ文法事項は必ず復習をして次回の授業までに定着させておくこと。		

受講者への要望

初めての外国語を学ぶ場合、欠席すると次回の授業がわからなくなります。極力欠席をしないこと。
毎回の小テストは語学学習に重要な、復習を習慣にするための課題です。真摯な態度で臨むこと。

授業中の私語・飲食・スマートフォン操作は禁止。正当な理由のない遅刻は減点（1 回につきマイナス 3 点）の対象とする。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方と春学期の復習
2.　第 6 課　語幹母音変化動詞（e → ie 型)、(o → ue 型）
3.　第 6 課　語幹母音変化動詞　(e → i 型）
4.　第 7 課　不規則活用動詞（ir、venir)、疑問詞（1）
5.　第 7 課　前置詞
6.　第 8 課　時刻の表現
7.　第 8 課　疑問詞（2）
8.　第 6 課～第 8 課の復習および達成度確認テスト
9.　第 9 課　動詞 acabar、動詞 salir、近接未来、近接過去
10. 第 9 課　疑問詞（3）
11. 第 10 課 比較級
12. 第 10 課 最上級
13. 第 11 課 不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）
14. 第 11 課 目的格人称代名詞
15. 第 9 課～第 11 課の復習および学んだ表現を用いたロールプレイング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JH0004A01
科目名	入門ドイツ語ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　発音の基礎（1）
2　発音の基礎（2）
3　自己紹介する
4　趣味を語る
5　お互いの趣味について会話する
6　体調をかたる
7　天候をたずねる
8　お互いの健康状態について会話する
9　時刻をたずねる
10　名詞の性になれる
11　店でいくらかたずねる
12　カフェで飲物を注文する
13　レストランで食物を注文する
14　できること、しなければならないことを語る
15　旅行会話のポイント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	ー	★	ー	★	ー

年度	2016	授業コード	JH0004A02
科目名	入門ドイツ語ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　発音の基礎（1）
2　発音の基礎（2）
3　自己紹介する
4　趣味を語る
5　お互いの趣味について会話する
6　体調をかたる
7　天候をたずねる
8　お互いの健康状態について会話する
9　時刻をたずねる
10　名詞の性になれる
11　店でいくらかたずねる
12　カフェで飲物を注文する
13　レストランで食物を注文する
14　できること、しなければならないことを語る
15　旅行会話のポイント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JH0004A03
科目名	入門ドイツ語ｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　発音の基礎（1）
2　発音の基礎（2）
3　自己紹介する
4　趣味を語る
5　お互いの趣味について会話する
6　体調をかたる
7　天候をたずねる
8　お互いの健康状態について会話する
9　時刻をたずねる
10　名詞の性になれる
11　店でいくらかたずねる
12　カフェで飲物を注文する
13　レストランで食物を注文する
14　できること、しなければならないことを語る
15　旅行会話のポイント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JH0004B01
科目名	入門ドイツ語ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	ドイツ語をすでに春学期に学習していて、発音の基礎が身についている学生対象の授業です。春学期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を、さらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。先生の様々な質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。なお、このクラスは、「ドイツ語Ⅰ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　　前期のおさらい：命令とジェスチャー
2　　持っているか、持っていないか
3　　これは私のではない
4　　どこへ行くか
5　　どうやって行くか
6　　誰と行くか
7　　何を食べるか
8　　塩をとって
9　　英語を話せるか
10　私と一緒に行こう
11　気に入ってくれるといいね
12　ケーキはおいしい
13　何をしてたか
14　どこに行ってたか
15　楽しかった

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	★	ー	★	ー

年度	2016	授業コード	JH0004B02
科目名	入門ドイツ語ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	ドイツ語をすでに春学期に学習していて、発音の基礎が身についている学生対象の授業です。春学期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を、さらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。先生の様々な質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。なお、このクラスは、「ドイツ語Ⅰ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　　前期のおさらい：命令とジェスチャー
2　　持っているか、持っていないか
3　　これは私のではない
4　　どこへ行くか
5　　どうやって行くか
6　　誰と行くか
7　　何を食べるか
8　　塩をとって
9　　英語を話せるか
10　私と一緒に行こう
11　気に入ってくれるといいね
12　ケーキはおいしい
13　何をしてたか
14　どこに行ってたか
15　楽しかった

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JH0004B03
科目名	入門ドイツ語ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	ドイツ語をすでに春学期に学習していて、発音の基礎が身についている学生対象の授業です。春学期に引き続いて、ドイツ語文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を、さらに増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。先生の様々な質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、授業参加内容を含めた出席平常点（60%）。加えて内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習から入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。なお、このクラスは、「ドイツ語Ⅰ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　　前期のおさらい：命令とジェスチャー
2　　持っているか、持っていないか
3　　これは私のではない
4　　どこへ行くか
5　　どうやって行くか
6　　誰と行くか
7　　何を食べるか
8　　塩をとって
9　　英語を話せるか
10　私と一緒に行こう
11　気に入ってくれるといいね
12　ケーキはおいしい
13　何をしてたか
14　どこに行ってたか
15　楽しかった

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JH0007A01
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JH0007A02
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JH0007A03
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JH0007A04
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 「最新チャレンジ！韓国語」　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　授業の説明 ハングルについて 2.　基本母音 3~5.　基本子音 6~7.　複合母音 8~9.　パッチム 10~12.　自己紹介の表現 「私は~です/ですか」 13~14.　有・無の表現 「時間ありますか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JH0007B0A
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 『最新チャレンジ！韓国語』　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JH0007B0B
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 『最新チャレンジ！韓国語』　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JH0007B0C
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 『最新チャレンジ！韓国語』　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JH0007B0D
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	柳　信愛	旧科目名称	
講義概要	ハングルを習い始めた初歩の段階。 春学期は、基礎の授業と連携して、文字と発音を行う。 秋学期は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では、言葉だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。		
教材（テキスト）	金順玉・阪堂千津子著 『最新チャレンジ！韓国語』　白水社、2300 円		
教材（参考文献）	朱信源 著 『標準　日韓・韓日コンパクト辞典』　白帝社		
教材（その他）	摘宜プリントを配布する。		
評価方法	日常点(授業への参加姿勢など)30%、課題 30%、テスト 40%		
到達目標	発音・文字の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国人と会話ができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。		
受講者への要望			
韓国語は、文法・語彙などが日本語と類似している部分が多い、日本語話者にとっては習いやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができます。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期の復習 2~3.　職業、趣味の表現 「それは何ですか」 4~5.　尊敬形の作り方 6~7.　うちとけた「です・ます」の作り方 「日曜日は何をしますか」 8~9.　数字を楽しもう 10~12.　変則用言 「何が好きですか」 13~14.　過去形の作り方 「週末に何をしましたか」 15.　到達確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JH0010A01
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		
受講者への要望			
1） 授業への積極的な参加を期待しています。 2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。 3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。			
講義の順序とポイント			
01. はじめに 02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1 03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説） 04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3 05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2 06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説） 07. Lecon 03 名前・住所について-2 08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説） 09. Lecon 04 所有-1 10. Lecon 04 所有-2 11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説） 12. Lecon 05 好み・嗜好について-1 13. Lecon 05 好み・嗜好について-2 14. Lecon 05 好み・嗜好について-3 15. 春学期内容確認、達成度確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	−	★

年度	2016	授業コード	JH0010A02
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3
15. 春学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JH0010A03
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3
15. 春学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JH0010B01
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 09 身長・体重について-1
13. Lecon 09 身長・体重について-2
14. Lecon 09 身長・体重について-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	–	–	★

年度	2016	授業コード	JH0010B02
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 09 身長・体重について-1
13. Lecon 09 身長・体重について-2
14. Lecon 09 身長・体重について-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JH0010B03
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 09 身長・体重について-1
13. Lecon 09 身長・体重について-2
14. Lecon 09 身長・体重について-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JH0013A03
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	辻　周吾	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など 5.発音基礎、第 1 課「是」など 6.発音基礎、第 1 課「請」など 7.発音基礎、第 2 課否定など 8.総合練習、第 2 課「的」など 9.会話、第 3 課　形容詞述語文など 10.会話、第 3 課　疑問詞など 11.会話、第 4 課　量詞など 12.会話、第 4 課　数詞など 13.会話、第 5 課　在、想、要 14.会話、第 5 課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JH0013A05
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	辻　周吾	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉頴著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など 5.発音基礎、第 1 課「是」など 6.発音基礎、第 1 課「請」など 7.発音基礎、第 2 課否定など 8.総合練習、第 2 課「的」など 9.会話、第 3 課　形容詞述語文など 10.会話、第 3 課　疑問詞など 11.会話、第 4 課　量詞など 12.会話、第 4 課　数詞など 13.会話、第 5 課　在、想、要 14.会話、第 5 課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JH0013A06
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など 5.発音基礎、第 1 課「是」など 6.発音基礎、第 1 課「請」など 7.発音基礎、第 2 課否定など 8.総合練習、第 2 課「的」など 9.会話、第 3 課　形容詞述語文など 10.会話、第 3 課　疑問詞など 11.会話、第 4 課　量詞など 12.会話、第 4 課　数詞など 13.会話、第 5 課　在、想、要 14.会話、第 5 課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2016	授業コード	JH0013A07
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など
5.発音基礎、第 1 課「是」など
6.発音基礎、第 1 課「請」など
7.発音基礎、第 2 課否定など
8.総合練習、第 2 課「的」など
9.会話、第 3 課　形容詞述語文など
10.会話、第 3 課　疑問詞など
11.会話、第 4 課　量詞など
12.会話、第 4 課　数詞など
13.会話、第 5 課　在、想、要
14.会話、第 5 課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JH0013B0C
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	辻　周吾	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JH0013B0E
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	辻　周吾	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JH0013B0F
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	★★	−	−

年度	2016	授業コード	JH0013B0G
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JH0014A01
科目名	中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese (s)		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	「国際化」という言葉に聞き馴染んでいる今、なお、オリンピックに向け、外国人旅行者が急増している現実の中、国際的語学力を身につけることは、近い未来の日本を担う若者にとってはとても大事なことになって来ました。英語はもちろん、第二外国語の習得も必要だと社会的に認識されつつあります。 この講義は、「中国語の初級から中級へ」という初心者の入門勉強にも、学習経験がすこしある人の再勉強にも適切なテキストを使用して、標準発音から、基礎文法、さらに日常会話と慣用句・複文までの学びによって、将来の社会的適応の教養を向上することが目標であります。 ですので、本学の(旧カリキュラムの)三、四回生の受講生を大歓迎 ！ 中国語勉強歴の有無にかかわらず、残っている大学の時間にしっかり自分を磨きながら第二外国語を予備知識にしたいと思う諸君、どうか、この授業に来てください。週に一回しかない講義ですが、社会人になって、いざ中国語の書類を処理したり、業務上で中国人と交渉したりする時があると、この授業で身につけた基礎知識はきっと大いに役目を果たしてくれるでしょう。私はこれを願いながら皆さんの履修を待っておりますわ。		
教材（テキスト）	周　一川 ・ 郭　海燕とほか　「新・ゼロから学ぶ中国語---検定試験合格への道のり」　同学社 2016 年 2 月		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、学期末テスト(会話)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合は、学期末テストを受ける資格が喪失、成績は評価できません。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な外国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。 日常会話の実力(中検試験準 4 級適応力)の獲得が期待されます。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

入門中国語を学びたい、あるいは勉強したことがあるけど復習しながらさらに学びたい学生向け。
週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。
筆記テストがなく、それより積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方と成績評価の解説
2.　第 0 課　発音篇
3　.第 1 課　お名前は?/ 人称代名詞
4.　第 2 課　日本の方ですか?/ 判断文。
5.　第 1、2 課の筆記・会話の練習
6.　第 3 課　これは何ですか?/ 代名詞・疑問文
7.　第 4 課　パソコンを買いたいですが/ 動詞の文
8.　第 3、4 課の筆記・会話練習および中間復習
9.　第 5 課　ご家族の構成は?/ 助詞のいろいろ
10.　第 6 課　最近お忙しいですか?/ 形容詞文
11.　第 5、6 課の練習と会話
12、　第 7 課　映画は何時に開演ですか?/ 時刻の表現・連動文
13、　第 8 課　今日は何曜日ですか?/ 年・月・曜日の数え方
14、　第 7、8 課の練習と会話の演習
15、　春学期の総合復習・まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2016	授業コード	JH0014A02
科目名	中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese (s)		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	「国際化」という言葉に聞き馴染んでいる今、なお、オリンピックに向け、外国人旅行者が急増している現実の中、国際的語学力を身につけることは、近い未来の日本を担う若者にとってはとても大事なことになって来ました。英語はもちろん、第二外国語の習得も必要だと社会的に認識されつつあります。 この講義は、「中国語の初級から中級へ」という初心者の入門勉強にも、学習経験がすこしある人の再勉強にも適切なテキストを使用して、標準発音から、基礎文法、さらに日常会話と慣用句・複文までの学びによって、将来の社会的適応の教養を向上することが目標であります。 ですので、本学の(旧カリキュラムの)三、四回生の受講生を大歓迎 ！ 中国語勉強歴の有無にかかわらず、残っている大学の時間にしっかり自分を磨きながら第二外国語を予備知識にしたいと思う諸君、どうか、この授業に来てください。週に一回しかない講義ですが、社会人になって、いざ中国語の書類を処理したり、業務上で中国人と交渉したりする時があると、この授業で身につけた基礎知識はきっと大いに役目を果たしてくれるでしょう。私はこれを願いながら皆さんの履修を待っておりますわ。		
教材（テキスト）	周　一川 ・ 郭　海燕とほか　「新・ゼロから学ぶ中国語---検定試験合格への道のり」　同学社 2016 年 2 月		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、学期末テスト(会話)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合は、学期末テストを受ける資格が喪失、成績は評価できません。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な外国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。 日常会話の実力(中検試験準 4 級適応力)の獲得が期待されます。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

入門中国語を学びたい、あるいは勉強したことがあるけど復習しながらさらに学びたい学生向け。
週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。
筆記テストがなく、それより積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。

講義の順序とポイント

1.　授業の進め方と成績評価の解説
2.　第 0 課　発音篇
3　.第 1 課　お名前は?/ 人称代名詞
4.　第 2 課　日本の方ですか?/ 判断文。
5.　第 1、2 課の筆記・会話の練習
6.　第 3 課　これは何ですか?/ 代名詞・疑問文
7.　第 4 課　パソコンを買いたいですが/ 動詞の文
8.　第 3、4 課の筆記・会話練習および中間復習
9.　第 5 課　ご家族の構成は?/ 助詞のいろいろ
10.　第 6 課　最近お忙しいですか?/ 形容詞文
11.　第 5、6 課の練習と会話
12、　第 7 課　映画は何時に開演ですか?/ 時刻の表現・連動文
13、　第 8 課　今日は何曜日ですか?/ 年・月・曜日の数え方
14、　第 7、8 課の練習と会話の演習
15、　春学期の総合復習・まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JH0014B01
科目名	中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese (f)		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	春学期に引き続き、同じテキストを使用し、同じ授業の進め方で、読解と会話の練習を繰り返して、すでに習得した中国語の初級知識をさらにアップすることを図ります。受講生の皆さん、沢山の常用語彙を覚え、面白そうな慣用句、表現の豊かな複文を理解して、そしてテキストの文章がすらすら読めるようになっているうちに、中国語勉強の楽しみとそれを身につける有用性を感ずるようになったでしょう。その実感は確実に、あなたの、未来を拓く国際的語学力の向上につながっていますよ。さあ、みなさん、もう少し頑張りましょう。きっとこの一年間学んだ知識ははっきりした「基盤」としてあなたのものになるに違いません。そして近い将来に、堂々たる自信を持って「就活」に臨むこともできるようになるでしょう。努力ということは必ず報われる、と信じましょう。		
教材（テキスト）	周　一川　・　郭　海燕とほか　「新・ゼルから学ぶ中国語---検定試験合格への道のり」　同学社　2016 年 2 月		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、学期末テスト(会話テスト)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合は、学期末テストを受ける資格が喪失、成績は評価できません。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な外国語の初級知識と学び方を身に着け、中国語の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。日常会話の実力(検定試験 4 級適応力)の獲得が期待されます。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
中国語 s を習得した学生向け。 週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。 筆記試験がなく、それより積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期で学んだ知識を復習しながら、夏休みのことを話し合い、秋学期授業の要求解説 2　. 第 9 課　全部でおいくらですか?/ 疑問文のいろいろ 3. .第 10 課　大学に本屋があります/ 存在文と「的」について 4.　第 9、10 課の筆記・会話練習 5.　第 11 課　中国に行ったことがあります／動詞の経験形・「是~的」文 6. .第 12 課　宿題をしています/動詞の進行中形 7.　第 11、12 課の筆記・会話の練習 8.　中間復習および評価 9. .第 13 課　家は大学から遠くないです/ 前置詞のいろいろ 10. .第 14 課　バイドをしなければならないのです/ 助動詞のいろいろ 11.　第 13、14 課の筆記・会話の練習 12 .第 15 課　時がたつのは早いものですね/ 慣用文のいろいろ 13.　第 15 課の筆記と会話 14.　会話発表の演習 15.　全学年度の総合まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2016	授業コード	JH0014B02
科目名	中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese (f)		
担当者名	劉　暁嵐	旧科目名称	
講義概要	春学期に引き続き、同じテキストを使用し、同じ授業の進め方で、読解と会話の練習を繰り返して、すでに習得した中国語の初級知識をさらにアップすることを図ります。受講生の皆さん、沢山の常用語彙を覚え、面白そうな慣用句、表現の豊かな複文を理解して、そしてテキストの文章がすらすら読めるようになっているうちに、中国語勉強の楽しみとそれを身につける有用性を感ずるようになったでしょう。その実感は確実に、あなたの、未来を拓く国際的語学力の向上につながっていますよ。さあ、みなさん、もう少し頑張りましょう。きっとこの一年間学んだ知識ははっきりした「基盤」としてあなたのものになるに違いません。そして近い将来に、堂々たる自信を持って「就活」に臨むこともできるようになるでしょう。努力ということは必ず報われる、と信じましょう。		
教材（テキスト）	周　一川　・　郭　海燕とほか　「新・ゼルから学ぶ中国語---検定試験合格への道のり」　同学社　2016 年 2 月		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、学期末テスト(会話テスト)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合は、学期末テストを受ける資格が喪失、成績は評価できません。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な外国語の初級知識と学び方を身に着け、中国語の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。日常会話の実力(検定試験 4 級適応力)の獲得が期待されます。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
中国語 s を習得した学生向け。 週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。 筆記試験がなく、それより積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。			
講義の順序とポイント			
1.　春学期で学んだ知識を復習しながら、夏休みのことを話し合い、秋学期授業の要求解説 2　. 第 9 課　全部でおいくらですか?/ 疑問文のいろいろ 3. .第 10 課　大学に本屋があります/ 存在文と「的」について 4.　第 9、10 課の筆記・会話練習 5.　第 11 課　中国に行ったことがあります／動詞の経験形・「是~的」文 6. .第 12 課　宿題をしています/動詞の進行中形 7.　第 11、12 課の筆記・会話の練習 8.　中間復習および評価 9. .第 13 課　家は大学から遠くないです/ 前置詞のいろいろ 10. .第 14 課　バイドをしなければならないのです/ 助動詞のいろいろ 11.　第 13、14 課の筆記・会話の練習 12 .第 15 課　時がたつのは早いものですね/ 慣用文のいろいろ 13.　第 15 課の筆記と会話 14.　会話発表の演習 15.　全学年度の総合まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JM0001A0A
科目名	日本語基礎Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Japanese A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	日本語文法の基礎を復習し、それらの文型を用いた作文を練習します。 日常生活の様々な場面に応じた会話を練習します。		
教材（テキスト）	プリントを配布		
教材（参考文献）	友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型 200 初・中級 』アルク		
教材（その他）	授業中に適宜指示します		
評価方法	出席状況・授業参加状況などによる平常点（40%） 授業中に行う発表（２0%） 復習小テスト、まとめ試験（40%）		
到達目標	日本語文法、会話、作文の基礎技能の習得、日本語能力試験Ｎ２レベルの日本語力習得を目指します。		
準備学習	学習した項目の復習をしてください。 宿題にした範囲の予習をしてください。 機会をとらえて、日本人学生と積極的に交流しましょう。 インターネット・新聞・テレビ等で日本社会の動きや出来事を把握してください。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけてください。
・授業中配布した資料を必ず持参してください。
・辞書／電子辞書を持ってきて、授業中活用してください。
・課題は期限内に提出してください。
・積極的に授業に参加しましょう。

講義の順序とポイント

１．助詞　挨拶をする
２．活用１　電話の応対１
３．活用２　電話の応対２
４．「は」と「が」　注文する
５．ふつう形　依頼する
６．自分か他者か　復習小テスト
７．自動詞と他動詞　誘う
８．可能動詞　許可する
９．授受　アドバイスする
１０．使役、受身、使役受身　説明する
１１．敬語　意見を述べる
１２．継続性と瞬間性　意見交換する
１３．～ていく、～ている　手紙を書く１
１４．事実か気持ちが入っているか　手紙を書く２
１５．コ・ソ・アの使い分け　メールを書く
※授業の進度に応じて内容は変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	JM0003A0A
科目名	日本語応用Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0003A0B
科目名	日本語応用Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0003A0C
科目名	日本語応用Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0003A0D
科目名	日本語応用Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0004B0A
科目名	日本語応用B	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要			
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法			
到達目標			
準備学習			
受講者への要望			
講義の順序とポイント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2016	授業コード	JM0004B0B
科目名	日本語応用B	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要			
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法			
到達目標			
準備学習			
受講者への要望			
講義の順序とポイント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2016	授業コード	JM0004B0C
科目名	日本語応用B	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.全体的な復習 2、試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	-	★

年度	2016	授業コード	JM0004B0D
科目名	日本語応用B	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.全体的な復習 2、試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	-	★

年度	2016	授業コード	JM000600A
科目名	日本語作文演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2016	授業コード	JM000600B
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	留学生に対して中級以上の作文力を養成することを目的とする。具体的にはテキストの練習問題を通じて基本を学び、毎回、小作文を実際に書いてもらうことによって応用力をつける。論文やエッセイ、手紙文といった多様な形式をカバーする。		
教材（テキスト）	小論文作成の１２のステップ　スリーエーネットワーク		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の小作文の累積評価と授業への貢献度		
到達目標	様々な作文の様式を理解し、それぞれ場合によって使い分けられるようになること。		
準備学習	各章のテクストをよく読み、練習問題を事前にやっておくこと。解らない言葉は辞書をひいておくこと。		
受講者への要望			
身近な日本語に関する疑問があれば授業で披露してほしい。みんなで考えましょう。			
講義の順序とポイント			
前半でテクストの解説と練習問題を行い、後半に小作文を書いてもらい、講評をする。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★★

年度	2016	授業コード	JM000600C
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	留学生に対して中級以上の作文力を養成することを目的とする。具体的にはテキストの練習問題を通じて基本を学び、毎回、小作文を実際に書いてもらうことによって応用力をつける。論文やエッセイ、手紙文といった多様な形式をカバーする。		
教材（テキスト）	小論文作成の１２のステップ　スリーエーネットワーク		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の小作文の累積評価と授業への貢献度		
到達目標	様々な作文の様式を理解し、それぞれ場合によって使い分けられるようになること。		
準備学習	各章のテクストをよく読み、練習問題を事前にやっておくこと。解らない言葉は辞書をひいておくこと。		
受講者への要望			
身近な日本語に関する疑問があれば授業で披露してほしい。みんなで考えましょう。			
講義の順序とポイント			
前半でテクストの解説と練習問題を行い、後半に小作文を書いてもらい、講評をする。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★★

年度	2016	授業コード	JM000600D
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	友松悦子『小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク、またはプリント配布・		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成３０％、最終レポート４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文
7　文のつながり
8　小論文によく使われる表現
9　段落と中心文
１０　中心文と指示文
１１　要約文を書く
１２　説明文を書く
１３　意見文を書く
１４　事実を示す
１５　小論文のはじめと終わり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JM0007001
科目名	キャリアデザイン	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	変化が大きく混沌とした現代社会において、「キャリアデザイン」は個人にとって有意義な人生を送る上で必要なものとなっている。大学という場は、「これからの人生をどう送るか」を考える上で非常に大切な場であり、時間である。この授業では、自分自身のキャリアについて考え、これからの人生をどう送る会を考え、計画する時間と場を提供する。具体的には、自己理解、社会理解を中心に、個人・グループワークを交えながら進めていく。		
教材（テキスト）	特に使用しない。 毎回、資料やワークシートを配布する。		
教材（参考文献）	大学生のためのキャリア開発入門　中央経済社　渡辺峻著 詳細　大学生のキャリアガイダンス論　金子書房　若松養亮・下村英雄編 キャリア教育の基礎・基本　学事出版　山崎保寿編著 キャリアデザイン入門　光生館　菊地信一著 他。適宜紹介する		
教材（その他）	18 歳からのキャリアプランニング　北大路書房　大久保功・石田坦・西田治子著 働く人のためのキャリア・デザイン　PHP 新書　金井壽宏著 働くために必要なこと　ちくまプリマリー新書　品川裕香著 君の働き方に未来はあるか？　光文社新書　大内伸哉著 若者と労働　中公新書ラクレ　濱口桂一郎著 他、宜紹介する		
評価方法	授業終了時に提出するミニレポート、受講態度、課題レポートで総合的に判断する。 ・授業内容を理解し、その日の気づきや感想などをまとめる　４５％ ・授業への取り組み姿勢（受講態度やワークへの取り組みなど）１５％ ・課題レポート　４０％		
到達目標	・キャリアデザインの基本を理解する ・社会への興味関心を深める ・社会へ出てから活動するために必要な能力を理解し、働くことについてイメージできる		
準備学習	・新聞を読んだり、ニュースを見たりして、日頃から社会の動きについて情報を得、自分なりの考えを持つ ・授業での気づきを授業外（生活）でアウトプットし、その結果について考察する		

受講者への要望

・社会への移行を前提とした大人としての受講マナーや態度で参加してほしい。
・理由のない遅刻や欠席は厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。
・私語は厳禁。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
・自由で柔軟な思考を求める。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーションと「科ｙリアデザイン」について
２．自律型人材とは
３．社会人としての心構え（学生との違い）
４．企業と業界
５．職業
６．自己理解
７．「私シート」作成①
８．「私シート」作成②
９．自己 PR
１０．資格
１１．日本の労働社会
１２．労働法
１３．健康

１４．ライフイベントとキャリアデザイン １５．振り返りとライフプランニング

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	ー	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	JM0007002
科目名	キャリアデザイン	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	変化が大きく混沌とした現代社会において、「キャリアデザイン」は個人にとって有意義な人生を送る上で必要なものとなっている。大学という場は、「これからの人生をどう送るか」を考える上で非常に大切な場であり、時間である。この授業では、自分自身のキャリアについて考え、これからの人生をどう送る会を考え、計画する時間と場を提供する。具体的には、自己理解、社会理解を中心に、個人・グループワークを交えながら進めていく。		
教材（テキスト）	特に使用しない。 毎回、資料やワークシートを配布する。		
教材（参考文献）	大学生のためのキャリア開発入門　中央経済社　渡辺峻著 詳細　大学生のキャリアガイダンス論　金子書房　若松養亮・下村英雄編 キャリア教育の基礎・基本　学事出版　山崎保寿編著 キャリアデザイン入門　光生館　菊地信一著 他。適宜紹介する		
教材（その他）	18 歳からのキャリアプランニング　北大路書房　大久保功・石田坦・西田治子著 働く人のためのキャリア・デザイン　PHP 新書　金井壽宏著 働くために必要なこと　ちくまプリマリー新書　品川裕香著 君の働き方に未来はあるか？　光文社新書　大内伸哉著 若者と労働　中公新書ラクレ　濱口桂一郎著 他、宜紹介する		
評価方法	授業終了時に提出するミニレポート、受講態度、課題レポートで総合的に判断する。 ・授業内容を理解し、その日の気づきや感想などをまとめる　４５％ ・授業への取り組み姿勢（受講態度やワークへの取り組みなど）１５％ ・課題レポート　４０％		
到達目標	・キャリアデザインの基本を理解する ・社会への興味関心を深める ・社会へ出てから活動するために必要な能力を理解し、働くことについてイメージできる		
準備学習	・新聞を読んだり、ニュースを見たりして、日頃から社会の動きについて情報を得、自分なりの考えを持つ ・授業での気づきを授業外（生活）でアウトプットし、その結果について考察する		

受講者への要望

・社会への移行を前提とした大人としての受講マナーや態度で参加してほしい。
・理由のない遅刻や欠席は厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。
・私語は厳禁。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
・自由で柔軟な思考を求める。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーションと「科ｙリアデザイン」について
２．自律型人材とは
３．社会人としての心構え（学生との違い）
４．企業と業界
５．職業
６．自己理解
７．「私シート」作成①
８．「私シート」作成②
９．自己 PR
１０．資格
１１．日本の労働社会
１２．労働法
１３．健康

１４．ライフイベントとキャリアデザイン １５．振り返りとライフプランニング

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JM0008001
科目名	キャリアベーシックトレーニング	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Basic Training		
担当者名	中山　順子	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学のキャリア形成支援講座の１つとして開講されます。この講座は、就職に必要な基礎能力の修得を目標にしています。中でも、「読み書き（ビジネス文書)」と「計算・計数・数学的思考」能力の修得が、本講義の目的です。 前半の文書表現では、事務・営業職の職務に必要な文書の知識について、後半の数学・数的処理の基礎では、計算方法、数学的な思考方法や知識について勉強します。		
教材（テキスト）	1.西尾宣明　編　『日本語表現法』　（株）樹村房 ２.山田哲也　『社会人の基礎数学』　（株）テックス		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内小テストなどによる平常点（３０％）　到達度確認テスト・定期試験（７０％）		
到達目標	・ビジネス文書の約束事や役割を理解している。 ・誤字・脱字に加え、文章表現の妥当性についてチェックし、適切な修正ができる。 ・不定型の文書（企画書など）を論理立てて作成できる。 ・３桁程度の四則計算（分数、小数を含む）が正確にできる。 ・演繹的、帰納的な手法を用いて数学的、論理的に順序立てて考えることができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を提示するので、復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

この科目は、各自のキャリア形成のための科目です。明確な目的意識を持って受講することを望みます。
就職活動において自己アピールするための大きな材料になりますので、多くの学生がチャレンジすることを望みます。

講義の順序とポイント

１　文書表現①（文書によるコミュニケーション）
２　文書表現②（ビジネス文書作成の要領）
３　文書表現③（文書作成実務　１）
４　文書表現④（文書作成実務　２）
５　文書表現⑤（企画書を作成する）
６　文書表現⑥（郵送の実務）
７　文書表現⑦（長文を読む）
８　文書表現⑧（復習と到達度の確認）
９　数学・数的処理の基礎①（分数・小数の計算）
１０　数学・数的処理の基礎②（計算の工夫、割合）
１１　数学・数的処理の基礎③（原価計算、仕事算）
１２　数学・数的処理の基礎④（年齢算、鶴亀算）
１３　数学・数的処理の基礎⑤（速度算）
１４　数学・数的処理の基礎⑥（濃度算）
１５　数学・数的処理の基礎⑦（資料、推論）
（定期試験　数学・数的処理の基礎）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	－	★★

年度	2016	授業コード	JM0008002
科目名	キャリアベーシックトレーニング	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Basic Training		
担当者名	足塚　智志	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学のキャリア形成支援講座の１つとして開講されます。この講座は、就職に必要な基礎能力の修得を目標にしています。中でも、「読み書き（ビジネス文書)」と「計算・計数・数学的思考」能力の修得が、本講座の目的です。 前半の文書表現では、事務・営業職の職務に必要な文書の知識について、後半の数学・数的処理の基礎では、計算方法、数学的な思考方法や知識について勉強します。		
教材（テキスト）	1.西尾宣明編『日本語表現法』　樹村房 2.山田哲也『社会人の基礎数学』　（株）テックス		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）　到達度確認テスト・定期試験（70%）		
到達目標	・ビジネス文書の約束事や役割を理解している。 ・誤字・脱字に加え、文章表現の妥当性についてチェックし、適切な修正ができる。 ・不定型の文書（企画書等）を論理立てて作成できる。 ・3 桁程度の四則計算（分数、少数を含む）が正確にできる。 ・演繹的・帰納的な手法を用いて数学的・論理的に順序立てて考えることができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を提示するので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
この科目は、各自のキャリア形成のための科目です。 明確な目的意識を持って受講することを望みます。 就職活動において自己アピールするための大きな材料になりますので、多くの学生がチャレンジすることを望みます。			
講義の順序とポイント			
1　文書表現①（文書によるコミュニケーション） 2　文書表現②（ビジネス文書作成の要領） 3　文書表現③（文書作成実務　1） 4　文書表現④（文書作成実務　2） 5　文書表現⑤（企画書を作成する） 6　文書表現⑥（郵送の実務） 7　文書表現⑦（長文を読む） 8　文書表現⑧（復習と到達度の確認） 9　数学・数的処理の基礎①（分数・小数の計算） 10　数学・数的処理の基礎②（計算の工夫、割合） 11　数学・数的処理の基礎③（原価計算、仕事算） 12　数学・数的処理の基礎④（年齢算、鶴亀算） 13　数学・数的処理の基礎⑤（速度算） 14　数学・数的処理の基礎⑥（濃度算） 15　数学・数的処理の基礎⑦（資料、推論） （定期試験　数学・数的処理の基礎）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	−	★★

年度	2016	授業コード	JM0009001
科目名	コミュニケーション・スキル	単位数	2
科目名（英語表記）	Communication Skill		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーション・スキル」は、就職活動だけでなく、人生を送る上で非常に大切なスキルである。コミュニケーションは、人と人をつなぐものであり、潤滑油にもなる。また、「コミュニケーション力」は、私たちの生活を充実したものにしてくれる。大学では、専門分野の勉強をするだけでなく、社会に貢献すべく教養を深め、人や情報との付き合い方など様々なことを学ぶ場でもある。 授業では、これから社会へ出ていくにあたり、ビジネスシーンで必要とされるコミュニケーションの考え方やコミュニケーションスキルの基礎を中心に進めていく。コミュニケーションは、司式を身に付けるよりも現実の場で活用できるよう、参加型のトレーニングを予定している。		
教材（テキスト）	特に使用しない。 必要があれば、その都度紹介する。		
教材（参考文献）	大学１年生からのコミュニケーション入門　　ナカニシヤ出版　中野美香著 キャリアデザインワーク　プロフェッショナル社会人　ホルス出版　稲本恵子・白井弘子・中村真典著 他、適宜紹介する		
教材（その他）	適宜、プリントやワークシートを配布する		
評価方法	授業中に出すミニレポートや受講態度、課題レポートで総合的に判断する。 ・授業内で実施するミニレポート（60%） ・課題提出（30%） ・受講態度（10%）		
到達目標	・他者の話をしっかり聞くことができる ・相手に自分の考えや意見などを伝わるように話すことができる ・相手との信頼関係を築くことができる		
準備学習	授業終了後に次回のテーマを紹介するので、そのテーマの自己のコミュニケーションスキルについて考えておくこと。 また、授業内での学びを学生生活でアウトプットし、復習をして、その都度、振り返り、自己のコミュニケーションスキルを確認し、身に付けることができるようにすること。		

受講者への要望

・学生同士、学生と教員との間での活発なコミュニケーションを期待する。
・私語や受講態度についていは厳しく対応する。場合によっては、退出を求めることもある。
・遅刻や休みなどは、その理由を求める。
・主体的に大人としての行動や態度をとること。
・コミュニケーション力は実践することにより身につくので、準備学習で述べたように、必ず授業以外の場で実践すること。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション～大学生とコミュニケーション～
2．自己のコミュニケーションの傾向を知る
3．コミュニケーションと第一印象
4．言語・非言語のコミュニケーション
5．言葉使い
6．表現方法
7．話の聞き方
8．質問する
9．チームワーク
10．ディスカッション
11．スピーチ・プレゼンテーション
12．通信手段
13．電話対応
14．報告・連絡・相談
15．振り返りと自己のコミュニケーションの評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	ー	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	JM0009002
科目名	コミュニケーション・スキル	単位数	2
科目名（英語表記）	Communication Skill		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーション・スキル」は、就職活動だけでなく、人生を送る上で非常に大切なスキルである。コミュニケーションは、人と人をつなぐものであり、潤滑油にもなる。また、「コミュニケーション力」は、私たちの生活を充実したものにしてくれる。大学では、専門分野の勉強をするだけでなく、社会に貢献すべく教養を深め、人や情報との付き合い方など様々なことを学ぶ場でもある。 授業では、これから社会へ出ていくにあたり、ビジネスシーンで必要とされるコミュニケーションの考え方やコミュニケーションスキルの基礎を中心に進めていく。コミュニケーションは、司式を身に付けるよりも現実の場で活用できるよう、参加型のトレーニングを予定している。		
教材（テキスト）	特に使用しない。 必要があれば、その都度紹介する。		
教材（参考文献）	大学１年生からのコミュニケーション入門　　ナカニシヤ出版　中野美香著 キャリアデザインワーク　プロフェッショナル社会人　ホルス出版　稲本恵子・白井弘子・中村真典著 他、適宜紹介する		
教材（その他）	適宜、プリントやワークシートを配布する		
評価方法	授業中に出すミニレポートや受講態度、課題レポートで総合的に判断する。 ・授業内で実施するミニレポート（60%） ・課題提出（30%） ・受講態度（10%）		
到達目標	・他者の話をしっかり聞くことができる ・相手に自分の考えや意見などを伝わるように話すことができる ・相手との信頼関係を築くことができる		
準備学習	授業終了後に次回のテーマを紹介するので、そのテーマの自己のコミュニケーションスキルについて考えておくこと。 また、授業内での学びを学生生活でアウトプットし、復習をして、その都度、振り返り、自己のコミュニケーションスキルを確認し、身に付けることができるようにすること。		

受講者への要望

・学生同士、学生と教員との間での活発なコミュニケーションを期待する。
・私語や受講態度についていは厳しく対応する。場合によっては、退出を求めることもある。
・遅刻や休みなどは、その理由を求める。
・主体的に大人としての行動や態度をとること。
・コミュニケーション力は実践することにより身につくので、準備学習で述べたように、必ず授業以外の場で実践すること。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション～大学生とコミュニケーション～
2．自己のコミュニケーションの傾向を知る
3．コミュニケーションと第一印象
4．言語・非言語のコミュニケーション
5．言葉使い
6．表現方法
7．話の聞き方
8．質問する
9．チームワーク
10．ディスカッション
11．スピーチ・プレゼンテーション
12．通信手段
13．電話対応
14．報告・連絡・相談
15．振り返りと自己のコミュニケーションの評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JM0010A01
科目名	ジェンダー論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society A		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｓ
講義概要	ジェンダーとは、女性／男性の性の違いを、生物学的本質的な差異ととらえるのではなく、この社会の構成秩序のうちに体系づけられた構築的なものとして、認識する概念である。授業では、ジェンダー論の考え方を学び、既存の社会通念の検証、ジェンダーに関わる理論や具体的事象へのアプローチを通して、ジェンダーの規範性、政治性を問い、また、その構築性や当事者性を確認する。ジェンダー論Ａでは、セクシュアリティの問題を扱うので最前線の話題も含み、時事問題に関心を向けたり、ポップな文化現象も扱いながら、授業を進める。		
教材（テキスト）	テキストは、使用しない。随時、プリント資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜紹介する。		
教材（その他）	随時配布するテキスト資料やＡＶ資料。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝(50%) 定期試験(50%)		
到達目標	ジェンダー、セクシュアリティについて、生得的、宿命的なものとして捉える既存の社会通念の呪縛を解き、社会の構成自体をクリティカルに読み解く理解力、思考力を養う。各人が自らの尊厳を重視し、他者への理解を深め、自他ともに幸福に生きるためには、どのような社会が目指されるべきなのかを考察できるようになること。		
準備学習	授業内でのレポートや小テストには、予め、課題や範囲等を指定する場合があるので、準備をして臨むこと。		

受講者への要望

・レポートなどの提出物は、きちんとした文字と文章を心がけること。雑な文字・文章は評価しない。
・オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。
・社会通念や偏見にとらわれないで、事象を相対化し、自分で思考する態度を望みます。

講義の順序とポイント

1. 導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か
２．ジェンダーの表象、表現、社会通念についての考察
３．性自認を考える
４．性自認と法
５．性的指向
６．性的対象選択と婚姻制度
７．恋愛と性と結婚を考える
８．性分化をめぐる事象（１）
９．性分化をめぐる事象（２）
１０．性分化をめぐる事象（３）
１１．性と生殖（１）
１２．性と生殖（２）
１３．人権としてのジェンダー・セクシュアリティ
１４．ジェンダー・セクシュアリティの現在と課題（１）
１５．ジェンダー・セクシュアリティの現在と課題（２）
＊上記授業テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢やトピックスによって、調整・変更を行う場合があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0010A02
科目名	ジェンダー論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society A		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｓ
講義概要	ジェンダーとは、女性／男性の性の違いを、生物学的本質的な差異ととらえるのではなく、この社会の構成秩序のうちに体系づけられた構築的なものとして、認識する概念である。授業では、ジェンダー論の考え方を学び、既存の社会通念の検証、ジェンダーに関わる理論や具体的事象へのアプローチを通して、ジェンダーの規範性、政治性を問い、また、その構築性や当事者性を確認する。ジェンダー論Ａでは、セクシュアリティの問題を扱うので最前線の話題も含み、時事問題に関心を向けたり、ポップな文化現象も扱いながら、授業を進める。		
教材（テキスト）	テキストは、使用しない。随時、プリント資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜紹介する。		
教材（その他）	随時配布するテキスト資料やＡＶ資料。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝(50%) 定期試験(50%)		
到達目標	ジェンダー、セクシュアリティについて、生得的、宿命的なものとして捉える既存の社会通念の呪縛を解き、社会の構成自体をクリティカルに読み解く理解力、思考力を養う。各人が自らの尊厳を重視し、他者への理解を深め、自他ともに幸福に生きるためには、どのような社会が目指されるべきなのかを考察できるようになること。		
準備学習	授業内でのレポートや小テストには、予め、課題や範囲等を指定する場合があるので、準備をして臨むこと。		

受講者への要望

・レポートなどの提出物は、きちんとした文字と文章を心がけること。雑な文字・文章は評価しない。
・オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。
・社会通念や偏見にとらわれないで、事象を相対化し、自分で思考する態度を望みます。

講義の順序とポイント

1. 導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か
２．ジェンダーの表象、表現、社会通念についての考察
３．性自認を考える
４．性自認と法
５．性的指向
６．性的対象選択と婚姻制度
７．恋愛と性と結婚を考える
８．性分化をめぐる事象（１）
９．性分化をめぐる事象（２）
１０．性分化をめぐる事象（３）
１１．性と生殖（１）
１２．性と生殖（２）
１３．人権としてのジェンダー・セクシュアリティ
１４．ジェンダー・セクシュアリティの現在と課題（１）
１５．ジェンダー・セクシュアリティの現在と課題（２）
＊上記授業テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢やトピックスによって、調整・変更を行う場合があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0010B01
科目名	ジェンダー論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society B		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｆ
講義概要	この社会は、女性／男性の二元的構成で秩序づけられ、様々な制度や制度を支える意識も、この二元的構成すなわちジェンダーに基づいている。 授業では、戦後の男女平等政策の変遷について、人権意識や男女の関係性、家族の問題をトピックを立てて検証する。そして、私たちが日常生活で直面する様々な場面とジェンダー・システムとの関連を把握する。また、歴史的な流れを理解し、今後に向けて、私たちが幸福な暮らしを実現するためにはどのような社会が構築されるべきなのか、ジェンダーにセンシティブな視点を養いつつ、社会への問題意識を喚起する。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。随時、資料を配布。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜、紹介。		
教材（その他）	授業内で配布するテキスト資料と、ＡＶ資料。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝（50%） 定期試験（50%）		
到達目標	現在の社会問題の諸相が、ジェンダー問題と深く関わっている事実を理解し、女性も男性も誰もが生き生きと幸福に生きられる社会とは何であるのかを、深く考察する姿勢と力を養う。		
準備学習	授業内で行うレポートや小テストについては、事前に課題、範囲を提示する場合があるので、その際には準備をして臨むこと。		

受講者への要望

・レポート、ミニテストなどの提出物は、文字、文章を丁寧に書くこと。雑な提出物は評価しない。
・オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。自分に惹きつけてよく考えられたレポートは意義深いものであり、高く評価される。
・社会通念や思い込みを排し、柔軟な思考や発想を持って、テーマと向き合うことを望みます。

講義の順序とポイント

１．　導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か
２．　男性観、女性観をめぐって、マスメディアにおける表象、社会通念を検証
３．戦後の男女同権
４．高度経済成長期におけるジェンダー
５．性別特性論（１）
６．性別特性論（２）
７．ジェンダーと暴力（１）
８．ジェンダーと暴力（２）
９．ジェンダーと暴力（３）
１０．高度経済成長期以降のジェンダー政策
１１．国際的取り組みとジェンダー
１２．労働とジェンダー（１）
１３．労働とジェンダー（２）
１４．男女共同参画政策
１５．ジェンダー問題の現状と課題

上記授業テーマの配列は、授業の進度や時事的な話題等の状況に応じて、調整・変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0010B02
科目名	ジェンダー論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society B		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｆ
講義概要	この社会は、女性／男性の二元的構成で秩序づけられ、様々な制度や制度を支える意識も、この二元的構成すなわちジェンダーに基づいている。 授業では、戦後の男女平等政策の変遷について、人権意識や男女の関係性、家族の問題をトピックを立てて検証する。そして、私たちが日常生活で直面する様々な場面とジェンダー・システムとの関連を把握する。また、歴史的な流れを理解し、今後に向けて、私たちが幸福な暮らしを実現するためにはどのような社会が構築されるべきなのか、ジェンダーにセンシティブな視点を養いつつ、社会への問題意識を喚起する。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。随時、資料を配布。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜、紹介。		
教材（その他）	授業内で配布するテキスト資料と、ＡＶ資料。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝（50%） 定期試験（50%）		
到達目標	現在の社会問題の諸相が、ジェンダー問題と深く関わっている事実を理解し、女性も男性も誰もが生き生きと幸福に生きられる社会とは何であるのかを、深く考察する姿勢と力を養う。		
準備学習	授業内で行うレポートや小テストについては、事前に課題、範囲を提示する場合があるので、その際には準備をして臨むこと。		

受講者への要望

・レポート、ミニテストなどの提出物は、文字、文章を丁寧に書くこと。雑な提出物は評価しない。
・オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。自分に惹きつけてよく考えられたレポートは意義深いものであり、高く評価される。
・社会通念や思い込みを排し、柔軟な思考や発想を持って、テーマと向き合うことを望みます。

講義の順序とポイント

１．　導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か
２．　男性観、女性観をめぐって、マスメディアにおける表象、社会通念を検証
３．戦後の男女同権
４．高度経済成長期におけるジェンダー
５．性別特性論（１）
６．性別特性論（２）
７．ジェンダーと暴力（１）
８．ジェンダーと暴力（２）
９．ジェンダーと暴力（３）
１０．高度経済成長期以降のジェンダー政策
１１．国際的取り組みとジェンダー
１２．労働とジェンダー（１）
１３．労働とジェンダー（２）
１４．男女共同参画政策
１５．ジェンダー問題の現状と課題

上記授業テーマの配列は、授業の進度や時事的な話題等の状況に応じて、調整・変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0012001
科目名	ビジネス実務論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Practical Business		
担当者名	足塚　智志	旧科目名称	
講義概要	信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまなビジネスシーンにおいて適切な行動ができるようになることを目指す。 また、就職活動においてプラスになるようビジネスマナーを学び、好感の持てる外見・動作・行動を身に付ける。 加えて、時事問題を題材に、タイムリーなビジネス業界のあり方を知る。		
教材（テキスト）	水原道子編著『ビジネスとオフィスワーク』 樹村房 1900 円		
教材（参考文献）	秘書検定２級問題集（受験希望者）		
教材（その他）	１．ビデオ教材を使用 ２．適宜プリントを配布		
評価方法	１．授業内プリントによる平常点　10% ２．授業内小テストによる提出物　20% ３．各章の確認課題　70% 以上３点による総合評価とする		
到達目標	社会人として、常識のある話し方ができ、態度や行動も含め、好感度の高いコミュニケーションが取れる人物となることを目指す。 また、就職活動に活用できるよう、ビジネス用語・時事用語を積極的に学ぶ。		
準備学習	講義終了時に、講義内容に付随する資料を配布するので、解答を記入し、次回に必ず持参すること。 ニュースや新聞等で興味ある時事問題を収集しし、的確に話せるようにまとめておく。		

受講者への要望

受講にあたっては、必ずテキスト「ビジネスとオフィスワーク」を持参すること

講義の順序とポイント

１．ガイダンス…授業の概要及び受講ルール
２．企業とビジネス活動…ビジネス界の動き
３．学生と社会人…それぞれの立場の違い
４．ビジネス業務と組織…協働の精神と社会人のルール
５．接遇の重要性…挨拶と第一印象の大切さ
６．接遇(1)・・・ビジネスシーンにおける対応
７．接遇(2)・・・敬語と話し方
８．応対の基本Ⅰ…電話に関する基本マナー
９．応対の基本Ⅱ…訪問に関する基本マナー
10．冠婚葬祭Ⅰ…常識としての冠婚葬祭マナー(1)
11．冠婚葬祭Ⅱ…常識としての冠婚葬祭マナー(2)
12．ファイリングⅠ…ファイリングシステムについて
13．ファイリングⅡ…ファイリングの実際
14．クレーム対応…クレーム処理の原則
15．心構え…ビジネスパーソンとしての知識と行動

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2016	授業コード	JM0012002
科目名	ビジネス実務論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Practical Business		
担当者名	中山　順子	旧科目名称	
講義概要	信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまなビジネスシーンにおいて適切な行動ができるようになることを目指す。 また、就職活動においてプラスになるようにビジネスマナーを学び、好感を与える外見、動作や行動を身に付ける。加えて、時事問題を題材に、タイムリーなビジネス業界のあり方を知る。		
教材（テキスト）	水原道子　編著　『ビジネスとオフィスワーク』　（株）樹村房　1,900 円		
教材（参考文献）	秘書検定 2 級　実問題集（秘書検定の受検希望者）		
教材（その他）	1. DVD 教材を使用 2. 適宜、プリントを配布		
評価方法	1. 授業内配付プリントの実施による平常点　10% 2. 授業内小テストの実施、提出物　20% 3. 各章の確認課題　70% 以上の 3 点による総合評価とする		
到達目標	社会人として、常識のある話し方ができ、態度や行動も含め、高感度の高いコミュニケーションが取れる人物になることを目指す。 また、就職活動に活用できるよう、ビジネス用語・時事用語を積極的に学ぶ。		
準備学習	講義終了時に、講義内容に付随する資料を配付するので、解答を記入し次回に必ず持参すること。 ニュースや新聞などで興味ある時事問題を収集し、的確に説明ができるようにまとめておく。		
受講者への要望			
学習にあたっては、必ずテキスト、『ビジネスとオフィスワーク』を持参すること			
講義の順序とポイント			
1．ガイダンス　授業の概要と受講ルールの説明 2．企業とビジネス活動　ビジネス界の動き 3．学生と社会人　それぞれの立場に違い 4．ビジネス業務と組織　協働の精神と社会人のルール 5．接遇の重要性　あいさつと第一印象の大切さ 6．接遇１　ビジネスシーンにおける対応 7．接遇２　敬語と話し方 8．応対の基本１　電話に関する基本マナー 9．応対の基本２　訪問に関する基本マナー １０．冠婚葬祭１　常識としての冠婚葬祭マナー① １１．冠婚葬祭２　常識としての冠婚葬祭マナー② １２．ファイリング１　ファイリングシステムについて １３．ファイリング２　ファイリングの実際 １４．クレーム対応　クレーム処理の原則 １５．ビジネスパーソンの心構え　知識と行動			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	JM0015A01
科目名	フィールドワーク京都（歴史と文化） A	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork in Kyoto (History & Culture) A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回終了時に課するレポートにより評価する。		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となること。		
準備学習	探訪先について、事前に文献等で調査しておくことが望ましい。		

受講者への要望

授業には交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

講義の順序とポイント

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　　月日　　4 月 9 日（土）
集合場所　京町家キャンパス
集合時間　午前９時
探訪場所　午前中は京都御所の一般公開を見学。午後は京都を愛した文豪・谷崎潤一郎の旧邸を見学する。
費用　　交通費のみ。拝観料は無料。

第二回　月日　　5 月 15 日(日)・・・葵祭行列当日
集合場所　京都御所建礼門前
集合時間　午前１０時
探訪場所　京都御所　上賀茂神社
費用　　交通費のみ

第三回　月日　　6 月 18 日（土）
集合場所　京都国立博物館入口
集合時間　午前 9 時 30 分
探訪場所　京都国立博物館～三十三間堂～方広寺など
費用　　拝観料が必要。
なお、学生証を必ず持参すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JM0015B01
科目名	フィールドワーク京都（歴史と文化） B	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork in Kyoto (History & Culture) B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回終了時に課するレポートにより評価する。		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となること。		
準備学習	探訪先について、事前に文献等で調べておくことが望ましい。		

受講者への要望

授業には、交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

講義の順序とポイント

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　月日　　11 月 5 日（土）
集合場所　百万遍交差点南東角
集合時間　午前 9 時 30 分
探訪場所　京大総合博物館　京大構内　同志社構内　相国寺
費用　　交通費　博物館入館料（５００円程）

第二回　月日　　12 月 3 日（土）
集合場所　京町家キャンパス
集合時間　午前 9 時
探訪場所　黒谷金戒光明寺～黒谷会津藩士墓地～真如堂～泉屋博古館
費用　　泉屋博古館は拝観料が必要。

第三回　月日　　2017 年 1 月 21 日（土）
集合場所　京都太秦キャンパス図書館内コモンズスペース
集合時間　8 時 50 分
探訪場所　午前は嵐山の百人一首殿堂時雨殿。午後は京都市内の平安京大内裏跡をめぐる。
費用　　時雨殿は入館料 500 円が必要。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JM0016A01
科目名	マスコミ論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、情報化社会において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらに報道されたニュースの分析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを教材として取り上げるので、一般企業に就職を希望する学生にとっても、一般常識を養うのに大いに役立たせたいと考えています。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布に加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、ジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を中心とした講義を熱心に聞くことを望みます。それは、就職の際にきっと役に立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞やテレビ報道を分析します。評価方法については、出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内で実施する「小テスト」2 回（(計 60%）です。		
到達目標	現代社会で起きている様々な事象の意味を理解し、それに対する見解、バランスのとれた批判力を養うのが目標です。つまり、それは社会常識の構築にもつながります。この社会常識なくして一人前の社会人にはなれないわけで、それに必要不可欠な基礎知識を身に付けてほしい。それと併せて、民主社会の構成員に求められる問題意識や議題設定能力を磨いてほしい。それを学習することによって就職など進路面で大いに役立つと思われる。		
準備学習	教科書と事前に配布した資料によって予習、復習を完全に行ってください。また、マスコミ論の授業は日々のニュースについてその意味を考え、分析、解説も行いますので、出来るだけテレビニュースや新聞記事を読むようにしてください。新聞社のウェブサイトでニュース記事を閲覧しておくのも一案です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業時に提出してもらいます。 1.「マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）を詳しく読んでおいてください。 ２.「わが国における新聞の誕生と新聞業界の発展過程」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「新聞の未来」（7 ページ～20 ページ）をよく読んで、事実関係を把握しておいてください。 ３.「朝日・読売など全国紙・地方紙の現状」については、事前に配布した資料と教科書の「新聞に未来はあるか」（7 ページ～20 ページ）を読んで予習しておくこと。 ４.「テレビの登場とその社会的影響力」については、第 II 部「テレビメディア」（47 ページ～80 ページ）全体を一通り目を通しておくこと。 ５.「キャスターニュースの登場と主役たち」については、教科書の「ニュースキャスター」（81 ページ～86 ページ）を読んで専門用語を理解しておくこと。 ６.「テレビニュース革命とニュースの大衆化」については、配布資料に加えて、教科書の「ニュース革命」（49 ページ～53 ページ）を読んでおくこと。 ７.「ニュースステーションとニュース戦国時代」については、教科書の「ニュースステーションの誕生」（54 ページ～59 ページ）を詳細に読んで経緯を理解しておいてください。 ８.「NHK 的ニュースからの転換」については、ＮＨＫのウェブサイトを閲覧してその概要を知ると同時に、教科書の「ＮＨＫ的ニュース」（60 ページ～66 ページ）を読んで理解しておくこと。 ９.「ニュースキャスターと大衆」については、事前に配布した資料とともに、教科書の「キャスターニュース」（67 ページ～73 ページ）を読んで予習しておいてください。 １０.「久米宏と筑紫哲也」については、教科書の「久米と筑紫のキャスター比較論」（97 ページ～104 ページ）を参照にしながら、事前配布の両者についての資料をよく読んで予習しておいてください。 １１.「職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率とコマーシャリズム」については、教科書の「はしがき」（ii		

	～ⅳ）と第 7 章の「視聴率至上主義」全体を一通り目を通しておいてください。 １２.「視聴率買収事件と発掘！あるある大事典Ⅱ」については、事前配布資料とデータに加えて、教科書の「視聴率至上主義」（153 ページ～159 ページ）と「虚偽で固めた生活情報番組」（160 ページ～169 ページ）をよく読んでおくこと。 １３.「ポピュリズムとメディアの選挙報道」については、事前に配布した新聞記事と教科書の「小泉劇場」（105 ページ～113 ページ）を読んで理解しておくこと。 １４.「テレビ局の選挙特番と出口調査」については、教科書の「選挙特番」（114 ページ～119 ページ）と「当確報道」（120 ページ～122 ページ）を読んで準備しておくこと。 １５.「メディアのアナウンスメント効果」については、参考資料として事前に配布した新聞記事と教科書の「投票前の新聞報道」（123 ページ～126 ページ）を読んで予習しておいてください・

受講者への要望

積極的な態度で出席することが第 1 で、遅刻や授業中の私語などはほかの人に迷惑になるので厳禁です。マスコミ報道は世の中で一体、何が起きているのか、それがどのような意味をもつのか、あるいはそれに対する賛否など重要な要素を含んでいます。このようにニュース報道を教材にしてそれを分析、思考するわけですから、出来るだけ日々の新聞やテレビニュース、雑誌などに目を通して情報感度を高めておくことが大切です。もちろん、その蓄積が就職にもつながるので、そのような意識を持つことも大事です。この授業では予習が大切で、それは「準備学習」の項をよく読んで順守してください。また、復習も大切で、それが実行されているか否
か、課題レポートも提出してもらいます。このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能
2　わが国における新聞の誕生と今日に至るまでの新聞業界の発展過程
3　朝日・読売など全国紙・地方紙の現状とその組織、そして新聞が誕生するまで
4　テレビの登場とその社会的影響力、ジャーナリズムとしてのテレビニュースの誕生
5　米国に追随した「キャスターニュース」の登場とその華やかな主役たち
6　「テレビニュース革命」によって一般化したニュース報道の大衆化
7　「ニュースステーション」はなぜ、ニュース戦国時代の最終勝利者になれたのか
8　NHK 的ニュースから視聴者本位のニュース報道への転換
9　ニュースキャスターは「大衆（視聴者）の代理人」たり得るか
１０　久米宏（テレビ出身）と筑紫哲也（新聞出身）のキャスター比較論
１１　職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率至上主義とコマーシャリズム
１２　テレビ局員による視聴率買収事件と「発掘！あるある大事典Ⅱ」の虚偽報道
１３　「小泉劇場」などポピュリズム（大衆迎合）に翻弄されるメディアの選挙報道
１４　政治ショーと化したテレビ局の「選挙特番」と出口調査による「当確」誤報道
１５　メディアの選挙報道によるアナウンスメント効果とその功罪

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0016A02
科目名	マスコミ論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、情報化社会において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらに報道されたニュースの分析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを教材として取り上げるので、一般企業に就職を希望する学生にとっても、一般常識を養うのに大いに役立たせたいと考えています。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布に加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、ジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を中心とした講義を熱心に聞くことを望みます。それは、就職の際にきっと役に立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞やテレビ報道を分析します。評価方法については、出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内で実施する「小テスト」2 回（(計 60%）です。		
到達目標	現代社会で起きている様々な事象の意味を理解し、それに対する見解、バランスのとれた批判力を養うのが目標です。つまり、それは社会常識の構築にもつながります。この社会常識なくして一人前の社会人にはなれないわけで、それに必要不可欠な基礎知識を身に付けてほしい。それと併せて、民主社会の構成員に求められる問題意識や議題設定能力を磨いてほしい。それを学習することによって就職など進路面で大いに役立つと思われる。		
準備学習	教科書と事前に配布した資料によって予習、復習を完全に行ってください。また、マスコミ論の授業は日々のニュースについてその意味を考え、分析、解説も行いますので、出来るだけテレビニュースや新聞記事を読むようにしてください。新聞社のウェブサイトでニュース記事を閲覧しておくのも一案です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業時に提出してもらいます。 1.「マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）を詳しく読んでおいてください。 ２.「わが国における新聞の誕生と新聞業界の発展過程」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「新聞の未来」（7 ページ～20 ページ）をよく読んで、事実関係を把握しておいてください。 ３.「朝日・読売など全国紙・地方紙の現状」については、事前に配布した資料と教科書の「新聞に未来はあるか」（7 ページ～20 ページ）を読んで予習しておくこと。 ４.「テレビの登場とその社会的影響力」については、第 II 部「テレビメディア」（47 ページ～80 ページ）全体を一通り目を通しておくこと。 ５.「キャスターニュースの登場と主役たち」については、教科書の「ニュースキャスター」（81 ページ～86 ページ）を読んで専門用語を理解しておくこと。 ６.「テレビニュース革命とニュースの大衆化」については、配布資料に加えて、教科書の「ニュース革命」（49 ページ～53 ページ）を読んでおくこと。 ７.「ニュースステーションとニュース戦国時代」については、教科書の「ニュースステーションの誕生」（54 ページ～59 ページ）を詳細に読んで経緯を理解しておいてください。 ８.「NHK 的ニュースからの転換」については、ＮＨＫのウェブサイトを閲覧してその概要を知ると同時に、教科書の「ＮＨＫ的ニュース」（60 ページ～66 ページ）を読んで理解しておくこと。 ９.「ニュースキャスターと大衆」については、事前に配布した資料とともに、教科書の「キャスターニュース」（67 ページ～73 ページ）を読んで予習しておいてください。 １０.「久米宏と筑紫哲也」については、教科書の「久米と筑紫のキャスター比較論」（97 ページ～104 ページ）を参照にしながら、事前配布の両者についての資料をよく読んで予習しておいてください。 １１.「職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率とコマーシャリズム」については、教科書の「はしがき」（ii		

	～ⅳ）と第 7 章の「視聴率至上主義」全体を一通り目を通しておいてください。 １２.「視聴率買収事件と発掘！あるある大事典Ⅱ」については、事前配布資料とデータに加えて、教科書の「視聴率至上主義」（153 ページ～159 ページ）と「虚偽で固めた生活情報番組」（160 ページ～169 ページ）をよく読んでおくこと。 １３.「ポピュリズムとメディアの選挙報道」については、事前に配布した新聞記事と教科書の「小泉劇場」（105 ページ～113 ページ）を読んで理解しておくこと。 １４.「テレビ局の選挙特番と出口調査」については、教科書の「選挙特番」（114 ページ～119 ページ）と「当確報道」（120 ページ～122 ページ）を読んで準備しておくこと。 １５.「メディアのアナウンスメント効果」については、参考資料として事前に配布した新聞記事と教科書の「投票前の新聞報道」（123 ページ～126 ページ）を読んで予習しておいてください・

受講者への要望

積極的な態度で出席することが第 1 で、遅刻や授業中の私語などはほかの人に迷惑になるので厳禁です。マスコミ報道は世の中で一体、何が起きているのか、それがどのような意味をもつのか、あるいはそれに対する賛否など重要な要素を含んでいます。このようにニュース報道を教材にしてそれを分析、思考するわけですから、出来るだけ日々の新聞やテレビニュース、雑誌などに目を通して情報感度を高めておくことが大切です。もちろん、その蓄積が就職にもつながるので、そのような意識を持つことも大事です。この授業では予習が大切で、それは「準備学習」の項をよく読んで順守してください。また、復習も大切で、それが実行されているか否
か、課題レポートも提出してもらいます。このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能
2　わが国における新聞の誕生と今日に至るまでの新聞業界の発展過程
3　朝日・読売など全国紙・地方紙の現状とその組織、そして新聞が誕生するまで
4　テレビの登場とその社会的影響力、ジャーナリズムとしてのテレビニュースの誕生
5　米国に追随した「キャスターニュース」の登場とその華やかな主役たち
6　「テレビニュース革命」によって一般化したニュース報道の大衆化
7　「ニュースステーション」はなぜ、ニュース戦国時代の最終勝利者になれたのか
8　NHK 的ニュースから視聴者本位のニュース報道への転換
9　ニュースキャスターは「大衆（視聴者）の代理人」たり得るか
１０　久米宏（テレビ出身）と筑紫哲也（新聞出身）のキャスター比較論
１１　職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率至上主義とコマーシャリズム
１２　テレビ局員による視聴率買収事件と「発掘！あるある大事典Ⅱ」の虚偽報道
１３　「小泉劇場」などポピュリズム（大衆迎合）に翻弄されるメディアの選挙報道
１４　政治ショーと化したテレビ局の「選挙特番」と出口調査による「当確」誤報道
１５　メディアの選挙報道によるアナウンスメント効果とその功罪

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0016B01
科目名	マスコミ論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データに加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、プロのジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を聴いて下さい。それは、就職の際に必ず役立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞・テレビ報道を皆さんと一緒に批評します。評価方法については、出席状況等などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内に実施する「小テスト」2回(計60%)です。		
到達目標	高度情報化時代の今日、世の中で何が起きているか、それがどのような意味を持つのかを正確に理解することが目標です。また、それに対する客観的な判断力も求められます。それが社会人になるためのバランスのとれた社会常識の醸成につながるわけですが、学習の成果が将来の進路、つまり就職に生かされればと思います。		
準備学習	事前に配布した資料や新聞記事に加えて、教科書『衰退するジャーナリズム』をよく読んで充実した予習をしておいてください。それに加えて、マスコミ論の授業は日々起きている社会事象について理解と分析することが不可欠なので、毎日の新聞報道やテレビニュースはよく見ておいてください。新聞社のウェブサイトにアクセスしてニュースをチェックしておくことも大切です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業で提出してもらいます。 1.「IT革命とメディア・ビッグバン」については、事前に配布した資料と教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）、「インターネットの登場と情報環境」（3ページ～5ページ）をよく読んで予習しておいてください。 2.「電子メディアと新聞・テレビ」については、教科書の「新聞に未来はあるか」（7ページ～20ページ）全体に目を通しておいてください。 3.「インターネットの登場と情報通信革命」については、事前配布のデーター資料と教科書の「ユビキタス的環境」「消滅の危機にある新聞」などを読んで理解を深めておいてください。 4.「メディア学者・マクルーハン」については、参考文献としての『メディア論』に加えて、教科書の「グローバル・ビレッジ（地球村）の誕生」（5ページ～7ページ）をよく読んで理解を深めておいてください。 5.「消滅の危機に瀕している新聞」については、事前に配布した資料と新聞記事に加えて、教科書の「ネット時代に新聞の未来はあるか」（7ページ～20ページ）を読んでおくこと。 6.「ネット時代のメディア・ミックス」については、日経と朝日のウェブサイトを閲覧しておくと同時に、教科書の「電子新聞ビジネス」の項を読んで理解しておくこと。 7.「新旧メディアによるM&A」については、事前に配布した各種配布資料に加えて、教科書の第2章全体を読んでおくこと。 8.「メディア界に吹き荒れる再編」については、教科書の「アメリカ・メディア界の再編」「失敗に終わった世紀の合併劇」などの項を読んでおくこと。 9.「ネット時代の覇者としてのグーグル革命」については、教科書の「グーグルは時代の覇者になれるか」の項を事前に読んで理解しておくこと。 １０.「マイクロソフト・ヤフー連合とグーグル」については、事前配布の新聞記事資料と教科書の「ＭＳ・ヤフー連合はグーグルに対抗できるか」「ＭＳによるグーグル包囲網」などの項を読んでおくこと。 １１.「世界のメディア王ルパート・マードック」については、教科書の「マードックによるテレビ朝日株買収の衝撃」（27ページ～30ページ）を読んで理解しておくこと。		

	１２.「ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇」については、事前配布の資料と教科書の「最終目的はフジテレビ」「時価総額によるマネーゲーム」の項（30 ページ～33 ページ）を読んで予習しておいてください。 １３.「TBS に対する楽天の経営統合提案」については、事前配布の資料とともに、教科書の「依然として見えない通信と放送の融合」「利益追求ＶＳ公益性」の項（33 ページ～38 ページ）を読んでおくこと。 １４.「巨大メディア・コングロマリットによる世界的支配」については、事前配布のデータ資料に加えて、教科書の「24 時間専門チャンネル」「マードックの野望」「メディア帝国主義」などの項（38 ページ～46 ページ）を読んで予習しておくこと。 １５.「メディア業界への就職を希望する学生諸君のために」については、教科書の「情報化社会における知識人の役割」「大学におけるジャーナリズム研究とジャーナリスト教育」などの項（274 ページ～297 ページ）を読んで理解を深めておいてください。

受講者への要望

新聞記者歴 30 年の教員が日々のニュース分析を行うのですから、積極的、能動的に授業に出てください。また、遅刻や授業中の私語などはほかの受講生の迷惑になるので、注意すると同時に退出を求めることもあります。授業では専門用語もたくさん出ると思いますので、「準備学習」の項に従って予習をきちんと行ってください。また、復習も大切で、課題を出してレポートを書いてもらいます。世の中で一体何が起きているのか、それが私たちの生活にどのような影響を与えるのか、内外を問わず、世間で話題になっているニュース教材として取り扱うわけですから、新聞やテレビ、雑誌、そしてネットなどを駆使して情報収集をしおいてください。その結果、社会事象に対して興味と好奇心を持つ感度の高い“情報人”になることができるわけで、それがかならずや就職に役立つと思います。また、このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を受講することをお奨めします。

講義の順序とポイント

1　IT 革命と「メディア・ビッグバン」によるマス・コミュニケーション機能の変容
2　ネットなど電子メディアと新聞・テレビなど新旧メディアの葛藤
3　インターネットの登場によるユビキタス的「情報通信革命」とは何か
4　メディア学者・マクルーハンが予言していた「グローバル・ビレッジ」（地球村）の誕生
5　消滅の危機に瀕している「新聞」に果たして未来はあるのか
6　ネット時代のメディア・ミックスとしての「電子新聞」は成功するか
7　新旧メディアによる仁義なき「M&A（合併・買収）ウォーズ」の行方
8　アメリカ・メディア界に吹き荒れる「再編」の嵐
9　ネット時代の覇者として脚光を浴びる「グーグル革命」
１０　マイクロソフト・ヤフー連合によるグーグル包囲網
１１　世界のメディア王「ルパート・マードック」によるテレビ朝日株買収事件
１２　ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇とその結末
１３　TBS に対する「楽天」の経営統合提案と通信・放送の融合の困難性
１４　巨大メディア・コングロマリット（複合企業）による情報の世界的支配
１５　メディア業界への就職を希望する学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0016B02
科目名	マスコミ論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データに加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、プロのジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を聴いて下さい。それは、就職の際に必ず役立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞・テレビ報道を皆さんと一緒に批評します。評価方法については、出席状況等などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内に実施する「小テスト」2回(計60%)です。		
到達目標	高度情報化時代の今日、世の中で何が起きているか、それがどのような意味を持つのかを正確に理解することが目標です。また、それに対する客観的な判断力も求められます。それが社会人になるためのバランスのとれた社会常識の醸成につながるわけですが、学習の成果が将来の進路、つまり就職に生かされればと思います。		
準備学習	事前に配布した資料や新聞記事に加えて、教科書『衰退するジャーナリズム』をよく読んで充実した予習をしておいてください。それに加えて、マスコミ論の授業は日々起きている社会事象について理解と分析することが不可欠なので、毎日の新聞報道やテレビニュースはよく見ておいてください。新聞社のウェブサイトにアクセスしてニュースをチェックしておくことも大切です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業で提出してもらいます。 1.「IT革命とメディア・ビッグバン」については、事前に配布した資料と教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）、「インターネットの登場と情報環境」（3ページ～5ページ）をよく読んで予習しておいてください。 2.「電子メディアと新聞・テレビ」については、教科書の「新聞に未来はあるか」（7ページ～20ページ）全体に目を通しておいてください。 3.「インターネットの登場と情報通信革命」については、事前配布のデーター資料と教科書の「ユビキタス的環境」「消滅の危機にある新聞」などを読んで理解を深めておいてください。 4.「メディア学者・マクルーハン」については、参考文献としての『メディア論』に加えて、教科書の「グローバル・ビレッジ（地球村）の誕生」（5ページ～7ページ）をよく読んで理解を深めておいてください。 5.「消滅の危機に瀕している新聞」については、事前に配布した資料と新聞記事に加えて、教科書の「ネット時代に新聞の未来はあるか」（7ページ～20ページ）を読んでおくこと。 6.「ネット時代のメディア・ミックス」については、日経と朝日のウェブサイトを閲覧しておくと同時に、教科書の「電子新聞ビジネス」の項を読んで理解しておくこと。 7.「新旧メディアによるM&A」については、事前に配布した各種配布資料に加えて、教科書の第2章全体を読んでおくこと。 8.「メディア界に吹き荒れる再編」については、教科書の「アメリカ・メディア界の再編」「失敗に終わった世紀の合併劇」などの項を読んでおくこと。 9.「ネット時代の覇者としてのグーグル革命」については、教科書の「グーグルは時代の覇者になれるか」の項を事前に読んで理解しておくこと。 １０.「マイクロソフト・ヤフー連合とグーグル」については、事前配布の新聞記事資料と教科書の「ＭＳ・ヤフー連合はグーグルに対抗できるか」「ＭＳによるグーグル包囲網」などの項を読んでおくこと。 １１.「世界のメディア王ルパート・マードック」については、教科書の「マードックによるテレビ朝日株買収の衝撃」（27ページ～30ページ）を読んで理解しておくこと。		

	１２.「ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇」については、事前配布の資料と教科書の「最終目的はフジテレビ」「時価総額によるマネーゲーム」の項（30 ページ～33 ページ）を読んで予習しておいてください。 １３.「TBS に対する楽天の経営統合提案」については、事前配布の資料とともに、教科書の「依然として見えない通信と放送の融合」「利益追求ＶＳ公益性」の項（33 ページ～38 ページ）を読んでおくこと。 １４.「巨大メディア・コングロマリットによる世界的支配」については、事前配布のデータ資料に加えて、教科書の「24 時間専門チャンネル」「マードックの野望」「メディア帝国主義」などの項（38 ページ～46 ページ）を読んで予習しておくこと。 １５.「メディア業界への就職を希望する学生諸君のために」については、教科書の「情報化社会における知識人の役割」「大学におけるジャーナリズム研究とジャーナリスト教育」などの項（274 ページ～297 ページ）を読んで理解を深めておいてください。

受講者への要望

新聞記者歴 30 年の教員が日々のニュース分析を行うのですから、積極的、能動的に授業に出てください。また、遅刻や授業中の私語などはほかの受講生の迷惑になるので、注意すると同時に退出を求めることもあります。授業では専門用語もたくさん出ると思いますので、「準備学習」の項に従って予習をきちんと行ってください。また、復習も大切で、課題を出してレポートを書いてもらいます。世の中で一体何が起きているのか、それが私たちの生活にどのような影響を与えるのか、内外を問わず、世間で話題になっているニュース教材として取り扱うわけですから、新聞やテレビ、雑誌、そしてネットなどを駆使して情報収集をしおいてください。その結果、社会事象に対して興味と好奇心を持つ感度の高い“情報人”になることができるわけで、それがかならずや就職に役立つと思います。また、このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を受講することをお奨めします。

講義の順序とポイント

1　IT 革命と「メディア・ビッグバン」によるマス・コミュニケーション機能の変容
2　ネットなど電子メディアと新聞・テレビなど新旧メディアの葛藤
3　インターネットの登場によるユビキタス的「情報通信革命」とは何か
4　メディア学者・マクルーハンが予言していた「グローバル・ビレッジ」（地球村）の誕生
5　消滅の危機に瀕している「新聞」に果たして未来はあるのか
6　ネット時代のメディア・ミックスとしての「電子新聞」は成功するか
7　新旧メディアによる仁義なき「M&A（合併・買収）ウォーズ」の行方
8　アメリカ・メディア界に吹き荒れる「再編」の嵐
9　ネット時代の覇者として脚光を浴びる「グーグル革命」
１０　マイクロソフト・ヤフー連合によるグーグル包囲網
１１　世界のメディア王「ルパート・マードック」によるテレビ朝日株買収事件
１２　ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇とその結末
１３　TBS に対する「楽天」の経営統合提案と通信・放送の融合の困難性
１４　巨大メディア・コングロマリット（複合企業）による情報の世界的支配
１５　メディア業界への就職を希望する学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0018A01
科目名	音声学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics I		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 s
講義概要	日本語の「あ」の音は５種類の音声が観察される。また日本語の「ん」の音は４種類の音が観察される。また R の音には世界で通じる R 音、ドイツ語特有の R 音、イギリスの R 音、アメリカの R 音、日本語の R 音など色々な発音の仕方がある。このように、各言語における音声と、意味を区別する音素の関係を理解し、国際音声字母(IPA)表の中の記号を見てその記号の表す音を発音できるようにする。		
教材（テキスト）	IPA 表		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	破裂音、鼻音、顫動音、弾き音、摩擦音、側面摩擦音、接近音、側面接近音などの調音法、一方、両唇、唇歯、歯、歯茎、後部歯茎、反り舌、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、咽頭、喉頭などの調音点を意識して発音できるようになる。IPA の表が理解できる。		
準備学習	幼稚園、保育園時代にどんな音を出して遊んだか思い出しておく。		

受講者への要望

音声学では発音の実技を中心にする。発音が上手になるためには恥じらいを捨てて、大げさに発音する必要がある。さらに毎日の練習が必要なことがある。その覚悟を持って、忍耐強く授業に参加して欲しい。

講義の順序とポイント

１．音声学の対象
２．英語の母音と日本語の母音の大きな相違点
３．調音法
４．調音点
５．破裂音１
６．破裂音２
７．破擦音と確認小テスト
８．鼻音、弾き音
９．摩擦音…両唇～硬口蓋
１０．摩擦音…軟口蓋～喉頭
１１．側音、接近音
１２．非肺呼吸の子音
１３．第１基本母音
１４．第２基本母音
１５．基本母音以外の母音

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	★	★	★★	―

年度	2016	授業コード	JM0018A02
科目名	音声学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics I		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 s
講義概要	日本語の「あ」の音は５種類の音声が観察される。また日本語の「ん」の音は４種類の音が観察される。また R の音には世界で通じる R 音、ドイツ語特有の R 音、イギリスの R 音、アメリカの R 音、日本語の R 音など色々な発音の仕方がある。このように、各言語における音声と、意味を区別する音素の関係を理解し、国際音声字母(IPA)表の中の記号を見てその記号の表す音を発音できるようにする。		
教材（テキスト）	IPA 表		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	破裂音、鼻音、顫動音、弾き音、摩擦音、側面摩擦音、接近音、側面接近音などの調音法、一方、両唇、唇歯、歯、歯茎、後部歯茎、反り舌、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、咽頭、喉頭などの調音点を意識して発音できるようになる。IPA の表が理解できる。		
準備学習	幼稚園、保育園時代にどんな音を出して遊んだか思い出しておく。		

受講者への要望

音声学では発音の実技を中心にする。発音が上手になるためには恥じらいを捨てて、大げさに発音する必要がある。さらに毎日の練習が必要なことがある。その覚悟を持って、忍耐強く授業に参加して欲しい。

講義の順序とポイント

１．音声学の対象
２．英語の母音と日本語の母音の大きな相違点
３．調音法
４．調音点
５．破裂音１
６．破裂音２
７．破擦音と確認小テスト
８．鼻音、弾き音
９．摩擦音…両唇～硬口蓋
１０．摩擦音…軟口蓋～喉頭
１１．側音、接近音
１２．非肺呼吸の子音
１３．第１基本母音
１４．第２基本母音
１５．基本母音以外の母音

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JM0018B01
科目名	音声学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics II		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 f
講義概要	日本語と英語の発音の相違点に特化して発音記号を見ながら発音する実技指導する。更に、音声が両言語においてどのような素性が有意でどのような素性が無視されるのかを検証して音韻論の分野も解説する。		
教材（テキスト）	IPA 表と毎回の授業で配布するプリント。		
教材（参考文献）	1999 川越いつえ著『英語の音声を科学する』大修館書店		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	調音法と調音点を意識した発音ができるようになる。英語や日本語における母音や子音の音声と音素の違いを認識して、正確な発音ができるようになる。イギリス英語の母音１５個とアメリカ英語の母音２２個の正確な発音ができるようになる。		
準備学習	音声学Ｉを履修しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
英語や外国語の発音が上手になるには音声学を学ぶ必要があるという認識を強く持って、忍耐強く授業に参加してほしい。実技が中心となるので恥らいよりは大胆さを持って授業に臨んでほしい。さらに日々の練習が発音上手になる近道だと肝に銘じてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．音声学の対象 ２．IPA の見方…調音点 ３．IPA の見方…調音法 ４．音と文字…訓令式ローマ字表記 ５．音と文字…ヘボン式ローマ字表記 ６．音と文字…国際音声表記 ７．国際音声表記の補助記号と確認小テスト ８．子音の発音…環境による変化 ９．子音の発音…同化現象 １０．母音の発音…イギリス英語の母音 １１．母音の発音…アメリカ英語の母音 １２．意味と音…脳内における誤認識 １３．音声特徴…自然類・音節主音子音 １４．音声特徴…順行同化・逆行同化 １５．音声と音素と形態素			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	★	★	★★	―

年度	2016	授業コード	JM0018B02
科目名	音声学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics II		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 f
講義概要	日本語と英語の発音の相違点に特化して発音記号を見ながら発音する実技指導する。更に、音声が両言語においてどのような素性が有意でどのような素性が無視されるのかを検証して音韻論の分野も解説する。		
教材（テキスト）	IPA 表と毎回の授業で配布するプリント。		
教材（参考文献）	1999 川越いつえ著『英語の音声を科学する』大修館書店		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	調音法と調音点を意識した発音ができるようになる。英語や日本語における母音や子音の音声と音素の違いを認識して、正確な発音ができるようになる。イギリス英語の母音１５個とアメリカ英語の母音２２個の正確な発音ができるようになる。		
準備学習	音声学Ｉを履修しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
英語や外国語の発音が上手になるには音声学を学ぶ必要があるという認識を強く持って、忍耐強く授業に参加してほしい。実技が中心となるので恥らいよりは大胆さを持って授業に臨んでほしい。さらに日々の練習が発音上手になる近道だと肝に銘じてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．音声学の対象 ２．IPA の見方…調音点 ３．IPA の見方…調音法 ４．音と文字…訓令式ローマ字表記 ５．音と文字…ヘボン式ローマ字表記 ６．音と文字…国際音声表記 ７．国際音声表記の補助記号と確認小テスト ８．子音の発音…環境による変化 ９．子音の発音…同化現象 １０．母音の発音…イギリス英語の母音 １１．母音の発音…アメリカ英語の母音 １２．意味と音…脳内における誤認識 １３．音声特徴…自然類・音節主音子音 １４．音声特徴…順行同化・逆行同化 １５．音声と音素と形態素			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JM0021001
科目名	きもの学	単位数	2
科目名（英語表記）	Kimono Studies		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	日本の歴史と風土の中で、日常生活はもとより、公式の場、社交の場を通じて洗練されてきた民族衣装としてのきものの伝統的な形式美や、機能性、経済性を再認識するとともに、多様性に富んだ生地素材や、多彩で清新な色、織り、染め、文様、形態、仕立てなど、きものの奥深さを再発見し、きものの良さを際立たせる着付けや、美しく着こなす振る舞い、さりげなくあしらわれた小物の数々など、あくなき美の追求を嗜好するきもの世界を探ります。		
教材（テキスト）	きもの文化検定公式教本Ⅰ『きものの基本』（社）全日本きもの振興会企画編集		
教材（参考文献）	必要に応じ、講義中で示します		
教材（その他）	必要に応じ、講義中に配布します		
評価方法	①平常点（５０％）出席状況を加味します ②毎回課す授業内レポート及び確認テスト（５０％）		
到達目標	「きもの」を通じた日本文化への理解を深めることを目標とします。		
準備学習	「ゆかた」で良いので、一度は「きもの（和服）」を着てみることが、理解への最低条件です。		

受講者への要望

キャンパスプラザ京都（京都駅前）で行う夏期集中講義であることから、夏期の期間にしっかりと取り組む意志のある学生の参加を希望します。

講義日程

2016 年 8 月 27 日（土）～2016 年 9 月 3 日（土）≪期間中の月曜日を除く、日曜日も講義あり≫

講義時間

2016 年 8 月 27 日（土）～2016 年 9 月 2 日（金）３・４講時（12：40～16：00）

2016 年 9 月 3 日（土）　３・４・５講時（12：40～17：50）

講義の順序とポイント

※　今年度の講義内容と講師は、まだ決まっておりませんので、参考までに２０１５年度のシラバスを掲載しています。

※　学外の著名講師による講義ですので、講師の都合により変更される場合があります。

1 回	「きもの概論」	きものの常識	清水宏一
2 回	「きものに親しむ」	きものの基礎知識	三宅てる乃
3 回	「きものに親しむ」	世界の民族衣装	市田ひろみ
4 回	「きものと生活」	”らしさ”とは	安田多賀子
5 回	「きものと生活」	きものと健康	高橋裕子
6 回	「きものの文化と歴史」	きものの歴史	林　智子
7 回	「きものの魅力」	伝承する古代系自然布	富山弘基
8 回	「きものの魅力」	きものと日本伝統文化	高橋泰三
9 回	「きものの魅力」	きものと日本舞踊	西川影戀
10 回	「きものができるまで」	絹糸	北丸　豊
11 回	「きものができるまで」	西陣の大切なもの	野中健二
12 回	「きものができるまで」	これからの京友禅	仲田保司
13 回	「きものを長く使う」	長く楽しむ・きもの生活	寺村貞亮
14 回	「きものの現在」	きもの、今日から明日へ	清田のり子
15 回	「まとめ」	まとめと試験	清水宏一

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	JM0022001
科目名	きもの学（発展） 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Kimono Studies Advanced		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	人間の生活の基本をなすものは衣食住です.食と住は、動物のなかにも加工を試みるものがありますが、衣への加工は人間だけに見られる行動です。繊維を紡ぎ、糸を染め、織って布に加工し、染色をほどこし、デザインし、カットして、縫い合わせ、加飾を施して、衣類が創られます。衣類のなかでも「きもの」は、日本の歴史と風土の中で、日常生活はもとより、公式の場、社交の場を通じて洗練されてきた民族衣装であり、きものの伝統的な形式美や、機能性、経済性を再認識するとともに、多様性に富んだ生地や、多彩で清新な色、織り、染め、文様、形態、仕立てなど、きものの奥深さを再発見し、きものの良さを際立たせる着付けや、美しく着こなす振る舞い、さりげなくあしらわれた小物の数々など、あくなき美を追求するきもの世界を探ります。		
教材（テキスト）	講義中で必要に応じて示します。		
教材（参考文献）	講義中で必要に応じて示します。		
教材（その他）	講義中で必要に応じて示します。		
評価方法	平常点５０％、試験及びレポート５０％		
到達目標	学習と見学を通じて「きもの」の良さを学びます。		
準備学習	この講座では、伝統産業や染織関連企業の現場に出て、「きもの」の世界を探求しますので、受講前には必ずきもの（ゆかたでも可）に触れ、小物（帯、紐、足袋、草履、下駄など）を確かめておいてください。		

受講者への要望

夏季集中講座(8 月 27 日～9 月 3 日）としてキャンパスプラザで行う「きもの学」の発展講座であり、これを履修していることが望ましいのですが、必修要件ではありません。フィールドワークでの現地講義がありますので、土曜日、日曜日、祝日等の授業休講日における参加が必要です。また、見学先によっては、交通費、入場料等の実費負担が発生します。
なお、本学学生以外の受講生（一般聴講生等）がフィールドワークに参加する場合は必ず傷害保険に加入いただくことになります。

講義の順序とポイント

◎　講義と体験授業は、訪問の相手方等の都合で、順番、曜日、時刻などが変わることがあります。
◎　見学場所によっては、所定の入場料が必要なことがあります。
◎　見学場所までの交通機関の料金が必要です。
◎　次に示すのは、昨年（2015 年）の例です。（　）内は場所
第　1 回　講義　きものの一般常識（京町家キャンパス）
第　2 回　見学　きものの生地と糸（伊と幸）
第　3 回　見学　伝統産業の実際（京都市伝統産業ふれあい館）
第　4 回　見学　能衣装（京都観世会館）
第　5 回　見学　きものの着付け（西陣織物会館）
第　6 回　見学　西陣織（織成館）
第　7 回　見学　人形の着付け（安藤人形店）
第　8 回　見学　きもののデザイン（ジャパンスタイルシステム）
第　9 回　見学　平安朝のきもの（風俗博物館）
第 10 回　見学　世界のきもの（龍谷大学ミュージアム）
第 11 回　見学　きものの手入れ（パールトーン）
第 12 回　見学　和装下着（紫織館）
第 13 回　実習　きもの着付け体験（京町家キャンパス）
第 14 回　実習　きものの動き方（京町家キャンパス）
第 15 回　実習　きものでのエチケット（京町家キャンパス）
◎　フィールドワーク（見学と実習は、先方の都合等を考慮して決定します）
◎　場合によっては、実施場所を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2016	授業コード	JM0023001
科目名	環境倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	昨年パリで、地球温暖化への対策をめぐって国際会議が開催され、各国の思惑もあって難渋したようであるが一応の方針はできた。しかし、その効果に関しては懐疑的な意見もある。それもそのはずで、人間の発展繁栄への道は、破滅の危機への道でもあったにもかかわらず、繁栄への道を支えてきたた倫理に代わる倫理が未だ構築されていないからである。 この倫理をどう考えるのか、この問いへのヒントは、近代以前の倫理の内にもあるかもしれない。 本講義では、そこから環境問題が引き起こされてきた淵源にある倫理の問題点を指摘したうえで、環境問題に立ち向かった人びとの倫理を紹介しながらその意義を受講生とともに考えてみたい。受講生にとって新たな倫理の産屋の場になれば、と望んでいる。 以上の課題に立ち向かうために、四大公害の一つである「水俣病事件」を取り上げる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料はその都度京学ナビに登録するので、講義前にプリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．環境問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる環境問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学なび確認すること。） １．序論 第１章　環境倫理学の成立 §１　倫理学とは？ ２．　§２　環境とは？ ３．　§３　エマソン、ソローの思想 ４．（第１回授業内レポート） §４　レオポルドの思想 ５．　同上 ６．（第２回授業内レポート） 第２章　公害と環境：今なぜ「水俣」か §５　公害問題から環境問題へ ７．　§６　温暖化問題と被害者－加害者－関係 ８．　§７　環境問題から公害問題へ ９．（第３回授業内レポート） 第３章　水俣病事件 §８　「チッソ」以前の水俣 １０．　§９　「チッソ」－企業の倫理 １１．　§１０　原因究明への道－科学者の倫理 同上 １２．（第４回授業内レポート） §１１　患者救済への道－市民の倫理			

１３．　　同上
１４．　§１２　法と倫理の関連
１５．終章　水俣から福島へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0023002
科目名	環境倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	昨年パリで、地球温暖化への対策をめぐって国際会議が開催され、各国の思惑もあって難渋したようであるが一応の方針はできた。しかし、その効果に関しては懐疑的な意見もある。それもそのはずで、人間の発展繁栄への道は、破滅の危機への道でもあったにもかかわらず、繁栄への道を支えてきたた倫理に代わる倫理が未だ構築されていないからである。 この倫理をどう考えるのか、この問いへのヒントは、近代以前の倫理の内にもあるかもしれない。 本講義では、そこから環境問題が引き起こされてきた淵源にある倫理の問題点を指摘したうえで、環境問題に立ち向かった人びとの倫理を紹介しながらその意義を受講生とともに考えてみたい。受講生にとって新たな倫理の産屋の場になれば、と望んでいる。 以上の課題に立ち向かうために、四大公害の一つである「水俣病事件」を取り上げる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料はその都度京学ナビに登録するので、講義前にプリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．環境問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる環境問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学なび確認すること。） １．序論 第１章　環境倫理学の成立 §１　倫理学とは？ ２．　§２　環境とは？ ３．　§３　エマソン、ソローの思想 ４．（第１回授業内レポート） §４　レオポルドの思想 ５．　同上 ６．（第２回授業内レポート） 第２章　公害と環境：今なぜ「水俣」か §５　公害問題から環境問題へ ７．　§６　温暖化問題と被害者－加害者－関係 ８．　§７　環境問題から公害問題へ ９．（第３回授業内レポート） 第３章　水俣病事件 §８　「チッソ」以前の水俣 １０．　§９　「チッソ」－企業の倫理 １１．　§１０　原因究明への道－科学者の倫理 同上 １２．（第４回授業内レポート） §１１　患者救済への道－市民の倫理			

１３．　　同上
１４．　§１２　法と倫理の関連
１５．終章　水俣から福島へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0024001
科目名	医療倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、医療倫理学成立の歴史的背景、医療倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に講義する。この講義の目的は、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療と関係づけて、共に考えることである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせその都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は事前に京学なびに登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．医療問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる医療問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。京学なびでその都度確認すること。）

１．序論

２．第１章　医療倫理学とは

　　§１ 倫理学とは？

３．　　同上

４．　§２　医療倫理学の成立

５．　　同上

６．　　同上

７．(第１回授業内レポート)

　第２章　医療倫理学の諸原則

　　§３　自己決定とパターナリズム

８．　§４　ＱＯＬとＳＯＬ

９．(第２回授業内レポート)

　第３章　生殖医療

　　§５　生殖医療の現状

１０．　§６　子をなす自由と子どもの出自を知る権利　（ヴィデオ学習）

１１．(第３回授業内レポート)

　第４章　臓器移植

　　§７　脳死と判定（ヴィデオ学習）

１２．　§８　「改正」臓器移植法

１３．(第４回授業内レポート)

　第５章　安楽死と尊厳死

　　§９　生死の選択？（ヴィデオ学習）

１４．　§１０　「私の」いのち？「私の」からだ？

１５．第６章　個人主義と共同体主義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0024002
科目名	医療倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、医療倫理学成立の歴史的背景、医療倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に講義する。この講義の目的は、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療と関係づけて、共に考えることである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせその都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は事前に京学なびに登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．医療問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる医療問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。京学なびでその都度確認すること。）

１．序論

２．第１章　医療倫理学とは

　　§１ 倫理学とは？

３．　　同上

４．　§２　医療倫理学の成立

５．　　同上

６．　　同上

７．(第１回授業内レポート)

　第２章　医療倫理学の諸原則

　　§３　自己決定とパターナリズム

８．　§４　ＱＯＬとＳＯＬ

９．(第２回授業内レポート)

　第３章　生殖医療

　　§５　生殖医療の現状

１０．　§６　子をなす自由と子どもの出自を知る権利　（ヴィデオ学習）

１１．(第３回授業内レポート)

　第４章　臓器移植

　　§７　脳死と判定（ヴィデオ学習）

１２．　§８　「改正」臓器移植法

１３．(第４回授業内レポート)

　第５章　安楽死と尊厳死

　　§９　生死の選択？（ヴィデオ学習）

１４．　§１０　「私の」いのち？「私の」からだ？

１５．第６章　個人主義と共同体主義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0026001
科目名	京都の文学	単位数	2
科目名（英語表記）	Literature of Kyoto		
担当者名	野澤　真樹	旧科目名称	
講義概要	毎回テーマを設け、京都を舞台とする作品の一部分を原文で読んでいく。 その後、テーマに則し、他の作品との比較まどを行いながら、作品のなかで京都がどのように描かれているか、作品に登場する場所が今どうなっているかを紹介する。		
教材（テキスト）	授業中にレジュメを配布する。		
教材（参考文献）	『新編日本古典文学全集』各巻の現代語訳など		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントによるスライドを用いる。		
評価方法	平常点（30%）、授業内レポート発表（20%）、定期テスト（50%） ※平常点は授業中のコメントカードや発言により評価する。		
到達目標	日本の文学作品の主要なものを読解し、その梗概や時代背景を知るとともに、現在 大学生活を送る京都という町がどのように描かれてきたかを知ることで、より深い作品理解を目指す。		
準備学習	京都の地図を眺める、もしくは自分の足で歩いてみることにより、京都に対する土地勘をある程度身につけておくのが望ましい。また、京都を舞台とする作品にできる限り多く触れ、その作品に京都の特色がどのように描写されているかをメモしておくこと。（wikipedia「京都府を舞台とした作品一覧」等を参考にしてもよい。）		

受講者への要望

授業内でアンケートへの回答やコメントを求めます。
また、自身で調査したことを口頭で発表する機会を設ける予定です。
授業で扱った土地に関しては、是非実際に訪れてみてください。
なお、私語が講義の妨げとなる場合は退出を求めることがあります。

講義の順序とポイント

1、アンケートと概説　（京都の今と昔）
2、日記文学と京都
3、物語と京都①
4、物語と京都②
5、旅と京都　（物語、日記）
6、京都の和歌と歌枕
7、説話と京都
8、軍記物と京都①
9、軍記物と京都②
１０、近世の作品・作者と京都①
１１、近世の作品・作者と京都②
１２、近世京都の地誌
１３、明治の文学と京都
１４、昭和の文学と京都
１５、その他の文学

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	―	―	―	―	★★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	JM0026002
科目名	京都の文学	単位数	2
科目名（英語表記）	Literature of Kyoto		
担当者名	野澤　真樹	旧科目名称	
講義概要	毎回テーマを設け、京都を舞台とする作品の一部分を原文で読んでいく。 その後、テーマに則し、他の作品との比較まどを行いながら、作品のなかで京都がどのように描かれているか、作品に登場する場所が今どうなっているかを紹介する。		
教材（テキスト）	授業中にレジュメを配布する。		
教材（参考文献）	『新編日本古典文学全集』各巻の現代語訳など		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントによるスライドを用いる。		
評価方法	平常点（30%）、授業内レポート発表（20%）、定期テスト（50%） ※平常点は授業中のコメントカードや発言により評価する。		
到達目標	日本の文学作品の主要なものを読解し、その梗概や時代背景を知るとともに、現在 大学生活を送る京都という町がどのように描かれてきたかを知ることで、より深い作品理解を目指す。		
準備学習	京都の地図を眺める、もしくは自分の足で歩いてみることにより、京都に対する土地勘をある程度身につけておくのが望ましい。また、京都を舞台とする作品にできる限り多く触れ、その作品に京都の特色がどのように描写されているかをメモしておくこと。（wikipedia「京都府を舞台とした作品一覧」等を参考にしてもよい。）		

受講者への要望

授業内でアンケートへの回答やコメントを求めます。
また、自身で調査したことを口頭で発表する機会を設ける予定です。
授業で扱った土地に関しては、是非実際に訪れてみてください。
なお、私語が講義の妨げとなる場合は退出を求めることがあります。

講義の順序とポイント

1、アンケートと概説　（京都の今と昔）
2、日記文学と京都
3、物語と京都①
4、物語と京都②
5、旅と京都　（物語、日記）
6、京都の和歌と歌枕
7、説話と京都
8、軍記物と京都①
9、軍記物と京都②
１０、近世の作品・作者と京都①
１１、近世の作品・作者と京都②
１２、近世京都の地誌
１３、明治の文学と京都
１４、昭和の文学と京都
１５、その他の文学

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0027A01
科目名	宇宙と地球の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Science of the Universe and the Earth A		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	宇宙と地球の科学 s
講義概要	宇宙科学における基礎的な概念をとりあげ、宇宙科学な視点で現象をとらえることはどういうことかについて解説する 科学の発展とともに、人類の持つ宇宙観はいくたびとなく変遷をしてきた。各種観測手法の発明、数学と物理学の発展は人類の宇宙観を大きく変化させてきた主要因の一つである。 「地球人は宇宙人に会えますか？」はよく受講者からされる質問であるが、これに対して科学的に返事をすることは決して容易ではない。そこで、本講義は人類の宇宙観がいかに変化して現代の宇宙観が形成されるに至ったかを理解し、「地球人は宇宙人に会えますか？」という質問について主体的に議論をするための能力を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	福江純著「目からウロコの宇宙論入門」ミネルヴァ書房 岡村ら編　「シリーズ現代天文学第１巻　人類の住む宇宙」　日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	受講態度および授業内レポート(40%) 期末レポート（60%）		
到達目標	「地球人は宇宙人に会えますか？」という質問に対し、主体的な議論をするための基礎力を身につける		
準備学習	参考文献を学期中に読破すること 中学卒業程度の数学と理科の復習をすること		

受講者への要望

高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義であるが、順を追って展開するので、授業に毎回出席し必要箇所のノートをとることが大切である。
不足している基礎知識に関しては、気づいた時点で学習方法を指示するので、おおむね 2 週間以内に学習すること。
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他の受講生への迷惑を勘案して、退出を求める。

講義の順序とポイント

受講生の状況によって、順序を入れ替えるなどの変更を行うことがありますので、ご了承ください。
1.古代・中世の宇宙観とその基盤
2.前近代的宇宙観 -特にガリレオ問題について-
3.望遠鏡の発明と宇宙観の変化
4.ケプラーの法則
5.観測結果を数式で表現する
6.ニュートン力学
7.絶対時間・絶対空間の概念と宇宙像
8.恒星の分類・光度-等級関係
9.観測の進歩
10.相対性理論
11.相対性理論から導かれた宇宙誕生
12.惑星の形成
13.ハビタブルな惑星
14.宇宙人との出会いの可能性について
15.現在の宇宙観

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0027A02
科目名	宇宙と地球の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Science of the Universe and the Earth A		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	宇宙と地球の科学 s
講義概要	宇宙科学における基礎的な概念をとりあげ、宇宙科学な視点で現象をとらえることはどういうことかについて解説する 科学の発展とともに、人類の持つ宇宙観はいくたびとなく変遷をしてきた。各種観測手法の発明、数学と物理学の発展は人類の宇宙観を大きく変化させてきた主要因の一つである。 「地球人は宇宙人に会えますか？」はよく受講者からされる質問であるが、これに対して科学的に返事をすることは決して容易ではない。そこで、本講義は人類の宇宙観がいかに変化して現代の宇宙観が形成されるに至ったかを理解し、「地球人は宇宙人に会えますか？」という質問について主体的に議論をするための能力を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	福江純著「目からウロコの宇宙論入門」ミネルヴァ書房 岡村ら編　「シリーズ現代天文学第１巻　人類の住む宇宙」　日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	受講態度および授業内レポート(40%) 期末レポート（60%）		
到達目標	「地球人は宇宙人に会えますか？」という質問に対し、主体的な議論をするための基礎力を身につける		
準備学習	参考文献を学期中に読破すること 中学卒業程度の数学と理科の復習をすること		

受講者への要望

高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義であるが、順を追って展開するので、授業に毎回出席し必要箇所のノートをとることが大切である。
不足している基礎知識に関しては、気づいた時点で学習方法を指示するので、おおむね 2 週間以内に学習すること。
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他の受講生への迷惑を勘案して、退出を求める。

講義の順序とポイント

受講生の状況によって、順序を入れ替えるなどの変更を行うことがありますので、ご了承ください。
1.古代・中世の宇宙観とその基盤
2.前近代的宇宙観 -特にガリレオ問題について-
3.望遠鏡の発明と宇宙観の変化
4.ケプラーの法則
5.観測結果を数式で表現する
6.ニュートン力学
7.絶対時間・絶対空間の概念と宇宙像
8.恒星の分類・光度-等級関係
9.観測の進歩
10.相対性理論
11.相対性理論から導かれた宇宙誕生
12.惑星の形成
13.ハビタブルな惑星
14.宇宙人との出会いの可能性について
15.現在の宇宙観

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0027B01
科目名	宇宙と地球の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Science of the Universe and the Earth B		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	宇宙と地球の科学ｆ
講義概要	科学の発展に伴い、人類の地球観は大きく変化してきた。各種観測手法の発明、数学と物理学の発展は人類の地球観を大きく変化させてきた主要因の一つである。 「気候変動とは何か」は受講生からよくされる質問であるが、これに対して科学的に返事をすることは決して容易ではない。そこで、本講義では、地球科学における基礎的な概念をとりあげ、地球科学的な視点で現象をとらえることはどういうことかについて解説し、気候変動について主体的に議論できる基礎力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	P.ウルムシュナイダー著『宇宙生物学入門-惑星・生命・文明の起源-』シュプリンガー・ジャパン 岡村ら編　「シリーズ現代天文学第１巻　人類の住む宇宙」　日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	受講態度および授業内レポート(40%) 期末レポート（６０％）		
到達目標	「気候変動」について主体的に議論できる基礎力を養うことを目標とする		
準備学習	参考書を学期中に読破すること 中学卒業程度の数学と理科の復習をすること		
受講者への要望			
高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義であるが、順を追って展開するので、授業に毎回出席しノートをとることが大切である。 不足している基礎知識については、気づいた時点で学習方法を指示するので、おおむね２週間以内に学習すること。 私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して、退出を求める			
講義の順序とポイント			
受講生の状況によって、順序を入れ替えるなどの変更を行うことがある。 1. 太陽系の形成 2. 地球の内部構造 3. 自然史標本について 4. 生物の誕生と進化 5. 生物の進化と地球環境 6. 物証による過去の気候変動の推定 7. 大気・海洋の構造 8. 放射平衡による地表の温度推定 9. 気候変動を起こす要因 10. 理論に基づく気候変動推定 11. 気候化石論 -過去の気候変動を推定する- 12. 気候変動の予測 -何がわかって何がわからないのか- 13. 気象災害から身を守るために 14. 宇宙と地球の関係 15. 気候変動の理論と観測の同一基準化　過去・現在・未来を展望して			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0027B02
科目名	宇宙と地球の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Science of the Universe and the Earth B		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	宇宙と地球の科学ｆ
講義概要	科学の発展に伴い、人類の地球観は大きく変化してきた。各種観測手法の発明、数学と物理学の発展は人類の地球観を大きく変化させてきた主要因の一つである。 「気候変動とは何か」は受講生からよくされる質問であるが、これに対して科学的に返事をすることは決して容易ではない。そこで、本講義では、地球科学における基礎的な概念をとりあげ、地球科学的な視点で現象をとらえることはどういうことかについて解説し、気候変動について主体的に議論できる基礎力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	P.ウルムシュナイダー著『宇宙生物学入門-惑星・生命・文明の起源-』シュプリンガー・ジャパン 岡村ら編　「シリーズ現代天文学第１巻　人類の住む宇宙」　日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	受講態度および授業内レポート(40%) 期末レポート（６０％）		
到達目標	「気候変動」について主体的に議論できる基礎力を養うことを目標とする		
準備学習	参考書を学期中に読破すること 中学卒業程度の数学と理科の復習をすること		
受講者への要望			
高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義であるが、順を追って展開するので、授業に毎回出席しノートをとることが大切である。 不足している基礎知識については、気づいた時点で学習方法を指示するので、おおむね２週間以内に学習すること。 私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して、退出を求める			
講義の順序とポイント			
受講生の状況によって、順序を入れ替えるなどの変更を行うことがある。 1. 太陽系の形成 2. 地球の内部構造 3. 自然史標本について 4. 生物の誕生と進化 5. 生物の進化と地球環境 6. 物証による過去の気候変動の推定 7. 大気・海洋の構造 8. 放射平衡による地表の温度推定 9. 気候変動を起こす要因 10. 理論に基づく気候変動推定 11. 気候化石論 -過去の気候変動を推定する- 12. 気候変動の予測 -何がわかって何がわからないのか- 13. 気象災害から身を守るために 14. 宇宙と地球の関係 15. 気候変動の理論と観測の同一基準化　過去・現在・未来を展望して			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0028A01
科目名	京都学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Studies I		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	京都は平安建都以来1300年を超える歴史都市であり、三方を山に囲まれ、水に恵まれた自然環境のなか、宮廷、神社、仏閣、町家、花街など多くの伝統的建造物群と、陶磁器、織物、染物、京料理、京菓子などの伝統的産業、さらには、祭事、和装、茶華道などの伝統行事に彩られた文化都市として世界に知られています。そうした「京らしきもの」を素材に、その歴史やいわれ、現状と展開など、京都に関する基礎的な知識を身につけるとともに、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出している「伝統と革新」のチャレンジ精神を学ぶことをめざします。		
教材（テキスト）	授業中に適宜指示します		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します		
教材（その他）	授業中に適宜指示します		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等を加味します。定期テストおよびレポート（５０％）		
到達目標	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出していく歴史都市・京都の営みを、くらし、産業、文化など多面的かつ複眼的な視点から学びます。		
準備学習	授業の終了後や休日に、京都の町を散策して、京都の生活を体験しておいてください。		

受講者への要望

この講座は、京都の歴史、産業、文化、観光、風物をテーマに、コミュニケーション力、協働力、課題発見力などの「人間力」を養うために、産学官連係の一環として設定されました。そのため、京都学Ⅰでは、そのための基本的知識を、京都学Ⅱでは実践的課題を学ぶようにカリキュラムされています。
したがって、京都学Ⅰの受講生は京都学Ⅱの履修を前提に取り組んでください。

講義の順序とポイント

鎌倉幕府や江戸幕府など、実質的な政治の中心が地方に移ったことはありましたが、その間も京都には天皇の在所である御所が置かれ、約１２００年もの間、京都はわが国の「みやこ」であり続けました。京都は常に産業と文化の中心地であり、それらは「京もの」「下りもの」「洛中もの」として高い評価を与えられてきました。明治奠都で首都は東京に変わりますが、世界の歴史でもこれだけ長い間、一つの都市が国の中心地であり続けたことはきわめて珍しいことです。その根源は何かを探ります。

第　１回　日本文化理解の基本
第　２回　京都の街組み
第　３回　京都の伝統産業
第　４回　伝統産業の盛衰
第　５回　東京奠都と京都の再生
第　６回　京都の新産業
第　７回　京都の社寺
第　８回　京都の伝統
第　９回　京都の文化
第１０回　京都の民俗
第１１回　京都の祭事
第１２回　京都の教育
第１３回　京都の値打ち
第１４回　京都の風物
第１５回　京都の将来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JM0028A02
科目名	京都学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Studies I		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	京都は平安建都以来1300年を超える歴史都市であり、三方を山に囲まれ、水に恵まれた自然環境のなか、宮廷、神社、仏閣、町家、花街など多くの伝統的建造物群と、陶磁器、織物、染物、京料理、京菓子などの伝統的産業、さらには、祭事、和装、茶華道などの伝統行事に彩られた文化都市として世界に知られています。そうした「京らしきもの」を素材に、その歴史やいわれ、現状と展開など、京都に関する基礎的な知識を身につけるとともに、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出している「伝統と革新」のチャレンジ精神を学ぶことをめざします。		
教材（テキスト）	授業中に適宜指示します		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します		
教材（その他）	授業中に適宜指示します		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等を加味します。定期テストおよびレポート（５０％）		
到達目標	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出していく歴史都市・京都の営みを、くらし、産業、文化など多面的かつ複眼的な視点から学びます。		
準備学習	授業の終了後や休日に、京都の町を散策して、京都の生活を体験しておいてください。		

受講者への要望

この講座は、京都の歴史、産業、文化、観光、風物をテーマに、コミュニケーション力、協働力、課題発見力などの「人間力」を養うために、産学官連係の一環として設定されました。そのため、京都学Ⅰでは、そのための基本的知識を、京都学Ⅱでは実践的課題を学ぶようにカリキュラムされています。
したがって、京都学Ⅰの受講生は京都学Ⅱの履修を前提に取り組んでください。

講義の順序とポイント

鎌倉幕府や江戸幕府など、実質的な政治の中心が地方に移ったことはありましたが、その間も京都には天皇の在所である御所が置かれ、約１２００年もの間、京都はわが国の「みやこ」であり続けました。京都は常に産業と文化の中心地であり、それらは「京もの」「下りもの」「洛中もの」として高い評価を与えられてきました。明治奠都で首都は東京に変わりますが、世界の歴史でもこれだけ長い間、一つの都市が国の中心地であり続けたことはきわめて珍しいことです。その根源は何かを探ります。

第　１回　日本文化理解の基本
第　２回　京都の街組み
第　３回　京都の伝統産業
第　４回　伝統産業の盛衰
第　５回　東京奠都と京都の再生
第　６回　京都の新産業
第　７回　京都の社寺
第　８回　京都の伝統
第　９回　京都の文化
第１０回　京都の民俗
第１１回　京都の祭事
第１２回　京都の教育
第１３回　京都の値打ち
第１４回　京都の風物
第１５回　京都の将来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JM0028B01
科目名	京都学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Studies Ⅱ		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	世界的な観光雑誌である「Travel＋Leisure」誌が選ぶ「世界一訪れたい都市」のトップに京都が二年連続で選ばれました。その京都観光をテーマにプロジェクト推進の実際を学びます。授業中に示す施設や活動、催事などの現場を自らの目で確かめ、プロジェクト遂行力を養うとともに、これをとおして、ビジネスパーソンとしての行動力、課題発見力、論理的思考力など、人間力に磨きをかけます		
教材（テキスト）	授業中に適宜指示します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点（50%）出席状況を加味します。試験及びレポート（50%）		
到達目標	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新を繰り返してきた歴史都市・京都のまちづくりや観光戦略を通して、産業、文化、くらしなど多様な分野にわたるプロジェクトの実際を多面的かつ複眼的な視点から学び、プロジェクトの遂行力を養います		
準備学習	京都の観光を主体に日本文化の神髄に迫る講座ですので、京都市に出かけて自分で観光を体験しておいてください。特に、年中行事やイベント、観光関連のニュースなどに関心を持って調べておいてください。		

受講者への要望

京都学Ⅰが総論、京都学Ⅱが各論となっているので、京都学Ⅰをすでに受講していることが望ましいのですが、必要条件ではありません。京都観光の実情を良く知っておくことが理解の助けになりますので、放課後や休日には京都市内の観光地に出かけることを推奨します。

講義の順序とポイント

２０００年には４０００万人に満たなかった京都市への観光入込客数は、８年後の２００８年には５０００万人を突破するという急激な増加を見せ、当時の観光業界では「京都の奇跡」とまで称賛されました。また、京都市内ホテルの宿泊客数も順調に伸び続け、リーマンショックや大震災で大幅に落ちたものの、その後は順調な回復を果たし、客室稼働率も他都市に比べて格段の盛況を呈しています。その原動力となった観光プロジェクトの実態を探るなかで、プロジェクトを成功に導く方策を探ります。

第　１回　プロジェクトの基本
第　２回　観光統計の重要性
第　３回　観光客５０００万人構想
第　４回　４つのセン（戦略、宣言、宣伝、先鞭）
第　５回　イベントの仕掛けと宣伝
第　６回　産業観光
第　７回　社寺仏閣と観光
第　８回　伝統行事
第　９回　芸術文化と観光
第１０回　おもてなし
第１１回　ブランディング
第１２回　ニューツーリズム
第１３回　京都観光の弱点
第１４回　京都観光の新展開
第１５回　京都観光の将来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0028B02
科目名	京都学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Studies Ⅱ		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	世界的な観光雑誌である「Travel＋Leisure」誌が選ぶ「世界一訪れたい都市」のトップに京都が二年連続で選ばれました。その京都観光をテーマにプロジェクト推進の実際を学びます。授業中に示す施設や活動、催事などの現場を自らの目で確かめ、プロジェクト遂行力を養うとともに、これをとおして、ビジネスパーソンとしての行動力、課題発見力、論理的思考力など、人間力に磨きをかけます		
教材（テキスト）	授業中に適宜指示します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点（50%）出席状況を加味します。試験及びレポート（50%）		
到達目標	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新を繰り返してきた歴史都市・京都のまちづくりや観光戦略を通して、産業、文化、くらしなど多様な分野にわたるプロジェクトの実際を多面的かつ複眼的な視点から学び、プロジェクトの遂行力を養います		
準備学習	京都の観光を主体に日本文化の神髄に迫る講座ですので、京都市に出かけて自分で観光を体験しておいてください。特に、年中行事やイベント、観光関連のニュースなどに関心を持って調べておいてください。		

受講者への要望

京都学Ⅰが総論、京都学Ⅱが各論となっているので、京都学Ⅰをすでに受講していることが望ましいのですが、必要条件ではありません。京都観光の実情を良く知っておくことが理解の助けになりますので、放課後や休日には京都市内の観光地に出かけることを推奨します。

講義の順序とポイント

２０００年には４０００万人に満たなかった京都市への観光入込客数は、８年後の２００８年には５０００万人を突破するという急激な増加を見せ、当時の観光業界では「京都の奇跡」とまで称賛されました。また、京都市内ホテルの宿泊客数も順調に伸び続け、リーマンショックや大震災で大幅に落ちたものの、その後は順調な回復を果たし、客室稼働率も他都市に比べて格段の盛況を呈しています。その原動力となった観光プロジェクトの実態を探るなかで、プロジェクトを成功に導く方策を探ります。

第　１回　プロジェクトの基本
第　２回　観光統計の重要性
第　３回　観光客５０００万人構想
第　４回　４つのセン（戦略、宣言、宣伝、先鞭）
第　５回　イベントの仕掛けと宣伝
第　６回　産業観光
第　７回　社寺仏閣と観光
第　８回　伝統行事
第　９回　芸術文化と観光
第１０回　おもてなし
第１１回　ブランディング
第１２回　ニューツーリズム
第１３回　京都観光の弱点
第１４回　京都観光の新展開
第１５回　京都観光の将来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0029A01
科目名	京都検定講座 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture I		
担当者名	堤　勇二	旧科目名称	
講義概要	京都の特性は、その歴史性、宗教性、芸術性、景観性、ベンチャー性と時代を超えてこの国の基盤を支える文化性にあり、それは衣食住の生活すべてにわたって多彩です。 そして多くの社寺を有し、千年を超えるこの町の歩みには、その背後に数々の神仏が存在したことを理解する必要があります。本講はこの都市を理解するために不可欠な宗教性を基盤に、衣食住の多岐にわたる豊かな京都の魅力を知ることを目的とします。 本年は名前に焦点をあて、名前に籠められた真実を解き明かします。土地の名前や町の名前、お寺や神社、会社の名前、そしてお菓子の名前などなど、何気なくつけられたように思える名前に意外な歴史が秘められていることを知ったとき、この町の成り立ちの秘密が垣間見えるのです。 なお、シラバスは授業の進行に応じて内容、順序など適宜変更します。		
教材（テキスト）	特になし　適宜配布		
教材（参考文献）	増補版　京都・観光文化検定試験公式テキストブック　（淡交社刊　2010）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席）　50%　毎回実施　受講態度も評価 小レポート　　10%　適宜実施　回答内容も評価 小テスト　　40%　講義最終日実施		
到達目標	受講生がモノの名前を通して京都へ興味を持ち、生活全般を通したこの町の成り立ちを理解すること。ガイドブックや観光サイトに紹介されていないことにこの町の真実が隠されており、日常性のなかにこそ歴史がもたらす無限の魅力が眠っていることを本講を通して学生自らが発見する機会となることを目標とします。		
準備学習	常に京都発見の意識をもって身の回りの出来事に対処してください。		

受講者への要望

京都をテーマに書かれた作品、絵画、映画など、意識して興味を持ち、接するようにしてください。

講義の順序とポイント

1　9/28　名前に学ぶ京都の歴史　難読地名読み方クイズ
2　10/5　土地の名前が語る日本の智慧
3　10/12　京都・地名の秘密II
4　10/19　京都・町名の秘密 I
5　10/26　知らなかった！　寺名・社名の意味
6　11/2　うそ！？　動物とお寺、驚きの秘密 I
7　11/9　動物とお寺、驚きの秘密II
8　11/16　人名のお寺、意外な真実
9　11/23　名前は語る　お菓子の名前と京都 I
10　11/30　名前は語る　お菓子の名前と京都II
11　12/7　食べ物は語る　和食と京料理
12　12/14　京都の食文化　京野菜の秘密
13　12/21　京都の食文化　命の京野菜
14　1/11　信じられる？　京都国宝秘話
15　1/18　京都国宝秘話II　テスト

シラバスの内容は授業進行に応じて適宜変更します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0029A02
科目名	京都検定講座Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture I		
担当者名	堤　勇二	旧科目名称	
講義概要	京都の特性は、その歴史性、宗教性、芸術性、景観性、ベンチャー性と時代を超えてこの国の基盤を支える文化性にあり、それは衣食住の生活すべてにわたって多彩です。 そして多くの社寺を有し、千年を超えるこの町の歩みには、その背後に数々の神仏が存在したことを理解する必要があります。本講はこの都市を理解するために不可欠な宗教性を基盤に、衣食住の多岐にわたる豊かな京都の魅力を知ることを目的とします。 本年は名前に焦点をあて、名前に籠められた真実を解き明かします。土地の名前や町の名前、お寺や神社、会社の名前、そしてお菓子の名前などなど、何気なくつけられたように思える名前に意外な歴史が秘められていることを知ったとき、この町の成り立ちの秘密が垣間見えるのです。 なお、シラバスは授業の進行に応じて内容、順序など適宜変更します。		
教材（テキスト）	特になし　適宜配布		
教材（参考文献）	増補版　京都・観光文化検定試験公式テキストブック　（淡交社刊　2010）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席）　50%　毎回実施　受講態度も評価 小レポート　　10%　適宜実施　回答内容も評価 小テスト　　40%　講義最終日実施		
到達目標	受講生がモノの名前を通して京都へ興味を持ち、生活全般を通したこの町の成り立ちを理解すること。ガイドブックや観光サイトに紹介されていないことにこの町の真実が隠されており、日常性のなかにこそ歴史がもたらす無限の魅力が眠っていることを本講を通して学生自らが発見する機会となることを目標とします。		
準備学習	常に京都発見の意識をもって身の回りの出来事に対処してください。		

受講者への要望

京都をテーマに書かれた作品、絵画、映画など、意識して興味を持ち、接するようにしてください。

講義の順序とポイント

1　9/28　名前に学ぶ京都の歴史　難読地名読み方クイズ
2　10/5　土地の名前が語る日本の智慧
3　10/12　京都・地名の秘密Ⅱ
4　10/19　京都・町名の秘密Ⅰ
5　10/26　知らなかった！　寺名・社名の意味
6　11/2　うそ！？　動物とお寺、驚きの秘密Ⅰ
7　11/9　動物とお寺、驚きの秘密Ⅱ
8　11/16　人名のお寺、意外な真実
9　11/23　名前は語る　お菓子の名前と京都Ⅰ
10　11/30　名前は語る　お菓子の名前と京都Ⅱ
11　12/7　食べ物は語る　和食と京料理
12　12/14　京都の食文化　京野菜の秘密
13　12/21　京都の食文化　命の京野菜
14　1/11　信じられる？　京都国宝秘話
15　1/18　京都国宝秘話Ⅱ　テスト

シラバスの内容は授業進行に応じて適宜変更します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0029B01
科目名	京都検定講座 II 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture II		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
講義概要	京都検定は「幅広い切り口で京都通度を認定する検定試験」です。全国各地から毎年 5,000 人以上もの人びとが受験しています。京都がそれだけ人気のある観光地だということです。京都の魅力の一つは、長い歴史のなかではぐくまれてきた独特の文化と伝統にあるといえるでしょう。 ただし本授業では、京都検定に合格するためのノウハウ、ハウツー、テクニックではなく、京都の歴史を、トピックごとに、当時の史料や画像などをまじえて紹介します。京都の歴史と文化について理解を深めることを目指します。京都検定に限定されることなく、京都の歴史について（とくに近世近代）考えていきます。 なお、本授業は、新町通錦小路上ルにオープンしている「京町家キャンパス」にて実施します。		
教材（テキスト）	毎回プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	平常点（出席、授業態度、課題等）50%＋レポート 50%		
到達目標	京都の歴史と文化に関する理解・考察を深める。 京都の魅力を他者に対して発信できるようになる。		
準備学習	授業終了時に次回の講義資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、一定の区切りごとにレポートを課すので、毎回の配布資料をしっかり復習しておくこと。		

受講者への要望

京都の歴史と文化にふれるとともに、みずから考えることを忘れずに！
京都検定を受験する予定のない人も受講可能です。

講義の順序とポイント

1　はじめに　―現代の京都イメージ―
2　京の三大祭
3　京の御霊信仰と仏教世界
4　洛中・洛外／町・町組／町触　―京の枠組み―
5　京の名所図会の世界　―江戸時代京都の観光情報―　①
6　京の名所図会の世界　―江戸時代京都の観光情報―　②
7　京の名所図会の世界　―江戸時代京都の観光情報―　③
8　京の見聞記　―日本近世の京都イメージ―
9　外国人の見た江戸時代の京都
１０　幕末政治のなかの京都　―御所の政治空間／京の防衛論―
１１　幕末京都の「天誅」　―京へ向かう志と人斬り―
１２　歴史のなかの新撰組　―壬生の浪士から京の新撰組へ―
１３　幕末京都の争乱―京の戦災―
１４　京都の博覧会　―京の復興をめざして―
１５　近代化をめぐる京都の葛藤　―琵琶湖疏水、美術工芸、学校、鉄道、メディア―

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0030A01
科目名	京都商人論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Kyoto Merchants I		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
講義概要	商行為とは、売買を通じてモノを「商品」として扱う行為です。私たちの社会、日々の生活は商行為と密接な関係をもっています。こうした商行為、すなわちモノを「商う」ことは、いつ頃からはじまり、私たちの生活や社会、そして文化とどのようにかかわってきたのでしょうか。本講義では、古代から幕末・維新期までの、日本の商業と商人の成り立ち、その発展の歴史を学びます。		
教材（テキスト）	なし。各講義で毎回プリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	授業は、パワーポイントを使用しておこないます。		
評価方法	復習の小テスト（３０％）と、定期試験（７０％）		
到達目標	日本の商業と商人の成り立ち、その発展の歴史を学びます。		
準備学習	各回の講義内容は、次週の授業開始時に復習の小テストをおこないます。疑問点は放置せず、整理・確認しておきましょう。		
受講者への要望			
講義の終了前に「質問タイム」を設けます。疑問点やよく理解できなかった部分があれば質問して下さい。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、古代の商業 ３、中世の商業ー座と問 ４、中世の商業ー貨幣流通と金融 ５、中世の交易 ６、戦国時代の商業と技術革新 ７、幕藩制と商業 ８、江戸初期の交易と長崎貿易 ９、株仲間について １０、流通と小売りー商いの具体例 １１、江戸時代の代表的商人 １２、商家の雇用制度 １３、江戸時代の広告・宣伝 １４、幕末開港と商業 １５、幕末・維新期の商人			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0030B01
科目名	京都商人論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Kyoto Merchants I		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	京都商人論Ⅰ・京都商人論Ⅱ
講義概要	平安遷都以来、長きにわたり日本の政治・経済・文化の中心地であった京都には、独特の風土や慣習が育ち、価値観や気質が醸成された。それらは京都商人のモノ作りや商いの姿勢にも影響を及ぼし、さらには現在の京都の老舗や企業の特徴であるー高い技術水準と品質本位で独自性と高付加価値を追求したモノ作り、伝統と革新を統合・調和させた行動様式、永続性を重視した堅実経営ーに受け継がれている。本講義では、江戸時代から現在に至るまでの京都の老舗や企業の個別事例を取り上げ、その特質を多角的な視点から解説する。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中、適宜指示します。		
教材（その他）	授業は、パワーポイントを使用します。		
評価方法	復習の小テスト（３０％）と 定期試験（７０％）		
到達目標	京都の伝統産業の歴史と発展の過程を学び、京都商人の商いに対する姿勢、考え方を理解する。		
準備学習	各講義の内容は、次週の授業開始時に「復習の小テスト」をおこないます。疑問点やよく理解できなかった部分を整理し、確認しておきましょう。		
受講者への要望			
講義の終了時間前に「質問タイム」を設けます。疑問点があれば質問して、わからないまま放置しないようにして下さい。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、京都の伝統産業と老舗　　食品①茶 ３、京都の伝統産業と老舗　　繊維①西陣織 ４、京都の伝統産業と老舗　　工芸①香 ５、京都の伝統産業と老舗　　食品②京料理 ６、京都の伝統産業と老舗　　機械 ７、京都の伝統産業と老舗　　醸造①みそ ８、京都の伝統産業と老舗　　繊維②戦後の洋装 ９、京都の伝統産業と老舗　　醸造②清酒 １０、京都の伝統産業と老舗　工芸②仏壇・仏具 １１、京都の伝統産業と老舗　食品③京漬物 １２、京都の伝統産業と老舗　観光・娯楽 １３、京都の伝統産業と老舗　工芸③京焼 １４、京都の伝統産業と老舗　食品④京菓子 １５、今後の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0032A01
科目名	経営学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	講義にて全て提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととし、秋期の経営学入門 B にてさらに演習の場所を得るものとする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship			

第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	ー	★	ー	★

年度	2016	授業コード	JM0032A02
科目名	経営学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門ｓ
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する		
教材（参考文献）	Case Study を提示するが、受講生の興味に応じ提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship 第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント			

Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JM0032B01
科目名	経営学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management B		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	講義にて全て提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととし、秋期の経営学入門 B にてさらに演習の場所を得るものとする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship			

第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	ー	ー	★	ー	★

年度	2016	授業コード	JM0032B02
科目名	経営学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management B		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	講義にて全て提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととし、秋期の経営学入門 B にてさらに演習の場所を得るものとする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship			

第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	-	★

年度	2016	授業コード	JM0033001
科目名	経済学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特に前半はミクロ経済理論に、また後半はマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）（eBook（電子書籍）付きの教科書を希望する学生は、最初の授業の際に申し込んでいただきます。）		
教材（参考文献）	①N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） ②N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理Ⅰ（ミクロ経済理論関連） 2. 経済学の十大原理Ⅱ（ミクロ経済理論関連） 3. 科学者としての経済学者 4. 政策アドバイザーとしての経済学者 5. グラフの用法： 概観 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 比較優位の原理 8. 市場と競争、需要と供給 9. 市場における需要と供給の作用 10. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ（価格規制） 11. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ（税金） 12. 消費者余剰と生産者余剰 13. 市場の効率性 14. 外部性と市場の非効率性 15. 外部性の解決法 16. 経済学の十大原理Ⅲ（マクロ経済理論関連）			

17. 国民所得の測定（国内総生産：GDP）
18. 生計費の測定（消費者物価指数）
19. インフレーションの影響の補正
20. 経済成長と生産性
21. 経済成長と公共政策
22. 失業
23. 貯蓄、投資と金融システム
24. 貸付資金市場
25. 貨幣システム
26. 貨幣の需給とインフレーションの古典派理論
27. 総需要と総供給
28. 経済変動の二つの原因
29. 財と資本の国際フロー
30. 国際取引・為替相場決定の理論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0033002
科目名	経済学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特に前半はミクロ経済理論に、また後半はマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）（eBook（電子書籍）付きの教科書を希望する学生は、最初の授業の際に申し込んでいただきます。）		
教材（参考文献）	①N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） ②N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理Ⅰ（ミクロ経済理論関連） 2. 経済学の十大原理Ⅱ（ミクロ経済理論関連） 3. 科学者としての経済学者 4. 政策アドバイザーとしての経済学者 5. グラフの用法： 概観 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 比較優位の原理 8. 市場と競争、需要と供給 9. 市場における需要と供給の作用 10. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ（価格規制） 11. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ（税金） 12. 消費者余剰と生産者余剰 13. 市場の効率性 14. 外部性と市場の非効率性 15. 外部性の解決法 16. 経済学の十大原理Ⅲ（マクロ経済理論関連）			

17. 国民所得の測定（国内総生産：GDP）
18. 生計費の測定（消費者物価指数）
19. インフレーションの影響の補正
20. 経済成長と生産性
21. 経済成長と公共政策
22. 失業
23. 貯蓄、投資と金融システム
24. 貸付資金市場
25. 貨幣システム
26. 貨幣の需給とインフレーションの古典派理論
27. 総需要と総供給
28. 経済変動の二つの原因
29. 財と資本の国際フロー
30. 国際取引・為替相場決定の理論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0036001
科目名	現代基礎教養	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern General Education		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験における教養科目「判断推理」の対策を通じて、皆さんの論理的思考能力のトレーニングを行います。テキストには公務員試験対策の定番の問題集を使用し、多くの演習時間を取る予定です。 「判断推理」の問題は、あまり多くの事前知識を必要としません。問題で与えられた情報から形式的な論理関係を見出し、そこから解答に相応しい結論を演繹することが求められます。 膨大な知識へのアクセスが可能となった現代社会においては、「必要な知識を取捨選択する能力」と「複数の知識を組み合わせて活用する能力」を持った人材が強く求められており、そのため公務員試験のみならず、SPI2 など現在の就職試験においては、「判断推理」のような論理力を問う問題に重きが置かれています。 こうした論理的思考能力はトレーニングを通じて必ず伸ばすことが出来ます。公務員試験を考えている方だけではなく、社会に出て広く羽ばたくことになる学生の皆さん全員を本講義の対象とします。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官 消防官 新スーパー過去問ゼミ 判断推理』実務教育出版,2012 ISBN:9784788939080		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期試験（40%） 授業内の試験等による平常点（60%）		
到達目標	社会人として求められる論理的な判断力の獲得		
準備学習	テキストにはトピック毎に多くの問題が用意されています。 全ての問題を講義中に演習・解説することは出来ないため、講義中に扱えなかった問題については必ず次回の講義までに解いておくようにしてください。		
受講者への要望			
熱意をもって取り組むこと。 話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。 また、講義中の質問を歓迎します。			
講義の順序とポイント			
１．講義ガイダンス ２．操作の手順 ３．命題の真偽 ４．発言の真偽 ５．暗号の解読 ６．まとめ１ ７．対応関係 ８．順序関係 ９．位置関係 １０．試合の勝敗 １１．まとめ２ １２．平面図形の移動と軌跡 １３．平面図形の構成と分割 １４．立体図形とその組み立て １５．展開図とその応用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0036002
科目名	現代基礎教養	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern General Education		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験における教養科目「判断推理」の対策を通じて、皆さんの論理的思考能力のトレーニングを行います。テキストには公務員試験対策の定番の問題集を使用し、多くの演習時間を取る予定です。 「判断推理」の問題は、あまり多くの事前知識を必要としません。問題で与えられた情報から形式的な論理関係を見出し、そこから解答に相応しい結論を演繹することが求められます。 膨大な知識へのアクセスが可能となった現代社会においては、「必要な知識を取捨選択する能力」と「複数の知識を組み合わせて活用する能力」を持った人材が強く求められており、そのため公務員試験のみならず、SPI2 など現在の就職試験においては、「判断推理」のような論理力を問う問題に重きが置かれています。 こうした論理的思考能力はトレーニングを通じて必ず伸ばすことが出来ます。公務員試験を考えている方だけではなく、社会に出て広く羽ばたくことになる学生の皆さん全員を本講義の対象とします。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官 消防官 新スーパー過去問ゼミ 判断推理』実務教育出版,2012 ISBN:9784788939080		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期試験（40%） 授業内の試験等による平常点（60%）		
到達目標	社会人として求められる論理的な判断力の獲得		
準備学習	テキストにはトピック毎に多くの問題が用意されています。 全ての問題を講義中に演習・解説することは出来ないため、講義中に扱えなかった問題については必ず次回の講義までに解いておくようにしてください。		

受講者への要望

熱意をもって取り組むこと。
話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。
また、講義中の質問を歓迎します。

講義の順序とポイント

1．講義ガイダンス
2．操作の手順
3．命題の真偽
4．発言の真偽
5．暗号の解読
6．まとめ１
7．対応関係
8．順序関係
9．位置関係
１０．試合の勝敗
１１．まとめ２
１２．平面図形の移動と軌跡
１３．平面図形の構成と分割
１４．立体図形とその組み立て
１５．展開図とその応用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0038A01
科目名	国際関係論A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations A		
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇（編）『新グローバル公共政策［改訂版］』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『国際平和とは何か - 人間の安全を脅かす平和秩序の逆説 』中公叢書、2592 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターがどのような役割を果たしているのか、ということを理解することができる。また、国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、グローバル公共政策、公共財、公共性

第 2 回　国際政治のアクター 1
Key word:国際機構、国際連合

第 3 回　国際政治のアクター 2
Key word:地域的国際機構、OSCE（欧州安全保障協力機構）、EU

第 4 回　国際政治のアクター 3
Key word：世界銀行、IMF、WTO

第 5 回　国際政治のアクター 4

Key word：NGO/NPO、CSO（市民社会組織）

第 6 回　国際政治のアクター 5
Key word：企業、企業の社会的責任論

第 7 回　国際政治と問題領域 1
Key word:安全保障概念の拡大、人間の安全保障

第 8 回　国際政治と問題領域 2
Key word：軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と問題領域 3
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 10 回　国際政治と問題領域 4
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 11 回　国際政治と問題領域 5
Key word：貧困と格差、開発

第 12 回　国際政治と問題領域 6
Key word：環境問題 1（概論）

第 13 回　国際政治と問題領域 7
Key word：環境問題 2（地球温暖化)、新しい問題領域　、極地、宇宙、深海底

第 14 回　国際政治と平和-テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和-欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0038A02
科目名	国際関係論A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations A		
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇（編）『新グローバル公共政策［改訂版］』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『国際平和とは何か - 人間の安全を脅かす平和秩序の逆説 』中公叢書、2592 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターがどのような役割を果たしているのか、ということを理解することができる。また、国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、グローバル公共政策、公共財、公共性

第 2 回　国際政治のアクター 1
Key word:国際機構、国際連合

第 3 回　国際政治のアクター 2
Key word:地域的国際機構、OSCE（欧州安全保障協力機構）、EU

第 4 回　国際政治のアクター 3
Key word：世界銀行、IMF、WTO

第 5 回　国際政治のアクター 4

Key word：NGO/NPO、CSO（市民社会組織）

第 6 回　国際政治のアクター 5
Key word：企業、企業の社会的責任論

第 7 回　国際政治と問題領域 1
Key word:安全保障概念の拡大、人間の安全保障

第 8 回　国際政治と問題領域 2
Key word：軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と問題領域 3
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 10 回　国際政治と問題領域 4
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 11 回　国際政治と問題領域 5
Key word：貧困と格差、開発

第 12 回　国際政治と問題領域 6
Key word：環境問題 1（概論）

第 13 回　国際政治と問題領域 7
Key word：環境問題 2（地球温暖化)、新しい問題領域　、極地、宇宙、深海底

第 14 回　国際政治と平和-テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和-欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0038B01
科目名	国際関係論B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations B		
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。 なお本講義は、国際関係論 A の内容を、より掘り下げたものとなっている。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇（編）『新グローバル公共政策』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『国際平和とは何か - 人間の安全を脅かす平和秩序の逆説』中公叢書、2,592 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	1）国内社会と国際社会の相違や、現在国際社会が抱える問題点に関して理解することができる。 2）国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。 3）国際社会の諸問題に関し、我が国や市民としての我々がどのような役割を果たしうるのか、考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業開始時に前回の授業内容にかかわる小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。
授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論とは

第２回　国際関係理論　1
Key word：リアリズム、リベラリズム、ネオ・リアリズム

第３回　国際関係の歴史１

Key word：ローマ帝国、ウェストファリア体制、華夷思想、「戦争の家」「平和の家」

第 4 回　国際政治の歴史 2
Key word:植民地体制、国際連盟、国際連合

第 5 回　国際政治と安全保障 1　安全保障とは何か
Key word：集団的安全保障、個別的安全保障、集団的自衛権

第 6 回　国際政治と安全保障 2　　安全保障概念の多様性
Key word：安全保障の諸類型、包括的安全保障、人間の安全保障

第 7 回　国際政治と安全保障 3　欧州における安全保障体制
Key Word：欧州安全保障協力会議、欧州安全保障協力機構

第 8 回　国際政治と安全保障 4　「国家」の安全保障と「市民」の安全保障
Key word：人道的介入、ルワンダ、ユーゴスラヴィア、カンボジア

第 9 回　国際政治と安全保障 5　軍備管理と軍縮
Key word:軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 10 回　国際政治と安全保障 6　核戦略と安全保障
Key word：相互確証破壊、核抑止理論

第 11 回　国際政治と市民社会 1　民主化
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 12 回　国際政治と市民社会 2　マイノリティ
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 13 回　国際政治と市民社会 3　貧困と紛争
Key word：貧困と格差、開発

第 14 回　国際政治と市民社会 4　「水の世紀」と環境問題
Key word：地球温暖化、水問題

第 15 回　国際政治と平和 1　テロと平和
Key word：IS（イスラム国）、アルカイダ、低強度紛争

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	—	—	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0038B02
科目名	国際関係論B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations B		
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。 なお本講義は、国際関係論 A の内容を、より掘り下げたものとなっている。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇（編）『新グローバル公共政策』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『国際平和とは何か - 人間の安全を脅かす平和秩序の逆説』中公叢書、2,592 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	1）国内社会と国際社会の相違や、現在国際社会が抱える問題点に関して理解することができる。 2）国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。 3）国際社会の諸問題に関し、我が国や市民としての我々がどのような役割を果たしうるのか、考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業開始時に前回の授業内容にかかわる小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。
授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論とは

第２回　国際関係理論　1
Key word：リアリズム、リベラリズム、ネオ・リアリズム

第３回　国際関係の歴史１

Key word：ローマ帝国、ウェストファリア体制、華夷思想、「戦争の家」「平和の家」

第 4 回　国際政治の歴史 2
Key word:植民地体制、国際連盟、国際連合

第 5 回　国際政治と安全保障 1　安全保障とは何か
Key word：集団的安全保障、個別的安全保障、集団的自衛権

第 6 回　国際政治と安全保障 2　　安全保障概念の多様性
Key word：安全保障の諸類型、包括的安全保障、人間の安全保障

第 7 回　国際政治と安全保障 3　欧州における安全保障体制
Key Word：欧州安全保障協力会議、欧州安全保障協力機構

第 8 回　国際政治と安全保障 4　「国家」の安全保障と「市民」の安全保障
Key word：人道的介入、ルワンダ、ユーゴスラヴィア、カンボジア

第 9 回　国際政治と安全保障 5　軍備管理と軍縮
Key word:軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 10 回　国際政治と安全保障 6　核戦略と安全保障
Key word：相互確証破壊、核抑止理論

第 11 回　国際政治と市民社会 1　民主化
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 12 回　国際政治と市民社会 2　マイノリティ
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 13 回　国際政治と市民社会 3　貧困と紛争
Key word：貧困と格差、開発

第 14 回　国際政治と市民社会 4　「水の世紀」と環境問題
Key word：地球温暖化、水問題

第 15 回　国際政治と平和 1　テロと平和
Key word：IS（イスラム国）、アルカイダ、低強度紛争

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0041A01
科目名	自然環境 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Natural Environment and Environmental Co ncerns A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然環境 s
講義概要	この講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。 自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材となる。講義では、日本の代表的な自然環境である火山（テキストの第 1 章「火山」）、および国土の約 7 割を占める山地と山麓にみられる地形（第 2 章「山と川」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそれを利用した人間活動や災害などについて説明する。講義は、自然環境の基礎知識、以前の講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 2 つである。 (1) 自然環境の基礎知識を習得できる。 (2) 日本における自然環境の特色を説明することができる。		
準備学習	各回の講義前に、「講義の順序とポイント」に示したテキストの項目を読み、不明な用語については意味を調べるように。講義が終われば、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解すること。各講義では、前回までの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示する項目について復習した内容を論述してもらう。		
受講者への要望			
(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。 (2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。			
講義の順序とポイント			
1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて 2. 第 1 章 火山(1) ― 1.1.1 爆発する日本の火山 3. 第 1 章 火山(2) ― 1.1.2 火山の一生、1.1.3 大カルデラ火山 （前半） 4. 第 1 章 火山(3) ― 1.1.3 大カルデラ火山（後半）、1.1.4 富士・伊豆の火山 5. 第 1 章 火山(4) ― 1.2.1 火山地域の金属資源、1.2.2 歴史時代の金属資源 6. 第 1 章 火山(5) ― 1.2.3 火成岩の利用、1.2.4 火山地域の工業・農業 7. 第 1 章 火山(6) ― 1.3.1 火山体の大規模崩壊、1.3.2 火山地域の土砂災害、1.3.3 噴石などによる災害 8. 第 2 章 山と川(1) ― 2.1.1 河川侵食と谷壁斜面の発達、2.1.2 堆積段丘の形成 9. 第 2 章 山と川(2) ― 2.1.3 扇状地の形成、2.2.1 山腹斜面の地形 10. 第 2 章 山と川(3) ― 2.2.2 崩壊しやすい地質条件、2.2.3 斜面災害の発生 11. 第 2 章 山と川(4) ― 2.3.1 崩壊の免疫性と侵食速度、2.3.2 地殻変動と山地の隆起 12. 第 2 章 山と川(5) ― 2.3.3 水系の発達、2.3.4 山地の成長過程 13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0041A02
科目名	自然環境 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Natural Environment and Environmental Co ncerns A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然環境 s
講義概要	この講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。 自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材となる。講義では、日本の代表的な自然環境である火山（テキストの第 1 章「火山」）、および国土の約 7 割を占める山地と山麓にみられる地形（第 2 章「山と川」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそれを利用した人間活動や災害などについて説明する。講義は、自然環境の基礎知識、以前の講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 2 つである。 (1) 自然環境の基礎知識を習得できる。 (2) 日本における自然環境の特色を説明することができる。		
準備学習	各回の講義前に、「講義の順序とポイント」に示したテキストの項目を読み、不明な用語については意味を調べるように。講義が終われば、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解すること。各講義では、前回までの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示する項目について復習した内容を論述してもらう。		
受講者への要望			
(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。 (2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。			
講義の順序とポイント			
1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて 2. 第 1 章 火山(1) ― 1.1.1 爆発する日本の火山 3. 第 1 章 火山(2) ― 1.1.2 火山の一生、1.1.3 大カルデラ火山 （前半） 4. 第 1 章 火山(3) ― 1.1.3 大カルデラ火山（後半）、1.1.4 富士・伊豆の火山 5. 第 1 章 火山(4) ― 1.2.1 火山地域の金属資源、1.2.2 歴史時代の金属資源 6. 第 1 章 火山(5) ― 1.2.3 火成岩の利用、1.2.4 火山地域の工業・農業 7. 第 1 章 火山(6) ― 1.3.1 火山体の大規模崩壊、1.3.2 火山地域の土砂災害、1.3.3 噴石などによる災害 8. 第 2 章 山と川(1) ― 2.1.1 河川侵食と谷壁斜面の発達、2.1.2 堆積段丘の形成 9. 第 2 章 山と川(2) ― 2.1.3 扇状地の形成、2.2.1 山腹斜面の地形 10. 第 2 章 山と川(3) ― 2.2.2 崩壊しやすい地質条件、2.2.3 斜面災害の発生 11. 第 2 章 山と川(4) ― 2.3.1 崩壊の免疫性と侵食速度、2.3.2 地殻変動と山地の隆起 12. 第 2 章 山と川(5) ― 2.3.3 水系の発達、2.3.4 山地の成長過程 13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0041B01
科目名	自然環境Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Natural Environment and Environmental Co ncerns B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然環境ｆ
講義概要	本講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。 自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材になる。講義では、人間生活の主な舞台である平野（テキストの第５章「平野」）と、日本列島の周囲を取り巻く海岸（第７章「海岸」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそこでみられる人間活動や環境破壊などについて説明する。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 2 つである。 (1) 自然環境の基礎知識を習得できる。 (2) 日本における自然環境の特色を説明することができる。		
準備学習	各回の講義前に、「講義の順序とポイント」に示したテキストの項目を読み、不明な用語については意味を調べるように。講義が終われば、早急にノートの記述内容を見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解すること。各講義では、以前の講義内容を復習問題として出題する。また、授業内レポートでは教員が指示する項目について復習した内容を論述してもらう。		
受講者への要望			
(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。 (2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。			
講義の順序とポイント			
1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて 2. 第 5 章 平野(1) ― 5.1.1 日本の自然を反映する平野、5.1.2 沖積低地に恵まれた日本の平野 3. 第 5 章 平野(2) ― 5.2.1 海水準変動と沖積層の堆積 4. 第 5 章 平野(3) ― 5.2.2 沖積低地の地形、5.2.3 自然堤防が発達する濃尾平野 5. 第 5 章 平野(4) ― 5.2.4 海岸砂丘と三角州からなる庄内平野、5.3.1 国土に刻まれる稲作 6. 第 5 章 平野(5) ― 5.3.2 筑紫平野のクリーク、5.3.3 水辺の喪失 7. 第 7 章 海岸(1) ― 7.1.1 生命に満ちあふれた干潟、7.1.2 白砂青松の砂浜海岸 8. 第 7 章 海岸(2) ― 7.1.3 過去の海水準や地震隆起を語る岩石海岸 9. 第 7 章 海岸(3) ― 7.1.4 生物がつくるサンゴ礁海岸 10. 第 7 章 海岸(4) ― 7.2.1 古砂丘・旧砂丘・新砂丘 11. 第 7 章 海岸(5) ― 7.2.3 火山活動とともに変化する海岸、7.3.1 海岸侵食 12. 第 7 章 海岸(6) ― 7.3.2 地盤沈下と 0m地帯、7.3.3 地球温暖化による海面上昇の危機 13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0041B02
科目名	自然環境Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Natural Environment and Environmental Co ncerns B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然環境ｆ
講義概要	本講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。 自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材になる。講義では、人間生活の主な舞台である平野（テキストの第５章「平野」）と、日本列島の周囲を取り巻く海岸（第７章「海岸」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそこでみられる人間活動や環境破壊などについて説明する。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 2 つである。 (1) 自然環境の基礎知識を習得できる。 (2) 日本における自然環境の特色を説明することができる。		
準備学習	各回の講義前に、「講義の順序とポイント」に示したテキストの項目を読み、不明な用語については意味を調べるように。講義が終われば、早急にノートの記述内容を見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解すること。各講義では、以前の講義内容を復習問題として出題する。また、授業内レポートでは教員が指示する項目について復習した内容を論述してもらう。		
受講者への要望			
(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。 (2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。			
講義の順序とポイント			
1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて 2. 第 5 章 平野(1) ― 5.1.1 日本の自然を反映する平野、5.1.2 沖積低地に恵まれた日本の平野 3. 第 5 章 平野(2) ― 5.2.1 海水準変動と沖積層の堆積 4. 第 5 章 平野(3) ― 5.2.2 沖積低地の地形、5.2.3 自然堤防が発達する濃尾平野 5. 第 5 章 平野(4) ― 5.2.4 海岸砂丘と三角州からなる庄内平野、5.3.1 国土に刻まれる稲作 6. 第 5 章 平野(5) ― 5.3.2 筑紫平野のクリーク、5.3.3 水辺の喪失 7. 第 7 章 海岸(1) ― 7.1.1 生命に満ちあふれた干潟、7.1.2 白砂青松の砂浜海岸 8. 第 7 章 海岸(2) ― 7.1.3 過去の海水準や地震隆起を語る岩石海岸 9. 第 7 章 海岸(3) ― 7.1.4 生物がつくるサンゴ礁海岸 10. 第 7 章 海岸(4) ― 7.2.1 古砂丘・旧砂丘・新砂丘 11. 第 7 章 海岸(5) ― 7.2.3 火山活動とともに変化する海岸、7.3.1 海岸侵食 12. 第 7 章 海岸(6) ― 7.3.2 地盤沈下と 0m地帯、7.3.3 地球温暖化による海面上昇の危機 13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0042A01
科目名	自然地理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学 s
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、主に気候について自然地理学で研究されてきた内容を解説する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、気候はその代表的なものの一つにあたる。講義では、数万年前に存在した「氷河期」から近年現出した「都市気候」まで多種類の気候研究を取り扱い、研究の成果だけでなく調査方法についても極力言及したい。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語の意味を説明することができる。 (2) 人類を取り巻いてきた自然環境の基本的内容を習得できる。 (3) 自然地理学の基本概念にもとづく分析方法を知識として身につけることができる。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、以前の講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を論述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．氷河期(1) ― 氷河によって形成された丘の特色
3．氷河期(2) ― 丘の調査による氷河期の発見
4．氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの形成過程
5．多氷期(1) ― 堆積物から解明された複数の氷河期
6．多氷期(2) ― 複数の氷河期における融氷河段丘の形成
7．気候変化(1) ― 氷河期終了後の寒冷期と放射性炭素年代測定の開発
8．気候変化(2) ― 湖成段丘から紐解かれる過去 2 万年間の降水量変化
9．気候変化(3) ― 古記録からみた歴史時代の気温変化
10．都市気候(1) ― 都市の気温上昇とヒートアイランド
11．都市気候(2) ― ヒートアイランドの形成要因
12．都市気候(3) ― 風、湿度、日射量について
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0042A02
科目名	自然地理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学 s
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、主に気候について自然地理学で研究されてきた内容を解説する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、気候はその代表的なものの一つにあたる。講義では、数万年前に存在した「氷河期」から近年現出した「都市気候」まで多種類の気候研究を取り扱い、研究の成果だけでなく調査方法についても極力言及したい。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語の意味を説明することができる。 (2) 人類を取り巻いてきた自然環境の基本的内容を習得できる。 (3) 自然地理学の基本概念にもとづく分析方法を知識として身につけることができる。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、以前の講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を論述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．氷河期(1) ― 氷河によって形成された丘の特色
3．氷河期(2) ― 丘の調査による氷河期の発見
4．氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの形成過程
5．多氷期(1) ― 堆積物から解明された複数の氷河期
6．多氷期(2) ― 複数の氷河期における融氷河段丘の形成
7．気候変化(1) ― 氷河期終了後の寒冷期と放射性炭素年代測定の開発
8．気候変化(2) ― 湖成段丘から紐解かれる過去 2 万年間の降水量変化
9．気候変化(3) ― 古記録からみた歴史時代の気温変化
10．都市気候(1) ― 都市の気温上昇とヒートアイランド
11．都市気候(2) ― ヒートアイランドの形成要因
12．都市気候(3) ― 風、湿度、日射量について
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0042B01
科目名	自然地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学ｆ
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、地形（平野）とそれに関わる自然環境について、自然地理学で研究されてきた内容を説明する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、その代表的なものの一つが地形にあたる。講義では、地形の中でも人間生活の主な舞台となった平野と、その形成に深く関与した氷河性海水準変動、ならびに平野で頻繁に発生した水害などを取り上げ、研究成果だけでなく調査方法についてもできる限り触れたい。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語の意味を説明することができる。 (2) 人類を取り巻いてきた自然環境の基本的内容を取得できる。 (3) 自然地理学の基本概念にもとづく分析方法を知識として身につけることができる。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．海水準変動(1) ― 氷河性海水準変動の理論
3．海水準変動(2) ― 貝化石と堆積物から解明される過去の海水準 （旧海水準）
4．海水準変動(3) ― 旧海水準の年代決定
5．海水準変動(4) ― 過去約 2 万年間における海水準変動の実態
6．グレーシャル・アイソスタシー ― 地球規模で発生している地殻変動
7．平野(1) ― 日本における沖積平野の定義と扇状地の特色
8．平野(2) ― 自然堤防帯と三角州の特色
9．平野(3) ― 沖積層の分析による環境復原
10．平野(4) ― 沖積平野の形成過程と環境変化
11．水害(1) ― 輪中の成立とその背景
12．水害(2) ― 輪中地域における近世・近代の治水
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0042B02
科目名	自然地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学ｆ
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、地形（平野）とそれに関わる自然環境について、自然地理学で研究されてきた内容を説明する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、その代表的なものの一つが地形にあたる。講義では、地形の中でも人間生活の主な舞台となった平野と、その形成に深く関与した氷河性海水準変動、ならびに平野で頻繁に発生した水害などを取り上げ、研究成果だけでなく調査方法についてもできる限り触れたい。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語の意味を説明することができる。 (2) 人類を取り巻いてきた自然環境の基本的内容を取得できる。 (3) 自然地理学の基本概念にもとづく分析方法を知識として身につけることができる。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．海水準変動(1) ― 氷河性海水準変動の理論
3．海水準変動(2) ― 貝化石と堆積物から解明される過去の海水準 （旧海水準）
4．海水準変動(3) ― 旧海水準の年代決定
5．海水準変動(4) ― 過去約 2 万年間における海水準変動の実態
6．グレーシャル・アイソスタシー ― 地球規模で発生している地殻変動
7．平野(1) ― 日本における沖積平野の定義と扇状地の特色
8．平野(2) ― 自然堤防帯と三角州の特色
9．平野(3) ― 沖積層の分析による環境復原
10．平野(4) ― 沖積平野の形成過程と環境変化
11．水害(1) ― 輪中の成立とその背景
12．水害(2) ― 輪中地域における近世・近代の治水
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0044001
科目名	社会学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Sociology		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 　人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にあるのだ。 　この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	アンソニー・ギデンズ『社会学（第５版）』（而立書房、2009 年）、橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。また、適宜パワーポイントを使用します。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（60%）、中間試験（20%）、期末試験（20%）		
到達目標	社会についての幅広く常識的な知識・考えを、とくに社会と個人との関係に的を絞って、学び理解を深めること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で予告したテーマと前回の授業内容に関わる小レポートを書いてもらうので、必ず復習をして準備をする。		
受講者への要望			
人間文化学部で開講している「社会意識論」と内容上、部分的に重複しています。そのことを理解したうえで受講してください。			
講義の順序とポイント			

１・社会と個人との関係
２・出産をとりまく家族と社会の諸問題・１
３・出産をとりまく家族と社会の諸問題・２
４・最初期の子どもの心身の発達・１
５・最初期の子どもの心身の発達・２
６・家族のなかでの成長と葛藤・１
７・家族のなかでの成長と葛藤・２
８・家族の歴史・１
９・家族の歴史・２
１０・現代の家族・１
１１・現代の家族・２
１２・家族の病
１３・学校の社会的機能
１４・学校のなかでの成長と葛藤・１
１５・学校のなかでの成長と葛藤・２
１６・前青春期における成長
１７・青春期の様々な心的・社会的課題・１
１８・青春期の様々な心的・社会的課題・２
１９・青春期の様々な心的・社会的課題・３
２０・労働の社会的諸問題・１
２１・労働の社会的諸問題・２
２２・組織と人間
２３・成年期の葛藤と社会・１
２４・成年期の葛藤と社会・２

２５・道徳性の発達
２６・老年期と脱社会化・１
２７・老年期と脱社会化・２
２８・最晩年の諸段階・１
２９・最晩年の諸段階・２
３０・死後の社会的対応

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0044002
科目名	社会学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Sociology		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールに規定され社会的な状況に大きく影響を受けながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にあるのだ。 この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	アンソニー・ギデンズ『社会学（第５版）』（而立書房、2009 年）、橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。また、適宜パワーポイントを使用します。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（60%）、中間試験（20%）、期末試験（20%）		
到達目標	社会についての幅広く常識的な知識・考えを、とくに社会と個人との関係に的を絞って、学び理解を深めること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で予告したテーマと前回の授業内容に関わる小レポートを書いてもらうので、必ず復習をして準備をする。		
受講者への要望			
川田担当の「社会学」ならびに人間文化学部で開講している「社会意識論」と内容上、部分的に重複しています（とくに、「社会学」と「社会学概論」は重複しますが、後者の方がより詳細で踏み込んだ内容となります）。そのことを理解したうえで受講してください。			
講義の順序とポイント			
１・社会と個人との関係 ２・出産をとりまく家族と社会の諸問題・１ ３・出産をとりまく家族と社会の諸問題・２ ４・最初期の子どもの心身の発達・１ ５・最初期の子どもの心身の発達・２ ６・家族のなかでの成長と葛藤・１ ７・家族のなかでの成長と葛藤・２ ８・家族の歴史・１ ９・家族の歴史・２ １０・現代の家族・１ １１・現代の家族・２ １２・家族の病 １３・学校の社会的機能 １４・学校のなかでの成長と葛藤・１ １５・学校のなかでの成長と葛藤・２ １６・前青春期における成長 １７・青春期の様々な心的・社会的課題・１ １８・青春期の様々な心的・社会的課題・２ １９・青春期の様々な心的・社会的課題・３ ２０・労働の社会的諸問題・１ ２１・労働の社会的諸問題・２ ２２・組織と人間 ２３・成年期の葛藤と社会・１			

２４・成年期の葛藤と社会・２
２５・道徳性の発達
２６・老年期と脱社会化・１
２７・老年期と脱社会化・２
２８・最晩年の諸段階・１
２９・最晩年の諸段階・２
３０・死後の社会的対応

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0044101
科目名	社会学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0044201
科目名	社会学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0045A01
科目名	社会学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門 s
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、などの問題が取り上げられますが、「社会学入門 A」では、とくに、ふだん身の回りに普通に見かける現象について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の 4 種類に分類できること。
3，（家族 1）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など）。
4，（家族 2）社会における家族の役割が以前の時代とはかなり変化していること。
5，（学校 1）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
6，（学校 2）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を大きく受けていること。
7，（企業 1）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
8，（企業 2）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）。
9，（企業 3）男女雇用機会均等法と、企業の中での女性労働者の実態。
10,（マスメディア）現在ではマスメディアの力は大きく、自分の意見も実はメディアの受け売りかもしれないこと。
11,（国際化）社会は国際化しているが、その反面、国内の在日韓国朝鮮人の実態は知られていない点。
12,（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
13,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にあること。
14,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
15, 社会学と現代社会の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	JM0045A02
科目名	社会学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門 s
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、などの問題が取り上げられますが、「社会学入門 A」では、とくに、ふだん身の回りに普通に見かける現象について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の 4 種類に分類できること。
3，（家族 1）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など）。
4，（家族 2）社会における家族の役割が以前の時代とはかなり変化していること。
5，（学校 1）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
6，（学校 2）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を大きく受けていること。
7，（企業 1）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
8，（企業 2）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）。
9，（企業 3）男女雇用機会均等法と、企業の中での女性労働者の実態。
10,（マスメディア）現在ではマスメディアの力は大きく、自分の意見も実はメディアの受け売りかもしれないこと。
11,（国際化）社会は国際化しているが、その反面、国内の在日韓国朝鮮人の実態は知られていない点。
12,（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
13,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にあること。
14,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
15, 社会学と現代社会の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0045B01
科目名	社会学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門 f
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10,（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11,（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12,（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13,（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14,（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15,社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0045B02
科目名	社会学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｆ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10,（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11,（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12,（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13,（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14,（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15,社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0046A01
科目名	宗教学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions Ⅰ		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	「宗教学入門」をテーマに講義を行う。総論と各論に分けて講義を展開するが、総論では「宗教」の概念や性格を論じ、各論では世界の諸宗教のいくつかについて簡単に紹介する。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、クラス内でコメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となる。積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―あなたは宗教をどのようにイメージしているか
2．総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
3．総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか。
4．総論Ⅲ　宗教の構造と機能
5．総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ―
6．総論Ⅴ　宗教における祈りと修行について
7．総論Ⅵ　宗教は人間と世界をどのように見てきたか
8．各論Ⅰ　世界の三大宗教―キリスト教の歴史・それは西欧文化のもとになった
9．各論Ⅱ　世界の三大宗教―イスラーム（その１）・アッラーはユダヤ・キリストの神と同じ！？
10．各論Ⅲ　世界の三大宗教―イスラーム（その２）・スンナ派とシーア派はなぜ生まれた？
11．各論Ⅳ　世界の三大宗教―仏教・釈迦とその後の展開―
12．各論Ⅴ　日本の仏教ー神仏関係の展開
13．各論Ⅵ　日本の新宗教概説
14．各論Ⅶ　世界で起こっていることを宗教をキーワードに考える
15．まとめ　人は宗教とどのように向き合うべきか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0046A02
科目名	宗教学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions Ⅰ		
担当者名	川瀬　貴也	旧科目名称	
講義概要	この講義では、現代社会において「宗教」がどのような形態で活動し、我々の生活に関わっているかということを主として考察し、「宗教」というある意味扱いづらい対象をできるだけ客観的に研究する「宗教学」の考え方・基礎を学ぶことを目的とします。		
教材（テキスト）	なし。授業中にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中適宜指示する。		
教材（その他）	時々映像資料も見てもらう予定。		
評価方法	期末試験（80%）、授業内小テストによる平常点（20%）		
到達目標	「宗教」を客観的に分析する基礎能力や知識を涵養すること。現代社会においても実は宗教が無視できない文化現象であることを理解し、ひいては他文化に対する理解も深める。		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献を自分で選び、学期中に読む。		

受講者への要望

・積極的な姿勢で講義に出席し、私語は慎んでください。

講義の順序とポイント

1　宗教学とはなにか？宗教とは何か？
2　宗教と政治―二つの「まつりごと」
3　宗教と法律―日本の政教分離について
4　宗教と経済活動―マックス・ウェーバーの理論を中心に
5　宗教と心理療法―フロイトの「トラウマ」理論について
6　宗教と「癒し」―新霊性運動について
7　宗教と「カルト」問題（1）―「認知的不協和理論」から
8　宗教と「カルト」問題（2）―いくつかの事例を元に
9　キリスト教と政治―『Jesus Camp』を中心に
10　宗教と生命倫理（1）―妊娠人工中絶をめぐって
11　宗教と生命倫理（2）―先端医療技術との関係から
12　宗教と社会貢献―「社会参加する仏教 engaged Buddhism」を中心に
13　宗教と女性問題（1）―日本の「寺族」について
14　宗教と女性問題（2）―新約聖書の女性観と女性聖職者問題
15　宗教と女性問題（3）―イスラームの女性観と現代的問題
（順序などは変更の可能性あり）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0046B01
科目名	宗教学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions II		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	宗教学 II では、ことに日本人の宗教について考える。講義では、さまざまな日本の宗教現象の事例をあげながら、日本的な宗教観のありかたについて考察を加えていきたい。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、コメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となり、ひいては授業への関心度や参加意識を高めたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―宗教と宗教学・復習をかねて―
2．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(1)
3．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(2)
4．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(1)
5．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(2)
6．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(１)
7．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(2)
8．　物忌みしなくなる神―中世的神の変容(1)
10．物忌みしなくなる神―中世的神の変容(2)
11．仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(1)
12. 仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(2)
13. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(1)
14. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(2)
15. 眼の霊力について考える――つ目の鬼、節分の放相氏、そして手塚治虫『三つ目が通る』へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0046B02
科目名	宗教学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions II		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	宗教学 II では、ことに日本人の宗教について考える。講義では、さまざまな日本の宗教現象の事例をあげながら、日本的な宗教観のありかたについて考察を加えていきたい。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、コメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となり、ひいては授業への関心度や参加意識を高めたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―宗教と宗教学・復習をかねて―
2．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(1)
3．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(2)
4．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(1)
5．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(2)
6．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(１)
7．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(2)
8．　物忌みしなくなる神―中世的神の変容(1)
10．物忌みしなくなる神―中世的神の変容(2)
11．仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(1)
12. 仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(2)
13. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(1)
14. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(2)
15. 眼の霊力について考える――つ目の鬼、節分の放相氏、そして手塚治虫『三つ目が通る』へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0051A01
科目名	人権の歴史と現代A	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights A		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0051A02
科目名	人権の歴史と現代A	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights A		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0051B01
科目名	人権の歴史と現代B	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights B		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0051B02
科目名	人権の歴史と現代B	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights B		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の参考文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料配布時にミニレポートの課題も発表するので、事前に回答を準備しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0052001
科目名	人文地理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Human Geography		
担当者名	波江　彰彦	旧科目名称	
講義概要	人文地理学は、人間と環境・空間・地域との関係について考える学問領域である。この授業では、人文地理学に関する基本的な知識・考え方やさまざまなトピック（地図・都市・農村・経済・文化・歴史・環境・災害など）を幅広く学習する。こうした学習を通じて、地理空間（地域）に生きる者として、地理的諸現象の特徴・構造・影響・課題等について理解・考察・説明する力をつけることがこの授業の目的である。授業は基本的に講義形式で進めるが、授業時間内外で作業を行うこともある。		
教材（テキスト）	指定しない。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜提示する。		
教材（その他）	パワーポイントを使用して授業を進める。 地形図を用いた作業やフィールドワークを予定している。		
評価方法	定期試験（40%）、複数回の小レポート（30%）、毎回提出するコメントシート（30%）によって総合的に評価する。		
到達目標	(1)人文地理学に関する基本的な知識・考え方が理解できる。 (2)地理空間や地域におけるさまざまな事象に対し、地理学的アプローチで考えることができる。		
準備学習	・予習を課すことがある。予習課題にしっかり取り組んだ上で授業に参加すること。 ・授業中に紹介した文献・資料・ウェブサイトに積極的にアクセスすること。 ・授業内容に関連するニュースや話題に注目し、興味のあるものについては深く追究すること。		
受講者への要望			
他の受講生が迷惑・不快に思うような行為（私語・途中入退室・雑音を立てるなど）はしないこと。場合によっては退室を求めることもある。			
講義の順序とポイント			
01：授業ガイダンス、人文地理学とは何か？ 02：地図に関する基礎知識と活用 03：地形図から読み解く地域の特徴 04：地形図とともに大学周辺を歩く（フィールドワーク） 05：新旧地図の比較からみる地域の変化 06：デジタル地図と地理情報システム（GIS） 07：人口の推移・地域差と人口問題 08：国内人口移動と国際人口移動 09：都市とは何か、都市への多面的アプローチ 10：都市の内部構造 11：大都市圏の形成と変容 12：過疎化のプロセスと過疎地域の現況 13：離島の社会・生活：隠岐諸島を事例に 14：日本における経済・産業の近代化 15：資源・エネルギー問題からみる世界のネットワーク 16：後半のガイダンス、人文地理学の応用とは？ 17：メンタルマップの作成：頭の中のイメージ・選好を地図化する 18：子どもやハンディキャップをもつ人々からみた生活空間 19：格差や社会的不平等に対する地理学的アプローチ 20：インナーシティ問題の具体的様相 21：ことばや食からみた地域差と地域文化 22：「外邦図」とは何か？ 23：外邦図の活用：台湾・桃園台地の土地利用分析を例に 24：河川環境の歴史的変遷・人為的改変 25：環境問題への時空間的アプローチ 26：近・現代都市における廃棄物管理の発展と変容 27：廃棄物リサイクルのグローバル化			

28：さまざまな災害とその発生メカニズム 29：防災・減災・災害復興に向けた地理学的アプローチ 30：これまでのまとめから、あらためて「人文地理学」について考える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0052002
科目名	人文地理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Human Geography		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	人間は地表面を離れて生活でき得ないし、文化を生むこともできない。その意味で、人と場所の関係を探ることは極めて重要である。この人と場所の関係を探るのが人文地理学である。 本講義では近年の学際的な人文地理学の動向に目を向ける。特に行動科学、心理学、社会学、歴史学、メディア研究、文化人類学、民俗学との接点を持つ行動地理学や人文主義地理学の方法論に焦点を当てる。そしてこれらの方法論を使うことによって、どのような研究が出来るのかを具体例をもって示す。 前半は、主に人文地理学のテーマと学際的な特性と可能性について、様々な学問分野との交流の具体的事例をもとに探っていく。後半は前半での理論的展望を引き継ぎ、「空想の場所と現実の場所との交流」というテーマに焦点をしぼり、昔話・神話を題材に、再検討する。特に本講義では人々の頭の中にある空想の場所が、現実の場所に反映されていることを強調する。上記のテーマを探りつつ、と同時に人文地理学の可能性についても模索していく。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考文献）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	様々な文化の空間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		

受講者への要望

受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。

講義の順序とポイント

1　人文地理学とは：文化とは
2　人文地理学の考える文化：民俗文化と大衆文化
3　近代以降の私たちの場所：sense of place　placelessness
4　文化地域：（形式文化地域圏、機能文化地域、認知文化地域）
5　文化拡散（拡大拡散：伝染的拡散、階層的拡散、刺激的拡散・移転拡散）
6　文化生態学（環境決定論、可能論、環境知覚研究）
7　文化統合（社会科学としての地理学）
8　人文主義地理学（ロード・オブ・ザ・リングスの地図とは）
9　伝統文化と大衆文化の継承性：大統領選挙、フォークソング、ビートルズ、ケルト
10　文化景観：景観を読む（解釈学的分析）
11　東南アジアの都市景観を読む：都市記号論、都市プラン
12　民話の文化地域、文化拡散、文化生態学、文化統合、文化景観
13　現実世界を構築した空想世界：ジャックと豆の木、心のなかの景観
14　昔話の感覚地理―大工と鬼六、グレート・マザー、食わず女房の分析
15　昔話と心のなかの景観―奈良梨採り、通過儀礼との類似点
16　映画と心のなかの景観―映画『エイリアン』
17　宇宙空間とジャングルの類似性：リプリーの自己実現、民俗文化と大衆文化の継承性
18　民話の分布図：池田の民話とサウンドスケープ
19　昔話の触覚地理―木の知恵、二人の旅人、プリント、感覚地理学と触角地理
20　触覚地理からストーリー・パスへ：世界樹で首を吊る
21　昔話の原風景―瞬間の風景（DEF の野原）、プロップの構造分析、
22　原風景とは：『スダンドバイミー』
23　野原の聴覚地理、立ち帰りたい場所、実在する原風景、池田の民話と原風景
24　『ツインズ』と二人の旅人：昔話と映画の空間移動
25　『羊たちの沈黙』と女性の自立：映画に継承された心象風景の伝統
26　落語の二人の旅人：「伊勢参宮神賑」

27　落語に見る近世大坂の環境知覚：「まんじゅうこわい」「質屋蔵」「次の御用日」
28　落語の見る近世京都の環境知覚：「こぶ弁慶」「景清」
29　近世の大坂人の見た異界像：「地獄八景亡者戯」「小倉舟」「月宮殿星都」
30　人文地理学の冒険を展望する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0053A01
科目名	政治学原論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Theory A		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Aでは、政治学の対象範囲のうち、権力論、政治体制論、政治経済学、市民社会論、公共政策論などの理論的なテーマを主に取り扱う。イメージしにくい抽象的な議論を扱うこともあるが、しっかり耳と頭を働かせて講義内容の理解に努めてほしい。 なお、政治学原論AとBの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Aを先に受講するのが望ましい。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況などによる。学期末レポート（70%）		
到達目標	(1) 政治とは何かという問いに対して、簡潔に答えることができる。 (2) 世界の国々の統治のあり方について、分類を行うことができる。 (3) われわれが暮らす社会と政治との関係について、説明することができる。		
準備学習	(1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：政治とは何か 2. 政治と権力 3. 近代国家とその支配 4. 自由と自由主義 5. デモクラシー 6. 自由民主主義体制 7. 非自由民主主義体制 8. 政治と経済 9. 福祉国家の発展と危機 10. 市民社会 11. ナショナリズム 12. ジェンダーと政治 13. 公共政策と行政 14. 政策過程 15. 制度と政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0053A02
科目名	政治学原論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Theory A		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Aでは、政治学の対象範囲のうち、権力論、政治体制論、政治経済学、市民社会論、公共政策論などの理論的なテーマを主に取り扱う。イメージしにくい抽象的な議論を扱うこともあるが、しっかり耳と頭を働かせて講義内容の理解に努めてほしい。 なお、政治学原論AとBの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Aを先に受講するのが望ましい。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況などによる。学期末レポート（70%）		
到達目標	(1) 政治とは何かという問いに対して、簡潔に答えることができる。 (2) 世界の国々の統治のあり方について、分類を行うことができる。 (3) われわれが暮らす社会と政治との関係について、説明することができる。		
準備学習	(1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：政治とは何か 2. 政治と権力 3. 近代国家とその支配 4. 自由と自由主義 5. デモクラシー 6. 自由民主主義体制 7. 非自由民主主義体制 8. 政治と経済 9. 福祉国家の発展と危機 10. 市民社会 11. ナショナリズム 12. ジェンダーと政治 13. 公共政策と行政 14. 政策過程 15. 制度と政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0053B01
科目名	政治学原論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Theory B		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Bでは、政治学の対象範囲のうち、政治制度論、政治過程論、政治文化論などのテーマを主に取り扱う。政治学が扱う領域の多様さに幻惑されないよう、各回の授業に集中して要点の把握に努めてほしい。 なお、政治学原論AとBの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Aを先に受講するのが望ましい。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況などによる。 学期末レポート（70%）		
到達目標	(1) 現代国家を構成する政治制度の各要素が果たす役割を説明できる。 (2) 政治の世界で個人や集団の相互作用が生み出す動態を把握する。 (3) 市民の政治意識と政治過程との関係を理解し、あるべき政治参加のかたちを考える。		
準備学習	(1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：政治制度と政治過程 2. 議会と議会政治 3. 執政制度 4. リーダーシップ 5. 官僚制 6. 司法制度 7. 中央地方関係 8. 選挙と政治参加 9. 投票行動 10. 政治意識と政治文化 11. 世論とメディア 12. 利益集団と政治 13. 政党の機能と組織 14. 政党システム 15. 対外政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0053B02
科目名	政治学原論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Theory B		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Bでは、政治学の対象範囲のうち、政治制度論、政治過程論、政治文化論などのテーマを主に取り扱う。政治学が扱う領域の多様さに幻惑されないよう、各回の授業に集中して要点の把握に努めてほしい。 なお、政治学原論AとBの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Aを先に受講するのが望ましい。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況などによる。 学期末レポート（70%）		
到達目標	(1) 現代国家を構成する政治制度の各要素が果たす役割を説明できる。 (2) 政治の世界で個人や集団の相互作用が生み出す動態を把握する。 (3) 市民の政治意識と政治過程との関係を理解し、あるべき政治参加のかたちを考える。		
準備学習	(1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：政治制度と政治過程 2. 議会と議会政治 3. 執政制度 4. リーダーシップ 5. 官僚制 6. 司法制度 7. 中央地方関係 8. 選挙と政治参加 9. 投票行動 10. 政治意識と政治文化 11. 世論とメディア 12. 利益集団と政治 13. 政党の機能と組織 14. 政党システム 15. 対外政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0056A01
科目名	生命の科学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。		
準備学習	自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「生命の科学 A」→「生命の科学 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、生と死について
2.心臓死について
3.脳死について
4.脳死とその原因
5.脳死と臓器移植（その１）
6.脳死と臓器移植（その２）
7.脳の構造と機能（その１）
8.脳の構造と機能（その２）
9.脳の構造と機能（その３）
１０.心臓の構造と機能（その１）
１１.心臓の構造と機能（その２）
１２.心臓の病気（その１）
１３.心臓の病気（その２）
１４.血圧について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0056A02
科目名	生命の科学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。		
準備学習	自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「生命の科学 A」→「生命の科学 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、生と死について
2.心臓死について
3.脳死について
4.脳死とその原因
5.脳死と臓器移植（その１）
6.脳死と臓器移植（その２）
7.脳の構造と機能（その１）
8.脳の構造と機能（その２）
9.脳の構造と機能（その３）
１０.心臓の構造と機能（その１）
１１.心臓の構造と機能（その２）
１２.心臓の病気（その１）
１３.心臓の病気（その２）
１４.血圧について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0056B01
科目名	生命の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Science B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。		
準備学習	自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「生命の科学 A」→「生命の科学 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、肝臓について
2.肝臓の構造と機能
3.肝臓の病気（その１）
4.肝臓の病気（その２）
5.ガンについて
6.細菌とウィルスについて
7.感染症について（その１）
8.感染症について（その２）
9.遺伝と遺伝子について（その１）
１０.遺伝と遺伝子について（その２）
１１.遺伝子、ＤＮＡ、ゲノムについて（その１）
１２.遺伝子、ＤＮＡ、ゲノムについて（その２）
１３.遺伝子と病気について（その１）
１４.遺伝子と病気について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0056B02
科目名	生命の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Science B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。		
準備学習	自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「生命の科学 A」→「生命の科学 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、肝臓について
2.肝臓の構造と機能
3.肝臓の病気（その１）
4.肝臓の病気（その２）
5.ガンについて
6.細菌とウィルスについて
7.感染症について（その１）
8.感染症について（その２）
9.遺伝と遺伝子について（その１）
１０.遺伝と遺伝子について（その２）
１１.遺伝子、ＤＮＡ、ゲノムについて（その１）
１２.遺伝子、ＤＮＡ、ゲノムについて（その２）
１３.遺伝子と病気について（その１）
１４.遺伝子と病気について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0058001
科目名	西洋史概説	単位数	4
科目名（英語表記）	General History of Europe		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。

講義の順序とポイント

１．西洋史学の課題
２．古代ギリシアの人口と身分構成
３．古代ギリシアの奴隷と社会（１）
４．古代ギリシアの奴隷と社会（２）
５．犯罪と刑罰（１）
６．犯罪と刑罰（２）
７．犯罪と刑罰（３）
８．動物裁判（１）
９．動物裁判（２）
１０．動物裁判（３）
１１．新大陸の征服史（１）
１２．新大陸の征服史（２）
１３．新大陸の征服史（３）
１４．近代奴隷貿易の展開（１）
１５．近代奴隷貿易の展開（２）
１６．西洋史学の課題（続）
１７．古代ギリシアにおける女性と社会
１８．古代ギリシアにおける女性の財産権
１９．古代ギリシアにおける女性の地位
２０．疫病の歴史（１）
２１．疫病の歴史（２）
２２．疫病の歴史（３）
２３．「流行」と社会（１）
２４．「流行」と社会（２）
２５．「流行」と社会（３）
２６．近代世界システムの理論の概要（１）
２７．近代世界システムの理論の概要（２）
２８．近代世界システムの成立史（１）
２９．近代世界システムの成立史（２）
３０．近代世界システムと奴隷制

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	—	—	—	—	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0058002
科目名	西洋史概説	単位数	4
科目名（英語表記）	General History of Europe		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。

講義の順序とポイント

１．西洋史学の課題
２．古代ギリシアの人口と身分構成
３．古代ギリシアの奴隷と社会（１）
４．古代ギリシアの奴隷と社会（２）
５．犯罪と刑罰（１）
６．犯罪と刑罰（２）
７．犯罪と刑罰（３）
８．動物裁判（１）
９．動物裁判（２）
１０．動物裁判（３）
１１．新大陸の征服史（１）
１２．新大陸の征服史（２）
１３．新大陸の征服史（３）
１４．近代奴隷貿易の展開（１）
１５．近代奴隷貿易の展開（２）
１６．西洋史学の課題（続）
１７．古代ギリシアにおける女性と社会
１８．古代ギリシアにおける女性の財産権
１９．古代ギリシアにおける女性の地位
２０．疫病の歴史（１）
２１．疫病の歴史（２）
２２．疫病の歴史（３）
２３．「流行」と社会（１）
２４．「流行」と社会（２）
２５．「流行」と社会（３）
２６．近代世界システムの理論の概要（１）
２７．近代世界システムの理論の概要（２）
２８．近代世界システムの成立史（１）
２９．近代世界システムの成立史（２）
３０．近代世界システムと奴隷制

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0058A01
科目名	西洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアの人口と身分構成 ３．古代ギリシアの奴隷と社会（１） ４．古代ギリシアの奴隷と社会（２） ５．犯罪と刑罰（１） ６．犯罪と刑罰（２） ７．犯罪と刑罰（３） ８．動物裁判（１） ９．動物裁判（２） １０．動物裁判（３） １１．新大陸の征服史（１） １２．新大陸の征服史（２） １３．新大陸の征服史（３） １４．近代奴隷貿易の展開（１） １５．近代奴隷貿易の展開（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0058A02
科目名	西洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアの人口と身分構成 ３．古代ギリシアの奴隷と社会（１） ４．古代ギリシアの奴隷と社会（２） ５．犯罪と刑罰（１） ６．犯罪と刑罰（２） ７．犯罪と刑罰（３） ８．動物裁判（１） ９．動物裁判（２） １０．動物裁判（３） １１．新大陸の征服史（１） １２．新大陸の征服史（２） １３．新大陸の征服史（３） １４．近代奴隷貿易の展開（１） １５．近代奴隷貿易の展開（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0058B01
科目名	西洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアにおける女性と社会 ３．古代ギリシアにおける女性の財産権 ４．古代ギリシアにおける女性の地位 ５．疫病の歴史（１） ６．疫病の歴史（２） ７．疫病の歴史（３） ８．「流行」と社会（１） ９．「流行」と社会（２） １０．「流行」と社会（３） １１．近代世界システムの理論の概要（１） １２．近代世界システムの理論の概要（２） １３．近代世界システムの成立史（１） １４．近代世界システムの成立史（２） １５．近代世界システムと奴隷制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0058B02
科目名	西洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアにおける女性と社会 ３．古代ギリシアにおける女性の財産権 ４．古代ギリシアにおける女性の地位 ５．疫病の歴史（１） ６．疫病の歴史（２） ７．疫病の歴史（３） ８．「流行」と社会（１） ９．「流行」と社会（２） １０．「流行」と社会（３） １１．近代世界システムの理論の概要（１） １２．近代世界システムの理論の概要（２） １３．近代世界システムの成立史（１） １４．近代世界システムの成立史（２） １５．近代世界システムと奴隷制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0059001
科目名	地誌	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る態度の学生には単位を与えないので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、地図をはじめとする諸資料を通して地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献に必ず目をとおすこと。 電車やバスで移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識①－地誌と地図、定義と種類
3．地図の基本知識②－地図を理解するための基本知識、地図の歴史
4．地形図の基本知識とその読み方①－1/25,000 地形図、等高線
5．地形図の基本知識とその読み方②－尾根と谷、扇状地
6．地形図の基本知識とその読み方③－自然堤防、地図利用にあたっての注意点
7．日本（列島）の地理的特徴など①－自然的特徴、国土の区分および利用状況
8．日本（列島）の地理的特徴など②－人口の現状と推移
9．亀岡市と亀岡盆地①－亀岡盆地とその開発伝承
10．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える亀岡
11．京都①－京都盆地と平安京、条坊制
12．京都②－都市（市街地）の変遷、秀吉の京都改造
13．京都③－観光都市、入込客数とリピーター
14．京都④－観光戦略、人気観光地の変遷
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。
※受講人数によっては野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JM0059A01
科目名	地誌 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography A		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る態度の学生には単位を与えないので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、地図をはじめとする諸資料を通して地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献に必ず目をとおすこと。 電車やバスで移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識①－地誌と地図、定義と種類
3．地図の基本知識②－地図を理解するための基本知識、地図の歴史
4．地形図の基本知識とその読み方①－1/25,000 地形図、等高線
5．地形図の基本知識とその読み方②－尾根と谷、扇状地
6．地形図の基本知識とその読み方③－自然堤防、地図利用にあたっての注意点
7．日本（列島）の地理的特徴など①－自然的特徴、国土の区分および利用状況
8．日本（列島）の地理的特徴など②－人口の現状と推移
9．亀岡市と亀岡盆地①－亀岡盆地とその開発伝承
10．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える亀岡
11．京都①－京都盆地と平安京、条坊制
12．京都②－都市（市街地）の変遷、秀吉の京都改造
13．京都③－観光都市、入込客数とリピーター
14．京都④－観光戦略、人気観光地の変遷
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。
※受講人数によっては野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JM0059A02
科目名	地誌 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography A		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る態度の学生には単位を与えないので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、地図をはじめとする諸資料を通して地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献に必ず目をとおすこと。 電車やバスで移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識①－地誌と地図、定義と種類
3．地図の基本知識②－地図を理解するための基本知識、地図の歴史
4．地形図の基本知識とその読み方①－1/25,000 地形図、等高線
5．地形図の基本知識とその読み方②－尾根と谷、扇状地
6．地形図の基本知識とその読み方③－自然堤防、地図利用にあたっての注意点
7．日本（列島）の地理的特徴など①－自然的特徴、国土の区分および利用状況
8．日本（列島）の地理的特徴など②－人口の現状と推移
9．亀岡市と亀岡盆地①－亀岡盆地とその開発伝承
10．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える亀岡
11．京都①－京都盆地と平安京、条坊制
12．京都②－都市（市街地）の変遷、秀吉の京都改造
13．京都③－観光都市、入込客数とリピーター
14．京都④－観光戦略、人気観光地の変遷
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。
※受講人数によっては野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JM0059B01
科目名	地誌B	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography B		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る学生には単位を与えないので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、地図をはじめとする諸資料を通して地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献に必ず目をとおすこと。 電車やバスで移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

原則として地誌Aを履修済みであることが望ましい。
毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識－地誌と地図、定義と種類、地図の歴史
3．地形図の基本知識とその読み方－1/25,000 地形図、等高線
4．世界の気候－ケッペンの気候区分、ハイサーグラフ
5．古代の亀岡・京都学園大学周辺①－古代の土地管理システム「条里制」
6．古代の亀岡・京都学園大学周辺②－古代の土地管理システム「条里制」
7．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川①－河川の治水、天井川
8．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川②－河川の治水、天井川
9．滋賀県・琵琶湖①－淡水湖、淡水漁業、水辺の環境
10．滋賀県・琵琶湖②－淡水湖、淡水漁業、水辺の環境
11．千葉県・九十九里浜①－海岸平野、海洋漁業と農業、新田開発
12．千葉県・九十九里浜②－海岸平野、海洋漁業と農業、新田開発
13．世界のエネルギー需給－石油、石炭、天然ガス、原子力
14．エネルギー需給からみる各国の特徴－ノルウェーなどを事例に
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※受講生の地誌Aの受講状況によって、順序や内容を大きく変更する可能性がある。
※受講人数によっては野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JM0059B02
科目名	地誌B	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography B		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る学生には単位を与えないので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、地図をはじめとする諸資料を通して地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献に必ず目をとおすこと。 電車やバスで移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

原則として地誌Aを履修済みであることが望ましい。
毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識－地誌と地図、定義と種類、地図の歴史
3．地形図の基本知識とその読み方－1/25,000 地形図、等高線
4．世界の気候－ケッペンの気候区分、ハイサーグラフ
5．古代の亀岡・京都学園大学周辺①－古代の土地管理システム「条里制」
6．古代の亀岡・京都学園大学周辺②－古代の土地管理システム「条里制」
7．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川①－河川の治水、天井川
8．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川②－河川の治水、天井川
9．滋賀県・琵琶湖①－淡水湖、淡水漁業、水辺の環境
10．滋賀県・琵琶湖②－淡水湖、淡水漁業、水辺の環境
11．千葉県・九十九里浜①－海岸平野、海洋漁業と農業、新田開発
12．千葉県・九十九里浜②－海岸平野、海洋漁業と農業、新田開発
13．世界のエネルギー需給－石油、石炭、天然ガス、原子力
14．エネルギー需給からみる各国の特徴－ノルウェーなどを事例に
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※受講生の地誌Aの受講状況によって、順序や内容を大きく変更する可能性がある。
※受講人数によっては野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JM0060A01
科目名	哲学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy A		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学（philosophy）とは、ギリシア語におけるその語源にまでさかのぼれば、知（sophia）を愛すること（phileo)、すなわち、知的探求である。現代の知的状況が形作られたのは、十七世紀の科学の世界で起こった知的革命によってである。本講義では、（１）十七世紀を代表する哲学者デカルトをとりあげ、その哲学をまず紹介し、（２）次にその考え方の背景になった源流を古代思想からピックアップし、（３）最後にそのデカルト以後の知的営みの展開を概観したい。これらの紹介を通じて、知識、とりわけ厳密な科学的な知識はいかにして可能であるのか、という問題を考えてみたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	知識、とりわけ科学的な知識についてその由来を哲学史を手がかりに考える。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、デカルトの著作は文庫で読めるので、自分で読んでみよう。		

受講者への要望

（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１　導入－－１「哲学」という名称　２知的探求　３十七世紀の知的革命
２　科学革命－－１天動説から地動説へ　２力学の変化　３デカルトの位置
３　デカルトの学問観１－－１「理性を導く」　２道　３直観と演繹
４　デカルトの学問観２－－１「一切を疑う」　２悪霊の仮説　３「我思うゆえに我あり」
５　デカルトの学問観３－－１物心二元論　２「真理の種子」　３哲学の木
６　デカルトの自然学－－１目的論　２デカルトの機械論　３渦動宇宙
７　源流１－－１キリスト教　２ギリシア哲学　３ピュタゴラスの数学思想
８　源流２－－１プラトン　２「魂を肉体から解放する」　３想起説
９　源流３－－１アリストテレス　２経験と学問　３整理
１０　デカルト対ニュートン－－１ニュートン　２実験哲学
１１　経験論－－１ロック　２ヒューム
１２　カント１－－１若きカント　２超越論哲学
１３　カント２－－１感性と悟性　２コペルニクス的転回
１４　カッシーラー－－１合理論、経験論、そして超越論哲学　２カッシーラー　３シンボル形式の哲学
１５　「知識はどこから由来するか？」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0060A02
科目名	哲学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy A		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学（philosophy）とは、ギリシア語におけるその語源にまでさかのぼれば、知（sophia）を愛すること（phileo)、すなわち、知的探求である。現代の知的状況が形作られたのは、十七世紀の科学の世界で起こった知的革命によってである。本講義では、（１）十七世紀を代表する哲学者デカルトをとりあげ、その哲学をまず紹介し、（２）次にその考え方の背景になった源流を古代思想からピックアップし、（３）最後にそのデカルト以後の知的営みの展開を概観したい。これらの紹介を通じて、知識、とりわけ厳密な科学的な知識はいかにして可能であるのか、という問題を考えてみたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	知識、とりわけ科学的な知識についてその由来を哲学史を手がかりに考える。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、デカルトの著作は文庫で読めるので、自分で読んでみよう。		

受講者への要望

（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１　導入－－１「哲学」という名称　２知的探求　３十七世紀の知的革命
２　科学革命－－１天動説から地動説へ　２力学の変化　３デカルトの位置
３　デカルトの学問観１－－１「理性を導く」　２道　３直観と演繹
４　デカルトの学問観２－－１「一切を疑う」　２悪霊の仮説　３「我思うゆえに我あり」
５　デカルトの学問観３－－１物心二元論　２「真理の種子」　３哲学の木
６　デカルトの自然学－－１目的論　２デカルトの機械論　３渦動宇宙
７　源流１－－１キリスト教　２ギリシア哲学　３ピュタゴラスの数学思想
８　源流２－－１プラトン　２「魂を肉体から解放する」　３想起説
９　源流３－－１アリストテレス　２経験と学問　３整理
１０　デカルト対ニュートン－－１ニュートン　２実験哲学
１１　経験論－－１ロック　２ヒューム
１２　カント１－－１若きカント　２超越論哲学
１３　カント２－－１感性と悟性　２コペルニクス的転回
１４　カッシーラー－－１合理論、経験論、そして超越論哲学　２カッシーラー　３シンボル形式の哲学
１５　「知識はどこから由来するか？」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0060B01
科目名	哲学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy B		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

1　哲学とは？－－哲学の問い・哲学の特徴
2　哲学の始まり１－－ギリシア・インド・中国における神話の世界
3　哲学の始まり２－－ギリシア・インド・中国における哲学の登場
4　インドにおける哲学の始まり－－仏陀の思想
5　中国における哲学の始まり１－－孔子の思想
6　中国における哲学の始まり２－－道家・諸子百家の思想
7　ギリシアにおける哲学の始まり１－－ソクラテス・プラトン
8　ギリシアにおける哲学の始まり２－－ディアレクティケとレトリケの区別
9　古代哲学の継承－－ギリシア・インド・中国におけるその後
１０　西洋近代のスタート－－ルネサンス・大航海時代
１１　世界像の変遷１－－世界認識
１２　世界像の変遷２－－人生の目標
１３　世界像の変遷３－－ロマン主義
１４　日本の哲学思想１－－古代におけるインド・中国哲学の受容
１５　日本の哲学思想２－－近代における西洋哲学の受容

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0060B02
科目名	哲学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy B		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

1　哲学とは？－－哲学の問い・哲学の特徴
2　哲学の始まり１－－ギリシア・インド・中国における神話の世界
3　哲学の始まり２－－ギリシア・インド・中国における哲学の登場
4　インドにおける哲学の始まり－－仏陀の思想
5　中国における哲学の始まり１－－孔子の思想
6　中国における哲学の始まり２－－道家・諸子百家の思想
7　ギリシアにおける哲学の始まり１－－ソクラテス・プラトン
8　ギリシアにおける哲学の始まり２－－ディアレクティケとレトリケの区別
9　古代哲学の継承－－ギリシア・インド・中国におけるその後
１０　西洋近代のスタート－－ルネサンス・大航海時代
１１　世界像の変遷１－－世界認識
１２　世界像の変遷２－－人生の目標
１３　世界像の変遷３－－ロマン主義
１４　日本の哲学思想１－－古代におけるインド・中国哲学の受容
１５　日本の哲学思想２－－近代における西洋哲学の受容

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0063A01
科目名	東洋史概説 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History A		
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
講義概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を社会経済史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる日本との対比・関係を重視する。		
教材（テキスト）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず参照すること。 岡本隆司『近代中国史』ちくま新書（2013 年） 岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年）		
教材（参考文献）	岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会（2013 年） 岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績によって、評価をくだす。試験は論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
準備学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		
受講者への要望			
参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。			
講義の順序とポイント			
授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：公権力と社会 第３回：古代中世のアジア史――草原世界と農耕世界 第４回：二元的世界の形成――中国江南の開発と唐宋変革の世界史的意義 第５回：14 世紀の危機と明朝の世界史的位置 第６回：明から清へ――「近世」の日本との対比 第７回：マクロな社会経済動向 第８回：19 世紀の転換 第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本） 第１０回：動乱の時代と社会構成の変化 第１１回：「督撫重権」――アジアからの視点と国民国家と対比 第１２回：「洋務」の時代――日本・西アジアとの比較 第１３回：国民経済へ向かって 第１４回：産業革命と「黄金時代」――第一次大戦前後 第１５回：戦争と革命 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★★	★

年度	2016	授業コード	JM0063A02
科目名	東洋史概説 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History A		
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	中国史研究においては，伝統的に外交史に十分な蓄積がなされてこなかったが，近年は多くの成果が出ている分野である。前半は，19 世紀初めまでの政治・経済関係を中心とした中国と諸外国との関係を勉強する。後半は，国際法の受容や世界政治の中の中国外交の姿を辿っていく。それによって，中国と諸外国との関係がどのような歴史を歩んできたのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
中国史に対する基本的な知識を前提とするので，必要な場合は概説書などを読んでおくこと。少なくとも王朝の年代は覚えておくことが望ましい。			
講義の順序とポイント			
第１回 古代日本外交史 第２回 岳飛と秦檜 第３回 クビライの挑戦 第４回 永楽帝 第５回 長城の中国史 第６回 倭寇と勘合貿易 第７回 Vietnam and the Chinese Model 第８回 康熙帝の手紙 第９回 アジアの海の大英帝国 第１０回 万国公法の時代 第１１回 外交官の誕生 第１２回 革命とナショナリズム 第１３回 中国外交と国連の成立 第１４回 毛沢東の朝鮮戦争 第１５回 日中国交正常化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待				★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0063B01
科目名	東洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History B		
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
講義概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を政治外交史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる朝鮮・日本との関係を重視する。		
教材（テキスト）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず参照すること。 岡本隆司『李鴻章』岩波新書（2011 年） 岡本隆司『世界のなかの日清韓関係史』講談社選書メチエ（2008 年）		
教材（参考文献）	岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年） 岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績によって、評価をくだす。試験は論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
準備学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		

受講者への要望

参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。

講義の順序とポイント

授業計画
第１回：ガイダンス
第２回：「東アジアにおける古代の終末」――東アジア世界の特質と西アジア・中央アジア
第３回：多元化のアジア――宋・遼・金とイスラーム世界
第４回：モンゴル帝国の「混一」と「蒙古襲来」の位置づけ
第５回：14 世紀の危機と秩序の再編――「朝貢システム」とティムール・オスマン
第６回：大航海時代――16 世紀の世界
第７回：日本と満洲族の興起――17 世紀の北東アジア
第８回：清朝と徳川の平和――18 世紀の東アジアとイスラーム世界の危機
第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本）
第１０回：日清修好条規と日朝修好条規
第１１回：台湾出兵と琉球処分――西アジアとの比較
第１２回：李鴻章と対外関係――グレートゲームのなかで
第１３回：日清戦争――東アジアの分水嶺
第１４回：変法・反動・列強
第１５回：日露戦争から革命へ――アジアの変貌
定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★	★★

年度	2016	授業コード	JM0063B02
科目名	東洋史概説B	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History B		
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	ともすると，中国は停滞していると見做されてきた。それは西洋史の発展段階の図式に当て嵌まらなかったことが大きな要因の一つとなっている。しかし，ひとまず西洋史の枠組みを離れて中国史を観察してみると，その長い歴史に多くの変遷があったこと に気づくだろう。中国の社会はいかなる歴史的変化を経験して今日に至っているのか。政治と社会の変化はどのように連動しているのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）	岡本隆司『近代中国史』（ちくま新書）筑摩書房, 2013 年 288p, ISBN: 978-4-480-06724-1。		
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期間に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
中国史に対する基本的な知識を前提とするので，必要な場合は概説書などを読んでおくこと。少なくとも王朝の年代は覚えておくことが望ましい。			
講義の順序とポイント			
第１回 歴史からみる中国 第２回 唐宋の変革と官僚制 第３回 王安石 第４回 大モンゴルの世界 第５回 中国の大盗賊 第６回 万暦十五年 第７回 徽州商人と明清中国 第８回 明清交替と江南社会 第９回 雍正帝 第１０回 「清朝考証学」とその時代 第１１回 李鴻章 第１２回 軍紳政権 第１３回 中国革命の起源(Les origines de la r?volution chinoise) 第１４回 The Last Emperor 第１５回 日本にとって中国とは何か			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待				★	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0064A01
科目名	統計学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Statistics A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるよ うに心がけること。		
受講者への要望			
数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。			
講義の順序とポイント			
1.統計と情報 2.データの視覚的なまとめ 3.代表値－平均値 4.散布度－分散・標準偏差 5.散布図と相関係数 6.回帰分析 7.事象と確率 8.データの処理と確率について総合演習 9.確率変数 10.9.2 次元以上の確率分布 11.二項分布 12.ポアソン分布 13.正規分布 14.統計量の分布 15.確率分布について総合演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0064A02
科目名	統計学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Statistics A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるよ うに心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.9.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0065001
科目名	統計分析の基礎	単位数	4
科目名（英語表記）	The Basic of Metric Analysis		
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	日常生活でも視聴率や世論調査などで広く用いられており、心理学など文系科目にとっても必須である統計学について、基本的なことを解説する。単なる公式の暗記ではなく、統計学の基礎的な考え方がどのように形成されるのか、具体例を挙げながら考えて行く。 特に数学は自分の手で問題を解かないと理解が進まないので、積極的に問題を解いて欲しい。 数列と和の記号、順列と組み合わせといった高校の復習も適宜行う。それから、データをヒストグラム（度数分布図）を使って視覚化したり、平均値や分散のような数値として表わす方法を学習する。次に、確率変数と期待値の基礎も学ぶ。さらに二項分布、正規分布などの確率分布の性質を調べ、推定や検定の考え方や、その方法を解説する。 適宜、エクセルでの統計データの扱い方についても触れる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	小寺平治、『新統計入門』、裳華房、1996 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（１０点、出席状況等による）＋授業時間内の小テスト（３回×１０点＝３０点）＋定期試験（６０点）		
到達目標	統計学の基本的な考え方を学んでいく。		
準備学習	積極的な姿勢で講義に臨むようにしてください。		

受講者への要望

積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。

講義の順序とポイント

1. 数列と等差数列：数列とは何か、数列の中でも基本的な等差数列とその和の求め方を学ぶ。
2. 等比数列：等比数列の考え方を学び、一般項を求める。
3. 和の記号 Σ：和の記号 Σ の定義とその線形性、簡単な数列の和の求め方を学ぶ。
4. 度数分布表とヒストグラム：与えられたデータを度数分布表と累積度数分布表にまとめ、ヒストグラムにして見やすくする。
5. 代表値：平均・メディアン・モード：データを一つの値で代表させる代表値３種類と、それらの違いを考える。
6. 度数分布表から代表値を求める方法：個々のデータが与えられていなくても、度数分布表から代表値が求められる。
7. 散布度：分散・標準偏差・四分偏差：データの分布を知るには代表値だけでなく、データのばらつきを示す指標も必要である。
8. 相関係数とクロス集計：２種類のデータを集計する方法を学ぶ。また、相関関係と因果関係の違いについても考える。
9. 小テスト・１：1〜8 で扱った範囲の理解度を見ます。
10. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
11. 集合と場合の数：集合の表し方と、起こりうる全ての場合の数え上げを学ぶ。
12. 順列と組み合わせ：順列と考え方と、計算法を学ぶ。
13. 組み合わせ：組み合わせの考え方と、計算法を学ぶ。
14. 確率とその計算：確率の定義と意味、その基本性質を学ぶ。
15. 確率変数と期待値：確率変数と確率分布の意味、期待値の考え方と計算の仕方を学ぶ。
16. 二項分布：コインやサイコロを投げたときの確率分布である二項分布を考える。
17. 標準正規分布と正規分布表の見方：正規分布の特徴と正規分布表の見方を学ぶ。
18. 正規分布の標準化：一般の正規分布を標準正規分布に変換する方法を学ぶ。
19. 小テスト・２：11〜18 で扱った範囲の理解度を見ます。
20. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
21. 標本調査の考え方：全数調査と標本調査、母集団や無作為抽出の意味を考える。
22. 区間推定：正規分布を使った、母平均の区間推定を行う。
23. ｔ分布：t 分布と、t 分布を使った区間推定を学ぶ。
24. 仮説検定と母平均の検定：仮説検定とは何かを考えた上で、正規分布と t 分布を使って母平均の仮説検定を行う。
25. 母比率の差の検定：二項分布または正規分布を使って、母比率の差の仮説検定を行う。
26. ２次元確率変数と確率変数の独立性：２つの確率変数の扱い方と、独立性の意味を考える。
27. カイ二乗分布・適合度・独立性の検定：カイ二乗分布を使って、適合度と独立性の検定を行う。

28. 小テスト・３：21～27 で扱った範囲の理解度を見ます。
29. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
30. これまで学んだ事柄を、エクセルで実行します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0065002
科目名	統計分析の基礎	単位数	4
科目名（英語表記）	The Basic of Metric Analysis		
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	日常生活でも視聴率や世論調査などで広く用いられており、心理学など文系科目にとっても必須である統計学について、基本的なことを解説する。単なる公式の暗記ではなく、統計学の基礎的な考え方がどのように形成されるのか、具体例を挙げながら考えて行く。 特に数学は自分の手で問題を解かないと理解が進まないので、積極的に問題を解いて欲しい。 数列と和の記号、順列と組み合わせといった高校の復習も適宜行う。それから、データをヒストグラム（度数分布図）を使って視覚化したり、平均値や分散のような数値として表わす方法を学習する。次に、確率変数と期待値の基礎も学ぶ。さらに二項分布、正規分布などの確率分布の性質を調べ、推定や検定の考え方や、その方法を解説する。 適宜、エクセルでの統計データの扱い方についても触れる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	小寺平治、『新統計入門』、裳華房、1996 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（１０点、出席状況等による）＋授業時間内の小テスト（３回×１０点＝３０点）＋定期試験（６０点）		
到達目標	統計学の基本的な考え方を学んでいく。		
準備学習	積極的な姿勢で講義に臨むようにしてください。		

受講者への要望

積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。

講義の順序とポイント

1. 数列と等差数列：数列とは何か、数列の中でも基本的な等差数列とその和の求め方を学ぶ。
2. 等比数列：等比数列の考え方を学び、一般項を求める。
3. 和の記号 Σ：和の記号 Σ の定義とその線形性、簡単な数列の和の求め方を学ぶ。
4. 度数分布表とヒストグラム：与えられたデータを度数分布表と累積度数分布表にまとめ、ヒストグラムにして見やすくする。
5. 代表値：平均・メディアン・モード：データを一つの値で代表させる代表値３種類と、それらの違いを考える。
6. 度数分布表から代表値を求める方法：個々のデータが与えられていなくても、度数分布表から代表値が求められる。
7. 散布度：分散・標準偏差・四分偏差：データの分布を知るには代表値だけでなく、データのばらつきを示す指標も必要である。
8. 相関係数とクロス集計：２種類のデータを集計する方法を学ぶ。また、相関関係と因果関係の違いについても考える。
9. 小テスト・１：1〜8 で扱った範囲の理解度を見ます。
10. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
11. 集合と場合の数：集合の表し方と、起こりうる全ての場合の数え上げを学ぶ。
12. 順列と組み合わせ：順列と考え方と、計算法を学ぶ。
13. 組み合わせ：組み合わせの考え方と、計算法を学ぶ。
14. 確率とその計算：確率の定義と意味、その基本性質を学ぶ。
15. 確率変数と期待値：確率変数と確率分布の意味、期待値の考え方と計算の仕方を学ぶ。
16. 二項分布：コインやサイコロを投げたときの確率分布である二項分布を考える。
17. 標準正規分布と正規分布表の見方：正規分布の特徴と正規分布表の見方を学ぶ。
18. 正規分布の標準化：一般の正規分布を標準正規分布に変換する方法を学ぶ。
19. 小テスト・２：11〜18 で扱った範囲の理解度を見ます。
20. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
21. 標本調査の考え方：全数調査と標本調査、母集団や無作為抽出の意味を考える。
22. 区間推定：正規分布を使った、母平均の区間推定を行う。
23. ｔ分布：t 分布と、t 分布を使った区間推定を学ぶ。
24. 仮説検定と母平均の検定：仮説検定とは何かを考えた上で、正規分布と t 分布を使って母平均の仮説検定を行う。
25. 母比率の差の検定：二項分布または正規分布を使って、母比率の差の仮説検定を行う。
26. ２次元確率変数と確率変数の独立性：２つの確率変数の扱い方と、独立性の意味を考える。
27. カイ二乗分布・適合度・独立性の検定：カイ二乗分布を使って、適合度と独立性の検定を行う。

28. 小テスト・３：21～27 で扱った範囲の理解度を見ます。
29. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
30. これまで学んだ事柄を、エクセルで実行します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0066A01
科目名	日本の文学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。 ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席・発言等の平常点（40%）　課題（30%×２）		
到達目標	古典と京都に実感的に親しむ。自分の知識として作品を知り、自分の心でそれを味わう。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。		
準備学習	本授業は基礎的教養の養生を目指すので、予備知識は不要。もちろん古典好き・史跡好きは歓迎する。 予習よりも、各講義時間でしっかり味わうことが重要。成果については毎回講義時に問う。		

受講者への要望

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

講義の順序とポイント

1　単位取得方法の説明等
2　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生１
3　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生２
4　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生３
5　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生４
6　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生５
7　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生６
8　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生７
9　安倍晴明　平安京ミステリー１
10　安倍晴明　平安京ミステリー２
11　安倍晴明　平安京ミステリー３
12　安倍晴明　平安京ミステリー４
13　安倍晴明　平安京ミステリー５
14　安倍晴明　平安京ミステリー　６
15　安倍晴明　平安京ミステリー　７（レポート外授業）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0066A02
科目名	日本の文学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。 ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席・発言等の平常点（40%）　課題（30%×２）		
到達目標	古典と京都に実感的に親しむ。自分の知識として作品を知り、自分の心でそれを味わう。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。		
準備学習	本授業は基礎的教養の養生を目指すので、予備知識は不要。もちろん古典好き・史跡好きは歓迎する。 予習よりも、各講義時間でしっかり味わうことが重要。成果については毎回講義時に問う。		

受講者への要望

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

講義の順序とポイント

1　単位取得方法の説明等
2　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生１
3　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生２
4　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生３
5　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生４
6　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生５
7　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生６
8　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生７
9　安倍晴明　平安京ミステリー１
10　安倍晴明　平安京ミステリー２
11　安倍晴明　平安京ミステリー３
12　安倍晴明　平安京ミステリー４
13　安倍晴明　平安京ミステリー５
14　安倍晴明　平安京ミステリー　６
15　安倍晴明　平安京ミステリー　７（レポート外授業）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0066B01
科目名	日本の文学B	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature B		
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの志向や体験を相対化する一助となるであろう。 京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。 また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。 古典文学を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての基礎知識を身につけることができるようにする。		
教材（テキスト）	無し。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（50%）　定期試験（50%）		
到達目標	・日本古典文学を通して、日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
準備学習	配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講者への要望

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺　『今昔物語集』
2 比叡山　『伊勢物語』
3　三十三間堂　『平家物語』(1)
4　三十三間堂　『平家物語』(2)
5　清水寺　『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺『ものくさ太郎』(2)　『義経記』
7 北野天満宮　『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
8 北野天満宮　『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)
9　野宮神社　『源氏物語』
10 貴船神社　『鉄輪』　和歌
11 伏見稲荷　『枕草子』
12 下鴨神社『方丈記』
13 仁和寺『徒然草』

14　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受）(1)　 『新古今和歌集』 15　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受（2）　 『更級日記』　　レポート提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	―	★	★★	－

年度	2016	授業コード	JM0066B02
科目名	日本の文学B	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature B		
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの志向や体験を相対化する一助となるであろう。 京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。 また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。 古典文学を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての基礎知識を身につけることができるようにする。		
教材（テキスト）	無し。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（50%）　定期試験（50%）		
到達目標	・日本古典文学を通して、日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
準備学習	配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講者への要望

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺　『今昔物語集』
2 比叡山　『伊勢物語』
3　三十三間堂　『平家物語』(1)
4　三十三間堂　『平家物語』(2)
5　清水寺　『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺『ものくさ太郎』(2)　『義経記』
7 北野天満宮　『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
8 北野天満宮　『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)
9　野宮神社　『源氏物語』
10 貴船神社　『鉄輪』　和歌
11 伏見稲荷　『枕草子』
12 下鴨神社『方丈記』
13 仁和寺『徒然草』

14　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受）(1)　『新古今和歌集』 15　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受（2）　『更級日記』　　レポート提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JM0068001
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	社会人として必要な「書く」「話す」力を習得する。 必要な情報を、適切な構成で分かりやすく相手に伝える。また、一般社会で用いられる定型的な言語表現や、敬語といった言葉を運用する上でのマナーについても身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席、提出課題 50%、学期末課題 50%で総合的に評価する		
到達目標	社会人として必要な日本語表現法を身につける		
準備学習	ニュース、新聞記事などについて、内容だけではなく、含まれている情報や文章としての構成などに注目して読む習慣をつける。		
受講者への要望			
毎回、文章を書く課題を出す。間違いを恐れず積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス　言葉を使う上でのトラブル 2　場所や交通を案内する 3　企画や提案を出す 4　日本語弱者のことを考えて書く 5　レポート、論文を書く①事実と意見 6　レポート、論文を書く②データを引用する 7　レポート、論文を書く③基本的な構成 8　レポート、論文を書く④様々な論の展開 9　復習テスト　レポートの作成 １０　ビジネスメール①基本、敬語 １１　ビジネスメール②依頼、問い合わせ １２　ビジネスメール③確認、回答 １３　ビジネスメール④案内 １４　自己アピールをする① １５　自己アピールをする②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0068002
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	日本語の表現法を様々な状況において上達することを目標とする。トピックとしては①レポートや学術論文の書き方②要約文③文学作品における文学的表現④手紙文（私信、ビジネス文書）などを取り上げる。 具体的には、毎回授業で、ある日本語の表現法を取り上げ、解説を行った後、作文の課題を出してその場で短い作文を作ってもらい、それを講評することで学生諸君の文章表現力の上達を促したい。		
教材（テキスト）	『日本語表現法』西尾宣明編著　樹村房（平成 26 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業時に書いてもらう自分自身の小作文と、他の学生の小作文に関する講評への貢献度		
到達目標	大学生として恥ずかしくない文章表現の常識を身につける。		
準備学習	新聞を毎日読む習慣をつけてほしい。また次の授業で扱うテクストの章を事前に読み、解らない言葉は辞書をひいておくこと。練習問題を事前にやっておくこと。		
受講者への要望			
必ずテクストは購入してください。			
講義の順序とポイント			
毎回、役に立つ日本語の表現法とその歴史的背景を解説する。その後、課題を与えるので各自作文を行ってもらう。そして前回の作文の講評を行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	★★

年度	2016	授業コード	JM0068003
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	日本語の表現法を様々な状況において上達することを目標とする。トピックとしては①レポートや学術論文の書き方②要約文③文学作品における文学的表現④手紙文（私信、ビジネス文書）などを取り上げる。 具体的には、毎回授業で、ある日本語の表現法を取り上げ、解説を行った後、作文の課題を出してその場で短い作文を作ってもらい、それを講評することで学生諸君の文章表現力の上達を促したい。		
教材（テキスト）	『日本語表現法』西尾宣明編著　樹村房（平成 26 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業時に書いてもらう自分自身の小作文と、他の学生の小作文に関する講評への貢献度		
到達目標	大学生として恥ずかしくない文章表現の常識を身につける。		
準備学習	新聞を毎日読む習慣をつけてほしい。また次の授業で扱うテクストの章を事前に読み、解らない言葉は辞書をひいておくこと。練習問題を事前にやっておくこと。		
受講者への要望			
必ずテクストは購入してください。			
講義の順序とポイント			
毎回、役に立つ日本語の表現法とその歴史的背景を解説する。その後、課題を与えるので各自作文を行ってもらう。そして前回の作文の講評を行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	★★

年度	2016	授業コード	JM0068005
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	社会人として必要な「書く」「話す」力を習得する。 必要な情報を、適切な構成で分かりやすく相手に伝える。また、一般社会で用いられる定型的な言語表現や、敬語といった言葉を運用する上でのマナーについても身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席、提出課題 50%、学期末課題 50%で総合的に評価する		
到達目標	社会人として必要な日本語表現法を身につける		
準備学習	ニュース、新聞記事などについて、内容だけではなく、含まれている情報や文章としての構成などに注目して読む習慣をつける。		
受講者への要望			
毎回、文章を書く課題を出す。間違いを恐れず積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス　言葉を使う上でのトラブル 2　場所や交通を案内する 3　企画や提案を出す 4　日本語弱者のことを考えて書く 5　レポート、論文を書く①事実と意見 6　レポート、論文を書く②データを引用する 7　レポート、論文を書く③基本的な構成 8　レポート、論文を書く④様々な論の展開 9　復習テスト　レポートの作成 １０　ビジネスメール①基本、敬語 １１　ビジネスメール②依頼、問い合わせ １２　ビジネスメール③確認、回答 １３　ビジネスメール④案内 １４　自己アピールをする① １５　自己アピールをする②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0069A01
科目名	日本史概説A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan A		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学では、年号やキーワードの暗記ではなく、その出来事の歴史的な意味を論理的に考えることが重要です。また歴史といえば、テレビドラマやコミック漫画、ゲーム等で描かれることの多い、戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。が、歴史は一部の有名人だけで成り立つわけではありません。本授業では、日本の近世から近代（江戸、幕末維新、明治、大正、昭和時代）の歴史に関する、さまざまなトピックをとりあげながら、歴史学の基本―史料・資料に基づき、過去の社会のありようや人びとの営みを明らかにする―を学び、歴史的な感覚を養ってもらいます。		
教材（テキスト）	とくに使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（出席、小レポート等）50% 学期末課題（レポート）50%		
到達目標	日本史、とくに近世から近代までの歴史の大きな流れを把握して、史料から歴史をよみとく歴史学の学問的な特徴を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマ等の歴史ドラマを見たり、近所の史跡・神社仏閣・石碑等にしたしむなどⅠ普段の生活のなかで歴史を意識するよう心掛けてください。また講義の後にはかならずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
ばくぜんと受け身で聴くのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢で授業にのぞんでください。積極的な疑問・感想の提出をもとめます。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　NHK 朝の連続テレビ小説「あさが来た」から歴史を考える 3　歴史学と歴史創作　―新選組を事例に― 4　古文書のなかの新選組 5　風説書の世界 6　「志士」の創造 7　名所図会の世界 8　旅の文化 9　初詣の歴史 １０　江戸時代の法 １１　江戸時代のゴミ問題 １２　江戸時代の祇園祭 １３　坂本龍馬の書状をよみとく １４　歴史書の裏側 １５　日記をつづるということ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0069A02
科目名	日本史概説A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	日本の古代から中世後期にいたる歴史の展開を、近年の歴史研究の達成を踏まえ、政治史を中心に文化・社会の諸方面にわたって考察する。特に文化や意識が歴史に与えた影響や東アジア世界が日本の社会に及ぼした影響について、ていねいに考察したい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業で毎回実施する小テスト（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	・日本の古代中世についての最新の歴史の見方を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講者への要望			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
講義の順序とポイント			
1.なぜ歴史を学ぶのか？ 2.東アジアと古代朝廷 3.平安前期の朝廷 4.平安京の光と影 5.中世は武士の時代か 6.王朝国家体制 7.中世王権の登場 8.荘園公領制の成立 9.平氏政権と『平家物語』 10.鎌倉幕府の成立 11.大殿九条道家と将軍九条頼経 12.仏教革新運動の登場 13.モンゴル襲来 14.室町幕府と東アジア世界 15.京都の文化財と戦争			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0069B01
科目名	日本史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan B		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学では、年号やキーワードの暗記ではなく、その出来事の歴史的な意味を論理的に考えることが重要です。また歴史といえば、テレビドラマやコミック漫画、ゲーム等で描かれることの多い、戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。が、歴史は一部の有名人だけで成り立つわけではありません。本授業では、日本の近世から近代（江戸、幕末維新、明治、大正、昭和時代）の歴史に関する、さまざまなトピックをとりあげながら、歴史学の基本―史料・資料に基づき、過去の社会のありようや人びとの営みを明らかにする―を学び、歴史的な感覚を養ってもらいます。		
教材（テキスト）	とくに使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（出席、小レポート等）50％ 学期末課題（レポート）50％		
到達目標	日本史、とくに近世から近代の歴史の大きな流れを把握して、史料から歴史をよみとく歴史学の学問的な特徴を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマ等の歴史ドラマを見たり、近所の史跡・神社仏閣・石碑等にしたしむなどＩ普段の生活のなかで歴史を意識するよう心掛けてください。また講義の後にはかならずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
ばくぜんと受け身で聴くのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢で授業にのぞんでください。積極的な疑問・感想の提出をもとめます。			
講義の順序とポイント			
１　ガイダンス ２　NHK 大河ドラマ「真田丸」から歴史を考える ３　歴史学と歴史小説　―島崎藤村『夜明け前』を事例に― ４　亀岡祭りの歴史 ５　京への道　―山陰道から山陰線へ― ６　丹波亀山城の近世近代 ７　由緒書から歴史を考える ８　「お墓」の誕生 ９　石造物から歴史をよみとく　―津波の記録― １０　幕末京都の戦災 １１　亀岡の戦争記念碑 １２　「故郷」の発見 １３　郷土史をつづるということ １４　「国語」「国史」の誕生 １５　外国人から見た日本			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0069B02
科目名	日本史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学で学ぶ歴史では、年号の暗記を求められたりはしません。また歴史といえば、テレビや漫画などで描かれる戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。しかし歴史は一部の有名人だけが活躍するものではありません。本講義では、主に江戸時代以降の日本史に関して、さまざまな話題をとりあげながら、歴史学の基本である、史料に基づきながら、過去の社会のありようや人々の営みを明らかにする手法を学び、当時の社会の仕組みや、その歴史の流れを把握してもらいます。		
教材（テキスト）	特に使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の感想・質問ペーパー（50%） 定期テスト（50%）		
到達目標	日本の社会や文化の歴史にかんして興味をもち、それを深く知るために、史料から歴史を読み解く歴史学の学問としての基礎を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマをみたり、近所の神社仏閣に訪れたり、普段の生活のなかで歴史を意識してみて下さい。また講義の後は必ずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。			
講義の順序とポイント			
第１回：歴史と歴史学 第２回：歴史と史料について 第３回：秀吉の平和 第４回：島原の乱と考古史料 第５回：江戸幕府の政治体制と史料批判 第６回：生類憐れみの令と〈子供〉の発見 第７回：江戸時代の教育 第８回：都市京都の発展と祇園の舞妓はん 第９回：江戸時代の病とその対処 第１０回：新選組！ 第１１回：戊辰戦争と天皇 第１２回：近代社会と年中行事 第１３回：自由民権運動と民衆・国民 第１４回：戦争と軍隊 第１５回：災害と社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0070001
科目名	梅岩「心学」研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Ethics of Ishida Baigan		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
講義概要	石田梅岩（１６８５～１７４４）は、丹波国桑田郡東懸村（現在の亀岡市東別院東掛）の出身です。梅岩は、人間社会における君臣・父子・夫婦・長幼・朋友の５つの基本的関係を正しく保つための道（「五倫の道」）を、人びとが実行するよう教え導くことを、自身の学問の目的と考えました。そのため性を知ること（＝知性）と、人間の本質である「心」を知ることを、心学修行の１つの到達点としました。この心学の修行と、それぞれの家業の実践とを１つに統合したところに、梅岩教学の特色があります。講義では、梅岩の著した『都鄙問答』を中心に、門人たちによる「道話」も取り入れて、梅岩の教えについての理解を深めます。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	授業は、パワーポイントを活用します。		
評価方法	各講義で授業中に毎回課す小レポート（５０％）と、講義期間中に２回課す課題レポート（５０％）		
到達目標	梅岩の教えを理解し、現代社会において、その教えのもつ意味を考えることを目標とします。		
準備学習	毎回、講義終了時に次回の講義資料を配布します。次回の講義までに読んで、内容を把握しておいて下さい。		
受講者への要望			
授業では毎回、自分の考えを整理し、まとめ、「書く」作業をおこないます。物事をじっくり考える姿勢を心がけて下さい。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、石田梅岩の生い立ちと業績 ３、心を尽くして性を知る ４、商人の社会的役割 ５、「道話」から　；その１ ６、商人にとって学問の必要性 ７、正直とは ８、「道話」から　；その２ ９、私欲ということ １０、私心と公共心 １１、梅岩門人たちの活動 １２、社会に目を向ける；その１ １３、倹約論 １４、生き方を問う １５、社会に目を向ける；その２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0071A01
科目名	美術工芸史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Artistic Handicrafts History A		
担当者名	角谷　江津子	旧科目名称	
講義概要	工芸史は芸術分野では絵画・彫刻に比べ地味でそれほど注目を浴びないが、人々の生活に深くかかわりを持ち、各時代の生活史を反映している。本講義では、まず「工芸」の概念をとらえ、その工芸のなかから特に日本の陶磁器を中心に先史時代から中世・近世までを概説していく。陶磁器は人間生活に密着しており、その歴史を概観することで、各時代の生活・文化との関わりにもふれ、ひろく文化史的な立場より考えていく。各時代の造形感覚が、作品の文様・形体にどのように表現されているかなどの「もの」としての陶磁器についてもあわせて言及していく。 経営学科 設置科目であることから、窯の経営、殖産興業としての側面、工芸品の需要と供給などの観点にも着目していく。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリントなど配布。		
教材（参考文献）	矢部良明『日本やきもの史』　美術出版社　1998 年		
教材（その他）			
評価方法	授業態度・課題(小レポート）等の提出状況 をふくむ平常点　10～30%　定期テスト（あるいはレポート）70%		
到達目標	日本の陶磁器の歴史とそれが生み出された時代を理解すること。また陶磁器を見て、基本的なものについてはその特徴などから区別ができること。		
準備学習	日本の歴史に関心をもち、博物館・美術館あるいは書籍などで陶磁器を見て親しむこと。 毎回、授業終了時に、授業内容に関する小レポートを書いて提出させるので、授業を集中して聞くこと、。 毎回授業の最初に前回内容に関わる復習をするので、きちんと復習しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻はしないこと。また、主体的に聴講すること。			
講義の順序とポイント			
1　工芸の概念 2　日本の陶磁史入門 3　縄文土器 4　弥生土器 5　須恵器・土師器 6　奈良三彩 7　緑釉陶器と灰釉陶器 8　中世日本の窯業 9　茶の湯の成立と陶磁器 １０　茶の湯の発展と窯業の展開 １１　日本における磁器生産の開始 １２　京都における窯業生産の歴史 １３　近世 京焼の発展 １４　陶磁の東西交流 １５　出土陶磁器研究と美術工芸史 以上は予定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0071B01
科目名	美術工芸史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Artistic Handicrafts History B		
担当者名	角谷　江津子	旧科目名称	
講義概要	工芸史は芸術分野では絵画・彫刻に比べ地味でそれほど注目を浴びないが、人々の生活に深くかかわりを持ち、各時代の生活史を反映している。本講義では、まず「工芸」の概念をとらえ、その工芸のなかから特に世界の陶磁器を広くアジアからヨーロッパまでを概説していく。陶磁器は人間生活に密着しており、その歴史を概観することで、各時代の生活・文化との関わりにもふれ、ひろく文化史的な立場より考えていく。各時代の造形感覚が、作品の文様・形体にどのように表現されているかなどの「もの」としての陶磁器についてもあわせて言及していく。 経営学部設置科目であることから、窯の経営、殖産興業としての側面、工芸品の需要と供給などの観点にも着目していく。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリントなど配布。		
教材（参考文献）	長谷部楽爾『世界やきもの史』　美術出版社　1999 年		
教材（その他）			
評価方法	授業態度・課題等の提出状況をふくむ平常点　10～30%　定期テスト（あるいはレポート）　70%		
到達目標	世界の陶磁器の歴史と、それが生み出された地域の特色と時代を理解すること。また陶磁器を見て、基本的なものについてはその特徴などから区別ができること。		
準備学習	世界の歴史と地理に関心をもち、博物館・美術館あるいは書籍などで陶磁器を見て親しむこと。 毎回、授業終了時に、授業内容に関する小レポートを書いて提出させるので、授業を集中して聞くこと。 毎回授業の最初に前回内容に関わる復習をするので、きちんと復習しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻はしないこと。また、主体的に聴講すること。			
講義の順序とポイント			
1　工芸の概念―世界の陶磁史研究にあたって 2　世界の陶磁史入門 3　先史時代の土器 4　ギリシャ・ローマ陶器 5　中国大陸の陶磁器Ⅰ（古代） 6　中国大陸の陶磁器Ⅱ（中世） 7　中国大陸の陶磁器Ⅲ（近世） 8　朝鮮半島の陶磁器 9　世界に輸出される中国磁器 １０　イスラム陶器Ⅰ １１　イスラム陶器Ⅱ １２　ヨーロッパの陶器Ⅰ １３　ヨーロッパの陶器Ⅱ（磁器の生産開始） １４　ヨーロッパの陶器Ⅲ（磁器の展開） １５　現代の美術工芸―課題と展望 以上は予定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0072A01
科目名	物質の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science A		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	物質は物理的・化学的に還元することにより、その属性を説明することができる。身の回りのさまざまな物質を取り上げ、その属性が物質の基本構成単位である原子とその振る舞いで決まっていることを講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・桜井弘編 『元素 111 の新知識』　講談社 ・鈴木孝弘著 『新しい物質の科学　改訂 2 版』　オーム社		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	さまざまな物質が共通のシンプルな原理で成り立っていることを理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス 2.　原子 3.　元素・周期表 4.　放射性物質 5.　金属 6.　希ガス 7.　炭素・ケイ素 8.　レアアース・レアメタル 9.　水 10.　塩 11　.酸素・二酸化炭素 12.　繊維 13.　毒物質 14.　におい物質 15.　物質と生物			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0072A02
科目名	物質の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学 f
講義概要	自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。 この授業は、日常生活で体験するような身近な自然現象を通して、その基本概念と法則を理解し、自然現象を科学的に捉える態度を身につけることを目標としている。具体的には、音と光、物質と原子、原子核と放射線などを題材にして、講義形式で授業を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1．物質の科学の講義について 2．音と光(1)　音 3．音と光(2)　波 4．音と光(3)　光 5．音と光(4)　電磁波 6．物質と原子(1)　物質と原子 7．物質と原子(2)　原子 8．物質と原子(3)　原子と光 9．物質と原子(4)　オーロラ１ 10．物質と原子(5)　オーロラ２ 11．原子核と放射線(1)　原子と原子核 12．原子核と放射線(2)　不安定な原子 13．原子核と放射線(3)　身のまわりの放射線 14．原子核と放射線(4)　放射線の影響 15．原子核と放射線(5)　放射線の利用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0072B01
科目名	物質の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学ｓ
講義概要	自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。 この講義では、日常生活で体験する自然現象やそこで利用している科学技術を通して、その根本に横たわる基本的な物理現象や法則について勉強します。前半は、光の関係する現象（虹と青空）を考察することによって、光の性質や物質の性質について理解を深めます。後半は、電気と磁気の現象を利用した機器（電子レンジと電磁調理器）を通して、電磁波の性質や物質の性質について理解を深めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1　物質の科学の講義について 2　光のはなし(1)　光の性質１ 3　光のはなし(2)　光の性質２ 4　光のはなし(3)　光と電磁波 5　虹のはなし(1)　虹の現象 6　虹のはなし(2)　光の分散と虹 7　青空のはなし(1)　青空の現象 8　青空のはなし(2)　光と粒子の散乱 9　電磁気のはなし(1)　電気と磁気の現象 10　電磁気のはなし(2)　電場と磁場 11　電磁気のはなし(3)　電磁波 12　電子レンジのはなし(1)　電子レンジの構造 13　電子レンジのはなし(2)　電子レンジの発熱の原理 14　電磁調理器のはなし(1)　電磁調理器の構造 15　電磁調理器のはなし(2)　電磁調理器の発熱の原理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0072B02
科目名	物質の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学ｓ
講義概要	自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。 この講義では、日常生活で体験する自然現象やそこで利用している科学技術を通して、その根本に横たわる基本的な物理現象や法則について勉強します。前半は、光の関係する現象（虹と青空）を考察することによって、光の性質や物質の性質について理解を深めます。後半は、電気と磁気の現象を利用した機器（電子レンジと電磁調理器）を通して、電磁波の性質や物質の性質について理解を深めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1　物質の科学の講義について 2　光のはなし(1)　光の性質１ 3　光のはなし(2)　光の性質２ 4　光のはなし(3)　光と電磁波 5　虹のはなし(1)　虹の現象 6　虹のはなし(2)　光の分散と虹 7　青空のはなし(1)　青空の現象 8　青空のはなし(2)　光と粒子の散乱 9　電磁気のはなし(1)　電気と磁気の現象 10　電磁気のはなし(2)　電場と磁場 11　電磁気のはなし(3)　電磁波 12　電子レンジのはなし(1)　電子レンジの構造 13　電子レンジのはなし(2)　電子レンジの発熱の原理 14　電磁調理器のはなし(1)　電磁調理器の構造 15　電磁調理器のはなし(2)　電磁調理器の発熱の原理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0073A01
科目名	文化人類学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、人間の日々の営みから、文化とはなにか、人間とはなにかを考える学問です。 春学期は、関係性に注目して、それらを考えてみましょう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末考査、授業内提出物、授業内発表などを総合的に評価する。		
到達目標	文化人類学とはどのような学問であるかを理解するとともに、フィールドワークの実践を試みる。		
準備学習	講義中に挙げられた文献は読んでおくこと。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
１人間の鏡 ２わたしとあなたを分かつもの ３わたしとあなたを繋ぐもの ４出自 ５イエ ６親子 ７贈り物をすると幸せになる ８モノの交換 ９結婚 １０言葉の交換 １１物資と記憶 １２わたしが上の世代からもらって次の世代に引き継ぎたいもの １３作ってみよう １４映像の世界 １５作品発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★
○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	JM0073A02
科目名	文化人類学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology A		
担当者名	梶丸　岳	旧科目名称	
講義概要	本講義では文化人類学の幅広い研究領域を紹介しながら、文化人類学によって人びとの世界がどのように捉えられるかを学ぶ。まず文化人類学の歴史を振り返ったあと、宗教、親族、生業、贈与と交換、認識やコミュニケーション、さらにアイデンティティをめぐる研究を解説する。文化人類学は参与観察を基本とするフィールドワークから他者を、そして世界を見る学問である。文化人類学的な世界の見方を学ぶことを通して、世界と人間の在り方の多様さを知り、社会で生きていくうえで欠かせない柔軟な視野を獲得してほしい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	山下晋司・船曳健夫（編）『文化人類学キーワード　改訂版』有斐閣　1785 円		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（15%）：出席状況等による。 小テスト（45%）：小テストは第 4 回、10 回、15 回講義の終わりに実施し、各 15%の評価とする。 定期テスト（40%）：春学期全体の講義内容から出題する。カンニングは一律 0 点とする。		
到達目標	文化人類学がこれまで明らかにしてきたことや方法論について理解する。とりわけ、講義内で解説する文化人類学のものの見方や概念について理解し、自分のものとして応用することができる。		
準備学習	参考文献は講義で直接とりあげることはないが、文化人類学の多彩なテーマについて簡潔に解説してあるものなのでなるべく入手したうえで講義内容と関係する部分の予習をしてくること。また、講義内容を復習するとともにさまざまな文化人類学の関連書籍を読んで講義内容に対して理解を深めること。		
受講者への要望			
他の受講生の迷惑となるような私語などの行為は厳に慎むように。遅刻も認めない。 小テストおよび定期テストは講義内容に基づいて出題するので、必ずテスト前には出題範囲について復習をすること。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：文化人類学とはなにか 2. 人類学の歴史（1）：進化論と伝播論 3. 人類学の歴史（2）：機能主義から象徴主義まで 4. 宗教と世界観 5. 親族とは誰か？ 6. 生業の世界（1）：狩猟採集民の生き方 7. 生業の世界（2）：牧畜民の生き方 8. 生業の世界（3）：農耕民の生き方 9. 贈与と交換（1）：経済と人間社会 10. 贈与と交換（2）：市場の世界 11. 世界の見方：分類と象徴と認識 12. コミュニケーションの民族誌 13. 芸能のすがた 14. 民族と国家 15. まとめ：文化人類学とはなにか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0073B01
科目名	文化人類学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、人間の日々の営みから、文化とはなにか、人間とはなにかを考える学問です。 秋学期は、世界観に注目して、それらを考えてみましょう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	期末考査、授業内提出物、授業内発表などを総合的に評価する。		
到達目標	文化人類学とはどのような学問であるかを理解するとともに、フィールドワークの実践を試みる。		
準備学習	講義中に挙げられた文献は読んでおくこと。		

受講者への要望

講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。

講義の順序とポイント

1　わたしとは異なる世界に生きている人がいる
2　宗教的職能者
3　シャーマニズムⅠ
4　シャーマニズムⅡ
5　時計と暦がなければ
6　クックの死
7　ホピの世界観
8　ドゴンの世界観
9　ミャオの世界観
１０神話
１１文字の発明
１２文字Ⅰ
１３文字Ⅱ
１４フィールドワークとは
１５フィールドワークをやってみよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0073B02
科目名	文化人類学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology B		
担当者名	梶丸　岳	旧科目名称	
講義概要	本講義では文化人類学の基本的な手法と考え方を紹介した上で、現代社会に起こっているさまざまな問題・トピックについて文化人類学の観点から考察する。文化人類学は参与観察を基本とするフィールドワークから他者を、そして世界を見る学問である。文化人類学的な世界の見方を学ぶことを通して、世界と人間の在り方の多様さを知り、社会で生きていくうえで欠かせない柔軟な視野を獲得してほしい。		
教材（テキスト）	綾部恒雄・桑山敬己（編）『よくわかる文化人類学　第 2 版』ミネルヴァ書房　2500 円		
教材（参考文献）	山下晋司・船曳健夫（編）『文化人類学キーワード　改訂版』有斐閣　1785 円		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（15%）：出席状況等による。 小テスト（45%）：小テストは第 4 回、10 回、15 回講義の終わりに実施し、各 15%の評価とする。 期末レポート（40%）：具体的な課題は今学期後半に告知する。ウェブや書籍、他人の記述などからの盗用は一律 0 点とする。		
到達目標	文化人類学の概要および文化人類学におけるフィールドワークの目的・方法・トピックと留意点について理解する。とりわけ、講義内で解説する文化人類学のものの見方や概念について理解し、自分のものとして応用することができる。		
準備学習	講義は基本的にテキストの内容をある程度踏まえて行う。完全にテキストと同一の内容を扱うわけではないが、可能な限り事前にテキストの該当部分を予習し、講義後には講義の内容を踏まえて復習すること。参考文献は講義で直接とりあげることはないが、文化人類学の多彩なテーマについて簡潔に解説してあるものなのでなるべく入手したうえで復習に役立てること。		

受講者への要望

他の受講生の迷惑となるような私語などの行為は厳に慎むように。遅刻も認めない。
小テストは講義内容に基づいて出題するので、必ずテスト前には出題範囲について復習をすること。
また、学んだことを踏まえて自分の身の回りの出来事や見聞きしたものについて自分なりに考えておく。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション：文化人類学とはなにか
2. 文化人類学のフィールドワーク
3. 文化相対主義：あるいは他者との出会い方
4. 本質主義と構築主義
5. ジェンダーとセクシャリティ
6. 医療
7. 自然科学
8. 法と社会制度
9. 災害
10. 人々の移動とグローバル化
11. 暴力と紛争
12. 開発
13. 観光と表象
14. 日本
15. まとめ：文化人類学から見た現代

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0075A01
科目名	法学概論A（日本国憲法を含む）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law A (including the Constitution)		
担当者名	原　弘明	旧科目名称	
講義概要	本講義は、日本国憲法を中心にしてその基本的な考え方や原理について概説します。また各回のテーマに沿ったかたちで関連する法令についても取り扱います。 法律の条文には専門的な用語や難解な言い回しが数多くあるため、法学は初めて学ぼうとする者にとって比較的理解しづらい学問領域です。しかし「社会あるところに法あり」と言われるように、法を学び理解することは、その社会を理解することでもあり、これから社会人として生活を営むうえで有用であるのはもちろん、むしろ必須でもあります。そこで本講義では、イメージをつかみやすくするため用語や言い回しについても可能な限り平易な言葉を用い、折に触れて具体例や現実に生じている問題・出来事を取り上げます。 また法学は「実践の学」であり、実際に自分で用いて意味をなすものです。それゆえ本講義は知識の確認に加えて、学んだことを具体的な問題に即して応用するためのレポート課題を設定します。		
教材（テキスト）	指定しません。		
教材（参考文献）	比較的平易とされる教科書を挙げておきます。個人の好みにあったものを学習参考書として使用することを勧めます。 高橋和之『立憲主義と日本国憲法〔第３版〕』（有斐閣、２０１３年） 芦部信喜＝高橋和之補訂『憲法〔第５版〕』（岩波書店、２０１１年）		
教材（その他）	必要に応じて講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	1. 定期試験 70% 2. 平常点 30%授業への貢献度などから総合的に判断します。		
到達目標	（１）法（特に憲法）についての基本的な考え方や原理を理解すること （２）専門的な用語や言い回しについて正確に説明できるようになること （３）具体的な問題に対して講義で学んだことを応用すること		
準備学習	初回講義時に毎回の講義内容を指示するので、予習しておいてください。記憶の定着や定期試験の準備のために、毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することをお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、法との関わりを意識して下さい。
私語・携帯電話の通話など、他の受講生に迷惑となる行為をした者は、受講の意思を放棄したものとみなして、その回の出席点を与えず、次回以降の出席を認めないこともあり得ます。
講義で配布する資料を集めてテスト前に勉強するだけでは、単位の取得は難しいと考えてください。

講義の順序とポイント

1. はじめに―日々の暮らしに憲法はいらないのか
 ガイダンス、法令の分類と段階構造
2. 日本国憲法の基礎―憲法はなぜ大切なのか
 憲法における基本的な考え方、日本国憲法の成立史、日本国憲法の基本的特質
3. 基本的人権の保障内容とその限界―人権によって何がどこまで保障されるのか
 基本的人権の体系、人権制約の根拠
4. 自己決定権―自分のやりたいことが校則違反だったら
 憲法 13 条の意義、自己決定権の保障内容とその限界
5. 法の下の平等―何を「平等」にするのか
 平等の観念、性差別をめぐる問題
6. 信教の自由―信仰しない人には関係ないのか
 信教の自由とその限界、政教分離原則
7. 表現の自由―どのような表現でも憲法で守られる「表現」なのか
 「知る権利」、名誉毀損的表現や性表現の規制
8. 職業選択の自由―就きたくても就けない職業はあるのか
 営業の自由、営業規制の様々な類型
9. 生存権―生活保護はお恵みか権利か
 生存権の法的性格、生存権を具体化する様々な立法

10. 教育を受ける権利―誰が子どもたちの教育への責任を負うのか
学習権と国の責務、教育権の所在
11. 参政権―投票は行かなきゃいけないのか
選挙権の法的性格、選挙制度
12. 国会―国会議員は「特別」か
国会の地位、国会と議院の権能
13. 内閣―内閣は国民とどのような関係に立つのか
行政権、議院内閣制
14. 裁判所―裁判所は何のためにあるのか
裁判所の構成と権能
15. 地方自治―もしも住民の暮らしが「自治」じゃなかったら
地方自治の本旨、地方公共団体の機関、条例の制定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0075A02
科目名	法学概論A（日本国憲法を含む）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law A (including the Constitution)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	法学概論のうち、法とは何かについての基礎知識と日本国憲法の全体像を講義する。		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験（80%）　出席状況、授業内レポート等による平常点（20%）		
到達目標	法学の基本的な考え方を理解するとともに、日本国憲法の基礎的な知識と現代的な課題を学ぶ。		
準備学習	レジュメや資料を配付するので、必ず復習すると共に次回のテーマについて指摘する課題について事前に準備すること。		
受講者への要望			
法学や日本国憲法についての学説・判例の学習だけでなく、日々起こっている憲法をめぐる国会や政府の動き、裁判所の新しい判決に注目するのでテレビや新聞の社会面の記事に関心をはらってほしい。			
講義の順序とポイント			
１．法とは何か ２．憲法とは何か ３．日本国憲法の成立 ４．国民主権と象徴天皇制 ５．平和主義 ６．包括的人権 ７．精神的自由① ８．精神的自由② ９．経済的自由 １０．刑事手続と人身の自由 １１．社会権 １２．国会と内閣 １３．司法権 １４．地方自治 １５．憲法改正			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0075B01
科目名	法学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Law B		
担当者名	大塚　泰寿	旧科目名称	
講義概要	この講義は、法を理解する上で必須と思われる基礎的な知識を得ることを目的とするものである。 具体的には、法学の初学者には難解と思われる法律用語の説明や、日本の裁判制度や主要な法律の基本原理や概要などを中心に解説していく。 また学生の理解を助けるために、新聞などで注目を集めている事例もいくつか紹介する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	末川博編『法学入門［第 6 版（補訂版)]』(有斐閣双書、2014 年) 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門［第 4 版]』(有斐閣双書、2005 年)		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	定期試験 100%。試験は持込不可で行われる。		
到達目標	（1）基本的な法律用語を理解し、説明できるようになること。 （2）法制度や日本の主要な法律の基本原理や概要を理解し、説明できるようになること		
準備学習	参考文献の関連部分を読んで、予習・復習することが望ましい。		

受講者への要望

講義には緊張感をもって望んで頂きたい。私語などは一切厳禁である。

講義の順序とポイント

1．はじめに／法とは何か
　ガイダンス／法の特色
2．法と裁判（1）裁判制度
　裁判制度、民事裁判・刑事裁判
3．法と裁判（2）裁判所
　裁判所と裁判官、裁判手続の基本原則
4．法と裁判（3）裁判の基準
　法源、制定法、慣習法、判例法
5．法と裁判（4）法の解釈
　法の適用、法の解釈
6．法の体系（1）法の体系
　公法、私法、社会法
7．法の体系（2）国家と憲法
　近代国家と憲法、近代憲法、現代憲法
8．法の体系（3）権力分立
　選挙権、国会、議院内閣制、違憲立法審査権
9．法の体系（4）基本的人権①
　人権の歴史と分類、日本国憲法で保障されている人権（個人の尊重、公共の福祉、平等権など）
10．法の体系（5）基本的人権②
　日本国憲法で保障されている人権（自由権、社会、国務請求権など）
11．法の体系（6）犯罪と刑罰に関する法
　罪刑法定主義、犯罪とは何か
12．法の体系（7）市民社会に関する法~家族関係に関する法
　夫婦、親子、相続
13．法の体系（8）市民社会に関する法~財産関係に関する法
　法律関係の主体、財産、契約
14．法の体系（9）国際社会の法
　国際法の成立形式、武力行使の禁止と国際連合
15．法の体系（10）労働者の権利／社会保障に関する法
　労働法、日本の社会保障制度の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0075B02
科目名	法学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Law B		
担当者名	大塚　泰寿	旧科目名称	
講義概要	この講義は、法を理解する上で必須と思われる基礎的な知識を得ることを目的とするものである。 具体的には、法学の初学者には難解と思われる法律用語の説明や、日本の裁判制度や主要な法律の基本原理や概要などを中心に解説していく。 また学生の理解を助けるために、新聞などで注目を集めている事例もいくつか紹介する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	末川博編『法学入門［第 6 版（補訂版)]』(有斐閣双書、2014 年) 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門［第 4 版]』(有斐閣双書、2005 年)		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	定期試験 100%。試験は持込不可で行われる。		
到達目標	（1）基本的な法律用語を理解し、説明できるようになること。 （2）法制度や日本の主要な法律の基本原理や概要を理解し、説明できるようになること		
準備学習	参考文献の関連部分を読んで、予習・復習することが望ましい。		

受講者への要望

講義には緊張感をもって望んで頂きたい。私語などは一切厳禁である。

講義の順序とポイント

1．はじめに／法とは何か
　ガイダンス／法の特色
2．法と裁判（1）裁判制度
　裁判制度、民事裁判・刑事裁判
3．法と裁判（2）裁判所
　裁判所と裁判官、裁判手続の基本原則
4．法と裁判（3）裁判の基準
　法源、制定法、慣習法、判例法
5．法と裁判（4）法の解釈
　法の適用、法の解釈
6．法の体系（1）法の体系
　公法、私法、社会法
7．法の体系（2）国家と憲法
　近代国家と憲法、近代憲法、現代憲法
8．法の体系（3）権力分立
　選挙権、国会、議院内閣制、違憲立法審査権
9．法の体系（4）基本的人権①
　人権の歴史と分類、日本国憲法で保障されている人権（個人の尊重、公共の福祉、平等権など）
10．法の体系（5）基本的人権②
　日本国憲法で保障されている人権（自由権、社会、国務請求権など）
11．法の体系（6）犯罪と刑罰に関する法
　罪刑法定主義、犯罪とは何か
12．法の体系（7）市民社会に関する法~家族関係に関する法
　夫婦、親子、相続
13．法の体系（8）市民社会に関する法~財産関係に関する法
　法律関係の主体、財産、契約
14．法の体系（9）国際社会の法
　国際法の成立形式、武力行使の禁止と国際連合
15．法の体系（10）労働者の権利／社会保障に関する法
　労働法、日本の社会保障制度の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0078001
科目名	論理学入門	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Logic		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	「お金持ちの人は長財布を使う習慣があるんだって。よし、長財布に買い替えよう。そうすればお金持ちになれるかもしれないしね」 「実験器具は女性みたいなもので、どちらも壊れやすい。だから丁寧に扱わなければなりません。」 さて、上の２つの推論はどちらも論理的に正しいとは言えません。間違っています。 みなさんはどう思われたでしょうか。 「当然間違いだよね。なぜかと言えば～」と、すでに自分で理由を説明できるレベルであれば、おそらくこの授業を受講する必要はないでしょう。素質十分なあなたには、授業を受けるより参考文献にあげた書籍を開いてみてほしいと思います。論理的に妥当な推論とは何なのか、深く考えられると思います。 「おかしいのはわかるけど…」という方、あなたは直感的に問題点を把握しているようです。授業を通じて、ぜひ自分が感じ取った「おかしさ」の正体を明らかにして欲しいと思います。 「え、何か間違ってるんですか？　これ」という方、この授業はあなたのような人を対象として設計しています。他人の展開している議論が論理的に正しいかどうかを判断し、自分自身で論理的な意見を述べられることを目指しましょう。 この授業では論理的に考えられるようにするため、記号論理学の論理的体系を用いて、推論のしくみを記号で表現する練習を行ないます。基礎的な記号論理の知識に基づき、正しい推論を見きわめる力を身につけて欲しいと思います。		
教材（テキスト）	なし。授業毎に資料を配布する。		
教材（参考文献）	・記号論理学についての参考図書 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社. ・クリティカル・シンキングについての参考図書 伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子編,(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』, 名古屋大学出版会. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 野矢茂樹, (2001), 『論理トレーニング１０１題』, 産業図書. ・レポートの書き方についての参考図書 戸田山和久,(2012).『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』, NHK 出版.		
教材（その他）	適宜授業中に指示します。		
評価方法	平常点：毎回の授業で課す小テストや小レポートの提出（４０％） 期末試験での得点　（60%） 出席だけは平常点として加点しません！　注意して下さい。		
到達目標	１.記号論理学の基礎を身につけること。 2.１の知識にもとづいて日常生活で出会う推論の妥当性を見きわめられるようになること。 3.自分で論理的な推論ができるようになること。		
準備学習	必要に応じて授業中に指示します。 授業毎に提出の必要な課題を出しますので、ぜひ復習に力を入れて下さい。		
受講者への要望			
授業中、出席者にはいろいろな事に答えてもらう機会が多くあります。			

簡単な授業内容の確認もあれば、練習問題の解答のお願い、自分の意見を述べてもらうこともあります。
みなさんの発言は、他の出席者とっても、知的に刺激的であり、理解の助けになるものです。
受講者のみなさんの協力がなければ授業は成り立ちません。ぜひ積極的な姿勢で授業にのぞんでください。楽しみにしています。

＊「論理学入門」は通年の授業として計画されています。

講義の順序とポイント

【春学期】　記号論理学入門
1.オリエンテーション：論理学の世界へようこそ
2.妥当な論証とは何だろうか
3.論証の基礎ルールをおさえる
4.論証を図式化する
5.命題論理(1) 論理結合子
6.命題論理(2) 真理表
7.述語論理(1) 量化
8.述語論理(2) 真理関数
9.記号論理と自然言語
10.演繹的推論(1)前件肯定式、後件否定式
11.演繹的推論(2)仮言的三段論法、選言三段論法
12.演繹的推論(3)両刀論法
13.演繹的推論(4)帰謬法
14.よくある誤謬推論(1) 前件否定の誤謬
15.春学期のまとめ：記号論理を用いた論証

【秋学期】　実践！クリティカルシンキング
16.オリエンテーション：論理的に書く・話す
17.帰納的推論：一般化
18.帰納的推論：アナロジーによる推論
19.帰納的推論：原因についての論証
20.よくある論理的誤謬(2) 過度の一般化, 間違ったアナロジー
21.よくある論理的誤謬(3) 因果関係の錯誤, 印象操作
22.情報源とその評価
23.インターネットと情報源：ウィキペディア日本語版を検討しよう
24.議論を広げる：話題の設定と議論の組み立て方
25.オーラルディスカッション入門
26.ディスカッション課題(1)妥当な議論を構築する・評価する
27.ディスカッション課題(2)議論を洗練させる
28.レポート課題(1)：妥当な議論を構築・評価する
29.レポート課題(2):議論を洗練させる
30.秋学期のまとめ：帰納的推論とその実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0078002
科目名	論理学入門	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Logic		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	「お金持ちの人は長財布を使う習慣があるんだって。よし、長財布に買い替えよう。そうすればお金持ちになれるかもしれないしね」 「実験器具は女性みたいなもので、どちらも壊れやすい。だから丁寧に扱わなければなりません。」 さて、上の２つの推論はどちらも論理的に正しいとは言えません。間違っています。 みなさんはどう思われたでしょうか。 「当然間違いだよね。なぜかと言えば～」と、すでに自分で理由を説明できるレベルであれば、おそらくこの授業を受講する必要はないでしょう。素質十分なあなたには、授業を受けるより参考文献にあげた書籍を開いてみてほしいと思います。論理的に妥当な推論とは何なのか、深く考えられると思います。 「おかしいのはわかるけど…」という方、あなたは直感的に問題点を把握しているようです。授業を通じて、ぜひ自分が感じ取った「おかしさ」の正体を明らかにして欲しいと思います。 「え、何か間違ってるんですか？　これ」という方、この授業はあなたのような人を対象として設計しています。他人の展開している議論が論理的に正しいかどうかを判断し、自分自身で論理的な意見を述べられることを目指しましょう。 この授業では論理的に考えられるようにするため、記号論理学の論理的体系を用いて、推論のしくみを記号で表現する練習を行ないます。基礎的な記号論理の知識に基づき、正しい推論を見きわめる力を身につけて欲しいと思います。		
教材（テキスト）	なし。授業毎に資料を配布する。		
教材（参考文献）	・記号論理学についての参考図書 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社. ・クリティカル・シンキングについての参考図書 伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子編,(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』, 名古屋大学出版会. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 野矢茂樹, (2001), 『論理トレーニング１０１題』, 産業図書. ・レポートの書き方についての参考図書 戸田山和久,(2012).『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』, NHK 出版.		
教材（その他）	適宜授業中に指示します。		
評価方法	平常点：毎回の授業で課す小テストや小レポートの提出（４０％） 期末試験での得点　（60%） 出席だけは平常点として加点しません！　注意して下さい。		
到達目標	１.記号論理学の基礎を身につけること。 2.１の知識にもとづいて日常生活で出会う推論の妥当性を見きわめられるようになること。 3.自分で論理的な推論ができるようになること。		
準備学習	必要に応じて授業中に指示します。 授業毎に提出の必要な課題を出しますので、ぜひ復習に力を入れて下さい。		
受講者への要望			
授業中、出席者にはいろいろな事に答えてもらう機会が多くあります。			

簡単な授業内容の確認もあれば、練習問題の解答のお願い、自分の意見を述べてもらうこともあります。
みなさんの発言は、他の出席者とっても、知的に刺激的であり、理解の助けになるものです。
受講者のみなさんの協力がなければ授業は成り立ちません。ぜひ積極的な姿勢で授業にのぞんでください。楽しみにしています。

＊「論理学入門」は通年の授業として計画されています。

講義の順序とポイント

【春学期】　　記号論理学入門
1.オリエンテーション：論理学の世界へようこそ
2.妥当な論証とは何だろうか
3.論証の基礎ルールをおさえる
4.論証を図式化する
5.命題論理(1) 論理結合子
6.命題論理(2) 真理表
7.述語論理(1) 量化
8.述語論理(2) 真理関数
9.記号論理と自然言語
10.演繹的推論(1)前件肯定式、後件否定式
11.演繹的推論(2)仮言的三段論法、選言三段論法
12.演繹的推論(3)両刀論法
13.演繹的推論(4)帰謬法
14.よくある誤謬推論(1) 前件否定の誤謬
15.春学期のまとめ：記号論理を用いた論証

【秋学期】　実践！クリティカルシンキング
16.オリエンテーション：論理的に書く・話す
17.帰納的推論：一般化
18.帰納的推論：アナロジーによる推論
19.帰納的推論：原因についての論証
20.よくある論理的誤謬(2) 過度の一般化, 間違ったアナロジー
21.よくある論理的誤謬(3) 因果関係の錯誤, 印象操作
22.情報源とその評価
23.インターネットと情報源：ウィキペディア日本語版を検討しよう
24.議論を広げる：話題の設定と議論の組み立て方
25.オーラルディスカッション入門
26.ディスカッション課題(1)妥当な議論を構築する・評価する
27.ディスカッション課題(2)議論を洗練させる
28.レポート課題(1)：妥当な議論を構築・評価する
29.レポート課題(2):議論を洗練させる
30.秋学期のまとめ：帰納的推論とその実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0078A01
科目名	論理学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Logic A		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	「お金持ちの人は長財布を使う習慣があるんだって。よし、長財布に買い替えよう。そうすればお金持ちになれるかもしれないしね」 「実験器具は女性みたいなもので、どちらも壊れやすい。だから丁寧に扱わなければなりません。」 さて、上の２つの推論はどちらも論理的に正しいとは言えません。間違っています。 みなさんはどう思われたでしょうか。 「当然間違いだよね。なぜかと言えば～」と、すでに自分で理由を説明できるレベルであれば、おそらくこの授業を受講する必要はないでしょう。素質十分なあなたには、授業を受けるより参考文献にあげた書籍を開いてみてほしいと思います。論理的に妥当な推論とは何なのか、深く考えられると思います。 「おかしいのはわかるけど…」という方、あなたは直感的に問題点を把握しているようです。授業を通じて、ぜひ自分が感じ取った「おかしさ」の正体を明らかにして欲しいと思います。 「え、何か間違ってるんですか？　これ」という方、この授業はあなたのような人を対象として設計しています。他人の展開している議論が論理的に正しいかどうかを判断し、自分自身で論理的な意見を述べられることを目指しましょう。 この授業では論理的に考えられるようにするため、記号論理学の論理的体系を用いて、推論のしくみを記号で表現する練習を行ないます。基礎的な記号論理の知識に基づき、正しい推論を見きわめる力を身につけて欲しいと思います。		
教材（テキスト）	なし。授業毎に資料を配布する。		
教材（参考文献）	・記号論理学についての参考図書 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社. ・クリティカル・シンキングについての参考図書 伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子編,(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』, 名古屋大学出版会. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 野矢茂樹, (2001), 『論理トレーニング１０１題』, 産業図書. ・レポートの書き方についての参考図書 戸田山和久,(2012).『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』, NHK 出版.		
教材（その他）	適宜授業中に指示します。		
評価方法	平常点：毎回の授業で課す小テストや小レポートの提出（４０％） 期末試験での得点　（60%） 出席だけは平常点として加点しません！　注意して下さい。		
到達目標	１.記号論理学の基礎を身につけること。 2.１の知識にもとづいて日常生活で出会う推論の妥当性を見きわめられるようになること。 3.自分で論理的な推論ができるようになること。		
準備学習	必要に応じて授業中に指示します。 授業毎に提出の必要な課題を出しますので、ぜひ復習に力を入れて下さい。		
受講者への要望			
授業中、出席者にはいろいろな事に答えてもらう機会が多くあります。			

簡単な授業内容の確認もあれば、練習問題の解答のお願い、自分の意見を述べてもらうこともあります。
みなさんの発言は、他の出席者とっても、知的に刺激的であり、理解の助けになるものです。
受講者のみなさんの協力がなければ授業は成り立ちません。ぜひ積極的な姿勢で授業にのぞんでください。楽しみにしています。

＊秋学期の「論理学入門 B」と併せて受講することを前提に授業計画を作っています。

講義の順序とポイント

【春学期】　　記号論理学入門
1.オリエンテーション：論理学の世界へようこそ
2.妥当な論証とは何だろうか
3.論証の基礎ルールをおさえる
4.論証を図式化する
5.命題論理(1) 論理結合子
6.命題論理(2) 真理表
7.述語論理(1) 量化
8.述語論理(2) 真理関数
9.記号論理と自然言語
10.演繹的推論(1)前件肯定式、後件否定式
11.演繹的推論(2)仮言的三段論法、選言三段論法
12.演繹的推論(3)両刀論法
13.演繹的推論(4)帰謬法
14.よくある誤謬推論(1) 前件否定の誤謬
15.春学期のまとめ：記号論理を用いた論証

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0078A02
科目名	論理学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Logic A		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	「お金持ちの人は長財布を使う習慣があるんだって。よし、長財布に買い替えよう。そうすればお金持ちになれるかもしれないしね」 「実験器具は女性みたいなもので、どちらも壊れやすい。だから丁寧に扱わなければなりません。」 さて、上の２つの推論はどちらも論理的に正しいとは言えません。間違っています。 みなさんはどう思われたでしょうか。 「当然間違いだよね。なぜかと言えば〜」と、すでに自分で理由を説明できるレベルであれば、おそらくこの授業を受講する必要はないでしょう。素質十分なあなたには、授業を受けるより参考文献にあげた書籍を開いてみてほしいと思います。論理的に妥当な推論とは何なのか、深く考えられると思います。 「おかしいのはわかるけど…」という方、あなたは直感的に問題点を把握しているようです。授業を通じて、ぜひ自分が感じ取った「おかしさ」の正体を明らかにして欲しいと思います。 「え、何か間違ってるんですか？　これ」という方、この授業はあなたのような人を対象として設計しています。他人の展開している議論が論理的に正しいかどうかを判断し、自分自身で論理的な意見を述べられることを目指しましょう。 この授業では論理的に考えられるようにするため、記号論理学の論理的体系を用いて、推論のしくみを記号で表現する練習を行ないます。基礎的な記号論理の知識に基づき、正しい推論を見きわめる力を身につけて欲しいと思います。		
教材（テキスト）	なし。授業毎に資料を配布する。		
教材（参考文献）	・記号論理学についての参考図書 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社. ・クリティカル・シンキングについての参考図書 伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子編,(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』, 名古屋大学出版会. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 野矢茂樹, (2001), 『論理トレーニング１０１題』, 産業図書. ・レポートの書き方についての参考図書 戸田山和久,(2012).『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』, NHK 出版.		
教材（その他）	適宜授業中に指示します。		
評価方法	平常点：毎回の授業で課す小テストや小レポートの提出（４０％） 期末試験での得点　（60%） 出席だけは平常点として加点しません！　注意して下さい。		
到達目標	１.記号論理学の基礎を身につけること。 2.１の知識にもとづいて日常生活で出会う推論の妥当性を見きわめられるようになること。 3.自分で論理的な推論ができるようになること。		
準備学習	必要に応じて授業中に指示します。 授業毎に提出の必要な課題を出しますので、ぜひ復習に力を入れて下さい。		
受講者への要望			
授業中、出席者にはいろいろな事に答えてもらう機会が多くあります。			

簡単な授業内容の確認もあれば、練習問題の解答のお願い、自分の意見を述べてもらうこともあります。
みなさんの発言は、他の出席者とっても、知的に刺激的であり、理解の助けになるものです。
受講者のみなさんの協力がなければ授業は成り立ちません。ぜひ積極的な姿勢で授業にのぞんでください。楽しみにしています。

＊秋学期の「論理学入門 B」と併せて受講することを前提に授業計画を作っています。

講義の順序とポイント

【春学期】　　記号論理学入門
1.オリエンテーション：論理学の世界へようこそ
2.妥当な論証とは何だろうか
3.論証の基礎ルールをおさえる
4.論証を図式化する
5.命題論理(1) 論理結合子
6.命題論理(2) 真理表
7.述語論理(1) 量化
8.述語論理(2) 真理関数
9.記号論理と自然言語
10.演繹的推論(1)前件肯定式、後件否定式
11.演繹的推論(2)仮言的三段論法、選言三段論法
12.演繹的推論(3)両刀論法
13.演繹的推論(4)帰謬法
14.よくある誤謬推論(1) 前件否定の誤謬
15.春学期のまとめ：記号論理を用いた論証

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0078B01
科目名	論理学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Logic B		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	「お金持ちの人は長財布を使う習慣があるんだって。よし、長財布に買い替えよう。そうすればお金持ちになれるかもしれないしね」 「実験器具は女性みたいなもので、どちらも壊れやすい。だから丁寧に扱わなければなりません。」 さて、上の２つの推論はどちらも論理的に正しいとは言えません。間違っています。 みなさんはどう思われたでしょうか。 「当然間違いだよね。なぜかと言えば～」と、すでに自分で理由を説明できるレベルであれば、おそらくこの授業を受講する必要はないでしょう。素質十分なあなたには、授業を受けるより参考文献にあげた書籍を開いてみてほしいと思います。論理的に妥当な推論とは何なのか、深く考えられると思います。 「おかしいのはわかるけど…」という方、あなたは直感的に問題点を把握しているようです。授業を通じて、ぜひ自分が感じ取った「おかしさ」の正体を明らかにして欲しいと思います。 「え、何か間違ってるんですか？　これ」という方、この授業はあなたのような人を対象として設計しています。他人の展開している議論が論理的に正しいかどうかを判断し、自分自身で論理的な意見を述べられることを目指しましょう。 この授業では論理的に考えられるようにするため、記号論理学の論理的体系を用いて、推論のしくみを記号で表現する練習を行ないます。基礎的な記号論理の知識に基づき、正しい推論を見きわめる力を身につけて欲しいと思います。		
教材（テキスト）	なし。授業毎に資料を配布する。		
教材（参考文献）	・記号論理学についての参考図書 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社. ・クリティカル・シンキングについての参考図書 伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子編,(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』, 名古屋大学出版会. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 野矢茂樹, (2001), 『論理トレーニング１０１題』, 産業図書. ・レポートの書き方についての参考図書 戸田山和久,(2012).『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』, NHK 出版.		
教材（その他）			
評価方法	平常点：毎回の授業で課す小テストや小レポートの提出（４０％） 期末試験での得点　（60%） 出席だけは平常点として加点しません！　注意して下さい。		
到達目標	１.記号論理学の基礎を身につけること。 2.１の知識にもとづいて日常生活で出会う推論の妥当性を見きわめられるようになること。 3.自分で論理的な推論ができるようになること。		
準備学習	必要に応じて授業中に指示します。 授業毎に提出の必要な課題を出しますので、ぜひ復習に力を入れて下さい。		
受講者への要望			
授業中、出席者にはいろいろな事に答えてもらう機会が多くあります。			

簡単な授業内容の確認もあれば、練習問題の解答のお願い、自分の意見を述べてもらうこともあります。
みなさんの発言は、他の出席者とっても、知的に刺激的であり、理解の助けになるものです。
受講者のみなさんの協力がなければ授業は成り立ちません。ぜひ積極的な姿勢で授業にのぞんでください。楽しみにしています。

＊春学期「論理学入門 A」と併せて受講する事を前提に授業計画を作っています。

講義の順序とポイント

【秋学期】　実践　クリティカルシンキング
16.オリエンテーション：論理的に書く・話す
17.帰納的推論：一般化
18.帰納的推論：アナロジーによる推論
19.帰納的推論：原因についての論証
20.よくある論理的誤謬(2) 過度の一般化, 間違ったアナロジー
21.よくある論理的誤謬(3) 因果関係の錯誤, 印象操作
22.情報源とその評価
23.インターネットと情報源：ウィキペディア日本語版を検討しよう
24.議論を広げる：話題の設定と議論の組み立て方
25.オーラルディスカッション入門
26.ディスカッション課題(1)妥当な議論を構築する・評価する
27.ディスカッション課題(2)議論を洗練させる
28.レポート課題(1)：妥当な議論を構築・評価する
29.レポート課題(2):議論を洗練させる
30.秋学期のまとめ：帰納的推論とその実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0078B02
科目名	論理学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Logic B		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	「お金持ちの人は長財布を使う習慣があるんだって。よし、長財布に買い替えよう。そうすればお金持ちになれるかもしれないしね」 「実験器具は女性みたいなもので、どちらも壊れやすい。だから丁寧に扱わなければなりません。」 さて、上の２つの推論はどちらも論理的に正しいとは言えません。間違っています。 みなさんはどう思われたでしょうか。 「当然間違いだよね。なぜかと言えば～」と、すでに自分で理由を説明できるレベルであれば、おそらくこの授業を受講する必要はないでしょう。素質十分なあなたには、授業を受けるより参考文献にあげた書籍を開いてみてほしいと思います。論理的に妥当な推論とは何なのか、深く考えられると思います。 「おかしいのはわかるけど…」という方、あなたは直感的に問題点を把握しているようです。授業を通じて、ぜひ自分が感じ取った「おかしさ」の正体を明らかにして欲しいと思います。 「え、何か間違ってるんですか？　これ」という方、この授業はあなたのような人を対象として設計しています。他人の展開している議論が論理的に正しいかどうかを判断し、自分自身で論理的な意見を述べられることを目指しましょう。 この授業では論理的に考えられるようにするため、記号論理学の論理的体系を用いて、推論のしくみを記号で表現する練習を行ないます。基礎的な記号論理の知識に基づき、正しい推論を見きわめる力を身につけて欲しいと思います。		
教材（テキスト）	なし。授業毎に資料を配布する。		
教材（参考文献）	・記号論理学についての参考図書 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社. ・クリティカル・シンキングについての参考図書 伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子編,(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』, 名古屋大学出版会. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 野矢茂樹, (2001), 『論理トレーニング１０１題』, 産業図書. ・レポートの書き方についての参考図書 戸田山和久,(2012).『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』, NHK 出版.		
教材（その他）			
評価方法	平常点：毎回の授業で課す小テストや小レポートの提出（４０％） 期末試験での得点　（60%） 出席だけは平常点として加点しません！　注意して下さい。		
到達目標	１.記号論理学の基礎を身につけること。 2.１の知識にもとづいて日常生活で出会う推論の妥当性を見きわめられるようになること。 3.自分で論理的な推論ができるようになること。		
準備学習	必要に応じて授業中に指示します。 授業毎に提出の必要な課題を出しますので、ぜひ復習に力を入れて下さい。		
受講者への要望			
授業中、出席者にはいろいろな事に答えてもらう機会が多くあります。			

簡単な授業内容の確認もあれば、練習問題の解答のお願い、自分の意見を述べてもらうこともあります。
みなさんの発言は、他の出席者とっても、知的に刺激的であり、理解の助けになるものです。
受講者のみなさんの協力がなければ授業は成り立ちません。ぜひ積極的な姿勢で授業にのぞんでください。楽しみにしています。

＊春学期「論理学入門 A」と併せて受講する事を前提に授業計画を作っています。

講義の順序とポイント

【秋学期】　実践　クリティカルシンキング
16.オリエンテーション：論理的に書く・話す
17.帰納的推論：一般化
18.帰納的推論：アナロジーによる推論
19.帰納的推論：原因についての論証
20.よくある論理的誤謬(2) 過度の一般化, 間違ったアナロジー
21.よくある論理的誤謬(3) 因果関係の錯誤, 印象操作
22.情報源とその評価
23.インターネットと情報源：ウィキペディア日本語版を検討しよう
24.議論を広げる：話題の設定と議論の組み立て方
25.オーラルディスカッション入門
26.ディスカッション課題(1)妥当な議論を構築する・評価する
27.ディスカッション課題(2)議論を洗練させる
28.レポート課題(1)：妥当な議論を構築・評価する
29.レポート課題(2):議論を洗練させる
30.秋学期のまとめ：帰納的推論とその実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0084001
科目名	海外研修	単位数	4
科目名（英語表記）	Learning Abroad		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2016	授業コード	JM0084002
科目名	海外研修	単位数	4
科目名（英語表記）	Learning Abroad		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JM0089A01
科目名	英語講読 I	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading I		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	We will be reading the following stories I ROBOT LOVE OR MONEY		
教材（テキスト）	I, Robot Isaac Asimov Short Stories　Oxford University Press Love or Money Rowena Akinyemi Oxford University Press		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Become more confident presenting information about materials read in English 2. Further strengthen presentation quality 3. Make concise sentences about content		
準備学習	There will be homework, projects, and short reading assignments. 授業に毎回出席すること。		

受講者への要望

Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

Come to class. Finish the required assignments to passing level and complete the requisites for class to passing level.
1. Review Quiz (Small writing assignment) reading
2.Review of Writing Basics reading
3.　Writing Practice / Brainstorming Activity (Simple In-class)
4. Debating rules recap reading
5.New Topic 1reading
6.Brain storming and writing focus
7.Small debate & Presentation reading
8.New Topic 2 reading
9.Brain storming and writing focus reading
10.Small debate over material reading
11.New Topic 3 reading
12.Brain storming and writing focus
13.Small quiz
14.Writing Review
15. Assignments and review

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	1	2	2	2	2	2

年度	2016	授業コード	JM0090001
科目名	倫理学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	我々は日常的に、様々なものに関し「これはいいが、あれはいただけない」といった類の判断を下しながら生きている。生とは、この判断の連続性である。そして誰しも「よき生」を願っている。 それでは、「よさ」とは何か。「よい」と形容される当のものはなにか。その判断が拠り所とするものは何か。「よい」という判断は何に基づいているのか。その基礎付けは正当か。となると「正当」ということも当然反省されるべきであろう。これらが、非常に大雑把で一面的な表現であるが、倫理学の主要な問題群であり、これらの問題群を廻る反省の中で、さらに様々な事柄が問題化される。 本講義では、「今ここで」生きている我々の諸問題、例えば環境倫理上の、或いは医療倫理上の諸問題を射程に置きながら、上述した倫理学的営為を展開し、問題の問題性、問題の関連性等を確認する中で、本講義が倫理学の臨床的な現場（産屋）に成るよう努める。 カリキュラム体系の位置づけからいえば、本講義は、「環境倫理学」、「医療倫理学」を学んだ者がさらに倫理学的考察を深めるためのものである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は京学なびに事前に登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（7 回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が 6 割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	1．倫理学的に問うことが身に付き、自分の価値観を反省できるようになる。 2．上述のことを可能にする倫理学的概念が、理解できるようなる。 3．倫理上の諸問題の関連性が見て取れるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、目を通して問題意識を養っておくこと。 授業内レポート作成のために、講義後は毎回講義内容を文章化しておくこと 授業内レポートは事前予告するので、しっかり論点を整理しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学ナビで確認すること） 1．　序論　本講義について 2．　§ 1　倫理学とは 3．　同上 4．　§ 2　現代の倫理学的問題 5．　同上 6．　第 1 章　倫理学の成立と変遷 § 3　ソクラテス以前 7．　同上 8．（第 1 回授業内レポート） § 4　ソクラテス 9．　同上 10．　同上 11．（第 2 回授業内レポート） § 5　ソクラテス以後のポリスの倫理 12．　同上 13．　§ 6　ユダヤ・キリスト教的倫理 14．　同上 15．　同上 16．（第 3 回授業内レポート） § 7　近代の倫理			

①近代とキリスト教
17. ②デカルトの倫理
18. 同上
19.（第4回授業内レポート）
第2章　善とその諸相
§8　客体的善
①アリステレスの倫理
20. ②功利主義、責任倫理
21. §9　主体的善
①アリストテレスの徳論
22. ②カントの道徳性
23. 同上
24.（第5回授業内レポート）
第3章　善と規範
§10　価値と事実
25. §11　規範の正当化
26. 同上
27.（第6回授業内レポート）
第4章　自由と良心
§12　自由
28. 同上
29. （第7回授業内レポート）
§13　良心
30. 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0090002
科目名	倫理学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	我々は日常的に、様々なものに関し「これはいいが、あれはいただけない」といった類の判断を下しながら生きている。生とは、この判断の連続性である。そして誰しも「よき生」を願っている。 それでは、「よさ」とは何か。「よい」と形容される当のものはなにか。その判断が拠り所とするものは何か。「よい」という判断は何に基づいているのか。その基礎付けは正当か。となると「正当」ということも当然反省されるべきであろう。これらが、非常に大雑把で一面的な表現であるが、倫理学の主要な問題群であり、これらの問題群を廻る反省の中で、さらに様々な事柄が問題化される。 本講義では、「今ここで」生きている我々の諸問題、例えば環境倫理上の、或いは医療倫理上の諸問題を射程に置きながら、上述した倫理学的営為を展開し、問題の問題性、問題の関連性等を確認する中で、本講義が倫理学の臨床的な現場（産屋）に成るよう努める。 カリキュラム体系の位置づけからいえば、本講義は、「環境倫理学」、「医療倫理学」を学んだ者がさらに倫理学的考察を深めるためのものである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は京学なびに事前に登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（7 回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が 6 割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	1．倫理学的に問うことが身に付き、自分の価値観を反省できるようになる。 2．上述のことを可能にする倫理学的概念が、理解できるようなる。 3．倫理上の諸問題の関連性が見て取れるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、目を通して問題意識を養っておくこと。 授業内レポート作成のために、講義後は毎回講義内容を文章化しておくこと 授業内レポートは事前予告するので、しっかり論点を整理しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学ナビで確認すること） 1．　序論　本講義について 2．　§ 1　倫理学とは 3．　同上 4．　§ 2　現代の倫理学的問題 5．　同上 6．　第 1 章　倫理学の成立と変遷 § 3　ソクラテス以前 7．　同上 8．（第 1 回授業内レポート） § 4　ソクラテス 9．　同上 10．　同上 11．（第 2 回授業内レポート） § 5　ソクラテス以後のポリスの倫理 12．　同上 13．　§ 6　ユダヤ・キリスト教的倫理 14．　同上 15．　同上 16．（第 3 回授業内レポート） § 7　近代の倫理			

①近代とキリスト教
17. ②デカルトの倫理
18. 同上
19.（第4回授業内レポート）
第2章　善とその諸相
§8　客体的善
①アリステレスの倫理
20. ②功利主義、責任倫理
21. §9　主体的善
①アリストテレスの徳論
22. ②カントの道徳性
23. 同上
24.（第5回授業内レポート）
第3章　善と規範
§10　価値と事実
25. §11　規範の正当化
26. 同上
27.（第6回授業内レポート）
第4章　自由と良心
§12　自由
28. 同上
29. （第7回授業内レポート）
§13　良心
30. 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0091A01
科目名	科学の歴史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0091A02
科目名	科学の歴史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0091B01
科目名	科学の歴史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学革命とその影響、科学と産業革命、現代の科学、科学と情報社会、科学と宗教、科学と戦争、今後の科学のありかた、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学と技術について
3.科学革命とその影響
4.解剖学と医学の発展
5.産業革命期の科学について
6.化学の発展
7.進化論について
8.生物学と生命科学の発展
9.新しい物質観と物理学の発展
１０.科学と戦争について（その１）
１１.科学と戦争について（その２）
１２.コンピューターの歴史
１３.インターネットの歴史
１４.科学者の社会的責任について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0091B02
科目名	科学の歴史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学革命とその影響、科学と産業革命、現代の科学、科学と情報社会、科学と宗教、科学と戦争、今後の科学のありかた、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学と技術について
3.科学革命とその影響
4.解剖学と医学の発展
5.産業革命期の科学について
6.化学の発展
7.進化論について
8.生物学と生命科学の発展
9.新しい物質観と物理学の発展
１０.科学と戦争について（その１）
１１.科学と戦争について（その２）
１２.コンピューターの歴史
１３.インターネットの歴史
１４.科学者の社会的責任について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0093001
科目名	京都の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Kyoto		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	長きにわたり都が置かれていた京都の歴史は、日本の歴史と言っても過言ではない。しかし、「京都」を一つの地域として見るとき、そこには京都独特の風土に根ざした歴史や文化を見ることができる。また、それを支えた人々の姿や町の仕組みは、他の地域にはない京都の特徴である。 本講では、一都市京都の歴史を、「文化」・「経済」・「産業」・「教育」の面から読み解き、日本の歴史の中で京都が果たした役割についてみるとともに、現在我々がもつ京都のイメージがどのように構築されていったかを考える。なお、学期中に１回のフィールドワークを実施したい。		
教材（テキスト）	教科書の指定はしない。授業中にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	小林丈広　著　『明治維新と京都』　臨川書店　２４８４円 高橋昌明　著　『京都＜千年の都＞の歴史』　岩波書店　９０７円 小林昌代　著　『京都の学校社会史 -web』 Google Books その他授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	写真などを適宜利用する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（３０％）。定期テスト（７０％）		
到達目標	京都の町の成り立ちや、産業、文化を理解し、それらが、現代の京都や、日本の文化の基礎になっていることを理解する。また、フィールドワークを通じて、自分で知り実感することの大切さを学んでほしい。		
準備学習	京都の地図を用意し、普段から目を通すこと。授業で紹介した参考文献のうち１冊を、学期中に読破し感想をまとめておくこと。町中にある石碑や駒札（史跡あとに立てられた木の札）を発見したら、書き留めるか撮影してあとでその史跡について調べておく。		
受講者への要望			
必ず京都の地図を用意すること。理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁とし、厳しく対処する。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：京都の概要 ２、京都研究のあゆみ ３、平安京以前の山背 ４、平安京遷都 ５、平安京の変容 ６、日宋貿易と日明貿易 ７、洛中洛外 ８、京都の学問 ９、町衆と祭礼 １０、京都ブランドの形成 １１、幕末の京都　―尊攘派と町民 １２、近代京都の再生 １３、小学校の建設 １４、戦時下の京都 ―空襲と学童疎開 １５、戦後の復興と現代京都の風景			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0093002
科目名	京都の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Kyoto		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	長きにわたり都が置かれていた京都の歴史は、日本の歴史と言っても過言ではない。しかし、「京都」を一つの地域として見るとき、そこには京都独特の風土に根ざした歴史や文化を見ることができる。また、それを支えた人々の姿や町の仕組みは、他の地域にはない京都の特徴である。 本講では、一都市京都の歴史を、「文化」・「経済」・「産業」・「教育」の面から読み解き、日本の歴史の中で京都が果たした役割についてみるとともに、現在我々がもつ京都のイメージがどのように構築されていったかを考える。なお、学期中に１回のフィールドワークを実施したい。		
教材（テキスト）	教科書の指定はしない。授業中にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	小林丈広　著　『明治維新と京都』　臨川書店　２４８４円 高橋昌明　著　『京都＜千年の都＞の歴史』　岩波書店　９０７円 小林昌代　著　『京都の学校社会史 -web』 Google Books その他授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	写真などを適宜利用する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（３０％）。定期テスト（７０％）		
到達目標	京都の町の成り立ちや、産業、文化を理解し、それらが、現代の京都や、日本の文化の基礎になっていることを理解する。また、フィールドワークを通じて、自分で知り実感することの大切さを学んでほしい。		
準備学習	京都の地図を用意し、普段から目を通すこと。授業で紹介した参考文献のうち１冊を、学期中に読破し感想をまとめておくこと。町中にある石碑や駒札（史跡あとに立てられた木の札）を発見したら、書き留めるか撮影してあとでその史跡について調べておく。		
受講者への要望			
必ず京都の地図を用意すること。理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁とし、厳しく対処する。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：京都の概要 ２、京都研究のあゆみ ３、平安京以前の山背 ４、平安京遷都 ５、平安京の変容 ６、日宋貿易と日明貿易 ７、洛中洛外 ８、京都の学問 ９、町衆と祭礼 １０、京都ブランドの形成 １１、幕末の京都　―尊攘派と町民 １２、近代京都の再生 １３、小学校の建設 １４、戦時下の京都 ―空襲と学童疎開 １５、戦後の復興と現代京都の風景			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0094A01
科目名	ジェンダー論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society I		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーの身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。ただし注意が必要なことは、ジェンダー論では女性問題だけを論じるのではありません。現代の男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。本授業は、これまでジェンダーとは無関係と考えられてきた様々な社会問題を、ジェンダー・リテラシーを通して読み解く「女と男の人間関係学」です。前期は主に、ジェンダーの総論と各論トピックスを扱います。		
教材（テキスト）	毎回の授業のはじめで、レジメと参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	『女性のデータブック』第 4 版　有斐閣、『女性学事典』岩波書店、『図解雑学　ジェンダー』ナツメ社（すべて図書館に所蔵）		
教材（その他）	ビデオや DVD を使います。		
評価方法	平常点（出席状況と授業内課題など）:40%、テスト：60%		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
準備学習	各授業にて準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力で女と男の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント 1,イントロダクション 2, ジェンダー・セックス・セクシュアリティの関係 3, ジェンダーの学習と社会化 4. ジェンダー平等とは 5,憲法から男女共同参画まで 6、性別役割分担とその誕生 7.　労働とジェンダー 1. 8.　 労働とジェンダー 2 9.　セクシュアリティとは 10. 性の多様性 11.人権問題としてのセクシュアリティ 12.ビデオで見るジェンダー問題 13,母性愛と父性愛 14. ビデオで見る生殖技術と家族 15. 生殖技術の光と陰			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	JM0094B01
科目名	ジェンダー論 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society II		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーの身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。ただし注意が必要なのは、ジェンダー論で女性問題だけを論じるのではありません。現代の男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。本授業は、これまでジェンダーとは無関係と考えられてきた様々な社会問題を、ジェンダー・リテラシーを通して読み解く「女と男の人間関係学」です。後期は主に、ジェンダーの各論トピックスを扱います。		
教材（テキスト）	毎回の授業のはじめで、レジメと参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	『女性のデータブック』第 4 版　有斐閣、『女性学事典』岩波書店、(『図解雑学　ジェンダー』ナツメ社（すべて図書館に所蔵）		
教材（その他）	ビデオや DVD を使います		
評価方法	平常点（出席状況と授業内課題など）:40%、テスト：60%		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
準備学習	各授業最後に次回の準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力で女と男の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
1. 後期イントロダクション 2. ジェンダー研究・女性学・フェミニズムズ 3. 男性のジェンダー問題と男性学 4. 変わる「男性らしさ」 5. 近代家族 1 6. 近代家族 2 7. 教育とジェンダー 8. マスメディアとジェンダー 9. メディアリテラシー 10, 恋愛と仕事と結婚 11. 言語にみるジェンダー 12.「こころの社会学」から見るジェンダー 13. 宗教とジェンダー 14. 少子化とワークライフ・バランス 15.. 高齢社会とライフコースの変化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	ー	★★	★★

年度	2016	授業コード	JM0095A01
科目名	歴史入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to History A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．講義の概要と評価方法等の確認 ２．魔女裁判、概要 ３．魔女裁判、異端審問の成立 ４．魔女裁判、裁判の方法 ５．魔女裁判、魔女の自供 ６．魔女裁判、宗教改革との関連 ７．魔女裁判、科学者と魔女 ８．魔女裁判、学説（１） ９．魔女裁判、学説（２） １０．ハーメルンの笛吹き男伝説（１） １１．ハーメルンの笛吹き男伝説（２） １２．ハーメルンの笛吹き男伝説（３） １３．吸血鬼伝説（１） １４．吸血鬼伝説（２） １５．吸血鬼伝説（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0095B01
科目名	歴史入門Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to History B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．講義の概要と評価方法等の確認 ２．動物裁判（１） ３．動物裁判（２） ４．動物裁判（３） ５．西洋中世・近代の犯罪と刑罰（１） ６．西洋中世・近代の犯罪と刑罰（２） ７．西洋中世・近代の犯罪と刑罰（３） ８．ペストの歴史（１） ９．ペストの歴史（２） １０．ペストの歴史（３） １１．コロンブス（１） １２．コロンブス（２） １３．奴隷貿易と近代世界システム（１） １４．奴隷貿易と近代世界システム（２） １５．奴隷貿易と近代世界システム（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0096A01
科目名	経済学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、本授業の続篇として、秋学期の経済学概論Bの授業では、マクロ経済理論について講義する予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）（eBook（電子書籍）付きの教科書を希望する学生は、最初の授業の際に申し込んでいただきます。）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理Ⅰ 2. 経済学の十大原理Ⅱ 3. 科学者としての経済学者 4. 政策アドバイザーとしての経済学者 5. グラフの用法： 概観 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 比較優位の原理 8. 市場と競争、需要と供給 9. 市場における需要と供給の作用 10. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ（価格規制） 11. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ（税金） 12. 消費者余剰と生産者余剰 13. 市場の効率性 14. 外部性と市場の非効率性 15. 外部性の解決法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0096A02
科目名	経済学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、本授業の続篇として、秋学期の経済学概論Bの授業では、マクロ経済理論について講義する予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）（eBook（電子書籍）付きの教科書を希望する学生は、最初の授業の際に申し込んでいただきます。）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理Ⅰ 2. 経済学の十大原理Ⅱ 3. 科学者としての経済学者 4. 政策アドバイザーとしての経済学者 5. グラフの用法： 概観 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 比較優位の原理 8. 市場と競争、需要と供給 9. 市場における需要と供給の作用 10. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ（価格規制） 11. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ（税金） 12. 消費者余剰と生産者余剰 13. 市場の効率性 14. 外部性と市場の非効率性 15. 外部性の解決法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0096B01
科目名	経済学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、今学期の経済学概論 B から履修した学生は、来年度春学期に開講される経済学概論 A（ミクロ経済理論）を履修されたい。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）（eBook（電子書籍）付きの教科書を希望する学生は、最初の授業の際に申し込んでいただきます。）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学 II マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にマクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理 2. 国民所得の測定（国内総生産：GDP） 3. 生計費の測定（消費者物価指数） 4. インフレーションの影響の補正 5. 経済成長と生産性 6. 経済成長と公共政策 7. 失業 8. 貯蓄、投資と金融システム 9. 貸付資金市場 10. 貨幣システム 11. 貨幣の需給とインフレーションの古典派理論 12. 総需要と総供給 13. 経済変動の二つの原因 14. 財と資本の国際フロー 15. 国際取引・為替相場決定の理論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0096B02
科目名	経済学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、今学期の経済学概論 B から履修した学生は、来年度春学期に開講される経済学概論 A（ミクロ経済理論）を履修されたい。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）（eBook（電子書籍）付きの教科書を希望する学生は、最初の授業の際に申し込んでいただきます。）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学 II マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にマクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、講義の前には必ず、教科書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理 2. 国民所得の測定（国内総生産：GDP） 3. 生計費の測定（消費者物価指数） 4. インフレーションの影響の補正 5. 経済成長と生産性 6. 経済成長と公共政策 7. 失業 8. 貯蓄、投資と金融システム 9. 貸付資金市場 10. 貨幣システム 11. 貨幣の需給とインフレーションの古典派理論 12. 総需要と総供給 13. 経済変動の二つの原因 14. 財と資本の国際フロー 15. 国際取引・為替相場決定の理論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0097A02
科目名	心の科学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Mind A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 　この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	図説心理学入門　斉藤勇（編）　誠心書房		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリント配布		
評価方法	授業（授業内小テスト　授業内レポートなど）５０％　試験　５０％		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

　自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生が授業を聞く権利を妨害するような態度は厳禁です。その場合には、単位を出さなかったり、退室を求めることもあります。

講義の順序とポイント

１、心理学の様々な分野
２、知覚と認知　①形の知覚　②図と地　③錯視図形
３、欲求と動機付け　フラストレーションとコンフリクト
４、条件付け・学習　①古典的条件付け　②オペラント条件付け　③学習性無力感
５、社会的学習　　①模倣学習　②観察学習
６、記憶　①作業記憶　②長期記憶　③記憶の変容　④記憶の障害
７、発達とは何か　①エリクソンの理論　②フロイトの理論　③ピアジェの理論
８、発達①胎児期　乳児期　幼児期
９、発達②児童期　思春期　青年期
１０、発達③成人期　老年期
１１、性格
１２、対人心理と社会心理　状況の力①他者の存在　②支配と服従　③同調
１３、脳と行為の自己調節　行動のコントロール
１４、臨床心理学　カウンセリングとは
１５、様々な心理療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JM0097A05
科目名	心の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Mind A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　50% 授業内小テスト　50%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習心理学 ①条件づけ
7. ② 記憶
8. 思考心理学 ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
9. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
10. ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2016	授業コード	JM0098A01
科目名	キャリアデザインⅠ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JM0098A02
科目名	キャリアデザインⅠ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JM0098A03
科目名	キャリアデザインⅠ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JM0098A04
科目名	キャリアデザインⅠ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JMC001AFA
科目名	スタートアップゼミA -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JMC001AFB
科目名	スタートアップゼミA -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JMC001AFC
科目名	スタートアップゼミA -f3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JMC001AFD
科目名	スタートアップゼミA -f4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JMC001AFE
科目名	スタートアップゼミA -f5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2016	授業コード	JMC001AFF
科目名	スタートアップゼミA -f6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JMC001AFG
科目名	スタートアップゼミA -f7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JMC001AFH
科目名	スタートアップゼミA -f8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JMC001AFI
科目名	スタートアップゼミA -f9	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JMC001AHA
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JMC001AHB
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版 伊藤誠彦著　超速マスター！ＳＰＩ無敵の解法パターン　高橋書店		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★	★	★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	JMC001AHC
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★	－

年度	2016	授業コード	JMC001AHD
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JMC001AHE
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、4年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　自分を知る・他人を知る
2回目　歴史文化に触れてみる
3回目　歴史について調べて発表してみる
4回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
5回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
6回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
7回目　地域を調べる
8回目　地域の様子をまとめる
9回目　地域を紹介する
10回目　文献をよむ（1）
11回目　文献をよむ（2）
12回目　文献をよむ（3）
13回目　京都の交通ガイドと京都関係の本の紹介
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JMC001AHF
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、4年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　自分を知る・他人を知る
2回目　歴史文化に触れてみる
3回目　歴史について調べて発表してみる
4回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
5回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
6回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
7回目　地域を調べる
8回目　地域の様子をまとめる
9回目　地域を紹介する
10回目　文献をよむ（1）
11回目　文献をよむ（2）
12回目　文献をよむ（3）
13回目　京都の交通ガイドと京都関係の本の紹介
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JMC001AHG
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、4年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　自分を知る・他人を知る
2回目　歴史文化に触れてみる
3回目　歴史について調べて発表してみる
4回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
5回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
6回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
7回目　地域を調べる
8回目　地域の様子をまとめる
9回目　地域を紹介する
10回目　文献をよむ（1）
11回目　文献をよむ（2）
12回目　文献をよむ（3）
13回目　京都の交通ガイドと京都関係の本の紹介
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2016	授業コード	JMC001AHH
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、4年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　自分を知る・他人を知る
2回目　歴史文化に触れてみる
3回目　歴史について調べて発表してみる
4回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
5回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
6回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
7回目　地域を調べる
8回目　地域の様子をまとめる
9回目　地域を紹介する
10回目　文献をよむ（1）
11回目　文献をよむ（2）
12回目　文献をよむ（3）
13回目　京都の交通ガイドと京都関係の本の紹介
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JMC001AHI
科目名	スタートアップゼミA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版 伊藤誠彦著　超速マスター！ＳＰＩ無敵の解法パターン　高橋書店		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JMC001AHP
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JMC001AKA
科目名	スタートアップゼミA -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		

受講者への要望

単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。

講義の順序とポイント

1 イントロダクション　大学で学ぶ
2 「話」を聞いて記録する力
3 「活字」を読む力
4 「レポート」のまとめ方
5 「文章」を要約する力
6 言いたいことを書く力
7 いろいろ発想　ブレーンストーミング
8 いろいろ発想　KJ 法
9 発想したものをまとめる力
10 自分の疑問を深めてみる
11 情報を集める
12 集めた情報を読み解く
13 情報を足がかりに行動する
14 成果発表
15 成果発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001AKB
科目名	スタートアップゼミA -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001AKC
科目名	スタートアップゼミA -k3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001AKD
科目名	スタートアップゼミA -k4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001AKE
科目名	スタートアップゼミA -k5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001AKF
科目名	スタートアップゼミA -k6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		

受講者への要望

単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。

講義の順序とポイント

1 イントロダクション　大学で学ぶ
2 「話」を聞いて記録する力
3 「活字」を読む力
4 「レポート」のまとめ方
5 「文章」を要約する力
6 言いたいことを書く力
7 いろいろ発想　ブレーンストーミング
8 いろいろ発想　KJ 法
9 発想したものをまとめる力
10 自分の疑問を深めてみる
11 情報を集める
12 集めた情報を読み解く
13 情報を足がかりに行動する
14 成果発表
15 成果発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001AKG
科目名	スタートアップゼミA -k7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		

受講者への要望

単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。

講義の順序とポイント

1 イントロダクション　大学で学ぶ
2 「話」を聞いて記録する力
3 「活字」を読む力
4 「レポート」のまとめ方
5 「文章」を要約する力
6 言いたいことを書く力
7 いろいろ発想　ブレーンストーミング
8 いろいろ発想　KJ 法
9 発想したものをまとめる力
10 自分の疑問を深めてみる
11 情報を集める
12 集めた情報を読み解く
13 情報を足がかりに行動する
14 成果発表
15 成果発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001AKH
科目名	スタートアップゼミA -k8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		

受講者への要望

単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。

講義の順序とポイント

1 イントロダクション　大学で学ぶ
2 「話」を聞いて記録する力
3 「活字」を読む力
4 「レポート」のまとめ方
5 「文章」を要約する力
6 言いたいことを書く力
7 いろいろ発想　ブレーンストーミング
8 いろいろ発想　KJ 法
9 発想したものをまとめる力
10 自分の疑問を深めてみる
11 情報を集める
12 集めた情報を読み解く
13 情報を足がかりに行動する
14 成果発表
15 成果発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASA
科目名	スタートアップゼミA -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASB
科目名	スタートアップゼミA -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASC
科目名	スタートアップゼミA -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASD
科目名	スタートアップゼミA -s4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASE
科目名	スタートアップゼミA -s5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASF
科目名	スタートアップゼミA -s6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASG
科目名	スタートアップゼミA -s7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASJ
科目名	スタートアップゼミA -s8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASK
科目名	スタートアップゼミA -s9	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASL
科目名	スタートアップゼミA -s10	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001ASM
科目名	スタートアップゼミA -s11	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JMC001BFA
科目名	スタートアップゼミB -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BFB
科目名	スタートアップゼミB -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BFC
科目名	スタートアップゼミB -f3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BFD
科目名	スタートアップゼミB -f4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BFE
科目名	スタートアップゼミB -f5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2016	授業コード	JMC001BFF
科目名	スタートアップゼミB -f6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BFG
科目名	スタートアップゼミB -f7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BFH
科目名	スタートアップゼミB -f8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BFI
科目名	スタートアップゼミB -f9	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B では前半は秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BHA
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	小川　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JMC001BHB
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－」　2006　くろしお出版 伊藤誠彦著　超速マスター！ＳＰＩ無敵の解法パターン　　高橋書店		
教材（参考文献）	藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」　2006　北大路書房 松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009　玉川大学出版部		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

と もかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★	★	★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	JMC001BHC
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JMC001BHD
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JMC001BHE
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　ガイダンス
2回目　文献を読む（1）
3回目　文献を読む（2）
4回目　京都市の事業の紹介
5回目　図書館やネットを使いこなす
6回目　くずし字を読んでみよう
7回目　地形図を読み取る（基礎編）
8回目　地図を利用する（基礎編）
9回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（4）
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（5）
11回目　2回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会
12回目　町人のくらし
13回目　和本の書誌
14回目　民俗学について
15回目　大学生活1年目から2年目へ
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BHF
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　ガイダンス
2回目　文献を読む（1）
3回目　文献を読む（2）
4回目　京都市の事業の紹介
5回目　図書館やネットを使いこなす
6回目　くずし字を読んでみよう
7回目　地形図を読み取る（基礎編）
8回目　地図を利用する（基礎編）
9回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（4）
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（5）
11回目　２回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会
12回目　町人のくらし
13回目　和本の書誌
14回目　民俗学について
15回目　大学生活１年目から２年目へ
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BHG
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　ガイダンス
2回目　文献を読む（1）
3回目　文献を読む（2）
4回目　京都市の事業の紹介
5回目　図書館やネットを使いこなす
6回目　くずし字を読んでみよう
7回目　地形図を読み取る（基礎編）
8回目　地図を利用する（基礎編）
9回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（4）
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（5）
11回目　2回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会
12回目　町人のくらし
13回目　和本の書誌
14回目　民俗学について
15回目　大学生活1年目から2年目へ
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JMC001BHH
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　ガイダンス
2回目　文献を読む（1）
3回目　文献を読む（2）
4回目　京都市の事業の紹介
5回目　図書館やネットを使いこなす
6回目　くずし字を読んでみよう
7回目　地形図を読み取る（基礎編）
8回目　地図を利用する（基礎編）
9回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（4）
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（5）
11回目　２回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会
12回目　町人のくらし
13回目　和本の書誌
14回目　民俗学について
15回目　大学生活１年目から２年目へ
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JMC001BHP
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JMC001BKA
科目名	スタートアップゼミB -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001BKB
科目名	スタートアップゼミB -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		

受講者への要望

単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。

講義の順序とポイント

1 イントロダクション　学んだことを活用する
2 課題解決の基本
3 課題解決のための情報収集
4 「文章」を批判的に読む
5 課題解決のためのデータ分析
6 仮説の組み立てと検証
7 いろいろ発想　MN 法
8 いろいろ発想　マインドマップ
9 論理的な思考と解決策
10 グループで課題発見
11 グループで課題解決
12 発表して人に伝える
13 相手にわかってもらえる発表方法
14 成果発表
15 成果発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001BKC
科目名	スタートアップゼミB -k3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001BKD
科目名	スタートアップゼミB -k4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001BKE
科目名	スタートアップゼミB -k5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001BKF
科目名	スタートアップゼミB -k6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001BKG
科目名	スタートアップゼミB -k7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		

受講者への要望

単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。

講義の順序とポイント

1 イントロダクション　学んだことを活用する
2 課題解決の基本
3 課題解決のための情報収集
4 「文章」を批判的に読む
5 課題解決のためのデータ分析
6 仮説の組み立てと検証
7 いろいろ発想　MN 法
8 いろいろ発想　マインドマップ
9 論理的な思考と解決策
10 グループで課題発見
11 グループで課題解決
12 発表して人に伝える
13 相手にわかってもらえる発表方法
14 成果発表
15 成果発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JMC001BKH
科目名	スタートアップゼミB -k8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミBでは、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	課題解決を通じで、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想　MN 法 8 いろいろ発想　マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2016	授業コード	JMC001BSA
科目名	スタートアップゼミB -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC001BSB
科目名	スタートアップゼミB -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	一丸　直哉	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC001BSC
科目名	スタートアップゼミB -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC001BSD
科目名	スタートアップゼミB -s4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	中村　正彦	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC001BSE
科目名	スタートアップゼミB -s5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC001BSF
科目名	スタートアップゼミB -s6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC001BSG
科目名	スタートアップゼミB -s7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC001BSJ
科目名	スタートアップゼミB -s8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC001BSK
科目名	スタートアップゼミB -s9	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC001BSL
科目名	スタートアップゼミB -s10	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC001BSM
科目名	スタートアップゼミB -s11	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 改訂版　日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		

受講者への要望

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

講義の順序とポイント

1）夏期休暇の課題レポート発表
2）小論文の書き方：主張のあるレポート
3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集
4）文章を読解する：アカデミック・リーディング
5）文章を要約する：パラグラフの分析
6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門
7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン
8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC002A0B
科目名	私の人生設計ＩＡ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。大学生活は，これからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な役割を持っています。本科目では，人生を自ら切りひらく力の涵養を目的とし，自らが進む方向を定め，他者と協働して目標や計画を実現実行する力を養います。これらを通じて，これからの人生のあり方ついて考える機会を提供します。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布します。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.　　講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：履修者自己紹介、授業の進め方と授業内容についての説明 2. これまでの自分の振り返り 3. コミュニケーションを学ぶ（1） 4. コミュニケーションを学ぶ（2） 5. コミュニケーションを学ぶ（3） 6.日常生活の見直しと自己管理 7.チームワークについて考える　（1） 8.チームワークについて考える　（2） 9.チームワークについて考える（3） 10.社会で必要な力について考える（1） 11.社会で必要な力について考える（2） 12. 今後のキャリアプランを立てよう（1） 13. 今後のキャリアプランを立てよう（2） 14. 今後のキャリアプランを立てよう（3） 15. これからの未来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	JMC002A0C
科目名	私の人生設計ＩＡ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。大学生活は，これからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な役割を持っています。本科目では，人生を自ら切りひらく力の涵養を目的とし，自らが進む方向を定め，他者と協働して目標や計画を実現実行する力を養います。これらを通じて，これからの人生のあり方ついて考える機会を提供します。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布します。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1. 講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：履修者自己紹介、授業の進め方と授業内容についての説明 2. これまでの自分の振り返り 3. コミュニケーションを学ぶ（1） 4. コミュニケーションを学ぶ（2） 5. コミュニケーションを学ぶ（3） 6.日常生活の見直しと自己管理 7.チームワークについて考える　（1） 8.チームワークについて考える　（2） 9.チームワークについて考える（3） 10.社会で必要な力について考える（1） 11.社会で必要な力について考える（2） 12. 今後のキャリアプランを立てよう（1） 13. 今後のキャリアプランを立てよう（2） 14. 今後のキャリアプランを立てよう（3） 15. これからの未来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JMC002A0D
科目名	私の人生設計ＩＡ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。大学生活は，これからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な役割を持っています。本科目では，人生を自ら切りひらく力の涵養を目的とし，自らが進む方向を定め，他者と協働して目標や計画を実現実行する力を養います。これらを通じて，これからの人生のあり方ついて考える機会を提供します。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布します。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1. 講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：履修者自己紹介、授業の進め方と授業内容についての説明 2. これまでの自分の振り返り 3. コミュニケーションを学ぶ（1） 4. コミュニケーションを学ぶ（2） 5. コミュニケーションを学ぶ（3） 6.日常生活の見直しと自己管理 7.チームワークについて考える　（1） 8.チームワークについて考える　（2） 9.チームワークについて考える（3） 10.社会で必要な力について考える（1） 11.社会で必要な力について考える（2） 12. 今後のキャリアプランを立てよう（1） 13. 今後のキャリアプランを立てよう（2） 14. 今後のキャリアプランを立てよう（3） 15. これからの未来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JMC002A0H
科目名	私の人生設計ＩＡ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。大学生活は，これからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な役割を持っています。本科目では，人生を自ら切りひらく力の涵養を目的とし，自らが進む方向を定め，他者と協働して目標や計画を実現実行する力を養います。これらを通じて，これからの人生のあり方ついて考える機会を提供します。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス 2.　これまでの生活を振り返る 3.　自己管理の基本 4.　コミュニケーション（1） 5.　コミュニケーション（2） 6.　他者と協働する（1） 7.　他者と協働する（2） 8.　他者と協働する（3） 9.　他者から学ぶ（1） 10.　他者から学ぶ（2） 11.　今後の生活をデザインする（1） 12.　今後の生活をデザインする（2） 13.　計画の実行に必要なこと（1） 14.　計画の実行に必要なこと（2） 15.　明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	ー	ー	ー

年度	2016	授業コード	JMC002A0I
科目名	私の人生設計ＩＡ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活そして職業社会に向けた視野を広げることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも学生諸君に様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	JMC002B0A
科目名	私の人生設計ＩＢ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IB		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，大学生活はこれからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な役割を持っています。 本科目では，私たちをとりまく社会環境と自己について,「働く」ということを軸に理解を深めます。これにより，変化が激しい社会環境に適応し、生き抜く力を培うことを目的としています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題や発表など：40%		
到達目標	1.　現代の社会環境を踏まえ、「働く」ということを多様な側面から理解する。 2.　自分自身の特徴を踏まえ、働き方や生き方を考えられるようになる。		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.　講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．　ガイダンス：授業の目的および進め方の説明 2．　「学ぶ」と「働く」の違い 3．　労働環境の変化（1） 4．　労働環境の変化（2） 5．　働くことの意味（1） 6．　働くことの意味（2） 7．　職業研究（1） 8．　職業研究（2） 9．　職業研究（3） 10. 自己の特徴を理解する（1） 11. 自己の特徴を理解する（2） 12. 自己の特徴を理解する（3） 13. 社会で生き抜く力を考える（1） 14. 社会で生き抜く力を考える（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	★	★★	ー	★	ー

年度	2016	授業コード	JMC002B0B
科目名	私の人生設計ＩＢ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IB		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，大学生活はこれからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な役割を持っています。 本科目では，私たちをとりまく社会環境と自己について,「働く」ということを軸に理解を深めます。これにより，変化が激しい社会環境に適応し、生き抜く力を培うことを目的としています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題や発表など：40%		
到達目標	1. 現代の社会環境を踏まえ、「働く」ということを多様な側面から理解する。 2. 自分自身の特徴を踏まえ、働き方や生き方を考えられるようになる。		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1. 講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．ガイダンス：授業の目的および進め方の説明 2．「学ぶ」と「働く」の違い 3．労働環境の変化（1） 4．労働環境の変化（2） 5．働くことの意味（1） 6．働くことの意味（2） 7．職業研究（1） 8．職業研究（2） 9．職業研究（3） 10. 自己の特徴を理解する（1） 11. 自己の特徴を理解する（2） 12. 自己の特徴を理解する（3） 13. 社会で生き抜く力を考える（1） 14. 社会で生き抜く力を考える（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	JMC003A01
科目名	私の人生設計ⅡA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡA		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を理解することを目的としています。ⅡAでは，特に「社会理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	岩上真珠・大槻奈巳（編）　『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣　1800円＋税		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	現在の自分を取り巻く職業社会の状況について理解することができる 職業社会の状況と対比して，現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	授業は教科書の内容を踏まえて行います。そのため，指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では教科書の内容に基づいた発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。他者と協力する姿勢を持つことは必須要件です。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
《第１クール》：働くことに対する意識（第１章～第４章）
2. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備(1)
4. 資料をまとめる，発表の準備(2)
5. 発表と解説（第１章：ライフコースを知ろう）
6. 発表と解説（第２章：「大人になる」ことの意味）
7. 発表と解説（第３章：働くことを考える）
8. 発表と解説（第４章：変化のなかの若者と意識）
《第２クール》：職業社会を取り巻く状況と個人（第５章～第７章，第９章）
9. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備(1)
11. 資料をまとめる，発表の準備(2)
12. 発表と解説（第５章：大学から労働への移行）
13. 発表と解説（第６章：企業のフレキシビリティと労働者のキャリア）
14. 発表と解説（第７章：ワーク・ライフ・バランス）
15. 発表と解説（第９章：学びをいかし深める）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC003A0G
科目名	私の人生設計ⅡA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡA		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を理解することを目的としています。ⅡAでは，特に「社会理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	岩上真珠・大槻奈巳（編）　『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣　1800円＋税		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	現在の自分を取り巻く職業社会の状況について理解することができる 職業社会の状況と対比して，現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	授業は教科書の内容を踏まえて行います。そのため，指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では教科書の内容に基づいた発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。他者と協力する姿勢を持つことは必須要件です。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
《第１クール》：働くことに対する意識（第１章～第４章）
2. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備(1)
4. 資料をまとめる，発表の準備(2)
5. 発表と解説（第１章：ライフコースを知ろう）
6. 発表と解説（第２章：「大人になる」ことの意味）
7. 発表と解説（第３章：働くことを考える）
8. 発表と解説（第４章：変化のなかの若者と意識）
《第２クール》：職業社会を取り巻く状況と個人（第５章～第７章，第９章）
9. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備(1)
11. 資料をまとめる，発表の準備(2)
12. 発表と解説（第５章：大学から労働への移行）
13. 発表と解説（第６章：企業のフレキシビリティと労働者のキャリア）
14. 発表と解説（第７章：ワーク・ライフ・バランス）
15. 発表と解説（第９章：学びをいかし深める）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC003B01
科目名	私の人生設計ⅡＢ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡＢ		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を理解することを目的としています。ⅡＢでは，特に「自己理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	若松養亮・下村英雄（編）　『詳解　大学生のキャリアガイダンス論』金子書房　2600 円＋税		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの提示や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	将来のキャリアを考える上でヒントとなる学術的知見，理論を深く理解することができる 現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	授業は教科書の内容を踏まえて行います。そのため，指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では教科書の内容に基づいた発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。他者と協力する姿勢を持つことは必須要件です。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
《第１クール》：大学生のキャリア選択と支援（第１章～第４章）
2. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備①
4. 資料をまとめる，発表の準備②
5. 発表と解説（第１章：環境はどう変わったのか）
6. 発表と解説（第２章：就職はなぜ難しいのか）
7. 発表と解説（第３章：決められないのはなぜか）
8. 発表と解説（第４章：何のために働くのか）
《第２クール》：キャリアを考える（第５章，第７章，第８章，第 10 章）
9. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備①
11. 資料をまとめる，発表の準備②
12. 発表と解説（第５章：キャリア選択の性差）
13. 発表と解説（第７章：社会人になるとはどういうことか）
14. 発表と解説（第８章：キャリアガイダンスでは何が重要か）
15. 発表と解説（第 10 章：学生から職業人への橋渡し）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC003B0G
科目名	私の人生設計ⅡＢ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡＢ		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 　本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を理解することを目的としています。ⅡＢでは，特に「自己理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	若松養亮・下村英雄（編）　『詳解　大学生のキャリアガイダンス論』金子書房　2600 円＋税		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの提示や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	将来のキャリアを考える上でヒントとなる学術的知見，理論を深く理解することができる 現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	授業は教科書の内容を踏まえて行います。そのため，指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では教科書の内容に基づいた発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。他者と協力する姿勢を持つことは必須要件です。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
《第１クール》：大学生のキャリア選択と支援（第１章～第４章）
2. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備①
4. 資料をまとめる，発表の準備②
5. 発表と解説（第１章：環境はどう変わったのか）
6. 発表と解説（第２章：就職はなぜ難しいのか）
7. 発表と解説（第３章：決められないのはなぜか）
8. 発表と解説（第４章：何のために働くのか）
《第２クール》：キャリアを考える（第５章，第７章，第８章，第 10 章）
9. チームビルディング（担当箇所の決定）＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備①
11. 資料をまとめる，発表の準備②
12. 発表と解説（第５章：キャリア選択の性差）
13. 発表と解説（第７章：社会人になるとはどういうことか）
14. 発表と解説（第８章：キャリアガイダンスでは何が重要か）
15. 発表と解説（第 10 章：学生から職業人への橋渡し）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	–	★★	★

年度	2016	授業コード	JMC004001
科目名	インターンシップ入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship (Introduction)		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	学生が京都の企業に企業留学し，学修へのモチベーションを高めるとともに，卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（アドバンスト・インターンシップ・プログラム；ＡＩＰ）の「最初」に位置付けられる科目である。 ①ビジネスマナー等のビジネススキルの実習を行うほか、②なぜ、インターンシップに取り組むのかを考え、実習に向けた目標の設定をグループワーク形式で行い、実習メンバー間の目的意識を共有することを通じて、実習経験を最大限活かせるような「態度」を身につけることとする。		
教材（テキスト）	プリント資料の配付		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	事前授業の取組態度(20％) 具体的には、発言等々の授業への参加状況を総合的に評価する 実習前の「事前レポート」(80％)		
到達目標	１．企業で働く上で、必要となる基礎的マナーを身につける ２．企業で働く上でのルールや注意しなければならない点について理解する。 ３．実習に取り組む上で個人的な目標設定を行う。 ４．インターンシップそのものの重要性について理解する。		
準備学習	講義内容は全て今後の実習において実際に活用しうる内容であるため、必ず復習を行い、実践できるようにすること。また、予習として新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れること。 （授業内でも、当日の新聞･雑誌記事を素材に、意見交換を行うことがある。）		

受講者への要望

授業は、教員･学生間双方向でやっていく予定であるので、あらゆる局面において、自分の意見を持ち、活発な意見交換をお願いする。これからのインターシップ実習を想定しながら、意欲的に取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

Ⅰ　目的意識の明確化
1. 参加メンバーの相互理解
2. インターンシップに取り組む目的とその共有
3. 先輩から学ぶ AIP
4.大学の学びとインターンシップ①
　　－学部での学びから次の STEP へ
5. 大学の学びとインターンシップ②
　　－インターンシップで何を学ぶか

Ⅱ　職場での基礎的なルールとマナーを学ぶ
6. ビジネスでのルールを知る①
7. ビジネスでのルールを知る②
8. ビジネスでのルールを知る③
9. メンタルヘルス①
10. メンタルヘルス②
11. インターンシップの危機管理

Ⅲ　実習に向けた準備
12. 実習に向けた目標設定①
13. 実習に向けた目標設定②

14. 実習に向けた目標設定③ 15.実習に向けた目標設定④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JMC005001
科目名	企業実務 A	単位数	4
科目名（英語表記）			
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を理解し，組織に適応するプロセスについて学びます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15% 単位認定の為には面談指導，情報共有会への出席を必須とする。		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を深く理解することができる (2)：組織に適応していくことができる		
準備学習	実務前に自らが取り組む予定である業務がどのようなものであるかについて調べ，具体的なイメージを固めておくこと。合わせて，実務に取り組むにあたり必要となる事柄について準備を進めた上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月に 1 回情報共有会を実施するため，必ず参加すること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2016	授業コード	JMC006001
科目名	企業実務Ｂ	単位数	4
科目名（英語表記）			
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15% 単位認定の為には面談指導，情報共有会への出席を必須とする。		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：組織に適応し，与えられた職務・役割を通じて貢献していくことができる (3)：社会で必要な「学び」についてのヒントを得ることができる		
準備学習	自らが取り組んでいる業務･役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月に 1 回情報共有会を実施するため，必ず参加すること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	JMC007001
科目名	企業実務C	単位数	4
科目名（英語表記）			
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：35% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：15% 単位認定の為には面談指導，情報共有会への出席を必須とする。		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
準備学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月に 1 回情報共有会を実施するため，必ず参加すること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2016	授業コード	JMC008001
科目名	企業実務D	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：35% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25% 単位認定の為には面談指導，情報共有会への出席を必須とする。		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
準備学習	自らが取り組んでいる業務･役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 2 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月に 1 回情報共有会を実施するため，必ず参加すること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2016	授業コード	JMC009001
科目名	京の企業 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Small and Medium Enterprises in Kyoto A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業で「働く」という事に対する理解を深めると同時に，京都の企業に対する興味関心を深め，自分なりの「働く」ことに対する意味を探求する科目です。組織の中で働くとはどういうことか，そして与えられた役割を果たすとはどういうことかについて考え，職業社会への参入に向けた準備を行います。なお，本科目はアドバンスト・インターンシップ・プログラムを修了する為の必須科目（事前学修科目）に指定されています。		
教材（テキスト）	特になし．必要に応じて適宜指示する．		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する．		
教材（その他）	必要に応じて適宜指示する．		
評価方法	授業中に指示する課題への取組(50%)，レポート課題(50%)		
到達目標	企業で働くことに対する理解を深めることができる 京都の企業に対する理解を深めることができる 「働く」ことに対する自分なりの意味づけを持つことができる		
準備学習	授業内で提示した課題に関する事前調査が必須となるので，授業開始時までに必ず指示した内容について調べ，内容を整理しておくこと．		

受講者への要望

本科目はインターンシップとして職業社会に参入するための準備的意味合いを持つ科目です。よって，普段の行動についても社会人と同様の水準で評価します。理由なき遅刻，欠席は厳禁です。提出物についても必ず期日を守ること。また，本科目を受講しなければ企業実務への参加をすることが出来ませんので，真摯な態度で受講してください。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス＆職業の意義とは何か？
2.先輩から学ぶインターンシップ
3.「社会的役割を果たす」とは？
4.「労働力」と「給料」
5.「天職とは？」
6.日本の雇用と働く仕組み
7.京都の企業を知る①
8.京都の企業を知る②
9.京都の企業を知る③
10.職務を理解する①
11.職務を理解する②
12.職務を理解する③
13.「社会的役割」としての仕事①
14.「社会的役割」としての仕事②
15.「社会的役割」としての仕事③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	JMC010001
科目名	京の企業Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small and Medium Enterprises in Kyoto B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	本科目はインターンシップを通じた実務経験の振り返りを通じて,「働く」ことの意味について再構築する科目です。インターンシップでの実務経験と対比しながら「働く」ということについて考えると同時に，社会で必要となる「学び」の形とは何かについて考えます。なお，本科目はアドバンスト・インターンシップ・プログラムを修了する為の必須科目（事後学修科目）に指定されています。		
教材（テキスト）	特になし．必要に応じて資料を配付する．		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する．		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する．		
評価方法	授業中に提示する課題への取組(50%)とレポート課題(50%)		
到達目標	「働く」ことについて，実務経験を踏まえてその意味を再認識することができる 社会で必要となる「学び」の形について深く理解することができる インターンシップでの経験を体系化してまとめることができる		
準備学習	実務経験を通じて感じた事柄を具体化していく作業を授業内で実施しますので，自分の考えや感じたことをあらかじめメモや文章などにしてまとめておくことが必要となります。また，授業内で資料作成等の指示を出しますので，期日までに必ず完成させること。		

受講者への要望

これまでの経験を踏まえ，普段の行動についても社会人と同様の水準で評価します。理由なき遅刻，欠席は厳禁です。提出物についても必ず期日を守ること。

講義の順序とポイント

1.実務経験を考える
2.組織社会化①
3.組織社会化②
4.職業の意義・再考
5.企業で働くことの意味①
6.企業で働くことの意味②
7.学校から職業への移行①
8.学校から職業への移行②
9.京の企業で働く①
10.京の企業で働く②
11.京の企業で働く③
12.社会に繋がる学び①
13.社会に繋がる学び②
14.社会に繋がる学び③
15.社会に繋がる学び④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	JMQ001702
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で2週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。そのため、この科目での課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行う。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の4項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として8月中旬～9月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JMQ001703
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（コーオプ教育）は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムです。 本プログラムはキャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムです。 ○プログレスコース・・・6 月～11 月の約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。 ○ビジネスコース・パブリックコース・・・8 月中旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。		
教材（テキスト）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（参考文献）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（その他）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
評価方法	※以下の 3 項目を成績評価基準とします。 ①実習状況 ②平常点（事前・事後学習における取組状況及びプログラム全体を通じた成長の評価） ③課題（事前学習レポート、事後学習レポート等） ①にて 50%　②～③にて 50%　計 100%		
到達目標	社会に出て働く上で時分に不足している知識や能力を知る。社会における基本的なマナーや責任の意識を身につける。将来の進路決定に役立てる。		
準備学習	事前研修などで指定されるのでそれに従うこと。必ず復習をして、身につけること。 スケジュールの管理が出来るよう準備すること。		
受講者への要望			
大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、プログレスコース及びビジネスコース・パブリックコースそして、受入れ先を選択し、事前に Web 申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要があります。 [Web 申込期間]　2016 年 4 月 22 日(金)9：00～5 月 5 日(木)17：00 ［出願･面接日］　2016 年 5 月 6 日(金)16：00～18：30 5 月 7 日(土)10：00～15：00 詳しくは大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に問い合わせてください。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う。 ・　説明会を開催し、受け入れ先の紹介、（必要に応じて）各受講生の希望聴取や選考会を行う。 ・　各受講生の受け入れ先を決定 ・　事前研修 ・　インターンシップの実施 ・　レポート、　報告書などの提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JMQ001704
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で2週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。そのため、この科目での課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行う。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の4項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として8月中旬～9月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JMQ001706
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で2週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。そのため、この科目での課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行う。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の4項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として8月中旬～9月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JMQ001707
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（コーオプ教育）は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムです。 本プログラムはキャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムです。 ○プログレスコース・・・6 月～11 月の約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。 ○ビジネスコース・パブリックコース・・・8 月中旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。		
教材（テキスト）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（参考文献）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（その他）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
評価方法	※以下の 3 項目を成績評価基準とします。 ①実習状況 ②平常点（事前・事後学習における取組状況及びプログラム全体を通じた成長の評価） ③課題（事前学習レポート、事後学習レポート等） ①にて 50%　②～③にて 50%　計 100%		
到達目標	社会に出て働く上で時分に不足している知識や能力を知る。社会における基本的なマナーや責任の意識を身につける。将来の進路決定に役立てる。		
準備学習	事前研修などで指定されるのでそれに従うこと。必ず復習をして、身につけること。 スケジュールの管理が出来るよう準備すること。		
受講者への要望			
大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、プログレスコース及びビジネスコース・パブリックコースそして、受入れ先を選択し、事前に Web 申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要があります。 [Web 申込期間]　2016 年 4 月 22 日(金)9：00～5 月 5 日(木)17：00 ［出願･面接日］　2016 年 5 月 6 日(金)16：00～18：30 5 月 7 日(土)10：00～15：00 詳しくは大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に問い合わせてください。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う。 ・　説明会を開催し、受け入れ先の紹介、（必要に応じて）各受講生の希望聴取や選考会を行う。 ・　各受講生の受け入れ先を決定 ・　事前研修 ・　インターンシップの実施 ・　レポート、　報告書などの提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JMQ003902
科目名	インターンシップＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	この科目では、「インターンシップＡＩ」を履修した者が、再び２週間程度のインターンシップ実習を行う場合の科目である。１度目の実習を踏まえて、大学における学びと実社会における実践の関係を理解し、有機的に結び付けることにより、理論と実践の融合を図ることを目的とする。事前学習では１度目の実習を振り返り、新たに課題設定し、２週間程度の企業実習を行う。その中で課題発見力や論理的思考力を身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果発表を行う. インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	インターンシップＡＩの成果を踏まえ、新たな目標設定を行って実習することにより、次の各点について一段と高いレベルの態度を示すことができるようにする。 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JMQ003903
科目名	インターンシップB	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（コーオプ教育）は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムです。 本プログラムはキャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムです。 ○プログレスコース・・・6 月～11 月の約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。 ○ビジネスコース・パブリックコース・・・8 月中旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。		
教材（テキスト）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（参考文献）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（その他）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
評価方法	※以下の 3 項目を成績評価基準とします。 ①実習状況 ②平常点（事前・事後学習における取組状況及びプログラム全体を通じた成長の評価） ③課題（事前学習レポート、事後学習レポート等） ①にて 50%　②～③にて 50%　計 100%		
到達目標	社会に出て働く上で時分に不足している知識や能力を知る。社会における基本的なマナーや責任の意識を身につける。将来の進路決定に役立てる。		
準備学習	事前研修などで指定されるのでそれに従うこと。必ず復習をして、身につけること。 スケジュールの管理が出来るよう準備すること。		
受講者への要望			
大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、プログレスコース及びビジネスコース・パブリックコースそして、受入れ先を選択し、事前に Web 申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要があります。 [Web 申込期間]　2016 年 4 月 22 日(金)9：00～5 月 5 日(木)17：00 ［出願･面接日］　2016 年 5 月 6 日(金)16：00～18：30 5 月 7 日(土)10：00～15：00 詳しくは大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に問い合わせてください。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う。 ・　説明会を開催し、受け入れ先の紹介、（必要に応じて）各受講生の希望聴取や選考会を行う。 ・　各受講生の受け入れ先を決定 ・　事前研修 ・　インターンシップの実施 ・　レポート、　報告書などの提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JMQ003904
科目名	インターンシップＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
講義概要	この科目では、「インターンシップＡＩ」を履修した者が、再び２週間程度のインターンシップ実習を行う場合の科目である。１度目の実習を踏まえて、大学における学びと実社会における実践の関係を理解し、有機的に結び付けることにより、理論と実践の融合を図ることを目的とする。事前学習では１度目の実習を振り返り、新たに課題設定し、２週間程度の企業実習を行う。その中で課題発見力や論理的思考力を身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果発表を行う. インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	インターンシップＡＩの成果を踏まえ、新たな目標設定を行って実習することにより、次の各点について一段と高いレベルの態度を示すことができるようにする。 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JMQ003906
科目名	インターンシップＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	この科目では、「インターンシップＡＩ」を履修した者が、再び２週間程度のインターンシップ実習を行う場合の科目である。１度目の実習を踏まえて、大学における学びと実社会における実践の関係を理解し、有機的に結び付けることにより、理論と実践の融合を図ることを目的とする。事前学習では１度目の実習を振り返り、新たに課題設定し、２週間程度の企業実習を行う。その中で課題発見力や論理的思考力を身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果発表を行う. インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	インターンシップＡＩの成果を踏まえ、新たな目標設定を行って実習することにより、次の各点について一段と高いレベルの態度を示すことができるようにする。 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム
Ⅰ　事前学習
1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2016	授業コード	JMQ003907
科目名	インターンシップB	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（コーオプ教育）は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムです。 本プログラムはキャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムです。 ○プログレスコース・・・6 月～11 月の約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。 ○ビジネスコース・パブリックコース・・・8 月中旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。		
教材（テキスト）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（参考文献）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（その他）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
評価方法	※以下の 3 項目を成績評価基準とします。 ①実習状況 ②平常点（事前・事後学習における取組状況及びプログラム全体を通じた成長の評価） ③課題（事前学習レポート、事後学習レポート等） ①にて 50%　②～③にて 50%　計 100%		
到達目標	社会に出て働く上で時分に不足している知識や能力を知る。社会における基本的なマナーや責任の意識を身につける。将来の進路決定に役立てる。		
準備学習	事前研修などで指定されるのでそれに従うこと。必ず復習をして、身につけること。 スケジュールの管理が出来るよう準備すること。		
受講者への要望			
大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、プログレスコース及びビジネスコース・パブリックコースそして、受入れ先を選択し、事前に Web 申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要があります。 [Web 申込期間]　2016 年 4 月 22 日(金)9：00～5 月 5 日(木)17：00 ［出願･面接日］　2016 年 5 月 6 日(金)16：00～18：30 5 月 7 日(土)10：00～15：00 詳しくは大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に問い合わせてください。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う。 ・　説明会を開催し、受け入れ先の紹介、（必要に応じて）各受講生の希望聴取や選考会を行う。 ・　各受講生の受け入れ先を決定 ・　事前研修 ・　インターンシップの実施 ・　レポート、　報告書などの提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JP0005A01
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。 この科目は、「教職」のための教養の基礎部分にあたるもので、教育の理念、思想および歴史を学ぶことによって、人間社会でなされる教育という活動の本質と意味を理解することをめざしている。		
教材（テキスト）	テキスト１冊を定めることはしない。サブ・テキスト的な書物の重要な部分をコピーで配布する。		
教材（参考文献）	とくに指定するものはない。		
教材（その他）	プリント資料を多数配布する。また、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も講義内で活用する。		
評価方法	授業への出席は当然重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎず、その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という生き物にとって「教育」が必要であることの確信を得ること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読して出席すること。		

受講者への要望

「先生になりたい」という強い意志さえあればよい、とは言わない。教職への憧れや熱意に加え、学んでいくうえで必要な〈読む力〉、〈考える力〉、〈書く力〉を自分は十分備えているという自信のある者だけに、受講を認めたい。

基本的に、１、２回生を対象とする科目である。

講義の順序とポイント

1．　講義の概要と成績評価について
2．　人間と教育――人間と動物の違い
3．　人間の特殊性――「生理的早産」
4．　教育の必要性――人間と文化
5．　遺伝と環境
6．　教育の諸側面――自然の生命力
7．　教育の諸側面――社会化
8．　教育の諸側面――学校教育の機能
9．　発達課題
10．教育の歴史――公教育の成立
11．教育の歴史――明治・大正
12．教育の歴史――昭和前期
13．教育の歴史――第２次世界大戦敗戦後
14．教育の新しい思想――脱学校論
15．学期末試験に向けた、本年度の講義のポイント整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	―	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0005A02
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。 この科目は、「教職」のための教養の基礎部分にあたるもので、教育の理念、思想および歴史を学ぶことによって、人間社会でなされる教育という活動の本質と意味を理解することをめざしている。		
教材（テキスト）	テキスト１冊を定めることはしない。サブ・テキスト的な書物の重要な部分をコピーで配布する。		
教材（参考文献）	とくに指定するものはない。		
教材（その他）	プリント資料を多数配布する。また、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も講義内で活用する。		
評価方法	授業への出席は当然重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎず、その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という生き物にとって「教育」が必要であることの確信を得ること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読して出席すること。		

受講者への要望

「先生になりたい」という強い意志さえあればよい、とは言わない。教職への憧れや熱意に加え、学んでいくうえで必要な〈読む力〉、〈考える力〉、〈書く力〉を自分は十分備えているという自信のある者だけに、受講を認めたい。

基本的に、１、２回生を対象とする科目である。

講義の順序とポイント

１．　講義の概要と成績評価について
２．　人間と教育――人間と動物の違い
３．　人間の特殊性――「生理的早産」
４．　教育の必要性――人間と文化
５．　遺伝と環境
６．　教育の諸側面――自然の生命力
７．　教育の諸側面――社会化
８．　教育の諸側面――学校教育の機能
９．　発達課題
10.　教育の歴史――公教育の成立
11.　教育の歴史――明治・大正
12.　教育の歴史――昭和前期
13.　教育の歴史――第２次世界大戦敗戦後
14.　教育の新しい思想――脱学校論
15.　学期末試験に向けた、本年度の講義のポイント整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0005A03
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。 この科目は、「教職」のための教養の基礎部分にあたるもので、教育の理念、思想および歴史を学ぶことによって、人間社会でなされる教育という活動の本質と意味を理解することをめざしている。		
教材（テキスト）	テキスト１冊を定めることはしない。サブ・テキスト的な書物の重要な部分をコピーで配布する。		
教材（参考文献）	とくに指定するものはない。		
教材（その他）	プリント資料を多数配布する。また、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も講義内で活用する。		
評価方法	授業への出席は当然重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎず、その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という生き物にとって「教育」が必要であることの確信を得ること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読して出席すること。		

受講者への要望

「先生になりたい」という強い意志さえあればよい、とは言わない。教職への憧れや熱意に加え、学んでいくうえで必要な〈読む力〉、〈考える力〉、〈書く力〉を自分は十分備えているという自信のある者だけに、受講を認めたい。

基本的に、１、２回生を対象とする科目である。

講義の順序とポイント

１．　講義の概要と成績評価について
２．　人間と教育――人間と動物の違い
３．　人間の特殊性――「生理的早産」
４．　教育の必要性――人間と文化
５．　遺伝と環境
６．　教育の諸側面――自然の生命力
７．　教育の諸側面――社会化
８．　教育の諸側面――学校教育の機能
９．　発達課題
10.　教育の歴史――公教育の成立
11.　教育の歴史――明治・大正
12.　教育の歴史――昭和前期
13.　教育の歴史――第２次世界大戦敗戦後
14.　教育の新しい思想――脱学校論
15.　学期末試験に向けた、本年度の講義のポイント整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0007001
科目名	教育相談 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Counseling		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	近年学校の教員にも様々なカウンセリング的知識が求められるようになってきている。 教員にとって必要なカウンセリング的視点や、その方法、子どもの問題行動をいかに理解し関わっていくかについて学ぶ。グループでの討論などにより、自分で考え、意見を伝え、かつ他者の意見にコメントできるように実習も行う。		
教材（テキスト）	教師のためのカウンセリングワークブック　菅野　純　　金子書房		
教材（参考文献）	フツーの子の思春期　岩宮恵子		
教材（その他）			
評価方法	グループでの討論、意見の発表など、授業への積極的な参加、レポートの提出などの平常点、試験ともに６０点以上で合格とします。		
到達目標	子どもの心の病についての知識、カウンセリングの技法を修得し、具体的な事例から個々場合に応じて柔軟に考え、対応するための力を身につけること。		
準備学習	発達障害、インターネット上でのいじめ、不登校、心身症、現代の親子関係のそれぞれにについて、文献を読んでおくこと。また、教育の問題と関連する事件やニュースについて関心をもち、自分なりに考え、文献を参照し、さらに深く掘り下げて考えることをしておいて下さい。		

受講者への要望

授業への積極的な参加、文献を読むこと、考えをまとめてレポートにすることなどの基本的な姿勢を大切にしてください。

講義の順序とポイント

1,カウンセリングとは、生徒指導的関わりとカウンセリング的関わりの違い
2,話を聞くということ、言葉の技法
3,教員による生徒のコントロールの問題
4,生徒の見分け
5,いじめ①　事例　教員が気づかない場合のいじめ
6,いじめ②　事例　教員が気づいた場合
7,いじめ③　事例　インターネット上でのいじめについて
8,発達障害について　様々な発達の障害について（LD,　自閉症、軽度発達障害）
9,発達障害の事例①軽度のもの、子ども、親、クラスへの対応
10,発達障害の事例②自閉症など重度のもの　他機関との連携
11,不登校①　不登校の種類
12,不登校②　長引く不登校
13,生徒理解のために必要な工夫・配慮
14,保護者への対応
15,教員自身のストレスについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	JP0007002
科目名	教育相談 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Counseling		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	近年学校の教員にも様々なカウンセリング的知識が求められるようになってきている。 教員にとって必要なカウンセリング的視点や、その方法、子どもの問題行動をいかに理解し関わっていくかについて学ぶ。グループでの討論などにより、自分で考え、意見を伝え、かつ他者の意見にコメントできるように実習も行う。		
教材（テキスト）	教師のためのカウンセリングワークブック　菅野　純　　金子書房		
教材（参考文献）	フツーの子の思春期　岩宮恵子		
教材（その他）			
評価方法	グループでの討論、意見の発表など、授業への積極的な参加、レポートの提出などの平常点、試験ともに６０点以上で合格とします。		
到達目標	子どもの心の病についての知識、カウンセリングの技法を修得し、具体的な事例から個々場合に応じて柔軟に考え、対応するための力を身につけること。		
準備学習	発達障害、インターネット上でのいじめ、不登校、心身症、現代の親子関係のそれぞれににについて、文献を読んでおくこと。また、教育の問題と関連する事件やニュースについて関心をもち、自分なりに考え、文献を参照し、さらに深く掘り下げて考えることをしておいて下さい。		

受講者への要望

授業への積極的な参加、文献を読むこと、考えをまとめてレポートにすることなどの基本的な姿勢を大切にしてください。

講義の順序とポイント

1,カウンセリングとは、生徒指導的関わりとカウンセリング的関わりの違い
2,話を聞くということ、言葉の技法
3,教員による生徒のコントロールの問題
4,生徒の見分け
5,いじめ①　事例　教員が気づかない場合のいじめ
6,いじめ②　事例　教員が気づいた場合
7,いじめ③　事例　インターネット上でのいじめについて
8,発達障害について　様々な発達の障害について（LD,　自閉症、軽度発達障害）
9,発達障害の事例①軽度のもの、子ども、親、クラスへの対応
10,発達障害の事例②自閉症など重度のもの　他機関との連携
11,不登校①　不登校の種類
12,不登校②　長引く不登校
13,生徒理解のために必要な工夫・配慮
14,保護者への対応
15,教員自身のストレスについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	JP0008001
科目名	教育方法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods of Teaching		
担当者名	立田　慶裕	旧科目名称	
講義概要	本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えてIT活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により論じる。 目標　（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。		
教材（テキスト）	各回でプリントを配布		
教材（参考文献）	赤尾勝己・山本慶裕『学びのデザイン』玉川大学出版部		
教材（その他）	立田慶裕編『読書教育の方法』学文社、2015		
評価方法	成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート 15 回（40%），中間課題レポート2回（40%），最終課題レポート(20%）の総合判断。		
到達目標	（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。 （2）今後の学校組織では、教員の専門的職能の継続的な開発が期待されている。 （3）また、教育方法としてのＩＴ活用を積極的に活用するこ		
準備学習	講義終了後に、次回の講義についての予告を行いますので、関連する情報や本を読んでおいてください。 また、できれば、教育方法に関する多様なメディアについての情報を収集しておいてください。		

受講者への要望

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

講義の順序とポイント

第1回　オリエンテーション
講義の目標、内容と方法、評価の説明
第2回　学習意欲を引き出す工夫
アイスブレイクの手法について多様な方法を紹介し、体験する
第3回　教育方法論の系譜
メディアの発展をふりかえり、それが教育指導法の変化に及ぼした歴史を考える
第4回　教育方法論の意義と目標
実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討する
第5回　授業の計画
授業構成と指導案の書き方を説明し、書いてもらう
第6回　授業の方法（1）
知識の整理法として、ノートや電子ファイルでナレッジベースを作成する
第7回　授業の方法（2）
デジタル教材とアナログ教材の長短と利用法を論じ、体験する
第8回　授業の方法（3）
進化するデータベースの利用と、学校図書館の活用法を論じる
第9回　授業の方法（4）
ＩＴを活用したワークショップの方法を論じ、体験する
第10回　授業の方法（5）
授業に必須のプレゼンテーション活用のコツを論じ、学ぶ
第11回　授業の方法（6）マルチメディアの活用
学習法として多様なマルチメディアの活用法を紹介する
第12回　授業の実践例（1）
具体的な教科として社会科をとりあげ、ネットワークを用いた国際理解学習について学ぶ
第13回　授業の実践例（2）
算数や数学教科での多様な数学ソフトの活用法を学ぶ
第14回　授業の評価
授業の必須事項、e ポートフォリオの評価の実態と課題を学ぶ
第15回　総論

テクノロジーの進歩の中で教育方法を学び続ける工夫を論じる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	ー	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	JP0008002
科目名	教育方法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods of Teaching		
担当者名	立田　慶裕	旧科目名称	
講義概要	本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えてIT活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により論じる。 目標　（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。		
教材（テキスト）	各回でプリントを配布		
教材（参考文献）	赤尾勝己・山本慶裕『学びのデザイン』玉川大学出版部		
教材（その他）	立田慶裕編『読書教育の方法』学文社、2015		
評価方法	成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート 15 回（40%），中間課題レポート2回（40%），最終課題レポート(20%）の総合判断。		
到達目標	（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。 （2）今後の学校組織では、教員の専門的職能の継続的な開発が期待されている。 （3）また、教育方法としてのＩＴ活用を積極的に活用するこ		
準備学習	講義終了後に、次回の講義についての予告を行いますので、関連する情報や本を読んでおいてください。 また、できれば、教育方法に関する多様なメディアについての情報を収集しておいてください。		

受講者への要望

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

講義の順序とポイント

第1回　オリエンテーション
講義の目標、内容と方法、評価の説明
第2回　学習意欲を引き出す工夫
アイスブレイクの手法について多様な方法を紹介し、体験する
第3回　教育方法論の系譜
メディアの発展をふりかえり、それが教育指導法の変化に及ぼした歴史を考える
第4回　教育方法論の意義と目標
実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討する
第5回　授業の計画
授業構成と指導案の書き方を説明し、書いてもらう
第6回　授業の方法（1）
知識の整理法として、ノートや電子ファイルでナレッジベースを作成する
第7回　授業の方法（2）
デジタル教材とアナログ教材の長短と利用法を論じ、体験する
第8回　授業の方法（3）
進化するデータベースの利用と、学校図書館の活用法を論じる
第9回　授業の方法（4）
ＩＴを活用したワークショップの方法を論じ、体験する
第10回　授業の方法（5）
授業に必須のプレゼンテーション活用のコツを論じ、学ぶ
第11回　授業の方法（6）マルチメディアの活用
学習法として多様なマルチメディアの活用法を紹介する
第12回　授業の実践例（1）
具体的な教科として社会科をとりあげ、ネットワークを用いた国際理解学習について学ぶ
第13回　授業の実践例（2）
算数や数学教科での多様な数学ソフトの活用法を学ぶ
第14回　授業の評価
授業の必須事項、e ポートフォリオの評価の実態と課題を学ぶ
第15回　総論

テクノロジーの進歩の中で教育方法を学び続ける工夫を論じる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JP0009001
科目名	教育課程論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Curriculum(Special Activities Education)		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	教育課程・特別活動論
講義概要	まず始めに、一人一人の生徒が、いきいき学び同時に確かな学力を身に付けられる教育課程とは、どのような構成原理、基準、内容を持つものなのか考察を進める。 次に、いくつかの「教育課程・カリキュラム」を取り上げ、その具体的な内容について授業やその構成、教材や教授行為など様々な観点から検討する。 受講生には具体的な授業計画が作成できる知識･技能と、学校現場におけるさまざまな指導の場面に於いて、より望ましい指導ができる知識・技能を身につけられるよう、授業を進める。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 20 年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 21 年に改正）		
教材（参考文献）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・教育課程について、その基本的な概念や構成原理を理解する。 ・さまざまなカリキュラムについて、それらの長所や短所を指摘できる。 ・教育課程の編成や指導計画の作成のために必要な、「目標」「教育内容」「教材」などを正確に表現できる。 ・「学習指導要領」の改正に見られる、それぞれの時代背景や課題をふまえ、今後の「教育課程」について検討する。		
準備学習	・1 回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど） ・各学校や教員が行った「実践記録」や「授業記録」が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通しておくと、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 ・現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。		

受講者への要望

・教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。
・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。

講義の順序とポイント

1．教育課程とは何か
2．カリキュラムの構成原理
3．経験主義と系統主義
4．「問題解決的学習」
5．「仮説実験授業」
6．教育課程の検討①　（目標と評価）
7．教育課程の検討②　（教材）
8．教育課程の検討③　（授業研究１）
9．教育課程の検討④　（授業研究２）
１０．「学力」とは何か
１１．学習指導要領の変遷①　カリキュラム改革運動
１２．学習指導要領の変遷②　教育内容の現代化
１３．学習指導要領の変遷③　「ゆとり」と「生きる力」
１４．新しい学習指導要領のポイント①　学力にかかわる問題
１５．新しい学習指導要領のポイント②　「習得」「活用」「探究」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JP0009002
科目名	教育課程論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Curriculum(Special Activities Education)		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	教育課程・特別活動論
講義概要	まず始めに、一人一人の生徒が、いきいき学び同時に確かな学力を身に付けられる教育課程とは、どのような構成原理、基準、内容を持つものなのか考察を進める。 次に、いくつかの「教育課程・カリキュラム」を取り上げ、その具体的な内容について授業やその構成、教材や教授行為など様々な観点から検討する。 受講生には具体的な授業計画が作成できる知識･技能と、学校現場におけるさまざまな指導の場面に於いて、より望ましい指導ができる知識・技能を身につけられるよう、授業を進める。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 20 年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 21 年に改正）		
教材（参考文献）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・教育課程について、その基本的な概念や構成原理を理解する。 ・さまざまなカリキュラムについて、それらの長所や短所を指摘できる。 ・教育課程の編成や指導計画の作成のために必要な、「目標」「教育内容」「教材」などを正確に表現できる。 ・「学習指導要領」の改正に見られる、それぞれの時代背景や課題をふまえ、今後の「教育課程」について検討する。		
準備学習	・1 回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど） ・各学校や教員が行った「実践記録」や「授業記録」が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通しておくと、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 ・現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。		

受講者への要望

・教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。
・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。

講義の順序とポイント

1．教育課程とは何か
2．カリキュラムの構成原理
3．経験主義と系統主義
4．「問題解決的学習」
5．「仮説実験授業」
6．教育課程の検討①　（目標と評価）
7．教育課程の検討②　（教材）
8．教育課程の検討③　（授業研究１）
9．教育課程の検討④　（授業研究２）
１０．「学力」とは何か
１１．学習指導要領の変遷①　カリキュラム改革運動
１２．学習指導要領の変遷②　教育内容の現代化
１３．学習指導要領の変遷③　「ゆとり」と「生きる力」
１４．新しい学習指導要領のポイント①　学力にかかわる問題
１５．新しい学習指導要領のポイント②　「習得」「活用」「探究」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	JP0010A01
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	
講義概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（テキスト）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）	とくになし。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）。実習校による評価（６０％）。反省会での報告（２０％）。		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
準備学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講者への要望

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

講義の順序とポイント

１．実際の実習（５月後半ないし６月の前半からがほとんど）に行く前に、実習の意義や目的、あるいはその手続きなどについて講義を行なう。手引きや資料、VTR などを活用して実習への構えを整えてもらうが、３年生の「教育実習事前指導」に参加して、仕上げの模擬授業を行なうこともたいへん有意義である。
２．実習期間中には、本学の教員がかならず実習校におもむき、訪問指導を行なう。研究授業の参観を同時に行なうことが多い。実習中も本学との連絡を怠らぬこと。
３．実習終了後には、事後指導として全体の反省会を行ない、リポートの提出も求める。
４．成績評価に際しては、実習校からいただく「教育実習成績評価表」が大きな材料となる．そこで評価されている事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。

学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術
生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導
実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	―	―	★	★★	―

年度	2016	授業コード	JP0010A02
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	
講義概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（テキスト）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）	とくになし。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）。実習校による評価（６０％）。反省会での報告（２０％）。		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
準備学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講者への要望

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

講義の順序とポイント

１．実際の実習（５月後半ないし６月の前半からがほとんど）に行く前に、実習の意義や目的、あるいはその手続きなどについて講義を行なう。手引きや資料、VTR などを活用して実習への構えを整えてもらうが、３年生の「教育実習事前指導」に参加して、仕上げの模擬授業を行なうこともたいへん有意義である。
２．実習期間中には、本学の教員がかならず実習校におもむき、訪問指導を行なう。研究授業の参観を同時に行なうことが多い。実習中も本学との連絡を怠らぬこと。
３．実習終了後には、事後指導として全体の反省会を行ない、リポートの提出も求める。
４．成績評価に際しては、実習校からいただく「教育実習成績評価表」が大きな材料となる．そこで評価されている事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。

学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術
生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導
実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JP0010B01
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	
講義概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（テキスト）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出の発表２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
準備学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講者への要望

２週間あるいは３週間（4 週間）におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育実習の概要について（DVD の視聴など）
3.学習指導について　①授業参観について
4.学習指導について　②学習指導案の書き方
5.生徒指導について　①中学校における問題事象
6.学級指導について　①学級担任の仕事
7.教育実習の準備
8.教育実習　①　 実習授業
9.教育実習　②　学級指導
10.教育実習　③　生徒指導
11.教育実習のまとめ　実習ノートによる整理
12.教育実習報告　①　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
13.教育実習報告　②　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
14.討議　各自の発表を踏まえ話題を設定し、討議する
15.まとめ カルテの整理

教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	-	★

年度	2016	授業コード	JP0010B02
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	
講義概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（テキスト）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出の発表２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
準備学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講者への要望

２週間あるいは３週間（4 週間）におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育実習の概要について（DVD の視聴など）
3.学習指導について　①授業参観について
4.学習指導について　②学習指導案の書き方
5.生徒指導について　①中学校における問題事象
6.学級指導について　①学級担任の仕事
7.教育実習の準備
8.教育実習　①　 実習授業
9.教育実習　②　学級指導
10.教育実習　③　生徒指導
11.教育実習のまとめ　実習ノートによる整理
12.教育実習報告　①　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
13.教育実習報告　②　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
14.討議　各自の発表を踏まえ話題を設定し、討議する
15.まとめ カルテの整理

教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	-	★

年度	2016	授業コード	JP0012001
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育制度の中心はいうまでもなく学校制度であり、それは国民すべてを巻き込んで国家の管理のもとに運営されている。本講は、学校制度の歴史、教育法制、教育行政など、学校制度全般にかかわる事項を多角的に学び、学校の意義と課題について理解を深めることを目的としている。		
教材（テキスト）	藤田祐介（編著）『学校の制度を学ぶ』（2015 年）文化書房博文社 2200 円		
教材（参考文献）	特に指定しない。		
教材（その他）	メディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	学期末の筆記試験の成績が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	国家社会の制度としての学校教育が、どのような原理・原則から組み立てられているのかを理解すること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読しておくこと。		

受講者への要望

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件。

１、２回生向けの授業である。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と目標
2. 学校の意味と役割
3. 学校制度への批判
4. 日本の近代化と学制
5. 日本における公教育の確立
6. 中・高等教育の発展
7. 戦後教育改革と新学制
8. 新学制の再編と多様化
9. 教育法令の体系
10. 教育を受ける権利と義務教育
11. 学校の種類と目的・目標
12. 教育行政における国の役割
13. 地方の自律性と国の関与の変化
14. 教育委員会制度
15. 学期末試験に向けた要点の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0012002
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育制度の中心はいうまでもなく学校制度であり、それは国民すべてを巻き込んで国家の管理のもとに運営されている。本講は、学校制度の歴史、教育法制、教育行政など、学校制度全般にかかわる事項を多角的に学び、学校の意義と課題について理解を深めることを目的としている。		
教材（テキスト）	藤田祐介（編著）『学校の制度を学ぶ』（2015 年）文化書房博文社 2200 円		
教材（参考文献）	特に指定しない。		
教材（その他）	メディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	学期末の筆記試験の成績が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	国家社会の制度としての学校教育が、どのような原理・原則から組み立てられているのかを理解すること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読しておくこと。		

受講者への要望

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件。

１、２回生向けの授業である。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と目標
2. 学校の意味と役割
3. 学校制度への批判
4. 日本の近代化と学制
5. 日本における公教育の確立
6. 中・高等教育の発展
7. 戦後教育改革と新学制
8. 新学制の再編と多様化
9. 教育法令の体系
10. 教育を受ける権利と義務教育
11. 学校の種類と目的・目標
12. 教育行政における国の役割
13. 地方の自律性と国の関与の変化
14. 教育委員会制度
15. 学期末試験に向けた要点の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0012003
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育制度の中心はいうまでもなく学校制度であり、それは国民すべてを巻き込んで国家の管理のもとに運営されている。本講は、学校制度の歴史、教育法制、教育行政など、学校制度全般にかかわる事項を多角的に学び、学校の意義と課題について理解を深めることを目的としている。		
教材（テキスト）	藤田祐介（編著）『学校の制度を学ぶ』（2015 年）文化書房博文社 2200 円		
教材（参考文献）	特に指定しない。		
教材（その他）	メディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	学期末の筆記試験の成績が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	国家社会の制度としての学校教育が、どのような原理・原則から組み立てられているのかを理解すること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読しておくこと。		

受講者への要望

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件。

１、２回生向けの授業である。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と目標
2. 学校の意味と役割
3. 学校制度への批判
4. 日本の近代化と学制
5. 日本における公教育の確立
6. 中・高等教育の発展
7. 戦後教育改革と新学制
8. 新学制の再編と多様化
9. 教育法令の体系
10. 教育を受ける権利と義務教育
11. 学校の種類と目的・目標
12. 教育行政における国の役割
13. 地方の自律性と国の関与の変化
14. 教育委員会制度
15. 学期末試験に向けた要点の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0013A01
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	教職演習Ⅰ
講義概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導餡を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
準備学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず 1 カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の 1 週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。			

講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0013A02
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	教職演習Ⅰ
講義概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導餡を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
準備学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず 1 カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の 1 週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。			

講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0013A03
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	教職演習Ⅰ
講義概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導餡を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
準備学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず 1 カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の 1 週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。			

講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JP0013B01
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	教職演習Ⅱ
講義概要	「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
準備学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		

受講者への要望

教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。
このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。
介護体験など３回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。

講義の順序とポイント
「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	JP0013B02
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	教職演習Ⅱ
講義概要	「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
準備学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		

受講者への要望

教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。
このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。
介護体験など３回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。

講義の順序とポイント
「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	JP0013B03
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	小田　憲夫	旧科目名称	教職演習Ⅱ
講義概要	「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
準備学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。 このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。 介護体験など３回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。		

講義の順序とポイント
「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	JP0016001
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。		
教材（テキスト）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（参考文献）	参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。		
準備学習	・基礎的な学力（知識だけではない）が身についていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。予習や復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。		

受講者への要望

教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育にかかわる問題（学力低下など）
3.教育にかかわる問題（学校の国際化など）
4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件）
5.教職員の種類と職務（教員の任用）
6.教職員の種類と職務（教員の服務　教員の分限と懲戒）
7.教員の資質・能力（学習指導）
8.教員の資質・能力（教材研究）
9.教員の資質・能力（授業研究）
10.教員の資質・能力（教育評価）
11.教員の資質・能力（生徒理解）
12.教員の資質・能力（生徒指導）
13.教員の資質・能力（学校経営への参画）
14.教員の研修
15.教育改革と学校（今後の学校について考える）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	★	★	★

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	JP0016002
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。		
教材（テキスト）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（参考文献）	参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。		
準備学習	・基礎的な学力（知識だけではない）が身についていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。予習や復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。		

受講者への要望

教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育にかかわる問題（学力低下など）
3.教育にかかわる問題（学校の国際化など）
4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件）
5.教職員の種類と職務（教員の任用）
6.教職員の種類と職務（教員の服務　教員の分限と懲戒）
7.教員の資質・能力（学習指導）
8.教員の資質・能力（教材研究）
9.教員の資質・能力（授業研究）
10.教員の資質・能力（教育評価）
11.教員の資質・能力（生徒理解）
12.教員の資質・能力（生徒指導）
13.教員の資質・能力（学校経営への参画）
14.教員の研修
15.教育改革と学校（今後の学校について考える）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JP0016003
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。		
教材（テキスト）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（参考文献）	参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。		
準備学習	・基礎的な学力（知識だけではない）が身についていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。予習や復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。		

受講者への要望

教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育にかかわる問題（学力低下など）
3.教育にかかわる問題（学校の国際化など）
4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件）
5.教職員の種類と職務（教員の任用）
6.教職員の種類と職務（教員の服務　教員の分限と懲戒）
7.教員の資質・能力（学習指導）
8.教員の資質・能力（教材研究）
9.教員の資質・能力（授業研究）
10.教員の資質・能力（教育評価）
11.教員の資質・能力（生徒理解）
12.教員の資質・能力（生徒指導）
13.教員の資質・能力（学校経営への参画）
14.教員の研修
15.教育改革と学校（今後の学校について考える）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JP0017A02
科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Cibics I		
担当者名	奥野　浩之	旧科目名称	
講義概要	「良い公民の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、中学校社会科公民的分野の中でも、特に経済学習に焦点を当て、この問いに多様な視点から答えていく。講義では実際の中学校社会科公民的分野（経済学習）の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの中学校社会科公民的分野（経済学習）における授業観を作り上げてもらいたい。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（2008 年）、 坂上康俊ほか『新編 新しい社会 公民』東京書籍		
教材（参考文献）	全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書（2011 年）		
教材（その他）			
評価方法	受講態度：２０％、小テスト：２０％、模擬授業：３０％、レポート：３０％		
到達目標	教科と子どもの実態を踏まえて、中学校社会科公民的分野（経済学習）を指導できる基礎的な力量を養う。 ①中学校社会科公民的分野（経済学習）の役割と意義を理解できる。 ②中学校社会科公民的分野（経済学習）の授業を分析し、意義と課題を評価できる。 ③中学校社会科公民的分野（経済学習）の授業構造を考察し、授業を「学習指導案」の形で表現できる。		
準備学習	・社会の動きを知り、授業の種を見つけるためにも、テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や、多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		

受講者への要望

１．この講義では、授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。そのため、①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと、②講義において活動に積極的にとりくむこと、③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること、を意識的に行ってもらいたい。

２．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで、内容を理解してもらいたい。

講義の順序とポイント

第１回：オリエンテーション（科目の役割、講義の進め方、良い公民の授業とは）
第２回：中学校社会科公民的分野の役割と意義
第３回：小学校社会科の経済学習
第４回：高等学校公民科の「政治・経済」
第５回：中学校社会科公民的分野（経済学習）の目標・内容
第６回：中学校社会科地理的分野・歴史的分野における学習成果の活用
第７回：中学校社会科公民的分野における学習指導案の作り方
第８回：「消費生活と経済」の模擬授業と分析・検討
第９回：「生産と労働」の模擬授業と分析・検討
第１０回：「価格の働きと金融」の模擬授業と分析・検討
第１１回：「政府の役割と国民の福祉」の模擬授業と分析・検討
第１２回：「これからの経済と社会」の模擬授業と分析・検討
第１３回：「国際社会の仕組み」の模擬授業と分析・検討
第１４回：模擬授業の振り返り
第１５回：中学校社会科公民的分野（経済学習）の現状と課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0017B02
科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Cibics Ⅱ		
担当者名	奥野　浩之	旧科目名称	
講義概要	「良い公民の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、中学校社会科公民的分野の中でも、特に政治学習に焦点を当て、この問いに多様な視点から答えていく。講義では実際の中学校社会科公民的分野（政治学習）の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの中学校社会科公民的分野（政治学習）における授業観を作り上げてもらいたい。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（2008 年）、 坂上康俊ほか『新編 新しい社会 公民』東京書籍		
教材（参考文献）	全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書（2011 年）		
教材（その他）			
評価方法	受講態度：２０％、小テスト：２０％、模擬授業：３０％、レポート：３０％		
到達目標	教科と子どもの実態を踏まえて、中学校社会科公民的分野（政治学習）を指導できる基礎的な力量を養う。 ①中学校社会科公民的分野（政治学習）の役割と意義を理解できる。 ②中学校社会科公民的分野（政治学習）の授業を分析し、意義と課題を評価できる。 ③中学校社会科公民的分野（政治学習）の授業構造を考察し、授業を「学習指導案」の形で表現できる。		
準備学習	・社会の動きを知り、授業の種を見つけるためにも、テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や、多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		

受講者への要望

１．この講義では、授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。そのため、①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと、②講義において活動に積極的にとりくむこと、③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること、を意識的に行ってもらいたい。

２．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで、内容を理解してもらいたい。

講義の順序とポイント

第１回：オリエンテーション（科目の役割、講義の進め方、良い公民の授業とは）
第２回：中学校社会科公民的分野の役割と意義
第３回：小学校社会科の政治学習
第４回：高等学校公民科の「政治・経済」
第５回：中学校社会科公民的分野（政治学習）の目標・内容
第６回：中学校社会科地理的分野・歴史的分野における学習成果の活用
第７回：中学校社会科公民的分野における学習指導案の作り方
第８回：「人権と日本国憲法」の模擬授業と分析・検討
第９回：「人権と共生社会」の模擬授業と分析・検討
第１０回：「これからの人権保障」の模擬授業と分析・検討
第１１回：「現代の民主政治」の模擬授業と分析・検討
第１２回：「国の政治のしくみ」の模擬授業と分析・検討
第１３回：「地方自治と私たち」の模擬授業と分析・検討
第１４回：模擬授業の振り返り
第１５回：中学校社会科公民的分野（政治学習）の現状と課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	―	―	―	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0018A02
科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Social Studies I		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	まず、「地理歴史は暗記」という概念を捨てること、公の場で教師が言うべきものではない。そうすると、「暗記ではなく何？」という疑問が出てきます。この疑問に対する答えを見つけることがこの講義の内容です。「なぜ学習するのか」を教師が理解していないと、「覚えなさい」というおもしろくない授業になります。「良い授業」を作るためにはどのような要素が必要か考えていきたいと思います。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』（平成 20 年改訂） 『中学校学習指導要領　解説　社会科編』（同）		
教材（参考文献）	講義の内容にかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業時の発言 20%　学習指導案などレポート 30%　試験（小テストを含む）50%		
到達目標	中学校社会科の地理的分野、歴史的分野の授業を「学習指導案」の形で表現できる。 このためには、「地理や歴史の基本的な内容を理解している」「社会科の教科としての目標や特徴を理解してい る」「教材研究や授業作りを自主的に行うことができる」ということが必要になります。		
準備学習	授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。 まず、中学校や高等学校の地理・歴史に関する復習が必要、特に高等学校で学習していない科目（地理の場合が多い）は意識して取り組むようにしてほしい。 出版されている授業記録などを読み、「良い授業」とはどのようなものか考えてほしい。		

受講者への要望

社会科が苦手であったり、社会科の内容を忘れてしまっていてはどうしようもがないので、社会科を中心に、全般的な教科の学習内容について丁寧に学び直す機会を持ち、小テストで繰り返し内容理解の定着度を確認する。自分でも高等学校、中学校の復習を心がけること。

授業を実際に見る機会が少ない。児童・生徒とかかわる機会が少ない。こういうことが内容に各自積極的に学校現場の活動に参加するようにしてほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.社会科の歴史
3.小学校の歴史学習・地理学習
4.高等学校地歴科との関連
5.地理的分野の目標・内容　①世界の様々な地域
6.地理的分野の目標・内容　②日本の様々な地域
7.地理的分野の目標・内容　③主題を設けて行う学習
8.地理的分野の目標・内容　④地域的特色をとらえる学習
9.地理的分野の目標・内容　⑤地図と統計資料
１０.歴史的分野の目標・内容　①歴史のとらえ方
１１.歴史的分野の目標・内容　②古代までの日本
１２.歴史的分野の目標・内容　③中世～近世の日本
１３.歴史的分野の目標・内容　④近代の日本と世界
１４.歴史的分野の目標・内容　⑤現代の日本と世界
１５.地理歴史教育の現状と課題（求められている授業改善）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	JP0018B02
科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Social Studies Ⅱ		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	「良い地理歴史の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、この問いに多様な視点から答えていく。講義では実際の中学校、高等学校の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの地理、歴史における授業観を作り上げてもらいたい。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（２００８年） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』教育出版（２０１０年）		
教材（参考文献）	全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書（２０１１年） 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』		
教材（その他）			
評価方法	授業での発言：２０％、小テスト：２０％、模擬授業：３０％、レポート：３０％		
到達目標	教科と子どもの実態を踏まえて、中学校社会科　地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科を指導できる基礎的な力量を養う。 ①中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の役割と意義を理解できる。 ②中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の授業を分析し、意義と課題を評価できる。 ③中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の授業構造を考察し、授業を「学習指導案」の形で表現できる。		
準備学習	・社会の動きを知り，授業の種を見つけるためにも，テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や，多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		
受講者への要望			
１．この講義では，授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。：そのため，①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと，②講義において活動に積極的にとりくむこと，③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること，を意識的に行ってもらいたい。 ２．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで，内容を理解してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
第１回：オリエンテーション（科目の役割、講義の進め方、良い地理、歴史の授業とは） 第２回：地理歴史教育の役割と意義 第３回：中学校社会科の地理的分野と歴史的分野の目標・内容 第４回：地理 A、地理 B の目標・内容 第５回：日本史 A、日本史 B の目標・内容 第６回：世界史 A、世界史 B の目標・内容 第７回：学習指導案の作り方 第８回：中学校地理的分野の模擬授業と分析・検討 第９回：地理 A　B の模擬授業と分析・検討 第１０回：日本史 A　B の模擬授業と分析・検討 第１１回：世界史 A　B の模擬授業と分析・検討 第１２回：模擬授業の振り返り　世界史について 第１３回：模擬授業の振り返り　日本史、中学校歴的分野について 第１４回：模擬授業の振り返り　地理、中学校地理的分野について 第１５回：地理、歴史の授業の現状と課題 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2016	授業コード	JP0022001
科目名	生徒・進路指導論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Guidance		
担当者名	井崎　敏彦	旧科目名称	
講義概要	生徒指導の基礎・基本的な考え方、問題行動に対する指導方法や、いじめ・不登校などの今日的な課題について、「生徒指導提要」をもとにグループディスカッションも取り入れながら学ぶ。 生徒指導上の様々な問題行動に対して、日ごろの学校教育活動を通じ、健全な発達の支援をいかに行うか、また、保護者との関係づくりや対応をどのように行うかなど、ロールプレーイングも行い具体的に考察する。 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）などを基にしながら従来の進路指導からキャリア教育への移行についての理論と学校現場での実践について考える。		
教材（テキスト）	「生徒指導提要」（文部科学省　平成 22 年 3 月）　２７６円＋税		
教材（参考文献）	授業中に適宜支持する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	質疑応答による平常点・小テスト　３０％。 課題レポート２回　３０％。（課題レポートの未提出は授業を放棄したものとみなす） 学期末試験　４０％。		
到達目標	・生徒指導・進路指導にかかわる基本的な考え方や方法についての理解を進める。 ・学級担任（教員）として、生徒指導・進路指導上の具体的な場面で、実際的な指導ができる。 ・生徒や保護者からの相談・要望・苦情に対して適切に対応することができる。 以上を目標とする。		
準備学習	シラバスに記された教科書の単元を事前に読み予習しておく。また、関連する記事・ニュースについて調べておく。		
受講者への要望			
日々の教育に関する記事・ニュースに関心を持ち、自らの意見・考えをまとめる習慣を養う努力をする。			
講義の順序とポイント			
第　１回　講義の概要および生徒指導の意義と原理 第　２回　教育課程と生徒指導 第　３回　生徒の心理と生徒理解 第　４回　いじめ・不登校問題 第　５回　学校における生徒指導体制 第　６回　教育相談 第　７回　少年非行 第　８回　問題行動の早期発見と効果的な指導 第　９回　保護者から寄せられる相談・苦情・要求 第１０回　学校と家庭・地域・関係機関との連携活動 第１１回　キャリア教育と進路指導 第１２回　キャリア教育の進め方 第１３回　学級担任の生徒指導 第１４回　事例演習①（校則・生徒規律について） 第１５回　事例演習②（体罰・生徒懲戒について） 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JP0022002
科目名	生徒・進路指導論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Guidance		
担当者名	井崎　敏彦	旧科目名称	
講義概要	生徒指導の基礎・基本的な考え方、問題行動に対する指導方法や、いじめ・不登校などの今日的な課題について、「生徒指導提要」をもとにグループディスカッションも取り入れながら学ぶ。 生徒指導上の様々な問題行動に対して、日ごろの学校教育活動を通じ、健全な発達の支援をいかに行うか、また、保護者との関係づくりや対応をどのように行うかなど、ロールプレーイングも行い具体的に考察する。 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）などを基にしながら従来の進路指導からキャリア教育への移行についての理論と学校現場での実践について考える。		
教材（テキスト）	「生徒指導提要」（文部科学省　平成 22 年 3 月）　２７６円＋税		
教材（参考文献）	授業中に適宜支持する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	質疑応答による平常点・小テスト　３０％。 課題レポート２回　３０％。（課題レポートの未提出は授業を放棄したものとみなす） 学期末試験　４０％。		
到達目標	・生徒指導・進路指導にかかわる基本的な考え方や方法についての理解を進める。 ・学級担任（教員）として、生徒指導・進路指導上の具体的な場面で、実際的な指導ができる。 ・生徒や保護者からの相談・要望・苦情に対して適切に対応することができる。 以上を目標とする。		
準備学習	シラバスに記された教科書の単元を事前に読み予習しておく。また、関連する記事・ニュースについて調べておく。		
受講者への要望			
日々の教育に関する記事・ニュースに関心を持ち、自らの意見・考えをまとめる習慣を養う努力をする。			
講義の順序とポイント			
第　１回　講義の概要および生徒指導の意義と原理 第　２回　教育課程と生徒指導 第　３回　生徒の心理と生徒理解 第　４回　いじめ・不登校問題 第　５回　学校における生徒指導体制 第　６回　教育相談 第　７回　少年非行 第　８回　問題行動の早期発見と効果的な指導 第　９回　保護者から寄せられる相談・苦情・要求 第１０回　学校と家庭・地域・関係機関との連携活動 第１１回　キャリア教育と進路指導 第１２回　キャリア教育の進め方 第１３回　学級担任の生徒指導 第１４回　事例演習①（校則・生徒規律について） 第１５回　事例演習②（体罰・生徒懲戒について） 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2016	授業コード	JP0023001
科目名	道徳教育の指導法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Study on Moral Education		
担当者名	黒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	授業の概要 中学校学習指導要領および同解説（道徳編）をもとに,学校における道徳教育の目標や内容について基本的な考え方を身に付ける。 また、読み物資料を用いての模擬授業やグループ討議を通して、道徳の時間の指導が何をめざして、どのように行われるべきなのかなど具体的に指導方法を考え、身に付ける。		
教材（テキスト）	中学校学習指導要領解説＜道徳編＞　「中学校道徳　読み物資料集」（平成 24 年 3 月文部科学省）		
教材（参考文献）	「道徳教育とは何だろうか」、「道徳教育画餅からの脱却」(横山利弘著)など授業時に指示する。		
教材（その他）	講義の内容に関する参考資料を授業時に配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点、30% 課題レポート（指導案を含む）2 回、30%（課題レポートの未提出は授業放棄したものとみなす） 学期末試験、40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。（出席重視）		
到達目標	・道徳教育の目標・内容、指導計画、指導方法などについての基本的な事項を理解する。 ・学級担任（教員）として、指導案を作成し、道徳の時間の指導ができる。		
準備学習	・準備学習として、学習指導要領や同解説、配布資料など、次回の講義内容に該当する箇所を読んで予習しておくこと。 ・授業時に学習した内容を毎回、小レポートとして提出する。また、授業のまとめとして、5 回区切りごとに大レポートとして課す。 ・毎授業後に復習をして、次回の授業に備えるとともに、大レポートに向けての準備をしておくこと。 ※レポートは指定された期日までに提出すること。（未提出者は授業を放棄したものとみなす）		

受講者への要望

・教職への強い意志および真摯な受講態度・学習態度を求める。
・発表やグループ討議の機会が多いので、積極的に授業に参加することを求める。
・出席重視、遅刻の場合はその理由を尋ねる。
・私語などの行動が他者へ迷惑となる場合は、退出を求める。

講義の順序とポイント

第 1 回： 講義の概要および学習指導要領で求められている道徳教育
第 2 回：道徳教育の基本的な在り方及び目標
第 3 回：道徳教育の内容
第 4 回：学校における指導体制
第 5 回：全体計画・年間指導計画
第 6 回：道徳の時間の指導
第 7 回：他教科との関連
第 8 回： 学習指導案の作成
第 9 回：道徳授業のポイント
第 10 回： 道徳資料の読み方
第 11 回：道徳資料の読み：「主人公が道徳価値及びそれに基づいた人間としての生き方を自覚する」
資料を用いてのミニ授業
第 12 回：道徳資料の読み：「場の空気が道徳的に変化した」資料を用いてのミニ授業

第 13 回：文部科学省「中学校道徳　読み物資料集」を用いてのミニ模擬授業①
第 14 回：文部科学省「中学校道徳　読み物資料集」を用いてのミニ模擬授業②
第 15 回：学生による読み物資料を用いての模擬授業及び振り返り
定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JP0023002
科目名	道徳教育の指導法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Study on Moral Education		
担当者名	黒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	授業の概要 中学校学習指導要領および同解説（道徳編）をもとに,学校における道徳教育の目標や内容について基本的な考え方を身に付ける。 また、読み物資料を用いての模擬授業やグループ討議を通して、道徳の時間の指導が何をめざして、どのように行われるべきなのかなど具体的に指導方法を考え、身に付ける。		
教材（テキスト）	中学校学習指導要領解説＜道徳編＞　「中学校道徳　読み物資料集」（平成 24 年 3 月文部科学省）		
教材（参考文献）	「道徳教育とは何だろうか」、「道徳教育画餅からの脱却」(横山利弘著)など授業時に指示する。		
教材（その他）	講義の内容に関する参考資料を授業時に配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点、30% 課題レポート（指導案を含む）2 回、30%（課題レポートの未提出は授業放棄したものとみなす） 学期末試験、40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。（出席重視）		
到達目標	・道徳教育の目標・内容、指導計画、指導方法などについての基本的な事項を理解する。 ・学級担任（教員）として、指導案を作成し、道徳の時間の指導ができる。		
準備学習	・準備学習として、学習指導要領や同解説、配布資料など、次回の講義内容に該当する箇所を読んで予習しておくこと。 ・授業時に学習した内容を毎回、小レポートとして提出する。また、授業のまとめとして、5 回区切りごとに大レポートとして課す。 ・毎授業後に復習をして、次回の授業に備えるとともに、大レポートに向けての準備をしておくこと。 ※レポートは指定された期日までに提出すること。（未提出者は授業を放棄したものとみなす）		

受講者への要望

・教職への強い意志および真摯な受講態度・学習態度を求める。
・発表やグループ討議の機会が多いので、積極的に授業に参加することを求める。
・出席重視、遅刻の場合はその理由を尋ねる。
・私語などの行動が他者へ迷惑となる場合は、退出を求める。

講義の順序とポイント

第 1 回： 講義の概要および学習指導要領で求められている道徳教育
第 2 回：道徳教育の基本的な在り方及び目標
第 3 回：道徳教育の内容
第 4 回：学校における指導体制
第 5 回：全体計画・年間指導計画
第 6 回：道徳の時間の指導
第 7 回：他教科との関連
第 8 回： 学習指導案の作成
第 9 回：道徳授業のポイント
第 10 回： 道徳資料の読み方
第 11 回：道徳資料の読み：「主人公が道徳価値及びそれに基づいた人間としての生き方を自覚する」
資料を用いてのミニ授業
第 12 回：道徳資料の読み：「場の空気が道徳的に変化した」資料を用いてのミニ授業

第 13 回：文部科学省「中学校道徳　読み物資料集」を用いてのミニ模擬授業①
第 14 回：文部科学省「中学校道徳　読み物資料集」を用いてのミニ模擬授業②
第 15 回：学生による読み物資料を用いての模擬授業及び振り返り
定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JP0024001
科目名	特別活動論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Extra-curriculum Activity		
担当者名	今西　幸蔵	旧科目名称	
講義概要	特別活動とは学級活動やホームルーム活動、生徒会、それに学校行事などを総称する教科・科目外の教育活動を指し、その教育的営為は生徒の学習力を育成する上で重要であると認識されている。学習指導要領をふまえて特別活動の本質である集団組織と活動の在り方、人間関係づくりの理論について講義するが、実際の集団活動の進め方やリーダーシップの育成方法などについて学び、その際にはアクティブラーニングなどの実践的な教育方法を追究する。		
教材（テキスト）	今西幸蔵・古川　治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識』（八千代出版） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（ぎょうせい）		
教材（参考文献）	立田慶裕・今西幸蔵『学校教員の現代的課題』（法律文化社） 林　　勲『教育の原理』（法律文化社） 長尾和英『教職と人間形成』（八千代出版） ほか適宜資料を配付する。		
教材（その他）	今西幸蔵編『特別活動論資料集』		
評価方法	授業時に配付する小レポート（60%）、演習課題（40%）等から総合的に評価する。		
到達目標	１．教科科目の学習ではない特別活動の意義や特性についてよく理解すること。 ２．学校現場で役に立つ特別活動の指導法を理解し、実践できることをめざす。 ３．実際的なスキルを身につけるための演習を通して、能動的な学習者を育成する態度を身につける。 ４．特別活動におけるアクティブラーニングの進め方を理解し、体験的問題解決学習が指導できるようになる。		
準備学習	シラバスによって計画された学習内容や前時に予告された課題について各自が予習することを求める。その際には教科書や事前に配付された資料を活用することはもちろんのこと、基本的な語句や事項については図書館資料や IT 資料などで確認することが必要である。		

受講者への要望

教職に就こうとする者を対象とする授業であるところから、教員養成の視点から学生諸君に接することを伝えておきたい。具体的には、出席はもとより遅刻についても厳しく対応する。また準備学習で示した内容について実行していただくことを期待する。また本授業は講義に加えて演習的な内容もあるので、能動的に参加することを求める。

講義の順序とポイント

1.学習指導要領と特別活動の考え方
２．特別活動の歴史と課外活動
３．特別活動の意義と教育課程
４．学級活動・ホームルーム活動
５．学級活動の企画・立案
６．児童会・生徒会活動
７．生徒会の組織と運営
８．学校行事の内容
９．学校行事の企画・立案
10．授業のデザインとアクティブラーニング
11．いじめ問題への対応と仲間づくり
12．チームワークづくり、人間関係・リーダーシップ論
13．討議法と自己表現・自己開示の方法
14．体験的問題解決学習
15．特別活動の評価

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	−	★	★	−

年度	2016	授業コード	JP0024002
科目名	特別活動論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Extra-curriculum Activity		
担当者名	今西　幸蔵	旧科目名称	
講義概要	特別活動とは学級活動やホームルーム活動、生徒会、それに学校行事などを総称する教科・科目外の教育活動を指し、その教育的営為は生徒の学習力を育成する上で重要であると認識されている。学習指導要領をふまえて特別活動の本質である集団組織と活動の在り方、人間関係づくりの理論について講義するが、実際の集団活動の進め方やリーダーシップの育成方法などについて学び、その際にはアクティブラーニングなどの実践的な教育方法を追究する。		
教材（テキスト）	今西幸蔵・古川　治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識』（八千代出版） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（ぎょうせい）		
教材（参考文献）	立田慶裕・今西幸蔵『学校教員の現代的課題』（法律文化社） 林　　勲『教育の原理』（法律文化社） 長尾和英『教職と人間形成』（八千代出版） ほか適宜資料を配付する。		
教材（その他）	今西幸蔵編『特別活動論資料集』		
評価方法	授業時に配付する小レポート（60%）、演習課題（40%）等から総合的に評価する。		
到達目標	１．教科科目の学習ではない特別活動の意義や特性についてよく理解すること。 ２．学校現場で役に立つ特別活動の指導法を理解し、実践できることをめざす。 ３．実際的なスキルを身につけるための演習を通して、能動的な学習者を育成する態度を身につける。 ４．特別活動におけるアクティブラーニングの進め方を理解し、体験的問題解決学習が指導できるようになる。		
準備学習	シラバスによって計画された学習内容や前時に予告された課題について各自が予習することを求める。その際には教科書や事前に配付された資料を活用することはもちろんのこと、基本的な語句や事項については図書館資料や IT 資料などで確認することが必要である。		

受講者への要望

教職に就こうとする者を対象とする授業であるところから、教員養成の視点から学生諸君に接することを伝えておきたい。具体的には、出席はもとより遅刻についても厳しく対応する。また準備学習で示した内容について実行していただくことを期待する。また本授業は講義に加えて演習的な内容もあるので、能動的に参加することを求める。

講義の順序とポイント

1.学習指導要領と特別活動の考え方
２．特別活動の歴史と課外活動
３．特別活動の意義と教育課程
４．学級活動・ホームルーム活動
５．学級活動の企画・立案
６．児童会・生徒会活動
７．生徒会の組織と運営
８．学校行事の内容
９．学校行事の企画・立案
10．授業のデザインとアクティブラーニング
11．いじめ問題への対応と仲間づくり
12．チームワークづくり、人間関係・リーダーシップ論
13．討議法と自己表現・自己開示の方法
14．体験的問題解決学習
15．特別活動の評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★★	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	JP0025001
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	日髙　正宏	旧科目名称	
講義概要	主題　教育現場で心理学を応用する 目標　今、学校現場では、非社会的児童・生徒への対応や、反社会的児童・生徒への対応など、さまざまな課題が見られます。困難をかかえる現代の学校で、教科指導にも、生徒指導にも、保護者対応にも心理学的アプローチが必要となっています。この科目では、まず、教育の対象たる児童･生徒の発達を踏まえて、心理学的理解を進めます。次に、児童・生徒との効果的接し方や、個人指導と集団指導、校内連携の必要性などを学びます。またアセスメント、測定などを考え、活き活き生きる児童・生徒を目指す教員のありかたを考えます。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使いません。必要に応じ、資料を配布します。		
教材（参考文献）	必要に応じて提示します。		
教材（その他）	必要に応じ、資料を配布します。ビデオ教材も使います。		
評価方法	毎回の小レポート（60%）　最終レポート（40%）		
到達目標	教員になった場合に必要な、児童・生徒理解の基本を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で提示される小レポートを作成する。		
受講者への要望			
教員の講義を聞くだけではなく、提示される体験学習に積極的に参加すること。 学外での人間観察など、児童・生徒理解に資することも積極的に行うこと。			
講義の順序とポイント			
１.個性の形成、発達の基礎を考える。新生児期から高齢期に至るプロセスと意味を考える。 ２.乳幼児の特徴と発達。人生の基礎である乳幼児期の特徴と発達の道筋を考える。 ３.児童期の特徴と発達。主として小学校期間に相当する児童の変化と成長を考える。 ４.中学生、高校生の発達と心理①　思春期と言われる時期の心理的特徴と意味を考える。 ５.中学生、高校生の発達と心理②　第二反抗期の意味と対応方法を考える。 ６.児童･生徒の心理的問題①　不登校児童・生徒の実際と、そのメカニズム、社会的背景を考える。 ７.児童･生徒の心理的問題②　不登校児童・生徒への対応と予防、早期発見･早期対応を考える。 ８.児童・生徒の心理的問題③　反抗のメカニズムとその実際、対応を考える。 ９、学習の心理学　学校教育の中での学習の意味や方法、教育の工夫を考える。 １０.測定と評価　ひとりひとりの児童・生徒が劣等感を持つことなく、自己成長への意欲につながる測定と評価を考える。 １１.測定と生徒理解　数字による測定と、数字によらない生徒理解を考える。 １２.こころとからだの健康①　こころとからだの健康を考え、児童･生徒の持てる力を育てる教育を考える。 １３.こころとからだの健康②　活き活き生きることを阻害するのは人権侵害である。人権教育と人権感覚を考える。 １４.質疑応答と討議　ここまで進めてきた中で学んだこと、考えたこと、疑問などについて、ともに考える。 １５.まとめ　半年分の授業をふりかえり、心理学を生かした教育、活き活き生きる児童・生徒を考える。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0025002
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	日髙　正宏	旧科目名称	
講義概要	主題　教育現場で心理学を応用する 目標　今、学校現場では、非社会的児童・生徒への対応や、反社会的児童・生徒への対応など、さまざまな課題が見られます。困難をかかえる現代の学校で、教科指導にも、生徒指導にも、保護者対応にも心理学的アプローチが必要となっています。この科目では、まず、教育の対象たる児童･生徒の発達を踏まえて、心理学的理解を進めます。次に、児童・生徒との効果的接し方や、個人指導と集団指導、校内連携の必要性などを学びます。またアセスメント、測定などを考え、活き活き生きる児童・生徒を目指す教員のありかたを考えます。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使いません。必要に応じ、資料を配布します。		
教材（参考文献）	必要に応じて提示します。		
教材（その他）	必要に応じ、資料を配布します。ビデオ教材も使います。		
評価方法	毎回の小レポート（60%）　最終レポート（40%）		
到達目標	教員になった場合に必要な、児童・生徒理解の基本を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で提示される小レポートを作成する。		
受講者への要望			
教員の講義を聞くだけではなく、提示される体験学習に積極的に参加すること。 学外での人間観察など、児童・生徒理解に資することも積極的に行うこと。			
講義の順序とポイント			
１.個性の形成、発達の基礎を考える。新生児期から高齢期に至るプロセスと意味を考える。 ２.乳幼児の特徴と発達。人生の基礎である乳幼児期の特徴と発達の道筋を考える。 ３.児童期の特徴と発達。主として小学校期間に相当する児童の変化と成長を考える。 ４.中学生、高校生の発達と心理①　思春期と言われる時期の心理的特徴と意味を考える。 ５.中学生、高校生の発達と心理②　第二反抗期の意味と対応方法を考える。 ６.児童･生徒の心理的問題①　不登校児童・生徒の実際と、そのメカニズム、社会的背景を考える。 ７.児童･生徒の心理的問題②　不登校児童・生徒への対応と予防、早期発見･早期対応を考える。 ８.児童・生徒の心理的問題③　反抗のメカニズムとその実際、対応を考える。 ９、学習の心理学　学校教育の中での学習の意味や方法、教育の工夫を考える。 １０.測定と評価　ひとりひとりの児童・生徒が劣等感を持つことなく、自己成長への意欲につながる測定と評価を考える。 １１.測定と生徒理解　数字による測定と、数字によらない生徒理解を考える。 １２.こころとからだの健康①　こころとからだの健康を考え、児童･生徒の持てる力を育てる教育を考える。 １３.こころとからだの健康②　活き活き生きることを阻害するのは人権侵害である。人権教育と人権感覚を考える。 １４.質疑応答と討議　ここまで進めてきた中で学んだこと、考えたこと、疑問などについて、ともに考える。 １５.まとめ　半年分の授業をふりかえり、心理学を生かした教育、活き活き生きる児童・生徒を考える。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0025003
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	日髙　正宏	旧科目名称	
講義概要	主題　教育現場で心理学を応用する 目標　今、学校現場では、非社会的児童・生徒への対応や、反社会的児童・生徒への対応など、さまざまな課題が見られます。困難をかかえる現代の学校で、教科指導にも、生徒指導にも、保護者対応にも心理学的アプローチが必要となっています。この科目では、まず、教育の対象たる児童･生徒の発達を踏まえて、心理学的理解を進めます。次に、児童・生徒との効果的接し方や、個人指導と集団指導、校内連携の必要性などを学びます。またアセスメント、測定などを考え、活き活き生きる児童・生徒を目指す教員のありかたを考えます。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使いません。必要に応じ、資料を配布します。		
教材（参考文献）	必要に応じて提示します。		
教材（その他）	必要に応じ、資料を配布します。ビデオ教材も使います。		
評価方法	毎回の小レポート（60%）　最終レポート（40%）		
到達目標	教員になった場合に必要な、児童・生徒理解の基本を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で提示される小レポートを作成する。		
受講者への要望			
教員の講義を聞くだけではなく、提示される体験学習に積極的に参加すること。 学外での人間観察など、児童・生徒理解に資することも積極的に行うこと。			
講義の順序とポイント			
１.個性の形成、発達の基礎を考える。新生児期から高齢期に至るプロセスと意味を考える。 ２.乳幼児の特徴と発達。人生の基礎である乳幼児期の特徴と発達の道筋を考える。 ３.児童期の特徴と発達。主として小学校期間に相当する児童の変化と成長を考える。 ４.中学生、高校生の発達と心理①　思春期と言われる時期の心理的特徴と意味を考える。 ５.中学生、高校生の発達と心理②　第二反抗期の意味と対応方法を考える。 ６.児童･生徒の心理的問題①　不登校児童・生徒の実際と、そのメカニズム、社会的背景を考える。 ７.児童･生徒の心理的問題②　不登校児童・生徒への対応と予防、早期発見･早期対応を考える。 ８.児童・生徒の心理的問題③　反抗のメカニズムとその実際、対応を考える。 ９、学習の心理学　学校教育の中での学習の意味や方法、教育の工夫を考える。 １０.測定と評価　ひとりひとりの児童・生徒が劣等感を持つことなく、自己成長への意欲につながる測定と評価を考える。 １１.測定と生徒理解　数字による測定と、数字によらない生徒理解を考える。 １２.こころとからだの健康①　こころとからだの健康を考え、児童･生徒の持てる力を育てる教育を考える。 １３.こころとからだの健康②　活き活き生きることを阻害するのは人権侵害である。人権教育と人権感覚を考える。 １４.質疑応答と討議　ここまで進めてきた中で学んだこと、考えたこと、疑問などについて、ともに考える。 １５.まとめ　半年分の授業をふりかえり、心理学を生かした教育、活き活き生きる児童・生徒を考える。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0026A01
科目名	理科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	中等理科教育（特に高等学校理科）の目標や内容についての基礎知識を、高等学校学習指導要領解説・理科編の精読とグループ討議を通して、課題解決的に習得できるようにする。また、理科教育における特徴的な指導法や環境教育などの事例研究を通して、授業づくりの手がかりを得る。さらに、安全管理や学習指導案の構成・評価方法などの講義を通して、実務上の課題についての見識を深める。		
教材（テキスト）	文部科学省「高等学校学習指導要領解説・理科編　理数編」実教出版（平成 21 年 12 月）発行　　３３６円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリント配付する。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	1　高等学校学習指導要領・理科の目標と要点を説明できる。 2　高等学校理科の科目構成、内容の構成と取扱いの要点を説明できる。 3　めざしたい理科の授業像や重視したい指導法を、具体例を挙げて提案できる。		
準備学習	・課題研究や文献調査などの報告書作成の課題を複数回出す。指定期日までにレポートを提出する。 ・課題研究の結果や課題レポートは、口頭発表の機会があるので、練習して臨む。		

受講者への要望

課題の発表やグループでの意見交換の機会を多く作るので、積極的に参加してほしい。

講義の順序とポイント

1　理科教育の目的と目標
2　理科教育の歴史　　―主として、学習指導要領の変遷―
3　高等学校学習指導要領
(1) 理科における改訂の趣旨・要点
4　高等学校学習指導要領
(2) 理科における科目構成及び新設科目の内容の構成と取扱いの要点
5　理科の授業の進め方　―探究学習―
(1) グループワークによる課題研究
6　理科の授業の進め方　―探究学習―
(2) 研究結果の発表
7　高等学校学習指導要領
(3) 理科における内容の構成と取扱いの要点　―「生物基礎」・「生物」を中心にして―
8　高等学校学習指導要領
(4)-1 理科における指導計画の作成と内容の取扱いにおける配慮事項
9　高等学校学習指導要領
(4)-2 理科における内容の取扱いにおける配慮事項　　―安全管理を中心にして―
１０　課題レポートの発表
１１　課題レポートの発表
１２　理科教育における環境教育、エネルギー教育
(1) グループワークによる事例研究
１３　理科教育における環境教育、エネルギー教育
(2) 研究結果の発表
１４　理科学習指導案の構成と、高等学校理科の評価
１５　目指したい理科の授業像と重視したい指導法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0026B01
科目名	理科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	高等学校理科の授業づくりの要件の習得と、教材研究を生かした学習指導案の作成ができるようになることをめざす。また、模擬授業と事後の授業検討会などを通して、わかりやすい授業の要素と授業参観の視点を体得する。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	1　左巻健男・内村　浩編「授業にいかす！　理科教育法　中学校・高校編」 東京書籍（２００９年４月）発行 ２，２００円 2　広木正紀・内山裕之編著「小・中・高一貫カリキュラムへの改革を先取りした理科の授業づくり」東京書籍　（２０１２年6月）発行　3，０００円 3　高等学校検定教科書		
教材（その他）	適宜プリント配付する。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	1　教材研究をいかした高等学校理科学習指導案が作成できる。 2　わかりやすさを観点にして、模擬授業などの良い点や問題点を指摘できる。		
準備学習	・高等学校理科の生物領域を中心に、教材になりそうな文献や新聞記事などを収集する。 ・模擬授業の展開計画・板書計画、カード等の教材作成、模擬授業実施後の評価と感想や学習指導案など、各自で作成する課題を複数回出す。指定期日までに提出する。 ・模擬授業は、練習をして授業に臨む。		
受講者への要望			
模擬授業やグループ討議の機会が多いので、積極的に発言してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　楽しくわかる理科の授業とは？ 2　理科教育における「習得・活用・探究型の学習活動」 3　高等学校理科での教材取扱いの工夫及び授業の進め方 4　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (1) 授業例（遺伝子の発現）のビデオ視聴と授業検討 5　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (2) 学習指導案の書き方１　―主として、展開計画・板書計画― 6　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (3) マイクロティーチング１の計画　―本時の目標・学習課題・評価― 7　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (4) マイクロティーチング１の実施①　―発問・学習者主体の活動・板書― 8　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (5) マイクロティーチング１の実施②　―発問・学習者主体の活動・板書― 9　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (6) 学習指導案及び教材教具の再検討と模擬授業再実施の計画 １０　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (7) マイクロティーチング１の実施③ １１　高等学校理科の授業づくりⅡ　「マイクロティーチング２の計画」 (1) 学習指導案・板書計画・ワークシートの検討と、カードなどの教具の作成 １２　高等学校理科の授業づくりⅡ (2) マイクロティーチング２の実施① １３　高等学校理科の授業づくりⅡ (3) マイクロティーチング２の実施② １４　高等学校理科の授業づくりⅢ			

(1) 学習指導案の書き方２　　―教材観・生徒観・指導観、目標と評価など―
１５　高等学校理科の授業づくりⅢ
(2) 学習指導案の書き方３　　―発問と生徒の反応―

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0026C01
科目名	理科教育法Ⅲ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	中等理科教育（特に中学校理科）の目標や内容についての基礎知識を、中学校学習指導要領解説・理科編の精読とグループ討議を通して、課題解決的に習得できるようにする。また、検定教科書や学校現場の実践例を資料にした講義･演習をもとに、中学校理科の教材や授業の進め方及び評価方法についての理解を深める。これらを通して、中学校理科の授業づくりの基礎・基本の習得をめざす。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説・理科編』大日本図書（平成２０年９月）発行　１１０円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリント配付する。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	1　中学校学習指導要領・理科の目標と要点を説明できる。 2　中学校学習指導要領・理科の内容の構成と取扱いの要点を説明できる。 3　中学校理科で取り上げられている、観察・実験を行う授業の展開計画を立案できる。 4　理科を通して身に付けさせたい力と、重視したい指導法や授業の工夫を提案できる。		
準備学習	・文献調査や資料分析等の課題を複数回出す。指定期日までにレポートを提出する。 ・模擬授業の展開計画、実施後の修正などの課題を出す。指定期日までに展開計画をまとめて提出する。 ・模擬授業の機会があるので、練習して臨む。		

受講者への要望

課題の発表やグループでの意見交換の機会を多く作るので、積極的に参加してほしい。

講義の順序とポイント

1　心に残る理科授業と、重視したい指導法
2　中学校学習指導要領Ⅰ
(1) 理科における改訂の要点と理科の目標
3　中学校学習指導要領Ⅰ
(2) 理科における小学校・中学校理科の内容の構成
4　中学校学習指導要領Ⅰ
(3) 理科における第１分野の内容
5　中学校学習指導要領Ⅰ
(4) 理科における第２分野の内容
6　中学校学習指導要領Ⅰ
(5) 理科における指導計画の作成と、内容の取扱いにおける配慮事項
7　中学校学習指導要領Ⅱ
(1) 理科における追加された内容の模擬授業　―グループワークによる展開計画の立案①―
8　中学校学習指導要領Ⅱ
(2) 理科における追加された内容の模擬授業　―グループワークによる展開計画の立案②―
9　中学校学習指導要領Ⅱ
(3) 理科における模擬授業の実施①　―グループ別模擬授業―
１０　中学校学習指導要領Ⅱ
(4) 理科における模擬授業の実施②　―グループ代表者による模擬授業と相互評価―
１１　中学校理科教科書における教材の具体例１
(1) 主として、観察・実験の内容①
１２　中学校理科教科書における教材の具体例２
(2) 主として、観察・実験の内容②
１３　中学校理科教科書における教材の具体例３
(3) 前時まとめと、教科書の観察実験例
１４　中学校理科授業の進め方１
(1) グループ学習、ノート指導、課題研究など

１５　中学校理科授業の進め方２
(2) 主として、環境教育の事例

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0026D01
科目名	理科教育法Ⅳ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	中学校理科の授業づくりの要件の習得と、教材研究を生かした学習指導案の作成ができるようになることをめざす。また、模擬授業と事後の授業検討会などを通して、わかりやすい授業の要素と授業参観の視点を体得する。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	１　左巻健男・内村　浩編　「授業にいかす！　理科教育法　中学校・高校編」東京書籍（２００９年４月）発行　　２，２００円 ２　広木正紀・内山裕之編著　「小・中・高一貫カリキュラムへの改革を先取りした理科の授業づくり」東京書籍　　（２０１２年６月）発行　　３，０００円 ３　中学校理科検定教科書		
教材（その他）	適宜プリント配付する。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	１　教材研究を生かした中学校理科学習指導案が作成できる。 ２　わかりやすさを観点にして、模擬授業などの良い点や問題点を指摘できる。		
準備学習	・中学校理科の、教材になりそうな文献や新聞記事などを収集する。 ・模擬授業の展開計画・板書計画、模擬授業実施後の感想と評価や学習指導案など、各自で作成する課題を複数回出す。指定期日までに提出する。 ・模擬授業のための準備物作成や予備実験の課題を出す。準備して授業に臨む。 ・模擬授業は、練習して臨む。		

受講者への要望

模擬授業やグループ討議の機会が多いので、積極的に発言してほしい。

講義の順序とポイント

１　楽しくわかる理科の授業とは？
２　中学校理科の授業の進め方
　　―「活用する力」を育てる授業の実践例―
３　中学校理科の授業における教材・教具の工夫
４　中学校理科の授業づくりⅠ
　(1) 学習指導案の書き方
５　中学校理科の授業づくりⅠ
　(2) 授業例（１分野）のビデオ視聴と授業検討
６　中学校理科の授業づくりⅠ
　(3) 学習指導案の作成と模擬授業の計画　―主として、展開計画・板書計画―
７　中学校理科の授業づくりⅠ
　(4) マイクロティーチング①　　―展開・板書・発問・教材・教具―
８　中学校理科の授業づくりⅠ
　(5) 学習指導案及び教材教具の再検討と模擬授業再実施の計画
９　中学校理科の授業づくりⅠ
　(6) マイクロティーチング②　　―展開・板書・発問・教材・教具―
１０　フィールドワーク
　(1) 直接体験による子どもの興味・関心の把握
１１　中学校理科の授業づくりⅡ
　(1) 授業例（２分野）のビデオ視聴と授業検討
１２　中学校理科の授業づくりⅡ
　(2) 学習指導案の作成と模擬授業の計画
１３　中学校理科の授業づくりⅡ
　(3) マイクロティーチング①　　―様々な学習形態を用いた展開―

１４　中学校理科の授業づくりII
　(4) 評価計画を含む学習指導案の作成
１５　中学校理科の授業づくりII
　(5) マイクロティーチング②　　―評価を生かした展開―

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0027001
科目名	図書館サービス特論　【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Communication in Libraries		
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	市民がどのようにこまったとき、図書館を利用するか。図書館は、こまって図書館に来た市民にどのようなサービスを提供すべきかを、「図書館海援隊」の挑戦を基に、検討します。		
教材（テキスト）	神代浩『困ったときは図書館へ－図書館海援隊の挑戦』?光堂、2014 今まど子編『図書館学基礎資料　第 12 版』樹村房、2015		
教材（参考文献）	大串夏身・常世田良著『第 2 版図書館概論』、学文社、2014 志保田務・杉山誠司・　　家禰淳一編著『図書館サービス概論』学芸図書出版、2013 小林麻美『図書館はコミュニティ創造の場』勉誠出版、2009 花井裕一郎『はなぼん』文屋、2013 猪谷千香『つながる図書館』、ちくま新書、2014 鎌倉幸子『走れ！移動図書館』ちくまプリマー新書、2014 岡本真・森旭彦『未来の図書館、はじめませんか？』青弓社、2014 神代浩、中山美由紀編著『困ったときは図書館へ 2 学校図書館の挑戦と可能性』?光堂、2015		
教材（その他）			
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において「図書館に関する科目」を学ぶ意義をについて考え、図書館サービスの実態についての学修をとおして、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とします。 1.我が国の図書館サービスの実態を理解する。 2.公立図書館の医療情報サービス提供の実態を理解する。 3.公共図書館の生活支援サービスの実態を理解する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義形式で行ない、適宜、演習も取り入れます。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。		

受講者への要望

なるべく授業時間内に質問してください。
なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ
2.生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える
3.図書館を取り巻く現状と課題
4.学校図書館の挑戦と可能性
5.仕事に困ったら図書館へ
6.サッカー好きなら図書館へ
7.がんになったら図書館へ
8.図書館海援隊フォーラムの開催
9.世の中をよくする図書館を目指して
10.がん患者さんを支えるために
11.公立図書館の医療情報サービス
12.公立図書館の地域経済活性化・生活支援サービス
13.公立図書館のビズネス支援サービス

14.図書館海援隊サッカー部
15.まとめ　図書館海援隊の挑戦から図書館サービスのあり方を考える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0030001
科目名	情報資源組織論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Resources of Organiation and Represention		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	資料組織概説
講義概要	図書館の資料は、組織されることによって活用される状態となる。かつての目録・分類・件名という図書館の伝統的技術は、電子化によって大きく変化を受けざるを得なくなっている。目録は電子化、ネットワーク化されることによって、社会的な存在意義を増しているのだ。理論的な理解をしっかりと進めるとともに、経緯と変化にも注目したい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	根本彰『文献世界の構造』勁草書房		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（40%）レポート（60%）		
到達目標	図書館情報資源は、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源から組織され構成される。組織化についての理論と技術を理解し、「情報資源組織演習」で実際に身につけることになる。書誌階層、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、機械可読目録（MARC）と書誌データの活用法等々、歴史的経緯を含めて概観する。		
準備学習	司書課程の中では難解な講義になるので、参考書などを読んで理解を進めるように。また具体例を実際の図書館に求めるので情報収集に時間を要する。		

受講者への要望

図書館の目録は電子化、ネットワーク化することによって社会的な存在意義が重たくなっている。そのことをインターネット等を使用する際に意識し、関心を持つように。

講義の順序とポイント

1、情報資源組織化の意義と理論
2、書誌コントロールの理解
3、標準化
4、書誌記述法、日本目録規則（NCR）等
5、主題分析の意義と理論
6、主題分析と分類法　日本十進分類法（NDC）等
7、主題分析と索引法　基本件名標目表（BSH）等
8、書誌情報の作成と書誌構造、階層理解
9、書誌情報の流通、書誌ユーティリティ
10、書誌情報の提供、OPAC の管理運用
11、ネットワーク情報資源の組織化
12、検索エンジン、オンライン書店との比較
13、多様な情報資源の組織化
14、目録のネットワーク化と出版
15、メタデータ、ダブリンコア等

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0031001
科目名	図書館情報資源概論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Information Resources		
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。		
教材（テキスト）	宮沢厚雄『図書館情報資源概論　全訂第 3 版』理想社、2015 今まど子編『図書館学基礎資料　第 12 版』樹村房、2015		
教材（参考文献）	山本順一編『新しい時代の図書館情報学』有斐閣、2013 上田修一・倉田敬子編著『図書館情報学』勁草書房、2013 山本順一編著『情報の特性と利用』創成社、2012 高山正也・平野英俊編著『図書館情報資源概論』樹村房、2012 伊藤民雄『図書館情報資源概論』学文社、2012 馬場敏明編著『図書館情報資源概論』日本図書館協会、2012 大串夏身編著『これからの図書館・増補版』青弓社、2011 日本図書館情報学会研究委員会編『情報の評価とコレクション形成』勉誠出版、2015		
教材（その他）			
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において「図書館に関する科目」を学ぶ意義を理解し、「図書館情報学」の重要性と図書館情報資源を有効に活用出来る情報リテラシーを修得し、以下の 3 項目を達成することを目標とする。 1.有形図書館情報資源と無形図書館情報資源の特性を理解する。 2.図書館情報資源の効果的・効率的な収集・保存システムを理解する。 3.図書館情報資源の効果的・効率的な提供システムを理解する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義形式で行ないます。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。		
受講者への要望			
なるべく授業時間内に質問してください。 なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。			
講義の順序とポイント			
1.イダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ ―図書館情報資源と京都学園大学司書課程で育まれる「司書力」の特性を考える－ 2.生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える 3.我が国の図書館の概要と図書館情報資源の種類 4.京都学園大学図書館を見学しよう 5.図書の構造 6.図書の流通 7.図書館における図書の管理 8.商業雑誌の特徴 9.学術雑誌の特徴 10.図書館情報資源としての新聞 11.図書館情報資源としての政府刊行物			

12.ネットワーク型情報資源
13.図書館業務と類縁機関の情報資源
14.図書館情報資源の収集と保存
15.まとめ　学問の分野別特性と図書館情報資源

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	?－	－	★	－	★★

年度	2016	授業コード	JP0033001
科目名	図書館制度・経営論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Management		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	図書館経営論
講義概要	生涯学習社会の中で図書館の占める位置は大きい。それぞれのライフステージに果たす役割を図書館に関わる人々が意識し、整備していかなければならない。経営という視点から見るとまず自治体がいかに図書館を経営していくかという問題から始まる。つまり都市における図書館論である。そして館長論にまでいたる。この過程で、図書館の整備計画、サービス計画、情報ネットワーク、組織、職員論さらに活動の評価方法にまで考察を及ぼす。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	安藤友張編著 『図書館制度･経営論ーライブラリー･マネジメントの現在』（ミネルヴァ書房） ISBN978-4-623-06529-5		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	図書館経営における必須事項の把握と、図書館の意義について知識と理念を獲得する。		
準備学習	実際に身近な公共図書館に足を運び、運営状況をできるだけ客観的に観察しておくこと。 そこでの感想や気付きを授業のトピックスとして意見交換を行うので必ず見学しておくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。
遅刻・私語は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

1.図書館経営の意義
2.図書館経営と関係法規１
3.図書館経営と関係法規２
4.図書館の自由
5.図書館の職員
6.図書館の組織
7.図書館資料の収集と保存
8.図書館の施設と設備
9.図書館ネットワークの形成
10.図書館の計画 とマーケティング
11.図書館業務
12.図書館サービスの評価１
13.図書館サービスの評価２
14.図書館経営の実際
15.今後の課題

（備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	―

年度	2016	授業コード	JP0034A01
科目名	情報資源組織実習Ⅰ 【司】	単位数	1
科目名（英語表記）	Knowledge Organization 1		
担当者名	高橋　和子	旧科目名称	
講義概要	日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表という図書館における資料組織のための三大ツールを実際に使いこなすことができるような整理業務の実践力を養成する。春季のⅠでは資料の分類について、実践的な能力を身につけるよう『NDC 日本十進分類表』を使って分類法を学ぶ。		
教材（テキスト）	大学側で用意する、日本十進分類法を使用する。		
教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点（20%）、実習課題、レポート、小テスト等の課題点（80%）。出席が少ない者は評価の対象にしない。		
到達目標	図書館における主題分析の方法および、日本十進分類法の習得を通じて、主題にふさわしい分類とは何かを考える力をつける。		
準備学習	日頃から幅広く新聞やTV・ネット情報等に関心を持ち、図書館へ頻繁に足を運ぶこと。		
受講者への要望			
実習なので2/3以上の出席するが第一の条件となる。授業内での課題には積極的に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1、オリエンテーション 2、図書館の分類と一般的な分類の相違点 3、主要な分類法 4、日本十進分類法 5、分類規定、主題分析 6、分類法練習（1） 7、分類法練習（2） 8、分類法練習（3） 9、分類法練習（4） １０、分類法練習（5） １１、分類法練習（6） １２、分類法練習（7） １３、分類法練習（8） １４、分類法練習（9） １５、基本件名表目表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0034B02
科目名	情報資源組織実習Ⅱ 【司】	単位数	1
科目名（英語表記）	Knowledge Organization Ⅱ		
担当者名	高橋　和子	旧科目名称	資料組織実習ｆ，資料組織演習ｆ、資料組織実習Ⅱ
講義概要	日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表という図書館における資料組織のための三大ツールを実際に使いこなすことができるような整理業務の実践力を養成する。秋季のⅡは目録を中心として講義する。おもに日本目録規則に従って、パソコン教室にてエクセルでの目録作業を実践する。ミスなく正確な目録作業をするためには、パソコンのブラインドタッチが重要になる。情報抽出方法と同時にキーボードやエクセルの習熟も目的とする		
教材（テキスト）	必要なレジメは原則 USB メモリーで提供する。実習のための本はその都度提供する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて配布する。		
評価方法	出席状況等平常点（20%）と、実習課題、レポート、小テスト等の課題（80%）で評価する。出席が少ない者は評価の対象にしない。		
到達目標	図書館において利用者ニーズに即した目録方法を習得する。		
準備学習	日頃からパソコンに慣れ、特にキーボードは原稿を見ながら打てるようにしておく。		
受講者への要望			
実習なので出席することが第一の条件となる。授業内での課題には積極的に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
１、オリエンテーション ２、日本目録規則について ３、資料組織法練習（1） ４、資料組織法練習（2） ５、資料組織法練習（3） ６、資料組織法練習（4） ７、資料組織法練習（5） ８、資料組織法練習（6） ９、資料組織法練習（7） １０、資料組織法練習（8） １１、資料組織法練習（9） １２、資料組織法練習（10） １３、資料組織法練習（11） １４、抄録とキーワード抽出 １５、資料組織法小テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	JP0036001
科目名	児童サービス論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Services for Children		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	
講義概要	図書館の児童サービスの目的は、子どもたちに読書の楽しさを知らせ、将来の図書館利用者としての手助けをするためである。また読書のみならず児童文化の伝達、社会教育の場としての役割も担っている。そのための児童図書と中学・高校生のためのヤングアダルトサービスの資料の収集、排架、整理と児童のための設備・備品などについて考える。 図書館が児童にとって楽しいところであり児童文化を伝達する場所としての児童室の運営と、ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク、紙芝居などの技術を習得する。また児童の読書を推進するために学校図書館や地域との協力連携など、社会に目を向けた児童サービスの在り方と課題を検討していく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	金沢みどり著　『児童サービス論 第２版』（学文社）　ISBN：978-4-7620-2470-2 C3300		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する		
評価方法	授業内小テスト等による 平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	子どもという存在を理解し、その成長に対して読書がどのような意義を持つかを理解し、図書館の役割と機能がどのようにあるべきかを認識することを目指す。		
準備学習	科目開始前、あるいは途中において、身近な公共図書館に出向き、児童サービスのためのコーナーがどのように作られているか、またその蔵書や図書館員の動きを観察しておくこと。 そうした体験を受講者全員で共有し、授業のトピックスとして意見交換をするので、必ず見学しておくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		

受講者への要望

読書導入の手段としての絵本、読み聞かせ（読み語り）を体験します。
遅刻・私語は厳禁です。読み語り実施時の途中入室は慎んでください。

講義の順序とポイント

1.児童サービスの意義
2.児童サービスの歴史
3.児童の資料の種類と特性について(絵本)
4.児童の資料の種類と特性について(児童図書)
5.児童の資料の各分野における評価と蔵書構成
6.児童の資料の収集、分類、配架、廃棄
7.児童のための設備と備品
8.児童に対するコミュニケーション、レファレンスサービス
9.実技指導（読み聞かせ）１
10.実技指導（読み聞かせ）２
11.実技指導（読み聞かせ）３
12.解説（ブックトーク）
13.解説（紙芝居、ストーリーテリング）
14.他の機関、地域と図書館の児童サービスとの関わり
15.今後の課題

（備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	―

年度	2016	授業コード	JP0039001
科目名	図書館施設論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Books,Buildings and Social Engineering		
担当者名	高橋　和子	旧科目名称	
講義概要	大量の情報を扱ったり、細かい作業の多い図書館業務を円滑に進めるためにはコンピュータは必要不可欠なツールである。初心者を対象にデータベースソフトなどこれからの図書館に求められる情報化について基本的な知識、操作技術、現状について概説する。（講義の順番や項目は進捗状況により変更することがある）。ほぼ毎回簡単なレポート提出がある。		
教材（テキスト）	（社）情報科学技術協会編　情報検索の基礎知識　新訂 2 版		
教材（参考文献）	各々に USB メモリーにてレジメ等配布		
教材（その他）			
評価方法	レポート・出席状況・などによる総合評価、（社）情報科学技術協会主催「検索技術者検定 3 級」に合格した者は合格点を付与する。		
到達目標	図書館員として必要な「検索技術者検定 3 級」合格レベル以上の習得を目指す。		
準備学習	大学の PC にインストールされている OZAWAKEN 等のキーボード練習ソフトを利用して、入力がスムーズにできるようにしてください。 また、エクセルやワードの基本知識は必須です。		

受講者への要望

PC を利用した授業となりますので、できるだけ入力がスムーズにできるようにしてください。実習に近い授業となりますので、2/3 以上の出席が必須です。

講義の順序とポイント

１．授業ガイダンスとコミュニケーション力
２．図書館における情報機器
　　活用事例など紹介
３．コンピュータのハードウエアとソフトウエア
　　周辺機器、機器の種類、構成、基本的な機能、周辺機器との接続の知識
　　ソフトウエアの種類、機能の特徴等
４．拡張子等に関する基礎知識
５．ＵＲＬの種類と安全性・信頼性
６．セキュリティー対策と注意点
７．EXCEL 実習
　　セル保護方法等
８～９．EXCEL 関数の利用法
１０．検索リスト等ダウンロードデータの変換作業
１１～１３．データベースソフト（アクセス、ファイルメーカーPRO）
１４．図書館設計事例
１５．理想的な図書館設計

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	JP0041001
科目名	図書館サービス概論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Services		
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説する。		
教材（テキスト）	志保田務・杉山誠司・　　家禰淳一編著『図書館サービス概論』学芸図書出版、2013 今まど子編『図書館学基礎資料　第 12 版』樹村房、2015		
教材（参考文献）	宮沢厚雄『図書館概論改訂版』理想社、2011 大串夏身・常世田良著『第 2 版図書館概論』、学文社、2014 宮部頼子編『図書館サービス概論』樹村房、2012 金沢みどり『図書館サービス概論』学文社、2014 溝上智恵子・呑海沙織・綿抜豊昭『高齢社会につなぐ図書館の役割』学文社、2012 仁上幸治『図書館員のための PR 実践講座』樹村房、2014 柳与志夫『文化情報資源と図書館経営』勁草書房、2015 大串夏身『挑戦する図書館』青弓社、2015		
教材（その他）			
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において「図書館に関する科目」を学ぶ意義を確認し、図書館サービスについての学修をとおして、京都学園大学司書課程修了者に求められる「司書力」を考慮しながら、協働の意味を理解し、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とします。 1.我が国の図書館サービスの概要を理解する。 2.マネジメントとマーケティングの重要性を理解する。 3.公共機関・施設のサービスの特徴を理解する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義形式で行ないます。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。 最後に、ビブリオバトルをやります。		
受講者への要望			
なるべく授業時間内に質問してください。 なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。			
講義の順序とポイント			
1.ガイダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ －図書館と図書館サービス－ 2.生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える －図書館の原則、図書館の原理－ 3.図書館サービスの遍歴 4.日本における図書館の原則 5.直接サービスの種類と京都学園大学図書館の見学 6.資料提供と図書館の自由、図書館員の倫理 7.閲覧サービスと貸出サービス 8.図書館サービスと著作権			

9.全域サービス・図書館間相互貸借
10.非来館型サービスと電子書籍
11.アウトリーチサービス・多文化サービス
12.障害者サービス
13.図書館評価
14.更なる図書館サービス
15.最後にビブリオバトルをやろう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	?−	−	★	−	★★

年度	2016	授業コード	JP0042001
科目名	博物館教育論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Methods of Museology		
担当者名	千田　康治	旧科目名称	教育学概論
講義概要	博物館学芸員として業務をすすめるにあたり、博物館教育の役割を認識し、その理論を学ぶ。そして様々な目的・対象にあわせた博物館における教育手法の実際を学ぶ。		
教材（テキスト）	レジュメを適時配布		
教材（参考文献）	講義時に適時紹介します。		
教材（その他）	資料等を適時配布します。		
評価方法	授業時の発言、積極性において６０％、期末レポート４０％で評価します。		
到達目標	社会教育施設である博物館における教育活動について、その基盤となる理論や実践に関する知識を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。		
準備学習	様々な博物館・美術館等を訪れ、展示見学・講座聴講・ワークショップ参加等の経験する。		

受講者への要望

博物館教育は、実際に見たり、体験しないと理解できません。京都とその一円には、良質なコレクションを所蔵していたり、独自の活動を展開している博物館・美術館が数多く存在しており、これらに興味を持ち、足を運んでください。

講義の順序とポイント

第 1 回 社会教育施設としての博物館教育の意義
第 2 回 博物館教育の歴史
第 3 回 博物館教育の特性
第 4 回 設置者・種別による博物館教育の目的の違い
第 5 回 コミュニケーションとしての博物館教育
第 6 回 文化財の保存と博物館教育
第 7 回 博物館と学校教育
第 8 回 博物館と生涯学習
第 9 回 調査研究と博物館教育
第 10 回 博物館教育の実際Ⅰ　体制
第 11 回 博物館教育の実際Ⅱ　展示
第 12 回 博物館教育の実際Ⅲ　ワークシート
第 13 回 博物館教育の実際Ⅳ　教材開発
第 14 回 博物館教育の実際Ⅴ　体験教室
第 15 回 博物館教育の今後

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	–	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0042002
科目名	博物館教育論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Methods of Museology		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	博物館学芸員として、業務をすすめるにあたり、博物館教育の役割を認識し、その理論的枠組みを学ぶ。そのうえで、さまざまな目的・対象に合わせた博物館における教育手法の実際を学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介する		
教材（その他）	毎回資料コピーを配布する		
評価方法	平常点（５０％）はノートなど毎回の授業における努力で評価する。残りの５０％は合計３回提出を求める簡単な課題レポートで評価する。		
到達目標	博物館の教育機能に関する基礎的能力の習得		
準備学習	博物館相当の施設を実際に訪れて、その具体的な運営・活動の姿をを体験しておくこと		

受講者への要望

博物館学芸員資格や社会教育主事の資格を取得することを目指すもののための講義であることを自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。なお、この科目の単位は、卒業に必要な単位にはいかなる形でも算入されないので、資格取得希望者以外は受講しないこと。

講義の順序とポイント

１・　社会教育施設としての博物館教育の意義
２・　博物館教育の歴史
３・　博物館と学校教育
４・　博物館と生涯学習
５・　博物館教育の実際（教育の考え方）
６・　博物館教育の実際（展示）
７・　博物館教育の実際（ワークシート・解説シート）
８・　博物館教育の実際（体験教室・講座）
９・　博物館教育の実際（公開公演・講座）
１０・　博物館教育の実際（教材開発・広報）
１１・　博物館教育の実際（調査研究との連携）
１２・　博物館教育の実際（文化財保存の促進）
１３・　博物館教育の実際（博物館相当施設の種別による特性）
１４・　博物館教育の担い手
１５・　博物館教育の今後

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	ー	★★	ー

年度	2016	授業コード	JP0045001
科目名	博物館経営論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Management		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっているが、博物館・資料館等の目的・役割と機能 を十分に発揮するための経営的理念・手法が求められている。 職員体制及び施設・設備の充実に、行政・財政施策における博物館・資料館等の位置付けが重要であるといえる。 講義では具体的な実践例を紹介しながら、博物館・資料館等の経営論としての基本的理念・指針・方針の理解と、地域に連動し市民協働によるまちづくりとも連携する博物館・資料館等の方法論の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の経営に関する基本的理念・指針・方針の理解と、人づくり、まちづくりに連携するための方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておく こと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館等における経営論全般について＜概説１＞ 2　博物館経営論について　財務・予算（各論１） 3　博物館経営論について　財務・予算（各論２） 4　博物館経営論について　財務・予算（各論３） 5　博物館・資料館等における事業計画実施・事業評価について＜概説２＞ 6　博物館事業計画の戦略・理念について（各論１） 7　博物館事業計画の指針・方針について（各論２） 8　博物館事業実施について　地域連携（各論３） 9　博物館事業実施について　市民協働（各論４） 10　博物館事業評価について（各論５） 11　博物館施設管理について＜概説３＞ 12　博物館施設管理について　もの（各論１） 13　博物館施設管理について　ひと（各論２） 14　博物館施設管理について　ば（各論３） 15　博物館経営論の課題と将来展望について＜概説４＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2016	授業コード	JP0045002
科目名	博物館経営論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Management		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっているが、博物館・資料館等の目的・役割と機能 を十分に発揮するための経営的理念・手法が求められている。 職員体制及び施設・設備の充実に、行政・財政施策における博物館・資料館等の位置付けが重要であるといえる。 講義では具体的な実践例を紹介しながら、博物館・資料館等の経営論としての基本的理念・指針・方針の理解と、地域に連動し市民協働によるまちづくりとも連携する博物館・資料館等の方法論の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の経営に関する基本的理念・指針・方針の理解と、人づくり、まちづくりに連携するための方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておく こと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館等における経営論全般について＜概説１＞ 2　博物館経営論について　財務・予算（各論１） 3　博物館経営論について　財務・予算（各論２） 4　博物館経営論について　財務・予算（各論３） 5　博物館・資料館等における事業計画実施・事業評価について＜概説２＞ 6　博物館事業計画の戦略・理念について（各論１） 7　博物館事業計画の指針・方針について（各論２） 8　博物館事業実施について　地域連携（各論３） 9　博物館事業実施について　市民協働（各論４） 10　博物館事業評価について（各論５） 11　博物館施設管理について＜概説３＞ 12　博物館施設管理について　もの（各論１） 13　博物館施設管理について　ひと（各論２） 14　博物館施設管理について　ば（各論３） 15　博物館経営論の課題と将来展望について＜概説４＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★★

年度	2016	授業コード	JP0046001
科目名	博物館資料論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Materials & Artifacts		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等において、各分野の各種資料を蓄積することは、重要な機能のひとつといえる。資料は収集・整理・保管の手続き処理の過程を経て初めて博物館資料としての価値を持ち、展示・普及などに活用され、さらに調査・研究の重要な素材・原資料となる。 講義では、特に歴史資料を中心として、具体的な方法論を紹介しいかなる理論で展示・調査・研究に活用するかを概説する。また、貴重な資料の保存・管理等についても言及する。学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等における資料論に関する基礎的知識と技術の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等における資料の収集・整理・保管についての具体的方法論の理解。貴重な資料の保存・管理等に関する基礎的技術知識の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館資料論全般について＜概説１＞ 2　博物館資料について　文化財とは（各論１） 3　博物館資料について　文化財の分類（各論２） 4　博物館資料について　文化財の保護（各論３） 5　博物館資料について　文化財の活用（各論４） 6　博物館資料の収集・整理・保管について＜概説２＞ 7　博物館資料の収集・整理・保管について　歴史文化資料（各論１） 8　博物館資料の収集・整理・保管について　考古民俗資料（各論２） 9　博物館資料の収集・整理・保管について　自然資料（各論３） 10　博物館資料の調査・研究・展示について＜概説３＞ 11　博物館資料の取り扱い技術について　歴史文化資料（各論１） 12　博物館資料の取り扱い技術について　考古民俗資料（各論２） 13　博物館資料の取り扱い技術について　自然資料（各論３） 14　博物館資料の調査研究への活用について＜概説４＞ 15　博物館資料論の課題と将来展望について＜概説５＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0046002
科目名	博物館資料論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Materials & Artifacts		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等において、各分野の各種資料を蓄積することは、重要な機能のひとつといえる。資料は収集・整理・保管の手続き処理の過程を経て初めて博物館資料としての価値を持ち、展示・普及などに活用され、さらに調査・研究の重要な素材・原資料となる。 講義では、特に歴史資料を中心として、具体的な方法論を紹介しいかなる理論で展示・調査・研究に活用するかを概説する。また、貴重な資料の保存・管理等についても言及する。学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等における資料論に関する基礎的知識と技術の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等における資料の収集・整理・保管についての具体的方法論の理解。貴重な資料の保存・管理等に関する基礎的技術知識の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館資料論全般について＜概説１＞ 2　博物館資料について　文化財とは（各論１） 3　博物館資料について　文化財の分類（各論２） 4　博物館資料について　文化財の保護（各論３） 5　博物館資料について　文化財の活用（各論４） 6　博物館資料の収集・整理・保管について＜概説２＞ 7　博物館資料の収集・整理・保管について　歴史文化資料（各論１） 8　博物館資料の収集・整理・保管について　考古民俗資料（各論２） 9　博物館資料の収集・整理・保管について　自然資料（各論３） 10　博物館資料の調査・研究・展示について＜概説３＞ 11　博物館資料の取り扱い技術について　歴史文化資料（各論１） 12　博物館資料の取り扱い技術について　考古民俗資料（各論２） 13　博物館資料の取り扱い技術について　自然資料（各論３） 14　博物館資料の調査研究への活用について＜概説４＞ 15　博物館資料論の課題と将来展望について＜概説５＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0054001
科目名	図書・図書館史 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Books and Libraries		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	図書及び図書館史
講義概要	粘土版文書から電子書籍まで、多様な形態をとる図書の生産(印刷等含む)、普及、 流通等の歴史を概観し、それらを収集・整理し、利用に供してきた図書館の歴史的発展について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	佃一可編　『図書・図書館史』 （樹村房） ISBN:978-4-88367-211-0		
教材（その他）	レジメ、講義資料を配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による 平常点(30%)。　レポート(70%) 。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	図書というメディアの歴史と、図書館という機関の成立事情を把握し、現代における情報メディアのあり方と図書館という存在の現代的な意義について認識することを目指す。		
準備学習	受講者各自が関心を持って授業に臨むため、シラバスで各回のテーマを確認し、関連する資料について事前に図書館等で参照し、そのアウトラインをつかんでおくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。
遅刻・私語は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

1.文字と記録の誕生
2.古代の図書と図書館史（１）ー西洋
3.古代の図書と図書館史（２）ー中国・インド
4.古代の図書と図書館史（３）ー日本
5.宗教図書館と大学
6.中世日本の文庫と中国の図書館
7.活版印刷と出版・図書館
8.日本の封建時代の出版と図書館
9.明・清時代の中国の出版と図書館
10.近代社会と図書館
11.日本の近代化と出版・図書館
12.２０世紀の図書館
14.電子書籍と図書館
15.図書館の未来像

（備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	―	★★	―

年度	2016	授業コード	JP0055A01
科目名	日本語教授法 A（日本語表現） 【日】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Japanese as a Foreign Language A		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	
講義概要	日本語学習者に日本語を教える場合、何を教えればいいのだろうか。 日本語を母語としない日本語学習者のための、日本語教育の基礎となる文法事項について学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを中心に進める。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(50%)。　レポートまたは定期テスト(50%)		
到達目標	日本語教育における日本語について理解する。		
準備学習	日本語の表現について、常に意識し、関心を持っておくこと。		
受講者への要望			
柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。 日本語教育に興味・関心がある学生は、是非受講してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　オリエンテーション 2.　文法について 3.　動詞の活用① 4.　動詞の活用② 5.　時間に関する表現① 6.　時間に関する表現② 7.　受身形 8.　使役形 9.　話し手の気持ちや考えを表す表現① 10.話し手の気持ちや考えを表す表現② 11.接続節① 12.接続節② 13.接続節③ 14.敬語① 15.敬語②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	－

年度	2016	授業コード	JP0055B01
科目名	日本語教授法Ｂ（教科研究）　【日】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Japanese as a Foreign Language B		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語教授法Ｂ（教科教育）
講義概要	日本語を学ぶ人々は、日本や海外で学び、またその学習目的も様々である。このような人々に日本語を教える場合、何を知っておかなければならないのだろうか。日本語学習者に対する理解を深めるとともに、日本語教育の歴史や教授法、コースデザイン、評価について学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを中心に授業を進める。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(50%)。　レポートまたは定期テスト(50%)		
到達目標	日本語教育の歴史、代表的な教授法、学習者の学び方、評価方法などについて理解する。		
準備学習	学習方法や学習スタイル等について、常に関心を持っておくこと。		
受講者への要望			
柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。 日本語教育に興味がある学生は、是非受講してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 日本語学習者① 3. 日本語学習者② 4. 日本語教育の歴史① 5. 日本語教育の歴史② 6. いろいろな教授法① 7. いろいろな教授法② 8. いろいろな教授法③ 9. いろいろな教授法④ 10.コースデザイン① 11.コースデザイン② 12.コースデザイン③ 13.コースデザイン④ 14.評価方法① 15.評価方法②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JP0062A01
科目名	日本語教授法C（教材研究）【日】【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Japanese as a Foreign Language C (Teaching Materials)		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	
講義概要	日本語教育の教室活動において、具体的に何をどのように教えればいいのだろうか。 初級・中級・上級に関する教材、また具体的な教授内容・教室活動について学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを中心に授業を進める。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(50%)。　レポートまたは定期テスト(50%)		
到達目標	日本語教育の教材、また言語技能別・レベル別教室活動について理解する。		
準備学習	日本語の表現と日本事情について常に関心を持っておくこと。		
受講者への要望			
柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 教室活動について 3. レベル別教室活動① 4. レベル別教室活動② 5. 言語技能別教室活動① 6. 言語技能別教室活動② 7. 言語技能別教室活動③ 8. 言語技能別教室活動④ 9. 教材・教具① 10.教材・教具② 11.教材・教具③ 12.教材・教具④ 13.初級クラス 14.中級クラス 15.上級クラス			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	－

年度	2016	授業コード	JP0062B01
科目名	日本語教授法Ｄ（教育実習）【日】【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Japanese as a Foreign Language D (Teaching Practice)		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	
講義概要	教案作成について学び、日本語学習者を対象に実習を行う。		
教材（テキスト）	プリントを中心に授業を進める。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等による平常点(30%)。　実習(40%)　レポート(30%)		
到達目標	教案作成を行い、実際にクラス活動が行えることを目標とする。		
準備学習	日本語の表現について、どのように用いられているのかを常に意識すること。		
受講者への要望			
柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
1.実習のポイント・内容、学習者について 2.教案作成① 3.教案作成②・模擬授業① 4.教案作成③ 5.教案作成④・模擬授業② 6.教案作成⑤ 7.教案作成⑥・模擬授業③ 8.教案作成⑦ 9.教案作成⑧ 10.教案作成⑨・実習予定 11.教案作成⑩・実習予定 12.教案作成⑪・実習予定 13.教案作成⑫・実習予定 14.教案作成⑬・実習予定 15.内省			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	－	★	－

年度	2016	授業コード	JP0064001
科目名	博物館実習 【博】	単位数	3
科目名（英語表記）	Practical Museum Training		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	博物館の学芸員資格の取得を目指すものに、必要な実務的経験の場を提供し、知識を教授して、学芸員としての実践的能力を養う。具体的には、見学を含むあらかじめの学内実習を通じて博物館実務の実際に習熟したうえで、館園実習に赴いて現場体験を積む。館園実習後ふたたび学内実習において、現場体験に基づいて、博物館理解をさらに深める。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	授業中に、参考資料を適宜配布する。		
評価方法	平常点 70%（実習状況等による）と学外実習成績 30%の合計で評価する。		
到達目標	学内における実習と、実際に活動している博物館における実習を通じて、博物館学芸員として必要とされる業務に対する理解、必要とされる技術の習得を目指す。		
準備学習	自ら体験して体得するすることがすべての授業です。積極的に授業の課題に取り組むことがもっとも重要です。その心構えをしておいてください。		

受講者への要望

主に学外博物館の実習に備えた実習科目です。原則的に欠席は認められません。実習科目なので、変則的な授業が行われることがあります。かならず掲示を確認してください。
また、興味本位の履修は断ります。この科目の単位は卒業に必要な単位にはいかなる形でも算入されません。学芸員資格取得に必要な単位の大部分を取得しているか否かを確認したうえで、要件を満たしている履修希望者のみに最終的な履修登録を認めます。

講義の順序とポイント

1．学内実習ー考古系博物館の見学実習 1
2．学内実習ー考古系博物館の見学実習 2
3．学内実習ー美術系博物館の見学実習 1
4．学内実習ー美術系博物館の見学実習 2
5．学内実習ー展示・資料の保管の実務 1
6．学内実習ー展示・資料の保管の実務 2
7．学内実習ー陶磁器・掛軸・巻物の取り扱い実習 1
8．学内実習ー陶磁器・掛軸・巻物の取り扱い実習 2
9．学内実習 ー各種茶道具の取り扱い実習 1
10．学内実習ー各種茶道具の取り扱い実習 2
11．学内実習 ー館園実習に関する事前指導、注意点の把握
12．館園実習ー博物館における実務体験 1
13．館園実習ー博物館における実務体験 2
14．学内実習ー各自の博物館実習体験の報告と問題点の指摘並びに指導
15．学内実習ー館園実習経験による理解に基づいて、各自の理想の博物館像を構想して発表する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	★	★★	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	JP0068A01
科目名	職業指導Ⅰ（農業）【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance I		
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	職業指導Ⅰでは、教育政策に見られる進路指導・キャリア教育、職業の概念、職業指導の役割や課題、専門高校生の進路状況や進路意識、専門高校と高等教育機関や産業界との連携の現状などについて解説する。また、近年、フリーターやニートの著しい増加など、若者の職業離れが社会問題となっていることから、その原因や解決策等について意見交換することによる討議形式の授業も行う。		
教材（テキスト）	高等学校学習指導要領解説(特別活動)、自作資料		
教材（参考文献）	中央教育審議会答申資料、国立教育政策研究所生徒指導研究センター資料、厚生労働白書等		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点(30％)、授業中に課す小レポート(30％)、授業終了時の最終レポート(40％)。		
到達目標	職業指導の意義、専門高校生の進路状況や進路意識、専門高校と高等教育機関や産業界との連携等を理解するとともに、わが国における産業・就業構造の現状や専門教育の実態を考慮に入れた職業指導を行えるための力をつけることを目指す。		
準備学習	最近の産業や労働に関する新聞記事等を読んでおくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．職業の概念
3．職業分類について
4．職業観・勤労観
5．職業指導の役割と課題
6．職業指導・進路指導の歴史
7．職業指導と進路指導の定義
8．高等学校における職業指導
9．高等学校学習指導要領（特別活動における進路指導）
10．職業適性検査
11．専門高校生の進路状況・進路意識
12．職業教育の現状と課題
13．わが国における学校教育・職業教育制度
14．専門高校における職業教育、専門高校と高等教育機関や産業界との連携
15．職業指導Ⅰのまとめ（総括と復習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2016	授業コード	JP0068B01
科目名	職業指導Ⅱ（農業）【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance Ⅱ		
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	職業指導Ⅱでは、職業指導・キャリア教育に関する教育行政や労働政策、わが国におけるキャリア教育や諸外国における職業・キャリア教育の現状と課題等について解説する。また、高等学校は、就職するにせよ、進学するにせよ、生徒を学校から社会へ導く重要な役割を持つ教育機関であるが、解決すべき課題もあることから、高等学校におけるキャリア教育の今後の在り方等について互いに意見交換する討議形式の授業も行う。		
教材（テキスト）	文部科学省「高等学校キャリア教育の手引」（文部科学省ホームページ）， 自作資料		
教材（参考文献）	国立教育政策研究所教育課程研究センター・生徒指導研究センター資料， 中央教育審議会答申資料		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点（30%）、授業中に課す小レポート（30%）、授業終了時の最終レポート（40%）。		
到達目標	学校におけるキャリア教育、諸外国における職業・キャリア教育の現状等を理解するとともに、労働関係法規等を考慮に入れた職業指導を行えるための力をつけることを目指す。		
準備学習	最近の産業や労働に関する新聞記事等を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。			
講義の順序とポイント			
1．職業指導Ⅰの復習 2．キャリア教育の定義と意義 3．キャリア教育の現状と課題 4．学校におけるキャリア教育の現状と課題(普通高校・総合高校) 5．学校におけるキャリア教育の現状と課題(専門高校) 6．職業指導・キャリア教育に関する教育行政 7．職業指導・キャリア教育の方法論 8．諸外国における職業・キャリア教育（アメリカ合衆国） 9．諸外国における職業・キャリア教育（ドイツ） 10．諸外国における職業・キャリア教育（イギリス） 11．諸外国における職業・キャリア教育（フランス） 12．職業指導・キャリア教育の評価について 13．労働関係法規 14．職業指導Ⅱのまとめ（総括と復習） 15．これからの高等学校教育や職業指導の在り方についての展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★	★★

年度	2016	授業コード	JP0069A01
科目名	農業科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	農業科教育法Ⅰでは，教育基本法、教育振興基本計画等に見られるわが国の教育政策全般に関わる内容、教育制度、職業教育政策の現状と課題について解説し、基本的な理解を図る。また、農業教育の変遷および現状の分析から，その特質を探るとともに，高等学校学習指導要領の意義や内容および農業高校における生徒の意欲・関心・態度を向上させるための授業のあり方やその方法など，当該教科の指導の基礎や背景について広い視野から総論的に考察し，当該教科についての多面的な理解の徹底とともに、教授能力の育成を図る。また、その時々の農業や教育に関する政策及び雑誌や新聞記事について紹介するとともに、農業や教育に関するテレビ番組などの映像資料も用いる。授業は講義を中心に進めるが，教師としての教授能力育成の観点から，これらの内容をテーマとした討議法による授業も予定している。		
教材（テキスト）	高等学校学習指導要領(総則、農業)、各講義で自作資料を配布する。		
教材（参考文献）	中央教育審議会答申資料、その他、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点(30%)、授業中に課す小レポート(30%)、授業終了時のレポート(40%)。		
到達目標	高等学校学習指導要領等、中等農業教育に関する基礎的・基本的な事項を理解するとともに、農業の実態をも考慮に入れた視点から教授できる力量をつけることを目指す。		
準備学習	最近の農業や教育に関する新聞記事等を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。			
講義の順序とポイント			
1．わが国の教育制度 2．職業教育政策の現状と課題 3．明治以降における教育制度及び農業教育の歴史 4．農業教育の現状と課題 5．教育課程行政の現状と高等学校学習指導要領の意義 6．中央教育審議会答申の内容と高等学校学習指導要領の見方 7．高等学校学習指導要領（総則） 8．高等学校学習指導要領（農業） 9．高等学校学習指導要領（農業基礎科目） 10．高等学校学習指導要領（課題研究・総合実習） 11．高等学校学習指導要領（農業経営系科目） 12．高等学校学習指導要領（栽培・畜産系科目） 13．高等学校学習指導要領（生活系科目・他） 14．農業教科の特質 15．農業科教育法Ⅰのまとめ（総括と復習）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待			★		★★	★

年度	2016	授業コード	JP0069B01
科目名	農業科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	農業科教育法Ⅱでは、農業科教育法Ⅰで学んだ内容を受け、学習指導要領、農業科目の教科書、ならびに農業に関する教材を基にして、プロジェクト学習法などの農業教科の学習指導法、指導計画や学習評価の目的とその方法について解説する。 授業は、農業科教育法Ⅰで解説した農業教科の学習指導要領を基に、学習指導計画、学習評価、教科書行政の解説を中心に行うが、その時々の農業や教育に関する政策及び雑誌や新聞記事についても紹介する。また、授業は講義を中心に進めるが、教師としての教授能力育成の観点から、農業高校の授業ビデオ等を用いて授業分析を行うとともに、最近の教育や農業の動向等をテーマ討議法による授業も予定している。		
教材（テキスト）	高等学校農業関係教科書、高等学校学習指導要領解説(総則、農業)、自作資料		
教材（参考文献）	中央教育審議会答申資料、その他、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点（30%）、授業中に課す小レポート（30%）、授業終了時の最終レポート（40%）。		
到達目標	農業教科の学習指導法、指導計画や学習評価の意義・目的・方法等について理解するとともに、指導計画案の作成、模擬授業等を通して、指導の実践的感覚および力量の形成を目指す。		
準備学習	最近の農業や教育に関する新聞記事等を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。			
講義の順序とポイント			
1．農業科教育法Ⅰの復習 2．農業教科に関する学習指導法 3．学習指導計画の意義等 4．指導計画案の作成法及び注意点 5．指導計画案の作成及びそれに基づいた模擬授業 6．農業教科における評価規準 7．農業教科における学習評価の特性 8．学習評価の目的や方法 9．学習評価の具体的な事例解説 10．教科書の検定・供給制度 11．農業教科に関する教材研究 12．諸外国の教育制度・農業教育の現状 13．農業問題および教育問題等についての解説と討議 14．これからの高等学校教育と専門高校の在り方についての展望 15．農業科教育法Ⅱのまとめ（総括と復習）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★				★	★★

年度	2016	授業コード	JP0070001
科目名	図書館情報技術論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	コンピュータの基礎、図書館業務システムの理解、データベースの基礎・概要、検索エンジン、デジタルアーカイブ、クラウドコンピューティング等々図書館をめぐる情報技術を解説する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（40%）レポート（60%）		
到達目標	図書館業務にかかわる情報技術は、飛躍的に発展して来ている。その到達状況を理解し、また可能性についても把握しておくことが必要になっている。そして技術である以上、実際に使いこなせることが求められるため、演習も実施する。		
準備学習	インターネットでデジタル・アーカイブズに手軽に触れられるようになっているので、自らの関心分野に積極的に使用するように。データベース等の理解には数学的センスも必要なので予習復習が必要。		
受講者への要望			
それぞれが所属する学部、学科、専攻の学問分野に、学習したことを生かせるように取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1.コンピュータとネットワークの基礎 2.情報技術と社会、地方公共団体の電子化 3.蔵書管理と貸出管理、情報技術活用の現状 4.蔵書検索と図書館間ネットワーク 5.図書館の業務システム 6.図書館からの情報発信、ホームページの組み立て 7.データベース概要 8.データベースの仕組み 9.検索エンジンの位置と可能性 10.検索エンジンの仕組み 11.電子化、電子資料の管理技術 12.コンピュータシステム管理概要 13.デジタルアーカイブの設計 14.デジタルアーカイブの仕組み 15.ソリューションと図書館			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0071001
科目名	博物館資料保存論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	千田　康治	旧科目名称	
講義概要	博物館の使命は資料（文化財）を適切に保存し、活用しながら次世代へと伝えることである。 保存の対象となる資料の材質・特性を知ると共に、温度・湿度・空気環境等の諸条件が資料を保存にどのような影響をあたえるかを学ぶ。そして資料の適切な保存に必要な博物館の建物や設備といったハード面と、資料の取り扱いなどのソフト面について知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	レジュメを適時配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極性（６０％）　定期試験（４０％）		
到達目標	博物館施設における資料保存に必要な科学的知識や手法を習得することで、資料の保存に関する基礎的な能力を養う。		
準備学習	他の博物館・美術館等施設を見学する		

受講者への要望

「百聞は一見に如かず」の言葉のとおり、自分の足で博物館や美術館をまわっていろいろ見て、感じてください。

講義の順序とポイント

第１回　博物館における資料保存の意義
第２回　資料の保存と科学１　温湿度管理①
第３回　資料の保存と科学２　温湿度管理②
第４回　資料の保存と科学３　温湿度管理③
第５回　資料の保存と科学４　照明
第６回　資料の保存と科学５　空気環境
第７回　資料の保存と科学６　有害生物対策①
第８回　資料の保存と科学７　有害生物対策②
第９回　資料の保存と科学８　有害生物対策③
第１０回　資料保存の実際１　文化財の取り扱い
第１１回　資料保存の実際２　防災①
第１２回　資料保存の実際３　防災②と博物館の施設・機能Ⅳ
第１３回　資料保存の実際４　防災③と博物館の施設・機能Ⅴ
第１４回　資料保存の実際５　修復①
第１５回　資料保存の実際６　修復②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JP0071002
科目名	博物館資料保存論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	博物館の最も根本的な使命に、収蔵品（文化財）を適切に保存し、後世に伝える責務がある。保存の対象となる資料にどのような種類のものがあり、それらに湿度・温度・環境の諸条件がどのような影響を及ぼすかを学ぶ。そのうえで、資料保存に関わる様々な側面、資料の適切な保存を行うための建物や設備などの施設面と、資料の取り扱いなどの行動面についての知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介する		
教材（その他）	毎回、資料コピーを配布する		
評価方法	平常点（５０％）はノートなど毎回の授業における努力を見極めて評価する。残り５０％は合計３回提出を求める簡単な課題レポートで行う		
到達目標	博物館相当施設における資料保存に不可欠な知識・手法を習得すること		
準備学習	博物館相当施設を実際に訪れて、どのように資料が扱われているかを確認しておくこと		
受講者への要望			
博物館学芸員資格や社会教育主事の資格の取得を目指すもののための講義であることを自覚して、真摯な姿勢・態度で受講することを望む。なお。この科目の単位は卒業に必要な単位にはいかなる形でも算入されないので、資格取得希望者以外は履修登録をしないこと。			
講義の順序とポイント			
１・　博物館における資料保存の意義 ２・　資料の保存（収蔵庫） ３・　資料の保存（温湿度管理） ４・　資料の保存（光と照明） ５・　資料の保存（空気汚染） ６・　資料の保存（有害生物による被害） ７・　資料の保存（防災、火災・地震・水害） ８・　資料の取り扱い（資料の取り扱い１） ９・　資料の取り扱い（資料の取り扱い２） １０・　資料の取り扱い（収蔵品の点検作業） １１・　資料の取り扱い（梱包と輸送） １２・　資料の取り扱い（修復） １３・　資料保存と行政・法律 １４・　埋蔵文化財の保存 １５・　文化財保存の将来			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	ー	ー	ー	★	ー	★★

年度	2016	授業コード	JP0072001
科目名	博物館展示論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館や資料館Ｉにおける展示は、　来館者、見学者にとって、様々な資料を知り理解し興味や関心を高める契機となるため、最も重要な要素といえる。 　この講義では、博物館や資料館での展示の歴史とその現状、展示理念と展示環境などに言及し、歴史・民俗・考古・美術工芸・彫刻の各分野の具体的展示手法を紹介する。あわせて、新しい展示技術にも触れながら、展示計画の作成、実施手順について講義する。 学芸員としての展示論の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における学芸員として、展示理念と展示方法・技術、環境の理解と、展示計画・実施のノウハウの習得を目標とする		
準備学習	博物館や資料館における各分野の展示会に関心を持ち、積極的に見学参加し、展示の実際を知っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館における展示の歴史と現状について＜概説１＞ 2　博物館での展示理念について（各論１） 3　博物館での展示技法・技術について（各論２） 4　博物館での展示設備・環境について（各論３） 5　博物館・資料館における分野別展示について＜概説２＞ 6　博物館での民俗分野の展示について（各論１） 7　博物館での考古分野の展示について（各論２） 8　博物館での歴史分野の展示について（各論３） 9　博物館での美術工芸・彫刻の展示について（各論４） 10　博物館での新しい展示方法について－その１－（各論５） 11　博物館での新しい展示手法について－その２－（各論６） 12　博物館・資料館における展示計画と実施について＜概説３＞ 13　博物館での具体的展示計画の作成について（各論１） 14　博物館での具体的展示実施の手順について（各論２） 15　博物館・資料館における展示の課題と展望について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JP0073001
科目名	教職実践演習 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	教育実習での校種や教科、受講者の課題などを考慮して６～８名程度のグループに分け授業を進める。前半は教育実習での経験をふまえ、「授業」「生徒理解」「学級経営と学校運営」の３つをテーマに学内での講義・講演、グループ討論、ロールプレイ、模擬授業などを行う。後半は、学校現場の参観・見学や児童・生徒と直接触れ合う機会をとおしてより実践的な資質能力を身につける。また、学校現場の今日的な課題について講義を聞く場を設け、その内容を踏まえて地域や保護者とのかかわり方、組織の一員として自覚などのテーマについてグループ討論を行う。		
教材（テキスト）	その都度指定する		
教材（参考文献）	その都度指示する。		
教材（その他）	その都度指示する。		
評価方法	各活動に対する参加状況や態度、グループ討論などでの発言などを評価するとともに、模擬授業、見学・参観、実習での相互評価や外部からの評価をふまえ総合的に判断する。		
到達目標	教員として最小限必要な資質能力を身につけるために、これまでの教職課程の他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて学んだことを実践的に統合することを目標とする。また、教科学習での指導力、生徒理解や学級経営の能力のみならず、組織の一員としての使命感や責任感、社会性や対人関係力（保護者や地域の関係者との人間関係の構築等）などを身につけるようにする。		
準備学習	「教育実習ノート」を整理しておく、「教職履修カルテ」に添って各自の課題を見つけておく。 最初の授業で各単元の履修内容を確認するための課題を出す。授業の内容について、予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。		

受講者への要望

教育実習を終えて、教職課程の最終段階であることを自覚し、積極的に取り組む姿勢を持ってほしい。

講義の順序とポイント

第１回 オリエンテーション　履修カルテの整理と教育実習の振り返り　（＊は合同）
受講生を３つのグループに分け、３人の担当教員がそれぞれを順に担当する
第２回 「授業１」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第３回 「授業２」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第４回 「生徒理解１」教育相談のための基礎演習（事例研究）
第５回 「生徒理解２」教育相談のための基礎演習（ロールプレイ）
第６回 「学級経営」　学級経営案作り　グループ討論
第７回 「学校運営」　教育目標や校務分掌についてグループ討論
第８回 講義　学校現場の今日的な問題について＊
第９回 「保護者や地域の関係者との人間関係の構築等」について　グループ討論＊
第１０回　学校現場などの参観・見学　その１
・ 日本語教室（外国人児童・生徒を対象とした教室）
・ 教育研究発表会への参加　　など。
第１１回　学校現場などの参観・見学　その２
・ 保育園、幼稚園
・ 福祉施設などの関連機関　など
第１３回 子どもや保護者と直接触れ合う実習　その１
・ サイエンスフェスタなどの地域の行事への参加
第１４回 子どもや保護者と直接触れ合う実習　その２
・ 放課後の補充指導や「学びサポーター」への参加
・ 宿泊学習や校外学習への協力
10～13までは、 それぞれの中から１つ以上（合計２つ以上）の参観・見学、実習を行う（３名の担当教員が分担し、引率と事前事後の指導を行う）

第１４回 模擬授業発表会　模擬授業と事後研究会　演習のまとめ　グループ討論＊
第１５回 総括　履修カルテの完成と相互評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★	★	★

年度	2016	授業コード	JP5042A01
科目名	生涯学習概論Ⅰ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｓ
講義概要	２００６（平成１８）年１２月に改正された教育基本法には、「生涯学習の理念」を規定した条文が新設されている。同条では、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」ができる社会の実現が提唱されているが、今なぜ、そのような社会が目指されなければならないのだろうか。そもそも、それはどのような社会なのだろうか。これらの問題を考えるために、本講義では、代表的な理論や日本における政策の展開、社会教育の歴史などから生涯学習の基本的原理について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	生涯学習の基本原理を理論的観点、歴史的観点から理解できる。		
準備学習	周囲にある生涯学習関連施設（センター、図書館、博物館、美術館等）に目を向け、その活動内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　イントロダクション―生涯学習という概念
３．　生涯学習の理論①―ユネスコにおける生涯教育理論
４．　生涯学習の理論②―　　〃
５．　生涯学習の理論③―OECD におけるリカレント教育
６．　生涯学習の理論④―アメリカにおける学習社会論
７．　日本社会と生涯学習政策①―日本における生涯学習政策の展開
８．　日本社会と生涯学習政策②―地方自治体における生涯学習行政
９．　日本社会と生涯学習政策③―学校教育と生涯学習
１０．　日本社会と生涯学習政策④―まとめ、小テスト
１１．　社会教育とは何か①―社会教育の歴史
１２．　社会教育とは何か②―公民館
１３．　社会教育とは何か③―図書館
１４．　社会教育とは何か④―博物館
１５．　総括―生涯学習社会の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JP5042A02
科目名	生涯学習概論Ⅰ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｓ
講義概要	２００６（平成１８）年１２月に改正された教育基本法には、「生涯学習の理念」を規定した条文が新設されている。同条では、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」ができる社会の実現が提唱されているが、今なぜ、そのような社会が目指されなければならないのだろうか。そもそも、それはどのような社会なのだろうか。これらの問題を考えるために、本講義では、代表的な理論や日本における政策の展開、社会教育の歴史などから生涯学習の基本的原理について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	生涯学習の基本原理を理論的観点、歴史的観点から理解できる。		
準備学習	周囲にある生涯学習関連施設（センター、図書館、博物館、美術館等）に目を向け、その活動内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　イントロダクション―生涯学習という概念
３．　生涯学習の理論①―ユネスコにおける生涯教育理論
４．　生涯学習の理論②―　　〃
５．　生涯学習の理論③―OECD におけるリカレント教育
６．　生涯学習の理論④―アメリカにおける学習社会論
７．　日本社会と生涯学習政策①―日本における生涯学習政策の展開
８．　日本社会と生涯学習政策②―地方自治体における生涯学習行政
９．　日本社会と生涯学習政策③―学校教育と生涯学習
１０．　日本社会と生涯学習政策④―まとめ、小テスト
１１．　社会教育とは何か①―社会教育の歴史
１２．　社会教育とは何か②―公民館
１３．　社会教育とは何か③―図書館
１４．　社会教育とは何か④―博物館
１５．　総括―生涯学習社会の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JP5042B01
科目名	生涯学習概論Ⅱ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｆ
講義概要	現代に生きる私たちは、貧困や差別といった多くの困難に直面している。こうした問題を地域社会の中で考え、その解決に向けて市民や住民が主体的に社会教育を担っている例は数多くある。本講義では「社会的排除」と「社会的包摂」という概念を軸に、貧困や差別の問題に対して地域社会教育が果たす役割について学ぶ。このことを通して、自身が今後どのように地域社会とかかわっていくかを考えてほしい。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	地域社会教育の現状と課題を理解し、今後の方向性を考える力を身につける。		
準備学習	自身が生活する地域社会の教育活動に目を向け、その内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		
受講者への要望			
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。 ・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。			
講義の順序とポイント			
１．　授業の概要、成績評価方法 ２．　地域社会における教育と学習を考える ３．　社会的排除論① ４．　社会的排除論② ５．　社会的排除論③ ６．　映画鑑賞 ７．　映画鑑賞（続き）と解説 ８．　小括　小テスト ９．　子どもの貧困①　子育ち／子育てと地域社会 １０．　子どもの貧困②　学校と地域社会との連携・協働の取り組み １１．　女性の貧困と女性問題学習①　女性の労働問題 １２．　女性の貧困と女性問題学習②　学習の方法 １３．　貧困と社会的孤立①　ホームレス １４．　貧困と社会的孤立②　NPO によるホームレス支援 １５．　「社会的包摂」のあり方			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JP5042B02
科目名	生涯学習概論Ⅱ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｆ
講義概要	現代に生きる私たちは、貧困や差別といった多くの困難に直面している。こうした問題を地域社会の中で考え、その解決に向けて市民や住民が主体的に社会教育を担っている例は数多くある。本講義では「社会的排除」と「社会的包摂」という概念を軸に、貧困や差別の問題に対して地域社会教育が果たす役割について学ぶ。このことを通して、自身が今後どのように地域社会とかかわっていくかを考えてほしい。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	地域社会教育の現状と課題を理解し、今後の方向性を考える力を身につける。		
準備学習	自身が生活する地域社会の教育活動に目を向け、その内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		
受講者への要望			
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。 ・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。			
講義の順序とポイント			
１．　授業の概要、成績評価方法 ２．　地域社会における教育と学習を考える ３．　社会的排除論① ４．　社会的排除論② ５．　社会的排除論③ ６．　映画鑑賞 ７．　映画鑑賞（続き）と解説 ８．　小括　小テスト ９．　子どもの貧困①　子育ち／子育てと地域社会 １０．　子どもの貧困②　学校と地域社会との連携・協働の取り組み １１．　女性の貧困と女性問題学習①　女性の労働問題 １２．　女性の貧困と女性問題学習②　学習の方法 １３．　貧困と社会的孤立①　ホームレス １４．　貧困と社会的孤立②　NPO によるホームレス支援 １５．　「社会的包摂」のあり方			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JP7002501
科目名	保健体育科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
講義概要	「保健体育科教育法Ⅰ」は，保健体育科指導の基礎を学ぶ科目である。この講義では，「よい体育授業」とは何かを考えるとともに，中学校を中心とした学習指導要領（保健体育編）の理解や保健体育科教育の変遷，学習形態等の基礎的内容の修得をとおして，保健体育科の指導を行うに当たっての大まかなイメージをもつことができるようにする。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２００８）３６８円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（10%）、授業内に課す小レポート（20%）、試験（70%）		
到達目標	１．自らが受けてきた体育授業を振り返り，「よい体育授業」のイメージをもつことができるようになる。 ２．保健体育科を取り巻く現状や指導に当たっての基礎的内容が理解できるようになる。 ３．中学校学習指導要領の構造や目標・内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		
受講者への要望			
４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２．よい体育授業とは ３．保健体育科の指導をめぐる現状と課題 ４．運動にともなう事故 ５．保健体育科教育の授業を取り巻く制度的条件 ６．学習指導要領改訂とそのポイント ７．中学校学習指導要領について(構造・目標を中心に) ８．中学校学習指導要領について(内容を中心に) ９．身に付けさせたい技能 １０．保健体育科教育の変遷 １１．教材・教具，学習指導 １２．学習形態，学習過程 １３．中学校の保健学習 １４．運動の楽しさとは １５．まとめ、振り返り			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	－	－	－

年度	2016	授業コード	JP7002601
科目名	保健体育科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
講義概要	「保健体育科教育法Ⅱ」は，「保健体育科教育法Ⅰ」を基礎に，中学校保健体育科で行う各領域の教材研究（授業づくり）の仕方を理解するとともに，指導を行うに当たっての具体的なイメージをもてるようにする。なお，授業では，各運動の授業づくりの具体的イメージをもつことができるよう，ビデオなどをできる限り活用する。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２００８）　３６８円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（10%）、授業内に複数回課す小レポート（50%）、学期末のレポート（40%）		
到達目標	１．効果的な教授技術など、授業づくりの基本的構造が理解できるようになる。 ２．各領域の教材研究（授業づくり）の仕方の具体的イメージを描くことができるようになる。		
準備学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		

受講者への要望

４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨んでもらいたい。

講義の順序とポイント

１．はじめに
２．授業づくりの構造（効果的な教授技術）
３．中学校学習指導要領について
４．「Ａ体つくり運動」の教材研究（授業づくり）
５．「Ｂ器械運動」の教材研究（授業づくり）
６．「Ｃ陸上競技」の教材研究（授業づくり）
７．「Ｄ水泳」の教材研究（授業づくり）
８．「Ｅ球技」の教材研究（授業づくり）
９．「Ｆ武道」の教材研究（授業づくり）
１０．「Ｇダンス」の教材研究（授業づくり）
１１．「保健」の教材研究（授業づくり）
１２．集団行動と新スポーツテスト
１３．「時案」の作成方法
１４．レポート（「時案」）作成
１５．作成レポートの振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JP7002701
科目名	保健体育科教育法Ⅲ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
講義概要	「保健体育科教育法Ⅲ」は，保健体育科の指導方法の基礎を学ぶ科目である。この講義では，高等学校で教える中身の理解とともに，目標に準拠した評価や指導案の作成など，保健体育科の指導を行うに当たっての具体的なイメージがもてるようにする。		
教材（テキスト）	『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２０１０） ４５５円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（10%）、授業内に課す小レポート（30%）、試験（60%）		
到達目標	１．高等学校学習指導要領が理解できるようになる。 ２．指導案の作成方法が理解できるようになる。		
準備学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		

受講者への要望

４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨んでもらいたい。

講義の順序とポイント

１．はじめに
２．体育教師に期待されているもの
３．高等学校学習指導要領について
４．求められる教師像と教員採用試験について
５．高等学校の保健学習
６．柔道の安全指導について
７．指導計画の作成
８．目標に準拠した評価（様々な学習評価）
９．目標に準拠した評価（観点別学習状況と評価規準）
１０．指導案の作成方法（体育）
１１．指導案の作成方法（保健）
１２．「保健」時案の作成（学習指導要領と教科書のつながり）
１３．「保健」時案の作成（教科書を踏まえた時案作成）
１４．体育学習で身に付けさせたいこと
１５．まとめ、振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	－

年度	2016	授業コード	JP7002801
科目名	保健体育科教育法Ⅳ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
講義概要	「保健体育科教育法Ⅳ」は，保健体育科の指導方法の基礎を学ぶ科目である。この講義では，指導案の作成や模擬授業などを行い，保健体育科の実践的指導力を養うことができるようにする。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２００８） ３６８円 『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２０１０） ４５５円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（20%）、小レポート（30%）、学期末のレポート（50%）。		
到達目標	１．身に付けさせたいことへ向けた指導案の作成ができるようになる。 ２．指導案に基づく実践的指導ができるようになる。 ３．授業を客観的に振り返り，改善することができるようになる。		
準備学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		
受講者への要望			
４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２．指導案の検討（体つくり運動） ３．指導案の検討（器械運動） ４．指導案の検討（陸上競技） ５．指導案の検討（球技） ６．指導案の検討（武道 or ダンス） ７．指導案の検討（保健） ８．模擬授業（体つくり運動） ９．模擬授業（器械運動） １０．模擬授業（陸上競技） １１．模擬授業（球技） １２．模擬授業（武道 or ダンス） １３．模擬授業（保健） １４．教育実習・教員採用試験について １５．まとめ、振り返り			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2016	授業コード	JSJ040101
科目名	生涯スポーツ実技（ゴルフ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Golf)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JSJ040505
科目名	生涯スポーツ実技（ゴルフ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Golf)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JSJ060101
科目名	生涯スポーツ実技（ソフトボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Softball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ060202
科目名	生涯スポーツ実技（ソフトボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Softball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ070101
科目名	生涯スポーツ実技（テニス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Tennis)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなかおもいどおりにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。（戦略・理論を含む） 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　グリップ 3. グリップと面作りストローク 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる) 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える) 6. ボール出しによるグランドストローク 7. ボレーとストロークの打ち方を覚える 8. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 9. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 10. 簡単なダブルスゲーム 11. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営) 12. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 13. ゲームの運営（5 人でのダブルス） 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★

年度	2016	授業コード	JSJ070303
科目名	生涯スポーツ実技（テニス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Tennis)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなかおもいどおりにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。（戦略・理論を含む） 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　グリップ 3. グリップと面作りストローク 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる) 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える) 6. ボール出しによるグランドストローク 7. ボレーとストロークの打ち方を覚える 8. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 9. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 10. 簡単なダブルスゲーム 11. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営) 12. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 13. ゲームの運営（5 人でのダブルス） 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★

年度	2016	授業コード	JSJ080101
科目名	生涯スポーツ実技(バスケットボール)	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Basketball)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート)、個人技能練習（パス)、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス)、個人技能練習（ドリブル)、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル)、スキルテスト（ドリブル)、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス)、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス)、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス)、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2016	授業コード	JSJ080202
科目名	生涯スポーツ実技(バスケットボール)	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Basketball)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート)、個人技能練習（パス)、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス)、個人技能練習（ドリブル)、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル)、スキルテスト（ドリブル)、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス)、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス)、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス)、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	JSJ090404
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ090707
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ090808
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ090909
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ091010
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ091111
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ100101
科目名	生涯スポーツ実技（バレーボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Volleyball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ100202
科目名	生涯スポーツ実技（バレーボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Volleyball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ110101
科目名	生涯スポーツ実技（フィットネス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Fitness)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ110202
科目名	生涯スポーツ実技（フィットネス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Fitness)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ120303
科目名	生涯スポーツ実技（フットサル）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Futsal)		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。 フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは 40 メートル、ゴールラインは 20 メートルと従来のサッカーコートの約 9 分の 1 の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少いためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。 授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	講義要項「生涯スポーツプログラム」を参照		
到達目標	フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション、フィットネステストＡ
2．フィットネステストＢ
3．競技の特性及び競技規則を理解する。
4．ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ)
5．パス - 対面パス（固定、動きながら、２グループ）
6．パス - スクエアパス（２タッチ、ワンツー、３人目）
7．シュート - ポストシュート、ドリブルシュート
8．シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト)
9．対人 - １対１、２対１、２対２、３対２
１０．ウォーミングアップ - ゲーム（ドリブル） - クールダウン
１１．ウォーミングアップ - ゲーム（パス） - クールダウン
１２．ウォーミングアップ - ゲーム（シュート） - クールダウン
１３．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン
１４．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。

年度	2016	授業コード	JSJ120404
科目名	生涯スポーツ実技（フットサル）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Futsal)		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。 フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは 40 メートル、ゴールラインは 20 メートルと従来のサッカーコートの約 9 分の 1 の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少いためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。 授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	講義要項「生涯スポーツプログラム」を参照		
到達目標	フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション、フィットネステストＡ
2．フィットネステストＢ
3．競技の特性及び競技規則を理解する。
4．ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ)
5．パス - 対面パス（固定、動きながら、２グループ）
6．パス - スクエアパス（２タッチ、ワンツー、３人目）
7．シュート - ポストシュート、ドリブルシュート
8．シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト)
9．対人 - １対１、２対１、２対２、３対２
１０．ウォーミングアップ - ゲーム（ドリブル） - クールダウン
１１．ウォーミングアップ - ゲーム（パス） - クールダウン
１２．ウォーミングアップ - ゲーム（シュート） - クールダウン
１３．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン
１４．ウォーミングアップ - ゲーム（リーグ戦） - クールダウン
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ150101
科目名	生涯スポーツ実技（柔道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Judo)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	柔道は日本古来の柔術が近代化され、今日では世界で多くの人が競技している。 しかし、本学で取り組む柔道は、生涯スポーツとして位置づけるために、競技力よりも、技術の理論性を理解し、他のスポーツにも応用できるよう実施していきたい。柔道着を持参できない学生は大学より貸し与える。学期末時に必ず返却すること。 3 セメスター以上単位修得者は希望により京都府柔道連盟に初段の推薦をする。（有料）		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	相手と対応して、身体を操作する武道の技術と礼法		
準備学習	前回までの技術の把握、礼法の確認、体調管理		

受講者への要望

柔道着を必ず着用すること。（※柔道着は大学にて貸し出す。）

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、フィットネステストA
2. フィットネステストB　武道としての柔道(現代に生きる礼法)
3. 組み方と体捌き(自然本体と崩し、後方と側方受け身)
4. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技(背負投と受け身)
5. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技(大外刈と受け身)
6. 相手が右横に移動した力を利用して倒す技(送足払と受け身)
7. 相手が左横に移動した力を利用して倒す技(体落と受け身)
8. 相手に倒されないための組み方と移動方法(背負投とその防御) (大外刈とその防御)
9. 連続技の工夫 （送足払、体落とその防御)
10. 寝技の効用・袈裟固とその逃れ方 ・横四方固とその逃れ方
11. 上四方固、縦四方固とその逃れ方 ・安全な締め技の方法　活法の理論と実技 ・力のいらない間接技
12. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技と返し技の工夫
13. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技と返し技の工夫
14. 相手が横に移動した力を利用して倒す技と返し技の工夫
15.レポート指導(自分の生活における精力善用・自他共栄とは)

・実技テスト
相手が前に出てきた力を利用して倒す技
相手が後ろに下がる力を利用して倒す技
相手が横に移動した力を利用して倒す技（上級者同じ技で行う）
・レポート
自分の生活における精力善用・自他共栄とは
自分の生活における礼法とは

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JSJ150202
科目名	生涯スポーツ実技（柔道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Judo)		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	柔道は日本古来の柔術が近代化され、今日では世界で多くの人が競技している。 しかし、本学で取り組む柔道は、生涯スポーツとして位置づけるために、競技力よりも、技術の理論性を理解し、他のスポーツにも応用できるよう実施していきたい。柔道着を持参できない学生は大学より貸し与える。学期末時に必ず返却すること。 3 セメスター以上単位修得者は希望により京都府柔道連盟に初段の推薦をする。（有料）		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	相手と対応して、身体を操作する武道の技術と礼法		
準備学習	前回までの技術の把握、礼法の確認、体調管理		
受講者への要望			
柔道着を必ず着用すること。（※柔道着は大学にて貸し出す。）			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストA 2. フィットネステストB　武道としての柔道(現代に生きる礼法) 3. 組み方と体捌き(自然本体と崩し、後方と側方受け身) 4. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技(背負投と受け身) 5. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技(大外刈と受け身) 6. 相手が右横に移動した力を利用して倒す技(送足払と受け身) 7. 相手が左横に移動した力を利用して倒す技(体落と受け身) 8. 相手に倒されないための組み方と移動方法(背負投とその防御) (大外刈とその防御) 9. 連続技の工夫　(送足払、体落とその防御) 10. 寝技の効用・袈裟固とその逃れ方　・横四方固とその逃れ方 11. 上四方固、縦四方固とその逃れ方　・安全な締め技の方法　活法の理論と実技　・力のいらない間接技 12. 相手が前に出てきた力を利用して倒す技と返し技の工夫 13. 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技と返し技の工夫 14. 相手が横に移動した力を利用して倒す技と返し技の工夫 15.レポート指導(自分の生活における精力善用・自他共栄とは) ・実技テスト 相手が前に出てきた力を利用して倒す技 相手が後ろに下がる力を利用して倒す技 相手が横に移動した力を利用して倒す技（上級者同じ技で行う） ・レポート 自分の生活における精力善用・自他共栄とは 自分の生活における礼法とは		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JSJ160101
科目名	生涯スポーツ実技（卓球）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Table Tennis)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ160202
科目名	生涯スポーツ実技（卓球）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Table Tennis)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	-	★★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ200101
科目名	生涯スポーツ実技（剣道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Kendo)		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心をもち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		
受講者への要望			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
講義の順序とポイント			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技)、かかり稽古、互角稽古　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★ ★	ー	★	ー	ー

年度	2016	授業コード	JSJ200202
科目名	生涯スポーツ実技（剣道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Kendo)		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心をもち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		
受講者への要望			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
講義の順序とポイント			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技)、かかり稽古、互角稽古　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ210101
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	教養としての身体運動・健康科学 東京大学身体運動科学研究室		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	１．運動を楽しむ ２．グループで協力して、役割を果たせる。 ３．運動を計画的に実施できる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
２時間（１８０分）の連続授業です。体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 ２．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス ３．バドミントン ４．レクリエーション ５．バドミントン ６．レクリエーション ７．バスケットボール ８．卓球 ９．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★★	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JSJ210202
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	教養としての身体運動・健康科学 東京大学身体運動科学研究室		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	１．運動を楽しむ ２．グループで協力して、役割を果たせる。 ３．運動を計画的に実施できる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
２時間（１８０分）の連続授業です。体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 ２．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス ３．バドミントン ４．レクリエーション ５．バドミントン ６．レクリエーション ７．バスケットボール ８．卓球 ９．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★★	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	JSR012A01
科目名	スポーツ社会学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Sociology		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	人間は社会から離れて、一人だけで生活することはできない。住む、働く、学ぶ、遊ぶなどといった生活活動は特定の人々や集団をよりどころに営まれている。現代における、スポーツが社会生活と、どのように結びついているか、又健康に影響をもたらすか学び、社会生活を行う上で、スポーツの価値を如何に利用し社会生活に役立つ方法として、スポーツの企画運営できる能力を養うことにより、リーダーシップがとれるようにすることを期待する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代体育・スポーツ体系 スポーツ社会学講座		
教材（その他）	京学なびのアップロードで配布		
評価方法	授業内レポート 60%、中間レポート 20%、最終レポート 20%		
到達目標	スポーツと社会について学び生涯スポーツの実施に役立たせる。		
準備学習	○「参考文献欄に挙げた文献を学期中に読破すること」 ○「次期講義内容を読破し問題点を把握すること」 ○「次期講義内容を読破し疑問点を把握すること」		

受講者への要望

30 分以上の遅刻は教室への入室を禁ずる。遅刻せず毎回出席し、その日のレポートを提出すること。
出来るたけ生涯スポーツの実技を受講すること。

講義の順序とポイント

1.生涯スポーツとは？簡単なトーナメントとリーグ戦の組み合わせ。
2.現代生活とスポーツ。
3.これからの生活とスポーツ。我国のスポーツ。変わる社会とスポーツ。諸外国のスポーツ。
4.生涯にわたってスポーツを楽しむためには
5.ライフサイクルとスポーツ
6.スポーツ指導の上手な受け方
7.すぐれたスポーツ選手の共通点
8.トーナメント並びにリーグ戦の組み方
9.生涯スポーツイベントの企画運営
10.スポーツ技術論　各スポーツの技術とその理論
11.スポーツ指導論　生涯スポーツ指導者に求められるもの
12.指導計画とリーダーシップ　年齢と指導特性
13.スポーツと産業　企業とスポーツ　プロスポーツ　スポーツとマスメディア
14.スポーツ事業の企画運営　生涯スポーツとしての今後の大会運営
15.5 人によるダブルスの理想的な組み合わせ、スポーツ社会学のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★

年度	2016	授業コード	JSR012A02
科目名	スポーツ社会学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Sociology		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	人間は社会から離れて、一人だけで生活することはできない。住む、働く、学ぶ、遊ぶなどといった生活活動は特定の人々や集団をよりどころに営まれている。現代における、スポーツが社会生活と、どのように結びついているか、又健康に影響をもたらすか学び、社会生活を行う上で、スポーツの価値を如何に利用し社会生活に役立つ方法として、スポーツの企画運営できる能力を養うことにより、リーダーシップがとれるようにすることを期待する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代体育・スポーツ体系 スポーツ社会学講座		
教材（その他）	京学なびのアップロードで配布		
評価方法	授業内レポート 60%、中間レポート 20%、最終レポート 20%		
到達目標	スポーツと社会について学び生涯スポーツの実施に役立たせる。		
準備学習	○「参考文献欄に挙げた文献を学期中に読破すること」 ○「次期講義内容を読破し問題点を把握すること」 ○「次期講義内容を読破し疑問点を把握すること」		

受講者への要望

30 分以上の遅刻は教室への入室を禁ずる。遅刻せず毎回出席し、その日のレポートを提出すること。
出来るたけ生涯スポーツの実技を受講すること。

講義の順序とポイント

1.生涯スポーツとは？簡単なトーナメントとリーグ戦の組み合わせ。
2.現代生活とスポーツ。
3.これからの生活とスポーツ。我国のスポーツ。変わる社会とスポーツ。諸外国のスポーツ。
4.生涯にわたってスポーツを楽しむためには
5.ライフサイクルとスポーツ
6.スポーツ指導の上手な受け方
7.すぐれたスポーツ選手の共通点
8.トーナメント並びにリーグ戦の組み方
9.生涯スポーツイベントの企画運営
10.スポーツ技術論　各スポーツの技術とその理論
11.スポーツ指導論　生涯スポーツ指導者に求められるもの
12.指導計画とリーダーシップ　年齢と指導特性
13.スポーツと産業　企業とスポーツ　プロスポーツ　スポーツとマスメディア
14.スポーツ事業の企画運営　生涯スポーツとしての今後の大会運営
15.5 人によるダブルスの理想的な組み合わせ、スポーツ社会学のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★

年度	2016	授業コード	JSR012B01
科目名	運動学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Kinematics		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	人生を豊かに営む上には健康は欠かせないものがあります。そのためには基礎体力を養い、周りの環境破壊から来る。様々な外敵より身を守り続ける必要があります。若い時代に築き上げられた体力も、今日の文明や精神的ストレスによって、直ぐ様剥奪されてしまいます。健康の維持増進には、その年齢や体力に合った運動をする必要がありスポーツが身体の発達にどのように貢献するか、又健康や体力に影響をもたらすか学び、スポーツを行う上で障害の防止やトレーニング方法を理解し、各人の目標に合ったトレーニング方法を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代体育・スポーツ体系 スポーツ社会学講座 身体運動学概論 日本人の体力標準値第三版 体力の診断とトレーニング		
教材（その他）	京学なびのアップロードで配布		
評価方法	授業内レポート 60%、中間レポート 20%、最終レポート 20%		
到達目標	スポーツと身体について学び、生涯スポーツの実施に役立たせる。 体力測定を行ない各自の目標に合ったトレーニング処方を追求する。		
準備学習	○「参考文献欄に挙げた文献を学期中に読破すること」 ○「次期講義内容を読破し問題点を把握すること」 ○「次期講義内容を読破し疑問点を把握すること」		
受講者への要望			
30 分以上の遅刻は教室への入室を禁ずる。遅刻せず毎回出席し、その日のレポートを提出すること。 出来るたけ生涯スポーツの実技を受講すること。実技を受講しない学生は 2・3 週目の授業後に体力測定を行なう。上記測定しなかった学生は各自で測定を行なう。			
講義の順序とポイント			
1.人類とスポーツ 2.身体の発達とスポーツ（体力測定） 3.健康・体力とスポーツ（体力測定） 4.青少年期の健康・体力とスポーツ 5.中高年の健康・体力とスポーツ 6.スポーツと健康管理 7.身体のしくみと運動 8.運動力学 9.体力測定の統計処理とその利用 10.トレーニングの科学 11.体力とトレーニング 12.健康とトレーニング 13.各種トレーニング 14.各個人の目標に合ったトレーニング 15.各個人の今後の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★

年度	2016	授業コード	JSR012B02
科目名	運動学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Kinematics		
担当者名	橋本　禎万	旧科目名称	
講義概要	人生を豊かに営む上には健康は欠かせないものがあります。そのためには基礎体力を養い、周りの環境破壊から来る。様々な外敵より身を守り続ける必要があります。若い時代に築き上げられた体力も、今日の文明や精神的ストレスによって、直ぐ様剥奪されてしまいます。健康の維持増進には、その年齢や体力に合った運動をする必要がありスポーツが身体の発達にどのように貢献するか、又健康や体力に影響をもたらすか学び、スポーツを行う上で障害の防止やトレーニング方法を理解し、各人の目標に合ったトレーニング方法を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	現代体育・スポーツ体系 スポーツ社会学講座 身体運動学概論 日本人の体力標準値第三版 体力の診断とトレーニング		
教材（その他）	京学なびのアップロードで配布		
評価方法	授業内レポート 60%、中間レポート 20%、最終レポート 20%		
到達目標	スポーツと身体について学び、生涯スポーツの実施に役立たせる。 体力測定を行ない各自の目標に合ったトレーニング処方を追求する。		
準備学習	○「参考文献欄に挙げた文献を学期中に読破すること」 ○「次期講義内容を読破し問題点を把握すること」 ○「次期講義内容を読破し疑問点を把握すること」		
受講者への要望			
30 分以上の遅刻は教室への入室を禁ずる。遅刻せず毎回出席し、その日のレポートを提出すること。 出来るたけ生涯スポーツの実技を受講すること。実技を受講しない学生は 2・3 週目の授業後に体力測定を行なう。上記測定しなかった学生は各自で測定を行なう。			
講義の順序とポイント			
1.人類とスポーツ 2.身体の発達とスポーツ（体力測定） 3.健康・体力とスポーツ（体力測定） 4.青少年期の健康・体力とスポーツ 5.中高年の健康・体力とスポーツ 6.スポーツと健康管理 7.身体のしくみと運動 8.運動力学 9.体力測定の統計処理とその利用 10.トレーニングの科学 11.体力とトレーニング 12.健康とトレーニング 13.各種トレーニング 14.各個人の目標に合ったトレーニング 15.各個人の今後の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★

年度	2016	授業コード	JSR031A01
科目名	スポーツ国際交流論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of International Sports Exchange A		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	近年、我が国では、競技団体（NF）や地方公共団体を中心に、国や企業等の協力の下にこれまで数多くの国際競技大会が開催され、国際大会を我が国で開催することにより、スポーツの振興や国際親善などに大きく寄与してきた。そして、世界のトッププレーヤーの競技を目の当たりにすることにより、多くの国民にスポーツのすばらしさや大きな感動を与えるなど、トップスポーツ選手のパフォーマンスは一般の多くの人々に夢や希望を与えている。 　スポーツを通じた国際交流は、我が国におけるスポーツの普及・発展に寄与することはもとより、諸外国との相互理解と友好親善の促進に大きな役割を果たす極めて重要な意義を持つものである。そこで、このようなスポーツについて深く学び、学生一人ひとりが、自分の住む地域でスポーツにかかわり、支援する人材として力をつけられるように講義を展開する。 　このようなスポーツの実態について深く学び、スポーツの現状把握からどのような国際交流が今後必要かを考えていく。		
教材（テキスト）	学芸出版社「スポーツツーリズム・ハンドブック」一般社団法人日本ツーリズム推進機構著		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度と取組姿勢(50%)、授業内レポート(50%)により評価を行なう。		
到達目標	スポーツによる国際交流の実態報告書を作成する能力やプレゼンテーション能力を養う。		
準備学習	世界主要各国のスポーツ環境やスポーツ状況を調べておく。		
受講者への要望			
必ず出席すること。 遅刻をしないこと。 授業をしっかり聞いてレポートを提出すること。			
講義の順序とポイント			
1.スポーツツーリズムの今 2.スポーツイベントの発達とツーリズム 3.国際化するスポーツツーリズム 4.スポーツツーリズムの基本的機能 5.するスポーツにツーリストが求める経験 6.なぜマーケティングが必要なのか 7.マーケティング・ミックスの４つのＰ 8.グループワーク① 9.グループワーク② 10.スポーツツーリストの意思決定 11.スポーツデスティネーションと地域への愛着 12.スポーツデスティネーションの現状 13.インバウンド旅行者 14.グループワーク③ 15.グループワーク④			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JSR031A02
科目名	スポーツ国際交流論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of International Sports Exchange A		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	近年、我が国では、競技団体（NF）や地方公共団体を中心に、国や企業等の協力の下にこれまで数多くの国際競技大会が開催され、国際大会を我が国で開催することにより、スポーツの振興や国際親善などに大きく寄与してきた。そして、世界のトッププレーヤーの競技を目の当たりにすることにより、多くの国民にスポーツのすばらしさや大きな感動を与えるなど、トップスポーツ選手のパフォーマンスは一般の多くの人々に夢や希望を与えている。 　スポーツを通じた国際交流は、我が国におけるスポーツの普及・発展に寄与することはもとより、諸外国との相互理解と友好親善の促進に大きな役割を果たす極めて重要な意義を持つものである。そこで、このようなスポーツについて深く学び、学生一人ひとりが、自分の住む地域でスポーツにかかわり、支援する人材として力をつけられるように講義を展開する。 　このようなスポーツの実態について深く学び、スポーツの現状把握からどのような国際交流が今後必要かを考えていく。		
教材（テキスト）	学芸出版社「スポーツツーリズム・ハンドブック」一般社団法人日本ツーリズム推進機構著		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度と取組姿勢(50%)、授業内レポート(50%)により評価を行なう。		
到達目標	スポーツによる国際交流の実態報告書を作成する能力やプレゼンテーション能力を養う。		
準備学習	世界主要各国のスポーツ環境やスポーツ状況を調べておく。		
受講者への要望			
必ず出席すること。 遅刻をしないこと。 授業をしっかり聞いてレポートを提出すること。			
講義の順序とポイント			
1.スポーツツーリズムの今 2.スポーツイベントの発達とツーリズム 3.国際化するスポーツツーリズム 4.スポーツツーリズムの基本的機能 5.するスポーツにツーリストが求める経験 6.なぜマーケティングが必要なのか 7.マーケティング・ミックスの４つのＰ 8.グループワーク① 9.グループワーク② 10.スポーツツーリストの意思決定 11.スポーツデスティネーションと地域への愛着 12.スポーツデスティネーションの現状 13.インバウンド旅行者 14.グループワーク③ 15.グループワーク④			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JSR031B01
科目名	スポーツ国際交流論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of International Sports Exchange B		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	現代においてスポーツは言葉の壁を越え、グローバル時代のコミュニケーションツールとして価値を持っている。世界の各地域ではさまざまなスポーツを通して、人と人が交流し、地域の活性化や国際関係や異文化への理解を深めることに役立っている。 スポーツ国際交流論Ｂが目指すところは、真の国際交流。心とからだをはじめとするすべての感覚をとぎすまし、総合的なコミュニケーション能力を育み高めるために、スポーツ知識を高めるだけでなく、自ら実践する能力を養うことである。自分が得意なスポーツ種目を持つことは人生にとって大きな収穫と言える。		
教材（テキスト）	学芸出版社「スポーツツーリズム・ハンドブック」一般社団法人日本ツーリズム推進機構著		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度と取組姿勢(50%)、授業内レポート(50%)により評価を行なう。		
到達目標	スポーツによる国際交流の実態報告書を作成する能力やプレゼンテーション能力を養う。		
準備学習	世界主要各国のスポーツ環境やスポーツ状況を調べておく。		
受講者への要望			
必ず出席すること。 遅刻をしないこと。 授業をしっかり聞いてレポートを提出すること。			
講義の順序とポイント			
1.スポーツイベント業 2.スポーツイベントの構造 3.スポーツイベントのコンテンツ制作 4.スポーツイベントのプロデュース 5.スポーツイベントの評価 6.スポーツイベントツアーの形態 7.旅行業務 8.スポーツイベントツアー商品造成と販売の留意点 9.グループワーク① 10.グループワーク② 11.スポーツイベントツアーの リスクマネジメント 12.旅行・観光業の役割、課題 13.地域活性化とスポーツツーリズム 14.グループワーク③ 15.グループワーク④			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JSR031B02
科目名	スポーツ国際交流論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of International Sports Exchange B		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	現代においてスポーツは言葉の壁を越え、グローバル時代のコミュニケーションツールとして価値を持っている。世界の各地域ではさまざまなスポーツを通して、人と人が交流し、地域の活性化や国際関係や異文化への理解を深めることに役立っている。 スポーツ国際交流論Ｂが目指すところは、真の国際交流。心とからだをはじめとするすべての感覚をとぎすまし、総合的なコミュニケーション能力を育み高めるために、スポーツ知識を高めるだけでなく、自ら実践する能力を養うことである。自分が得意なスポーツ種目を持つことは人生にとって大きな収穫と言える。		
教材（テキスト）	学芸出版社「スポーツツーリズム・ハンドブック」一般社団法人日本ツーリズム推進機構著		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度と取組姿勢(50%)、授業内レポート(50%)により評価を行なう。		
到達目標	スポーツによる国際交流の実態報告書を作成する能力やプレゼンテーション能力を養う。		
準備学習	世界主要各国のスポーツ環境やスポーツ状況を調べておく。		
受講者への要望			
必ず出席すること。 遅刻をしないこと。 授業をしっかり聞いてレポートを提出すること。			
講義の順序とポイント			
1.スポーツイベント業 2.スポーツイベントの構造 3.スポーツイベントのコンテンツ制作 4.スポーツイベントのプロデュース 5.スポーツイベントの評価 6.スポーツイベントツアーの形態 7.旅行業務 8.スポーツイベントツアー商品造成と販売の留意点 9.グループワーク① 10.グループワーク② 11.スポーツイベントツアーの リスクマネジメント 12.旅行・観光業の役割、課題 13.地域活性化とスポーツツーリズム 14.グループワーク③ 15.グループワーク④			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JSR051A01
科目名	健康スポーツ理論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）	とくになし		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、小テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		
受講者への要望			
質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。 講義中は静粛に願います。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策 ２．栄養摂取と運動 ３．骨の病気、筋肉の病気 ４．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(美藤先生・水田先生) ５．人体の解剖・画像解剖(美藤先生・水田先生) ６．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1 ７．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2 ８．生活習慣病としての発癌 ９．解剖学とストレッチ(木下先生) １０．運動療法の基礎 １１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法 １２．スポーツ障害と画像診断 １３．運動負荷試験 １４．運動プログラムの管理 １５．健康管理、まとめ 京都府立医科大学放射線科の美藤先生、水田先生、京都メディカルクラブ　木下先生(日本体育協会公認アスレティックトレーナー)に講義をお願いしています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JSR051A02
科目名	健康スポーツ理論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）	とくになし		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、小テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		
受講者への要望			
質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。 講義中は静粛に願います。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策 ２．栄養摂取と運動 ３．骨の病気、筋肉の病気 ４．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(美藤先生・水田先生) ５．人体の解剖・画像解剖(美藤先生・水田先生) ６．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1 ７．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2 ８．生活習慣病としての発癌 ９．解剖学とストレッチ(木下先生) １０．運動療法の基礎 １１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法 １２．スポーツ障害と画像診断 １３．運動負荷試験 １４．運動プログラムの管理 １５．健康管理、まとめ 京都府立医科大学放射線科の美藤先生、水田先生、京都メディカルクラブ　木下先生(日本体育協会公認アスレティックトレーナー)に講義をお願いしています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JSR051A03
科目名	健康スポーツ理論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学出版会）　東京大学身体運動科学研究室 編 2,592 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	JSR051A04
科目名	健康スポーツ理論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学出版会）　東京大学身体運動科学研究室 編 2,592 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2016	授業コード	JSR051B01
科目名	健康スポーツ理論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	生涯スポーツの理論Ｂ
講義概要	わが国に「体育」が誕生したのは，身体教育ということばを簡略化した明治 9 年である．フランス式の教育に範をとり，ロック（1632～1704），スペンサー（1820～1903）らの教育学から知育・徳育・体育を重要な教育目標と定め，体育についても早くからその特性について着目していた．さて、体育スポーツ･レクリエーションはどのようにわれわれの生活の中に溶け込んでいったのか？その歴史を探ろう。 　また、上記の理解の上にスポーツビジネスやスポーツマネジメントの新たな展開について学んでいく。スポーツの進化した現場簿ノウハウを共に学び、新たなスポーツに意義や意味づけについて考えよう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	授業内ミニレポート(40％)、定期試験（60％） 授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をします。		
到達目標	体育･スポーツ･レクリエーションの歴史を探り、市民目線で組織の成立・維持・発展について学ぶ。		
準備学習	スポーツの歴史について調べておくこと。前回の講義で学んだことを復習しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻は許されません。ミニレポートの用紙は授業おわりに配ります。ミニテストを行う場合もあります。			
講義の順序とポイント			
1．　体育・スポーツ・レクリエーションの始まり 2．　中世の体育・スポーツ・レクリエーション 3．20 世紀の体育・スポーツ・レクリエーション 4．スポーツ・レクリエーションの現状と課題 5．スポーツ活動の意義と魅力 6．スポーツ団体と組織 7．スポーツ指導者の現状と課題 8．２１世紀の地域スポーツ 9．スポーツボランティア 10. 障がい者スポーツと組織 11. 地域総合型スポーツクラブ 12. スポーツ政策と行政 13. スポーツマーケティングの概念 14. スポーツビジネスの背景 15. 今後の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★
★印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。履修の参考にして下さい。						

年度	2016	授業コード	JSR051B02
科目名	健康スポーツ理論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	生涯スポーツの理論Ｂ
講義概要	わが国に「体育」が誕生したのは，身体教育ということばを簡略化した明治 9 年である．フランス式の教育に範をとり，ロック（1632～1704），スペンサー（1820～1903）らの教育学から知育・徳育・体育を重要な教育目標と定め，体育についても早くからその特性について着目していた．さて、体育スポーツ･レクリエーションはどのようにわれわれの生活の中に溶け込んでいったのか？その歴史を探ろう。 　また、上記の理解の上にスポーツビジネスやスポーツマネジメントの新たな展開について学んでいく。スポーツの進化した現場簿ノウハウを共に学び、新たなスポーツに意義や意味づけについて考えよう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	授業内ミニレポート(40％)、定期試験（60％） 授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をします。		
到達目標	体育･スポーツ･レクリエーションの歴史を探り、市民目線で組織の成立・維持・発展について学ぶ。		
準備学習	スポーツの歴史について調べておくこと。前回の講義で学んだことを復習しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻は許されません。ミニレポートの用紙は授業おわりに配ります。ミニテストを行う場合もあります。			
講義の順序とポイント			
1．　体育・スポーツ・レクリエーションの始まり 2．　中世の体育・スポーツ・レクリエーション 3．20 世紀の体育・スポーツ・レクリエーション 4．スポーツ・レクリエーションの現状と課題 5．スポーツ活動の意義と魅力 6．スポーツ団体と組織 7．スポーツ指導者の現状と課題 8．２１世紀の地域スポーツ 9．スポーツボランティア 10. 障がい者スポーツと組織 11. 地域総合型スポーツクラブ 12. スポーツ政策と行政 13. スポーツマーケティングの概念 14. スポーツビジネスの背景 15. 今後の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	JSR052001
科目名	やさしい健康科学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	先進国が今課題としている高齢者の健康問題は深刻である。特に我が国の人口形態と超高齢者問題は現時点を含めて、将来的に非常に深刻な問題である。成人期にある皆さんには自身の健康問題を将来を見通して考えることは非常に重要である。本講義では我が国のこういった現状を知り、そのためにどういった準備をすべきなのかなどについて考えていきたい。		
教材（テキスト）	津田謹輔　著：『健康科学（知っておきたい予防医学)』丸善出版		
教材（参考文献）	その都度紹介します。		
教材（その他）	適時印刷物を配布する		
評価方法	レポート（１０%)、ショートテスト（２０%)、定期筆記試験（７０%）		
到達目標	新聞記事から関連の記事を読み取り、本講義で学んだことからデイスカッションができるようになること		
準備学習	関連する新聞記事などに注意し、その記事を基にレポートが書けるようにする。そういった課題を示すので期限までに提出すること		
受講者への要望			
身近な健康問題について触れるので、自分を含めて家族など周りの健康問題に対して目を向けて考える習慣を身に着けて欲しい			
講義の順序とポイント			
１、はじめに。自分のこれまでの健康に関して行ってきたことを書き表し、本講義シラバスと照らし合わせて検討する ２、長寿・高齢者社会の現状 ３、わが国における健康問題 ４、３大疾病と日常生活 ５、動脈硬化とは ６、高血圧がもたらす様々な影響 ７、糖尿病と関連疾患 ８、痩身と肥満 ９、食生活と健康問題 １０、健康を意識した身体運動 １１、習慣的な運動の効果とは １２、身体運動の方法と効果 １３、運動不足病 １４、心の健康問題 １５、健康寿命の延伸に向けて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2016	授業コード	JSR052002
科目名	やさしい健康科学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	赤松　裕訓	旧科目名称	
講義概要	我が国の健康問題は、成人だけに限らず、小・中・高等学校等の学校教育における学習活動を通じて、生涯にわたって自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成していくことが求められています。さらに、増加の一途を辿る高齢者が、健康で長生きするためには、どのような生活を送ることが望ましいのでしょうか。 本科目では、健康状態の判定、身体活動量の評価、栄養学、心理学、生理学、発育・発達および老化について学習します。 さらに、運動プログラムの作成や指導上の注意点などについても言及し、幅広く健康運動についての知識を身につけてもらいます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	健康運動実践指導者テキスト：財団法人健康・体力づくり事業財団　南光堂　2008 健康と運動と食品：伏木亨編　朝倉書店　2006		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(60%)および平常点(40%)によって評価します。 授業への意欲的な参加態度が認められない場合は平常点として認めません。 目先の授業単位よりも、将来の健康について意欲的に学びたいという学生を求めます。 卒業がかかっているので単位だけほしいというのは認めません。		
到達目標	運動の正しい知識は心身の健康づくり促進の基礎となり、増加の一途を辿る高齢者に対する健康の維持、成人の生活習慣病罹患率の低下、さらには、子どもたちの発達段階をふまえた健康教育にも十分に生かしてゆけるものです。本科目では、マスコミの雑多な情報に左右されることなく、正しい最新の知見を学習し、心身ともに健康な社会づくりに貢献できる人材を育てることを目的とします。		
準備学習	特に予習復習はありませんが、意欲的な学習態度を求めます。 授業内容を深く理解し、それを自身や家族の健康維持・増進に活かしてくれることを望みます。		

受講者への要望

目先の授業単位よりも、将来の健康について意欲的に学びたいという学生を求めます。
卒業がかかっているので単位だけほしいというのは認めません。

講義の順序とポイント

講義形式で授業を進めますが、講義内容に関連した DVD 資料を用いた学習や参加型の心理学実験なども行います。

第 1 回　健康とは？～健康づくりをすすめる施策のあらまし～
第 2 回　健康づくりの必要性、生活習慣病の予防
第 3 回　健康づくりのための身体活動量、体力水準の測定と評価
第 4 回　栄養の基礎
第 5 回　健康づくりのための食生活
第 6 回　運動と心の健康・ストレス
第 7 回　運動と心の健康・ストレスその 2
第 8 回　運動と心の健康に関する実験
第 9 回　筋肉・レジスタンス運動の理論と実際
第 10 回　有酸素運動の理論と実際
第 11 回　自分への運動処方箋を作る
第 12 回　成長・老化と食生活との関係
第 13 回　飲酒・タバコ・薬物と健康
第 14 回　腰痛のしくみ
第 15 回　運動の重要性を中心にこれまでの講義内容を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2016	授業コード	JSR053001
科目名	運動生理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	私たちが作業や身体運動を行うときには、筋肉が動き、そのためには酸素などエネルギーが必要となり、また運動が長い時間に渡ったり、あるいはその強度が能力以上に高くなると筋肉内には疲労物質が蓄積され、それらを除去することについても血液の働きは必要不可欠となる。一種のストレスである運動は、体内への酸素の取り込みと、炭酸ガスの排出においても肺の機能と、ポンプ作用である心臓の働きも変化する。本講義での運動生理学はそういった人体の仕組みをわかりやすく説明し、様々な運動形態や運動強度の際にどういった変化がみられるのかなどを説明する。動物である私たちには適度な身体運動は必要不可欠な健康行動である。皆さんが将来にわたって生涯スポーツを実践するに際して知っておきたい知識や方法について、私自身の経験を踏まえておはなししていく。		
教材（テキスト）	『Ｎブックス　改訂　運動生理・栄養学　第２版』　（建帛社）」高松薫　他　2,200 円		
教材（参考文献）	勝田　茂：「第４版　入門運動生理学」、杏林書院		
教材（その他）	必要に応じて印刷物を配布する。		
評価方法	レポート提出（１０％）、ショートテスト（２０％）、定期筆記試験（７０％）		
到達目標	基礎となる筋肉、呼吸循環応答、について理解する。		
準備学習	毎講義の最後に次回の講義内容を話すので、教科書に目を通しておくこと。		

受講者への要望

日ごろから運動部で活躍する学生や、これから運動を始めてみようという学生にも理解できる内容で進めるので、興味を持って授業に出てもらいたい。講義の中では実際の運動場面を例に挙げて説明するので、その話題の中に皆さんにも入っていただきたい。

講義の順序とポイント

１、この講義の全体説明と、評価について説明する
２、健康増進と運動とのかかわり
３、運動と神経機能
４、運動と筋肉について
５、運動と呼吸機能の関係
６、運動と循環機能の関係
７、運動と体液（熱中症）
８、運動とエネルギーのはなし
９、運動時のエネルギー代謝とは
１０、運動の健康・体力への効果
１１、運動を処方する
１２、運動と心拍の関係を実際に測定して、最適な運動強度を実際に屋外で調べる
１３、高齢者に望ましい運動とは
１４、トレーニング方法の種類
１５、まとめ（なぜ身体運動は必要なの？）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	JSR053002
科目名	運動生理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	赤松　裕訓	旧科目名称	
講義概要	1 世紀も前に、ドイツの発生学者のウィルヘルム・ルーWilhelm Roux（1850-1924）は、「全ての器官は適度に使えば機能的にも形態的にも発達するが、使いすぎれば発達は損なわれ、使わなければ機能も形態も低下する」ことを述べた。簡潔に言えば「身体（筋肉）の機能は適度に使うと発達し、使わなければ萎縮（退化）し、過度に使えば障害を起こす」というものである。これはルーの法則と呼ばれ、生理学の基本法則の一つであり、現代のスポーツや体育のトレーニングにおいてもこの考え方が用いられている。すなわち、ヒトは生涯にわたって健康であるために、あるいはスポーツで強くなるためにも、適切な運動（トレーニング）が必要になる。 運動生理学では、運動することによってからだにどのような変化が生ずるのか、その現象と仕組みを学ぶ。この分野では今までに多くの業績が蓄積されているが、ここでは、健康づくりやスポーツトレーニングの基礎となる内容を、なるべく簡潔にわかりやすく解説・学習する。		
教材（テキスト）	勝田茂編集：第 4 版「入門運動生理学」　杏林書院		
教材（参考文献）	山路啓司・大築立志・田中宏暁編著：「スポーツ・運動生理学概説」　明和出版		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	定期試験(60%)および平常点(40%)によって評価する。 授業への意欲的な参加態度が認められない場合は平常点として認めない。 卒業がかかっているので単位だけほしいというのは認めない。		
到達目標	筋、循環、呼吸などのからだの機能と運動により変化する仕組みについて、その概要が理解できる。		
準備学習	講義終了時に次の範囲（教科書 p.**～p.**まで）を指定するので、必ず事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
講義終了時に次の範囲（教科書 p.**～p.**まで）を指定するので、必ず事前学習しておくこと。 目先の授業単位よりも、体の生理について意欲的に学びたいという学生を求める。 卒業がかかっているので単位だけほしいというのは認めない。			
講義の順序とポイント			
1. はじめに　―運動生理学とはー 2. 筋収縮とエネルギー供給系 3. 筋繊維の種類とその特徴 4. 神経系の役割 5. 筋の収縮様式と筋力 6. 運動と循環 7. 運動と呼吸 8. 運動とホルモン 9. 身体組成と肥満 10. 運動と体温調節 11. 筋疲労の要因 12. 老化に伴う身体機能の変化 13. 運動と栄養 14. コンディショニング 15. まとめ：より健康に、より強くなるために			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2016	授業コード	JV0010003
科目名	コンピュータ・ネットワーク入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Computer Networks		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在、インターネットが社会の情報基盤となり、IT(情報技術)革命が進行している。ネットワークで何が可能であるか、何が最適であるか、どのようにコミュニケーション方法が変化していくかなどを考えることが非常に重要になっている。しかし、携帯電話などのメディアの表面的な技術進歩を追求しても本質を見失うだけである。ここ十数年の間に確立されたネットワークの基本的なスケルトンを理解し、それをもとにして現在を位置づけていくのが賢明のように思われる。この授業ではネットワーク技術の基本となる TCP/IP について、その構造と利用方法を理論と実践を通して学習する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート(80%)、総合レポート(20%)で評価する。		
到達目標	インターネットの基本技術である TCP/IP を理論と実践により理解する。また，ネットワークの応用技術を TCP/IP プロトコル階層の考え方で理解する。		
準備学習	MS-Windows (XP, Vista, 7 等)のコマンドプロンプトの使用経験を積んでおくこと。 タッチタイピングができるようにしておくこと。		

受講者への要望

コマンドライン操作(CUI)が基本となるので、Windows 環境(GUI)しか知らない場合、最初慣れるまで注意が必要である。授業の特性上、欠席すると以後の授業についていけなくなるので、留意して欲しい。　少し難しいテキストですが説明が完備していますので毎回最初の要約部分は最低目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。
1.受講ガイダンス・ネットワークとは
2.ネットワークの基礎知識(1)
3.ネットワークの基礎知識(2)　TCP/IP プロトコルスイート
4.TCP/IP　ネットワークインターフェース層（物理層・データリンク層）
5.TCP/IP　インターネット層　IP アドレス
6.TCP/IP　インターネット層　ヘッダ・経路制御
7.TCP/IP　DNS　トランスポート層
8.TCP/IP　トランスポート層(ポート番号)
9.TCP/IP　アプリケーション層
10.ネットワークの構築
11.サーバの役割
12.Web サーバ(1)　Apache
13.Web サーバ(2)　Apache の管理・設定
14.ネットワークの保守・セキュリティ・何のためのネットワーク?
15.まとめ
講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 担当教員のホームページ に公開する。ホームページアドレスは授業の際に告知する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	ー	★	★	★★

年度	2016	授業コード	JV0030001
科目名	パソコン応用A	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing A		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。		
教材（テキスト）	富士通オフィス機器(株)『よくわかる　Excel2010　応用』FOM 出版，2000 円富士通オフィス機器(株)『よくわかる　Excel2010　応用』FOM 出版，2000 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習状況等（45%）と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には 2 / 3 以上の出席が必要です。		
到達目標	表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。		
準備学習	Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないようにしてください。懇切丁寧に解説している教科書がありますので毎回授業前に学習内容の予習を心がけてください。

講義の順序とポイント

1　入門の復習
2　関数の利用　Ⅰ（１章）　順位付け、条件判断、データ検索
3　関数の利用　Ⅱ
4　関数の利用　Ⅲ
5　表作成の活用（２章）　条件付き書式、入力規則
6　表作成の活用　練習問題
7　グラフの活用（３章）　複合グラフ、グラフの編集、
8 グラフィックの利用（4 章）　図形の作成
9　グラフィックの活用　練習問題
10　複数ブックの操作とデータベースの活用（５・６章）　データの集計と統合、テーブルの利用
11　複数ブックの操作とデータベースの活用　練習問題
12　ピボットテーブルとピボットグラフ（７章）　ピボットテーブル・グラフの作成と編集
13　ピボットテーブルとピボットグラフ　練習問題
14　マクロ（８章）　マクロの作成と実行
15　マクロ　練習問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2016	授業コード	JV0050001
科目名	パソコン応用Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	●　プリゼンテーション作成の訓練を行う。Microsoft Office の Power Point を使用し、（１）作成方法に習熟すること、（２）実際に発表して注意点を学ぶこと、の２つを目指す。 ●　練習問題を多数用意しておくので、パソコンの初心者でも中級者でも区別なしに受講できる。 ●　毎回の練習問題に加え、２つの課題を消化しなければならない。（１）自分の出身地の紹介（例えば観光案内）の power point を作成して提出。（２）自由課題で power point を作成し、約４分間の発表を受講者全員の前で行う。 ●教職「情報」を希望する学生は、この授業（森田担当）を取らなければならない。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」で、資料、練習問題、課題などを配布		
教材（参考文献）	よくわかる Microsoft Office Power Point 2010、応用 FOM 出版		
教材（その他）			
評価方法	毎回の練習問題と課題の作成結果を提出（４０％）、出身地紹介の power point 作成（２０％）、自由課題の power point の作成と発表（４０％）		
到達目標	power point 作成の技術的な手法を身につけること。 作成した power point を発表すること。		
準備学習	EXCEL と WORD は知っておいた方がよい。高校で習ってその後忘れた人は復習しておくこと。 予習：事前配布資料に練習問題と課題を示してあるので、見ておくこと。 復習：事前配布資料の最後に、課題（発展問題）を示しておくので、次回の授業までに課題を解いて、「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講者への要望

人によって習熟度が違うが、気にすることはない。初心者用、中級者用の練習問題を用意しておくので、各自のレベルに応じて進んでいけばよい。

講義の順序とポイント

１．プリゼンテーションの作成（導入部分）
２．プレースホルダーと文字（編集、配置）
３．同上
４．図やオブジェクトの挿入・編集
５．同上
６．図形の作成と編集
７．同上
８．「出身地の紹介」の power point 作成
９．同上
１０．特殊効果（アニメーション）
１１．ビデオ、音声の入力
１２．その他のプリゼンテーション手法（prezi, PDF）
１３．総合問題
１４．「自由課題」の power point 作成
１５．発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	JV0070002
科目名	パソコン応用C	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing C		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	データベースソフト(Access) を用いて、データベースの考え方およびデータベース活用方法を学習します。 コンピュータ利用の大きな目的の一つがデータ管理です。大量のデータを蓄積し、いろいろな条件を指定してデータを抽出する、これを実現するソフトウェアがデータベースです。例えば、学生名簿や成績もデータベースで管理されています。最近話題になっている個人情報の漏洩も、企業のデータベースから誰かが持ち出したものです。 本講義では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のアクセス(Access)を用いて、データの「入力」、「保存」、「抽出」、「印刷」といったデータベースソフトの基本的な操作を理解しながら、データベースを活用できる能力を習得することを目的とします。 普段あまりなじみのないソフトですが、それだけに、習熟しておくと卒業後もいろいろと役に立ちます。		
教材（テキスト）	『できる Access 2010』インプレス		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	平常点（受講態度や取組姿勢など）50%。課題（50%）。		
到達目標	Access を使ってデータベースを作成することができる。		
準備学習	本日の内容を教科書でしっかり復習しておくこと。また講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		
受講者への要望			
授業は教科書に沿って行うので、教科書は必ず授業に持参すること。			
講義の順序とポイント			
教科書に沿って実習を行います。最後に課題として、Access を使ったデータベースを作成してもらいます。 1.　データベースとは 2.　データの保存・・・テーブルとは(1) 3.　データの保存・・・テーブルとは(2) 4.　データの抽出・・・クエリとは(1) 5.　データの抽出・・・クエリとは(2) 6.　データの入力・・・フォームとは(1) 7.　データの入力・・・フォームとは(2) 8.　データの印刷・・・レポートとは(1) 9.　データの印刷・・・レポートとは(2) 10.　リレーショナルデータベースについて(1) 11.　リレーショナルデータベースについて(2) 12.　データベースの活用(1)・・・課題作成 13.　データベースの活用(2)・・・課題作成 14.　データベースの活用(3)・・・課題作成 15.　データベースの活用(4)・・・課題作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2016	授業コード	JV0250001
科目名	プログラミングＢＩ	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming BI		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	Ｃ言語とその発展形であるＣ＋＋はプログラミングにおける汎用性と自由度の高さから、現在、コンピュータのソフトウエア開発において最も多く用いられている言語の一つである。この言語の取得を通じて、コンピュータによる情報処理の有効性を確認し、「情報資産」を自主的に運用できる情報基礎力を養うことを目的とする。 Ｃ言語は現在、情報処理技術者試験の出題言語である。		
教材（テキスト）	林晴比古著「明快入門Ｃ スーパービギナー編」ソフトバンクパブリッシング		
教材（参考文献）	株）アンク著「アルゴリズムの絵本　プログラミングが好きになる９つの扉」翔泳社 細川義洋著　「なぜ、システム開発は必ずモメるのか？　４９のトラブルから学ぶプロジェクト管理術」　日本実業出版社		
教材（その他）	林晴比古著「明快入門Ｃ」「新訂新Ｃ言語入門シニア編」ソフトバンクパブリッシング		
評価方法	授業中に作成されたプログラムの完成度(60%) 授業中の質疑応答(20%) 授業内レポートの完成度(20%)		
到達目標	1.自力で教科書を読み、必要な技術を自学自習できるようになるための教科書の使い方を習得する 2.コンピュータを用いた情報処理と人間の行う情報処理の違いについて理解し、その効果的な役割分担について理解する		
準備学習	パソコン入門程度のパソコンの技術を復習すること 参考文献欄にあげた文献を学期中に読破すること		

受講者への要望

パソコン入門程度のパソコンの技術を習得していること。
哲学もしくは数学の授業を履修していることが望ましい。
プログラミング関連法規の学習のため、簡単な法律文書が読める程度の日本語力が必要である。
遅刻は厳禁であり、SA の指示には従うこと。
受講生の基礎的知識の不足を補うために、授業時間内に、必要に応じて、上記の文献以外も教材として指定することがあるので、その場合は、半月以内に読破すること。

講義の順序とポイント

講義の順序は受講者のレベルや状況によって入れ替えますので、注意してください

1.電子計算機の歴史
2.C 言語を使うにあたっての基礎知識（MS－DOS とコンパイラの使い方など）について
3.C 言語を使うにあたっての基礎知識の技術的習得（１）
4.C 言語を使うにあたっての基礎知識の技術的習得（２）
5.プログラム構造の基礎
6.C 言語における変数について
7.見やすいプログラムについて
8.標準入出力（１）
9.標準入出力（２）
10.for 文による繰り返し処理（１）for 文の基礎知識
11.for 文による繰り返し処理（2）for 文の発展的利用法
12.for 文による繰り返し処理（3）高度な for 文の使い方
13.情報理論（１）データ処理の基礎概念
14.配列の表現法・変数や配列の初期化について
15.ファイル入出力（１）ファイルの入力
16.ファイル入出力（２）ファイルの出力
17.ファイル入出力（３）ファイルの入出力
18.基礎技術の確認（１）
19.基礎技術の確認（２）

20.do-while 文による繰り返し処理
21.分岐処理の基礎
22.分岐処理の応用
23.構造化プログラミングについて
24.構造化プログラミングによるプログラムの作成（1）
25.構造化プログラミングによるプログラムの作成（2）
26.情報理論（2）いいプログラムと悪いプログラム
27.総合演習（1）短いプログラムを効率的に作成する
28.総合演習（2）複雑なプログラムを作成する
29.総合演習（3）使いやすい工夫をしたプログラムを作成する
30.情報理論（3）人間と計算機の共存する社会における諸問題について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	−	★	−

年度	2016	授業コード	JV0280001
科目名	プログラミングＢⅡ	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming BⅡ		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現在のコンピュータプログラミングは、多くの人が互いに協力し合って行われている。そのため、協力関係を有効に機能させるための様々な教養もまた、純粋な技術的能力と同様に必要とされている。 そこで、本講義では、コンピュータや OS の種類にかかわりなく動作するプログラムの作成が可能な Java 言語を用いてコンピュータやプログラミングの基礎知識を学び、これらを踏まえて Java 言語の基本構文やオブジェクト指向プログラミングについて学習する。また、それと並行して、コンピュータにかかわる基礎的な教養について解説し、他者と協力して行う現代コンピュータプログラミングの基礎的な能力を養う		
教材（テキスト）	ゼロからわかるＪａｖｅ超入門（改訂新版)佐々木整(著)　技術評論社		
教材（参考文献）	（株）アンク著「Java の絵本 増補改訂版　Java が好きになる９つの扉」翔泳社 細川義洋著　「なぜ、システム開発は必ずモメるのか？　４９のトラブルから学ぶプロジェクト管理術」　日本実業出版社		
教材（その他）			
評価方法	プログラミングの技術の到達度（５０点)、課題への取り組み（２５点)、基礎教養への理解度（２５点）		
到達目標	１．Java の基礎を理解し、オブジェクト指向プログラミングの有効性を理解する ２．教科書から自力で必要な情報を取得し、活用する ３．コンピュータに関係する基礎的な教養を身につけ、他人と協力してプログラミングをするための基礎的な能力を養う		
準備学習	パソコン入門で習う程度の基本的なパソコン操作が確実にできること 参考文献欄にあげた文献を学期中に読破すること		

受講者への要望

Windows やワープロの操作に熟達し、OS やファイルの構成を最低限知っていることが望ましい。
前半では、基本的に教科書に従って講義を進めていくので、教科書は必ず準備すること。
授業時間内に、必要に応じて、上記の文献以外も教材として指定することがあります。
その場合は、半月以内に読破すること。

講義の順序とポイント

講義の順序は受講者のレベルや状況によって入れ替えますので、注意してください
第１回　　プログラミングにかかわる基礎知識
第２回　　Java の基本構造
第３回　　Java プログラムの基本構造
第４回　　変数と配列の構造と理解
第５回　　制御文と算術演算処理の構造と理解（1）
第６回　　制御文と算術演算処理の構造と理解（2）
第７回　　制御文と算術演算処理の構造と理解（3）
第８回　　プログラミング基礎知識確認
第９回　　オブジェクト指向プログラムの作成(1)
第１０回　　オブジェクト指向プログラムの作成(1)
第１１回　　オブジェクト指向プログラムの作成(2)
第１２回　　オブジェクト指向プログラムの作成(3)
第１３回　クラスの継承とサブクラスの作成（1）
第１４回　クラスの継承とサブクラスの作成（2）
第１５回　オブジェクト指向プログラム確認
第１６回　コマンドライン入力とオブジェクトの作成
第１７回　エラー発生時の処理(1)
第１８回　エラー発生時の処理(2)
第１９回　コマンドライン入力とオブジェクト確認
第２０回　テキストファイル入出力の概要(1)
第２１回　テキストファイル入出力の概要(2)
第２２回　テキストファイル入出力の概要(3)

第２３回　テキストファイル入出力の概要(4)
第２４回　サブクラスに対応したテキストファイル入出力
第２５回　GUI 画面にかかわる基礎知識
第２６回　GUI 画面の構築
第２７回　総合演習(1)
第２８回　総合演習(2)
第２９回　総合演習(3)
第３０回　Java にかかわる情報理論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2016	授業コード	JV0290001
科目名	プログラミングC	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming C		
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	WEB アプリケーションを開発するために作られた PHP（Hypertext Preprocessor）というプログラミング言語を使って、ホームページを作る演習を行います。 WEB アプリケーションとは、インターネットを使って利用できる様々なサービスのことですが、PHP は初心者でもこういったアプリを簡単に開発できるのが特徴です。 いくつか簡単なホームページを作成することを通して、基本的なプログラムの書き方を理解し、最終的には自分の作りたいホームページを作ってみましょう。		
教材（テキスト）	オフィス加減著　『最初のキホンがやさしくわかる　絵で学ぶ PHP 入門』　アスキー・メディアワークス　１８００円		
教材（参考文献）	山田祥寛著　『１０日でおぼえる　PHP 入門教室（第４版)』　翔泳社　２５８０円		
教材（その他）			
評価方法	平常点（３０％）…受講態度等による。 課題到達度（７０％）…授業中に作成するプログラムの完成度と提出レポートにより評価する。		
到達目標	PHP を使って自分の作りたいホームページを作成することで、プログラミングの楽しさを知る。		
準備学習	毎講義終了時に、次回の講義内容と予習・復習すべき点を指示する。		

受講者への要望

授業に遅刻、欠席しないこと。どうしても欠席する場合も、連続して休まないように。

講義の順序とポイント

1　プログラムを書いてみよう（HTML の基本）
2　最初の PHP プログラム
3　PHP で計算してみよう
4　テキストボックスを使ってみよう
5　現在の日時を表示しよう
6　名簿を作ってみよう
7　繰り返してみよう１（for 文）
8　繰り返してみよう２（while 文と foreach 文）
9　名簿を詳しくしよう
１０　名簿で検索してみよう１（if 文）
１１　名簿で検索してみよう２（switch 文）
１２　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう１
１３　いろいろな形でデータを入力しよう
１４　入力されたデータを受け取ろう
１５　入力されたデータをチェックしよう１
１６　入力されたデータをチェックしよう２（正規表現）
１７　ファイルをつかってみよう
１８　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう２
１９　データベースを作ってみよう
２０　データベースの操作を理解しよう
２１　データベースのデータを編集しよう
２２　データベースのデータを検索しよう
２３　PHP でデータベースを操作しよう
２４　スケジュールを登録しよう
２５　スケジュールの一覧表示をしよう
２６　スケジュールを更新しよう
２７　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう３
２８　自分の作りたいホームページを作ろう（設計）
２９　自分の作りたいホームページを作ろう（作成）

３０　自分の作りたいホームページを作ろう（改良）

＊　授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★	-	★★

年度	2016	授業コード	JV0330A01
科目名	マルチメディア表現 s	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Expression (s)		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のメディアの世界で、コンピュータによる表現には目覚ましものがあります。文字情報だけでなく、視覚・聴覚 に訴える作品が作られています。従来の広告・デザインなど特殊な分野だけではなく、一般のビジネスや教育の分野にもそのようなコンピュータ表現が必要になってきています。画像、音声、文字などを組み合わせ、作品制作を通して、メディア表現ができる能力獲得を目指します。		
教材（テキスト）	柘植ヒロポン / 加藤才智 / 吉田浩章 / 高橋としゆき　著『Photoshop レッスンブック CC2015～CS4 対応　9784802610025』ソシム，2200 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（45%）受講姿勢等と、各回の作業結果と，完成作品の機能性，デザイン性，システムとしての完成度（55%）の総 合評価とします。		
到達目標	Photoshop で，写真の加工や web のデザインなどが出来るようになること。		
準備学習	ホームページのデザイン，雑誌のデザインなど，デザイン全般を注意しておくこと。		

受講者への要望

基本的な技術を積み重ねて創作していくので，各回の内容をよく復習しておくこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心が
けてください。

講義の順序とポイント

1.Photoshop の基本
2.ペイントツールとパネルの操作
3.文字ツール
4. 選択ツールの理解と実践 基本的な選択ツール
5. 選択範囲の加工・修正・保存
6.レイヤーの基本機能
7. レイヤーの応用・階層・スタイルの習得
8.シェイプ
9. 写真を加工 フィルター機能のぼかし・色相・彩度・露光量の調整・塗りつぶし
10. 写真を加工 レタッチ・ハイダ名ミックレンジ画像・イラスト風加工
11.フィルター機能を使ってゼロから作品を作る?：調整レイヤーのレベル補正・色相・彩度・レイヤースタイルのグラデーションオーバ
ーレイ
12.フィルター機能を使ってゼロから作品を作る?：フィルタの雲模様・ブラシストローク・レイヤースタイルの組み合わせ
13.ブログデザインを作る
14.プログデザイン等の自主制作の立案・試行
15.プログデザイン等の自主制作の完成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	★★	★	ー

年度	2016	授業コード	JV0330B01
科目名	マルチメディア表現 f	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Expression (f)		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のメディアの世界で、コンピュータによる表現には目覚ましものがあります。文字情報だけでなく、視覚・聴覚に訴える作品が作られています。従来の広告・デザインなど特殊な分野だけではなく、一般のビジネスや教育の分野にもそのようなコンピュータ表現が必要になってきています。画像、音声、文字などを組み合わせ、作品制作を通して、メディア表現ができる能力獲得を目指します。		
教材（テキスト）	加藤才智，まつばら あつし 著 『Flash レッスンブック Flash CS6』ソシム　2012 年刊　2484 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（45%）出席姿勢等と、各回の作業結果と，完成作品の機能性，デザイン性，システムとしての完成度（55%）の総合評価とします。		
到達目標	Flash で，動きのあるホームページを作成すること。		
準備学習	WEB デザインのなかで，アニメーション関係のサイトを閲覧しておくこと。		

受講者への要望

基本的な技術を積み重ねて創作していくので，各回の内容をよく復習しておくこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

講義の順序とポイント

1.Flash について
2．アニメーションの基本のキホン　モーショントゥイーン
３．モーションプリセット・モーショントゥイーンの応用
４.動くコンテンツを作る　ボタン　オープニングムービー
５．アニメーションのさまざまなテクニック　フレームアニメーション・マスク・３D 回転ツール
６．アニメーションのさまざまなテクニック　他のアプリケーションのデータの利用・テクニックの応用
７．　シーンを分けてストリーのある動画を作成
８．Actionscript の基本
９．サウンドとビデオの利用
１０．ムービーの活用
11.アクションスクリプトを利用して車の制御
12．アクションスクリプトを利用して写真のスライドの制作
13.Flash で一貫した Web サイトを制作
14.アニメーションの自主制作　　試行と立案
15.アニメーションの自主制作　　完成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	ー	ー	★	★★	★	ー

年度	2016	授業コード	T2000200B
科目名	日本経済入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放つことになる．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる一方、軽減税率も導入される予定である．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	T20029A01
科目名	日本経済論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	ミクロ経済学やマクロ経済学の知識を使って日本経済の現状に関する理解を深めることが、この科目の目的です。具体的には、近年の日本経済が直面している課題を理解してもらうために、いくつかのトピックを取り上げます。		
教材（テキスト）	本学の図書館にある本の中から必要に応じて授業中に指示します。		
教材（参考文献）	『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞社）		
教材（その他）	新聞の経済欄		
評価方法	授業内課題（90%）、レポート（10%）		
到達目標	日本経済の現状に対する理解を深める。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

成績評価の基準となる授業内課題にきちんと取り組んでもらう必要があるので、遅刻を厳禁します。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．GDP から見た日本経済の動向
3．為替相場の変動が日本経済に与えた影響
4． 1980 年代～1990 年代における財政金融政策の問題点①
5． 1980 年代～1990 年代における財政金融政策の問題点②
6．1990 年代における財政金融政策の問題点
7．2000 年代における財政金融政策の問題点
8．2010 年代における財政金融政策の問題点
9．生産の海外移転と産業の空洞化
10．日米半導体協定と半導体産業の凋落
11．日米包括協議と日本の「構造改革」の意味①
12．日米包括協議と日本の「構造改革」の意味②
13．外部経済を通じて見た情報産業の動向
14．外部経済を通じて見た地方の衰退
15．家族のあり方の変化と日本経済

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20029B01
科目名	日本経済論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後の日本経済は、戦後復興期、高度経済成長期、オイルショックと円高不況期、バブル経済の崩壊と失われた１０年（あるいは２０年）の時期を経て、大きく変化してきた。その結果、経済成長の目標も生産の量的拡大から生活の質的向上を重視する方向へとシフトしつつある。しかし一方では、近年急速に進む経済のグローバル化と少子高齢化のなかで、日本経済の将来に対する深刻な不安材料が指摘されており、これまでの社会システムでは対応しきれない、さまざまな問題が生じている。 本講義は、必要に応じて各種の統計資料を用いながら、日本経済の仕組みと日本経済が抱えている今日的課題について、わかりやすく理論的かつ総合的に解説することを目的とする。		
教材（テキスト）	塚崎公義『増補改訂・よくわかる日本経済入門』（朝日新書、2015 年）		
教材（参考文献）	片岡剛士『アベノミクスのゆくえ――現在・過去・未来の視点から考える』（光文社新書）2013 年 服部茂幸『アベノミクスの終焉』（岩波新書）2014 年		
教材（その他）	毎回プリント配布（毎回の講義ファイルは事前に「京学なび」の授業資料としてアップする）		
評価方法	平常点（６０％）宿題６回提出＋授業内発表（１０％）＋定期試験（３０％）		
到達目標	自分の身の周りで日々生じている経済変化を自分の感性で感じ取り、授業で学んだ経済知識と経済情報を使って理解できる学習能力を、受講生自身に身につけてもらうことを到達目標とする。		
準備学習	指定された教科書の、講義にかかわるところを事前に読んで授業に出席すること。		

受講者への要望

①「日本経済論Ａ」とは内容が重ならないように調整しているので、「日本経済論Ａ」とあわせて受講することが望ましい。
②授業への意欲的な受講を臨む。受講生からの質問、あるいは教員から受講生への問いかけにたいする積極的発言は、「授業内発表」の評価点とする。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス（講義の目標、成績評価）
２．日本経済の TODAY（最近の日本経済の動向）
３．景気の謎を解く①（景気循環など）
４　景気の謎を解く②
５．新成長の設計①（経済成長の理論、国民所得の決定など）
６．新成長の設計②
７．物価と市場経済①（デフレ経済とインフレ経済、日本の物価問題など）
８．物価と市場経済②
９．人口減少時代の財政①（財政の役割、日本の財政問題など）
１０．人口減少時代の財政②
１１．金融システムの再構築①（金融問題と金融政策）
１２．金融システムの再構築②
１３．アベノミクスについて考える①
１４．アベノミクスについて考える②
１５．経営革新と雇用問題（企業経営など）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20030A01
科目名	産業組織論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Organization A		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	今日，日本の産業では、企業間で様々な形の競争が繰り広げられている。この競争は企業にとって，また社会での資源配分にとってどの様な意味を持つのだろうか。 この講義ではベインの産業組織論に基づいて、産業組織分析の方法を学び、日本の市場における企業間の競争の実態と原理をとらえる。 はじめに、産業組織を学ぶために必要な理論をベインらの産業組織論の方法と体系に基づいて学ぶ。 そのあと具体的な企業間の競争の状態を見ていく。 それぞれの項目では日本の産業組織の今日の実態を補足する。 こうして産業組織論の原理の理解と現実の産業における競争関係を明らかにする。		
教材（テキスト）	なし、毎回プリントを配付する。		
教材（参考文献）	『産業組織論入門』，土井教之編、ミネルヴァ書房、『産業組織論　新版』、新庄浩二編、有斐閣ブックス,『プラクティカル産業組織論』泉田、柳川、有斐閣		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常点 20 点(授業内容について質問，要望，感想まとめなどを書いて提出。出席点ではない。) 試験に代わるレポート 80 点。		
到達目標	産業組織論の枠組みである市場構造，市場行動，市場成果，産業政策を理解する。 具体的な日本の産業における自由競争，寡占支配の実態を知る。		
準備学習	寡占価格を理解しなければならないので、価格論を学習しておくとよい。スティグリッツ『ミクロ経済学』が参考になる。		

受講者への要望

現在の日本の産業における企業間の競争に関心を持っておくこと。
就職しようとする業界の競争状態に関心を持っておくこと。

講義の順序とポイント

Ⅰ　産業組織論の方法
１ (1)産業組織論の枠組み
　(2)産業組織論の主要概念
２　　①産業・市場構造
３　　②競争・市場行動
４　　③企業・市場成果
５　　④産業政策
Ⅱ　市場の構造と企業の行動
ミクロ経済学の基礎
６ (1)完全競争
７ (2)独占的競争
８ (3)独占
　(4)寡占
９　　①協調
１０　②複占
企業の経済学
　　(5)企業の理論
１１ ①利潤極大化，売上高極大化
１２ ②所有と経営の分離
Ⅲ　産業組織論の発展
１３ (1)ゲームの理論１

１４ (2)ゲームの理論２
１５　産業組織理論の視点　市場構造，市場行動，市場成果分析

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	T20030B01
科目名	産業組織論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Industrial Organization B		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	今日，日本の産業では、企業間で様々な形の競争が繰り広げられている。この競争は企業にとって，また社会での資源配分にとってどの様な意味を持つのだろうか。 この講義ではベインの産業組織論に基づいて、産業組織分析の方法を学び、日本の市場における企業間の競争の実態と原理をとらえる。 はじめに、産業組織を学ぶために必要な理論をベインらの産業組織論の方法と体系に基づいて学ぶ。 そのあと具体的な企業間の競争の状態を見ていく。 それぞれの項目では日本の産業組織の今日の実態を補足する。 こうして産業組織論の原理の理解と現実の産業における競争関係を明らかにする。		
教材（テキスト）	なし、毎回プリントを配付する。		
教材（参考文献）	『産業組織論入門』，土井教之編、ミネルヴァ書房、『産業組織論　新版』、新庄浩二編、有斐閣ブックス，『プラクティカル産業組織論』、泉田、柳川、有斐閣		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常点 20 点(授業内容について質問，要望，感想まとめなどを書いて提出。出席点ではない。) 試験に代わるレポート 80 点。		
到達目標	産業組織論の枠組みである市場構造，市場行動，市場成果，産業政策を理解する。 具体的な日本の産業における自由競争，寡占支配の実態を知る。		
準備学習	寡占価格を理解しなければならないので、価格論を学習しておくとよい。スティグリッツ『ミクロ経済学』が参考になる。		
受講者への要望			
現在の日本の産業における企業間の競争に関心を持っておくこと。 就職しようとする業界の競争状態に関心を持っておくこと。			
講義の順序とポイント			
戦略と競争の分析 Ⅳ　合併 １ 合併の効果，実態 Ⅴ　企業協定 ２ (1)カルテル，事例 ３ (2)垂直的取引制限 Ⅵ　戦略的行動 ４ (1)戦略的行動 ５ (2)参入阻止価格論 Ⅶ　企業の価格・非価格戦略 ６ (1)価格・非価格戦略 ７ (2)製品差別化 Ⅷ　最近の産業組織 ８ (1)ネットワーク ９ (2)イノベーション 10 (3)グローバル化，貿易 Ⅸ　公共政策 11 (1)競争政策 独禁政策 12 (2)規制緩和 規制と規制緩和 Ⅹ　日本の産業組織 13 (1)自動車産業			

14 (2)携帯産業

15　産業組織論の見方　市場構造，市場行動，市場成果，産業政策について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	T20044A01
科目名	交通経済論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Transportation Economics　A		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	この講義では、交通問題を事例に、社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習に関する課題を経済学の手法で検討します。 　あらゆる社会・経済活動は多かれ少なかれ規制を受けていますが、これは「公共性」、すなわち「市場の失敗・欠落」の議論によって説明することができます。交通政策においても、まず、この市場の失敗・欠落要因について検討することが重要です。したがって、本講では交通の諸相を市場の失敗を切り口に論じます。		
教材（テキスト）	印刷して配布するか、京学なびに upload します。 　中条藤井編『現代交通政策』あるいは中条藤井編『自由化時代の交通政策』を使うかもしれませんが、受講者の興味の程度がまだわかりませんので、まだ購入しないください。		
教材（参考文献）	必要な場合には印刷して配布するか京学なびに upload します。		
教材（その他）	必要な場合には京学なびに upload します。		
評価方法	学期末試験 100%。ただし、必要に応じて小テストを実施するかもしれません。		
到達目標	交通問題を通じて市場メカニズムの機能と市場の失敗を理解すること。		
準備学習	詳しくは授業でお話しますが、「経済学を理解している」前提で授業をします。ですので、経済学を理解していない諸君は、経済学を理解することが準備学習となります。 ただし、授業においても、経済学の関係に言及しながらお話をします。 また、必要に応じてレポートの作成などを求める場合があります。 なお、興味のあることについて予習復習して質問することは歓迎です。		

受講者への要望

授業に出席するに際して基本的に必要な礼儀、気遣い、心構えについては、言うまでもないので記しませんが当然守ってください。

講義の順序とポイント

1．開題：交通経済と公共政策
2．Ⅰ．資源配分の適正化と市場機構の役割
（1）資源配分の適正化とは？
3．　（2）市場への不用意な介入がもたらす問題
4．　（3）政府の失敗・規制の失敗
5．Ⅱ．交通市場における「市場の失敗」の理論的検討
（1）交通における環境汚染（外部効果）
6．　（2）交通と地域開発効果（外部効果）
7．　（3）セキュリティと交通～国防はなぜ税金で維持するのか？（社会欲求財）
8．　（4）価値欲求財と交通
9．　（5）安全規制（情報の不完全）
10．　（6）防災の経済学（情報の不完全）
11．　（7）空港発着枠の配分（所有権の不確定）
12．　（8）なぜ不採算路線を補助しなければいけないのか？（所得再分配）
13．　（9）社会的内部補助の問題点（所得再分配）
14．　(10）鉄道における破滅的競争の経験（規模の経済性）
15．　(11)　企業的内部補助とラムゼー価格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20044B01
科目名	交通経済論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Transportation Economics B		
担当者名	中条 潮	旧科目名称	
講義概要	本講義は、交通経済論Ａにおける理論的検討を、具体的交通市場の一つである航空市場に適用して具体的な政策のありかたを論じます。いわば交通経済論Ａの応用編です。 本講義は、航空市場の特殊性を議論する授業ではありません。航空市場をとりあげる理由は、興味を持つ学生が多く、題材としてわかりやすいからに過ぎません。航空市場はあくまでも例の一つです。交通経済論Ａにおける理論的検討は、どの交通手段についても適用できることを、航空以外の市場に興味ある学生にもわかるように説明しながら、講義をすすめます。たとえば、空港整備という社会資本投資の問題の本質は、高速道路整備と全く同じであることに言及しながら、政策論を展開します。		
教材（テキスト）	中条潮著『航空幻想』（中央経済社）第２版。		
教材（参考文献）	当面、使いませんが、質問あれば必要に応じて紹介します。		
教材（その他）	教科書に記していない講義内容について必要に応じて京学なびに upload します。		
評価方法	学期末試験 100%。必要に応じて小テストを実施するかもしれませんがその際は指示します。		
到達目標	市場メカニズムの機能と市場の失敗を航空市場に則して理解し、経済の基本原理が航空市場でも同様にあてはまることを理解すること。		
準備学習	「交通経済論 A」と同じですが、「経済学の理解」に加えて、「交通経済論 A で学んだ事の理解」も加えてください。それを前提に講義を行います。 必要に応じてレポートの作成などを求める場合があります。 興味のあることについて予習復習して質問することは歓迎です。		

受講者への要望

本講義は交通経済論Ａを履修済みの学力を有することを前提に行います。
航空の経営問題については、政策論を展開する際に必要な範囲でとりあげますが、企業の利益を最大化することを目的とした講義ではなく、社会全体の利益を最大化する経済学を基盤とした講義であることを理解の上、履修してください。講義の視点は第１回講義で詳しく話します。

講義の順序とポイント

１．序　本講義の目的
２．Ⅰ．航空の全体像概観と本講義の視点
３．Ⅱ．航空サービスの需要特性概観
４．Ⅲ．航空市場の発展と現代的課題
５．Ⅳ．航空自由化政策の流れ
　　１．規制緩和政策の経緯
６．　２．オープンスカイの進展
７．Ⅴ．航空輸送事業の経営課題と政策課題～
　　１．LCC の攻勢
８．　２．日本における LCC の発展可能性
９．　３．既存大手航空会社の反撃～LC の経営戦略～
10．　４．幻想から覚めたか日本航空
11．Ⅵ．空港経営と空港政策の課題(pp.157-248)
　　１．空港整備運営に関する誤解
12．　２．空港民営化の課題
13．　３．ハブ競争・ハブ空港の課題
14．　４．発着枠配分のありかた
15．Ⅶ．スカイマークが飛び立つまで

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20055A01
科目名	経済政策Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面しています．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きいといえます．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類することができます．こうした個別具体的な政策を 理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論を理解する必要があります． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版， 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		

受講者への要望

経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．

講義の順序とポイント

1.　経済政策論の誕生と学問的性格
2.　日本経済の現況と政策課題（１）
3.　日本経済の現況と政策課題（２）
4.　日本経済の現況と政策課題（３）
5.　市場社会の変容と三重秩序（１）
6.　市場社会の変容と三重秩序（２）
7.　市場社会の変容と三重秩序（３）
8.　市場社会の変容と三重秩序（４）
9.　国家の変質と福祉国家の誕生（１）
10.　国家の変質と福祉国家の誕生（２）
11.　国家の変質と福祉国家の誕生（３）
12.　経済政策の形成プロセスと利益団体（１）
13.　経済政策の形成プロセスと利益団体（２）
14.　経済政策の形成プロセスと利益団体（３）
15.　国家主権超克の動き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	T20055B01
科目名	経済政策Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	我が国は人口減少社会に移行する中，経済社会のあり方が問われています．高度経済成長の成果を踏まえ，「日本型福祉国家」の建設を目指してきましたが，経済的・社会的環境の変化により，福祉国家政策は行き詰まり，いまや政策体系の根本的な見直しを迫られています．欧州諸国でも「福祉国家の危機」が，1980 年以降急速に政治問題化し，欧州委員会を中心に「持続可能な社会保障制度の再構築」が模索されています． 本講義では，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，人口減少社会における持続可能な社会保障制度のあり方について考えます．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	人口減少社会における社会保障保を巡る諸問題の理解を目標とする		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1. 社会体制と政策思想 2.福祉国家の 2 類型 3.新しい社会問題 4.福祉国家の基本構想 5.成長と分配の総合政策（１） 6.成長と分配の総合政策（２） 7.成長と分配の総合政策（３） 8.成長と分配の総合政策（４） 9.成長と分配の総合政策（５） 10.雇用と経済安定化政策（１） 11.雇用と経済安定化政策（２） 12.雇用と経済安定化政策（３） 13.移行的労働市場論 14.フレキシキュリティ政策 15.社会的包摂のための政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	T20056A01
科目名	社会政策Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	今日、わが国では他に類を見ない速さで少子・高齢化が進んでいる。こうした状況の下で、社会保障に期待される役割はますます大きくなっているが、それが大きな困難に直面していることも周知の通りである。 そこでこの講義では、今日われわれの生活にとって欠くことのできないものとなっている社会保障について、はじめにその全体像を概観した上で、医療保障、所得保障、介護保障というその主要な分野を取り上げ、それぞれの制度の目的と概要を確認するとともに、その現状と問題点などについて考察を行う。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版 社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・社会保障関係はもちろんのこと、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、秋学期開講予定の「社会政策Ｂ」をあわせて受講することが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．少子・高齢化の進行
３．医療保障の概念と制度
４．医療保障の制度体系
５．医療保険制度の現状
６．医療保険制度の課題
７．所得保障の諸制度
８．年金制度の概要①
９．年金制度の概要②
１０．年金制度の現状
１１．年金制度の課題
１２．高齢者介護をめぐる状況①
１３．高齢者介護をめぐる状況②
１４．介護保険制度の概要と課題
１５．高齢者介護システムの類型

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20056B01
科目名	社会政策Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	今日、わが国では他に類を見ない速さで少子・高齢化が進んでいる。こうした状況の下で、社会保障に期待される役割はますます大きくなっているが、それが大きな困難に直面していることも周知の通りである。 そこでこの講義では、まず、社会保障の概念と制度体系について述べた上で、社会保障が私たちの社会において必要になった理由を、歴史的視点および超歴史的視点から考える。 さらに、社会保障の登場から今日に至るまでの歴史的展開を見ていくことで、戦後西側諸国の指導像となった「福祉国家」がどのように成立し、どのような特徴を持つのか、そしてそこに生じた困難とはどのようなものなのかを考察する。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版 社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・社会保障関係はもちろんのこと、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・理解をより深めるため、春学期開講予定の「社会政策Ａ」を受講しておくことが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度①
３．社会保障の概念と制度②
４．社会保障の体系と二定型
５．わが国における社会保障の概念
６．社会保障の必要性：超歴史的視点から①
７．社会保障の必要性：超歴史的視点から②
８．社会保障の必要性：歴史的視点から①
９．社会保障の必要性：歴史的視点から②
１０．社会保障の必要性：歴史的視点から③
１１．社会保障の源流
１２．社会保障の登場と発展
１３．福祉国家の光と陰①　福祉国家の発展
１４．福祉国家の光と陰②　福祉国家の危機
１５．わが国における社会保障の歴史的展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20057A01
科目名	ファイナンシャル・エコノミクス s 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics (s)		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	金融全般についての，幅広い講義を行う．特に，金融取引，金融市場，金融機関，金融システム，プルーデンス政策についての基礎的な知識の習得を目標とする．これらの言葉の意味，概念は，なんとなく知っているが上手く説明できない，という学生も多い．この講義では，これらをきちんと認識できるように順序立てて説明していく．そもそも，金融とはなにか，なんのために金融取引が行われているのか，なんのために金融市場や金融機関が存在するのか，という根本から説明する．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％），定期テスト（６０％）．		
到達目標	金融全般について，大学生にふさわしい知識を習得する．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
ひとつひとつの物事，事象を区別して見たり覚えるだけではなく，それぞれがどのように結びついているのか，関係しているのか，という視点を持ってください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：経済学における金融 ３：金融の本質と役割 ４：金融取引１ ５：金融取引２ ６：金融市場１ ７：金融市場２ ８：金融機関１ ９：金融機関２ １０：金融システム１ １１：金融システム２ １２：金融制度・規制１ １３：金融制度・規制２ １４：金融と情報の非対称性 １５：金融とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20057B0A
科目名	ファイナンシャル・エコノミクス f 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics (f)		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	企業および個人の意思決定に焦点を当て，前半は企業金融について学び，後半は金融契約について考える．この講義では，個人の意思決定，相互作用の環境に注目した金融のテーマを掘り下げて解説する．これらのテーマを理解するうえで重要なのは，物事を順序立てて，論理的に考えることである．ファイナンシャル・エコノミクス s（春学期）で学んだ知識，認識，理解を活用する講義であり，毎回，学生諸君に思考することを要求する．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％），定期テスト（６０％）．		
到達目標	物事を論理的に考える．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
ある時点での意思決定が将来にどのような影響を及ぼすか，ということについて論理的に考える意識を持ってください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：企業金融とは ３：資本コスト１ ４：資本コスト２ ５：企業の投資１ ６：企業の投資２ ７：企業の資金調達１ ８：企業の資金調達２ ９：情報の非対称性と金融契約 １０：逆選択問題 １１：モラル・ハザード問題 １２：インセンティブ契約 １３：企業統治１ １４：企業統治２ １５：金融とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20062A01
科目名	財政学 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance A		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	現在の我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、その一方で少子高齢化に伴う社会保障問題や多額の政府債務残高に直面し、2014 年 4 月から消費税の引き上げが行われた。本講義では日本や諸外国の財政状況や政府の役割に注目する。特にミクロ的な視点に立ち、上記の問題や現象がなぜ生じるのか、また我々の日常生活にどのような影響を及ぼすのか、そして解決方法をモデルや現実に観測されるデータを用い理解する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適適宜指示する。		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	税金が家計や企業に与える影響や公共財の役割を理解する。		
準備学習	・ミクロ経済学の知識があることが望ましいので、１年次に履修したミクロ経済学基礎の講義ノートを読み返し　　ておくこと。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.財政学で学ぶ内容とは 2.需要と供給 3.市場メカニズム(1) 4.市場メカニズム(2) 5.余剰分析 6.課税と超過損失(1) 7.課税と超過損失(2) 8.公共財とは 9.公共財の最適供給(1) 10.公共財の最適供給(2) 11.公共財の最適供給(3) 12.外部性とは 13.外部性：ピグー税とコースの定理(1) 14.外部性：ピグー税とコースの定理(2) 15.外部性：ピグー税とコースの定理(3)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20062B01
科目名	財政学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	現在の我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、その一方で少子高齢化に伴う社会保障問題や多額の政府債務残高に直面し、2014 年 4 月から消費税の引き上げが行われた。本講義では日本や諸外国の財政状況や政府の役割に注目する。特にマクロ的な視点に立ち、上記の問題や現象がなぜ生じるのか、また我々の日常生活にどのような影響を及ぼすのか、そして解決方法をモデルや現実に観測されるデータを用い理解する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適適宜指示する。		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、経済政策の効果、我が国の年金制度が直面する問題を理解すること。		
準備学習	・マクロ経済学の知識があることが望ましいので、１年次に履修したマクロ経済学基礎の講義ノートを読み返しておくこと ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.財政学で学ぶ内容とは 2.政府の役割 3.GDP とは何か 4.GDP と三面等価の定理 5.景気と需要(1) 6.景気と需要(2) 7.フィスカルポリシー(1) 8.フィスカルポリシー(2) 9.ビルトインスタビライザー(1) 10.ビルトインスタビライザー(2) 11.社会保障(1)：社会保障と再分配 12.社会保障(2)：我が国の社会保障制度① 13.社会保障(3)：我が国の社会保障制度② 14.社会保障(4)：少子高齢化と年金制度① 15.社会保障(5)：少子高齢化と年金制度②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★

年度	2016	授業コード	T20064A01
科目名	金融論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融の基礎について講義をする。貨幣の役割、中央銀行の役割、民間金融機関の役割を中心に、金融を学ぶことは何故必要かが分かってもらえる講義にする。短期金融市場、株式市場、債券市場、為替市場についても説明し、ファイナンシャルプランナーを目指す人、金融機関就職を希望する人はもちろんのこと、今後社会に出た時に必要な基礎教養を身に付けたい人にも十分役立つ講義にする。金融政策を中心に扱う金融論Ｂも併せて受講してほしい。		
教材（テキスト）	第１回目の講義時に紹介します。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて紹介していきます。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、小テスト 20%		
到達目標	ファイナンスについての基本的知識を身に着ける。		
準備学習	講義前に新聞やニュースでその日の経済の動きを事前に把握しておくこと。少なくともその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		
受講者への要望			
「金融論Ｂ」「企業金融論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい			
講義の順序とポイント			
1.貨幣とは何か 2.銀行の役割 3.中央銀行の役割 4.金融政策の方法 5.信用創造について 6.金融政策はどのように経済に影響するのか 7.短期金融市場の役割 8.債券についてⅠ 9.債券についてⅡ 10 株式についてⅠ 11 株式についてⅡ 12.為替レートについてⅠ 13..為替レートについてⅡ 14.物価の決定理論Ⅰ 15.物価の決定理論Ⅱ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20064B01
科目名	金融論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking B		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融政策および金融システムについて講義する。具体的には日本銀行やアメリカの中央銀行、連邦準備銀行は日々どのように金融政策を実施し、危機が生じたときにどのように政策対応するのか、また金融システムを健全に維持するためにはどのような規制が必要であるかを中心に講義する。とくに本年度は、アベノミクスを中心に日本の長期デフレ不況と日銀の金融政策について解説する。身近な事例を紹介しつつ、金融政策の理解を深める。できるだけ平易な解説になるように努めたい。		
教材（テキスト）	講義開始時に紹介する。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて参考文献を紹介する。		
教材（その他）	適宜資料プリントを配布する。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、小テスト 20%		
到達目標	金融政策、金融危機に関する、新聞記事などが十分理解でき、経済政策、とくに金融政策に関して自分なりの意見が述べられるようにする。		
準備学習	ノートを整理すること。新聞の経済記事をよく読んでおくこと。講義の前に必ずその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講者への要望

「金融論 A」「企業金融論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい。

講義の順序とポイント

1 金融危機と金融政策（概説）
2 伝統的金融政策と非伝統的金融政策
3 日銀の伝統的金融調節
4 連邦準備の伝統的金融政策
5 デフレと金融政策
6 金融政策の評価
　テーラルール、NAIRU、オーカンの法則
7 大恐慌（29 年の株価大暴落と連銀の政策対応）
　金本位制、債務デフレ、クレディットビュー、マネビュー
8 日本のバブル：1980 年代後半の金融政策と政治
9　日本の長期デフレ不況：1990 年代
10　アベノミクス登場の背景と意義
11 アメリカの住宅バブルと金融政策
12 リーマンショックと金融政策
　too big to fail 政策、モラルハザード、影の金融システム、スティグマ
13　2000 年代の金融政策、日米比較
14 北欧の金融システムと金融危機
　公的資金の役割、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー
15 金融規制のあり方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20065001
科目名	ファイナンスの数理 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics of Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、投資理論として「どのようなポートフォリオを構築すればよいのか」について代表的な考えを述べる。 具体的には、PC 上で稼働する表計算ソフトとして幅広く利用されている Excel を活用しながら、証券投資分析手法を寛容に学んでいく。証券投資理論に関しては、株式投資分析、債券投資分析、先物とオプションについて、講義を行うつもりである。特に、先物とオプションに関しては、離散時間型の簡単な 2 項モデルを紹介し、このモデルを基に、裁定取引の考え方およびオプション価格(プレミアム)の決定方法を学ぶ。また、ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に、PC を使いながら出来るだけ平易に解説するつもりである。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント配布を行う。		
教材（参考文献）	藤林/岡村/矢野（2009）『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』 第 3 版, 金融財政事情研究会. 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社. 野口 悠紀雄（2000）『金融工学、こんなに面白い』文春新書.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(30%)；複数回のレポート等による。 定期試験(70%)。		
到達目標	ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解度を深めてゆく 。		
準備学習	証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 複数回、小テストを行うので前回の講義内容を復習すること。 ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		
受講者への要望			
統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。 レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。			
講義の順序とポイント			
１．ポートフォリオのリターンとリスク ２．同上 ３．マーケット・モデル ４．同上 ５．資本資産価格モデル（CAPM） ６．同上 ７．債券の価格と利回り ８．同上 ９．イールドカーブの特性 １０．債券のリスク（価格変動リスク、信用リスク）とポートフォリオ １１．同上 １２．先物の理論価格とヘッジ １３．オプションの概要 １４．同上 １５．まとめ： 演習の復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20066A01
科目名	時系列データ分析Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、最小二乗法を中心に、定常、非定常の検定を学ぶ。EViews という分析ソフトを使用。EViews という経済分析ソフトを使って、経済データのいろいろな分析、推計、モデル作成などを行う。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」にて、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで配布。		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と２回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（１）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果が解釈できる。 （２）経済データが定常か非定常かを単位根検定できる。 （３）系列相関の有無（毎回の経済ショックが過去の影響を引きずっているか）。		
準備学習	EViews というソフトはクリックするだけで結果を出してくれる。計算手法そのものの理解は、統計学や数学、コンピュータのプログラムなど膨大な知識を要求するので、気にしなくてもよい。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いである。経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回の資料を「京学なび」で事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料（課題）の最後に、次週までに解いておくべき課題（発展問題）を示しておくので、その課題を解いて、次の授業までに「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講者への要望

数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。
経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。

講義の順序とポイント

（１）データ取得と加工、EViews の基本操作とグラフ表示
（２）季節調整、平均化、smoothing、記述統計
（３）最小二乗法による推定――回帰直線
（４）最小二乗法による推定――重回帰
（５）最小二乗法による推定――ダミー変数導入による賃金の推定（男女、年齢、経験の影響）
（６）自己相関、相互相関
（７） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響）
（８）レベル変数（非定常）と階差変数（定常）
（９）系列相関の考え方
（１０）単位根検定（定常、非定常）――トレンドの検定、ERS 検定、KPSS 検定
（１１）単位根検定――日本のデータ
（１２） 単位根検定――ヨーロッパのデータ、アメリカのデータ
（１３）レベル変数間の推定
（１４）階差変数（成長率）間の推定
（１５）レベル推定と階差推定の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20066B01
科目名	時系列データ分析Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、主として、最小二乗推定を用いて、マクロ経済システムを推定する。経済時系列手法により、GDP、マネー、金利、株式などの変数からなる VAR モデルを推定する。インパルス応答によるモデルの動きを調べて、作成したモデルの検証方法も調べる。		
教材（テキスト）	毎回、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで事前配布。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と２回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（１）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果の経済的な意味合いを理解できる。 （２）VAR モデルの推定ができる。 （３）インパルス応答によるモデルの検証ができる。		
準備学習	経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回、EXCEL によって資料と課題を事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料配布時に、資料の最後に課題（発展問題）を入れておくので、次回の授業までに、課題を解いて「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		
受講者への要望			
数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。 経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。			
講義の順序とポイント			
（１）EViews の基本操作とグラフ表示 （２）最小二乗法による推定――その１ （３）最小二乗法による推定――その２ （４）最小二乗法による推定――その３ （５）自己相関、相互相関 （６） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響） （７）レベル変数（非定常）と階差変数（定常） （８）物価の特徴（インフレ率）と Phillips 曲線 （９）金利の特徴（短期金利、長期金利） （１０）推定と AIC 規範 （１１）VAR モデルの推定、level 変数 （１２）VAR モデルの推定、成長率モデル （１３）インパルス応答 （１４）GDP とマネーと金利の関係 （１５）日本・USA・ヨーロッパ諸国の具体例と相違点			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20070001
科目名	金融市場論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Financial Market		
担当者名	秋田　将知	旧科目名称	
講義概要	先ず，金融市場の分類や機能についての包括的な説明をする．次に，特に重要である証券市場（株式市場・債券市場），貸出市場について講義する．これらの後に，金融市場を理解する上で欠かすことができない要素である，情報の非対称性が引き起こす様々な問題について考える． この講義では，金融および金融市場について，大学生にふさわしい知識を習得することを目標としている．したがって，特別に専門的な内容は扱わない．ただし，利子率を用いた簡単な計算は講義に用いる．		
教材（テキスト）	特になし．		
教材（参考文献）	講義中に紹介する．		
教材（その他）	適宜プリントを配布する．		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（４０％），定期テスト（６０％）．		
到達目標	金融および金融市場について，大学生にふさわしい知識を習得する．		
準備学習	去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい．		
受講者への要望			
他の金融関連科目にも出席するようにしてください．			
講義の順序とポイント			
１：ガイダンス（金融とは） ２：金融市場の概要 ３：金融市場の種類と性質 ４：株式市場１ ５：株式市場２ ６：債券市場１ ７：債券市場２ ８：貸出市場１ ９：貸出市場２ １０：利子率 １１：割引現在価値 １２：情報の非対称性とは １３：逆選択問題と金融市場 １４：モラル・ハザード問題と金融市場 １５：金融市場とは（見直し・確認）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20075A01
科目名	国際金融論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国際間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である．国際金融論 A では，国際金融取引の現状から比較的初歩的な為替レート決定理論について説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際金融論の初歩的な内容である国際金融取引の基礎や外国為替の仕組み，為替レートと貿易収支の関係についてまず学習し，最終的に初歩的な為替レート決定理論である購買力平価や金利平価を理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの授業を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．国際金融取引の基礎：グローバル化するもの・お金の動き 3．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 4．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 5．国際金融取引の基礎：国際収支表の見方・書き方 6．国際金融取引の基礎：国際資本移動が生じる理由 7．外国為替の基礎：外国為替の仕組み，外国為替市場の特徴 8．外国為替の基礎：為替レートの見方，名目為替レートと実質為替レート 9．為替レートと貿易収支の調整：円高・円安と貿易収支 10．為替レートと貿易収支の調整：マーシャル・ラーナー条件 11．為替レートと貿易収支の調整：J カーブ効果 12．為替レートの決定：購買力平価（絶対的購買力平価） 13．為替レートの決定：購買力平価（相対的購買力平価） 14．為替レートの決定：購買力平価不成立に関する理論（バラッサ・サミュエルソンの定理） 15．為替レートの決定：金利平価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	T20075B01
科目名	国際金融論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国際間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である．国際金融論 B では，主要な為替レート決定モデルから為替レート変動が実体経済に与える影響について説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際金融論の主要な内容である為替レートの決定と為替変動がマクロ経済に与える影響について理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学と国際金融論 A の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの授業を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．為替レート決定理論を分析するための準備 3．為替レート決定理論を分析するための準備 4．為替レート決定理論：フローアプローチ 5．為替レート決定理論：伸縮価格マネタリーモデル 6．為替レート決定理論：硬直価格マネタリーモデル 7．為替レート決定理論：為替リスク，リスク・プレミアム 8．為替レート決定理論：ポートフォリオ・バランス・モデル 9．為替介入の方法と効果：介入の仕組みと効果経路 10．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習 11．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習 12．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース） 13．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース） 14．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動がないケース） 15．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動がないケース）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	T20085A01
科目名	マーケティングⅠ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing I		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	マーケティング・マインドを身につけるための講座です。 マーケティング・マインドとは、普段日常として見ている現実を意識的に要素に細分化し、要素を組みなおして再構築、さらに新しいアイデアによってデザインし直すための思考能力です。 デザインする対象は商品であったり、コミュニケーションであったり、世代や嗜好で分類される人であったり、様々なものが対象となり、社会に夢を作っていきます。 前期はマーケティングの学問としての枠組みを学び、後期は様々な題材をテーマにしながら戦略的マーケティングからソーシャルマーケティングまでカバーする予定です。社会に役立つマーケティングの科学を実感します。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第４版）』有斐閣アルマ　2,160 円		
教材（参考文献）	適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイントを配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●マーケティングの独特の考え方を身につける ●マーケティングの視点で現実を分析できるようにする ●マーケティングの基礎的な理論から最近の理論までを網羅的に知ることができる		
準備学習	ホットトピックスについてその都度授業で解説しますので、ネットや新聞で常にチェックしておいてください。		

受講者への要望

授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. マーケティング・マインドとは
2. マーケティング課題
3. 標的市場と市場細分化
4. 市場細分化の体系
5. 市場データ分析
6. 消費者行動論
7. 消費者理解の方法
8. マーケティングの４Ｐ理論
9. 商品と価格
10. 流通分析　売り場の科学
11. マーケティング・コミュニケーション
12. 競争戦略
13.ブランド・エクイティ論
14. 経験経済　モノからコトへ
15. 関係性のマーケティング

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20085B01
科目名	マーケティングⅡ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing Ⅱ		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	現在の消費の多様化に対して進化する、戦略的マーケティングの考え方についての講座です。基本的なマーケティングを基礎として、その応用編かつ実践編になります。 大衆によるマス消費から、個人による消費対象の多様化、さらに社会の課題を共有するコミュニティによる消費行動の多様化に至る道を、事例を通して包括的に学びます。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第 4 版)』有斐閣アルマ　2000 円＋税		
教材（参考文献）	授業の進行とともに、参考文献を提示します		
教材（その他）	パワーポイントを授業時に配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●マーケティングのダイナミクスを実感する ●マーケティングの最先端の課題を知り、それに応じて進化するマーケティングを学べる ●マーケティングを活用して「社会を変える」「社会を良くする」ことを考えられる企画頭になる		
準備学習	その時のホットトピックスを解説しますので、意見を言えるように、常に新聞や情報番組で社会で起きていることにアンテナを張っていてください。		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 戦略的マーケティングとは
2. 企業の成長と事業戦略
3. 競争戦略
4. 消費者の進化
5. トレンドとヒット商品
6. モノからコトへ　サービスのマーケティング
7. 満足化のマーケティング
8. マイクロトレンド　小さいけれど社会を変える市場
9. スペンド・シフト　お金の使い方の変化
10. ソーシャル消費
11. キュレーション　消費者同士が盛り立てる市場
12. マイクロファイナンス　社会を変える投資的消費
13. メイカーズ・ムーブメント　プロシューマーと呼ばれる「作る消費者」
14. マーケティング 3.0　消費者が商品を通して社会をデザインする共創消費
15. 社会を変えるマーケティング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20190A01
科目名	西洋経済史Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	約１万年前の農耕の始まりから産業革命を経て 19 世紀後半の大不況（The Great Depression）の時代に至るまでの経済の歴史を概観します。		
教材（テキスト）	本学の図書館にある本の中から必要に応じて授業中に指示します。		
教材（参考文献）	鵜飼保雄・大澤良（2010 年）『品種改良の世界史　作物編』悠書館。		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題（90%）、レポート（10%）		
到達目標	経済史の大きな流れを理解する。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
成績評価の基準となる授業内課題にきちんと取り組んでもらう必要があるので、遅刻を厳禁します。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．農耕の始まり ３．古代地中海世界における二圃制 ４．中世ヨーロッパにおける三圃制① ５．中世ヨーロッパにおける三圃制② ６．農業革命と穀物法の廃止 ７．火薬と化学肥料の歴史 ８．レコンキスタ ９．大航海時代① 10．大航海時代② 11．重商主義・重農主義の時代と経済学の誕生 12．大西洋の三角貿易 13．産業革命① 14．産業革命② 15．大不況と一次産品価格の下落			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20190B01
科目名	西洋経済史Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	経済学の理論を援用しながら歴史について学ぶことが、この科目の目的です。具体的には、生糸の歴史と国際通貨制度の歴史を取り上げます。生糸の歴史では、ヨーロッパで発達した器械製糸技術やヨーロッパとアメリカにおける絹工業を取り上げます。国際通貨制度の歴史では、11～12 世紀におけるテンプル騎士団の活動から 1930 年代の金本位制停止までを取り上げます。		
教材（テキスト）	本学の図書館にある本の中から必要に応じて授業中に指示します。		
教材（参考文献）	玉川寛治（2002 年）『製糸工女と富国強兵の時代』新日本出版社。		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題（90%）、レポート（10%）		
到達目標	経済の歴史を学びながら経済学の基本的な考え方を身につける。		
準備学習	上記の参考文献が本学の図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

成績評価の基準となる授業内課題にきちんと取り組んでもらう必要があるので、遅刻を厳禁します。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．養蚕・製糸・絹織の絹業 3 部門の関係
3．比較優位から見た 19～20 世紀の生糸貿易
4．機会費用と家族制度から見た 19～20 世紀の生糸貿易
5．投入物の相対価格から見た欧米の絹工業の特徴
6．価格機構と生糸の繊度の選択
7．モラルハザードと製糸工女の労務管理
8．行動経済学から見た生糸の等級分けの意義
9．十字軍とテンプル騎士団
10．スペイン・ドルの誕生
11．イングランド銀行の世界史的意義
12．金貨本位制のしくみ
13．金地金本位制のしくみ
14．金為替本位制のしくみ
15．金本位制の停止とブロック経済

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20199A01
科目名	経済数学Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics for Economics A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、高校で既習の 1 次関数・2 次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容（B で取り上げる）に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（52%），その理解度を確認する演習・試験（48%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用などの能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		
受講者への要望			
数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。　高校数学の復習から始めるので事前に高校教科書の該当箇所に目を通しておいてください。			
講義の順序とポイント			
1. 数と集合 2. 集合と命題 3. 整式の計算・方程式・不等式 ４．２次関数・２次不等式・２次不等式・ 5. 数列 6. 数列の極限 7. 関数 8. 集合・関数・方程式・不等式・数列について総合演習 9. 指数関数 １０．対数関数 11. 関数の極限と微分 12. 微分の公式 13. 微分の計算 14. 微分の応用 15. 指数・対数関数・関数の極限・微分法について総合演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20199B01
科目名	経済数学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics for Economics B		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では，ベクトルや行列など数学を利用する学問では必須のものである線形代数を実際に Excel を用いて学習していく。従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 　特に行列の計算と応用力，線形計画法の活用する能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。
数学は積み重ねなので毎回の授業プリントとレポートの解答を見て復習しておいてください。

講義の順序とポイント

1. ベクトル
2. 行列
3. 行列式
4. 逆行列
5. 掃き出し法
6. ランク
7. ベクトルと行列の計算の演習
8. ベクトルと行列について総合演習
9. 固有値と対角化
10. 2 次形式
11. 線形計画法の原理
12. 線形計画法を Excel のソルバーで解く
13. 線形計画法を使って最適化問題を考える
14. 固有値・線形計画法について練習
15. 固有値・線形計画法について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20206A01
科目名	経済学史 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するための学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも１６世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始された。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成され、その後今日に至まで 200 年以上の歴史をへて発展してきた。 経済学史Ａでは、近代国家の成立とともに始まる経済学の歴史を、第１部「資本主義成立期の経済学」（重商主義と重農主義）と第２部「古典派経済学の成立と解体」（スミスからＪ・Ｓ・ミルまで）にわけて概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち－先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同編『経済学の巨人－ 危機と闘う』（同上）、同編『経済学４１の巨人－古典から現代まで』（日本経済新聞社、2014 年）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・受講態度＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該章をしっかり予習してから授業に出席すること。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、教員から受講生に授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの問いかけに対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ａの課題
２．重商主義の定義
３．重商主義の経済政策論
４．重商主義の経済学説
５．重農主義成立の歴史的背景
６．ケネー『経済表』の分析(1)
７．ケネー『経済表』の分析(2)
８．アダム・スミスの生涯と著作
９．『国富論』解説(1)
１０．『国富論』解説(2)
１１．『国富論』解説(3)
１２．マルサス人口論
１３．リカードウの経済学(1)
１４．リカードウの経済学(2)
１５．Ｊ・Ｓ・ミルと現代

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20206B01
科目名	経済学史 B 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成されたが、経済学史Ｂでは、そのスミスに始まるイギリス古典派経済学の解体にともなう近代経済学成立と、「ケインズ革命」を経て現代に至るまでの現代経済学の発展史を概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『現代経済学の巨人たち―20 世紀の人・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同編『経済学の巨人― 危機と闘う』（同上）、同編『経済学４１の巨人』（日本経済新聞社、2014 年）		
教材（その他）	毎回の講義資料を、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」→「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・受講態度＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の出発点は 1870 年代の「限界革命」理論の確立に求められる。この「限界革命」と 1930 年代の「ケインズ革命」によって飛躍的な発展をとげた現代経済学の流れを正しく理解することによって、今日の経済問題の解明について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定されたテキストを予習してから授業に出席すること。テキストに記載がない項目については、事前に授業資料を「京学なび」にアップしておくので、予習しておくことを求める。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、こちらからも授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの質問に対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ｂの課題――古典派経済学から近代経済学へ
２．マルクスと現代(1)
３．マルクスと現代(2)
４．マルクスと現代(3)
５．近代経済学の成立(1)
６．近代経済学の成立(2)
７．イギリス・ケンブリッジ学派の経済学（マーシャルとピグー）
８．シュンペーターの経済学
９．ソースタイン・ヴェブレンの制度主義経済学
１０．ケインズ革命(1)
１１．ケインズ革命(2)
１２．ケインズ革命(3)
１３．ケインズ以降の現代経済学の展開(1)
１４．ケインズ以降の現代経済学の展開(2)
１５．現代経済学の新潮流

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20207A01
科目名	計量経済学Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics A		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析するための基本的な方法の学習、データの分析。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 （なぜ注意されるのか、どう修正すれば社会的要求水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。 A、B を別々に履修可能であるが、A はより入門的である。B は必ずしも A を受けていなくても良いが、A を前提にした内容になる場合があるため、出来るだけ連続して取って欲しい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を何回か提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する（100%）。 レポートの書き方や図表の作り方を詳細に指示するので、それを守る必要がある。指示した水準で作業できれば合格できる。 毎回出席は当然であり、1/3 欠席した場合は不合格とする。 期末テストは実施しない。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。 計量経済学 B も受講することが望ましい。		
受講者への要望			
ノートを必ず作り、書き込むことが重要である。 積極的に参加することが必要。授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが必要。			
講義の順序とポイント			
１　講義の全体構成 ２　平均と分散 ３　平均と分散の実例 ４　課題（１）の提示と分析 ５、６　課題（１）の修正と完成 ７　回帰分析その１ ８　回帰分析その２ ９　回帰分析を使った課題（２）の提示と分析 １０、１１　課題（２）の修正と完成 １２　回帰分析と評価 １３　回帰分析と評価その２ １４　最終課題（３）の提示と分析 １５　課題（３）の修正と提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	T20207B01
科目名	計量経済学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics B		
担当者名	尾崎　タイヨ	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析する。 回帰分析などやや高度な分析手法も学ぶ。 データは投書は教員が提供し、それを Excel 等を使って分析するが、やがて、官庁統計などを自分で利用して分析に用いる。 分析結果をレポートにして完成させる。 これを何回も題材を変えながら繰り返す。 この科目は、A よりも進んだ内容となるが、必ずしも A が前提になるわけではない。A、B と連続して受講することが望まし い。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料をその都度提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。 出席は当然であるので、1/3 欠席したら不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでなく、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 計量経済学 A と併せ学習することを望ましい		
受講者への要望			
積極的に参加することが必要である。 授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが重要である。			
講義の順序とポイント			
１ 授業の全体構成の説明と入門的分析事例 ２ 回帰分析の入門 ３ 回帰分析方法 ４ 回帰分析方法 その２ ５ 統計的検定 ６ 統計的検定 その２ ７ 分析課題への取り組み ８～１０ 同改訂 １１ 課題（２）の提示と分析 １２ 同改訂 １３ 同改訂 １４ 多変量解析入門 １５ 多変量解析入門 その２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	T20209A01
科目名	マクロ経済学Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics A		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	経済学Ａ
講義概要	マクロ経済学基礎に続く講義である。マクロ経済の仕組みを理解するとき、初めは貨幣が存在しないという仮定を置くと良い。しかし、現実には貨幣が存在し、資金の貸借が行われている。資金の動きを決定づけるものが利子率（金利）であり、本講義では貨幣と利子率の導入からマクロ経済の描写が始まる。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第４版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第３版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した講義ノート		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	本学では、マクロ経済学の講義を貨幣の存在しない財市場だけからなるモデルから始める。本講義ではそこに貨幣が登場するが、そもそも貨幣とは何であるのかを理解できることが第一の目標である。そして、貨幣と同時に導入されるのが利子率であり、貨幣市場で決まる利子率が財市場において投資行動に影響するという相互作用を理解することが第二の目標である。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる数学の知識が不足している場合には、数学の事前学習をする。しかし、本講義で用いられる数学の知識は中学校までで学習するものである。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第１回 マクロ経済学基礎の復習 第２回 貨幣の定義 第３回 マネーサプライ 第４回 ハイパワードマネーと信用乗数 第５回 景気と信用乗数 第６回 貨幣数量式 第７回 貨幣需要と金利、GDP 第８回 振り返り学習 第９回 資産市場と財市場 第10回 金融政策 第11回 財政政策 第12回 発展的な経済モデル 第13回 フィリップス曲線とインフレ 第14回 失業 第15回 現実の労働市場			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	T20209B01
科目名	マクロ経済学Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	本講義はマクロ経済学Ａに続く講義である。財市場と貨幣市場を想定したマクロ経済モデルでは、均衡において国内所得と利子率が決定する。しかし、均衡状態は他の事情が変化することによって不均衡状態となる。また、均衡における国内所得が失業を見過ごせないほど低い場合がある。このような場合の経済の動きを解説する時に IS-LM モデルが用いられる。講義としては、労働市場を考慮し、国際間の経済取引を導入するといった方向で展開していく。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	講義ノート		
教材（その他）	適宜指定する。		
評価方法	中間試験 50% 最終レポート試験 50% ※　中間試験の結果により、再試験などを行うことがある		
到達目標	毎日の新聞報道に登場する経済事象を、マクロ経済モデルを用いて説明できるようになることが目標である。		
準備学習	かなり複雑な経済モデルになるので、毎回練習問題を復習する必要がある。それを行ったかどうかは講義中の口頭による質疑応答で確認される。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済モデルの復習 第 2 回 IS-LM モデルの応用 第 3 回 物価の変化と IS-LM モデル 第 4 回 総需要曲線と総供給曲線 第 5 回 財政とマクロ経済 第 6 回 初期の経済成長モデル 第 7 回 新古典派の経済成長モデル 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 開放経済と外国為替 第 10 回 外国為替レートの変動要因 第 11 回 マンデル=フレミングの理論 第 12 回 比較優位 第 13 回 景気循環 第 14 回 景気動向指数の仕組み 第 15 回 マクロ経済学と関わる経済学の他分野			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	★	★	★

年度	2016	授業コード	T20211A01
科目名	ミクロ経済学Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics A		
担当者名	井上　寛規	旧科目名称	
講義概要	ミクロ経済学とは何かという説明から一般均衡理論までを本講義で取り扱うトピックとする。家計や企業がどのような行動原理に基づいて財・サービスの消費や生産を行っているのかを解説する。家計のとる行動と企業のとる行動によって財・サービスの価格と供給量が市場でどのように決定されるのかについて理解することを最終的な目標とする。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	伊藤元重著『ミクロ経済学 第２版』日本評論社　3,240 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内確認小テストによる平常点（40%）。定期テスト(60%)		
到達目標	ミクロ経済学における各経済主体の行動原理を理解する。		
準備学習	各講義の初めに前回の内容の確認小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
各講義で確認小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
１．経済の全体像 ２．家計と企業 ３．需要曲線 ４．供給曲線 ５．費用曲線 ６．市場取引と資源配分（１） ７．市場取引と資源配分（２） ８．一般均衡分析（１） ９．一般均衡分析（２） １０．一般均衡分析（３） １１．生産と費用（１） １２．生産と費用（２） １３．一般均衡と資源配分（１） １４．一般均衡と資源配分（２） １５．講義の総括と演習問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20211B01
科目名	ミクロ経済学Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics B		
担当者名	井上　寛規	旧科目名称	
講義概要	本講義では発展的な経済学のエッセンスをつかむことを目標とする。まず、独占的競争および公害や自然破壊に代表される外部性、公共財の存在によって引き起こされる市場の失敗について学習する。また、ゲーム理論による合理的・戦略的意思決定や不確実性と不完全情報の経済学について紹介する。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	伊藤元重著『ミクロ経済学 第２版』日本評論社　3,240 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内確認小テストによる平常点（40%)。定期テスト(60%)		
到達目標	独占がなぜ禁じられているのかについての経済学的理由、外部性や公共財の影響の理解。ゲーム理論的な考え方、不確実性やリスクの存在する状況での合理的な意思決定について慣れる。		
準備学習	各講義の初めに前回の内容の確認小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
各講義で確認小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
１．政府の役割 ２．独占 ３．独占的競争 ４．市場の失敗（１） ５．市場の失敗（２） ６．ゲーム理論（１） ７．ゲーム理論（２） ８．ゲーム理論（３） ９．不確実性とリスク（１） １０．不確実性とリスク（２） １１．不完全情報の経済学（１） １２．不完全情報の経済学（２） １３．異時点間の資源配分（１） １４．異時点間の資源配分（２） １５．講義の総括と演習問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20214001
科目名	やさしい税の話 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Theory of Tax		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	税とは、私たちの生活に密接にかかわるものであり、その数は５０種類以上にも及ぶといわれています。この授業では、特に私たちの生活に直接かかわる身の回りの税について、わかりやすく解説します。 講義の順序とポイントは以下に示すとおりですが、これとは別に特別講師を迎えた授業の実施も予定しています。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリントを中心に授業を進めます。		
教材（参考文献）	授業中に必要に応じて指示します。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	テレビや新聞等の税に関する報道の意味内容を正しく理解することができるように、税に関する基礎的な知識や考え方を知り、納税者としての義務と権利に深い関心を持ってもらうことができれば、この授業の目標が達成されたものと考えます。		
準備学習	テレビ、新聞等の税に関する報道には特に関心を持って注目し、その具体的な意味内容や影響について考えるよう心掛けてください。		
受講者への要望			
授業には積極的に参加し、税に関する基礎的な知識の習得を目指して下さい。税に対する関心を深め、納税の義務と納税者としての権利について考えてみて下さい。			
講義の順序とポイント			
１，　税金って何？ ２，　税の歴史 ３，　所得にかかる税金 ４，　サラリーマンと税金 ５，　事業経営者と税金 ６，　学生と税金 ７，　保険金・年金と税金 ８，　相続・贈与と税金 ９，　会社経営と税金 １０，その他の税金 １１，ちょっと得する税金豆知識！ １２，税金についての不服申し立て １３，納税者の義務と権利 １４，特別講演 １５，税に関する復習の授業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20219A01
科目名	公共経済学 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では政府の経済的役割について検討する。独占や外部効果、あるいは公共財供給など「市場の失敗」と呼ばれる、市場機構が効率的な資源配分に失敗するいくつかケースについて、政府が果たすべき役割を社会的厚生という観点から分析を行う。 また、政府活動の結果として生じる財政赤字や所得再分配についても経済学的な視点から検討を加える。		
教材（テキスト）	教科書は特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）井堀利宏『基礎コース・公共経済学』新世社 （2）土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社 （3）スティグリッツ『公共経済学（上)』東洋経済新報社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1）資源配分の効率性とは何か、またその経済学的な判断基準を理解する。 （2）市場の失敗において生じる資源配分の非効率性を理解する。 （3）市場の失敗への政府の政策対応がもたらす資源配分上の効果について理解する。 （4）政府の失敗が生じるメカニズムについて理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所について事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にして講義に臨むことが望ましい。		

受講者への要望

（1）現代社会の公共経済学的課題とその背景を理解しよう。
（2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考えよう。

講義の順序とポイント

1．公共経済学とはどのような学問か ：公共経済学の分析対象、公共経済学成立の歴史的背景、政府部門拡大のメカニズム
2．公共経済学における政府の役割 ：政府の範囲、資源配分機能、所得再配分機能、安定化機能
3．所得分配の公平性：所得再分配と公正、補償原理、功利主義、ロールズ基準
4．資源配分の効率性（1）：パレート最適、ｴｯｼﾞﾜｰｽﾎﾞｯｸｽ・ﾀﾞｲｱｸﾞﾗﾑ、効用可能性曲線
5．資源配分の効率性（2）：完全競争市場均衡、消費者余剰、生産者余剰
6．資源配分の効率性（3）：政府の市場介入と死荷重１、価格規制、数量規制
7．資源配分の効率性（4）：政府の市場介入と死荷重２、参入規制、課税
8．市場の失敗（1）：独占、費用逓減産業
9．市場の失敗（2）：外部効果、外部経済、外部不経済
10．市場の失敗（3）：外部効果の内部化、ピグー税、コースの定理
11．市場の失敗（4）：公共財の定義、公共財の最適供給、リンダール均衡
12．政府の失敗（1）：財政赤字、基礎的財政収支、ソブリン・リスク、クラウディング・アウト
13．政府の失敗（2）：公債、リカードの中立性命題、公債の世代間負担問題
14．現代日本における公共経済学的課題（1）：震災復興における政府の役割
15．現代日本における公共経済学的課題（2）：社会保障制度改革、税制改革

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	T20219B01
科目名	公共経済学 B 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では、政治過程を市場として捉え、民主主義的な政治運営の限界を理解する。 まず、社会的意思決定の方法としての様々な投票制度の性質を検討する。次に、社会的意思決定過程に影響を与える有権者、政治家、官僚、圧力団体などの各主体の行動原理について考察する。そのうえで、非効率な資源配分をもたらす「市場の失敗」を補完すべき役割にある政府が最適な政策の選択に失敗するメカニズムについて理解する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）加藤寛『入門公共選択：政治の経済学』勁草書房 （2）フェルドマン＆セラーノ 『厚生経済学と社会的選択』ｼｰｴｰﾋﾞｰ出版 （3）谷口洋志『公共経済学』創成社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1） 政府を構成する各主体、およびその外部から影響を与えうる各主体の行動原理、およびその行動が政府の意思決定に与える影響とそのメカニズムについて理解する。 （2） 政府の失敗がもたらす資源配分上の非効率性を理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所を事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にしてから講義に臨むことが望ましい。		
受講者への要望			
（1）講義前の予習が重要である。記憶よりも理解を優先して学ぶ姿勢が近道である。 （2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考える習慣を身に着けよう。			
講義の順序とポイント			
1．公共選択論とはどのような学問か？：公共選択論の分析対象と範囲 2．政府とは何か？：政府の誕生、政府の範囲と類型 3．投票（1）：集合的意思決定、投票のルール 4．投票（2）：各種の投票ルール、各種投票ルールの論理的非整合性 5．投票（3）：ｱｼﾞｪﾝﾀﾞ・ｺﾝﾄﾛｰﾙ、戦略的投票 6．投票（4）：投票のパラドックス、中位投票者定理、単峰性選好 7．投票（5）：アローの一般不可能性定理 8．選挙（1）：有権者の投票行動、棄権、政党とイデオロギー 9．選挙（2）：小選挙区制と比例代表制、政治的景気循環、足による投票 10．官僚制（1）：官僚制、ニスカネン・モデル 11．官僚制（2）：ミギュエ＝ベランジェ・モデル、日本の官僚制 12．レント・シーキング：レント・シーキングとその類型、日本の財政投融資制度 13．圧力団体：圧力団体の定義と類型、日本の圧力団体、政権交代と圧力団体 14．財政赤字の政治経済学：J.M.ブキャナン、立憲的政治経済学 15．現代日本における公共選択論的課題：高齢化と選挙、財政赤字、地方分権			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	T20265001
科目名	ネットワークセキュリティ論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Network Security		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	T20328001
科目名	金融入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		
受講者への要望			
毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて ２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み ３．　マネープランの必要性と金融商品 ４．　債券の基礎知識 ５．　債券投資の実際 ６．　株式投資の魅力とリスク ７．　株価の変動要因 ８．　決算書の見方 ９．　主な投資指標の見方 １０．　株式投資の判断 １１．　投資信託をの基礎知識 １２．　投資信託を選ぶポイント １３．　資産運用の概要 １４．　資産運用はどうあるべきか １５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20329001
科目名	財政入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.市場と政府の役割 2.財政の 3 機能 3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性 4.経済安定化機能(2):需要と景気 5.経済安定化機能(3):政府の景気対策① 6.経済安定化機能(4):政府の景気対策② 7.所得再分配(1):再分配の必要性 8.所得再分配(2):再分配の方法 9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差 10.資源の効率的配分(1):需要と供給 11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム 12.資源の効率的配分(3):市場の失敗 13.租税(1):租税三原則 14.租税(2):所得税と消費税① 15.租税(3):所得税と消費税②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20330001
科目名	情報社会 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、情報技術・システム・産業・機器・生活からふれ、情報化が社会生活に及ぼす影響、情報機器の発達と生活意識様式の変化について概略する。コンピュータ情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化により、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を述べる。情報化社会の情報と個人、職業・教育について理解し、自己のあり方生き方と職業を考える。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	京学なびから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20440A01
科目名	労働経済論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Economics A		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、それに伴い労働者を取り巻く環境が大きく変化した。企業の業績悪化に伴い、日本の雇用形態の特徴である終身雇用や年功序列型賃金が見直され、また近年は契約社員やパートタイマーなどの非正規雇用の増加が観測される。さらに日本の総人口が減少を始め、少子高齢化による労働力の確保が必要とされる。労働経済学の授業では、雇用や賃金、失業の決定などを理論的に解説し、現在の我が国で観測される問題を考察する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	太田 聰一・橘木 俊詔「労働経済学入門 新版」有斐閣(2012/2)		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題 10%、中間試験 20%、期末試験 70%		
到達目標	我が国の雇用および労働市場を取り巻く問題を理解する。		
準備学習	新聞やニュースなどを通じ、我が国や諸外国の労働市場で観測される問題に関心を持つこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。
・労働経済論 B も受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.労働経済学とは(1)働くことの意味
2.労働経済学とは(2)工業化と、それに伴う労働形態の変化
3.労働経済学とは(3)雇用者と自営業
4.賃金と雇用(1)労働需要
5.賃金と雇用(2)労働供給
6.我が国の現状(1)経済成長率、インフレ率、失業率
7.我が国の現状(2)出生率、高齢化率、政府債務残高
8.賃金格差(1)教育と生産性
9.賃金格差(2)企業内訓練と生産性
10.賃金格差(3)賃金交渉、効率賃金仮説
11.教育・訓練の効果(1)教育の役割
12.教育・訓練の効果(2)企業内訓練
13.離職(1)離職のメカニズム
14.離職(2)若年の離職
15.非正規雇用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20440B01
科目名	労働経済論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Economics B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、それに伴い労働者を取り巻く環境が大きく変化した。企業の業績悪化に伴い日本の雇用形態の特徴でもある終身雇用や年功序列型賃金が見直され、また近年は契約社員やパートタイマーなどの非正規雇用の増加が観測される。さらに日本の総人口が減少を始め、少子高齢化による労働力の確保が必要とされる。労働経済学の授業では、雇用や賃金、失業の決定などを理論的に解説し、現在の我が国で観測される問題を考察する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	太田 聰一・橘木 俊詔「労働経済学入門 新版」有斐閣(2012/2)		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 70%		
到達目標	我が国の雇用および労働市場を取り巻く問題を理解する。		
準備学習	新聞やニュースなどを通じ、我が国や諸外国の労働市場で観測される問題に関心を持つこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。
・労働経済論 A を受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.賃金と雇用の決まり方の復習
2.失業(1)我が国の失業率の推移
3.失業(2)失業発生のメカニズム
4.失業(3)失業対策
5.若年の雇用(1)平成不況と若年失業
6.若年の雇用(2)若年失業の問題①
7.若年の雇用(3)若年失業の問題②
8.若年の雇用(4)若年失業解消に向けて
9.女性の雇用(1)女性の就業と M 字カーブ
10.女性の雇用(2)統計的差別
11.女性の雇用(3)男女共同参画社会
12.高齢者の雇用(1)我が国における高齢化の現状
13.高齢者の雇用(2)定年の延長と高齢者の雇用
14.高齢者の雇用(3)高齢化と技能継承問題
15.高齢者の雇用(4)高齢者の雇用に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20478001
科目名	企業金融論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics for Business		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	企業金融は金融論の一分野であり、とくに企業の資金調達の方法を中心に学ぶ。 具体的には、資金調達の方法である株式発行と社債発行に大別し、それぞれに関連した分析方法を学ぶ。分析方法を学ぶ際には、主に計算を通じた算定を行うので、数学や数式に抵抗を感じるかもしれない。しかしながら、電卓で計算できる簡単な設定から学ぶ予定なので、心配はない。 本講義では、企業金融における基本的な考え方を理解し、確認することを目的としている。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	平常点(20%)；複数回のレポート等による。 定期試験(80%)。		
到達目標	証券市場や金融市場について理解する。 企業金融における理論や技法の基礎的知識を習得する。		
準備学習	各回のレジュメを事前に「京学なび」にアップロードするので、講義前に目を通しておくこと。 証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 自分の好きな企業の経営方針、事業内容および財務情報等を学期中に調査すること。 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。		

受講者への要望

授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。
電卓を毎回持参すること。

講義の順序とポイント

1. 企業金融輪なぜ学ぶか
2. 金融市場の役割
3. 財務諸表の基礎と企業の資金調達手段
4. 企業の資金調達 - 株式発行
5. 財務諸表の分析 ① - 収益性
6. 財務諸表の分析 ② - 財務安全性と成長性
7. 株式分析 - 配当割引モデル
8. 株式分析 - ポートフォリオ分析 ①
9. 株式分析 - ポートフォリオ分析 ②
10. 株式分析 - マーケット・モデル
11. 株式分析 - 資本資産価格評価モデル（CAPM）
12. 企業の資金調達 - 社債発行と証券化
13. 債券の価格と利回り ①
14. 債券の価格と利回り ②
15. まとめ： 演習の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20523001
科目名	家計金融論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics for Household		
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
講義概要	こだわりのライフスタイルがもてはやされる時代。 好きなように生きるのは個人の自由ですが、そこには「自己責任」の認識を持たなければなりません。 得をするのも損をするのも、自分の選択した「ライフプランニング」の巧拙で大きく変わります。 実社会では現実に「知っている人は得をして、知らない人は損をする」ことが起こります。 この講座では、上手なライフプランの実現に必要な知識となるファイナンシャルプランニングを学びます。 金融商品･年金･保険･税金や実現の前提となる金融や経済情勢を、家計簿やチラシの見方、ポイントカードなど日常生活の身近な事例から解説していきます。 人生 80 年、あなたのこれからの人生で、いくらの生活資金が必要でしょう？また、いくら準備できますか？ 全て、この視点を持って講義に参加してください。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適時プリントを配布する。		
教材（参考文献）	日々の新聞（新聞名は問わない）　朝刊・夕刊・曜日版など		
教材（その他）	学生生活マネー＆キャリアハンドブック（日本 FP 協会） その他プリントを適時配布		
評価方法	授業中に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%）		
到達目標	最終目標は、生涯に必要となる資金計画を具体的に把握し、 そのために必要な手立てが行なえる能力を身につけるレベルです。 全ての講義回はそのための基本知識です。		
準備学習	新聞等経済ニュースには目を通すように。 特に、自分の生活に直結する『金銭・データ』は、メモをしておくように。 毎回の授業最初に行う確認テストにおいて、質問を行ないます。		

受講者への要望

各回の講義内容は難しいものではありません。
「面白そう」「ためになりそう」など履修動機は問いませんが、成績は、公表している評価方法により厳密に判定します。

経済状況を知る上で、新聞は必読です。購読が無理でも図書館で確認してください。
日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。
半期続ければ、今後の展開に自分なりの意見が持てるようになります。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.ライフプランニング①（一生涯に必要な金額）
3.ライフプランニング②（ライフイベントに必要となる金額）
4.ライフプランニング③（社会保険制度の仕組み）
5.ライフプランニング④（年金制度の概要）
6.保険の知識①（生命保険の仕組み）
7.保険の知識②（損害保険の仕組み）
8.金融商品①（経済状況と金融の関連性）
9.金融商品②（各金融機関の特性と金融商品）
10.金融商品③（主な金融商品の知識）
11.金融商品④（投資型金融商品の知識）
12.不動産の知識①（不動産関連法規）
13.不動産の知識②（不動産の活用と税金）
14.生活に関連する税の知識①（所得税の仕組み）
15.生活に関連する税の知識②（消費税、相続・贈与税）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20565001
科目名	情報処理技術 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing Technology		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	社会人には、一定の情報に関する知識と情報技術が求められている。データの特徴に応じた情報の整理・分類、必要に応じた表・グラフの作成、さらに、業務・処理フローを把握し、改善を加え、情報処理が行える情報技術である。これら、知識・技術を習得するための講座である。		
教材（テキスト）	なし　各講義で資料をネットワークから配布する。		
教材（参考文献）	教材から指示する。		
教材（その他）	ネットワークから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況と提出物（40%）等,e-learning により課す課題評価（60%）		
到達目標	社会人として必要なコンピュータ操作が行え、機能を把握し、データから表・関係データベースを作成し、業務に活用できる。		
準備学習	新技術・機器等の推移を知ることを心がけ、情報関連機器等に用いられている技術等を調べ、概要を把握する。また、関連するソフトウエアは単純な例を用い、実際に使用し、特性等を理解しておく。		

受講者への要望

能動的な姿勢で課題に取り組むことを期待する。

講義の順序とポイント

1.講義の概要、e-learning の進め方
　セキュリティ問題と対策
　　セキュリティと暗号技術、ディジタル署名
　システムの信頼性、ネットワークの接続と信頼性
2.基本的なデータ構造
　各種データ構造の特徴
　線形構造と木構造、表・スタック・キュー・2 分探索木
　表計算
　　表計算を使った集計・統合処理および検索・抽出処理
3.SQL 文から見たデータベース
　　テーブル作成からサブクエリ
4.データベース
　データベースの種類と特徴
　ファイル 正規化演習
5.リレーショナルデータベース
　構造と正規化、設計
6.データベースを使ったデータ処理（1　正規化作業）
　データ整理、集計、分析
7.データベースを使ったデータ処理（2　Select 文の基本）
　データ整理、集計、分析
8.データベースと SQL（1　データ処理演習）
　SQL 言語による操作
　　問い合わせ、副問い合わせ
9.データベースと SQL（2　流れのある処理）
　SQL 言語による定義・生成と修正
　　表の設計、表・ビューの定義
10.データベースの設計・利用
　　演習　ＳＱＬ操作理解確認演習
11.SQL によるデータベースの定義・利用
　　演習　SQL・データベースまとめ課題
12.スクリプト(java)
　スクリプト記述の基本

基本処理手順のスクリプト記述 13.スクリプトと基本アルゴリズム 連接・繰り返し・判断 イベント処理 14.基本的なアルゴリズム 並べ替え処理と記述、関数作成・割り込み スクリプト演習：バブルソート 15.総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20566001
科目名	情報社会と経済 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Enocomics		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	20 世紀末に情報通信技術分野のイノベーションにより、世界各国で「工業社会から情報社会」への進化」が加速してきた。日本の経済や個人の生活の枠組みはこの IT 革命と呼ばれているイノベーションと同期するスピードで変わり始め、その先には「進化する高度情報社会」が到来しようとしている。これからの高度情報社会では、生活や経済がどのように さらに変化していくのでしあろうか？ 21 世紀の情報社会ではこれまでの工業社会では経験できなかった新しい事業形態や製品が創発されてきている。その結果、経済活動に大きな影響力のある銀行・証券などの金融業界をはじめ、製造業、農業、個人生活のインフラである交通、エネルギー、流通、さらには行政、教育、サービス等のあらゆる分野で変化がおこりつつある。 本講義は、①この IT 革命を引き起こした技術イノベーションはどのようなものなのか？ ②IT イノベーションによって各分野でどのような変化がおこっているのか？ を考察し、暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、その結果、これからの私たちの「経済活動」すなわち「暮らし」はどのように変化していくのか推測する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に適時指示する		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+「平常点」(30%)		
到達目標	IT イノベーションよる暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、これからの高度情報化社会での「経済活動」すなわち「暮らし」はそのように進化するのか等の知見の習得。		
準備学習	情報社会になって「新しく創出された事業は各業界でどのような例があるか？」、あるいは「インターネットバンキング」、「電子マネー」など工業社会での事業携帯の違いを予習しておくこと。		

受講者への要望

1. 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1. 講義の内容と進め方について
2. 工業社会から情報社会へ （産業革命から IT 革命）
3. IT 革命を引き起こした技術イノベーション
4. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(1) ノイマン式コンピュータの開発
5. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(2) 情報通信技術の進歩（インターネット）
6. IT 革命を引き起こしたキーテクノロジー(3) 半導体の発明と開発競争（集積技術、量産技術）
7. 情報社会を創発したグローバル企業 （インテル、モトローラ、ノキア、マイクロソフト、アップル）
8. 情報社会で創業した企業（グーグル、フェイスブック、楽天、ヤフー等）
9. 情報社会での企業の技術経営
10. 情報社会での新しい事業(1) モバイルフォン
11. 情報社会での新しい事業(2) 電子商取引
12. 情報社会での新しい事業(3) 電子マネー
13. 情報社会での既存業界における新しい事業形態 （金融（銀行、証券)、小売り（百貨店、スーパー、書店）等）
14. 情報社会が経済に与える影響
15. これからの高度情報社会での暮らしと経済

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★★	★	★	-

年度	2016	授業コード	T20569001
科目名	Ｗｅｂ技術応用 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Web Technological Application Theory		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	Web アプリケーションを構築するために必要な機能を解説し、Web ページ作成と効果的な Web ページ技法の修得をねらいとする。ホームページを記述する HTML 言語、またホームページ作成ソフトを用いてホームページを作成し、HTML の構造・特徴、運用上必要な事項、スクリプトによる動的なページの作成について説明する。インターネット技術の多様性と Web 技術を体系的に学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料をネットワークドライブから配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ネットワークドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	授業中に課す課題（70%）および課題 Web ページ作成（30%）により評価する。（課題 Web ページ作成は必修）		
到達目標	目的に応じた Web ページの製作が行え、効果的な情報発信が行える。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、Web ページ記述言語等の仕様の推移を調べ、追加された事項等を把握し、可能ならば試用する。試用できない場合は、仮記述を講義時に確認することとし、記述のみを行う。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

１．ホームページとインターネット
　インターネット技術の多様性
２．ホームページ閲覧ソフト、公開ソフトの解説
　Web アプリケーションを構築するために必要な機能
３．ホームページ作成ソフトと HTML の解説
４．タグを用いたページの作成
　基本的なタグの解説、画像を含むページの作成
５．ページ間リンク記述
演習：基本的なタグ、各種リンクタグの適用
６．ページの公開
　ウエブサーバ機能の解説
演習：サイト管理
７．ホームページ作成ソフトを用いたページの作成
　スタイルシートと適用
演習：スタイルシートの作成と適用
８．フレームを持つページの作成、各種リンクの作成
演習：フレームを持つページの作成
９．マルチメディアの組み込み
演習：マルチメディアを含んだページの作成
１０．HTML とスクリプト
　スクリプトの基礎、HTML の生成、マウス処理
演習：スクリプトによる動的なページの作成
１１．フォームとスクリプト処理
　フォームとスクリプトの利用、データベースの利用
演習：データベースとの連携
演習：アンケートページの作成
１２．情報モラルについて
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、
プライバシーの保護
１３．既存資料から Web ページの作成 （携帯端末の利用）

演習：既存資料から Web ページの作成 １４．Web ページの作成と提出 演習：課題 Web ページ作成 １５．Web ページの作成と提出 演習：Web ページの改善

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T20570A01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅠ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Planning Ⅰ		
担当者名	岡本　久嗣	旧科目名称	
講義概要	本講義はＦＰの基礎である不動産運用設計、金融商品設計、保険、リタイヤメントプランニングの基礎を学習する。また、春学期の「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ資格の認定講義となっているため、本講義の位置づけはそれらの科目と同様にＦＰ資格取得を目指す講義としたい。		
教材（テキスト）	『ファイナンシャル・プランニング入門　第 2 版』(日本 FP 協会)および、「FP 基礎」学習時のテキストとして、『FP 総論』（日本 FP 協会）		
教材（参考文献）	宮口定雄『税務ハンドブック　平成 28 年度版』パーソナル社、『3 級 FP テキストⅠ・Ⅱ　2016～2017 年度版』　FPK 研修センター		
教材（その他）	問題集の使用を予定		
評価方法	レポートの提出を義務づける。そのレポートの内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	難易度を高く設定はしないが、FP としての基本を理解し、AFP 資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者への要望

春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)

講義の順序とポイント

1　ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味
2　FP の社会的役割
3 社会的責任とコンプライアンス
4 不動産の見方
5 不動産の動向と分析
6 金融・経済の知識
7 最近の金融動向
8 利回り計算と割引現在価値
9 株式と債券
10 投資信託
11 金融派生商品
12 生命保険
13 損害保険
14 リタイヤメントプラントと年金問題
15 ファイナンシャルプランニングⅡに向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★★

年度	2016	授業コード	T20570B01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅡ 【他】	単位数	4
科目名（英語表記）	Financial PlanningⅡ		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	税法の改正に伴い、最新の知識を得るため、本講義ではタックスプランニングを基軸としての講義となる。日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。よって「税金の話」だと考えてもらいたい。なお、税金以外の住宅取得、金融商品売買、退職等を含むその他のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（テキスト）	『タックスプランニング』(日本 FP 協会)、『税務ハンドブック　平成 28 年度版』(宮口定雄著・コントロール社)他		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」(平成 28 年度版) 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」は秋学期の「ファイナンシャル・プランニングⅡ」３科目を併せて AFP 認定の講義の要件となっているので、FP 資格に興味のある学生は必ず３科目を同時に履修することをお願いしたい。			
講義の順序とポイント			
1　租税法律主義と税法体系 2　直接税と間接税 3　申告納税方式と賦課課税方式 4　所得税の概要と仕組み 5　利子所得 6　配当所得 7　不動産所得 8　事業所得 9　給与所得 10　退職所得 11　山林所得 12　譲渡所得 13　一時所得 14　雑所得 15　非課税所得 16　相続税① 17　相続税② 18　相続税③ 19　贈与税① 20　贈与税② 21　金融商品売買に関わる税金① 22　金融商品売買に関わる税金② 23　不動産に関わる税金① 24　不動産に関わる税金② 25　不動産に関わる税金③ 26　公的年金等の税金① 27　公的年金等の税金②			

28	公的年金等の税金③
29	実例の考察①
30	実例の考察②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★

年度	2016	授業コード	T20572A01
科目名	情報処理概論 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「コンピュータの歴史」、「ハードウエア、ソフトウエアの基本的構成」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1. 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1. 講義の内容と進め方
2. コンピュータの歴史
3. コンピュータの種類
4. ディジタルとアナログ
5. ハードウエアとソフトウエア
6. 情報の表現　10 進数と 2 進数
7. コンピュータの計算の仕組みー2 進数による計算
8. コンピュータの基本論理回路
9. コンピュータの構成装置(1) 入力装置　出力装置
10. コンピュータの構成装置(2) 制御装置　演算装置　記憶装置
11. コンピュータの情報処理方式(1)　コンピュータシステムと信頼性
12. コンピュータの情報処理方式(2)　集中処理と分散処理
13. コンピュータの情報処理方式(3)　シンプレックス、デュプレックス、デュアルシステム等
14. 情報技術と通信技術の結合
15. これからの情報処理技術

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★★	★	★	-

年度	2016	授業コード	T20572B01
科目名	情報処理概論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を常に習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「OS」、「情報システム」、「ネットワーク技術」、「セキュリティ技術」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1.　講義の内容と進め方
2.　OS について
3.　情報システム（1）　勘定系システム、　POS システム、
4.　情報システム（2）　地理情報システム、図書館システム
5.　情報ネットワークシステム　LAN WAN PAN
6.　電話ネットワークとインターネット
7.　SNS
8.　個人情報
9.　情報社会での知的財産権
10. 反社会的情報
11.　コンピュータウイルス
12. 情報社会での危険
13. 情報倫理とネチケット
14. 企業での情報セキュリティ
15　高度情報社会への発展（暮らしのなかの情報処理）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★★	★	★	-

年度	2016	授業コード	T20573A01
科目名	国際経済学 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済学 A では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればミクロ経済学を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	T20573B01
科目名	国際経済学 B 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済学 B では，まず，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，応用的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．また，別のグローバル化の要因であるヒトやカネの国際移動が経済に当たる影響についても説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の主要な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，生産要素移動の経済に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学と国際経済学 A の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの科目を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. リカード・モデル：絶対優位と比較優位 3. リカード・モデル：生産可能性フロンティア 4. リカード・モデル：相対価格と貿易パターン 5. リカード・モデル：世界市場での相対価格の決定 6. リカード・モデル：自由貿易均衡と貿易利益 7. ヘクシャー=オリーン・モデル：リカード・モデルとヘクシャー=オリーン・モデル 8. ヘクシャー=オリーン・モデル：固定係数モデル 9. ヘクシャー=オリーン・モデル：リプチンスキー定理 10. ヘクシャー=オリーン・モデル：ヘクシャー=オリーン定理 11. ヘクシャー=オリーン・モデル：ストルパー=サミュエルソン定理 12. ヘクシャー=オリーン・モデル：要素価格均等化定理 13. 生産要素の国際移動：国際間の資本移動とは 14. 生産要素の国際移動：リカード・モデルにおける労働移動の効果 15. 生産要素の国際移動：2 生産要素モデルでの資本移動の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★★

年度	2016	授業コード	T20574A01
科目名	福祉社会論 A 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。 そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本における労働のあり方、さらには少子化、高齢化の要因とその影響について考察することを通じて、来たるべき「福祉社会」を展望したい。 なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹『高齢社会と福祉社会』高管出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解し、今後のわが国の社会のあり方について考える視座を得ること。		
準備学習	・日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

1．少子化と高齢化
2．労働時間の短縮　（参考文献の第３章）
3．労働と自由時間　（同上）
4．わが国の勤労観　（同上）
5．自由時間の意識と活用形態　（同上）
6．無償労働と自由時間の使途　（同上）
7．少子社会の問題　（参考文献の第４章）
8．少子化の趨勢　（同上）
9．　「近代」の原理と人口動態　（同上）
１０．社会保障の限界　（同上）
１１．少子化対策の種類と各国の少子化対策　（同上）
１２．近代の精神　（参考文献の第５章）
１３．自由主義の構想と資本主義の内在的諸問題　（同上）
１４．福祉国家の誕生と経済社会問題　（同上）
１５．福祉国家批判と福祉社会の展望　（同上）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20574B01
科目名	福祉社会論 B 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。 そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本が抱える諸問題について、年金、医療、介護といった社会保障の各分野との関連において多角的に検討し、来たるべき福祉社会を展望したい。 なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	(1)足立正樹『高齢社会と福祉社会』高管出版 (2)社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解し、今後のわが国の社会のあり方について考える視座を得ること。		
準備学習	・日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方と講義の概要：「福祉」とは
2．国民生活と社会保障
3．少子・高齢社会の到来①　（参考文献(1)の第 1 章）
4．少子・高齢社会の到来②　（同上）
5．社会保障の誕生　（同上）
6．社会保障の普及　（同上）
7．日本の社会保障　（同上）
8．高齢化と医療保障　（同上）
9．高齢化と年金問題　（同上）
10．介護問題登場の背景　（参考文献(1)の第 2 章）
11．四種類の介護供給システム　（同上）
12．わが国の介護保障システムの展開　（同上）
13．公的介護保険の構造と問題点　（同上）
14．介護保険の 2005 年改正とその後の展開　（同上）
15．福祉国家から福祉社会へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T20577001
科目名	幸福指標論	単位数	2
科目名（英語表記）	Happiness Index Designing		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	経済的な豊かさだけでなく、現在では心の豊かさや生きる実感がより求められ、結果として幸福に関する関心が高まっています。 人が幸福感を高めることができる社会にするためには、どのような制度設計やソーシャル・デザインが必要なのか。行動経済学や心理学、社会学、マーケティングの知見を総合的に紹介します。 いま世界で行われている幸福のカタチを幸福指標として表現する取り組など、幸福に関するすべてがわかる授業です。		
教材（テキスト）	キャロル・グラハム著　多田洋介訳『幸福の経済学―人々を豊かにするものは何か』日本経済新聞出版社 2,160 円		
教材（参考文献）	山田昌弘＋電通チームハピネス『幸福の方程式』ディスカヴァー携書　1,080 円		
教材（その他）	パワーポイントを授業時に配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●2000 年代から論じられている「幸福論」の切実な議論を理解し、これからの社会に求められている社会のデザインに重要な指標であることを理解する ●幸福論や行動経済学で論じられている主要な学説や論点を理解する ●各国や自治体が作成している幸福指標の考え方と内容について理解する		
準備学習	次回の授業に関連する資料を事前に配布しますので、事前に資料を熟読することを求めます		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 幸福論ブームの現状
2. 幸福論の系譜　アリストテレスから行動経済学まで
3. 日本における幸福感の変遷
4. 幸福の種類
5. プロスペクト理論
6. 幸福と経済の関係
7. 幸福と労働との関係
8. 消費と幸福の関係
9. 各国の幸福指標の取り組み　OECD、ブータン、日本、フランス、イギリス
10. 幸福と不況や災害
11. コミュニティの力
12. ナッジ（選びたい選択を選ぶことが社会を良くすることになるしかけ）
13. SNS を社会の幸福に役立てる
14. 京都の幸福指標　京都幸福宣言
15. 幸福指標を政策に適用することの是非

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30052A01
科目名	ブランド・マネジメント論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Brand Management I		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	デヴィッド・アーカー教授のブランド・エクイティ論を中心に学びます。 ９０年代以降にブランド論が登場した背景や、ブランド論によって企業の中でマーケティングのポジションがどのように変化したかをたどります。 基本的なブランド・ビルディング、ブランド・マネジメントについて一通りの知識が学べます.		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	アル・ライズ／ローラ・ライズ『ブランディング 22 の法則』東急エージェンシー　1,836 円		
教材（その他）	パワーポイントを授業時に配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●ブランドの基礎知識を網羅的に理解すること ●ブランドを表面的な理解ではなく、本質から理解できること ●ブランドの考え方を様々な社会課題の解決に応用できるようになること		
準備学習	ブランド事例について、資料を事前に配布する場合があるので、その際は事前に資料を購読することを求めます		

受講者への要望

授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. ブランドの起源
2. ブランド・マネージャーの仕事
3. 体験としてのブランド
4. ブランド・エクイティ論
5. ブランド知識
6. ブランド・ビルディングの方法
7. ブランドのメリット
8. ブランド拡張
9. ブランド・コミュニケーション
10. ブランドデザイン
11. ブランドのストーリー
12. 記号としてのブランド
13. ブランド事例研究　飲料におけるブランド
14. インターネット時代のブランド
15. ブランドの応用事例

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30052B01
科目名	ブランド・マネジメント論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Brand Management Ⅱ		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	ブランドによって成功した事例を多数学びます。 マーケティングが経営課題として捉えられ、マスメディアからネットを含んだクロスメディア時代への変遷のなかで戦略的なコミュニケーション戦略としても捉えられています。 ダイナミックなマーケティングの展開の古典的な事例から最新の事例まで、アイデアいっぱいのマーケティングの世界を堪能します。		
教材（テキスト）	パワーポイントを授業時に配布		
教材（参考文献）	熊本県庁チームくまモン『くまモンの秘密　地方公務員集団が起こしたサプライズ』幻冬舎新書 886 円		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●ブランドの応用事例を多数学び、世の中をブランドの体系として見ることができる眼力を養うと共に、ブランドをつくり、マネージできる基礎的なノウハウを身につけます		
準備学習	ブランド事例について、資料を事前に配布する場合には事前に資料を熟読することを求めます。		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. ブランド vs コモディティ商品
2. ブランドとユーザーの高齢化対策
3. サウス・ウエスト航空　優位なバリューチェーンをつくる
4. スターバックス　人の価値観を変える
5. ナイキ　こだわりでブランドを作る
6. 無印良品　シンプルという究極の価値のデザイン
7. ユニクロ　進化を続けるブランド
8. くまモン　拡散させるためのデザイン
9. 三越・伊勢丹グループのブランド戦略
10. 缶コーヒー　競合を制するブランド
11. プレミアム商品のブランド戦略
12. 都市のブランディング
13. 大学のブランディング
14. 日本のブランディング
15. ブランド視点で見た消費社会の将来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30070001
科目名	応用商業簿記 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Bookkeeping for a Commercial Fir m		
担当者名	伊藤　久人	旧科目名称	
講義概要	日本商工会議所簿記検定 3 級程度の実力を前提にして、より実践的な取引の記帳など中級程度の簿記の学習を進めます。日本商工会議所簿記検定 2 級商業簿記のうち、株式会社の会計処理と本支店会計をカバーすることを目指します（各種取引の処理は「商業簿記Ⅱ」でカバーします)。		
教材（テキスト）	1 回目の講義にて使用するテキストを紹介する（購入は必要)。 また、テキストとは別に、レジュメの配布を行う場合もある。		
教材（参考文献）	講義において必要に応じ推薦する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点(取組姿勢)30%、試験 70%		
到達目標	1. 複式簿記の意義と特徴を理解している 2. 中規模企業の資金調達（株式および社債の発行）取引の記帳ができる 3. 本支店合併財務諸表を作成できる		
準備学習	1. テキスト等において事前に目を通してください 2. 講義で指示された課題を解いて、次回の講義に臨んでください 3.　講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください		

受講者への要望

1. 原則として、「商業簿記Ⅰ」の単位取得者または日商簿記 3 級合格者が対象です。 「商業簿記Ⅱ」との同時履修を強く勧めます。
2. 簿記の基礎知識がない人は、「入門簿記」または「簿記原理」を履修してください。
3. 自分の理解度を確認するために、また、就職活動の一助とするために、日商簿記検定への挑戦を勧めます。
4. 講義を欠席すると、その後の理解に著しい支障が出る恐れがあります。欠席する講義のフォローは必ず行ってください。

講義の順序とポイント

Ⅰ商業簿記Ⅰの復習
1．簡単なテスト（成績には関係ありません）と講義概要の紹介（商業簿記Ⅱとの違い）
2．商業簿記Ⅰの復習

Ⅱ商業簿記Ⅰから応用商業簿記へ
3．株式会社の会計（その１）：株式会社の設立
4．株式会社の会計（その２）：増資
5．株式会社の会計（その３）：剰余金
6．株式会社の会計（その４）：利益の処分/損失の処理
7．株式会社の会計（その５）：社債(1)
8．株式会社の会計（その６）：社債(2)
9．株式会社の会計（その７）：株式会社会計の総復習
10. 本支店会計（その１）：本支店会計の意義と連結財務諸表
11. 本支店会計（その２）：本支店間の取引
12. 本支店会計（その３）：未達事項
13. 本支店会計（その４）：内部取引と内部利益の控除
14. 本支店会計（その５）：本支店合併財務諸表
15. 本支店会計（その６）：本支店会計の総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	★

年度	2016	授業コード	T30101001
科目名	人材ポートフォリオ論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	企業と人材
講義概要	産業構造が変化し、企業活動も変革をもとめられているが、その中で企業と人材の関係も大きく様変わりしてきている。また、行政機関、大企業、中小企業、ベンチャー企業等、企業形態や企業文化による違いを理解する。 どういった人材を採用育成し､」能力を最大限に発揮させるかは､経営者にとって重要な課題であることに着目し、企業における人材ポートフォリオを実例とともに学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメプリントを配布する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト(50%）		
到達目標	企業にとっての人材の重要性を知り、企業内ポートフォリオのありかたについて自ら考える力をつける。		
準備学習	日常的に企業と人材に関わる事柄に興味をもち、ニュース等で最新の情報を得る努力をすること。		
受講者への要望			
他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業に参加してもらいたい。 やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。			
講義の順序とポイント			
1. 人材をめぐる動向 2. 人材ポートフォリオとは何か 3. 経済の変化と人材の変化 4. 日本型雇用の変化 5. 新しい雇用形態と就労形態 6. 人材サービス業の変遷 7. 大企業における人材 8. 中小企業と人材 9. ベンチャー企業と人材 10. 行政機関と人材 11. ポートフォリオの新しい考え方 12. コンピテンシー 13. 企業内起業家の育成 14. 評価制度の功罪 15. 人材をめぐる課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30113A01
科目名	京都の観光産業Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Tourism Industry in Kyoto I		
担当者名	櫻井　正明	旧科目名称	
講義概要	世界での「観光」の重要性を理解し、我が国の取組や地域での取り組み、観光関連産業などを考察するので、「京都の観光産業」を念頭に置きつつ、主として「国際観光」についての講義となる。 パワーポイント・スライドを中心とした講義形式とし、授業ごとにプリント資料を配布する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	ISBN978-4-86579-029-0　C3033 『観光白書　平成 27 年版』　観光庁編　日経印刷株式会社		
教材（その他）	授業ごとの配布プリント		
評価方法	授業取組状況（授業中課題ミニッツレポート、受講態度）　20% 期中でのレポート（1 課題 1500 字以上のレポート提出 1 回）　20% 期末での定期試験　60% 出席カードリーダーの不正使用は 3 回で授業取組状況配点を 0 点とする。		
到達目標	京都市の取組事例も見ながら現代社会における「観光の重要性」を理解する。		
準備学習	新聞やテレビなどのメディアによる「観光関連情報」を確認し把握すること。		

受講者への要望

観光を総合的に理解する意欲を持って受講すること。

筆記具、ノートを持って教室に入る事。
私語厳禁、教室内飲食厳禁、教室内脱帽すること。　　他学生の受講への迷惑行為と認められた者は退室させる。

講義の順序とポイント

1．この科目の履修ガイダンス（講義概要、評価方法、受講者への要望など）
2．観光とは
3．現代における観光の意義
4．観光の歴史
5．観光の現況と課題―国内観光（京都市の事例を含む）
6．観光の現況と課題―海外観光
7．観光の現況と課題―訪日外国人観光（京都市の事例を含む）
8．観光資源―世界の観光資源、京都市の観光資源
9．地域社会の観光振興（京都市の取組事例を含む）
10.旅行産業
11.交通産業
12.宿泊産業
13.テーマパーク産業
14.クルーズ産業
15.まとめ―観光産業のこれから

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30113B01
科目名	京都の観光産業Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Tourism Industry in Kyoto Ⅱ		
担当者名	櫻井　正明	旧科目名称	
講義概要	日本の観光政策、国と自治体、京都市の事例を含めて講義する。また観光マーケティングについて旅行産業、航空産業、宿泊産業など産業別に学ぶ。 パワーポイント・スライドを中心とした講義形式とし、授業ごとにプリント資料を配布する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	『観光白書』　各年度版　観光庁編		
教材（その他）	授業ごとの配布プリント		
評価方法	授業への取組状況（授業中課題ミニッツレポート、受講態度）　20% 期中でのレポート（1 課題 1500 字以上のレポート提出 1 回）　20% 期末での定期試験　60% 出席カードリーダーの不正使用は 3 回で授業取組状況配点を 0 点とする。		
到達目標	国、自治体の観光政策、観光関連産業の事業取組みでの「マーケティング」の基本について理解を深める。		
準備学習	新聞やテレビなどメディアによる「観光関連情報」を確認し把握すること。		

受講者への要望

観光を総合的に理解する意欲を持って受講すること。

筆記具、ノートを持って教室に入ること。
私語厳禁、教室内飲食厳禁、教室内脱帽である。　他学生の受講への迷惑行為と認められた者は退室させる。

講義の順序とポイント

1．この科目の履修ガイダンス（講義概要、評価方法、受講生への要望など）
2．世界での観光事象データの解説
3．日本の観光政策の歩み
4．現在の日本の観光政策
5．観光マーケティングの理論　①
6．観光マーケティングの理論　②
7．地方自治体のマーケティング概説
8．地方自治体のマーケティング―京都市の事例①
9．地方自治体のマーケティング―京都市の事例②
10.旅行産業のマーケティング
11.航空産業のマーケティング①
12.航空産業のマーケティング②
13.宿泊産業のマーケティング
14.テーマパークのマーケティング
15.14 回にわたる講義の総括～観光の意義と京都市の観光政策を中心に～

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30140001
科目名	経営学史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Management Theories		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	学説の流れを学ぶことを通して、いかなる経営課題に対して先人はどのように取り組んだかを理解する。経営学は課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは異なってくる。よって、この講義においては、多角的視点の涵養と温故知新につながると捉えている。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。
＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。（テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等）
2.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。
3.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。（メイヨー、レスリスバーガー、等）
4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。
5.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。（バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等）　　中間課題 について。
6.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。
7.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等。（ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等）
8.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
9.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。（ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等）
11.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。
12.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。
13.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。　　期末課題について。
14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。（チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等）
15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★

年度	2016	授業コード	T30150A01
科目名	経営管理論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management I		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	企業の存続と崩壊の要因は何であろうか。その一つの要因は経営管理であり、その善し悪しである。管理されない存在を強調する文献を含み実に多くの文献が管理に焦点を当てている。本講義は、企業はいかなる課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかについての実例および理論・学説を通して『管理とは何か』に接近する。 　経営諸資源と関連付けて企業の全体的な仕組みを説明することになるので、講義対象となる領域はかなり広い。言い換えると、これから経営学を学ぼうとする者にその全体像を提示するという構成になっており、基礎的な内容で話を進めることになる。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.企業の形態と株式会社、上場や非上場①。
2.企業の形態と株式会社、上場や非上場②。
3.利益の源泉と投資、財務諸表の見方、金融機関の役割。
4.株主総会、取締役会、監査役会の法律上の関係。
5.コーポレート・ガバナンス： 日本における特徴、アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴①。中間課題について。
6.コーポレート・ガバナンス： 日本における特徴、アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴②。中間課題について。
7.組織と個人、ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織①。
8.組織と個人、ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織②。
9.労働基準法（36 協定、労働時間、割増賃金を中心にして）①。
10.労働基準法（36 協定、労働時間、割増賃金を中心にして）②。
11.人事管理論　遅い昇進、新卒採用、長期雇用、企業別組合①。
12.人事管理論　遅い昇進、新卒採用、長期雇用、企業別組合②。期末課題について。
13.モチベーション理論。期末課題について。
14.若年労働市場の現状と課題①。
15.若年労働市場の現状と課題②。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★	★

年度	2016	授業コード	T30166A01
科目名	経営組織論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory I		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，個人はそのような組織を自ら形成したり，あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在しているが，個人が生活を営んでいく上では，これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって，個人がより良く生きていくためには，組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は，そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているが，経営組織論Ⅰでは，組織の特徴と組織における個人に関して基本的な点を理解することを目的としている。 また，本講義を通して，企業組織に参加する自分をイメージしてもらい，現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に、教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	バーナード著，山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社，1968 年。 その他，必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 「個人」、「組織」および「個人と組織との関係」とはどのようなものであるのかを理解する。 2. 個人はなぜ組織に入り、そこで活動を続けるのかという個人の行動原理を理解する。 3. 組織の立場から管理者は個人に対してどのような役割を果たすべきかということを理解する。		
準備学習	1. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 2. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 3. 日常において組織と個人の関係に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

1．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
2．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 経営学における組織論の展開
3. 組織における個人の捉え方
4. 組織の定義と成立条件①
5. 組織の定義と成立条件②
6. 公式組織と非公式組織・組織の起源と成長
7. 組織の専門化と組織形態
8. 前半のまとめと理解度の確認 （小テストを予定）
9. 個人の行動原理と組織の行動原理
10. 組織の均衡① -誘因の方法-
11. 組織の均衡② -説得の方法-
12. 組織における権限の理論
13. 組織の道徳的側面
14. 組織における意思決定と人間の合理性
15. 経営組織論Ⅰの講義を通して学んだこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	-	★

年度	2016	授業コード	T30194A01
科目名	工業簿記Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Factory Bookkeeping I		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	本講義は、製造業において実施される工業簿記および原価計算の基本知識を身につけてもらうことを目的としています。日商簿記２級工業簿記程度の内容を扱います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著「工業簿記・原価計算の基礎　第３版」税務経理協会		
教材（参考文献）	岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記講義２級工業簿記」　中央経済社 岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記ワークブック２級工業簿記」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 100%		
到達目標	工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけること。		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
学習内容を定着させるために、講義終了後、問題集を利用して学習した内容を繰り返し演習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　工業簿記とはなにか 第２回　原価計算の手続きと工業簿記の構造 第３回　材料費の計算（１） 第４回　材料費の計算（２） 第５回　材料費の計算（３） 第６回　労務費の計算（１） 第７回　労務費の計算（２） 第８回　経費の計算 第９回　製造間接費の計算（１） 第 10 回　製造間接費の計算（２） 第 11 回　個別原価計算（１） 第 12 回　個別原価計算（２） 第 13 回　総合原価計算（１） 第 14 回　総合原価計算（２） 第 15 回　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30194B01
科目名	工業簿記Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Factory Bookkeeping Ⅱ		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	本講義は、製造業において実施される工業簿記および原価計算の基本知識を身につけてもらうことを目的としています。日商簿記２級工業簿記程度の内容を扱います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著「工業簿記・原価計算の基礎　第３版」税務経理協会		
教材（参考文献）	岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記講義２級工業簿記」　中央経済社 岡本　清・廣本敏郎（編著）　「新検定　簿記ワークブック２級工業簿記」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 100%		
到達目標	工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけること。		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
学習内容を定着させるために、講義終了後、問題集を利用して学習した内容を繰り返し演習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　　原価計算総論・「工業簿記Ⅰ」の確認 第２回　　部門費の計算（1） 第３回　　部門費の計算（２） 第４回　　部門別個別原価計算 第５回　　単純総合原価計算・組別総合原価計算 第６回　　等級別総合原価計算 第７回　　工程別総合原価計算 第８回　　仕損・減損の処理 第９回　　連産品の原価計算・副産物の処理 第10回　　標準原価計算（１） 第11回　　標準原価計算（２） 第12回　　標準原価計算（３） 第13回　　直接原価計算（１） 第14回　　直接原価計算（２） 第15回　　工場会計の独立 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30196001
科目名	広告ビジネス論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Advertising Business Studies		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	「説明」ではなく「説得」のビジネスとしての広告ビジネスへの理解を学びます。 広告メッセージの作り方を知るためのコンセプトづくりの技術、伝える相手（ターゲット）に有効に伝えるために徹底的にターゲットを研究する手法としてのセグメンテーション(細分化)とポジショニング、買ってもらうためのコミュニケーションから買い続けるためのコミュニケーションを提唱するブランド論、そしてインターネットが登場して以降のオムニチャネル対応など、広告の有効性と限界、その特性について学びます。 普段何気なく見ている広告の裏にも緻密な戦略や企画、アイデアがあることを知り、面白さを追求しただけに見える広告コミュニケーションにも単なる思い付きではなくビジネスとしての厳しい戦略性、コスト意識、リスクテイクを求められていることを学びます。		
教材（テキスト）	岸志津江・田中洋・島村和恵『現代広告論　新版』有斐閣アルマ 2,268 円		
教材（参考文献）	電通「日本の広告費」　電通ホームページ		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●広告の裏にあるビジネスとしての広告業を理解する ●アイデアを提案するためのロジックが使えるようにする ●社会課題のソリューションとしての広告ビジネスの現状を理解する		
準備学習	テレビ広告を話題にすることが多いので、意識的にテレビ広告を見るようにしてください		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 広告コミュニケーションとは　広告の種類と機能
2. 広告ビジネスの流れ　オリエンから媒体計画まで
3. マーケティング調査
4. 広告戦略の構築
5. コンセプトと広告表現
6. 杉山登志の広告
7. 広告表現の分析
8. テレビ広告のトレンド１　1980 年代の広告
9. テレビ広告のトレンド２　1990 年代の広告
10. テレビ広告のトレンド３　2000 年代の広告
11. インターネット時代の広告
12. ビッグデータの時代
13. イベントのプロデュース
14. 広告ビジネスの課題
15.広告のための アイデア発想の手法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30201A01
科目名	国際経営論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Management A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	グローバリゼーション（地球規模化）という言葉が使われだして久しい。企業の活動や観光、はたまた犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。 なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、明治以降の変化はあるし、現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。 そこで「国際経営論 A」ではまず、経済や企業行動を中心におきながら欧米とアジア（特に中国文化圏）との比較をしてみたい。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。 非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。		
教材（テキスト）	長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012 年）		
教材（参考文献）	・上記の教科書を補う教材としては、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上に資料をアップロード　しておきます。 ・「長谷川正の研究室へようこそ」というトップページの中の「講義用資料」→「国際経営論 A」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通しておいて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第１回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて確認をしてください。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（その他）	そのつど、指示します。		
評価方法	ときどき行う小テスト（20%）、期末試験（80%）		
到達目標	世界の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成		
準備学習	教科書の該当箇所を読んでおくことと、上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと		
受講者への要望			
・私語は厳禁する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。 ・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。			
講義の順序とポイント			
０１．はじめに、講義のテーマと方法論 ０２．欧米の経済発展　①科学技術の発展 ０３．欧米の経済発展　②大衆消費社会の到来 ０４．欧米の経済発展　③グローバリゼーション（自動車を例にとって） ０５．マックス・ヴェーバー「倫理論文」その１ ０６．マックス・ヴェーバー「倫理論文」その２ ０７．中国　①秦の始皇帝 ０８．中国　②盛世と呼ばれた時代・清 ０９．中国　③18-19 世紀とヨーロッパ １０．中国　④戦後の経済成長 １１．台湾　①矛盾と分裂の台湾 １２．台湾　②戦後台湾の経済と経営 １３．東南アジアにおける華人 １４．巨大消費市場としてのアジア １５．華人と日本企業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30201B01
科目名	国際経営論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Management A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	グローバリゼーション（地球規模化）という言葉が使われだして久しい。企業の活動や観光、はたまた犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。 なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、明治以降の変化はあるし、現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。 「国際経営論 A」では欧米とアジア（特に中国文化圏）との比較を中心に論じているが、「国際経営論 B」では韓国と東南アジア諸国とインドのそれぞれの文化と産業・経営について論じる。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。 非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。		
教材（テキスト）	長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012 年）		
教材（参考文献）	・上記の教科書を補う教材としては、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上に資料をアップロー ドしておきます。 ・トップページの中の「講義用資料」→「国際経営論 B」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリ　ントアウトし、目を通しておいて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第 1 回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて確認をしてください。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（その他）	そのつど、指示します。		
評価方法	ときどき行う小テスト（20%）、期末試験（80%）		
到達目標	世界の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成		
準備学習	教科書の該当箇所を読んでおくことと、上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと		
受講者への要望			
・私語は厳禁する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。 ・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。			
講義の順序とポイント			
０１．アジアの変貌 ０２．朝鮮半島の歴史 ０３．戦後朝鮮半島の産業と経営 ０４．韓国の財閥（Chaebol チェボル）の経営 ０５．ベトナム社会主義共和国の産業と経営 ０６．タイ王国と華人経営 ０７．マレーシアの経済発展 ０８．シンガポール共和国の経済発展 ０９．インドネシア共和国の歴史と産業　その１ １０．インドネシア共和国の歴史と産業　その２ １１．インドの歴史とヒンドゥー教 １２．インドの産業と経営 １３．アジアと日本企業　その１ １４．アジアと日本企業　その２ １５．アジアと日本企業　その３			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30230001
科目名	商学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、商学を理解するための基礎理論を解説する。より具体的には、①商業の機能および②商業と消費者、小売、卸売の関係を解説する。その主たる問いは、①なぜ社会で商業が必要となるのかであり、②商業は社会でどのように展開されているのかである。 商学は、生産を伴わず販売のみに従事する商業者に注目した学問である。なぜ彼らが利益を得るのか。このような疑問を解くためには自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	石原武政・池尾恭一・佐藤善信（2000）『新版 商業学』,有斐閣　2,100 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①商業の機能を説明することができる。 ②実際の商業者に興味を抱く。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		
受講者への要望			
私語は厳禁。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「分析視座」：簡単なゲームから、商学を理解するための視座を解説する 3.「商業の機能 1」：品揃え概念 1；取引費用を解説する 4.「商業の機能 2」：品揃え概念 2；取引総数最小化の原理を解説する 5.「商業の機能 3」：品揃え形成過程 1；垂直的市場メカニズムを解説する 6.「商業の機能 4」：品揃え形成過程 2；投機と延期の原理を解説する 7.「中間総括」：これまでの理解度を問う記述式試験を行う 8.「消費者の買い物行動 1」：消費者の店舗間選択を解説する 9.「消費者の買い物行動 2」：小売の輪の理論と真空地帯理論を解説する 10.「小売業 1」：小売の機能とその業態を解説する 11.「小売業 2」：マーケティングとの関係を理解するため系列小売店を解説する 12.「卸売業 1」：卸売の機能とその業態を解説する 13.「卸売業 2」：国際貿易との関係を理解するため総合商社を解説する 14.「商業論の今後」：これまでの講義を総括し、最新の展開を解説する 15.「講義の限界」：講義の限界を示し、今後の展望を解説する		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30231A02
科目名	商業簿記Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Bookkeeping for a Commercial Firm I		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	企業の経営活動の記録は複式簿記の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書が作成される。企業が日常的にどのような活動を行っているのかを簡潔な事例で知ることは経営学全般の基礎知識となるし、簿記の技法とその背景にある理論を知ることは、会計領域科目のを理解するための基礎として必要不可欠になる。 実務的には、ほとんどの会計事務はコンピュータ処理されているであろうが、インプットするのは人間の手であり、アウトプットされた会計資料を読み解くのは人間の頭によらざるを得ない。複式簿記に関する技法と理論を理解しておくことが求められるのである。 本講義は、簿記原理を履修済みであることを前提にして、日商簿記 3 級および 2 級商業簿記に対応した問題に対応した演習を中心に進める予定である。 なお、日商簿記検定に挑戦しようと思う学生は、授業では対応できないいくつかの応用問題を各自で挑戦し、解法を理解しておく必要がある。自主的に問題に挑戦し、わからないところを質問する姿勢が重要である。また、キャリアサポートセンターが提供している課外講座の活用も有効である。		
教材（テキスト）	平成 28 年度は出題範囲の見直しが予定されており、それに対応したテキストを開講後に指示する。		
教材（参考文献）	平成 28 年度は出題範囲の見直しが予定されており、それに対応したワークブックを開講後に指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	定期試験(70%)、授業内小テスト(30%)		
到達目標	商業簿記における各種取引の内容を理解し、仕訳と転記ができる 決算の意義を理解し、適切に決算整理事項の処理ができる 簿記の一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している		
準備学習	講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておくこと 講義で指示された課題を解いてきて，次回の講義の開始時に提出すること 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は，講義終了後、あるいは次回の講義までに担当教員に質問すること		

受講者への要望

簿記の習得には日々の積み重ねが最善の方法であり、毎回の講義に積極的に参加し、その日のうちに理解しておくことが何よりも大事である。自分の理解度を確認するためにも日商簿記検定にも挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1 簿記の基本原理(1)：貸借対照表と損益計算書
2 簿記の基本原理(2)：取引と仕訳
3 簿記の基本原理(3)：決算処理
4 現金処理の記帳：現金と当座預金
5 商品売買の記帳(1)：仕入、売上、値引き
6 商品売買の記帳(2)：売掛金、買掛金と貸倒れ
7 手形の記帳(1)：約束手形と為替手形
8 有価証券の取得と売却
9 その他の債権債務(1)：前受金と前払金
10 その他の債権債務(2)：未収金と未払金
11 固定資産の取得と減価償却
12 税金の処理
13 決算整理(1)
14 決算整理(2)
15 総合復習：簿記の機能と学習する意義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30240001
科目名	消費者行動論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Behavior		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	豊かな社会になるにしたがって、消費行動が多様化しています。 消費することで人はどんな喜びを得るのか、なぜ消費するのか、これからどんな消費行動に至るのかを、知覚、関与、動機づけ、欲望、態度などの概念を使って消費行動を読み解きます。 このような時代に消費の未来を見通し、消費や消費者の活動を通して、人間に対する理解を深めます。		
教材（テキスト）	青木幸弘『消費者行動の知識 （日経文庫）』日本経済新聞社 992 円(大きさは新書版です)		
教材（参考文献）	パワーポイントを授業時に配布		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	消費者の行動を通して、人間の活動の目的や達成感を学び、消費とは何かを深く理解する。		
準備学習	消費について関心を高め、世の中のヒット商品や新商品の動向についてアンテナを張ってください		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 消費者とは誰か
2. 消費に至るプロセス　AIDMA から AISAS へ
3. 関与
4. 知覚
5. 動機づけ
6. 情報収集
7. 態度
8. 欲望
9. 記憶と知識構造
10. モノからコトへ　経験経済
11. 意思決定と選択
12. 消費社会からの離脱者 里山資本主義など
13. 第四の消費社会　シェア社会
14. 消費心理の把握
15. 消費行動の本質

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30248001
科目名	情報と職業 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期
の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30252A01
科目名	情報ネットワーク論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Information Network Communi ty I		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	インターネットや携帯端末の技術革新、並びに急速な普及により大量の情報を多様な媒体で自由に得ることができる社会が形成されたため、人々の生活様式にも変化がもたらされている。そのため企業活動や様々な分野でさらなる応用が期待されている。反面ネット犯罪は多様化を極め、犯罪に巻き込まれないための法令遵守や情報倫理に関する知識が必要な社会環境となっている。本講義では社会におけるネットワークの利便性や重要性を認識し、その役割、安全性、危機管理などに活かすことができるスキルを身につけることを目的としている。「Ⅰ」ではネットワークに係る基本的な知識の習得に重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	岸川典昭, 中村雅章, 『現代経営とネットワーク』, 同文舘出版, 2009 村嶋修一, 『ベテランが丁寧に教えてくれるネットワークの知識と実務』, 翔泳社, 2007 Gene, 『ネットワーク構築の基礎』, 毎日コミュニケーションズ, 2009 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（30%）、最終レポート（40%）		
到達目標	・ネットワークの仕組みや活用方法に関する基本的な知識を体系的に修得する。 ・情報化の光と影について理解し、危険に対する抑止力を身につける。 ・通信トラブルへの対応に関するノウハウを身につける。 ・実社会の職場における情報ネットワークスキルの重要性、有意性を理解する。 ・今後のネットワーク活用の方向性を理解する。		
準備学習	マスメディア等の情報から ICT（情報通信技術）に関する最新の動向に注視することを心がけること。ICT の知識は積み重ねが大事なので、毎回配布するレジュメを復習に活用すること。		

受講者への要望

ICT の登場とともに利便性が飛躍的に向上している反面、あらゆる危険性が高まっていることを常に認識しておく必要がある。本講義を通じ社会で役立つネットワークスキルを修得すると同時に、ネット犯罪に巻き込まれないための情報倫理を体得することを目指してもらいたい。所定用紙に「もっと説明してほしいこと」を記述すれば、原則として次回の講義にて解説する。IT 企業経営および地方議会における現場経験者としての講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、理解度および旬な話題の発生等により変更の可能性もある。

1. ガイダンス、情報ネットワークとは
2. ネットワーク技術の歴史
3. ネットワーク機器、身近なネットワーク
4. インターネット通信の基礎
5. WWW（ホームページ閲覧）、DNS（アドレス解決）、メールの仕組み
6. 企業内ネットワーク
7. 情報ネットワーク活用の事例
8. ネットワークのトラブルシューティング
9. ネットワークセキュリティ
10. ネット犯罪に巻き込まれないための法令遵守と情報倫理
11. ネット社会の人権と情報モラルの啓発
12. 情報漏洩対策
13. ネットビジネスと経営戦略
14. 企業活動現場で必要な情報ネットワークに関するスキル
15. これからの情報ネットワーク

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30252B01
科目名	情報ネットワーク論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Information Network Communi ty II		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	情報技術の急激な進歩により社会全体の情報化やネットワーク化が進み、仕事の仕組みや人々の生活様式にも劇的な変革が生じている。情報ネットワークの仕組みや技術革新の状況を知ることにより、私たちの生活にもたらす利便性を高めることができる。反面、こうした技術革新には光と影の部分があり、近年頻発しているネット犯罪から身を守る抑止力を体得することも肝要である。「Ⅱ」では情報ネットワークの応用編として、社会の中でネットワークがどのように利活用されているのかについて理解を深め、変革の動向や可能性、さらに問題点を考えることにより、ネット社会への対応力を高めることに重点をおいている。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	蒲生毅, 『第 4 次情報革命と新しいネット社会』, コモンズ, 2014 駒谷昇一,山川修他, 『情報とネットワーク社会』, オーム社, 2011 村嶋修一, 『ベテランが丁寧に教えてくれるネットワークの知識と実務』, 翔泳社, 2007 Gene, 『ネットワーク構築の基礎』, 毎日コミュニケーションズ, 2009		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（30%）、最終レポート（40%）		
到達目標	・国内外の情報化やネットワーク事情について理解を深める。 ・企業活動や行政における情報化についての知識を高める。 ・情報化の光と影について理解し、危険に対する抑止力を身につける。 ・実社会の職場における情報ネットワークスキルの重要性、有意性を理解する。 ・今後のネットワーク活用の方向性を理解する。		
準備学習	マスメディア等の情報から ICT（情報通信技術）に関する最新の動向に注視することを心がけること。ICT の知識は積み重ねが大事なので、毎回配布するレジュメを復習に活用すること。		

受講者への要望

インターネットの本質や将来性を理解しておくことは今後の社会生活において極めて重要であると考える。よって積極的に情報ネットワークに興味をもって学習に取り組むことを希望する。また、SNS 利用時等における ICT スキル不足に起因するトラブルに巻き込まれないための抑止力となる知識を身につけてもらいたい。所定用紙に「もっと説明してほしいこと」を記述すれば、原則として次回の講義にて解説する。IT 企業経営および地方議会における現場経験者としての講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、理解度および旬な話題の発生等により変更の可能性もある。

1. ガイダンス、現代の情報ネットワーク
2. ネット社会における著作権
3. 情報ネットワーク社会が抱える問題
4. 情報倫理
5. ネットワークと政治システムの変容
6. 行政分野における情報ネットワークの歴史と発展
7. ネットワークの進化とグローバル経済への影響
8. 諸外国の IT 事情
9. 日本の IT 戦略
10. 身近な情報ネットワーク
11. 情報化による地域活性化
12. 情報発信ツールの利活用とリスクの回避
13. 情報ネットワークセキュリティ
14. 企業活動現場で求められる ICT スキルと情報ネットワークに関する知識のまとめ
15. 今後の情報ネットワークの方向性

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30255001
科目名	情報ビジネス論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Business Management		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスにおいて情報の重要性は高まっています。最近ではインターネットや携帯電話などに代表されるICT（情報技術）の進歩に伴い、さまざまな情報を簡単に手に入れられる環境が整っています。それに伴い情報産業の重要性も高まっています。 そこで本講義ではＩＣＴを取り巻くビジネスの現状をみていき、課題について考えていきます。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	財団法人インターネット協会監修『インターネット白書』インプレスジャパン,2012 年,7140 円 安延申・前川徹編著『ビッグトレンド　―IT はどこへ向かうのか』アスペクト,2009 年,2310 円 授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。ビデオ教材やパワーポイントを使用します。		
評価方法	出席状況、授業内レポート等の平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	情報産業の現状や課題について理解を深めます。 インターネットの普及とともに情報産業がどのように進化したのかを理解します。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 新聞等のメディアを活用し、情報産業の動向に関心を持つようにしてください。		

受講者への要望

私語や遅刻をしないこと。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス（授業の進め方や目的等、情報ビジネスとは何か）
2　スマートフォンのビジネス
3　情報家電産業
4　主要産業での情報化（製造業）
5　主要産業での情報化（小売業）
6　ビッグデータ革命
7　消費者向けネットビジネス（ヤフーの事例）
8　インターネットビジネス
9　ソーシャルメディアとビジネス
10　IT 産業のグローバリゼーション
11　情報ビジネスが社会に与えた影響①（コンテンツ産業）
12　情報ビジネスが社会に与えた影響②（働き方の変革）
13　情報ビジネスが社会に与えた影響③（情報セキュリティ）
14　情報ビジネスの最新動向
15　情報ビジネスの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30256A01
科目名	情報科学Ｉ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science I		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的な概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、ＦＯＲＴＲＡＮ、C、Ｊａｖａ、Ruby などの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いて Ruby のプログラムを作成し、実行を行ってもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ｉ』培風館		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了後、次回の講義の資料を京学なびにアップロードするので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
１．情報科学について ２．アルゴリズムと流れ図 ３．数のアルゴリズム ４．変数 ５．入力と出力 ６．基本的な流れ図 ７．カウンタと見張り役 ８．部分文字列の探索 ９．算術式 10．データの表現 11．まるめ 12．最大値を求めるアルゴリズム１ 13．最大値を求めるアルゴリズム２ 14．集計のアルゴリズム 15．総括（アルゴリズムとプログラム） 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	-	★★

年度	2016	授業コード	T30260A03
科目名	情報管理論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management I		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	ICT（情報通信技術）の進化やトレンドの変化はめざましいものがあり、将来的にも対応できる基礎力を体得することが望まれている。発展し続ける情報通信社会において、それを支える ICT に関する技術的な知識や利活用方法、情報の収集・整理・活用方法、危険性やセキュリティ対策、関係法令や情報倫理などについて体系的に学び、将来の企業人として役立つ基本的なスキルを身につけることを目的としている。「Ⅰ」「Ⅱ」を続けて受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	深井裕二, 『情報管理学』, コロナ社, 2015 内山 力, 三浦 智恵子, 『情報管理実務』, 産能大出版部, 2003 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014 矢沢久雄, 『これから IT 業界で働く人のための情報処理技術の基本』, 日本実業出版社, 2013		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（30%）、最終レポート（40%）		
到達目標	・情報を管理・活用するためのスキルを身につける。 ・情報ツール利用の技能を高める。 ・情報を取り扱ううえでの法令や倫理を理解する。 ・高度情報化社会における危険性やセキュリティ対策方法を理解する。 ・企業人として必要とされるレベルの情報リテラシーを体得する。		
準備学習	マスメディア等の情報から ICT に関する最新の動向に注視することを心がけること。ICT の知識は積み重ねが大事なので、毎回配布するレジュメを復習に活用すること。		

受講者への要望

情報リテラシーは今や社会が求める一般的な教養でもあるので、卒後即戦力として通用するレベルで体得することが望ましい。よって積極的に情報管理に興味をもって学習に取り組んでもらうことを希望する。所定用紙に「もっと説明してほしいこと」を記述すれば、原則として次回の講義にて解説する。IT 企業経営および地方議会における現場経験者としての講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、理解度および旬な話題の発生等により変更の可能性もある。

1. ガイダンス、情報社会の現状と問題点
2. 情報の取り扱い原則
3. 情報の収集
4. 情報の利用
5. ハードウェア
6. ソフトウェア
7. 情報の単位と計算
8. TCP/IP
9. OS とサーバー
10. ISP とクラウド
11. 電子メールの仕組みと活用
12. Web コンテンツ
13. 情報倫理
14. 情報に関する法律
15. 実社会で求められる情報リテラシー（「Ⅰ」のまとめ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30260B03
科目名	情報管理論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management Ⅱ		
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	ICT（情報通信技術）の進化やトレンドの変化はめざましいものがあり、将来的にも対応できる基礎力を体得することが望まれている。発展し続ける情報通信社会において、それを支える ICT に関する技術的な知識や利活用方法、情報の収集・整理・活用方法、危険性やセキュリティ対策、関係法令や情報倫理などについて体系的に学び、将来の企業人として役立つ基本的なスキルを身につけることを目的としている。「Ⅰ」を受講済であることが望ましいが、事前知識としての必須条件ではない。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。PowerPoint を活用する。		
教材（参考文献）	深井裕二, 『情報管理学』, コロナ社, 2015 内山 力, 三浦 智恵子, 『情報管理実務』, 産能大出版部, 2003 福崎稔,守屋政平他, 『情報化時代の基礎知識』, 弓箭書院, 2014 矢沢久雄, 『これから IT 業界で働く人のための情報処理技術の基本』, 日本実業出版社, 2013		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（受講態度、授業への貢献度、取組姿勢・30%）、講義内レポート（30%）、最終レポート（40%）		
到達目標	・情報を管理・活用するためのスキルを身につける。 ・情報ツール利用の技能を高める。 ・情報を取り扱ううえでの法令や倫理を理解する。 ・高度情報化社会における危険性やセキュリティ対策方法を理解する。 ・企業人として必要とされるレベルの情報リテラシーを体得する。		
準備学習	マスメディア等の情報から ICT に関する最新の動向に注視することを心がけること。ICT の知識は積み重ねが大事なので、毎回配布するレジュメを復習に活用すること。		

受講者への要望

情報リテラシーは今や社会が求める一般的な教養でもあるので、卒後即戦力として通用するレベルで体得することが望ましい。よって積極的に情報管理に興味をもって学習に取り組んでもらうことを希望する。所定用紙に「もっと説明してほしいこと」を記述すれば、原則として次回の講義にて解説する。IT 企業経営および地方議会における現場経験者としての講義を行うので、実社会で役立つ知識を身につけることを期待する。

講義の順序とポイント

講義は概ね下記の通り進めるが、理解度および旬な話題の発生等により変更の可能性もある。

1. ガイダンス、情報の取り扱いにおける概括的知識
2. 情報セキュリティ
3. 認証システム
4. ファイルの取扱い
5. 電子商取引
6. IT に関する企業の取り組み
7. データの分析と活用
8. データベース
9. システム開発、プログラミング
10. アプリケーションソフトの活用
11. 経営シミュレーションシステム
12. ネットワークセキュリティ総合管理ツール
13. 個人情報保護法とセンシティブ情報の取り扱い
14. 情報発信とリスク管理
15. 実社会で求められる情報リテラシー（「Ⅱ」のまとめ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30270001
科目名	人的資源管理論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management		
担当者名	楠奥　繁則	旧科目名称	
講義概要	企業の労働力を他の経営資源と同じく価値を創造するという見方に立った人材マネジメントのことを「人的資源管理」という。 ところで、今日、わが国ではメンタルヘルスに問題を抱えている労働者が増加傾向にあることが大きな問題となっています。言い換えますと、多くの組織が、人的資源管理をうまく行えていないということになるのではないでしょうか。では、なぜ、その管理がうまく行えていないのでしょうか？そこで、本講義では組織と個人の視点から、組織や、マネジメントに関する理論などを基に、その原因を考えていきます。そして、その問題を解決するための仮説についても考えていきます。 卒業後、君たちのほとんどがどこかの組織に所属することになるでしょう。その組織で君たちが充実したキャリアを歩むためにも、是非、この講義を受講してもらいたいと思います。		
教材（テキスト）	特になし。配布資料などに基づいて授業を行います。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	試験(100%) ※出席回数が 9 回以下の場合、試験を受けることはできません。		
到達目標	理論などの高度専門知識を用いて、仮説を導けるようになることを到達目標とします。そんなに難しいことではございません。しっかりと、説明しますので、御心配なく！		
準備学習	授業で学んだ理論などの高度専門知識と、みなさん自身の経験(例えば、サークルやアルバイトの経験)や、身の周りの出来事、あるいは、社会問題などとを関連させて考えるようにしてほしいです。なお、講義でもその指導はいたします。		

受講者への要望

最高の授業というのは，残念ながら授業者 1 人で作り上げることはできません。それを作るには，受講学生のみなさんの協働が必要です。授業者である私は，全ての受講学生が経営学に夢中になれるよう，懸命に努力します。ですから，受講学生の皆さんにお願いしたい。“経営学を楽しむ努力をしてほしい”（経営学を楽しむコツについては，みなさんに毎授業，語っていくつもりです）。君たちの協働が得られたとき，私たちは経営学の世界に夢中になるであろう。

講義の順序とポイント

1. 科学するとは？:大学での学びを楽しむ方法について
2. 問題:わが国の職場におけるメンタルヘルスの問題について
3. 職務ストレスとストレスマネジメントについて①:ストレスとは？ストレスマネジメントとは？
4. 職務ストレスとストレスマネジメントについて②:セルフ・エフィカシーと SOC の視点からみたストレスマネジメントについて
5. 組織とは？:Barnard 組織論からみた組織について
6. 組織の病理について①:ブラック企業やブラック NPO などについて
7. 組織の病理について②:わが国の自殺研究から組織の病理について考える
8. 労働者のワーク・モチベーションについて①:モチベーション理論の紹介
9. 労働者のワーク・モチベーションについて②:賃金管理、人事評価からのアプローチ
10. 労働者のキャリアと権利について
11. 組織文化とリーダーシップ
12. 事例分析:サウスウエスト航空を分析する
13. 仮説①:個人の視点から、職場におけるメンタルヘルスの対策・解決方法について考える
14. 仮説②:組織の視点から、職場におけるメンタルヘルスの対策・解決方法について考える
15. 今後の課題:仮説を検証する方法について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30282001
科目名	税務会計論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本講義における税務会計としては、個人企業所得に課される税金(所得税)と法人企業所得に課される税金 (法人税)の双方の計算分野を対象とする。すなわち、所得税法会計と法人税法会計を内容とし、両者の基 礎を学ぶのが本講義の主目的である。そこでは、課税所得を確定したうえで税額が算定されることになる。 （2）このような観点から、本講義においては、所得税法及び法人税法に従って課税所得がどのように計算され るのか、また、それに基づく税額の計算及び申告がどのように行われるのかといった論点を中心に、その 要点を平易に講述する。そこでの内容としては、後述のように、租税制度の概要を確認したうえで、所得 税法・法人税法会計の順に課税所得及び税額の計算システムの概観を解説することにしたい。 （3）なお、所得税に関するケース・スタディとして、架空の家族構成と収入状況を想定し、実際の納税申告書の 作成演習を行い、提出してもらう予定である。その際には、受講生の様子を勘案しながら、税務職員の応援 を要請し、講演および実務面の補助指導をして頂くことも計画している。 （4）また、科目内容の実践的重要性をも考慮して、実務検定として定評のある全国経理学校協会主催の税務 会計能力検定試験の内容に関連するプリント演習も活用したい。		
教材（テキスト）	経理教育研究会 編 『基本税法』 英光社		
教材（参考文献）	中田 信正 著 『税務会計要論』 同文舘出版		
教材（その他）	適宜、必要に応じてプリント配布を行う。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）税法の概要および税務会計の基礎を理解している。 （2）所得税会計と法人税会計における「課税所得と税額」の計算構造を理解している。 （3）基本的な所得税の確定申告書が作成できる。 （4）法人税申告書「別表４」の構造を理解している。		
準備学習	（1）講義時に指示された次回講義に関連するテキスト部分について、事前に解読し、予習すること。 （2）毎回配布する私製アンケート「Minute Paper」に質問・疑問を記入できるように、予習の段階で疑問点が あればメモをし、講義後に疑問が解けなければアンケートに明記すること。質問内容には、可能な限り 次回の講義時に説明する予定であるので、積極的に質問されたい。 （3）所得税確定申告書の作成演習に際しては、講義者の方で納税者家族のケース設定を行うが、自主的なケース設定も歓迎するので、積極的に講義に参加するように準備すること。 （4）授業内講演がある場合には、積極的に質疑応答に参加するように事前準備をすること。 （5）国税庁のホームページへのアクセスを積極的に試み、租税制度の仕組みや申告書の作成など、身近な事例を想定しながら平素より税務への関心を高めるように学習すること。		
受講者への要望			
(1)企業所得の算定に関しては簿記・会計的知識が基礎となるが、そうした基礎知識が充分に無い場合も想定して講義を進める。 (2)実務上は税法無視の経理実践はあり得ず、特に中小企業経理では税務会計が極めて重視されている点に注意して頂きたい。 (3)実学としての税務に興味ある諸君の積極的な履修を希望している。 (4)遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎる場合			

には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義の主要な論点は以下の通りであるが、必要に応じて変更することもある。

【税務会計の基礎】

（1）講義展開のガイダンスと租税制度の概要

（2）企業会計と税務会計

【所得税会計分野】

（3）所得税の概要

（4）所得の種類とその計算方法

（5）課税標準と所得控除の内容

（6）課税総所得金額と所得税額の計算方法

（7）納税申告書の作成演習

【法人税会計分野】

（8）法人税の概要

（9）所得金額の計算

（10）「益金の額」の計算

（11）「損金の額」の計算①

（12）「損金の額」の計算②

（13）「損金の額」の計算③

（14）法人税額の計算と申告・納税

（15）事業所得および法人所得の計算演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30410A01
科目名	日本経営史Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History I		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	江戸時代より明治時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をしておくこと。これに関連した小レポート実施する。		

受講者への要望

おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。
日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。

講義の順序とポイント

1.日本経営史の課題
2.江戸時代の経済発展
3.豪商の企業者活動
4.商家の企業形態(上方商人・三井家)
5.近江商人の企業者活動
6.明治維新改革と近代経営の形成
7.三菱の創立と多角化(岩崎弥太郎・弥之助)
8.渋沢栄一の合本主義と産業化の促進
9.銀行業の生成と発展（国立銀行の発足と普通銀行への過程）
10.会社制度の導入と発展(多角的出資と重役兼任)
11.近江商人の企業者活動と滋賀県企業家
12.明治維新と三井家の家政改革
13.財閥の形成過程
14.経済団体の形成
15.現代の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30460001
科目名	財務諸表論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	現在ほど、企業経営における会計の役割と影響が注目されている時代はない。さまざまな利害関係者と関わりながら活動している企業は、ある時点の財政状態と一定期間の経営成績を財務諸表にまとめ、報告することが要請されている。本講義は、財務諸表の作成が要請される背景や作成原理、表示方法を理解することを目標にする。 企業を取り巻く経済環境の変化に伴う会計の最新の潮流を紹介しながら、種々の企業活動がどのように会計情報に反映されているか紹介していく。 また時に、簿記１、２級レベルの練習問題にも取り組んでいく予定である。		
教材（テキスト）	片山覚他著　『入門会計学』　実教出版		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	財務会計の意義と機能について理解している。 会計情報の開示制度を理解している。 財務諸表の意義･特徴を理解している。 会計が企業経営に与える影響について理解している。		
準備学習	講義終了時に次回の内容を明示するので、教科書の指定された部分を熟読しておくこと。		
受講者への要望			
簿記原理を履修済みか、日商簿記３級の合格者であることが望ましい。 受講生は積極的に講義に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.会計を学ぶ意義 2.会計と企業経営の関わり 3.財務会計のシステムと複式簿記 4.日本の会計制度 5.会計情報のディスクロージャー 6.会計の国際化 7.中間小テスト 8.財務諸表の体系 9.貸借対照表の内容 10.損益計算書の内容 11.キャッシュ･フロー計算書の内容 12.その他のディスクロージャー 13.企業集団と連結会計(1) 14.企業集団と連結会計(2) 15.総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T30464001
科目名	野球ビジネス論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Baseball Business Theory		
担当者名	堀込　孝二	旧科目名称	
講義概要	机上の空論ではなく実際に起こったことをテキストを中心に講義を進める。 さらに四国アイランドリーグ plus という独立リーグでの現場も知ってもらい実際に役立つ知識やスキルを身に付けることを目標とする。 正解を求めるというよりも論理的に物事を考え、自分の意思を伝えるというコミュニケーション能力の向上も求める。		
教材（テキスト）	藤井純一著「監督・選手が変わってもなぜ強い? 北海道日本ハムファイターズのチーム戦略」光文社新書		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	受講態度と取組姿勢(50%)、授業内レポート(50%)により評価を行なう。		
到達目標	プロスポーツビジネスの現場を知る。 問題解決能力を身に付ける。 自分の考えを論理的に伝える能力を身に付ける。 企画書・提案書作成ノウハウを学習する。		
準備学習	プロ野球(NPB）における基礎知識（システムや成り立ちなど）を最低限学習しておくこと。 教材は一通り目を通しておくこと。疑問点があれば講義内で質問し解決すること。		
受講者への要望			
自主的、積極的に講義に出席、レポートを提出するよう心掛けてください。 講義内で私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し退出を求める。 様々な情報を集めることを推進、その中で自らのアイデアをねん出することを求める。 ビジネススキルを身に付けるため、根気よく作業に取り組むよう期待する。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに（ガイダンス） 2.スポーツビジネスとは何か 3.フロントはファンを見よ 4.試合収入 5.ホスピタリティ 6.放映権収入 7.スポンサー収入 8.グループワーク①（球団編成） 9.グループワーク②（球団編成） 10.マーチャンダインジング収入 11.スポーツビジネスのための IT 戦略 12.2016 年プロ野球データ収集 13.グループワーク③（球団づくり） 14.グループワーク④（球団づくり） 15.地域密着がスポーツビジネスを成功に導く			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30465001
科目名	サッカービジネス論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Soccer Business Theory		
担当者名	柳　久恒	旧科目名称	
講義概要	本講義は、スポーツビジネスの中でも特に世界中で人気のあるサッカーに関わるビジネスを題材として授業を展開する。サッカービジネスは、サッカー協会やリーグ、クラブなどの組織だけでなく、それらを取り巻く様々なステークホルダーによって成立している。本講義では、それらの組織や事業の事例を用いて説明する。 本講義の受講生は、それら組織や事業の内容について認識し、課題を発見するとともに、解決するための方法論について思考する。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	エステベ・カルサーダ「SHOW ME THE MONEY! ビジネスを勝利に導く FC バルセロナのマーケティング実践講座」ソル・メディア、2013、1800 円 広瀬一郎「サッカービジネスの基礎知識」東邦出版、2012、1500 円 ステファン・シマンスキー、アンドリュー・ジンバリスト「サッカーで燃える国　野球で儲ける国―スポーツ文化の経済史」ダイヤモンド社、2006、1,800 円 武藤泰明「プロスポーツクラブのマネジメント　第 2 版」東洋経済新報社、2013、3,800 円		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）、小テスト（40%）		
到達目標	・サッカービジネスの内容を説明することができる。 ・サッカービジネスに興味を抱く。		
準備学習	サッカーを「する」「みる」「ささえる」などして消費する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」をスタジアムに足を運んで観戦する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」をテレビ等で観戦する。 例）サッカーの「試合（ゲーム）」でボランティア活動をする。		

受講者への要望

授業の進行や他の受講生の妨げになる言動は慎みましょう。
例えば、正当な理由のない遅刻や途中退室は認めません。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション：講義の目標や進め方について説明し、評価方法を理解する
2. サッカービジネスの諸相：サッカーのビジネスにかかわるリーグやクラブ、イベントなどについて紹介する
3. サッカーイベントのビジネス①：サッカーイベントのビジネスについて解説する
4. サッカーイベントのビジネス②：サッカーイベントのビジネスについて解説する
5. サッカーイベントのビジネス③：サッカーイベントのビジネスについて解説する
6. サッカーリーグのビジネス①：サッカーリーグのビジネスについて解説する
7. サッカーリーグのビジネス②：サッカーリーグのビジネスについて解説する
8. サッカーリーグのビジネス③：サッカーリーグのビジネスについて解説する
9. サッカークラブのビジネス①：サッカークラブのビジネスについて解説する
10. サッカークラブのビジネス②：サッカークラブのビジネスについて解説する
11. サッカークラブのビジネス③：サッカークラブのビジネスについて解説する
12. サッカークラブのビジネス④：サッカークラブのビジネスについて解説する
13. サッカークラブのビジネス⑤：サッカークラブのビジネスについて解説する
14. サッカービジネスの現状と課題①：サッカービジネスの現状と課題について
15. サッカービジネスの現状と課題②：サッカービジネスの現状と課題について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T30466001
科目名	競技スポーツ論（野球） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Competitive Sports(Baseball)		
担当者名	原田　冨士雄	旧科目名称	
講義概要	野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も 重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業としたい。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを用意		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	要時にプリントを用意		
評価方法	授業内試験（60 点以上）およびレポート、学習への参加や取組みにより総合的に評価する。		
到達目標	プロスポーツとしての野球から、アマチュアスポーツの野球まで、選手・監督・組織の理解を深める。野球の楽しさを知り、人に伝え、文化としての野球の発展についてのポリシーを持つことができる。 準備学習 他のスポーツと野球はどこが違うのか、グローバルな考え方と地域での野球人口拡大のための定期的で継続的な活動について知るために現場を知る、本を読むなど興味の幅を広げること。		
準備学習	他のスポーツと野球はどこが違うのか、グローバルな考え方と地域での野球人口拡大のための定期的で継続的な活動について知るために現場を知る、本を読むなど興味の幅を広げる。毎回、次の学習のために課題を指示する。		

受講者への要望

遅刻早退はしないこと。礼に始まり、礼に終わるという態度で臨んでください。

講義の順序とポイント

1. " はじめに（オリエンテーション）
　授業概要、方法の説明と同時にどのような授業を目指すのかを、野球を通じて スポーツの楽しさを説明する。（試合観戦）"
2. "野球の組織（野球とは）
　日本の野球界には大別してアマとプロの組織がある。アマの中には社会人・大学・高校の組織があり、更には少年野球もある。これらを判り易く説明し理解してもらう。"
3. 日本の野球と世界の野球
4. "野球のマネージメント 監督の役割　（指導者の行動範囲）
　コーチのあるべき姿を指導者という名のもとに、どのような 形で勝利に結びつけて行くのかを、説明すると共に一緒に学んでいく。"
5. "技能向上コーチング（指導方法）
　育てるというスポーツの中で一番重要なことを、基本論議から指導者に必要なセンス（能力とは）を説明していく。"
6. 野球における指導者のリーダーシップ
7. "一流選手への道
　一流選手になるには一流選手を育てるには 何が必要なのか、その指導方法や巧くなっていく過程を代表選手を例に挙げて説明していく。（イチロー、王、長島、ダルビッシュ）"
8. "育てて勝った名将達
　野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、 類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。"
9. "育てて勝った名将達
　野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、 類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。"
10. "必勝法と必敗法
　どうすれば勝てるのか？なぜ負けるのか？ を 具体的事例を挙げて説明する。"
11. "ミーティングとサイン
　スポーツについて、ミーティングの必要性とサインの重要性を説明する。"
12. "ワンプレーの重さ
　一ツ一ツ のプレーには重みがある。 事例を挙げ、プレーの組合わせが勝利に直結もするし、敗因になることも説明する。"
13. 戦術を説明し、それに対するディスカッションを行う
14. "データの活用と感ピューター
　データ に基づく 第六感の活用はどのようなものか、プレーの確率を例に挙げ説明する。"
15. 硬式野球というジャンルの全体像について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	T30467001
科目名	競技スポーツ論（サッカー） 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Competitive Sports(Soccer)		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	イギリスで発祥し、世界の人々に愛され親しまれているのが、サッカーである。4 年に一度に行われる世界一を決める「ワールドカップ」では世界中が注目し、単独スポーツとしてオリンピックをしのいでいるのはサッカーだけである。年齢や身体的特性に関わりなく、ルールの簡易さと技能発揮の幅広さから、誰でも、どこでもゲームを楽しむことが出来るスポーツのため世界に波及した。本授業では、世界のサッカー界の状勢を参考に、技術・戦術を論理的に考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点５０％（出席状況、授業態度等）による。理解力２５%、レポート２５％		
到達目標	サッカーのルールを含めた理解を高め、サッカーを経験の感覚ではなく、理論に裏付けされた知識を身につけ、「する」「みる」「支える」という三つの立場で、サッカーをより楽しむことが出来るようになる。		
準備学習	日頃から、サッカーに関わる情報をキャッチ出来るようにアンテナを広げ、気になる内容を調べる習慣を付ける。		
受講者への要望			
サッカーに特化した授業であるため、サッカーに興味がある学生が受講して下さい。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．サッカーの歴史 ３．Ｊリーグとは ４．世界のサッカー界の状勢 ５．サッカー事例 ６．サッカー事例 ７．個人戦術理論 ８．個人戦術理論 ９．グループ戦術理論 １０．　グループ戦術理論 １１．チーム戦術理論 １２．チーム戦術理論 １３．サッカー戦術事例 １４．サッカー戦術事例 １５．授業の振り返りにより、理論を確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	T30471001
科目名	トレーニング論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Training Theory		
担当者名	横山　慶一	旧科目名称	
講義概要	体力トレーニングとは，運動負荷に対する身体的・精神的適応能力の開発過程である。実際のスポーツ現場では，さらに狭義的な行動体力の開発を目的とした，数多くのトレーニングが行われている。最近ではスポーツ現場を越え，一般人にまで，体力トレーニングについての情報はあふれており，さらに新しい理論が加わってきている。 本講義では一般的体力の向上を目指した，体力トレーニングの基礎を学ぶ。体力トレーニングの目的を理解し，体力を総括的にとらえた上で,目的とするパフォーマンス向上のためには、動作様式の特異性などを考慮して、どのような方法をどのように取り入れるかをテーマに，具体例を提示しながら進めていく。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	・使える筋肉・使えない筋肉 理論編―筋トレでつけた筋肉は本当に「使えない」のか? 谷本 道哉(著), 石井 直方（監修）ベースボールマガジン社 ・スポーツ科学の教科書――強くなる・うまくなる近道 谷本 道哉（著, 編集), 石井 直方（監修）岩波ジュニア新書 ・究極のトレーニング 最新スポーツ生理学と効率的カラダづくり 石井 直方 講談社		
教材（その他）	必要時にプリントを用意		
評価方法	定期試験 70%、レポート 20%。出席回数が 3 分の 2 に満たない場合や受講状態に難がある場合は、残りの 10%の範囲で減点される。ただし、正当な理由により欠席し届けを出した場合はその限りでない。		
到達目標	トレーニングの方法は一つではない。漫然と行うトレーニングではなく、効率よく効果を出すトレーニングを行えるよう科学的な知識と実践の能力を身につける。		
準備学習	インターネットや書籍で、主要な筋肉の名称や位置、主要なトレーニングの名称や方法を調べておく。		
受講者への要望			
講義と実際の実技を取り入れて行う。指示された日はトレーニングウェアとトレーニングシューズを準備すること。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに 2　アスリートにとっての体力 3　体力テスト 4　健康と体力 5　体力要素による分類 6　トレーニングの種類 7　トレーニングの進め方 8　健康づくりと運動プログラム 9　パフォーマンスを上げる運動プログラム 10　トレーニング計画とその実際 11　成長期の体力 12　高齢期の体力 13　体脂肪量・筋肉量の測定 14　体力テスト 15　体力の前後比較			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	★	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T30473001
科目名	競技スポーツ実技（野球）　【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Competitive Sports Practice(Baseball)		
担当者名	原田　冨士雄	旧科目名称	
講義概要	野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も 重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業としたい。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを用意		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	必要時にプリントを用意		
評価方法	実技試験（60 点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。		
到達目標	野球はライセンスを取得すればマネージャー(監督)やコーチに就けるというものではありません。野球の指導は多種多様な戦術と攻、守に分かれて複雑なゲームを制していく力が求められます。選手の体力、技術、心理が大きくゲームを動かします。授業では、これらをいかにコントロールしていくか、また、これらに俊敏に対応できるプレーヤーをどう育てるかを、自身が様々な経験をし、学ぶ事で指導者への入口が見えるようにします。		
準備学習	野球ルールを徹底的に学習する。そのために、毎回次の授業のために課題を指示します。		

受講者への要望

準備・片づけはグループ単位で輪番制で行います。当番の学生は責務をこなすこと。
遅刻早退はしないこと。礼で始まり、礼で終わる授業を心掛けてください。

講義の順序とポイント

. " はじめに（オリエンテーション）
　授業の概要説明と野球 投・攻・守 の練習方法を理解させる。"
2. "硬式野球実技（基本） * 準備運動　　* キャッチボール　　* トスバッティング　　* 守備練習
　（投・打・捕の体験）　* 打撃練習　（野球を体験して難しさ、楽しさを感じてもらう）"
3. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
4. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
5. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
6. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習
　グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。"
7. "実技 （ゲーム形式）
　遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
8. "実技 （ゲーム形式）
　遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
9. "実技 （ゲーム形式）
　遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。"
10. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
11. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
12. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
13. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
14. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）
15. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR 鑑賞による学習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	T3047400A
科目名	スポーツ実技（水泳・水中運動）【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice (Swim and Exercise in Wa ter)		
担当者名	奥田　千代	旧科目名称	
講義概要	水泳・水中運動については、水の特性・環境を理解し、陸上運動との違いや水中における身体の動かし方を体験しながら生理学的な変化を体感する。 　水中運動を構成する各種運動・動作を実習し、運動プログラムの作成方法を理解し運動プログラムを作成し適切な動きの選択や運動強度変換と指導上の留意点を理解する。また、水と体の衛生及び環境、救急法などの安全対策を理解する。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者養成用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	アクアエクササイズ指導理論（公益社団法人　日本フィットネス協会）		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	試験：実技試験２回（評価割合５０％）、授業内筆記試験１回（評価割合２０％）、指導案（評価割合２０％）授業態度（評価割合１０％）これらを総合して評価を行う		
到達目標	健康維持・増進のための運動を実践する必要性を理解し、自ら見本を示す実技能力と、グループ指導に対する知識及び指導技術を習得する。		
準備学習	毎回授業内で指示する。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目です。原則的に遅刻・早退は認められません。
外部施設を利用するため、他の利用者の方の迷惑にならないように、服装・マナーには気を付けましょう。
授業は講義の場合は教室、実技の場合は現地集合、現地解散になります。
実技では必ず水着、キャップ、ゴーグルが必要です。なお、水着は水泳用の水着を着用すること。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション
２．水の特性と水中運動の効果
３．水中運動（水中歩行、水泳体験）
４．水中におけるレジスタンス運動と水中ストレッチについて（体験）
５．水中エアロビックダンス（体験）
６．水中における有酸素運動のプログラミング方法
７．水中歩行のプログラミング、水中動作の習得
８．水中歩行のプログラミング、運動強度の変換方法
９．実技テスト（水中歩行指導法）および水中歩行のプログラミングの振返り
１０．水中レジスタンスの種類と効果、動作習得
１１．水中レジスタンスのプログラミング、強度変換と指導
１２．水中レジスタンスプログラム指導（器具を利用したプログラム含む）
１３．実技テストおよび水中レジスタンスプログラム指導の振返り
１４．水中運動およびプールにおける安全管理
１５．水中運動プログラム指導案の作成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2016	授業コード	T3047500A
科目名	スポーツ実技(エアロビックスポーツ) 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice(Aerobic Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	スポーツ実技（エアロビックスポーツ）では QOL の向上、健康づくり、介護予防を目的に有酸素運動を楽しさの中で効果的に指導する方法を学び、自らが指導できるように実践力を獲得する。健康運動実践指導者やレクリエーション・インストラクター資格の取得を目指して、運動プログラムと簡単なゲームのノウ・ハウを習得しよう。また、イベントや集会などの「みんなで楽しむ」場面を盛り上げ、演出する能力も磨く。 　将来は地域・非営利組織・企業での活動や業務の一環として、さまざまな場で健康運動実践指導者やレクリエーションで学んだことを実践に生かし、生涯自由時間を創造的にデザインするプログラムの開発・提供、調査・提案を行なえるようキャリアアップしていこう。 先ずは自分の身体を動かすところから始め、自分の身体の変化に気付く事を実習を通じて行って行こう。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団） 資格取得者のみ購入すること。授業内で希望をとる。		
教材（参考文献）	レクリエーション支援の基礎・スポーツと健康の科学		
教材（その他）	体操祭やレクリエーションフェスティバルの記録映像 チラシやパンフレット		
評価方法	試験は、実技試験を 2 回実施する（評価割合 50%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、振り返りメモ（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）など、これらの結果を総合して成績評価を行う。		
到達目標	健康運動実践指導者独自の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるよう知識及び指導スキルを習得することである。 準備学習 事前に有酸素運動についての理論を学習しておくこと。		
準備学習	事前に有酸素運動についての理論を学習しておくこと。毎回、授業で実施したプログラムについて、次の時間は運動の目的や注意点を含め、説明し、キューイングが上手にできるように練習しておいてください。 実技のコーチングができるまでしっかり予習してください。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。この授業は、実践を通して学ぶことが目的である。心拍数を測定し、主観的な運動強度などを実感しながら進めていく。正しい食生活と睡眠に注意して参加すること。			
講義の順序とポイント			
１．ホスピタリティトレーニングの内容と方法・エアロビックスポーツを楽しむために ２．コミュニケーションゲームの体験とエアロビックスポーツ ３．エアロビックダンス初級 ４．エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導） ５．エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）と 対象を想定したレクリエーション支援の実際① ６．中高年者のための健康体操 ７．エアロビックダンス中級と対象に合わせたアクティビティの 選択方法とその視点 ８．ウォーミングアップの方法と ニュースポーツの展開① ９．ニュースポーツ体験とクーリングダウン １０．アイスブレーキングの実習とスポーツ １１．アイスブレーキングの実習とスポーツ １２．対象者間の相互作用の引き出し方・活用方法 １３．アクティビティの指導案の作成 １４．指導実習・プログラム作成と指導案の提出 １５．指導実習・プログラム作成と指導案の提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★	★★	-	-

年度	2016	授業コード	T30477001
科目名	メンタルトレーニング論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Mental Training Theory		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	この講義は、運動習慣の確立を含む、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解するとともに、メンタルヘルスのためのストレスマネジメントについて、ストレスアセスメントとその対処方法を理解する。 またスポーツ選手・指導者に必要な心理的スキルを獲得し、実際に活用できるようになることを目的としたメンタルトレーニングの知識・技法をスポーツ心理学の学問的成果に基づいて理解する。		
教材（テキスト）	『健康運動実践指導者用テキスト』(健康・体力づくり事業財団)、授業時のスライドを配布資料として用意。		
教材（参考文献）	『健康スポーツの心理学』　竹中晃二編　大修館書店 『スポーツメンタルトレーニング教本』　日本スポーツ心理学会編		
教材（その他）			
評価方法	授業時に取り組む課題を 30%、課題に取り組む授業態度を 20%、ポストテストを 50%とする。		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、健康づくりの運動における行動変容と競技スポーツにおける心理的スキルをさまざまな場面で応用できるようにする。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席すること。授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。

講義の順序とポイント

1 はじめに　オリエンテーション
2 ヘルスプロモーションの現状と課題～運動のベネフィット・疫学研究の成果
3 健康スポーツの心理学：生活習慣病予防と運動の習慣化
4 運動指導の心理的基礎：身体活動を決定する心理的要因
5 行動変容の理論～健康に関する行動変容モデル
6 健康に関する行動変容～ケーススタディ
7 運動と心の健康～運動・スポーツのストレス低減効果とストレスマネジメントの方法
8 運動と心の健康～他者との関わり・コミュニケーション
9 メンタルトレーニング①ピークパフォーマンス
10 メンタルトレーニング②バイフィードバック
11 メンタルトレーニング③リラクセイションとイメージトレーニング
12 メンタルトレーニング④さまざまな技法
13 メンタルトレーニング⑤目標設定の理論と実際
14 あがりとパフォーマンス～情動のコントロール
15 健康と運動心理の応用～自らの実践活動に活かすには

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T3047800A
科目名	トレーニング実習 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Training Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解させる。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導方法を学ばせる。特に上体起こし、腕立て伏せなどの筋力系と柔軟性、調整力などのトレーニングの実施法を習得させる。アイソメトリックやウェイト、サーキットなどのさまざまなトレーニングの原則・効果・組み立て方などを学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要時にプリントを用意。		
評価方法	試験は、実技試験を実施する（評価割合 50%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、トレーニングメニューの作成（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。		
到達目標	補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解する。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点について実習を通して学び、応用できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

トレーニングルームを使用するので、トレーニングウェアとトレーニングシューズを準備してください。また、トレーニング器具の正しい使用法を守り、安全に、大切に扱うこと。
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。

講義の順序とポイント

1．はじめに
2．トレーニングについてⅠ
3．トレーニングについてⅡ
4．パワー・スタミナ・スピードの測定Ⅰ
5．トレ－ニングの原則
6．プログラミング
7．トレーニング実践Ⅰ
8．トレーニング実践Ⅱ
9．トレーニング実践Ⅲ
１０．中間測定Ⅱ
１１．トレーニング実践Ⅳ
１２．トレーニング実践Ⅴ
１３．トレーニング実践Ⅵ
１４．測定Ⅲ
１５．測定記録のまとめおよび今後の課題について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	★★	★	-

年度	2016	授業コード	T30481001
科目名	コーチング実習（生涯スポーツ）【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Sport Coaching Practice(Lifelong Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	コーチング実習（生涯スポーツ）の学習目的は各種スポーツの指導者としての指導実践を磨くことと、レクリエーション・インストラクターの資格取得にも役立てることです。特に、「対人関係」のトレーニングとしてレクリエーション理論に基づき学びます。 特に、「ホスピタリティトレーニング」等、相手を思いやるコミュニケーション力、レクリエーション事業を考えていく場合の「企画力」なども授業で身につけたい力です。 次の段階として、希望者は実際の授業に TA(ティーチングアシスタント）として入り、授業をサポートする体験もできます。また、学外での事業参加も資格取得希望者にはたくさんの選択肢があります。 本来のスポーツ・レクリエーション教育は、「楽しさを通して社会が抱える課題に対してアプローチする」という基本コンセプトがあります。例えば、クーベルタンはオリンピックを戦争のない平和な世界の構築のために始め、100 年が経過しました。 まずは、ジェントルマインドを身につけて、挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという、当たり前のことを当たり前にできる社会人としてのキャリアアップをしましょう。(実習や事業参加の交通費などは各自の実費負担です)		
教材（テキスト）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教材（参考文献）	印刷資料、ＤＶＤ、参考図書などを随時提示します。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	指導案、指導レポート、事業の企画書の作成（５０％） 模擬授業・事業参加(５０％)		
到達目標	自分の得意なスポーツ種目の指導ができるようになる。 レクリエーション・インストラクターとして、さまざまなイベントのサポートができる。		
準備学習	ＴＡをする種目について、歴史、ルール、技術など徹底的に学習する。 レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は、教科書内の知識を事前学習する。 毎回、課題を指示します。事前に指示した課題の準備は確実にこなしてください。わかりやすい説明をするためには、自分で書いて、読んで、修正し、できるだけシンプルな表現を使えるように取り組む。		

受講者への要望

挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという社会的なルールを守り、向上心を持って、常に積極的に取り組むこと。
ＴＡに参加した場合は担当教員と事前に綿密な打ち合わせをした後に指導サポートをすること。学生に対し、次の行動を予測したり、安全配慮をするなど、常によい授業となるように働きかけること。

講義の順序とポイント

1.スポーツとは、コーチとは
2.コーチングとは
3.自分の体験を交えたコーチングについて考える
4.トップスポーツのコーチたちから学ぶⅠ
5.トップスポーツのコーチたちから学ぶⅡ
6.トップスポーツのコーチたちから学ぶⅢ
7.実習準備Ⅰ
8.実習準備Ⅱ
9.実践Ⅰ
10 実践Ⅱ
11.実践Ⅲ
12.実践Ⅳ
13.実践Ⅴ
14.実践Ⅵ
15.実習の振り返り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	-	★	-

年度	2016	授業コード	T30485A01
科目名	スポーツ医学Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Medicine I		
担当者名	中張　隆司	旧科目名称	
講義概要	本講義は病気のなりたちとその予防・治療をはじめ、環境や生活様式を含む社会と健康とのかかわり等から構成され、個人および集団の健康を守るために必要となる知識、実践活動について概説する。健康の基礎が日々の暮しの中にあり、食生活、運動、勉学、労働等を中心とした生活習慣と環境との長年にわたる相互作用が健康状態に大きな影響を及ぼすことを理解し、各人が積極的な実践活動を通じて、自分に適した健康を獲得するだけでなく，学んだ知識及び指導スキルを、健康増進や介護予防にも十分に生かせるよう課題研究レポートも課す。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）、必要時にプリントを用意。		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。		
到達目標	健康管理・生活習慣病・救急処置など、生活に密接した医学の知識を子どもたちの発達段階をふまえた健康教育、中高年のメタボリックシンドロームや介護予防にも十分に生かせるよう学ぶことが到達目標である。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。			
講義の順序とポイント			
1 健康管理と運動の役割（1） 2 健康管理と運動の役割（2） 3 健康管理と運動の役割（3） 4 健康管理と運動の役割（4） 5 健康管理と運動の役割（5） 6 救急処置（一部実技も行なう）（1） 7 救急処置（一部実技も行なう）（2） 8 感染症とその他の疾患 9 スポーツ生理学（1） 10 スポーツ生理学（2） 11 スポーツ生理学（3） 12 生活習慣病（1） 13 生活習慣病（2） 14 生活習慣病（3） 15 生活習慣病（4）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	T30485B01
科目名	スポーツ医学Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Medicine Ⅱ		
担当者名	中張　隆司	旧科目名称	
講義概要	スポーツの医学的な意義を理解する。運動処方の基礎や慢性疾患における運動療法の理論と実際なども取り上げることによって疾病予防､治療の一環としてのスポーツ医学の意義についても言及する｡運動環境､運動と疾病の関係を医学的に考察する｡スポーツに伴う身体環境の変化と疾病への影響､さらにスポーツ外傷･障害の概要等について学習する｡また、運動場面で遭遇する、熱中症（熱疲労、熱痙攣、熱射病）過換気症候群、突き指、骨折、捻挫、頭部外傷などの応急処置やテーピングの方法を習得させる。スポーツ傷害の予防等を題材として取り上げるなかで課題研究レポートも課す。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団)、必要時にプリントを用意。		
教材（参考文献）	授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。		
到達目標	運動開始前・中・後の症状、徴候から運動中止を判定する方法を理解する。スポーツ医学的障害として熱中症、過換気症候群、高山病、整形外科的外傷などでの症状と徴候および予防法を理解する。学校や各種スポーツ活動で教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得することが到達目標である。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。			
講義の順序とポイント			
1 スポーツ選手の健康管理 2 健康管理のシステム 3 トレーニングの生理学的適応現象 4 トレーニング中の注意事項 5 トレーニングによる病的現象 6 運動障害と予防（1） 7 運動障害と予防（2） 8 運動障害と予防（3） 9 運動障害と予防（4） 10 運動障害と予防（5） 11 運動障害と予防（6） 12 スポーツによる内科的障害とその対策 13 スポーツ選手におこりやすい病気とその予防 14 スポーツによる外科的傷害とその対策 15 発育期に多いケガ・成人で多いケガ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	T30504A01
科目名	京都商業特別講義 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture on Commerce in Kyoto A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	本講義は、基本的には過去に大学コンソーシアム京都で開講された「学生ベンチャー・スタートアップスクール」「アントレプレナーシップ養成講座」「京都起業家実践講座」「京都社会起業家養成講座」の各講座の成果をも踏まえ、新たに開講されるものである。 　このため京都商業特別講義 A は、「理論編」としてベーシックの位置付けで、京都商業特別講義 B は「実践編」としてアドバンスの位置付けで開講する。 　京都は伝統と革新のはざまに生き抜いてきたブランド都市である。その強みについてのキーワードは「文化力」であり「夢・誇り・もてなし力」である。特に内外からの年間約 5 千万人に上る観光客を「もてなす」京都における総合的パワーは、1 次産業から 3 次産業と幅広い産業によって支えられている。取り分けて 3 次産業、特に商業が京都の都市機能を果たす上で,内向け、外向けを問わず、担ってきた役割には多大なものがある。そこで本講座においては、京都を構成する様々な産業分野の中において、商業分野に焦点を定め考察を進めたい。 　考察は京都における商業を中心とした歴史的側面、京都ビジネスの特質（老舗からベンチャービジネス）、京都地域資源の活用、農工商連携、商業集積を活用した地域の活性化などについて、流通論・商学・マーケティング論の観点からの知見を踏まえ、京都商業における現状と課題と将来像に接近したい。 　また京都学園大学は、1925 年辻本光楠先生により京都上京区において開校された、京都商業学校をルーツとしており、大学の存する亀岡市は、石門心学で商業の社会的地位を高めた、石田梅岩先生の生家の存するところでもあり、従来より、商業に関する研究については、深く取り組んできたところでもある。 　なお講義に当たっては、中小企業診断士・税理士など実際の商業経営に造詣の深い現役コンサルタントの知見を踏まえた講義も、織り込んでおり、また講義においては、課題を設定したグループワーク、質疑応答などを適宜に踏まえて、双方向性のある授業により、京都商業におけるリアルで、有意義な知見を得ることができる講座を目指す。		
教材（テキスト）	必要の都度プリントなど資料配布を行う。		
教材（参考文献）	必要の都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	受講態度(グループワークへの取り組み姿勢を含む。)（50 点)、レポート（50 点）		
到達目標	商業及び周辺学問領域における基本的な知識の習得（流通・商業・マーケティング）を図るとともに、習得した知識などを活用して、今後の京都における商業の発展のための方向性や在り方についての教養を身につける。また商業領域におけるマネジメント能力の涵養を図る。		
準備学習	自分自身を取り巻く商業環境に興味を持ち、商業に関する知識や情報については,積極的に新聞、雑誌、インターネットなどのメディアを通じて収集行うとともに、今後京都における、商業のより一層の活性化及び発展方向を見定めるという、問題意識を持って受講されたい。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加することを希望いたします。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（講義概要、到達目標など） 2　商業を対象とする関連学問領域における基礎知識の概要（流通論・商学・マーケティング論） 3　商業における基本理念①～商業の存立基盤 4　商業における基本理念②～石門心学（石田梅岩）に学ぶ商業 5　京都の歴史・文化・産業～商業との関連において 6　京都ビジネスにおける現状と課題①（老舗編） 7　京都ビジネスにおける現状と課題②（ベンチャービジネス編） 8　京都地域産業資源と商業 9　地域商業ガイドラインと商業活性化アクションプラン（京都を中心として） 10　特別講義①			

11　特別講義②
12　特別講義③
13　特別講義④
14　特別講義⑤
15　京都商業の展望

（注）特別講義においては、京都における商業振興策・支援制度、商業に関する簿記・会計及び税法、事例研究など予定している。
本講義はキャンパスプラザ京都　4 講時(14 時 30 分～16 時 00 分)で行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	T30504B01
科目名	京都商業特別講義Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture on Commerce in Kyoto B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	本講座は、基本的には、京都商業特別講義Ａにおいて習得した知識などを活かして行う、少人数制の演習講座となっている。このため講義については、オリエンテーション的なものを除き最小限にとどめ、京都における商業を担うべく、起業家精神を持ち、ブランド都市京都における、商業の果たす機能の重要性を踏まえたうえで、実際に商業にどのような形で関わりを持っていくかについての事業構想及び事業計画を考察する講座である。 国際観光都市を目指す京都商業の方向性には、内向け（地域住民向け）と外向け（観光客向けなど）、日用品・身の回り品（食料・衣料など）と専門品（伝統工芸品、土産物など）、京都地域資源を活用した商業モデル、農工商連携による商業モデル、商店街など商業集積の促進による地域活性化モデルなど、幅広い観点からさまざまに、商業への接近が可能である。 このように幅広い観点から京都における新たな商業モデルを構想し、事業計画、提言を策定することが、本講座の主眼とするところである。 具体的には、新たな商業モデルのデザイン、新たな商店街のデザイン、地域資源の活用による商業のデザイン、農商工連携による商業のデザインなどなどを、実現可能性を踏まえたデザインいわゆる構想を行う講座である。 なお研究を進めるにあったっては、担当教員はもとより、複数のコンサルタントが各受講生およびグループに対して個別具体的な指導を行う。 よって当該講座における研究方法は、グループを中心とした、文献研究、事例研究、フィールドワークなどを各グループごとに計画し、実践し、進捗管理を行い、最終的には成果として商業にかかるデザインおよびプランニングを練り上げていくものである。このため本講座は、単なる知識、実践力の修得に留まらず、その過程を通じて研究における自主的な進捗管理、リーダーシップ、コミュニケーション、プレゼンテーションなどに関する能力やスキルを修得することも視野に入れている。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜提供を行う。		
評価方法	取組姿勢（２０点）、プレゼンテーション　（３０点）、研究成果（５０点）		
到達目標	商業に必要とされるマネジメントにかかる基本と原則を修得するとともに、グループ研究の過程を通じてリーダーシップ力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの涵養を図るとともに、京都商業におけるイノベーションを踏まえた、構想、計画を通じて、革新力、創造力などの修得も行いたい。		
準備学習	自分自身を取り巻く商業環境に興味を持ち、商業に関する知識や情報については,積極的に新聞、雑誌、インターネットなどのメディアを通じて収集行うとともに、今後京都における、商業のより一層の活性化及び発展方向を見定めるという、問題意識を持って受講されたい。		

受講者への要望

積極的なグループワークへの参加はもとより、京都商業への興味を持ち、京都商業における,イノベーション、活性化、商業機会などを見据えて、問題意識を持って、参加されたい。

なお可能な受講生は、ノート型パソコンを受講時持参されたい。

講義の順序とポイント

第一日目　8/9(火)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)

1　講座についてのガイダンス

2　グループ分けおよび事業構想、事業計画への組織作り、役割分担など

3　グループ討議による商業領域におけるビジネスチャンス、活性化策の発見およびそのための計画策定への進め方についての検討

4　各受講者、グループからの質疑応答（以下質疑応答という）、コンサルタントの個別指導①（以下個別指導という）

5　各グループからの進捗状況についての報告、質疑応答、個別指導②

第二日目　8/10(水)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)

6　　研究の進め方についての打ち合わせ
7　　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導③
8　　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導④
9　　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導⑤
１０　各グループからの進捗状況についての報告、質疑応答、個別指導⑥

第三日目　8/11(木)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)
１１　各グループ研究結果のまとめおよびプレゼンテーションの準備
１２　各グループ研究成果のまとめおよびプレゼンテーションの準備
１３　研究成果発表会①
１４　研究成果発表会②
15　まとめ（コンサルタントからの講評など）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	-	★	★	-

年度	2016	授業コード	T30509A01
科目名	フィールドワークゼミA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	太秦キャンパスでのチャレンジショップに参加し、後輩への指導を含めたリーダー的な役割を担う。 平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い知識の習得・適応を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T30509B01
科目名	フィールドワークゼミB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	太秦キャンパスでのチャレンジショップに参加し、後輩への指導を含めたリーダー的な役割を担う。 平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い知識の習得・適応を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T40012001
科目名	法哲学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy I		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を確認しつつ、これらの正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方にも言及する予定である。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメを用意する。京学なびに登録するので、事前に各自プリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業中に小論文を書いていただく。実施日は事前に講義並びに京学なびで告知する。 この小論文の素点の合計が成績となる。 それぞれの小論文の素点が６割未満だった場合には、再レポートを課す。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学なび）で確認すること。）

1．　初めに
2．　序論　§１　法哲学とは？（法を哲学するとは？）
3．　　§２　法の目的とは？
4．（第１回授業内レポート）
　　第１章　悪法といえども法？
　　§３　ソクラテスの法論
5．　　同上
6．　　同上
7．（第２回授業内レポート）
　　第２章　各自のものは各自へ
　　§４　アリストテレス
8．　　同上
9．　　同上
１０．（第３回授業内レポート）
　　第３章　自律の原理
　　§５　カント
１１．　　同上
１２．　　同上
　　§６　ベッカリーヤとカント―死刑制度を巡って
１３．　　同上
１４．（第４回授業内レポート）
　　第４章　功利性原理
　　§７　Ｊ．Ｓ．ミル
１５．　　同上

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40012002
科目名	法哲学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy I		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を確認しつつ、これらの正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方にも言及する予定である。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメを用意する。京学なびに登録するので、事前に各自プリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業中に小論文を書いていただく。実施日は事前に講義並びに京学なびで告知する。 この小論文の素点の合計が成績となる。 それぞれの小論文の素点が６割未満だった場合には、再レポートを課す。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学なび）で確認すること。）

1．　初めに
2．　序論　§１　法哲学とは？（法を哲学するとは？）
3．　　§２　法の目的とは？
4．（第１回授業内レポート）
　　第１章　悪法といえども法？
　　§３　ソクラテスの法論
5．　　同上
6．　　同上
7．（第２回授業内レポート）
　　第２章　各自のものは各自へ
　　§４　アリストテレス
8．　　同上
9．　　同上
１０．（第３回授業内レポート）
　　第３章　自律の原理
　　§５　カント
１１．　　同上
１２．　　同上
　　§６　ベッカリーヤとカント―死刑制度を巡って
１３．　　同上
１４．（第４回授業内レポート）
　　第４章　功利性原理
　　§７　Ｊ．Ｓ．ミル
１５．　　同上

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40014001
科目名	法社会学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law Ⅰ		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学
講義概要	春学期は、まず序論として日本・欧米の法社会学の歴史をたどる中から、「法社会学とは何か」という問いへの基礎知識の獲得を行う。次に、各論として裁判をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・生命をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・宗教をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）のテーマの下で「法社会学とは何か」と言う問いへの各自の総論的視座の形成をめざす。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）、講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	裁判・生命・宗教と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切り抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って望むこと。			
講義の順序とポイント			
１．開講にあたって　―春・秋の講義全体のアウトライン― ２．法社会学とは何か　Ⅰ　日本の法社会学（１） ３．法社会学とは何か　Ⅱ　欧米の法社会学（１） ４．裁判をめぐる法社会学　Ⅰ　民事裁判・行政裁判・刑事裁判 ５．裁判をめぐる法社会学　Ⅱ　冤罪 ６．裁判をめぐる法社会学　Ⅲ　死刑制度（１） ７．裁判をめぐる法社会学　Ⅳ 死刑制度（２） ８．裁判をめぐる法社会学　Ⅴ　裁判員制度（１） ９．裁判をめぐる法社会学　Ⅵ　裁判員制度（２） １０．生命をめぐる法社会学　Ⅰ　生殖技術と法 １１．生命をめぐる法社会学　Ⅱ　脳死・臓器移植と法 １２．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　安楽死・尊厳死と法 １３．宗教をめぐる法社会学　Ⅰ　政治と宗教と法 １４．宗教をめぐる法社会学　Ⅱ　政教分離 １５．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　愛媛玉串料訴訟最高裁判決の分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T40014002
科目名	法社会学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law Ⅰ		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学
講義概要	春学期は、まず序論として日本・欧米の法社会学の歴史をたどる中から、「法社会学とは何か」という問いへの基礎知識の獲得を行う。次に、各論として裁判をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・生命をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・宗教をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）のテーマの下で「法社会学とは何か」と言う問いへの各自の総論的視座の形成をめざす。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）、講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	裁判・生命・宗教と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切り抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って望むこと。			
講義の順序とポイント			
１．開講にあたって　―春・秋の講義全体のアウトライン― ２．法社会学とは何か　Ⅰ　日本の法社会学（１） ３．法社会学とは何か　Ⅱ　欧米の法社会学（１） ４．裁判をめぐる法社会学　Ⅰ　民事裁判・行政裁判・刑事裁判 ５．裁判をめぐる法社会学　Ⅱ　冤罪 ６．裁判をめぐる法社会学　Ⅲ　死刑制度（１） ７．裁判をめぐる法社会学　Ⅳ 死刑制度（２） ８．裁判をめぐる法社会学　Ⅴ　裁判員制度（１） ９．裁判をめぐる法社会学　Ⅵ　裁判員制度（２） １０．生命をめぐる法社会学　Ⅰ　生殖技術と法 １１．生命をめぐる法社会学　Ⅱ　脳死・臓器移植と法 １２．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　安楽死・尊厳死と法 １３．宗教をめぐる法社会学　Ⅰ　政治と宗教と法 １４．宗教をめぐる法社会学　Ⅱ　政教分離 １５．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　愛媛玉串料訴訟最高裁判決の分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T40027001
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教材（参考文献）	日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社） 中田邦博、鹿野菜穂子『基本講義消費者法』（日本評論社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法 1
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界 1
5. 消費者契約と民事法 2
   民法の契約ルールとその限界 2
6. 消費者契約と民事法 3
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法 4
   消費者契約法の内容 1
8. 消費者契約と民事法 5
   消費者契約法の内容 2
9. 消費者契約と民事法 6
   事業者の責任
10. 特定商取引法 1
    特定商取引法とは何か
    訪問販売 1
11. 特定商取引法 2
    訪問販売 2 ―クーリング・オフ
12. 特定商取引法 3
    マルチ商法―マルチ商法はなぜ問題か。どのような措置が取られているか。
13. 特定商取引法 4
    通信販売―クーリング・オフに代わる返品権、広告規制
14. 割賦販売法 1
    個別信用購入あっせんとクーリングオフ

15. 割賦販売法２

個別信用購入あっせんと抗弁の対抗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T40027002
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教材（参考文献）	日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社） 中田邦博、鹿野菜穂子『基本講義消費者法』（日本評論社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法 1
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界 1
5. 消費者契約と民事法 2
   民法の契約ルールとその限界 2
6. 消費者契約と民事法 3
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法 4
   消費者契約法の内容 1
8. 消費者契約と民事法 5
   消費者契約法の内容 2
9. 消費者契約と民事法 6
   事業者の責任
10. 特定商取引法 1
    特定商取引法とは何か
    訪問販売 1
11. 特定商取引法 2
    訪問販売 2 ―クーリング・オフ
12. 特定商取引法 3
    マルチ商法―マルチ商法はなぜ問題か。どのような措置が取られているか。
13. 特定商取引法 4
    通信販売―クーリング・オフに代わる返品権、広告規制
14. 割賦販売法 1
    個別信用購入あっせんとクーリングオフ

15. 割賦販売法２

個別信用購入あっせんと抗弁の対抗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T40048001
科目名	刑法Ⅰ（刑法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law I (General Part)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ⅰ（刑法総論）では、犯罪論の基本構造（全ての犯罪に共通する犯罪成立要件）を主に解説する。このことから、刑法総論は抽象的な議論が多く、初学者には難解に感じられるかもしれないが、具体的な事例を通じてわかりやすく解説する。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法総論』（成文堂・２００９年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） 判例教材として、 ・大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年） ・山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	刑法総論をめぐる様々な争点について理解を深めることにより、学んだ知識を具体的な事例にあてはめ、分析、解決する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	刑法総論は、各論点が体系的に関連づけられているため、前回までの講義内容を理解できていないと、次の講義内容の理解が難しくなる。そのため、必ず、各講義の終了後は、該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法総論は体系的に構成されており、一度の欠席が理解を困難にする可能性があるため、毎回講義に出席することが大切である。
また、準備学習でも触れた通り、講義後の復習をしっかりすることが必要である。

講義の順序とポイント

１．刑法の意義と機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、犯罪論の体系
２．構成要件該当性（１）実行行為
３．構成要件該当性（２）因果関係
４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤
５．構成要件該当性（４）構成要件的過失
６．構成要件該当性（５）未遂犯と中止未遂
７．違法性（１）違法性の基本問題
８．違法性（２）正当行為と緊急行為
９．違法性（３）被害者の同意
１０．有責性（１）責任の本質、責任能力
１１．有責性（２）違法性の意識、期待可能性
１２．共犯論（１）正犯と共犯
１３．共犯論（２）共同正犯
１４．共犯論（３）教唆犯と従犯
１５．共犯論（４）共犯論の諸問題
補．罪数

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40048002
科目名	刑法Ⅰ（刑法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law I (General Part)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ⅰ（刑法総論）では、犯罪論の基本構造（全ての犯罪に共通する犯罪成立要件）を主に解説する。このことから、刑法総論は抽象的な議論が多く、初学者には難解に感じられるかもしれないが、具体的な事例を通じてわかりやすく解説する。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法総論』（成文堂・２００９年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） 判例教材として、 ・大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年） ・山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	刑法総論をめぐる様々な争点について理解を深めることにより、学んだ知識を具体的な事例にあてはめ、分析、解決する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	刑法総論は、各論点が体系的に関連づけられているため、前回までの講義内容を理解できていないと、次の講義内容の理解が難しくなる。そのため、必ず、各講義の終了後は、該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		
受講者への要望			
刑法総論は体系的に構成されており、一度の欠席が理解を困難にする可能性があるため、毎回講義に出席することが大切である。 また、準備学習でも触れた通り、講義後の復習をしっかりすることが必要である。			
講義の順序とポイント			
１．刑法の意義と機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、犯罪論の体系 ２．構成要件該当性（１）実行行為 ３．構成要件該当性（２）因果関係 ４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤 ５．構成要件該当性（４）構成要件的過失 ６．構成要件該当性（５）未遂犯と中止未遂 ７．違法性（１）違法性の基本問題 ８．違法性（２）正当行為と緊急行為 ９．違法性（３）被害者の同意 １０．有責性（１）責任の本質、責任能力 １１．有責性（２）違法性の意識、期待可能性 １２．共犯論（１）正犯と共犯 １３．共犯論（２）共同正犯 １４．共犯論（３）教唆犯と従犯 １５．共犯論（４）共犯論の諸問題 補．罪数			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40050001
科目名	刑法Ⅱ（刑法各論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law Ⅱ (Specific Offences)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法各論（第２版）』（成文堂・２０１２年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、 佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） また、判例教材として、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につける。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

講義の順序とポイント

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪
６．強制わいせつの罪（風俗に対する罪を含む）、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪、強盗の罪
１０．詐欺・恐喝の罪
１１．横領の罪、背任の罪
１２．盗品等に関する罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．公共危険罪
１４．取引の安全に対する罪
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40050002
科目名	刑法Ⅱ（刑法各論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law Ⅱ (Specific Offences)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法各論（第２版）』（成文堂・２０１２年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、 佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） また、判例教材として、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につける。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

講義の順序とポイント

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪
６．強制わいせつの罪（風俗に対する罪を含む）、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪、強盗の罪
１０．詐欺・恐喝の罪
１１．横領の罪、背任の罪
１２．盗品等に関する罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．公共危険罪
１４．取引の安全に対する罪
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40076001
科目名	地方自治論	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Autonomy		
担当者名	長澤　高明	旧科目名称	
講義概要	本講義は現代日本の自治体が抱えている問題点を理解し、解決の糸口を探るための基礎的な知識を提供することを目的としています。話が抽象的にならないように、常に具体的な問題を提示しながら説明します。まだ社会人としての生活を送っていない学生諸君にとって地方自治はピンとこない分野かもしれませんが、諸君の生活に密接にかかわる分野であるということをきちんと理解できる講義にしたいと思います。新聞記事も題材に取り上げます。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません。毎回レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	その都度指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テストによる平常点（30%）。授業中に課すレポート（70%）.。		
到達目標	自分の住んでいる自治体の広報を読んで理解できるようになること。また、新聞の地方版を読んで理解できるようになること。		
準備学習	毎日、新聞を読む習慣を身につけ、疑問に感じた事柄を調べておくこと。それらを講義中に報告してもらいたい。		
受講者への要望			
諸君とともに考える講義にしたい。諸君の意見なども聞きながら講義を進めるので、常に頭をフル回転の状態にしておいてほしい。			
講義の順序とポイント			
1　地方自治体についての私たちの知識と意識の確認 2　地方自治体についての基礎知識。住民自治と団体自治。 3　自治体の権力とサービス。自治体の仕事について考える。 4　自治体の成立過程とその必然性について。 5　明治期以降の自治体の変遷。版籍奉還や廃藩置県の意味の再確認。 6　第二次世界大戦以降の自治体の変遷。戦後改革の意味を考える。 7　自治体の政策と手段①：都市型社会の到来とそれへの対応。少子高齢化問題を考える。 8　自治体の政策と手段②：公共事業と政策評価。ダム問題や空港問題についても考える。 9　自治体の経営と条例。条例について具体的に考える。 １０　財務と運営。国税と地方税。直接税と間接税。補助金問題。 １１　直接請求権と常設型住民投票について考える。 １２　市民活動と NPO について考える。 １３　地方議会と地方公務員の役割について考える。 １４　首長のリーダーシップについて考える。 １５　講義全体をふりかえり、今後何をしなければならないか、皆で議論する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T40076002
科目名	地方自治論	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Autonomy		
担当者名	長澤　高明	旧科目名称	
講義概要	本講義は現代日本の自治体が抱えている問題点を理解し、解決の糸口を探るための基礎的な知識を提供することを目的としています。話が抽象的にならないように、常に具体的な問題を提示しながら説明します。まだ社会人としての生活を送っていない学生諸君にとって地方自治はピンとこない分野かもしれませんが、諸君の生活に密接にかかわる分野であるということをきちんと理解できる講義にしたいと思います。新聞記事も題材に取り上げます。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません。毎回レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	その都度指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テストによる平常点（30%）。授業中に課すレポート（70%）.。		
到達目標	自分の住んでいる自治体の広報を読んで理解できるようになること。また、新聞の地方版を読んで理解できるようになること。		
準備学習	毎日、新聞を読む習慣を身につけ、疑問に感じた事柄を調べておくこと。それらを講義中に報告してもらいたい。		
受講者への要望			
諸君とともに考える講義にしたい。諸君の意見なども聞きながら講義を進めるので、常に頭をフル回転の状態にしておいてほしい。			
講義の順序とポイント			
1　地方自治体についての私たちの知識と意識の確認 2　地方自治体についての基礎知識。住民自治と団体自治。 3　自治体の権力とサービス。自治体の仕事について考える。 4　自治体の成立過程とその必然性について。 5　明治期以降の自治体の変遷。版籍奉還や廃藩置県の意味の再確認。 6　第二次世界大戦以降の自治体の変遷。戦後改革の意味を考える。 7　自治体の政策と手段①：都市型社会の到来とそれへの対応。少子高齢化問題を考える。 8　自治体の政策と手段②：公共事業と政策評価。ダム問題や空港問題についても考える。 9　自治体の経営と条例。条例について具体的に考える。 １０　財務と運営。国税と地方税。直接税と間接税。補助金問題。 １１　直接請求権と常設型住民投票について考える。 １２　市民活動と NPO について考える。 １３　地方議会と地方公務員の役割について考える。 １４　首長のリーダーシップについて考える。 １５　講義全体をふりかえり、今後何をしなければならないか、皆で議論する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T40094A01
科目名	法制史Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History I		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｓ
講義概要	この授業では、主に中世から近代にいたるヨーロッパ法の歴史について学びます。特にフランス・ドイツの近代法の成立と発展について重点を置きます。ヨーロッパ法が明治以降の日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、日本とは異なる文化をもつヨーロッパにおける法の発展過程を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。また最後に、明治維新以降の日本における近代法の成立過程を、憲法・民法を中心に考察します。図版や映像などの資料も活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で適宜紹介します。		
教材（その他）	毎回レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験６０％ 、平常点（小テスト・レポートなどの課題）４０％		
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得し、さらに日本における近代法成立の過程を学ぶことを目的とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス（近代日本における西洋文化の受容） 第２回　中世の社会と法①（中世におけるローマ法の復活） 第３回　中世の社会と法②（中世ヨーロッパ社会の市民と農民） 第４回　近世の社会と法（自然法思想の成立） 第５回　啓蒙期の社会と法 第６回　フランス革命①（旧制度の解体） 第７回　フランス革命②（民法典の成立） 第８回　１９世紀フランスの社会と近代法① 第９回　１９世紀フランスの社会と近代法② 第１０回　１９世紀ドイツの社会と近代法①（法典論争） 第１１回　１９世紀ドイツの社会と近代法②（民法典の成立） 第１２回　フランス・ドイツの戦間期の法 第１３回　明治維新と西洋近代法の受容①（憲法典の成立） 第１４回　明治維新と西洋近代法の受容②（民法典の成立） 第１５回　戦後、社会の変化と法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40094A02
科目名	法制史Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History I		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｓ
講義概要	この授業では、主に中世から近代にいたるヨーロッパ法の歴史について学びます。特にフランス・ドイツの近代法の成立と発展について重点を置きます。ヨーロッパ法が明治以降の日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、日本とは異なる文化をもつヨーロッパにおける法の発展過程を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。また最後に、明治維新以降の日本における近代法の成立過程を、憲法・民法を中心に考察します。図版や映像などの資料も活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で適宜紹介します。		
教材（その他）	毎回レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験６０％ 、平常点（小テスト・レポートなどの課題）４０％		
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得し、さらに日本における近代法成立の過程を学ぶことを目的とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス（近代日本における西洋文化の受容） 第２回　中世の社会と法①（中世におけるローマ法の復活） 第３回　中世の社会と法②（中世ヨーロッパ社会の市民と農民） 第４回　近世の社会と法（自然法思想の成立） 第５回　啓蒙期の社会と法 第６回　フランス革命①（旧制度の解体） 第７回　フランス革命②（民法典の成立） 第８回　１９世紀フランスの社会と近代法① 第９回　１９世紀フランスの社会と近代法② 第１０回　１９世紀ドイツの社会と近代法①（法典論争） 第１１回　１９世紀ドイツの社会と近代法②（民法典の成立） 第１２回　フランス・ドイツの戦間期の法 第１３回　明治維新と西洋近代法の受容①（憲法典の成立） 第１４回　明治維新と西洋近代法の受容②（民法典の成立） 第１５回　戦後、社会の変化と法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40094B01
科目名	法制史Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History Ⅱ		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｆ
講義概要	この授業では、ヨーロッパそして近代日本の裁判制度の歴史を学びます。ヨーロッパ法は、明治以降の日本における近代法形成に大きな影響を与えましたが、裁判制度も同様です。ヨーロッパについては、ギリシア・ローマ時代、そしてヨーロッパ中世から現代までの裁判を、具体的事件を取りあげながら説明し、最後に明治以降の日本の裁判の展開について考察します。図版や映像資料などを活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等・三成賢次・三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で随時紹介します。		
教材（その他）	毎回、レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験６０％、平常点（授業内の小テスト・レポートなど）４０％		
到達目標	ヨーロッパにおける裁判の歴史および日本近代における裁判制度の特徴について基礎的な知識を習得することを目標とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		

受講者への要望

毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。
春学期の続編ですが、秋学期のみの受講も可能です。

講義の順序とポイント

第１回　ガイダンス（日本と西洋の裁判の比較）
第２回　ギリシア・ローマの裁判
第３回　古代ゲルマン社会の裁判
第４回　イングランドの裁判（陪審制度の成立）
第５回　近世の裁判①（教会裁判の発展、魔女裁判）
第６回　近世の裁判②（フランス・アンシャンレジーム期）
第７回　フランス革命期
第８回　１９世紀における裁判①（１９世紀、フランス・ドイツの概観）
第９回　１９世紀におけるる裁判②（フランス、ドレフェス事件）
第１０回　２０世紀の裁判①（戦前・戦中）
第１１回　２０世紀の裁判②（戦後）
第１２回　日本・明治維新と西洋近代法の受容
第１３回　明治以降の日本における裁判制度①（刑事裁判）
第１４回　明治以降の日本における裁判制度②（民事裁判）
第１５回　裁判への市民参加制度の国際比較

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40094B02
科目名	法制史Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History Ⅱ		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｆ
講義概要	この授業では、ヨーロッパそして近代日本の裁判制度の歴史を学びます。ヨーロッパ法は、明治以降の日本における近代法形成に大きな影響を与えましたが、裁判制度も同様です。ヨーロッパについては、ギリシア・ローマ時代、そしてヨーロッパ中世から現代までの裁判を、具体的事件を取りあげながら説明し、最後に明治以降の日本の裁判の展開について考察します。図版や映像資料などを活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等・三成賢次・三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で随時紹介します。		
教材（その他）	毎回、レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験６０％、平常点（授業内の小テスト・レポートなど）４０％		
到達目標	ヨーロッパにおける裁判の歴史および日本近代における裁判制度の特徴について基礎的な知識を習得することを目標とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		

受講者への要望

毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。
春学期の続編ですが、秋学期のみの受講も可能です。

講義の順序とポイント

第１回　ガイダンス（日本と西洋の裁判の比較）
第２回　ギリシア・ローマの裁判
第３回　古代ゲルマン社会の裁判
第４回　イングランドの裁判（陪審制度の成立）
第５回　近世の裁判①（教会裁判の発展、魔女裁判）
第６回　近世の裁判②（フランス・アンシャンレジーム期）
第７回　フランス革命期
第８回　１９世紀における裁判①（１９世紀、フランス・ドイツの概観）
第９回　１９世紀におけるる裁判②（フランス、ドレフェス事件）
第１０回　２０世紀の裁判①（戦前・戦中）
第１１回　２０世紀の裁判②（戦後）
第１２回　日本・明治維新と西洋近代法の受容
第１３回　明治以降の日本における裁判制度①（刑事裁判）
第１４回　明治以降の日本における裁判制度②（民事裁判）
第１５回　裁判への市民参加制度の国際比較

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40115001
科目名	法哲学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy Ⅱ		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学特別講義
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、「法哲学」と同様、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。「法哲学」に確認した課題、すなわち法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を前提にしつつ、いくつかの法領域にいて正義論の展開の具体層を概観すると同時に、正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方、正義論と国家論、正義論と人権論にも言及する。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメは京学なびに登録するので、事前にプリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業内で書いてもらう、４回の小論文の素点の合計が成績となる。 その都度評価して返却するので、合格点に至らなかった者は再レポートを提出すること。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学ナビ）で確認すること。） １．初めに ２．序論　「法哲学Ｉ」で学習したことの確認 ３．　同上 ４．（第１回授業内レポート） 第１章　生命倫理と法 §１　臓器移植法と正義 ５．　同上 ６．　同上 ７．（第２回授業内レポート） §２　安楽死・尊厳死と法規制 ８．　同上 ９．　同上 １０．（第３回授業内レポート） 第２章　環境倫理と法 §３　水俣病事件から考える ①水俣病事件とは １１．　同上 １２．　②認定問題と訴訟 １３．　同上 １４．　（第４回授業内レポート） 第３章　法哲学の課題再考 §４　正義論の諸相			

１５．　　同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40116001
科目名	法社会学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law II		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学特別講義
講義概要	秋学期は、これまでの春学期の成果の上に日本・欧米の法社会学の現状を概観し、さらに各論的テーマとしてフェミニズムをめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・天皇制をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・正義をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅱ）を取り上げる。最後に講義全体の総括として、法社会学の役割と任務に及び、二十一世紀前半を法社会学の視座から展望する。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）・講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	フェミニズム・天皇制・正義と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義と課題を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．法社会学の現状　Ⅰ　日本の法社会学（２） ２．　〃　Ⅱ　欧米の法社会学（２） ３．フェミニズムをめぐる法社会学　Ⅰ　女性の権利の歴史（１） ４．　〃　Ⅱ　〃　（２） ５．　〃　Ⅲ　〃　（３） ６．　〃　Ⅳ　男女平等－特に憲法１４条と第２４条－ ７．　〃　Ⅴ　男女平等－夫婦別氏（姓）論議－ ８．天皇制をめぐる法社会学　Ⅰ　天皇制とは？ ９．　〃　Ⅱ　近代神権的天皇制 １０．　〃　Ⅲ　象徴天皇制 １１．　〃　Ⅳ　ビデオ学習「日本国憲法の誕生」（ＮＨＫ） １２．正義をめぐる法社会学　Ⅰ法哲学と法社会学 １３．　〃　Ⅱ　正義と法 １４．法社会学の役割と任務　Ⅰ　－全体の総括－ １５．　〃　Ⅱ　〃			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T40116002
科目名	法社会学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law II		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学特別講義
講義概要	秋学期は、これまでの春学期の成果の上に日本・欧米の法社会学の現状を概観し、さらに各論的テーマとしてフェミニズムをめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・天皇制をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・正義をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅱ）を取り上げる。最後に講義全体の総括として、法社会学の役割と任務に及び、二十一世紀前半を法社会学の視座から展望する。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）・講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	フェミニズム・天皇制・正義と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義と課題を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．法社会学の現状　Ⅰ　日本の法社会学（２） ２．　〃　Ⅱ　欧米の法社会学（２） ３．フェミニズムをめぐる法社会学　Ⅰ　女性の権利の歴史（１） ４．　〃　Ⅱ　〃　（２） ５．　〃　Ⅲ　〃　（３） ６．　〃　Ⅳ　男女平等－特に憲法１４条と第２４条－ ７．　〃　Ⅴ　男女平等－夫婦別氏（姓）論議－ ８．天皇制をめぐる法社会学　Ⅰ　天皇制とは？ ９．　〃　Ⅱ　近代神権的天皇制 １０．　〃　Ⅲ　象徴天皇制 １１．　〃　Ⅳ　ビデオ学習「日本国憲法の誕生」（ＮＨＫ） １２．正義をめぐる法社会学　Ⅰ法哲学と法社会学 １３．　〃　Ⅱ　正義と法 １４．法社会学の役割と任務　Ⅰ　－全体の総括－ １５．　〃　Ⅱ　〃			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T40136001
科目名	現代日本政治	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern Japanese Politics		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣　２００３年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布します。		
評価方法	レポートによる。		
到達目標	日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。		
準備学習	可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。		

受講者への要望

現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止します。

講義の順序とポイント

1	明治憲法体制	戦前日本政治と官僚主導体制の成立について
2	新憲法体制	戦後日本政治の特徴について
3	国会と立法過程	立法過程の特徴とその問題について
4	国会と予算成立過程	予算成立過程とその問題について
5	官僚制	日本における官僚制の特徴について
6	政治家・官僚・財界	日本政治における癒着の問題について
7	日本の政党１	各政党の特徴について
8	日本の政党２	
9	選挙１	選挙制度とその特徴について
１０	選挙２	
１２	地方自治１	日本における地方自治の歴史とその現状について
１２	地方自治２	
１３	政治とマス・メディア	政治とマス・メディアの関係について
１４	日本と国際政治	戦後日本の外交政策とその課題について
１５	福祉政策	福祉政策の現状とその問題点について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T40136002
科目名	現代日本政治	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern Japanese Politics		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣　２００３年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布します。		
評価方法	レポートによる。		
到達目標	日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。		
準備学習	可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。		

受講者への要望

現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止します。

講義の順序とポイント

1	明治憲法体制	戦前日本政治と官僚主導体制の成立について
2	新憲法体制	戦後日本政治の特徴について
3	国会と立法過程	立法過程の特徴とその問題について
4	国会と予算成立過程	予算成立過程とその問題について
5	官僚制	日本における官僚制の特徴について
6	政治家・官僚・財界	日本政治における癒着の問題について
7	日本の政党１	各政党の特徴について
8	日本の政党２	
9	選挙１	選挙制度とその特徴について
１０	選挙２	
１２	地方自治１	日本における地方自治の歴史とその現状について
１２	地方自治２	
１３	政治とマス・メディア	政治とマス・メディアの関係について
１４	日本と国際政治	戦後日本の外交政策とその課題について
１５	福祉政策	福祉政策の現状とその問題点について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T40137001
科目名	外交史	単位数	2
科目名（英語表記）	Diplomatic History		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	外交の基本的な仕組みと日本外交の歴史に関する基本的な知識の習得を目指す。具体的には、鎖国によって国際社会との関わりを制限していた日本が、いかにして国際社会に参入していったのか、その歴史的展開を論 じる。それを踏まえたうえで、今、日本外交について考える力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	入江昭『日本の外交』（中公新書）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布する		
評価方法	レポートによる。		
到達目標	日本外交史に関する基礎知識を習得する。同時に、ヨーロッパ外交史にも留意する。		
準備学習	テキストをよく読んでおくこと。		
受講者への要望			
本講義は「史」という名前がついているように、基本的に歴史の話が中心となるので、明治維新以降の日本史について、高校で学習した程度の知識をつけておいて欲しい。 授業中に携帯電話やスマートフォンを使用することは禁止する。			
講義の順序とポイント			
1　外交とは　外交の歴史と基本的な仕組みについて 2　様々な国際秩序　国際秩序について 3　開国と近代化　江戸時代の特徴と開国以後の日本について 4　日清戦争とその意味　日清戦争の意味について 5　日露戦争とその意味　日露戦争の意味について 6　欧米との対等化の達成　日露戦争後の日本外交と条約改正について 7　第一次世界大戦　第一次世界大戦と日本の対応 8　ベルサイユ体制の成立　ベルサイユ体制の成立とその実態について 9　ワシントン体制の成立　ワシントン体制の成立とその実態について １０　満州事変と満州国建国　満州事変の原因とその結果について １１　華北分離工作と日中戦争　日中戦争の原因とその展開 １２　太平洋戦争　太平洋戦争の原因とその展開について １３　敗戦と占領　アメリカの対日占領政策について １４　戦後日本の再出発　戦後日本外交の展開について １５　冷戦と日本外交			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T40137002
科目名	外交史	単位数	2
科目名（英語表記）	Diplomatic History		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	外交の基本的な仕組みと日本外交の歴史に関する基本的な知識の習得を目指す。具体的には、鎖国によって国際社会との関わりを制限していた日本が、いかにして国際社会に参入していったのか、その歴史的展開を論 じる。それを踏まえたうえで、今、日本外交について考える力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	入江昭『日本の外交』（中公新書）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布する		
評価方法	レポートによる。		
到達目標	日本外交史に関する基礎知識を習得する。同時に、ヨーロッパ外交史にも留意する。		
準備学習	テキストをよく読んでおくこと。		
受講者への要望			
本講義は「史」という名前がついているように、基本的に歴史の話が中心となるので、明治維新以降の日本史について、高校で学習した程度の知識をつけておいて欲しい。 授業中に携帯電話やスマートフォンを使用することは禁止する。			
講義の順序とポイント			
1　外交とは　外交の歴史と基本的な仕組みについて 2　様々な国際秩序　国際秩序について 3　開国と近代化　江戸時代の特徴と開国以後の日本について 4　日清戦争とその意味　日清戦争の意味について 5　日露戦争とその意味　日露戦争の意味について 6　欧米との対等化の達成　日露戦争後の日本外交と条約改正について 7　第一次世界大戦　第一次世界大戦と日本の対応 8　ベルサイユ体制の成立　ベルサイユ体制の成立とその実態について 9　ワシントン体制の成立　ワシントン体制の成立とその実態について １０　満州事変と満州国建国　満州事変の原因とその結果について １１　華北分離工作と日中戦争　日中戦争の原因とその展開 １２　太平洋戦争　太平洋戦争の原因とその展開について １３　敗戦と占領　アメリカの対日占領政策について １４　戦後日本の再出発　戦後日本外交の展開について １５　冷戦と日本外交			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2016	授業コード	T50045001
科目名	テレビ局番組制作実習 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical TV Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	本実習は、ＫＢＳ京都（京都放送）テレビが毎週月～金,午後 5 時 45 分～6 時に放送しているニュース情報番組「news フェイス」の学生スタッフとしてアシスタント、テロッパー、カメラマン助手など実際のニュース情報番組の制作などに携わりながら、テレビ番組の制作ノウハウを体験的に学ぶものである。 「news フェイス」は京都で起きた出来事や歳時記を中心に伝えるニュースと暮らしや生活に役立つ情報を届ける番組で、速報はもちろん、わかりやすく、的確に、伝えることをモットーにしている。 主な実習内容は 毎週１曜日午後 4 時～6 時半までの番組のスタッフとして参加。報道局のデスク、番組ディレクターの指示に従う。（お茶汲みやコピー、タクシーの手配など雑用も多く、社会体験を学ぶことにもなる） 準備等を含める時間としてテレビ局での実習時間は毎週１曜日午後 4 時から 6 時半までとなるが,場合によっては時間を超えることもある。（デスク・ディレクターの判断に委ねる） よって本実習は、上記内容に合わせて行うもので、拘束時間は通常の講義時間に合わせることは不可能であることを認識しておくことが必要。		
教材（テキスト）	報道で体験実習で学ぶ		
教材（参考文献）	現場の指示に従い、体験実習を得る。		
教材（その他）	現場責任者から指導等も受ける。		
評価方法	定期レポート及びテレビ局報道責任者の報告などによって評価する。		
到達目標	報道と番組制作の現場を知ることによって、見る側と作る側の視点から、メディアリテラシーを学ぶとともに時間の大切さ、番組作りにおけるチームワークの必要性などを体得する。		
準備学習	日頃から新聞、ニュース番組などメディアを通して、社会の出来事に高い関心を持つこと。		
受講者への要望			
定員は１名（面談で選考する） テレビ放送、報道・制作に強い意欲と関心を持っていること。 期間は４月から７月で、実習日は週１曜日(調整）のみとなる。 テレビ局の実習において迷惑行為はもちろん遅刻・欠席（余程の事情がない限り）をしてはならない。 交通費など諸費用は各自が持つこと。 保険等は大学と交わすこと。			
講義の順序とポイント			
春学期 ①　　実習ガイダンス（ＫＢＳ京都テレビ局見学兼） ②～⑭　　ＫＢＳ京都「news フェイス」ニュース情報番組実習 ⑮　　まとめ（実習成果発表）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★★	-	★	-

年度	2016	授業コード	T50051A01
科目名	デジタル映像編集実習Ⅰ 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice I		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅰ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習です。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の基本操作を確実にマスターし、 映像制作（クリエイター）に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。 ※注）；実習「Ⅱ」は、「Ⅰ」を履修済み程度の操作スキルがあることを前提とした内容です。まったく編集が初めての場合は、必ず「Ⅰ」を先に受講してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における３つのエレメントを認識する。 ・モンタージュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図でその映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
本講義はパソコン教室ではありません。アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）を使用しますが、Windows などでＰＣの基本操作（マウス、キーボード、ファイルの扱いなど）を理解していることが必須です。			
講義の順序とポイント			
（１）使用教室(H21)のシステムオリエンテーション （２）映像制作基礎（編集のための基本知識） （３）アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）の基本操作 （４）ＤＶビデオと Quicktime ファイルについて （５）ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成 （６）タイムライン／キャンバスの操作 （７）ビューアでの操作 （８）上書き編集と挿入編集			

（9）タイムラインでのクリップ操作
(10) プレゼンテーション映像制作①（編集作業／絵コンテ・ナレーション作成）
(11) プレゼンテーション映像制作②（仮ナレーション収録／映像ファイル化）
(12) ３ポイント編集とは
(13) 課題映像制作①（出題）
(14) 課題映像制作②（編集）
(15) 課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	T50051A02
科目名	デジタル映像編集実習Ⅰ 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice I		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅰ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習です。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の基本操作を確実にマスターし、 映像制作（クリエイター）に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。 ※注）；実習「Ⅱ」は、「Ⅰ」を履修済み程度の操作スキルがあることを前提とした内容です。まったく編集が初めての場合は、必ず「Ⅰ」を先に受講してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における３つのエレメントを認識する。 ・モンタージュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図でその映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
本講義はパソコン教室ではありません。アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）を使用しますが、Windows などでＰＣの基本操作（マウス、キーボード、ファイルの扱いなど）を理解していることが必須です。			
講義の順序とポイント			
（１）使用教室(H21)のシステムオリエンテーション （２）映像制作基礎（編集のための基本知識） （３）アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）の基本操作 （４）ＤＶビデオと Quicktime ファイルについて （５）ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成 （６）タイムライン／キャンバスの操作 （７）ビューアでの操作 （８）上書き編集と挿入編集			

（9）タイムラインでのクリップ操作
(10) プレゼンテーション映像制作①（編集作業／絵コンテ・ナレーション作成）
(11) プレゼンテーション映像制作②（仮ナレーション収録／映像ファイル化）
(12) ３ポイント編集とは
(13) 課題映像制作①（出題）
(14) 課題映像制作②（編集）
(15) 課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2016	授業コード	T50112001
科目名	映像制作実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Media-Product Making		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	メディア上級実習
講義概要	デジタル時代を迎えたテレビ放送では、高画質、データサービス、ネット配信などの技術革新が進んでいる一方で、コンテンツの質の向上も重要なテーマとなっている。「感動を伝える映像」とはどのようなものか。ニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、スポーツ中継などあらゆるジャンルの番組の課題である。本実習では、映像作品制作を通じて企画・撮影・編集・ナレーション・効果音・音楽など様々な表現手法を学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	放送機材を活用して直接指導し、プリントも随時配付する。		
教材（その他）	学生作成のビデオや指導ビデオを活用する		
評価方法	平常点(３０％）出席状況等による。実習及び作品評価点（７０％）		
到達目標	「感動を伝える映像作品」とはどのようなものか。撮影、編集などの映像表現手法を実体験で学ぶ。		
準備学習	日常的に優れた映像作品を制作者の視点で見ること。		

受講者への要望

放送、映像作品の制作に関心があり、チームプレーができること。編集面でほかの授業「デジタル映像編集実習」を同時に受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

春学期
1. 映像制作ガイダンス①　企画－何が魅力の企画か－
2. 同　②　撮影－何をどのように撮影するか－ 編集－編集で表現が変わる－
3. 絵コンテを作ろう－　教習編－
4. 同　－　実習編－
5. 同
6. 同　作品選出
7. 撮影取材
8. 同
9. 同
10. 同
11 撮影映像を編集
12 同
13.ミックスダウン－ナレーション、ＢＧＭ音楽、テロップ－
14 同
15.実習番組の審査と合評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	-	-	★	-

年度	2016	授業コード	T50321001
科目名	社会問題論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現在の日本社会には、格差の拡大や派遣労働者の解雇など、人々が安定した社会生活を営むことを妨げるような問題が多数存在する。この講義では、いくつかの社会問題について、実態を説明し、それらを解決するために提案されている方法について紹介する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代の日本社会がかかえる社会問題の基本を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，貧困：格差、ホームレス、生活保護。
3，労働１：派遣労働。
4，労働２：過労死、失業、ニート。
5，外国人：不法入国と国内定住。
6，女性：パート労働、母子家庭。
7，子ども：学童保育、子どもの権利条約。
8，高齢者：介護保険、高齢者医療。
9，年金：年金財政、年金負担と給付。
10，医療：一部に見られる医師不足。
11，健康保険：国民医療費。
12，税金：税制、税負担、国家財政、国債残高。
13，食料：自給率、地産地消、フェア・トレード、食品添加物。
14，政治の責任と「自己責任」
15，社会問題の見方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T50321002
科目名	社会問題論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現在の日本社会には、格差の拡大や派遣労働者の解雇など、人々が安定した社会生活を営むことを妨げるような問題が多数存在する。この講義では、いくつかの社会問題について、実態を説明し、それらを解決するために提案されている方法について紹介する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代の日本社会がかかえる社会問題の基本を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，貧困：格差、ホームレス、生活保護。
3，労働１：派遣労働。
4，労働２：過労死、失業、ニート。
5，外国人：不法入国と国内定住。
6，女性：パート労働、母子家庭。
7，子ども：学童保育、子どもの権利条約。
8，高齢者：介護保険、高齢者医療。
9，年金：年金財政、年金負担と給付。
10，医療：一部に見られる医師不足。
11，健康保険：国民医療費。
12，税金：税制、税負担、国家財政、国債残高。
13，食料：自給率、地産地消、フェア・トレード、食品添加物。
14，政治の責任と「自己責任」
15，社会問題の見方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T50416001
科目名	政治社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代の社会では個人の自由は大きいように思われる。結婚相手の選択や、身につける衣装の好み、自分の意見を発表することも、自由であるように見える。しかし、少し深く考えてみると、本当に自由なのかどうかは確かではない。何についても全く自由に発言できるとは誰も思っていないし、メディアにおいて触れられないタブーの問題もある。また、近年では街のあちこちに監視カメラが増えていて、プライヴァシー侵害の問題が指摘されている。この講義では、現代社会のこのような問題について考える手がかりを提供する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	政治社会学の基本事項を知り、現代日本社会の監視社会的な特徴について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、現代社会の諸側面に関心をもっていてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2，監視カメラの増加とプライヴァシー
3，国民総背番号制と個人情報の保護
4，信教の自由と国家の強制力
5，政教分離
6，国旗の問題
7，国歌の問題
8，教科書検定
9，愛国心の問題
10，民主主義の意味
11，自由主義の意味
12，国家の概念
13，現在の天皇制の特色
14，天皇制と民主主義の関わり
15，政治と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T50416002
科目名	政治社会学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代の社会では個人の自由は大きいように思われる。結婚相手の選択や、身につける衣装の好み、自分の意見を発表することも、自由であるように見える。しかし、少し深く考えてみると、本当に自由なのかどうかは確かではない。何についても全く自由に発言できるとは誰も思っていないし、メディアにおいて触れられないタブーの問題もある。また、近年では街のあちこちに監視カメラが増えていて、プライヴァシー侵害の問題が指摘されている。この講義では、現代社会のこのような問題について考える手がかりを提供する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	政治社会学の基本事項を知り、現代日本社会の監視社会的な特徴について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、現代社会の諸側面に関心をもっていてほしい。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2，監視カメラの増加とプライヴァシー
3，国民総背番号制と個人情報の保護
4，信教の自由と国家の強制力
5，政教分離
6，国旗の問題
7，国歌の問題
8，教科書検定
9，愛国心の問題
10，民主主義の意味
11，自由主義の意味
12，国家の概念
13，現在の天皇制の特色
14，天皇制と民主主義の関わり
15，政治と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T50420A01
科目名	生涯学習概論Ⅰ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｓ
講義概要	２００６（平成１８）年１２月に改正された教育基本法には、「生涯学習の理念」を規定した条文が新設されている。同条では、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」ができる社会の実現が提唱されているが、今なぜ、そのような社会が目指されなければならないのだろうか。そもそも、それはどのような社会なのだろうか。これらの問題を考えるために、本講義では、代表的な理論や日本における政策の展開、社会教育の歴史などから生涯学習の基本的原理について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	生涯学習の基本原理を理論的観点、歴史的観点から理解できる。		
準備学習	周囲にある生涯学習関連施設（センター、図書館、博物館、美術館等）に目を向け、その活動内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　イントロダクション―生涯学習という概念
３．　生涯学習の理論①―ユネスコにおける生涯教育理論
４．　生涯学習の理論②―　　〃
５．　生涯学習の理論③―OECD におけるリカレント教育
６．　生涯学習の理論④―アメリカにおける学習社会論
７．　日本社会と生涯学習政策①―日本における生涯学習政策の展開
８．　日本社会と生涯学習政策②―地方自治体における生涯学習行政
９．　日本社会と生涯学習政策③―学校教育と生涯学習
１０．　日本社会と生涯学習政策④―まとめ、小テスト
１１．　社会教育とは何か①―社会教育の歴史
１２．　社会教育とは何か②―公民館
１３．　社会教育とは何か③―図書館
１４．　社会教育とは何か④―博物館
１５．　総括―生涯学習社会の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T50420A02
科目名	生涯学習概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｓ
講義概要	２００６（平成１８）年１２月に改正された教育基本法には、「生涯学習の理念」を規定した条文が新設されている。同条では、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」ができる社会の実現が提唱されているが、今なぜ、そのような社会が目指されなければならないのだろうか。そもそも、それはどのような社会なのだろうか。これらの問題を考えるために、本講義では、代表的な理論や日本における政策の展開、社会教育の歴史などから生涯学習の基本的原理について学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	生涯学習の基本原理を理論的観点、歴史的観点から理解できる。		
準備学習	周囲にある生涯学習関連施設（センター、図書館、博物館、美術館等）に目を向け、その活動内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　イントロダクション―生涯学習という概念
３．　生涯学習の理論①―ユネスコにおける生涯教育理論
４．　生涯学習の理論②―　　〃
５．　生涯学習の理論③―OECD におけるリカレント教育
６．　生涯学習の理論④―アメリカにおける学習社会論
７．　日本社会と生涯学習政策①―日本における生涯学習政策の展開
８．　日本社会と生涯学習政策②―地方自治体における生涯学習行政
９．　日本社会と生涯学習政策③―学校教育と生涯学習
１０．　日本社会と生涯学習政策④―まとめ、小テスト
１１．　社会教育とは何か①―社会教育の歴史
１２．　社会教育とは何か②―公民館
１３．　社会教育とは何か③―図書館
１４．　社会教育とは何か④―博物館
１５．　総括―生涯学習社会の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T50420B01
科目名	生涯学習概論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning Ⅱ		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｆ
講義概要	現代に生きる私たちは、貧困や差別といった多くの困難に直面している。こうした問題を地域社会の中で考え、その解決に向けて市民や住民が主体的に社会教育を担っている例は数多くある。本講義では「社会的排除」と「社会的包摂」という概念を軸に、貧困や差別の問題に対して地域社会教育が果たす役割について学ぶ。このことを通して、自身が今後どのように地域社会とかかわっていくかを考えてほしい。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	地域社会教育の現状と課題を理解し、今後の方向性を考える力を身につける。		
準備学習	自身が生活する地域社会の教育活動に目を向け、その内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		
受講者への要望			
・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。 ・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。			
講義の順序とポイント			
１．　授業の概要、成績評価方法 ２．　地域社会における教育と学習を考える ３．　社会的排除論① ４．　社会的排除論② ５．　社会的排除論③ ６．　映画鑑賞 ７．　映画鑑賞（続き）と解説 ８．　小括　小テスト ９．　子どもの貧困①　子育ち／子育てと地域社会 １０．　子どもの貧困②　学校と地域社会との連携・協働の取り組み １１．　女性の貧困と女性問題学習①　女性の労働問題 １２．　女性の貧困と女性問題学習②　学習の方法 １３．　貧困と社会的孤立①　ホームレス １４．　貧困と社会的孤立②　NPO によるホームレス支援 １５．　「社会的包摂」のあり方			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T50420B02
科目名	生涯学習概論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning Ⅱ		
担当者名	井岡　瑞日	旧科目名称	生涯学習概論ｆ
講義概要	現代に生きる私たちは、貧困や差別といった多くの困難に直面している。こうした問題を地域社会の中で考え、その解決に向けて市民や住民が主体的に社会教育を担っている例は数多くある。本講義では「社会的排除」と「社会的包摂」という概念を軸に、貧困や差別の問題に対して地域社会教育が果たす役割について学ぶ。このことを通して、自身が今後どのように地域社会とかかわっていくかを考えてほしい。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中適宜紹介します。		
教材（その他）	授業中適宜プリントを配布します。		
評価方法	成績評価は、平常点と小テスト、レポートにより行います。 平常点（出席状況・授業態度等）４０％　小テスト２０％　レポート４０％ ※初回の授業で成績評価方法について説明するので、必ず出席してください。		
到達目標	地域社会教育の現状と課題を理解し、今後の方向性を考える力を身につける。		
準備学習	自身が生活する地域社会の教育活動に目を向け、その内容に関心を持っておいてください。小テストを実施するので、復習を怠らないこと。		

受講者への要望

・遅刻と途中退室は原則として認めません。悪質な場合は、平常点の減点対象とします。
・１時間の授業中で私語を２回注意された人は退室してもらいます。

講義の順序とポイント

１．　授業の概要、成績評価方法
２．　地域社会における教育と学習を考える
３．　社会的排除論①
４．　社会的排除論②
５．　社会的排除論③
６．　映画鑑賞
７．　映画鑑賞（続き）と解説
８．　小括　小テスト
９．　子どもの貧困①　子育ち／子育てと地域社会
１０．　子どもの貧困②　学校と地域社会との連携・協働の取り組み
１１．　女性の貧困と女性問題学習①　女性の労働問題
１２．　女性の貧困と女性問題学習②　学習の方法
１３．　貧困と社会的孤立①　ホームレス
１４．　貧困と社会的孤立②　NPO によるホームレス支援
１５．　「社会的包摂」のあり方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2016	授業コード	T60006001
科目名	環境教育・富良野自然塾 （他）	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Education/ Furano Field		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都の単位互換科目として開講するもの。「北の国から」などで著名な脚本家の倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」（講座協賛 三井住友銀行）の全面的協力で、北海道での現地実習を行う。京都における事前学習および事後学習も実施する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	・「愚者の質問」　倉本聰、林原博光 著　（日本経済新聞出版社　2010 年） ・「ヒトに問う」　倉本聰 著　（双葉社　2013 年）		
教材（その他）			
評価方法	事前学習、現地実習、事後学習の出席状況や実習への取り組み状況等による（７０％） レポート（３０％）		
到達目標	森林フィールドでの環境教育についての深い理解と体験（遊学）		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献を読んでおいてください。		

受講者への要望

自然のなかで無心に遊んでみてください。鈍感になった感性が生き返ってきます。楽しい協力的な集いになるように、各人それぞれが心がけてください。
「富良野自然塾・倉本聰対談集　愚者の質問」日本経済新聞出版社を読んでおくと参考になります。

講義の順序とポイント

環境問題に対する特定の解決策を導き出すことを目的としているのではなく、自然体験活動と学生間の交流を通して、環境問題や自然環境に関する豊かな見かたや価値観が醸成されてくることをめざす。 富良野自然塾は、人間が自らの五感を使って自然から学ぶことをデザインした環境教育・五感プログラムを、そしてそれらのすぐれたインストラクターを用意している。

富良野自然塾からのメッセージ（エクアドルの民話「ハチドリの一滴」）：　山火事のおこった森林で、/小さなハチドリが一滴ずつ/水を運んで火を消そうとします。/ そんなことして山火事が消せるかと、/ 動物たちが笑います。/でもハチドリは真剣に云います。/ 「ジブンニデキルコトハコレクライダカラ」と。/ 我々の仕事はハチドリの一滴に過ぎません。/ でも、全ては一滴からしか始まりません。

事前学習（キャンパスプラザ京都）：７月２９日（金）　１８：１０～（３時間）

現地実習（北海道・富良野自然塾）：９月２日（金）～４日（日）

事後学習（キャンパスプラザ京都）：９月９日（金）　１６：２０～（３時間）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2016	授業コード	T80000101
科目名	日本経済入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放つことになる．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる一方、軽減税率も導入される予定である．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	T80000102
科目名	日本経済入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放つことになる．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる一方、軽減税率も導入される予定である．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	-	-	★	★★	★

年度	2016	授業コード	T80000201
科目名	経営学総論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Business Administration		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	欧米では「経営学」という名称は一般的には使われていない。わが国でいう「経営学」とは、欧米の経営経済学・経営社会学・経営心理学・経営工学の総体をさす。そしてそれぞれが別個の研究者によって研究が進められている。またそれぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ。したがって、わが国でも、「経営学」という名称よりも「経営諸学」という名称の方が正確なのである。「経営学」という名称は便宜的に使われているに過ぎない。 本講義では、この「経営諸学」の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明したい。これによって、経営学とはどのようなことを研究するのか、またどのような応用ができそうなのか、分かってもらえればよい。もともと経営学は難しいところがある。時には論者の主張が対立し、矛盾さえ感じることもある。このようなことも分かってもらえればよい。こうした中で、より重要で本質的なことを考える手立てとしてもらいたい。 より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってもらいたい。		
教材（テキスト）	・教科書は使いませんが、毎回の講義用の資料は、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上にアップロードしておきます。 ・「長谷川正の研究室へようこそ」というトップページの中の「講義用資料」→「経営学総論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通してから講義を聞いて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第１回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて穴埋めをして下さい。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（参考文献）	一般的な「経営学総論」の参考書は第１回目の講義で言います。本によっては、『経営学原理』とか『経営学概論』とか「『経営学入門』とか単に『経営学』という書名になっています。書店で買い求めて、大学４年間で、最低２冊は頭に叩き込むようにして下さい。 各回の講義の参考書は、上記参考書にも載っていますが、それ以外はそのつど指示します。		
教材（その他）	・パワーポイントを使って、虫食い状態でない講義用資料に基づいて講義を進めます。 ・ビデオや新聞の切抜き等も使います。		
評価方法	ときどき行う小テスト　　20% 期末試験　　80%		
到達目標	経営学とはどういう学問かを理解し、そして経営学を深めていき、それを応用できるための基礎的な知識を習得すること。 経営学は、経営学部生に限らず現代人すべてにとって必須の学問である。		
準備学習	事前に講義用のプリントに目を通しておくこと。		
受講者への要望			
・私語は禁止とする。時々小テストをするので、熱心に聞いておくこと。 ・質問があれば、オフィスアワーを利用すること。			
講義の順序とポイント			
０１．豊かさの時代と企業 ０２．大企業の誕生 ０３．大企業の行きづまり ０４．日本企業 ０５．企業の新たな歩み ０６．経営･企業･管理 ０７．アメリカの経営学 ０８．ドイツの経営学 ０９．経営組織のいろいろ １０．経営戦略の基礎 １１．「選択と集中」と組織能力の戦略 １２．企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは			

１３．企業の国際化と比較優位の理論 １４．未来を見据えて－製造業編 １５．これからの日本の産業と経営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	★	★

年度	2016	授業コード	T85000104
科目名	チャレンジショップ入門Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	T85000105
科目名	チャレンジショップ入門Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	-	-	-

年度	2016	授業コード	T85000204
科目名	チャレンジショップ入門Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または４限目に販売、ならびに５限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	T85000205
科目名	チャレンジショップ入門Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2016	授業コード	T85000601
科目名	女性企業家講座 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師をお迎えして、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただきます。どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることを目指します。 ※女子学生だけでなく、男子学生にも有益な講座です。		
教材（テキスト）	未定		
教材（参考文献）	未定		
教材（その他）	メモ用紙を持参し、質問したいことなどをメモしてください。		
評価方法	各回の講義内容についての感想文（100%）。		
到達目標	経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につける。 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得する。		
準備学習	各講師の所属されている会社のホームページなどを読み、予備知識をもって受講してください。		

受講者への要望

企業等から講師をお招きするため、遅刻、私語、居眠りは厳禁、マナーを守れない学生は退出を求めることがあります。
質疑応答のときには、積極的に質問してください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 女性企業家を取り巻く環境
3. (4 /26) 藤川美帆氏 （株式会社 Orange Sunshine 代表取締役）
4. (5/10) 西村和子氏 （アール社会保険労務士事務所）
5. (5/17) 大奈氏 （Office Daina 代表）
「絶望と人と再生」
6. (5 /24) 三根 早苗氏 （有限会社パワーエンハンスメント 代表取締役）
「リケジョから女性起業家グループのリーダーへ ―自分の天職に出会うまで」
7. (5 /31) 武村幸奈 （株式会社はたけのみかた 代表取締役）
8. まとめと予習
9. (6/14) 未定
10. (6/21) 未定
11. まとめと予習
12. (7/5) 未定
13. (7/12) 未定
14. (7/19) 未定
15. 女性企業家講座を通して学んだことの展望

講師の都合などにより変更になる可能性があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	-	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86013902
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86013903
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86014004
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	T86014005
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	T86014101
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86014102
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86014103
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86014104
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86014105
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86014106
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86014107
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86014108
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	★	★★	-

年度	2016	授業コード	T86014201
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	T86014202
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	T86014203
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊ 3 限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	T86014204
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	T86014205
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	T86014206
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	T86014207
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	T86014208
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊３限目または 4 限目に販売、ならびに 5 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ
11 マーケティング

12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2016	授業コード	TM0070001
科目名	梅岩「心学」研究 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Ethics of Ishida Baigan		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
講義概要	石田梅岩（１６８５～１７４４）は、丹波国桑田郡東懸村（現在の亀岡市東別院東掛）の出身です。梅岩は、人間社会における君臣・父子・夫婦・長幼・朋友の５つの基本的関係を正しく保つための道（「五倫の道」）を、人びとが実行するよう教え導くことを、自身の学問の目的と考えました。そのため性を知ること（＝知性）と、人間の本質である「心」を知ることを、心学修行の１つの到達点としました。この心学の修行と、それぞれの家業の実践とを１つに統合したところに、梅岩教学の特色があります。講義では、梅岩の著した『都鄙問答』を中心に、門人たちによる「道話」も取り入れて、梅岩の教えについての理解を深めます。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	授業は、パワーポイントを活用します。		
評価方法	各講義で授業中に毎回課す小レポート（５０％）と、講義期間中に２回課す課題レポート（５０％）		
到達目標	梅岩の教えを理解し、現代社会において、その教えのもつ意味を考えることを目標とします。		
準備学習	毎回、講義終了時に次回の講義資料を配布します。次回の講義までに読んで、内容を把握しておいて下さい。		
受講者への要望			
授業では毎回、自分の考えを整理し、まとめ、「書く」作業をおこないます。物事をじっくり考える姿勢を心がけて下さい。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、石田梅岩の生い立ちと業績 ３、心を尽くして性を知る ４、商人の社会的役割 ５、「道話」から　；その１ ６、商人にとって学問の必要性 ７、正直とは ８、「道話」から　；その２ ９、私欲ということ １０、私心と公共心 １１、梅岩門人たちの活動 １２、社会に目を向ける；その１ １３、倹約論 １４、生き方を問う １５、社会に目を向ける；その２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★